

# 学部・研究科等の現況調査表

教 育

平成28年6月

信州大学

## 目 次

1. 人文学部	1 - 1
2. 人文科学研究科	2 - 1
3. 教育学部	3 - 1
4. 教育学研究科	4 - 1
5. 経済学部	5 - 1
6. 経済・社会政策科学研究科	6 - 1
7. 理学部	7 - 1
8. 医学部	8 - 1
9. 医学系研究科	9 - 1
10. 工学部	10 - 1
11. 農学部	11 - 1
12. 農学研究科	12 - 1
13. 繊維学部	13 - 1
14. 理工学系研究科	14 - 1
15. 総合工学系研究科	15 - 1
16. 法曹法務研究科	16 - 1

# 1. 人文学部

I	人文学部の教育目的と特徴	1-2
II	「教育の水準」の分析・判定	1-12
	分析項目 I 教育活動の状況	1-12
	分析項目 II 教育成果の状況	1-56
III	「質の向上度」の分析	1-68

## I 人文学部の教育目的と特徴

### 1 教育目的

#### (1) 理念・教育の目標

本学部の教育理念は次のとおりである。(資料人1)

#### 資料人1：本学部理念

##### 理念

信州の大自然の織りなす四季のもと、都会の喧噪とほどよく距離をたもちつつ、時代や人間をみる確かな目と、他者や自然と共生できる豊かな感性を育くむ教育を行います。

複雑多様化し混迷する現代社会のあらゆる局面で、不断に根源的な思索を試み、それらに批判的・創造的にかかわってゆくことのできる「実践知」を身につけた新しい時代の人文人（ネオ・フマニスト）を育成します。

##### 教育研究目標

本学部では、下記の教育目標に掲げる【心と思考の実践知】【技と行動の実践知】の諸能力を有し、かつ卒業論文が審査基準を満たした者に対し、学士の称号を授与します。

人文学部では「実践知」を、その教育目標に掲げています。「実践知」とは、知を運用する力、機動する知であり、現実の社会に働きかける、のびやかで生き生きとした知の力を指します。具体的には、以下のさまざまな力などをまとめ、一言で表した言葉が「実践知」です。

##### 心と思考の実践知

自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力  
 変容する社会を冷静に分析し、時流に迎合することなく価値判断できる批判力  
 過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力  
 異質・多様なものを理解し、寛容かつ多面的に判断することができる受容力

##### 技と行動の実践知

情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシー  
 他者の考えを明晰に理解し、自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシー  
 グローバル社会において、多様な文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力  
 領域横断的な事柄に対する問題解決能力および独創的な企画構想能力

(出典：信州大学人文学部ホームページ「理念」)

#### (2) 3つの方針

理念に掲げた内容を実現するため、本学部では「ディプロマ・ポリシー」「カリキュラム・ポリシー」「アドミッション・ポリシー」を掲げている。(資料人2、資料人3、資料人4)

#### 資料人2：人文学部 ディプロマ・ポリシー

本学部では、下記の教育目標に掲げる【心と思考の実践知】【技と行動の実践知】の諸能力を有し、かつ卒業論文が審査基準を満たした者に対し、学士の学位を授与します。

人文学部では「実践知」を、その教育目標に掲げています。「実践知」とは、知を運用する力、機動する知で

あり、現実の社会に働きかける、のびやかで生き生きとした知の力を指します。  
 具体的には、以下のさまざまな力などをまとめ、一言で表した言葉が「実践知」です。

◎心と思考の実践知

- ・ 自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる思索力
- ・ 変容する社会を冷静に分析し、時流に迎合することなく価値判断できる批判力
- ・ 過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力
- ・ 異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力

◎技と行動の実践知

- ・ 情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシー
- ・ 他者の考えを明晰に理解し、自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシー
- ・ グローバル社会において、多様な文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力
- ・ 領域横断的な事柄に対する問題解決能力および独創的な企画構想能力

(出典：学務係資料)

資料人3：人文学部 カリキュラム・ポリシー

本学部では、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、以下のようにカリキュラムを編成し、実施します。

- 幅広い教養を基盤として、深い専門性を備えた知識ならびに実践的能力を修得させるため、本学部にて7コース・18分野を置きます。学生は1年次に共通教育科目および専門科目の一部を通して多彩な学問領域に触れ、2年次からは以下のいずれかの分野に所属し、専門科目を中心に学修します。
  - ① 哲学・芸術論コース（哲学・思想論分野、芸術コミュニケーション分野）
  - ② 文化情報論・社会学コース（文化情報論分野、社会学分野）
  - ③ 心理学・社会心理学コース（心理学分野、社会心理学分野）
  - ④ 歴史学コース（西洋史分野、東洋史分野、日本史分野）
  - ⑤ 比較言語文化コース（比較文学分野、中国語学・中国文学分野、ドイツ語学・ドイツ文学分野、フランス語学・フランス文学分野）
  - ⑥ 英米言語文化コース（英語学分野、英米文学分野）
  - ⑦ 日本言語文化コース（日本文学分野、日本語学分野、日本語教育学分野）
- 学位授与の方針（ディプロマポリシー）に掲げた諸能力の着実な修得を目的として、より幅広い履修を促すべく、各コースに置かれた科目を以下の3系に分類し、多彩な分野を横断する有機的な学修を推進します。
  - ◇ クリエーション系（開拓力、批判力、企画構想力の涵養）＝哲学・芸術論コース、文化情報論・社会学コースの科目
  - ◇ ソリューション系（受容力、思索力、問題解決能力の涵養）＝心理学・社会心理学コース、歴史学コースの科目
  - ◇ コミュニケーション系（コミュニケーション能力、外国語能力、メディアリテラシーの涵養）＝比較言語文化コース、英米言語文化コース、日本言語文化コースの科目
- 専門分野の知識・能力を着実に修得させるため、専門科目を修学プロセスに対応した6つの科目群（カテゴリー）によって段階的に構成します。
  - ① 導入科目（人文学部の多様な学問の基礎知識を学ぶ1年次の「人文科学通論」）
  - ② 基礎科目（1年次から履修できる各コースの概論科目）
  - ③ 基幹科目（他コースの専門外の学生にも門戸を開いた基礎的な専門科目）
  - ④ 発展科目（専門分野の専門性の高い科目）

⑤ コース連携科目（コース・分野間ならびに学部間の連携を促進する科目）

- 探究科目（4年次の卒業論文）
- 教育・修学指導の充実のため、所属するコース・分野の枠にとらわれない複数指導教員体制をとります。
- すべての授業科目において授業と連動した活発な学修を促進するため、シラバス等を通じて事前・事後の学修課題を明確化し、単位の実質化を図ります。
- 学部共通科目「フィールド実践基幹演習」を設け、学生が主体となって企画・運営等に積極的に関与しながらフィールドワークを行い、機動的な実践力・リーダーシップを身につけることを目指します。
- 国際化、グローバル化に対応するため、専門課程にあっても持続的に学習し外国語能力を高めるために、外国語指定科目を設けます。

（出典：学務係資料）

資料人4：人文学部 アドミッション・ポリシー

求める学生像

人文学部は、教育目標「実践知」を習得するために必要な素養を備えた、次のような人たちを積極的に受け入れます。

- ・ 人間、社会、歴史、文化、言語、文学、情報、芸術などに興味や関心を抱く人
- ・ それらを探究し表現することに喜びを感じる人

大学入学までに身につけておくべき教科・科目

人文学部が行う入学者選抜試験は、受験者が上記「求める学生像」の観点を満たす人であるかどうかをはかるものです。前期日程では、大学入試センター試験で3教科3科目又は3教科4科目又は3教科5科目を選び受験することを可能にしつつ、個別学力検査では特定の教科・科目に限定されない「総合問題」を課しています。

また、後期日程では、大学入試センター試験で5教科6科目又は5教科7科目又は6教科6科目又は6教科7科目を課し、総合的な基礎学力を問いつつ、個別学力検査では特に読解力や表現力等を問う「小論文」を課しています。従って、前期日程・後期日程とも、特定の教科・科目に偏ることなく、高校までに学習するすべての教科と科目についての基礎知識を習得しておくことが必要です。

（出典：学務係資料）

2 組織の特徴や特色

(1) 組織の特徴・特色

本学は、8学部で構成され県内5キャンパスに分散しており、本学部は、全学の共通教育を行う全学教育機構（以下「機構」）とともに松本キャンパスにあり、4年一貫教育を行っている。（資料人5）

本学部は、大正8年設置の旧制松本高等学校を前身とし、理念のもと真理の探究を図るとともに、地域における課題解決の役割を果たすべく、教育研究を実施している。（資料人6）

資料人5：キャンパス配置図



(出典：信州大学ホームページ「交通・キャンパス案内」)

資料人6：組織の沿革・設置目的等

【沿革】

大正8年 旧制松本高等学校設置  
 昭和24年 信州大学文理学部設置  
 昭和41年 文理学部を改組し、  
 人文学部を設置  
 昭和53年 人文学部を改組し、人文学部、

【設置目的等】

昭和24年に、文理学部が設置された。  
 昭和41年に、地域社会の要請やそれぞれの専門的学術の研究教育に十分に対応することを目的として、文理学部から人文学部へ改組された。  
 昭和53年に、人文学部から人文学部と経済学部へ改

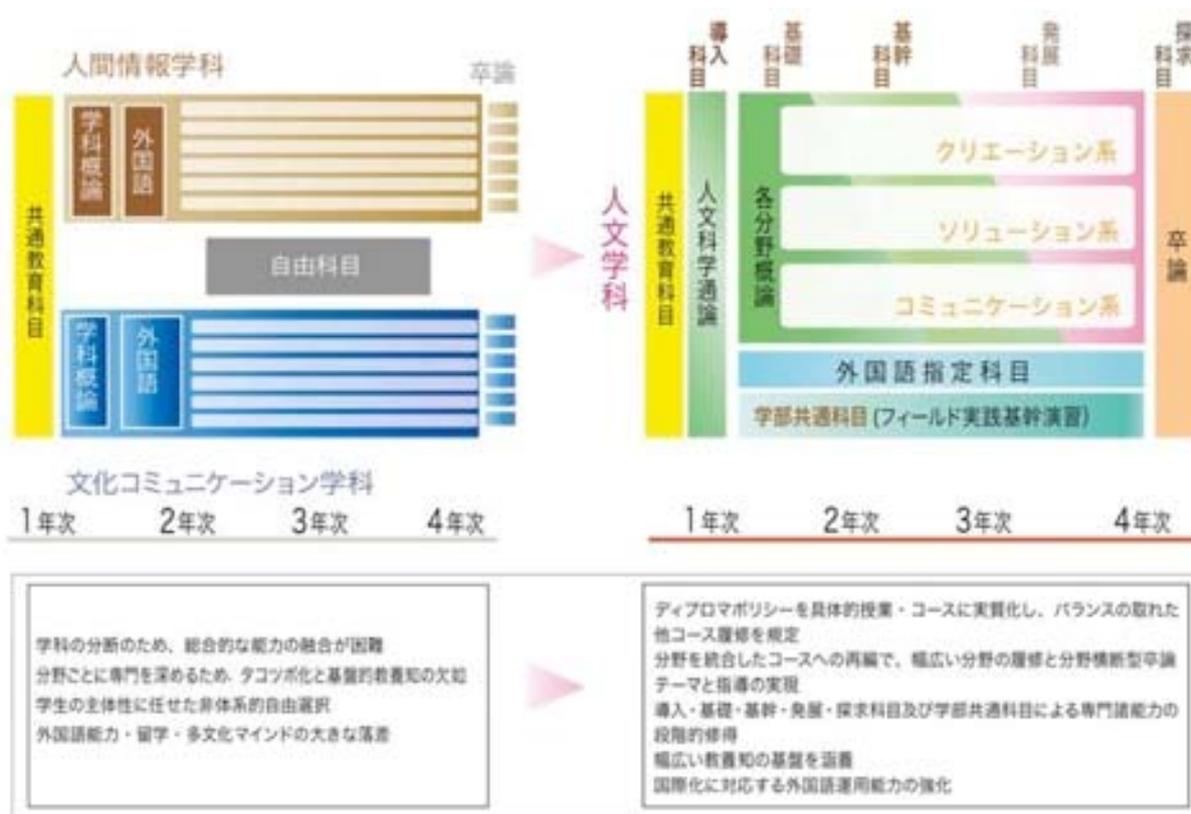
経済学部を設置  
昭和57年 大学院人文科学研究科設置

組された。  
昭和57年に、哲学・歴史学・社会学・文化人類学・文学・言語学等、人文諸科学の広範囲な学問領域相互の緊密なる協力態勢のもとで、その本質、その構造、その多様性と普遍性、その他、文化にかかわる種々の問題を、多角的に分析し、総合的・学際的・比較論的に研究することを目的として、大学院人文科学研究科が設置された。

(出典：冊子「ミッションの再定義に基づく教育研究の高度化・機能強化」)

本学部は、平成25年度に2学科（人間情報学科、文化コミュニケーション学科）から人文学科1学科に改組され、7つの履修コースに18の専門分野を擁し、44名の専任教員（平成27年4月現在）がそれぞれの専門分野をふまえた指導にあたるきめ細やかな少人数教育を実践している。（資料人7）

資料人7：カリキュラム変更のイメージ



(出典：信州大学人文学部ホームページ「学部入試情報」)

(2) カリキュラムの概要・特色

本学は、共通教育科目と専門科目で教育課程を編成している。（資料人8）

資料人8：信州大学学則

(教育課程の編成方針)

第42条 各学部は、本学、当該学部及び学科又は課程等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、体系的に教育課程を編成するものとする。

2 教育課程の編成に当たっては、学部等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮するものとする。

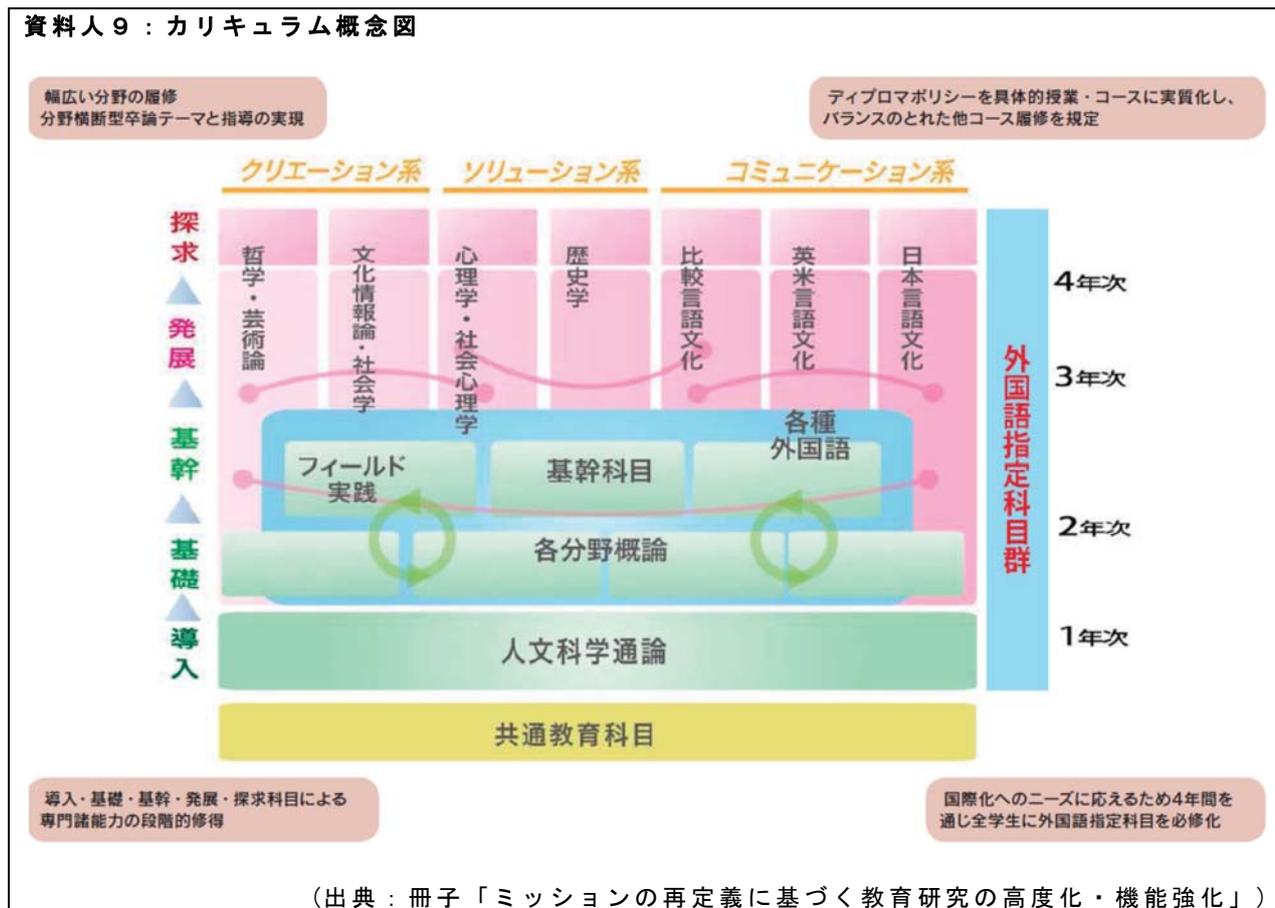
(授業科目の区分)

第43条 本学で開設する授業科目は、その内容により共通教育科目及び専門科目に分ける。

(出典：信州大学規程集)

① 専門教育科目

本学部では、2年次から特定の履修コース・専門分野に所属するが、同時に広く他分野の授業を履修するカリキュラムとなっており、分野横断的な学習と専門分野における研究との両立が図られている。外国語能力については、高年次における専門課程での語学関連授業の履修を必修化し、リーダーシップの涵養と主体的な課題発見・解決能力の養成を目指したフィールド実践基幹演習を新設した。(資料人9)



② 共通教育科目

共通教育科目は、学部の専門教育に進み、将来健全な社会人、高度専門職業人として活躍する人材を育成するため、様々な学問領域に関する授業が開講されている。(資料人10、資料人11)

**資料人10 共通教育の概要**

学部の専門教育に進み、将来健全な社会人、高度専門職業人として活躍する人材を育成するため、幅広い教養と基礎的能力に基づく課題探求能力、豊かな人間性や国際性の修得及び人間力向上を目指す。

特に、環境に配慮した意識と生活者としての環境マインドを醸成し、サステナビリティの自覚を促す。さらに、グローバル化時代を生きる新しい世代に不可欠な、学際的・複合的視点に立って自ら課題を探求し、論理的に物事をとらえ、自らの主張を的確に表現しつつ行動していくことができる能力を育成する。



資料人11：共通教育科目区分一覧

教養科目：学部・学科(課程)を越えた全学生の素養として必要な科目	
教養講義	信州大学の理念・目的に沿って、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するための教養科目
教養ゼミナール	
基礎科目：大学教育（学部一貫教育）の基礎となる科目	
外国語科目	全学生に共通に必要な科目
健康科学科目	
新入生ゼミナール科目	
基礎科学科目	複数の学部で基盤となる科学について共通教育で開講する科目
日本語・日本事情	
日本語・日本事情科目	外国人留学生のために開講する科目
専門入門科目	
専門入門科目	学部の専門科目として開講され、他学部生は教養科目として履修できる科目

(出典：経営企画課にて作成)

3 入学者の状況

本学部の入学者選抜状況は資料人12のとおりである。

資料人12：入学者選抜（一般選抜）状況（帰国子女、3年次編入、私費外国人留学生除く）

年度	学科	募集人員	志願者	受験者	合格者	入学者
平成22年度	人間情報学科	80	323	262	104	84
	文化コミュニケーション学科	75	285	239	103	81
平成23	人間情報学科	80	463	376	104	96

年度	文化コミュニケーション学科	75	312	253	105	83
平成 24 年度	人間情報学科	80	376	310	98	84
	文化コミュニケーション学科	75	384	271	98	83
平成 25 年度	人文学科	155	748	547	197	166
平成 26 年度	人文学科	155	700	565	223	165
平成 27 年度	人文学科	155	836	647	192	158

(出典：信州大学人文学部パンフレット)

一般選抜の志願倍率は、4～5倍で推移している。(資料人13)

資料人13：志願倍率（一般選抜）の推移

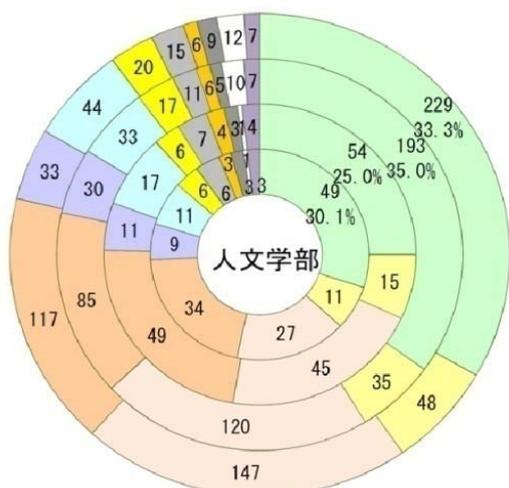


(出典：アドミッションセンター作成資料をもとに人文学部作成)

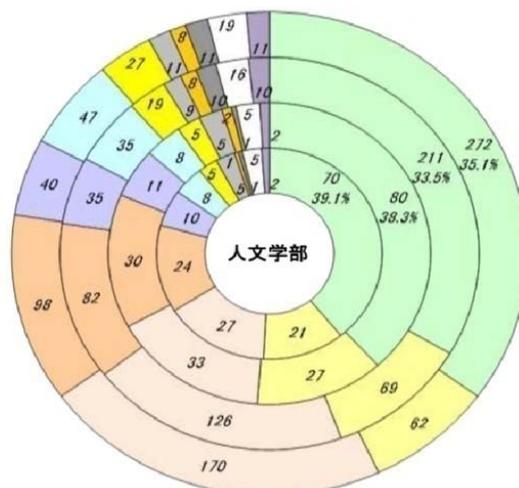
入学者の出身は、県内出身者が約30～40%、関東・甲越が約20～30%、東海が約15～20%となっている。(資料人14)

資料人14：平成26年度地域別志願者数・受験者数・合格者数・入学者数

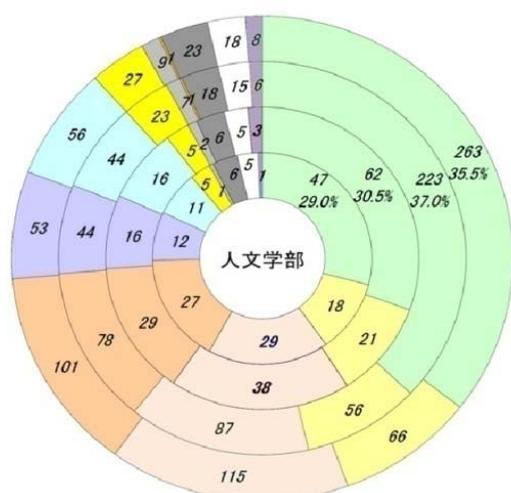
平成21年度



平成23年度



平成26年度



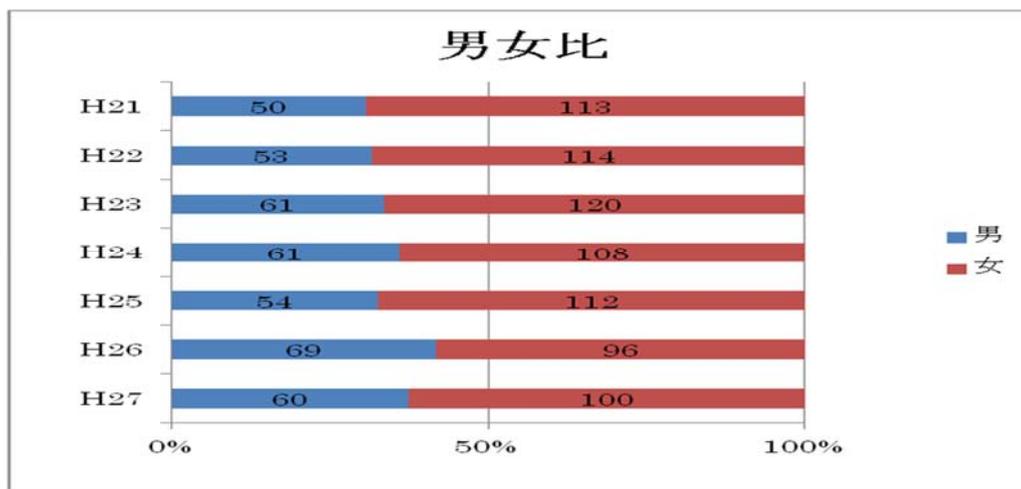
凡例

- 最外周：志願者
  - 第2周：受験者
  - 第3周：合格者
  - 最内周：入学者
- 長野
  - 甲越
  - 関東
  - 東海
  - 北陸
  - 近畿
  - 東北
  - 中国
  - 四国
  - 九州・沖縄
  - 北海道
  - その他

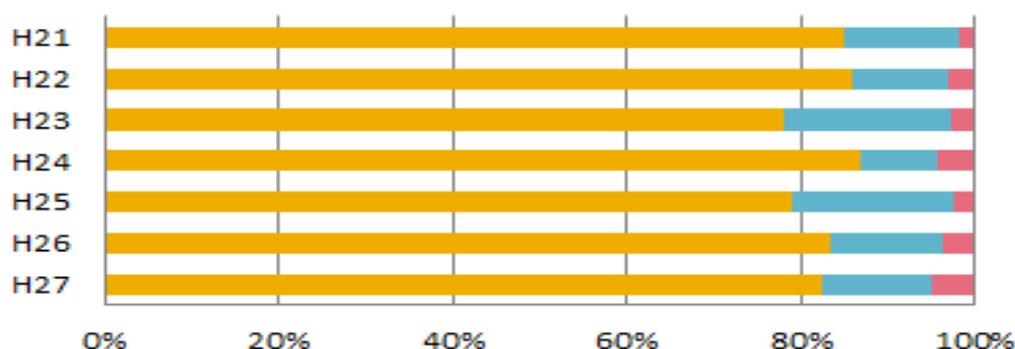
(出典：経営企画課作成)

入学者の男女比、高校卒業年別入学者率は、大幅な変動がなく推移している。(資料人15)

資料人15：入学者男女比、高校卒業年別入学者率



### 高校卒業年



	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
■新卒	138	142	140	145	131	136	132
■前年卒	21	18	34	15	31	21	20
■その他	3	5	5	7	4	6	8

(出典：経営企画課作成)

[想定する関係者とその期待]

① 在学生・卒業生

在学生や受験生からは、**教職、学芸員、社会調査士の各資格**を取得すること、**外国語能力**を身に付けること、**幅広い知識と教養**を学ぶこと、**地域社会と密接にかかわる機会**を獲得することが期待されている。

② 保護者・卒業生の雇用先

保護者、および卒業生の雇用先である諸機関・諸企業等からは、①の能力を身につけた**人材の育成**を期待されている。

③ 地域社会の諸機関・諸団体

地域社会の諸機関・諸団体からは、**各資格を有する人材を育成**すること、**専門的知識を地域社会に還元**することが期待されている。

## II 「教育の水準」の分析・判定

### 分析項目 I 教育活動の状況

#### 観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

#### (1) 基本的組織の編成

##### ① 学術研究院、全学教育機構と学部

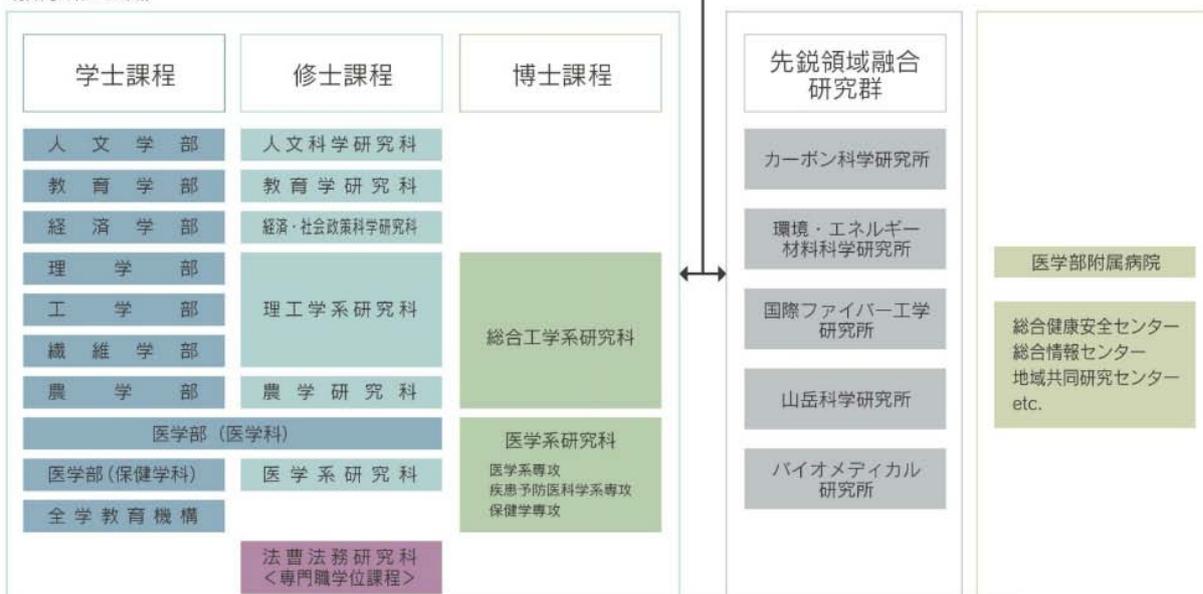
教員組織として学術研究院を平成 26 年度より設置した。また、学士課程の共通教育科目を担当する教育組織として全学教育機構を設置している。(資料人 16)

#### 資料人 16：学術研究院と学部との関係

(教員組織)



(教育研究組織)



学術研究院は、3の学域・10の学系により構成する。すべての教員は、いずれかの学系に所属し、職務として次のいずれかに携わる。(複数の兼務もあり)

- 1) 学部・大学院、全学教育機構において、教育・研究に携わる。
- 2) 医学部附属病院において、診療・教育・研究に携わる。
- 3) 先鋭領域融合研究群において、研究に携わる。
- 4) 大型研究センター(拠点形成型の外部資金プロジェクト)において、研究に携わる。
- 5) 各教育研究(支援)センター等において、担当業務に携わる。

これにより、先鋭領域融合研究群の研究者への研究重点環境の提供や学部横断型の教育を実現し、研究の高度化や時代の要請に柔軟かつスピーディーに対応した教育を推進する。

(出典：「大学概要 2015」をもとに経営企画課作成)

②学部の構成、教員の配置、及び教育支援の体制

②-1 専門教育

本学部では学務委員会が中心になり、教育課程の改善を検討、決定している。（資料人17）

**資料人17：教育課程の検討・決定フロー**

1と2で立案・検討、3で審議し、決定する。

<p>1.学務委員会 委員長1名、副委員長1名 委員3名</p>	<p>2.執行部会議 学部長1名、副学部長3名 学部長補佐3名</p>	<p>3.教授会 教授15名、准教授29名</p>
--	---	-------------------------------

（出典：人文学部資料）

本学部は平成25年度に改組（平成28年度完成）を行い、従来の2学科を改め1学科とした。（前掲資料人7、p.6）。改組後の定員は155名（改組前の文化コミュニケーション学科75名＋人間情報学科80名）である。（資料人18）

**資料人18：学部学科の構成**

改組前	改組後	
<p>人文学部 人間情報学科（定員80名） 文化コミュニケーション学科（定員75名）</p>	→	<p>人文学部 人文学科（定員155名）</p>

（出典：平成25年度信州大学人文学部パンフレット）

教育課程編成の基本的な考え方は、幅広い教養知に支えられた汎用力ある専門性や総合的な実践力の養成にあり、そのために、幅広い学習を促す3つの系と、分野を統合した7つの履修コースを設置している。（資料人19）

**資料人19：教育課程編成の考え方**

**幅広い教養知に支えられた汎用力ある専門性や総合的な実践力**

これまでの「人間情報学科」と「文化コミュニケーション学科」2学科制を1学科制にすることにより、「社会における情報化の推進や情報産業を担う新しい人間観、社会観」の養成機能（人間情報学科）と、「外国語運用能力と他国の言語文化に関する秀でた知識」の養成機能（文化コミュニケーション学科）を統合し、分野を再編統合した新コース制による履修設計と、分野横断型の複数修学履修指導体制を強化し、従来の養成機能の相乗の効果による向上をはかり、2学科制ではなし得なかった人材養成を行います。

**幅広い学習を促進する3つの系**

各履修コースに、導入科目から発展科目に至る修学プロセスに対応した科目群（カテゴリー）を設定し、専門分野の諸能力を段階的かつ着実に修得させます。

§ クリエーション系（開拓力、批判力、企画構想力の涵養）＝哲学・芸術論コース、文化情報論・社

## 会学コースの科目

§ソリューション系（受容力、思索力、問題解決能力の涵養）＝心理学・社会心理学コース、歴史学コースの科目

§コミュニケーション系（コミュニケーション能力、外国語能力、メディアリテラシーの涵養）＝比較言語文化コース、英米言語文化コース、日本語文化コースの科目

## 分野を統合した7つの履修コース

1. 哲学・芸術論コース（哲学・思想論分野、芸術コミュニケーション分野）
2. 文化情報論・社会学コース（文化情報論分野、社会学分野）
3. 心理学・社会心理学コース（心理学分野、社会心理学分野）
4. 歴史学コース（西洋史分野、東洋史分野、日本史分野）
5. 比較言語文化コース（比較文学分野、中国語学・中国文学分野、ドイツ語学・ドイツ文学分野、フランス語学・フランス文学分野）
6. 英米言語文化コース（英語学分野、英米文学分野）
7. 日本語文化コース（日本文学分野、日本語学分野、日本語教育学分野）

（出典：平成25年度信州大学人文学部パンフレット）

改組前の新入生アンケートにおいては従来から**1学科制を望む声**があった。（資料人20）

**資料人 20：1学科制を望む意見**

人情コースと文コミコースの境界はもう少し緩やかにできるのであれば、したほうが良いと思います。たとえば芸術コミュニケーション領域の問題意識が哲学や社会学と密接に関わっていたりするので、興味関心が移ったときに、転科しやすければ良かったと思います。（平成23年度人文学部卒業生アンケート）

人情と文コミが一つになるそうですが、人文学は分野横断的な内容がテーマになることもあるので、いいことだと思います。（平成24年度人文学部卒業生アンケート）

（出典：人文学部卒業生アンケート分析結果報告書）

また、改組後の平成25年度新入生アンケートにおいて**学部改組の影響**について質問したが、好意的に受け入れられている。（資料人21）

**資料人 21：学部改組が受験に与えた影響【抜粋】**

- ・選択の自由さが増したと思った。
- ・分野をしぼらなくて良くなったので、より受験したいと思った。
- ・大学に入ってからでも**選択肢が少なくなる**ので良いと思った。
- ・様々な分野を学ぶことができるということで志願する気持ちが強まった。
- ・受験時に学科を絞る必要がなくなり、選択の幅が広がった。
- ・できるだけ幅広く学べる学科を探していたのでより興味が湧きました。
- ・改組したことで**学びの選択の幅が広がって嬉しかった**。英語教育に力を入れることがよいと思った。
- ・良い方に影響したと思う。

（出典：平成25年度新入生アンケート分析結果報告書）

必修科目については、原則として専任教員が担当している。（資料人22、資料人23）

## 資料人22：教員配置の状況（平成27年度実施状況）

	教授	准教授	講師	助教	計
設置基準数	6	5			11
専任教員	15	30	0	0	45
延べ授業開講数	98	192	0	0	290
延べ主担当数	98	192	0	0	290
延べ副担当数	5	13	0	0	18

(出典：人文学部作成)

## 資料人23：科目開講状況（平成27年度実施状況）

	必修科目	選択科目
科目数	2	359
うち専任教員担当	2	288

(出典：人文学部作成)

## ②-2 共通教育

共通教育は、機構を中心に全学協力体制のもと、学長が最終責任を負う体制により実施している。（資料人24、資料人25、資料人26）

## 資料人24：信州大学全学教育機構規程

(目的)

第2条 機構は、信州大学（以下「本学」という。）が定める教育上の基本方針に基づき、本学の共通教育（各学部が編成する教育課程のうち、本学学生に対する教養教育、基礎教育及び日本語・日本事情に係る教育について、全学協力体制のもとに、全学共通に行う教育をいう。以下同じ。）及び教職関係5学部（人文学部、理学部、工学部、農学部及び繊維学部をいう。以下同じ。）の教職教育（教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための教育をいう。以下同じ。）の実施機関として、各学部と緊密に連携し、全学的な見地から共通教育に係る教育課程の企画及び円滑な実施を図るとともに、本学が掲げる高度専門職業人養成の教育目標を達成するため、学部一貫教育を前提に本学の教育に関する研究開発、企画及び支援を総合的に行うことを目的とする。

(全学協力体制等)

第3条 共通教育及びこれを履修する学生（以下単に「学生」という。）の修学指導は、全学協力体制により実施するものとし、各学部は、その実施体制の管理及び運営に責任を負うとともに、本学のすべての教員は、その構成員として共通教育の実施及び学生の修学指導を担当することを任務とする。

2 機構は、前条の目的を達成し、次条に定める業務を遂行するため、附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センターその他の関係部局（以下「関係部局」という。）と有機的に連携するとともに、関係委員会等と緊密に連携協力する。

(共通教育企画実施部)

第10条 機構に、共通教育企画実施部を置く。

2 共通教育企画実施部は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 共通教育に係る教育課程の企画及び立案に関すること。
- (2) 共通教育の授業担当者の選任に関すること。
- (3) 共通教育の授業の実施に関すること。
- (4) 専門科目と共通教育との実施上の調整に関すること。
- (5) 高年次共通教育及び日本語・日本事情に係る留学生教育の企画及び調整に関すること。

(共通教育修学支援部)

第11条 機構に、共通教育修学支援部を置き、学生の学習支援その他の修学支援に関する業務を行う。

2 共通教育修学支援部に、修学支援部門を置く。

3 共通教育修学支援部に責任者を置き、副機構長（修学支援担当）をもって充てる。

(クラス副担任)

第 16 条 修学支援部門に、各学部のクラス担任を補佐するため、クラス副担任を置く。

2 クラス副担任は、機構の専任教員が担当し、当該学部のクラス担任との密接な連携を図るものとする。

(教授会)

第 17 条 機構に、信州大学学則(平成 16 年信州大学学則第 1 号)第 25 条第 2 項の定めるところにより、信州大学全学教育機構教授会(以下「教授会」という。)を置く。

2 教授会に関し必要な事項は、別に定める。

(運営会議)

第 18 条 機構に、機構の運営に関する具体的事項を審議するため、信州大学全学教育機構運営会議(以下「運営会議」という。)を置く。

2 運営会議は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 機構長
- 二 副機構長
- 三 基幹教育センター長及び言語教育センター長
- 四 共通教育企画実施部の各教育部門長及び修学支援部門長並びに教職教育部副責任者
- 五 その他機構長が必要と認める者

3 運営会議に議長を置き、機構長をもって充てる。

4 議長は、運営会議を主宰する。

5 学長は、必要又は機構長の要請に応じて、運営会議に出席し、審議に参加するとともに、共通教育及び機構の組織の運営に関する事項を、運営会議に提示し、審議を求めることができる。

6 運営会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 共通教育の企画及び実施並びに修学支援に関する事項
- 二 機構の運営組織に関する事項
- 三 基幹教育センター及び言語教育センターの人事方針(採用人事方針を含む。)に関する事項
- 四 教職教育部の業務に関する事項

7 運営会議は、必要に応じて、その審議結果を教授会に報告するものとする。

(学長及び共通教育推進会議)

第 19 条 共通教育の実施に係る最終責任は、学長が負う。

3 国立大学法人信州大学共通教育推進会議(以下「共通教育推進会議」という。)は、必要に応じて、又は教授会の要請に応じて、機構の組織、運営に係る重要事項を審議する。

4 学長及び共通教育推進会議は、共通教育に関する基本的事項について、教授会に提案することができる。この場合において、教授会は、これを尊重するものとする。

(出典：信州大学規程集)

#### 資料人 25：国立大学法人信州大学共通教育推進会議規程

(趣旨)

第 1 条 この規程は、国立大学法人信州大学組織に関する規則(平成 17 年国立大学法人信州大学規則第 5 号)第 16 条の 2 第 2 項の規定に基づき国立大学法人信州大学(以下「本法人」という。)に設置する国立大学法人信州大学共通教育推進会議(以下「共通教育推進会議」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(職務)

第 2 条 共通教育推進会議は、本法人が設置する信州大学(以下「本学」という。)の次の各号に掲げる重要な事項について審議するほか、全学教育機構と各学部との連携協力及び連絡調整を円滑に行うことを職務とする。

- (1) 共通教育の企画及び実施並びに修学支援の実施に関する事
- (2) 共通教育カリキュラムの策定及び改定に関する事
- (3) 共通教育の実施における全学的な支援に関する事
- (4) 全学教育機構の運営に関する事
- (5) その他共通教育の実施に関する事

(組織)

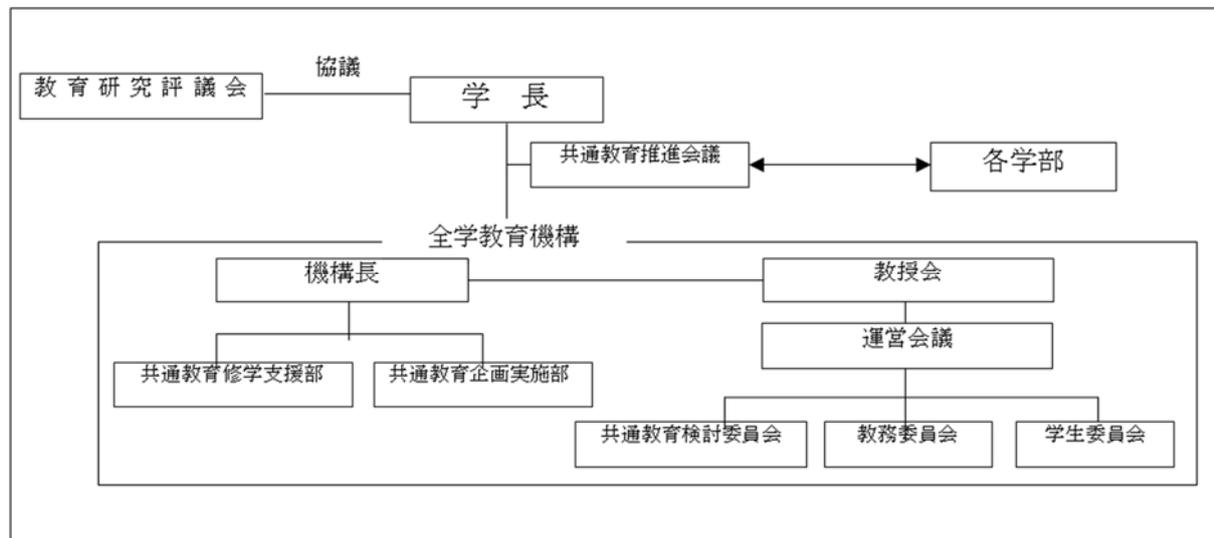
第 3 条 共通教育推進会議は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 教務担当の理事
- (3) 全学教育機構長
- (4) 高等教育研究センター長
- (5) 学部長又は副学部長のうちのいずれか 1 名
- (6) その他学長が必要と認める者

(議長)

第4条 共通教育推進会議に議長を置き、学長をもって充てる。  
 2 議長は、共通教育推進会議を主宰する。  
 3 議長に事故があるときは、第3条第2号に規定する理事が、その職務を代行する。  
 (出典：信州大学規程集)

資料人 26：共通教育科目の教育体制



(出典：経営企画課作成)

②-3 教育支援の体制

本学部では、1年生が全員履修する「新入生ゼミナール」(10クラス、各クラス約16名)に担任・副担任制度が設けられ、勉学のみならず生活全般を含めた指導や相談にあっている。(資料人 27)

資料人 27：平成 27 年度新入生ゼミナール担任一覧

担任は人文学部、副担任は全学教育機構教員

L1 黒田	L6 濱崎	副担任 (L1~L10) 荒井
L2 杉野	L7 早坂	
L3 茅野	L8 速水	
L4 豊岡	L9 水原	
L5 長谷川	L10 山田	

(出典：平成 27 年度人文学部シラバス)

また全学的なサポートとして、学務課、学生支援課、国際交流課を設置し、全学的な教育課程、課外活動、就職、留学に関する業務を行っている(資料人 28、資料人 29)。

資料人 28：「国立大学法人信州大学事務執行組織規程」

第 25 条 学務課においては、全学教育機構、高等教育研究センター、e-Learning センター、教員免許更新支援センター(教育学部の所掌に属するものを除く。以下この条において同じ。)及び学務部に関する次の業務をつかさどる。

- (1) 学務部内の事務に関し、連絡し、及び総合調整を行うこと。
- (2) 庶務及び会計に関すること。
- (3) 入学式その他学生の諸行事に関すること。
- (4) 学生関係職員の SD(スタッフ・デベロップメント)に係る企画・立案及びその実施に関する

- こと。
- (5) 全学(本法人が設置する信州大学大学院(以下「大学院」という。)を除く。)の教務に関する  
こと。
- (6) 学生の学籍その他の記録に関すること。
- (7) 学位の授与に関すること。
- (8) 教育課程(大学院を除く。)に係る目標及び計画の連絡調整に関すること。
- (9) 他の大学等との単位の互換(大学院を除く。)に関すること。
- (10) 全学の学務情報システムに関すること。
- (11) 出前講座に関すること。
- (12) 諸会議(国立大学法人信州大学戦略企画会議規程(平成 24 年国立大学法人信州大学規程第  
108 号)第 6 条に定める大  
学院戦略会議(以下「大学院戦略会議」という。)及び信州大学大学院教務委員会を除く。)の  
連絡調整に関すること。
- (13) 教育・学生支援連携会議の運営に関すること。
- (14) その他全学教育機構、高等教育研究センター、e-Learning センター及び教員免許更新支  
援センターの業務執行及  
び運営に関すること。
- (15) 前各号に掲げるもののほか、学務部の他の所掌に属しない事務を処理すること。
- 2 学務課の共通教育支援室においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 共通教育の授業支援に関すること。
- (2) 共通教育の教務に関すること。
- (3) 学生の学習相談及び修学指導に関すること。
- (4) 共通教育に係る点検・評価に関すること。
- (5) 全学教育連携会議等の諸会議の連絡調整に関すること。
- (6) 環境マインド教育支援に関すること。
- 3 省略
- 4 学生支援課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 学生総合支援センターの業務執行及び運営に関すること。
- (2) キャリアサポートセンターの業務執行及び運営に関すること。
- (3) 学生相談センターの業務執行及び運営に関すること。
- (出典：国立大学法人信州大学業務執行組織規程)

資料人 29：学務課、学生支援課、国際交流課の職員数

	学務課	学生支援課		国際交流課
		うち キャリアサポートセンター		
事務職員	20	11	3	6
事務補佐員	12	4	2	5
臨時用務員	1			
専門職員	1			
技術補佐員	5			
技能補佐員		1		
シニア雇用職員	4	1		
コーディネータ		1		6
合計	43	18	5	17

平成 28 年 1 月 18 日現在

(出典：経営企画課作成資料)

この他に、全学的な教育活動を展開するために附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センター、e-Learning センターに専門的知識技能を有する職員を配置している。(資料人 30)

## 資料人 30：附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センター、e-Learning センター職員数

区 分	附属図書館	総合健康安全センター	総合情報センター	e-Learning センター
松本キャンパス	54	13	9	3

平成 28 年 2 月 1 日現在

(出典：経営企画課作成資料)

大学院生の TA を雇用し、専門的知識に基づく指導的立場への自覚を促すと共に演習や実験等の実施をサポートする体制をとっている(資料人 31)。また、附属図書館に大学院生による学習支援相談員を置き、学生へのレポート作成支援等を行っている。(資料人 32)

## 資料人 31：信州大学人文学部 TA 採用数

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
TA 採用数	15	14	14	8	8	13

(出典：人文学部総務係作成資料)

## 資料人 32：信州大学附属図書館学習支援相談員

大学院生の学習支援相談員が学習に役立つ図書館の使い方や PC の利用などについて学生のみなさんをサポートします。中央図書館の 2 階カウンターで学習のちょっとした疑問にお応えします。お気軽に相談ください。

## 学習支援相談員

月曜日・金曜日(祝日を除く) 16:30-19:30

中央図書館 2 階カウンター

## 図書館での学習サポート

調べもののコツ、手がかりなど、学習のちょっとした疑問に答えます。

本・雑誌の探し方(OPAC)

館内資料の配置

論文の探し方

## PC サポート

PC の利用やネットワークへの接続、PC トラブルの相談に答えます。

Word、Excel などの使い方

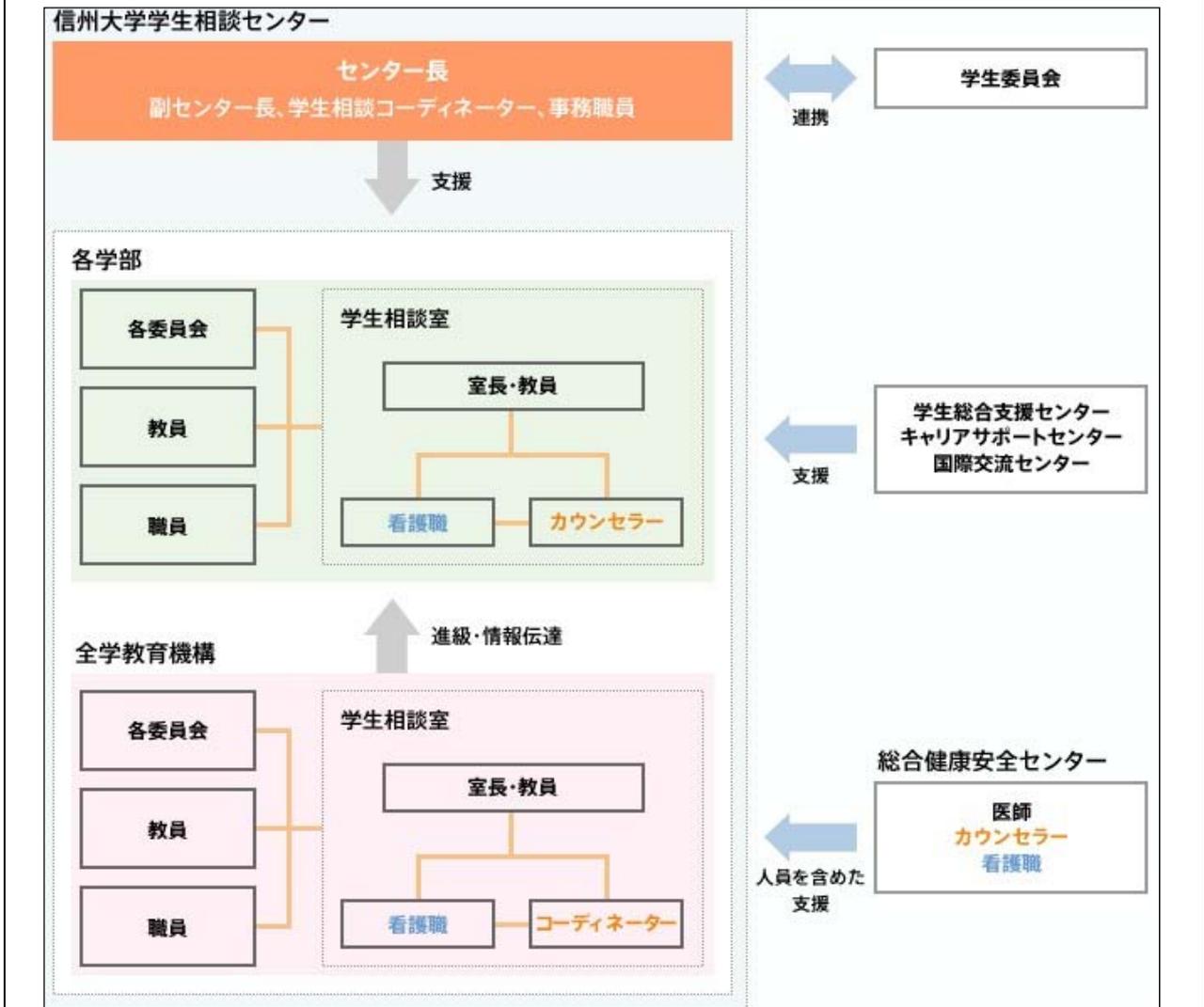
無線 LAN の使い方

(出典：信州大学附属図書館ホームページ「お知らせ」)

## ②-4 学生相談体制の整備

平成 24 年度に全学組織となる学生相談センターと、各学部・キャンパスに、あらゆる相談を受け付ける学生相談室が設置された。(資料人 33)

資料人 33：学生相談センター及び学生相談室



## 専門窓口と連携し対応します。

相談内容に応じて、学内外の専門機関(窓口)と連携を取ります。

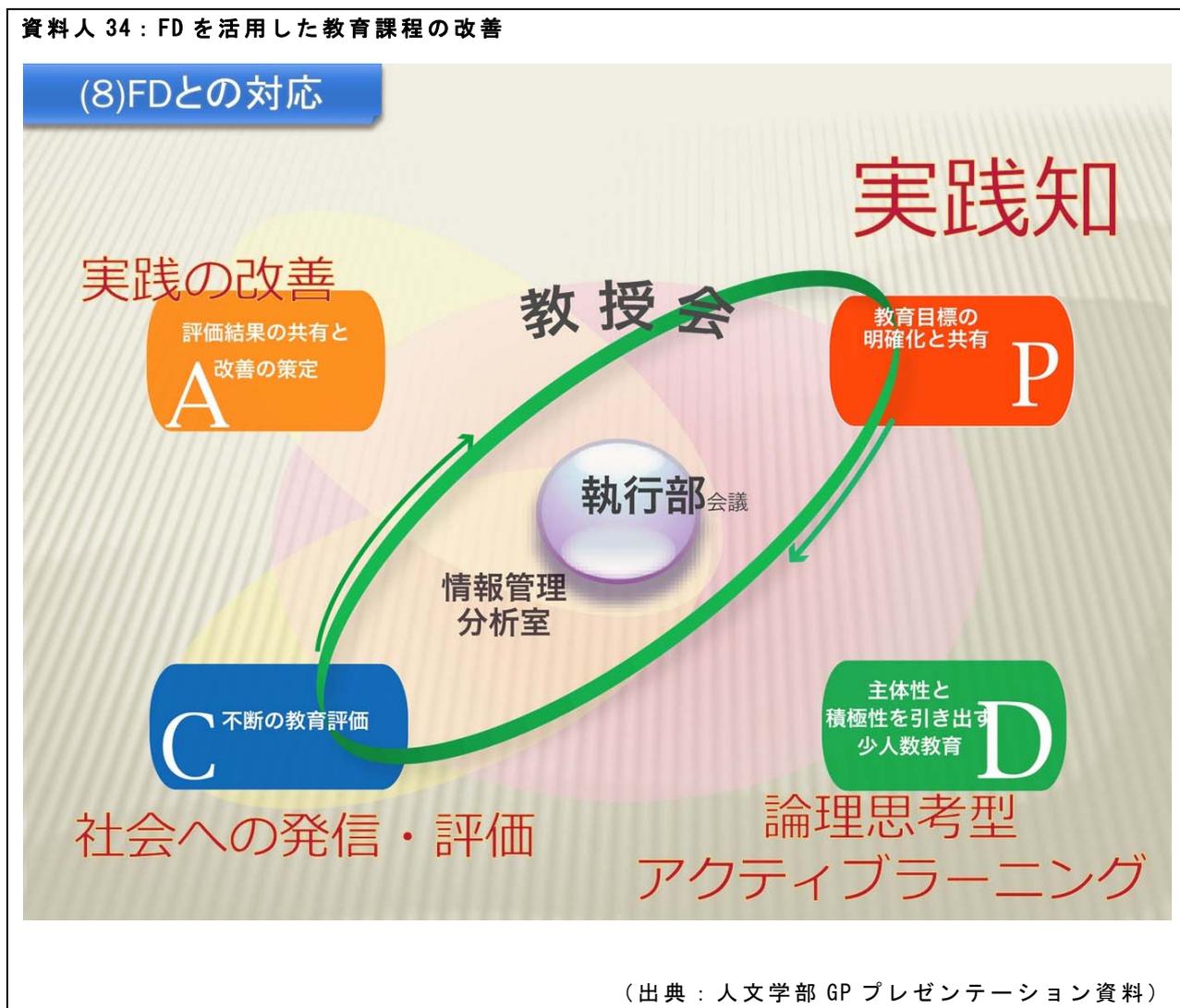


(出典：信州大学学生相談センターホームページ「センターについて」)

(2) 教育内容・教育方法の改善に取り組む体制

① 専門教育

本学部学務委員会が中心となり教育内容・教育方法についての議案を作成、執行部会議で検討の後、教授会で審議しカリキュラムとして実践、フィードバックを受けて情報管理分析室で傾向を分析し、ふたたび学務委員会で議題になるというPDCAサイクルが稼働している（資料人34）。



教育課程の改善にあたっては、授業改善アンケート、卒業生アンケート、新入生アンケート、雇用主アンケート（資料人35）を実施することで、最新の動向をふまえた改善に取り組んでいる。

資料人35：想定する関係者のニーズを把握する取り組み

授業改善アンケートの実施と分析（年2回）  
 卒業生アンケートの実施と分析（年1回）  
 新入生アンケートの実施と分析（年1回）  
 雇用主アンケートの実施と分析FDによるアンケート結果の報告と情報共有（5年に1回）

対象	実施方法	頻度	実施組織	目的・利用方法
学生	紙媒体によるアンケート	年2回	評価情報分析室	授業改善及び授業の工夫に繋げ教育の質の向上を図る。

卒業生	紙媒体によるアンケート	年1回	評価情報分析室	教育課程と教育内容をより良くし、教育の充実を図る。
新入生	紙媒体によるアンケート	年1回	評価情報分析室	教育課程と教育内容をより良くし、教育の充実を図る。
雇用主企業等	就職した企業等へのアンケート	5年に1回	評価情報分析室	企業が必要とする本学部のシーズを把握する。

(出典：人文学部作成資料)

アンケート関連の情報は本学部学部長直属の情報管理分析室評価情報担当（学部長以下委員3名）によって定期的に実施、分析され、経年的な変化が追跡できるようになっている。

○保護者のニーズに対応した取り組み

本学部後援会は本学部学生の保護者および教員が加入する組織で、学生と教員相互の更に緊密な人間関係を育み、教育活動全般にわたってきめ細やかな修学支援をすると共に、保護者の要望をくみ上げることを目的に活動を続けている（資料人36、37）

**資料人36：信州大学人文学部後援会**

（名称）

第1条 本会は、信州大学人文学部後援会といい、事務所を松本市内に置く。

（目的）

第2条 本会は、信州大学人文学部及び大学院人文科学研究科（以下「学部」という。）の教育・研究及び学生生活の向上に関して後援することを目的とする。

（事業）

第3条 本会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- 一 学部の教育・研究活動並びに学部運営の援助。
- 二 学生の修学支援。
- 三 学生の福利厚生増進及び課外活動の援助。
- 四 就職活動に関する事業。
- 五 その他必要な事業。

（以下省略）

（出典：信州大学人文学部講演会会則）

資料人 37：人文学部後援会の主な活動（平成 27 年度実績）

- ・ 後援会総会
- ・ 講演会（題目）高校教科書で学ぶ日本史  
（講師）人文学部教授 山本英二
- ・ 保護者・教員懇談会（学生・保護者・教員の 3 者面談）
- ・ 授業見学
- ・ 懇親会
- ・ 研究室ゼミ合宿への経費支援
- ・ 人文学部主催の懇親会への差し入れ

平成 27 年度人文学部 特別講演会  
 信州大学 | 人文学部  
 SHINSHU UNIVERSITY

慶安御觸書

講師 山本 英二  
 歴史学コース・日本史分野教授  
 専攻：日本近世史

日本史  
 高校教科書で学ぶ

詳説  
 日本史 B

今と昔とでは高校日本史教科書は大きく変わっています。どこがどのように違うのか。最新の研究成果から考えていきます。今回、対象とするのは江戸時代です。具体的には慶安御触書と生類憐みの令を取り上げます。最新の教科書には慶安御触書は載っていません。生類憐みの令は悪法とは書かれていません。どちらも信州大学人文学部から発信された研究が変更をもたらしました。その成果の一端を紹介します。

平成 27 年  
 7 月 18 日 (土)  
 13 時 10 分～14 時 10 分

会場 人文学部 3 階 4 番教室

参加費無料（事前申し込み不要） 一般・高校生の方の御参加も是非お待ちしております。  
 主催：信州大学人文学部後援会 共催：信州大学人文学部 問い合わせ先：人文学部総務係 宮川 Tel.0263-37-3393

（出典：人文学部資料）

## ○組織的FD活動

本学部では教育内容・教育方法の改善につながるFD活動を年間あたり1～4回行っており、平成24年度以降は卒業生・修了生アンケートの分析結果に基づき教育内容・教育方法の改善に役立てることを目的とするFD活動も実施している。（資料人38）

資料人 38：教育内容・教育方法の改善につながる組織的 FD 活動実施状況

H22	1	H22.05	学生アンケートについて
H23	1	H23.05	学生アンケートについて
	2	H23.11	教職員向けハラスメント防止研修について
H24	1	H24.05	総合問題の意図と経緯についての説明会
	2	H24.06	平成 22 年度卒業生・修了生アンケート及び平成 23 年度新入生アンケートについて
	3	H24.07	平成 24 年度ハラスメント防止研修会
	4	H24.07	学生相談について
H25	1	H25.09	平成 23 年度卒業生・修了生アンケート及び平成 24 年度新入生アンケートについて
H26	1	H26.06	平成 24 年度卒業生・修了生アンケート及び平成 25 年度新入生アンケートについて
	2	H27.1	シラバスガイドラインの改訂に伴う説明
	3	H27.2	ハラスメント防止研修会
H27	1	H27.6	平成 25 年度卒業生・修了生アンケート及び平成 25 年度新入生アンケートについて
	2	H28.1	ハラスメント防止研修会

（出典：人文学部総務係作成資料）

## ○授業改善アンケート

授業改善アンケートとして、すべての授業について履修者を対象とするアンケート調査を実施することで、教育内容・教育方法の改善に向けた取り組みを行っている。（資料人39）

資料人 39 すべての授業履修者を対象とする授業改善のためのアンケート

平成26年度後期 人文学部 授業改善のためのアンケート		① 全くそう思わない	② そう思わない	③ どちらとも言えない	④ そう思う	⑤ 強くそう思う
授業科目名 ( ) <small>(記入例)</small> 良い例 <input type="radio"/> 悪い例 <input type="radio"/>	学年・学科 1年:人文→①   2年:人文→③ 3年:人情→⑤, 文コミ→⑥   4年以上:人情→⑦, 文コミ→⑧ 他学部→⑩, 専門分野 [2年生以上記入] ( ) ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩					
① 授業内容は、達成しようとしている目標にふさわしかった		①	②	③	④	⑤
② シラバスから大幅に逸脱せずに実施された		①	②	③	④	⑤
③ 教育目標に沿った授業内容が提供された		①	②	③	④	⑤
④ 授業時間外学習の情報提供・指示が十分に与えられた		①	②	③	④	⑤
⑤ 探求の仕方や姿勢、知識や技術などを獲得できた		①	②	③	④	⑤
⑥ 担当教員の学問的・専門的識見が感じられた		①	②	③	④	⑤
⑦ 授業期間を通して熱心な教育が行われた		①	②	③	④	⑤
⑧ 私は、この授業に積極的に参加した		①	②	③	④	⑤
⑨ 私は、この授業への遅刻・欠席が多かった		①	②	③	④	⑤
⑩ 私が、この授業の予習・復習に当てた時間は、毎週平均すると… →①5分未満, ②5～30分未満, ③30分～1時間未満, ④1～2時間未満, ⑤2時間以上		①	②	③	④	⑤
		①	②	③	④	⑤
		①	②	③	④	⑤
		①	②	③	④	⑤
		①	②	③	④	⑤
⑪ この授業について、改善すべきことや教員がよい工夫をしていると感じられることなどを自由に書いてください。 ※右のマーク欄は、あけておいてください。		①	②	③	④	⑤

スキャンで読めるアンケート 2011 2月 20日 作成 信州大学 人文学部 教務課 作成 2011.02.20 SH-0113

(出典：人文学部「授業改善のためのアンケート」)

○入学者選抜の工夫

入試科目は、センター試験に加えて本学部独自の総合問題を課している。(資料人40、資料人41)

資料人40：人文学部入試科目

前期日程

大学入試センター試験、個別学力検査等の配点及び可否判定基準

大学入試センター試験						個別学力検査等	合計
国語	地理歴史	公民	数学	理科	外国語	総合問題	
(200)	(100)	(100)	(200)	(100)	200	300	800

- 注1 「外国語」のうち「英語」を受験した方の得点については、筆記（200点満点）とリスニング（50点満点）の合計得点を200点満点に換算し、「外国語」の他の科目を受験した方と比較できるようにして利用します。ただし、重度難聴者でリスニングを免除された方については、筆記（200点満点）の得点をそのまま利用します。
- 注2 「国語」及び「数学」の2教科を受験した方については、いずれか得点の高い教科の成績を利用します。
- 注3 「地理歴史」及び「公民」から2科目を受験した方については、第2解答科目の成績は利用しません。
- 注4 「物理、化学、生物、地学」から2科目を受験した方については、第2解答科目の成績は利用しません。
- 注5 以下の①又は②に該当する方については、a～cのうち最も得点の高い成績を利用します。
- ① 「地理歴史又は公民」及び「理科」の2教科を受験した方
  - ② 「物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎」及び「物理、化学、生物、地学」から3科目を受験した方
    - a 「地理歴史又は公民」の得点
    - b 「物理基礎、化学基礎、生物基礎、地学基礎」から2科目合計の得点
    - c 「物理、化学、生物、地学」の得点
- 注6 配点に（ ）を付してある教科は、選択教科を表します。
- 注7 大学入試センター試験と個別学力検査等の合計点（本学部の定める配点に基づく）、及び調査書の内容を総合して判定します。

大学入試センター試験の受験を要する教科・科目等

教科	グループ	出題科目	受験を要する科目等	
国語		「国語」	左欄の科目 (A)	
数学	①	「数学Ⅰ」, 「数学Ⅰ・数学A」	左欄から2科目 (数学①から1科目 及び数学②から1科目 目のあわせて2科目) (B)	(A) 又は (B)
	②	「数学Ⅱ」, 「数学Ⅱ・数学B」, 「簿記・会計」, 「情報関係基礎」, 「◎工業数理基礎」		
地理歴史		「世界史B」, 「日本史B」, 「地理B」	左欄から1科目 (C)	(C) 又は (D)
公民		「現代社会」, 「倫理」, 「政治・経済」, 「倫理、政治・経済」		
理科	①	「物理基礎」, 「化学基礎」, 「生物基礎」, 「地学基礎」	左欄から2科目 (D)	(E)
	②	「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」	左欄から1科目 (E)	
外国語		「英語」, 「ドイツ語」, 「フランス語」, 「中国語」, 「韓国語」	左欄から1科目	

- 注1 ◎印の科目は経過措置の科目で、旧教育課程履修者（9ページ「6入学者選抜方法（3）旧教育課程履修者に対する経過措置」を参照）のみ選択することができます。
- 注2 「簿記・会計」, 「情報関係基礎」及び「工業数理基礎」を選択できる方は、職業教育を主とする学科、総合学科をもつ高等学校においてこれらの科目を履修した方（大学入学資格検定でこれらに相当する科目に合格している方を含みます。）及び専修学校の高等課程の修了（見込み）者に限ります。
- 注3 「英語」はリスニングを課します。

個別学力検査等実施内容 採点・評価基準

「総合問題」 「総合問題」とは、センター試験では計れない読解力、思考力、表現力、想像力などを、高等学校で学習したことを基にして総合的に問う問題です。

（出典：信州大学学生募集要項）

## 資料人 41：総合問題の出題意図

私たちの「総合問題」は、「センター試験」では、あえて断念されている、**表現力（構想力・比較論的な総合力等を含む）をじっくりみる**ことをねらいとする。ただし、世上に多い「小論文」形式はとらない。最近随分と工夫もされてきているが、単一のテーマを題とする意見陳述の形式は、容易に「受験訓練」の餌食となりおおすし、また、採点自体に多くの問題を残すことが経験的に分かっているからである。「自由な意見」、単なる作文方式では、採点・評価基準の不透明性がまぬかれない—それは、より多く書式・形式や表現内容の「正しさ(標準)」に採点基準が傾きがちな弊害を払拭できない—。

近時「国語」を入試から外せという無謀な極論さえ聞こえてくる始末。他方、あいもかわらぬ「穴埋め・選択肢方式」の無批判な踏襲は一第一「穴」のあいた文章など、この世にはどこにも存在しないのに—確定された唯一の正答を当てるといふ、知的冒険の欠落したナンセンスを助長し、いよいよ国語のわかる生徒ほど国語教科が嫌いになるというジレンマを生み続けている。言語表現は人間の認識の根幹に関わりながら、しかも創造的で楽しいものなのに。

私たちは、「選択肢・穴埋め方式」による理解力の判定材料は、いま便宜的にセンター試験にまかせる一方、いわゆる「作文（小論文）」では**多様な能力を的確に測ることが難しい**と判断し、より個性豊かな志願者を幅広く求めるために、**3時間にわたる論述式の「総合問題」**を課し、合わせて志願者の得意分野をも生かすために思い切って「センター試験 3科目選択（自己申告・いわゆる私大型）」制（電算機で自動的に高得点科目を集計）をとることとした。

（出典：渡邊秀夫「信州大学人文学部における総合問題について」『大学入試フォーラム』pp. 30-36、大学入試センター管理部庶務課、1997）

（水準）

期待される水準を上回る。

（判断理由）

本学部は現今の社会的要求に鑑み、将来的に本学部の果たすべき役割と機能を再定義し新たな人材を養成するため、3つの系のなかに7つのコースを擁する**分野横断型のカリキュラム**を平成25年度より実施（資料人9）し、**高年次外国語教育とフィールド実践演習**を新たに取り入れた**1学科制への改組**を行った（資料人7）。

この改組はアンケート結果（資料人21）にみるように新入生に好意的に受け入れられた他、平成27年度の入学者選抜（一般選抜）志願倍率の向上につながった（資料13）。また、近年の大学入試改革の先取りとも言える**総合問題を用いた入学試験**を継続的に実施している（資料人40、41）。

観点 教育内容・方法

(観点に係る状況)

(1) 学位授与の方針に基づく教育課程の編成

①カリキュラムマップ

本学部では、シラバス入力に「学位授与の方針」をふまえたカリキュラム・マップを導入し、教員が担当する科目の位置づけを明確化している。(資料人42)

資料人42: 「学位授与の方針」マップ (カリキュラム・マップ)

「学位授与の方針」マップ

検索条件を指定して「検索」をクリックしてください。

開講部局	人文学部
開講年度	2015 年度(西暦)
開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年
学位授与の方針の範囲	<input checked="" type="checkbox"/> 全学士課程共通

1~100件 (全342件中)

コード	授業名	◎自己認識・自己啓発	◎社会的行動マインド	◎人類知の継承と未来	◎多様な文化受容マイ	◎科学リテラシー	◎言語能力	◎コミュニケーション	◎情報活用力	◎問題発見・解決能力	◎普遍的・数量的理解	◎専門知識と応用力	◎専門外の知識	◎地域環境に関する理	◎環境基礎力	◎環境実践力	自明とされる事柄に対	変容する社会を冷静に	過去の英知の批判的継	異質・多様なものを理	情報を適切に集約・分	他者の考えを明晰に理	グローバル社会におい	領域横断的な事柄に対
L00304	<a href="#">フィールド実践基幹演習Ⅳ</a>																							
L00305	<a href="#">フィールド実践基幹演習Ⅴ</a>																							
L01101	<a href="#">西洋思想概論Ⅰ</a>					○																		
L01103	<a href="#">東洋思想概論Ⅰ</a>																							
L01106	<a href="#">哲学・思想論特論Ⅱ</a>				○																			
L01111	<a href="#">哲学特論Ⅲ</a>											○												
L01126	<a href="#">論理学Ⅱ</a>										○													
L01130	<a href="#">倫理学Ⅳ</a>																							
L01131	<a href="#">サンスクリット語Ⅰ</a>																							○
L01133	<a href="#">哲学・思想論入門演習Ⅰ</a>																							○
L01137	<a href="#">哲学基幹演習Ⅲ</a>											○												
L01149	<a href="#">東洋思想基幹演習Ⅲ</a>				○																			
L01158	<a href="#">比較哲学発展演習Ⅲ</a>																							○
L01162	<a href="#">西洋思想発展演習Ⅲ</a>																							○

(出典: 信州大学シラバス検索システム)

②シラバスによるディプロマ・ポリシーの明確化

本学部では、信州大学のシラバス作成のガイドラインと共に、学部独自のガイドラインも設け、ディプロマ・ポリシーに配慮したシラバスの入力を必須化している(資料人43、資料人44)。

**資料人 43：信州大学シラバスガイドライン（抜粋）****① 授業の基本的な情報**

授業名、担当者氏名、教室、開講日時（何曜日何時限目）、単位数、教科書、参考書。その他、各学部の必要に応じて記載する。

**② 授業が担う大学並びに学部・学科等の『学位授与の方針』の項目と、授業の達成目標**

授業の達成目標は、この授業が担う『学位授与の方針』の項目をこの授業の言葉で言い換えたものとし、(知識面、スキル面、態度面の組み合わせで、またはいずれかの面で)「〇〇ができるようになる」という形を標準とする。

**③ 成績評価の方法**

受講者が②の達成目標に到達するために通っていく過程（課題や小試験等）と、到達したことを示すエビデンス（最終レポートや期末試験等）のそれぞれの内容と配点を記述する。

**④ 成績評価の基準**

この項では、「何ができているか、授業の達成目標の水準から見て『卓越している』／『かなり上にある』／『やや上にある』／『その水準にある』と言えるのかを記述する。

筆記試験の場合の例：

授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」。

レポートの場合の例：

(i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。(i) から (v) の 5 項目を満たしていれば「かなり上にある」。4 項目までできていれば「やや上にある」。3 項目までできていれば「水準にある」。

**⑤ 事前・事後学習に関する情報**

「受講生には、1 単位当たり『45 時間から授業時間を引いた時間量』の自主学習時間が課せられている」という『単位制度の実質化』の考え方に立ち、15 回の授業に対して受講生がしなければならない予習・復習も授業の一部であるものとして、その授業での事前・事後の自主学習に関する計画を記述する。

**⑥ 授業計画**

15 回の授業のおよその内容と順番、課される課題や小試験等のスケジュールを記述する。課題については、提出締切も示す。評価のための最終試験を行う場合は、15 回の授業とは別に行う。

**⑦ 履修上の注意**

当該の授業での教科書や参考書の利用方法、注意事項など

（平成 27 年度信州大学シラバスガイドライン）

**資料人 44：人文学部シラバス入力のガイドライン（抜粋）**

「成績評価の方法」について

・判定材料とその比率の明記：この項では、例えば、「レポート、小テスト、期末試験の出来から総合的に評価する」といった表現はお避け下さい。この例のように総合的に評価される場合は、例えば「レポート3割、小テスト3割、期末試験4割の比率で総合的に評価する」のように、判定材料とその比率を明記してください。

・目標への到達度を測る判定：「授業のねらい」で設定した目標への到達度を計るような形での判定をお願いします。例えば、「期末試験は『授業のねらい』で設定した目標への到達度を計ることが出来る問題を出題する」といった記述ですと、それが一層明瞭になります。

・出席は成績判定材料にならない：学生が授業に出席するのは当然ですので、判定材料にはな

らないことにご留意ください。

(出典：人文学部シラバス入力のガイドライン)

登録コード	L09101			担当教員	三谷 尚澄
授業科目	人文科学通論 I			副担当	佐藤 全敏・澁谷 豊
英文授業名	Introduction to the Humanities I			対象学生	1
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	月曜・2時限
講義室	共通教育 7 1 講義室			読替科目	人間情報学概論 I / 文化コミュニケーション概論 I
<p>(1)授業のねらい 授業で得られる「習得後の方針」要素：◎：全学共通 ◎：「世間一般に通用している当たり前の考え方」や、「みなかやうことになっている当然の規範」など、わたしたちの目々の生活がさまざまな「規範(norma)」や「きまりごと」としての「規範(norma)」に統治されていることが明らかである。では、これらの「当たり前」や「分かってきたこと」を「規範」について、あえて一歩立ち止って考えてみると、何がみえてくるだろうか。「分かっているつもり」が「実はぜんぜん分かっていなかった」。あるいは、「あえて立ち止まり、当たり前前問いなおして」ことで、「思いもよらなかった世界のあり方へと眼を開かれことになった」。そんな可能性はないだろうか。以上のテーマをめぐって、主として哲学と芸術論の観点から多角的に考察・検討する。</p> <p>(2)「規範」には「意識できるもの」と「意識できないもの」の両方のタイプがある。「意識できない」ほうは、私たち人間の存在が染み込まれ、うちに「型」はめられている。私たちはそれから自由になれるのだろうか。一方、「意識できる」ほうは、しばしば人びとの間に葛藤を生み出し、ときに「法」という姿をとって争いに迫ってくる。いったい何が正しい「規範」なのだろうか。それはいつ、どのように作られてきたのだろうか。私たちはいま、過去の「規範」から自由になれているのだろうか。第6回～第10回は、歴史学の観点から、人間の社会にはりめぐらされた「規範」が、実は時代ごとく/社会ごとく/価値観ごとに異なっていることを事例にもとづきながら考察する。そこから、現在の私たちを包んでいる「規範」を感嘆・考察するきっかけをつかみたい。</p> <p>(3) 文学にとって規範とは何だろうか。そもそも、文学とはいったい何だろうか。最初に「文学と規範」(文学は社会規範とどんな関わりを持ち得るのか)および「文学の規範」(文学内部の規範にはどんなものがあるのか)の概要を示し、その上で、上記の問を、日本文学、西洋文学、さらにその両者をつなぐ翻訳という営為に即して検討する。その過程で、文学に関する通念や思い込みから受講生が解放されてくれば、と期している。なお、最終的には、哲学・芸術論および歴史学の担当者にもとづきディスカッションを行う。「人文科学」における文学の位置づけについて考える機会にもなるだろう。</p> <p>(4) 成績評価の方法 各担当教員の提示するレポート課題に対し、(i)適切なまとめと説理的な論点が記述できているか「卓越している」、(ii)適切なまとめと説理的な論点が記述できているか「かなり上にある」、(iii)整合的なまとめと十分に妥当な論点が記述できているか「やや上にある」、(iv)筋絡のないまとめと妥当性の認められる論点が記述できているか「水準にある」。</p> <p>(5) 成績評価の基準 各担当教員の提示するレポート課題に対し、(i)適切なまとめと説理的な論点が記述できているか「卓越している」、(ii)適切なまとめと説理的な論点が記述できているか「かなり上にある」、(iii)整合的なまとめと十分に妥当な論点が記述できているか「やや上にある」、(iv)筋絡のないまとめと妥当性の認められる論点が記述できているか「水準にある」。</p> <p>(6) 事前事後学習の内容 配布された資料を熟読し、仲間たちと議論することで、「人文科学における4年間の学び」について考えを深める。</p> <p>(7) 履修上の注意 この授業は人文科学の必修科目である。 各授業では、e-Alizeを利用した課題提出が課されることがある。</p> <p>(8) 質問、相談への対応 初回授業において、対応の仕方を伝える。</p> <p>【教科書】 授業中にプリントを配布する。 【参考書】 その都度、別途指示する。</p>				<p>第6回 神前結城式の誕生 (ゲスト：豊阿)</p> <p>第7回 近世アジアのなかの規範 (ゲスト：豊阿)</p> <p>第8回 近世社会の規範 (ゲスト：山本)</p> <p>第9回 集団が違えば規範も違う 一公家・武士・神社・寺院</p> <p>第10回 史料から規範の変化を読み解く</p> <p>学習群〈文学〉(担当：三谷)</p> <p>第11回 文学への問い、あるいは言語表現と様々な規範 (ゲスト：澁谷)</p> <p>第12回 「文学と」の規範——日本文学の規範 (ゲスト：澁谷)</p> <p>第13回 日本文学史を取り上げられる(多くの人が「なんとなん」と思っている)古典作品は、どういう規範のもとに「文学」とされているのだろうか。他の古典(『源氏物語』や『枕草子』など)と比較しながら考える。</p> <p>第14回 「文学と」の規範——西洋文学の場合 (ゲスト：鎌田)</p> <p>西洋文学において、伝統的には詩と演劇が規範のジャンルであったはずなのに、なぜ19世紀以降はそうした正統性を持たない散文によるフィクションが主役を演じるようになったのだろうか。困難に満ちた「近代小説の冒険」について考える。</p> <p>第15回 「文学と」の規範——翻訳の場合</p> <p>日本のものを西洋で、あるいは西洋のものを日本で再現しようとするとき、いったい何が起きるのだろうか。異文化のテキストはどう読み替えられるのか。また、受入側の文化の規範にはどんな変化が生じるのか。文学の翻訳について考える。</p> <p>第16回 シンボリズム (ゲスト：三谷、佐藤全)</p>	

(出典：人文学部「人文科学通論」シラバス)

④ 専門科目、共通教育科目

本学の授業は、学則により、共通教育科目と専門科目に区分されている。1年次に共通教育科目と基本的な専門科目を履修し、2年次以降、各コースの専門科目を履修する(前掲資料人9、p.7)。

⑤ - 1 専門科目

日本文学分野(コミュニケーション系、日本語文化コース)の例を挙げ、本学部の履修方法について説明する(資料人45)。

資料人 45：人文学部の履修方法					
科目群	日本文学分野				総必要 単位数
	科目名	履修年 次	単位	必要最低単 位数	
導入科目	人文科学通論	1	各 2	[a]4	
基礎科目	日本文学概論 I～II	1～4	各 2	[b]10	
	日本文学史 I～II	1～4	各 2		
	日本語学概論 I～II	1～4	各 2		
	日本語史 I～II	1～4	各 2		
	日本語教育学概論 I～II	1～4	各 2		
基幹科目	日本文学特論	2～4	各 2	10	[c]16
	日本語学特論	2～4	各 2		
	日本語教育学特論	2～4	各 2		
	日本文学基幹演習	2～4	各 2	6	
発展科目	日本文学発展演習	2～4	各 2	[d]6	
コース連 携選択科 目（注 1）	コミュニケーション系コースの専門科目（注 2）			10	[e]46
	学部一般科目、学部共通科目、社会交流科目、学芸員関係科目				
	クリエイション系コースの専門科目			12	
	ソリューション系コースの専門科目			12	
	他学部専門科目（12単位まで）（注 3）			0	
探求科目	卒業論文	4	10	[f]10	

92  
(注 4)

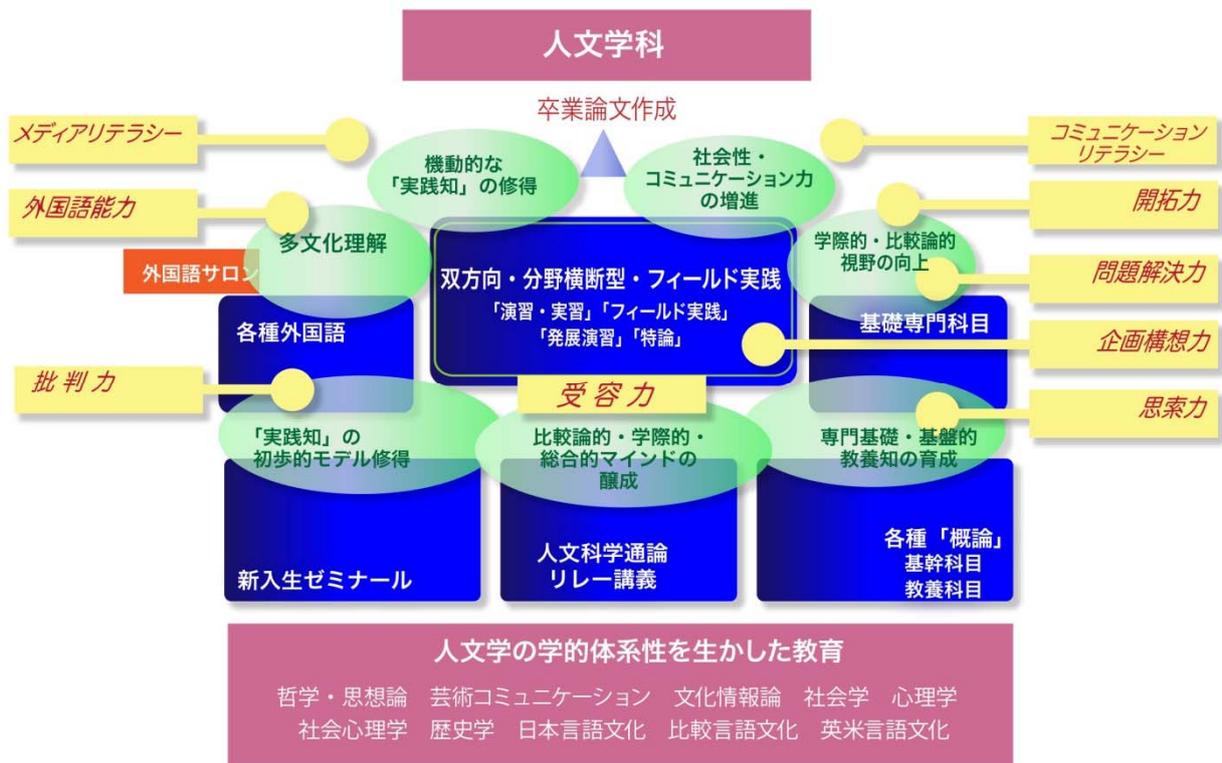
(注 1) 「教職関係科目」と「現代職業論 I～II」を除く。  
(注 2) 本分野が定めている基礎科目・基幹科目・発展科目の区分の必要最低単位数を超えて修得すると、超過分は、この区分に算入される。  
(注 3) 長野県内大学単位互換制度によって修得した単位もこの区分に算入される。  
(注 4) 外国語指定科目（別表）から最低 3 単位を含むこと。

（出典：平成 25 年度入学者用学生便覧 p. 30）

本学部のすべての学生は1年次に「人文科学通論」を履修する。これは複数分野の教員によって開講される連携授業であり、分野横断的な特色が強く現れている。

学生は2年次進級にあたって自分の所属する専門分野を選択するが、専門分野の授業は導入部分の「基礎科目」10単位、他分野の学生にも開かれた専門基礎的な「基幹科目」16単位、専門を深化させた発展的内容の「発展科目」6単位に大別される。これ以外に「コース連携選択科目」46単位を課して、そこから同系の授業を10単位、他系の授業をそれぞれ12単位必修とすることで分野横断的な履修を学生に求めている。更に「外国語指定科目」を3単位必修とすることで、学部4年間を通じて高年次においても外国語学習の機会を設けるカリキュラム設計となっている。（資料人46）

資料人46：カリキュラム概念図



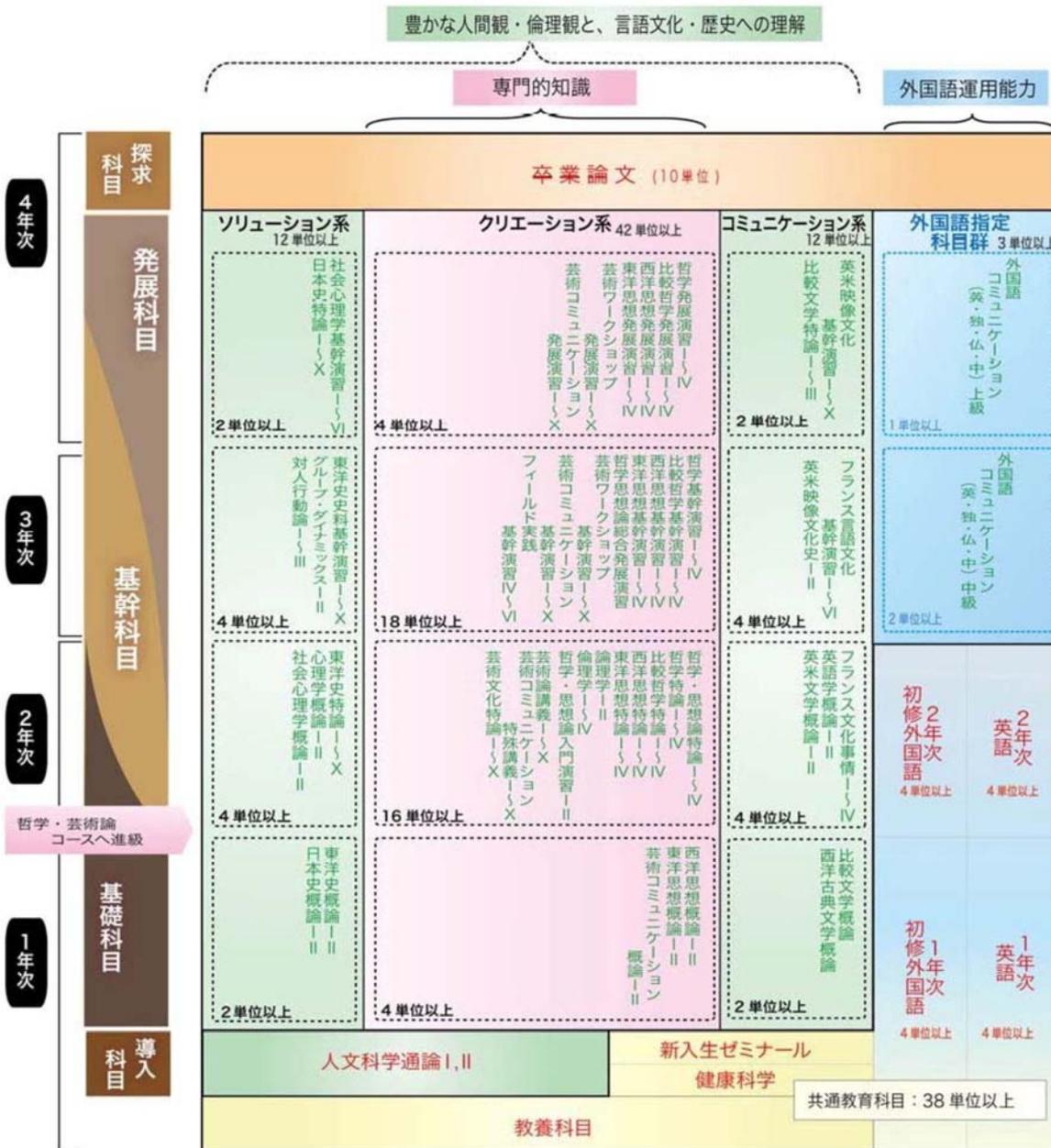
(出典：人文学部の改組について（信州大学人文学部改組申請書類）)

カリキュラムモデルの例をいくつか示す。(資料人47、資料人48、資料人49)

資料人 47：カリキュラムモデルの例（1）

参考資料 2-1 哲学・芸術論コース カリキュラムモデル

クリエイション系の専門科目から42単位以上を履修し、他の2つの系（ソリューション系およびコミュニケーション系）の専門科目から、それぞれ12単位以上を履修する。



赤字は学科必修科目、緑字はコース指定科目を表す。

(出典：人文学部の改組について (信州大学人文学部改組申請書類))

資料人 48 : カリキュラムモデルの例 ( 2 )

参考資料 2-2 心理学・社会心理学コース カリキュラムモデル

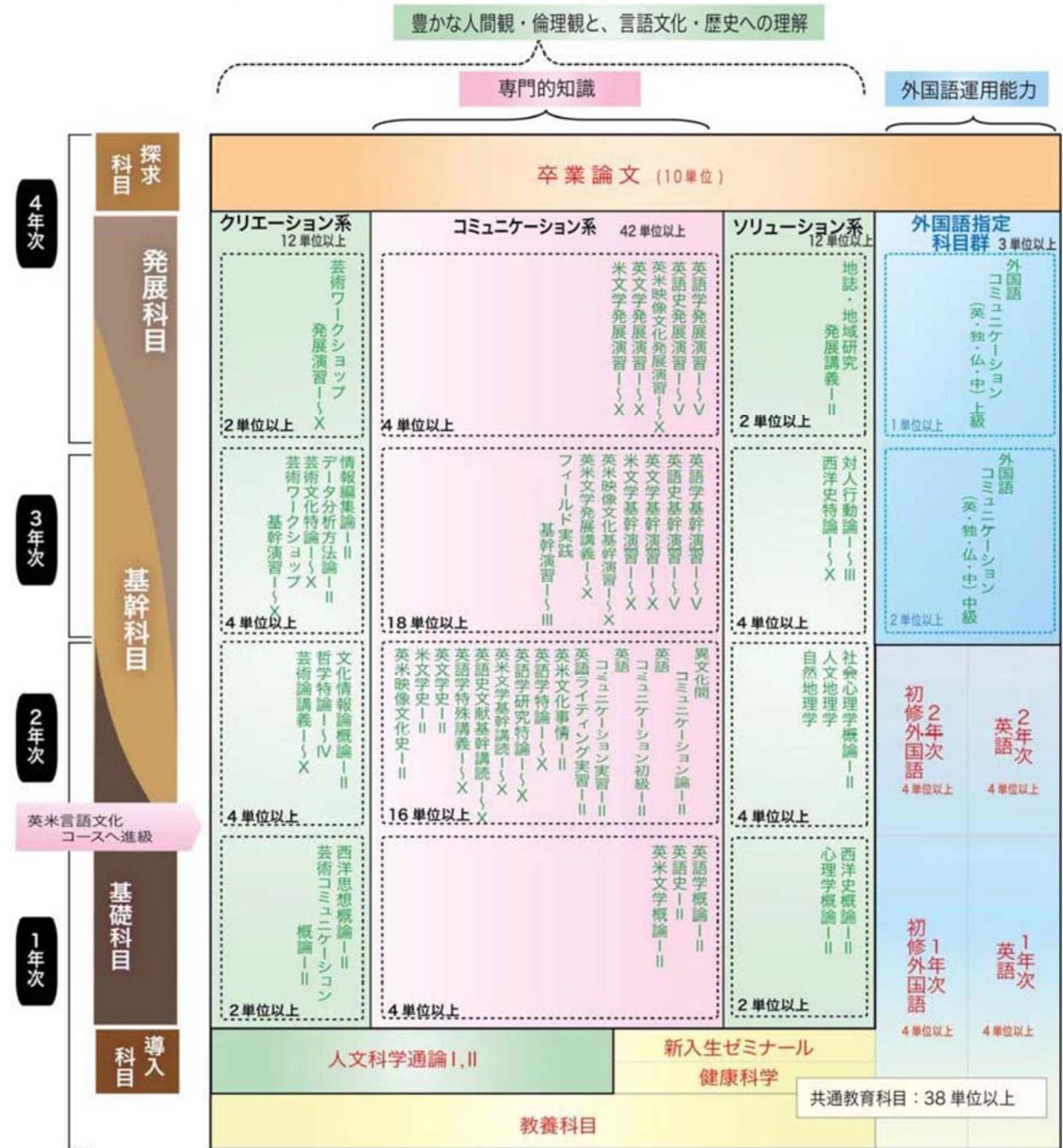
ソリューション系の専門科目から42単位以上を履修し、他の2つの系(クリエイション系およびコミュニケーション系)の専門科目から、それぞれ12単位以上を履修する。



資料人 49：カリキュラムモデルの例（3）

参考資料 2-3 英米言語文化コース カリキュラムモデル

コミュニケーション系の専門科目から42単位以上を履修し、他の2つの系（クリエイション系およびソリューション系）の専門科目から、それぞれ12単位以上を履修する。



(出典：人文学部の改組について (信州大学人文学部改組申請書類))

⑤-2 共通教育

共通教育科目は、学士課程共通の学位授与の方針に基づき開講し、カリキュラム・マップ、シラバスにより学生に明示している。(資料人50、資料人51、資料人52)

**資料人 50：信州大学学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）**

信州大学は、豊かな自然環境と、伝統ある歴史と文化に恵まれた信州に立地する大学です。本学では、かけがえのない自然や文化を愛する気持ちをもって、人類文化・思想の多様性を受け入れ、豊かなコミュニケーション能力を持つ教養人であるとともに、高度な専門知識と能力を備えて自ら課題を発見し、その解決にむけて挑戦する心をもった個性的な人材を育てることを理念・目標に掲げています。本学は、この理念・目標を踏まえて、以下に示す資質、知識や能力を、共通教育（教養教育、基礎教育）、専門教育及び課外活動を含む大学内外での幅広い教育活動を通じて培うこととし、ここに本学の学士課程に共通する学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定めます。

**豊かな人間性**

- ・みずから他者や社会との関わりのなかで捉え、自己啓発に努めることができる【自己認識・自己啓発マインド】
- ・理想や倫理観をもって社会の平和的・持続的発展のために行動できる【社会的行動マインド】

**人類知の継承**

- ・人類の知を継承し、それらの成果の上に立って未来について創造的に考えられる【人類知の継承と未来創造マインド】
- ・世界の多様な文化、思想、歴史、芸術に関する幅広い素養がある【多様な文化受容マインド】
- ・科学諸分野の歴史やその成果に関して幅広く理解できる【科学リテラシー】

**社会人としての基礎力**

- ・日本語および外国語を用い、的確に読み、書き、聞き、他者に伝えることができる【言語能力】
- ・対話を通じて他者と協力し、目標実現のために方向性を示すことができる【コミュニケーション能力、チームワーク力、リーダーシップ】
- ・多様な情報を適切に取捨選択し、分析・活用できる【情報活用力】
- ・みずから問題を見出し、すじみちを立てて解決できる【問題発見・解決能力】

**科学的・学問的思考**

- ・自然や社会の現象を普遍的な尺度や数量的指標を用いて理解できる【普遍的・数量的理解力】
- ・専門学問分野における知識・技能を備え、それらを応用できる【専門知識と応用力】
- ・専門以外の他分野に関する体系的な知識や素養がある【専門外の知識】

**環境マインド**

- ・信州の自然・文化的環境への興味と関心をみずから深めることができる【地域環境に関する理解】
- ・自然および人類社会が直面している環境問題を理解することができる【環境基礎力】
- ・地球環境と人類文化との調和・共生のため、積極的に行動することができる【環境実践力】

（出典：信州大学ホームページ「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」）

資料人51：学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）の具体例

「学位授与の方針」マップ

検索条件を指定して「検索」をクリックしてください。

開講部局	共通教育(全学教育機構)
開講年度	2015 年度(西暦)
開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年
学位授与の方針の範囲	<input checked="" type="checkbox"/> 全学士課程共通

検索      ダウンロード      シラバス検索へ

1～100件 (全1218件中)      次へ>

コード	授業名	◎自己認識・自己啓発	◎社会的行動マインド	◎人類知の継承と未来	◎多様な文化受容マイ	◎科学リテラシー	◎言語能力	◎コミュニケーション	◎情報活用能力	◎問題発見・解決能力	◎普遍的・数量的理解	◎専門知識と応用力	◎専門外の知識	◎地域環境に関する理	◎環境基礎力	◎環境実践力
02508	<a href="#">日本国憲法</a>		○		○											
04222	<a href="#">マリンスポーツ</a>	○						○								
11101101	<a href="#">環境社会学入門</a>														○	
11101102	<a href="#">環境社会学入門</a>														○	
11101103	<a href="#">環境社会学入門</a>														○	
11102101	<a href="#">熱帯雨林と社会</a>														○	
11102102	<a href="#">熱帯雨林と社会</a>														○	
11102103	<a href="#">熱帯雨林と社会</a>														○	
11105101	<a href="#">ライフサイクルアセスメント入門</a>														○	
11105102	<a href="#">ライフサイクルアセスメント入門</a>														○	
11106101	<a href="#">環境と生活とのかかわり</a>															○
11106102	<a href="#">環境と生活とのかかわり</a>															○
11109101	<a href="#">環境問題のしくみ</a>										○				○	
11110101	<a href="#">環境科学入門</a>													○	○	

(出典：信州大学シラバス検索システム)

資料人52：共通教育シラバス

時間割コード	01088							
授業科目	授業題目	グローバルに生きるゼミ			担当教員	松岡 幸司		
	英文授業名	Global Awareness Seminar				RUZICKA DAVID EDWARD		
	単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・4時限	対象学生	全
	講義室	共通教育211演習室		授業形態	演習	備考		
精神と思想	<p>(1)授業のねらい</p> <p>授業で得られる「学位授与の方針」要素/◎：全学共通</p> <p>・◎みずから他者や社会との関わりのなかで捉え、自己啓発に努めることができる【自己認識・自己啓発マインド】</p> <p>【授業の達成目標】</p> <p>・グローバルとは何か、そしてグローバルな人材とはどのようなものなのか、という問いに対して、自分の生き方としてとらえ、説明できるようになる。</p> <p>【授業のねらい】</p> <p>名前のとおり「グローバルに生きる」ということを「自分の問題として考える」ゼミです。</p> <p>社会のグローバル化が当然のこととされ、グローバルな人材として社会で活躍することが求められている時代になっていますが、イメージが先行してあいまいな部分が多いように思えます。そのイメージだけで漠然とした活動をしていても結果として「グローバル化」は成りませんし、「グローバルな人材」にもなりません。例えば、英語ができてグローバルな人材ではありませんし、逆に、英語がそれほどできなくてもグローバルな人材として活躍できます。</p> <p>そこでこのゼミでは：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバルとは何か、そしてグローバルな人材とはどのようなものなのか？</li> <li>・現実的な問題として、自分にとっては具体的にどのようなものなのか？</li> </ul> <p>この二点について、「自分としての答え」を見つけ、自分の生き方を考え、これからの学生生活の目標や目的を明確にすることがこのゼミのねらいです。また、実際に海外に行く（留学、出張）ということはどういうことなのか、ということを実践的に考えることを通して、異文化理解・受容を促進し、社会的な行動規範についても理解を深めます。</p> <p>最終的には、単なる情報ではなく、自分の生き方としてグローバル化というものをとらえ、説明できるようになってもらいます。</p>				<p>グローバル、異文化理解、自己認識</p> <p>(4)授業計画</p> <p>1. オリエンテーション：「グローバル（に生きる）とは何か？」</p> <p>2-4. グローバルな人材とは？（自分の問題として考える）</p> <p>5-6. 海外へ行く、海外で暮らす/学ぶとは？(1)</p> <p>7-8. 海外へ行く、海外で暮らす/学ぶとは？(2)（担当：Ruzicka）</p> <p>9. グループ発表</p> <p>10-15. 様々なテーマで「グローバル」ということについて、自分の問題として考える。</p> <p>☆ 個人発表（試験期間終了直後に行います）</p> <p>(5)成績評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業終了後の提出物：30%</li> <li>・グループ発表（相互評価+教員による評価）：30%</li> <li>・個人発表（相互評価+教員による評価）：20%</li> <li>・個人発表の報告書：20%</li> </ul> <p>(6)履修上の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単なる「受講」ではなく「積極的参加」が求められます。最初は難しいとは思いますが、自分で考え、ディスカッションをし、自分で、自分の答えを見つけることが求められます。</li> <li>・グローバルに生きたい、という意識の有無に関係なく、真剣に取り組む意志のある学生の参加は歓迎です。</li> <li>・毎回の授業は密度が高くなりますし、毎回の課題もありますので、「適当に済ます」ということでは参加できません。それでも、困難な点については、教員がサポートしますので、積極的に質問や相談をしてください。</li> </ul> <p>(7)質問、相談への対応</p> <p>オフィスアワーについては、初回の授業で伝えます。</p> <p>研究室は、共通教育南棟3階にありますので、質問や相談は、気軽に訪ねてください。ただ、事前にメール連絡をしておいた方が確実です。</p> <p>松岡：maulwurf@shinshu-u.ac.jp ルジチカ：davidr2@shinshu-u.ac.jp</p>			
	<p>(2)授業の概要</p> <p>「授業のねらい」に書いたような性格上、この授業は、「グループワーク」、「ディスカッション」、「プレゼンテーション」が中心になります。「知識を得る」のではなく、情報を得て、それについて考え、自分の問題として発信することを要求します。（その意味では、受け身の態度では受講することはできません。）</p> <p>毎回の授業の大まかな流れは、以下のようなものです。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 資料あるいは短いレクチャーを通して、テーマごとの問題点を明確にする。</li> <li>2. その問題点についてグループワークやディスカッションを通して理解を深めつつ、自分以外の視点についても触れ、自分の問題として考える。</li> <li>3. ディスカッションの結果をグループで（あるいは個人で）まとめて発表する。</li> <li>4. 授業内容のまとめとして、毎回短い文章を提出してもらい、（コメントをつけて返却し、それを次の授業から活かしてもらう。）</li> </ol> <p>(3)授業のキーワード</p>				<p>【教科書】</p> <p>特に指定のものはありません。授業は主にプリントを用いて進めます。</p> <p>【参考書】</p> <p>授業時にその都度紹介していきます。</p>			

(出典：共通教育シラバス)

(2) 学生や社会のニーズに対応した教育課程の編成・実施上の工夫

①-1 フィールドを活用した授業の推進

フィールドを活用した授業の推進として、本学部では平成26年度から授業科目として「フィールド実践基幹演習」を新たに実施している。(資料人53、資料人54)

資料人 53 : フィールド実践基幹演習

平成 26 年度	フィールドワークの書物学
	松本市の観光ボランティア
	信州を舞台とする映像作品の製作
平成 27 年度	松本市の観光ボランティア
	東アジアとつながる松本の史跡・文献
	旧松本藩蔵書「多湖文庫」の調査
	アイルランド、オックスフォード研修

(出典 : 人文学部シラバス)

資料人 54 : フィールド実践基幹演習シラバス

登録コード	L09302			担当教員	岡本 卓也
授業科目	フィールド実践基幹演習 II			副担当	佐藤 広英・大串 潤児・金井 直
英文授業名	Field Practice Basic Seminar II			対象学生	2~4
単位数	2	講義期間	前期(集中)	曜日・時限	集中・不定期
講義室				読替科目	
<p>(1)授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」要素/◎: 全学共通 ・領域横断的な事例に対する問題解決能力および創造的な企画構想能力 【授業の達成目標】 ・多領域における座学を経験した上で、松本市の観光ボランティアを経験することを通して、地域の問題を解決する能力を身につけられる。 【授業のねらい】 松本市の観光ボランティアを体験することで、自分の住む地域の特徴や魅力を知り、それを多くの人に伝えるためのリテラシーを身につけることを目指す。松本市には様々な観光資源があるが、他地域から訪れた人にその魅力を満喫してもらうためには、そこに暮らす人々の知識、能力、協力が必要となる。そのため、旅行者行動への理解を深め、松本市の観光資源を知り、情報を適切に集約・表現するメディアリテラシーおよびコミュニケーションリテラシー・外国語能力の習得を目指す。ボランティアの実体験をもとに活動の意義、課題を考えることで、地域の一員として、その地域の資源や問題点に気付く力を磨き、地域に貢献できる能力を身につけて欲しい。</p> <p>(2)授業の概要 松本市のボランティア活動に参加し、地域における市民活動の実態、意義、社会的役割を学ぶ。また、ボランティアの事前学習として、ボランティアや観光行動の知識、松本市の歴史や歴史的建造物、芸術活動、外国語でのコミュニケーション、情報の収集・表現方法などを学ぶ。</p> <p>(3)授業計画 第1回 ガイダンス ※岡本 第2回 地域と市民活動を知る ※岡本 第3回 旅行者行動を知る (1) ※岡本 第4回 旅行者行動を知る (2) ※岡本 第5回 松本市の歴史を知る (1) ※大串 第6回 松本市の歴史を知る (2) ※大串 第7回 松本市の芸術活動を知る ※金井 第8回 観光客に分かりやすく情報を伝える ※佐藤 第9回 Web上での観光情報の発信 ※佐藤 第10回 観光ボランティアを実施する (1) 準備 ※岡本・佐藤 第11回 観光ボランティアを実施する (2) 実習 ※岡本・佐藤 第12回 観光ボランティアを実施する (3) 実習 ※岡本・佐藤 第13回 観光ボランティアを実施する (4) 実習 ※岡本・佐藤 第14回 観光ボランティアを実施する (5) 実習 ※岡本・佐藤</p>				<p>第15回 観光ボランティア成果検討会・発表</p> <p>(4)成績評価の方法 授業への参加度および小レポート (40%) と実習後の発表・レポート (60%) により評価する。</p> <p>(5)成績評価の基準 (1)旅行者行動について理解している (2)松本市の歴史について理解している (3)松本市の芸術活動について理解している (4)より良い情報の発信について理解している (5)(1)~(4)をふまえて、実践的にボランティアガイドが出来る</p> <p>(1)~(5)のうち、全て出来ていれば、択一している。4つ出来ていれば上にある。3つ出来ていればその水準にある。</p> <p>(6)事前事後学習の内容 松本市の発信する様々な情報についてニュースや新聞などを含めて情報収集をすること。また、頻繁に町に出て、気になる場所については調べること。</p> <p>(7)履修上の注意 授業の性質上、開講日時は不定期とする。また、8限目、土曜日、長期休暇期間中の実施の可能性もある。各回の実施日時は掲示その他によって通知されるので、十分に注意すること。 無断欠席は厳禁とする。 ボランティア実習の際の交通費は自己負担とする。</p> <p>(8)質問、相談への対応 授業時に対応する。</p> <p>【教科書】 特になし。 【参考書】 特になし。</p>	

(出典 : 人文学部「フィールド実践基幹演習」シラバス)

## ①-2 新入生ゼミナール

新入生ゼミナールの各クラスには担任が配置され、学習だけでなく大学生活全般の相談役として対応し、問題が拡大する前に適切に対応することとしている。

新入生ゼミナールでは、入学時に配布の「新入生ハンドブック」を参考資料としている。  
(資料人55)

**資料人55：新入生ゼミナールの概要及び新入生ハンドブック**

共通教育の目標の「6大学教育における基礎的な能力の育成」の内の「大学教育を受けるための基礎能力の育成」を目的とします。

受験勉強中心の高等学校までの勉学から、自ら学ぶ態度を培い、学問の面白さ、自身の専門への動機付けにより、大学での学びへと橋渡しをするためのゼミナールを前期、又は前期及び後期（学部・学科（課程・系）によって指定）に開講します。

基礎的な情報通信技術、情報の集め方の確認や、授業の受け方、大学の諸施設の使い方などの基本から始まり、口頭・文書によるコミュニケーションの基礎を含む大学での学びへの導入教育など、大学における学習の一般的スタイルの獲得を目指します。また、共通教育を中心に自らの学修の目標とそのための方針の立案を行います（ポートフォリオ作成）。

教員と学生の人格的な交流を活かしつつ、基本的には、大学に入ったばかりのみなさんが、大学生として主体的に勉学に取り組む姿勢をつくる場として開設されます。

レポート作成、発表を通じて日本語の作文力や話し方について訓練し、専門教育の内容や施設に直接触れることを通じて、大学生としてのみなさんの意識形成を図ります。

このゼミナールは学部・学科（課程）の方針に従い、学部・学科（課程・系）の教員によって実施されます。

（出典：信州大学ホームページ「新入生ゼミナール科目」）



信州大学

新入生ハンドブック 2015



信州大学 全学教育機構

新入生ハンドブック-目次

前書き ..... j

序章 信州大学学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） ..... 1

第1章 何のために学ぶのか - 10年後の世界を想像しよう- ..... 7

1.1. 卒業後の世界を知ろう ..... 7

1.2. 情報伝達技術の革新とその影響 ..... 14

1.2.1. コミュニケーション（情報伝達）技術の進化14

1.2.2. 技術革新の光と影 ..... 17

1.3. 急速に変化する社会で活躍するために：  
知の訓練場「大学」 ..... 22

1.3.1. 自分で問題を発見する ..... 22

1.3.2. 森の中に木を見る ..... 23

1.3.3. 真の知識を身につける ..... 24

1.3.4. 目標がすべて ..... 26

第2章 大学での学習スキル ..... 31

2.1. 大学の授業とは ..... 31

2.2. 学ぶ意義は自分で考えなければならない ..... 33

2.3. 授業は学びの一部でしかない：自主学習が大事 ..... 34

2.4. 自主学習の例 ..... 35

2.4.1. 内容を理解するために、話してみよう 36

2.4.2. 専門のある何でも屋に ..... 37

2.5. 学習観を再考しましょう ..... 39

2.6. 能動的な学びを ..... 41

第3章 探す・集める・探す ..... 47

3.1. 調べるとは ..... 48

3.2. 資料を探す ..... 51

3.2.1. 辞典を使う ..... 51

3.2.2. 検索術語 ..... 53

3.2.3. 図書館で探す ..... 56

3.2.4. インターネット検索を使う ..... 61

3.3. 問いを作り上げる ..... 64

第4章 レポートの書き方 ..... 69

4.1. レポートとは？ ..... 69

4.2. レポートの構想とメモ ..... 70

4.3. 問題の見つけ方 ..... 72

4.3.1. 文献はうたがってかかる ..... 72

4.3.2. 常識はうたがってかかる ..... 73

4.3.3. 自分でデータを集めてみる ..... 73

4.4. レポートの構成と文章 ..... 74

4.4.1. ねらいを短い文章に ..... 74

4.4.2. ミニ目次のすすめ ..... 74

4.4.3. 分かりやすい構成を ..... 77

4.4.4. 文体はどうするか ..... 77

4.4.5. 受け身の表現は避ける ..... 77

4.5. レポートの落とし穴 ..... 78

4.5.1. 一次資料って何だろう ..... 78

4.5.2. 意見の流用 ..... 79

4.5.3. 専門用語の罠 ..... 79

4.6. 形をととのえる ..... 80

4.6.1. まずは表紙から ..... 80

4.6.2. 一般的なかたち ..... 81

4.6.3. 見やすい体裁に ..... 81

4.6.4. 引用と脚注 ..... 82

4.6.5. 推敲はかならず ..... 83

4.7. レポートから論文へ ..... 83

4.8. 口頭発表にむけて ..... 84

4.8.1. 発表原稿の棒読みはなぜわかりにくい ..... 84

4.8.2. 口頭発表のメリットを最大限生かすには ..... 85

4.8.3. 質疑への対応 ..... 86

第5章 学生生活を設計しよう 勉強も遊びも ..... 93

ii

iii

5.1. 信州大学学生相談センターおよび  
全学教育機構相談室について ..... 93

5.2. 学習の科学 ..... 94

5.2.1. 時間の前借りはしない ..... 95

5.2.2. とにかく始めたほうがよい ..... 95

5.2.3. 休まないと能率が落ちる ..... 96

5.2.4. すぐ復習しないと忘れる ..... 96

5.2.5. 暗記物は就寝前が良い？ ..... 96

5.2.6. 五感を使う ..... 98

5.3. タスクを管理する ..... 98

5.3.1. 忘れ防止対策 ..... 99

5.3.2. 未完了の対策を大別する ..... 99

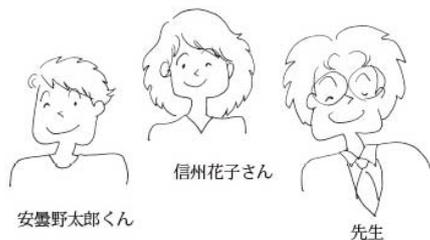
5.3.3. 自分の処理時間を把握する ..... 100

5.3.4. 学生の自由時間はたっぷりある？ ..... 101

5.3.5. 課題の作業時間を見積もる ..... 102

5.3.6. 手帳かスマートフォンか ..... 103

登場人物



序章 信州大学学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

信州大学が皆さんに用意している教育は、勉学と、勉学を通した人格形成です。高度な専門的知識と能力を4年（または6年）の在学中に訓練するのはもちろんですが、それらの知的活動は常に社会とのかかわりを伴います。高度な専門的知識と能力はなぜ必要なのか、高度な専門的知識と能力を、それ以外の分野の人たちにどのように理解してもらおうのか、そして他の専門分野の人たちを理解し、かかわりを持つにはどうすればよいのか、そして何よりも、社会の中で、自らがかけがえのない魅力的な人間として生きていくにはどうすればよいのか、といった問題は、哲学的な問いであると同時に現実的な問題です。信州大学では、これらの複雑な問題に、すべての授業で学生のみなさんに問いかけ、共に解決していきます。

次に挙げる学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）は、皆さんがこの信州大学で高等教育を受けた教養人として、人類社会に貢献する人材として、そして魅力的な人間として身につけるべき能力や態度を示したものです。どのような専門領域を学ぶにしても、あるいは、どのような細かいことを学んでも、そこには人類が蓄積した知の歴史があり、多くの理論的考察や試行錯誤があり、人々の努力と協力があること、そして、学生であるみなさんと研究者である教員がその知と歴史を受け継ぎ、人類と地域社会の存続と発展のために新しい知を創造していく主体であることに思いを致して、日々の勉学に取り組んでほしいと思います。

(3) 主体的な学習を促す取り組み

① e-Learningの利用

本学部は信州大学のeALPSシステムを利用し、授業毎にページを設置して授業に関係する電子化資料を配布するなど、**授業時間外での学習を支援する取り組み**を行っている。

② 設備・環境の整備

本学部では、午後10時まで資料室を開放し、**学生が主体的に学習する環境**を整え、希望があれば自主ゼミなどでの教室の使用にも応じるほか、卒業論文等でとくに必要が認められる場合は、大学院生に準じて休日も講内・資料室への立ち入りを可能としている。

人文ホールは本学部学生の懇談、会食、勉学、自主ゼミの他、後述の各言語サロン、多文化交流サロンの会場として、また、夕べのセミナーの会場として、分野を超えて**学生の主体的な学習を促す場**として積極的に利用されている。

③ 外国語サロン

**外国語サロン**として、英語、ドイツ語、フランス語、中国語の各サロンを実施している（平成27年度実績）。通常は自由な話題のもとネイティブ・スピーカーとの懇談などを行い、**参加者の実践的な外国語能力の向上**に役立てている。また特別企画として、**学外の講師を招聘した講演会**も随時実施している。（資料人56、資料人57）

資料人 56 : 外国語サロン

	週あたり開催回数	延べ開催回数	延べ参加人数
英語	1	29	310
ドイツ語	1	25	125
フランス語	1	24	140
中国語	1	30	161

※平成 27 年度実績

(出典：人文学部国際交流委員会作成資料)

信州大学 | 人文学部  
SHINSHU UNIVERSITY

2014

毎週いろいろな国のネイティブスピーカーをお招きして  
フリー英会話教室や世界各国の楽しいお話しをしていただきます

# 外国語 サロン

▼開催予定を確認してね

新学期の初回開催予定

英語サロン	月・5限 4月21日
	水・4限 4月 日
	木・5限 4月17日
ドイツ語サロン	水・昼休 4月16日
フランス語サロン	月・昼休 5月12日
中国語サロン	金・昼休 5月9日
多文化交流サロン	5月2日

特別企画  
8月2日(土)「外国語で旅をしよう信州」(予定)  
詳細はあって参ります

ネイティブの先生方と気楽にお話しができるチャンスです。  
人文学部と全学教育機構で開催中です。  
ぜひぜひふらっと立ち寄ってみて下さい

英語サロン 月・5限 全学教育機構3F語学自習室  
水・4限 人文ホール  
木・5限 全学教育機構3F語学自習室  
ドイツ語サロン 水・昼休 人文ホール  
フランス語サロン 月・昼休 401演習室  
中国語サロン 金・昼休 401演習室  
多文化交流サロン 金5限&不定期開催 人文ホール

時間・場所の変更が生じることがあります。  
開催予定掲示をマメに確認して下さい。

(出典：2014 年度外国語サロンポスター)

資料人 57：外国語サロン・多文化交流サロン特別企画

アメリカ大使館  
講演会  
あなたが動けば、社会は変わる  
～若手女性社会活動家のアメリカ流変革～

Creating Change: A Young Activist's Lessons from America

2014年5月15日(木) 14:40～16:10  
信州大学人文学部 4番講義室



アメリカの若手女性社会活動家、エミリー・サスマンさん。大学時代は決して優等生ではなかったという彼女ですが、法科大学院進学をきっかけに、社会をよくしたいという思いを行動に移します。友人の議員立候補に刺激を受け、若者の政治参加を促進する団体を在学中に設立。大学院修了後は、軍人に同性愛者であることの公言を禁じてきた政策の廃止法成立で中心的な役割を果たしました。その後アメリカ民主党（保守的な共和党に対して進歩的な政党）の全国青年組織のトップに就任。全米1500支部・15万人のメンバーを率い、オバマ大統領が再選された2012年選挙での記録的な若者の参加実現に大きく貢献しました。現在は、政策シンクタンクのキャンペーンディレクターとして、性的少数者(LGBT)の権利、経済格差、銃規制など幅広い社会問題に取り組んでいます。次世代リーダー育成に取り組むニュー・リーダーズ・カウンシルによって「40歳以下の40人の政治リーダー」に選ばれました。

若い世代は社会や政治とどう関わればいいのか？社会に変革を起こすにはどうすればいいのか？行動を結果につなげてきたエミリーさんが自らの経験を振り返りながら、草の根活動など具体的な方法論を交えて、日本のみなさんに熱く語ります。

講師：エミリー・サスマン (Emily Sussman)

アメリカン進歩センター行動基金 キャンペーンディレクター  
Center for American Progress Action Fund

使用言語：英語（通訳つき、質疑応答時間あり）

対象：大学生、高校生、社会人

聴講無料

主催：アメリカ大使館／信州大学人文学部外国語サロン・多文化交流サロン

後援：松本市教育委員会

※事前勉強会 5月9日（金）16:30～ 人文ホールにて※

（出典：外国語サロン・多文化交流サロン講演会ポスター）

④多文化交流サロン

多文化交流サロンは、語学に限らない多文化交流を目的とし、市民開放講演会として実施されている（資料人58）。

**資料人 58：多文化交流サロン（平成 27 年度前期の実績）**

第 1 回

多文化交流サロン特別講演会「北欧神話詩解説」

日時：2015 年 4 月 27 日（月） 16:20-17:50

場所：信州大学人文学部 人文ホール

講師：アイスランド大学アールニ・マグヌースソン写本研究所の研究教授ウールヴァル・ブラガソン博士

講演言語：英語（通訳なし）：資料は英語、日本語、アイスランド語

参加人数：約 40 名

第 2 回

多文化交流サロン特別講演会「世界でつながること、地域でつながること」

信州大学医学部保健学科国際交流委員会&人文学部共催

日時：2015 年 6 月 4 日（木） 14:40-16:10

場所：信州大学人文学部棟第 4 講義室

講師：教育 NPO 法人 Connection of the Children 一本の糸で世界の子どもをつなぐプロジェクト代表理事・加藤功甫氏

参加人数：約 150 名

第 3 回

多文化交流サロン特別企画「フランス人落語家による落語の実演と楽しいトーク会」

日時：2015 年 11 月 13 日（金） 16:30-18:00

場所：信大人文学部 1 階 人文ホール

公演者：シジル・コピーニ Cyril Coppini（尻流複写二）

参加人数：約 50 名（市民参加含む）

第 4 回

多文化交流サロン特別講演会「海の近代中国とグローバルヒストリー」

日時：2015 年 11 月 27 日（金） 16:20-17:50

場所：信州大学人文学部棟 1 階 人文ホール

講師：村上衛 准教授（京都大学人文科学研究所）

参加人数：約 30 名

第 5 回

多文化交流サロン特別講演会：「いま中東で何が起きているかーシリア内戦・難民問題・「イスラム国」・テロ」

日時：2016 年 1 月 22 日（金） 18:00-19:15

場所：信州大学人文学部棟第 4 講義室

講師：内藤正典教授（同志社大学）

参加人数：約 180 名（市民参加含む）

（出典：人文学部国際交流委員会作成資料）

⑤ 幼保中高大連携事業

幼保中高大連携事業は、学生の英語学習・実践を目的とする主体的な取り組みを促す場としても活用されている。（資料人 59）

**資料人 59：幼保中高大連携事業における主体的な学習を促す取り組み**

事例（事業名等）	実施内容等（学部・学科、人数、対象、時期、内容など）
松本秀峰中等教育学校との連携活動	信州大学人文学部の「英語学応用演習」という授業において、秀峰と連携をして活動を行った。具体的には、大学生が中学生の授業に参加し手伝って調べ物をして発表したり、ハロウィンパーティーと一緒に企画・運営したり、海外研修に行く中学生への指導を行ったりした。参加人数は大学生が 10 名程度、大学院生 2 名、時期は通年。

信大おひさま保育園、松本西部保育園、あがた保育園との連携活動	信州大学人文学部「英語学応用演習」の授業の一環として、保育園で英語活動を行った。具体的には、保育園児に英語を教えて一緒に歌を歌ったり、遊んだりした。大学生参加人数 15 名程度、大学院生 2 名、時期は通年。
松本中央図書館における英語絵本読み聞かせ活動	信州大学人文学部「英語学応用演習」の授業の一環として、中央図書館において、英語絵本の読み聞かせを行った。大学生参加人数 3 名程度、時期は通年。
長野県塩尻志學館高校との連携	信州大学人文学部「英語学応用演習」の授業の一環として、塩尻志學館高校において、論文の書き方を指導したり、大学進学相談に乗ったりした。大学生参加人数は 10 名程度、大学院生 2 名。時期は通年。
長野県英語連合会との連携	信州大学人文学部「英語学応用演習」の授業の一環として、長野県英語連合会のディベート講習会において、大学生が講演を行うと同時に、ディベートの準備を高校生と一緒にを行った。大学生参加人数は 10 名程度。時期は通年。
長野県松本美須々丘高校・長野松本県ヶ丘高校との連携活動	信州大学人文学部「英語科指導法」の授業の一環として、授業参観を行ったり、高校の英語テスト対策プリントを作ったり、進路指導に乗ったりして活動した。大学生参加人数は 15 名程度。時期は通年。

(出典：人文学部学務係作成)

⑥タベのセミナー

タベのセミナーは本学部の専任教員を講師とし、大学内だけでなく市民文化会館、市立美術館などを会場として、一般参加者の学術への興味・関心に最新の学術的知識で応える機会として親しまれている（資料人60、資料人61）。

資料人 60：タベのセミナー		
日程		内容
平成 22 年 7 月 11 日	59 回	ドイツ人の脳・日本人の脳：「ぶたの貯金箱」に名前をつけてみると、見えてくるものがある
平成 23 年 3 月 26 日	60 回	葡萄酒のブーケ薫るフランス文学のタベ
平成 23 年 12 月 7 日	61 回	新潟中越地震の復旧・復興に見る人間関係の問題と対策
平成 24 年 7 月 17 日	62 回	買い物好きは、選挙に行くか？
平成 24 年 7 月 17 日	63 回	旅へのモチベーション・場所のアフォーダンス 一人は何に惹かれ、彼の地を目指すのか
平成 25 年 2 月 9 日	64 回	プライバシーの心理学
平成 25 年 7 月 18 日	65 回	若者のための〈死〉の倫理学—いま（さら）哲学／人文学（なんか）に何ができる（というの）か？
平成 26 年 3 月 27 日	66 回	翻訳監修者の語る映画「ホビット」の楽しみ方（講演者の都合で実施せず）
平成 26 年 7 月 15 日	67 回	江戸時代の旅行情報誌をめぐる—『岐蘇路安見絵図（きそじあんけんえず）』ができるまで
平成 27 年 2 月 7 日	68 回	オスマン軍楽とヨーロッパの「トルコ風」音楽—モーツァルトの「トルコ行進曲」はどのように生まれたのか

平成 27 年 7 月 14 日	69 回	フロンティアからみたヨーロッパとイスラーム—中世スペイン研究者の視点から—
平成 28 年 2 月 11 日	70 回	ワインによる地域活性化

(出典：人文学部広報委員会作成資料)

**資料人 61：タベのセミナー参加者内訳**

	高校生以下	20 代	30～40 代	50 代	60 代以上	合計
59 回	—	—	—	—	—	46
60 回		1	1	3	5	10
61 回	3	15	5	2	0	25
62 回	3	16	6	5	5	35
63 回		6	14	4		24
64 回		132	14	3		149
65 回		36	22	5	7	70
66 回	(講演予定者の都合により中止)					
67 回		4	14	9	13	40
68 回	1	94	18	3	4	120
69 回	—	—	—	—	—	50
70 回	—	—	—	—	—	70

(出典：人文学部広報委員会・総務係作成資料)

## ⑦ 留学

留学については、交換留学および私費留学がある。留学生の受け入れおよび派遣の状況は以下のとおりである。(資料人62)

**資料人 62：留学生受け入れ・派遣状況**

	受け入れ			派遣	
	交換	私費	国費	交換	私費
平成 22 年度	0	7	0	6	4
平成 23 年度	0	3	0	15	3
平成 24 年度	0	2	0	7	2
平成 25 年度	0	1	0	7	7
平成 26 年度	0	1	1	10	2
平成 27 年度	1	2	0	12	4

(出典：人文学部学務係資料)

大学間国際学術交流協定締結大学(資料人 63)への交換留学を実施しており、私費留学生も加えれば例年 10 名以上の留学生を派遣している。

資料人 63：国際交流協定一覧（平成 27 年 5 月現在）

学 間 交 流	アメリカ	ユタ大学、オクラホマ州立大学、南オレゴン大学、カリフォルニア州立大学チコ校
	メキシコ	CINVESTAV 大学院大学
	ブラジル	パラナ連邦工科大学
	オーストラリア	カーティン大学、オーストラリア南極研究所
	フィンランド	国立フィンランド測地研究所
	フランス	ラ・ロッシュェル大学、フランス国立繊維工芸工業高等学院、リール第一大学、フランス国立情報学自動制御研究所 (INRIA)
	ドイツ	ライプツィヒ大学、マンハイム大学
	ベルギー	カトリック大学ルーヴァン
	オランダ	ゾイド大学
	イタリア	ヴェネツィア・カ・フォスカリ大学
	スペイン	アルカラ大学カルデナル・シスネロスカレッジ
	ポーランド	ピアリストク大学、ピアリストク工科大学、シレジア工科大学、ワルシャワ大学
	ロシア	ヴィートゥス・ベーリング名称カムチャツカ国立大学、極東連邦大学
	モロッコ	モハメド五世大学アグダル校
	モンゴル	モンゴル科学技術大学
	中国	同済大学、河北農業大学、蘭州大学、河北医科大学、蘇州大学、東華大学、中国地質大学、北京工業大学、太原理工大学、浙江理工大学、北京外国語大学、天津工業大学、北京化工大学、山東大学、西南大学、河南農業大学、重慶師範大学、對外經濟貿易大学
	台湾	輔仁大学
	韓国	江原大学校、尚志大学校、光云大学校、韓国カトリック大学校、崇實大学校、順天大学校、建国大学校、嶺南大学校、檀国大学校、漢陽大学校、忠南大学校、全南国立大学アランマクジアミドエネルギー研究所
	タイ	チェンマイ大学、カセサート大学、チュラロンコン大学、ナレースワン大学、サイアム大学
	インド	インド工科大学マドラス校
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ-工業技術大学、ハノイ工科大学、FPT 大学、ダラット大学	
マレーシア	UPM (マレーシアプトラ大学)、マラヤ大学	
インドネシア	プリタハラパン大学、ウダヤナ大学、アンダラス大学、ボゴール農科大学	
ミャンマー	ヤンゴン工科大学	

(出典：経営企画課作成)

(4) 地域社会へ向けた教育

① 信州大学市民開放授業

本学部では、**地域社会へ向けた教育**として、**市民開放授業**を実施している（資料人 64、資料人 65）。

資料人 64：市民開放講座募集案内（抜粋）

信州大学では、正規の学生のために開講している通常の授業を可能な限り開放し、学生と一緒に受講したいと思う一般市民（高校生を含みます。）の方々を受講生として募集します。

これは、信州大学が行う大学開放活動の一環で、生涯学習に対する社会的要請に応えるとともに、本学と地域社会の連携をより一層深めていくことを目的としたものです。

受講するにあたっては、受講生として登録していただく必要があります。本学の学生や教職員とキャンパス・ライフをお楽しみください。

(出典：信州大学市民開放授業募集案内)

## 資料人 65 : 市民開放授業の受講者数

年度	科目数	人数
平成 22 年度	154	56
平成 23 年度	123	53
平成 24 年度	132	62
平成 25 年度	82	49
平成 26 年度	79	48
平成 27 年度	60	34

(出典 : 人文学部学務係資料)

また、平成 18 年に締結した信州大学と安曇野市との連携事業に基づき、市民大学講座で例年 3～4 回を本学部の教員が実施している。(資料人 66)

資料人 66 : 安曇野市連携事業 (市民講座)

# 平成 26 年度 市民大学講座 信州大学編

(信州大学・安曇野市連携事業)

「知る」ことで  
強くなる

受講料  
無料

会場 安曇野市穂高交流学習センター  
「みらい」多目的交流ホール

定員 各 40 人 (先着順)

申し込み方法 9月8日(月)から各回の開催日の一週間前までに電話かファクスまたは電子メールで、住所、氏名、連絡先、希望する講座をお知らせください。

会場案内図



第1回 9月26日(金) 19:00~20:30

演題: 咀嚼と健康

講師: 医学部 栗田 浩 教授

概要: 咀嚼は単に栄養を摂るためだけではなく、咀嚼と健康との関連について話します。

第2回 10月1日(水) 14:00~15:30

演題: だまされる心の心理学

講師: 人文学部 菊池 聡 教授

概要: なぜ、私たちは簡単に詐欺や悪魔術法にだまされてしまうのでしょうか? 心理学を参考に、だまされないための考え方のコツを学びます。

第3回 10月15日(水) 19:00~20:30

演題: アートとは? 安曇野で今可能なことは?

講師: 人文学部 金井 直 准教授

概要: 今日、観光や地域振興の切り札として注目を集めるアートの「しくみ」にふれながら、安曇野を活かす未来のアートのあり方について考えます。

第4回 10月30日(木) 14:00~15:30

演題: どうやって食品の安全性を確保するのか

講師: 農学部 後藤 哲久 教授

概要: 食品の安全性を脅かす要因として多様なものが知られています。これらをどのように正しく理解し、その危害を少しでも少なくするためにどのようなことが必要か一緒に考えます。

第5回 11月7日(金) 19:00~20:30

演題: 映画『イーサー・ライダー』(1969)の衝撃とは何だったのか  
~映画とアメリカ文化を学んでみよう~

講師: 人文学部 杉野 健太郎 教授

概要: 映画とアメリカ研究の基礎を学びながら、大きな社会的衝撃を与えた『イーサー・ライダー』(1969)の意味と意義に関して話します。

特別演習 (人権のつどい)

期日: 平成 26 年 12 月 7 日 (日)

時間: 13:00~14:40

会場: 堀金総合体育館サブアリーナ

定員: 500 人 (※申し込みは不要です)

演題: キャスターから見た人権

講師: ニュースキャスター

宮川 俊二 さん



申し込み・お問い合わせ先: 安曇野市教育委員会教育部生涯学習課

TEL:62-4565 FAX:62-3525 Email:shogaigakushu@city.azumino.nagano.jp

(出典:平成26年度市民講座信州大学編ポスター)

## ② JINBUN フォーラム

JINBUN フォーラムは一般向けの講演会・研究発表会・シンポジウムで、松本市教育委員会の後援を受けた地域社会へ向けた教育として定着している。(資料人67、資料人68)

資料人 67 : JINBUN フォーラム

松本市教育委員会 後援  
 信州大学英語学専攻 主催



(出典 : 平成24年度JINBUNフォーラムポスター)

資料人 68 : JINBUN フォーラム参加者人数 (概数)

日程	参加人数
平成 22 年 2 月 6 日	180
平成 23 年 2 月 6-7 日	220

平成 24 年 2 月 12-13 日	250
平成 24 年 2 月 9 日	160
平成 25 年 2 月 9 日	未集計
平成 26 年 2 月 11 日	140
平成 27 年 2 月 7 日	120
平成 28 年 2 月 11 日	110

(出典：人文学部事務部作成)

## ③ タベのセミナー

地域社会の諸機関・諸団体からの期待に応える取り組みとしては、本学部で年 2 回実施している「タベのセミナー」がある。(前掲資料人 60、p. 47)

## ④ 高校生向け模擬授業

また、地域社会の諸機関・諸団体からの期待に応える別の取り組みとして、本学部で実施している高校生向け模擬授業がある。(資料人 69)

**資料人 69：高校生向け模擬授業**

平成 22 年度	伊那北高校、長野西高校、野沢北高校、諏訪二葉高校、松本県ヶ丘高校
平成 23 年度	伊那北高校、長野西高校、諏訪二葉高校、松本蟻ヶ崎高校、野沢北高校、屋代高校、大町高校、飯山北高校、松本県ヶ丘高校
平成 24 年度	長野吉田高校、松本蟻ヶ崎高校、諏訪二葉高校、飯山北高校、野沢北高校、松本美須々ヶ丘高校、諏訪青陵高校、松本県ヶ丘高校、岡谷南高校、
平成 25 年度	野沢北高校、松本蟻ヶ崎高校、長野西高校、伊那北高校、諏訪二葉高校、諏訪青陵高校、松本県ヶ丘高校、
平成 26 年度	長野西高校、長野吉田高校
平成 27 年度	諏訪青陵高等学校、諏訪二葉高等学校、松本美須々ヶ丘高校、須坂高等学校、長野吉田高校

(出典：人文学部学務係資料)

## ⑤ 地域との連携協定

本学部は平成19年に青木村と連携協定を結び、文化・教育・学術分野での交流を推進しているが、本学部の学生が青木村の中学校で**教育現場の実情について理解**を深め、教育をと**おして村の活性化**を図る教職授業「教科指導法特論II」を継続的に実施し(資料人70)、**地域における教育のあり方**を学習する場としている。(資料人71)

**資料人 70：教科指導法特論（集中講義）受講案内****教科指導法特論Ⅱ****【授業のねらい】**

中学校教員免許状取得のため、各教科指導法をふまえて中学校における生徒指導の全般的様子について、実地見学などを通して体験・学習をする。その際、地域社会と教育という視点を重視し、義務教育である中学校が地域社会のなかで具体的にどのように位置づけられ、全ての教育活動を地域のなかでどのように行っているかを学習できるようにする。

**【授業の概要】**

長野県小県郡青木村・青木中学校の協力により合宿形式・集中講義形式にて実施する（事前の研修も含む）。

**【授業計画】**

8月26日（水）～8月28日（金）の2泊3日の合宿形式で行う。宿泊費・交通費の個人負担はないが、食費など若干の費用の個人負担あり。3日間のうちに行われる学習は概ね以下の通り（変更もありうる）。

- 1) 村内各施設の見学および青木村の概要研修。
- 2) 中学校授業の参観および学校活動への参加。
- 3) 地域住民協力による「総合的な学習の時間」への参加。

最終日の午後6時頃に青木村を出発して松本に帰る予定。

**【成績評価の方法】**

合宿研修への参加態度および最終レポートによって評価する。

**【履修上の注意】**

青木村および青木中学校のご厚意により実施される授業であるため、先方の受け入れ状況の都合により、希望者多数の場合は人数を調整する。教員免許取得に強い意欲のある者のみ履修を認める。

7月16日（木）5限に事前指導を実施予定。受講が決定した場合は別途詳細を連絡するので、必ず出席すること。

（出典：人文学部学務係資料）

**資料人 71：青木村における教科指導法特論の実施状況**

平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
26 名	28 名	29 名	13 名	27 名	13 名

（出典：人文学部学務係資料）

（水準）

期待される水準を上回る。

（判断理由）

本学部はディプロマ・ポリシーに対応させた教育課程編成を「カリキュラムマップ」として、どの授業科目が教育目標と関連しているのかについて明示することで各授業の位置づけを明確化し、あわせてシラバス内容のガイドラインを設け、本学部の教育課程と学生が求める教育内容との一致を図っている。（資料人44）

学生や社会のニーズに対応した教育課程として、地域の文化や資産に注目するフィールド実践基幹演習を実施している（資料人53）。学生の相談への対応については、オフィスアワーを設けて学生の相談を聞き取ることとしている。また、**新入生ゼミナール**では、大学での学び方をはじめ、大学生活全般の相談役として**担任制度**を設けている。（資料人27、55）

主体的な学習を促す取り組みとしては、**e-Learning**の積極的活用、**外国語サロン**（資料人56）、**多文化交流サロン**（資料人58）、**幼保中高大連携事業**（資料人59）、**夕べのセミナー**（資料人60、61）、**交換留学生の派遣**（資料人62、63）がある。

地域社会へ向けた教育としては**市民開放授業**（資料人64、65）、**市民大学講座**の開催（資料66）、**JINBUNフォーラム**（資料人67、68）、**高校生向け模擬授業**（資料人69）を行っている。地域活性化のための活動には**青木村との連携事業**（資料人70、71）がある。

これらにより、在学生・卒業生、地域社会の諸機関・諸団体から期待される水準を上回ると判断される。

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

## 観点 学業の成果

(観点に係る状況)

## (1) 履修・修了状況

## ① 進級・卒業の状況

本学部の進級・卒業の状況を以下に示す(資料人72)。

## 資料人 72：退学、休学率

	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
退学率	1.4%	2.4%	3.7%	2.2%	1.8%	3.0%	未集計
休学率	2.4%	4.0%	3.3%	6.0%	3.2%	4.9%	未集計

※退学率は、該当年度の在籍者で除した割合。

※休学率は該当年度5月1日現在の数を該当年度の在籍者数で除した割合。

(出典：人文学部学務係資料)

文部科学省が平成26年9月に発表した「学生の中途退学や休学等の状況について」によれば、全国の大学、短期大学、高専をあわせた平成24年度の退学率は2.65%、休学率は2.3%であり、本学部は休学率が高い傾向にあるが、休学者のなかには留学による者も含まれているため、数値だけに頼る評価は避けることとする。

## ② 卒業生からの評価

卒業生アンケートを毎年度3月に実施している(資料人73、資料人74、資料人75)。

資料人 73：卒業生アンケート

人文学部の教育に対する評価

1. 教育目標の達成状況

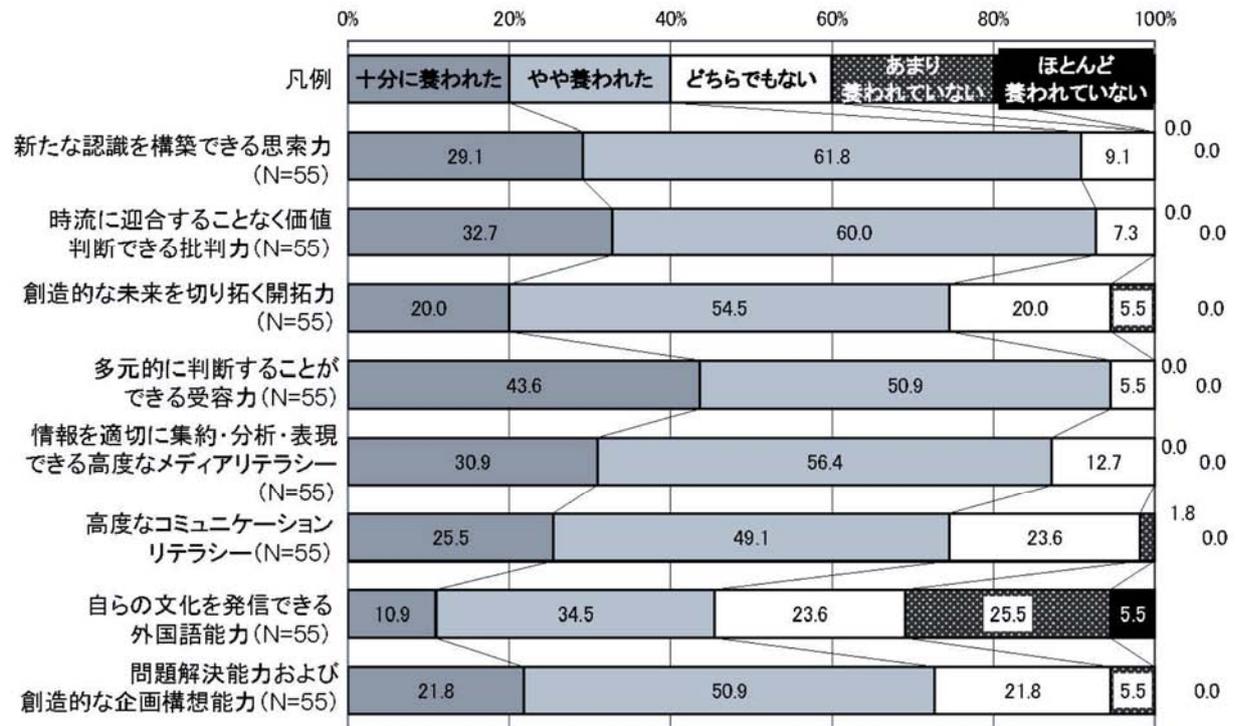
以下の人文学部の教育目標について、人文学部に在籍することでどの程度養われたと思いますか。「ほとんど養われていない」～「十分に養われた」の5段階評価のうち、当てはまる回答に1つ○をつけてください。

	ほとんど養われていない	あまり養われていない	どちらでもない	やや養われた	十分に養われた
①自明とされる事柄に対し、深くその根拠を 問い直し新たな認識を構築できる思索力・・・・	_____	_____	_____	_____	_____
②変容する社会を冷静に分析し、時流に迎合 することなく価値判断できる批判力・・・・	_____	_____	_____	_____	_____
③過去の英知の批判的継承のうえに立って 創造的な未来を切り拓く開拓力・・・・	_____	_____	_____	_____	_____
④異質・多様なものを理解し、寛容かつ 多元的に判断することができる受容力・・・・	_____	_____	_____	_____	_____
⑤情報を適切に集約・分析・表現できる高度な メディアリテラシー・・・・	_____	_____	_____	_____	_____
⑥自己の主張を的確に表現できる高度な コミュニケーションリテラシー・・・・	_____	_____	_____	_____	_____
⑦グローバル社会において、多様な文化を理解し 自らの文化を発信できる外国語能力・・・・	_____	_____	_____	_____	_____
⑧領域横断的な事柄に対する問題解決能力、 および創造的な企画構想能力・・・・	_____	_____	_____	_____	_____

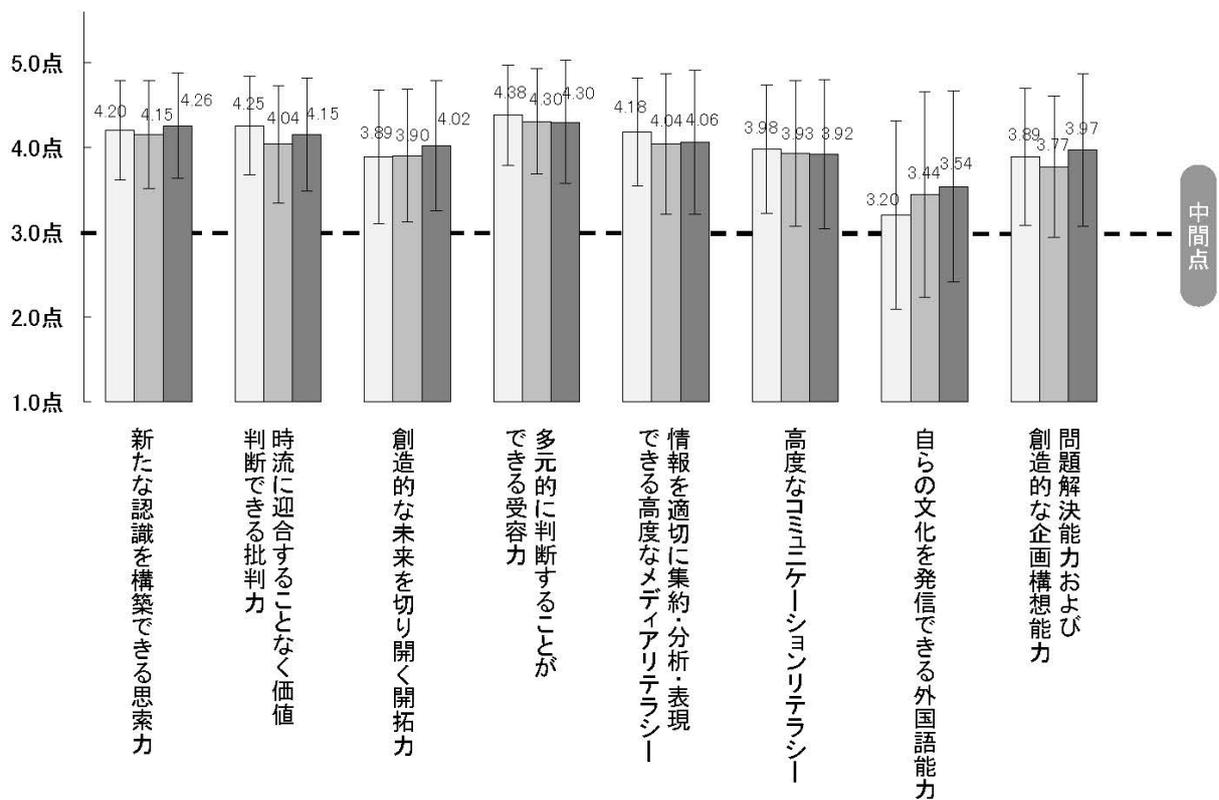
(出典：平成 27 年度卒業生アンケート)

資料人 74：教育目標の達成状況と経年変化（卒業生アンケート）

平成 26 年度卒業生アンケート



□H26年度 ■H25年度 ■H24年度



(出典：平成26年度卒業生アンケート分析結果報告書)

## 資料人75：人文学部の教育方針・教育体制についての意見

- ・多様な事柄を包括的に扱っていたため、**領域に縛られない学習**ができたと思います。
- ・**様々な学識を横断的に学べる**ことが良かったと思う。
- ・様々な場所で活動でき、**分野を超えて多様な知識活用方法**を学べたと思います。今後、活かしていきたいと思います。
- ・学科が細かく分かれていなかったこともあり、**様々な分野の知識を身につける**ことができたと思います。充実した4年間でした。

(出典：平成25年度卒業生アンケート分析結果報告書)

- ・専門分野の深い知識と共に、それに関連する他分野の教育も受けることができた点が**非常に満足**でした。
- ・人文学部では自主的に学習し、知識を深めていくという体制が整えられていた。そのため、レポート提出の際には図書館を活用しさまざまな視点・論点から調べ、学習することができ、**知識の幅や視野をひろげる**ことができた。このことは人文学部の教育方針である「自主的に学習する」ことが生きている結果であり、大きな収穫になったと思う。

(出典：平成26年度卒業生アンケート分析結果報告書)

平成26年度卒業生アンケートでは、**本学部の教育目標のすべての項目**で中間点の3点を上回り、**学業の成果として卒業生に評価**されていることが分かる。

## ③資格取得状況

本学部で取得できる資格等は、**中学校教諭一種免許状**（国語・社会・英語）、**高等学校教諭一種教職免許状**（国語・地理歴史・公民・英語）、**博物館学芸員**、**社会調査士**、**日本語教員養成副専攻過程**の単取修得証明書である。（資料76）

## 資料人76：人文学部の資格取得状況

年度	中免	高免	学芸員	社会調査士	日本語教師副専攻課程
平成22年度	16	35	26	5	0
平成23年度	14	24	35	18	0
平成24年度	15	26	13	6	2
平成25年度	19	26	17	3	1
平成26年度	10	14	17	4	3
平成27年度	16	21	23	7	3

(出典：人文学部学務係資料)

## ④在学生からの評価

「人文科学通論」の授業評価アンケートからは、**分野横断型の授業内容**が受講学生から**好評**を得ていることが読み取れる。（資料人77）

**資料人 77 : 「人文科学通論」授業改善アンケートにみる教育成果**

各項目の評価（抜粋）

授業内容は、達成しようとしている目標にふさわしかった 93.5%

教育目標に沿った授業内容が提供された 93.8%

担当教員の学問的・専門的識見が感じられた 96.4%

（各 5 点満点で採点、4 点以上とした回答者の比率）

自由記述（抜粋）

・色々な先生のお話が聞けてお得な授業だと思った。今年から心理や文情の先生のお話も聞くことができるようになり、知らないことがたくさんあって面白く聞くことができた。

・毎回のテーマに合わせてその分野の専門の先生がいらっしゃって講義を下さるという形式は普段すべての分野の講義を聞く機会がない私たちにとってとても面白く有意義な時間でした。高年時に上がってもこのような授業があると良いと思いました。

・全分野をやってもらえると内容は浅くなってしまふかもしれないが、1 年生にとってはありがたいと思う。

（出典：人文学部授業改善アンケート）

## ⑤その他の成果

その他の成果としては以下の例がある。（資料人78、資料人79、資料人80）

**資料人 78 : 卒業論文の表彰**

情報通信について社会科学的観点から追究する大学生（院生）の優れた論文を表彰する電気通信普及財団賞テレコム社会科学学生賞（毎年 1 件）を、平成 27 年度人文学部卒業生・矢島玲さんの卒業論文が受賞した。

（出典：<http://www.taf.or.jp/record/c02/index.html>）

**資料人 79 : 文学賞受賞**

人文学部4年・小嶋陽太郎さんの小説（『気障でけっこうです』角川書店2014年10月30日刊行）がボイルドエッグズ新人賞を受賞した。

（出典：Boiled Eggs Onlineホームページ「受賞作家最新情報2014年」<http://www.boiledeggs.com/belaward/winnerinfo13.html>）

**資料人 80 : HAPPYNEWS2014 大学生大賞（個人）受賞**

人文学部 2 年・近藤由美さんの信濃毎日新聞読者投稿欄「私の声」への投稿が日本新聞協会 HAPPYNEWS2014 大学生大賞（個人、全国で 5 名）を受賞した。

（出典：<http://www.yondoku.com/images/happynews/bucknumber/11.pdf>）

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

**卒業生からの評価**については、本学部が毎年度実施している**卒業生アンケート**（資料人73、74）によれば、本学部の教育目標は**すべての項目で中央点の3点を上回り**高く評価されている。

**資格取得状況**については、教職免許（中学・高校）、社会調査士、学芸員、日本語教師副専攻課程すべてで**資格取得者を輩出**しており、本学部を志望する受験生、卒業生およびその保護者にとって進路選択のうえで重要な指標となっている。（資料人76）

また、**在学生・卒業生の各賞受賞**は、本学部で修めた学業の成果が**社会的にも高く評価**されていることを示している。（資料人78～80）

これらにより、**在学生・卒業生から期待される水準を上回ると判断される。**

## 観点 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

本学部では組織（就職委員会等）を中心とした体制において、卒業生の進路状況、進路調査アンケート、資格取得状況、卒業生アンケートにより、**在学生・卒業生の動向把握**を行っている。

厚生労働省が発表した平成27年度「大学等卒業予定者の就職内定状況調査」によれば、平成26年度の就職希望者の就職率（平成27年4月1日）平均は96.7%であり、本学部の91.7%は良好とは言いがたい。但し、平成23年度の就職率平均が93.6%であり平成26年度との差が3.1%であるのに対し、本学部の平成23年度の就職率は80.2%であり平成26年度との差が11.5%にも及んでいることは、**就職率の大幅な改善**を意味している。未だ十分ではなく継続的な取り組みは不可欠だが、本学部の近年の**様々な取り組みが就職率の大幅な向上につながった結果**であると思われる。（資料人81）

資料人 81：進路状況一覧

年度	卒業者数	進学者数	就職希望者数	就職者数	就職率	(参考) 全国平均
平成 21 年度	164	12	141	131	92.9%	91.8%
平成 22 年度	153	24	117	103	88.0%	91.0%
平成 23 年度	167	21	131	105	80.2%	93.6%
平成 24 年度	146	13	123	101	82.1%	93.9%
平成 25 年度	169	9	136	124	91.2%	94.4%
平成 26 年度	134	6	108	99	91.7%	96.7%
平成 27 年度	165	9	134	123	91.8%	未発表

就職者数、就職率、全国平均は、大学卒業予定者の就職内定状況調査（厚生労働省）による。

（出典：人文学部学務係資料）

進学者数はおおむね10名～20名の間で推移しているが、信州大学大学院への進学その他、旧帝大大学院を含む他大学院への進学もみられ、研究者の養成機関としても一定の成果を挙げている。

## ①進路調査アンケート

本学部で**進路希望調査アンケート**を行い、学生の動向把握に努めている。（資料人82）

資料人82：進路希望調査アンケート

進路希望調査票

下記に学籍番号、進路希望等(現時点での希望で良い)を記載の上、4月末日までに必ず提出してください。 提出先:人文学部学務係提出物BOX

(人文学部)

平成 年 月 日

学籍番号	L	氏名		指導教員氏名	
専攻					
現住所	〒 ( )		帰省先住所	〒 ( )	
進路希望	<b>産業分類</b> <input type="checkbox"/> 農業、林業 <input type="checkbox"/> 輸送用機械器具製造業 <input type="checkbox"/> 不動産業、物品賃貸業 <input type="checkbox"/> 医療、福祉 <input type="checkbox"/> 漁業 <input type="checkbox"/> 精密機械器具製造業 <input type="checkbox"/> 不動産取引・賃貸・管理業 <input type="checkbox"/> 医療業・保健衛生 <input type="checkbox"/> 鉱業 <input type="checkbox"/> その他の製造業 <input type="checkbox"/> 物品賃貸業 <input type="checkbox"/> 社会保険・社会福祉・介護事業 <input type="checkbox"/> 建設業 <input type="checkbox"/> 電気・ガス・熱供給・水道業 <input type="checkbox"/> 教育、学習支援業 <input type="checkbox"/> 公務 <b>製造業</b> <input type="checkbox"/> 情報通信業 <input type="checkbox"/> 学校教育 <input type="checkbox"/> 国家公務 <input type="checkbox"/> 食料品・飲料・たばこ製造業 <input type="checkbox"/> 運輸業、郵便業 <input type="checkbox"/> その他の教育・学習支援業 <input type="checkbox"/> 地方公務 <input type="checkbox"/> 繊維製品製造業 <input type="checkbox"/> 卸売・小売業 <input type="checkbox"/> サービス業 <input type="checkbox"/> 上記以外 <input type="checkbox"/> 印刷・関連業 <input type="checkbox"/> 卸売業 <input type="checkbox"/> 学術研究・専門技術サービス業 <input type="checkbox"/> 飲食店、宿泊サービス業 <input type="checkbox"/> 化学工業・石油・石炭製品等製造業 <input type="checkbox"/> 小売業 <input type="checkbox"/> 生活関連サービス、娯楽業 <input type="checkbox"/> 鉄鋼業、非鉄金属・金属製品製造業 <input type="checkbox"/> 金融・保険業 <input type="checkbox"/> 複合サービス事業 <input type="checkbox"/> 一般機械器具製造業 <input type="checkbox"/> 金融業 <input type="checkbox"/> (協同組合等) <input type="checkbox"/> 電気・情報通信機械器具製造業 <input type="checkbox"/> 保険業 <input type="checkbox"/> その他のサービス業 <input type="checkbox"/> 電子部品・デバイス製造業 <input type="checkbox"/> 保険業 <input type="checkbox"/> その他のサービス業				
	<b>職業分類</b> <input type="checkbox"/> 技術・開発・研究 <input type="checkbox"/> 事務・営業 <input type="checkbox"/> 教育 <input type="checkbox"/> 医療 <input type="checkbox"/> 家業 <input type="checkbox"/> 自由業 <input type="checkbox"/> その他 <small>(情報処理・翻訳・記者・通訳・編集) (販売・接客・サービス) (学校・教育施設の教員) (保安・労務作業)</small>				
	<b>希望地域</b> (具体的に決まっていれば記載してください。) 都・道・府・県				
	<b>希望会社名</b> (具体的に決まっていれば記載してください。) <b>希望職種</b> (専門職・研究職・一般職・その他)				
就職希望なし	<input type="checkbox"/> 進学      志望大学名: <input type="checkbox"/> 自営業 <input type="checkbox"/> 家居 <input type="checkbox"/> その他 (具体的に)				

アンケート集計件数

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
回収数	164	153	167	146	169	142	170

(出典：人文学部学務係資料)

②インターンシップ

就職委員会等を中心に、インターンシップ受入先、就職説明会参加企業、就職斡旋業者の担当者等との打合せ等により、就職に関する情報把握に努めている(資料人83)。

資料人83：インターンシップの状況

年度	人数
平成22年度	25
平成23年度	29
平成24年度	13
平成25年度	19
平成26年度	25

平成 27 年度

20

(出典：人文学部学務係資料)

## ③ 就職ガイダンスとスキルアップ講座

就職委員会等を中心に、**就職ガイダンス**（年3回）、**就職面接のためのスキルアップ講座**（年1回）を開催し、学部生、大学院生の就職支援を行っている。（資料人84）

**資料人 84：就職ガイダンスとスキルアップ講座**

平成 27 年度実績

2015年7月7日	第1回就職ガイダンス ・「自己分析」と「業界研究」について ・就職活動・今の仕事について 人文学部卒業生2名による講演	71名
2015年10月13日	第2回就職ガイダンス ・内定獲得までの道のりについて ・今後の就職活動について 人文学部卒業生4名による講演	29名
2015年12月1日	就職面接のためのスキルアップ講座 ・基本的なマナーの習得	7名
2015年1月19日	就職活動スタート直前ガイダンス ・就職活動の前に知っておきたい働くルール ・人文学部生のための2月中に固めておきたい就職活動の軸作成講座（ワーク形式）	50名

(出典：人文学部学務係資料)

## ④ 雇用主アンケート

5年毎（平成21年度と平成26年度）に本学部卒業生の就職先を対象とした**雇用主アンケート**を実施し、**進路指導や教育改善**につなげている（資料人85、資料人86）。

資料人 85 : 雇用主アンケート

## 信州大学人文学部 卒業生の雇用主の皆様へのアンケート

平成 26 年 10 月

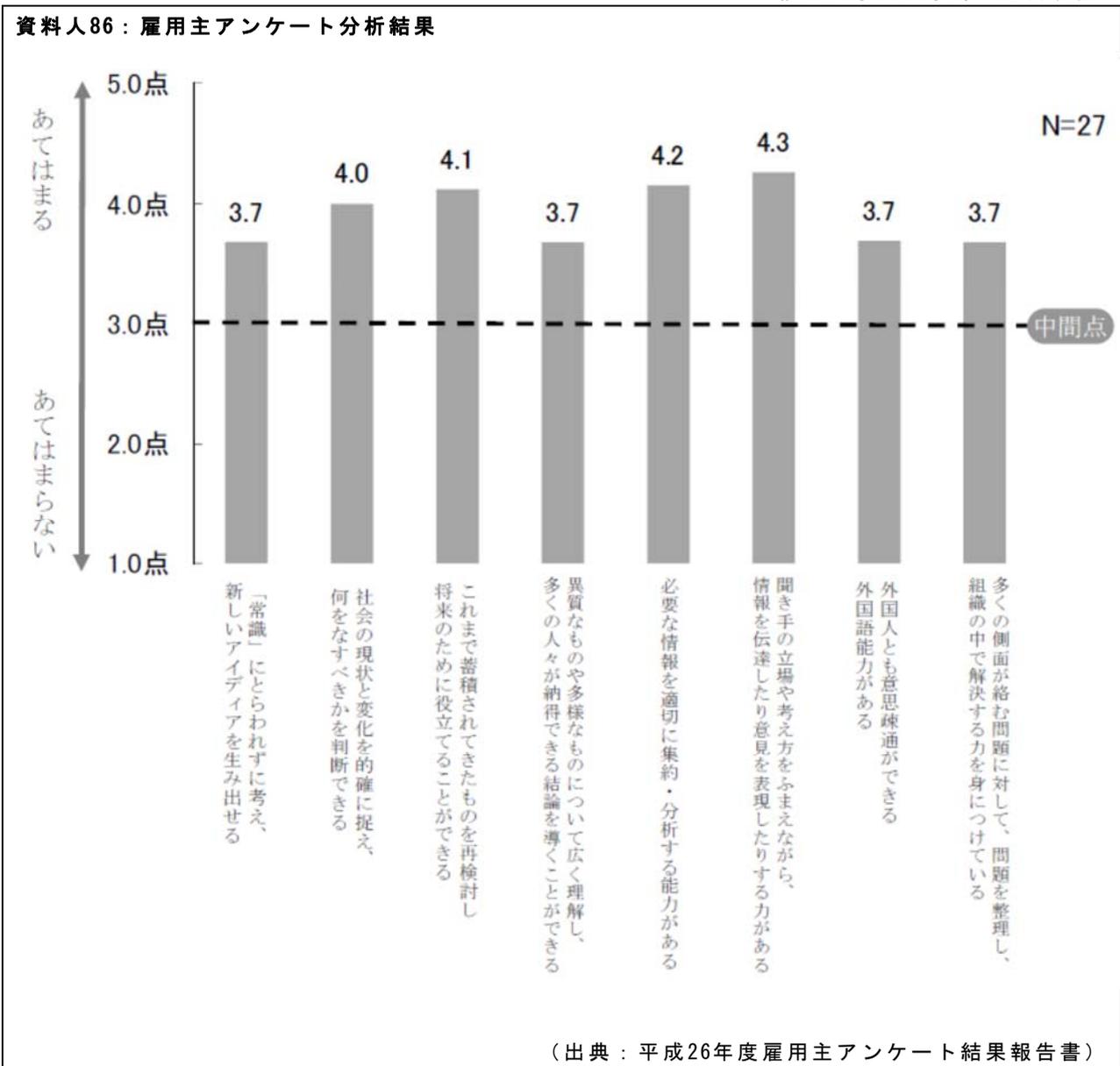
### 1. 教育目標の達成状況について

信州大学人文学部は、以下のような教育目標を掲げていますが、それらの事柄は、当該卒業生についてどのくらいあてはまるでしょうか。「あてはまらない」～「あてはまる」の5段階で適切な箇所に○を付けてください。分からない場合や判断できない場合には、「分からない・判断できない」に○を付けてください。(○はそれぞれ1つ)

	あてはまらない	あまりあてはまらない	どちらともいえない	ややあてはまる	あてはまる	分からない・判断できない
①「常識」にとらわれずに考え、 新しいアイデアを生み出せる・・・・・・・・						
②社会の現状と変化を的確に捉え、 何をなすべきかを判断できる・・・・・・・・						
③これまで蓄積されてきたものを再検討し 将来のために役立てることができる・・・・・・・・						
④異質な物や多様なものについて広く理解し、 多くの人々が納得できる結論を導くことができる・						
⑤必要な情報を適切に集約・分析する能力がある・・						
⑥聞き手の立場や考え方をふまえながら、 情報を伝達したり意見を表現したりする力がある・						
⑦外国人とも意思疎通ができる 外国語能力がある・・・・・・・・						
⑧多くの要因が絡む問題に対して、問題を整理し、 組織の中で解決する力を身につけている・・・・・・・・						

(出典：人文学部雇用主アンケート)

資料人86：雇用主アンケート分析結果



すべての項目で中央値の3.0点を超えており、本学部の教育は高い水準で目標を達成していることが分かる。改善すべき点として挙げた意見は少ないが、より実践的な教育カリキュラムを求める意見もあった。（資料人87）

**資料人 87：雇用主アンケート 自由記述【抜粋】**

- ・ **地域連携**はすぐれていると思います。今後地域のために人材を活かして下さい。
- ・ “実践知”としての**プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力**の育成にすぐれていると思います。また、積極性やチャレンジ精神も旺盛で、チームワークでも自らの役割について理解した上で、適切なスタンスを保ち貢献できる力が育っていると感じます。
- ・ 改善すべき点は特にありません。**外国語能力**については、毎日メンバーに対して英語の勉強会を行っており、学生時代に培った教養が役に立っています。現在は市町村の国民健康保険業務のシステムを担当してもらっていますが、業務の枠にとらわれず新商品の提案を行うなど非常に高い能力を発揮し、私も信州大学出身ですが、とても頼りになる後輩です。
- ・ 「自明とされる事柄に対し、深くその根拠を問い直し新たな認識を構築できる」という**教育目標が大変優れている**と感じております。企業で働くにあたっては、どの職種であってもあらゆる事象について“なぜそうなったのか”、“なぜそれが正しいのか”根拠を理解することがすべてにおいて重要であると考えております。
- ・ インプットされた知識等をアウトプットかつ教え導くことができるよう、**大学でのより充実した実践**がなされるよう期待します。

(出典：平成 26 年度雇用主アンケート結果報告書)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

本学部の就職率は平成23年度の80.2%を底として大幅に改善しており、その回復力は全国的な水準を上回る。(資料人81)

本学部では、学生の進路・就職について継続的に**進路希望調査アンケート**(資料人82)を行い、動向の把握に努めている。また、就職支援として**インターンシップ**、**就職説明会**を行っている。(資料人83、84)

平成26年度には**雇用主アンケート**を実施し、就職後の学生の活躍について追跡調査を行い、多くの評価項目で高い評価を得た(資料人85、86)。

これらのことから、本学部の進路・就職の状況は期待される水準にあると判断される。

### Ⅲ 「質の向上度」の分析

#### (1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

##### ①平成25年度に学部改組（平成28年度完成）を実施

これまでの「人間情報学科」と「文化コミュニケーション学科」2学科制を「人文学科」1学科制にすることにより、**分野を再編統合した新コース制による履修設計と、分野横断型の複数修学履修指導體制**を強化し、従来の養成機能の相乗的効果による向上をはかり、2学科制ではなし得なかった**人材養成**を行うこととした。

3つの系、7つのコース、18の分野からなる新体制は、体系的カリキュラムとして設置された科目群に基づく**分野横断型の複数修学履修指導體制**を確立し、**分野連携による相乗効果**を発揮するよう編成されている（資料人9）。

##### ②フィールド実践基幹演習の開講

平成25年度より**フィールド実践基幹演習**を開講し、フィールドワーク型の授業として、**地域と大学をつなぐ相互交流の場**に学生が主体的にかかわることのできる機会を設けた。（資料人53、54）

##### ③学生相談センター等の設置

平成24年度に、全学組織の学生相談センターと、各学部・キャンパスに、**あらゆる相談を受け付ける学生相談室**が設置された。（資料人33）

#### (2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

分析項目Ⅰで挙げた学部改組（平成28年度完成）の効果が教育成果として現れてきているが、現段階では十分な総括が行えないため該当なしと判断する。

## 2. 人文科学研究科

- I 人文科学研究科の教育目的と特徴・・・・・・・・・・2-2
- II 「教育の水準」の分析・判定・・・・・・・・・・2-9
  - 分析項目 I 教育活動の状況・・・・・・・・・・2-9
  - 分析項目 II 教育成果の状況・・・・・・・・・・2-40
- III 「質の向上度」の分析・・・・・・・・・・2-50

## I 人文科学研究科の教育目的と特徴

## 1 教育目的

## (1) 研究科の教育の目的・目標

本研究科は、信州大学大学院人文科学研究科規程（以下「研究科規程」）第1条の2に研究科の目的を定めるとともに、研究科の理念及び教育目標を掲げている。（資料人院1、2、3）

**資料人院1** 信州大学大学院人文科学研究科規程

第1条の2 研究科は、人文諸科学の広範囲な学問領域が相互に緊密に協力し、文化の本質と構造、その多様性と普遍性、その他文化にかかわる種々の問題を、比較論的・学際的・総合的に研究し教育することを基本目標とする。このような目標のもと、文化について広い視野と高い識見をもち、着実にして真摯な研究態度を身につけ、専門的能力と豊かな人間性を備えた高度な職業人の養成を目的とする。

（出典：信州大学大学院人文科学研究科規程）

**資料人院2** 理念

さまざまな文化や価値観が地球的規模で相互に交錯し、葛藤や融合を繰り返している時代の世界を生き抜くための、手がかりとなる「知の方法」を探ります。具体的にそれは、高度な論理的思考と科学的分析によって、混迷し錯綜する諸問題の根元を解明し、創造的な指針を得ることです。信州大学人文科学研究科は、あらゆる科学や応用技術を支えるもっとも基本的かつ実践的の基盤である、柔軟な認識能力・多角的分析能力・豊かな表現力をもつ人材の養成をめざします。

信州大学人文科学研究科（修士課程）では、自ら創造的な研究活動を続ける教員たちの多彩な授業により、論理的思考と実践的問題解決法、表現能力を身につけさせます。さらに少人数のゼミによる徹底した指導のもと、院生それぞれの問題意識を深め、独自のテーマにもとづいて、実践的で高度な研究論文の作成を指導します。

（出典：人文学部ホームページ <http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/arts/graduate/aim.html>）

**資料人院3** 教育目標**問題発見能力を高める**

院生それぞれが関心を抱く問題に内在する諸要因を、人文社会科学の視点にもとづいて探求し、柔軟な感性と創造的な論考によってさらなる学問的課題を発見する能力を得ます。

**問題分析能力を高める**

論理的分析や経験科学的分析の方法を修得し、過去の諸理論や知見を検索・参照することで、問題を客観的・学問的に解明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を高めます。

**表現能力を高める**

自らの発見を言語や身体で表現するだけでなく、表現自体を洗練されたものにする訓練を通じて、学問的普遍性と実践的価値をさらに高いものとしします。

**社会的応用能力を高める**

問題を学問的に解明し表現する作業を通じて、現実社会の諸問題を解決する方法や能力を身につけます。

**知的柔軟性を高める**

複雑多様化する現代社会のあらゆる局面に批判的、創造的に対応できる知的柔軟性を高めます。

（出典：人文学部ホームページ <http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/arts/graduate/aim.html>）

## (2) 三つの方針（DP、CP、AP）

本研究科は、学位授与の方針（以下「DP」）を（資料人院4、5）、教育課程編成・実施の方針（以下「CP」）を（資料人院6）、入学者受入の方針（以下「AP」）を定めている（資料人院7）。

**資料人院4** 信州大学大学院学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

信州大学大学院では、俯瞰力と独創力を備え、持続可能な価値社会を創造する質の高い高度専門職業人や、先端的研究を推進する人材を養成するために、以下のように各課程の学位授与の方針を定める。

- ・修士課程にあっては、広い視野に立って精深な学識を持ち、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を修得している。
- ・博士課程にあっては、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するのに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を修得している。
- ・専門職学位課程にあっては、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を修得している。

**資料人院 5** 信州大学大学院人文科学研究科学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

信州大学大学院人文科学研究科（地域文化専攻・言語文化専攻）の課程を修了し、次に該当する者に学位を授与する。

1. 問題発見能力：自身が関心を持つ問題に関わる諸要因を人文科学の視点にもとづいて探求し、柔軟な感性と創造的な論考によって学問的課題を発見する能力を有する。
2. 問題分析能力：論理的分析や経験科学的分析の方法を修得し、過去の諸理論や知見を検索・参照することで、問題を客観的・学問的に解明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。
3. 表現能力：自らの発見を言語や身体で表現する技術を修得し、学問的普遍性や実践的価値をグローバルに発信する能力を有する。
4. 社会的応用能力：問題を学問的に解明し、その成果を現実社会の諸問題の解決に応用できる能力を有する。
5. 知的柔軟性：自他の研究成果を批判的・建設的に検討し、複雑多様化する現代社会のあらゆる局面に創造的に対応できる柔軟性を有する。

(出典：<http://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/diploma/graduate/arts.html>)

**資料人院 6** 信州大学大学院教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

大学院課程における教育課程編成の方針

1. 信州大学大学院は、研究科及び専攻の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設するとともに、研究指導の計画を策定し、体系的に教育課程を編成します。
2. 信州大学大学院は、教育課程の編成に当たっては、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう適切に配慮します。

大学院課程における教育課程実施の方針

1. 信州大学大学院は、専門性の一層の向上を図り幅広い学識を涵養するため、コースワークを充実させ、コースワークから研究指導へ有機的につながる体系的な教育を行います。また、各研究科の「学位授与の方針」に定めた、修了時までには修得すべき知識・能力等がカリキュラム体系のなかでどのように養成されるのかを示すため、シラバスで「学位授与の方針」で定められた知識・能力等との対応を示し、それら諸能力等を修得するプロセスを履修プロセス概念図で示します。
2. 信州大学大学院は、学生個々人の主体的で活発な勉学意欲を促進する立場から、授業時間外の多様な学修研究機会を通じ、諸課題に積極的に挑戦させます。
3. 信州大学大学院は、成績評価の公正さと透明性を確保するため、成績の評定は、各科目に掲げられた授業の狙い・目標に向けた到達度をめやすとして採点します。
4. 信州大学大学院は、修士課程及び博士課程の学位論文審査体制を充実させ、厳格な審査を行います。

(出典：[http://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/curriculum/index.html#graduate\\_policy](http://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/curriculum/index.html#graduate_policy))

**資料人院 7** 信州大学大学院入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

求める学生像

信州の悠久の歴史と文化、豊かな自然環境のもと、地域に根ざし世界に開かれた信州大学大学院は、総合大学の特色を生かし、国の活力を高める次世代を担う卓越した人材や世界的な視点で新たな価値を創造する質の高いグローバルな高度専門職業人の養成を目指しています。そのため、以下のような能力や意欲を備えた人たちを積極的に受け入れます。

- ・幅広い教養と専攻する分野の専門知識を持ち、さらに高度な専門的知識・専門応用能力を修得したい人
- ・知的好奇心が旺盛で、専門的課題や地域社会の抱える課題に主体的に取り組む人
- ・深い知性、論理的な思考力、豊かな人間性を備え、様々な分野でリーダーシップを発揮し、活躍したい人
- ・社会・環境・国際問題に関心をもち、創造力を活かし、グローバルに活躍したい人
- ・職業経験から獲得した知識・技能を高度化、深化させたい人

入学者選抜の基本方針

信州大学の教育の理念・目標に則り、各研究科の特性に応じた公正かつ適切な方法で入試を実施し、大学院教育を受けるにふさわしい能力・適性等を多面的・総合的に評価します。

(出典：<http://www.shinshu-u.ac.jp/graduate/admission/policy.html>)

**(1) 組織の概要**

本研究科は、人文学部を基礎学部とする昭和57年4月設置された地域文化専攻、言語文化専攻からなる修士課程である。2つの専攻には、それぞれ8つの専門領域で構成されている。(資料人院8)

**資料人院8 各専攻の概要**

**地域文化専攻** 「哲学・思想論」「心理学」「社会心理学」「社会学」「文化情報論」「日本史」「地域文化史」「世界史」の8つの専門領域からなります。この8専門領域は、古典的哲学から最新の情報科学までの充実した教員グループによって構成・運営されています。文字通りの少人数教育と多彩な研究計画立案が可能な体制は、信州の豊かな自然環境と相まって、意欲と能力を兼ね備えた学生にとって理想的な思索と研究の機会を提供するでしょう。教員との学問的交流を通じて、学生の皆さんがこれまでに習得した基礎学力や社会経験を深化させ、専門学会や現実社会での創造的活動に携わるための能力をさらに向上させられるような教育研究体制を整えています。

**言語文化専攻** 「日本文学」「日本語学・日本語教育学」「中国語学・中国文学」「比較文学」「ドイツ語学・ドイツ文学」「フランス語学・フランス文学」「英語学・英米文学」「芸術コミュニケーション」の8つの専門領域からなります。ここでは、日本や世界の多様な言語、文化を専門的に研究することができます。各国の言語と文化について専門的に追求するそれぞれの領域に加えて、複数の言語、文化の考察にねざした比較を行う領域、美術やダンス、音楽といった芸術表現をカバーする領域があり、多領域にわたるスタッフが、言語文化に関わる諸問題を専門的に研究・指導します。また、教員スタッフの緊密な協力体制により、多様な研究テーマの多角的、総合的、比較論的分析・考察も可能となっています。

(出典：信州大学大学院人文科学研究科(修士課程)案内より)

**(2) カリキュラムの概要・特色**

本研究科は、2つの専攻が相互に協力し、CP(前掲資料人院6、p.3)に基づき入学時からコースワーク、研究指導、学位論文作成・審査に至るまで体系的に教育している。本研究科が掲げる5つの教育目標を修得できるよう、全教員による指導ができる大学院シンポジウムを導入する等により、カリキュラムを編成している。(資料人院9、10)

**資料人院9 信州大学大学院人文科学研究科修士課程 学生募集要項 一抜粋****2. 教育組織・内容**

本研究科に地域文化専攻及び言語文化専攻の2専攻を置く。

**(1) 地域文化専攻**

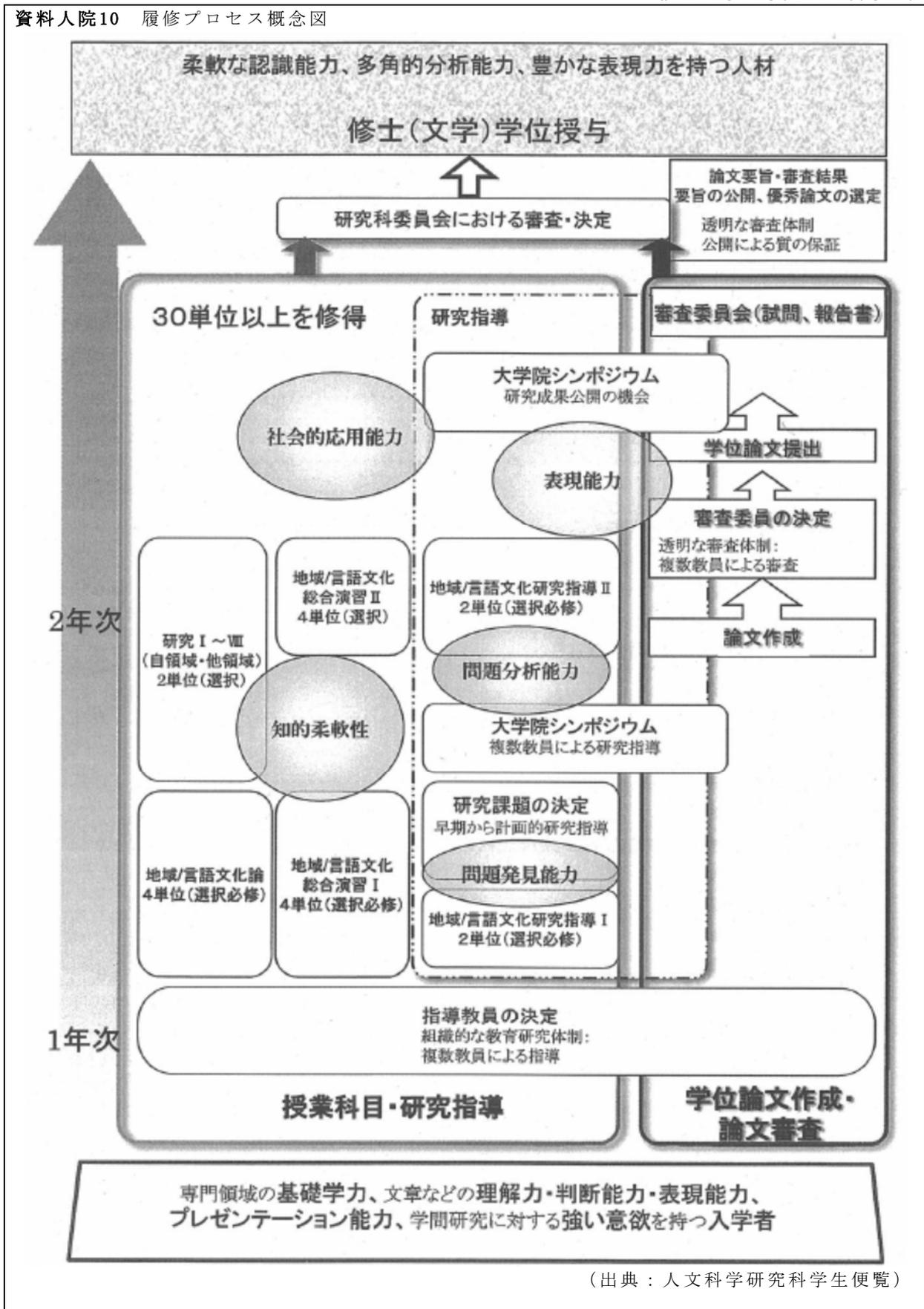
文化の地域的多様性に関して、地域社会、国家社会、文化圏それぞれの次元から、通時(歴史)的視角と共時(同時代)的・比較論的展望のもとに、学際的・総合的な研究と教育を行う。なお、言語文化専攻の授業科目も履修することができるので、言語文化に対する視野をも拡大することができる。

**(2) 言語文化専攻**

言語ならびに記号や表象を媒体とした文化に関して、個別の言語研究と文学研究を行うのみならず、比較・対照研究や総合研究を導入した、より高次元の言語文化の研究と教育をも行う。なお、地域文化専攻の授業科目も履修することができるので、人間学的・社会学的視座と歴史学的展望をもつことにより、言語文化の研究を補強することができる。

(出典：平成27年度信州大学大学院人文科学研究科修士課程 学生募集要項より)

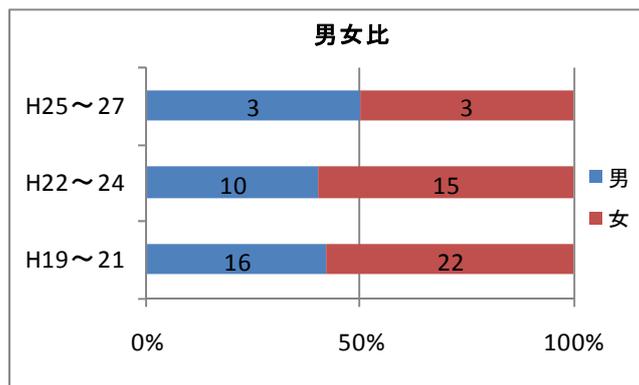
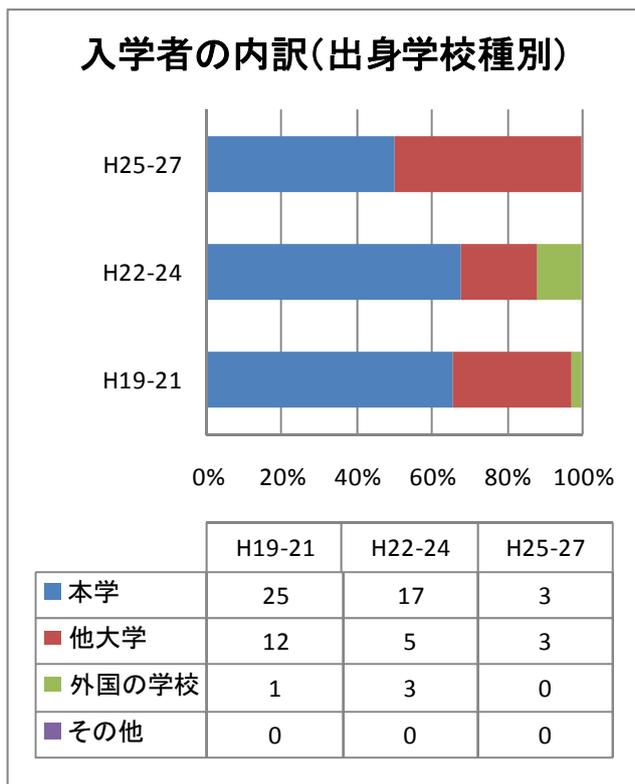
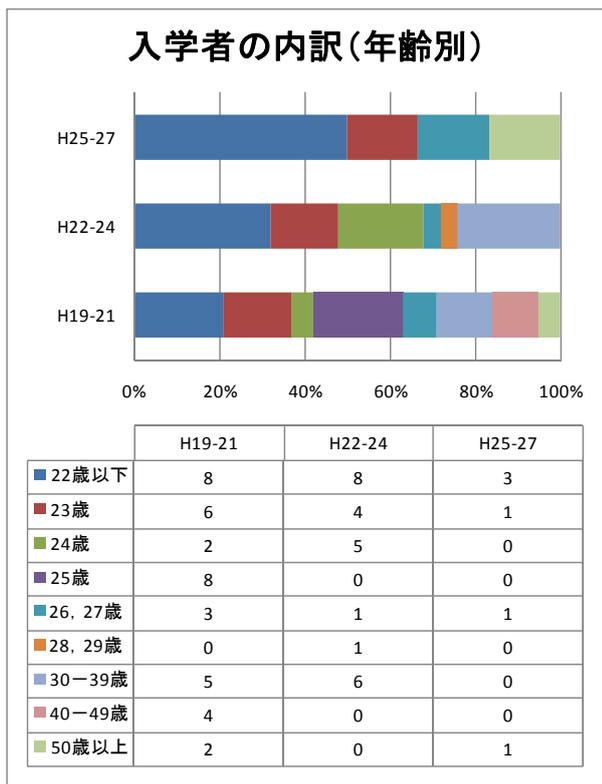
資料人院10 履修プロセス概念図



3 入学者の状況

入学者の状況は、以下のとおりである。(資料人院 11)

資料人院 11 人文科学研究科の入学者の状況



(出典:経営企画課で作成)

入学者選抜は、一般選抜（前期日程・後期日程）、外国人留学生特別選抜により、アドミッション・ポリシーに基づき、各専攻の専門性を重視して行っている。（資料人院 12）

資料人院 12 信州大学大学院人文科学研究科修士課程 学生募集要項 - 抜粋 -

4. 選抜方法

学力試験及び面接試問の結果並びに提出書類の記載事項等を総合して判定します。

(1) 学力試験

(ア) 専門試験(前期日程及び後期日程)

地域文化、言語文化における各専門領域の問題を出題します。

受験者はその中から出願時に、研究計画に関わる1専門領域の問題を選択します。

ただし、試験問題の中に、各専門領域の研究に必要な外国語文献・資料などが含まれる場合があります。

専攻	専門領域	備考
地域文化専攻	哲学・思想論領域	問題には出願時に選択した外国語(英語/フランス語/ドイツ語/古典中国語から一つ)を含む。
	心理学領域	問題には英語を含む。
	社会心理学領域	問題には英語を含む。
	社会学領域	問題には英語を含む。
	文化情報論領域	問題には英語を含む。

言語文化専攻	日本史領域	問題には史料読解を含む。
	地域文化史領域	問題には史料読解を含む。
	世界史領域	問題には出願時に選択した外国語(英語/イタリア語/フランス語/中国語から一つ)を含む。
	日本文学領域	問題には資料読解を含む。
	日本語学・日本語教育学領域	日本語学:問題には資料読解を含む。 日本語教育学:問題には英語を含む(ただし、留学生は出願時に届け出た場合に限り、英語を含む問題を選択しなくともよい)。
	中国語学・中国文学領域	問題には中国語を含む。
	比較文学領域	問題には英語および、出願時に選択した外国語(古典ギリシア語/ラテン語/フランス語/ロシア語から一つ)を含む。なお上記の言語すべてについて、希望者には試験場で辞書を貸与する。
	ドイツ語学・ドイツ文学領域	問題にはドイツ語を含む。
	フランス語学・フランス文学領域	問題にはフランス語を含む。
英語学・英米文学領域	問題には英語を含む。	
芸術コミュニケーション領域	問題には英語を含む。	

(イ)日本語試験(私費外国人留学生志願者のみ)

私費外国人留学生志願者については、地域文化、言語文化とも、専門試験の他に日本語試験を課します。過去の試験問題をご覧になりたい方は、入試事務室に問い合わせてください。

(2)面接試問(前期日程及び後期日程)

各受験者に対して、過去の研究主題(卒業論文など)、入学後の研究計画等に関するその他の事項について地域文化専攻、言語文化専攻ごとに試問します。

## 5. 試験日時及び場所

(1)試験日時

前期日程

平成26年9月18日(木) 専門試験 9:30~11:30  
面接試問 13:30~

後期日程(私費外国人留学生を含む。)

平成27年2月 4日(水) 日本語試験 9:00~10:00  
専門試験 10:30~12:30  
面接試問 14:00~

(出典:平成27年度信州大学大学院人文科学研究科修士課程 学生募集要項より)

### [想定する関係者とその期待]

○受験生・在学生・その家族

内部進学および外部受験による一般大学院生や受験生からは、博士後期過程を有する他大学大学院へ進学するうえでの学力を高めること、中学・高等学校の専修免許状を取得すること、高い教養をもち社会の様々な分野を支え牽引する高度な社会人となることなどが期待されている。

社会人志願者からは、最先端の専門的知識を身につけ、社会に即時に還元できる人材の養成が期待されている。

○修了生の雇用者

修了生の雇用者からは、リーダーシップを発揮して周囲の者を牽引していく人材の養成が期待されている。

○関連業界・企業・団体

修了生の主な就職先である教育・学術研究サービス業からは、中学・高等学校の専修免許状を取得すること、リーダーシップを発揮して周囲の者を牽引していく人材の養成が期待されている。

また、博士後期過程を有する他大学大学院からは、進学するうえでの学力を高めるこ

とが期待されている。

○地域社会

地域社会の諸機関・諸団体からは、専門的知識を地域社会に還元することが期待されている。

II 「教育の水準」の分析・判定

分析項目 I 教育活動の状況

**観点 教育実施体制**

(観点に係る状況)

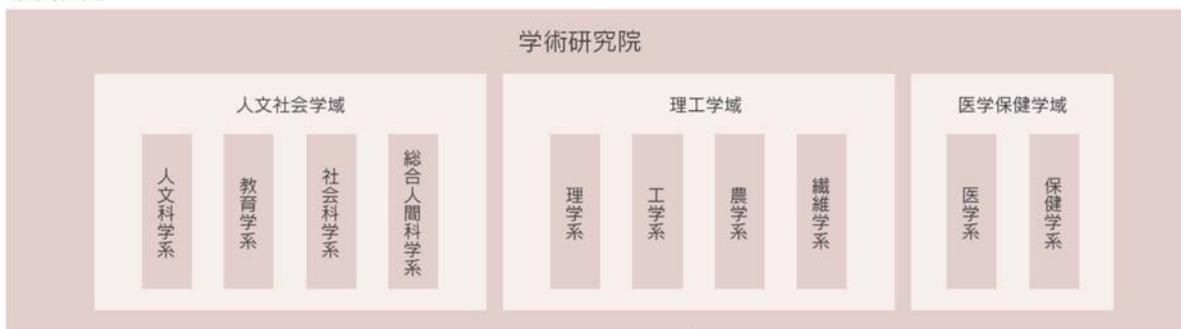
1 教員体制と教育体制

(1) 学術研究院と研究科

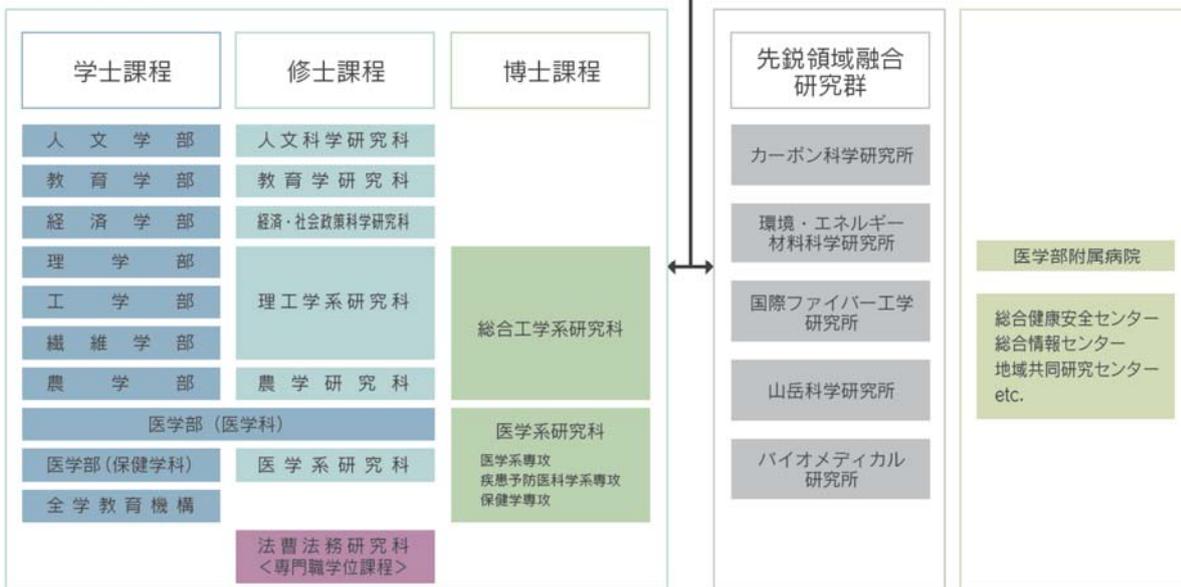
教員の流動性を確保し、全学的な教育、研究マネジメントを可能とするため、教員組織として学術研究院を平成 26 年度より設置した。(資料人院 13)

資料人院 13 教員組織 (学術研究院) と教育研究組織の関係

〈教員組織〉



〈教育研究組織〉



学術研究院は、3の学域・10の学系により構成する。すべての教員は、いずれかの学系に所属し、職務として次のいずれかに携わる。(複数の兼務もあり)

- 1) 学部・大学院、全学教育機構において、教育・研究に携わる。
- 2) 医学部附属病院において、診療・教育・研究に携わる。
- 3) 先鋭領域融合研究群において、研究に携わる。
- 4) 大型研究センター (拠点形成型の外部資金プロジェクト) において、研究に携わる。
- 5) 各教育研究 (支援) センター等において、担当業務に携わる。

これにより、先鋭領域融合研究群の研究者への研究重点環境の提供や学部横断型の教育を実現し、研究の高度化や時代の要請に柔軟かつスピーディーに対応した教育を推進する。

(出典：大学概要、経営企画課修正)

(2) 研究科の構成

本研究科は、それぞれ8つの専門領域を有する地域文化専攻と言語文化専攻で構成されている。(資料人院14)

専攻	領域の概要
地域文化専攻	<b>哲学・思想論領域</b> 古今東西の諸思想と哲学的諸問題に対する、俯瞰的視点を備えた解明を目指します。
	<b>心理学領域</b> 様々な心理学的事象のメカニズムを科学的に探求する態度(サイコロジカルマインド)と能力の深化を目指します。
	<b>社会心理学領域</b> 日常のありふれた出来事を科学的で独自の視点から捉え直す力
	<b>社会学領域</b> 現代社会を深く考察するために、理論構築のセンス、調査設計の技術、統計分析の運用力を高め、総合力を養います。
	<b>文化情報論領域</b> 文化と情報を切り口とした学際的な研究を通して、幅広い視野と柔軟な応用力を備えた人間を目指します。
	<b>日本史領域</b> 17-19世紀の「近世史」、20世紀を中心とする「近現代史」を、「日本」という地域社会を素材に分析していきます。
	<b>地域文化史領域</b> 古代や中世の日本の姿を、地域という観点を導入しながら広く高度な水準で研究し、そこから現代について考えます。
	<b>世界史領域</b> 私たち人間は、どのようにして現在の社会をつくってきたのか、そして今、どこへ向かおうとしているのか、それを史実に基づき、広く高度な水準において研究します。
言語文化専攻	<b>日本文学領域</b> 日本文学領域では、上代から近・現代に至るまでの文学・文化等を、より深く、専門的に学ぶことができます。
	<b>日本語学・日本語教育学領域</b> 日本語再発見。「よく知っているはず」の日本語ですが、改めて見直すと実は分からないことがたくさんあります。この領域では、そうした問題について自ら疑問を持ち、調査し、解決する姿勢を大切にしています。
	<b>中国語学・中国文学領域</b> 中国古典文学・中国近代文学・また現代中国語学を専門としている領域です。
	<b>比較文学領域</b> 国語と国民文学の地平を超えた比較論的な次元において通時的・共時的な文学研究を行う領域です。
	<b>ドイツ語学・ドイツ文学領域</b> ドイツ語学・ドイツ文学専門領域は、ドイツ語圏の国々の言語文化を、総合的・学際的・比較論的に探求します。
	<b>フランス語学・フランス文学領域</b> フランス言語文化を深く考究し、フランス語とフランス文学についての専門的な知識を養うとともに、独創的、創造的認識力を培います。
	<b>英語学・英米文学領域</b> コミュニケーションの媒体として英語が伝達する「意味」とは何かを、言語学的、文学・映像テキスト分析から学問的に思索します。
<b>芸術コミュニケーション領域</b> 芸術のコミュニケーション的特質を理解し、さらに芸術活動への能動的「参加」を実現する高次のアートリテラシー獲得を目指します。	

(出典：人文学部ホームページを元に作成)

(3) 教員の配置状況

本研究科は、研究指導教員及び研究指導補助教員を専攻ごとに次のとおり配置しており、多彩な研究分野を有する教員となっている。(資料人院 15、16)

専攻	理工学系研究科			大学院設置基準				
	研究指導教員	うち教授数	研究指導補助教員	計	研究指導教員基準	うち教授数	研究指導補助教員基準	基準数計
地域文化専攻	22	8	0	22	3	2	2	5
言語文化専攻	26	12	0	27	3	2	2	5

(出典：経営企画課にて作成)

資料人院16 多彩な専門領域と研究・教育スタッフ

**地域文化専攻**

地域文化専攻は、「哲学・思想論」「心理学」「社会心理学」「社会学」「文化情報論」「日本史」「地域文化史」「世界史」の8つの専門領域からなります。この8専門領域は、古典的哲学から最新の情報科学までの充実した教員グループによって構成・運営されています。文字通りの少人数教育と多彩な研究計画立案が可能な体制は、信州の豊かな自然環境と相まって、意欲と能力を兼ね備えた学生にとって理想的な思索と研究の機会を提供するでしょう。教員との学問的交流を通じて、学生の皆さんがこれまでに習得した基礎学力や社会経験を深化させ、専門学会や現実社会での創造的活動に携わるための能力をさらに向上させられるような教育研究体制を整えています。

▼ 哲学・思想論領域	早坂 俊廣 【中国哲学・比較思想】 篠原 成彦 【言語哲学・心の哲学】	護山 真也 【インド仏教認識論】 三谷 尚澄 【倫理学・西洋哲学】
▼ 心理学領域	今井 章 【実験心理学・心理生理学】	高瀬 弘樹 【認知心理学・実験心理学】
▼ 社会心理学領域	長谷川 孝治 【対人社会心理学】 岡本 卓也 【社会心理学(集団・コミュニティ)】	清水 健司 【臨床心理学】
▼ 社会学領域	辻 電平 【社会ネットワーク論】	茅野 恒秀 【環境社会学・地域社会学】
▼ 文化情報論領域	菊池 聡 【認知心理学】 水原 俊博 【消費社会学】	佐藤 広英 【情報コミュニケーション学】
▼ 日本史領域	山本 英二 【日本近世・近代史】	大串 潤児 【日本近現代史】
▼ 地域文化史領域	笹本 正治 【日本中世・近世史】	佐藤 全敏 【日本古代・中世史】
▼ 世界史領域	久保 亨 【中国近現代史】 佐藤 真紀 【フランス近代史】	豊岡 康史 【中国近世・近代史】 黒田 祐我 【中世スペイン史】

**言語文化専攻**

言語文化専攻は、「日本文学」「日本語学・日本語教育学」「中国語学・中国文学」「比較文学」「ドイツ語学・ドイツ文学」「フランス語学・フランス文学」「英語学・英米文学」「芸術コミュニケーション」の8つの専門領域からなります。ここでは、日本や世界の多様な言語、文化を専門的に研究することができます。各国の言語と文化について専門的に追求するそれぞれの領域に加えて、複数の言語、文化の考察にわたる比較を行う領域、美術やダンス、音楽といった芸術表現をカバーする領域があり、多領域にわたるスタッフが、言語文化に関わる諸問題を専門的に研究・指導します。また、教員スタッフの緊密な協力体制により、多様な研究テーマの多角的、総合的、比較論的な分析・考察も可能となっています。

▼ 日本文学領域	渡邊 匡一 【日本中世文学・宗教文化】 速水 香織 【日本文学】	松本 和也 【日本近現代文学】
▼ 日本語学・日本語教育学領域	山田 健三 【日本語の歴史的研究】 白井 純 【日本語史学】 石神 照雄 【日本語文法論・現代日本語論】	沖 裕子 【現代日本語学・日本語教育学】 坂口 和寛 【日本語教育学】
▼ 中国語学・中国文学領域	氏岡 真士 【中国古典文学】	伊藤加奈子 【現代中国語学】
▼ 比較文学領域	野津 寛 【西洋古典文学】	渋谷 豊 【比較文学・フランス文学】
▼ ドイツ語学・ドイツ文学領域	株丹 洋一 【19世紀末ドイツ文学】	磯部 美穂 【現代ドイツ語学】
▼ フランス語学・フランス文学領域	吉田 正明 【近代フランス詩】	鎌田 隆行 【近代フランス小説】
▼ 英語学・英米文学領域	伊藤 晶 【英語史・中世英語文献学】 花崎 美紀 【言語人類学・英語意味論】 杉野健太郎 【アメリカ文学・文化】	坂岡 詩朗 【アメリカ映画・映像文化】 加藤 鑑三 【英語と日本語の統語論】
▼ 芸術コミュニケーション領域	金井 直 【美術史学】 濱崎 友絵 【音楽学】	北村 明子 【舞踊・パフォーマンス論】
▼ 共通科目	近藤 高英 【社会言語学・英語教育】	橋本 純一 【スポーツ文化論】

(出典：信州大学大学院人文科学研究科 (修士課程) 案内)

**(4) 教育課程の運営体制**

本研究科は、人文科学系長が研究科長となっており、定期的（月1回）に開催する研究科委員会において教育活動に関する審議を行っている。（資料人院 17）

**資料人院 17** 信州大学大学院学則、信州大学大学院人文科学研究科規程、信州大学大学院人文科学研究科委員会規程

**信州大学大学院学則(抜粋)**

(研究科長)

第 9 条 本大学院の各研究科(法曹法務研究科を除く。)に研究科長を置き、次のとおり、信州大学学術研究院の学系長をもって充てる。

人文科学研究科長	人文科学系長
(略)	

2 (略)

3 前項の研究科長の選考に関し必要な事項は、別に定める。

4 研究科長は、当該研究科に関する事項を掌理する。

(大学院研究科委員会)

第 11 条 各研究科に、教育課程の編成、学生の入学及び退学その他の当該研究科における重要事項(教員人事マネジメント、研究マネジメント及び予算決算に関する事項は除く。)を審議するため、大学院研究科委員会(法曹法務研究科にあつては、研究科教授会。以下「研究科委員会」という。)を置く。

2 研究科委員会に関し必要な事項は、別に定める。

**信州大学大学院人文科学研究科規程(抜粋)**

(研究科委員会)

第 3 条 研究科に、大学院学則第 11 条第 1 項の定めるところにより、研究科長及び研究科に属する専任の教員で構成する信州大学大学院人文科学研究科委員会(以下「研究科委員会」という。)を置く。

2 研究科委員会に関し必要な事項は、別に定める。

**信州大学大学院人文科学研究科委員会規程(抜粋)**

(審議事項)

第 3 条 委員会は、研究科に関する次の事項を審議する。

- (1) 教育課程の編成に関する事項
- (2) 学生の入学、修了その他その在籍に関する事項及び学位の授与に関する事項
- (3) 研究科に所属する教員の選考及び業務内容等に関する事項
- (4) その他研究科の教育又は研究に関する重要事項

第 4 条 前条第 3 号に規定する審議事項については、委員会において審議した後、信州大学学術研究院会議において審議する。

(出典：信州大学規程集より)

**2 教育サポート体制**

全学的な教育サポート体制として、学務課、学生支援課、国際交流課を設置し、全学的な教育課程、課外活動、就職、留学に関する業務を行い、また、全学的な教育活動を展開するために附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センター、e-Learning センターに専門的知識技能を有する職員を配置している（資料人院 18～20）。

**資料人院 18** 国立大学法人信州大学業務執行組織規程

第 25 条 学務課においては、全学教育機構、高等教育研究センター、e-Learning センター、教員免許更新支援センター（教育学部の所掌に属するものを除く。以下この条において同じ。）及び学務部に関する次の業務をつかさどる。

- (1) 学務部内の事務に関し、連絡し、及び総合調整を行うこと。
- (2) 庶務及び会計に関すること。
- (3) 入学式その他学生の諸行事に関すること。
- (4) 学生関係職員の SD(スタッフ・デベロップメント)に係る企画・立案及びその実施に関すること。
- (5) 全学(本法人が設置する信州大学大学院(以下「大学院」という。)を除く。)の教務に関すること。

- (6) 学生の学籍その他の記録に関すること。
  - (7) 学位の授与に関すること。
  - (8) 教育課程(大学院を除く。)に係る目標及び計画の連絡調整に関すること。
  - (9) 他の大学等との単位の互換(大学院を除く。)に関すること。
  - (10) 全学の学務情報システムに関すること。
  - (11) 出前講座に関すること。
  - (12) 諸会議(国立大学法人信州大学戦略企画会議規程(平成 24 年国立大学法人信州大学規程第 108 号)第 6 条に定める大学院戦略会議(以下「大学院戦略会議」という。)及び信州大学大学院教務委員会を除く。)の連絡調整に関すること。
  - (13) 教育・学生支援連携会議の運営に関すること。
  - (14) その他全学教育機構、高等教育研究センター、e-Learning センター及び教員免許更新支援センターの業務執行及び運営に関すること。
  - (15) 前各号に掲げるもののほか、学務部の他の所掌に属しない事務を処理すること。
- 2 学務課の共通教育支援室においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 共通教育の授業支援に関すること。
  - (2) 共通教育の教務に関すること。
  - (3) 学生の学習相談及び修学指導に関すること。
  - (4) 共通教育に係る点検・評価に関すること。
  - (5) 全学教育連携会議等の諸会議の連絡調整に関すること。
  - (6) 環境マインド教育支援に関すること。
- 3 学務課の大学院室においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 大学院の事務の総括及び全体調整に関すること。
  - (2) 大学院の教務に関すること。
  - (3) 大学院の入学選抜の総括及び広報に関すること。
  - (4) 大学院戦略会議及び信州大学大学院教務委員会に関すること。
  - (5) 大学院の教育課程に係る目標及び計画の連絡調整に関すること。
  - (6) 大学院における他の大学等との単位の互換に関すること。
  - (7) 理工学系研究科長、工学系研究科長及び総合工学系研究科長の事務に関すること。
  - (8) 前各号に掲げるもののほか、大学院に関する事務を処理すること。
- 4 学生支援課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 学生総合支援センターの業務執行及び運営に関すること。
  - (2) キャリアサポートセンターの業務執行及び運営に関すること。
  - (3) 学生相談センターの業務執行及び運営に関すること。
- 5 入試課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 入学者の選抜に関し連絡し、及び総合調整を行うこと。
  - (2) 入学者選抜方法の改善に関し企画立案を行うこと。
  - (3) 学生募集に関すること。
  - (4) アドミッションセンターの業務執行及び運営に関すること。
  - (5) 前各号に掲げるもののほか、入学者の選抜に関する事務を処理すること。
- 6 国際交流課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 国際交流センターの業務執行及び運営に関すること。(研究支援課の国際学術交流室が所掌する業務を除く。)
  - (2) 松本国際交流会館の業務執行及び運営に関すること。
  - (3) 前各号に掲げるもののほか、教育活動に係る国際交流に関する事務を処理すること。

資料人院 19 学務課、学生支援課、国際交流課の職員数

学務課	学生支援課		国際交流課
	うち大学院室	うちキャリアサポートセンター	
37	5	20	10

注：左記職員数には、非常勤職員が含まれています。なお、学務課所属の e-Learning センター担当職員は含まれていません。

(出典：経営企画課作成資料)

資料人院 20 附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センター、e-Learning センター職員数

区分	附属図書館 <sup>注3</sup>	総合健康安全センター	総合情報センター	e-Learning センター
松本キャンパス	36 (22)	8 (4)	5 (4) <sup>注4</sup>	3 (1)

長野キャンパス (教育)	5 (4)	2 (2)	—	2 (2)
長野キャンパス (工学)	6 (4)	1 (1)	1 (1)	1 (1)
南箕輪キャンパス	5 (2)	2 (2)	—	—
上田キャンパス	6 (3)	2 (2)	—	—

注 1. ( ) 内の数字は、専門的知識技能等を有する職員数を表す。

注 2: 上記職員数には、非常勤職員が含まれています。

注 3: なお、附属図書館時間外開館で雇用する職員は含まれていません。

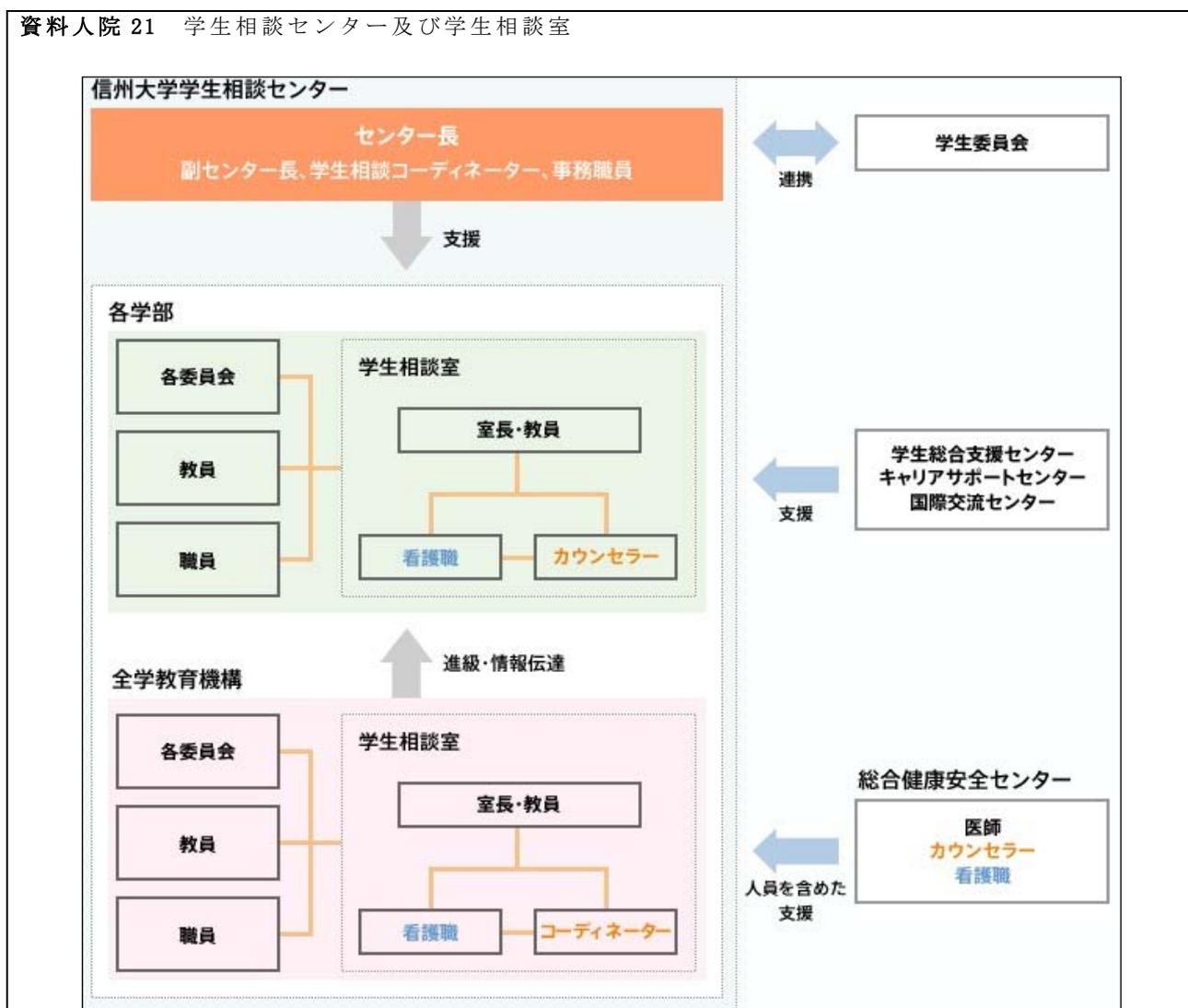
注 4: 医学部附属病院担当者 4 名は含まれていません。(出典: 経営企画課作成資料)

### 3 学生相談体制の整備

平成 24 年度に、全学組織の学生相談センターと、各学部・キャンパスに、あらゆる相談を受け付ける学生相談室が設置された。(資料人院 21、22)

また、週に 1 回(毎週水曜日)、学生相談室からカウンセラーが本研究科の一室に相談室を開いている。(資料人院 23)

資料人院 21 学生相談センター及び学生相談室



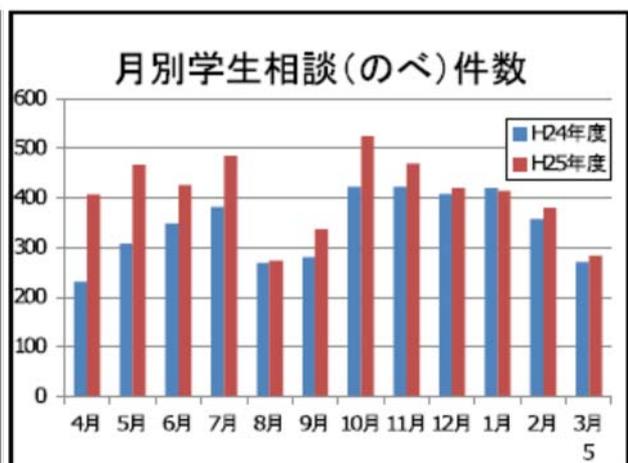
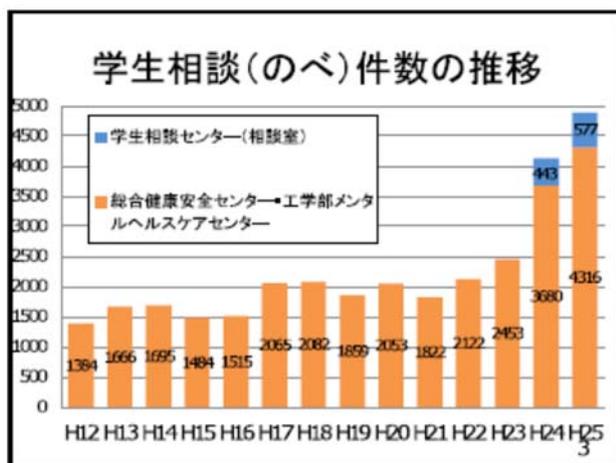
## 専門窓口と連携し対応します。

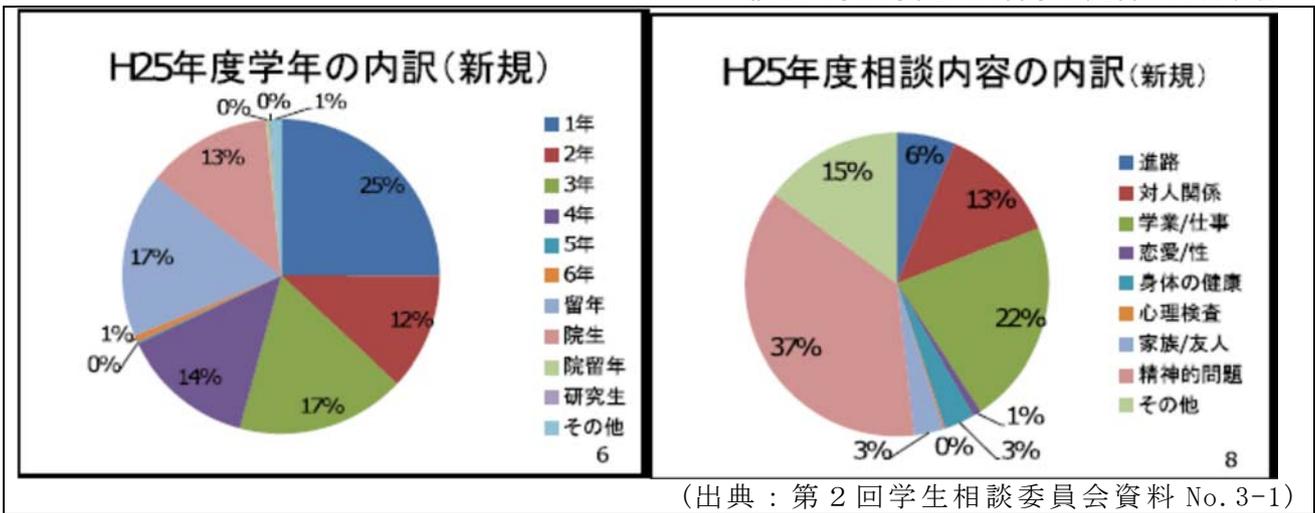
相談内容に応じて、学内外の専門機関(窓口)と連携を取ります。



(出典:学生相談センターホームページ)

### 資料人院 22 学生相談の状況





資料人院23 人文研究科棟内における相談室の設置



信州大学 | 人文学部  
SHINSHU UNIVERSITY



お気軽にご相談ください。

相談内容 [履修, 心身の健康, 進路, 友人関係など]

専門の相談員が, アドバイス, 支援を行います。

相談に関わる個人の秘密は堅く守られます。

学部生・大学院生の皆さんへ 人文学部に

# 学生 相談室

が設置されました

【利用時間】 毎週水曜日 (予約制) 原則 午前9時から午後5時  
ただし、相談者と相談員が了解の上、上記以外の時間に相談できます。

【相談日】 カウンセラー 徳吉 尚彦 [総合健康安全センター]

【相談場所】 学生相談室：人文学部棟1階西側

【相談方法】 学務係 (0263-37-2236 内線 311) に直接または  
電話によって申し込み(予約)をしてください。  
急ぎの場合や事前の届出に相談をしない場合は、  
総合健康安全センター (0263-37-2157) で毎日相談予約を受け付けています。

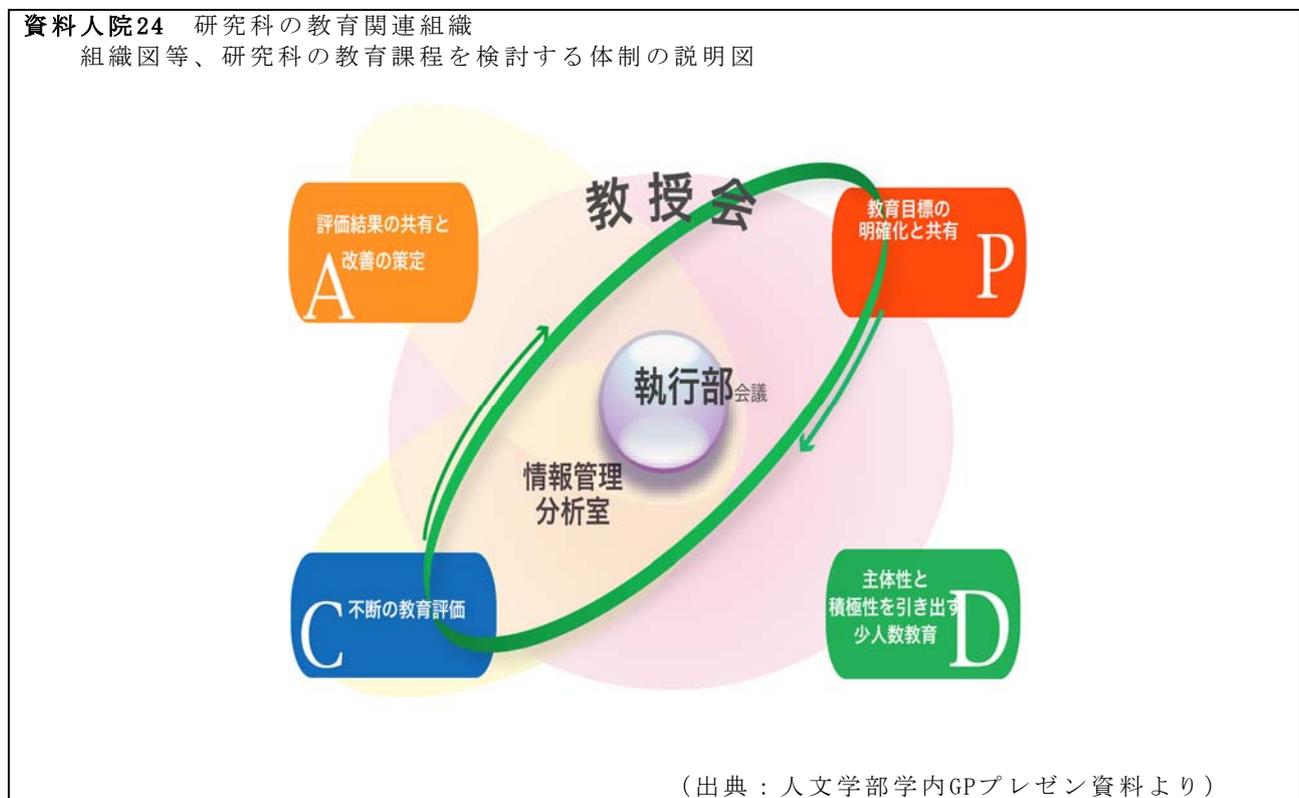
人文学部学生相談室長 篠原 成彦

(出典：人文学部・人文科学研究科作成学生向け周知ポスター)

4 教員の教育力向上のための体制整備

(1) 組織

研究科の教育課程に関する企画、実施、広報、点検評価を行うため、大学院委員会、情報管理分析室が設置され、各組織が連携しながら教育を実施し、情報管理分析室でアンケートを行うなど定常的な点検を行い、それを改善につなげるPDCAサイクルが動いている。(資料人院24)



(2) FDの実施

全教員が出席する研究科委員会に併せて、定期的にファカルティーディベロップメント (FD) を実施し、教育に関する研修を実施している。(資料人院25)

**資料人院25** 人文学部および人文研究科開催のFD講習会一覧

年度	件数	実施時期	FD項目
22	1	H22.05	学生アンケートについて
	2	H22.09	科学研究費補助金の申請等について
	3	H22.11	信州大学学術情報オンラインシステム (SOAR) の説明会
	4	H22.11	H P の教員ブログ投稿システムの改訂に伴う操作説明会
23	1	H23.05	学生アンケートについて
	2	H23.09	ソフトウェアの資産管理の説明会
	3	H23.09	科学研究費補助金の申請等について
	4	H23.11	安全保障輸出管理説明会
	5	H23.11	教職員向けハラスメント防止研修について
24	1	H24.05	総合問題の意図と経緯についての説明会
	2	H24.06	平成 22 年度卒業生・修了生アンケート及び平成 23 年度新入生アンケートについて
	3	H24.07	平成 24 年度ハラスメント防止研修会
	4	H24.07	学生相談について
	5	H24.07	教員ブログの編集方法について
	6	H24.09	科学研究費補助金の申請等について
25	1	H25.09	科学研究費補助金の申請等について
	2	H25.09	平成 23 年度卒業生・修了生アンケート及び平成 24 年度新入生アンケートについて

	3	H25.10	学部ホームページの編集方法等について
26	1	H26.06	平成 24 年度卒業生・修了生アンケート及び平成 25 年度新入生アンケートについて
	2	H26.09	科学研究費補助金の申請等について
	3	H26.10	学部ホームページに関する説明
	4	H27.1	シラバスガイドラインの改訂に伴う説明
	5	H27.2	ハラスメント防止研修会
	6	H27.3	研究費等の不正使用防止体制に係る部局説明会
27	1	H27.06	平成 25 年度卒業生・修了生アンケート及び平成 26 年度新入生アンケートについて
	2	H27.06	研究費不正使用事例について
	3	H27.07	研究費不正使用事例について
	4	H27.07	情報セキュリティについて
	5	H27.07	研究倫理教育について
	6	H27.09	科学研究費補助金の申請等について
	7	H27.09	研究費不正使用事例について
	8	H27.10	研究費不正使用事例について
	9	H27.11	「教育シーズ体系化」に向けたシラバス入力について
	10	H27.12	研究不正事例について
	11	H28.1	ハラスメント防止研修会
	12	H28.2	研究費不正使用事例について

(出典：人文学部総務係作成)

### (3) 卒業生アンケート、卒業生雇用者アンケート結果の活用

本研究科では、学生、修了生、雇用主、地域等の社会のニーズを大学院委員会、情報管理分析室等がアンケート、意見聴取等を実施し把握している。(資料人院 26)

#### 資料人院 26 学生、修了生、雇用主、保護者、地域等の社会のニーズ把握の方法

対象	方法	頻度	実施組織
学生	学部における授業改善アンケート	年に 2 回	情報管理分析室
	修了生アンケート	卒業時	情報管理分析室
	学長オフィスアワー	年に 1 回 (人文対象)	学務部
	学部長オフィスアワー	年に 2 回	学部
	大学院進学アンケート	年に 1 回	大学院委員会
受験生	オープンキャンパスアンケート	年に 1 回	大学院委員会
	入試説明会アンケート	年に 2 回	大学院委員会
修了生	修了生アンケート	修了時	情報管理分析室
雇用主・企業等	雇用者アンケート	5 年に 1 回	情報管理分析室
地域・保護者・卒業生	オープンキャンパスアンケート	年に 1 回	大学院委員会
	後援会総会アンケート	年に 1 回	情報管理分析室
	ホームカミングデーアンケート	不定期	同窓会連携委員会

(出典：人文学部事務部)

(4) アンケート等をもとに制度化した特記すべき取り組み例

① ベストティーチャー賞

本研究科では、実質上のベストティーチャー賞にあたる最優秀論文賞を平成23年度より1名、あるいは複数名に出している。本研究科はベストティーチャーである基準は優れた学生指導を行うことであると解釈し、その年に提出された論文の中で最も優秀な論文を最優秀論文として選出し、それをベストティーチャー賞と同等のものと定めた。(資料人院27)

**資料人院27** ベストティーチャー賞

本学部・本研究科では、数年前から指導教員から優れた指導を受けた賜物として、本学部・研究科の集大成として位置づけられる卒論及び修論の優秀賞を創出し、ベストティーチャー賞に代わる表彰制度を設け、継続して実施している。これにより、質の高い卒論や修論が生み出されるとともに、全体的なレベルアップが図られつつある。

(出典：平成23年人文学部・人文科学研究科 自己点検・評価報告書)

① サバティカル制度の実施

本研究科では平成23年度より、希望する教員がサバティカルをとる制度を実施している。最新の学問に触れ、これまでの業績をまとめる機会は、教員の教育力向上に直接的に寄与する。(資料人院28、29)

**資料人院28** 信州大学人文学部教員のサバティカル研修に関する要項

(趣旨)

第1 この要項は、信州大学サバティカル・リープ実施要項(平成21年3月18日)に基づき、人文学部(以下「本学部」という。)教員(教授、准教授、講師及び助教をいう。以下同じ。)のサバティカル研修に関し、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2 サバティカル研修は、本学部教員の本学部における一切の職務を免除し、国内外の教育研究機関等において研究活動に従事する機会を与えることにより、教員の教育能力及び専門研究の発展を図ることを目的とする。

**資料人院29** サバティカルの取得状況

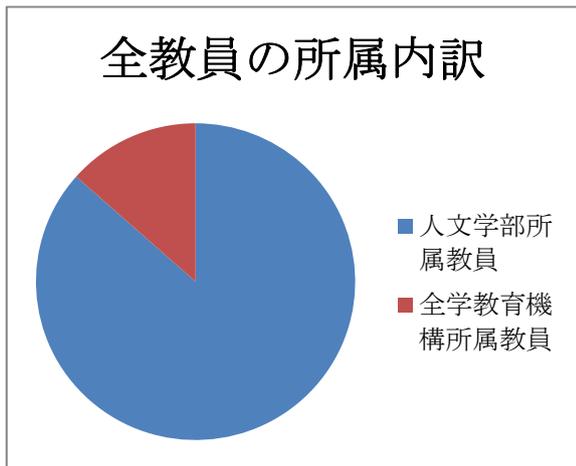
年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27
6ヶ月		2	2	2	2	2
12ヶ月		1	1	1	1	1

(出典：人文学部総務係作成)

② 広い授業を開講するための教員配置の工夫

本研究科で授業を担当する教員は、人文学部の授業を主に担当する教員のみならず、全学教育機構の授業を主に担当する教員も含まれる。(資料人院30)

資料人院30 授業を担当する全教員のうちわけ



人文学部所属教員	全学教育機構所属教員	合計
45	8	53

(出典：平成27年度州大学大学院人文科学研究科（修士課程）案内より 情報管理分析室作成)

(5) 入学者選抜の工夫

本研究科はそれぞれの専門領域の大学院入試において、先行研究を読み学会発表するために必要な外国語の力を伸ばすことを目的として、外国語による資料読解を課している。  
(資料人院31)

資料人院 31 外国語（その他）に関する入試科目

専攻	専門領域	備考
地域文化専攻	哲学・思想論領域	問題には出願時に選択した外国語(英語/フランス語/ドイツ語/古典中国語から一つ)を含む。
	心理学領域	問題には英語を含む。
	社会心理学領域	問題には英語を含む。
	社会学領域	問題には英語を含む。
	文化情報論領域	問題には英語を含む。
	日本史領域	問題には史料読解を含む。
	地域文化史領域	問題には史料読解を含む。
	世界史領域	問題には出願時に選択した外国語(英語/イタリア語/フランス語/中国語から一つ)を含む。
言語文化専攻	日本文学領域	問題には資料読解を含む。
	日本語学・日本語教育学領域	日本語学:問題には資料読解を含む。 日本語教育学:問題には英語を含む(ただし、留学生は出願時に届けた場合に限り、英語を含む問題を選択しなくともよい)。
	中国語学・中国文学領域	問題には中国語を含む。
	比較文学領域	問題には英語および、出願時に選択した外国語(古典ギリシア語/ラテン語/フランス語/ロシア語から一つ)を含む。なお上記の言語すべてについて、希望者には試験場で辞書を貸与する。
	ドイツ語学・ドイツ文学領域	問題にはドイツ語を含む。
	フランス語学・フランス文学領域	問題にはフランス語を含む。
	英語学・英米文学領域	問題には英語を含む。
	芸術コミュニケーション領域	問題には英語を含む。

(出典：平成27年度信州大学大学院人文科学研究科修士課程 学生募集要項より)

(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

在学生・地域社会から期待されている学力を高め、最先端の知識を得る期待については、制度として適切な**教員の配置**を行い（資料人院14～16）、**教員の教育力向上**を目指した取組等を行っている（資料人院24、25、27、28）。

また、在学生に必要な、**学習支援・サポート**への期待にも**対応策**をとっている。（資料人院18～23）

以上により、期待される水準にあると判断できる。

**観点 教育内容・方法**

(観点に係る状況)

**1 学位授与の方針に基づく教育課程の編成****(1) 学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針**

学位授与の方針は大学院全体、研究科で、教育課程編成・実施の方針は大学院全体で定め、ホームページにより明確にしている。(前掲資料人院 4、5、6、p.2、3) また、教育課程編成・実施の方針に基づき、修了時まで修得すべき知識・能力等を入学時からコースワーク、研究指導、学位論文作成・審査、学位授与に至るまでの教育体系として履修プロセス概念図を作成し、学生便覧で明示している。(前掲資料人院 10、p.5)

**(2) シラバスガイドライン、シラバス作成の手引、シラバスの点検**

上記の教育課程編成・実施の方針を、具体的にカリキュラムの中で実施できるように、シラバスのガイドライン、シラバス作成の手引きを配布し、シラバスの点検を行っている。  
(資料人院32～34)

**資料人院32 信州大学シラバスガイドライン**

大学並びに各学部・学科等の定める『学位授与の方針』は、それぞれの教育課程の卒業生が卒業時に確実に身に付けていることが求められる能力・知識のリストであり、個々の授業は、学生が、大学並びに各学部・学科の『学位授与の方針』の能力・知識を身に付けるために配置されている。したがって、個々の授業が『学位授与の方針』のどの部分をどういう形で担っているのかをシラバスで明らかにするものとする。

『学位授与の方針』で定める能力・知識は、授業等を通して、学生が自分の努力によって手に入れるべきものである。シラバスでは、課題や小試験の内容と回数等、当該授業が担う『学位授与の方針』に至るまでに学生がしなければならないことを、学生が明確に理解できるように記述するものとする。

(出典：「信州大学シラバスガイドラインの見直しについて」)

## シラバス作成のガイドライン

シラバス執筆の際には、次の諸点に十分なご留意をお願いします。

### 「授業のねらい」について

・この項では、この授業が、受講生に何を獲得させることを目標にしているのかを具体的にお書きください。なおその目標は、人文学部の教育目標の文言をそのままお使いになるか、あるいは教育目標の趣旨に沿ったものになるようにお願いします。

#### 心と思考の実践知

- 1 自明とされる事柄に対し、深くその根柢を問い直し新たな認識を構築できる思考力
- 2 寛容する社会を冷静に分析し、時流に適合することなく価値判断できる批判力
- 3 過去の英知の批判的継承のうえに立って創造的な未来を切り拓く開拓力
- 4 異質・多様なものを理解し、寛容かつ多角的に判断することができる受容力

#### 技と行動の実践知

- 1 情報を適切に集約・分析・表現できる高度なメディアリテラシー
- 2 他者の考えを明確に理解し、自己の主張を的確に表現できる高度なコミュニケーションリテラシー
- 3 グローバル社会において、多様な文化を理解し、自らの文化を発信できる外国語能力
- 4 領域横断的な事柄に対する問題解決能力および独創的な企画構想能力

### 「授業の概要」について

・「授業のねらい」で設定した目標をどのような手段で達成するのが、この「授業の概要」または「授業の計画」から読み取れるような記述をお願いします。

例：〇〇に関する講義、〇〇に関するグループ討論、ディベート、製作実習、等

### 「成績評価の方法」について

・判定材料とその比率の明記：この項では、例えば、「レポート、小テスト、期末試験の出来から総合的に評価する」といった表現はお避け下さい。この例のように総合的に評価される場合は、例えば「レポート3割、小テスト3割、期末試験4割の比率で総合的に評価する」のように、判定材料とその比率を明記してください。

・目標への到達度を測る判定：「授業のねらい」で設定した目標への到達度を計るような形での判定をお願いします。例えば、「期末試験は「授業のねらい」で設定した目標への到達度を計ることが出来る問題を出題する」といった記述ですと、それが一層明確になります。

・出席は成績判定材料にならない：学生が授業に出席するのは当然ですので、判定材料にはならないことにご留意ください。

### 「授業計画」について

・「授業のねらい」で設定した目標をどのような手段で達成するのが、この「授業の計画」または「授業の概要」から読み取れるような記述をお願いします。

例：〇〇に関する講義、〇〇に関するグループ討論、〇〇に関するディベート、〇〇の製作実習、等

・15回の授業を確保してください（期末試験は15回の中に含まれません）。

・15週の1回1回についての記述をお願いします。また、できれば、15週異なる内容とし、1回ごとの表記内容は、教科書の章数や頁のみではなく、どのような授業を行うのかに関するキーワード等を付して区別してください。

・卒業論文の発表等を行うような授業はできませんのでご注意ください。

人文学部教授会  
平成24年10月23日

（出典：「シラバス作成のガイドライン」平成24年10月23日教授会資料）

資料人院34 シラバスチェックを経たシラバスの一例

登録コード	LL002			担当教員	吉田 正明
授業科目	言語文化論C			副担当	株丹 洋一・野津 寛・澁谷 豊・伊藤 加奈子・氏岡 真士
単位数	4	講義期間	通年	曜日・時限	火曜・5時限
				授業形態	
<p>(1)授業のわらい ヨーロッパやアジアの多様な言語文化（フランス、ドイツ、西洋古典、中国等）にかかわる諸問題を、文学、言語、思想、社会等の多角的な視点から取り上げ検討することにより、比較論的・学際的な考察力を培い、新たな認識を構築し得る思索力を鍛える。</p> <p>(2)授業の概要 研究テーマに関する認識を深め、さらに新たな認識を得るために、受講生の専門領域と現在関心を抱いているテーマを中心に、それらが、古代から現代に至る比較論的地平において、文化的、歴史的、社会的な発展過程のなかにどのように位置付けられるかを検討し、文学、言語、思想、社会等の多角的な視点から比較論的・学際的に考察する。</p> <p>(3)授業計画 第1回 ガイダンス 第2回 フランス言語文化の諸相—フランス詩研究①（担当：吉田） 第3回 フランス言語文化の諸相—フランス詩研究②（担当：吉田） 第4回 フランス文学研究の方法論—生成論研究について①（担当：鎌田） 第5回 フランス文学研究の方法論—生成論研究について②（担当：鎌田） 第6回 ドイツ言語文化の諸相—ドイツ文学研究①（担当：株丹） 第7回 ドイツ言語文化の諸相—グリム童話研究①（担当：株丹） 第8回 ドイツ言語文化研究—ドイツ語学研究①（担当：磯部） 第9回 ドイツ言語文化研究—ドイツ語学研究②（担当：磯部） 第10回 比較文学研究—受容・翻訳①（担当：澁谷） 第11回 比較文学研究—越境文学①（担当：澁谷） 第12回 西洋古典文学研究—ギリシャ喜劇研究①（担当：野津） 第13回 西洋古典文学研究—ラテン語の研究①（担当：野津） 第14回 中国文学研究①（担当：氏岡） 第15回 中国語学研究①（担当：伊藤） 第16回 ミニシンポジウム（担当教員全員） 第17回 フランス言語文化の諸相—ルネサンス期のフランス詩と音楽（担当：吉田） 第18回 フランス言語文化の諸相—19世紀フランス詩とシャンソン（担当：吉田）</p> <p>第19回 フランス言語文化の諸相—キャバレーとカフェ・コンセル（担当：吉田） 第20回 ドイツ言語文化の諸相—ドイツ文学研究②（担当：株丹） 第21回 ドイツ言語文化の諸相—グリム童話研究②（担当：株丹） 第22回 ドイツ言語文化研究—ドイツ語学研究③（担当：磯部） 第23回 ドイツ言語文化研究—ドイツ語学研究④（担当：磯部） 第24回 西洋古典文学研究—ギリシャ喜劇研究②（担当：野津） 第25回 西洋古典文学研究—ラテン語研究②（担当：野津） 第26回 比較文学研究—受容・翻訳②（担当：澁谷） 第27回 比較文学研究—越境②（担当：澁谷） 第28回 中国文学研究 ②（担当：氏岡） 第29回 中国語学研究 ②（担当：伊藤） 第30回 ミニシンポジウム（担当教員全員）</p> <p>(4)成績評価の方法 前期レポート50%、後期レポート50%を総合して評価する。</p> <p>(5)履修上の注意 主たる担当教員は吉田正明が努めるが、副担当教員（鎌田隆行、株丹洋一、磯部美穂、野津寛、澁谷豊、氏岡真士、伊藤加奈子）も協力して共同開講する。</p> <p>【教科書】 開講時に指示する。 【参考書】 随時紹介する。</p>					

(出典：シラバス)

2 教育方法・学習支援の工夫

(1)「修士課程の学位論文審査並びに最終試験及び修了判定実施要項」及び「大学院人文科学研究科修士論文評価基準」の明示

修士論文の審査要項および評価基準は、学生便覧に明示している。(資料人院 35、36)

資料 35 修士課程の学位論文審査並びに最終試験及び修了判定実施要項

## 修士課程の学位論文審査並びに最終試験 及び修了判定実施要項（抄）

### 1 学位論文の提出及び手続

#### (1) 提出資格

4月1日の時点で、1年以上在学し、16単位以上修得した者で、指導教員の承認を得たもの。

#### (2) 論文題目提出期限

5月31日（その日が休日に当たるときは、その日後の直近の休日以外の日）ただし、休学期間中の修士論文題目届は、留学等特別な事情がある場合を除き、これを認めない。

#### (3) 提出期日

12月25日（その日が休日に当たるときは、その日後の直近の休日以外の日）

#### (4) 提出手続

申請者は、「修士学位論文審査申請書」（様式1）並びに「論文内容の要旨」（様式2）を、「学位論文作成要領」（様式3）により作成した学位論文正本1部、副本2部、計3部とともに、学務係を経て研究科長に提出する。

### 2 学位論文審査及び最終試験

#### (1) 審査委員会

(イ) 審査委員会は、大学院学則第43条に定める委員をもって構成する。

(ロ) 審査委員会は、学位論文審査及び最終試験を行う。

(ハ) 審査委員会は、学位論文の審査結果及び最終試験結果を「修士学位論文審査及び最終試験結果報告書」（様式4）により研究科長に報告する。

(2) 学位論文審査及び最終試験は2月20日（その日が休日に当たるときは、その日後の直近の休日以外の日）までに終了し、研究科長に報告するものとする。

(3) 最終試験は、学位論文審査合格者に対し、研究科（審査委員会）が定める所定の期日に、学位論文の内容等を中心として、口頭で行う。

### 3 修了判定

(1) 審査委員会は、「論文内容の要旨」（様式2）及び「学位論文審査要旨」（様式5）を研究科委員会構成員に配布し、審査経過を報告する。

(2) 修了判定は、2月開催の研究科委員会において行う。

### 4 学位論文の保管

学位論文審査終了後、正本は人文科学研究科長が、副本2部のうち1部は学長、1部は指導教員が保管する。

### 5 この要項に定めるもののほか、必要な事項は、研究科委員会が定める。

（出典：人文科学研究科 学生便覧）

資料 36 大学院人文科学研究科修士論文評価基準

## 大学院人文科学研究科修士論文評価基準

(平成 17 年 11 月 22 日 研究科委員会承認)

以下の基準に拠り、論文審査および口頭試問等を経て、指導教員（主査・副査）の協議によって最終的な総合評価を決定する。

1.
  - (a) **【関連資料・参考文献】** 研究主題の探究に際して利用した関連資料・参考文献について、精確な説明、的確な把握、また妥当な解釈がなされているか。あるいは客観的に正当な批判や批評が提示されているか。
  - (b) **【実験・調査】** 研究主題の探究に際して実施した実験・調査は、適切な方法に基づいて行なわれているか。またその分析は精確で、解釈や結果が妥当であるか。
2. **【論証方法・論旨とデータ(資料)の提示方法】** 問題提起から結論にいたる論証方法と論旨は、明解かつ妥当であるか。また実験データ・調査資料の提示と展開の方法は適切であるか。
3. **【独創性と意義】** 論証の方法や結論と成果は、先行研究との関連あるいは研究史に照らして十分な独創性と意義を有するか。
4. **【表現の的確性と表現力】** 日本語もしくは使用外国語について、語句や文章表現は的確で、かつ表現力に優れているか。
5. **【論文の体裁と完成度】** 本文、章立て、注記、参考書目あるいは図表等、部分的かつ全体の構成において、論文としての体裁が整っており、その完成度は高いか。
6. **【総合的評価】**

(但し書き)

- 1) 項目 1 の (a) と (b) の評価基準は、いずれか一方、もしくは両方を採択しうることを示す。
- 2) 参考図書・論文・史料・統計資料・辞書・地図・インターネット資料その他、参照する全ての資料・図版等については、「関連資料・参考文献」と表記した。
- 3) 実験、実地調査、聞き込み調査、情報・資料提供者（インフォーマント）との面談等、実施する全ての研究作業については、「実験・調査」と表記した。
- 4) 前項の「実験・調査」によって収集され、分析の対象となるもの全てについては、「実験データ・調査資料」と表記した。

(出典：人文科学研究科 学生便覧)

## (2) アンケート等による評価およびニーズの把握

本研究科では、学生、修了生、雇用主、地域等の社会のニーズを情報管理分析室、大学院委員会がアンケート、意見聴取等を実施し把握し、それに対する対策をとっている。(前掲資料人院 26、p. 18)

前掲の「教育実施体制」によって対処できないニーズとしては、「経済的な負担」「研究内容」「修了後の進路」がある。(資料人院 37)

- ①進学を希望しない理由はなにより「**経済的な負担**」である。学年・分野・男女の別なく、これが第一にあげられている。  
 ②進学を希望する学生が持つ不安材料の第一位も「**経済的な負担**」である。  
 ③進学を強く希望する学生がもつ他の不安材料としては、「進路」「研究そのもの」への不安などがある。  
 ④進学をやや希望する学生がもつ他の不安材料としては、「社会に出遅れてしまう事への不利益」への不安が目立つ。

(出典：「平成26年度信州大学人文学部大学院進学アンケート」 pp9～12)

地域からは、仕事をしながら修学したいというニーズもあることがわかっている。(資料人院38、39)

**資料人院38** 仕事をしながら修学する事に関する、学生の声

- ・ 社会人にも学ぶ機会をもうけていただけたことは本当にありがたいことでした。
- ・ もう少し勉強する時間がほしい
- ・ 博士課程をつくって下さい。

(出典：平成21年、平成23年度度修了生アンケート自由記述欄より)

**資料人院39** 社会人学生の人数

平成 21 年 度入学	平成 22 年 度入学	平成 23 年 度入学	平成 24 年 度入学	平成 25 年 度入学	平成 26 年 度入学	平成 27 年 度入学
3	1	2	1	0	2	0

(出典：人文学部学務係作成)

(3) 学生のニーズを分析し、教育課程の編成・実施につなげる仕組み

①履修計画、履修指導

本研究科修了要件等は、学則及び研究科規程により定め、学生には、学生便覧で履修方法を明示するとともに、学期の始めに指導教員(正・副)の指導のもと履修する授業科目を決定し受講している。(資料人院 40～42)

**資料人院 40** 信州大学大学院学則、信州大学大学院人文科学研究科規程

**信州大学大学院学則**

(修士課程又は博士前期課程の修了要件)

第 40 条 修士課程又は博士前期課程の修了の要件は、当該課程に 2 年以上在学し、30 単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該修士課程又は博士前期課程の目的に応じ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、当該研究科が優れた業績を上げたと認める者については、当該課程に 1 年以上在学すれば足りるものとする。

**信州大学大学院人文科学研究科規程**

(履修方法等)

第 7 条 研究科の教育は、授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導(以下「研究指導」という。)によって行う。

2 研究科長は、研究科委員会の議を経て各学生ごとに大学院学則第 8 条第 4 項に定める研究指導を担当する教授又は准教授を決定するものとする。ただし、研究指導上必要があると認められる場合は、講師又は助教に担当又は分担させることができるものとする。

3 学生は、授業科目を履修し、30 単位以上修得するものとする。

4 学生は、大学院学則第 8 条第 4 項に定める研究指導を担当する教授、准教授、講師又は助教(以下「指導教員」という。)が特に必要と認めたときは、人文学部の授業科目を履修することができる。ただし、その単位は、前項に規定する単位に算入しないものとする。

5 前 2 項に定めるもののほか、履修方法に関し必要な事項は、別に定める。

- 6 学生は、指導教員の指導により履修しようとする授業科目を決定し、学期の始めに所定の履修届を提出しなければならない。
- 7 研究科の授業科目を履修した学生に対しては考査を行い、合格者には単位を与える。
- 8 考査は、試験又は研究報告等により行う。
- 9 病気その他の理由により試験を受けることができなかつた者については、願出により追試験を行うことができる。

(出典：信州大学大学院学則、信州大学大学院人文科学研究科規程)

資料人院41 平成27年度信州大学大学院人文科学研究科修士課程 学生募集要項－抜粋－

3. 履修方法

学生は、入学時に研究テーマを決め、そのテーマに即して、指導教員（正・副）の指導により、後掲の表の中から履修する授業科目を選択します。

本研究科に2年以上在学して所定の単位を取得し、学位論文の審査及び最終試験に合格した方には、修士（文学）の学位が授与されます。

(出典：平成27年度信州大学大学院人文科学研究科修士課程 学生募集要項より)

資料人院 42 信州大学大学院人文科学研究科規程 別表（第5条関係）

地域文化専攻				言語文化専攻			
領域	区分	授業科目	単位	領域	区分	授業科目	単位
哲学・思想論	選択必修科目	地域文化論 A	4	日本文学	選択必修科目	言語文化論 A	4
		地域文化論 B	4			言語文化論 B	4
		地域文化総合演習 IA	4			言語文化論 C	4
		地域文化総合演習 IB	4			言語文化論 D	4
		地域文化研究指導 IA	2			言語文化総合演習 IA	4
		地域文化研究指導 IB	2			言語文化総合演習 IB	4
		地域文化研究指導 IIA	2			言語文化総合演習 IC	4
		地域文化研究指導 IIB	2			言語文化総合演習 ID	4
心理学	選択必修科目	地域文化総合演習 IIA	4	日本語・日語教育学	選択必修科目	言語文化総合演習 IA	2
		地域文化総合演習 IIB	4			言語文化総合演習 IB	2
社会心理学	選択必修科目	欧米思想研究 I	2	中国語・中国文学	選択必修科目	言語文化研究指導 IC	2
		欧米思想研究 II	2			言語文化研究指導 ID	2
		倫理思想研究 I	2			言語文化研究指導 IIA	2
		倫理思想研究 II	2			言語文化研究指導 IIB	2
社会学	選択必修科目	比較思想研究 I	2	比較文学	選択必修科目	言語文化研究指導 IIC	2
		比較思想研究 II	2			言語文化研究指導 IID	2
		東洋思想研究 I	2			言語文化総合演習 IIA	4
		東洋思想研究 II	2			言語文化総合演習 IIB	4
文化情報論	選択必修科目	実験心理学研究 I	2	ドイツ語学・ドイツ文学	選択必修科目	言語文化総合演習 IIC	4
		実験心理学研究 II	2			言語文化総合演習 IID	4
		認知心理学研究 I	2			日本文学研究 I	2
		認知心理学研究 II	2			日本文学研究 II	2
日本史	選択必修科目	社会行動研究 I	2	フランス語学・フランス文学	選択必修科目	日本文学研究 III	2
		社会行動研究 II	2			日本文学研究 IV	2
		社会認知研究 I	2			日本文学研究 V	2
		社会認知研究 II	2			日本文学研究 VI	2
地域文化史	選択必修科目	臨床社会行動研究 I	2	英語学・英米文学	選択必修科目	日本語学研究 I	2
		臨床社会行動研究 II	2			日本語学研究 II	2
		地域社会学研究 I	2			日本語学研究 III	2
		地域社会学研究 II	2			日本語学研究 IV	2
世界史	選択必修科目	経験社会学研究 I	2	選択必修科目	選択必修科目	日本語学研究 V	2
		経験社会学研究 II	2			日本語学研究 VI	2
		言語情報研究 I	2			日本語学研究 VII	2
		言語情報研究 II	2			日本語学研究 VIII	2
地域文化史	選択必修科目	社会情報研究 I	2	選択必修科目	選択必修科目	日本語教育学研究 I	2
		社会情報研究 II	2			日本語教育学研究 II	2
		情報経営研究 I	2			インターンシップ海外日本語教育実習	4
		情報経営研究 II	2			中国文学研究 I	2
世界史	選択必修科目	認知情報研究 I	2	選択必修科目	選択必修科目	中国文学研究 II	2
		認知情報研究 II	2			中国文学研究 III	2
		日本史研究 I	2			中国文学研究 IV	2
		日本史研究 II	2			中国語学研究 I	2
世界史	選択必修科目	日本史研究 III	2	選択必修科目	選択必修科目	中国語学研究 II	2
		日本史研究 IV	2			比較文学研究 I	2
		地域文化史研究 I	2			比較文学研究 II	2
		地域文化史研究 II	2			比較文学研究 III	2
世界史	選択必修科目	地域文化史研究 III	2	選択必修科目	選択必修科目	比較文学研究 IV	2
		地域文化史研究 IV	2			比較文学研究 V	2
		世界史研究 I	2			比較文学研究 VI	2
		世界史研究 I	2				

	世界史研究 II	2	芸術コミュニケーション	西欧文学研究 I	2
	世界史研究 III	2		西欧文学研究 II	2
	世界史研究 IV	2		西欧文学研究 III	2
	世界史研究 V	2		西欧文学研究 IV	2
	世界史研究 VI	2		西欧文学研究 V	2
	世界史研究 VII	2		西欧文学研究 VI	2
	世界史研究 VIII	2		西欧語学研究 I	2
	世界地域研究 I	2		西欧語学研究 II	2
	世界地域研究 II	2		比較言語研究	2
				英語学研究 I	2
				英語学研究 II	2
				英語学研究 III	2
				英語学研究 IV	2
				英語学研究 V	2
			英語学研究 VI	2	
			英語学研究 VII	2	
			英語学研究 VIII	2	
			英米文学研究 I	2	
			英米文学研究 II	2	
			英米文学研究 III	2	
			英米文学研究 IV	2	
			英米文学研究 V	2	
			英米文学研究 VI	2	
			芸術研究 I	2	
			芸術研究 II	2	
			芸術研究 III	2	
			芸術研究 IV	2	
			芸術研究 V	2	
			芸術研究 VI	2	
			言語文化特殊研究 I	2	
			言語文化特殊研究 II	2	
			言語文化特殊研究 III	2	
			言語文化特殊研究 IV	2	

備考 選択必修科目 12 単位及び選択科目 18 単位以上合わせて 30 単位以上を修得し、かつ、研究指導を受けなければならない。

(出典：信州大学大学院人文科学研究科規程)

② 専修教員免許の取得

本研究科では、教員免許が取得できるシステムを整えている（資料人院 43）。

**資料人院 43 取得できる教員免許**

**地域文化専攻** 募集人員 5人 取得できる教員免許状 (平成27年度現在)

<ul style="list-style-type: none"> <li>● 哲学・思想論領域</li> <li>● 文化情報論領域</li> <li>● 心理学領域</li> <li>● 日本史領域</li> <li>● 社会心理学領域</li> <li>● 地域文化史領域</li> <li>● 社会学領域</li> <li>● 世界史領域</li> </ul>	<p>中学校 教諭専修免許状(社会)</p> <p>高等学校 教諭専修免許状(公民)</p> <p>高等学校 教諭専修免許状(地理歴史)</p>
---	--

**言語文化専攻** 募集人員 5人 取得できる教員免許状 (平成27年度現在)

<ul style="list-style-type: none"> <li>● 日本文学領域</li> <li>● ドイツ語学・ドイツ文学領域</li> <li>● 日本語学・日本語教育学領域</li> <li>● フランス語学・フランス文学領域</li> <li>● 中国語学・中国文学領域</li> <li>● 英語学・英米文学領域</li> <li>● 比較文学領域</li> <li>● 芸術コミュニケーション領域</li> </ul>	<p>中学校 教諭専修免許状(国語)</p> <p>高等学校 教諭専修免許状(国語)</p> <p>中学校 教諭専修免許状(英語)</p> <p>高等学校 教諭専修免許状(英語)</p> <p>中学校 教諭専修免許状(ドイツ語)</p> <p>高等学校 教諭専修免許状(ドイツ語)</p>
---	--

(出典：平成27年度信州大学大学院人文科学研究科修士課程ガイドブックより)

③ 大学院シンポジウム

本研究科では、年2回大学院シンポジウムを開催し、修業年数の中で合計4回の発表を義務付けている（前掲資料人院 10、p. 5）。年2回開催される本シンポジウムは、関連領域のみならず全領域の教員によるコメントやアドバイスや批評といった、院生にとって有益な指導とディスカッションの場となっている。他領域の教員や大学院生、学生との新しい学術的交流の機会を設けたことで、新たな観点からの創造的比較検討がもたらされ、大学院教育の質的向上に著しい成果があった。（資料人院 44、45）

また、参加者の投票による最優秀賞を授与することで、大学院生の修学意欲の増進につながっている。（資料人院 46）。国際あるいは国内外の学会発表の数が増えたことから有効であると言えよう。（資料人院 47）

資料人院44 大学院シンポジウム							
年度	開催日時	発表テーマ数 (内口頭発表者数)	参加者数				最優秀賞(テーマ)
			学部学生	大学院生	教員	社会人	
H22	2010年9月29日	13(9)	/	/	/	/	・『字鏡集』における字体と和訓
	2011年2月2日	17(6)	/	/	/	/	・『諏訪大明神絵詞』権祝本と梵舞本の比較 ・感謝表現に関するスリランカ人日本語学習者の表現選択
H23	2011年9月29日	17(7)	/	/	/	/	・『諏訪大明神絵詞』の研究：失われた神長本の復元、及びその受容のあり方
	2012年2月10日	18(10)	/	/	/	/	・堀口大學による日本近代詩の海外紹介
H24	2012年9月29日	17(9)	/	/	/	/	・日本とフランスの短詩型文学の交差点：堀口大學を中心に ・A Consideration on To-Infinitive
	2013年2月5日	16(9)	/	/	/	/	・ジャック・プレヴェール研究：Lettre des fles Baladarにおける反植民地主義 ・ナイの統語論的説明：総括的説明を目指して ・NPN Constructionの意味的統語的特徴づけ：N to NとN by Nを中心に ・法助動詞willの考察
H25	2013年9月26日	15(7)	/	/	/	/	・法助動詞willの「意味」と「用法」
	2014年2月4日	8(4)	/	/	/	/	・An Analysis of Causative Verb <i>Have</i> from the Cognitive Linguistic Perspective
H26	2014年9月26日	16(8)	/	/	/	/	・英語の3構造の関係性：はだか存在文、馬謬倒置構文、前置詞句主語構文 ・オープナーが対人関係に及ぼす影響
	2015年2月3日	9(8)	6	8	32	0	・高松次郎の初期作品に関する考察：「不在性」を呼び起こす《点》と《紐》の形
H27	2015年9月25日	13(3)	/	/	/	/	・The “Habitat Segregation” of Causative Verbs: An Analysis Adopting the Viewpoint of a Conceptualizer
	2016年2月10日	16(12)	8	17	37	0	・マンフォードの批判はエリスの本質主義を脅かすか？

(出典：人文学部事務部作成)

**資料人院45 シンポジウムについて、学生の声**

シンポジウムは人文科学研究科の先生方に自身の研究内容を示す場になります。普段、授業等で交流のない先生方とお話しし、意見をお伺いすることができます。また、大学院生間の交流も盛んで、他分野の学生と会話しながら意見や情報を交換し合っています。

(出典：平成27年度信州大学大学院人文科学研究科修士課程 ガイドブックより)

**資料人院46 大学院シンポジウム 審査シート**

2015年度前期大学院シンポジウム優秀発表賞投票用紙			
・投票欄に一つ〇をしてください。			
・裏面の注意事項をご確認の上、投票をお願いいたします。			
投票欄	発表順	氏名	題目
	1		
	2		
	3		
自由記述欄(評価理由などをお書き下さい)			

(出典：人文学部事務部)

**資料人院 47** 学会発表、学会誌掲載論文数

事 項 (年度)	H22	H23	H24	H25	H26	H27
学会発表数 (内国際学会)	1	1	3	5	7 (4)	8 (5)
学会誌掲載数	0	0	0	5	6	7

(出典：人文学部事務部作成資料)

③ 大学院科目先取り履修制度の設立

学部生が研究科の授業を受講することを通して、早期から研究に着手することができるように、また、修士2年目に後期博士課程の受験勉強や就職活動に、現行の制度下よりも多くの時間を割くことができるように、平成26年度より「大学院科目先取り履修制度」を設立した。(資料人院 48～51)

**資料人院 48** 「信州大学学部学生の大学院授業科目の履修に関する要領」

第2 先取り履修は、本学大学院に進学を志望する成績優秀な学生に対して本学大学院の研究科（以下「研究科」という。）の授業科目を履修する機会を提供することにより、大学院教育との連携を図ることを目的とする。

(出典：「信州大学学部学生の大学院授業科目の履修に関する要領」)

**資料人院 49** 「大学院科目先取り履修制度 申し合わせ」

人文科学研究科における人文学部学生の大学院授業科目の受講（以下「先取履修」という）の取り扱いについては、信州大学学則、信州大学大学院学則及び信州大学学部学生の大学院授業科目の履修に関する要領に定めるもののほか、この申し合わせに定めるところによる。

(出典：「大学院科目先取り履修制度 申し合わせ」)

**資料人院 50** 平成27年度大学院科目先取り履修制度の利用実績

	先取り履修による 取得単位数	履修科目名	進学先
学生 A	6	英語学研究Ⅴ	信州大学人文科学研究科

		英語学研究Ⅵ 英語学研究Ⅷ	
学生 B	8	言語文化総合演習 I A 日本語学研究 I 日本語学研究Ⅲ	信州大学人文科学研究科

(出典：「信州大学学部学生の大学院授業科目の履修に関する要領」)

**資料人院 51** 大学院科目先取り履修制度利用者数

	H27 年度
利用者数	2
履修科目数 (延べ)	14

(出典 人文学部学務係作成)

(4) 経済的な支援

① 長期にわたる教育課程の履修

職業を有している等の事情を有する学生に、標準修業年限を超えて計画的に履修できるようにしている。平成 24 年度からは交換留学する学生に計画的な履修を認めることとした。(資料人院 52、53)

**資料人院 52** 信州大学大学院学則、信州大学大学院人文科学研究科規程

(長期にわたる教育課程の履修)

第 38 条 本大学院は、各研究科の定めるところにより、学生が、職業を有している等の事情により、第 15 条に定める標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

2 前項による計画的な教育課程の修業年限は、第 16 条に定める在学期間を超えることはできない。(教育課程の計画的特例履修)

第 38 条の 2 各研究科(修士課程又は博士前期課程を置く研究科に限る。)は、本大学院と外国の大学院等との間において締結した交流協定(研究科間交流協定及びこれに準ずるものを含む。以下「交流協定」という。)に基づく留学により、第 15 条に定める標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することを修士課程又は博士前期課程の学生(標準修業年限の最終年次の学生及び前条による長期にわたる教育課程の履修を認められている学生を除く。)が希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

2 前項による計画的な教育課程の修業年限は、3 年を超えることはできない。(出典：信州大学大学院学則)

(長期にわたる教育課程の履修)

第 12 条 大学院学則第 38 条に規定する学生が職業を有している等の事情による長期にわたる教育課程の履修については、研究科委員会において定める。(出典：信州大学大学院人文科学研究科規程)

**資料人院 53** 長期にわたる教育課程等の履修者数 (延べ人数)

事 項 (年度)	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
長期にわたる教育課程の履修	1	1	2	1	2	2	3
教育課程の計画的特例履修			0	0	0	0	0

(出典：人文学部事務部作成資料)

② 学部授業における科目等履修生への特別配慮

教職免許や学芸員を始めとする資格取得のためなどに学部の授業を受講する必要がある学生に、平成 26 年度より学部の授業を「科目等履修生」として授業料免除のもとで受講することを可能とした。(資料人院 54)

**資料人院 54** 信州大学授業料等に関する規程

第 14 条 次の各号に掲げる者については、この規定で定める授業料、入学料および検定料を徴収しないものとする。

(1)～(7)は略

(8) 本学の学部の科目等履修生（本学の大学院学生の身分を有する科目等履修生及び本学の大学院の入学手続きを完了した科目等履修生に限る。）

(出典：「信州大学授業料等に関する規程」)

**③入学料免除・徴収猶予制度**

本学入学者（研究生、聴講生等の入学者を除く）について、選考の上、入学料の全額又は半額を免除、もしくは入学料の支払期限を一定期日まで延期する制度を設けている。（資料人院 55、56）。

**資料人院 55** 入学料免除制度

○申請要件：

【学部入学者】

1. 入学前 1 年以内において、学資負担者（※申請者の学資を主として負担している方）が亡くなった場合、又は申請者もしくは学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより、入学料の支払いが著しく困難であると認められる場合。

2. 1 に相当する事情と認められる場合。

【大学院入学者】

1. 経済的理由により入学料の支払いが困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合。

2. 入学前 1 年以内において、学資負担者が亡くなった場合、又は申請者もしくは学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより、入学料の支払いが著しく困難であると認められる場合。

3. 2 に相当する事情と認められる場合。

○本研究科の支援者数

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27
支援者数	1	1	0	0	1	0

(出典：人文学部学務係作成)

**資料人院 56** 入学料徴収猶予制度

○申請要件：

1. 経済的理由により支払期限までに入学料の支払いが困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合。

2. 入学前 1 年以内において、学資負担者が亡くなった場合、又は申請者もしくは学資負担者が風水害等の災害を受け、支払期限までに入学料の支払いが困難であると認められる場合。

3. その他やむを得ない事情があると認められる場合。

○入学料徴収猶予の期限

4 月入学 9 月末日まで

10 月入学 翌年 2 月末日まで

○本研究科の支援者数

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27
支援者数	0	1	1	0	1	2

(出典：人文学部学務係作成)

**④授業料免除・徴収猶予・月割分納・成績優秀学生授業料免除**

選考の上、その期の授業料の全額又は半額を免除、授業料の徴収を一定期日まで延期、もしくは授業料を月ごとに分割して支払うことができる制度（資料人院 57～59）。

**資料人院 57** 授業料免除制度

本学が定める家計基準及び学力基準の双方を満たした者であり、授業料免除予算の範囲内で免除者を

決定する。

申請要件：

1. 経済的理由により授業料の支払いが困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合。
2. 授業料の各期の納期（前期：4月1日、後期：10月1日）前6か月以内（新入学者は、入学した日の属する学期分の申請については入学前1年以内）において、学資負担者（※注）が死亡し、又は申請者本人もしくは学資負担者が風水害等の災害を受けたなどの特別な理由により、授業料の支払いが著しく困難であると認められる場合

○本研究科の支援者数

年度	H22		H23		H24		H25		H26		H27	
	前期	後期										
全学免除者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
半額免除者数	6	4	5	4	4	4	1	0	1	1	3	3
申請数	7	4	7	5	4	4	1	0	1	1	3	3

（出典：人文学部学務係作成）

**資料人院 58 授業料徴収猶予、月額分納制度授業料免除制度**

本学の学生（研究生、聴講生等を除く）が、次のいずれかに該当する場合は、選考の上、その期の授業料の支払期限を一定期日まで延期する制度（徴収猶予）・その期の授業料を月ごとに分割して支払うことができる制度（月額分納）です。

申請要件：

1. 経済的理由により支払期限までに授業料の支払いが困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合。
2. 申請者または学資負担者が風水害等の災害を受けるなどやむを得ない事情により授業料の支払いが支払期限までに困難であると認められる場合。

○本研究科の支援者数

【徴収猶予】

年度	H22		H23		H24		H25		H26		H27	
	前期	後期										
支援者数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
申請数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

【月額分納】

年度	H22		H23		H24		H25		H26		H27	
	前期	後期										
支援者数	2	2	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0
申請数	2	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0

（出典：人文学部学務係作成）

**資料人院 59 授業料免除制度**

学業成績が特に優れ、かつ、人物優秀であると認められる学生に対して、当該年度の後期分授業料の全額を免除する制度。選考基準等は学部・研究科により異なる。

○本研究科選考基準（「信州大学大学院人文科学研究科成績優秀学生授業料免除候補者の選考に関する申合せ」より）

本研究科大学院委員会における授業料免除候補者の選考手続は、次のとおりとする。

- 一 対象学生の成績を次の手順ごとに選考し、成績優秀学生順に授業料免除候補者を決定する。
  - 第1次選考 本研究科在学中の初年度（前後期）の成績又はそれに代わる二期分の成績
  - 第2次選考 本研究科在学中の初年度（前後期）のシンポジウムにおける評価又はそれに代わる二期分の評価
  - 第3次選考 その他、選考時に利用できる本研究科入学後の研究業績等
- 二 前号の結果、順位に差がつかない時は、指導教員による修学に関する所見等を勘案し、総合的観点から選考し、決定する。

○本研究科の中で免除された学生数

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27
該当者数	2	2	2	2	2	2

(出典：人文学部学務係作成)

⑤ 学生への学会参加に伴う支援

学生の研究活動の推進を図るため、国外の学会参加に伴う交通費を大学の制度である「知の森基金」を使って支援している。(資料人院 60)

資料人院 60 学会参加に伴う交通費支援状況 (延べ人数)

種別 (年度)	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
国外	0	0	0	0	0	0	3

(出典：人文学部事務部作成)

⑥ 教育方法の特例

本研究科で必要と認めるときは、授業及び研究指導を夜間やその他特定の時間等に出来るようにしている。(資料人院 61、62)

資料人院 61 信州大学大学院学則、信州大学大学院人文科学研究科規程

(教育方法の特例)

第 39 条 教育上特別の必要があると認められる場合には、当該研究科において定めるところにより、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

(出典：信州大学大学院学則)

(教育方法の特例)

第 18 条 研究科において必要と認めるときは、授業及び研究指導を夜間その他特定の時間又は時期に行うことができる。

2 前項に規定するもののほか、教育方法の特例に関する事項は、別に定める。

(出典：信州大学大学院人文科学研究科規程)

資料人院 62 夜間やその他特定の時間等に関講されている授業数

種別 (年度)	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
夜間等に関講されている授業数	0	0	0	5	5	5	4

(出典：人文学部事務部作成)

(5) キャリアパスへの特徴的な配慮

① TA としての勤務

本研究科では大学院生を学部授業の TA として雇用することにより、研究内容の実践化、教育職の職業訓練の場の提供、経済的支援を行っている。(資料人院 63)

資料人院 63 TA 採用数

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27
TA 採用数	15	14	14	8	8	13

(出典：人文学部事務部作成)

② 研究補助者 (信大非常勤職員) としての勤務

信州大学大学院人文科学研究科 分析項目 I

信州大学男女共同参画推進室によって、平成 23 年度より研究補助者制度が設立され、ライフイベント中の男女教員は信州大学非常勤職員（技能補佐員）として研究補助者を雇うことができる制度が設立され、本研究科では積極的に、補助者として大学院生を雇うことにより、学生のキャリアパスと経済的支援を行っている。（資料人院 64）

資料人院 64 技能補佐員採用数（延べ数）

年度	H23	H24	H25	H26	H27
技能補佐員採用数	3	7	2	3	9
内 研究科在籍学生	2	5	2	3	7

（出典：人文学部事務部作成）

（6）国際的な研究を志す学生への支援

①国際交流協定

本学は多くの大学と国際交流協定を締結しており、それらの大学への留学を積極的に推進している。また、交流協定を結んでいる大学以外への留学を行う学生の割合も最近は増えてきている。（資料人院 65、66）

資料人院 65 国際交流協定一覧(2014年8月現在)

大 学 間 交 流	アメリカ	ユタ大学、オクラホマ州立大学、南オレゴン大学、カリフォルニア州立大学チョコ校
	メキシコ	CINVESTAV 大学院大学
	ブラジル	パラナ連邦工科大学
	オーストラリア	カーティン大学、オーストラリア南極研究所
	フィンランド	国立フィンランド測地研究所
	フランス	ラ・ロッシュェル大学、フランス国立繊維工芸工業高等学院、リール第一大学、フランス国立情報学自動制御研究所(INRIA)
	ドイツ	ライプツィヒ大学、マンハイム大学
	ベルギー	カトリック大学ルーヴァン
	オランダ	ゾイド大学
	イタリア	ヴェネツィア・カ・フォスカリ大学
	スペイン	アルカラ大学カルデナル・シスネロスカレッジ
	ポーランド	ピアリストク大学、ピアリストク工科大学、シレジア工科大学、ワルシャワ大学
	ロシア	ヴィートゥス・ベーリング名称カムチャツカ国立大学、極東連邦大学
	モロッコ	モハメド五世大学アグダル校
	モンゴル	モンゴル科学技術大学
	中国	同済大学、河北農業大学、蘭州大学、河北医科大学、蘇州大学、東華大学、中国地質大学、北京工業大学、太原理工大学、浙江理工大学、北京外国語大学、天津工業大学、北京化工大学、山東大学、西南大学、河南農業大学、重慶師範大学、対外経済貿易大学
	台湾	輔仁大学
	韓国	江原大学校、尚志大学校、光云大学校、韓国カトリック大学校、崇實大学校、順天大学校、建国大学校、嶺南大学校、檀国大学校、漢陽大学校、忠南大学校、全南国立大学アランマクジアミドエネルギー研究所
	タイ	チェンマイ大学、カセサート大学、チュラロンコン大学、ナレースワン大学、サイアム大学
	インド	インド工科大学マドラス校
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ-工業技術大学、ハノイ工科大学、FPT 大学、ダラット大学	
マレーシア	UPM (マレーシアプトラ大学)、マラヤ大学	
インドネシア	プリタハラパン大学、ウダヤナ大学、アンダラス大学、ボゴール農科大学	
ミャンマー	ヤンゴン工科大学	

（出典：国際交流センターホームページをもとに経営企画課作成）

資料人院 66 留学経験のある学生数

種別	H21 年度 修了者	H22 年度 修了者	H23 年度 修了者	H24 年度 修了者	H25 年度 修了者	H26 年度 修了者	H27 年度 修了者
全学生数 (社会人・留学生 は外数)	3 (2)	12 (2)	6 (2)	9 (2)	4	3	3 (1)
留学経験者	0	2	0	4	2	1	2
本研究科所属 期間内の 留学経験者数	0	0	0	0	0	1	1

(出典：人文学部事務部作成)

②学部として開催している外国語サロンへの参加を推奨

本研究科所属の学生の国際通用性をあげるために、学部で開催している外国語サロンへの参加を推奨しており、そのサロンの運営に研究科生を TA として雇い入れている例もある。(資料人院 67)

資料人院 67 外国語サロンの開催

種別	H23	H24	H25	H26	H27
各種外国語サロン	3 言語	3 言語	3 言語	3 言語	4 言語
多文化交流サロン	13 回	14 回	15 回	9 回	5 回

(出典：人文学部事務部作成)

(7) 獲得した知識を机上の知に終わらせずに、実践的に社会に還元することを通して体得して行くための仕組み

①JINBUNフォーラム

本研究科では、他分野横断による研究発表会『JINBUNフォーラム』を開催し、そこで、研究成果を中高生を含む市民向けの発表会を行っていることに支援している。そのフォーラムの中で、本研究科生も研究結果を発表することを通して獲得した知を社会に還元し、発信能力を鍛える場としている。(資料人院68)

資料人院 68 平成 21 年度以降のフォーラム開催および院生発表実績

	日程	参加人数 (概数)	院生発表タイトル
平成 23 年度	2012 年 2 月 9 日	160	これからの英語教育 (パネルディスカッション)
平成 23 年度	2012 年 2 月 12-13 日	250	be to 不定詞ってなんだろう?
平成 24 年度	2013 年 2 月 11 日	150	to 不定詞後略 ~暗記だけの勉強にさようなら~
平成 25 年度	2014 年 2 月 11 日	140	初期中英語韻文 Ormulum の語彙に見られる古北欧語の借入について 構文から見た英語前置詞の分析
平成 26 年度	2015 年 2 月 7 日	120	英語構造から見た have の意味
平成 27 年度	2016 年 2 月 11 日	110	心理動詞ってなんだろう 英語の使役動詞: Make、Let、Have

(出典：人文学部事務部作成)

②アクティブラーニングとしての、保・小・中・高・大連携

本研究科では、実践的に社会に還元するための仕組みの一つとして、保・小・中・高・

大連携を支援している。それらの活動を通して、知の理論と実践の両輪を獲得するプログラムを実施している。これらは基本的には学部の授業として開催しているが、それらの授業にTAとして大学院生が関わり、活動自体に参加してその活動をいかに実施していくかについての計画を指導したりしている。（資料人院69）

資料人院 69 保・小・中・高・大連携事業における主体的な学習を促す取り組み（平成 27 年度実績）

事例（事業名等）	実施内容等（学部・学科、人数、対象、時期、内容など）
松本秀峰中等教育学校との連携活動	信州大学人文学部の「英語学応用演習」という授業において、秀峰と連携をして活動を行った。具体的には、大学生が中学生の授業に参加し手伝って調べ物をして発表したり、ハロウィーンパーティーを一緒に企画・運営したり、海外研修に行く中学生への指導を行ったりした。参加人数は大学生が 10 名および院生 2 名、時期は通年。
信大おひさま保育園、松本あがた保育園との連携活動	こちらも、信州大学人文学部「英語学応用演習」の授業の一環として、保育園で英語活動を行った。具体的には、保育園児に英語を教えて一緒に歌を歌ったり、遊んだりした。大学生参加人数 15 名、大学院生参加人数 1 名ほど、時期は通年
松本中央図書館における英語絵本読み聞かせ活動	こちらも、信州大学人文学部「英語学応用演習」の授業の一環として、中央図書館において、英語絵本の読み聞かせを行った。大学生参加人数 3 名ほど、指導には大学院生も関わる。時期は通年
長野県塩尻志學館高校との連携	こちらも、信州大学人文学部「英語学応用演習」の授業の一環として、塩尻志學館高校において、論文の書き方を指導したり、大学進学相談に乗ったりした。大学生参加人数は 10 名ほど。時期は通年。
長野県英語連合会との連携	こちらも、信州大学人文学部「英語学応用演習」の授業の一環として、長野県英語連合会のディベート講習会において、大学生が講演を行うと同時に、ディベートの準備を高校生と一緒にを行った。大学生参加人数は 10 名ほど。時期は通年。
まつもと子ども留学（四賀地区中学生）との連携	信州大学人文学部「英語学特論」の授業に一環として、松本市四賀地域に留学してきている中学生の学習支援を行っている。学部生 6 名、大学院生 1 名が参加している。時期は通年
信州大学教育学部附属松本小学校との連携	信州大学人文学部「英語学応用演習」の授業の一環として、信州大学教育学部附属松本小学校の「外国語活動」の授業の数回分を担当している。参加大学生は 8 名、大学院生 2 名。

（出典：人文学部学務係作成）

（水準）

期待される水準を上回る

（判断理由）

在学生・地域社会から期待されている学力を高め、最先端の知識を得るという期待については、**資格取得**等も含めた指導を行い（資料人院43）、かつその勉学を推奨するために、**修士論文優秀賞**（資料人院44）や大学院シンポジウム（資料人院44～46）を実施している。在学生在が抱える経済的な心配やそこから産まれる**経済的な支援**に対する期待についても、免除制度等を制定することによって様々に対応している（資料人院52～60）。

在学生・地域社会から期待されている**知識を運用する力の獲得**についての期待については、留学や外国語サロンをとおして**外国語コミュニケーション能力の育成**を行い（資料人院66、67）、フォーラムの開催などで獲得した**知の発信への支援**を行っている（資料人院68、69）。このことの効果は数多くの**学会発表、学会誌掲載**が行われるようになったことに顕著に現れている（資料人院47、77（後掲））。

これらにより、期待される水準を上回ると判断できる。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

1 修了、退学、休学の状況

本研究科の退学、休学の状況は、次のとおりである。(資料人院 70)

資料人院 70 退学、休学率

	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
退学率	3.4%	6.3%	12.0%	13.7%	0%	0%	0%
休学率	6.7%	6.3%	8.0%	22.8%	25%	16.6%	0%

※退学率は、該当年度の在籍者で除した割合。

※休学率は該当年度 5 月 1 日現在の数を該当年度の在籍者数で除した割合。

(出典：経営企画課作成)

標準修業年限内での修了率は平均で 44%程度と低く、その理由の一端が高い休学率にあるように見えるが、入学時から計画的に長期履修制度を利用する学生が多く留学による休学者もいるため、それらの数を鑑みた補正数値を示す。(資料人院 71)

資料人院 71 標準修業年限内修了率及び「標準修業年限内×1.5」年内修了率  
 < 計画的長期履修および留学による休学率を換算して >

		H20 年度 入学者	H21 年度 入学者	H22 年度 入学者	H23 年度 入学者	H24 年度入 学者	H25 年度 入学者
学生数	全入学者数	8	13	6	8	4	1
	内 計画的 長期履修生数	1		1		1	
	内 留学に よる休学者数				1	1	
標準修業年限内 (長期履修生は 4 年、留学による 休学者は 3 年と計算) ( ) 内は実数		62.5% (5)	84.6% (11)	83.3% (5)	100% (8)	100% (4)	0%
標準修業年限内×1.5 ( ) 内は実数		12.5% (1)	15.4% (2)	16.7% (1)	0% (0)	0% (0)	100% (1)
標準修業年限×1.5 を 超えた割合 ( ) 内は実数		12.5% (2)	0% (0)	0% (0)	0% (0)	0% (0)	0%

(出典：人文科学研究科情報管理分析室作成)

過去 5 年における、標準修業年限内に修了した学生の率は 72%、標準修業年限内の 1.5 倍の年数内で卒業した学生は 96% となり、入学時に想定した年限内で卒業する率が非常に高く留年率は低い。

2 資格取得状況

本研究科では、教員免許(専修)の取得が可能である。(資料人院 72、73)

資料人院 72 信州大学大学院学則 — 抜粋 —

(教育職員免許状授与の所要資格)

第 47 条 教育職員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法(昭和 24 年法律第 147 号)に定める所要の単位を修得しなければならない。

2 本大学院において、教育職員免許法に規定する所定の単位を修得した者が取得できる教育職員免許状の種類は、別表第 2 に掲げるとおりとする。

別表第 2(第 47 条関係)

教育職員免許状の種類				
研究科名	専攻名等		教育職員免許状の種類	免許教科
人文科学研究科	地域文化専攻	哲学分野	中学校教諭専修免許状	社会
			高等学校教諭専修免許状	公民
		史学分野	中学校教諭専修免許状	社会
			高等学校教諭専修免許状	地理歴史
	言語文化専攻	国語コース	中学校教諭専修免許状	国語
			高等学校教諭専修免許状	国語
		英語コース	中学校教諭専修免許状	英語
			高等学校教諭専修免許状	英語
		ドイツ語コース	中学校教諭専修免許状	ドイツ語
			高等学校教諭専修免許状	ドイツ語

(出典：信州大学大学院学則)

**資料人院 73 教員免許（専修）取得状況**

種別	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
中学	4	3	1	2	2	1	1
高校	4	6	1	3	3	1	1

(出典：人文学部事務部作成)

資料人院 74 は、修了生のうち、学習支援業（教員など）に就職した修了生数である。教員免許取得学生のうち、ほとんどが学習支援業に就職するのは特記すべき特徴である。（資料人 74）

**資料人院 74 教育、学習支援業（教員など）に就職した修了生数**

	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
教員免許取得学生数	4	6	1	3	3	1	1
学習支援業に就職した修了生	2	3	1	6	3	1	2

(出典：人文学部事務部作成)

### 3 学会発表、査読付き論文集への掲載

本研究科生は、以下の国内外の学会においても学会発表を多数行っている。査読付きを含む学会誌への掲載も多い。（資料人院 75～77）

**資料人院 75 学会発表**

平成 22 年度	・志儀智史 「A Semantic Approach to English Teaching」日本英文学会中部支部大会第 62 回大会。
平成 23 年度	・赤羽佑太・上條智緩 「Be 動詞＋不定詞の“意味”」日本英文学会中部支部第 63 回大会
平成 24 年度	・上條智緩・黒岩美里・早野勇馬「前置詞及び不定詞句を導く to の検証」日本英文学会中部支部第 64 回大会 ・藤原隆史・脇淵良太「前置詞 to を用いた未来表現の効果的な教授法の提案」日本英文学会中部支部第 64 回大会 ・永田清顕 「「善光寺縁起」の変遷について」日本文学協会研究発表大会

平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・藤原隆史・赤羽佑太・脇淵良太・早野勇馬「Have の認知的な理解モデルとその考察」日本英文学会中部支部大会</li> <li>・脇淵良太・赤羽佑太・早野勇馬「英語の未来表現の多義性とその多義を生じさせる条件の考察およびその効果的な教育法」・藤原隆史・脇淵良太・上條智緩「前置詞及び不定詞を導く to の検証」日本英文学会中部支部大会</li> <li>・鎌田真緒・長谷川孝治「自己開示と友人のオープナー特性が印象評価及び関係満足度に及ぼす影響」日本心理学会第 77 回大会</li> <li>・片所由生「依頼の Eメールにおける事情説明の書き方とその重要性」2013 年度日本語教育学会春季大会</li> <li>・S. M. D. T. ランブクピティヤ「日本語母語話者とスリランカ人シンハラ語母語話者の感謝場面における「場」の要素についての理解と感謝表現ストラテジー」第 10 回日本語教育学会研究集会</li> <li>・Ryota Wakibuchi, Yuta Akahane, Takafumi Fujiwara, Yuma Hayano, Miki Hanazaki, and Kazuo Hanazaki "The "Habitat Segregation" of Expressions Denoting Futurity and its Application to TESL" Jan 2014 HUIC International Conference on Humanities.</li> <li>・Takafumi, Fujiwara, Yuta Akahane, Ryota Wakibuchi, Yuma Hayano, Miki Hanazaki, and Kazuo Hanazaki "An Analysis of a Causative Verb Have from the Cognitive Linguistic as well as the Contrastive Linguistic Perspective" Jan 2014 HUIC International Conference on Humanities.</li> </ul>
平成 26 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・藤原隆史「日英比較による使役動詞 Have の意味解釈に関する一考察」日本英文学会中部支部第 66 回大会</li> <li>・劉 莉「『うつほ物語』の孝子説話」日本文学協会研究発表大会</li> <li>・李 常清「「鬼女紅葉」伝説の合理化過程」日本文学協会研究発表大会</li> <li>・Kamata, M., Okamoto, T., &amp; Kosugi, K. "Scaling for individual relations and Visualizing small group process (1)" The 28th International Congress of Applied Psychology</li> <li>・Kosugi, K., Kamata, M., &amp; Okamoto, T. "Scaling for individual relations and Visualizing small group process (2)" The 28th International Congress of Applied Psychology</li> <li>・Miki Hanazaki, Kazuo Hanazaki, Takafumi Fujiwara, Yuma Hayano, Tomoko Kawamura, Yuta Akahane "Multidirectional Approach to the Semantics of Have: Seeking a Unified Way of Teaching its Polysemy to the EFL Students" Jan 2015 HUIC International Conference on Humanities</li> <li>・Kawamura, Tomoko "A Study on the Habitat Segregation of the Four Verbs Indicating 'Procreation'; Get, Beget, Bear and Have" Jan 2015 HUIC International Conference on Humanities</li> <li>・Hayano, Yuma "A Study on the Relationship of the Existential Sentences: Focusing on a Have Construction Expressing Location" Jan 2015 HUIC International Conference on Humanities</li> <li>・Fujiwara, Takafumi "A Study on Causative HAVE and Passiveness through a Comparison between English and Japanese" Jan 2015 HUIC International Conference on Humanities</li> </ul>
平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Fujiwara, Takafumi "An Analysis of Causative Verb <i>Have</i> from a Pragmatic Perspective" Aug, 2015, IPRA International Pragmatics Association @Antwerp University</li> <li>・藤原隆史「英語使役動詞の棲み分けから見る have 使役文の意味解釈」2015 年 10 月日本英文学会中部支部大会</li> <li>・藤原 隆史 花崎 美紀 花崎 一夫 「高等学校に於けるモジュール型言語教材の可能性～使役動詞を中心にした教授法～」2015 年 11 月、日本 e-Learning 学会@浜松大学</li> <li>・花崎一夫、花崎美紀、藤原隆史 「英語教育に活用するモジュール型教材の可能性—英文法の学習を中心にして—」2015 年 11 月、日本 e-Learning 学会@浜松大学</li> </ul>

(出典：人文学部事務部作成)

資料人院 76 学会誌掲載 (査読付きのものには査マーク)

平成 25 年度	<p>査・藤原隆史・脇淵良太・早野勇馬・上條智緩 「前置詞 to を用いた未来表現の効果的な教授法の提案：To 不定詞の効果的な教授法」『教職研究』第 6 号</p> <p>査・早野勇馬・藤原隆史・脇淵良太・上條智緩 「前置詞及び不定詞を導く to の検証」『教職研究』第 6 号</p> <p>・花崎一夫・赤羽佑太「認知言語学の知見を活用した英語教育の可能性-be-to 不定詞を中心に」『言語教育センター実施報告』第 3 号. pp. 28-36</p> <p>・上條智緩・黒岩美里・早野勇馬 「前置詞及び不定詞句を導く to の検証」 『中部英文学』。</p> <p>・藤原隆史・脇淵良太「前置詞 to を用いた未来表現の効果的な教授法の提案」 『中部英文学』</p>
平成 26 年度	<p>・Ryota Wakibuchi, Yuta Akahane, Takafumi Fujiwara, Yuma Hayano, Miki Hanazaki, and Kazuo Hanazaki "The "Habitat Segregation" of Expressions Denoting Futurity and its Application to TESL" <i>Proceedings of HUIC International Conference on Humanities.</i></p> <p>・Takafumi, Fujiwara, Yuta Akahane, Ryota Wakibuchi, Yuma Hayano, Miki Hanazaki, and Kazuo Hanazaki "An Analysis of a Causative Verb Have from the Cognitive Linguistic as well as the Contrastive Linguistic Perspective" <i>Proceedings of HUIC International Conference on Humanities.</i></p> <p>・花崎一夫、藤原隆史・花崎美紀 「認知言語学の知見を活用した使役動詞haveの分析—よりよい英語教育を目指して—」『言語教育センター実践報告』</p> <p>・藤原隆史・赤羽佑太・脇淵良太・早野勇馬 「Have の認知的な理解モデルとその考察」『中部英文学』</p> <p>・脇淵良太・赤羽佑太・藤原隆史・早野勇馬 「英語の未来表現の多義性とその多義を生じさせる条件の考察およびその効果的な教育法」・藤原隆史・脇淵良太・上條智緩 「前置詞及び不定詞を導く to の検証」『中部英文学』</p> <p>・花崎一夫・赤羽佑太 「認知言語学の知見を活用した英語教育の可能性—be-to 不定詞を中心に—」『言語教育センター実践報告』</p>
平成 27 年度	<p>・Kawamura, Tomoko "A Study on the Habitat Segregation of the Four Verbs Indicating 'Procreation'; <i>Get, Beget, Bear and Have</i>" <i>Proceedings of HUIC International Conference on Humanities.</i></p> <p>・Hayano, Yuma "A Study on the Relationship of the Existential Sentences: Focusing on a Have Construction Expressing Location" <i>Proceedings of HUIC International Conference on Humanities.</i></p> <p>・Fujiwara, Takafumi "A Study on Causative HAVE and Passiveness through a Comparison between English and Japanese" <i>Proceedings of HUIC International Conference on Humanities.</i></p> <p>・Hanazaki, Miki, Kazuo Hanazaki, Takafumi Fujiwara, Tomoko Kawamura, Yuma Hayano, Yuta Akahane "Multidirectional Approach to the Semantics of Have: Seeking a Unified Way of Teaching Its Polysemy to the EFL Students" <i>Proceedings of HUIC International Conference on Humanities.</i></p> <p>査・藤原隆史「日英比較による使役動詞 Have の意味解釈に関する一考察」 『中部英文学』</p> <p>査・藤原隆史 花崎美紀 花崎一夫 『高等学校に於けるモジュール型言語教材の可能性～使役動詞を中心にした教授法～』<i>JeLA</i> (日本 e-Learning 学会学会誌)</p> <p>査・花崎一夫、花崎美紀、藤原隆史 『英語教育に活用するモジュール型教材の可能性—英文法の学習を中心にして—』<i>JeLA</i> (日本 e-Learning 学会学会誌)</p>

(出典：人文学部事務部作成)

資料人院 77 学会発表、学会誌掲載論文数の経年変化

事 項 (年度)	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
学会発表数 (内国際学会)	0	1	1	3	7 (2)	9 (6)	4 (1)
学会誌掲載数	0	0	0	0	5	6	7

(出典：人文学部事務部作成資料)

4 学業の成果に対する学生の評価

① 修了生の評価 (アンケート、卒業生との座談会などの結果)

本研究科が毎年度実施している修了生アンケートによれば、本研究科の教育目標は高い水準で達成されている。(資料人院 78～84)

資料人院 78 教育目標の達成状況に対する評価の経年変化

H25年度(2014年3月卒業) 人文学部卒業生・修了生アンケート 分析結果報告書

**教育目標の達成状況 《単数回答》**

質問番号1：以下の人文科学研究科の教育目標について、大学院に在籍することでどの程度養われたと思いますか

●全ての項目において高い評価が得られた。

①問題発見能力を高める

	H25年度		H24年度		H23年度	
	度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)
十分に養われた	3	100.0	6	60.0	2	40.0
やや養われた	0	-	4	40.0	3	60.0
どちらでもない	0	-	0	-	0	-
あまり養われていない	0	-	0	-	0	-
ほとんど養われていない	0	-	0	-	0	-
無回答	0	-	0	-	0	-
合計	3	100.0	10	100.0	5	100.0

④社会適応能力を高める

	H25年度		H24年度		H23年度	
	度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)
十分に養われた	2	66.7	4	40.0	0	-
やや養われた	1	33.3	2	20.0	2	40.0
どちらでもない	0	-	4	40.0	2	40.0
あまり養われていない	0	-	0	-	1	20.0
ほとんど養われていない	0	-	0	-	0	-
無回答	0	-	0	-	0	-
合計	3	100.0	10	100.0	5	100.0

②問題分析能力を高める

	H25年度		H24年度		H23年度	
	度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)
十分に養われた	2	66.7	7	70.0	2	40.0
やや養われた	1	33.3	3	30.0	3	60.0
どちらでもない	0	-	0	-	0	-
あまり養われていない	0	-	0	-	0	-
ほとんど養われていない	0	-	0	-	0	-
無回答	0	-	0	-	0	-
合計	3	100.0	10	100.0	5	100.0

⑤知的柔軟性を高める

	H25年度		H24年度		H23年度	
	度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)
十分に養われた	3	100.0	6	60.0	2	40.0
やや養われた	0	-	4	40.0	2	40.0
どちらでもない	0	-	0	-	0	-
あまり養われていない	0	-	0	-	1	20.0
ほとんど養われていない	0	-	0	-	0	-
無回答	0	-	0	-	0	-
合計	3	100.0	10	100.0	5	100.0

③表現能力を高める

	H25年度		H24年度		H23年度	
	度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)
十分に養われた	2	66.7	3	30.0	1	20.0
やや養われた	1	33.3	6	60.0	4	80.0
どちらでもない	0	-	1	10.0	0	-
あまり養われていない	0	-	0	-	0	-
ほとんど養われていない	0	-	0	-	0	-
無回答	0	-	0	-	0	-
合計	3	100.0	10	100.0	5	100.0

(出典：平成 25 年度卒業生・修了生アンケート分析結果報告書 p. 16)

資料人院 79 教育目標の達成状況に対する、外部機関の分析

分析

回答した修了生は、全項目で「十分に養われた」又は「やや養われた」と回答している。平成25年度も過去2年度に引き続き、教育目標の達成状況は高い水準にあることがいえる。

(出典：平成 25 年度卒業生・修了生アンケート分析結果報告書 p. 16)

資料人院 80 知識についての修了生アンケート結果

**人文科学研究科の評価 《単数回答》**

**質問番号2：信州大学人文科学研究科に在籍中、以下にあげる項目はどの程度達成されましたか**

②知識は増えましたか

	H25年度		H24年度		H23年度	
	度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)
そう思う	3	100.0	5	50.0	3	60.0
ややそう思う	0	-	5	50.0	2	40.0
どちらでもない	0	-	0	-	0	-
あまりそう思わない	0	-	0	-	0	-
そう思わない	0	-	0	-	0	-
無回答	0	-	0	-	0	-
合計	3	100.0	10	100.0	5	100.0

③知識を運用する力はつきましたか

	H25年度		H24年度		H23年度	
	度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)
そう思う	2	66.7	6	60.0	1	20.0
ややそう思う	1	33.3	4	40.0	2	40.0
どちらでもない	0	-	0	-	2	40.0
あまりそう思わない	0	-	0	-	0	-
そう思わない	0	-	0	-	0	-
無回答	0	-	0	-	0	-
合計	3	100.0	10	100.0	5	100.0

(出典：平成 25 年度人文学部卒業生・修了生アンケート 分析結果報告書 p.17)

資料人院 81 教員の指導に関する、修了生アンケート結果

⑤教員の指導は十分ありましたか

	H25年度		H24年度		H23年度	
	度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)
そう思う	3	100.0	6	60.0	2	40.0
ややそう思う	0	-	4	40.0	2	40.0
どちらでもない	0	-	0	-	1	20.0
あまりそう思わない	0	-	0	-	0	-
そう思わない	0	-	0	-	0	-
無回答	0	-	0	-	0	-
合計	3	100.0	10	100.0	5	100.0

(出典：平成 25 年度人文学部卒業生・修了生アンケート 分析結果報告書 p.17)

資料人院 82 教員との日常的交流に関する、修了生アンケート結果

⑧教員との日常的交流はありましたか

	H25年度		H24年度		H23年度	
	度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)	度数(人)	割合(%)
そう思う	3	100.0	6	60.0	2	40.0
ややそう思う	0	-	4	40.0	2	40.0
どちらでもない	0	-	0	-	0	-
あまりそう思わない	0	-	0	-	1	20.0
そう思わない	0	-	0	-	0	-
無回答	0	-	0	-	0	-
合計	3	100.0	10	100.0	5	100.0

(出典：平成 25 年度人文学部卒業生・修了生アンケート 分析結果報告書 p.17)

**資料人院 83** 外部機関による、アンケート分析結果 総括（抜粋）

・人文科学研究科の教育目標および学習・生活環境について、多くの学生からおおむね高い評価が得られている。自由記述における否定的な意見や回答も少なく、**幅広く学べる教育体制や指導体制への高い満足度**が感じられる。

（出典：平成 25 年度卒業生・修了生アンケート分析結果報告書）

**資料人院 84** 人文科学研究科の教育方針・教育体制および在籍したことについての意見】（抜粋）

- ・学部時代から「実践知」の運用・獲得を目指してきましたが、**本研究科でその知識を更に昇華させることが出来た**と思います。学会発表を始め、指導教員の先生のもと充実した教育を受けさせていただいたことを、大変感謝しています。
- ・**卒業後は教員**となりますが、教科のみならず、自分が没頭できる学問があるということが、どれだけ幸せなのかということも生徒に伝えたいと思います。最高の 6 年間でした。
- ・知識が増えるにつれて、**物事を考える幅**が広がり、自分が今まで考えていたことも歴史の上に成り立っているということが再確認できてよかった。
- ・専門的な知識を**様々なアプローチから深める**ことができた。
- ・**教授陣のご指導とご協力**がすばらしく、この科に属せたことを誇りに思います。

（出典：平成 24、25 年度卒業生・修了生アンケート分析結果報告書）

本研究科の**教育目標の達成度**については修了生からも高い評価を得ており、人文科学研究科の教育が高い水準で維持され効果をあげている。平成22年度および平成23年度において低い評価があった項目についても、平成25年度には**改善**がみられた。調査結果からは、より高度で幅広い知識・思考力を身につけていること、そのことが現在の仕事や人生により影響を与えているという意識が顕著に認められる。

（水準）

期待される水準を上回る。

（判断理由）

本研究科では教員免許（専修）を毎年複数人が取得しており（資料人院73）、学会発表や査読付きを含む国内外の雑誌における論文掲載があり（資料人院75～77）、そうした状況から教育成果について修了生のアンケート結果では非常に高い水準で評価されている（資料人院78～84）。

以上より、期待される水準を上回ると判断する。

観点 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

1. 修了後の進路の状況

本研究科の修了後の状況は、次のとおりである。(資料人院 85)

資料人院85 修了後の進路の状況

修了年度	区分	卒業者		進学者		就職者		専修学校・外国の学校など入学者	一時的な仕事に就いた者	左記以外の者		不詳・死亡の者
		A		人(B)	率(B/A)	人(C)	率(C/A-B)			人(D)	率(D/A)	
H21	全体	5016		1050	20.93%	2094	52.80%	97	10.99	1141	22.75%	364
	国立	1527		514	33.66%	577	56.96%	18	24	298	19.52%	101
	本研究	計	5	0	0.00%	3	60.00%	0	0	2	40.00%	0
	研究	男	1	0	0.00%	1	100.00%	0	0	0	0.00%	0
	女	4	0	0.00%	2	50.00%	0	0	2	50.00%	0	
H22	全体	4953		933	18.84%	2127	52.91%	68	188	1306	26.37%	331
	国立	1504		477	31.72%	547	53.26%	12	20	392	26.06%	56
	本研究	計	14	2	0.00%	9	75.00%	0	0	3	21.43%	0
	研究	男	6	1	0.00%	3	60.00%	0	0	2	33.33%	0
	女	8	1	0.00%	6	85.71%	0	0	1	12.50%	0	
H23	全体	5084		892	17.55%	2239	53.41%	75	256	1351	26.57%	271
	国立	1464		415	28.35%	600	57.20%	19	33	372	25.41%	32
	本研究	計	8	1	0.00%	3	42.86%	0	0	4	50.00%	0
	研究	男	2	0	0.00%	1	50.00%	0	0	1	50.00%	0
	女	6	1	0.00%	2	40.00%	0	0	3	50.00%	0	
H24	全体	5148		942	18.30%	2214	52.64%	63	264	1356	26.34%	297
	国立	1464		421	28.76%	629	60.31%		33	413	28.21%	26
	本研究	計	8	0	0.00%	8	100.00%	0	0	3	37.50%	0
	研究	男	2	0	0.00%	3	150.00%	0	0	2	100.00%	0
	女	6	0	0.00%	5	83.33%	0	0	1	16.67%	0	
H25	全体	4818		917	19.03%	2142	54.91%		248	1194	24.78%	254
	国立			#DIV/0!		#DIV/0!				#DIV/0!		
	本研究	計	4	0	0.00%	4	100.00%	0	0	0	0.00%	0
	研究	男	2	0	0.00%	2	100.00%	0	0	0	0.00%	0
	女	2	0	0.00%	2	100.00%	0	0	0	0.00%	0	
H26	全体			1050	#DIV/0!		0.00%				#DIV/0!	
	国立			514	#DIV/0!		0.00%				#DIV/0!	
	本研究	計	3	0	0.00%	3	100.00%	0	0	0	0.00%	0
	研究	男	2	0	0.00%	2	100.00%	0	0	0	0.00%	0
	女	1	0	0.00%	1	100.00%	0	0	0	0.00%	0	
H27	全体			1050	#DIV/0!		0.00%				#DIV/0!	
	国立			514	#DIV/0!		0.00%				#DIV/0!	
	本研究	計	4	0	0.00%	4	100.00%	0	0	0	0.00%	0
	研究	男	1	0	0.00%	1	100.00%	0	0	0	0.00%	0
	女	3	0	0.00%	3	100.00%	0	0	0	0.00%	0	
合計	全体	21530		6298	29.25%	9299	61.05%	224	980	5505	25.57%	1254
	国立	5959		2855	47.91%	2353	75.81%	49	110	1475	24.75%	215
	本研究	計	46	3	6.52%	34	79.07%	0	0	12	26.09%	0
	研究	男	16	1	6.25%	13	86.67%	0	0	5	31.25%	0
	女	30	2	6.67%	21	75.00%	0	0	7	23.33%	0	

(出典：学校基本調査より経営企画課作成)

過去6年間の進路状況は、進学率が6.5%、就職率が79%、その他が26%と、全国平均から見ると進学率が低く、就職率が高く、その他が全国並みという数字に見える。しかし本研究科に多い社会人学生を外数として、進学率・就職率・その他を計算すると、国立の平均より進学率は低いが、全国平均並みの進学率があり、就職率は非常に高く、進路先が未定のいわゆる高学歴フリーターを輩出している率が非常に低いことがわかる。(資料人院 86、87)

資料人院 86 修了生の進路

	修了生数		サービ ス業	公務	教育、学習 支援業 (学校等)	学術研究、 専門・技術 サービス業	情報通信	卸売 ・小 売業	進学	その 他
	全 修了 生数	社会人・留學 生を引いた数								
平成21年度	5	3		1	2					
平成22年度	14	11			3	4			3	1
平成23年度	8	6			1	1	1		2	1
平成24年度	11	7	1	1	6		1			
平成25年度	4	4			3			1		
平成26年度	3	3		2	1					
平成27年度	4	3	1	1	1					

(出典：人文学部学務係にて作成)

資料人院 87 修了後の進路の状況 (社会人学生数・留學生数を考慮にいて算出)

( )内は実数

	学生数			進学	就職	その 他
	全修了生数	社会人数	留學生			
平成21年度	5	2	0	0% (0)	100% (3)	0% (0)
平成22年度	14	2	1	27% (3)	63.6% (7)	9% (1)
平成23年度	8	0	2	33.3% (2)	50% (3)	16.7% (1)
平成24年度	11	2	2	0% (0)	100% (9)	0% (0)
平成25年度	4	0	0	0% (0)	100% (4)	0% (0)
平成26年度	3	0	0	0% (0)	100% (3)	0% (0)
平成27年度	4	1	0	0% (0)	100% (3)	0% (0)
合計				18.1%	78.8%	6%
全国平均			全国平均	18.92%	53.32%	25.37%
			国立平均	30.27%	55.90%	24.44%

(出典：人文学部学務係にて作成)

2. 産業別、職業別就職の状況

本研究科の修了後の進路状況によれば、教育、学術系の専門職についている修了生が非常に多く、サービス業や小売業など、一見専門とはかけ離れた職のように見える就職先も、例えば小売業に就職した平成25年度卒業生は、研究科で学んだそのフランス文学の知識を活かしてフランスアパレル輸入会社に就職しているなど、専門職以外に見える就職先も、研究科で学んだ専門を活かした就職先であることが特徴である。(前掲資料人院74、p. 41)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

在学生・地域社会から期待されている**資格取得**については、数多くの教職免許取得者を輩出しており(資料人院73)、それが高い就職率につながっている(資料人院87)。

在学生・地域社会から期待されている**高度・最先端の知識の獲得**、およびその**知識を運用する力の獲得**が期待される水準を上回っていることは、数多くの学会発表、学会誌掲載があること(資料75~77)、修了生アンケートに見られる知識に関する**満足度が高いこと**(資料人院78~84)に現れている。

以上により、期待される水準を上回ると判断できる。

## Ⅲ 「質の向上度」の分析

**(1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況**

## ① ベストティーチャー賞

本研究科では平成23年度より、ベストティーチャーである基準は優れた学生指導を行うことであると定義し、その年に提出された論文の中で最も優秀な論文を最優秀論文として選出し、それをベストティーチャー賞と同等のものと位置づけることとした。優れた学生指導を称える賞が設立されたことは、**教員の更なる教育力向上を促す契機**となった。(資料人院27)

## ② 学生相談センター等の設置

平成24年度に、全学組織の学生相談センターと、各学部・キャンパスに、**あらゆる相談を受け付ける学生相談室**が設置された。(資料人院21、22)

## ③ 大学院先取り履修

学部生が研究科の授業を受講することを通して、**早期から修士過程の研究に着手**すること、修士2年次に修士論文執筆や入学試験対策、就職活動のための時間を確保し、**現行の制度下よりも柔軟に対応**できるようにすることを目的として、平成26年度より「大学院科目先取り履修制度」が設立された。(資料人院48～51)

**(2) 分析項目 教育成果の状況**

## ① 学会発表、発表論文の増加

学会発表・発表論文に関しては、第2期より国内外における**学会発表、査読付き雑誌論文での論文掲載が第1期末に比べて大幅に増加**した。(資料人院75～77)

### 3. 教育学部

- I 教育学部の教育目的と特徴・・・・・・・・3-2
- II 「教育の水準」の分析・判定・・・・・・・・3-16
  - 分析項目 I 教育活動の状況・・・・・・・・3-16
  - 分析項目 II 教育成果の状況・・・・・・・・3-74
- III 「質の向上度」の分析・・・・・・・・3-88

I 教育学部の教育目的と特徴

1 教育目的

(1) 本学部の理念・目標は、【資料教1】のとおりである。

資料教1：理念・目標

理念

教育学部は、信州の恵まれた自然環境と教育を尊重する県民の気風や風土の中で、豊かな人間性と専門的知識及び実践的能力を身につけた、明日の教育を担う人材を育成します。

教育学部では、子どもたちの学びを支援する場ではたらく総合的な「知＝力」を「臨床の知」と呼び、附属学校園との一体化はもとより、教育委員会や諸学校との連携を深め、地域や家庭との協力のもと、実践的な知の体系としての「臨床の知」を核とした教育を目指します。

目標

教育養成の伝統と実績を踏まえ、「臨床の知」の理念のもとに、次の目標を掲げて教育研究を行ないます。

1. 高度な専門知識と実践的な教育技術を身につけ、豊かな教養と創造性に溢れた教育者を育成します。
2. 附属学校園を積極的に活用し、新たなカリキュラムや教材の開発、指導法の工夫など教育現場に役立つ教育研究を推進します。
3. 教育委員会や地域の諸学校と連携し、不登校や学力問題など多様な教育課題に対応し、専門的な支援を行います。
4. 地域社会の要請に応えるため、生涯教育、リフレッシュ教育、現職教育等を充実させ、開かれた教育・研究体制を構築します。

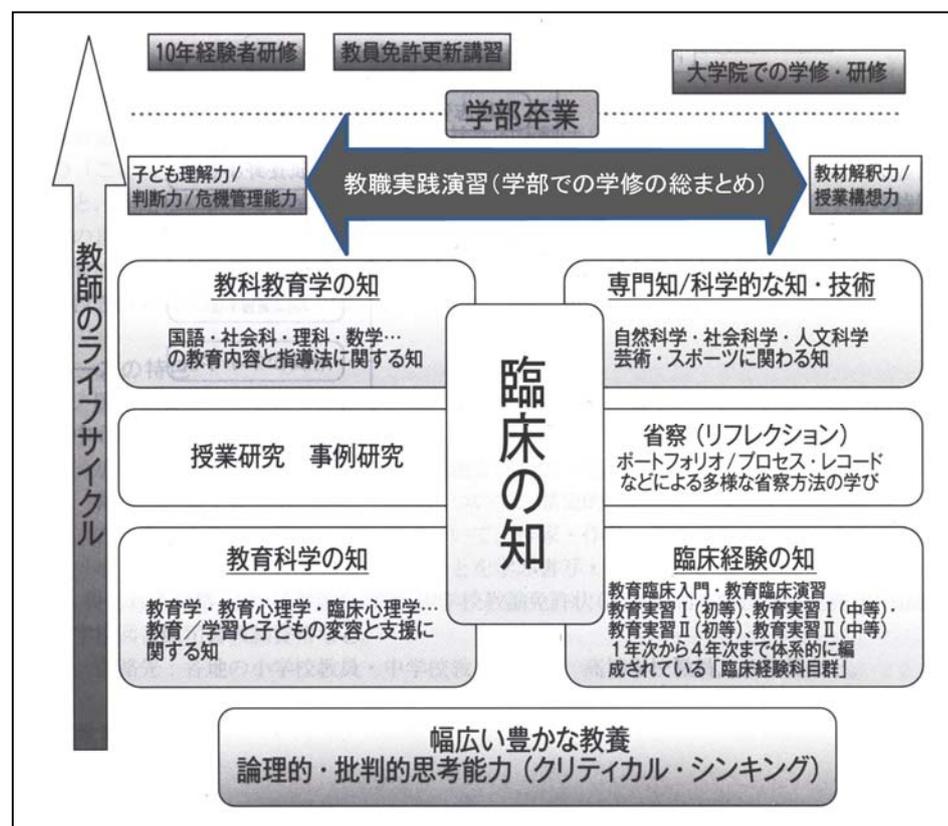
(出典：教育学部ホームページ「教育学部概要」

<http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/education/about/ideal.html>)

(2) 「臨床の知」の獲得

本学部の理念として掲げる「臨床の知」については【資料教2】のとおりである。

資料教2：「臨床の知」



※「臨床の知」とは、単に実践的力量を備えた教員の養成に限られたものではなく、「従来のともすれば特殊化、孤立化しがちの研究・教育体制に代わり、学校、家庭及び地域社会の諸問題に主体的にコミットし、他者や事物とのいきいきとした関係や交流を保つことを意味する」実践的な知の体系である。

(出典：信州大学教育学部学生便覧)

## (3) 3つの方針

本学部は、入学者受入の方針（以下「AP」）、教育課程編成・実施の方針（以下「CP」）、学位授与の方針（以下「DP」）を定めている【資料教3, 4, 5】。

## 資料教3：教育学部アドミッション・ポリシー

## 求める学生像

信州大学教育学部は、学部の基本理念や教育目標に基づき、次のような力を備えた学生を求めています。

- (1) 明日の教育を担う専門的知識や教養を身につけるために十分な基礎的学力
- (2) 豊かな人間性や実践的指導力を養うために不可欠なコミュニケーション能力
- (3) 教育者として社会の発展に寄与しようとする強い意志と教育への強い関心
- (4) 他者との協調性と他者への思いやりの心

## 大学入学時まで身につけておくべき教科・科目等の内容

特に義務教育機関の教員は、各教科に対する得手、不得手を超えて、各教科にわたる広い教養と学力を身につけていることが求められています。このため、教育学部では、高等学校において、教科の学習を通して、次のような学力を身につけておくことを望みます。

教科	身につけておくべき内容
国語	国語を的確に理解し、国語で効果的に伝え合うための思考力・判断力・表現力 また、現代文、古文、漢文における確かな知識・理解
地理歴史 公民	各科目における基礎的な知識及び多面的・多角的な見方や考え方
数学	基礎的な知識と技能、及び基本的な数学的思考方法 特に数学及び理科の教員免許取得希望者については、「数学Ⅰ」、「数学Ⅱ」、「数学Ⅲ」、「数学A」、「数学B」の個々の項目の内容の理解
理科	各科目における基礎的な知識 特に理科の教員免許取得希望者については、「物理基礎及び物理」、「化学基礎及び化学」、「生物基礎及び生物」、「地学基礎及び地学」から2科目以上の修得・個々の項目の内容の理解
外国語	目的に応じて情報や考えなどを正確に理解したり表現したりする英語によるコミュニケーション能力
情報	情報処理における基礎的な知識と技能
家庭	家庭生活全般に関する基礎的な知識と技能
音楽	基礎的な音楽的表現力 特に音楽の教員免許取得希望者については、読譜力及び聴音能力
美術	基礎的な造形能力及び想像力、構想力、創造力、鑑賞力
保健体育	体育やスポーツに対する意欲、基本的な運動能力 特に保健体育の教員免許取得希望者・スポーツ指導者を目指す学生においては、多様なスポーツを経験するための運動技能と基礎的体力

（出典：本学ホームページ[http://www.shinshu-u.ac.jp/admission/uploaddocs/h27\\_ap\\_e.pdf](http://www.shinshu-u.ac.jp/admission/uploaddocs/h27_ap_e.pdf)）

## 資料教4：教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

## 信州大学教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

## ・学士課程における教育課程編成の方針

1. 信州大学は、学部及び学科又は課程の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、体系的に教育課程を編成します。
2. 信州大学は、教育課程の編成に当たっては、学部の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮します。

## ・学士課程における教育課程実施の方針

1. 信州大学「学位授与の方針」に定めた、卒業時までには修得すべき知識・能力等が、カリキュラム体系のなかでどのように養成されるのかを示すため、シラバスで「学位授与の方針」で定められた知識・能力等との対応と、それら諸能力等を修得する方法が理解しやすいように配慮します。
2. 信州大学は、学生個人個人の主体的で活発な勉学意欲を促進する立場から、予習・復習等、授業時間外のさまざまな機会を通じ、諸課題に積極的に挑戦させます。
3. 信州大学は、成績評価の公正さと透明性を確保するため、成績の評定は、各科目に掲げられた授業の狙い・目標に向けた到達度をめやすとして採点し、評価の客観性を担保するため、複次的・複層的な積み上げによる成績評価を行います。

## 教育学部カリキュラム・ポリシー

信州大学教育学部は、教員養成大学としての使命と教育学部の理念・目標に基づく人材養成を行うために、次に掲げる科目群により教育課程を編成します。

- 教育の専門家に求められる豊かな教養を培う教養科目群
- 教育活動を支え、実現するための専門知識・技能を培う教育科学、教科教育学に関する科目群
- 他者と協働して教育活動を推進する実践力と、理論と実践を往還する省察及び改善の態度を培う臨床経験科目群

(出典：本学ホームページ<http://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/curriculum/index.html>)

**資料教 5：教育学部 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）**

信州大学教育学部は、実践的な知の体系としての「臨床の知」の理念のもと、学校教員をはじめとする教育の専門家として、以下の知識と能力を充分培った学生に「学士（教育学）」の学位を授与する。

- 教育の専門家に求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観
- 教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門的知識・技能
- 他者と協働して教育活動をつくる社会的スキル
- 理論と実践を往還する省察と改善の態度

(出典：本学ホームページ<http://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/diploma/faculty/education.html>)

2 組織の特徴や特色

(1) 全学教育機構と学部

本学は8学部で構成され県内5キャンパスに分散している。本学部は長野市にあり、大学本部施設、全学の共通教育を行う全学教育機構（以下「機構」）は松本キャンパスにある【資料教6, 7, 8】。

**資料教 6：キャンパス配置図**



(出典：信州大学ホームページ「交通・キャンパス案内」)

**資料教 7：全学教育機構の概要****全学教育機構とは**

全学教育機構は、信州大学が定める教育上の基本方針に基づき、本学の共通教育（各学部が編成する教育課程のうち、本学学生に対する教養教育、基礎教育及び日本語・日本事情に係る教育について、全学協力体制のもとに、全学共通に行う教育）及び教職関係5学部（人文学部、理学部、工学部、農学部及び繊維学部）の教職教育（教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための教育）の実施機関として、各学部と緊密に連携し、全学的な見地から共通教育に係る教育課程の企画及び円滑な実施を図るとともに、本学が掲げる高度専門職業人養成の教育目標を達成するため、学部一貫教育を前提に本学の教育に関する研究開発、企画及び支援を総合的に行うことを目的としています。

**1 年次生は、全学部生が全学教育機構で学びます。**

信州大学は長野県内の5つのキャンパスに8学部が散在していますが、全学部の1年次（医学部医学科は2年次まで）は、松本キャンパスの全学教育機構に集い、共通教育科目を受講します。

**全学の教育力を結集した共通教育を実施します。幅広い教養と基礎的能力を獲得できます。**

信州大学の共通教育は、全学教育機構の教員とともに、全学部の教員が当然の責務として行うという全学協力体制に立脚しています。これにより、学生は、全学教員の専門知識を生かした、いわば大学の総力を結集した科目を学ぶことが可能になります。信州大学は、幅広い教養と基礎的能力に基づく課題探求能力、豊かな人間性や国際性をもった人材育成を目指しております。

（出典：信州大学全学教育機構ホームページ「全学教育機構とは」）

**資料教 8：信州大学学則**

（教育課程の編成方針）

第42条 各学部は、本学、当該学部及び学科又は課程等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、体系的に教育課程を編成するものとする。

2 教育課程の編成に当たっては、学部等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮するものとする。

（授業科目の区分）

第43条 本学で開設する授業科目は、その内容により共通教育科目及び専門科目に分ける。

（出典：信州大学規程集）

**(2) 学部の特徴**

学部の沿革・特徴は以下のとおりである【資料教9,10】。

**資料教 9：教育学部沿革**

明治6年	(1873年)	筑摩県師範講習所を設置
明治6年	(1873年)	長野県師範講習所を設置
明治7年	(1874年)	筑摩県師範学校に改称
明治8年	(1875年)	長野県師範学校に改称
明治35年	(1902年)	松本女子師範学校を設置
大正7年	(1918年)	長野県実業補習学校教員養成所を設置
昭和10年	(1935年)	長野県立青年学校教員養成所を設置
昭和18年	(1943年)	長野師範学校男子部を設置
昭和18年	(1943年)	長野師範学校女子部を設置
昭和19年	(1944年)	長野青年師範学校を設置
昭和24年	(1949年)	信州大学教育学部を設置
平成3年	(1991年)	大学院教育学研究科（修士課程）を設置
平成7年	(1995年)	生涯スポーツ課程を設置
平成11年	(1999年)	教育カウンセリング課程を設置

（出典：「ミッションの再定義に基づく教育研究の高度化・機能強化」）

資料教 10：教育学部の特徴

教育学部の特徴		教育学部の理念
平成 26 年度に文部科学省との間に策定されたミッションの再定義では、教員養成分野は長野県教育委員会等とのさらなる連携により、地域密接型を目指す大学として義務教育諸学校に関する地域の教員養成機能の中心的役割を担っている。		
教育学部の構成		「臨床の知」 ↓ ○入学時から卒業時まで教育実践を豊富に体験する場を体系的に設けている。 ○専門的な素養を身につけるための授業科目を開設している。 ○授業の中でも自然教育、野外教育、環境教育を大切にしており、子どもたちにとっても欠かせない「自然」というフィールドを存分に生かして、暮らしながら学ぶことを可能にしている。
区分	課程名	
学校教員養成	・学校教育教員養成課程 ・特別支援学校教員養成課程	
地域スポーツ・野外教育指導者養成	生涯スポーツ課程	
心理専門職養成	教育カウンセリング課程	

(出典：自己点検評価委員会作成)

① 附属学校園・附属施設

本学部は、6つの附属学校園と3つの附属施設を有する【資料教11】。

資料教 11：教育学部の附属学校園、附属施設

・附属学校園

長野・松本二つのキャンパスに、幼・小・中・特別支援学校が、全部で六校園設置されている。学部学生が、教育実習や演習において、児童生徒と直に向き合いその内面理解に努めながら、学部で学んだ教育学・教育方法の具体的実践を通して、「臨床の知」を学ぶ場である。各校園では、子どもが自ら課題意識をもち、対象と深く関わる中で意欲的に学ぶ教育のあり方を求めて研究を重ね、毎年公開研究会を通して、その成果を発表・発信している。また、赴任した教員の研鑽の場でもあり、各校園で力をつけた教員が県下各地に戻り、中核となって活躍している。

・附属教育実践総合センター

附属教育実践総合センターは、「人間」「実践」「情報」の三分野からなり、4人の専任教員が所属している。「スクールカウンセラー実習」「教育実習事前・事後指導」「コンピュータ利用教育」などの授業を担当し、実践的指導力を持った教員の養成ならびに現職教員の研修に寄与することを目的に、様々な研究・教育活動を行っている。

・附属志賀自然教育研究施設（志賀自然教育園）

志賀高原の気候は北海道の平地とほぼ同じで、そこにひろがる約1000ha（東京ドーム約200個分）の亜高山帯針葉樹林は日本有数の原生林として上信越高原国立公園の特別保護地区に指定されている。信州大学志賀自然教育園はその保護区内にあり、動植物の生態学や地球科学の重要な野外研究の場となっている。同時に、資料館、ロックガーデン、自然観察路をそなえ、だれもが気軽に豊かな自然に触れられるようになっている。

・附属図書館教育学部図書館

信州大学附属図書館教育学部図書館は、地域に開かれた大学図書館として一般市民も利用できる。

## 教育学部の附属施設一覧

教育学部附属施設名称	所在地（市町村）
附属幼稚園	松本市桐1丁目3番1号
附属長野小学校	長野市南堀77番地1
附属長野中学校	長野市南堀109番地
附属松本小学校	松本市桐1丁目3番1号
附属松本中学校	松本市桐1丁目3番1号
附属特別支援学校	長野市南堀109番地
附属志賀自然教育研究施設 （志賀自然教育園）	長野県下高井郡山ノ内町志賀高原
附属教育実践総合センター	長野市西長野6-1
附属図書館教育学部図書館	長野市西長野6-1

（出典：大学概要抜粋他）

## ② e-Learning（eALPS システム）の活用

本学は、“eALPS”を導入しており、以下のとおり活用している【資料教12】。

## 資料教12：eALPS システムについて

eALPS（e-Advanced Learning Platform in Shinshu University）は、2007年度より提供している信州大学の、電子ファイル教材の掲載、学生からの課題提出及びその状況確認や評点管理、授業コース毎の学生へのメール配信等、e-Learning に利用している教育支援のためのシステムで、Moodle というオープンソースの LMS(Learning Management System)を使用しています。HTML などの知識がなくても授業科目のコースサイト（ホームページ）を作成することができ、対面授業の補完やオンライン学習のツールとして多くの先生方にご利用いただいています。

eALPS では主に、以下のような9つの機能を提供しています。教材を活用して自習し、学生や教員と意見交換し、課題を提出したり、テストに挑戦するといった能動的な学習を支援します。

お知らせの掲載	教員は、コース（授業科目）のトップページに連絡事項などを記載することにより、eALPS を学生への通知の手段として利用することができます。
資料の配布	教員は、eALPS 上に PDF などのファイルを置き、学生は、それをダウンロードして予復習に利用することができます。
課題の提示と提出	eALPS 上に課題ファイルを提出させることができます。提出状況を一覧にして表示したり、評点やコメントをつけることも可能です。
掲示板で情報交換	eALPS 上に掲示板を作り、教員と学生、または学生同士が意見交換することができます。投稿した意見に評点をつけることも可能です。
アンケート調査	eALPS 上でアンケート調査を行い、理解度を測ったり要望をまとめることが可能です。回答内容を分析したり、Excel ファイルに保存することも可能です。
オンラインテスト	eALPS 上でテストを行うことができます。自動採点して結果を Excel ファイルに保存したり、評点ごとの学生数をグラフ表示できます。
成績の管理	eALPS 上での活動に評点をつけ、それを集計して成績評価に利用することができます。ペーパーテストの結果と合わせて管理することもできます。
受講生にメール送信	その科目を履修している学生全員または選択的にメールを送ることができます。
受講生のアクセス状況の把握	受講生がいつ eALPS のコースにアクセスしたか、eALPS 上でどのような活動を行ったかを表示できます。

（出典：e-Learning センターICT活用支援部門作成 eALPS 入門）

③ 遠隔講義システム (SUNS)

7ヶ所に分散するキャンパス間、長野および松本の附属学校園が以下のネットワークで接続されている【資料教13】。

資料教 13：高速高信頼学内ネットワーク・信州ユビキタネットシステム(SUNS)接続概要

高速高信頼学内ネットワーク概要

高速高信頼学内ネットワークとは

2007年度末までキャンパス間回線は 1Gbpsでしたが、新SUNSなどのシステムの需要を賄うべく、2Gbpsという広帯域を実現する機器 (WDM) を導入しました。

2010年度から2012年度までにはさらに需要に応じた『高速高信頼学内ネットワークシステム』が整備され、回線速度も最大20Gbpsと、大幅に増強されました。

整備内容

- ・キャンパス間の回線増強
- ・キャンパスCS (センタースイッチ) 整備
- ・キャンパス内建物間光回線工事
- ・ネットワーク管理システム整備
  
- ・長野 (教育) キャンパス、松本キャンパス、伊那キャンパスの建物スイッチ整備
- ・長野 (工学) キャンパス、上田キャンパスの建物スイッチ整備



高速高信頼学内ネットワーク 接続概要

信州ユビキタネットシステム (SUNS) 概要

信州ユビキタネットシステム (SUNS) とは  
(Shinshu Ubiquitous- Net System)

主として信州大学の各キャンパス間及び長野県内の大学間で講義・会議を共有することができる遠隔講義・会議システムです。

本学は8学部が5キャンパスに分散しているという特異な設置状況に置かれていますが、遠隔講義・会議システムを用いた25年以上に及ぶ遠隔教育の実績と、基礎教育及び、IT大学・大学院のe-Learningの実績があります。

単なる講義を一方向的に流す授業では得られない教育効果の上がる遠隔講義の方法や、受講する学生がストレスを生じない講義方法など、遠隔講義のノウハウは豊富に蓄積されています。

平成21年度からは長野県内の大学が参加している「高等教育コンソーシアム信州」においても利用されています。

学部にとらわれず、いつでもどこでも自由に授業を受けられるシステム基盤であり、学内遠隔会議にも利用されています。

旧SUNS

信州大学画像情報ネットワークシステム (Shinshu University Video and Data Network System)

長野県内5キャンパスに分散している本学を、美ヶ原中継局を中心としてマイクロ波無線回線 (19Mb/s) により、一元的に結んだ同時多重中継可能なネットワークシステムで、昭和63年から本稼働しました。

各キャンパス間で画像、データ、内線電話などのマルチメディア情報交換に利用されました。

平成9年度から平成11年度には、大画面の8面マルチモニタを利用した講義室も設置されました。

新SUNS

信州ユビキタネットシステム (Shinshu Ubiquitous- Net System)

光ケーブルを利用したギガビットイーサネットワークによる学内LANを基盤とした遠隔講義・会議システムで、平成19年度から3年計画で整備して平成21年度に完成しました。

システムがある各講義室・会議室は、高画質なハイビジョン画像で映像を見ることができます。

平成22年度から平成24年度に整備された「高速高信頼学内ネットワーク」がSUNSシステムのネットワーク基盤となりました。

(出典:総合情報センターHP)

(3) カリキュラムの特色

本学は、共通教育科目と専門科目で教育課程を編成している。

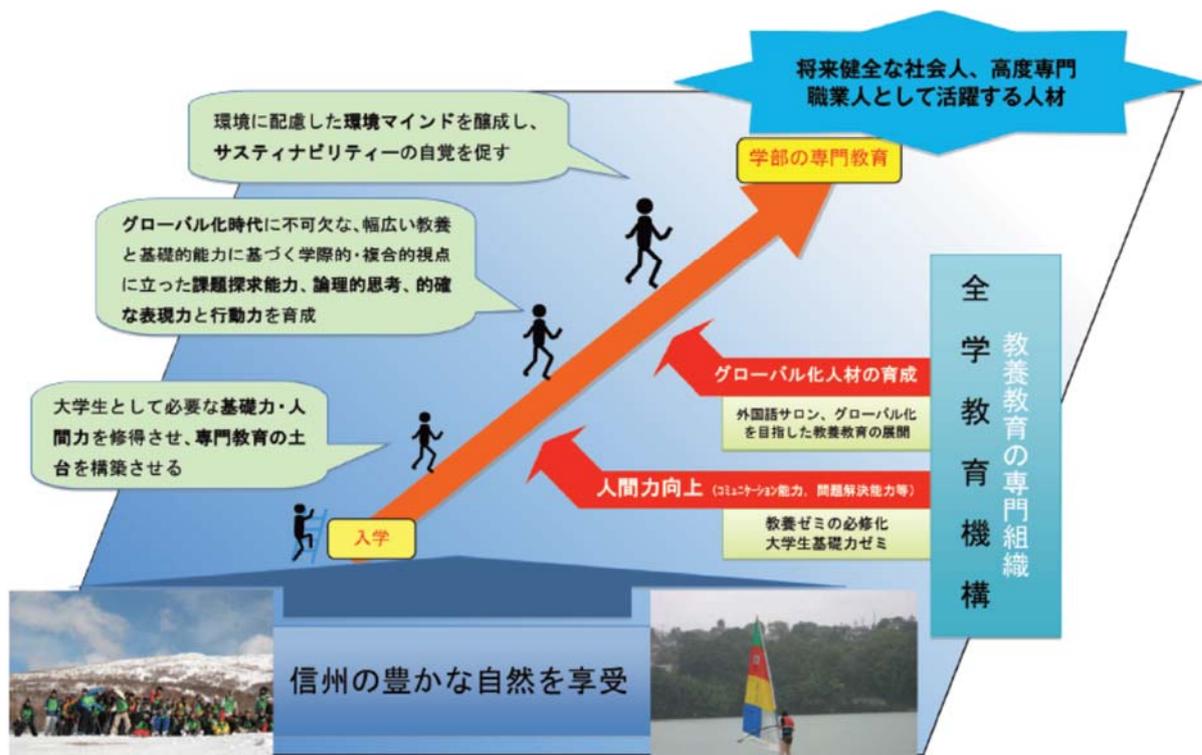
① 共通教育科目

主に1年次が受講する共通教育科目は、様々な学問領域に関する授業が開講されている【資料教14, 15】。

資料教14：共通教育の概要

学部の専門教育に進み、将来健全な社会人、高度専門職業人として活躍する人材を育成するため、幅広い教養と基礎的能力に基づく課題探求能力、豊かな人間性や国際性の修得及び人間力向上を目指す。

特に、環境に配慮した意識と生活者としての環境マインドを醸成し、サステナビリティの自覚を促す。さらに、グローバル化時代を生きる新しい世代に不可欠な、学際的・複合的視点に立って自ら課題を探求し、論理的に物事をとらえ、自らの主張を的確に表現しつつ行動していくことができる能力を育成する。



(出典：冊子「ミッションの再定義に基づく教育研究の高度化・機能強化」)

資料教15：共通教育科目区分一覧

教養科目：学部・学科（課程）を越えた全学生の素養として必要な科目	
教養講義	信州大学の理念・目的に沿って、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するための教養科目
教養ゼミナール	
基礎科目：大学教育（学部一貫教育）の基礎となる科目	
外国語科目	全学生に共通に必要な科目
健康科学科目	
新入生ゼミナール科目	
基礎科学科目	複数の学部で基盤となる科学について共通教育で開講する科目
日本語・日本事情	
日本語・日本事情科目	外国人留学生のために開講する科目
専門入門科目	
専門入門科目	学部の専門科目として開講され、他学部生は教養科目として履修できる科目

(出典：経営企画課作成)

② 専門科目

②-1 長野県の地域特性を踏まえたカリキュラム

長野県の要望を受け、平成24年度より「小・中学校一種」の両教育職員免許状取得を義務化した【資料教16, 17, 18】。

資料教16：県教委から教育学部への教員養成に関わる要望

県教委から教育学部への教員養成に関わる要望

- 1 小中両免の取得  
(小学校の再編の問題も含め、小・中の9年間でどのように子どもたちを育てるか、また地域ごとのブロック採用についても検討を始めている。そのような点から小学校・中学校の両免許状を持つ教員が必要な状況である。)
- 2 理数教科に強い小学校教員の養成  
(小学校における理数離れと、理数をしっかりと教えられない教員の問題があり、教員養成段階で対応を考えて欲しい。)
- 3 中学校複数教科免許の取得(特に、家庭、技術、美術、音楽)  
(少子化による学校規模の縮小により、特に技能系教科の教員を単独の1免許状では採用できない状況にある。)

(出典：平成22年6月18日「長野県教育委員会・信州大学教育学部の打ち合わせの概要」より抜粋)

資料教17：「小・中学校一種」の両教育職員免許状取得義務化の経緯

長野県の要望

過疎地域において小・中学校の両方を担当できる教員確保



長野県教育委員会の方針

- 中学進学を境に学校生活になじめなくなる「中1ギャップ」への対応など、小中学校の連携を促進するため小中学校間の教員人事交流を重視
- 教員採用試験の募集案内・採用選考要項に複数校種の免許を有することが望ましいと明記



教育学部の対応

- 平成24年度から「小学校一種」及び「中学校一種」の両教育職員免許状取得を卒業要件として義務化するカリキュラムの改定を実施
- 地域の教育関係者の期待に応える形として、学校種単位ではなく義務教育全体における子どもの育ちを連続的に見通せる教員の養成

(出典：自己点検評価委員会作成)

資料教 18：卒業要件免許状

3) 「主免」・「副免」

- 卒業要件とする免許状のことを「主免」といいます。
- 学校教育教員養成課程の現代教育コースの学生は、卒業要件として小学校教員の1種免許状取得（「主免(小)」）が義務づけられています。学校教育教員養成課程（現代教育コースを除く）の学生は、卒業要件として小学校及び中学校教員の1種免許状取得（「主免(小)」，「主免(中)」）が義務づけられています。
- 特別支援学校教員養成課程の学生は、卒業要件として特別支援学校教員1種免許状と、小学校教員の1種免許状の取得が義務づけられています。この場合、特別支援学校教員の免許状を「主免(特)」と呼び、小学校教員の免許状を「主免(小)」(旧「基礎免」)と呼び区別します。
- これとは別に、学校教育教員養成課程及び特別支援学校教員養成課程の学生が主免以外に取得しようとする免許状を「副免」といいます。また、生涯スポーツ課程及び教育カウンセリング課程の学生は、卒業要件とは別に免許状を取得することができますが、これも便宜的に「副免」と呼びます。
- なお、学校教育教員養成課程（現代教育コースを除く）の学生は、教育実習Ⅰを小学校あるいは中学校のどちらで行うのかを1年次の指定された期日（11～12月）に届け出る必要があります。ただし、教育実習校の受け入れ人数との関係で調整をすることがあります。学校教育教員養成課程・現代教育コースと特別支援学校教員養成課程の学生は、教育実習Ⅰを小学校で行います。（「V. 教育実習 5. 教育実習の対象学生」(p.174～175)を参照）  
また、生涯スポーツ課程及び教育カウンセリング課程の「副免」も、1年次の指定されて期日（11～12月）に届け出る必要があります。同様に調整をすることがありますが、主免（旧「基礎免」を含む）の学生を優先して調整します。

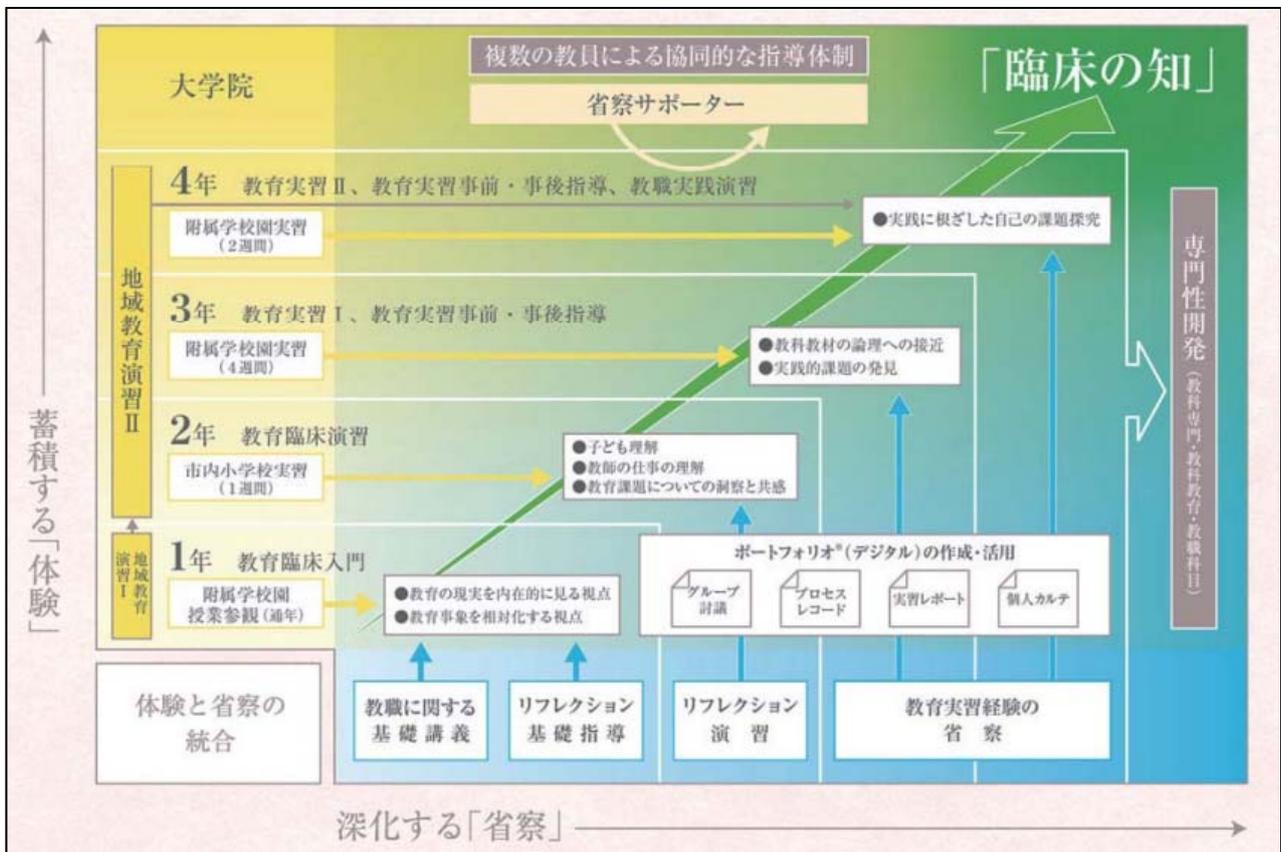
(出典：平成27年度本学教育学部学生便覧p.23)

②-2 「臨床の知」の獲得に向けたカリキュラム

以下に示すカリキュラムを展開している【資料教19】。

資料教 19：「臨床の知」の獲得に向けたカリキュラムの図

教育理念として掲げた「臨床の知」の獲得に向けた臨床経験科目群をカリキュラムプランとして位置づけることにより「省察力(経験から学ぶ力)」を養成するとともに、小学校の全教科を偏りなく履修させるなどして「教科指導力」の定着に傾注していることも特色の1つである。



(出典：教育学部ホームページ「臨床の知」(教育理念)(PDF)から抜粋)

平成24年度よりカリキュラムを改定し、教育組織名称も変更された【資料教20】。

資料教20：H24カリキュラム改定以降の教育課程・コース

新旧対照表 (改組前と改組後)	
改組前	改組後
学校教育教員養成課程	教育実践科学専攻 → 現代教育コース
	言語教育専攻 → 国語教育コース
	言語教育専攻 → 英語教育コース
	社会科学教育専攻 → 社会科教育コース
	理数科学教育専攻 → 数学教育コース
	理数科学教育専攻 → 理科教育コース
	芸術教育専攻 → 音楽教育コース
	芸術教育専攻 → 図画工作・美術教育コース
	保健体育専攻 → 保健体育コース
	生活科学教育専攻 → ものづくり・技術教育コース
生活科学教育専攻 → 家庭科教育コース	
特別支援学校教員養成課程	障害児教育専攻 → 特別支援学校教員養成課程
生涯スポーツ課程	地域スポーツ専攻 → 地域スポーツコース
	野外教育専攻 → 野外教育コース
教育カウンセリング課程	心理臨床専攻 → 教育カウンセリング課程

(出典：教育学部案内2012より)

平成24年度以降の教育組織と課程・コースは、平成11年から続いた学校教育教員養成課程の「7専攻11分野」から、「11コース」に整理統合した。

(4) 入学者の状況

入学定員に対する志願倍率の推移を【資料教21】に示した。

資料教21：志願倍率（一般選抜）の推移



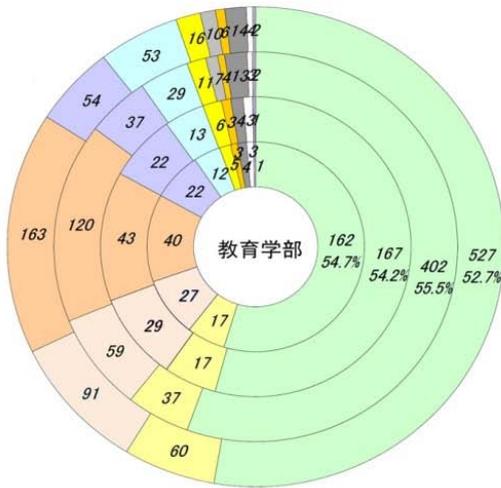
(出典：経営企画課作成)

18歳年齢層の減少による「大学全入時代」にもかかわらず、第2期(平成22年度以降)に入っても、平均倍率4.3倍を示しており、第1期末と比較し、漸増傾向にあるといえる。

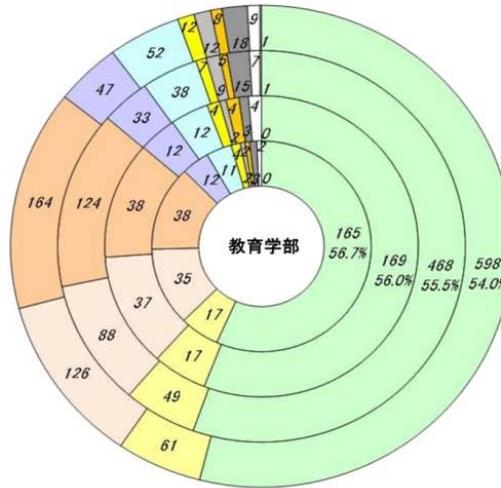
本学部の出身地別の志願者数、受験者数、合格者数、入学者数は【資料教22】のとおりである。

資料教22：地域別志願者数、受験者数、合格者数、入学者数

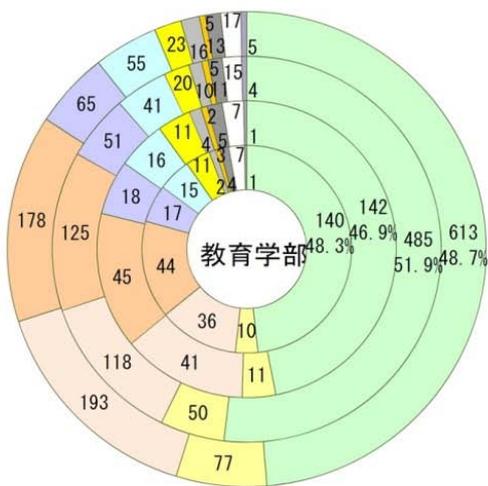
平成21年度



平成23年度



平成26年度



凡例

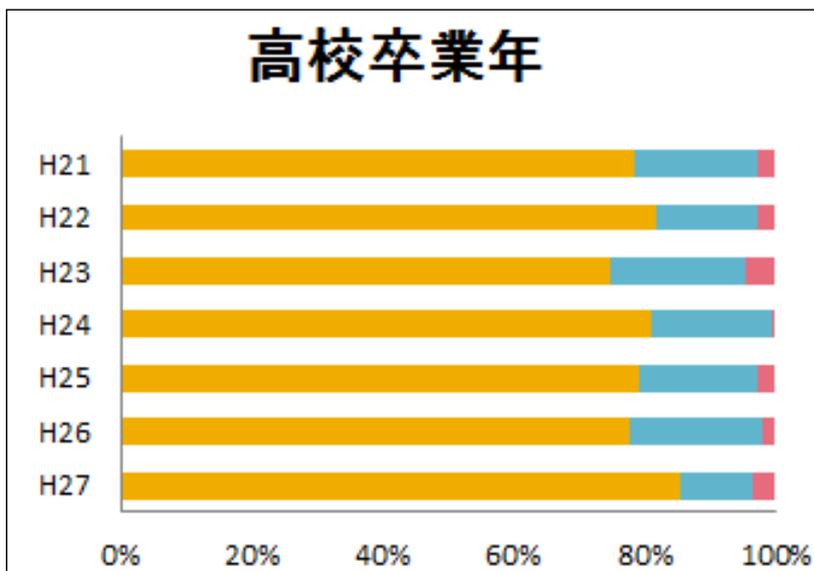
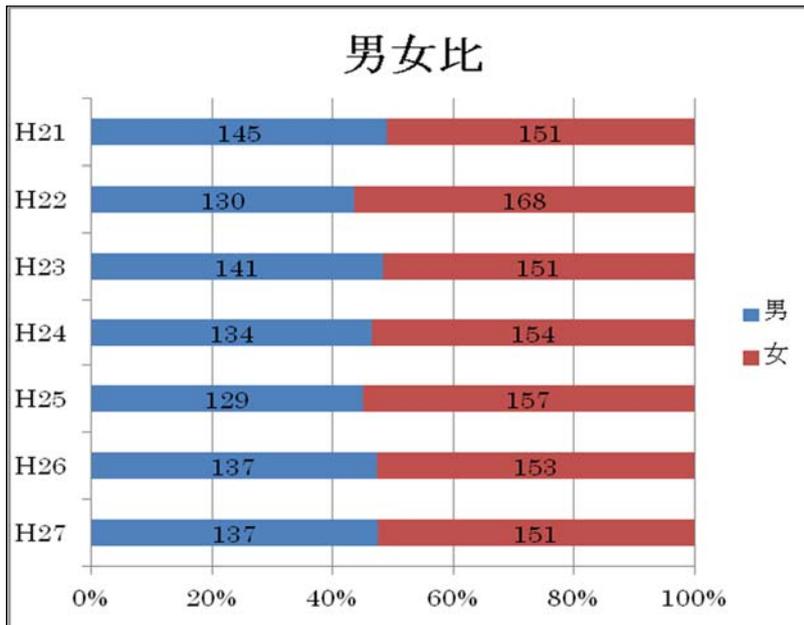
- |         |       |
|---------|-------|
| 最外周：志願者 | 長野    |
| 第2周：受験者 | 甲越    |
| 第3周：合格者 | 関東    |
| 最内周：入学者 | 東海    |
|         | 北陸    |
|         | 近畿    |
|         | 東北    |
|         | 中国    |
|         | 四国    |
|         | 九州・沖縄 |
|         | 北海道   |
|         | その他   |

平成26年度の内訳をみると、図中外側から順に、志願者数、受験者数、合格者数、入学者のいずれにおいても長野県からの人数がおよそ半数を占めており、長野県における地域密接型の様相が読み取れる。一方で、北は北海道から、南は九州・沖縄までの幅広い地域からの受験者も見受けられる。

(出典：経営企画課作成資料)

入学者の男女比、高校卒業年別入学者率は【資料教23】のとおりである。

資料教23：男女比、高校卒業年別入学者率



	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
■新卒	232	244	218	233	227	225	246
■前年卒	56	46	60	53	51	59	32
■その他	8	8	13	2	8	6	10

(出典：経営企画課作成)

入学定員及び募集人員は【資料教24】のとおりである。

課程等		入学定員	募集人員				
			一般選抜		推薦入試	社会人	私費外国人留学生
			前期日程	後期日程			
学校教育 教員養成 課程	現代教育コース	220	20	4	10		若干
	国語教育コース		13	3	4		若干
	英語教育コース		7	3	6		若干
	社会科教育コース		16	3	6		若干
	数学教育コース		18	3	4		若干
	理科教育コース		15	5	5		若干
	音楽教育コース		8	4	4		若干
	図画工作・美術教育コース		9	2	3		若干
	保健体育コース		9	3	3		若干
	ものづくり・技術教育コース		8	4	2		若干
	家庭科教育コース		10	3	3		若干
	小計		133	37	50		
特別支援学校教員養成課程		20	10	5	5		若干
生涯スポーツ 課程	地域スポーツコース	25	7	3	7	若干	若干
	野外スポーツコース		3	2	3	若干	若干
	小計		10	5	10		
教育カウンセリング課程		15	13	2			若干
計		280	166	49	65		

(出典：信州大学平成27年度入学者選抜要項抜粋)

[想定する関係者とその期待]

在学生およびその保護者、ならびに受験生

- 学校教育の現場で実践力と省察力を備えた教員として活躍していくための学修。

地域社会及び地域の教育関係機関

- いじめや不登校、学級崩壊、基礎学力の低下等、多様な教育現場での課題対応ができる学校教員あるいは教育に関わる専門家の養成。
- 過疎地域において小・中学校の両方を担当できる教員の養成、また、現職教員の再教育の場としての機能（長期研修制度や免許状更新講習など）。
- 生涯学習に対する地域社会からの要請。

II 「教育の水準」の分析・判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育実施体制

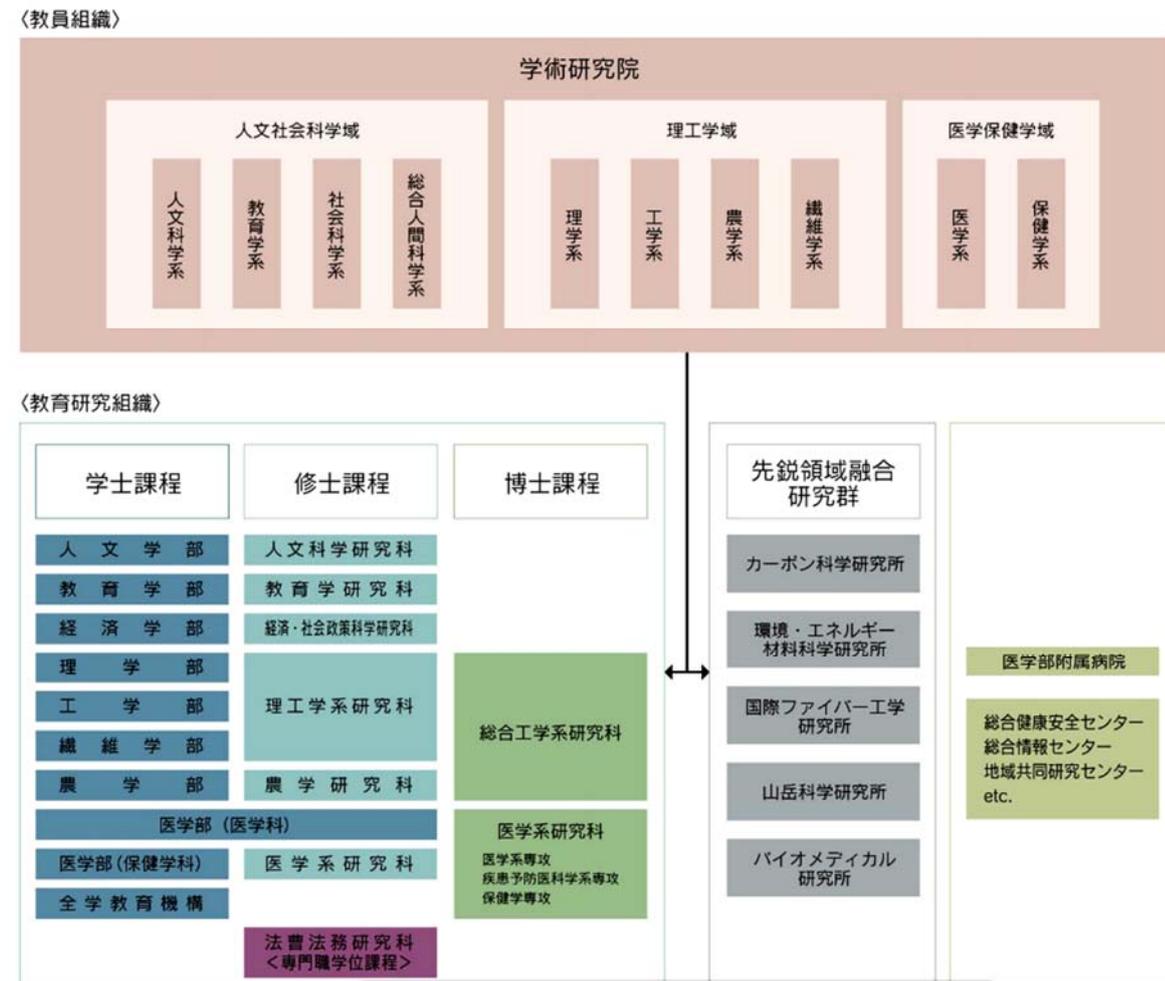
(観点に係る状況)

1 教員組織および教育体制

(1) 学術研究院、全学教育機構と学部との関係

教員の流動性を確保し、全学的な教育、研究マネジメントを可能とするため、教員組織として学術研究院を平成26年度に設置した。また、学士課程の共通教育科目を担当する教育組織として全学教育機構を設置している【資料教25】。

資料教 25：学術研究院と学部との関係



学術研究院は、3の学域・10の学系により構成する。すべての教員は、いずれかの学系に所属し、職務として次のいずれかに携わる。(複数の兼務もあり)

- 1) 学部・大学院、全学教育機構において、教育・研究に携わる。
- 2) 医学部附属病院において、診療・教育・研究に携わる。
- 3) 先鋭領域融合研究群において、研究に携わる。
- 4) 大型研究センター(拠点形成型の外部資金プロジェクト)において、研究に携わる。
- 5) 各教育研究(支援)センター等において、担当業務に携わる。

これにより、先鋭領域融合研究群の研究者への研究重点環境の提供や学部横断型の教育を実現し、研究の高度化や時代の要請に柔軟かつスピーディーに対応した教育を推進する。

(出典:「大学概要 2015」をもとに経営企画課作成)

(2) 教員の配置状況

専任教員は、各コースの教育目標を達成するために適切に配置している【資料教 26】。

資料教 26：教員配置表（平成 27 年 10 月現在）

所 属	教 授	准 教 授	講 師	助 教	計
言語教育	酒井 英樹	岩男 考哲		田中真由美	11
	高橋 渉	金子 史彦		友田 義行	
	西 一夫	小林比出代			
	藤森 裕治	田中 江扶			
		八木雄一郎			
社会科学教育	阿久津昌三	駒村 哲		篠崎 正典	10
	石澤 孝	関 良徳		中谷 惣	
	牛山 佳幸	藤崎 聖也			
	廣内 大助				
	松本 康				
数学教育	松岡 樂	小松孝太郎		松澤 泰道	6
	宮崎 樹夫	昆 万佑子			
		茅野 公徳			
理科教育	榊原 保志	井田 秀行			10
	天谷 健一	伊藤 冬樹			
	別府 桂	神原 浩			
	三崎 隆	坂口 雅彦			
	村松 久和	竹下 欣宏			
技術教育	佐藤 運海	川久保 英樹			4
	西 正明				
	村松 浩幸				
家庭科教育	高崎 禎子	福田 典子			5
	松岡 英子				
	三野たまき				
	山岸 明浩				
音楽教育	池田 京子	小野 貴史		桐原 礼	7
	齊藤 忠彦	田島 達也			
	中島 卓郎	吉田 治人			
美術教育	岡田 匡史	猪瀬 昌延		大島 賢一	6
	間島 秀徳	小野 文子		蛭田 直	
スポーツ科学教育	岩田 靖	三條 俊彦	橋本 政晴	藤田 育郎	11
	寺沢 宏次	友川 幸			
	平野 吉直	渡辺 敏明			
	結城 匡啓				
	渡邊 伸				
	和田 哲也				
教育科学	越智 康詞	青木 一		茅野 理恵	16
	高橋 知音	小池 浩子		林 寛平	
	田中 敏	島田 英昭		森下 孟	
	徳井 厚子	高橋 史		安達 仁美	
	伏木 久始	高柳 充利			
		藤井 善章			
		水口 崇			
特別支援教育	小島 哲也		宮地弘一郎		3
	永松 裕希				
志賀自然教育 研究施設				※ 水谷 瑞希	1
教育実践総合 センター	上村恵津子	鈴木俊太郎			4
	東原 義訓	谷塚 光典			
合 計	43	35	2	14	94

※ 承継外教員（特定有期雇用教員）  
（任期 H27. 4. 1-H30. 3. 31）

（出典：教育学部教員名簿）

本学部は、コースごとに担任を配置し、1年次生には、クラス副担任として機構の教員を配置し、修学指導を行っている【資料教 27】。

## 資料教27：平成27年度クラス担任及び1年次生クラス副担任の配置状況

課程	コース	クラス担任 (1～3年生)	副担任(全学教育機構) (1年生)
学校教育 教員養成 課程	現代教育コース	1	1
	国語教育コース	1	
	英語教育コース	1	
	社会科教育コース	1	1
	数学教育コース	1	
	理科教育コース	1	
	音楽教育コース	1	1
	図画工作・美術教育コース	1	
	保健体育コース	1	
	ものづくり・技術教育コース	1	
	家庭科教育コース	1	1
特別支援学校教員養成課程		1	
生涯スポーツ 課程	地域スポーツコース	1	
	野外教育コース		
教育カウンセリング課程		1	

(出典：学生便覧をもとに自己点検評価委員会にて作成)

## (3) 共通教育の実施体制

共通教育は、機構を中心に全学協力体制のもと、学長が最終責任を負う体制により実施している【資料教28, 29, 30】。

## 資料教28：信州大学全学教育機構規程

(目的)

第2条 機構は、信州大学（以下「本学」という。）が定める教育上の基本方針に基づき、本学の共通教育（各学部が編成する教育課程のうち、本学学生に対する教養教育、基礎教育及び日本語・日本事情に係る教育について、全学協力体制のもとに、全学共通に行う教育をいう。以下同じ。）及び教職関係5学部（人文学部、理学部、工学部、農学部及び繊維学部をいう。以下同じ。）の教職教育（教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための教育をいう。以下同じ。）の実施機関として、各学部と緊密に連携し、全学的な見地から共通教育に係る教育課程の企画及び円滑な実施を図るとともに、本学が掲げる高度専門職業人養成の教育目標を達成するため、学部一貫教育を前提に本学の教育に関する研究開発、企画及び支援を総合的に行うことを目的とする。

(全学協力体制等)

第3条 共通教育及びこれを履修する学生（以下単に「学生」という。）の修学指導は、全学協力体制により実施するものとし、各学部は、その実施体制の管理及び運営に責任を負うとともに、本学のすべての教員は、その構成員として共通教育の実施及び学生の修学指導を担当することを任務とする。

2 機構は、前条の目的を達成し、次条に定める業務を遂行するため、附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センターその他の関係部局（以下「関係部局」という。）と有機的に連携するとともに、関係委員会等と緊密に連携協力する。

(共通教育企画実施部)

第10条 機構に、共通教育企画実施部を置く。

2 共通教育企画実施部は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 共通教育に係る教育課程の企画及び立案に関すること。
- (2) 共通教育の授業担当者の選任に関すること。
- (3) 共通教育の授業の実施に関すること。
- (4) 専門科目と共通教育との実施上の調整に関すること。
- (5) 高年次共通教育及び日本語・日本事情に係る留学生教育の企画及び調整に関すること。

(共通教育修学支援部)

第11条 機構に、共通教育修学支援部を置き、学生の学習支援その他の修学支援に関する業務を行う。

2 共通教育修学支援部に、修学支援部門を置く。

3 共通教育修学支援部に責任者を置き、副機構長（修学支援担当）をもって充てる。

(クラス副担任)

第16条 修学支援部門に、各学部のクラス担任を補佐するため、クラス副担任を置く。

2 クラス副担任は、機構の専任教員が担当し、当該学部のクラス担任との密接な連携を図るものとする。

(教授会)

第 17 条 機構に、信州大学学則(平成 16 年信州大学学則第 1 号)第 25 条第 2 項の定めるところにより、信州大学全学教育機構教授会(以下「教授会」という。)を置く。

2 教授会に関し必要な事項は、別に定める。

(運営会議)

第 18 条 機構に、機構の運営に関する具体的事項を審議するため、信州大学全学教育機構運営会議(以下「運営会議」という。)を置く。

2 運営会議は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

一 機構長

二 副機構長

三 基幹教育センター長及び言語教育センター長

四 共通教育企画実施部の各教育部門長及び修学支援部門長並びに教職教育部副責任者

五 その他機構長が必要と認める者

3 運営会議に議長を置き、機構長をもって充てる。

4 議長は、運営会議を主宰する。

5 学長は、必要又は機構長の要請に応じて、運営会議に出席し、審議に参加するとともに、共通教育及び機構の組織の運営に関する事項を、運営会議に提示し、審議を求めることができる。

6 運営会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。

一 共通教育の企画及び実施並びに修学支援に関する事項

二 機構の運営組織に関する事項

三 基幹教育センター及び言語教育センターの人事方針(採用人事方針を含む。)に関する事項

四 教職教育部の業務に関する事項

7 運営会議は、必要に応じて、その審議結果を教授会に報告するものとする。

(学長及び共通教育推進会議)

第 19 条 共通教育の実施に係る最終責任は、学長が負う。

3 国立大学法人信州大学共通教育推進会議(以下「共通教育推進会議」という。)は、必要に応じて、又は教授会の要請に応じて、機構の組織、運営に係る重要事項を審議する。

4 学長及び共通教育推進会議は、共通教育に関する基本的事項について、教授会に提案することができる。この場合において、教授会は、これを尊重するものとする。

(出典：信州大学規程集)

## 資料教 29：国立大学法人信州大学共通教育推進会議規程

(趣旨)

第 1 条 この規程は、国立大学法人信州大学組織に関する規則(平成 17 年国立大学法人信州大学規則第 5 号)第 16 条の 2 第 2 項の規定に基づき国立大学法人信州大学(以下「本法人」という。)に設置する国立大学法人信州大学共通教育推進会議(以下「共通教育推進会議」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(職務)

第 2 条 共通教育推進会議は、本法人が設置する信州大学(以下「本学」という。)の次の各号に掲げる重要な事項について審議するほか、全学教育機構と各学部との連携協力及び連絡調整を円滑に行うことを職務とする。

(1) 共通教育の企画及び実施並びに修学支援の実施に関すること

(2) 共通教育カリキュラムの策定及び改定に関すること

(3) 共通教育の実施における全学的な支援に関すること

(4) 全学教育機構の運営に関すること

(5) その他共通教育の実施に関すること

(組織)

第 3 条 共通教育推進会議は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

(1) 学長

(2) 教務担当の理事

(3) 全学教育機構長

(4) 高等教育研究センター長

(5) 学部長又は副学部長のうちのいずれか 1 名

(6) その他学長が必要と認める者

(議長)

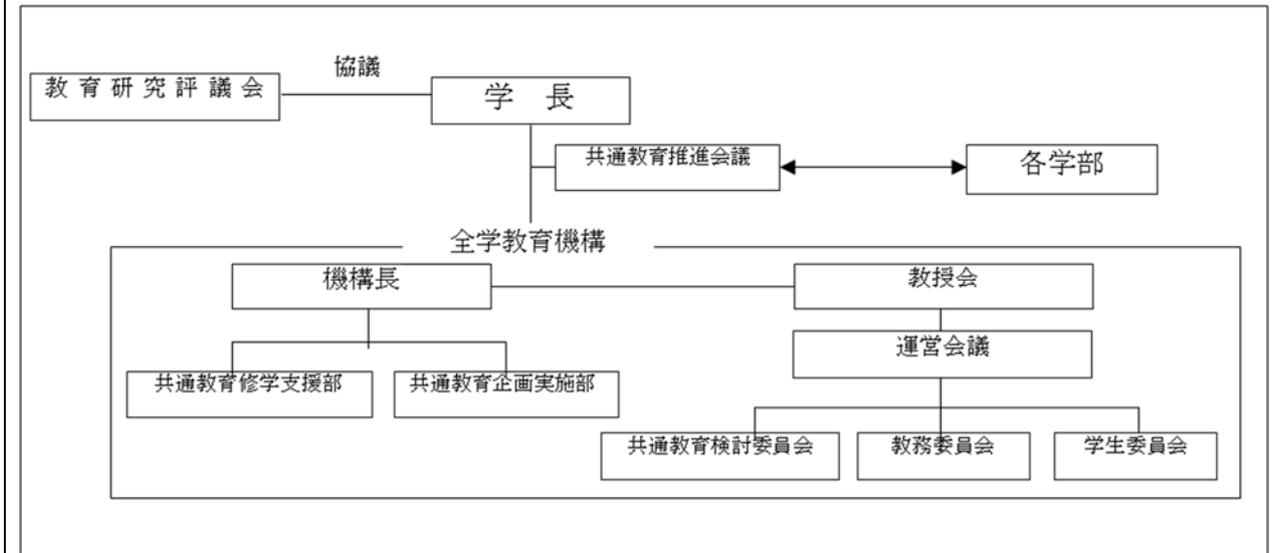
第 4 条 共通教育推進会議に議長を置き、学長をもって充てる。

2 議長は、共通教育推進会議を主宰する。

3 議長に事故があるときは、第 3 条第 2 号に規定する理事が、その職務を代行する。

(出典：信州大学規程集)

## 資料教30：共通教育科目の教育体制



(出典:経営企画課作成)

## 2 教育支援体制

## (1) 事務による支援体制

学務課、学生支援課、国際交流課を設置し、全学的な教育課程、課外活動、就職、留学に関する業務を行っている【資料教 31, 32】。

## 資料教 31：国立大学法人信州大学業務執行組織規程

(学務部の業務分掌)

第 25 条 学務部の学務課においては、次の業務をつかさどる。

- (1) 学務部内の事務に関し、連絡し、及び総合調整を行うこと。
- (2) 庶務及び会計に関すること。
- (3) 入学式その他学生の諸行事に関すること。
- (4) 学生関係職員の SD(スタッフ・デベロップメント)に係る企画・立案及びその実施に関すること。
- (5) 全学(本法人が設置する信州大学大学院(以下「大学院」という。)を除く。)の教務に関すること。
- (6) 学生の学籍その他の記録に関すること。
- (7) 学位の授与に関すること。
- (8) 教育課程(大学院を除く。)に係る目標及び計画の連絡調整に関すること。
- (9) 他の大学等との単位の互換(大学院を除く。)に関すること。
- (10) 全学の学務情報システムに関すること。
- (11) 出前講座に関すること。
- (12) 諸会議(大学院委員会を除く。)の連絡調整に関すること。
- (13) 信州大学学術研究院(以下「学術研究院」という。)の総合人間科学系に係る事務に関すること。
- (14) 全学教育機構、教育・学生支援機構、高等教育研究センター、e-Learning センター、環境マインド推進センター(環境施設部の所掌に属するものを除く。)及び教員免許更新支援センター(教育学部の所掌に属するものを除く。)の業務執行及び運営に関すること。
- (15) 前各号に掲げるもののほか、学務部の他の所掌に属しない事務を処理すること。

2 学務課の共通教育支援室においては、次の業務をつかさどる。

- (1) 共通教育の授業支援に関すること。
- (2) 共通教育の教務に関すること。
- (3) 学生の学習相談及び修学指導に関すること。
- (4) 共通教育に係る点検・評価に関すること。
- (5) 共通教育推進会議等の諸会議の連絡調整に関すること。
- (6) 環境マインド教育支援に関すること。

3 (省略)

4 学務部の学生支援課においては、次の業務をつかさどる。

- (1) 学生総合支援センターの業務執行及び運営に関すること。
- (2) 学生相談センターの業務執行及び運営に関すること。
- (3) キャリアサポートセンターの業務執行及び運営に関すること。

5 学務部の入試課においては、次の業務をつかさどる。

- (1) 入学者の選抜に関し連絡し、及び総合調整を行うこと。
- (2) 入学者選抜方法の改善に関し企画立案を行うこと。
- (3) 学生募集に関すること。

- (4) アドミッションセンターの業務執行及び運営に関すること。  
 (5) 前各号に掲げるもののほか、入学者の選抜に関する事務を処理すること。  
 6 学務部の国際交流課においては、次の業務をつかさどる。  
 (1) グローバル教育推進センターの業務執行及び運営に関すること。(研究支援課の国際学术交流室が所掌する業務を除く。)  
 (2) 松本国際交流会館の業務執行及び運営に関すること。  
 (3) 前各号に掲げるもののほか、教育活動に係る国際交流に関する事務を処理すること。  
 (出典:信州大学規程集)

資料教 32：学務課、学生支援課、国際交流課の職員数

	学務課	学生支援課		国際交流課
			うちキャリアサポートセンター	
事務職員	20	11	3	6
事務補佐員	12	4	2	5
臨時用務員	1			
専門職員	1			
技術補佐員	5			
技能補佐員		1		
シニア雇用職員	4	1		
コーディネータ		1		6
合計	43	18	5	17

平成 28 年 1 月 18 日現在

(出典：経営企画課作成資料)

全学的な教育活動を展開するために附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センター、e-Learning センターに専門的知識技能を有する職員を、また学部・研究科に教育活動を展開するために必要な職員をそれぞれ配置している【資料教 33, 34】。

資料教 33：附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センター、e-Learning センター職員数

区分	附属図書館	総合健康安全センター	総合情報センター	e-Learning センター
長野キャンパス(教育)	9	1	-	2

平成 28 年 2 月 1 日現在

(出典:経営企画課作成資料)

資料教 34：学部・研究科の学務担当の職員数

教育学部  
教育科学研究科

17

平成28年2月1日現在

(出典：経営企画課作成)

(2) ティーチング・アシスタント (TA) による教育補助体制

教育補助者として、TA を雇用している【資料教 35, 36, 37】。

資料教 35 : 「信州大学ティーチング・アシスタント (TA) 実施要項 (抜粋)」

教育補助者として雇用した TA を、実験、実習及び演習等の教育補助業務などに活用している。

信州大学ティーチング・アシスタント実施要項

(目的)

第 2 TA は、本学大学院の優秀な学生に対し、教育的配慮の下に教育補助業務を行わせ、これに対する手当支給により、当該学生の処遇の改善に資するとともに、大学教育の充実及び指導者としてのトレーニングの機会提供を図ることを目的とする。

(身分)

第 3 TA は、非常勤職員とする。

(職務内容)

第 4 TA は、学部学生、修士課程の学生及び博士前期課程の学生に対する実験、実習及び演習等の教育補助業務に従事する。

(出典：信州大学ティーチング・アシスタント実施要項)

資料教 36 : 教育学部における TA 採用数

年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
TA 採用数	33	43	37	42	46	34

(出典：教育学部総務グループ庶務係)

資料教 37 : 教育学部における TA の業務内容

部局名	授業時間内の業務内容								授業時間外の業務内容					その他の業務内容
	A	B	C	D	E	F	G	H	a	b	c	d	e	
教育学部	○	○	○				○	○	○	○		○	○	

授業時間内の業務内容

A. 資料の配付    B. 機器の操作    C. 出欠の管理    D. 試験監督補助    E. 討論への参加

F. 学生の質問への対応    G. 実験・実習などの実演    H. 発声・会話の指導

授業時間外の業務内容

a. 資料のコピー、保存    b. 教室のメンテナンス(空調、照明、施錠等)

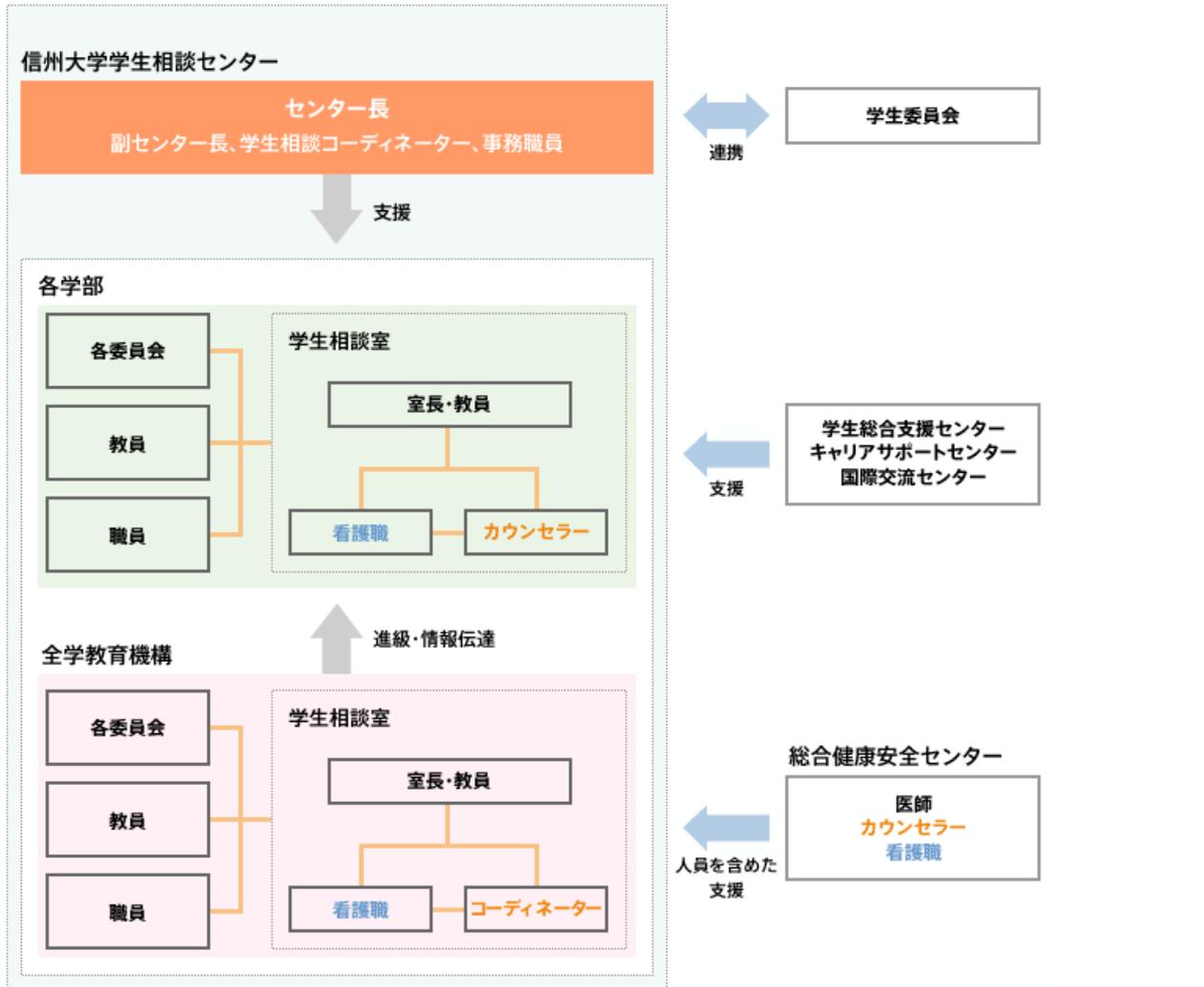
c. レポート課題の作成・採点補助    d. 教材の作成補助    e. 実験・実習の準備

(出典：各学部等のデータを基に経営企画課にて作成)

(3) 学生相談体制の整備

平成 24 年度に全学組織となる学生相談センターと、各学部・キャンパスに、あらゆる相談を受け付ける学生相談室が設置された【資料教 38】。

資料教 38：学生相談センター及び学生相談室



## 専門窓口と連携し対応します。

相談内容に応じて、学内外の専門機関(窓口)と連携を取ります。



(出典: 信州大学学生相談センターホームページ「センターについて」)

## (4) 学生への経済的な就学支援

経済的な就学支援について、全学的に以下の制度を設けている【資料教 39】。

**資料教 39：経済的な就学支援制度**

- ① 入学料免除・徴収猶予制度【資料教 40, 41】
- ② 授業料免除・徴収猶予・月割分納・成績優秀学生授業料免除【資料教 42, 43, 44】
- ③ 奨学金【資料教 45】
- ④ 信州大学知の森基金・信州大学知の森基金入学サポート奨学金【資料教 46, 47】

(出典：経営企画課作成)

## ① 入学料免除・徴収猶予制度【資料教 40, 41】

**資料教 40：入学料免除制度**

本学入学者（研究生、聴講生等の入学者を除く）について、選考の上、入学料の全額又は半額を免除する制度

○申請要件：

**【学部入学者】**

1. 入学前 1 年以内において、学資負担者（※申請者の学資を主として負担している方）が亡くなった場合、又は申請者もしくは学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより、入学料の支払いが著しく困難であると認められる場合。
2. 1 に相当する事情と認められる場合。

(出典：本学ホームページ)

○本学部の支援者数

	H22	H23	H24	H25	H26	H27
支援者数	0	0	0	0	0	0
申請数	0	0	0	0	0	1

(出典：教育学部学務グループ学務係作成)

**資料教 41：入学料徴収猶予制度**

本学入学者（研究生、聴講生等の入学者を除く）について、選考の上、入学料の支払期限を一定期日まで延期する制度

○申請要件：

1. 経済的理由により支払期限までに入学料の支払いが困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合。
2. 入学前 1 年以内において、学資負担者が亡くなった場合、又は申請者もしくは学資負担者が風水害等の災害を受け、支払期限までに入学料の支払いが困難であると認められる場合。
3. その他やむを得ない事情があると認められる場合。

○入学料徴収猶予の期限

4 月入学 9 月末日まで

10 月入学 翌年 2 月末日まで

(出典：本学ホームページ)

○本学部の支援者数

	H22	H23	H24	H25	H26	H27
支援者数	0	7	0	1	0	1
申請数	0	7	0	1	0	1

(出典：教育学部学務グループ学務係作成)

② 授業料免除・徴収猶予・月割分納・成績優秀学生授業料免除【資料教 42, 43, 44】

**資料教 42：授業料免除制度**

選考の上、その期の授業料の全額又は半額を免除する制度。本学が定める家計基準及び学力基準の双方を満たした者であり、授業料免除予算の範囲内で免除者を決定する。

申請要件：

1. 経済的理由により授業料の支払いが困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合。
2. 授業料の各期の納期（前期：4月1日、後期：10月1日）前6か月以内（新入学者は、入学した日の属する学期分の申請については入学前1年以内）において、学資負担者（※注）が死亡し、又は申請者本人もしくは学資負担者が風水害等の災害を受けたなどの特別な理由により、授業料の支払いが著しく困難であると認められる場合

（出典：本学ホームページ）

○本学部の支援者数

	H22		H23		H24		H25		H26		H27	
	前期	後期										
全学免除者数	17	15	5	8	20	18	56	37	49	59	83	71
半額免除者数	121	129	164	157	139	150	102	139	104	110	60	77
申請数	158	159	192	186	208	227	187	209	193	211	183	192

（出典：教育学部学務グループ学務係作成）

**資料教 43：授業料徴収猶予、月額分納制度**

選考の上、その期の授業料の徴収を一定期日まで延期、もしくは授業料を月ごとに分割して支払うことができる制度。本学の学生（研究生、聴講生等を除く）が、次のいずれかに該当する場合は、選考の上、その期の授業料の支払期限を一定期日まで延期する制度（徴収猶予）・その期の授業料を月ごとに分割して支払う（月額分納）ことができる。

申請要件：

1. 経済的理由により支払期限までに授業料の支払いが困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合。
2. 申請者または学資負担者が風水害等の災害を受けるなどやむを得ない事情により授業料の支払いが支払期限までに困難であると認められる場合。

（出典：本学ホームページ）

○本学部の支援者数

【徴収猶予】

	H22		H23		H24		H25		H26		H27	
	前期	後期										
支援者数	0	0	1	1	2	2	2	2	1	1	1	1
申請数	0	0	1	1	2	2	2	2	1	1	1	1

【月額分納】

	H22		H23		H24		H25		H26		H27	
	前期	後期										
支援者数	0	0	2	0	0	0	3	1	2	2	1	1
申請数	0	0	2	0	0	0	3	1	2	2	1	1

（出典：教育学部学務グループ学務係作成）

**資料教 44：成績優秀学生授業料免除**

学業成績が特に優れ、かつ、人物優秀であると認められる学生に対して、当該年度の後期分授業料の全額を免除する制度。選考基準等は学部・研究科により異なる。

(出典：「信州大学教育学部成績優秀学生授業料免除候補者選考に関する申合せ」より抜粋)

## ○学部（研究科）選考基準

(被推薦者数)

第2 成績優秀学生として推薦する者は、取扱要項第5に基づく人数とする。

(被推薦者の資格)

第3 被推薦者となることのできる者は、次の各号に該当する者とする。ただし、国費外国人留学生及び外国政府派遣留学生を除く。

- 一 取扱要項第2に該当する4年次生とし、選考時において93単位以上を修得している者
- 二 最短修業年限を超えていない者（ただし、休学・留学など特別な事由により最短修業年限を超えている場合は対象とすることができる。）
- 三 本学部において成績優秀学生として授業料免除を受けたことがない者

(選考手続き)

第4 各コース等は、成績優秀学生候補者1名の推薦書を提出する。

2 学業成績については、前年度までに修得した単位の評定平均値により、評価するものとする。評定平均値は以下の式により算出する。

$$\frac{(\text{「秀」の単位数} \times 4) + (\text{「優」の単位数} \times 3) + (\text{「良」の単位数} \times 2) + (\text{「可」の単位数} \times 1)}{\text{総修得単位数}}$$

3 人物については、各コース等において評価するものとする。

(決定)

第5 学生部会は、各コース等から提出された推薦書等の内容に基づき審議の上、成績優秀学生を決定し、教授会の承認を得るものとする。

## ○本学部の該当者数

	H22	H23	H24	H25	H26	H27
該当者数	9	9	9	9	9	9

(出典：教育学部学務グループ学務係作成)

## ③奨学金【資料教 45】

**資料教 45：奨学金**

日本学生支援機構による奨学制度について、奨学金の募集、採用決定手続、説明会に関するお知らせ、各種の連絡事項について、学部の奨学金掲示板、学生総合支援センター掲示板、本学ホームページにより周知するとともに、学生総合支援センター（学生支援課）および学部事務室（学務係）において相談体制を構築し、学生を支援している。

○制度名：日本学生支援機構奨学金

○概要

経済的理由により修学が困難であり、学業成績が一定の基準を満たす学生に対し、学資として奨学金を貸与する。

## ○本学部の利用者数

	H22	H23	H24	H25	H26	H27
利用者数	373	369	384	393	382	350

(出典：教育学部学務グループ学務係作成)

④ 「信州大学知の森基金」、「信州大学知の森基金入学サポート奨学金」【資料教 46, 47】

**資料教 46：「信州大学知の森基金」**

本学は、学生の修学環境の整備および活動の支援を目的とする「信州大学知の森基金」を平成 25 年度に設けた。

○目的、寄附金の使途等

信州大学知の森基金は、教育、研究、社会連携、人材育成等を通じ、地域に根ざした大学として社会に貢献するために行う事業に資することを目的として発足しました。本基金は、本学全体の活動を広く支援する「一般基金」と、使途を限定して特定の活動を支援する「特定基金」で構成され、企業・団体や個人の皆様など多くの方々からのご支援をお願いしております。

○一般基金

知の森基金 奨学金事業（学生に対する奨学支援）

・入学サポート奨学金

大学進学を希望しながら、学業優秀であるが経済的理由により進学を断念せざるを得ない高校生に対して、入学時に必要となる学資の一部を支援します。

・大学院奨学金

優秀な若手研究者に対して、授業料など学費の一部を支援します。

知の森基金 グローバル人材育成支援

学生の海外活動支援（短期・長期）

・グローバル人材育成のために、学生の海外における活動（交換留学、私費留学、海外インターンシップ、海外ボランティア、研究留学 等）の活動費を支援します。

・外国人留学生への経済支援

意欲的で優秀な質の高い留学生に対する奨学金を支援します。

（出典：信州大学ホームページ「信州知の森基金 寄付の使途」）

○各年度末の基金の残高

	H25	H26	H27
金額(円)	158,303,732	180,887,635	192,759,727

（出典：経営企画課作成）

**資料教 47：信州大学知の森基金入学サポート奨学金**

「信州大学知の森基金」を原資として、本学へ入学を希望する、学業優秀な高校生等に対して、経済的理由により本学への進学を諦めることのないよう、入学時に必要な学資の一部を奨学金として給付して支援することを目的として、平成 26 年度に設けた。

○概要

金額：40 万円とし、一時金として給付（返済不要）

採用者数：20 人以内

選考方法：本学への入学意欲、家計状況、学業成績を総合的に審査し、決定する。

○対象者（平成 27 年度入学者の場合）

次のいずれにも該当する者

（1）日本の高等学校又は中等教育学校を平成 28 年 3 月卒業見込みで、かつ、評定平均値 3.5 以上の者。

（2）本学の一般入試（前期日程）に出願を予定し、合格した場合には、入学することを確約できる者。

（3）世帯の平成 26 年分の収入\*1 の合計が 400 万円以下（所得\*2 の場合は 200 万円以下）である者。

（出典：本学ホームページ）

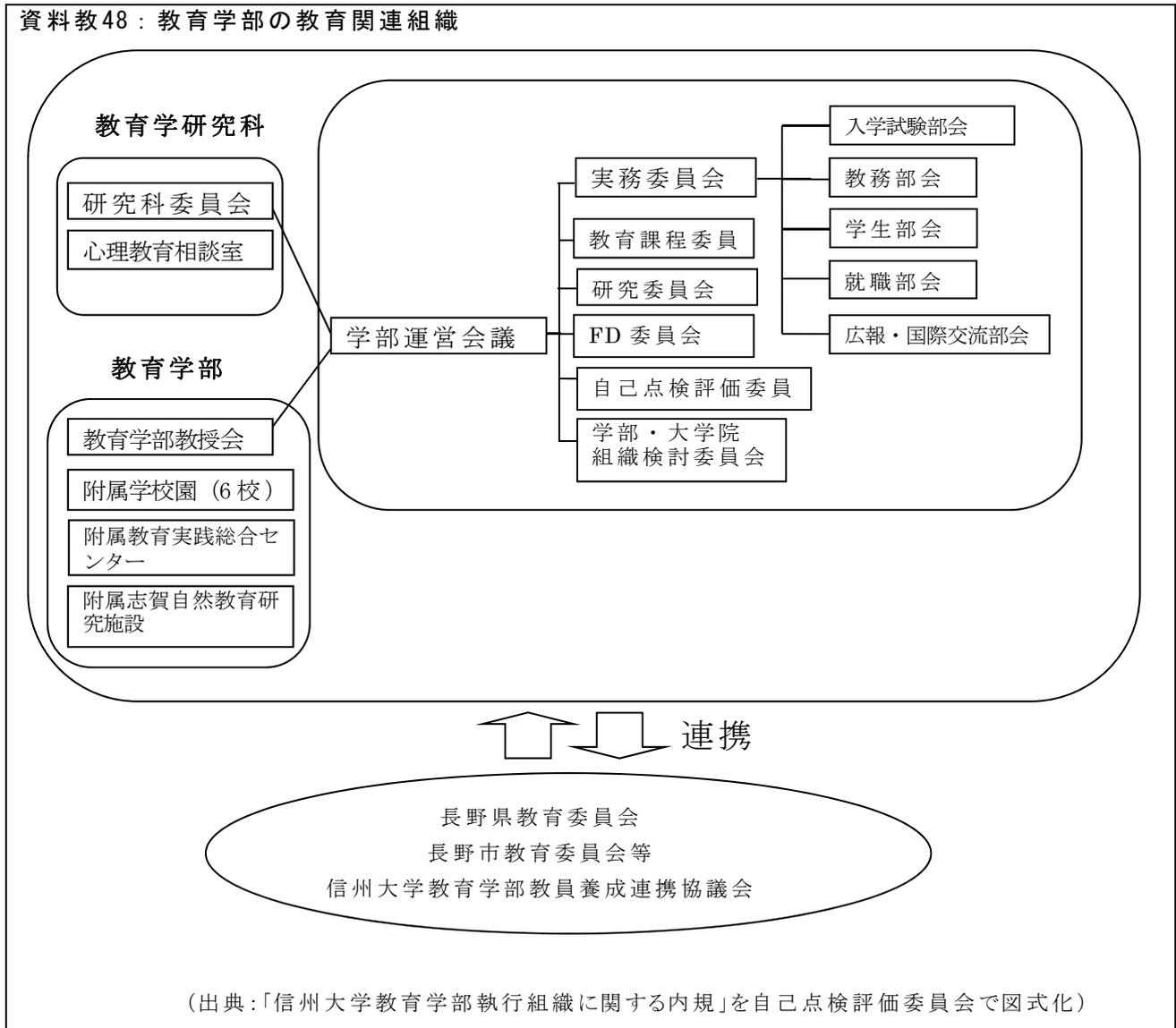
○本学部の利用者数

	H27 入学
利用者数	0

（出典：教育学部学務グループ学務係作成）

3 教育内容・教育方法の改善に取り組む体制

本学部では、以下に示す委員会を設置し、教員の教育力向上を図っている【資料教48】。



(1) 学部内の授業改善に向けた PCDA サイクル

本学部では、授業改善、カリキュラム改善を図るため、各方面からのニーズをアンケート、意見聴取等を行い、教員の意識改革を促すPDCAサイクルとして機能させている【資料教49, 50, 51】。

資料教 49：関係者のニーズ把握

対象	実施方法	頻度	実施組織
新入生・保護者	アンケート	毎年1回	広報国際交流部会
学生(2~4年生)	授業改善アンケート	毎年2回	教育課程委員会
学生(4年生)	満足度調査	毎年1回	自己点検評価委員会
卒業生	卒業生懇談会	H25.6	
雇用主・企業等	アンケート	H21.11 H27.4	自己点検評価委員会
「尚学会」 (保護者会)	各支部総会での 意見・要望聴取	毎年1回	就職部会, 学生部会
地域	意見聴取	年に数回	教育学部と長野県教育委員会との連絡協議会
		年に数回	教育学部と長野市教育委員会との連絡協議会
		年に数回	教育学部教員養成連携協議会

(出典：自己点検評価委員会作成)

資料教50：授業改善アンケート設問一覧（平成26年度前期）

「授業改善アンケート」設問一覧

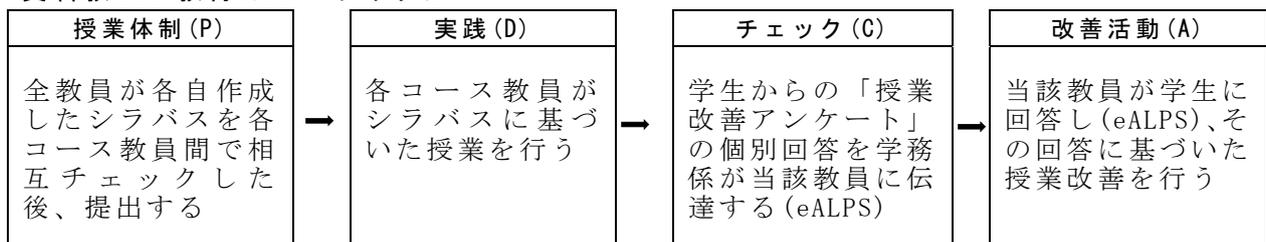
開設年度：平 26 開講期間：前期 授業種別：講義, 演習, 外国語, 実験・実習, 体育実技, e-Learning

番号	設 問	回答種別
1	全体的に見て、授業の内容は、授業によって達成しようとしている目標に、ふさわしいものであったと思いますか	一般回答(6択)
	授業内容は、達成しようとしている目標にふさわしかったか	
2	この授業はシラバスから大幅に逸脱することなく実施されたと思いますか	一般回答(6択)
	シラバスから大幅に逸脱せず実施されましたか	
3	この授業の達成目標である、探求の仕方・姿勢、知識や技術などを、あなた自身は獲得できたと思いますか	一般回答(6択)
	探求の仕方・姿勢、知識や技術などを、獲得できましたか	
4	この授業について、改善すべきと思うことがありましたら書いてください	自由記述
	改善すべきと思うことがありましたら書いてください	
5	この授業について、教員が良い工夫をしていると感じられるものを書いてください	自由記述
	この授業について、教員が良い工夫をしていると感じられるものを書いてください	
6	この授業の講義内容は、教員や相談員、指導者などの専門的な知識や技能を高めるうえで役に立ったと思いますか	一般回答(6択)
	教員などになるための専門的な知識や技能を高めるうえで役に立ったと思いますか	
7	この授業によって、教職や希望する職種に対する意欲を高めることができましたか	一般回答(6択)
	教職など希望する職種に対する意欲を高めることができましたか	

(出典：自己評価点検委員会作成)

学部内の教育課程委員会が中心となり、学生が履修した授業科目の内、1 教員につき 1 科目について、授業改善アンケートを実施している。

資料教51：教育のPDCAサイクル

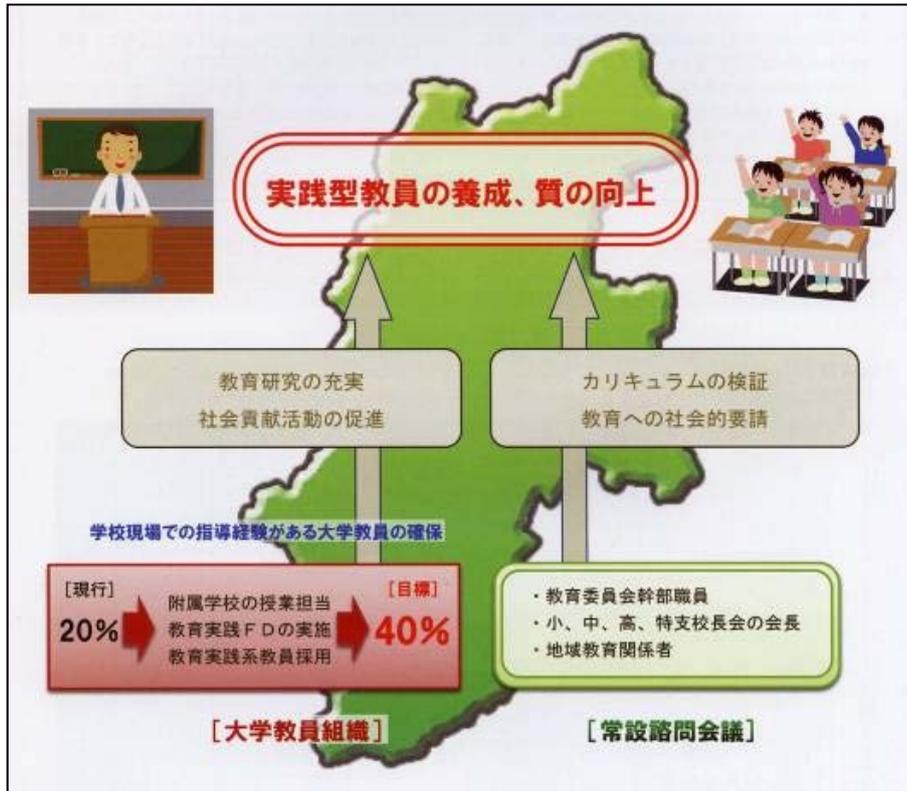


(出典：自己点検評価委員会作成)

(2) 長野県教育委員会との連携強化

地域の教育委員会と連携してミッションの再定義に基づく教育研究の高度化、機能強化を図っている【資料教 52】。

資料教 52：ミッションの再定義に基づく教育研究の高度化・機能強化



文部科学省との間で策定されたミッションの再定義では、教員養成分野は長野県教育委員会等との連携により、地域密接型を目指す大学として義務教育諸学校に関する地域の教員養成機能の中心的役割を担うこととなった。  
 長野県における教育研究や社会貢献活動等を通じて我が国の教育の発展・向上に寄与することを基本的な目標とし、実践型教員養成機能への質的転換を図ろうとしている。

(出典:信州大学, 2014)

長野県教育委員会との連絡協議会の設置【資料教 53, 54】、諮問会議「信州大学教育学部教員養成連携協議会」の設置【資料教 55, 56, 57】、実務家教員の採用【資料教 58】により、教員養成の充実を図っている。

資料教 53：長野県教育委員会との連絡協議会設置要綱と平成 22 年度会議次第

<p>「信州大学教育学部と長野県教育委員会との連絡協議会」設置要綱</p> <p>(設置の趣旨)</p> <p>第1 長野県の教育の発展と教育水準の向上及び教員養成の充実等を図るため、信州大学教育学部(以下「教育学部」という。)と長野県教育委員会(以下「教育委員会」という。)との間で自由な意見交流を行い、相互の連携を深めるため、「教育学部と教育委員会との連絡協議会」(以下「連絡協議会」という。)を設置する。</p> <p>(組織)</p> <p>第2 連絡協議会は、次に掲げる委員をもって構成する。</p> <p>(1)「教育学部」学部長、副学部長(3名)、附属学校園長(2名)、附属教育実践総合センター長</p> <p>「教育委員会」教育長、教育次長(2名)、教育総務課長、義務教育課長、高校教育課長、特別支援教育課長、教学指導課長</p> <p>(2)教育学部長及び教育長が、意見交流のテーマ・内容等により、必要と認めたる者。</p> <p>第3 連絡協議会の会長は、教育学部長がこれを務める。</p> <p>(会議)</p> <p>第4 連絡協議会の会議は、会長がこれを招集する。</p> <p>第5 連絡協議会は、原則として年1回、定期的開催する。ただし、必要に応じて随時開催することが出来る。</p> <p>(事務)</p> <p>第6 連絡協議会の事務は、教育学部庶務係が行う。</p> <p>(その他)</p> <p>第7 この申し合わせに定めるもののほか、連絡協議会の運営に関し必要な事項は、別に定める。</p>	<p>開催日：平成 22 年 12 月 20 日(月) 16 時 00 分～ 会場：教育学部第 1 会議室 参加者数：24 名</p> <p>議題等：</p> <p>協議事項</p> <p>1 信州大学教育学部の改組について</p> <p>(1) 改組の概要・特色、改組の進捗状況と今後の方向性(信大)</p> <p>(2) 将来教員になる人に向けたカリキュラムの充実(県教委)</p> <p>2 教職実践演習における信州大学教育学部と長野県教育委員会との具体的連携について</p> <p>(1) 教職実践演習への指導主事等の講師・評価者の派遣依頼(信大)</p> <p>(2) 教職実践演習における「フィールド実習」の場の提供依頼(信大)</p> <p>(3) 教職実践演習に関する実務者レベルの会議開催(県教委)</p> <p>3 学校教員の養成・採用・研修に関する今後の信州大学教育学部と長野県教育委員会の連携について</p> <p>(1) 教育学研究科(大学院)への現職教員の派遣(信大)</p> <p>(2) 教職大学院・教育職員免許法改正に関する国の動向について(信大)</p> <p>(3) 上記(1)、(2)等に関する実務者レベルの協議会設置(信大)</p> <p>(4) 信州大学教育学部附属学校園への研修教員の派遣について(信大)</p> <p>(5) 地域採用枠について(県教委)</p>
--	---

(出典：教育学部総務グループ庶務係)

※学部や大学院のカリキュラムの検証、養成する人材像、現場職員の再教育の在り方などについて定期的に意見交換を行う。

## 資料教 54：長野県教育委員会との連携会議一覧

第 11 回信州大学教育学部と長野県教育委員会との連絡協議会	
日時	平成 22 年 12 月 20 日 (月) 16 時 00 分～18 時 00 分
場所	信州大学教育学部 管理校舎 2 階第 1 会議室
議題	1. 信州大学教育学部の改組について 2. 教職実践演習における信州大学教育学部と長野県教育委員会との具体的連携について 3. 学校教員の養成・採用・研修に関する今後の信州大学教育学部と長野県教育委員会の連携について 4. 産学官連携キャリア教育推進事業における信州大学との連携について
第 12 回信州大学教育学部と長野県教育委員会との連絡協議会	
日時	平成 23 年 12 月 15 日 (木) 16 時 00 分～18 時 00 分
場所	信州大学教育学部 管理校舎 2 階第 1 会議室
議題	1. 信州大学教育学部の平成 24 年度改組について(信大) 2. 教職大学院を含めた教員養成制度の改革とその導入を見据えた実務家教員の採用について(信大) 3. 教員養成カリキュラムの充実について(県教委) 4. 教育振興基本計画策定にあたっての「教員の質の向上」について(県教委)
第 13 回信州大学教育学部と長野県教育委員会との連絡協議会	
日時	平成 24 年 12 月 17 日 (月) 16 時 00 分～18 時 00 分
場所	信州大学教育学部 管理校舎 2 階第 1 会議室
議題	1. 教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について(答申)(信大) 2. 大学入試センター試験の飯田会場新設について(県教委) 3. 学校・家庭・地域との連携等に係る社会教育、生涯学習の振興について(県教委)
第 14 回信州大学教育学部と長野県教育委員会との連絡協議会	
日時	平成 25 年 12 月 16 日 (月) 16 時 00 分～18 時 00 分
場所	信州大学教育学部 管理校舎 2 階第 1 会議室
議題	1. 今後の学部・大学院の改組等について(信大) 2. 教員採用について(県教委) 3. 栄養教諭の教員免許更新講座の開設について(県教委) 4. 教員研修体系について(県教委) 5. 附属学校園の現況と課題について(信大) 6. 教職実践演習について(信大) 7. 平成 26 年度公立学校教員採用選考状況について(県教委) 8. 平成 25 年度社会教育主事講習について(信大) 9. その他
第 15 回信州大学教育学部と長野県教育委員会との連絡協議会	
日時	平成 26 年 12 月 15 日 (月) 15 時 30 分～17 時 30 分
場所	信州大学教育学部 管理校舎 2 階第 1 会議室
議題	1. 信州大学教育学部・教育学研究科の改組について(信大) 2. 県の教員研修体系に係る附属学校園及び学部と県との連携について(信大) 3. 教員採用について(県教委) 4. その他
第 16 回信州大学教育学部と長野県教育委員会との連絡協議会	
日時	平成 27 年 12 月 18 日 (金) 15 時 30 分～17 時 00 分
場所	信州大学教育学部 管理校舎 2 階第 1 会議室
議題	1. 「信州大学教育学部と長野県教育委員会との連絡協議会」設置要項の一部改正について(信大・県教委) 2. 信州大学教育学部・教育学研究科の改組について(信大) 3. 県の教員研修体系に係る附属学校園及び学部と県との連携について～教職大学院の拠点化を踏まえて～(信大) 4. 教員養成改革について(県教委) 5. 平成 28 年度公立学校教員採用選考について(県教委) 6. その他

(出典：総務グループ庶務係のデータを基に自己点検評価委員会にて作成)

## 資料教 55 : 信州大学教育学部教員養成連携協議会要項

信州大学教育学部教員養成連携協議会要項	
（設置）	
第 1 信州大学教育学部に、信州大学教育学部教員養成連携協議会（以下「協議会」という。）を置く。	
（目的）	
第 2 協議会は、学部、大学院及び附属学校園の教員養成について、幅広く長野県教育関係者の意見を求め、その質の向上を図ることを目的とする。	
（組織）	
第 3 協議会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。	
一 学部長	
二 学部長の指名により選任された副学部長 1 名	
三 長野県教育委員会教育長	
四 長野市教育委員会教育長	
五 松本市教育委員会教育長	
六 長野県小学校長会会長	
七 長野県中学校長会会長	
八 長野県特別支援学校長会会長	
九 長野県高等学校長会会長	
十 長野県 P T A 連合会会長	
十一 信濃教育会会長	
（委員長及び副委員長）	
第 4 協議会に委員長及び副委員長を置き、委員長は、第 3 第 1 号に規定する者をもって充て、副委員長は、第 3 第 2 号に規定する者をもって充てる。	
2 委員長は、協議会を招集し、その議長となる。	
3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。	
（代理出席）	
第 5 やむを得ない事情により委員が出席できない場合は、その代理の者を出席させることができる。	
（構成員以外の出席）	
第 6 協議会が必要と認めるときは、協議会に構成員以外の者の出席を求め、その説明又は意見を聴くことができる。	
（開催）	
第 7 協議会は、原則として年 1 回開催する。ただし、必要に応じ、随時開催することができる。	
（教職大学院委員会）	
第 8 協議会のもとに、教職大学院委員会を置く。	
2 教職大学院委員会に関し必要な事項は、協議会が別に定める。	
（庶務）	
第 9 協議会の庶務は、教育学部事務部において処理する。	
（雑則）	
第 10 この要項に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会が別に定める。	
附 則	
この要項は、平成 26 年 4 月 1 日から実施する。	
附 則	
この要項は、平成 27 年 1 月 8 日から実施する。	

(出典：教育学部総務グループ庶務係)

※教育委員会の幹部職員や公立の連携協力校の長などが構成員となる常設の諮問会議「信州大学教育学部教員養成連携協議会」の設置により、教育への社会の要請を受けとめ、その質の向上を図る。

## 資料教 56 : 第 1 回信州大学教育学部教員養成連携協議会議題

第 1 回信州大学教育学部教員養成連携協議会	
日時	平成 27 年 1 月 23 日（金） 10 時 00 分～12 時 00 分
場所	信州大学教育学部 管理校舎 2 階第 1 会議室
議題	1. 信州大学教職大学院委員会内規（案）について 2. 信州大学教育学部・教育学研究科の改組について 3. 県の教員研修体系に係る附属学校園及び学部と県との連携について 4. その他

(出典：教育学部総務グループ庶務係)

## 資料教 57 : 第 1 回信州大学教育学部教員養成連携協議会出席者名簿

第1回信州大学教育学部教員養成連携協議会			
出席者名簿			
平成27年1月23日			
外部委員			
職名	氏名	備考1	会議
長野県教育委員会教育長	伊藤 学司	委員	○
長野市教育委員会教育長	堀内 征治	委員	○
松本市教育委員会教育長	吉江 厚	委員	○
長野県小学校長会会長	酒井 好和	委員	○
長野県中学校長会会長	柳澤 厚志	藤松委員代理	○
長野県特別支援学校長会会長	和田 英夫	委員	○
長野県高等学校長会会長	田中 正吉	委員	○
長野県PTA連合会会長	高澤 勇一	胡桃澤委員代理	○
信濃教育会会長	後藤 正幸	委員	○
長野県教育委員会義務教育課教育幹	塩野入 幸隆		○
長野県教育委員会教育総務課企画係担当係長	小澤 利彦		○
教育学部内委員ほか関係者			
職名	氏名	備考	会議
学部長	平野 吉直	委員長	○
副学部長	永松 裕希	副委員長	○
副学部長	田中 敏		○
長野地区附属学校長	藤森 裕治		○
松本地区附属学校園長	村松 久和		○
副校園長代表(附属長野小学校副校長)	畔上 一康		○
副校園長副代表(附属松本中学校副校長)	熊谷 邦千加		○
教職大学院設置準備室長	伏木 久始		○
教職大学院設置準備室副室長	酒井 英樹		○
教職大学院設置準備室副室長	上村 惠津子		○
事務長	北澤 三幸		○
事務長補佐	坂西 芳雄		○
事務長補佐	奥原 忠孝		○
主査(企画担当)	錦山 満		○
庶務係長	増田 靖子	事務担当者	○

(出典:教育学部総務グループ庶務係)

## 資料教 58 : 実務家教員に関する人事交流協定書

## 信州大学教育学部と長野県教育委員会の実務家教員に関する人事交流協定書

信州大学教育学部と長野県教育委員会とは、信州大学教育学部の実務家教員の人事に関し、以下のとおり交流することを協定する。

## (目的)

- 1 この交流協定は、信州大学教育学部と長野県教育委員会との密接な連携を基盤として、信州大学教育学部の実務家教員について、長野県教育委員会の協力により候補者を選定し、長野県教育委員会との人事交流により雇用することで、信州大学教育学部における教員の養成と教育研究の一層の発展と充実を図るとともに、長野県における有為な教員の養成と現職教員の更なる資質向上に資することを目的とする。

## (交流の内容)

- 2 信州大学教育学部の実務家教員について、長野県教育委員会は、その候補者の選定に協力する。
- 3 信州大学教育学部での雇用は、原則として3年間とする。
- 4 雇用期間が終了した者は、長野県教育委員会において再び任用するものとする。

## (人事交流の始期と終期)

- 5 人事交流は、4月1日を始期とし、3月31日を終期とする。

## (その他)

- 6 この協定の定める事項に疑義が生じた場合又はこの協定に定めのない事項で、双方が新たに定めることを必要と認める場合は、協議の上、決定するものとする。

この協定締結の証として、この協定書は2通作成し、双方が各1通を保有するものとする。

平成24年11月2日

信州大学教育学部長

平野吉直

長野県教育委員会教育長

山本 創



(出典:教育学部総務グループ庶務係)

※この協定に基づき、平成25年4月1日付で1名が採用され、平成27年3月31日まで3年間にわたり、臨床経験科目群、ICT教育等に携わった。

## (3) 教職コーディネーター配置

平成 25 年度から退職校長を教職コーディネーターとして 1 名採用し、学生の教員就職活動上の悩みの相談に応じる体制を整えた【資料教 59】。

## 資料教 59：教職相談チラシ

## 教職相談のお知らせ

教育学部では、平成 25 年 10 月から教職相談を実施しています。

みなさんからの教職に関するご質問に答えたり、不安や悩みの相談にのったりする教職経験の豊富な教職コーディネーターが、教育学部キャンパスに配属されています。

相談は予約制で、一人でもグループ（最大 3 名程度）でも構いません。また、学年も問いません。

一人でも多く教員として就職ができるよう、教職コーディネーターがみなさんをサポートしますので、是非この教職相談をご利用ください。

### 教職コーディネーター

北堀 宏（きたほり ひろし）氏

### 相談内容

教員採用試験への疑問、悩み  
 教員採用試験に向けた対策  
 教員採用試験（筆記・面接）での留意点や模擬面接指導  
 教員としての心構え  
 教員になってからの不安 など

### 相談日時

前期：H27.4.1～H27.8.31 のうち 月・水・金曜日（休日除く）  
 後期：H27.9.30～H28.2.3 のうち 水・金曜日（休日除く）  
 相談回数：1 日 8 回 10:00～ 10:45～ 11:30～ 12:15～  
 14:00～ 14:45～ 15:30～ 16:15～

### 相談場所

就職相談室（中校舎 1 階）

### 予約方法

学務係（中校舎 1 階）カウンターの予約簿に記入してください。  
 （電話予約もできます。☎026-238-4005）  
 予約時に教職相談用紙を受領し、記入のうえ相談時に提出してください。

教職以外の就職相談（公務員・民間等）も別途相談員が実施（原則毎週水曜日午後）しています。詳しくは、学務係までお問い合わせください。

教育学部就職部会

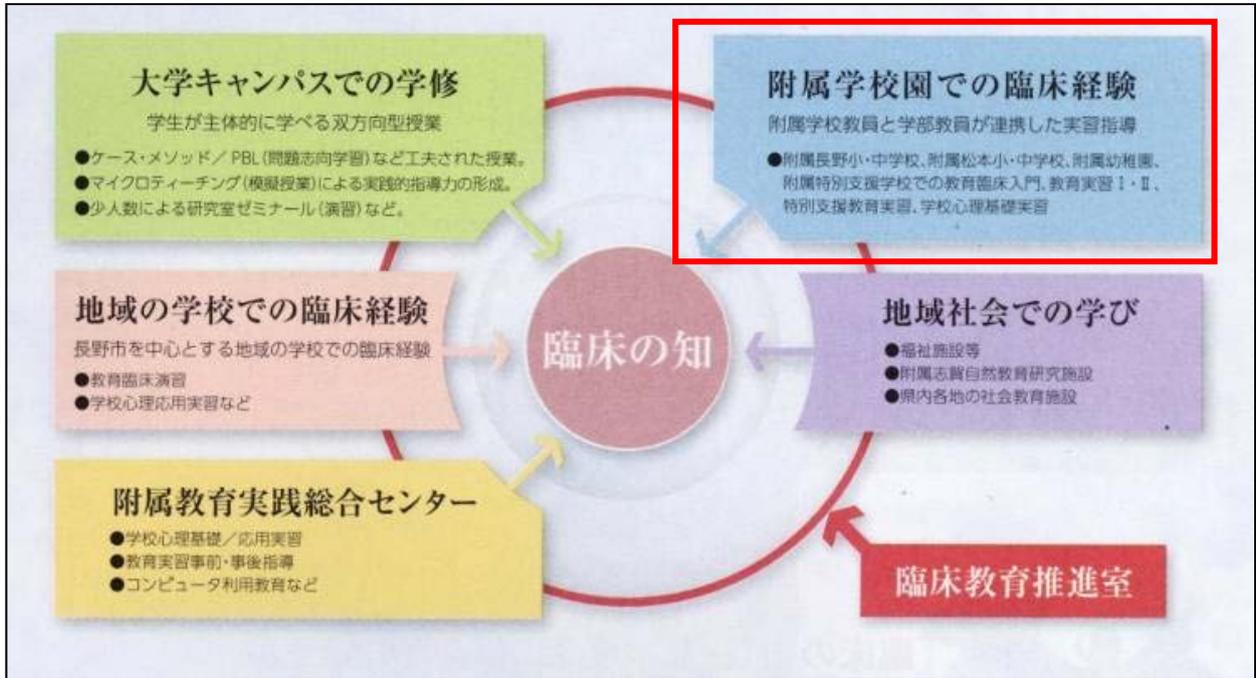
（出典：教育学部就職部会）

教職コーディネーターは、学生からの、教員採用試験（筆記試験・面接）への疑問、対策、また、教員としての心構え、教員になってからの不安等の相談に、長年の教育現場での経験を生かして幅広く対応している。

(4) 附属学校園の活用

長野県教育委員会との連携のもと、附属学校園【前掲資料教 11, p6~7】を活用して教育学部の理念「臨床の知」を養成できる体制を強化している【資料教 60】。

資料教 60：附属学校園と連携した地域密接の教育組織体制



※大学キャンパス以外での学生の学びの場として、地域の学校での臨床経験、福祉施設等の地域社会での学びに加え、本学部附属学校園において子どもの実態や教育の役割に対する理解を深めさせるとともに、教員という仕事の現実を体感させ、個々の体験を協同で省察(リフレクション)するなど、附属学校園での授業科目を体系的に位置づけ、「臨床の知」を修得させようとしている。また、この体制を構築するために附属学校園との連絡懇談会を開催し、連携に努めている。

【附属学校園との連絡懇談会及び構成員】

日時	議題等	参加者数
平成22年12月14日	1 学部改組について 2 附属学校園の現状と課題について	22
平成23年12月19日	1 附属学校園の現状と課題について 2 学部改組について	26
平成24年12月10日	1 附属学校園の現状と課題について	26
平成25年12月12日	1 ミッションの再定義について 2 附属学校園の現状と課題について	23

連絡懇談会 構成員	教育学部長、教育学部副学部長、附属学校園長2名、附属学校園副園長2名、長野県教育委員会1名、長野市教育委員会1名、松本市教育委員会1名、附属学校園PTA2名、附属学校園同窓会2名、長野県校長会1名、信濃教育会1名
--------------	--

(出典:自己点検評価委員会作成)

## (5) 学内版 GP 獲得による教育体制強化

学内の教育の質の向上につながる特に優れた教育取組に対して支援が行われる「学内版 GP (グッドプラクティス)」を継続的に獲得し、学部の教育体制を充実させている【資料教 61】。

資料教 61 : 学内版 GP 取得テーマ一覧			
年度	GP 獲得テーマ	獲得分野	大学の設定したグッドプラクティス選定テーマ
H21	「古典文学の世界－恋愛事情－」	言語教育	【自己学習を促す授業の方法・課題選定の方法】
H22	「古典文学の世界－恋愛事情 Part3－」	言語教育	【信州大学の DP を実現するための共通教育における授業の実践的取り組み】
H23	「言語教育ゼミナール」	言語教育	【人間力向上に向けた取り組み】
	臨床心理士養成カリキュラムにおける学習指導の向上を目指すプログラム	臨床心理学 専修	学内版 GP(高等教育センター)
	社会力を育む第 18 期「信大 YOU 遊世間」の実践	教育学部	学内版 GP(高等教育センター)
	ディプロマ・ポリシーに基づくカリキュラムのトータル・プランニング	教育学部	学内版 GP(高等教育センター)
H24	「法と政治の哲学」	社会科教育	【男女参画の推進に向けての取り組み】
	教育カウンセリング課程における学校心理実習の充実に向けた取り組み	上村恵津子 教授	学内版 GP(高等教育センター)
	大学初年次教育を中心とした基礎学力と専門知育成プログラム	西一夫教授	学内版 GP(高等教育センター)
H25	「信大 YOU 遊未来」20 周年記念シンポジウムの開催	土井進教授	学内版 GP(高等教育センター)
	「英語教育ゼミナール・国語教育ゼミナール」	英語・国語	【授業外学修を増やす取り組み】
H27	反転授業導入によるマスプロ授業のアクティブ化	島田英昭 准教授	学内版 GP(高等教育センター)

※H26年度は該当なし

(出典：教育学部教授会資料)

(6) FD 活動による体制強化

①学部内でのFD研修、「スーパーショートセミナー」を行っている【資料教62】。

資料教62：FD活動およびスーパーショートセミナー一覧

開催年度	企画名称	主催者
22	ファシリテーションFD研修会	教育学部
22	FDショートセミナー ～授業で上手くいっていること・うまくいっていないこと(A)～	学務課
22	FDショートセミナー ～リアクション・ペーパーの活用について～	学務課
22	FDショートセミナー ～授業で上手くいっていること・うまくいっていないこと(B)～	学務課
22	FDショートセミナー ～グループ活動におけるルール・ロール・ツール・ホール～	学務課
22	FDショートセミナー ～シラバスこそが 教育戦略のエビデンスにしてエッセンス～	学務課
23	新任教員FD～新学期のスタート1か月を振り返って～	学務課
23	FDショートセミナー ～新学期スタートアップセミナー～	学務課
23	～『生徒』から『学生』への移行を考える～	学務課
23	～授業における「配布資料」を考える～	学務課
23	～長期休業中の学習について考える～	高等教育研究センター
23	～新学期スタートアップセミナー Vol.2～	高等教育研究センター
23	～図書館の有効利用について～	高等教育研究センター
23	～学生の理解度把握について考える(1)～	高等教育研究センター
23	～学生の理解度把握について考える(2)～	高等教育研究センター
23	～シラバスの書き方～	高等教育研究センター
24	FDワークショップ 教育学部「内省できる実践家を育てる」	教育学部/高等教育研究センター
24	ICT活用FD	高等教育研究センター
25	教育著作権セミナー	e-Learningセンター
25	FDシリーズ 青年期の学習態度と知的発達	高等教育研究センター
25	シラバスガイドライン改訂に伴うFD	教育学部/高等教育研究センター
26	大学生の心理と理解(4回シリーズ)	高等教育研究センター
26	シラバスガイドライン改訂に伴うFD	教育学部/高等教育研究センター
26	教育学部のeALPS事例発表会	教育学部/e-Learningセンター/高等教育研究センター
27	「大学生調査JCSS2012報告」FD	高等教育研究センター
27	教育学部「入試改革FD」	教育学部実務委員会入試部会/教育学部FD委員会
27	eALPS研修「映像を活用したe-Learningコンテンツ作成」	e-Learningセンター-高等教育研究センター

スーパーショートセミナー

教授会開催日	テーマ	説明者
H24.11.7	シラバスについて	学務係(山田)
H25.1.4	成績評価について	学務係(宮入)

(出典:教授会資料)

※年間に複数回にわたりワークショップ形式の研修等を実施している。また、平成24年度からは毎月の定例教授会終了後に事務職員が教員に対して教育の円滑な事務執行処理や他大学や他学部の専門的なノウハウをプレゼンする機会を設け、教育活動の改善に努めている(資料は、授業改善に係るテーマのみ抜粋)。

②新任教員の臨床教育推進室所属

新規採用教員は、赴任後1年間臨床教育推進室に所属することが定められている【資料教63】。

資料教63：新規採用教員の推進室所属規定

※臨床経験科目に関わるなかで学生の学びの視点に立てるような組織的な工夫(FD)がなされ、教職担当の教員だけでなく、全員体制で臨床経験科目を支えている。

(推進室員)

第8条 推進室員は、次の各号に掲げる者をもって充てる。

- 一 現代教育コース教育実践科学ユニットを担当する教員
- 二 附属教育実践総合センター実践分野担当教員
- 三 特別支援教育グループ教員
- 四 その他必要な教職員

2 推進室員の任期は2年とし、再任を妨げない。

3 本学部の新規採用教員は、赴任後1年間推進室に所属する。

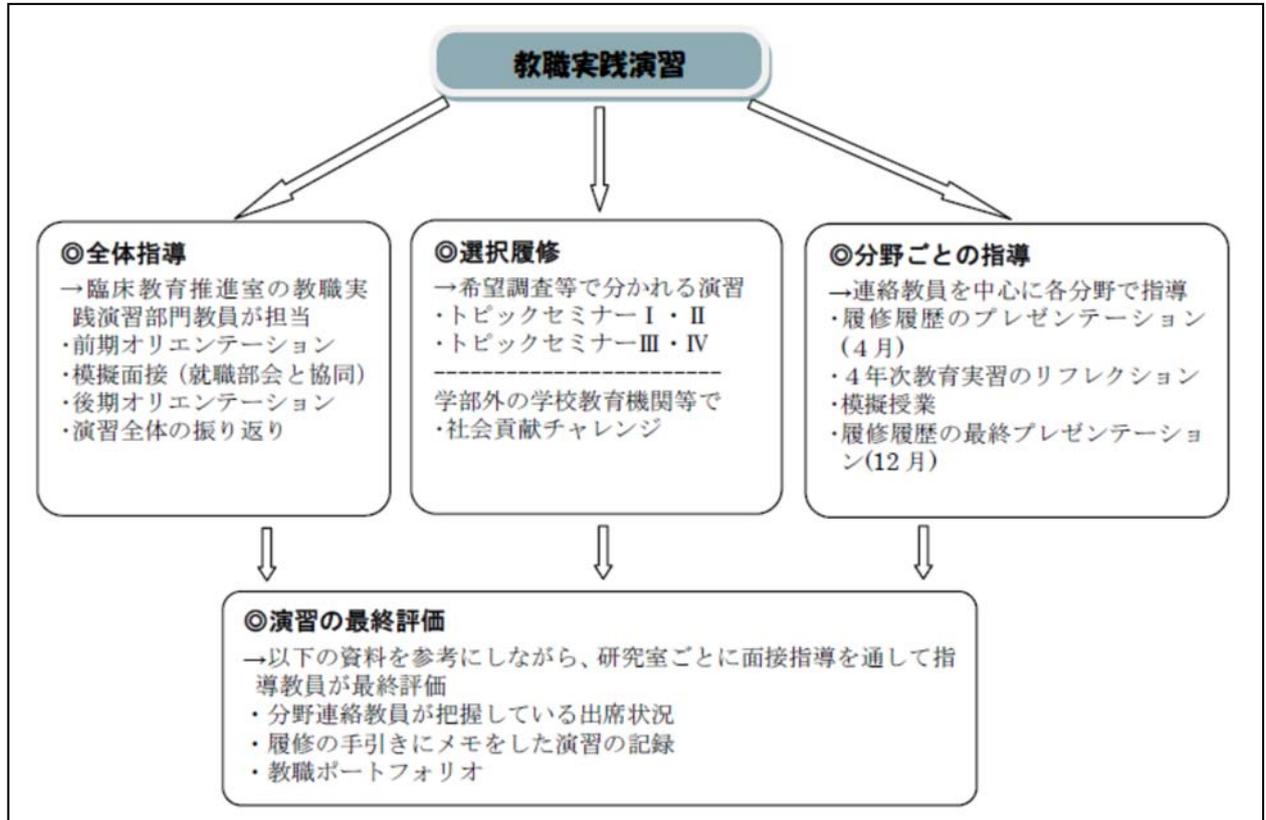
4 年度途中で推進室に所属した教員の任期は、任期が終了する年度末までとする。

(出典:「信州大学教育学部臨床教育推進室内規」より抜粋)

(7) 臨床経験科目群への実務家教員の配置

実務家教員【前掲資料教 58, p35】を、4年次の教職科目である「教職実践演習」等の臨床経験科目群に配置し、学部における教員養成機能を強化した【資料教 64】。

資料教 64 : 実務家教員の配置による臨床経験科目群への取り組み



(出典:臨床教育推進室教職実践演習部門作成)

※実務家教員が中心となり、通年集中型で多様な演習形式の授業を企画し、学部教員が一体となって受講生との相談・調整・指導のサポート役として学習活動を支援する体制を整えた。実務家教員を関わるることによって学校現場の実態をとらえた授業実践を可能にした。

## (8) 共通教育の授業改善

機構では教育の質の改善・向上を図るため、評価分析室機構分室会議を中心に授業改善アンケート【資料教65】、機構教務委員会で共通教育グッドプラクティスに取り組んでいる【資料教66】。

## 資料教65：学生による授業改善アンケート

2015年（平成27年）10月8日

## 平成27年度前期全学教育機構「学生による授業改善アンケート」の結果

評価分析室全学教育機構分室

全学教育機構では、平成27年度前期に中間アンケートを行い、学生の要望を確認し、後半の授業が行われた。本結果は、期末に実施されたものによる。

平成27年度前期期末「学生による授業改善アンケート」は、以下の2とおりの方法により実施された。

- a. 総合人間科学系所属の各教員が担当する授業について授業中に用紙に記入する。
- b. 全授業題目を対象としてウェブ上で記入する。

アンケートの質問項目は、用紙・ウェブともに以下のとおりである。

## &lt;アンケート質問項目&gt;

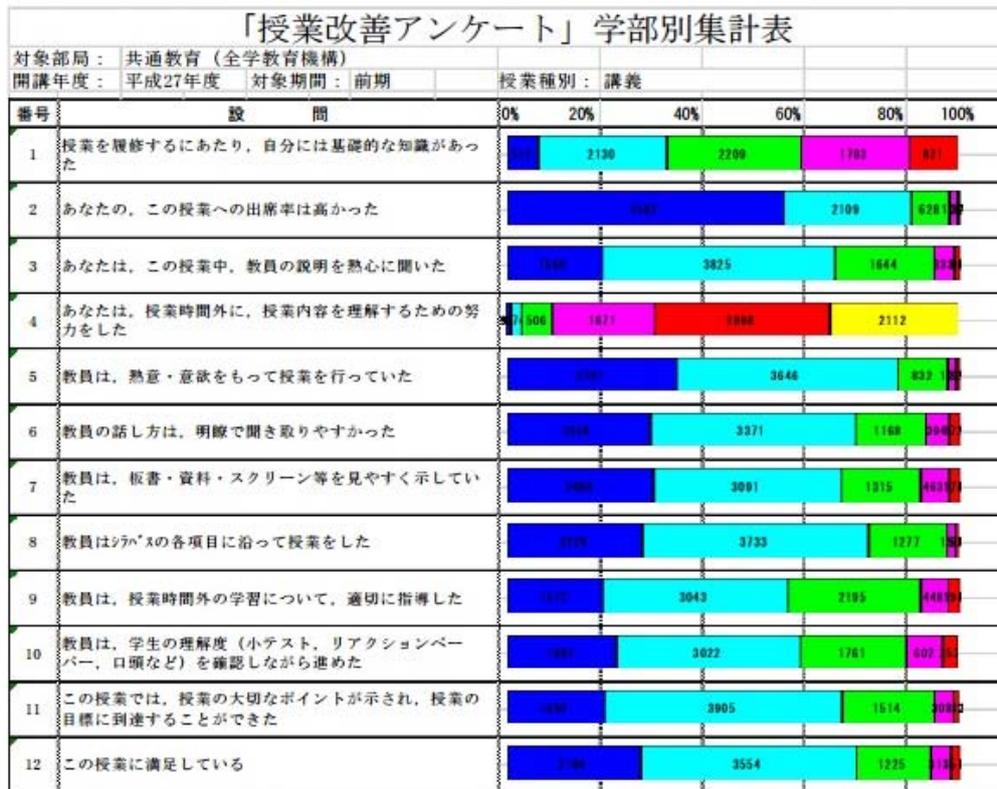
1. この授業を履修するにあたり、自分には基礎的な知識があった(5択)
2. あなたの、この授業への出席率は高かった(5択)
3. あなたは、この授業中、教員の説明を熱心に聞いた(5択)
4. あなたは、この授業時間外に、授業内容を理解するための努力をした(予習・復習等)(6択)  
※4.の選択肢(週4時間以上、週3～4時間、週2～3時間、週1～2時間、週1時間未満、全くしない)
5. 教員は、熱意・意欲をもって授業を行っていた(5択)
6. 教員の話し方は、明瞭で聞き取りやすかった(5択)
7. 教員は、板書・資料・スクリーン等を見やすく示していた(5択)
8. 教員は、シラバスの各項目に沿って授業をした(5択)
9. 教員は、授業時間外の学習について、適切に指導した(シラバスでの参考文献の提示等)(5択)
10. 教員は、学生の理解度(小テスト、リアクションペーパー、口頭など)を確認しながら進めた(5択)
11. この授業では、授業の大切なポイントが示され、授業の目標に到達することができた(5択)
12. この授業に満足している(5択)
13. この授業について、改善すべきと思う事、教員が工夫をしていると思う事、その他、意見、要望等がありましたら、書いてください(自由記述)

アンケートの結果は、部門長および評価分析室機構分室員が内容について検討・解析した。以下に回答について、科目群ごとにその結果を報告する。(用紙を使ったアンケートの結果についても、ウェブに取込して集計されている。)

## 1. 全体に関する結果

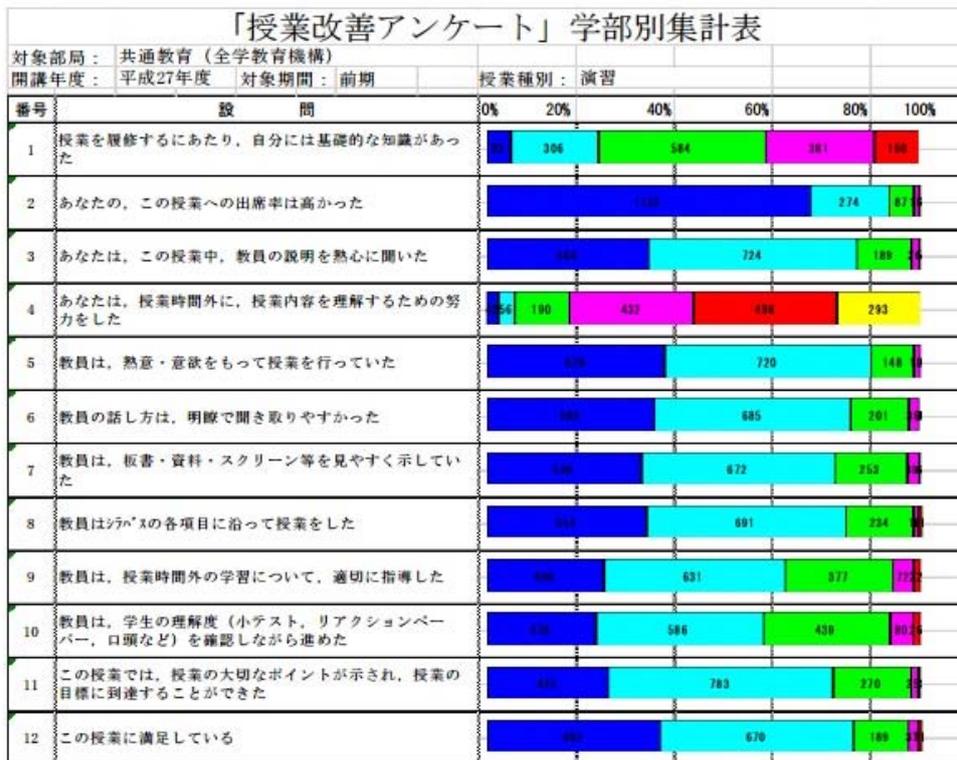
紙媒体によるアンケート実施クラス数を増やしたので、今年度(2015年度)前期の機構授業に対する授業改善期末アンケートの回答率は、2014年度前期の数字と対照させる(2014年、2015年の回答率の順序)と、講義全体：50%, 54%, 演習全体：41%, 49%, 外国語全体：46%, 79%, 実験・実習全体：56%, 76%へと、全ての科目群で増加した。期末アンケートの講義科目、演習科目、外国語科目の集計結果は、図1～3の通り。

図1【講義科目】



青：強くそう思う、水色：そう思う、緑：どちらともいえない、ピンク：そう思わない、赤：全くそう思わない  
 ※4.の選択肢のみ 青：週4時間以上、水色：週3～4時間、緑：週2～3時間、ピンク：週1～2時間、赤：週1時間未満、黄色：全くしない

図2【演習科目】



青：強くそう思う、水色：そう思う、緑：どちらともいえない、ピンク：そう思わない、赤：全くそう思わない  
 ※4.の選択肢のみ 青：週4時間以上、水色：週3～4時間、緑：週2～3時間、ピンク：週1～2時間、赤：週1時間未満、黄色：全くしない

（出典：平成27年度前期 共通教育「学生による授業改善アンケート」の結果）

資料教66：共通教育グッドプラクティス

全学教育機構では、企画実施する信州大学の共通教育の教育改善に資するため、すべての共通教育開講科目の中から、優れた実践を「共通教育グッドプラクティス」として毎年選定することとしています。これは、共通教育科目における、優れた取組を表彰し、内容およびその成果をあらゆる機会を捉えて全学に広め、もって共通教育さらに本学教育全体の改善への一助とするものです。

選定の流れ

1. テーマ決定  
「効果ある授業方法」を中心として、当該年度の募集テーマを決定します。
2. 公募  
テーマに沿って、共通教育で開講する全科目あるいは科目群（複数科目の連携の場合）を対象に、自薦・他薦を問わず募集します。
3. 応募授業のピアレビュー  
応募された取り組みについては、全学教育機構ホームページに掲載し、全学の教員に一定期間ピアレビューを推奨します。
4. 審査  
全学教育機構教務委員会において行います。
5. 選定授業担当者による取組発表  
取組発表会を実施し、選定授業担当者により、取組の概要と要点を発表していただきます。また、表彰式も行われます。

年度	テーマ	選定された取組	授業担当者
H22	信州大学の DP を実現するための共通教育における授業の実践的取組（1つの学位授与の方針（DP）を取り上げ、その実現に向けた、特に効果的な教育実践）	フライングディスク	全学教育機構 杉本光公
		ロボティクス入門ゼミ	全学教育機構 松本成司
		医学部新生ゼミナール	医学部 櫻井晃洋・木村貞治
		古典文学の世界 －恋愛裏事情 Part3－	教育学部 西 一夫
		電子出版の現代	全学教育機構 鈴木治郎
H23	人間力向上に向けた取り組み（コミュニケーション力・言語力・論理構成力の向上に向けた取り組み）	言語教育ゼミナール	教育学部 高橋 渉
		化学実験ゼミ	全学教育機構 勝木明夫
		技術とエネルギーの入門ゼミ（技術・環境分野）	教育学部 西 正明、村松浩幸、佐藤運海
H24	男女共同参画の推進に向けての取り組み	法と政治の哲学	教育学部 関 良徳
		統計図解ゼミ	全学教育機構 鈴木治郎
H25	授業外学修時間を増やす取り組み	英語教育ゼミナール 国語教育ゼミナール	教育学部 酒井英樹、西一夫 他
		大学生基礎力ゼミ	高等教育研究センター 加藤善子 他
		電子出版の現代	全学教育機構 鈴木治郎
H26	地域課題実践授業の試み	新聞をつくろう！ （タウン情報制作ゼミ）	全学教育機構 鈴木治郎
		地域ブランド実践ゼミ	地域戦略センター 林 靖人
H27	テーマ① 大学における教育内容・方法の改善等について テーマ② アクティブ・ラーニングについて	ベンチャービジネス概論	信州大学 SVBL 中西弘充
		数と形	全学教育機構 高野嘉寿彦

（出典：全学教育機構提供資料もとに経営企画課作成）

(9) 耐震改修工事による学部内インフラ整備・充実

平成22年度以降、無線LANの使用可能面積は対総面積100%を実現している【資料教67,68】。

資料教 67：無線 LAN 回線および空調設備の充足率

	平成 21 年度末	平成 27 年度末現在
空調設備のある研究室・講義室	111	138
同面積 (㎡)	4,487	4,984
空調設備のある附属学校の部屋	76	129
同面積 (㎡)	5,226	8,325
無線 LAN (対総面積割合、%)	73.4	100
耐震補強の実施面積 (㎡)	2,667	15,330

(出典:総務グループ管理係作成)

※耐震改修工事による補強面積も大幅に増加した。これに伴い、空調整備のある部屋数、面積ともにおよそ2倍となり、学生・教員の教育・研究活動の環境は改善されている。

資料教 68：教育学部無線 LAN アクセスポイント

**教育学部セキュアネットの利用方法**  
(2014 年度 Windows7 版)

I 次の場所で、個人用ノートパソコン等を用いて、学内LANに接続できます。

無線 LAN アクセスポイント								
建物	場所	名前	建物	場所	名前	建物	場所	名前
図書館	閲覧室	eduL1A	北棟	N102	eduN102A	中央棟	M103	eduM103A
	閲覧室	eduL1B		N104	eduN104A		M201	eduM201A
	閲覧室	eduL1C		N104	eduN104B		M301	eduM301A
	201	eduL208A		N105	eduN105A		M306	eduM306A
201	eduL208B	N205		eduN205A	M311		eduM311A	
生協	1階	eduC101A		N218 前	eduN218G		M402	eduM402A
	1階	eduC101B		N220 前	eduN220G		M411	eduM411A
	2階	eduC201A		N301	eduN301A		M421 前	eduM421G
実践センター	102	eduJ102A		N301	eduN301B			
	201	eduJ201A		N302	eduN302A			
	201	eduJ201B	N304	eduN304A				
	SUNS	eduJsunB	N309	eduN309A	1階	eduS1A		
			N319 前	eduN319A	2階	eduS2A		
			N325	eduN325A				
			N401	eduN401A				
東棟			西棟	W101	eduW101A	北西校舎		
	E101 前	eduE101G		W110 前	eduW110G		1階	eduNW1G
	E101	eduE101A		W112	eduW112A		2階	eduNW2G
	E104 前	eduE104G		W201	eduW201A			
	E106	eduE106A		W210	eduW210G		2階	eduNW202A
	E201 前	eduE201G		W220	eduW220A			
	E201	eduE201A		W300	eduW300A			
	E206 前	eduE206G		W301	eduW301A			
	E303 前	eduE303G		W306	eduW306G			
	E307 前	eduE307G		W318 前	eduW318G			
	E401 前	eduE401G		W321	eduW321A			
	E401	eduE401A		W400	eduW400A			
	E406 前	eduE406G		W501 前	eduW501G			
	E502 前	eduE502G		W502	eduW502A			
	E504	eduE504A		W503 前	eduW503G			
	E504	eduE504B		W505 前	eduW505G			
	E504	eduE504C		W506	eduW506A			
E504	eduE504D	W506	eduW506B					
		W507 前	eduW507G					

(出典:教育学部教育実践センター作成)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

- ①長野県教育委員会等との連携を深める【資料教52～58, p31～35】ことにより、地域密接型を目指す大学として義務教育諸学校に関する地域の教員養成機能の中心的役割を従前に増して強化している。
- ②退職校長の教職コーディネーターとしての採用により学生の教員就職活動や教員採用試験への対応に体制を整え【資料教59, p36】、実務家教員の採用により実践型教員養成機能への質的転換が図られている【資料教58, p35, 資料教64, p40】。
- ③長野県教育委員会との連携のもと、附属学校園を大学キャンパス以外での学生の学びの場として活用し、教育学部の理念「臨床の知」を養成できる体制を強化している【資料教60, p37】。
- ④平成24年度に全学組織となる学生相談センターと、各学部・キャンパスに、あらゆる相談を受け付ける学生相談室が設置された【資料教38, p23, 24】。

観点 教育内容・方法

(観点に係る状況)

1 教育課程の編成

(1) ディプロマ・ポリシー (DP) (学位授与の方針) の制定

平成 24 年度に DP を策定し、その実行と達成に向けて教育活動を展開するための教育課程を明確化している【前掲資料教 5, p 4】。

(2) カリキュラムマップの提示

平成 24 年度にカリキュラム・ポリシー (CP) を策定し、その実行と達成に向けて教育活動を展開するための教育課程を明確化している【前掲資料教 4, p 3】。

DP に対応させた教育課程編成を「カリキュラムマップ」として位置づけ、授業科目と教育目標との連関について明示している【資料教 69】。

資料教 69 : 教職専門科目群のカリキュラムマップイメージ (例)

ディプロマポリシー	中項目	具体的事項	教職実習上の分類	教育臨床入門	教育臨床基礎	地域教育演習	教育臨床演習	教育実習事前・事後指導	基礎教育実習	応用教育実習	教職実践演習	人間の生成と教育	子どもの学びと学校・社会	発達と教育	学習と評価	教育の法規と制度	教育内容・方法論	道徳教育の理論と実践	特別活動の理論と実践	
				臨床経験科目																
① 公共的使命感や倫理観	教職の社会的意義や服務に関する基礎的知識	教職の社会的意義と教育実践への意欲	使命感や責任感・教育的愛情等に関する事項	◎	◎		◎	◎	◎	◎	*		○			○				
		教員の服務規定と求められる倫理観		◎	◎		◎	◎	◎	◎	*						○			
		教育現場での実習の意義と心構え・留意事項		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	*						△			
	教育カウンセリング課程独自の学修事項																			
		スポーツ・野外教育課程独自の学修事項																		
教育実践の思想と社会背景に関する事項	教育思想および教育哲学と現代の教育									*	◎	○				△	△			
	現代社会と教育・子どもの教育環境									*	◎	◎	○				△	△	○	
	国内外の教育史・教育実践史と教育観									*	◎	○				△	△		○	
教育のマネジメントに関する事項	教育法規・教育制度と現代の教育政策									*		○				◎	○		△	
	学校の組織と運営			○		○				*		○				◎	○		○	
	教育課程の理論とその編成			△						*		○				○	○		○	

(出典：教育課程専門委員会)

(3) 入学から卒業までの学修課程のモデル制定

学校教育教員養成課程の入学から卒業までの学修課程を概念図で示している【資料教70】。

資料教 70：学校教育教員養成課程の入学から卒業までの学修課程



(出典：大学案内 2014-2015)

(4) シラバスによる「学位授与の方針」(DP)の明確化

シラバスでの各授業のDPに関する要素を明確化し【資料教71】、シラバス作成に当たり、ガイドライン、作成、点検の手引を全教員に周知している【資料教72, 73, 74】。

資料教 71：「学位授与の方針」の項目

(1) 「授業のねらい」について

「【授業で得られる『学位授与の方針』の項目】」について：【学部のみ記載】

- 大学の『学位授与の方針』または学部・学科等の『学位授与の方針』から少なくとも一つを選択してください。

※ 下記の『学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)』をコピーし、「シラバス様式」の(1) 授業のねらい【授業で得られる『学位授与の方針』の項目】欄に貼付してください。

- 【大学】みずから他者や社会との関わりのなかで捉え、自己啓発に努めることができる【自己認識・自己啓発マインド】
- 【大学】理想や倫理観をもって社会の平和的・持続的発展のため行動できる【社会的行動マインド】
- 【大学】人類の知を継承し、それらの成果の上に立って未来について創造的に考えられる【人類の継承と未来創造マインド】
- 【大学】世界の多様な文化、思想、歴史、芸術に関する幅広い素養がある【多様な文化受容マインド】
- 【大学】科学諸分野の歴史やその成果に関して幅広く理解できる【科学リテラシー】
- 【大学】日本語および外国語を用い、的確に読み、書き、聞き、他者に伝えることができる【言語能力】
- 【大学】対話を通じて他者と協力し、目標実現のため方向性を示すことができる【コミュニケーション能力、チームワーク力、リーダーシップ】
- 【大学】多様な情報を適切に取舍選択し、分析・活用できる【情報活用力】
- 【大学】みずから問題を見出し、すじみちを立てて解決できる【問題発見・解決能力】
- 【大学】自然や社会の現象を普遍的な尺度や数量的指標を用いて理解できる【普遍的・数量的理解力】
- 【大学】専門分野分野における知識・技能を備え、それらを応用できる【専門知識と応用力】
- 【大学】専門以外の他分野に関する体系的な知識や素養がある【専門外の知識】
- 【大学】信州の自然・文化的環境への興味と関心をみずから深めることができる【地域環境に関する理解】
- 【大学】自然および人類社会が直面している環境問題を理解することができる【環境基礎力】
- 【大学】地球環境と人類文化との調和・共生のため、積極的に行動することができる【環境実践力】
- 【学部】教育の専門家求められる深い教養に根ざした公共的使命感や倫理観
- 【学部】教育活動を支え、実現する上で不可欠な専門知識・技能
- 【学部】他者と協働して教育活動をつくる社会的スキルと議論と実践を往還する省察と改善の態度

(出典：教育学部学務係作成)

## 資料教72：シラバスガイドライン

## 信州大学シラバスガイドラインの見直しについて

(平成26年11月10日第17回教務委員会決定平成26年11月19日第138回教育研究評議会報告)

## 【※下線部(赤字)が現シラバスガイドラインからの変更点】

このガイドラインは、信州大学で開講されるすべての授業のシラバスが備えるべき必須条件である。ただし、下記に記載する事柄をシラバスにおいて具体的にどのように表記するかについては、各学部学科の専門教育課程及び共通教育課程(以下、各学部)によって異なってくるため、より具体的な「シラバス作成の手引き」のようなものは、必要に応じて各学部において作成するものとする。

大学並びに各学部・学科等の定める『学位授与の方針』は、それぞれの教育課程の卒業生が卒業時に確実に身に付けていることが求められる能力・知識のリストであり、個々の授業は、学生が、大学並びに各学部・学科の『学位授与の方針』の能力・知識を身に付けるために配置されている。したがって、個々の授業が『学位授与の方針』のどの部分をどのような形で担っているのかをシラバスで明らかにするものとする。

『学位授与の方針』で定める能力・知識は、授業等を通して、学生が自分の努力によって手に入れるべきものである。シラバスでは、課題や小試験の内容と回数等、当該授業が担う『学位授与の方針』に至るまでに学生がしなければならないことを、学生が明確に理解できるように記述するものとする。特に、事前・事後学習のしかたについては、「受講生には、1単位当たり「45時間から授業時間を引いた時間量(下記の例参照)の自主学習時間が課せられている」という『単位制度の実質化』の考え方に立ち、授業目標到達に向けて学生が何をしなければならないかを明確にする。その上で、それらが成績評価においてどのように扱われるのか、配点等を明らかにするものとする。

以上の考え方に立ち、以下の6項目を信州大学の授業のシラバスの必須記述項目とする。シラバス作成に先立つ授業設計に当たっては、当該授業のカリキュラムの中での位置づけ・他の授業との関連を意識するものとする。

- ① 授業の基本的な情報 授業名、担当者氏名、教室、開講日時(何曜日何時限目)単位数、教科書、参考書。その他、各学部の必要に応じて記載する。
- ② 授業が担う大学並びに学部・学科等の『学位授与の方針』の項目と、授業の達成目標 授業の達成目標は、この授業が担う『学位授与の方針』の項目をこの授業の言葉で言い換えたものとし、(知識面、スキル面、態度面の組み合わせで、またはいずれかの面で)「○○ができるようになる」という形を標準とする。
- ③ 成績評価の方法 受講者が②の達成目標に到達するために通っていく過程(課題や小試験等)と、到達したことを示すエビデンス(最終レポートや期末試験等)のそれぞれの内容と配点を記述する。

## ④ 成績評価の基準

この項では、「何ができていれば、授業の達成目標の水準から見て『卓越している』／『かなり上にある』／『やや上にある』／『その水準にある』』と言えるのかを記述する。

## 筆記試験の場合の例：

授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」。

## レポートの場合の例：

(i)問題の設定が適切であり、(ii)その問題の背景を説明できており、(iii)その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv)それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており、(v)その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。(i)から(v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「水準にある」。

## ⑤ 事前・事後学習に関する情報

「受講生には、1単位当たり『45時間から授業時間を引いた時間量』の自主学習時間が課せられている」という『単位制度の実質化』の考え方に立ち、15回の授業に対して受講生がしなければならない予習・復習も授業の一部であるものとして、その授業での事前・事後の自主学習に関する計画を記述する。

## ⑥ 授業計画

15回の授業のおよその内容と順番、課される課題や小試験等のスケジュールを記述する。課題については、提出締切も示す。評価のための最終試験を行う場合は、15回の授業とは別に行う。

## ⑦ 履修上の注意

当該の授業での教科書や参考書の利用方法、注意事項など

## ⑧ オフィスアワー及び授業担当者の連絡先

(出典：シラバスガイドライン)

資料教73：シラバス執筆の手引き

【授業計画（シラバス）】

各授業科目の詳細な授業計画。一般に、大学の授業名、担当教員名、講義目的、各回ごとの授業内容、成績評価方法・基準、準備学修等についての具体的な指示、教科書・参考文献、履修条件等が記されており、学生が各授業科目の準備学修等を進めるための基本となるもの。また、学生が講義の履修を決める際の資料になるとともに、教員相互の授業内容の調整、学生による授業評価等にも使われる。アメリカでは、教員と学生の契約書と理解されている例もある。  
 授業内容の概要を総覧する資料（いわゆるコース・カタログ）とは異なり、科目の到達目標や学生の学修内容、準備学修の内容、成績評価の方法・基準の明示が求められる。（文科省 HP「用規集」より）

シラバス執筆の手引き

（1）「授業のねらい」について

「【授業で得られる『学位授与の方針』の項目】」について：【学部のみ記載】  
 ・大学の『学位授与の方針』または学部・学科等の『学位授与の方針』から少なくとも一つを、選択してください。

別添「ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)：[大学]、[学部]」を参照し、選択してください。

「【授業の達成目標】」について：【学部のみ記載】  
 ・上で選んだ『学位授与の方針』の項目・要素を、この授業の言葉で言い換えてください。  
 「○○ができるようになる」という趣旨の言い方を標準とします。

別添「DPに対応した記入例」を参照ください。

「授業のねらい」について【学部のみ記載】  
 ・受講生に何を獲得させることを目標にしているのか、授業の到達目標をお書きください。教員が何を教えるのかではなく、学生が何を学ばなければならないのかをお書きくださいますように、お願いいたします。

（2）「授業の概要」について

授業の内容について記述する欄ですが、「授業のねらい」の到達目標に達するために、学生がそれらをどの様に、何を通して達成するのかをできるだけ具体的にお書きください。

（3）「授業計画」について

15週の授業をどういう流れで行うのか、テーマは何か、リレー式の場合授業担当教員は誰かが、学生に理解できるようにお書きください。

また、テストや課題の出題予定、提出締め切りなどについてもお書きください。

※ 評価のための最終試験を単独で行う場合は、15週の授業に含めず、16週目に実施として記載してください。

※ 15週の内に試験を行う場合、1コマすべてを試験とすることはできません。授業のまとめや試験の解説などを含めた内容としてください。

例：第15回：授業のまとめとテスト  
 第15回：試験とその解説 等

※ 前期開講科目で4年生が受講する科目は、教育実習Ⅱにおける欠席分の補講の方法を記載してください。

※ 「授業のねらい」で設定した目標をどのような手段で達成するのが、この「授業内容とその展開」から読み取れるような記述をお願いします。

例：第1回：○○に関する講義  
 第2回：○○に関するグループ討論・ディベート  
 第3回：製作実習 等

※ 全15回の内容が各回で区別できるように具体的に記載願います。複数回で同じテーマの場合は、回数ごとに扱うテーマのキーワードを明記し、内容の違いがわかるようにしてください。

<例>シラバス提出後に修正された例

修正前	修正後
第1回：ガイダンス、認知心理学の歴史	第1回：ガイダンス、認知心理学の歴史
第2回：記憶の理論（1）	第2回：記憶の理論（ <b>記憶の構造、記憶のプロセス、感覚記憶の性質</b> ）
第3回：記憶の理論（2）	第3回：記憶の理論（ <b>作業記憶の性質</b> ）
第4回：記憶の理論（3）	第4回：記憶の理論（ <b>長期記憶の性質</b> ）
第5回：概念と語の認識	第5回：概念と語の認識
.....	.....
第14回：認知心理学の応用（1）	第14回：認知心理学の応用（ <b>学習とヒューマンインターフェースへの応用</b> ）
第15回：認知心理学の応用（2）	第15回：認知心理学の応用（ <b>カウンセリングと特別支援教育への応用</b> ）
定期試験	定期試験

（出典：教育学部学務グループ学務係）

## 資料教 74 : シラバス点検の方法

【シラバス点検チェックシート】(該当すればチェックし、空欄に具体的内容を適宜記述してください。)

- 記述されていない項目があります。
- ・「教員免許状取得のための 選択科目」について
  - 免許科目で「科目」、「各科目に含めることが必要な事項」欄に必要な事項の記載がありません。
- ・各教科、道徳及び特別活動の指導法に関する各科目について
  - シラバスの中に基礎理論的内容が明記されていません。すなわち、シラバスの内容が模擬授業など実践のみです。(理論と実践はそれぞれ半分ずつになることが望ましい。)
  - シラバスの中に実際に指導する場面を想定して、学習指導案の作成や教材研究、模擬授業等を組み入れ、実践的な指導力を身に付けさせるような事項が含まれていません。
  - テキスト又は参考書として学習指導要領(解説)を使用していません。(シラバスの中に、プリント配布のみだけではなく、使用していることが分かるように明示してください。)
- ・教科に関する科目の「一般的包括的科目」について(○印で「～基礎」が付いている科目)
  - 内容が、特定の領域に偏っており、その学問領域をおおまかに網羅してしない。
  - 内容が、学習指導要領全般をカバーしていません。
  - 「授業で得られる DP 要素」の記載がありません。【学部のみ】(1つまたは2つお選びください。)
  - 「授業の達成目標」で「授業で得られる DP 要素」の記載がありません。【学部のみ】(授業内容に即して言い換えてください。「何を教えるのか」ではなく、「学生が何をできるようになるのか」という観点で書いてください。)
  - 「授業のねらい」に「学生が何を身につけなければならないか」という学習目標が記入されていません。(「教員が何を教えるか」のみが記載されています。)
  - 「授業の概要」について「授業のねらい」の到達目標に達するために、学生がそれらをどの様に、何を通して達成するかが記載されていません。
  - 「授業計画」について
    - 第 15 回が試験のみの表記になっています。15 回のうちに試験を実施する場合は、授業のまとめや試験の解説などを含めた内容にしてください。最終試験を単独で行う場合は、16 週目に実施としてください。
    - 回数ごとに扱うテーマのキーワードの記載がありません。
    - 前期 4 年生受講科目に、教育実習Ⅱにおける欠席分の補講方法の記載がありません。
    - 「授業計画」の内容が大雑把すぎ、学生が明確に授業のイメージを持ってません。
    - 「成績評価の方法」に評価の手段と重み付けが記載されていません。(具体的な成績評価ポリシーが明確になっていません。)
    - 「成績評価の方法」が「授業の達成目標」の達成状況を評価するものとなっていません。
    - 出席さえしていれば単位が認定されるという表現になっています。
    - 「成績評価の基準」の記載がありません。
    - 「事前事後学習の内容」の記載がありません。
    - 授業時間以外の学習(練習)の必要性に関する記載がありません。
    - 「質問、相談への対応および連絡先」の記載がありません。
    - 「教科書」が記載されていません。授業の性質により教科書を使用しない場合は、その旨記述してください。
    - 「参考書」が記載されていません。授業の性質により教科書を使用しない場合は、その旨記述してください。
    - その他

点検日付：平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 点検者： \_\_\_\_\_

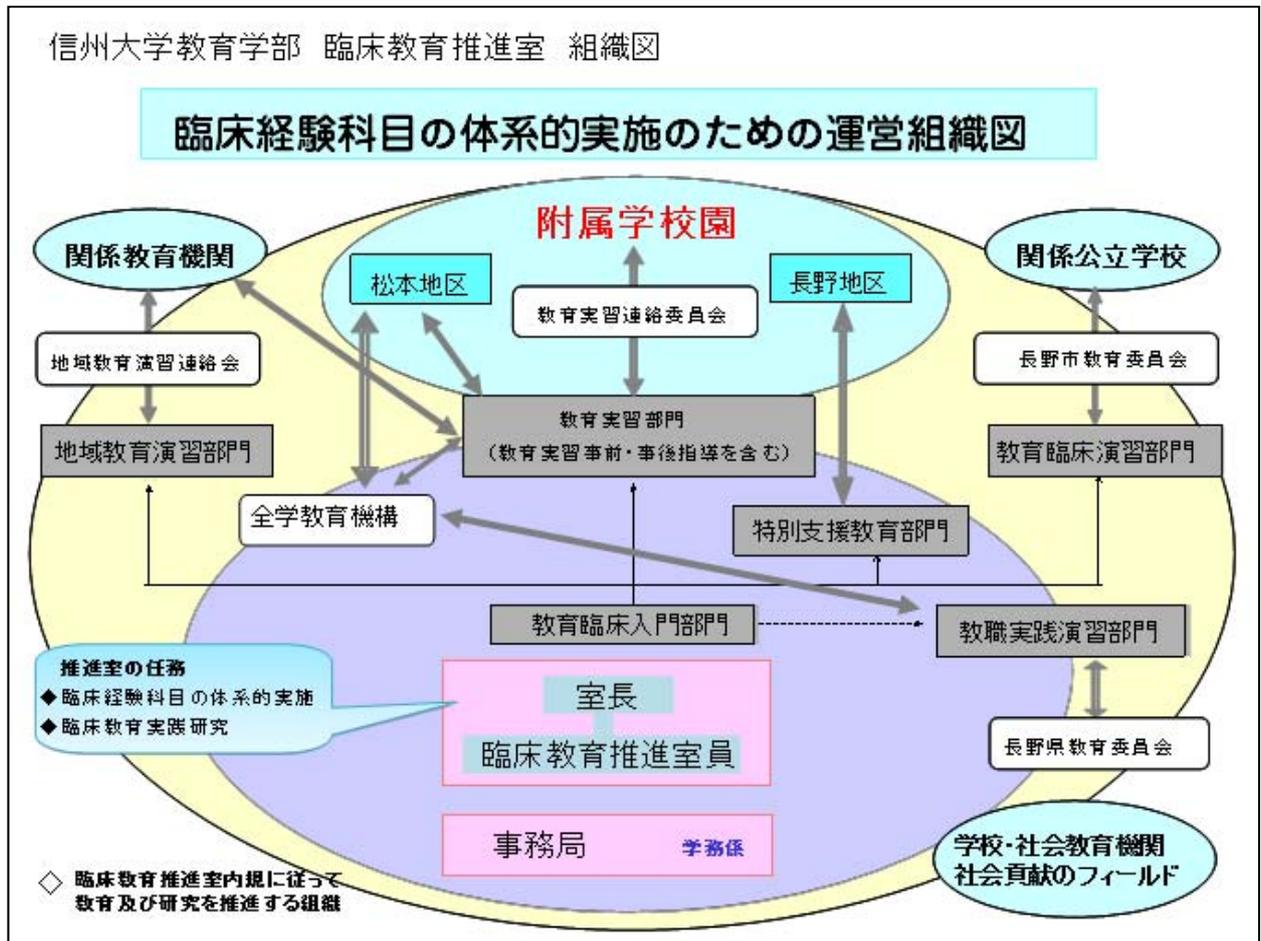
修正日付：平成 \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日 作成者： \_\_\_\_\_ →点検者へ

(出典：教育学部教務部グループ)

(5) 臨床経験科目の体系的な実施

臨床経験科目は【資料教75】に示す体系の下、附属学校園の授業参観に始まり、市内の小学校、さらに附属学校園での教育実習と段階的に計画されている【資料教76,77】。

資料教 75：臨床経験科目の体系的実施のための運営組織図



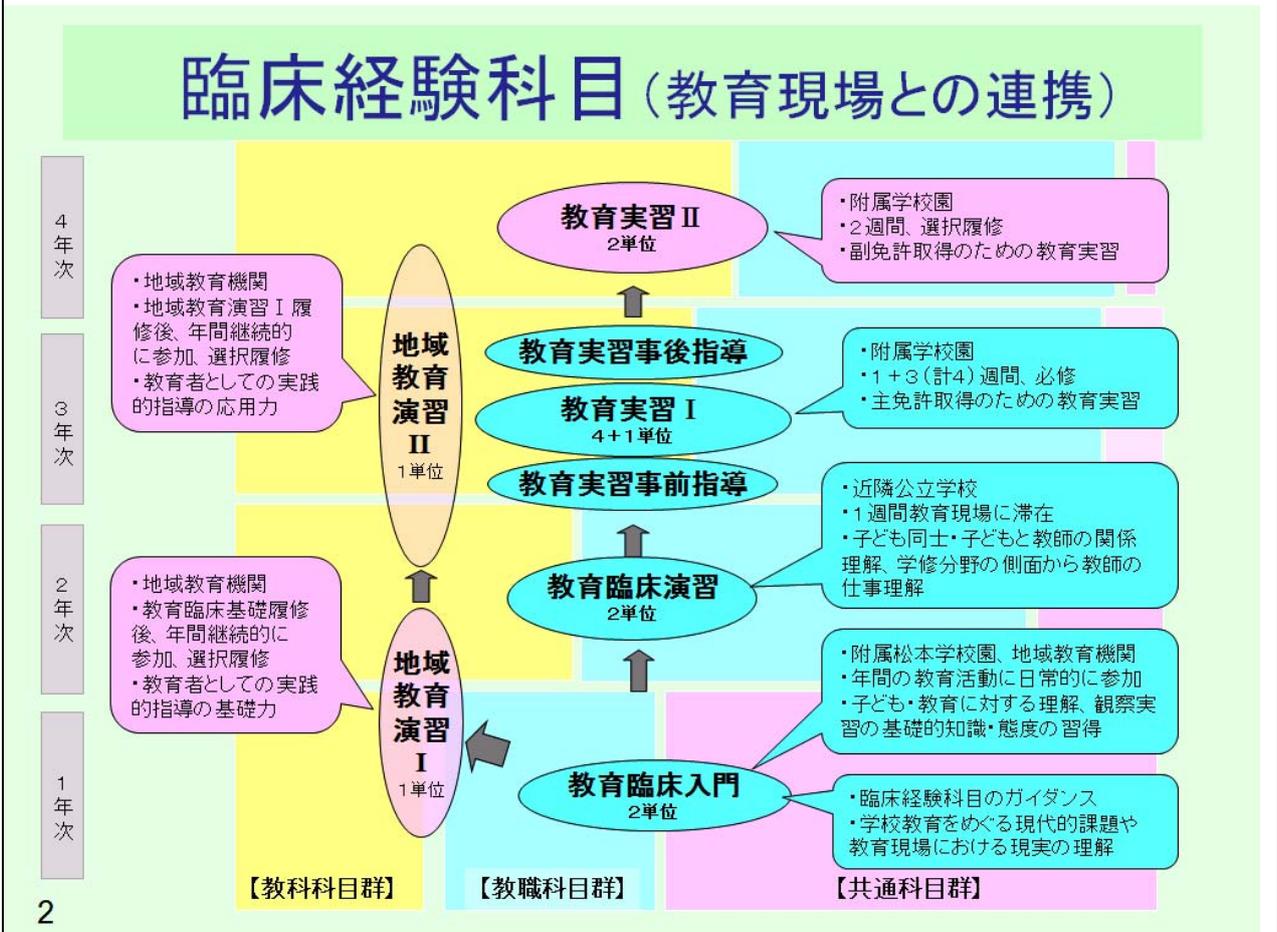
(出典:教育学部臨床教育推進室HPより)

※臨床経験科目は入学後から徐々に積み上げられ、体験の振り返りを行う「省察（リフレクション）」を通して体験の質が深化していくように体系的に実施されている。

臨床経験科目の体系的実施のために、学部内に組織された臨床教育推進室が主体となって附属学校園（松本地区・長野地区）との間に基軸が構成され、そこに学校・社会教育機関及び社会貢献のフィールドとして関係公立学校や教育機関が連携する形で組織が形成されている。

このように学部が主体となりつつも、地域の教育機関との密接な関係によって臨床経験科目が展開されている。

資料教76：臨床経験科目の体系的実施のイメージ



(出典：臨床教育推進室作成)

※臨床経験科目は、免許科目区分の教職科目群を軸に編成され、「教育臨床入門」、「教育臨床演習」、「教育実習 I 及び II」へと展開される中で、『教科に関する科目』と『教職に関する科目』と『共通科目』を結び、統合する役割を果たしている。「地域教育演習 I 及び II」もそれに加えて履修されるよう構成されている。

資料教 77 : 平成 27 年度「教育臨床演習」長野市小学校協力校／学生割当一覧

H27.4.3 現在

	小学校協力校	学級数	配当学生数	現代	国語	英語	社会科	数学	理科	音楽	図画工作・美術	保健体育	ものづくり・技術	家庭科
1	浅川小学校	14	7	1	1		1	1	1	1		1		
2	湯谷小学校	19	9	1	1		1	1	1	1		1	1	1
3	徳間小学校	20	10	1	1		1	1	1	1	1	1	1	1
4	吉田小学校	25	11	2	1		1	1	1	1	1	1	1	1
5	三輪小学校	16	8	1	1		1	1	1	1	1		1	
6	城東小学校	13	6	1	1		1	1	1				1	
7	城山小学校	15	7	1	1		1	1	1				1	1
8	加茂小学校	8	4	1	1		1	1						
9	鍋屋田小学校	10	5	1	1			1		1				1
10	山王小学校	10	5	1	1		1	1	1					
11	南部小学校	20	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
12	芹田小学校	22	10	1	1		1	1	1	1	1	1	1	1
13	裾花小学校	23	11	2	1	1	1	1	1	1	1	1		1
14	川中島小学校	22	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1
15	通明小学校	23	11	2	1	1	1	1	1	1	1		1	1
16	柳原小学校	15	7	1	1		1	1	1				1	1
17	古牧小学校	22	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1		1
18	安茂里小学校	13	6	1		1	1	1	1				1	
19	昭和小学校	23	11	2	1	1	1	1	1		1	1	1	1
20	緑ヶ丘小学校	21	10	1	1	1	1	1	1		1	1	1	1
21	大豆島小学校	25	11	2	1	1	1	1	1	1	1	1		1
22	朝陽小学校	21	10	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
23	青木島小学校	20	10	1	1	1	1	1	1		1	1	1	1
24	下氷鉦小学校	24	11	2	1	1	1	1	1	1	1		1	1
25	三本柳小学校	24	11	2	1	1	1	1	1	1	1		1	1
26	共和小学校	12	6	1		1	1	1	1			1		
	小計	480	227	33	24	14	25	26	24	16	16	15	17	17

(出典：臨床教育推進室の資料を元に自己点検評価委員会にて作成)

2年次の「教育臨床演習」では、長野市教育委員会との連携のもと、長野市内の26校を協力校として、1週間の臨床実習を体験する。3年次での附属学校園での教育実習の前段階として公立校において、生徒達と直に触れ合うとともに、教科教育、生徒指導等の教員としての業務を客観的に観察することができる。

(6) 共通教育

共通教育科目は、学士課程共通の学位授与の方針に基づき開講し、カリキュラム・マップ、シラバスにより学生に明示している【前掲資料教5,p4, 資料教78,79】。

資料78：学位授与の方針マップ

「学位授与の方針」マップ

検索条件を指定して「検索」をクリックしてください。

開講部局	共通教育(全学教育機構)
開講年度	2014 年度(西暦)
開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年
学位授与の方針の範囲	<input checked="" type="checkbox"/> 全学士課程共通

検索      ダウンロード      シラバス検索へ

201～300件 (全1260件中)      <前へ      次へ>

コード	授業名	◎自己認識・自己啓発	◎社会的行動マインド	◎人類知の継承と未来	◎多様な文化受容マイ	◎科学リテラシー	◎言語能力	◎コミュニケーション	◎情報活用力	◎問題発見・解決能力	◎普遍的・数量的理解	◎専門知識と応用力	◎専門外の知識	◎地域環境に関する理	◎環境基礎力	◎環境実践力
03000	脳の不思議を探る(認知神経科学入門)					○				○						
03004	臨床心理学	○														
03097	体と心のリハビリテーションを考えるゼミ	○	○													
03099	「考える」ゼミ							○		○						
03100	食と植物の文化論			○	○											
03101	動物と私たちの暮らし					○						○				
03102	応用生物学への招待					○										
03103	応用生物学への招待					○										
03197	土壌ゼミ					○									○	
03198	自然誌・博物学ゼミ													○	○	
03199	植物生態学ゼミ	○												○		
03200	教養としての物理学					○										
03201	宇宙から原子への旅			○										○		
03203	物理学の世界【SUNS】			○		○										
03205	身近な化学					○							○			
03207	応用化学～千夜一夜～					○				○						
03212	物理への誘い					○				○						
03292	化学ゼミ					○		○								
03293	量子化学入門ゼミ										○	○				
03296	化学計算入門ゼミ										○					
03299	「物質科学の世界」ゼミ					○								○		

(出典：信州大学シラバス検索システム)

資料教 79 : 共通教育シラバス

時間割コード	01088				担当教員	松岡 幸司		
授業科目	授業題目	グローバルに生きるゼミ				英文授業名	Global Awareness Seminar	
	単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・4時限	対象学生	全
	講義室	共通教育211 演習室		授業形態	演習	備考		
	精神と思想							
<p>(1)授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」要素/◎：全学共通 ・◎みずから他者や社会との関わりをなかで捉え、自己啓発に努めることができる【自己認識・自己啓発マインド】</p> <p>【授業の達成目標】 ・グローバルとは何か、そしてグローバルな人材とはどのようなものなのか、という問いに対して、自分の生き方としてとらえ、説明できるようになる。</p> <p>【授業のねらい】 名前のとおり「グローバルに生きる」ということを「自分の問題として考える」ゼミです。 社会のグローバル化が当然のこととされ、グローバルな人材として社会で活躍することが求められている時代になっていますが、イメージが先行してあいまいな部分が多いように思えます。そのイメージだけで偶然とした活動をしていても結果として「グローバル化」は成りませんし、「グローバルな人材」にもなりません。例えば、英語ができてグローバルな人材ではありませんし、逆に、英語がそれほどできなくてもグローバルな人材として活躍できます。 そこでこのゼミでは： ・グローバルとは何か、そしてグローバルな人材とはどのようなものなのか？ ・現実的な問題として、自分にとっては具体的にどのようなものなのか？ この二点について、「自分としての答え」を見つめ、自分の生き方を考え、これからの学生生活の目標や目的を明確にすることがこのゼミのねらいです。また、実際に海外に行く（留学、出張）ということはどういうことなのか、ということを実践的に考えることを通じて、異文化理解・受容を促進し、社会的な行動規範についても理解を深めます。 最終的には、単なる情報ではなく、自分の生き方としてグローバル化というものにとらえ、説明できるようになってもらいます。</p> <p>(2)授業の概要 「授業のねらい」に書いたような性格上、この授業は、「グループワーク」、「ディスカッション」、「プレゼンテーション」が中心になります。「知識を得る」のではなく、情報を得て、それについて考え、自分の問題として発信することを要求します。（その意味では、受け身的な態度では受講することはできません。） 毎回の授業の大まかな流れは、以下のようなものです。 1. 資料あるいは短いレクチャーを通して、テーマごとの問題点を明確にする。 2. その問題点についてグループワークやディスカッションを通して理解を深めつつ、自分以外の視点についても触れ、自分の問題として考える。 3. ディスカッションの結果をグループで（あるいは個人で）まとめて発表する。 4. 授業内容のまとめとして、毎回短い文章を提出してもらい、（コメントをつけて返却し、それを次の授業から活かしてもらう。）</p> <p>(3)授業のキーワード</p>								
<p>グローバル、異文化理解、自己認識</p> <p>(4)授業計画 1. オリエンテーション：「グローバル（に生きる）とは何か？」 2-4. グローバルな人材とは？（自分の問題として考える） 5-6. 海外へ行く、海外で暮らす/学ぶとは？(1) 7-8. 海外へ行く、海外で暮らす/学ぶとは？(2)（担当：Ruzicka） 9. グループ発表 10-15. 様々なテーマで「グローバル」ということについて、自分の問題として考える。 ☆ 個人発表（試験期間終了直後に行います）</p> <p>(5)成績評価の方法 ・毎回の授業終了後の提出物：30% ・グループ発表（相互評価＋教員による評価）：30% ・個人発表（相互評価＋教員による評価）：20% ・個人発表の報告書：20%</p> <p>(6)履修上の注意 ・単なる「受講」ではなく「積極的参加」が求められます。最初は難しいとは思いますが、自分で考え、ディスカッションをし、自分で、自分の答えを見つけることが求められます。 ・グローバルに生きたい、という意識の有無に関係なく、真剣に取り組む意志のある学生の参加は歓迎です。 ・毎回の授業は密度が濃くなりますし、毎回の課題もありますので、「適当に済ませず」ということは参加できません。それでも、困難な点については、教員がサポートしますので、積極的に質問や相談をしてください。</p> <p>(7)質問、相談への対応 オフィスアワーについては、初回の授業で伝えます。 研究室は、共通教育南棟3階にありますので、質問や相談は、気軽に訪ねてください。ただ、事前にメール連絡をしておいた方が確実です。 松岡：maulwurf@shinshu-u.ac.jp ルジチカ：davidr2@shinshu-u.ac.jp</p> <p>【教科書】 特に指定のものはありません。授業は主にプリントを用いて進めます。 【参考書】 授業時にその都度紹介していきます。</p>								

(出典：シラバス)

2 学生や社会のニーズに対応した教育課程の編成・実施上の工夫

(1) 長野県教育委員会関係

① 長野県の要請により、平成 24 年度より、小・中両免許状取得を卒業要件として義務化した【前掲資料教 16, 17, 18, p10~11】。

② 長野県教育委員会からの要望により、現職教員の再教育の場として「長期研修生の受け入れ制度」を実施している【資料教 80】。

資料教 80 : 長野県教育委員会からの「長期研修生」受け入れ人数一覧表

	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
小学校	3	6	1	5	4	4	6
中学校	0	0	1	3	0	1	2
特別支援	0	1	2	1	2	2	1
合計	3	7	4	9	6	7	9

(出典：教育学部学務グループ学務係)

※第 1 期末(平成 21 年度)に比べ、第 2 期に入り、受け入れ数が大幅に増加しており、長野県教員の指導力の改善に貢献しているといえる。

- ③ 長野県の現代的教育課題に対応した附属学校における教員養成・研修の充実  
 長野県教育委員会との連携のもと、教育、研修等を総合的・一体的にとらえ、【資料教 81】に示す3つの事業を展開した。

**資料教 81：長野県の現代的教育課題に対応した附属学校における教員養成・研修**

**(1) 附属学校における ICT 活用教育の地域拠点化**

- ・学部の教育実習期間に ICT を活用した授業を実習受講中の学生に経験させる取り組みを、附属長野小学校にて開始。
- ・実践事例発表会（日本教育工学会合宿研究会「附属学校の取り組みから考えるタブレット端末の活用」7月27日於教育学部附属長野小学校 参加者100名超）を日本教育工学会と連携して開催。
- ・附属学校園 ICT 活用連絡会（ICT 環境、機器整備、セキュリティ対応等諸問題を協議し附属学校相互の意思疎通や連携を深める）を設置した。
- ・学部の業務達成基準適用による予算措置を受けて、同連絡会を開催し、ICT 機器導入の準備を開始した。

**(2) 附属学校における理科教育を担う中核的人材（CST）の養成**

- ・本年度の上級 CST 養成プログラム（理科研修講座）を、附属長野小学校で2講座、附属松本中学校で3講座開講した。延べ31名の現職教員が参加した。
- ・上級 CST 養成プログラム（理科研修講座）を44講座展開した。本学内4会場に加え、拠点校7会場にて開講できた点が特徴である。

**(3) 附属学校をフィールドとした公立学校教員研修プログラムの開発**

- 平成25年度の教員研修プログラム「学びのワークショップ」は、長野地区附属3校に松本地区附属2校（松本小および松本中）が新たに加わり、公募した県内公立学校教員を対象に、昨年4月中旬から今年2月まで、各附属学校を会場に実施した。
- ・長野小学校：4教科（体育、社会、国語、生活）の教材研究と授業研究を各4回行い、のべ43名の参加者があった。長野中学校では5教科（国語、社会、数学、理科、英語）の教材研究と授業研究を計15回行い、のべ99名の参加者があった。
  - ・特別支援学校：3つのテーマ（児童理解と授業づくり、VTR 分析、発達評価）に関する研修を計8回、特別支援教育の最新動向に関する学習会（学外招聘講師1名）を1回行い、のべ68名の参加者があった。
  - ・松本小学校：4教科（理科、道徳、社会、算数）の授業研究と講演会（学外招聘講師7名を含む）を計6回行い、のべ110名の参加者があった。
  - ・松本中学校：3教科（国語、数学、英語）の授業研究（学外招聘講師3名を含む）を計5回行い、のべ78名の参加者があった。

（出典：平成25年度部局重点事業計画実施報告書をもとに自己点検評価委員会にて作成）

**(2) 「教員就職率日本一！プロジェクト」**

教育学部の本来の目的である教員養成という使命をもった目的学部として社会からの付託に応え、以下の10項目を実施している【資料教 82】。

**資料教 82：教員就職率日本一！プロジェクト**

- 教員採用ニーズと求められる教員像の把握、分析
- 長野県の教員採用動向の実態調査と分析
- 他大学の教員就職支援策の調査と分析
- 教員を志望する受験生を増やすための広報・啓発活動
- 教員採用試験に向けた模擬学力試験、模擬面接試験、模擬授業ワークショップの実施
- 長野県教育委員会に対する地域採用枠導入の働きかけ
- 教職コーディネーターや実務家教員等の配置
- 入試における地域枠導入に関する検討と長野県教育委員会に対する地域採用枠導入の検討
- 本学部の取組みに対する本学他学部の教職志望学生の参加受入れ
- 長野県以外の自治体への教員採用への支援強化

（出典：教育学部学務グループ学務係作成）

(3) 長野市公立義務教育諸学校教員(10年経験者)研修の受け入れ

長野市教育委員会との連携協力により、現職教員を毎年12名程度受け入れている【資料教83】。

資料教83：長野市教育委員会からの研修実施要項

**平成26年度研修教員の学部研修実施要領**

平成26年度研修教員の学部研修は、『長野県義務教育諸学校教員の信州大学における研修に関する覚え書き』(平成8年3月6日付け)に則り、以下の研修を行うこととする。

1. 研修内容は、「教育一般に関する研修」及び「専門分野に関する研修」を行う。
2. 「教育一般に関する研修」については、1日4コマ相当で、3日間、計12コマの研修を行う。最終の講座終了後、1ヶ月以内に報告書(A4版5頁以内)をまとめ、学部長(学部保存)1部・校長1部・副校長(学校保存)1部を提出する。
3. 「専門分野に関する研修」については、各研修教員は研究テーマと指導教員の希望を学部に提出する。今年度の提出期限は4月15日(火)とする。各研修教員はそれぞれ指導教員と連絡を密に取り合い、研修を進める。
4. 研修成果は「研修派遣報告書」としてまとめる。内容は「専門分野に関する研修」の内容とし、1人20頁程度(A4版、40字×40行)とする。研修教員全員分を平成27年2月の修了式の日(火)に学部に各2部(県教育委員会提出、学部保存)提出する。また、学校別に2部作成し、所属校長と副校長の保存用とする。学部の指導教員および現任校長には、個別に各自の報告書を提出する。

(出典：附属学校長作成資料)

受入教員は、学部の教科教育担当教員と教科専門担当教員で指導している。

(4) 市民開放授業

正規の学生のために開講されている通常の授業を、「市民開放授業」として一般市民に開放している【資料教84】。

資料教84：平成27年度市民開放授業一覧

信州大学が行う、高校生を含む一般市民を対象とした大学開放活動の一環で、生涯学習に対する社会的要請に応えるとともに、本学と地域の連携をより深めていくことを目的とする。

平成27年度前期				平成27年度後期			
授業科目名	担当教員	受入可人数	難易度	授業科目名	担当教員	受入可人数	難易度
経済学基礎	藤崎 聖也	若干名	B	音楽基礎C	吉田 治人	若干名	B
電磁気学	天谷 健一	若干名	B	法律学基礎	関 良徳	若干名	B
量子力学	天谷 健一	若干名	C	熱学・統計力学	天谷 健一	若干名	C
有機化学	伊藤 冬樹	若干名	B	固体物理学	天谷 健一	若干名	C
地質学概論	竹下 欣宏	2	B	層位学	竹下 欣宏	若干名	B
ソルフェージュ基礎	池田 京子	若干名	B	機械基礎	川久保 英樹	若干名	B
指揮法基礎	吉田 治人	若干名	B	発達・教育心理学概論B	島田 英昭	若干名	A
日本音楽史	中山 裕一郎	若干名	B	社会心理学	鈴木 俊太郎	若干名	B
金属加工基礎	佐藤 運海	1	B				
環境と材料	佐藤 運海	2	C				
技術と環境	村松 浩幸	若干名	B				
情報基礎	西 正明	若干名	B				
プログラミング	西 正明	若干名	B				
教育心理学	島田 英昭	若干名	B				
発達・教育心理学概論A	島田 英昭	若干名	A				
初等音楽科指導法基礎A	中山 裕一郎	若干名	B				
中等音楽科指導法基礎	中山 裕一郎	若干名	B				
応用心理学	高橋 知音	若干名	B				
学校心理学	上村 恵津子	若干名	B				

(出典：平成27年度市民開放授業パンフレットをもとに自己点検評価委員会にて作成)

(5) 教員免許状更新講習への取り組み

本学部は、信州大学教員免許更新支援センターの中核となって積極的に教員免許状更新講習を開講している【資料教85】。

資料教 85 : 教員免許状更新講習の開講数・協力教員数及び受講者一覧

		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
教員免許状更新講習の開講数・協力教員数								
講習数	必須科目	5	5	4	5	6	6	6
	選択科目	25	29	31	32	36	39	30
	小計	30	34	35	37	42	45	36
担当教員数	必須科目	18	16	15	17	17	15	14
	選択科目	29	33	39	38	44	50	29
	小計	47	49	54	55	61	65	43

教員免許状更新講習受講者数一覧

		平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度						
必修講習		465	735	710	677	554	588	538						
選択講習		709	1,329	1,467	1,380	1,207	1,189	1,010						
合計		1,174	2,064	2,177	2,057	1,761	1,777	1,548						
受講者都道府県内訳	大阪府	2	茨城県	1	愛知県	7	愛知県	4	愛知県	7	愛知県	9	愛知県	3
	群馬県	1	群馬県	2	茨城県	9	埼玉県	8	宮城県	1	岡山県	1	茨城県	1
	埼玉県	1	愛知県	4	宮城県	2	山梨県	2	京都府	1	岐阜県	4	岐阜県	1
	長野県	1167	岐阜県	5	京都府	3	新潟県	6	群馬県	1	群馬県	2	京都府	3
	東京都	3	京都府	1	群馬県	1	神奈川県	4	高知県	1	埼玉県	7	群馬県	3
			埼玉県	1	埼玉県	8	静岡県	5	三重県	1	三重県	1	高知県	1
			三重県	3	三重県	1	千葉県	1	山梨県	2	山梨県	4	埼玉県	2
			山梨県	2	山梨県	1	大阪府	1	滋賀県	1	滋賀県	2	新潟県	4
			秋田県	1	新潟県	9	長野県	2011	新潟県	6	神奈川県	1	神奈川県	2
			新潟県	9	神奈川県	3	東京都	10	神奈川県	2	静岡県	1	静岡県	2
			静岡県	4	静岡県	1	栃木県	2	静岡県	1	石川県	1	石川県	1
			千葉県	2	石川県	1	富山県	3	石川県	1	千葉県	1	大阪府	5
			大阪府	5	千葉県	1			大阪府	1	大阪府	4	長野県	1502
			長野県	2016	大阪府	6			長野県	1727	長野県	1731	東京都	14
			東京都	1	長野県	2110			東京都	4	東京都	4	奈良県	1
			栃木県	4	東京都	6			栃木県	4	徳島県	1	富山県	1
			奈良県	2	栃木県	2					富山県	1	福島県	2
			北海道	1	富山県	2					福島県	1		
					福島県	1					兵庫県	1		
					兵庫県	3								

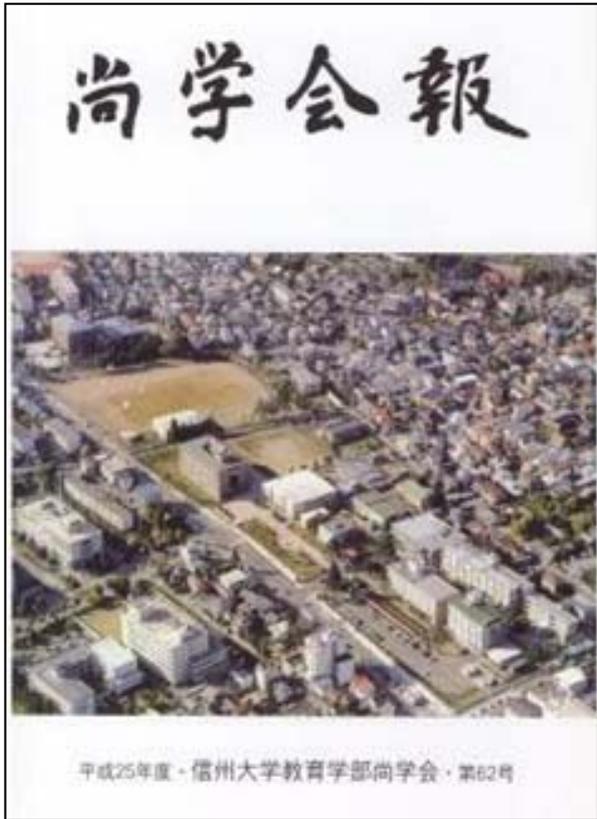
(出典:教育学部学務グループ学務係作成)

受講者は全国的各地からの参加が見られるが、長野県内の教員が圧倒的多数を占めている。この講習を開講することによって、地域の教育関係者からの教員再教育の場のニーズに幅広く対応しているといえる。

(6) 在学生の保護者への対応

本学部の保護者会『尚学会』と連携して発行する会報【資料教 86】を通じて、また、毎年開催される同組織の各支部総会に本学教員が出向き、本学部の諸活動の情報提供を行っている【資料教 87】。

資料教 86：保護者への情報提供誌「尚学会報」第 62 号の表紙及び会則



信州大学教育学部尚学会会則

(名称)

第 1 条 本会は、信州大学教育学部尚学会といい、事務所を長野市内に置く。

(目的)

第 2 条 本会は、会員の協力によって教育を振興し、学生の福祉を図ることを目的とする。

(事業)

第 3 条 本会は、前条の目的を達成するために、次の事業を行なう。  
 1 学部と家庭との連絡、協力の緊密化  
 2 学生課外活動の援助  
 3 学生研究の奨励  
 4 学生福祉厚生の増進  
 5 その他必要な事業

(組織)

第 4 条 本会は、本学部専門課程を履修中の学生の保護者をもって組織し、各地区に支部を置く。

(役員)

第 5 条 本会に次の役員を置き、任期は1か年とする。ただし、補欠によって就任した者の任期については、前任者の残任期間とし、重任をさまたげない。

会 長 1名  
 副 会 長 1名  
 代 議 若干名  
 会計監査員 2名  
 幹 事 若干名

第 6 条 会長、副会長は総会で選出する。代議員は、各支部正副支部長があたる。会計監査員は、総会において選出する。幹事は、会長が委嘱する。

第 7 条 役員の仕事は、次のとおりである。会長は、会務を総理する。副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれを代理する。

代議員は、本会の事業運営について審議する。会計監査員は、会計を監査する。幹事は、庶務、会計についての事務にあたる。

(総会)

第 8 条 総会は、代議員を持って組織する。

第 9 条 総会は、毎年1回開き、次の事項を審議する。ただし、必要に応じて臨時に開くことができる。  
 1 予算及び決算について  
 2 役員を選出について  
 3 会則の変更について  
 4 その他、重要事項について

第 10 条 会長は、総会を招集し、その議長となる。

第 11 条 総会の議事は、すべて出席者の過半数で決める。

(会費)

第 12 条 本会の会費は、学生1人につき20,000円とする。

第 13 条 本会の事業運営に要する経費は会員その他の収入をもってあてる。

(支部)

第 14 条 支部総会は、各支部の定めるところにしたがって支部ごとに開く。

(会計年度)

第 15 条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

付 則

本会則は昭和25年7月1日から施行する。

昭和41年12月10日 一部改正

昭和46年 5月22日 一部改正

昭和52年 5月21日 一部改正

昭和55年 7月12日 一部改正

平成 7年 8月 6日 一部改正

平成 8年 8月 4日 一部改正

平成10年 8月 2日 一部改正

資料教 87：平成 26 年度信州大学教育学部尚学会支部総会一覧

平成26年度信州大学教育学部尚学会支部総会予定表(決定) (開催日順)

支部名	開催地	会員数	開催月日	時 間	派遣講師
①上小	上田市	47名	10月11日(土)	14:00~20:30	評議員 永松先生
②静岡県	静岡市	37名	10月11日(土)	14:00~16:00	就職部会 三野先生
③佐久	佐久市	60名	10月18日(土)	16:00~19:00	学生部会 廣内先生
④安曇野大北	安曇野市豊科	55名	10月18日(土)	16:30~20:00	学生部会 徳井先生
⑤諏訪	茅野市	48名	10月25日(土)	18:30~20:30	学生部会 徳井先生
⑥松塩筑木曾	松本市	82名	10月25日(土)	17:30~20:00	就職部会 伏木先生
⑦埴科更級	長野市篠ノ井	74名	10月25日(土)	17:00~20:00	学生部会 榊原先生
⑧長水	長野市	88名	11月 1日(土)	14:00~17:00	就職部会 三野先生
⑨須高	須坂市	23名	11月 8日(土)	17:00~	学生部会 榊原先生
⑩飯伊	飯田市	29名	11月 9日(日)	11:00~14:00	就職部会 田中先生
⑪上伊那	伊那市	39名	11月15日(土)	11:30~14:00	就職部会 伏木先生
⑫中高飯水	飯山市	27名	11月15日(土)	16:00~18:00	就職部会 田中先生
⑬愛知県	名古屋市	53名	11月16日(日)	12:00~14:30	学部長 平野先生

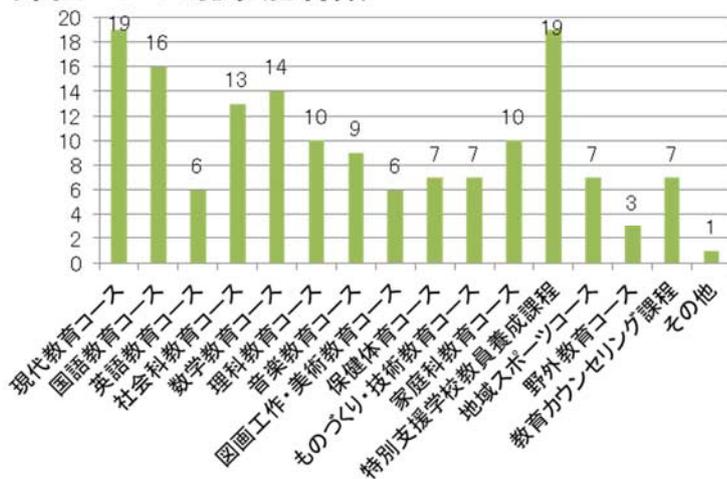
(出典：信州大学教育学部保護者会「尚学会」)

入学式に来学した保護者を対象に説明会を実施している【資料教 88】。

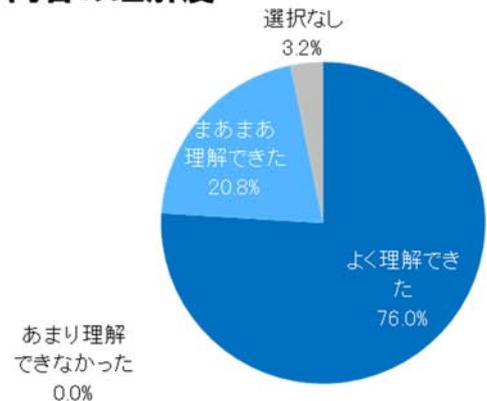
資料教 88：入学式における保護者を対象とした説明会へのコース別参加者数と内容の理解度

広報・国際交流部会が中心となって、入学式に来学した保護者を対象に、学部の理念やカリキュラム構成、進学・就職の実績や、学生生活の詳細について理解を深める機会を設定している。平成 26 年度は 154 名の参加者があった。

課程・コース別参加者数



内容の理解度



(出典：広報・国際交流部会作成)

(7) 共通教育の教育内容方法の工夫

① 新入生ゼミナール等

高等学校までの勉学から、大学での学びへと橋渡しをするため、各学部・学科等で1クラス20人程度により必修2単位として開講している。各ゼミでは、入学時に配布の「新入生ハンドブック」を参考資料としている【資料教89】。

資料教89：新入生ゼミナールの概要及び新入生ハンドブック

共通教育の目標の「⑥ 大学教育における基礎的な能力の育成」の内の「大学教育を受けるための基礎能力の育成」を目的とします。

受験勉強中心の高等学校までの勉学から、自ら学ぶ態度を培い、学問の面白さ、自身の専門への動機付けにより、大学での学びへと橋渡しをするためのゼミナールを前期、又は前期及び後期（学部・学科（課程・系）によって指定）に開講します。

基礎的な情報通信技術、情報の集め方の確認や、授業の受け方、大学の諸施設の使い方などの基本から始まり、口頭・文書によるコミュニケーションの基礎を含む大学での学びへの導入教育など、大学における学習の一般的スタイルの獲得を目指します。また、共通教育を中心に自らの学習の目標とするための計画の立案を行います（ポートフォリオ作成）。

教員と学生の人格的な交流を活かしつつ、基本的には、大学に入ったばかりのみなさんが、大学生として主体的に勉学に取り組む姿勢をつくる場として開設されます。

レポート作成、発表を通じて日本語の作文力や話し方について訓練し、専門教育の内容や施設に直接触れることを通じて、大学生としてのみなさんの意識形成を図ります。

このゼミナールは学部・学科（課程・系）の方針に従い、学部・学科（課程・系）の教員によって実施されます。

なお、参考資料として、入学時に配付する「新入生ハンドブック」があります。

（出典：「2015共通教育履修案内」をもとに経営企画課作成）



新入生ハンドブック-目次

前書き	..... j
序章 信州大学学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）	..... 1
第1章 何のために学ぶのか - 10年後の世界を想像しよう -	..... 7
1.1. 卒業後の世界を知ろう	..... 7
1.2. 情報伝達技術の革新とその影響	..... 14
1.2.1. コミュニケーション（情報伝達）技術の進化	14
1.2.2. 技術革新の光と影	..... 17
1.3. 急速に変化する社会で活躍するために：	
知の訓練場「大学」	..... 22
1.3.1. 自分で問題を発見する	..... 22
1.3.2. 森の中に木を見る	..... 23
1.3.3. 真の知識を身につける	..... 24
1.3.4. 目標がすべて	..... 26
第2章 大学での学習スキル	..... 31
2.1. 大学の授業とは	..... 31
2.2. 学ぶ意義は自分で考えなければならない	..... 33
2.3. 授業は学びの一部でしかない：自主学習が大事	..... 34
2.4. 自主学習の例	..... 35
2.4.1. 内容を理解するために、話してみよう	36
2.4.2. 専門のある何でも屋に	..... 37
2.5. 学習観を再考しましょう	..... 39
2.6. 能動的な学びを	..... 41
第3章 探す・集める・探す	..... 47
3.1. 調べるとは	..... 48
3.2. 資料を探す	..... 51
3.2.1. 辞典を使う	..... 51
3.2.2. 検索術語	..... 53
3.2.3. 図書館で探す	..... 56
3.2.4. インターネット検索を使う	..... 61

3.3. 問いを作り上げる . . . . . 64

第4章 レポートの書き方 . . . . . 69

4.1. レポートとは? . . . . . 69

4.2. レポートの構想とメモ . . . . . 70

4.3. 問題の見つけ方 . . . . . 72

4.3.1. 文献はうたがってかかる . . . . . 72

4.3.2. 常識はうたがってかかる . . . . . 73

4.3.3. 自分でデータを集めてみる . . . . . 73

4.4. レポートの構成と文章 . . . . . 74

4.4.1. ねらいを短い文章に . . . . . 74

4.4.2. ミニ目次のすすめ . . . . . 74

4.4.3. 分かりやすい構成を . . . . . 77

4.4.4. 文体はどうするか . . . . . 77

4.4.5. 受け身の表現は避ける . . . . . 77

4.5. レポートの落とし穴 . . . . . 78

4.5.1. 一次資料って何だろう . . . . . 78

4.5.2. 意見の流用 . . . . . 79

4.5.3. 専門用語の誤 . . . . . 79

4.6. 形をととのえる . . . . . 80

4.6.1. まずは表紙から . . . . . 80

4.6.2. 一般的なかたち . . . . . 81

4.6.3. 見やすい体裁に . . . . . 81

4.6.4. 引用と脚注 . . . . . 82

4.6.5. 推敲はかならず . . . . . 83

4.7. レポートから論文へ . . . . . 83

4.8. 口頭発表にむけて . . . . . 84

4.8.1. 発表原稿の棒読みはなぜわかりにくい? . . . . . 84

4.8.2. 口頭発表のメリットを最大限生かすには . . . . . 85

4.8.3. 質疑への対応 . . . . . 86

第5章 学生生活を設計しよう 勉強も遊びも . . . . . 93

III

5.1. 信州大学学生相談センターおよび  
全学教育機構相談室について . . . . . 93

5.2. 学習の科学 . . . . . 94

5.2.1. 時間の前借りはしない . . . . . 95

5.2.2. とにかく始めたほうがよい . . . . . 95

5.2.3. 休まないと能率が落ちる . . . . . 96

5.2.4. すぐ復習しないと忘れる . . . . . 96

5.2.5. 暗記物は就寝前が良い? . . . . . 96

5.2.6. 五感を使う . . . . . 98

5.3. タスクを管理する . . . . . 98

5.3.1. 忘れ防止対策 . . . . . 99

5.3.2. 未完了の対策を大別する . . . . . 99

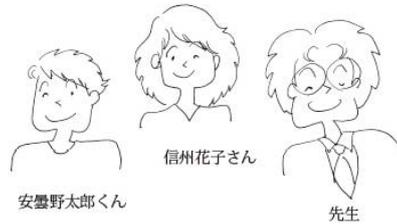
5.3.3. 自分の処理時間を把握する . . . . . 100

5.3.4. 学生の自由時間はたっぷりある? . . . . . 101

5.3.5. 課題の作業時間を見積もる . . . . . 102

5.3.6. 手帳かスマートフォンか . . . . . 103

登場人物



IV

(出典:「信州大学新入生ハンドブック2015」)

② 教養ゼミ・大学生基礎力ゼミ

学部混合で行われる1クラス20名程度のゼミナールを開講している【資料教90】。

資料教90：教養ゼミナール及び大学生基礎力ゼミ

【教養ゼミナール】

本学は種々の専門性を持つ8学部からなる総合大学であり、1年次に全学部生が松本キャンパスで学びます。ゼミナールは学部混合で行われますので、多様な物の見方を知る機会を得ることができます。また、個々の教員の専門が生かされています。また原則として25名を超えた場合の受講制限は、数の多い学部生から行うなど同一学部生に偏らないような処置をしています。

教養ゼミナールでは、多くの事例的な研究を行い、学生が自分の知識や人生を社会との関係の中で位置付ける機会を提供します。討論やプレゼンテーション等も積極的に取り入れながら、物事の多面的な理解と深い洞察力を養います。

【大学生基礎力ゼミ】

「大学生基礎力ゼミ」について

信州大学で、一人前の大学生として有意義な学生生活を送りたい方のために、「大学生基礎力ゼミ」(社会科学群)を7コマ開講します。興味のある方は是非受講してください(詳しくはシラバスで確認してください)。

一人前の大学生のあるべき考え方を教えてもらった。

レポートの書き方の基本が分かった!

この授業のおかげで、グループの話し合いなどで意見が出せるようになり、楽しかったです。

ふりかえりレポートを毎週書くことで、自分についてよく知ることができ、本当に良い生活が送れた。

大学に入学して、今までとの違いや、これからどのように勉強していったらよいか分からない状態だったが、毎週の授業の中で少しずつ形作ることができた。

昨年受講した学生の声

平成27年度開講数

	前期	後期
教養ゼミナール	53	36
大学生基礎力ゼミ	11	0

(出典：「2015共通教育履修案内」)

③ ICT活用教育

松本キャンパス以外の高年次学生が共通教育科目を受講するため、ICTを活用した授業を実施している【資料教91, 92】。

資料教 91：平成 27 年度 信州ユビキタスネットシステム (SUNS) 利用授業の開講状況			
前 期		後 期	
授 業 名	担 当 教 員	授 業 名	担 当 教 員
ネイチャーライティングのすすめ (環境文学 I) 【SUNS】 【EA】	松岡 幸司	環境文学のすすめ (環境文学 II) 【SUNS】 【EA】	松岡 幸司
キャリア形成論 I -本当の自分を理解するステップ- 【SUNS】	小池 健一	キャリア形成論 II -自分の将来像を探るステップ- 【SUNS】	小池 健一
物理学の世界 【SUNS】	矢部 正之	新聞と私たちの社会 【SUNS】 (信濃毎日新聞社寄附講義)	分藤 大翼
検索の科学 【SUNS】	鈴木 治郎	現代医療における物理学 【SUNS】	矢部 正之
現代ドイツの言語と日常ゼミ 【SUNS】	松岡 幸司	現代ドイツ事情ゼミ 【SUNS】	松岡 幸司
ドイツ語初級 (総合) I 【SUNS】	松岡 幸司	ドイツ語初級 (総合) II 【SUNS】	松岡 幸司
ドイツ語中級 (読解) I 【SUNS】	松岡 幸司	ドイツ語中級 (読解) II 【SUNS】	松岡 幸司
線形代数学 I 【SUNS】	高野嘉寿彦	一般化学 II 【SUNS】	村上 好成
一般化学 I 【SUNS】	村上 好成		

(出典：「2015 共通教育履修案内」をもとに経営企画課にて作成)

資料教 92：平成 27 年度 共通教育『EA』科目(e-Learning のみで行う授業)の開講状況			
前 期		後 期	
授 業 名	担 当 教 員	授 業 名	担 当 教 員
ネイチャーライティングのすすめ (環境文学 I) 【SUNS】 【EA】	松岡 幸司	環境文学のすすめ (環境文学 II) 【SUNS】 【EA】	松岡 幸司
ジェンダー論 【EA】	加藤 善子	ジェンダー論 【EA】	加藤 善子
日本人のための英作文練習ゼミ 【EA】	加藤 敏三	検索の科学 【EA】	鈴木 治郎
ドイツ語初級 (総合) I 【EA】	松岡 幸司	ドイツ語初級 (総合) II 【EA】	松岡 幸司
フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ I 【EA】	田口 茂樹	フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ II 【EA】	有路 憲一
リスニング&リーディング I 【EA】	近藤 富英	リスニング&リーディング II 【EA】	近藤 富英
ドイツ語中級 (読解) I 【EA】	松岡 幸司	ドイツ語中級 (読解) II 【EA】	松岡 幸司
ロシア語中級 I 【EA】	佐々木 寛	ロシア語中級 II 【EA】	佐々木 寛
ハンブルク中級 I 【EA】	延 鎮淑	ハンブルク中級 II 【EA】	延 鎮淑
キャンパスライフと健康 【EA】	川 茂幸		

(出典：「2015 共通教育履修案内」をもとに経営企画課にて作成)

④ 教育方法・学習支援

上記のほか、履修登録上限単位、習熟度別クラス編成、リメディアル教育、各種英語資格試験による単位認定、放送大学との単位互換、県内他大学との単位互換を行っている【資料教93】。

資料教93：共通教育科目における教育方法や学習支援

【履修登録上限単位】

共通教育科目では、1 学期に履修登録できる単位の上限が学部ごとに定められています。

※ 履修登録単位数の上限には教職に関する科目は含みません。

※ その他、学部・学科 (系) によって、上限に含まない科目もありますので、詳細は各学部学生便覧で 確認してください。

大学での勉学は授業での学習に加えて、出席する授業の予習、復習を含む十分な自主的学習時間の確保が前提となっています。こうした趣旨から、履修登録単位数の上限制度が設けられています。なお履修登録単位数の上限を超えて履修することはできません。

また、前期の成績が優秀な学生で学部長の許可がある場合には、後期に個々の学生ごとに履修登録単位数の上限を設定することが認められます。

## 【習熟度別クラス】

**英語** 英語のクラスは、すべて学部別であり、また習熟度別クラス編成になっています。(上級)(中級)(初級)の3レベルです。習熟度別クラスが編成され、授業が始まる前までに掲示されます。指定されたクラス以外のクラスを履修することは原則としてできません。

**微分積分学 I、力学、生物科学 I** 基礎科学科目の履修方法は学部・学科(課程・系)により異なりますので、各学部・学科(課程・系)の履修指導に従ってください。学部・学科(課程・系)でクラスが指定されますので、指定のクラスで受講してください。

なお、力学及び生物学Aについては、高校における履修状況等を考慮し、一部の学生についてクラスの指定があります。対象学生となる学生が学部・学科(系)から掲示等で指定されます。

## 【リメディアル教育】

大学での学習にスムーズに取り組んで行けるように、基礎を学ぶための授業です。積極的に活用しましょう。

各科目のリメディアル教育授業については、以下の通り実施します。掲示により受講を指定された学生は、以下を確認の上、授業に臨んでください。対象学生は、授業開始日までに、全学教育機構公用掲示板にて周知します。なお、指定を受けない場合でも、受講人数に余裕がある場合は、授業担当教員に申し出て、受講することができます。

## 「基礎化学」

担当教員 : 勝木 明夫 全学教育機構

授業内容 : 高校の化学 I を中心に化学 II まで

実施期間 : 前期 水曜日の5時限 平成 27 年 4 月 15 日～7 月 1 日(ただし、4 月 29 日、5 月 6 日を除く)

講義室 : 共 28 番教室

その他 : 学部からの指定事項等の詳細は、4 月に公用掲示板で確認してください。

※「基礎科学」の他に「英語基礎」、「基礎数学」、「基礎物理」が開講されている。

## 【各種英語資格試験による単位認定について】

TOEIC、TOEFL 等で一定の点数を得た者及び実用英語技能検定(英検)等の特定の級に合格した者にだけ適用されます。

## 【放送大学との単位互換】

本学に在籍する学生が放送大学との単位互換(本学の授業の代わりに放送大学の授業を受講して単位を修得すれば、本学で修得すべき単位とみなす制度)を希望する場合は、「特別聴講学生」として受講することができます。ただし、受講の対象は教育学部、医学部、工学部、農学部及び繊維学部の学生に限ります。

## 【県内他大学との単位互換】

信州大学は、長野県内の他大学(長野県看護大学、佐久大学、清泉女学院大学、諏訪東京理科大学、長野大学、松本歯科大学、松本大学)と単位互換協定を結んでいます。

信州大学の学生は、この協定により長野県内他大学が開講する授業を受講することができ、その受講により取得した単位は、信州大学の単位として認定されます。単位互換の授業は、みなさんが他大学に通学して授業を受けるタイプと、遠隔講義システム(SUNS)\*を利用して信州大学の教室で他大学の授業を受けるタイプの2種類があります。

長野県内他大学の単位互換の対象授業は、学期の始めに各大学が募集します。

また、長野県内の高等教育機関で組織する「高等教育コンソーシアム信州」のホームページ(<http://www.c-snet.jp/>)でも、単位互換に関することが掲載されています。

なお、全学教育機構では、平成27年度開設する教養科目、外国語科目及び基礎科学科目の授業のうち、授業担当教員が開放することを認めた「授業科目」について、県内の他大学の学生の受け入れを実施します。

**【遠隔講義システム(SUNS)\*による受講】** 平成22年度からは、長野県内他大学の授業を遠隔講義システム(SUNS)\*を通じて信州大学で受講できるようになりました。(他大学の特別聴講学生として受け入れられます。)この遠隔講義システムを利用した授業を受講すれば、他大学に通学しなくても信州大学の教室で、他大学の授業を受講できます。遠隔講義システム(SUNS)\*を利用した他大学の開講科目は、共通教育科目のうち「教養科目」として認定され、卒業に必要な単位に算入されます。

(出典:「2015共通教育履修案内」をもとに経営企画課にて作成)

3 主体的な学習を促す取り組み

(1) e-Learningシステム「eALPS」の活用

平成22年に、e-Learningシステム「eALPS」【前掲資料教12, p7】を改編した新e-Learningセンターを発足させ、学生の主体的な学びの確立を支援している【資料教94】。

資料教94：e-Learningの活用による主体的な学び

2013年6月14日付けで閣議決定された第2期教育振興基本計画では、「自立・協働・創造モデルとしての生涯学習社会の構築」を掲げており、基本的方向性の1つに「社会を生き抜く力の養成」を挙げています。特に、高等教育段階では、知識を基盤とした自立、協働、創造の社会モデル実現に向けて、「課題探求能力」を身に付けられるよう、学生の主体的な学びを確立することを求めています。(中略)

- 自立:授業時間内外にe-Learningのコンテンツで自主的に学習することによって、質を伴った学修時間の実質的な増加・確保ができる。
- 協働:“反転授業”のようにe-Learningで課題を予習した上で授業に出席してディスカッションをしたり、授業後にe-Learningの掲示板でリフレクションやディスカッションを行ったりすることによって、様々な個性を持つ学生が協働的に学習を進められる。
- 創造:e-Learningの活用により授業形態が協働的になることが、社会全体の変化や新たな価値を創造し主導するような人材の養成に繋がる。

(出典:本学e-Learning活用センターホームページ)

[http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/e-L/modules/picol/index.php?content\\_id=28](http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/e-L/modules/picol/index.php?content_id=28)

(2) 教育学部附属教育実践総合センター

平成27年度より、これまでのコンピュータ室がタブレットPCを活用したアクティブラーニング(主体的能動的な学習)を行うための教室に改装された【資料教95】。

資料教95：教育学部附属教育実践総合センターの案内



No. 34

2015年4月1日

## 信州大学教育学部

### 教育実践総合センターニュース

教育学部附属教育実践総合センター、略して「実践センター」は、教育学部の正門を入ってすぐ左側にある2階建てのコンクリートづくりの建物です。

人間分野、実践分野、情報分野の3分野からなる同センターには4名の教員、3名の事務補佐員が配置されています。人間分野では学校カウンセリングや、さまざまな教育問題解決のための研究活動等をおこなっています。また実践分野では主として皆さんの教育実習に関わるさまざまな研究や支援をおこない、情報分野はICT活用指導力を兼ね備えた教員の集積と研修にかかわる研究と支援をおこない、全学e-LearningセンターのICT活用支援部門としての機能も兼ね備えています。

また、研修会等を通して地域社会、教育現場に還元することセンターの重要な任務となっています。充実した学生生活を送る一助として積極的な活用を願うところです。

センター長 東原 義訓

**利用について**

**タブレットPC活用アクティブラーニング**

- \*どこで→ 201室
- \*いつ→ タブレットPCの利用は原則として授業時間
- \*どうやって→ タブレットPC保管庫の鍵は、教員またはTAに事務室で貸出します。

**大判プリント**

- \*どこで→ 101室
- \*いつ→ センター開館時間中
- \*プリント→ 80ページまで(有料)

**人間分野から**

人間分野では、現場教員研修のサポートや心理教育相談の相談を中心に、子どもや支援に関わる地域のニーズに応えるサービスを提供しています。また、地域の臨床心理やカウンセリング専門職の方々のスキルアップをめざした研究会や研修会をサポートします。ご希望がある場合には、直接ご連絡ください。

**情報分野から**

コンピュータ室がアクティブラーニングの空間に生まれ変わりました。201室の利用について

【目的】タブレットPCを活用したアクティブラーニング(主体的能動的な学習)を行うための教室です。また、これからの小中学校のICTを活用した新たな学びの空間の模擬教室の役割も担っています。

【環境】除菌式の一人机と椅子、タブレットPC、電子黒板、大型提示装置、書画カメラ、テレビ会議システム等。

【利用に関する約束】

- (1) コンピュータ、タブレットPCを活用した授業での利用を優先します。授業担当者は、年間計画、随時計画としてセンター事務室に予約してください。
- (2) 自分のコンピュータを持参し、必要に応じて無線LANに接続して利用することを原則とします。
  - ①自分のコンピュータにIPアドレスとDNSの自動取得を設定して、無線でセキュアネットワークに接続後、Webブラウザにより、<https://acu.shinshu-u.ac.jp/>にアクセスして、大学で発行されたユーザIDとパスワードを入力すると、一般のWebページ等の利用が可能となります。
  - ②タブレットPC用充電保管庫の鍵をセンター事務室から教員またはTAが借りて利用します。
  - ③タブレットPC用充電保管庫の鍵をセンター事務室で保管しています。
- (3) 授業担当教員の指示がある場合には、タブレットPCを利用することができます。
  - ①タブレットPC用充電保管庫の鍵をセンター事務室から教員またはTAが借りて利用します。
  - ②タブレットPC用充電保管庫の鍵をセンター事務室で保管しています。
- (4) 授業時間外にタブレットPCを個人で利用したい場合には、センター事務室の「借用申込」に記入します。個人利用の場合は、9:00から16:00(授業時は除く)に、201室内に限り利用できます。
  - ★図書館に設置されたデスクトップPCで、統計ソフト、デザインソフトが利用できますので、図書館の指示にしたがって利用してください。
- (5) タブレットPC内にはファイルを保存できません。指定されたGoogleドライブ、またはUSBメモリに印刷してください。本体(デスクトップやドライブ等)は保存したファイルは削除されます。
- (6) 印刷したいときは、pdfとしてUSBメモリに保存し、生協に設置されているコピー機にセットすれば印刷できます(有料)。

**間 パスワードを忘れてしまいました。すぐに教えてもらえますか。**

パスワードは本人が自覚を持って管理すべきものです。特に変更後のパスワードは管理者にも知る術がありません。パスワードは教育学部庶務係で在学中1回のみ初期パスワードに戻す申請ができます。

**「コンピュータ利用教育」「初等&中等教育内容・方法論(集中講義)」**

1 コンピュータ利用教育  
第1回目の授業から、附属教育実践総合センター2Fの教育学演習室(201)で実施されます。ACSU用パスワードが不明な場合には受講できません。できる限り学生所有のPCを利用します(BYOD)。

2 初等教育内容・方法論、中等教育内容・方法論の集中講義  
ABCのクラス分けの通常の講義のほか、次表で示すICT活用の実習を含む集中講義(実践センター201)を受講しないと単位が認定されません。少人数クラスで、午前(2コマ)に初等教育内容・方法論としての実習、午後(2コマ)に中等教育内容・方法論としての実習が行われますので、同一日に連続して出席してください。講義の履修学期と集中講義の履修学期は必ずしも一致していませんので注意が必要です。

コース名	実施日	講師	教員免許取得は、この集中講義を履修していることが条件となります。やむをえない理由により日を変更したい場合には、コンピュータ利用教育の授業の初回に実践センターの庶務まで申し出てください。
音楽 図画工作・美術	4月18日	中島	※注意 生協スポーツ、教育カウンセリングで、初等教育内容・方法論と中等教育内容・方法論の両方を受講する学生は、社会、数学、理科のいずれかのコースの集中講義に合意して受講します。受講希望日を初等教育内容・方法論の授業時に申し出てください。ただし、各日には人数制限があります。中等教育内容・方法論のみ受講の学生は、表で指定された日を受講してください。
国語 英語	4月25日	中村	
現代教育	5月16日	堀橋	
ものづくり技術 家庭	5月22日	藤澤	
保健体育 特別支援	5月30日	丸山	
社会 法	6月6日	中村	
数学 法	6月27日	宮原	
理科 法	7月11日	成田	
※生協スポーツ ※教育カウンセリング	12月5日午後	中村	

電子:市澤山先生 ロゴマーク:田中崇君(1999年度卒業)  
発行:信州大学教育学部附属教育実践総合センター 〒380-8544 長野県長野市西長野6-6  
TEL/FAX 026-238-4242 URL <http://cert.shinshu-u.ac.jp/> E-Mail [cert@shinshu-u.ac.jp](mailto:cert@shinshu-u.ac.jp)

(出典:教育学部附属教育実践総合センター)

「ICT活用教育基礎演習I・II」「ICT活用教育演習I・II」等の小中学校のICTを活用した新たな学びの空間の模擬教室の役割も担っている。

3-66

(3) 教育学部附属図書館

図書館の利用方法の説明【資料教 96, 97】、データベースの使用方法の説明会の開催【資料教 98】を行うとともに平成 23 年度より開館時間を延長し、主体的な学習を促す環境を整備した。貸出実績は、平成 21 年度に比べ大幅に増加した【資料教 99】。

資料教 96 : 図書館の利用方法の説明

## 信州大学附属図書館 教育学部図書館 利用案内

### 開館時間

月曜日～金曜日      8:45 ～ 21:00  
土曜日                10:00 ～ 17:00

#### \* 長期休業期間中

月曜日～金曜日      8:45 ～ 17:00  
土曜日                閉館

### 休館日

日曜・祝日、長期休業中の土曜  
お盆・年末年始の期間  
その他館長が必要と認める時

☆ 試験期間中は延長開館します。  
また、6月中旬～8月初めは毎日開館しています。  
詳しくは掲示板やHPの開館カレンダーをご覧ください。

信州大学附属図書館 教育学部図書館  
〒380-8544 長野市西長野 6 の口  
TEL: 026-238-4061 FAX: 026-237-4390  
<http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/library/education/>  
附属図書館公式ツイッター @ShinshuUnivLib



教育学部図書館

資料教 97 : 図書館の利用方法の説明(続き)

## 図書館のサービス

### リクエスト

「図書館においてほしい本」や「大学図書館として必要な本」などのリクエストを受付けています。

カウンターの「リクエスト図書申込書」に記入し、ご提出ください。  
図書館ポータルサイト「My Library」からもリクエストできます。

### レファレンス・サービス

図書館の利用や資料についてのご質問・ご相談を受付けています  
資料探し等のお手伝いをしますので、お気軽にカウンターでお尋ねください。

### 資料のコピー

館内設置のプリペイドカード式コピー機でコピーできます。備付の「複写申込書」に記入してからコピーしてください。

★ 持込資料のコピーはできません ★

☆プリペイドカードは  
生協売店で販売しています☆

### お願い

- ◆館内は禁煙です。
- ◆館内での飲食はご遠慮ください。  
(フタつきの飲み物のみ持ち込み可)
- ◆館内での携帯電話の使用は  
ご遠慮ください。

### 他キャンパスの図書館の利用

信州大学内にある他学部の図書館を利用することができます。

学生証または「図書館利用証」で本を借りることもできます。返却は教育学部図書館でも可能です。

### 他大学の利用 <学内者>

他大学の図書館の利用にあたって必要な場合は紹介状を発行します。カウンターにお申し出ください。学生証の持参で利用できる場合もありますので、ご相談ください。

### 学部内にはない資料の入手 <学内者>

【複写】本学部図書館にはない文献について、他図書館などに複写依頼をして取り寄せることができます。(有料: 複写料金+郵送料)  
(学内の郵送料は無料)

「文献複写申込書」に記入して、カウンターにお申し出ください。

【貸借】本学部図書館にはない図書を他図書館から借用できる場合があります。

「現物貸借申込書」に記入して、カウンターへお申し出ください。

\*\* 学内の図書館からの取寄せは無料です \*\*  
OPAC から簡単に申込みできます

わからないことは  
いつでも係員に  
お尋ねください。

(出典:「教育学部附属図書館利用案内」パンフレット)

資料教 98 : データベースの使用法の説明会の開催

# EBSCOhost

## データベース利用説明会

### EBSCOhostとは？

EBSCOhostデータベースは、学術雑誌論文を中心とした論文の全文、または文献情報を検索できるオンライン・データベースです。外国雑誌等をインターネットで検索し、得られた論文の全文・抄録を印刷・保存・E-Mail送信できます。

**卒論・修論の文献収集にお役立て下さい！**

説明会では、EBSCOhostで利用できる次のデータベースを例に、操作方法・便利な使用方法をご紹介します。

#### Academic Search Premier

人文社会・自然科学・医療・理工系等総合分野を網羅したデータベースです。

4600誌以上の雑誌の全文が見られます。

#### PsycINFO

アメリカ心理学会（APA）製作の文献情報データベースです。

心理学に関連する雑誌記事、書籍、学位論文などから、360万件以上の文献情報を収録しています。

日時

**6月10日（火） 14:40～16:10**

場所：教育実践総合センター2F 201教室  
実習形式で行います。

参加をご希望の方は**前日6/9（月）**までに  
教育学部図書館へご連絡下さい。

**お申込み・お問い合わせは教育学部図書館カウンターまで！**  
TEL:026-238-4061 E-mail: jed0101@shinshu-u.ac.jp

（出典：「データベース利用説明会」パンフレット）

資料教 99 : 教育学部図書館における学部生の貸出実績

※長野（教育）キャンパスのみ集計

年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
総冊数（冊）	4,208	4,729	5,863	6,469	6,981	7,293	8,200
延べ人数（人）	1,842	2,330	3,561	4,199	4,181	4,639	4,384

（出典：教育学部図書館作成）

(4) 社会貢献チャレンジ

「教職実践演習」における取組みの1つとして平成25年度に開始した【資料教100】。

資料教100：教職実践演習における「社会貢献チャレンジ」への取り組み

社会貢献チャレンジフィールドリスト 平成25年度

番号	機関名	所在地	仕事内容	日時	募集	実践
1	長野市立西部中学校	長野市	特別支援学級の学習・生活支援	可能な時間帯に	3	2
2	長野市立西部中学校	長野市	中間教室生徒の学習・生活支援	可能な時間帯に	3	3
3	若槻養護学校のぞみ部	長野市	重症心身障害児担当し、授業	各月1回計10回	10	9
4	信濃町信濃小中学校	信濃町	5～6年生相手の部活動指導補助	週2回放課後	20	3
5	若槻養護学校高等部	長野市	病弱養護学校の体育の授業	週3回午後計10時間	10	9
6	附属特別支援学校	長野市	放課後活動支援事業スタッフ	水曜4限13回	20	11
7	附属長野小学校	長野市	全国学力・学習状況調査の採点(算数)	5月4回	2	2
8	附属長野中学校	長野市	全国学力・学習状況調査の採点(国語)	5月4回	4	4
9	社会福祉施設菝舎	長野市	障害のある児童とのふれあい	随時	10	2
10	戸隠地質化石博物館	長野市戸隠	化石クリーニング教室	8月13～16日、11月24日	10	4
11	長野市茶臼山恐竜校園	長野市	自然観察教室	8月3日20時～22時	10	2
12	附属長野中学校	長野市	夏期特別学習相談室	7/30,31,8/2,5,6 午前	20	11
13	附属長野小学校	長野市	初等教育研究会受付係	11月29日と30日	4	4
14	附属長野小学校	長野市	初等教育研究会接待係	11月29日と30日	2	2
計					128	68

(出典：臨床教育推進室教職実践演習部門)

教員に求められる社会的使命感や市民性等を高めることにもつながる社会貢献として、学生が県内の学校教育機関及び社会教育機関等に出向き、地域社会が求めているボランティアや学校関係者が求めている教育サポート活動にトライする活動である。

(5) 放課後子どもプラン

平成20年度より長野市と連携し、学生が地域の小中学生に放課後に学習等の支援をするボランティア活動の場を設けている【資料教101】。

資料教101：「放課後子どもプラン」への学生参加の呼びかけ

# 放課後子どもプラン アドバイザー募集

信州大学のみなさん、子どもの居場所づくりにみんなで参加してみませんか？

長野市では、小学校の子どもたちに安全で安心な居場所を提供し、遊びや学習また様々な体験活動を通して生きる力をつけることを目的として「長野市放課後子どもプラン」を実施しています。今年市内53小学校校区に拡充し、小学生の豊かな育ちを支援して下さるより多くの若いみなさんの力を求めています。発足以来、先輩たちが活躍してくれています(25年度は75名登録)。教師をめざすみなさんにとっては、教育実践の格好の機会にもなると思いますので紹介します(学習チューターと両方でも大丈夫です)。

☆ 放課後子どもプラン アドバイザーとは？ ☆

Q1 いつ活動するのですか？

A1 あなたが活動可能な放課後・土曜日・長期休業中のうち、コーディネーターから依頼があった時間に活動していただけます。(概ね1時間半)

Q2 どこで活動するのですか？

A2 依頼があった放課後子どもプラン校外施設(児童館)・校内施設(子どもプラザ)です。  
(各施設には、指導員がいます)平成26年度、該当する小学校区：城山、鍋置田、加深、山王、戸田、古牧、緑ヶ丘、三輪、桜花、城東、湯田、南郷、大豆島、朝陽、桐原、長沼、古里、若槻、音響、浅川、宇井、安原里、松ヶ丘、湯田、藤ノ井東、藤ノ井西、共和、信里、塩崎、松代、清野、西条、豊栄、東条、寺尾、納内、川田、保科、川中島、青木島、下水路、三本郷、真島、七二点、徳田、栗原、豊野西、豊野東、戸隠、免無里、大島、徳田新町、中条(53校区)

Q3 どんな活動をするのですか？

A3 「小学生と一緒にできそう・やってみたい」といった趣味や特技を生かした内容に沿った活動をしていただけます。

◎ 集団レクリエーションゲーム、読み聞かせ、剣玉、英語で遊ぼう、百人一首、宿題サポート、工作、音楽、折り紙、演劇、手品、ドッジボール、バドミントン等



※地域の教育に関わりながら子どもたちの実態に触れあう「放課後子どもプラン」のアドバイザーとしての参加を呼びかけている。

(出典：長野市こども未来部こども政策課)

(6) 学生ISO活動

本学部エコキャンパス委員会との連携により活動するISO学生委員会活動【資料教102】が、平成27年5月に国際ソロプチミスト長野により「シグマソサエティ」として認証された【資料教 103】。

資料教 102 : 学生 ISO 活動の紹介

**特集** 各キャンパスの環境 ISO 学生委員会活動について

**■松本キャンパス**

**■エコプロダクツ 2013**  
2013年12月、東京都の国際展示場にて催されたエコプロダクツ2013の見学に行ってきました。これは、日本最大級の環境展示会と称されており今年も750もの企業・団体が出展しました。信州大学環境 ISO 学生委員会も今後の出展を目指して、他大学の出展内容や取り組みを知ることを目的として、見学を行いました。

**■松本グリーンセンター見学**  
2014年2月、松本市大学敷内にある松本グリーンセンターの見学にいきました。自分たちが自給自出しているゴミの最終処分方法や再利用方法について学び、ゴミ分別の必要性や資源利用の可能性を感じることができました。また、松本グリーンセンター周辺には、ゴミ処理に伴う余熱を利用した暖房施設もあり、エネルギー有効利用の実例にも触れることができました。

**■企業見学**  
2013年12月、企業による環境への取り組みに学ぶため、株式会社角磨の見学に行きました。角磨では、電子顕微鏡を利用した治療用シスチンの開発を行っており、この開発は、化石燃料使用量の減少につながる環境ビジネスといえます。この見学は、学生の立場だからこそできる環境活動とはなにかを考えさせられました。

**■カタクリ観察会**  
2013年4月20日に飯山市で行われたイベントで、里山に咲く貴重な植物を保全し、観察しようという取り組みです。地帯の方々協力して、行っているイベントチームです。数々のISO学生委員会もイベントスタッフとして、受付や会場準備などのお手伝いをして頂きました。

**■構内清掃活動 (clean&clean ~より構内をきれいに~ 美化 Day)**  
clean&clean ~より構内をきれいに~ 信州大学教育学部構内で、2013年11月27日に安全衛生委員会と共催で構内の清掃を行いました。軽微化に向けて、たばこのポイ捨てをなくし、まはるほかに集めてくれる人を募集し、構内をきれいにしようというイベントです。当日はまはるほ実行委員会

**長野(教育) キャンパス**

の学生も駆けつけてくれ、とても充実したものになりました。  
・美化 Day  
・開月開週水曜日エコキャンパス委員会主催している清掃活動にも参加しました。

**■信州森フェス!**  
2013年6月29日~30日に豊平高原で行われたイベントです。プロスノーボーダーやイラストレーター、ベテランのオーガに大学教授など様々なジャンルの方が集まり、おもしろい企画をコンセプトに森(環境)について知るイベントです。毎年多くの方が訪れ、ISO学生委員会ではイベントスタッフとして協力させて頂きました。

**■第18回長野市環境こどもサミット**  
毎年、長野ライオンズクラブが主催しているイベントです。今回は2014年2月9日に長野市ものづくり支援センターで開催され、多くの環境

**長野(工学) キャンパス**

工学部環境 ISO 学生委員会は、資源、水質、広報、自転車の4つの部門で構成され、それぞれ様々な活動を行っています。また、各種環境イベントにも積極的に参加しています。

**■資源部**  
毎月1度、学内に設置されているゴミ箱5カ所のごみ分別率調査を行っています。結果を基に啓発ポスターを作成しています。リサイクルの回収車の調査もしています。また、平成25年度はペットボトルのキャップを回収して、NPO団体に寄付し、世界の子どもたちにフクロちゃんを贈るという企画に参加しました。

**■水質部**  
ながの環境パートナーシップの方々協力、河川の改修工事の過程観察や、白馬方面での清水の水質調査などを行いました。他にも下水処理場や浄水場の見学、全国水質一斉調査へ参加し、授業と連携して講義内でプレゼンテーションを行いました。

**■広報部**  
SNSを通じ、工学部環境 ISO 学生委員会の活動を学内、学外へ向け広報しています。また「みんなのほんだな」の使い方をわかりやすく、自主的に工夫しました。他にも、ゴミ分別の呼びかけや、学内の生活環境の改善につながるエコポスターの作成を行いました。

**■自転車部**  
卒業生から寄付された自転車や学内に設置されている

(出典:「2014環境報告書」2014年9月発行)

資料教 103 : 国際ソロプチミスト長野からの認証

教育学部ISO学生委員会が国際ソロプチミスト長野により「シグマソサエティ」として認証されました。

教育学部ISO学生委員会が、長野市環境こどもサミットへの参加や子供向けの環境学習を進めている点が高く評価され、国際ソロプチミスト長野により「シグマソサエティ」として認証されました。その認証式が国際ソロプチミスト長野主催により5月11日教育学部において学生委員会メンバー15名はじめ平野学部長、西村副学部長、渡辺隆一教授が臨席し執り行われました。

国際ソロプチミストはアメリカで設立された人権と女性の地位を高める奉仕活動を行なう団体です。「シグマソサエティ」とは、奉仕の志を持つ青少年に活動の場を提供し、将来の良き市民、指導者としての能力を伸ばす機会を与えるために大学生等の学生対象に結成される組織で、認証を受けた「シグマソサエティ」は、この団体からスポンサーされます。

認証式において教育学部ISO学生委員会シグマソサエティ会長の教育学部3年富田充さんが、国際ソロプチミスト長野小山美津子会長より認証状及び認証祝金をうけ、学生たちは「シグマソサエティ」の一員として誠意をもって活動することを誓約しました。



シグマソサエティ認証状

(出典:信州大学教育学部Webページ)

※長野市環境こどもサミットへの参加や子供向けの環境学習を進めている点を高く評価された。

## (7) YOU 遊世間 (ワールド)・未来 (チャンス) の取り組み

文部科学省フレンドシップ事業の一環で平成6年から行われたこの取り組みは、その後20年にわたり継続して行われてきた【資料教104, 105】。

## 資料教104:「YOU 遊世間 (ワールド)・未来 (チャンス)」の取り組み

平成27年現在、学生が青木村、麻績村、長野市大岡、長野市茂菅、長野市湯谷、須坂農業小学校、千曲市姨捨の棚田、福島市愛育園、長野西高校通信制等に出向いて、地域のなかで子どもたちと触れ合い学ぶという、地域連携プロジェクトに発展している。

平成27年度現在は、同じく文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC)」に採択された本学の事業「信州を未来へつなぐ、人材育成と課題解決拠点」(信州アカデミア)の地域志向教育研究支援事業の教育支援を受けて実施されており、地域の子どもたちと学生が「教育」を接点にして触れ合う貴重な学習の場となっている。

## 信大YOU遊の変遷

## 信大YOU遊サタデー 1994～(第1期～)

教育実習を終えた学生たちの「もっと子どもたちと関わりたい」という声を受け、信州大学教育学部の土井進教授(当時助教授)が、「子どもたちを大学に招き、体験的学習の場をつくろう」と学生に呼び掛けたのが始まり。実践的な指導力をつけたいと願う学生たち36名が実行委員会を組織し、スタートした。

1994年6月6日の第1回実行委員会において名称決定。土井教授が提示した「ビューティフル・第二サタデー」をもとに、「この活動は楽しいものでなくてはならない」との思いから「遊」、「子どもたちと一緒に思いきり遊びたい」から「YOU」、「学校週5日制に伴い土曜日に子どもたちを受け入れる取り組み」から原案の「サタデー」を採用。土井教授が、信州大学での取り組みであるからと「信大」を冠することを提案し、全員一致で「信大YOU遊サタデー」となった。初活動日は9月10日。

## 信大YOU遊広場 2001～(第8期～)

2001年、一過性のイベント的な活動から継続的な活動へ方向転換を図るため、茂菅ふるさと農場、牟礼ふるさと農場の2農場を含む7つの活動をもとに新たな活動形態を目指し、「信大YOU遊広場[プラザ]」と改称。「広場」とは、学生たちの自主自律によって「やりたいこと」を実現するための継続的に活動する「組織」あるいは「場」という意味。

サタデーの7年間で学校週5日制は定着し、信大教育学部はサタデーを契機に「臨床の知」を基本理念に据え、より実践的な授業科目を整備した。一方で、学生が子どもと関わる授業の充実により、学生と子どものふれあいの場を創るという当初の目的が薄れ、100～300人規模の子どもの参加は学生側の負担も大きく、サタデーという形態が限界に達していた。

## 信大YOU遊世間 2003～(第10期～)

国立大学法人化を前に、より柔軟性のある行動力に富んだ学生組織を目指して、「信大YOU遊世間[ワールド]」に改称。「世間」という言葉は、もっと大きな視点、つまり「学生が世の中に出て、地域の人々の中で学ぼう」という姿勢と地域社会の中で活動することを表現した。学生たち自身の人間力と社会力の形成と、地域貢献を両輪とした。

広場が目指した継続的な活動は達成できたものの、大学側からの発信、企画をベースにしているだけでは地域団体との連携の構築は難しく、危機管理上のシステムにも問題があった。「地域社会の教育は本来地域に根付いてこそ本物である」という考え方をもち、学生は知恵と汗を流し、子どもの安全と場の確保を担ってもらえる地域の団体と連携するスタイルに変わった。

## 信大YOU遊未来 2012～(第19期～)

2013年の20周年を前に、学生たち自身が「信大YOU遊」の活動を遠大な未来へ継承発展させたいと改称。未来[Chance]には、未来はチャンス(機会)であり、この活動が信州教育の美質に学ぶ機会(Chance)であり、全国の学生との切磋琢磨を図る機会(Chance)であり、活動に関わる学生・子ども・地域のそれぞれの未来を創造する機会(Chance)となしてほしいとの願いが込められる。

(出典:信州大学教育学部教師教育学研究第20集)

**資料教 105 : 「信大 YOU 遊未来 (チャンス)」の取り組みが日本経済新聞社の地域貢献度ランキングで第 1 位に貢献**

この取り組みは、平成 25 年度に日本経済新聞社の地域貢献度ランキングで信州大学が第 1 位に評価されたことにも寄与している。

**3. 日本経済新聞社の地域貢献度ランキング第 1 位**

平成 25 年 11 月 27 日付けの日本経済新聞に全国の国公私立の 4 年制の 737 大学への平成 24 年度の実績調査の結果、信州大学の地域貢献度は昨年度に続き全国第 1 位であったと報じられた。その紙面には「信大茂菅ふるさと農場」で活躍する学生の写真が紹介された。1 位の実績の中には、信大生による次の地域貢献活動がしっかりと含まれています。

小中高生向け講座	対 象 者	参加者数	開 催 日	場 所
「信大 YOU 遊未来」茂菅	長野市内の小学生	40×11 回	2012.4～2013.2	信大茂菅ふるさと農場
「信大 YOU 遊未来」湯谷	湯谷小学校の児童	34×13 回	2012.5～2013.3	檀田地区センター
「信大 YOU 遊未来」青木	青木小学校の児童	60×8 回	2012.4～2012.12	青木村文化会館
「信大 YOU 遊未来」麻績	麻績小学校の児童	54×10 回	2012.5～2013.2	麻績村地域交流センター
「信大 YOU 遊未来」須坂	須坂市内の小学生	60×18 回	2012.4～2013.3	信州おぎの農業小学校

(出典:教師教育学研究第 20 集 p.8)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

- ① 学位授与の方針【資料教 5, p 4】に対応する教育課程の編成・実施の方針の明確化【資料教 69, p46】により、授業科目と教育目標との連関について明示している。  
また、学校教育教員養成課程入学から卒業までの学修課程のモデルを概念図で示し、理解できるようにしている【資料教 70, p47】。
- ② 実践力と省察力を育む臨床経験科目【資料教 19, p11】は、学部内に組織された臨床教育推進室が主体となって附属学校園、関係公立学校や教育機関が連携し、体系的に実施している【資料教 75～77, p51～53】。
- ③ 在学生の期待に応え、多くの主体的な学習を促す新しい取り組みを実施している【資料教 94～104, p66～72】。
- ④ 長野県教育委員会からの「長期研修生」【資料教 80, p55】及び「長野県公立義務教育諸学校教員 (10 年経験者) 研修」【資料教 83, p57】の受け入れ、教員免許状更新講習開講【資料教 85, p58】により、地域の教育関係者からの教員再教育の場のニーズに幅広く対応している。
- ⑤ 長野県の要望を受け、平成 24 年度入学生から小・中学校一種免許取得を卒業要件とし、必要な科目と単位の修得を必修化した【資料教 16～18, p10～11】。また、長野県が抱える現代的な教育課題に対応すべく、長野県教育委員会との連携のもと、附属学校園の高い実践指導力を活用し、高度な専門性と実践的指導力を身に付けた教員を養成する事業を展開した【資料教 81, p56】。
- ⑥ 地域の生涯学習に対する社会的要請に応え、通常の授業の一部を「市民開放授業」として一般市民に開放している【資料教 84, p57】。

## 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

## 観点 学業の成果

(観点に係る状況)

## 1 卒業、退学、休学の状況

本学部の卒業、退学、休学の状況は、以下のとおりである【資料 106, 107】。

## 資料教 106：標準修業年限内修了率及び「標準修業年限内×1.5」年内修了率

	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
標準修業年限内	89.9%	90.3%	89.4%	91.9%	94.3%	91.9%	95.2%
標準修業年限内×1.5	96.9%	94.5%	96.3%	94.8%	98.9%	98.9%	99.6%

(出典：H25 年度受審認証評価のデータをもとに経営企画課作成)

## 資料教 107：退学、休学率

	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
退学率	0.7%	0.8%	0.7%	1.2%	0.6%	0.5%	0.7%
休学率	1.3%	1.0%	1.0%	2.4%	1.2%	1.6%	1.8%

※退学率は、該当年度の在籍者で除した割合。

※休学率は該当年度 5 月 1 日現在の数を該当年度の在籍者数で除した割合。

(出典：H25 年度受審認証評価のデータをもとに経営企画課作成)

## 2 教員免許の取得率、小・中両免許状の取得率、免許取得数

本学部の教員免許の取得率、小・中両免許状の取得率、免許取得数は、【資料教 108】のとおりでである。

## 資料教 108：教員免許の取得率、小・中両免許状の取得率、免許取得数一覧表

区分	1 期平均	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	2 期平均
卒業者数	280	283	281	293	282	285	271	283
免許状取得者数 (実人数)	270	272	269	276	269	263	248	266
免許状取得者数 (延べ人数)	921	898	894	907	886	886	775	874
免許取得数 免許状取得者数 (延べ人数) / 免許状取得者数 (実人数)	3.41	3.30	3.32	3.29	3.29	3.37	3.13	3.28
教員免許取得率 免許状取得者数 (実人数) / 卒業者数	96%	96.1%	95.7%	94.2%	95.4%	92.3%	91.5%	94.2%
小・中両免取得者数 (実人数)	209	214	218	223	203	215	237	218
小・中両免取得率 小・中両免取得者数 (実人数) / 免許状取得者数 (実人数)	77%	78.7%	81.0%	80.8%	75.5%	81.7%	84.2%	80.3%
【学校教育教員養成課程】 卒業者数	211	208	204	220	215	209	211	211
免許状取得者数 (実人数)	206	206	200	210	208	199	210	206
免許状取得者数 (延べ人数)	585	714	699	715	701	686	665	697
免許取得数 免許状取得者数 (延べ人数) / 免許状取得者数 (実人数)	2.83	3.47	3.50	3.40	3.37	3.45	3.17	3.40
教員免許取得率 免許状取得者数 (実人数) / 卒業者数	97.6%	99.0%	98.0%	95.5%	96.7%	95.2%	99.5%	97.3%
小・中両免取得 (実人数)	175	170	163	167	172	154	189	169
小・中両免取得率 小・中両免取得者数 (実人数) / 免許状取得者数 (実人数)	85.2%	82.5%	81.5%	79.5%	82.7%	77.4%	90.0%	82.3%

(出典：教育学部学務グループ学務係)

※第2期全卒業生の教員免許取得率は平均で 94.2%、小・中両免許状の取得率は 80.3%を示している。また、いわゆる「副免」を含む免許取得数は 3.28 と卒業要件免許取得数 2 を超える 3 以上を維持している。学校教育教員養成課程卒業生においては、小・中両免許状取得を義務化した平成 24 年度入学生の教員免許取得率は 99.5% (免許交付辞退者がいるため)、小・中両免許状取得率は 90.0%を示し、第 1 期より上昇している。このことは、長野県の要望する、小・中学校を横断的に担当できる教員及び専門教科以外の他教科をも担当する能力のある教員の養成という要望に込んでいるといえる。

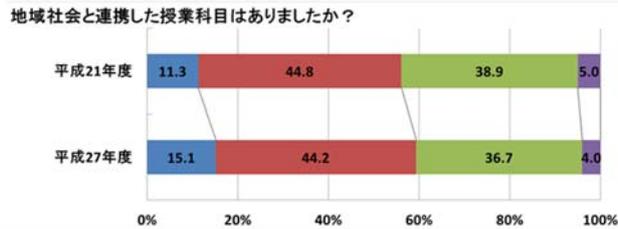
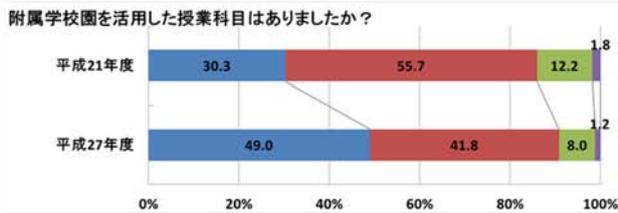
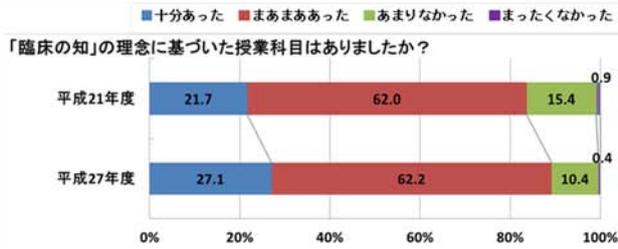
3 在学生・卒業生からの評価

(1) 卒業時の学生への「満足度調査」結果の比較

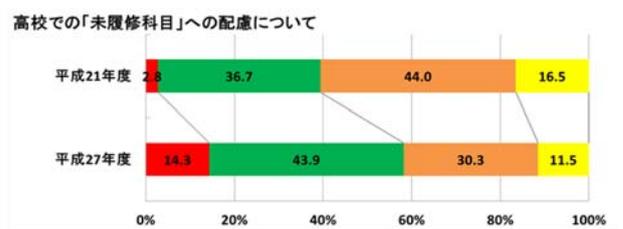
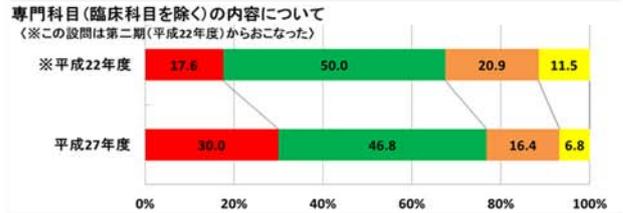
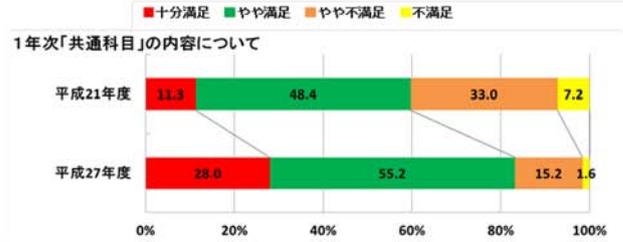
平成16年度以降毎年一度、年度末に本学部自己点検評価委員会が実施している卒業時学生への「満足度調査」の第1期末と第2期末の調査結果の回答を比較した【資料教109, 110】。

資料教109：学部の教育体制や教育内容・方法（特に授業のあり方）について

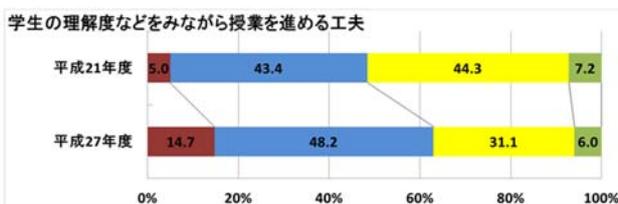
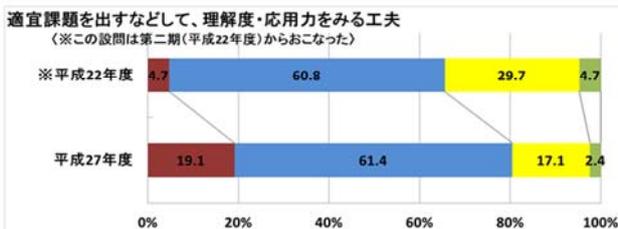
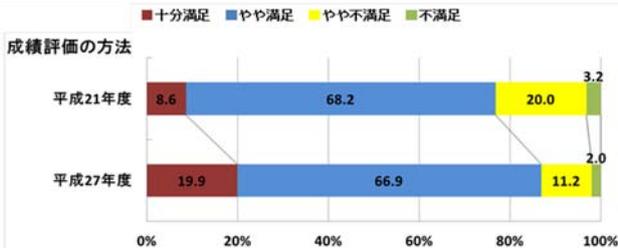
教育学部が目指す教育・研究に実現の度合いに関する設問



授業内容、実施・評価方法等の満足度に関する設問



授業のあり方に関する設問



※「教育学部が目指す教育・研究に実現の度合いに関する設問」のそれぞれの設問の肯定的回答率は、「臨床の知」において、H21年度83.7%→H27年度89.3%、「附属学校園の活用」において、H21年度86.0%→H27年度90.8%、「地域社会との連携」においては、まだ課題が認められるものの、H21年度56.1%→H27年度59.3%と改善が見られた。

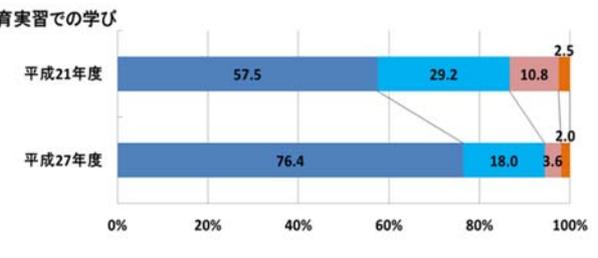
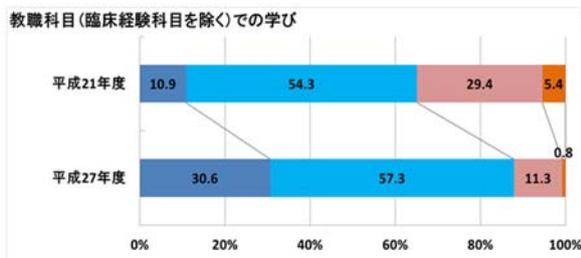
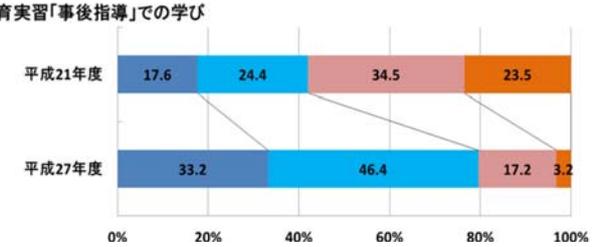
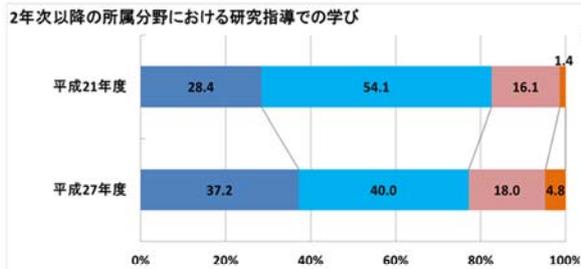
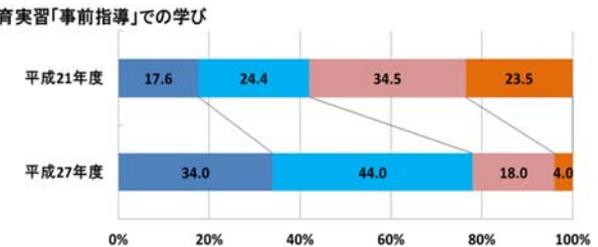
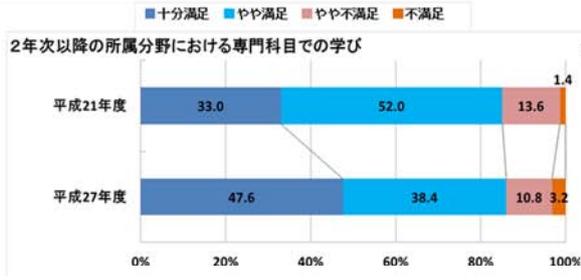
※「授業内容、実施・評価方法等の満足度に関する設問」では、第1期には1年次の「共通科目」、「専門科目」、「高校での未履修科目への配慮」に大きな課題を抱えていたが、それぞれ59.7%→83.2%、67.6%→76.8%、39.5%→58.2%と、徐々に学生の満足度による評価は得られてきている。

※「授業のあり方に関する設問」においても、第1期には1年次の「学生の理解度をみながら」、「理解度・応用力をみる」などの授業のあり方の満足度が低かったが、第2期では、43.4%→62.9%、65.5%→80.5%と満足度が高くなっている。さらに「成績評価の方法」も74.8%→86.8%と肯定的な回答が増加しており、改善されていることを示している。

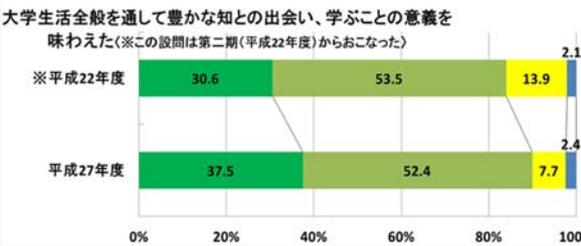
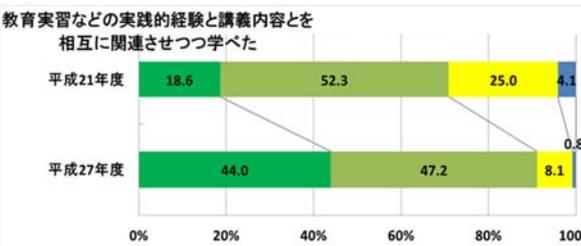
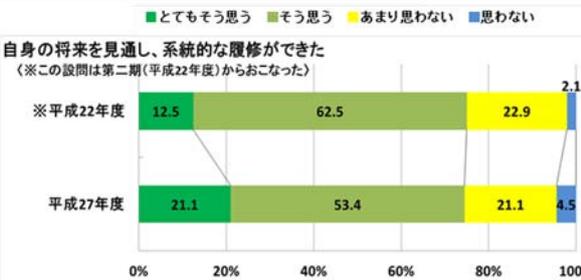
(出典：自己点検評価委員会作成)

資料教 110：学生自身の「学業での成果」に対する満足度について

2年次以降の専門教育における学業成果について



大学での学習と生活の成果(充実度)



※2年次以降の専門教育における学業成果については、いずれも高い満足度を示す回答(「十分満足」と「やや満足」の和)でかつ漸増傾向を示しており、高い水準を維持しつつもさらに改善がみられている。臨床経験科目の柱と位置づけられる「教育実習」は、第1期末の平成21年度にも80%を超える満足度が得られていたが、平成27年度には94.4%と極めて高い満足度を示した。「研究指導」においては、下降しており、今後の改善策が必要である。

※大学での学習と生活の成果に対する設問では、「自身の将来を見通し、系統的な学習ができた」が、わずかに減少しており、課題が残るが、「教育実習などの実践的経験と講義内容とを相互に関連させつつ学べた」、「大学生活全般を通して豊かな知との出会い、学ぶことの意義を味わえた」のいずれもが、高い満足度からさらに漸増傾向を示しており、高い水準を維持しつつもさらに学業成果の質に向上・改善がみられている。

(出典:自己点検評価委員会作成)

## (2) 卒業生からの評価

本学部を卒業して10年以内の卒業生を招き、在学生を交えて開催した懇談会の出席者へのアンケート回答は、学部全般に関して極めて肯定的であった。【資料教111, 112】。

## 資料教 111 : 「卒業生を迎えての懇談会」

## 教育学部で「卒業生を迎えての懇談会」が開催されました

平成25年6月15日(土)の午後、教育学部M201(第1会議室)で、「卒業生を迎えての懇談会」が開催されました。



平野学部長の挨拶

以下平野学部長からの学部内向けのメールを引用します。

◇この懇談会は、本学の第2期中期目標・中期計画にある「学内外からの意見を踏まえ、教育課程を不断に見直すための体制を充実させる」を具現化するため、本年度初めて各学部で開催するものです。  
教育学部では、自己点検・評価委員会の主催として、おおむね三十代の卒業生9名に来ていただきました。  
また、卒業生の当時の指導教員にも参加いただき、さらには、新生ゼミナールの一環で教育学部に来ていた家庭科教育コース1年生17名にも参加してもらいました。

(出典:教育学部ホームページ)

### 教育学部卒業生を迎えての懇談会概要

◁

◁

◇標記懇談会を教育学部自己点検・評価委員会の主催により、おおむね三十代の卒業生9名を招き実施した。加えて卒業生の当時の指導教員、現役学生の参加も得ることができた。卒業生へ当時の教育内容、学生生活、本学で学んでよかったこと、現在も活かされていること、今後の改善点などを尋ね、懇談した。◁

◁

日時:平成25年6月15日(土)13:30~16:00

場所:教育学部第1会議室(M201)

参加者:卒業生9名 在学生19名(1年生17名、その他若干名)教職員14名

◁

(出典:自己点検評価委員会作成資料より抜粋)

## 資料教 112：懇談会に出席した卒業生へのアンケートの回答

## ◎懇談会での発言の概要

(教育内容に関する質問)

☆「あの授業は良かった」「今の自分に役立っている」という授業や学習体験はありますか？

ご自身にとって、今も役立っている学習体験があれば教えてください。

- ・学校での行事のプランニングをする上で、大学での発表会やイベントの企画がとても役立っている。
- ・教育実習を通して社会の厳しさ、仕事への取組みを体験できたことはとてもよかった。
- ・座学では体験できない実験などの経験により教育実践力を身につけられた。
- ・卒業研究の論文製作のプロセスが現在の仕事を進めることに役立っている。
- ・基礎的な事柄も教育学部の授業を通してしっかり学んだため、現在の仕事に生かしている。
- ・学生時代は非常に苦しかった課題も現場で「やってきてよかった」と思えるものがある。苦しくてもこれからも続けてほしいと後輩に言いたい。
- ・美術品の鑑賞法の授業などは現場で使える有益な授業であった。
- ・今やっている授業が何に役立つかは、今は答えが出なくても10年後にわかることもある。
- ・教育学部を卒業したことで、自分の専門だけでなく教育学という専門を学んできたという意識で教壇に立っている。
- ・大学外の施設等へ自ら企画し出向き研修を行った授業の経験が、現在の仕事の事業運営、危機管理など現場で生きている。
- ・自分の専攻以外の教科の教員免許を取得したおかげで、専門以外の知識や別分野の学生と交流ができたことが現在の仕事に役立っている。
- ・子供キャンプを運営する授業での体験が、自分を教職に進ませるきっかけになった。
- ・ある試験が、とても大変な試験であったが心に残っている。その試験がきっかけで自分の興味がどこにあるのか見いだせたと思う。

(本学全般に関する質問)

☆本学で学んで良かったと思うことは何ですか？社会人として、信大の良さはどのようなところだと思いますか？

- ・当時の学生とは家族のような関係で自分の宝物である。同専攻の学生だけでなく様々な学生と濃密な関係を築けたことに感謝している。
- ・教育学部は様々な専門分野があるため幅広く知識を得られるせいか、学生間の卒業後のつながりが深い。
- ・1年から4年まで学校現場での活動を体験できるのは教育学部の強みである。
- ・当時は必要性を疑問に思った授業も、現在は必要であった、受けてよかったと感じる。
- ・基礎の部分の知識がしっかりしているので現場で役に立っている。体験型の授業も有効である。また、失敗も重要な体験なのでいろんな体験をさせてほしい。

(出典：自己点検評価委員会作成資料より抜粋)

教育内容、大学生活、人間性と教育力等、多岐にわたって本学部で経験したことが、教育現場での実践の基盤になっていると感じていることが窺える回答内容が多数であった。

4 学生の学業の成果としての受賞状況

信州大学学長賞及び信州大学功労賞による学生表彰を行っている【資料教113】。

資料教 113：学生表彰

【平成 25 年度の活動関係】

平成 26 年 4 月 4 日	信州大学 学長賞	教育学部	第 3 条第 1 項第 1 号	オリンピック等（パラリンピック） に出場及び世界大会での上位入賞
平成 26 年 4 月 4 日	信州大学 功労賞	教育学部	第 3 条第 2 項第 1 号	第 33 回全日本学生スピードスケート 選手権大会スプリント男子総合優勝

※信州大学学則（平成 16 年信州大学学則第 1 号）第 64 条の規定に基づく

（出典：教育学部学務グループ学務係）

その他、以下のとおり受賞している【資料教114】。

資料教 114：第 9 回・第 10 回「世界発明・工夫コンテスト」での受賞

【平成 26 年度・第 9 回受賞】

**教育学部技術教育4年生2名が第9回技術教育創造の世界(大学生版)発  
明・工夫作品コンテストで奨励賞を受賞しました**

日本産業技術教育学会主催の、教員養成系大学に在籍する学生、院生、および卒業・修了して2年以内の社会人を対象とする、第9回技術教育創造の世界(大学生版)発明・工夫作品コンテストにおいて、教育学部技術教育村松研究室の4年生鈴木哲朗さん・橋渡憲明さんが宮城教育大学の学生と共同で制作した「情報モラル学習のためのシナリオゲーム教材」が教材開発部門の奨励賞を受賞しました。

受賞作品はLINEやTwitterなどのSNSを題材とし、生徒が楽しみながら主体的に情報モラルを考えることができるゲーミフィケーションの要素を持った教材で、情報モラルの仕組みを気づかせることを目指し開発されました。

仙台市内の中学校にて教材を用いて授業実践を行い、現場の教員からは、ゲーム型で協働型授業を行える、新しい事項の学習が十分可能であるという教材の学習面について評価されました。



【平成 27 年度・第 10 回受賞】

### 教育学部ものづくり・技術教育コース学生3名が「第10回技術教育創造の世界(大学生版)発明・工夫作品コンテスト」にて受賞！

日本産業技術教育学会の主催する「第10回技術教育創造の世界(大学生版)発明・工夫作品コンテスト」において、教育学部ものづくり・技術教育コースの学生3名が受賞しました。受賞結果は以下のとおりです。

特別賞 黒岩知也(ものづくり・技術教育コース3年)  
発明工夫部門「ウェイター特訓装置」

奨励賞 関口賢匠(ものづくり・技術教育コース4年)  
教材開発部門「QR(Quest Reader)」

奨励賞 千吉良祐弥(ものづくり・技術教育コース3年)  
発明工夫部門「不快指数表示間接照明”Health Cube」

(出典：信州大学教育学部ホームページ)

(<http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/education/news/2016/03/467444.html>)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

- ①長野県の要望により、小・中両免許状取得が義務化された平成 24 年度入学生の学校教員養成課程の卒業時(平成 27 年度)の教員免許の取得率及び小・中両免許取得率は従前と比較して大幅に上昇した。  
また、卒業生全体のいわゆる「副免」を含む免許取得数は第 2 期平均で 3.28 種と卒業要件数 2 種を上回っている【資料教 108, p74】。
- ②学部の教育体制や教育内容・方法、学生自身の学業の成果に関する満足度は、第 2 期が第 1 期を上回っている【資料教 109, 110, p76~77】。また、卒業後 10 年程度の卒業生との懇談会でも母校の学修システムに対し、極めて肯定的な意見が聞かれた【資料教 111, 112, p78~79】。

観点 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

1 卒業後の進路の状況

各7年間の本学部の進路状況は、【資料教 115, 116】のとおりである。

資料教 115：進路状況一覧

卒業年度	区分	卒業生			進学者		就職者		専修学校・ 外国人学校・ 等入学者	就いた者 一時的な 仕事に いたる者	左記以外の者		不詳・死亡 の者
		A	人(B)	率(B/A)	人(C)	率(C/A-B)	人(D)	率(D/A)					
H21	全体	35,380	2,845	8.04%	24,788	76.19%	704	2,068	4,509	12.74%	466		
	国立	16,715	2,139	12.80%	11,285	77.42%	239	879	1,993	11.92%	180		
	本学部	計	297	28	9.43%	247	91.82%	6	0	16	5.39%	0	
		男	139	20	14.39%	110	92.44%	2	0	7	5.04%	0	
	女	158	8	5.06%	137	91.33%	4	0	9	5.70%	0		
H22	全体	37,377	2,768	7.41%	27,168	78.50%	660	1,901	4,405	11.79%	475		
	国立	16,315	1,996	12.23%	11,324	79.08%	202	888	1,795	11.00%	110		
	本学部	計	283	33	11.66%	226	90.40%	0	0	24	8.48%	0	
		男	131	18	13.74%	99	87.61%	0	0	14	10.69%	0	
	女	152	15	9.87%	127	92.70%	0	0	10	6.58%	0		
H23	全体	38,211	2,789	7.30%	27,847	78.61%	703	2,156	4,485	11.74%	231		
	国立	15,948	2,086	13.08%	10,965	79.10%	212	948	1,656	10.38%	81		
	本学部	計	281	41	14.59%	212	88.33%	4	0	24	8.54%	0	
		男	123	18	14.63%	92	87.62%	1	0	12	9.76%	0	
	女	158	23	14.56%	120	88.89%	3	0	12	7.59%	0		
H24	全体	39,883	2,704	6.78%	29,871	80.34%	624	2,121	4,298	10.78%	265		
	国立	15,991	2,012	12.58%	11,102	79.42%	163	969	1,631	10.20%	114		
	本学部	計	293	39	13.31%	220	86.61%	4	0	30	10.24%	0	
		男	141	26	18.44%	98	85.22%	0	0	17	12.06%	0	
	女	152	13	8.55%	122	87.77%	4	0	13	8.55%	0		
H25	全体	41,560	2,718	6.54%	31,878	82.07%	554	2,112	3,988	9.60%	310		
	国立	15,814	1,944	12.29%	10,973	79.11%	152	1,088	1,531	9.68%	126		
	本学部	計	282	39	13.83%	217	89.30%	0	0	26	9.22%	0	
		男	120	22	18.33%	87	88.78%	0	0	11	9.17%	0	
	女	162	17	10.49%	130	89.66%	0	0	15	9.26%	0		
H26	全体	42,993	2,621	6.10%	34,211	84.74%	519	1,899	3,462	8.05%	281		
	国立	15,967	1,933	12.11%	11,583	82.54%	133	842	1,347	8.44%	129		
	本学部	計	285	39	13.68%	218	88.62%	3	0	25	8.77%	0	
		男	132	23	17.42%	94	86.24%	0	0	15	11.36%	0	
	女	153	16	10.46%	124	90.51%	3	0	10	6.54%	0		
H27	全体												
	国立												
	本学部	計	273	31	11.36%	229	94.63%	1	0	12	4.40%	0	
		男	126	10	7.94%	111	95.69%	0	0	5	3.97%	0	
	女	147	21	14.29%	118	93.65%	1	0	7	4.76%	0		

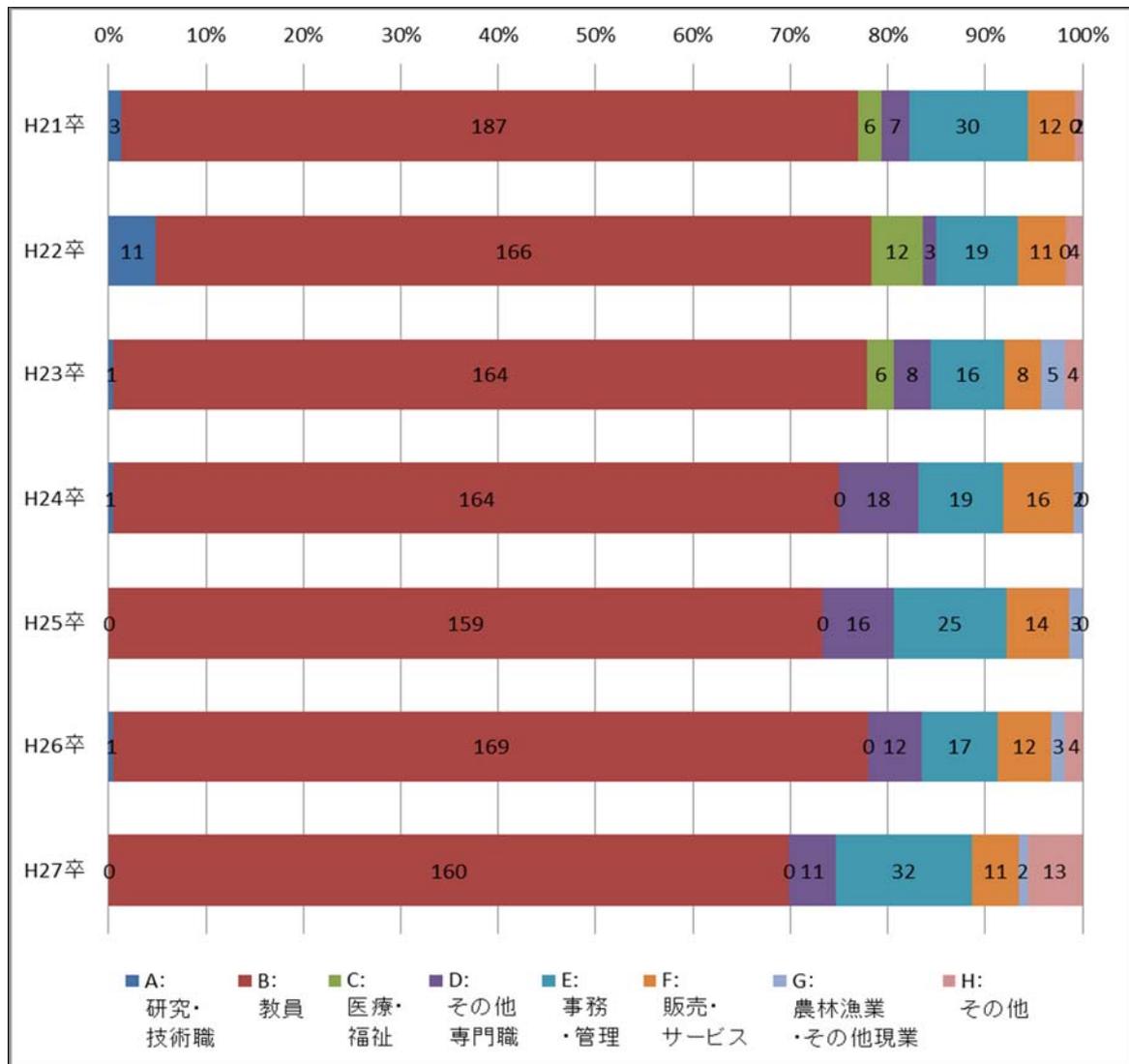
※「全体」「国立」は、学校基本調査の全国集計のうち、  
各年度>高等教育機関《報告書掲載集計》>卒業後の状況調査>大学  
卒業後状況調査(関係学科別)より、区分「教育」を抜粋  
なお、平成27年度については、平成28年6月末現在未公開

(出典：学校基本調査をもとに経営企画課作成)

資料教116：職業別・産業別就業者数

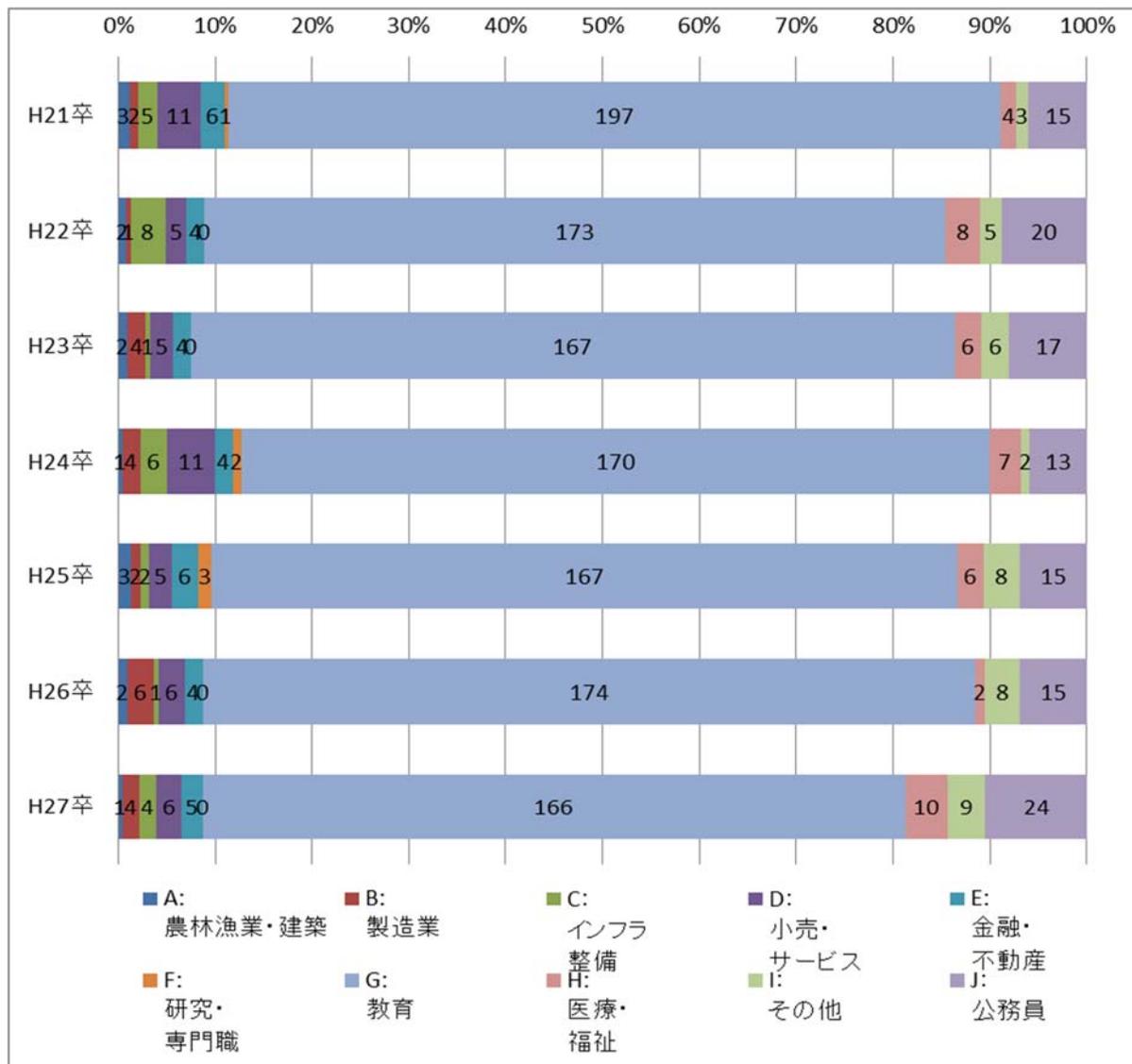
【職業別就職者数】

	A: 研究・ 技術職	B: 教員	C: 医療・ 福祉	D: その他 専門職	E: 事務 ・管理	F: 販売・ サービ ス	G: 農林漁 業・その 他現業	H: その他	合計
H21卒	3	187	6	7	30	12	0	2	247
H22卒	11	166	12	3	19	11	0	4	226
H23卒	1	164	6	8	16	8	5	4	212
H24卒	1	164	0	18	19	16	2	0	220
H25卒	0	159	0	16	25	14	3	0	217
H26卒	1	169	0	12	17	12	3	4	218
H27卒	0	160	0	11	32	11	2	13	229



【産業別就職者数】

	A: 農林漁業・建築	B: 製造業	C: インフラ整備	D: 小売・サービス	E: 金融・不動産	F: 研究・専門職	G: 教育	H: 医療・福祉	I: その他	J: 公務員	合計
H21 卒	3	2	5	11	6	1	197	4	3	15	247
H22 卒	2	1	8	5	4	0	173	8	5	20	226
H23 卒	2	4	1	5	4	0	167	6	6	17	212
H24 卒	1	4	6	11	4	2	170	7	2	13	220
H25 卒	3	2	2	5	6	3	167	6	8	15	217
H26 卒	2	6	1	6	4	0	174	2	8	15	218
H27 卒	1	4	4	6	5	0	166	10	9	24	229



(出典：学校基本調査をもとに経営企画課作成)

本学部の就職率及び教員養成課程卒業生（大学院等進学者を除く）の教員就職率は、以下のとおりである【資料教 117, 118】。

**資料教 117：就職率の全国平均と本学部の比較表**

年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	2 期平均
全体	76.19%	78.50%	78.61%	80.34%	82.07%	84.74%	—	80.9%
国立	77.42%	79.08%	79.10%	79.42%	79.11%	82.54%	—	79.9%
本学部	91.82%	90.40%	88.33%	86.61%	89.30%	88.62%	94.63%	89.6%

(出典：学校基本調査をもとに自己点検評価委員会作成)

本学部の就職率は、第 2 期中期目標期間においても毎年全国平均を上回っている。更に、小中両免取得が卒業要件になった平成 24 年度入学生の就職率は 94.63%と飛躍的に上昇した。

**資料教 118：教員就職率の年度推移表**  
教育学部における教員養成課程卒業生の教員就職率(大学院等進学者を除く)の推移

中期目標期間	第 1 期			第 2 期					
年度	H19 年度	H20 年度	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
進学者を除く 教員就職率	69.3%	69.6%	76.3%	75.4%	77.0%	71.4%	71.3%	76.1%	72.0%
	H19～H21 年度平均：71.7%			H22～H27 年度平均：73.9%					
全国平均				70.6%	70.8%	70.1%	69.0%	68.7%	

(出典：教育学部学務グループ学務係作成)

※平成 27 年度の全国平均は平成 29 年 1 月頃に発表されるため、空欄とする。

第 2 期中期目標期間 6 ヶ年の教員養成課程卒業生（大学院等進学者を除く）の教員就職率は、全国平均を上回る値を示しており、また、第 1 期の後期 3 ヶ年（平成 19 年度～21 年度）の平均値と比較して上昇が見られる。

長野県の推薦採用制度枠での採用者数は【資料教 119】のとおりである。

**資料教 119：学部からの推薦による長野県教員採用者数一覧表**

	平成 24 年度卒	平成 25 年度卒	平成 26 年度卒	平成 27 年度卒
合計	5 名	6 名	8 名	11 名

(出典：教育学部学務グループ学務係)

長野県教育委員会との連携が深まり、平成 24 年度からは、本学部から推薦のあった学生について採用試験の一次試験を一部免除する推薦採用制度が導入された。平成 24 年度の制度導入以来、平成 27 年度までに計 30 名が採用された。推薦による採用者は、年々増加する傾向にある。

平成 26 年度卒業生の教員就職先内訳は【資料教 120】のとおりである。

資料教 120：平成 26 年度卒業生都道府県別教員就職状況一覧表

県都道府名府	小学校	中学校	高等学校	援特学別校支	幼稚園	県都道府名府	小学校	中学校	高等学校	援特学別校支	幼稚園
長野県	57	47	2	11	4	石川県	1	1			
茨城県	1					福井県		1			
群馬県	3					岐阜県	1				
埼玉県	3	1	1	1		静岡県	2	1			
山梨県	2	1	1			愛知県	4	1			
千葉県	2	1				大阪府		1			
東京都	2				2	三重県	3				
神奈川県	2	2				熊本県	1				
新潟県	3										
富山県		1		1		合計	87	58	4	13	6

平成 26 年度に卒業した教員就職者の内訳は、長野県内就職者が 71.6%と、長野県外の 28.4%を大幅に上回っている。このことは、地域のニーズに応じているといえる。

(出典：「尚学会報第 64 号」p. 21 表を基に自己点検評価委員会で作成)

## 2 関係者からの意見の聴取

本学部・大学院を卒業・修了後 5 年以内の教員（非常勤講師を含む）の勤務状況について勤務先校長へのアンケート調査を実施した【資料教 121】。

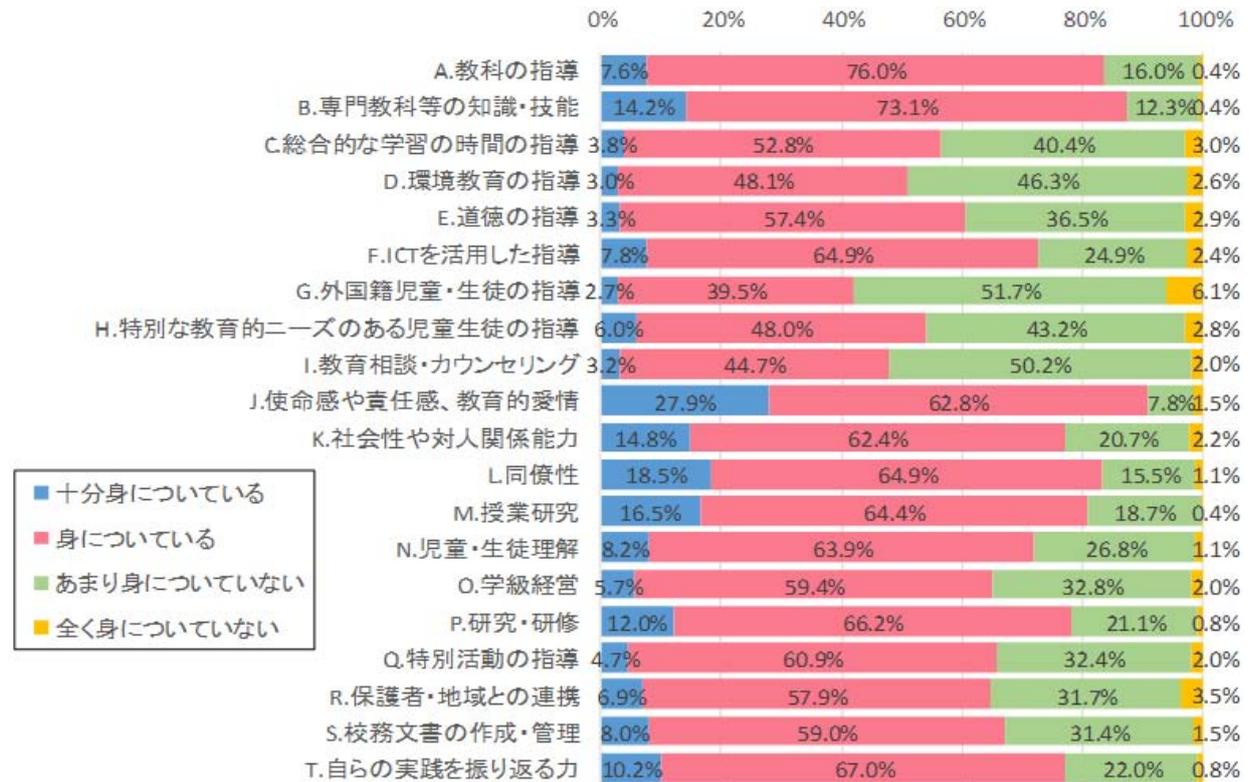
資料教 121：卒業生の勤務先学校長からの評価（第 1 期 vs 第 2 期の比較）

第 2 期アンケート実施趣旨	平成 28 年度に第 2 期中期目標・中期計画の評価が実施されるのを受け、第 2 期最終年度にあたる本年度、教育学部出身教員の現況評価データを得る必要から、長野県教育委員会を通じて長野県内小・中・特別支援学校長宛に各校に勤務する本学部・大学院を卒業・修了後 5 年以内の教員（非常勤講師を含む）を対象とするアンケート調査を実施することとした。	
調査用紙発送時期	第 1 期 平成 21 年 11 月	第 2 期 平成 27 年 4 月
配布対象者	長野県内 612 校の校長	長野県内 590 校の校長
配布校数内訳	長野県内公立小学校：394 校 長野県内公立中学校：199 校 長野県内特別支援学校：19 校	長野県内公立小学校：374 校 長野県内公立中学校：196 校 長野県内特別支援学校：20 校
回答校数	不明	371 校
回収率	不明	63%

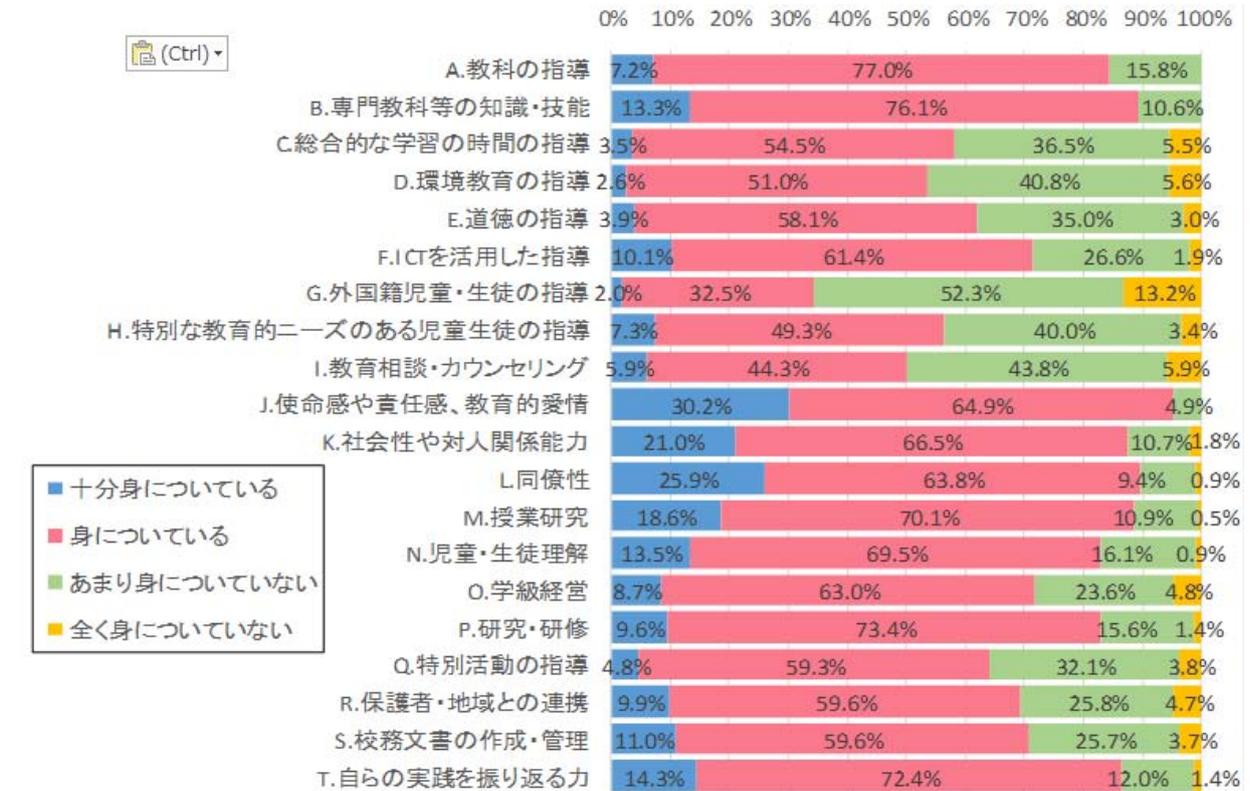
### 【第 1 期、第 2 期のデータ比較グラフ】

第 2 期においては、A～T までのほとんどの項目で、「十分身についている」、「身についている」の肯定的な回答の合計がほぼ同率、もしくは第 1 期を上回る数値を示している。このことは、第 2 期における本学部での学業の向上の成果が反映されていることを裏付けているといえる。

【第1期(平成21年度)アンケート結果】



【第2期(平成27年度)アンケート結果】



(出典：アンケート結果を基に自己点検評価委員会にて作成)

3 就職支援

就職部会は、以下に示す就職支援を行っている【資料教122】。

資料教122：「就職の手引き」表紙及び就職ガイダンス等の行事予定		主対象学年	
実施月	平成27年度 就職ガイダンス等行事予定	学部	院
4月	教員採用模擬試験結果および教員採用試験対策ガイダンス	4	2
5月	学内公開「教員採用模擬試験」		
	長野県教員採用試験説明会		
	教員採用試験対策模擬試験「集団面接」		
6月	学内公開「教員採用模擬試験」		
	教員採用試験対策特別セミナー		
7月	長野県教員採用一次選考試験		
8月	教員採用試験対策模擬試験「個人面接」		
	長野県教員採用二次選考試験		
12月	教員採用試験対策ガイダンス	3	1
2月	学内公開「教員採用模擬試験」		
	3月		



(出典：「就職の手引（平成27年度）」 信州大学教育学部・就職部会)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

- ① 第2期の本学部の就職率は国立大学平均より高く、平成27年度には、第1期末の数値を上回った【資料教117, p84】。
- ② 本学部から推薦した学生について、採用試験の一次試験を一部免除する推薦採用制度が長野県で導入され、現在までに30人が採用された【資料教119, p84】。
- ③ 第2期の教育関係者からのアンケート回答では、ほとんどの項目で肯定的な回答率が第1期を上回っており、本学部での学業の向上の成果を裏付けていることを示しているといえる【資料教121, p85～86】。

### Ⅲ 「質の向上度」の分析

#### 1 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

##### (1) 地域の教育関係機関との連携強化に関する取組み

地域密接型を目指す大学として義務教育諸学校に関する地域の教員養成機能の中心的役割を第1期に増して強化するために、長野県教育委員会等との新たな連携組織を設けた【資料教52～58, p31～35】。

長野県が抱える現代的な教育課題に対応した附属学校における教員養成・研修に関する新事業を展開した【資料教81, p56】。

長野県教育委員会からの「長期研修生」【資料教80, p55】は第1期と比較し受入人数が増えており、地域の教育関係者からの教員再教育の場のニーズに対応している。

長野県の要請を受け、平成24年度以降の入学生の卒業要件として小・中学校一種免許取得に必要な科目と単位の修得を必修化した【資料教16～18, p10～11】。

##### (2) 在学生の期待に応える取組み

学位授与の方針【資料教5, p4】に対応する教育課程の編成・実施の方針を明確化すること【資料教69, p46】により、授業科目と教育目標との連関について明示した。学校教育教員養成課程入学から卒業までの学修課程のモデルを概念図で示し、理解できるようにしている【資料教70, p47】。

第2期中に多くの主体的な学習を促す新たな取り組みを開始した【資料教94～100, p66～70】。

##### (3) 実践型の教員養成を実現できる体制強化

退職校長の教職コーディネーターとしての採用【資料教59, p36】により学生の教員就職活動や教員採用試験への対応に体制を整え、実務家教員の採用【資料教58, p35, 資料教64, p40】により実践型教員養成機能への質的転換が図られている。

#### 2 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

##### (1) 学業の成果

平成24年度のカリキュラム改定以降、学校教育教員養成課程の小・中両免許状取得率は第1期より上昇した。また、いわゆる「副免」を含む平均免許取得数は、第1期の2.83から3.40と上昇しており、小・中学校を横断的に担当できる教員及び専門教科以外の他教科も担当する能力のある教員の養成という長野県の要望に応じているといえる【資料教108, p74】。

学生自身の学業の成果に関する満足度は、第2期で上昇し【資料教109, 110, p75～76】、卒業後10年程度の卒業生との懇談会においても本学部の教育内容に肯定的な回答が寄せられた【資料教112, p78】。

##### (2) 就職の成果

学部全体の就職率及び教員就職率は国立大学平均より高く、第2期平均は第1期末3ヶ年平均を上回っている【資料教117, 118, p84】。

第2期の就職先(勤務先)学校長へのアンケート調査の評価も第1期を上回っており【資料教121, p85～86】、輩出する教員の質を向上させているといえる。

## 4. 教育学研究科

- I 教育学研究科の教育目的と特徴・・・・・・・・・・4-2
- II 「教育の水準」の分析・判定・・・・・・・・・・4-9
  - 分析項目 I 教育活動の状況・・・・・・・・・・4-9
  - 分析項目 II 教育成果の状況・・・・・・・・・・4-55
- III 「質の向上度」の分析・・・・・・・・・・4-64

I 教育学研究科の教育目的と特徴

1 教育目的

(1) 研究科の教育の目的・目標

本研究科は、目的を定めるとともに、ホームページで公表している（資料教院1，2）。

**資料教院1 信州大学大学院教育学研究科規程**

(目的)

第1条の2 研究科は、人間の生成と教育に関する専門的知識・技能を授けることにより、創造性豊かな研究能力と高度な実践的指導力を有する教育研究の中核となる人材を育成するとともに、学校教員をはじめとする各種教育専門職者の再教育により、教育専門職業人の資質の向上に資することを目的とする。

(出典：「信州大学大学院教育学研究科規程」)

**資料教院2 教育学研究科の目標**

本研究科は、学部教育の理念である「臨床の知」をさらに深化させ、科学技術の著しい進歩や国際化、情報化等社会の急速な進展に対応でき、創造性豊かな研究能力と高度な実践的指導力を有する教育研究の中核となる人材を養成するとともに、学校教員をはじめとする各種教育専門職者の再教育により、教育専門職業人の資質の向上に資することを目的としている。

(出典：「平成27年度信州大学大学院教育学研究科修士課程学校教育専攻学生募集要項」)

(2) 三つの方針

本研究科は、学位授与の方針（資料教院3）、教育課程編成・実施の方針（資料教院4）、入学者受入の方針（資料教院5）を定め、公表している。

**資料教院3 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）**

**信州大学大学院学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）**

信州大学大学院では、俯瞰力と独創力を備え、持続可能な価値社会を創造する質の高い高度専門職業人や、先端的研究を推進する人材を養成するために、以下のように各課程の学位授与の方針を定める。

- ・修士課程にあつては、広い視野に立って精深な学識を持ち、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を修得している。
- ・博士課程にあつては、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するのに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を修得している。
- ・専門職学位課程にあつては、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を修得している。

**教育学研究科 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）**

教育学研究科の課程を修了し、次に該当する者に学位を授与する。

1. 現代の学校教育を取り巻く社会の動向に基づく、さまざまな学問領域からなる教育科学諸理論を修得している。
2. 研究科の理念である「臨床の知」の実現に向け、学校や家庭、地域社会における多様な教育事象を科学的な視点から研究し、自らの教育実践を持続的に見直すことができる省察能力を有する。
3. それぞれの専門領域に関する高度な知識・技能、ならびに、それらの知識・技能を基盤とした創造性豊かな研究能力と高度な実践的指導力を有する。

**教育学研究科 学校教育専攻 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）**

教育学研究科学校教育専攻の課程を修了し、次に該当する者に修士（教育学）の学位を授与する。

1. 学校教育及び臨床心理に関わる個別諸科学の理論を修得している。
2. 学校教育及び臨床心理における諸科学理論と教育現場における教育実践とを往還させる省察能力を有する。
3. 現代社会における教育問題の解決に資する臨床的・教育実践的な研究能力と実践的指導力を有する。

4. 学校教育分野で必要とされる情報収集・分析能力を有する。

#### 教育学研究科 教科教育専攻 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

教育学研究科教科教育専攻の課程を修了し、次に該当する者に修士（教育学）の学位を授与する。

1. 各教科の教育内容の基盤としての個別諸科学の理論を修得している。
2. 各教科における諸科学理論と教育現場における教育実践とを往還させる省察能力を有する。
3. 各教科において授業改善に資する創造性豊かな研究能力と実践的指導力を有する。
4. 教科教育分野で必要とされる情報収集・分析能力を有する。

（出典：信州大学ホームページ「ディプロマ・ポリシー」）

#### 資料教院4 信州大学大学院教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

##### 大学院課程における教育課程編成の方針

1. 信州大学大学院は、研究科及び専攻の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設するとともに、研究指導の計画を策定し、体系的に教育課程を編成します。
2. 信州大学大学院は、教育課程の編成に当たっては、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう適切に配慮します。

##### 大学院課程における教育課程実施の方針

1. 信州大学大学院は、専門性の一層の向上を図り幅広い学識を涵養するため、コースワークを充実させ、コースワークから研究指導へ有機的につながる体系的な教育を行います。また、各研究科の「学位授与の方針」に定めた、修了時までには修得すべき知識・能力等がカリキュラム体系のなかでどのように養成されるのかを示すため、シラバスで「学位授与の方針」で定められた知識・能力等との対応を示し、それら諸能力等を修得するプロセスを履修プロセス概念図で示します。
2. 信州大学大学院は、学生個々人の主体的で活発な勉学意欲を促進する立場から、授業時間外の多様な学修研究機会を通じ、諸課題に積極的に挑戦させます。
3. 信州大学大学院は、成績評価の公正さと透明性を確保するため、成績の評定は、各科目に掲げられた授業の狙い・目標に向けた到達度をめやすとして採点します。
4. 信州大学大学院は、修士課程及び博士課程の学位論文審査体制を充実させ、厳格な審査を行います。

（出典：信州大学ホームページ「カリキュラム・ポリシー」）

#### 資料教院5 入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）

##### 信州大学大学院入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

###### 求める学生像

信州の悠久の歴史と文化、豊かな自然環境のもと、地域に根ざし世界に開かれた信州大学大学院は、総合大学の特色を生かし、国の活力を高める次世代を担う卓越した人材や世界的な視点で新たな価値を創造する質の高いグローバルな高度専門職業人の養成を目指しています。そのため、以下のような能力や意欲を備えた人たちを積極的に受け入れます。

- ・幅広い教養と専攻する分野の専門知識を持ち、さらに高度な専門的知識・専門応用能力を修得したい人
- ・知的好奇心が旺盛で、専門的課題や地域社会の抱える課題に主体的に取り組む人
- ・深い知性、論理的な思考力、豊かな人間性を備え、様々な分野でリーダーシップを発揮し、活躍したい人
- ・社会・環境・国際問題に関心をもち、創造力を活かし、グローバルに活躍したい人
- ・職業経験から獲得した知識・技能を高度化、深化させたい人

###### 入学者選抜の基本方針

信州大学の教育の理念・目標に則り、各研究科の特性に応じた公正かつ適切な方法で入試を実施し、大学院教育を受けるにふさわしい能力・適性等を多面的・総合的に評価します。

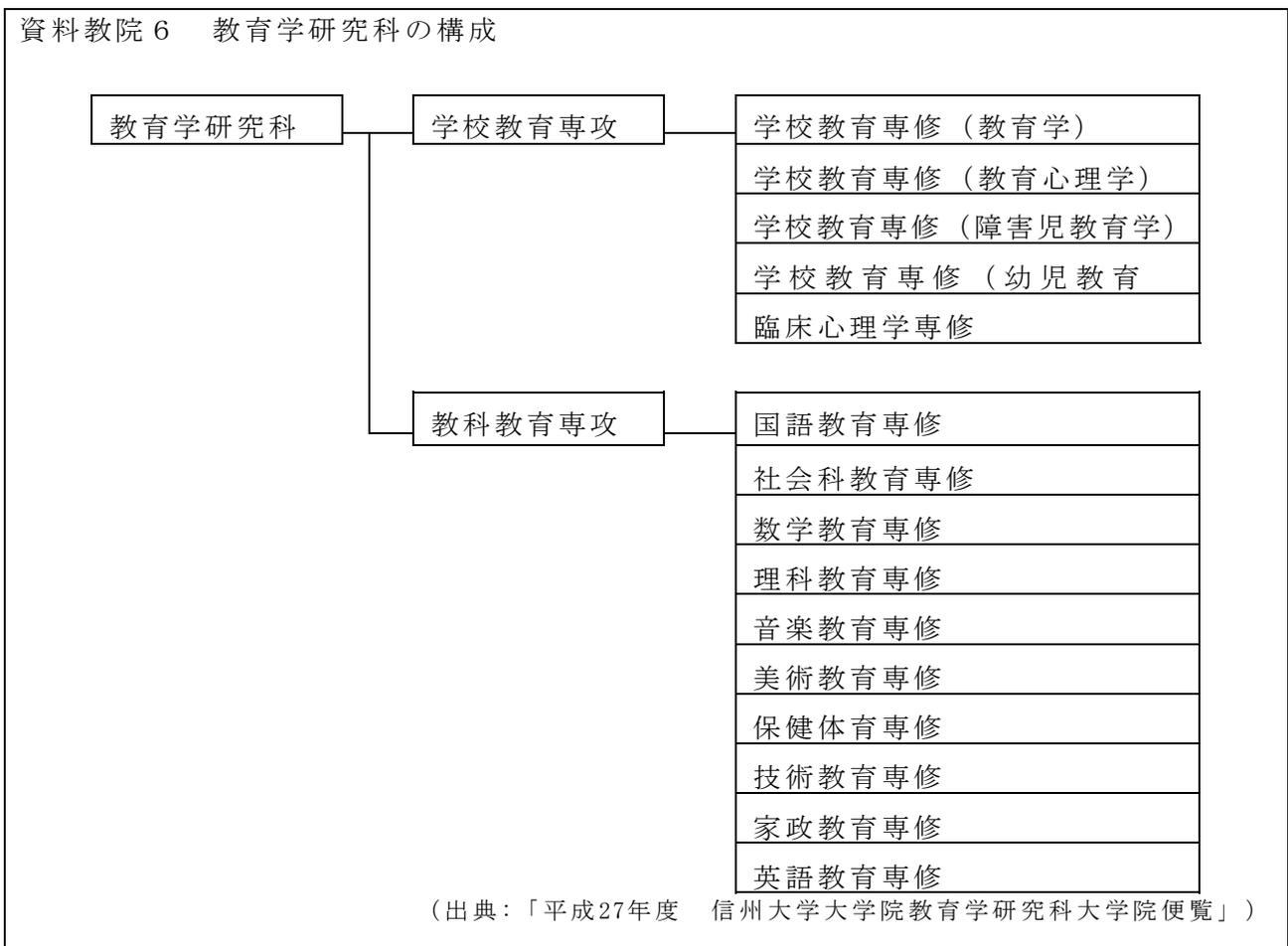
##### 教育学研究科アドミッションポリシー

教育学研究科は、人間の生成・変容とケアに関わる教育専門職への社会の期待と要請を背景として、就学前、初等及び中等教育の教育実践の場で指導的な立場に立てる教員をはじめとする高度な教育専門職業人の育成を目指す教育課程を用意しており、研究科が掲げる「臨床の知」の深化実現に向けて、多様な教育事象を科学的な視点から研究し、自らの教育実践を持続的に見直そうとする高い意欲を持った方を求めています。

（出典：信州大学ホームページ「アドミッション・ポリシー」）

2 組織の特徴や特色

本研究科は、学校教育専攻、教科教育専攻の2専攻からなり、各専攻に専修（資料教院6）を設けており、それぞれが特徴（資料教院7）を有している。附属施設（資料教院8）を有効に活用しながら、教育を行っている。



資料教院7 各専攻の特徴

**学校教育専攻**  
 本専攻では、学校教育及び臨床心理に関わる専門家の養成のために、現代社会における教育問題の解決に資する臨床的・教育実践的な研究を行える研究・教育体制を整え、教育学、教育心理学、障害児教育学、幼児教育学、及び臨床心理学の各領域における最先端の研究に従事する教員が研究科の研究・教育目的の実現のための教育課程を編成している。

**教科教育専攻**  
 本専攻には、国語教育専修、社会科教育専修、数学教育専修、理科教育専修、音楽教育専修、美術教育専修、保健体育専修、技術教育専修、家政教育専修、英語教育専修の10専修がある。  
 本専攻では、各教科の教育内容の基盤としての個別諸科学と各教科教育学の有機的な関係を中心とした研究の充実を図れるような研究・教育体制を整え、個別諸科学及び各教科教育学の各領域において最先端の研究に取り組む教員が研究科の研究・教育目的の実現のための教育課程を編成している。  
 (出典：「平成27年度信州大学大学院教育学研究科修士課程学校教育専攻学生募集要項」)

資料教院8 教育学研究科の教育に活用する附属施設一覧

施設名称	所在地 (市町村)
(大学院の附属施設)	
大学院教育学研究科心理教育相談室	長野市西長野6-口
(教育学部附属施設)	
附属幼稚園	松本市桐1丁目3番1号
附属長野小学校	長野市南堀77番地1

附属長野中学校	長野市南堀109番地
附属松本小学校	松本市桐1丁目3番1号
附属松本中学校	松本市桐1丁目3番1号
附属特別支援学校	長野市南堀109番地
附属志賀自然教育研究施設（志賀自然教育園）	長野県下高井郡山ノ内町志賀高原
附属教育実践総合センター	長野市西長野6-ロ

（出典：「大学概要2015」抜粋他）

### 3 入学者の状況

入学者の選抜は、一般選抜（第Ⅰ期、第Ⅱ期）と特別選抜（長野県教育委員会から派遣される現職教員対象）を実施している（資料教院9）。入学者の状況は、以下のとおりである（資料教院10、11）。

#### 資料教院9 選抜方法等

本研究科は、長野県教育委員会から派遣される現職教員と、その他の受験者（本学及び他大学を卒業した学部卒者、また小・中・高等学校等に勤務し、現職に就いたまま、または休職して、大学院での学修を希望する方、あるいは教員以外の職に就きながら本研究科での学修を希望する方）を分けて入学試験を実施します。

本研究科では、入学希望者に複数回の受験機会を提供するため、2回（第Ⅰ期、第Ⅱ期）の入学試験を実施します。第Ⅰ期入学試験では、特別選抜及び一般選抜試験を行い、第Ⅱ期入学試験では、一般選抜試験のみを行います。

長野県教育委員会派遣現職教員を対象とする特別選抜の入学試験では、「口述試験」を課します。その他の入学希望者を対象とする一般選抜の入学試験では、「筆記試験」と「口述試験」及び「実技試験」（音楽教育専修のみ）を課します。筆記試験では志望する専修・分野の専門的知識を評価します。筆記試験問題には、専修により外国語の問題を含むことがあります。いずれの選抜試験でも、「口述試験」では、事前に提出された「口述試験用調書」により、入学後の研究計画の具体性と研究意欲を評価します。

（出典：「平成27年度信州大学大学院教育学研究科学生募集要項」）

#### 資料教院10 入学者の状況

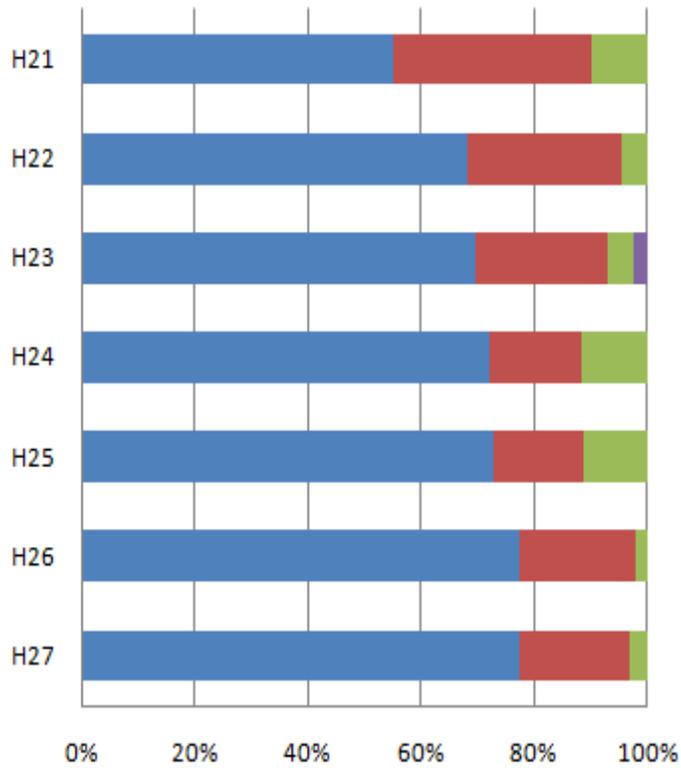
		22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
学校教育	一般選抜	10	12	13(2)	10(2)	14(1)	12
	特別選抜*	0	2	1	1	1	1
教科教育	一般選抜	31(3)	28(4)	26(3)	30(3)	26	15(1)
	特別選抜*	3	1	3	3	3	3
入学者(a)		44(3)	43(4)	43(5)	44(5)	44(1)	31(1)
志願者数(b)		85(6)	72(7)	82(7)	89(11)	90(5)	76(1)
倍率(b)/(a)		1.93	1.67	1.91	2.02	2.05	2.45
(参考) 基準募集人員		40	40	40	40	40	40

( ) は留学生数(内数)

\* 特別選抜は、長野県現職教員の選抜

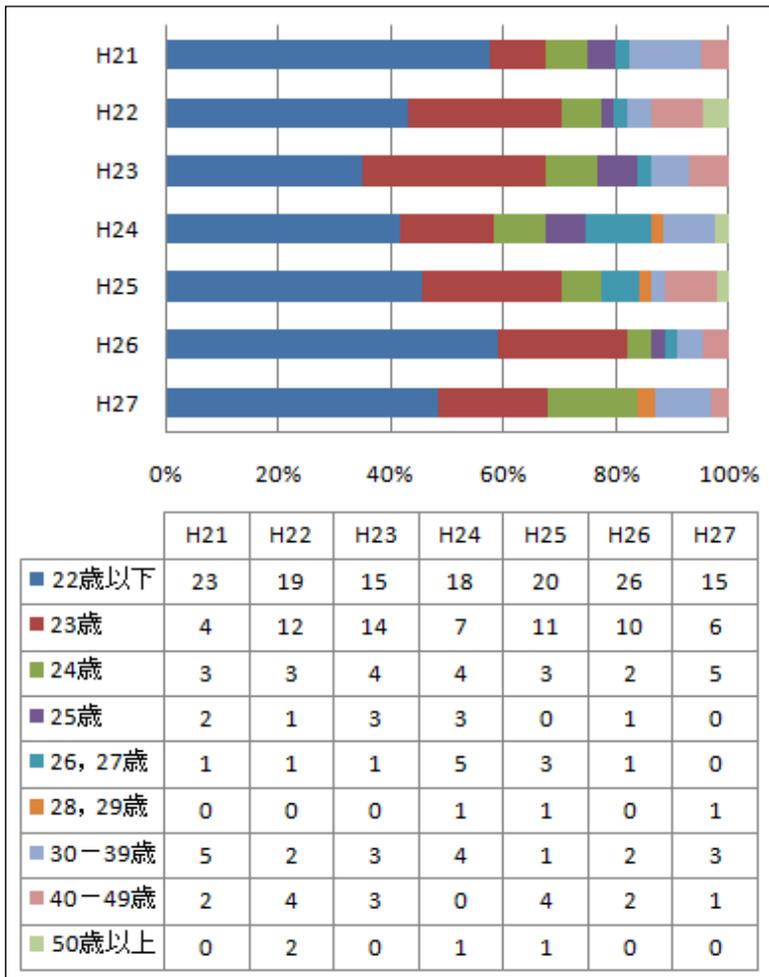
（出典：教育学研究科学務係作成）

資料教院 11 教育学研究科の入学者の状況  
 入学者の内訳（出身学校種別）

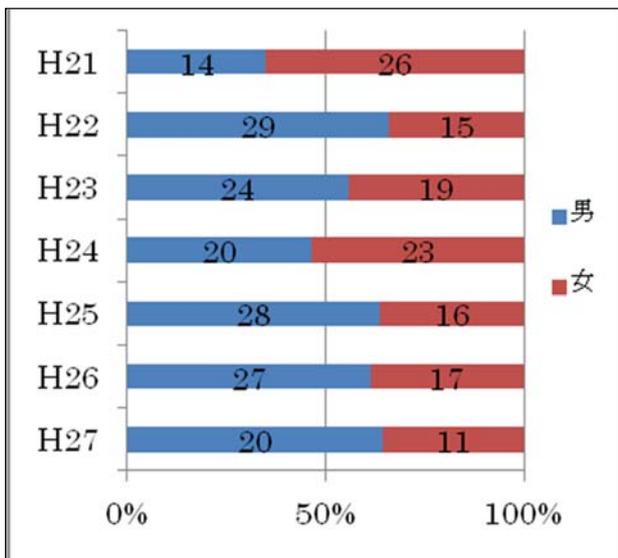


	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
■ 本学	22	30	30	31	32	34	24
■ 他大学	14	12	10	7	7	9	6
■ 外国の学校	4	2	2	5	5	1	1
■ その他	0	0	1	0	0	0	0

入学者の内訳（年齢別）



男女比



(出典：経営企画課作成)

[想定する関係者とその期待]

地域社会（長野県教育委員会、教育関係諸機関・諸団体）：

教員集団のリーダーであり、後進の教員を育てることができる人材を養成する教育内容に強い期待がある。

現職教員及び学校関係者：

現職教員の再教育の場として、教員が高度な専門性と実践的指導力を身に付けられるよう、教育、採用、研修等を一体的に捉えた大学院修士課程による学習機会の設定に期待が寄せられている。さらに、教育学研究科と学校現場との連携した問題解決にも期待が寄せられている。

在学生及び受験生：

学校現場での臨場経験にプラスし、研究能力を備え、最新の教育理論や諸科学の成果に裏打ちされた高度な専門的知識、技能及び省察的能力を有する実践的指導者になるための学修への期待がある。

II 「教育の水準」の分析・判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育実施体制

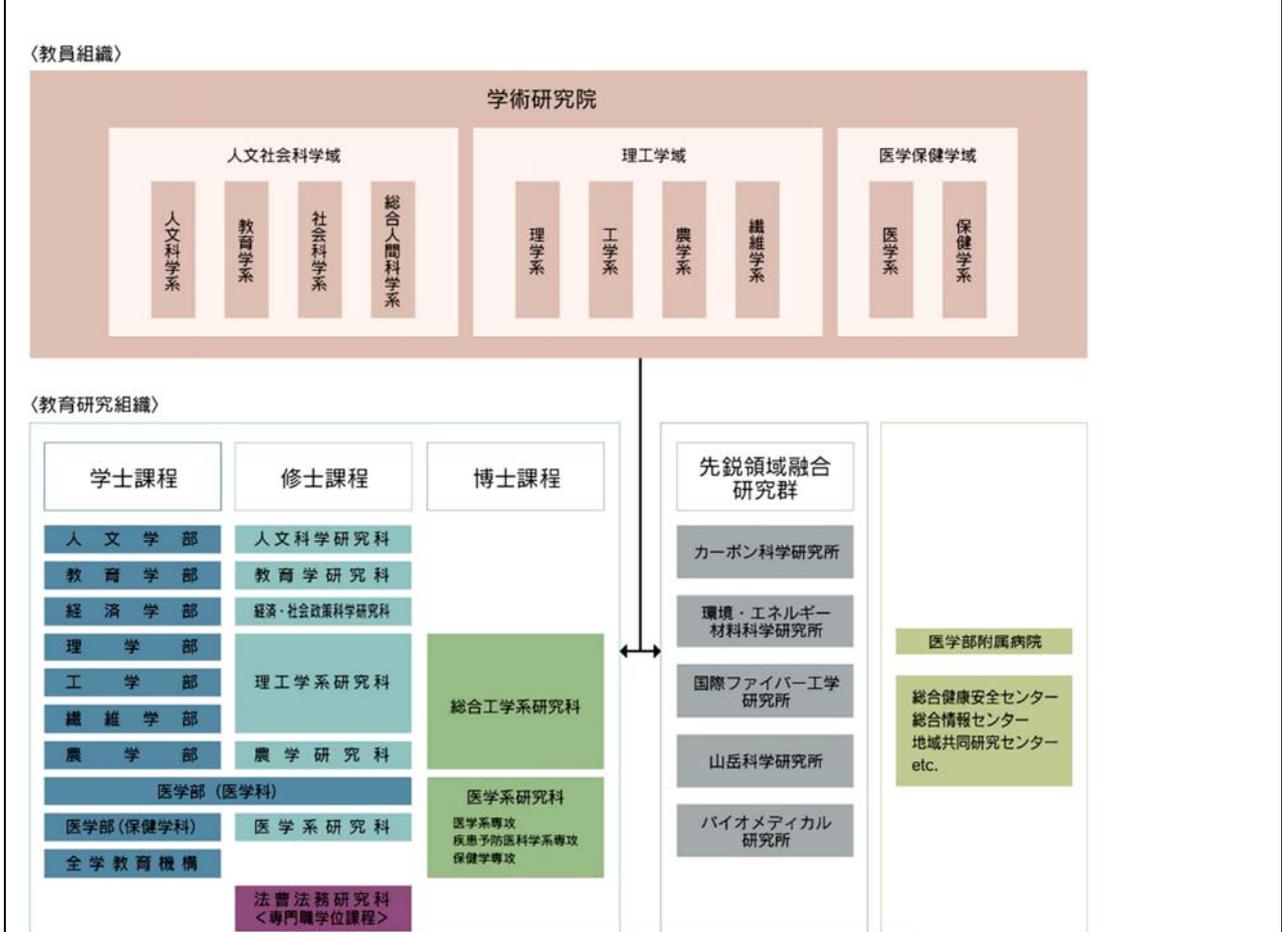
(観点に係る状況)

1 教員組織および教育体制

(1) 学術研究院と研究科

教員の流動性を確保し、全学的な教育、研究マネジメントを可能とするため、教員組織として学術研究院を平成 26 年度より設置した(資料教院 12)。

資料教院 12 学術研究院と学部との関係



学術研究院は、3の学域・10の学系により構成する。すべての教員は、いずれかの学系に所属し、職務として次のいずれかに携わる。(複数の兼務もあり)

- 1) 学部・大学院、全学教育機構において、教育・研究に携わる。
- 2) 医学部附属病院において、診療・教育・研究に携わる。
- 3) 先鋭領域融合研究群において、研究に携わる。
- 4) 大型研究センター(拠点形成型の外部資金プロジェクト)において、研究に携わる。
- 5) 各教育研究(支援)センター等において、担当業務に携わる。

これにより、先鋭領域融合研究群の研究者への研究重点環境の提供や学部横断型の教育を実現し、研究の高度化や時代の要請に柔軟かつスピーディーに対応した教育を推進する。

(出典:「大学概要 2015」をもとに経営企画課作成)

(2) 研究科の構成，教員の配置状況

本研究科は、学校教育専攻（2専修）と教科教育専攻（10専修）で構成されており、多彩な研究分野を有する教員を配置している（資料教院13）。

資料教院 13 教員の研究領域一覧		
専攻	専修	研究領域
学校教育専攻	学校教育専修（教育学）	教育哲学，教育学，教育社会学，教育方法学（教育課程），教育方法学（授業分析），教育実践学
	学校教育専修（教育心理学）	教育心理学，教育評価，認知心理学
	学校教育専修（障害児教育学）	障害児教育学，障害児心理学，障害児病理学
	学校教育専修（幼児教育学）	幼児心理学，発達心理学
	臨床心理学専修	教育心理学，臨床心理学，社会心理学，学校心理，特別支援教育，教育相談，発達心理学，学習心理学
教科教育専攻	国語教育専修	国語科教育学，日本語学，古典文学，日本語教育，日本語学，コミュニケーション，書写書道，近代文学
	社会科教育専修	社会科教育学，日本史学，外国史学，地理学，自然地理学，法律学，政治学，経済学，文化人類学
	数学教育専修	数学教育学，代数学，幾何学
	理科教育専修	理科教育学，臨床教科教育，物性物理学，低温物理学，核・放射化学，有機物理化学，光化学，遺伝学，生理学，分子生物学，行動学，昆虫生態学，植物生態学，地質学，火山灰層序学
	音楽教育専修	音楽教育学，声楽，器楽，指揮，作曲
	美術教育専修	美術教育学，デザイン，美術史，美術理論，彫刻
	保健体育専修	体育科教育学，運動学，体育・スポーツ史，スポーツバイオメカニクス，コーチング，脳・精神生理学，運動方法学，野外教育学，国際学校保健
	技術教育専修	技術科教育学，情報科学，技術科教育学，機械，金属工学
	家政教育専修	家政教育学，衣生活学，食物学，被服学，住居学
	英語教育専修	英語科教育学，第2言語習得，異文化間コミュニケーションとその教育，国際理解教育，理論言語学，統語論と意味論が中心，英米文学

（出典：大学院案内 教育学研究科（本学ホームページ掲載））

(3) 教育課程の運営体制

本研究科は、教育学系長が研究科長となっており、定期的（月1回）に開催する研究科委員会において教育活動に関する審議を行っている（資料教院14）。

資料教院 14 信州大学大学院学則，信州大学大学院教育学研究科規程，信州大学大学院教育学研究科委員会規程	
信州大学大学院学則（抜粋）	
（研究科長）	
第9条 本大学院の各研究科（法曹法務研究科を除く。）に研究科長を置き，次のとおり，信州大学学術研究院の学系長をもって充てる。	
（略）	
教育学研究科長	教育学系長
（略）	
2 （略）	
3 前項の研究科長の選考に関し必要な事項は，別に定める。	
4 研究科長は，当該研究科に関する事項を掌理する。	
（大学院研究科委員会）	
第11条 各研究科に，大学院研究科委員会（法曹法務研究科にあつては，研究科教授会。以下「研究科委員会」という。）を置く。	
2 研究科委員会は，学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。	
(1) 学生の入学，課程の修了	

- (2) 学位の授与
- (3) 前 2 号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、研究科委員会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるもの。
- 3 研究科委員会は、前項に規定するもののほか、学長及び研究科長その他の研究科委員会が置かれる組織の長(以下この項において「学長等」という。)が掌る教育研究に関する事項について審議し、学長等の求めに応じ、意見を述べるができる。
- 4 研究科委員会に関し必要な事項は、別に定める。

信州大学大学院教育学研究科規程 (抜粋)

(研究科委員会)

第 4 条 研究科に、大学院学則第 11 条第 1 項の定めるところにより信州大学大学院教育学研究科委員会(以下「研究科委員会」という。)を置く。

2 研究科委員会に関し必要な事項は、別に定める。

信州大学大学院教育学研究科委員会規程 (抜粋)

(審議事項)

第 3 条 研究科委員会は、学長が次の各号に掲げる事項について決定を行うに当たり、意見を述べるものとする。

(1) 学生の入学及び課程の修了

(2) 学位の授与

2 研究科委員会は、前項に掲げるもののほか、次の各号に掲げる事項について、学長に意見を述べるものとする。

(1) 教育課程の編成に関する事項

(2) 研究科に所属する教員の選考及び業務内容等に関する事項

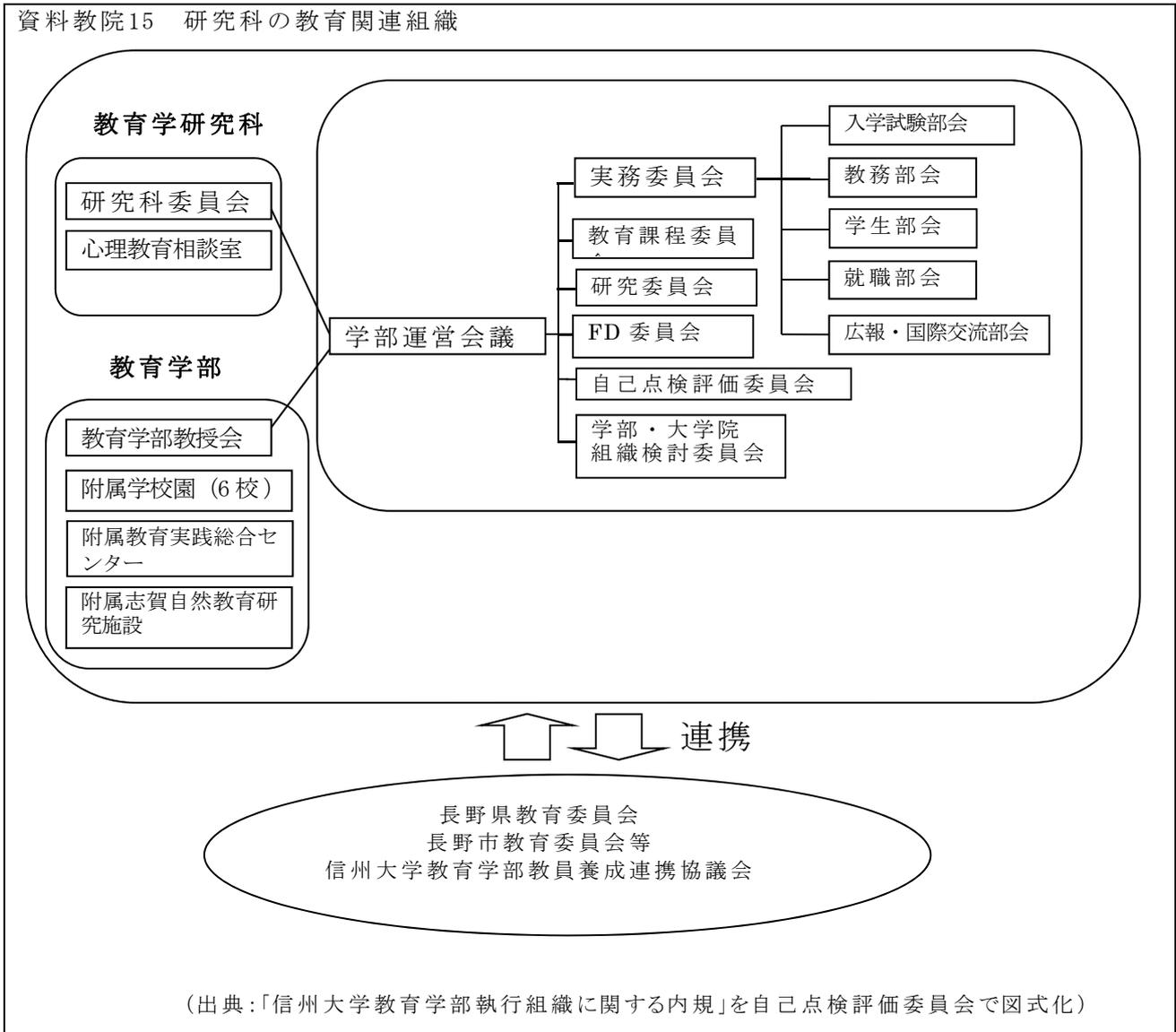
3 研究科委員会は、前 2 項に定めるもののほか、学長及び研究科長(以下この項において「学長等」という。)が掌る教育研究に関する事項について審議し、学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

第 3 条の 2 前条第 2 項第 2 号に定める事項については、委員会の意見を聴いた後、信州大学学術研究院会議で審議する。

(出典：信州大学規程集)

研究科の教育課程に関する企画、実施、広報、点検評価を行うため、学部運営会議のもとに委員会等が設置されている(資料教院15)。各組織が連携しながら教育を実施し、定常的な点検を行いながら改善に努めるPDCAサイクルが動いている。

資料教院15 研究科の教育関連組織



(4) 教員の教育力向上のための活動

本研究科では、学生、雇用主、地域等のニーズを自己点検・評価委員会および地域との連携組織等でアンケート、意見聴取等を実施し把握（資料教院 16）するとともに、教員向けの FD を実施している（資料教院 17）。

資料教院 16 学生，修了生，雇用主，保護者，地域等の社会のニーズ把握

対象	方法	頻度	実施組織
学生	アンケート	毎年度卒業時	自己点検・評価委員会
雇用主・企業等	アンケート	数年毎	自己点検・評価委員会等
地域	意見聴取	年に1回	信州大学教育学部と長野県教育委員会との連絡協議会
		年に1回	信州大学教育学部と長野市教育委員会との連絡協議会
		年に1回	信州大学教育学部教員養成連携協議会

(出典：教育学研究科学務係)

資料教院17 FDの実施状況		
年度	内容	主催
22	ファシリテーションFD研修会	教育学部
22	FDショートセミナー ～授業で上手くいっていること・うまくいっていないこと (A)～	学務課
22	FDショートセミナー ～リアクション・ペーパーの活用について～	学務課
22	FDショートセミナー ～授業で上手くいっていること・うまくいっていないこと (B)～	学務課
22	FDショートセミナー 『科研費申請書作成のポイント』	学務課
22	FDショートセミナー ～グループ活動におけるルール・ロール・ツール・ホール～	学務課
22	FDショートセミナー ～シラバスこそが 教育戦略のエビデンスにしてエッセンス～	学務課
23	新任教員 FD～新学期のスタート1か月を振り返って～	学務課
23	FDショートセミナー ～新学期スタートアップセミナー～	学務課
23	～『生徒』から『学生』への移行を考える～	学務課
23	～授業における「配布資料」を考える～	学務課
23	～長期休業中の学習について考える～	高等教育研究センター
23	～新学期スタートアップセミナー Vol.2～	高等教育研究センター
23	～図書館の有効利用について～	高等教育研究センター
23	～学生の理解度把握について考える(1)～	高等教育研究センター
23	～学生の理解度把握について考える(2)～	高等教育研究センター
23	～シラバスの書き方～	高等教育研究センター
24	FDワークショップ 教育学部「内省できる実践家を育てる」	教育学部/高等教育研究センター
24	ICT活用FD	高等教育研究センター
25	教育著作権セミナー	e-Learningセンター
25	FDシリーズ 青年期の学習態度と知的発達	高等教育研究センター
25	シラバスガイドライン改訂に伴うFD	教育学部/高等教育研究センター
26	大学生の心理と理解(4回シリーズ)	高等教育研究センター
26	シラバスガイドライン改訂に伴うFD	教育学部/高等教育研究センター
26	教育学部のeALPS事例発表会	教育学部/e-Learningセンター/高等教育研究センター
27	「大学生調査 JCSS2012 報告」FD	高等教育研究センター
27	入試改革FD	教育学部/アドミッションセンター
27	eALPS研修「映像を活用したe-Learningコンテンツ作成」	e-Learningセンター/高等教育研究センター
27	「反転授業」に関するFD	e-Learningセンター/高等教育研究センター
27	「教員養成の高度化に関するFD ～教職大学院の開設にむけて～」	教育学部FD委員会/教職大学院専任教員委員会

(出典：教育学研究科学務係)

## (5) 教育学研究科の再編に向けた取組

地域社会や現職教員および学校関係者の要求に応えるために、教育学研究科のあり方の検討を行った。学習会、公開シンポジウム等を開催し(資料教院18)、情報の収集、教職員の意見交換を行い、平成28年度に実施予定の教育学研究科の改組に向けた構想を立て(資料教院19)、学校現場が抱えている課題に応える教員養成機能を十分に発揮するために、新たに教職大学院の設置を計画した。



信州大学  
SHINSHU UNIVERSITY

## 平成24年度信州大学主催シンポジウム

# 教員の高度な専門性と 実践的指導力を高めるために

### ～大学教育に求められるこれからの教員養成～

#### 開催日時

平成24年8月20日(月)

- シンポジウム 13:15～17:40(12:45開場)
- 情報交換会 18:00～20:00

#### 会場

ホテルメトロポリタン長野  
3階「浅間」

(JR長野駅善光寺口から徒歩2分)

長野市南石堂町1346番地 TEL026-291-7000(代表)  
<http://www.metro-n.co.jp/>

※会場の駐車場には限りがあります。  
できるだけ公共交通機関でお越しください。

#### 対象

- ▶ 大学・教育委員会関係者
- ▶ 国・公・私立学校教職員
- ▶ 教員志望学生

#### 定員

200名(先着順)

#### 参加申込み

sympo@goo.jpへ空メールをお送りください。参加申込書アドレスが自動返信されますので、そのアドレスからワード版申込書をDLし必要事項を御記入の上、申込書中の指定メールアドレスへメール添付でお申込みください。

#### プログラム

**開 会** 13:15

開会挨拶 信州大学長 山沢 清人  
文部科学省大臣官房審議官  
(初等中等教育局担当) 尾崎 春樹氏  
※挨拶は高橋道和氏に変更になりました。

#### 第1部

**基調講演** 13:45～14:35

- 演題 中央教育審議会「教員の資質能力向上特別部会」の報告について
- 講師 文部科学省初等中等教育局教職員課教員免許企画室長 日向 信和氏

**事例報告** 14:45～15:05

- 演題 信州大学における教員免許状更新講習の取組み
- 講師 信州大学理事(教員免許更新支援センター長) 赤羽 貞幸

〈休憩 15:05～15:20〉

#### 第2部

**パネルディスカッション** 15:20～17:40

- テーマ 大学教育に求められるこれからの教員養成
- パネリスト

上越教育大学長	若井 彌一氏
静岡大学教育学部長	梅澤 収氏
長野県教育委員会教育次長	荒深 重徳氏
信州大学全学教育機構教職教育部教授	小山 茂喜
信州大学教育学部副学部長	永松 裕希

- コメンテーター 文部科学省初等中等教育局教職員課教員免許企画室長 日向 信和氏
- コーディネーター 信州大学教育学部長 平野 吉直

**情報交換会** 18:00～20:00

情報交換会を立食形式で行います。  
(於 ホテルメトロポリタン長野)

主催／信州大学 後援／長野県教育委員会・長野市教育委員会

問い合わせ

〒380-8544 長野市西長野6の口 信州大学教育学部  
TEL026-238-4009 FAX026-234-5540 ✉sympo@goo.jp(参加申込書アドレスが自動返信されます)

(出典：信州大学主催シンポジウム パンフレット)

資料教院19 教育学研究科の改組に向けた構想

改組前			改組後（平成28年度以降）		
専攻名	専修名	入学定員	専攻名	専修名	入学定員
学校教育専攻	学校教育専修	8	学校教育専攻 (修士課程)	学校教育専修	4
	臨床心理学専修			6	
教科教育専攻	国語教育専修	32		高度教職実践専攻 (教職大学院)	教職基盤形成コース
	社会科教育専修		高度教職開発コース		15
	数学教育専修		20		
	理科教育専修				
	音楽教育専修				
	美術教育専修				
	保健体育専修				
	技術教育専修				
家政教育専修					
英語教育専修					
合計		40	合計		40

整理

新設

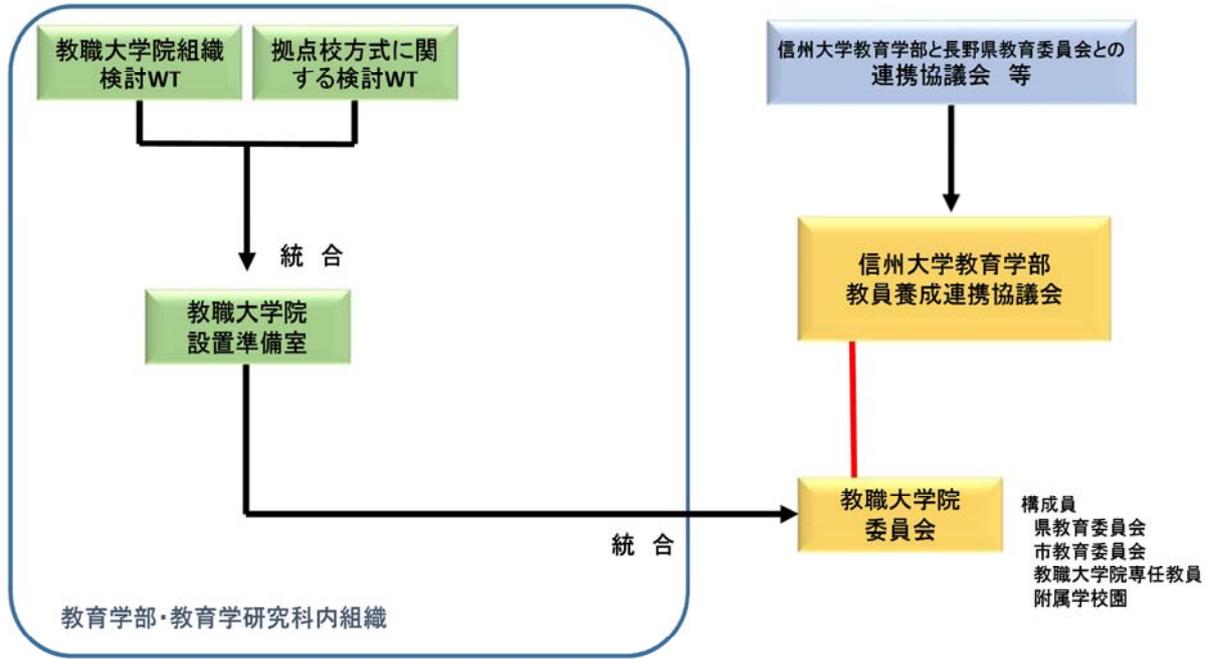
（出典：平成28年4月開設予定 信州大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻（教職大学院）入学者選抜要項）

教職大学院の設計にあたっては、平成25年度に教育学部内にワーキングチームを設置し、検討し、その後、平成26年度に教職大学院設置準備室を経て教職大学院委員会にて検討を行った。この新たな教職大学院委員会には、教育委員会関係者等をメンバーとして加え、学校現場のニーズ、現在と将来に必要とされる教員像を的確に反映させた教職大学院カリキュラムの開発と運営の検討を行った（資料教院20, 21）。

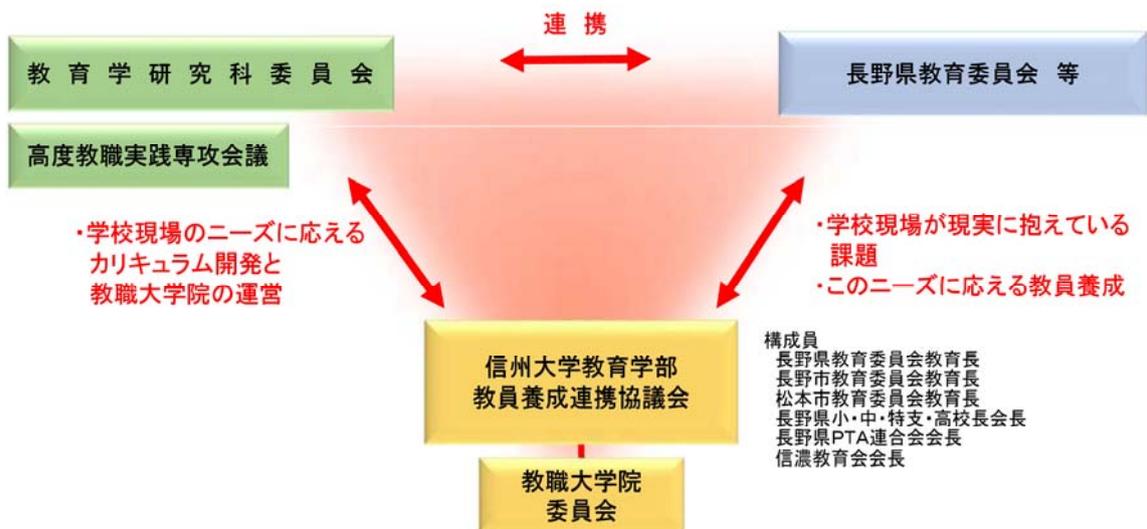
その過程で、平成28年4月に開設する教職大学院の教育目的に適する実務家教員を4名程度採用することを「信州大学教職大学院に関する覚書」（資料教院22）に盛り込み、長野県教育委員会と締結した。

資料教院20 教職大学院に関する検討組織

教職大学院に関する検討組織の推移



教職大学院に関する検討組織



(出典：「教職大学院設置申請書類」)

## 資料教院21 信州大学教職大学院委員会内規

(設置)

第 1 信州大学教育学部教員養成連携協議会要項 (以下「要項」という。) 第8の規定に基づき、信州大学教職大学院委員会 (以下「委員会」という。) を置く。

(任務)

第 2 委員会は、教職大学院の設置及び充実のため、教職大学院の教育組織、教育課程及び教員組織等について検討を行う。

(組織)

第 3 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 学部長の指名により選任された教員 若干名
- 二 学部長の指名により選任された事務職員 若干名
- 三 長野県教育委員会教育長が推薦した指導主事 1名
- 四 長野市教育委員会教育長が推薦した指導主事 1名
- 五 その他学部長が必要と認めた教職員 若干名

(委員長及び副委員長)

第 4 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長は、第3第 1号に規定する者のうちから委員が互選した者をもって充て、副委員長は、委員長が指名する者をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるときは、その職務を代行する。

(代理出席)

第 5 やむを得ない事情により委員が出席できない場合は、その代理の者を出席させることができる。

(構成員以外の出席)

第 6 委員会が必要と認めるときは、委員会に構成員以外の者の出席を求め、その説明又は意見を聴くことができる。

(報告)

第 7 委員会は、必要に応じて検討経過及び結果について、協議会に報告するものとする。

(庶務)

第 8 委員会の庶務は、教育学部事務部において処理する。

(雑則)

第 9 この内規に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附則

この内規は、平成 27 年 1 月 24 日から実施する。

(出典：「信州大学教職大学院委員会内規」)

## 資料教院22 信州大学教職大学院に関する覚書

信州大学（以下「甲」という。）と長野県教育委員会（以下「乙」という。）との連携に関する協定書に基づき、信州大学教職大学院（以下「教職大学院」という。）において優れた教員の養成及び現職教員の資質能力の向上に資するため、以下のとおり合意し、覚書を締結する。

1. 甲は、長野県内の公立諸学校の教員（大学を除く。）（以下「公立学校教員」という。）から、乙の定める要綱に基づき教職大学院への出願があった場合は、教職大学院学生募集要項により選抜するものとする。
2. 甲は、教職大学院へ入学した公立学校教員が所属する学校を拠点校（以下「拠点校」という。）とし、乙は、当該拠点校に教職大学院へ入学した教員と同数の教員を配置するものとする。
3. 甲は、拠点校とした当該学校を設置管理する市町村教育委員会の了承を得て、拠点校の教育課題に対応した教職大学院の授業を実施するものとする。
4. 甲が、拠点校において行う教職大学院の授業は、当該拠点校に在職する全教員の資質能力の向上に寄与するよう努めるものとする。
5. 甲は、1. に係る授業料、入学料及び検定料を徴収しない。
6. 甲は、事前に乙の了承を得て、信州大学教育学部附属学校園（以下「附属学校園」という。）の教員又は公立学校教員等から、4名程度を専門職大学院設置基準第5条第3項に規定する専攻分野における実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者（以下「実務家教員」という。）として採用するものとする。
7. 甲は、附属学校園の教員から実務家教員に採用された教員と同数の教員を、乙と協議の上、当該附属学校園に採用するものとする。
8. 実務家教員の任期は3年程度とし、4月1日を始期とし、翌年以降の3月31日を終期とする。なお、任期満了後は、附属学校園へ配置換、若しくは長野県内の教育機関へ再採用するものとする。
9. この覚書に定める事項について疑義が生じた場合及びその他教職大学院における教育の実施に係る連携協力について、この覚書に定めのない事項は、甲及び乙が協議の上、決定するものとする。

この覚書の締結を証するため、本書 2 通を作成し、甲乙双方が署名捺印の上、各 1 通を保有するものとする。

平成27年2月27日

（出典：「信州大学教職大学院に関する覚書」）

## 2 教育サポート体制

全学的な教育サポート体制として、学務課、学生支援課、国際交流課を設置し、全学的な教育課程、課外活動、就職、留学に関する業務を行っている（資料教院 23）。この他に、全学的な教育活動を展開するために附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センター、e-Learning センターに専門的知識技能を有する職員（資料教院 24, 25）及び本研究科に教育活動を展開するために必要な職員を配置している（資料教院 26）。

## 資料教院 23 国立大学法人信州大学業務執行組織規程

（学務部の業務分掌）

第 25 条 学務部の学務課においては、次の業務をつかさどる。

- (1) 学務部内の事務に関し、連絡し、及び総合調整を行うこと。
- (2) 庶務及び会計に関すること。
- (3) 入学式その他学生の諸行事に関すること。
- (4) 学生関係職員の SD(スタッフ・デベロップメント)に係る企画・立案及びその実施に関すること。
- (5) 全学(本法人が設置する信州大学大学院(以下「大学院」という。)を除く。)の教務に関すること。
- (6) 学生の学籍その他の記録に関すること。
- (7) 学位の授与に関すること。
- (8) 教育課程(大学院を除く。)に係る目標及び計画の連絡調整に関すること。
- (9) 他の大学等との単位の互換(大学院を除く。)に関すること。
- (10) 全学の学務情報システムに関すること。
- (11) 出前講座に関すること。
- (12) 諸会議(大学院委員会を除く。)の連絡調整に関すること。
- (13) 信州大学学術研究院(以下「学術研究院」という。)の総合人間科学系に係る事務に関すること。
- (14) 全学教育機構、教育・学生支援機構、高等教育研究センター、e-Learning センター、環境マインド推進センター(環境施設部の所掌に属するものを除く。)及び教員免許更新支援センター(教育学部の所掌に属するものを除く。)の業務執行及び運営に関すること。
- (15) 前各号に掲げるもののほか、学務部の他の所掌に属しない事務を処理すること。

2 学務課の共通教育支援室においては、次の業務をつかさどる。

- (1) 共通教育の授業支援に関すること。
- (2) 共通教育の教務に関すること。
- (3) 学生の学習相談及び修学指導に関すること。
- (4) 共通教育に係る点検・評価に関すること。
- (5) 共通教育推進会議等の諸会議の連絡調整に関すること。
- (6) 環境マインド教育支援に関すること。

3 (省略)

4 学務部の学生支援課においては、次の業務をつかさどる。

- (1) 学生総合支援センターの業務執行及び運営に関すること。
- (2) 学生相談センターの業務執行及び運営に関すること。
- (3) キャリアサポートセンターの業務執行及び運営に関すること。

5 学務部の入試課においては、次の業務をつかさどる。

- (1) 入学者の選抜に関し連絡し、及び総合調整を行うこと。
- (2) 入学者選抜方法の改善に関し企画立案を行うこと。
- (3) 学生募集に関すること。
- (4) アドミッションセンターの業務執行及び運営に関すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、入学者の選抜に関する事務を処理すること。

6 学務部の国際交流課においては、次の業務をつかさどる。

- (1) グローバル教育推進センターの業務執行及び運営に関すること。(研究支援課の国際学術交流室が所掌する業務を除く。)
- (2) 松本国際交流会館の業務執行及び運営に関すること。
- (3) 前各号に掲げるもののほか、教育活動に係る国際交流に関する事務を処理すること。

(出典：信州大学規程集)

資料教院 24 学務課、学生支援課、国際交流課の職員数

	学務課	学生支援課		国際交流課
		11	うち キャリアサポートセンター 3	
事務職員	20	11	3	6
事務補佐員	12	4	2	5
臨時用務員	1			
専門職員	1			
技術補佐員	5			
技能補佐員		1		
シニア雇用職員	4	1		
コーディネータ		1		6
合計	43	18	5	17

平成 28 年 1 月 18 日現在  
(出典：経営企画課作成資料)

資料教院 25 附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センター、e-Learningセンター職員数

区分	附属図書館	総合健康安全 センター	総合情報 センター	e-Learning センター
長野キャンパス (教育)	9	1	-	2

平成 28 年 2 月 1 日現在  
(出典：経営企画課作成資料)

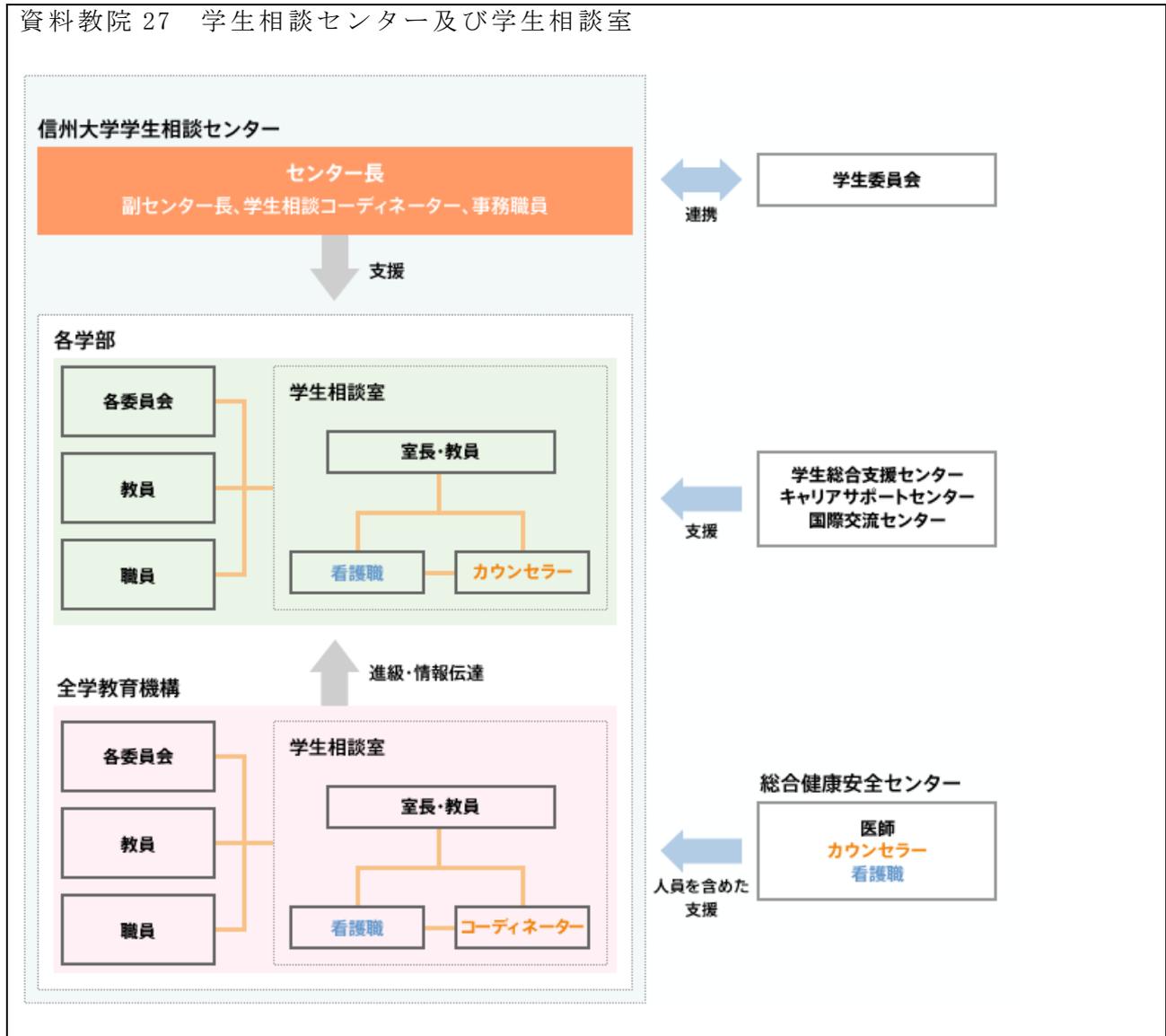
資料教院 26 学部・研究科の学務担当の職員数

教育学部・教育学研究科
17

平成 28 年 2 月 1 日現在  
(出典：経営企画課作成資料)

3 学生相談体制の整備

平成 24 年度に全学組織となる学生相談センターと、長野（教育）キャンパスにあらゆる相談を受け付ける学生相談室を設置し（資料教院 27）、学生の相談体制を強化した。



## 専門窓口と連携し対応します。

相談内容に応じて、学内外の専門機関(窓口)と連携を取ります。



(出典:信州大学学生相談センターホームページ「センターについて」)

(水準)

期待される水準にある

(判断理由)

- ① 本研究科の教育目的の達成及び地域社会、現職教員および学校関係者、在学生および受験生の期待に応えるために研究科が構成され、多彩な研究分野の教員で構成されている(資料教院 13, p10)。
- ② 研究科の教育関連組織は、長野県教育委員会をはじめとする地域社会の期待に応えることができるように組織体制を構成している(資料教院 15, p12)。
- ③ 学生相談センターを平成24年度に設置し、学生支援体制(資料教院27, p21~22)の整備を行った。
- ④ 学生、雇用主、地域等のニーズを自己点検・評価委員会および地域との連携組織等でアンケート、意見聴取等を実施し把握(資料教院 16, p12)するとともに、教員向けのFDを実施している(資料教院 17, p13)。

観点 教育内容・方法

(観点に係る状況)

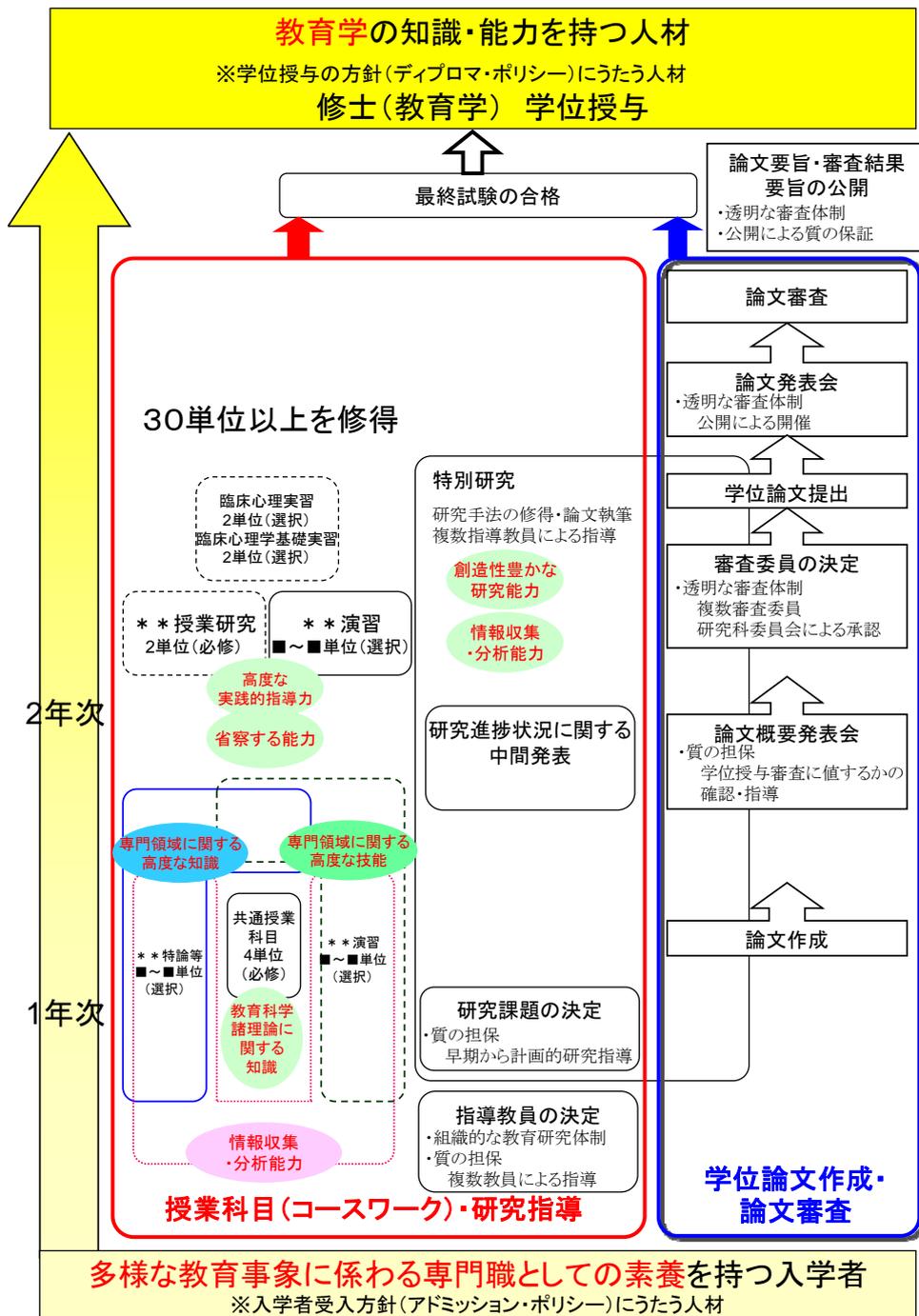
1 体系的な教育課程の編成

(1) 学位授与の方針に基づく教育課程の編成

学位授与の方針は平成 22 年度に大学院全体、研究科、各専攻で、教育課程編成・実施の方針は大学院全体平成 26 年度に定め、ホームページで明確にしている (前掲資料教院 3, 4, p2~3)。

各専攻は、教育課程編成・実施の方針に基づき、修了時まで修得すべき知識・能力等を平成 23 年度より履修プロセス概念図において明示し、入学時から授業科目、研究指導、学位論文作成・審査、学位授与に至るまでの教育体系を明示している (資料教院 28)。

資料教院28 履修プロセス概念図



(出典：信州大学大学院教育学研究科大学院学生便覧)

また、授業で得られるディプロマ・ポリシーに関する項目と教育内容と授業科目の対応をカリキュラムマップやシラバスにおいて明確にした（資料教院 29, 30）。

資料教院 29 カリキュラムマップ 授業科目一覧表（一部抜粋）

専攻名： 教科教育

専修名： 家政教育

区分	内容	分野	授業科目	単位数	備考
A	教育科学諸理論に関する知識	研究科共通	現代教育学	2	
		研究科共通	現代教育心理学	2	
B	省察する能力	専修共通	家政教育実践論	2	松岡他
		家庭科教育	家庭科授業研究	2	松岡, 福
		住居学	住居学演習	2	山岸
		保育学	保育学演習	2	岡野
C 1	専門領域に関する高度な知識	家庭科教育	家庭科教育特論 I	2	松岡
		家庭科教育	家庭科教育特論 II	2	福田
		家庭科教育	家庭科教育演習 II	2	福田
		食物学	食物学特論 I	2	高崎
		食物学	食物学特論 II	2	本年度休
		被服学	被服学特論	2	三野
		住居学	住居学特論	2	山岸
		保育学	保育学特論	2	岡野
		家政学	家政学特論	2	本年度休
		家政学	家政経営学特論	2	大原
		家政学	家政経営学演習	2	大原
		特別研究	家政教育特別研究(食物学)	4	高崎
特別研究	家政教育特別研究(住居学)	2	山岸		
C 2	専門領域に関する高度な技能	専修共通	家政教育実践論	2	松岡他
		被服学	被服学演習	2	三野
		住居学	住居学演習	2	山岸
		保育学	保育学演習	2	岡野
		特別研究	家政教育特別研究(食物学)	4	高崎
D	創造性豊かな研究能力	特別研究	家政教育特別研究(家庭科教	4	松岡
		特別研究	家政教育特別研究(食物学)	4	高崎
		特別研究	家政教育特別研究(被服学)	4	三野
		特別研究	家政教育特別研究(住居学)	4	山岸
		特別研究	家政教育特別研究(保育学)	4	岡野

(出典：教育学研究科作成資料)

資料教院 30 シラバス例

開講年度	2015年度	登録コード	E8100	
授業名	学校カウンセリング総論			
	Advanced Theories of School Counseling			
担当教員	高橋 知音	副担当		
講義期間	後期	曜日・時限	木 2	講義室 教育N320 単位数 2
対象学生		授業形態	講義	備考

(1) 授業のねらい	<p>【授業で得られる『学位授与の方針』の項目】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・専門学問分野における知識・技能を備え、それらを応用できる。</li> </ul> <p>【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校臨床における重要テーマである発達障害について理解を深め、そのアセスメントと支援の基礎的スキルを修得する。</li> </ul> <p>【授業のねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発達障害について理解を深めると共に、利用可能な心理検査、支援技法等について学ぶ。</li> </ul>
(2) 授業の概要	<p>発達障害についての講義を聞き、発達障害について理解を深めるためのディスカッションを行う。</p> <p>発達障害の支援に活用可能な子どもを対象とした心理検査について調べ、発表する。</p> <p>発達障害の支援支援事例についての論文を読んでまとめ、発表し、支援のあり方について議論する。</p>
(3) 授業計画	<p>第1回：オリエンテーション</p> <p>第2週 読み書き障害</p> <p>第3週 算数障害、発達性協調運動障害</p> <p>第4週 ADHD</p> <p>第5週 ASD</p> <p>第6週 K-ABC2 認知尺度</p> <p>第7週 K-ABC2 習得尺度</p> <p>第8週 VinlandII 適応行動尺度</p> <p>第9週 読み書きのアセスメント</p> <p>第10週 M-CHAT PARS</p> <p>第11週 新版K式発達検査</p> <p>第12週 学習障害の支援事例</p> <p>第13週 ADHDの支援事例</p> <p>第14週 ASDの支援事例</p> <p>第15週 まとめ</p>
(4) 成績評価の方法	<p>発達障害の理解を深めるための発表 30%</p> <p>発達障害のアセスメントの技法に関する発表 30%</p> <p>発達障害の事例に関する発表 30%</p> <p>ディスカッションへの参加 10%</p> <p>・得点率による評価基準は次のとおりとする。</p> <p>90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可</p>
(5) 履修上の注意	
(6) 質問、相談への対応および連絡先	<p>高橋知音研究室 (N317) オフィスアワー 木曜日 13:00-14:30</p> <p>Phone:026-238-4223 e-mail:tomonet@shinshu-u.ac.jp</p>
(7) 成績評価の基準	<p>発達障害の概念、検査法、支援法について理解した上で他の受講生の理解を促進するような説明ができれば「卓越している」、一部に不十分な点があるだけなら「かなり上にある」、いくつかの部分に不十分な点があれば「やや上にある」、いずれも不十分な点を残しつつもすべての課題をこなすことができれば「水準にある」。</p>
(8) 事前事後学習の内容について	<p>受講生は、発達障害の概念、検査法、支援法について各自で参考資料を調べ、授業内で他の受講生が実施法（解釈法）を理解できるように資料を作成する。</p>
【教科書】	第1回目の授業において指示する
【参考書】	
【添付ファイル】	なし

(出典：教育学研究科シラバス)

シラバスは、信州大学シラバスガイドライン（資料教院 31）に基づき、シラバス執筆の手引（資料教院 32）を教育学部・教育学研究科で独自に作成し、作成されたシラバスを教員間で相互にチェック（資料教院 33）したものをホームページに公開している。

資料教院31 シラバスガイドライン

信州大学シラバスガイドラインの見直しについて

（平成26年11月10日第17回教務委員会決定平成26年11月19日第138回教育研究評議会報告）

【※下線部（赤字）が現シラバスガイドラインからの変更点】

このガイドラインは、信州大学で開講されるすべての授業のシラバスが備えるべき必須条件である。ただし、下記に記載する事柄をシラバスにおいて具体的にどのように表記するかについては、各学部学科の専門教育課程及び共通教育課程（以下、各学部）によって異なってくるため、より具体的な「シラバス作成の手引き」のようなものは、必要に応じて各学部において作成するものとする。

大学並びに各学部・学科等の定める『学位授与の方針』は、それぞれの教育課程の卒業生が卒業時に確実に身に付けていることが求められる能力・知識のリストであり、個々の授業は、学生が、大学並びに各学部・学科の『学位授与の方針』の能力・知識を身に付けるために配置されている。したがって、個々の授業が『学位授与の方針』のどの部分をどのような形で担っているのかをシラバスで明らかにするものとする。

『学位授与の方針』で定める能力・知識は、授業等を通して、学生が自分の努力によって手に入れるべきものである。シラバスでは、課題や小試験の内容と回数等、当該授業が担う『学位授与の方針』に至るまでに学生がしなければならないことを、学生が明確に理解できるように記述するものとする。特に、事前・事後学習のしかたについては、「受講生には、1単位当たり「45時間から授業時間を引いた時間量（下記の例参照）の自主学習時間が課せられている」といふ単位制度の実質化の考え方に立ち、授業目標達成に向けて学生が何をしなければならないかを明確にする。」の上で、それらが成績評価においてどのように扱われるのか、配点等を明らかにするものとする。

以上の考え方に立ち、以下の6項目を信州大学の授業のシラバスの必須記述項目とする。シラバス作成に先立つ授業設計に当たっては、当該授業のカリキュラムの中での位置づけ・他の授業との関連を意識するものとする。

- ① 授業の基本的な情報 授業名、担当者氏名、教室、開講日時（何曜日何時限目）単位数、教科書、参考書。その他、各学部の必要に応じて記載する。
- ② 授業が担う大学並びに学部・学科等の『学位授与の方針』の項目と、授業の達成目標 授業の達成目標は、この授業が担う『学位授与の方針』の項目をこの授業の言葉で言い換えたものとし、（知識面、スキル面、態度面の組み合わせで、またはいずれかの面で）「○○ができるようになる」という形を標準とする。
- ③ 成績評価の方法 受講者が②の達成目標に到達するために通っていく過程（課題や小試験等）と、到達したことを示すエビデンス（最終レポートや期末試験等）のそれぞれの内容と配点を記述する。

④ 成績評価の基準

この項では、「何ができていれば、授業の達成目標の水準から見て『卓越している』／『かなり上にある』／『やや上にある』／『その水準にある』」と言えるのかを記述する。

筆記試験の場合の例：

授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」。

レポートの場合の例：

（i）問題の設定が適切であり、（ii）その問題の背景を説明できており、（iii）その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、（iv）それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており、（v）その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。（i）から（v）の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「水準にある」。

⑤ 事前・事後学習に関する情報

「受講生には、1単位当たり『45時間から授業時間を引いた時間量』の自主学習時間が課せられている」といふ『単位制度の実質化』の考え方に立ち、15回の授業に対して受講生がしなければならない予習・復習も授業の一部であるものとして、その授業での事前・事後の自主学習に関する計画を記述する。」

⑥ 授業計画

15回の授業のおよその内容と順番、課される課題や小試験等のスケジュールを記述する。課題については、提出締切も示す。評価のための最終試験を行う場合は、15回の授業とは別に行う。

⑦ 履修上の注意

当該の授業での教科書や参考書の利用方法、注意事項など

⑧ オフィスアワー及び授業担当者の連絡先

（出典：シラバスガイドライン）

【記載例 4】

「教員の免許状取得のための 選択科目」欄の記載説明 No. 2

【大学院】

シラバス様式		学校教育専攻の授業科目は、記入は、不要ですが、次の授業科目については、大学院学生便覧 p.17~18 の「専修免許」欄の「免許種」を確認してから記載をしてください。 「道徳教育特論」、「総合学習指導法特論」、分野「幼児教育学」の科目						【大学院】 学校教育専攻
登録コード	記入不要							
授業科目	教育哲学特論					担当教員	( )	
英文授業名	記入不要					副担当	-	
単位数	2	講義期間	記入不要	曜日・時限	記入不要	対象学年	1・2年生	
講義室	記入不要		授業形態	講義	備考	記入不要		
教員の免許状取得のための 選択科目								
科目	教科又は教職に関する科目（幼専免、小専免、中専免（国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、家庭、英語）高専免（国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、書道、保健体育、家庭、情報、英語）対象免許）							
各科目に含めることが必要な事項	教職に関する科目							

【大学院】 学校教育専攻（特別支援）

シラバス様式		学校教育専攻の分野「障害児教育学」の授業科目については、記載は、不要です。						
登録コード	記入不要							
授業科目	障害児教育学特論					担当教員	( )	
英文授業名	記入不要					副担当	-	
単位数	2	講義期間	記入不要	曜日・時限	記入不要	対象学年	1・2年生	
講義室	記入不要		授業形態	講義	備考	記入不要		
教員の免許状取得のための 選択科目								
科目	教科又は教職に関する科目（特支専免）対象免許							
各科目に含めることが必要な事項	教職に関する科目							

【大学院】 教科教育専攻

シラバス様式		国語科教育特論 I						
登録コード	記入不要							
授業科目	国語科教育特論 I					担当教員	( )	
英文授業名	記入不要					副担当	-	
単位数	2	講義期間	記入不要	曜日・時限	記入不要	対象学年	1年生	
講義室	記入不要		授業形態	講義	備考	記入不要		
教員の免許状取得のための 選択科目								
科目	教科又は教職に関する科目 （幼専免、小専免、中専免（国語）高専免（国語）対象免許）							
各科目に含めることが必要な事項	（教職）に関する科目							

大学院学生便覧 p20~32 の「専修免許」欄の「区分」を確認してから記載をしてください。

免許種の「教科」を記入

大学院学生便覧 p20~32 の「専修免許」欄の「免許種」を確認してから記載をしてください。

（出典：教育学部教務部会作成 平成 26 年 12 月）

## 資料教院 33 シラバス点検の方法

【シラバス点検チェックシート】(該当すればチェックし、空欄に具体的内容を適宜記述してください。)

- 記述されていない項目があります。
  - ・ 「教員免許状取得のための 選択科目」について
    - 免許科目で「科目」,「各科目に含めることが必要な事項」欄に必要な事項の記載がありません。
  - ・ 各教科、道徳及び特別活動の指導法に関する各科目について
    - シラバスの中に基礎理論的内容が明記されていません。すなわち、シラバスの内容が模擬授業など実践のみです。(理論と実践はそれぞれ半分ずつになることが望ましい。)
    - シラバスの中に実際に指導する場面を想定して、学習指導案の作成や教材研究、模擬授業等を組み入れ、実践的な指導力を身に付けさせるような事項が含まれていません。
  - テキスト又は参考書として学習指導要領(解説)を使用していません。(シラバスの中に、プリント配布のみだけではなく、使用していることが分かるように明示してください。)
- ・ 教科に関する科目の「一般的包括的科目」について(○印で「～基礎」が付いている科目)
  - 内容が、特定の領域に偏っており、その学問領域をおおまかに網羅してしない。
  - 内容が、学習指導要領全般をカバーしていません。
  - 「授業で得られる DP 要素」の記載がありません。【学部のみ】(1つまたは2つお選びください。)
  - 「授業の達成目標」で「授業で得られる DP 要素」の記載がありません。【学部のみ】(授業内容に即して言い換えてください。「何を教えるのか」ではなく、「学生が何をできるようになるのか」という観点で書いてください。)
  - 「授業のねらい」に「学生が何を身につけなければならないか」という学習目標が記入されていません。(「教員が何を教えるか」のみが記載されています。)
  - 「授業の概要」について「授業のねらい」の到達目標に達するために、学生がそれらをどの様に、何を通して達成するかが記載されていません。
- 「授業計画」について
  - 第 15 回が試験のみの表記になっています。15 回のうちに試験を実施する場合は、授業のまとめや試験の解説などを含めた内容にしてください。最終試験を単独で行う場合は、16 週目に実施としてください。
  - 回数ごとに扱うテーマのキーワードの記載がありません。
  - 前期 4 年生受講科目に、教育実習Ⅱにおける欠席分の補講方法の記載がありません。
- 「授業計画」の内容が大雑把すぎ、学生が明確に授業のイメージを持ってません。
- 「成績評価の方法」に評価の手段と重み付けが記載されていません。(具体的な成績評価ポリシーが明確になっていません。)
- 「成績評価の方法」が「授業の達成目標」の達成状況を評価するものになっていません。
- 出席さえしていれば単位が認定されるという表現になっています。
- 「成績評価の基準」の記載がありません。
- 「事前事後学習の内容」の記載がありません。
- 授業時間以外の学習(練習)の必要性に関する記載がありません。
- 「質問、相談への対応および連絡先」の記載がありません。
- 「教科書」が記載されていません。授業の性質により教科書を使用しない場合は、その旨記述してください。
- 「参考書」が記載されていません。授業の性質により教科書を使用しない場合は、その旨記述してください。
- その他

点 検 日 付：平成            年            月            日    点 検 者： \_\_\_\_\_

修 正 日 付：平成            年            月            日    作 成 者： \_\_\_\_\_ →点検者へ

(出典：教育学部教務部会作成 平成 26 年 12 月)

2 教育方法・学習支援の工夫

(1) 履修計画, 履修指導

本研究科修了要件等は、学則及び研究科規程により定めている(資料教院34)。学生に、学生便覧(資料教院35)及び履修プロセス概念図(前掲資料教院28, p23)で履修方法を明示するとともに、履修にあたっては指導教員の指導を受けるよう促している(資料教院36)。

資料教院 34 信州大学大学院学則, 信州大学大学院教育学研究科規程

信州大学大学院学則

(修士課程又は博士前期課程の修了要件)

第 40 条 修士課程又は博士前期課程の修了の要件は、当該課程に 2 年以上在学し、30 単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該修士課程又は博士前期課程の目的に応じ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、当該研究科が優れた業績を上げたと認める者については、当該課程に 1 年以上在学すれば足りるものとする。

信州大学大学院教育学研究科規程

(履修方法)

第 8 条 学生は、必修科目及び選択科目合わせて 30 単位以上修得するものとする。

2 前項に規定するもののほか、履修方法に関し必要な事項は、別に定める。

(単位の認定)

第 9 条 履修した授業科目の単位の認定は、試験又は研究報告等により行い、合格した者には、所定の単位を与える。

(指導教員等)

第 10 条 研究科長は、大学院学則第 8 条第 4 項の規定に基づき、修士論文の作成等に対する指導(以下「研究指導」という。)を担当する教授、准教授、講師又は助教(以下「指導教員」という。)を各学生ごとに定めるものとする。

2 学生は、選択科目の履修に際しては、あらかじめ、指導教員の指導を受けなければならない。

(出典：信州大学大学院学則, 信州大学大学院教育学研究科規程)

資料教院 35 信州大学大学院教育学研究科履修規程

(趣旨)

第1条 この規程は、信州大学大学院学則、信州大学学規程及び信州大学大学院教育学研究科規程に定めるほか、信州大学大学院教育学研究科(以下「研究科」という。)の履修に関し必要な事項を定める。

(指導教員)

第2条 学生は、授業科目の履修及び研究において指導教員の指導を受けなければならない。指導教員は入学当初に定める。

(履修方法)

第3条 研究科の授業科目及び単位数の履修基準は、次に定めるとおりとする。

授業科目		専攻・専修		学校教育専攻		教科教育専攻	
		専修に 関する授 業科目	専修共通科目 特別研究 指定の授業科目	必 修	4単位 2単位 4単位	必 修	4単位 2単位 4単位 4単位
研究科共通授業科目							
指定以外の指導教員の指導に基づく授業科目				選 択	10単位	選 択	6単位
自由選択科目					10単位		10単位
計					30単位		

- 2 「研究科共通授業科目」4単位は、第1年次に履修しなければならない。
- 3 「専修に関する授業科目」の履修は、次のとおりとする。
  - ア 各専修共通科目2単位は第1年次に、「特別研究」4単位は第2年次に履修しなければならない。
  - イ 教科教育専攻の指定の授業科目「教育特論 I」2単位は第1年次に、「授業研究」2単位は第2年次に履修しなければならない。
- 4 「指定以外の指導教員に基づく授業科目」は、教育学研究科の授業科目の中から、学校教育専攻の学生は10単位、教科教育専攻の学生は6単位を、選択履修しなければならない。
- 5 「自由選択科目」は、教育学研究科の授業科目の中から自由に選択し、10単位を履修しなければならない。

(履修方法の特例)

第4条 現職教員学生は、大学院設置基準第14条及び大学院設置審査基準要項の五教育方法の(二)の趣旨に基づき、特別の必要があると認められる場合に、履修方法の特例として、第2年次において、夜間その他特定の時間又は時期に授業及び研究指導を受けることができる。

2 特例の適用を受ける学生の第1年次の履修基準は、次のとおりとする。

研究科共通授業科目	4単位(2科目)
専修に関する授業科目・指定以外の指導教員の指導に基づく授業科目	10単位(専修共通科目を含む5科目)以上
自由選択科目	8単位(4科目)以上
計	22単位以上

3 特例の適用を受けようとする学生は、入学当初に、指導教員の承認を得て研究科長に願い出、その許可を受けなければならない。

(履修計画)

第5条 研究題目は、指導教員の指導を受けて決定し、入学後3週間以内に、所定の用紙により届け出なければならない。

2 履修しようとする授業科目及びその単位数は、指導教員の承認を得て、毎学年の始めに、所定の用紙により届け出なければならない。

(学部開設授業科目の受講)

第6条 学部開設の授業科目は、指導教員の許可と授業担当教員の承認を得て聴講することができる。ただし、その単位は研究科の単位としない。

(出典：「平成27年度信州大学大学院教育学研究科「大学院学生便覧」)

資料教院 36 指導教員一覧

研究科担当教員名簿

平成27年10月1日現在

専攻	専修等	教授	准教授	講師	助教
学校教育	教育学	東原 義訓	谷塚 光典		安達 仁美
		越智 康詞	高柳 充利		森下 孟
		伏木 久始	青木 一		
	教育心理学	田中 敏	島田 英昭		
		障害児教育学	小島 哲也		宮地 弘一郎
	幼児教育学	永松 裕希			
臨床心理学専	臨床心理学	高橋 知音	高橋 史		茅野 理恵
		上村恵津子	鈴木俊太郎		
教	国語教育	藤森 裕治	八木雄一郎		友田 義行
		西 一夫	岩男 考哲		
		徳井 厚子	小林 比出代		
	社会科教育	牛山 佳幸	駒村 哲		篠崎 正典
		石澤 孝	関 良徳		中谷 惣
		阿久津昌三	藤崎 聖也		
		松本 康			
	数学教育	廣内 大助			
		松岡 樂	茅野 公穂		松澤 泰道
		宮崎 樹夫	小松孝太郎		
			昆 万佑子		
	理科教育	村松 久和	坂口 雅彦		
別府 桂		井田 秀行			
榊原 保志		伊藤 冬樹			
三崎 隆		竹下 欣宏			
	天谷 健一	神原 浩			
音楽教育	池田 京子	小野 貴史		桐原 礼	
	中島 卓郎	田島 達也			
	齊藤 忠彦	吉田 治人			
美術教育	岡田 匡史	小野 文子		蛭田 直	
	間島 秀徳	猪瀬 昌延		大島 賢一	
保健体育	和田 哲也	三條 俊彦		藤田 育郎	
	渡邊 伸	渡辺 敏明			
	平野 吉直	友川 幸			
	岩田 靖				
	寺沢 宏次				
	結城 匡啓				
技術教育	西 正明	川久保 英樹			
	佐藤 運海				
	村松 浩幸				
家政教育	松岡 英子	福田 典子			
	高崎 禎子				
	山岸 明浩				
	三野たまき				
英語教育	高橋 涉	小池 浩子		田中真由美	
	酒井 英樹	金子 史彦			
		田中 江扶			
	合計	43	34	1	12

(出典：教育学研究科担当教員名簿)

(2) 学位論文の審査基準の明示

大学院教育学研究科学校教育専攻・教科教育専攻の学位論文の審査基準を作成し、研究科委員会で平成24年12月に承認した。審査基準を大学院学生便覧に記載し、学生等に明示することで、審査の透明性及び水準を確保している(資料教院37)。

<p><b>資料教院37 学位論文の審査基準</b></p> <p>大学院教育学研究科学校教育専攻及び教科教育専攻は、学位論文審査委員会を構成して、提出された学位論文を次の基準に基づき審査し、公開の学位論文発表会を経て、総合的に評価して可否を判定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.【独創性と教育学的意義】論文の内容は、独創性を有し、かつ教育学的意義があるものである。</li> <li>2.【論証方法】論文の問題提起から結論に至る論証方法は適切なものである。</li> <li>3.【論旨の明晰さと説得力】論文の論旨は明瞭であり、かつ読者に対して説得力を有する。</li> <li>4.【表現と体裁】論文の表現が的確であり、また論文として読みやすい体裁で書かれている。</li> </ol> <p>(出典：「大学院教育学研究科学校教育専攻・教科教育専攻の学位論文の審査基準」)</p>
--

(3) 授業科目及び履修基準

今日の時代が要求している優れた資質を持った教育の専門家を養成するための研究科共通授業科目として、「現代教育学」（2単位）及び「現代教育心理学」（2単位）を開設する（資料教院38）とともに、教育科学及び他の個別諸科学の教育実践に関わる側面を、理論的・実践的に研究し、特に実践的側面から理論と実践との総合の仕方を究明できるように、教科教育専攻の各専修では、「～教育総論」（講義2単位）又は「～教育実践論」（講義2単位）及び「～科授業研究」（演習2単位）を必修授業科目として開設している。開講している講義内容は、長野県の教育事情や学生の要望に合わせ、担当者により毎年、見直しが行われている。

資料教院38 授業科目及び履修基準				
専攻		必修・選択	学校教育専攻	教科教育専攻
分野				
研究科共通授業科目		必修	現代教育学(2単位), 現代教育心理学(2単位)	
専修に関する授業科目	専修共通科目	必修	2単位	「～教育総論」(2単位) 又は「～教育実践論」(2単位)
	特別研究		4単位	4単位
	指定の授業科目			「～科教育特論」(2単位) 及び「～科授業研究」(2単位)
指定以外の指導教員の指導に基づく授業科目		選択	10単位	6単位
自由選択科目			10単位	10単位
計			30単位	

(出典：研究科案内を元に教育学研究科学務係作成)

本研究科の開設科目は、本研究科の目的に照らして、学校教育及びそれに関連する実践的研究の指導に力点が置かれており、教科の授業研究や学校教育の方法に関する開発的研究の促進に重点がおかれた指導が行われている。

<特徴的な科目>

**現代教育学**

大学院の入門講座としての位置づけにある。教育学の基礎理論のうち、教育を取り巻く社会的諸状況や教育実践の方法論などに関する基礎的な知識を身に付け、現代の教育問題を構造的に整理し、教育学的な見方・考え方を理解することなどをねらいとし、授業を展開している（資料教院39）。

資料教院 39 「現代教育学」のシラバス

開講年度	2015年度	登録コード	E8001
授業名	現代教育学		
	Contemporary Pedagogy		
担当教員	東原 義訓	副担当	伏木 久始・谷塚 光典・青木 一
講義期間	前期	曜日・時限	木1 講義室 教育N301講義室 単位数 2
対象学生	1年生	授業形態	講義 備考

(1) 授業のねらい	<p>1) 教育学の基礎理論のうち、教育を取り巻く社会的諸状況や教育実践の方法論などに関する基礎的な知識を身に付ける。</p> <p>2) 現代の教育問題を構造的に整理し、教育学的な見方・考え方を理解する。</p> <p>3) 「授業研究アリーナ」の構想を紹介し、複数の専門分野の教員・学生が協同的に学ぶことの重要性をポスターセッションやグループ・ディスカッションを通して具体的に理解する。</p> <p>4) 修士論文に関わる研究テーマを設定し、専門分野の異なる学生に、研究目的・方法や研究計画及びその研究の意義や“おもしろさ”を伝える。</p>
(2) 授業の概要	<p>・教育学研究科で修士論文を執筆する際の要件、基本的な論文フォーマットや学術上のマナーなどについても解説する。すなわち、大学院の入門講座としての役割もなう授業に          ・教育をめぐる諸問題については、東原が教育工学の立場から、伏木が教育方法学の立場から、谷塚が教師教育学の立場から、新任が学校経営学の立場から、それぞれ講義をす          ・受講生同士がグループを組み、ディスカッションやワークショップによる協働の学び          ・複数の専門領域の研究内容・方法を参考に研究スタイルを理解する。</p>
(3) 授業計画	<p>第1回：オリエンテーション          第2回：e-Learningの活用：各自ノートパソコンを持参のこと          第3回：教育の情報化          第4回：学び続ける教員（専門職）像          第5回：専門職として成長し続けるために          第6回：研究構想とポスターの作成          第7回：ポスターセッションに向けたミニプレゼン          第8回：教育方法学からみた「学び」          第9回：海外の教育課程と学習スタイル          第10回：カリキュラムと学習スタイル          第11回：学力観と学習指導          第12回：21世紀にふさわしい学びの環境とそれに基づく学びの姿          第13回：ポスターセッション：前半          第14回：ポスターセッション：後半          第15回：講義のまとめ          定期試験：最終レポートの提出（提出締切：最終授業日の一週間後）          ※第2回～第14回までの内容は、順序が前後することがあります。          ※シラバスに、学生の実態や興味関心に応じて「(3) 授業計画」を多少（あるいは大幅に）変更することがあります。</p>
(4) 成績評価の方法	<p>・各回の授業の課題（eALPSの記入及び意見交換、小テスト、ミニレポート等）（60%）、最終レポート（修士論文に関わる研究計画）（40%）を総合して判定する。          ※但し、主要な課題・レポート等の提出がない場合は、単位の認定ができない場合がある。          ・得点率による評価基準は次のとおりとする。          90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。</p>
(5) 履修上の注意	<p>・学内のe-Learningシステム（e-ALPS）を活用して授業を展開していくため、自宅での学習も可能である。そのため、毎回の授業に、ノートPC（無線LAN接続可能なもの）を持参することが望ましい。（第2回では全員持参のこと。）          ・本学の大学院生全員が集まる必修授業であり、グループ・ワークを取り入れることも多いので、遅刻・欠席のないようにすること。</p>
(6) 質問、相談への対応および連絡先	<p>・附属教育実践総合センター2F 東原研究室 E-mail: higashi@shinshu-u.ac.jp          オフィスアワー：（前期）月曜 9:00～10:30（後期）月曜 10:40～12:10          ・北校舎3階 N310 伏木研究室 E-mail: hfusegi@shinshu-u.ac.jp          オフィスアワー：（前期）メール予約で随時対応（後期）メール予約で随時対応          ・附属教育実践総合センター2F 谷塚研究室 E-mail: yatsuka@shinshu-u.ac.jp          オフィスアワー：（前期）月曜 10:40～13:00（後期）水曜 10:40～13:00</p>
(7) 成績評価の基準	<p>「卓越している」：ポスターセッション及び最終レポートでは、講義で取りあげた教育の基礎理論・知識を多面的・総合的に捉え、研究分野の異なる学生にも研究の意義を明確に伝えている。構造的な整理を行い、教育学的な見方・考え方を理解し、研究目的・方法や研究計画及びその研究の意義や“おもしろさ”を伝える。現代の教育問題を構造的に整理し、教育学的な見方・考え方を理解する。「授業研究アリーナ」の構想を紹介し、複数の専門分野の教員・学生が協同的に学ぶことの重要性をポスターセッションやグループ・ディスカッションを通して具体的に理解する。修士論文に関わる研究テーマを設定し、専門分野の異なる学生に、研究目的・方法や研究計画及びその研究の意義や“おもしろさ”を伝える。</p> <p>「優れている」：ポスターセッション及び最終レポートでは、講義で取りあげた教育の基礎理論・知識を多面的・総合的に捉え、研究分野の異なる学生にも研究の意義を明確に伝えている。構造的な整理を行い、教育学的な見方・考え方を理解し、研究目的・方法や研究計画及びその研究の意義や“おもしろさ”を伝える。現代の教育問題を構造的に整理し、教育学的な見方・考え方を理解する。「授業研究アリーナ」の構想を紹介し、複数の専門分野の教員・学生が協同的に学ぶことの重要性をポスターセッションやグループ・ディスカッションを通して具体的に理解する。修士論文に関わる研究テーマを設定し、専門分野の異なる学生に、研究目的・方法や研究計画及びその研究の意義や“おもしろさ”を伝える。</p> <p>「可である」：ポスターセッション及び最終レポートでは、講義で取りあげた教育の基礎理論・知識を多面的・総合的に捉え、研究分野の異なる学生にも研究の意義を明確に伝えている。構造的な整理を行い、教育学的な見方・考え方を理解し、研究目的・方法や研究計画及びその研究の意義や“おもしろさ”を伝える。現代の教育問題を構造的に整理し、教育学的な見方・考え方を理解する。「授業研究アリーナ」の構想を紹介し、複数の専門分野の教員・学生が協同的に学ぶことの重要性をポスターセッションやグループ・ディスカッションを通して具体的に理解する。修士論文に関わる研究テーマを設定し、専門分野の異なる学生に、研究目的・方法や研究計画及びその研究の意義や“おもしろさ”を伝える。</p> <p>「不足している」：ポスターセッション及び最終レポートでは、講義で取りあげた教育の基礎理論・知識を多面的・総合的に捉え、研究分野の異なる学生にも研究の意義を明確に伝えている。構造的な整理を行い、教育学的な見方・考え方を理解し、研究目的・方法や研究計画及びその研究の意義や“おもしろさ”を伝える。現代の教育問題を構造的に整理し、教育学的な見方・考え方を理解する。「授業研究アリーナ」の構想を紹介し、複数の専門分野の教員・学生が協同的に学ぶことの重要性をポスターセッションやグループ・ディスカッションを通して具体的に理解する。修士論文に関わる研究テーマを設定し、専門分野の異なる学生に、研究目的・方法や研究計画及びその研究の意義や“おもしろさ”を伝える。</p>

	性・有用性のいずれかを踏まえた研究目的に対して適切な研究方法を設定している。また、グループ討論ではディスカッションに参加している。
(8) 事前事後学習の内容について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学内の e-Learning システム (e-ALPS) を活用して授業を展開していくため、自宅での予習・復習も可能である。</li> <li>・事前学習としては、eALPS にアップロードしてある各回の授業での配布物を事前にダウンロードしたり、eALPS に掲載してある関連 URL から Web サイトを閲覧したりすることによって、問題意識を明確にしたうえで授業に参画する。</li> <li>・事後学習としては、各回の授業で学んだこと・疑問に思ったこと等を eALPS に記入し、学生間で共有できるようにする。</li> </ul>
【教科書】	・特に指定しない
【参考書】	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ S. M. ロス &amp; G. R. モリソン (向後千春他訳) 『教育工学を始めようー研究テーマの選び方から論文の書き方までー』 2002 年、北大路書房、1700 円 (税抜)</li> <li>・その他、講義中に適宜紹介する。</li> </ul>
【添付ファイル】	なし

(出典：教育学研究科シラバス)

また、平成 19 年度から 21 年度に実施した大学院 GP「授業研究アリーナ\*で共創する『臨床の知』」の成果に基づいて、「授業研究アリーナ」の構想を紹介し、複数の専門分野の教員・学生が協同的に学ぶことの重要性が理解できるよう研究構想のポスターセッションやグループ・ディスカッションを取り入れている。

\*授業研究アリーナとは、教科専門教員と教科教育学教員、教育科学関係教員など多様な専門性を有する者がチームを組み、授業担当者等を指導する体制をいう。

さらに、講義の中で、修士論文を執筆する際の要件、学術上のマナーについて解説している。また、講義における課題提出や意見交換などを学内の e-Learning システムを用いて行っており、ICT を活用した教育にも力を入れている。

### 現代教育心理学

上記の現代教育学と同様、大学院の入門講座としての位置づけにある。教育心理学に関連する基礎的な知識・方法を身につけ、実践的に応用できるようになることをねらいとしている。今日的研究成果に基づく教授・学習理論としての応用認知心理学と、教育評価方法としての心理統計手法を扱っている (資料教院40)。

資料教院 40 「現代教育心理学」のシラバス

開講年度	2015年度	登録コード	E8002	
授業名	現代教育心理学 Psychology of Contemporary Education			
担当教員	田中 敏	副担当	島田 英昭	
講義期間	後期	曜日・時限	木 1	講義室 教育 N 3 0 1 講義室
対象学生	1年生	授業形態	講義	備考
				単位数 2

(1) 授業のねらい	現代教育における心理学の役割・寄与について知ること、情報収集・分析能力を高め、自分自身の研究・教育実践への心理学的な視点及び方法の活用ができるようにする。
(2) 授業の概要	前半は島田が担当し、「わかりやすい説明」をテーマとして、心理学のアカデミックな知見を紹介し、それを教育実践に生かす方法を考える。後半は田中が担当し、実践場におけるデータの収集・分析法、それによる統計的判定と評価の方法を解説する。
(3) 授業計画	第1回：ガイダンス（島田・田中）、認知心理学の基礎（島田；elearning） 第2回：情報の交通整理をする—作業記憶容量（島田） 第3回：相手の知っていることに配慮する—既有知識（島田） 第4回：効率よく情報を入力する—知覚と注意（島田） 第5回：情報を定着させる—長期記憶（島田） 第6回：読む気／見る気／聞く気にさせる—動機づけ（島田） 第7回：仲間と学ぶ—協調学習（島田） 第8回：中間試験（島田担当分） 第9回：PDCAサイクルによる教育活動（田中） 第10回：教育評価と統計的方法（田中） 第11回：1×2表の分析（田中） 第12回：母比率不等の分析（田中） 第13回：対応データの処理（田中） 第14回：2×2表の分析（田中） 第15回：アンケートの取り方と分析方略（田中） 定期試験（田中担当分）
(4) 成績評価の方法	●以下を総合して判定する。 島田担当分（50%）——毎時間の課題（15%）、中間試験（25%）、レポート（10%） 田中担当分（50%）——毎時間の課題（15%）、最終試験（25%）、レポート（10%） ※評価割合は若干の調整を行うことがある。 ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。
(5) 履修上の注意	特になし。
(6) 質問、相談への対応および連絡先	田中敏：tanasato@shinshu-u.ac.jp 島田英昭：hshimada@shinshu-u.ac.jp
(7) 成績評価の基準	【卓越している】教育心理学分野における基礎的な知識・技能をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考え、他者と協働し、教育活動に応用する力を総合して、極めて高い水準にある。 【かなり上にある】教育心理学分野における基礎的な知識・技能をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考え、他者と協働し、教育活動に応用する力を総合して、非常に高い水準にある。 【やや上にある】教育心理学分野における基礎的な知識・技能をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考え、他者と協働し、教育活動に応用する力を総合して、高い水準にある。 【その水準にある】教育心理学分野における基礎的な知識・技能をもとに、適切な情報処理を行い、論理的に思考し、数量的に思考し、自律的に考え、他者と協働し、教育活動に応用する力を総合して、一定水準にある。
(8) 事前事後学習の内容について	●授業内容について、振り返りを行う。 ●授業内容について、書籍やネットなどで復習し、理解を深める。 ●レポートを作成する。
【教科書】	クイック・データアナリシス（田中敏・中野博幸著）新曜社（1200円＋税）
【参考書】	内容に応じて随時紹介する。
【添付ファイル】	なし

（出典：教育学研究科シラバス）

授業研究

学校教育現場において児童・生徒を対象とした授業を構想し、実践することができる指導力を習得することをねらいとしている。そのために教材理解を行い、学校現場で授業実践または参観し、さらに授業分析を行い、授業を支える理論と実践的力量を形成できるよう工夫している（資料教院 41, 42）。

資料教院 41 「国語科授業研究」のシラバス

開講年度	2015年度	登録コード	E8209	
授業名	国語科授業研究			
	lesson study of Japanese language class			
担当教員	藤森 裕治	副担当	西 一夫・八木 雄一郎	
講義期間	通年	曜日・時限	木 4	講義室 教育M401
対象学生		授業形態	演習	備考
				単位数 2

(1) 授業のねらい	小・中学校国語科の授業研究の方法について、実践的に考究する。
(2) 授業の概要	1. 先行研究のレビュー。 2. 教材分析方法の実践的演習。 3. 実際の教育実践場面における分析研究。
(3) 授業計画	第1回：オリエンテーション 第2回：授業研究基礎論1：国語科授業研究の史的整理（明治～昭和戦前期） 第3回：授業研究基礎論2：国語科授業研究の史的整理（昭和戦後期～現在） 第4回：授業研究基礎論3：国語科授業研究の教育課程及び教科書に関する史的整理（明治～昭和戦前期） 第5回：授業研究基礎論4：国語科授業研究の教育課程及び教科書に関する史的整理（昭和戦後期～現在） 第6回：授業研究基礎論5：授業研究の方法論的整理（量的研究） 第7回：授業研究基礎論6：授業研究の方法論的整理（質的研究） 第8回：授業研究教材論1：教材概念と学習材概念 第9回：授業研究教材論2：教材の収集と分析 第10回：授業研究教材論3：話すこと・聞くことの教材観とその分析 第11回：授業研究教材論4：書くことの教材観とその分析 第12回：授業研究教材論5：文学的文章の教材観とその分析 第13回：授業研究教材論6：説明的文章の教材観とその分析 第14回：授業研究実践論1：授業研究の構想の立て方 第15回：授業研究実践論2：授業研究の役割分担 第16回：授業研究実践論3：実践場面への参加・分析と考察の方法（量的研究） 第17回：授業研究実践論4：実践場面への参加・分析実践データの処理（質的研究）。 第18回：授業研究実践論5：実践データの処理（量的研究） 第19回：授業研究実践論6：実践データの処理（質的研究）。 第20回：臨床研究1：附属学校の教育実践場面をフィールドとしての参観 第21回：臨床研究2：授業記録の作成 第22回：臨床研究3：授業記録の分析 第23回：臨床研究4：分析結果の考察 第24回：臨床研究5：附属学校の教育実践場面をフィールドとしての授業実践 第25回：臨床研究6：授業記録の作成。 第26回：臨床研究7：授業記録の分析 第27回：臨床研究8：分析結果の考察 第28回：臨床研究9：研究成果の発表とカンファレンス 第29回：臨床研究10：研究成果の省察と批評 第30回：まとめ レポート
(4) 成績評価の方法	演習への取り組み状況を以下の観点に沿って総合的に判断することによって行う。 ①授業研究基礎論の理解と批評（20%）、②授業研究教材論の理解と応用（20%）、③授業研究実践論の理解と活用（20%）、④臨床研究の企画と推進及び省察（40%） ・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可
(5) 履修上の注意	秀：授業に精勤し、内容をきわめて高度に理解するとともに、批判的思考力に基づく探究姿勢をもって課題演習に取り組み、高度な活動成果を示している。 優：授業にほぼ精勤し、内容を理解し、積極的な探究姿勢をもって課題演習に取り組み、良好な活動成果を示している。 良：授業におおむね精勤し、内容をだいたい理解し、講義内容をほぼ理解するとともに、与えられた課題演習に誠実に取り組み、円満な活動成果を示している。 可：授業に全体の3分の2以上出席し、内容の一部を理解するとともに、与えられた課題演習の一部は誠実に取り組み、部分的に努力の認められる活動成果を示している。 不可：授業出席以外は可とすべき内容を満たさない。
(6) 質問、相談への対応および連絡先	E-ALPS上に課題及び制作物の提出場所を示すので、それをもとに事前爾後学習を行う。
(7) 成績評価の基準	連絡をこまめにとること
(8) 事前事後学習の内容について	空いた時間であればいつでも相談に応じます。 Mail: y-fuji@shinshu-u.ac.jp M406 電話 4071
【教科書】	藤森裕治 2009『国語科授業研究の深層』東洋館出版社 3500円 稲垣忠彦・佐藤学 1996『授業研究入門』岩波書店 2100円 藤森裕治 2015『授業づくりの知恵 60』明治図書出版 1944円
【参考書】	授業中に指示する
【添付ファイル】	なし

(出典：教育学研究科シラバス)

資料教院 42 「授業研究」と「教育実習」とのねらいの相違点と成果

年度	院生数	院生の教育現場での授業回数	院生が授業を参観、記録、分析した回数
平成 26 年度	14	15	84
平成 27 年度	21	16	102
教育学研究科における「授業研究」と教育学部における「教育実習」の授業のねらいの違い			
国語	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業研究」: 設定された臨床的な研究課題に基づき、その解明を目指して先行研究・実践のレビュー、教育課程の精査、専門知を導入した教材分析、授業研究方法論の理解等を前提に実験的な授業を教育実践場面で実施し、その記録を詳密に取った上で、これを分析・考察し、所期の研究課題に対する知見を得るもので、臨床教育学・教育実践学と呼ぶべき学問研究体系を実地で経験する。</li> <li>「教育実習」: 教員になるための基盤的な力量形成の場であり、児童生徒への関わり方、教材研究の方法、学習指導案の作成方法、評価の在り方、学校組織における教員の諸業務、倫理等を学ぶ。</li> </ul>		
社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業研究」: 授業分析の理論の学習と授業記録の読み解き方に焦点を当てる(授業分析の理論と方法についての理解、授業の記録と授業記録の作成・分析、授業記録を歴史的に読み解き)。</li> <li>「教育実習」: 「できる」「気づく」、「授業研究」: 「説明する」「異なる視点から見る」がキーワード。</li> </ul>		
数学	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業研究」: 授業を構造的に分析することによって、教育学としての課題を特定し、その課題を解決し得る理論に基づいて新たな授業をつくり出すことが意図されている。</li> <li>「教育実習」: 教師としての志を高め実技を充実することが意図されている。</li> </ul>		
理科	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業研究」: 小単元を連続して授業を担当し、教材開発や授業評価を行う。</li> <li>「教育実習」: 授業を体験し授業の仕方を学ぶ。</li> </ul>		
音楽	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業研究」: 授業構想、教材開発、教材研究等を丁寧に扱え、複数回の模擬授業を経て本番の授業に臨める。</li> <li>「教育実習」: 学部教員が直接的に学生に指導できる。</li> </ul>		
美術	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業研究」: 題材開発能力・授業研究能力等の伸長に重きを置き、修論とも関連するテーマからの授業作りを目指し、中核となる附属学校等で行う授業は、受講者が創案した題材の実地検証及び研究の場と位置付ける。</li> <li>「教育実習」: 教科指導を軸に道徳・特別活動や児童・生徒指導、学級経営等を実習生が幅広く体験し、教育実践の基本を習得する点に重きを置く。</li> </ul>		
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業研究」: 「よい体育授業の基礎的条件」について客観的な組織観察によるデータに基づいて学習することを中心的な課題に据えている。</li> <li>「教育実習」: 学部における「指導法基礎」の授業において、それらの知見の基礎について学習しているが、その延長で授業実践を評価することは少ない。</li> </ul>		
技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業研究」: 教育研究の手法や分析方法を学んだ上で研究的視点を持って授業を参観、記録、分析する。</li> <li>「教育実習」: 指導法を学ぶことが中心になる。</li> </ul>		
家庭科	<ul style="list-style-type: none"> <li>「授業研究」: 授業者が課題意識を強く持ち、授業計画、指導内容、指導方法等の理論的側面を重視し、教育効果の測定も行う等、院生の自主的能動的な授業づくりであることが特徴。</li> <li>「教育実習」: 指導内容や指導方法の理論的な側面は不十分であり、試行的な要素が強く、どちらかというと受動的であり、教育効果の測定も行わない場合が多い。</li> </ul>		
英語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校における英語授業を記録した DVD(長野県英語中核教員養成プログラムの授業ビデオ)を活用して、授業記録を作成し、英語科教育、第二言語習得、教室談話の点から分析を行い、授業改善の議論を行う。多角的に授業を観ることができるようになる。</li> </ul>		
教員が期待する「授業研究」における院生への教育効果			
<p>【思考力向上に関する効果】・改善の必要な授業像について豊富に思考・判断できるようになる。・課題、学習者への理解が深まる。・指導技術、指導内容に対する思考力、指導効果の測定方法への教育的な興味関心の向上。・授業の観察方法などが多面的になり、授業の成果や課題に対して、より深く考察できるようになる。・教育課程や教材研究等について専門的な知見を獲得する。・授業を解釈する解釈枠組みが広がる。・理論に基づいた授業分析と再構成が可能になる。</p> <p>【実践力向上に関する効果】・学生たちが自信をもって授業実践を行なうことができる。・実践とリンクした研究的視点が、院生自身の研究を深める。・理論・実践両面のバランスの取れた研究姿勢を育む教育効果。・理論と実践の融合が実現しやすい。・実践的指導力が身につく。・実践的指導力を高める。</p>			
「授業研究」を受講した院生からの感想			
<p>【思考力向上の効果】・授業を見る目を耕す上で、またとない経験を得ることができた。・授業についての見方が広がった。・すぐれた授業を深く分析することで授業を見る枠組みが広がった。・教育実習で体験できなかった授業を参観できたことで視野が広がった。・参観記録を分析したりすることで、今までと異なった視点で授業を見たり、評価できるようになった。</p> <p>【実践力向上の効果】・教育実習では学べない授業のスタイルを学ぶことができた。・授業中に専門用語を使わずに、平易な言葉で説明することの難しさを感じた。・授業中の生徒同士の会話から、自分自身の指導力不足に気づくことができた。・授業研究を行ってみて、生徒の実態を把握して、生徒のレベルに合わせて授業をしていくことの重要性を深く感じた。・大量のデータ処理を少人数で行うため、負荷が非常に大きかったが、それだけの実りも多かった。</p>			

(出典：教員からのアンケート回答をもとに自己点検評価委員会が作成)

< 大学院共通科目 >

信州大学大学院教育学研究科 分析項目 I

信州大学大学院では、専門によらず大学院生にとって有意な科目を全大学院生に開放することにより、自研究科以外で開講されている科目を受講することで、広い視野を身につけることができることを目的に、大学院共通教育科目を開講している（資料教院 43）。

資料教院 43 平成 27 年度大学院共通教育科目一覧						
開講研究科	科目名	開講時期	担当教員名	単位数	開講キャンパス：教室	備考
経済・社会 政策科学研究科	地域の産業と 雇用Ⅱ（地域 社会と情報技 術）	前期後半 木6・7	六浦光一	2	松本キャンパス：経済学 部大学院講義室	
	地方自治と地 域社会Ⅳ（地 域の政治文 化）	後期後半 火6・7	都築勉	2	松本キャンパス：経済学 部大学院講義	
理工学系研 究科	科学英語	後期 金5	加藤敏三	2	松本：全学教育機構32番 講義室 長野（教育）：教育学部 実践センター遠隔講義 室 長野（工学）：工学部 200 番教室 上田：繊維学部32番講義 室 南箕輪：農学部※講義室 未定	SUNS 開講
	大学院と社会	前期 火5	李 敏	2	松本：全学教育機構32番 講義室 長野（教育）：教育学部 実践センター遠隔講義 室 長野（工学）：工学部 200 番教室 上田：繊維学部32番講義 室 南箕輪：農学部※講義室 未定	SUNS 開講
農学研究科	食と緑の科学 特論	前期 水3	佐々木隆	2	南箕輪キャンパス：農学 部17番講義室	

（出典：教育学研究科学生便覧）

（4）信州大学大学院教育学研究科長賞

本研究科では、大学院生の論文作成へのモチベーションの向上を図るため、学位論文の質を評価する「信州大学大学院教育学研究科長賞」の選考を平成21年度より行っており、毎年、複数名の応募がある（資料教院44）。選考にあたっては、発表会を企画し、現役学生も議論に加わることができるようにし、学生の研究能力向上の場として活用している。平成24年度には、学位論文の審査基準（前掲資料教院37, p32）を、また、平成25年度には研究科長賞の選考手続き（資料教院45）を作成し、審査の透明性を保っている。

資料教院 44 研究科長賞受賞論文題目一覧

	応募者数	所属	氏名	タイトル
21年度	10	教科教育専攻 英語教育専修	駒井健吾	The Effects of Comprehension Questions on Incidental L2 Vocabulary Learning through Reading
22年度	6	学校教育専攻 臨床心理学専修	大和友則	熟達度の異なるカウンセラーにおけるカウンセリング・スキーマの比較検討
23年度	12	教科教育専攻 英語教育専修	得田尚希	日本人英語学習者の英語の自動詞に関する中間言語規則
24年度	6	教科教育専攻 英語教育専修	内田健太郎	Reformulationとモデルが仮定法過去完了の習得に与える効果 —単一事例実験計画を通して—
25年度	8	学校教育専攻 臨床心理学専修	屋敷千晴	「大学生の反すうに対するメタ認知的介入の効果」
26年度	7	教科教育専攻 理科教育専修	松尾海	福島原発事故で放出された放射性セシウムの環境中での動態
27年度	8	教科教育専攻 保健体育専修	吉田陽平	技術選スキー選手の急斜面大回り滑走動作に関するバイオメカニクス的研究

(出典：教育学研究科学務係作成)

資料教院 45 研究科長賞の選考手続き (一部抜粋)

平成26年度 研究科長賞の選考手続き

- 規準
  - 様式1：推薦書において以下の諸条件を満たした論文であることが具体的に示されている。
    - 【独創性】論文の内容は、独創性を有している。
    - 【教育学的意義】論文の内容には、教育学的意義があるものである。
    - 【論証方法】論文の問題提起から結論に至る論証方法は適切である。
    - 【論旨の明晰さと説得力】論旨は明瞭で読む者に対して説得力を有する。
    - 【表現と体裁】表現が的確であり、論文として読みやすい体裁で書かれている。
  - 様式2：論文概要において以下の諸条件を満たしている。
    - 【独創性】論文の内容は、独創性を有している。
    - 【教育学的意義】論文の内容には、教育学的意義があるものである。
    - 【論証方法】論文の問題提起から結論に至る論証方法は適切である。
  - 研究発表：プレゼンテーションにおいて以下の諸条件を満たしている。
    - 【わかりやすさ】研究の経過と内容についてわかりやすく説明している。
    - 【正確さと適切さ】用語の使い方や説明の仕方が正確であり、質問等に適切に答えている。
    - 【インパクト】興味関心をそそる内容であり、発表に引き込まれる。
    - 【ルール遵守】発表会で与えられた諸条件（発表時間・資料提示の条件等）を遵守している。
 ※なお、最終的には論文本体を提出させて、上記諸項の評価が適当であることを確認することとする。
- 審査および選考の流れ
  - (1) 応募資格者及び教員へのアナウンス……平成27年1月上旬に掲示
  - (2) 各専攻における候補論文の選定……同2月23日(月)
  - (3) 推薦書(様式1)及び論文概要(様式2)、学位論文要旨(様式4)の提出  
……(2)に同じ
  - (4) 推薦書・論文概要の一次審査……2月24日(火)～3月3日(火)
  - (5) 一次審査通過論文の選定……3月5日(木)
  - (6) 一次審査通過論文(4編程度)を対象とした研究発表会の開催と論文本体の提出……3月13日(金)
  - (7) 研究科長賞候補論文の選定と研究科長への具申……3月16日(月)
  - (8) 研究科長賞論文の発表……3月20日(金)臨時研究科委員会席上
  - (9) 研究科長賞論文の表彰……3月25日(水)学位記授与式の謝恩会席上
- 研究科長賞選考委員の構成と役割
  - (1) 研究科長賞選考委員は研究委員会の委員がこれを務める。
  - (2) 委員長は研究委員会の互選によって決める。
  - (3) 選考委員は研究科長に代わって審査及び選考にかかる諸手続を遂行し、委員長が受賞候補論文の審査結果を研究科長に報告するまでを任務とする。
  - (4) 研究科長賞選考委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

- 選考の方法
  - (1)書類審査：様式1及び2の記述内容を、各様式ごとに設定された4つの評価 規準に基づいて以下の段階で点数をつけ、得点の多い論文の上位4件程度を1次審査通過とする。  
 なお、様式1及び2の得点の審査比率は、様式1：様式2=3：7とする。
    - ◇ 十分達成 9-10点
    - ◇ 概ね達成 6-8点
    - ◇ 達成不十分 3-5点
    - ◇ 未達成 0-2点
  - (2)プレゼンテーション審査：研究発表会におけるプレゼンテーションについて、設定された4つの評価規準について(1)と同様に点数をつけ、論文本体をチェックして「入選」を1件、「次点」を1～2件選ぶ。
  - (3)以上の手続きで「入選」及び「次点」を決定できない場合には、選考委員全員 の協議により該当論文を選定する。
  - (4)選定された「入選」及び「次点」の論文を研究科長賞候補として研究科長に具申する。
  - (5)具申に基づき、研究科長が「入選」と「次点」の論文を決定する。
- 付則
  - (1)原則として研究科長賞候補論文は毎回選定し、表彰する。
  - (2)ただし、専修レベルでは該当論文なしの場合があり得るものとする。
  - (3)研究委員会は、年度を通して研究モラルの啓発と研究内容の向上をめざす機 会を設けることに努め、研究科長賞により多くの質の高い論文がエントリーできるようにする。

(出典：平成26年度 研究科長賞の選考手続)

(5) 大学院実習施設を利用した心理専門職養成の取組み

臨床心理学専修では、専門職を目指す臨床心理士を大学院で養成するために、実習施設として平成14年4月1日「信州大学大学院教育学研究科心理教育相談室」が設立されている(資料教院46)。また、平成16年度より財団法人日本臨床心理士資格認定協会から第1種指定大学院に認定されており、臨床心理士への道が開かれている。

資料教院 46 心理教育相談室の概要

「信州大学大学院教育学研究科心理教育相談室」は、臨床心理学の教育・研究機関として、地域の心理・教育的問題について、臨床心理学、教育心理学、障害児教育などを専門とする教員と大学院生が、援助サービスを行っている。

主な相談内容として、不登校や友人関係、学習の遅れなどの学校に関わる相談、言葉の遅れや注意集中困難、知的な遅れなどの心理発達に関わる相談、対人緊張や引っ込み思案など対人関係の悩みに関わる相談、抑うつ、情緒不安定、心理状態の改善に関わる相談、自己の内的理解や成長に関する相談などがある。

これらの相談では、問題や困難を抱えている本人を対象とした臨床心理面接や心理検査といった相談活動の他、家庭や学校・職場で本人を支える方への心理教育相談や教育指導面接も実施している。

なお、本相談室は臨床心理士養成のための実習施設でもあることから、大学院生が臨床心理士の資格を有する教員から、個人スーパービジョンや事例検討会での指導を受けながら相談活動および相談室の運営に携わっている。



(出典：「心理教育相談室」ホームページ一部抜粋)

平成14年の心理教育相談室開設当初から、大学院生の活動は、大学院の授業「臨床心理実習」の一環として教育課程に位置づけられている。心理教育相談室で面接や外部機関での実習を通して医療・教育施設における仕事の流れや援助サービスに携わるスタッフの仕事への理解を深め、臨床心理士としての技能や資質を養成することを目的としている(資料教院47)。

ここで、地域住民の心理的・教育的問題について、臨床心理学等を専門とする教員と大学院生が援助・支援を行っている。大学院生が経験豊富な教員(臨床心理士)の個人スーパーヴィジョン(個人指導)を受けながら、臨床心理面接などの相談活動にも携わり、臨床経験を積んでいる(資料教院48)。

資料教院47 「臨床心理実習」のシラバス

開講年度	2015年度	登録コード	E8002	
授業名	臨床心理実習			
	Internship in Clinical Psychology			
担当教員	高橋 知音	副担当	鈴木 俊太郎・高橋 史・茅野 理恵	
講義期間	通年	曜日・時限	木 4~	講義室
対象学生		授業形態	実習	備考
				教育相談室
				単位数
				2

(1) 授業のねらい	教育・医療・福祉領域などにおける臨床心理援助サービスの能力を獲得できる。
(2) 授業の概要	①心理教育相談室で面接を行い、臨床心理援助サービスについて学ぶ。 ②外部の臨地実習・病院実習・学校実習を通して、医療・教育施設などにおける仕事の流れや、援助サービスに携わるスタッフの仕事への理解を深める。 ③多様な臨床現場で対象者と触れ合うことで、臨床心理士としての技能や資質を養成する。
(3) 授業計画	<p>[前期]</p> <p>第1回：オリエンテーション 第2回：心理教育相談室における臨床心理実習：電話受付など 第3回：心理教育相談室における臨床心理実習：観察室からの陪席1 第4回：心理教育相談室における臨床心理実習：陪席した事例のスーパービジョン 第5回：心理教育相談室における臨床心理実習：観察室からの陪席2 第6回：心理教育相談室における臨床心理実習：陪席した事例のスーパービジョン 第7回：心理教育相談室における臨床心理実習：陪席1 第8回：心理教育相談室における臨床心理実習：陪席した事例のスーパービジョン 第9回：心理教育相談室における臨床心理実習：陪席2 第10回：心理教育相談室における臨床心理実習：陪席した事例のスーパービジョン 第11回：臨地実習の事前指導 第12回：臨地実習：長野県児童相談所 第13回：臨地実習：長野県精神保健福祉センター 第14回：臨地実習の事後指導 第15回：まとめ</p> <p>[後期]</p> <p>第1回：心理教育相談室における臨床心理実習：面接1 第2回：心理教育相談室における臨床心理実習：面接した事例のスーパービジョン 第3回：心理教育相談室における臨床心理実習：面接2 第4回：心理教育相談室における臨床心理実習：面接した事例のスーパービジョン 第5回：外部実習の事前指導 第6回：外部実習（信州大学附属病院精神科）：ケースカンファランス 第7回：外部実習（信州大学附属病院子どもこころ診療部）：ケースカンファランス 第8回：外部実習（信州大学附属病院精神科）：テストの陪席 第9回：外部実習（信州大学附属病院精神科）：テストの実習 第10回：外部実習（信州大学附属病院子どもこころ診療部）：テストの陪席 第11回：外部実習（信州大学附属病院子どもこころ診療部）：テストの実習 第12回：外部実習の事後指導 第13回：心理教育相談室における臨床心理実習：面接 第14回：心理教育相談室における臨床心理実習：面接した事例のスーパービジョン 第15回：まとめ</p>
(4) 成績評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当教員の評価を総合する。</li> <li>・1回欠席10点減点(やむを得ない場合は事前の届け出が必要)。</li> </ul> <p>・得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可。</p>
(5) 履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業で紹介される事例については授業外で口外しない。守秘義務を守ること。</li> <li>・授業内容の不明な点を調べる、復習する、紹介文献を熟読するなど、自発的学習を求め。</li> </ul>
(6) 質問、相談への対応および連絡先	高橋知音研究室 (N317) オフィスアワー 木曜日 13:00-14:30 Phone: 026-238-4223 e-mail: tomonet@shinshu-u.ac.jp
(7) 成績評価の基準	心理教育相談室における実習では、スーパービジョンを受けながら目標を設定し、目標を達成できるようケースを展開でき、外部実習においては指導者の指示に従いながら臨床業務を観察し、実践できれば「卓越している」、一部に不十分な点があるだけなら「かなり上にある」、いくつかの部分に不十分な点があれば「やや上にある」、いずれも不十分な点を残しつつもすべての課題をこなすことができれば「水準にある」。
(8) 事前事後学習の内容について	受講生は、ケースを担当したら、面接記録を資料にまとめスーパービジョンを受ける。事例検討会で発表できるよう、発表資料を準備する。外部実習では実習記録をつけ、最後にレポートを作成する。
【教科書】	なし。
【参考書】	随時紹介。
【添付ファイル】	なし

(出典：教育学研究科シラバス)

## 資料教院 48 心理教育相談室相談活動実績

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
前年度からのケース	16	30	28	27	30	31
当該年度からの新規ケース	57	68	38	51	17	40
合計	73	98	66	78	47	71
のべ面接回数	341	583	550	469	542	496
修了学生数	8	7	10	6	7	7
臨床心理士合格者数	7	7	9	6	5	—

(出典：心理教育相談室資料)

## (6) 社会人学生への対応

毎年度、現職教員を対象とする特別選抜より4名程度、一般選抜より40名程度受け入れている(前掲資料教院10,11, p5~6)。

また、職業を有する学生(現職教員・社会人)が、標準修業年限を超えて計画的に履修できるように長期履修制度、大学院設置基準第14条の規定に基づく教育方法の特例を導入している。平成24年度からは交換留学する学生に計画的な履修を認めることとした(資料教院49,50)。

## 資料教院 49 信州大学大学院学則、信州大学大学院教育学研究科規程

## (長期にわたる教育課程の履修)

第38条 本大学院は、各研究科の定めるところにより、学生が、職業を有している等の事情により、第15条に定める標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

2 前項による計画的な教育課程の修業年限は、第16条に定める在学期間を超えることはできない。(教育課程の計画的な履修の特例)

第38条の2 各研究科(修士課程又は博士前期課程を置く研究科に限る。)は、本大学院と外国の大学院等との間において締結した交流協定(研究科間交流協定及びこれに準ずるものを含む。以下「交流協定」という。)に基づく留学により、第15条に定める標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することを修士課程又は博士前期課程の学生(標準修業年限の最終年次の学生及び前条による長期にわたる教育課程の履修を認められている学生を除く。)が希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

2 前項による計画的な教育課程の修業年限は、3年を超えることはできない。

## (教育方法の特例)

第39条 教育上特別の必要があると認められる場合には、当該研究科において定めるところにより、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

(出典：信州大学大学院学則)

## (長期にわたる教育課程の履修)

第12条 大学院学則第38条に規定する学生が職業を有している等の事情による長期にわたる教育課程の履修については、研究科委員会において定める。

## (教育方法の特例)

第21条 研究科において必要と認めるときは、授業及び研究指導を夜間その他特定の時間又は時期に行うことができる。

2 前項に規定するもののほか、教育方法の特例に関する事項は、別に定める。

(出典：信州大学大学院教育学研究科規程)

事 項	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
長期にわたる教育課程の履修	0	0	0	0	0	0
教育課程の計画的特例履修	-	-	0	0	1	1

(出典：教育学研究科学務係作成資料)

(7) 夜間授業プログラム

学校教育専攻（学校教育専修）障害児教育学分野では、開講科目の一部を、テレビ会議システムを活用して大学院授業を行っており、現職の特別支援学校教員を科目等履修生として受け入れを行っている（資料教院 51）。これは、平成 19 年度に採択された専門職大学院 GP「問題志向のコースワーク設計による人材育成－実践と研究の一体化による特別支援学校教員対象の大学院プログラム－」を継承し、発展させているものである。このプログラムにより、科目等履修生として入学し、専修免許状の取得に必要な単位を習得した現職教員数は、11 名（第 2 期合計）である（資料教院 52）。正規学生は、現職教員を含む社会人学生とともに授業を受けることで、大変よい刺激を受けている。

**資料教院51 夜間授業プログラム**

**申請について**

対象者 ……特別支援学校教員他  
原則として、特別支援学校教諭1種免許状を持っている人

**取得できる免許状**

特別支援学校教諭専修免許状  
ただし専修免許申請時に、3年以上の現職経験(特別支援学校)を有し、15単位以上の単位を修得していること

**授業料等について**

授業料 9,800円(初年度のみ)  
入学金 28,200円(初年度のみ)  
授業料 1単位当たり14,800円  
(平成20年2月現在)

**申し込み方法**

申し込み期間等の詳細は別紙をご覧ください。

〒390-8544 信州大学教育学部  
学務係(8時30分～17時15分)

**交通のご案内**

① JR長野駅善光寺口(バス第1番のりば)から  
川中島/ス「善光寺」経由「宇木行」、「善光寺・西条屋由若園東乗行」、「善光寺・名園田地経由若園東乗行」のいずれかに乗車(10分)し、「大門南」下車、徒歩5分。

② JR長野駅善光寺口(バス第4番のりば)から  
長野市南園/ス「ぐるりん号」に乗車(10分)し、「信大教育学部前」下車、徒歩1分。

**お問い合わせ**

T:390-8544  
長野市大字西長野6の口  
TEL:026-238-4037  
E-mail:ennsho-ps@shinshu-u.ac.jp  
<http://cert.shinshu-u.ac.jp/sse>

**特別支援教育大学院  
夜間授業プログラム**

信州大学大学院教育学研究科

### 特別支援教育のための 夜間開講大学院プログラム

**プログラムの趣旨と特長**  
このプログラムは、現職の先生方が勤務を続けながら、夜間や休業期間中に大学院授業を受講し、高度の専門性を身につけることを目的としています。

**特長として、**

- ◇**大学院授業へのアクセスが容易に**  
授業は信州大学教育学部キャンパスとともに、県内7箇所の特別支援学校で遠隔授業により受講できます。
- ◇**学校現場に対応した授業科目**  
従来の特別支援教育に関する科目に加え、心理・医療保健・労働などの関連領域の授業科目が順次開講されます。また、自閉症や学習障害の最先端研究に関連する科目も開講される予定です。
- ◇**専修免許状の取得**  
原則として、2年間に15単位以上の取得と3年以上の現職経験(特別支援学校)により、専修免許状が取得できます。

### 現場のニーズに対応する 多彩なコースワーク

高度な専門性と問題解決能力を備えた特別支援学校教員の養成

専修免許状 + 大学院修士号

特別支援学校教員のニーズに対応するコース設定  
実践と教育研究の一体化

特別支援学校での教育実践・実践からの知見

**予定授業科目**

発達障害特論Ⅰ	夜間(前期2単位)
発達障害特論Ⅱ	夜間(後期2単位)
特別支援教育学演習	夜間(後期2単位)
障害児心理査定演習	集中(前期2単位)
障害児指導法特論	集中(後期2単位)
障害児心理査定演習Ⅱ	集中(前期2単位)
特別支援教育支援方法論	夜間(前期2単位)
リハビリテーション特論	集中(後期2単位)
障害児の生理・病理	夜間(後期2単位)
特別支援教育指導方法論特論	夜間(後期2単位)

A, Bは隔年で交互に開講されます。詳細は別紙をご覧ください。

### 働きながら大学院授業へ アクセス

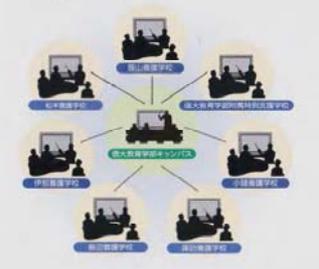
**夜間開講授業**  
原則として  
6時限(18時~19時30分)  
7時限(19時40分~21時10分)が、  
夜間開講の時間帯となります。

**集中授業**  
土曜日・日曜日および学校の休業期間中に開講します。

**遠隔授業システム**

- 飯田養護学校 ● 松本養護学校 ● 伊那養護学校
- 諏訪養護学校 ● 小諸養護学校 ● 飯山養護学校
- 信大教育学部附属特別支援学校

での双方向性遠隔授業および信大教育学部キャンパスで受講することができます。



(出典：「特別支援教育 夜間授業プログラム」パンフレット)

資料教院52 科目等履修者数

科目名	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
新規入学者数	5	1	2	3	1	2
年度在籍者数	7	6	3	5	4	3
取得単位数	54	42	26	30	40	28
一人当たりの平均取得単位数	7.71	7.00	8.67	6.00	10.0	9.3
2年間在籍で16単位以上 取得者数	1	3	1	2	3	1

(出典：教育学研究科学務係作成資料)

## 3 主体的な学修を促す取組み

## (1) 学生の主体的な学習を促すための環境の整備

自主学修スペースとして、各専修において院生室または実験室を確保している（資料教院 53）。また、院生が共同で利用できる共通演習室も確保している（資料教院 54）。さらに、無線 LAN の設置等を充実させ、学生が主体的な学習を促すための環境整備を行っている（資料教院 55）。

## 資料教院53 院生室

専修	場所
教育科学院生室	北校舎312
心理院生室	北校舎315, 北西校舎1F
特別支援教育院生室	東校舎108
国語院生研究室	中校舎411
社会院生研究室	中校舎308
数学院生室	北校舎326
理科学院生室	西校舎実験室
音楽院生室	北校舎318
美術院生室	北校舎220
保健体育院生室	中校舎311, 東校舎311
技術院生室	西校舎実験室
家政院生室	西校舎200
英語院生室	北校舎211

（出典：教育学研究科会計係作成）

## 資料教院54 共通演習室

校舎	部屋番号
北校舎	206・319・320・321
東校舎	501・502・503
中校舎	302・410・412・421
西校舎	105・300・321・400

（出典：教育学研究科会計係作成）

資料教院55 キャンパス内セキュアネット

# 教育学部セキュアネットの利用方法

(2014年度 Windows7 版)

I 次の場所で、個人用ノートパソコン等を用いて、学内LANに接続できます。

無線 LAN アクセスポイント								
建物	場所	名前	建物	場所	名前	建物	場所	名前
図書館	閲覧室	eduL1A	北棟	N102	eduN102A	中央棟	M103	eduM103A
	閲覧室	eduL1B		N104	eduN104A		M201	eduM201A
	閲覧室	eduL1C		N104	eduN104B		M301	eduM301A
	201	eduL208A		N105	eduN105A		M306	eduM306A
	201	eduL208B		N205	eduN205A		M311	eduM311A
生協	1階	eduC101A		N218 前	eduN218G		M402	eduM402A
	1階	eduC101B		N220 前	eduN220G		M411	eduM411A
	2階	eduC201A		N301	eduN301A		M421 前	eduM421G
実践センター	102	eduJ102A		N301	eduN301B			
	201	eduJ201A		N302	eduN302A			
	201	eduJ201B		N304	eduN304A			
	SUNS	eduJsunB		N309	eduN309A	しなの木会館	1階	eduS1A
				N319 前	eduN319A		2階	eduS2A
				N325	eduN325A			
				N401	eduN401A			
	東棟	E101 前	eduE101G	西棟	W101	eduW101A	北西校舎	1階
E101		eduE101A	W110		eduW110G	2階		eduNW2G
E104 前		eduE104G	W112		eduW112A			
E106		eduE106A	W201		eduW201A	2階		eduNW202A
E201 前		eduE201G	W210		eduW210G			
E201		eduE201A	W220		eduW220A			
E206 前		eduE206G	W300		eduW300A			
E303 前		eduE303G	W301		eduW301A			
E307 前		eduE307G	W306		eduW306G			
E401 前		eduE401G	W318		eduW318G			
E401		eduE401A	W321		eduW321A			
E406 前		eduE406G	W400		eduW400A			
E502 前		eduE502G	W501		eduW501G			
E504		eduE504A	W502		eduW502A			
E504		eduE504B	W503		eduW503G			
E504		eduE504C	W505		eduW505G			
E504		eduE504D	W506		eduW506A			
			W506		eduW506B			
			W507 前		eduW507G			

(出典：教育学部附属教育実践総合センター作成)

また、本研究科では、学生の主体的学習を促すためにe-Learningのシステム（eALPS）を積極的に活用している（資料教院56）。

資料教院56 eALPSシステムについて	
<p>eALPS（e-Advanced Learning Platform in Shinshu University）は、2007年度より提供している信州大学の教育支援システムで、MoodleというオープンソースのLMS(Learning Management System)を使用しています。HTMLなどの知識がなくても授業科目のコースサイト（ホームページ）を作成することができ、対面授業の補完やオンライン学習のツールとして多くの先生方にご利用いただいています。</p> <p>eALPSでは主に、以下のような9つの機能を提供しています。教材を活用して自習し、学生や教員と意見交換し、課題を提出したりテストに挑戦するといった能動的な学習を支援します。</p>	
お知らせの掲載	教員は、コース（授業科目）のトップページに連絡事項などを記載することにより、eALPSを学生への通知の手段として利用することができます。
資料の配布	教員は、eALPS上にPDFなどのファイルを置き、学生は、それをダウンロードして予復習に利用することができます。
課題の提示と提出	eALPS上に課題ファイルを提出させることができます。提出状況を一覧にして表示したり、評点やコメントをつけることも可能です。
掲示板で情報交換	eALPS上に掲示板を作り、教員と学生、または学生同士が意見交換することができます。投稿した意見に評点をつけることも可能です。
アンケート調査	eALPS上でアンケート調査を行い、理解度を測ったり要望をまとめることが可能です。回答内容を分析したり、Excelファイルに保存することも可能です。
オンラインテスト	eALPS上でテストを行うことができます。自動採点して結果をExcelファイルに保存したり、評点ごとの学生数をグラフ表示できます。
成績の管理	eALPS上での活動に評点をつけ、それを集計して成績評価に利用することができます。ペーパーテストの結果と合わせて管理することもできます。
受講生にメール送信	その科目を履修している学生全員または選択的にメールを送ることができます。
受講生のアクセス状況の把握	受講生がいつeALPSのコースにアクセスしたか、eALPS上でどのような活動を行ったかを表示できます。
（出典：e-LearningセンターICT活用支援部門作成eALPS入門）	

また、図書館の利用方法の説明（資料教院 57）、データベースの使用方法の説明会の開催（資料教院 58）を行うとともに開館時間を延長し、主体的な学習を促す環境の整備を行った。貸出実績は、平成 21 年度に比べ増加した（資料教院 59）。

## 信州大学附属図書館 教育学部図書館 利用案内

### 開館時間

月曜日～金曜日 8:45 ～ 21:00  
土曜日 10:00 ～ 17:00

#### \* 長期休業期間中

月曜日～金曜日 8:45 ～ 17:00  
土曜日 閉館

### 休館日

日曜・祝日、長期休業中の土曜  
お盆・年末年始の期間  
その他館長が必要と認める時

☆ 試験期間中は延長開館します。  
また、6月中旬～8月初めは毎日開館しています。  
詳しくは掲示板やHPの開館カレンダーをご覧ください。

信州大学附属図書館 教育学部図書館  
〒380-8544 長野市西長野6の口  
TEL: 026-238-4061 FAX: 026-237-4390  
<http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/library/education/>  
附属図書館公式ツイッター @ShinshuUnivLib



教育学部図書館 HP

資料教院 57 図書館の利用方法の説明(続き)

## 図書館のサービス

### リクエスト

「図書館においてほしい本」や「大学図書館として必要な本」などのリクエストを受付けています。

カウンターの「リクエスト図書申込書」に記入し、ご提出ください。図書館ポータルサイト「My Library」からもリクエストできます。

### レファレンス・サービス

図書館の利用や資料についてのご質問・ご相談を受付けています。資料探し等のお手伝いをしますので、お気軽にカウンターでお尋ねください。

### 資料のコピー

館内設置のプリペイドカード式コピー機でコピーできます。備付の「複写申込書」に記入してからコピーしてください。

★ 持込資料のコピーはできません ★

☆プリペイドカードは生協売店で販売しています☆

### お願い

- ◆館内は禁煙です。
- ◆館内での飲食はご遠慮ください。  
(フタつきの飲み物のみ持ち込み可)
- ◆館内での携帯電話の使用はご遠慮ください。

### 他キャンパスの図書館の利用

信州大学内にある他学部の図書館を利用することができます。

学生証または「図書館利用証」で本を借りることもできます。返却は教育学部図書館でも可能です。

### 他大学の利用 <学内者>

他大学の図書館の利用にあたって必要な場合は紹介状を発行します。カウンターにお申し出ください。学生証の持参で利用できる場合もありますので、ご相談ください。

### 学部内にはない資料の入手 <学内者>

【複写】本学部図書館にはない文献について、他図書館などに複写依頼をして取り寄せることができます。(有料:複写料金+郵送料)  
(学内の郵送料は無料)

「文献複写申込書」に記入して、カウンターにお申し出ください。

【貸借】本学部図書館にはない図書を他図書館から借用できる場合があります。

「現物貸借申込書」に記入して、カウンターへお申し出ください。

\*\* 学内の図書館からの取寄せは無料です \*\*  
OPAC から簡単に申込みできます

わからないことはいつでも係員にお尋ねください。

(出典:「教育学部附属図書館利用案内」パンフレット)

資料教院58 データベースの使用方法的説明会の開催

# EBSCOhost

## データベース利用説明会

### EBSCOhostとは？

EBSCOhostデータベースは、学術雑誌論文を中心とした論文の全文、または文献情報を検索できるオンライン・データベースです。外国雑誌等をインターネットで検索し、得られた論文の全文・抄録を印刷・保存・E-Mail送信できます。

**卒論・修論の文献収集にお役立て下さい！**

説明会では、EBSCOhostで利用できる次のデータベースを例に、操作方法・便利な使用方法をご紹介します。

#### Academic Search Premier

人文社会・自然科学・医療・理工系等総合分野を網羅したデータベースです。

4600誌以上の雑誌の全文が見られます。

#### PsycINFO

アメリカ心理学会（APA）製作の文献情報データベースです。

心理学に関連する雑誌記事、書籍、学位論文などから、360万件以上の文献情報を収録しています。

日時

**6月10日（火） 14：40～16：10**

場所：教育実践総合センター2F 201教室  
実習形式で行います。

参加をご希望の方は**前日6/9（月）**までに  
教育学部図書館へご連絡下さい。

**お申込み・お問い合わせは教育学部図書館カウンターまで！**  
TEL:026-238-4061 E-mail: jed0101@shinshu-u.ac.jp

（出典：「データベース利用説明会」パンフレット）

資料教院59 教育学部図書館における大学院生の貸出実績  
長野（教育）キャンパスのみ集計

年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
総冊数（冊）	1,366	1,514	1,370	1,662	1,715	1,839	2,314
延べ人数 （人）	763	896	809	1,035	864	1,027	845

（出典：教育学部図書館作成）

（2）ティーチングアシスタント（TA）活動による主体的な学修への取組み

大学院生の半数は、学部の授業にTAとして携わっており（資料教院60）、その中で自主的に実践的指導力を身につけている。

資料教院60 TA活動の状況

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
対象学生 （特別選抜者を除く）	81	85	81	81	80	72
TA経験者	42	42	37	40	39	42
TA延べ人数	82	83	78	103	117	139
TA経験者の割合（％）	51.9	49.4	45.7	49.4	48.8	58.3

（出典：教育学研究科庶務係作成）

（3）複数の教員免許取得に対する支援

2割程度の学生は、学部の科目等履修生となり、5～6単位前後の単位を修得し（資料教院61）、保有する教員免許状の種類を増やしている。

資料教院61 学部科目等履修生の人数

年 度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
学部科目等履修生の人数	5	7	5	8	2	4
平均学部取得単位数	4.6	5.4	4.0	4.6	2.0	3.8

（出典：教育学研究科学務係作成）

修了生が異なる学校種の、さらに複数の免許状を取得して修了していくことは、過疎化対策に悩む長野県の教育事情を改善することにつながり、関係者からの期待に沿うものとなっている（資料教院62）。

資料教院62 県教委から教育学部への教員養成に関わる要望

県教委から教育学部への教員養成に関わる要望

- 1 小中両免の取得  
(小学校の再編の問題も含め、小・中の9年間でどのように子どもたちを育てるか、また地域ごとのブロック採用についても検討を始めている。そのような点から小学校・中学校の両免許状を持つ教員が必要な状況である。)
- 2 理数教科に強い小学校教員の養成  
(小学校における理数離れと、理数をしっかりと教えられない教員の問題があり、教員養成段階で対応を考えて欲しい。)
- 3 中学校複数教科免許の取得(特に、家庭、技術、美術、音楽)  
(少子化による学校規模の縮小により、特に技能系教科の教員を単独の1免許状では採用できない状況にある。)

(出典：平成22年6月18日「長野県教育委員会・信州大学教育学部の打ち合わせの概要」より抜粋)

また、平成27年4月より、信州大学大学院教育学研究科における教育免許状を取得するための学部授業履修に関する科目等履修生に係る授業料を免除すること決定した(資料教院63)。

資料教院63 信州大学大学院教育学研究科における教育免許状を取得するための学部授業履修に関する申合せ新旧対照表

改 正 案	現 行
平成14年12月4日 教育学研究科委員会決定	平成14年12月4日 教育学研究科委員会決定
<p>大学院学生が、小学校又は中学校の教員免許状(一種又は二種)の取得資格を得るために、学部授業の履修を希望する場合、指導教員の指導を経て、教授会の承認のもとに、科目等履修生として学部授業を履修することができるものとする。</p> <p>学部授業履修に関しては、以下の原則により行うものとする。</p> <p>1 年間あたりの履修単位数は12単位を上限とすること。</p> <p>(削除)</p> <p>2 「教育実習」は、教育実習の受講資格に関する規定に従って受講すること。</p> <p>3 「介護等体験」を行う必要がある大学院学生は、学部学生を対象とした「介護等体験」に加わって、「介護等体験」を行うこと。</p> <p>附 則 (略)</p> <p>附 則 この申合せは、平成27年5月 日から実施し、平成27年4月1日から適用する。</p>	<p>大学院学生が、小学校又は中学校の教員免許状(一種又は二種)の取得資格を得るために、学部授業の履修を希望する場合、指導教員の指導を経て、教授会の承認のもとに、科目等履修生として学部授業を履修することができるものとする。</p> <p>学部授業履修に関しては、以下の原則により行うものとする。</p> <p>1 年間あたりの履修単位数は12単位を上限とすること。</p> <p>2 科目等履修生に係る所要の授業料を納入すること。</p> <p>3 「基礎教育実習」は、基礎教育実習の受講資格に関する規定に従って受講すること。</p> <p>4 「介護等体験」を行う必要がある大学院学生は、学部学生を対象とした「介護等体験」に加わって、「介護等体験」を行うこと。</p> <p>附 則 (略)</p>

(出典：信州大学大学院教育学研究科における教育免許状を取得するための学部授業履修に関する申合せ新旧対照表)

(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由)

- ① 学生の期待に応え、学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針（資料教院3, 4, 5, p2～3）を策定し、学位授与の方針に基づく教育課程を編成し、学生に学修目標や入学から修了までの教育課程をわかりやすく説明している（資料教院28, p23）。
- ② 大学院教育学研究科学校教育専攻・教科教育専攻の学位論文の審査基準(資料教院37, p32)を平成24年度に作成した。これを大学院学生便覧に記載して学生等に明示し、審査の透明性及び水準を確保している。また学位論文の質を評価する「信州大学大学院教育学研究科長賞」の選考手続きを作成した（資料教院45, p39）。
- ③ 開講している講義内容（資料教院28, p23, 39, p33, 40, p35, 41, p36）は、長野県の教育事情や学生の要望に合わせ、担当者により毎年、見直しが行われており、本研究科の教育内容・方法は、学部教育の理念である「臨床の知」をさらに深化させ、創造性豊かな研究能力と高度な実践的指導力を有する教育研究の中核となる人材の育成に必要なものとなっている。授業研究は、学部の教育実習とは異なる視点で行われており、学生の感想から、教員の意図する効果が表れていることが窺える（資料教院42, p37）
- ④ 大学院実習施設を利用した心理専門職養成の取組みを行っている。心理教育相談室（資料教院46, p41）における大学院生の活動は、大学院の授業「臨床心理実習」(資料教院47, p42)の一環として教育課程に位置づけられており、臨床心理士としての技能や資質を身につけられるよう工夫している。
- ⑤ 長期履修や夜間授業等の社会人学生への対応（資料49, 51, p43～44）を行う等、現職教員及び学校関係者の期待に応えている。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

1 修了、退学、休学の状況

本研究科の修了、退学、休学の状況は、次のとおりである（資料教院 64, 65）。

資料教院 64 標準修業年限内修了率及び「標準修業年限内×1.5」年内修了率(%)

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
標準修業年限内	80.0	93.2	86.7	81.8	86.3	83.6
標準修業年限内×1.5	93.2	85.0	93.2	86.3	88.6	89.7

(出典：H25年度受審認証評価のデータをもとに経営企画課作成)

資料教院 65 退学、休学率(%)

	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
退学率	2.4	4.6	4.4	4.6	5.6	0.0	0.0
休学率	2.4	1.2	0.0	1.2	1.2	2.2	3.7

※退学率は、該当年度の在籍者で除した割合。  
 ※休学率は該当年度5月1日現在の数を該当年度の在籍者数で除した割合。  
 (出典：H25年度受審認証評価のデータをもとに経営企画課作成)

平均取得単位、専修免許状平均取得数は、次のとおりである（資料教院66）。留学生を除くほとんどの修了生は、小学校教諭、中学校教諭、高等学校教諭、幼稚園学校教諭、特別支援学校教諭の各専修免許状のうち、複数（平均2.5個）の免許状を取得している。

資料教院 66 平均取得単位、専修免許状平均取得数等

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
平均取得単位数	36.0	34.3	35.0	34.8	33.5	34.3
専修免許状平均取得数 (3月修了者のみ)	2.6	2.4	2.1	2.5	2.4	2.3

(出典：教育学研究科学務係作成)

2 本研究科学生の研究成果

学生による学会発表数及び論文掲載件数等から、着実に研究の成果を挙げていることがわかる（資料教院67）。

在学生及び修了生の中には、発表した研究内容が当該学会より評価され、学会賞を受賞した例もあり、研究内容の質の高さを示している（資料教院68）。

資料教院67 研究科学生の研究成果（件数）

	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
学会発表（筆頭）	23	27	22	30	39	30
学会発表（連名）	3	6	10	7	10	9
査読付論文（筆頭）	5	5	6	2	4	5
査読付論文（連名）	2	6	0	5	1	5
査読無論文（筆頭）	8	10	4	8	11	3
査読無論文（連名）	1	2	1	2	2	1
知的財産権取得	0	0	0	1	0	1
受賞	0	2	1	0	0	9
その他	0	2	2	1	4	2
2年次在籍数	40	44	43	43	44	49

（出典：自己点検・評価委員会による研究科学生の研究成果調査）

平均筆頭学会発表数は29回、連名を含める平均学会発表数は8回であり、研究科の学生が筆頭となって発表する機会が多く見られた。論文掲載件数（査読付、査読無の合計）は99件となっている。

資料教院 68 学会等における受賞状況

23年度	○第86回国展入選(2012年5月2日～14日 国立新美術館);作品タイトル「声のする方へ」 ○日本数学教育学会 平成23年度学会賞(大学院生研究奨励部門);数学的モデリング過程に関する活動の発達の様相を捉える枠組みの構築
24年度	○公益社団法人精密工学会北陸信越支部 2012年度精密工学会北陸信越支部学術講演会ベストプレゼンテーション賞;光学ガラスの研磨特性に及ぼす研磨スラリーの使用時間の影響
27年度	○日本数学教育学会学会賞(大学院生研究奨励部門);学校数学における証明の妥当性の検討に関する一考察～背理法による証明に焦点をあてて～ ○スキー学会 2015年度研究会 スキー学会優秀発表賞;熟練度の異なる技術選スキー選手による急斜面大回り滑走動作 ○日本産業技術教育学会第31回情報分科会研究発表会学生優秀発表賞;Kinect v2による鋸引き姿勢傾き計測と切断面との相関を踏まえた姿勢改善支援

（出典：教育学研究科にて作成）

3 学業の成果に対する学生の評価

大学院教育のあり方を検討するための基礎データの収集を目的に、修了予定者を対象に「大学院教育学研究科のあり方に関する調査」（資料教院69）を行っている。

資料教院69 大学院教育学研究科のあり方に関する調査（一部抜粋）

信州大学教育学部 自己点検・評価委員会

アンケート調査ご協力をお願い

学部自己点検・評価委員会では、大学院教育学研究科におけるカリキュラムや学生生活を充実・向上させるため、この時期に皆さんから大学院教育のあり方等に対する意見を聞いて集約しています。

結果は本委員会管理のもと匿名で処理しますので、思うままをお答えください。

アンケートの意見などは関係の委員会および各専修に送付し回答を求めます。またその結果についてはHPなどで皆さんへも公開しますので、ご協力をよろしく願います。

なお、本アンケートは、2月27日（金）までに管理校舎(中校舎)1階「学務係」の

満足度調査提出BOX

へ提出してください。

Q1. あなたの進路予定をおたずねします。該当する番号に○をつけてください。

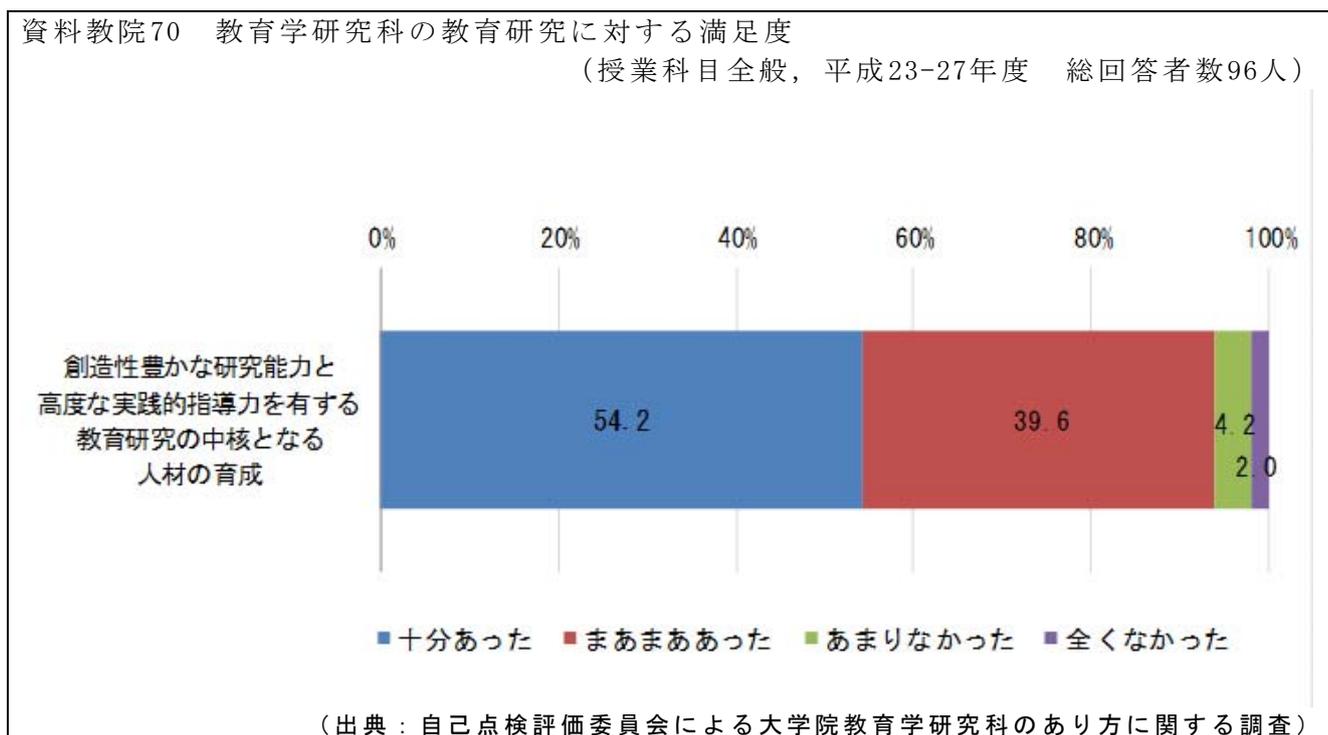
- |         |             |                                |        |
|---------|-------------|--------------------------------|--------|
| 1. 学校教員 | 2. 学校教員臨時採用 | 3. その他教育関係職                    | 4. 公務員 |
| 5. 民間企業 | 6. 進学       | 7. その他（                      ） |        |

Q2. 大学院教育学研究科の教育研究についておたずねします。自分の考えにあてはまる番号に○をつけてください。

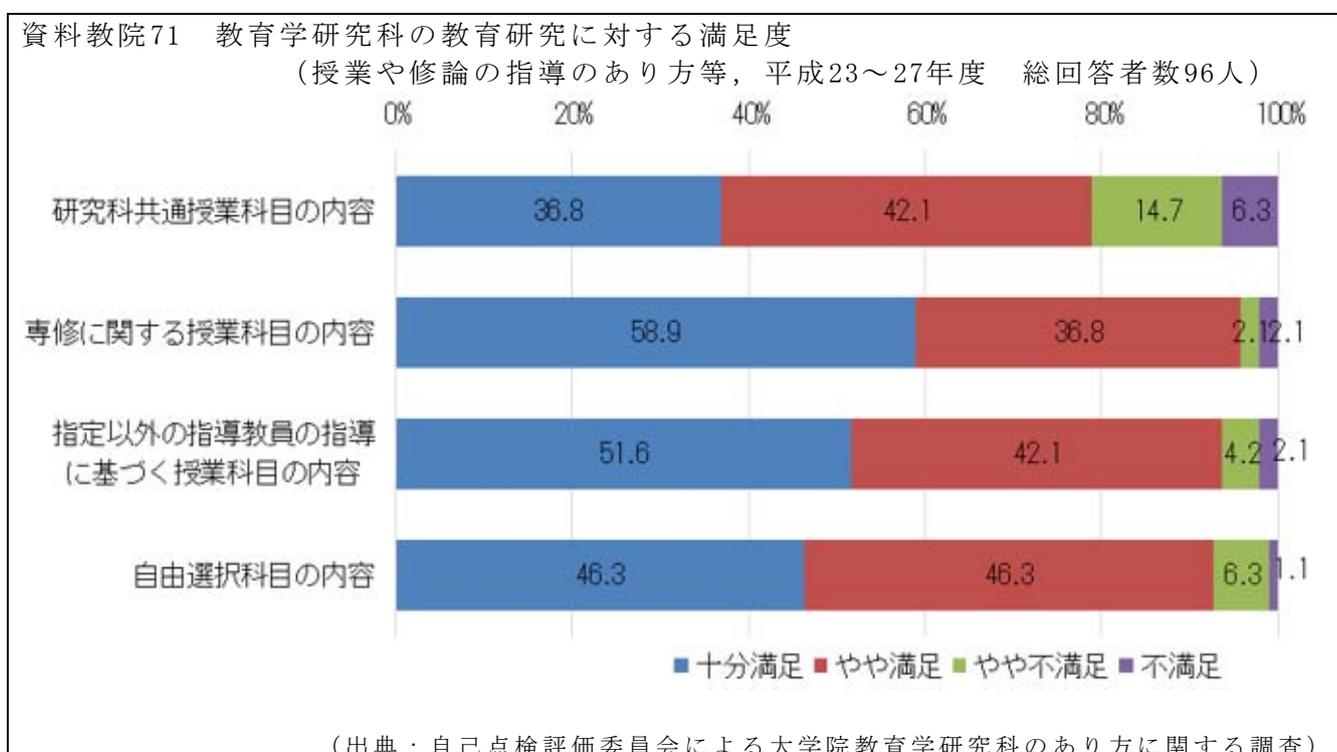
A	大学院教育学研究科は、創造性豊かな研究能力と高度な実践的指導力を有する教育研究の中核となる人材の育成を目指しています。あなたの受けた専門教育にはこの目的に即した授業科目がありましたか？
	1. 十分あった    2. まあまああった    3. あまりなかった    4. 全くなかった
B	大学院教育学研究科は、附属学校園との緊密な連携に基づいた教育・研究体制を目指しています。あなたの受けた専門教育にはこの目的に即した授業科目がありましたか？
	1. 十分あった    2. まあまああった    3. あまりなかった    4. 全くなかった
C	大学院教育学研究科は地域社会と連携した教育・研究体制を目指しています。あなたの受けた専門教育にはこの目的に即した授業科目がありましたか？
	1. 十分あった    2. まあまああった    3. あまりなかった    4. 全くなかった

（出典：自己点検評価委員会による大学院教育学研究科のあり方に関する調査）

「教育研究の中核となる人材の育成」については、9割近くの学生が満足と回答していた（資料教院70）。

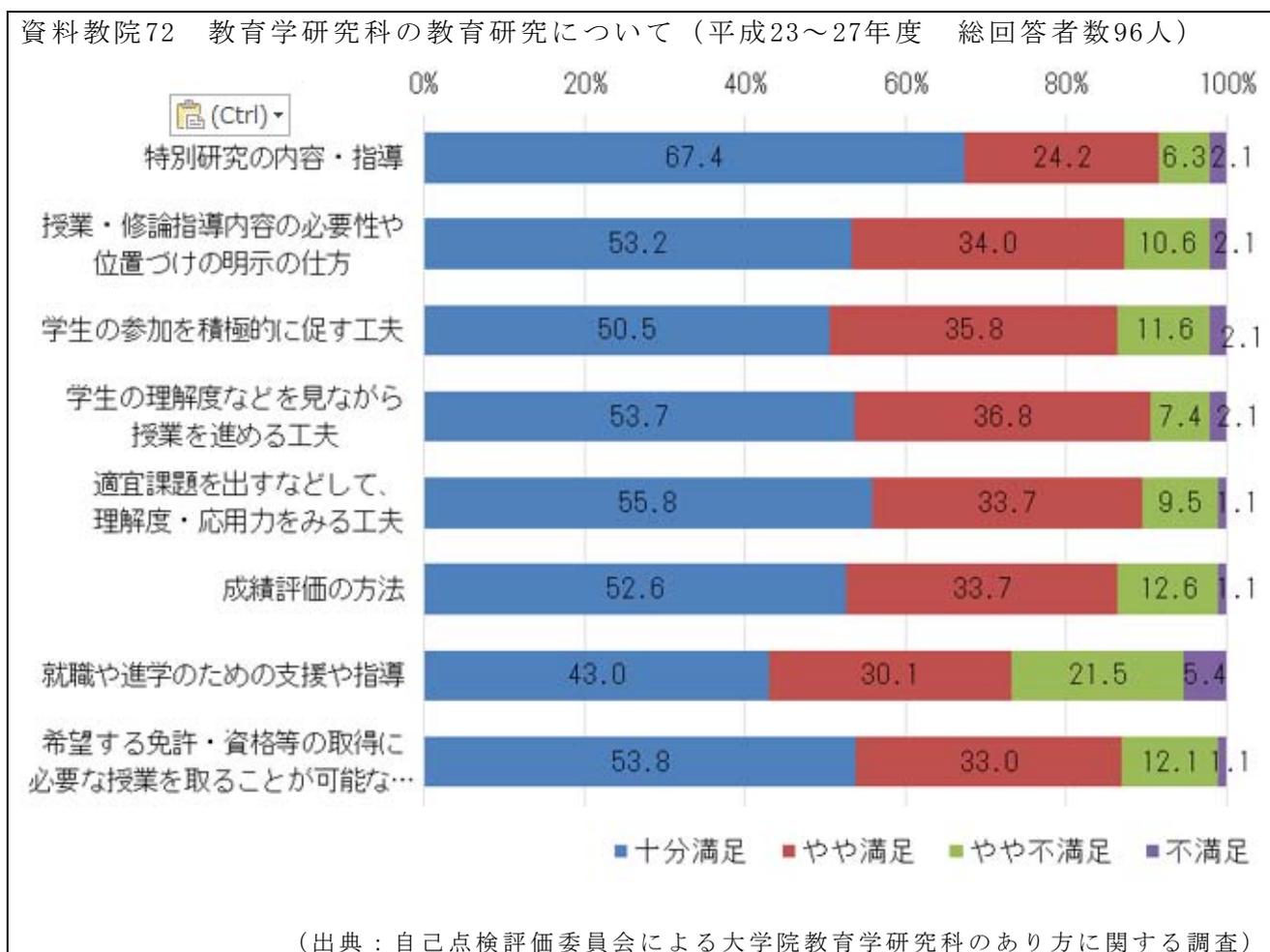


授業科目全般については、8割以上の学生が満足（「十分満足」または「やや満足」と回答していた（資料教院71）。



また、授業や修論の指導のあり方等の評価に関しては、8割以上の学生が満足と回答していた（資料教院72）。

このことは、本研究科の目的が学生にも十分伝わっていることを意味しており、これが学業の成果へとつながっている。



(水準)

期待される水準にある。

(判断理由)

- ① 指導教員の丁寧な指導により標準修業年限内修了率は85%前後である（資料教院64, p55）。また、ほとんどの修了生は専修免許状を複数取得（資料教院66, p55）しており、地域関係者の期待に答えている。さらに、学会発表、論文掲載等の研究成果（資料教院67, 68, p56）から研究能力も十分に育成されている。
- ② 本研究科の研究指導・教育体制に対して学生の満足度も高く（資料教院70～72, p58～59）、学生からの期待に十分答えていることを示している。

観点 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

1 修了後の進路の状況

修了後の進路状況については、進学、就職を合わせ80～95%前後である(資料教院73)。就職者の割合は、全体に比べ10～15%程度高い値を示している。教員として就職する割合は、44～61%であり、うち6割から9割が長野県の教員として就職している。学校教育専攻・臨床心理学専修の修了生の中には、専門職として公務員をはじめ長野県内外の病院・福祉施設に就職するものもいる(資料教院74)。大学院での経験を活かし就職する学生は90%前後である。

修了年度	区分	修了者	進学者		就職者		国専 の修 学学 者校 等・ 入外	一 時 的 な 仕 事 に 就 いた 者	左記以外の者		不 詳 ・ 死 亡 の 者	
		A	人(B)	率(B/A)	人(C)	率(C/A-B)			人(D)	率(D/A)		
H21	全体	4,686	400	8.54%	3,037	70.86%	54	314	748	15.96%	133	
	国立	3,989	316	7.92%	2,688	73.18%	44	268	597	14.97%	8	
	本学	計	39	1	2.56%	33	86.84%	2	0	3	7.69%	0
		男	19	0	0.00%	18	94.74%	0	0	1	5.26%	0
		女	20	1	5.00%	15	78.95%	2	0	2	10.00%	0
H22	全体	4,366	352	8.06%	2,844	70.85%	33	254	746	17.09%	137	
	国立	3,635	277	7.62%	2,411	71.80%	27	219	603	16.59%	98	
	本学	計	36	0	0.00%	26	72.22%	0	0	10	27.78%	0
		男	16	0	0.00%	10	62.50%	0	0	6	37.50%	0
		女	20	0	0.00%	16	80.00%	0	0	4	20.00%	0
H23	全体	4,542	326	7.18%	3,000	71.16%	42	355	736	16.20%	83	
	国立	3,778	236	6.25%	2,551	72.02%	33	326	581	15.38%	51	
	本学	計	43	3	6.98%	34	85.00%	0	0	6	13.95%	0
		男	26	2	7.69%	21	87.50%	0	0	3	11.54%	0
		女	17	1	5.88%	13	81.25%	0	0	3	17.65%	0
H24	全体	4,470	300	6.71%	2,971	71.25%	33	350	752	16.82%	64	
	国立	3,654	211	5.77%	2,506	72.79%	27	307	575	15.74%	28	
	本学	計	39	0	0.00%	36	92.31%	0	0	3	7.69%	0
		男	23	0	0.00%	21	91.30%	0	0	2	8.70%	0
		女	16	0	0.00%	15	93.75%	0	0	1	6.25%	0
H25	全体	4,459	309	6.93%	2,987	71.98%	39	363	685	15.36%	76	
	国立	3,754	240	6.39%	2,554	72.68%	31	327	559	14.89%	43	
	本学	計	39	0	0.00%	34	87.18%	0	0	5	12.82%	0
		男	15	0	0.00%	13	86.67%	0	0	2	13.33%	0
		女	24	0	0.00%	21	87.50%	0	0	3	12.50%	0
H26	全体	4,298	341	7.93%	2,920	73.79%	16	331	604	14.05%	86	
	国立	3,572	261	7.31%	2,458	74.24%	11	296	485	13.58%	61	
	本学	計	39	1	2.56%	31	81.58%	0	0	7	17.95%	0
		男	24	1	4.17%	19	82.61%	0	0	4	16.67%	0
		女	15	0	0.00%	12	80.00%	0	0	3	20.00%	0
H27	全体											
	国立											
	本学	計	44	1	2.27%	40	93.02%	0	0	3	6.82%	0
		男	26	1	3.85%	22	88.00%	0	0	3	11.54%	0
		女	18	0	0.00%	18	100.00%	0	0	0	0.00%	0

※「全体」「国立」は、学校基本調査の全国集計のうち、  
各年度>高等教育機関《報告書掲載集計》>卒業後の状況調査>大学院  
修士課程の状況別 卒業者数より、区分「教育学」を抜粋  
なお、平成 27 年度については、平成 28 年 6 月末現在未公開

(出典：学校基本調査をもとに経営企画課作成)

資料教院74 教育学研究科修了生の進路状況

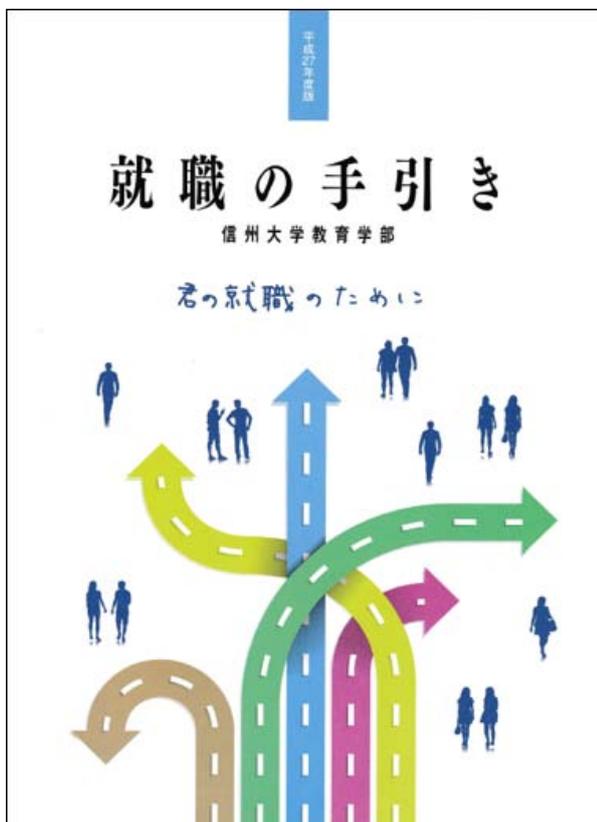
			22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	
就職者	教員 (長野県内)	小学校	5	7	2	2	3	7	
		中学校	4	4	4	4	7	3	
		高等学校	2	1	2	0	1	6	
		特別支援学校	0	0	1	0	0	0	
		幼稚園	0	0	0	0	0	0	
		その他	0	1	0	0	0	0	
		現職教員	4	4	3	4	4	4	
		小計	15	17	12	10	15	20	
	教員 (長野県外)	小学校	0	4	1	3	1	0	
		中学校	2	1	1	4	0	0	
		高等学校	0	3	1	0	1	2	
		特別支援学校	0	1	0	0	0	0	
		幼稚園	0	0	0	0	0	0	
		その他	2	0	2	0	0	0	
		小計	4	9	5	7	2	2	
	計		19	26	17	17	17	22	
	教員就職者/修了者 (%)		52.8	60.5	43.5	43.5	43.5	50.0	
	教員 (長野県内) /教員		78.9	68.4	74.6	63.2	88.2	90.9	
	教員外	公務員	一般	0	1	1	1	1	3
			心理	0	4	6	1	1	2
会社員		2	0	8	3	4	6		
病院		4	0	1	4	1	5		
スポーツ施設		0	0	0	0	0	0		
福祉施設		2	3	1	2	4	0		
その他		3	0	2	6	3	2		
小計		11	8	19	17	14	18		
以就 外職	進学者		1	3	0	0	2	1	
	その他		5	6	3	5	6	3	
合計			36	43	39	39	39	44	

(出典：教育学研究科就職部会作成)

2 就職の支援

就職部会は、大学院生の就職支援を行っている（資料教院75）。就職に関しては、指導教員の他、就職担当の教員（就職部員）、教職コーディネータ、就職相談員および職員（学務係）が就職の相談を受け付けている。学生のインターンシップについては、学生の目的に応じた支援を行っている（資料教院76）。

資料教院75 「就職の手引き」及び就職ガイダンス等の行事予定



実施月	平成27年度 就職ガイダンス等行事予定	主対象学年	
		学部	院
4月	教員採用模擬試験結果および教員採用試験対策ガイダンス	4	2
5月	学内公開「教員採用模試」		
	長野県教員採用試験説明会		
	教員採用試験対策模擬試験集団面接		
6月	学内公開「教員採用模試」		
	教員採用試験対策特別セミナー		
7月	長野県教員採用一次選考試験		
8月	教員採用試験対策模擬試験個人面接		
	長野県教員採用二次選考試験		
12月	教員採用試験対策ガイダンス	3	1
2月	学内公開「教員採用模試」		
3月	学内公開「教員採用模試」		

（出典：「就職の手引き（平成27年度）」 信州大学教育学部・就職部会）

資料教院76 インターンシップの実施状況

年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
臨床心理実習 （医学部）	15	17	16	13	14	14
文部科学省	0	0	0	1	0	0
長野県	0	0	0	0	0	3
新潟県	0	0	0	0	0	1
富山県	0	0	0	0	1	0
原子力研究開発機構	0	0	0	0	1	1
計	15	17	16	14	16	19

（出典：教育学研究科学務係作成）

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

- ① 修了者の約85% (第2期平均) が就職しており、そのほとんどが教員または専門職として就職している。そのうち、教員として就職する割合は、44～61%である。また、臨床心理学専修の修了生の中には、専門職として公務員をはじめ長野県内外の病院・福祉施設に就職するものもある (資料教院73, 74, p60～61)。
- ② 教員就職者のうち、長野県に就職した割合は、6割から～9割であり、地域からの期待に込えている (資料教院74, p61)。

### Ⅲ 「質の向上度」の分析

#### (1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

##### 教育課程の明確化

学位授与の方針を平成22年度、教育課程編成・実施の方針を平成26年度、学位論文の審査基準（資料教院37, p32）を平成24年度に新たに策定し、プロセス概念図（資料教院28, p23）により、在学者に学位授与へのプロセスをわかりやすく提示した（学位授与の方針に基づく教育課程の編成、p23）。

平成24年度に全学組織となる学生相談センターと、長野（教育）キャンパスにあらゆる相談を受け付ける学生相談室を設置し（資料教院27, p21～22）、学生の相談体制を強化した。

#### (2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

該当なし。

## 5. 経済学部

- I 経済学部の教育目的と特徴・・・・・・・・・・5-2
- II 「教育の水準」の分析・判定・・・・・・・・・・5-16
  - 分析項目 I 教育活動の状況・・・・・・・・・・5-16
  - 分析項目 II 教育成果の状況・・・・・・・・・・5-78
- III 「質の向上度」の分析・・・・・・・・・・5-89

## I 経済学部の教育目的と特徴

## 1 教育目的

## (1) 学部の教育の目的・目標 (資料経1、経2)

**資料経1：経済学部の理念****基本理念**

信州大学経済学部は、「大学から社会へ、社会から大学へ」をキーコンセプトにした研究教育を実践しています。このコンセプトの下、社会・地域・海外とのネットワークを形成し、現代日本の経済・社会の解明を焦点とする専門研究と教育を実践しています。また、異分野との協力体制を積極的に推し進めることで、現代社会が抱える先端的課題に、積極的かつ主体的に取り組んでいます。

(出典：信州大学経済学部ホームページ「理念・目標」)

**資料経2：経済学部の教育の目標****教育目標**

1. 信州大学経済学部は、社会諸科学の専門教育を踏まえ、激変する現代社会環境の中で、時代に流されず、主体的にその変化に対応出来る能力を持った個人、とりわけビジネスリーダー等、経済社会の構造変化を見据えた問題発見・解決型の実践的な企業人・組織人の育成を目指します。  
そのために、以下の内容の教育を行います。
  - (1) 情報収集・発信リテラシー、コミュニケーション能力を基盤とする基礎的職業能力の育成
  - (2) 企業人・社会人として必要な実践的能力の育成
  - (3) 時代を観る目の涵養
  - (4) 職業的倫理観と市民的公共観の涵養
2. 信州大学経済学部は、企業人講師等による講義、ビジネス・インターンシップ、ボランティア実習等、様々な「大学から社会へ、社会から大学へ」をキーコンセプトとした教育実践を更に発展させます。
3. 信州大学経済学部は、自発的自立的学習を支援し、少人数教育を中心とする相互交流型の教育を実践します。
4. 信州大学経済学部は、既に仕事を持つ社会人に対して、自らの職業能力の高度化を図るためのインタラクティブな教育研究支援を行い、高度職業人を養成します。
5. 信州大学経済学部は、高度専門教育と教育実践から得られた成果を広く地域・社会に還元すべく、生涯教育に対する教育体制を強化します。

(出典：信州大学経済学部ホームページ「理念・目標」)

## (2) 三つの方針

学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー。以下「DP」と表示。)、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー。以下「CP」と表示。)、学位授与の方針(アドミッション・ポリシー。以下「AP」と表示。)は、以下のとおりである(資料経3～経8)。

**資料経3：信州大学学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)****信州大学学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)**

信州大学は、豊かな自然環境と、伝統ある歴史と文化に恵まれた信州に立地する大学です。本学では、かけがえのない自然や文化を愛する気持ちをもって、人類文化・思想の多様性を受け入れ、豊かなコミュニケーション能力を持つ教養人であるとともに、高度な専門知識と能力を備えて自ら課題を発見し、その解決にむけて挑戦する心をもった個性的な人材を育てることを理念・目標に掲げています。本学は、この理念・目標を踏まえて、以下に示す資質、知識や能力を、共通教育(教養教育、基礎教育)、専門教育及び課外活動を含む大学内外での幅広い教育活動を通じて培うこととし、ここに本学の学士課程に共通する学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を定めます。

**豊かな人間性**

- ・みずからを他者や社会との関わりのなかで捉え、自己啓発に努めることができる【自己認識・自己啓発マインド】
- ・理想や倫理観をもって社会の平和的・持続的発展のために行動できる【社会的行動マインド】

**人類知の継承**

- ・人類の知を継承し、それらの成果の上に立って未来について創造的に考えられる【人類知の継承と未来創造マインド】
- ・世界の多様な文化、思想、歴史、芸術に関する幅広い素養がある【多様な文化受容マインド】
- ・科学諸分野の歴史やその成果に関して幅広く理解できる【科学リテラシー】

**社会人としての基礎力**

- ・日本語および外国語を用い、的確に読み、書き、聞き、他者に伝えることができる【言語能力】
  - ・対話を通じて他者と協力し、目標実現のために方向性を示すことができる【コミュニケーション能力、チームワーク力、リーダーシップ】
  - ・多様な情報を適切に取捨選択し、分析・活用できる【情報活用力】
  - ・みずから問題を見出し、すじみちを立てて解決できる【問題発見・解決能力】
- 科学的・学問的思考**
- ・自然や社会の現象を普遍的な尺度や数量的指標を用いて理解できる【普遍的・数量的理解力】
  - ・専門学問分野における知識・技能を備え、それらを応用できる【専門知識と応用力】
  - ・専門以外の他分野に関する体系的な知識や素養がある【専門外の知識】
- 環境マインド**
- ・信州の自然・文化的環境への興味と関心をみずから深めることができる【地域環境に関する理解】
  - ・自然および人類社会が直面している環境問題を理解することができる【環境基礎力】
  - ・**地球環境と人類文化との調和・共生のため、積極的に行動することができる【環境実践力】**
- (出典：信州大学ホームページ「信州大学学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」)

**資料経4：経済学部学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）**

**学部共通**

1. 社会科学には異なる視点やアプローチがあることを理解しつつ、これらの専門知識に基づき、将来の社会や組織の一員として、自らの課題を発見し、主体的に取り組むことができる。【社会における課題発見力と行動力】
2. 専門的知見を生かした提言を、明解で論理的な文章力や、口頭での表現力で発表することができる。【文章力と口頭発表力】

**経済学科**

1. 経済学、経営学、会計学などの基礎知識を修得し、これらを応用した理論的思考ができる。【経済学、経営学、会計学の基礎知識の体系的理解】
2. 現実の経済現象を、データ分析の方法、歴史分析の方法などを踏まえて評価し、それらに基づく政策判断ができる。【経済現象に対する実証分析の方法】

**経済システム法学科**

1. 法律学、政治学の基礎知識を修得し、これらを応用した理論的思考ができる。【法律学、政治学の基礎知識の体系的理解】
2. 現代社会とその組織のあり方について、法的思考力や政治学的識見を踏まえて評価し、それらに基づく政策判断ができる。【現代社会における法的思考と政治学的識見の応用】

(出典：信州大学ホームページ「経済学部 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」)

**資料経5：信州大学教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）**

信州大学教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

学士課程における教育課程編成の方針

1. 信州大学は、学部及び学科又は課程の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、体系的に教育課程を編成します。
2. 信州大学は、教育課程の編成に当たっては、学部の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮します。

学士課程における教育課程実施の方針

1. 信州大学「学位授与の方針」に定めた、卒業時までには修得すべき知識・能力等が、カリキュラム体系のなかでどのように養成されるのかを示すため、シラバスで「学位授与の方針」で定められた知識・能力等との対応と、それら諸能力等を修得する方法が理解しやすいように配慮します。
2. 信州大学は、学生個々人の主体的で活発な勉学意欲を促進する立場から、予習・復習等、授業時間外のさまざまな機会を通じ、諸課題に積極的に挑戦させます。
3. 信州大学は、成績評価の公正さと透明性を確保するため、成績の評定は、各科目に掲げられた授業の狙い・目標に向けた到達度をめやすとして採点し、評価の客観性を担保するため、複次的・複層的な積み上げによる成績評価を行います。

(出典：信州大学ホームページ「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」)

**資料経6：経済学部教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）**

- (1) 基礎科目として、経済学あるいは法学の体系の理論的基盤を構成する科目を学ぶ。さらに、理論や分析手法の応用場面として選定された社会的課題に対応した応用を学ぶ。
- (2) 他分野の考え方を学習し、社会科学の考え方との相違を確認することを通じ、広い視野を獲得する。

けでなく、自らの専門分野を客観視して知見を深めることができる。

- (3) 専門分野の応用力の育成は、知識の獲得に加えて、具体的な知識の使い方を技術として身につけることによって実質化される。
- (4) 英語を初めとする外国語およびインターンシップやボランティアの体験を通じた社会分析の科目等を配置し、学生は現代の産業社会が社会人に求める語学力やコミュニケーション能力といった資質を身につける。

(出典：信州大学ホームページ「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」)

#### 資料経7：信州大学アドミッション・ポリシー

##### (1) 求める学生像

信州の悠久の歴史と文化、豊かな自然環境のもと、地域に根ざし世界に開かれた信州大学は、真理への探究心とチャレンジ精神を培い、高度な専門知識と深い思索力を基にして、課題を探索し解決する能力を備えた人材を育成します。

また、豊かな人間性と広い視野をもち、身につけた知識や技術を人類文化と社会の持続的発展に役立て、世界の平和と自然環境の保全のために活かすことのできる、意欲あふれる若者を育てます。

信州大学は、このような教育の理念・目標を実現するために、以下のような資質を備えた人たちを積極的に受け入れます。

- ・人間と自然を愛し、人との出会いを通じて学び合おうとする人
- ・知的好奇心が旺盛で、課題に向かって主体的に行動できる人
- ・多様性を理解し受け入れ、独自性を大切にする人
- ・社会・環境・国際問題に関心をもち、世界に貢献したいと考える人

##### (2) 入学者選抜の基本方針

信州大学の教育の理念・目標に則り、各学部の特性に応じた適切な方法で多様な入試を実施し、大学教育を受けるにふさわしい能力・適性等を多面的・総合的かつ公正に評価し、選抜します。

(出典：信州大学ホームページ「アドミッション・ポリシー」)

#### 資料経8：経済学部アドミッション・ポリシー

##### 理念

信州大学経済学部は、「大学から社会へ、社会から大学へ」をキーコンセプトにした研究教育を実践しています。このコンセプトの下、社会・地域・海外とのネットワークを形成し、現代日本の経済・社会の解明を焦点とする専門研究と教育を実践しています。また、異分野との協体制度を積極的に推し進めることで、現代社会が抱える先端的課題に、積極的かつ主体的に取り組んでいます。

##### 教育目標

- (1) 信州大学経済学部は、社会諸科学の専門教育を踏まえ、激変する現代社会環境の中で、時代に流されず、主体的にその変化に対応出来る能力を持った個人、とりわけビジネスリーダー等、経済社会の構造変化を見据えた問題発見・解決型の実践的な企業人・組織人の育成を目指します。そのために、以下の内容の教育を行います。
- 1) 情報収集・発信リテラシー、コミュニケーション能力を基盤とする基礎的職業能力の育成
  - 2) 企業人・社会人として必要な実践的能力の育成
  - 3) 時代を観る目の涵養
  - 4) 職業的倫理観と市民的公共観の涵養
- (2) 信州大学経済学部は、企業人講師等による講義、ビジネス・インターンシップ、ボランティア実習等、様々な「大学から社会へ、社会から大学へ」をキーコンセプトとした教育実践を更に発展させます。
- (3) 信州大学経済学部は、自発的自立的学習を支援し、少人数教育を中心とする相互交流型の教育を実践します。
- (4) 信州大学経済学部は、既に仕事を持つ社会人に対して、自らの職業能力の高度化を図るためのインタラクティブな教育研究支援を行い、高度職業人を養成します。
- (5) 信州大学経済学部は、高度専門教育と教育実践から得られた成果を広く地域・社会に還元すべく、生涯教育に対する教育体制を強化します。

##### 求める学生像

信州大学経済学部は、学部の基本理念・教育目標に基づき、次のような意欲を持った学生諸君を求めています。

- (1) 経済と社会のあり方や、それが直面する諸問題に幅広い関心を抱き、ものごとの本質をとらえようとする意欲をもつ人
- (2) たゆまぬ探究心をもって知性を磨き、かたよらない視点から問題解決をめざす意欲をもつ人
- (3) 自分の考えを練り上げ、明晰な表現を通じ説得する能力を身につけようとする意欲をもつ人
- (4) 他者への思いやりと社会における公正を大切にし、自立した社会人として職業を通じ社会に貢献しようとする強い意志をもつ人

大学入学までに身につけておくべき教科・科目

資料を読み解き、考えを表現するとともに他者との円滑なコミュニケーションを図るために、一定の読書量を通して国語の能力を十分身につけておく必要があります。同様な意味で、国内にとどまらない活動のために、英語の能力も必要とされます。数学は、社会科学の諸現象の数理解析のために必要です。また、法学も含めた論理的思考の基礎ともなる科目ですので、基本的な内容とその応用力を身につけてください。また、新聞・ニュース報道等を通じて、経済学部が対象としている社会の諸問題に関心を持つとともに、これらを探究するための基礎としての科目、例えば地理歴史・公民なども学んで入学することを希望します。

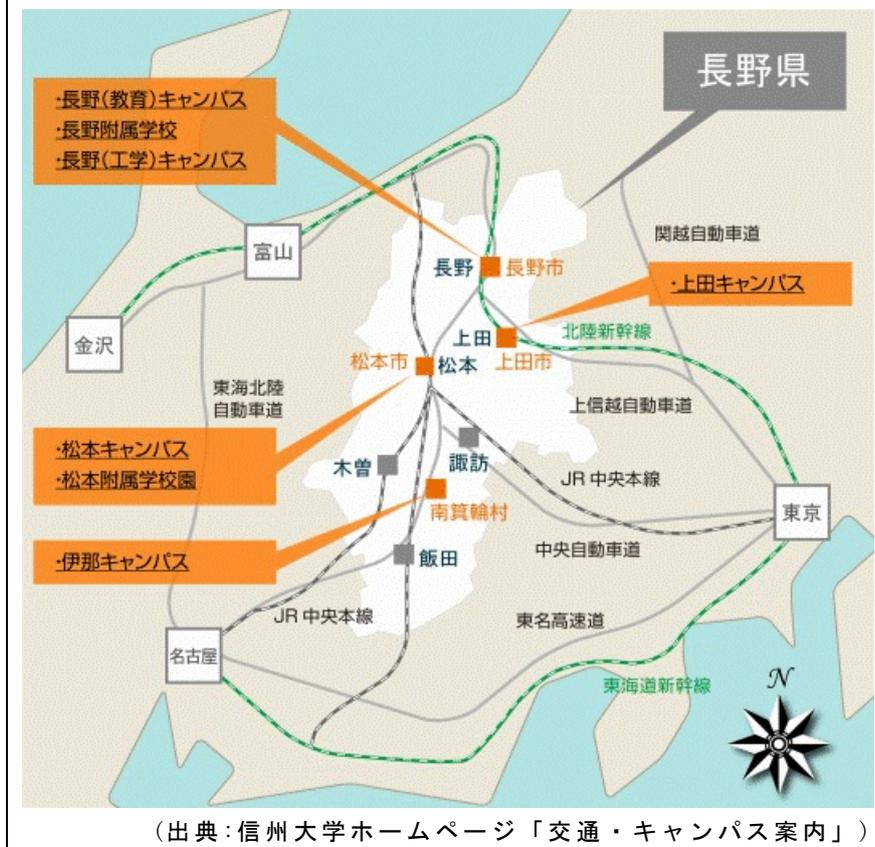
(出典：信州大学経済学部ホームページ「アドミッションポリシー」)

## 2 組織の特徴や特色

### (1) 全学教育機構と学部

本学は8学部で構成され県内5キャンパスに分散しており、経済学部は、全学の共通教育を行う全学教育機構（以下「機構」）とともに松本キャンパスにあり、一貫教育を行っている（資料経9～経11）。

資料経9：キャンパス配置図



資料経10：全学教育機構の概要

#### 全学教育機構とは

全学教育機構は、信州大学が定める教育上の基本方針に基づき、本学の共通教育（各学部が編成する教育課程のうち、本学学生に対する教養教育、基礎教育及び日本語・日本事情に係る教育について、全学協力体制のもとに、全学共通に行う教育）及び教職関係5学部（人文学部、理学部、工学部、農学部及び繊維学部）の教職教育（教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための教育）の実施機関として、各学部と緊密に連携し、全学的な見地から共通教育に係る教育課程の企画及び円滑な実施を図るとともに、本学が掲げる高度専門職業人養成の教育目標を達成するため、学部一貫教育を前提に本学の教育に関する研究開発、企画及び支援を総合的に行うことを目的としています。

#### 1年次生は、全学部生が全学教育機構で学びます。

信州大学は長野県内の5つのキャンパスに8学部が散在していますが、全学部の1年次（医学部医学科は2年次まで）は、松本キャンパスの全学教育機構に集い、共通教育科目を受講します。**全学の教育力を結集した共通教育を実施します。幅広い教養と基礎的能力を獲得できます。**

信州大学の共通教育は、全学教育機構の教員とともに、全学部の教員が当然の責務として行うという全学協力体制に立脚しています。これにより、学生は、全学教員の専門知識を生かした、

いわば大学の総力を結集した科目を学ぶことが可能になります。信州大学は、幅広い教養と基礎的能力に基づく課題探求能力、豊かな人間性や国際性をもった人材育成を目指しております。  
(出典:信州大学全学教育機構ホームページ「全学教育機構とは」)

**資料経11：信州大学全学教育機構規程**

(目的)

第2条 機構は、信州大学(以下「本学」という。)が定める教育上の基本方針に基づき、本学の共通教育(各学部が編成する教育課程のうち、本学学生に対する教養教育、基礎教育及び日本語・日本事情に係る教育について、全学協力体制のもとに、全学共通に行う教育をいう。以下同じ。)及び教職関係5学部(人文学部、理学部、工学部、農学部及び繊維学部をいう。以下同じ。)の教職教育(教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための教育をいう。以下同じ。)の実施機関として、各学部と緊密に連携し、全学的な見地から共通教育に係る教育課程の企画及び円滑な実施を図るとともに、本学が掲げる高度専門職業人養成の教育目標を達成するため、学部一貫教育を前提に本学の教育に関する研究開発、企画及び支援を総合的に行うことを目的とする。

(全学協力体制等)

第3条 共通教育及びこれを履修する学生(以下単に「学生」という。)の修学指導は、全学協力体制により実施するものとし、各学部は、その実施体制の管理及び運営に責任を負うとともに、本学のすべての教員は、その構成員として共通教育の実施及び学生の修学指導を担当することを任務とする。

2 機構は、前条の目的を達成し、次条に定める業務を遂行するため、附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センターその他の関係部局(以下「関係部局」という。)と有機的に連携するとともに、関係委員会等と緊密に連携協力する。

(出典:信州大学規程集)

(2) 学部の特徴

経済学部は、経済学科と経済システム法学科で構成されている。沿革等は以下のとおりである(資料経12)。

**資料経12：組織の沿革・設置目的等**

沿革

- 大正8年(1919年) 旧制松本高等学校設置
- 昭和24年(1949年) 信州大学文理学部設置
- 昭和41年(1966年) 文理学部を改組し、人文学部を設置
- 昭和53年(1978年) 人文学部を改組し、経済学部を設置

設置目的等

- 昭和24年(1949年)に、文理学部が設置された。
- 昭和41年(1966年)に、地域社会の要請やそれぞれの専門的学術の研究教育に十分に対応することを目的に文理学部を改組し、人文学部が設置された。
- 昭和53年(1978年)に、経済学及びこれに関連する分野の専門的知見をもって産業社会と地域社会に貢献できる人材を養成するため、これらの専門分野の教育を行い、またこれらの分野の現代的課題に係る政策研究及びその基礎研究を行うことを目的として、経済学部が設置された。

(出典：冊子「ミッションの再定義に基づく教育研究の高度化・機能強化」)

経済学部と他大学、研究機関、自治体との教育及び研究に関する連携協定は以下のとおりである(資料経13～資料経15)。

**資料経13：海外大学との協定**

協定の概要	連携大学
協定に基づき、ハワイ大学教員の本学部夏季集中講義への派遣、及び本学部学生のハワイ大学での短期研修を実施している。	ハワイ大学ウィリアムS. リチャードソン法科大学院

(出典:経済学部作成)

## 資料経14：ハワイ大学との連携協定

日本国信州大学経済学部（経済学科・経済システム法学科）及び  
 信州大学大学院経済・社会政策科学研究科と  
 アメリカ合衆国ハワイ大学ウィリアムS．リチャードソン法科大学院及び  
 行政学プログラムとの間における  
 学術研究交流及び教育交流に関する協定書

日本国信州大学経済学部（経済学科・経済システム法学科）及び経済・社会政策科学研究科とアメリカ合衆国ハワイ大学ウィリアムS．リチャードソン法科大学院及び行政学プログラムは、以下の規定に基づき、署名日より両機関の学術研究交流及び教育交流プログラムを設立することに同意する。

## (A) 学術研究交流及び教育交流パートナーシップ

1. 両機関はこの協定により学術研究交流及び教育交流を推進し、両大学関係者に対してのみならず、広く両地域社会・日米関係及び日米双方の社会的関心に配慮したテーマ等を設定し、研究・教育交流を行うこととする。

2. この協定により企画される交流・催しは、適宜、弁護士会、大使館、その他の機関等の共催・後援者に支援を受けながら、信州大学経済学部が主たる開催者として行われる「日米環太平洋学術友好協力推進プロジェクト」の中に位置付けられる。

3. この協定により、また上記プロジェクトの一部として、信州大学経済学部はハワイ大学法科大学院の専任教員1名又は2名を短期間信州大学経済学部にも有給の非常勤講師として招聘し、集中講義の専門科目の1つを担当する他、期間中1回の特別講演を行うこととする。

4. 集中講義の担当に関しては、信州大学における非常勤講師の発令をもって任務及び期間並びに給与を定めるものとする。

5. この集中講義は、正規の授業時間数15回分を5日間（土曜・休日を除く）の間に行い、1日平均3回（1回＝90分）の講義を行うものとする。

6. この集中講義を担当する教員は最終日までの間に試験を行い、その採点を滞在期間内に終了して提出することとする。ただし、単位認定等に関する様々な業務の支援は、開催場所の機関が責任をもって行うこととする。

7. 1回の特別講演及び集中講義専門科目の使用言語は英語によるものとする。この専門科目の教授方法はハワイ大学法科大学院で行われているやり方と同様の形とする。したがって信州大学の受講生はアメリカ式の法学及び行政学の授業スタイルをそのまま享受する形となる。また、受講生は事前に受講登録の際に英語の学業成績または英語資格試験の評点等を申告し、相応の高い英語力が認められた者が受講できるものとする。

8. 集中講義及び特別講演の給与・謝礼は、講義及び講演終了後に精算し支払われるものとする。具体的な金額・支給項目等に関しては、毎回、スケジュール作成に先立ち、旅費、食費、宿泊費を含み、その遂行に支障のない額が考案され、事前に通知されることとする。

## (B) 学術交流推進のための研究者間相互訪問と研究交流等の協力体制について

9. 両機関は双方の研究者が短期の（原則1年以内程度）学術研究目的の滞在希望がある場合は、計画に十分な時間と、適切な資金を有する研究者であれば客員研究員として可能な限り協力し受け入れるものとする。専攻分野についての制限は設けないこととする。

10. 短期（原則1年以内程度）の研究滞在の受け入れの際には、査証等入国管理局との問題もあり、可能な範囲内で、何らかの名称をもって、受け入れの身分・称号（ステイタス）を、機関として保証することとし、双方の大学院長・学部長は、身分・称号と受け入れの旨の当局宛の文書を発行することとする。

11. 双方の短期研究滞在者には、研究棟内に、研究訪問者用に提供する共同スペース（個室であることを要しない）を最低限提供するものとする。また、研究図書、研究資料等の使用、図書館の使用、コンピューター等機器・設備の使用に関しては可能な限り提供するものとする。ただし、短期滞在者の宿舍の提供・給与の支給・旅費の支給は、いくつかの例外を除いて、含まないこととする。

## (C) 総括規定と合意事項

12. 本協定の運用を円滑に実施するために、双方で運営担当者（コーディネーター）を決定することとする。運営担当者（コーディネーター）は、双方の学部長・大学院長が任命する。

13. コーディネーターを運営上の諸問題を補助し支援するために、3名の学部長・大学院長は、可能な限り協力するものとする。

14. この協定は、研究プロジェクト・教育プロジェクトの双方共に、他の機関からの協力・資金提供・ファンド設立及びその他のサポートを、受け入れることができるものとする。

15. 本協定書は署名の日から5年間有効とし、更新の際は、双方で協定書の内容を再検討し、双方の合意に基づき更新できるものとする。

16. 本協定は、双方の合意により、改訂かつ終結できるものとする。どちらか一方が協定の終結を望む場合には、少なくとも1年前に相手側に通知しなければならない。

17. 本協定書は、日本語及び英語で作成し、いずれも同等の効力を有するものとする。

署名日 2013年10月3日

信州大学経済学部（経済学科・経済システム法学科）学部長／  
 信州大学大学院経済・社会政策科学研究科長

ハワイ大学  
 ウィリアムS．リチャードソン法科大学院長

署名 (Signature)

署名 (Signature)

徳井 丞次 (Joji Tokui)

エイヴィアム・ソイファー (Aviam Sofier)

ハワイ大学  
社会科学学院 (行政学プログラム) 長

署名 (Signature)  
デニス・コナン (Denise Konan)

(出典：日本国信州大学経済学部 (経済学科・経済システム法学科) 及び信州大学大学院経済・社会政策科学研究科とアメリカ合衆国ハワイ大学ウィリアム・S. リチャードソン法科大学院及び行政学プログラムとの間における学術研究交流及び教育交流に関する協定書)

**資料経15：松本市との連携協定**

**地域づくりに係る信州大学経済学部と松本市との連携協力に関する覚書**

信州大学経済学部と松本市(以下「両機関」という。)は、平成17年6月13日付けで締結した信州大学と松本市との「連携協定書」に基づき、地域づくりの分野において相互に連携・協力し、資源及び研究成果等の交流を促進するため次のとおり覚書を締結する。

(目的)

第1条 この覚書は、両機関の連携のもと、地域コミュニティを基盤とする地域づくりの分野で相互に協力し、20年30年先も安心して幸せに暮らしていくことができる、住民が主体となった地域づくりの推進に寄与することを目的とする。

(連携事項)

第2条 両機関は、次に掲げる事項について連携し、協力する。

- 一 地域づくり活動に対する支援に関すること。
- 二 地域づくりに資する人材育成に関すること。
- 三 地域づくりに資する調査・研究に関すること。
- 四 地域づくりの推進に向けた意識啓発に関すること。
- 五 その他両機関が必要と認める事項

(研究連絡会)

第3条 前条に掲げる事項の円滑な推進を図るため、研究連絡会を設置する。

(負担金)

第4条 前条に掲げる研究連絡会は、両機関からの負担金等により運営する。

(有効期間)

第5条 この覚書は、平成25年3月13日から発効し、有効期間は3年間とする。ただし、その間の連携・協力内容の評価を行い、両機関の合意により更新することができる。

(細目)

第6条 この覚書に定める事項について疑義が生じたとき又はこの覚書に定めのない事項について必要があるときは、両機関が協議して定める。

上記覚書の締結を証するため、本覚書2通を作成し、両機関記名押印のうえ、各自その1通を保有する。

平成25年3月13日

信州大学経済学部長  
徳井 丞次

松本市長  
菅谷 昭

(出典：地域づくりに係る信州大学経済学部と松本市との連携協力に関する覚書)

**(3) カリキュラム概要・特色**

専門科目を体系的に編成し、系統的・段階的履修を可能としている(資料経16～経21)。

演習科目では少人数教育を実施している。

演習の単位認定には、演習論文提出を必須としている。

後述の「産業論特論」等の産業・行政の第一線で活躍する人材による講義科目、インターンシップ等のキャリア科目、TOEIC等の資格取得を促す科目を展開し、社会での即応力を養成している(後掲資料経80～経82、経86)。学習密度の低下を防ぐため、履修登録単位数に上限を課している(資料経17)。

**資料経16：経済学部の科目コード**

**科目コードとは**

すべての科目には「科目コード」があり、アルファベットと3桁の数字からなっています。この

うち先頭のアルファベットが同じ科目は、同一の「グループ科目」に属することを示しています。

科目コードのうち3桁数字の最初の番号は、それが0～3の場合は「レベル」を表しています。最初の数字が0か1の科目は、それぞれ「レベル0」「レベル1」の科目で、最初の数字が2の科目は「レベル2」の科目、また最初の数字が3の科目は「レベル3」の科目となります。なお、0～3以外の数字(4～9)が3桁数字の最初の番号となる科目は、レベル設定とは無関係な科目です。残りの2桁の数字は科目番号あるいは教員コード番号を表しています。

また、科目名の後のマル数字は単位数を表しています。

以上の説明を例示すると、例えば、「B111 資本主義経済の基礎理論④」とある場合には、先頭のアルファベットがグループ科目(Bグループ科目)、最初の数字がレベル(レベル1)、次の2桁の番号が科目ごとに付与される科目番号(11)、そして科目名(資本主義経済の基礎理論)、単位数(4単位)を意味しています。

(出典：平成27年度経済学部学生便覧)

①専門教育

資料経17：各学科(課程)のカリキュラムの構成

学年別の履修モデル(例)

履修登録単位数の上限設定： 共通教育科目 ≤ 各学期 24 単位(1学期当り) 共通教育科目 + 専門科目 ≤ 44 単位【3年次編入生は 60 単位】(1年度当り)				
	入学年度(1年次)	2年次	3年次	最終学年(4年次)
共通教育	外国語科目:4単位必修 健康科学科目:1単位必修 新入生ゼミナールⅠ・Ⅱ: 各2単位履修推奨 教養科目:24単位必修 (留学生は20単位) 計33単位 (留学生は計29単位)※1	外国語科目:4単位必修 (留学生は教養科目4単位)  計4単位 (留学生は計8単位)※1	履修登録の上限単位数の範囲内で、自由履修	履修登録の上限単位数の範囲内で、自由履修 【卒業単位】 累計37単位以上 (内訳は略)
専門科目	【経済学科】 経済数学入門:2単位 統計学Ⅰ:2単位 入門 日本の経済と社会:2単位 【法学科】 刑法:4単位 物権法:2単位 【学科共通】 情報処理Ⅰ・Ⅱ:各2単位 (留学生は日本の社会と日本語Ⅰ・Ⅱ:各2単位)※1 計10単位 (留学生は計14単位)※1	専門演習Ⅰ:4単位  選択必修科目ほか:36単位 (留学生は日本の社会と日本語Ⅲ・Ⅳ各2単位と選択必修科目28単位→計32単位)  計40単位 ※2 (留学生は計36単位)※1	4年次進級要件単位数: 共通教育科目+専門科目 ≥100単位  専門演習Ⅱ:4単位 専門演習論文:2単位 その他専門科目: ~38単位  計最大44単位 ※2 (3年次編入生は計最大60単位 ※2)	最終学年指定単位数:8単位以上 (卒業論文4単位など) ほか、履修登録の上限単位数の範囲内で自由履修 ※2 【卒業単位】 累計90単位以上 (内訳は略)

※1 外国人留学生は、「日本の社会と日本語Ⅰ・Ⅱ」(各2単位)を履修できるため、1年次に履修できる専門科目は計14単位となります。そのため、2年次以降に外国語4単位のほかに、不足分の教養科目を履修する必要があります。

※2 専門科目のうち、「各種資格試験科目」、「インターンシップ」、「ボランティア」、「社会科学特講(臨床法学)」については、履修登録単位数上限のカウントに含まれません。

(出典：平成27年度経済学部学生便覧)

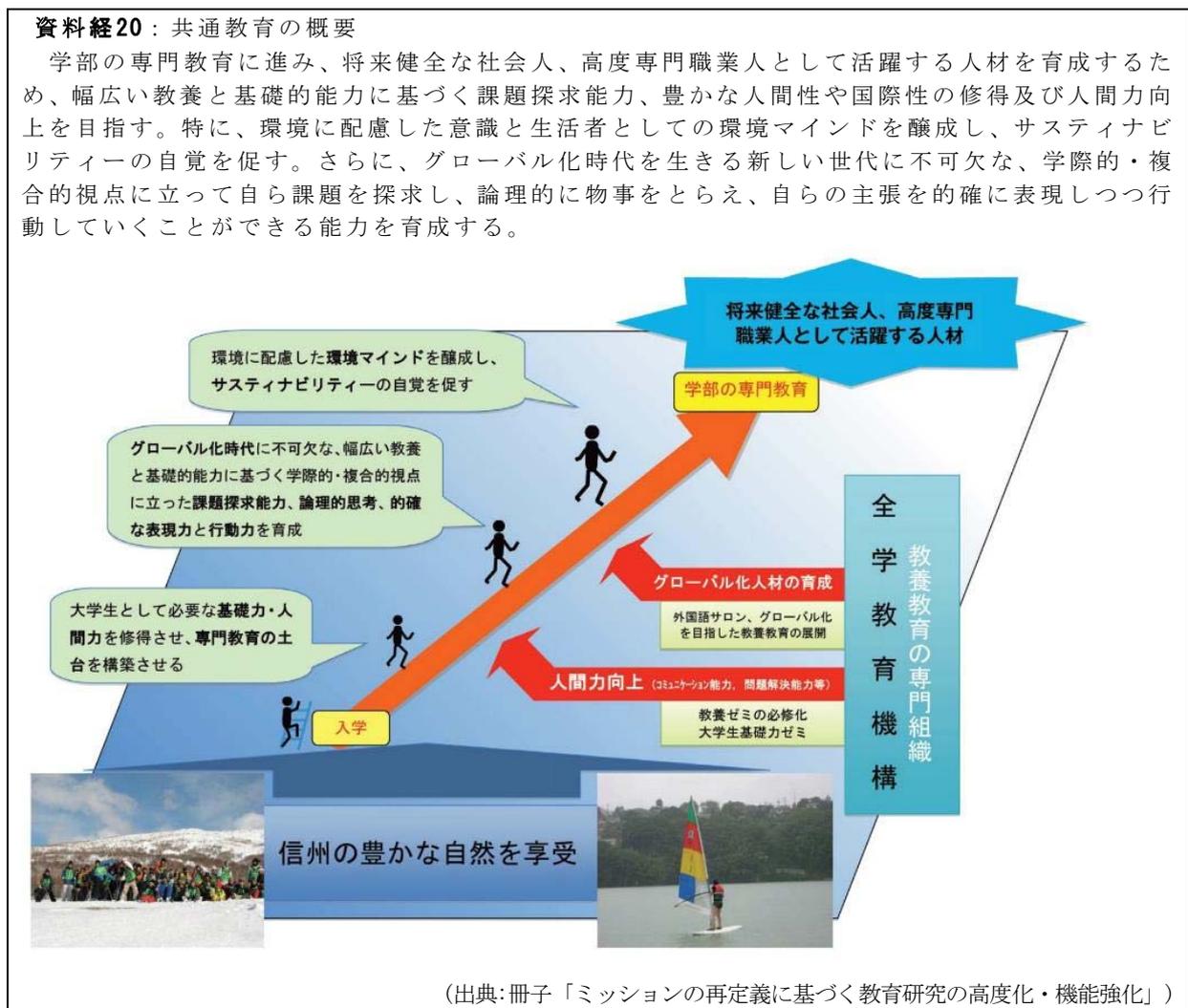
資料経 18：科目群の例

グループ	科目名(○囲い数字は単位数)	科目コード	グループ	科目名(○囲い数字は単位数)	科目コード	
A	現代社会への多角的視点	社会思想の諸相②	P1	契約法④	P111	
		社会科学特講Ⅰ～Ⅴ②*		不法行為法②	P112	
		【編】社会科学入門特論Ⅰ②または④		家族関係法②	P113	
		【編】社会科学入門特論Ⅱ②または④		会社法④	P114	
		【編】社会科学入門特論Ⅲ②または④		有価証券法②	P115	
	【編】社会科学入門特論Ⅳ②または④	労働法④		P116		
	資本主義経済の基礎理論④	民事訴訟法②		P117		
B	資本主義経済の分析	経済政策④			担保法②	P211
		経済史④			商事取引法②	P212
		景気循環論②			社会保障法②	P217
		自由研究B②			行政法④	P132
		ミクロ経済学Ⅰ④			刑事訴訟法②	P134
C	市場経済の理論的基礎	マクロ経済学Ⅰ④		P2	政治学④	P136
		経済数学入門②			国際政治④	P137
		ゲーム理論入門②			行政学Ⅰ②	P138
		ミクロ経済学Ⅱ②			行政学Ⅱ②	P139
		マクロ経済学Ⅱ②			自治体法②	P231
		産業組織④	現代法務Ⅰ②		Q110	
		公共経済学②	現代法務Ⅱ②		Q111	
D	統計的分析の理論と応用	自由研究C②	Q	現代法学特講Ⅰ～Ⅶ②*	Q201～208	
		統計学Ⅰ②		現代政治学特講Ⅰ～Ⅶ②*	Q211～218	
		統計学Ⅱ④		労働・福祉論特講Ⅰ～Ⅶ②*	Q221～228	
		計量経済学②		【編】現代法律・政治特講Ⅰ②または④	Q231	
		経済統計②		【編】現代法律・政治特講Ⅱ②または④	Q232	
E	政府の役割と財政	数理統計学②	R	【編】現代法律・政治特講Ⅲ②または④	Q233	
		自由研究D②		法学・政治学演習Ⅰ④	R5**	
		財政④		法学・政治学演習Ⅱ④	R6**	
F	金融	地方財政②		法学・政治学演習論文②	R7**	
		自由研究E②		【編】編入生特別演習(経済システム法学科)②	R901	
		金融④		総合法律学特別演習Ⅰ②	R911	
G	国際経済と日本経済	世界金融システム②		総合法律学特別演習Ⅱ②	R912	
		国際金融②		総合法律学特別演習Ⅲ②	R913	
		自由研究F②		【留】日本の社会と日本語Ⅰ②	S401	
		入門 日本の経済と社会②		【留】日本の社会と日本語Ⅱ②	S402	
		世界経済④	【留】日本の社会と日本語Ⅲ②	S403		
		国際経済の理論④	【留】日本の社会と日本語Ⅳ②	S404		
		経済発展論②	【留】日本語資格試験Ⅰ②	S405		
		日本経済論②	【留】日本語資格試験Ⅱ②	S406		
		海外経済分析A②	他学部聴講Ⅰ～Ⅲ②または④*	S411～413		
		海外経済分析B②	他学部聴講Ⅰ～Ⅲ②または④*	S420～422		
H	現代経済学応用科目	国際経済の現状と課題②	T	【編】他学部聴講Ⅰ～Ⅹ②または④*	S420～429	
		日本経済の現状と課題②		産業論特論Ⅰ～Ⅱ②*	T421～422	
		自由研究G②		現代の産業・社会事情Ⅰ～Ⅱ②*	T441～442	
		現代経済学特講Ⅰ②		経営者と企業Ⅰ～Ⅱ②*	T461～462	
		現代経済学特講Ⅱ②		インターンシップⅠ～Ⅱ②*	U451～452	
I	現代の企業経営	現代経済学特講Ⅲ②	U	ボランティアⅠ～Ⅱ②*	U461～462	
		【編】現代経済・経営特講Ⅰ②または④		産業社会資格試験Ⅰ～Ⅴ②*	U471～475	
		【編】現代経済・経営特講Ⅱ②または④		英語文献研究Ⅰ～Ⅳ②*	V771～774	
		【編】現代経済・経営特講Ⅲ②または④	英語資格試験Ⅰ②	V791		
		【編】現代経済・経営特講Ⅳ②または④	英語資格試験Ⅱ②	V792		
J	企業会計	経営学②	W	中国語資格試験Ⅰ②	W891	
		経営組織論②		中国語資格試験Ⅱ②	W892	
		企業経営の現状と課題②		情報処理Ⅰ②	X901	
K	地域社会の生活と政策	会計事例②	X	情報処理Ⅱ②	X902	
		社会調査法②		情報処理A②	X911	
		都市政策論②		情報処理B②	X912	
		福祉政策論②		電子商取引システム②	X921	
		労働政策論②		情報システム②	X922	
L	経済学演習	自由研究L②		情報ネットワーク②	X923	
		経済学演習Ⅰ④		情報処理資格試験Ⅰ②	X991	
		経済学演習Ⅱ④		情報処理資格試験Ⅱ②	X992	
		経済学演習論文②		スポーツ産業論②	Y831	
M	基礎的科目	【編】編入生特別演習(経済学科)②		スポーツ組織論②	Y832	
		憲法④	スポーツ・自己・発見②	Y833		
		刑法④	スポーツ・社会演習Ⅰ④	Y84*		
		物権法②	スポーツ・社会演習Ⅱ④	Y85*		
		現代日本政治④	スポーツ・社会演習論文②	Y87*		
N	卒業論文の作成	卒業論文④	Y	スポーツ資格試験Ⅰ②	Y861	
				スポーツ資格試験Ⅱ②	Y862	
O			Z			

(出典：平成 27 年度経済学部学生便覧)

② 共通教育

**資料経19：信州大学学則**  
 (教育課程の編成方針)  
 第42条 各学部は、本学、当該学部及び学科又は課程等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、体系的に教育課程を編成するものとする。  
 2 教育課程の編成に当たっては、学部等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮するものとする。  
 (授業科目の区分)  
 第43条 本学で開設する授業科目は、その内容により共通教育科目及び専門科目に分ける。  
 (出典：信州大学規程集)



**資料経21：共通教育科目区分一覧**

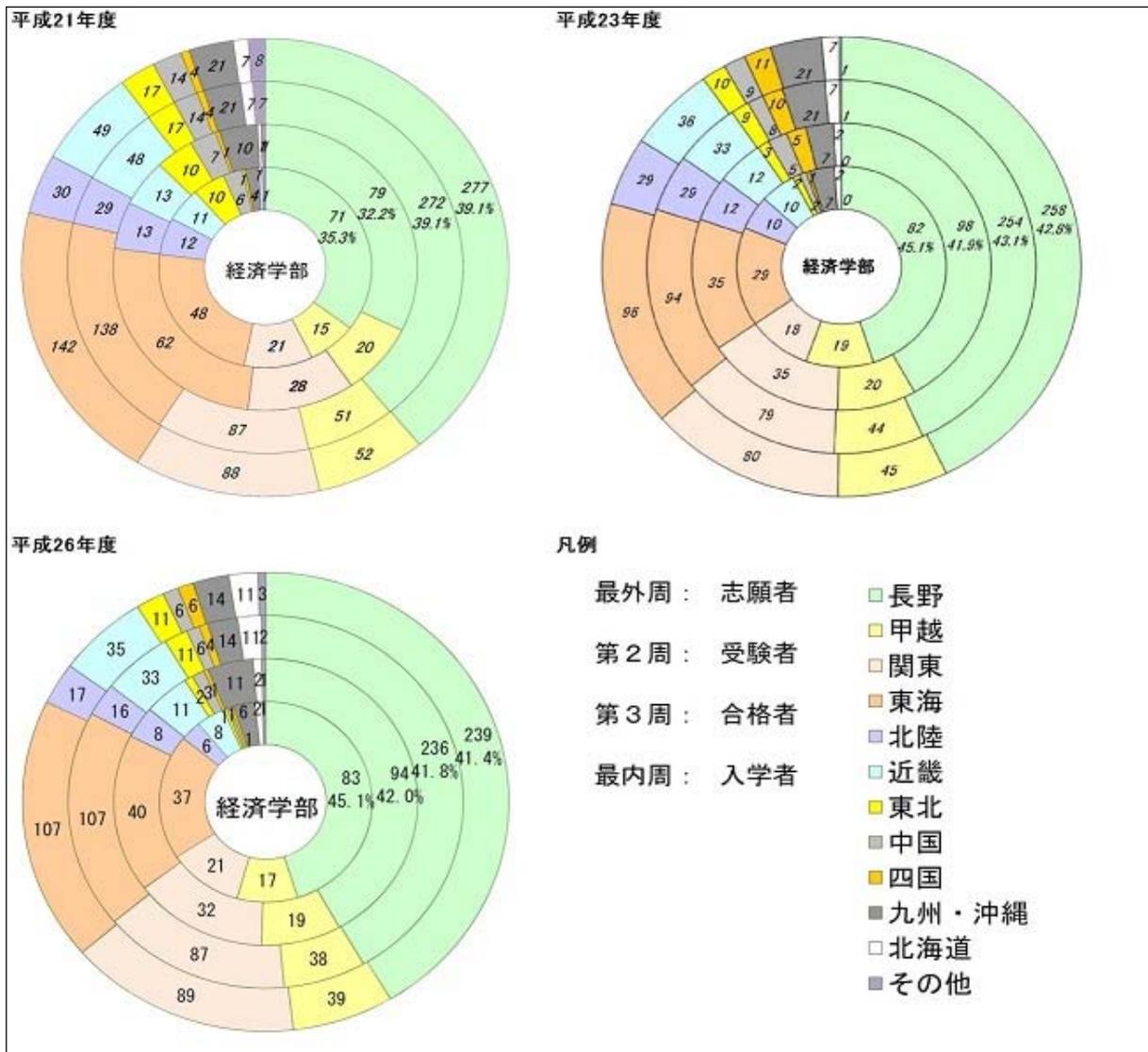
教養科目：学部・学科(課程)を越えた全学生の素養として必要な科目	
教養講義	信州大学の理念・目的に沿って、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するための教養科目
教養ゼミナール	
基礎科目：大学教育(学部一貫教育)の基礎となる科目	
外国語科目	全学生に共通に必要な科目
健康科学科目	
新生ゼミナール科目	
基礎科学科目	複数の学部で基盤となる科学について共通教育で開講する科目
日本語・日本事情	
日本語・日本事情科目	外国人留学生のために開講する科目
専門入門科目	
専門入門科目	学部の専門科目として開講され、他学部生は教養科目として履修できる科目

(出典：経営企画課作成)

3 入学者の状況

志願者、入学者ともに5割強を全国から幅広く集めている。東海、関東の割合が大きい(資料経22)。

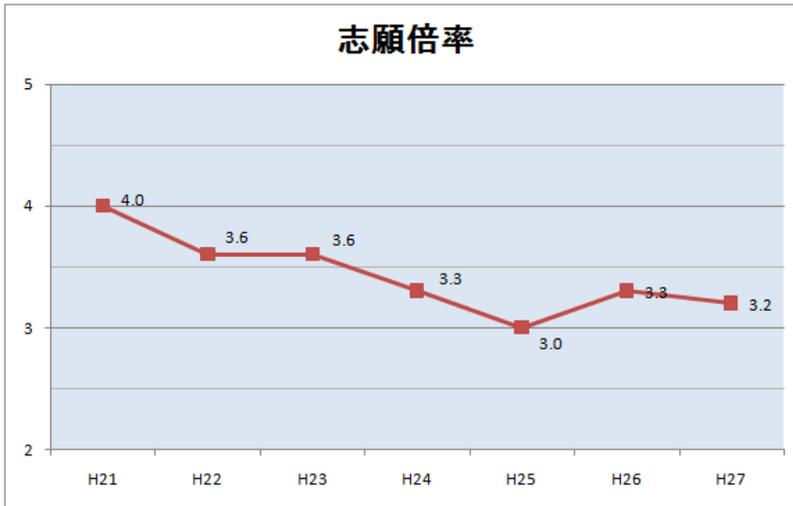
資料経22：志願者数等の県別割合



(出典：経営企画課作成)

一般入試の志願倍率は3倍から4倍の間で推移している（資料経23）。

資料経23： 一般入試志願倍率の推移

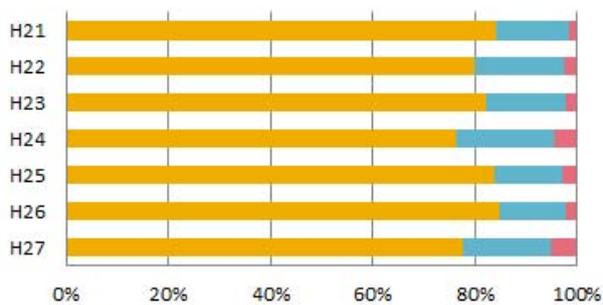


（出典：経営企画課作成）

入学者は、新卒が8割前後で、近年は女性入学者比率が約3割で安定的に推移している（資料経24、経25）。

資料経24：入学者に占める新卒者・既卒者の割合

### 高校卒業年

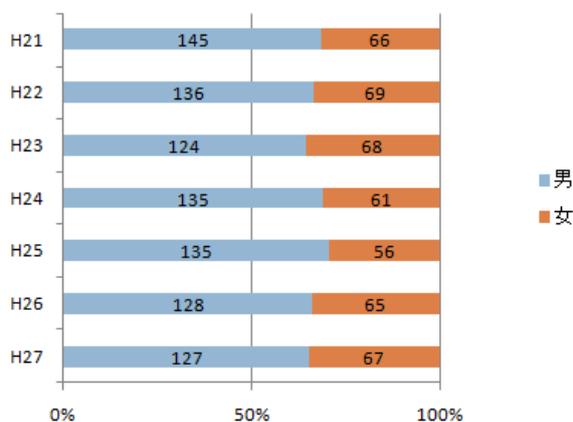


	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
■新卒	169	155	150	137	152	156	151
■前年卒	29	34	28	34	24	24	33
■その他	3	5	4	8	5	4	10

（出典：経営企画課作成）

資料経25：入学者に占める男女比の割合

### 男女比



（出典：経営企画課作成）

入試類型別の募集人員等は以下のとおりである（資料経26）。

**資料経26： 募集人員**  
**I 入学定員(募集人員)**

学部	学科・課程・系等	入学定員	募 集 人 員								
			一 般 入 試		AO入試	推薦入試Ⅰ(センター試験を課さない)	推薦入試Ⅱ(センター試験を課す)	帰国子女入試	社会入試	私費外国人留学生入試	
			前期日程	後期日程							
経済学部	経済学科	125	85	15	—	(3)	25	—	—	—	若干
	経済システム法学科	60	40	10	—		10	—	—	—	若干
	計	185	125	25	—	(3)	35	—	—	—	

(出典：平成27年度入学者選抜要項)

入試の教科と科目は以下のとおり。前期日程で、東京と関西にも試験会場を設けている（資料経27～経30）。

**資料経27：一般入試（平成27年度経済学部）**

【前期日程】選抜期日2月25日（木）、合格発表日3月7日（月）

【後期日程】選抜期日 個別学力検査等は課さない、合格発表日3月20日（日）

日程	学科等名 (募集人員)	大学入試センター試験の 利用教科・科目名		個別学力検査等	
		教科	科目名等	教科等	科目名等
前期日程	経済学科 (85人)	国 地歴 公民 数 理 外	国 世B、日B、地理B 現社、倫、政経、倫・政経 数Ⅰ・数A 数Ⅱ、数Ⅱ・数B、簿、情報、◎工から1 物、化、生、地学から1 又は 物基、化基、生基、地学基から2 英、独、仏、中、韓から1 〔5教科7科目〕又は〔5教科8科目〕又は 〔6教科7科目〕又は〔6教科8科目〕	国 数 外	国語総合 数Ⅰ・数Ⅱ・数A・数B コミュニケーション英語Ⅰ・ コミュニケーション英語Ⅱ・ コミュニケーション英語Ⅲ・ 英語表現Ⅰ・英語表現Ⅱ
後期日程	経済学科 (15人)	外			個別学力検査等は課さない。

(出典：平成27年度入学者選抜要項)

**資料経28：推薦入試（平成27年度経済学部）**

選抜方法等 大学入試センター試験及び個別学力検査を免除し、出願書類（調査書、推薦書、自己申告書、その他提出書類）の内容及び面接（口頭試問）の結果を総合して選抜します。

(出典：平成27年度入学者選抜要項)

**資料経29：私費外国人留学生入試**

学部・学科 等名	平成27年度日本留学試験								TOEIC、TOEFL	本学が実施する学 力検査等	
	日本語	総合 科目	数学	理 科			備考	基礎学力 出題言語			成績 利用
経済学部	○	○	コース 自由	-	-	-		自由 選択	6月/ 11月	2014年～2015年に受験した TOEIC、TOEFL(PBT/iBT)い ずれかのスコア	小論文 面接

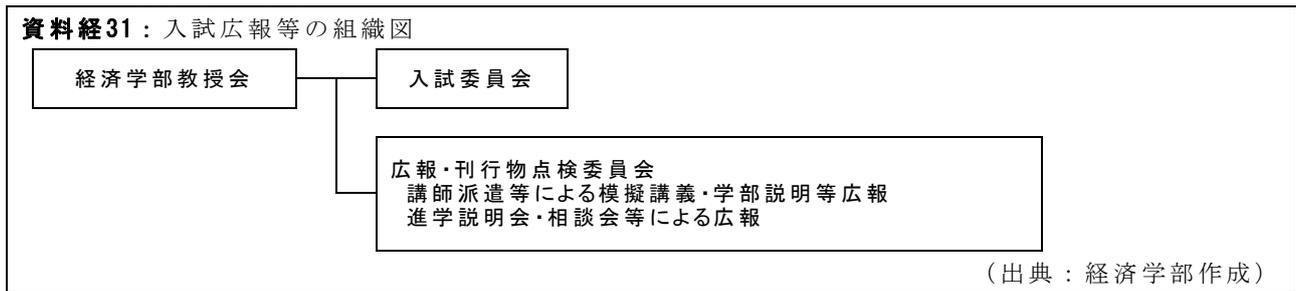
(出典：平成27年度入学者選抜要項)

**資料経30： 試験場の概要、当該試験場の受験者数の推移等**

年度	東京検査場	志願 者数	関西検査場	志願 者数
平成22年度	東京理科大学神楽坂キャンパス九段校舎	41	大阪医科大学本部キャンパス	24
平成23年度		55		43
平成24年度		63		43
平成25年度		47		28
平成26年度	國學院大學渋谷キャンパス	77	佛教大学二条キャンパス	43
平成27年度		52		31

(出典：経済学部一般入試（前期日程）実施要項)

入試委員会が入試の実施と分析を担当し、広報・刊行物点検委員会が広報活動を分担している（資料経31）。



・想定する関係者とその期待

受験生・在学生会は専門分野の勉強が実際の社会で役立つことを期待している。

在学生会は外国語教育の充実に期待している。

在学生会とその家族はきめ細かな就職支援に期待している。

受験生・在学生会・その家族・高校の進路担当者は、就職先（率）に期待している。

就職先企業は能動的に課題解決に取り組む人材の育成に期待している。

就職先企業はグローバルビジネスで活躍できる人材の養成に期待している。

就職先企業は外国語教育の充実に期待している。

地域社会は地域で活躍できる人材の育成に期待している。

地域市民は、公開講座等の開設に期待している。

II 「教育の水準」の分析・判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

(1) 教員組織および教育体制

① 学術研究院、全学教育機構と学部の関係

教員の流動性を確保し、全学的な教育、研究マネジメントを可能とするため、教員組織として学術研究院を平成26年度より設置した。また、学士課程の共通教育科目を担当する教育組織として全学教育機構を設置している(資料経32)。

資料経 32 : 学術研究院と学部との関係



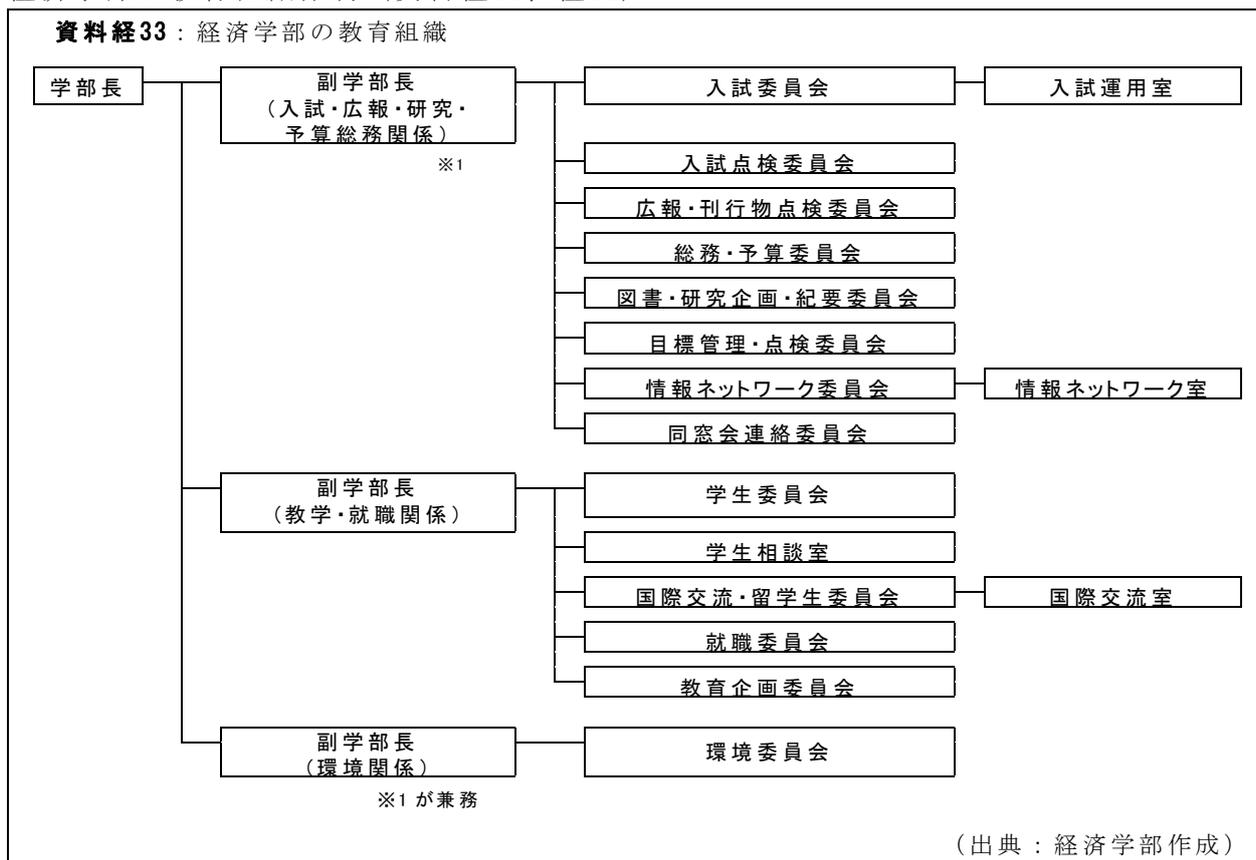
学術研究院は、3の学域・10の学系により構成する。すべての教員は、いずれかの学系に所属し、職務として次のいずれかに携わる。(複数の兼務もあり)

- 1) 学部・大学院、全学教育機構において、教育・研究に携わる。
- 2) 医学部附属病院において、診療・教育・研究に携わる。
- 3) 先鋭領域融合研究群において、研究に携わる。
- 4) 大型研究センター(拠点形成型の外部資金プロジェクト)において、研究に携わる。
- 5) 各教育研究(支援)センター等において、担当業務に携わる。

これにより、先鋭領域融合研究群の研究者への研究重点環境の提供や学部横断型の教育を実現し、研究の高度化や時代の要請に柔軟かつスピーディーに対応した教育を推進する。

(出典:「大学概要2015」をもとに経営企画課修正)

② 経済学部の教育組織体制（資料経33、経34）



**資料経34：各学科の専任教員数**

学科	教授	准教授	講師	助教	助手	合計
経済学科	12	3	4	0	0	19
（設置審上の必要数）	(5)					(10)
経済システム法学科	6	5	0	1	0	12
（設置審上の必要数）	(5)					(10)

注．経済システム法学科の教員数については、兼務教員を含む。（出典：経済学部作成）

③ 共通教育

共通教育の実施体制は以下のとおりである。（資料経35～経37）

**資料経35：信州大学全学教育機構規程**  
 （目的）  
 第2条 機構は、信州大学（以下「本学」という。）が定める教育上の基本方針に基づき、本学の共通教育（各学部が編成する教育課程のうち、本学学生に対する教養教育、基礎教育及び日本語・日本事情に係る教育について、全学協力体制のもとに、全学共通に行う教育をいう。以下同じ。）及び教職関係5学部（人文学部、理学部、工学部、農学部及び繊維学部をいう。以下同じ。）の教職教育（教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための教育をいう。以下同じ。）の実施機関として、各学部と緊密に連携し、全学的な見地から共通教育に係る教育課程の企画及び円滑な実施を図るとともに、本学が掲げる高度専門職業人養成の教育目標を達成するため、学部一貫教育を前提に本学の教育に関する研究開発、企画及び支援を総合的に行うことを目的とする。  
 （全学協力体制等）  
 第3条 共通教育及びこれを履修する学生（以下単に「学生」という。）の修学指導は、全学協力体制により実施するものとし、各学部は、その実施体制の管理及び運営に責任を負うとともに、本学のすべての教員は、その構成員として共通教育の実施及び学生の修学指導を担当することを任務とする。  
 2 機構は、前条の目的を達成し、次条に定める業務を遂行するため、附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センターその他の関係部局（以下「関係部局」という。）と有機的に連携するとともに、関係委員会等と緊密に連携協力する。  
 （共通教育企画実施部）

第10条 機構に、共通教育企画実施部を置く。

2 共通教育企画実施部は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 共通教育に係る教育課程の企画及び立案に関すること。
  - (2) 共通教育の授業担当者の選任に関すること。
  - (3) 共通教育の授業の実施に関すること。
  - (4) 専門科目と共通教育との実施上の調整に関すること。
  - (5) 高年次共通教育及び日本語・日本事情に係る留学生教育の企画及び調整に関すること。
- (共通教育修学支援部)

第11条 機構に、共通教育修学支援部を置き、学生の学習支援その他の修学支援に関する業務を行う。

2 共通教育修学支援部に、修学支援部門を置く。

3 共通教育修学支援部に責任者を置き、副機構長(修学支援担当)をもって充てる。

(クラス副担任)

第16条 修学支援部門に、各学部のクラス担任を補佐するため、クラス副担任を置く。

2 クラス副担任は、機構の専任教員が担当し、当該学部のクラス担任との密接な連携を図るものとする。

(教授会)

第17条 機構に、信州大学学則(平成16年信州大学学則第1号)第25条第2項の定めるところにより、信州大学全学教育機構教授会(以下「教授会」という。)を置く。

2 教授会に関し必要な事項は、別に定める。

(運営会議)

第18条 機構に、機構の運営に関する具体的事項を審議するため、信州大学全学教育機構運営会議(以下「運営会議」という。)を置く。

2 運営会議は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 機構長
- 二 副機構長
- 三 基幹教育センター長及び言語教育センター長
- 四 共通教育企画実施部の各教育部門長及び修学支援部門長並びに教職教育部副責任者
- 五 その他機構長が必要と認める者

3 運営会議に議長を置き、機構長をもって充てる。

4 議長は、運営会議を主宰する。

5 学長は、必要又は機構長の要請に応じて、運営会議に出席し、審議に参加するとともに、共通教育及び機構の組織の運営に関する事項を、運営会議に提示し、審議を求めることができる。

6 運営会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 共通教育の企画及び実施並びに修学支援に関する事項
- 二 機構の運営組織に関する事項
- 三 基幹教育センター及び言語教育センターの人事方針(採用人事方針を含む。)に関する事項
- 四 教職教育部の業務に関する事項

7 運営会議は、必要に応じて、その審議結果を教授会に報告するものとする。

(学長及び共通教育推進会議)

第19条 共通教育の実施に係る最終責任は、学長が負う。

3 国立大学法人信州大学共通教育推進会議(以下「共通教育推進会議」という。)は、必要に応じて、又は教授会の要請に応じて、機構の組織、運営に係る重要事項を審議する。

4 学長及び共通教育推進会議は、共通教育に関する基本的事項について、教授会に提案することができる。この場合において、教授会は、これを尊重するものとする。

(出典：信州大学規程集)

#### 資料経36：国立大学法人信州大学共通教育推進会議規程

(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人信州大学組織に関する規則(平成17年国立大学法人信州大学規則第5号)第16条の2第2項の規定に基づき国立大学法人信州大学(以下「本法人」という。)に設置する国立大学法人信州大学共通教育推進会議(以下「共通教育推進会議」という。)の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

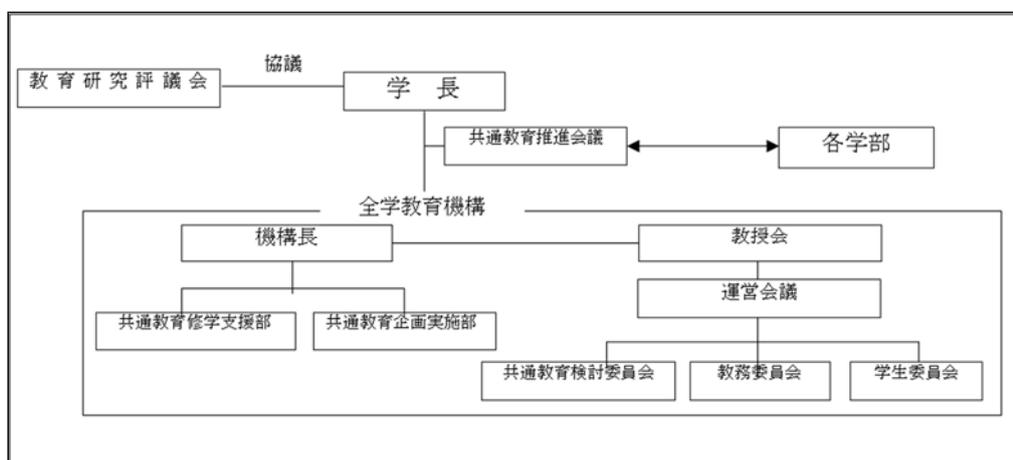
(職務)

第2条 共通教育推進会議は、本法人が設置する信州大学(以下「本学」という。)の次の各号に掲げる重要な事項について審議するほか、全学教育機構と各学部との連携協力及び連絡調整を円滑に行うことを職務とする。

- (1) 共通教育の企画及び実施並びに修学支援の実施に関すること
- (2) 共通教育カリキュラムの策定及び改定に関すること

(3) 共通教育の実施における全学的な支援に関すること  
 (4) 全学教育機構の運営に関すること  
 (5) その他共通教育の実施に関すること  
 (組織)  
 第3条 共通教育推進会議は、次の各号に掲げる者をもって組織する。  
 (1) 学長  
 (2) 教務担当の理事  
 (3) 全学教育機構長  
 (4) 高等教育研究センター長  
 (5) 学部長又は副学部長のうちのいずれか1名  
 (6) その他学長が必要と認める者  
 (議長)  
 第4条 共通教育推進会議に議長を置き、学長をもって充てる。  
 2 議長は、共通教育推進会議を主宰する。  
 3 議長に事故があるときは、第3条第2号に規定する理事が、その職務を代行する。  
 (出典：信州大学規程集)

**資料経37：共通教育科目の教育体制**



(出典：経営企画課作成)

(2) 学生サポート体制

① 経済学部の学生サポート体制は、以下のとおりである。(資料経38～経40)

・ 学生相談室

**資料経38：信州大学経済学部学生相談室内規**

信州大学経済学部学生相談室内規

平成25年12月11日教授会承認

(設置)

第1条 信州大学学生相談センター規程第9条に基づき、信州大学経済学部(信州大学大学院経済社会政策科学研究科を含む。以下「本学部」という。)に学生相談室(以下「相談室」という。)を置く。

(目的)

第2条 相談室は、学生相談を円滑に実施し、これにより学生生活を支援するほか、学生の自殺を防止するために必要な支援を行うことを目的とする。

(業務)

第3条 相談室は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 学生相談等に係る指導・助言等の実施に関すること。
- 二 学生相談に関して、学生相談センター、総合健康安全センター及びその他関係部局等との連携に関すること。
- 三 学生の自殺を防止するために必要な情報の収集、管理及び分析に関すること。
- 四 学生の自殺を防止するための啓発活動に関すること。
- 五 その他学生相談に関する検討及び自殺防止対策の推進に関すること。

(組織)

第4条 相談室に、次の各号に掲げる職員を置く。

- 一 学生相談室長(以下「相談室長」という。)
- 二 学生相談室員(以下「相談室員」という。)
- 三 カウンセラー(総合健康安全センター所属職員)

<p>四 保健師（看護師）（総合健康安全センター所属職員）</p> <p>五 事務職員</p> <p>六 その他必要な職員 （相談室長及び相談室員）</p> <p>第5条 相談室長及び相談室員は、学部長が任命する者をもって充てる。</p> <p>2 相談室長は、学部長の命を受け、所掌する業務を処理する。</p> <p>3 相談室員は、相談室の活動を支援するために必要な業務を行う。 （任期）</p> <p>第6条 第4条第1号に規定する相談室長の任期は3年とし、再任を妨げない。 （相談室会議）</p> <p>第7条 相談室長は、必要に応じ経済学部相談室会議（以下「相談室会議」という。）を開く。</p> <p>2 相談室長が必要と認めるときは、相談室会議に本学部学生委員会委員及び信州大学学生相談センター学生相談コーディネーターの参加を求め、緊密に連携協力する。 （秘密の遵守）</p> <p>第8条 相談室の業務を処理するに当たっては、個人の秘密を遵守しなければならない。 （事務）</p> <p>第9条 相談室の事務は、学務係において処理する。 （雑則）</p> <p>第10条 この内規に定めるもののほか、相談室に関し必要な事項は、別に定める。 附 則 この申合せは、平成25年12月12日から施行する。</p>	<p>（出典：経済学部に規）</p>
---	--------------------

・担任、学生面談

1年生は新入生ゼミナール担当教員、2年生以上は専門演習担当教員が担任となるほか、ゼミ無所属者は学生委員会及び留学生は国際交流・留学生委員が担当となってサポートし、面談等による修学指導と厚生補導を行っている。

・チューター制度

<p><b>資料経39：チューターガイダンス資料</b></p> <p style="text-align: center;"><b>平成27年度 経済学部外国人留学生チューター制度について</b></p> <p style="text-align: right;">経済学部国際交流室</p> <p>1. チューター制度 日本人学生が、外国人留学生の修学・生活に関して助言や支援をする制度 外国人留学生の日本語コミュニケーション能力の向上や大学生活への適応促進を目的とする</p> <p>2. 新規に対象となる外国人留学生 (1) 1年生（経済学科7名）のうち希望者 (2) 2年生（経済学科9名）のうち、チューターが決定していない希望者</p> <p>3. 募集人員 チューターを希望する留学生数（留学生1名につき日本人チューター1名を配置）</p> <p>4. 活動期間 平成27年度の前期（5月－7月）および後期（10月－翌年1月）</p> <p>5. 活動内容 (1) 週1－2回程度、9：00－21：00の間で毎回2時間程度 (2) 日本語の会話練習、日本語学習・生活上の助言等 (3) コンパ、飲み会、食事会、娯楽施設での遊興等は、チューター活動として認めない (4) 毎月、月初のチューターミーティングへの参加義務（日本人学生、外国人留学生2名で出席） * 内容・活動時刻について不適切と判断した場合は謝金を支払わない</p> <p style="text-align: center;">（出典：経済学部作成 平成27年度チューターガイダンス資料から抜粋）</p>
---

**資料経40：チューター対応表**

年度	チューター人数	内訳
H27	9名	留学生(1年)－日本人(1年:6名・2年:1名) 留学生(2年)－日本人(2年:2名)
H26	15名	留学生(1年)－日本人(1年:5名・3年:1名) 留学生(2年)－日本人(1年:2名・2年:5名・3年:1名・4年:1名)
H25	8名	留学生(1年)－日本人(1年:6名・2年:1名・3年:1名)
H24	30名	留学生(1年)－日本人(1年:6名・2年:5名・3年:6名) 留学生(2年)－日本人(2年:3名・3年:4名・4年:1名)

		留学生(3年)－日本人(3年:1名・4年:2名) 留学生(4年)－日本人(3年:1名・4年:1名)
H23	17名	留学生(1年)－日本人(1年:2名・2年:1名・3年:4名・4年:1名) 留学生(2年)－日本人(2年:2名・3年:3名・4年:1名) 留学生(3年)－日本人(3年:3名)
H22	21名	留学生(1年)－日本人(1年:1名・2年:6名・3年:4名) 留学生(2年)－日本人(2年:7名・3年:3名)

(出典：経済学部留学生・チューター対応表)

・その他の学生支援

1～3年生に履修と就学上の注意点、4年生に卒業要件のガイダンスを行っている。  
成績不振者の保護者に成績を通知している。

②全学的な学生サポート体制

学務課、学生支援課、国際交流課を設置し、全学的な教育課程、課外活動、就職、留学の業務に当たっている(資料経41、経42)。附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センター、e-Learningセンターを設置している他、各学部必要員を配置して全学的教育活動を展開している(資料経43～経47)。平成24年度には学生相談センターと、各学部学生相談室を設置した(資料経48)。

<p><b>資料経 41</b>：国立大学法人信州大学業務執行組織規程</p> <p>第 25 条 学務課においては、全学教育機構、高等教育研究センター、e-Learning センター、教員免許更新支援センター(教育学部の所掌に属するものを除く。以下この条において同じ。)及び学務部に関する次の業務をつかさどる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学務部内の事務に関し、連絡し、及び総合調整を行うこと。</li> <li>(2) 庶務及び会計に関すること。</li> <li>(3) 入学式その他学生の諸行事に関すること。</li> <li>(4) 学生関係職員のSD(スタッフ・デベロップメント)に係る企画・立案及びその実施に関すること。</li> <li>(5) 全学(本法人が設置する信州大学大学院(以下「大学院」という。)を除く。)の教務に関すること。</li> <li>(6) 学生の学籍その他の記録に関すること。</li> <li>(7) 学位の授与に関すること。</li> <li>(8) 教育課程(大学院を除く。)に係る目標及び計画の連絡調整に関すること。</li> <li>(9) 他の大学等との単位の互換(大学院を除く。)に関すること。</li> <li>(10) 全学の学務情報システムに関すること。</li> <li>(11) 出前講座に関すること。</li> <li>(12) 諸会議(国立大学法人信州大学戦略企画会議規程(平成 24 年国立大学法人信州大学規程第 108 号)第 6 条に定める大学院戦略会議(以下「大学院戦略会議」という。)及び信州大学大学院教務委員会を除く。)の連絡調整に関すること。</li> <li>(13) 教育・学生支援連携会議の運営に関すること。</li> <li>(14) その他全学教育機構、高等教育研究センター、e-Learning センター及び教員免許更新支援センターの業務執行及び運営に関すること。</li> <li>(15) 前各号に掲げるもののほか、学務部の他の所掌に属しない事務を処理すること。</li> </ol> <p>2 学務課の共通教育支援室においては、次の業務をつかさどる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 共通教育の授業支援に関すること。</li> <li>(2) 共通教育の教務に関すること。</li> <li>(3) 学生の学習相談及び修学指導に関すること。</li> <li>(4) 共通教育に係る点検・評価に関すること。</li> <li>(5) 全学教育連携会議等の諸会議の連絡調整に関すること。</li> <li>(6) 環境マインド教育支援に関すること。</li> </ol> <p>3 (省略)</p> <p>4 学生支援課においては、次の業務をつかさどる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 学生総合支援センターの業務執行及び運営に関すること。</li> <li>(2) キャリアサポートセンターの業務執行及び運営に関すること。</li> <li>(3) 学生相談センターの業務執行及び運営に関すること。</li> </ol> <p>5 入試課においては、次の業務をつかさどる。</p>
--

- (1) 入学者の選抜に関し連絡し、及び総合調整を行うこと。
  - (2) 入学者選抜方法の改善に関し企画立案を行うこと。
  - (3) 学生募集に関すること。
  - (4) アドミッションセンターの業務執行及び運営に関すること。
  - (5) 前各号に掲げるもののほか、入学者の選抜に関する事務を処理すること。
- 6 国際交流課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 国際交流センターの業務執行及び運営に関すること。(研究支援課の国際学術交流室が所掌する業務を除く。)
  - (2) 松本国際交流会館の業務執行及び運営に関すること。
  - (3) 前各号に掲げるもののほか、教育活動に係る国際交流に関する事務を処理すること。
- (出典：信州大学規則集)

資料経 42：学務課、学生支援課、国際交流課の職員数

	学務課	学生支援課		国際交流課
		うち キャリアサポートセンター		
事務職員	20	11	3	6
事務補佐員	12	4	2	5
臨時用務員	1			
専門職員	1			
技術補佐員	5			
技能補佐員		1		
シニア雇用職員	4	1		
コーディネータ		1		6
合計	43	18	5	17

平成 28 年 1 月 18 日現在

(出典：経営企画課作成資料)

資料経 43：附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センター、e-Learningセンター職員数

区 分	附属図書館	総合健康安全センター	総合情報センター	e-Learningセンター
松本キャンパス	54	13	9	3

平成 28 年 2 月 1 日現在

(出典：経営企画課作成)

資料経 44：学部・研究科の学務担当の職員数

経済学部 経済・社会政策科学 研究科 法曹法務研究科
10

(平成28年 2 月 1 日現在)

(出典：経営企画課作成)

資料経 45：信州大学ティーチング・アシスタント実施要項

(目的)

第 2 TAは、本学大学院の優秀な学生に対し、教育的配慮の下に教育補助業務を行わせ、これに対する手当支給により、当該学生の処遇の改善に資するとともに、大学教育の充実及び指導者としてのトレーニングの機会提供を図ることを目的とする。

(身分)

第 3 TAは、非常勤職員とする。

(職務内容)

第 4 TAは、学部学生、修士課程の学生及び博士前期課程の学生に対する実験、実習及び演習等の教育補助業務に従事する。

(出典：信州大学ティーチング・アシスタント実施要項)

資料経46：各学部等におけるTAの業務内容

部局名	授業時間内の業務内容								授業時間外の業務内容					その他の業務内容
	A	B	C	D	E	F	G	H	a	b	c	d	e	
経済学部	○	○	○	○					○		○	○		

授業時間内の業務内容

- A. 資料の配付    B. 機器の操作    C. 出欠の管理    D. 試験監督補助    E. 討論への参加  
 F. 学生の質問への対応    G. 実験・実習などの実演    H. 発声・会話の指導

授業時間外の業務内容

- a. 資料のコピー、保存    b. 教室のメンテナンス(空調、照明、施設等)  
 c. レポート課題の作成・採点補助    d. 教材の作成補助    e. 実験・実習の準備

(出典：各学部等のデータを基に経営企画課作成)

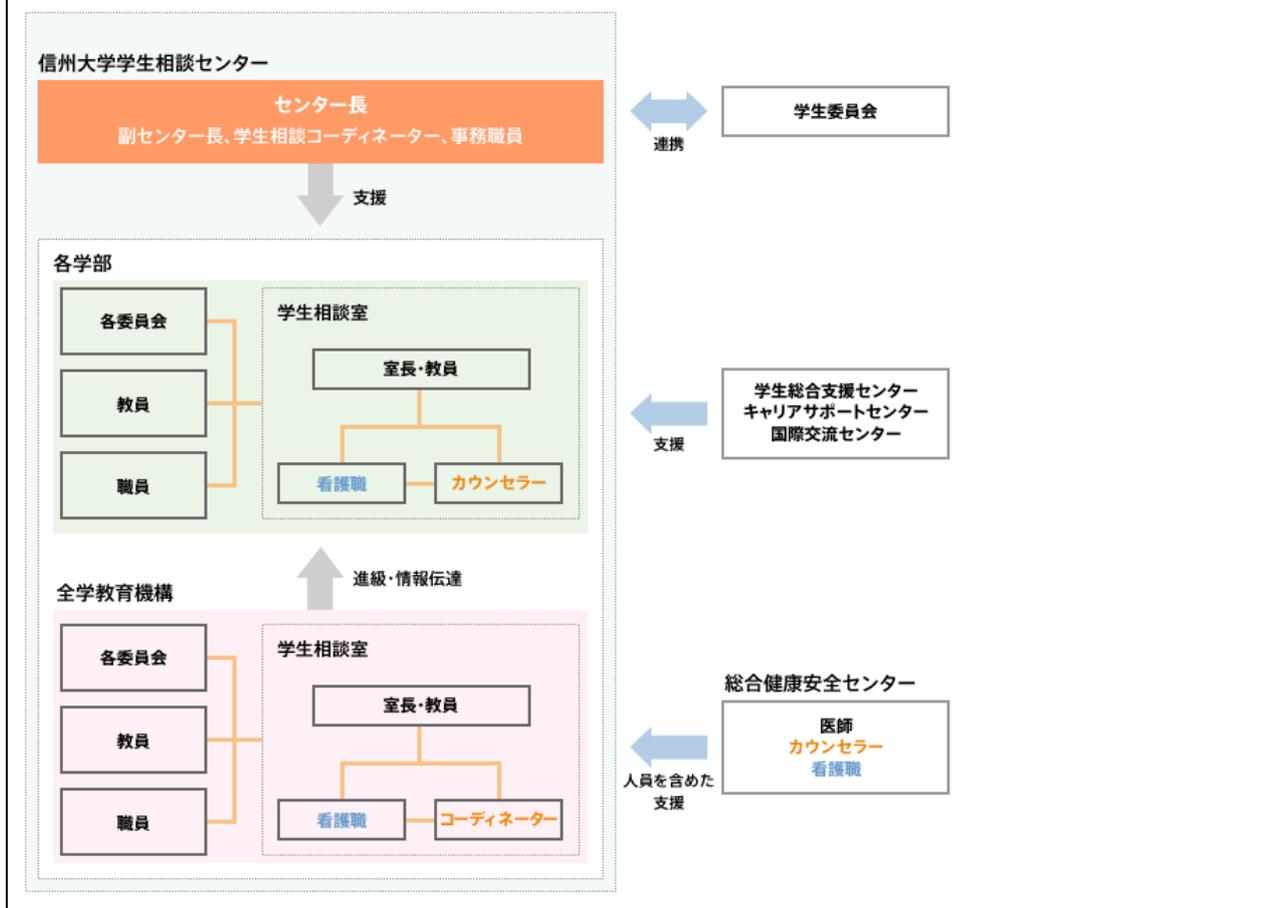
資料経47：平成27年度1年次生クラス副担任 の配置状況

クラス担任（正：各学科等教員、副：全学教育機構教員）

学部・学科等	クラス担任数	
	正	副
経済学部	学部教員10	1

(出典：「2015共通教育履修案内」をもとに経営企画課作成)

資料経48：学生相談センター及び学生相談室





③ 学生への経済的な就学支援 (資料経 49)

**資料経 49：経済的な就学支援制度**

1. 入学料免除・徴収猶予制度
2. 授業料免除・徴収猶予・月割分納・成績優秀学生授業料免除
3. 奨学金
4. 信州大学知の森基金入学サポート奨学金

(出典：経営企画課作成)

③-1 入学料免除・徴収猶予制度

本学入学者（研究生、聴講生等を除く）について、選考の上、入学料の全額又は半額を免除、もしくは入学料の支払期限を一定期日まで延期する制度（資料経 50、経 51）。

**資料経 50：入学料免除制度**

○申請要件：

【学部入学者】

1. 入学前1年以内において、学資負担者（※申請者の学資を主として負担している方）が亡くなった場合、又は申請者もしくは学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより、入学料の支払いが著しく困難であると認められる場合。
2. 1に相当する事情と認められる場合。

【大学院入学者】

1. 経済的理由により入学料の支払いが困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合。
2. 入学前1年以内において、学資負担者が亡くなった場合、又は申請者もしくは学資負担者が風水害等の災害を受けたことにより、入学料の支払いが著しく困難であると認められる場合。
3. 2に相当する事情と認められる場合。

(出典：信州大学学生総合支援センターホームページ「入学料免除・徴収猶予」)

○本学部の支援者数

	H22	H23	H24	H25	H26	H27
支援者数	2	0	0	0	1	0
申請数	2	0	0	0	1	0

(出典：経済学部作成)

**資料経 51：入学料徴収猶予制度**

○申請要件：

1. 経済的理由により支払期限までに入学料の支払いが困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合。
2. 入学前1年以内において、学資負担者が亡くなった場合、又は申請者もしくは学資負担者が風水害等の災害を受け、支払期限までに入学料の支払いが困難であると認められる場合。
3. その他やむを得ない事情があると認められる場合。

○入学料徴収猶予の期限

4月入学 9月末日まで

10月入学 翌年2月末日まで

(出典：信州大学学生総合支援センターホームページ「入学料免除・徴収猶予」)

○本学部の支援者数

	H22	H23	H24	H25	H26	H27
支援者数	7	7	9	9	5	6
申請数	7	7	9	9	5	6

(出典：経済学部作成)

③-2 授業料免除・徴収猶予・月割分納・成績優秀学生授業料免除

選考の上、その期の授業料の全額又は半額を免除、授業料の徴収を一定期日まで延期、もしくは授業料を月ごとに分割して支払うことができる制度(資料経 52～経 54)。

**資料経 52：授業料免除制度**

本学が定める家計基準及び学力基準の双方を満たした者であり、授業料免除予算の範囲内で免除者を決定する。

○申請要件：

1. 経済的理由により授業料の支払いが困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合。
2. 授業料の各期の納期(前期：4月1日、後期：10月1日)前6か月以内(新入学者は、入学した日の属する学期分の申請については入学前1年以内)において、学資負担者(※注)が死亡し、又は申請者本人もしくは学資負担者が風水害等の災害を受けたなどの特別な理由により、授業料の支払いが著しく困難であると認められる場合

(出典：信州大学学生総合支援センターホームページ「授業料免除・徴収猶予・月割分納」)

○本学部の支援者数

	H22		H23		H24		H25		H26		H27	
	前期	後期										
全額免除者数	8	9	7	9	16	9	29	22	27	27	58	49
半額免除者数	114	103	124	116	134	133	117	126	100	94	66	80
申請数	141	133	150	142	166	168	170	176	154	157	142	154

(出典：経済学部作成)

**資料経 53：授業料徴収猶予、月額分納制度**

本学の学生（研究生、聴講生等を除く）が、次のいずれかに該当する場合は、選考の上、その期の授業料の支払期限を一定期日まで延期する制度（徴収猶予）・その期の授業料を月ごとに分割して支払うことができる制度（月割分納）です。

○申請要件：

1. 経済的理由により支払期限までに授業料の支払いが困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合。
2. 申請者または学資負担者が風水害等の災害を受けるなどやむを得ない事情により授業料の支払いが支払期限までに困難であると認められる場合。

（出典：信州大学学生総合支援センターホームページ「授業料免除・徴収猶予・月割分納」）

○本学部の支援者数

【徴収猶予】

	H22		H23		H24		H25		H26		H27	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
支援者数	(制度なし)	(制度なし)	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0
申請数	(制度なし)	(制度なし)	0	0	0	0	1	1	1	0	0	0

（出典：経済学部作成）

【月額分納】

	H22		H23		H24		H25		H26		H27	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
支援者数	(制度なし)	(制度なし)	0	0	1	2	0	0	0	0	1	1
申請数	(制度なし)	(制度なし)	0	0	1	2	0	0	0	0	1	1

（出典：経済学部作成）

**資料経 54：成績優秀学生授業料免除**

学業成績が特に優れ、かつ、人物優秀であると認められる学生に対して、当該年度の後期分授業料を免除する制度です。対象学生には、10月下旬にお知らせします。

選考基準等は学部（研究科）により異なりますので、詳細については、所属学部（研究科）の案内又は学務係にお問い合わせください。

（出典：信州大学学生総合支援センターホームページ「授業料免除・徴収猶予・月割分納」）

○学部選考基準

成績算定

- ①前年度1年間の成績（共通教育科目と専門科目を区別しない。）を対象とする。
- ②秀を4、優を3、良を2、可を1とし、単位数をウエイトとした加重平均で上位の者を選ぶ。同点の場合は、取得単位数の多い者を選ぶ。ただし、前年度取得単位数が、34単位以上を取得している者に限る。
- ③上記①及び②により難しい場合は、教授会で審議し決定する。

対象除外者

- ①過去に学則上の懲戒処分（訓告又は停学）を受けた者は、対象としない。
- ②前年度中に休学期間がある者は、対象としない。

（出典：経済学部成績優秀学生授業料免除通知）

○本学部の該当者数

	H22	H23	H24	H25	H26	H27
該当者数	7	7	7	7	7	7

（出典：経済学部作成）

③-3 奨学金

日本学生支援機構他の各団体等による奨学金の募集手続について周知するとともに、学生総合支援センター及び学部で相談窓口を設けている（資料経 55）。

**資料経 55：奨学金**

○主な奨学金  
独立行政法人日本学生支援機構からの奨学金。（その他は財団、地方公共団体等からの育英資金等を毎年 5～6 名程度が活用している。）

○制度名  
独立行政法人日本学生支援機構 第一種奨学金及び同機構第二種奨学金

○概要  
意欲と能力のある学生に「教育を受ける機会」を保障し、自立した学生生活を送れるよう支援するもの。第一種奨学金（無利息）と第二種奨学金（利息付）の二種類がある。どちらの奨学金も、貸与が終了すると返還の義務が生じる。

○本学部の利用者数

	H22	H23	H24	H25	H26	H27
利用者数	375	384	371	356	349	326

（出典：経済学部作成）

③-4 信州大学知の森基金入学サポート奨学金

平成 25 年度に「信州大学知の森基金」（資料経 56）を創設し、平成 26 年度にこれを原資とした奨学金（資料経 57）を設けた。

**資料経 56：信州大学知の森基金**

○目的、寄附金の使途等  
信州大学知の森基金は、教育、研究、社会連携、人材育成等を通じ、地域に根ざした大学として社会に貢献するために行う事業に資することを目的として発足しました。本基金は、本学全体の活動を広く支援する「一般基金」と、使途を限定して特定の活動を支援する「特定基金」で構成され、企業・団体や個人の皆様など多くの方々からのご支援をお願いしております。

○一般基金  
知の森基金 奨学金事業（学生に対する奨学支援）

- ・入学サポート奨学金  
大学進学を希望しながら、学業優秀であるが経済的理由により進学を断念せざるを得ない高校生に対して、入学時に必要となる学資の一部を支援します。
- ・大学院奨学金  
優秀な若手研究者に対して、授業料など学費の一部を支援します。

知の森基金 グローバル人材育成支援  
学生の海外活動支援（短期・長期）

- ・グローバル人材育成のために、学生の海外における活動（交換留学、私費留学、海外インターンシップ、海外ボランティア、研究留学 等）の活動費を支援します。
- ・外国人留学生への経済支援  
意欲的で優秀な質の高い留学生に対する奨学金を支援します。

（出典：信州大学ホームページ「信州知の森基金 寄付の使途」）

○各年度末の基金の残高

	H25	H26	H27
金額(円)	158,303,732	180,887,635	192,759,727

（出典：経営企画課作成）

**資料経 57：信州大学知の森基金入学サポート奨学金**

○概要  
金額：40 万円とし、一時金として給付（返済不要）  
採用者数：20 人以内  
選考方法：本学への入学意欲、家計状況、学業成績を総合的に審査し、決定する。

○対象者（平成 27 年度入学者の場合）  
次のいずれにも該当する者

- (1) 日本の高等学校又は中等教育学校を平成 28 年 3 月卒業見込みで、かつ、評定平均値 3.5 以上の者。
- (2) 本学の一般入試（前期日程）に出願を予定し、合格した場合には、入学することを確約できる者。

(3) 世帯の平成 26 年分の収入\*1 の合計が 400 万円以下(所得\*2 の場合は 200 万円以下)である者。  
 (出典：信州大学学生総合支援センターホームページ「信州大学知の森基金奨学金」)

○本学部の利用者数

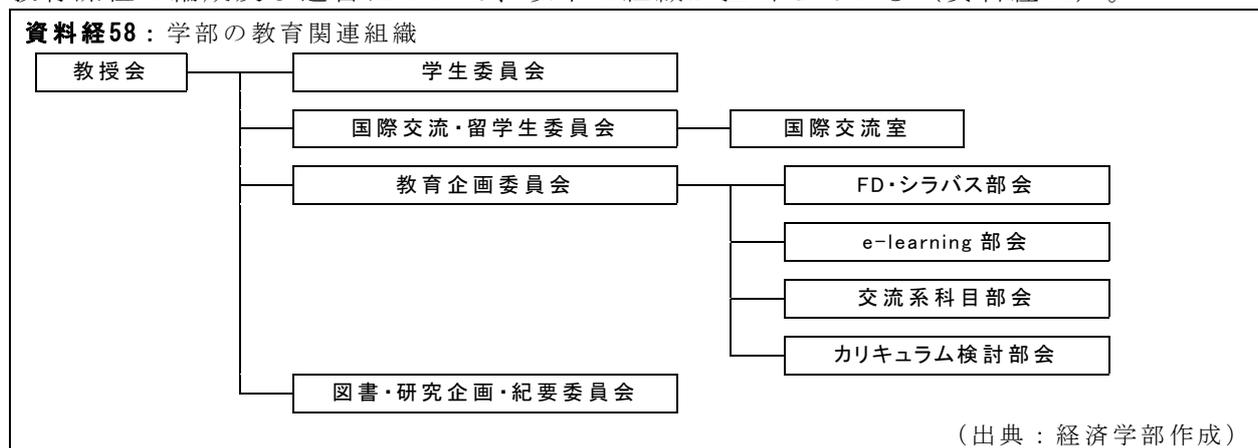
	H27 入学
利用者数	2

(出典：経済学部作成)

(3) 教員の教育力向上のための体制整備

- ・学部の教育課程の編成について

教育課程の編成及び運営について、以下の組織が担当している(資料経58)。



- ・FDの実施

本学部の主なFD活動は以下のとおりである。(資料経59、経60)

**資料経59：経済学部の主なFD活動**

①教員相互によるピアレビュー

学科ごと毎年 5 人程度の教員を対象に、複数の教員が対象教員の講義を聴講し、決められた様式に従ってコメントを記入し、当該教員へフィードバックしている。また、平成 23 年度以降は、それに加えて講義のレビュー後、直接意見交換を行う場を設けている。

②学生による学習目標カード作成

教員が担当する演習に属する学生の学習目標を把握し、より密接な指導を可能としている。

③FD講習会

平成 24 年度以降毎年度実施している。

(出典：経済学部作成)

資料経60：経済学部主催FD実施状況

【ピアレビュー】

実施日	講師名	参加人数	対象範囲
H22.06.03	栗田 晶	74	教員、学生
H22.07.01	赤川 理	62	教員、学生
H22.11.11	岩崎 徹也	203	教員、学生
H22.11.25	広瀬 純夫	15	教員、学生
H22.12.07	古屋 顯一	21	教員、学生
H23.01.07	沼尾 史久	45	教員、学生
H23.07.15	椎名 洋	222	教員、学生
H23.11.10	徳井 丞次	72	教員、学生
H23.12.12	篠原 隆介	81	教員、学生
H23.12.16	栗田 晶、富永晃一	47	教員、学生
H24.06.16	西村 直子	117	教員、学生
H24.06.29	荒戸 寛樹	159	教員、学生
H24.07.02	大江 裕幸	58	教員、学生
H24.07.05	中村 絵理	309	教員、学生
H24.07.09	内田 真輔	58	教員、学生
H24.11.01	吉村 信之	170	教員、学生
H24.11.02	金 早雪	40	教員、学生
H25.01.07	元山 斉	200	教員、学生
H25.01.10	広瀬 純夫	200	教員、学生
H25.05.14	海老名 剛	11	教員、学生
H25.05.28	眞壁 昭夫	134	教員、学生
H25.10.21	関 利恵子	123	教員、学生
H25.11.26	西山 巨章	82	教員、学生
H26.01.14	丸橋 昌太郎	183	教員、学生
H26.01.20	美甘 信吾	15	教員、学生
H26.07.03	島村 暁代	27	教員、学生
H26.07.10	田中 康平	19	教員、学生
H26.10.28	都築 勉	18	教員、学生
H26.11.11	柳町 晴美	23	教員、学生
H26.11.21	金 早雪	45	教員、学生
H26.12.17	三宅 真由美	14	教員、学生
H27.06.18	青木 周平	83	教員、学生
H27.06.22	岩田 一哲	16	教員、学生
H27.06.30	山代 忠邦	65	教員、学生
H27.11.18	寺前 慎太郎	20	教員、学生
H27.11.24	桃井 謙祐	16	教員、学生
H27.12.10	濱田 新	105	教員、学生

【学生学習目標カード】

実施日	講師名	参加人数	対象範囲
H22.6.1～H23.3.31	(担当：各ゼミ教員)	(各ゼミ受講者数)	教員、学生
H23.6.15～H24.3.31			
H24.7.2～H25.3.31			
H25.7.1～H26.3.31			
H26.6.25～H27.3.31			
H27.5.22～H28.3.31			

【講演会・研修会】

実施日	テーマ	講師名	参加人数	対象範囲
H24.06.27	内省できる実践家を育てる	米国ノースカロライナ州アパラチアン州立大学 FD センター長 Kathleen T. Brinko	10	教員
H26.01.08	自殺防止研修会	学生相談センター 小田佳代子カウンセラー	36	教職員
H26.02.12	シラバスガイドライン改訂説明会「シラバスの観点とはーシラバスを実際に修正してみる」	高等教育研究センター 加藤 鈺三教授、加藤善子准教授	16	教員
H27.01.14	シラバスガイドライン改訂説明会「シラバスガイドラインの見直しについて」	高等教育研究センター 加藤 鈺三教授	44	教職員
H27.04.08	学生サポートについて	学生相談センター 田口多恵カウンセラー	47	教職員

(出典：経済学部作成)

・授業改善アンケート、卒業生アンケートの活用

毎学期授業改善アンケートを実施し、結果に基づき教員がコメントを公開している(資料経61～経64)。卒業生に専門教育と卒業試験に関するアンケートを実施し、カリキュラム検討に活用している(資料経65～経68)。

**資料経61：授業改善のための学生アンケート実施方法**

前期	実施時期	7月中旬から2週間
	実施科目	前期開講の専門科目(非常勤講師担当科目及び他学部等所属教員担当科目の一部を除く。)
後期	実施時期	1月中旬から2週間
	実施科目	後期又は通年開講の専門科目(非常勤講師担当科目及び他学部等所属教員担当科目の一部並びに演習論文及び卒業論文を除く。)

(出典：経済学部作成)

**資料経62：授業改善のための学生アンケート実施状況**

実施学期		対象 受講者数	回答者数	回答率	対象 科目数	回答 科目数	回答 科目率
H22	前期	4,273	1,628	38.1%	36	31	86.1%
	後期	1,504	686	45.6%	36	23	63.9%
H23	前期	4,450	2,460	55.3%	42	37	88.1%
	後期	1,275	669	52.5%	29	21	72.4%
H24	前期	3,909	1,915	49.0%	41	39	95.1%
	後期	4,285	492	11.5%	102	63	61.8%
H25	前期	3,676	2,135	58.1%	40	36	90.0%
	後期	3,794	2,151	56.7%	95	77	81.1%
H26	前期	3,242	2,092	64.5%	41	39	95.1%
	後期	3,367	1,792	53.2%	95	70	73.7%
H27	前期	3,084	1,756	56.9%	39	37	94.9%
	後期	3,140	1,992	63.4%	93	78	83.9%

(出典：経済学部作成)

資料経63：授業改善のための学生アンケート設問表

信州大学経済学部 授業改善のためのアンケート

「授業改善のためのアンケート」は、学生の皆さんからこの授業の内容や担当教員による授業進行についてのフィードバックを受けて、今後の授業内容や授業進行の改善・充実化に活かすために実施しています。成績評価には一切関係ありませんので、思ったままを回答してください。

(信州大学経済学部 目標管理・点検委員会)

※印は自由記述、それ以外はマークシート方式です。マークシートは鉛筆で塗りつぶしてください。

科目名*		担当教員*			
実施日*	年	月	日	(時限目)	
学 科	経済学科 ①	経済システム法学科 ②	その他(他学部等) ③		
学 年	1年 ①	2年 ②	3年 ③	4年 ④	

①	②	③	④	⑤
強く思う	どちらかといえば思う	どちらともいえない	どちらかといえば思わない	全く思うわない

(1) 担当教員は、シラバスから大幅に逸脱することなく授業を実施した。	①	②	③	④	⑤
(2) 担当教員の説明や話し方は、明瞭でわかりやすかった。	①	②	③	④	⑤
(3) 担当教員の配布資料・板書・スクリーン等の使い方は、授業をわかりやすくするものだった。	①	②	③	④	⑤
(4) 担当教員は、授業外の学習のための情報提供や指示を行なった。	①	②	③	④	⑤
(5) この授業では、担当教員の専門的識見を感じる事ができた。	①	②	③	④	⑤
(6) この授業では、担当教員の授業に対する熱意や意欲を感じる事ができた。	①	②	③	④	⑤
(7) この授業を受けた私は、この授業への出席率が高かった。	①	②	③	④	⑤
(8) この授業を受けた私は、この授業中、教員の説明を熱心に聞き、ノートを取った。	①	②	③	④	⑤
(9) この授業を受けた私は、授業時間以外に、授業内容を理解するための努力をした。	①	②	③	④	⑤
(10) この授業を受けた私は、専門的な知識や技術を身につける事ができた。	①	②	③	④	⑤
(11) この授業を受けた私は、この授業に満足する事ができた。	①	②	③	④	⑤
(12) 授業全体を振り返って、この授業は、授業によって達成しようとしている目標にふさわしいものであった。	①	②	③	④	⑤

(13)\* この授業について、教員がよい工夫をしていると感じられるところ、改善した方がよいと感じられるところ、この授業への意見や要望を具体的に書いてください。

(出典：経済学部作成 授業改善アンケート設問表)

資料経64：授業改善のための学生アンケート集計結果

「授業改善アンケート」学部別集計表

対象部局： 経済学部  
 開講年度： 平成26年度 対象期間： 後期 授業種別： 講義  
 集計人数： 1376 人

番号	設 問	0%	20%	40%	60%	80%	100%
1	学科	780 551 15					
2	学年	152	423	519	282		
3	シラバスから大幅な逸脱はないか。	630 615 100 20					
4	説明や話し方はわかりやすいか。	492	574	218	73	18	
5	資料・板書等はわかりやすいか。	477	536	243	96	24	
6	授業外学習の情報提供・指示があったか。	481	512	291	78	14	
7	担当教員の専門的識見が感じられたか。	725 482 136 100					
8	担当教員の熱意・意欲が感じられたか。	605 577 166 100					
9	授業への出席率が高かったか。	743 446 145 35					
10	説明を熱心に聞き、ノートを取れたか。	462	545	261	90	19	
11	授業時間以外に内容を理解する努力をしたか。	289	529	375	146	37	
12	専門的知識・技術を身につけられたか。	297	686	290	78	25	
13	授業に満足できたか。	506 562 236 512					
14	この授業は授業の達成目標にふさわしいか。	488 604 233 965					
15	この授業のよい工夫をしているところ、改善した方がよいところ、意見や要望を具体的に書いてください。	自由記述					

対象部局：  
 開講年度： 平成26年度 対象期間： 後期 授業種別： 演習  
 集計人数： 416 人

番号	設 問	0%	20%	40%	60%	80%	100%
1	学科	315 93 9					
2	学年	111	121	146	38		
3	シラバスから大幅な逸脱はないか。	226 165 22					
4	説明や話し方はわかりやすいか。	207	162	35	11		
5	資料・板書等はわかりやすいか。	205	153	50	7		
6	授業外学習の情報提供・指示があったか。	233	140	37	9		
7	担当教員の専門的識見が感じられたか。	283 108 14 100					
8	担当教員の熱意・意欲が感じられたか。	239 139 29 80					
9	授業への出席率が高かったか。	258 115 32 70					
10	説明を熱心に聞き、ノートを取れたか。	137	160	89	24	8	
11	授業時間以外に内容を理解する努力をしたか。	138	166	84	24	8	
12	専門的知識・技術を身につけられたか。	145	189	66	13		
13	授業に満足できたか。	202 150 55 80					
14	この授業は授業の達成目標にふさわしいか。	202 158 50 80					
15	この授業のよい工夫をしているところ、改善した方がよいところ、意見や要望を具体的に書いてください。	自由記述					

■ 回答1 ■ 回答2 ■ 回答3 ■ 回答4 ■ 回答5 ■ 回答6

(出典：信州大学学務情報システム出力 平成26年後期 学部別集計表)

・ 卒業生アンケート

**資料経65**：経済学部専門教育等に関する調査実施状況一覧

実施年度	3月期卒業生数	回答者数	回答者率
平成23年度	249	157	63.1%
平成24年度	211	160	75.8%
平成25年度	214	160	74.8%
平成26年度	220	171	77.7%
平成27年度	202	165	81.6%

(出典：経済学部作成)

**資料経66**：卒業試験に関するアンケート実施状況一覧

実施年度	3月期卒業生数	回答者数	回答者率
平成23年度	249	173	69.5%
平成24年度	211	171	81.0%
平成25年度	214	153	71.5%
平成26年度	220	179	81.4%
平成27年度	202	161	79.7%

(出典：経済学部作成)

資料経67：経済学部専門教育等に関する調査設問表

経済学部専門教育等に関する調査(2016年3月卒業生)

【記入上の注意】  
 マークカードにご記入ください。  
 マークカードの学籍番号及び氏名は記入しないでください。

I まずあなたに関する質問に答えてください。

- 1 あなたが所属した学科はどこですか、あてはまる数字にマークしてください。  
 1. 経済学科 2. 経済システム法学科
- 2 あなたはそれぞれの授業 I 時間に対して、予習・復習合わせて、平均どれくらいの時間を割きましたか、あてはまる数字にマークしてください。  
 1. 2時間以上 2. 2～1.5時間 3. 1.5～1時間 4. 1～0.5時間 5. 0.5時間以下

II あなたが信州大学経済学部で受けた専門教育について、以下の意見や感想のうち、あてはまる数字にマークしてください。

- 1: そう思わない 2: どちらかというそう思わない 3: どちらともいえない  
 4: どちらかというと思う 5: そう思う

経済学科のみなさんに

- 3 社会問題に関する一般的な知識を蓄積できた  
 1 2 3 4 5
- 4 独自の視点で社会現象を分析し、よりよい社会を実現するための最適な解決策を模索していく能力を養うことができた  
 1 2 3 4 5
- 5 ある社会現象に直面したときにそこに内包される問題点の本質を抽出する問題発見能力を養うことができた  
 1 2 3 4 5
- 6 上記のような問題点に対し実現可能な選択肢の範囲から最適な解決策を見出す問題解決力を養うことができた  
 1 2 3 4 5
- 7 新しい未知の局面に対して柔軟に対応できる実践的企業人・組織人となる基本を養うことができた  
 1 2 3 4 5
- 8 社会を有機的な存在として捉え、その成り立ちを歴史的・制度的に分析する方法を学ぶことができた  
 1 2 3 4 5
- 9 現在の社会を相対化し、複雑な社会を複合的あるいは比較対照的な視点から理解する能力を養うことができた  
 1 2 3 4 5
- 10 社会の実態を数量的に捉え、統計的手法によって数量的な側面から分析する能力を養うことができた  
 1 2 3 4 5
- 11 論理的な厳密性を追求するために、社会現象を抽象化し数理的な手法を用いて分析する能力を養うことができた  
 1 2 3 4 5

経済システム法学科のみなさんに

- 12 法学・政治学の基礎的な知識を集積できた  
 1 2 3 4 5
- 13 社会現象の本質的な問題点を発見し、諸要素を総合的に分析し、安定的で具体的な妥当な解決策を模索する能力を修得できた  
 1 2 3 4 5
- 14 地域社会・企業社会が直面する課題を明らかにし、解決の方向性を探る能力を修得できた  
 1 2 3 4 5

経済学科と経済システム法学科のみなさんに

- 15 選択必修科目と自由選択科目の区分は適切であった  
 1 2 3 4 5

Vグループ(英語系専門科目)を履修したみなさんに

- 16 英語および英語圏の社会に対する理解が高まった  
 1 2 3 4 5

Wグループ(中国語系専門科目)を履修したみなさんに

- 17 中国語及び中国語圏の社会に対する理解が深まった  
 1 2 3 4 5

Xグループ(情報系専門科目)を履修したみなさんに

- 18 社会科学を学ぶうえで、また社会の実生活を送るうえで、応用可能な情報技術が身についた  
 1 2 3 4 5

Yグループ(スポーツ系専門科目)を履修したみなさんに

- 19 スポーツと人間行動・経済・社会との関わりを様々な角度から分析する力を養うことができた  
 1 2 3 4 5

Tグループ(産業特論等産業・社会交流系科目)を履修したみなさんに

- 20 進展する産業・社会の実態を把握することができた  
 1 2 3 4 5
- 21 講師から現在の企業、官公庁等に関する幅広い情報を得ることができた  
 1 2 3 4 5

学科共通Uグループ(ボランティアやインターンシップ)を履修したみなさんに

- 22 社会との交流・経験を深めると同時に、専門の学習に対する刺激があたえられた  
 1 2 3 4 5

経済学科・経済システム法学科のみなさんに

- 23 新入生ゼミ I によって、大学での勉学や生活に慣れることができた  
 1 2 3 4 5
- 24 新入生ゼミ II によって、論文作成など専門分野の学習の基本が身についた  
 1 2 3 4 5
- 25 演習、演習論文、卒業論文によって、特定の領域・テーマについて深く学習することができた  
 1 2 3 4 5
- 26 社会に出て役に立ちそうな授業が多かった  
 1 2 3 4 5
- 27 視野を広げるのに役に立つ授業科目が多かった  
 1 2 3 4 5
- 28 成績評価の方法はおおむね適切であった  
 1 2 3 4 5
- 29 理解度など、学生の反応を見ながら進められる授業が多かった  
 1 2 3 4 5
- 30 学習意欲や興味が増すように工夫されている授業が多かった  
 1 2 3 4 5
- 31 重要なポイントをはっきり示してくれる授業が多かった  
 1 2 3 4 5
- 32 総合的な評価として、経済学部で受けた教育に満足している  
 1 2 3 4 5
- 33 入学前に予想していたよりも経済学部での勉学はきつかった  
 1 2 3 4 5

III 信州大学経済学部の教育環境に関して、以下の意見や感想について、あなたはどのように思いますか。あてはまる数字にマークしてください。

- 34 自主学習を行うために十分な施設があった  
 1 2 3 4 5
- 35 自主学習を行うために十分な情報提供があった  
 1 2 3 4 5
- 36 学習に関する相談に、教員は十分に対応してくれた  
 1 2 3 4 5
- 37 学務係など、事務の窓口の対応は十分に役立った  
 1 2 3 4 5
- 38 シラバスには、選択科目の選択及び自主学習の計画作りに必要な情報が十分に記載されていた  
 1 2 3 4 5
- 39 学部図書資料室の蔵書は充実していた  
 1 2 3 4 5
- 40 附属図書館の蔵書は充実していた  
 1 2 3 4 5
- 41 利用可能な情報ネットワークが整備されていた  
 1 2 3 4 5
- 42 ボランティア活動など課外活動に関する十分な情報提供があった  
 1 2 3 4 5
- 43 卒業後の進路を考えるための情報が十分にあった  
 1 2 3 4 5

IV 以下の共通教育に関する質問項目に対して、あてはまる数字にマークしてください。

- 1: あてはまらない 2: どちらかというあてはまらない 3: どちらでもない  
 4: どちらかというあてはまる 5: 非常にあてはまる

- 44 共通教育を受けたことによって、自分の世界が広がりましたか  
 1 2 3 4 5
- 45 共通教育で学んだことによって、学部を越えた友人ができましたか  
 1 2 3 4 5
- 46 基礎科学科目(数学、物理、化学、生物、地学)を履修しましたが  
 1 履修した 2 履修しなかった
- 47 基礎科学科目(数学、物理、化学、生物、地学)で得た知識は、専門課程の学習を始めるにあたって役に立ちましたか  
 ※6で「1.履修した」を回答した人のみ回答してください。  
 1 2 3 4 5
- 48 共通教育で教養科目が高年次に開講されたら、あなたは受講しましたか  
 1 2 3 4 5
- 49 共通教育で語学科目が高年次に開講されたら、あなたは受講しましたか  
 1 2 3 4 5

V 以下の環境教育に関する質問項目に対して、あてはまる数字にマークしてください。

- 50 あなたは環境保全や改善に関心がありますか  
 1. ない 2. ある

＜意見記入用紙＞

そのほか、経済学部に関するご意見は「意見記入用紙」にお書きください。あなたが所属する学科はどこですか、あてはまる数字に○をしてください。  
 1. 経済学科 2. 経済システム法学科

意見がありました記入願います。(卒業試験に関する質問もこちらに記入してください。)

(出典：経済学部専門教育等に関する調査(2016年3月卒業生))

資料経68：卒業試験に関するアンケート設問表

平成27年度卒業試験に関するアンケート

平成27年度卒業生対象 実施日 平成28年3月21日

学籍番号 [ ]

学籍番号のみマークシートとこの用紙に記入してください。回答は、マークシートにマークしてください。一部の記入回答は、この用紙の記入欄にそのまま記入してください。この用紙は回収します。

1. あなたが所属した学科はどこですか。  
1: 経済学科 2: 経済システム法学科

2. あなたは卒業試験を何回受験しましたか。  
1: 1回 2: 2回 3: 3回 4: 4回 5: 5回以上

3. 卒業試験を実施する目的は下記のとおりですが、あなたは、このことをどのくらい理解していましたか。  
1: 良く理解していた。 2: どちらかという理解していた。 3: どちらともいえない。  
4: どちらという理解していなかった。 5: 全く理解していなかった。

卒業試験の趣旨・目的

信州大学経済学部では、在学中の学習成果を多段階、複数機会を証明する機会を設けるとともに、その集大成を評価する取組として、卒業試験を実施し、これに合格することを卒業の要件としています。卒業試験は、同時に、学生が大学卒業までに最低限身に着なければならぬ能力(中教審の答申では、「学士力」と定義され、「知識」「技能」「態度」「創造的思考力」の4分野13項目が、示されています。)を確認する取組でもあります。

4. 経済学部の卒業試験は、卒業生の「学士力」の社会に対する証明として機能していると思いますか。

1: かなり機能している。 2: どちらかという機能している。 3: どちらともいえない。  
4: どちらという機能していない。 5: 全く機能していない。  
※ 4または5を選択した人は、その理由を簡単にお書きください。

---



---

5. 信州大学経済学部では、各授業科目の成績評価の厳格化にも取り組んでまいりましたが、「個々の科目の成績評価が、厳格に行われれば、卒業試験は必要ない」という意見があります。この意見を、あなたはどのように思いますか。

1: そう思わない。 2: どちらかというと思わない。 3: どちらともいえない。  
4: どちらかというと思う。 5: そう思う。

6. 平成27年度卒業試験は、平成27年度卒業試験は、ガイダンス8月4日(火)17時～、第1回10月28日(水)18時～20時、第2回12月16日(水)18時～20時、第3回2月4日(木)15時～17時に実施しました。

卒業試験ガイダンスの実施時期は、適切でしたか。

1: 適切である。 2: 4月の4年生進級ガイダンスのときがよい。 3: 4年の後期がよい。 4: 3年生の後期がよい。 5: ガイダンスは不要である。

7. 卒業試験の実施回数(平成27年度は3回実施)は適切でしたか。  
1: 適切である。 2: 1回でよい。 3: 2回でよい。 4: 4回がよい。 5: 5回以上がよい。

8. 卒業試験の実施時期(実施月)は、適切でしたか。  
1: 適切である。 2: どちらかという適切である。 3: どちらともいえない。  
4: どちらかという適切でない。 5: 適切でない。

9. 前の質問で、4または5を選択した人へ、もっとも適切だと思う実施時期の組み合わせを選んでください。  
1: 4月、11月、2月 2: 7月、10月、1月 3: 7月、10月、12月  
4: 11月、12月、1月 5: 12月、1月、2月

10. 平成27年度の卒業試験は、次の6分野から2つの分野を選択するものですが、分野の分け方は適切だと思いますか。

平成27年度卒業試験実施分野

経済A(「資本主義経済の基礎理論」、「経済史」、「世界経済」)

経済B(「ミクロ経済学Ⅰ」、「ミクロ経済学Ⅱ」、「マクロ経済学Ⅰ」、

「マクロ経済学Ⅱ」、「統計学Ⅰ」、「統計学Ⅱ」)

経営・会計(「経営学」、「会計学」)

法律A(「憲法」、「刑法」、「行政法」)

法律B(「財産法入門」、「物権法」、「契約法」、「担保法」、「不法行為法」、

「家族関係法」、「会社法」、「有価証券法」、「商事取引法」、

「労働法」、「社会保障法」)

政治(「現代日本政治」、「政治学」、「行政学Ⅰ」、「行政学Ⅱ」、「国際政治」)

1: 適切である。 2: どちらかという適切である。 3: どちらともいえない。  
4: どちらかという適切でない。 5: 適切でない。

※ 4または5を選択した人は、その理由を簡単にお書きください。

---



---

11. 平成27年度の卒業試験は、2分野を選択するものですが、選択分野数はどのくらいが適切だと思いますか。  
1: 1分野 2: 2分野 3: 3分野 4: 4分野

12. あなたが合格した回を受験した試験分野の組合せは以下のどれですか。  
経済学科の卒業生

1: 経済Aと経済B 2: 経済Aと経営・会計 3: 経済Bと経営・会計

4: 経済Aと政治 5: 1～4以外の組み合わせ。

経済システム法学科の卒業生

1: 法律Aと法律B 2: 法律Aと政治 3: 法律Bと政治

4: 経済Aと政治 5: 1～4以外の組み合わせ。

13. 受験した分野で、回答を求められた設問数は、適切でしたか。  
1: 適切である。 2: 多い。 3: 少ない。

14. 受験した分野の各設問の難易度は、卒業試験の合格ライン(合計点で60%以上)に照らして、適切でしたか。

1: かなり難しかった。 2: どちらかという難しかった。

3: どちらかという易しかった。 4: かなり易しかった。

15. 受験した分野の問題の内容は大学生が大学卒業までに最低限身に着なければならぬ能力を判断するものとして適切でしたか。

1: 適切である。 2: どちらかという適切である。 3: どちらともいえない。

4: どちらかという適切でない。 5: 適切でない。

16. 終了後に開示された、卒業試験の正解と解説は、適切でしたか。

1: 適切である。 2: どちらかという適切である。 3: どちらともいえない。

4: どちらかという適切でない。 5: 適切でない。

17. あなたは1年生～3年生の間の普段の学習で、卒業試験を意識した学習をしましたか。

1: かなり意識した。 2: どちらかという意識した。 3: どちらともいえない。

4: どちらかという意識しなかった。 5: 全く意識していなかった。

18. あなたは卒業試験の受験勉強をいつから始めましたか。

1: 4年生になる前 2: 4年生の前期(4年生の夏休みを含む)

3: 試験1月前 4: 試験直前(1週間以内) 5: 特に準備をしなかった。

19. 卒業試験の準備はどのようなものでしたか。複数回答可能

1: 教科書やノートを読み返した。 2: 過去問を数年分解いた。

3: 教員で勉強会をした。 4: 指導教員の指導を受けた。

5: 前回(または前々回)の問題の復習しかなかった。

20. 卒業試験を継続したほうがよいと思いますか。

1: 継続したほうがよい。 2: どちらかという継続したほうがよい。

3: どちらともいえない。 4: どちらかという止めたほうがよい。

5: やめたほうがよい。

※ 4または5を選択した人は、その理由を簡単にお書きください。

---



---

21. 前の質問で1または2を選択した人に、卒業試験の合格率を厳しくすべきでしょうか。

1: 今のままの難易度でよい。 2: もっと易しくしたほうがよい。

3: もっと難しく(もっと不合格者を多く)したほうがよい。

※ 3を選択した人は、その理由を簡単にお書きください。

---



---

(出典：  
平成27年度卒業試験に関するアンケート)

- ・ オープンキャンパスアンケート、模擬講義アンケート

平成26年度にオープンキャンパスと高校生向け模擬講義で調査を行い、カリキュラム改革の方向性を分析した（資料経69、経70）。

**資料経 69：オープンキャンパスアンケート**

**I. オープンキャンパスについて、以下の設問にお答えください。**

問1 (1) あなたの学年等について、あてはまるものに○をつけてください。 ⇨ A. 高校1年生 B. 高校2年生 C. 高校3年生 D. 高校既卒者 E. 教諭 F. 保護者 G. その他 ( )

(2) あなたの性別は、次のいずれにあたりますか。 ⇨ A. 男 B. 女

(3) あなたの高等学校の所在地（都道府県名）を書いてください。 ⇨ 都道府県名 ( )

問2 オープンキャンパスを、どのようにして知りましたか。あてはまるもの全てに○をつけてください ⇨ A. 大学のホームページ B. 大学の学部ホームページ C. 進学関係サイト D. 大学の携帯サイト E. 進学関係携帯サイト F. 新聞 G. 受験雑誌 H. 大学のポスター・チラシ I. 学部のポスター・チラシ J. 入学者選抜要項 K. 先生 L. 先輩・友人 M. 保護者 N. その他 ( )

問3 信州大学動画チャンネル(YouTubeチャンネル)等でオープンキャンパスの映像を知らになりましたか。 ⇨ A. 観た B. 知っていたが、観ていない C. 知らなかったので、観ていない

問4 オープンキャンパスの開催時期についてどう思いますか。 ⇨ A. 良い B. 悪い →( 月 日頃が良い)

問5 オープンキャンパスの開始時間についてどう思いますか。 ⇨ A. 良い B. 悪い →( 時頃が良い)

問6 オープンキャンパスでの説明はどうでしたか。1 から 12 について、それぞれあてはまるものに○をつけてください。

	良く分かった	少し分かった	あまり分からなかった	よく分からなかった
1 大学生活	A	B	C	D
2 授業内容	A	B	C	D
3 就職	A	B	C	D
4 大学院の進学	A	B	C	D
5 資格	A	B	C	D
6 研究内容	A	B	C	D
7 入試説明	A	B	C	D
8 寮	A	B	C	D
9 奨学金	A	B	C	D
10 授業料	A	B	C	D
11 大学の雰囲気	A	B	C	D
12 その他（自由に書いてください）				

問7 参加記念品（シャーペン、ボールペンセット）についてどう思いますか。 ⇨ A. 良かった B. 良くなかった →(記念品としては が良い)

問8 オープンキャンパスに参加して、信州大学経済学部に興味がありましたか。 ⇨ A. はい B. いいえ

問9 オープンキャンパスについてのご感想(良い点、悪い点、もっと知りたかったことなど)をご自由にお書きください。

**II. 信州大学経済学部が、2016(平成 28)年度のスタートに向けて構想中の社会科学系新学部について、アンケートにご協力ください。**

- 信州大学経済学部は、新しい教育プログラムをスタートさせようとしています。
- 信州大学経済学部の新しい教育プログラムでは、経済のグローバル化や地球温暖化などによる環境問題など、社会をとりまく不確実性や複雑性が深まるなかで、自ら考えて、解決策を提案し、実行できる実践型の人材を育てます。

【基礎から応用までの専門教育】基礎から応用まで、きっちり専門科目を履修できる徹底した体系的プログラムを用意。

【実践的応用系コース】基礎的専門科目で基礎を固めた上で、学科ごとに3つの応用系コースに進学。

実践的応用系コースの説明

社会科学系新学部	経済学系新学科
	<b>A) リスク社会コース</b> ゲーム理論や統計学を軸に、金融・環境・健康等各種のリスクを測定・解析し、企業や個人の視点からリスクに対処できるエキスパートを育てます。一般企業はもちろん、リスク分析の重要度が高い、金融・保険業界や商社、政策の中核を担う行政機関等から歓迎される人材を送り出します。
	<b>B) 医療経済コース</b> 医療の経済学や社会福祉論を軸に、社会調査の方法を学び、健康で活力ある地域社会を構築できる人材を育てます。一般企業や自治体職員はもちろん、福祉事業団体、NPO、地域シンクタンク、生活関連企業等から望まれる人材を送り出します。
	<b>C) 法の経済分析コース</b> ゲーム理論に基づく企業行動分析や契約理論を軸に、企業の社会的責任や企業内ガバナンス、特許等をめぐる知的財産権の問題などに、法制度に体现された社会的要請に沿った企業運営を推進できる人材を育てます。民間企業や行政機関の一般部署はもちろん、特に経営企画、政策企画、規制設計部門で戦力となる人材を送り出します。
	法学系新学科
	<b>D) 環境法務コース</b> 文理にわたる学際的な環境学の理解を踏まえて、自然環境と共生する企業や市民の活動を規律する法制度を構築し、環境をめぐる問題を多角的に解決できる人材を育成します。このコースを修了すると、環境法務に強い法律専門職、環境省や各省庁、都道府県の環境系部署の公務員、民間企業での環境法務の即戦力などとして活躍を期待できます。
<b>E) 公共法務コース</b> 多種多様な分野にわたる行政活動に関する法的な仕組みの理解を踏まえて、国家的課題、地域的課題を解決するために、既存の法律や条例に基づき適切な処理を行うことができるだけでなく、様々な課題を解決するための新たな政策を立案し、適切に実施できる人材を育成します。このコースを修了すると、公務員をはじめとして、公的課題を主体的に解決する役割を担う主体として活躍が期待できます。	
<b>F) 経済法務コース</b> 中小民間企業の業務に必要な専門知識(会計学、租税法など)の理解を踏まえて、企業活動を法的に支える能力、また他の企業と交渉する能力などを有する人材を育成します。このコースを修了すると、企業法務に強い法律専門職のほか、民間企業における法務担当、営業・渉外担当などとして活躍が期待できます。	

☞ オープンキャンパスでも説明した信州大学経済学部が構想中の新学部の内容を踏まえて、次の設問にお答えください

問 10 [卒業後をイメージしやすい教育プログラム]  
信州大学経済学部の新しい教育プログラムでは、経済学または法学を、基礎から専門まで体系的に学習できる、積上型のカリキュラムが用意されますが、社会科学分野を専攻した社会人として社会で活躍するために必要と思いますか？

どちらかと  
必要

どちらかといえば  
いけば必要

どちらでもない  
 5 ----- 4 ----- 3 ----- 2 ----- 1

問 11 [達成能力をイメージしやすい教育プログラム]  
信州大学経済学部の新しい教育プログラムでは、社会科学を専攻した学生へのさまざまな社会的要請に基づき、将来発揮すべき具体的な能力を見据えた、応用系コースを用意します。そのようなコースに参加することは、自分の将来に役立つと思いますか？

どちらかといえば  
そう思う

どちらかといえば  
どちらでもない

どちらでもない  
 5 ----- 4 ----- 3 ----- 2 ----- 1

問 12 [実践的教育プログラム(経済系)]  
経済系の応用系コースでは、コースごとの主旨に沿って実験室で模擬市場や模擬企業組織を再現した実験や、医療や企業のフィールドで行う社会調査などの手法を駆使した、実践的科目も配備されます。このような実践的科目にあなたは参加したいと思いますか？

どちらかといえば  
参加したい

どちらかといえば  
参加したい

どちらかといえば  
参加したくない

どちらかといえば  
参加したくない

どちらでもない  
 5 ----- 4 ----- 3 ----- 2 ----- 1

問 13 [実践的教育プログラム(法律系)]  
法律系の応用系コースでは、修得した法律基礎科目や各コース科目の実践力を身につけるため、これらを活用する場として、市役所業務、警察・検察業務、税務、企業法務などの実習系科目を用意する予定ですが、このような科目に魅力を感じますか？

どちらかとい  
魅力がある

どちらかとい  
魅力がある

どちらかとい  
魅力がない

どちらかとい  
魅力がない

どちらでもない  
 5 ----- 4 ----- 3 ----- 2 ----- 1

問 14 [理系学部との連携]

両学科の応用系コースでは、リスクを吟味する際の確率論などに関する理学の分野、医療や健康に関する医学や公衆衛生などの保健分野、環境問題に関する理学や工学の分野など、理系他学部と連携した科目も備えたプログラムとなっています。そのように、経済学あるいは法学だけでなく、関連した他分野の内容も学習できるコースに、あなたは興味を感じますか？

⇒

どちらかといえば どちらかといえば  
興味がある 興味がある どちらでもない 興味はない 興味はない  
5 ----- 4 ----- 3 ----- 2 ----- 1

問 15 [経済学と法学との連携]

信州大学経済学部には経済系新学科と法律系新学科の2学科があるという特徴を活かして、両分野連携科目も、新しい教育プログラムで展開されます。このような科目展開があることは、あなたにとってプログラムの魅力を高めますか？

⇒

どちらかといえば どちらかといえば  
高める 高める どちらでもない 高めない 高めない  
5 ----- 4 ----- 3 ----- 2 ----- 1

問 16 [地域との連携]

両学科の応用系各コースでは、地域の企業や事業者、自治体、弁護士や税理士など、地域経済社会で活動している個人や組織から協力を得たプログラムも展開します。そのような信州大学経済学部の地域経済社会と連携する取組を、あなたはどのように思いますか？

⇒

どちらかといえば どちらかといえば  
評価できる 評価できる どちらでもない 評価できない  
評価できない  
5 ----- 4 ----- 3 ----- 2 ----- 1

問 17 [教育プログラムの工夫]

新しい教育プログラムには、上記質問項目の他にも、あなたの能力を伸ばす工夫があります。次の各項目は、そのような工夫の例ですが、あなたはどの点を評価しますか？

	評価できる	やや評価できる	どちらでもない	やや評価できない	評価できない
1 グループワークなど他の学生と協力した学習方法	5	4	3	2	1
2 データを直接扱う体験的学習方法	5	4	3	2	1
3 高年次まで継続する外国語学習や短期海外研修	5	4	3	2	1
4 コース学習に基づいたインターンシップやボランティア	5	4	3	2	1

問 18 あなたは、信州大学経済学部の新しい教育プログラムに進学してみたいと思いますか？

⇒

進学してみたい 進学先の候補 進学を希望しない わからない  
として考えたい  
1----- 2 ----- 3----- 4

問 19 あなたが問 18 で1か 2 を選択した場合、あなたはどちらの新学科に進学してみたいと思いますか？

⇒

1. 経済系新学科 2. 法律系新学科

問 20 現時点で考えている、あなたの卒業後の進路を教えてください。(3つまで該当する番号に○をつけてください。)

⇒

1. 金融・保険業 2. 商社・貿易業 3. 運輸業  
4. 情報通信業・卸売・小売業 6. 製造業 7. 医療・福祉関連産業 8. 農業その他一次産業 9. 公務 10. 専門職(弁護士・税理士等) 11. 進学 12. 起業 13. その他  
( )

(出典：経済学部作成 平成 25 年度オープンキャンパスアンケート)

資料経 70：模擬講義アンケート

2014 年度 信州大学経済学部 模擬講義 担当講師名 \_\_\_\_\_

A. 信州大学経済学部 模擬講義アンケート

1. 本アンケートによる調査結果は、模擬講義内容の改善やそれに関連する調査研究に限定して利用するものです。
2. 本アンケートの集計は、統計的処理を行い、記述式回答についても個人を特定できない処理を行います。

高校名 \_\_\_\_\_ 学年 \_\_\_\_\_ クラス \_\_\_\_\_

以下の質問の選択肢から最もふさわしいものを選んでください。

- ① あなたの性別は、次のいずれにあたりますか。
- |      |      |
|------|------|
| 1. 男 | 2. 女 |
|------|------|
- ② あなたの出身高校の設置主体は、次のいずれにあたりますか。
- |            |            |
|------------|------------|
| 1. 国立の高等学校 | 2. 公立の高等学校 |
| 3. 私立の高等学校 | 4. その他     |
- ③ あなたの出身高校の学生構成は、次のいずれにあたりますか。
- |         |         |
|---------|---------|
| 1. 男女共学 | 2. 男女別学 |
|---------|---------|
- ④ あなたの受験勉強の型は、次のいずれにあたりますか。
- |              |              |
|--------------|--------------|
| 1. 国公立大学・文系型 | 2. 国公立大学・理系型 |
| 3. 私立大学・文系型  | 4. 私立大学・理系型  |
| 5. まだ決まっていない |              |
- ⑤ あなたは、学校以外で1日にどの程度勉強していますか。予備校や塾での授業、図書館等での自主学習を含む。
- |          |          |
|----------|----------|
| 1. 1時間未満 | 2. 1～2時間 |
| 3. 2～3時間 | 4. 3時間以上 |
- ⑥ あなたは、1日の勉強時間に満足していますか？
- |           |            |            |           |
|-----------|------------|------------|-----------|
| とても満足している | まあまあ満足している | あまり満足していない | 全く満足していない |
| 1 -----   | 2 -----    | 3 -----    | 4 -----   |
- ⑦ あなたの成績を自己評価するなら、平均してクラス(あるいは同じコース)のどの位置にいますか。
- |                   |                    |
|-------------------|--------------------|
| 1. 上位 10%以内       | 2. 上位 10～40% (中の上) |
| 3. 上位 40～60% (中位) | 4. 下位 10～40% (中の下) |
| 5. 下位 10%以下       |                    |
- ⑧ 志望大学を決める上で、一番重視することはなんですか。
- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| 1. 大学の知名度        | 2. 大学の立地・アクセス   |
| 3. 入試方法・科目       | 4. 学びたい学問・内容の有無 |
| 5. 入試の難易度        | 6. 就職実績の良さ      |
| 7. 学費免除や奨学金制度の有無 | 8. その他( )       |
- ⑨ あなたは、信州大学経済学部が開催するオープンキャンパスに・・・
- |                      |                   |
|----------------------|-------------------|
| 1. 今年度(2014年8月に)参加した | 2. それ以前に参加したことがある |
| 3. 来年度以降に参加してみたい     | 4. 参加したいと思わない     |
- ⑩ 今日の講義を聞いて、信州大学経済学部へ進学したいと思いましたか
- |             |        |
|-------------|--------|
| 1. はい       | 2. いいえ |
| (理由: _____) |        |

B. 信州大学経済学部 新教育プログラムに関するアンケート

信州大学経済学部が、2016(平成 28)年度のスタートに向けて構想中の社会科学系新学部について、アンケートにご協力ください。

- 信州大学経済学部は、新しい教育プログラムをスタートさせようとしています。
- 信州大学経済学部の新しい教育プログラムでは、経済のグローバル化や地球温暖化などによる環境問題など、社会をとりまく不確実性や複雑性が深まるなかで、自ら考えて、解決策を提案し、実行できる実践型の人材を育てます。

【基礎から応用までの専門教育】基礎から応用まで、きっちり専門科目を履修できる徹底した体系的プログラムを用意。

【実践的応用系コース】基礎的専門科目で基礎を固めた上で、学科ごとに3つの応用系コースに進学。

実践的応用系コースの説明

社会科学系新学	経済学系新学科
G)	<p><b>リスク社会コース</b></p> <p>ゲーム理論や統計学を軸に、金融・環境・健康等各種のリスクを測定・会席し、企業や個人の視点からリスクに対処できるエキスパートを育てます。一般企業はもちろん、リスク分析の重要度が高い、金融・保険業界や商社、政策の中核を担う行政機関等から歓迎される人材を送り出します。</p>
H)	<p><b>医療経済コース</b></p> <p>医療の経済学や社会福祉論を軸に、社会調査の方法を学び、健康で活力ある地域社会を構築できる人</p>

材を育てます。一般企業や自治体職員はもちろん、福祉事業団体、NPO、地域シンクタンク、生活関連企業等から望まれる人材を送り出します。
<p><b>I) 法と経済分析コース</b>                  ゲーム理論に基づく企業行動分析や契約理論を軸に、企業の社会的責任や企業内ガバナンス、特許等をめぐる知的財産権の問題などに、法制度に体现された社会的要請に沿った企業運営を推進できる人材を育てます。民間企業や行政機関の一般部署はもちろん、特に経営企画、政策企画、規制設計部門で戦力となる人材を送り出します。</p>
法学系新学科
<p><b>J) 環境法務コース</b>                  文理にわたる学際的な環境学の理解を踏まえて、自然環境と共生する企業や市民の活動を規律する法制度を構築し、環境をめぐる問題を多角的に解決できる人材を育成します。このコースを修了すると、環境法務に強い法律専門職、環境省や各省庁、都道府県の環境系部署の公務員、民間企業での環境法務の即戦力などとして活躍が期待できます。</p>
<p><b>K) 都市法務コース</b>                  多種多様な分野にわたる行政活動に関する法的な仕組みの理解を踏まえて、国家的課題、地域的課題を解決するために、既存の法律や条例に基づき適切な処理を行うことができるだけでなく、様々な課題を解決するための新たな政策を立案し、適切に実施できる人材を育成します。このコースを修了すると、公務員をはじめとして、公的課題を主体的に解決する役割を担う主体として活躍が期待できます。</p>
<p><b>L) 経済法務コース</b>                  中小民間企業の業務に必要な専門知識(会計学、租税法など)の理解を踏まえて、企業活動を法的に支える能力、また他の企業と交渉する能力などを有する人材を育成します。このコースを修了すると、企業法務に強い法律専門職のほか、民間企業における法務担当、営業・渉外担当などとして活躍が期待できます。</p>

☞模擬講義で担当教員が説明した信州大学経済学部が構想中の新学部の内容を踏まえて、次の

設問にお答えください

問 1 [卒業後をイメージしやすい教育プログラム]

信州大学経済学部の新しい教育プログラムでは、経済学または法律学を、基礎から専門まで体系的に学習できる、積み上げ型のカリキュラムが用意されますが、社会科学分野を専攻した社会人として社会で活躍するためには必要だと思いますか？

	どちらか といえば 必要	どちら でもない	どちらか といえば 必要ない	どちらか といえば 必要ない				
5	-----	4	-----	3	-----	2	-----	1

問 2 [達成能力をイメージしやすい教育プログラム]

信州大学経済学部の新しい教育プログラムでは、社会科学を専攻した学生へのさまざまな社会的要請に基づき、将来発揮すべき具体的な能力を見据えた、応用系コースを用意します。そのようなコースに参加することは、自分の将来に役立つと思いますか？

	どちらか といえば そう思う	どちら でもない	どちらか といえば そう思わない	そう 思わない				
5	-----	4	-----	3	-----	2	-----	1

問 3 [実践的教育プログラム(経済系)]

経済系の応用系コースでは、コースごとの主旨に沿って、実験室で模擬市場や模擬企業組織を再現した実験や、医療や企業のフィールドで行う社会調査などの手法を駆使した、実践的科目も配備されます。このような実践的科目に、あなたは参加したいと思いますか？

	どちらか といえば 参加したい	どちら でもない	どちらか といえば 参加したくない	参加 したくない				
5	-----	4	-----	3	-----	2	-----	1

問 4 [実践的教育プログラム(法律系)]

法律系の応用系コースでは、修得した法律基礎科目や各コース科目の実践力を身につけるため、これらを活用する場として、市役所業務、警察・検察業務、税務、企業法務などの実習系科目を用意する予定ですが、このような科目に魅力を感じますか？

	どちらか といえば 魅力がある	どちら でもない	どちらか といえば 魅力がない	魅力が ない				
5	-----	4	-----	3	-----	2	-----	1

問 5 [理系学部との連携]

両学科の応用系コースでは、リスクを吟味する際の確率論などに関する理学の分野、医療や健康に関する医学や公衆衛生などの保健分野、環境問題に関する理学や工学の分野など、理系他学部と連携した科目も備えたプログラムとなっています。そのように、経済学あるいは法学だけでな

	どちらか といえば 興味がある	どちら でもない	どちらか といえば 興味はない	興味は ない				
5	-----	4	-----	3	-----	2	-----	1

く、関連した他分野の内容も学習できるコースに、あなたは興味を感じますか？

問 6 [経済学と法学との連携]

信州大学経済学部には経済系新学科と法律系新学科の2学科があるという特徴を活かして、両分野連携科目も、新しい教育プログラムで展開されます。このような科目展開があることは、あなたにとってプログラムの魅力を高めますか？

	どちらか といえば 高める	どちら でもない	どちらか といえば 高めない	高め ない
5	----- 4	----- 3	----- 2	----- 1

問 7 [地域との連携]

両学科の応用系各コースでは、地域の企業や事業者、自治体、弁護士や税理士など、地域経済社会で活動している個人や組織から協力を得たプログラムも展開します。そのような信州大学経済学部の地域経済社会と連携する取り組みを、あなたはごどう思いますか？

評価 できる	どちらか といえば 評価できる	どちら もない	どちらか といえば 評価 できない	評価 できない
5	----- 4	----- 3	----- 2	----- 1

問 8 [教育プログラムの工夫]

新しい教育プログラムには、上記質問項目の他にも、あなたの能力を伸ばす工夫があります。次の各項目は、そのような工夫の例ですが、あなたはどの点を評価しますか？

	評価できる	やや評価できる	どちらでもない	やや評価できない	評価できない
1 グループワークなど他の学生と協力した学習方法	5	4	3	2	1
2 データを直接扱う体験的学習方法	5	4	3	2	1
3 高年次まで継続する外国語学習や短期海外研修	5	4	3	2	1
4 コース学習に基づいたインターンシップやボランティア	5	4	3	2	1

問 9 あなたは、信州大学経済学部の新しい教育プログラムに進学してみたいと思いますか？

進学して みたい	進学先の候補 として考えたい	進学を希望 しない	わからない
1	----- 2	----- 3	----- 4

問 10 あなたが問 9 で1か 2 を選択した場合、あなたはどちらの新学科に進学してみたいと思いますか？

1. 経済系新学科                      2. 法律系新学科

問 11 あなたが問 9 で1か 2 を選択した場合、信大の他に何校くらい受験しようと考えていますか？

1. あと2校    2. あと3~5校    3. あと6~9校  
4. あと10校以上

問 12 現時点で考えている、あなたの卒業後の進路を教えてください。(3つまで該当する番号に○をつけてください。)

1. 金融・保険業    2. 商社・貿易業    3. 運輸業    4. 情報通信業  
5. 卸売・小売業    6. 製造業    7. 医療・福祉関連産業  
8. 農業その他一次産業    9. 公務    10. 専門職(弁護士・税理士等)  
11. 進学    12. 起業    13. その他(                      )

(出典：経済学部作成 平成26年度模擬講義アンケート用紙)

・ 共通教育における授業の改善

機構において、教育の質の改善・向上を図るため、授業改善アンケート及び優れた実践例の頒布に取り組んでいる。（資料経71、経72）

**資料経71：学生による授業改善アンケート**

2015年（平成27年）10月8日

**平成27年度前期全学教育機構「学生による授業改善アンケート」の結果**

評価分析室全学教育機構分室

全学教育機構では、平成27年度前期に中間アンケートを行い、学生の要望を確認し、後半の授業が行われた。本結果は、期末に実施されたものによる。

平成27年度前期期末「学生による授業改善アンケート」は、以下の2とおりの方法により実施された。

- a. 総合人間科学系所属の各教員が担当する授業について授業中に用紙に記入する。
- b. 全授業題目を対象としてウェブ上で記入する。

アンケートの質問項目は、用紙・ウェブともに以下のとおりである。

<アンケート質問項目>

1. この授業を履修するにあたり、自分には基礎的な知識があった(5択)
2. あなたの、この授業への出席率は高かった(5択)
3. あなたは、この授業中、教員の説明を熱心に聞いた(5択)
4. あなたは、この授業時間外に、授業内容を理解するための努力をした(予習・復習等)(6択)  
※4.の選択肢(週4時間以上、週3～4時間、週2～3時間、週1～2時間、週1時間未満、全くしない)
5. 教員は、熱意・意欲をもって授業を行っていた(5択)
6. 教員の話し方は、明瞭で聞き取りやすかった(5択)
7. 教員は、板書・資料・スクリーン等を見やすく示していた(5択)
8. 教員は、シラバスの各項目に沿って授業をした(5択)
9. 教員は、授業時間外の学習について、適切に指導した(シラバスでの参考文献の提示等)(5択)
10. 教員は、学生の理解度(小テスト、リアクションペーパー、口頭など)を確認しながら進めた(5択)
11. この授業では、授業の大切なポイントが示され、授業の目標に到達することができた(5択)
12. この授業に満足している(5択)
13. この授業について、改善すべきと思う事、教員が工夫をしていると思う事、その他、意見、要望等がありましたら、書いてください(自由記述)

アンケートの結果は、部門長および評価分析室機構分室員が内容について検討・解析した。以下に回答について、科目群ごとにその結果を報告する。（用紙を使ったアンケートの結果についても、ウェブに取込して集計されている。）

**1. 全体に関する結果**

紙媒体によるアンケート実施クラス数を増やしたので、今年度（2015年度）前期の機構授業に対する授業改善期末アンケートの回答率は、2014年度前期の数字と対照させる（2014年、2015年の回答率の順序）と、講義全体：50%，54%，演習全体：41%，49%，外国語全体：46%，79%，実験・実習全体：56%，76%へと、全ての科目群で増加した。期末アンケートの講義科目、演習科目、外国語科目の集計結果は、図1～3の通り。

図1【講義科目】

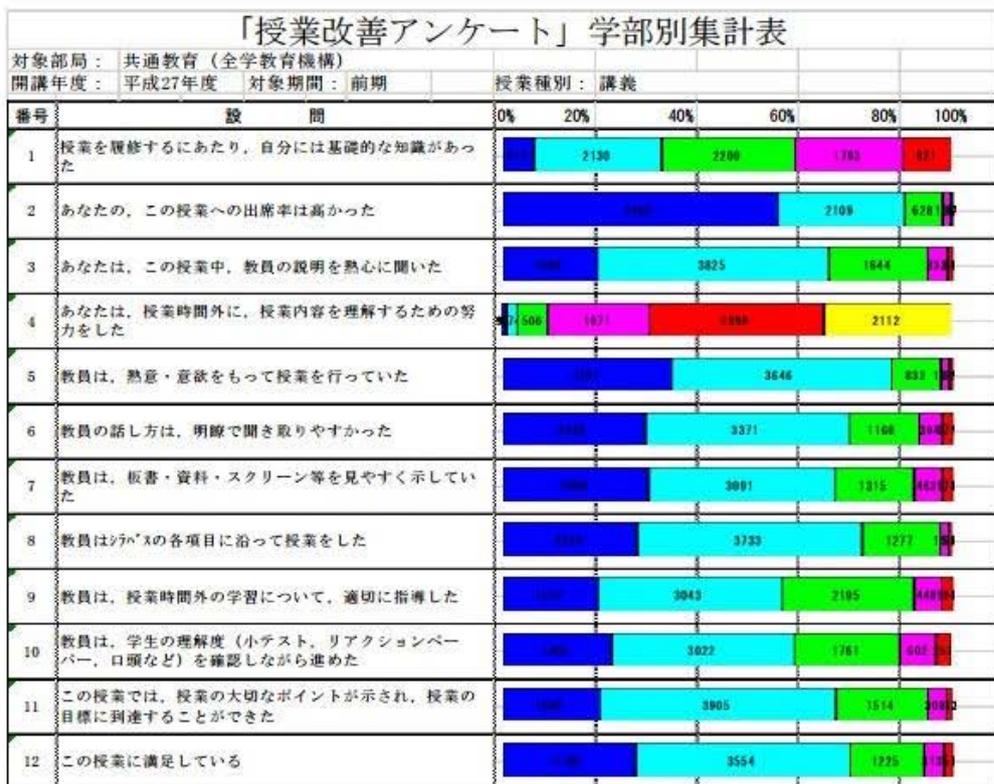
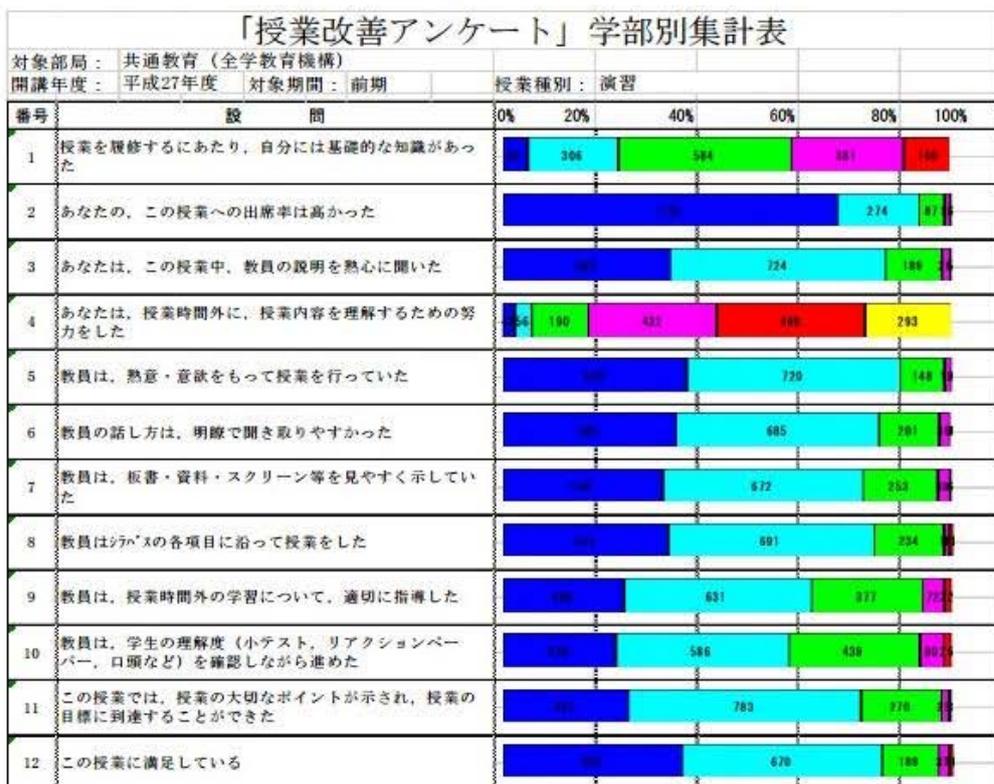


図2【演習科目】



（出典：平成27年度前期 共通教育「学生による授業改善アンケート」の結果）

**資料経72：共通教育グッドプラクティス**

全学教育機構では、企画実施する信州大学の共通教育の教育改善に資するため、すべての共通教育開講科目の中から、優れた実践を「共通教育グッドプラクティス」として毎年選定することとしています。これは、共通教育科目における、優れた取組を表彰し、内容およびその成果をあらゆる機会を捉えて全学に広め、もって共通教育さらに本学教育全体の改善への一助とするものです。

**選定の流れ**

1. **テーマ決定**  
「効果ある授業方法」を中心として、当該年度の募集テーマを決定します。
2. **公募**  
テーマに沿って、共通教育で開講する全科目あるいは科目群（複数科目の連携の場合）を対象に、自薦・他薦を問わず募集します。
3. **応募授業のピアレビュー**  
応募された取組については、全学教育機構ホームページに掲載し、全学の教員に一定期間ピアレビューを推奨します。
4. **審査**  
全学教育機構教務委員会において行います。
5. **選定授業担当者による取組発表**  
取組発表会を実施し、選定授業担当者により、取組の概要と要点を発表していただきます。また、表彰式も行われます。

年度	テーマ
H22	信州大学の DP を実現するための共通教育における授業の実践的取組（1つの学位授与の方針（DP）を取り上げ、その実現に向けた、特に効果的な教育実践）
H23	人間力向上に向けた取組（コミュニケーション力・言語力・論理構成力の向上に向けた取組）
H24	男女共同参画の推進に向けての取組
H25	授業外学修時間を増やす取組
H26	地域課題実践授業の試み
H27	テーマ① 大学における教育内容・方法の改善等について テーマ② アクティブ・ラーニングについて

（出典：全学教育機構提供資料もとに経営企画課作成）

（4）職員の専門性の向上

学務系職員が、定期的に全学の研修で根拠法令等の確認及び効率的実務のための情報交換を行っている（資料経73）。

**資料経73：学務系実務担当者研修**

平成 27 年度学務系実務担当者研修スケジュール	
日時：平成 27 年 9 月 11 日（金）10:00～16:00	
研修会場：理学部大会議室（理学部 C 棟 2 階）	
時間	項目
9:45-	受付
10:00-10:10	丸山学務部長 挨拶
10:10-12:00	講演 『大学等に求められる「合理的配慮」とは何か』 学生相談センター障害学生支援室長 篠田直子 先生 質疑応答 (グループワーク準備)
12:00-13:00	昼食会(希望者による)
13:00-15:00	グループワーク 『障害のある学生の困り感を体験してみよう(体験)』 『障害があるかもしれない学生が窓口に・・・(対応)』
15:00-15:10	休憩
15:10-16:00	グループワーク発表、質疑応答 まとめ
16:00	閉会

（出典：平成27年度学務系実務担当者研修スケジュール）

（水準）期待される水準を上回る。

（判断理由）

教育サービスの改善活動は、定期的恒常的に実施される教員相互と学生による授業評価に基づき、担当委員会の下にPDCAサイクルに則って組織的に運営されている（資料経59～経64）。

特に、学部長以下、学生委員会、教育企画委員会下部組織のFD・シラバス部会、カリキュラム検討部会を中心に、不断の教育の質向上とプログラム改善に努めている（資料経58、

59)。FD・シラバス部会が、組織的にFD活動を実施し、日常的な授業改善実施サイクルの要となっている（資料経60）。

「学生サポート体制」（資料経41）記載のとおり、1年次は新入生ゼミの担当教員、2年次以降は専門演習の担当教員を担任とし、一部の演習無所属学生も学生委員会が担当するなど、学生全員を漏れなく指導している。さらに学生相談室（資料経38、経48）、全学教育機構所属教員による副担任制度（資料経35）を併用し、手厚い学生支援体制を整備している。

第2期中期目標期間から、ピアレビューの対象講義後に聴講レビューした複数教員を交えた意見交換を行っており（資料経59）、授業改善が大きく前進した。FD講習会への参加教員数も、変動しつつも徐々に上昇傾向にある（資料経60）。授業改善アンケートの回答率も上昇しており、学部全体の関心が高まっている（資料経62）。以上の取組を通じ、質の高い専門教育を提供している。

このように、大学生、保護者の教育水準に対する期待に応じて育成した人材の供給を通じて、就職先企業等の社会の期待に応えている。

観点 教育内容・方法

(観点に係る状況)

(1) 体系的な教育課程の編成

① 学位授与の方針 (DP) に基づく教育課程の編成

専門科目の編成は、以下のとおりである (資料経74、経75)。

資料経74：経済学部専門科目学位授与の方針マップ

「学位授与の方針」マップ(カリキュラムマップ)

開講部局：経済学部

開講年度：2015年度(西暦)

開講期間：前期、後期、通年

学位授与の方針の範囲：全学士課程共通

コード	授業名	◎自己認識・自己啓発	◎社会的行動マインド	◎人類知の継承と未来	◎多様な文化受容マインド	◎科学リテラシー	◎言語能力	◎コミュニケーション	◎情報活用能力	◎問題発見・解決能力	◎普遍的・数量的理解	◎専門知識と応用力	◎専門外の知識	◎地域環境に関する理	◎環境基礎力	◎環境実践力	社会における課題発見	文章力と口頭発表力	経済学、経営学、会計	経済現象に対する実証	法学、政治学の基礎	現代社会における法的		
K1109	社会科学特講*(総合法律学特別演習Ⅱ)																					○		
K2048	総合法律学特別演習Ⅱ																						○	
K3402	日本語資格試験Ⅰ						○																	
K3403	日本語資格試験Ⅱ						○																	
K3453	インターンシップ*	○						○										○						
K3454	ボランティア*	○						○										○						
K3456	産業社会資格試験*	○									○													
K3503	英語資格試験Ⅰ						○																	
K3504	英語資格試験Ⅱ						○																	
K3603	中国語資格試験Ⅰ						○																	
K3604	中国語資格試験Ⅱ						○																	
K3703	情報処理資格試験Ⅰ	○											○											
K3704	情報処理資格試験Ⅱ	○											○											
K3803	スポーツ資格試験Ⅰ	○								○			○	○				○						
K3804	スポーツ資格試験Ⅱ	○								○			○	○				○						
K1004	社会科学特講*(アメリカ(証券)法入門)																					○		
K1005	社会科学特講*(臨床法学)																						○	
K1010	資本主義経済の基礎理論											○						○		○				
K1014	ミクロ経済学Ⅰ											○								○				
K1017	マクロ経済学Ⅰ					○					○									○				
K1019	経済数学入門										○													
K1026	統計学Ⅱ																			○		○		
K1027	計量経済学										○										○			
K1032	地方財政											○								○				
K1033	金融システム																				○			
K1036	国際金融																				○			
K1046	現代経済学特講Ⅱ																	○		○	○			
K1048	経営組織論							○				○							○	○	○			
K1054	経営会計											○								○				
K1056	社会調査法																			○		○		
K1059	福祉政策論																			○		○		
K1061	編入生特別演習(経済学科)							○		○										○				
K1066	金融																					○		
K1067	日本経済論																					○		
K1070	会計学																					○		
K1103	社会科学特講*(マーケティング)																			○	○	○		
K1104	社会科学特講*(経営と組織)							○				○								○	○	○		
K1106	社会科学特講*(現代史基礎Ⅱ(世界史))																			○				
K1110	社会科学特講*(経済のための線形代数)										○													
K1111	社会科学特講*(生保数理)										○	○												
K1112	社会科学特講*(年金数理)										○	○												
K1114	社会科学特講*(GlobalPoliticalEconomy)																			○				
K1116	社会科学特講*(環境法)														○								○	
K1118	社会科学特講*(損保数理)										○	○												
K1120	社会科学特講*(行政実務)																						○	
K1125	社会科学特講*(実用ビジネス英語)	○					○	○																
K2001	憲法																			○			○	
K2005	現代日本政治	○																					○	○
K2006	契約法			○																			○	
K2007	不法行為法											○											○	



資料経75：経済学部専門科目シラバス（例）							
登録コード	K1018						
授業科目	マクロ経済学Ⅱ			担当教員	徳井 丞次		
英文授業名	Macroeconomics Ⅱ			副担当			
単位数	2	講義期間		曜日・時限	木曜・3時	対象学年	2年生以上
講義室	経済第2講義室		授業区分	講義			
<p>(1)授業のねらい</p> <p>授業で得られる「学位授与の方針」要素／◎：全学共通</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済学、経営学、会計学などの基礎知識を修得し、これらを応用した理論的思考ができる。</li> </ul> <p>【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済成長のメカニズムに関する理論を理解し、日本の成長戦略や、世界経済の発展、収束について論じることができるようになる。</li> </ul> <p>【授業のねらい】</p> <p>この講義は、「マクロ経済学Ⅰ」の履修を前提とし、マクロ経済学のさらに発展した内容を扱う。マクロ経済学は、数式のモデルで仮説を厳密に記述し、それから検証可能な関係を導いて、その関係をデータに当てはめて検証する。そうして実際のデータとの矛盾点が出てくると、最初のモデルを修正するという作業を繰り返しながら発展してきた。また、こうして鍛え上げられたモデルは、経済予測や政策分析のためのツールとして使われている。</p> <p>この授業では、マクロ経済の長期的な現象である「経済成長」をテーマに取り上げて、こうしたモデルとその検証、またモデルを使った政策分析の例を説明したい。</p> <p>(2)講義の概要</p> <p>標準的な経済成長モデルであるソロー型成長モデルから出発して、そのモデルから導かれる予測を吟味して、現実のデータとうまく当てはまるかどうか検証する。当てはまらない部分を修正するためには、モデルをどのように修正すればよいかを考え、発展したモデルを吟味する。また、こうしたモデルに基づく実証分析を紹介し、経済政策上の観点を論じる。</p> <p>(3)講義計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 経済成長と財政赤字(授業のintroduction)</li> <li>2. 経済成長の概観</li> <li>3. 経済成長論のための数学補論</li> <li>4. ソロー型経済成長モデル             <ul style="list-style-type: none"> <li>・モデルの基本的な構造</li> <li>・貯蓄率の変化と経済成長</li> <li>・均斉成長経路への収束の速度</li> <li>・ソロー型経済成長モデルと労働生産性格差</li> </ul> </li> <li>5. 経済成長の収束は起こっているのか</li> <li>6. 成長会計</li> <li>7. 人的資本と経済成長</li> <li>8. 研究開発と経済成長</li> <li>9. 経済成長、生産性の実証分析</li> </ol> <p>(4)成績評価の方法</p> <p>授業中の宿題30%+期末試験70%の配点で成績評価を行う。</p> <p>(5)成績評価の基準</p> <p>授業で示した例題や宿題と同レベルの問題が解ければ「水準にある(可)」、さらに応用問題がほぼ解ければ「やや上にある(良)」、応用問題が完全に解ければ「かなり上にある(優)」、応用問題について優れた解答が書ければ「卓越している(秀)」。</p> <p>(6)事前事後学習の内容</p> <p>授業終了時に毎回、次回の講義で扱う範囲を紹介し、予習すべき教科書の範囲、その他事前学習の内容を指示するので、その準備をして授業に臨むこと。</p> <p>(7)履修上の注意</p> <p>マクロ経済学のより発展した内容を扱うので、モデルは数式で記述され展開される。必要な数学は、できるだけ簡単な解説を加えながら進めるので、それほど恐れる必要はない。しかし、数式を見るだけで頭が痛くなる人や、授業に出席せずに友人のノートのコピーを見るだけで単位をとろうと思っている人には、手ごわい授業となるであろう。</p> <p>(8)質問、相談への対応</p> <p>質問は、できるだけ授業中に手を挙げて質問してもらえると多くの人の利益になる。しかし、個別に質問がある場合には、授業時間の次の時間をオフィスアワーとするので、研究室に質問に来ることができる。また、学生便覧掲載のメールで連絡して、相談日を決める質問に来ることもできる。ただし、この場合には、メールのやりとりで時間がかかる場合があるので、早めに連絡をとること。</p> <p>【教科書】</p> <p>チャールズ・I.ジョーンズ『マクロ経済学Ⅰ 長期成長編』東洋経済新報社、2011年。</p> <p>【参考書】</p> <p>チャールズ・I.ジョーンズ『経済成長理論入門 新古典派から内生的成長理論へ』日本経済新聞社、1999年。</p> <p>デビッド・ローマー『上級マクロ経済学』日本評論社、1998年。</p> <p>(この教科書の、1章、3章-Bに対応する内容を講義する予定。時間に余裕があれば3章-Aも扱う。上級のマクロ経済学への橋渡しとして、とても詳しく良い教科書。ただ唯一の難点は、とても分厚くて、値段が高いこと。しかし、1章と3章を熟読玩味するだけでも、十分価格に値する内容がある。)</p> <p>OECD『経済成長 OECD諸国における要因分析』中央経済社、2005年。</p> <p>(経済成長理論を使った実証分析、政策分析の応用例を知るための手ごろな本。)</p> <p>深尾京司、宮川努編『日本の生産性と経済成長』東京大学出版会、2008年</p> <p>(私も参加している、日本の生産性と経済成長についての実証研究。)</p> <p style="text-align: right;">(出典：シラバス)</p>							

・シラバスガイドライン

FD・シラバス部会が作成要領を示している（資料経76）。

**資料経 76：経済学部のシラバス作成要領**

**平成 27 年度 シラバス作成要領**

シラバスをキャンパス情報システムより入力してください。また作成に当たりましては、本要領を熟読いただきますようお願いいたします。

**★入力の前にお読みください**

- \* 授業科目名は、11・15カリを主として表示しています。
- \* 一部の授業科目については、06カリへの読替の関係で複数の授業科目名で表示されていますので、お手数ですが、全ての科目に入力をお願いいたします。
- \* 複数教員で実施する授業は、全員入力可能ですので、打合せのうえ、入力をお願いします。副担当教員がもれている場合は、学務グループ(田中)までご連絡ください。
- \* 講義期間、曜日、時限、講義室に誤りがありましたら、学務グループ(田中)までご連絡ください。
- \* 「対象学生」欄は入力済ですので、ご確認ください。「県内大学開放授業・市民開放授業」の部分は別途依頼したアンケートの結果に基づき、学務グループが入力します。
- \* シラバスは学外(自宅等)からも入力可能です。
- \* 「専門演習」の募集日程、ガイダンス等で使用する部屋は、2月10日(火)の教授会後にお知らせします。
- \* 学長より、男女共同参画に係る内容を含む授業がある場合、指定の文言をシラバスに記載いただくよう、依頼がございました。別紙依頼文(【依頼文】男女共同参画行動計画関係.PDF)を参照いただき、該当する授業は対応方をお願いいたします。

**(1) 授業のねらい**

**① 授業で得られる「学位授与の方針」要素**

「ディプロマポリシー」のうち、担当する授業に該当するものを選択してください。

**②【授業の達成目標】**

①で選択した「学位授与の方針」の項目について、この授業では「どのようにできるようになるのか」をお書きください。「○○ができるようになる・○○できるようにする」という表現を標準としてください。「教員が何を教えるのか」ではなく、「学生が何を身につけるのか・何ができるようにするのか」という観点でお書きください。

**③ 授業のねらい**

この授業に関する「授業の大きな目標」をお書きください。

**(2) 講義の概要**

当該授業の授業形態、授業計画等の概要を 200～250 文字を目安としてお書きください。

**(3) 講義計画**

全 15 回(4 単位授業の場合 30 回)で何を行うかお書きください。リレー式講義の場合、各回の授業担当が誰なのか、分かりやすく記載してください。期末試験は 15 回(30 回)の中には含みません。また、各回で実施する内容を具体的かつ明確に記入してください。以下の例のような回によってどんな内容を実施するのが、判別できないような書き方は避けてください。

(悪い例)

第1回	マクロ経済の基礎①
第2回	マクロ経済の基礎②
第3回	マクロ経済の基礎③

第 1～3 回	マクロ経済の基礎
第 4～5 回	金融市場

**(4) 成績評価の方法**

成績評価の方法を具体的な評価基準でお書きください。ただし、出席点は評価基準には含まないでください(出席○%、出席点○点などはNG)。

**(5) 成績評価の基準**

平成 27 年度から新たに追加となる項目です。「何ができていれば、授業の達成目標の水準から見て『卓越している』/『かなり上にある』/『やや上にある』/『その水準にある』』と言えるのかをお書きください。

◀筆記試験の場合の例▶

授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」

◀レポートの場合の例▶

(i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。(i) から (v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「水準にある」。

**(6) 事前・事後学習の内容**

平成 27 年度から新たに追加となる項目です。その授業での事前・事後の自主学習に関する計画をお書きください。

◀記載例▶

- ・「前週の授業内容の理解を問う毎回小テストを授業冒頭に行う。それに備えるためのワークシートを毎回配布するので、それを使って授業内容を毎回復習してから授業に臨むこと。」
- ・「毎回、授業終了後に予復習のためのワークを eALPS にアップする。それは次回の授業で回収するので、自分で印刷して持参すること。」

**(7) 履修上の注意**

当該授業の履修に関する注意事項、連絡事項をお書きください。

**(8) 質問、相談への対応**

受講生からの質問や相談にどのようにして応じるのか、その対応方法を具体的にお書きください(オフィスアワーを指定する、メールにて受け付ける等)。

**(9) 教科書・参考書**

教科書、参考書をお書きください。使用しない書籍は参考書欄にお書きください。また、教科書等が未定の場合は、「授業において指示する」とお書きください。

(出典：経済学部作成)

② 専門科目

科目の区分は以下のとおりである（資料経77）。

**資料経77：共通教育科目と専門科目**  
 第2章 教育課程及び履修  
 （教育課程）  
 第4条 本学部における教育課程は、共通教育科目及び専門科目をもって編成する。  
 （教育課程の履修）  
 第5条 共通教育科目を除く授業科目及びその単位数は、別表のとおりとする。  
 2 経済学科及び経済システム法学科の卒業の要件は、次項に定める卒業に必要な単位数を  
 修得するとともに、卒業試験に合格しなければならないものとする。  
 3 経済学科及び経済システム法学科の卒業に必要な単位数は、次のとおりとする。  
 共通教育科目 38単位  
 専門科目 90単位  
 計 128単位  
 4 履修の方法については、別に定める。  
 （出典：経済学部規程から抜粋）

・カリキュラム編成の明示

DP及びCPの方針の下に継続的な見直しと検討を行い、各学科・課程のカリキュラムの構成、科目群の例（前掲資料経17(p.9)、経18(p.10))を示している。全専門科目を3段階のレベルで示すとともに分野毎の科目群をナンバリングし、学生に計画的・体系的な履修を促している（前掲資料経16(p.8)）。

③ 共通教育科目

共通教育科目の編成は、以下のとおりである（資料経78、経79）。

**資料経78：共通教育科目学位授与の方針マップ（例示15件）**

**「学位授与の方針」マップ(カリキュラムマップ)**

開講部局： 共通教育(全学教育機構)  
 開講年度： 2015年度(西暦)  
 開講期間： 前期

学位授与の方針の範囲： 全学士課程共通

コード	授業名	◎自己認識・自己啓発	◎社会的行動マインド	◎人類知の継承と未来	◎多様な文化受容マインド	◎科学リテラシー	◎言語能力	◎コミュニケーション	◎情報活用力	◎問題発見・解決能力	◎普遍的・数量的理解	◎専門知識と応用力	◎専門外の知識	◎地域環境に関する理	◎環境基礎力	◎環境実践力
02508	日本国憲法		○		○											
04222	マリンスポーツ	○						○								
11101101	環境社会学入門														○	
11101102	環境社会学入門														○	
11101103	環境社会学入門														○	
11102101	熱帯雨林と社会														○	
11102102	熱帯雨林と社会														○	
11102103	熱帯雨林と社会														○	
11105101	ライフサイクルアセスメント入門														○	
11105102	ライフサイクルアセスメント入門														○	
11106101	環境と生活とのかかわり															○
11106102	環境と生活とのかかわり															○
11109101	環境問題のしくみ										○				○	
11110101	環境科学入門												○	○		
11111101	グリーンテクノロジー											○			○	
	・ (以下略)															

（出典：信州大学シラバス検索システム）

資料経79：共通教育科目シラバス（例）						
登録コード	16902101					
授業科目	グローバルに生きるゼミ			担当教員	松岡 幸司	
英文授業名	Global Awareness Seminar				RUZICKA DAVID EDWARD	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・4時限	対象学年
講義室	共通教育32講義室		授業区分	演習		
<p>(1)授業のねらい            授業で得られる「学位授与の方針」要素／◎：全学共通・◎みずから他者や社会との関わりのなかで捉え、自己啓発に努めることができる【自己認識・自己啓発マインド】  <b>【授業の達成目標】</b>            ・グローバルとは何か、そしてグローバルな人材とはどのようなものなのか、という問いに対して、自分の生き方としてとらえ、説明できるようになる。  <b>【授業のねらい】</b>            名前のおり「グローバルに生きる」ということを「自分の問題として考える」ゼミです。社会のグローバル化が当然のこととされ、グローバルな人材として社会で活躍することが求められている時代になっていますが、イメージが先行してあいまいな部分が多いように思えます。そのイメージだけで漠然とした活動をしていても結果として「グローバル化」は成りませんし、「グローバルな人材」にもなれません。例えば、英語ができてグローバルな人材ではありませんし、逆に、英語がそれほどできなくてもグローバルな人材として活躍できます。そこでこのゼミでは：            ・グローバルとは何か、そしてグローバルな人材とはどのようなものなのか？            ・現実的な問題として、自分にとっては具体的にどのようなものなのか？            この二点について、「自分としての答え」を見つけ、自分の生き方を考え、これからの学生生活の目標や目的を明確にすることがこのゼミのねらいです。また、実際に海外に行く(留学、出張)ということはどういうことなのか、ということを実践的に考えるを通して、異文化理解・受容を促進し、社会的な行動規範についても理解を深めます。最終的には、単なる情報ではなく、自分の生き方としてグローバル化というものをとらえ、説明できるようになってもらいます。</p> <p>(2)授業の概要            「授業のねらい」に書いたような性格上、この授業は、「グループワーク」、「ディスカッション」、「プレゼンテーション」が中心になります。「知識を得る」のではなく、情報を得て、それについて考え、自分の問題として発信することを要求します。(その意味では、受け身的な態度では受講することはできません。)毎回の授業の大まかな流れは、以下のようなものです。            1. 資料あるいは短いレクチャーを通して、テーマごとの問題点を明確にする。            2. その問題点についてグループワークやディスカッションを通して理解を深めつつ、自分以外の視点についても触れ、自分の問題として考える。            3. ディスカッションの結果をグループで(あるいは個人で)まとめて発表する。            4. 授業内容のまとめとして、毎回短い文章を提出してもらう。(コメントをつけて返却し、それを次の授業から活かしてもらう。)</p> <p>(3)授業のキーワード            グローバル、異文化理解、自己認識</p> <p>(4)授業計画            1. オリエンテーション：「グローバル(に生きる)とは何か？」            2-4. グローバルな人材とは？(自分の問題として考える)            5-6. 海外へ行く、海外で暮らす/学ぶとは？(1)            7-8. 海外へ行く、海外で暮らす/学ぶとは？(2)(担当：Ruzicka)            9. グループ発表            10-15. 様々なテーマで「グローバル」ということについて、自分の問題として考える。            ☆ 個人発表(試験期間終了直後に行います)            (第4火曜日は会議のために休講となります。その分は、受講学生と相談して別の時間帯に開講します。詳細は授業初日に説明します。)</p> <p>(5)成績評価の基準            ・毎回の授業終了後の提出物：30%            ・グループ発表(相互評価+教員による評価)：30%            ・個人発表(相互評価+教員による評価)：20%            ・個人発表の報告書：20%            これらを総合して学期末に60点を獲得することで、「授業の達成目標に達した水準にある」と評価する。</p> <p>(6)事前事後学習の内容            事前学習：授業までに、指定された資料を読み、考えをまとめておく必要があります。毎回、密度の濃い授業になりますので、指定された準備は不可欠となります。            事後学習：授業内容を踏まえ、毎回提出してもらうものがありますし、次の授業への接続の点でも復習や理解の深化の努力が不可欠となります。</p> <p>(7)履修上の注意            ・単なる「受講」ではなく「積極的参加」が求められます。最初は難しいとは思いますが、自分で考え、ディスカッションをし、自分で、自分の答えを見つけることが求められます。・グローバルに生きたい、という意識の有無に関係なく、真剣に取り組む意志のある学生の参加は歓迎です。            ・毎回の授業は密度が濃くなりますし、毎回の課題もありますので、「適当に済ませます」ということでは参加できません。それでも、困難な点については、教員がサポートしますので、積極的に質問や相談をしてください。</p> <p>(8)質問、相談への対応            オフィスアワーについては、初回の授業で伝えます。研究室は、共通教育南棟3階にありますので、質問や相談は、気軽に訪ねてください。ただ、事前にメール連絡をしておいた方が確実です。</p> <p><b>【教科書】</b>            マーク・ガーソン(松本裕 訳)：『世界で生きる力。自分を本当にグローバル化する4つのステップ』(英治出版)¥1,900-            その他にプリントを用いて進めます。  <b>【参考書】</b>            授業時にその都度紹介していきます。</p>						

(出典：シラバス)

(2) 教育方法・学生支援の工夫

・専門科目における教育内容・方法の工夫

産業界及び中央省庁等における政策企画立案等の第一線の人物を外部講師として招く科目を(資料経80～経82)を開講し、社会の現場における課題と専門教育との関係について実践的な視点から学習する機会を提供している。

グローバル教育として、外国における実地の英語研修企画「ハワイ大学研修」(資料経83～経85)、国際的ビジネス社会に対応し平成27年度より新設した「実用ビジネス英語」(資料経86)、TOEFLやTOEIC等の英語資格取得を促す資格科目(資料経87)を開講している。海外留学状況等は資料(資料経88～経90)のとおりである。

平成21年度に導入した本格的な実践教育科目「臨床法学」について、平成22年度から履修登録に際してエントリー審査を行い、事前に履修者の意欲と目的意識を高めることにより授業を充実させた。(資料経91)。

新入生ゼミナールで早期の環境教育を実施している(資料経92、経93)。

学習の再確認のため、4年次の卒業試験合格を卒業要件としている(資料経94)。

①外部講師を招いて実施する授業

資料経80：平成27年度産業論特論シラバス							
登録コード	K4005		(参考 受講者数:225人)				
授業科目	産業論特論*			担当教員	桃井 謙祐		
英文授業名	Special Lecture on Industries			副担当			
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	水曜・3時限 水曜・4時限	対象学年	2年生以上
講義室	経済第2講義室		授業区分				
<p>(1)授業のねらい</p> <p>授業で得られる「学位授与の方針」要素/◎:全学共通</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会科学には異なる視点やアプローチがあることを理解しつつ、これらの専門知識に基づき、将来の社会や組織の一員として、自らの課題を発見し、主体的に取り組むことができる。</li> <li>・◎多様な情報を適切に取捨選択し、分析・活用できる【情報活用力】</li> </ul> <p>【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設定されたテーマに関する有識者による講義内容の理解を通して、自らの課題を発見し、主体的に取り組むことが出来るようになる。</li> <li>・有識者から直接に講義を聞くことを通じて、必要な情報に基づいて、分析・活用が出来るようになる。</li> </ul> <p>【授業のねらい】</p> <p>将来の日本経済を担う学生に対して産業活動をリードする企業人や政策担当者の方々から直接に話を聞く機会を設けるため、1988年度以降、学部の常設の講義として産業論特論を開講してきており、2015年度で28回目を迎えます。2015年度の産業論特論は、「多様化の時代の企業経営」をテーマに行います。我が国では少子高齢化・人口減少が進む一方、時代は一層急激に変化し、我が国企業はイノベーションの創出や事業環境のグローバル化への対応もますます重要となる中、これまで以上に多様な人材を活かし、その能力が最大限発揮される機会や働き方を実現していくことで、イノベーションを生み出し、価値創造につなげていくことがますます求められてきています。こうした多様な人材の能力を最大限に活かす、経営におけるダイバーシティの推進やそれによるイノベーション創出、事業のグローバル化等について採り上げ、我が国企業やこれからの社会で働く人材が直面する課題を学ぶことを目的としています。</p> <p>(2)講義の概要</p> <p>多様な人材の能力を最大限に活かす、経営におけるダイバーシティの推進やそれによるイノベーション創出、事業のグローバル化等に取り組む民間企業の方々、またこうした多様な人材を活かした取り組みを行う企業活動の活発化に取り組む方々、またこれらに関係する有識者の方々からご講義をいただきます。本授業は男女共同参画に関する内容を含んでいます。</p> <p>(3)講義計画</p> <p>講義計画は次のとおりです。交通事情や講師のご都合等により、変更となる可能性もあることに留意してください。</p> <p>4月8日午後1時からガイダンス(30分間程度)を行いますので、受講者は必ず出席してください。(出席を取ります。)</p> <p>講義は、毎回、午後1時30分から開始しますので、午後1時25分までには着席してください。(講義開始後の講義室への入室・途中退出は、禁止します。)</p> <p>(1)4/15 サイボウズ株式会社フェロー 野水 克也氏                  (2)4/22 アメリカンファミリー生命保険会社シニアアドバイザー 木下 信行氏                  (3)5/13 楽天株式会社取締役常務執行役員 杉原 章郎氏                  (4)5/20 カルビー株式会社代表取締役会長兼CEO 松本 晃氏                  (5)5/27 ライフネット生命保険株式会社代表取締役会長兼CEO 出口 治明氏                  (6)6/3 ANAホールディングス株式会社/サントリーホールディングス株式会社/三井物産株式会社 取締役 小林 いずみ氏                  (7)6/17 GOB Incubation Partners株式会社代表取締役 山口 高弘氏                  (8)6/24 株式会社LIXILグループ取締役代表執行役社長兼CEO 藤森 義明氏</p> <p>*日程変更がある場合には、ホームページでお知らせします。なお、日程変更がない場合、5/1、6/10は講義日には該当しませんので、ご注意ください。</p> <p>(4)成績評価の方法</p> <p>講義への出席回数と提出されたレポートの内容を勘案して評価します。なお、全8回のうち6回以上出席してレポートを提出しなければ、理由の如何によらず単位認定しませんので、注意してください。詳しいことはガイダンスで説明します。</p> <p>(5)成績評価の基準</p>							

各回の講師の講義内容を踏まえ、提出されるレポートについて、(i)講師の講義内容をきちんと把握した上で回答がなされている、(ii)また、自分なりの問題意識や見解についてもきちんと提示できている、(iii)さらに独自性ある見解や自らの生き方・働き方にいかにかかすかが述べられている、(iv)自らのこれからの生き方・働き方にいかにかかすかについて具体的に述べられ、内容が教員を感心させるレベルにある。(i)までできていれば「水準にある」、(ii)までできていれば「やや上にある」、(iii)までできていれば「かなり上にある」、(iv)までできていれば「卓越している」。以上に加え、出席回数や授業中の態度により減点・加点することがある。

(6)事前事後学習の内容  
事前に各回の講師やトピックについて予習した上で授業に臨むこと。  
必要に応じ、各回の授業前にeALPS等で指示する。

(7)履修上の注意  
各界での第一人者の方々を外部講師としてお招きしていること、一般の方々も聴講されていることから、真摯に、かつ、熱心に受講してください。受講に当たっては、私語厳禁・時間厳守・飲食厳禁・脱帽は必ず守ってください。特に、講義開始後の入室及び途中退出は禁止します。講義中は講師の話に集中すること。

(8)質問、相談への対応  
毎回、講義の最後または途中に質疑応答の時間を設けます。積極的に質問をしてください。

【教科書】なし  
【参考書】なし

(出典：シラバス)

<b>資料経81：平成27年度現代の産業・社会事情シラバス</b>						
登録コード	K4007		(参考 受講者数:52人)			
授業科目	現代の産業・社会事情*			担当教員	教育企画委員会(交流系科目部会)	
英文授業名	Current Issue on Contemporary Industries and Society			副担当	古澤栄一・西山巨章・桃井謙祐・関利恵子・都築勉	
単位数	2	講義期間	前期(後半)	曜日・時限	水曜3～5時限	対象学年
講義室	経済第3講義室		授業区分	講義		
<p>(1)授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」要素/◎:全学共通 ・社会科学には異なる視点やアプローチがあることを理解しつつ、これらの専門知識に基づき、将来の社会や組織の一員として、自らの課題を発見し、主体的に取り組むことができる。 ・◎理想や倫理観をもって社会の平和的・持続的発展のために行動できる【社会的行動マインド】 ・◎対話を通じて他者と協力し、目標実現のために方向性を示すことができる【コミュニケーション能力、チームワーク力、リーダーシップ】 【授業の達成目標】 ・社会科学の各分野を修めて社会で活躍している先輩の話聞いて、自らの目標を設定するための参考とすることができる。 ・それぞれの持ち場で社会と関わり、社会の発展に尽くす姿勢を学ぶことができる。 ・組織や社会の中で他者とコミュニケーションを取りながら、ともに仕事や生活をする方法を学ぶことができる。 【授業のねらい】 本学部は、「政策志向型の日本経済・社会の実証研究とそれに基づく教育を理念」に掲げ、『大学から社会へ、社会から大学へ』をキー・コンセプトとする研究教育を実践することを目指しています。本科目はこうした理念と実践課題の一環として、本学部卒業生から進路選択・就職活動の体験談や産業社会の現状、就業生活の実態について学びます。授業を通じて進路を定める手がかりを得るとともに、卒業後における就業・活躍の場を広げることを目的とします。</p> <p>(2)講義の概要 本講義は、通称「就業行動科目」と呼ばれます。その目的は、みなさんが「その職業・会社に就職した場合、どのような職業生活を営むことになるのか」を考える際に、先輩(本学部卒業生)の方々の職業経験を参考にしてもらうことです。また、現在の企業・産業界を取り巻く状況や、業界・企業の側から見た望ましい人材とは何かを先輩から伝えてもらい、今後のみなさんの学習の参考にしたいと思います。「よい仕事とは?」「よい組織・会社とは?」「求められる人材とは?」、さまざまな講師の話聞いて、考えてみて下さい。なお、本授業は男女共同参画に関する内容を含んでいます。</p> <p>(3)講義計画 平成27年度は7月の5回の水曜日の午後、毎回2人ずつ、計10人のゲスト講師をお迎えして、お話をさせていただきます(13時から15時15分までと、15時35分から17時50分まで)。講師の方と日程の詳細については、4月中に連絡・掲示します。</p> <p>(4)成績評価の方法 ①毎回それぞれのゲスト講師の方のお話を聞いてみなさんが提出する「レスポンスシート(講義内容と課題)」と、②4000字以上の最終レポート、の2つの内容によって成績を評価します。①については、3分の2以上の出席が最低条件です。②については、講師の方のお話を参考にしながら、自分が関心を持つ仕事や業界について、文献や資料を探索しながら、しっかりまとめて下さい。レポートには表紙を付け、「現代の産業・社会事情レポート(平成27年度)」と記し、タイトル(随意)、学籍番号、氏名を書き、ホッチキスで留めて、8月5日(水)の17時までに指定されたレポート・ボックスに提出して下さい。</p> <p>(5)成績評価の基準 最終レポートについては、(i)その仕事や業界の選択に根拠が示されており、(ii)その仕事や業界の社会における位置付けが明快であり、(iii)その仕事や業界の現状がよく説明されており、(iv)その仕事や業界の将来の課題が述べられており、(v)その仕事や業界への自分の取り組み方の構想が示されており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。(i)から(v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「水準にある」。</p> <p>(6)事前事後学習の内容 ゲスト講師の方との質疑応答を充実させるものとするために、毎回担当者を決めて事前にその仕事や業界について様々な方法で調べて来ることを前提とします。もちろん担当者以外の質問も歓迎します。</p> <p>(7)履修上の注意 実社会について学ぶという主旨からも厳格にマナーを守り、真摯な態度で受講することが求められます。 1、飲食禁止(食べ物・ペットボトル等はしなうこと)。 2、帽子は必ず脱ぐこと。 3、講義が始まる2～3分前から私語は慎むこと。守れない場合は退出してもらうこともあります。</p>						

4、講義開始後の入室は厳に慎むこと。講義開始10分後以降は扉を施錠します(具合が悪い等の理由で退出する場合は許可を得てからすること)。  
 5、講師の方に対して、積極的に質問すること。  
 (8)質問、相談への対応  
 講師の方への質問は、できるだけその内容を受講生全員で共有するために、原則として講義中の質問時間に限定します。その他、受講に関することは、経済学部学務係を介して経済学部教育企画委員会・交流系科目部会の委員(教員)が対応します。

【教科書】教科書は使用しません。  
 【参考書】  
 (書籍)実業教育出版社、日本実業出版、東洋経済新報社、日本経済新聞社、エール出版などから出版されている、企業・業界を説明・解説する一連の書籍。  
 (雑誌)日経ビジネス、週刊ダイヤモンド、週刊東洋経済、エコノミストなどの経済雑誌。  
 (新聞)日本経済新聞、日経産業新聞、日経金融新聞、日刊工業新聞などや、朝日・読売・信濃毎日などの一般紙の経済面など。  
 (その他)各企業や関連機関・団体等のホームページ。

(出典：シラバス)

<b>資料経82：平成27年度経営者と企業シラバス</b>							
登録コード	K4009		(参考 受講者数:228人)				
授業科目	経営者と企業*		担当教員	長瀬一治 他			
英文授業名	Business Manager and Enterprise		副担当	関利恵子			
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	水曜・3・4時限	対象学年	2年生以上(11・15カリ)
講義室	経済第2講義室		授業区分	講義			
<p>(1)授業のねらい                  授業で得られる「学位授与の方針」要素／◎：全学共通                  ・社会科学には異なる視点やアプローチがあることを理解しつつ、これらの専門知識に基づき、将来の社会や組織の一員として、自らの課題を発見し、主体的に取り組むことができる。                  ・◎みずから他者や社会との関わりをなかで捉え、自己啓発に努めることができる【自己認識・自己啓発マインド】                  ・◎信州の自然・文化的環境への興味と関心をみずから深めることができる【地域環境に関する理解】                  【授業の達成目標】                  ・経営現場で専門知識がどのように生かされているか理解できるようになる。                  ・優れた経営者の活動から職業人として理想、倫理観を学ぶことを通して自己の社会観、人生観を養うことができるようになる。                  ・企業活動が、地域環境、自然環境とどのように関わっているのか、理解できるようになる。                  【授業のねらい】                  この講義は、長野県経営者協会のご協力のもと、長野県で活躍している経営者の方々に分担してご講演頂くもので、平成12年度より始まり今回で16回目の開講となります。講義では、合わせて8人の企業経営者の方々から、それぞれの企業経営の経験や業界の動向などを語っていただき、その中でこれからの21世紀を担う学生の皆さんへの熱き思いが伝わることと期待しています。こうした企業経営の第一線でご活躍の方々が、今現在どのような問題意識を持って企業経営に取り組んでいるかを知ることは、学生の皆さんのこれからの勉学に大きな刺激となり、また今後社会に出て職業に就くに当たって大いに役立つことと思います。</p> <p>(2)講義の概要                  企業経営の実際について企業理念、経営戦略等に関するナマの話を、経営者から直接語ってもらう。本年度は経営学の基礎的な教科書指定し、レポートを書くに当たった基礎知識と分析のための手法の修得についても指導する。</p> <p>(3)講義計画                  詳細については追って案内する。講義時間：13:30～16:15 ※後期開始までに、経済学部掲示板およびキャンパス情報システムの授業に関するお知らせに、講義スケジュールを掲示します。</p> <p>(4)成績評価の方法                  成績評価は、指定教科書の理解(30%)と各講師の講義内容(30%)に関する学期末試験(計60%)と毎回の質疑応答での質問及び毎回の授業でのレポート(計40%)の総合点による。                  1. 質疑応答で質問したものは記録して、成績評価に加点する(但し、各回のレポート得点の満点を上限とする。) 質問した者はその旨、レポート用紙の冒頭に記すこと。                  2. 毎回の授業で、講義に関連した簡単なレポートを作成する。</p> <p>(5)成績評価の基準                  学期末試験は、①指定教科書の内容の理解を問う択一式問題と②各講師の講義内容に関する論述式もしくは択一式問題の合計点と③毎回の質疑応答での質問及び毎回の授業でのレポートを①3対②3対③4の割合で総合得点とし、学生便覧記載の成績評価基準で行う。</p> <p>(6)事前事後学習の内容                  受講者は、事前に指定教科書を理解し、経営学に関する基礎知識を習得した上で、講義に臨んで下さい。</p> <p>(7)履修上の注意                  1. 一流の企業人をお迎えするのにふさわしい、身なり、態度、礼儀が求められる。                  遅刻、途中退室、携帯電話の使用、私語、帽子・サングラスの着用、飲食物の机上置きを禁止します。                  2. 大幅な遅刻や受講態度の悪い者に対しては、退席を命じ受講登録を取り消す。                  3. 毎回の授業の予定は、概ね、講義1時間40分、質疑応答30分、レポート作成30分である。                  講義の冒頭5分程度、経営者協会のコーディネーターから講師と企業の紹介がある。                  4. また、経営者と企業は、毎年内容が違っているので、社会科学特講に許された単位の範囲であれば、2回まで履修し単位取得できる。なお、単位の取得は不可であるが、3回以上の聴講も可能である。                  5. 登録に際しては、06カリと11・15カリとは、科目コードが異なるので、確認すること。                  6. この講義についての質問は、長瀬または学生委員長まで。</p> <p>(8)質問、相談への対応                  原則として、講義時間中の質問に限定する。講師への質問は、起立し、所属学部学科・学籍番号・氏名を明確に告げ、謝辞をのべてから、簡潔に行うこと。</p>							

<p>【教科書】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・榑原清則「経営学入門」上(第2版)日経文庫 日本経済新聞社2013年 860円＋税</li> <li>・榑原清則「経営学入門」下(第2版)日経文庫 日本経済新聞社2013年 830円＋税</li> </ul> <p>【参考書】・適宜紹介する。</p>
--

(出典：シラバス)

②グローバル教育科目

<b>資料経83：平成27年度社会科学特講*（ハワイ大学研修）シラバス</b>						
登録コード	K1009		(参考 受講者数:8人)			
授業科目	社会科学特講*（ハワイ大学研修）			担当教員	美甘 信吾	
英文授業名	Study Tour to Hawaii			副担当	三宅 真由美	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	集中・不定	対象学年
講義室			授業区分			
<p>(1)授業のねらい                      授業で得られる「学位授与の方針」要素/◎: 全学共通                      ・社会科学には異なる視点やアプローチがあることを理解しつつ、これらの専門知識に基づき、将来の社会や組織の一員として、自らの課題を発見し、主体的に取り組むことができる。</p> <p>【授業の達成目標】                      ・ハワイ大学での授業、フィールドトリップ、報告書作成を通じて、経済学・政治学の基礎知識の体系的理解、社会における課題発見力と行動力、言語(英語)能力、コミュニケーション能力、チームワーク力、リーダーシップを向上させる。</p> <p>【授業のねらい】                      ハワイ(アメリカ)社会・政治経済制度について学び、多文化共生など地域社会が直面する課題について理解を深める。海外の大学での学習体験を通じ、自ら学び行動する姿勢を養い異文化理解を促進し英語学習を奨励する。</p> <p>(2)講義の概要                      ①ハワイ大学の先生による英語での6回(1回2時間)の授業に毎回1時間程度の補講: 講義のテーマは、ハワイの歴史・社会、多文化共生社会、アメリカとアジア、地域社会の経済課題、政治制度と課題、環境問題など。                      ②フィールドトリップ:                      アリゾナ記念館訪問(パールハーバー)、ハワイ歴史・自然・文化遺産訪問、ハワイ行政機関・環境NGO訪問など</p> <p>(3)講義計画                      I ハワイ大学での授業                      1. ハワイの歴史と社会1(歴史)                      2. ハワイの歴史と社会2(社会)                      3. アメリカ(ハワイ)とアジア1:アメリカとハワイ(アジア)                      4. アメリカ(ハワイ)とアジア2:日本とアメリカ・ハワイ                      5. アメリカ(ハワイ)の経済制度と課題1:経済構造と制度                      6. アメリカ(ハワイ)の経済制度と課題2:経済課題                      7. アメリカ(ハワイ)の政治制度と課題1:大統領制と二大政党制                      8. アメリカ(ハワイ)の政治制度と課題2:ハワイ(アメリカ)の政治課題                      9. 多文化主義とは何か1:アメリカの多文化主義の争点                      10. 多文化主義とは何か2:ハワイの多文化主義とアジア(日本)の多文化主義                      11. アメリカ(ハワイ)の環境問題1:地球環境問題とアメリカの環境問題                      12. アメリカ(ハワイ)の環境問題2:ハワイ(アジア太平洋)の環境問題                      II ハワイでのフィールドとトリップ                      13. ハワイ歴史・自然・文化遺産訪問                      14. アリゾナ記念館(パールハーバー)                      15. ハワイ行政機関・環境NGO訪問                      *ハワイ大学での授業、フィールド・トリップの内容と日程は、ハワイ大学への申し込み手続き後に確定する予定。</p> <p>(4)成績評価の方法                      個人で提出するレポート(80%)とグループ学習に関する貢献度(20%)で評価する。全ての授業への出席、課題の提出(期限厳守)が求められる。</p> <p>(5)成績評価の基準                      授業内容の最も基本的なことが理解できていることを課題(レポートと発表)で示せば、「その水準にある」。授業内容の十分な基礎知識と技能があることを示せば、「やや上にある」。基礎資料や参考文献なども十分に学習したことを示せば、「かなり上にある」。授業や基礎資料・参考文献の学習に基づき、自己の見解を説得力のある形で示せば「卓越している」。</p> <p>(6)事前事後学習の内容                      毎回課題(発表準備、レポートなど)を課す。事前に十分に学習して授業に参加すること。授業でのコメントなどを参考に事後学習を行いその後の授業に活かすことを心がけて欲しい。</p> <p>(7)履修上の注意                      外国の学習環境で学び成果を上げるため、高い学習意欲と適応能力が求められる。海外学習の目的を理解し責任ある行動を取れること。「社会科学特講(アメリカ(ハワイ)社会の政治経済課題)」も併せて受講すること。事前のガイダンス・研修後の報告会に必ず参加すること。ガイダンスは7月の予定。事前学習と現地での学習に十分に時間をかける必要がある。手続きに必要な書類と全ての課題を期日を守り提出すること。自己負担分の費用の支払い能力があること(12万円程度を予定)。交通費(航空運賃)は大学から支給する予定。エントリーと研修後にはTOEICを受けること。「夏季集中講義(アメリカ社会と法)」の受講を推奨する。</p> <p>(8)質問、相談への対応                      10人程度のゼミ形式の授業なので、質問は適宜受け付ける。ハワイ大学教員に対しては、積極的に英語で質問することを奨励する。</p>						

<p><b>【教科書】</b> 教科書は使用しない。</p> <p><b>【参考書】</b> 西山隆行 「アメリカ政治：制度・文化・歴史」 三修社 2014年 古矢 遠藤 編 「アメリカ学 入門」 南雲堂 2004年 矢口裕人 「ハワイの歴史と文化」 中公新書 2002年 アンドレア・センブリーニ 三浦信孝他 訳 「多文化主義とは何か」 2003年 白水社 英語テキストは授業の際に紹介する。</p>
---

(出典：シラバス)

ハワイ大学研修受講者には、以下の事前学習を課している。

<b>資料経84：社会科学特講*（アメリカ（ハワイ地域）の政治経済課題）</b>							
登録コード	K1113			(参考 受講者数:8人)			
授業科目	社会科学特講*（アメリカ（ハワイ地域）の政治経済課題）			担当教員	美甘 信吾		
英文授業名	Topics on Social Sciences			副担当	丸山 文		
単位数	2	講義期間	後期 (集中)	曜日・時限	集中・不定	対象学年	1年生以上
講義室	経済401演習室		授業区分	講義			
<p>(1)授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」要素/◎:全学共通 ・社会科学には異なる視点やアプローチがあることを理解しつつ、これらの専門知識に基づき、将来の社会や組織の一員として、自らの課題を発見し、主体的に取り組むことができる。</p> <p><b>【授業の達成目標】</b> ・文献講読、報告、討論、レポート作成を通じて、経済学・政治学の基礎知識の体系的理解、文章力と口頭発表力、言語(英語)能力を向上させる。</p> <p><b>【授業のねらい】</b> ハワイ大学研修の効果を高めるために、日本語と英語でアメリカとハワイ地域の政治経済課題について学習し、発表準備を行う。特に英語での学習能力の向上を目指す。受講者は、原則ハワイ大学研修参加者に限定する。</p> <p>(2)講義の概要 ①アメリカ社会・経済・政治、多文化共生社会(ハワイ社会、移民社会)に関する基礎的な学習を英語と日本語で行い、ハワイ大学での学習課題を明確化する。 ②英語での学習能力を高めるために、英語でのプレゼンテーション準備を行い英語でのコミュニケーション能力の向上をはかる。</p> <p>(3)講義計画 1 ガイダンス「授業の進め方と課題」：アメリカ入門(日本語文献) 2 ハワイの歴史&amp;#8226;社会入門(日本語文献) 3 多文化主義(日本語文献) 4 多文化主義(英語文献) 5 アメリカ(ハワイ)経済課題(日本語文献) 6 アメリカ(ハワイ)経済課題(英語文献) 7 アメリカ(ハワイ)政治課題(日本語文献) 8 アメリカ(ハワイ)政治課題(英語文献) 9 英語コミュニケーション(社会問題) 10 英語コミュニケーション(ビジネス) 11 英語プレゼンテーション準備(グループ学習) 12 英語グループ・プレゼンテーション(学生中間報告) 13 英語グループ・プレゼンテーション(最終発表) 14 ハワイ大学研修報告会1(学生発表) 15 ハワイ大学研修報告会2(質疑応答・コメント) *講師の都合で、授業の順番が入れ替わる可能性がある。</p> <p>(4)成績評価の方法 個人で提出する課題(80%)とグループ・プレゼンテーション(20%)で評価する。全ての授業への出席、毎回課題の提出(期限厳守)が求められる。</p> <p>(5)成績評価の基準 授業内容の最も基本的なことが理解できていることを課題(レポートと発表)で示せれば、「その水準にある」。授業内容の十分な基礎知識と技能があることを示せれば、「やや上にある」。基礎資料や参考文献なども十分に学習したことを示せれば、「かなり上にある」。授業や基礎資料・参考文献の学習に基づき、自己の見解を説得力のある形で示せれば「卓越している」。</p> <p>(6)事前事後学習の内容 毎回課題(課題文献講読、発表準備、レポートなど)を課す。事前に十分に学習して授業に参加すること。授業でのコメントなどを参考に事後学習を行いその後の授業に活かすことを心がけて欲しい。</p> <p>(7)履修上の注意 ハワイ大学研修参加者全員に履修が求められる。外国の学習環境で学び成果を上げるため、高い学習意欲と適応能力が求められる。英語での学習能力の向上を意識し取り組むこと。課題は、期限を厳守し提出すること。</p> <p>(8)質問、相談への対応 10人程度のゼミ形式の授業なので、質問は適宜受け付ける。</p>							

<p><b>【教科書】</b> 教科書は使用しない。</p> <p><b>【参考書】</b> 西山隆行 「アメリカ政治：制度・文化・歴史」 三修社 2014年 古矢 遠藤 編 「アメリカ学 入門」 南雲堂 2004年 矢口裕人 「ハワイの歴史と文化」 中公新書 2002年 アンドレア・センブリーニ 三浦信孝他 訳 「多文化主義とは何か」 2003年 白水社 英語テキストは授業の際に紹介する。</p>
---

(出典：シラバス)

ハワイ大学研修受講者数は毎年10人前後を保ち、総受講者数は72人に達している。

資料経85：ハワイ大学研修参加状況

年度	人数
平成 22 年度	11
平成 23 年度	11
平成 24 年度	12
平成 25 年度	15
平成 26 年度	15
平成 27 年度	8
計	72

(出典：経済学部作成)

資料経86：平成27年度社会科学特講\*（実用ビジネス英語）シラバス

登録コード	K1125		(参考 受講者数:16人)			
授業科目	社会科学特講*（実用ビジネス英語）			担当教員	西山 巨章	
英文授業名	Topics on Social Sciences			副担当	山口 舞香・竹内 猛・	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限 金曜・3時限 金曜・4時限	対象学年	2年生以上
講義室	経済401演習室		授業区分	講義		

(1)授業のねらい

授業で得られる「学位授与の方針」要素／◎：全学共通

- ・◎みずから他者や社会との関わりのなかで捉え、自己啓発に努めることができる【自己認識・自己啓発マインド】
- ・◎日本語および外国語を用い、的確に読み、書き、聞き、他者に伝えることができる【言語能力】
- ・◎対話を通じて他者と協力し、目標実現のために方向性を示すことができる【コミュニケーション能力、チームワーク力、リーダーシップ】

【授業の達成目標】

- ・社会に対する洞察力を養い、自己認識ができるようになる。
- ・ウォールストリート・ジャーナルの記事を的確に読み解くことができるようになるとともに、自己の考え方を英語で表現できるようになる。
- ・グループワークで、ビジネスプレゼンの原稿を作成し、実際に簡単なプレゼンを行うことができるようになる。

【授業のねらい】

経済や社会のグローバル化、情報化が進展する中で、社会に出ると海外のビジネスマンと接する機会が増えるので、海外ビジネスマンと日常会話ができたり、通勤電車の中で英字新聞が気軽に読めるようになったら素晴らしいと思いませんか。そのためには、やはり実践が大切です。本講義では、実際に海外ビジネスマンに対してプレゼンを行ったり、ウォールストリート・ジャーナルを日常的に読むことにより、ビジネス英語を話したり、読み解く能力を向上させることを目的としています。

(2)講義の概要

(1)ビジネスプレゼン

プレゼンは場数が大事であり、最終的には、今後社会に羽ばたく学生たちが自分自身で実践することがとても重要です。このため、最初に、①プログラムの目的、進行方法及び基本的なプレゼンの考え方について説明。次に、②キーワードと絵のみでのプレゼンを実施。次に、③中間レビューを実施して、最後に、④Skype(スカイプ)を使って、海外にいるビジネスマンに対してビジネスプレゼンを実施します。

(2)ウォールストリート・ジャーナルを読む

3グループに分けて、1グループごとの課題ニュースの和訳を基に、英語理解の問題点、経済関連知識について知っておくべきことを議論し、その後、質問メールの解説を行います。

(3)講義計画

4月10日(金)3限 (1)ビジネスプレゼン(ガイダンス、Guidance)

(2)ビジネスプレゼン(グループ分け、Group assignment)

4月24日(金)3限 (3)ウォールストリート・ジャーナルを読む(ガイダンス、経済英語を読む基礎知識、ミニ診断)

5月8日(金)3限 (4)ビジネスプレゼン(キーワードと絵のみでのプレゼン、Practice presentation with keywords and pictures)

4限 (5)ビジネスプレゼン(キーワードと絵のみでのプレゼン、Practice presentation with keywords and pictures)

5月22日(金)3限 (6)ウォールストリート・ジャーナルを読む(マクロ経済-財政政策)

4限 (7)ウォールストリート・ジャーナルを読む(マクロ経済-金融政策)  
 6月5日(金)3限(8)ビジネスプレゼン(中間レビュー、Review and feedbacks for final presentation)  
 4限(9)ビジネスプレゼン(中間レビュー、Review and feedbacks for final presentation)  
 6月19日(金)3限(10)ウォールストリート・ジャーナルを読む(金融市場-外国為替)  
 4限(11)ウォールストリート・ジャーナルを読む(金融市場-債券・株式)  
 7月3日(金)3限(12)ビジネスプレゼン(最終プレゼン、Final presentation via Skype)  
 4限(13)ビジネスプレゼン(最終プレゼン、Final presentation via Skype)  
 7月24日(金)3限(14)ウォールストリート・ジャーナルを読む(企業ニュース-経営・決算)  
 4限(15)ウォールストリート・ジャーナルを読む(企業ニュース-技術・商品)  
 (注)講義計画は、諸般の事情により変更することがあります。

(4)成績評価の方法  
 ビジネスプレゼン(50%)+ウォールストリート・ジャーナルを読む(50%)  
 ①「ビジネスプレゼン」については、Participation effort(25%)+ Keyword/Picture Presentation(10%)+ Final Presentation(15%)です。  
 ②「ウォールストリート・ジャーナルを読む」については、課題発表(25%)+講師への質問メール(10%)+仕上げ和訳・英訳試験(15%)です。

(5)成績評価の基準  
 講義中講師が示した課題について、基本的な回答ができれば「水準にある」、自らの考えを少しでも回答できれば「やや上にある」、自らの考えを回答できれば「かなり上にある」、深い考察を加えた回答ができれば「卓越している」。

(6)事前事後学習の内容  
 (1)事前学習:「ビジネスプレゼン」、「ウォールストリート・ジャーナルを読む」とも、講義中に次回の課題を出し、次回講義時に発表してもらいます。  
 (2)事後学習:「ウォールストリート・ジャーナルを読む」では、事後学習の成果を確認するために、授業についての講師に対する質問を義務付けます。

(7)履修上の注意  
 ① 講義とは別に、TOEICやTOFLEの資格試験を受験することを強く勧めます。  
 ② 「ウォールストリート・ジャーナルを読む」の初回のガイダンス時に、30分程度のミニplacement testを実施します。これは参加学生の英語力や経済の知識を見るためのもので、成績には関係ありません。その後の講義の参考にするためのものです。  
 ③ 詳細については、それぞれのガイダンス時に説明します。  
 ④ 4月24日(金)は3限だけの講義です。

(8)質問、相談への対応  
 質問・相談は、講義中ないしはe-mail で受け付けます。  
 e-mail(山口):maika.yamaguchi0011@gmail.com  
 e-mail(竹内):takeuchitakeshi139@qb3.so-net.ne.jp

【教科書】特に指定しません。  
 【参考書】講義中に指示します。

(出典: シラバス)

**資料経87: 英語資格試験取得状況**

年度	TOEFL	TOEIC	TOEIC-IP	海外英語研修	実用英語技能検定1級	計
H22		9		5		14
H23		8				8
H24		12		2	1	15
H25	1	3	1	1		6
H26		7				7
H27		7	1			8
総計	1	46	2	8	1	58

(出典: 経済学部作成)

**資料経88: 経済学部留学生の国籍別卒業生**

年度	中国	韓国	台湾	モンゴル	タイ	マレーシア	ベトナム	他 ASEAN	その他	計
H22	7			2			3			12
H23	4			3		1		1	1	10
H24	5	1		3				1	1	11
H25	2			3			2			7
H26	1			5			1	1		8
H27	3	1		4		1	1	1	1	12

(出典: 経済学部作成)

**資料経89: 経済学部生の留学状況**

年度	中国	韓国	東南アジア	カナダ	アメリカ	イギリス	欧州・豪州等	計	うち単位互換
H22	2	1						3	1
H23	2	1	1					4	
H24	1	1		1	2	1	2	8	3

H25	2	2	6	2	2		1	15	2
H26			1		2	1	7	11	1
H27					2	1	2	5	

(出典：経済学部作成)

<b>資料経90</b> ：大学間交流協定に基づく留学先（平成22～27年度：計12人、7ヵ国10大学）	
アジア（4人）	欧米・豪州等（延べ8人）
中国：北京外国語大学 韓国：崇實大学校、カトリック大学校 マレーシア：マラヤ大学	ベルギー：カトリック大学ルーヴェン ドイツ：ライプツィヒ大学、マンハイム大学 オランダ：ゾイド大学（3人） アメリカ：ユタ大学、オクラホマ州立大学

(出典：経済学部作成)

③実践教育

**資料経91**：平成27年度社会科学特講\*（臨床法学）シラバス

登録コード	K1005				(参考 受講者数：23人)	
授業科目	社会科学特講*（臨床法学）			担当教員	丸橋昌太郎 他	
英文授業名	Topics on Social Sciences			副担当	大江裕幸・島村曉代	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	不定期	対象学年
講義室				授業区分	演習	

- (1)授業のねらい  
 授業で得られる「学位授与の方針」要素／◎：全学共通  
 ・現代社会とその組織のあり方について、法的思考力や政治学的識見を踏まえて評価し、それらに基づく政策判断ができる。  
**【授業の達成目標】**  
 ・社会の現場に出ることで、政策判断の基礎的能力を身につけることができる。  
**【授業のねらい】**  
 学外の企業人・組織人と連携しつつ、地域社会に生起する法律問題について、今、何が問題となり、どう解決すべきか、何がもためられているかを、実践的に学ぶ。ことに、地域の活性化に資する解決策を考察することが本講義のねらいの一つである。同時に、受講者の進路の選択や将来、職業人としての社会貢献のあり方について自覚的に思考することを目的としている。基礎学力、問題発見能力、論理的思考力等の重要性に対する再認識と、専門授業科目に対するより高度で、真摯な取り組みを期待する。本講義は、経済学部ディプロマポリシー〔法律学、政治学の基礎知識の体系的理解〕を身に着けることを目的とするものである。
- (2)講義の概要  
 参加者は、最初に、オリエンテーションと基礎講義のあと、各自の問題とその解決の糸口探るための、実習での修得目標の設定、実践方法との検討行う。次に受け入れ機関（主として官庁、本年度は、長野県警、検察庁、税務署、地方自治体等を予定している）に、出向いて行って、実習指導を受ける。実習期間中常に、リアルタイムで、現場の担当者その他の関係者から、監視と指導を受けることになる。実習中の態度、取り組みは、つねにその場で評価され、改善がもためられる。実習をとおして、各自の問題意識の変化や、新たな問題の発見、解決手段の検討等を整理し、研修サポートを作成する。研修レポートは、単に、記録的な報告に止まらず、社会科学の知見に基づいた、理論的分析を通して、専門理論との架橋が求められている。
- (3)講義計画  
 1 エントリー  
 エントリー受付期間（別途掲示します）に所定の様式（信州大学 eALPS2.0 に掲載予定）の様式に従い、講義棟2階所定の提出ボックスに提出する。審査結果は、eALPSに掲載する。（平成22年度は、エントリーに所属ゼミ教員の推薦は要しない。）  
 2 オリエンテーション  
 エントリー審査に合格した者を対象に、オリエンテーションを行う。エントリー審査合格者には、事前課題を示すので、オリエンテーションまでに、指定のとおり完成させ、持参すること。  
 3 全コース共通の実務基礎（1コマ）  
 4 実務実習（事前学習の上、各受け入れ機関に赴き、実習に参加する。）（13コマ相当）  
 5 研修レポートの作成  
 6 報告演習（1コマ）  
 研修報告と問題提起・解決手法の提起に関して、検討討議する。  
 7 最終報告書の作成  
 受講者の研修レポートをもとに、全員で作成する。
- (4)成績評価の方法  
 エントリーシート、基礎講義、実習、研修レポートのそれぞれを評価の対象とする。
- (5)成績評価の基準  
 (i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。(i) から (v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「水準にある」。
- (6)事前事後学習の内容  
 各コースの内容に従って、事前学習を行うことが求められる。  
 実習後に、実習レポートを作成する。
- (7)履修上の注意  
 専門科目の講義をとおして修得した、法律学・政治学の基礎知識や理論が、現実の社会でどのように役立つのか、現実的応用力が試される。社会人と交流するうえで必要とされる常識的なマナーが求められる。
- (8)質問、相談への対応

講義中・終了後、実習期間中に質問等の時間を設け、対応する。
【教科書】 教材を作成し配布する。 【参考書】 講義中に指定する。
(出典：シラバス)

④環境教育

環境教育を新入生ゼミナールで一コマ行っている。

資料経 92：平成 27 年度経済学科新入生ゼミナール I スケジュール

	日程	場所	内容	備考
第1回	4月8日	クラス別	ゼミガイダンス	ゼミスケジュール、自己紹介 ゼミ注意事項
第2回	4月15日	第2講義室	健康安全セミナー	学生総合支援センター
第3回	4月22日	第2講義室	方向性ガイダンス	経済学部：椎名洋先生
第4回	5月1日	第2講義室	自転車走行マナー 痴漢対策	市役所・松本警察署
			図書館ガイダンス	図書館職員
第5回	5月13日	クラス別	レジュメ作成①	*テキスト使用
			経済学部資料室見学	11:55～
第6回	5月20日	クラス別	レジュメ作成②	*テキスト使用
			個別面談①	11:45～
第7回	5月27日	クラス別	グループ研究	*テキスト使用
			個別面談②	11:45～
第8回	6月3日	第2講義室	環境セミナー	経済学部：柳町晴美先生
第9回	6月10日	クラス別	グループ研究	*テキスト使用
			個別面談③	11:50～
第10回	6月17日	クラス別	レジュメ作成③	*テキスト使用
			個別面談④	11:50～
—	6月24日	—	—	実習の振替
第11回	7月1日	クラス別	プレゼンテーション	グループ別発表
			個別面談⑤	11:50～
第12回	7月8日	クラス別	プレゼンテーション	グループ別発表
第13～15回	7月15日	箕輪キャンパス	課外実習	ゼミ3回分(270分)
—	7月22日	—	—	実習の振替

(出典：経済学部作成)

資料経 93：新入生ゼミナールにおける環境教育資料

新入生ゼミナール I 2014、6、4  
環境マインドセミナー

1. ローカルな環境問題

公害(典型7公害) (大気汚染、水質汚濁、土壌汚染、騒音、振動、地盤沈下、悪臭)  
加害者、被害者が特定される

2. グローバルな環境問題

地球温暖化に関する重要事項(事実)の確認  
温室効果ガス(二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素など)の役割  
地表からの放射熱を吸収し、地球に再放射  
地球の平均気温を約 14℃に保持

地球の気温

10 万年スケール(氷期、間氷期)、数百年スケールで地球の気温は変動する。

IPCC 第 5 次評価報告書 AR5、第 1 作業部会報告書 WG1

Intergovernmental Panel on Climate Change 「気候変動に関する政府間パネル」

「気候システムの温暖化には疑う余地はない」

大気と海洋温暖化、雪水量減少、海面水位上昇、温室効果ガス濃度増加

世界の平均気温 1880～2012 年に 0.85℃上昇 [0.65～1.06℃]90%信頼区間

最近 30 年間の各 10 年は、1850 年以降のどの 10 年平均よりも高温

北半球では、1983～2012 年は過去 1400 年において最も高温の 30 年間であった可能性が高い(中程度の確信度)

世界平均海面水位 1901～2010 年に 0.19m 上昇 [0.17～0.21m]90%信頼区間

「人間の影響が 20 世紀半ば以降観測された温暖化の支配的要因であった可能性が極めて高い」(95%以上の確率)

2081～2100 年の世界平均地上気温の予測上昇量(1986～2005 平均に対する上昇量)

RCP2.6 シナリオ(可能な限りの温暖化対策) 1.0℃(予測幅 0.3～1.7℃)

RCP8.5 シナリオ(緩和策を実施しない) 3.7℃(予測幅 2.6～4.8℃)

21世紀末の世界平均海面水位上昇予測  
 RCP2.6シナリオ(可能な限りの温暖化対策) 0.26 - 0.55m  
 RCP8.5シナリオ(緩和策を実施しない) 0.45 - 0.82m

気候変動を抑制するには、温室効果ガス排出量の抜本的かつ持続的な削減が必要  
 CO<sub>2</sub>の累積総排出量とそれに対する世界平均地上気温の応答は、ほぼ比例関係  
 最終的に気温が何度上昇するかは累積総排出量の幅に関係

温度上昇によるコストと便益  
 環境問題への対応：環境問題に対する最新の情報の収集。環境評価は画一的ではない。総合的な視点が必要。

参考文献  
 IPCC(2013、2014)IPCC第5次評価報告書。  
 SPM(政策決定者向け要約) WG1(気象庁訳)、WG2(環境省訳)、WG3(日本語訳未公表)  
 温室効果ガスインベントリオフィス(GIO)編(2014)『日本国温室効果ガスインベントリ報告書』国立環境研究所  
 (出典：経済学部作成)

⑤ 卒業試験

**資料経94：卒業試験の実施状況**

2015年度 卒業試験  
 第1回(10月28日実施)結果

受験対象者数		受験対象者	受験者	欠席者	欠席率	合格者	不合格者	合格率 (対受験対象者)	次回受験 対象者
212	学部全体	212	207	5	2.4%	144	63	67.9%	68
	経済	151	147	4	2.6%	92	55	60.9%	59
	シス法	61	60	1	1.6%	52	8	85.2%	9

第2回(12月16日実施)結果

受験対象者数		受験対象者	受験者	欠席者	欠席率	合格者	不合格者	合格率 (対受験対象者)	次回受験 対象者
65	学部全体	65	65	0	0.0%	63	2	96.9%	5
	経済	57	57	0	0.0%	55	2	96.5%	4
	シス法	8	8	0	0.0%	8	0	100.0%	1

第3回(2月4日実施)結果

受験対象者数		受験対象者	受験者	欠席者	欠席率	合格者	不合格者	合格率 (対受験対象者)	最終不合格者 数
5	学部全体	5	2	3	60.0%	2	0	40.0%	3
	経済	4	2	2	50.0%	2	0	50.0%	2
	シス法	1	0	1	100.0%	0	0	0.0%	1

\*受験対象者数は、休学及び留学並びに前回無断欠席かつ報告書未提出者を除く。

科目別平均点および受験者数

		経済A	経済B	経営・会計	法律A	法律B	政治	総合
平均点	第1回	61.0	50.8	70.6	80.0	62.3	77.3	129.3
	第2回	87.1	67.2	78.1	76.7	70.0	88.9	161.3
	第3回	97.5	90.0	95.0	---	---	---	190.0
受験者数	第1回	109	60	117	67	39	22	207
	第2回	52	18	39	9	3	9	65
	第3回	2	1	1	0	0	0	2

(出典：経済学部作成 平成27年度卒業試験実施結果)

・ 共通教育科目における教育内容・方法の工夫

新入生ゼミナールは、1クラス20人程度の必修科目としている。入学時配付の新入生ハンドブックを参考資料とし、学科ごとに配置したコーディネーターがクラス間の連携及び授業方法・成績評価方法等を調整している(資料経95)。平成24年度からは、新たに警察

署、松本市等の行政機関担当者の授業への出講依頼も開始し、新入生ゼミナールの授業内容を充実させた。

**資料経95：新入生ゼミナールの概要及び新入生ハンドブック**

共通教育の目標の「⑥ 大学教育における基礎的な能力の育成」の内の「大学教育を受けるための基礎能力の育成」を目的とします。

受験勉強中心の高等学校までの勉学から、自ら学ぶ態度を培い、学問の面白さ、自身の専門への動機付けにより、大学での学びへと橋渡しをするためのゼミナールを前期、又は前期及び後期（学部・学科（課程・系）によって指定）に開講します。

基礎的な情報通信技術、情報の集め方の確認や、授業の受け方、大学の諸施設の使い方などの基本から始まり、口頭・文書によるコミュニケーションの基礎を含む大学での学びへの導入教育など、大学における学習の一般的スタイルの獲得を目指します。また、共通教育を中心に自らの学習の目標とそのための方針の立案を行います（ポートフォリオ作成）。

教員と学生の人格的な交流を活かしつつ、基本的には、大学に入ったばかりのみなさんが、大学生として主体的に勉学に取り組む姿勢をつくる場として開設されます。

レポート作成、発表を通じて日本語の作文力や話し方について訓練し、専門教育の内容や施設に直接触れることを通じて、大学生としてのみなさんの意識形成を図ります。

このゼミナールは学部・学科（課程・系）の方針に従い、学部・学科（課程・系）の教員によって実施されます。

なお、参考資料として、入学時に配付する「新入生ハンドブック」があります。

（出典：「2015共通教育履修案内」をもとに経営企画課作成）

新入生ハンドブック-目次

前書き・・・・・・・・・・・・・・・・・・	i	3.3. 問いを作り上げる・・・・・・・・・・	64	5.1. 信州大学学生相談センターおよび	
序章 信州大学学位授与の方針(ディプロマ・ポ		第4章 レポートの書き方・・・・・・・・・・	69	全学教育機構相談室について・・・・・・・・	93
シー)・・・・・・・・	1	4.1. レポートとは？・・・・・・・・・・	69	4.2. 学習の科学・・・・・・・・・・	94
第1章 何のために学ぶのか - 10年後の世界		4.2. レポートの構想とメモ・・・・・・・・	70	5.2.1. 時間の前借りはしない・・・・・・・・	95
を想像しようー7		4.3. 問題の見つけ方・・・・・・・・・・	72	5.2.2. とにかく始めたほうがよい・・・・・・・・	95
1.1. 卒業後の世界を知ろう・・・・・・・・	7	4.3.1. 文献はうたがってかかる・・・・・・・・	72	5.2.3. 休まないと能率が落ちる・・・・・・・・	96
1.2. 情報伝達技術の革新とその影響・・	14	4.3.2. 常識はうたがってかかる・・・・・・・・	73	5.2.4. すぐ復習しないと忘れる・・・・・・・・	96
1.2.1. コミュニケーション(情報伝達)技術の進化	14	4.3.3. 自分でデータを集めてみる・・・・・・・・	73	5.2.5. 暗記物は就寝前が良い？・・・・・・・・	96
1.2.2. 技術革新の光と影・・・・・・・・	17	4.4. レポートの構成と文章・・・・・・・・	74	5.2.6. 五感を使う・・・・・・・・・・	98
1.3. 急速に変化する社会で活躍するために:		4.4.1. ねらいを短い文章に・・・・・・・・	74	5.3. タスクを管理する・・・・・・・・・・	98
知の訓練場「大学」・・・・・・・・	22	4.4.2. ミニ目次のすすめ・・・・・・・・	74	5.3.1. 忘れ防止対策・・・・・・・・・・	99
1.3.1. 自分で問題を発見する・・・・・・・・	22	4.4.3. 分かりやすい構成を・・・・・・・・	77	5.3.2. 未完了の対策を大別する・・・・・・・・	99
1.3.2. 森の中に木を見る・・・・・・・・	23	4.4.4. 文体はどうするか・・・・・・・・	77	5.3.3. 自分の処理時間を把握する・・・・・・・・	100
1.3.3. 真の知識を身につける・・・・・・・・	24	4.4.5. 受け身の表現は避ける・・・・・・・・	77	5.3.4. 学生の自由時間はたっぷりある？・・	101
1.3.4. 目標がすべて・・・・・・・・	26	4.5. レポートの落とし穴・・・・・・・・	78	5.3.5. 課題の作業時間を見積もる・・・・・・・・	102
第2章 大学での学習スキル・・・・・・・・	31	4.5.1. 一次資料って何だろう・・・・・・・・	78	5.3.6. 手帳かスマートフォンか・・・・・・・・	103
2.1. 大学の授業とは・・・・・・・・	31	4.5.2. 意見の流用・・・・・・・・・・	79		
2.2. 学ぶ意義は自分で考えなければならない・・	33	4.5.3. 専門用語の罫・・・・・・・・・・	79		
2.3. 授業は学びの一部でしかない:自主学習が		4.6. 形をととのえる・・・・・・・・・・	80		
大事・・・・・・・・	34	4.6.1. まずは表紙から・・・・・・・・・・	80		
2.4. 自主学習の例・・・・・・・・	35	4.6.2. 一般的なかたち・・・・・・・・・・	81		
2.4.1. 内容を理解するために、話してみましょう	36	4.6.3. 見やすい体裁に・・・・・・・・・・	81		
2.4.2. 専門のある何でも屋に・・・・・・・・	37	4.6.4. 引用と脚注・・・・・・・・・・	82		
2.5. 学習観を再考しましょう・・・・・・・・	39	4.6.5. 推敲はかならず・・・・・・・・・・	83		
2.6. 能動的な学びを・・・・・・・・	41	4.7. レポートから論文へ・・・・・・・・	83		
第3章 探す・集める・探す・・・・・・・・	47	4.8. 口頭発表にむけて・・・・・・・・	84		
3.1. 調べるとは・・・・・・・・	48	4.8.1. 発表原稿の棒読みはなぜわかりにくい	84		
3.2. 資料を探す・・・・・・・・	51	4.8.2. 口頭発表のメリットを最大限生かすには	85		
3.2.1. 辞典を使う・・・・・・・・	51	4.8.3. 質疑への対応・・・・・・・・	86		
3.2.2. 検索術語・・・・・・・・	53	第5章 学生生活を設計しよう 勉強も遊びも	93		
3.2.3. 図書館で探す・・・・・・・・	56				
3.2.4. インターネット検索を使う・・・・・・・・	61				

（出典：「信州大学新入生ハンドブック2015」）

学部混合の教養ゼミと大学生基礎力ゼミを、1クラス20人程度で開講している。（資料経96）

**資料経96：教養ゼミナール及び大学生基礎力ゼミ**

【教養ゼミナール】

本学は種々の専門性を持つ8学部からなる総合大学であり、1年次に全学部生が松本キャンパスで学びます。ゼミナールは学部混合で行われますので、多様な物の見方を知る機会を得ることができます。また、個々の教員の専門が生かされています。また原則として25名を超えた場合の受講制限は、数の多い学部生から行うなど同一学部生に偏らないような処置をしています。

教養ゼミナールでは、多くの事例的な研究を行い、学生が自分の知識や人生を社会との関係の中で位置付ける機会を提供します。討論やプレゼンテーション等も積極的に取り入れながら、物事

の多面的な理解と深い洞察力を養います。

【大学生基礎力ゼミ】

**「大学生基礎力ゼミ」について**

信州大学で、一人前の大学生として有意義な学生生活を送りたい方のために、「大学生基礎力ゼミ」(社会科学群)を7コマ開講します。興味のある方は是非受講してください(詳しくはシラバスで確認してください)。

一人前の大学生のあるべき考え方を教えてもらった。

レポートの書き方の基本が分かった!

この授業のおかげで、グループの話し合いなどで意見が出せるようになり、楽しかったです。

大学に入学して、今までとの違いや、これからどのように勉強していったらよいか分からない状態だったが、毎週の授業の中で少しずつ形作ることができた。

ふりかえりレポートを毎週書くことで、自分についてよく知ることができ、本当に良い生活が送れた。

昨年受講した学生の声

平成27年度開講数

	前期	後期
教養ゼミナール	53	36
大学生基礎力ゼミ	11	0

(出典：「2015共通教育履修案内」)

○ICT活用教育

松本キャンパス以外の高年次学生が共通教育科目を受講するため、ICTを活用した授業を実施している。(資料経97、経98)

**資料経 97：平成 27 年度 信州ユビキタスネットシステム (SUNS) 利用授業の開講状況**

前 期		後 期	
授 業 名	担 当 教 員	授 業 名	担 当 教 員
ネイチャーライティングのすすめ(環境文学Ⅰ)【SUNS】【EA】	松岡 幸司	環境文学のすすめ(環境文学Ⅱ)【SUNS】【EA】	松岡 幸司
キャリア形成論Ⅰ-本当の自分を理解するステップ-【SUNS】	小池 健一	キャリア形成論Ⅱ-自分の将来像を探るステップ-【SUNS】	小池 健一
物理学の世界【SUNS】	矢部 正之	新聞と私たちの社会【SUNS】(信濃毎日新聞社寄附講義)	分藤 大翼
検索の科学【SUNS】	鈴木 治郎	現代医療における物理学【SUNS】	矢部 正之
現代ドイツの言語と日常ゼミ【SUNS】	松岡 幸司	現代ドイツ事情ゼミ【SUNS】	松岡 幸司
ドイツ語初級(総合)Ⅰ【SUNS】	松岡 幸司	ドイツ語初級(総合)Ⅱ【SUNS】	松岡 幸司
ドイツ語中級(読解)Ⅰ【SUNS】	松岡 幸司	ドイツ語中級(読解)Ⅱ【SUNS】	松岡 幸司
線形代数学Ⅰ【SUNS】	高野嘉寿彦	一般化学Ⅱ【SUNS】	村上 好成
一般化学Ⅰ【SUNS】	村上 好成		

(出典：「2015 共通教育履修案内」をもとに経営企画課にて作成)

**資料経 98：平成 27 年度 共通教育『EA』科目(e-Learningのみで行う授業)の開講状況**

前 期		後 期	
授 業 名	担 当 教 員	授 業 名	担 当 教 員
ネイチャーライティングのすすめ(環境文学Ⅰ)【SUNS】【EA】	松岡 幸司	環境文学のすすめ(環境文学Ⅱ)【SUNS】【EA】	松岡 幸司

ジェンダー論【EA】	加藤 善子	ジェンダー論【EA】	加藤 善子
日本人のための英作文練習ゼミ【EA】	加藤 敏三	検索の科学【EA】	鈴木 治郎
ドイツ語初級（総合）I【EA】	松岡 幸司	ドイツ語初級（総合）II【EA】	松岡 幸司
フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュI【EA】	田口 茂樹	フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュII【EA】	有路 憲一
リスニング&リーディングI【EA】	近藤 富英	リスニング&リーディングII【EA】	近藤 富英
ドイツ語中級（読解）I【EA】	松岡 幸司	ドイツ語中級（読解）II【EA】	松岡 幸司
ロシア語中級I【EA】	佐々木 寛	ロシア語中級II【EA】	佐々木 寛
ハンゲル中級I【EA】	延 鎮淑	ハンゲル中級II【EA】	延 鎮淑
キャンパスライフと健康【EA】	川 茂幸		
（出典：「2015 共通教育履修案内」をもとに経営企画課にて作成）			

履修登録上限単位、習熟度別クラス編成（英語、微分積分学 I、力学、生物科学 I）、リメディアル教育（英語基礎、基礎数学、基礎物理、基礎化学）、各種英語資格試験による単位認定、県内他大学との単位互換を行っている。（資料経99）

**資料経99：共通教育科目における教育方法や学習支援**

**【履修登録上限単位】**

共通教育科目では、1 学期に履修登録できる単位の上限が学部ごとに定められています。

※ 履修登録単位数の上限には教職に関する科目は含まれません。

※ その他、学部・学科（系）によって、上限に含まない科目もありますので、詳細は各学部学生便覧で確認してください。

大学での勉学は授業での学習に加えて、出席する授業の予習、復習を含む十分な自主的学習時間の確保が前提となっています。こうした趣旨から、履修登録単位数の上限制度が設けられています。なお履修登録単位数の上限を超えて履修することはできません。

また、前期の成績が優秀な学生で学部長の許可がある場合には、後期に個々の学生ごとに履修登録単位数の上限を設定することが認められます。

**【習熟度別クラス】**

**英語** 英語のクラスは、すべて学部別であり、また習熟度別クラス編成になっています。（上級）（中級）（初級）の3 レベルです。習熟度別クラスが編成され、授業がはじまる前までに掲示されます。指定されたクラス以外のクラスを履修することは原則としてできません。

**微分積分学 I、力学、生物科学 I** 基礎科学科目の履修方法は学部・学科（課程・系）により異なりますので、各学部・学科（課程・系）の履修指導に従ってください。学部・学科（課程・系）でクラスが指定されますので、指定のクラスで受講してください。

なお、力学及び生物学 A については、高校における履修状況等を考慮し、一部の学生についてクラスの指定があります。対象学生となる学生が学部・学科（系）から掲示等で指定されます。

**【リメディアル教育】**

**【リメディアル教育】**

大学での学習にスムーズに取り組んで行けるように、基礎を学ぶための授業です。積極的に活用しましょう。

各科目のリメディアル教育授業については、以下の通り実施します。掲示により受講を指定された学生は、以下を確認の上、授業に臨んでください。対象学生は、授業開始日までに、全学教育機構公用掲示板にて周知します。なお、指定を受けない場合でも、受講人数に余裕がある場合は、授業担当教員に申し出て、受講することができます。

「基礎化学」

担当教員： 勝木 明夫 全学教育機構

授業内容： 高校の化学 I を中心に化学 II まで

実施期間： 前期水曜日の 5 時限 平成27年 4 月15日～7 月1 日（ただし、4 月29日、5 月6日を除く）

講義室： 共 28 番教室

その他： 学部からの指定事項等の詳細は、4 月に公用掲示板で確認してください。

**【各種英語資格試験による単位認定について】**

TOEIC、TOEFL等で一定の点数を得た者及び実用英語技能検定（英検）等の特定の級に合格した者にだけ適用されます。

**【県内他大学との単位互換】**

信州大学は、長野県内の他大学（長野県看護大学、佐久大学、清泉女学院大学、諏訪東京理科大学、長野大学、松本歯科大学、松本大学）と単位互換協定を結んでいます。

信州大学の学生は、この協定により長野県内他大学が開講する授業を受講することができ、その受講により取得した単位は、信州大学の単位として認定されます。単位互換の授業は、みなさんが他大学に通学して授業を受けるタイプと、遠隔講義システム（SUNS）\*を利用して信州大学の教室で他大学の授業を受けるタイプの2種類があります。

長野県内他大学の単位互換の対象授業は、学期の始めに各大学が募集します。

また、長野県内の高等教育機関で組織する「高等教育コンソーシアム信州」のホームページ（<http://www.c-snet.jp/>）でも、単位互換に関することが掲載されています。

なお、全学教育機構では、平成27年度開設する教養科目、外国語科目及び基礎科学科目の授業のうち、授業担当教員が開放することを認めた「授業科目」について、県内の他大学の学生の受け入れを実施します。

**【遠隔講義システム（SUNS）\*による受講】** 平成22年度からは、長野県内他大学の授業を遠隔講義システム（SUNS）\*を通じて信州大学で受講できるようになりました。（他大学の特別聴講学生として受け入れられます。）この遠隔講義システムを利用した授業を受講すれば、他大学に通学しなくても信州大学の教室で、他大学の授業を受講できます。遠隔講義システム（SUNS）\*を利用した他大学の開講科目は、共通教育科目のうち「教養科目」として認定され、卒業に必要な単位に算入されます。

（出典：「2015共通教育履修案内」をもとに経営企画課にて作成）

**(3) 社会や地域へ向けた教育提供**

学部独自に、学外講師を招く「産業論特論」及び「経営者と企業」講義並びに企画シンポジウムを一般市民に無料で公開している（資料経100～経103）。

**資料経100：「産業論特論」講義の一般聴講案内**

2015年度 経済学部産業社会交流科目「産業論特論」が開講されます。（聴講無料）

2015年度の産業論特論は、「多様化の時代の企業経営」をテーマに開講します。

本講義は経済学部学生を対象としていますが、一般の方の聴講も受け付けております。

聴講希望の方は、下記をご参照ください。

<http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/economics/feature01/>

（出典：経済学部ホームページ お知らせ詳細（2015年度））

**資料経101：「経営者と企業」講義の一般聴講案内**

平成27年度 社会科学特別講義「経営者と企業」を開講します。（聴講無料）

信州大学経済学部では、一般社団法人 長野県経営者協会（会長 山浦愛幸氏）のご協力を得て、平成27年度社会科学特別講義「経営者と企業」を、10月14日（水曜日）から12月9日（水曜日）の期間8回、開講いたします。聴講希望の方は、下記をご参照ください。

<http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/economics/feature02/>

（出典：経済学部ホームページ お知らせ詳細（2014年度））

**資料経102：一般聴講受入実績**

（単位：人）

科目名	H22	H23	H24	H25	H26	H27
産業論特論	221	241	206	121	164	194
経営者と企業	105	73	61	78	55	45

（出典：経済学部作成）

開催年度	講演等名称	講演者等所属、氏名
H22	信州大学経済学部主催国際シンポジウム「アジア太平洋地域の環境保護とクリーンエネルギー推進政策：新たな公共性に向けたイニシアティブ」	ハワイ大学法科大学院客員教授 ダグラス・コディガ氏、環境省総合環境政策局総務課長 川上壽貴氏、日本政策投資銀行事業開発部長 大澤寛樹氏、サステナジー株式会社代表取締役 山口勝洋氏、信州大学経済学部教授 美甘信吾
	信州大学経済学部・地域政策研究センター第2回シンポジウム「地域の活力をいかに再生するのか？」	早稲田大学法学部特任教授 宮島洋氏、東京大学社会科学研究所教授 玄田有史氏、飯田市長 牧野光朗氏、関東財務局長 森川卓也氏、信州大学経済学部教授 都築勉
H23	信州大学経済学部講演会(外交講座)「核軍縮・不拡散」及び「平和と軍縮問題ための基礎知識」	外務省軍縮不拡散・科学部軍備管理軍縮課長 吉田謙介氏、信州大学経済学部教授 美甘信吾
H24	信州大学経済学部国際交流・留学生委員会主催講演会「ハワイ州における児童の保護と法：教員、医療関係者、法律家の協力関係構築のための専門家教育」	ハワイ大学法科大学院 Dr. Laurie Tochiki 氏
	信州大学経済学部地域政策研究センター主催シンポジウム「高齢者の一人暮らしを支える地域づくりー長野県松本市の地域包括ケアを考えるー」	日本福祉大学社会福祉学部准教授 原田正樹氏、同志社大学社会学部教授 上野谷加代子氏、松本大学総合経営学部准教授 尻無浜博幸氏、松本短期大学介護福祉学科准教授 合津千香氏、松本市地域づくり課長 矢久保学氏、信州大学経済学部教授 井上信宏
	信州大学経済学部専門科目「国際政治」特別講義「紛争後の民族共栄を願って：音楽家・指揮者としての挑戦」	コンボ・フィルハーモニー交響楽団首席指揮者 柳沢寿男氏
H25	信州大学経済学部主催講演会「中国経済の現状と課題」	財務省財務総合政策研究所次長 田中修氏
	信州大学経済学部主催パネル・ディスカッション「金融で地域を支えることができるか、金融で地域を振興することができるか」	日本政策投資銀行地域企画部企画審議役 中村聡志氏、おひさま進歩エネルギー代表取締役 原亮弘氏、八十二銀行常務取締役 小松哲夫氏、野村證券松本支店長 廣川隆雄氏
	信州大学経済学部(国際交流・留学生委員会主催)講演会「裏切られた信用：アメリカ最大の慈善団体の強欲、不正管理、政治利用」	ハワイ大学法科大学院 Professor Randall Roth 氏
	信州大学経済学部専門科目「世界経済」特別講義「アセアン(ASEAN)の経済発展と日本ーJICA マニラ勤務経験からー」	国際協力機構資金協力業務部審議役 伊藤晋氏
	信州大学経済学部公開シンポジウム「医療・社会保障と地域経済」	地方財政審議会会長 神野直彦氏、全国健康保険協会会長野支部長 上原明氏、長野県健康福祉部健康福祉参事 清水深氏、長野県経営者協会会長 山浦愛幸氏、厚生労働省政策評価審議官 山沖義和氏、信州大学医学部長 天野直二、信州大学経済学部長 徳井丞次
H26	信州大学経済学部専門科目「世界経済」特別講義「中国経済の課題と新指導部」	対外経済貿易大学(中国 北京市)准教授 劉慶彬氏
	信州大学経済学部(国際交流・留学生委員会主催)講演会「歳入見積り：ハワイ州歳入委員会」"Forecasting Budget Revenue: Hawaii State Council on Revenues"	ハワイ大学社会科学学院 Dr. Christopher Grandy 氏

(出典：経済学部作成)

大学全体で科目等履修生の受入、市民開放授業、出前講座を実施している(資料経104～経106)。

	H22	H23	H24	H25	H26	H27
		0	0	1	0	0

(出典：経済学部作成)

**資料経105：市民開放授業の実績 (単位：件、人)**  
 正規の学生のために開講している通常の授業を、「市民開放授業」として一般市民にも開放している。生涯学習に対する社会的な要請に応え、本学と地域社会の連携をより一層深めることを目的としている。

	H22	H23	H24	H25	H26	H27
開放授業数	49	49	46	47	49	49
実施数	20	22	23	20	22	26
受講者数	29	35	35	41	30	39

(出典：経済学部作成)

**資料経106：出前講座の実績** (単位：件、人)

出前講座は、長野県内の公民館、生涯学習センター、図書館及び博物館等の生涯学習機関、幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の教育機関並びに保育園及び公的な性格を持つ機関及び団体からの申込みを受けて、本学の教員が各地に赴いて講座を行うもの。

	H22	H23	H24	H25	H26	H27
登録講座数	21	22	21	21	18	19
実施数	5	5	4	8	1	2
受講者数	300	233	768	434	180	45

(出典：学務課作成)

(4) 専門教育を基にしたキャリア教育

職業意識の涵養を図るため、インターンシップ科目を実施している。参加者数は近年上昇傾向にある。平成22年度から発表会を新設した。成績評価レポートが優秀であった学生が発表する様子を公開し、次年度参加学生に供している。成果報告書は受入先企業等に送付している(資料経107～経110)。

**資料経107：インターンシップ参加者数**

	H22	H23	H24	H25	H26	H27
参加者数	31	53	41	25	69	78

(出典：経済学部作成)

**資料経108：インターンシップの主な実施先**

(2) インターンシップAコース(自己開拓)

企業広告、WEB上の企業の人事サイトまたはインターンシップ紹介の就職支援サイトを調べ、関心を持った企業を選び、本人が直接申し込んでください。また、国、都道府県、市町村等の公的機関は大学経由の申請を課すところが増えており、締切も早目ですので注意してください。大学経由での申込は先方の締切の2週間前までに行ってください。

[ 教員紹介 ]

受入先	実施内容、条件等
長野県協同組合連絡会 (長野県農業協同組合・各連合会、長野県生活協同組合連合会、長野県漁業協同組合連合会、長野県森林組合連合会、長野県労働金庫、企業組合労協などの)	協同組合の基本原理と各団体の主要業務等についてのレクチャーが提供され、現場研修では、複数の団体にて、農林業、流通、金融、福祉など、多様な業種を横断的に経験できる見込みで、営利企業との相違を考える機会になると期待されます。 時期：8月末以降、8～10日間程度 場所：松本近辺のほか、遠方の場合には提供される研修施設にて数日、投宿する可能性もあります。 【申込方法】 ①5月12日(火)までに、金早雪 jskim@shinshu-u.ac.jp あて、以下を送信； 1.氏名、学籍番号、携帯電話・メール、所属ゼミ 2.自己アピール(100字程度) 3.志望動機(100字程度) 4.その他(希望日程など)。送信後おおむね3日以内に受入れについて金早雪より返信します。 ②受入決定後、学務係へ受講登録書提出 ※説明会時配布する「インターンシップ募集要項」を参照してください。

(3) インターンシップBコース(大学経由で手続きするもの)

本年度の受入先は下表のとおりです。日程等の条件が合わない場合は実施できません。

受入先	実施時期、場所、条件等	前年実績(夏季)
信濃毎日新聞	会社の業務の説明、記者に同行し取材体験等。 時期：8月後半～9月中旬 5日間程度 場所：1日目、5日目長野市(本社) 2～4日目松本市(松本支社) 条件：新聞記者志望の学生が望ましい。(メディアに興味のある学生ではなく、活字に興味のある学生)	2名

長野証券	時期:9月 2週間程度 場所:長野市	1名
テレビ松本ケーブルビジョン	ケーブルテレビの自主放送番組の制作研修 時期:7月下旬~相談のうえ決定 場所:本社(松本市里山辺)学部註:例年 2、3名でグループを組み取材に同行。	3名
ホテル国際21	研修生の希望分野(宴会サービスを基本とする) 時期:応相談 2週間程度 場所:長野市ホテル国際21 条件:挨拶がしっかりできる学生。	1名
ながのアド・ビューロ	広告制作、イベント企画、営業等。 時期:応相談 2週間程度 場所:松本支社または本社(長野市) 条件:広告会社でのインターンシップを希望する者が望ましい。	1名
ながの東急百貨店	時期:8月上旬より2週間程度 場所:長野市 条件:髪型、服装等の基準あり。	-
有限責任監査法人トーマツ	時期:9月の5日間を予定 場所:松本事務所(松本駅前昭和ビル内) 条件:会計学単位取得者。会計専門職(CPA、税理士)志望者が望ましい。 ※研修に先立ち事前課題あり。グループ単位(最低6名)の研修スタイルのため、希望者少数の場合中止となる可能性あり。	8名
関東財務局長野財務事務所	地方公共団体への財政融資、県内経済調査、金融機関の監督、国有財産管理等。 時期:9月上旬、1~2週間程度 場所:長野市(ヒアリングや現地調査等は事務所以外での実施も有。) 条件:日本の財政、金融、経済情勢等に興味があること。	1名
おひさま進歩エネルギー	創エネルギー・省エネルギーなどの自然エネルギー普及促進事業、市民出資・ファンド募集業務補助、環境学習など 時期:随時 場所:飯田市(無料宿泊施設有)	-
山辺ワイナリー	農作業、醸造、農産物直売所、ワインショップ等。学習会あり。 時期:8月中旬~9月上旬で10日以内(一週間程度)予定。 場所:ぶどうの郷山辺内又は所有圃場 ※外での作業があります。	5名
松本山雅	事務所での事務作業、主催試合の設営準備、イベント業務補助等 時期:9月14日~25日の間 2名まで受入。 場所:事務所(松本市鎌田)、アルウィン 条件:挨拶、社会人としての振る舞いがしっかり出来るもの。 ※ボランティア希望者はボランティア団体へ直接申し込んでください。	1名

(出典:平成27年度経済学部ボランティア・インターンシップ科目説明会資料)

資料経109:平成26年度インターンシップ実施先

インターンシップ A

受入先	述人数
長野県庁	7
長野労働局	1
松本市役所	1
中野市役所	1
富山県庁	1
宇部市役所	1
栃木県庁	1
福井銀行	1
北國新聞社	1
岐阜信用金庫	1
コスモネット	1
富山第一銀行	2
松本山雅	1
相澤病院	1
長野県パトロール	1
小諸不動産	2
日本労働組合総連合会長野県連合会	2
モンゴル預金保険機構	1
井出建設興業株式会社	1
株式会社名南経営コンサルティング	1
成迫会計事務所	1
アスフィール株式会社	1
北陸銀行	1
テレビ東京	1
日本経済新聞社	1

受入先	述人数
プライスウォーターハウスクーパース	1
オービック	1
マリエール諏訪	1
三井住友海上	1
JA あいち経済連	1
長崎銀行	1
農業インターン	1
大森・中込税理士事務所	1
さかえドライ	1
NEXCO 東日本	1
JA あさひかわ	1
浦安青年会議所	1
アップウィッシュ	1

インターンシップ B

受入先	人数
信濃毎日新聞	2
テレビ松本	2
ながのアド・ビューロ	1
長野財務事務所	1
長野証券	1
ホテル国際21	1
山辺ワイナリー	5
有限監査法人トーマツ	8

エクスウェア	1	その他履修登録は無いが、受入先との手続きに
まごころふれあい農園	1	
朝日新聞社	1	
長野銀行	1	
三井住友海上	1	
イトーキ	1	
ポジティブドリームパーソンズ	1	
鍋林	1	

受入先	人数
長野県庁	6
長野労働局	1
テレビ松本	1

(出典：平成27年度経済学部ボランティア・インターンシップ科目説明会資料)

**資料経110：インターンシップ成果報告状況**

年度	報告者数	
		内 発表者数
平成22年度	8	4
平成23年度	8	4
平成24年度	5	3
平成25年度	6	2
平成26年度	10	4
平成27年度	10	4

(出典：経済学部作成)

(5) 学生の主体的な学習を促すための取組

環境の整備

経済学部内に無線LANが使用可能な自主学習スペースを設けている。  
 新生ゼミナール時に図書館ガイダンスを行い、文献検索等の導入教育を行っている。  
 経済学部独自に専門図書資料室を設置している(資料経111)。

**資料経111：経済学部資料室の利用方法について**

II-1. 図書館及び資料室の利用

(1) 信州大学の図書館システム  
 信州大学には、中央図書館(松本地区)他、県内に点在する5つのキャンパスに6つの図書館がありますが、経済学部は中央図書館と連携して独自に経済学部資料室(事実上の図書館)を設けて、教育研究の便に供しています。中央図書館は、いわば学習図書館あるいは情報検索中枢としての役割を担うものであり、これに対して学部資料室は研究図書館あるいは専門図書館としての役割を担うものです。学生諸君は、一般の勉学のためには大いに中央図書館を利用し(附属図書館発行「附属図書館利用案内」を参照)、演習の報告準備や卒業論文の作成にあたっては学部資料室をも大いに活用してください(下記の「利用規則」参照)。

(2) 経済学部資料室の組織

① 資料室 事務職員2名が図書事務に携わっています。資料室の管理、閲覧・借覧事務、図書発注、受入・整理等の事務に当たっています。

② 図書委員会 教員3~4名で構成され、資料室の運営に当たっています。

経済学部資料室図書学生利用規則	
1980.4.8.制定	1982.3.12.改正
1994.9.13.改正	2000.1.12改正
2007.5.9改正	
I 通則	
1 経済学部学生(研究生・聴講生を含む。以下「学生」という。)は、研究のために経済学部資料室の図書を利用し、資料室内のリーディングルーム及びレファレンスルームを使用することができる。(一般学習のためには、中央図書館を利用すること。)	
2 学生は、この規則を遵守するとともに、経済学部における図書を担当する委員会(以下、「図書委員会」という。)及び係員の指示に従わなければならない。	
3 閲覧及び借覧に関して、保管の必要上、図書の利用を制限することがある。	
4 資料室収蔵図書は、一般図書と閲覧図書(辞典、地図、年鑑、統計、白書類、判例集、雑誌、紀要)に分類される。	
5 リーディングルーム及びレファレンスルームの利用時間は、図書委員会がこれを定める。	
6 資料室内で喫煙・飲食等をしてはならない。	
7 リーディングルームへ入室するときはノート、メモ用紙、筆記用具、パソコン以外の物を持ち込んではいない。	
8 レファレンスルームのパソコンは、目的外使用をしてはならない。	
II 閲覧	
1 リーディングルームは、図書を閲覧するためにのみ使用することができる。	
2 資料室の使用を希望する学生は、図書委員会発行の経済学部資料室利用登録証の交付を受けなければならない	

- ない。
- 3 資料室を使用する学生は、経済学部資料室利用登録証及び学生証を携帯しなければならない。
  - 4 閲覧希望者は、所定の手続きに従い、閲覧申込をしなければならない。
  - 5 同時に閲覧可能な図書冊数は、5冊以内とする。
  - 6 閲覧図書は、リーディングルーム及びレファレンスルーム内での利用に限られ、これを室外に持ち出すことはできない。
  - 7 前条の規定にかかわらず、閲覧図書の複写を希望する学生は、係員の許可を得て、複写することができる。

### III 借覧

- 1 学生は、一般図書に限り、これを借覧することができる。
- 2 一般図書の借覧冊数は2冊以内とし、借覧期間は2週間以内とする。
- 3 借覧を希望する学生は、係員に経済学部資料室利用登録証を提示し、所定の手続きに従い、借覧申込をしなければならない。
- 4 借覧する学生は、借覧図書を丁寧に扱うとともに、他の者に転貸してはならない。
- 5 継続して借覧を希望する場合において、他に借覧希望者がある時は、後者を優先する。  
更新は一回限りとする。

### IV 制裁

- 1 この規則または教員及び資料室事務担当者の指示に違反した学生に対しては、借覧停止、閲覧禁止、経済学部資料室利用登録証の没収又は不交付等の適当な措置をとることができる。
- 2 借覧中の図書につき、汚損・破損または紛失等の事故が生じた場合には、借覧した学生は始末書を提出しなければならない。またその滅損理由によっては、同一図書または代金をもって弁償し、あるいは修理費を負担しなければならない。

### (3) 経済学部資料室利用案内

#### 1. 開館時間と休館日

**開館時間** 平日 AM 10:00 ~ PM 5:00 (閲覧・貸出の申込みは PM 4:30 までです。)

**休館日** 土・日曜日、祝日

尚、これ以外の休館日については事前に掲示してお知らせします。

#### 2. 利用資格 : 経済学部生(大学院生・研究生・聴講生を含む)、経済学部教員、法科大学院生、法科大学院教員

#### 3. 資料室(レファレンスルーム・リーディングルーム)の利用に際して

資料室は、「レファレンスルーム」と「リーディングルーム」とに分かれています。

**携行品** 学生証、閲覧室利用登録証

資料室を利用する際には、あらかじめ下記の手続きにより**利用登録**を行って下さい。

**手続方法** ①カウンターの「経済学部資料室利用登録」の用紙に所定の事項を記入し、学生証とともに係員へ提出する。

②利用登録証(緑色のカード)の交付を受ける。(即日交付)

#### 4. 図書・資料の閲覧・貸出について

当資料室では新着雑誌及び参考用図書を資料室内に展示し、その他の図書・雑誌・統計・紀要類については別の書庫に保管するという「閉架式」の形態をとっています。

これらの図書・資料の閲覧・貸出は次の方法により行って下さい。

#### ①書庫保管の資料(図書/雑誌/統計/紀要類)を利用する場合

学生は書庫に入ることはできません。「OPAC(信州大学蔵書検索システム)」「(附属図書館HP)」、又は資料室の「カード目録」、「所蔵一覧表(雑誌・統計・紀要)」により予め文献検索を行い、図書については「図書閲覧・貸出票」に、雑誌・統計・紀要類については「雑誌・統計・紀要閲覧票」に記入の上、カウンターへ申し出て下さい。

#### 閲覧・貸出の冊数及び期間

図 書		雑誌・紀要・統計・白書類	
閲覧	・5冊以内 ・閲覧申込:AM 10:00 ~ PM 4:30	閲覧	・5冊以内 ・閲覧申込:AM 10:00 ~ PM 4:30
貸出	・2冊まで貸出可能	貸出	・原則として行わない

※貸出期間を延長したい場合は、現物持参の上カウンターにて延長手続を行って下さい。

次の貸出希望者がいない場合に限り、1回(2週間)のみ延長を認めます。

#### ②資料室内の新着雑誌・参考図書・辞典類を利用する場合

これらの資料は自由に閲覧する事はできますが、貸出しは行いません。閲覧が終わったら必ず元の位置へ戻して下さい。

尚、複写を要する場合は「6.資料の複写について」により、所定の手続きを行って下さい。

#### ③コンピューター会図書を利用する場合

これらは書庫の図書同様、貸出しを受ける事ができます。リーディングルームに配架されているので「図書閲覧・貸出票」に必要事項を記入の上、図書と一緒にカウンターまで持参して下さい。

#### 5. 資料の複写について(複写持出し制度)

複写を要する場合は、新棟1Fの学生ラウンジに設置されたコピー機を利用します。所定の用紙に記入の上、係員の許可を得て学生証と交換に持ち出します。1回の複写のために、図書・雑誌・統計・白書・紀要類全5冊まで持ち出すことが出来ます。

資料は複写が終わ次第カウンターに返却して下さい。返却された資料を確認の上、学生証を返却します。

#### 6. 注意事項

① **期間厳守** 貸出期間は厳守して下さい。遅滞した場合、閲覧停止・貸出停止の処置をとることがあります。

② **無断持出しの禁止** 図書・資料等を無断で資料室外に持出した場合は、閲覧停止・貸出停止の処置をとることがあります。尚、悪質な場合は処分の対象になります。

③ **又貸の禁止** 又貸しは固く禁じます。

- ④ **汚損・紛失** 利用する図書資料は丁寧に取り扱い下さい。汚損・紛失等の事由が生じた場合は始末書を提出し、同一図書または代金をもって弁償もしくは修理費を負担していただきます。
- ⑤ **喫煙・飲食の禁止** 資料室内での喫煙・飲食は一切禁止します。

(出典：平成27年度経済学部学生便覧)

全ての演習室で無線LANを使用可能としている(資料経112)。専門科目「情報処理」でネットワーク環境を説明し、理解促進のため聴講のみの参加も推奨している。

### 資料経112：情報関係の設備

#### II-2. 情報関係の設備

##### (1) 授業等で利用するネットワーク機能

学生諸君が利用可能な本学のWebサイトは以下の3種類があります。

- ① ACSU(セキュアネットワーク)：外部サイトを含めたインターネットへの接続  
 キャンパス内から学外に対してインターネットアクセスが可能です。キャンパス内に設置された無線LANのアクセスポイントより、インターネットへの接続ができます。経済学部の学生諸君へは、次の項で説明するように、経済学部新棟演習室にアクセスポイントを準備し、開放しています。また、生協の大食堂にもアクセスポイントが準備されています。ただし、インターネット接続の前に下記のセキュアネットサイトにログインする必要があります。  
<http://acsu.shinshu-u.ac.jp/>
- ② eALPS  
 授業用資料やレポート課題のファイル、または各授業の連絡事項は、eALPSと呼ぶ下記のウェブページから、授業科目毎に入手することができます。レポートの提出もeALPSから行うことができます。利用方法：ACSU(<http://acsu.shinshu-u.ac.jp/>)にログイン後にeALPSを選択してください。
- ③ キャンパス情報システム  
 履修登録、成績確認、学生による授業評価、時間割・教室変更、休講情報などにアクセスできます。  
 利用方法：ACSU(<http://acsu.shinshu-u.ac.jp/>)にログイン後にキャンパス情報システムを選択してください。

ACSUにログインするためには、IDとパスワード(IDとパスワードが書かれたアカウント通知書は入学時に履修関係資料と一緒に配布しています。)が必要です。学生生活を送るうえで重要なものなので、アカウント通知書は卒業するまで大切に保管してください。

上記3種類のネットワークアクセスに関しては、「情報処理 I」の最初の2回の授業で、説明を行います。ガイダンスの際に、詳しい説明資料を配布しますので、これを読んでも良く分からない方は、「情報処理 I」の授業を履修しない場合でも、最初の2回分には出席して下さい。

##### (2) 接続可能な教室

###### ・経済学部新棟演習室

経済学部生ならだれでもこれらの部屋を利用できます(空き時間に限る)。その際、無線LANに対応したノートパソコンが必要です。社会科学を履修するに際し有益な情報をインターネット上で入手したり、電子メールを送受信したり、eALPSから教員の教材や資料を自分のノートパソコン上にコピーしたり、課題やレポートをeALPSに提出することに使います。電子メールの送受信は、ノートパソコンにインストールされているメールソフトを用いるほかにACSUにログインしてActiveMailを使う方法もあります。

利用時間 午前8時30分～午後8時30分(長期休業中は施設します)

最後に退出する学生はエアコンを止め、照明を消してください。利用可能時間は変更となる場合があるので掲示に注意してください。

###### ・第1講義室、第3講義室

この部屋のすべての座席に電源とLANのコンセントが付いています。この教室でのネットワーク利用は、授業および学部が必要と判断した場合に限られます。それ以外の状況では、ネットワークは外部に接続されていません。授業時間以外にLANを利用するには、この教室ではなく演習室を利用してください。

#### 経済学部計算機ネットワークシステム学部学生利用心得

##### 1. 一般的心得

- 1) 経済学部内に設置された計算機ネットワークシステムは、経済学部の研究及び教育を目的として設置されたものであるため、この目的以外には利用してはならない。
- 2) システムの利用に際しては、日本の国内法を当然遵守しなくてはならない。
- 3) システムを利用して、営利行為を行ってはならない。
- 4) システムを利用して、他人に嫌がらせを行ってはならない。
- 5) このシステムは、経済学部教員、事務職員及び学生が共通に利用しているものであることから、利用に際しては、他の利用者に誤って迷惑をかけないよう細心の注意を払わなければならない。
- 6) 自分のアカウントを他人に貸与してはならない。
- 7) 自分のパスワードは他人に知られないよう十分に注意しなければならない。

##### 2. 演習室関係

- 1) 学生は、自分のノートパソコンを持ち込み、備え付けの無線LANに接続して利用する。
- 2) 利用は、勉学上必要とされる場合に限る。
- 3) 利用に際しては、自分のノートパソコンがウイルス等に汚染されていないよう十分注意を払わなければならない。
- 4) 室内での飲食は、禁止する。
- 5) 利用時間は、午前8時30分から午後8時30分までである。ただし、長期休業中は施設する。

##### 3. 罰則関係

- 1) システムを研究及び教育以外の目的に利用した者は、処分を受ける。
- 2) 不適切な利用により誤ってシステムに重大な障害を起こした者も、処分を受ける。
- 3) 処分には、次のものがある。

- ① アカウントの利用の一時停止又は恒久的禁止。
- ② 状況に応じ、前①のほか、本学学則に基づき、訓告、停学、退学などの懲戒処分を課す。

(出典：平成27年度経済学部学生便覧)

附属図書館中央図書館（松本キャンパス）の改築を行い、学修スペースが増加（980平方メートルから2,380平方メートル）した（資料経113）。

**資料経113：中央図書館の改築**

6月1日、中央図書館がリニューアルオープン！

平成27年6月1日（月）、平成25年秋から始まった増改築工事を終え、信州大学中央図書館がリニューアルオープンしました。

当日は、長野県産の杉を使った木製ルーバーに覆われた印象的な外観の新図書館の前でリニューアル式典が挙行されました。

新図書館では、耐震機能を強化し、学習スペースの拡充を行うとともに、学生の能動的学修の支援、大学と地域の交流促進などの、時代に即した新しい図書館機能の強化・充実を行っています。1階に飲食可能な自由学習スペース、2階に学習支援相談員が在席する共同学習スペース、3階にパソコンの使用を制限する「サイレントゾーン」を設けました。

この日、1階の展示コーナーには、木曾漆器や天蚕敷物、彫金による学章など、地域からの記念品の数々とともに、近く親族のご厚意により、その蔵書の一部が寄贈されることとなっている信州大学の前身の旧制松本高校出身の作家・北杜夫さんのサイン本等が展示されました。

一般開放後、新図書館はたちまち利用者で賑わい、記念写真を撮る学生の姿も多く見られました。

<新中央図書館の外観>

<テープカット>



(出典：信州大学附属図書館ホームページ「お知らせ」)

大学全体で教育支援のためのe-Learningシステム「eALPS」を導入している。経済学部の活用実績は以下のとおりである（資料経114）。

**資料経114：eALPS活用実績**

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27
利用授業数	15	16	19	24	28	35

参考 第1期の実績

年度	H16	H17	H18	H19	H20	H21
利用授業数	0	0	0	6	6	7

(出典：経済学部作成)

新入生ゼミナールで発表会を課している（資料経115）。専門科目では選択科目として、演習論文と卒業論文を設けている。演習論文はほとんどの学生が、卒業論文は約半数の学生が履修している（資料経116）。平成24年度から、ゼミ合同研究発表会（資料経117）を実施している。他学部授業科目、他大学授業科目等の異分野の勉学にも挑んでいる（資料経118）。

**資料経115：新入生ゼミナール（政治系）夏休みの課題図書**

新入生ゼミナール（政治系）夏休みの課題図書

経済学部の新入生ゼミナールでは、例年、政治系担当教員が夏休みの課題図書を提示してレポートを書いてもらっています。これは新入生ゼミナールⅠ（前期）とⅡ（後期）の橋渡しをすることと、せっかくの夏休みを無為に過ごしてほしくないこと、さらに、新書1冊ぐらい半日あれば読める読書力を身に付けてほしいからです。

そこで、今年は、以下のリストA、リストBの6個ずつの中から1冊ずつ選んで、それぞれ2000字程度の感想文を書いて提出してください。最初に簡単な要約を示し、それに続けて読後の感想を自由に書いてください。

形式はA4の用紙に打ち出すこと、1冊分について両面印刷でも2枚になってもかまいません。表紙は必要なく、最初に表題と学籍番号と氏名を書いてください。各自2冊についてのレポートを一緒にホチキスで留めて新ゼミ夏休み課題図書（沼尾または美甘）と書かれたレポート・ボックスに、10月1日（水）の17時までに入れてください。

なお、未提出の人については、後期新ゼミⅡの政治系担当教員にその旨申し送ります。また、新ゼミⅡでは、図書発表会（ビブリオバトル）も企画する予定です。

[リストA]

1. 竹内洋岳「登山の哲学」（NHK出版新書、2013年）
2. 大野更紗「困ってるひと」（ポプラ文庫、2012年）
3. 阿川佐和子「聞く力」（文春新書、2012年）
4. 養老孟司「「自分」の壁」（新潮新書、2014年）
5. 林真理子「野心のすすめ」（講談社現代新書、2013年）
6. 奥那覇潤「日本人はなぜ存在するか」（集英社インターナショナル、2013年）

[リストB]

1. 豊下梢彦「集団的自衛権とは何か」（岩波新書、2007年）
2. 猪熊弘子「「子育て」という政治」（角川SSC新書、2014年）
3. 小熊英二「社会を変えるには」（講談社現代新書、2012年）
4. 中北浩爾「現代日本の政党デモクラシー」（岩波新書、2012年）
5. 岩下明裕「北方領土・竹島・尖閣、これが解決策」（朝日選書、2013年）
6. 柳澤協二「亡国の安保政策」（岩波新書、2014年）

2014年7月16日 沼尾、美甘

（出典：経済学部新入生ゼミナール課題資料）

資料経116：演習論文、卒業論文の単位取得者数

年度	演習論文		卒業論文	
	履修対象 学生数	単位 取得者数	履修対象 学生数	単位 取得者数
H22	303	210	264	93
H23	286	198	287	98
H24	281	189	244	99
H25	269	198	242	80
H26	261	195	248	88
H27	270	193	225	94

（出典：経済学部作成）

資料経117：ゼミ合同研究発表会の開催案内

平成27年1月13日  
ゼミ合同発表会実行委員会

第3回経済学部ゼミ合同発表会のご案内

日時：2015年2月4日（水）13時～16時  
場所：第2講義室

2年・3年生が、1年間のゼミ活動の成果報告会を合同で行います。

日時：2015年2月4日（水）13時00分～15時30分

発表内容：ゼミで行った研究の成果

各ゼミの発表時間：10分

参加ゼミ：（11ゼミ）

○荒戸ゼミ ○西村ゼミ

研究ってどうやるのかな？

○井上ゼミ    ○西山ゼミ ○内田ゼミ    ○広瀬ゼミ ○金ゼミ        ○美甘ゼミ ○椎名ゼミ    ○武者ゼミ ○関ゼミ	1年生には、来年度のゼミ選びの参考になるかも…	他のゼミでは、どんな研究をしているんだろう？
※ 皆さんの投票で優秀賞・最優秀賞を決定します！ ※ 講演後、教員や合同発表会参加者を交えた軽食会(無料!)を開催します。		
<b>同級生・先輩の研究発表は刺激的!?</b>		
問い合わせ先:内田 (出典: 経済学部ゼミ合同研究発表会資料)		

他学部授業科目の履修、他大学との単位交換

**資料経118: 他学部授業科目の履修、他大学との単位交換の実績**

行先学部	H22		H23		H24		H25		H26		H27	
	前期	後期										
人文学部	46	64	56	76	52	58	35	33	37	31	26	54
教育学部												1
理学部	5		7	1	2		2	1			1	1
医学部	1											
工学部									2			
農学部			4				1	2	4			
繊維学部												
他大学	1		1		1		2	1		2		
計	53	64	68	77	54	59	40	37	43	33	27	56

(出典: 経済学部作成)

一般財団法人統計質保証推進協会実施の「統計検定」を活用している。(資料経119、経120)

**資料経119: 統計検定の位置づけ**

科目	内容
統計学 I	成績評価の方法 20点満点の小テスト3回の合計と40点満点の期末試験の得点を合計して評価する。 2015年の6月と11月に実施される「統計検定」(松本キャンパスにて受験可能)に合格した場合は以下のように成績を変更する。 3級合格:30点プラス、2級合格:「秀」
統計学 II	成績評価の方法 12点満点の小テスト5回の合計と40点満点の期末試験の得点を合計して評価する。 2015年6月と11月に行われる「統計検定」(松本キャンパスで受験可能)に合格した場合は、以下のように成績を変更する。 2級合格:「優」、2級の成績「A」または「S」で合格:「秀」
経済学演習 I	ゼミの運営・特徴・要件等(取得の促し) 11月にある「統計検定」の2級を取得することも大きな目標の一つです。かなりハードな勉強をしないと2級はとれません。2級の合格率は全国平均で40%くらいですが、これまでのゼミ生は3年終了時までには全員合格してきました。

(出典: シラバスから抜粋)

**資料経120: 統計検定受験者・合格者の状況** (単位: 人)

	準1級		2級		3級		合計	
	受験者	合格者	受験者	合格者	受験者	合格者	受験者	合格者
平成22年度	-	-	-	-	-	-	-	-
平成23年度	-	-	24	5	6	4	30	9
平成24年度	-	-	28	12	31	20	59	32
平成25年度	3	-	30	7	23	13	53	20
平成26年度	1	0	48	15	13	9	62	24

平成 27 年度	3	0	50	15	85	55	138	70
(「-」は、検定・級が存在していないことを表す。)					(出典：経済学部作成)			

資格取得による単位認定 (資料経121、経122)

資料経121：資格科目の状況

II-8. 社会との相互交流 (T、U) グループ科目の履修

(中略)

Uグループ科目としては、学生自らによって社会との交流・経験を深めることを促す科目が配置されています。すなわち、企業・行政機関における就業実習をもとに単位認定を行う「インターンシップ」、ボランティア活動を通して実社会についての理解を深めることをめざす「ボランティア」です。また、本学部の専門教育の内容に関連すると認められる公的・社会的な資格取得に対して単位を認定する「産業社会資格試験」があります。

(中略)

(4) 各種資格試験科目の履修申請

大学入学後に取得した資格(別表)は、各種資格試験科目で単位認定されますので、下記のとおり手続き等を行ってください。また、シラバスも参照してください。

(中略)

5. 資格試験科目

(別表)

資格試験科目	対象となる資格	認定単位数
【11カリ・15カリ】 U47*産業社会資格試験 I ~ V ② ~ ⑩	公認会計士 (論文式試験) 弁理士試験 司法書士試験 不動産鑑定士 (論文式試験) 司法予備試験 (最終) 税理士試験 (1科目合格) ※ 中小企業診断士 (第2次試験) 社会保険労務士試験 行政書士試験 日本証券アナリスト (第2次レベル試験) ビジネス実務法務検定試験 1級 ビジネス実務法務検定試験 2級 日商簿記検定試験 1級 日商簿記検定試験 2級 秘書技能検定試験 1級 宅地建物取引主任者資格試験 2級ファイナンシャル・プランニング技能試験 アクトアリアー資格試験第1次試験 (1科目合格) ※ ※1科目合格ごとに2単位。ただし3科目6単位までとする。	10 10 8 6 6 2 6 4 4 4 4 2 2 2 2 2 2 2
【06カリ】 U47*産業社会資格試験 I ~ V ② ~ ⑩	公認会計士 (論文式試験) 弁理士試験 司法書士試験 不動産鑑定士 (論文式試験) 税理士試験 中小企業診断士 (第2次試験) 社会保険労務士試験 行政書士試験 日本証券アナリスト (第2次レベル試験) ビジネス実務法務検定試験 1級 ビジネス実務法務検定試験 2級 日商簿記検定試験 1級 秘書技能検定試験 1級 宅地建物取引主任者資格試験	10 8 6 6 6 6 4 4 4 4 2 2 2 2
【11カリ・15カリ】 V791 英語資格試験 I ②	TOEIC (IP含む) 700~859点 TOEFL-PBT (ITP含む) 540~596点 TOEFL-CBT 207~246点 TOEFL-iBT 76~97点 実用英語技能検定 (英検) 準1級 海外英語研修 (原則として100時間以上)	} 2
V791 英語資格試験 I ② V792 英語資格試験 II ②	TOEIC (IP含む) 860点以上 TOEFL-PBT (ITP含む) 597点以上 TOEFL-CBT 247点以上 TOEFL-iBT 98点以上 実用英語技能検定 (英検) 1級 海外英語研修 (原則として200時間以上)	} 4

【06カリ】 V791 英語資格試験 I ②	TOEIC (IP含む) 650~799点 TOEFL-PBT (ITP含む) 522~573点 TOEFL-CBT 193~230点 TOEFL-iBT 69~89点 実用英語技能検定(英検)準1級 海外英語研修(原則として100時間以上)	} 2
V791 英語資格試験 I ② V792 英語資格試験 II ②	TOEIC (IP含む) 800点以上 TOEFL-PBT (ITP含む) 574点以上 TOEFL-CBT 231点以上 TOEFL-iBT 90点以上 実用英語技能検定(英検)1級 国連英検 A級以上 海外英語研修(原則として200時間以上)	} 4
W891 中国語資格試験 I ②	中国語検定2級 漢語水平考試(HSK)4、5級(～平成21年度) 漢語水平考試(HSK)4級 195点～300点【筆記試験】	} 2
W891 中国語資格試験 I ② W892 中国語資格試験 II ②	中国語検定 準1級、1級 漢語水平考試(HSK)6～11級(～平成21年度) 漢語水平考試(HSK)5級、6級【筆記試験】	} 4
X991 情報処理資格試験 I ②	基本情報技術者	2
X991 情報処理資格試験 I ② X992 情報処理資格試験 II ②	ソフトウェア開発技術者(～平成20年度) 応用情報技術者	} 4
Y861 スポーツ資格試験 I ②	全日本スキー連盟(SAJ)技能テスト 1級、テクニカルライズ <sup>®</sup> 、クラウンライズ <sup>®</sup> のいずれか	2
Y862 スポーツ資格試験 II ②	準指導員、指導員 のいずれか	2
S405 日本語資格試験 I ②	J-TEST 実用日本語検定 B級～準A級 BJT ビジネス日本語能力テスト 530～599点	} 2
S405 日本語資格試験 I ② S406 日本語資格試験 II ②	J-TEST 実用日本語検定 A級～特A級 BJT ビジネス日本語能力テスト 600点以上	} 4

6. 注意事項

- ①別表に記載されている資格に準ずるものについても、その内容によって単位認定の対象とする場合があるので、交流系科目部会または、国際交流・留学生委員会に相談してください。
- ②資格試験科目は、履修登録単位数の上限にカウントされません。つまり、他の科目の履修登録によって履修登録単位数の上限に達している場合にも、資格試験科目を履修することができます。
- ③「日本語資格試験」認定の対象学生は、外国人留学生のみです。
- ④その他詳細については、各資格試験科目のシラバスを参照してください。

(出典：平成27年度経済学部学生便覧)

資料経122：資格取得の状況

(単位：延べ人数)

年度	スポーツ 資格試験	英語資格 試験	産業社会 資格試験	情報処理 資格試験	中国語資 格試験	日本語資 格試験	総計
H22		9	4			3	16
H23		8	4	1	1		14
H24	2	13	9	1	1		26
H25	1	5	3	1	1	1	12
H26	1	7	13	1	2	3	27
H27	2	14	22	1	2	5	46
総計	6	56	55	5	7	12	141

※ 資格名称の内訳

- スポーツ資格試験： 全日本スキー連盟技能テスト全日本スキー連盟(SAJ)技能テスト
- 英語資格試験： TOEIC、TOEIC-IP、TOEFL、実用英語技能検定1級  
(資格科目として単位認定を行った人数。基準は資料経126参照。)
- 産業社会資格試験： 日商簿記検定、宅地建物取引主任者、行政書士、ビジネス実務法務検定、秘書技能試験(実務技能検定協会実施)
- 情報処理資格試験： 基本情報技術者
- 中国語資格試験： 漢語水平考試(HSK)
- 日本語資格試験： J-TEST 実用日本語検定、BJT ビジネス日本語能力テスト

(出典：経済学部作成)

(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由)

第2期中期目標期間中に、経済学分野では統計学関連の授業で統計検定の受験奨励を開始した(資料経119)。各級合計受験者数は増加しており、近年、大学学部レベルの到達水準目安である2級合格者数は増加基調にある(資料経120)。法学分野では、新たに「臨床法学」を充実させ、現場実習型の学習方法に取り組んだ(資料経91)。

演習科目では、平成24年度から学生の主体的企画による合同研究発表会を開始した(資料経117)。

ハワイ大学研修の事前学習を開始した(資料経83、経84)。留学状況は、同研修の参加者、その他の海外大学への留学者を含めると、年間10人を上回る人数を維持している(資料経85、経89)。海外留学を促進するため、平成27年度から「実用ビジネス英語」科目を新設した(資料経86)。

インターンシップ科目では、新たに成果発表会と成果報告書の作成及び関係者への配付を開始した。(資料経110、後掲資料経133(p86)、経134(p86))。

地域社会の期待に応える取組みとして、市民開放授業及び出前講座を実施している。(資料経105、経106)

以上によって、学生及び地域社会の期待に応じている。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(1) 学業の成果の点検、把握の体制

学務情報システムで学生の履修登録から成績評価、修得単位に至るまで一元管理し、ゼミ教員及び学生委員会等が面談対応し、最終的に教授会で進級、卒業判定を行っている。卒業試験合格率は、学生委員会を通じて教授会へ報告されている。

(2) 進級、卒業、休学、退学、留年の状況 (資料経123～経126)

**資料経123**：2015年度経済学部入学者の進級、卒業要件

Ⅱ-2. 15カリの履修要件 (履修登録単位数上限と最終学年進級・卒業要件)

(1) 15カリの概要

教育課程 (カリキュラム) は「共通教育」と「専門教育」に大別されます。「共通教育」は、学部を越えて信州大学の全学生が履修する「共通教育科目」として全学教育機構から提供されます。「専門教育」ではそれぞれの学部の専門に対応した「専門科目」が各学部 (ここでは経済学部) によって実施されます。このほかに、外国人留学生のために「日本語・日本事情科目」が設置されていますが、これらは共通教育科目に準じて扱われます。

平成27 (西暦2015) 年度経済学部入学者は、科目履修や卒業要件等に関して「15カリ」が適用されます。ただし、3年次編入生は平成29 (西暦2017) 年度入学者が「15カリ」適用となり、それより前の入学者は「11カリ」が適用されます。15カリでは、**共通教育科目37単位、専門科目90単位**が卒業に必要で、以下で順次説明するように、いずれもさらに分野・カテゴリ (選択必修、自由選択) や、科目によっては履修年次・方法等についても条件が設定されています。

15カリの科目区分と所定単位数の概要

共通教育科目 37単位	教養科目 24単位	環境科学群から2単位以上 人文科学群から2単位以上 社会科学群から2単位以上 自然科学群 体育・スポーツ群 教養ゼミナール群	いずれかから2単位以上
	基礎科目 13単位	外国語科目 (英語又は中国語：必修8単位) 健康科学科目 (「健康科学・理論と実践」必修1単位) 新入生ゼミナール科目 (4単位)	
日本語・ 日本事情科目	日本語 日本事情 【留学生向け】 (一定数が共通教育科目に読み替えられます)		
専門科目 90単位	選択必修科目 34単位 自由選択科目 56単位		

(中略)

(3) 15カリの卒業要件

15カリ生が卒業するには、次の3要件をすべて満たしていなければなりません。

- 1) 入学後4年以上の在学期間を経過していること。
- 2) 共通教育科目37単位、専門科目90単位をそれぞれ所定の条件を充たして修得していること。
- 3) 卒業試験に合格すること。

(中略)

(5) 15カリの最終学年 (4年次) 進級要件

入学後3年 (3年次編入生は編入学後1年) を経過することになる当該年度末に、3年以上 (3年次編入生は1年以上) の在学期間を経た学生に対して「最終学年 (4年次) 進級」の判定を行ない、所定の要件を満たした学生を、次年度には「最終学年生」(4年次生) とします。この「最終学年」(4年次) への進級要件は、当該年度末に以下の2点をともに充たすことです。

- i) 入学後3年以上 (3年次編入生は1年以上) の在学期間を経ていること。
- ii) 修得単位数が「共通教育科目+専門科目 ≥ 100単位」を充たすこと。

2年次や3年次への進級要件は設定されていません。しかし、前述のとおり、履修登録可能な単位数には、上限が設定されています。また、専門科目のうち、自由選択科目の多くは、選択必修科目の履修を前提とするレベルで展開されます。そのため、入学後2年間にほとんど単位を修得せず、3年目に一気に挽回することはまずできない仕組みになっています。順当に4年で卒業するには、3年次終了時に「最終学年進級要件」を満たす必要があり、それには1年次と2年次に履修すべきとされる科目を履修しておくことが必要です。

(出典：平成27年度経済学部学生便覧)

**資料経124：進級率**

年度	3年生在学数 ※進級は3年次 から4年次のみ	進級者数	進級率
平成22年度	310	256	82.6%
平成23年度	280	217	77.5%
平成24年度	279	218	78.1%
平成25年度	275	233	84.7%
平成26年度	251	208	82.9%
平成27年度	254	219	86.2%

(出典：経済学部作成)

**資料経125：卒業率**

年度	4年生在学数	卒業者数	卒業率
平成22年度	264	232	87.9%
平成23年度	287	258	89.9%
平成24年度	243	217	89.3%
平成25年度	241	221	91.7%
平成26年度	248	224	90.3%
平成27年度	225	208	92.4%

国公立大学147大学597学部の法・経済・社会系統の卒業率の中央値

(出典：旺文社教育情報センター「大学の真の実力 情報公開BOOK」平成25年8月時点の集計)

83.1%

(出典：経済学部作成)

**資料経126：休学、退学の状況**

年度	退学率	休学率
平成22年度	1.2%	2.0%
平成23年度	1.8%	1.9%
平成24年度	1.8%	2.2%
平成25年度	2.0%	2.8%
平成26年度	1.9%	1.8%
平成27年度	1.3%	1.3%

(出典：経済学部作成(学校基本調査から))

(3) 学業の成果に対する学生の評価

① 学生の評価 (資料経127)

**資料経127：「授業改善のための学生アンケート」による評価結果**

設問「授業全体を振り返って、この授業は、授業によって達成しようとしている目標にふさわしいものであった。」の5段階評価(最高5点)の平均。

計算式：(評価段階の総合計)÷(データ件数)

年度	平均値(前期)	平均値(後期)
平成22年度	4.144	4.123
平成23年度	4.091	4.179
平成24年度	4.193	4.222
平成25年度	3.993	4.564
平成26年度	4.097	4.155
平成27年度	4.093	4.114
第2期平均	4.102	4.226

参考 第1期中期目標期間中の状況

年度	平均値(前期)	平均値(後期)
平成16年度	3.887	3.910
平成17年度	3.828	4.143
平成18年度	4.051	4.070
平成19年度	4.055	4.150
平成20年度	4.088	4.174
平成21年度	4.142	4.222
第1期平均	4.006	4.112

(出典：経済学部作成)

(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由)

進級率は80%前後の高水準で推移しており、特に平成27年度は約86%となっている。卒業率は、国公立大学の法・経済・社会系統の中央値83.1%を上回り、平成27年度には92.4%となっている。退学率、休学率は、2%前後と極めて低い水準で推移している(資料経123～経126)。

学生の主体的学習を促す取組みとして、大学教育をベースに自主的に学習成果を向上させる、資格取得に基づく単位認定を行っており、取得者数は上昇傾向にある(資料経121、経122)。

授業改善アンケートの設問「この授業は達成しようとしている目標にふさわしいものであった」の評価結果は5段階中ほぼ4を上回り、概ね高くなっている(資料経127)。

総合的に勘案した結果、学業成果は学生の期待に応じていると判断する。

観点 進路・就職の状況

(1) 卒業後の進路の状況 (資料経128、経129)

・進学率、就職率、その他の率

**資料経128：卒業後の進路の状況**

卒業年度	区分	卒業者		進学者		就職者		専修学校・外国の 学校等入学者	一時的な仕事に就 いた者	左記以外の者		不詳・死亡 の者
		A	人(B)	率(B/A)	人(C)	率(C/A-B)	人(D)			率(D/A)		
H21	全体	196,061	8,222	4.19%	134,212	71.45%	5,101	6,862	36,385	18.56%	5,279	
	国立	15,946	1,595	10.00%	11,453	79.81%	198	81	2,241	14.05%	378	
	本学	計	203	11	5.42%	166	86.46%	6	0	20	9.85%	0
		男	120	7	5.83%	95	84.07%	6	0	12	10.00%	0
	女	83	4	4.82%	71	89.87%	0	0	8	9.64%	0	
H22	全体	199,784	7,535	3.77%	136,837	71.18%	4,479	7,017	36,651	18.35%	7,265	
	国立	16,120	1,535	9.52%	11,941	81.87%	155	85	2,192	13.60%	212	
	本学	計	232	7	3.02%	199	88.44%	0	0	26	11.21%	0
		男	143	3	2.10%	129	92.14%	0	0	11	7.69%	0
	女	89	4	4.49%	70	82.35%	0	0	15	16.85%	0	
H23	全体	196,735	6,462	3.28%	137,815	72.43%	4,004	6,896	35,914	18.26%	5,644	
	国立	16,212	1,375	8.48%	12,115	81.65%	132	91	2,295	14.16%	204	
	本学	計	258	16	6.20%	197	81.40%	1	0	44	17.05%	0
		男	158	11	6.96%	120	81.63%	0	0	26	16.46%	0
	女	100	5	5.00%	77	81.05%	1	0	18	18.00%	0	
H24	全体	195,024	5,977	3.06%	145,000	76.70%	3,442	5,535	30,217	15.49%	4,853	
	国立	16,169	1,299	8.03%	12,467	83.84%	143	80	1,998	12.36%	182	
	本学	計	217	5	2.30%	176	83.02%	3	0	33	15.21%	0
		男	134	4	2.99%	107	82.31%	1	0	22	16.42%	0
	女	83	1	1.20%	69	84.15%	2	0	11	13.25%	0	
H25	全体	193,974	5,580	2.88%	150,132	79.69%	2,864	4,590	26,847	13.84%	3,961	
	国立	16,178	1,229	7.60%	12,767	85.40%	95	73	1,864	11.52%	150	
	本学	計	221	12	5.43%	173	82.78%	4	2	30	13.57%	0
		男	135	9	6.67%	104	82.54%	1	0	21	15.56%	0
	女	86	3	3.49%	69	83.13%	3	2	9	10.47%	0	
H26	全体	190,341	5,203	2.73%	153,573	82.95%	2,372	3,570	22,213	11.67%	3,410	
	国立	16,245	1,154	7.10%	13,181	87.34%	77	57	1,594	9.81%	182	
	本学	計	224	8	3.57%	192	88.89%	1	1	22	9.82%	0
		男	139	5	3.60%	118	88.06%	1	1	14	10.07%	0
	女	85	3	3.53%	74	90.24%	0	0	8	9.41%	0	
H27	全体											
	国立											
	本学	計	208	4	1.92%	176	86.27%	1	0	27	12.98%	0
		男	137	2	1.46%	114	84.44%	1	0	20	14.60%	0
	女	71	2	2.82%	62	89.86%	0	0	7	9.86%	0	

※「全体」「国立」は、学校基本調査の全国集計のうち、各年度>高等教育機関《報告書掲載集計》>卒業後の状況調査>大学卒業後状況調査（関係学科別）より、区分「農学」を抜粋

なお、平成27年度「全体」、「国立」については、平成28年6月末現在未公開

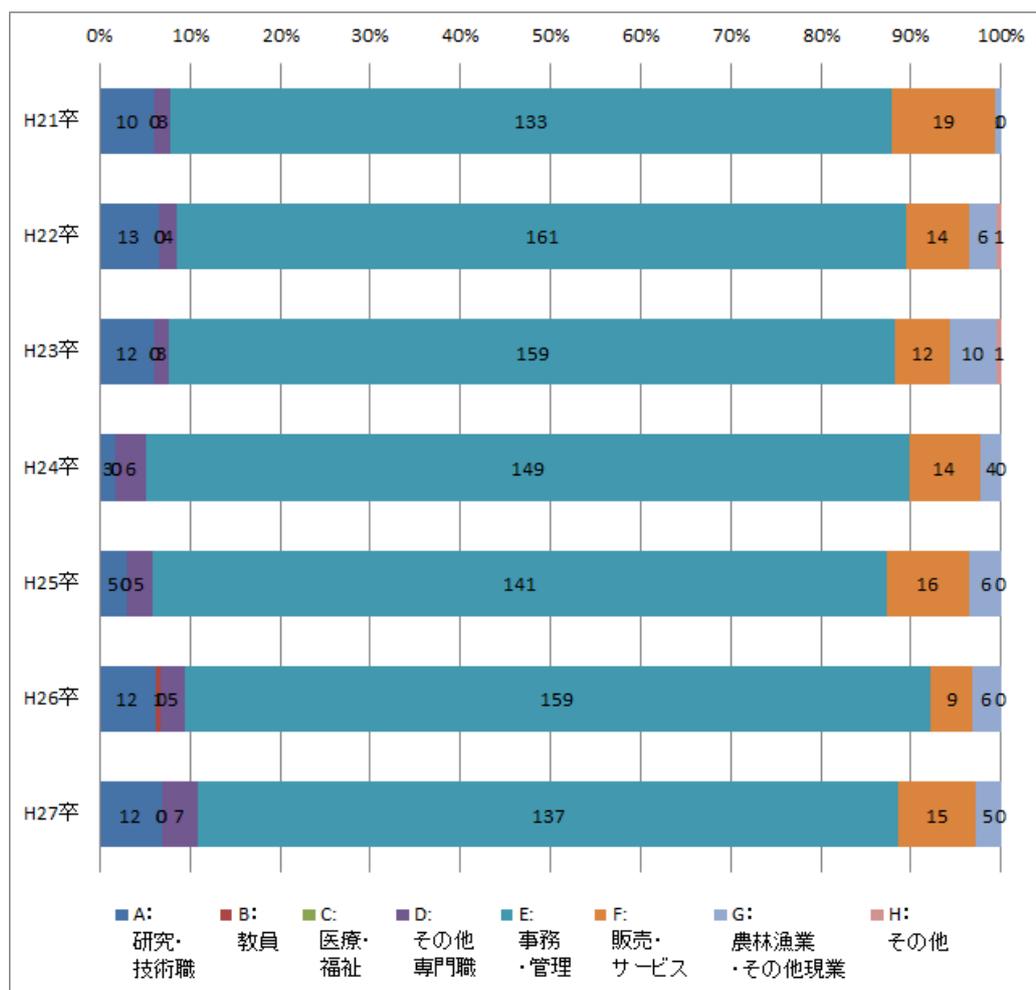
(出典：学校基本調査をもとに経営企画課作成)

・職業別、産業別就職の状況

資料経129：職業別・産業別就業者数

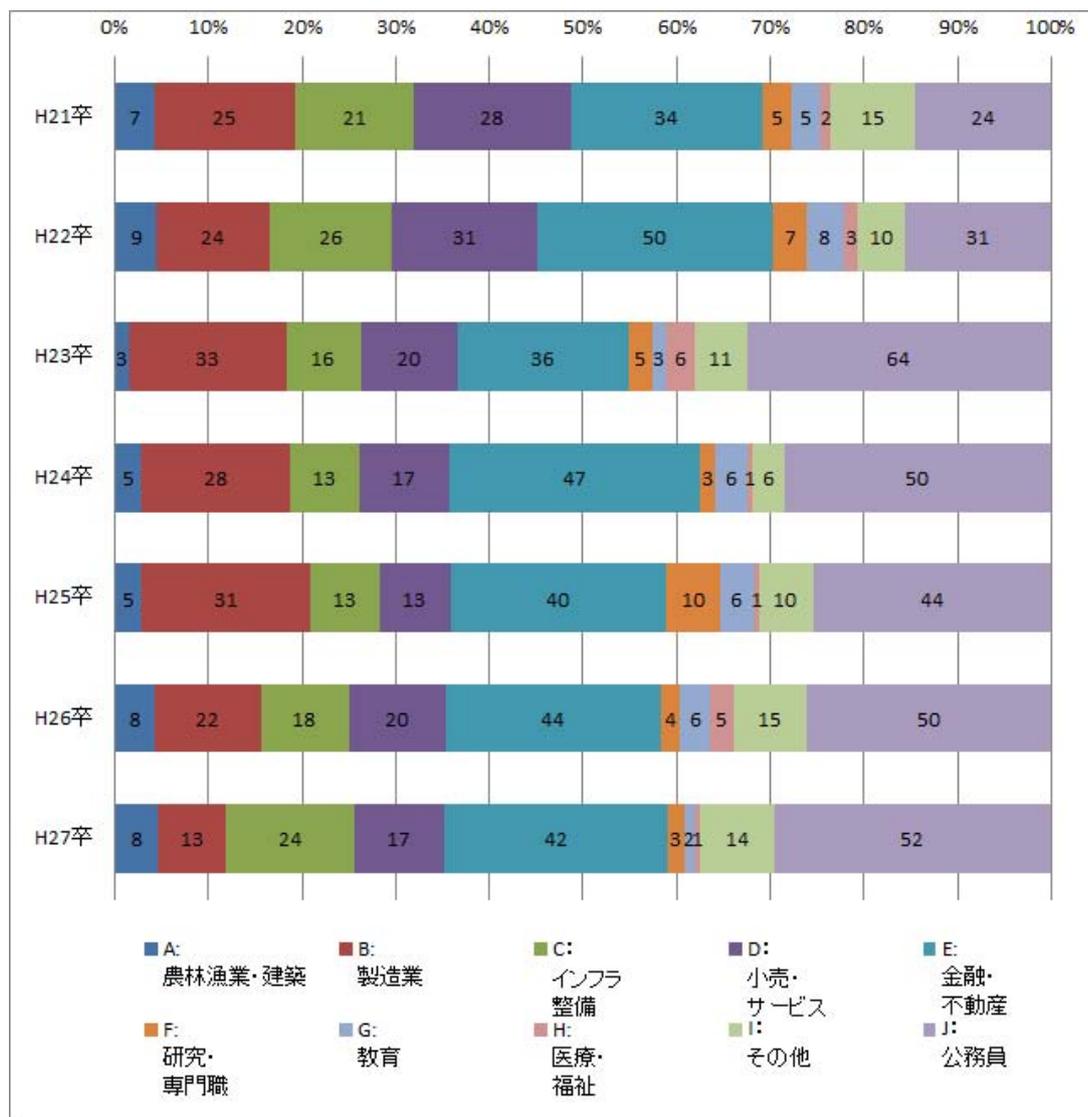
職業別就職者数

	A: 研究・ 技術職	B: 教員	C: 医療・ 福祉	D: その他 専門職	E: 事務 ・管理	F: 販売・ サービ ス	G: 農林漁 業 ・その他 現業	H: その他	合計
H21卒	10	0	0	3	133	19	1	0	166
H22卒	13	0	0	4	161	14	6	1	199
H23卒	12	0	0	3	159	12	10	1	197
H24卒	3	0	0	6	149	14	4	0	176
H25卒	5	0	0	5	141	16	6	0	173
H26卒	12	1	0	5	159	9	6	0	192
H27卒	12	0	0	7	137	15	5	0	176



産業別就職者数

	A: 農林漁業・建築	B: 製造業	C: インフラ整備	D: 小売・サービス	E: 金融・不動産	F: 研究・専門職	G: 教育	H: 医療・福祉	I: その他	J: 公務員	合計
H21卒	7	25	21	28	34	5	5	2	15	24	166
H22卒	9	24	26	31	50	7	8	3	10	31	199
H23卒	3	33	16	20	36	5	3	6	11	64	197
H24卒	5	28	13	17	47	3	6	1	6	50	176
H25卒	5	31	13	13	40	10	6	1	10	44	173
H26卒	8	22	18	20	44	4	6	5	15	50	192
H27卒	8	13	24	17	42	3	2	1	14	52	176



(出典：学校基本調査をもとに経営企画課作成)

(2) 就職支援の状況 (資料経130、経131)

**資料経130：就職支援の年間業務**

平成27年度 就職支援報告

学部名 経済学部

開催日	事項	参加者数	備考
H27.4.7	3年生ガイダンス 就職支援の仕組み及びスケジュールの説明等	200名	
H27.4.13	会社説明会 (長野日本無線㈱)	0名	
H27.4.17	会社説明会 (㈱ジェイテクト)	2名	
H27.5.13	就職ガイダンス 就職活動全般に対する注意点等の説明、就職活動のスケジュール 講師：マイナビ	176名	
H27.5.14	会社説明会 (京セラ丸善インテグレーション)	0名	
H27.5.22	会社説明会 (日本銀行)	2名	
H27.6.1	会社説明会 (日本銀行)	3名	
H27.6.3	公務員ガイダンス 公務員試験概要、変更点説明 (人事院) 県庁OBの体験談、アドバイス 市役所OBの体験談、アドバイス	70名	
H27.6.23	会社説明会 (日本銀行)	1名	
H27.7.8	就職マナー講習会 面接 (プレゼンテーション) 実践講座 講師：(株)イーディーワン	102名	
H27.7.15	会社説明会 (大和証券)	0名	
H27.7.17	会社説明会 (長野県警察)	6名	
H27.8.4	就職ガイダンス 「適職診断MATCH (パーソナリティ診断) を使用したそれぞれの特徴の解説、活用法」 講師：マイナビ	62名	

(出典：経済学部作成 平成27年度就職支援報告)

**資料経131：学部独自の就職支援策**

「第3回就職ガイダンス」  
「外部講師による就職のための面接指導 (就職マナー講習会)」概要

I 日 時

1 グループ1 平成27年7月8日 (水) 13:00~15:30

2 グループ2 平成27年7月8日 (水) 16:20~18:50

II 場 所

1 全体説明 第2講義室

2 チーム別演習 第2講義室、402演習室

III 対 象 者

主に就職希望の3年生

1 グループ1 主に経済学科生

2 グループ2 主に経済システム法学科生

IV 参加者数 102名 (グループ1:54名、グループ2:48名)

V 説明者等

1 司 会 就職委員 山代 忠邦

2 講 師 (株)イーディーワン 佐藤 珠紀 始め4名

VI 内 容

「面接 (プレゼンテーション) 実践講座」  
社会人として立つ「職業観」を涵養する

1 未来の自分を拓く評価のステップ

2 人間力を磨く

3 面接とは!! (全員ロールプレーイング)

4 ビジネス社会で採用したい人材

5 パーバルとノンパーバルの自分棚卸 (ビデオ併用)

(出典：経済学部作成 平成27年度学部就職委員会報告)

・ インターンシップの状況

既述のとおりである（前掲資料経107～経110（p.67～p.69）、経132～経134）。

**資料経132：インターンシップ各期スケジュール**

**各期スケジュール**

夏季（※ 当該年度 後期に単位認定）

対象科目： ボランティア、インターンシップA・B	
事前申請 (インターンBのみ)	5月12日(火)17:00 締切(別紙1) 学部推薦者の公表 5月下旬～6月上旬
事前研修	7月17日(金)13:00～14:30 第4講義室「ビジネスマナー基礎講座」 ※出席できない場合は6月～7月開催のキャリアサポートセンター主催の同講座を受講すること
受講登録	7月17日(金)17:00 締切(別紙2) (締切日以前に実施する場合は、実施の1週間前までに提出)
実施	夏季休業中に実施 (就学に支障がなければ学期中に実施可)
礼状送付	受入先への礼状送付(必ずコピーを手元に残しておくこと)
報告書	10月16日(金)17:00 締切(別紙3)(インターンシップB、東北ボランティアは修了証明書不要) 礼状コピー、修了証明書を添付
成果報告	11月下旬～12月上旬 成果報告会(詳細は別途通知) 発表者に推薦された学生は、報告会資料を作成 (やむをえない理由で欠席する場合は事前に学務係へ申出必要(所定様式有)) 11月下旬～1月 成果報告書作成(掲載者に選ばれた学生のみ)
成績評価	平成27年度後期の単位として認定

冬季（※ 次年度 前期に単位認定）

対象科目： ボランティア、インターンシップA	
受講登録	平成28年1月25日(月)17:00 締切(別紙2) (締切日以前に実施する場合は、実施の1週間前までに提出)
実施	冬季休業または春季休業中に実施 (就学に支障がなければ学期中に実施可)
礼状送付	受入先への礼状送付(必ずコピーを手元に残しておくこと)
報告書	平成28年4月25日(月)17:00 締切(別紙3) 礼状コピー、修了証明書を添付
成績評価	平成28年度前期の単位として認定 (注意:翌年度の単位認定となるため、卒業する4年生は単位認定されません)

(出典：平成27年度経済学部ボランティア・インターンシップ科目説明会資料)

**資料経133：インターンシップの成果発表会の位置づけ（平成27年12月9日開催）**

(4)成績評価の方法

- ・インターンシップ終了後の「インターンシップ実施報告書」(レポート)をもとに審査し、単位を認定します。
- ・規定量に満たない「インターンシップ実施報告書」(レポート)が提出された場合には、単位を認定しませんので、注意してください。

(5)成績評価の基準

規定に従って実施できれば「水準にある」、成果報告会で経験を深められれば「やや上にある」、優れた実施報告が書ければ「かなり上にある」、成果報告会で優れた提言を発表できれば「卓越している」。

(出典：シラバス 2015年度前期インターンシップ)

**資料経134：インターンシップ成果報告書（作成部数：400部）**

目次

【2015年度夏季インターンシップ・ボランティア成果発表会】

議事次第	・・・3
2015年度夏季インターンシップ・ボランティア成果発表会における経済学部長講評 経済学部長 徳井 丞次	・・・5

成果報告会発表資料 (経済学部長賞)	○○ ○○ (2年) 一般社団法人コノマチ	・・・7
(交流系科目部会長賞)	○○ ○○ (3年) 山梨労働局	・・・11
(優秀賞)	○○ ○○ (3年) 信州大学おひさま保育園	・・・15
(優秀賞)	○○ ○○ (3年) NPO 法人りあすの森、NPO 法人 TEDIC(東北震災復興)	・・・19
(優秀賞)	○○ ○○ (3年) 株式会社ながの東急百貨店	・・・22
(優秀賞)	○○ ○○ (2年) 長野県庁観光部	・・・25
2015年度夏季インターンシップ・ボランティア成果発表会出席者の主な感想		・・・28
<b>【ボランティア実習報告書・インターンシップ研修報告書】</b>		
(ボランティア実習報告書)		
○○ ○○ (3年) 信州大学おひさま保育園		・・・33
○○ ○○ (3年) 信州松本食と酒の博覧会実行委員会		・・・39
○○ ○○ (3年) 和子の家		・・・45
○○ ○○ (3年) NPO 法人りあすの森、NPO 法人 TEDIC(東北震災復興)		・・・50
(インターンシップ研修報告書)		
○○ ○○ (3年) 山梨労働局		・・・59
○○ ○○ (3年) 長野県庁企画振興部交通政策課		・・・67
○○ ○○ (2年) 長野県庁観光部		・・・72
○○ ○○ (2年) 一般社団法人コノマチ		・・・78
○○ ○○ (3年) 山辺ワイナリー		・・・86
○○ ○○ (3年) ながのアド・ビューロ		・・・91
○○ ○○ (3年) 一般社団法人コノマチ		・・・96
○○ ○○ (3年) 株式会社ながの東急百貨店		・・・102
○○ ○○ (3年) 長野県庁健康福祉部		・・・107
○○ ○○ (3年) おひさま進歩エネルギー株式会社		・・・112
<b>【資料】</b>		
2015年度夏季インターンシップ・ボランティア 研修・実習先一覧		・・・121
(出典：経済学部作成 2015年度夏季インターンシップ・ボランティア成果報告書)		

(3) 大学院進学状況 (資料経135)

**資料経135：大学院進学状況**

年度	進学者	うち学内進学者	卒業者数	大学院進学率
平成 22 年度	7	1	232	3.02%
平成 23 年度	13	5	258	6.59%
平成 24 年度	5	2	217	3.69%
平成 25 年度	12	4	221	7.24%
平成 26 年度	8	0	224	4.02%
平成 27 年度	4	0	208	1.90%

(出典：経済学部作成)

(4) 卒業生、就職先企業等からの意見聴取

就職先アンケート結果に基づく本学部と他大学の卒業生比較によると、雇用者からみた本学部卒業生の能力への評価は、無回答を除くと90%以上が他大学と同程度かそれ以上となっており、その中で、新たな知識の獲得能力、分析的に考察する能力、IT活用能力、資料作成能力の項目では、他大学出身者を上回るとする評価が40～70%を占める(資料経136)。

**資料経136：就職先企業等からの意見**

信州大学経済学部卒業生の就職先企業に対するアンケート 結果

平成26年9月 実施

- 回答者数 110 社
- アンケート本文

I 御社・御組織が採用する新規大学卒業者についてお訊ねします。  
(中略)

(2) 御社・御組織で働くうえで必要と思われる以下の20項目の能力について、信州大学経済学部の卒業生と他大学の卒業生を比較して感じられる社員・職員としての評価を、それぞれの項目の該当する回答番号ひとつに○をつけてください。

1 大学の学部教育で学んだ専門領域に関する知識

	優れている	やや優れている	同じ程度	やや劣っている	劣っている	無回答	合計
回答数	3	23	65	0	0	19	110
割合	2.7%	20.9%	59.1%	0%	0%	17.3%	

2 上記以外の分野における専門領域に関する知識

	優れている	やや優れている	同じ程度	やや劣っている	劣っている	無回答	合計
回答数	1	20	69	1	0	19	110
割合	0.9%	18.2%	62.7%	0.9%	0%	17.3%	

3 分析的に考察する能力

	優れている	やや優れている	同じ程度	やや劣っている	劣っている	無回答	合計
回答数	3	30	58	0	0	19	110
割合	2.7%	27.3%	52.7%	0%	0%	17.3%	

4 新たな知識を素早く身につけることができる能力

	優れている	やや優れている	同じ程度	やや劣っている	劣っている	無回答	合計
回答数	2	27	60	2	0	19	110
割合	1.8%	24.5%	54.5%	1.8%	0%	17.3%	

5 交渉力

	優れている	やや優れている	同じ程度	やや劣っている	劣っている	無回答	合計
回答数	1	19	66	5	0	19	110
割合	0.9%	17.3%	60%	4.5%	0%	17.3%	

6 プレッシャーの中で力を発揮できる能力

	優れている	やや優れている	同じ程度	やや劣っている	劣っている	無回答	合計
回答数	2	20	59	9	0	20	110
割合	1.8%	18.2%	53.6%	8.2%	0%	18.2%	

7 新たなチャンスに機敏に対応する能力

	優れている	やや優れている	同じ程度	やや劣っている	劣っている	無回答	合計
回答数	1	21	62	7	0	19	110
割合	0.9%	19.1%	56.4%	6.4%	0%	17.3%	

8 掛け持ちする複数の活動(業務)を調整する能力

	優れている	やや優れている	同じ程度	やや劣っている	劣っている	無回答	合計
回答数	1	24	63	3	0	19	110
割合	0.9%	21.8%	57.3%	2.7%	0%	17.3%	

9 時間を有効に活用する能力

	優れている	やや優れている	同じ程度	やや劣っている	劣っている	無回答	合計
回答数	3	23	64	1	0	19	110
割合	2.7%	20.9%	58.2%	0.9%	0%	17.3%	

10 他の人と効率よく仕事を進める能力

	優れている	やや優れている	同じ程度	やや劣っている	劣っている	無回答	合計
回答数	5	26	57	3	0	19	110
割合	4.5%	23.6%	51.8%	2.7%	0%	17.3%	

11 他の人の知識や能力を結集して仕事を進める能力

	優れている	やや優れている	同じ程度	やや劣っている	劣っている	無回答	合計
回答数	3	17	66	5	0	19	110
割合	2.7%	15.5%	60%	4.5%	0%	17.3%	

12 他の人に自らの判断を正確に伝える能力

	優れている	やや優れている	同じ程度	やや劣っている	劣っている	無回答	合計
回答数	4	20	63	4	0	19	110
割合	3.6%	18.2%	57.3%	3.6%	0%	17.3%	

13 リーダーシップ

	優れている	やや優れている	同じ程度	やや劣っている	劣っている	無回答	合計
回答数	2	15	65	9	0	19	110
割合	1.8%	13.6%	59.1%	8.2%	0%	17.3%	

14 コンピュータやインターネットなどITを活用する能力

	優れている	やや優れている	同じ程度	やや劣っている	劣っている	無回答	合計
回答数	4	29	58	0	0	19	110
割合	3.6%	26.4%	52.7%	0%	0%	17.3%	

15 新たなアイデアや解決策を見つけ出す能力

	優れている	やや優れている	同じ程度	やや劣っている	劣っている	無回答	合計
回答数	0	19	70	2	0	19	110
割合	0%	17.3%	63.6%	1.8%	0%	17.3%	

16 課題を発見する能力

	優れている	やや優れている	同じ程度	やや劣っている	劣っている	無回答	合計
回答数	2	21	68	0	0	19	110
割合	1.8%	19.1%	61.8%	0%	0%	17.3%	

17 自分自身や人の考えを常に問い直す姿勢

	優れている	やや優れている	同じ程度	やや劣っている	劣っている	無回答	合計
回答数	2	14	72	3	0	19	110
割合	1.8%	12.7%	65.5%	2.7%	0%	17.3%	

18 プレゼンテーション能力

	優れている	やや優れている	同じ程度	やや劣っている	劣っている	無回答	合計
回答数	1	23	63	4	0	19	110
割合	0.9%	20.9%	57.3%	3.6%	0%	17.3%	

19 記録、資料、報告書等を作成する能力

	優れている	やや優れている	同じ程度	やや劣っている	劣っている	無回答	合計
回答数	5	25	61	0	0	19	110
割合	4.5%	22.7%	55.5%	0%	0%	17.3%	

20 外国語で書いたり話したりする力

	優れている	やや優れている	同じ程度	やや劣っている	劣っている	無回答	合計
回答数	1	13	71	6	0	19	110
割合	0.9%	11.8%	64.5%	5.5%	0%	17.3%	

(出典:経済学部作成 信州大学経済学部卒業生の就職先企業に対するアンケート集計結果抜粋)

(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由)

- ・就職率は8割から9割の水準で推移している(資料経128)。就職先の産業別内訳は、公務員と金融関係で全体の半分程度を占める。特に公務員就職率は近年全体の25%ほどまで上昇している。いずれも本学部の学業成果に対する評価向上の表れと判断できる(資料経129)。
- ・就職先アンケート結果から、就職先における高評価が読みとれる(資料経136)。

### Ⅲ 「質の向上度」の分析

#### (1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

学生の自主的学習を促すe-Learning活用授業数が増えている（資料経114）。

平成23年度に設立された統計検定を活用し、学生に統計分野の具体的学習目標の設定を促している（資料経119、経120）。

講義科目と実習体験を組合せた「臨床法学」科目について、平成22年度から履修登録に際してエントリー審査を行い、授業を充実させた（資料経91）。

新入生ゼミナールでは、平成24年度からコーディネーター教員が綿密な打ち合わせの下に学外機関からの講師招聘を開始し、社会との係りを意識させることで、初年次教育を充実させた。効果は高年次の専門演習に及び、学生の自主的・主体的企画による専門演習の合同研究発表会が行われた（資料経117）。

平成25年度のハワイ大学研修の事前学習科目の新設及び平成27年度の「ビジネス英語」科目の新設によって、学生の海外留学を促進している（資料経84、経86）。

インターンシップ科目の成果発表会を平成22年度より開始した（資料経110）。

#### (2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

授業改善アンケートでは、第2期中期目標期間中の総合評価の平均は、第1期よりも向上している（資料経64、経127）。

## 6. 経済・社会政策科学研究科

I	経済・社会政策科学研究科の教育目的と特徴	6-2
II	「教育の水準」の分析・判定	6-12
	分析項目 I 教育活動の状況	6-12
	分析項目 II 教育成果の状況	6-48
III	「質の向上度」の分析	6-70

I 経済・社会政策科学研究科の教育目的と特徴

1 教育目的

(1) 研究科の教育の目的・目標

本研究科の教育の目的（理念）・目標は、以下のとおりである（資料経院1）。

<p><b>資料経院 1</b>：経済・社会政策科学研究科経済・社会政策科学専攻の理念と教育目標</p> <p><b>理念</b></p> <p>信州大学大学院経済・社会政策科学研究科経済・社会政策科学専攻は地域社会・経済の抱える課題について、課題解決に貢献しうる人材の養成を旨としています。</p> <p><b>教育目標</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域社会・経済の抱える課題について、課題解決に必要な情報を収集する能力および収集した情報を適切に分析する能力を教授する。</li> <li>2. 地域社会・経済の抱える課題について、幅広い視点から考察する力を教授する。</li> <li>3. 1の情報収集能力および情報分析能力ならびに2の幅広い視点を活かして、地域社会・経済の抱える課題について、自分の専門的研究から適切にアプローチし、課題解決に資する政策提言または政策提言のための基礎的な知見を提示できる力を教授する。</li> <li>4. 3の政策提言または政策提言のための基礎的な知見を、説得力のある論文として表現できる力を教授する。</li> </ol> <p>（出典：経済・社会政策科学専攻ホームページ「教育の方針」）</p>
---

(2) 三つの方針（DP、CP、AP）

- ・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー。以下「DP」と表示。）
- ・教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー。以下「CP」と表示。）
- ・学位授与の方針（アドミッション・ポリシー。以下「AP」と表示。）

本学の大学院学位授与方針(DP)を踏まえて、本研究科は専攻ごとに DP を定めている。AP も同様である。全学の CP に沿ったカリキュラム展開については後述する（資料経院 2、3、4、5）。

<p><b>資料経院 2</b>：信州大学大学院学位授与の方針</p> <p><b>信州大学大学院学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)</b></p> <p>信州大学大学院では、備敵力と独創力を備え、持続可能な価値社会を創造する質の高い高度専門職業人や、先端的研究を推進する人材を養成するために、以下のように各課程の学位授与方針を定める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 修士課程にあっては、広い視野に立って精深な学識を持ち、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を修得している。</li> <li>・ 博士課程にあっては、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するのに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を修得している。</li> <li>・ 専門職学位課程にあっては、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を修得している。</li> </ul> <p>（出典：信州大学ホームページ「信州大学大学院学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」）</p>
---

資料経院3：経済・社会政策科学研究科学学位授与の方針

**信州大学大学院経済・社会政策科学研究科経済・社会政策科学専攻  
学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)**

信州大学大学院経済・社会政策科学研究科経済・社会政策科学専攻の課程を修了し、次に該当する者に修士(経済学)の学位を授与する。

1. 地域社会・経済の抱える課題について、課題解決に必要な情報を収集する能力および収集した情報を適切に分析する能力を有する。
2. 1の情報収集能力および情報分析能力を活かして、地域社会・経済の抱える課題について、自分の専門的研究から適切にアプローチし、課題解決に資する政策提言または政策提言のための基礎的な知見を提示できる。

**信州大学大学院経済・社会政策科学研究科イノベーション・マネジメント専攻  
(経営大学院)学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)**

信州大学大学院 経済・社会政策科学研究科 イノベーション・マネジメント専攻の課程を修了し、次に該当する者に修士(マネジメント)の学位を授与する。

1. 企業経営の理論的、専門的知識を習得し、所属組織の問題を発見し、解決策を立案・実行できる者
2. 企業経営の諸問題に対し、解決策を立案し、高いプレゼンテーション能力で、組織をリードできる者
3. 市場環境の変化に対する情報収集能力、分析能力を有し、そこからイノベーションの機会を提起できる者
4. 所属組織に対し、客観的・相対的に問題を分析・抽出し、新たな経営の方向性を提示できる者
5. 環境問題を解決し持続可能な社会を築く観点から企業経営の諸問題に対し、解決策を立案し、イノベーションの機会を提起し、組織をリードできる者

(出典：信州大学ホームページ「信州大学大学院経済・社会政策科学研究科学学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」)

## 資料経院 4：信州大学大学院教育課程編成・実施の方針

## 信州大学大学院教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

## 大学院課程における教育課程編成の方針

1. 信州大学大学院は、研究科及び専攻の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設するとともに、研究指導の計画を策定し、体系的に教育課程を編成します。
2. 信州大学大学院は、教育課程の編成に当たっては、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう適切に配慮します。

## 大学院課程における教育課程実施の方針

1. 信州大学大学院は、専門性の一層の向上を図り幅広い学識を涵養するため、コースワークを充実させ、コースワークから研究指導へ有機的につながる体系的な教育を行います。また、各研究科の「学位授与の方針」に定めた、修了時までには修得すべき知識・能力等がカリキュラム体系のなかでどのように養成されるのかを示すため、シラバスで「学位授与の方針」で定められた知識・能力等との対応を示し、それら諸能力等を修得するプロセスを履修プロセス概念図で示します。
2. 信州大学大学院は、学生個々人の主体的で活発な勉学意欲を促進する立場から、授業時間外の多様な学修研究機会を通じ、諸課題に積極的に挑戦させます。
3. 信州大学大学院は、成績評価の公正さと透明性を確保するため、成績の評定は、各科目に掲げられた授業の狙い・目標に向けた到達度をめやすとして採点します。
4. 信州大学大学院は、修士課程及び博士課程の学位論文審査体制を充実させ、厳格な審査を行います。

（出典：経済・社会政策科学専攻履修案内）

資料経院5：入学者受入の方針

信州大学大学院入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)

求める学生像

信州の悠久の歴史と文化、豊かな自然環境のもと、地域に根ざし世界に開かれた信州大学大学院は、総合大学の特色を生かし、国の活力を高める次世代を担う卓越した人材や世界的な視点で新たな価値を創造する質の高いグローバルな高度専門職業人の養成を目指しています。そのため、以下のような能力や意欲を備えた人々を積極的に受け入れます。

- 幅広い教養と専攻する分野の専門知識を持ち、さらに高度な専門的知識・専門応用能力を修得したい人
- 知的好奇心が旺盛で、専門的課題や地域社会の抱える課題に主体的に取り組む人
- 深い知性、論理的な思考力、豊かな人間性を備え、様々な分野でリーダーシップを発揮し、活躍したい人
- 社会・環境・国際問題に関心を持ち、創造力を活かし、グローバルに活躍したい人
- 職業経験から獲得した知識・技能を高度化、深化させたい人

(出典：信州大学ホームページ「信州大学大学院入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)」)

信州大学大学院経済・社会政策科学研究科経済・社会政策科学専攻  
入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)について

求める学生像

1. 地域社会・経済の抱える課題について、鮮明な問題意識を持ち、課題の発見ができる人。
2. 自分の関心のある課題だけでなく、他の学生の関心ある課題についても、積極的に関心を持ち、課題解決に向けた議論に積極的に参加する人。
3. 現代日本の経済および社会、ならびに世界の経済および社会の動きにも積極的な関心を持ち、幅広い知識と視野を身に着けようと努力する人。

(出典：経済・社会政策科学専攻募集要項)

経営大学院アドミッション・ポリシー

経営大学院は、先端技術と市場の動向に関する深い理解を併せて持ち、組織改革を達成できる人材の養成を狙いとしています。経営大学院の研究教育は、机上の空論ではなく、常に実務の最前線を意識したものとされています。

社会人大学院生に求める姿

- 1)既に企業などの経営に携わっているか又は経営層を目指していて、経営の基本問題を深く習得したいとする人。
- 2)技術畑で勤務してきたが、市場の動向や製品開発の手法、組織運営の方法などを知る手掛かりを探している人。
- 3)経営実務には詳しく市場の動向にも明るい人が、技術の最新動向を見極めたり、技術をビジネスに繋げる視野を養いたいとする人。
- 4)既に工学修士や理学博士などの学位を持っているが、海外との事業提携などのために、マネジメント修士を求めようとする人。
- 5)現在勤務しているところでは、技術、組織、市場、経営戦略などが十分に学べないので、実践的な知識と手法を身につけたいとする人。
- 6)官庁や団体に勤務しているが、変化の激しい社会ニーズに応えるため、新しい情報や発想を吸収しようとする人。あるいは新しい民間発想、起業家発想を取り入れる必要があると考えている人。
- 7)これまでの勤務環境に限界を感じていて、自己研鑽を図って突破口を見つけようとしている人。
- 8)自己流の起業を実践してきたが、一層の飛躍のために、本格的な経営議論に触れて刺激を得たいと思っている人。
- 9)その他、自分を磨いていくことに労を厭わず、自己投資を惜しまない人。問題意識を持った人たちとのネットワークを求めている人。

(出典：イノベーション・マネジメント専攻(経営大学院)募集要項)

2 組織の特徴や特色

研究科の特徴

経済・社会政策科学研究科の組織は、経済・社会政策科学専攻とイノベーション・マネジメント専攻（経営大学院）の2つの専攻によって構成されている。沿革と組織図については、以下のとおりである（資料経院6、7）。

・研究科の沿革

資料経院6：組織の沿革

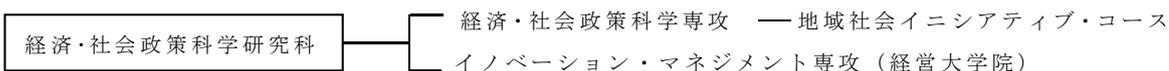
**沿革**

大正8年（1919年）旧制松本高等学校設置  
 昭和24年（1949年）信州大学文理学部設置  
 昭和41年（1966年）文理学部を改組し、人文学部を設置  
 昭和53年（1978年）人文学部を改組し、経済学部を設置  
 平成元年（1989年）大学院経済・社会政策科学研究科設置  
 平成15年（2003年）大学院経済・社会政策科学研究科  
 「イノベーション・マネジメント専攻」設置  
 大学院経済・社会政策科学研究科  
 経済・社会政策科学専攻を  
 「地域社会イニシアティブ・コース」に再編成

（出典：経済学部作成）

・研究科と附属・関連組織の組織図

資料経院7：経済・社会政策科学研究科教育組織図



（出典：経済学部作成）

○他大学、研究機関等との連携協定

経済・社会政策科学研究科の教育に関する連携協定一覧

資料経院8：経済・社会政策科学研究科連携協定一覧

（国内大学との協定）

連携大学	締結主体
信州大学，横浜国立大学，広島大学，茨城大学	信州大学（経済・社会政策科学研究科）
小樽商科大学，福島大学，埼玉大学，横浜国立大学，信州大学，滋賀大学，和歌山大学，山口大学，香川大学，長崎大学，大分大学	信州大学（経済・社会政策科学研究科）

（海外大学との協定）

国	連携大学	締結主体
イギリス	グロスターシャー大学ビジネス・スクール	経済・社会政策科学研究科

（出典：経済学部作成）

3 入学者の状況

入試の種類、入学定員、入試科目は以下のとおりである（資料経院9、10）。

資料経院9：専攻別及び入試別の入学定員

専攻	一般入試	推薦入試	ジョイント・ ディグリー入試	計
経済・社会政策科学専攻	6			6
イノベーション・ マネジメント専攻	10	若干	若干	10
小計	16	若干	若干	16

（出典：経済学部作成）

資料経院10：専攻別及び入試別の科目

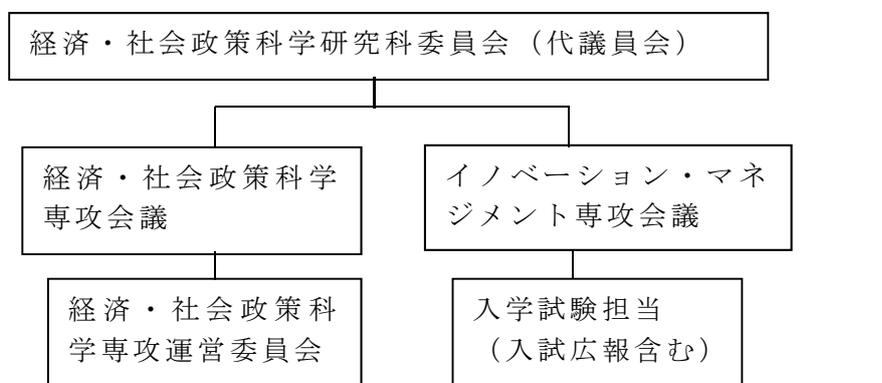
専攻	一般入試	推薦入試	ジョイント・ ディグリー入試
経済・社会政策科学専攻	小論文・面接	小論文・面接	面接
イノベーション・ マネジメント専攻	小論文・面接	小論文・面接	面接

（出典：経済学部作成）

・入試広報、入試分析検討の組織

入試広報等の組織図は以下のとおりである（資料経院11）。

資料経院11：入試広報等の組織図



（出典：経済学部作成）

- ・ 志願者数、受験者数、合格者数、入学者数、年代別入学者数  
専攻別の志願者数等は以下のとおりである（資料経院12）。

資料経院12：専攻別入試統計

専攻別入試統計

年度	専攻	計	区分		
			社会人	学生	留学生
平成27年度	経済学	志願者	8	7	1
		受験者	8	7	1
		合格者	6	6	
		入学者	6	6	
	法学	志願者	13	13	
		受験者	13	13	
		合格者	12	12	
		入学者	12	12	
	計	志願者	21	20	1
		受験者	21	20	1
		合格者	18	18	
		入学者	18	18	
平成26年度	経済学	志願者	7	7	
		受験者	7	7	
		合格者	8	6	
		入学者	5	5	
	法学	志願者	14	10	1
		受験者	14	10	1
		合格者	11	9	
		入学者	11	9	
	計	志願者	21	17	1
		受験者	21	17	1
		合格者	17	15	
		入学者	16	14	
平成25年度	経済学	志願者	9	7	2
		受験者	9	7	2
		合格者	6	5	1
		入学者	5	5	
	法学	志願者	11	9	2
		受験者	11	9	2
		合格者	11	9	2
		入学者	10	8	2
	計	志願者	20	16	2
		受験者	20	16	2
		合格者	17	14	1
		入学者	15	13	2
平成24年度	経済学	志願者	8	8	
		受験者	8	8	
		合格者	8	6	
		入学者	6	6	
	法学	志願者	15	13	2
		受験者	15	13	2
		合格者	14	12	2
		入学者	13	11	2
	計	志願者	23	21	2
		受験者	23	21	2
		合格者	20	18	2
		入学者	19	17	2
平成23年度	経済学	志願者	8	7	1
		受験者	8	7	1
		合格者	6	5	1
		入学者	6	5	1
	法学	志願者	14	10	1
		受験者	14	10	1
		合格者	12	9	1
		入学者	11	8	1
	計	志願者	22	17	2
		受験者	22	17	2
		合格者	18	14	2
		入学者	17	13	2
平成22年度	経済学	志願者	15	10	2
		受験者	13	9	1
		合格者	9	5	
		入学者	5	5	
	法学	志願者	15	13	2
		受験者	15	13	2
		合格者	15	13	2
		入学者	15	13	2
	計	志願者	30	23	4
		受験者	28	22	3
		合格者	20	18	2
		入学者	20	18	2

【略称】  
 経済学専攻  
 法学専攻

募集人員  
 経済学専攻 6名  
 法学専攻 10名

H27 年代別入学者	経済学	法学
20代		
30代	2	4
40代	1	7
50代	3	1
60代		
70代		
合計	6	12

倍率/経済学 1.3 倍  
 倍率/法学 1.3 倍

H26 年代別入学者	経済学	法学
20代		4
30代	2	2
40代	3	4
50代		1
60代		
70代		
合計	5	11

倍率/経済学 1.2 倍  
 倍率/法学 1.4 倍

H25 年代別入学者	経済学	法学
20代		3
30代	2	4
40代	2	1
50代	1	
60代		
70代		
合計	5	8

倍率/経済学 1.5 倍  
 倍率/法学 1.1 倍

H24 年代別入学者	経済学	法学
20代	1	3
30代	2	6
40代	1	3
50代	1	1
60代	1	
70代		
合計	6	13

倍率/経済学 1.3 倍  
 倍率/法学 1.5 倍

H23 年代別入学者	経済学	法学
20代	2	5
30代	2	5
40代	2	1
50代		
60代		
70代		
合計	6	11

倍率/経済学 1.3 倍  
 倍率/法学 1.4 倍

H22 年代別入学者	経済学	法学
20代		3
30代	2	6
40代	3	2
50代		4
60代		
70代		
合計	5	15

倍率/経済学 2.5 倍  
 倍率/法学 1.5 倍

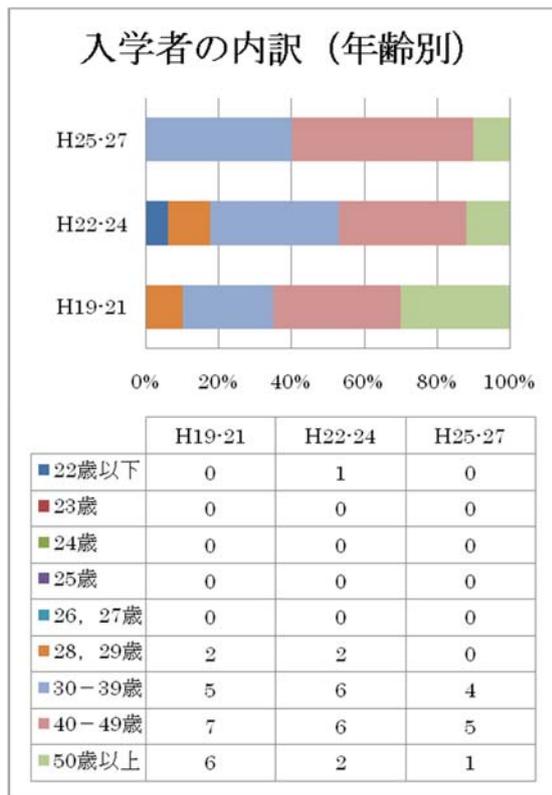
(出典：経済学部作成)

・ 入学者の年齢別割合

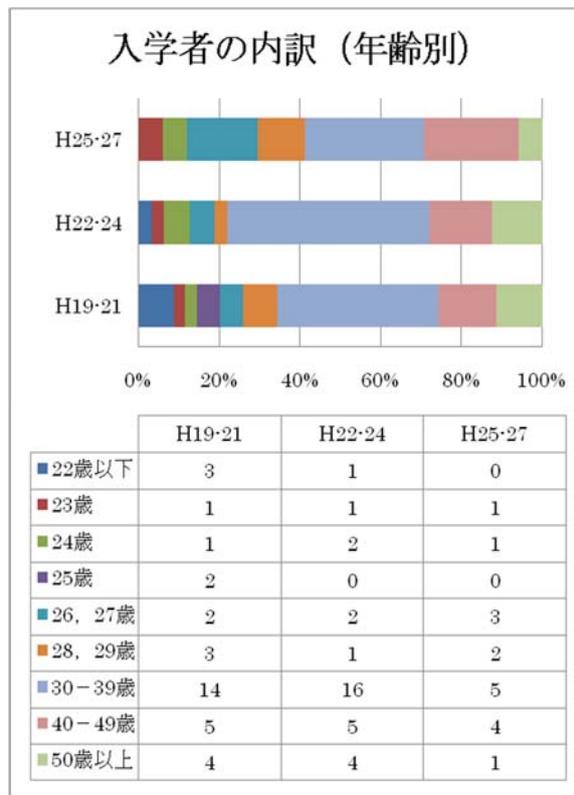
入学者の年齢別割合は以下のとおりである（資料経院13）。

資料経院13：入学者の年齢別割合

経済・社会政策科学専攻



イノベーション・マネジメント専攻



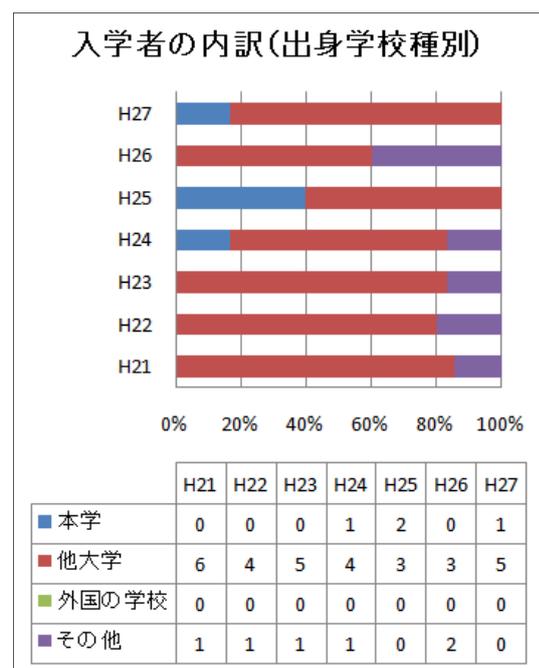
（出典：アドミッションセンター作成）

・ 入学者の出身学校

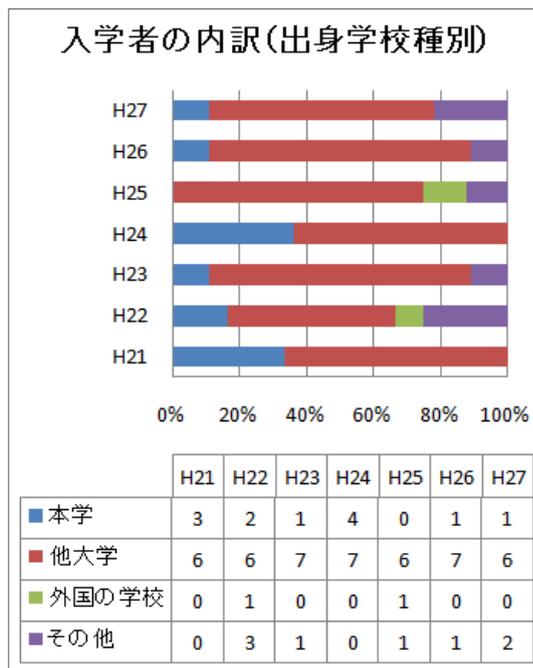
入学者の出身学校種別は以下のとおりである（資料経院14）。

資料経院14：入学者の出身学校種別

経済・社会政策科学専攻



イノベーション・マネジメント専攻

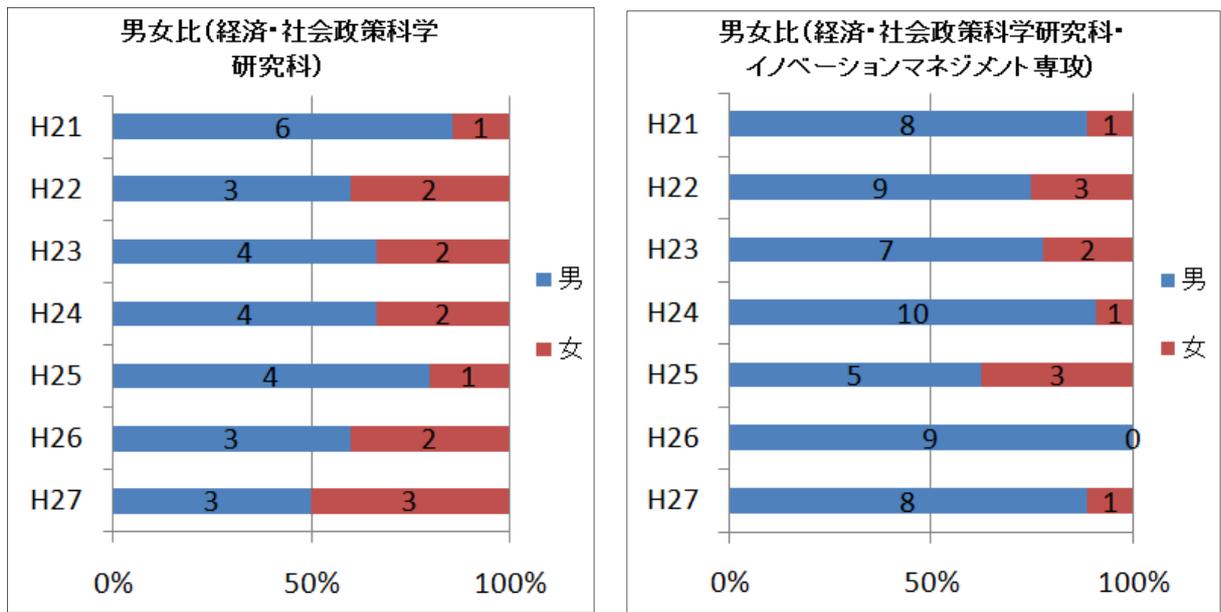


（出典：経営企画課作成）

・ 入学者の男女比

入学者の男女比は以下のとおりである（資料経院15）。

資料経院15:入学者の男女比



(出典：経営企画課作成)

・ 入学者の職業

経済・社会政策科学研究科入学者の職業(入学時)は以下のとおりである(資料経院 16)。

**資料経院16: 経済・社会政策科学専攻入学者の職業 (入学時)**

・ 経済・社会政策科学専攻

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	計
自治体職員	2 内 児童相談所 1	1	2 内 地域協力隊 1	1	2 内 地域協力隊 1	2 内 管理栄養士 1	10
法人・ 団体・NPO		3		2	1	1	7
会社経営・ 自営		1	1	1	2	1	6
専門職	僧侶 1		税理士 1 建築士 1	僧侶 1		建築士 1	5
教員	1		1			1	3
民間企業	1	1					2

・ イノベーション・マネジメント専攻

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	計
企業経営者 (取締役等)	2	0	0	0	1	2	5
企業からの 参加者	7	7	7	4	7	6	38

(出典：経済学部作成)

[想定する関係者とその期待]

(経済・社会政策科学専攻)

長野県内を中心に、自治体職員や専門職などの社会人が、地域課題に取り組むための能力向上とともに、地域社会ネットワークにつながる場としても期待していると考えられる。

○院生 (自治体職員や地域専門職などの社会人)

地域課題に取り組むための知識・能力とともに、地域社会ネットワークにつながる場の提供を期待している。

○修了生の職場関係者等

修了生のさまざまな能力の向上のほか、修了生が地域ネットワークや活動を活発化させることを期待している。

(イノベーション・マネジメント専攻)

○院生

所属組織の経営課題の解決に資する能力と知識を獲得し、合せて異業種間交流を築く場としても期待している。

○企業・団体

上級管理職候補者に対する所属業界を越えた広い視野の涵養、自社を客観化する能力と戦略的思考、理論武装に裏打ちされた部下や組織の管理能力の向上を期待している。

II 「教育の水準」の分析・判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

(1) 基本的組織の編成

① 学術研究院と研究科との関係

教員の流動性を確保し、全学的な教育、研究マネジメントを可能とするため、教員組織として学術研究院を平成 26 年度より設置した(資料経院 17)。

資料経院 17：学術研究院と研究科との関係



学術研究院は、3の学域・10の学系により構成する。すべての教員は、いずれかの学系に所属し、職務として次のいずれかに携わる。(複数の兼務もあり)

- 1) 学部・大学院、全学教育機構において、教育・研究に携わる。
- 2) 医学部附属病院において、診療・教育・研究に携わる。
- 3) 先鋭領域融合研究群において、研究に携わる。
- 4) 大型研究センター(拠点形成型の外部資金プロジェクト)において、研究に携わる。
- 5) 各教育研究(支援)センター等において、担当業務に携わる。

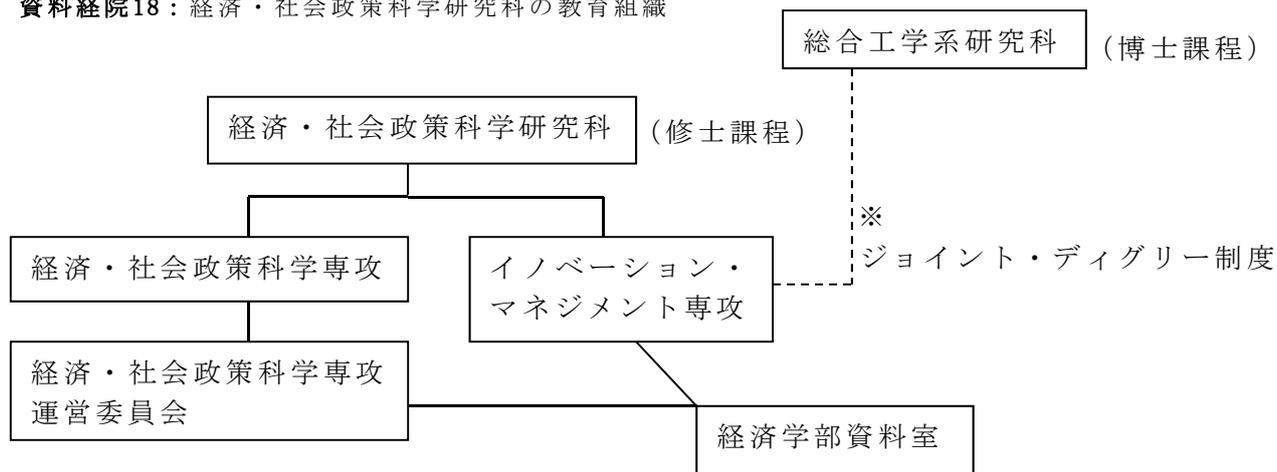
これにより、先鋭領域融合研究群の研究者への研究重点環境の提供や学部横断型の教育を実現し、研究の高度化や時代の要請に柔軟かつスピーディーに対応した教育を推進する。

(出典：「大学概要 2015」をもとに経営企画課作成)

② 経済・社会政策科学研究科の教育実施体制

経済・社会政策科学研究科の教育実施体制は、以下のとおりである（資料経院18）。

資料経院18：経済・社会政策科学研究科の教育組織



※ジョイント・ディグリー制度…総合工学系研究科に在学する学生が、経済・社会政策科学研究科（イノベーション・マネジメント専攻）へも在学し、それぞれの学位の同時取得が可能となる制度。

（出典：経済学部作成）

・専任教員配置状況

資料経院19：各専攻の専任教員数

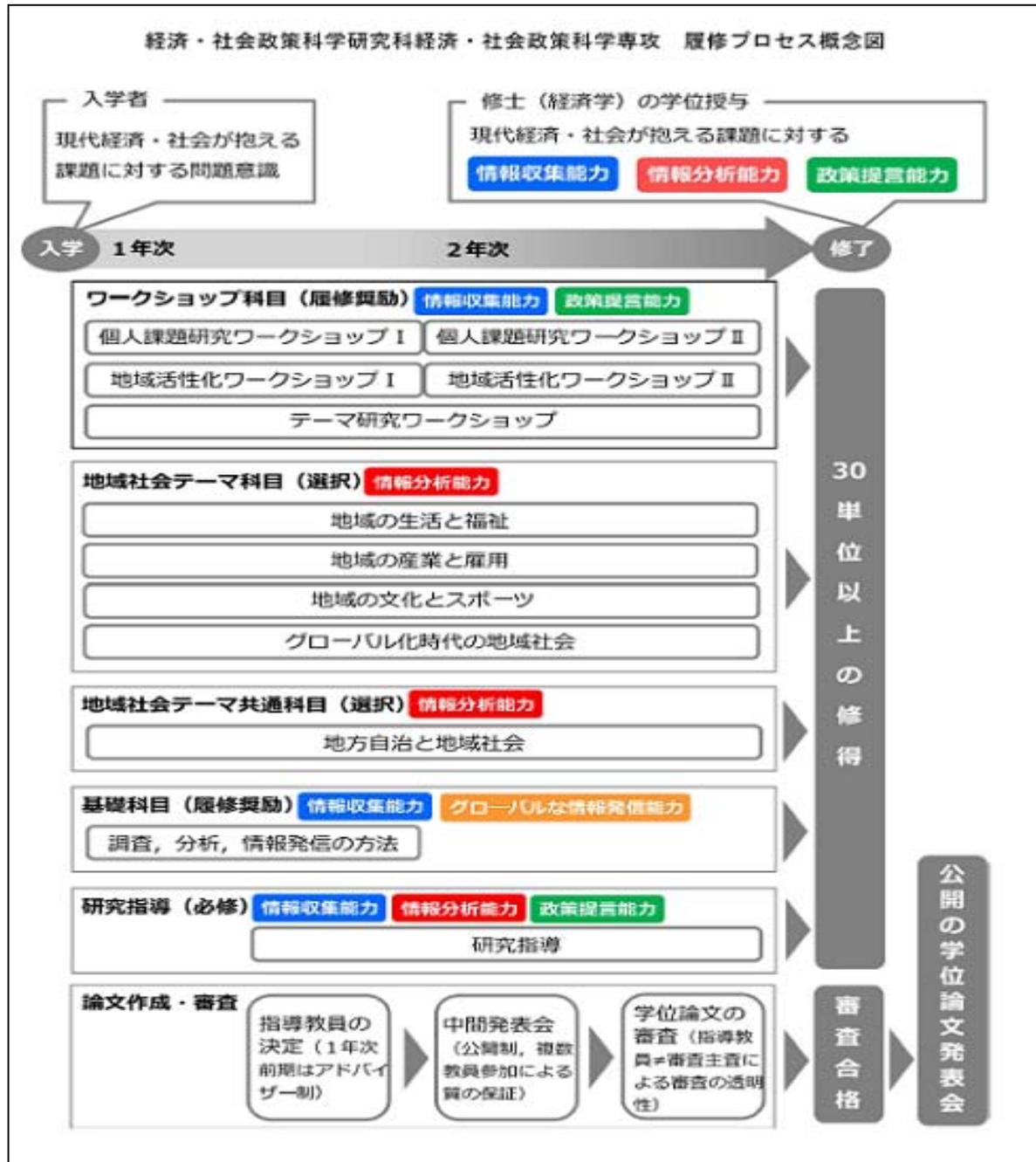
②大学院	研究指導教員		研究指導補助教員	合計
		うち教授		
経済・社会政策科学専攻 (設置審上の必要数)	28 (5)	18 (4)	0 (4)	28 (9)
イノベーション・マネジメント専攻 (設置審上の必要数)	9 (5)	5 (4)	0 (4)	9 (9)

（出典：経済学部作成）

③ 専門教育のカリキュラムの構成

経済・社会政策科学専攻（地域社会イニシアティブ・コース）においては、地域経済・社会の課題についての情報収集能力・情報分析能力・政策提言能力を涵養するために、指導教員による研究指導（必修 6 単位、随時）、土曜の合同ワークショップ科目（8 単位）、そして平日夜間の専門科目（選択 16 単位）を配している（資料経院 20、後掲資料経院 53、p34）。

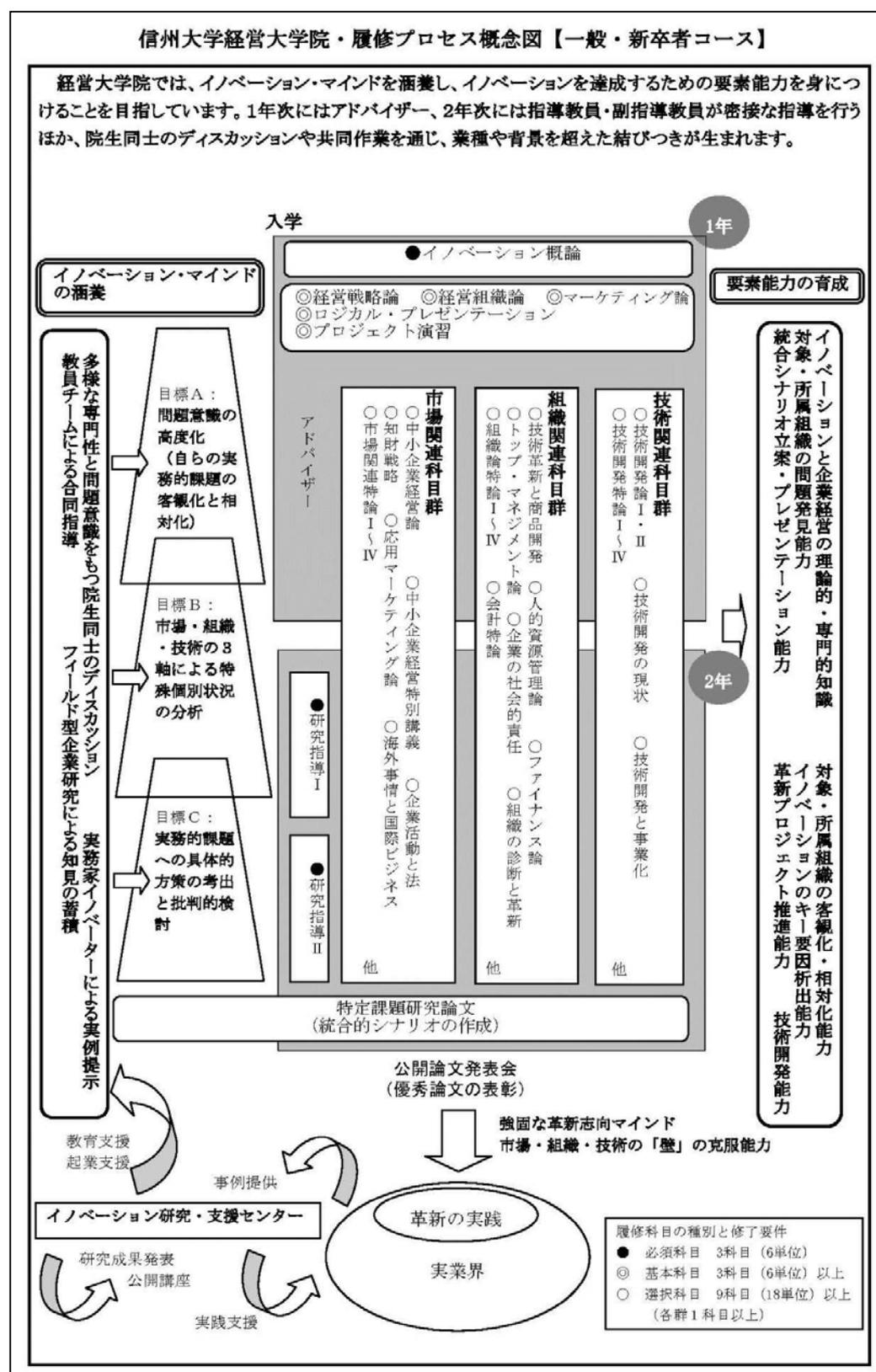
資料経院 20：経済・社会政策科学専攻履修プロセス概念図



（出典：経済・社会政策科学専攻履修案内）

イノベーション・マネジメント専攻では、イノベーション・マインドを涵養し、イノベーションを達成するための要素能力を身につけるために、1年次にアドバイザー、2年次に指導教員・副指導教員の密接な指導を行うほか、院生同士のディスカッションや共同作業を取り入れている（資料経院21）。

資料経院21：イノベーション・マネジメント専攻（経営大学院）履修プロセス概念図



（出典：イノベーション・マネジメント専攻（経営大学院）便覧）

(2) 学生サポート体制

① 経済・社会政策科学研究科の学生サポート体制

指導教員（またはアドバイザー）により、個別の相談（面談）等行っている（資料経院22、23）。

資料経院22：指導教員による個別指導

アドバイザーと研究指導教員

入学年度の前期の履修計画については、経済・社会政策科学専攻運営委員に相談します。専攻運営委員は、その相談の内容に応じてふさわしいアドバイザー教員を紹介するので、そのアドバイザー教員の指導を取り入れ履修計画を立てます。履修計画を立てたら、所定の履修登録用紙を使用し、所定の期間内に前期および後期の届けを学務係に提出してください。

- 入学年度の後期以降は指導教員が付きます。
- 入学年度の後期以降の履修計画は指導教員の指導に従って立てます。
- 指導教員は特定課題研究(詳しくは[こちら](#))の指導を行います。

(出典：経済・社会政策科学専攻ホームページ「カリキュラムの概要」)

資料経院23：個別指導について

学生一人ひとりにテーラーメイドされた個別指導により学ぶ

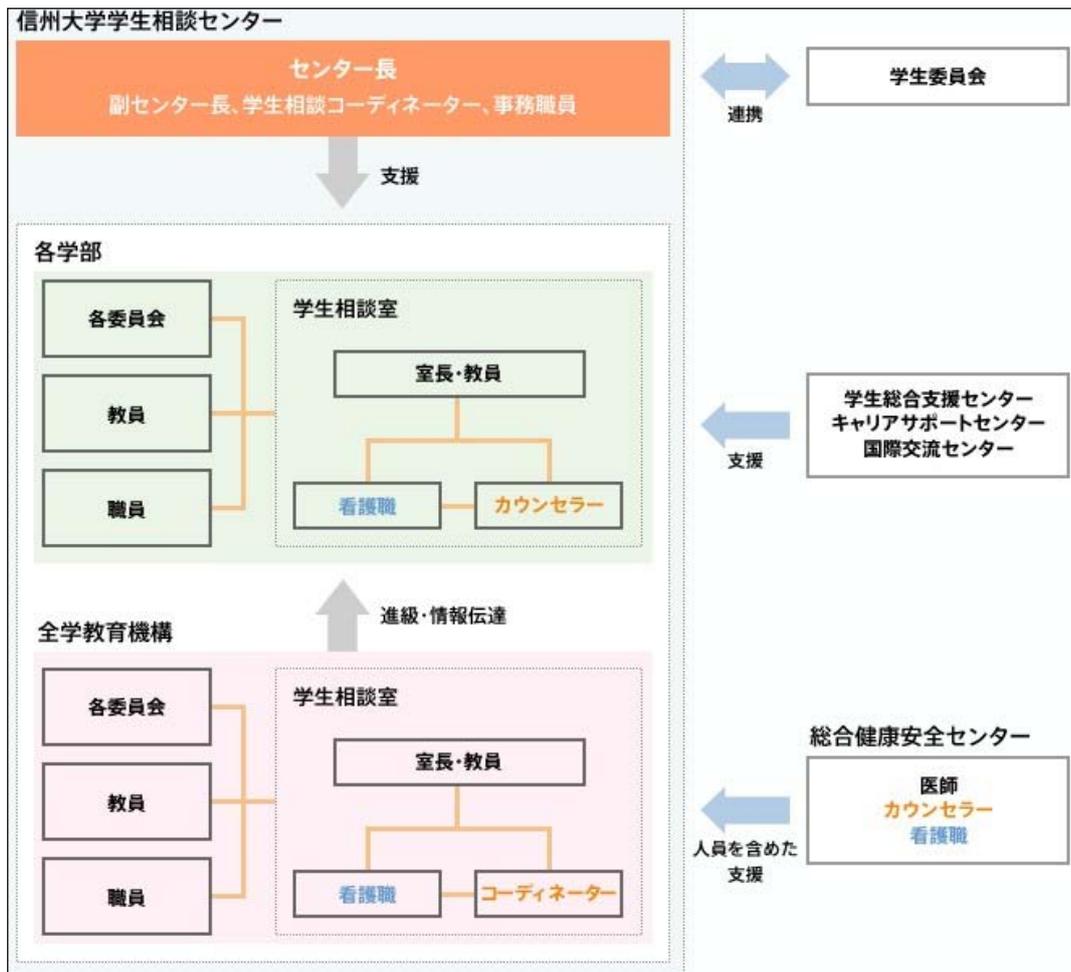
- ・少人数で、教員1人に学生2～3名の比率
- ・学生一人ずつに教員アドバイザーがつき、卒業まで個別アドバイス
- ・学生のバックグラウンドと目標に応じた科目選択の指導
- ・2年から最長4年までのフレキシブルな履修期間

(出典：イノベーション・マネジメント専攻ホームページ「本大学院の価値提供」)

② 全学的な学生サポート体制

大学内に学生相談センター及び学生相談室等、相談窓口が設置されている（資料経院24）。

資料経院 24：学生相談センター及び学生相談室



専門窓口と連携し対応します。

相談内容に応じて、学内外の専門機関(窓口)と連携を取ります。



(出典：学生相談センターホームページ「センターについて」)

## ○全学的な支援

全学的な教育サポート体制として、学務課、学生支援課、国際交流課を設置し、全学的な教育課程、課外活動、就職、留学に関する業務を行っている。この他に、全学的な教育活動を展開するために附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センター、e-Learningセンターに専門的知識技能を有する職員を配置している。さらに、本研究科に教育活動を展開するために必要な職員を各キャンパスに配置している（資料経院 25、26、27、28）。

**資料経院 25**：国立大学法人信州大学業務執行組織規程

第 25 条 学務課においては、全学教育機構、高等教育研究センター、e-Learning センター、教員免許更新支援センター（教育学部の所掌に属するものを除く。以下この条において同じ。）及び学務部に関する次の業務をつかさどる。

- (1) 学務部内の事務に関し、連絡し、及び総合調整を行うこと。
  - (2) 庶務及び会計に関すること。
  - (3) 入学式その他学生の諸行事に関すること。
  - (4) 学生関係職員の SD(スタッフ・デベロップメント)に係る企画・立案及びその実施に関すること。
  - (5) 全学(本法人が設置する信州大学大学院(以下「大学院」という。)を除く。)の教務に関すること。
  - (6) 学生の学籍その他の記録に関すること。
  - (7) 学位の授与に関すること。
  - (8) 教育課程(大学院を除く。)に係る目標及び計画の連絡調整に関すること。
  - (9) 他の大学等との単位の互換(大学院を除く。)に関すること。
  - (10) 全学の学務情報システムに関すること。
  - (11) 出前講座に関すること。
  - (12) 諸会議(国立大学法人信州大学戦略企画会議規程(平成 24 年国立大学法人信州大学規程第 108 号)第 6 条に定める大学院戦略会議(以下「大学院戦略会議」という。))及び信州大学大学院教務委員会を除く。)の連絡調整に関すること。
  - (13) 教育・学生支援連携会議の運営に関すること。
  - (14) その他全学教育機構、高等教育研究センター、e-Learning センター及び教員免許更新支援センターの業務執行及び運営に関すること。
  - (15) 前各号に掲げるもののほか、学務部の他の所掌に属しない事務を処理すること。
- 2 学務課の共通教育支援室においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 共通教育の授業支援に関すること。
  - (2) 共通教育の教務に関すること。
  - (3) 学生の学習相談及び修学指導に関すること。
  - (4) 共通教育に係る点検・評価に関すること。
  - (5) 全学教育連携会議等の諸会議の連絡調整に関すること。
  - (6) 環境マインド教育支援に関すること。
- 3 学務課の大学院室においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 大学院の事務の総括及び全体調整に関すること。
  - (2) 大学院の教務に関すること。
  - (3) 大学院の入学選抜の総括及び広報に関すること。
  - (4) 大学院戦略会議及び信州大学大学院教務委員会に関すること。
  - (5) 大学院の教育課程に係る目標及び計画の連絡調整に関すること。
  - (6) 大学院における他の大学等との単位の互換に関すること。
  - (7) 理工学系研究科長、工学系研究科長及び総合工学系研究科長の事務に関すること。
  - (8) 前各号に掲げるもののほか、大学院に関する事務を処理すること。
- 4 学生支援課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 学生総合支援センターの業務執行及び運営に関すること。
  - (2) キャリアサポートセンターの業務執行及び運営に関すること。
  - (3) 学生相談センターの業務執行及び運営に関すること。
- 5 入試課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 入学者の選抜に関し連絡し、及び総合調整を行うこと。
  - (2) 入学者選抜方法の改善に関し企画立案を行うこと。
  - (3) 学生募集に関すること。
  - (4) アドミッションセンターの業務執行及び運営に関すること。
  - (5) 前各号に掲げるもののほか、入学者の選抜に関する事務を処理すること。
- 6 国際交流課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 国際交流センターの業務執行及び運営に関すること。(研究支援課の国際学術交流室が所掌する業務を除く。)
  - (2) 松本国際交流会館の業務執行及び運営に関すること。
  - (3) 前各号に掲げるもののほか、教育活動に係る国際交流に関する事務を処理すること。

(出典：信州大学業務執行組織規程)

**資料経院 26：学務課，学生支援課，国際交流課の職員数**

	学務課		学生支援課		国際交流課
	うち 大学院室	うち キャリアサポートセンター	うち キャリアサポートセンター	うち キャリアサポートセンター	
事務職員	20	2	11	3	6
事務補佐員	12	2	4	2	5
臨時用務員	1				
専門職員	1				
技術補佐員	5				
技能補佐員			1		
シニア雇用職員	4	1	1		
コーディネータ			1		6
合計	43	5	18	5	17

平成 28 年 1 月 18 日現在

(出典：経営企画課作成資料)

**資料経院 27: 附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センター、e-Learning センター職員数**

区分	附属図書館	総合健康安全 センター	総合情報 センター	e-Learning センター
松本キャンパス	54	13	9	3
長野キャンパス(工学)	7	1	3	-

平成 28 年 2 月 1 日現在

(出典：経営企画課作成資料)

**資料経院 28：「学部・研究科の学務担当の職員数」**

経済学部、経済・社会政策科学研究科、法曹法務研究科

10

平成 28 年 2 月 1 日現在

(出典：経営企画課作成)

○学生への経済的な就学支援

経済的な修学支援について、全学的に以下の制度を設けている（資料経院 29）。

**資料経院 29：経済的な就学支援制度**

- ① 入学料免除・徴収猶予制度
- ② 授業料免除・徴収猶予・月割分納・成績優秀学生授業料免除
- ③ 奨学金
- ④ 信州大学知の森基金入学サポート奨学金

(出典：経営企画課作成)

○信州大学知の森基金入学サポート奨学金

本学は、学生の修学環境の整備をはじめ、時代を見据えた教育、研究、地域連携、国際貢献を推進、深化させる活動の支援を目的とする「信州大学知の森基金（資料経院 30）」を平成 25 年度に創設した。

**資料経院 30：信州大学知の森基金**

○目的，寄附金の用途等

信州大学知の森基金は、教育、研究、社会連携、人材育成等を通じ、地域に根ざした大学として社会に貢献するために行う事業に資することを目的として発足しました。本基金は、本学全体の活動を広く支援する「一般基金」と、用途を限定して特定の活動を支援する「特定基金」で構成され、企業・団体や個人の皆様など多くの方々からのご支援をお願いしております。

○一般基金

知の森基金 奨学金事業（学生に対する奨学支援）

○大学院奨学金

優秀な若手研究者に対して、授業料など学費の一部を支援します。

(出典：信州大学ホームページ)

○ティーチング・アシスタントの活用

優秀な大学院生に対して、教育指導等を目的とし、教育補助業務を行わせることにより、手当支給を行っている（資料経院 31、32）。

**資料経院31：信州大学ティーチング・アシスタント実施要項**

（目的）

第2 TAは、本学大学院の優秀な学生に対し、教育的配慮の下に教育補助業務を行わせ、これに対する手当支給により、当該学生の処遇の改善に資するとともに、大学教育の充実及び指導者としてのトレーニングの機会提供を図ることを目的とする。

（身分）

第3 TAは、非常勤職員とする。

（職務内容）

第4 TAは、学部学生、修士課程の学生及び博士前期課程の学生に対する実験、実習及び演習等の教育補助業務に従事する。

（出典：信州大学ティーチング・アシスタント実施要項）

**資料経院32：各学部等におけるTAの業務内容**

部局名	授業時間内の業務内容								授業時間外の業務内容					その他の業務内容
	A	B	C	D	E	F	G	H	a	b	c	d	e	
経済学部 (経済・社会政策科学研究科)	○	○	○	○					○		○	○		

授業時間内の業務内容

A. 資料の配付    B. 機器の操作    C. 出欠の管理    D. 試験監督補助    E. 討論への参加  
F. 学生の質問への対応    G. 実験・実習などの実演    H. 発声・会話の指導

授業時間外の業務内容

a. 資料のコピー、保存    b. 教室のメンテナンス(空調,照明,施錠等)  
c. レポート課題の作成・採点補助    d. 教材の作成補助    e. 実験・実習の準備

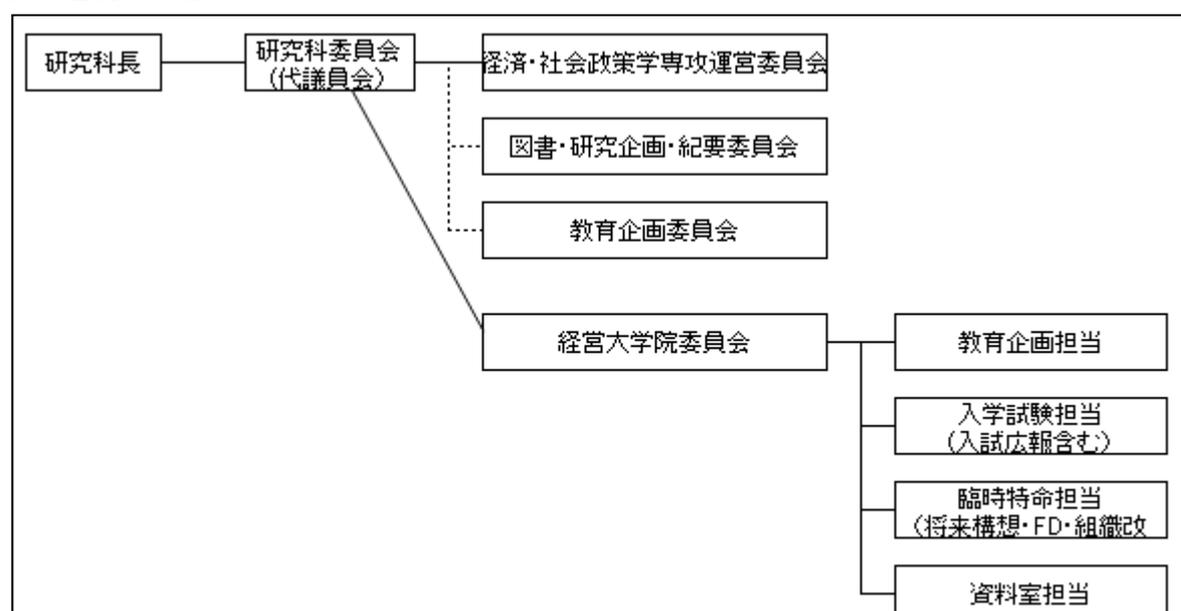
（出典：各学部等のデータを基に経営企画課にて作成）

（3）教員の教育力向上のための体制整備

①研究科の教育課程の編成について

本研究科の教育課程を検討する組織は、以下のとおりである（資料経院33）。

**資料経院33：経済・社会政策科学研究科の教育組織**



（出典：経済学部作成）

②FDの実施

・経済・社会政策科学専攻

経済学部で実施しているFD講習会へ参加して、教員の教育力向上を図っている。  
平成24年度以降、毎年度経済学部と合同で実施している（資料経院34）。

資料経院34：経済学部主催FD実施

実施日	テーマ	講師名	参加人数	対象範囲(教員の み, 教職員等)
H24.06.27	内省できる実践家を育てる	米国ノースカロライナ州アパラチアン州立大学FDセンター長 Kathleen T. Brinko	10	教員
H26.01.08	自殺防止研修会	学生相談センター 小田佳代子カウンセ	36	教職員
H26.02.12	シラバスガイドライン改訂説明会「シラバスの観点とはーシラバスを実際に修正してみる」	高等教育研究センター 加藤紘三教授, 加藤善子教授	16	教員
H27.01.14	シラバスガイドライン改訂説明会「シラバスガイドラインの見直しについて」	高等教育研究センター 加藤紘三教授	44	教職員

(出典:経済学部作成)

・イノベーション・マネジメント専攻

イノベーション・マネジメント専攻では、本専攻の教授による「FDシェアリング」を定期的実施している。各教員持ち回りで教育能力を高めるための実践的方法について検討し、意見交換を行い、平成25年度からは英語による講義を導入している（資料経院35）。

資料経院35：イノベーション・マネジメント専攻（経営大学院）FDシェアリング実績一覧

FDシェアリング・セッション実績

2012年度		2013年度		2014年度		2015年度	
平成24年5月16日	鈴木教員	平成25年6月19日	大野教員	平成26年7月16日	柴田教員	平成27年4月8日	今村教員
平成24年7月18日	今村教員	平成25年7月17日	柴田教員	平成26年9月17日	大野教員	平成27年5月13日	鈴木教員
平成24年10月2日	柴田教員	平成25年9月18日	樋口教員	平成26年11月19日	橋本教員	平成27年7月8日	柴田教員
平成24年12月19日	橋本教員	平成25年11月20日	橋本教員	平成27年1月21日	牧田教員	平成27年9月9日	樋口教員
平成25年1月16日	牧田教員	平成26年1月15日	牧田教員	平成27年2月18日	鈴木教員	平成27年11月11日	橋本教員
平成25年2月20日	牧田教員	平成26年3月19日	今村教員			平成28年2月10日	牧田教員
						平成28年3月9日	今村教員

(出典：イノベーション・マネジメント専攻作成)

③関係者からのニーズを把握する仕組

本研究科では、経済・社会政策科学専攻委員会及びイノベーション・マネジメント専攻臨時特命担当がアンケート、意見聴取等を平成23年度以降からそれぞれ実施し、各関係者のニーズを把握している（資料経院36）。

資料経院 36：関係者のニーズ把握				
	対象	実施方法	頻度	目的・利用方法
経済・社会政策科学専攻	全学生 (授業 受講生)	授業科目毎に授業改善アンケートを実施	毎年 (平成26年度実施)	今後の授業内容や授業進行の改善・充実化に生かすため
	修了生の関係者	修了生から関係者へ協力依頼により実施。	随時 (平成26年度実施)	教育成果を把握し、教育の向上を図るため
	修了生	修了生を対象に論文発表会の際にアンケートを実施	毎年 (平成27年度から実施)	〃
イノベーション・マネジメント専攻	全学生 (授業 受講生)	授業科目毎に授業改善アンケートを実施	毎年 (平成24年度実施)	今後の授業内容や授業進行の改善・充実化に生かすため
	企業・団体	専攻長訪問による幹部との面談及びトップマネジメント論のゲストスピーカーとの面談	年7回程度 (平成23年度から実施)	県内産業界の現況や経営課題、人材ニーズなどの参考にする
	学生の派遣 元上司	指導教員と上司との面談	年1～2回 (平成23年度から実施)	〃
	修了生意識 調査	修了生へ依頼	随時 (平成24年度実施)	教育成果を把握し、教育の向上を図るため

(出典：経済学部作成)

④授業改善アンケート，修了生アンケートの実施

院生を対象とした授業改善のためのアンケート調査（無記名）を経済・社会政策科学専攻では平成26年度より、イノベーション・マネジメント専攻では平成24年度より実施している（資料経院37）。

<p><b>資料経院37：授業改善アンケート</b>                  対象者：全院生                  実施時期：経済・社会政策科学専攻…3月論文発表会（全員が集まる際）                  イノベーション・マネジメント専攻…学期終了時                  活用方法：個別教員が授業トピックを入れ替えたりして対応を図り、結果についてFDシェアリングで報告している。</p> <p style="text-align: right;">(出典：経済学部作成)</p>
---

(4) 4大学との単位互換

平成25年度から信州大学、横浜国立大学、広島大学、茨城大学の4大学で単位互換協定を締結している。（資料経院38）

<p><b>資料経院38：4大学間の単位互換に関する協定書</b></p> <p style="text-align: center;"><b>4大学間の単位互換に関する協定書</b></p> <p>信州大学・横浜国立大学・広島大学・茨城大学は、4大学間でグリーンマネジメントプログラムに係る遠隔授業を実施することにより、大学間の教育の充実及び相互交流を図ることを目的として、下記により単位互換に関する協定を締結する。</p>
---

1 実施研究科等	この協定による単位互換の実施研究科等は、各大学が定める。
2 受入学生の名称	この協定により受け入れる学生は、特別聴講学生として取り扱う。
3 履修資格	この協定に基づき遠隔授業を履修できる者は、各大学が定める単位互換の実施研究科又は学府等に在籍する大学院生(科目等履修生, 研究生及び委託生等を除く。)とする。
4 履修期間及び受入時期	(1) 特別聴講学生の履修期間は1年以内とし、当該学生の履修する授業科目の開設年度又は開設学期とする。 (2) 特別聴講学生の受入時期は、原則として学年又は学期の始めとする。
5 受入学生数	各授業科目の受入学生数は、遠隔授業に支障のない範囲で、受入大学と派遣大学が協議の上決定する。
6 履修科目及び単位数	特別聴講学生として履修できる授業科目及び単位数は、別に定める。
7 受入手続	特別聴講学生の受入手続きは、別に定める。
8 履修方法等	特別聴講学生の履修方法及び試験の実施方法については、受入大学の定めるところによる。
9 単位の授与等	(1) 特別聴講学生が履修した授業科目の成績の評価については、受入大学の定めるところによる。 (2) 特別聴講学生が履修した授業科目の単位の認定については、派遣大学の定めるところによる。
10 検定料、入学料及び授業料	特別聴講学生の検定料、入学料及び授業料は、徴収しない。
11 申合せ	この協定書に定めるもののほか、単位互換に関する必要事項については、4大学間の協議により別に定める。
12 施行期日	この協定は、平成25年4月1日から施行する。
13 協定の改廃	この協定の改廃等は、4大学間の協議による。
	平成25年4月1日
	信州大学
	学長 山沢清人
	広島大学
	学長 浅原利正
	横浜国立大学
	学長 鈴木邦夫
	茨城大学
	学長 池田幸雄
	(出典：4大学間の単位互換に関する協定書)

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

- ・経済・社会政策科学専攻では、特徴ある教育システムとして、平日夜間の専門・選択科目(標準16~18単位)、事実上の必修として土曜の合同ワークショップ科目(標準6~8単位)、及び指導教員による1対1の「研究指導」(6単位)という3種の科目構成をとっている(p14、③専門教育のカリキュラムの構成)。
- ・本研究科においては指導教員による個別指導を行っている。また、全学的な教育サポート体制もとられている(前掲資料経院22~30、p16~19)。
- ・両専攻において、関係者からのニーズを把握するためにアンケート等を実施し、関係者の期待に応えるための教育実施体制が構築されている(前掲資料経院36、p22)。

観点 教育内容・方法

(観点に係る状況)

(1) 体系的な教育課程の編成

① DPに基づく教育課程の編成

DPに対応した教育課程を編成し、DPとの対応をシラバスへ記載することについてもシラバス作成の手引により徹底し、公開している(資料経院39、40)。

研究指導を除く科目は、「ワークショップ科目」「テーマ科目」「テーマ共通科目」及び「基礎科目」の4種に大別し、それぞれ情報収集能力・情報分析能力・政策提言能力のいずれに主として関わるか、「履修プロセス概念図」(前掲資料経院20、21、p14、15)に明示している。

資料経院39：シラバス					
登録コード	KA010701		担当教員	関 利恵子 他	
授業科目	地域の産業と雇用Ⅲ			副担当	
英文授業名	Management & Accounting				
単位数	2	講義期間	前期(後半)	曜日・時限	金曜, 6時限 金曜, 7時限
講義室		授業形態	講義		
<p>(1)授業のねらい                      企業は、経営資源(ヒト・モノ・カネ・情報など)を活用して、利益を生み出してゆく組織体である。①その企業がどんな経営をしているのか? ②その企業は備わっているか? ③その企業は従業員満足度を高めている企業だろうか?                      そうした「?」に経営学と会計の視点から自ら答えをみつける術を身につけるのが、この講義の狙いである。そこで本講義では、財務諸表(貸借対照表・損益計算書・キャッシュ・フロー計算書)を分析したり、経営効率を高めるための管理会計ツールの理解を深めるほか、労務面からもよりよい企業経営のあり方を考えていきます。</p> <p><b>【学位授与方針の該当要素】</b>                      地域社会・経済の抱える課題について、課題解決に必要な情報を収集する能力および収集した情報を適切に分析する能力を有する。</p> <p>(2)講義の概要                      本講義の概要は、次のとおり。                      ①会計の役割と財務諸表の仕組み及び分析                      ②企業経営への会計情報の活用                      ③経営労務から捉える企業経営のあり方の考察</p> <p>(3)授業計画                      本講義は概ね以下の計画にしたがって進める予定であるが、詳細は第1回目の講義にて説明する。                      第1回 インTRODクシヨン 講義ガイダンス                      第2・3回 会計(1)財務諸表データ入手と財務諸表の仕組み                      第4・5回 経営(1)コンピテンシーとモチベーション                      第6・7回 会計(2)安全性分析と収益性分析                      第8・9回 経営(2)キャリアデザインとリーダーシップ</p>					
<p>第10・11回 経営と会計 経営に活かす管理会計とは(ゲストスピーカーによる講義)</p> <p>第12・13回 経営(3)職務満足・組織コミットメントと知識創造</p> <p>第14・15回 会計(3)経営に活かす管理会計手法</p> <p>(4)成績評価の方法                      ・講義内レポートによって成績評価を行う予定。</p> <p>(5)履修上の注意                      ①第1回 INTRODUCTION で講義内容の詳細な説明を行います。履修希望者は必ず出席すること。                      ②財務分析では電卓を使用します。</p> <p>(6)質問、相談への対応                      質問、相談は、e-mailを利用するか、または事前にアポイントメントを取った上で質問に来ること。アポイントメントなしの相談には応じない。                      e-mai : seki@shinshu-u.ac.jp</p> <p><b>【教科書】</b>                      金井壽宏・高橋深(2004)『組織行動の考え方一人を生きし組織力を高める9つのキーコンセプト』東洋経済新報社。                      関利恵子・石井宏宗(2012)『会社の数字がガンガンわかるゼロからの経営分析ワークブック』創成社。</p> <p><b>【参考書】</b>                      講義内にて適宜指示する。</p>					

(出典：信州大学ホームページ「シラバス検索システム」)

資料経院40：シラバス作成の手引

<p style="text-align: center;"><b>シラバスの作成にあたりまして</b></p> <p>経営大学院のシラバスの充実と体系化を図るために、下記の方針を踏まえたシラバスの作成へのご協力をお願いいたします。</p> <p><b>シラバスの各項目の記入方針</b></p> <p>(1) 講義のねらい 経営大学院の学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に沿った内容を記入して下さい。また、文章の後に、講義を通じて修得が期待される要素として、<b>次の学位授与の方針の該当項目の要素を引用・明記して下さい(複数可)</b>。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 企業経営の理論的、専門的知識を習得し、所属組織の問題を発見し、解決策を立案・実行できる</li> <li>2. 企業経営の諸問題に対し、解決策を立案し、高いプレゼンテーション能力で、組織をリードできる</li> <li>3. 市場環境の変化に対する情報収集能力、分析能力を有し、そこからイノベーションの機会を提起できる</li> <li>4. 所属組織に対し、客観的・相対的に問題を分析・抽出し、新たな経営の方向性を提示できる</li> <li>5. 環境問題を解決し持続可能な社会を築く観点から企業経営の諸問題に対し、解決策を立案し、イノベーションの機会を提起し、組織をリードできる</li> </ol> <p>(記入例)</p> <p>文明社会の発展においてイノベーションの果たす役割は極めて大きい。本講義は、理論と事例の学習を通じて、イノベーションとそのマネジメントのあり方についての理解を深め、社会に活力をもたらすイノベーションの実践能力を高めることを目的とする。</p> <p>【学位授与方針の該当要素】 ・企業経営の理論的、専門的知識を習得し、所属組織の問題を発見し、解決策を立案・実行できる 以下略。</p>	<p>(2) 講義の概要 (1)の授業のねらいと整合した講義内容として下さい。</p> <p>(3) 授業計画 15回 or 16回の各回の講義内容(タイトル)を明記して下さい。 <b>不定期・随時開講科目と集中開講科目については、各回の開講日を明記して下さい。</b> (企業見学など先方との調整が必要な科目の場合はこの限りではありません)</p> <p>(記入例)</p> <p>第1回：イノベーションとは何か① 第2回：イノベーションとは何か② 第3回：製品開発と組織能力① 第4回：製品開発と組織能力② ・・・ 第15回：成長企業のイノベーション① 第16回：成長企業のイノベーション②</p> <p>(4) 成績評価の方法 成績評価の方法を具体的に記して下さい。</p> <p>(5) 履修上の注意 特に<b>テレビ会議システムを利用した遠隔地キャンパスの受講者</b>への留意事項がありましたら記入して下さい。</p> <p>(6) その他 <b>授業改善アンケートの結果</b>を踏まえた改善点がありましたら、該当項目に記して下さい。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
---	---

(出典：イノベーション・マネジメント専攻(経営大学院)作成)

② 特定課題研究論文に関する取組

特定課題研究論文の審査基準を『履修案内』に明記し、複数教員による審査ではこの基準に沿った「講評シート」活用している。また平成24年度より新たに、特定課題研究仮説ワークシートを学生に配布することで、論文テーマの構想を促している(資料経院41、42、43)。

資料経院41：特定課題研究論文の審査基準

<p><b>特定課題研究論文の審査基準</b></p> <p>大学院経済・社会政策科学研究科経済・社会政策科学専攻は、審査委員会を構成して、提出された論文を次の基準に基づき審査し、口頭での審査会を経て、可否を判定する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 【独創性と意義】論文の内容は、何らかの意味でオリジナリティーを有し、かつ社会的意義があるものであるか。</li> <li>2. 【論証方法】論文の問題提起から結論に至る論証方法は適切なものであるか。研究のテーマや方法によって論証方法は選択肢があるが、例えば、データや資料の収集と分析・解釈、先行研究の検討・引用と議論の演繹など、選択された論証方法に即して適切な取り扱いがなされているか。</li> <li>3. 【論旨の明晰さと説得力】論文の論旨は明瞭であり、かつ読む者に対して説得力を持つ論旨の展開がなされているか。</li> <li>4. 【論文の表現と体裁】論文の使用言語は日本語又は英語のいずれかが可能であるが、いずれの言語を選択した場合でも、表現が的確であり、分かり易く書かれているか。また、論文として読みやすいスタイルで書かれているか。</li> </ol>
---

(出典：経済・社会政策科学専攻履修案内)

資料経院42：講評シート

平成26年度修士論文等審査 講評		
		平成27年2月3日
		審査員氏名
		(主査・副査)←いずれか選択
学籍番号	氏名	論文題目
		講 評
総合	S 秀逸	(必須)
	A 優秀	
	B 良	
	C 可	
	不可	
1. 独創性と意義	S	(S,C,不可の場合は必ずその理由を記載ください)
	A	
	B	
	C	
	不可	
2. 論証方法	S	(S,C,不可の場合は必ずその理由を記載ください)
	A	
	B	
	C	
	不可	
3. 論旨の明晰さと説得力	S	(S,C,不可の場合は必ずその理由を記載ください)
	A	
	B	
	C	
	不可	
4. 論文の表現と体裁	S	(S,C,不可の場合は必ずその理由を記載ください)
	A	
	B	
	C	
	不可	
その他特記事項		

(出典：経済・社会政策科学専攻運営委員会)

## 資料経院43：特定課題研究仮説ワークシート

## テーマ・仮説作りのワークシート 【タイプ I】

- 1 今回の特定課題研究は、自分としてどんなことを期待していますか？
- 2 研究テーマについて、簡単に教えてください。
  - 2.1 あなたの研究テーマは何ですか？
  - 2.2 なぜその研究テーマを選んだのですか？
  - 2.3 あなたの経験や資産がこのテーマの研究にどのように役に立ちますか？
  - 2.4 あなたの今後のキャリアとはどのように関連しますか？
- 3 課題仮説について、簡単に教えてください。
  - 3.1 あなたの研究は、どんな課題（問題）を解決しようとしていますか？
  - 3.2 その課題の内容や程度を示すどのような具体的な症状があると思われますか？
  - 3.3 その症状を引き起こしている原因にはどのようなものかと思われますか？
  - 3.4 それらの原因の中で、もっとも重要な原因は何だと思えますか？
  - 3.5 原因と結果（症状）との間の関係を簡単な図に表わしてみてください
- 4 解決策の仮説について、簡単に教えてください。
  - 4.1 課題の解決策として、どんな方策が考えられますか？
  - 4.2 どんな基準で、それらの方策を評価しますか？
  - 4.3 どの方策がもっとも重要だと思われますか？ なぜですか？
  - 4.4 具体的にどのようにそれらの方策を実行しますか？
  - 4.5 実行するにあたり、どのような問題やリスクがあると予想しますか？
- 5 調査・検証などのアプローチの仮説について、簡単に教えてください。
  - 5.1 あなたの研究テーマを扱った、既存の研究や文献、資料、専門家にはどのようなものがありそうですか？
  - 5.2 上の第3項で考えている課題をデータや資料などで証拠を示していくには、どんな作業が必要だと思えますか（専門家ヒアリング、アンケート調査、文献調査など）？
  - 5.3 上の第4項で考えている解決策を具体的に検討するためには、どんな作業が必要だと思えますか（専門家ヒアリング、アンケート調査、文献調査、収益シミュレーションなど）？
- 6 その他
  - 6.1 テーマや方法・プロセスなどに関して、補足すべきことがあれば書いてください
  - 6.2 指導教官への特別の依頼事項などがあれば書いてください

※タイプ I：問題発見・課題解決を志向するテーマ向け

## テーマ・仮説作りのワークシート 【タイプ II】

- 1 今回の特定課題研究は、自分としてどんなことを期待していますか？
- 2 研究テーマについて、簡単に教えてください
  - 2.1 あなたの研究テーマは何ですか？
  - 2.2 なぜその研究テーマを選んだのですか？
  - 2.3 あなたの経験や資産がこのテーマの研究にどのように役に立ちますか？
  - 2.4 あなたの今後のキャリアとはどのように関連しますか？
- 3 事業機会仮説について、簡単に教えてください
  - 3.1 あなたの研究は、どんな潜在的な事業機会を生かそうとしていますか？
  - 3.2 その事業機会の内容や程度を示すどのような具体的な兆候や現象があると思われますか？
  - 3.3 その兆候や現象を引き起こしている要因にはどのようなものかあると思われますか？
  - 3.4 それらの要因の中で、もっとも重要なものは何だと思えますか？
  - 3.5 要因と潜在的な事業機会（兆候や現象）との間の関係を簡単な図に表わしてみてください
- 4 事業コンセプト仮説について、簡単に教えてください
  - 4.1 潜在的な事業機会を生かすために、どんな事業アイデアが考えられますか？
  - 4.2 その事業アイデアを具体的に詰めるには、どんな項目を検討しますか？
  - 4.3 どんな基準で、それらの事業アイデアを評価しますか？
  - 4.4 複数ある事業アイデアのうちどれがもっとも有望だと思えますか？ なぜですか？
  - 4.5 有望な事業アイデアを具体的にどのように実行しますか？
  - 4.6 実行するにあたり、どのような問題やリスクがあると予想しますか？
- 5 調査・検証などのアプローチの仮説について、簡単に教えてください
  - 5.1 あなたの事業アイデアを扱った、既存の研究や文献、資料、専門家にはどのようなものがありそうですか？
  - 5.2 上の第3項で考えている潜在的な事業機会をデータや資料などで証拠を示していくには、どんな作業が必要だと思えますか（専門家ヒアリング、アンケート調査、文献調査など）？
  - 5.3 上の第4項で考えている事業アイデアを具体的に検討するためには、どんな作業が必要だと思えますか（専門家ヒアリング、アンケート調査、文献調査、収益シミュレーションなど）？
- 6 その他
  - 6.1 テーマや方法・プロセスなどに関して、補足すべきことがあれば書いてください
  - 6.2 指導教官への特別の依頼事項などがあれば書いてください

※タイプ II：市場機会の発見と事業構想をテーマとする研究向け

(出典：イノベーション・マネジメント専攻作成)

(2) 教育方法・学生支援の工夫

①長期にわたる教育課程の履修、教育方法の特例

職業を有している等の事情を有する学生には、標準修業年限を超えて計画的に履修できるようにするとともに、土日及び平日・夜間等を開講するなどの措置を講じている（資料経院44、45）。

**資料経院 44**：信州大学大学院学則，信州大学大学院経済・社会政策科学研究科規程

(長期にわたる教育課程の履修)

第 38 条 本大学院は、各研究科の定めるところにより、学生が、職業を有している等の事情により、第 15 条に定める標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

2 前項による計画的な教育課程の修業年限は、第 16 条に定める在学期間を超えることはできない。

(教育課程の計画的特例履修)

第 38 条の 2 各研究科（修士課程又は博士前期課程を置く研究科に限る。）は、本大学院と外国の大学院等との間において締結した交流協定（研究科間交流協定及びこれに準ずるものを含む。以下「交流協定」という。）に基づく留学により、第 15 条に定める標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することを修士課程又は博士前期課程の学生（標準修業年限の最終年次の学生及び前条による長期にわたる教育課程の履修を認められている学生を除く。）が希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

2 前項による計画的な教育課程の修業年限は、3 年を超えることはできない。

(教育方法の特例)

第 39 条 教育上特別の必要があると認められる場合には、当該研究科において定めるところにより、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

(出典：信州大学大学院学則)

(長期にわたる教育課程の履修)

第 12 条 大学院学則第 38 条に規定する学生が職業を有している等の事情による長期にわたる教育課程の履修については、研究科委員会において定める。

(出典：信州大学大学院経済・社会政策科学研究科規程)

**資料経院 45**：長期にわたる教育課程等の履修者数

事 項	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
長期にわたる教育課程の履修	32	25	23	18	14	18

(出典：経済学部作成)

② 社会人に配慮した教育内容・方法

バックグラウンドも具体的課題も異なる社会人のために、実践的な教育内容を効果的な方法で実施している（資料経院 46、47）。

資料経院 46：社会人のための教育制度と方法～「コース紹介／7つの特徴」～

▶ 7つの特徴

Seven Key Features

地域社会イニシアティブ・コースは、地域行政、地域政治、地域経済、地域教育、地域の社会活動に関わっておられる社会人の方々や、地域づくりについて深く学びたい、自らの地域貢献のあり方について十分に議論したいと考えておられる市民の方々を受け入れる器でありたいと考えています。そのため、ここでの講義は次のようなスタイルを特徴としています。

1. 仕事をお持ちの社会人のみなさんのために、平日夜間と土曜日に開講します。

---

入学対象者を社会人に限定することで、平日夜間開講(午後6時30分～)と土曜日開講(午後1時～)を実現しました。
2. 最低修業年限は2年間、修了者には「修士(経済学)」の学位が授与されます。

---

2年間で「修士(経済学)」の学位を取得することができるカリキュラムを用意しています。そのため、自分のフィールドでの経験を活かしながら大学院で学び、同時にキャリアアップをはかることが可能となっています。
3. 1学年の定員を6名として、少人数による参加型の講義を行います。

---

少人数参加型の「ディスカッション」や、複数の専門教員とのインタラクティブなスタイルの「ワークショップ」を中心とした講義形式を実現しています。
4. 講義はわかりやすく、具体的、実践的な内容を扱います。

---

わかりやすく具体的、実践的な内容を盛り込み、フィールドの第一線で活躍している方をゲスト講師に招いたり、実際にフィールドに出向く機会を設けることで、大学内に限らない地域を巻き込んだ教育を実現しています。
5. 地域の行政、経済、社会、労働、環境、文化などの問題を専門的に学びます。

---

地域づくりの基本となる考え方を専門的に学ぶため、それぞれの分野に精通した教員を配したカリキュラム体系を用意しています。
6. 大学スタッフ、地域のさまざまな分野で活躍している人たちとの出会いと交流の場です。

---

地域社会イニシアティブ・コースには、民間企業に勤務されている方だけでなく、地域づくりに関わるNPOのスタッフや起業家、自治体職員や学校の教職員、ボランティア活動をされてきた方など、さまざまな経験を持つ社会人が在籍しています。さらに、社会人大大学院生専用の交流・学習のスペースとして、常時利用可能な院生室を設置しています。


7. 就学助成制度により、無理なく計画的に履修することができます。

---

社会人学生等で2年の修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に履修することが認められれば、年間の授業料負担を軽減する「長期履修学生制度」を設けています。また、地域社会イニシアティブ・コースは、「厚生労働大臣指定教育訓練給付制度講座」に指定されているため、一定の条件を満たす場合、支払った授業料の一部が還元されます。制度の概要については、[こちら](#)をご覧ください。

(出典：経済・社会政策科学専攻ホームページ「コース紹介／7つの特徴」)

資料経院 47：社会人のための教育体制について

概要

社会人大学院とは、一般に勤務したり起業したりしている社会人を入学対象とした大学院のことです。

「信州大学経営大学院」では、2年間で所定の単位取得と審査を経ることでマネジメント修士長の学位が取得できます。

社会人院生が勤務を続けながら通学して、授業単位の修得が可能です。

	時間	火	水	木	金	土
2時限	10:40～12:10	—	—	—	—	○
3時限	13:00～14:30	—	—	—	—	○
4時限	14:40～16:10	—	—	—	—	○
5時限	16:20～17:50	—	—	—	—	○
6時限	18:00～19:30	○	○	○	○	○
7時限	19:40～21:10	○	○	○	○	○

（○は通常の開講時間）

日曜祭日や夏休み期間を利用した集中講義なども開講されます。

もちろん、働きながら学ぶことは、簡単なことではありません。

在學生は、職場や家庭などの理解と協力を得て、時間をやり繰りしながら通学しています。

授業は毎回、遅刻せず出席することが望ましいことは言うまでもありませんが、仕事などの都合で、時には遅刻したり、欠席したりせざるを得ない時もあります。その場合でも、ケース討議のように出席者同士のディスカッションによって進められる科目もありますが、多くの授業で、講義要録をウェブ上で院生に提供するなどの「e-Learning」が可能となっており、欠席しても授業内容をフォローすることができます。

更に授業日以外に教員のオフィスアワーが設けられており、授業内容や、各々の抱える課題研究などの質問をすることもできます。

（出典：イノベーション・マネジメント専攻ホームページ「信州大学経営大学院について」）

・ワークショップ科目（土曜開講）による実践的教育

全員に履修を奨励するワークショップ科目を土曜日に開講し、政策提言につながる各自の研究テーマ・論文について討議する科目や、地域課題の発見や交流に赴く科目などを開講している。これらの科目では、院生による実践や発表レジュメ・レポート等を編集し共有している（資料経院 48、49）。

資料経院 48：土曜開講のワークショップ科目一覧

開講年度	開講期間	授業名	教員氏名	曜日・時限
2015	通年	個人課題研究ワークショップⅠ	金 早雪 他	土不定
2015	通年	個人課題研究ワークショップⅡ	金 早雪 他	土不定
2015	後期	地域活性化ワークショップⅠ	武者 忠彦	土不定
2015	後期	地域活性化ワークショップⅡ	武者 忠彦	土不定

（出典：経済学部作成）

資料経院 49：個人課題研究ワークショップ I シラバス

登録コード	KA040501			担当教員	金 早雪 他
授業科目	個人課題研究ワークショップ I			副担当	徳井 丞次・沼尾 史久・美甘 信吾
英文授業名	Workshop on Research Method I				
単位数	2	講義期間	通年	曜日・時限	土曜・不定期
講義室		授業形態	演習		
<p>(1)授業のねらい</p> <p>大学院に入学したばかりのM1の皆さんにとっては、今後大学院で研究を続けていくためのベースメーカーとしての役割を果たす院生参加型の授業です。</p> <p>学位論文作成にあたるM2の皆さんにとっては、研究方法及び論文の構成や叙述等について、研究仲間や教員らから助言を得る機会です。</p> <p>多くの大学院では、入学後に指導教官の指導を受けながら個別に研究を深めるスタイルが主流です。そのため、院生は研究上の問題を院生とシェアすることなく、一人で抱え込んでしまうことが少なくありませんでした。</p> <p>地域社会イニシアティブ・コースでは、入学当初からクラス運営制度を導入し、同じ年に入学した院生同士で研究内容を報告し合い、情報やコメントを交換しながら研究を進めていくという独自のスタイルをとっています。この科目は、そうしたクラス運営制度のもとで開講される科目の一つです。</p> <p>※ 本コース院生皆さんが履修を推奨されている、土曜日・通年開講科目の一つです。 ※ 参加型、体験型の授業を称して「ワークショップ」と言います。</p> <p>【授業で得られる「学位授与の方針」要素】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報収集能力及び情報分析能力：上記のクラス運営を通して</li> </ul> <p>(2)講義の概要</p> <p>M1生・M2生を対象に、複数教員（おもに大学院運営委員）が担当するワークショップ形式の大学院講義で、本コースの事実上、「必修」科目です。</p> <p>個人課題研究ワークショップは、修了時に提出する特定課題研究論文に向けて、それぞれの皆さんの研究テーマや研究の進捗状況を報告してもらい、参加者全員でセッションを行なうことが主な内容となります。</p> <p>この科目のI IIとも履修済みの長期履修生の場合も、M2発表会に必ず参加（発表）するほか、それ以外も極力、出席して討論に参加することが望まれます。</p> <p>特別な連絡がない限り、開講日の午後1時から午後6時までの3コマ連続で開講することになります。</p> <p>本ワークショップは、大学院運営委員会の教員、その他の専任教員が必要に応じて参加します。</p> <p>(3)授業計画</p> <p>下記の通り。但し、変更の可能性あります（4月オリエンテーション時に再度確認します）</p> <p>4月11日：M1、M2合同のオリエンテーション 4月18日：M2研究発表会 ※</p>				<p>4月25日：M1 研究報告会（第1回：研究テーマの検討） 7月4日：M2 中間報告会 ※ 7月25日：M1 研究報告会（第2回：研究テーマの絞り込み） 9月26日：M1 研究指導（テーマと研究方法）に係る合同指導【出席はM1のみ】 3月5日：修士学位論文発表会（公開）</p> <p>※（M1対象）4月18日11時～12時に附属図書館にて文献・記事等の検索指導を行います。 ※ M2各自の研究指導担当教員も出席いただく予定です（必要があれば時間調整します）。</p> <p>(4)成績評価の方法</p> <p>毎回の出席と決められた報告会での発表内容および課題（レジュメ）を勘案して成績評価を行います。</p> <p>無断欠席は認めません。欠席の場合は、必ず事前に連絡を入れ、当日配布予定の資料・レジュメを後日に提出するようにしてください。</p> <p>(5)履修上の注意</p> <p>M1・M2での履修を推奨します（I IIとも、事実上「必修」とお考えください）。</p> <p>クラス単位で授業を進行しますから、入学年次の横のネットワークを育てることが可能となります。M1とM2の皆さんとのワークショップ型講義ゆえ、地域社会イニシアティブで学ぶ全ての院生の皆さんとネットワークを作ることができます。言うまでもないことですが、こうした人的ネットワークこそが、社会人大学院で学んだ財産となります。</p> <p>長期履修制度によるM2以上の皆さんにも、できる限りこの授業にも参加し、教員や院生同士で情報交換を行なうことを強くお勧めします。</p> <p>(6)質問、相談への対応</p> <p>質問、相談は、大学院運営委員会に属する教員にメール等でご連絡ください。</p> <p>【教科書】 特になし 【参考書】 特になし</p>	

（出典：信州大学ホームページ「シラバス検索システム」）

- ・「調査、分析、情報発信の方法 I」による実践的科目の土曜日開講  
ワークショップ科目同様、土曜日開講で情報収集能力や情報分析能力を高めるために調査・分析等の手法を実践的に修得する科目であり、受講を推奨している（資料経院50、51）。

資料経院 50：調査・分析・情報発信能力を高める実践的教育方法「質的社会調査の実践報告集」

調査、分析、情報発信の方法 I (質的社会調査法)

地域社会イニシアティブ・コースの基礎科目のひとつである「調査、分析、情報発信の方法 I」では、調査研究の方法として「質的社会調査法」を学びます。この授業は、聞き取り調査や文献調査をもとに一次資料を収集し、それを分析して調査報告を作成するまでの一連の流れを実際に体験しながら学ぶものです。



インタビュー調査の実習風景



実習で作成した報告書

（出典：経済・社会政策科学専攻ホームページ「講義と研究」）

資料経院 51：調査，分析，情報発信の方法 I

登録コード	KA030101				
授業科目	調査，分析，情報発信の方法 I			担当教員	井上 信宏
英文授業名	Sociological Research			副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	土曜・不定期
講義室		授業形態	講義		
<p>(1)授業のねらい この授業では、社会調査法のうち「質的社会調査法」をとりあげ、質的社会調査の理論的背景、調査仮説の設定、データ収集、データコーディング（分析）、報告書やモノグラフ（論文）の作成を学ぶ。</p> <p>【授業で得られる「学位授与の方針」要素】 ・「情報収集能力および情報分析能力」→ 講義の参加ならび課題の提出を通じて</p> <p>(2)講義の概要 この授業では、グループワークを教場の手段として、社会調査を扱った文献の輪読を行ない、質的社会調査法とは何かを学ぶ。それをもとに、実際に質的社会調査を行うための作業仮説（リサーチクエスション）の作成を学ぶ。その上で、収集したデータのコーディング方法を体験的に学ぶ。</p> <p>いずれの作業も、原則としてグループワークを通じて実施するため、すべての授業に参加することが原則となる。</p> <p>(3)授業計画 ▼スケジュール ・5月 9日（土曜日）13時～ ・5月 23日（土曜日）13時～ ・5月 30日（土曜日）13時～ ・7月 4日（土曜日）9時～（この日はM2の中間報告会です。この授業は午前中に開講する） ・7月 11日（土曜日）13時～ ・夏季休業中に一度、それぞれの研究をベースにしたリサーチクエスションの検討会を予定している。</p> <p>(4)成績評価の方法 この授業では、1）毎回の参加状態、2）提出課題、を勘案して成績評価を行う。 グループワークを中心に授業が進行するため、すべての授業に参加でき</p>				<p>るようにスケジュールを調整してほしい。また、毎回課される課題は次回授業の予習を兼ねているので、忘れず課題をこなしてほしい。</p> <p>(5)履修上の注意 少人数、参加型の授業のため、全回出席を原則とする。 授業には各自ノートパソコンを持参すること。また、学内の無線LANか、各自のWiFi環境を確保して、インターネットに接続できるようにしておくこと。 授業では、チャットワーク、Dropbox、Evernoteを利用する。開講までに、インターネット上でそれぞれのサービスの登録を済ませておいてほしい。いずれも無料で利用できるインターネット上のサービスであるが、Evernoteについては、作業の中で有料のバージョンアップを図る可能性がある（1年間4000円）。 実習では、ICレコーダーのような録音機材が必要になる。また、デジカメのような撮影機材があると作業が便利である。それぞれ、スマートフォンの機能を用いるなど、各自で対応できるようにしておいてほしい。</p> <p>(6)質問、相談への対応 講義中に質問や相談に応じる。 チャットワーク等を通じて、常時質問を受け付けている。 電子メールでも質問を受け付けている（メールアドレスは、便覧を参照のこと）。</p> <p>【教科書】 ▼受講生は5月の開講までに、以下の書籍を入手して読了しておくこと。 ・伊藤修一郎 [2011] 『政策リサーチ入門：仮説検証による問題解決の技法』東京大学出版会 ・轟亮・杉野勇（編） [2010] 『入門・社会調査法：2ステップで基礎から学ぶ』法律文化社 【参考書】 授業中に紹介する。</p>	

(出典：信州大学ホームページ「シラバス検索システム」)

・夜間開講の実施

政策提言につながる専門科目は選択科目として平日夜間に開講している（資料経院 52）。

資料経院 52：夜間開講の専門科目一覧

経済・社会政策科学専攻

開講年度	開講期間	授業名	教員氏名	曜日・時限
2015	前期前半	調査，分析，情報発信の方法 II	椎名 洋	水・6-7 限
		地域の産業と雇用 IV	長瀬 一治	金・6-7 限
	前期後半	地域の生活と福祉 I	西村 直子ほか	水・6-7 限
		地域の産業と雇用 II	六浦 光一	木・6-7 限
		地域の産業と雇用 III	関 利恵子ほか	金・6-7 限
	後期前半	グローバル化時代の地域社会 III	山沖 義和ほか	月・6-7 限
		地方自治と地域社会 I	沼尾 史久	水・6-7 限
	後期後半	地方自治と地域社会 IV	都築 勉	火・6-7 限

イノベーション・マネジメント専攻

開講年度	開講期間	授業名	教員氏名	曜日・時限
2015	1 学期	技術開発論 I	北澤 君義	火・6-7 限
		経営戦略論	今村 英明	水・6-7 限
		市場関連特論 I	樋口 一清	木・6-7 限
		経営組織論	柴田 匡平	金・6-7 限
	2 学期	組織論特論 III	橋本 規之	火・6-7 限

		中小企業経営特別講義	大野 雄三	水・6-7 限
		人的資源管理論	鈴木 智弘	木・6-7 限
	3 学期	イノベーション概論	橋本 規之ほか	火・6-7 限
		マーケティング論	牧田 幸裕	水・6-7 限
		組織の診断と革新	今村 英明	木・6-7 限
		技術開発と事業化	赤羽 正雄	金・6-7 限
		会計特論	西山	火・6-7 限
	4 学期	ロジカル・プレゼンテーション	牧田 幸裕	水・6-7 限
		企業の社会的責任	樋口 一清	木・6-7 限

(出典：経済学部作成)

平日夜間の選択科目は、各科目を8週間単位で履修する、4学期制をとっている（資料経院 53）。

資料経院 53：科目別の開講形態と学年別履修方法

標準的な履修モデル								
開講期間	1 年次				2 年次			
	前期前半 (4-5月)	前期後半 (6-7月)	後期前半 (10-11月)	後期後半 (12-1月)	前期前半 (4-5月)	前期後半 (6-7月)	後期前半 (10-11月)	後期後半 (12-1月)
土 曜	個人課題研究ワークショップ I (2単位)				個人課題研究ワークショップ II (2単位)			
	調査, 分析, 情報発信の方法 I (2単位)		地域活性化ワークショップ I (2単位)					
随 時			研究指導 I (2単位)		研究指導 II (2単位)		研究指導 III (2単位)*	
平日夜間	選択科目 (8科目16単位以上) —— 本学・経営大学院から4科目8単位まで取得可 ——							

\*必修了(最終)学期に単位認定されます。

(出典：経済・社会政策科学専攻リーフレット)

・研究指導の工夫

1年次後期からの指導教員による個別研究指導は随時、定期的に対面形式で行うという体制をとっている。

研究テーマ・論文の指導は、指導教員によるほか、修士1、2年生の合同参加による「個人課題研究ワークショップ」（前掲資料経院 48、49、p31、32）において運営委員による複数指導も併行させている。長期履修の上級生も、研究発表を促している。

③ 修士学位論文の発表会（公開）

毎年3月初旬の土曜日に、修士学位論文の発表会（公開）を開催し、同窓会員、次年度入学予定者、志願希望者その他関係者の参加を得ている。在学生はいずれかの論文について予定討論者として、事前に読んでコメントすることが課されている（資料経院 54、55）。

資料経院 54：論文発表会の案内

平成26年度修士学位論文発表会のお知らせ

平成26年度修士学位論文発表会を開催いたします。

下記日程となりますので、みなさまのご参加をお待ちしております。

記

【日時】平成27年3月7日(土) 14:00～16:30(受付13:30～)

【会場】信州大学 経済学部 新棟6階 会議室 (松本市旭3-1-1)

【論文題目】(発表順)

「寺院と地域社会との新しい関係  
-阿字観実修を活用した寺院活動-」

「中国人研修/技能実習生の募集から帰国後までの実像  
-仲介業務12年の経験からの考察-」

「韓国の産学連携型「マイスター高校」の挑戦  
-教育と労働をつなぐ試み-」

「女たちが織りあげてきた「裂き織り」という文化  
-長野県小谷村の「まる織り」における若手育成と技術向上のための環境づくりにもけて-」

「衰退する地方都市の根本的再構築」

信州大学大学院  
経済・社会政策科学研究科  
経済・社会政策科学専攻  
地域社会イニシアティブ・コース  
修士学位論文発表会

(出典：経済・社会政策科学専攻ホームページ「TOPIX」)

資料経院 55：論文発表会概要

平成 27 年度 修士学位論文発表会 概要

日時：平成 28 年 3 月 5 日（土）14：30～18：00

場所：経済学部 6 階会議室

- 発表 1： 諏訪地域における工業生産構造の変容と企業の存続条件
- 発表 2： 中山間地域におけるコミュニティの再構築  
—A 町 O 地区にカフェをつくる意味—
- 発表 3： 食の安全に関する付与情報が及ぼすリスク判断への影響  
—リスクコミュニケーションのための実験的考察—
- 発表 4： 地方議会への幻想—O 町議会を事例として—
- 発表 5： 少子高齢・人口減少社会における地方自治体の政策形成の在り方について—  
公共施設統廃合に係る課題を中心に—
- 発表 6： 長野市門前地区における生きられた経験を通してみる「まちづくり」という活動



\*修士学位論文発表は、各発表について、口頭発表 10～12 分、M1 院生による予定質疑 3～5 分、フロアから質疑、発表者リプライ、指導教員コメント、計 30 分で進められました。

\*以下は M1 予定質疑者による概要の報告です。ただし、一部はイニシャルなどに改訂しています。

発表 1. 諏訪地域における工業生産構造の変容と企業の存続条件

<発表内容>

諏訪地方の中小製造業は、地域の大手企業の構造変化により、他の地域と比較して早めの '70 年代初頭から産業構造の転換を迫られてきた。本研究は、現在存続する中小製造業が、いかにして変化への対応能力を獲得し存続してきたのかを明らかにすることを目的としている。研究は、中小製造業者への聞き取り調査の分析を中心に実施され、結果として、協力会社との家族的な繋がりを大切にきた地元大手企業の構造転換の事前通告が、中小企業を企業城下町体制から早期に脱却させたこと、および、企業自身が基盤技術の高度化と生産設備の自製化を行い、納期短縮、試作品対応等の顧客要求に、迅速に対応できるフレキシブルな生産体制を構築していることが、存続条件のひとつである事が示唆されている。

<感想>

普段は数字でしか触れる機会が無い中小企業の姿を、聞き取り調査を中心とした研究により浮き彫りにし、論文読者に企業の“今”を実感させた功績は、非常に貴重であると思われる。

<質問>

- ① 聞き取り調査対象の企業様は、比較的大きな従業員規模の中小企業が多いと思われる。従業員規模が小さい会社と大きい会社では、研究結果に違いが生じるのであろうか？
- ② 研究結果で得られた中小企業の存続条件である“フレキシブルな生産体制”の実現には、相応の投資が必要となる。投資にはリスクが伴い、投資判断も存続条件の一つであるように思われる。研究を通じて得られた、考察があればお聞かせ願いたい。

<質問回答>

今回の研究に際し、操業 30 年以上、かつ、従業員 30 名以上の企業様に対して聞き取り調査の依頼を行った。残念なことに、ご了承を得られたのが、今回の調査対象の 13 社であった。また、投資判断に関しては、経営的な視点からの考察も試みようとしたが、時間的な制約があり考察を終了する迄には至っていない。質問内容は、今後の研究の課題とさせて頂きたい。

\* 指導教員の補足

諏訪地域は現在もなお活力ある製造業を残す特徴ある地域であり、そのことも研究の意義として強調してよいと思う。また、諏訪地方には企業向けの生産設備（特殊生産機械）を受注して製造する企業が多く存在しており、このことが同地域の製造業自身の設備の改良・更新に寄与しているものと考えられる。

発表2. 中山間地域におけるコミュニティの再構築  
—A町O地区にカフェをつくる意味—

<発表内容>  
報告者は地域おこし協力隊として3年間、阿南町の人々の生活の中に入り、地域に暮らす人々の声をインタビューで拾い上げた。そこから見えてきた地域課題(①人間関係②情報の流通③高齢化にともなう居場所、相談④女性がビジネスできる場所)を解決するための一つの方法として、自身がコミュニティカフェを阿南町にオープンすることを提案した。コミュニティで抱える課題を解決するには「身体的なコミュニケーションを通してコミュニティの感覚を醸成する場が求められている」とし、自身が起業するカフェの機能や空間の在り方などについて発表した。

<感想>  
3年間、町の人々の生活の中に入り、そこから声を拾い上げて、周りのキーパーソンを巻き込み・巻き込まれていった過程の賜物の論文だと感じた。この大学院では、「地域社会のどんな課題を自分事として引き受けるか?」という問いを1年目に突きつけられるが、報告者はまさに自分事として受けとめるだけでなく、そこから発展する可能性を、机上の空論ではなく人生を通して実証しようとしていると感じた。

<質問>  
・論文の中で印象的だと感じたのは、「生活世界の共有」と「身体的なコミュニケーション」の必要性を説かれていること。「コミュニティで抱える課題を解決するには、身体的なコミュニケーションを通してコミュニティの感覚を醸成する場が求められている」と論文中にあるが、発表者が望んでいる新しいコミュニティ=生活世界を共有すること、はカフェという場だけではなく、カフェを作ろうという実践の過程そのものだと感じた。場をつくらうというその発信が、すでに本論文でも大事なテーマとして出てくる「コミュニティ意識」の醸成に寄与しているのではないかと思うがそのあたりについては論文では触れられていないので、現在の実践を通して教えていただきたい。

<全体を通して>  
コミュニティの背景について、生産と生活の分断、公から私への移行といった現代社会のテーマを先行研究から深められ、それを発表者のフィールドである「中山間地」が抱える問題、それを解決する場としてのカフェの必要性、と展開されている。

大きな次元(社会)から身の回り(地域社会)へと視点を移している点、またそこでご自身も地域のキーパーソンとして参与観察されている点が参考になった。

<報告者返答>  
「生活世界を共有する、身体的なコミュニケーションのあるコミュニティ」はSNSではなく、また趣味のコミュニティでもない、中山間地でのコミュニティは「あの家は洗濯物が干しっぱなしで大丈夫か」「ちゃんとお飯食べているか」など、文字通りその人の生活に介入することが必要である。しかし生産と生活の場が分断され、公から私へと移行している社会で、そういった横の関わりが可能になるにはどうしたらいいのか?コミュニティカフェがそのきっかけになると考えた。そのためにはカフェを運営するスタッフである自分がどう関わっていくか、今後の実践で示していきたい。

発表3. 食の安全に関する付与情報が及ぼすリスク判断への影響  
—リスクコミュニケーションのための実験的考察—

1 発表内容  
この研究では、「食の安全に関する付与情報が及ぼすリスク判断への影響」をミクロ経済学におけるリスク選好理論に基づいて定量的に解析する手法が提案されている。また、一般消費者と専門家や食品安全行政との認識の相違に対して、消費者団体が果たすべき役割は何かという著者の問いから、食の安全に関する情報を受け取った消費者がどのようなリスク判断をするのか把握し、あるべき情報提供の在り方が検討されている。

研究結果から4点の結論が導かれており、科学的情報の追加的付与がリスク回避度を軽減させ、その変化は情報の量よりも質に大きく依存することなどが示されると同時に、この確実同値量の指標がリスク判断の変化を捉える手段として実用的であることが示されている。

2 質疑内容  
(質問)  
個人属性がリスク判断に及ぼす影響を測定するために、重回帰分析に住居形態等7項目の変数を加えている点について、確実同値量に基づくリスク判断を測定するということでは、被験者の経済状況も大きく影響するように思える。変数に所得を反映する項目を加える必要はないか。

(回答)  
本研究における実験は学生を対象にしており、所得に大きな差はないと思われる。自宅か一人暮らしかということは変数に入れているため、間接的には経済状況を反映していると考えます。

(質問)  
実験における被験者への報酬について、報酬に金券を用いることは現金報酬ほどの信頼性を得ていないようであるが、この研究の実験参加者に対する報酬の妥当性についてはどうか。

(回答)  
本研究における実験は学生を対象に行ったもので、学生は質問には最後まで回答してくれることになっており、お礼は、実績に応じて支払う報酬の意味合いではなく、質問に最後まで回答してくれたお礼として渡したものである。日ごろの学生の様子を見て、学食でバランスよく食事をしてほしいと思っていたことから生協の食事券とした。

発表4. 地方議会への幻想—ある町議事を事例として—

<発表内容>

自身が地方議会の議員であることから、その実体験に基づき、地方の議会、議員の活動ぶり、それらへの住民の関わりについて、問題点を具体的に指摘した。議員は、全体的傾向として議員資質に疑問があること、議会の権限についての理解が不足している。一方、住民は、議会や議員に対して直接自分の利益に関わることをのみを期待する「合理的無知」の傾向がある。

この改善には、住民の政治文化の醸成が大切である。その為に、社会関係資本を大事にしていくことが必要で、この自治体については、自治会に可能性がある。

<質問>

- ① 社会関係資本の意味は広い。発表者は、自治会に可能性があるとしているが、今日、地域のつながりが崩壊傾向にあると様々指摘されているが、なぜ、自治会なのか。
- ② 研究全体を通して、自身の今後の議員活動に生かせることは、何か。

<回答>

- ① 当該自治体は人口が1万ほどの小さな町である。その為、地域においても顔見知りという関係が多く、地域での活動も活発に行われている。その特色より自治会の可能性をあげた。
- ② 住民の意識を変えていくことは大変困難である。議員として、地道に少しでも前進するように努めていきたい。

<フロアから>

・地域のイベントや集まりをするとき、地元の議員も呼ぶべきか迷うのだが、やはり、招いたほうがよいだろうか？

→ (回答) 議員の立場としては、そういう機会があればどんでん声をかけてもらいたいと思う。そうすればそのあとの発展にもつながりやすいと思う。

・コメントですが、他県の地方自治改革でよく知られる K 町は議会活性化と予算削減のために、議員定数を減らしたが、それでも選挙は無投票になったそうである。

<指導教員から>

他の議員自身による先行書などからモチーフを取り出すといったテキスト分析によって、自身の経験を裏付けするという研究方法をとり、隔週程度の指導のたびに、かなりの文献を読みこんできたことに感心した。

発表5. 少子高齢・人口減少社会における地方自治体の政策形成の在り方について

—公共施設統廃合に係る課題を中心に—

1 はじめに

評者自身も自治体職員として興味深く、また、評者の勤務する自治体にとっても参考になる内容であったと思われる。

2 研究内容

発表の題名は、「少子高齢・人口減少社会における地方自治体の政策形成の在り方について—公共施設統廃合に係る課題を中心に—」であり、現在どの自治体でも抱えるインフラの統廃合を問題としてとらえており、「公共施設の統廃合を行う上で、何が制約になっているのか阻害要因を探ることを目的とする。」といったものであった。公共施設の統廃合は、マインドの部分が一番大きいと考えられており、各地区にある保育園の統廃合は全く進まないのが現状である。また、その他の施設についても統廃合ではなく、長寿命化といった名で施設を維持していくことを検討されている。

この研究では、統廃合の阻害要因は、高齢者人口比率の高さと1人当たりの普通交付税の多さであると分析結果でまとめている。この2つの要素は、過疎の山村地域で高くなる傾向にあり、当然といえば当然の結果であるが、数値をもって客観的に示されたことは研究としての意味合いが大きいと思われる。

3 質疑

最後の結論で、税金が減少する中、民間企業の活力を利用したPFIやPPPを積極的に利用するよう検討した方が良いと結んでいるが、どちらの方策も10数年前から提唱されているが、地方の自治体で導入されたケースは皆無に等しい。対象とされた自治体で導入するとなると、どの様なケースが考えられるか？との問いに対し、別のある自治体では給食センターをPFIの手法で建設する検討が行われているので、同様のケースが最も現実的ではないかとの答えであった。

4 おわりに

発表者は長野県内全ての市町村についての分析を行っているということなので、評者の勤務する自治体のデータをいただき、資料とさせていただければ幸いである。

発表6. 長野市門前地区における生きられた経験を通してみる「まちづくり」という活動

## &lt;発表内容&gt;

地方都市において中心街の活性化が課題とされている。街路のにぎわいを損なう一因が、自動車利用を前提とし、また土地利用の純粋化を目指した近代的都市開発であることが指摘され、都市における多様性が求められている。

近年活発化している「空家のリノベーション」は、そうしたクリアランス型開発の対極にある行為である。その一例として、長野市門前地区をとりあげた。そこで生活・事業を営む一連の活動事例を調査し、「計画的意図のない」リノベーションがいかんして「結果を生み出し」ているのか、その継続や展開の仕組みを明らかにすることに取り組んだ。

## &lt;感想&gt;

中心部の空洞化と空室問題はどの地方にとっても課題である。その再生プロセスや人々の関わり方が「具体的に」示されたことは意義が大きい。ここに描かれた「数を少しずつ増やし・周囲に普及させていく・積み上げ型の取組」は、ともすればスローガンからハコものへと飛躍しがちであった施策に対し、その反省を促すものとして好対照である。

また、個人資金によるリノベーション事業がまちの再生に寄与したということは、「まちの再生に必要なのは『経済』である」ことを間接的に示唆している。なおかつそこに文化という軸を与え、「文化を伴った経済」の価値に触れつつ議論を進めたことも意義深い。

## &lt;質問&gt;

ここに描かれている「プレイヤー」たちは、それぞれ個人の努力によりリノベーション事業を成立させているが同時に、経済的な裏付けが脆いという印象を受けた。このような成り立ち方に持続性は期待できるだろうか。このエリアの将来性（持続性・継続性）についての見解をきかせていただきたい。

たとえばプレイヤーのひとりが「地元への還元」を強調していたが、その点がやはり重要なのだろうか。

## &lt;回答&gt;

指摘のとおり、「個人の努力」に頼る状況には持続性や拡張性の面で難しい点があると、調査をしながら感じていた。実際、現在の門前地区においては、リノベーション事業が可能な空き家はあるものの、事業を始めようとする人は減少傾向であると聞いている。すでにリノベーション事業を始めて数年経過した事業主も多く、それら事業主が古株として活動する段階になっている。おそらく、そういった意味で若干の飽和状態であることが一因として考えられる。

「地元への還元」という点については、本論文ではそれほど検討することができなかった。想像になるが、「地元」という言葉には「プレイヤー」のほか「不動産オーナー」や「地元住民」

なども含まれている。したがって、それぞれの主体に対する「還元」は意味が異なる。例えば、プレイヤーに対する還元は「門前地区やリノベーション事業の雰囲気を崩さない新しいプレイヤーを門前に入れる」こと、不動産オーナーに対しては「不動産価値を上げる」こと、地元住民に対しては「地域の安心・安全」などである。さらに「地元に対する想い」というものも加わり、多くの主体による多様な「還元」がうまくいきわたるような配慮が、「地元への還元」を指すと思われた。

## &lt;もう一步踏み込んでほしかった部分&gt;

本文では、何故あえてリノベーションなのか、という「小さな個人の動機付け」の解明に取り組まれている。インタビューの分析から、それを最終章にまとめているが、「人生観」といった域に留まっていると感じた。だがその領域を超えた分析は、困難であることも想像に難くない。たとえばそれを補完するものとして、そもそもなぜ空家・空店舗が生まれてしまうのか、また空き家を放置してもさほど咎められない社会構造・精神構造とは何か、といった裏側からのアプローチも伴えば、より厚みが増したのではないだろうか。

またしばしば、空き家のリノベーションと移住は対で語られる。その親和性に着目した分析からも、動機付けが見える可能性があるのではないかと思った。

## &lt;教員コメント&gt;

・発表内容は「門前地区のまちづくり」に重点が置かれていたが、研究の核は、「偶発性」の科学にある。つまり個々のリノベーション事業の相互作用によって起こる、偶然の連鎖やその結果をどう分析するのが目的であったと思う。

・戦後まちづくりの歴史の中で、こういったリノベーション事業をどう位置付けるのか、その分析が欠けている。「マイホームの獲得を目標とした幸福論」に対し、リノベーションという選択が何を意味するのか、深めてほしかった。

(出典：経済・社会政策科学専攻運営委員会作成)

④ ICTを活用した教育

4 大学間（横浜国立大、茨城大、広島大、信州大）の単位互換に関する協定により、遠隔授業の開講を行っている（前掲資料経院38、p22～23、資料経院56（別添資料）、57）。

資料経院56：ICTを活用した遠隔授業の実施例（別添資料）

資料経院57：ICTを活用した遠隔授業の開講状況

開講年度	授 業 名	受講者数	
		本大学院	他大学院
平成25年度	市場関連特論Ⅱ（グリーンマネジメント概論）	5名	0名
平成26年度	サステナブル・ガバナンス概論 （企業の社会的責任／環境経営論Ⅳ）	9名	3名
	環境政策概論（プロジェクト演習）	2名	0名
平成27年度	開講なし	-	-

（出典：経済学部作成）

⑤ アクションラーニングを活用した授業科目

グループで現実の問題に対処し、その解決策を立案・実施していく過程で生じる、実際の行動とその振り返りを通じて、個人、グループの学習する力を養成するアクションラーニングを活用している（資料経院58、59）。

資料経院58：学内版GP採択授業科目

平成27年度学内版GP採択一覧

取組部局	連携する他学部・機関	取組名称	取組担当者
経済学部	大学院経済・社会政策科学研究科「パースン・マネジメント」専攻（経営大学院）	社会科学特講「マーケティング」でのグループ・プロジェクト演習	今村 英明

（出典：学務課作成）

資料経院59：社会科学特講（マーケティング）シラバス

登録コード	K1103			担当教員	今村 英明
授業科目	社会科学特講*（マーケティング）			副担当	
英文授業名	Topics on Social Sciences			対象学年	2年生以上
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・2時限
講義室	経済第3講義室	授業区分	講義		
<p>(1)授業のねらい                  授業で得られる「学位授与の方針」要素/◎：全学共通                  ・社会科学には異なる視点やアプローチがあることを理解しつつ、これらの専門知識に基づき、将来の社会や組織の一員として、自らの課題を発見し、主体的に取り組むことができる。                  ・専門的知見を生かした発言を、明解で論理的な文章力や、口頭での表現力で発表することができる。                  ・経済学、経営学、会計学などの基礎知識を修得し、これらに応用した理論的思考ができる。                  ・◎対話を通じて他者と協力し、目標実現のために方向性を示すことができる【コミュニケーション能力、チームワーク力、リーダーシップ】                  【授業の達成目標】                  ・市場で機会や脅威を発見し、それに対処する基礎的なマーケティング企画・分析のスキルを理解・習得できます。                  ・課題の検討やグループ・スタディを通じて、発表能力を訓練することができます。                  ・経営学の一分野であるマーケティングの基礎知識を習得できます。                  ・グループ・ワークを通じて、他の学生との協働スキルやリーダーシップを学ぶことができます。                  【授業のねらい】                  経済学部学生の過半数は卒業後企業で働くこととなりますが、企業でもっとも重要なスキルは、リーダーシップ、会計、そしてマーケティングと言われています。このマーケティングとは、「市場で顧客の欲するものを探り、それに応えられる新しい製品やサービスを創造し、もっとも売れるやり方で市場に投入する活動」のことで、企業活動の中核を担っています。最近では、企業だけでなく、官公庁、金融機関、非営利団体でも、マーケティングが注目されてきています。この授業では、マーケティングの基礎を学びます。マーケティングのさまざまな実例を題材にして、一体マーケティングとは何か、なぜマーケティングが必要なのか、マーケティングの基本的な考え方や手法にはどのようなものがあるか、などを考えます。</p> <p>(2)講義の概要                  この講義は、2つの部分に分かれています。                  前半9回は、様々な業界でのマーケティングの事例を紹介しながら、マーケティングとは何か、なぜ必要か、どんな分析や活動を行なうか、など基礎的な流れとポイントを学びます。業見としては、製造業、ゲームソフト、農業、スーパーマーケット、食品、コンビニ、広告などを予定しています。                  後半6回は、学生がグループに分かれ、実際にマーケティングの企画を作成します。実際のマーケティング対象を選んで、その市場を分析し、具体的なターゲット顧客を想定し、売上アップの作戦を検討します。最後は、その対象について、実際にテレビ（またはネット）CM(コマーシャル)を作成し、教室内で発表してもらいます。これによって、机上の勉強にとどまらず、実際にマーケティング活動の一連の流れを体験学習することを狙っています。</p> <p>(3)講義計画                  1. オリエンテーションマーケティングとは何か：スポーツ・ドリンク                  2. マーケティング活動全体の流れ：家電                  3. 顧客を理解するには：ビデオゲーム                  4. 競争と差別化とは：食品スーパー                  5. 顧客ニーズを製品に反映させるには：住宅設備                  6. チャンネルとは：農産物                  7. セリング（営業）の役割は何か：家電                  8. 広告の役割は何か：CMプロデューサー                  9. サプライチェーンとは何か：コンビニ                  10. チームを束ねる グループワーク・オリエンテーション                  11. グループワーク (1) 市場を分析する                  12. グループワーク (2) STPを検討する                  13. グループワーク (3) 4Pを検討する                  14. グループワーク (4) コマーシャルを発表する                  15. 全体のまとめ</p> <p>(4)成績評価の方法                  個人ワーク 60%                  グループワーク 40%</p> <p>個人ワークは、授業の前半9回分について授業の振り返りレポートの作成・提出により、評価します。                  グループワークは、授業後半6回分のグループワークの成果物（マーケティング企画とコマーシャル）によって評価します。</p> <p>(5)成績評価の基準                  個人ワーク：授業振り返りレポートの提出状況とレポートの内容により評価します。原則すべての指定レポートを期日通り提出し、よく考えて丁寧に書かれていれば、高く評価します。提出遅れ・遅れ、内容の不適切・粗雑さなどに応じて、減点していきます。                  グループワーク：成果物の質により評価します。対象企業や店舗に推奨できるレベルのものを「卓越したレベル」とし、授業で学んだ概念などを適切に使っているレベルを「基準に達したレベル」と評価します。同一グループメンバーは、同一の評価とします。またグループに加わっていることが前提ですので、グループ不参加者はこの項目は0点になります。なおコマーシャルについては別途学生による人気投票を行います。その結果は授業の成績には反映しません。</p> <p>(6)事前事後学習の内容                  個人ワーク：授業振り返りレポートの作成と提出（前半の授業はほぼ毎回）                  グループワーク：マーケティング企画の作成のために、企画書の構成部分を少しずつグループで作成・提出（後半の授業のほぼ毎回）。さらにグループでコマーシャル映像を作成（第14回授業で提出）。                  事前学習はありません。</p> <p>(7)履修上の注意                  ・グループ・ワークを含んだ授業なので、受講者を最大66名までに制限します。希望者多数の場合は、上級生を優先し、さらに多い場合は、抽選にします。                  ・学習の材料は授業の中で提供されますので、出席を継続することが重要です。欠席は授業開始5分後に締め切ります。事前届け出のない欠席・遅刻は減点されます。4回以上の欠席は他の学生の迷惑になりますので、受講を取り消すことがあります。                  ・参加型の授業なので、教室で発言を求められることがあります。                  ・課題は、授業の中で出されるので、自分で考えたり調べたり、友人に相談したりして、対応してもらいます。これが主な前半の授業外の学習になります。課題の提出などは全てeAIPS経由になりますので、適宜eAIPSをチェックしてください。またその使い方もよく理解しておいてください。                  ・後半はグループワークになります。5～7名で一つのグループを想定しています。グループの組立は、授業開始後に指示します。                  ・グループワークは、校外（主として松本市内）の活動を含みます。また、最終的にCM(コマーシャル)を作成してもらうので、ビデオ機能とパワーポイントのあるIT機器をチームで用意してもらいます。</p> <p>(8)質問、相談への対応                  私は、ふだんは長寿キャンパスにいますので、何かあれば、毎回の講義の後、教室で捕まえて相談下さい。なるべく授業後暫く居残るようにします。                  またネットでの相談にも対応します。アドレスは下記のいずれかです。                  imamura@im.shinshu-u.ac.jp                  kumanekehideaki@yahoo.co.jp</p> <p>【教科書】                  教科書は使いません。必要に応じて、教師からプリントを配布します。プリントは、全て原則eAIPS経由ダウンロードしてもらいますので、eAIPSのチェックをお願いします。                  【参考書】                  小川孔輔、マーケティング入門、ISBN978-4-532-13369-6、日本経済新聞出版社、2009年、3800円                  石井輝彦・廣田幸光、1からのマーケティング、第3版、ISBN978-4-502-66660-9、中央経済社、2009年、2520円</p>					

(出典：信州大学ホームページ「シラバス検索システム」)

(3) 0Bの協力による在学生への教育提供

○経済・社会政策科学専攻同窓会の結成と公開セミナーの共催

地域社会イニシアティブ・コース創設から10年目の平成24年に「地域社会イニシアティブ・コース同窓会」が結成され、0Bが在学生の研究発表会等に参加したり、0B・現役同志で情報交換をしまったり、その他関係者も交えたネットワークを広げ始めているほか、平成26年には専攻(コース)主催のシンポジウムに共催している(資料経院60、61、62)。

資料経院60: 「地域における協働の未来」シンポジウムポスター



## 「地域における協働の未来」シンポジウム

平成元年(1989年)、社会人大学院「経済・社会政策科学研究科」の創設から25周年、さらに同研究科の「地域社会イニシアティブ・コース」創設(2003年)から11周年を記念して、「地域における協働の未来」と題する公開シンポジウムを開催します(入場無料)。大正期・大阪と平成・長野県の比較考察をもとに、地域づくりのための協働のあり方を展望しようという趣旨です。ふるってご参加ください。

**日時** 平成26年10月4日(土) 15時30分~17時30分

**会場** 信州大学 経済学部 第1講義室

- ・バス停「大学西門」下車
- ・お車の場合、キャンパス北側の市営「美須々駐車場」(有料)をご利用ください

◆「大正期大阪の<都市>社会政策—地域史からの教訓—」玉井金五氏  
(愛知学院大学教授、大阪市立大学名誉教授  
主著に『共助の稜線』、『大正・大阪・スラム』など)

◆「平成・長野県の協働実践報告」轟 寛逸 氏  
(長野県職員 前・県民協働NPO 課長、県民文化部私学・高等教育課長  
「長野県における協働推進の取組み」『社会政策』2013年5巻1号)

◆院生・修了生・フロアからコメント質疑とリプライ

入場 無料(準備のためなるべく事前にお申し込み願います)

主催 信大大学院 経済・社会政策科学研究科 地域社会イニシアティブ・コース

共催 同コース 同窓会



信州大学  
SHINSHU UNIVERSITY

お申し込み・照会: 経済学部 学務グループ

TEL 0263-37-2304(平日9:00~17:00)

E-Mail k\_grad@shinshu-u.ac.jp(24時間対応)



(出典: 経済・社会政策科学専攻運営委員会作成)

資料経院61：平成27年度開講「テーマ研究ワークショップ」講義概要

日時		場所	講師／テーマ(※以外は本コース修了生)
8/1(土)	13:30～15:20	大学・新棟4階	※ 金早雪(講義担当者)／ガイダンス
	15:30～17:00	402 演習室	橋住 真一／日系ブラジル人の生活と教育
8/22(土)	10:00～11:30	依田窪福祉会／上田市武石	村岡 裕／高齢者福祉の日本・台湾比較
	14:00～15:30	シーズ／下諏訪町	武山弥生・大木斉／発達障がい児支援
8/29(土)	13:30～15:00	東昌寺／松本市白板	下倉 亮一／長野県の高齢者交流・福祉活動
	15:15～16:45		飯島 恵道／3人称親密圏とグリーン・ケア活動
9/5(土)	10:00～11:30	NPO てくてく／松本市横田	桑原美由紀／精神障がい者就労支援
	14:30～17:00	【公開セミナー】 「就労支援の国際比較」 大学・新棟5階 第4講義室	芦沢茂喜／引きこもり家族会とその支援 ※ 李義圭(韓国職業能力開発院) ／韓国の社会的企業 ※ 福原 宏幸(大阪市大) ／フランスの就労政策
9/19(土)	11:00～12:30	大学・新棟4階 402 演習室	金正玉／私立高校における日韓交流教育
	14:00～15:30		車 憲／中国人技能実習制度の現状と課題
	15:15～16:45		本島 和人／下伊那における「満洲」移民研究

発達障がい児支援「シーズ」(下諏訪町)での演劇ワークショップ(8/22)



(出典：経済・社会政策科学専攻作成)

資料経院62：平成27年度「公開セミナー」

TOPICS一覧
TOPICS

平成27年9月5日(土)公開セミナー「就労支援の国際比較～日本・韓国・フランス～」のご案内

下記日程で公開セミナーを開催いたしますので、みなさまのご参加をお待ちしております。(参加無料)

記

【日時】平成27年9月5日(土) 14:30～17:00

【会場】信州大学 経済学部新棟5階 第4講義室(松本市旭3-1-1)

◎ご案内(詳細)はこちら



(出典：経済・社会政策科学専攻ホームページ「TOPIX」)

(4) 社会や地域へ向けた教育提供

社会や地域へ向けた教育提供として、セミナーや講演会、シンポジウム等を行っている(資料経院63、64、65、66)。

資料経院63：平成24年度開催

イノベーション・マネジメント専攻(経営大学院)10周年記念シンポジウム

経営大学院10周年記念シンポジウム 開催報告

期日：2012年12月1日(土) 13時～17時

信州大学工学部キャンパス内 総合研究棟1階 大会講室にて。

経営大学院関係者、修了生、一般のお客様、参加者総勢80名。

第一部「企業競争力と人材養成の課題」

川村 敏郎氏(株式会社コラボ・ビジネス・コンサルティング代表取締役、元 NEC 代表取締役副社長)

茂木 信太郎氏(亜細亜大学経営学部教授)

佐々木 敦則氏(日本無線株式会社 取締役常務執行役員 兼 長野日本無線株式会社 取締役)

水野 雅義氏(ホクト株式会社 代表取締役社長)

第二部「活躍する修了生 ～卒業生が語る大学院で得たもの～」

修了生による事例報告と、大学院への要望やあるべき姿の提起、自由討論。

主催 信州大学 経営大学院 10周年記念シンポジウム実行委員会

共催 信州大学 経営大学院 同窓会

(出典：イノベーション・マネジメント専攻(経営大学院)ホームページ)

資料経院64：講演会、シンポジウムの開催

開催年度	講演等名称	主催・共催
平成22年度	公開講義 「最新のマーケティング事情：顧客分析と従業員のモチベーション・マネジメント」	イノベーション・マネジメント専攻
平成22年度	公開講義 「経済・経営環境の変化に対応する人事管理・人材育成の方向」	イノベーション・マネジメント専攻
平成23年度	産業フェア in 善光寺2011協賛 イノベーション・マネジメント専攻(経営大学院)セミナー	イノベーション・マネジメント専攻
平成23年度～平成27年度	経営セミナー(資料71)	イノベーション・マネジメント専攻
平成24年度	イノベーション・マネジメント専攻(経営大学院)10周年記念シンポジウム(資料69)	イノベーション・マネジメント専攻
平成26年度	シンポジウム「地域における協働の未来」(資料66)	経済・社会政策科学専攻
平成26年度	信州大学イブニング・カレッジ(資料72)	イノベーション・マネジメント専攻
平成27年度	公開セミナー(資料68)	経済・社会政策科学専攻
平成27年度	地域連携シンポジウム「少子高齢化の中で地域金融機関の果たす役割」	イノベーション・マネジメント専攻

(出典：経済学部作成)

資料経院65：経営セミナー（一例：平成25年度開催時ポスター）

## 信用保証協会 経営セミナー

信州大学経営大学院・長野県信用保証協会共同公開講座

参加費  
無料

会場	開催日時	定員	申込期日
松本会場 松本東急イン	平成25年10月3日(木) <small>13時30分～16時30分(受付13時開始)</small>	50名	9月19日
小諸会場 小諸グランド キャッスルホテル	平成25年10月11日(金) <small>13時30分～16時30分(受付13時開始)</small>	50名	9月27日

**内 容：**

**松本会場**

◆講演  
「これからの社会環境の  
変化と企業経営」

講師：信州大学経営大学院  
教授 鈴木 智弘 氏

◆講演  
「産々連携と産学官金  
連携で地域を活性化！」

講師：栄成エレクトロニクス株式会社  
代表取締役会長 上野 保 氏

**小諸会場**

◆講演  
「価値多様化時代の  
経営革新の方向」

講師：信州大学経営大学院  
特任教授 大野 雄二 氏

◆講演  
「私の経営理念と当社製品の  
極限の技術に挑んだ歴史」

講師：多摩川精機株式会社  
代表取締役会長 萩本 博幸 氏

**主 催：** 長野県信用保証協会・信州大学経営大学院

**後 援：** 長野県経営者協会・長野県中小企業団体中央会・長野県商工会議所連合会  
長野県商工会連合会・長野県中小企業振興センター  
松本商工会議所・小諸商工会議所

（出典：イノベーション・マネジメント専攻（経営大学院）  
ホームページ「キャンパスイベント」公開講座）

資料経院66：平成26年度イノベーション・マネジメント専攻主催イブニング・カレッジ

**II 2月17日(火)～2月19日(木)午後6時30分～午後8時30分(申込不要、聴講無料)**

## 信州大学イブニング・カレッジ

場所：**信州大学工学部総合研究棟 2F 経営大学院講義室**

〒380-8553 長野市若里4-17-1 信州大学若里(工学)キャンパス内

主催：信州大学経営大学院、信州大学イノベーション研究・支援センター

**【開講内容】**

2月17日(火)「環境リスクのマネジメント」 橋本 規之 信州大学経営大学院准教授

2月18日(水)「地域企業の競争力の源泉を探る～持続可能な企業、地域とは」  
樋口 一清 信州大学経営大学院特任教授

2月19日(木)「持続可能な企業の事業承継戦略」 大野 雄三 信州大学経営大学院特任教授

（出典：イノベーション・マネジメント専攻（経営大学院）  
ホームページ「キャンパスイベント」公開講座）

6-45

(5) 学生の主体的な学習を促すための取組

○学生の主体的な学習を促すための環境の整備

本研究科では大学附属図書館とは別に、専門図書館として独自に経済学部資料室（資料経院67）を設置しており、専属の職員による資料の管理、閲覧、借覧事務、図書発注、受入管理等を行っている。同資料室はリーディングルーム、レファレンスルームを備えており、学生の演習の報告準備、論文作成等の用に供している。

また、ほかに院生専用施設として、各自が研究に従事できる「院生研究室」とワークショップ等の協動作業ができる「地域づくりのラウンドテーブル」の2室があり、いずれも無線LAN、パソコン、プリンターを常備し、入構カードにより24時間利用可能である。

資料経院67：経済学部資料室の利用案内

③ 経済学部資料室の利用案内

(1) 利用時間

平日 10時～17時

(図書委員会の決定により変更することがあります。その際は資料室前に変更時間を掲示します。)

(2) 閲覧

資料室の利用を希望する院生は、あらかじめ図書委員会の発行する「資料室利用カード」の交付を受けてください。利用する際にはこのカードをお持ちください。

同時に閲覧できる冊数は10冊以内です(所定の手続に従った閲覧の申込みが必要です)。

(3) 貸出

資料室の図書は「一般図書」と「帯出禁止図書」に分かれていますが「一般図書」に限り貸出ができます(貸出には「資料室利用カード」の携帯のほか所定の手続が必要です)。

「一般図書」……「閲覧図書」及び「帯出禁止図書」を除いた図書

「帯出禁止図書」… 辞典、地図、年鑑、統計・白書類、判例集、雑誌・紀要ほか図書委員会の定める図書

貸出冊数は15冊以内、貸出期間は1ヶ月以内です。

継続して図書を利用したい時は、他の利用希望者からの予約がないときに限り、引き続いて利用できます(ただし、改めて利用手続をしてください)。

利用する図書資料は丁寧に取り扱いってください。汚損・紛失等が生じた場合は、弁償もしくは修理費を負担していただきます。なお、他人への転貸は出来ません。

(4) 複写

所定の用紙に記入の上、係員の許可を得て学生証と交換に持ち出します。図書を複写するために、これを一時的に配架場所外に帯出することができます。

(5) その他

以上の注意事項に違反して資料室を利用する院生に対しては、貸出停止、閲覧禁止「資料室利用カード」の没収・不交付などの措置をとることがあります。

資料室の利用について疑問が生じたときは図書委員会または資料室事務員にお尋ねください。

(出典：経済・社会政策科学専攻履修案内)

・附属図書館の改築による学修スペースの増加

中央図書館（松本キャンパス）の改築を行い、学修スペースが増加（980 平方メートルから 2,380 平方メートル）した（資料経院 68）。

**資料経院 68：中央図書館の改築**

6月1日、中央図書館がリニューアルオープン！

平成 27 年 6 月 1 日（月）、平成 25 年秋から始まった増改築工事を終え、信州大学中央図書館がリニューアルオープンしました。

当日は、長野県産の杉を使った木製ルーバーに覆われた印象的な外観の新図書館の前でリニューアル式典が挙行されました。

新図書館では、耐震機能を強化し、学習スペースの拡充を行うとともに、学生の能動的学修の支援、大学と地域の交流促進などの、時代に即した新しい図書館機能の強化・充実を行っています。1階に飲食可能な自由学習スペース、2階に学習支援相談員が在席する共同学習スペース、3階にパソコンの使用を制限する「サイレントゾーン」を設けました。

この日、1階の展示コーナーには、木曾漆器や天蚕敷物、彫金による学章など、地域からの記念品の数々とともに、近く親族のご厚意により、その蔵書の一部が寄贈されることとなっている信州大学の前身の旧制松本高校出身の作家・北杜夫さんのサイン本等が展示されました。

一般開放後、新図書館はたちまち利用者で賑わい、記念写真を撮る学生の姿も多く見られました。

<新中央図書館の外観>

<テープカット>



（出典：信州大学附属図書館ホームページ「お知らせ」）

○他専攻授業の履修

本研究科内で他専攻授業 8 単位を上限として、履修することができる。

毎年、数名の院生が他専攻の授業を履修し、単位修得している（資料経院69）。

**資料経院 69：他専攻授業受講者数**

平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
1(1科目)	2(5科目)	3(4科目)	1(3科目)	2(7科目)	5(7科目)

（出典：経済学部作成）

（水準）期待される水準を上回る。

（判断理由）

経済・社会政策科学専攻では、年2回の公開研究発表会（正課の一環）に、毎回、同窓会メンバー等の参加を得ている。また、ワークショップ科目では地域現場に出向くほか、地域実践に携わっている学外ゲストを招くなどの実践的教育手法を取り入れている。その際、ゲスト講師として、地域福祉・活動等に携わっている修了生を交えたり、さらに一部は公開セミナーとすることで、現役院生・修了生と一般市民とのゆるやかな地域ネットワーク作りの場として機能している（前掲資料経院61、62、p 43）。

イノベーション・マネジメント専攻では、学生による授業評価が高水準で維持していること、アクションラーニング（前掲資料経院58、59、p40～41）について全学的にも意義のある取組例として平成27年度学内版GPに採択されたことにより、遠隔授業での受講生満足度もおおむね高いとし、上記の評価とした。講義や研究指導での個別ノウハウの共有化が進み、相互に手法を取り入れる例もある。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

(1) 履修・修了状況から判断される学習成果の状況

○進級・卒業・休学・退学等の状況

本研究科の進級・卒業・休学・退学等の状況、以下のとおりである(資料経院70、71、72)。

**資料経院 70：標準修業年限内修了率及び「標準修業年限内×1.5」年内修了率**

	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
標準修業年限内	54.5%	50.0%	57.1%	75.0%	73.3%	62.5%
標準修業年限内×1.5	77.2%	77.7%	100%	93.7%	81.2%	81.2%

※就職を有している方を対象とした、長期にわたる教育課程の履修制度を取り入れており、長期履修者も含む(前掲資料経院44、45、p29)。

(出典：経済学部作成)

**資料経院 71：退学，休学率**

	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
退学率	12.0%	2.1%	4.3%	4.5%	2.3%	0%
休学率	12.0%	4.3%	6.5%	6.8%	7.1%	11.6%

※退学率は、該当年度の在籍者で除した割合。  
 ※休学率は該当年度5月1日現在の数を該当年度の在籍者数で除した割合。

(出典：経済学部作成)

**資料経院 72：退学者数専攻内訳**

	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
経済・社会政策科学専攻	1名	1名	0名	0名	0名	0名
イノベーション・マネジメント専攻	6名	0名	2名	2名	1名	0名

(出典：経済学部作成)

(2) 院生・修了生の研究成果と社会活動

○院生・修了生の研究成果

M2院生(地域起こし協力隊員)がトヨタ財団研究助成を得たほか、修了生も、短大教員や博士課程進学者らが中心に活発に論文を発表している(資料経院73、74)。

**資料経院73：トヨタ財団助成**

HOME 助成事業について 助成の事例 トヨタ財団について

HOME > 助成の事例 > 国内助成(旧地域社会)プログラム

### 助成の事例 国内助成プログラム

2014年度国内助成プログラム（一般枠）助成対象一覧

「未来の担い手と創造する新しいコミュニティー 地域に開かれた仕事づくりを通じて」をテーマとして、地域資源を活用し、地域課題に取り組む仕事の創出とその担い手の育成に取り組むプロジェクトを支援しました（日本国内対象）。

各プロジェクトの概要、助成金額などの詳細は「[助成対象検索](#)」ページに助成番号を入力して検索してください。

 **助成対象検索** 

下記の一覧は、2015年3月11日当財団理事会決定時の情報です。

D14-L-0226	小谷村の伝統文化「小谷織り」をビジネスに！ 一昔からある物を新しい形に、女性の力を最大限に活かした仕事を生み出すプロジェクト	相澤 晴美	小谷織り起業プロジェクト チーム	長野
------------	--	-------	---------------------	----

(出典：トヨタ財団ホームページ「国内助成プログラム」)

資料経院 74：経済・社会政策科学専攻：院生・修了生の学業成果

年度	現役院生	修了生
平成 21	<ul style="list-style-type: none"> <li>論文：村岡裕（福祉法人職員）「各国の福祉事情（第 61～63 回）台湾の高齢者福祉（1～3）」『月刊福祉』92（12）（13）93（1）</li> <li>講師：武山弥生「軽度発達障害を学ぶ」放送大学山梨学習センター心理学研究会第 4 回勉強会、長野県ことば・きこえ親の会勉強会、下諏訪町民生委員向け研修会 11 月 24 日、安曇野市社会福祉協議会研修会 11 月 18 日</li> </ul>	
平成 22	<ul style="list-style-type: none"> <li>シンポジスト：村岡裕（福祉法人職員）「学び直しシンポジウム NEXT：「福祉改革という福祉実践」『地域総合研究』（11），353-378</li> <li>パネラー：武山弥生「発達障害支援を語る」田口・武山弥生トークセッション 6 月 15 日 湯河原「色えんぴつ」主催</li> <li>講師：武山弥生 2010 年度子育て</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>セミナー（松本市市立博物館主催 5 月 22 日）対談：福嶋良晶（自治体職員）「暮らしに根差した井戸と湧水」『第 2 回 勸館楽学対談記録集』 <a href="http://www.city.matsumoto.nagano.jp/sisetu/marugotohaku/siritu/books.html">http://www.city.matsumoto.nagano.jp/sisetu/marugotohaku/siritu/books.html</a></li> <li>学会共同発表：奥恵理香（博士課程在籍）ほか「安曇野市中房温泉の商標使用差止申請をめぐる守るべき「温泉地の歴史」」学術講演梗概集．F-2，建築歴史・意匠 2010，509-510，2010-07-20</li> </ul>

	<p>講演会「親と子が共に育つということ ～発達障害と共に生きる体験から」10月21日下諏訪町総合文化センター 下諏訪町 PTA 母親委員会、学童保育研修会 11月19日</p>	
<p>平成 23</p>	<p>・共著出版：<u>飯島恵道</u>（住職）ほか『新・仏教とジェンダー』女性と仏教 東海・関東ネットワーク編，梨の木社  <a href="http://www.jca.apc.org/nashinoki-sha/idea/sisou&amp;bunnka41.htm">http://www.jca.apc.org/nashinoki-sha/idea/sisou&amp;bunnka41.htm</a>          ・論文：<u>村岡裕</u>（福祉法人職員）「法人間連携による介護人材育成」『月刊福祉』95(9)，29-33，2012-07</p>	<p>・出版（単著）：<u>大目富美雄</u>（自治体職員）『あの農産物直売所は，なぜ元気なのか？』木曾オールプリント株式会社書籍部 <a href="http://www.ome-fumio.com/">http://www.ome-fumio.com/</a>          ・有志（フォーラム）による研究誌『フィールド』5号          ・論文：<u>増田榮美</u>（短大教員）「リゾートウェディングを志向する消費者傾向の分析」上田女子短期大学紀要（34），143-160，2011          ・論文：<u>合津千香</u>（短大教員）「住民による小地域福祉活動と地域自治--松本市笹賀地区の活動をとおして」松本短期大学研究紀要（20），9-18，2011-03          ・共著論文：<u>増田榮美</u>（短大教員）ほか「短期大学生の職業意識の変化1」観光文化研究所所報（9），1-25，2011-03          ・学会共同発表：<u>奥恵理香</u>（博士課程在籍）ほか「中房温泉における宿泊施設の変容とその契機」学術講演梗概集．F-2，建築歴史・意匠 2011，301-302，2011-07-20          ・セミナー講師：<u>武山弥生</u> 2011年 上田市公民館同和推進委員会講座「発達障害って何だろう」平成23年9月29日 上田市公民館          ・パネラー：<u>武山弥生</u> 日本自閉症協会ネットワーク会議 パネルディスカッション          平成23年1月15日 あがたの森開催          ・シンポジスト（話題提供）：<u>武山弥生</u> 日本LD学会自主シンポジウム：第20回大会 平成23年9月東京 発表論文集「母子を中心とした家族支援の試み～「発達障害児・者及び家族支援の会シーズ」における支援～」 P51, 208</p>
<p>平成 24</p>		<p>・論文：<u>合津千香</u>（短大教員）「自治体内分権下の地域福祉推進組織のあり方」松本短期大学研究紀要 - (21)，3-13，2012-03          ・論文：<u>宮守代利子</u>（博士課程在籍）「有償ボランティアの提起する問題に関する考察」社学研論集（20），30-45，2012          ・共著論文：<u>増田榮美</u>（短大教員）ほか「短期大学生の職業意識の変化2」上田女子短期大学紀要（35），1-25，2012          ・共著論文：<u>合津千香</u>ほか「障害者の外出支援の体験学習の試み：学習の教育的効果と課題」松本短期大学研究紀要 - (21)，45-58，2012-03          ・共著論文：<u>増田榮美</u>（短大教員）ほか「短期大学生の職業意識の変化3」・上田女子短期大学紀要（35），85-110，2012          ・学会共同発表：<u>奥恵理香</u>（博士課程在籍）ほか「中房温泉の林間学校校舎に関する復元的考察」学術講演梗概集 2012(建築歴史・意匠)，65-66，2012-09-12          ・セミナー講師：<u>武山弥生</u>「子どもとあそび ～育ちを支える側のまなざし～」平成25年5月15日 下諏訪町 おもちゃ図書館長野県総会</p>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・寄稿：<u>武山弥生</u>「地域における発達障害児の母親支援を目指して ―大学院での学びと支援団体設立―」Field 第5号 信州大学地域社会イニシアティブ・フォーラム 2012.3 P24-38</li> <li>・シンポジスト（話題提供）：<u>武山弥生</u>日本保育学会第65回大会（関東ブロック）平成21年5月4日東京 「発達障がい・「スペクトラム」の子と親の支援―〈早期発見・早期療育〉を越える保育の役割―」発表要旨集 P162</li> <li>・発表者：<u>武山弥生</u>第43回関東地区知的障害福祉関係職員研究大会長野大会 第8分科会 自閉症支援（中・上級編）平成24年6月14日 軽井沢 テーマ「生きにくさを支援する～高機能自閉症に対する支援の現状と課題～」 「発達障害児・者及び家族支援の会であるシーズの歴史と成果について」 P150-152</li> <li>・発表者、シンポジスト：<u>武山弥生</u>厚生労働省 平成23年度発達障害者就労支援事業「発達障害当事者と支援者の体験交流会 北陸甲信越ブロック 平成24年3月3日 ホテルブエナビスタ</li> <li>・論文：<u>宮守代利子</u>早稲田大学社会科学部 社会学研論集 「有償ボランティアの提起する問題に関する考察」（vol.20 2012年9月）、「社会的責任と法の支配に関する一考察 ―IS026000に関連して―」（vol.21 2013年3月）</li> </ul>
<p>平成 25</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・セミナー開催：<u>飯島恵道</u>（住職）／ケア集団ハートビート「悲嘆学スペシャル」2月23日【※信毎記事 20130110】 <a href="http://kokucheese.com/event/index/71574/">http://kokucheese.com/event/index/71574/</a></li> <li>・論文：<u>芦沢茂喜</u>「事例研究(28)精神科未受診者への地域生活支援：リスクと自由のはざまから」『ソーシャルワーク研究』38(4), 277-281</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・論文：<u>合津千香</u>（短大教員）「介護福祉学生が「地域」について学ぶ意義と課題」松本短期大学研究紀要 (22), 25-33, 2013-03</li> <li>・論文：<u>宮守代利子</u>（博士課程在籍）「社会的責任と法の支配に関する一考察：IS026000に関連して」社会学研論集 (21), 33-48, 2013</li> <li>・共著論文：<u>山岸周作</u>（教員）「漢字学習ウェブサイト「介護の漢字サポーター」開発過程で直面した課題」日本語教育方法研究会誌 20(1), 4-5, 2013-03-09</li> <li>・共著論文：<u>増田榮美</u>（短大教員）東日本大震災後の「震災婚」という社会現象」観光文化研究所所報 (11), 13-30, 2013-03</li> <li>・大学出講：<u>金子勝寿</u>（地方議員）「市議と学生による政策セッション」10月19日 <a href="http://www.shinshu-u.ac.jp/topics/archive_data/2013/10/post-610.html">http://www.shinshu-u.ac.jp/topics/archive_data/2013/10/post-610.html</a></li> <li>・学会共同発表：<u>奥恵理香</u>（博士課程在籍）ほか「山岳地域における森林と木材利用：中房温泉における建造物群の建設・維持管理（計画系）」日本建築学会北陸支部研究報告集 (56), 434-437, 2013-05-19</li> <li>・シンポジスト：<u>武山弥生</u>（NPO代表）「ニキ・リンコさんから学び、生かしてきたこと」飯田女子短大 <a href="http://www.seeds2008.org/info/category/report">http://www.seeds2008.org/info/category/report</a></li> <li>・ポスター発表：<u>武山弥生</u>日本LD学会第22回大会 平成25年10月14日 発表論文集「地域での発達障害支援の実践」 P117, 586</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・シンポジスト：<u>武山弥生</u>世界自閉症啓発デー2014年厚生労働省主宰シンポジウム「私たちの街では」平成26年3月29日 東京</li> <li>・発表者・シンポジスト：<u>武山弥生</u>「ニキ・リンコ氏講演会」平成25年11月24日 飯田市 明星学園主催</li> </ul>
平成26	<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究助成獲得：M2 <u>相澤晴美</u>（地域起こし協力隊員）／小谷織り起業プロジェクトチーム「小谷村の伝統文化「小谷織り」をビジネスに！一昔からある物を新しい形に、女性の力を最大限に活かした仕事を生み出すプロジェクト」トヨタ財団 D14-L-0226 <a href="https://www.toyotafound.or.jp/project/community/">https://www.toyotafound.or.jp/project/community/</a></li> <li>・学会発表：M2 <u>西澤俊幸</u>（高校教員）「韓国の産学連携型「マイスター高校」の挑戦—教育と労働をつなぐ試み—」朝鮮史研究会関西西部会例会 2月28日</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出版（単著）：<u>宮田守男</u>（自営業・元自治体職員）『フィールド（現場）からの風』大糸タイム社 <a href="http://www.ohitotimes.co.jp/201404/shimen140424.html">http://www.ohitotimes.co.jp/201404/shimen140424.html</a></li> <li>・論文：<u>増田榮美</u>（短大教員）「プロジェクト型授業による社会人基礎力向上の取り組み」観光文化研究所所報 12, 17-29, 2014-03-31</li> <li>・共著論文：<u>合津千香</u>ほか「介護総合演習での5つの工夫とその実践」松本短期大学研究紀要 (23), 43-50, 2014-03-31</li> <li>・セミナー講師：<u>飯島恵道</u>（住職）「現代日本の仏教とジェンダー」龍谷大学アジア仏教文化研究センター主催 7月19日 <a href="http://www.chugainippoh.co.jp/ronbun/2015/0130.html">http://www.chugainippoh.co.jp/ronbun/2015/0130.html</a></li> <li>・大学出講：<u>芦沢茂樹</u>（自治体職員）「社会政策／ふつうってなんだろう」大月短期大学 12月19日</li> <li>・論文：<u>宮守代利子</u>（博士課程在籍）「『自然の権利』に関する考察 —なぜアメリカでは実現できたのか」社学研論集 (24), 17-32, 2014</li> <li>・寄稿：<u>武山弥生</u>「発達障害と子ども～診断・療育をめぐる権利を考える」『2014 長野こども白書』長野の子ども白書編集委員会編 P132-133</li> <li>・セミナー講師：<u>武山弥生</u>平成26年度小谷村人権ふれあい講座「発達障害の理解と支援」平成27年3月16日 小谷村 小谷村人権推進協議会・小谷村企業人権推進協議会・小谷村公民館主催</li> <li>・論文：<u>宮守代利子</u>早稲田大学社会科学部 社学研論集 『『自然の権利』に関する考察 —なぜアメリカでは実現できたのか—』(vol.24 2014年9月)、 『環境権の展開に関する考察 —生態系と自然の権利について—』(vol.25 2015年3月)</li> </ul>

(出典：経済学部作成)

○院生・修了生の社会活動

地域社会イニシアティブ・コースの院生・修了生は、何らかの地域活動実践に関わっていることが多く、その取り組みは地方紙などでよく紹介されている(資料経院 75、76 (別添資料))。

資料経院 75：経済・社会政策科学専攻：院生・修了生の地域社会活動		
年度	現役院生	修了生
平成21	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動助成：シーズ<u>武山弥生</u>（長野県地域発元気づくり支援金、21年度） 干し柿フォーラム（10月～11月）干し柿づくり体験、講演会</li> <li>・活動助成：シーズ<u>武山弥生</u>（キリン福祉財団、21年度）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動助成：修了生有志（長野県信州元気づくり支援金、21～23年度）</li> </ul>

	<p>ボランティア養成講座（9月12日、13日）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・活動助成：シーズ武山弥生（長野県人権尊重プログラム）</li> </ul> <p>発達障害と人権問題シンポジウム「生きやすい社会をめざして ～発達障害児（者）の人権を考える」2月14日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成20年度長野県元気づくり支援金 諏訪地方事務所長賞受賞</li> <li>・セミナー主催：臨床描画法勉強会（講師：小野けい子（放送大学教授）10月4日</li> </ul>	
平成22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動助成：シーズ武山弥生（地域づくり団体全国協議会支援事業）講演：発達障害支援を語る 講師；田口ランディ（作家）</li> <li>・活動助成：シーズ武山弥生（長野県地域発元気づくり支援金）</li> </ul> <p>地域におけるユニバーサルデザイン文化推進プロジェクト、バリアフリー映画上映会、作業療法士による感覚統合ワーク、DAISY教科書の作成講習会、福祉制度勉強会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・委員：武山弥生 下諏訪町障害者支援計画策定委員会</li> </ul>	
平成23	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町議当選：小西和実（小布施・初選，最年少）</li> </ul> <p><a href="https://seiji-yama.jp/area/card/3626/IIm_8C/M?S=lcqct0lfqip">https://seiji-yama.jp/area/card/3626/IIm_8C/M?S=lcqct0lfqip</a></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞記事：金正玉（高校教員）【※民団新聞 20110511】</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市議当選：濱幸平（岡谷・再選），金子勝寿（塩尻・再選）</li> <li>・活動助成：シーズ武山弥生（人権尊重社会づくり県民支援事業）</li> </ul> <p>講演会：「発達障害支援を語る Part2」</p> <p>講師：野沢和弘氏（毎日新聞社解説委員）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発表者：長野県地域発元気づくり支援金発表会 「諏訪圏域での発達障害支援」平成23年11月3日 下諏訪町 長野県地域政策課</li> </ul>
平成24	<ul style="list-style-type: none"> <li>・塩尻市協働まちづくり事業補助：桑原美由紀（NPO代表）【※市民タイムス 20121123】</li> <li>・大学非常勤：飯島恵道「仏教と医療・福祉」花園大学文学部仏教学科</li> <li>・学校法人松商学園常務理事：望月宗敬</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会イニシアティブ・コース同窓会創設</li> <li>・修了生有志による NPO「信州地域フォーラム」結成</li> <li>・武山弥生平成24年度県立高校困難を有する生徒自立支援事業委託</li> <li>・委員：武山弥生 青少年問題協議会 長野県次世代サポート課</li> <li>・有識者会議：武山弥生 教員の資質向上委員会評価専門部会 長野県教育委員会</li> <li>・学習会開催：武山弥生「発達障害といじめ」</li> </ul>

信州大学大学院経済・社会政策科学研究科 分析項目Ⅱ

<p>平成 25</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新聞記事：<u>飯島恵道</u>（住職）「送る悲しみ」【※信毎 20130110】</li> <li>・研究会開催：<u>望月宗敬</u>（税理士）「契約に基づく作付けから販売まで」信州農商工連携研究会 4月5日 <a href="http://seminar.mochizuki-kaikei.gr.jp/?p=114">http://seminar.mochizuki-kaikei.gr.jp/?p=114</a></li> <li>・大学非常勤：<u>飯島恵道</u>（H24に同じ）</li> <li>・学校法人松商学園常務理事：<u>望月宗敬</u></li> <li>・社会貢献：国際ロータリー第2600地区役員 中信第一グループガバナー補佐：<u>望月宗敬</u></li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町長選（木曾福島）立候補：<u>大目富美雄</u></li> <li>・活動助成：<u>シーズ武山弥生</u>（長野県地域発元気づくり支援金）「発達障害といじめ」を考えるプロジェクト、講演会、シンポジウム、体験型ワークショップ、活動報告書作成：「発達障害といじめ」</li> <li>・有識者会議：<u>武山弥生</u> 評価制度改善のための有識者会議 長野県教育委員会</li> <li>・平成25年度県立高等学校特別支援員配置事業委託</li> <li>・平成25年度県立高校困難を有する生徒自立支援事業委託</li> <li>・平成25年度長野県困難を有する若者支援授業委託</li> </ul>
<p>平成 26</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学非常勤：<u>飯島恵道</u>（H24に同じ）</li> <li>・学校法人松商学園常務理事：<u>望月宗敬</u></li> <li>・社会貢献：国際ロータリー第2600地区役員 第2600地区ガバナー・エレクト：<u>望月宗敬</u></li> <li>・伊藤かおる（コミュニケーションズ・アイ代表）：農林業での中間的就労支援活動「ソーシャルファーム松本自立支援センター」設立（長野県地域発元気づくり支援金対象事業）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会開催：<u>武山弥生</u>・<u>大木斎</u>／NPO シーズ「発達障害といじめ」を考える講演会」諏訪市総合福祉センター10月12日</li> <li>・日韓高校交流事業の企画実践（2008年から継続）：<u>金正玉</u>（高校教員） <a href="http://www.matsusho-h.ed.jp/announcement/2014/05/14/121042.php">http://www.matsusho-h.ed.jp/announcement/2014/05/14/121042.php</a></li> <li>・活動助成：<u>シーズ武山弥生</u>（長野県地域発元気づくり支援金）</li> <li>「発達障害といじめ」を考えるプロジェクト、講演会、シンポジウム、体験型ワークショップ、活動報告書作成：「発達障害といじめ」</li> <li>・平成26年度県立高等学校特別支援員配置事業委託</li> <li>・平成26年度県立高校困難を有する生徒自立支援事業委託</li> <li>・活動助成：<u>シーズ武山弥生</u>（平成26年度長野県困難を有する若者社会的自立支援事業）</li> </ul>

（出典：経済学部作成）

資料経院76：院生の地域での活躍（別添資料）

○修了生の地域課題に関わる研究成果は以下のとおりである（資料経院77）。

資料経院77：経済・社会政策科学専攻論文題目一覧

過去の論文題目リスト

修了年	論文題目
2010年	学習旅行誘致による中山間地域のツーリズム形成 ～村・町の活性化に受け入れ活動などのような役割を果たしたか～
	保健師基礎教育における「地区診断」の教育方法の検討 ～（学生の壁）とそれを乗り越えるプロセスに焦点をあてて～
	分権時代の地方議会将来像の提示
	長野県下2次医療圏における医療費格差と地域差指数
	軽井沢における（リゾートウェディング）市場の成立と発展
2011年	《母子ユニット》による発達障害児の母親支援 発達障害児・者及び家族支援の会（シーズ）における事例分析をもとにした支援モデルの構築
	地域振興の側面からみた「政策統合型型産6市町村間連携方式」の確立に向けて
	長野県松本地域における日系ブラジル人の生活・教育とその支援に関する研究 ～「多文化共生」への遠い道のり～
	障がい者の就労環境の整備と支援方法を考える ～安曇野市社会福祉協議会障害者就労支援センターでの実践を通じて～
2012年	台湾の高齢者介護施設におけるケアサービスの質 《ユニットケアシステムの導入を手がかりにした一考察》
	発達障害支援における民間非営利組織の位置付けと役割
	マラソン大会ブームの実態と地域に根ざした大会運営
	児童福祉司と児童虐待防止ネットワーク ～児童相談所に求められる役割をふまえて～
	私立高校教育現場に根ざした国際理解教育の考察 ～「わかる」「できる」「つながる」ための実践～
	開発途上国におけるボランティア活動が育てる能力 ～青年海外協力隊経験者の語りを通じて～
2013年	家具の商品開発プロセスにおけるインハウスデザイナーの役割 ～飛騨産業の事例研究～
	地方都市の商業施策における商工会議所の役割 ～松本商工会議所の事例分析～
	再生可能エネルギー利用の地域的課題 ～小水力発電を中心として～
	特有の問題を抱えたシングルマザーに対する支援の課題と解決策 ～貧困の世代間継承の防止に向けた包括的支援とは～
2014年	死別悲嘆者へのケアの考察 ～第三人称親密圏からの寄り添い～
	精神障害者の地域相談支援における市町村主体のネットワーク型支援システムの課題 ～改正障害者自立支援法施行後の山梨県峡西・峡北圏域を題材として～
	地域社会における精神障害者（自立）支援の実践 ～NPO法人てくてく10年のあゆみから～
2015年	自治組織の主體的な活動に、地区別計画・地域担当職員制度・住民懇談会はどのように作用するの ～阿智村、喬木村、高森町の比較から～
	女たちが織りあげてきた「裂き織り」という文化 ～長野県小谷村の「まろ織り」における若手育成と技術向上のための環境づくりにもけて～
	韓国の産学連携型「マイスター高校」の挑戦 ～教育と労働をつなぐ試み～
	中国人研修／技能実習生の募集から帰国後までの実像 ～仲介業務12年の経験からの考察～
	衰退する地方都市の根本的再構築 寺院と地域社会との新しい関係 ～阿字観実修を活用した寺院活動～

（出典：経済・社会政策科学専攻ホームページ「過去の論文題目リスト」）

(3) 学生の受賞状況

イノベーション・マネジメント専攻では、積極的な研究テーマの発表により、学内コンテスト等での受賞をしている（資料経院78）。

また、毎年、優れた者に対して論文優秀賞等の表彰を行っている（資料経院79）。

資料経院78：イノベーション・マネジメント専攻生 信州大学SVBLベンチャーコンテスト入賞

信州大学SVBLベンチャーコンテスト 入賞報告

修士課程2年の中村勘二さんが信州大学SVBL主催のベンチャーコンテストで優秀賞を受賞しました。

中村さんのビジネスプラン テーマ

「信州発 冬の女子高生ファッションのイノベーションに向けた商品開発」

コンテストでは8名の学生がそれぞれの研究テーマを発表し、中村さんは見事、優秀賞(2位)を受賞しました。

【第8回SVBLベンチャー・コンテスト開催概要】

2013年10月12日(土)

信州大学繊維学部総合研究棟7階にて

主催：信州大学サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー(SVBL)

審査員：SVBLベンチャー・コンテスト選考委員会

<http://svbl.naganoblog.jp/e1368268.html>

(出典：イノベーション・マネジメント専攻（経営大学院）

ホームページ「キャンパスイベント」)

資料経院79：イノベーション・マネジメント専攻 論文優秀賞及び論文奨励賞表彰

論文優秀賞表彰等一覧

平成23年度	氏名	特定課題研究名
論文奨励賞	宮坂 啓二	H銀行の「401kビジネス」における課題の整理と新たな事業戦力の提言
	安齋 高志	きのこメーカー子会社HM社のマーケティング戦略

平成24年度	氏名	特定課題研究名
論文優秀賞	宇都宮 司	C社の経営構想 2025
論文奨励賞	小宮山 浩志	米穀流通業界における「主要食糧の需要及び価格の安定に関する法律(食糧法)」施行後の業界ルール形成の在り方

平成25年度	氏名	特定課題研究名
論文優秀賞	志摩 修一	S社中期経営計画(2015-2017年度)の策定
	山田 和輝	再生可能エネルギー事業の普及に向けた政策提言に関する実証研究 -複数地域の比較分析による成功要因の解明と普及事業モデルの作成-
論文奨励賞	水野 博史	測量業界を取り巻く環境変化とその対応
	町田 大陸	JグループX事業構想

平成26年度	氏名	特定課題研究名
論文優秀賞	該当なし	-
論文奨励賞	大島 明美	環境計測企業S社の基本経営計画

平成27年度	氏名	特定課題研究名
論文優秀賞	該当なし	-
論文奨励賞	小根沢 徹	ハラール認証の実態とイスラム市場参入検討～フィジビリティ調査～

※平成15年度(専攻設置)から平成22年度までの受賞者数は3人

【受賞基準】

優秀賞は「秀」判定の論文、奨励賞は「優」判定ないしそれに準ずる水準の論文を対象とする。

(出典：イノベーション・マネジメント専攻作成)

(4) 学業の成果に対する学生の評価

① 授業改善アンケート

経済・社会政策科学研究科では、院生を対象とした授業改善のためのアンケート調査（無記名）を実施している（資料経院80、81、82、83、84）。

**資料経院80：授業改善アンケート**  
 対象者：全院生  
 実施時期：経済・社会政策科学専攻…3月論文発表会（全員が集まる際）  
 イノベーション・マネジメント専攻…学期終了時  
 活用方法：個別教員が授業トピックを入れ替えたりして対応を図り、結果についてFDシェアリングで報告している。  
 （出典：経済学部作成）

**資料経院81：イノベーション・マネジメント専攻での授業アンケート（見本）**

「学生授業アンケート」回答用紙

信州大学 経営大学院

学生授業アンケートは教育と授業の改善を目的に実施されており、成績評価等とは無関係です。また、集計結果は目的範囲のみに使用し、あなたが不利益を受けることは一切ありません。ご協力よろしくお願いたします。

科目名・曜日・教員氏名を記載してください。

科目名	曜日	教員氏名

所属学年に○をつけてください

・修士1年生	<input type="checkbox"/>
・修士2年生以上	<input type="checkbox"/>
・科目等履修生	<input type="checkbox"/>
・修了生等 その他	<input type="checkbox"/>

■回答方法  
 ※該当する番号1つに○をつけてください。（「複数回答可」の設問を除く）  
 Ⅰ. 授業内容に関する設問  
 ※以下の基準に基づいて回答してください。  
 4-そう思う 3-ややそう思う 2-あまりそう思わない 1-そう思わない

Q1	シラバスと授業内容が対応していましたか。	4	3	2	1
Q2	教員は授業の進め方を工夫していましたか。	4	3	2	1
Q3	学生からの質問や相談に対して、教員は適切に対応しましたか。	4	3	2	1
Q4	教員は熱心でしたか。	4	3	2	1
Q5	授業時間は確保されていましたか。	4	3	2	1
Q6	シラバスから想定された難易度と合っていましたか。	4	3	2	1
Q7	教員の説明はわかりやすかったですか。	4	3	2	1
Q8	教材・資料等の利用は効果的でしたか。	4	3	2	1
Q9	学問的・知的刺激度の高い授業でしたか。	4	3	2	1
Q10	学習効果・将来における有用性の高い授業でしたか。	4	3	2	1
Q11	学習課題・試験問題・レポート等が適切だったと思いますか。	4	3	2	1
Q12	この授業を他の学生にすすめたいと思いますか。	4	3	2	1
Q13	この授業の満足度はどのくらいですか。 （100点満点でお答えください）				点

Ⅱ. 授業への参加に関する設問

Q1	あなたがこの授業を履修した理由を挙げてください。 （複数回答可） ① 講義内容に興味があるから ② シラバス以外の情報を見て ③ 自分の研究に役立つから ④ 教員に興味があるから ⑤ 必修科目だから ⑥ 将来（進学・就職）に役立つから ⑦ 評判が良いから（友人・先輩に薦められ） ⑧ 友人が履修するから ⑨ 時間割上の都合から ⑩ 単位が取りやすいから	1	2	3	4
Q2	あなたのこの授業への出席状況はどの程度でしたか。 ① 50%未満 ② 50～80%未満 ③ 80%以上	1	2	3	
Q3	あなたは、1回の授業に当たり授業時間以外に、予習・復習等の学習にどのくらい取り組まれましたか。 ① 30分未満 ② 30～1時間未満 ③ 1～3時間未満 ④ 3時間以上	1	2	3	

Ⅲ. 授業に関する意見・感想を自由に記述してください。

以上で質問は終わります。ご協力ありがとうございました。  
 信州大学経営大学院 イノベーション・マネジメント専攻  
 © Copyright 2013 Institute of Innovation Management, Graduate School of Shinshu University

（出典：イノベーション・マネジメント専攻作成）

資料経院82：学生授業アンケート集計（一例）

調査日 2014/6/4																	
経営組織論(柴田教授)																	
回答者数 11名																	
回答率 100%																	
<b>I. 授業内容に関する設問</b>														<b>II. 授業への参加に関する設問</b>			
	所属	Q1.	Q2.	Q3.	Q4.	Q5.	Q6.	Q7.	Q8.	Q9.	Q10.	Q11.	Q12.	Q13. 点数	Q1.履修 理由	Q2. 出席	Q3.予習 復習
1	修士1年	4	4	4	4	4	3	4	4	4	4	3	4	90	1,3,5	3	2
2	修士1年	4	3	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3	85	1,2,9	2	2
3	修士1年	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	100	1,4,5	2	3
4	修士1年	3	3	4	4	4	2	3	3	3	4	4	3	80	1,3	3	3
5	修士1年	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	80	1	2	1
6	修士1年	4	3	4	4	4	3	3	3	4	4	3	4	90	1,3,6	3	3
7	修士1年	4	4	3	4	4	3	4	3	4	3	3	4	90	1,4,6,7,9	3	2
8	修士2年以上	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	100	1	1	1
9	修士1年	3	4	4	3	4	3	4	4	4	4	3	4	95	1,3,4,6	3	3
10	修士1年	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	3	4	90	1,3,4,7	3	3
11	修士1年	2	3	4	4	4	4	3	3	3	3	3	3	60	1,3	2	2
20	合計:11名	3.5	3.5	3.8	3.7	3.8	3.3	3.5	3.5	3.6	3.6	3.3	3.6	87.3			
Q1	シラバスと授業内容が対応していましたか。								4- そう思う		3- ややそう思う		2- あまりそう思わない		1- そう思わない		
Q2	教員は授業の進め方を工夫していましたか。																
Q3	学生からの質問や相談に対して、教員は適切に対応しましたか。																
Q4	教員は熱心でしたか。																
Q5	授業時間は確保されていましたか。																
Q6	シラバスから想定された難易度と合っていましたか。																
Q7	教員の説明はわかりやすかったですか。																
Q8	教材・資料等の利用は効果的でしたか。																
Q9	学問的・知的刺激度の高い授業でしたか。																
Q10	学習効果・将来における有用性の高い授業でしたか。																
Q11	学習課題・試験問題・レポート等が適切だったと思いますか。																
Q12	この授業を他の学生にすすめたいと思いますか。																
Q13	この授業の満足度はどのくらいですか。 (100点満点でお答えください)																

(出典：イノベーション・マネジメント専攻作成)

資料経院83：経済・社会政策科学専攻（地域社会イニシアティブ・コース）授業改善アンケート

信州大学大学院 地域社会イニシアティブ・コース 授業改善のためのアンケート(平成26年度)

「授業改善のためのアンケート」は、院生の皆さんからこの授業の内容や担当教員による授業進行についてのフィードバックを受けて、今後の授業内容や授業進行の改善・充実化に活かすために実施しています。成績評価には一切関係ありませんので、思ったままを回答してください。  
 (信州大学大学院 地域社会イニシアティブ運営委員会)

※印は自由記述、それ以外はマークシート方式です。マークシートは鉛筆で塗りつぶしてください。

	①P	②P	③P	④P	⑤P
	強く同意する	同意する	どちらでもない	同意しない	強く同意しない
科目名※					
開講期※ 前期・後期(いずれかに○)					
担当教員※					
入学年(個人特定の恐れがあれば無回答で可)					
	2012	2013	2011以前		
	①	②	③		
(1) 担当教員は、シラバスから大幅に逸脱することなく授業を実施した。	①	②	③	④	⑤
(2) 担当教員の説明や話し方は、明瞭でわかりやすかった。	①	②	③	④	⑤
(3) 担当教員の配布資料・板書・スクリーン等の使い方は、授業をわかりやすくするものだった。	①	②	③	④	⑤
(4) 担当教員は、当該分野の知見を深めるための情報提供や助言を行なった。	①	②	③	④	⑤
(5) この授業では、担当教員の専門的識見を感じることができた。	①	②	③	④	⑤
(6) この授業では、担当教員の授業に対する熱意や意欲を感じることができた。	①	②	③	④	⑤
(7) この授業は、達成目標にふさわしい授業方法と内容であった。	①	②	③	④	⑤
(8) この授業を受けた私は、この授業において、質問・討論など、積極的に参加した。	①	②	③	④	⑤
(9) この授業を受けた私は、授業時間以外に、授業内容を理解するための努力をした。	①	②	③	④	⑤
(10) この授業を受けた私は、専門的な知識や技術を身につけることができた。	①	②	③	④	⑤
(11) この授業を受けた私は、この授業に満足することができた。	①	②	③	④	⑤
(12) 授業全体を振り返って、この授業は、授業によって達成しようとしている目標にふさわしいものであった。	①	②	③	④	⑤

(13)※ この授業について、教員がよい工夫をしていると感じられるところ、改善した方がよいと感じられるところ、この授業への意見や要望を具体的に書いてください。

(出典：経済・社会政策科学専攻運営委員会作成)

資料経院84：経済・社会政策科学専攻「授業改善のための学生アンケート」による評価結果  
 経済・社会政策科学専攻「授業改善のための学生アンケート」による評価結果

【実施アンケート集計】

計算式：(評価段階の総合計)÷(データ件数)

設 問	平成 26 年度 総合(集計)	平成 27 年度 総合(集計)
(1) 担当教員は、シラバスから大幅に逸脱することなく授業を実施した。	4.478	4.87
(2) 担当教員の説明や話し方は、明瞭でわかりやすかった。	4.434	4.89
(3) 担当教員の配布資料・板書・スクリーン等の使い方は、授業をわかりやすくするものだった。	4.217	4.89
(4) 担当教員は、当該分野の知見を深めるための情報提供や助言を行なった。	4.565	4.94
(5) この授業では、担当教員の専門的識見を感じる事ができた。	4.434	4.95
(6) この授業では、担当教員の授業に対する熱意や意欲を感じる事ができた。	4.304	4.94
(7) この授業は、達成目標にふさわしい授業方法と内容であった。	4.217	4.68
(8) この授業を受けた私は、この授業において、質問・討論など、積極的に参加した。	4.0	4.32
(9) この授業を受けた私は、授業時間以外に、授業内容を理解するための努力をした。	3.956	4.45
(10) この授業を受けた私は、専門的な知識や技術を身につける事ができた。	3.782	4.37
(11) この授業を受けた私は、この授業に満足する事ができた。	4.304	4.63
(12) 授業全体を振り返って、この授業は、授業によって達成しようとしている目標にふさわしいものであった。	4.296	4.67

【評価基準】 強くそう思う…5点 どちらかといえばそう思う…4点 どちらともいえない…3点  
 どちらかといえば思わない…2点 全くそう思わない…1点

(出典：経済・社会政策科学専攻作成)

② 修了生アンケート

大学院の教育に関する修了生アンケートの結果は、以下の通りである（資料経院85、86、87）。

FDシェアリングセッションでの報告では講義・演習に対する受講生の評価が高水準で推移している（前掲資料経院35、81、82、p21、p57、p58）。

資料経院85：経済・社会政策科学専攻「修了生へのアンケート」

2016年3月

信州大学大学院  
経済・社会政策科学研究科  
地域・社会イノベーション・コース

**修了生(平成27年度)への無記名アンケート**  
(御依頼)

修了生皆さん、この度はおめでとうございます。  
今後本コースの教育方法の改善に向けて、このアンケートにご協力をお願いします。  
ご回答においては個人名等が特定されないようご留意願います。  
個別のご指摘やご相談があれば運営委員会までご連絡ください。

地域社会イノベーション・コース  
運営委員会(金、徳井、相尾、美甘)  
k\_grad@shinshu-u.ac.jp

**I. まずは、あなたご自身のことについてお聞きします。**

【問1】 あなたは、本コースに在籍されていたとき、収入につながるお仕事をされていたか、いずれか1つに○をつけてください。  
1 収入につながる仕事をしていない  
2 無給の実家や家事等に主に従事していた  
3 自営業(フリーランスを含む)を営んでいた  
4 いわゆるアルバイト・パートの仕事をしていた  
5 非正規雇用(いわゆるアルバイトは除く、専任延長や嘱託職員等)の職員・従業員であった  
6 正規雇用の職員・従業員であった  
7 その他(具体的に：)

【問2】 あなたが、大学院(本コースに限らず)への進学をお考えになったのは、次のいずれの理由によりですか。最大3つまでに○をつけてください。  
1 仕事の上でのキャリアアップを図るため  
2 仕事上で抱えた問題解決を図るため  
3 職業上ではあるが、仕事や生活での転機点を求めて  
4 仕事以外の領域でのスキルアップを図るため  
5 仕事以外の領域で抱えた問題解決を図るため  
6 広く専門知識を学ぶため  
7 人的交流を求めて  
8 本コースを知って大学院進学を考えた  
9 その他(具体的に：)

【問3】 本コースへ入学志願する際、あなたは、本コースの存在をどのような方法で知りましたか。いずれか1つに○をつけてください。  
1 本コースのホームページを見て知った  
2 本コースのポスターで知った  
3 本コースのパンフレットで知った  
4 随時等に送られてきた本コースの案内で知った  
5 本コースの修了生や在籍生から紹介された  
6 その他(具体的に：)

【問4】 あなたが、本コースに入学志願を決めたのは、次のいずれの理由によりですか。最大3つまでに○をつけてください。  
1 本コースがテーマとする地域づくりに関心があった  
2 本コースが提供するさまざまな専門科目に興味があった  
3 夜間・土曜日開講など、社会人の勤務を考慮した運営がよかった  
4 修士学位が取得できる場所がよかった  
5 少人数による参加型講義・演習がよかった  
6 社会人大学院ということで、大学教員や他の院生を含めた人々との出会いに興味があった  
7 授業料等の経済的條件が良かった  
8 長期履修制度や教助教成制度など、履修への配慮がよかった  
9 地理的な条件(立地や環境)がよかった  
10 その他(具体的に：)

【問5】 あなたの進学理由(問2)及び本コースへの志願理由(問4)に照らして、本コースへ入学されたことに、あなたは満足されていますか。いずれか1つに○をつけてください。  
1 満足している  
2 どちらかといえば満足している  
3 どちらかといえば満足していない  
4 満足していない

**II. クラス単位で受講した履修科目(いわゆる「土曜クラス」)についてお聞きします。**

【問6】 いわゆる「土曜クラス」は、1)「フィールドリサーチの方法と実践」でインタビューを中心とする取材とその整理の方法を学び、2)「地域活性化ワークショップ」で地域づくりの現場に出かけて、現場の人をゲスト講師として招くなど、大学外でも学ぶ場を用意し、3)「個人課題研究ワークショップ」で皆さん一人一人の研究テーマの報告と検討を行ってきました。こうした「土曜クラス」の講義内容について、あなたはどのように評価されますか。いずれか1つに○をつけてください。  
1 有益である  
2 どちらともいえない  
3 どちらかといえば有益でない  
4 有益ではない

【問7】 「土曜クラス」は、問6であげたような講義内容のもと、同じ入学年度の院生との交流や情報交換を行い、上級年度の院生とのつながりを作るという配慮から、1)同じ入学年度の院生全員がクラスを構成し、2)上級年度の院生との合同講義を用意し、3)比較的参加しやすい土曜日の午後を開講し、4)現場に出かけるなど参加型の講義を実現し、5)複数の教員が同じ時間・同じ場所でお互いへの指導を行い、6)皆さんの個人研究を助成する場を定期的に用意する、という講義方法を採用してきました。こうした「土曜クラス」の講義方法について、あなたはどのように評価されますか。いずれか1つに○をつけてください。  
1 適切である  
2 どちらかといえば適切である  
3 どちらかといえば適切ではない  
4 適切ではない

【問8】 「土曜クラス」の講義内容や講義方法について、ご意見やご感想、ご要望がありましたら、自由にお書きください。

**III. 履修が必修化されている、指導教員による「研究指導」についてお聞きします。**

【問9】 修士1年の後期に指導教員が選定され、論文提出に至るまで指導教員と一対一の「研究指導」が必修科目とされています。あなたが受けた「研究指導」は、あなたが個人課題研究を進め、特定課題研究論文あるいは修士論文をまとめるのに適切でしたか。いずれか1つに○をつけてください。  
1 適切である  
2 どちらかといえば適切である  
3 どちらかといえば適切ではない [問9-②へ]  
4 適切ではない [問9-②へ]  
5 判断できない(理由をお書きください)

【問9-②】 [問9で「どちらかといえば適切ではない」「適切ではない」と回答された方にお聞きします] 適切とはいえなかった理由をお書きください。

【問10】 「研究指導」の指導内容や指導方法について、ご意見やご感想、ご要望がありましたら、自由にお書きください。

**IV. 主に平日夜間に開講される「自由選択の履修科目」についてお聞きします。**

【問11】 担当教員の専門分野を配した「自由選択の履修科目」は、主に月曜日から金曜日の午後8時以降に2回連続(8週)を原則に開講され、当該分野の専門性をベースに、受講生の興味に合わせた講義方法がとられています。すなわち、専門性の高い研究内容を講義形式でレクチャーするもの、専門書や論文等を取り上げて輪読形式で進められるもの、現場職員との交流をおこなうもの、各講師を中心に展開されるもの、などです。こうした「自由選択の履修科目」の講義方法を振り返って、あなたはどのように評価されますか。いずれか1つに○をつけてください。  
1 適切である  
2 どちらかといえば適切である  
3 どちらかといえば適切ではない [問11-②へ]  
4 適切ではない [問11-②へ]

【問11-②】 [問11で「どちらかといえば適切ではない」「適切ではない」と回答された方にお聞きします] 適切とはいえなかった理由をお書きください。

【問12】 「自由選択の履修科目」の具体的な講義内容は、それぞれの専門性をベースに、受講生の興味に合わせたものをとらえています。こうした「自由選択の履修科目」の講義内容を振り返って、あなたはどのように評価されますか。いずれか1つに○をつけてください。  
1 有益である  
2 どちらかといえば有益である  
3 どちらかといえば有益ではない  
4 有益ではない

【問13】 「自由選択の履修科目」の講義方法や講義内容について、ご意見やご感想、ご要望がありましたら、自由にお書きください。

【問14】 大学院講義室、大学院生研究室、経済学部資料室など、主に大学が用意した施設やハード面の研究・教育環境について、どのように評価されますか。いずれか1つに○をつけてください。  
1 適切である  
2 どちらかといえば適切である  
3 どちらかといえば適切ではない [問14-②へ]  
4 適切ではない [問14-②へ]

【問14-②】 [問14で「どちらかといえば適切ではない」「適切ではない」と回答された方にお聞きします] 適切とはいえなかった理由をお書きください。

【問15】 平日夜間開講や土曜日開講、長期履修制度など、社会人大学院生を主眼に入れた進学支援について、あなたはどのように評価されますか。いずれか1つに○をつけてください。  
1 適切である  
2 どちらかといえば適切である  
3 どちらかといえば適切ではない  
4 適切ではない

【問16】 進学支援として、配慮や改善して欲しいことがあれば、自由にお書きください。

【問17】 専攻運営委員会による進学サポートや指導、あるいは指導教員による履修・進学相談体制について、あなたは、どのように評価されますか。いずれか1つに○をつけてください。  
1 適切である  
2 どちらかといえば適切である  
3 どちらかといえば適切ではない [問17-②へ]  
4 適切ではない [問17-②へ]

【問17-②】 [問17で「どちらかといえば適切ではない」「適切ではない」と回答された方にお聞きします] 適切とはいえなかった理由をお書きください。

【問18】 本コースが提供するサービス全般について、あなたは満足されていますか。いずれか1つに○をつけてください。  
1 満足している  
2 どちらかといえば満足している  
3 どちらかといえば満足していない  
4 満足していない

【問19】 最後に、本コースへのご意見やご要望がありましたら、自由にお書きください。

※ご協力ありがとうございました。

(出典：経済・社会政策科学専攻運営委員会作成)

資料経院86：平成27年度実施修了生アンケート集計

No.	I				II				III				IV										
	問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問9-②	問10	問11	問11-②	問12	問13	問14	問14-②	問15	問16	問17	問17-②	問18	問19
1	5	6.7	1	2.3.6	1	1	1		1			1		1		3		1		1		1	
2	4	6	1	2.7.9	1	1	1		1			1		1		1		1		2		1	
3	6	6	1	2.3	1	2	2		1			1		1		1		1		1		1	
4	6	5.6	1	1.4.8	1	1	1	以下参照	1		以下参照	1		1		3	以下参照	1		1		1	以下参照
5	6	4.6	1	1.5.6	1	1	1		1			1		1		2		1		1		1	
6	7	2.6	6 (知人)	1.2.3	1	1	1		1			1		1		1		1		1		1	
評点	以下参照	以下参照	以下参照	以下参照	3	2.83	2.83	-	3	-	-	3	-	3	-	2.16	-	3	-	2.83	-	3	-

- 設問Ⅰ 問5: 1-満足している(3点) 2-どちらかといえば満足している(2点) 3-どちらかといえば満足していない(1点) 4-満足していない(0点)
- 設問Ⅱ 問6: 1-有益である(3点) 2-どちらかといえばない(2点) 3-どちらかといえば有益でない(1点) 4-有益ではない(0点)
- 設問Ⅱ 問7: 1-適切である(3点) 2-どちらかといえば適切である(2点) 3-どちらかといえば適切ではない(1点) 4-適切ではない(0点)
- 設問Ⅲ 問9: 1-適切である(3点) 2-どちらかといえば適切である(2点) 3-どちらかといえば適切ではない(1点) 4-適切ではない(0点) 5-判断できない(0点)
- 設問Ⅳ 問11: 1-適切である(3点) 2-どちらかといえば適切である(2点) 3-どちらかといえば適切ではない(1点) 4-適切ではない(0点)
- 設問Ⅳ 問12: 1-有益である(3点) 2-どちらかといえば有益である(2点) 3-どちらかといえば有益ではない(1点) 4-有益ではない(0点)
- 設問Ⅳ 問14: 1-適切である(3点) 2-どちらかといえば適切である(2点) 3-どちらかといえば適切ではない(1点) 4-適切ではない(0点)
- 設問Ⅳ 問15: 1-適切である(3点) 2-どちらかといえば適切である(2点) 3-どちらかといえば適切ではない(1点) 4-適切ではない(0点)
- 設問Ⅳ 問17: 1-適切である(3点) 2-どちらかといえば適切である(2点) 3-どちらかといえば適切ではない(1点) 4-適切ではない(0点)
- 設問Ⅳ 問18: 1-満足している(3点) 2-どちらかといえば満足している(2点) 3-どちらかといえば満足していない(1点) 4-満足していない(0点)

【回答詳細】

- 設問Ⅰ 問1: 4…1名、5…1名、6…3名、7…1名
- 設問Ⅰ 問2: 2…1名、4…1名、5…1名、6…6名、7…1名
- 設問Ⅰ 問3: HP…5名、知人…1名
- 設問Ⅰ 問4: 1…3名、2…4名、3…3名、4…1名、5…1名、6…2名、7…1名、8…1名、9…1名
- 設問Ⅱ 問8: 大変でしたが、今思うともう1コマ位やりたかった。
- 設問Ⅲ 問10: 私の理解度に合わせて、気長にご指導いただきました。
- 設問Ⅳ 問14-②: ・講義室のかぎの閉開がめんどう ・設備、資源、資料が乏しい面があった。
- 設問Ⅳ 問19: ・純粋な学術論文というよりは学術的な価値を担保しつつも他の形態も可能にしてほしいのでは  
 ・院生は大学を卒業してからブランクがあるが、それでも講義はフィールドワークやワークショップ以外に統計学の基礎から応用までを必修科目に組み込むことも検討していただければと思  
 ・大変有意義な時間を過ごさせていただきました。ありがとうございます。

(出典：経済・社会政策科学専攻作成)

資料経院87：イノベーション・マネジメント専攻での修了生意識調査アンケート

信州大学大学院イノベーション・マネジメント専攻(経営大学院)での  
 教育体験に関するフィードバック アンケート調査 記入用紙

あなたご自身について教えてください

お名前 \_\_\_\_\_ メールアドレス \_\_\_\_\_

大学院修了年 \_\_\_\_\_ 電話 \_\_\_\_\_

現在のご職業 \_\_\_\_\_

Q1. そもそも、あなたご自身が経営大学院に入学された当初の目的は何でしたか？

Q2. その当初の目的は達成されましたか？ (一つお選び下さい)

達成された  達成されなかった  どちらでもない  わからない

「達成された」とご評価される方は、どのように達成されましたか？

それ以外のご評価の方は、なぜそうにご評価されますか？

Q3. あなたが、経営大学院に対してご入学前に持たれていたご認識と、ご入学後のご認識は大きく違っていたでしょうか？ (一つお選び下さい)

あまり違わなかった  大きく違っていた  どちらでもない  わからない

「違っていた」とお答えの方は、どのように違っていたのか、お教えてください。

Q4. あなたの経営大学院での教育体験の中で、修了後もっとも役に立っていることを最大3つまで挙げてください。またどのように役に立っているか、についても教えてください。

修了後、もっとも役立っていること(1)

その理由

修了後、もっとも役立っていること(2)

その理由

修了後、もっとも役立っていること(3)

その理由

Q5. あなたが経営大学院で受けた科目の中で、もっとも良かった科目を3つまで挙げてください。またその理由も教えてください。

もっとも良かった科目(1)

その理由

もっとも良かった科目(2)

その理由

もっとも良かった科目(3)

その理由

Q6. あなたの経営大学院での教育体験の中で、残念だった点・不満だった点があれば、3つまで挙げてください。またその理由も教えてください。

残念だった点・不満だった点(1)

その理由

残念だった点・不満だった点(2)

その理由

残念だった点・不満だった点(3)

その理由

Q7. あなたは、経営大学院に2年+αの時間と授業料+αの費用を投資されたわけですが、経営大学院での教育は、それに見合う価値があったとお考えですか？（一つお選びください）

十分見合っている  見合っていない  わからない  その他

なぜそのようにご評価されるのか、理由をお聞かせ下さい。

Q8. この他に、ご感想・ご意見があれば、ぜひご自由にご記入ください。また今後の経営大学院の教育に関して、ご意見やご提言があれば、ぜひお願い致します。

ご協力ありがとうございました!

【調査報告】

イノベーション・マネジメント専攻での教育体験に対する修了生の意識調査結果報告

信州大学大学院 経済・社会政策科学研究科  
イノベーション・マネジメント専攻  
教授 今村英明  
助手 高相栄美

1. 調査の目的

2012年は、本専攻創設10周年にあたる。これを一つの節目と捉え、これまでの修了生が本専攻で受けた教育体験や教育内容に対して、現時点で感じている認識や満足度、改善のための意見や提言などを調査し、本専攻の今後の教育を改善していくための一つの参考材料とすることが目的である。

調査の主な項目としては、入学時の目的とその達成度、入学前の期待と実際の体験とのギャップ、本専攻での教育体験で修了後役にしていること、印象に残る科目・教員、本専攻での教育への時間・金銭「投資」の価値、本専攻への不満・課題認識・感想・提言などである。

2. 調査の方法

2012年6月調査の実施に関し所属機関の承認を得た。それに基づき下記の内容にて調査を行なった。

- (ア) 実施時期：2012年7月1日～8月1日
- (イ) 調査対象：その時点で本専攻を修了した82名<sup>1</sup>
- (ウ) 方法：記名・記述式アンケート調査（調査票は未尼添付）
- (エ) 実施経路：電子メールもしくは郵送で、告知・依頼・回収
- (オ) 回収状況：82名中36名。回収率44%
- (カ) 結果処理：2012年9月の専攻会議にて、調査票の集計表を配布した。さらに同年12月の本専攻アドバイザリー会議で報告した<sup>2</sup>。

3. 調査結果の要旨

<sup>1</sup> その時点で修了した86名の内、連絡先不明者や助教者など4名を除いた。  
<sup>2</sup> アドバイザリー会議の討議内容などは、別途報告書等が作成される予定である。

(ア) 回答状況：

修了生82名に対して、36名(44%)からの回答であった。過半数には達していないが、記名・記述式のアンケートとしては比較的回答率は高かった。

(イ) 入学時の目的とその達成度：

修了生の入学時の目的意識は多様である。多かったのは、全般的な経営スキル向上、自社・自組織経営の方向性模索、具体的なテーマ研究などである。一方で、キャリアや生き方を模索するような漠然とした目的意識の学生も混在していた。またイノベーションや起業を目的として前面に打ち出していた回答は意外に少なかった。

3人に2人(66%)が、「入学目的を達成した」と認識している。残る約3分の1の「未達成」回答の理由の大半は、入学後のテーマ変更、修了後の業務・勉強などいけば本人に起因するものであった。

(ウ) 入学前の認識と入学後の認識とのギャップ：

42%が「ギャップ大」と回答している。「ギャップなし」との回答は28%であった。「ギャップ大」という回答の3分の2は、「期待よりもよかった」という認識である。逆に「期待外れ」の理由(3件)は、期待したプログラムの欠如・不足や非実業出身者へのケア不足などを挙げている。

(エ) 修了後、役立っていること：

回答が比較的多かったものとしては、①客観性・論理性・仮説思考など、思考法・問題へのアプローチに関する学び、②教員・同級生・修了生との交流・ネットワーク、③特定課題研究の厳しい指導、論文の達成感、またそれを通じた人間的な成長、自信、ガッツンなどであった。

(オ) 受講して良かった科目：

創設初期は、経営戦略論、経営組織論などの基本科目、工学系や専門性の高い科目などである。また体制整備途上でもあり、外部講師への評価も高い。近年は、マーケティング、ロジカルプレゼンテーションなどへの好評価が加わる。逆に、外部講師や工学系科目への印象は相対的に後退している。本専攻の看板であるはずの「イノベーション概論」「プロジェクト演習」「特定課題研究指導」「グリーンMOT」などへの言及は意外に少ない。

(カ) 残念・不満だったこと：

働きながら学ぶ社会人学生が多いため、開講時間・時期の問題指摘も多し。また専攻開設初期の体制不備への不満も強い(その指摘の多くは、現在はかなり改善されているが)。教育内容・質、教員・サポート体制などの不満は、現在改善されたもの、依然課題となっている部分が存在(例：海外企業視察などの中断など)。

(キ) 本専攻での時間・金銭投資と教育経験の価値が見合っているか、の評価：

全体の72%が「時間・金銭投資に見合う価値があった」と回答している。「見合う」と判断した理由は、人脈・交流、自分の成長、コスト・パフォーマンス、プログラム

の中身の違さなどである。一方、「見合わない」（2名）との判断理由は、学費負担の重さ、一部教育内容の問題などである。「分からない」「その他」の判断の理由は、判断するには時期尚早、ジョイント・ディグリーで本専攻での投資の負担感がない、などである。

(ク) 感想・意見・提言：

多数の自由記述のコメントを頂いた。プログラムの内容・質の改善への提言、修了後の継続学習や交流への期待・提言・要望、本専攻の社会的な知名度向上への期待・提言が多かった。また本専攻での体験の感想とともに、本専攻への感謝と声援も頂いた。

4. 本調査結果からの示唆

(ア) 本専攻での教育体験への満足度は、入学時の目的の達成度、入学時の期待との合致度、時間・金銭投資へのリターンなどの物差しで見ると、概ね3分の2程度で、「70点」「まずまずの評価」と言える。

(イ) 開設初期2～3年間の体制未整備により、当事者の努力にも関わらず、学生に不便や不満を感じさせた部分があったことは、率直に反省し、またお詫びしなければならない。一方、初期も含めこの間、プログラムを支えて頂いた他学部・外部の諸先生方には、改めて深く御礼申し上げねばならない。

(ウ) その後の体制整備・拡充により、初期課題は徐々に解消し、専任教員による指導体制が確立するにつれ、満足度は向上してきたようである。

(エ) 本専攻の特色である「イノベーション」の洗礼を受けたという印象は、修了生意識調査からはあまり強く感じられず、一般のビジネス・スクール卒業生の意識に近い評価とも言える。

(オ) 修了生の本専攻への期待は強く、今後とも体制の一層の強化が必要である。特に

- ・ 修了生の成功への継続的なサポート、修了生との多面的ネットワーク形成
- ・ 本専攻の社会的な知名度、ブランド力向上、地域との一層の関係強化
- ・ 本専攻の特色をより強く打ち出したプログラムの運営、グローバル化などの新しい環境への教育支援など

(カ) これらの調査結果は、いずれも貴重な材料なので、ぜひ今後の専攻の運営方針に生かしていくべきと考ええる。

(出典：イノベーション・マネジメント専攻作成)

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

経済・社会政策科学専攻では、「授業改善のための学生アンケート」によると、授業科目に対する院生の満足度は非常に高く、院生からのニーズに答えている（前掲資料経院 83、84、p59～60）。

過去6年間、自治体職員(10人)、専門職・教員(8人)、法人・団体等職員(7人)など33人の入学者を得て(前掲資料経院 16、p11)、地域課題に関わる研究成果をあげて(前掲資料経院 77、p55)、計33人が修了した。これらは院生・修了生はトヨタ財団助成を獲得(資料経院 73、p48～49)するなどの研究活動のほか、大学・短大等での教育に従事したり、あるいは平素より活発な地域活動はよく地元メディア等に取り上げられてもいる(資料経院 76 (別添資料))。こうした実績から地域社会をリードする専門的・実践的な人材の育成という期待に答えていると判断する。

また、過去6年間のうち退学者は2名のみである(前掲資料経院 72、p48)。これは、フルタイムの現職社会人が無理なく修学できる体制をとっていること(長期履修制度、夜間・土曜の開講)、さらに、研究指導においては、指導教員の個別指導と「個人課題研究ワークショップ」での合同指導との並立が功を奏していると考えられる。

イノベーション・マネジメント専攻では、上記修了生意識調査によれば、3分の2が「入学目的を達成した」と回答し、入学前との認識ギャップは大きい(42%)が、その3分の2は「期待以上」に振れている。また教育プログラム全般への費用便益評価では72%が「時間・金銭投資に見合う価値があった」としており、入学時の期待に答えている。

(前掲資料経院 87、p62～64)。また修了時の論文表彰では秀評価に相当する論文優秀賞が過去5年間で3名(平成24年度1名、平成25年度2名)、優評価に相当する論文奨励賞が7名(平成23年度2名、平成24年度1名、平成25年度2名、平成26年度1名、平成27年度1名)と、ほぼコンスタントに輩出している。(前掲資料経院 79、p56)

観点2 進路・就職の状況

(1) 進路・就職状況

本研究科の修了後の進路の状況は、以下のとおりである(資料経院88、89)。

○進学、就職、その他の割合

資料経院88：修了後の進路の状況

修了年度	区分	修了者	進学者		就職者		専修学校・外国の 学校等入学者	一時的な仕事に就 いた者	左記以外の者		不詳・死亡 の者	
		A	人(B)	率(B/A)	人(C)	率(C/A-B)			人(D)	率(D/A)		
H21	全体	7,796	911	11.69%	3,992	57.98%	104	105	2,097	26.90%	587	
	国立	2,093	361	17.25%	1,171	67.61%	13	5	476	22.74%	67	
	大学	計	14	0	0.00%	12	85.71%	0	0	2	14.29%	0
		男	11	0	0.00%	10	90.91%	0	0	1	9.09%	0
	女	3	0	0.00%	2	66.67%	0	0	1	33.33%	0	
H22	全体	7,842	824	10.51%	4,171	59.43%	73	106	2,179	27.79%	489	
	国立	2,246	338	15.05%	1,315	68.92%	5	3	539	24.00%	46	
	本学	計	22	0	0.00%	21	95.45%	0	0	1	4.55%	0
		男	18	0	0.00%	17	94.44%	0	0	1	5.56%	0
女		4	0	0.00%	4	100.00%	0	0	0	0.00%	0	
H23	全体	8,245	788	9.56%	4,543	60.92%	96	87	2,288	27.75%	443	
	国立	2,285	354	15.49%	1,308	67.74%	10	7	543	23.76%	63	
	本学	計	18	0	0.00%	16	88.89%	0	0	2	11.11%	0
		男	14	0	0.00%	14	100.00%	0	0	0	0.00%	0
女		4	0	0.00%	2	50.00%	0	0	2	50.00%	0	
H24	全体	7,938	762	9.60%	4,446	61.96%	83	100	2,175	27.40%	372	
	国立	2,258	336	14.88%	1,334	69.41%	9	9	533	23.60%	37	
	本学	計	14	0	0.00%	14	100.00%	0	0	0	0.00%	0
		男	10	0	0.00%	10	100.00%	0	0	0	0.00%	0
女		4	0	0.00%	4	100.00%	0	0	0	0.00%	0	
H25	全体	7,546	704	9.33%	4,234	61.88%	84	71	2,149	28.48%	307	
	国立	2,180	303	13.90%	1,303	69.42%	10	16	517	23.72%	31	
	本学	計	16	0	0.00%	16	100.00%	0	0	0	0.00%	0
		男	13	0	0.00%	13	100.00%	0	0	0	0.00%	0
女		3	0	0.00%	3	100.00%	0	0	0	0.00%	0	
H26	全体	7,171	733	10.22%	4,269	66.31%	32	75	1,837	25.62%	225	
	国立	2,117	339	16.01%	1,322	74.35%	8	10	412	19.46%	26	
	本学	計	15	0	0.00%	13	86.67%	0	0	2	13.33%	0
		男	11	0	0.00%	11	100.00%	0	0	0	0.00%	0
女		4	0	0.00%	2	50.00%	0	0	2	50.00%	0	
H27	全体											
	国立											
	本学	計	16	0	0.00%	15	93.75%	0	0	1	6.25%	0
		男	12	0	0.00%	12	100.00%	0	0	0	0.00%	0
女		4	0	0.00%	3	75.00%	0	0	1	25.00%	0	

※「全体」「国立」は、学校基本調査の全国集計のうち、各年度>高等教育機関《報告書掲載集計》>卒業後の状況調査>大学院修士課程の状況別 卒業者数より、区分「社会科学」を抜粋。

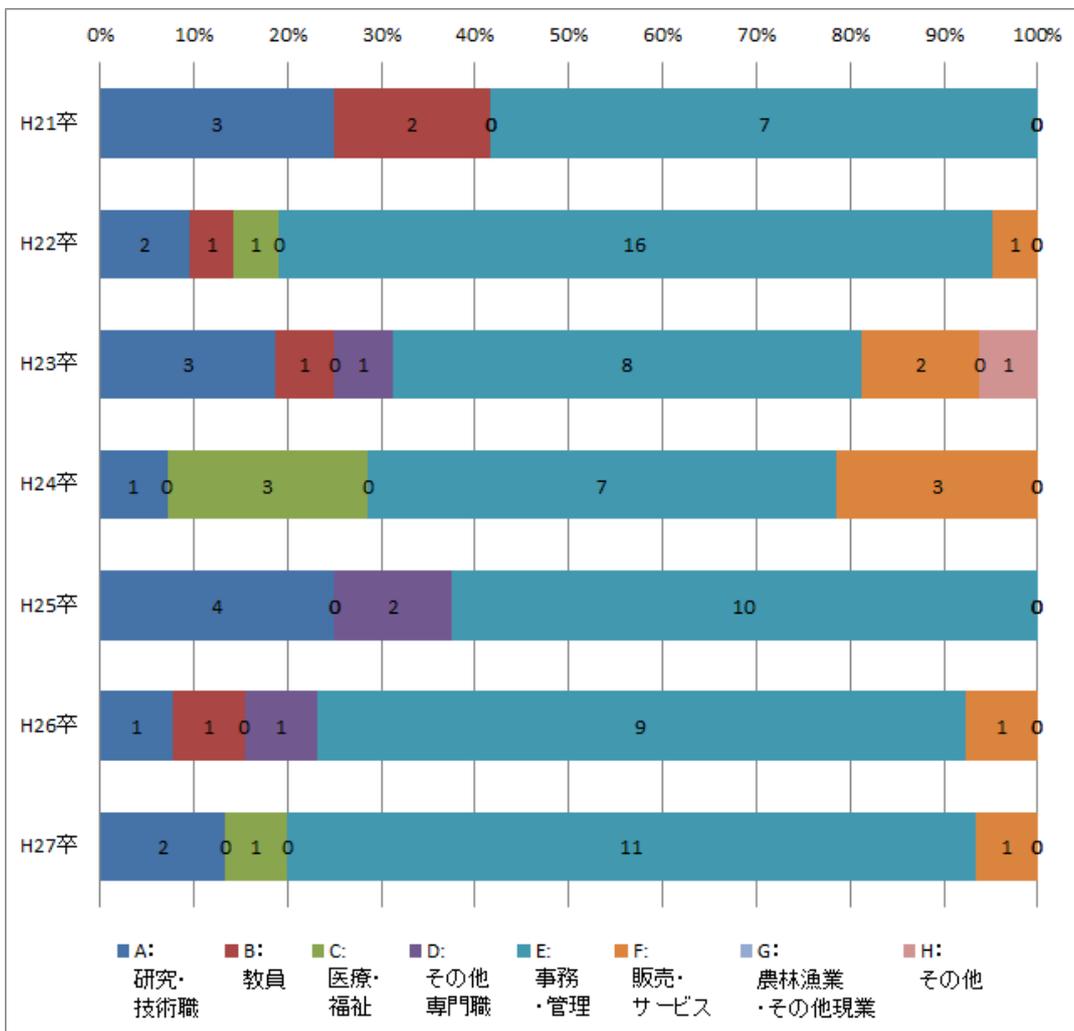
なお、平成27年度「全体」「国立」については、平成28年6月末現在未公開

(出典：学校基本調査より経営企画課作成)

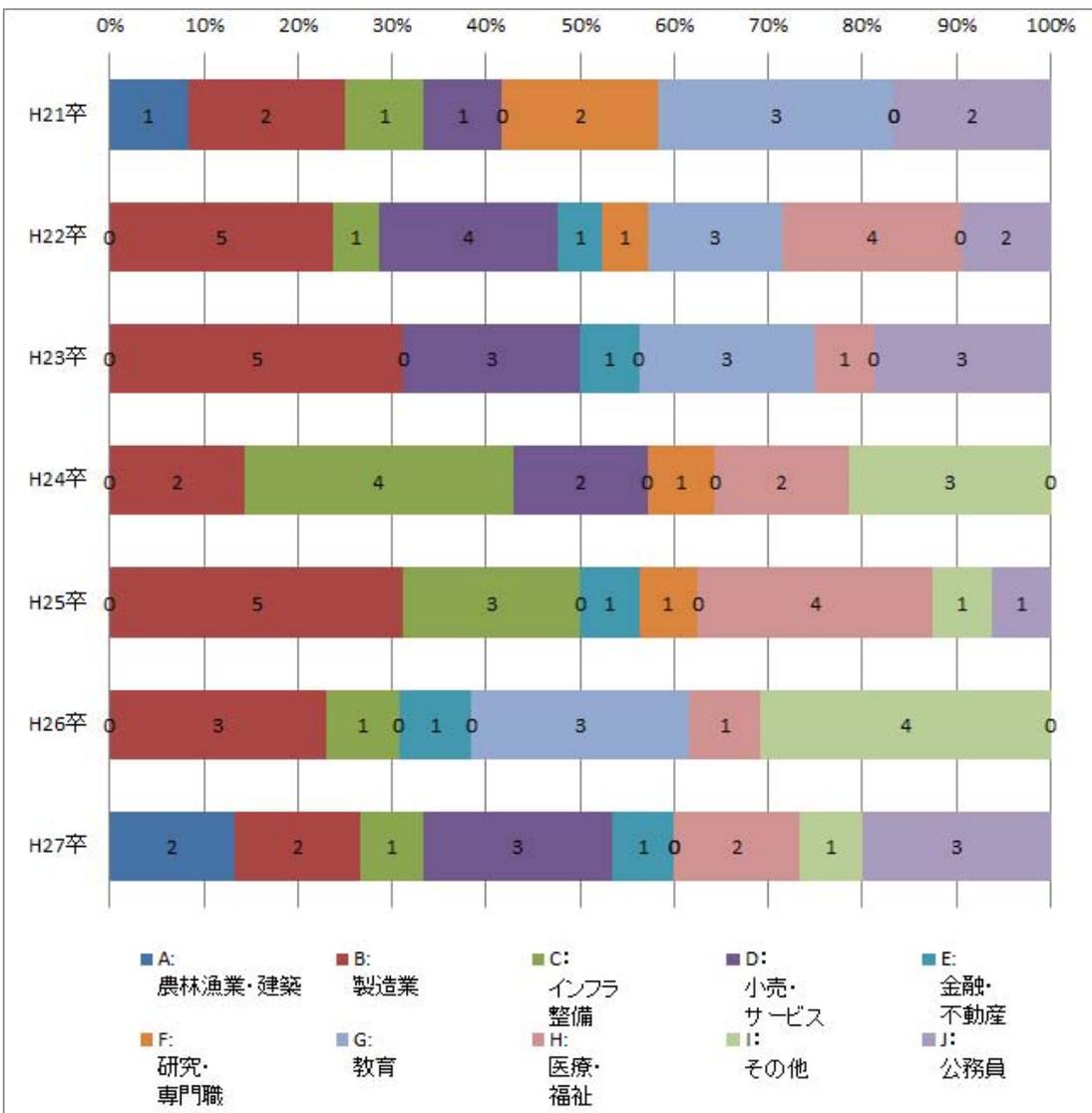
○職業別、産業別就職の状況

資料経院89：職業別・産業別就業者数

職業別就職者数									
	A: 研究・ 技術職	B: 教員	C: 医療・ 福祉	D: その他 専門職	E: 事務 ・管理	F: 販売・ サービ ス	G: 農林漁業 ・その他 現業	H: その他	合計
H21卒	3	2	0	0	7	0	0	0	12
H22卒	2	1	1	0	16	1	0	0	21
H23卒	3	1	0	1	8	2	0	1	16
H24卒	1	0	3	0	7	3	0	0	14
H25卒	4	0	0	2	10	0	0	0	16
H26卒	1	1	0	1	9	1	0	0	13
H27卒	2	0	1	0	11	1	0	0	15



産業別就職者数											
	A: 農林漁業・建築	B: 製造業	C: インフラ整備	D: 小売・サービス	E: 金融・不動産	F: 研究・専門職	G: 教育	H: 医療・福祉	I: その他	J: 公務員	合計
H21卒	1	2	1	1	0	2	3	0	0	2	12
H22卒	0	5	1	4	1	1	3	4	0	2	21
H23卒	0	5	0	3	1	0	3	1	0	3	16
H24卒	0	2	4	2	0	1	0	2	3	0	14
H25卒	0	5	3	0	1	1	0	4	1	1	16
H26卒	0	3	1	0	1	0	3	1	4	0	13
H27卒	2	2	1	3	1	0	0	2	1	3	15



(出典：学校基本調査より経営企画課作成)

・就職先等の関係者による修了生の評価

経済・社会政策科学専攻では、修了生の就職先での関係者を対象に、平成26年9月に「大学院修了者の教育成果に関するアンケート」を実施した（資料経院90、91）。

資料経院90：アンケート用紙

平成 26 年 9 月

社人大学院【修士（経済学）「地域社会イニシアティブ・コース」  
修了生に関するアンケート

**I 本コース修了生との関係をお教えください。**

勤務先が同じ →（修了生の）・雇用人・上司・同僚・部下・その他
取引先等の関係者にあたる
社会活動等の仲間・関係者にあたる
その他：支障ない範囲でお教えください（ ）

**II 当該修了生の本コース在籍当時の年齢（推定で構いません。）**

20代以下	30代	40代	50代	60代以上

**III 本コース（修士課程：経済学）修了の成果（評価）として、下記のそれぞれについて、該当する欄に○をつけてください。**

	強 く 思 う	そ う 思 う	そ う 思 わ な い	判 断 し か ね る
専門的知識の修得があった				
論理的思考力の向上があった				
課題発見力や論点整理力の向上があった				
データの収集や分析手法の修得があった				
事業企画力や政策立案力の向上があった				
プレゼンテーション能力の向上があった				
文章能力や言語的表現力の向上があった				
仕事等への自信や積極性の向上があった				
職場等での協調性や社交性の向上があった				
ネットワーク形成や活動領域の広がりがあった				

**IV その他、本コース修了の成果と思われることがあれば、下記にご記載ください。**

**V 本コースへの総合的な評価として、下記いずれか1つに○をつけてください。**

高く評価できる
いずれかと言えば肯定的に評価できる
いずれかと言えば肯定的には評価できない
一概には評価しがたい

**VI その他、当該修了生への評価に限らず、本コースの教育成果・内容等について、お気づきのことなどがあれば自由にご記載ください。**

\*ご協力に心より感謝申し上げます。  
(9月中旬ごろまでにご返信願います。)

(出典：経済・社会政策科学専攻作成)

資料経院91：アンケート集計

設問 No.	I 修了生との関係	II 年齢(年代)	III(1) 専門的知 識	III(2) 論理的 思考力	III(3) 課題発 見力・論 点整理力	III(4) データ 収集・分 析手法	III(5) 企画力・ 立案力	III(6) プレゼン テーショ ン能力	III(7) 文章能 力・言語 的表現力	III(8) 積極性	III(9) 協調性・ 社交性	III(10) ネットワ ーク形成	IV その他(修了成果)	V 総合的 評価	VI その他(評価に限ら ず、気づきの点)
評点	1…4名 2…0名 3…4名 4…3名 未回答…1名	20代…1名 30代…2名 40代…2名 50代…3名 60代…4名	2.16	2.25	2.33	2.33	2.25	2.16	2.41	2.25	2.0	2.5	以下参照	2.66	以下参照

設問 I：1-勤務先が同じ 2-取引先等の関係者にあたる 3-社会活動等の仲間・関係者にあたる 4-その他  
設問 III：1-強く思う(3点) 2-そう思う(2点) 3-そう思わない(1点) 4-判断しかねる(0点)  
設問 V：1-高く評価できる(3点) 2-いずれかと言えば肯定的に評価できる(2点) 3-いずれかと言えば肯定的には評価できない(1点) 4-一概には評価しがたい(0点)

**【記述回答】**

**IV** ・同期生、修了した先輩方、先生方としりあうことができ、人脈が広がったこと。  
・社会活動が活発になった。(地域が変わった。)  
・地元、地域に関心を持つ様になり、現場で活動する様になった。  
・修了後、授業の内容が広い見地から展開され、より内容の深い理解を生徒に与えている。また、本人の自信となっているようで、創意工夫がなされた授業を展開している。  
・物の味方が大きく変わった。  
・よりリーダー性が発揮されたように思われる。  
・担当教官武智忠彦先生との出会い。その他、井上先生、下田平先生、情熱も指導力も人間の魅力も研究者としての力量もある教育者との関わりを持たれたこと。  
・長野県、経済産業省、補助金申請アドバイザー  
・市自治協議会委員(地域に関係する(行政・区)事業にできる範囲で関わっています。)

**VI** ・大変重要なコースと認識しております。今後もより充実されて行くことをご祈念申し上げます。  
・地域活動への参加が積極的となってきた。  
・信大が身近になった。  
・人的ネットワークの形成  
・社人大学院制度について知らない人が多い。  
・本人の学ぶ強い意志と学習時間の確保が必須だと思われる。困難な条件の中、社人大学生には頭が下がる。  
・企業の先行不透明感を強めています。経営コースの「経営戦略論」等を取り入れていただくと有りがたいです。

(出典：経済・社会政策科学専攻作成)

## ○企業別入学者数

平成27年度までのイノベーション・マネジメント専攻入学者で企業派遣を含めた企業・団体別入学者数から同企業・団体からの受入がコンスタントにできており、企業・団体でみるリピーター率が維持されている（資料経院92）。

## 資料経院92：院生の所属企業一覧

## イノベーション・マネジメント専攻 院生の所属企業・団体ごと人数 一覧

	企業・団体名	人数
1	みすずコーポレーション	5
2	ホクト	4
3	八十二銀行	4
4	長野市役所	4
5	ハーモニック・ドライブ・システムズ	4
6	JA 長野中央会グループ	3
7	長野日本無線	3
8	新光電気工業	3
9	信州大学	3
10	有沢製作所	3
11	サンクゼール	2
12	米匠	2
13	テクニカル・パートナー	2
14	シナノケンシ	2
15	富士電機	2
16	サクラ精機	2

（出典：イノベーション・マネジメント専攻作成）

（水準）期待される水準にある。

（判断理由）

経済・社会政策科学専攻では、修了生の職場関係者等を対象に行った教育成果アンケートの結果から評価も良く、職場関係者からの期待にも応えられていることが分かり、期待される水準にあると考えられる（前掲資料経院90、91、p68）。

また、イノベーション・マネジメント専攻では、上記のとおり、一定数の「リピーター」を確保しており、すでに組織派遣を制度化している企業・団体が本専攻の入学定員以上に達している。設置からの期間を考えれば平均で毎年1社・団体が「リピーター化」しており、また、修了生に対するアンケート結果及び授業アンケートの結果から判断し、顧客満足度はおおむね満足すべき水準と考えられる（前掲資料経院87、p62～64、資料経院92）。

### Ⅲ 「質の向上度」の分析

#### (1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

##### ○経済・社会政策科学専攻

平成26年度より始めた授業評価、修了生・関係者へのアンケート調査結果から、本専攻の教育内容について、毎年、院生による授業評価、修了生の関係者へのアンケートをもとに、教育内容・方法の改善について検討する準備を整えている（前掲資料経院36、37、p22、前掲資料経院83、84、85、86、p59～62）。

##### ○イノベーション・マネジメント専攻

平成24年度からFD担当を配置したことにより、ノウハウや工夫の横展開が制度面で恒常的に担保された（前掲資料経院35、p21）。また論文評価につき定型的な指標の作成に取り組み、ある程度統一的な評価に至りつつある。論文作成過程についても1年次から合同研究指導に参加させ、平成24年度より仮説ワークシートを配付することで、早めに論文テーマの構想を促すに至っている（前掲資料経院43、p27～28）。

#### (2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

##### ○経済・社会政策科学専攻

経済・社会政策科学専攻では、第1期において言及している修了生組織を再編し、平成24年に新たに発足した「地域社会イニシアティブ・コース同窓会」を本専攻として、公認し、志願者確保、地域課題に関する講義への協力など、修了生＝同窓会との連携を従前以上に深めている（前掲資料経院60、p42）。

##### ○イノベーション・マネジメント専攻

イノベーション・マネジメント専攻では、合同研究指導や仮説ワークシートの整備によりシステムティックな指導がなされている結果、第1期では3人に留まった論文表彰が、ほぼ毎年1～2本の優秀論文ないし奨励論文を選定できるようになった（前掲資料経院79、p56）。

## 7. 理学部

- I 理学部の教育目的と特徴・・・・・・・・・・7-2
- II 「教育の水準」の分析・判定・・・・・・・・7-15
  - 分析項目 I 教育活動の状況・・・・・・・・7-15
  - 分析項目 II 教育成果の状況・・・・・・・・7-102
- III 「質の向上度」の分析・・・・・・・・・・7-114

## I 理学部の教育目的と特徴

## 1 教育目的

信州大学の基本的な目標として、以下のことが示されている（資料理1）。

本学部の重要なミッションは、自然科学を学ぶことにより論理的な思考方法と深い洞察力を身につけた学生を社会に送り出すことである。本学部の教育目標およびディプロマ・ポリシー（以下、「DP」）、カリキュラム・ポリシー（以下、「CP」）、アドミッション・ポリシー（以下、「AP」）、は以下の通りである。（資料理2～3）

## 資料理1 信州大学中期目標（抜粋）

（前文）大学の基本的な目標

信州大学は、信州の豊かな自然と文化の中で、自然環境の保全、新しい文化の創造、人々の健康と福祉の向上、産業の育成と活性化などを目指し、優れた教育研究を行うことによって、大学に求められている社会的使命を果たすことを理念としている。

この理念のもとに、全学の構成員が新たな可能性に挑戦するための将来構想「信州大学ビジョン2015」を策定した。

本学は、この将来構想に基づき、信州の歴史と立地条件を活かした個性豊かな学部が協働し、総合力と相乗効果を発揮させ、世界へ飛翔する「オンリーワンの魅力あふれる地域拠点大学」の構築を目指し、第二期中期目標期間中において、以下の事柄に重点を置いて取り組む。

（1）未来の社会を展望した有為な人材教育の実践

学生の視点に立ち、高度専門職業人としての専門的知力の修得を支援するとともに、優れた社会的課題解決能力などの人間力と豊かな人間性を備え、社会で指導的役割を果たしうる人材を育成する。

（出典：信州大学ホームページ「中期目標・中期計画、各評価結果」）

## 資料理2 信州大学理学部理念・教育目標（抜粋）

[理念]：理学部は知的好奇心探求の場です。理学部では、グリーンサイエンス、すなわち環境に負荷を掛けない持続的発展の可能な社会を支える基盤的な科学・技術の教育・研究とフィールドワークを中心に自然環境の保全についての教育・研究を実践しています。その基本理念は、自然界の多種多様な現象を詳細に検討し、その中に存在する法則性を探求することにあります。

信州大学理学部では、この理学の基本理念と信州大学の理念に基づいて、信州の豊かな自然、その歴史と文化、人々の営みを大切にします。

知的資産と活動を通じて、自然環境の保全、人々の福祉向上、産業の育成に役立っています。

世界の多様な自然、文化、思想を理解し、受け入れ、共に生きる若者を育てます。

個性を大切にすると共に、専門分野を越えた広い視野と、柔軟な適応性を養います。

研究の成果を人々の幸福に役立て、自然の尊厳を傷つけないよう責任を持ちます。

[目標]：信州大学理学部は、理学の基本理念と信州大学の理念に基づき、教育、研究、社会貢献、国際交流において、次の目標を掲げます。

[教育]：自然界の多種多様な現象に常に知的好奇心と探究心を抱く人材を育てます。それぞれの専門分野についての深い知識を有するとともに、専門分野を越えた課題にも柔軟に対処できる、幅広い知識と視野、適応性を兼ね備えた、社会に役立つ人材を育てます。信州の優れた自然を体験的に教材として利用し、自然と調和の取れた科学の発展に貢献できる後継者の育成に努めます。

（以下省略）

（出典：信州大学理学部ホームページ「理念・目標」）

## 資料理3 DP, CP, AP

信州大学 DP

信州大学は、豊かな自然環境と、伝統ある歴史と文化に恵まれた信州に立地する大学です。本学では、かけがえのない自然や文化を愛する気持ちをもって、人類文化・思想の多様性を受け入れ、豊かなコミュニケーション能力を持つ教養人であるとともに、高度な専門知識と能力を備えて自ら課題を発見し、その解決にむけて挑戦する心をもった個性的な人材を育てることを理念・目標に掲げています。本学は、この理念・目標を踏まえて、以下に示す資質、知識や能力を、共通教育（教養教育、基礎教育）、専門教育及び課外活動を含む大学内外での幅広い教育活動を通じて培うこととし、ここに本学の学士課程に共通する学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定めます。

## 豊かな人間性

- ・みずからを他者や社会との関わりのなかで捉え、自己啓発に努めることができる【自己認識・自己啓発マインド】
- ・理想や倫理観をもって社会の平和的・持続的発展のために行動できる【社会的行動マインド】

## 人類知の継承

- ・人類の知を継承し、それらの成果の上に立って未来について創造的に考えられる【人類知の継承と未来創造マインド】
- ・世界の多様な文化、思想、歴史、芸術に関する幅広い素養がある【多様な文化受容マインド】
- ・科学諸分野の歴史やその成果に関して幅広く理解できる【科学リテラシー】

## 社会人としての基礎力

- ・日本語および外国語を用い、的確に読み、書き、聞き、他者に伝えることができる【言語能力】
- ・対話を通じて他者と協力し、目標実現のために方向性を示すことができる【コミュニケーション能力、チームワーク力、リーダーシップ】
- ・多様な情報を適切に取捨選択し、分析・活用できる【情報活用力】
- ・みずから問題を見出し、すじみちを立てて解決できる【問題発見・解決能力】

## 科学的・学問的思考

- ・自然や社会の現象を普遍的な尺度や数量的指標を用いて理解できる【普遍的・数量的理解力】
- ・専門学問分野における知識・技能を備え、それらを応用できる【専門知識と応用力】
- ・専門以外の他分野に関する体系的な知識や素養がある【専門外の知識】

## 環境マインド

- ・信州の自然・文化的環境への興味と関心をみずから深めることができる【地域環境に関する理解】
- ・自然および人類社会が直面している環境問題を理解することができる【環境基礎力】
- ・地球環境と人類文化との調和・共生のため、積極的に行動することができる【環境実践力】

理学部 DP

信州大学理学部の理念と目標に則り、以下の知識と能力を充分培った学生に「学士（理学）」の学位を授与します。

自然界の多種多様な現象に常に知的好奇心と探究心を抱く素養。[自然科学の基礎知識]

それぞれの専門分野についての深い知識を有するとともに、専門分野を越えた課題にも柔軟に対処できる、広い視野と適応性を兼ね備えた、社会に役立つ知識と能力。[各学科の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）]

自然と調和の取れた科学の発展に貢献できる能力。[自然科学に関する知識の応用]

学科 DP

## (数学科)

数学科の理念と目標に則り、以下の能力と見識を十分に培った学生に対して、「学士（理学）」の学位を授与します。

1. 数理科学的な問題ないし自然界の多種多様な現象に対して、常に変わらぬ知的好奇心と探求心を

抱き、理学を継続的に学習してゆかんとする意志力。

2. 数学および自然情報学の専門知識を修得し、かつ、それを応用駆使する修練を十分に積み重ねており、様々な状況に直面した場合、自らの課題を発見し、培ってきた自身の数理工学的知性に基づく総合的な判断・対処ができる、高度専門職業人としての能力と見識。

3. 数学の文化的基盤を支え、理学の普及に、また、自然との調和が取れた科学の発展に貢献し得る意志力と見識。

(理学科)

理学科の理念と目標に則り、以下の知識と能力を十分に培った学生に対して、「学士(理学)」の学位を授与します。

1. 自然科学を通して、自然を愛し理解するための幅広い知識と理解力。

2. 専門知識に基づく論理的な思考力とともに、分野を越えた課題にも柔軟に対処できる適応性と応用力。

3. 自然との調和を重んじ、科学の発展に貢献できる能力と見識。

#### 理学部 CP

1. 共通教育においては、教養科目と基礎科目を通して幅広い人文・社会科学の教養ならびに国際的なコミュニケーション能力を身につける教育を行います。

2. 専門教育では、学科共通科目である基礎理学科目とグリーンサイエンス科目を通して自然科学の幅広い基礎知識を身につけるとともに、学生自ら選択した学位取得ルートに従い、それぞれの専門分野を中心に基本的な原理を理解し、多様な数理や自然現象についての知識とそれらを解析する実践的な能力と論理的な思考力を養います。

3. 最終年次は、それぞれの分野の専門知識をさらに深め、先端的な研究ならびに境界領域の研究に触れつつ、研究の方法を学ぶとともに、自由な発想と柔軟な創造力を養う教育を行います。

#### 学科 CP

(数学科)

数学科のカリキュラムは、当学科のディプロマ・ポリシーのもと、次の項目を意識して作成されています。

- ・学生の成長に効果的な授業課程
- ・個々の学生に行き届く指導体制
- ・基礎学力の養成
- ・社会人として不可欠な能力の養成

1年次・2年次前期では、豊かな教養を身につけるとともに、数学・自然情報学への入門をはたします。2年生後期以降では、次の2コースの一方を選択し、そのコースの授業課程にしたがって履修します。

数理科学コース：数学における代数系・幾何系・解析系の学習をする。

自然情報学コース：自然科学との有機的関連を意識しながら数理科学の学習をする。

それぞれのコースでは、「標準」「学際」「先進」の3つの教育プログラムが用意され、2年次後期以降に、学生が自らプログラムを選択しそれによって学習をすすめます。

標準プログラムでは、2年次後期・3年次に各コースの基礎的な知識・能力を修得します。4年次では卒業研究を選択し数理科学の専門分野をより深く学ぶこと、または数理科学および関連領域の分野をより広く有機的、総合的に学ぶことが可能です。

学際プログラムでは、4年次に卒業研究を行う代わりに、自ら定めた履修計画に従って複数のコースや理学科の開講科目を履修し、広い視野で数理科学を学びます。

先進プログラムでは、標準プログラムで用意されている授業に加え、専用に用意されているアドバンス科目を履修することにより高度な専門知識とスキルを習得します。本学大学院理工学系研究科進学予定者は、4年次には大学院の授業科目を先取り履修することも可能です。

(理学科)

理学科のカリキュラムは、当学科のディプロマ・ポリシーのもと、次の項目を意識して作成されて

います。

- ・個々の学生のニーズに応じた効果的な授業課程
- ・個々の学生に行き届く指導体制
- ・基礎学力の養成
- ・社会人として不可欠な能力の養成

1年次では主に、豊かな教養を身につけるとともに、自然科学の基礎とグリーンサイエンスの入門を学習します。

2年次以降は「物理学」、「化学」、「地球学」、「生物学」及び「物質循環学」のいずれかのコースに軸足を置きつつ、自ら選択したカリキュラムにしたがって学習します。これを通してそれぞれの専門分野を中心に基本的な原理を理解し、多様な数理や自然現象についての幅広い知識とそれらを解析する実践的な能力と論理的な思考力を養います。

最終年次は、それぞれの分野の専門知識をさらに深め、先端的な研究ならびに境界領域の研究に触れつつ、研究の方法を学ぶとともに、自由な発想と柔軟な創造力を養う教育を行います。

### 信州大学 AP

#### (1) 求める学生像

信州の悠久の歴史と文化、豊かな自然環境のもと、地域に根ざし世界に開かれた信州大学は、真理への探究心とチャレンジ精神を培い、高度な専門知識と深い思索力を基にして、課題を探求し解決する能力を備えた人材を育成します。

また、豊かな人間性と広い視野をもち、身につけた知識や技術を人類文化と社会の持続的発展に役立て、世界の平和と自然環境の保全のために活かすことのできる、意欲あふれる若者を育てます。

信州大学は、このような教育の理念・目標を実現するために、以下のような資質を備えた人たちを積極的に受け入れます。

人間と自然を愛し、人との出会いを通じて学び合おうとする人

知的好奇心が旺盛で、課題に向かって主体的に行動できる人

多様性を理解し受け入れ、独自性を大切にする人

社会・環境・国際問題に関心をもち、世界に貢献したいと考える人

#### (2) 入学者選抜の基本方針

信州大学の教育の理念・目標に則り、各学部の特長に応じた適切な方法で多様な入試を実施し、大学教育を受けるにふさわしい能力・適性等を多面的・総合的かつ公正に評価し、選抜します。

### 理学部 AP

信州大学理学部は、学部の基本理念・教育目標に基づき、次のような意欲を持った学生を求めています。

自らの目標を定め、積極的に学ぼうと努力する人

自然を愛し、自然との共生を実践しようとする人

自然界の多種多様な現象に対する知的好奇心や探究心が旺盛な人

専門分野を越えた広くかつ長期的な視野で、人類社会に貢献したいと考える人

大学入学前の高等学校の課程等を能動的に幅広く学び、国語、外国語、数学、理科、地理歴史、公民で学習したことを身に付けている人

### 学科 AP

#### (数学科)

数学科では、数学の好きな人、数学の得意な人、数理的な能力を伸ばしたい人、数学や関連分野に強い関心を持つ人、数理的な思考の方法を磨きたい人の入学を歓迎します。

#### (理学科)

理学科では、自然科学の好きな人、自然科学の得意な人、科学的な能力を伸ばしたい人、自然科学や関連分野に強い関心を持つ人、科学的な思考の方法を磨きたい人の入学を歓迎します。

(出典：信州大学ホームページ「信州大学アドミッション・ポリシー」  
信州大学理学部ホームページ「理学部について」)

## 2 組織の特徴や特色

本学は、8学部で構成され県内5キャンパスに分散しており、本学部は、全学の共通教育を行う全学教育機構（以下「機構」）とともに松本キャンパスにあり、4年一貫教育を行っている。（資料理4～6）

本学部は他大学に比べて地理的条件からくる特質をいくつかもっており、信州の地の利を生かしたフィールドワーク関連の施設これらの施設を含めたフィールドを活用した実験、実習を展開している。（資料理7）

これらの特質を活かし、グリーンサイエンスの考え方にに基づき、教育、研究、社会貢献に取り組んでいる。

資料理4 キャンパス配置図



(出典：信州大学ホームページ「交通・キャンパス案内」)

## 資料理5 全学教育機構の概要

### 全学教育機構とは

全学教育機構は、信州大学が定める教育上の基本方針に基づき、本学の共通教育（各学部が編成する教育課程のうち、本学学生に対する教養教育、基礎教育及び日本語・日本事情に係る教育について、全学協力体制のもとに、全学共通に行う教育）及び教職関係5学部（人文学部、理学部、工学部、農学部及び繊維学部）の教職教育（教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための教育）の実施機関として、各学部と緊密に連携し、全学的な見地から共通教育に係る教育課程の企画及び円滑な実施を図るとともに、本学が掲げる高度専門職業人養成の教育目標を達成するため、学部一貫教育を前提に本学の教育に関する研究開発、企画及び支援を総合的に行うことを目的としています。

**1 年次生は、全学部生が全学教育機構で学びます。**

信州大学は長野県内の5つのキャンパスに8学部が散在していますが、全学部の1年次（医学部医学科は2年次まで）は、松本キャンパスの全学教育機構に集い、共通教育科目を受講します。

**全学の教育力を結集した共通教育を実施します。幅広い教養と基礎的能力を獲得できます。**

信州大学の共通教育は、全学教育機構の教員とともに、全学部の教員が当然の責務として行うという全学協力体制に立脚しています。これにより、学生は、全学教員の専門知識を生かした、いわば大学の総力を結集した科目を学ぶことが可能になります。信州大学は、幅広い教養と基礎的能力に基づく課題探求能力、豊かな人間性や国際性をもった人材育成を目指しております。

（出典：信州大学全学教育機構ホームページ「全学教育機構とは」）

資料理6 信州大学全学教育機構規程

（目的）

第2条 機構は、信州大学(以下「本学」という。)が定める教育上の基本方針に基づき、本学の共通教育(各学部が編成する教育課程のうち、本学学生に対する教養教育、基礎教育及び日本語・日本事情に係る教育について、全学協力体制のもとに、全学共通に行う教育をいう。以下同じ。)及び教職関係5学部(人文学部、理学部、工学部、農学部及び繊維学部をいう。以下同じ。)の教職教育(教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための教育をいう。以下同じ。)の実施機関として、各学部と緊密に連携し、全学的な見地から共通教育に係る教育課程の企画及び円滑な実施を図るとともに、本学が掲げる高度専門職業人養成の教育目標を達成するため、学部一貫教育を前提に本学の教育に関する研究開発、企画及び支援を総合的に行うことを目的とする。

（全学協力体制等）

第3条 共通教育及びこれを履修する学生(以下単に「学生」という。)の修学指導は、全学協力体制により実施するものとし、各学部は、その実施体制の管理及び運営に責任を負うとともに、本学のすべての教員は、その構成員として共通教育の実施及び学生の修学指導を担当することを任務とする。

2 機構は、前条の目的を達成し、次条に定める業務を遂行するため、附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センターその他の関係部局(以下「関係部局」という。)と有機的に連携するとともに、関係委員会等と緊密に連携協力する。

（出典：信州大学規程集）

資料理7 フィールドワークの利点と関連施設

<利点>

- ・ 自然に近く接することによって真理を探究する姿勢と意欲を涵養できるため、数学、物理、化学などの基盤的科学の推進に適している。
- ・ 豊富な自然にめぐまれ山岳や陸水・雪氷、動植物の教育研究や宇宙線等の観測に最適である。

施設名称	所在地（市町村） ※すべて長野県
山岳科学研究所山地水環境教育研究センター	諏訪市
山岳科学研究所木崎湖観測所	大町市
山岳科学研究所上高地ステーション	松本市
山岳科学研究所菅平ステーション	上田市
山岳科学研究所乗鞍高原ステーション	松本市
宇宙線地下観測所	長野市、安曇野市

（出典：理学部事務部作成、「大学概要2015」）

3 カリキュラムの特徴・特色

3-1 カリキュラム改正と専門科目の特徴

本学部は平成27年度に改組を行い、6学科を2学科7コース制とした。各コースに3つのプログラムを置き、学生は希望にあわせて1つのプログラムを選ぶことができる。また、新カリキュラムでは、学生のニーズに応じてコースを越えて履修科目を自由にカスタマイズすることができる。カリキュラムの中心に学部共通科目としてグリーンサイエンス

科目（うち 12 単位必修）を設置しており、理学部生として不可欠な自然科学における幅広い基礎知識と応用力を養成する。（資料理 8）

資料理 8 改組前後の教育組織図・改組のポイント

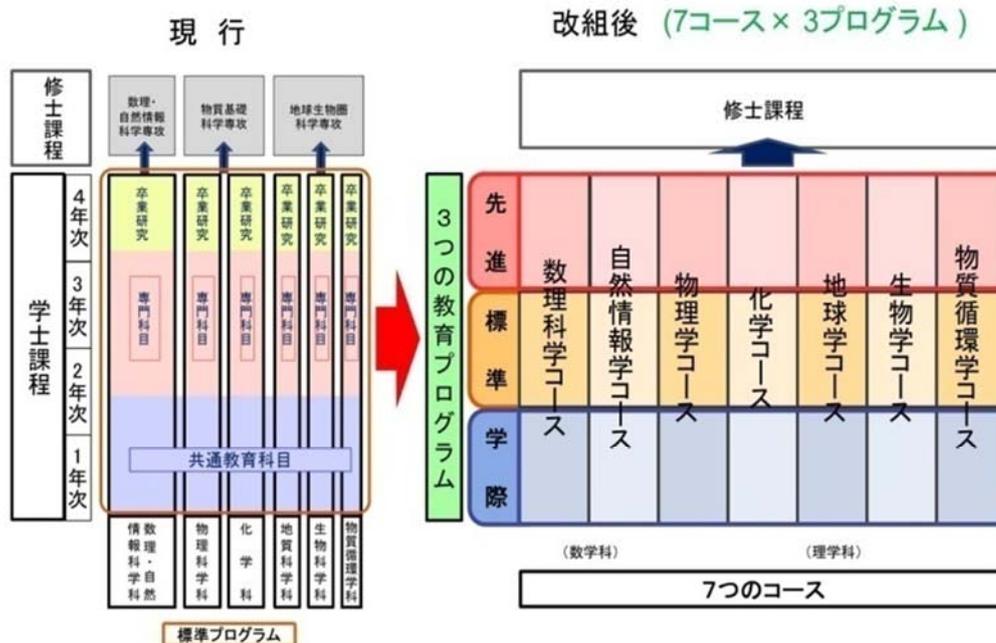
○授業科目を体系化した 7 つのコース〈専門性〉

- 〔数学科〕 ①数理科学コース
- ②自然情報学コース
- 〔理学科〕 ③物理学コース
- ④化学コース
- ⑤地球学コース
- ⑥生物学コース
- ⑦物質循環学コース

○学生のニーズに応じた 3 つのプログラム〈理学力の質〉

- ①標準プログラム…専門性の確保を主目的にした、標準的な教育プログラム
- ②先進プログラム…高度な専門知識とスキル修得と大学院修士課程までの 6 年一貫履修を目指す。より能動的学習意欲を持つ学生のためのプログラム。標準プログラムに加えて、アドバンス科目と大学院先取り科目を履修し、専門分野でのより深い知識に裏付けられた研究力と課題解決能力を身につける。
- ③学際プログラム…未知なる問題に対する解決能力をより醸成するために、自ら選んだ特定課題に対し分野を超えた幅広い知識とスキルを修得することを目指す学生のためのプログラム

信州大学理学部（教育課程移行図）



## 改組のポイント

### 授業科目を体系化した7つのコース

- ・従来の学科を廃止し、授業科目を体系化した7つのコースを設定する。学生は軸となるいずれかのコースを選択し、理学の専門性を身につける。
- ・学生の希望を考慮し、従来の転学科に相当する配属が容易になる。

### 学生のニーズに応じた3つの教育プログラム

- ・先進、標準および学際的の3つの教育プログラムを設定し、学生は学びたい対象や目指す進路に応じて履修方法を考えて選択する。

### 学生が主人公となり、21通りの基本ルートからカリキュラムをカスタマイズ

- ・学生は学位取得のための基本ルートとしての21通り(7コース×3プログラム)から組み合わせて個々のニーズに対応したカリキュラムをカスタマイズする。21通りの教育を通して理学力の質(深さと幅)を選択できるようにする。

### 能動的・意欲的な学生に様々な教育・研究ができる場を提供

- ・意欲的な学生に対して、より広く、深く学べるプログラムを準備する。
- ・4年次には、大学院修士課程の授業科目を先取り履修することも可能である。
- ・6年一貫教育による研究者、高度専門職業人、専修免許保持教員を育成する。
- ・先鋭領域融合研究群で実施されている最先端の科学に触れる機会も可能となり、教育・研究活動がより一層充実する。
- ・TOEICの全員受験を活用した英語教育によるグローバル教育を実施する。

### 学問分野を越えた対応能力を持つ人材の育成

- ・グリーンサイエンス科目を設け、理学分野の専門基礎を幅広く学修する。
- ・学術研究院が設置されたことにより、従来の理学部教員以外の教員も理学部教育に柔軟に関わることが可能となる。学生のニーズに応じた教育がより一層充実する。

(出典：理学部事務局作成、信州大学理学部の改組について(概要)より抜粋)

### 3-2 共通教育

本学は、主に1年次が受講する共通教育科目と専門科目で教育課程を編成している。

(資料理9～11)

資料理9 信州大学学則

(教育課程の編成方針)

第42条 各学部は、本学、当該学部及び学科又は課程等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、体系的に教育課程を編成するものとする。

2 教育課程の編成に当たっては、学部等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮するものとする。

(授業科目の区分)

第43条 本学で開設する授業科目は、その内容により共通教育科目及び専門科目に分ける。

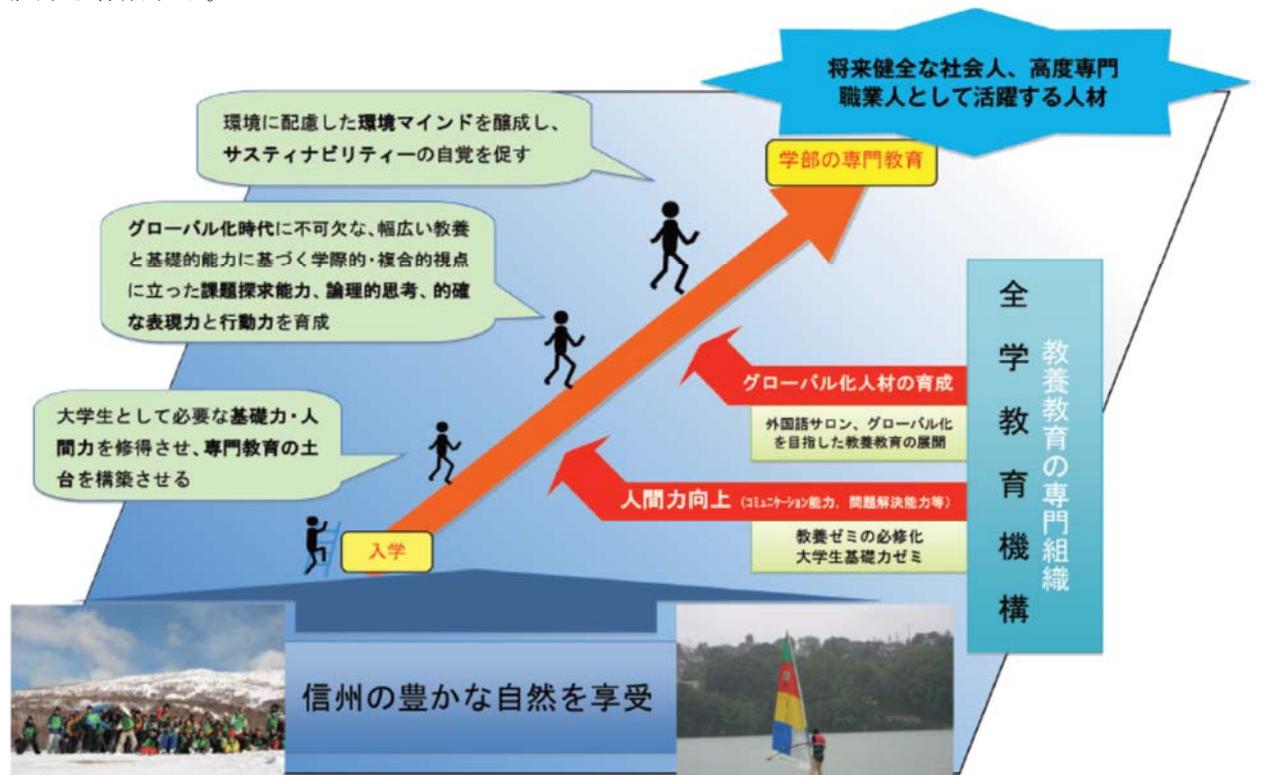
(出典：信州大学規程集)

資料理 10 共通教育の概要

学部の専門教育に進み、将来健全な社会人、高度専門職業人として活躍する人材を育成するため、幅広い教養と基礎的能力に基づく課題探求能力、豊かな人間性や国際性の修得及び人間力向上を目指す。

特に、環境に配慮した意識と生活者としての環境マインドを醸成し、サステナビリティの自覚を促す。さらに、グローバル化時代を生きる新しい世代に不可欠な、学際的・複合的視点に立った課題探求能力、論理的思考、的確な表現力と行動力を育成

大学生として必要な基礎力・人間力を修得させ、専門教育の土台を構築させる



(出典:冊子「ミッションの再定義に基づく教育研究の高度化・機能強化」)

資料理 11 共通教育科目区分一覧

教養科目：学部・学科(課程)を越えた全学生の素養として必要な科目	
教養講義	信州大学の理念・目的に沿って、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するための教養科目
教養ゼミナール	
基礎科目：大学教育(学部一貫教育)の基礎となる科目	
外国語科目	全学生に共通に必要な科目
健康科学科目	
新入生ゼミナール科目	
基礎科学科目	複数の学部で基盤となる科学について共通教育で開講する科目
日本語・日本事情	
日本語・日本事情科目	外国人留学生のために開講する科目
専門入門科目	
専門入門科目	学部の専門科目として開講され、他学部生は教養科目として履修できる科目

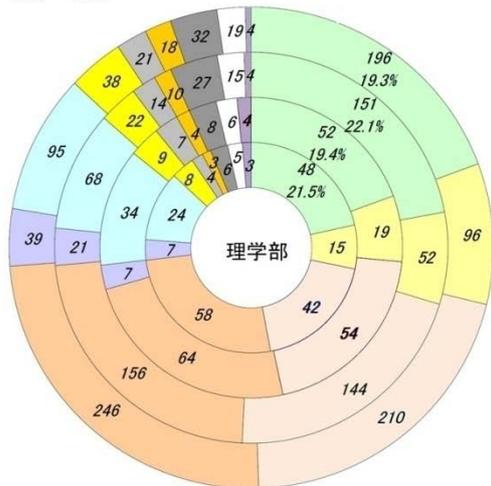
(出典：経営企画課作成)

4 入学者の状況

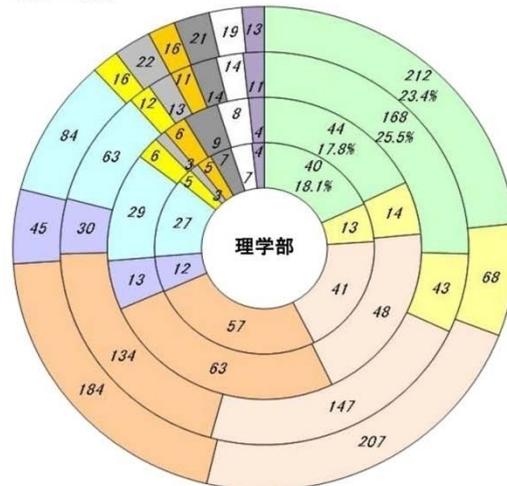
本学部の出身地域別の志願者数、受験者数、合格者数、入学者数は以下の通りである。(資料理 12)

資料理 12 理学部の出身地域別の志願者数、受験者数、合格者数、入学者数

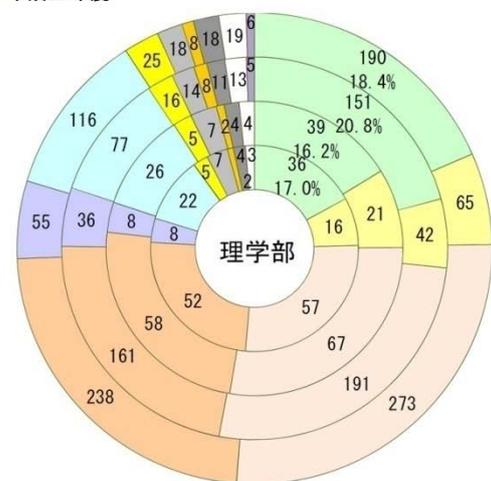
平成21年度



平成23年度



平成26年度



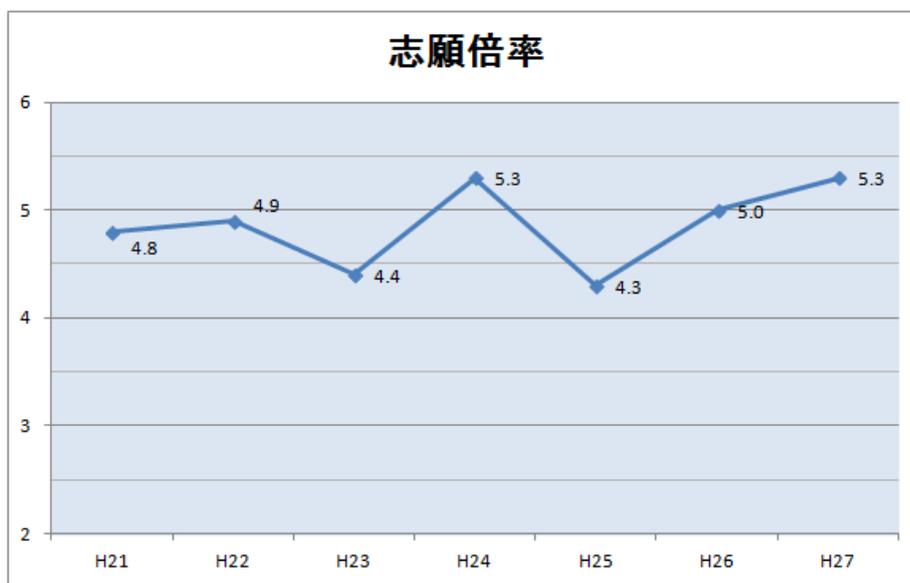
凡例

- 最外周：志願者
  - 第2周：受験者
  - 第3周：合格者
  - 最内周：入学者
- 長野
  - 甲越
  - 関東
  - 東海
  - 北陸
  - 近畿
  - 東北
  - 中国
  - 四国
  - 九州・沖縄
  - 北海道
  - その他

(出典：経営企画課作成)

本学部の志願倍率（一般入試）は以下の通りである。（資料理 13）

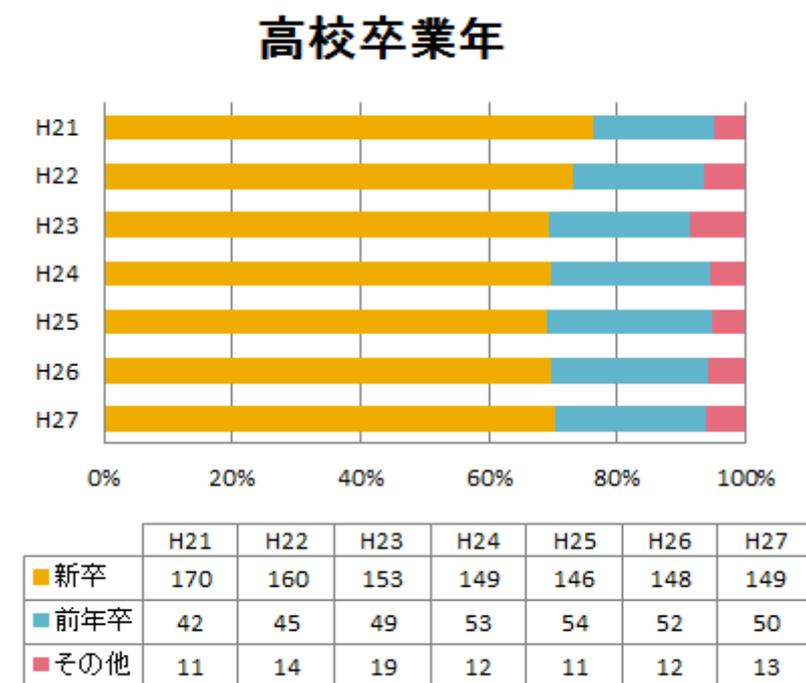
資料理 13 志願倍率



(出典：経営企画課作成)

本学部の入学者に占める新卒者・既卒者の割合は以下の通りである。(資料理 14)

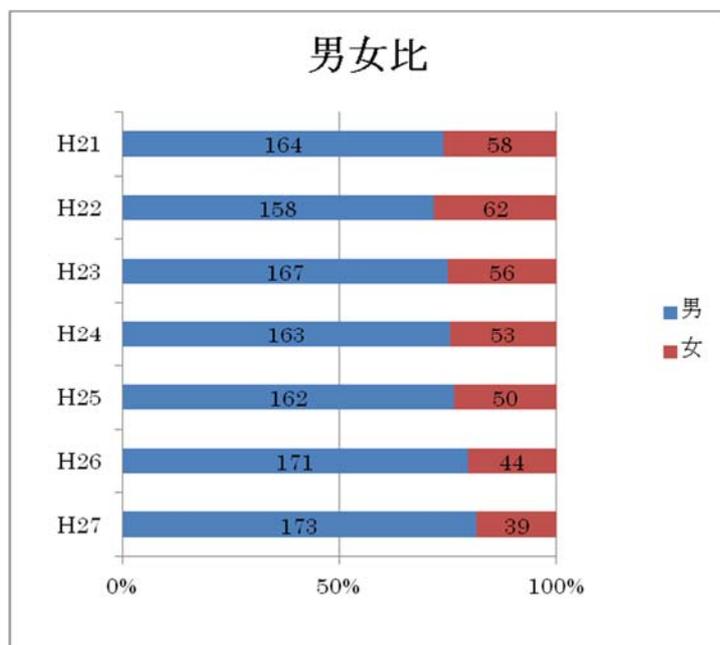
資料理 14 理学部の入学者に占める新卒者・既卒者の割合



(出典：経営企画課作成)

本学部の入学者に占める男女比の割合は以下の通りである。(資料理 15)

資料理 15 入学者に占める男女比の割合



(出典：経営企画課作成)

本学部のアドミッションポリシー（前掲資料理 3、p3）に基づいた選抜方法によって学生を受け入れている。(資料理 16～17)

資料理 16 平成 27 年度選抜方法募集人員

学部	学 科	コ ー ス	入学定員	募 集 人 員						
				一般入試		AO入試	推薦Ⅰ センター 入試を 課さない	推薦Ⅱ センター 入試を 課す	帰国 子女	私費 外国人 留学生
				前期日程	後期日程					
理学部	数学科	数理科学コース	54	24	27	3	-	-	若干	若干
		自然情報学コース								
		小計		24	27	3	-	-		
	理学科	物理学コース	151	20	9	-	-	5	若干	若干
		化学コース		15	14	-	5	若干	若干	
		地球学コース		10	15	4	-	若干	若干	
		生物学コース		15	14	-	-	若干	若干	
		物質循環学コース		10	10	-	5	若干	若干	
		小計		70	62	4	10	5		
		計		205	94	89	7	10	5	

(出典：理学部事務部作成)

資料理 17 平成 27 年度入学試験科目一覧

入試区分	学科・コース	出題科目名等	センター試験	
一般入試(前期日程)	数学科	数学(数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B)	課す	
	理学科	物理学コース		理科(物理基礎・物理)
		化学コース		理科(化学基礎・化学)
		地球学コース		面接(物理基礎・物理、化学基礎・化学、生物基礎・生物又は地学基礎・地学から1科目を選択し、選択した科目の範囲を含む口頭試験)
		生物学コース		面接(生物基礎・生物の範囲を含む口頭試験)
		物質循環学コース		小論文
一般入試(後期日程)	数学科	数学(数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B) 数学(数学Ⅲ) 理科(「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」、 「生物基礎・生物」、「地学基礎・地学」か ら一つ選択)	課す	
	理学科	物理学コース		個別学力検査等を行わない。
		化学コース		数学(数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B)
		地球学コース		数学(数学Ⅲ)、理科(「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」、 「生物基礎・生物」、「地学基礎・地学」) から二つ選択
		生物学コース		数学(数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B) 理科(「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」、

		物質循環学コース	「生物基礎・生物」、「地学基礎・地学」から二つ選択)	
AO入試	数学科		面接の基本的な資料とするための筆記課題 個別の面接	課さない
	理学科	地球学コース	面接の基本的な資料とするための実地試験 個別の面接	課す
推薦入試	理学科	物理学コース	面接(口頭試問を含む)	課す
		化学コース	面接の参考とするための基礎学力テスト 面接	課さない
		物質循環学コース	面接	課さない

(出典：平成27年度信州大学学生募集要項より抜粋)

[想定する関係者とその期待]

#### 在学生・受験生・それらの保護者

在学生は、理学部の教育目的に照らし、広い学問的素養と理学の基礎を修得した上で各コースの専門性を培うことができることを期待している。

教育サポートとしては、クラス担任によるきめ細かい指導や、長期欠席時の本人・保護者への連絡・面談などに期待を寄せている。また授業の中味についても、教員による不断の改善努力を期待している。さらに、教職・学芸員資格取得のためのカリキュラムやキャリア教育、理数系教員養成などの充実したサポート体制についても期待を寄せている。

#### 卒業生

卒業生からの期待として、「専門分野の理論を深く教育する」、「専門に拘らない、幅広い教養教育を実施する」、および「語学教育に力を入れる」などが挙げられる。また、「学生のカウンセリング、学生の学修支援、経済支援を充実すること」、「地域への貢献」、「社会での存在意義のアピール」も挙げられる。

#### 卒業生の雇用者

企業や官庁等、卒業生の就職先は、職務遂行のための能力（問題を発見し仮説を立てて検証する能力、情報を収集し整理する能力、ものごとを分析する能力、わかりやすく話す／文章を作成する能力）を期待している。

#### 進学先の大学院関係者、学生の研究関連学会や関係機関

論理的思考力と理学の基礎知識や専門的な技量を培った教育が行われていることを期待している。

#### 地域社会・自治体

論理的思考力を身につけ、自然科学の基礎的な素養を着実に習得した人材及びこれらを習得した理数系教員の輩出を期待している。また、地域社会への生涯学習の提供や研究内容の開放を期待している。

II 「教育の水準」の分析・判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

1. 教員組織および教育体制の刷新とその効果

① 学術研究院、全学教育機構と学部

教員の流動性を確保し、全学的な教育、研究マネジメントを可能とするため、教員組織として学術研究院を平成 26 年度より設置した。(資料理 18) また、学士課程の共通教育科目を担当する教育組織として全学教育機構を設置している。

資料理 18 学術研究院と学部との関係



学術研究院は、3の学域・10の学系により構成する。すべての教員は、いずれかの学系に所属し、職務として次のいずれかに携わる。(複数の兼務もあり)

- 1) 学部・大学院、全学教育機構において、教育・研究に携わる。
- 2) 医学部附属病院において、診療・教育・研究に携わる。
- 3) 先鋭領域融合研究群において、研究に携わる。
- 4) 大型研究センター(拠点形成型の外部資金プロジェクト)において、研究に携わる。
- 5) 各教育研究(支援)センター等において、担当業務に携わる。

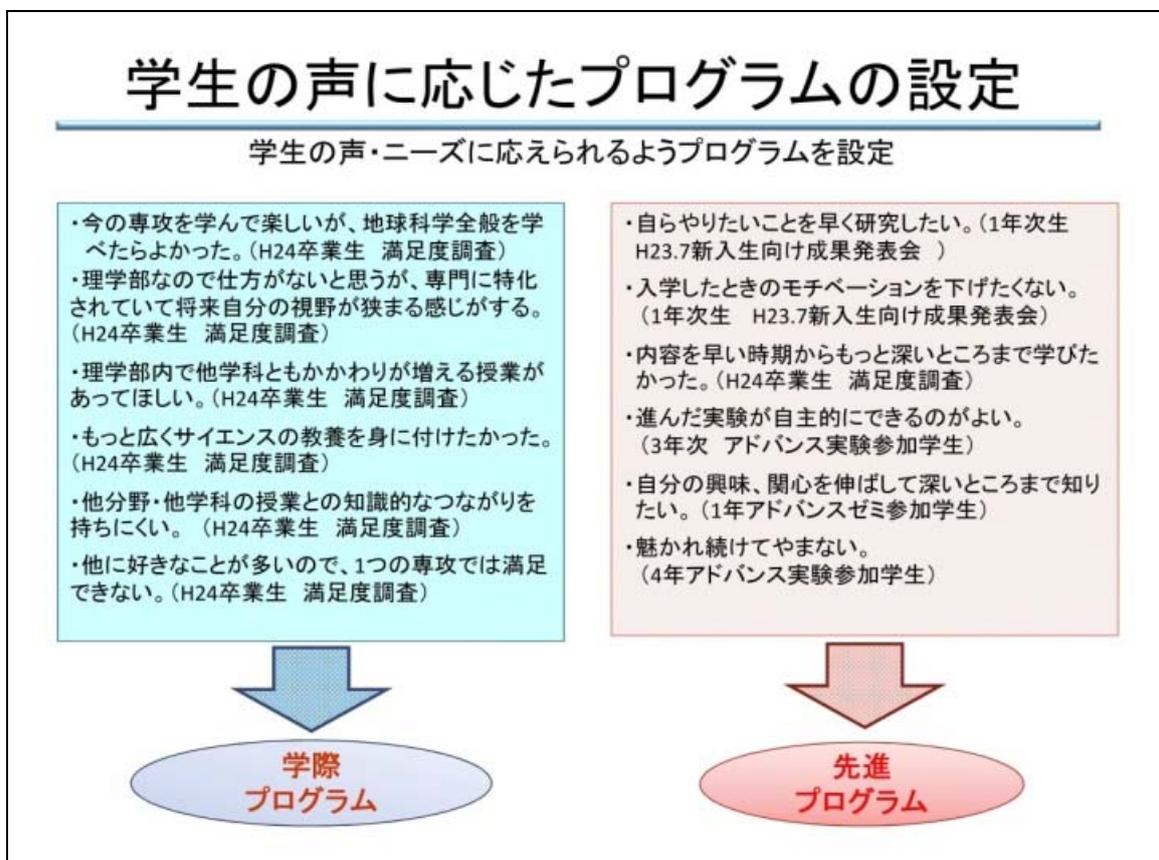
これにより、先鋭領域融合研究群の研究者への研究重点環境の提供や学部横断型の教育を実現し、研究の高度化や時代の要請に柔軟かつスピーディーに対応した教育を推進する。

(出典:「大学概要 2015」をもとに経営企画課作成)

②学部の構成

平成 27 年度の改組により、個別性の高い理学部の学問分野の専門性を確保しつつ、互いに関連の深い理学分野を広く学ぶこともできることとした。(前掲資料理 8、p 8、資料理 19)

資料理 19 学生の声に応じたプログラムの設定



(出典：信州大学理学部の改組について (概要) より抜粋)

本学部の教育体制は次のとおりである。(資料理 20～21)

資料理 20 担当教員配置表

(平成 27 年 4 月在籍 教授，准教授，講師，助教)

学科	コース	大学設置基準上の必要教員数	理学部の所属教員数 ( ) 内は教授	教授		准教授		講師		助教		計		
				男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	小計
数学科	数理科学	8 名かつ教授 4 名以上	15 名 (6 名)	6	0	1	0	1	0	3	0	11	0	11
	自然情報学			0	0	4	0	0	0	0	0	4	0	4
理学科	物理学	8 名かつ教授 4 名以上	48 名 (25 名)	7	0	4	1	0	0	0	0	11	1	12
	化学			5	0	3	0	0	0	2	1	10	1	11

	地球学			5	0	2	1	0	0	1	0	8	1	9
	生物学			4	0	4	0	0	0	0	0	8	0	8
	物質循環学			4	0	2	1	0	0	1	0	7	1	8
	合計			31	0	20	3	1	0	7	1	59	4	63

(出典：理学部事務部作成)

資料理 21 研究分野一覧

(平成 27 年 4 月在籍 教授, 准教授, 講師, 助教)

学科等	職位	職位	氏名	研究分野, キーワード, テーマ
数学科	数理科学	教授	花木 章秀	代数学, アソシエーション・スキームの表現と指標
		講師	沼田 泰英	代数学, 数え上げ組合せ論
		助教	和田 堅太郎	代数学, 表現論, ヘッケ環, 量子群, 組み合わせ論
		教授	栗林 勝彦	幾何学, トポロジー, 空間の代数的模型
		教授	玉木 大	幾何学, ホモトピー, 高次ループ空間の構造とその応用
		准教授	五味 清紀	幾何学, Gerbe を使った場の理論の量子化
		助教	境 圭一	位相幾何学, 埋め込みの空間のトポロジー
		教授	一ノ瀬 弥	偏微分方程式論, 数理物理学, Feynman 経路積分の数学的定式化
	自然情報学	教授	高木 啓行	関数解析学, 関数空間上の荷重合成作用素の研究
		教授	谷内 靖	偏微分方程式, 流体方程式, 非圧縮性流体の解析
		助教	筒井 容平	実解析学と実解析視点からの偏微分方程式の研究
		准教授	中山 一昭	非線形物理学, 渦の可積分性
		准教授	乙部 徹己	解析学基礎, マリアヴァン解析, 無限次元空間上の発散定理
		准教授	謝 賓	数理系科学, 伊藤解析, 確率偏微分方程式
理学科	物理学	准教授	佐々木 格	解析学基礎, 数理物理と場の量子論
		教授	宗像 一起	宇宙線物理学, 宇宙天気, 「宇宙線風」の観測による宇宙空間の研究
		教授	竹下 徹	素粒子物理学実験, 宇宙開闢のなぞを加速器で解き明かす
		教授	小竹 悟	素粒子理論, 数理物理学, 対称性
		教授	川村 嘉春	素粒子, 場の量子論, 余剰次元と超弦理論に関する物理
		准教授	加藤 千尋	宇宙線の観測実験, 数値実験
		准教授	長谷川 庸司	ヒッグス粒子, 加速器を用いた高エネルギー物理学実験
		准教授	奥山 和美	超弦理論, 場の理論, 一般相対性理論と量子力学
		教授	武田 三男	強誘電体, 光物性, フラクタル, 物質による電磁波の制御
		教授	天児 寧	金属物性・材料, 磁性がからむ新機能材料(合金)についての基礎研究
		教授	樋口 雅彦	物性物理学, 量子力学, 第一原理計算手法の開発
		准教授	中島 美帆	超電導, 希土類およびウラン化合物の高圧下物性
	准教授	志水 久	エントロピー, 計算機シミュレーションによる相転移の解明	
	化学	教授	樋上 照男	電気分析学, レーザーを用いる電気化学測定法の研究
		教授	金 継業	超音波による新しい反応場の形成と分析化学への応用
		教授	大木 寛	無機化学, 固体の結晶構造と分子の運動
		准教授	石川 厚	無機物理化学(分子運動, イオン交換), 同位体科学, 原子核と化学
		助教	竹内 あかり	無機化学, 生体医工学・生体材料学, セラミックス
		教授	尾関 寿美男	物理化学, 磁場の中での物づくりと物の性質や生命への磁場の影響
		教授	小田 晃規	精密有機合成, $\pi$ -電子系共役化合物の合成および機能性に関する研究
准教授		太田 哲	構造有機化学, 有機機能化学, 酸化還元応答性有機分子の開発	
助教	浜崎 亜富	コロイド・界面, 光化学, 強磁場中での物質の挙動と生態系への影響		

信州大学理学部 分析項目 I

		助教	庄子 卓	有機化学, 新規芳香族化合物の合成・反応と物理化学的性質に関する研究
		准教授	巽 広輔	電気分析化学, 液液界面, 電気化学測定法にもとづく生体関連反応の解析
	地球学	教授	保柳 康一	堆積地質学 (堆積相解析, シーケンス層序学, 古環境解析), 地球環境変遷
		准教授	吉田 孝紀	地層科学, 地質学 (層序学, 堆積学, 堆積岩岩石学)
		准教授	山田 桂	層位・古生物学, 古環境復元, 微化石
		助教	常盤 哲也	構造地質, 応用地質, 付加体
		教授	三宅 康幸	固体地球惑星物理学, 火山現象
		教授	原山 智	火成岩岩石学 (珪長質マグマ岩石学, 火成活動史, 造山論)
		教授	森清 壽郎	岩石・鉱物・鉱床学, 地球化学, ノジュール
		教授	牧野 州明	鉱物学, アルカリ長石の組織
		准教授	斎藤 武士	火山学, 磁気岩石学的手法による磁性鉱物の結晶化と火山噴火プロセスの研究
		生物学	教授	佐藤 利幸
	教授		市野 隆雄	生物間相互作用の進化生態学, 共進化
	教授		浅見 崇比呂	生態・環境, 進化生物学, 左右性, 種形成のメカニズム
	准教授		高橋 耕一	植物生態学, 森林生態系における多種共存機構, 外来植物の動態
	准教授		東城 幸治	進化生物学, 生物多様性・分類, 発生生物学
	教授		久保 浩義	植物分子生物学, 植物生理学, 植物の色素合成を調節しているしくみの解明
	准教授		高田 啓介	生物多様性・分類, 動物生態学, 淡水魚類の種分化と絶滅プロセスの解明
	物質循環学	准教授	柴田 直樹	発生学 (生殖生物学), メダカを用いた生殖生物学
		教授	戸田 任重	陸水学, 集水域における物質 (特に窒素) 循環に関する研究
		教授	朴 虎東	環境毒性学 (生態毒性学), アオコの発生機構, アオコ毒素
		准教授	島野 光司	生態, 環境保全, 自然地理学, 植生
		准教授	國頭 恭	植物栄養学・土壌学, 環境動態解析
		教授	公文 富士夫	地質学, 古気候学, 湖沼堆積学, 砂岩岩石学, 気候変動
		教授	鈴木 啓助	気象・海洋物理・陸水学, 環境動態解析, 山岳地域における環境変動, 雪
		准教授	村越 直美	堆積学, 堆積物, 堆積環境, 碎屑物循環
		助教	岩田 拓記	大気-地表面間のエネルギー・物質交換, 乱流輸送の観測技術
助教		山本 雅道	陸水生物学, 魚類生態, 溪流魚, 外来魚, 水生昆虫	
環境・エネルギー材料科学研究所	准教授	宮丸 文章	未踏破電磁波領域, フォトニック結晶による面白い光学特性に関する研究	
	准教授	飯山 拓	ナノスペース, X線と吸着測定による微小空間中の分子集団構造の解明	
	助教	高橋 史樹	微量薬物成分分析のための濃縮分離・検出技術の創出に関する基礎研究	
山岳科学研究所	教授	花里 孝幸	陸水生態学 (プランクトン生態学), 生態毒性学, バイオマニピュレーション, ミジンコ	
	准教授	宮原 裕一	環境影響評価, 環境政策・環境社会システム, 河川調査	
	助教	朝日 克彦	地理学, 環境動態解析, 中部山岳の雪氷圏変動	
全学教育機構	助教	高梨 功次郎	植物-微生物共生系の包括的解明, 植物二次代謝産物の代謝と輸送	
	教授	大塚 勉	層位・古生物学, 山地の活断層の研究	
	准教授	伊藤 靖夫	分子遺伝学, 遺伝的形質転換の分子機構	
	准教授	今津 道夫	植物病理学, 菌学, 樹病学, さび菌類の分類と生態に関する研究	
	講師	三澤 透	天文学, クェーサー吸収線, 活動銀河核, 宇宙の化学進化	

(出典: 理学部事務部作成)

必修科目は専任教員が原則的に担当し、選択科目は必要に応じて非常勤講師が担当している (資料理 22~23)。

資料理 22：平成 27 年度科目開講状況（専任教員担当教科）

&lt; 数学科 &gt;

科目名	主担当教員	対象 学年	開講 期	曜日 時限	単 位数
グリーンサイエンス通論	金 継業 他	1	後期	月 1	2
線形代数学 I	沼田 泰英	1	前期	月 3	2
線形代数学 II	玉木 大	1	後期	月 3	2
微分積分学 I	高木 啓行	1	前期	木 3	2
微分積分学 II	高木 啓行	1	後期	木 3	2
力学	三澤 透	2	前期	金 2	2
電磁気学	三澤 透	2	後期	金 2	2
物理学概論 I	宗像 一起	1, 2	前期	金 2	2
物理学概論 II	天児 寧	1, 2	後期	金 1	2
化学概論 I	大木 寛	1, 2	前期	火 2	2
化学概論 II	尾関 寿美男	1, 2	後期	木 2	2
生物学概論 I	久保 浩義 他	1, 2	前期	月 5	2
生物学概論 II	戸田 任重	1, 2	後期	金 5	2
地学概論 I	三宅 康幸	1, 2	前期	月 1	2
地学概論 I	三宅 康幸	1, 2	前期	火 2	2
地学概論 II	公文 富士夫	1, 2	後期	火 1	2
化学実験	石川 厚 他	1, 2	前期	木 4, 5	2
生物学実験	今津 道夫 他	1, 2	前期	金 4, 5	2
地学実験	大塚 勉	1, 2	後期	火 3, 4	2
代数入門	花木 章秀	2	前期	月 1	2
代数入門演習	花木 章秀	2	前期	月 2	2
環論	和田 堅太郎	3	前期	月 3	2
線形代数学演習 I	沼田 泰英	1	前期	月 4	1
環論演習	和田 堅太郎	3, 4	前期	月 4	2
微分積分学特論 I	謝 賓	1	前期	火 1	2
熱・波動方程式論	佐々木 格	3, 4	前期	火 1	2
自然情報学基礎講義	謝 賓	3, 4	前期	火 2	2
自然情報科学特別講義Ⅲ（生保数理）	植田 和孝	3, 4	前期	火 3, 4	2
自然情報科学特別講義Ⅳ（年金数理）	鎌田 史男	3, 4	前期	火 3, 4	2
トポロジー	五味 清紀	3	前期	水 1	2
代数学特別講義Ⅲ	沼田 泰英	3, 4	前期	水 3	2
幾何学特別講義Ⅲ	五味 清紀	3, 4	前期	水 2	2
関数論 I	谷内 靖	2	前期	水 3, 4	4
幾何学特別講義Ⅳ	玉木 大	3, 4	前期	水 4	2
微分積分学詳論Ⅲ	乙部 巖己	2, 3, 4	前期	木 1	2
情報科学演習	佐々木 格 他	1	前期	木 2	2
線形代数学続論	五味 清紀	3, 4	前期	木 3	2
微分積分学演習 I	高木 啓行	1	前期	木 4	1
電磁気論	中山 一昭	3, 4	前期	木 4	2
実解析学演習	一ノ瀬 弥	3, 4	前期	金 1	2
情報処理 I	佐々木 格	2, 3, 4	前期	金 2	2

実解析学 I	一ノ瀬 弥	3	前期	金 2	2
数理モデル論	乙部 徹己	3, 4	前期	金 3	2
幾何入門	栗林 勝彦	2	前期	金 3, 4	4
解析学特別講義 II	一ノ瀬 弥	3, 4	前期	集中	2
自然情報科学特別講義 V (損保数理)	本多 正憲	3, 4	前期	集中	2
数理統計学	乙部 徹己	2, 3, 4	後期	金 2	2
解析学特別講義 I	一ノ瀬 弥	3, 4	後期	月 1	2
実解析学 II	一ノ瀬 弥	3	後期	月 2	2
線形代数学演習 II	玉木 大	1	後期	月 4	1
情報科学概論	乙部 徹己	3, 4	後期	水 1	2
群論	沼田 泰英	2	後期	火 2	2
群論演習	沼田 泰英	2	後期	火 2	2
微分積分学詳論 II	謝 賓	1	後期	火 3	2
変分法・解析力学	佐々木 格	3, 4	後期	火 3	2
集合論	玉木 大	1	後期	水 1	2
関数解析学	筒井 容平	3, 4	後期	水 2	2
代数学特別講義 IV	花木 章秀	3, 4	後期	水 3	2
代数学特別講義 VII	花木 章秀	3, 4	後期	水 4	2
関数論 II	谷内 靖	2	後期	水 3, 4	4
多様体論	五味 清紀	3	後期	木 1	2
微分方程式と力学	中山 一昭	2, 3, 4	後期	木 1	2
微分方程式と力学演習	中山 一昭	2, 3, 4	後期	木 2	2
幾何学特別講義 VI	境 圭一	3, 4	後期	木 2	2
微分積分学演習 II	高木 啓行	1	後期	木 4	1
体論	花木 章秀	3	後期	木 4	2
確率論	謝 賓	3, 4	後期	金 3	2
位相空間論	栗林 勝彦	2	後期	金 3	2
位相空間論演習	栗林 勝彦	2	後期	金 4	2
卒業研究	数理・自然情報 科学科全教員	4	通年	不定期	12
アドバンスゼミ	栗林 勝彦	1	後期	不定期	1
アドバンス演習・実験・実習 I	栗林 勝彦	2	前期	不定期	1
アドバンス演習・実験・実習 II	栗林 勝彦	2	後期	不定期	1
アドバンス演習・実験・実習 III	栗林 勝彦	3	前期	不定期	1
アドバンス演習・実験・実習 IV	栗林 勝彦	3	後期	不定期	1
数理実務体験実習	谷内 靖	3	通年	集中	1

&lt;理学科：物理学コース&gt;

科目名	主担当教員	対象 学年	開講 期	曜日 時限	単 位 数
グリーンサイエンス通論	金 継業 他	1	後期	月 1	2
線形代数学 I	栗林 勝彦	1	前期	木 3	2
線形代数学 II	五味 清紀	1	後期	水 1	2
微分積分学 I	中山 一昭	1	前期	金 3	2
微分積分学 II	謝 賓	1	後期	金 4	2
化学概論 I	大木 寛	1, 2	前期	火 2	2

化学概論Ⅱ	小田 晃規	1, 2	後期	火 2	2
生物学概論Ⅰ	久保 浩義 他	1, 2	前期	月 5	2
生物学概論Ⅱ	戸田 任重	1, 2	後期	金 5	2
地学概論Ⅰ	三宅 康幸	1, 2	前期	月 1	2
地学概論Ⅰ	三宅 康幸	1, 2	前期	火 2	2
地学概論Ⅱ	公文 富士夫	1, 2	後期	火 1	2
化学実験	巽 広輔 他	1, 2	前期	火 3, 4	2
生物学実験	今津 道夫 他	1, 2	前期	水 4, 5	2
地学実験	大塚 勉	1, 2	後期	火 3, 4	2
量子物性Ⅱ	樋口 雅彦	3, 4	前期	月 1	2
物理学演習Ⅲ	加藤 千尋	2	前期	月 2	2
物理学演習Ⅰ	宗像 一起 他	1	前期	月 3	2
量子力学Ⅲ	川村 嘉春	3	前期	月 3	2
量子力学Ⅰ	川村 嘉春	2	前期	月 4	2
宇宙物理学	宗像 一起 他	3, 4	前期	月 4	2
電磁気学Ⅲ	武田 三男	3	前期	火 1	2
物理学演習Ⅳ	奥山 和美	2	前期	火 2	2
物性序論Ⅰ	樋口 雅彦	3	前期	火 2	2
物理学演習Ⅶ	中田 陽介	3	前期	火 3	2
物理数学Ⅱ	小竹 悟	2	前期	水 1	2
物理学実験Ⅱ	宮丸 文章 他	2	前期	水 3, 4	2
物理学実験Ⅲ a	中島 美帆 他	3	前期	水 3, 4 金 3, 4	4
物理学実験Ⅲ b	加藤 千尋 他	3	前期	水 3, 4 金 3, 4	4
力学Ⅲ	小竹 悟	2	前期	木 1	2
物理実験学	竹下 徹	1	前期	木 2	2
物理学演習Ⅷ	志水 久	3	前期	木 2	2
力学Ⅰ	宗像 一起	1	前期	木 4	2
応用電磁気学Ⅱ	長谷川 庸司	2, 3, 4	前期	木 4	2
情報科学演習	竹下 徹	1	前期	金 1	2
統計力学Ⅰ	志水 久	3	前期	金 1	2
電磁気学Ⅰ	天児 寧	2	前期	金 2	2
相対性理論Ⅰ	奥山 和美	1	前期	金 4	2
物理学演習Ⅳ	志水 久	2	後期	月 1	2
熱力学	志水 久	2	後期	月 2	2
物理学演習Ⅱ	宗像 一起 他	1	後期	月 3	2
応用電磁気学Ⅰ	竹下 徹	2, 3, 4	後期	月 4	2
物性序論Ⅱ	樋口 雅彦	3	後期	火 1	2
物理学演習Ⅸ	志水 久	3	後期	火 3	2
物理数学Ⅲ	小竹 悟	2	後期	水 1	2
物理学実験Ⅰ	宮丸 文章 他	1	後期	水 3, 4	2
物理学実験Ⅲ a	中島 美帆 他	3	後期	水 3, 4 金 3, 4	4
物理学実験Ⅲ b	加藤 千尋 他	3	後期	水 3, 4 金 3, 4	4

量子力学Ⅱ	川村 嘉春	2	後期	木 1	2
相対性理論Ⅱ	奥山 和美	3, 4	後期	木 1	2
力学Ⅱ	宗像 一起	1	後期	木 2	2
個体物性Ⅰ	天児 寧	3, 4	後期	木 2	2
物理学演習Ⅴ	長谷川 庸司	2	後期	木 3	2
素粒子物理学	川村 嘉春	3, 4	後期	木 3	2
計算物理学	竹下 徹	2	後期	木 4	2
物理学最前線	物理科学科全教員	3	後期	木 4	2
物理数学Ⅰ	小竹 悟	1	後期	金 1	2
統計力学Ⅱ	樋口 雅彦	3	後期	金 1	2
電磁気学Ⅱ	天児 寧	2	後期	金 2	2
卒業研究	物理科学科全教員	4	通年	不定期	12
物理学特別セミナー	物理科学科全教員	4	通年	不定期	4
物理学特別研究	物理科学科全教員	4	通年	不定期	8
放射線安全実習	天児 寧	2, 3, 4	不定期		1
アドバンスゼミ	小竹 悟	1	後期	火 5	1
アドバンス演習・実験・実習Ⅲ	奥山 和美	3	前期	不定期	1
アドバンス演習・実験・実習Ⅳ	奥山 和美	3	後期	不定期	1
社会体験実習	志水 久	3	通年	集中	2

&lt;理学科：化学コース&gt;

科目名	主担当教員	対象学年	開講期	曜日時限	単位数
グリーンサイエンス通論	金 継業 他	1	後期	月 1	2
線形代数学Ⅰ	栗林 勝彦	1	前期	木 3	2
線形代数学Ⅱ	五味 清紀	1	後期	水 1	2
微分積分学Ⅰ	中山 一昭	1	前期	金 3	2
微分積分学Ⅱ	謝 賓	1	後期	金 4	2
力学	三澤 透	2	前期	金 2	2
電磁気学	三澤 透	2	後期	金 2	2
物理学概論Ⅰ	宗像 一起	1, 2	前期	月 2	2
物理学概論Ⅱ	天児 寧	1, 2	後期	月 4	2
生物学概論Ⅰ	久保 浩義 他	1, 2	前期	月 5	2
生物学概論Ⅱ	市野 隆雄	1, 2	後期	金 3	2
地学概論Ⅰ	三宅 康幸	1, 2	前期	月 1	2
地学概論Ⅱ	三宅 康幸	1, 2	前期	火 2	2
地学概論Ⅲ	公文 富士夫	1, 2	後期	火 1	2
物理学実験	中島 美帆	2	後期	月 3, 4	2
生物学実験	今津 道夫 他	1, 2	前期	金 4, 5	2
地学実験	大塚 勉	1, 2	前期	火 3, 4	2
物理化学Ⅰ	尾関 寿美男	2	前期	月 1	2
物理化学特論Ⅰ	尾関 寿美男	3	前期	月 2	2

基礎分析化学	金 継業	1	前期	月 3	2
基礎有機化学	小田 晃規	1	前期	火 1	2
分析化学演習 II	巽 広輔	3	前期	火 1	1
化学分析学	巽 広輔	2	前期	火 2	2
無機化学 I	竹内 あかり	2	前期	水 1	2
有機化学特論 II	太田 哲	3	前期	水 1	2
固体化学	大木 寛	3	前期	水 2	2
物理化学 III	飯山 拓	3	前期	水 3	2
情報科学演習	大木 寛 他	1	前期	水 5	2
無機化学特論	石川 厚	3	前期	木 1	2
有機化学 I	小田 晃規	2	前期	木 2	2
基礎化学実験	石川 厚	1	前期	木 4, 5	2
分析化学実験	巽 広輔 他	2	前期	木 3, 4, 5 金 3, 4, 5	3
有機化学実験	庄子 卓 他	3	前期	木 3, 4, 5 金 3, 4, 5	3
有機化学 III	太田 哲	3	前期	金 2	2
工業化学	小田 晃規	3, 4	前期	集中	1
計測化学	金 継業	3	前期	集中	2
物理化学 II	飯山 拓	2	後期	月 1	2
核化学	大木 寛	3	後期	月 2	2
分析化学演習 I	樋上 照雄 他	2	後期	月 4	1
分子設計学	太田 哲	2	後期	火 1	2
基礎物理化学	尾関 寿美男	1		火 2	2
生物化学	巽 広輔	3, 4		火 2	2
計測化学特論 I	金 継業	3		水 1	2
無機化学 II	大木 寛	2		水 2	2
有機化学特論 I	庄子 卓	3		水 2	2
化学数学	石川 厚 他	1		水 3	2
有機反応学	庄子 卓	3		水 3	2
分析化学	樋上 照雄	2		木 2	2
有機化学 IV	小田 晃規	3		木 2	2
無機化学実験	石川 厚 他	2		木 3, 4, 5 金 3, 4, 5	3
物理化学実験	濱崎 亜富 他	3		木 3, 4, 5 金 3, 4, 5	3
物理化学演習	濱崎 亜富	2		金 1	1
計測化学特論 II	樋上 照雄	3		金 1	2

基礎無機化学	石川 厚	1		金 2	2
有機化学Ⅱ	小田 晃規	2		金 2	2
無機化学演習	竹内 あかり	3		金 2	1
コロキウム	化学科全教員	4	通年	不定期	2
卒業研究	化学科全教員	4	通年	不定期	10
放射線安全実習	天児 寧	2, 3, 4	不定期		1
アドバンスゼミ	樋上 照雄	1	後期	不定期	1
アドバンス演習・実験・実習Ⅰ	巽 広輔 他	2	前期	水 5	1
アドバンス演習・実験・実習Ⅱ	石川 厚 他	2	後期	水 4	1
アドバンス演習・実験・実習Ⅲ	小田 晃規 他	3	前期	水 5	1
アドバンス演習・実験・実習Ⅳ	飯山 拓 他	3	後期	水 5	1
化学実務体験	樋上 照雄	2, 3	通年	集中	1

&lt; 理学科：地球学コース &gt;

科目名	主担当教員	対象 学年	開講 期	曜日 時限	単 位 数
グリーンサイエンス通論	金 継業 他	1	後期	月 1	2
力学	三澤 透	2	前期	金 2	2
電磁気学	三澤 透	2	後期	金 2	2
物理学概論Ⅰ	宗像 一起	1, 2	前期	月 2	2
物理学概論Ⅱ	天児 寧	1, 2	後期	金 1	2
化学概論Ⅰ	樋上 照雄	1, 2	前期	金 3	2
化学概論Ⅱ	尾関 寿美男	1, 2	後期	木 2	2
生物学概論Ⅰ	久保 浩義 他	1, 2	前期	月 5	2
生物学概論Ⅱ	市野 隆雄	1, 2	後期	金 3	2
地学概論Ⅱ	公文 富士夫	1, 2	後期	火 1	2
物理学実験	中島 美帆	2	後期	月 3, 4	2
化学実験	巽 広輔 他	1, 2	前期	火 3, 4	2
生物学実験	今津 道夫 他	1, 2	前期	木 4, 5	2
情報科学演習	牧野 州明	1	前期	月 2	2
地球・惑星物理学	齋藤 武士	3	前期	月 4	2
地層学	保柳 康一	2	前期	火 2	2
構造地質学	常盤 哲也	3	前期	火 2	2
資源地質学Ⅰ	森清 壽郎	3	前期	水 2	1
地質学入門実習	原山 智	1	前期	水 4	1
古生物学	山田 桂	2	前期	水 4	2
地球科学実験	森清 壽郎	3	前期	水 3, 4	2
鉱物学	牧野 州明	2	前期	木 1	2
地球史学	吉田 孝紀	2	前期	木 2	2
堆積学	保柳 康一	3	前期	木 2	2
鉱物・岩石学実験Ⅰ	齋藤 武士 他	2	前期	木 3, 4	2
堆積・古生物学実験Ⅰ	吉田 孝紀 他	3	前期	木 3, 4	2
岩石学Ⅱ	森清 壽郎	3	前期	金 1	2
コロキウムⅠ	三宅 康幸	3	前期	金 2	2
地質調査法実習Ⅰ	吉田 孝紀 他	2	前期	金 2, 3, 4, 5	2

岩石学実験	原山 智 他	3	前期	金 3, 4	2
科学英語Ⅱ	保柳 康一	2	後期	月 2	2
情報地質学	齋藤 武士 他	3	後期	月 4	2
第四紀学	三宅 康幸 他	2	後期	火 2	2
テクトニクス論	大塚 勉 他	3	後期	火 2	2
日本地質	大塚 勉 他	2	後期	水 1	2
資源地質学Ⅱ	保柳 康一	3	後期	水 2	1
地質学序説	保柳 康一 他	1	後期	水 3	2
地質学序説実習	保柳 康一 他	1	後期	水 4	1
コロキウムⅡ (基礎)	吉田 孝紀	3	後期	木 1	2
岩石学Ⅰ	原山 智	2	後期	木 2	2
火山学	三宅 康幸 他	3	後期	木 2	2
鉱物・岩石学実験Ⅱ	原山 智	2	後期	木 3, 4	2
堆積・古生物学実験Ⅱ	保柳 康一 他	3	後期	木 3, 4	2
地球化学	森清 壽郎	3	後期	きん 1	2
コロキウムⅡ (応用)	三宅 康幸	3	後期	金 2	2
岩石学実験	原山 智 他	3	後期	金 3, 4	2
地質調査法実習Ⅱ	吉田 孝紀 他	2	後期	金 2, 3, 4, 5	2
野外巡検Ⅰ	原山 智	2	通年	集中	2
野外巡検Ⅱ	森清 壽郎 他	3	通年	集中	2
地質調査演習	吉田 孝紀 他	3	通年	集中	4
地質科学演習	地質科学科全教 員	4	通年	不定期	2
卒業研究Ⅰ	地質科学科全教 員	4	通年	不定期	3
卒業研究Ⅱ	地質科学科全教 員	4	通年	不定期	7
放射線安全実習	天児 寧	2, 3, 4	不定期		1
アドバンスゼミ	牧野 州明	1	後期	不定期	1
地質実務体験実習	三宅 康幸 他	3	通年	集中	1

## &lt; 理学科：生物学コース &gt;

科目名	主担当教員	対象 学年	開講 期	曜日 時限	単 位 数
グリーンサイエンス通論	金 継業 他	1	後期	月 1	2
力学	三澤 透	2	前期	金 2	2
電磁気学	三澤 透	2	後期	金 2	2
物理学概論Ⅰ	宗像 一起	1, 2	前期	金 2	2
物理学概論Ⅱ	天児 寧	1, 2	後期	金 1	2
化学概論Ⅰ	樋上 照雄	1, 2	前期	金 3	2
化学概論Ⅱ	尾関 寿美男	1, 2	後期	木 2	2
地学概論Ⅰ	三宅 康幸	1, 2	前期	月 1	2
地学概論Ⅰ	三宅 康幸	1, 2	後期	火 2	2
地学概論Ⅱ	公文 富士夫	1, 2	後期	火 1	2
物理学実験	中島 美帆	2	後期	月 3, 4	2

化学実験	石川 厚 他	1, 2	前期	木 4, 5	2
地学実験	大塚 勉	1, 2	前期	月 3, 4	2
コロキウム	浅見 崇比呂 他	3	前期	月 1, 2, 3	4
系統分類学	東城 幸治	1	前期	月 4	2
動物発生学	柴田 直樹	2	前期	火 1	2
情報科学演習	佐藤 利幸 他	1	前期	火 2	2
生体生化学	久保 浩義	2	前期	火 2	2
系統進化学	市野 隆雄	3, 4	前期	火 2	2
基礎生物学実験	東城 幸治 他	1	前期	火 3, 4	2
生態学	高橋 耕一	2	前期	水 1	2
発生遺伝学	柴田 直樹	3, 4	前期	水 1	2
生物学特論Ⅳ	今津 道夫	2, 3, 4	前期	水 2	2
系統分類学実験	東城 幸治 他	2	前期	水 3, 4, 5	2
生物統計学演習	浅見 崇比呂	3	前期	水 3, 4 木 3, 4 金 3, 4	2
細胞生理学	伊藤 靖夫	3, 4	前期	木 1	2
生理生態学	佐藤 利幸 他	3	前期	木 2	2
動物発生学実験	高田 啓介 他	3	前期	木 3, 4, 5	2
遺伝学	高田 啓介	2	前期	金 1	2
形態組織学実験	久保 浩義 他	2	前期	金 3, 4, 5	2
多様性生物学実習	佐藤 利幸	3	前期	金 3, 4	1
生体生物学セミナーⅠ	高田 啓介 他	4	前期	不定期	2
進化生物学セミナーⅠ	佐藤 利幸 他	4	前期	不定期	2
陸水生態学セミナーⅠ	花里 孝幸	4	前期	不定期	2
臨湖実習	花里 孝幸	2, 3, 4	前期	集中	1
自然史実習	佐藤 利幸 他	2, 3, 4	前期	集中	1
生体生物学特論Ⅰ	高田 啓介 他	3	後期	月 5	2
進化生物学特論Ⅰ	佐藤 利幸 他	3	後期	月 5	2
細胞生物学	高田 啓介	1	後期	火 2	2
生体生物学特論Ⅱ	高田 啓介 他	3	後期	火 1	2
進化生物学特論Ⅱ	佐藤 利幸 他	3	後期	火 1	2
分子生物学	高梨 功次郎	2, 3, 4	後期	火 2	2
生態遺伝学	浅見 崇比呂	3, 4	後期	水 1	2
機能形態学	柴田 直樹 他	2, 3, 4	後期	水 2	2
進化生物学実習	佐藤 利幸 他	3	後期	水 3, 4	1
生体生物学実習	高田 啓介 他	3	後期	木 3, 4	1
代謝生化学	久保 浩義	2, 3, 4	後期	金 1	2
進化多様性生物学	市野 隆雄	2	後期	金 2	2
生態学実験	市野 隆雄 他	2, 3	後期	金 3, 4, 5	2
生体生物学セミナーⅡ	高田 啓介 他	4	後期	不定期	2

進化生物学セミナーⅡ	佐藤 利幸 他	4	後期	不定期	2
陸水生態学セミナーⅡ	花里 孝幸	4	後期	不定期	2
卒要研究	生物科学科全教員	4	通年	不定期	10
放射線安全実習	天児 寧	2, 3, 4	不定期		1
アドバンスゼミ	高田 啓介	1	後期	不定期	1
アドバンス演習・実験・実習Ⅰ	高田 啓介	2	前期	不定期	1
アドバンス演習・実験・実習Ⅱ	高田 啓介	2	後期	不定期	1
アドバンス演習・実験・実習Ⅲ	高田 啓介	3	前期	不定期	1
アドバンス演習・実験・実習Ⅳ	高田 啓介	3	後期	不定期	1
生物インターンシップ	佐藤 利幸	3, 4	通年	集中	1

<理学科：物質循環学コース>

科目名	主担当教員	対象学年	開講期	曜日時限	単位数
グリーンサイエンス通論	金 継業 他	1	後期	月 1	2
力学	三澤 透	2	前期	金 2	2
電磁気学	三澤 透	2	後期	金 2	2
物理学概論Ⅰ	宗像 一起	1, 2	前期	月 2	2
物理学概論Ⅱ	天児 寧	1, 2	後期	月 4	2
化学概論Ⅰ	大木 寛	1, 2	前期	火 2	2
化学概論Ⅱ	小田 晃規	1, 2	後期	火 2	2
生物学概論Ⅰ	久保 浩義 他	1, 2	前期	月 5	2
生物学概論Ⅱ	戸田 任重	1, 2	後期	金 5	2
地学概論Ⅰ	三宅 康幸	1, 2	前期	月 1	2
地学概論Ⅱ	三宅 康幸	1, 2	後期	火 2	2
地学概論Ⅲ	公文 富士夫	1, 2	後期	火 1	2
物理学実験	中島 美帆	2	後期	月 3, 4	2
化学実験	巽 広輔 他	1, 2	前期	火 3, 4	2
生物学実験	今津 道夫 他	1, 2	前期	水 4, 5	2
地学実験	大塚 勉	1, 2	後期	火 3, 4	2
環境計測学入門	宮原 裕一	2	前期	月 2	2
水文循環学	鈴木 啓助	3	前期	月 2	1
物質循環基礎実習Ⅰ (A)	村越 直美 他	2	前期	月 3, 4	2
地球環境史学	公文 富士夫	2	前期	火 1	2
大気環境学	鈴木 啓助	2	前期	火 2	2
コロキウムⅠ	村越 直美	3	前期	火 2	1
生態システム学Ⅰ	花里 孝幸	2	前期	火 3	2
微生物代謝論	國頭 恭	2	前期	水 1	2
生物地球化学Ⅰ	戸田 任重	3	前期	水 1	2
堆積環境学	村越 直美	2, 3, 4	前期	水 2	2
システム解析学実習Ⅰ	村越 直美 他	3	前期	水 3, 4 木 3, 4	2
地球システム学	岩田 拓記	2	前期	木 1	2
環境基礎理論	島野 光司	2	前期	木 2	2
群集生態学	山本 雅道	3	前期	木 2	2

情報科学演習	戸田 任重 他	1	前期	木 3	2
物質循環学序説 I	村越 直美 他	1	前期	金 1	2
陸水学	朴 虎東	2	前期	金 1	2
科学英語 I	公文 富士夫	2	前期	金 2	1
生態遷移論	島野 光司	3	前期	金 2	2
物質循環基礎実習 I (B)	村越 直美 他	2	前期	金 3, 4	1
野外調査実習 I	島野 光司	1	前期	集中	1
野外調査実習 II	鈴木 啓助	2	前期	集中	1
地球環境論	宮原 裕一	2	後期	月 2	2
システム解析学実習 II	村越 直美 他	3	後期	月 4, 5 金 4, 5	2
コロキウム II	國頭 恭	3	後期	火 2	1
生態システム学 II	戸田 任重	2	後期	火 1	2
生物地球化学 II	國頭 恭	3	後期	火 1	2
雪氷学	鈴木 啓助	2	後期	火 2	2
システム解析学	柳町 晴美	2, 3, 4	後期	水 1	2
堆積岩岩石学	公文 富士夫	3	後期	水 1	2
物質循環基礎実習 II (A)	村越 直美 他	2	後期	水 3, 4	1
化学生態学序論	朴 虎東	2	後期	木 2	2
地球システム学 II	村越 直美	2	後期	木 3	2
物質循環学序説 II	村越 直美 他	1	後期	金 1	2
科学英語 II	島野 光司	2	後期	金 2	1
物質循環基礎実習 II (B)	村越 直美 他	2	後期	金 3, 4	1
環境保全論	(非) 福島 和夫	2	後期	集中	2
野外調査実習 III	物質循環学科全 教員	3	後期	集中	1
システム解析学セミナー	物質循環学科全 教員	4	通年	月 3, 4	2
物質循環学セミナー	物質循環学科全 教員	4	通年	火 3, 4	1
卒業研究	物質循環学科全 教員	4	通年	不定期	12
放射線安全実習	天児 寧	2, 3, 4	不定期		1
アドバンスゼミ	島野 光司 他	1	後期	不定期	1
アドバンス演習・実験・実習 I	公文 富士夫	2	前期	不定期	1
アドバンス演習・実験・実習 II	公文 富士夫	2	後期	不定期	1
アドバンス演習・実験・実習 III	公文 富士夫	3	前期	不定期	1
アドバンス演習・実験・実習 IV	公文 富士夫	3	後期	不定期	1
社会実務研修	村越 直美	3, 4	通年	集中	1

## &lt; 教員免許取得のための科目 &gt;

科目名	主担当教員	対象 学年	開講 期	曜日 時限	単 位 数
数学科指導法 I	西牧 守	2	前期	木 2	2
数学科指導法 II	西牧 守	2	後期	木 3	2
数学指導法特論	西牧 守	3	前期	月 2	2

数学指導法演習 I	西牧 守	3	後期 (前半)	月 3	1
数学指導法演習 II	西牧 守	3	後期 (後半)	月 3	1
理科指導法 (物理)	武田 三男	2	前期 (前半)	水 2	1
理科指導法 (化学)	石川 厚	2	前期 (後半)	水 2	1
理科指導法 (地学)	山田 桂	2	後期 (前半)	火 5	1
理科指導法特論	宗像 一起 他	2	通年	集中	2
理科指導法演習 I	公文 富士夫 他	2, 3	前期	集中	1
理科指導法演習 II	公文 富士夫 他	2, 3	後期	集中	1
教職実践演習 (中・高)	森清 壽郎	4	後期	集中	2
介護等体験の意義と実際	庄司 和史	2	通年	集中	2
中学校教育実習		4	通年	集中	4
高等学校教育実習		4	通年	集中	2
教育実習事前・事後指導		4	通年	集中	1

< 博物館学芸員資格取得に関する科目 >

科目名	主担当教員	対象 学年	開講 期	曜日 時限	単 位数
博物館概論	大塚 勉	1, 2, 3	後期	水 5	2
博物館経営論	金井 直 他	2, 3	前期 (集中) 後期	月 3	
博物館情報・メディア論	小山 茂喜 他	2, 3	通年	集中	2
博物館実習 I	大塚 勉 他	3	前期 前期 (集中)	火 5	1
博物館実習 II	大塚 勉	4	通年	1	1
博物館実習 III	大塚 勉	4	通年	1	1

(出典：理学部事務部作成)

資料理 23：科目開講状況 (非常勤講師担当教科)

< 数学科 >

科目名	主担当教員	対象 学年	開講 期	曜日 時限	単 位数
自然科学史	(非) 稲生 勝	2, 3, 4	前期	集中	2

< 理学科：物理学コース >

科目名	主担当教員	対象学年	開講期	曜日 時限	単位数
核物理学	(非) 矢部 雅之	4	前期	木 3	2
光学Ⅱ	(非) 保科 宏道 (非) 山下 将嗣	3	前期	集中	2
自然科学史	(非) 稲生 勝	2, 3, 4	前期	集中	2

## &lt; 理学科：化学コース &gt;

科目名	主担当教員	対象学年	開講期	曜日 時限	単位数
自然科学史	(非) 稲生 勝	2, 3, 4	前期	集中	2

## &lt; 理学科：地球学コース &gt;

科目名	主担当教員	対象学年	開講期	曜日 時限	単位数
線形代数学Ⅰ	(非) 角野 由夫	1	前期	金 4	2
線形代数学Ⅱ	(非) 角野 由夫	1	後期	木 4	2
微分積分学Ⅰ	(非) 角野 由夫	1	前期	火 2	2
微分積分学Ⅱ	(非) 角野 由夫	1	後期	金 4	2
科学英語Ⅰ	(非) 角野 由夫	2	前期	月 4	2
地震学	(非) 角野 由夫	3	後期	火 4	2
資源地質学特論	(非) 稲葉 士誌 典	3, 4	後期	集中	1
自然科学史	(非) 稲生 勝	2, 3, 4	前期	集中	2

## &lt; 理学科：生物学コース &gt;

科目名	主担当教員	対象学年	開講期	曜日 時限	単位数
線形代数学Ⅰ	(非) 阿部 孝順	1	前期	木 2	2
線形代数学Ⅱ	(非) 阿部 孝順	1	後期	木 4	2
微分積分学Ⅰ	(非) 井上 和行	1	前期	金 4	2
微分積分学Ⅱ	(非) 井上 和行	1	後期	金 4	2
生物学特論Ⅲ	(非) 森 宙史	2, 3, 4	前期	集中	2
自然科学史	(非) 稲生 勝	2, 3, 4	前期	集中	2

## &lt; 理学科：物質循環学コース &gt;

科目名	主担当教員	対象学年	開講期	曜日 時限	単位数
線形代数学Ⅰ	(非) 阿部 孝順	1	前期	木 2	2
線形代数学Ⅱ	(非) 阿部 孝順	1	後期	木 4	2
微分積分学Ⅰ	(非) 井上 和行	1	前期	金 4	2
微分積分学Ⅱ	(非) 井上 和行	1	後期	金 4	2
生態毒性学	(非) 坂本 正樹	3	前期	集中	2
元素循環論	(非) 福島 和夫	3	前期	集中	2
生物圏循環論Ⅳ	(非) 佐瀬 裕之	3	前期	集中	1

環境論特論 I	(非)北澤 大輔	3	前期	集中	1
水圏・地圏循環論 II	(非)苅谷 愛彦	3	前期	集中	1
環境保全論	(非)福島 和夫	2	後期	集中	2
水圏・地圏循環論 III	(非)片岡 香子	3	後期	集中	1
自然科学史	(非)稲生 勝	2, 3, 4	前期	集中	2

< 教員免許取得のための科目 >

科目名	主担当教員	対象学年	開講期	曜日時限	単位数
理科指導法 (生物)	(非)藤山 静雄	2	後期 (後半)	火 5	1

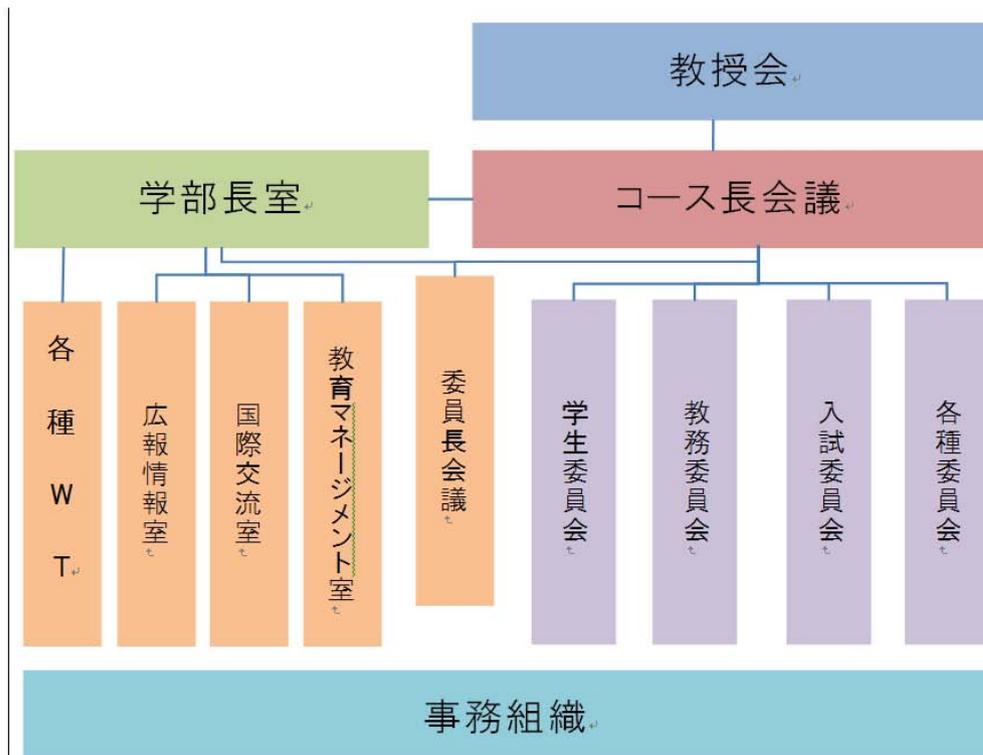
< 博物館学芸員資格取得に関する科目 >

科目名	主担当教員	対象学年	開講期	曜日時限	単位数
生涯学習概論	(非)小岩井 彰	1, 2, 3	前期	集中	2
博物館資料論	(非)福島 正樹	2, 3	前期	月 1	2
博物館資料保存論	(非)福島 正樹 他	2, 3	前期	月 2	2
博物館展示論	(非)福島 正樹	2, 3	後期	月 4	2
博物館教育論	(非)福島 正樹	1, 2, 3	後期	月 5	2

(出典：理学部事務部作成)

改組および委員会等の整理統合により、人的資源を有効に活用して教育・研究活動を機能的に展開できる体制となった。(資料理 24)

資料理 24：理学部組織図



(出典：理学部事務部作成)

## ③ 共通教育

共通教育は機構を中心に全学協力体制のもと実施している。学術研究院理学系に所属する教員は、理系の基礎科学科目を主に担当している。(資料理 25～27)

資料理25 信州大学全学教育機構規程

(目的)

第2条 機構は、信州大学(以下「本学」という。)が定める教育上の基本方針に基づき、本学の共通教育(各学部が編成する教育課程のうち、本学学生に対する教養教育、基礎教育及び日本語・日本事情に係る教育について、全学協力体制のもとに、全学共通に行う教育をいう。以下同じ。)及び教職関係5学部(人文学部、理学部、工学部、農学部及び繊維学部をいう。以下同じ。)の教職教育(教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための教育をいう。以下同じ。)の実施機関として、各学部と緊密に連携し、全学的な見地から共通教育に係る教育課程の企画及び円滑な実施を図るとともに、本学が掲げる高度専門職業人養成の教育目標を達成するため、学部一貫教育を前提に本学の教育に関する研究開発、企画及び支援を総合的に行うことを目的とする。

(全学協力体制等)

第3条 共通教育及びこれを履修する学生(以下単に「学生」という。)の修学指導は、全学協力体制により実施するものとし、各学部は、その実施体制の管理及び運営に責任を負うとともに、本学のすべての教員は、その構成員として共通教育の実施及び学生の修学指導を担当することを任務とする。

2 機構は、前条の目的を達成し、次条に定める業務を遂行するため、附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センターその他の関係部局(以下「関係部局」という。)と有機的に連携するとともに、関係委員会等と緊密に連携協力する。

(共通教育企画実施部)

第10条 機構に、共通教育企画実施部を置く。

2 共通教育企画実施部は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 共通教育に係る教育課程の企画及び立案に関すること。
- (2) 共通教育の授業担当者の選任に関すること。
- (3) 共通教育の授業の実施に関すること。
- (4) 専門科目と共通教育との実施上の調整に関すること。
- (5) 高年次共通教育及び日本語・日本事情に係る留学生教育の企画及び調整に関すること。

(共通教育修学支援部)

第11条 機構に、共通教育修学支援部を置き、学生の学習支援その他の修学支援に関する業務を行う。

2 共通教育修学支援部に、修学支援部門を置く。

3 共通教育修学支援部に責任者を置き、副機構長(修学支援担当)をもって充てる。

(クラス副担任)

第16条 修学支援部門に、各学部のクラス担任を補佐するため、クラス副担任を置く。

2 クラス副担任は、機構の専任教員が担当し、当該学部のクラス担任との密接な連携を図るものとする。

(教授会)

第17条 機構に、信州大学学則(平成16年信州大学学則第1号)第25条第2項の定めるところにより、信州大学全学教育機構教授会(以下「教授会」という。)を置く。

2 教授会に関し必要な事項は、別に定める。

(運営会議)

第18条 機構に、機構の運営に関する具体的事項を審議するため、信州大学全学教育機構運営会議(以下「運営会議」という。)を置く。

2 運営会議は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 機構長
- 二 副機構長
- 三 基幹教育センター長及び言語教育センター長
- 四 共通教育企画実施部の各教育部門長及び修学支援部門長並びに教職教育部副責任者
- 五 その他機構長が必要と認める者

3 運営会議に議長を置き、機構長をもって充てる。

4 議長は、運営会議を主宰する。

5 学長は、必要又は機構長の要請に応じて、運営会議に出席し、審議に参加するとともに、共通教育及び機構の組織の運営に関する事項を、運営会議に提示し、審議を求めることができる。

6 運営会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 共通教育の企画及び実施並びに修学支援に関する事項
- 二 機構の運営組織に関する事項
- 三 基幹教育センター及び言語教育センターの人事方針(採用人事方針を含む。)に関する事項

## 四 教職教育部の業務に関する事項

7 運営会議は、必要に応じて、その審議結果を教授会に報告するものとする。

(学長及び共通教育推進会議)

第19条 共通教育の実施に係る最終責任は、学長が負う。

3 国立大学法人信州大学共通教育推進会議（以下「共通教育推進会議」という。）は、必要に応じて、又は教授会の要請に応じて、機構の組織、運営に係る重要事項を審議する。

4 学長及び共通教育推進会議は、共通教育に関する基本的事項について、教授会に提案することができる。この場合において、教授会は、これを尊重するものとする。

(出典：信州大学規程集)

## 資料理26 国立大学法人信州大学共通教育推進会議規程

(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人信州大学組織に関する規則（平成17年国立大学法人信州大学規則第5号）第16条の2第2項の規定に基づき国立大学法人信州大学（以下「本法人」という。）に設置する国立大学法人信州大学共通教育推進会議（以下「共通教育推進会議」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(職務)

第2条 共通教育推進会議は、本法人が設置する信州大学（以下「本学」という。）の次の各号に掲げる重要な事項について審議するほか、全学教育機構と各学部との連携協力及び連絡調整を円滑に行うことを職務とする。

(1) 共通教育の企画及び実施並びに修学支援の実施に関すること

(2) 共通教育カリキュラムの策定及び改定に関すること

(3) 共通教育の実施における全学的な支援に関すること

(4) 全学教育機構の運営に関すること

(5) その他共通教育の実施に関すること

(組織)

第3条 共通教育推進会議は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

(1) 学長

(2) 教務担当の理事

(3) 全学教育機構長

(4) 高等教育研究センター長

(5) 学部長又は副学部長のうちのいずれか1名

(6) その他学長が必要と認める者

(議長)

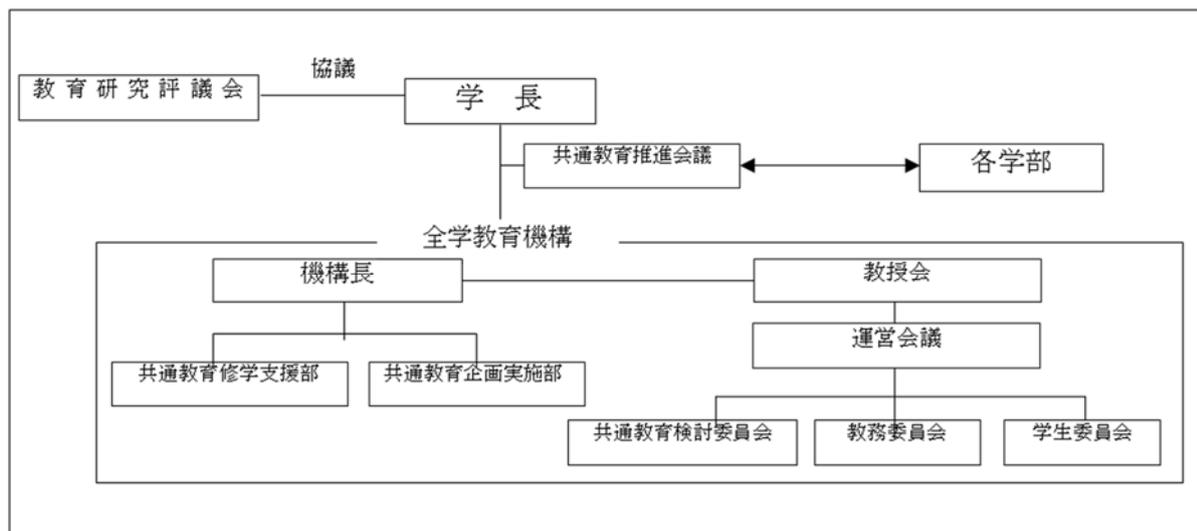
第4条 共通教育推進会議に議長を置き、学長をもって充てる。

2 議長は、共通教育推進会議を主宰する。

3 議長に事故があるときは、第3条第2号に規定する理事が、その職務を代行する。

(出典：信州大学規程集)

資料理27 共通教育科目の教育体制



(出典：経営企画課作成)

## 2. 教育サポート体制の充実

### ① 学生支援の体制

本学部は、学年学科ごとに担任を配置している。(資料理 28) さらに、1 年次生には副担任として、機構の教員を学部全体で 1 名配置している。

資料理28 学年担任一覧

入学年度	数理・自然情報科学科 (数学科)	物理科学科 (物理学コース)	*化学科 (化学コース)	地質科学科 (地球学コース)	生物科学科 (生物学コース)	物質循環学科 (物質循環学コース)	
27年度	15 S	花木・境	小竹	各教員	山田	柴田・高梨	島野・公文
26年度	14 S	佐々木・沼田	天児	各教員	齋藤	市野・東城	鈴木・(國頭)
25年度	13 S	高木・謝	奥山	各教員	牧野	高橋・高田	戸田・(朴)
24年度	12 S	一ノ瀬・五味	竹下	各教員	森清	佐藤・浅見	村越
23年度	11 S	中山・乙部	志水	各教員	原山	2年：高橋・高田 3年：佐藤・浅見	公文・(島野)
22年度	10 S	玉木・谷内	川村	各教員	保柳	高橋・高田	鈴木・(朴)

化学科については、各学生に担当教員が決まっている。

<b>2014 年度入学</b>	14S3035 大木	13S3029 濱崎	12S3026 小田
学習相談員：金	14S3036 大木	13S3030 濱崎	12S3027 小田
14S3001 樋上	14S3037 大木	13S3031 飯山	12S3028 小田
14S3002 樋上	12S3801 金	13S3032 飯山	12S3029 大木
14S3003 樋上	12S3802 金	13S3033 飯山	12S3030 大木
14S3004 金		13S3034 尾関	12S3031 大木
14S3005 金	<b>2013 年度入学</b>	13S3035 尾関	12S3032 石川
14S3006 金	学習相談員：金	13S3036 尾関	12S3033 石川
14S3007 巽	13S3001 樋上		12S3034 吉野
14S3008 巽	13S3002 樋上	<b>2012 年度入学</b>	12S3035 吉野
14S3009 巽	13S3003 樋上	学習相談員：太田	12S3036 竹内
14S3010 石川	13S3004 金	12S3001 樋上	
14S3011 石川	13S3005 金	12S3002 樋上	<b>2011 年度入学</b>
14S3012 石川	13S3006 巽	12S3003 樋上	学習相談員：太田
14S3013 竹内	13S3007 巽	12S3004 樋上	11S3001 吉野
14S3014 竹内	13S3008 巽	12S3005 巽	11S3002 吉野
14S3015 竹内	13S3009 吉野	12S3006 巽	11S3003 吉野
14S3016 小田	13S3010 吉野	12S3007 巽	11S3004 吉野
14S3017 小田	13S3011 石川	12S3008 金	11S3005 石川
14S3018 小田	13S3012 石川	12S3009 金	11S3006 石川
14S3019 太田	13S3013 石川	12S3010 尾関	11S3007 石川
14S3020 太田	13S3014 大木	12S3011 尾関	11S3008 大木
14S3021 太田	13S3015 大木	12S3012 尾関	11S3009 大木
14S3022 庄子	13S3016 大木	12S3013 尾関	11S3010 大木
14S3023 庄子	13S3017 竹内	12S3014 飯山	11S3011 尾関
14S3024 庄子	13S3018 竹内	12S3015 飯山	11S3012 尾関
14S3025 飯山	13S3019 小田	12S3016 飯山	11S3013 尾関
14S3026 飯山	13S3020 小田	12S3017 濱崎	11S3014 尾関
14S3027 飯山	13S3021 小田	12S3018 濱崎	11S3015 飯山
14S3028 飯山	13S3022 太田	12S3019 濱崎	11S3016 飯山
14S3029 濱崎	13S3023 太田	12S3020 庄子	11S3017 飯山
14S3030 濱崎	13S3024 太田	12S3021 庄子	11S3018 濱崎
14S3031 濱崎	13S3025 庄子	12S3022 太田	11S3019 濱崎
14S3032 吉野	13S3026 庄子	12S3023 太田	11S3020 濱崎
14S3033 吉野	13S3027 庄子	12S3024 太田	11S3021 樋上
14S3034 吉野	13S3028 濱崎	12S3025 小田	11S3022 樋上

(出典：理学部事務部作成)

平成 26 年度から担当教員による全学部生の個別面談が実施されており、GPA を面談担当教員の参考データとして活用している。

平成 27 年度からは、長期欠席学生について、「長期欠席学生の調査等に関する要項」を理学部学生委員会が中心となって定め、関係者の情報共有を徹底している。(資料理 29)

## 資料理 29 長期欠席学生の調査等に関する要項

信州大学理学部

**長期欠席学生の調査等に関する要項**

〔2015.9 学生委員会決定〕

**【目的】**

近年、精神的な病や悩みを抱える学生が増加していることに伴い、長期欠席学生を早期に把握する必要がある。それにより、学生のメンタルヘルスケアや自殺防止対策に役立てるとともに、修学指導における危機管理の観点からも大学・学生・保護者（保証人）が相互に情報を共有することも目的とする。  
本要項は、そのための調査方法等について示したガイドラインである。

**【調査時期】** 毎年度各学期 2 回ずつ（各学期の前半と後半）を原則とする。

**【調査対象】** 学部生、大学院生（修士、博士） 全員  
（4年生以上の研究室配属済みの学生も近年長期欠席や自殺者が増えている）

**【調査方法】** 各学科・コースにおいて、出席確認システムにおいて全科目指定の設定で抽出されたデータをもとに調査を行う。4年生以上の学生についても、長期欠席者の有無を必ず調査する。

**【長期欠席学生への対応】**

- 長期欠席学生の定義は、出席確認システムにおいて全科目指定の設定で抽出された者を原則とする。4年生以上（大学院生）の長期欠席学生の定義は、1ヶ月大学へ来ていないことを原則とするが、学科・コースの判断によりそれ以上短い期間設定をしても構わない。
- 学科・コースにおいて、長期欠席学生に対し、以下のことを行う。
  - ①本人へ連絡（安否確認）
  - ②本人と面談（欠席理由）
  - ③必要に応じ保護者（保証人）への連絡や面談
  - ④必要に応じ総合健康安全センターや学生相談センターを紹介
  - ⑤学科・コース内会議への状況報告

**【調査報告】** 各学科・コース学生委員等は次のとおり調査結果を報告する。

- 報告期限……調査後それぞれ「5月末、7月末、11月末、1月末」まで
- 報告先……理学部学生支援グループ（西村 ×××@gm.shinshu-u.ac.jp）
- 報告内容……別紙様式で報告する。

**【その他】**

## &lt;学生情報の共有&gt;

本調査により、各学科・コースと学生相談センター、総合健康安全センターがそれぞれ持つ学生の就学状況の情報を共有できるようにし、想定される悪い事態を早期に発見し、大学・学部としても対処できるようにしておく。

## &lt;危機管理&gt;

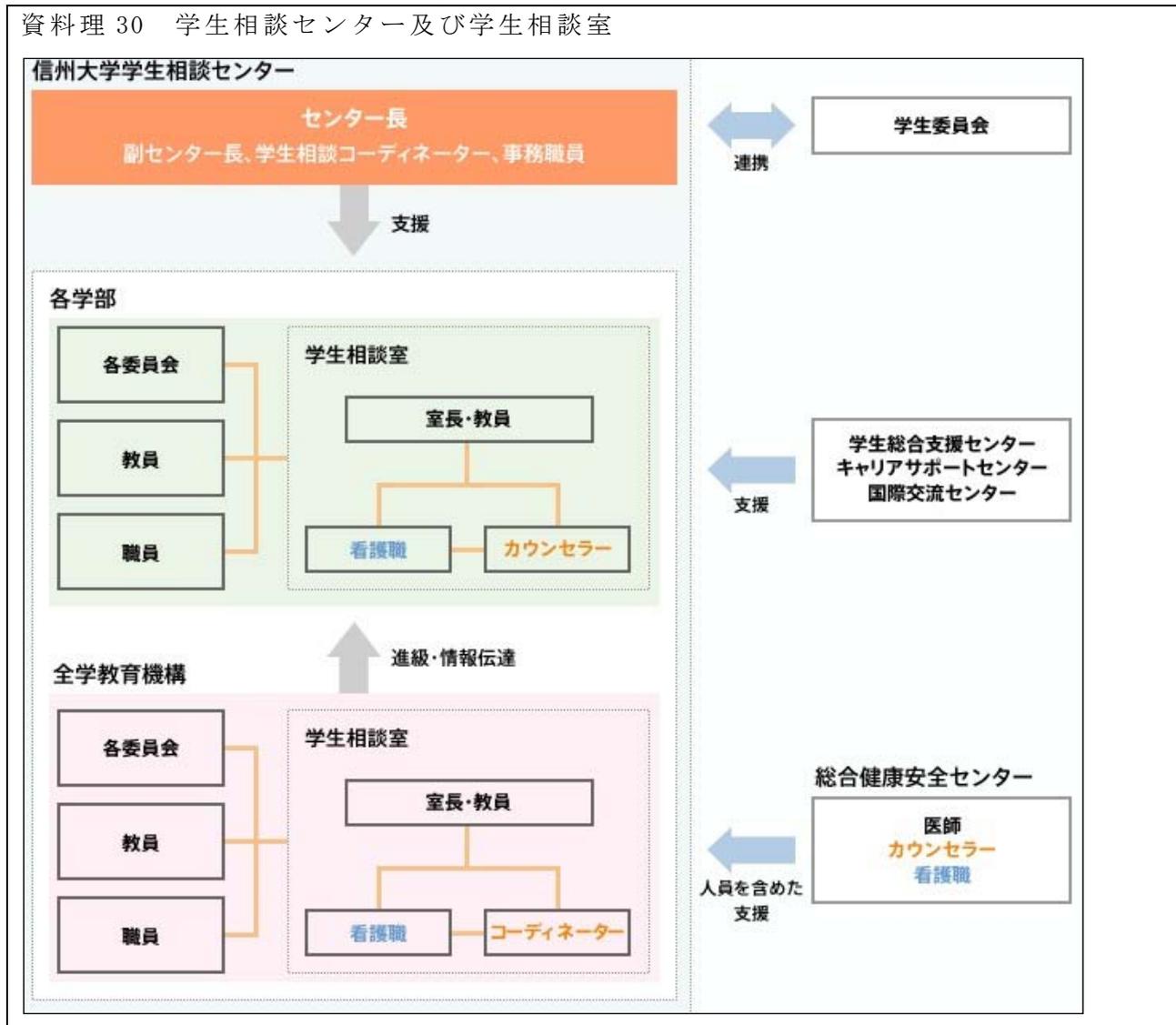
学科・コースにおける当該学生の指導にあたっては、状況に応じ保護者（保証人）と早めに情報を共有しておく。悪い事態に陥ってから連絡し、心象を悪くしたりトラブルになるというようなことは避ける。

出典：理学部長期欠席学生の調査等に関する要綱より抜粋

② 学生相談センター

平成 24 年度に全学組織となる学生相談センターと、各学部・キャンパスに、あらゆる相談を受け付ける学生相談室が設置された。(資料 30)

資料理 30 学生相談センター及び学生相談室



## 専門窓口と連携し対応します。

相談内容に応じて、学内外の専門機関(窓口)と連携を取ります。



(出典：信州大学学生相談センターホームページ「センターについて」)

全学的な教育サポート体制として、学務課、学生支援課、国際交流課を設置し、全学的な教育課程、課外活動、就職、留学に関する業務を行っている。(資料理 31～32) 学務課には共通教育の授業支援、教務に関すること等を担う共通教育支援室を設置している。この他に、全学的な教育活動を展開するために各施設に専門的知識技能を有する職員を配置している。(資料理 33) さらに、学部・研究科の教育活動に必要な職員をそれぞれ配置している。(資料理 34)

また、大学院生を TA として雇用し、演習・実験・実習科目で(一部講義科目でも)教育補助者として積極的に活用している。(資料理 35～39) 附属図書館に大学院生による学習支援相談員を置き、学生へのレポート作成支援等を行っている。(資料理 40)。

資料 31 国立大学法人信州大学業務執行組織規程

第 25 条 学務課においては、全学教育機構、高等教育研究センター、e-Learning センター、教員免許更新支援センター(教育学部の所掌に属するものを除く。以下この条において同じ。)及び学務部に関する次の業務をつかさどる。

(1) 学務部内の事務に関し、連絡し、及び総合調整を行うこと。

(2) 庶務及び会計に関すること。

(3) 入学式その他学生の諸行事に関すること。

(4) 学生関係職員の SD(スタッフ・デベロップメント)に係る企画・立案及びその実施に関すること。

- (5) 全学(本法人が設置する信州大学大学院(以下「大学院」という。)を除く。)の教務に関する  
こと。
- (6) 学生の学籍その他の記録に関すること。
- (7) 学位の授与に関すること。
- (8) 教育課程(大学院を除く。)に係る目標及び計画の連絡調整に関すること。
- (9) 他の大学等との単位の互換(大学院を除く。)に関すること。
- (10) 全学の学務情報システムに関すること。
- (11) 出前講座に関すること。
- (12) 諸会議(国立大学法人信州大学戦略企画会議規程(平成 24 年国立大学法人信州大学規程第  
108 号)第 6 条に定める大  
学院戦略会議(以下「大学院戦略会議」という。)及び信州大学大学院教務委員会を除く。)の  
連絡調整に関すること。
- (13) 教育・学生支援連携会議の運営に関すること。
- (14) その他全学教育機構、高等教育研究センター、e-Learning センター及び教員免許更新支  
援センターの業務執行及  
び運営に関すること。
- (15) 前各号に掲げるもののほか、学務部の他の所掌に属しない事務を処理すること。
- 2 学務課の共通教育支援室においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 共通教育の授業支援に関すること。
- (2) 共通教育の教務に関すること。
- (3) 学生の学習相談及び修学指導に関すること。
- (4) 共通教育に係る点検・評価に関すること。
- (5) 全学教育連携会議等の諸会議の連絡調整に関すること。
- (6) 環境マインド教育支援に関すること。
- 3 (省略)
- 4 学生支援課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 学生総合支援センターの業務執行及び運営に関すること。
- (2) キャリアサポートセンターの業務執行及び運営に関すること。
- (3) 学生相談センターの業務執行及び運営に関すること。
- 5 入試課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 入学者の選抜に関し連絡し、及び総合調整を行うこと。
- (2) 入学者選抜方法の改善に関し企画立案を行うこと。
- (3) 学生募集に関すること。
- (4) アドミッションセンターの業務執行及び運営に関すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、入学者の選抜に関する事務を処理すること。
- 6 国際交流課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 国際交流センターの業務執行及び運営に関すること。(研究支援課の国際学术交流室が所掌  
する業務を除く。)
- (2) 松本国際交流会館の業務執行及び運営に関すること。
- (3) 前各号に掲げるもののほか、教育活動に係る国際交流に関する事務を処理すること  
(出典：信州大学規程集)

資料理 32 学務課、学生支援課、国際交流課の職員数

	学務課	学生支援課		国際交流課
		うち キャリアサポートセンター		
事務職員	20	11	3	6
事務補佐員	12	4	2	5
臨時用務員	1			
専門職員	1			
技術補佐員	5			
技能補佐員		1		
シニア雇用職員	4	1		
コーディネータ		1		6
合計	43	18	5	17

平成 28 年 1 月 18 日現  
在

(出典：経営企画課作成資料)

資料理 33 附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センター、e-Learning センター職員数

区分	附属図書館 <sup>注3</sup>	総合健康安全センター	総合情報センター	e-Learning センター
松本キャンパス	54	13	9 <sup>注1</sup>	3

平成 28 年 2 月 1 日現在

注 1：医学部附属病院担当者を含まず。

(出典：経営企画課作成資料)

資料理 34 学部・研究科の学務担当の職員数

理学部
理工学系研究科(松本キャンパス)
15

平成28年 2 月 1 日現在

(出典：経営企画課作成)

資料理 35 大学院生によるレポート作成支援

(別紙)

**平成24年度学内版 GP 成果報告書**

取組名	大学院生を活用した学部学生のレポート作成能力の向上支援の取組
実施組織	附属図書館中央図書館
実施責任者	森 一郎
取組の目標	初年次学生対象の授業共通教育科目「大学生基礎力ゼミ」および「人を動かすための理論と方法ゼミ」において課されたレポートの作成に対して、附属図書館(中央図書館)に配置された大学院生の相談員(図書館ラーニングアドバイザー、以下図書館 LA と略す)を活用し、レポートの書き方支援を実施し、学生が大学で求められるレポートを書けるようにする。
1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)	<ol style="list-style-type: none"> <li>支援を担当する図書館 LA への研修計 5 回 事前研修 2 回、中間研修 1 回、期末研修 1 回、最終まとめ 1 回</li> <li>レポート支援スペースの整備 机×2 台、椅子×6 脚を購入し、支援スペースを整備した</li> <li>図書館 LA によるレポート支援 のべ 193 時間 支援利用学生 101 名</li> <li>利用学生および図書館 LA へのアンケート調査および分析</li> <li>支援を受けた学生のレポートの点数は、そうでない学生と比較して高くなることが確認できた。</li> <li>活動の内容と成果についての報告レポートの作成・公開 別添のとおり</li> </ol>
2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望	支援を受けた学生のレポートの点数はそうでない学生と比較して、レポートの点数が高くなる傾向があった。また、学期末に実施した学生へのアンケート調査では、「後期もこの支援の受けたい」と回答した学生が 6 割以上、「友達や来年の 1 年生に、この支援を受けることを勧めたい」と回答した学生が 7 割以上にのぼったことから、このような支援への要望が高いことが分かった。平成 25 年度は、学長裁量経費により「大学生基礎力ゼミ」を共通シラバスで 6 コマ開催し、更に支援を広げる計画である。

(出典：平成 24 年度学内版 GP 成果報告書より)

資料理 36 TA 採用人数

年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
人数 (人)	173	183	161	114	104	111

(出典：理学部事務部作成)

資料理 37 信州大学ティーチング・アシスタント実施要項

(目的)

第 2 TA は、本学大学院の優秀な学生に対し、教育的配慮の下に教育補助業務を行わせ、これに対する手当支給により、当該学生の処遇の改善に資するとともに、大学教育の充実及び指導者としてのトレーニングの機会提供を図ることを目的とする。

(身分)

第 3 TA は、非常勤職員とする。

(職務内容)

第 4 TA は、学部学生、修士課程の学生及び博士前期課程の学生に対する実験、実習及び演習等の教育補助業務に従事する。

(出典：信州大学規程集)

資料理 38 各学部等における TA の業務内容

部局名	授業時間内の業務内容								授業時間外の業務内容					その他の業務内容
	A	B	C	D	E	F	G	H	a	b	c	d	e	
理 学 部	○	○	○		○	○	○		○	○		○	○	

授業時間内の業務内容

- A. 資料の配付    B. 機器の操作    C. 出欠の管理    D. 試験監督補助    E. 討論への参加  
 F. 学生の質問への対応    G. 実験・実習などの実演    H. 発声・会話の指導

授業時間外の業務内容

- a. 資料のコピー、保存    b. 教室のメンテナンス(空調、照明、施錠等)  
 c. レポート課題の作成・採点補助    d. 教材の作成補助    e. 実験・実習の準備

(出典：経営企画課作成)

資料理 39 TA 配置科目 (平成 27 年度)

学 科	科 目	区 分	科目数
数理・自然情報科学科	代数入門演習	必修	22
	情報科学演習	必修	
	電磁気論	自由	
	位相空間論演習	必修	
	幾何入門	必修	
	線形代数学 I	必修	
	微分積分学 I	必修	
	微分積分学 II	必修	
	線形代数学演習 I	必修	
	線形代数学演習 II	必修	
	微分積分学演習 I	必修	
	微分積分学演習 II	必修	
	微分積分詳論 I	必修	
微分積分詳論 II	必修		

	確率論	自由	
	幾何学特別講義 VI	自由	
	解析学特別講義 I	自由	
	自然情報学基礎講義	自由	
	情報処理 I	自由	
	実解析学演習 I	選択	
	集合論	必修	
	力学と微分方程式演習	必修	
物理科学科	物理学演習 I	必修	21
	物理学演習 II	必修	
	物理学演習 III	必修	
	物理学演習 IV	必修	
	物理学演習 V	必修	
	物理学演習 VI	必修	
	物理学演習 VII	必修	
	物理学演習 VIII	必修	
	物理学演習 IX	必修	
	物理学実験 I	必修	
	物理学実験 II	必修	
	物理学実験 III a	必修	
	物理学実験 III b	必修	
	量子力学 I	必修	
	量子力学 II	必修	
	量子力学 III	必修	
	電磁気学 I	必修	
	電磁気学 II	必修	
	統計力学 I	必修	
	熱力学	必修	
	情報科学演習	自由	
化学科	分析化学実験	必修	8
	情報科学演習	必修	
	無機化学実験	必修	
	有機化学実験	必修	
	物理化学実験	必修	
	アドバンス演習・実験・実習 I	自由	
	アドバンス演習・実験・実習 II	自由	
	アドバンス演習・実験・実習 III	自由	
地質科学科	地質学入門実習	必修	12
	鉱物岩石学実験 I	必修	
	鉱物岩石学実験 II	必修	
	堆積古生物学実験 I	自由	
	堆積古生物学実験 II	自由	
	地質学序説実習	必修	
	地質調査法実習 I	必修	
	地質調査法実習 II	必修	
	地質調査演習	必修	

	野外巡検 I	必修	
	岩石学実験 I	必修	
	岩石学実験 II	自由	
生物科学科	系統分類学実験	必修	9
	自然史実習	自由	
	生態学実験	必修	
	新入生ゼミナール	共通	
	生態学	必修	
	多様性生物学実験	必修	
	基礎生物学実験	必修	
	情報学演習	自由	
	生態学	必修	
物質循環学科	物質循環基礎実習 I	必修	5
	物質循環基礎実習 II	必修	
	野外調査実習 I	必修	
	野外調査実習 II	必修	
	生態システム学 I	必修	
合計			77

(出典：理学部事務部作成)

資料理 40 学習支援相談員による相談件数

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
件数	172 件	144 件	97 件	56 件	168 件

※注意事項

- ・平成 26 年度は中央図書館耐震改修により件数減
- ・中央図書館での相談件数のみ

(出典：理学部事務部作成)

3. 教員の教育力向上のための体制とその効果

① 学生や地域社会からのニーズを把握する仕組み

高校生、在学生など、様々なニーズに応じたアンケートを行い、教育課程の編成・実施につなげている。(資料理 41)

資料理 41 理学部アンケート調査一覧

<アンケート実施者>

在学生・・・卒業時に満足度調査を実施。

高校生・・・オープンキャンパス（以下、「OC」）、入試説明会、高大連携事業を通じて、アンケートなどにより実施。

高校教員・・・高大連携事業などを通じて、意見を把握。

卒業生・・・アンケートを実施。

保護者・・・OC アンケートを把握。

企業や卒業生の雇用主・・・アンケートや担当者へのインタビューなどを実施。

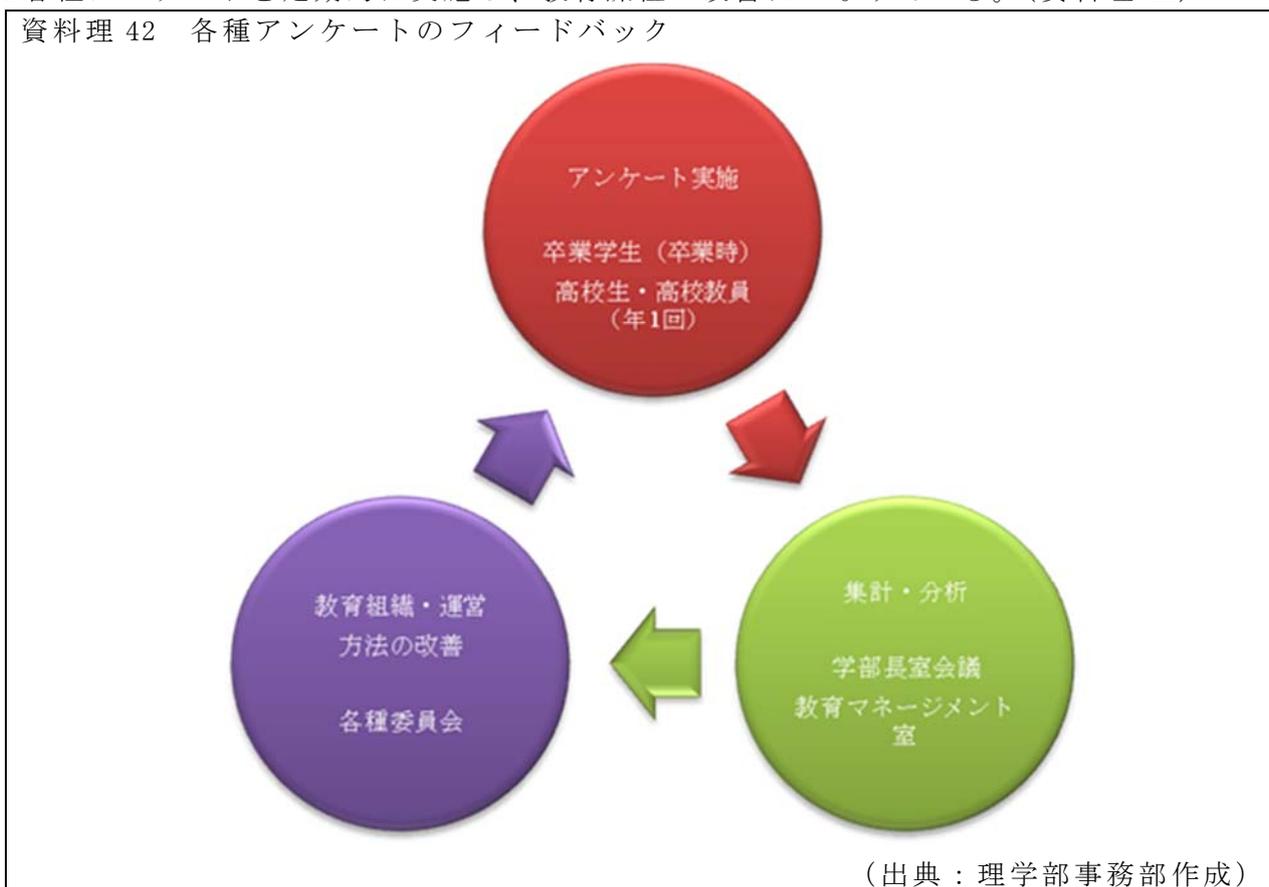
名称	対象	時期	担当
授業改善アンケート	在学生	半期に一度	教務委員会

新入生アンケート	新入生	毎年	広報情報室
満足度調査	卒業生・修了生	毎年	評価・点検委員会
OC アンケート	OC 参加者（保護者含む）	毎年	社会貢献委員会
進学アンケート	1, 2, 3 年生	毎年	広報情報室
入試説明会アンケート	高校生, 高校教員, 予備校関係者	数年毎	学生支援グループ
卒業生雇用主へのアンケート	卒業生就職先	数年毎	評価・点検委員会
高大連携事業における高校生へのアンケート	高校生, 高校教員	毎年	学部長室

(出典：理学部事務部作成)

また、将来計画委員会が中心となり、卒業生、在学生、高校生、高校教員を対象とした各種アンケートを定期的実施し、教育課程の改善につなげている。(資料理 42)

資料理 42 各種アンケートのフィードバック



授業改善アンケートについては、以下の通りである。(資料理 43)

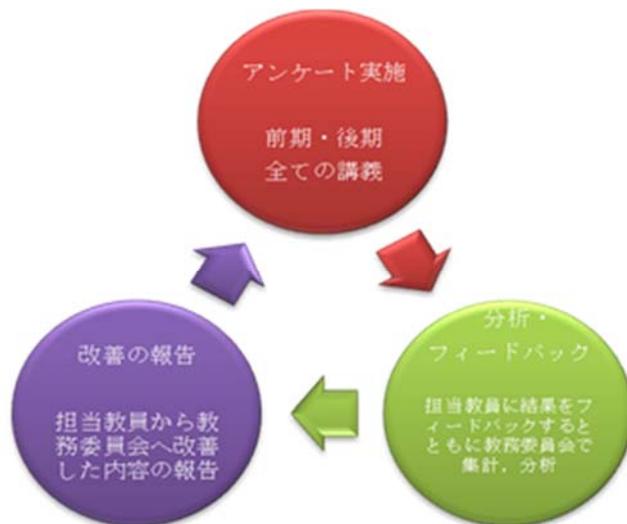
資料理 43 授業改善アンケート

実施主体・・・教務委員会

概要・・・全教員は、学生からの個々の指摘や要望に対して、どのような授業改善・教育改善を行ったか、文書で教務委員会に対して報告を行うこととしている。

効果・・・授業単位でのきめ細かい改善を行っている。

および結果のフィードバック



出典：理学部事務部作成

授業改善アンケートの回答票

アンケート実施日：平成 26 年 6 月 13 日

配付数 29 枚

回収数 29 枚

授業題目名：有機化学 III

曜日・時限：金・2

担当教員名：太田 哲

学生からの回答	良い点 (A) わかりやすい。 (B) 板書が見やすい、丁寧。 (C) 字が大きくて見やすい。 (D) 化合物の特徴の話、講義からそれた話がおもしろい。	悪い点 (改善点) (E) もう少しペースが速くても良い。 (F) 板書で色を使ってもらいたい。
対応方法	(A)～(D) 概ね好評なので、今後も継続したい。  (E) 教科書で自習可能な箇所はその都度伝えることとし、講義で詳しく解説する内容を限定して進度を速めるようにした。 (F) 強調箇所には色分けするかわりに太字、下線、囲みなどを使用している。受講生は重要な所を自ら判断してノートを取るようになってもらいたい。(実際のクラスでは確認していないが、一般に男性の約 5% に色覚異常があることを考慮し、色チョークは意図的に使わないようにしている。このことは学生には伝えていない)	
周知	有 (周知方法：講義中に口頭で伝えた)	

出典：授業改善アンケート集計結果より抜粋

## ②FD等の実施

各種FD(ワークショップ、講習会、講演会)などを行っている。(資料理44)

資料理44 FD開催状況					
開催年度	開催日		主催	講演内容等	対象者, 参加者等
平成22年度	9月7日	理学部FD講演会 (ワークショップ形式)	評価・点検委員会	1.総合的な数学教育の試み(講師:(数理)中山一昭) 2.物理科学科における物理実験授業(講師:(物理)長谷川庸司) 3.コバルト錯体の合成, 分析と廃液の処理(講師:(化学)石川厚) 4.地質分野における実験授業の苦勞と工夫(講師:(地質)斉藤武士) 5.分子生物学実験入門(講師:(生物)久保浩義) 6.物質循環学科の科学英語教育の試み(講師:(物循)公文富士夫)	26
	10月5日	理学部FD講演会 (ワークショップ形式)	評価・点検委員会	1.物理科学科における物理実験授業(講師:(物理)長谷川庸司) 2.分子生物学実験入門(講師:(生物)久保浩義) 3.物質循環学科の科学英語教育の試み(講師:(物循)公文富士夫)	33
	12月7日	ポートフォリオについてのFD研修 (ワークショップ形式)	理数学生応援プロジェクト実施WG	吉田孝紀(地質科学科)	29
	12月21日	理学部チューター, メンター研修 (ワークショップ形式)	理数学生応援プロジェクト		教員9, 学生35
	7月, 12月	テニユアトラック助教のピアレビュー (授業参観形式)			教員, 各10名程度
平成23年度	11月1日	GPA制度について考える	評価・点検委員会, 教務委員会		
平成24年度	7月3日	学生のやる気を高める方法	評価・点検委員会	Kathleen T. Brinko(米国ノースカロライナ州アパラチアン州立大学FDセンター長)	21
	11月3日	本学の理学部教育について (座談会:学生を交えての理学部教育に関するフォーラム)	評価・点検委員会	パネラー12名(各学科卒業生2名)	

	11月20日	如何にして研究成果を分かりやすく伝えるか	理数学生応援プロジェクト	伊藤冬樹（教育学部准教授 有機物理科学）	学部3,4年, 修士学生対象
	12月4日	2011 新入生アンケートの結果から	評価・点検委員会		18
平成 25 年度	7月23日	教育における ICT 活用に関する FD 講習会	高等教育研究センター, e-learning センター		3
	2月18日	理学部入試制度を考える	評価・点検委員会, 入試制度検討WG		23
平成 26 年度	10月7日	科研費の取り方と本学の考え方	評価・点検委員会	高等教育研究センター 加藤 鉦三教授 研究推進部研究推進課 山田 課長	35
	12月2日	学生の問題行動などへの対処の仕方	評価・点検委員会	学生相談センター 小田佳代子 学生相談コーディネーター	46
	1月6日	TOEIC プログラムについて	教務委員会	IIBC IP 事業本部 学校普及チーム 長嶋裕介	41
	2月5日	シラバス・ガイドライン改定のポイント	教務委員会	高等教育研究センター 加藤 鉦三教授	32
平成 27 年度	12月12日	学生に勉強させる授業デザイン	評価・点検委員会	高等教育研究センター 加藤善子准教授	18

(出典：理学部事務部作成)

### ③ 共通教育の授業改善

機構では教育の質の改善・向上を図るため、評価分析室機構分室会議を中心に授業改善アンケート、機構教務委員会で共通教育グッドプラクティスに取り組んでいる。(資料理45～46)

## 資料理45 学生による授業改善アンケート

2015年（平成27年）10月8日

## 平成27年度前期全学教育機構「学生による授業改善アンケート」の結果

評価分析室全学教育機構分室

全学教育機構では、平成27年度前期に中間アンケートを行い、学生の要望を確認し、後半の授業が行われた。本結果は、期末に実施されたものによる。

平成27年度前期期末「学生による授業改善アンケート」は、以下の2とおりの方法により実施された。

- a. 総合人間科学系所属の各教員が担当する授業について授業中に用紙に記入する。
- b. 全授業題目を対象としてウェブ上で記入する。

アンケートの質問項目は、用紙・ウェブともに以下のとおりである。

## ＜アンケート質問項目＞

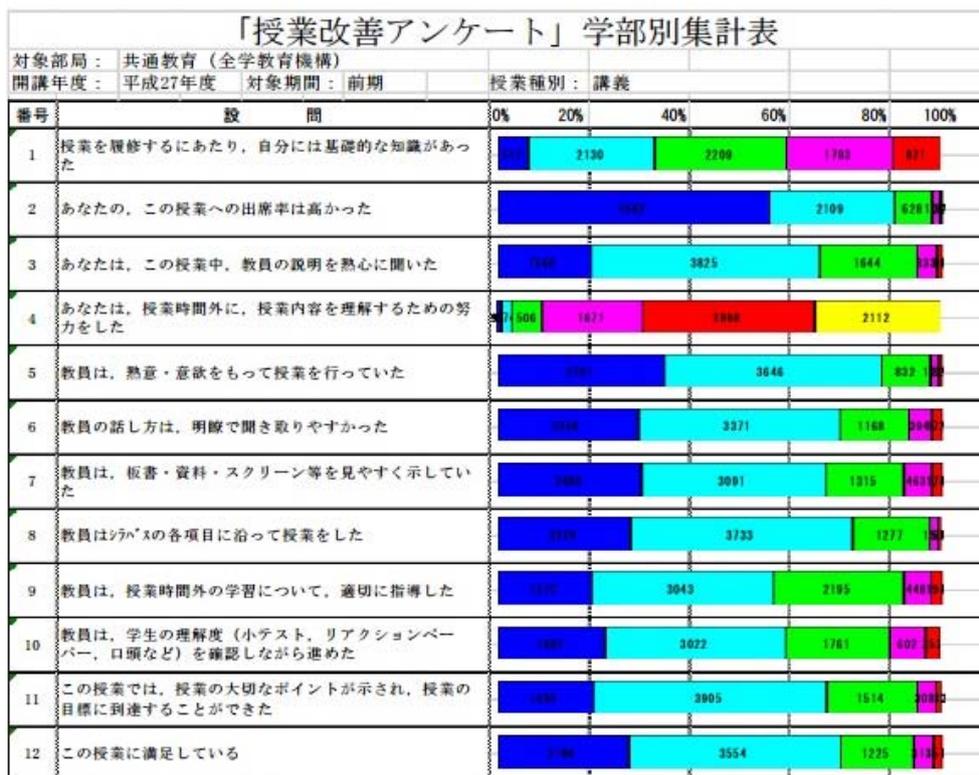
1. この授業を履修するにあたり、自分には基礎的な知識があった(5択)
2. あなたの、この授業への出席率は高かった(5択)
3. あなたは、この授業中、教員の説明を熱心に聞いた(5択)
4. あなたは、この授業時間外に、授業内容を理解するための努力をした(予習・復習等)(6択)  
※4. の選択肢(週4時間以上、週3～4時間、週2～3時間、週1～2時間、週1時間未満、全くしない)
5. 教員は、熱意・意欲をもって授業を行っていた(5択)
6. 教員の話し方は、明瞭で聞き取りやすかった(5択)
7. 教員は、板書・資料・スクリーン等を見やすく示していた(5択)
8. 教員は、シラバスの各項目に沿って授業をした(5択)
9. 教員は、授業時間外の学習について、適切に指導した(シラバスでの参考文献の提示等)(5択)
10. 教員は、学生の理解度(小テスト、リアクションペーパー、口頭など)を確認しながら進めた(5択)
11. この授業では、授業の大切なポイントが示され、授業の目標に到達することができた(5択)
12. この授業に満足している(5択)
13. この授業について、改善すべきと思う事、教員が工夫をしていると思う事、その他、意見、要望等がありましたら、書いてください(自由記述)

アンケートの結果は、部門長および評価分析室機構分室員が内容について検討・解析した。以下に回答について、科目群ごとにその結果を報告する。(用紙を使ったアンケートの結果についても、ウェブに取込して集計されている。)

## 1. 全体に関する結果

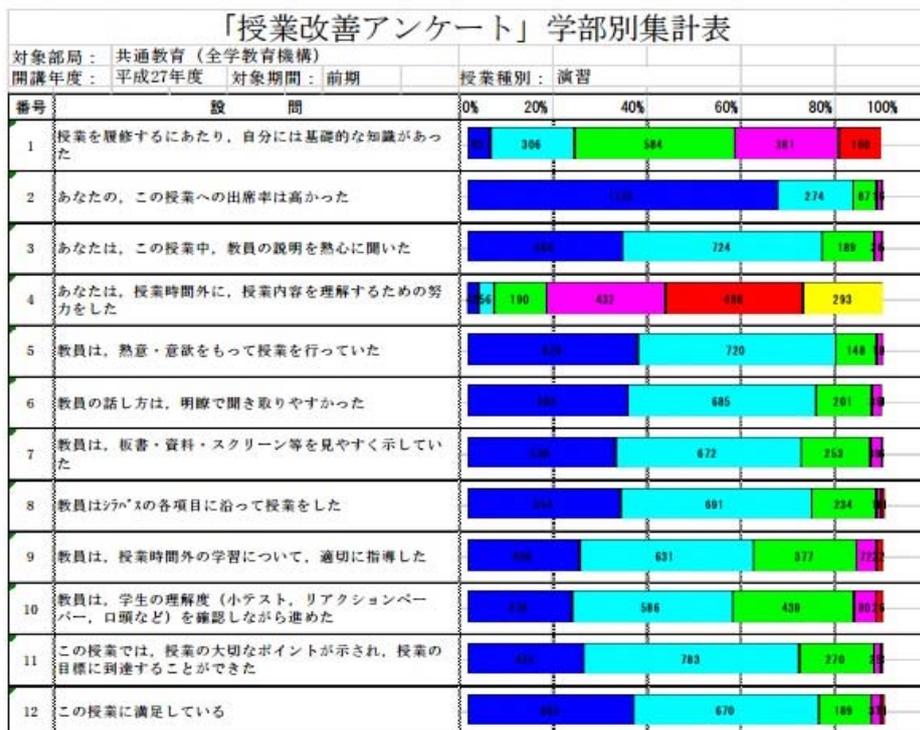
紙媒体によるアンケート実施クラス数を増やしたので、今年度(2015年度)前期の機構授業に対する授業改善期末アンケートの回答率は、2014年度前期の数字と対照させる(2014年、2015年の回答率の順序)と、講義全体:50%,54%,演習全体:41%,49%,外国語全体:46%,79%,実験・実習全体:56%,76%へと、全ての科目群で増加した。期末アンケートの講義科目、演習科目、外国語科目の集計結果は、図1～3の通り。

図1【講義科目】



青：強くそう思う、水色：そう思う、緑：どちらともいえない、ピンク：そう思わない、赤：全くそう思わない  
 ※4.の選択数のみ 青：週4時間以上、水色：週3～4時間、緑：週2～3時間、ピンク：週1～2時間、赤：週1時間未満、黄色：全くしない

図2【演習科目】



青：強くそう思う、水色：そう思う、緑：どちらともいえない、ピンク：そう思わない、赤：全くそう思わない  
 ※4.の選択数のみ 青：週4時間以上、水色：週3～4時間、緑：週2～3時間、ピンク：週1～2時間、赤：週1時間未満、黄色：全くしない

(出典：平成27年度前期 共通教育「学生による授業改善アンケート」の結果)

## 資料理46 共通教育グッドプラクティス

全学教育機構では、企画実施する信州大学の共通教育の教育改善に資するため、すべての共通教育開講科目の中から、優れた実践を「共通教育グッドプラクティス」として毎年選定することとしています。これは、共通教育科目における、優れた取組を表彰し、内容およびその成果をあらゆる機会を捉えて全学に広め、もって共通教育さらに本学教育全体の改善への一助とするものです。

## 選定の流れ

1. テーマ決定  
「効果ある授業方法」を中心として、当該年度の募集テーマを決定します。
2. 公募  
テーマに沿って、共通教育で開講する全科目あるいは科目群（複数科目の連携の場合）を対象に、自薦・他薦を問わず募集します。
3. 応募授業のピアレビュー  
応募された取組については、全学教育機構ホームページに掲載し、全学の教員に一定期間ピアレビューを推奨します。
4. 審査  
全学教育機構教務委員会において行います。
5. 選定授業担当者による取組発表  
取組発表会を実施し、選定授業担当者により、取組の概要と要点を発表していただきます。また、表彰式も行われます。

年度	テーマ
H22	信州大学の DP を実現するための共通教育における授業の実践的取組（1つの学位授与の方針（DP）を取り上げ、その実現に向けた、特に効果的な教育実践）
H23	人間力向上に向けた取組（コミュニケーション力・言語力・論理構成力の向上に向けた取組）
H24	男女共同参画の推進に向けての取組
H25	授業外学修時間を増やす取組
H26	地域課題実践授業の試み
H27	テーマ① 大学における教育内容・方法の改善等について テーマ② アクティブ・ラーニングについて

（出典：全学教育機構提供資料もとに経営企画課にて作成）

（水準）期待される水準を上回る

（判断理由）

在学生、受験生、卒業生および保護者の期待に応え、本学部で教育を進めるにあたり適切な学科・コース編成および教員配置が行われている。特に平成 27 年度改組においては、学生本位の教育を目指して体制を刷新し、カリキュラムを大幅に改訂した点は、想定される関係者の期待に十分応えている。（資料理 8、19～21）

教育サポートとしては、クラス担任を設置するだけでなく、長期欠席学生について本人・保護者への連絡・面談を実施している。（資料理 28～29）また、平成 24 年度には学生相談センター及び学生相談室が設置される等、学生・教員の学習・教育環境を支える全学的なサポート体制も構築されている。（資料理 30、31）これらは期待される水準を上回る実績である。

さらに、授業改善アンケートにおける学生からの指摘や要望に対して、各教員が今後どのように対応するかを回答・周知する体制が整っている。（資料理 43）さらに各種 FD を行い、教育改善に取り組んでいる。（資料理 44）このように個々の授業を単位としたきめ細かい実践を達成できたことは、期待される水準を上回るとする判断根拠となる。

観点 教育内容・方法

(観点に係る状況)

1. 体系的な教育課程の編成状況

① DP に基づく教育課程の編成

本学部では、学科ごとに学位授与の方針に基づき、CP（前掲資料理3、p3）に沿った教育課程を編成している。各授業では、カリキュラムマップ、シラバスにより学生に明示している。（資料理 47～48）

資料理 47 学位授与の方針マップ

コード	授業名	◎ 自然科学の素養知識	◎ 自然科学に関する知識	◎ 数理的・計算的能力	◎ 問題発見・解決能力	◎ 専門知識と応用力	◎ 専門外の知識	◎ 環境基礎力	◎ 環境実践力	◎ 環境環境に関する理	◎ 環境基礎力	◎ 環境実践力																
S4019	資源地質学Ⅰ																											
S4020	地産学																											
S5001	気象分理学																											
S5002	気象学																											
S5003	気象学Ⅱ																											
S5004	気象学Ⅲ																											
S5005	気象学Ⅳ																											
S5006	気象学Ⅴ																											
S5007	動物学Ⅰ																											
S5008	動物学Ⅱ																											
S5009	動物学Ⅲ																											
S5010	動物学Ⅳ																											
S5011	動物学Ⅴ																											
S5012	動物学Ⅵ																											
S5014	気象学Ⅶ																											
S5015	気象学Ⅷ																											
S5017	動物学Ⅷ																											
S5019	動物学Ⅸ																											
S5020	動物学Ⅹ																											
S5021	動物学Ⅺ																											
S5022	動物学Ⅻ																											
S5023	動物学Ⅼ																											
S5024	動物学Ⅽ																											
S5025	動物学Ⅾ																											
S5301	動物学Ⅿ																											
S5305	動物学ⅰ																											

(出典：信州大学シラバス検索システム)

資料理 48 シラバス

登録コード	SB501100		市民開放授業		
授業科目	物理実験学			担当教員	竹下 徹
英文授業名	Methods of Experimental Physics			副担当	
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・2時限
講義室	理学部第3講義室	授業形態	講義	備考	自由
<p>(1)授業のねらい</p> <p>授業で得られる「学位授与の方針」要素⑦：全学共通</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然界の多種多様な現象に常に知的好奇心と探究心を抱く素養。</li> <li>・それぞれの専門分野についての深い知識を有するとともに、専門分野を越えた課題にも柔軟に対処できる。広い視野と適応性を兼ね備えた、社会に役立つ知識と能力。</li> <li>・数学および自然科学の専門知識を修得し、かつ、それらを活用する修練を十分に積み重ねており、様々な状況に直面した場合、自らの課題を発見し、培ってきた自身の数理的知性に基づき総合的な判断・対応ができる、高度専門職人としての能力と見識。</li> <li>・物理学を通して、自然を理解するための幅広い知識と理解力。</li> <li>・◎多様な情報を適切に取捨選択し、分析・活用できる【情報活用力】</li> <li>・◎自然や社会の現象を普遍的な尺度や数値的指標を用いて理解できる【普遍的・数値的理解力】</li> </ul> <p>【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統計的現象とその奥に潜む関係を考えることを磨く</li> <li>・統計学の手法を学ぶ</li> <li>・数値を統計的に処理し、結果を洞察できる</li> <li>・自然現象に関わる確率的現象を知る</li> <li>・多くの数値データからの確実な処理を行える</li> <li>・数値データの取り扱いと、そこから得られる結果を評価できる。</li> </ul> <p>【授業のねらい】</p> <p>物理は実験と理論の両輪で自然を理解しようとする試みである。このため実験は、理論が自然を正しく説明するべく解釈を与えるものかどうかをテストするとともに、理論の予言に添わないあるいはそれとは異なる未知の現象を発見する唯一の方法である。このためには、実験により得られる「結果」が十分な「精度」を確保した「数値」であるかどうか重要である。これにより「測定結果」が妥当なものかどうか判定できる。</p> <p>この授業では、「測定」から得られる数値データの組の集積から「結果」という数値に至る道程を確かなものにする事をまず目標とする。さらに身の回りの種々の過程を試みて、その妥当性を直感的に把握できるようになることを狙う。</p> <p>また物理現象を説明する多くの統計理論のどれを実験結果を適切に説明するための理論として採用するかは、実験者の基本能力である。これを養うことも目標とする。</p>				<ol style="list-style-type: none"> <li>1. データの記述 (データの種類の代表化)</li> <li>2. 平均値、標準偏差、ヒストグラム</li> <li>3. データの相関</li> <li>4. 確率変数と分布-離散型、連続型</li> <li>5. 大数の法則と確率</li> <li>6. 理論分布 (二項分布)</li> <li>7. 理論分布 (ポアソン分布)</li> <li>8. 理論分布 (幾何分布、指数分布)</li> <li>9. 理論分布 (ガウス分布)</li> <li>10. 中心極限定理</li> <li>11. 精度の伝搬式</li> <li>12. 実験精度の計算</li> <li>13. 真の値の推定</li> <li>14. 信頼度、仮説</li> <li>15. 分布の検定</li> </ol> <p>(5)成績評価の方法 授業の折々に出題する宿題(次回授業時に提出)と期末試験の合計点で60点以上を合格とする。成績は以下の基準を適用する。</p> <p>秀 90点以上 優 80-90点 良 70-80点 可 60-70点</p> <p>(6)成績評価の基準</p> <p>(7)事前事後学習の内容</p> <p>(8)履修上の注意 物理学実験において必ず必要になる作業が精度の計算である。これに至る理論背景を理解し、実際数値計算できるようになることが目標であり、自ら手計算を電卓を用いて行うこと。教科書を指定しないので、参考書web-siteを見ること。関数電卓を入手すること。</p> <p>(9)質問、相談への対応 質問は宿題の中に書き込むことが出来これに返答する。研究室をおとずれ直接質問することを勧める。</p>	
				<p>(3)授業のキーワード 物理学実験、数値データ処理、統計学、精度、誤差</p> <p>(4)授業計画</p>	

(出典：シラバス)

②専門科目、共通教育科目

本学授業は、学則により共通教育科目と専門科目に区分している。(前掲資料理 10、p10)

学年を追って、まず共通教育と理学全般の基礎教育(専門教育の一部)を1年次に修得し、2年次以降、各コースの専門教育へと段階的に履修するように構成されている。(資料理 49)

## 数学科 履修例 (先進プログラム: 数学科・数理科学コース)

**理工学系研究科**

卒業(学位取得), さらに深く数学を追求するために  
修士課程へ進学, その後博士課程に進学

卒業要件  
 共通教育科目26単位  
 グリーンサイエンス科目: 12単位  
 コース必修科目36単位(共通科目を含む)  
 コース選択科目: 50単位(共通科目, 他コースの科目, 探究科目を含む)  
 計 124単位  
 【自由科目】  
 アドバンス科目: 5単位  
 大学院科目: 先取り履修

4年次		卒業研究 (12単位) 代数学特別講義 I, 幾何学特別講義 I, 解析学特別講義, 数学特別講義 I (各2単位)		大学院科目先取り履修	
3年次		環論, 体論, 多様体論, トポロジー, 実解析学 I / II, 線形代数学統論, 環論演習, 実解析学演習, 関数解析学 (各2単位)	電磁気論, 熱・波動方程式論, 変分法・解析力学, 数理モデル論, 偏微分方程式と量子論 (各2単位)		アドバンス演習・実験・実習 III / IV (各1単位)
2年次	専門科目	代数入門, 代数入門演習, 群論, 群論演習, 位相空間論, 位相空間論演習 (各2単位), 幾何入門, 関数論 I / II (各4単位) 微分積分学詳論 III (2単位)	情報処理 I, 数理統計学, 確率論基礎, 微分方程式と力学, 微分方程式と力学演習 (各2単位)		アドバンス演習・実験・実習 I / II (各1単位)
1年次		グリーンサイエンス科目: グリーンサイエンス通論 II (2単位)			
		線形代数学演習 I / II, 微分積分学演習 I / II (各1単位), 微分積分学詳論 I / II, 集合論 (各2単位)			アドバンスゼミ (1単位)
		グリーンサイエンス科目: グリーンサイエンス通論 I (2単位) 基礎理学科目群: 線形代数学 I / II, 微分積分学 I / II (各2単位)			
		共通科目: 情報科学演習 (2単位)			

数理科学  
コース

自然情報学  
コース

アドバンス科目

共通教育科目

## 物理学コース 履修例 (学際プログラム履修: 理学科・物理学コース)

**企業**

卒業(学位取得), 就職

卒業要件  
 共通教育科目26単位  
 グリーンサイエンス科目: 22単位以上  
 コース必修科目64単位(共通科目, 探究科目を含む)  
 コース選択科目: 12単位(共通科目, 他コースの科目, 探究科目を含む)  
 計 124単位

4年次		数学特別講義 I (2単位)	セミナー (2単位)	物理化学特論 I (2単位)	地球・惑星物理学 (2単位)	進化遺伝学 (2単位)	元素環境論 (2単位)	
3年次			電磁気学 III, 量子力学 III, 統計力学 I / II, 物理学演習 VII / VIII / IX (各2単位), 物理学実験 III a / III b (各4単位), 宇宙物理学, 物理学最前線 (各2単位)					
2年次	専門科目	情報処理 I (2単位)	力学 III, 熱力学, 電磁気学 I / II, 量子力学 I / II, 物理数学 II / III, 物理学演習 III / IV / V / VI, 物理学実験 II (各2単位)	物理化学 I / II (2単位)			地球環境論 (2単位)	
1年次		グリーンサイエンス科目: グリーンサイエンス通論 II (2単位)						
		力学 I / II, 物理学演習 I / II, 物理数学 I, 物理学実験 I (各2単位)						
		グリーンサイエンス科目: グリーンサイエンス通論 I (2単位) 基礎理学科目群: 微分積分学 I / II, 線形代数学 I / II, 化学概論 I / II (各2単位)						
		共通科目: 情報科学演習 (2単位)						

数理自然  
コース

物理学  
コース

化学  
コース

地球学  
コース

生物学  
コース

物質循環  
学コース

共通教育科目

卒業要件  
 共通教育科目26単位  
 グリーンサイエンス科目:22単位以上  
 コース必修科目46単位  
 (共通科目、探究科目を含む)  
 コース選択科目:30単位(共通科目、他コースの科目、探究科目を含む)  
 計 124単位  
 【自由科目】  
 アドバンス科目:5単位  
 大学院科目:先取り履修

## 化学コース 履修例 (先進プログラム履修:理学科・化学コース)

理工学系研究科

卒業(学位取得), 修士課程進学

4 3 2 1 年次	専 門 科 目	卒業研究(10単位) セミナー(2単位) 大学院先取り履修							
		電磁気学Ⅰ、量子力学Ⅰ(各2単位)	有機化学Ⅲ、物理化学Ⅲ(各2単位)、有機化学実験、物理化学実験(各3単位) 分析化学特論Ⅰ/Ⅱ、無機化学特論Ⅰ/Ⅱ、有機化学特論Ⅱ/Ⅲ、物理化学特論Ⅰ/Ⅱ(各2単位) アドバンス演習・実験・実習Ⅲ/Ⅳ(各1単位)						
		熱力学(2単位)	分析化学Ⅰ/Ⅱ、無機化学Ⅰ/Ⅱ、有機化学Ⅰ/Ⅱ、物理化学Ⅰ/Ⅱ(各2単位)、無機化学実験、分析化学実験(各3単位)、有機化学特論Ⅰ、物理化学演習(各2単位) アドバンス演習・実験・実習Ⅰ/Ⅱ(各1単位)						2年次生向け 外国語科目 (4単位)
			グリーンサイエンス科目:グリーンサイエンス通論Ⅱ(2単位) 基礎理学科目群:微積分学Ⅱ、線形代数学Ⅱ、物理学実験(各2単位)						
			基礎分析化学、基礎無機化学、基礎有機化学、基礎物理化学、基礎化学実験(各2単位)、化学数学(2単位) アドバンスゼミ(1単位)						2年次生向け 外国語科目 (4単位) 健康科学科目(1単位) 新入生ゼミナール科目 (2単位)
		グリーンサイエンス科目: グリーンサイエンス通論Ⅰ(2単位) 基礎理学科目群:微積分学Ⅰ、線形代数学Ⅰ、物理学概論Ⅰ/Ⅱ、生物学概論Ⅰ、地学概論Ⅰ(各2単位)							
		共通科目:情報科学演習(2単位)							
		物理学コース	化学コース	地球学コース	生物学コース	物質循環学コース	共通教育科目		

卒業要件  
 共通教育科目26単位  
 グリーンサイエンス科目:22単位以上  
 コース必修科目42単位(共通科目、探究科目を含む)  
 コース選択科目:34単位(共通科目、他コースの科目、探究科目を含む)  
 計 124単位  
 【自由科目】  
 アドバンス科目:5単位  
 大学院科目:先取り履修

## 地球学コース 履修例 (先進プログラム履修:理学科・地球学コース)

理工学系研究科

卒業(学位取得), さらに幅広い専門知識と研究の深化へ向けて修士課程へ進学

4 3 2 1 年次	専 門 科 目	卒業研究(10単位) セミナー(2単位) 大学院先取り履修							
		分析化学Ⅰ、無機化学Ⅰ(各2単位)	地質調査演習(4単位)、野外巡検Ⅱ、地球学コロキウムⅠ/Ⅱ(各2単位)、堆積学、地球・惑星物理学、堆積・古生物学実験Ⅰ/Ⅱ(各2単位) アドバンス演習・実験・実習Ⅲ/Ⅳ(各1単位)						
			地球史学、鉱物学、岩石学、地層学、第四紀学、鉱物・岩石学実験Ⅰ/Ⅱ、野外巡検Ⅰ、地質調査法実習Ⅰ/Ⅱ、科学英語Ⅰ/Ⅱ(各2単位)、古生物学、日本地質(各2単位) アドバンス演習・実験・実習Ⅰ/Ⅱ(各1単位)	細胞生物学(2単位)					2年次生向け 外国語科目 (4単位)
			グリーンサイエンス科目:グリーンサイエンス通論Ⅱ(2単位) 基礎理学科目群:微積分学Ⅰ/Ⅱ、線形代数学Ⅰ/Ⅱ、物理学実験(各2単位)						
			地質学入門実習、地質学序説実習(各1単位)、地質学序説(2単位) アドバンスゼミ(1単位)						2年次生向け 外国語科目 (4単位) 健康科学科目(1単位) 新入生ゼミナール科目 (2単位)
		グリーンサイエンス科目:グリーンサイエンス通論Ⅰ(2単位) 基礎理学科目群:物理学概論Ⅰ/Ⅱ、化学概論Ⅰ/Ⅱ、生物学概論Ⅰ/Ⅱ、化学実験、生物学実験(各2単位)							
		共通科目:情報科学演習(2単位)							
		物理学コース	化学コース	地球学コース	生物学コース	物質循環学コース	共通教育科目		

## 生物学コース 履修例 (学際プログラム履修:理学科・生物学コース)

卒業要件  
 共通教育科目26単位  
 グリーンサイエンス科目:22単位以上  
 コース必修科目41単位(共通科目、  
 探究科目を含む)  
 コース選択科目:35単位(共通科目、他  
 コースの科目、探究科目を含む)  
 計 124単位

理工学系研究科

卒業(学位取得), さらに幅広い専門知識と  
専修免許取得へ向けて修士課程へ進学

専門科目	4年次	有機化学特論V (2単位)	地球・惑星物理学、火山学(各2単位)	セミナー(2単位)	生物地球化学 I、大気環境学(各2単位)	
	3年次	熱力学、電磁気学 I、統計力学 I (各2単位)	分析化学 I、無機化学 I、基礎物理化学(各2単位)	岩石学、第四紀学、古生物学、構造地質学(各2単位)	生物学コロキウム(4単位)、発生生物学実験、生態学実験(各3単位)、生物統計学演習(2単位)、進化生物学特論 I / II (各2単位)	
	2年次	力学 I、量子力学 I (各2単位)			生態学、遺伝学、発生生物学、生体生化学、進化多様性生物学(各2単位)系統分類学実験、機能形態学実験、生体生化学実験(各3単位)	微生物代謝論(2単位)
	グリーンサイエンス科目: グリーンサイエンス通論 II (2単位) 基礎理学科目:微分積分学 I / II、線形代数学 I / II、物理学実験(各2単位)					2年次生向け 外国語科目 (4単位)
	細胞生物学、基礎生物学実験、系統分類学(各2単位)					
1年次	グリーンサイエンス科目: グリーンサイエンス通論 I (2単位) 基礎理学科目:物理学概論 I / II、化学概論 I / II、地学概論 I / II、化学実験、地学実験(各2単位)					教養科目(15単位) 外国語科目(4単位) 健康科学科目(1単位) 新入生ゼミナール科目(2単位)
共通科目:情報科学演習(2単位)						
物理学コース		化学コース		地球学コース		生物学コース
						物質循環学コース
共通教育科目						

## 物質循環学コース 履修例 (標準プログラム履修:理学科・物質循環学コース)

卒業要件  
 共通教育科目26単位  
 グリーンサイエンス科目:22単位以上  
 コース必修科目41単位(共通科目、探究  
 科目を含む)  
 コース選択科目:35単位(共通科目、他コ  
 ースの科目、探究科目を含む)  
 計 124単位

企業・公的機関

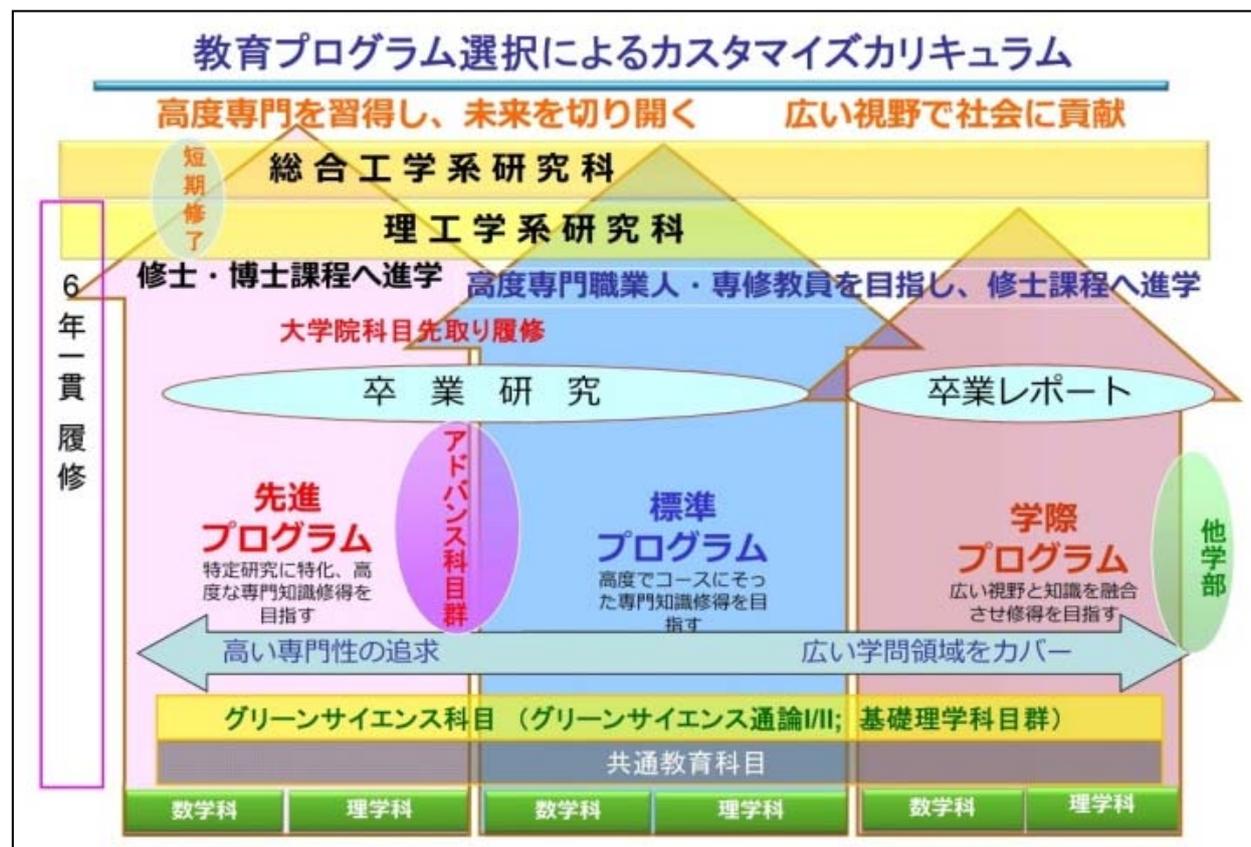
卒業(学位取得), 就職

専門科目	4年次				システム解析学セミナー、セミナー(各2単位) 卒業研究(10単位)	
	3年次	分析化学 I / II、有機化学 I / II (各2単位)	第四紀学、堆積学、地球史学(各2単位)	遺伝学、進化遺伝学(各2単位)	物質循環学コロキウム I / II、野外調査実習 III(各1単位)、システム解析学実習 I / II(各2単位)、堆積環境学、生態毒性学、生態遷移論、群集生態学(各2単位)	
	2年次	熱力学(2単位)	無機化学 I / II (各2単位)	細胞生物学、分子生物学(各2単位)	地球システム学 I / II、生態システム学 I / II、地球環境史学、大気環境学、環境基礎理論、環境計測学入門、微生物代謝論(各2単位)、科学英語 III / IV、物質循環基礎実習 I / II、野外調査実習 II(各1単位)	2年次生向け 外国語科目 (2単位)
	グリーンサイエンス科目:グリーンサイエンス通論 II (2単位)、 基礎理学科目:線形代数学 II、物理学実験(各2単位)					
	物質循環学序説 I / II(各2単位)、野外調査実習 I(1単位)					
1年次	グリーンサイエンス科目: グリーンサイエンス通論 I (2単位) 基礎理学科目群:物理学概論 I / II、化学概論 I / II、微分積分学 I / II、線形代数学 I、化学実験(各2単位)					教養科目(15単位) 外国語科目(6単位) 健康科学科目(1単位) 新入生ゼミナール科目(2単位)
共通科目:情報科学演習(2単位)						
物理学コース		化学コース		地球学コース		生物学コース
						物質循環学コース
共通教育科目						

(出典:理学部事務部作成)

③平成 27 年度改組カリキュラムの特徴（資料理 50～51）

資料理 50 本学部の教育課程（学年次別）  
 1 年次・・・共通教育科目（26 単位）以外に理学の基礎科目としてグリーンサイエンス通論（新規・必修科目 4 単位）、微分積分学・線形代数学（新規・必修科目 8 単位）、および自然科学科目を理学部共通科目として履修。  
 2 年次以降・・・上述の授業で得た基礎知識を土台として各コースの専門科目（理学の基礎科目を含み計 98 単位以上）を履修し、高い専門性を系統的に修得できるようになっている。



（出典：理学部事務部作成）

資料理 51 卒業に必要な単位数

区分	科目区分	単位数	
共通教育科目	教養科目	15	
	基礎科目	外国語科目	8
		健康科学科目	1
		新入生ゼミナール科目	2
	日本語・日本事情	日本語・日本事情科目 (備考参照)	
	小計	26	
専門科目	専門科目	98	
/	合計	124	

備考：外国人留学生在が日本語・日本事情の科目を履修し、修得した単位については、教養科目及び外国語科目の単位に算入することができる。

（出典：理学部学生便覧）

必修科目により各コースの専門性を確実に身につけた上で、他コースも含めて広く選択科目を履修することにより理学の幅広い知識を習得することもできるようになっている。  
(前掲資料理 8、p 8)

各コースそれぞれに卒業要件等を学生便覧より学生に示している。(資料理 52)

資料理 52 数学科の卒業要件

V 卒業に必要な単位数(卒業要件)

区 分	1年次 に修得を要する単位		2年次 に修得を要する単位		3年次 に修得を要する単位		4年次 に修得を要する単位		卒業要件
	内容	単位数	内容	単位数	内容	単位数	内容	単位数	
共通 教育 科目	教養科目	選択	「環境科学群」から2単位選択必修 「人文科学群」 「社会科学群」 「自然科学群」 「体育・スポーツ群」 「教養ゼミナール群」から50又は2単位  ◆初修外国語科目(2単位以内)は「人文科学群」へ算入可	15					15 (5つ以上の科目群から選択)
	外国語科目	必修	英語(フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅠ)	1	英語(アカデミック・イングリッシュⅠ)	2			8
			英語(フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅡ)	1					
			英語(リスニング&リーディングⅠ)	1	英語(アカデミック・イングリッシュⅡ)	2			
			英語(リスニング&リーディングⅡ)	1					
	健康科学科目	必修	健康科学・理論と実践	1					1
	新入生ゼミナール科目	必修	新入生ゼミナール	2					2
日本語・日本事情科目	選択	<外国人留学生対象>	-						
計			22	4				26	
専門 科目	グリーンサイエンス通論	必修	グリーンサイエンス通論Ⅰ	2	グリーンサイエンス通論Ⅱ	2			4
	基礎理学科目群	必修	微分積分学Ⅰ	2					8
			微分積分学Ⅱ	2					
			線形代数学Ⅰ	2					
			線形代数学Ⅱ	2					
	学部共通	必修	情報科学演習	2					2
	必修科目			10	24				34
選択科目A								8	
選択科目B 探究科目					* 1			42	
計								98	
合計		1年次 に修得を要する単位		2年次 に修得を要する単位		3年次 に修得を要する単位		4年次 に修得を要する単位	124

\* 1 選択科目B、探究科目(42単位)について

先進プログラム 標準プログラム	コース選択科目B	30単位	42単位
	卒業研究	12単位	
学際プログラム	コース選択科目B	30単位	42単位
	理学部学部共通科目、数学科の選択科目、理学部の専門科目、他学部の専門科目、長野県内で単位互換協定を結んでいる他大学、5大物理学部共通科目を12単位取得	12単位	

(出典：平成 27 年度理学部学生便覧)

④ 共通教育

共通教育科目は、学士課程共通の DP（前掲資料理 3、p3）に基づき開講し、カリキュラム・マップ、シラバスにより学生に明示している。（資料理 53～54）

資料理 53 学位授与の方針マップ（共通教育）

「学位授与の方針」マップ

検索条件を指定して「検索」をクリックしてください。

開講部局	共通教育(全学教育機構)	
開講年度	2014	年度(西暦)
開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年	
学位授与の方針の範囲	<input checked="" type="checkbox"/> 全学士課程共通	

201～300件（全1260件中）

コード	授業名	◎自己認識・自己啓発	◎社会的行動マインド	◎人類知の継承と未来	◎多様な文化受容マイ	◎科学リテラシー	◎言語能力	◎コミュニケーション	◎情報活用力	◎問題発見・解決能力	◎普遍的・数量的理解	◎専門知識と応用力	◎専門外の知識	◎地域環境に関する理	◎環境基礎力	◎環境実践力
03000	脳の不思議を探る(認知神経科学入門)					○				○						
03004	臨床心理学	○														
03097	体と心のリハビリテーションを考えるゼミ	○	○													
03099	「考える」ゼミ							○		○						
03100	食と植物の文化論			○	○											
03101	動物と私たちの暮らし					○						○				
03102	応用生物学への招待					○										
03103	応用生物学への招待					○										
03197	土壌学ゼミ					○								○		
03198	自然誌・博物学ゼミ													○	○	
03199	植物生態学ゼミ	○												○		
03200	教養としての物理学					○										
03201	宇宙から原子への旅			○										○		
03203	物理学の世界【SUNS】			○		○										
03205	身近な化学					○								○		
03207	応用化学～千夜一夜～					○				○						
03212	物理への誘い					○				○						
03292	化学ゼミ					○		○								
03293	量子化学入門ゼミ										○	○				
03296	化学計算入門ゼミ										○					
03300	「物質工学の世界」ゼミ					○								○		

（出典：信州大学シラバス検索システム）

資料理54 共通教育シラバス

時間割コード	01088		授業科目	グローバルに生きるゼミ	担当教員	松岡 幸司	
英文授業名	Global Awareness Seminar		単位数	2	講義期間	前期	
講義室	共通教育211演習室	授業形態	演習	曜日・時限	木曜・4時限	対象学生	全
精神と思想	(1)授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」要素A②：全学共通・③みずから他者や社会との関わりをなかで捉え、自己発展に努めることができる【自己認識 自己管理スキル】 【授業の達成目標】 ・グローバルとは何か、そしてグローバルな人材とはどのようなものなのか、という問いに対して、自分の生き方としてとらえ、説明できるようになる。 【授業のねらい】 名前のとおり「グローバルに生きる」ということを「自分の問題として考える」ゼミです。 社会のグローバル化が当然のこととされ、グローバルな人材として社会で活躍することが求められる時代になっていますが、イメージが先行してあいまいな部分が多いように思えます。そのイメージだけで虚勢とした活動をしていても結果として「グローバル化」は成りませんし、「グローバルな人材」にもなりません。例えば、英語ができてグローバルな人材ではありませんし、逆に、英語がそれほどできなくてもグローバルな人材として活躍できます。 そこでこのゼミでは： ・グローバルとは何か、そしてグローバルな人材とはどのようなものなのか？ ・現実的な問題として、自分にとって具体的などのようなものなのか？ この二点について、「自分としての答え」を見つけ、自分の生き方を考え、これからの学生生活の目標や目的を明確にすることがこのゼミのねらいです。また、実際に海外に行く（留学、出張）ということはどういうことなのか、ということも現実的に考えることを通して、異文化理解・受容を促進し、社会的な行動規範についても理解を深めます。 最終的には、単なる情報ではなく、自分の生き方としてグローバル化というものをとらえ、説明できるようになってもらいます。			グローバル、異文化理解、自己認識 (4)授業計画 1. オリエンテーション：「グローバル（に生きる）とは何か？」 2-4. グローバルな人材とは？（自分の問題として考える） 5-6. 海外へ行く、海外で暮らす/学ぶとは？(1) 7-8. 海外へ行く、海外で暮らす/学ぶとは？(2)（担当：Ruzicka） 9. グループ発表 10-12. 様々なテーマで「グローバル」ということについて、自分の問題として考える。 ☆ 個人発表（試験期間終了直後に行います） (5)成績評価の方法 ・毎回の授業終了後の提出物：30% ・グループ発表（相互評価+教員による評価）：30% ・個人発表（相互評価+教員による評価）：20% ・個人発表の報告書：20% (6)履修上の注意 ・単なる「受講」ではなく「積極的参加」が求められます。最初は難しいとは思いますが、自分で考え、ディスカッションをし、自分で、自分の答えを見つけることが求められます。 ・グローバルに生きたい、という意識の有無に関係なく、真剣に取り組む意欲のある学生の参加は歓迎です。 ・毎回の授業は密度が高くなりますし、毎回の課題もありますので、「適当に済ませ」ということは参加できません。それでも、困難な点については、教員がサポートしますので、積極的に質問や相談をしてください。 (7)質問、相談への対応 オフィスアワーについては、初回の授業で伝えます。研究室は、共通教育南棟3階にありますので、質問や相談は、気軽に訪ねてください。ただ、事前にメール連絡をしておいた方が確実です。 松岡：maulwurf@shinshu-u.ac.jp ルジチカ：david2@shinshu-u.ac.jp			
	(2)授業の概要 「授業のねらい」に書いたような性格上、この授業は、「グループワーク」、「ディスカッション」、「プレゼンテーション」が中心になります。「知識を得る」のではなく、情報を得て、それについて考え、自分の問題として発信することを要求します。（その意味では、受け身的な態度では受講することはできません。） 毎回の授業の大まかな流れは、以下のようになります。 1. 資料あるいは短いレクチャーを通して、テーマごとの問題点を明確にする。 2. その問題点についてグループワークやディスカッションを通して理解を深めつつ、自分以外の視点についても触れ、自分の問題として考える。 3. ディスカッションの結果をグループで（あるいは個人で）まとめて発表する。 4. 授業内容のまとめとして、毎回短い文章を提出してもらう。（コメントをつけて返却し、それを次の授業から活かしてもらう。） (3)授業のキーワード			【教科書】 特に指定のものはありません。授業は主にプリントを用いて進めます。 【参考書】 授業時にその都度紹介していきます。			

(出典：シラバス)

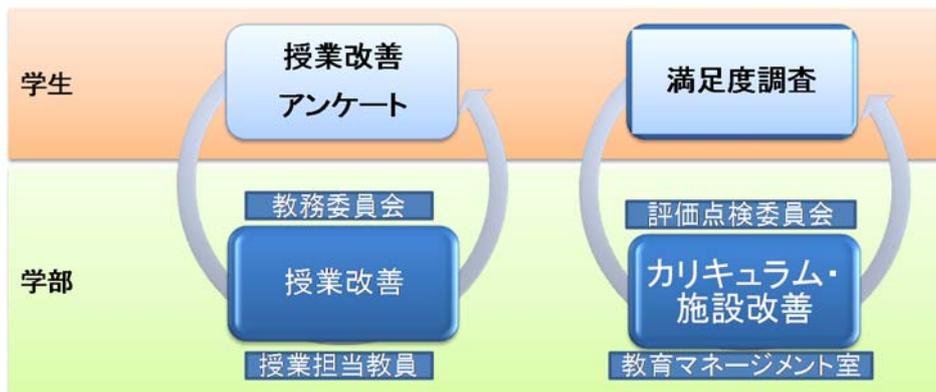
2. 学生や地域社会からのニーズに対応した教育課程の編成・実施上の工夫

(1) 授業改善アンケート、満足度調査及び高校関係者へのアンケート

毎学期中(6月及び11月)に授業改善アンケートを(前掲資料理43、p45)、卒業時には満足度調査を実施している。また、高大連携事業を通じて高校生や高校教員からのニーズをくみ取る体制が整っている。(資料理55~57)

資料理55 授業改善のためのフィードバックループ

調査結果は直ちに授業にフィードバックされ、また教務委員会が中心となって、授業改善の内容を把握している。また、満足度調査の結果は評価・点検委員会が中心となって集約され、教育マネジメント室において改善策を議論する体制が整備されている。



(出典：理学部事務部作成)

資料理 56 (満足度調査. 平成 26 年度より「進路・教育に関する調査」と呼称)

学部 4 年生 (卒業予定者)

## 教育・進路に関する調査

この調査は学生の皆さんが受けている教育や進路を決定する際に行った活動内容を調べるものです。調査の結果は、信州大学理学部の教育の充実のために活かしていきたいと考えています。ご協力を宜しくお願いします。なお、調査の分析は統計的な処理により行い、皆さんから回答された内容は慎重かつ厳重に管理してまいります。また、調査結果は、信州大学理学部の教育改善のために適切な方法で公開・利用されますが、それ以外には利用されることは決してありません。ご協力よろしくお願いします。

平成 27 年 1 月 8 日

評価・点検委員長 谷内 靖  
就職委員長 中山 一昭

アンケートへの回答が終わりましたら、**1 月 29 日 (木)** までに  
A 棟 1 階学生支援グループ、南支援室及び北支援室にある回収箱に提出してください。  
ご協力よろしくお願いします。

信州大学理学部卒業生アンケート 1 (選択項目については番号を塗りつぶしてください)		●
質問 1 あなたの所属する学科はどこですか。 ①数理・自然情報科学科 ②物理科学科 ③化学科 ④地質科学科 ⑤生物科学科 ⑥物質循環学科		
1	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	
質問 2 あなたの入学年はいつですか。 ①2012年4月 ②2011年4月 ③2010年4月 ④2009年4月 ⑤2008年4月 ⑥2007年4月 ⑦2006年4月 ⑧その他		
2	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧	⑧
質問 3 性別を教えてください。 ①男性 ②女性		
3	① ②	
質問 4 入学形態はどれですか。 ①一般選抜(前期) ②一般選抜(後期) ③留学生 ④3年次編入学 ⑤帰国子女選抜 ⑥推薦入試・A0入試 ⑦その他		
4	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦	⑦
質問 5 あなたの 4 月からの進路は次のどれですか？ ①就職 ②大学院進学(信大) ③大学院進学(他大学) ④就職希望だけ未定 ⑤進学希望だけ未定 ⑥その他		
5	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	⑥
質問 6 就職・進路について意識し始めたのはいつからですか？ ①1年生 ②2年生 ③3年生前期 ④3年生後期 ⑤4年生前期 ⑥4年生後期 ⑦その他		
6	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦	⑦
●	1	次のページへ続く ●

信州大学理学部卒業生アンケート 2 (選択項目については番号を塗りつぶしてください)		●
信州大学で受けている <u>教育</u> について、以下の意見や感想についてあてはまる数字をマークしてください。		
<b>① 共通教育課程に対する満足度</b>		
質問 7 共通教育を受けたことによって、自分の世界が広がった。 ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う		
7	① ② ③ ④ ⑤	
質問 8 共通教育で学んだことによって、学部を越えた友人ができた。 ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う		
8	① ② ③ ④ ⑤	
質問 9 基礎科学科目(数学、物理、化学、生物、地学)のどれを履修しましたか。(複数回答可) ①数学(微積分学I) ②物理学(力学) ③化学 ④生物 ⑤地学		
*9	① ② ③ ④ ⑤	
質問 10 基礎科学科目(数学、物理、化学、生物、地学)で得た知識は、専門課程の学習を始めるにあたって役に立った。※質問9で「①履修した」を回答した人のみ回答してください。 ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う		
10	① ② ③ ④ ⑤	
質問 11 共通教育で教養科目が高年次に開講されたら、あなたは受講しましたか。 ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う		
11	① ② ③ ④ ⑤	
質問 12 共通教育で語学科目が高年次に開講されたら、あなたは受講しましたか。 ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う		
12	① ② ③ ④ ⑤	
質問 13 共通教育に関してご意見等ありましたらお書きください。		
13		
●	2	次のページへ続く ●

信州大学理学部卒業生アンケート 3 (選択項目については番号を塗りつぶしてください)			●
<b>② 理学部に対する満足度</b>			
質問 14 学部の教育は総合的にみて満足のいくものである ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う			
14	① ② ③ ④ ⑤		
質問 15 自然科学に対し知的好奇心・探究心がそそられる授業が多かった ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う			
15	① ② ③ ④ ⑤		
質問 16 科学の発展に貢献をしたいと考えるようになった ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う			
16	① ② ③ ④ ⑤		
<b>③ 授業・学部教育課程に対する満足</b>			
質問 17 講義の授業内容のレベルは適切である ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う			
17	① ② ③ ④ ⑤		
質問 18 各講義の人数は内容に対して適切であった ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う			
18	① ② ③ ④ ⑤		
質問 19 講義には、学習意欲や興味が増すように工夫された授業が多かった ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う			
19	① ② ③ ④ ⑤		
質問 20 教職、学芸員、JABEE など資格取得に役立つ授業を受講できた ①受講しなかった ②受講したが資格を取得(申請)しなかった ③受講して資格を取得(申請)した(又は申請する予定である) ④その他			
20	① ② ③ ④	④	
質問 21 視野を広げるのに役立つ授業が用意されていた ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う			
21	① ② ③ ④ ⑤		
質問 22 実験・実習・演習の内容は満足できるものだった ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う			
22	① ② ③ ④ ⑤		
質問 23 実験・実習・演習には、スキルが身につくものが多かった ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う			
23	① ② ③ ④ ⑤		
●		3	次のページへ続く ●

信州大学理学部卒業生アンケート 4 (選択項目については番号を塗りつぶしてください)				●
質問 24 卒業研究では、自ら課題を発見して解決する方法を習得できた ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う				
24	① ② ③ ④ ⑤			
質問 25 先端分野の勉強ができた ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う				
25	① ② ③ ④ ⑤			
質問 26 専門的な知識を身につけられた ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う				
26	① ② ③ ④ ⑤			
質問 27 論理的な考え方を身につけられた ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う				
27	① ② ③ ④ ⑤			
質問 28 コミュニケーション能力を身につけられた ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う				
28	① ② ③ ④ ⑤			
質問 29 成績評価結果は公正であると感じた ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う				
29	① ② ③ ④ ⑤			
<b>④ 教職員の対応・施設・設備に対する満足度</b>				
質問 30 学習に関する相談に教員はよく対応してくれた ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う				
30	① ② ③ ④ ⑤			
質問 31 職員の窓口対応は親切であった ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う				
31	① ② ③ ④ ⑤			
質問 32 実験室・演習室は充実している ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う				
32	① ② ③ ④ ⑤			
質問 33 図書館・リフレッシュラウンジなど自主的な学習のための施設・設備が整備されている ①そう思わない ②どちらかというと思わない ③どちらともいえない ④どちらかといえばそう思う ⑤そう思う				
33	① ② ③ ④ ⑤			
●		4	次のページへ続く	●

信州大学理学部卒業生アンケート 5 (選択項目については番号を塗りつぶしてください)				●											
⑤ その他															
質問 34 大学生活で、何が自分にプラスになりましたか (複数回答可) ①講義 ②実験・実習 ③野外実習 ④卒業研究 ⑤教職員 ⑥先輩 ⑦友人 ⑧自主ゼミ ⑨サークル ⑩自治会 ⑪部活動 ⑫アルバイト ⑬その他															
*34	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑬	
質問 35 自分の専攻分野に満足していますか。 ①はい ②いいえ ③どちらともいえない ④( ) 専攻がよかった ⑤その他															
35	① ② ③ ④ ⑤					④⑤									
	理由														
質問 36 信州大学 (理学部) では開講されていないが、あるとよいと思う科目名を書いてください。															
36															
質問 37 信大理学部への進学を後輩・知人に勧めたいですか。 ①はい ②いいえ ③どちらともいえない ④その他															
37	① ② ③ ④					④									
	理由														
質問 38 そのほか、教育に関するご意見やご要望がありましたらご自由にお書きください。															
38															
●	ご協力ありがとうございました。					5	次は進路に関する実態調査です					●			

信州大学理学部卒業生アンケート 6 (選択項目については番号を塗りつぶしてください)		●
⑥ 進路に関する実態調査		
質問 39 就職活動を行いましたか？ ①はい ②いいえ (進学希望) ③いいえ (その他の理由) ④その他		
39	① ② ③ ④	④
就職活動を行った方にお聞きします。		
質問 40 就職活動 (自己分析・情報収集など) に取り組んだ時期はいつからですか？ ①3年4月以前 ②3年前期 ③3年9~10月 ④3年11月~12月 ⑤3年1月~2月 ⑥3年3月~4年4月 ⑦4年5月以降 ⑧その他		
40	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧	⑧
質問 41 就職活動をする先輩をみてどのように感じていましたか？ ① 厳しい環境が続くから、自分も頑張らないといけないと思った ② 厳しい環境だけど、自分は何とかなるのではないかと思った ③ 先輩の活動状況をあまりよく知らない ④その他		
41	① ② ③ ④	④
質問 42 エントリー (教員・公務員等志望の場合は受験) した数を教えてください。 ①1から3社 ②4から5社 ③6から10社 ④10社~20社 ⑤20社以上		
42	① ② ③ ④ ⑤	
質問 43 内定 (内々定) を得た数はいくつですか？ ①1社 ②2社 ③3社 ④4社以上 ⑤0社		
43	① ② ③ ④ ⑤	
質問 44 内定 (内々定) が決まった時期はいつですか？ (複数の内定をもらった方は複数回答可) ①4/30以前 ②5/1~ ③5/15~ ④6/1~ ⑤6/15~ ⑥7/1~ ⑦8/1~ ⑧9/1~ ⑨10/1~ ⑩ その他		
*44	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩	⑩
質問 45 質問 43 で ①~④ を選択された方 内定を得たのは希望していた職種でしたか？ ① はい ② いいえ ③ 希望していない職種もあった		
45	① ② ③	
質問 46 就職活動の相談はどなたにしていましたか？ (複数回答可) ①学内の友人・知人 ②学外の友人・知人 ③サークル等の先輩 ④就活で知り合った社会人 ⑤両親などの保護者 ⑥キャリアサポートセンターのスタッフ ⑦大学の先生 ⑧彼・彼女 ⑨インターネット等の質問サイト ⑩その他		
*46	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩	⑩
質問 47 就職活動を通じてよかったこと・価値のあったことは何ですか？ (複数回答可) ①いろいろな人に会える ②友人等からの情報や自己分析・企業研究・面接から視野が広がる ③自分のやりたいこと興味のあることがわかってくる ④その他		
*47	① ② ③ ④	④
質問 48 辛かったことは何ですか？ (複数回答可) ①この厳しい社会情勢・就職環境では自分が内定をもらえる気がしない ②お金がかかる ③内定をもらえなかったことを考えると憂鬱になる ④やらなければならないことがたくさんあるので面倒くさい ⑤研究の時間を奪われる ⑥バイト・遊びの時間を奪われる ⑦その他		
*48	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦	⑦
●		6 ●

信州大学理学部卒業生アンケート 7 (選択項目については番号を塗りつぶしてください)				●									
就職活動するうえで協力してほしかったことがありましたら教えてください。													
質問 49 理学部の教員や職員に対して (複数回答可) ①特になし ②研究時間・セミナー参加への配慮 ③自己分析へのコメント・他己分析 ④エントリーシートの書き方 ⑤敬語やマナーについて教えてほしい ⑥社会人としての心構えを教えてください ⑦卒業生の就職先を教えてください ⑧仕事内容や業界について教えてほしい ⑨面接対策 ⑩とにかく、そっとしておいてほしい ⑪その他													
*49	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪		
質問 50 両親・保護者に対して (複数回答可) ①特になし ②金銭的支援 ③自己分析へのコメント・他己分析 ④エントリーシートの書き方 ⑤敬語やマナーについて教えてほしい ⑥社会人としての心構えを教えてください ⑦仕事内容や業界について教えてほしい ⑧面接対策 ⑨とにかく、そっとしておいてほしい ⑩その他													
*50	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪		
今後、就活を行う友人・後輩へ一言メッセージをお願いします！													
【自己分析】													
【企業研究】													
【資料請求等】													
【合同セミナー・説明会参加】													
【インターンシップ】													
【筆記試験対策】													
【経済的負担】 就活でおよそどのくらいの費用がかかりましたか？ (                  万円)													
【その他】													
●	アンケートは以上です			7	ご協力ありがとうございました		●						

(出典：理学部事務部作成)

資料理 57 高大連携事業における高校生へのアンケート

<p><b>「大学や理学部に対するイメージについてのアンケート</b> H27.12.23 実施</p> <p>このアンケートは、みなさんが大学や信州大学理学部などについて、どのようなイメージを持っているかをしり、今後に活かすことを目的としています。お手数ですが、回答をよろしくお願い致します。 ※選択式の質問は、自分に当てはまる番号のマーク（だ円）を鉛筆またはボールペンで塗りつぶしてください。</p>		 
<p>あなたの考えていること、思っていることについてお聞きします。</p>		
<p>質問 1 数学や理科などの科学分野で興味のあること、興味ある分野を教えてください。</p>		
1		
<p>質問 2 現在あなたは、どの学部・分野に進学したいと考えていますか。</p>		
2		
<p>質問 3 大学進学についてどのように考えていますか。 ①ぜひ長野県内に進学したい    ②できれば長野県内に進学したい    ③どちらでもよい、こだわりはない ④できれば長野県外に進学したい    ⑤ぜひ長野県外に進学したい    ⑥その他（下記に書いてください。）</p>		
3	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	⑥その他
<p>理由等あればお書きください。一人暮らしをしたい。費用をおさえたい。都会に行きたい。やりたい分野を学べる学部が県内に無い など</p>		
<p>質問 4 大学卒業後についてどのように考えていますか。 ①ぜひ長野県内で就職したい    ②できれば長野県内で就職したい    ③どちらでもよい・こだわりはない ④できれば長野県外で就職したい    ⑤ぜひ長野県外で就職したい    ⑥その他（下記に書いてください。）</p>		
4	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	⑥その他
<p>質問 5 大学院進学についてどのように考えていますか。 ①ぜひ大学院へ進学したい    ②できれば大学院へ進学したい    ③どちらでもよい・こだわりはない ④大学院へ進学するつもりはない    ⑤その他（下記に書いてください。）</p>		
5	① ② ③ ④ ⑤	⑤その他
<p>質問 6 質問 5 で④以外に回答した方にお聞きします。信州大学の理学系大学院に進学したいですか。 ①ぜひ進学したい    ②一応、進学を考えたい    ③進学対象の一つとして考えたい ④あまり思わない    ⑤全く思わない    ⑥よくわからない・その他（下記に書いてください。）</p>		
6	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	⑥
<p>理学部のイメージについてお聞きします。</p>		
<p>質問 7 「理学部」についてどのようなイメージがありますか。（複数回答可） ①教養が身につく    ②専門分野を深く学べる    ③教育内容のレベルが高い    ④将来の選択肢が増える    ⑤社会で役立つ力が身につく ⑥学生生活が楽しめる    ⑦勉強する環境が整っている    ⑧周囲からの評判がよい    ⑨資格取得に有利    ⑩その他（下記に書いてください）</p>		
7※	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩	⑩その他
<p>質問 8 「理学部の学生」についてどのようなイメージがありますか。（複数回答可） ①知的な    ②落ち着いた    ③個性的な    ④まじめな    ⑤のんびり    ⑥明るい    ⑦自由な    ⑧おしゃれな    ⑨上品な    ⑩先進的な    ⑪その他</p>		
8※	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪	⑪その他
●	裏面に続きます	

		●
<p>質問 9 理学部を卒業した人はどのような分野に就職していると思いますか。(複数回答可)</p> <p>①大学の教員 ②中学や高校の教員 ③研究所・研究機関 ④博物館学芸員 ⑤公務員(技術系) ⑥公務員(事務系)                  ⑦技術者 ⑧システムエンジニア ⑨アクチュアリー ⑩民間企業(イメージした企業名を下記に書いてください)                  ⑪その他(下記に書いてください)</p>		
9※	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪	
	⑩企業名	⑪その他
<p>質問 10 その他、信州大学理学部のイメージ、意見や感想、信州大学理学部の先生や学生とやってみたことがあれば、自由にお書きください。</p>		
●	ご協力ありがとうございました。	●

(出典：理学部事務部作成)

(2) 学生への就学指導

本学部では、成績や出欠状況をふまえた担任による生活・学修指導を行っている。(前掲資料理 28、p 34)

また、学生の成績表を年 2 回全保護者に送付している。(資料理 58)

## 資料理 58 保護者への成績表の送付

平成27年3月

保証人（保護者） 各位

信州大学理学部

平成26年度後期終了時「成績通知書」の送付について

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。  
 日頃は本学部の教育・研究にご理解を賜り、厚くお礼申し上げます。  
 さて、このたびは標記学期の成績が確定しましたので、ご子息またはご息女の修学状況について、同封の「成績通知書」により、お知らせ申し上げます。  
 成績通知書については、下記をご参照ください。  
 また、単位に関する留意事項を本紙裏面または別紙に記載しましたので、併せてご参照ください。

## 記

## ◆成績通知について

- ・本学部においては、平成25年度前期分から通知を開始しました。
- ・平成26年度後期終了時の成績通知は、学部1～4年生の保証人（保護者）様あてに送付します。
- ・本人への成績通知は、3月下旬に別途済んでいます。

## ◆学年について

本学部の進級時期は4月（留年生等は10月もあり）となっており、同封の「成績通知書」に記載の学年は、平成26年度における学年となります。

## ◆成績通知書の見方について

- ・年欄……〔例〕 13(1) の場合、2013年度1年生時に履修したことを示します。
- ・評価欄……「秀，優，良，可，認定」：合格  
「不可，不受講」：不合格

## ◆GPA制度について

平成26年度入学生(14S)から「GPA制度」を導入しています。詳細は別紙「GPA制度について」（平成26年度入学生(14S)の保護者のみ同封）をご確認ください。

## 【学部事務担当】

信州大学理学部 学生支援グループ（担当：西村）  
 〒390-8621 松本市旭3-1-1 TEL 0263-37-3320

※学生個人の修学状況、履修相談等に関するお問い合わせは、裏面「問い合わせ先」に掲載の学科担当教員等へ直接ご照会ください。

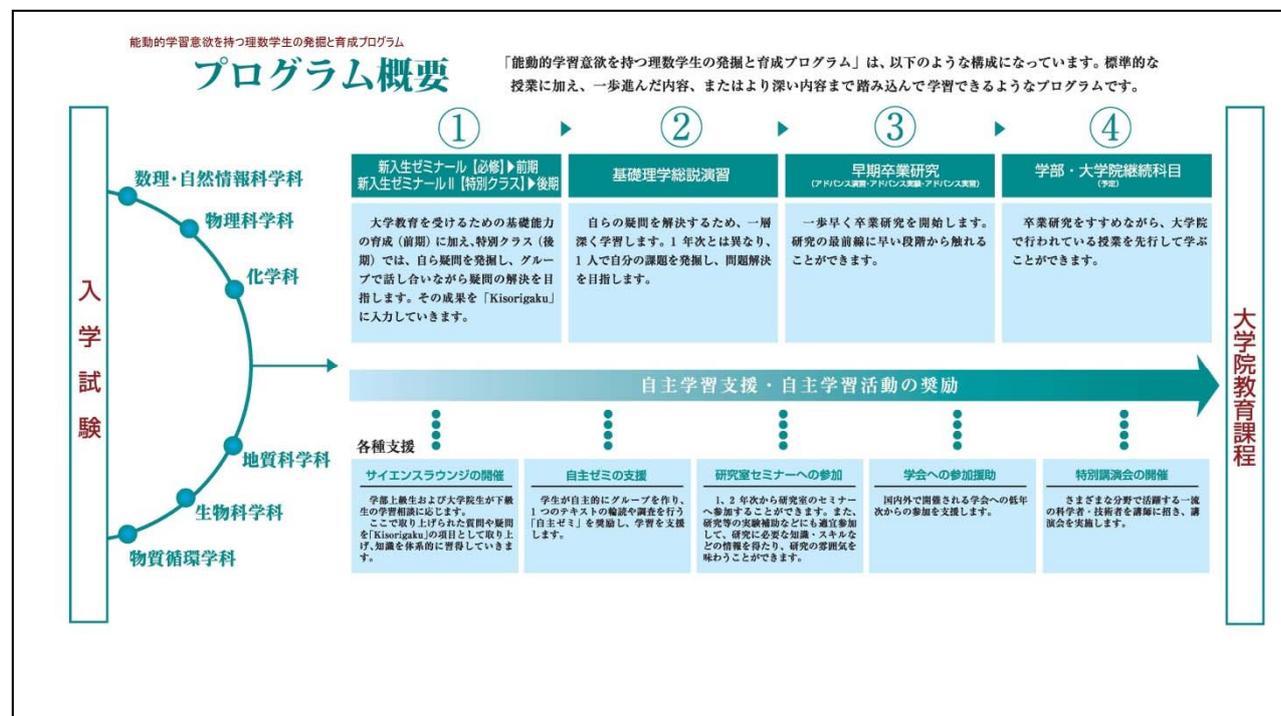
(出典：理学部事務部作成)

(3) 理数学生応援プロジェクト (平成 21 年度～平成 25 年度) (資料理 59～63)。

資料理 59 理数学生応援プロジェクト概要

※本学部において、もっと学びたいという学生のニーズに応えるため、文部科学省の「理数学生応援プロジェクト」採択を受け、「能動的学習意欲をもつ理数学生の発掘と育成プログラム」を平成 21-24 年度の 4 年間実施した。

- ・自ら積極的に学ぼうとしている学生を応援する主体的な学修 (アクティブ・ラーニング) プログラム
- ・通常のカリキュラムに加えて、「新入生ゼミナール (特別クラス)」、「基礎理学総説演習」、「早期卒業研究」[アドバンス演習 (数理・理論科学分野), アドバンス実験 (実験科学分野), アドバンス実習 (フィールド科学分野)], 「学部・大学院継続科目」(大学院授業科目先取り科目) を用意
- ・サイエンスラウンジ (毎年 100 回以上の開催), 自主ゼミナール, 特別講演会 (毎年 10 回以上の開催), 国内外の学会への参加支援 (毎年 20 人以上への支援), 研究インターンシップ, チュートリアル教育, 早期研究室配属など, 多様なプログラム



(出典：信州大学理学部ホームページ「理数学生応援プロジェクト 能動的学習意欲を持つ理数学生の発掘と育成プログラム」をもとに理学部事務局作成)

- 新入生ゼミナールII(特別クラス)

- 1年次(後期)

- 【授業のねらい】

理学部では信州の豊かな自然、歴史と伝統の中で、調和の取れた自然観を育み、基礎的な研究を通して、豊かな学識と将来の複雑、多様な社会変化にも対応できる能力の育成を目指すというコンセプトのもとで、教育をおこなっています。特別クラスでは、ウェブ上のシステム「Kisorigaku」を利用することにより、積極的な学習意欲および問題意識をもった学生をより多く育成するのが目的です。



- 【授業の概要】

「Kisorigaku」とは、世界的によく知られているインターネット上の百科事典「Wikipedia」と同じソフトウェアを用いて理学部が独自に立ち上げたウェブ上のシステムです。この授業では、ガイダンスで「Kisorigaku」の基本的な入力方法について学んだ後、少人数のグループに分かれ、教員の指導の下で各グループでテーマを決めます。グループごとに、そのテーマに関して考察した内容をまとめて「Kisorigaku」に掲載します。テーマについて各自が調べたことや考察したことについてグループ内でディスカッションすることにより、理解を深め、またコミュニケーション能力を高めます。

- 【授業計画】

1. ガイダンス
2. テーマの決定
3. グループによる「Kisorigaku」作成
4. 中間報告会
5. グループによる「Kisorigaku」作成
6. 成果報告会

- 基礎理学総説演習

- 2年次(前期・後期)

テーマは教員の指導の下で各学生が定め、それに関する考察をまとめて「Kisorigaku」に掲載することを目指します。「サイエンスラウンジ」で出された疑問や質問に関する解説や「自主ゼミ」で議論した内容を掲載してもかまいません。基本的に個人で行いますが、中間報告会などを通してお互いのテーマについてディスカッションも行います。

- 早期卒業研究(アドバンス演習)

- 3年次(前期・後期)

セミナー形式でテキストの輪読を行います。内容、および形態は学生の自主性を尊重して、相談の上決定します。また、参加者の都合の良い時間に週に90分程度のセミナーを行います。セミナー以外に、外部講師を招いて入門的な内容の講演を行ない、更に、講師とのフリーディスカッションも行います。



- その他

- カリキュラム以外の取り組み

以下のような取り組みを学年を問わず行っています。

- 【サイエンスラウンジ】

上級生が下級生の質問に答える機会を作るための取り組みとして「サイエンスラウンジ」を行っています。

- 【自主ゼミ】

学生が自主的にグループを作り、一つのテキストの輪読などを行なう「自主ゼミ」を奨励しその援助を行います。具体的には、テキスト費用、コピー機の利用、セミナー室の確保などです。

(出典：理学部事務部作成)

## 資料理 61 理数学生応援プロジェクト実績

		平成22年度	平成23年度	平成24年度
サイエンスラウンジ	参加人数	307	606	543
	実施回数	80	130	119
自主ゼミナール	参加人数	16	12	12
	参加状況 (グループ数)	5	3	3
特別講演会	参加人数	396	412	316
	開催件数	10	10	11
国内学会、学術交流会等への参加	支援人数	24	32	25
	支援状況(件)	2	9	5
研究インターンシップ	受講者数		1	5
チュートリアル教育	参加人数	44	28	109
自然環境診断Jr.マイスター制度	履修者	—	14	8
早期研究室配属	人数	20	12	10
先取り履修(先端科学特別講義)	履修者	—	—	42
	科目	—	—	12

(出典：理学部事務部作成)

資料理 62 理数学生応援プロジェクト 講演会・発表会の実績状況

開催年月日	講演、講師
平成22年6月26日	「生物の保全(松本市内のヘイケボタルの保全を例に)」 藤山 静雄(信州大学・理学部)
平成22年7月13日	「古海洋変遷を通しての放散虫の進化と多様性」 石谷 佳之(JAMSTEC)
平成22年10月16日	「琵琶湖の生い立ち—特に琵琶湖層群にみられる動植物の進化史を中心に—」 山川 千代美(琵琶湖博物館)
平成22年11月4日	「今、太陽が変だ」 柴崎 清登(国立天文台・野辺山太陽電波観測所)
平成22年11月12日	「国際宇宙ステーションにおける」 太陽活動の観察古賀 清一(宇宙航空研究開発機構:JAXA)
平成22年11月26日	「ゴミから見えてくる人の行動心理」 沖野 外輝夫(信州大学・名誉教授)
平成22年11月26日	「素数ゼミの秘密:ノアの箱舟に乗ったセミたち」 吉村 仁(静岡大学・創造科学技術大学院)
平成22年12月13日	「製薬会社:医薬品開発-創薬研究現場での化学と生物物理」 大軽 貴典(田辺三菱製薬会社・創薬化学第一研究所)
平成22年12月21日	「人間社会を磁気嵐から守るために~宇宙天気予報をめざす~」 宗像 一起(信州大学・理学部)
平成23年2月1日	「完全数と関連するお話」 花木 章秀(信州大学・理学部)
平成23年2月3日	「超弦理論とはどんなものか」 米谷 光明(放送大学)
平成23年4月26日	平成22年度成果発表会
平成23年7月11日	「東北大震災から学んだこと、伝えたいこと」 塚原 弘昭(信州大学・名誉教授)
平成23年7月12日	平成23年度成果発表会
平成23年7月19日	「パズルの中の数理」 坂井 公(筑波大学大学院・数理物質科学研究科)
平成23年10月18日	「一流研究へのアプローチ...今なぜヨウ素なのか」 横山 正孝(千葉大学・名誉教授)
平成23年10月21日	「鑑定の科学—物質から過去を読む—」 中井 泉(東京理科大学・理学部応用化学科)
平成23年11月25日	「科学・技術と社会の関わり—文化としての科学—」 鈴木 直(関西大学・システム理工学部)
平成23年11月30日	「数学・社会・人間—考える暮—」 河野 敬雄(京都大学・名誉教授)
平成23年12月13日	「準結晶の物性—その特異な電子状態と物性について」 木村 薫(東京大学大学院・新領域創成科学研究科)
平成23年12月13日	「準結晶—その特異な原子配列秩序について—」 枝川 圭一(東京大学・生産技術研究所)
平成23年12月13日	「珪藻化石から生命と地球の歴史を、もっと深く！」 齋藤 めぐみ(国立科学博物館・地学研究部)
平成23年12月20日	平成23年度成果発表会
平成24年2月1日	「宇宙と素粒子の謎」 稲見 武夫(中央大学・理工学部)
平成24年4月23日	平成23年度成果発表会
平成24年7月20日	「金融系企業における数理専門職への道—投資とリスク管理における数学の役割—」 黒田 耕嗣(日本大学・文理学部)
平成24年10月11日	「身近な自然—アユの棲む川—について考えよう！」 阿部 信一郎(独立行政法人水産総合研究センター・日本海区水産研究所資源生産部)
平成24年10月18日	「ナノカーボンの世界 ~研究は好奇心と偶然から~」 篠原 久典(名古屋大学大学院・理学研究科)
平成24年10月31日	「確率と統計と地震予測」 尾形 良彦(統計数理研究所・名誉教授)
平成24年11月15日	「アフリカの環境汚染を考える」 池中 良徳(北海道大学大学院・獣医学研究科)
平成24年11月20日	「研究成果を如何に効果的に伝えるか!？」 伊藤冬樹氏(教育学部・准教授 有機物理化学)
平成24年12月10日	平成24年度前期成果発表会
平成24年12月11日	「物理の魅力」 大貫 惇睦(大阪大学・名誉教授)
平成25年1月24日	「3000mのタイムカプセル:極域アイスコアから探る過去の気候変動」 川村 賢二(国立極地研究所)
平成25年2月1日	「ヒッグス粒子発見のムコウ側—素粒子の標準模型を超える新物理探索—」 久野 純治(名古屋大学・大学院理学研究科)
平成25年5月13日	平成24年度成果発表会
平成25年10月7日	平成25年度成果発表会
平成26年2月27日	「神の粒子、ヒッグス粒子の大発見」 波場 直之(島根大学総合理工学部)

(出典:理学部事務部作成)

資料理 63 学部長裁量経費による公募型アドバンス演習・実験・実習

※平成 23 年度から実施。学生による研究を支援するため、学部長裁量経費で学生に対して研究費を支給している。理数応援プロジェクトから派生した取り組みである。

学生向け公募要項

平成 27 年度「理学部公募型アドバンス演習・実験・実習」公募について

平成 27 年 4 月 8 日  
学部長室

学生自らが研究計画を立て実行し、そして成果を発表する「理学部公募型アドバンス演習・実験・実習」を募集します。

この取り組みでは、学生の自主性・能動性を一層高めることを目的としています。  
多くの学生の皆様からのご応募お待ちしております。

募 集 要 項

1. 目的  
通常授業とは異なるより高度な、またはより特殊な演習・実験・実習に対して研究費を支援し、学生の意欲、理学部の教育の質の向上につなげることを目的とする。
2. 対象  
アドバンス科目履修学生（3 年生）
3. 公募期間  
平成 27 年 4 月 8 日（水）～ 5 月 11 日（月）（締切厳守）
4. 応募書類提出先  
申請者（学生）は、[risuouen@shinshu-u.ac.jp](mailto:risuouen@shinshu-u.ac.jp) にメールにて提出してください。
5. 採択予定件数  
5 件程度を予定しています。
6. 経費・研究費など  
採用された研究計画には 10 万円以内で研究経費を支援します。

公募にあたっての注意事項

- ①指導教員  
応募を検討する場合、研究内容と関連する各学科の先生に相談し、研究計画を立ててください。応募には、指導する先生の許可が必要です。
- ②申請書の提出締切  
別紙公募申請書に必要事項を記入し、期日までに提出してください。グループで研究を行う場合、代表者を決め申請書を提出してください。代表者が連絡窓口となります。  
5 月 11 日（月）を締め切りとします。
- ③採用決定（5 月）  
申請者本人、担当教員にメールで通知します。
- ④研究の開始  
採用が決定したら、直ちに実習・実験を開始し、可能ならば、8 月はじめの「自然シリーズ」で成果（途中経過）発表を行います。また、優れた成果が出れば、全国コンペ、サイエンスインカレ（平成 28 年 3 月）へ応募、出場することを目指します。
- ⑤成果の発表  
サイエンスミーティング（長野県の理数科高校の学生との共同の成果発表会）（平成 28 年 3 月）で発表を行います。また、優秀な成果は各分野の学会においても発表を行います。
- ⑥成果報告書の提出  
平成 28 年 1 月末までに研究を終了し、終了次第、研究成果報告書を提出してください。  
※⑤、⑥は、採用された場合の義務となります。

	申請テーマ	学 科	学 年	指導教員	配分額
平成 23 年度  (4 件)	光音響分光測定装置の開発・研究	化学科	3	樋上 照男	100,000
	C01E2 プラスミド複製開始タンパク質機能ドメインの解析	生物科学科	3	伊藤 建夫	100,000
	木崎湖堆積物から読み取る気候変動	物質循環学科	3	公文富士夫	100,000
	鉱物の合成	地質科学科	3	牧野 州明	100,000
平成 24 年度  (2 件)	山岳源流域に特異的に生息する生物種群を対象とした遺伝的構造の究明	生物科学科	3	東城 幸治	100,000
	光音響分光法 (PAS) による各種金属フタロシアニン錯体の分光学的研究	化学科	3	樋上 照男	100,000
平成 25 年度  (2 件)	光音響分光法を利用した木の葉の紫外可視スペクトルの研究	化学科	3	樋上 照男	100,000
	クジャクの羽の発色機構	地質科学科	3	牧野 州明	100,000
平成 26 年度  (9 件)	光音響分光法 (PAS) による, 季節ごとの諏訪湖のアオコ発生量の測定	化学科	3	樋上 照男	83,000
	長野県希少植物ハナノキの隔離分布の要因を推測する	生物科学科	3	佐藤 利幸	81,000
	絶滅危惧種シナイモツゴの MHC 遺伝子の多様性と寄生虫感染率に関する研究	生物科学科	3	高田 啓介	83,000
	ミズカマキリとヒメミズカマキリにおける生物系統地理学的解析	生物科学科	3	東城 幸治	83,000
	有用植物の抽出物質による微生物への成長抑制と物質特定	物質循環学科	3	朴 虎東	83,000
	女鳥羽川の生態系	物質循環学科	3	山本 雅道	38,000
	水収支の観点から見た諏訪湖の水質汚染問題	物質循環学科	3	岩田 拓記	83,000
	野生動物を用いた環境評価法の確立と応用	物質循環学科	3	宮原 裕一	83,000
	梓川流域の植生とそれを利用する希少種: クロツバメシジミならびにミヤマシジミ (蝶類) の分布	物質循環学科	3	島野 光司	83,000
平成 27 年度  (5 件)	ゼーベック効果による発電とその応用	物理科学科	3	竹下 徹	91,000
	植物の色素の分析	化学科	3	樋上 照男	100,000
	ヒマラヤ・カリガンダキ川に見られる礫の起源と運搬過程	地質科学科	3	吉田 孝紀	100,000
	アンモナイト化石中の鉱物及び化石の保存環境	地質科学科	3	吉田 孝紀	81,000

カマキリモドキ類における遺伝的構造の 解明	生物科学科	3	東城 幸治	100,000
--------------------------	-------	---	-------	---------

(出典：理学部事務部作成)

## (4) 社会や地域へ向けた教育提供・交流

## ① 科目等履修生等

社会人や地域住民の方に大学の授業を提供する方途として科目等履修生を募集、市民開放授業を実施している(資料理 64~65)。また、出前講座も活発に行っている。(資料理 66)

平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
0	9	5	9	5	6

(出典：理学部事務部作成)

## 資料理 65 市民開放授業実施状況

正規の学生のために開講している通常の授業を、「市民開放授業」として一般市民にも開放している。生涯学習に対する社会的な要請に応え、本学と地域社会の連携をより一層深めることを目的としている。

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
実施授業科目数	41	28	35	28	22	
受講人数	57	39	49	32	26	
理学部開講 授業数	136	116	117	117	113	107

(出典：理学部事務部作成)

## 資料理 66 出前講座実績・開講講座等

出前講座は、長野県内の公民館、障害学習センター、図書館および博物館等の生涯学習期間、幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の教育機関並びに保育園及び公的な性格を持つ機関及び団体からの申込みを受けて、本学の教員が各地に赴いて講座を行うもの。

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
登録講座数	36	35	37	36	37	32
実施講座数	12	16	28	10	8	

(出典：理学部事務部作成)

## ② 信州自然誌科学館（「自然」シリーズ）の開催

地域住民や小中学生に向け、自然科学の面白さを伝える取り組みとして、信州自然誌科学館（「自然」シリーズ）を開催している。(資料理 67)

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度

テーマ	自然のからくり	自然を見つめる	自然をさぐる	自然のちから	※	自然をかなでる
参加者数	655	670	479	552	1721	808

※平成 26 年度は「2014 青少年のための科学の祭典松本大会」として開催  
例年 8 月初旬の週末二日間で実施

(出典：理学部事務部作成)

③野尻湖発掘調査団への協力

地域住民との交流の取り組みとしては、1962 年より行っている野尻湖発掘調査団がある。(資料理 68)

資料理 68 野尻湖発掘調査団

## 野尻湖発掘調査団への協力

### 野尻湖発掘とは

- 1962年より始まる「大衆発掘」
- 誰でも参加が可能
- 自分の手で遺物を見つけ、一人一人が自分自身の野尻湖発掘を作る
- 参加者が支える野尻湖発掘—手弁当の精神—
- 地元とつながる野尻湖発掘—地元主義—

### 理学部による活動協力

- 社会や大学に対して働きかけることによる、社会性や優れた人間性の修得
- たゆまぬ知的的好奇心と探究心の涵養と実践

### 理学部開催の「自然シリーズ」での出展支援



2009年 来て！見て！触る！  
2010年 4万年前にタイムスリップ ～野尻湖人の生活を体験してみよう～  
2011年 火山灰で万華鏡を作ってみよう2012年 野尻湖底発掘体験！

### 学生の自主的な取り組みと継続的活動の支援

学生の発掘参加

「野尻湖発掘調査団松本事務局」活動

「野尻湖友の会」への活動



### 協力の成果

大学の知的拠点としての役割を自覚し、信州の自然環境の保全や生涯学習への寄与、地域との緊密な連携を実現する活動となっている。

(出典：理学部事務部作成)

④信州サイエンスキャンプ

高等学校との連携を推進するため、科学技術振興機構の次世代人材育成事業「信州サイエンスキャンプ」により、本学部の学生と長野県内の理数科設置高校、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）指定高校の生徒が一堂に会し開催する研究成果発表会「信州サイエンスミーティング」を実施している。(資料理 69)

資料理 69 SSH 等研究成果発表会実施状況

	事業名	開催日時	参加校	参加者数
平成 22 年度	課題研究合同研修会	平成 22 年 12 月 18 日(土)	飯山北高校、屋代高校、野沢北高校、諏訪清陵高校、東海大学付属第三高校、伊那北高	不明

			校、木曾青峰高校、大町高校の計8校	
平成 23 年度	課題研究合同研 修会	平成 23 年 12 月 17 日(土)	飯山北高校、屋代高校、野沢北高校、諏訪清 陵高校、東海大学付属第三高校、伊那北高 校、飯田高校、木曾青峰高校、大町高校の計9 校	115
	信州サイエンスミ ーティング	平成 24 年 3 月 17 日(土)	飯山北高校、屋代高校、野沢北高校、諏訪清 陵高校、東海大学付属第三高校、伊那北高 校、飯田高校、木曾青峰高校、大町高校の計9 校	103
平成 24 年度	信州サイエンステ クノロジーコンテス ト～科学の甲子園 全国大会長野県 予選～	平成 24 年 11 月 11 日(土)	不明	不明
	信州サイエンスミ ーティング	平成 25 年 3 月 16 日(土)	飯山北高校、屋代高校、野沢北高校、諏訪清 陵高校、東海大学付属第三高校、伊那北高 校、飯田高校、木曾青峰高校、大町高校の計9 校	116
平成 25 年度	信州サイエンステ クノロジーコンテス ト～科学の甲子園 全国大会長野県 予選～	平成 25 年 11 月 23 日(土)	飯山北、長野、屋代、大町、松本深志、東海大 三、諏訪清陵、箕輪進修、伊那北、飯田の10 高13チーム	78
	課題研究合同研 修会	平成 25 年 12 月 8 日(土)	飯山北高校、屋代高校、野沢北高校、諏訪清 陵高校、東海大学付属第三高校、伊那北高 校、飯田高校、木曾青峰高校、大町高校の計9 校	97
	信州サイエンスミ ーティング	平成 26 年 3 月 15 日(土)	飯山北高校、屋代高校、野沢北高校、諏訪清 陵高校、東海大学付属第三高校、伊那北高 校、飯田高校、木曾青峰高校、大町高校の計9 校	100
平成 26 年度	信州サイエンステ クノロジーコンテス ト～科学の甲子園 全国大会長野県 予選～	平成 26 年 11 月 15 日(土)	長野、長野清泉、屋代、松本深志、松本秀峰、 大町、木曾青峰、伊那北、飯田、野沢北、東海 大三、諏訪清陵の計12校	144
	課題研究合同研 修会	平成 26 年 12 月 20 日(土)	飯山北高校、屋代高校、野沢北高校、諏訪清 陵高校、東海大学付属第三高校、伊那北高 校、飯田高校、木曾青峰高校、大町高校の計9 校	100
	信州サイエンスミ ーティング	平成 27 年 3 月 14 日(土)	飯山北高校、屋代高校、野沢北高校、諏訪清 陵高校、東海大学付属第三高校、伊那北高 校、飯田高校、木曾青峰高校、大町高校、須 坂園芸高校、上田千曲高校、臼田高校、岡谷 工業高校、伊那北高校、駒ヶ根工業高校、下 伊那農業高校、大町高校	200
平成 27	信州サイエンステ	平成 27 年 11	10 校	108

年度	クノロジーコンテスト～科学の甲子園 全国大会長野県予選～	月 14 日(土)		
	課題研究合同研修会	平成 27 年 12 月 23 日(水)	飯山北高校、屋代高校、野沢北高校、諏訪清陵高校、東海大学付属第三高校、伊那北高校、飯田高校、木曾青峰高校、大町高校、松本深志高校の計 10 校	164
	信州サイエンスミーティング	平成 28 年 3 月 13 日(日)	野沢北高校、諏訪清陵高校、駒ヶ根工業高校、松本工業高校、大町高校、木曾青峰高校、東海大学付属第三高校、飯山高校、長野日本大学高校、伊那北高校、屋代高校、岡谷工業高校、エクセラン高校、飯田高校	200

(出典：理学部事務部作成)

⑤信州大学自然科学館の開設

信州大学自然科学館は、貴重資料の展示、データベース化と公開、小中高校生・市民向け体験学習事業の実施等教育研究活動への協力を行うため、平成 24 年 8 月に開設された。(資料理 70) また同館は、学芸員の資格取得にかかる実習に活用されている。(資料理 71)

資料理 70 信州大学自然科学館



「信州大学自然科学館」には、旧制松本高等学校や松本師範学校時代から引き継がれた貴重な資料のほか、理学部教員と学生により発見された化石やミエ（シンシュウ）ゾウのレプリカ、岩石標本や文理学部（1949～1966 年）から使われてきた計測装置などが収蔵、展示されています。





(出典：信州大学ホームページ「トピックス」

[http://www.shinshu-u.ac.jp/topics/archive\\_data/2012/08/post-480.html](http://www.shinshu-u.ac.jp/topics/archive_data/2012/08/post-480.html))

資料理 71 教職および博物館に関する科目 (平成 27 年度)

< 教員免許取得のための科目 (理学部開講科目) >

科目名	主担当教員	対象 学年	開講 期	曜日 時限	単 位数
数学科指導法 I	西牧 守	2	前期	木 2	2
数学科指導法 II	西牧 守	2	後期	木 3	2
数学指導法特論	西牧 守	3	前期	月 2	2
数学指導法演習 I	西牧 守	3	後期 (前半)	月 3	1
数学指導法演習 II	西牧 守	3	後期 (後半)	月 3	1
理科指導法 (物理)	武田 三男	2	前期 (前半)	水 2	1
理科指導法 (化学)	石川 厚	2	前期 (後半)	水 2	1
理科指導法 (地学)	山田 桂	2	後期 (前半)	火 5	1
理科指導法 (生物)	(非) 藤山 静雄	2	こう き(後半)	火 5	1
理科指導法特論	宗像 一起 他	2	通年	集中	2
理科指導法演習 I	公文 富士夫 他	2, 3	前期	集中	1
理科指導法演習 II	公文 富士夫 他	2, 3	後期	集中	1
教職実践演習 (中・高)	森清 壽郎	4	後期	集中	2
介護等体験の意義と実際	庄司 和史	2	通年	集中	2
中学校教育実習		4	通年	集中	4
高等学校教育実習		4	通年	集中	2
教育実習事前・事後指導		4	通年	集中	1

＜博物館学芸員取得に関する科目＞					
科目名	主担当教員	対象学年	開講期	曜日 時限	単位数
生涯学習概論	(非) 小岩井 彰	1, 2, 3	前期	集中	2
博物館概論	大塚 勉	1, 2, 3	後期	水 5	2
博物館経営論	金井 直 他	2, 3	前期 (集中) 後期	月 3	2
博物館資料論	(非) 福島 正樹 他	2, 3	前期	月 1	2
博物館資料保存論	(非) 福島 正樹	2, 3	前期	月 2	2
博物館展示論	(非) 福島 正樹	2, 3	後期	月 4	2
博物館教育論	(非) 福島 正樹	1, 2, 3	後期	月 5	2
博物館情報・メディア論	小山 茂喜 他	2, 3	通年	集中	2
博物館実習 I	大塚 勉 他	3	前期 前期 (集中)	火 5	1
博物館実習 II	大塚 勉	4	通年	1	1
博物館実習 III	大塚 勉	4	通年	1	1

(出典：理学部事務部作成)

#### (5) 国際的に通用する技術者育成の取組

地質科学科の応用地質学コースの教育プログラムは、日本技術者教育認定機構(JABEE)による認定を受けている(資料理 72~73)。

資料理 72 日本技術者教育認定機構 技術者教育プログラム認定とは

#### 1. 技術者教育プログラム認定の目的

JABEE の主要な活動は、高等教育機関で行なわれている教育活動の品質が満足すべきレベルにあること、また、その教育成果が技術者として活動するために必要な最低限度の知識や能力(Minimum Requirement)の養成に成功していることを認定することである。

JABEE の活動は教育機関に一定のカリキュラムや達成度を押し付けたり、教育機関の教育レベルを調べて順位付けし公表したりするものではない、むしろ、文部省の大学設置基準の大綱化に従い、各大学の個性を伸ばすことを目的としている。各教育機関に独自の教育理念と教育目標の公開を要請し、新しい教育プログラムや教育手法の開発を促進し、日本や世界で必要とされる多様な能力を持つ技術者の育成を支援するものである。

#### 2. 日本技術者教育認定制度の求めるもの

JABEE は前節で紹介した理念を実現するために、各高等教育機関に次のような活動を求めている。

大学や教育プログラムは、社会のニーズに一致する使命と目的を明示しなければならない。

教育プログラムは、使命と目的に沿う具体的な教育目標を定義し、教育活動の成果がこれらの教育目標と日本技術者教育認定制度が求める教育成果を如何に満たしているかを示さなければならない。

教育プログラムを継続的に改善する仕組みを持たなければならない。

- a) 学生や就職先企業など顧客層のニーズを取り入れる方法
- b) 教育活動を観察して教育成果を測定し分析する方法 (Assessment)
- c) 教育プログラムが教育目標を達成しているか否かを判断する方法 (Evaluation)

d) 効果的な自己点検・教育改善システム（組織と活動）

入学学生の質，教員，設備，大学のサポート，財務などの諸問題を教育プログラムの目標と結びつけて十分検討してあること。

これらの項目は，教育機関が，整然とした教育目標と教育戦略を持ち，必要な水準の教育活動を維持し継続的に改善していくために，人的資源や設備が組織的にも財政的にも充分であることを要求している。

（出典：日本技術者教育認定機構ホームページ「JABEEと認定制度」  
[http://www.jabee.org/about\\_jabee/accreditation\\_system/](http://www.jabee.org/about_jabee/accreditation_system/)）

資料理 73 日本技術者教育認定機構 認定校（平成 27 年度）

一般社団法人 日本技術者教育認定機構

高等教育機関名	認定プログラム名	分野	新規認定開始年度	備考
静岡大学 <a href="http://www.shizuoka.ac.jp/">http://www.shizuoka.ac.jp/</a>				
工学部	機械工学科 日本技術者教育認定機構認定プログラム	機械	2004	2008年度以前修了生は 工学部 機械工学科昼間コース
工学部 物質工学科	化学システム工学コース	化学	2003	2006年度以前修了生は 工学部物質工学科 化学工学コース
農学部	環境森林科学科	森林	2006	2008年度以前修了生は 農学部 森林資源科学科
大学院 工学研究科	化学バイオ工学専攻 化学システム工学コース	化学(修士)	2007	2013年度以前修了生は 大学院工学研究科 物質工学専攻化学システム工学コース
静岡理科大学 <a href="http://www.sist.ac.jp/">http://www.sist.ac.jp/</a>				
理工学部 機械工学科	総合機械工学コース	機械	2010	
芝浦工業大学 <a href="http://www.shibaura-it.ac.jp/">http://www.shibaura-it.ac.jp/</a>				
工学部	応用化学科	応化	2006	2011年度以前修了生は 工学部応用化学科 応用化学コース
工学部	電子工学科	電気・電子	2013	
工学部 機械機能工学科	応用コース	機械	2006	2011年度以前修了生は 工学部機械工学第二学科 応用コース
工学部 機械工学科	総合機械工学コース	機械	2006	
工学部 電気工学科	総合電気工学コース	電気・電子・情報通信	2006	
島根大学 <a href="http://www.shimane-u.ac.jp/">http://www.shimane-u.ac.jp/</a>				
生物資源科学部 地域環境科学科	地域工学教育コース	農業工学	2006	2014年度以前修了生は 生物資源科学部地域開発科学科 地域工学コース
総合理工学部	地球資源環境学科	地球・資源	2003	
総合理工学部 機械・電気電子工学科	機械電気電子コース	電気・電子・情報通信	2005	2014年度修了生は 総合理工学部電子制御システム工学科 機械電気電子コース
総合理工学部 建築・生産設計工学科	材料プロセス工学コース	材料	2008	2014年度以前修了生は 総合理工学部材料プロセス工学科 材料プロセス工学コース
総合理工学部 数理・情報システム学科 情報系	コンピュータサイエンス専修プログラム	情報	2004	
総合理工学部 物質科学科	機能材料化学コース	化学	2007	
総合理工学部 物質科学科	物理系コース	物理・応物	2007	
首都大学東京 <a href="http://www.ues.tmu.ac.jp/geog/">http://www.ues.tmu.ac.jp/geog/</a>				
都市環境学部 都市環境学科	地理環境コース	地球・資源	2003	2007年度以前修了生は 東京都立大学 理学部 地理学科
昭和女子大学 <a href="http://swu.ac.jp/">http://swu.ac.jp/</a>				
生活科学部 環境デザイン学科 建築・インテリアデザインコース	建築グループ	建築	2010	
信州大学 <a href="http://www.shinshu-u.ac.jp/">http://www.shinshu-u.ac.jp/</a>				
繊維学部 化学・材料系	材料化学工学課程	化学	2002	2010年度以前修了生は 繊維学部精密素材工学科
理学部 地質科学科	応用地質科学コース	地球・資源	2006	
水産大学校				
	水産流通経営学科、海洋生産管理学科、海洋機械工学科、食品科学科、生物生産学科	農学	2008	2010年度以前修了生は 水産情報経営学科、海洋生産管理学科、海洋機械工学科、食品科学科、生物生産学科
鈴鹿工業高等専門学校 <a href="http://www.suzuka-ct.ac.jp/">http://www.suzuka-ct.ac.jp/</a>				
専攻科	複合型生産システム工学	工学	2003	

（出典：日本技術者教育認定機構ホームページ「JABEE認定プログラム教育機関名別一覧」より抜粋）

(6) グローバル社会で活躍する人材養成の取組

グローバル人材を養成する教育の取り組みとして、英語を用いた講義（資料理 74～75）、インターナショナル茶屋を実施している。（資料理 76）海外への留学派遣は、大学間交流協定にもとづく交換留学制度を活用している。（資料理 77）

資料理 74 英語による専門科目			
開講期間	授業名	教員氏名	曜日・時限
通年(集中)	地質科学演習	森清 壽郎	不定
前期	分析化学演習Ⅱ	巽 広輔	火 1
前期	科学英語 I	角野 由夫	月 4
前期	コロキウム I	三宅 康幸	金 2
前期	動物発生学	柴田 直樹	火 1
前期	生理生態学	佐藤 利幸	木 2
前期	コロキウム	浅見 崇比呂 他	月 1 月 2 月 3
前期	発生遺伝学	柴田 直樹	水 1
前期	系統進化学	市野 隆雄	火 2
前期	科学英語 I	公文 富士夫	金 2
前期	コロキウム I	村越 直美	火 2
後期	無機化学演習	竹内 あかり	金 2
後期	科学英語 II	保柳 康一	月 2
後期	コロキウム II	國頭 恭	火 2

(出典：理学部事務部作成)

資料理 75 英語による講義の一例（シラバス）

登録コード	S5021	県内大学開放授業		市民開放授業	
授業題目	系統進化学	担当教員		市野 隆雄	
英文授業名	Systematics and Evolution	副担当			
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	火曜・2時限
講義室	理学部第2講義室	授業形態	講義	備考	自由
<p>(1)授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」変遷②：全学共通 ・自然界の多種多様な生命・生物現象に常に知的好奇心と探究心を抱く習慣。 ・生物学の専門分野についての深い知識を有するとともに、専門分野を越えた課題にも柔軟に対応できる。広い視野と適応性を兼ね備えた、社会に役立つ資質と能力。 ・②専門分野における知識・技能を備え、それらを活用できる【専門知識と応用力】</p> <p>【授業の進め方】 ・生物に関するあるテーマについて、洋書もふくめた書籍を参照することで自力で理解できるようになる。 ・地球の長い歴史の中で生物がどのように系統進化してきたかを高校生にわかりやすく説明できるようになる。 ・Be able to construct and interpret evolutionary phylogenies according to the concepts of common ancestry and parsimony of derived characters. ・Learn how geography affects the pattern of evolution. ・Learn how the evolutionary history shaped the temporal pattern of diversity of life on earth. ・Compare and contrast coevolution and natural selection. ・Get practice in reading English literature. ・Get practice in talking scientific contents in English.</p> <p>【授業のねらい】 生物の分類が他の無生物の分類と異なるのは、生物の進化を反映している点である。この講義の目的は、生物の系統分類に進化の過程を反映させるための基本的な手法を講義し、系統進化学的な考え方を学ぶことである。具体的には、まず生物の系統関係を推定する方法を知り(教科書第2章)、次に、生物が長い歴史の中で地理的な分断と分散をつうじてどのように進化してきたかを、地理的な視点から理解する(教科書第6章)。さらに地球上の生物多様性の増大と絶滅の歴史を概観し(教科書第7章)、最後に生物の種間相互作用による進化、すなわち共進化とは何かについて、具体例をつうじて把握する(教科書第18章)。</p> <p>(2)授業の概要 This course will be done basically in English. Students will be obliged to talk in English when they explain figures of the text on the screen in the class. Each student is assigned to explain a figure in the upcoming class. Students are allowed to ask questions in Japanese, though. This course will be an in-depth examination of the unifying principles of systematics and evolution. Students will be required to read the text, give an oral presentation to the class, and participate in class discussions. The course sequence begins with an introduction, then move to phylogenetic analysis, cladistic biogeography, evolution of biodiversity, and coevolution. Prerequisite: Systematics</p> <p>(3)授業のキーワード 生物科学の応用力、普遍的・数理的理解力</p> <p>(4)授業計画 1. Introduction 2. 生命の樹：分類と系統(教科書第2章)-1 3. 生命の樹-2 4. 生命の樹-3 5. 進化の地理学(教科書第6章)-1 6. 進化の地理学-2 7. 進化の地理学-3 8. まとめ、中テスト 9. 生物多様性の進化(教科書第7章)-1 10. 生物多様性の進化-2 11. 生物多様性の進化-3 12. 共進化：種間相互作用の進化(教科書第18章)-1</p> <p>(5)教科書 Evolution, 3rd edition. D.J. Futuyma, Sinauer Associates. (約 1万円、生協扱い) 【参考書】 ・岩槻邦男、馬淵崎晴若『生物の多様性』(筑摩屋、4120円) ・増田達一、阿部永編著『動物地理の自然史』(北海道大学図書刊行会、3000円)</p>					

(出典：シラバス)

資料理 76 インターナショナル茶屋実施状況

※平成 26 年度から実施。

留学生を核として日本人学生も含めて英語でディスカッションをおこなう

	日 時	場 所	参加者	内容等
第 1 回	平成 26 年 11 月 2 日 (日)	ウッドデッキ	20	銀嶺祭にあわせて実施，英語のコミュニケーションを楽しんだ
第 2 回	平成 26 年 12 月 29 日 (月)	ラウンジ A211	20	Year-end party と称して，英語による忘年会を行った
第 3 回	平成 27 年 6 月 30 日 (火)	多目的ホール	23	知の森基金の支援を受けた海外派遣の報告会を英語で行った
第 4 回	平成 27 年 10 月 15 日 (木)	多目的ホール	25	アンダラス大学からの短期留学生との交流会を行った。両国について英語でプレゼン，懇親会。
第 5 回	平成 27 年 12 月 21 日 (火)	多目的ホール	20	Year-end party と称して、英語による忘年会を行った。

(出典：理学部事務部作成)

資料理 77 学生海外派遣状況

年度	派遣学生数 (人)	内訳	
		派遣国名	人数
平成 24 年度	3	ベルギー	1
		ドイツ	1
		オランダ	1
平成 25 年度	1	オランダ	1
平成 26 年度	10	ベルギー	1
		ドイツ	3
		マレーシア	3
		オーストラリア	2
		ベトナム	1
平成 27 年度	10	ドイツ	2
		マレーシア	5
		アメリカ合衆国	1
		ベトナム	2

(出典：理学部事務部作成)

3. 信州の地の利を生かしたフィールドワークと安全に配慮した教育

本学部のカリキュラムの特徴である、信州の地の利を生かした多種多様なフィールドワーク関連の実験、実習（資料理 78）を安全に実施するため、安全の手引きを毎年学生に配布し、実験・実習における注意を喚起している。（資料理 79）

資料理 78 フィールドワークに関する実習，実験科目一覧（平成 24 年度～平成 27 年度）

学 科	科目名	開講時間	開講概要	期間 中の	単 位	年 次	区 分	履修登録数			
								H24	H25	H26	H27

				時間 数							
地質 科学 科	地質学入門実習	前期水 4		22.5	1	1	必修	27	32	32	34
	地質学序説実習	後期水 4		22.5	1	1	必修	28	32		33
	鉱物・岩石学実習 I	前期木 3, 4		45	2	1	必修	34	34	30	35
	鉱物・岩石学実習 II	後期木 3, 4		45	2	1	必修	34	31		36
	地質調査法実習 I	前期金 2, 3, 4, 5		90	2	1	必修	33	28	29	33
	地質調査法実習 II	後期金 2, 3, 4, 5		90	2	1	必修	35	32		34
	野外巡検 I	集中土	年間 8 回 日帰り		2	1	必修	35	38	28	33
	野外巡検 II	集中火 3, 4	学習会 実習 6 月		2	2	必修		31	30	29
	地質調査演習	集中	7~10 日間		4	2	必修		30	28	30
	岩石学実験	前期金 3, 4		45	2	3	自由		13	14	14
		後期金 3, 4		45	2	3	自由	3	6		16
	堆積・古生物学実験 I	前期木 3, 4		45	2	3	自由	4	24	29	26
	堆積・古生物学実験 II	後期木 3, 4		45	2	3	自由	5	11		12
	地球化学実験	前期水 3, 4		45	2	3	自由	4	24	17	25
	放射線安全実習	集中	3 日間 10 コマ		1	2~4	自由		2		
地質実務体験実習	集中	インター ンシップ		1	3	自由		11		6	
生物 科学 科	生物学基礎実験	前期火 3, 4		45	2	1	必修	30	29	30	30
	形態組織学実験	前期金 3, 4, 5		67.5	2	2	必修	31	32	29	33
	系統分類学実験	前期水 3, 4, 5		67.5	2	2	必修	29	30	29	33
	生態学実験	後期金 3, 4, 5		67.5	2	2~3	必修	32	30		31
	分子生物学実験	後期水 3, 4, 5		67.5	2	2	必修	32	31		32
	動物発生学実験	前期木 3, 4, 5		67.5	2	3	必修		32	28	30

	多様性生物学実習	前期金 3, 4	週 1 回 20 時間 及び 集中	45	1	3	必修		30	26	30
	生体生物学実習	後期末 3, 4		45	1	3	自由	2	14		14
	進化生物学実習	後期水 3, 4		45	1	3	自由		18		14
	自然史実習	集中	基本 2 泊 3 日～4 日		1	2～4	自由	7	16	22	20
	臨湖実習	集中	6 日間 (泊 り込み)		1	2～4	自由		2		5
	公開臨海実習	集中			1	2～4	自由	2			3
	放射線安全実習	集中	3 日間 10 コマ		1	2～4	自由		2		
	生物インターンシップ	集中	インター ンシップ	基本 30 時 間	1	3～4	自由		1		
物質 循環 学科	物質循環基礎実習 I (A)	前期月 3, 4		45	1	2	必修	10	14	11	10
	物質循環基礎実習 I (B)	前期金 3, 4		45	1	2	必修	12	15	13	14
	物質循環基礎実習 II (A)	後期月 3, 4		45	1	2	必修	10	14		10
	物質循環基礎実習 II (B)	後期金 3, 4		45	1	2	必修	12	15		14
	野外調査実習 I	集中	各実習項 目 1 日程度		1	1	必修	29	24	21	26
	野外調査実習 II	集中	3 泊 3 日		1	2	必修	23	29	24	24
	野外調査実習 III	集中	システム 解析学実 習 II に準 ずるほか、 4 年生、院 生の野外 調査等に 同行		1	3	必修		23		22
	システム解析学実習 I	前期水 3, 4 木 3, 4		90	2	3	必修	1	23	31	24
	システム解析学実習 II	後期月 3, 4 金 4, 5		90	2	3	必修		23		22
	放射線安全実習	集中	3 日間 10 コマ		1	2～4	自由		3		
	社会実務研修	集中	インター ンシップ		1	3～4	自由				1

(出典：理学部事務部作成)

資料理 79 安全の手引き  
 ※室外及び室内実験・実習に対応

目 次

はじめに -----	1	9.3 野外調査の際の時間管理 －「早発ち」・「早帰り」	
<b>第1部 安全の心得</b>		9.4 滑落・転落事故の防止	
1章 実験・実習の安全に関する基本事項	2	9.5 落石・崩落の危険	
2章 電気による事故 -----	3	9.6 調査中の水に関わる事故	
2.1 電気器具の使用に関する注意事項		9.7 危険な動物・昆虫	
1) 一般的注意		9.8 暑さによる疾患	
2) 配線・アースについて		9.9 落雷	
3) スイッチ（開閉器）の取扱い		9.10 雪氷調査での注意	
4) 電気による火災やショートおよびスパーク事故について		9.11 湖沼調査での注意	
5) 異常に気付いた場合の処置		9.12 外国で野外調査をするときの危険	
2.2 感電事故の防止と感電時の応急処置		9.13 フィールドで行う応急処置	
1) 感電事故の防止		10章 廃棄物 -----	36
2) 感電時の応急処置		<b>第2部 緊急時の対処と予防</b>	
3章 機械類・重量物 -----	5	11章 火災・爆発事故 -----	37
3.1 工作機械使用時の注意		11.1 火災	
3.2 レーザ装置使用時の注意		1) 火災発生時の処置	
3.3 その他の器械・装置使用時の注意		2) 火災の予防	
3.4 重量物の取扱い		11.2 爆発事故と対処法	
4章 ガラス器具 -----	10	11.3 都市ガスによる事故の防止	
5章 化学実験操作における注意事項 --	11	1) ガス漏れ発生時の処置	
6章 危険物質と危険の予防 -----	12	2) ガス漏れ予防	
1) 危険物質の取扱いに関する一般的注意		12章 地震災害 -----	39
2) 火災、爆発に関する危険物（消防法による危険物）		1) 地震発生時の処置	
3) 人体に有毒・有害な危険物質		2) 地震災害の予防	
4) 放射性同位元素およびエックス線装置の取扱い		13章 応急処置 -----	40
5) 遺伝子組換え実験について		13.1 共通の処置	
7章 実験廃液の処理 -----	18	13.2 いろいろな状況での処置	
1) 実験廃液の定義		13.3 薬品中毒の応急処置	
2) 実験廃液の排出に関する運用・管理方法		13.4 人工呼吸、心臓マッサージ	
8章 高圧ガス、低温寒剤(液化ガス) --	22	防災対策マニュアル -----	42
8.1 高圧ガス		理学部避難場所	
8.2 低温寒剤(液化ガス)		事故発生時の処置および連絡	
9章 フィールドワーク -----	24		
9.1 一般的注意			
9.2 自動車の運転			

(出典：理学部安全の手引きより抜粋)

4. 専門教育を基にしたキャリア教育

科学における倫理問題に対応できるよう、理学部共通科目として「科学技術と職業倫理」を開講した。(資料理 80)

資料理 80 科学技術と職業倫理シラバス

登録コード	S9001		担当教員	吉野 和夫	
授業題目	科学技術と職業倫理			副担当	武田 三男・谷内 靖・市野 隆雄・戸田 任重 ・三宅 康幸
英文授業名				対象学年	3・4
単位数	1	講義期間	前期(集中)	曜日・時限	集中・不定期
		授業形態	講義	備考	(共通) 自由
<p>(1)授業のねらい 科学技術は社会のさまざまな問題と密接に関連をもつて発展してきており、その使用は社会に大きな影響を与える。そして、近年ますますその側面は強くなってきているといえる。ここでは大学で学ぶ科学技術を卒業後の職業において活かしていくための倫理について学ぶ。 倫理そのものを知識として知るのが目的ではなく、理学の諸分野における具体的な問題について触れながら講述する。当面する諸問題に対しては、必ずしも常に答が存在しているわけではない。そうした中でも科学技術を人類の幸福のために役立てるためには、職業人一人一人の倫理的自覚がいかに重要であるかを認識できるようにする。</p> <p>(2)授業の概要 夏期集中で、数学、物理学、化学、地質学、生物学、物質循環学の専門家が、それぞれの分野に即した課題で倫理の重要性について講述する。グループごとに討論をするなど、さまざまな形態で受講者が考えて意見をもつような形式で進めていく。</p> <p>(3)授業のキーワード</p> <p>(4)授業計画 1コマ目：ガイダンスと受講の注意 2コマ目：核分裂反応の発見から原子爆弾投下に至るまでの科学技術者の役割と倫理問題、及び原子爆弾投下後の核科学者の動きと倫理観、原子力の平和利用における科学者の倫理観の重要性について講述する。 3コマ目：数学と生活：数学の発展が人間生活に及ぼした影響等を考察し、その中で科学技術者の役割について考える。 4コマ目：科学者及び科学者の集まりである学会の出現とその社会に及ぼした影響を概観し、これからの科学者並びに技術者の社会的責任について、物理学者を例にとって考える。 5コマ目：地質災害と住民の生活：火山活動によって生活の場を失った住民の安全対策に関するビデオを見て、災害問題に係わる科学技術者の役割と倫理観について考える。 6コマ目：優生思想と遺伝子操作技術の諸問題：生命技術の発達は、生命倫理にかかわるさまざまな問題を生みだしてきた。人間の本性は、遺伝で</p>				<p>どこまで左右されるのか？またそれを踏まえて遺伝子操作 や生殖医療はどこまでゆるされるのか？... これらの問題について、できればグループ討論を通じて理解を深めたい。 7コマ目：環境問題にかかわる科学技術者の倫理：環境アセスメント調査と環境コンサルタント（例えば、原子力施設の立地条件、風力発電施設の立地条件、海岸沿い施設の立地条件など）に係わる技術者の倫理について考える。 8コマ目：試験</p> <p>(5)成績評価の方法 各回ごとの小レポートの評価（3割）と最終の試験の結果（7割）を総合して、90%以上の評価点をS、80%以上をA、70%以上をB、60%以上をC、それ以下をDとする。</p> <p>(6)履修上の注意 さまざまな分野における倫理観の重要性について自分のこととして考えて欲しい。毎回の小レポートをしっかりと書けるように真剣な態度で受講すること。</p> <p>(7)質問、相談への対応 それぞれの担当教員に直接アポイントをとった上で訪問してください。全体的なことは吉野までメール（yoshino@shinshu-u.ac.jp）で尋ねても良いです。吉野のオフィスアワーは随時ですが前もってメールでアポイントを取ってください。</p> <p>【教科書】</p> <p>【参考書】 2コマ目：原子核エネルギーの話（アイザック・アシモフ著、住田健二訳、東海科学選書） 6コマ目：優生学と人間社会—生命科学の世紀はどこへ向かうのか（米本昌平 ほか、2000、講談社現代新書）</p>	

(出典：シラバス)

学生の職業意識の涵養を図るため、インターンシップ（1～2単位）を実施している。(資料理 81～82)。

資料理 81 インターンシップ参加者数

	数理・自然 情報科学科	物理科学科	化学科	地質科学科	生物科学科	物質循環学科	合計
平成 22 年度	0	0	0	11	1	0	12
平成 23 年度	0	0	1	3	0	0	4
平成 24 年度	0	0	0	9	0	3	12
平成 25 年度	0	0	0	11	1	0	12
平成 26 年度	0	0	0	1	0	0	1
平成 27 年度	2	0	0	5	0	1	8

(出典：理学部事務部作成)

資料理 82 インターンシップ科目一覧

開講期間	授業名	教員氏名
通年(集中)	数理実務体験実習	谷内 靖
通年(集中)	化学実務体験	樋上 照男
通年(集中)	地質実務体験実習	三宅 康幸
通年(集中)	社会実務研修	村越 直美

(出典：理学部事務部作成)

資料理 83 コア・サイエンス・ティーチャー (CST) 養成拠点事業

[教育] 文部科学省委託事業 (平成22年度～実施)

コアサイエンスティーチャー養成プロジェクト(初級CST)

教育現場における資質の高い理科教員を養成を目指す

理科教員を目指す信州大学の学生を対象に、多岐にわたる理科学分野を体験することで、知識の乏しさを苦手分野を克服し、専門性の向上を図ります。

1 実際の教育現場、  
現任教員とのつながり

実際に現場に出てみたいとわからないことも多い教育分野において、実際の授業の流れや問題点、対処法などを直接、現場の教員に聞くことができます。

2 具体的な実践力、指導力の習得

火や薬品などを扱うことも多い理科の教育現場において、指導に立つ前に、実験についての指導力をしっかり身につけることができます。

3 教育体験と専門外の知識向上

研究・専門分野以外の理科の各分野を指導するため、各分野の基礎学力や観察・実験能力はもちろん、最先端研究に関する専門知識も修得します。また、教育体験の経験を経験しながら、専門分野以外の分野の苦手意識を克服することができます。

初級CST

理科教員を目指す学生が対象  
信州大学と長野県教育委員会が連携して開設する初級CST養成プログラムを受講、必要単位を取得し、且つ、課されたレポートと模擬授業実践を修了した学生のうち、教員として採用された者をコア・サイエンス・ティーチャー(初級CST)として認定しています。



登録・認定者数	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
登録者数 (理学部)	65 (14)	47 (14)	56 (11)	25 (9) (6月現在)
初級CST認定者数 (理学部)	—	14 (2)	20 (4)	27 (11) (認定予定)

[社会貢献] 文部科学省委託事業 (平成22年度～実施)

# コアサイエンスティチャー養成プロジェクト(上級CST)



小学校・中学校 現職教員対象  
小・中学校教育現場における資質の高い理科教員を養成を目指す

- 1 **現場の先生同士の交流** 理科教育で活躍する教員が集まるので、お互いの知識や経験の共有化が図れる。
- 2 **現場の声に基づいた実践的カリキュラム** 実際に教員が不得意と感じている単元を中心に作成されたカリキュラムなので、問題点を具体化でき、多角的な見方ができるようになる。
- 3 **信州大学とのつながり、専門性の向上** 信州大学が所有する最新の機材や教材を借用することで、多様なニーズに応えることができる。



**受講者の声** 理科の授業を教育実習で行ったとき、ノート指導で苦労したのは、結果から考察への移行がスムーズに行かないことだった。「考察を書いてみよう」と言ってもなかなか書けず、結果と同じことを考察として書くことも多かった。現職の先生方のお話を聞く中で、人それぞれ工夫をされていることがわかった。先生方の実践例は参考にしたいものがたくさんあった。  
【ノート指導、理科室の掲示物、小学校で使う主な薬品の性質と理科準備室の整理整頓】受講生

信州を題材とした指導素材が、対象学年・分野・地域等で検索できる

(出典：理学部事務部作成)

## 5. 学生の主体的な学習を促すための取組

(1) 理数学生応援プロジェクト (前掲資料理 59～63、p 70～76)。

(2) e-Learning (eALPS システム) の活用

教室外学習をうながすため、e-Learning (eALPS システム) で宿題や事前学習をうながす工夫を行っている。(資料理 84)

資料理 84 eALPS 利用実績

	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
開講数	390	315	512	407	686	750
利用数	45	57	59	50	68	110
利用率	12	18	12	12	10	15

※加工数：シラバスがあって、履修登録のある授業の数

※利用数：教員が何らかの形で利用しているコースの数

※利用率：利用数/開講数

- ・総アクセス数は年々増加、学外からのアクセスが増加している。
- ・利用時間のピークは 22 時～23 時
- ・授業期間中は週末以外約 2,000 件/日を超える。

(出典：理学部事務部作成)

(3) 他学部授業科目の履修、他大学との単位互換

多様な履修形態を保証するしくみとして、他学部の科目履修などが、各コースごとに自由に選択履修できる科目として位置づけられている。(資料理 85～88)

資料理 85 他学部聴講

		人文 学部	経済 学部	教育 学部	医学部	工学部	農学部	繊維 学部	合計
平成 22 年度	前期受講者数	18	10		2				30
	後期受講者数	26	21						47
	通年のべ科目数	85	42		2				129
平成 23 年度	前期受講者数	16	18	1	3		2		40
	後期受講者数	34	16		1				51
	通年のべ科目数	75	41	2	4		3		125
平成 24 年度	前期受講者数	19	12		2	1	2	1	37
	後期受講者数	18	23		3	4		1	49
	通年のべ科目数	53	46		7	6	2	2	116
平成 25 年度	前期受講者数	12	26				3		41
	後期受講者数	22	24		2	1	3	1	53
	通年のべ科目数	50	84		2	1	7	1	145
平成 26 年度	前期受講者数	12	31				5		48
	後期受講者数	25	26	1				1	53
	通年のべ科目数	48	72	3			5	1	129
平成 27 年度	前期受講者数	20	33		1				54
	後期受講者数	21	37			1			59
	通年のべ科目数	64	73		1	3			141

(出典：理学部事務部作成)

資料理 86 5 大学理学部連携による相互単位互換制度による実習科目

大学名	授業科目
茨城大学	生物科学野外実習 地質環境科学実習 地質調査演習 I
埼玉大学	臨海実習
富山大学	野外実習 I 地質学巡検
信州大学	野外調査法実習 III 解析学特別講義 II
静岡大学	放射線管理実習 生物科学野外実習

(出典：理学部事務部作成)

資料理 87 県内大学連携による科目履修者一覧

学 科	学年	履修年度	開講部局	授業科目・題目	科目区分
地質科学科	3	2010	共通教育(全学教育機構)	英語基礎Ⅰ(たてなおしの英語) 【清泉女学院大学開講】	共通科目
地質科学科	3	2010	共通教育(全学教育機構)	英語基礎Ⅱ(たてなおしの英語) 【清泉女学院大学開講】	共通科目
地質科学科	4	2011	共通教育(全学教育機構)	英語基礎Ⅰ(たてなおしの英語) 【清泉女学院大学開講】	共通科目
地質科学科	4	2011	共通教育(全学教育機構)	英語基礎Ⅱ(たてなおしの英語) 【清泉女学院大学開講】	共通科目
地質科学科	4	2011	共通教育(全学教育機構)	英語基礎Ⅰ(たてなおしの英語) 【清泉女学院大学開講】	共通科目
地質科学科	4	2011	共通教育(全学教育機構)	英語基礎Ⅱ(たてなおしの英語) 【清泉女学院大学開講】	共通科目
地質科学科	4	2011	共通教育(全学教育機構)	英語基礎Ⅱ(たてなおしの英語) 【清泉女学院大学開講】	共通科目
地質科学科	4	2011	共通教育(全学教育機構)	英語基礎Ⅱ(たてなおしの英語) 【清泉女学院大学開講】	共通科目
化学科	1	2012	共通教育(全学教育機構)	国際看護学 【長野県看護大学開講】	共通科目
数理・自然情報科学	3	2012	共通教育(全学教育機構)	数値解析法 【諏訪東京理科大学開講】	共通科目
数理・自然情報科学	3	2012	共通教育(全学教育機構)	数値解析法 【諏訪東京理科大学開講】	共通科目
化学科	1	2012	共通教育(全学教育機構)	生態学 【長野大学開講】	共通科目
化学科	1	2013	共通教育(全学教育機構)	英語基礎Ⅰ(たてなおしの英語) 【清泉女学院大学開講】	共通科目
化学科	1	2013	共通教育(全学教育機構)	英語基礎Ⅱ(たてなおしの英語) 【清泉女学院大学開講】	共通科目
物理科学科	1	2014	共通教育(全学教育機構)	看護倫理学 【佐久大学開講】	共通科目

(出典：理学部事務部作成)

資料理 88 県外他大学における臨海・臨湖実習

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31						
7月																																		北大(富岡)～			
8月		～室積																																			
		東大(三崎)																																			
9月																																					
11月																																					
2月																																					
3月																																					

(出典：理学部事務部作成)

(4) 各種セミナーや講演会、シンポジウムの開催

各コースでは、日常的に各種セミナー（資料理 89）をおこなっている。また、理学部全体としても多くの講演、シンポジウム（資料理 90～91）の機会を設けている。

セミナー等	開催実績（回数）					
	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
数理学懇談会	15	10	7	9	11	8
信州トポロジーセミナー	19	21	12	12	15	14
信州代数セミナー		7	7	7	3	5
信州確率論セミナー		1	2		2	
信州数理物理セミナー	8	7	6	7	10	12
物理基礎科学セミナー	28	35	33	33	34	34
物性コロキウム	30	30	30	29	23	31
化学コロキウム		4	3	1		
分析化学セミナー			1			
アルプスサイエンスセミナー	1	1	1	1	1	1
物質循環談話会	9	10	8	8	8	8
地球科学セミナー		1				
生物科学教室セミナー	13	13	14	13	2	2

（出典：理学部事務部作成）

年度	シンポジウム開催名称等	開催日
平成 22 年度	(非) 可換代数とトポロジー	2011/3/9～11
平成 23 年度	確率論サマースクール 2011	2011/8/8
	(非) 可換代数とトポロジー	2012/3/14～16
平成 24 年度	信州応用トポロジーセミナー	2012/11/23
	第 1 回先端加速器科学技術推進シンポジウム in 信州	2013/1/26
	場の数理とトポロジー（研究集会）	2013/2/6～8
	ワークショップ「数理学と情報科学の周辺」	2013/2/14
	代数的トポロジー信州春の学校	2013/3/8～10
	信州関数解析シンポジウム	2013/3/14～15
平成 25 年度	研究集会「グレブナー若手集会」	2013/7/12
	ワークショップ「情報セキュリティと関連する離散数学」	2013/8/9～10
	研究集会「Sage Days 53.5」	2013/10/5
	信州関数解析シンポジウム	2013/11/28～29
	(非) 可換代数とトポロジー	2014/2/19～21
	第 19 回代数学若手研究会	2014/2/26～28
	第 6 回代数学若手セミナー	2014/3/1
代数的トポロジー信州春の学校	2014/3/6～8	
平成 26 年度	信州大学偏微分方程式研究集会	2014/6/13～14
	第 3 回関数解析シンポジウム	2014/12/1～2
平成 27 年度	第 1 回「光と水」の研究会	2014/6/16

	第 2 回「光と水」の研究会	2014/7/21
	第 3 回「光と水」の研究会	2014/9/15
	第 4 回「光と水」の研究会	2014/10/27
	第 5 回「光と水」の研究会	2014/11/17
	第 4 回関数解析シンポジウム	2015/12/3～4
	第 2 回信州大学自然科学館ミニシンポジウム	2015/12/12
	第 6 回「光と水」の研究会	2014/12/15
	第 7 回「光と水」の研究会	2014/1/19
	第 8 回「光と水」の研究会	2014/2/16

(出典：理学部事務部作成)

## 資料理 91 講演会開催状況

年度	講演会名称等	講演者	開催日
平成 22 年度	「化学への招待 化学と医療・医薬」	吉野和夫 (信州大学理学部) 加藤和夫 (持田製薬)	2010/12/4
平成 23 年度	Water in Nanoconfinement (微小空間の水)	M.-C. Belissent-Funel 教授 (Laboratoire Leon Brillouin, Saclay France)	2011/5/25
	「Growth and Properties of Ultra -Thin Layers of Ionic Liquids on Gold and Graphite Surfaces (金およびグラファイト表面上のイオン液体の超薄膜層の成長と特性)」	V. Kempter 教授 (Clausthal University)	
	「泡とイオン」	前田悠 (九州大学名誉教授)	2011/10/27
平成 24 年度	「金融系企業における数理専門職への道ー投資とリスク管理における数学の役割ー」	黒田耕嗣 (日本大学文理学部教授)	2012/7/20
	「神の粒子ヒッグスをさぐる」	竹下徹 (信州大学理学部)	2012/8/5
	「身近な自然ーアユの棲む川ーについて考えよう！」	阿部信一郎 (独立行政法人水産総合研究センター 日本海区分水産研究所主事)	2012/10/11
	数理談話会「確率と統計と地震予測」	尾形良彦 (統計数理研究所名誉教授、東京大学生産研究所客員教授)	2012/10/31
	「アフリカの環境汚染を考える」	池中良徳 (北海道大学大学院獣医学研究科講師)	2012/11/15
	「物理の魅力」	大貫惇睦 (琉球大学客員教授、大阪大学名誉教授)	2012/12/11
	数理科学プロジェクト講演会「自然の中の左巻きと右巻きー磁気電析の話題を中心にしてー」	青柿良一 (職業能力開発総合大学校名誉教授、物質・材料研究機構 リサーチアドバイザー)	2013/1/18

信州大学理学部 分析項目 I

	「3000mのタイムカプセル：極域アイスコアから探る過去の気候変動」	川村賢二（国立極地研究所准教授）	2013/1/24
	第1回先端加速器科学技術推進シンポジウム in 信州『先端加速器の世界 いのちを守る、宇宙を創る』	竹下徹（信州大学理学科） 辻井博彦（放射線医学総合研究所フェロー） 鈴木厚人（高エネルギー加速器研究機構機構長）	2013/1/26
平成 25 年度	分析化学会中部支部 信州地区講演会		2013/10/4
	平成 25 年度東海地区化学教育討論会	鈴木孝洋（長野県阿南孤島学校） 榎本紘司（愛知県立岡崎北高等学校） 堀史有（岐阜県立各務原西高等学校） 榎本貴之（三重県立松阪工業高等学校） 大石公隆（静岡県立島田工業高等学校） 吉野和夫（信州大学理学部）	2013/10/12
	「リン酸カルシウムを応用した人口骨の研究開発」	菊池正紀（物質・材料研究寄稿（NIMS）バイオセラミックスグループリーダー）	2013/10/18
	「化粧品」と界面化学」	岩井秀隆（花王株式会社上席主任研究員、信州大学地域共同センター客員教授）	2013/10/25
	第22回ソノケミストリー討論会		2013/10/25～26
	理数支援特別講演会「規制反応場と分析化学」	寺前紀夫（日本分析化学会会長、東北大学名誉教授）	2013/11/12
	日本分光学会中部支部 長野地区講演会	金継業（信州大学理学系准教授）	2013/12/18
平成 26 年度	「信州の黒曜石と旧石器時代のヒト・環境」	工藤雄一郎（国立歴史民族博物館） 小野昭（明治大学黒曜石研究センター）	2015/6/8
平成 27 年度	信州大学理学部グリーンサイエンス講演会	天野良彦（信州大学工学系教授）	2015/7/17
	「ニュートリノ質量の発見」2015 ノーベル物理学賞講演会	中畑雅行（東京大学宇宙線研究所 神岡宇宙素粒子研究施設長（教授）） 佐藤丈（埼玉大学理工学研究科（准教授））	2016/1/9

（出典：理学部事務部作成）

## 6. 共通教育科目における教育内容・方法の工夫

## ① 新入生ゼミナール等

高等学校までの勉学から、大学での学びへと橋渡しをするため、各学部・学科等で1クラス20人程度により必修2単位として開講している。(資料理92)

**資料理92：新入生ゼミナールの概要及び新入生ハンドブック**

共通教育の目標の「⑥ 大学教育における基礎的な能力の育成」の内の「大学教育を受けるための基礎能力の育成」を目的とします。

受験勉強中心の高等学校までの勉学から、自ら学ぶ態度を培い、学問の面白さ、自身の専門への動機付けにより、大学での学びへと橋渡しをするためのゼミナールを前期、又は前期及び後期(学部・学科(課程・系)によって指定)に開講します。

基礎的な情報通信技術、情報の集め方の確認や、授業の受け方、大学の諸施設の使い方などの基本から始まり、口頭・文書によるコミュニケーションの基礎を含む大学での学びへの導入教育など、大学における学習の一般的スタイルの獲得を目指します。また、共通教育を中心に自らの学習の目標とそのための方針の立案を行います(ポートフォリオ作成)。

教員と学生の人格的な交流を活かしつつ、基本的には、大学に入ったばかりのみなさんが、大学生として主体的に勉学に取り組む姿勢をつくる場として開設されます。

レポート作成、発表を通じて日本語の作文力や話し方について訓練し、専門教育の内容や施設に直接触れることを通じて、大学生としてのみなさんの意識形成を図ります。

このゼミナールは学部・学科(課程・系)の方針に従い、学部・学科(課程・系)の教員によって実施されます。

なお、参考資料として、入学時に配付する「新入生ハンドブック」があります。

(出典：「2015共通教育履修案内」をもとに経営企画課作成)



信州大学

新入生ハンドブック 2015



信州大学 全学教育機構

新入生ハンドブック-目次

前書き ..... i

序章 信州大学学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー) ..... 1

第1章 何のために学ぶのか - 10年後の世界を想像しよう- ..... 7

1.1. 卒業後の世界を知ろう ..... 7

1.2. 情報伝達技術の革新とその影響 ..... 14

1.2.1. コミュニケーション(情報伝達)技術の進化14

1.2.2. 技術革新の光と影 ..... 17

1.3. 急速に変化する社会で活躍するために:  
 知の訓練場「大学」 ..... 22

1.3.1. 自分で問題を発見する ..... 22

1.3.2. 森の中に木を見る ..... 23

1.3.3. 真の知識を身につける ..... 24

1.3.4. 目標がすべて ..... 26

第2章 大学での学習スキル ..... 31

2.1. 大学の授業とは ..... 31

2.2. 学ぶ意義は自分で考えなければならない ..... 33

2.3. 授業は学びの一部でしかない: 自主学習が大事 ..... 34

2.4. 自主学習の例 ..... 35

2.4.1. 内容を理解するために、話してみよう 36

2.4.2. 専門のある何でも屋に ..... 37

2.5. 学習観を再考しましょう ..... 39

2.6. 能動的な学びを ..... 41

第3章 探す・集める・探す ..... 47

3.1. 調べるとは ..... 48

3.2. 資料を探す ..... 51

3.2.1. 辞典を使う ..... 51

3.2.2. 検索術語 ..... 53

3.2.3. 図書館で探す ..... 56

3.2.4. インターネット検索を使う ..... 61

ii

5.1. 信州大学学生相談センターおよび  
 全学教育機構相談室について ..... 93

5.2. 学習の科学 ..... 94

5.2.1. 時間の前借りはしない ..... 95

5.2.2. とにかく始めたほうがよい ..... 95

5.2.3. 休まないと能率が落ちる ..... 96

5.2.4. すぐ復習しないと忘れる ..... 96

5.2.5. 暗記物は就寝前が良い? ..... 96

5.2.6. 五感を使う ..... 98

5.3. タスクを管理する ..... 98

5.3.1. 忘れ防止対策 ..... 99

5.3.2. 未完了の対策を大別する ..... 99

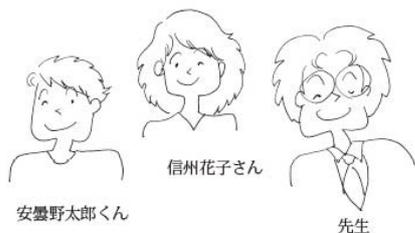
5.3.3. 自分の処理時間を把握する ..... 100

5.3.4. 学生の自由時間はたっぷりある? ..... 101

5.3.5. 課題の作業時間を見積もる ..... 102

5.3.6. 手帳かスマートフォンか ..... 103

登場人物



iv

3.3. 問いを作り上げる ..... 64

第4章 レポートの書き方 ..... 69

4.1. レポートとは? ..... 69

4.2. レポートの構想とメモ ..... 70

4.3. 問題の見つけ方 ..... 72

4.3.1. 文献はうたがってかかる ..... 72

4.3.2. 常識はうたがってかかる ..... 73

4.3.3. 自分でデータを集めてみる ..... 73

4.4. レポートの構成と文章 ..... 74

4.4.1. ねらいを短い文章に ..... 74

4.4.2. ミニ目次のすすめ ..... 74

4.4.3. 分かりやすい構成を ..... 77

4.4.4. 文体はどうするか ..... 77

4.4.5. 受け身の表現は避ける ..... 77

4.5. レポートの落とし穴 ..... 78

4.5.1. 一次資料って何だろう ..... 78

4.5.2. 意見の流用 ..... 79

4.5.3. 専門用語の震 ..... 79

4.6. 形をととのえる ..... 80

4.6.1. まずは表紙から ..... 80

4.6.2. 一般的なかたち ..... 81

4.6.3. 見やすい体裁に ..... 81

4.6.4. 引用と脚注 ..... 82

4.6.5. 推敲はかならず ..... 83

4.7. レポートから論文へ ..... 83

4.8. 口頭発表にむけて ..... 84

4.8.1. 発表原稿の棒読みはなぜわかりにくいのか ..... 84

4.8.2. 口頭発表のメリットを最大限生かすには ..... 85

4.8.3. 質疑への対応 ..... 86

第5章 学生生活を設計しよう 勉強も遊びも ..... 93

iii

(出典:「信州大学新入生ハンドブック2015」)

②教養ゼミ・大学生基礎力ゼミ

学部混合で行われる1クラス20名程度のゼミナールが開講されている。(資料理93)

**資料理93 教養ゼミナール及び大学生基礎力ゼミ**

**【教養ゼミナール】**  
 本学は種々の専門性を持つ8学部からなる総合大学であり、1年次に全学部生が松本キャンパスで学びます。ゼミナールは学部混合で行われますので、多様な物の見方を知る機会を得ることができます。また、個々の教員の専門が生かされています。また原則として25名を超えた場合の受講制限は、数の多い学部生から行うなど同一学部生に偏らないような処置をしています。教養ゼミナールでは、多くの事例的な研究を行い、学生が自分の知識や人生を社会との関係の中で位置付ける機会を提供します。討論やプレゼンテーション等も積極的に取り入れながら、物事の多面的な理解と深い洞察力を養います。

**【大学生基礎力ゼミ】**

**「大学生基礎力ゼミ」について**

信州大学で、一人前の大学生として有意義な学生生活を送りたい方のために、「大学生基礎力ゼミ」(社会科学群)を7コマ開講します。興味のある方は是非受講してください(詳しくはシラバスで確認してください)。

一人前の大学生のあるべき考え方を教えてもらった。

レポートの書き方の基本が分かった!

この授業のおかげで、グループの話し合いなどで意見が出せるようになり、楽しかったです。

大学に入学して、今までとの違いや、これからどのように勉強していったらよいのか分からない状態だったが、毎週の授業の中で少しずつ形作ることができた。

ふりかえりレポートを毎週書くことで、自分についてよく知ることができ、本当に良い生活が送れた。

**昨年受講した学生の声**

**平成27年度開講数**

	前期	後期
教養ゼミナール	53	36
大学生基礎力ゼミ	11	0

(出典：「2015共通教育履修案内」)

③ICT活用教育

松本キャンパス以外の高年次学生が共通教育科目を受講するため、ICTを活用した授業を実施している。(資料理94~95)

**資料理 94：平成27年度 信州ユビキタスネットシステム (SUNS) 利用授業の開講状況**

前 期		後 期	
授 業 名	担 当 教 員	授 業 名	担 当 教 員
ネイチャーライティングのすすめ (環境文学Ⅰ) 【SUNS】 【EA】	松岡 幸司	環境文学のすすめ (環境文学Ⅱ) 【SUNS】 【EA】	松岡 幸司
キャリア形成論Ⅰ-本当の自分を理解するステップ- 【SUNS】	小池 健一	キャリア形成論Ⅱ-自分の将来像を探るステップ- 【SUNS】	小池 健一
物理学の世界 【SUNS】	矢部 正之	新聞と私たちの社会 【SUNS】 (信濃毎日新聞社寄附講義)	分藤 大翼
検索の科学 【SUNS】	鈴木 治郎	現代医療における物理学 【SUNS】	矢部 正之
現代ドイツの言語と日常ゼミ 【SUNS】	松岡 幸司	現代ドイツ事情ゼミ 【SUNS】	松岡 幸司
ドイツ語初級 (総合)Ⅰ 【SUNS】	松岡 幸司	ドイツ語初級 (総合)Ⅱ 【SUNS】	松岡 幸司
ドイツ語中級 (読解)Ⅰ 【SUNS】	松岡 幸司	ドイツ語中級 (読解)Ⅱ 【SUNS】	松岡 幸司
線形代数学Ⅰ 【SUNS】	高野嘉寿彦	一般化学Ⅱ 【SUNS】	村上 好成

一般化学 I 【SUNS】	村上 好成	
(出典：「2015 共通教育履修案内」をもとに経営企画課にて作成)		

資料理 95：平成 27 年度 共通教育『EA』科目(e-Learning のみで行う授業)の開講状況			
前 期		後 期	
授 業 名	担当教員	授 業 名	担当教員
ネイチャーライティングのすすめ (環境文学 I) 【SUNS】 【EA】	松岡 幸司	環境文学のすすめ (環境文学 II) 【SUNS】 【EA】	松岡 幸司
ジェンダー論 【EA】	加藤 善子	ジェンダー論 【EA】	加藤 善子
日本人のための英作文練習ゼミ 【EA】	加藤 敏三	検索の科学 【EA】	鈴木 治郎
ドイツ語初級 (総合) I 【EA】	松岡 幸司	ドイツ語初級 (総合) II 【EA】	松岡 幸司
フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ I 【EA】	田口 茂樹	フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ II 【EA】	有路 憲一
リスニング&リーディング I 【EA】	近藤 富英	リスニング&リーディング II 【EA】	近藤 富英
ドイツ語中級 (読解) I 【EA】	松岡 幸司	ドイツ語中級 (読解) II 【EA】	松岡 幸司
ロシア語中級 I 【EA】	佐々木 寛	ロシア語中級 II 【EA】	佐々木 寛
ハングル中級 I 【EA】	延 鎮淑	ハングル中級 II 【EA】	延 鎮淑
キャンパスライフと健康 【EA】	川 茂幸		
(出典：「2015 共通教育履修案内」をもとに経営企画課にて作成)			

④教育方法・学習支援

上記のほか、履修登録上限単位、習熟度別クラス編成（英語、微分積分学 I、力学、生物科学 I）、リメディアル教育（英語基礎、基礎数学、基礎物理、基礎化学）、各種英語資格試験による単位認定県内他大学との単位互換を行っている。（資料理 96）

資料理96：共通教育科目における教育方法や学習支援
<p><b>【履修登録上限単位】</b>                      共通教育科目では、1 学期に履修登録できる単位の上限が学部ごとに定められています。                      ※ 履修登録単位数の上限には教職に関する科目は含みません。                      ※ その他、学部・学科（系）によって、上限に含まない科目もありますので、詳細は各学部学生便覧で 確認してください。                      大学での勉学は授業での学習に加えて、出席する授業の予習、復習を含む十分な自主的学習時間の確保が前提となっています。こうした趣旨から、履修登録単位数の上限制度が設けられています。なお履修登録単位数の上限を超えて履修することはできません。                      また、前期の成績が優秀な学生で学部長の許可がある場合には、後期に個々の学生ごとに履修登録単位数の上限を設定することが認められます。</p>
<p><b>【習熟度別クラス】</b>  <b>英語</b> 英語のクラスは、すべて学部別であり、また習熟度別クラス編成になっています。（上級）（中級）（初級）の 3 レベルです。習熟度別クラスが編成され、授業がはじまる前までに掲示されます。指定されたクラス以外のクラスを履修することは原則としてできません。  <b>微分積分学 I、力学、生物科学 I</b> 基礎科学科目の履修方法は学部・学科（課程・系）により異なりますので、各学部・学科（課程・系）の履修指導に従ってください。学部・学科（課程・系）でクラスが指定されますので、指定のクラスで受講してください。                      なお、力学及び生物学 A については、高校における履修状況等を考慮し、一部の学生についてクラスの指定があります。対象学生となる学生が学部・学科（系）から掲示等で指定されます。</p>
<p><b>【リメディアル教育】</b>                      大学での学習にスムーズに取り組んで行けるように、基礎を学ぶための授業です。積極的に活用しましょう。                      各科目のリメディアル教育授業については、以下の通り実施します。掲示により受講を指定された学生は、以下を確認の上、授業に臨んでください。対象学生は、授業開始日までに、全学教育機構公用掲示板にて周知します。なお、指定を受けない場合でも、受講人数に余裕がある場合は、授業担当教員に申し出て、受講することができます。</p>

## 「基礎化学」

担当教員：勝木 明夫 全学教育機構

授業内容：高校の化学Ⅰを中心に化学Ⅱまで

実施期間：前期 水曜日の5時限 平成27年4月15日～7月1日（ただし、4月29日、5月6日を除く）

講義室：共28番教室

その他：学部からの指定事項等の詳細は、4月に公用掲示板で確認してください。

## 【各種英語資格試験による単位認定について】

TOEIC、TOEFL等で一定の点数を得た者及び実用英語技能検定（英検）等の特定の級に合格した者にだけ適用されます。

## 【放送大学との単位互換】

本学に在籍する学生が放送大学との単位互換（本学の授業の代わりに放送大学の授業を受講して単位を修得すれば、本学で修得すべき単位とみなす制度）を希望する場合は、「特別聴講学生」として受講することができます。ただし、受講の対象は教育学部、医学部、工学部、農学部及び繊維学部の学生に限ります。

## 【県内他大学との単位互換】

信州大学は、長野県内の他大学（長野県看護大学、佐久大学、清泉女学院大学、諏訪東京理科大学、長野大学、松本歯科大学、松本大学）と単位互換協定を結んでいます。

信州大学の学生は、この協定により長野県内他大学が開講する授業を受講することができ、その受講により取得した単位は、信州大学の単位として認定されます。単位互換の授業は、みなさんが他大学に通学して授業を受けるタイプと、遠隔講義システム（SUNS）\*を利用して信州大学の教室で他大学の授業を受けるタイプの2種類があります。

長野県内他大学の単位互換の対象授業は、学期の始めに各大学が募集します。

また、長野県内の高等教育機関で組織する「高等教育コンソーシアム信州」のホームページ（<http://www.c-snet.jp/>）でも、単位互換に関することが掲載されています。

なお、全学教育機構では、平成27年度開設する教養科目、外国語科目及び基礎科学科目の授業のうち、授業担当教員が開放することを認めた「授業科目」について、県内の他大学の学生の受け入れを実施します。

【遠隔講義システム（SUNS）\*による受講】平成22年度からは、長野県内他大学の授業を遠隔講義システム（SUNS）\*を通じて信州大学で受講できるようになりました。（他大学の特別聴講学生として受け入れられます。）この遠隔講義システムを利用した授業を受講すれば、他大学に通学しなくても信州大学の教室で、他大学の授業を受講できます。遠隔講義システム（SUNS）\*を利用した他大学の開講科目は、共通教育科目のうち「教養科目」として認定され、卒業に必要な単位に算入されます。

（出典：「2015共通教育履修案内」をもとに経営企画課にて作成）

（水準）期待される水準を上回る

（判断理由）

在学生、受験生および保護者の期待に応え、広い学問的素養と理学の基礎を修得した上で各コースの専門性を培うことができるよう、科目の構成や年次進行が設定されている。

（資料理 49）

教育編成において特筆すべきは、平成27年度改組により、7つの分野別コースと3つの履修プログラムにより21種類の履修ルートを設定している点である。これにより旧来の研究者・技術者養成型の履修モデルにとどまらず、広く学生個々のニーズに応じた履修モデルのカスタマイズが可能となっている。（資料理 50）

教職・学芸員資格取得のためのカリキュラム（資料理 71）や、キャリア教育（資料理 80～82）、理数系教員養成（資料理 83）など、様々な制度や科目を設定することで学生や社会からの多様なニーズに応えることのできる教育体制を整えている。

卒業生の雇用者からの期待に応え、DPに基づく教育課程を編成し、職務遂行のための能力を身につけることができる教育を実施している（資料理 80～83）。また、学生の主体的学修を促す取り組みを実施している。（資料理 84～88）

進学先の大学院関係者、研究関連学会や機関の期待に応え、理数学生応援プロジェクト（資料理 59～63）、信州の地の利を生かしたフィールドワーク（資料理 78）を実施し、論理的思考力と理学の基礎知識や専門的な技量を培う教育を実施している。

地域社会・自治体の期待に応え、地域社会への大学教育や研究内容の開放、交流等も実施している。（資料理 64～70）

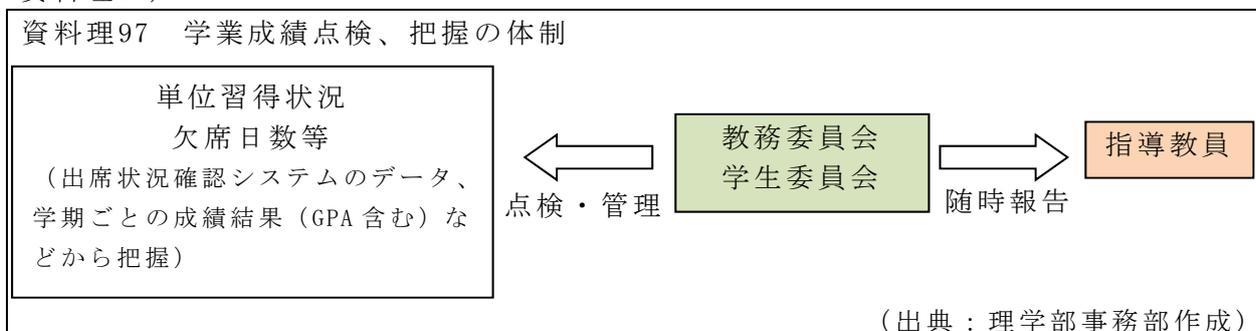
分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

(1) 学業の成果の点検、把握の体制

学業の成績の点検、把握の体制は以下のとおりである。(前掲資料理41～43、p43～45、資料理97)



(2) 進級・卒業・休学・退学等の状況

過去6年の進級率は以下のとおり推移している。(資料理98) 進級要件については、学生便覧で周知している(資料理99)。過去6年の休学者及び退学者は以下のとおり推移している(資料理100)。

資料理98 学年別進級率・卒業率

	平成22 年度 入学生	平成23 年度入 学生	平成24 年度入 学生	平成25 年度入 学生	平成26 年度入 学生	平成27 年度入 学生
最短就業年限で2年次に進級した者	95.0%	94.6%	88.0%	92.5%	91.6%	96.7%
最短就業年限で3年次に進級した者	85.5%	79.8%	85.2%	91.0%	86.5%	
最短就業年限で4年次に進級した者	83.3%	83.0%	88.9%	84.9%		
4年間で卒業した者(休学も含めて4年以内)	76.9%	75.3%	81.0%			
6年以内で卒業した者(休学も含めて6年以内)	91.9%					

(出典：理学部事務部作成)

資料理99 進級要件

学科	コース	年次	要件
数学科	数理科学	1年次から2年次	なし
		2年次から3年次	なし
		3年次から4年次	なし
	自然情報学	1年次から2年次	なし
		2年次から3年次	なし
		3年次から4年次	なし

理 学 科	物理学	1年次から2年次	なし
		2年次から3年次	なし
		3年次から4年次	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「共通教育科目」、「グリーンサイエンス通論」及び「基礎理学科目群」について卒業要件を満たしていること。</li> <li>・「情報科学演習」の単位を取得済みであること。</li> <li>・物理学コースのコース必修の授業科目のうち、1年次及び2年次を対象とする授業科目の単位を全て取得済みであること。</li> <li>・「物理学実験Ⅲa」と「物理学実験Ⅲb」の単位を取得済みであること。</li> <li>・上記に加えて、卒業要件124単位に対して100単位取得済みであること。</li> </ul> <p>ただし上記の要件を満たさない場合でも、単位の取得状況や就学状況などをコースで検討し進級を認める場合もあります。</p>
	化学	1年次から2年次	35単位以上修得済みであること。
		2年次から3年次	<p>80単位以上習得済みであること。ただし、以下の項目も満たしていること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての共通教育科目を修得済であること</li> <li>・基礎理学科目群を必修8単位を含めて18単位以上取得済であること。</li> <li>・基礎分析化学、基礎無機化学、基礎有機化学、基礎物理化学、基礎化学実験を修得済であること。</li> </ul>
		3年次から4年次	<p>110単位以上修得済みであること。ただし、以下の項目も満たしていること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・分析化学実験、無機化学実験、有機化学実験、物理化学実験を修得済であること。</li> <li>・情報科学演習と3年次までのコース必修科目42単位をあわせて44単位のうち42単位以上修得済であること。</li> </ul>
	地球学	1年次から2年次	なし
		2年次から3年次	なし
		3年次から4年次	2年次までの必修科目すべての単位を取得し、かつ3年次必修科目10単位のうち6単位以上取得していること。
	生物学	1年次から2年次	基礎生物学実験を含む30単位を取得済みであること。
		2年次から3年次	60単位を取得済みであること。
		3年次から4年次	すべての必修科目を含む100単位を履修済みであること
	物質循環学	1年次から2年次	35単位以上修得済みであること。
		2年次から3年次	70単位（外国語科目4単位、新入生ゼミナール2単位、健康科学科目1単位、情報科学演習2単位、物質循環基礎実習2単位を含む）以上修得済みであること。
		3年次から4年次	100単位（システム解析学実習Ⅰ2単位を含む）以上修得済みであること。

(出典：信州大学理学部学生便覧 平成27年度入学生用より抜粋)

資料理100 休学者・退学者数

	平成22 年度	平成23 年度	平成24 年度	平成25 年度	平成26 年度	平成27 年度
--	------------	------------	------------	------------	------------	------------

休学者数	21	22	30	23	21	16
退学・除籍者	16	22	15	14	9	5

(出典：理学部事務部作成)

(3) 教育職員免許及び各種免許の取得状況

過去6年間の卒業生の教職免許取得率及び学芸員資格取得率は以下のとおりである。(資料理101~102) また、JABEE認定コースの修了状況は以下のとおりである。(資料理103)

資料理 101 卒業生の資格取得状況 (教員免許)

年度	取得人数	免許取得率 (取得数/卒業生)	免許種類別		卒業生数
			中学校	高等学校	
平成 22 年	78	37%	57	78	212
平成 23 年	61	32%	37	61	192
平成 24 年	68	34%	60	68	202
平成 25 年	77	37%	66	77	209
平成 26 年	66	32%	54	64	204
平成 27 年	49	24%	43	49	207

(出典：理学部事務部作成)

資料理 102 卒業生の資格取得状況 (学芸員資格)

年度	資格取得率 (取得数/卒業生)		卒業生数
平成 22 年	14	7%	212
平成 23 年	15	8%	192
平成 24 年	7	3%	202
平成 25 年	16	8%	209
平成 26 年	11	5%	204
平成 27 年	6	3%	207

(出典：理学部事務部作成)

資料理 103 JABEE (地質科学科応用地質学コース修了生の状況)

年度	応用地質学コース修了生		地質科学科卒業生数
	人数	卒業生に占める割合	
平成 22 年度	21	72%	29
平成 23 年度	22	63%	35
平成 24 年度	14	54%	26
平成 25 年度	22	85%	26
平成 26 年度	22	67%	33
平成 27 年度	15	50%	30

(出典：理学部事務部作成)

(3) - 2 教員の養成、コア・サイエンス・ティーチャー (CST) の養成

理学部卒業生のキャリアパスとして、中学・高校の教員職への就職は重要なものの一つであり、学生本人、保護者からの教職教育への期待も大きい。これに応えるため、教職教育を進めるとともに、平成 21 年度に教職相談室を設置した。(資料理 104)

資料理 104 教職相談について

特任教授が、それぞれの学部での教職相談を行なっています。  
 履修方法・教育実習・教員採用試験等気軽に相談してください。  
 ※工学部・農学部・繊維学部については、教職教育部の教員の授業の前後でも教職相談を行なっています。

[担当と場所ならびに開設日]

百瀬司郎特任教授…松本キャンパス教職教育部教職相談室

井出忠臣特任教授…松本キャンパス……月曜日・水曜日

繊維学部…火曜日

工学部…金曜日

千村重平特任教授…松本キャンパス…月曜日・火曜日・木曜日

農学部…水曜日

繊維学部…金曜日

TEL 0263-37-3367 でも相談可能です。

(出典： <http://kyoushoku.shinshu-u.ac.jp/kyoushoku/note/soudan.html>)

さらにコア・サイエンス・ティーチャー (CST) において独自の教育プロジェクトを進めた結果、毎年 30 名近くの学生が初級 CST を取得した。(資料理 105)

資料理 105 初級 CST 取得状況

	履修者数	学年履修者内訳			
		1年	2年	3年	4年
平成22年度	10	2	3	2	3
平成23年度	27	8	5	12	2
平成24年度	28	11	6	1	10
平成25年度	28	11	9	8	0
平成26年度	31	7	11	6	7

(出典：理学部事務部作成)

(4) 学生の受賞状況

学生の受賞実績は以下の通りである。(資料理106)

資料理106 受賞論文掲載等

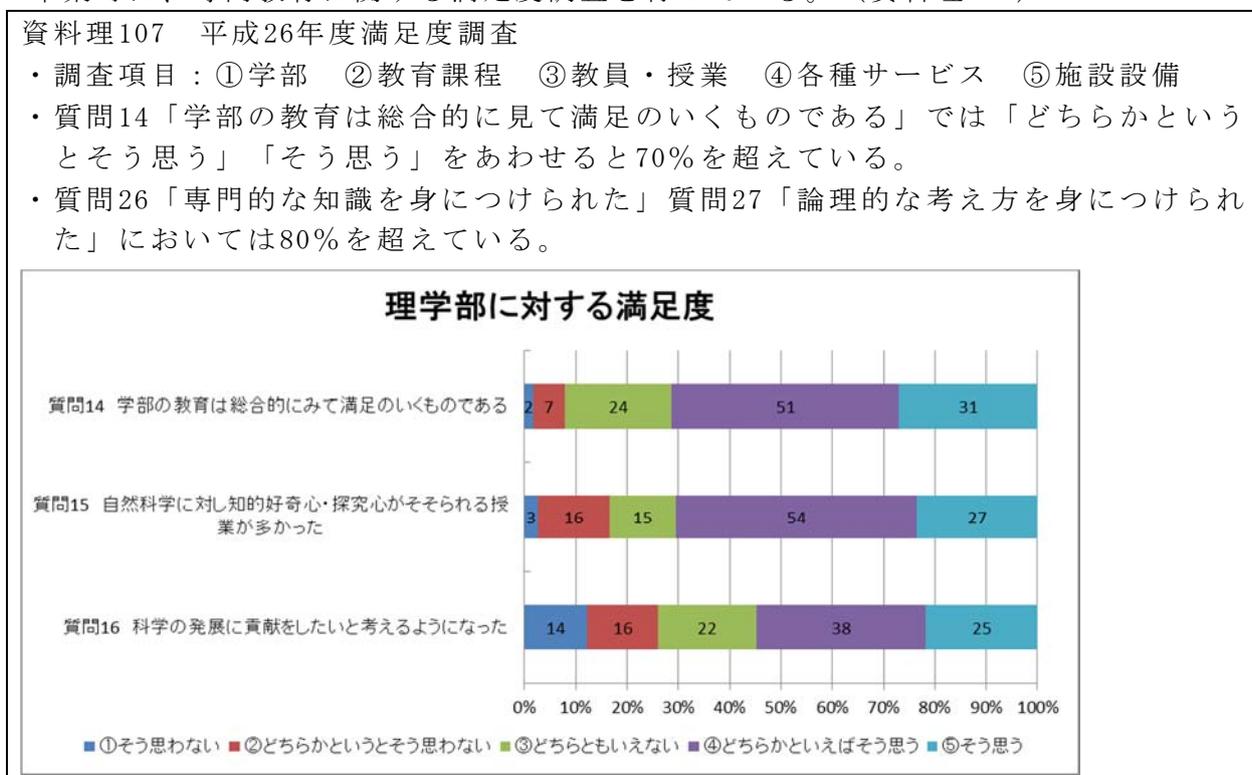
該当年度	学科等	受賞等の概要
平成 23 年度	地質科学科	2012年2月18日(土), 19日(日)に日本科学未来館および東京国際交流館プラザ平成で開催された文部科学省主催の「サイエンス・インカレ」において、奨励賞を受賞
平成 24 年度	生物科学科	2012年8月31日(金)につくば国際会議場で開催された「第2回リサーチフェスタ 2012」において、ポスター発表の研究発表部門で銅賞を受賞

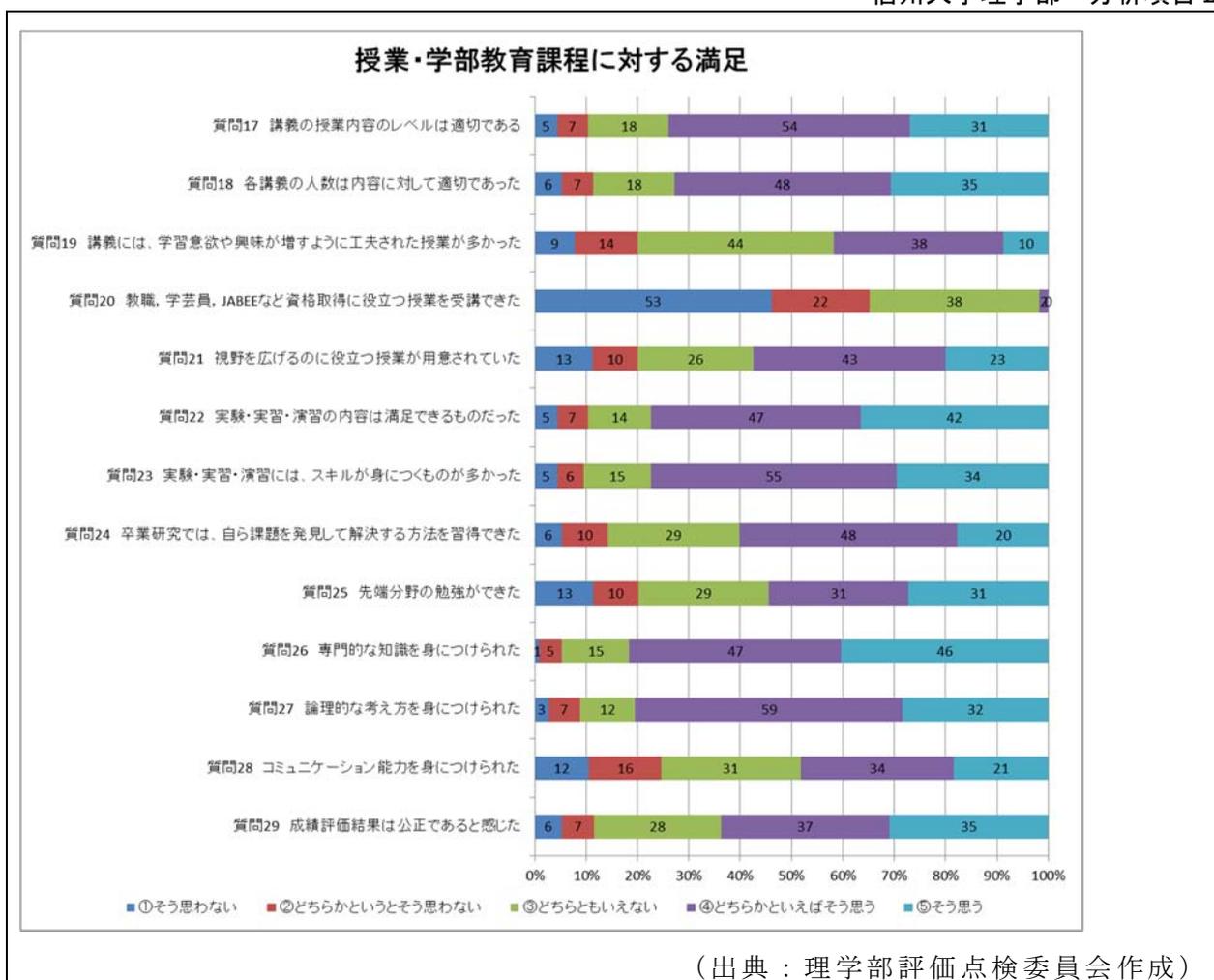
平成 24 年度	物質循環学科	2013年3月2日(土)、3日(日)に幕張メッセ国際会議場(千葉市)で開催された文部科学省主催の「第2回サイエンス・インカレ」において、Nature賞(協力企業賞)を受賞
平成 25 年度	生物科学科	論文が日本動物学会「Zoological Science Award 2013」選出、あわせて受賞論文の中で特に優れた論文に贈られる「藤井賞」の受賞(2013年6月11日)
平成 27 年度	物理学科	2016年3月5日(土)、6日(日)に神戸国際会議場(兵庫県)で開催された文部科学省主催の「第5回サイエンス・インカレ」において、関電工賞(協力企業賞)を受賞

(出典：理学部事務部作成)

(5) 学業の成果に対する学生の評価

卒業時に、専門教育に関する満足度調査を行っている。(資料理107)





(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由)

卒業時のアンケート調査の結果において、「学部の教育は総合的に見て満足のいくものである」では「どちらかというと思おう」「そう思う」をあわせると70%を超えている。(資料107)

過去6年間の卒業生の教職免許取得率は24%から37%で推移している。(資料理101)また、学芸員や習得技術者等の、教育内容を活かした各種資格の取得が行われている(資料理102~103)。

また、様々な分野で本学部の学生が受賞している。(資料理106)

これにより在学生・受験生・それらの保護者等の期待に応えている。

観点 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

(1) 卒業後の進路の状況 (資料理108)

資料理 108 進路状況

大学院進学率はおよそ40～55%、また就職率は全国平均等と比較して一貫して高く75～80%で推移している。約9割の学生が卒業時の進路を決定できている。

卒業年度	区分	卒業者 A	進学者		就職者		専修学校 等校入・外国 の	一時的な仕事に就 いた者	左記以外の者		不詳・死亡 の者
			人(B)	率(B/A)	人(C)	率(C/A-B)			人(D)	率(D/A)	
H21	全体	18,413	8,400	45.62%	7,200	71.91%	287	279	2,050	11.13%	197
	国立	7,460	4,703	63.04%	2,058	74.65%	68	31	553	7.41%	47
	計	211	113	53.55%	74	75.51%	5	0	19	9.00%	0
	本学 男	157	88	56.05%	50	72.46%	4	0	15	9.55%	0
	女	54	25	46.30%	24	82.76%	1	0	4	7.41%	0
H22	全体	18,297	8,185	44.73%	7,213	71.33%	248	289	2,114	11.55%	248
	国立	7,324	4,536	61.93%	2,055	73.71%	55	50	542	7.40%	86
	計	212	106	50.00%	83	78.30%	0	0	23	10.85%	0
	本学 男	155	82	52.90%	53	72.60%	0	0	20	12.90%	0
	女	57	24	42.11%	30	90.91%	0	0	3	5.26%	0
H23	全体	18,116	7,886	43.53%	7,306	71.42%	214	356	2,216	12.23%	138
	国立	7,247	4,423	61.03%	2,000	70.82%	55	69	668	9.22%	32
	計	192	105	54.69%	67	77.01%	0	1	19	9.90%	0
	本学 男	130	77	59.23%	37	69.81%	0	0	16	12.31%	0
	女	62	28	45.16%	30	88.24%	0	1	3	4.84%	0
H24	全体	18,063	7,725	42.77%	7,794	75.39%	235	278	1,900	10.52%	131
	国立	7,142	4,338	60.74%	2,070	73.82%	67	63	561	7.85%	43
	計	202	94	46.53%	84	77.78%	0	0	24	11.88%	0
	本学 男	145	71	48.97%	59	79.73%	0	0	15	10.34%	0
	女	57	23	40.35%	25	73.53%	0	0	9	15.79%	0
H25	全体	17,828	7,517	42.16%	8,004	77.63%	163	298	1,757	9.86%	89
	国立	7,013	4,227	60.27%	2,109	75.70%	42	55	549	7.83%	31
	計	209	73	34.93%	109	80.15%	0	0	27	12.92%	0
	本学 男	152	55	36.18%	76	78.35%	0	0	21	13.82%	0
	女	57	18	31.58%	33	84.62%	0	0	6	10.53%	0
H26	全体	18,233	7,767	42.60%	8,608	82.25%	137	227	1,409	7.73%	85
	国立	7,347	4,453	60.61%	2,274	78.58%	41	59	490	6.67%	30
	計	204	91	44.61%	95	84.07%	0	0	18	8.82%	0
	本学 男	154	76	49.35%	64	82.05%	0	0	14	9.09%	0
	女	50	15	30.00%	31	88.57%	0	0	4	8.00%	0
H27	全体										
	国立										
	計	215	74	34.42%	122	86.52%	0	1	18	8.37%	0
	本学 男	160	59	36.88%	88	87.13%	0	1	12	7.50%	0
	女	55	15	27.27%	34	85.00%	0	0	6	10.91%	0

※「全体」「国立」は、学校基本調査の全国集計のうち、各年度>高等教育機関《報告書掲載集計》>卒業後の状況調査>大学卒業後状況調査（関係学科別）より、区分「理学」を抜粋  
 なお、平成27年度については、平成28年6月末現在未公開

（出典：学校基本調査をもとに経営企画課作成）

就職活動シーズンには、就職ガイダンスや講演会が開催され、学生の就職活動を組織的に支援している。（資料理109～110）

資料理 109 理学部就職セミナー実施状況（平成27年度）

※キャリアサポートセンターで実施する各種セミナー等の他に、理学部就職委員会が主催してガイダンス・講演会・企業説明会を開催している。

開催日	事 項
H27. 4. 17	会社説明会 電子テクノ株式会社 ソニー株式会社
H27. 4. 20	会社説明会 京セラ株式会社 株式会社地熱エンジニアリング
H27. 4. 21	会社説明会 株式会社トヨタコミュニケーションシステム 日本石油金属資源開発機構（JOGMEC）
H27. 4. 22	会社説明会 玉野総合コンサルタント株式会社
H27. 4. 23	会社説明会 地圏総合コンサルタント株式会社 開発設計コンサルタント
H27. 5. 11	会社説明会 ニコン株式会社
H27. 5. 22	会社説明会 水資源開発機構
H27. 6. 11	マイナビ就職ガイダンス
H27. 6. 26	会社説明会 株式会社 SRI
H27. 6. 30	会社説明会 ソニー・イーエムシーエス株式会社
H27. 7. 3	会社説明会 株式会社富士通アドバンスエンジニアリング
H27. 8. 7	会社説明会 HOYA 株式会社
H27. 10. 6	会社説明会 株式会社 SRI
H27. 10. 31	キャリア教育イベント「キャリアデザインを考える」 会社説明会
H27. 12. 17	国際石油開発帝石株式会社 会社説明会
H27. 12. 18	JSR 株式会社

H28. 1. 29	物理学生のための就職支援セミナー 会社説明会	
H28. 2. 10.	ソニー株式会社 会社説明会	
H28. 2. 15	三祐コンサルタンツ株式会社 会社説明会	
H28. 2. 16	JX 金属株式会社 会社説明会	
H28. 2. 17	水資源開発機構 会社説明会	
H28. 2. 18	株式会社戸田建設 会社説明会	
H28. 2. 19	株式会社地熱エンジニアリング 株式会社ニュージェック	

(出典：理学部事務部作成)

資料理 110 「キャリアデザインを考える～卒業生と就職を語ろう～」ポスター

**平成27年**  
**10月31日(土)**  
**14:00～17:00**  
**※申込不要・出入自由**  
対象：全学生(学部・大学院)  
会場：理学部C棟2階  
大会議室

①講演会「知って役立つ労働法」  
長野労働局総務部企画室長 青木 重和 様  
14:00～15:00

②講演会「将来のキャリアを見据えての  
学生生活の過ごし方」  
信州大学キャリアサポートセンター 光武 聖子 様  
15:00～15:20

③OB・OGとの座談会  
「卒業生と就職を語ろう」  
座談会参加者一覧：  
●JR東日本 ●松本市役所  
●信州吉野電機 ●松本市立波田中学校  
●JFEテクノリサーチ ●信州大学  
15:30～17:00

主催：信州大学理学部就職委員会 後援：信州大学理学部同窓会

キヤリアデザインを考える  
卒業生と就職を語ろう

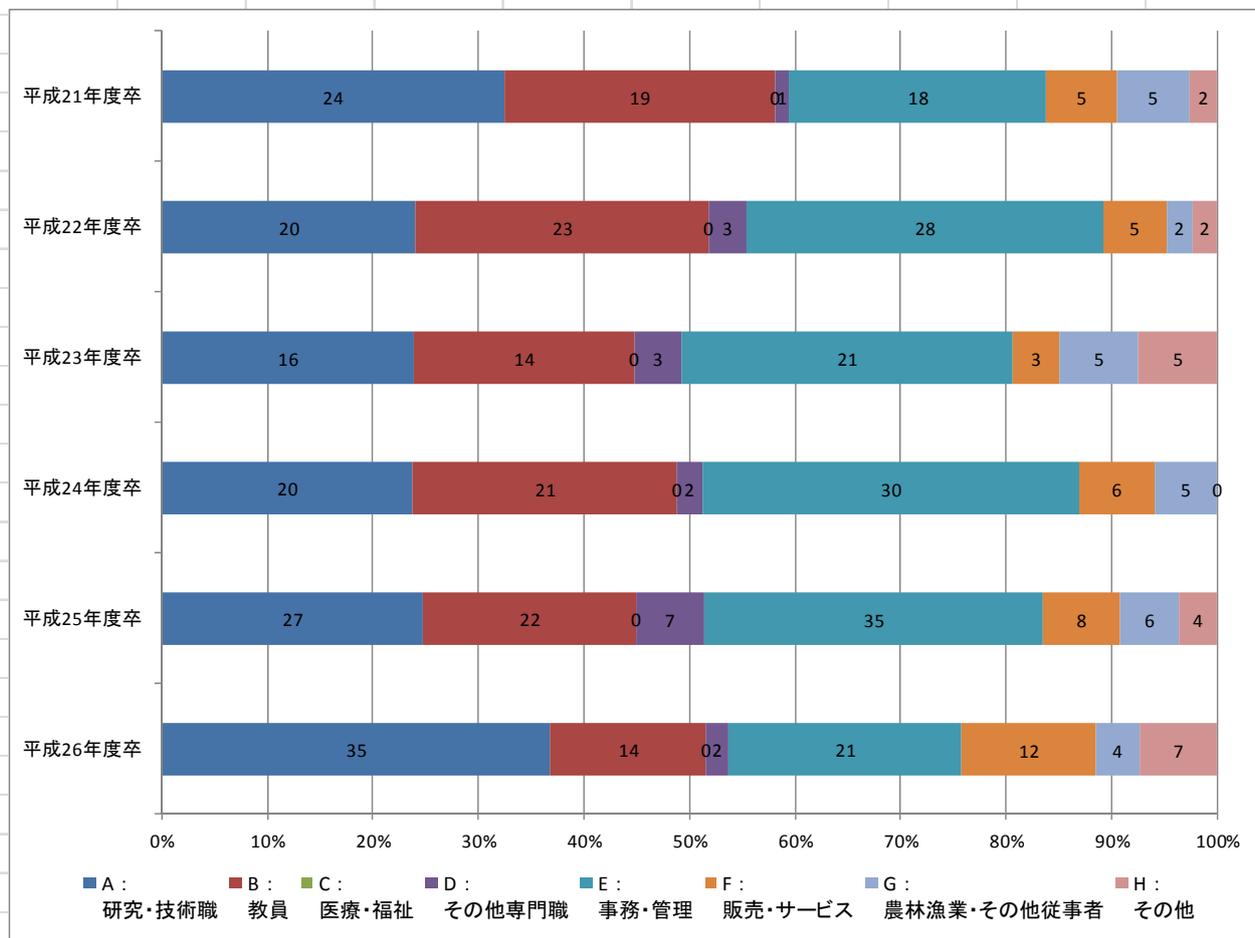
(出典：理学部就職委員会作成)

就職先に関して、卒業生の職業別・産業別就職状況は以下の通りである。（資料理111）

資料理 111 職業別就職状況

6年間に於いて、約5割以上の学生が、各種技術者や教員、その他専門職等の職種に就いており、各学科で身につけた能力と就職先の職種との関連性が認められる。

	A: 研究・技術職	B: 教員	C: 医療・福祉	D: その他専門職	E: 事務・管理	F: 販売・サービス	G: 農林漁業・ その他従事者	H: その他	合計
平成21年度卒	24	19	0	1	18	5	5	2	74
平成22年度卒	20	23	0	3	28	5	2	2	83
平成23年度卒	16	14	0	3	21	3	5	5	67
平成24年度卒	20	21	0	2	30	6	5	0	84
平成25年度卒	27	22	0	7	35	8	6	4	109
平成26年度卒	35	14	0	2	21	12	4	7	95



(出典：理学部事務部作成)

(2) 卒業生、卒業生就職先からの意見聴取等

平成24年、27年に行った卒業生との座談会(資料理112)では、企業人として活躍する卒業生から、学部での実験や実習、卒論等が現在の職業に役立っているとの回答が寄せられた。(資料理113)

資料理112 卒業生との座談会

理学部評価・点検委員会では、信州大学銀嶺祭(大学祭)期間中の11月3日(土)午後、卒業生による座談会「卒業生と理学部を語ろう～理学部の教育改善を目指して～」を開催いたしました。

この座談会は、学部教育を実際に受けた卒業生の率直な意見をお聞きし、理学部教育について評価・点検を行い、学部教育の改革に向けた参考にしようという考えのもとに実施されたものです。

当日は、各学科を卒業・修了し、さまざまな分野・職場で活躍されている20代、30代の計13名に出席頂き、卒業後に感じている本学の理学部や理学部教育について、また、将来理学部はこうあってほしいということについて率直な感想、意見を語って頂きました。



また、平成27年度も同様に、信州大学銀嶺祭(大学祭)期間中の10月31日(土)に学生OB・OGとの座談会を行い、6名のOB・OGと23名の現役学生が就職について意見交換を行いました。

(出典：理学部旧ホームページより抜粋、理学部事務部作成)

資料理113 卒業生と理学部を語ろう！OBアンケートの結果(抜粋)

卒論・修論・博士論文作成について

数学の文章を書くときに、誤解を生じないような表現を心がけました。数学の文章を書く上では良い経験になりました。

数学全般の力。

まとめる・文章を作成するということが学部生のときにどういうものか分かっていなかった。レポートも正しいことを書いて提出すれば何とかなっていた。しかし、論文を作成するようになり、「自分でまとめること」「人に伝えたいことを適切に書く」という重要さがわかり、人に見られるもの、人に興味をもってもらえるような文章を書く力をつけることができたと思う。

論理的な文章の組立や、客観的なものの考え方などです。

コツコツとデータ集めでしょうか。

実際に文章を書いて、先生から直しをもらい過程を経て文章の書き方が身についた。何回かやり取りをするようになると誤字・脱字もぐらいいか赤入れがなくなってきて力が付いたことを実感した。現在仕事の上でも、後輩を指導する上でも役に立っていると思う。

いろいろありますが、特に自分の見解を他者に伝える難しさが壁でした。知識と疑問点、至らない部分を第三者的に見て、限られた時間でまとめる力は、仕事でもプライベートでも必要です。まだまだ修行中ですが、とても役に立っています。

卒論発表会も、学部卒ではなかなか経験できないことだったのだと、社会出てから気づきました。

卒論をまとめる過程で得た「自分の足を使って調べる」経験は、行政という立場での企画・立案においても、とても役に立っています。

重複しますが、「常に疑問を持つ」ということ。あと、似て非なることとっていますが、「常に好奇心を持つ」ということは人生を豊かにしてくれると思います。

卒論などでは一人で論文をまとめる作業のなかで、「筋道立てて説明する」力が付いたと思う。この力は現在の仕事での住民に対する説明など専門を問わずに役に立っているものであると思う。

データを正確に取ってこれらをまとめる。これは授業で学ぶこと。  
卒論・修論では相手に伝える・相手に読んでもらえるようにすることが大事だと思った。  
知っていることと分かったことは全く違う。  
(先生から言われた課題受け身で取り組んでいると)なぜこの研究をしているのかという「イントロダクション」が卒論の時に書けなかった。”分からないから明らかにする”ということすら気づかず書けず悩んだ記憶がある。  
実体験をアウトプットとする力が身についたと思う。

(出典：平成24年「卒業生と理学部を語ろう」アンケート)

### (3) インターンシップ

理学部の全ての学科では平成19年度よりインターンシップに関する授業を設けており、近年では毎年10人程度の参加者がある。(前掲資料理81～82、p 88-89)

(水準) 期待される水準を上回る

(判断理由)

インターンシップの導入や、就職セミナーの実施等の就職指導によって、進学率や就職率とも全国平均以上であり、学生の進学・就職支援が十分になされている(資料理81～82、108)。このような環境の下で、卒業時の進路決定が十分になされていると言える。

また、就職先として専門分野に関連した進路を選ぶ学生が過半数に及び、学部での専門教育が進路決定に大きな影響を与え学生の力を引き出しているといえる(資料理111)。

また、社会人として活躍する卒業生からも、専門教育が効果的に学生の能力を引き出していることが示されている(資料理113)。

以上のことから、在学生・受験生・保護者、および卒業生の雇用者からの期待に応え、期待される水準を上回っているといえる。

### Ⅲ 「質の向上度」の分析

#### (1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

平成27年度に改組を行い、教育実施体制に格段の改善がみられた。プログラム制の導入（資料理8）により、個別性の高い理学部の学問分野の専門性を確保しつつ、互いに関連の深い理学分野を広く学ぶこともできるようになった。

学部長のガバナンスを強化し、学生からの指摘や要望に対して、各教員が対応を文書で教務委員会に報告するよう体制を強化した（資料理24、42、43）ため、日常的な授業改善がおこなわれるようになった。第1期中期目標期間（H16～21年度）においては、このような授業改善の文書報告はおこなわれていなかった。また学生相談センターを平成24年度に新設したことにより、サポート体制が充実した（資料理30）。

教育内容・方法については、第2期中期目標期間において教育関連のプロジェクトを次々に実施してきた。まず「理数学生応援プロジェクト」事業（資料理59～63）は先進プログラムとして継承・発展している。また「コア・サイエンス・ティーチャー養成プログラム」事業（資料理83）により設置された教職相談室（資料理104）は、その後の理学部の教職教育に大きな役割を果たし続けている。

#### (2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

##### ① 事例1 「理数学生応援プロジェクト実施に伴う学生の受賞」

学生の主体的な学習を促すために、「理数学生応援プロジェクト」（資料理59～63）において新入生ゼミ、アドバンス実験、サイエンスラウンジ、自主ゼミ等の開催支援を行った。平成25年度以降は、学部による継続的な支援を続けている。

##### ② 事例2 「就職率の向上」

OB・OGとの座談会などが開催され（資料理112）、就職支援体制が整備されている（資料理109）。就職先関係者からの聴取もなされており、社会の要請を教育に反映する体制も整備されている。これらを反映して、平成21年度に比べ、就職率は高い数値を維持している。また、約9割の学生が卒業時の進路を決定でき、良好な状態を維持している（資料理108）。

## 8. 医学部

- I 医学部の教育目的と特徴・・・・・・・・・・8-2
- II 「教育の水準」の分析・判定・・・・・・・・8-21
  - 分析項目 I 教育活動の状況・・・・・・・・8-21
  - 分析項目 II 教育成果の状況・・・・・・・・8-136
- III 「質の向上度」の分析・・・・・・・・・・8-167

## I 医学部の教育目的と特徴

## 1 教育目的

## (1) 理念・目標

本学部の理念・目標を以下に示す（資料医1）。

**資料医1** 医学部の理念・目標

## （理念）

豊かな人間性、広い学問的視野と課題探求能力を身につけた臨床医、医療技術者や医学研究者などを育成するとともに、高度で個性的な医科学研究を行います。また医科学の教育・研究と医療活動を発展させることによって地域貢献を果たし、国際交流に寄与します。

## （教育目標）

1. 医に携わる者としての基本的な知識・技能・態度を修得させる。
2. 医学的問題点の把握と自発的に解決する能力を培う。
3. 豊かな人間性と医に携わる者としての倫理観を育てる。
4. 幅広い教養教育を通して、人間としての教養をたかめる。
5. 国際交流ができる外国語能力を育成する。

（出典：信州大学ホームページ「基本理念・目標・沿革」）

## (2) 3つの方針

本学部の学位授与、教育課程編成・実施、入学者受入の方針を以下に示す（資料医2～4）。

**資料医2** 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

## （医学科）

信州大学医学部医学科の理念と目標に則り、以下の知識と能力を十分培った学生に「学士（医学）」の学位を授与する。

## 「意欲・態度」

- ・温かい人間性や高い倫理観を裏付ける幅広い教養を身につけ、社会の健全な発展のために行動できる。
- ・医師としての高い見識と誠実な態度を身につけ、病める人を救う強い情熱を持っている。

## 「思考・判断」

- ・患者の身体的・心理的・社会的状態を科学的に評価し、さまざまな情報を総合して、適確に判断し、必要な行動ができる。

## 「コミュニケーション」

- ・患者やその家族と十分な意思の疎通ができ、医療のみならず保健や福祉の関係者と良好な関係を築くことで、チーム医療を推進する能力を持っている。

## 「技能・知識」

- ・疾病の正確な診断と適切な治療を遂行するための幅広い知識と高度な技法を修得している。常に最新の医療情報を収集するとともに、生涯自らの学習課題を開拓し探求することができる。

## （保健学科）

信州大学医学部保健学科の理念と目標に則り、以下の知識と能力を十分培った学生に「学士（看護学）」又は「学士（保健学）」の学位を授与する。

1. 生命を尊び、人間についての幅広い知識を身につけ、対象を全人的に理解して、人々の健康を支援することができる。
2. 保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠

に基づいた判断の進め方について理解することができる。

3. 保健・医療の専門職者として必要な感性を磨き、基本的知識・技術を獲得して、さまざまな状況で活用できる。
4. 保健・医療・福祉の現場において、専門職者として自己の責任を自覚し、チームの一員として協働活動に参加できる。
5. 文化の多様性を理解し、国際的視野に基づいた保健・医療活動の必要性とその方法を理解できる。
6. 多くの学問分野に接して幅広い教養と探求的、創造的思考を身に付け、保健・医療の専門職者として必要な学習課題や目標を自ら設定し、常に課題の克服や目標達成に取り組むことができる。

(出典：信州大学ホームページ「信州大学学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」)

### 資料医 3 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

医学科ディプロマポリシーに基づくカリキュラムポリシー

信州大学が定めたディプロマポリシーおよびカリキュラムポリシーを受け、医学部医学科のディプロマポリシーに掲げた「意欲・態度」「思考・判断」「コミュニケーション」「技能・知識」の各項目を備えた医療人、医学研究者を育成するため、以下のような考え方にに基づきカリキュラムを作成します。

温かい人間性や高い倫理観を裏付ける幅広い教養を身につけるために、専門教育と並行して教養教育及び医療倫理教育を実施し、まずは社会人として、その後医師としての高い見識と誠実な態度の醸成を図ります。また、疾病の正確な診断と適切な治療を遂行するための幅広い知識と高度な技法を修得するために、低学年から専門基礎科目と専門科目を積み上げていきます。基礎医学講義・実習と並行して、グループディスカッションにより臨床症例問題の解決を図る少人数教育を行うことで、基礎医学的知識の統合的理解および基礎医学的知識と臨床医学的知識の融合を図ります。加えて、課題解決型の実習により、常に最新の情報を収集する技能の向上と様々な情報を総合的に判断する能力の向上を図ります。臨床医学講義・実習では、臓器別に講義・演習・実習を集約し、関連する基礎医学知識の確認や、臨床医学の基本的知識の習得を図ります。症例検討型の授業を取り入れることで、基本的知識の深い理解をうながします。

患者やその家族との意思疎通やチーム医療を推進する能力を身に付けるべく、低学年時から他学科と合同して行う講義や実際の患者と触れ合う機会を取り入れます。

臨床実習では、それまでに身に付けた知識や態度、技術を繰り返し確認することで、医師として求められるレベルにまで引き上げていきます。

保健学科カリキュラム概要

本学保健学科は、未曾有の高齢社会の中で、変化する社会をとらえ、進展し続ける医療科学技術を理解し、全人的医療を行いうる医療人を育成することを目的としております。この目的を達成するため、信州大学という8学部を擁する総合大学の利点と、長野県内外に輩出した卒業生を核として全国に張り巡らされたネットワークを最大限に活用し、フィールドでの実践を重視した教育を基本として人材を養成します。

(信州大学ホームページ「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」)

### 資料医 4 入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー）

(医学科)

医学科の求める学生像

医学部医学科ではこんな人を求めています。

- (1) 医師となる明確な目的意識を持っていること
- (2) 医学を学んでゆくにあたって必要な基礎学力があること

- (3) 医師となるのにふさわしい協調性，決断力，積極性を持っていること
- (4) 病める人を救う情熱，思いやりと奉仕の心，倫理観を持っていること
- (5) 将来の人類のために創造的な医学研究を志向する探求心を持っていること

上記を満たすために，高等学校では以下の科目を身につけていることが望めます。

- ① 数学：数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学Ⅲ，数学A，数学Bについての十分な知識・技能と数学的思考法
- ② 理科：物理，化学，生物，地学についての基礎的知識と科学的な思考力
- ③ 地理歴史，公民：世界史B，日本史B，地理B，現代社会，倫理，政治経済についての基礎的知識と社会的素養
- ④ 国語：十分な読解力，思考力，表現力
- ⑤ 英語：十分な読解力，表現力，会話能力
- ⑥ 特別活動及び課外活動を通じた自主的，協調的な態度や思いやりと奉仕の心

(保健学科)

保健学科の求める学生像

保健学科は専門性の異なる看護学専攻，検査技術科学専攻，理学療法学専攻，作業療法学専攻で構成されています。保健・医療においては専門性を追求するだけでなく，刻々と変化していく社会情勢や科学に対応し，様々な職種間の連携をとることが必要です。

このため，保健学科は，次のような資質を備えた学生を強く望んでいます。

- (1) “人”に深い関心と思いやりを持ちうる人
- (2) 絶え間なく進歩する科学を理解・適用していくための基礎学力と論理的能力のある人
- (3) 社会に対し積極的に関わり，専門職としての役割を果たそうとする意欲のある人

保健学科に入学するまでに学んできてほしいこと

保健・医療・福祉領域における医療職者の役割は，拡大し，多様化してきました。医療職者には，人間の命の尊さを真摯に理解し，人を思いやる心を持ち，幅広い基礎知識と応用力，たゆみない探究心により，社会に対しても積極的に関わり役割を果たそうとする意欲を持つことが求められます。

このため，保健学科に入学するまでに高等学校等において次のようなことを身につけていることが望めます。

- (1) 国語・英語に関しては，基礎的な読解力・表現力・コミュニケーション能力・論理的思考力
- (2) 数学に関しては，「数学Ⅰ」，「数学Ⅱ」，「数学A」，「数学B」の知識と論理的思考方法
- (3) 理科に関しては，「物理」，「化学」，「生物」の基礎的な知識と科学的に探究する姿勢
- (4) 地理歴史・公民に関しては，刻々と変化していく社会情勢に対応していくための基礎知識と応用力
- (5) 特別活動及び課外活動等を通じた自主的，協調的な態度や思いやりと奉仕の心

(出典：「信州大学学生募集要項」)

## 2 組織の特徴や特色

### (1) 組織の特徴

#### ① 基本的組織の特徴

本学は県内5キャンパスに分散しており，本学部は，松本キャンパスにて一貫教育を行っている。(資料医5～7)

資料医 5 キャンパス配置図



(出典: 信州大学ホームページ「交通・キャンパス案内」)

資料医 6 : 全学教育機構の概要

**全学教育機構とは**

全学教育機構は、信州大学が定める教育上の基本方針に基づき、本学の共通教育（各学部が編成する教育課程のうち、本学学生に対する教養教育、基礎教育及び日本語・日本事情に係る教育について、全学協力体制のもとに、全学共通に行う教育）及び教職関係5学部（人文学部、理学部、工学部、農学部及び繊維学部）の教職教育（教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための教育）の実施機関として、各学部と緊密に連携し、全学的な見地から共通教育に係る教育課程の企画及び円滑な実施を図るとともに、本学が掲げる高度専門職業人養成の教育目標を達成するため、学部一貫教育を前提に本学の教育に関する研究開発、企画及び支援を総合的に行うことを目的としています。

**1年次生は、全学部生が全学教育機構で学びます。**

信州大学は長野県内の5つのキャンパスに8学部が散在していますが、全学部の1年次（医学部医学科は2年次まで）は、松本キャンパスの全学教育機構に集い、共通教育科目を受講します。

**全学の教育力を結集した共通教育を実施します。幅広い教養と基礎的能力を獲得できます。**

信州大学の共通教育は、全学教育機構の教員とともに、全学部の教員が当然の責務として行うという全学協力体制に立脚しています。これにより、学生は、全学教員の専門知識を生かした、いわば大学の総力を結集した科目を学ぶことが可能になります。信州大学は、幅広い教養と基礎的能力に基づく課題探求能力、豊かな人間性や国際性をもった人材育成を目指しております。

(出典: 信州大学全学教育機構ホームページ「全学教育機構とは」)

**資料医 7：信州大学全学教育機構規程**

(目的)

第 2 条 機構は、信州大学(以下「本学」という。)が定める教育上の基本方針に基づき、本学の共通教育(各学部が編成する教育課程のうち、本学学生に対する教養教育、基礎教育及び日本語・日本事情に係る教育について、全学協力体制のもとに、全学共通に行う教育をいう。以下同じ。)及び教職関係 5 学部(人文学部、理学部、工学部、農学部及び繊維学部をいう。以下同じ。)の教職教育(教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための教育をいう。以下同じ。)の実施機関として、各学部と緊密に連携し、全学的な見地から共通教育に係る教育課程の企画及び円滑な実施を図るとともに、本学が掲げる高度専門職業人養成の教育目標を達成するため、学部一貫教育を前提に本学の教育に関する研究開発、企画及び支援を総合的に行うことを目的とする。

(全学協力体制等)

第 3 条 共通教育及びこれを履修する学生(以下単に「学生」という。)の修学指導は、全学協力体制により実施するものとし、各学部は、その実施体制の管理及び運営に責任を負うとともに、本学のすべての教員は、その構成員として共通教育の実施及び学生の修学指導を担当することを任務とする。

2 機構は、前条の目的を達成し、次条に定める業務を遂行するため、附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センターその他の関係部局(以下「関係部局」という。)と有機的に連携するとともに、関係委員会等と緊密に連携協力する。

(出典:信州大学規程集)

**②学部の特徴**

本学部は昭和19年設置の松本医学専門学校に始まり、昭和26年に医学部医学科となり、保健学科は平成14年に医療技術短期大学部から改組。(資料医 8)

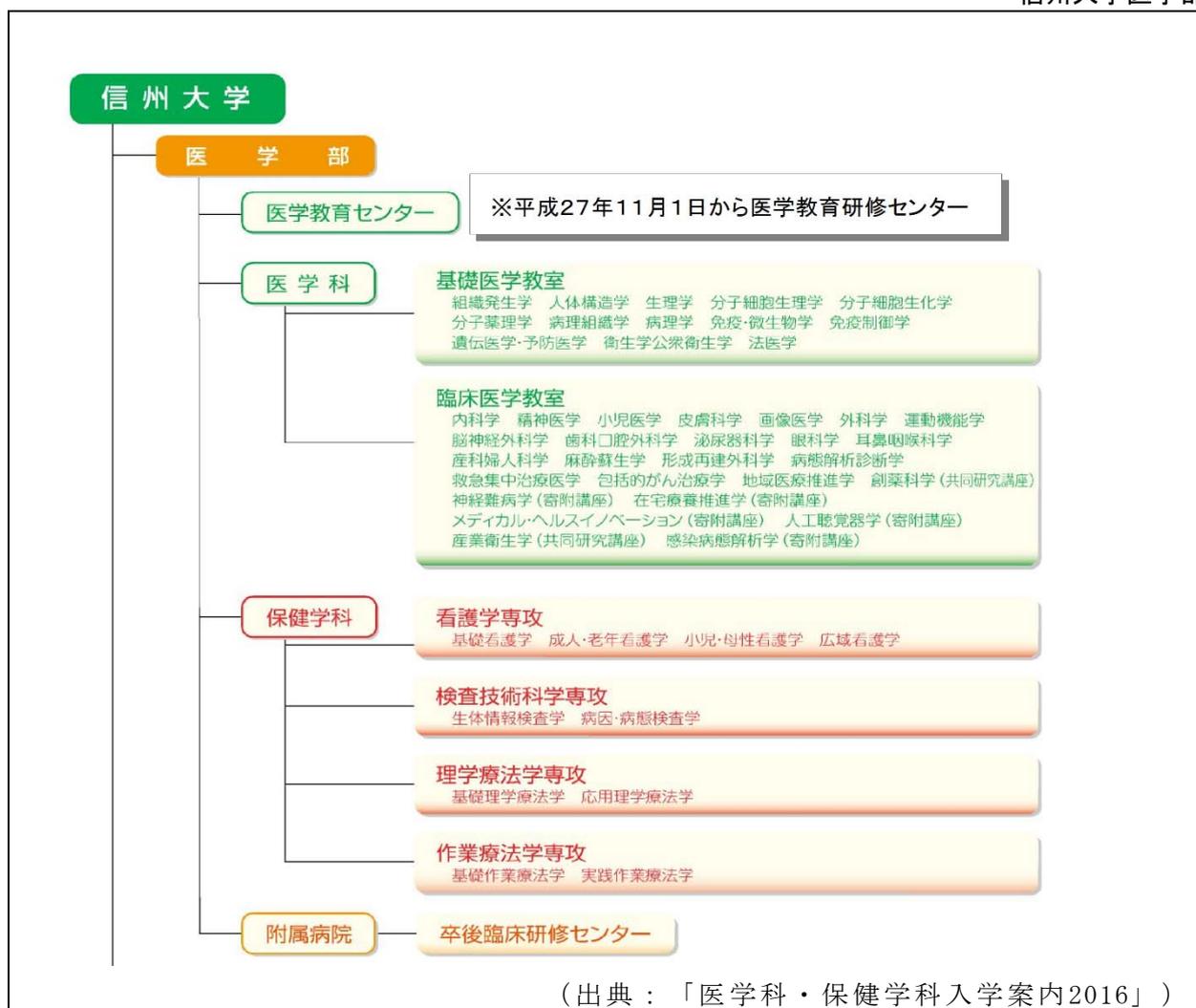
**資料医 8：医学部組織の概要**

○本学部は県内唯一の医育機関として、また附属病院は県内唯一の大学病院として長野県の医療をリードしている。

○今日まで多くの医師、看護師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士等を輩出し、長野県のみならず日本の医療に貢献している。

○専門医を多数育て、最先端医療を積極的に導入することにより、長野県医療の最後の砦としての役割を果たしている。一方、多くの患者さんに接し、人に優しい医療を実践することにより、地域医療を支える人材を多数育成している。さらに、リサーチマインドを持った医療従事者の育成を推進し、医療レベルの向上に貢献している。

(次頁に続く)



③ 産学官連携施設

産学官が連携したインキュベーション施設を有している（資料医9）。

資料医9 産学官連携施設

(大学の施設)	所在地(市町村) ※すべて長野県
信州地域技術メディカル展開センター	松本市

(出典：「大学概要2015」抜粋)

④ 寄附講座

研究機関等からの付託を受け寄附講座を設置している（資料医10）。

資料医10 医学分野に関する寄附講座一覧

講座名	寄附者	設置期間	寄附額(期間総額) (単位：千円)
地域医療推進学講座	長野県	H21.4.1～H24.3.31	90,000
医学教育学講座	JA長野厚生連	H22.4.1～H27.3.31	60,000
神経難病学講座	キッセイ薬品工業株式会社	H22.4.1～H32.3.31	310,000
下部尿路医学講座	旭化成ファーマ, 杏林製薬	H23.4.1～H26.3.31	28,500

	株式会社, グラクソ・スミスクライン株式会社		
創薬科学講座	キッセイ薬品工業株式会社	H24. 4. 1～H30. 3. 31	180, 000
在宅療養推進学講座	キッセイコムテック株式会社	H25. 3. 27 ～ H28. 3. 31	24, 000
人工聴覚器学講座	メドエル・エレクトロメデイツィニッシェ・ゲレーテ・ゲーエムベーハー	H25. 4. 1～H28. 3. 31	39, 000
メディカル・ヘルスイノベーション講座	株式会社ブルボン, 多摩川精機株式会社, 社会医療法人財団慈泉会相澤病院	H25. 4. 1～H28. 3. 31	54, 000
下部尿路医学講座	旭化成ファーマ, 杏林製薬株式会社	H26. 4. 1～H27. 3. 31	8, 000
産業衛生学講座	セイコーエプソン株式会社, 東筑摩郡筑北村, 株式会社ファーストリテイリング	H26. 4. 1 ～ H27. 10. 31	6, 358
感染病態解析学講座	JA 長野厚生連	H27. 4. 1～H32. 3. 31	60, 000

(出典：医学部作成)

⑤協力, 関連施設

本学部の教育にあたり, 多くの病院・施設の協力を得ている。(資料医11)

**資料医11 教育協力病院・施設**

(医学科)

病院名 (37病院)		
長野県立 須坂病院	市立大町総合病院	県立こころの医療センター 駒ヶ根
長野県立 木曽病院	飯山赤十字病院	富士見高原病院
安曇総合病院	昭和伊南総合病院	岡谷市民病院
佐久総合病院	伊那中央病院	新町病院
篠ノ井総合病院	諏訪赤十字病院	肝疾患診療相談センター
小諸厚生総合病院	安曇野赤十字病院	相澤病院
長野松代総合病院	長野県立こども病院	市立甲府病院
北信総合病院	長野市民病院	丸の内病院
国保依田窪病院	長野赤十字病院	諏訪中央病院
まつもと医療センター松本病院	松本市立病院	上越総合病院
まつもと医療センター中 信まつもと病院	飯田市立病院	丸子中央病院
国立病院機構信州上田医療センター	厚生連 鹿教湯病院	佐久市立国保浅間総合病院
国立病院機構 小諸高原病院		

(保健学科)

看護学専攻

相澤訪問看護ステーション ひまわり	小諸高原病院	松本市北部デイサービスセンター
相澤病院	塩尻市保健福祉センター	松本市北部保健センター
相澤訪問看護ステーション ひまわり塩尻事業所	塩尻市社会福祉協議会訪問看護ステーション	松本市立病院
あさま温泉敬老園デイサー	篠崎訪問看護ステーション	松本市立病院 訪問看護ス

ビスセンター		テーション
あずみの里訪問看護ステーション	篠ノ井総合病院	松本市田川デイサービスセンター
安曇野市豊科保健センター	小規模多機能型居宅介護事業所 となりの縁側おかだ	松本市北部デイサービスセンター
安曇野市穂高保健センター	小規模多機能施設 かがやきの家笹部	松本赤十字乳児院
安曇野市三郷保健センター	城山介護老人保健施設 ゆめてらす	松本西訪問看護ステーション
安曇野赤十字訪問看護ステーション	竹の湯デイサービスセンター	松本保健福祉事務所
蟻ヶ崎デイサービスセンター	中信松本病院	丸の内病院
池田町総合福祉センターやすらぎの郷	ツクイ松本デイサービスセンター	丸の内訪問看護ステーション
うつくしがはら温泉敬老園 ショートステイ	ツクイ松本北深志デイサービスセンター	南ふれあいホーム
うつくしがはら温泉敬老園 デイサービスセンター	デイサービスセンタージョイフル岡田	村井病院
うつくしの里デイサービスセンター	長野県看護協会南松本訪問看護ステーション	メンタルケアセンターあずみ
大町市中央保健センター	長野県立こども病院	山形村保健福祉センターいちいの里
大町保健福祉事務所	藤森訪問看護ステーション	ゆめの里和田訪問看護ステーション
介護老人福祉施設 岡田の里	訪問看護ほっとステーション	れんげの家
岡谷市保健センター	松岡病院	老人保健施設 あずみの里
介護老人保健施設 安曇野メディア	松川村保健センター	
介護老人保健施設 ハーモニー	松本協立訪問看護ステーションすみれ	
北アルプス医療センターあづみ病院併設訪問看護ステーションあずみ	松本市医師会訪問看護あいステーション	
北ふれあいホーム	松本市西部保健センター	
グループホームおかだ	松本市中央保健センター	
御殿の湯デイサービスセンター	松本市南部保健センター	
検査技術科学専攻		
相澤病院	信州大学医学部附属病院	松本医師会センター
長野県立こども病院		
理学療法学専攻		
あいち小児保健医療総合センター	長岡療育園	竹重病院
安曇総合病院	長野中央病院	長野県立総合リハビリテーションセンター
安曇野赤十字病院	藤森病院	長野県厚生連佐久総合病院

飯山赤十字病院	松本協立訪問看護ステーションすみれ	長野県厚生連鹿教湯三才山リハビリテーションセンター三才山病院
石川県立中央病院	松本市立病院	長野県厚生連鹿教湯三才山リハビリテーションセンター鹿教湯病院
一之瀬脳神経外科病院	丸子中央病院	長野県厚生連小諸厚生総合病院
伊那中央病院	山梨県立あけぼの医療福祉センター	長野県厚生連富士見高原病院
医療法人社団日高会 日高病院	一宮西病院	長野県厚生連北信総合病院
神奈川リハビリテーション病院	稲荷山医療福祉センター	長野県立こども病院
上條記念病院	昭和伊南総合病院	長野松代総合病院
国保依田窪病院	信州大学医学部附属病院	長野赤十字病院
小林脳神経外科病院	信濃医療福祉センター	飯田市立病院
しいのみ学園	諏訪赤十字病院	富士温泉病院
城西病院	諏訪中央病院	
独立行政法人地域医療機能推進機構東京蒲田医療センター	相澤病院	

作業療法学専攻

相澤病院	信州大学医学部附属病院	小諸厚生総合病院
飯田市立病院	総合上飯田第一病院	上伊那生協病院
伊那中央病院	長野県立須坂病院	城西病院
介護療養型老人保健施設いずみの	長野県立総合リハビリテーションセンター	信濃医療福祉センター
介護老人保健施設辛夷園	長野市民病院	諏訪湖畔病院
介護老人保健施設ハーモニー	長野中央病院	諏訪中央病院
上條記念病院	メンタルサポートそよかぜ病院	千曲荘病院
健和会病院	安曇野赤十字病院	倉田病院
厚生連安曇総合病院	栗田病院	鶴賀病院
こころの医療センター駒ヶ根	恵寿総合病院	南信病院
佐久総合病院	北アルプス医療センターあずみ病院	飯田病院
鹿教湯三才山リハビリテーションセンター鹿教湯病院	厚生連富士見高原病院	北ふれあいホーム
篠ノ井総合病院	佐久総合病院	
城西病院	鹿教湯三才山リハビリテーションセンター三才山病院	

(出典：医学部作成)

(2) カリキュラムの特徴・特色

① 基本的な構成

本学は、共通教育科目と専門科目にて教育課程を編成している。(資料医12)

<p><b>資料医12</b> 信州大学学則 (教育課程の編成方針)</p> <p>第42条 各学部は、本学、当該学部及び学科又は課程等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、体系的に教育課程を編成するものとする。</p> <p>2 教育課程の編成に当たっては、学部等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深</p>
--

い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮するものとする。  
(授業科目の区分)

第43条 本学で開設する授業科目は、その内容により共通教育科目及び専門科目に分ける。

(出典:信州大学規程集)

②専門科目

専門科目の特徴、構成を以下に示す(資料医13)

**資料医13** 医学科・保健学科カリキュラムの特徴、構成

① 医学科

講義による教育を少なくし、課題追求・問題解決型の教育および臨床実習を積極的に導入している。さらに、臨床実習における自主性を尊重し、積極的かつ実践的な学習ができる環境を整えている。臨床能力の評価には要所に客観的臨床能力試験(OSCE)を取り入れ習熟度を総合的に判断している。カリキュラムの作成・実施については学内および学外からの評価を行っている。また、平成23年度入学生から新カリキュラムが始まっている。

6年生		卒業試験 ユニット講義 臨床実習(Clinical clerkship)(学外実習を含む) 臨床実習終了後 OSCE
5年生		臨床実習(clinical clerkship)(学外実習を含む) Midterm OSCE
4年生	後期	臨床実習(clinical clerkship)(学外実習を含む),
	前期	共用試験(CBT・OSCE) 臨床医学講義・演習(ユニット講義・系統講義・TBL)
3年生	後期	臨床医学講義・演習(ユニット講義・系統講義・TBL) 基礎医学講義
	前期	基礎医学講義・実習 自主研究演習
2年生		共通教育 基礎医学講義 早期体験実習
1年生		共通教育 基礎医学講義 早期体験実習

②保健学科

体験実習などにより老人や障害者などの弱い立場にある人と接する機会を多くするとともに、緩和医療や医療倫理の教育にも力を入れている。さらに、医学科と保健学科が合同で講義やチーム医療実習を行っている。

(次頁に続く)



### ③ 共通教育科目

1, 2年次生が受講する共通教育科目は、様々な学問領域に関する授業を開講。(資料医14, 15)

#### 資料医14 共通教育の概要

学部の専門教育に進み、将来健全な社会人、高度専門職業人として活躍する人材を育成するため、幅広い教養と基礎的能力に基づく課題探求能力、豊かな人間性や国際性の修得及び人間力向上を目指す。

特に、環境に配慮した意識と生活者としての環境マインドを醸成し、サステナビリティの自覚を促す。さらに、グローバル化時代を生きる新しい世代に不可欠な、学際的・複合的視点に立って自ら課題を探求し、論理的に物事をとらえ、自らの主張を的確に表現しつつ行動していくことができる能力を育成する。

(次頁に続く)



資料医 15 共通教育科目区分一覧

教養科目：学部・学科（課程）を越えた全学生の素養として必要な科目	
教養講義	信州大学の理念・目的に沿って、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するための教養科目
教養ゼミナール	
基礎科目：大学教育（学部一貫教育）の基礎となる科目	
外国語科目	全学生に共通に必要な科目
健康科学科目	
新入生ゼミナール科目	
基礎科学科目	複数の学部で基盤となる科学について共通教育で開講する科目
日本語・日本事情	
日本語・日本事情科目	外国人留学生のために開講する科目
専門入門科目	
専門入門科目	学部の専門科目として開講され、他学部生は教養科目として履修できる科目

(出典：経営企画課作成)

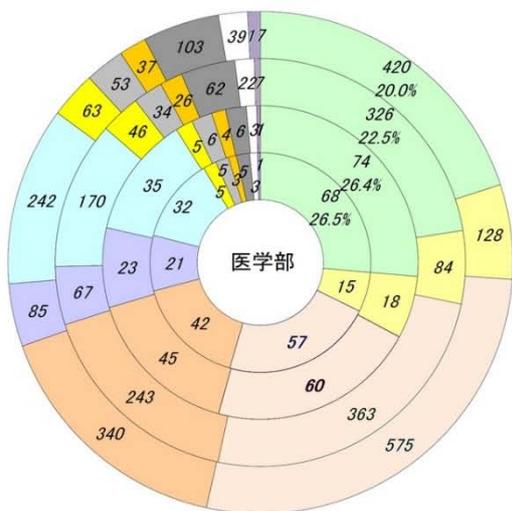
3 入学者の状況

入学者の特徴を以下に示す。(資料医16~22)

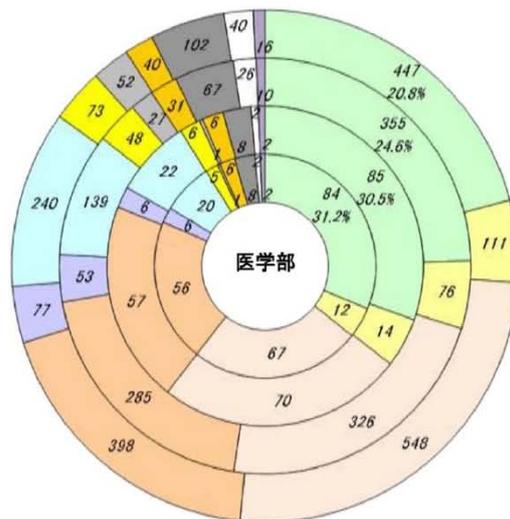
資料医16 志願者，受験者，合格者，入学者の県別割合

医学部全体

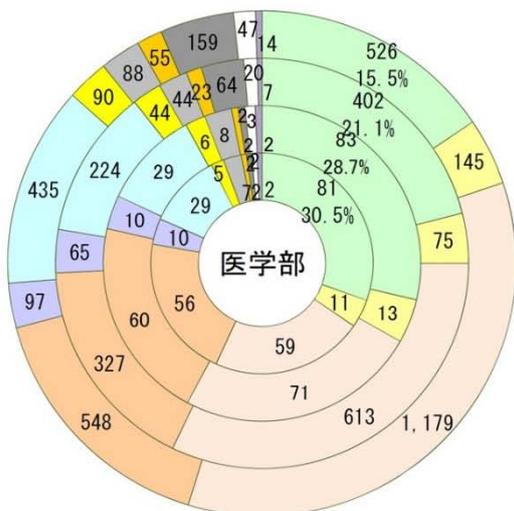
平成21年度



平成23年度



平成26年度

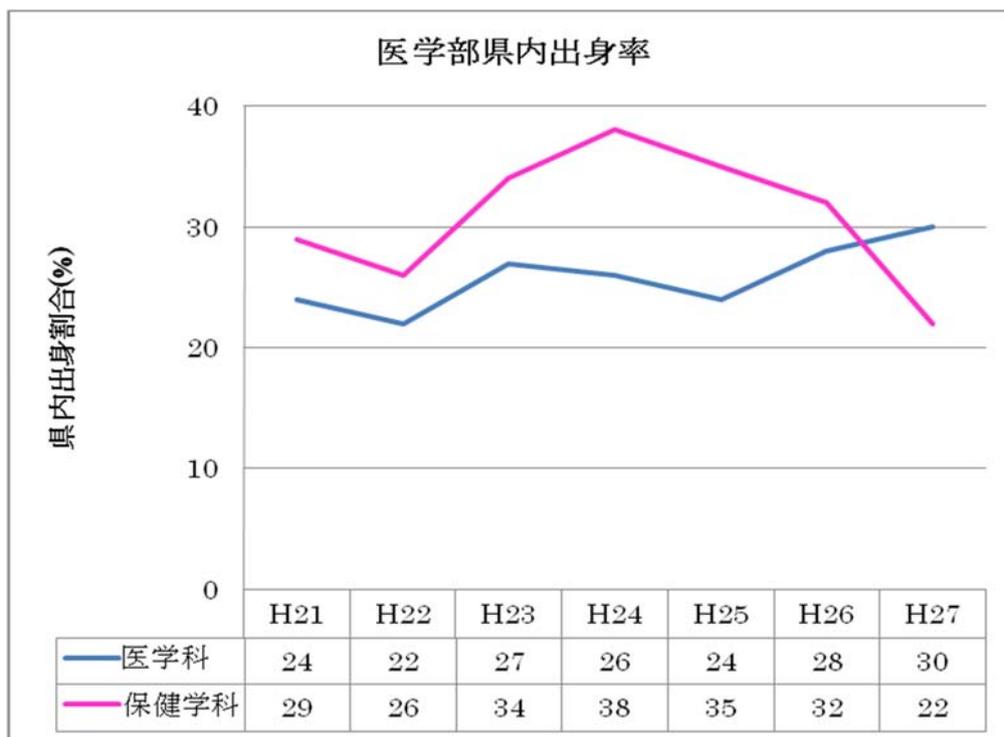


凡例

- 最外周： 志願者
  - 第2周： 受験者
  - 第3周： 合格者
  - 最内周： 入学者
- 長野
  - 甲越
  - 関東
  - 東海
  - 北陸
  - 近畿
  - 東北
  - 中国
  - 四国
  - 九州・沖縄
  - 北海道
  - その他

(出典：経営企画課作成)

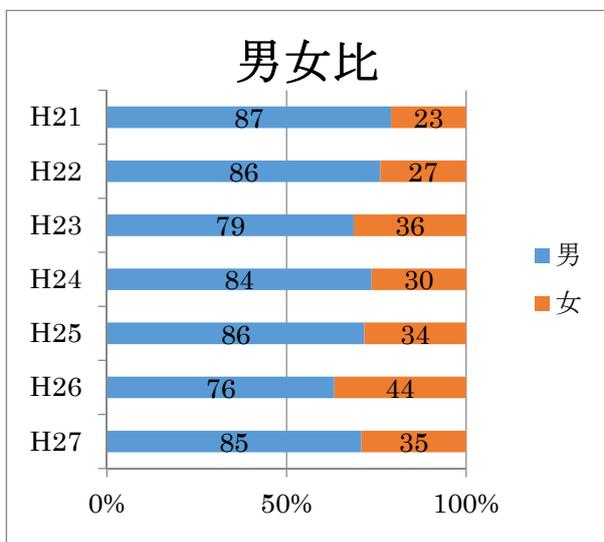
資料医17 医学科・保健学科 入学者の長野県出身者割合



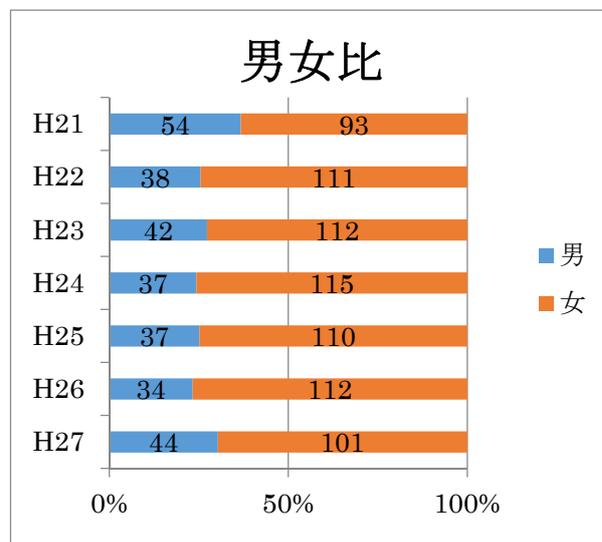
(出典：学校基本調査をもとに経営企画課作成)

資料医18 入学者の男女比

医学科



保健学科

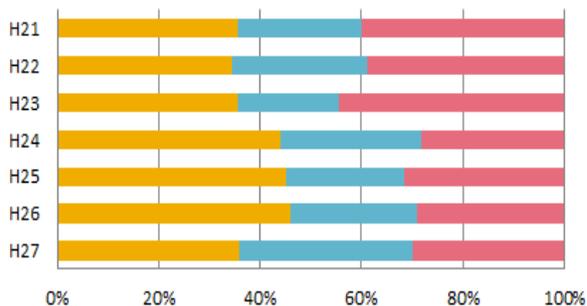


(出典：経営企画課作成)

資料医19 入学者の卒業年度

医学科

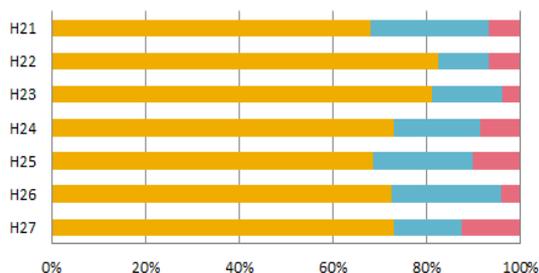
高校卒業年



	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
■新卒	39	39	41	50	54	55	43
■前年卒	27	30	23	32	28	30	41
■その他	44	44	51	32	38	35	36

保健学科

高校卒業年



	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
■新卒	100	123	125	111	101	106	106
■前年卒	37	16	23	28	31	34	21
■その他	10	10	6	13	15	6	18

(出典：経営企画課作成)

資料医20 一般入試志願倍率の推移

医学科



保健学科



(出典：経営企画課作成)

## 資料医21 入学定員

医学科では県内医療に従事する医師を養成するため、平成17年度入学生から県内推薦特別選抜入試制度を導入している。また、保健学科では、3年次編入学入試のほか、理学療法学専攻と作業療法学専攻では、社会人特別選抜制度を設けている。

学 科	専 攻	一般入試		特別選抜		計	第3年次 編入学
		前期日程	後期日程	推 薦	社会人		
医学科	-	85	15	20	-	120	-
保健学科	看護学	50	10	10	-	70	10
	検査技術学	23	9	5	-	37	3
	理学療法学	15	3	-	若干人	18	2
	作業療法学	15	3	-	若干人	18	2

(出典：医学部作成)

資料医22 入試科目

医学部
前期日程

大学入試センター試験の受験を要する教科・科目等

学科	教科	グループ	出題科目	受験を要する科目等	
医学科	国語		「国語」	左欄の科目	
	地理歴史		「世界史B」, 「日本史B」, 「地理B」	左欄から1科目 (2科目受験した場合は、第1解答科目を利用します。)	
	公民		「現代社会」, 「倫理」, 「政治・経済」, 「倫理, 政治・経済」		
	数学	①		「数学Ⅰ・数学A」, 「◎旧数学Ⅰ・旧数学A」	左欄から1科目
		②		「数学Ⅱ・数学B」, 「工業数理基礎」, 「簿記・会計」, 「情報関係基礎」, 「◎旧数学Ⅱ・旧数学B」	左欄から1科目
	理科	①		「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」	左欄から2科目
②			「◎物理Ⅰ」, 「◎化学Ⅰ」, 「◎生物Ⅰ」, 「◎地学Ⅰ」		
外国語			「英語」	左欄の科目	
保健学科	国語		「国語」	左欄の科目	
	地理歴史		「世界史A」, 「世界史B」, 「日本史A」, 「日本史B」, 「地理A」, 「地理B」	左欄から1科目 (2科目受験した場合は、第1解答科目を利用します。)	
	公民		「現代社会」, 「倫理」, 「政治・経済」, 「倫理, 政治・経済」		
	数学	①		「数学Ⅰ・数学A」, 「◎旧数学Ⅰ・旧数学A」	左欄から1科目
		②		「数学Ⅱ・数学B」, 「工業数理基礎」, 「簿記・会計」, 「情報関係基礎」, 「◎旧数学Ⅱ・旧数学B」	左欄から1科目
	理科	①		「物理」, 「化学」, 「生物」	左欄から2科目
②			「◎物理Ⅰ」, 「◎化学Ⅰ」, 「◎生物Ⅰ」		
外国語			「英語」	左欄の科目	

注1 「工業数理基礎」, 「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択できる方は、職業教育を主とする学科、総合学科をもつ高等学校においてこれらの科目を履修した方(大学入学資格検定でこれらに相当する科目に合格している方を含みます。)及び専修学校の高等課程の修了(見込み)者に限ります。

注2 ◎印の科目は経過措置の科目で、旧教育課程履修者(9ページ「6入学者選抜方法(3)旧教育課程履修者に対する経過措置」を参照)のみ選択解答することができます。

注3 旧教育課程履修者は、理科において新・旧の異なる教育課程の科目を組み合わせることはできません。

注4 「英語」はリスニングを課します。

個別学力検査実施教科・科目等

学 科	受 験 教 科 ・ 科 目 等
医 学 科	数学(数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B) (※1 ※4)
	外国語(英語Ⅰ・英語Ⅱ・リーディング・ライティング)
	理科(化学基礎・化学) (※5)
	小論文 (※2)
	面接 (※3)
保 健 学 科	数学(数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B) (※1 ※4)
	外国語(英語Ⅰ・英語Ⅱ・リーディング・ライティング)

※1 数学Bは、「数列」及び「ベクトル」を出題範囲とします。

※2 小論文は、指定された字数内で論述する方式です。

※3 面接は、数名を1グループとして実施します。場合によっては個別面接を行うことがあります。

\*\*\* 旧教育課程履修者に対する経過措置 \*\*\*

※4 数学については、旧教育課程履修者が不利にならないように出題します。

※5 化学基礎・化学は全範囲を出題範囲としますが、旧教育課程の科目(化学Ⅰ・化学Ⅱ)の選択分野「生活と物質」及び「生命と物質」に該当する問題を出題する場合は、いずれか一方を選択解答することとします。

(次頁に続く)

医学部

後期日程

大学入試センター試験の受験を要する教科・科目等

学科	教科	グループ	出題科目	受験を要する科目等	
医学科	国語		「国語」	左欄の科目	
	地理歴史		「世界史B」, 「日本史B」, 「地理B」	左欄から1科目 (2科目受験した場合は、第1解答科目を利用します。)	
	公民		「現代社会」, 「倫理」, 「政治・経済」, 「倫理, 政治・経済」		
	数学		①	「数学Ⅰ・数学A」, 「◎旧数学Ⅰ・旧数学A」	左欄から1科目
			②	「数学Ⅱ・数学B」, 「工業数理基礎」, 「簿記・会計」, 「情報関係基礎」, 「◎旧数学Ⅱ・旧数学B」	左欄から1科目
	理科		①	「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」	左欄から2科目
②			「◎物理Ⅰ」, 「◎化学Ⅰ」, 「◎生物Ⅰ」, 「◎地学Ⅰ」		
外国語		「英語」	左欄の科目		
保健学科	国語		「国語」	左欄の科目	
	地理歴史		「世界史A」, 「世界史B」, 「日本史A」, 「日本史B」, 「地理A」, 「地理B」	左欄から1科目 (2科目受験した場合は第1解答科目を利用します。)	
	公民		「現代社会」, 「倫理」, 「政治・経済」, 「倫理, 政治・経済」		
	数学		①	「数学Ⅰ・数学A」, 「◎旧数学Ⅰ・旧数学A」	左欄から1科目
			②	「数学Ⅱ・数学B」, 「工業数理基礎」, 「簿記・会計」, 「情報関係基礎」, 「◎旧数学Ⅱ・旧数学B」	左欄から1科目
	理科		①	「物理」, 「化学」, 「生物」	左欄から2科目
②			「◎物理Ⅰ」, 「◎化学Ⅰ」, 「◎生物Ⅰ」		
外国語		「英語」	左欄の科目		

注1 「工業数理基礎」, 「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択できる方は、職業教育を主とする学科、総合学科をもつ高等学校においてこれらの科目を履修した方(大学入学資格検定でこれらに相当する科目に合格している方を含みます。)及び専修学校の高等課程の修了(見込み)者に限ります。

注2 ◎印の科目は経過措置の科目で、旧教育課程履修者(9ページ「6入学者選抜方法(3)旧教育課程履修者に対する経過措置」を参照)のみ選択解答することができます。

注3 旧教育課程履修者は、理科において新・旧の異なる教育課程の科目を組み合わせることはできません。

注4 「英語」はリスニングを課します。

個別学力検査実施教科・科目等

学 科	受 験 教 科 ・ 科 目 等
医 学 科	数学(数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B)(※1 ※3)
	外国語(英語Ⅰ・英語Ⅱ・リーディング・ライティング)
	理科(化学基礎・化学)(※4)
保 健 学 科	面接(※2)

※1 数学Bは、「数列」及び「ベクトル」を出題範囲とします。

※2 面接は、教名を1グループとして実施します。

\*\*\* 旧教育課程履修者に対する経過措置 \*\*\*

※3 数学については、旧教育課程履修者が不利にならないように出題します。

※4 化学基礎・化学は全範囲を出題範囲としますが、旧教育課程の科目(化学Ⅰ・化学Ⅱ)の選択分野「生活と物質」及び「生命と物質」に該当する問題を出題する場合は、いずれか一方を選択解答することとします。

(出典: 「平成27年度入学者選抜要項」)

[想定する関係者とその期待]

医学部は，社会に貢献する医療人を育てることが期待されている。

学生とその保護者

幅広い医学的知識に基づいた臨床能力を持ち，医療人となるに相応しい問題解決能力，倫理観，幅広い教養の涵養

医療機関

幅広い医学的知識に基づいた臨床能力を持ち，医療人となるに相応しい問題解決能力，倫理観，幅広い教養を持つ人材の育成

地域社会

長野県の地域医療に安定的に貢献する医療人の育成

II 「教育の水準」の分析・判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

(1) 基本的組織の編成

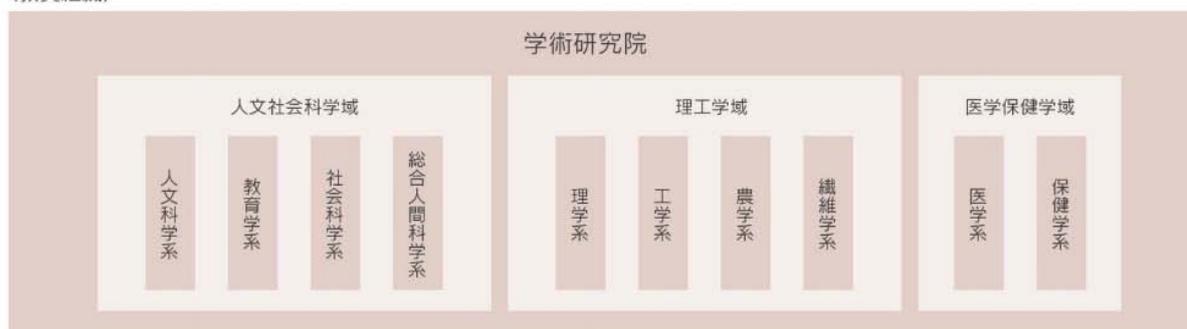
①学術研究院, 全学教育機構と学部

教員の流動性と全学的な教育・研究マネジメントを可能とするため, 教員組織として学術研究院を平成 26 年度より設置した。(資料医 23)

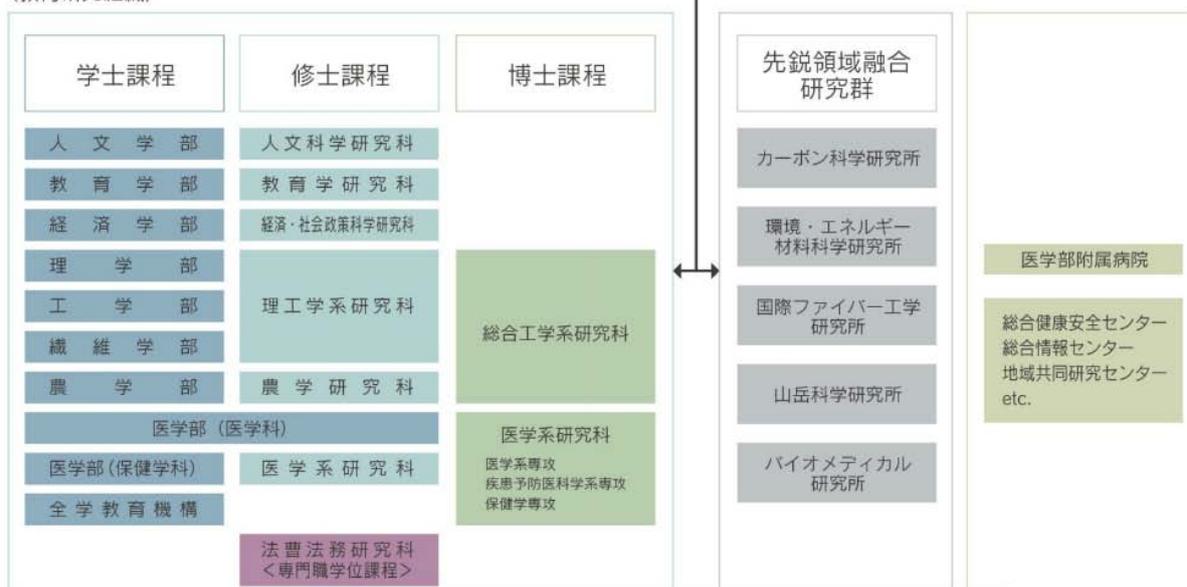
学士課程の共通教育科目を担当する教育組織として全学教育機構(以下, 機構)を設置。

資料医 23 学術研究院と学部との関係

〈教員組織〉



〈教育研究組織〉



学術研究院は, 3 の学域・10 の学系により構成する。すべての教員は, いずれかの学系に所属し, 職務として次のいずれかに携わる。(複数の兼務もあり)

- 1) 学部・大学院, 全学教育機構において, 教育・研究に携わる。
- 2) 医学部附属病院において, 診療・教育・研究に携わる。
- 3) 先鋭領域融合研究群において, 研究に携わる。
- 4) 大型研究センター(拠点形成型の外部資金プロジェクト)において, 研究に携わる。
- 5) 各教育研究(支援)センター等において, 担当業務に携わる。

これにより, 先鋭領域融合研究群の研究者への研究重点環境の提供や学部横断型の教育を実現し, 研究の高度化や時代の要請に柔軟かつスピーディーに対応した教育を推進する。

(出典:「大学概要 2015」をもとに経営企画課作成)

②学部教育の検討・実施体制

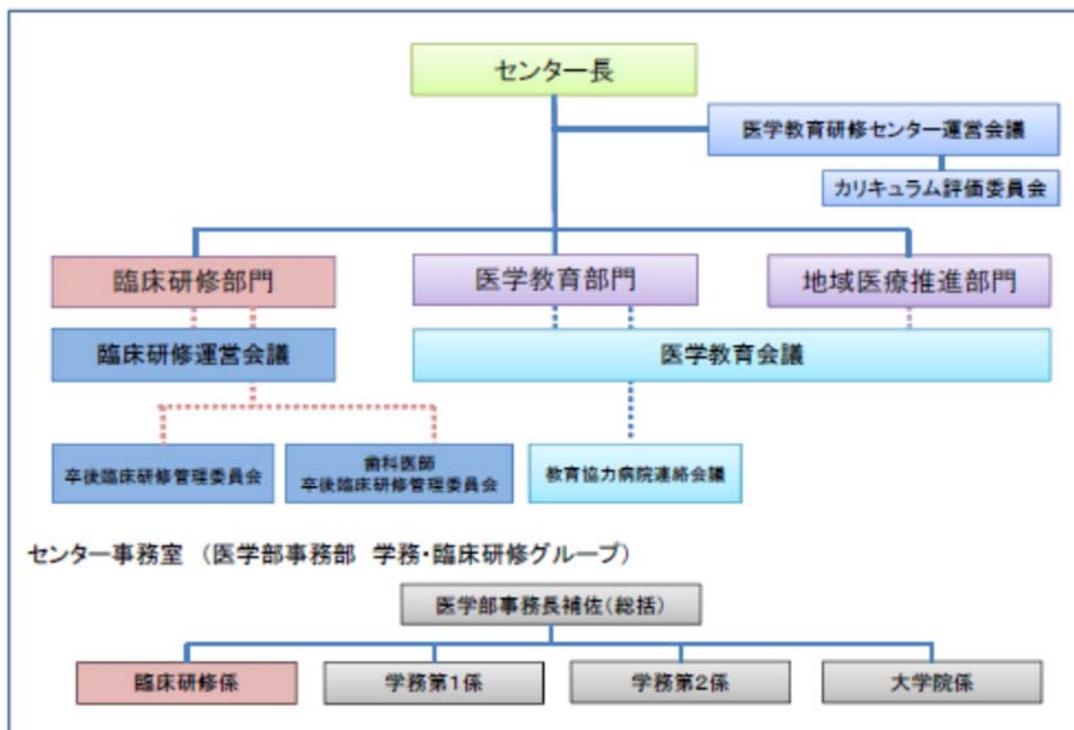
②-1 医学科

医学教育研修センターが教育課程編成の中心となり、一貫した卒前卒後教育を推進（資料医24～27）。

**資料医24 医学教育研修センター**

医学教育センター（学生教育）、地域医療推進学講座（地域医療を担う人材育成）、卒後臨床研修センター（研修医の教育）における卒前卒後教育を包括的に実施する組織として、平成27年11月1日付で医学教育研修センターを設置した。

信州大学医学部・医学部附属病院医学教育研修センター 組織図



(出典：医学部作成)

**資料医25 医学教育研修センター**

信州大学医学部・医学部附属病院医学教育研修センター規程（抄）

（設置）

第1条 医学部及び医学部附属病院に、医学部における卒前教育（以下「卒前教育」という。）並びに医学部附属病院（以下「附属病院」という。）における医師法（昭和23年法律第201号）第16条の2第1項及び歯科医師法（昭和23年法律第202号）第16条の2第1項に規定する臨床研修（以下「卒後臨床研修」という。）を包括的に行う組織として、信州大学医学部・医学部附属病院医学教育研修センター（以下「センター」という。）を置く。

（目的）

第2条 センターは、医学部及び附属病院が協力し、一貫した医学教育による医師の養成を行うとともに、その実施のために長野県内の医療機関と連携した医学教育体制を構築し、地域医療の推進に貢献することを目的とする。

（業務）

第3条 センターは、次の各号に掲げる業務を行う。

(1) 医学部の学生（以下「医学部学生」という。）及び附属病院の研修医（以下「研修医」とい

- う。)に対する教育及び研修に係る管理運営に関すること。
- イ 医学科の学生及び研修医個々に係る一貫した卒前教育及び卒後臨床研修の教育・実習・研修計画の立案及び評価に関すること。
- ロ 共通教育及び保健学科との共同教育に関すること。
- ハ 医学部長から付託された入試の実施に関すること。
- ニ 医学科の学生に係る進級及び卒業判定に関すること並びに研修医に係る研修修了判定に関すること。
- ホ 各教室との調整に関すること。
- ヘ 共用試験の管理運営に関すること。
- ト 医学教育に関する調査研究，開発及び支援に関すること。
- チ eMEDプログラム学生の教育計画立案及び担当教室との調整に関すること。
- リ 臨床実習における教育協力病院と学生との連絡調整に関すること。
- ヌ 卒後臨床研修の企画，策定及び調査に関すること。
- ル 研修医の募集及び登録に関すること。
- ヲ 卒後臨床研修の実施過程におけるカリキュラム管理に関すること。
- ワ 研修医及び指導医の評価に係る業務に関すること。
- カ 研修医に係る連絡・照会等の対応に関すること。
- ヨ 研修医に係る協力型臨床研修病院及び協力型相当大学病院並びに研修協力施設との連絡調整に関すること。
- タ 歯科医師免許を有する研修医に係る卒後臨床研修の管理運営に関すること。
- レ その他医学部学生及び研修医（附属病院卒後臨床研修センターが行う業務を除く。）に関すること。
- (2) 医学部のスキルズラボの管理運営に関すること。
- (3) 卒前教育ファカルティ・デベロップメント，臨床研修指導医講習会の企画・開催・運営に関すること。
- (4) 推薦入学学生，長野県医学生修学資金貸与学生・研修医のキャリア支援に関すること。
- (5) その他センターの目的を達成するために必要な業務に関すること。

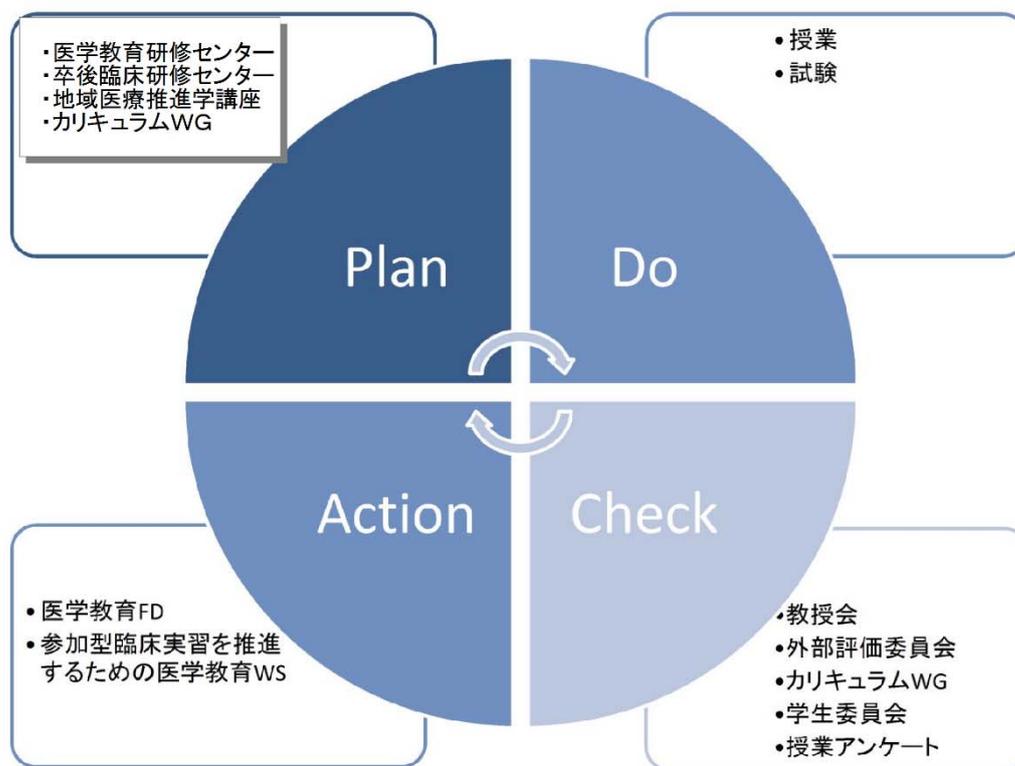
(組織)

第4条 センターに，次の各号に掲げる部門を置き，主に当該各号に掲げる部門の業務を行う。

- (1) 医学教育部門 医学教育に関する業務
- (2) 臨床研修部門 卒後臨床研修に関する業務
- (3) 地域医療推進部門 地域医療の推進に関する業務

(出典：医学部作成)

資料医26 医学科の教育内容検討改善（PDCA）組織図



(出典：医学部作成)

資料医27 地域医療推進学講座

○信州大学医学部地域医療推進学講座は、医師不足を主たる原因とする長野県の地域医療の崩壊を少しでも阻止すべく「県内病院の特に医師不足が深刻な診療科における医師の養成・確保を図るため、医師が不足する特定診療科の効率的な医師の養成等に関する実践的研究を行い、信州大学医学部を中心とした即戦力医師等の供給システムの構築を図る。」を目標に設置された。この設立趣旨に基づいて、医師の地域偏在・診療科偏在・女性医師の増加・診療科の専門細分化、ならびに医療資源としての医師の適正配置について、それらの現状を把握し、解決策を立案すべく調査・研究、活動を行う。また、今後の医療を担う人材としての高校生への啓発事業を開催し、さらに医学生の卒前・卒後教育にも参画する。

○講座の目標

医師不足を中心とした地域医療に関する問題についての長野県の状況を把握、分析し、特に相対的医師不足の解決策を提案していく。現行においては『長野県の医療を担う医師を、専門診療科の人数バランスを考慮しつつ増やす』が喫緊の課題となるが、重要なのはこの医師が地域医療マインドとプロフェッショナリズムを有し、かつ県民に信頼されうる臨床力を持っている必要があることである。この点において、医学教育、初期研修教育、その後の専門科医師養成の果たす役割の重要性が改めて認識され、前述の課題に対し考えられる施策は以下の通りとなる。

1. 長野県からの医学部進学者を増やす。
2. 信州大学卒業生の大学病院あるいは県内病院での初期研修を促進する。
3. 県出身者で他の大学出身者の大学病院あるいは県内病院での初期研修を促進する。

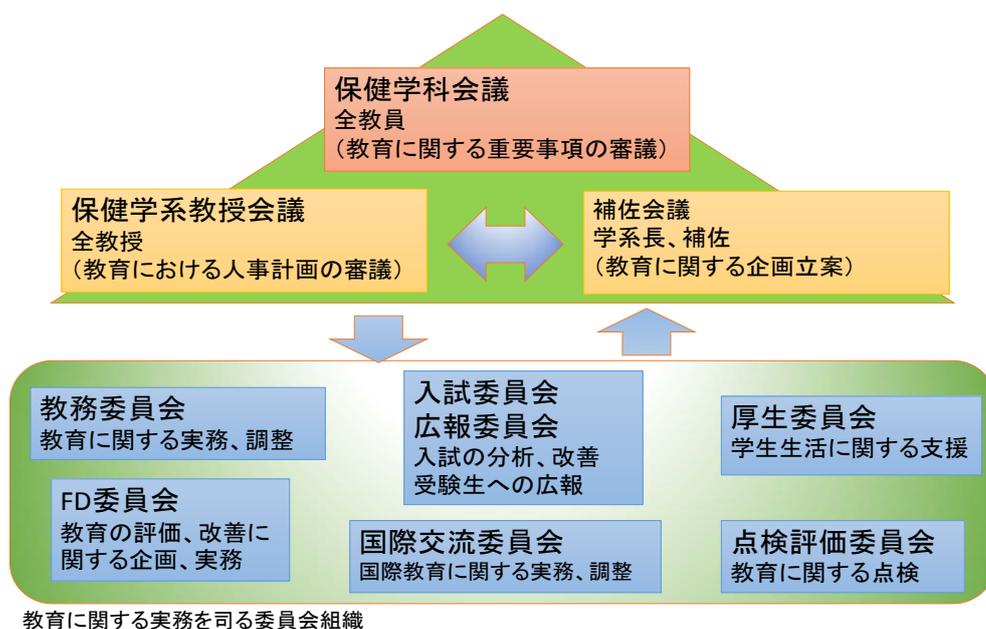
4. 県外（県外で初期研修）からの専門（後期）研修者を増やす。
  5. 各診療科の魅力の発信，診療科偏在の実態を知らせることにより，バランスのとれた診療科選択を促す。
- これら施術実現に貢献すべく，以下の調査・研究ならびに事業を実施，計画する。

（出典：医学部ホームページから）

②-2 保健学科

看護師，保健師，助産師，臨床検査技師，理学療法士，作業療法士の育成に関して，教務委員会が中心となり，カリキュラムならびに附属病院等の実習環境を整備。（資料医28）

資料医28 保健学科の教育内容検討改善（PDCA）組織図



（出典：医学部作成）

③関係者のニーズを把握するための取組

ニーズを把握し，広報や教育課程の編成・実施につなげている。（資料医29）

資料医29 関係者のニーズ把握  
（医学科）

対象	実施方法	頻度	実施組織	目的・利用方法
高校生	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高校生医学部進学セミナー</li> <li>・予備校講師による講演と現役医師による講演</li> <li>・信州大学医学部附属病院見学会</li> <li>・医学部医学科オープンキャンパス</li> <li>・医学部教室，附属病院診療科の見学</li> <li>・信州赤ひげ塾（協力）</li> <li>・長野県教育委員会主催のイベント</li> <li>・学生は医学科志望の高校生とのグループ懇談へ協力参加</li> <li>・様々な分野で活躍する医師の講演</li> </ul>	複数回/年	地域医療推進学講座，他機関	広報
新入生	合宿でのヒアリング（KJ法を用いた目指す医師像の発表），地域医療推進学による支援（スタートアップセミナー，信州医療ワールド夏季セミナー，研修会・交流会の実施）	1/年	医学教育研修センター	授業改善・意識調査

学生	アンケート, ヒアリング (実習時, 担任とのクラス会), 医学教育研修センター医学教育会議への参加, 学生会代表者との面談	1 ~ 3 / 年 (会議への参加は毎月)	医学教育研修センター	授業改善・意識調査
卒業生	実習中のヒアリング, 卒後臨床研修における支援	1 / 年	医学教育研修センター	実習改善・要望調査
地域医療機関	実習中のヒアリング, 出張医学教育FD時アンケート	2 ~ 3 / 年	医学教育研修センター	実習改善・要望調査
父母	父母会実施時アンケート	1 / 年	医学教育研修センター	実習改善・要望調査

(保健学科)

対象	実施方法	頻度	実施組織	目的・利用方法
高校生	・ 医学部保健学科オープンキャンパス ・ 高校での模擬講座 ・ 高校生のための授業公開	1/年  6/年 1/年	広報委員会  広報委員会 広報委員会	広報
新入生	・ 新入生ガイダンス ・ 新入生合宿研修でのアンケート	1/年 1/年	教務委員会・ 厚生委員会	授業改善・意識調査
学生	授業改善アンケート 卒業時到達度調査	各授業 1/年 1/年	FD委員会 教務委員会	教育方法の改善
卒業生	卒業生へのアンケート調査 卒業生を迎えての懇談会でのアンケート, インタビュー	3年毎 隔年	点検評価委員会 各専攻	教育方法の改善
地域	就職先調査	不定期	点検評価委員会	教育方法の改善

(出典：医学部作成)

④ 教員の配置

専任教員の配置状況を以下に示す。(資料医30)

資料医30 教員の配置状況

	教授	准教授	講師	助教	助手	専任教員計
医学科	41	42	44	104	3	234
設置基準上の人数	30	-	-	-	-	140

保健学科	教授	准教授	講師	助教	助手	専任教員計
看護学専攻	11	6	4	7	2	30
設置基準上の人数	6	-	-	-	-	12
検査技術学専攻	7	2	1	2	0	12
設置基準上の人数	4	-	-	-	-	8
理学療法学専攻	4	3	0	3	0	10
設置基準上の人数	4	-	-	-	-	8
作業療法学専攻	4	0	2	2	0	8
設置基準上の人数	4	-	-	-	-	8

(出典：医学部作成)

## ⑤ 共通教育

機構を中心に全学協力体制で実施。(資料医 31～33)

## 資料医31 信州大学全学教育機構規程

(目的)

第2条 機構は、本学が定める教育上の基本方針に基づき、本学の共通教育(各学部が編成する教育課程のうち、本学学生に対する教養教育、基礎教育及び日本語・日本事情に係る教育について、全学協力体制のもとに、全学共通に行う教育をいう。以下同じ。)及び教職関係5学部(人文学部、理学部、工学部、農学部及び繊維学部をいう。以下同じ。)の教職教育(教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための教育をいう。以下同じ。)の実施機関として、各学部と緊密に連携し、全学的な見地から共通教育に係る教育課程の企画及び円滑な実施を図るとともに、本学が掲げる高度専門職業人養成の教育目標を達成するため、学部一貫教育を前提に本学の教育に関する研究開発、企画及び支援を総合的に行うことを目的とする。

(全学協力体制等)

第3条 共通教育及びこれを履修する学生(以下単に「学生」という。)の修学指導は、全学協力体制により実施するものとし、各学部は、その実施体制の管理及び運営に責任を負うとともに、本学のすべての教員は、その構成員として共通教育の実施及び学生の修学指導を担当することを任務とする。

2 機構は、前条の目的を達成し、次条に定める業務を遂行するため、附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センターその他の関係部局と有機的に連携するとともに、関係委員会等と緊密に連携協力する。

(共通教育企画実施部)

第10条 機構に、共通教育企画実施部を置く。

2 共通教育企画実施部は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 共通教育に係る教育課程の企画及び立案に関すること。
- (2) 共通教育の授業担当者の選任に関すること。
- (3) 共通教育の授業の実施に関すること。
- (4) 専門科目と共通教育との実施上の調整に関すること。
- (5) 高年次共通教育及び日本語・日本事情に係る留学生教育の企画及び調整に関すること。

3 共通教育企画実施部に、次の各号に掲げる教育部門を置く。

- (1) 環境マインド教育部門
- (2) 人文・社会科学教育部門
- (3) 自然科学教育部門
- (4) 健康科学教育部門
- (5) 英語教育部門
- (6) 初修外国語教育部門

4 共通教育企画実施部に責任者を置き、副機構長(教育担当)をもって充てる。

(共通教育修学支援部)

第11条 機構に、共通教育修学支援部を置き、学生の学習支援その他の修学支援に関する業務を行う。

2 共通教育修学支援部に、修学支援部門を置く。

3 共通教育修学支援部に責任者を置き、副機構長(修学支援担当)をもって充てる。

(クラス副担任)

第16条 修学支援部門に、各学部のクラス担任を補佐するため、クラス副担任を置く。

2 クラス副担任は、機構の専任教員が担当し、当該学部のクラス担任との密接な連携を図るものとする。

(教授会)

第17条 機構に、信州大学学則(平成16年信州大学学則第1号)第25条第2項の定めるところにより、信州大学全学教育機構教授会(以下「教授会」という。)を置く。

2 教授会に関し必要な事項は、別に定める。

(運営会議)

第18条 機構に、機構の運営に関する具体的事項を審議するため、信州大学全学教育機構運営会議(以下「運営会議」という。)を置く。

2 運営会議は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 機構長
- (2) 副機構長
- (3) 基幹教育センター長及び言語教育センター長
- (4) 共通教育企画実施部の各教育部門長及び修学支援部門長並びに教職教育部副責任者
- (5) その他機構長が必要と認める者

3 運営会議に議長を置き、機構長をもって充てる。

- 4 議長は、運営会議を主宰する。
- 5 学長は、必要又は機構長の要請に応じて、運営会議に出席し、審議に参加するとともに、共通教育及び機構の組織の運営に関する事項を、運営会議に提示し、審議を求めることができる。
- 6 運営会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。
- (1) 共通教育の企画及び実施並びに修学支援に関する事項
  - (2) 機構の運営組織に関する事項
  - (3) 基幹教育センター及び言語教育センターの人事方針（採用人事方針を含む。）に関する事項
  - (4) 教職教育部の業務に関する事項
- 7 運営会議は、必要に応じて、その審議結果を教授会に報告するものとする。

### 第3章 機構と各学部との連携体制等

（学長及び共通教育推進会議）

第19条 共通教育の実施に係る最終責任は、学長が負う。

2 学長は、全学（すべての学術研究院の学系、学部、大学院研究科、学内共同教育研究施設等及び教員をいう。）に対して共通教育への協力を要請し、必要に応じて全学の教員に対し共通教育の実施及び学生の修学指導を担当することを命ずることができる。

3 国立大学法人信州大学共通教育推進会議（以下「共通教育推進会議」という。）は、必要に応じて、又は教授会の要請に応じて、機構の組織、運営に係る重要事項を審議する。

4 学長及び共通教育推進会議は、共通教育に関する基本的事項について、教授会に提案することができる。この場合において、教授会は、これを尊重するものとする。

（出典：信州大学規程集）

### 資料医32：国立大学法人信州大学共通教育推進会議規程

（趣旨）

第1条 この規程は、国立大学法人信州大学組織に関する規則（平成17年国立大学法人信州大学規則第5号）第16条の2第2項の規定に基づき国立大学法人信州大学（以下「本法人」という。）に設置する国立大学法人信州大学共通教育推進会議（以下「共通教育推進会議」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

（職務）

第2条 共通教育推進会議は、本法人が設置する信州大学（以下「本学」という。）の次の各号に掲げる重要な事項について審議するほか、全学教育機構と各学部との連携協力及び連絡調整を円滑に行うことを職務とする。

- (1) 共通教育の企画及び実施並びに修学支援の実施に関する事
- (2) 共通教育カリキュラムの策定及び改定に関する事
- (3) 共通教育の実施における全学的な支援に関する事
- (4) 全学教育機構の運営に関する事
- (5) その他共通教育の実施に関する事

（組織）

第3条 共通教育推進会議は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 教務担当の理事
- (3) 全学教育機構長
- (4) 高等教育研究センター長
- (5) 学部長又は副学部長のうちのいずれか1名
- (6) その他学長が必要と認める者

（議長）

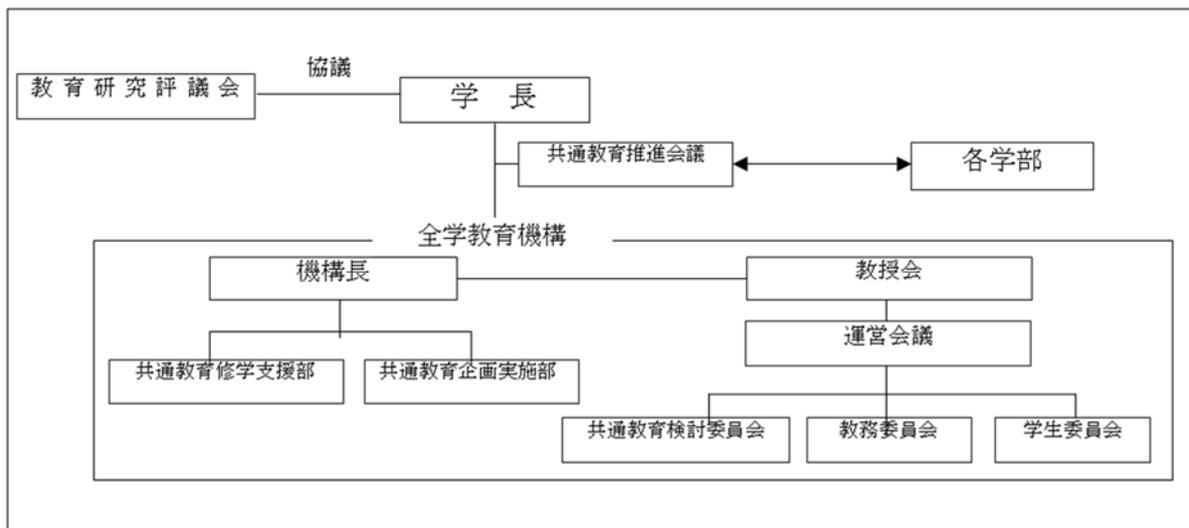
第4条 共通教育推進会議に議長を置き、学長をもって充てる。

2 議長は、共通教育推進会議を主宰する。

3 議長に事故があるときは、第3条第2号に規定する理事が、その職務を代行する。

（出典：信州大学規程集）

資料医33 共通教育科目の教育体制



(出典:経営企画課作成)

(2) 教育内容・方法の改善の仕組

① 医学科

教育内容・方法を改善する取組として、前掲資料医24(22頁)のとおり体制を構築。

①-1 医学教育研修センター

医学科の教育に関する検討・改善は医学教育研修センターが担当し、学生代表を含む医学教育会議にて検討している(前掲資料医25(22頁),26(24頁),資料医34~35)。国際基準に合致するカリキュラムを行うため、平成23年度にカリキュラム検討WGを設置した(資料医36)。

資料医34 医学教育研修センター医学教育会議の構成員

信州大学医学部・医学部附属病院医学教育研修センター医学教育会議細則(抄)

(組織)

第3条 医学教育会議は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) センターの教員
- (2) センター規程第7条第1号から第4号までに規定するセンター支援員
- (3) 医学部医学科学生会が選出する学生

(出典:医学部作成)

## 資料医 35 医学教育センター会議への学生参加

第5回 (H25.6.12) 医学科会議資料 No. 4
---------------------------------

## 諸 会 議 報 告

会 議 名	医学教育センター会議
開 催 日	平成25年6月6日(木)
報 告 者	多 田 教授
議題・報告事項・連絡事項及び要旨	
議 題	
3. 医学教育センター規程改正(案)について・・・資料 No. 3 今後、学生の意見を学部運営の参考としていくことが国際認証等を見据えた上で必要となることから、医学教育センター会議に学生代表者の出席を認めるために、別添のとおり改正案が諮られ、審議の結果、承認された。	

学生の意見を取り入れ、改善を行った事項

- ・ 臨床実習ポートフォリオ：新たにポケット版を作成，クリアファイルの追加
- ・ 白衣授与式に係る配布物：白衣の種類等学生が決定
- ・ 合同授業                                       : 保健学科と医学科4年生で実施
- ・ 試験のあり方について                   : 週4を週3に変更
- ・ 150通りの選択肢からなる参加型臨床実習の選び方   : 4年までのCBT, OSCE, 総合試験の合計と5年総合試験, Midterm OSCEまで含むことに変更

(次頁に続く)

職名	職種	任命方法		職名	氏名
センター長	教授	医学科会議の議に基づき、学部長が任命		教授	多田 剛
副センター長		センター長の推薦に基づき、学部長が任命（2人）		准教授	森田 洋
				講師	森 淳一郎
	センター教員	若干人		助教	清水郁夫
	センター教員(兼務)			助教	黒川由美 (地域医療)
センター支援教員			補佐会議	教授	田中榮司 (2内)
			OSCE運営委員会	教授	花岡正幸 (1内)
			大学院委員会	教授	本田孝行 (病態解析診断学)
			卒後臨床研修センター 副センター長	助教	増田雄一
			卒後臨床研修センター	助教	加藤 沢子
			センター長が指名した者 (若干人)	講師	牛木淳人 (1内) H27.4.1~H28.3.31
	講師	高橋 徹 (精神科) H27.4.1~H29.3.31			
	講師	林 宏一 (皮膚科) H26.4.1~H28.3.31			
	学部長・保健学科長が指名した者	(若干人)	教授	竹下敏一 (免疫微生物) H27.4.1~H29.3.31	
			教授	瀧 伸介 (免疫) H26.8.1~H28.7.31	
			教授	太田浩良 (保) 教務委員長	
			教授	木村貞治 保健学科長が氏名した者	
			准教授	中澤勇一 (地域医療)	

学生代表(H27年度)	5年	—	—
	4年	—	—
	4年	—	—
	3年	—	—

学生代表 5年1人，4年2人，3年1人

(出典：医学部作成)

**資料医36** カリキュラム検討WG

## カリキュラム検討 WG 活動記録

## ●メンバー

学部長，評議員，副学部長【座長】，医学教育センター長，卒後臨床研修センター長，医学部長が指名した教授（4名），医学教育センター副センター長，医学教育センター教員，地域連携推進学講座教員，

## ●主な活動と実績

1. 臨床実習時間を大幅に増やすなど、国際基準に合致したカリキュラムの編成を行うとともに、新カリキュラムへ円滑に移行するための調整を行った。
2. 新しい臨床実習方法である150通りの臨床実習を導入し、これに伴うカリキュラムの改訂を行った。さらに、外部評価や教育協力病院連絡会議の計画・運営を行った。
3. 授業時間を1単位90分から60分に短縮し、実習や自習の時間を確保した。また、授業時間短縮に伴う学力低下を予防するためe-learningを拡充した。
4. 自主研究演習を充実させ、PBLやTBLを積極的に導入することにより、学生の自主性を育てやすいカリキュラムとした。
5. 看護体験実習や保健学科との合同講義などを導入し、チーム医療の教育を積極的に取り入れた。
6. 卒業に際して学力を正しくかつ効率的に評価するため、卒業試験科目の統合化を行うとともに再試験を全て廃止し、最後に行う総合試験にて合否を最終判定する制度とした。

（出典：医学部作成）

## ①-2 医学科の実習の体制

平成24年度に県内協力病院と連携する連絡会議を設置し、学生教育に関する協力体制を構築（資料医37）。

**資料医37** 県内協力病院と連携する連絡会議における各病院からの意見

（平成27年度開催分）

## H28.1.14 開催教育協力病院会議での各病院からの意見

- ・手さぐりではある。やる気のある学生を送ってもらい、よくやっている。期待している
- ・知ってもらえる機会が増えた気がする
- ・5年以上来ていなかったが、臨床実習で来るようになり、病院の活性化につながっている。
- ・臨床実習で受け入れるようになり、学生に電子カルテで記載してもらおうよう変更した。責任を持ってやってもらおう。
- ・臨床実習ずっと来ている。心配したが屋根瓦でやっている。勉強になっている。
- ・クールを重ねるごとにこなれてきた。積極的に手技をやっている。立ち位置を見つけてやっている。
- ・外科・プライマリ。熱心に参加している。リハビリ、検診科をみてもらい経験値をあげてもらおう。

（出典：医学部作成）

①-3 医学科の教育プログラムに関する常置の外部評価委員会の設置

平成24年度より外部評価委員会を設置し、教育プログラム全般について毎年評価を受け、教育の改善に取り組んでいる。（資料医38,39）

資料医38 外部評価委員会の委員名簿

	所属	職名
1	国立大学法人山梨大学	教授
2	医療系大学間共用試験実施評価機構	副理事長
3	独立行政法人国立病院機構信州上田医療センター	特命副院長・地域医療教育センター部長
4	飯田市立病院	病院長
5	諏訪赤十字病院	病院長
6	富士見高原病院	統括院長
7	地方独立行政法人長野県立病院機構	理事長

（出典：医学部作成）

資料医39 外部評価委員会で確認した成果と、改善の実績  
平成26年度外部評価委員会

	事業計画書における実施計画	具体的な成果	評価に対する対応（改善）
①	双方向的学習および e-Learning システムの環境整備を図る	座学の効率化を進めつつ、教育協力病院での実習中にも利用可能な学習資料を提供することにより、学生の自主学習を支援することができた。一部領域の e-learning コンテンツを作成し、学生に公開した。	内科系を中心とした複数の診療科と相談し、eALPS 上の e-learning のコンテンツを拡充していく。 60 分でも十分な授業が展開できるよう、センターとして学内 FD 等を通じて支援していく。
②	学内外教員の教育の質を高める活動を展開する	①出張 FD を 33 病院にて開催し、医学教育の現状、今後の臨床実習計画、患者の同意と事故補償への対策等を取り上げた。 ②9 月 13 日、12 月 7 日に信大および教育協力病院の学生指導医による、「参加型臨床実習を推進するための信州大学医学教育ワークショップ」を開催し、診療科別実習目標を作成した。 ③ポートフォリオの見直しを行い評価法を確立した。 ④臨床実習中のチュートリアル手法を内科系診療科に提供し、その成果を日本医学教育学会（7 月 18-19 日、和歌山）にて発表した。 ⑤我が国の医学教育改革について欧州医学教育学会（8 月 31 日-9 月 3 日、ミラノ）のワークショップで事例を報告し、参加者と討議した。また同学会で情報収集に努め、計画①などに反映させた。	出張 FD を継続し、ポートフォリオ等も説明することで教育協力病院における評価体制を整備する。担当医からの評価表の項目を段階的に変更することで観察評価を充実させる。
③	シミュレーションツールの利用の拡大を図る	呼吸器内科、救急科、外科など 9 科にて、シミュレーション教育を臨床実習に取り入れた。また、学生向けの勉強会を行うなどの支援を行うことで、スキルズラボを利用する学生が増え、本年度（～12 月末）は延べ 913 名が利用した。	シミュレーション実習の評価としても活用できるよう、Midterm OSCE の結果を各科にフィードバックする。 教育協力病院指導医にもスキルズラボの情報提供を行っていく。時間外の利用希望にはセンター教員が可能な範囲で対応する。

④	ホームページ上に情報の公開を行う	ホームページを41回更新し、広く情報発信を行っている。	引き続きwebページの更新を頻回に行い、情報発信に努める。
⑤	外部評価者を招聘して、Advanced OSCEを実施する	山梨大学 藤井教授に来学いただき、H26年6月28日実施した。	27年度以降も臨床実習終了後OSCEを引き続き実施する。なお27年度は教育協力病院の指導医に外部評価者を依頼する予定とする。
⑥	学内外指導医に対する意見聴取を行って、実習の最終調整を行う	出張FDにあわせて教育協力病院との意見交換を行い、各病院の事情に合わせたカリキュラムを樹立した。「参加型臨床実習を推進するための信州大学医学教育ワークショップ」を開催し、現実的な学習目標を伴ったコースを制定した。カリキュラム案作成後に、再度、教育協力病院および評価担当教室から、意見をもらい最終調整を行った。	大学・教育協力病院の指導医が連携し、順次到達目標の見直しを行っていく。学生からのコメントについては多面的なフィードバックの一部として指導医にもお伝えする。
⑦	新カリキュラムの対象となる4年次生に臨床実習(Basicクラークシップ)を開始する	H26年10月より新4年生の臨床実習を開始した。また、ポートフォリオの再編成や自己評価表の導入を行った。平成27年度の臨床実習にも反映可能となる様、実習期間内にアンケート調査を行った。	ポートフォリオの内容を段階的に改訂することで実習評価をさらに充実させていく。経験症例数の数値目標については、まず各病院で経験できる症例の概数を把握していく。
⑧	ハワイ大学 Sim Tiki シミュレーションセンターにてシミュレーション教育の指導者養成講習会を実施する	H26年9月23日～10名参加により実施。 (指導医8名(うち6名教育協力病院)、看護師2名)	指導医講習会等の場を活用してシミュレーション教育について周知を試み、学内事例などの紹介を行う。病院向け講習会の開催にむけた準備として、県内諸施設のシミュレーション設備についてアンケートを実施する。
⑨	2学年合同臨床講義のカリキュラムを策定する	①H26年12月22日「医学概論演習Ⅱ-5年生から臨床実習について聞く-」において1年と5年生の合同授業を行った。 ②H26年10月～12月に医学科・保健学科4年の「医学部合同チーム医療演習」を行った。 ③H27年度開始予定の5,6年合同授業について、日程・内容を確定した。	合同チーム医療演習や手技演習を含め、2学年合同授業の内容をさらに充実させて継続していく。また学生が時間通りに出席できるよう、授業について各科に周知を図る。
⑩	「150通り臨床実習(案)」を学内各科、教育協力病院、学生に提示する	院内診療科、教育協力病院から指導体制や宿泊可能人数等の聞き取り調査を行い、「150通り臨床実習コース」を作成した。学生には、平成27年5月に説明会を開催する予定。	実習期間中に各病院をセンター教員が巡回し、指導や学生のストレスについて情報を収集し対応する。また出張FDで各病院に伺った際にも、質疑応答を積極的に行って問題点を抽出していく。
⑪	卒後研修管理委員会時に教育協力病院との信州大学・教育協力病院連絡協議会を開催する	① H27年1月15日信州大学医学部・附属病院教育協力病院連絡協議会・卒後臨床研修管理委員会を開催し、説明を行った。	27年度以降も連絡協議会と研修管理委員会を同時開催し、利便性の向上を図る。

(出典：医学部作成)

②保健学科

②-1 保健学科の実習の体制

地域と連携した実習体制を構築し、実習指導者会議（資料医40）を通して教育へ還元している。

**資料医40** 各専攻で開催している保健学科、臨地・臨床実習指導者会議  
（理学・作業療法学専攻の例）

（別紙）

平成27年度信州大学医学部保健学科  
理学療法学専攻・作業療法学専攻臨床実習指導者会議 出席者名簿

平成27年度信州大学医学部保健学科理学療法学専攻・作業療法学専攻  
臨床実習指導者会議日程表

日時 平成27年12月4日（金） 13時30分～17時30分

場所 信州大学医学部保健学科  
〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1  
〈Tel 0263-37-2576 医学部総務G（庶務係）〉

出席者 学外関係者：理学療法学専攻臨床実習指導者  
作業療法学専攻臨床実習指導者  
本学関係者：理学療法学専攻教員，作業療法学専攻教員

議事等日程

受付（地域保健推進センター入口：13時00分～13時30分）

合同講演会（13時30分～14時30分）

会場 地域保健推進センター3階 多目的講義室

- ① 医学部長，学科長挨拶
- ② 講演会「クリニカルクラークシップの現状（仮）」

専攻別会議（14時40分～17時30分）

会場 理学療法学専攻：保健学科中校舎1階 211・212講義室  
作業療法学専攻：保健学科南校舎2階 作業療法実習室

- ① 出席者紹介
- ② 平成27年度臨床実習について
- ③ 平成28年度臨床実習計画について
- 休憩（20分）
- ④ 施設別オリエンテーション

解散（17時30分）

身障系

	施設名	出席者
1	相澤病院	北菌 由恵
2	安曇野赤十字病院	古川 智巳
3	北アルプス医療センター あづみ病院	村井 貴
4	鹿教湯三才山リハビリテーションセンター-鹿教湯病院	山田 武
5	恵寿総合病院	北谷 渉
6	健和会病院	尾崎 新司
7	小諸厚生総合病院	有坂 和也
8	信州大学医学部附属病院	石原 早紀子
9	長野県立須坂病院	田中 由香里
10	長野市市民病院	今井 さゆり
11	厚生連富士見高原病院	池上 綾香
12	鹿教湯三才山リハビリテーションセンター-三才山病院	丸山 佳子

発達・身障・地域系

1	飯田市立病院	下平 絵里香
2	介護療養型老人保健施設 いずみの	森川 友貴
3	上伊那生協病院	橋場 美樹
4	上條記念病院	和形 理絵
5	佐久総合病院	宮下 宏江
6	篠ノ井総合病院	宮沢 京子
7	城西病院	西村 望
8	諏訪中央病院	森 冬樹
9	総合上飯田第一病院	玉木 聡
10	介護老人保健施設ハーモニー	鈴木 美菜
11	療育センター らいふ	伴 純一

精神系

1	北アルプス医療センター あづみ病院	千葉 大
2	飯田病院	中村 未来
3	北ふれあいホーム	野村 智恵美
4	倉田病院	川村 吉徳
5	栗田病院	傳田 拓男
6	ク・セラ社会福祉事務所	二宮 彰浩
7	こころの医療センター駒ヶ根	杉村 めぐみ
8	信州大学医学部附属病院	石川 総理
9	諏訪湖畔病院	依田 良太
10	第2コムハウス	松本 千里
11	千曲荘病院	諸山 絃
12	南信病院	杉村 直哉
13	村井病院	濱上 幸司
14	メンタルサポートそよかぜ病院	高丸 亜沙美

（出典：医学部作成）

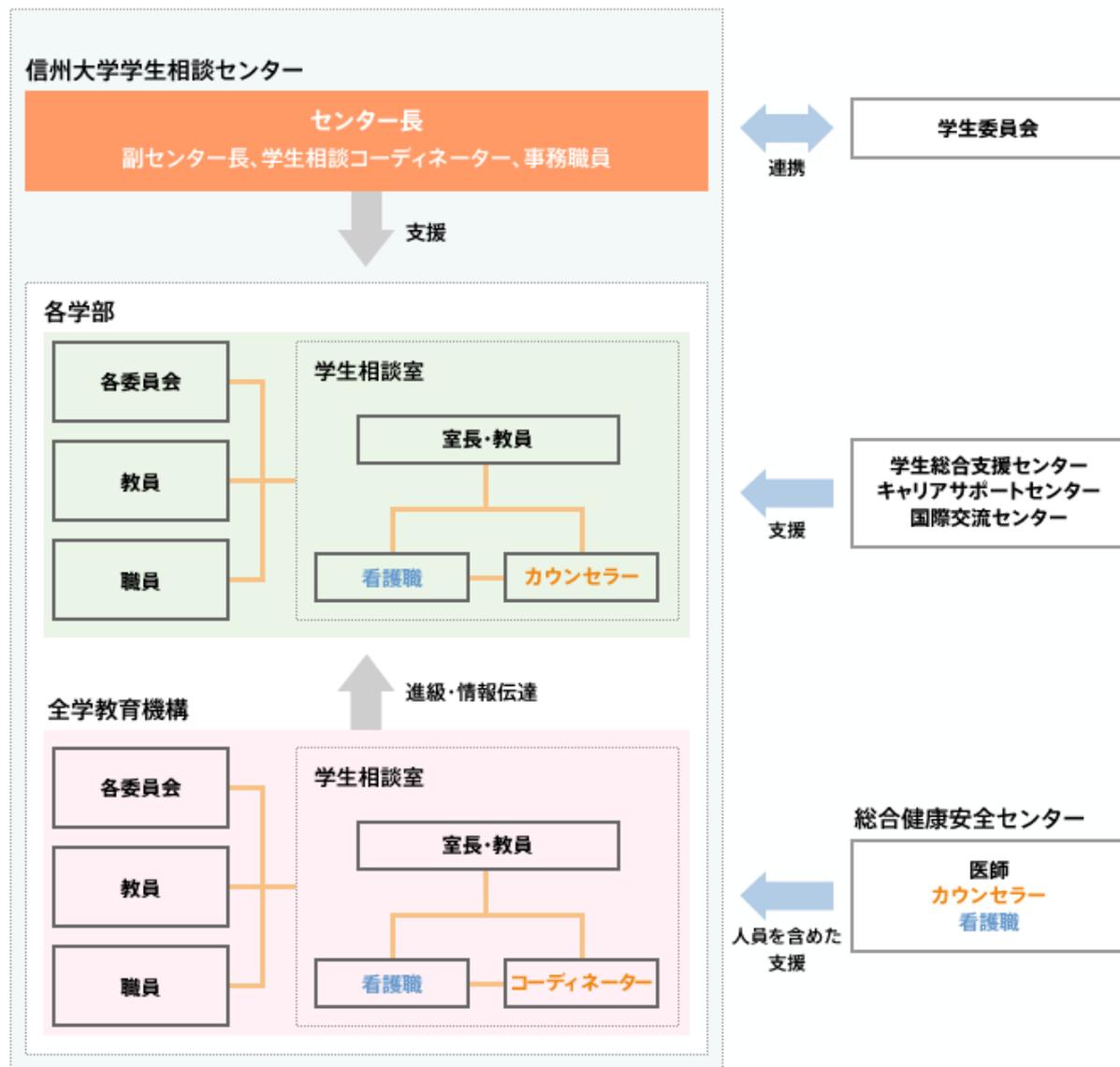
(3) 学生支援の体制

① 学生相談センター

(資料医 41)

資料医 41 学生相談センター及び学生相談室

平成 24 年度に全学組織の学生相談センターと、各学部に学生相談室が設置された。



(次頁に続く)

## 専門窓口と連携し対応します。

相談内容に応じて、学内外の専門機関(窓口)と連携を取ります。



(出典: 信州大学学生相談センターホームページ「センターについて」)

②学生相談センターと連携した学生支援体制の構築  
(資料医 42)

資料医 42 学生相談センターと連携した学生支援体制の構築

学生相談室と緊急連絡体制を作り、毎月1回ミーティングを行い学生支援体制を整えている。

学生相談室ミーティング

実施回数

月1回(1時間程度)

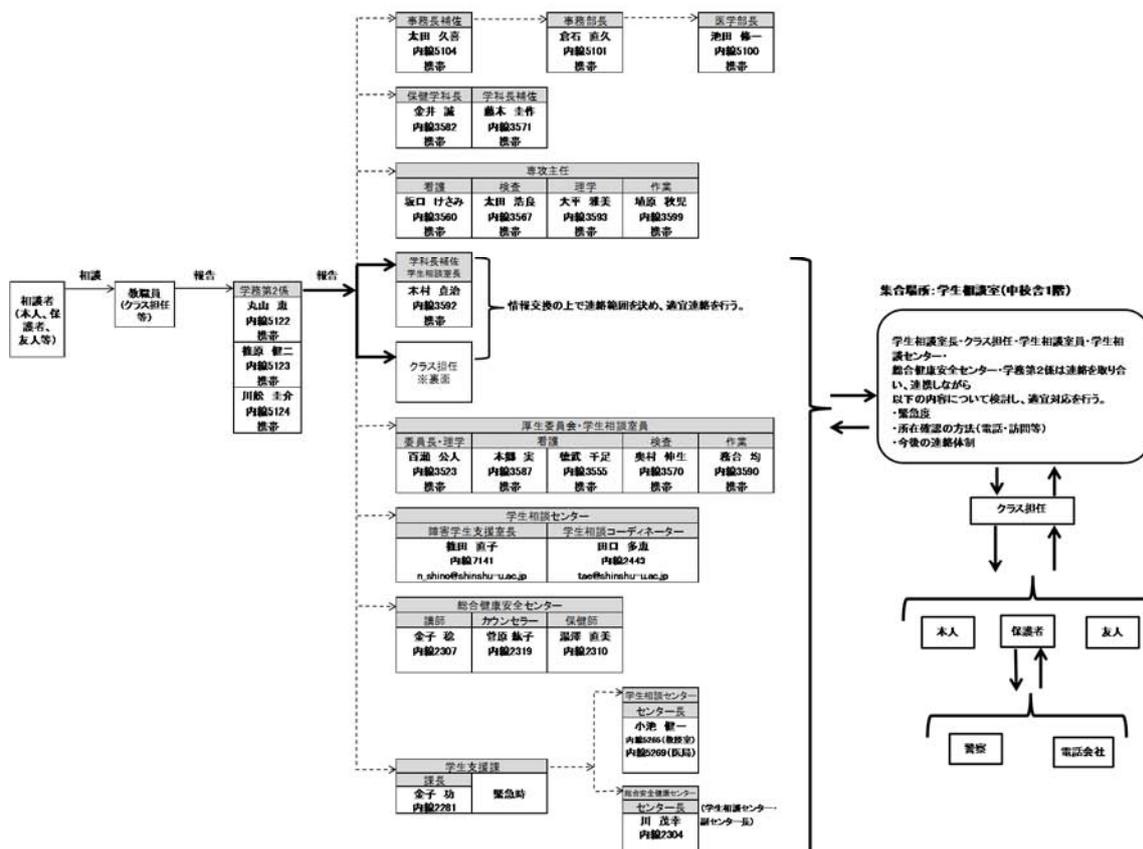
参加者

保健学科学生相談室長、総合健康安全センターカウンセラー、保健師、学生相談センターカウンセラー、学務第2係職員

ミーティング内容

- ・総合健康安全センター及び学生相談センターにおいて、面談を行った学生の状況報告(継続・新規)【月平均15名程度】
- ・出席管理システムにおいて出席回数が少ない学生の状況確認。
- ・担任等から「授業を欠席しがち」「友人関係で悩んでいるようだ」等報告のあった学生について報告、カウンセラーとの面談への連携。
- ・学生相談センターに相談があった松本キャンパスにおける諸問題の報告。  
(不審者情報、宗教勧誘等)

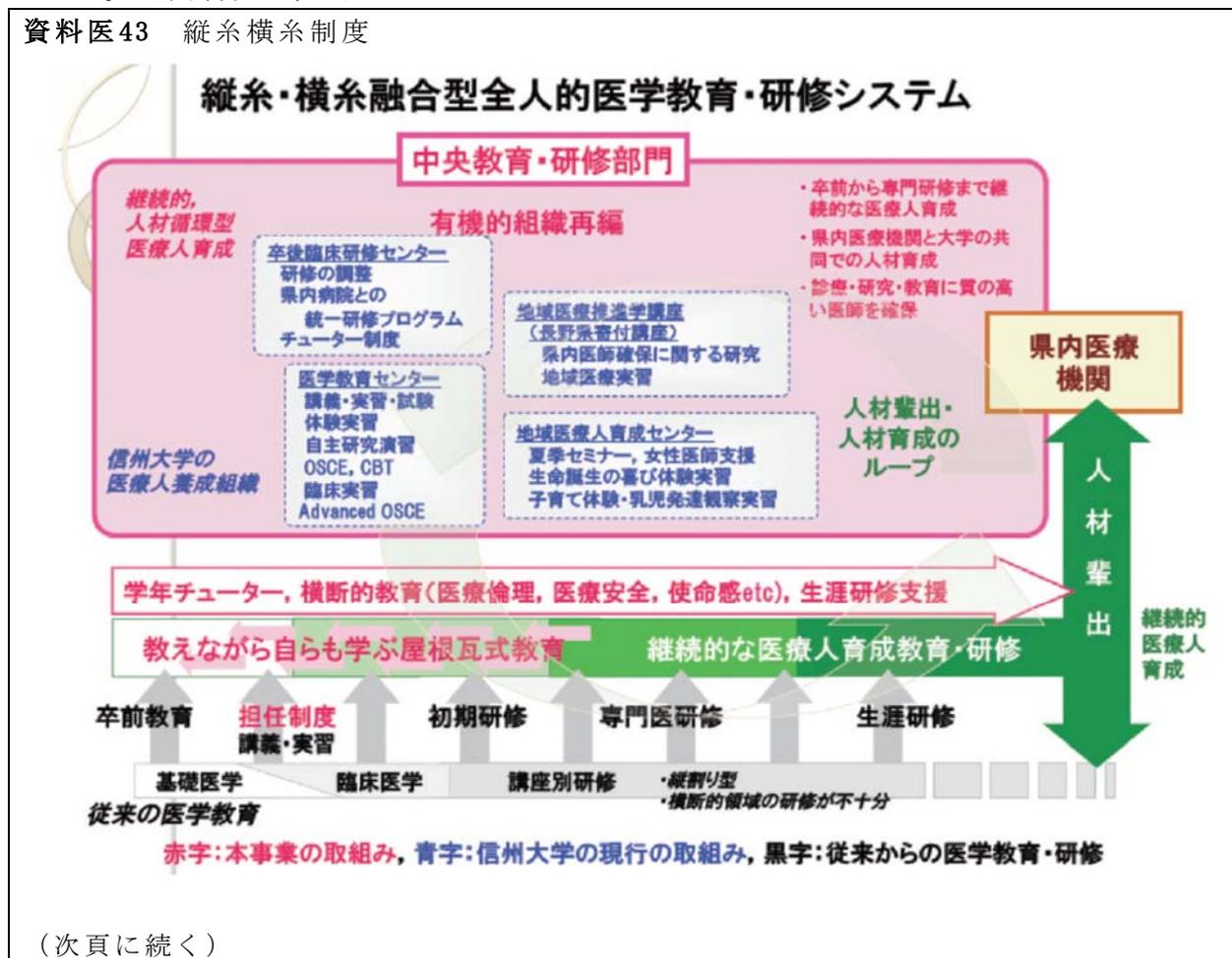
「学生相談室」としての緊急連絡体制(保健学科の例)



- ③ 担任制
- ③-1 医学科

全学年にまたがるグループ制度と学年毎の担当制度を組み合わせることで学生指導を行っている。(資料医43, 44)

資料医43 縦系横系制度



## (横系)

平成27年度学年担当制度の学年担当教授・教室

	担当教員	教室(所属)
15 M  1 年 生	松 尾 教授	形成再建外科学
	大 森 教授	薬剤部
	本 田 教授	病態解析診断学
	宇佐美 教授	耳鼻咽喉科学
	瀧 教授	免疫制御学
	塩 沢 教授	産科婦人科学
	浅 村 教授	法医学
14 M  2 年 生	佐々木 教授	組織発生学
	田 渕 教授	分子細胞生理学
	鈴 木 教授	神経可塑性学
	能 勢 教授	スポーツ医科学
	今 村 教授	救急集中治療学
	川眞田 教授	麻酔蘇生学
	田 中 教授	内科学(第2)
13 M  3 年 生	栗 田 教授	歯科口腔外科学
	池田(修) 教授	内科学(第3)
		精神医学
	石 塚 教授	泌尿器科学
	岡 田 教授	外科学(第2)
	伊 藤 教授	外科学(第2)
	野見山 教授	衛生学公衆衛生学
12 M  4 年 生	駒 津 教授	内科学(第4)
	小 泉 教授	包括的がん治療学
	沢 村 教授	生理学
	花 岡 教授	内科学(第1)
	谷 口 教授	分子腫瘍学
		分子細胞生化学
	池田(宇) 教授	内科学(第5)
11 M  5 年 生	竹 下 教授	免疫・微生物学
	新 藤 教授	循環病態学
	小 池 教授	小児医学
	森 泉 教授	人体構造学
	村 田 教授	眼科学
	青 山 教授	代謝制御学
	樋 口 教授	加齢生物学
10 M  6 年 生	山 田 教授	分子薬理学
	福 嶋 教授	遺伝医学・予防医学
	菅 野 教授	病理組織学
	中 山 教授	病理学
	奥 山 教授	皮膚科学
	角 谷 教授	画像医学
	宮 川 教授	外科学(第1)
10 M  6 年 生	加 藤 教授	運動機能学
	本 郷 教授	脳神経外科学

(次頁に続く)

(縦系)

## 平成27年度グループ担任一覧

グループ番号	教室名	グループ担任教員名	備考
1	組織発生学	佐々木 克典	
2	人体構造学	森泉 哲次	
3	生理学	沢村 達也	
4	分子細胞生理学	田淵 克彦	
5	包括的がん治療学	小泉 知展	
6	分子薬理学	山田 充彦	
7	薬剤部	大森 栄	
8	病理組織学	菅野 祐幸	
9	免疫・微生物学	竹下 敏一	
10	遺伝医学・予防医学	福嶋 義光	
11	衛生学公衆衛生学	野見山 哲生	
12	法医学	浅村 英樹	
13	内科学第一	花岡 正幸	
14	内科学第二	田中 榮司	
15	内科学第三	池田 修一	
16	精神医学	鷲塚 伸介	
17	小児医学	小池 健一	
18	皮膚科学	奥山 隆平	
19	画像医学	角谷 眞澄	
20	外科学第一	宮川 眞一	
21	外科学第二	岡田 健次	
		伊藤 研一	
22	運動機能学	加藤 博之	
23	脳神経外科学	本郷 一博	
24	歯科口腔外科学	栗田 浩	
25	泌尿器科学	石塚 修	
26	眼科学	村田 敏規	
27	耳鼻咽喉科学	宇佐美 真一	
28	産科婦人科学	塩沢 丹里	
29	麻酔蘇生学	川眞田 樹人	
30	形成再建外科学		
31	病態解析診断学	本田 孝行	
32	救急集中治療医学	今村 浩	
33	病理学	中山 淳	地域医療推進学 中澤勇一
34	免疫制御学	瀧 伸介	
35	内科学第五	池田 宇一	
36	(院)分子病理学	中山 淳	
37	(院)循環病態学	新藤 隆行	
38	(院)加齢生物学	樋口 京一	
39	(院)神経可塑性学	鈴木 龍雄	
40	(院)分子腫瘍学	谷口 俊一郎	
41	内科学第四	駒津 光久	
42	(院)代謝制御学	青山 俊文	
43	(院)スポーツ医科学	能勢 博	
44	医療情報部	濱野 英明	

(次頁に続く)

## 信州大学医学部医学科のグループ制度に関する内規（平成15年10月9日施行）

（趣旨）

第1条 信州大学医学部医学科に、学生の修学・学生生活に関する指導・助言を適切に行うためグループ制度を置く。

（グループ編成）

第2条 グループは、6学年45グループを基本とし、学生は在学中同一グループに属する。

2 3年次編入学生については、別に定める。

（グループ担当教員及び副グループ担当教員）

第3条 各グループに属する学生に対して修学・学生生活に関する指導・助言を行うため、グループ担当教員及び副グループ担当教員（以下「グループ担当教員等」という。）各一人を置く。

2 グループ担当教員は教授をもって充て、学生委員会の議に基づき医学科長が委嘱する。

3 グループ担当教員は、所属する講座等の教員のうちから、副グループ担当教員を指名する。

4 副グループ担当教員は、グループ担当教員を補佐し、グループ担当教員に事故があるときには、その職務を代行する。

5 グループ担当教員等は、原則として当該グループの学生が卒業するまで担当するものとする。

6 グループ担当教員等が所属する講座等は、当該グループ担当教員等を支えるものとする。

（協力体制）

第4条 グループ担当教員等は、学生に指導・助言を行うに当たり、必要に応じて学生委員会、医学教育センター及び総合健康安全センターと連携を図るものとする。

（グループ幹事及びグループ副幹事）

第5条 グループ担当教員等と学生との連絡を密にするため、各グループにグループ幹事及びグループ副幹事を各1人置く。

2 グループ幹事及びグループ副幹事は、当該グループの学生の互選により選出する。

（雑則）

第6条 この内規に定めるもののほか、グループ制度に関し必要な事項は、医学科会議が別に定める。

（出典：医学部作成）

## 資料医 44 「縦糸」クラス別懇談会

## 平成27年度 春のグループ別懇談会開催日程

グループ番号	講座名	懇談会日程	時間	場所
1	組織発生学	4月13日(月)	17:30~	教室内(ホール)
2	人体構造学	4月24日(金)	12:10~	教室内(ミーティングルーム)
3	生理学	4月23日(木)	12:00~	チュートリアルルーム3(基礎棟1F)
4	分子細胞生理学	4月16日(木)	18:00~	ミーティングルーム2(基礎棟3F)
5	包括的がん治療学	4月15日(水)	18:30~	教室内(会議室) (旭町庁舎3F信州がんセンター内)
6	分子薬理学	4月8日(水)	18:00~	教室内(セミナー室)
7	薬剤部	4月10日(金)	18:00~	ビュー270(病院東病棟10F)
8	病理組織学	4月14日(火)	18:00~	教室内(ゼミナール室)
9	免疫・微生物学	4月20日(月)	17:00~	ミーティングルーム3(基礎棟4F)
10	遺伝医学・予防医学	4月21日(火)	18:00~	ミーティングルーム2(基礎棟3F)
11	衛生学公衆衛生学	4月22日(水)	17:30~	レストラン ソレイユ(外来棟5F)
12	法医学	4月23日(木)	18:00~	チュートリアルルーム4(基礎棟1F)
13	内科学第一	4月21日(火)	19:00~	教室内(医局)
14	内科学第二	4月14日(火)	18:30~	教室内(医局)
15	内科学第三	4月23日(木)	18:00~	教室内(医局)
16	精神医学	5月15日(金)	17:30~	教室内(医局)
17	小児医学	5月15日(金)	18:00~	教室内(図書室)
18	皮膚科学	4月21日(火)	17:30~	教室内(医局)
19	画像医学	4月22日(水)	17:30~	教室内(医局)
20	外科学第一	4月23日(木)	18:00~	教室内(医局)
21	外科学第二	4月14日(火)	18:00~	教室内(心臓血管外科カンファレンスルーム)
22	運動機能学	4月22日(水)	17:00~	教室内(医局)
23	脳神経外科学	4月27日(月)	17:00~	教室内(ホール)
24	歯科口腔外科学	4月16日(木)	18:00~	教室内(カンファレンスルーム)
25	泌尿器科学	4月10日(金)	18:00~	教室内(医局)
26	眼科学	4月27日(月)	17:30~	教室内(医局)
27	耳鼻咽喉科学	4月22日(水)	18:30~	教室内(医局)
28	産科婦人科学	4月7日(火)	18:00~	教室内(ゼミ室)
29	麻酔蘇生学	4月15日(水)	18:30~	教室内(医局)
30	形成再建外科学	5月15日(金)	18:30~	教室内(医局)
31	病態解析診断学	4月9日(木)	12:00~	教室内(カンファレンスルーム)
32	救急集中治療医学	4月14日(火)	17:30~	救命センターミーティングルーム
33	病理学	4月7日(火)	18:00~	チュートリアルルーム10(旭総合研究棟6F)
34	免疫制御学	4月23日(木)	18:00~	教室内(旭総合研究棟6F セミナー室)
35	内科学第五	4月22日(水)	12:15~	教室内(旭総合研究棟5F 会議室)
36	(院)分子病理学	4月7日(火)	18:00~	チュートリアルルーム10(旭総合研究棟6F)
37	(院)循環病態学	4月30日(木)	18:00~	修士講義室(旭総合研究棟9F)
38	(院)加齢生物学	4月14日(火)	18:00~	教室内(加齢生物学セミナー室)
39	(院)神経可塑性学	4月13日(月)	17:30~	教室内(セミナー室)
40	(院)分子腫瘍学	5月7日(木)	17:00~	教室内(セミナー室)
41	内科学第四	4月10日(金)	17:00~	教室内(医局)
42	(院)代謝制御学	4月10日(金)	18:00~	教室内(セミナー室)
43	(院)スポーツ医科学	4月10日(金)	18:00~	教室内(セミナー室)
44	医療情報部	4月20日(月)	17:30~	教室内(会議室)

(出典：医学部作成)

③-2 保健学科

各専攻の学年毎に担任を置き，学生生活全般について指導を行うとともに，担任が厚生委員会委員を務め，学科として対応している。（資料医45）

資料医45 保健学科の担任制度

平成27年度担任表

専攻	1年	2年	3年	4年	専攻主任	連絡員	就職担当
看護	平林 優子	小林 千世	五十嵐 久人	奥野 ひろみ	坂口けさみ	松井 瞳	石田 史織
	柳澤 節子	芳賀 亜紀子	下里 誠二	高橋 宏子		丹下 めぐみ	鈴木 敦子
	山口 大輔	下井 眞理子	高橋 理沙	寺内 英真		上原 文恵	
検査	奥村 伸生	石田 文宏	相良 淳二	日高 宏哉	太田 浩良	小穴 こず枝	小穴 こず枝
理学	大平 雅美	百瀬 公人	木村 貞治	ゴウ アーチェン	大平 雅美	西澤 公美	三好 圭
作業	埴原 秋児	上村 智子	務台 均	小林 正義	埴原 秋児	赤羽 美和 *連絡員当番	9月まで：田中 侑千恵 10月から：赤羽 美和
全学副担任	兼元 美友 内：7169 外：37-2889						

※保健学科では，前期，後期開始時に，GPAに基づいた学業面や生活面に関する個別面談を実施している。

（出典：医学部作成）

④副担任制

機構教員が副担任として学部のクラス担任とともに1年次の修学指導を行っている。（資料医46）

資料医46 平成27年度1年次生クラス副担任の配置状況

学部・学科等		クラス担任数	
		正	副
医学部	医学科	学科教員 全教授	1
	保健学科	学科教員 6	1

（出典：「2015共通教育履修案内」をもとに経営企画課作成）

⑤ オフィスアワー  
(資料医 47, 48)

資料医 47 医学科のオフィスアワー

医学科はシラバスで学生に周知。

シラバスの例

科目名	薬理学演習・実習	題目(副題)	薬理学
担当教員、教員連絡先内線	山田 充彦	5185	
学年、講義期間、曜日・時限	3年次 前期	火曜, 4時限 火曜, 5時限 火曜, 6時限 木曜, 1時限 木曜, 2時限 木曜, 3時限 金曜, 1時限 金曜, 2時限 金曜, 3時限	
単位数、講義室	3単位	医学科第2講義室 旭総合講義室A B	
授業で得られる「学位授与の方針」要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の身体的・心理的・社会的状態を科学的に評価し、さまざまな情報を総合して、適切に判断し、必要な行動ができる。</li> <li>・疾病の正確な診断と適切な治療を遂行するための幅広い知識と高度な技法を修得している。</li> </ul>		
授業のキーワード	薬力学、薬物動態学、臨床薬理学、毒物学		
一般学習目標G10(期待される学習効果)	解剖学、生理学、生化学、病理学、免疫・微生物学などの基礎医学の知識を統合し臨床医学に応用するために、薬物による疾病の治療学の理論を修得する。		
個別行動目標SBOs(授業の概要)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 薬物の濃度反応曲線、作用薬と阻害薬を説明できる。</li> <li>2) 主たる神経伝達物質、ホルモン、オータコイド、増殖因子、サイトカインの種類、生理的・病態生理的役割、受容体、受容体に連関する細胞内情報伝達機構を説明できる。</li> <li>3) 以下の薬の作用機序、薬理作用、臨床適応、副作用、禁忌を説明できる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>① 自律神経に作用する薬、② 循環器に作用する薬、③ 中枢神経に作用する薬、④ 麻酔薬・筋弛緩薬、⑤ 呼吸器に作用する薬、⑥ 消化器に作用する薬、⑦ 内分泌システムに作用する薬、⑧ 抗糖尿病薬、⑨ 抗腫瘍薬、⑩ 抗炎症薬、⑪ 造血薬</li> </ul> </li> </ol>		
テキスト、教材、参考書	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 田中千賀子、加藤隆一編、NEW薬理学 改訂第6版、南江堂</li> <li>2) Goodman and Gilman's The Pharmacological Basis of Therapeutics, 12nd edition, McGraw-Hill.</li> <li>3) 樋口宗史、前山一隆監訳、ラング・デール薬理学 西村書店</li> <li>4) 柳澤輝行、飯野正光、丸山敬、三澤美和監訳 カッツング薬理学 第10版 丸善</li> <li>5) 加藤隆一、臨床薬物動態学 改訂第4版、南江堂</li> </ol>		
履修上の注意	講義では薬理学の全範囲をできるだけ網羅するようにするが、教科書による自学自習も必要である。試験では、講義の内容と教科書(NEW薬理学)に書かれている内容の理解について問う。また実習は3種類行うが、いずれも出席(実習ガイダンスへの出席も含む)とレポート提出は筆記試験の受験資格を得るために必要である。		
授業の形式、視覚機器等の活用	<p>授業は講義、実習からなる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 講義のスライドをPDFファイル化してe-ALPSに掲載するので、各自必要に応じて印刷し講義に持参すること。</li> <li>2) 実習は3種類行う。実習1は、モルモットのラングンドルフ心を用いて自律神経薬・チャネル作動薬の実験を行う。実習2, 3はコンピューターシュミレーションで、血圧と腸管収縮に関する実験を行う。いずれも実験結果をもとに、レポートを作成する。実習欠席者(実習ガイダンスの欠席も含む)、レポート未提出者は筆記試験を受験できないので注意すること。</li> </ol>		
成績評価の方法	本試では、実習レポート(5点 X 3 = 15点満点)及び筆記試験(中間試験+期末試験)(85点満点)の成績を総合的に評価する。再試では、筆記試験(100点満点)のみの成績で評価する。		
成績評価の基準	90-100点: 秀 80-89点: 優 70-79点: 良 60-69点: 可		
事前事後学習の内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教科書の該当範囲を予習しておくこと。</li> <li>○レジュメをeALPSにアップしておくので予習しておくこと。</li> <li>○課題については、授業中、指示をする</li> </ul>		
学生へのメッセージ並びにオフィスアワー(質問、相談への対応)	<p>医療において薬物療法は非常に重要です。薬理学では、皆さんがこれまでに学んだ基礎医学の知識を応用して、薬物療法の種類と原理を解説します。即ち、薬理学は基礎医学と臨床医学の橋渡しをする分野です。医師を目指す皆さんが、興味を持ち積極的に学んでくれることを期待しています。質問・相談は、下記のオフィスアワーに講義担当教員が応対します。</p> <p>教官のオフィスアワー【氏名 所属 職名 オフィスアワー 場所 電話番号】  <b>【山田充彦 分子薬理学講座 教授 金曜日17:00-18:00 医学部基礎棟2F 0263-37-2605 分子薬理学講座教授室】</b>  <b>【中田 勉 分子薬理学講座 教授 金曜日17:00-18:00 医学部基礎棟2F 0263-37-2606 分子薬理学講座教授室】</b>  <b>【柏原俊英 分子薬理学講座 教授 金曜日17:00-18:00 医学部基礎棟2F 0263-37-2606 分子薬理学講座教授室】</b></p>		

(出典：医学部作成)

## 資料医48 保健学科のオフィスアワー

保健学科は学生便覧により学生に周知。

### 17. 教員一覧・オフィスアワー

#### 【看護学専攻】

##### ○基礎看護学

職名	氏名	オフィスアワー
教授	松永保子	随時（要事前連絡）
准教授	柳澤節子	毎週火曜日12:00-13:00
准教授	小林千世	毎週火曜日12:00-13:00
助教	山口大輔	随時（要事前連絡）
助教	上原文恵	随時（要事前連絡）

##### ○成人・老年看護学

教授	本郷実	毎週火曜日・木曜日17:00-18:00
教授	池上俊彦	随時（要事前連絡）
教授	深澤佳代子	随時（要事前連絡）
教授	會田信子	随時（要事前連絡）
准教授	山崎浩可	随時（要事前連絡）
講師	寺内英真	毎週火曜日17:00-18:00
助教	松井瞳	随時（要事前連絡）
助教	北條由美乃	随時（要事前連絡）
助教	丹下めぐみ	随時（要事前連絡）

##### ○小児・母性看護学

教授	坂口けさみ	毎週月曜日12:00-13:00
教授	市川元基	毎週月曜日12:00-13:00
教授	金井誠	毎週水曜日12:00-13:00
教授	平林優子	随時（要事前連絡）
准教授	玉井真理子	毎週水曜日12:30-13:30
講師	芳賀亜紀子	毎週月曜日12:00-13:00
講師	徳武千足	随時（要事前連絡）
助教	鈴木泰子	随時（要事前連絡）
助手	米山美希	随時（要事前連絡）
助手	鈴木敦子	随時（要事前連絡）

##### ○広域看護学

教授	奥野ひろみ	毎週水曜日12:00-13:00
教授	下里誠二	毎週木曜日12:00-13:00
准教授	高橋宏子	随時（要事前連絡）
准教授	五十嵐久人	毎週水曜日12:00-13:00
講師	山崎明美	毎週水曜日12:00-13:00
助教	高橋理沙	毎週水曜日12:00-13:00
助教	石田史織	随時（要事前連絡）

#### 【検査技術科学専攻】

##### ○生体情報検査学

職名	氏名	オフィスアワー
教授	高昌星	毎週木曜日12:00-15:00
教授	相良淳二	毎週火曜日17:00-18:00
教授	太田浩良	毎週月曜日12:00-13:00
教授	藤本圭作	毎週火曜日16:20-17:50
准教授	日高宏哉	毎週月曜日12:00-13:00
助教	樋口由美子	随時（要事前連絡）

##### ○病因・病態検査学

教授	奥村伸生	毎週金曜日18:30-18:30
教授	石田文宏	毎週火曜日18:00-17:00
教授	長野則之	随時（要事前連絡）
准教授	寺澤文子	毎週月曜日18:10-18:10
助教	小穴こず枝	毎週金曜日18:00-17:00

#### 【理学療法学専攻】

##### ○基礎理学療法学

職名	氏名	オフィスアワー
教授	木村貞治	毎週火曜日12:00-13:00
教授	百瀬公人	毎週月曜日・金曜日12:00-13:00
准教授	横川吉晴	毎週火曜日12:00-13:00
助教	西澤公美	毎週水曜日12:00-13:00
助教	西川良太	随時（要事前連絡）

##### ○応用理学療法学

教授	大平雅美	毎週火曜日12:00-13:00
教授	齋藤直人	毎週火曜日12:10-13:00
准教授	ゴウアーチェン	毎週月曜日・火曜日12:00-13:00
助教	三好圭	毎週月曜日12:00-13:00

#### 【作業療法学専攻】

##### ○基礎作業療法学

職名	氏名	オフィスアワー
教授	寺田信生	随時（要事前連絡；メールにて確認のこと）
教授	小林正義	毎週火曜日・金曜日16:10-18:00
講師	務台均	随時（要事前連絡）
助教	田中佐千恵	毎週木曜日14:00-17:00

##### ○実践作業療法学

教授	壺原秋児	毎週月曜日11:00-13:00
教授	上村智子	毎週木曜日12:00-13:00
助教	赤羽美和	毎週木曜日18:10-17:30

（出典：医学部作成）

⑥入学者，その保護者への支援

シラバスを入学前からホームページに公開し，入学式後に保護者向けオリエンテーションを実施。（資料医49）

**資料医49** 保護者向けオリエンテーション

平成27年度 医学部医学科 新入生ガイダンス

（1日目第1部（保護者同席））

- ◎日時 平成27年4月4日（土） 13時30分～16時10分  
 対象 新入生と保護者  
 場所 講義室A・B（旭総合研究棟9階）
- ・ 学部長挨拶（13:30～）
  - ・ 病院長挨拶（13:35～）…14:00頃退席
  - ・ 父母会長挨拶（13:40～）
  - ・ 学部長講演（13:45～14:15）「信州大学における医学教育」
  - ・ 医学教育センター「カリキュラム，修学上の注意，進級判定」多田教授（14:15～14:40）  
 （休憩）
  - ・ 卒後臨床研修センター「臨床研修制度の概要と信州大学医学部附属病院での臨床研修」森田准教授（14:50～15:15）
  - ・ 地域医療推進学講座「医師養成に関わるわが国の状況と地域医療」中澤准教授（15:15～15:40）
  - ・ 長野県奨学金について（15:40～15:50）
  - ・ 父母会創設7人賞 授賞式（15:50～16:10）

（1日目第2部）

- ◎日時 平成27年4月4日（土） 16時30分～  
 場所 講義室A・B（旭総合研究棟9階）
- ・ 生協から教科書販売等の案内【生協購買部】（16:30～16:35）
  - ・ 学生会によるクラス運営のガイダンス【医学科学学生会長】（16:35～）

<保護者>

- 場所 第2実習室（16:30～）
- ・ 信州医学会の紹介（16:30～16:35）【多田先生（H27-28担当）】
  - ・ JA長野厚生連寄附講座五周年記念講演「医学教育 この10年間の歩み」多田教授（16:35～17:15）
  - ・ JA長野厚生連への感謝状贈呈式 池田学部長（17:15～17:20）
  - ・ 旭会館1階食堂へ移動・解散

（出典：医学部作成）

保護者へ学生の成績を送付。（資料医50）

**資料医50** 保護者への成績の通知

- ・ 4月に前年度の成績を，1（留年）～5年に発送
- ・ 9月に1，2年（前期成績）を発送

（出典：医学部作成）

⑦全学的な支援

学務部を中心として、全学的な教育サポート体制を構築。(資料医 51～55)

**資料医 51 国立大学法人信州大学業務執行組織規程**

第 25 条 学務課においては、全学教育機構、高等教育研究センター、e-Learning センター、教員免許更新支援センター（教育学部の所掌に属するものを除く。以下この条において同じ。）及び学務部に関する次の業務をつかさどる。

- (1) 学務部内の事務に関し、連絡し、及び総合調整を行うこと。
  - (2) 庶務及び会計に関すること。
  - (3) 入学式その他学生の諸行事に関すること。
  - (4) 学生関係職員の SD(スタッフ・デベロップメント)に係る企画・立案及びその実施に関すること。
  - (5) 全学(本法人が設置する信州大学大学院(以下「大学院」という。)を除く。)の教務に関すること。
  - (6) 学生の学籍その他の記録に関すること。
  - (7) 学位の授与に関すること。
  - (8) 教育課程(大学院を除く。)に係る目標及び計画の連絡調整に関すること。
  - (9) 他の大学等との単位の互換(大学院を除く。)に関すること。
  - (10) 全学の学務情報システムに関すること。
  - (11) 出前講座に関すること。
  - (12) 諸会議(国立大学法人信州大学戦略企画会議規程(平成 24 年国立大学法人信州大学規程第 108 号)第 6 条に定める大学院戦略会議(以下「大学院戦略会議」という。)及び信州大学大学院教務委員会を除く。)の連絡調整に関すること。
  - (13) 教育・学生支援連携会議の運営に関すること。
  - (14) その他全学教育機構、高等教育研究センター、e-Learning センター及び教員免許更新支援センターの業務執行及び運営に関すること。
  - (15) 前各号に掲げるもののほか、学務部の他の所掌に属しない事務を処理すること。
- 2 学務課の共通教育支援室においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 共通教育の授業支援に関すること。
  - (2) 共通教育の教務に関すること。
  - (3) 学生の学習相談及び修学指導に関すること。
  - (4) 共通教育に係る点検・評価に関すること。
  - (5) 全学教育連携会議等の諸会議の連絡調整に関すること。
  - (6) 環境マインド教育支援に関すること。
- 3 省略
- 4 学生支援課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 学生総合支援センターの業務執行及び運営に関すること。
  - (2) キャリアサポートセンターの業務執行及び運営に関すること。
  - (3) 学生相談センターの業務執行及び運営に関すること。
- 5 入試課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 入学者の選抜に関し連絡し、及び総合調整を行うこと。
  - (2) 入学者選抜方法の改善に関し企画立案を行うこと。
  - (3) 学生募集に関すること。
  - (4) アドミッションセンターの業務執行及び運営に関すること。
  - (5) 前各号に掲げるもののほか、入学者の選抜に関する事務を処理すること。
- 6 国際交流課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 国際交流センターの業務執行及び運営に関すること。(研究支援課の国際学術交流室が所掌する業務を除く。)
  - (2) 松本国際交流会館の業務執行及び運営に関すること。
  - (3) 前各号に掲げるもののほか、教育活動に係る国際交流に関する事務を処理すること。

(出典：信州大学規程集)

**資料医 52 学務課、学生支援課、国際交流課の職員数**

	学務課	学生支援課		国際交流課
		うち キャリアサポ ートセンター		
事務職員	20	11	3	6
事務補佐員	12	4	2	5

臨時用務員	1			
専門職員	1			
技術補佐員	5			
技能補佐員		1		
シニア雇用職員	4	1		
コーディネータ		1		6
合計	43	18	5	17

平成 28 年 1 月 18 日現在

(出典：経営企画課作成)

**資料医 53** 附属図書館，総合健康安全センター，総合情報センター，e-Learningセンター職員数

区分	附属図書館	総合健康安全センター	総合情報センター	e-Learningセンター
松本キャンパス	54	13	9	3

平成 28 年 2 月 1 日現在

(出典：経営企画課作成)

**資料医 54** 信州大学ティーチング・アシスタント実施要項

(目的)

第 2 TAは，本学大学院の優秀な学生に対し，教育的配慮の下に教育補助業務を行わせ，これに対する手当支給により，当該学生の処遇の改善に資するとともに，大学教育の充実及び指導者としてのトレーニングの機会提供を図ることを目的とする。

(身分)

第 3 TAは，非常勤職員とする。

(職務内容)

第 4 TAは，学部学生，修士課程の学生及び博士前期課程の学生に対する実験，実習及び演習等の教育補助業務に従事する。

(出典：信州大学ティーチング・アシスタント実施要項)

**資料医 55** 各学部等におけるTAの業務内容

部局名	授業時間内の業務内容								授業時間外の業務内容					その他の業務内容
	A	B	C	D	E	F	G	H	a	b	c	d	e	
医学部	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	

授業時間内の業務内容  
 A. 資料の配付 B. 機器の操作 C. 出欠の管理 D. 試験監督補助 E. 討論への参加  
 F. 学生の質問への対応 G. 実験・実習などの実演 H. 発声・会話の指導

授業時間外の業務内容  
 a. 資料のコピー，保存 b. 教室のメンテナンス(空調，照明，施錠等)  
 c. レポート課題の作成・採点補助 d. 教材の作成補助 e. 実験・実習の準備

(出典：各学部等のデータをもとに経営企画課にて作成)

(4) 入学者選抜方法の工夫

医学科

①-1 医学科の入学者選抜の工夫

平成23年度から入試改革WGを設置し，平成28年度入試までに入試改革を行った。(資料医56, 57)

資料医56 入試改革WG

## 入試改革 WG まとめ

1. 設置目的：平成 27 年度入試に向けて、医学科入試の抜本的な改革を検討する。
2. 開催状況

	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
メンバー	教授 8 名	教授 11 名	教授 10 名
開催回数 (打合せ等含む)	8 回	4 回	6 回

※平成 26 年度中に、設置目的を達したとして WG は解散

### 3. 入試改革 WG の検討による主な入試改革

	平成 25 年度入試	平成 26 年度入試	平成 27 年度入試	平成 28 年度入試
推薦	・合格基準点の設定	・既卒 1 年目の定員枠の設置		
前期日程		・センター試験及び個別学力検査の配点の見直し ・「外国語（英語）」の追加 ・「面接・小論文」の点数化	・「理科（化学）」の追加 ・入学定員の見直し (55 名→85 名) ・2 段階選抜の導入	・「理科（物理・生物）」の追加及び 2 科目選択式への変更 ・後期日程廃止に伴う入学定員の見直し (85 名→100 名)
後期日程			・「理科（化学）」の追加 ・入学定員の見直し (45 名→15 名)	・廃止

(出典：医学部作成)

## 資料医57 医学科の入試制度改革

### 入試の変更について

○個別試験科目の変更について

試験科目の推移

平成 25 年度		平成 26 年度		平成 27 年度		平成 28 年度	
	科目名		科目名		科目名		科目名
前期	数学 面接・小論文	⇒	英語 数学 面接・小論文	⇒	英語 数学 化学 面接・小論文	⇒	英語 数学 物理・化学・生物から 2 科目 面接
	後期		英語 数学 面接		後期		英語 数学 化学 面接

(次頁に続く)

配点等の推移

平成 25 年度									
前期 日程		国語	地理歴史・公民	数学	理科	外国語	面接	小論文	配点合計
	センター	200	100	200	200	200			900
	個別			150				段階評価	150
合計	200	100	350	200	200			1,050	
後期 日程	センター	100	50	100	100	100			450
	個別			250		250		個別面接	500
	合計	100	50	350	100	350			950



平成 26 年度									
前期 日程		国語	地理歴史・公民	数学	理科	外国語	面接	小論文	配点合計
	センター	100	50	100	100	100			450
	個別			150		150		100	400
合計	100	50	250	100	250		100	850	
後期 日程	センター	100	50	100	100	100			450
	個別			250		250		個別面接	500
	合計	100	50	350	100	350			950



平成 27 年度									
前期 日程		国語	地理歴史・公民	数学	理科	外国語	面接	小論文	配点合計
	センター	100	50	100	100	100			450
	個別			150	100	150		100	500
合計	100	50	250	200	250		100	950	
後期 日程	センター	100	50	100	100	100			450
	個別			250	100	250		個別面接	600
	合計	100	50	350	200	350			1050



平成 28 年度									
前期 日程		国語	地理歴史・公民	数学	理科	外国語	面接	小論文	配点合計
	センター	100	50	100	100	100			450
	個別			150	150	150	150		600
合計	100	50	250	250	250	150		1050	
後期 日程	センター	廃止							
	個別								
	合計								

(出典：医学部作成)

①-2 長野県内枠推薦入試の拡充

医学科では、長野県出身の学生を集め地域医療の拡充に繋げている。（資料医58）

資料医58 県内枠推薦入試

長野県内枠推薦入試の推移について

入試年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
募集人数	13	15	15	20	20	20	20
入学者数	13	15	15	20	20	20	20
全体	113	115	115	120	120	120	120

（出典：医学部作成）

保健学科

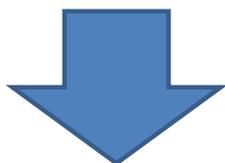
入試科目の検討を行い基礎学力向上のために平成28年度以降社会を応用科目に変更することとした（資料医59）

資料医59 保健学科の入試科目の変更

大学入試センター試験 教科・科目の変更

平成27年度入試

教科	科目等	
国語	国語	} から1
地理歴史	世界史A, 世界史B, 日本史A, 日本史B, 地理A, 地理B	
公民	現代社会, 倫理, 政治経済, 倫理・政治経済	
数学	数学Ⅰ・数学A	} から1
	数学Ⅱ・数学B, 工業数理基礎, 簿記・会計, 情報関係基礎	
理科	物理, 化学, 生物	から2
外国語	英語	[5教科7科目]



平成28年度入試

教科	科目等	
国語	国語	} から1
地理歴史	<b>世界史B, 日本史B, 地理B</b>	
公民	現代社会, 倫理, 政治経済, 倫理・政治経済	
数学	数学Ⅰ・数学A	} から1
	数学Ⅱ・数学B, 工業数理基礎, 簿記・会計, 情報関係基礎	
理科	物理, 化学, 生物	から2
外国語	英語	[5教科7科目]

（出典：医学部作成）

② 志願者確保に向けた活動

オープンキャンパス、公開授業、高校への出張講座や学科説明会を通じて、優れた入学希望者の確保に努めている。（資料医60～61）

**資料医60** オープンキャンパス、公開授業、高校での出前講座や学科説明会などの開催状況

平成26年度 長野県内枠推薦入試説明会

学校名	説明日時		参加 予定数	参加 学年	参加者数 (実績)
飯田高等学校	6月3日	火 16:10~17:10	45	1~2	43
上田高等学校	6月11日	水 15:00~	53	1~3	50
野沢北高等学校	6月13日	金 16:20~	27	1~3	27
屋代高等学校	6月14日	土 10:00~11:30	163	2	133
長野高等学校	6月17日	火 16:10~	90	1~3	91
松本県ヶ丘高等学校	6月18日	水 16:00~	10	1~3	7
諏訪清陵高等学校	6月20日	金 16:00~	20	1~3	20
松本深志高等学校	6月25日	水 16:00~	43	3	40
長野日本大学高等学校	7月4日	金 16:10~17:30	53 (高校生 33 保護者 20)	1~3	55
須坂高等学校	7月9日	水 16:00~	14	1~3	14
佐久長聖高等学校	7月22日	火 13:30~	22 (1年4 2年10 3年8)	1~3	21
伊那北高等学校	7月25日	金 13:30~	20	1~3	13

平成26年度 講師派遣実績

No.	実施日	曜日	高校名	主催	内容	対象	受講者数			備考
							県内	県外	計	
	H26.10.4	土	長野県諏訪清陵高校	諏訪清陵高校	模擬講義	1年生対象	206		206	
	H26.10.23	木	長野県須坂高校	須坂高校	模擬講義	2年生対象	209		209	
	H27.3.6	金	長野県木曾青峰高校	長野県木曾青峰高校	模擬講義	1・2年生対象	122		122	

(次頁に続く)

(医学科) ※他学部参加者含む

	オープンキャンパス		長野県内枠 推薦入試説明会		予備校等での説明会		高校への講師派遣	
	回数	参加者数	回数	参加者数	回数	参加者数	回数	参加者数
H24	2	580	12	317	7	285	5	658※
H25	2	581	12	490	7	204	4	526※
H26	2	623	12	514	7	158	3	537※
H27	2	560	12	382	6	159	6	138

(出典：医学部作成)

資料医61-1 医学科のオープンキャンパス

2015 医学部医学科オープンキャンパス

開催日 平成27年7月26日(日)

受付時間 9:30～10:30

会場 旭総合研究棟9階 講義室A・B 他

プログラム

- 1) 学部説明
- 2) 信州大学の医学教育・カリキュラム説明
- 3) 医学生パネルディスカッション
- 4) 見学・体験・懇談

前半<13:30～14:30>の体験・見学・実習箇所は選択となります。

後半<14:40～15:40>は指定箇所の体験・見学・実習となります。

※オープンキャンパスの申し込みは毎回100%を超えている。

(次頁に続く)

## 平成27年度オープンキャンパス 体験・見学・懇談内容

見学・体験	場所	内容
シミュレーター体験	第1実習室	心・肺、採血、耳鏡等のシミュレーターを体験
BLS体験	第2実習室	人形やAEDを用いたBLS実習 (Basic life support=1次救命措置)
臨床教室訪問	外科学第一	簡単な手技の体験とミニレクチャー
	画像医学	画像診断についてミニレクチャー
	耳鼻咽喉科学	教室での研究や、臨床について説明
	脳神経外科学	教室での研究や、臨床について説明
病院部門訪問	総合診療科	総合診療科での臨床について説明
	手術部	術衣にて着替えての手術室の見学
	内視鏡センター	内視鏡の見学と実習
	臨床検査部	各検査部門の見学
	放射線部	CTやMRIの見学
	薬剤部	薬剤業務の見学
	高度救命救急	ヘリポートの見学
基礎教室訪問	分子病理学	ミニレクチャー
	組織発生学	教室での研究について説明
	免疫・微生物学	教室での研究について説明
	遺伝医学	ミニレクチャー
医学生との懇談	医学部基礎棟	受験や学生生活について医学部生との懇談
若手医師との懇談	医学部基礎棟	受験や医師としての生活について若手医師との懇談

(出典：医学部作成)

## 資料医 61-2 保健学科のオープンキャンパス

2015 医学部保健学科オープンキャンパス（全体説明会の後に、専攻別プログラムを実施している）

開催日 平成27年8月9日（日）  
 受付時間 第1グループ：10:00～10:30  
 第2グループ：12:30～13:00  
 開催時間 第1グループ：10:30～14:30  
 第2グループ：13:00～16:00  
 会場 旭総合研究棟9階講義室A・B・C  
 医学部保健学科各専攻実習室 ほか

プログラム

第1グループ 10:30~14:30

第2グループ 13:00~16:00

各専攻紹介，模擬ミニ講義，入試資料配付，学生食堂体験など。

※第1・第2グループとも同じ内容。

オープンキャンパスでは大学生活をイメージしやすいよう在学生の説明機会を設けている。

企画・運営：広報委員

2013年度 オープンキャンパス 7月20日(土) 看護学専攻 見学ルート・役割分担

グループ	学内集合	学内誘導①	13:10-13:30	13:30-13:50	13:50-14:10	14:10-14:30	14:30~
		学内誘導②	14:40-15:00	15:00-15:20	15:20-15:40	15:40-16:00	16:00~
A	オリエンテーション (311)	教員	基礎・成人 (基礎成人実習室)	小児・母性 (中2F第1会議室)	老年・在宅 (211・在宅実習室)	カリキュラムの説明・ 在校生との交流(311)	最終の場所で アンケートへの 記入と 回収
B		教員	老年・在宅 (211・在宅実習室)	カリキュラムの説明・ 在校生との交流(311)	基礎・成人 (基礎成人実習室)	小児・母性 (中2F第1会議室)	
C		教員	カリキュラムの説明・ 在校生との交流(311)	基礎・成人 (基礎成人実習室)	小児・母性 (中2F第1会議室)	老年・在宅 (211・在宅実習室)	
D		教員	小児・母性 (中2F第1会議室)	老年・在宅 (211・在宅実習室)	カリキュラムの説明・ 在校生との交流(311)	基礎・成人 (基礎成人実習室)	

<旭総合研究棟>

	内容	集合時間	担当者
会場受付	午前10:00~10:30/午後12:30~13:00 *旭総合研究棟9階集合 受付・資料配布・会場整理など	9:30	玉井、石田
旭総合研究棟 から保健学科 誘導案内	見学者集合：生協前 1 G 12:50...13:00までに保健学科311番教室に誘導 2 G 14:10...14:30までに保健学科311番教室に誘導	1 G 12:45 2 G 14:05	高橋理沙
専攻紹介	AM/PM 2回	10:20	坂口
模擬講	PM	13:30	市川

(出典：医学部作成)

(5) 教員の教育力向上や職員の専門性向上のための体制  
医学科

①教育担当者対象FDの実施

教育力向上のため、以下のFD等を開催。(資料医62～64)

**資料医62 信州大学医学部医学科医学教育FD**

カリキュラムプランニングや教育技法修得を目標に開催。

**第15回信州大学医学部医学科医学教育FD**

**(終了報告)**

【日 時】平成25年9月21日(土)～22日(日)

【会 場】穂高ビューホテル

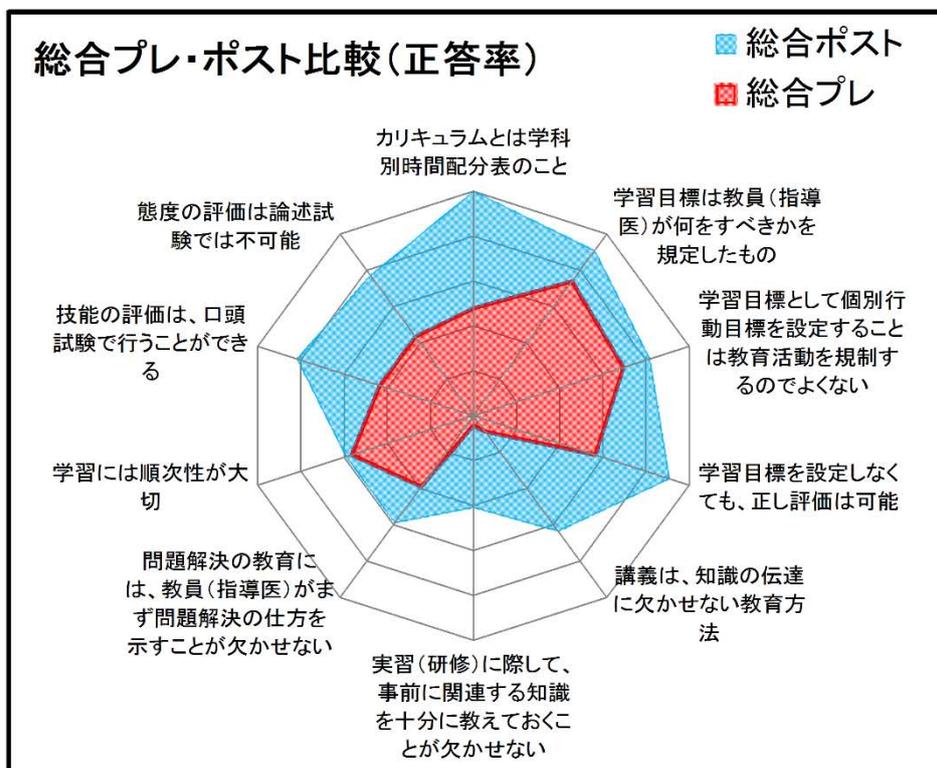
【講 師】医療系大学間共用試験実施機構  
理事 齋藤宣彦 先生

【参加者】教員 23名 スタッフ 13名



**【医学教育FDの効果】**

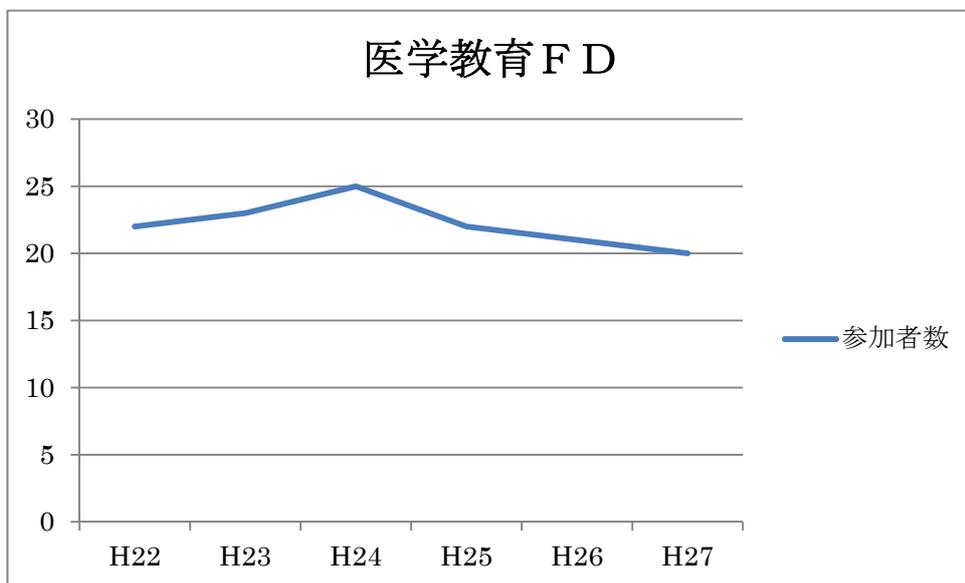
教育に関する基本的事項の正答率は、医学教育FD後に上昇した。



(次頁に続く)

(参加者数)

年度	教員	スタッフ
H26	21	11
H27	20	14



(出典：医学部作成)

**資料医63** 医学教育出張FD

教育協力病院における教育水準を担保すべく、教育目的や学生指導などに関するFDを出張開催。

(次頁に続く)

出張医学教育FD				
年度	年月日	病院名	参加人数	
24	1	平成24年10月31日	県立こども病院	13
	2	平成24年12月3日	県立木曽病院	20
	3	平成24年12月11日	安曇野赤十字病院	10
	4	平成25年1月10日	信州上田医療センター	26
	5	平成25年1月11日	まつもと医療センター松本病院	14
	6	平成25年2月1日	まつもと医療センター中宿松本病院	19
平成24年度合計			102	
年度	年月日	病院名	参加人数	
25	1	平成25年5月29日	市立大町総合病院	25
	2	平成25年6月3日	富士見高原病院	18
	3	平成25年6月17日	長野赤十字病院	53
	4	平成25年6月18日	佐久総合病院	37
	5	平成25年7月22日	小諸厚生総合病院	20
	6	平成25年7月29日	松代総合病院	27
	7	平成25年8月5日	北信総合病院	21
	8	平成25年9月2日	飯田市立病院	61
	9	平成25年9月30日	篠ノ井病院	42
	10	平成25年10月8日	県立須坂病院	20
	11	平成25年10月21日	諏訪赤十字病院	82
	12	平成25年11月6日	松本市立病院	25
	13	平成25年11月6日	こころの医療センター駒ヶ根	13
	14	平成25年11月12日	安曇総合病院	22
	15	平成25年11月13日	浅間総合病院	27
	16	平成25年11月19日	伊那中央病院	36
	17	平成25年11月25日	鹿教湯三才山リハビリテーションセンター	14
	18	平成25年12月9日	長野市民病院	65
	19	平成25年12月11日	小諸高原病院	9
	20	平成25年12月16日	岡谷市民病院	20
平成25年度合計			637	
年度	年月日	病院名	参加人数	
26	1	平成26年9月9日	飯山赤十字病院	15
	2	平成26年9月11日	上田医療センター	26
	3	平成26年9月22日	市立岡谷病院	14
	4	平成26年9月29日	鹿教湯病院	12
	5	平成26年9月29日	小諸厚生総合病院	15
	6	平成26年10月6日	富士見高原病院	
	7	平成26年10月6日	県立木曽病院	15
	8	平成26年10月7日	長野松代総合病院	48
	9	平成26年10月10日	丸の内病院	28
	10	平成26年10月14日	相澤病院	27
	11	平成26年10月14日	県立須坂病院	18
	12	平成26年10月15日	市立大町総合病院	
	13	平成26年10月21日	伊那中央病院	
	14	平成26年10月22日	まつもと医療センター中宿松本病院	
	15	平成26年10月23日	国保依田窪病院	
	16	平成26年10月24日	まつもと医療センター松本病院	
	17	平成26年10月27日	長野赤十字病院	
	18	平成26年10月27日	篠ノ井総合病院	
	19	平成26年10月28日	佐久総合病院	
	20	平成26年11月4日	県立こども病院	
	21	平成26年11月5日	県立こころの医療センター駒ヶ根	
	22	平成26年11月10日	飯田市立病院	
	23	平成26年11月10日	長野市民病院	
	24	平成26年11月11日	安曇総合病院	
	25	平成26年11月12日	浅間総合病院	
	26	平成26年11月13日	諏訪中央病院	
	27	平成26年11月18日	小諸高原病院	
	28	平成26年11月19日	松本市立病院	
	29	平成26年11月27日	昭和伊南総合病院	
	30	平成26年12月1日	安曇野赤十字病院	
	31	平成26年12月8日	北信総合病院	
	32	平成26年12月8日	諏訪赤十字病院	
	33	平成26年12月9日	丸子中央病院	
平成26年度合計			218	

(次頁に続く)

年度	年月日	時間	病院名	参加人数	回数	
27	1	平成27年5月20日	17時～17時30分	小諸高原病院	12	3
	2	平成27年5月25日	17時～17時30分	小諸厚生病院	17	3
	3	平成27年6月1日	18時30分～19時00分	飯田市立病院	61	3
	4	平成27年6月1日	18時30分～19時00分	県立木曾病院	10	3
	5	平成27年6月2日	17時30分～18時	北アルプス医療センターあづみ病院	11	3
	6	平成27年6月4日	8時～8時30分	松本市立病院	25	3
	7	平成27年6月4日	16時30分～17時	昭和伊南総合病院	7	2
	8	平成27年6月8日	18時～18時30分	諏訪赤十字病院	73	3
	9	平成27年6月9日	18時30分～19時	まつもと医療センター松本病院	13	3
	10	平成27年6月10日	18時30分～19時	市立大町総合病院	30	3
	11	平成27年6月10日	18時～18時30分	長野赤十字病院	73	3
	12	平成27年6月11日	18時～18時30分	丸子中央病院	18	2
	13	平成27年6月11日	18時30分～19時	信州上田医療センター	46	3
	14	平成27年6月16日	18時50分～19時20分	伊那中央病院	48	3
	15	平成27年6月23日	15時～15時30分	浅間総合病院	7	3
	16	平成27年6月29日	18時～18時30分	篠ノ井総合病院	47	3
	17	平成27年7月1日	17時～17時30分	県立こころの医療センター駒ヶ根	18	3
	18	平成27年7月3日	18時30分～19時	まつもと医療センター-中信松本病院	15	3
	19	平成27年7月6日	17時30分～18時	安曇野赤十字病院	28	3
	20	平成27年7月6日	18時20分～18時50分	丸の内病院	28	2
	21	平成27年7月7日	18時～18時30分	飯山赤十字病院	12	2
	22	平成27年7月9日	18時～18時30分	諏訪中央病院	23	2
	23	平成27年7月13日	19時～19時30分	長野市民病院	67	3
	24	平成27年7月14日	18時～18時30分	県立須坂病院	25	3
	25	平成27年7月14日	18時～18時30分	相澤病院	32	2
	26	平成27年7月16日	17時～17時30分	国保依田窪病院	5	2
	27	平成27年7月21日	18時30分～19時	佐久総合病院	47	3
	28	平成27年7月27日	18時～8時30分	市立岡谷病院	24	3
	29	平成27年8月3日	18時～18時30分	富士見高原病院	18	3
	30	平成27年8月4日	18時～18時30分	長野松代総合病院	37	3
	31	平成27年8月18日	18時～18時30分	上越総合病院	33	1
	32	平成27年8月24日	17時30分～18時	鹿教湯三才山リハビリテーションセンター	8	3
	33	平成27年9月1日	15時～15時45分	市立甲府病院	3	1
平成27年度小計				921		

(次頁に続く)

# 出張医学教育FD(長野赤十字病院)

【日時】 平成26年10月27日 17時30分～ 18時00分

【場所】 長野赤十字病院

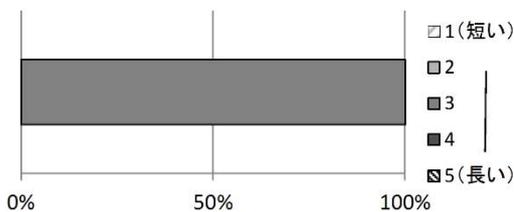
【参加人数】 65名

## 【内容】

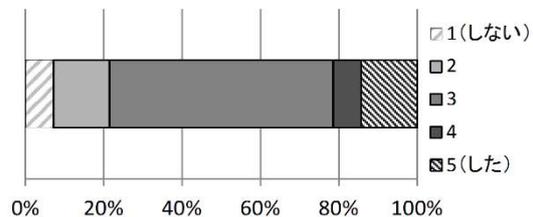
- 卒前クリニカルクラークシップの現状
- 信州大学における今後の臨床実習
  - ・150通りの選択肢からなる参加型臨床実習について
  - ・学生が行うことのできる医行為について
  - ・臨床実習の指導医
- 患者の同意と事故補償



FDの開催時間はいかがでしたか。



FDはニーズにマッチしましたか。



## 参加者の意見

FDで分かったこと	FDで疑問が残ったこと	ご意見						
目標はわかった。	万が一、医療事故に学生がかかわった時の対応。保険の問題でなく、実務的・法的な対応の実際。	移行期なのかもしれないが、初期研修医との兼合いは難しい。現状であれば教育内容が似かよってしまい、どのように差別化を図るか、教える側としては工夫をしていかなければならず、結構大変だと思う。						
病院に実習に来る学生が増える。学生教育における実習の割合が増える。学生が増える。仕事も増える。だけど、楽しいかもしれない。	学生の社会的資質。							
信大の新しい実習体制。	具体的ななにをやらせて良いのか。							
学生がなぜ病院で実習するかがわかった。	今後の大学の役割について。							
学生研修の意義。	学生の実習のフィードバックの基準は何かありますか？(ほとんどの医師は教育のトレーニングを受けたことがないため)							
英語ができないと世界で通用する医師になれない。	WFMEの認証水準 (ここが目標では?)の比較表	この比較表があればより日本の医学教育の何が欠けている(ガラパゴス)のかははっきりすると思います。目標水準ゴールを明確に。卒業時到達点は、現在の初期研修制度1年目終了時のレベル?2年目のレベル?						
150通りの臨床実習の位置づけが理解できた。	<table border="1"> <thead> <tr> <th>例) 現在の医学教育</th> <th>WFME</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実習期間 X年 X</td> <td>Y</td> </tr> <tr> <td>診療科目 Z ◎</td> <td>M</td> </tr> </tbody> </table>	例) 現在の医学教育	WFME	実習期間 X年 X	Y	診療科目 Z ◎	M	
例) 現在の医学教育	WFME							
実習期間 X年 X	Y							
診療科目 Z ◎	M							
すべて理解できた。								
学生実習の実際。								
臨床場面に学生にも参加してもらい、実践力をつける必要がある。								

(出典：医学部作成)

## 資料医64 参加型臨床実習を推進するための信州大学医学教育ワークショップ

信州大学医学部附属病院および教育協力病院が協力して学生を教育する目的を再確認し学生指導の目安を作成すべく開催。

(次頁に続く)

参加型臨床実習を推進するための  
信州大学医学教育ワークショップ

2014

— 新しい臨床実習での望ましい学生教育を考える —

日 時 平成26年9月13日（土）9時から

会 場 信州大学医学部第2実習室（医学部講義棟2階）

参加者 信州大学および教育協力病院の学生指導医 合計42名

信州大学医学部医学教育センター

【タイムスケジュール】

時刻	時間	テーマ	内容	備考
8:30～		受付		名札配布
9:00～	15分	開会式	主催者挨拶	日程の確認
9:15～	15分	新カリキュラムの説明		
9:30～	60分	『信州大学と教育協力病院で屋根	グループ作業	KJ法
10:30～	30分	瓦式教育を定着させるには』	全体発表	発表3分, 討論2分, 6グループ
11:00～	60分	診療科別実習目標①の作成	グループ作業	
12:00～	60分	昼食・休憩		レストラン ソレイユ (附属病院外来棟5階)
13:00～	30分	診療科別実習目標①の発表	全体発表	発表3分, 討論2分, 6グループ
13:30～	60分	診療科別実習目標②の作成	グループ作業	
14:30～	30分	診療科別実習目標②の発表	全体発表	発表3分, 討論2分, 6グループ
15:00～	60分	実習の方略と評価方法の作成	グループ作業	
16:00～	30分	発表	全体発表	発表3分, 討論2分, 6グループ
16:30～	20分	閉会式	主催者挨拶	

- ① ワークショップにて作成されたプロダクトは、「150通りの選択肢からなる参加型臨床実習」における各科の実習目標として医学教育センターでまとめ、信州大学医学部の各教室および各教育協力病院に配布する。
- ② このワークショップにて新たな問題が明らかになった場合は、それを解決するための新たなワークショップを企画する。

(次頁に続く)

信州大学医学部医学科診療科別臨床実習の到達目標

臨床実習における学習目標 「内科共通」		
6年生終了時までには達成すべき目標 (研修1年目4月の時点でできてほしい目標)		
1	一般内科診療ができる。	1 実患者の医療面接を実践できる。
		2 基本的身体診察とその解釈ができる。
		3 プロブレムリストと鑑別診断を挙げ、検査計画を立案できる。
		4 検査結果の解釈ができる。
		5 治療方針を立案できる。
		6 1-5をPOMR形式でカルテ記載できる。
		7 1-5を指導医に説明できる。
		8 受け持ち患者のサマリーを作成できる。
2	患者を含めたチーム医療が実践できる。	1 挨拶ができる。
		2 患者、家族とコミュニケーションを取ることができる。
		3 チーム内でのコミュニケーションが取れる。
		4 指導医とともにインフォームドコンセントに参加、実施できる。
		5 適切なコンサルトを行うことができる。
		6 指導のもとで患者の治療、患者教育が実践できる。
		7 カンファレンスでプレゼンテーションができる。
3	基本的な手技を身に付ける。	1 「信州大学の医学生における臨床実習の目標」のI-Aをすべて身に付ける。

(出典：医学部作成)

②OSCE評価者研修

患者への対応に十分な臨床能力を修得しているかを、OSCEによって確認している。試験を厳正かつ公正に実施するため、積極的に教員を共用試験医学系OSCE認定評価者講習会に参加させている。(資料医65)

## 資料医65 OSCEの評価者研修

共試機構総発第25号  
平成27年5月28日

医学系会員 各位

公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構  
医学系 OSCE 実施小委員会  
委員長 北村 聖  
外部評価者認定専門部会  
部会長 羽野 卓三

平成27年度共用試験医学系 OSCE 評価者認定講習会について (通知)

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

日頃、当機構の運営にご協力いただきお礼申し上げます。

さて、このことについて、下記のとおり開催いたしますので参加願います。

また、2016年度 OSCE から「四肢と脊柱」の課題が新たに加わることに伴い、今年度の講習会から「四肢と脊柱」の評価者養成と認定も行いますので、積極的に参加願います。

なお、参加申込については別紙をご覧の上、メール (cato@umin.ac.jp) にて 平成27年8月7日(金) までに回答願います。

## 記

- 目 的 共用試験 OSCE の適切な評価ができる外部評価者の養成と認定
- 日時・場所 平成27年 9月27日(日) 関西医科大学 枚方学舎  
平成27年10月11日(日) 東京慈恵会医科大学 西新橋キャンパス  
平成27年10月25日(日) 帝京大学 板橋キャンパス  
・全体講習 13:00~14:45  
・個別ステーション講習 15:00~16:45
- 内 容 8ステーション  
(医療面接、頭頸部、胸部、腹部、神経、基本手技、救急、四肢と脊柱)
- 参 加 者
- ・受講者は共用試験 OSCE の評価を1回以上経験した者に限ります。
  - ・各大学においてステーション毎に2名以上の認定評価者が在籍するよう講習会への参加をお願いします。平成27年5月28日付け共試機構総発第24号「共用試験医学系 OSCE 認定評価者情報の更新について(依頼)」別紙を参考にしてください。
  - ・1名が複数ステーション受講希望の場合は、複数会場の申込みが必要です。
  - ・昨年までに認定を受けた者が別ステーションを受講することも可能です。その場合、全体講習を受講しなくてもかまいません。
  - ・一般病院勤務者の受講も可能です。但し今後評価者として共用試験 OSCE に関わる医師に限ります。
- 参 加 費 無料
- そ の 他
- ・講習内容は、昨年度と同様です。
  - ・旅費等は、各大学で負担願います。
  - ・希望者全員の受講が可能ですが、会場案内は申込締切後に別途連絡します。
  - ・各大学での OSCE の各ステーション責任者は認定評価者が担当されるようお願いいたします。

以上

(次頁に続く)

(別表)

ST	氏名	大学名	9月12日(土)	9月27日(日)	10月11日(日)	10月25日(日)
			東北大学	関西医科大学	東京慈恵会医科大学	帝京大学
医療面接	守屋 利佳	北里大学		◎	◎	
	三瀬 順一	自治医科大学	◎			○
	大滝 純司	北海道大学				
	岸 美紀子	群馬大学			○	
	石川 ひろの	東京大学		○		◎
	岡田 宏基	香川大学	○ 事前打合せ)			
頭頸部	林 達哉	旭川医科大学	○ 事前打合せ)			○
	熊倉 俊一	鳥根大学	○			○
	鈴木 富雄	大阪医科大学		○		
	古谷 伸之	東京慈恵会医科大学			○	
	松井 俊和	藤田保健衛生大学		○	○	
胸部	佐藤 徹	杏林大学			○	○
	横崎 典哉	広島大学	○ 事前打合せ)	○		
	山崎 直仁	高知大学			○	
	大屋 祐輔	琉球大学				
	石川 和信	福島県立医科大学	○			
	羽野 卓三	和歌山県立医科大学				
	石川 鎮清	自治医科大学				○
	林田 晃寛	心臓病センター-榎原病院		○		
腹部	高田 清式	愛媛大学		○	○	○
	藤本 真一	奈良県立医科大学				
	渡部 健二	大阪大学		○		
	松井 邦彦	熊本大学			○	
	長原 光	東京女子医科大学	○ 事前打合せ)			○
	小坂 健夫	金沢医科大学	○			
神経	苅田 典生	神戸大学		○		○
	高橋 慎一	慶應義塾大学			○	
	栗栖 薫	広島大学				○
	宇宿 功市郎	熊本大学	○			
	松井 真	金沢医科大学		○		
	道勇 学	愛知医科大学	○ 事前打合せ)		○	
基本的 臨床手技	石井 誠一	東北大学	○ 事前打合せ)	○	○	○
	宮本 学		○			
	多田 剛	信州大学				○
	河野 誠司	神戸大学		○		
	柵山 年和	東京慈恵会医科大学			○	
救急	本間 正人	鳥取大学	○ 事前打合せ)			
	藤田 智	旭川医科大学		○		
	西山 陸	神戸大学	○			
	氏家 良人	川崎医科大学				○
	瀬尾 宏美	高知大学			○	
	阪本 雄一郎	佐賀大学		○		○
	山畑 佳篤	京都府立医科大学			○	
四肢と 脊柱	谷口 純一	熊本大学	○ 事前打合せ)	○	○	
	大川 淳	東京医科歯科大学			○	
	高橋 誠	東京医科歯科大学		○		○
	大谷 晃司	福島県立医科大学	○			
	山脇 正永	京都府立医科大学				○
	宮田 靖志	名古屋医療センター			○	

(次頁に続く)

受講年度	大学名	名前	ふりがな <small>※空欄の場合はご入力ください</small>	所属 <small>※空欄の場合はご入力ください</small>	役職 <small>※空欄の場合はご入力ください</small>	面接	頭部	胸部	腹部	神経	外科	救急	四肢・脊柱
H25	信州大学	青木 薫	あおき かおる	保健学科学療法	准教授					○			
H20	信州大学	上松 一永	あげまつ かずなが	病理学	准教授	○							
H23	信州大学	新倉 則和	あらくら のりかず	内視鏡センター	准教授				○				
H20	信州大学	伊澤 淳	いざわ あつし	循環器内科	講師			○					
H16	信州大学	石塚 修	いしづかおさむ	泌尿器科学	教授				○				
H25	信州大学	伊藤 研一	いとう けんいち	乳腺内分泌呼吸器外科部門	教授		○						
H17	信州大学	今村 浩	いまむら ひろし	救急集中治療医学	教授							○	
H18	信州大学	上田 和彦	うえだ かずひこ	画像医学	准教授	○							
H25	信州大学	上原 剛	うえはら たけし	病態解析診断学	准教授	○							
H26	信州大学	牛木 淳人	うしき あつひと	内科学第1	講師	○							
H18H27	信州大学	内山 茂晴	うちやま しげはる	運動機能学	准教授					○			○
H24	信州大学	梅村 武司	うめむら たけじ	内科学第二	准教授				○				
H21	信州大学	漆畑 一寿	うるしはた かずひさ	呼吸器・感染症内科	助教			○					
H21	信州大学	大平 哲史	おおひら さとし	産科婦人科	講師				○				
H18	信州大学	岡 賢二	おか けんじ	産科婦人科	助教	○							
H26H27	信州大学	加藤 博之	かとう ひろゆき	運動機能学	教授					○			○
H26	信州大学	金井 信一郎	かない しんいちろう	感染制御室	助教	○							
H25	信州大学	上條 祐司	かみじょう ゆうじ	血液浄化療法部	准教授				○				
H22	信州大学	鬼頭 良輔	きとう りょうすけ	耳鼻いんこう科	助教		○						
H18	信州大学	小泉 知展	こいずみ ともり	包括的がん治療学講座	教授			○					
H20	信州大学	後藤 哲哉	ごとう てつや	脳神経外科	講師					○			
H21	信州大学	小林 聡	こばやし あきら	外科学第1	准教授				○				
H21	信州大学	駒津 光久	こまつ みつひさ	内科学第4	教授		○						
H19	信州大学	小山 清	こやま じゅん	内科学第5	准教授			○					
H16	信州大学	塩沢 丹里	しおざわ たんり	産科婦人科学	教授						○		
H26	信州大学	下島 恭弘	しもじま やすひろ	在宅療養推進学講座	准教授					○			
H26	信州大学	菅 智明	すが ともあき	内科学第二	講師				○				
H20	信州大学	関島 良樹	せきじま よしき	内科学第3	准教授					○			
H25	信州大学	高橋 淳	たかはし じゅん	整形外科	講師					○			
H23	信州大学	高山 浩史	たかやま ひろし	救急集中治療医学	助教							○	
H17	信州大学	田中 榮司	たなか えいじ	内科学第2	教授				○				
H18	信州大学	田中 聡	たなか さとし	麻酔科蘇生科	准教授						○		
H23	信州大学	天正 恵治	てんしょう けいじ	運動機能学	助教					○			
H22	信州大学	新田 憲市	にった けんいち	高度救命救急センター	助教								○
H16	信州大学	野見山 哲生	のみやまてつお	衛生学公衆衛生学	教授	○							
H19	信州大学	花岡 正幸	はなおか まさゆき	内科学第1	教授	○							
H25	信州大学	濱野 英明	はまの ひであき	医療情報部	准教授				○				
H19	信州大学	林 宏一	はやし こういち	皮膚科	講師						○		
H19	信州大学	堀内 哲吉	ほりうち てつよし	脳神経外科学	准教授					○			
H20	信州大学	本田 孝行	ほんだ たかゆき	病態解析診断学	教授			○					
H26	信州大学	松浦 宏樹	まつうら ひろき	小児医学	助教	○							
H25	信州大学	松本 和彦	まつもと かずひこ	臨床試験センター	准教授	○							
H25	信州大学	宮本 強	みやもと つとむ	産科婦人科学講座	講師						○		
H26	信州大学	村田 貴弘	むらた たかひろ	脳神経外科	助教					○			
H24~26	信州大学	森 淳一郎	もり じゅんいちろう	医学教育センター	講師	○	○	○					○
H20	信州大学	森田 洋	もりた ひろし	卒業臨床研修センター	准教授					○			
H23	信州大学	安尾 将法	やすお まさのり	呼吸器・感染症内科	講師			○					
H20	信州大学	山本 洋	やまもと ひろし	内科学第1	准教授	○							
H25	信州大学	杠 俊介	ゆずりは しゅんすけ	形成再建外科	准教授						○		
H20・H27	信州大学	吉村 康夫	よしむら やすお	リハビリテーション部	講師					○			○
H27	信州大学	小林 法元	こばやし のりもと	小児科	講師								○
H27	信州大学	橋本 幸始	はしもと こうじ	内科(2)	助教				○				
H27	信州大学	小松 通治	こまつ みちはる	内科学(第二)	助教				○				
H27	信州大学	小川 輝之	おがわ てるゆき	泌尿器科学	准教授				○				
H27	信州大学	立石 一成	たていし かずなり	内科学(第一)	助教			○					
H27	信州大学	鈴木 彰	すずき あきら	外科(1)	講師						○		
H27	信州大学	川真田 樹人	かわまた みきと	麻酔蘇生学	教授							○	
H27	信州大学	望月 勝徳	もちづき かつのり	救急集中治療医学	講師							○	

(出典：医学部作成)

③ 模擬患者の養成

現場に近い環境でOSCEを実施するため模擬患者を養成。(資料医66)

**資料医66** 模擬患者ボランティア勉強会  
 模擬患者ボランティアの登録数 29名

勉強会の開催状況

Advanced OSCEに向けた勉強会  
 平成26年度

開催日	4/25	5/9	5/23	6/6	6/20	6/28
参加人数	20	19	21	22	23	24

OSCEに向けた勉強会

回数	日時	集合場所	対象者	備考
第1回	平成26年 7月4日(金)	基礎棟	S P : 全員	ガイダンス
	PM 4:00~	第一会議室	教員: 多田・森・清水・黒川	OSCE予行用シナリオ練習 (ブルーファイル)
第2回	7月25日(金)	基礎棟	S P : 全員	OSCE予行用シナリオ練習 (ブルー・ピンクファイル)
	PM 4:00~	第一会議室	教員: 多田・森・清水・黒川	
第3回	8月4日(月)	基礎棟	S P : 全員	OSCE本試用シナリオ練習 (ピンクファイル)
	PM 4:00~	第一会議室	教員: 多田・森・清水・黒川	
第4回	8月19日(火)	基礎棟	S P : 全員	OSCE予行用・本試用シナリオ練習 (ブルー・ピンクファイル)
	PM 4:00~	第一会議室	教員: 多田・森・清水・黒川	
第5回	8月29日(金)	基礎棟	S P : 全員	OSCE予行用・本試用シナリオ練習 (ブルー・ピンクファイル)
	PM 4:00~	第一会議室	教員: 多田・森・清水・黒川	
第6回	9月5日(金)	医学部講義棟	S P : 全員	臨床実習前集中講義 (12:50~16:10)
	PM 1:00~4:10	基礎棟1~5F	教員: 多田・森・清水・黒川・担当教員	OSCE予行用シナリオ (ブルーファイル)
第7回	9月12日(金)	基礎棟	S P : 全員	OSCE本試用シナリオ練習 (ピンクファイル)
	PM 4:00~	第一会議室	教員: 多田・森・清水・黒川	
評価者 研修	9月12日(金)	旭総合研究棟	SP : 数名	OSCE評価者(教員)のための研修会 (ピンクファイル)
	PM 6:00~	9階 講義室A1B	教員: OSCE評価者	
第8回	9月17日(木)	基礎棟	SP : 全員	OSCE本試用シナリオ練習 (ピンクファイル)
	PM 4:00~	第一会議室	教員: 多田・森・清水・黒川	
本試験	9月21日(日)	長野県松本文化会館	S P : 全員	OSCE本試用シナリオ (ピンクファイル)
	AM 11:00~	1階中ホール		昼食は2階「パウゼ」
追試	9月26日(金)	旭総合棟 チュートリアルルーム	SP : 数名	
反省会	9月29日(月)	外来棟5F「ソレイユ」	S P : 全員	反省会
	PM 4:00~		教員: 多田・森・清水・黒川	

平成26年度

開催日	7/4	7/25	8/4	8/19	8/29	9/5
参加人数	25	19	19	17	20	22
開催日	9/12	9/17	9/21	9/26	9/29	
参加人数	20	22	23	23	23	

(出典：医学部作成)

## ④シミュレーション教育の指導者研修

平成25年度より、以下（資料医67）による指導者の育成を行っている。

**資料医67** ハワイ大学でのシミュレーション教育の研修

・ハワイ大学 SimiTiki シミュレーションセンター指導者研修会、ハワイ大学シミュレーションセンターの視察

信州大学医学部では平成26年度より臨床実習の時間を51週から72週に延長します。これに伴い、臨床実習の期間をベーシックとアドバンスドの2つのクラスシップに別けて、ベーシッククラスシップではシミュレーション教育を積極的に取り入れる予定です。

この度私は、長野県立病院機構のご好意で、平成24年11月20、21日とハワイ大学医学部Sim Tikiシミュレーションセンターで、シミュレーション教育指導者研修を受けてきました。この研修で、私は信州大学医学部のシミュレーション教育では機材の購入や、専用の施設の充実もさることながら、シミュレーション教育を行なう人材の育成も急務であると強く感じました。

以下省略

（出典：医学部ホームページ）

## ⑤職員の能力向上

事務の力向上のための活動（資料医68）を行っている。

**資料医68** 国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修（国立大学医学部長会議常置委員会、全国医学部長病院長会議主催）

国公立大学医学部・歯学部 教務事務職員研修

参加者名簿

第16回 H27年 5/13～5/15 学務第1係 高地妙子

第15回 H26年 5/13～5/15 学務第2係 篠原健二

第14回 H25年 5/8～5/10 学務第1係 金子倫三

第13回 H24年 6/6～6/8 学務第2係 中島華

第12回 H23年 6/1～6/3 大学院係 細川美佳

目的

国公立大学医学部・歯学部教務事務職員研修は、医学・歯学教育の改革がこれまでにないスピードで行われている現状を踏まえて、医学・歯学教育に関する現状と教務事務に関する理解を深め、医学部・歯学部の教務事務職員としての資質の向上を図るとともに、各国公立大学における円滑な教務事務の進展に寄与することを目的とする。

（出典：医学部作成）

保健学科

教育力向上のための活動（資料医69-71）。

**資料医69** 保健学科FD委員会

○FD研修会

年度	FDテーマ（講師）	参加者数等
H22		
H23	教員・指導者はどうあるべきか ～フィジカルアセスメント教育を通して～	40名
H24	「新たな未来を築くための大学教育の質的転換について～障害学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」（中央教育審議会答申）について	46名
H25	学生相談の進め方（東京大学学生相談ネットワーク本部精神保健支援室長 渡邊慶一郎）	44名
H26	学生への支援-教員としての葛藤-（教育学部教授 上村恵津子）	52名
H27	学生に勉強させるためのアクティブ・ラーニング	46名

（出典：医学部作成）

**資料医70** 教員相互の授業見学（保健学科）

（見学方法の概要）

他の教員の授業を見学可能な教員が授業見学の後、感想を授業担当教員にフィードバックしている。時期	期間	見学授業科目数
平成 23 年度	12 月 5 日（月）～1 月 6 日（金）	2 科目
平成 24 年度	12 月 3 日（月）～12 月 26 日（水）	4 科目
平成 25 年度	12 月 2 日（月）～12 月 20 日（金）	3 科目
平成 26 年度	12 月 1 日（月）～12 月 19 日（金）	2 科目
平成 27 年度	6 月 22 日（月）～7 月 10 日（金） 11 月 30 日（月）～12 月 18 日（金）	7 科目

（出典：医学部作成）

## 資料医 71 学生による授業改善アンケート

## 平成27年度前期「授業改善アンケート」科目別集計表

MPP140

授業科目:	
担当教員:	
集計人数:	

## 1. 授業内容について

No.	質問内容	1	2	3	4	5
1	授業はよく準備・計画されていた	0	0	0	5	42
		0%	0%	0%	11%	89%
2	授業はシラバス、または、講義日程表から大幅に逸脱することなく実施された	0	0	0	4	43
		0%	0%	0%	9%	91%
3	授業の開始・終了時間が守られていた	0	0	0	3	44
		0%	0%	0%	6%	94%
4	教員の話す速度は適切で、聞き取りやすかった	0	0	0	4	43
		0%	0%	0%	9%	91%
5	板書、OHP、液晶の画像は見やすかった	0	0	1	11	35
		0%	0%	2%	23%	74%
6	授業の内容(資料や説明)は分かりやすかった	0	0	0	13	34
		0%	0%	0%	28%	72%
7	学生からの発言や質問の機会があった	0	0	2	8	37
		0%	0%	4%	17%	79%
8	教員は発言や質問に適切に対応した	0	0	1	5	41
		0%	0%	2%	11%	87%
9	予習・復習のための学習課題又は資料が提示された	0	0	7	16	24
		0%	0%	15%	34%	51%
10	この授業の成績評価の基準が明確に示された	0	1	4	9	33
		0%	2%	9%	19%	70%
11	教育に対する担当教員の熱意を感じた	0	0	1	5	41
		0%	0%	2%	11%	87%
12	この授業では、担当教員の学問的・専門的識見が感じられた	0	0	1	1	45
		0%	0%	2%	2%	96%
13	全体的に見て、授業の内容は、授業によって達成しようとしている目標に相応しいものであった	0	0	0	7	40
		0%	0%	0%	15%	85%
14	この授業では、この学部・学科のカリキュラム全体の教育目標に沿った授業内容が提供されていた	0	0	0	7	40
		0%	0%	0%	15%	85%

## 2. 自己評価について

No.	質問内容	1	2	3	4	5
1	私はこの授業に対する学習意欲が高まった	0	1	0	11	35
		0%	2%	0%	23%	74%
2	私はこの授業を熱心に聞いた	0	1	1	15	30
		0%	2%	2%	32%	64%
3	私はこの授業の予習・復習に熱心に取り組んだ	0	4	7	18	18
		0%	9%	15%	38%	38%
4	私はこの授業の学習目標を達成できた	0	1	2	18	26
		0%	2%	4%	38%	55%

## 総合評価

No.	質問内容	1	2	3	4	5
1	この授業に対して、総合的に満足している	0	0	0	11	36
		0%	0%	0%	23%	77%

注1: 上段は人数を、下段は割合を示す。

注2: 回答の項目は「1: そう思わない、2: あまりそう思わない、3: どちらとも言えない、4: ややそう思う、5: そう思う」

(出典: 医学部作成)

(水準)

期待される水準を上回る

(判断理由)

- 医学科では医学教育研修センター（資料医25(22頁))およびカリキュラム検討WG（資料医36(32頁))を中心に（資料医26(24頁))，保健学科では教務委員会およびFD委員会を中心に（資料医28(25頁))，幅広い医学的知識に基づいた臨床能力と問題解決能力，倫理観，幅広い教養を涵養する教育カリキュラムを編成し，学生とその保護者，医療機関の期待に応えている。
- カリキュラムに関する会議に学生が参加し（資料医34(29頁), 35(30頁))，学生の意見をカリキュラム作成・改善に反映している。
- 外部の医療機関や教育機関からの意見を取り入れてカリキュラムを整備するとともに（資料医38(33頁)～40(35頁))，多様なFDを実施し（資料医62(57頁)～64(61頁))，優れた教育技能を持つ教育者を養成することで医療機関の期待に応えている。
- 医学科では地域医療推進講座（資料医27(24頁))の活動や出張FD（資料医63(57頁))により，保健学科では臨地・臨床実習指導者会議（資料医40(35頁))により，多くの県内医療機関と協力体制を構築し，地域医療機関の教育力を養うことで地域社会の期待に応えている。
- 医学科では長野県の医療を担う人材を養成し地域医療に貢献するため，県内卒の推薦入試を実施している。（資料医58(52頁))
- 両学科とも担任をおき，学生生活全般について細やかな指導を行うことで学生とその保護者の期待に応えている。（資料医43(39頁)～45(44頁))

観点 教育内容・方法

(観点に係る状況)

(1) 体系的な教育課程の編成

① 専門科目

①-1 学位授与の方針に基づく教育課程の編成

本学部の方針に対応した教育課程を編成し、カリキュラムマップ、シラバスにより学生に公開している(資料医72,73)。

資料医72 学位授与の方針マップ

(医学科の例)

コード	授業名	◎自己認識・自己発表	◎社会的行動マインド	◎人類知の継承と未来	◎多様な文化受容マイ	◎科学リテラシー	◎言語能力	◎コミュニケーション	◎情報活用力	◎問題発見・解決能力	◎普遍的・数量的理解	◎専門知識と応用力	◎専門外の知識	◎地域環境に関する理	◎環境基礎力	◎環境実践力	◎温かい人間性や高い倫	◎医師としての高い見識	◎患者の身体的・心理的	◎患者やその家族と十分	◎疾病の正確な診断と適	◎常に最新の医療情報を	◎生命を尊び 人間につ	◎保健・医療において生	◎保健・医療の専門職者	◎保健・医療・福祉の現	◎文化の多様性を理解し	◎多くの学問分野に接し	
M02076	法医学演習・実習																												
M01001	医学概論演習Ⅰ																												
M01007	トト生物学Ⅰ	○	○	○			○	○																					
M01026	疫学・予防医学概論																												
M02014	解剖学演習・実習Ⅰ・Ⅱ											○																	
M02036	病理学演習・実習																												
M02042	病理学概論演習・実習																												
M02061	生動物学演習・実習																												
M02083	産婦医学・小児医学演習・実習Ⅰ																												
M02084	衛生学・公衆衛生学演習・実習Ⅰ																												
M03002	臨床医学入門Ⅰ	○						○										○	○										
M03011	臨床実習前集中講義	○						○	○	○	○	○	○					○	○										
M04155	臨床医学I(Ⅰ) 4年	○						○	○	○	○	○	○					○	○										
M04227	系統講義(皮膚科)																												
M04228	系統講義(麻酔科)																												
M04229	系統講義(形成外科)																												
M04230	系統講義(病態解析診断学)																												
M04231	系統講義(救急集中治療医学)																												
M04232	系統講義(臨床遺伝学)																												

(保健学科の例)

コード	授業名	◎自己認識・自己発表	◎社会的行動マインド	◎人類知の継承と未来	◎多様な文化受容マイ	◎科学リテラシー	◎言語能力	◎コミュニケーション	◎情報活用力	◎問題発見・解決能力	◎普遍的・数量的理解	◎専門知識と応用力	◎専門外の知識	◎地域環境に関する理	◎環境基礎力	◎環境実践力	◎温かい人間性や高い倫	◎医師としての高い見識	◎患者の身体的・心理的	◎患者やその家族と十分	◎疾病の正確な診断と適	◎常に最新の医療情報を	◎生命を尊び 人間につ	◎保健・医療において生	◎保健・医療の専門職者	◎保健・医療・福祉の現	◎文化の多様性を理解し	◎多くの学問分野に接し		
MPP102	人体の構造と機能Ⅱ(生理学)																													
MPP103	人体の構造と機能Ⅲ																													
MPP114	基礎看護学実習Ⅱ																													
MPP116	成人看護健康論Ⅰ																													
MPP124	老年看護方法論Ⅱ																													
MPP125	老年看護学実習Ⅰ																													
MPP126	老年看護学実習Ⅱ																													
MPP131	小児発達看護学実習																													
MPP141	精神看護学実習																													
MPP151	看護管理論																													
MPP154	看護研究Ⅰ																													
MPP155	看護研究Ⅱ																													
MPP158	助産診断・技術学Ⅰ																													
MPP160	助産診断・技術学Ⅱ																													
MPP161	助産診断・技術学Ⅳ																													
MPP170	総合実習																													
MPP172	公衆衛生看護支援論Ⅲ																													
MPP173	公衆衛生看護アセスメント論																													
MP420	発達障害作業治療学Ⅱ																													
MP422	認知障害治療学Ⅰ																													
MP425	老年期作業療法学Ⅱ																													
MP426	日常生活支援論																													
MP428	義肢装具学																													

(出典：シラバスWeb版)

資料医73 医学部シラバス

(医学科)

科目名	ヒト生物学 I	題目 (副題)	Human Biology I
担当教員、教員連絡先内線	多田 剛		5820
学年、講義期間、曜日・時限	1年次	前期	月曜, 2時限
単位数、講義室	1 単位		医学科第 2 実習室 旭総合講義室 A B
授業で得られる「学位授与の方針」要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 温かい人間性や高い倫理観を裏付ける幅広い教養を身につけ、社会の健全な発展のために行動できる。</li> <li>・ 常に最新の医療情報を収集するとともに、生涯自らの学習課題を開拓し探求することができる。</li> <li>・ ◎みずから他者や社会との関わりのなかで捉え、自己啓発に努めることができる【自己認識・自己啓発マインド】</li> <li>・ ◎理想や倫理観をもって社会の平和的・持続的発展のために行動できる【社会的行動マインド】</li> <li>・ ◎人類の知を継承し、それらの成果の上によって未来について創造的に考えられる【人類知の継承と未来創造マインド】</li> <li>・ ◎日本語および外国語を用い、的確に読み、書き、聞き、他者に伝えることができる【言語能力】</li> <li>・ ◎対話を通じて他者と協力し、目標実現のために方向性を示すことができる【コミュニケーション能力、チームワーク力、リーダーシップ】</li> <li>・ ◎自然や社会の現象を普遍的な尺度や数値的指標を用いて理解できる【普遍的・数値的理能力】</li> <li>・ ◎自然および人類社会が直面している環境問題を理解することができる【環境基礎力】</li> <li>・ ◎地球環境と人類文化との調和・共生のため、積極的に行動することができる【環境実践力】</li> </ul>		
授業のキーワード	医学生物学		
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヒトが地球上で古代より進化してきた生物の一つであることを理解する。</li> <li>2. 食品や健康の話題を通して、人体を構成する諸器官の構造と機能を知る。</li> <li>3. 人々の疾患を勉強することで人体を構成する臓器には特有の疾患があることを知る。</li> <li>4. 家族や友人の医学的な相談に乗ることができ、簡単な助言ができるようになる。</li> <li>5. 英語に慣れる。</li> </ol>		
個別行動目標SBOs (授業の概要)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 科学的な思考を身につける。</li> <li>2. 生命を構成する分子を説明できる。</li> <li>3. 細胞の構造と機能を説明できる。</li> <li>4. 組織と臓器を列記できる。</li> <li>5. 循環系を説明できる。</li> <li>6. 血液の機能と役割を説明できる。</li> <li>7. リンパと免疫系の役割を説明できる。</li> <li>8. 現代の感染症を説明できる。</li> <li>9. 消化器系と栄養を説明できる。</li> <li>10. 泌尿器系を説明できる。</li> <li>11. 骨格系を説明できる。</li> <li>12. 筋の役割や収縮の仕組みを説明できる。</li> </ol>		
テキスト、教材、参考書	Sylvia S. Mader Human Biology 13th edition McGraw-Hill International edition		
履修上の注意	グループ学習のため、遅刻すると他学生の迷惑となる。 グループ討議では積極的に発言する。		
授業の形式、視聴覚機器等の活用	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ミニテスト (5分)</li> <li>2. 本日の学習目標を解説 (10分)</li> <li>3. ミニテストの正解を全員で確認する。(5分)</li> <li>4. 各章のLearning outcomesのグループ学習する。(40分) あらかじめ自身の担当箇所はA4用紙1枚にまとめておく。 1人5分以内で分担分を説明して、グループ全員に理解させる。</li> <li>5. グループ学習の途中で課題を配布するので、その課題の回答をグループ全員で考える。</li> <li>6. 課題の回答をA4用紙1枚にまとめる。</li> <li>7. 全体会で任意の学生に課題の回答を発表させる。(15分)</li> <li>8. 教員による補足説明 (15分) また、全グループの回答と質問、その質問に対する回答はe-alpsで公開する。 グループ学習の時間は毎回の課題により調節する。</li> </ol>		
成績評価の方法	<p>毎回授業の冒頭にミニテストを行う。また、前後期とも中間試験と期末試験を行なう。 総合的評価の配分は毎回のミニテストの総計40%中間試験30%、期末試験30%とし、総計の60%以上の得点を合格とする。 ミニテスト以外の試験では不受験や30%未満の得点は不可とする。 成績不良者に対する追試験は行わない。</p>		
学生へのメッセージ並びにオフィスアワー (質問、相談への対応)	<p>この授業では医学部医学科入学生がこれから学ぶ専門科目を理解するための基礎知識を得る。</p> <p>連絡先：多田剛 (医学教育センター) 内線：5820 外線：0263-37-3113 E-mail: tadatsu@shinshu-u.ac.jp</p>		

(次頁に続く)

(保健学科)

登録コード:WP107	県内大学履修科目 市民開放授業	授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	看護学概論 Introduction to Fundamental Nursing		
担当教員	松永 保子 柳澤 節子・小林 千世		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学専攻/1年	前期	木曜・3時限 木曜・4時限
単位数、講義室	2単位	保健学科241講義室	
授業で得られる「学位授与の方針」要素/◎:全学共通	<small>生命を有し、人間についての幅広い知識を身に付け、対象を社会的に理解して、人々の健康を支援することができる。</small> <small>保健・医療の専門職員として必要な知識を備え、基本的知識・技能を修得して、さまざまな状況で応用できる。</small>		
授業概要	看護とは何かを学び、看護の役割と機能を理解する。 看護職者として看護の専門的知識と技術を習得する重要性を学ぶ。		
授業概要	・看護の歴史を踏まえながら、看護についての基本的事項や看護・看護学・看護技術とは何かを学び、看護の目的・対象について理解する。 ・専門職としての看護職の機能や役割について学ぶ。 ・看護を实践する上での倫理的配慮や法制度について学ぶ。 ・看護体制や看護職を含めた保健医療福祉チームの役割について学ぶ。 ・よりよい看護実践のために必要な看護過程および看護理論、および看護実践の記録である看護記録等について学習する。		
一般学習目標GIO (期待される学習効果)	・看護学の成り立ちを理解し、看護・看護学・看護技術とは何か学ぶ。 ・看護の目的・対象について理解する。 ・専門職としての看護職の機能や役割について理解する。 ・看護実践における倫理的配慮の必要性を理解する。 ・看護職に関する法制度および法的な規制について理解する。 ・看護体制や保健医療福祉チームの役割について理解する。 ・看護実践に必要な看護過程について理解する。 ・看護実践に必要な看護理論について理解する。 ・看護実践における観察・記録・報告の重要性を理解する。		
SBOs (行動目標)	・看護・看護学・看護技術とは何か説明できる。 ・健康の概念が説明できる。 ・看護の目的や対象が理解できる。 ・看護の歴史が理解できる。 ・看護の倫理規定について説明できる。 ・看護の法制度が説明できる。 ・看護体制や保健医療福祉チームの役割について説明できる。 ・看護実践に必要な看護過程および看護理論について説明できる。 ・看護実践における観察・記録・報告の重要性を理解できる。		
授業計画	第1回 (4月9日) 看護学概論とは (松永) 第2回 (4月9日) 看護学・看護技術とは (松永) 第3回 (4月23日) 看護の目的・対象 (松永) 第4回 (4月23日) 健康の概念 (松永) 第5回 (5月14日) 看護の歴史 (1) (松永) 第6回 (5月14日) 看護の歴史 (2) (松永) 第7回 (5月21日) 看護教育制度 (松永) 第8回 (5月21日) 看護の法制度 (保健師助産師看護師法など) (松永) 第9回 (5月28日) 看護業務 (松永) 第10回 (5月28日) 看護職の機能と役割 (松永) 第11回 (6月4日) 看護体制・看護方式 (松永) 第12回 (6月4日) 保健医療福祉チーム (松永) 第13回 (6月11日) 観察・記録・報告 (1) (松永) 第14回 (6月11日) 観察・記録・報告 (2) (松永) 第15回 (6月18日) 看護過程 (松永) 第16回 (6月18日) P.O.S・フォーカスチャータリング (松永) 第17回 (6月25日) 看護倫理 (1) (柳澤) 第18回 (6月25日) 看護倫理 (2) (柳澤) 第19回 (7月2日) 看護理論 (グループワーク1) (松永、柳澤、小林) 第20回 (7月2日) 看護理論 (グループワーク2) (松永、柳澤、小林) 第21回 (7月9日) 看護理論 (発表1) (松永、柳澤、小林) 第22回 (7月9日) 看護理論 (発表2) (松永、柳澤、小林) 第23回 (7月16日) 筆記試験 (松永、柳澤) 第24回 (7月16日) まとめ (松永、柳澤、小林)		
授業の進め方	・講義 ・グループワーク ・グループ発表		
テキスト、教材、参考書	テキスト: ・看護学概論 スーヴェルヒロカワ ・ナイチンゲール 看護覚え書 現代社 ・ヘンダーソン 看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 他にその都度、紹介および指定する。		
成績評価の方法	・出席状況 ・筆記試験 ・レポート		
成績評価の基準	・筆記試験 授業で示した内容と同レベルの問題が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、授業内容からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」 ・レポート ①問題の設定が適切である、②その問題の背景を説明できている、③その問題にどのような課題があるのかを指摘できている、④それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できている、⑤そのうえで自分の見解を提示できている、加えるに、教員を感心させるレベルであれば「卓越している」、①から⑤の5項目を満たしていれば「かなり上にある」、4項目までできていれば「やや上にある」、3項目までできていれば「水準にある」 ・出席状況と、筆記試験およびレポートの評価を統合し、最終的に成績を判断する。		
事前事後学習の内容	・事前学習 テキストや配布資料等の授業内容に相当する部分を読んで理解しておく。また、予習をして質問等があれば、授業で質問するようにする。看護理論については、グループ毎の看護理論家の発表およびレポート提出があるので、早めにグループ全員で調べるようにして、資料の準備・作成にあたる。 ・事後学習 成績評価として、筆記試験や課題レポートの提出があるので、授業後に理解できなかったところは、テキストや配布資料等で繰り返し確認して、理解する。		
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	・「看護とは何か」を十分に理解し、自分の「看護観」を培い、深めてほしい。 ・オフィスアワーおよび授業担当者への連絡先は、ホームページを参照のこと。		

(出典：医学部シラバス)

## ①-2 シラバスガイドライン

以下（資料医74）に示す。

## 資料医74 シラバスガイドライン（作成の手引）

平成 26 年 11 月 10 日

## 信州大学シラバスガイドラインの見直しについて

（平成 26 年 11 月 10 日第 17 回教務委員会決定、平成 26 年 11 月 19 日第 138 回教育研究評議会報告）

## 【※下線部（赤字）が現シラバスガイドラインからの変更点】

このガイドラインは、信州大学で開講されるすべての授業のシラバスが備えるべき必須条件である。ただし、下記に記載する事柄をシラバスにおいて具体的にどのように表記するかについては、各学部学科の専門教育課程及び共通教育課程（以下、各学部）によって異なってくるため、より具体的な「シラバス作成の手引き」のようなものは、必要に応じて各学部において作成するものとする。

大学並びに各学部・学科等の定める『学位授与の方針』は、それぞれの教育課程の卒業生が卒業時に確実に身に付けていることが求められる能力・知識のリストであり、個々の授業は、学生が、大学並びに各学部・学科の『学位授与の方針』の能力・知識を身に付けるために配置されている。したがって、個々の授業が『学位授与の方針』のどの部分をどういう形で担っているのかをシラバスで明らかにするものとする。

『学位授与の方針』で定める能力・知識は、授業等を通して、学生が自分の努力によって手に入れるべきものである。シラバスでは、課題や小試験の内容と回数等、当該授業が担う『学位授与の方針』に至るまでに学生がしなければならないことを、学生が明確に理解できるように記述するものとする。特に、事前・事後学習のしかたについては、「受講生には、1 単位当たり「45 時間から授業時間を引いた時間量（下記の例参照）」の自主学習時間が課せられている」という『単位制度の実質化』の考え方に立ち、授業目標到達に向けて学生が何をしなければならないかを明確にする。その上で、それらが成績評価においてどのように扱われるのか、配点等を明らかにするものとする。

以上の考え方に立ち、以下の 6 項目を信州大学の授業のシラバスの必須記述項目とする。なお、シラバス作成に先立つ授業設計に当たっては、当該授業のカリキュラムの中での位置づけ・他の授業との関連を意識するものとする。

## ①授業の基本的な情報

授業名、担当者氏名、教室、開講日時（何曜日何時限目）、単位数、教科書、参考書。その他、各学部の必要に応じて記載する。

## ②授業が担う大学並びに学部・学科等の『学位授与の方針』の項目と、授業の達成目標

授業の達成目標は、この授業が担う『学位授与の方針』の項目をこの授業の言葉で言い換えたものとし、（知識面、スキル面、態度面の組み合わせで、またはいずれかの面で）「○○ができるようになる」という形を標準とする。

## ③成績評価の方法

受講者が②の達成目標に到達するために通っていく過程（課題や小試験等）と、到達したことを示すエビデンス（最終レポートや期末試験等）のそれぞれの内容と配点を記述する。

（次頁に続く）

#### ④成績評価の基準

この項では、「何ができれば、授業の達成目標の水準から見て『卓越している』／『かなり上にある』／『やや上にある』／『その水準にある』』と言えるのかを記述する。

##### 筆記試験の場合の例：

授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」

##### レポートの場合の例：

(i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。(i) から (v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「水準にある」。

#### ⑤事前・事後学習に関する情報

「受講生には、1単位当たり『45時間から授業時間を引いた時間量』の自主学習時間が課せられている」という『単位制度の実質化』の考え方に立ち、15回の授業に対して受講生がしなければならない予習・復習も授業の一部であるものとして、その授業での事前・事後の自主学習に関する計画を記述する。

#### ⑥授業計画

15回の授業のおよその内容と順番、課される課題や小試験等のスケジュールを記述する。課題については、提出締切も示す。評価のための最終試験を行う場合は、15回の授業とは別に行う。

#### ⑦履修上の注意

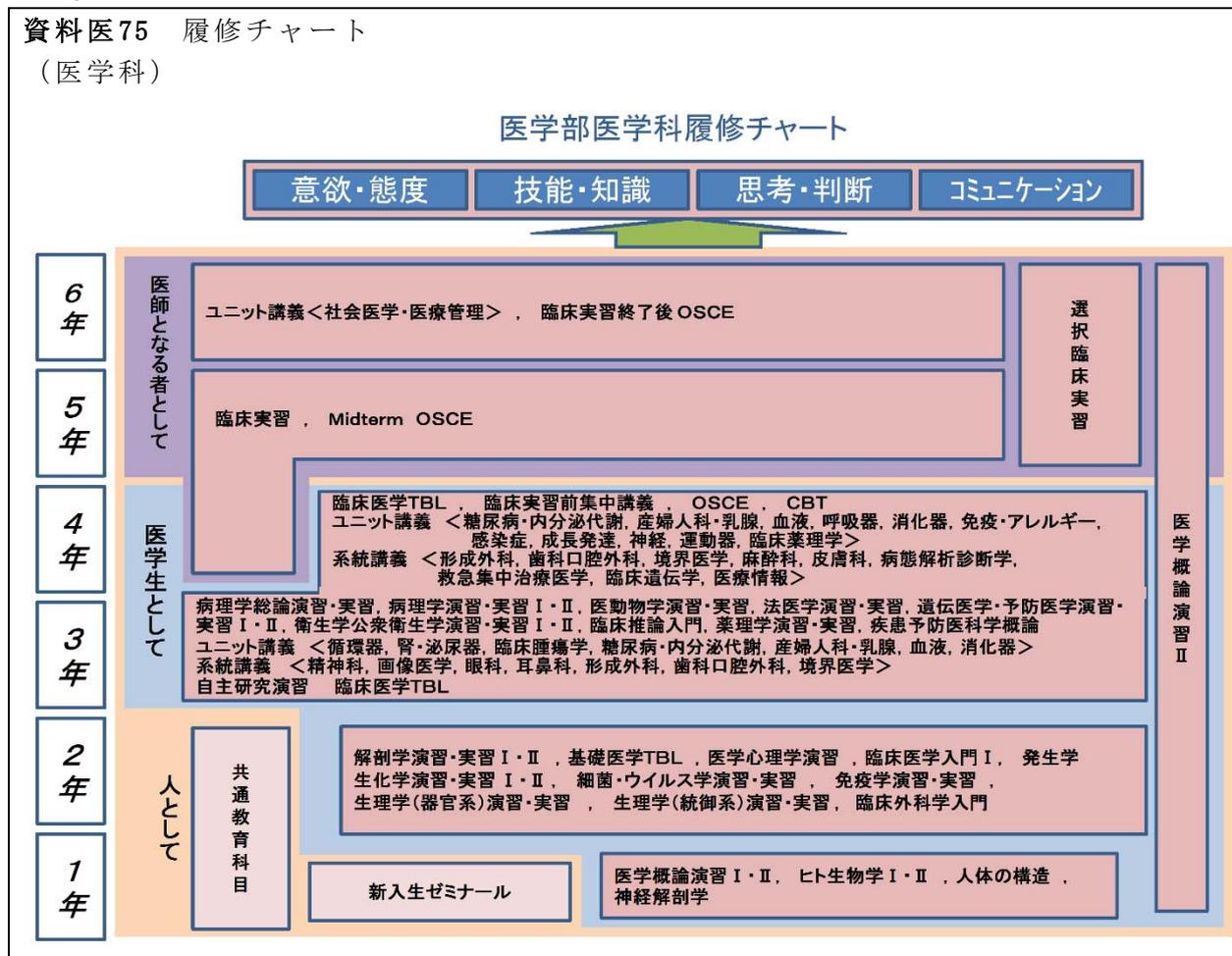
当該の授業での教科書や参考書の利用方法、注意事項など

(出典：「信州大学シラバスガイドラインの見直しについて」)

①-3 履修チャート

学科，専攻ごとに履修チャート（資料医 75）を明示し，的確な履修の周知を図っている。

資料医 75 履修チャート  
(医学科)



(保健学科)

○看護学専攻

医学部・看護学専攻履修チャート

※赤字は必修科目

- ①生命の尊厳と全人的な理解に基づく健康支援
- ②科学的根拠に基づく保健・医療に関する理解
- ③保健・医療の専門職者としての基本的知識・技術とその応用
- ④チームにおいて協働する能力
- ⑤国際的視野に基づく保健・医療活動
- ⑥学際的な視野に基づく探求心と問題解決能力

卒業研究

三・四年次

生命倫理学 看護教育学 国際看護論 看護管理論 チーム医療演習 成人看護方法論Ⅱ 小児発達看護方法論  
 母性看護方法論 精神看護方法論 在宅看護方法論 公衆衛生看護学概論 公衆衛生看護学支援論Ⅰ 看護研究概論  
 成人看護学実習 老年看護学実習Ⅱ 小児発達看護学実習 母性看護学実習 在宅看護学実習 精神看護学実習  
 親子関係論 救命蘇生学演習 がん看護 災害看護 専門看護特論 小児の発達障害と看護  
 公衆衛生看護学支援論Ⅱ 公衆衛生看護学支援論Ⅲ 公衆衛生看護学アセスメント論 公衆衛生看護管理論  
 学校・産業看護論 疫学・保健統計 公衆衛生看護学実習 助産学概論 助産診断・技術学Ⅰ 助産診断・技術学Ⅱ  
 助産診断・技術学Ⅲ 助産診断・技術学Ⅳ 助産診断・技術学Ⅴ 助産管理 助産学実習Ⅰ 助産学実習Ⅱ

一・二年次

公衆衛生学 保健・医療・福祉政策論 看護方法論Ⅱ 看護方法論Ⅲ 基礎看護学実習Ⅱ  
 成人看護学概論 成人看護健康論Ⅰ 成人看護健康論Ⅱ 成人看護方法論Ⅰ 老年看護学概論  
 老年看護方法論Ⅰ 老年看護方法論Ⅱ 老年看護学実習Ⅰ 小児発達看護学概論 小児発達健康論  
 母性看護学概論 母性看護健康論 精神看護健康論 在宅看護学概論 実践保健統計  
 人体の構造と機能Ⅲ 医療社会学 臨床診断治療学

一・年次

健康科学概論 国際医療協力論 リハビリテーション概論 生化学 栄養学  
 病理病態学 微生物と感染 遺伝と病気 臨床心理学  
 人体の構造と機能Ⅰ(解剖学) 人体の構造と機能Ⅱ(生理学)  
 人体構造機能学実習 薬理学 看護学概論 コミュニケーション方法論  
 看護方法論Ⅰ 基礎看護学実習Ⅰ 精神看護学概論  
 ヒューマン・セクシュアリティ

学士としての基礎的素養  
(環境、教養、外国語など)

・環境マインド  
 ・外国語  
 ・教養  
 ・健康科学

新入生ゼミナール

(次頁に続く)

○検査技術専攻

医学部・検査技術科学専攻履修チャート

※赤字は必修科目

- ①生命の尊厳と全人的な理解に基づく健康支援
- ②科学的根拠に基づく保健・医療に関する理解
- ③保健・医療の専門職者としての基本的知識・技術とその応用
- ④チームにおいて協働する能力
- ⑤国際的視野に基づく保健・医療活動
- ⑥学際的な視野に基づく探求心と問題解決能力

卒業研究

三・四  
年次

生命倫理学 救命蘇生学演習 チーム医療演習 医療システムとマネージメント 臨床検査管理学  
 臨床検査総論Ⅱ(関係法規) 臨床検査解析学Ⅰ 臨床検査解析学Ⅱ 人体情報学 脳・平衡機能検査学実習  
 神経・筋機能検査学実習 医用センサー工学 画像解析学 画像解析学実習 実験動物学  
 遺伝子検査技術学実習 RI 検査学 分子細胞生物学 ウイルス・真菌検査学実習 感染制御学特論  
 分離分析技術学特論 細胞性免疫検査技術学実習 輸血検査学 臓器移植検査学特論 脂質検査学実習  
 酵素検査学実習 機器分析学 健康食品学 薬理・栄養検査学 血栓止血検査学実習 分子血液学  
 病理組織検査学実習 病理細胞診検査学実習 超微形態学特論 免疫化学細胞学 臨地実習 ゼミナール

一  
年次

疾病の原因と発生機序 臨床医学総論 生理機能検査学 呼吸機能検査学実習  
 循環機能検査学 循環機能検査学実習 医用電子工学 遺伝子検査学 病原体検査学  
 細菌検査学実習 寄生虫検査学 免疫検査学 体液性免疫検査技術学実習 病態化学検査学  
 定性検査学 血液検査学 血液形態検査学実習 病理検査学

一  
年次

健康科学概論 公衆衛生学 医療社会学  
 保健・医療・福祉政策論 国際医療協力論  
 リハビリテーション概論 生化学 栄養学 病理病態学  
 微生物と感染 遺伝と病気 臨床心理学 生理学  
 組織学 系統解剖学 組織学実習 生理学実習  
 検査情報の処理と管理 臨床検査総論Ⅰ(見学と実習を含む)  
 臨床化学分析学

基礎科学科目

・力学 ・電磁気学  
 ・一般化学Ⅰ ・一般化学Ⅱ  
 ・生物科学Ⅰ

・環境マインド ・外国語  
 ・教養 ・健康科学

学士としての基礎的素養  
 (環境、教養、外国語など)

新入生ゼミナール

(次頁に続く)

○理学療法学専攻

医学部・理学療法学専攻履修チャート

※赤字は必修科目

- ①生命の尊厳と全人的な理解に基づく健康支援
- ②科学的根拠に基づく保健・医療に関する理解
- ③保健・医療の専門職者としての基本的知識・技術とその応用
- ④チームにおいて協働する能力
- ⑤国際的視野に基づく保健・医療活動
- ⑥学際的な視野に基づく探求心と問題解決能力

卒業研究



三・四年次

<理学療法の専門的知識・技術・態度の習得>

医療社会学 保健・医療・福祉政策論 生命倫理学 救命蘇生学演習 チーム医療演習 理学療法研究法  
臨床推論演習 臨床能力演習 臨床物理療法II 徒手療法基礎論 義肢学 装具学  
運動器疾患の理学療法(含む演習) 神経疾患の理学療法(含む演習) 内部障害の理学療法(含む演習)  
小児療の理学療法(含む演習) 理学療法治療法実習 スポーツと理学療法 地域理学療法 臨床基礎実習  
臨床実習I・II・III

二年次

<臨床医学と理学療法の専門的知識・技術の習得>

臨床医学概論 内科学 整形外科学 精神医学I 小児科学 臨床神経学 高次脳機能障害学  
運動学実習 理学療法基礎生理学 運動学習理論 理学療法評価法I 理学療法評価法II  
理学療法評価法実習 臨床物理療法I 理学療法治療法 日常生活活動

一年次

<基礎医学と理学療法の基礎に関する知識の習得>

健康科学概論 公衆衛生学 国際医療協力論  
リハビリテーション概論 生化学 栄養学 病理病態学  
微生物と感染 遺伝と病気 臨床心理学 生理学 生理学実習  
組織学 系統解剖学 中枢神経解剖学 肉眼解剖学実習 運動学  
人間発達学 理学療法概論 運動療法基礎論 物理療法基礎論

基礎科学科目  
・力学

・環境マインド  
・外国語  
・教養 ・健康科学

学士としての基礎的素養  
(環境、教養、外国語など)

新入生ゼミナール

(次頁に続く)

○作業療法学専攻

医学部・作業療法学専攻履修チャート

※赤字は必修科目

- ①生命の尊厳と全人的な理解に基づく健康支援
- ②科学的根拠に基づく保健・医療に関する理解
- ③保健・医療の専門職者としての基本的知識・技術とその応用
- ④チームにおいて協働する能力
- ⑤国際的視野に基づく保健・医療活動
- ⑥学際的な視野に基づく探求心と問題解決能力

卒業研究

三・四年次

医療社会学 保健・医療・福祉政策論 生命倫理学 救命蘇生学演習 チーム医療演習 作業療法管理  
 作業療法研究法 作業療法評価学実習 身体障害作業治療学Ⅱ 身体障害作業治療学特論  
 精神障害作業治療学Ⅱ 精神障害作業治療学特論 発達障害作業治療学Ⅱ 発達障害作業治療学特論  
 認知障害治療学Ⅰ 認知障害治療学Ⅱ 老年期作業療法学Ⅱ 日常生活支援論演習 義肢装具学  
 事例研究法演習 生活支援機器論 社会生活自立支援論 地域作業療法学 臨床実習Ⅰ 臨床実習Ⅱ 臨床実習Ⅲ

二年次

臨床医学概論 内科学 整形外科学 精神医学Ⅰ 小児科学 臨床神経学 高次脳機能障害学  
 作業解析学実習 身体障害評価学実習 精神障害評価学実習 発達障害評価学実習 精神医学Ⅱ  
 身体障害作業治療学Ⅰ 精神障害作業治療学Ⅰ 発達障害作業治療学Ⅰ 老年期作業療法学Ⅰ  
 日常生活支援論 余暇活動実践論実習 高齢者リハビリテーション概論

一年次

健康科学概論 公衆衛生学 国際医療協力論 リハビリテーション概論  
 生化学 栄養学 病理病態学 微生物と感染 遺伝と病気  
 臨床心理学 生理学 生理学実習 組織学 系統解剖学  
 中枢神経解剖学 肉眼解剖学実習 運動学 人間発達学  
 作業療法概論 基礎作業学 基礎作業学実習 作業療法見学実習

基礎科学科目  
・力学

・環境マインド ・外国語  
・教養 ・健康科学

学士としての基礎的素養  
(環境、教養、外国語など)

新入生ゼミナール

(出典：医学部作成)

## (2) 教育方法・学生支援の工夫

## ① 医学科、保健学科合同授業の実施

両学科合同新入生ゼミナールでは密度の濃い議論を実現すべく、平成27年度から1グループを6～7名の少人数とした（資料医76）。

平成26年度から両学科合同チーム医療演習を4年次に導入し、他職種の理解と協働の必要性・効果を教育している。（資料医77）

**資料医 76** 医学部合同新入生合同ゼミナール

- 開講期・曜日・時限：前期，月曜 4 時限
- 対象学生：医学部 医学科・保健学科 1 年生
- 演習の概要

第1回から第3回は、各専攻独自のプログラムによって新入生に対するオリエンテーションや早期体験学習を行う。第4回から第15回は、医学科・保健学科の合同演習とし、医学・医療に関連した共通のテーマについてグループワークを行うことにより、お互いの専門領域や将来のチーム医療に関する理解を深めるとともに、「より良い医療」のあり方について考究する。

グループワークは、約270名の学生が各専攻バランスよく分かれるように **40のグループに分かれて** 行う。

- グループ構成学生（1グループ6～7名）

医学科 2～3名

看護学専攻 1～2名，検査技術科学専攻 1・0名

理学療法学専攻 1・0名，作業療法学専攻 1・0名

（出典：医学部作成）

## 資料医77 医学科，保健学科の合同チーム医療演習

## ○授業の目的

本授業では、チームで医療を提供するためにはどのように考え、行動するべきかを、理解・実践できるようになることを目指す。実際に病棟にて遭遇しうるケースをもとに多職種グループによるディスカッションを行うことで、それぞれの専門職を理解し、チームとして問題解決に取り組めるように、コミュニケーション能力や、信頼関係を構築するスキルを身に付ける。

なお、本授業は、医学科・保健学科の合同で行う。貴重な多職種連携学習の機会であり、互いの視点や考え方の違いに積極的に目を向け、活発な議論を行うことを強く期待する。

## ○授業の到達目標

- ①職種が持つ専門的な知識や技術を理解し、職種間において互いの専門性を尊重する姿勢を身につける。
- ②患者ならびに家族にとって望ましい医療あるいは療養生活とは何かを考え、患者(家族)がかかえている問題を解決し、ニーズに応じていく上で、かわりが必要と考えられる専門職を見出せる。
- ③患者中心のヘルスケアチームを構成する上で患者と医療者の関係性を理解し、患者が積極的にチームに参加できるようにかかわり方を学ぶ。
- ④協働的なチームであるためのコミュニケーションのとり方、メンバー間での情報や資源の共有化、メンバー間での調整のあり方を習得する。
- ⑤事例課題を通して、チーム医療における課題を検討し、それぞれの職種の立場から解決に向けての取り組みができる。

## ○日程

回数	月 日	時限	授業内容・テーマ	教室
1	10/17	Ⅳ・Ⅴ (14:40 - 17:50)	グループワーク 1	医学科講義棟 第2実習室
2	10/31	Ⅳ・Ⅴ (14:40 - 17:50)	グループワーク 2	
3	11/14	Ⅳ・Ⅴ (14:40 - 17:50)	グループワーク 3	
4	11/28	Ⅳ・Ⅴ (14:40 - 17:50)	発表会	
5	12/12	Ⅳ・Ⅴ (14:40 - 17:50)	発表会	



(次頁に続く)

登録コード:MP1015	授業科目区分	学科共通専門科目 必修
科目名	チーム医療演習 Team-based Medicine Practicals	
担当教員	坂口 けさみ 石田 文宏・齋藤 直人・埴原 秋児	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	看護学専攻/4年	後期(前半) 水曜・1時限 木曜・2時限 水曜・3時限 水曜・4時限 木曜・3時限 木曜・4時限 金曜・4時限 金曜・5時限
単位数、講義室	1 単位	多目的講義室
授業で得られる「学位授与の方針」要素/◎：全学共通	<small>①他種・他専・他科の範囲において、専門職者として自己の責任を司出し、チームの一員として意図的行動に参加できる。</small> <small>②対症を遂げて患者と協働し、目標実現のために方向性を示すことができる【コミュニケーション能力、チームワーク力、リーダーシップ】</small> <small>③多様な情報を適切に取扱え、分析・活用できる【情報活用力】</small>	
授業概要	<p>患者ならびに家族を中心とした全人的なヘルスケアを提供するためには、患者が抱えている問題やニーズに応じた異なった能力・技術・視点を持つ多職種が協働的なチームを作り対応することが必要となる。そのためには患者(家族) 中心のチーム医療のあり方や相互の職種間における専門性の尊重と担うべき役割、患者(家族) を含めたチームメンバー間のコミュニケーションのとり方、確固たる倫理観を習得し、患者(家族) にとって有効なヘルスケアチームの一員としてふさわしい医療職者となることを目指す。</p> <p>*本授業は男女共同参画に関する内容を含んでいます。</p>	
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	<ol style="list-style-type: none"> <li>他職種が持つ専門的な知識や技術を理解する。</li> <li>患者中心のヘルスケアチーム形成における患者と医療者との関係性を理解し、患者が積極的にチームに参加できるようなかかわり方を学ぶ。</li> <li>患者・家族がかかえている問題の解決を図るために必要な専門職を見出し、ヘルスケアチームの形成につなげる方法を検討する。</li> <li>協働的なチームであるためのコミュニケーションのとり方、メンバー間での情報やメンバー間での調整のあり方を学ぶ。</li> </ol>	ケアチームの形成 資源の共有化、
SBOs (行動目標)	<ol style="list-style-type: none"> <li>他職種の専門性を理解し、尊重することができる。</li> <li>協働的なチームであるためのコミュニケーションのとり方を習得できる。</li> <li>患者中心のヘルスケアチーム形成の必要性を理解できる。</li> <li>患者・家族がかかえている問題の解決を図る上で有効なヘルスケアチームのあり方を考察できる。</li> </ol>	
授業計画	<p>初回 9月30日 (水) (地域保健推進センターにて行う) オリエンテーション チーム医療演習の意義とねらい、およびチームビルディング</p> <p>第2回～第8回 病院見学実習(放射線部、栄養部、リハビリ、検査輸血部)、病院面接実習:10月7日(水)、14日(水)、21日(水)、28日(水)、11月4日(水)、11日(水)、18日(水)の7日間、(薬剤部見学実習は10月11日(木)、8日(木)、22日(木)、29日(木)、11月5日(木)、12日(木)、11月19日(木)の計7日間の3限目～4限目となる) なお放射線部の見学実習には人数制限がある。見学実習をしない学生は、後期に開催される地域保健推進センター事業に出席し、地域と大学との連携について理解を深める。</p> <p>9回～11回:医学科との合同講義:10月16日(金)、30日(金)、11月13日(金)4時限目～5時限目の3回はグループワークを行う。(医学科基礎棟第2実習室にて行う)</p> <p>第12回～13回:医学科との合同発表:11月27日(金)、12月11日(金)4時限目～5時限目は発表会(医学科基礎棟第2実習室にて行う)</p>	
授業の進め方	病院見学実習、病棟での患者面接、および学内演習を通して学ぶ。 *詳細は第1回オリエンテーションで説明する。	
テキスト、教材、参考書	<p>参考文献 細田満和子:「チーム医療」の理念と現実-看護にかかす医療社会学からのアプローチ、日本看護協会出版会、(2003)。                  鷹野和美(編):チーム医療論、医師薬出版株式会社、(2004)。                  野中猛:図説ケアチーム、中央法規出版、(2007)。</p>	
成績評価の方法	病院見学実習および面接実習への取組み・態度、グループディスカッションへの参加貢献度、発表会でのプレゼンテーションならびに最終まとめのレポートの内容、出席日数(3分の2以上の出席)などを総合して評価する。	
成績評価の基準	課題レポートやプレゼンテーション、質疑応答を総合的に判断し、(i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。(i) から (v) の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「水準にある」。	
事前事後学習の内容	各授業については30分～1時間程度の予習と復習を行う。	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	質問、連絡、相談など。 坂口: ksaakagu@shinshu-u.ac.jp 齋藤: saitoko@shinshu-u.ac.jp 埴原: qhaniha@shinshu-u.ac.jp 石田: fumishi@shinshu-u.ac.jp	

(次頁に続く)

ローテーション表

G編成 日程・時限	G	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
	医学科(人)	6	5	5	5	6	5	5	5	6	5	6	6	6	6	6	5	6	6	6	5	
	保健学科(人)	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	
	合計(人)	14	13	13	13	14	13	13	14	13	14	14	14	14	14	14	13	14	14	14	13	
日程・時限		40(保24)			40(保24)			40(保24)			41(保24)			28(保16)			41(保24)			41(保24)		
10/1(水)	I・II	オリエンテーション・チームビルディング①(保健学科): 附属病院外来棟4階大会議室																				
10/8(水)	I・II (栄: III・IV)	病棟実習(24) (病棟3カ所)	—		—		外来診療(12) 放射線部(12)			リハビリ(8) 検査・輸血(8)			—			栄養部(12)						
10/9(木)	III・IV	—		薬剤部(12)			—			—			—			—						
10/15(水)	I・II (栄: III・IV)	—		栄養部(12)			病棟実習(24) (病棟3カ所)			—			外来診療(12) 放射線部(12)			リハビリ(12) 検査・輸血(12)						
10/16(木)	III・IV	—		—			薬剤部(12)			—			—			—						
10/17(金)	IV・V	合同オリエンテーション・プレゼンの方法について・チームビルディング②・グループワーク① (医学科・保健学科合同): 医学科基礎棟第2実習室																				
10/22(水)	I・II (栄: III・IV)	リハビリ(12) 検査・輸血(12)	—		栄養部(12)			病棟実習(24) (病棟3カ所)			—			—			外来診療(12) 放射線部(12)					
10/23(木)	III・IV	—		—			—			薬剤部(12)			—			—						
10/29(水)	I・II (栄: III・IV)	外来診療(12) 放射線部(12)	リハビリ(12) 検査・輸血(12)			—			栄養部(12)			病棟実習(16) (病棟2カ所)			—			—				
10/30(木)	III・IV	—		—			—			—			薬剤部(8)			—			—			
10/31(金)	IV・V	グループワーク②(医学科・保健学科合同): 医学科基礎棟第2実習室																				
11/5(水)	月曜日授業																					
11/6(木)	III・IV	—		—			—			—			—			薬剤部(12)			—			
11/12(水)	I・II (栄: III・IV)	—		外来診療(12) 放射線部(12)			リハビリ(12) 検査・輸血(12)			—			栄養部(8)			病棟実習(24) (病棟3カ所)			—			
11/13(木)	III・IV	—		—			—			—			—			—			薬剤部(12)			
11/14(金)	IV・V	グループワーク③(医学科・保健学科合同): 医学科基礎棟第2実習室																				
11/19(水)	I・II (栄: III・IV)	—		病棟実習(24) (病棟3カ所)			外来診療(12) 放射線部(12)			リハビリ(12) 検査・輸血(12)			—			栄養部(12)			—			
11/20(木)	III・IV	薬剤部(12)			—			—			—			—			—			—		
11/26(水)	I・II (栄: III・IV)	栄養部(12)			—			—			—			外来診療(8) 放射線部(8)			リハビリ(12) 検査・輸血(12)			病棟実習(24) (病棟3カ所)		
11/28(金)	IV・V	報告会【2課題】(医学科・保健学科合同): 医学科基礎棟第2実習室																				
12/12(金)	IV・V	報告会【1課題】(医学科・保健学科合同)及び講義・講評: 医学科基礎棟第2実習室																				

■は学内演習(医学科・保健学科との合同演習となる)

学内演習(医学科・保健学科合同演習): 金IV・V  
 病院見学実習  
 病棟面接実習: 水 I・II  
 外来診療・放射線部見学実習: 水 I・II  
 臨床栄養部見学実習: 水 III・IV  
 リハビリテーション部・検査部・輸血部見学実習: 水 I・II  
 薬剤部見学実習: 木 III・IV

実習場所等調整責任者  
 病棟・薬剤部: 坂口  
 外来診療・放射線部: 齋藤  
 リハビリテーション部: 埴原  
 検査部・輸血部・臨床栄養部: 石田

(出典: 医学部作成)

## ②全学年での進級，卒業判定

医学科は，医学教育研修センター医学教育会議にて当該学年の成績を総合的に事前判定し，教授会で決定。保健学科は，教務委員会にて事前判定し，保健学科会議で決定。  
(資料医78)

**資料医78** 学科，専攻別の各年次の進級，卒業要件の一覧

(医学科)

各年次において進級，卒業に必要な要件等は入学時の学生便覧にて学生に開示している。

**進級・卒業判定の基準について****【1年次生】**

- 進級判定の資料
  - ・ 共通教育科目の単位取得状況
  - ・ 専門科目の成績
- 進級の条件 次のすべての条件を満たすこと  
条件1：共通教育科目の単位数が基準を満たしていること。  
条件2：専門科目の試験すべてに合格すること。

**【2年次生】**

- 進級判定の資料
  - ・ 共通教育科目の単位取得状況
  - ・ 専門科目の成績
- 進級の条件 次のすべての条件を満たすこと  
条件1：取得すべき共通教育科目の必要単位数を満たしていること。  
条件2：すべての試験に合格すること。

**【3年次生】**

- 進級判定の資料
  - ・ 専門科目および臨床総合試験の成績
- 進級の条件 次の条件を満たすこと  
条件：すべての試験に合格すること。

**【4年次生】**

- 進級判定の資料
  - ・ 専門科目および臨床総合試験の成績
- 進級の条件 次の条件をすべて満たすこと  
条件1：すべての試験に合格すること。  
条件2：OSCEとCBTに合格すること。

**【5年次生】**

- 進級判定の資料
  - ・ 臨床実習、Midterm OSCE、臨床総合試験の成績
- 進級の条件 次の条件をすべて満たすこと  
条件1：臨床実習をすべて修了すること。  
条件2：Midterm OSCE、臨床総合試験に合格すること。

**【6年次生】**

- 卒業判定の資料
  - ・ 専門科目の試験、臨床実習終了後 OSCE、選択臨床実習、各教室の卒業試験および臨床総合試験の成績
- 卒業の条件 次の条件をすべて満たすこと  
条件1：選択臨床実習をすべて修了すること。  
条件2：すべての試験に合格すること。

**臨床総合試験の扱いについて**

- 学生は、原則として当該学年のすべての試験に合格することが求められる。
- 臨床総合試験の得点が合格ラインに達していない場合や不合格となった専門科目がある場合には、当該科目の得点や実習、その他の試験の成績を勘案し、進級・卒業を総合的に判断する。

**再試験制度について**

- 再試験は1回のみ行う。
- 科目によっては臨床総合試験をもって再試験とする。
- 臨床総合試験をもって再試験とする科目については、別途通知する。

**再履修について**

- 進級・卒業判定で進級・卒業が不可となった学生は、次年度、**不可となった専門科目を再履修するとともに、すべての専門科目を再受講する必要がある。**ただし、臨床医学入門、自主研究演習など経験することが求められる課程を除く。

(次頁に続く)

(保健学科)

別表2(第3条関係)

卒業に必要な授業科目の単位数及び進級要件

●卒業要件

専攻	授業科目区分	卒業に要する単位数	
看護学専攻	共通教育科目	必修17単位	25単位以上
	学科共通専門科目	必修20単位	103単位以上
	専攻専門科目	必修80単位	
	合計	128単位以上	
検査技術科学専攻	共通教育科目	必修25単位	33単位以上
	学科共通専門科目	必修11単位	92単位以上
	専攻専門科目	必修79単位	
	合計	125単位以上	
理学療法学専攻	共通教育科目	必修17単位	25単位以上
	学科共通専門科目	必修 7単位	100単位以上
	専攻専門科目	必修88単位	
	合計	125単位以上	
作業療法学専攻	共通教育科目	必修17単位	25単位以上
	学科共通専門科目	必修 5単位	100単位以上
	専攻専門科目	必修88単位	
	合計	125単位以上	

備考1. 3年次編入学生については、認定単位と合わせて卒業に必要な単位数を満たすこと。  
 認定単位数は91単位を上限とする。  
 卒業に必要な単位数は個別に異なるため注意すること。  
 2. 外国人留学生については、日本語・日本事情の授業科目を履修し、単位を取得した場合は、これらの単位をもって、共通教育科目の履修すべき単位数に算入することができる。

●進級要件(全専攻共通)

- ・1年次から2年次への進級は、1年次の必修科目をすべて修得すること。
- ・2年次から3年次への進級は、2年次の必修科目をすべて修得し、さらに卒業に必要な共通教育科目の単位をすべて取得すること。
- ・3年次から4年次への進級は、3年次の必修科目をすべて修得すること。

備考(臨地実習・臨床実習に進むための条件)

(看護学専攻)

3年次後学期から始まる臨地実習に進むにあたっては、それまでの必修科目の単位すべての取得が条件となる。

(出典：医学部作成)

③医学科の特色

③-1 60分授業の導入

平成24年度より90分授業を60分授業に変更。(資料医79)

資料医79 医学科の授業時間

1年	1時限		2時限		3時限		4時限		5時限			
	開始	終了	開始	終了	開始	終了	開始	終了	開始	終了		
前・後期 (90分授業)	9:00	10:30	10:40	12:10	13:00	14:30	14:40	16:10	16:20	17:50		
2年	1時限		2時限		3時限		4時限		5時限			
	開始	終了	開始	終了	開始	終了	開始	終了	開始	終了		
	9:00	10:30	10:40	12:10	13:00	14:30	14:40	16:10	16:20	17:50		
	90分											
後期 (60分)	1時限		2時限		3時限		4時限		5時限		6時限	
	開始	終了	開始	終了	開始	終了	開始	終了	開始	終了		
8:40	9:40	9:50	10:50	11:00	12:00	12:50	13:50	14:00	15:00	15:10	16:10	
3年	1時限		2時限		3時限		4時限		5時限		6時限	
	開始	終了	開始	終了	開始	終了	開始	終了	開始	終了		
前・後期 (60分授業)	8:40	9:40	9:50	10:50	11:00	12:00	12:50	13:50	14:00	15:00	15:10	16:10
4年	1時限		2時限		3時限		4時限		5時限		6時限	
	開始	終了	開始	終了	開始	終了	開始	終了	開始	終了		
前期 (60分授業)	8:40	9:40	9:50	10:50	11:00	12:00	12:50	13:50	14:00	15:00	15:10	16:10
4年 後期～ 臨床実習												
5年 前期(～7月) 臨床実習 / 後期(9月～2月) 150通りの臨床実習が始まります												
6年	1時限		2時限		3時限		4時限		5時限		6時限	
	開始	終了	開始	終了	開始	終了	開始	終了	開始	終了		
前期 (60分授業)	8:40	9:40	9:50	10:50	11:00	12:00	12:50	13:50	14:00	15:00	15:10	16:10

6年は旧カリですが、60分授業となります

(出典：医学部作成)

③-2 授業ごとの整合確認

モデルコア・カリキュラムに基づき全ての授業内容を再確認し、授業・カリキュラムを調整している。(資料医80)

資料医80 モデルコア・カリキュラムと医学科カリキュラムの確認

		生化学	生理器	生理統
C	医学一般	173		
I	生命現象の科学	174		
(1)	生命現象の物質的基礎	175		
一般目標:	生体内の有機化合物の構造、性質および反応について学ぶ。	176		
⑤	【生体高分子の構造と機能】	193		
到達目標:	1)炭水化物の基本的な構造と機能を説明できる。	194	生化学	生理器
	2)脂質の基本的な構造と機能を説明できる。	195	生化学	生理器
	3)蛋白質の基本的な構造と機能を説明できる。	196	生化学	生理器
	4)核酸の構造と機能を説明できる。	197	生化学	生理器
(2)	生命の最小単位—細胞	201		
一般目標:	細胞の構造とそのさまざまな機能を学ぼう。	202		
①	【細胞の構造と機能】	203		
到達目標:	1)細胞の観察法を説明できる。	204		
	2)細胞の全体像を図示できる。	205	生理器	生理統
	3)核とリボソームの構造と機能を説明できる。	206	生理器	生理統
	4)小胞体、ゴルジ体、リソソーム等の細胞内膜系の構造と機能を説明できる。	207	生理器	生理統
	5)ミトコンドリア、葉緑体の構造と機能を説明できる。	208		
	6)細胞骨格の種類とその構造と機能を概説できる。	209	生理器	
	7)細胞膜の構造と機能、細胞同士の接着と結合様式を説明できる。	210	生理器	
	8)原核細胞と真核細胞の特徴を説明できる。	211		
II	個体の構成と機能	257		
(1)	細胞の構成と機能	258		
一般目標:	細胞の微細構造と機能を理解する。	259		
①	【細胞膜】			
到達目標:	1)細胞膜の構造と機能を説明できる。	261	生化学	生理器
	2)細胞内液・外液のイオン組成、浸透圧と静止(膜)電位を説明できる。	262	生理器	生理統
	3)膜のイオンチャンネル、ポンプ、受容体と酵素の機能を概説できる。	263	生理器	生理統
	4)細胞膜を介する物質の能動・受動輸送過程を説明できる。	264	生化学	生理器
	5)細胞膜を介する分泌と吸収の過程を説明できる。	265	生化学	生理器
	6)細胞接着の仕組みを説明できる。	266	生化学	生理器
②	【細胞骨格と細胞運動】	267		
到達目標:	1)細胞骨格を構成する蛋白質とその機能を概説できる。	268	生化学	生理器
	2)アクチンフィラメント系による細胞運動を説明できる。	269	生化学	生理器
	3)細胞内輸送システムを説明できる。	270	生化学	生理器
	4)微小管の役割や機能を説明できる。	271	生化学	生理器
(3)	個体の調節機構とホメオスタシス	287		
一般目標:	生体の恒常性を維持するための情報伝達と生体防御の機構を理解する。	288		
①	【情報伝達の機構】	289		
①-a	情報伝達の基本	290		
到達目標:	1)情報伝達の種類と機能を説明できる。	291	生化学	生理器
	2)受容体による情報伝達の機構を説明できる。	292	生化学	生理器
	3)細胞内シグナル伝達過程を説明できる。	293	生化学	生理器

重複する科目は調整を行う

(事務局資料)

(出典：医学部作成)

③-3 国際認証に対応した教育課程の構築

2023年までに国際水準に合致するカリキュラムを構築すべく、平成25年度より新カリキュラム（資料医81）を導入し、臨床実習期間の延長と、教育協力病院の複数選択が可能になった。（資料医82）

この取組は、平成24年度「基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成」（文部科学省）に採択された。（資料医83）

**資料医81 旧カリキュラムからの変更点**

**新カリキュラムについて**

平成25年度 カリキュラム	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	H27年度～ 総合試験 なくなる	
<b>2年(新カリ)</b>	前期授業(90分)				前期試験	夏期休暇	ア-リ 2カ ド- シ-	後期授業(60分)				後期試験+ 総合試験	看護 体験 実習
<b>3年(新カリ) (平成25年～)</b>	前期授業(60分)		前期試験	自主研究 演習 6W	夏期 休暇	後期授業(60分)			後期 試験	4年前倒し 授業 (60分)	3年追試 期間 (前後期)	3年 判定	
<b>4年(旧カリ) (～平成25年)</b>	前期授業(90分)			前期 試験	夏期 休暇	後期授業(90分)			後期 試験	CBT	OSCE集中 講義	OSCE	
<b>5年(旧カリ) (～平成26年)</b>	臨床実習				夏期 休暇	臨床実習							
<b>6年(旧カリ) (～平成27年)</b>	選択臨床実習		前期授業 (90分)	夏期 休暇	卒業試験								

---

(参考) 新カリキュラム

<b>4年 (平成26年～)</b>	前期授業(60分)	試験(前倒し分:3教科、 前期分:15教科)+ 総合試験	夏期 休暇	CBT	OSCE集 中講義	OSCE	判定	臨床実習 Basic Clinical Clerkship (20W)
<b>5年 (平成27年～)</b>	臨床実習 Basic Clinical Clerkship (16W)		夏期 休暇	臨床実習(150通り) Advanced Clinical Clerkship (24W)				
	Midterm OSCE+総合試験		Advanced OSCE					
<b>6年 (平成28年～)</b>	選択臨床実習 Advanced Clinical Clerkship (12W)	前期講義 (60分)	夏期 休暇	卒業試験			H27年度～Advanced OSCEから臨 床実習終了後OSCEに変更	

(出典：医学部作成)

**資料医82 臨床実習の変更点**

1 選択肢が変わる

実習の場を150通りから選べます

信州大学医学部附属病院をはじめ、県内約30の病院（公立病院、赤十字病院、JA長野厚生連、その他病院等）にご協力いただき、6カ月6コース、150通りの臨床実習の選択肢が用意されます。1学年約120名の学生が自ら選択し、「1診療科1人ずつ」と「学生が最初に患者を診る」を基本に臨床実習を行います。教育協力病院では、大学病院ではあまり見ることのない一般的疾患（common disease）に数多く接することができるようになります。

2 形が変わる

医療チームの一員として「参加」します

これまでは、多くの日本の大学で採用している見学型（ポリクリ）、つまり見ているだけの臨床実習に多くの時間が割り当てられていました。2014年度からの本プログラムにより、信州大学医学部の臨床実習は診療参加型（クリニカルクラークシップ）に変わります。信州大学医学部附属病院および教育協力病院において、スチューデントドクター（学生医師）として医療チームの一員に加わり、患者の診療、カルテ記載、患者マネジメ時間が変わるなど、より高度な臨床実習を実現します。

3 時間が変わる

世界標準「72週」の実習時間

これまでの50週間の実習期間を、欧米の標準期間とされる72週間に拡大します。現在5年次生4月から行われている臨床実習を、4年次生9月からに変更。4年次生9月から5年次生7月までは信州大学医学部附属病院のすべての診療科を回って基本的な手技や知識、態度などを学びます。その後、5年次生9月から6年次生6月まで、附属病院および教育協力病院において各医療チームに参加。臨床実習開始時期が前倒しになることにより、主に3年次生4月から開始されていた医

学専門科目が2年次生からに変更されます。

4 サポートが変わる

大学教員が現場をサポートします

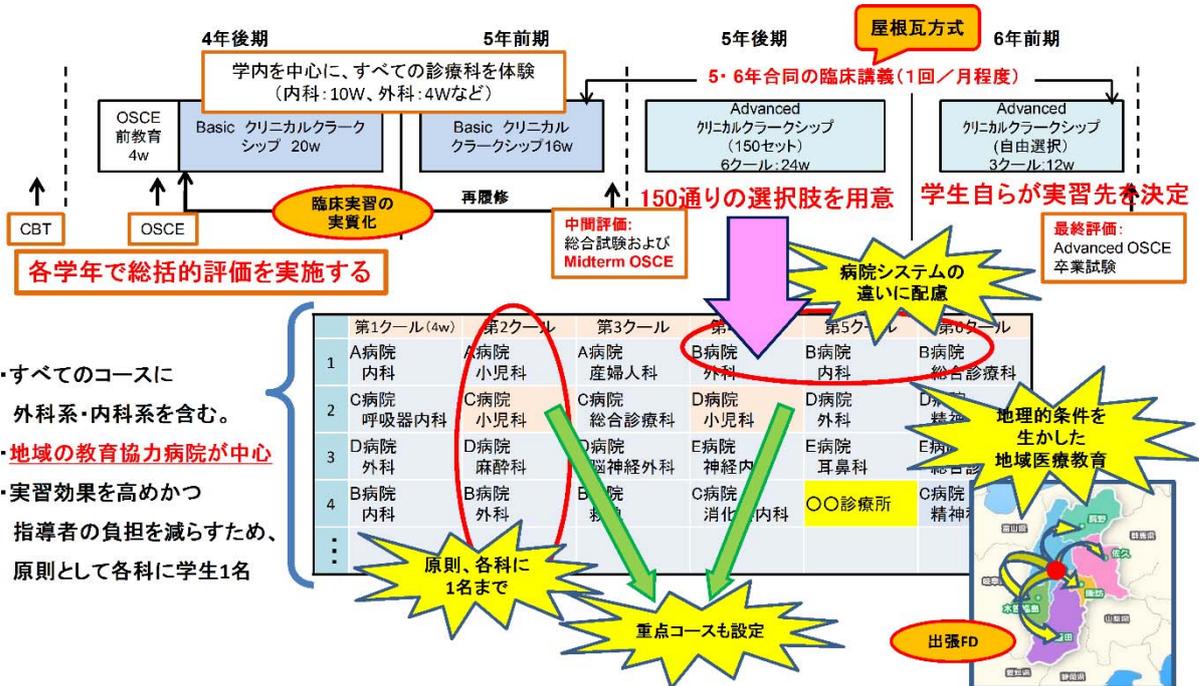
1 診療科 1 人ずつの配置，また医療チームに学生が参加する体制に向けて，信大医学部の医学教育センター教員が病院を巡回し，現状把握や助言等のサポートを行っていきます。これは，臨床実習の現場で多く見られる病院側と学生側との認識のずれを解消していくための試みです。現在，多田剛・医学教育センター長をはじめ教員は各病院に赴き，プロジェクトの目的や意義についての出張FDを行い，各病院との具体的・建設的な意見交換を進めています。

(出典：医学教育センターホームページ)

資料医 83 基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成

150通りの選択肢からなる参加型臨床実習

- 大学病院および県内教育協力病院において、**世界標準の臨床教育**を行う環境を整備する。
- **地域に密着した実習**を行うことで、**地域医療に従事する医師が増加**する。



(出典：医学部作成)

臨床実習に必要な能力と態度の習得のため、平成26年度より臨床実習前集中講義を導入。(資料医84, 85)

資料医84 臨床実習前集中講義の一覧

平成27年度 臨床実習前集中講義 日程表

第1週

	8月24日(月)	8月25日(火)	8月26日(水)	8月27日(木)	8月28日(金)
1限 8:40 ～ 9:40	ガイダンス 【第1臨床講堂】 多田 剛 教授 基本的コミュニケーション技法(講義) 講義, ビデオ	自習	基本的臨床手技(講義) 手袋の扱い方・消毒液による手洗い 【第1臨床講堂】 多田 剛 教授他	自習	基本的臨床手技 (実習) 採血・手洗い ガウン・縫合 耳鏡・血圧 【第2実習室】 指導教員
2限 9:50 ～ 10:50	医療面接(講義) 全体の流れ 【第1臨床講堂】 医学教育センター	診療録の書き方① 【第2実習室】 医学教育センター教員	外科系処置(講義) 講義, ビデオ・デモンストレーション 【第1臨床講堂】 多田 剛 教授他	処方箋の書き方 【第1臨床講堂】 薬剤部 神田 博仁 副部長	基本的臨床手技 (実習) 採血・手洗い ガウン・縫合 耳鏡・血圧 【第2実習室】 指導教員
3限 11:00 ～ 12:00	医療面接(講義) 主訴のとり方 【第1臨床講堂】 講義, ビデオ, デモンストレーション 多田 剛 教授他	診療録の書き方② 【第2実習室】 医学教育センター教員	リスクマネジメント I (講義) 【第1臨床講堂】 医療安全管理室 長島 久 准教授	頭頸部診察法(講義) 講義, ビデオ, デモンストレーション 【第1臨床講堂】 駒津 光久 教授	基本的臨床手技 (実習) 採血・手洗い ガウン・縫合 耳鏡・血圧 【第2実習室】 指導教員
4限 12:50 ～ 13:50	医療面接 I (実習) ロールプレイ 【基礎棟 1～5F】 指導教員	自習	医療者の感染の危険性と その予防・対処法を学ぶ (1) 【第1臨床講堂】 金井 信一郎 助教 城井 三奈 看護師長	頭頸部診察法(実習) ロールプレイ 【基礎棟 1～5F】 指導教員	基本的臨床手技 (実習) 採血・手洗い ガウン・縫合 耳鏡・血圧 【第2実習室】 指導教員
5限 14:00 ～ 15:00	医療面接 I (実習) ロールプレイ 【基礎棟 1～5F】 指導教員	自習	医療者の感染の危険性と その予防・対処法を学ぶ (2) 【第1臨床講堂】 金井 信一郎 助教 城井 三奈 看護師長診	頭頸部診察法(実習) ロールプレイ 【基礎棟 1～5F】 指導教員	基本的臨床手技 (実習) 採血・手洗い ガウン・縫合 耳鏡・血圧 【第2実習室】 指導教員
6限 15:10 ～ 16:10	病院情報システム実習 Aグループ 【南中央診療棟 2F 医療情報部】 浜野 英明 教授	自習	病院情報システム実習 Bグループ 【南中央診療棟 2F 医療情報部】 浜野 英明 教授	病院情報システム実習 Cグループ 医療情報部 【南中央診療棟 2F 医療情報部】 浜野 英明 教授  診療録の書き方 Aグループ 【旭総合研究棟 9F C講義室】 医学教育センター教員	病院情報システム実習 Dグループ 【南中央診療棟 2F 医療情報部】 浜野 英明 教授

(次頁に続く)

第2週

	8月31日(月)	9月1日(火)	9月2日(水)	9月3日(木)	9月4日(金)
1限 8:40 ～ 9:40	呼吸器診察・バイタル測定 I-1(視診・打診・呼吸音・ラ音・血圧測定) 【第1臨床講堂】 花岡 正幸 教授	9:30～ 神経診断学 I 神経診断学 II	系統講義 第3回 医療情報 【第1臨床講堂】 浜野 英明 教授	系統講義 第4回 医療情報 【第1臨床講堂】 浜野 英明 教授	自習
2限 9:50 ～ 10:50	呼吸器診察・バイタル測定 I-2(視診・打診・呼吸音・ラ音・血圧測定) 【第1臨床講堂】 花岡 正幸 教授	【第1臨床講堂】 福島 和広 准教授	自習	腹部診断学 【第1臨床講堂】 田中 榮司 教授	自習
3限 11:00 ～ 12:00	呼吸器診察・バイタル測定 I 講義, ビデオ, デモン ストレーション 【第1臨床講堂】 安尾 将法 講師	神経診察法(講義) 講義, ビデオ, デモン ストレーション 【第1臨床講堂】 福島 和広 准教授	自習	腹部診察法(講義) 講義, ビデオ, デモン ストレーション 【第1臨床講堂】 新倉 則和 准教授	系統講義 第5回医療情報 【第1臨床講堂】 浜野 英明 教授
4限 12:50 ～ 13:50	呼吸器診察・バイタル測定 I ロールプレイ 【基礎棟 1～4F】 指導教員	神経診察法(実習) ロールプレイ 【基礎棟 1～4F】 指導教員	自習	腹部診察法(実習) ロールプレイ 【基礎棟 1～5F】 指導教員	医療面接 II ① 【基礎棟 1～5F】 【旭総合棟 8F】 多田 剛 教授他
5限 14:00 ～ 15:00	呼吸器診察・バイタル測定 I ロールプレイ 【基礎棟 1～4F】 指導教員	神経診察法(実習) ロールプレイ 【基礎棟 1～4F】 指導教員	自習	腹部診察法(実習) ロールプレイ 【基礎棟 1～5F】 指導教員	医療面接 II ② 【基礎棟 1～5F】 【旭総合棟 8F】 多田 剛 教授他
6限 15:10 ～ 16:10	病院情報システム実習 Eグループ 【南中央診療棟 2F 医療情報部】 浜野 英明 教授  診療録の書き方 Bグループ 【旭総合研究棟 9F C講義室】 医学教育センター教員	診療録の書き方 Cグループ 【旭総合研究棟 9F C講義室】 医学教育センター教員	診療録の書き方 Dグループ 【旭総合研究棟 9F C講義室】 医学教育センター教員	診療録の書き方 Eグループ 【旭総合研究棟 9F C講義室】 医学教育センター教員	医療面接 II ③ 【基礎棟 1～5F】 【旭総合棟 8F】 多田 剛 教授他

(次頁に続く)

第3週

	9月7日(月)	9月8日(火)	9月9日(水)	9月10日(木)	9月11日(金)
1限 8:40 ～ 9:40	医療面接のふり返り (デブリーフィング) 【第1臨床講堂】 医学教育センター 多田 剛 教授 黒川 由美 助教	自習	OSCE ガイダンス 【第1臨床講堂】 多田 剛 教授	リスクマネージメントII 「医療訴訟の実際」 【第1臨床講堂】 伊藤芳朗 (弁護士)	自習
2限 9:50 ～ 10:50	医療面接のふり返り (デブリーフィング) 【第1臨床講堂】 医学教育センター 多田 剛 教授 黒川 由美 助教	自習	循環器診察・バイタル 測定II (拍動・動脈の触診, 心音・心雑音) 【第1臨床講堂】 池田 宇一 教授	葉害について 【第1臨床講堂】 山折 大 准教授	自習
3限 11:00 ～ 12:00	心肺蘇生法(講義) 講義, ビデオ, デモンストラ ーション 【外来棟 4F 大会議室】 今村 浩 教授	自習	循環器診察・バイタル 測定II 講義, ビデオ, デ モンストラーション 【第1臨床講堂】 小山 潤 准教授	UpToDate 講習会 【第1臨床講堂】 UpToDate 日本事務所講師	自習
4限 12:50 ～ 13:50	心肺蘇生法(実習) ロールプレイ グループ ① 【外来棟 4F 研修室 4-7】 指導教員	ツ反説明 【第1臨床講堂】 金井 信一郎 助教 13:20～ ツベルクリン反応 【外来棟 4F 研修室 6・7】	循環器診察・バイタル 測定II ロールプレイ 【基礎棟 1～4F】 指導教員	ツベルクリン判定 【第1臨床講堂】 金井 信一郎 助教	自習
5限 14:00 ～ 15:00	心肺蘇生法(実習) ロールプレイ グループ ② 【外来棟 4F 研修室 4-7】 指導教員	自習	循環器診察・バイタル 測定II ロールプレイ 【基礎棟 1～4F】 指導教員	自習	自習
6限 15:10 ～ 16:10	心肺蘇生法(実習) ロールプレイ グループ ③ 【外来棟 4F 研修室 4-7】 指導教員	自習	自習	自習	自習

(出典：医学部作成)

## 資料医85 臨床実習前集中講義の手引き

## 平成27年度 臨床実習前集中講義 実施要領

## 【対象学年】

4年次生 119名

## 【期間】

平成27年8月24日（月）～9月11日（金）

## 【実施方法】

- ① 講義とビデオによる各領域の学習の後、学生をグループに分け、全ての領域の  
実地指導を行う。
- ② 評価＝OSCEにて習熟度を判定する。合格者が臨床実習の受講資格となる。  
(医療面接, 頭頸部, 胸部, 腹部, 神経, 外科・救急)

## 【臨床実習前集中講義 連絡事項】

- ・集合場所は、授業によって第1臨床講堂・附属病院外来棟4F各研修室等、チュートリアルルーム・ミーティングルーム（基礎棟1～5F）・実習室等変更があるので注意してください。また、グループ授業が多いので、授業ごとにグループ分け表を確認してください。
- ・学生は診断学についての予習をし、清潔な白衣を着用し、出席票・聴診器・診断学テキスト・『診療参加型臨床実習に参加する学生に必要とされる技能と態度に関する学習・評価項目』を持参すること。
- ・各手技の練習はスキルズラボ（基礎棟2F）・チュートリアルルーム12（旭総合研究棟）に8月28日より順次用意します。各自で最低3回は自習してください。
- ・OSCEの受験には全講義出席が条件となります。出席は出席表の認印にて確認します。都合で出席できなかった講義は医学教育センター教員の指示に従って補講を受けてください。
- ・診療参加型臨床実習に必要な技能と態度 教育・学習用DVDは、e-ALPS「臨床実習前集中講義」に掲載してあります。また、学務第1係窓口でも貸出していますので、ご利用ください。

## 【試験】

9月20日（日） 共用試験OSCE（オスキー）  
 信州大学病院外来棟2・3・4 第1臨床講堂  
 ※ 白衣着用・聴診器・筆記用具持参のこと

再試：9月25日（金）

（出典：医学部作成）

## ③-4 教育段階に応じたOSCEの導入

教育段階に応じた能力の習得を確認するため平成27年度から臨床実習の中間時点にOSCEを追加した。平成24年からは、6年次OSCEの合格を卒業要件とした。（資料医86, 87）

資料医 86 教育段階に応じたOSCE

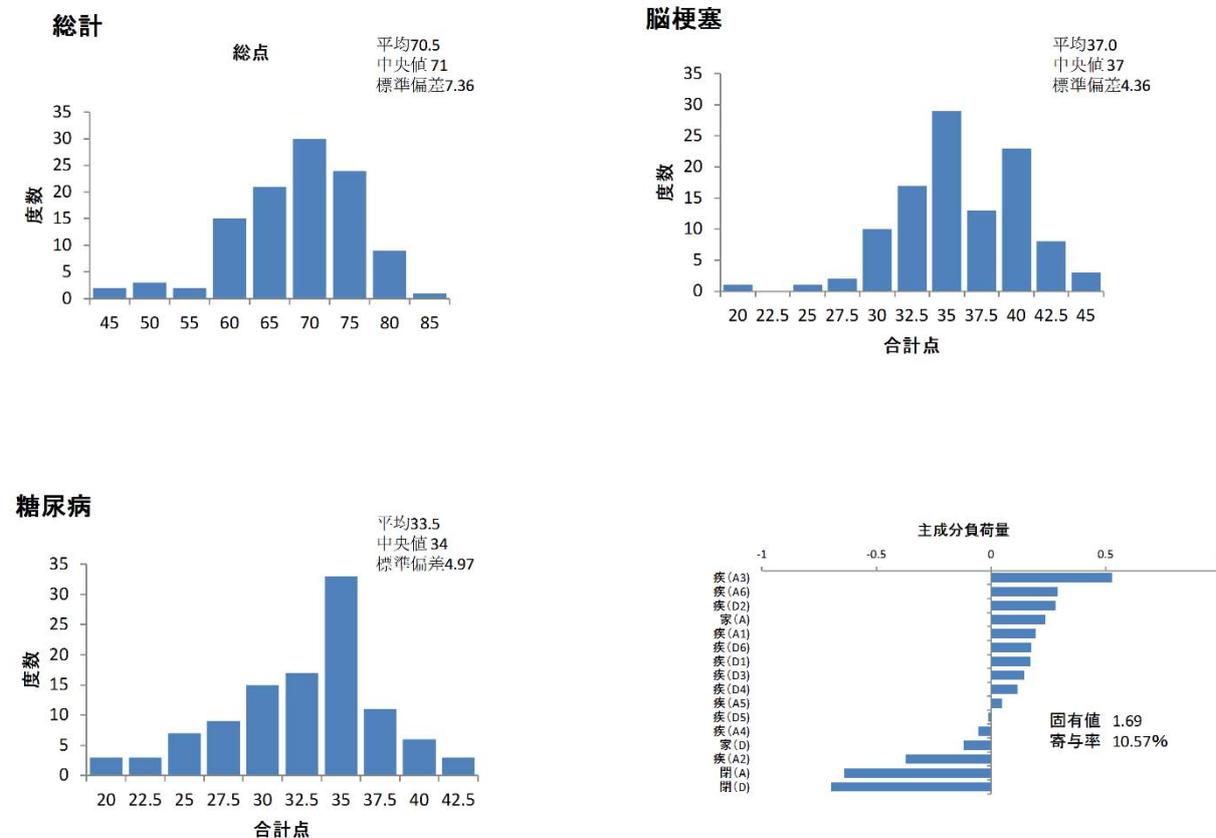
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
<b>4年</b> (平成26年～)	前期授業(60分)+ (前倒し授業3教科分+ 3教科[臨床遺伝 形成 臨床薬理]試験)		試験(前期分:11教科) + 総合試験	夏期 休暇	C B T	臨床実習前 集中講義	判定	臨床実習 Basic (20W→22W)				
<b>5年</b> (平成27年～)	臨床実習 Basic (16W)			夏期 休暇	臨床実習(150通り) (24W)							
<b>6年</b> (平成27年～)	選択臨床実習 (11W)		前期 講義 2W	夏期 休暇	卒業試験 8月下旬～10月中旬 H27年度～ 卒試の再試は総合試験							

(出典：医学部作成)

資料医 87 臨床実習終了後OSCE (AdvancedOSCE)

本学のディプロマポリシーは「意欲・態度」「思考・判断」「コミュニケーション」「知識・技能」から構成されており、学生がディプロマポリシーに個別に記載されている能力を総合的に身に付けているかを、このOSCEを用いて評価している。具体的には、「研修医として臨床現場に出た時に最低限有しているべき実践的な臨床能力」を身につけているかを評価する事を目的としており、一つ一つの能力を個別の評価するのではなく、模擬患者に対して、医療面接、診察、臨床推論、患者への説明等一連の医療行為を行う症例提示型の実技試験として課し、学生の能力を総合的に評価している。

(成績のヒストグラム)



(出典：医学部作成)

## ③-5 基礎と臨床教育を癒合させる教育課程の編成

(資料医88) のような授業を平成22年度から取り入れた。

## 資料医88 基礎と臨床を融合させた医学教育の例 (基礎医学TBL)

開講年度	2014年度	登録コード	M01015
科目名	基礎医学 TBL	題目 (副題)	Medical Science TBL (Team-based learning)
担当教員	多田 剛	教員連絡先内線	多田剛 (5820)
学年	2年次	講義期間	後期 曜日・時限 水2 水3
単位数	1.50単位	講義室	旭総合講義室 A B

授業で得られる「学位授与の方針」要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の身体的・心理的・社会的状態を科学的に評価し、さまざまな情報を総合して、適確に判断し、必要な行動ができる。</li> <li>・患者やその家族と十分な意思の疎通ができ、医療のみならず保健や福祉の関係者と良好な関係を築くことで、チーム医療を推進する能力を持っている。</li> <li>・常に最新の医療情報を収集するとともに、生涯自らの学習課題を開拓し探求することができる。</li> <li>・◎みずからを他者や社会との関わりのなかで捉え、自己啓発に努めることができる【自己認識・自己啓発マインド】</li> <li>・◎日本語および外国語を用い、的確に読み、書き、聞き、他者に伝えることができる【言語能力】</li> <li>・◎対話を通じて他者と協力し、目標実現のために方向性を示すことができる【コミュニケーション能力、チームワーク力、リーダーシップ】</li> <li>・◎多様な情報を適切に取捨選択し、分析・活用できる【情報活用力】</li> <li>・◎みずから問題を見出し、すじみちを立てて解決できる【問題発見・解決能力】</li> <li>・◎自然や社会の現象を普遍的な尺度や数量的指標を用いて理解できる【普遍的・数量的理解力】</li> <li>・◎専門学問分野における知識・技能を備え、それらを応用できる【専門知識と応用力】</li> </ul>
授業のキーワード	基礎医学の知識と臨床医学の関連、TBL (Team-based learning), 自己学習, 問題抽出と解決, グループワーク (討論, product 作成), 発表, critical thinking
一般学習目標 GIO (期待される学習効果)	最前線の基礎医学研究を理解し臨床医学とのつながりを認識するために、臨床症例に潜む基礎的課題を抽出検討し基礎医学的観点から考える能力や様々な情報を総合的に判断する能力、最新の医療情報を収集する能力を、チーム学習を通して身に付ける。
個別行動目標 SBOS (授業の概要)	自己学習能力を高めることができる。 課題から、問題点の抽出ができる。 集めた情報に順位をつけ、取捨選択することができる。 集めた情報をもとに、自分なりの理論を組み立て、表現することができる。 教科書やインターネットを利用して、課題の解決に必要な知識や情報を収集できる。 グループで協力して成果をまとめることができる。 効果的なプレゼンテーションを行うことができる。 プレゼンテーションに対して的確なディスカッションができる。
テキスト, 教材, 参考書	テーマ毎に事前に連絡する。
履修上の注意	〈オリエンテーション〉 9月24日(水) 5限(16:20)に講義室A, Bで行います。 〈毎回の準備〉 以下の準備をグループ内で責任をもって行うこと。 ①各グループ1台は必ずパソコンを持参する。 ②各グループは必要に応じてプロジェクターを医学教育センターに借りに

	行く。 ③図書などの資料は適宜チュートリアルルーム 12 に取りに行く。 (ミニテストと事前学習) 各テーマの冒頭にミニテストを行なう。事前学習すべき内容(教科書などの該当部分)は1週間前に e-ALPS に掲示する。該当テーマについての基礎知識を身につけるために必ず事前学習すること。
授業の形式, 視聴覚機器等の活用	TBLとは、学生をいくつかのグループに分けて講義を行う形態です。自ら勉強して得られた知識をもとに、与えられた一定の課題に対し、討議を行いながら学習をしていくことになります。 学習には、ネット上の検索も必要になります。 また、各テーマの4回目講義時には、スライドを使用したプレゼンテーションを行ってまいります。 毎回、始業時から5分間はミニテストを行ないます。遅刻しないよう注意して下さい。 ミニテストは前回の授業の内容から出題します。 詳しくは、オリエンテーション・手引きにて説明します。
成績評価の方法	形成的評価：各テーマの発表討論時に教員が成果物および発表について評価します。 総括的評価：出席、グループワークの相互評価、ミニテスト、期末テストを総合的に評価します。 再試験は行ないません。不可の場合には、総合試験で合格点を取ることが進級要件となります。
学生へのメッセージ並びにオフィスアワー(質問, 相談への対応)	基礎医学の知識が臨床医学の問題解決にどのように活かせるのかを知る授業です。 積極的な自己学習によって、論理的思考過程を経験し、優れたコミュニケーション能力の修得をめざしてください。そのためにも、課題は、原則として授業時間内に課題を終了させてください。 課題に関する質問、相談は授業中に行ってください。 予習・復習で不明な点があれば、多田まで連絡してください。その都度、面会時間を相談して決めます。 内線 5820 外線 37-3113 E-mail:tadatsu@shinshu-u.ac.jp
【添付ファイル】	なし

(出典:医学部シラバス)

### ③-6 主な基礎医学研究に触れる授業の実施

平成24年度から1年次生に研究室訪問, 平成25年度から2年次生に大学院研究内容の紹介を開始した。平成27年度からは臨床実習中の基礎教室配属が可能になった。(資料医89, 90)

#### 資料医89 150通り臨床実習「基礎コース」

150通りの臨床実習コース						
計 150 コース						
内科重点コース						
コース	9月	10月	11月	12月	1月	2月
1 001	長野松代総合 呼内(総内)	大学3内 神	市立大町 (PC)	大学 泌尿器	須坂 内科	大学 腫瘍
2 002	佐久 神経内科	長野日赤 消内	丸の内 内科	大学 麻酔	大学 産婦	信州上田 循内
3 004	長野日赤 呼内	穂/井総合 循内	中信松本 神内	松本医療センサ 泌尿	大学 2外	諏訪日赤 消内
4 008	諏訪日赤 神内	伊那中 循内	飯田市立 総内	丸の内 内科	依田産 整形	大学 産婦
5 015	大学4内	大学2内 腎	市立甲府 神内	大学 腫瘍	信州上田 泌尿	松本市立 産婦
6 021	諏訪日赤 循内	諏訪日赤 神内	相澤 消内	大学 放射線科	諏訪中央 (PC)	中信松本 外科
7 022	浅間総合 総内	信州上田 消内	信州上田 循内	大学3内 膠	大学 麻酔	小諸高専 精神
8 024	大学 循内	佐久 外科・放射線治療科	小諸厚生 神内	信州上田 呼内	大学 耳鼻	安曇野日赤 消内

< 中略 >

基礎コース						
コース	9月	10月	11月	12月	1月	2月
150	大学 基礎	大学 基礎	大学 基礎	中信松本 神内	大学 循内	須坂 呼吸器・感染症内科

(次頁に続く)

科目名	医学概論演習Ⅱ	題目(副題)	医学研究の歩みと未来を考える
担当教員、教員連絡先内線	福島 義光 他	森淳一郎 (医学教育センター)	内線5821
学年、講義期間、曜日・時限	一年次	後期	月曜, 3時限 月曜, 4時限
単位数、講義室	1. 50単位	旭総合講義室AB 医学科第2実習室 医学科第1講義室	
授業で得られる「学位授与の方針」要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>・温かい人間性や高い倫理観を裏付ける幅広い教養を身につけ、社会の健全な発展のために行動できる。</li> <li>・医師としての高い見識と誠実な態度を身につけ、病める人を救う強い情熱を持っている。</li> <li>・患者やその家族と十分な意思の疎通ができ、医療のみならず保健や福祉の関係者と良好な関係を築くことで、チーム医療を推進する能力を持っている。</li> </ul>		
授業のキーワード	信州大学の基礎研究を知る 医学研究の歩みと未来を学ぶ		
一般学習目標GLO (期待される学習効果)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 未来の医学・医療についての展望を持つことにより、医学・医療の発展、研究へのとりくみの意欲を高める。</li> <li>2) 信州大学で進められている基礎医学研究の内容を知ることにより、基礎医学研究への関心を高める。</li> </ol>		
個別行動目標SBOs (授業の概要)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 問題意識をもとに、みずから学習目標を立てることができる。</li> <li>2) 現代の医学研究について説明できる。</li> <li>3) 自分の学んだ内容や考えを明快に他者に伝えることができる。</li> <li>4) 基礎医学の必要性について議論できる。</li> <li>5) 議論をまとめることができる。</li> <li>6) 簡潔で論旨の明快な発表ができる。</li> <li>7) 的確な質問をすることができる。</li> </ol>		
テキスト, 教材, 参考書			
履修上の注意	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 本演習では他者の意見や資料の内容等を考慮して積極的に自分の意見を述べるとともに、グループとしてのまとまりを構築するように努力すること。</li> <li>2) 基本的に教員は同席せず、学生だけで主体的にグループ学習を進める。演習担当教員は適宜巡回するが、その役割は討論進行に関する質問を受けることや、討論が行き詰まったときに簡単な助言をすることであり、各グループの討論内容に深く関与したり討論の牽引者になったりすることはない。</li> <li>3) 理由のない欠席や遅刻は本人の不利益になるだけでなく同じグループの学生にも多大な迷惑を及ぼすので注意すること。チーム医療の重要性を学んだあとでもそのような態度をとる学生は、そもそも医師を日指して医学部で学ぶにふさわしくない。</li> </ol> <p>※講義期間：1年後期, 2～6年次 新学年ガイダンス, 看護体験実習, 地域医療</p>		
授業の形式, 視聴覚機器等の活用	数人でグループワークを行うワークショップ型演習を行う。		
成績評価の方法	出席、自己学習レポート、および発表の内容により評価する。 ※1年後期, 2～6年次 新学年ガイダンス, 看護体験実習, 地域医療で評価する。		
学生へのメッセージ並びにオフィスアワー (質問, 相談への対応)	本演習の内容, 自己学習・資料収集の進め方についてわからないこと, 聞きたいことがある場合は医学教育センター 森 jimori@shinshu-u.ac.jp まで質問してください, メールで質問する際は, 氏名, 学籍番号を必ず入れ, 質問内容をわかりやすく書いてください		

(次頁に続く)

## 平成 27 年度 医学科一年次生 医学概論演習 II

講座名	教授名	担当者名	外線番号	訪問可能時間
組織発生学	佐々木 克典	佐々木 克典	37-2589	13:00～
人体構造学	森泉 哲次	森泉 哲次	37-2591	15:00～16:30
生理学	沢村 達也	沢村 達也	37-2595	11月11日(水) 11:30～12:00
分子細胞生理学	田淵 克彦	田淵 克彦	37-3773	14:00～16:10
分子薬理学	山田 充彦	山田 充彦	37-2605	13:00～14:00
病理組織学	菅野 祐幸	菅野 祐幸	37-2608	13:00～
免疫・微生物学	竹下 敏一	竹下 敏一	37-2614	13:00～
免疫制御学	瀧 伸介	林 琢磨	37-2611 PHS:1488	11月13日(金) 17:00～
遺伝医学・予防医学	福嶋 義光	福嶋 義光	37-2618	13:00～15:00
衛生学公衆衛生学	野見山 哲生	野見山 哲生	37-2622(事務・宮澤)	13:00～
法医学	浅村 英樹	林 徳多郎	37-3218	13:00～
加齢生物学	樋口 京一	樋口 京一 森 政之	37-2691 37-2692	13:30～
神経可塑性学	鈴木 龍雄	鈴木 龍雄	メール連絡 suzukit@shinshu-u.ac.jp	13:00～
分子腫瘍学	谷口 俊一郎	谷口 俊一郎	37-2679	13:00～
分子病理学	中山 淳	中山 淳	37-3394	11月10日(火) 16:00～
代謝制御学	青山 俊文	田中 直樹	37-2851	14:00～
循環病態学	新藤 隆行	新藤 隆行	37-2578	11月11日(水) 17:00～
スポーツ医科学	能勢 博	能勢 博	37-2681	13:00～
神経難病学	山田 光則	山田 光則	37-3059	11月10日(火) 終日 必ず事前にアポイントをとること

※訪問可能時間：指定がないものについては、11月9日(月)に行う。

(次頁に続く)

## 平成 25 年度 基礎医学講座訪問発表会プログラム

## 医学科一年次生 医学概論演習 II

平成 25 年 12 月 2 日 (月) 13 : 15 ~ 旭総研 9 階 A・B 講義室

	時間	講座名
1	13 : 15	分子薬理学
2	13 : 20	分子細胞生理学
3	13 : 25	器官制御生理学
4	13 : 30	人体構造学
5	13 : 35	組織発生学
6	13 : 40	神経難病学
7	13 : 45	スポーツ医科学
8	13 : 50	循環病態学
9	13 : 55	分子病理学
10	14 : 10	分子腫瘍学
11	14 : 15	神経可塑性学
12	14 : 20	加齢生物学
13	14 : 25	法医学
14	14 : 30	衛生学公衆衛生学
15	14 : 35	遺伝医学・予防医学
16	14 : 40	免疫制御学
17	14 : 45	免疫・微生物学
18	14 : 50	病理組織学

## 概論の感想

- ・研究をシンプルにまとめていた
- ・発表方法の工夫
- ・研究の内容と「考える」という考えがうまく盛り込まれていた
- ・うまい具体例と説明がありすばらしい
- ・どこも工夫のあるスライドですばらしい
- ・各研究室の紹介は独自色が出ていたが、先生方からの言葉、教訓はどこの班も共通したことを伝えていたので、今後よく肝に銘じておこうと思う
- ・真剣に研究内容を調べてきたことが伝わった。研究委を目指す身として為になるプレゼンがあった
- ・わかりやすい研究内容と学生に伝えたいことが含まれていた。

- ・ 研究内容に興味をもてた。研究室に行ってみたくなった。
- ・ どの研究も普段は見聞きすることがあまりないものだったので、勉強になった。

(出典：医学部作成)

資料医90 疾患予防医科学概論 シラバス (抜粋)

科目名	疾患予防医科学概論	題目(副題)	
担当教員、教員連絡先内線	樋口 京一 他	5365	
学年、講義期間、曜日・時限	3年次 前期	月曜, 5時限 水曜, 2時限 水曜, 3時限 木曜, 4時限 木曜, 5時限 金曜, 4時限 金曜, 5時限	
単位数、講義室	1単位	医学科第2講義室 旭総合講義室A B	
授業で得られる「学位授与の方針」要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 患者の身体的・心理的・社会的状態を科学的に評価し、さまざまな情報を総合して、適確に判断し、必要な行動ができる。</li> <li>・ 疾病の正確な診断と適切な治療を遂行するための幅広い知識と高度な技法を修得している。</li> </ul>		
授業のキーワード	疾患予防医科学、病態の理解、最先端の医学研究、予防医療、早期診断、バイオマーカー研究マインドを持った医療人の育成		
一般学習目標GLO (期待される学習効果)	良質な医師を養成するためには、疾患の医学的、生物学的基礎を理解し、病態の究明や、治療法の開発を口指す探究心を育成する事が必須である。疾患の病態の解明による、健康の維持、疾患の早期発見、予防医療を目的とする疾患予防医科学について学習する。また学生が医学研究の重要性を理解し、研究の楽しさに触れる機会を与える。		
個別行動目標SBOs (授業の概要)	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疾患予防医科学のコンセプトを理解するための講義</li> <li>2. 疾患の基礎にある加齢現象についての講義</li> <li>3. 心臓や血管の疾患についての講義</li> <li>4. 糖鎖と疾患についての講義</li> <li>5. がんとその予防、治療法についての講義</li> <li>6. 脂質代謝と疾患についての講義</li> <li>7. 運動生理学と予防医療についての講義</li> <li>8. 神経生化学, 特に“シナプス学”についての講義</li> <li>9. 最終テスト</li> </ol>		
テキスト, 教材, 参考書	特に指定するテキスト等は無い。		
履修上の注意	講義を受け身に聞くだけでなく、質問や議論を通して、基礎医学的研究の重要性や楽しさを理解してほしい。		
授業の形式, 視聴覚機器等の活用	大学院医学系研究科疾患予防医科学専攻の7教室の教員による、疾患予防医科学の講義を行う(15時間)。また、神経生化学の講義(4時間)を行う。		
成績評価の方法	<p>最終試験(筆記)を実施する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 疾患予防医科学の概念の理解</li> <li>2. 疾患病態の理解のためにどのような研究がなされて来たかの理解</li> <li>3. 神経生化学、シナプス学の理解</li> <li>4. 疾患病態の解明に基づいた予防医科学の理解</li> </ol> <p>について、評価する。</p>		
学生へのメッセージ並びにオフィスアワー (質問, 相談への対応)	<p>代表者：樋口へ質問や相談はメールをお願いします。</p> <p>その他の個々の授業の内容に関しては、各講師に連絡してください。</p>		

(次頁に続く)

授業日	第 1 回	4月 1日(水 3)	SB0s	疾患予防医学が目指す方向について説明できる。
講義室	医学部第 2 講義室			
G10	疾患予防医学の概要の理解			
担当	樋口 (加齢生物学教室)			
授業日	第 2 回	4月 8日(水 2)	SB0s	循環病態の基礎について理解できる。
講義室	医学部第 2 講義室			
G10	循環病態学概論			
担当	新藤隆行 (循環病態学教室)			
授業日	第 3 回	4月 8日(水 3)	SB0s	循環病態学の最先端について理解できる。
講義室	医学部第 2 講義室			
G10	循環病態学の最先端			
担当	新藤隆行 (循環病態学教室)			
授業日	第 4 回	4月 15日(水 3)	SB0s	1. 老化のしくみを知り、加齢生物学について説明が出来る。 2. 老化を遅延する研究に関して理解する。
講義室	医学部第 2 講義室			
G10	加齢生物学概論 (1)			
担当	樋口京一 (加齢生物学教室)			
授業日	第 5 回	4月 17日(金 1)	SB0s	1. 胃癌とピロリ菌の関連について説明できる。 2. 胃癌発生における糖鎖の役割について説明できる。
講義室	医学部第 2 講義室			
G10	胃癌発生における糖鎖の役割			
担当	中山 淳 (分子病理学教室)			
授業日	第 6 回	4月 17日(金 5)	SB0s	1. 糖鎖の基礎的事項について説明できる。 2. がんの浸潤・転移における糖鎖の役割について説明できる。
講義室	医学部第 2 講義室			
G10	がんの浸潤・転移における糖鎖の役割			
担当	中山 淳 (分子病理学教室)			
授業日	第 7 回	4月 22日(水 3)	SB0s	加齢生物学、加齢に伴う疾患(特にアミロイドーシス)、さらには治療、予防法に関する最近の知識について理解する。
講義室	医学部第 2 講義室			
G10	加齢生物学概論 (2)			
担当	樋口京一 (加齢生物学教室)			
授業日	第 8 回	4月 23日(木 4)	SB0s	肝臓病に伴う代謝異常を説明できる。 非アルコール性脂肪性肝疾患の病態を説明できる。 脂肪組織の役割を説明できる。
講義室	医学部第 2 講義室			
G10	肝臓病と代謝			
担当	口中直樹 (代謝病学教室)			
授業日	第 9 回	4月 23日(木 5)	SB0s	メタボロミクスを説明できる。 メタボロミクスを用いたバイオマーカー探索や病態解析の事例を理解する。
講義室	医学部第 2 講義室			
G10	メタボロミクス			
担当	口中直樹 (代謝病学教室)			
授業日	第 10 回	4月 24日(金 4)	SB0s	腫瘍生物学の基礎医学的知識を理解する。
講義室	医学部第 2 講義室			
G10	腫瘍生物学の基礎的理解			
担当	谷口 俊 郎 (分子腫瘍学教室)			

(次頁に続く)

授業日 講義室	第 11 回 医学部第 2 講義室	4月24日(金 5)	SB0s 腫瘍生物学の最先端の医学研究について理解する。
G10	腫瘍生物学の先端的研究		
担当	谷口 俊一郎 (分子腫瘍学教室)		
授業日 講義室	第 12 回 医学部第 2 講義室	5月7日(木 4)	SB0s 運動による予防医学の基礎について理解する。
G10	運動生理学の理解		
担当	徳勢 博 (スポーツ科学教室)		
授業日 講義室	第 13 回 医学部第 2 講義室	5月7日(木 5)	SB0s 運動処方による予防医学の実践について、理論と最先端の研究について理解する。
G10	予防医学における科学的運動処方		
担当	徳勢 博 (スポーツ科学教室)		
授業日 講義室	第 14 回 医学部第 2 講義室	5月13日(水 3)	SB0s 脳科学, 神経科学, シナプス学の序論。 脳科学研究, シナプス研究の歴史, 基礎的事項について理解する。
G10	神経生化学概論 (1)		
担当	鈴木龍雄 (神経可塑性学教室)		
授業日 講義室	第 15 回 医学部第 2 講義室	5月20日(水 3)	SB0s シナプスの基礎知識。 シナプスの種類, 分子構築などについて基本的事項を理解する。
G10	神経生化学概論 (2)		
担当	鈴木龍雄 (神経可塑性学教室)		
授業日 講義室	第 16 回 医学部第 2 講義室	5月27日(水 3)	SB0s シナプス領域の膜ラフト微小ドメインについて 膜ラフト (membrane raft) について基本的概念を理解する。 シナプスの膜ラフトについて考察する。
G10	神経生化学概論 (3)		
担当	鈴木龍雄 (神経可塑性学教室)		
授業日 講義室	第 17 回 医学部第 2 講義室	6月1日(月 5)	SB0s シナプス機能と記憶の仕組み。 記憶の仕組みについて現在の説明を分子レベルで理解する。 シナプス機能の異常とそれに基づく疾患について。 上記について現状を理解する。
G10	神経生化学概論 (4)		
担当	鈴木龍雄 (神経可塑性学教室)		
授業日 講義室	第 18 回 医学部第 2 講義室	6月3日(水 3)	SB0s 神経可塑性学講座の研究紹介。 神経の可塑性について、最新の研究について理解する。
G10	神経可塑性の先端的研究		
担当	鈴木龍雄 (神経可塑性学教室)		
授業日 講義室	第 19 回 総合体育館 5A11	6月17日(水 2)	SB0s 講義を担当した教官が出題・採点し、60点以上得点できたものに単位を与える。
G10	テスト (1)		
担当	沼口 (加齢生物学教室) その他		
授業日 講義室	第 20 回 総合体育館 5A11	6月17日(水 3)	SB0s 講義を担当した教官が出題・採点し、60点以上得点できたものに単位を与える。(テスト時間延長のための予備)
G10	テスト (2)		
担当	沼口 (加齢生物学教室) その他		

(出典：医学部シラバス)

③-7 地域医療人の育成

平成22年度より地域医療推進学講座が、長野県信州医師確保総合支援センター分室となり、地域医療を担う人材を行政と協力して育成。（資料医91,92）

**資料医91** 信州医師確保総合支援センター信州大学医学部分室について

平成23年10月26日に、長野県の医師確保等総合事業として信州医師確保総合支援センターが開設されました。このセンター設置は、地域医療を担う医師のキャリア形成を支援しながら、その確保・定着を図るとともに、総合的な医師確保対策を実施することにより医師の偏在解消を目指す、ことを目的としています。分室が長野県立病院機構と信州大学医学部に設けられ、それぞれに長野県より業務が委託されることになりました。平成24年度からは、これまでの信州大学医学部地域医療推進学講座（長野県寄附講座）の専属教員2名が引き続いて、長野県から委託される業務・活動を信州医師確保総合支援センター信州大学医学部分室にて行います。

これまで信州大学医学部地域医療推進学講座（長野県寄附講座）にて実施されてきた活動・業務のほとんどは平成24年度以降も継続の予定ですが、キャリア形成支援ならびに医師となった後の配置調整などの長野県の医学生修学資金貸与者（医学生，医師）に関わる委託業務が新たに加わります。

（出典：医学部地域医療推進学講座ホームページ）

**資料医92** 地域医療の授業（シラバス抜粋）

開講年度	2014年度	登録コード	M07002		
科目名	地域医療	題目（副題）	地域に根ざした医療の実践		
担当教員	福嶋 義光	教員連絡先 内線	5 8 9 2		
学年	3年次	講義期間	前期	曜日・時限	水4 水5 水6
単位数	0単位	講義室	医学科第2講義室		

授業で得られる「学位授与の方針」要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 温かい人間性や高い倫理観を裏付ける幅広い教養を身につけ、社会の健全な発展のために行動できる。</li> <li>・ 医師としての高い見識と誠実な態度を身につけ、病める人を救う強い情熱を持っている。</li> <li>・ 患者やその家族と十分な意思の疎通ができ、医療のみならず保健や福祉の関係者と良好な関係を築くことで、チーム医療を推進する能力を持っている。</li> </ul>
授業のキーワード	地域医療，プライマリ・ケア，在宅医療，総合診療
一般学習目標 GIO（期待される学習効果）	地域に根ざした医療を実践している講師の講演を通じて、医療における地域の視点の重要性ならびに地域の医療が抱える問題点とその対策についての認識を深める。
個別行動目標 SB0s（授業の概要）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 地域を考慮した医療とは何か説明できる。</li> <li>2) プライマリ・ケアと地域医療の定義について説明できる。</li> <li>3) 在宅医療の重要性と問題点を説明できる。</li> <li>4) 地域の医療が抱える問題点を挙げ、その解決手段としての取り組みを説明できる。</li> </ol>

テキスト，教材，参考書	参考図書 1) 地域医療は再生する (医学書院) 2) プライマリ 地域へむかう医師のために (医学書院) 3) 地域医療テキスト (医学書院)
履修上の注意	
授業の形式，視聴覚機器等の活用	授業は，各回の講師によるプリント資料とPCプレゼンテーションを用いた講義，全体でのディスカッション，レポートの作成，からなる。
成績評価の方法	出席とレポートで総合的に評価 なお，本授業の成績は，医学概論演習Ⅱに組み込む
学生へのメッセージ並びにオフィスアワー (質問，相談への対応)	いくつかの参考書は地域医療推進学講座に用意してあります。また，講義内容に関連したセミナーならびに実習も実施する予定です。
【添付ファイル】	なし

(出典：シラバス)

③-8 臨床実習の学生による自己評価

各クール終了後に自己評価結果に対して教員がフィードバックを行っている。(資料医93)

資料医93 臨床実習の自己評価

臨床実習自己評価表 (実習先: \_\_\_\_\_)

学籍番号 \_\_\_\_\_ 名前 \_\_\_\_\_

この実習期間内に学んだ知識 (代表的なものを4つ記載する。)

- \_\_\_\_\_ ○ \_\_\_\_\_  
○ \_\_\_\_\_ ○ \_\_\_\_\_

この実習期間内に行った代表的な手技 (手技を行った対象に○をつける。)

- \_\_\_\_\_ 患者・シミュレーター・その他 ( \_\_\_\_\_ 回程度実施)  
○ \_\_\_\_\_ 患者・シミュレーター・その他 ( \_\_\_\_\_ 回程度実施)  
○ \_\_\_\_\_ 患者・シミュレーター・その他 ( \_\_\_\_\_ 回程度実施)  
○ \_\_\_\_\_ 患者・シミュレーター・その他 ( \_\_\_\_\_ 回程度実施)

この実習期間内の振り返り (よかったこと、悪かったこと、希望等)

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

指導医・研修医から学生へのアドバイス

\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_  
\_\_\_\_\_

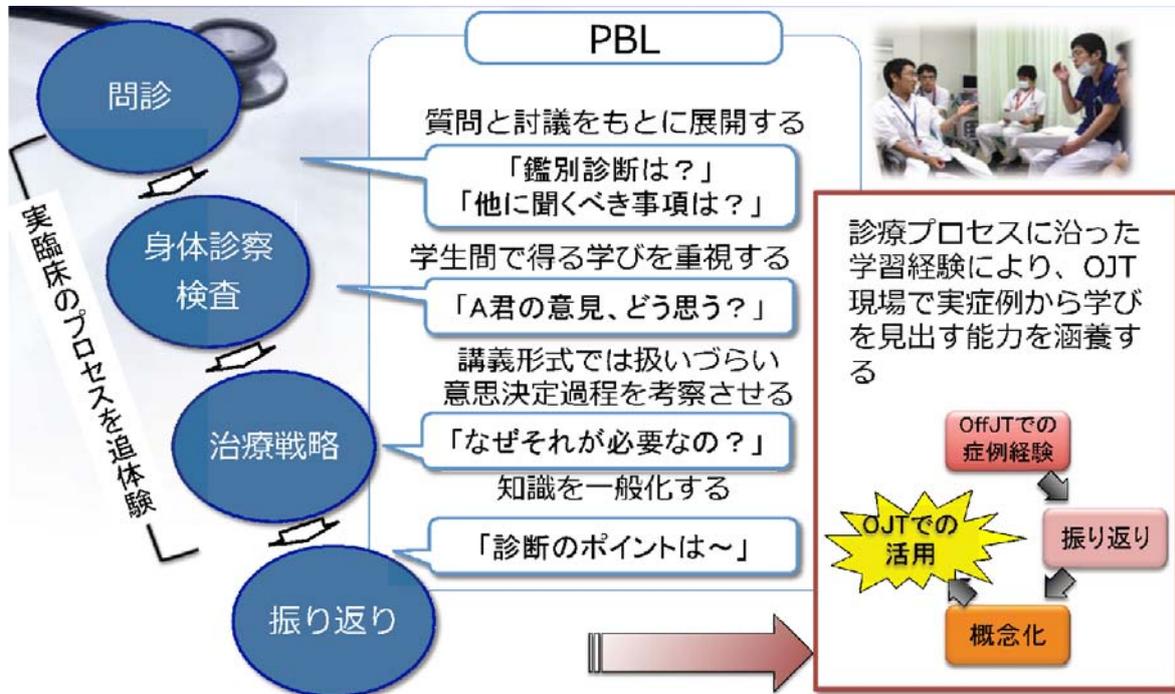
アドバイスをを行った者 (指導医・研修医・その他) 氏名 \_\_\_\_\_

最終評価者 (担当科教授) 氏名 \_\_\_\_\_

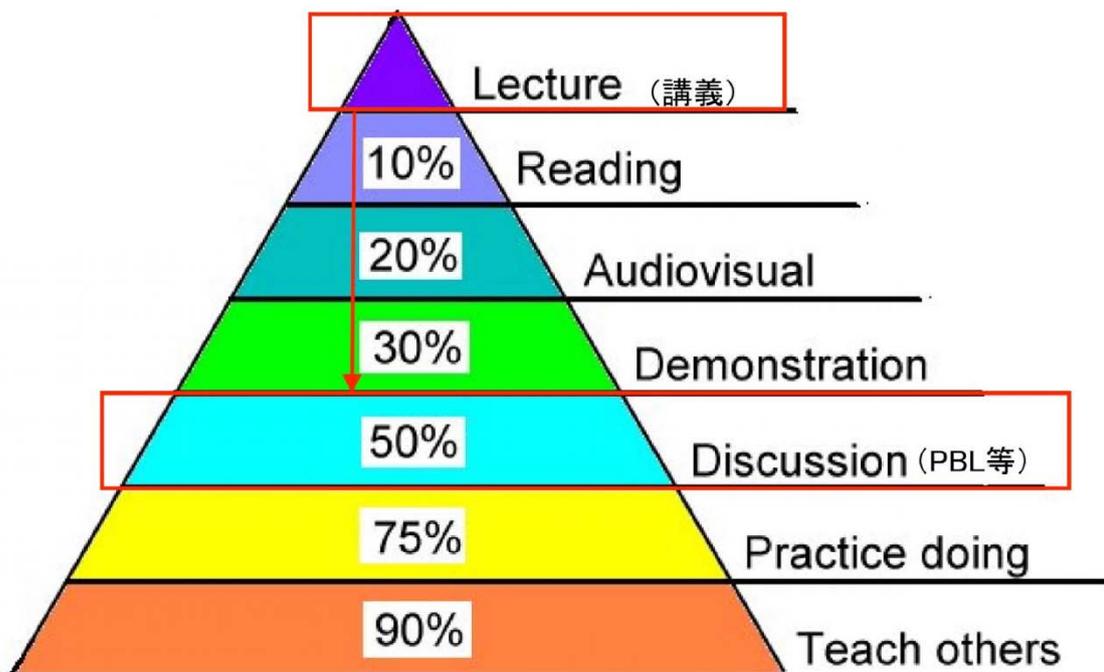
(出典：医学部作成)

③-9 課題基盤型学習を取り入れた臨床実習（資料医94）

**資料医94** 教育効果を高めるとされる臨床実習向けPBL（problem-based learning）プログラムを開発し内科系全教室で導入した。受講した学生のアンケートでは、73%が学習内容を理解できたと回答した。



方略ごとの学習定着度を示す「学習ピラミッド」



Source: National Training Laboratories, Bethel, Maine

(次頁に続く)

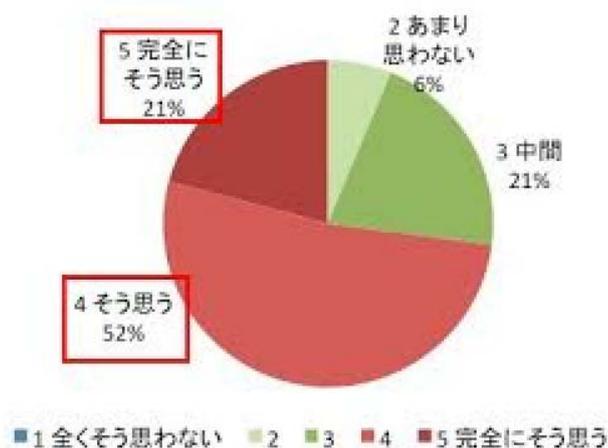
(内科学 (4) の事例)

## 現病歴

- 【現病歴】約1か月前から頭痛と視力障害が出現した。近医で血圧190/126 mmHgを指摘され、カルシウム拮抗薬投与でも改善しないため、精査加療目的で当科紹介となった。
- 【既往歴】特記事項無し
- 【家族歴】母：高血圧
- 【生活歴】喫煙：10本/日×10年(2年前から禁煙)  
飲酒：機会飲酒 内服薬：特になし

この患者さんの診断をつけるために必要な診察項目を  
考えてください。

Q. このチュートリアルで扱った内容を  
理解できた。



(出典：医学部作成)

### ③-10 リサーチマインド養成に向けた自主研究演習

平成25年度より、夏季休暇を含む長期演習が選択可能となり、海外機関での実施が容易となった。(資料医 95, 96)

資料医95 自主研究演習

平成24年度 医学科学年曆									
【3年生】									
年	月	週	日	月	火	水	木	金	土
24	前期授業14W	1	1	2	3	4	5	6	7
		2	8	9	10	11	12	13	14
		3	15	16	17	18	19	20	21
		4	22	23	24	25	26	27	28
	前期授業10W	5	6	7	8	9	10	11	12
		6	13	14	15	16	17	18	19
		7	20	21	22	23	24	25	26
		8	27	28	29	30	31		
	前期試験3W	9	3	4	5	6	7	8	9
		10	10	11	12	13	14	15	16
		11	17	18	19	20	21	22	23
		12	24	25	26	27	28	29	30
夏季休業4W	13	1	2	3	4	5	6	7	
	14	8	9	10	11	12	13	14	
	15	15	16	17	18	19	20	21	
	16	22	23	24	25	26	27	28	
後期授業前倒し2W	17	29	30	31					
	18	5	6	7	8	9	10	11	
	19	12	13	14	15	16	17	18	
	20	19	20	21	22	23	24	25	
後期授業13W	21	26	27	28	29	30	31		
	22	2	3	4	5	6	7	8	
	23	9	10	11	12	13	14	15	
	24	16	17	18	19	20	21	22	
後期試験5W	25	23	24	25	26	27	28	29	
	26	30	31						
	27	6	7	8	9	10	11	12	
	28	13	14	15	16	17	18	19	
自主研究演習4W	29	20	21	22	23	24	25	26	
	30	27	28	29	30	31			
	31	3	4	5	6	7	8	9	
		10	11	12	13	14	15	16	
春季休業3W	1	17	18	19	20	21	22	23	
	2	24	25	26	27	28	29	30	
	3	3	4	5	6	7	8	9	
	4	10	11	12	13	14	15	16	

平成25年度 医学科学年曆									
【3年生】									
年	月	週	日	月	火	水	木	金	土
25	前期授業10W	1	1	2	3	4	5	6	
		2	7	8	9	10	11	12	
		3	14	15	16	17	18	19	
		4	21	22	23	24	25	26	
	前期試験3W	5	28	29	30				
		6	5	6	7	8	9	10	
		7	12	13	14	15	16	17	
		8	19	20	21	22	23	24	
	夏季休業3W	9	26	27	28	29	30	31	
		10	2	3	4	5	6	7	
		11	9	10	11	12	13	14	
		12	16	17	18	19	20	21	
後期授業前倒し4W	13	23	24	25	26	27	28		
	14	30	31						
	15	7	8	9	10	11	12		
	16	14	15	16	17	18	19		
後期試験4W	17	21	22	23	24	25	26		
	18	28	29	30	31				
	19	4	5	6	7	8	9		
	20	11	12	13	14	15	16		
自主研究演習2W	21	18	19	20	21	22	23		
	22	25	26	27	28	29	30		
	23	1	2	3	4	5	6		
	24	8	9	10	11	12	13		
春季休業3W	25	15	16	17	18	19	20		
	26	22	23	24	25	26	27		
	27	29	30	31					
	28	5	6	7	8	9	10		
後期授業6W	29	12	13	14	15	16	17		
	30	19	20	21	22	23	24		
	31	26	27	28	29	30	31		
		2	3	4	5	6	7		
試験期間2W	1	9	10	11	12	13	14		
	2	16	17	18	19	20	21		
	3	23	24	25	26	27	28		
	4	30	31						

(出典：医学部作成)

資料医 96 自主研究演習での海外派遣先・内容の一覧

自主研究演習(3年)

	カナダ トロント	タイ マヒドン	中国 青梅	インドネシア ディボネゴロ	アメリカ UCSD	スウェーデン カロリンスカ
H22 年度	3					
H23 年度	2					5
H24 年度	2					3
H25 年度	2				2	5
H26 年度	2	1				
H27 年度	1	3	1	1		

選択臨床実習(6年)

	トロント	ハワイ	ワシントン	Hannover(ドイツ)	シンガポール	ベルギー
H22 年度	1		1			
H23 年度	2					1
H24 年度	2					
H25 年度	1			1		
H26 年度	2	2				
H27 年度	1				2	

(出典：医学部作成)

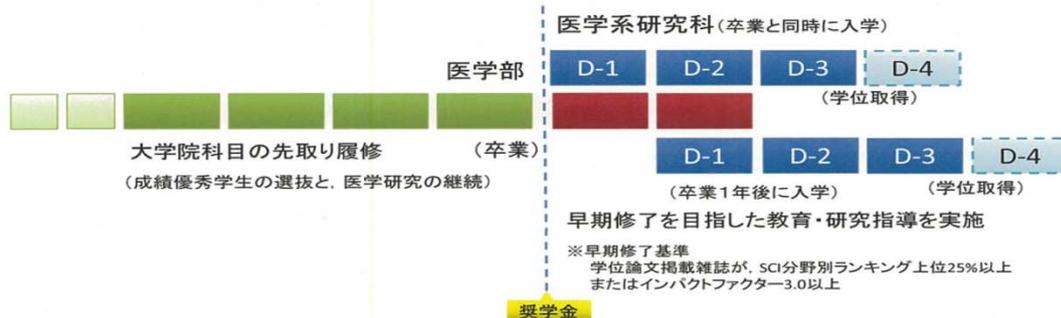
③-11 大学院教育早期履修システムの導入

平成26年度よりリサーチマインドを持った医師を養成するために e-MED プログラムを開始した。(資料医97, 98)

資料医 97 e-MED (Early enrolled and Multi program Education System for Basic Research Doctors) システムによる大学院教育・研究への早期履修システム

学部3年次から大学院授業科目を履修(在学中に10単位以内)が可能であり、修得した単位は、学部卒業後医学系研究科に入学した場合に限り、入学前に既修得単位として認定されるため、修了要件の30単位(医学系専攻)または32単位(疾患予防医科学専攻)のうちの一部の単位が修得済みとなり、研究に専念することができる。また、優れた研究業績を上げた場合は、3年の在学中で修了することも可能である。なお、平成27年度から卒業臨床研修中に医学系研究科(博士課程)へ入学した場合は助成金(入学金相当)が支給される。

早期参加複数コース制プログラム:eMED  
(学部時代に大学院教育を開始 平成26年度より学部生履修開始)



(出典：医学部作成)

資料医 98 e-MED システムの履修実績

	H26	H27
履修者数	5	2
修了者数	—	—

(出典：医学部作成)

③-12 多様な領域の教育に対応する体制

緩和医療，漢方医療，法律，医学倫理の専門家を特任教員として採用し，多様な領域の教育を可能とした。（資料医99）

資料医99 多様な領域についての教育

科目名	系統講義（境界医学）	題目（副題）	
担当教員、教員連絡先内線	多田 剛 森 淳一郎	5820	
学年、講義期間、曜日・時限	3年次 後期	月曜，4時限 月曜，5時限 水曜，5時限 金曜，1時限 金曜，2時限 金曜，3時限 金曜，4時限	
単位数、講義室	0.75単位	医学科第1臨床講堂 旭総合講義室AB 医学科第2実習室	
授業で得られる「学位授与の方針」要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>・疾病の正確な診断と適切な治療を遂行するための幅広い知識と高度な技法を修得している。</li> <li>・◎みずからを他者や社会との関わりの中で捉え、自己啓発に努めることができる【自己認識・自己啓発マインド】</li> <li>・◎人類の知を継承し、それらの成果の上で未来について創造的に考えられる【人類知の継承と未来創造マインド】</li> <li>・◎世界の多様な文化、思想、歴史、芸術に関する幅広い素養がある【多様な文化受容マインド】</li> <li>・◎科学諸分野の歴史やその成果に関して幅広く理解できる【科学リテラシー】</li> <li>・◎多様な情報を適切に取捨選択し、分析・活用できる【情報活用力】</li> <li>・◎みずから問題を見出し、すじみちを立てて解決できる【問題発見・解決能力】</li> <li>・◎自然や社会の現象を普遍的な尺度や数量的指標を用いて理解できる【普遍的・数量的理解力】</li> <li>・◎専門学問分野における知識・技能を備え、それらを応用できる【専門知識と応用力】</li> </ul>		
授業のキーワード	陰陽、虚实、表裏、寒熱、気、血、水の概念 漢方薬、生薬、民間薬 臨床、研究における性差の視点		
一般学習目標G10（期待される学習効果）	<p>【東洋医学】 漢方薬を概説できる 東洋医学的思考を理解する</p> <p>【性差医学】 性差の視点を養うために、性差医学の概念や代表的な疾患における性差について学ぶ。性差の視点を、今後の学習や臨床実習においては将来の診療や研究のなかで役立てる。</p>		
個別行動目標SBOs（授業の概要）	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 東洋医学（漢方医学）の歴史と現代医療における役割。</li> <li>2. 陰陽、虚实、表裏、寒熱、気血水などの東洋医学的概念を理解する。</li> <li>3. 東洋医学診察法。（切診、望診、問診、問診）</li> <li>4. 六病位概念と風邪の漢方を学ぶ。</li> <li>5. 方剤学を学び漢方薬の構成を理解する。</li> <li>6. アレルギーに対する漢方治療。</li> <li>7. 痛みの漢方治療。</li> <li>8. 冷え、婦人病に対する漢方治療。</li> <li>9. 漢方薬と西洋薬の相互作用、副作用を学ぶ。</li> <li>10. 性差医学の概念を理解し説明できる。             <ol style="list-style-type: none"> <li>11. 脳の構造・昨日の性差について説明できる。</li> <li>12. 精神および行動における性差について説明できる。</li> <li>13. おもな疾患の疫学や病態における性差について説明できる。</li> <li>14. 生殖内分泌学について説明できる。</li> </ol> </li> </ol>		
テキスト、教材、参考書	<p>○入門漢方医学（日本東洋医学会編集）：南江堂 漢方医学：創元社 漢方治療のABC：医学書院</p> <p>参考書として以下を推薦する。 1) Principles of Gender Specific Medicine Marianne J. Legato, M.D. 2004, ELSEVIER Academic Press 2) Harrison's Principles of Internal Medicine. 17th, Edition pp.28-32, 2008, McGraw Hill 3) 性差医学入門 貴邑富久子監修、荒木葉子翻訳編集代表（じほう出版） 4) 女性診療外来マニュアル 天野忠子他（じほう） 5) 女性における虚血性心疾患-成り立ちからホルモン補充療法まで- 天野 忠子他（医学書院） 6) 女の脳・男の脳 田中 富久子（日本放送出版協会）</p>		
履修上の注意	履修前にテキストを読み東洋医学の概念を理解しておく。 真摯な学習態度でのぞむことを期待します。		
授業の形式、視聴覚機器等の活用	プリント、スライド		
成績評価の方法	出席、試験（最低でも2/3以上の出席が試験受験の必要条件）		
学生へのメッセージ並びにオフィスアワー（質問、相談への対応）	東洋医学を通じて、①医学を西洋医学とは異なった視点から眺め、広い視野で医学を考えること、②病態は絶えず変化することを認識し、それに対応するための心構えと東洋医学的方法論を学ぶことを期待する。 性差医学はまだ新しい概念です。この領域は、今後の臨床や研究において欠かせない視点のひとつです。自ら積極的に学ぶ姿勢を持って講義にのぞんでください。		

（出典：医学部シラバス）

## ④保健学科の特色

## ④-1 質の高い保健師養成課程の設置

平成26年度より保健師資格の取得希望学生のうち20名を選抜する保健師コースを設置。(資料医100)

## 資料医100 保健師コース

平成 27 年 1 月 22 日

## 信州大学医学部保健学科看護学専攻保健師コース履修についてのガイダンス

## 1. 保健師コースの履修を希望する学生へ求めること

保健師コースの履修を希望する学生には次のようなことを期待します。

- ・ 保健師活動への興味・探究心を持つ。
- ・ 保健師活動を行う上での知識と技術を習得する為、積極的・主体的に学ぶ姿勢を持つ。
- ・ 地域で生活する「人々」に興味がある。
- ・ 保健師として就職・活躍したいという志がある。

## 2. 履修可能人数について

- ・ 履修可能人数は1学年20名です。この中に若干名の編入生を含む。
- ・ 助産師コースの履修が決定した者は、保健師コースの選考手続きを行う事はできない。

## 3. 選考申請について

- ・ 3年次の4月下旬～5月上旬に保健師コースの履修希望者を募る。
- ・ 申請締切は5月上旬頃を予定。申請には、大学の定める「保健師コース選択願」、「志願理由書」の提出が必要です。

## 4. 履修者の選択方法について

- ・ 1～2年次に取得した科目に関する「学業成績(200点)」、「志願理由書(30点)」、「面接(70点)」の結果を総合的に判断し、成績上位の者から順に履修者を決定する。  
※「学業成績」として利用する科目は、共通教育科目および専門科目の必須科目。
- ・ 面接は5月中旬に行う。
- ・ 選考結果は個別に通知します。

## 5. 保健師コース選択に伴う費用について

- ・ 保健師コースの選択に伴う申請の費用は「無料」です。ただし、選択後の教科書・参考書の購入費用、実習に伴う交通費・雑費はすべて自己負担となる。(交通費は実習施設により異なり、12000円～35000円程度)

## 6. 選択後の教育カリキュラムについて

- ・ 保健師コースを履修する者は、保健師の国家試験を受験する為に必要な科目を履修する事ができ、国家試験合格後には「保健師」のライセンスを取得できる(看護師国家試験に合格が必須条件)
- ・ 養護教諭2種の免許を申請するには「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」「情報機器の操作」に関する科目の履修が必要です(詳細は学生便覧を参照)。
- ・ 保健師の国家試験受験に必要な科目を履修するため、信州大学では下記に示すような科目が開講される。

教育内容	科目	単位数	看護必修	保健師コース必修	履修年次
公衆衛生看護学	公衆衛生看護学概論	2	○		3
	公衆衛生看護支援論Ⅰ	1	○		3
	公衆衛生看護支援論Ⅱ	2		○	3
	公衆衛生看護支援論Ⅲ	2		○	4
	公衆衛生看護アセスメント論	2		○	3
	公衆衛生看護管理論	1		○	4
	学校看護・産業看護	1		○	4
	看護管理論	1	○		4
	国際看護論	1	○		4
	小児の発達障害と看護	1	○		4
疫学	公衆衛生学	2	○		2
保健統計学	実践保健統計	1	○		2
	疫学・保健統計	1		○	4
保健医療福祉行政論	保健・医療・福祉行政論	2	○		2
公衆衛生看護学実習	公衆衛生看護学実習	5		○	4

- 保健師コース履修者の授業は3年生後期から開始する。3年次に開講する科目は1～2月、4年次に開講する科目は主に4～5月に集中講義形式で行う（一部科目は10月以降に実施）。

#### 7. 実習について

- 長野県内の市町村および保健福祉事務所（保健所）、地域保健活動の関連施設にて実習を行う。
- 実習時期は4年次の6月～7月に目処に実施する。
- 実習期間は上記の時期内で5週間行う（別途、実習に伴う学内での学習時間が生じる）。

#### 8. 就職について

- 就職先は、行政職（公務員）として市町村・都道府県の保健師、事業所に勤務する産業保健師、病院に勤務する保健師、養護教諭として学校に勤務（教育職）など多様である。また、看護師として就職・勤務後に保健師に転職している者もいる。
- これまでの卒業生の就職先（卒業時）を下記に示す。なお、保健師の募集は、看護師の募集と比較すると非常に少なく、高倍率の就職試験であることを念頭に置く必要がある。

	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期	計
都道府県	1	4	1	1	2	2	2	1	14
市町村	7	6	2	5	4	7	7	2	40
事業所等	1	1	1	1	0	0	0	1	5

#### 9. その他

- 4年次に実施する公衆衛生看護実習までに必要な科目の中で、未修得科目がある場合、あるいは成績が著しく悪い場合には、保健師コースの履修の継続はできません。
- 授業開始後、継続が困難な学生は、保健師コースの履修を取りやめとなることがあります。
- 4年次に進む前に、面接で保健師コース履修継続の意思の確認を行います。
- 保健師コースの履修取りやめがあった場合でも人数の補充はありません。

（出典：医学部作成）

## ④-2 実習前評価としてのOSCE導入

専攻ごとにOSCEを取り入れ実習に活かしている（資料医101）。

## 資料医 101 実習前評価としての OSCE の導入（理学療法学専攻の例）

## 平成 26 年度 理学療法学専攻 OSCE 実施計画書

## 1. OSCE の目的

臨床実習前の 3 年生を対象として、態度や技能に関する実践能力の客観的な試験とその結果のフィードバックを行うことによって、実際の臨床現場で求められる医療面接や疾患別の理学療法評価等に関する実践的な臨床能力を育成すること。

## 2. OSCE の日程

表 1. OSCE の日程表

11/17 3・4・5 時限	①OSCE：脳血管障害片麻痺（バイタルサイン等） ②OSCE：小児疾患（運動発達） ③OSCE：超音波画像診断装置を用いた評価法	大平・三好 西沢・西川 Goh
12/ 1 3・4・5 時限	④OSCE：動作支援（移乗動作・歩行動作） ⑤OSCE：脳血管障害片麻痺（バランス）	百瀬・横川 Goh ・三好
12/ 8 3・4 時限	⑥OSCE：医療面接 ⑦OSCE：脳血管障害片麻痺（随意性等）	木村・齋藤 横川・百瀬
12/15 3 時限	全体フィードバック	木村

## 3. OSCE に向けての準備

OSCE における基本的な学習到達目標および評価のポイントは、pre OSCE practice phase で提示されてきた評価シートの内容と学習内容となりますので、それらを参考にして学習を進めてください。また、実技が必要な課題はお互いに模擬患者となり練習に努めて下さい。

（次頁に続く）

#### 4. OSCE 当日の進め方

- 1) 学生は控え室（131 講義室）に待機していて、時間が来たら所定のステーションに移動してください。
- 2) OSCE の時間は、課題を読む（2 分間）、模擬患者を対象として評価をする（8 分間）、教員からフィードバックを受ける（5 分間）の合計 15 分間となります。
- 3) ステーションに入ったら、学生用の椅子に着席し、教員の合図で試験を開始してください。
- 4) 試験開始の合図があったら、まずは、提示された課題シートの内容をよく読んでください（2 分間）。
- 5) 課題シートの内容を把握したら、評価者の合図とともに、医療面接や検査、測定等を開始してください。時間は 8 分間です。
- 6) 模擬患者への挨拶は、全てのステーションにおいて行いますが、医療面接では自己紹介まできちんと行い、他のステーションでは、「こんにちは、よろしくお願いします」という程度で結構です。
- 7) 評価者は患者役の教員も含めて 2 名の教員が担当しますが、緊張せずに、模擬患者を**本当の患者さん**であるとイメージして、評価を行ってください。
- 8) 8 分間経つと評価者の教員が試験終了の合図をしますので、医療面接や検査、測定等の試験を終了してください。
- 9) 試験終了後、教員の方からフィードバックを行いますので、その内容を自分でメモして、今後の学習に生かしてください（5 分間）。
- 10) 各ステーションでの試験が終了したら、ステーションの近くにいる次の学生に声をかけてください。
- 11) 次のステーションに向かうときには、開始時間の少し前にステーションの近くに移動しておいて、前の学生から声をかけられたら速やかに入室できるようにしてください。
- 12) ステーションへの移動のタイミングは、131 講義室に待機している担当教員の方から合図がありますので、それに従ってください。
- 13) 控え室においては、私語をせず静かに自習してください。また、試験の内容に関しても**絶対に口外しない**ようにしてください。
- 14) 12 月 15 日の総合フィードバックが終了したところで、131 講義室において、アンケートを行いますので、ご協力をお願いします。

その他 各専攻のまとめ、評定表、アンケート用紙等の資料あり

（出典：医学部作成）

#### ④-3 新入生合宿研修の取り組み

円滑な大学生活への導入を目的として、4月に研修（資料医102）を行い、学生間、学生と教員との交流を図っている。

資料医 102 新入生合宿研修での取り組み

平成27年度 医学部保健学科新入生合宿研修実施要項

I. 実施概要

■目的

課外での合宿研修により、教員と学生、学生相互の対話と交流を図り、人間的な触れ合いの中で相互理解を深めること。また、講演や専攻ミーティングを通じて大学生活へのスムーズな導入とこれから学んでいく上での心構えを再認識することを目的とし、次に掲げる項目を目標とする。

- ①学生相互、学生と教員の親睦を深める。
- ②信州で共に学ぶ者としての協調性と自立自学の志を高める。
- ③入学時の不安や学ぶことの意義と共に語り、今後の学生生活の過ごし方を考える機会とする。
- ④社会的な知識を身につける。

■期 日 平成27年4月18日(土)～19日(日)

■研修地 国立妙高青少年自然の家 新潟県妙高市大字関山6323-2 TEL 0255-82-4321

■参加者 学生 145名  
教職員 60名 計 約205名

■経 費 2,000円/学生1人あたり  
(食費1,640円, シーツ代200円, 活動費・振込手数料等)

II. 日 程

4月18日(土)		4月19日(日)	
9:00	集合	大学体育館北側【時間厳守】 点呼【バス班長】	6:30 起床
9:15	出発		7:15 朝食(～8:30) (ダイニングホール銀河) 看護→検査, 理学, 作業 空席状況を見て, 専攻単位で利用 清掃・部屋の整理
9:55	休憩	焼捨SA(20分)	8:30 自然の家職員の点検【厚生委員・部屋班長立会い】
10:15	出発	点呼【バス班長】	9:00 宿泊棟引き渡し【時間厳守】
11:40	自然の家到着 オリエンテーション	荷物を持って玄関ホールへ 注意事項伝達(荷物は, 玄関ホール横の ミーティングルームに置いても良い)	9:15 集合・出発 点呼【バス班長】
11:50	宿泊棟へ移動	部屋班長は, シーツ等を受領 避難経路確認, 荷物整理	10:00 休憩 小布施SA(30分)
12:25	昼食	看護→検査, 理学, 作業 空席状況を見て, 専攻単位で利用	10:30 出発 点呼【バス班長】
13:45	講演 ↓	運動着に着替えてから(運動靴持参) プレイホールへ集合 「大学生の社会生活への対応について」 講師: 宮原 則子氏(長野県金融広報委員会)	12:00 大学到着 解散
14:25			
14:30	団体活動 ↓	専攻別対抗長縄跳び選手権 (前後ストレッチ)	
17:00	宿泊棟へ移動		
17:30	夕食 (ダイニングホール銀河) ※星空観察	看護→検査, 理学, 作業 空席状況を見て, 専攻単位で利用	専攻ミーティングの場所 看護: 学習室1 検査: 学習室2 理学: 学習室3 作業: 実習室3(調理室)
19:00	専攻ミーティング	場所は, 右表参照	※ 夕食後・専攻ミーティング後等に星空を眺めてみるのも 良いですよ
21:00	入浴(～22:30)	(17:20～19:00も入浴可能)	
22:30	消灯・就寝		

(出典: 医学部作成)

④-4 授業改善アンケートの教員コメントの公開

アンケート結果に担当教員がコメントし学生に公開することで授業改善への取り組みを明瞭にしている(資料医103)

資料医 103 授業改善アンケートの教員コメントの公開

平成27年度前期「授業改善アンケート」科目別集計表

授業科目:	
担当教員:	
集計人数:	

1)この授業で良かったと思う点を書いてください

ビデオがおもしろかった。  
実際に体験した事例をたくさん話してくれて、理解も深まったし、意欲も沸いた。

2)この授業で良くなかったと思う点を書いてください

テストが午後にある場合はもう少し早く教えてほしいです。(1コマ目or2コマ目でやるとしていました。)

3)この授業をより良くするための意見・提案があれば書いてください

平成27年度前期「学生による授業改善アンケート」教員コメント記入表

登録コード	科目名	担当教員氏名

1, 数値結果に対するコメントを記入してください。

8割以上の方が良い評価をしてくださりありがとうございます。一方で予習復習に関してはあまり多くの課題を出さなかったこともあり4名の方があまりそう思わないと回答されているようです。今後予習復習についても熱心に取り組めるよう工夫していきたいと思ひます。

2, 自由記述欄に対するコメントを記入してください。

実体験をできるだけお話しするようにするよう努力している点が認めていただけてありがとうございます。試験日程に関しては何度か調整の案内をさせていただいておりましたが伝わらなかった方もいたようで残念です。

(出典：医学部作成)

④-5 地域住民対象の健康講座への学生の参加

平成26年度から地域公開講座を開講し、学生が地域支援について学習する機会としている（資料医104）。

資料医 104 地域公開健康講座への学生の参加

医学部地域保健推進センター 健康講座【シリーズ1】

健康寿命延伸を目指して

信州大学医学部地域保健推進センター(保健学科)では、このたび地域住民の皆様向けの健康講座を開催いたします。今回のシリーズは「健康寿命延伸を目指して」と題し、10回の講座で、健康に役立つ有益な情報をお伝えいたしますので、ぜひご近所の皆様をお誘いあわせてご参加ください。

日時 : 平成 26 年 9 - 12 月の火曜日 18 時-19 時  
 場所 : 信州大学医学部保健学科 地域保健推進センター3階 多目的講義室  
 (松本キャンパス北の女鳥羽川側:保健学科が耐震工事中のため足下にはご注意ください。)  
 費用 : 無料 (車で来場の方は、大学正門をご利用ください。無料券を配布します)  
 申し込み: 申し込みの必要はありません。直接会場へお越しください。  
 参加者には受講書を発行します。希望の回のみでの参加も可能です。

プログラム:

回	日時(18時-19時)	講座タイトル	氏名	専攻(職種)
1	9月30日(火)	健康寿命の延伸と運動習慣	教授 木村 貞治	理学療法学(理学療法士)
2	10月7日(火)	生活習慣病を予防する	教授 本郷 実	看護学(医師)
3	10月14日(火)	食習慣と健康診断検査	准教授 日高 宏哉	検査技術科学(検査技師)
4	10月21日(火)	脳血管障害のはなし	教授 高 昌基	検査技術科学(医師)
5	10月28日(火)	肺の生活習慣病 COPD とはどんな病気?	教授 藤本 圭作	検査技術科学(医師)
6	11月4日(火)	高齢者の健康と家族	准教授 牛田 貴子	看護学(看護師)
7	11月11日(火)	認知症のはなし	教授 埴原 秋児	作業療法学(医師)
8	11月18日(火)	安心して暮らすための住まいの整備	教授 上村 智子	作業療法学(作業療法士)
9	11月25日(火)	地域における健康教室の取り組み	准教授 横川 吉晴	理学療法学(理学療法士)
10	12月2日(火)	死別ケアと健康に生きるためのまちづくり	准教授 山崎 浩司	看護学(社会学者)

1.性別

	人数
女性	412
男性	168
無回答	1
合計	581

2.職業

	人数
学生	139
会社員	59
主婦	182
無職	73
その他	127
無回答	1
合計	581

※その他  
 会社役員 1  
 農業者 19  
 公務員 2  
 職職員(教諭) 1  
 県職員 1  
 教員 22  
 教員・職員 3  
 大学教職員 10  
 病院事務 1  
 学内 1  
 信大職員 1  
 信大病院事務 1  
 介護ヘルパー 1  
 介護職 2  
 パート 12  
 OT 1  
 リハビリ療法士 1  
 医療従事者 1  
 個人事業主 2  
 団体職員 2  
 自営業 3  
 鍼灸マッサージ師 1

信州大学医学部 地域保健推進センター AED  
 健康講座シリーズ 第2弾  
 「災害と健康」

平成26年は豪雨による土砂災害、噴火、地震など様々な自然災害が長野県を襲いました。日ごろから、健康の側面からも災害に対して準備をしておくことが望まれます。災害が発生したときにあわてず対応できるように、この講座を企画しました。皆さんの参加をお待ちしています。

場所 : 信州大学医学部保健学科  
 地域保健推進センター3階 多目的講義室  
 日時 : 5月9日~7月11日 10:00-11:30  
 参加者: どなたでも、事前申し込み無し、参加費無料  
 (第1回と第3回は体を動かすプログラムが含まれる場合がありますので、動きやすい服装でお出かけください。)

※車でお越しの方は、正門から入場してください。無料駐車場をお知らせします。  
 ※地域保健推進センターの場所は、医学部保健学科のホームページからも確認できます。  
<http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/medicine/health/cchp/accss/>

プログラム

- 第1回【命を救う】 5月9日(土) 10:00-11:30  
 1. 心臓が止まったら(AEDを使ってみよう)  
 2. 外傷の応急手当を覚えよう 深澤佳代子(保健学科看護学)
- 第2回【緊急災害援助隊(DMAT)の活動】 5月30日(土) 10:00-11:30  
 秋田真代(高度救命救急センター-医師)  
 松澤剛毅(高度救命救急センター-看護師)
- 第3回【災害後の体を守る(避難生活で起こること)】 6月20日(土) 10:00-11:30  
 1. 集団生活で発生しやすい感染症から体を守る 奥野ひろみ(保健学科看護学)  
 2. エコノミー症候群を予防しよう 大平雅美(保健学科理学療法学)
- 第4回【災害後の心を守る】 7月11日(土) 10:00-11:30  
 1. PTSDや心の変化を知ろう 下里誠二(保健学科看護学)  
 2. こどもの心に寄り添う 平林優子(保健学科看護学)



お問い合わせ: 保健科学第2係  
 TEL: 0263-37-2356 E-mail: cchphoken@shinshu-u.ac.jp

Photo: [http://www.jrc.or.jp/vers\\_1f/cas2.pdf](http://www.jrc.or.jp/vers_1f/cas2.pdf), <http://www.hp.msd.shinshu-u.ac.jp/information/2011/03/post-71.php>

(次頁に続く)

1.性別

	人数
女性	113
男性	44
合計	157

2.職業

	人数
学生	79
主婦	23
無職	20
会社員	18
その他	17
合計	157

※その他  
 教員  
 保育士

信州大学医学部 地域保健推進センター  
健康講座シリーズ 第3弾

「健康に暮らす4つの方法」



今回は、「食とこころ」にまつわる視点から健康とのつながりを考える講座を企画しました。皆様のご参加をお待ちしています。

場所： 信州大学医学部保健学科  
地域保健推進センター3階 多目的講義室  
日時： 9月～11月の全4回 いずれも18:15～19:15  
お申込み・お問い合わせ先：  
原則として、前日までにお申込みください(当日参加も可能)  
医学部保健学科学務第2係 (受付時間 平日 8:30～17:15)  
TEL: 0263-37-2356 FAX:0263-37-2370 E-mail: [cchphoken@shinshu-u.ac.jp](mailto:cchphoken@shinshu-u.ac.jp)  
参加費： 無料 ご興味のあるプログラムのみのご参加も歓迎いたします

※車でお越しの方は、医学部附属病院駐車場(有料)をご利用の上、大学正門からお入りください。  
※今回より大学構内は駐車できません。当日は駐車場近辺にプラカードを持った案内係がおりますので、お尋ね下さい。  
※地域保健推進センターの場所は、医学部保健学科のホームページからも確認できます。  
<http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/medicine/health/cchp/access/>

プログラム

第1回【きのこを食べて健康に】	9月29日(火)	18:15-19:15	農学部 福田 正樹 教授
第2回【くちの健康と体の健康】	10月13日(火)	18:15-19:15	医学部 栗田 浩 教授
第3回【“快適”感をはかる】	10月27日(火)	18:15-19:15	繊維学部 上條 正義 教授
第4回【ポジティブに生きるための心理学】	11月10日(火)	18:15-19:15	人文学部 菊池 聡 教授

1.性別	
	人数
女性	96
男性	38
合計	134

2.ご職業		※その他
	人数	パート
学生	38	自営業
会社員	33	大学職員
主婦	27	介護職
無職	11	教員
その他	25	アルバイト
合計	134	社会人大学院生

(出典：医学部作成)

## ④-6 実習委員会の設置による実習運営（看護学専攻）

(資料医105)

**資料医 105 実習委員会の設置による実習運営（看護学専攻）**

3 学年 7 領域にわたる大規模な実習について、看護学専攻では実習委員会を設置し専攻全体として進行を調整している。

**平成26年度 看護学専攻実習委員会活動一覧**

日時	回数	分類	議題、企画名称、その他
4月9日(水)	1	委員会	1. 平成26年度委員会活動と役割分担 2. 平成26年度看護学実習会議(4/16)の準備・議事の検討、病院への依頼文送付について 3. 平成26年度実習について:保健師コース選択の伴う学生配置表作成日程の検討 4. 平成26年度実習ガイドライン項目追加と修正案検討について 5. 平成26年度実習オリエンテーション日程決定 6. 平成27年度実習スケジュール、実習依頼について 7. 平成26年度実習委員会所掌事項確認および開催日程
4月14日(月)	-	準備	[印刷] 信州大学医学部附属病院との看護学実習会議資料
4月16日(水)	-	当日	[定例] 平成26年度信州大学医学部附属病院との看護学実習会議(於:附属病院外来棟4階大会議室)
5月21日(水)	2	委員会	1. 平成27年度臨地実習ローテーション案検討 2. 平成26年度後期～27年度領域別実習学生配置案作成について 3. 平成26年度統合実習要項の集約 4. 基礎看護学実習Ⅱ・老年看護学実習Ⅱ・領域別実習一斉オリエンテーション案検討:電子カルテ講習会、PW取得について、日程(7月16日) 5. 平成26年度臨地実習指導者連絡会議の検討:日程、場所、講演講師等 6. 平成26年度実習ガイドラインの見直し 7. 予算案
6月4日(水)	-	企画当日	[定例] 電子カルテの講習会(対象:助産師コース編入生(3・4年)2名)
6月24日(火)	3	委員会	1. 平成26年度後期領域別実習グループ編成 2. 平成26年度実習ガイドライン改訂版の検討:災害時の対応 3. 平成26年度実習指導者連絡会議講演講師の検討 4. 平成26年度領域別実習オリエンテーションについて(基礎は授業時間内、老年は7月19日)
7月15日(火)	-	準備	[印刷] ガイドライン印刷 平成26年7月改訂版(1～4年生、編入生、教員、実習施設配布)
7月16日(水)	-	企画当日	[定例] 臨地実習オリエンテーション(3年生対象)(於:地域保健推進センター3階多目的講義室)
7月23日(水)	-	企画当日	[定例] 基礎看護学実習Ⅱオリエンテーション(対象:2年生)
7月25日(金)	-	企画当日	[定例] 老年看護学実習Ⅰオリエンテーション(対象:2年生) [定例] 老年看護学実習Ⅱオリエンテーション(対象:3年生)
7月30日(水)	-	企画当日	[定例] 電子カルテの講習会(対象:2年生)
10月1日(水)	4	委員会	1. 平成26年度臨地実習指導者連絡会議の検討 :講師、講演テーマ等 2. 2・3年生の各実習進捗状況報告 3. 平成27年度統合実習学生配分について
10月27日(月)	5	委員会	1. 平成26年度実習指導者連絡会について:次第、講師、テーマ、当日の役割、準備物品、実習施設への案内状送付について、グループワークの配置等 2. 平成27年度実習ローテーション案
11月～1月	-	準備	学務担当者と実習指導者連絡会議出席施設への案内状、出席者確認の打ち合わせ
12月9日(火)	-	準備	平成26年度実習指導者連絡会議講師との打ち合わせ
12月18日(木)	6	委員会	1. 平成26年度臨地実習指導者連絡会議進行及び準備について 2. 実習中の学生の状況について
H27.1月6日(火)	-	企画当日	[定例] 実習ガイドライン配布、実習誓約書 記入依頼、回収(対象:1年生)
1月20日(火)	-	準備	[印刷] 臨地実習指導者連絡会議資料
1月21日(水)	-	企画当日	[定例] 平成27年度臨地実習指導者連絡会議(於:附属病院外来棟4階大会議室)
2月10日(火)	7	委員会	1. 平成26年度臨地指導者連絡会議総括、報告書作成について 2. 実習の進捗状況 3. 平成26年度実習委員会まとめについて 4. 平成27年度実習施設案の集約
2月16日(月)	-	準備/配布	[印刷] 平成26年度臨地実習指導者会議報告書
3月23日(月)	8	委員会	1. 平成26年度 実習委員会活動報告の作成について 2. 平成27年度へ引き継ぐ事項等

(出典:医学部作成)

④-7 多施設，長期間の臨地・臨床実習の実施  
(資料医106)

**資料医 106 多施設，長期間の臨地実習の実施**  
(検査技術科学専攻の例)

臨地・臨床実習を充実させるため看護学専攻では約70施設で1年間，検査技術科学専攻では4施設で12週間，理学・作業療法学専攻では約70施設で21週間実習を実施している。

**平成27年度検査技術科学専攻 臨地実習計画表(150508)**

実習学生：4年次生(42名 内訳 女:28名、男:14名) 12グループ(3~4名/班)  
実習場所：信州大学医学部附属病院臨床検査部、輸血部、血液浄化療法部、内視鏡診療部、耳鼻咽喉科、眼科、  
薬剤部・臨床試験センター、相澤病院、松本市医師会医療センター、長野県立こども病院、保健学科  
実習期間：平成27年5月11日(月)~7月31日(金) 計12週間

週	期間	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
		5/11(月) ~5/15(金)	5/18(月) ~5/22(金)	5/25(月) ~5/29(金)	6/1(月) ~6/5(金)	6/8(月) ~6/12(金)	6/15(月) ~6/19(金)	6/22(月) ~6/26(金)	6/29(月) ~7/3(金)	7/6(月) ~7/10(金)	7/13(月) ~7/17(金)	7/21(火) ~7/24(金)	7/27(月) ~7/31(金)
I	検体検査部門	1**・2・3			4・5・6			7・8・9			10・11・12		
II	遺伝子・染色体検査室	4*1	5*2	6	1*1,**	2*2	3	10*1	11*2	12	7*1	8*2	9
III	輸血部	5*1	6*2	4	2*1	3*2	1**	11*1	12*2	10	8*1	9*2	7
IV	尿・一般検査室 <sup>1)</sup>												
	血液浄化療法部 <sup>2)</sup>	6*1	4*2	5	3*1	1*2,**	2	12*1	10*2	11	9*1	7*2	8
	内視鏡診療部 <sup>3)</sup>												
	長野県立こども病院 <sup>4)</sup>												
V	病理検査室	7	8	9	10	11	12	1**	2	3	4	5	6
VI	細菌検査室	8	7	10	9	12	11	2	1**	4	3	6	5
VII	生理検査室 (眼科 <sup>5)</sup> ・耳鼻咽喉科 <sup>6)</sup> ・薬剤部 <sup>7)</sup> )	9・10		11・12		7・8		3・4		5・6		1**・2	
VIII	相澤病院 検査科	11	12	7/8A	7/8B	9	10	5/6A	5/6B	1/2A*	1/2B	3/4A	3/4B
IX	松本市医師会 医療センター	12	11	7/8B	7/8A	10	9	5/6B	5/6A	1/2B	1/2A*	3/4B	3/4A

IV	<sup>1)</sup> 尿・一般検査室(検査部)	: 毎週(月)(水)(木、午後):1グループ
	<sup>2)</sup> 血液浄化療法部	: 毎週(火)午前、午後:1グループ
	<sup>3)</sup> 内視鏡診療部	: 毎週(木)午前 :1グループ
	<sup>4)</sup> 長野県立こども病院	: 毎週(金)午前、午後:1グループ
V	<sup>5)</sup> 眼 科	: 毎週(月)15:30~ :1グループ
	<sup>6)</sup> 耳鼻咽喉科	: 毎週(火)・(金)午前 :1グループ
	<sup>7)</sup> 薬剤部・臨床試験センター	: 毎週(木)午前 :1グループ

III	輸血部	*1:第1、4、7、10週目の3班合同(水曜日13:00-14:00) 輸血部(下平先生)
IV	血液浄化療法部	*2:第3、6、9、12週目の3班合同(火曜日15:00-16:00) 血液浄化療法部(上條先生)
		II、III、IVの学生は、上記のIII.輸血部、IV.血液浄化療法部でのレクチャーの時間は、 合同でレクチャーを受けます。

1\*\*,1/2A\*:身体障害者を含む班(廊下等の移動は車いす、室内は杖を用品)

(出典：医学部作成)

## ④-8 実習指導者及び学生からのアンケート調査

以下（資料医107）のアンケートを実施し実習の改善に努めている。

**資料医 107 臨地・臨床実習指導者及び学生からのアンケートの主な意見**  
（検査技術科学専攻の例）

Q1. この臨地実習がよりよくなるための提案、学内の授業で不足している内容について自由にお書きください。

1. 検体検査部門

- 授業で検査値（1人の患者）について見る機会が少ないように思います。

2. 病理検査室

- 特殊染色をもう少しやりたい。

3. 遺伝子・染色体検査室

- 部屋が暑かったです。

もう少し手を動かしたかった。

4. 輸血部

- 部屋が暑かったです
- 業務に関する説明や、変わった血液型の患者さんについてもう少し詳しく聞きたかったです。
- いろいろと実習させていただいたが、まだ凝集の有無の判定があいまいなので、もっといろいろなタイプが見られたらいいと思う。

5. 細菌検査室

- とっても楽しかったです。
- 2週間ぐらいやりたかった。

6. 内視鏡診療部

- 先生がいなかったため、実際におこなっているところを診れませんでした。見たかったです。
- 実際内視鏡を動かせる機会があればもっと良かったと思う。

7. 血液浄化療法部

- ドリップ式で出したコーヒーに牛乳を混ぜたものにしたほうがもっと違いが判るのではないかと思った
- コーヒー牛乳を使った透析では、透析前後の液体を採取し、見比べると透析高価を実感しやすいと思います。
- 1週目のグループだったので、この実習はしませんでした。
- コーヒー牛乳の実習を楽しみにしていましたが、出来なかったのが残念でした。

8. 学内

- 寄生虫の勉強があつたらいいな
- 下肢静脈エコーもやりたい

9. 生理検査室

- 筋電図について学内でもっとやるべき。

10. 薬剤部 臨床試験センター

- 治験センターでは実際に働いているところの見学があると良かったと思う。
- 時間的に薬剤部と治験センターを分けた方が良いと思いました。
- 治験に関しては学内で講義しておくべきだと思う。大変興味深かった。

11. 耳鼻咽喉科

- 聴覚検査は、オーディオメータを軽く授業で学んだだけだったので、臨地実習でおこなった OAE とティンパノメトリーも少し触れてもらえたら理解しやすくなると思った。

12. 眼科

- 行っていません。
- もう少し説明を受けたい

13. 相澤病院

- 学生同士でおこなうのは腹部エコーだけでは飽きるのでは、心エコーや頸動脈エコーもできると充実した実習になるのではないかと思います。
- もっと長いほうが良い
- 個人で希望のところに行った時に放置され続けました。ほかのところに行けばよかった。
- 忙しいとは思いますが、もう少し様子見に来てほしい。

14. 松本市医師会医療センター

- もっと長いほうが良い

Q2. その他、ご意見があればお書きください。

1. 検体検査部門

- 血液分野では自習が多すぎる。課題を出すならば認定問題より国試対策を希望する。

2. 病理検査室

- 実習後、病理の点数が伸びました。

3. 遺伝子・染色体検査室

- わかりやすかつたし、倫理的な面で勉強になった。

4. 輸血部
5. 細菌検査室
  - 学内実習では扱わないような菌を扱えて良かったです。
  - 自分たちで考えながら実習できるので、とても勉強になった。
6. 内視鏡診療部
  - 今となつてはほとんど記憶に残っていない。Ns が検体を扱うときのヒヤリハット、インシデントが勉強になった。
7. 血液浄化療法部
  - 検査を専攻する学生は漠然と医療を志したり、様々な理由でいる人もいます。幅を広げたり、今一度ほかの仕事を経て自分の人生設計を変えることもあると思うのでやるべきだと思います。
  - 透析に使う水についてはあまり考えたことが無かったので良い機会になりました。
  - コーヒー牛乳についてはやりませんでした。やってみたかったです。実習中で唯一の患者さんとしっかり話す時間があって、普段できなかった分、興味深かった。
  - コーヒー牛乳は来年度以降も行うべきです。透析について考えるととても良い機会になった。
8. 学内
  - 毎日いっぱいいっぱいの中で、正直よい息抜きができる良い期間になった。
9. 生理検査室
  - 患者さんと技師が関わりがい、責任感が学べた。
10. 薬剤部 臨床試験センター
11. 耳鼻咽喉科
  - あまり検査などで今まで学習してこなかった検査について学べて良かった。
12. 眼科
  - 医師会で眼底検査の説明をすでに聞き操作を行ったので、同じことの繰り返しになったが、より詳しく説明が聞けたのは良かった。
13. 相澤病院
  - 午後ひたすらエコーは集中力がもたない。忙しいから仕方ないことだが。
14. 松本市医師会医療センター
  - クーラーの修理中で暑すぎて大変だった。自習時間は白衣を脱いでよいなどの対応が欲しかった
  - MTとして様々な働き方を学ぶうえでは良い機会になった。

(出典：医学部作成)

(3) 学生の国際性涵養の工夫

① 海外への派遣

①-1 医学科

臨床実習の一環で海外施設に実習生を派遣。(資料医 108, 109)

資料医 108 海外留学先 (再掲)



自主研究演習(3年)

	カナダ トロント	タイ マヒドン	中国 青梅	インドネシア ディボネゴロ	アメリカ UCSD	スウェーデン カロリンスカ
H22 年度	3					
H23 年度	2					5
H24 年度	2					3
H25 年度	2				2	5
H26 年度	2	1				
H27 年度	1	3	1	1		

選択臨床実習(6年)

	トロント	ハワイ	ワシントン	Hannover(ドイツ)	シンガポール	ベルギー
H22 年度	1		1			
H23 年度	2					1
H24 年度	2					
H25 年度	1			1		
H26 年度	2	2				
H27 年度	1				2	

(出典：医学部作成)

資料医 109 学部間交流協定 (海外大学との協定)

国	連携大学等	締結主体
インドネシア	ディボネゴロ大学医学部	医学部
中国	青海大学医学部	医学部
シンガポール	シンガポールヘルスサービス	医学部
タイ	マヒドン大学ラマティボディ病院医学部	医学部

(出典：医学部作成)

①-2 保健学科

従来の豪国短期留学に加え、平成26年度よりシンガポールへの短期留学と、ネパールでの保健医療活動への学生参加を開始。(資料医110,111)

資料医110 国際交流委員会と留学

Ⅲ. 信州大学医学部保健学科の国際交流プログラム概要

1. プログラムによる育成人材像および達成目標

1. 他国の人々と協同して活動ができるように英語コミュニケーション力を高め、国際社会に貢献できる人材を育成する。
2. 英語による学習から、異文化交流の意義と魅力を体感する。
3. 異文化での学習・生活体験を通じて、国際的視点から医療従事者としての態度を涵養する。
4. 卒前・卒後教育、臨床の機会を自ら国外にも求め、国際的に活躍できる医療従事者を育成する。
5. 海外への大学院留学や日本に留学した学生などと、英語を用いて共同研究ができる人材を育成する。

2. 国際交流プログラムの全体

1. 大学間学術交流協定に基づくオーストラリア・カーティン大学 (Curtin University) 夏期海外単位認定プログラム  
カーティン大学や医療機関での学習および現地ホームステイを中心とする体験プログラム
2. 信州大学—ネパール連邦民主共和国夏期海外研修保健医療スタディーツアープログラム  
ネパール、カトマンズ他の地域において NPO 活動と現地住民との関わりを中心とする体験プログラム
3. 信州大学—シンガポール共和国夏期海外研修保健医療スタディーツアープログラム  
シンガポールの主に医療機関でのレクチャーおよび見学を中心とする体験プログラム

(出典：国際交流事業夏期短期留学公式報告書)

資料医111 カーティン大，シンガポール，ネパール，ハワイの留学実績

Australia Curtin University 夏期海外単位認定プログラム

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27
看護学	8	8	13	13	5	8
検査技術科学	4	3	4	1	6	0
理学療法学	3	3	4	6	2	8
作業療法学	4	3	1	1	4	2

Singapore General Hospital PTE LTD (Sing Health) 保健医療スタディプログラム

年度	H26	H27
看護学	4	7
検査技術科学	0	3
理学療法学	3	4
作業療法学	0	3

Nepal 保健医療スタディプログラム (※H27年度は大地震のため中止)

年度	H26	H27
看護学	4	
検査技術科学	0	

理学療法学	1	
作業療法学	0	
・看護学専攻4名 ・理学療法学専攻1名 計5名		
夏期海外研修参加者総計：29名		

(出典：医学部作成)

①－3 学生支援（資料医112）

資料医112 日本学生支援機構の支援制度  
（医学科の例）

研修支援（独立行政法人日本学生支援機構（JASSO）奨学金）

・平成26年度海外留学支援制度（短期派遣）に応募，採択され，参加学生17名のうち，審査基準に則り14名に7万円の奨学金が支給された。なお，残り3名については，信州大学平成26年度グローバル人材育成事業による海外活動支援に応募し採択され奨学金が支給された。

学校コード	大学等名	プログラム形態	No.	プログラム名
136010	信州大学	短期研修・研究型	2	医学生の自主研究演習・海外研修プログラム

No.	地域区分				派遣先・連携先機関			協定(合意)内容						
	国・地域コード	国名	派遣地域区分	都市名	派遣先大学等(高等教育機関)		派遣先大学等(高等教育機関)以外の連携機関	協定・合意文書	締結(更新)日	有効期限日	交換人数(派遣)	単位互換・単位認定	授業料不徴収・授業料免除	宿舍手配
					英語名称	日本語名称	英語名称							
1	501	カナダ	甲	トロント	The Hospital for Sick Children, The University of Tront	トロント大学小児病院		合意	2012/4/1	無期限	3名以内	無	無	無
2	735	スウェーデン	甲	ストックホルム	Karolinska Institute	カロリンスカ研究所	Karolinska Institute	合意	2012/4/1	無期限	5名以内	無	無	有
3	502	アメリカ	甲	サンディエゴ	University of California, San Diego	カリフォルニア大学サンディエゴ校		合意	2013/4	無期限	2名以内	無	無	無

プログラムの実施計画										プログラムの過去の実績								
派遣期間				派遣人数		派遣人月数				その他		H22		H23		H24		
派遣開始月	派遣終了月	日数	日数(31日以内)	総派遣計画人数	奨学金支援希望人数	総派遣人月数	奨学金支援希望人月数	奨学金支援希望人月数(H26年度)	奨学金支援希望人月数(H26年度)	本制度以外の学生への奨学金状況	プログラム参加費(日本円)	総派遣人数	奨学金支援人数	総派遣人数	奨学金支援人数	総派遣人数	奨学金支援人数	
H25.7	H25.8	42		2	2	4	4	4				1		2		2		
H25.7	H25.8	28	28	5	5	5	5	5				3		4		3		
H25.7	H25.8	28	28	1	1	1	1	1										
計				8	8	10	10	10				計	4		6		5	

(出典：医学部作成)

(4) 学生の主体的な学習を促すための取組

①環境の整備

以下のとおり学習環境を整備。(資料医113)

**資料医113** 学生の主体的な学習を促すための環境の整備状況(自習スペースの確保)

(医学科)

貸出教室	教室名	場所	予約	無線LAN
	AB講義室	旭9F	必要	○
	C講義室	旭9F		○
	修士講義室	旭9F		○
	第1講義室			○
	第2講義室			○
	第1実習室			○
	第2実習室			○
	チュートリアルルーム9	旭5F		
	チュートリアルルーム10	旭6F		
	チュートリアルルーム7	旭3F		
	チュートリアルルーム11	旭8F		
	チュートリアルルーム12	旭9F		
	チュートリアルルーム3	現在は貸出しなし		
	チュートリアルルーム4	現在は貸出しなし		

ミーティングルーム 基礎棟2F 不要 ○

6年対象 自習室 プレハブ

(保健学科)

～自習スペースについて～

- (1)保健学科内の学生自習室として、りんでん(北校舎1階)、図書閲覧室(南校舎1階)を解放している。
- (2)上記が満席の場合は111講義室(南校舎1階)も使用することも可能としている。
- (3)他の講義室での自習は遠慮いただいている。
- (4)保健学科外では、医学部基礎棟1階と2階の自習スペース、医学部図書館、中央図書館も自習スペースとして開放している。

(出典：医学部作成)

## ②GPA制度の導入

平成26年度入学者から導入。(資料医114)

## 資料医114 GPA

## 11. 信州大学のGPA制度について

信州大学では、学生が適切に履修計画をたて、自主的、意欲的に学習することを促すとともに、適切な修学指導に資することを目的として、平成26年度学部入学生から、学年進行で「GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度」を導入します。

このGPAは、世界の大学で広く用いられている学生の成績評価方法です。会社に就職する、大学院に進学する、海外の大学に留学するような場合に応募先での採否の判断となるものです。

教員は、GPAを活用することにより成績不振学生を早期に発見し、適切な指導に繋げることができます。

## I. GPAについて

「GPA」とは、秀、優、良、可及び不可の5種の評語をもって表した成績の単位数に、それぞれの科目のGP（Grade Point）を掛けて合計したものを、履修登録を行った単位数の合計で割って計算した、GPの平均値（Average）です。評語と評点とGPの関係を以下に示します。

評語	評点	GP
秀（S）	90-100	4
優（A）	80-89	3.33
良（B）	70-79	2.67
可（C）	60-69	2
不可（D）	50-59	1
不可（F）	0-49	0

※各科目の単位取得には、「可」以上が必要です。

## II. GPAの計算式について

$$GPA = \frac{[\text{履修登録した科目の単位数} \times \text{当該科目のGP}] \text{の合計}}{\text{履修登録した科目の単位数（不可（D・F）を含む）合計}}$$

## 1. 履修登録した科目のうち、GPAの計算式に入らない科目があります。

- ① 成績を「合格」・「不合格」で評価する科目
- ② 他大学等で単位修得し、本学が「認定」とした科目
- ③ 学部で指定する科目（所属学部毎にお知らせします。）
- ④ 履修取消をした科目

## 2. 「不可（D・F）」の科目を再履修して合格した場合、過去の「不可（D・F）」の成績はGPAの計算式に入りません。

- ・「不可」（D・F）と成績評価された科目を、再び履修登録して合格した場合は、「可」以上（GP＝2～4）の成績がGPAの計算式に入り、「不可」（GP＝0、1）の成績は合格した学期以降のGPA計算式から除外されます。

## III. GPAの通知について

- ・学期毎に、キャンパス情報システム（Web）から、成績評価と、科目ごとのGP及び学期毎・在学中の通算のGPAが確認できます。
- ・学期毎及び在学中の通算GPAを確認することで、学習成果の指標としましょう。例えば、1年次前期のGPA値が2.0以下であった場合、1年次後期や2年次以降の学習に支障をきたす可能性が高いので、1年次前期の内容を復習すると同時に後期の勉強の準備をしっかりとしましょう。
- ・なお、GPAの値は担任との面談でも利用されます。

【GPA の計算例】

授業の成績	GP の計算
科目 A (2 単位) で C (可) を取った	$2.00 \times 2 = 4.00$
科目 B (2 単位) で A (優) を取った	$3.33 \times 2 = 6.66$
科目 C (4 単位) で D (不可) を取った	$1.00 \times 4 = 4.00$
科目 D (2 単位) で S (秀) を取った	$4.00 \times 2 = 8.00$
科目 E (2 単位) が F (不可) を取った	$0 \times 2 = 0$

$$\begin{aligned} \text{GPA} &= (4.00 + 6.66 + 4.00 + 8.00 + 0) \div (2 + 2 + 4 + 2 + 2) \\ &= 22.66 \div 12 \\ &= 1.89 \end{aligned}$$

GPA 制度導入に伴う GPA 対象外科目について

医学科専門科目

GPA 対象除外	授 業 科 目	備 考
○	医 学 概 論 演 習 I	
○	医 学 概 論 演 習 II	
	ヒ ト 生 物 学 I	
	ヒ ト 生 物 学 II	
	人 体 の 構 造 学	
	神 経 解 剖 学 演 習 ・ 実 習 I	
	解 剖 学 演 習 ・ 実 習 II	
	生 理 学 (器 官 系) 演 習 ・ 実 習	
	生 理 学 (統 御 系) 演 習 ・ 実 習	
	発 生 学	
	生 化 学 演 習 ・ 実 習 I	
	生 化 学 演 習 ・ 実 習 II	
	薬 理 学 演 習 ・ 実 習	
	病 理 学 総 論 演 習 ・ 実 習	
	病 理 学 演 習 ・ 実 習 I	
	病 理 学 演 習 ・ 実 習 II	
	細 菌 ・ ウ イ ル ス 学 演 習 ・ 実 習	
	免 疫 学 演 習 ・ 実 習	
	医 動 物 学 演 習 ・ 実 習	
	遺 伝 医 学 ・ 予 防 医 学 演 習 ・ 実 習 I	
	衛 生 学 公 衆 衛 生 学 演 習 ・ 実 習 I	
	法 医 学 演 習 ・ 実 習	
	遺 伝 医 学 ・ 予 防 医 学 演 習 ・ 実 習 II	
	衛 生 学 公 衆 衛 生 学 演 習 ・ 実 習 II	
○	臨 床 医 学 入 門 I	
	臨 床 推 論 入 門	
○	臨 床 医 学 T B L	
	ユ ニ ッ ト 講 義	
	系 統 講 義	
○	臨 床 実 習	
○	自 主 研 究 演 習	
	疾 患 予 防 医 科 学 概 論	
○	基 礎 医 学 T B L	
	医 学 心 理 学 演 習	
	臨 床 外 科 学 入 門	
○	臨 床 実 習 前 集 中 講 義	

実習や経験することが求められる授業は、GPAから除外する。

(出典：医学部作成)

③TBLの積極的導入

以下(資料医115)のような自主的学習を促している。

資料医115 TBL (Team-Based Learning-Tutorial) の授業実施方法 (例: 基礎医学TBL)

1. 授業の準備と進め方(概要)

教員が行う事前の準備	授業の進め方
<p>以下のものを第1回実施日の1週間前までに</p> <p>メールにて医学教育センター(yama_tsk@shinshu-u.ac.jp)に提出する。</p> <p>ア) 事前学習用資料の提示</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>基礎医学的教科書を1冊決める。</li> <li>最低限必要な予習をさせるためのページ(10ページ以内)を提示する。</li> <li>最低限必要な範囲に絞る。</li> </ul> <p>イ) ミニテストの作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>五択択一問題を各回4題(第1回～第3回分・合計12題)作成する。</li> <li>第1回は、事前学習範囲内から出題する。</li> <li>第2～3回は、前回までの課題から出題する。</li> </ul> <p>ウ) 第1～3回の資料の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一人の患者を設定する。(事前に医学教育センターで用意した患者を使用することもできる。10ページ参照)</li> <li>その患者に関連する課題を作成する。</li> <li>※列挙させる問題(○×を列挙せよ)を含む2～4題程度。</li> <li>※最終的に第3回にお話しいただく内容が理解しやすく、目付、身近になるよう、課題を設定してください。</li> <li>成果発表会用の最終課題(発表のテーマ)を作成する。(第3回前半に提示)</li> <li>※この患者において、○×が生じたメカニズムについて説明せよ等</li> <li>○×については、別添のモデルコアカリキュラム「診療の基本」などを参照。</li> </ul> <p>例: この患者において、発熱が生じたメカニズムについて説明せよ。 この患者において、意識障害が生じたメカニズムについて説明せよ。</p>	<p>ア) 第1回～第3回</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>授業の冒頭にミニテスト(5分)を行う。遅刻者には配慮しない。</li> <li>ミニテスト終了後、各グループに資料を配布し、席を移動させる。</li> <li>学生同士でミニテスト答え合わせをさせる。</li> <li>学生の答えがまとまり、グループ解答表を提出したグループには正解を渡す。</li> <li>各グループを一回以上巡回し、学生が課題に取り組み始めるよう誘導する。</li> <li>第3回日の前半に発表課題を提示する。</li> <li>第3回日の後半は第4回のプレゼン資料を作成する。</li> </ul> <p>イ) 第4回(発表会)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>10:40までに旭総合研究棟9階、AB講義室またはC講義室に入室。</li> <li>※学生は各講義室6グループずつ、各講義室に1名ずつの教員が必要。</li> <li>教員の司会のもと、成果発表会を行う。</li> <li>各グループ8分で発表を行い、発表ごとに質疑応答を行う。</li> <li>※基本的に学生間で質疑応答を行うが、低調であれば、教員が質問する。</li> <li>残り時間に応じ、学生の発表で誤解や不足があった部分、ミニテストの要点、その他のトピックスなどを紹介する。</li> <li>評価シートを用いて、学生に、日グループ以外の発表を評価させる。</li> <li>※評価シートは、順位を付ける方式となっており、同順位は認めていない。</li> <li>評価シートを回収し、学務第1係に提出する。</li> </ul> <p>ウ) 第5回(講演会)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>最前線の基礎医学研究についてや先生が基礎医学を志した動機などについてご講演下さい。</li> </ul>

2. 日程

各講座におかれましては、第1回～3回は教員1名、第4回(発表会)は教員2名のご出席をお願いいたします。

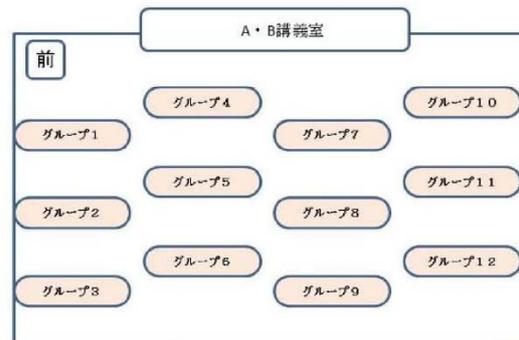
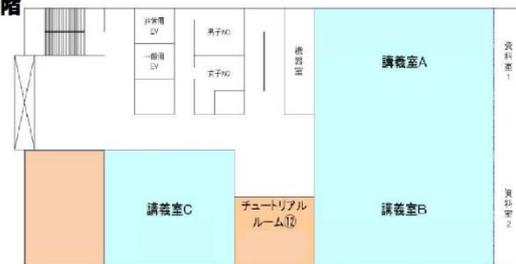
回数	月日	時間	担当教室	教室	
	9月24日(水)	⑤	オリエンテーション 医学教育センター	講義室AB	
1	10月1日(水)	② ③	テーマ1 分子薬理学教室	第1回	
2	10月8日(水)	② ③		講義室AB	
3	10月15日(水)	② ③		第3回	
4	10月22日(水)	② ③		発表会	講義室AB,C
5	10月29日(水)	② ③		講義	講義室AB
6	11月12日(水)	② ③	テーマ2 免疫微生物学教室	第1回	
7	11月19日(水)	② ③		第2回	講義室AB
8	11月26日(水)	② ③		第3回	講義室AB
9	12月3日(水)	② ③		発表会	講義室AB,C
10	12月10日(水)	② ③		講義	講義室AB
11	12月17日(水)	② ③	テーマ3 免疫制御学教室	第1回	
12	12月24日(水)	② ③		第2回	講義室AB
13	1月7日(水)	② ③		第3回	講義室AB
14	1月14日(火)	② ③		発表会	講義室AB,C
15	1月21日(水)	② ③		講義	講義室AB
16	未定		テスト		

3. 教室配置図

グループ別学習は、講義室ABで行う。  
なお、グループ発表(第4回、第9回、第14回)は下記の通り2教室に別れて行う。  
・1～6グループ 講義室AB  
・7～12グループ 講義室Cで行う。

旭総合研究棟

9階



TBL教育の増加

基礎医学TBL	臨床医学TBL	ヒト生物学 I, II	臨床推論入門
2年	4年(H26年度～ 3年後期～4年前期)	1年	3年
H22	11回(1回:90分)	21回(1回:90分)	
H23	11回(1回:90分)	21回(1回:90分)	
H24	15回(1回:60分×2回)	25回(1回:90分)	
H25	15回(1回:60分×2回)	26回(1回:90分)	
H26	15回(1回:60分×2回)	5回(1回:60分×2回)3年 20回(1回:60分×2回)4年	28回(1回:90分)

※試験は除く

(資料: 基礎医学TBL手引きから抜粋)

(次頁に続く)

(平成27年度 T B L 授業一覧)

科目名	学年・学期	コマ数×回数	のべ回数
基礎医学 T B L	2年後期	2コマ×9	18
臨床医学 T B L	3年後期～4年前期	2コマ×25	50
ヒト生物学 I	1年前期	15	15
ヒト生物学 II	1年後期	14	14
臨床推論入門	3年後期	26	26
発生学	2年後期	15	15
生化学演習・演習 II	2年後期	15	15
			計 153

(T B L 授業シラバスの例)

(次頁に続く)

科目名	基礎医学TBL	題目 (副題)	Medical Science TBL (Team-based learning)
担当教員、教員連絡先内線	多田 剛 森 淳一郎	多田剛 (5820)	
学年、講義期間、曜日・時限	2年次	後期	月曜, 2時限 月曜, 3時限
単位数、講義室	1. 50単位	旭総合講義室A B 医学科第2実習室	
授業で得られる「学位授与の方針」要素	<ul style="list-style-type: none"> <li>・患者の身体的・心理的・社会的状態を科学的に評価し、さまざまな情報を総合して、適確に判断し、必要な行動ができる。</li> <li>・常に最新の医療情報を収集するとともに、生涯白らの学習課題を開拓し探求することができる。</li> <li>・◎みずからを他者や社会との関わりの中で捉え、自己啓発に努めることができる【自己認識・自己啓発マインド】</li> <li>・◎日本語および外国語を用い、的確に読み、書き、聞き、他者に伝えることができる【言語能力】</li> <li>・◎対話を通じて他者と協力し、目標実現のために方向性を示すことができる【コミュニケーション能力、チームワーク力、リーダーシップ】</li> <li>・◎多様な情報を適切に取捨選択し、分析・活用できる【情報活用力】</li> <li>・◎みずから問題を見出し、すじみちを立てて解決できる【問題発見・解決能力】</li> <li>・◎自然や社会の現象を普遍的な尺度や数値的指標を用いて理解できる【普遍的・数値的理解力】</li> <li>・◎専門学問分野における知識・技能を備え、それらを応用できる【専門知識と応用力】</li> <li>・◎地球環境と人類文化との調和・共生のため、積極的に行動することができる【環境実践力】</li> </ul>		
授業のキーワード	基礎医学の知識と臨床医学の関連、TBL (Team-based learning)、自己学習、問題抽出と解決、グループワーク (討論、product作成)、		
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	最前線の基礎医学研究を理解し臨床医学とのつながりを認識するために、臨床症例に潜む基礎的課題を抽出検討し基礎医学的観点から考える能力や様々な情報を総合的に判断する能力、最新の医療情報を収集する能力を、チーム学習を通して身に付ける。		
個別行動目標SBOs (授業の概要)	自己学習能力を高めることができる。 課題から、問題点の抽出ができる。 集めた情報をもとに、自分なりの理論を組み立て、表現することができる。 教科書やインターネットを利用して、課題の解決に必要な知識や情報を収集できる。 グループで協力して成果をまとめることができる。		
テキスト、教材、参考書	テーマ毎に事前に連絡する。		
履修上の注意	<p>(毎回の準備)</p> <p>指定された予習範囲を学習してくること。 図書などの資料は適宜チュートリアルルーム12に取りに行く。 (ミニテストと事前学習)</p> <p>各テーマの冒頭にミニテストを行なう。事前学習すべき内容(教科書などの該当部分)は1週間前にもe-ALPSに掲載する。該当テーマについての基礎知識を身につけるために必ず事前学習すること。</p>		
授業の形式、視聴覚機器等の活用	<p>TBLとは、学生をいくつかのグループに分けて講義を行う形態です。 自ら勉強して得られた知識をもとに、与えられた一定の課題に対し、討議を行いながら学習をしていくこととなります。学習には、ネット上の検索も必要になります。</p> <p>～授業の流れ～</p> <p>ミニテスト：範囲はあらかじめ指定します。 グループ別ミニテストの答え合わせ：グループで相談し、ミニテストの回答を作成します。 課題1：3課題を45分かけてグループで検討します。 課題2：2課題を30分かけてグループで検討します。※課題数は授業ごとに変動します。 ミニテスト：当日の課題から出題されます。</p>		
成績評価の方法	<p>出席、ミニテスト、期末テストを総合的に評価します。</p> <p>(授業開始時のミニテスト2点、グループ回答1点、終了時のミニテスト3点) x 8回 = 48点、期末試験60点の合計108点中60点以上を合格とします。</p>		
学生へのメッセージ並びにオフィスアワー (質問、相談への対応)	<p>基礎医学の知識が臨床医学の問題解決にどのように生きるのかを知る授業です。 積極的な自己学習によって、論理的思考過程を経験し、優れたコミュニケーション能力の修得をめざしてください。そのためにも、課題は授業時間内終了させてください。 課題に関する質問、相談は授業中に行ってください。 予習・復習で不明な点があれば、多田まで連絡してください。その都度、面会時間を相談して決めます。 内線5820 外線37-3113 E-mail:tadatsu@shinshu-u.ac.jp</p>		

(出典：医学部シラバス)

④ スキルズラボの設置

平成25年度より学生が日常的に使用できるスキルズラボを設置し、常時臨床手技の自主学習が可能になった。(資料医116)

**資料医116** スキルズラボの概要  
(医学科)

場所は、医学部基礎棟 東棟 2階に設置している。開設時間は、平日の9時から午後5時。事前に要望があれば、午後5時以降の対応も可能。利用手続きは、原則として事前予約が必要。医学部学務(基礎棟1階)にて利用手続きを行うか、Webページのフォームより予約を行う。設置機器の一覧はWebページより確認できる。具体的には下記のシミュレータが設置されている。

- (1) 呼吸音・心音聴診シミュレータ
- (2) ハートシムACLSトレーニングシステム
- (3) 耳診察シミュレータと耳鏡
- (4) 腰椎穿刺・麻酔シミュレータ
- (5) 男性導尿シミュレータ
- (6) 前立腺触診シミュレータ
- (7) 皮膚縫合セット
- (8) スペクトロプロ
- (9) 心電図
- (10) 聴診波形表示装置, コードレス聴診教育システム
- (11) レールダルSimMan
- (12) 眼底診察シミュレータと陰眼鏡
- (13) 採血・静注シミュレータ
- (14) 乳癌触診シミュレータ
- (15) 女性導尿・浣腸シミュレータ
- (16) 移動式手洗いユニット
- (17) 除細動器

(出典:

[http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/medicine/medical\\_education/support/skillslab.php](http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/medicine/medical_education/support/skillslab.php))

⑤ 成績優秀者への授業料免除

(資料医117)

**資料医117** 成績優秀者への授業料免除

成績優秀学生に対し授業料を免除している。

(医学科)

信州大学成績優秀学生の選考に関する医学部医学科申合せ(抜粋)

(選考基準等)

第3 成績優秀学生の選考学年及び配分数等は、次表のとおりとする。

対象学生	選考基準とする成績	配分数 (人)
4年生	3年累計成績と臨床総合試験の合計点上位者	2
5年生	4年臨床総合試験上位者	2
	C B T 上位者	1

## (選考方法)

第4 成績優秀学生の選考方法は、次の各号に掲げる成績順位に人物評価を加味して選考する。

- 一 累計成績と臨床総合試験の合計点の成績による場合は、選考基準とする学年試験において再試験がある者を除き、成績上位者から選出する。
- 二 臨床総合試験の成績による場合は、選考基準とする学年試験において再試験がある者を除き、成績上位者から選抜する。また、選抜した成績上位者が同順位により配分数を超える場合には、累計成績順位の上位者から選出する。
- 三 CBTの成績による場合は、4年臨床総合試験の成績で選考した者を除き、成績上位者から選抜する。また、選抜した成績上位者が2人以上の場合は、4年臨床総合試験の成績順位の最上位者とする。

## (保健学科)

信州大学成績優秀学生の選考に関する医学部保健学科申合せ（抜粋）

## (選考人数)

第3 成績優秀学生の選考人数は、当分の間、次表のとおりとする。

専攻名 配分数(人)

看護学専攻 2人以内

検査技術科学専攻 1人以内

理学療法学専攻 1人以内

作業療法学専攻 1人以内

## (選考方法)

第4 成績優秀学生の選考は、各専攻の4年次生から選考することとし、次条に規定する方法により算出された成績評価係数及び人物評価に基づき、保健学科厚生委員会が候補者を選考し、保健学科会議の議を経て行うものとする。

## (成績評価係数)

第5 選考年度における当該学生の4月1日現在の1年次から3年次までの履修済授業科目の成績とし、次のとおり成績の評価係数を算出する。ただし、認定単位は含めないものとする

$$\frac{(\text{秀の単位数} \times 4) + (\text{優の単位数} \times 3) + (\text{良の単位数} \times 2) + (\text{可の単位数} \times 1)}{\text{総取得単位数}}$$

総取得単位数

(出典：医学部作成)

## ⑥学生への科目得点分布を含む成績の通知

医学科では、個々の学生の点数および全員の得点分布を配布し、学習結果の自己評価を可能にしている。(資料医118)

## 資料医118 試験結果の通知 (見本)

## 試験成績のお知らせ

【科目名】 4年生臨床医学 TBL

【学籍番号】 ××××

【氏名】 ○○○○

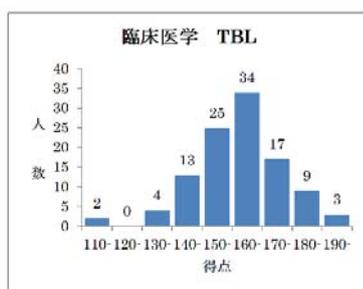
【得点】 146点

【順位】 91位

【平均点】 161.4点

120点以上を合格とする。

## 全受験者のヒストグラム



医学教育センター

多田 剛

(出典：医学部作成)

## ⑦退学勧告の導入

医学科では平成23年度から、同学年で2回留年した者に対し退学を勧告している。(資料医119)

## 資料医119 退学の勧告

(退学の勧告等)

第20条の2 学部長は、医学科の学生のうち学業成績の著しい不振が長期にわたり継続している者に対して、教授会の議を経て、文書により退学を勧告することができる。

2 前項に掲げる学業成績の著しい不振が長期にわたり継続している者とは、休学による場合を除き、2回にわたり医学科が定める各学年の進級要件を満たさなかったため、同学年に留まることとなった者をいう。

3 学部長は、第1項の勧告に従わなかった者が、さらに1回医学科が定める同学年の進級要件を満たさなかった場合、学則第63条第2号に定める除籍の理由に該当する者として、教授会の議を経て、学長に当該者の除籍を申し出ることができる。

(出典：医学部規程)

(水準)

期待される水準を上回る

(判断理由)

- 多職種連携の基礎として実施している「新入生ゼミナール」では、1グループの人数を減らし、学生のより積極的な参加を促した。(資料医76(82頁)) また、4年次にチーム医療の重要性と具体的な進め方を、模擬症例をもとに各専攻の専門性を生かして議論することで学習する「チーム医療演習」を平成26年度から開始した。(資料医77(83頁)) これらの授業に限らず、双方向性かつ学生中心の授業を積極的に取り入れている。(資料医115(129頁))
- 学生の能力を総合的に評価できるよう、両学科ともに自主的なOSCEを実施している。(資料医86(95頁), 101(113頁))
- 両学科ともに海外短期研修プログラムを実施している。(資料医108(123頁)～112(125頁))
- 平成25年度よりスキルズラボを設置し、両学科におけるシミュレーション教育体制を充実させた。(資料医116(132頁))
- 医学科臨床実習では大学病院と37の教育協力病院が協力して少人数単位での実習を実施している。これにより学生は自分の望む環境での実習が可能になるとともに、ロールモデルとなる医師と共同で医療の一部を担いつつ、実践を通して段階的に習熟することが容易になっている。(資料医83(90頁)) また、指導・評価を均てん化するため、繰り返しFDを行っている。(資料医62(57頁), 63(58頁))
- 保健学科では、臨床能力の向上を目的として、4専攻ともに臨地・臨床実習の内容の向上に取り組んでいる。(資料医105(119頁)～107(121頁))
- 学部生が大学院授業受講を可能とするe-Medや基礎研究を長期間実施できる授業を実現し、学生のリサーチマインドを育成する体制となった。(資料医89(97頁), 96(109頁)～98(109頁))
- 保健師コースを設置したことにより少人数で密度の濃い演習等が可能になった。(資料医100(111頁))
- 地域住民を対象とした健康講座に学生を参加させ、地域に根差した保健活動の在り方を能動的に学ばせる教育体制を構築した。(資料医104(117頁))

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

(1) 履修・卒業状況から判断される学習成果の状況

①進級・卒業・休学・退学等の状況

進級・卒業・休学・退学の状況を以下に示す。(資料医120,121)

**資料医 120** 標準修業年限内修了率及び「標準修業年限内×1.5」年内修了率  
(医学科)

	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
標準修業年限内	88.2%	87.5%	86.7%	89.0%	88.5%	92.0%	83.6%
標準修業年限内×1.5	100%	99.0%	98.0%	100%	97.9%	100%	99.1%

(保健学科)

	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
標準修業年限内	81.6%	79.2%	79.8%	84.6%	85.5%	87.3%	87.7%
標準修業年限内×1.5	93.0%	94.3%	90.8%	89.0%	97.5%	95.5%	96.9%

(出典：H25年度受審認証評価のデータをもとに経営企画課作成)

**資料医 121** 退学，休学率

	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
退学率	1.4%	0.8%	0.5%	0.6%	0.3%	0.4	0.1
休学率	0.7%	0.8%	0.5%	1.8%	1.8%	0.8%	1.7%

※退学率は，該当年度の在籍者で除した割合。

※休学率は該当年度5月1日現在の数を該当年度の在籍者数で除した割合。

(出典：H25年度受審認証評価のデータをもとに経営企画課作成)

(2) 国家試験等の合格状況

①医学科のCBT，OSCEの成績 (資料医122)

**資料医 122** CBT，OSCEの成績

①CBTの状況 ※平成24年度から判断基準を引き上げている。

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
受験者数	96	93	101	107	111	111	117
合格者数	96	93	99	105	106	104	111

(次頁に続く)

②問題携行別得点率およびコアカリ別得点率

平成26年CBT(本試)の結果(コアカリキュラム別)

正答率	問題数	コアカリ	内容	正答率	問題数	コアカリ	内容
55.0%	20	B-3-(3)	病因と病態-代謝障害	77.7%	663	D-2-(4)	腫瘍-診断
66.8%	564	B-1-(5)	個体の構成と機能-生体物質の代謝	78.1%	511	D-3	物理・化学的因子による疾患
67.6%	367	B-1-(4)	個体の構成と機能-個体の発生	78.2%	404	F-5	臨床研究と医療
67.8%	521	B-1-(3)	個体の構成と機能-個体の調節機構とホメオスタシス	78.6%	529	C-12	呼吸器系
70.0%	373	B-1-(2)	個体の構成と機能-組織・各臓器の構成、機能と位置関係	79.6%	201	D-6	人の死
70.2%	392	D-2-(5)	腫瘍-治療	79.6%	888	D-1	感染症
70.2%	94	B-2-(3)	個体の反応-生体と放射線・電磁波・超音波	79.7%	212	D-2-(1)	※腫瘍-病理・病態
70.7%	174	F-1	疫学と予防医学	79.9%	523	C-6	耳鼻・咽喉・口腔系
71.4%	381	B-2-(4)	個体の反応-生体と薬物	80.0%	451	C-4	内分泌・栄養・代謝系
72.6%	515	B-1-(1)	個体の構成と機能-細胞の基本構造と機能	80.2%	525	C-3	
72.7%	183	B-3-(5)	病因と病態-炎症と創傷治癒	80.2%	480	C-8	神経系
72.7%	33	F-6	診療情報	80.2%	1255	C-2	妊娠と分娩
73.8%	324	B-1-(6)	個体の構成と機能-遺伝と遺伝子	80.3%	442	C-13	消化器系
73.9%	479	B-2-(1)	個体の反応-生体と微生物	80.7%	618	F-3	保健、医療、福祉と介護の制度
74.9%	343	C-9	皮膚系	81.2%	437	C-1	血液・造血器・リンパ系
75.0%	120	C-11	循環器系	81.4%	377	D-4	成長と発達
75.2%	258	C-10	運動器(筋骨格)系	83.3%	48	F-7	臨床研究と医療
75.2%	315	B-2-(2)	個体の反応-免疫と生体防御	83.4%	277	D-5	加齢と老化
75.7%	111	B-3-(2)	病因と病態-細胞傷害・変性と細胞死	84.5%	277	F-2	生活習慣と疾病
75.9%	170	D-7	死と法	84.7%	261	A-2	医療における安全性確保
76.0%	225	D-2-(3)	腫瘍-症候	84.7%	222	F-4	診療情報
76.1%	1059	C-5	眼・視覚系	85.0%	240	D-8	基本的診療知識
76.2%	1435	E-2	社会・環境と健康	85.1%	368	A-1	医の原則
76.2%	341	E-3	地域医療	85.2%	142	B-3-(1)	病因と病態-遺伝子異常と疾患・発生発達異常
76.3%	579	C-15	生殖機能	85.3%	197	A-3	コミュニケーションとチーム医療
76.5%	51	B-3-(4)	病因と病態-循環障害	90.3%	62	A-4	課題探究・解決能力
77.4%	545	C-7	精神系		0	D-2-(6)	免疫・アレルギー疾患
77.5%	284	D-2-(2)	腫瘍-発生病因・疫学・予防		0	E-1	基本的診療技能
77.6%	446	C-14	腎・尿路系(体液・電解質バランスを含む)				

平成26年CBT(本試)の結果

出題ブロック別正答状況									
	1	2	3	4	小計	5	6	小計	合計
	五肢択一	五肢択一	五肢択一	五肢択一		多肢択一	連続問題		
正答数	3927	4180	4152	4208	16467	2583	2146	4729	21196
出題数	5328	5328	5328	5328	21312	3108	3108	6216	27528
正答率	73.7%	78.5%	77.9%	79.0%	77.3%	83.1%	69.0%	76.1%	77.0%

問題タイプ別正答状況				
	五肢択一	多肢択一	連続問題	合計
正答数	16467	2583	2146	21196
出題数	21312	3108	3108	27528
正答率	77.3%	83.1%	69.0%	77.0%

コアカリ別正答状況							
	基本事項	医学・医療と社会	医学一般	人体各器官の正常構造と機能、病態、診断、治療	全身におよぶ生理的变化、病態、診断、治療	診療の基本	合計
正答数	758	3169	6275	3487	1354	1424	16467
出題数	888	4440	7992	4440	1776	1776	21312
正答率	85.4%	71.4%	78.5%	78.5%	76.2%	80.2%	77.3%

※得点率は授業内容の見直しに利用している。

③OSCEの状況

OSCE

H25年度までは4年次末、H26年度以降は4年次前期末に実施

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
受験者数	99	93	100	106	115	111	114
合格者数	99	93	100	106	115	111	114

(次頁に続く)

MidtermOSCE

5年次前期末に実施

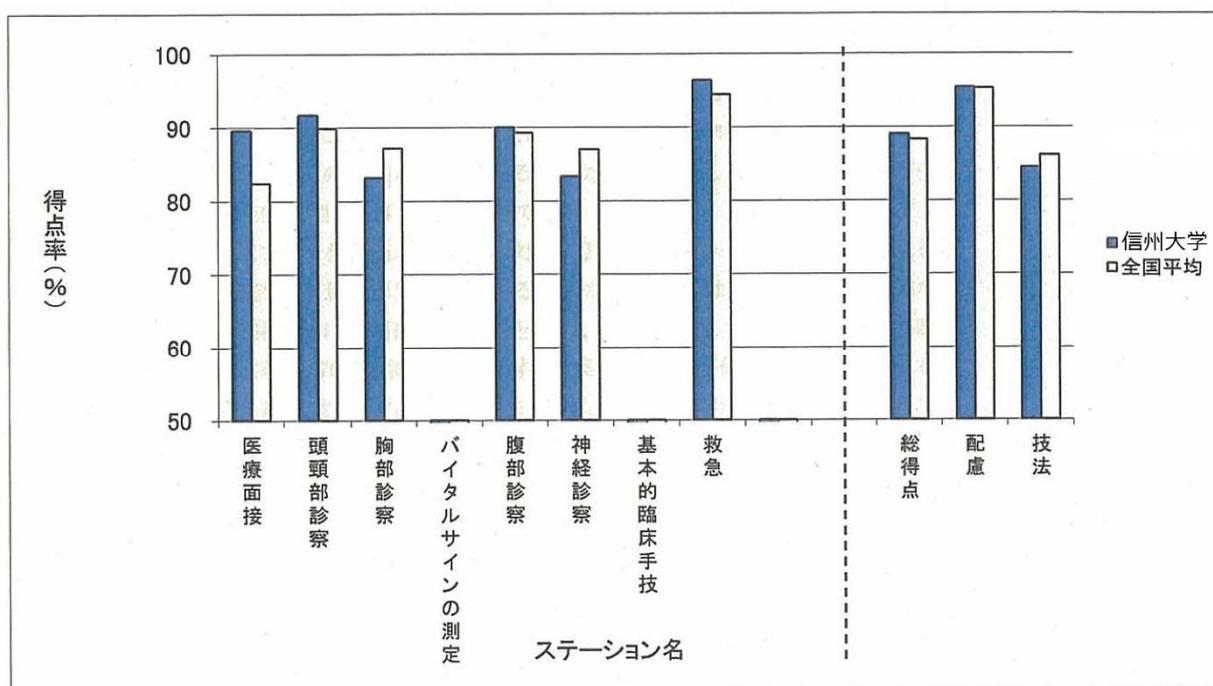
年度	H27
受験者数	102
合格者数	102

AdvancedOSCE

6年次前期末に実施

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
受験者数		99	100	92	98	107	118
合格者数		99	100	92	98	107	118

2015年度共用試験医学系OSCEの成績

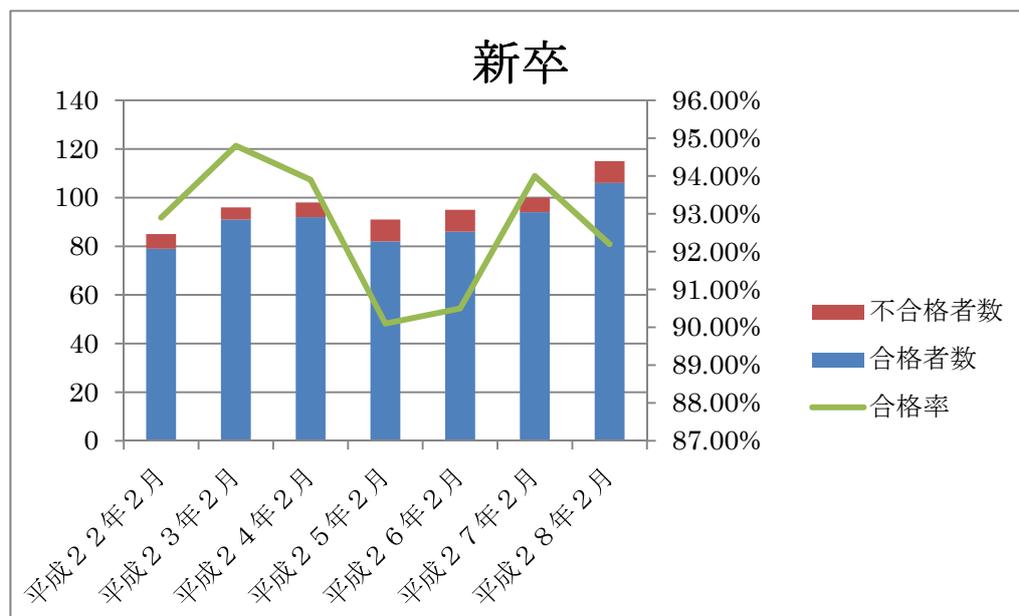
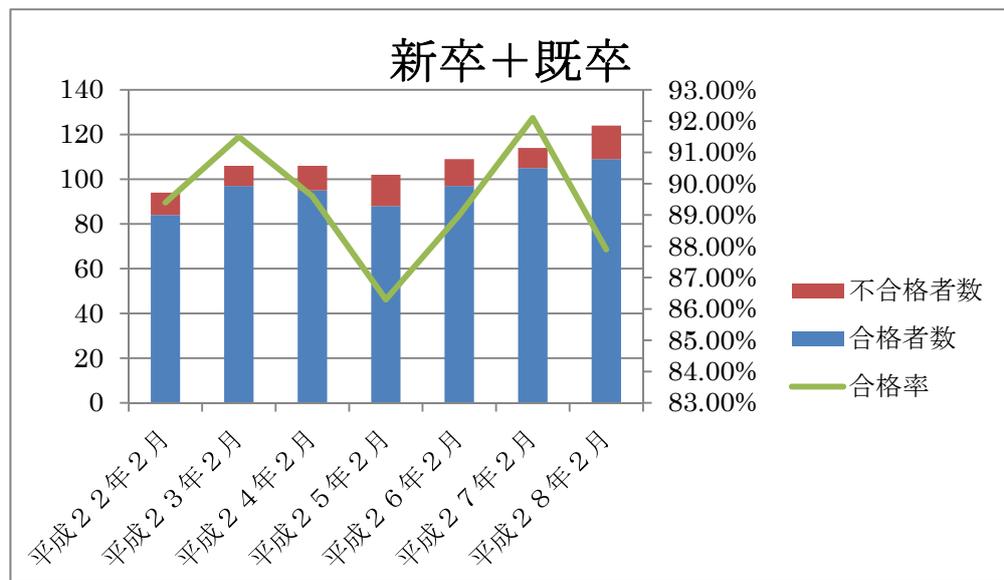


(出典：医学部作成)

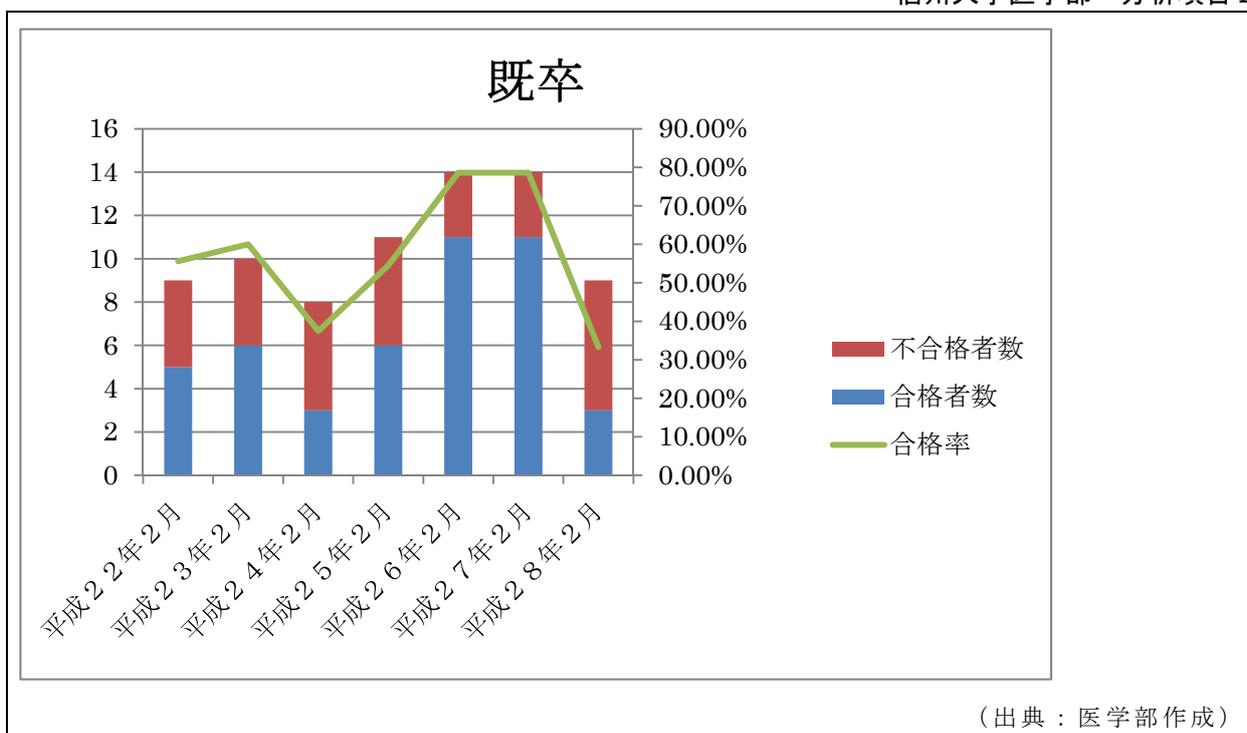
②医師国家試験合格率

(資料医123)

資料医123 医師国家試験合格率の推移



(次頁に続く)



③看護師，臨床検査技師，理学療法士，作業療法士，助産師，保健師の国家試験合格率（資料医124）

資料医124 看護師，臨床検査技師，理学療法士，作業療法士，助産師，保健師国家試験合格率

年度別国家試験合格状況 【信州大学医学部保健学科】

専攻	卒業年度 国家試験種別	平成21年度 (平成22年3月卒業)		平成22年度 (平成23年3月卒業)		平成23年度 (平成24年3月卒業)		平成24年度 (平成25年3月卒業)		平成25年度 (平成26年3月卒業)		平成26年度 (平成27年3月卒業)		平成27年度 (平成28年3月卒業)	
		志願者数	合格者数												
看護学専攻	看護師	志願者数	63	志願者数	68	志願者数	64	志願者数	75	志願者数	70	志願者数	71	志願者数	70
		受験者数	63	受験者数	68	受験者数	64	受験者数	75	受験者数	70	受験者数	71	受験者数	70
		合格者数	63	合格者数	68	合格者数	63	合格者数	72	合格者数	68	合格者数	69	合格者数	69
		合格率	100.0%	合格率	100.0%	合格率	98.4%	合格率	96.0%	合格率	97.1%	合格率	97.2%	合格率	98.6%
	全国平均合格率	89.9%		91.8%		90.1%		88.8%		89.6%		90.0%		89.4%	
	保健師	志願者数	71	志願者数	78	志願者数	71	志願者数	81	志願者数	81	志願者数	82	志願者数	24
受験者数		71	受験者数	78	受験者数	71	受験者数	80	受験者数	81	受験者数	82	受験者数	24	
合格者数		71	合格者数	77	合格者数	69	合格者数	80	合格者数	75	合格者数	82	合格者数	24	
合格率		100.0%	合格率	98.7%	合格率	97.2%	合格率	100.0%	合格率	92.6%	合格率	100.0%	合格率	100.0%	
全国平均合格率	86.6%		86.3%		86.0%		96.0%		86.5%		88.4%		89.8%		
助産師	志願者数	21	志願者数	18	志願者数	19	志願者数	19	志願者数	19	志願者数	20	志願者数	19	
	受験者数	21	受験者数	18	受験者数	19	受験者数	19	受験者数	19	受験者数	20	受験者数	19	
	合格者数	20	合格者数	18	合格者数	19	合格者数	19	合格者数	19	合格者数	20	合格者数	19	
	合格率	95.2%	合格率	100.0%											
全国平均合格率	83.1%		98.2%		95.0%		98.1%		96.9%		99.9%		99.9%		
科検査技専攻	臨床検査技師	志願者数	40	志願者数	32	志願者数	33	志願者数	35	志願者数	30	志願者数	37	志願者数	41
		受験者数	40	受験者数	32	受験者数	33	受験者数	35	受験者数	39	受験者数	37	受験者数	41
		合格者数	36	合格者数	32	合格者数	33	合格者数	35	合格者数	38	合格者数	37	合格者数	41
		合格率	90.0%	合格率	100.0%	合格率	100.0%	合格率	100.0%	合格率	97.4%	合格率	100.0%	合格率	100.0%
全国平均合格率	67.0%		67.0%		75.4%		77.2%		81.2%		82.1%		87.4%		
理学療法専攻	理学療法士	志願者数	21	志願者数	15	志願者数	18	志願者数	21	志願者数	16	志願者数	21	志願者数	17
		受験者数	21	受験者数	15	受験者数	18	受験者数	21	受験者数	16	受験者数	21	受験者数	17
		合格者数	19	合格者数	15	合格者数	18	合格者数	21	合格者数	16	合格者数	21	合格者数	17
		合格率	90.5%	合格率	100.0%										
全国平均合格率	92.6%		74.3%		82.4%		88.6%		83.7%		82.7%		74.1%		
作業療法専攻	作業療法士	志願者数	17	志願者数	17	志願者数	19	志願者数	17	志願者数	21	志願者数	20	志願者数	17
		受験者数	17	受験者数	17	受験者数	19	受験者数	17	受験者数	21	受験者数	20	受験者数	17
		合格者数	17	合格者数	17	合格者数	18	合格者数	17	合格者数	21	合格者数	20	合格者数	17
		合格率	100.0%	合格率	100.0%	合格率	94.7%	合格率	100.0%	合格率	100.0%	合格率	100.0%	合格率	100.0%
全国平均合格率	82.2%		71.0%		79.7%		77.3%		86.6%		77.5%		87.6%		
合計	志願者数	233	志願者数	228	志願者数	224	志願者数	248	志願者数	246	志願者数	251	志願者数	188	
	受験者数	233	受験者数	228	受験者数	224	受験者数	247	受験者数	246	受験者数	251	受験者数	188	
	合格者数	226	合格者数	227	合格者数	220	合格者数	244	合格者数	237	合格者数	249	合格者数	187	
	合格率	97.0%	合格率	99.6%	合格率	98.2%	合格率	98.8%	合格率	96.3%	合格率	99.2%	合格率	99.5%	

(出典：医学部作成)

## (3) 学業の成果の達成度や満足度に関する学生アンケート等の調査結果

## ① 医学科

## ①-1 卒業時の学生アンケート調査（平成27年度）

結果を医学教育研修センター医学教育会議及び教授会に報告し，教育活動全般についての検証に利用。（資料医125）

資料医125 学生アンケート調査  
平成27年度（抜粋）

## H27 医学教育についてのアンケート 6年

### Q1. 講義は満足の中のものでしたか。

	回答数	%
a. 満足	22	19%
b. おおむね満足	74	65%
c. やや不満足	14	12%
d. 不満足	4	4%
	114	100%

- ・ 循内のように教科書をつくるべきだと思う。
- ・ スライドが見にくかった。スクリーンの文字を大きくするか、プロジェクターの質を上げてほしい。
- ・ ユニット講義，系統講義に関しては，国試を意識した内容も取り入れ始めていて良かったが，研究内容に絞った講義は意義を感じなかった。また，基礎系の科目に関しては特に顕著だった。
- ・ 卒試直前の授業は良かった。
- ・ もう少し卒試に沿った内容が良かったな，とおもった科がいくつかあった。
- ・ 教科書的な内容から先進的な内容まで(国試以上の内容まで)学ぶことができた。できれば，先ず国試までの内容を一通り科目勉強して試験をし，その後，さらに上積みの勉強をするように2段階に講義を分けてほしい。
- ・ 授業スライドがよくまとまっているものもあった。
- ・ この時期に網羅的に知識を深め，すぐ試験でアウトプットできたので，非常に効率よく勉強できたと思う。
- ・ 卒試前にただ過去の国家試験の解説をするだけの授業は止めていただきたい。
- ・ レジュメのどこを覚えていいのかわからない。
- ・ 内容が充実している科としていない科に差があった。
- ・ プリント(スライド)は医局側で準備して下さい。
- ・ 先生にもよりますが，講義資料の印刷が金額的に負担になる，アップロードが授業直前のところもあり不便，という点から，なるべく資料は配布してほしいと思いました。
- ・ 何がわかるかわからなかったので，自己学習はできつつも，一回中間テストをしてその結果で面談をするようにすればいいと思います。落ちるときは落ちるけど，自分のやり方がしっかりできる環境がいいです。
- ・ もう少しポイントを絞ってほしかった。
- ・ 概ね国試か卒試に有用でしたが，系統だった講義になるように周知してもらいたいです。

## Q2. 選択臨床実習は満足のゆくのものでしたか。

	回答数	%
a. 満足	34	30%
b. おおむね満足	74	65%
c. やや不満足	5	4%
d. 不満足	1	1%
	114	100%

- ・ 私達の実習，内容，期間ともに，だいたい満足であったが，1つ下の学年のようにむやみに実習期間を増やしても意味がないと思う。
- ・ 希望する実習先に行けないこともあった。
- ・ 行きたい科に行くことができて良かった。
- ・ 指導医の教える気，やる気が異なるために，質問しても響かない先生がいる。
- ・ 学外は交通費がいる。学内で全員実習できるようにすべき。
- ・ ただ見学しても身に入らない。やれることを与えてほしくはあります。あと，質問に対してなにが問題か考えさせてください。目的を持たない学生は時間の無駄づかいして，勉強時間が無くなります。
- ・ もっといろいろと手技や診察などをやらせてもらいたい。

## Q3. 臨床実習終了後 OSCE は満足のゆくものでしたか。

	回答数	%
a. 満足	25	22%
b. おおむね満足	65	57%
c. やや不満足	20	18%
d. 不満足	4	4%
	114	100%

- ・ もっと増やしてほしい。
- ・ どのような備品があるのか具体的に提示してほしい。試験中は緊張しているので，目の前にある舌圧子すら気づきませんでした。臨床に出る前の最終チェックとしてよかった。
- ・ 評価点がわからず，練習が無く，また，当日やり忘れてしまうことが多かった。
- ・ 具体的な例，採点項目等を説明していただきかたかった。
- ・ 落ちるべき人が落ちていない。実習で現場の先生方に不満を言われている人がいた。
- ・ 実習の前準備の機会としてよかった。
- ・ 1回でも講義が有ればよかった。
- ・ 将来良い医師になるためにどこが悪かったのかを指摘してほしかったです。
- ・ 本番で道具の置いてある位置くらいは事前情報としてほしかったです。
- ・ 試験がどのようなものか詳しく説明してほしかった。
- ・ 簡単すぎる。
- ・ 4年次のOSCEと比較して試験情報が圧倒的に少なかった。アドクリ期間中，学生が大学に集まる機会が少なかったので，説明する時間があまりなく，仕方なかったのかもしれないが。
- ・ 時期として，卒試が全て終わった後の方が知識が整理されてより勉強するのではないかと，思った。
- ・ 採点基準の例を見せてほしかった。

**Q4.外病院の実習で感じたこと、ご意見はありますか。**

- ・ 個別指導していただけるのでとても有意義だった。各病院の負担は大きいと思うが、ポリクリの時から回れるといいと思った。
- ・ 交通費の補助か、平等になるような仕組みがあると良い。
- ・ 外病院は大学病院よりも忙しいと感じた。
- ・ 同じ科の実習で行っても、学生でやれることに差があるのは問題。ただ、概ね実習内容は満足している。
- ・ 実践的なことができた。チームとしての関わりができた。
- ・ 場所が遠すぎるところは適切ではない。
- ・ 車がないと行きづらい病院は大変だった。
- ・ 外病院は多くの手技が経験できてよかった。
- ・ 雪の時期に行かせるのは危険だと思う。
- ・ 大学病院と違った雰囲気刺激になった。
- ・ 先生方が丁寧で良かった。
- ・ 研修医、医学生向けの勉強会が頻繁に行われている病院があり、それが研修医、医学生の立場に落とし込んだ内容でもあったので、非常に面白く、モチベーションが上がった。
- ・ 指導医の先生方には丁寧に教えていただき、勉強になった。先生と食事をする機会も多く、よくしていただいた。
- ・ 真冬の運転は事故の危険性も高いので往復は負担となる。
- ・ とても充実していた。
- ・ 大学と違う雰囲気でおもしろかった。
- ・ 大学の实習より良かった。
- ・ 良くしていただいて大変感謝している。

**Q5.勉強する意欲を感じる時はどんな時ですか。(複数回答)**

	回答数	%
a. 試験合格に必要と感じたとき	98	36%
b. 科目・領域に興味を持った時	65	24%
c. 担当教員の人柄に共鳴した時	31	11%
d. 興味深い症例の時	24	9%
e. 理解できない症例・病態に出会った時	21	8%
f. 同級生の理解度が明らかに自分より進んでいる時	34	12%
g. その他	3	1%
	276	100%

「g.その他」の記載。

- ・ ドラマとかを観たとき。

## Q6.ベストティーチャー賞を与えるとすればどなたを選びますか。

氏名	教室名	票数	理由
花岡先生	内科学第一	6	アドクリ時に大変お世話になった。学生教育にとっても熱心な先生だと思った。 教授になられてからも熱心に学生の指導をして下さる。 丁寧で優しくかった。憧れる。 ポリクリで丁寧に教えていただいた。 臨床実習の指導が熱心。
角谷先生	画像医学	5	好きだから。 学生一人一人の名前を覚えてくれる。 講義がわかりやすかった。
多田先生	医学教育学	5	教育の中心となって指導して下さいました。 医学教育でお世話になった。 6年間お世話になりました。 しょうもない学生も見放さず育てようとしてくださる寛大さ。
小池先生	小児医学	4	質問をいっぱいしていただいて、勉強になった。 他の先生と違う熱意を感じたから。 熱心に指導して下さいました。 授業がわかり易い。熱意が伝わってきて、やる気が起きた。
加藤先生	運動機能学	4	実習で大変お世話になった。 直前授業が良かった。(同意見有) 卒試前授業が神憑っていた。
駒津先生	第四内科	3	わかり易い授業と説明。患者の気持ちに沿った言葉遣い。 疫学、病態生理、症状、さらには大規模臨床研究の結果の解釈まで、非常にわかり易く聴きやすいスピードで話して下さいました。そればかりでなく、職場目線に立ったDM患者教育の大切さなどのお話も交え、心躍るレクチャーでした。
池田先生	内科学第五	3	試験の難易度が適切。 回診やレクチャーがわかりやすかった。
村田先生	眼科学	3	試験は難しかったが、授業は大切なことを覚えることができた。 内容がわかりやすく、学生に当てたりして勉強になった。
上田先生	画像医学	3	画像の読み方を理論的に学習できた。 自分の頭で考える授業だった。
鷲塚先生	精神学	2	わかり易い授業と説明。患者の気持ちに沿った言葉遣い。 学生の自主性を大切にして下さいました。
川眞田先生	麻酔蘇生学	2	医学の基礎知識に加え、医療の将来像まで考えさせられる講義だった。
横田先生	第四内科	1	実習でお世話になった。
杠先生	形成再建外科学	1	アドクリで大変お世話になった。
上條先生	(教室無記入)	1	1回の授業で理解度を確認しながら進めてくれるので良かった。

佐々木先生	組織発生学	1	アドクリで組織発生学を選んだとき、自主性を重んじてもらえた。必要な解剖学的知識を親切に教えていただき、勉強になった。
漆畑先生	内科学第一	1	おもしろくて、確実な先生だから。
田中榮司先生	内科学第二	1	熱意のあるご指導。
塩沢先生	産科婦人科学	1	
細田先生	第一外科	1	すごく丁寧に面倒を見てくれて、糸結びもすごく教えてくださった。
高橋先生	画像医学	1	お世話になりました。
宮川先生	第一外科	1	かっこよかった。
杉山先生	麻酔蘇生学	1	生理学から丁寧に指導いただくことができた。麻酔科に興味を持つことができた。
上田和彦先生	画像医学	1	
黒川先生	医学教育	1	よく話かけてくださる。
竹下先生	免疫・微生物学	1	
奥山先生	皮膚科学	1	話がとてもおもしろかった。

**Q7.信州大学をよりよくする上で、どのようにすればよいか提言はありますか。**

- ・ 1年生で英語の教科書を読むのに、その後、一切英語の本を読む機会が無いのはもったいない。
- ・ 成績の悪い学生は強制的に親に連絡するようにすればモチベーションが保たれるかもしれない。親のため、と思えば、頑張れるものだと実感している。
- ・ 基礎(研究)で何をしているのかもっと触れる機会を、講義などにも盛り込むと良いと思う。
- ・ 6年生の試験が移行期にあると思うので、学生の意見を反映しつつ、前年度とどのように変わったのかを周知する必要があると思う。進級に関わるような大学の決定は、学生が理不尽に感じないように十分に理にかなった説明をしてほしいと思う。
- ・ レジュメのどこを覚えていいかわからない。印かなにかつけてほしい。レジュメの最後にその分野の問題、Q&Aをつけるのも良いかもしれない。基礎医学でもネット講座を推奨してはどうか。
- ・ 全ての科目で試験に関する問題と解答を提示するべき。学生が不十分な理解をして、間違った知識を得ている。
- ・ フォーマット化できるものは全てすべき。例えば、ソフトバンクではプレゼンのパワーポイントのフォーマットが存在し、強調すべき点や流れが決まっており、時間短縮や効率化に力を発揮している。なので、臨床実習のプレゼン、レポートなどのフォーマットを作成すると思う。
- ・ 卒試には卒試の勉強を必要とし、必然的に国試への対策の移行が遅れる。卒試の期間を縮めたり、国試対策の時間として時間をとったりしてはいかがか。
- ・ 追試験がないのは厳しいです。
- ・ 低学年における基礎科目の負担を減らす。記述試験はじめ、国家試験、一般的業務の医師の範囲を逸脱した負荷と進級問題があり、モチベーションが削がれます。
- ・ 国試とかけ離れた難易度、内容の卒試を行う科は直した方がいいと思う。

- ・ テストをもっと国試に沿ったものにすべき。テスト期間よりも実習期間を伸ばした方が良い。
- ・ 模試を進級判定の要素に取り入れたりすれば、国試の合格率が上がる。
- ・ グループで使える自習室があっても良いと思う。卒試前講義は良かった。大学で模試をやってくれるのも勉強の良い機会となった。各試験の合否判定がやや甘い。もう少し厳しくしてもいい。部活動をもっと多彩に。学内の中心に駐車場があり、路上駐車があるのもおかし
- い。
- ・ 試験問題を回収するのは良いが、せめて医局から模範解答を示してほしい。理解している問題は合うかもしれないが、間違いはそのままになり意味がない。間違いを指摘されるとそこから自己学習が可能になると思う。
- ・ 実習の時間を17時までとしてほしい。卒試の期間をもっと短く。他大学は1ヶ月が多いと聞く。国試の勉強にはQBやTECOMが必要。しかし卒試はQBやTECOMでは解けない。このギャップを何とかしてほしい。
- ・ テストの公式解答の見直しは、より理解を深めるために必要だと思う。
- ・ 6年生の自習室をもっときれいにしてください。
- ・ 統計の授業を受けられるようにしてほしい。
- ・ 病態生理などを結局、国試の勉強にて初めて知ることが多かった。教育の一体感を作れると良い気がする。
- ・ もっと、他大学が勉強を頑張っている様子を教えるべきだと思う。
- ・ 部活動を頑張っている人をもう少し認めてほしい。
- ・ もっと自由な教育を。
- ・ とても良い大学生活を送ることができたが、メリハリをつけたカリキュラムを望みます。
- ・ 進級はそんなに厳しくしないでいいと思います。
- ・ 長期のテストは賛成。理由は1科目ごとにじっくりと復習できるから。
- ・ 臨床の授業はもっと学生を当てるとすると退屈にもならないし、思考力も身につくのではないかと思う。
- ・ 5年次進級に、国試108回を一通り勉強できたのは良かった。国試にもっと早くから取り組める機会があるといいかもしれない。
- ・ 語学系の授業、専門の授業が不足しているような気がする。
- ・ 結局勉強もすごくしなきゃだけど、それと同時に学生時代を思い返して残るのは勉強以外で頑張ったこと。これがなかったら、自分は医師の時も頑張れないと思う。自分の場合は部活ですが、勉強と頑張れる何かを得られるカリキュラムにしてください。

以上

(出典：医学部作成)

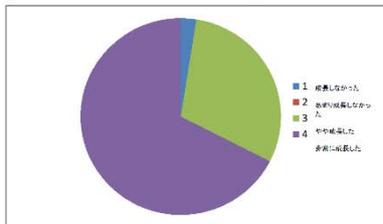
①-2 父母会開催時に実施した保護者アンケート調査  
(資料医126)

資料医126 保護者アンケート調査

平成26年度の6年次生保護者に対するアンケート調査結果を示す。

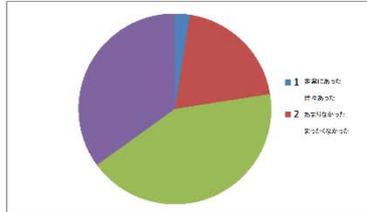
卒業予定者の父母に対するアンケート調査

○あなたのお子さんは人間的に成長したと思いますか。



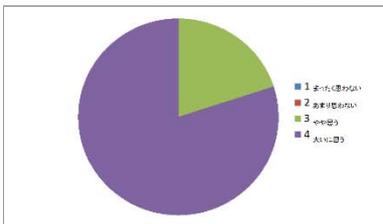
(ご意見)  
 ・とても成長させて頂きました。  
 ・読書量が増えました。  
 ・たくましくなりました。  
 ・進捗率という経験したようです。  
 ・友人関係を大切にできた。職責を離れ自己責任でなんでもできたと思います。  
 ・1人で生活する能力が身に付いたと思います。  
 ・沢山の先生方、仲間を支えられ大きく成長できたと思います。

○信州大学在学中に、お子さんの人間関係で心配することはありましたか。



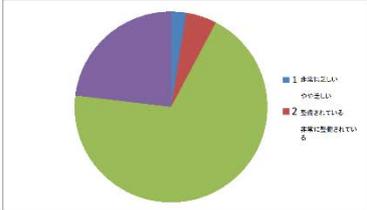
(ご意見)  
 ・(人間関係)とても良かったです。これからの宝物になるでしょう。  
 ・少ない人数の中で孤立感を良く味わったようです。  
 ・1年の時から友達が出来て良かった。  
 ・とても楽しい1年間だったと喜んでおります。  
 ・クラブでの上下関係  
 ・父母会があったおかげで親も改めて大学の進かきを感じさせていただけました。これからは長年の、日本の医療にお役にたてる様に成長していかれることを祈っております。大変ありがとうございました。  
 ・ほとんどの人がクラブに。今へのモチベーションが高かった。でも変わらず、悩んでいる様子もなかったことは良かったのでは。

○あなたのお子さんの成長に、信州大学は良い影響を与えたと思いますか。



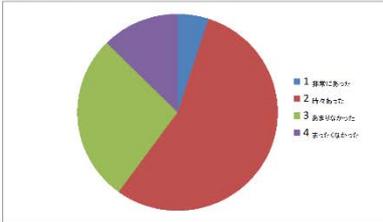
(ご意見)  
 ・一人暮らし、友人関係  
 ・良い点悪い点を含め、人生の勉強になったと思います。  
 ・自然がいっぱいで良かったです。  
 ・お友達、先生、自然環境。  
 ・信大はとてもあったかいです！

○信州大学の設備面に対する印象はいかがですか。



(ご意見)  
 ・よくわかりません。(2件)  
 ・よくわかりませんが、病院が新しくなり整備されていると思います。  
 ・入学後、楽しくなりラッキーでした。  
 ・図書館が貧弱。  
 ・24時間開館の図書館が有難かったです。

○信州大学在学中に、お子さんの生活面で心配することはありましたか。



(ご意見)  
 ・1年生の時に心配していた。  
 ・いきなりの1人暮らしは親として非常に心配でした。  
 ・1人で生活しているので、食事面が心配でした。  
 ・2年の時に1度  
 ・新型コロナウイルスが流行ったとき、タミフルの服用、1人で表でなければならぬ等心配でした。  
 ・ほとんど話をしないので色々あったのかも知れませんが、問題を起こすこともなく過ごせたように思います。  
 ・健康面

○その他、ご意見がございましたらご記入ください

- ・6年間ありがとうございました。信州大学で学ばせていただき、とても感謝しています。
- ・6年間大変お世話になりました。(2件)
- ・戦事に国難が受かりました。お世話になりました。今後ともよろしくお願ひします。松本城や美術館や色々観光地をまわり楽しく観るもることに帰って来た気分になりました。ありがとうございました。
- ・自立して、卒業した学生生活を送ることができました。有難うございました。
- ・ありがとうございました。
- ・信大の6年間は親としても大変感謝です。
- ・地方大学の良い面をたくさん持っている大学だと思っています。
- ・大変お世話になりました。息子は信州と他のマッピングで悩まされた。良い所です。よく立ち寄りた所良かったです。
- ・父母会があったことで大変助かりました。皆様と楽しくでき、良かったです。今後ともよろしくお願ひ致します。
- ・父母会という学費増しの命をありがとうございました。信州に来る機会を助けて下さり、皆様のお話を聞いてとても勉強になりました。
- ・大変お世話になりました。
- ・素晴らしい場所であり、地域医療が充実している信州大学で学べたことは本当に良かったと思っています。又、父母会のある大学は他にはあまり聞いたことがなく、入学当初より見学させて頂き、内容が分かりやすく感謝しています。ありがとうございました。
- ・楽しい16年間を過ごした大学生活でした。良い思い出が沢山あります。良い大学です。大学らしい大学であると思います。
- ・先生方の国際社会標準向上、病院の個性化への取り組みは素晴らしいと思います。これからもよろしくお願ひ致します。
- ・父母会で大学の先生から直接説明を聞くという貴重な機会が良かったと感じました。この上なくご多忙中、時間を割いていただき本当に有難うございました。
- ・大変お世話になりました。私にも子供にも感謝の気持ちです。ありがとうございました。
- ・バテバテの警戒などすめられ、大変感謝したいと思います。
- ・いろいろな観方を観ておりましたが、信州大学として自然に育てられ、成長する姿は嬉しいです。感謝の気持ちでいっぱいです。
- ・6年間ありがとうございました。のびのび過ごせた様ですが、親としてはもう少し国試対策を充実させて欲しいです。
- ・保護者会が1年の集まりでした。これで皆様とお会いできなくなるのが残念です。

(出典：医学部作成)

①-3 模擬患者ボランティアの学生評価

ここ数年，学生のコミュニケーション能力や態度の点で顕著な向上がみられる。（資料医127, 128）

資料医127 ボランティア（SP）からの学生評価

医療面接 模擬患者用

A.患者さんへの配慮	H25 106名	H26 111名	H27 114名
1 マナーや態度は、適切でしたか？			
はい	88	103	107
その中間	18	8	7
いいえ	0	0	0
2 服装や頭髪は清潔感がありましたか？			
はい	96	102	104
その中間	9	9	10
いいえ	1	0	0
3 話をよく聴いてもらったと思いますか？			
はい	58	57	85
その中間	42	52	29
いいえ	6	2	0
4 あなたの話は正確に理解されたと思いますか？			
はい	63	66	81
その中間	42	42	32
いいえ	1	3	1
5 わかりやすい言葉づかいでしたか？			
はい	85	101	104
その中間	21	10	10
いいえ	0	0	0
概略評価			
6	5	15	15
5	61	53	84
4	34	35	14
3	6	2	1
2	0	0	0
1	0	0	0

（出典：医学部作成）

資料医128 ボランティアのアンケート調査（主な意見）

**SP 研究会(OSCE 反省会)**

日時：平成 26 年 9 月 29 日（月）15:00～16:00  
 場所：附属病院外来棟 5F ソレイユ  
 出席：信州 SP 研究会 17 名  
 医学教育センター(多田・森・黒川・清水)

**SP 会員からの意見**

- ・ 先生方の指導が生かされていたと思う。
- ・ 学生が良く勉強して臨んだと感じた。
- ・ 「1日の生活時間を教えてください」と質問され、回答に困った。
- ・ 「運動はしていますか?」、「きっかけは何だと思えますか?」の質問がなく残念だった。
- ・ 「5W1H」に関する質問が少なく、残念だった。
- ・ 男子学生はテンポも速く聞き取りやすかった、女子学生は質問が例年より多い、と感じた。
- ・ シナリオ通りの学生はもちろん素晴らしいが、シナリオに関係ないことでも、親身になっていろいろな角度から質問する学生がいて、将来が楽しみだ。こういう学生を評価する方法がなく残念に思う。
- ・ Advanced OSCE の時は、1人で続け何人もの学生を相手にするが、OSCE は休憩時間もあり、余裕をもってできる。
- ・ SP 会員個人個人のレベルを一定に保つことと、SP 自身の自己学習も大事だと感じた。

**来年度の検討点**

- ・ SP 控室と学生控室が隣であったため、SP 同士の打ち合わせがしづらかった。控室は離してほしい。
- ・ カメラを用意して、控室でモニタリングできるようにすれば、SP1名分のスペースが減らせるのではないか。
- ・ 模擬の時に同じメンバーの組み合わせが続くと馴れ合いになってしまう。違うメンバーの組み合わせとなるようにした方がよい。
- ・ 来年以降は、Advanced OSCE が7月で、OSCE が9月となる。7月が終わり次第、すぐに9月の練習ができるように準備したい。

以上

(出典：医学部作成)

②保健学科

②-1 卒業時点での教育内容・教育環境に関する満足度調査

全専攻卒業時に調査（資料医129）を行い、教育内容の改善に活かしている。看護学専攻においては、同時に看護実践能力の到達度調査（資料医130,131）を実施。

資料医129 学生による卒業時満足度調査

	看護学専攻	検査技術科学専攻	理学療法学専攻	作業療法学専攻	合計
配付数	82	37	23	20	162
回収数	80	34	21	20	155
回収率	97.6%	91.9%	91.3%	100.0%	95.7%

対象:医学部保健学科4年生

実施時期:平成27年3月

①それぞれの専攻における専門教育の授業は、総合的にみて、満足のいくものでしたか	5.満足	4.概ね満足	3.どちらともいえない	2.やや不満足	1.不満足	計
看護学専攻	18 22.78%	54 68.35%	7 8.86%	0 0.00%	0 0.00%	79 100.00%
検査技術科学専攻	15 44.12%	16 47.06%	3 8.82%	0 0.00%	0 0.00%	34 100.00%
理学療法学専攻	11 52.38%	9 42.86%	1 4.76%	0 0.00%	0 0.00%	21 100.00%
作業療法学専攻	6 30.00%	14 70.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	20 100.00%

無回答1

※2.1の方は、その理由を、次に具体的に記入してください

- ・学びを深めることができた
- ・実習の際、役立った (4.5の感想)

②4年間の教育を振り返って、提言がありましたら自由に記入してください

- ・1.2年で詰め込みすぎ
- ・授業の教え方にバラつきがあった
- ・当日の朝に「本日5限があります」とメールで急に連絡されたり、試験の1時間前に講義室の変更があったりしたので、できるだけ早く連絡してほしい
- ・もっと有意義なテスト勉強をしたかった。忙しすぎた
- ・実習がすごく実習していて座学では得られないものを得ることができた
- ・忙しかった！！
- ・専門的な領域について、楽しく学ぶことができたと思う
- ・実習終了から研究までの期間が短すぎるように感じた
- ・新入生ゼミ、4年次の医学科合同ゼミは失敗だったのではないかと思います
- ・実習中に車が使用できないと非常に不便でした
- ・ディスカッションの時間ももっとあってもいいと思いました
- ・実習と就活がかぶり、少し忙しい時があった。そのあたりのカリキュラムを考えていただけるとありがたいです。
- ・実技練習の機会が増えると良いと思われる
- ・研究スペースや器械がもう少しあると良い
- ・実習中における車の使用は医学科では認められている以上、保健学科でも許可しても良いのではないかと考えます
- ・実習が長くつらかった
- ・“大学レベルの授業”ということで論理的な授業が多かったと思うが、もっと実践的な授業をしてほしかった
- ・座学だけでなく、実習科目を通して学ぶことがとても多かったです。解剖実習は養成校でもやっていない学校も多いのでできてよかった
- ・1.2年の間は臨床の場に触れる経験が少なく、リアリティにかけると感じる授業もありました。現在は見学実習を行っているとはいえ、実際に1人1人のOTについてまわる経験ができればより授業への意欲が向上すると思います
- ・基礎的な知識から応用的な知識まで幅広い授業を受けることができ、とても良かったと思います。ただ、実習等、もっと対象者に関わる機会があれば良かったと思います。
- ・学年が上がるにつれて、勉強が大変だったが、有意義に過ごせたと思う
- ・教員の確保やカリキュラムの都合のこともありますが、3年次に実施する評価学実習の回数や期間を多くとももらいたかったです(数少ない実習しかこなしておらず、長期実習へ行くので不安が大きかったです)
- ・テストは国試形式の方が良い
- ・医用工学がムズカしかったです

(次頁に続く)

③学習環境(設備・施設を含む)は、満足のものでしたか	5.満足	4.概ね満足	3.どちらともいえない	2.やや不満足	1.不満足	計
看護学専攻	7 8.97%	38 48.72%	23 29.49%	9 11.54%	1 1.28%	78 100.00%
検査技術科学専攻	9 26.47%	18 52.94%	5 14.71%	1 2.94%	1 2.94%	34 100.00%
理学療法学専攻	0 0.00%	8 38.10%	8 38.10%	5 23.81%	0 0.00%	21 100.00%
作業療法学専攻	3 15.00%	10 50.00%	5 25.00%	2 10.00%	0 0.00%	20 100.00%

無回答2

※2.1の方はその理由を、次に具体的に記入してください

- ・自習施設がほしい(9)
- ・キャスター付の机の中に、ストッパーがかけにくいorかからないものがあります
- ・授業中に動く大変なので、よろしくお願いします
- ・医学部図書館の空調が悪い、パソコン台数が少ない
- ・設備が古い
- ・医学部図書館内での私語が多い人がいる。勉強に集中できなかった。談話室を設置するか、注意喚起徹底してほしい
- ・工事で自主学習スペースが限られていた
- ・古い。医図書を1年生でも24時間使えるようにしてほしい
- ・医図書の席取禁止を強化、夏虫が入ってこないよう工夫などしてほしい
- ・図書館(中央)が使えない時期があつてかわる勉強場所がなかった
- ・教室が狭かった。もう少し広い方がゆったり勉強できたと思う
- ・建て替え等で移動が少々大変でした
- ・保健学科棟が21時以降使用できないこと
- ・診断訓練実習で自主学習をしていると、全く話をしないで作業療法学専攻の先生に出ていくように促されたことが残念でした
- ・保健学科用の自習室がなくなってしまったため、勉強スペースがなくなってしまった
- ・土、日、祝日にも校舎をあけてほしい
- ・4年次に学習室が改修中だったので少し困りました
- ・自習室として使用できる教室が少ない
- ・図書館等の自己学習スペースが不足している
- ・保健学科図書館が途中で無くなったのが不便であった
- ・耐震
- ・工事中の所(図書館)

④信州大学医学部保健学科をより良くする上で、提言があれば自由に記入してください

- ・物品が古い
- ・臨床経験豊富な先生に教わりたい
- ・レジュメで授業テストを行うのに、不要な本の強制購入はやめてほしい(10万くらい無駄になりました)
- ・校舎が建てなおして使えず、すごく不便だった。配慮してほしい
- ・建てかえの時期だったのでなかなか騒音がすごかったですが、快適でした
- ・保健学科なのに、更衣室やりんでん、教室がきたない
- ・自習室の充実
- ・21:00までしか校舎を利用できないことを改善してほしい
- ・校舎に入れる時間を増やしてほしい(特に夜間)
- ・りんでんの営業時間の拡大
- ・カリキュラムの変更があり、先輩方からあまり情報がきけなくて大変なこともありました
- ・他の専攻の学生たちと関われる機会がチーム医療以外でもっとあればと思います
- ・自販機が南校舎にもあったら良い
- ・りんでんと教室との間に壁がほしいです(つい立)。311で授業中にりんでんで話し合いをしていたら注意されてしまったので、壁があれば少しは防音になると思います。外につながる自動ドアが開くと寒い(冬は)のも少しはましになると思います

(出典：医学部作成)

**資料医 130 卒業時到達度調査（看護学専攻）**

報告書から抜粋

**IV. 方法****1. 調査月日**

平成 26 (2014)年 12 月 9 日～平成 26(2014)年 12 月 22 日

**2. 調査場所**

旭研究棟 8 階講義室

**3. 調査対象**

看護学専攻 4 年生のうち、編入生を除く卒業見込みの学生 72 名

**4. 調査方法**

無記名自記式調査を実施した。

到達目標ワーキンググループメンバー（以下、WG）が、調査の趣旨、方法、倫理的配慮について、調査依頼文「看護実践能力到達度に関する調査への協力をお願い」を用いて口頭で説明し、調査用紙を一斉に配布した。

調査用紙の回収は、調査の説明を行った教室内に設置した回収箱に投函するよう依頼した。また当日投函できない場合は、学務第 2 係前のレポートボックスへの投函を依頼した。

**5. 倫理的配慮**

調査依頼時に、口頭および文書により、本調査が卒業時の実践能力到達度を評価し今後の教育の資料とする目的であること、調査への参加は自由意志であり、調査の協力は成績等個人の評価に一切関係しないこと、回収は回収箱への個別投函であることを説明した。

**6. 調査内容と分析方法****1) 調査項目**

調査用紙は、平成 21 年度より改訂カリキュラム内容を反映した、「大学における看護系人材養成の在り方に関する検討会最終報告」の「卒業時の到達目標」（5 群、到達目標 20 項目、学習成果 202 項目）を参考として作成した（資料 1、出典：日本看護系大学協議会 「学士課程においてコアとなる看護実践能力と卒業時到達目標」）。

調査項目については、学生が意図を誤って解釈する可能性のある表現について、ワーキングメンバーで検討し、昨年度のⅡ群 4) ⑤『健康に関連した事象を説明するために基本的な疫学や保健統計資料を活用できる』の修正に加え、今年度は「査定(Assessment)」と表現している項目について、(Assessment)を削除し、「査定」として統一した。

**2) 回答形式**

各質問項目について、調査現在の状態について「よくできる」「まあまあできる」「あまりできない」「できない」の 4 件法により回答を求めた。

**3) 分析方法**

回答について「よくできる」4 点、「まあまあできる」3 点、「あまりできない」2 点、「できない」1 点と数値化し、学習成果 202 項目の回答の分布、平均得点、標準偏差を算出し、到達目標 20 項目、5 群各群についても平均点を算出した。

資料医 131 看護実践力到達度に関する調査

資料 1 看護実践能力到達度に関する調査 2014 年度

下表に示した卒業時の到達目標について、あなたは現時点でどの程度できますか。  
 目標ごとに示した学習成果について、4(よくできる)、3(まあまあできる)、2(あまりできない)、1(できない)の中から、最も近いものを1つ選んで○を記載してください。

卒業時の到達目標	学習成果	4 で よ く で き る	3 で ま あ ま あ で き る	2 で あ ま り で き な い	1 で き な い
<b>I 群: ヒューマンケアの基本に関する実践能力</b>					
1) 看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力	①看護の視点から人間について総合的に捉え説明できる。	4	3	2	1
	②人間のライフサイクルと発達について説明できる。	4	3	2	1
	③健康・不健康の連続性を踏まえて、健康を総合的に捉え説明できる。	4	3	2	1
	④社会と健康、文化と健康の関連を踏まえて、健康を総合的に捉え説明できる。	4	3	2	1
	⑤多様な価値観や人生観を有している人々を尊重する行動をとることができる。	4	3	2	1
	⑥基本的人権の尊重、患者の権利及び権利擁護について説明できる。	4	3	2	1
	⑦患者の権利、プライバシーや情報の保護に配慮した看護の在り方を説明できる。	4	3	2	1
	⑧看護職の倫理規定や看護実践に関わる倫理の原則を理解し、遵守できる。	4	3	2	1
	⑨看護の対象となる人々の権利を尊重し、その擁護に向けた行動をとることができる。	4	3	2	1
	⑩看護行為によって看護の対象となる人々の生命を脅かす危険性があることを説明できる。	4	3	2	1
	⑪守秘義務について理解し、遵守できる。	4	3	2	1
2) 実施する看護について説明し同意を得る能力	①医療における自己決定権と看護職の説明責任について説明できる。	4	3	2	1
	②インフォームド・コンセント、セカンド・オピニオンについて説明できる。	4	3	2	1
	③実施する治療や看護に関する選択権について説明できる。	4	3	2	1
	④実施する看護を説明する方法とその意義について説明できる。	4	3	2	1
	⑤看護の対象となる人々が意思決定するために必要な情報を提供することができる。	4	3	2	1
	⑥看護の対象となる人々の意思決定を指導のもとで支援することができる。	4	3	2	1
	⑦実施する看護について指導の下で説明し、同意を得ることができる。	4	3	2	1
	⑧相手の理解力にあわせた説明をすることができる。	4	3	2	1
3) 援助的関係を形成する能力	①自己を分析し自己理解できる。	4	3	2	1
	②コミュニケーション、治療的コミュニケーションについて説明できる。	4	3	2	1
	③看護の対象となる人々と適切な援助的コミュニケーションをとることができる。	4	3	2	1
	④プロセスレコードなどを活用して、援助的関係を分析できる。	4	3	2	1
	⑤カウンセリングの基本的な方法について説明できる。	4	3	2	1
	⑥援助的関係におけるケアリングの考え方について説明できる。	4	3	2	1
	⑦援助的関係形成の過程を理解し、援助的関係を形成できる。	4	3	2	1
	⑧リーダーシップの考え方について説明できる。	4	3	2	1
	⑨集団の構造と機能、グループダイナミクスについて説明できる。	4	3	2	1
	⑩グループを形成する方法とそれを支援する方法について説明できる。	4	3	2	1
<b>II 群: 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力</b>					
4) 根拠に基づいた看護を提供する能力	①根拠に基づいた看護を提供することの必要性を説明できる。	4	3	2	1
	②根拠に基づいた看護を提供するための情報を探索し、活用できる。	4	3	2	1
	③文献や研究成果を比較し、批判的に吟味することができる。	4	3	2	1
	④基本的な看護研究方法について説明できる。	4	3	2	1
	⑤健康に関連した事象を説明するために基本的な疫学や保健統計資料を活用できる。	4	3	2	1
	⑥主要な看護理論について説明できる。	4	3	2	1
	⑦看護を展開する際に、理論や概念を活用する意義と方法について説明できる。	4	3	2	1
	⑧看護に必要な根拠を探索し、看護実践に活用できる。	4	3	2	1

(次頁に続く)

表1. 看護実践能力の到達目標および群の平均得点

看護実践能力	平均(max-min)	群 平均	25 年度	24 年度
<b>I. ヒューマンケアの基本に関する実践能力</b>				
1)看護の対象となる人々の尊厳と権利を擁護する能力	3.39(3.79-3.02)	3.26	3.42	3.29
2)実施する看護について説明し同意を得る能力	3.35(3.61-3.23)			
3)援助的関係を形成する能力	3.05(3.29-2.74)			
<b>II. 根拠に基づき看護を計画的に実践する能力</b>				
4)根拠に基づいた看護を提供する能力	3.02(3.58-2.61)	3.08	3.26	3.13
5)計画的に看護を実践する能力	3.24(3.44-2.92)			
6)健康レベルを成長発達に応じ査定する能力	2.88(3.18-2.62)			
7)個人と家族の生活を査定する能力	3.26(3.38-3.11)			
8)地域の特性と健康課題を査定する能力	2.87(3.03-2.70)			
9)看護援助技術を適切に実施する能力	3.17(3.61-2.79)			
<b>III. 特定の健康課題に対する実践能力</b>				
10)健康の保持増進と疾病を予防する能力	3.03(3.59-2.65)	3.00	3.22	3.14
11)急激な健康破綻と回復過程にある人々を援助する能力	2.85(3.08-2.52)			
12)慢性疾患及び慢性的な健康課題を有する人々を援助する能力	3.04(3.33-2.85)			
13)終末期にある人々を援助する能力	3.16(3.52-2.97)			
<b>IV. ケア環境とチーム体制整備に関する実践能力</b>				
14)保健医療福祉における看護活動と看護ケアの質を改善する能力	2.94(3.11-2.74)	3.08	3.19	3.18
15)地域ケアの構築と看護機能の充実を図る能力	2.99(3.14-2.82)			
16)安全なケア環境を提供する能力	3.35(3.76-3.02)			
17)保健医療福祉における協働と連携をする能力	3.23(3.50-2.97)			
18)社会の動向を踏まえて看護を創造するための基礎となる能力	2.84(3.12-2.58)			
<b>V. 専門職として研鑽し続ける基本能力</b>				
19)生涯にわたり継続して専門的能力を向上させる能力	3.18(3.32-2.98)	3.13	3.19	3.22
20)看護専門職としての価値と専門性を発揮させる能力	3.06(3.23-2.86)			

(出典：医学部作成)

②-2 卒業生の就職先からみた学業の成果および就業状況に関するアンケート調査（資料医132）

資料医132 卒業生の就職先からみた学業の成果および就業状況に関するアンケート調査（平成26年度）

	看護	検査	理学	作業	不明	合計
専攻	8	5	4	2	3	22
設問1	生命の尊厳を深く理解し、人間性豊かな医療陣として全人的医療を担う能力を有している。					
	有している ←		→		有していない	
	5	4	3	2	1	
	2	17	2	1	0	
	22					
設問2	科学的根拠に基づく適切な判断能力と問題解決能力を有している。					
	有している ←		→		有していない	
	5	4	3	2	1	
	2	16	4	0	0	
	22					
設問3	基本的実践能力を習得し、それらを応用できる能力を有している					
	有している ←		→		有していない	
	5	4	3	2	1	
	2	14	6	0	0	
	22					
設問4	チーム医療の一員として高度先進医療や地域医療に積極的に貢献できる能力を有している。					
	有している ←		→		有していない	
	5	4	3	2	1	
	2	12	6	2	0	
	22					
設問5	医療・保健に関して国際的に活躍できる基礎能力を身に付けている。					
	有している ←		→		有していない	
	5	4	3	2	1	不明
	0	7	10	3	0	無回答
	1					
設問6	学際的知識を有し、自主性、自立性を身に付け、将来広い分野で活躍できる能力を有している。					
	有している ←		→		有していない	
	5	4	3	2	1	
	2	11	8	0	0	
	22					

信州大学医学部保健学科の教育及び卒業生に関するご意見をお聞かせください。

勉強については積極的に知識を修得しようと努力しています。協調性もあり、チームの一員とし自覚をもった対応ができています。
出身県での臨地実習を行われたらいかがでしょうか？ 今後も優秀な人材を検査科へ送り出してくださいを願っております。 職場では絶対に泣かない！と自分を律し、厳しい指導やきつい言動に対しても自分の力に変えるべく前向きに努力をしていた。また、自分の毎月の目標を意識しながら、学習面、行動面でも取り組んでいた。
就職2週間で上記を評価するのは、困難と思われる。
ほとんど研修が入職時から入っており設問に対する評価は、現時点では難しいです。
あいさつをしっかりし、ハキハキして頼もしいと思います。災害に興味があるとのこと育成していきたいと思います。
当院に就職していただいた貴大学の卒業生に関しては、能力が高いだけでなく人間性の豊かな技師が入職しています。評価4とさせていただきますのは、評価5=完璧(完璧の評価が困難)という判断のもとです。
総じて基礎能力は、高いように思います。
現在卒業生は、6名就職して働いています。6年目～新人まで様々ですが基礎教育がきちんとされており各職場で活躍されています。
対象者が少なく、上記内容を判断するところまではできません。
2年目なので期待を込め、評価いたしました。 ・優秀な方が多いと思います。 ・向上心を常に持ち、素直です。

(出典：医学部作成)

## (4) 学生の受賞状況から判断される学修成果の状況

学会等での学生の受賞・表彰。(資料医 133)

**資料医 133** 学会等における受賞状況

第 47 回日本医学教育学会大会で学生発表が優秀演題賞を受賞しました

2015 年 07 月 27 日トピックス

7 月 24～25 日に開催された第 47 回日本医学教育学会大会(新潟市)において、医学科 5 年生町田はるかさん、清水郁夫当センター助教、今村浩救急救急集中医学教室教授らの発表演題「学生サークルによる、医療系学生のための病院前救護処置ワークショップ」が学生セッション優秀演題賞を受賞しました。

この発表は、「医療系学生が自ら実践できる病院前救護法を学ぶ」ことを目標に医療系サークル「SALTs」が本年 3 月に実施したワークショップの成果を検証したもので、学生が互いに教え合う試みや多職種での相互理解を目指す姿勢が高く評価されました。

また、同学会の関連企画として開催された「メディカル・シミュレーション・オリンピック(シムリンピック)2015」に、本学チーム「ALPS」が出場しました。これは全国の医学生が臨床能力を 3 人 1 チームで力試しする競技会で、シミュレーション機材を取り入れた 6 つの課題で臨床実技と診断力を競いました。本学チームは「肺音聴診と呼吸器疾患」の種目で 1 位になるなどし、総合 5 位に入賞しました。

(出典：医学部医学教育センターホームページから)

(水準)

期待される水準を上回る

(判断理由)

- ・ 国家試験の過去7年間の平均合格率は医学科92.6%，さらに保健学科は98.3%と全国平均85.7%と比較して高い。(資料医123(139頁), 124(140頁)) また、保健学科で行っている卒業生の就職先を対象としたアンケート調査では、臨床能力および豊かな人間性の醸成が高く評価されている。(資料医132(155頁)) 医学科においては、患者の立場に近い模擬患者からの評価がここ数年向上していることから総合的に能力の高い医療者を育成できている。(資料医127(148頁))
- ・ 学生の満足度は医学科の実習では95%講義では84%と高く、保健学科においても95%以上が授業に対しておおむね満足あるいは満足と回答しており、学生・保護者の期待に答えている。(資料医125(141頁), 126(147頁), 129(150頁))

観点 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

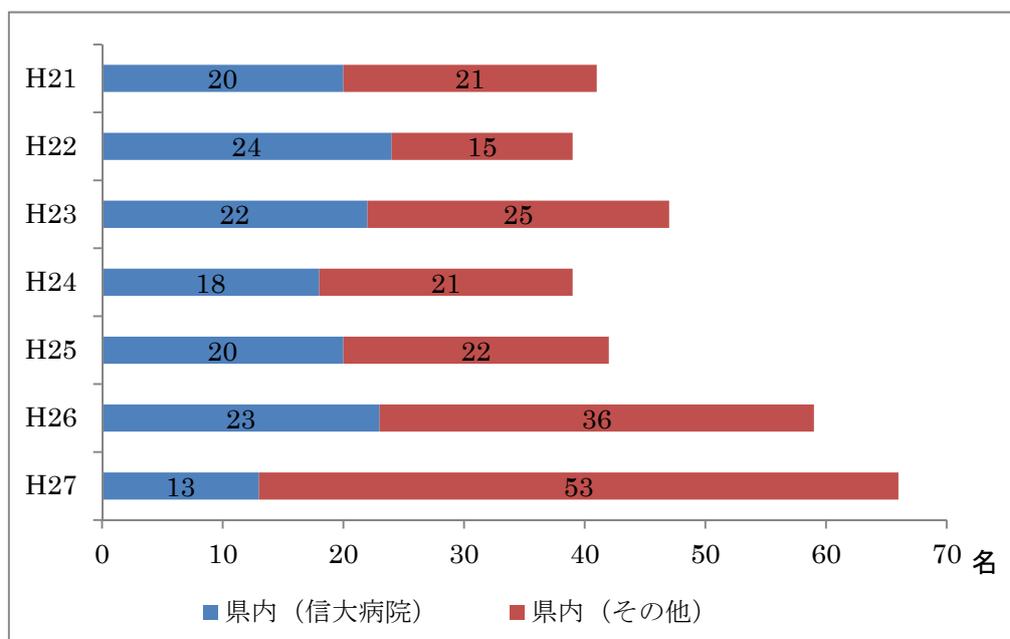
(1) 進路・就職状況

①医学科

臨床実習で広く県内病院を利用しており、本学附属病院を含む長野県内の病院を研修先として選択する卒業生の割合が増加傾向にある。(資料医 17(15頁), 134)

資料医134 医学科卒業生の進路

○卒業年度別 県内施設において卒後臨床研修を行う者の数



信州大学医学部6年生進路についてのアンケート 2015.11施行 回収115名 【抜粋】

		出身地		研修病院					
		全体	長野県	他都道府県	信大	県内病院	他大学	県外病院	無回答
研修先決定の情報源	病院実習	73	20	53	17	30	6	7	13
	病院見学	61	12	49	8	19	8	17	9
	ネット	22	2	20	0	4	5	7	6
	書籍	4	2	2	1	2	1	0	0
	レジナビ	30	7	23	5	7	4	10	4
	e レジ	2	0	2	0	1	0	0	1
	都道府県説明会	2	0	2	0	1	0	0	1
	病院団体説明会	1	0	1	0	1	0	0	0
	高校の先輩	8	0	8	2	3	0	2	1
	大学の先輩	30	9	21	5	13	5	4	3
	両親親族	13	2	11	4	1	1	5	2
	同級生	21	3	18	6	7	1	4	3
	その他	4	1	3	2	0	1	1	0

(出典：医学部作成)

②保健学科

卒業生の進路は、検査技術科学専攻では大学院への進学が比較的多く他の専攻では、ほとんどが就職している。（資料医135～137）

資料医135 保健学科の就職の状況

就職率と就職先

平成21年度(平成22年3月卒業)					
	看護学専攻	検査技術科学専攻	理学療法学専攻	作業療法学専攻	合計
卒業生数	72	42	21	17	152
就職希望者	71	34	21	17	143
就職者	県内	41	10	5	62
	県外	30	22	16	79
就職率	100.0%	94.1%	100.0%	100.0%	98.6%
進学者	県内	0	5	0	5
	県外	1	3	0	4
未定者・その他	0	2	0	0	2

平成25年度(平成26年3月卒業)					
	看護学専攻	検査技術科学専攻	理学療法学専攻	作業療法学専攻	合計
卒業生数	81	40	16	21	158
就職希望者	80	33	13	21	147
就職者	県内	39	6	5	16
	県外	38	26	8	5
就職率	96.3%	97.0%	100.0%	100.0%	97.3%
進学者	県内	0	5	2	0
	県外	1	1	1	0
未定者・その他	3	2	0	0	5

平成22年度(平成23年3月卒業)					
	看護学専攻	検査技術科学専攻	理学療法学専攻	作業療法学専攻	合計
卒業生数	78	35	15	17	145
就職希望者	77	26	15	17	135
就職者	県内	35	7	4	8
	県外	41	19	11	9
就職率	98.7%	100.0%	100.0%	100.0%	99.3%
進学者	県内	0	6	0	0
	県外	1	3	0	0
未定者・その他	1	0	0	0	1

平成26年度(平成27年3月卒業)					
	看護学専攻	検査技術科学専攻	理学療法学専攻	作業療法学専攻	合計
卒業生数	82	37	21	20	160
就職希望者	77	29	19	20	145
就職者	県内	44	4	3	13
	県外	31	25	16	7
就職率	97.4%	100.0%	100.0%	100.0%	98.6%
進学者	県内	0	7	0	0
	県外	3	0	2	0
その他	4	1	0	0	5

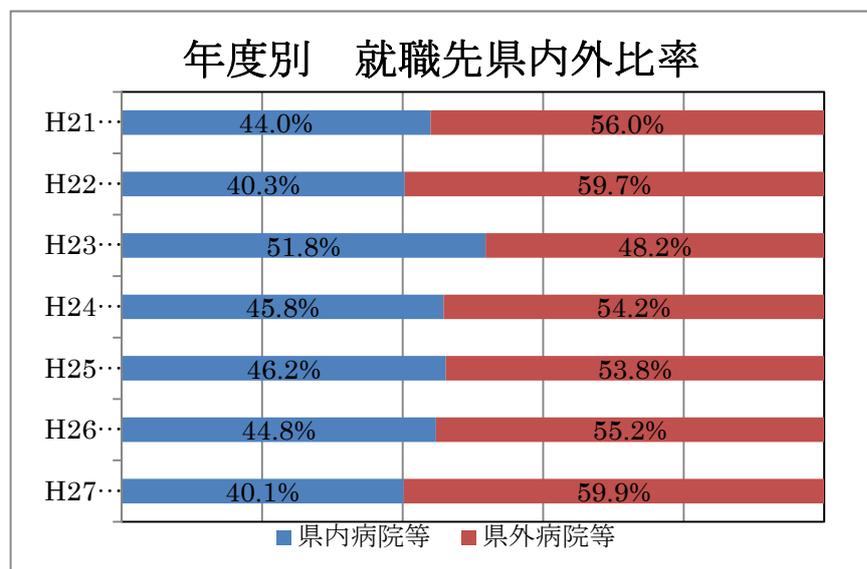
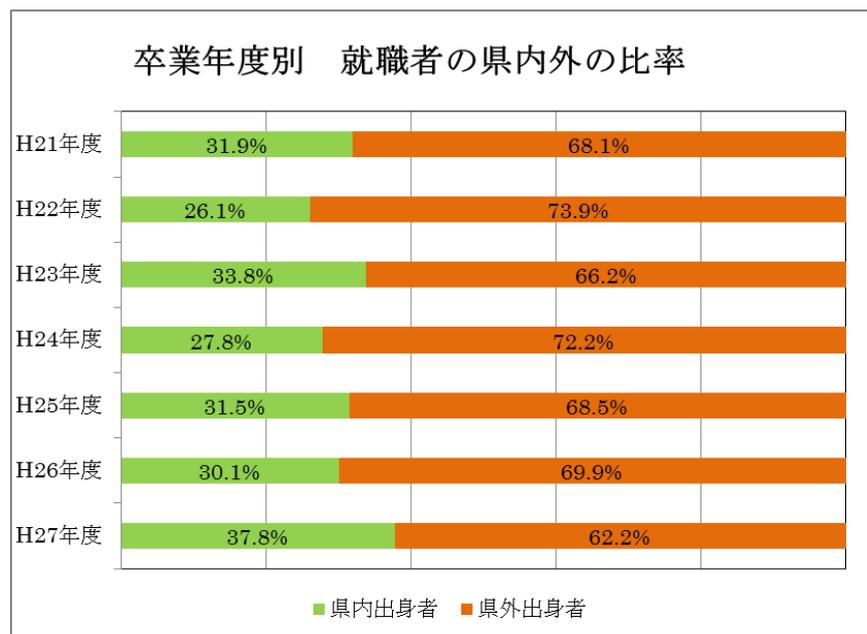
平成23年度(平成24年3月卒業)					
	看護学専攻	検査技術科学専攻	理学療法学専攻	作業療法学専攻	合計
卒業生数	72	35	18	19	144
就職希望者	71	31	18	19	139
就職者	県内	44	10	8	10
	県外	27	21	10	9
就職率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
進学者	県内	0	4	0	0
	県外	0	0	0	0
未定者・その他	1	0	0	0	1

平成27年度(平成28年3月卒業)					
	看護学専攻	検査技術科学専攻	理学療法学専攻	作業療法学専攻	合計
卒業生数	80	43	17	17	157
就職希望者	77	35	15	15	142
就職者	県内	33	12	4	8
	県外	44	23	11	7
就職率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
進学者	県内	1	4	0	1
	県外	2	2	1	0
その他	0	2	1	1	4

平成24年度(平成25年3月卒業)					
	看護学専攻	検査技術科学専攻	理学療法学専攻	作業療法学専攻	合計
卒業生数	82	37	21	17	157
就職希望者	82	30	20	17	149
就職者	県内	43	9	6	8
	県外	35	21	13	9
就職率	95.1%	100.0%	95.0%	100.0%	96.6%
進学者	県内	0	6	1	0
	県外	0	1	0	0
未定者・その他	4	0	1	0	5

(出典：医学部作成)

資料医 136 県内・外出身者の比率と県内・外就職比率（保健学科）



(出典：医学部作成)

資料医 137 保健学科卒業生に対する求人数および求人倍率

専攻別求人件数、求人数

卒業年度	看護学専攻					検査技術科学専攻					理学療法学専攻					作業療法学専攻				
	卒業 者数	求人 件数	求人 件数 倍率	求 人 数	求人 数 倍率	卒業 者数	求人 件数	求人 件数 倍率	求 人 数	求人 数 倍率	卒業 者数	求人 件数	求人 件数 倍率	求 人 数	求人 数 倍率	卒業 者数	求人 件数	求人 件数 倍率	求 人 数	求人 数 倍率
H21年度	72	667	9.3	15840	220.0	42	118	2.8	184	4.4	21	251	12.0	1356	64.6	17	272	16.0	1530	90.0
H22年度	78	715	9.2	17829	228.6	35	208	5.9	254	7.3	15	425	28.3	1825	121.7	17	461	27.1	2012	118.4
H23年度	72	710	9.9	17704	245.9	35	287	8.2	350	10.0	18	480	26.7	2060	114.4	19	522	27.5	2278	119.9
H24年度	82	654	8.0			37	312	8.4			21	533	25.4			17	599	35.2		
H25年度	81	647	8.0			40	297	7.4			16	501	31.3			21	611	29.1		
H26年度	82	<b>404</b>	4.9			37	<b>354</b>	9.6			21	<b>655</b>	31.2			20	<b>767</b>	38.4		
H27年度	80	<b>435</b>	5.4			43	<b>345</b>	8.0			17	<b>609</b>	35.8			17	<b>771</b>	45.4		

※平成24年度以降は、求人数倍率を算出していません。

(出典：医学部作成)

## (2) 進路に関する相談・支援体制

## ①卒業生を迎えての懇談会（資料医138）

**資料医138** 卒業生を迎えての懇談会

## （医学科の状況）

学生に具体的な卒後キャリア像を示し、また、カリキュラム改革にあたり卒業生の立場からの意見を参考にするために、平成25年6月28日に卒後10年目の卒業生6名を迎えて懇談会を実施した。臨床においては卒業生が県内の遠隔地でも十分な質の医療を提供していることを本学の教育と関連付けて肯定する発言や、また同期生間や本学関係者間の強固なつながりが維持されていることが卒業後に有益に作用しているとの発言があった。また在学生の質問に答える形で、コミュニケーション力を磨くことの重要性や主体的な臨床学習環境を構築する提案を得た。



## （保健学科の状況）

保健学科では平成25年から隔年で専攻ごとに「卒業生を迎えての懇談会」を実施し在校生には卒業後のイメージができるよう、また卒業生からの意見を教育に反映させるよう努めている。

## （以下、懇談会概要）

平成27年度「信州大学医学部保健学科卒業生を迎えての懇談会」検査技術科学専攻

1. 日時：平成27年10月14日（水） 13:30～15:45

2. 場所：第1部 保健学科北校舎1階311講義室  
第2部 保健学科中校舎4階会議演習室Ⅱ

## 3. 参加者

・卒業生：松本市立病院勤務 臨床検査技師1名（平成20年3月卒業）  
諏訪赤十字病院勤務 臨床検査技師1名（平成21年3月卒業）

信州大学医学部附属病院 臨床研究コーディネーター  
臨床研究支援センター勤務（臨床検査技師）1名（平成23年3月卒業）

・在校生：46名（3年生，2年生）

・検査技術科学専攻教員10名

## 4. 懇談会の内容

## 1) 第1部

保健学科検査技術科学専攻の卒業生計3名が、一人15分程度で、以下の点につきパワーポイントを用いてプレゼンテーションを行った後、3名が前方に並んで座り、教員の司会の下に在生との質疑応答を行った。

卒業生のプレゼン内容

・現在の施設紹介，業務内容と仕事のやりがい

患者や臨床医とのコミュニケーションを通じて、仕事のやり甲斐を感じ、また日々の努力への励みとなっているとの前向きな姿勢が示された。

- ・自分にとって最も役立っている考える講義・実習データ解析，レポートや卒業研究など，思考力を鍛える内容が卒業後にも多いに生きているとの意見が共通していた。
- ・学生時代にやっておいて良かったと思う事柄
- ・在学生へのメッセージ（学習の要点，臨床実習に向けて等）

#### 在学生からの質問

上記の点に関連し，具体的な業務内容，就職活動の進め方，国家試験対策，等についての質問があった。

#### 2) 第2部

卒業生3名と教員10名が懇談し，本専攻の教育課程についての意見交換を行った。

卒業生からの意見としては，患者への接遇マナーにつき，講習会や演習を通じ，より一層のトレーニングの必要性などについての意見が出された。

#### 5. 在校生および教員の意見

在学生のアンケート結果からは卒後の将来像が描け，モチベーションが高まったといった意見が多く，満足度の高い内容であったことが示された。また，大学院進学者からの話も聞きたいとの希望が寄せられた。卒業生との懇談会を今後も継続的に実施していく必要性和有用性が示された。

(出典：信州大学ホームページ)

②医学科

4年次以上の学生に進路に関する情報提供を行うとともに、推薦入学者を対象とする研修会も実施し、キャリア形成を考える場を提供している。（資料医139,140）

**資料医139** 推薦入試入学者への支援

平成27年度推薦入学学生研修会実施要項

目的： 将来、長野県の医療を支える医師となることを決意し推薦入試を受検して入学した学生に対して、キャリア形成を考える場を提供するとともに、研修の機会やグループワークなどを通じて相互の親睦を図ることを目的とする。

日程：平成27年11月13日（金） 午後18：45～21：10

場所：松本東急REIホテル 3階 クリスタルルーム

内容：18：20 病院第2駐車場横 出発（送迎バス）

18：45 講演会

講師：がん・感染症センター 都立駒込病院

名誉院長 森 武生 先生

演題「私の大腸癌治療40年の歴史」

19：50 懇親会

21：10 終了

21：20 ホテル発（送迎バス）

参加人数 70人

（出典：医学部作成）

資料医140 医学教育センターの支援

- ・長野県の医学生修学資金受給の有無に限らず、広く学生の希望に応じて県内外の施設に関する情報提供を行うとともに、学生個々の特長を生かした推薦状作成等を行っている。
- ・信州大学医学部附属病院及び長野県臨床研修病院等合同説明会を行っている。

医学科5年生・6年生の皆さんへ

信州大学医学部附属病院

卒後臨床研修プログラムと  
その後の専門研修説明会

日時：6月12日（金）14：40～17：55

場所：外来棟4階 大会議室

☆18：00～ ソレイユにて懇親会を開催します。参加無料！



進化を続ける信大プログラムを

是非ご体感ください。..\*:+☆

卒後臨床研修センター長・各科の先生方による  
プレゼンテーションにて、研修の内容・魅力を  
余すところなくお伝えします！

他大学の方向けに院内見学会も企画します♪



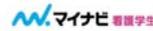
（出典：医学部作成）

③保健学科の就職支援

3年次生に就職セミナー（資料医141），マナー研修（資料医142）を行い，就職の準備を行っている。また各専攻で就職担当を置いて就職支援にあたっている。

資料医 141 就職セミナー

2014年7月16日（水）



## 医療系学生のための 就職活動準備講座

～卒業後のキャリアを今から考えていこう～

株式会社 マイナビ  
 就職情報事業本部 キャリアサポート課  
 西東京/長野統括マネージャー  
 吉田 優太（信州大学OB）

自分の将来を考えてみよう！



**Life Planning Sheet**

1. 本人情報  
 2. 家族情報  
 3. 生活面  
 4. 仕事面  
 5. 学業面  
 6. 交友関係  
 7. 健康面

生活面	
居住地	
家族構成	
生活費	
食生活	
運動習慣	
休日の過ごし方	
学業面	
学部	
専攻	
学年	
取得済みの単位	
交友関係	
友人	
先輩	
後輩	
恋人	
健康面	
年齢	
性別	
身長	
体重	
健康診断の結果	

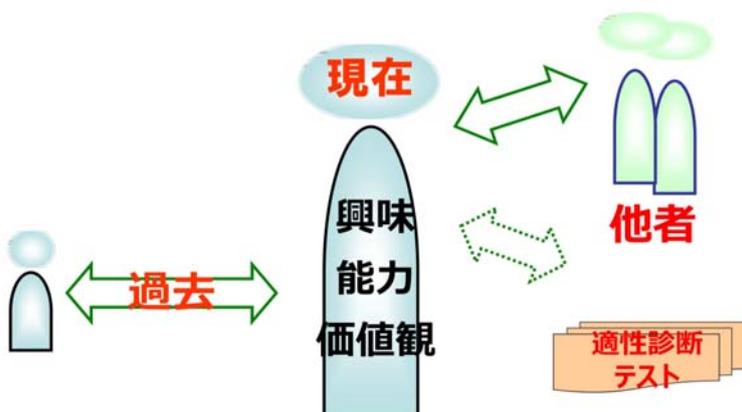
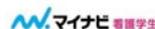
マイナビ (株) 〒160-0809 東京都中央区西薬師1-1-1

**【記入のポイント】**  
 入職してから5年ぐらいを想定して、記入しましょう。

生活面・仕事面で項目を設けて「自分の将来像」をみていきます。仕事面だけでなく「自分はどういう生き方をしたいのか」という視点で考えてみましょう。

現時点で自分が考えている正直な将来像を書いてください。

自己分析の進め方



（出典：医学部作成）

資料医 142 マナー研修

平成27年4月15日

学 生 各 位

教 務 委 員 長

## 特別講演について(お知らせ)

このことについて、下記のとおり実施いたします。  
特別講演への出席は、専攻毎に定められた授業科目の出席と読替えま  
す。出欠を取りますので必ず参加してください。

記

- 1 日 時 平成27年5月27日(水) 13:00～15:00
- 2 講 師 鋼林株式会社医薬事業部  
マナーインストラクター 川窪 一恵 氏
- 3 演 題 「医療現場のコミュニケーションマナー  
～実習生の立場から～」
- 4 場 所 医学部保健学科 311講義室
- 5 対 象 医学部保健学科全専攻3年次生  
医学部保健学科教員・一般聴講者
- 6 読替授業科目  
看護学専攻 :成人看護学実習  
検査技術科学専攻 :臨床検査管理学  
理学療法学専攻 :理学療法治療法実習  
作業療法学専攻 :作業療法評価学実習

(出典：医学部作成)

(水準)

期待される水準を上回る

(判断理由)

- 保健学科は県内出身者の比率に比して、高い県内就職率を維持している。また、医学科で県内に医師として就職する学生は、平成21年度の41名に対し平成27年度には66名と急激に増加しており地域の期待に応えている。(資料医17(15頁), 134(157頁)～136(159頁))
- 保健学科では、全ての専攻で多数の求人があり極めて高い就職率を維持しており、資格取得を目的として入学している学生・保護者の期待に応えている。(資料医137(159頁))

## Ⅲ 「質の向上度」の分析

## (1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

- 平成25年度より新カリキュラムを導入し実践的な臨床実習を通じて、臨床能力に加え、自主性や協調性が高いレベルで教育できる体制となった。(資料医 82(89頁), 83(90頁))
- 平成22年度より、課題追求・問題解決型の教育および臨床実習を充実し、判断能力や問題解決能力を育成する教育体制となった。(資料医 88(96頁), 94(106頁), 115(129頁))
- 両学科の合同授業として、従来行ってきた1年前期の新入生ゼミナールに加え、平成26年度より4年次後期のチーム医療演習を開始し、両学科の全ての学生がチーム医療を展開するためのマインドとスキルを段階的に学習できる教育体制となった。(資料医 76(82頁), 77(83頁))
- 平成25年度より医学教育に関する会議に学生も参加し、学生の意見を取り入れて教育内容の見直しを行うようにした。(資料医 34(29頁), 35(30頁))
- 平成25年度よりスキルズラボを設置し、両学科におけるシミュレーション教育体制を充実させた。(資料医 116(132頁))
- 平成26年度より、高度な基礎医学研究に触れる機会としてe-MEDを導入し、学生のリサーチマインドを育成する体制となった。(資料医 97(109頁), 98(109頁))
- 医学科は平成25年度より(資料医 96(109頁), 108(123頁))、保健学科は平成26年度より、新たな海外短期研修プログラムを開始した。(資料医 110(124頁), 111(124頁))
- 保健師コースを平成26年度に設置し少人数で質の高い保健師教育が可能になった。(資料医 100(111頁))
- 平成26年度に設置された医学部地域保健推進センター主催の地域住民を対象とした健康講座に学部生を参加させ、地域に根差した保健活動の在り方を能動的に学ばせる教育体制を構築した。(資料医 104(117頁))
- 平成24年度より両学科に学生相談室を設置し、総合健康安全センターおよび学生相談センターとの連携に基づいた学生相談体制を開始した。(資料医 41(36頁), 42(38頁))

## (2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

- 保健学科は高い国家試験合格率を維持している。(資料医 124(140頁))
- 保健学科は県内出身者の比率に比して、高い県内就職率を維持している。また、県内に医師として就職する学生の数は、平成21年度の41名に対し平成27年度は66名と急増している。(資料医 134(157頁)~136(159頁))

## 9. 医学系研究科

I	医学研究科の教育目的と特徴	9-2
II	「教育の水準」の分析・判定	9-14
	分析項目 I 教育活動の状況	9-14
	分析項目 II 教育成果の状況	9-55
III	「質の向上度」の分析	9-67

## I 医学系研究科の教育目的と特徴

### 1 教育目的

#### (1) 設置の理念及び目的

本研究科は専攻毎に設置の理念を掲げるとともに、目的を信州大学大学院医学系研究科規程（以下「研究科規程」）第1条の2に定めている（資料医院1、2）。

#### 資料医院1 設置の理念

##### 修士課程

##### 医科学専攻

心とからだを結ぶヒューマンサイエンスを機軸にした新しいネットワークをつくり多彩な人材を養成することにより、社会への総合的な貢献をはかる。

##### 保健学専攻（博士前期課程）【2年制】

保健・医療・福祉に関する専門的知識・技術、科学的根拠に基づいた臨床問題解決能力や国際的な視野を持ち、常に人間を全人的な存在としてとらえて健康保持と疾病や障害の予防・治療、医療安全において社会に貢献できる高度専門保健医療職者を育成する。

##### 博士課程

##### 医学系専攻

人類の福祉と医学の発展をたえず視点におき、医科学の真理の深奥を究め、基礎・臨床医学の枠を超えた医学研究を行い、世界を先導するような創造的研究・トランスレーショナルリサーチを実施する医学研究者及び移植医療、再生医療、遺伝子医療など先端医療を科学的基盤に基づいて実践する医学研究者及び高度医療職業人を育成する。

##### 疾患予防医科学系専攻（独立専攻）

ヒト生命の本質を把握すべく遺伝子（ゲノム）レベルから個体、社会レベルまで総合的解析を行い、ヒトの基礎的生命現象と疾病機序の理解に基づいて、疾病予防および制御と健康づくりを目指す包括的予防医科学領域を開拓する。

##### 保健学専攻（博士後期課程）【3年制】

医療に直接関係する学問だけでなく、社会学、倫理学などの学問との結びつきを通して、個人並びに集団の健康を学際的な保健学の領域における教育・研究を通して、その成果を社会に還元し、人々の健康支援を行い、積極的に疾病の予防を推進することにより、人類の健康と福祉に貢献する。

（出典：医学系研究科ホームページ「研究科概要・設置の理念」）

#### 資料医院2 信州大学大学院医学系研究科規程

##### (目的)

第1条の2 研究科の各専攻の目的は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 医科学専攻は、心とからだを結ぶヒューマンサイエンスを機軸にした新しいネットワークをつくり多彩な人材を養成することにより、社会への総合的な貢献を図ることを目的とする。
- (2) 医学系専攻は、人類の福祉と医学の発展をたえず視点におき、医科学の真理の深奥を究め、基礎・臨床医学の枠を超えた医学研究を行い、世界を先導するような創造的研究・トランスレーショナルリサーチを実施する医学研究者、移植医療、再生医療、遺伝子医療など先端医療を科学的基盤に基づいて実践する医学研究者及び高度医療職業人を育成することを目的とする。
- (3) 疾患予防医科学系専攻は、ヒト生命の本質を把握すべく遺伝子（ゲノム）レベルから個体、社会レベルまで総合的解析を行い、ヒトの基礎的生命現象と疾病機序の理解に基づいて、疾病予防及び制御と健康づくりを目指す包括的予防医科学領域を開拓することを目的とする。
- (4) 保健学専攻（博士前期課程）は、高い倫理観と豊かな人間性を有し、高度な専門知識・技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力、国際的な視野を持つ高度専門保健医療職者を育成することを基本理念とし、精神的・身体的・社会的な側面から人間を全人的な存在としてとらえ、保健・医療・福祉に関する教育及び研究の成果を社会に還元することにより、健康保持と疾病や障害の予防・治療・医療安全に広く貢献し、人類の幸福と福祉の向上に寄与する保健学を構築することを目的とする。

する。

(5) 保健学専攻(博士後期課程)は、博士前期課程等における教育及び研究を通して養われた知識や技術による高度の専門能力を更に高め、創造的な研究能力を有する教育者、研究者及び高度専門保健医療職者を養成することを目的とする。

(出典：信州大学大学院医学系研究科規程)

(2) 三つの方針(DP、CP、AP)

本研究科は、学位授与の方針(以下「DP」)と入学者受入の方針(以下「AP」)を定め、信州大学が定めた教育課程編成・実施の方針(以下「CP」)に準じて教育を行っている(資料医院3～5)。

資料医院3 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

信州大学大学院学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

信州大学大学院では、俯瞰力と独創力を備え、持続可能な価値社会を創造する質の高い高度専門職業人や、先端的研究を推進する人材を養成するために、以下のように各課程の学位授与方針を定める。

- ・修士課程にあっては、広い視野に立って精深な学識を持ち、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を修得している。
- ・博士課程にあっては、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するのに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を修得している。
- ・専門職学位課程にあっては、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を修得している。

信州大学大学院医学系研究科学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

信州大学大学院医学系研究科の各課程を修了し、次に該当する者に学位を授与する。

1. 医学系諸科学における学識と情報収集能力・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの分野における諸課題を解決できる。
2. 自らの得た成果を世界に向けて発表するグローバルな情報発信能力を有するとともに、国際的な諸課題に積極的に取り組むことができる。
3. 医学、保健学および関連諸科学の研究に対する理解に基づいた高度な倫理性を持ち、科学的基盤に基づいて医療、医学研究もしくは教育を実践できる。

医科学専攻修士課程学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

信州大学大学院医学系研究科医科学専攻の修士課程を修了し、次に該当する者に修士(医科学)の学位を授与する。

1. 基礎医学および臨床医学に対する基本的知識、技能および技術を修得し、自主的に検討することができる。
2. 豊かな人間性とコミュニケーション能力を身につけ、国内外に自らの成果を発信できる。
3. 生涯にわたって課題を探究し、自らの能力・専門性を高めることができる。
4. 幅広い知識を基盤とし、最新情報を収集・分析することにより、社会のニーズに適応した行動をとることができる。

(出典：医学系研究科ホームページ「研究科概要・ディプロマポリシー」)

医学系専攻学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

信州大学大学院医学系研究科医学系専攻の博士課程を修了し、次に該当する者に博士(医学)の学位を授与する。

1. 基礎・臨床医学における深い学識と高度な情報収集能力・分析能力および研究技術を備えている。
2. その学識・能力・技術を基盤に、自ら課題を見出し、それを解決・展開できる。

3. その成果を、欧文論文として発表するグローバルな情報発信能力を有する。
4. 科学的基盤に基づいて先端医療を理解または実践することができる。
5. 医学研究に対する深い理解に基づいた高度な倫理性を身につけている。
6. 医学研究を通して人類の繁栄と福祉に貢献することができる。

#### 疾患予防医科学系専攻学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

信州大学大学院医学系研究科疾患予防医科学系専攻の博士課程を修了し、次に該当する者に博士（医学）の学位を授与する。

1. ヒト発生・発達・老化などの基礎的生命現象および諸疾病の先端的知見を理解し基礎研究を遂行する能力、学力、技術等々を有する。
2. 新規予防あるいは疾病治療の創出と、研究成果を医療そして社会へ還元する能力、学力、技術等々を有する。
3. 健康推進事業や健康科学啓発をする能力、学力、技術等々を有する。
4. 予防医療・疾病治療あるいは基礎生命科学分野で必要とされる情報収集・分析能力を有する。
5. 予防医療・疾病治療あるいは基礎生命科学分野での研究成果を発信できるグローバルな情報発信能力を有する。

#### 保健学専攻学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

信州大学大学院医学系研究科保健学専攻の博士前期課程を修了し、次に該当するものに修士（看護学もしくは保健学）の学位を授与する。

1. 高い倫理観と専門的知識や技術、科学的根拠に基づく臨床問題解決能力などの高度な実践能力を有する。
2. 保健・医療・福祉の現場において独創的な観点で研究を推進する能力を有する。
3. 国際的な諸問題に積極的に取り組み、共同研究や活動に参画できる能力を有する。
4. 地域保健・医療・福祉の実践現場で他の分野と連携して新たな保健医療改革に貢献できる能力を有する。

信州大学大学院医学系研究科保健学専攻の博士後期課程を修了し、次に該当するものに博士（保健学）の学位を授与する。

1. 保健学の学問体系の確立と発展に寄与し、学際的研究を積極的に推進することにより、世界に向けてその成果を発信できる。
2. 保健・医療・福祉の分野の教育を行う大学あるいは大学院において教育・研究指導に貢献できる。
3. 保健・医療・福祉の現場において、高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、指導的・専門的立場から課題を見つけ、自立的な研究を行うことができる。
4. 保健医療職者に対して、根拠に基づく実践（Evidence-based Practice）の概念に則ったエビデンスを構築するための質の高い臨床研究方法を指導できる。

（出典：医学系研究科ホームページ「研究科概要・ディプロマポリシー」）

#### 資料医院4 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

##### 信州大学大学院教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

##### 大学院課程における教育課程編成の方針

1. 信州大学大学院は、研究科及び専攻の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設するとともに、研究指導の計画を策定し、体系的に教育課程を編成します。
2. 信州大学大学院は、教育課程の編成に当たっては、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう適切に配慮します。

## 大学院課程における教育課程実施の方針

1. 信州大学大学院は、専門性の一層の向上を図り幅広い学識を涵養するため、コースワークを充実させ、コースワークから研究指導へ有機的につながる体系的な教育を行います。また、各研究科の「学位授与の方針」に定めた、修了時までには修得すべき知識・能力等がカリキュラム体系のなかでどのように養成されるのかを示すため、シラバスで「学位授与の方針」で定められた知識・能力等との対応を示し、それら諸能力等を修得するプロセスを履修プロセス概念図で示します。
2. 信州大学大学院は、学生個々人の主体的で活発な勉学意欲を促進する立場から、授業時間外の多様な学修研究機会を通じ、諸課題に積極的に挑戦させます。
3. 信州大学大学院は、成績評価の公正さと透明性を確保するため、成績の評定は、各科目に掲げられた授業の狙い・目標に向けた到達度をめやすとして採点します。
4. 信州大学大学院は、修士課程及び博士課程の学位論文審査体制を充実させ、厳格な審査を行います。

(出典：信州大学ホームページ「教育課程編成・実施の方針」)

## 資料医院 5 入学者受入の方針 (アドミッション・ポリシー)

## 信州大学大学院入学者受入方針 (アドミッション・ポリシー)

## 求める学生像

信州の悠久の歴史と文化、豊かな自然環境のもと、地域に根ざし世界に開かれた信州大学大学院は、総合大学の特色を生かし、国の活力を高める次世代を担う卓越した人材や世界的な視点で新たな価値を創造する質の高いグローバルな高度専門職業人の養成を目指しています。そのため、以下のような能力や意欲を備えた人たちを積極的に受け入れます。

- ・幅広い教養と専攻する分野の専門知識を持ち、さらに高度な専門的知識・専門応用能力を修得したい人
- ・知的好奇心が旺盛で、専門的課題や地域社会の抱える課題に主体的に取り組む人
- ・深い知性、論理的な思考力、豊かな人間性を備え、様々な分野でリーダーシップを発揮し、活躍したい人
- ・社会・環境・国際問題に関心をもち、創造力を活かし、グローバルに活躍したい人
- ・職業経験から獲得した知識・技能を高度化、深化させたい人

## 入学者選抜の基本方針

信州大学の教育の理念・目標に則り、各研究科の特性に応じた公正かつ適切な方法で入試を実施し、大学院教育を受けるにふさわしい能力・適性等を多面的・総合的に評価します。

(出典：信州大学ホームページ「信州大学大学院入学者受入方針」)

## 医科学専攻 (修士課程)

医科学専攻では、本専攻の目的を達成するために、

1. 21世紀の医学を支える研究者
2. 高度の専門性を有する医療職業人
3. 医療・福祉・介護・看護分野の行政官
4. 健康教育を担う教育者

を目指し、それにふさわしい情熱と基礎学力を持つ人

を求めています。

## 保健学専攻 (博士前期課程) 【2年制】

保健学専攻 (博士前期課程) では、本専攻の目的を達成するために、

1. 高い倫理観と豊かな人間性を有し、人類の幸福と福祉の向上に熱意ある人
2. 科学的思考による問題解決能力を有し、国際的視野でものごとを考えることが出来る人
3. 高度専門職業人として、地域社会の保健医療に貢献する意欲のある人
4. 保健・医療・福祉において、指導的役割を担う意欲のある人
5. 将来の保健学における教育者・研究者を志望する基礎学力と熱意のある人

を求めています。

**医学系専攻（博士課程）**

医学系専攻では、本専攻の目的の下に、

1. 医学の基礎的あるいは臨床的研究に情熱をもって取り組む人
2. 世界をリードする最先端の研究を目指す意欲をもっている人
3. 医学研究のための広汎で高い基礎学力、見識を身につけた社会人を求めています。

**疾患予防医科学系専攻（博士課程）**

疾患予防医科学系専攻では、本専攻の目的の下に、

1. ヒトの発生・発達・老化などの基礎的生命現象に基づいた諸疾患の病態と予防について先端的知見、俯瞰的理解とそれらの応用に興味を有する人
2. 基礎生命科学・疾患病態学・予防医科学分野の研究を遂行するための情報収集・分析能力と実験技術を習得する意欲と基礎力を有し、研究成果のグローバルな発信に興味を有する人を求めています。

**保健学専攻（博士後期課程）【3年制】**

保健学専攻（博士後期課程）では、本専攻の目的を達成するために、

1. 保健学の領域において、科学的・倫理的な思考に基づいて独創的かつ実践的な研究を遂行することに意欲のある人
2. 保健・医療・福祉の分野の教育を行う大学あるいは大学院における教育・研究指導に意欲のある人
3. 保健・医療・福祉の現場において、高い倫理感と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、指導的・専門的立場から課題を見つけ、自立的な研究を行うことに意欲のある人
4. 保健医療職者に対して、根拠に基づく実践（Evidence-based Practice）の概念に則ったエビデンスを構築するための質の高い臨床研究方法に関する指導を実践することに意欲のある人を求めています。

（出典：医学系研究科ホームページ「研究科概要・アドミッションポリシー」）

2 組織の特徴や特色

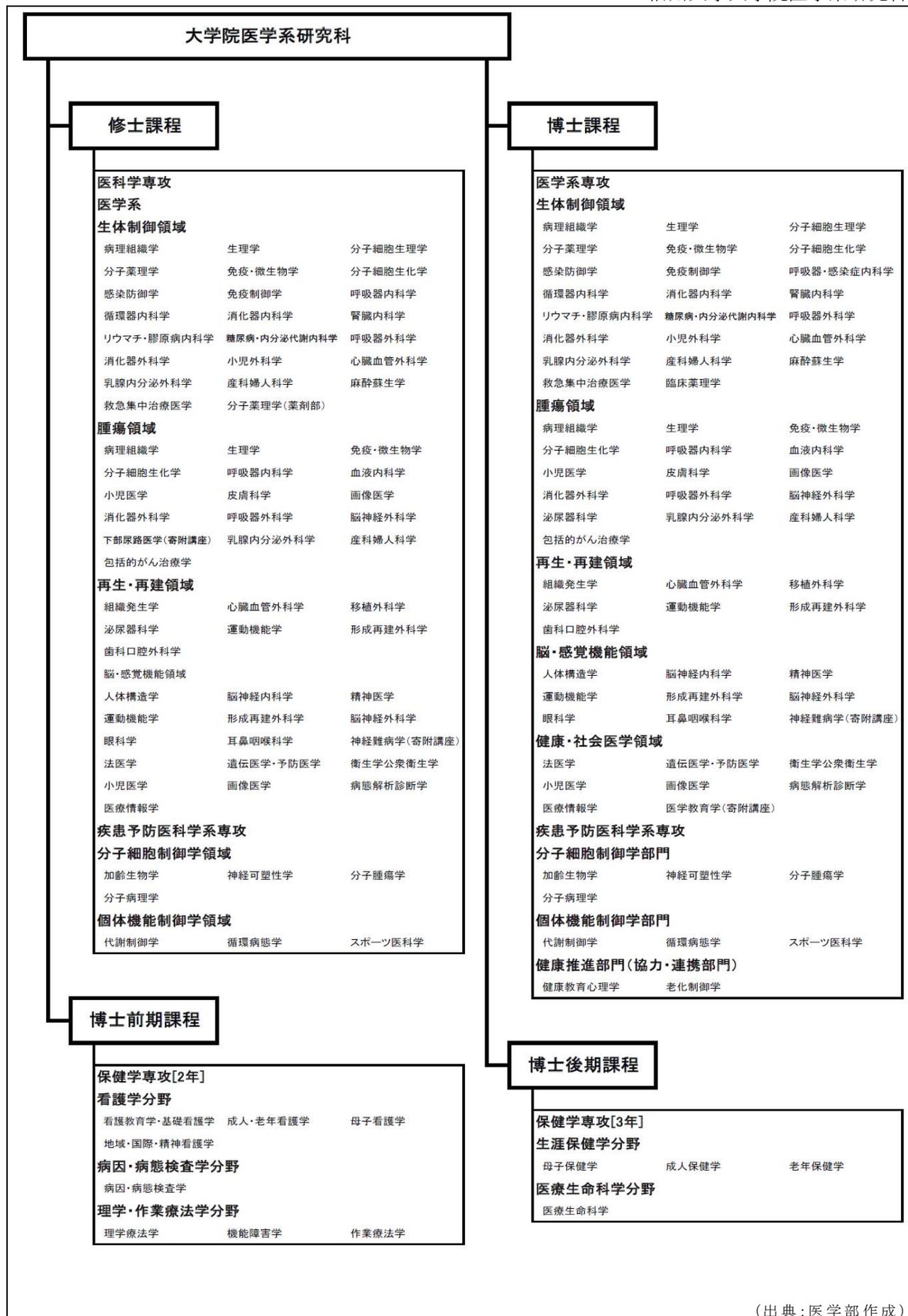
(1) 組織の概要

豊かな自然と我国有数の健康長寿を特徴とする長野県唯一の総合大学医学系大学院であり、修士課程、博士課程で構成されている（資料医院6）。

資料医院6 医学系研究科の構成

課程	専攻	
修士課程	医科学専攻	医学系、疾患予防医科学系
博士前期課程	保健学専攻	看護学分野、検査技術科学分野、理学・作業療法学分野
博士課程	医学系専攻	生体制御領域、腫瘍領域、再生・再建領域、脳・感覚機能領域、健康・社会医学領域
	疾患予防医科学系専攻	
博士後期課程	保健学専攻	生涯保健学分野、医療生命科学分野

（出典：信州大学大学院医学系研究科規程別表第1）



(出典:医学部作成)

各専攻の概要は資料医院7のとおりである。

#### 資料医院7 各専攻の概要

##### 医科学専攻【修士課程】

本課程はヒューマンサイエンスに裏付けられた、高度に専門化した知識と技術が融合した医科学分野の研究・教育者並びに高度医療職業人を養成することを目的としています。

本課程には様々な学部を卒業された方々が入学してきます。それらの方々の各専門分野の知識、技術を基盤として医学の基礎、臨床分野の知識や技術を組み合わせることにより、これからの医学/医療の発展、新たな領域への展開、新規医療機器開発や産業の育成にリーダーシップを発揮できるような研究者、博士課程の進学も含めて高度医療専門家の育成に務めています。

こうした教育理念のもと、基礎医学、臨床医学について、社会に広く貢献できる可能性を秘めた研究を展開しています。

##### 保健学専攻【博士前期課程】

本課程は、科学的根拠に基づいた保健・医療・福祉分野の専門的知識・技術の確立と、高い倫理観のもとにこれらを提供できる高度専門保健医療職者の育成を目指して、3つの分野で構成されています。

1. 看護学分野：看護教育、母子看護、地域・在宅看護、国際看護の教育研究が行われ、看護理論の追求と看護実践ができる人材を育成します。さらに母子看護、在宅看護では専門看護師（CNS）の養成コースが開設されています。
2. 検査技術科学分野：分子レベルから臓器レベルまでの高度な知識と技術をもとに、生体や生体を取り巻く環境に由来する病因病態の新たな検査技術、医療機器、医薬品の開発にも役立つ教育研究が進んでいます。
3. 理学・作業療法学分野：理学療法、作業療法領域及び両者の基盤となる機能障害領域で基礎から臨床にわたる教育・研究が行われています。また各分野で国際的に活躍できる人材の育成も目指しています。

##### 医学系専攻【博士課程】

本専攻は、1) 国際的な視野に立ち、自ら独創性の高い医科学研究を遂行、指導できる教育・研究指導者を養成すること、並びに、2) 高度な医科学を修め、優れた臨床診療能力と研究能力を兼ね備えた地域医療リーダーを養成することを目的とします。本専攻では、この目的を達成するために、本専攻に備わる基礎医学的・臨床医学的教育資源を存分に活用し、multidisciplinaryな研究を推進します。また本専攻は、広汎な医学領域全般で、高度な創造的研究のみならず、医科学を疾患の予防・診断・治療に応用するトランスレーショナルリサーチも推進します。

##### 疾患予防医科学系専攻【博士課程】

高齢社会における包括的予防・医療の充実と進展は時代の要請であり、包括的で広範な学問領域の研究を行います。研究目標は「分子細胞機能やヒト高次機能の可塑性、すなわち、先天的形質の後天的制御によって、健康を増進させる為の遺伝子・環境要因を解明する事」であります。分子レベルでは核酸から蛋白質、脂質、糖鎖、病態面では加齢病態、脳神経病態、腫瘍、肝臓などの代謝系、循環呼吸器系、消化器病態、骨筋肉系病態を対象とします。また、スポーツ医科学を中心とする予防医学実践チームを軸とし、熟年体育大学、先端予防医療センターとの連携プロジェクトが推進されます。

具体的には、分子細胞制御学、個体機能制御学、そして健康促進学部門（長寿医療研究センター；信州大教育学部による連携・協力）のそれぞれが、種々の疾患（アミロイドーシス、神経疾患、腫瘍、糖尿病、メタボリックシンドローム、内分泌疾患、肥満、認知症、骨代謝病、循環障害等）に対して分子・個体レベルでの理解を深め、治療の開発を目指します。特に、スポーツ医科学分野による運動処方での研究で、新規予防処方箋の創出とQOLの増進を追及します。また、連携・協力部門では老化制御や教育心理の研究で“高齢者医療とからだ”と“こころ”の健康を俯瞰的視野を持って追求します。

##### 保健学専攻【博士後期課程】

本課程では、人々の健康の維持・増進、疾病・障害の予防について、人の出生から老年期に至るまでのライフステージに対応した保健学研究を展開することによって、人の生涯にわたる保健を支援することを目的とした生涯保健学としての学問・研究基盤の確立を目指しています。

本課程は生涯保健学分野（3領域）と医療生命科学分野（1領域）の2分野4領域で構成されており、これらが共通目標を掲げて連携・協働することにより、保健学研究の発展を目指すことを特徴としています。

（出典：医学系研究科ホームページ「研究科概要・研究内容の概要」）

(2) 附属施設 (資料医院 8)

資料医院 8 医学系研究科の教育に活用する附属施設一覧	
(大学の施設)	所在地
医学部附属病院	松本キャンパス内
信州地域技術メディカル展開センター	松本キャンパス内
信州大学ヒト環境科学研究支援センター(H28.4 基盤研究支援センターに改組)	松本キャンパス内
信州大学先鋭領域融合研究群バイオメディカル研究所 (学部・病院内センター)	松本キャンパス内
医学部図書館	松本キャンパス内
臨床研究推進センター	松本キャンパス内
小児環境保健疫学研究センター	松本キャンパス内
地域保健推進センター	松本キャンパス内
信州医学会	松本キャンパス内

(出典：大学概要抜粋)

(3) 他大学、研究機関等との連携協定 (資料医院 9)

資料医院 9 医学系研究科の教育に関する連携協定一覧		
(国内大学との協定)		
連携大学	締結主体	
早稲田大学大学院スポーツ科学研究科	医学系研究科	
関西大学人間健康学部	医学系研究科	
東京医科歯科大学、福島県立医科大学、北里大学、上智大学、 沖縄科学技術大学院大学、全国医学部長病院長会議、 社団法人日本医師会日本医学会、独立行政法人宇宙航空研究開発 機構、全国遺伝子医療部門連絡会議	医学系研究科	
(海外大学との協定)		
国	連携大学等	締結主体
インドネシア	ディポネゴロ大学医学部、 ウダヤナ大学医学部	医学部
中国	青海大学医学部、河北医科大学、 蘇州大学医学部	医学部
シンガポール	シンガポールヘルスサービス	医学部
タイ	マヒドン大学ラマティボディ病院医学部、 コンケン大学医学部	医学部
ドイツ	ライプツィヒ大学医学部	医学部
ブラジル	ロドリーナ州立大学医学部	医学部
(自治体、研究機関、その他)		
連携機関	締結主体	
国立長寿医療研究センター	大学	
JA 長野県グループ	バイオメディカル 研究所・医学部・ 医学部附属病院	
長野県	医学部附属病院	

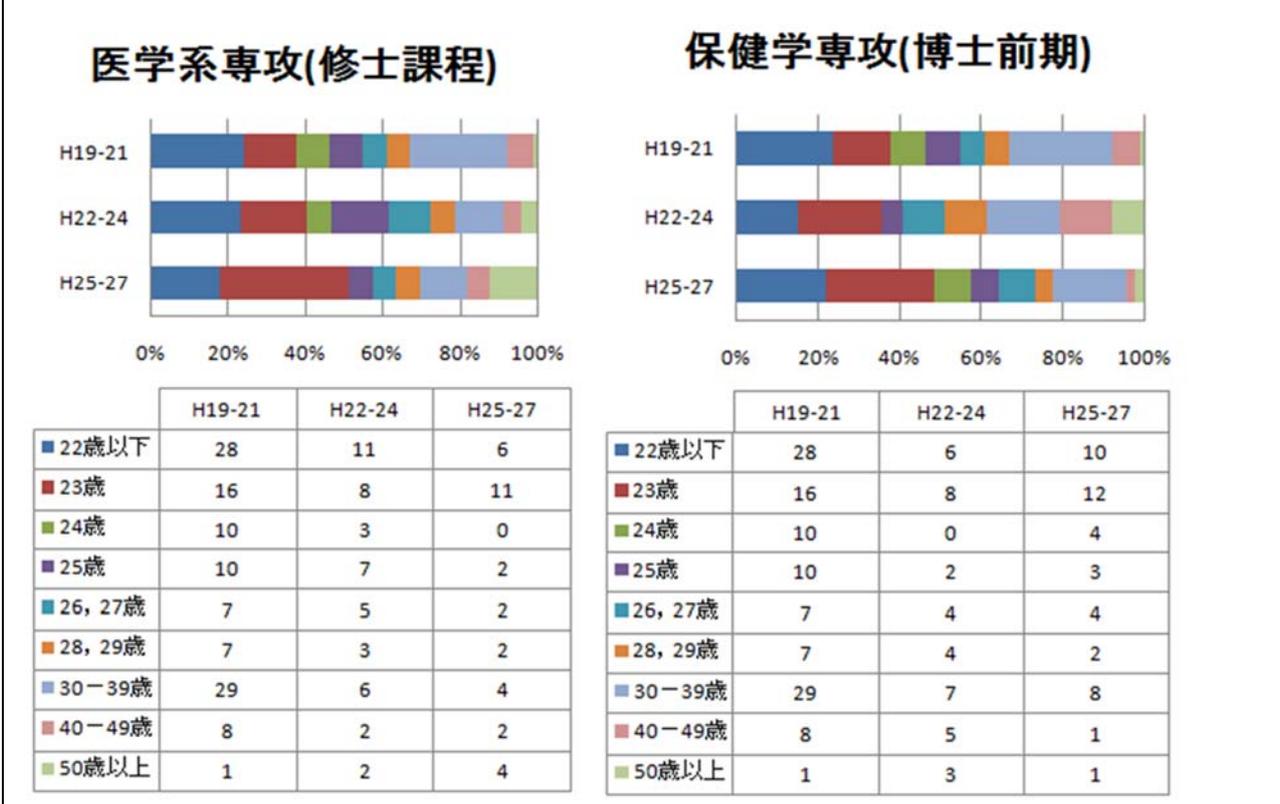
長野県、国立病院機構長野病院、上田地域広域連合、上田市・東御市、長和町・青木村・坂城町	医学部附属病院
国立病院機構長野病院	医学部附属病院
長野県、伊那中央病院、昭和伊南総合病院、辰野総合病院、上伊那広域連合、伊那中央行政組合、伊南行政組合、辰野町	医学部附属病院
松川村	医学部附属病院
ナカシマメディカル（株）	医学部
塩尻市・塩筑医師会・塩筑歯科医師会	医学部
上田地域広域連合・上田市・東御市・青木村・長和町・坂城町・独立行政法人国立病院機構信州上田医療センター	医学部附属病院
鹿教湯三才山リハビリテーションセンター鹿教湯病院・三才山病院	医学部附属病院
諏訪赤十字病院	医学部附属病院
松本市中央図書館	医学部附属病院
（医社）敬人会桔梗ヶ原病院	医学部附属病院
市立大町総合病院	医学部附属病院
長野県立こども病院	医学部附属病院
（医）抱生会丸の内病院	医学部附属病院

（出典：大学概要抜粋、信州大学ホームページ「連携協定」）

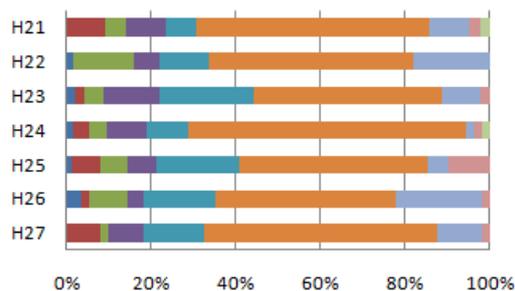
### 3 入学者の状況

入学者の状況は、以下のとおりである（資料医院10～12）。

資料医院10 入学者（年齢別）

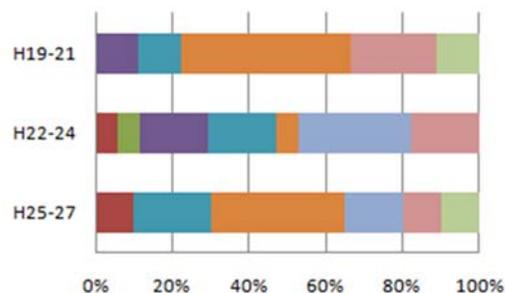


### 医科学専攻(博士課程)



	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
■ 24歳以下	0	1	1	1	1	2	0
■ 25歳	4	0	1	2	4	1	4
■ 26歳	2	7	2	2	4	5	1
■ 27歳	4	3	6	5	4	2	4
■ 28, 29歳	3	6	10	5	12	9	7
■ 30-34歳	23	24	20	34	27	23	27
■ 35-39歳	4	9	4	1	3	11	5
■ 40-49歳	1	0	1	1	6	1	1
■ 50歳以上	1	0	0	1	0	0	0

### 保健学専攻(博士後期)

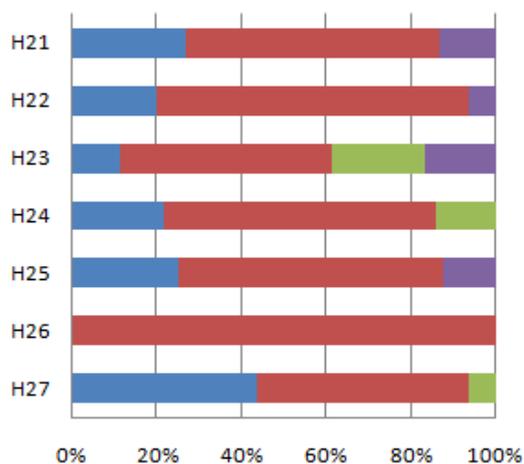


	H19-21	H22-24	H25-27
■ 22歳以下	0	0	0
■ 23歳	0	1	2
■ 24歳	0	1	0
■ 25歳	1	3	0
■ 26, 27歳	1	3	4
■ 28, 29歳	4	1	7
■ 30-39歳	0	5	3
■ 40-49歳	2	3	2
■ 50歳以上	1	0	2

(出典: 学校基本調査のデータを元に経営企画課作成)

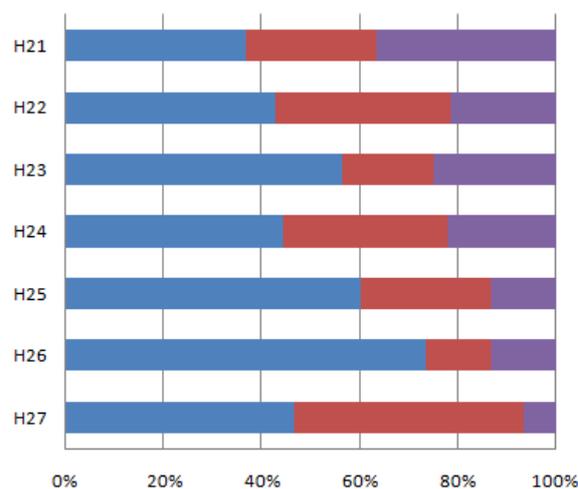
資料医院11 入学者 (出身学校種別)

### 医学系専攻(修士課程) 入学者の内訳(出身学校別)

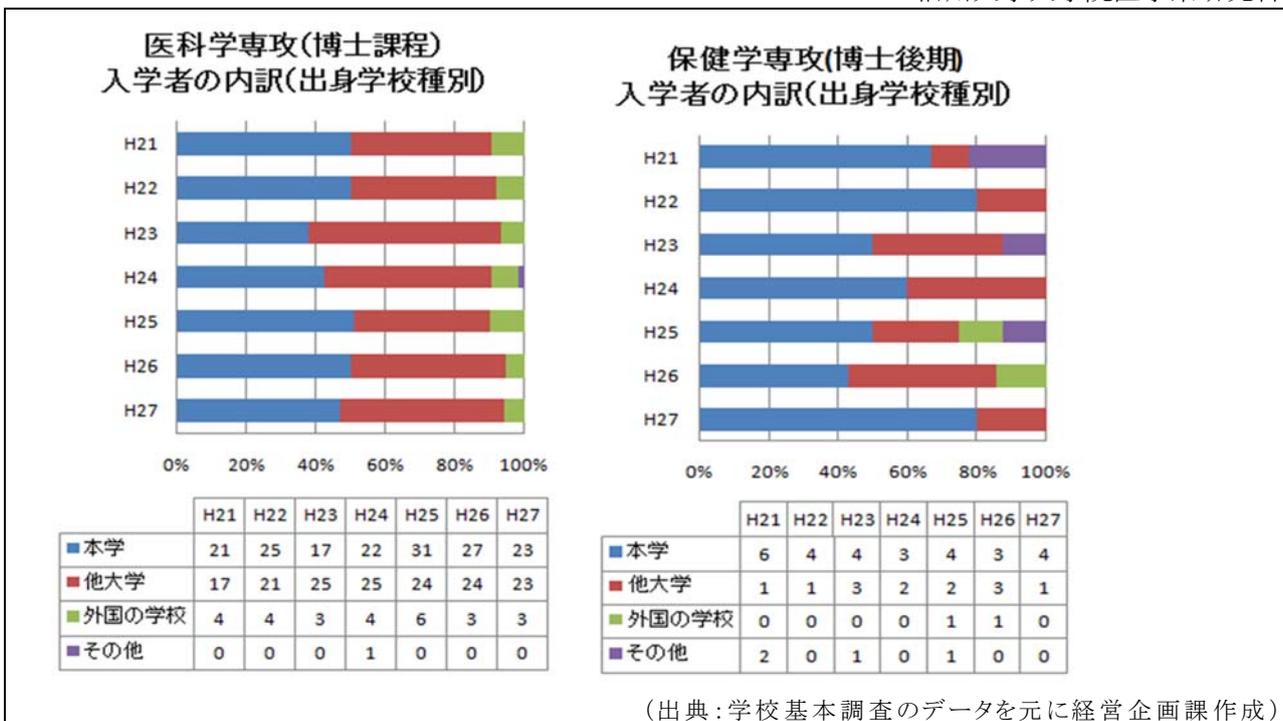


	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
■ 本学	4	3	2	3	2	0	7
■ 他大学	9	11	9	9	5	9	8
■ 外国の学校	0	0	4	2	0	0	1
■ その他	2	1	3	0	1	0	0

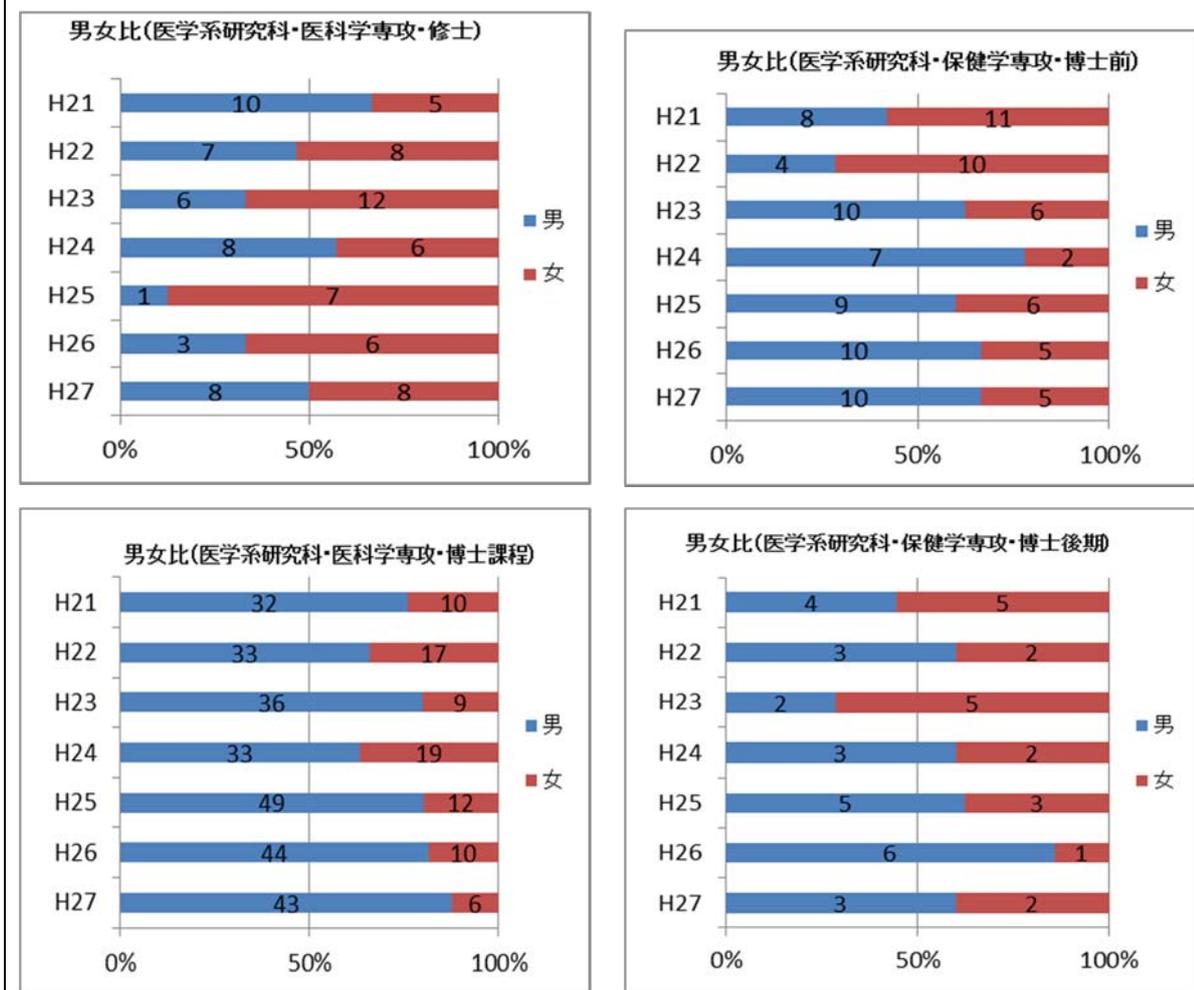
### 保健学専攻(博士前期) 入学者の内訳(出身学校別)



	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
■ 本学	7	6	9	4	9	11	7
■ 他大学	5	5	3	3	4	2	7
■ 外国の学校	0	0	0	0	0	0	0
■ その他	7	3	4	2	2	2	1



資料医院12 入学者 (男女比)



○入学者選抜方法等

入学者選抜は以下のとおり行っており、博士課程では秋季入学（10月）を実施している（資料医院13、14）。

専攻	入学定員 (募集人員)	試験科目		
		小論文	外国語（英語）	面接
医科学専攻（修士課程）	12	○	○	○
保健学専攻（博士前期課程）	14		○	○
医学系専攻（博士課程）	40		○	○
疾患予防医科学系専攻 （博士課程）	8		○	○
保健学専攻（博士後期課程）	4		○	○

（出典：学生募集要項を基に医学部作成）

専攻	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度
医学系専攻	0	0	0	2	1	1
疾患予防医科学系専攻			1	1	2	0
臓器移植細胞工学医科学系 専攻	1	0				
加齢適応医科学系専攻	1	1				

（出典：医学部作成）

4 想定する関係者とその期待

(1) 院生・修了者

○長野県唯一の医学系大学院教育・研究機関で修学することにより、医学系諸科学における学識と情報収集・分析能力、研究技術を備えており、共同もしくは単独で、それぞれの関連分野における諸課題を解決でき、地域医療に貢献し、国内外で活躍できる人材に育成されることが期待されている。

○教育、学位取得の方針が明瞭であり、明確な基準に基づいて、標準修業年限内に学位取得できることが期待されている。

○時代の要請に対応した組織や教育制度の改革及び、高い研究倫理観、リサーチマインドを持った医療人養成のための教育の実施体制の整備が期待されている。

(2) 医療機関

広い視野とリサーチマインドを持った医療人を育成し、各種医療機関へ供給することが期待されている。

(3) 研究機関

リサーチマインドを持った医師や医療従事者、創造的な研究能力を有する研究者、研究機関での研究を指導できる人材の育成が期待されている。

(4) 地域社会・国際社会

医療、保健行政の指導者となる医療人を地域社会へ輩出することが期待されている。グローバル化に対応した視野を持った医療人を国際社会へ輩出することが期待されている。

II 「教育の水準」の分析・判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育の実施体制

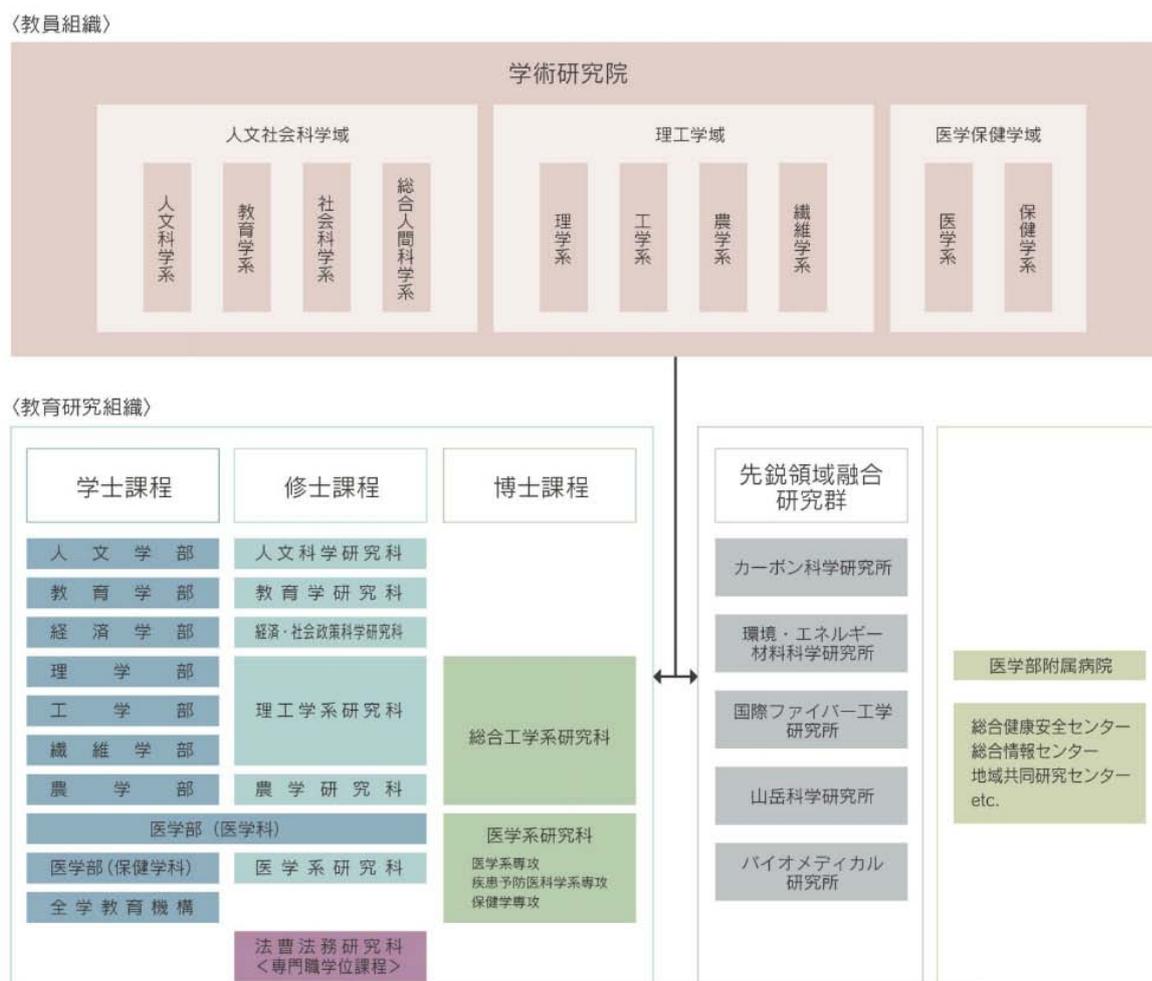
(観点に係る状況)

1 基本的組織の編成

○学術研究院、全学教育機構と学部

教員の流動性を確保し、全学的な教育、研究マネジメントを可能とするための教員組織として学術研究院を平成 26 年度より設置した (資料医院 15)。

資料医院 15 学術研究院と学部との関係



学術研究院は、3の学域・10の学系により構成する。すべての教員は、いずれかの学系に所属し、職務として次のいずれかに携わる。(複数の兼務もあり)

- 1) 学部・大学院、全学教育機構において、教育・研究に携わる。
- 2) 医学部附属病院において、診療・教育・研究に携わる。
- 3) 先鋭領域融合研究群において、研究に携わる。
- 4) 大型研究センター(拠点形成型の外部資金プロジェクト)において、研究に携わる。
- 5) 各教育研究(支援)センター等において、担当業務に携わる。

これにより、先鋭領域融合研究群の研究者への研究重点環境の提供や学部横断型の教育を実現し、研究の高度化や時代の要請に柔軟かつスピーディーに対応した教育を推進する。

(出典：大学概要、経営企画課修正)

2 教員の配置状況

研究指導教員及び研究指導補助教員を専攻毎に配置し、教育・研究分野を構成している（資料医院16、17）。

資料医院16 研究指導及び研究指導補助教員配置状況

専攻	医学系研究科				大学院設置基準			
	研究指導教員	うち教授数	研究指導補助教員	計	研究指導教員基準	うち教授数	研究指導補助教員基準	基準数計
医科学専攻（修士課程）	43	43	33	76	6	—	6	12
保健学専攻（博士前期課程）	34	26	11	45	6	4	6	12
医学系専攻（博士課程）	36	36	76	112	30	—	30	60
疾患予防医学系専攻（博士課程）	9	9	5	14				
保健学専攻（博士後期課程）	28	21	2	30	6	4	6	12

（出典：経営企画課にて作成）

資料医院17 修士課程と博士課程、博士前期課程と博士後期課程の教育・研究分野

修士課程		博士課程		
専攻	分野等	専攻	分野等	
医 科 学 専 攻	医 学 系	医 学 系 専 攻	生 体 制 御 領 域	病理組織学
				生理学
				分子細胞生理学
				分子薬理学
				免疫・微生物学
				分子細胞生化学
				感染防御学
				免疫制御学
				呼吸器内科学
				循環器内科学
				消化器内科学
				腎臓内科学
				リウマチ・膠原病内科学
				糖尿病・内分泌代謝内科学
				呼吸器外科学
				消化器外科学
				小児外科学
				心臓血管外科学
				乳腺内分泌外科学
産科婦人科学				
麻酔蘇生学				
救急集中治療医学				
分子薬理学（薬剤部）				

		病理組織学 生理学 免疫・微生物学 分子細胞生化学 呼吸器内科学 血液内科学 小児医学 皮膚科学 画像医学 消化器外科学 呼吸器外科学 脳神経外科学 下部尿路医学（寄附講座） 乳腺内分泌外科学 産科婦人科学 包括的がん治療学 組織発生学 心臓血管外科学 移植外科学 泌尿器科学 運動機能学 形成再建外科学 歯科口腔外科学 人体構造学 脳神経内科学 精神医学 運動機能学 形成再建外科学 脳神経外科学 眼科学 耳鼻咽喉科学 神経難病学（寄附講座） 法医学 遺伝医学・予防医学 衛生学公衆衛生学 小児医学 画像医学 病態解析診断学 医療情報学		腫瘍領域	病理組織学 生理学 免疫・微生物学 分子細胞生化学 呼吸器内科学 血液内科学 小児医学 皮膚科学 画像医学 消化器外科学 呼吸器外科学 脳神経外科学 泌尿器科学 乳腺内分泌外科学 産科婦人科学 包括的がん治療学
		再生・再建領域		組織発生学 心臓血管外科学 移植外科学 泌尿器科学 運動機能学 形成再建外科学 歯科口腔外科学	
		脳・感覚機能領域		人体構造学 脳神経内科学 精神医学 運動機能学 形成再建外科学 脳神経外科学 眼科学 耳鼻咽喉科学 神経難病学（寄附講座）	
		健康・社会医学領域		法医学 遺伝医学・予防医学 衛生学公衆衛生学 小児医学 画像医学 病態解析診断学 医療情報学 医学教育学（寄附講座）	
疾患予防医科学系	加齢生物学 神経可塑性学 分子腫瘍学 分子病理学 代謝制御学 循環病態学 スポーツ医科学	専攻 疾患予防医科学系		加齢生物学 神経可塑性学 分子腫瘍学 分子病理学 代謝制御学 循環病態学 スポーツ医科学 健康教育心理学 老化制御学	

博士前期課程			博士後期課程		
専攻	分野等		専攻	分野等	
保健学専攻	看護学	看護教育学・基礎看護学 成人・老年看護学 母子看護学 地域・国際・精神看護学	保健学専攻	生涯保健学	母子保健学 成人保健学 老年保健学

検査技術科学	病因・病態検査学		
理学・作業療法学	理学療法学 機能障害学 作業療法学	医療生命科学	医療生命科学

(出典：医学系研究科ホームページ「専攻案内」、医学系研究科入学案内2015)

### 3 教育課程の運営体制

研究科長の下に小委員会を設置し、定期的に教育・研究活動に関する審議を行っている(資料医院18、19)。

各組織が連携しながら教育を実施し、定常的にPDCAサイクルによる点検を行っている。

資料医院 18 信州大学大学院学則、信州大学大学院医学系研究科規程、信州大学大学院医学系研究科委員会規程

#### 信州大学大学院学則(抜粋)

(研究科長)

第9条 本大学院の各研究科(法曹法務研究科を除く。)に研究科長を置き、次のとおり、信州大学学術研究院の学系長をもって充てる。

(略)
医学系研究科長   医学系長
(略)

2 (略)

3 前項の研究科長の選考に関し必要な事項は、別に定める。

4 研究科長は、当該研究科に関する事項を掌理する。

(大学院研究科委員会)

第11条 各研究科に、教育課程の編成、学生の入学及び退学その他の当該研究科における重要事項(教員人事マネジメント、研究マネジメント及び予算決算に関する事項は除く。)を審議するため、大学院研究科委員会(法曹法務研究科にあつては、研究科教授会。以下「研究科委員会」という。)を置く。

2 研究科委員会に関し必要な事項は、別に定める。

#### 信州大学大学院医学系研究科規程(抜粋)

(研究科委員会)

第3条 研究科に、大学院学則第11条第1項の定めるところにより研究科長及び研究科に属する教授をもって構成する信州大学大学院医学系研究科委員会(以下「研究科委員会」という。)を置く。ただし、必要により研究科に属する准教授又は講師を加えることができる。

2 研究科委員会に関し必要な事項は、別に定める。

#### 信州大学大学院医学系研究科委員会規程(抜粋)

(審議事項)

第3条 委員会は、研究科に関する次の事項を審議する。

- (1) 学科課程に関すること。
- (2) 学生に関すること。
- (3) 学位論文の審査及び認定に関すること。
- (4) 試験に関すること。
- (5) その他研究科に関する重要な事項

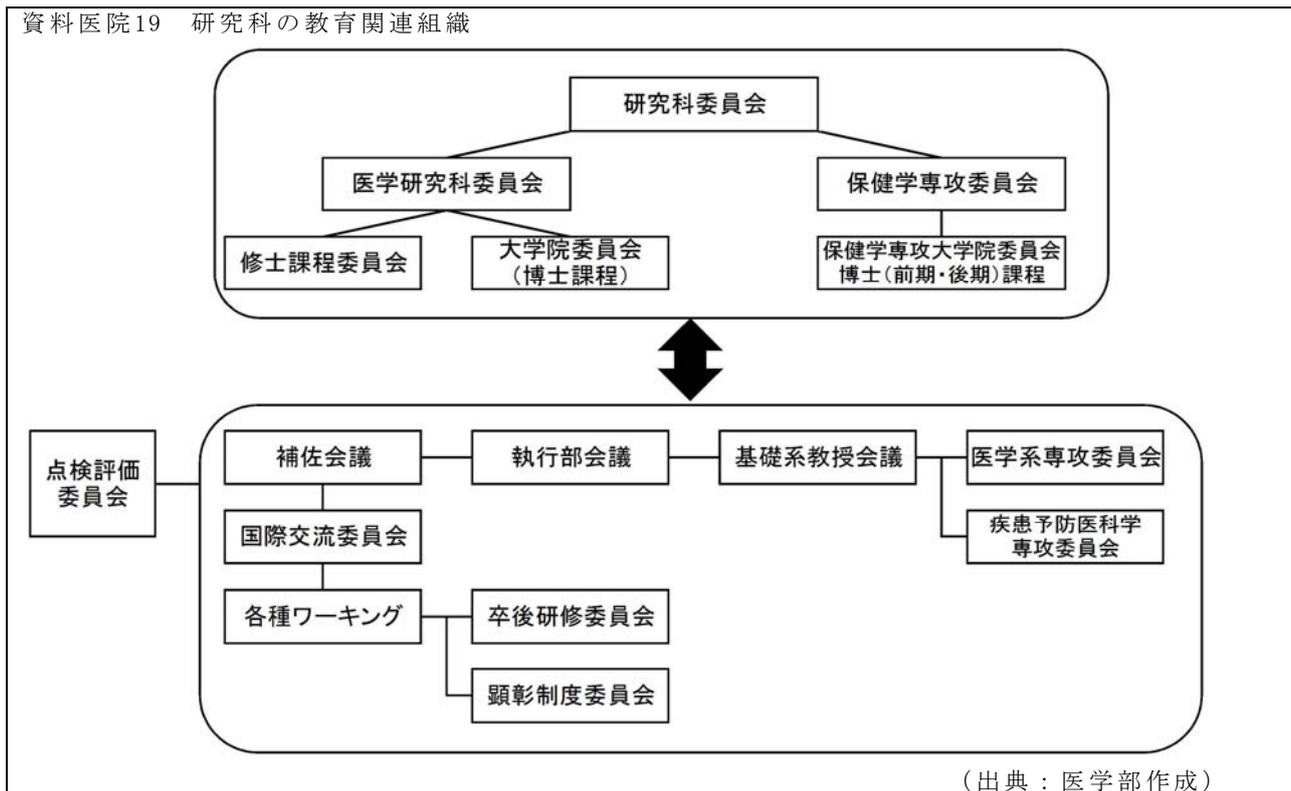
(小委員会)

第7条 委員会の円滑な運営を図るために、医科学専攻、医学系専攻及び疾患予防医科学系専攻に属する委員で組織する医学研究科委員会及び保健学専攻に属する委員で組織する保健学専攻委員会を置く。

2 委員会は、委員会が医学研究科委員会及び保健学専攻委員会に委任した事項について、医学研究科委員会及び保健学専攻委員会の議決をもって委員会の議決とすることができる。

3 医学研究科委員会及び保健学専攻委員会の組織及び運営等に関し必要な事項は、別に定める。

(出典：信州大学大学院学則、医学系研究科規程、医学系研究科委員会規程抜粋)



在学生、修了生、雇用主、地域等の社会のニーズを各委員会がアンケートや意見聴取などに基づいて把握に努めている（資料医院 20）。

資料医院 20 関係者のニーズ把握

対象	実施方法	実施組織	目的・利用方法
新入生	大学院教育に関する満足度調査	修士課程委員会	大学院教育・学習環境の改善
在学生	翌年度修了予定者進路アンケート	修士課程委員会	在学生の希望進路の把握、就職支援
修了生	修了後の進路について	修士課程委員会	修了生の進路状況・連絡先の把握
在学生	大学院教育に関する満足度調査	大学院委員会	大学院教育・学習環境の改善
修了生	博士課程修了者に関する満足度調査	大学院委員会	大学院教育・学習環境の改善
修了生	修了後/単位取得退学後の進路について	大学院委員会	修了生の進路状況・連絡先の把握
在学生	大学院教育に関する満足度調査（博士前期課程・博士後期課程）	保健学専攻大学院委員会	大学院教育・学習環境の改善
修了生	修了後の進路について	保健学専攻大学院委員会	修了生の進路状況・連絡先の把握
修了者	博士後期課程に関する調査	保健学専攻大学院委員会	大学院教育・学習環境の改善
雇用主等	博士後期課程に関する調査	保健学専攻大学院委員会	大学院教育・学習環境の改善

(出典：医学部作成)

4 第2期中期目標期間における改組等

① 医科学専攻（修士課程）

平成24年度から、よりきめ細やかな教育を徹底するため、入学定員を20人から12人に変更した。既存の健康指導コーディネーターコース、遺伝カウンセリングコースに加えて人工内耳コースを設置した（資料医院21）。

資料医院21 人工内耳コースの新設

## 人工内耳コースのカリキュラム

### (1) 人工内耳特論

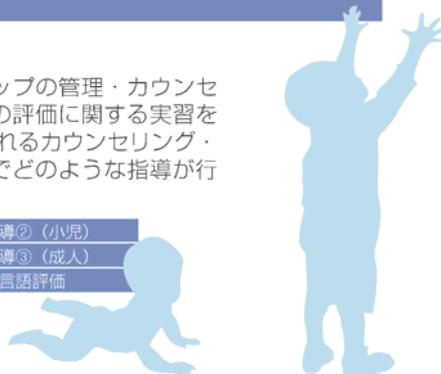
人工内耳装用に関する支援のためには、手術や聴力検査手法の原理、機器の管理といった医学面、言葉のトレーニング、言語発達評価などの教育面、人工内耳装用前後でのカウンセリングなどの心理的支援といった広範な専門知識が必要とされるため、人工内耳特論では、医療・教育の両面から必要な支援内容について学びます。

<b>Section 1 人工内耳の医療・療育的背景</b> ① 人工内耳開発の歴史・技術的発展 ② 聴覚障害児教育の方法論の変遷と小児人工内耳 ③ 小児人工内耳手術に関する倫理的問題 他	<b>Section 6 人工内耳装用児の言語獲得②</b> ① 親指導の目的と方策（遊び方・話しかけ方、他） ② 中期の聴能言語指導法（語彙の獲得、文章の獲得）
<b>Section 2 人工内耳医療</b> ① 人工内耳の原理（構造・機種他） ② 人工内耳手術の実際・小児人工内耳の適応基準	<b>Section 7 人工内耳装用児の言語獲得③</b> ① 後期の聴能言語指導法（会話・文字の理解）
<b>Section 3 早期発見・早期診断・早期補聴</b> ① 新生児聴覚スクリーニング（目的～関係機関との連携） ② 乳児・幼児の聴力検査の方法（ABR, OAE, VROA, BOA, COR） ③ 親への早期指導・カウンセリング支援	<b>Section 8 装用児の言語評価</b> ① 親子関係評価 ② 聴能言語評価
<b>Section 4 マッピングと条件付け</b> ① 音入れとマッピング（条件付けの方法） ② 初期の聴性行動の観察・評価	<b>Section 9 装用児の言語発達段階と社会心理的課題</b> ① 総合的言語力の獲得（聴く力・話す力・読む力・書く力） ② 人工内耳装用児と「9歳レベルの壁」 ③ 装用児の青年期の課題・情報保障
<b>Section 5 人工内耳装用児の言語獲得①</b> ① 難聴児の聴こえを通じた言語獲得の原理 ② 聴覚学習の段階（検知・弁別・同定・理解） ③ 初期の聴能言語指導法（聴覚—発語ループの獲得）	<b>Section10 人工内耳の今後</b> ① 人工内耳の可能性と限界 ② 今後の人工内耳装用の医療・リハビリ課題 ③ 遺伝子診断、脳機能検査、人工内耳の両耳装用 他

### (2) 人工内耳臨床実習

人工内耳臨床実習は、特論で学習した聴力検査・マップの管理・カウンセリング支援・(リ)ハビリテーション・言語発達等の評価に関する実習を行います。信州大学附属病院人工内耳センターで行われるカウンセリング・(リ)ハビリテーションに参加し、どのような方法でどのような指導が行われているのかについて学びます。

実習① 各種の聴力検査法の実習	実習⑤ 聴能言語指導②（小児）
実習② カウンセリング実習	実習⑥ 聴能言語指導③（成人）
実習③ マッピング実習・条件付け	実習⑦ 発達評価・言語評価
実習④ 聴覚言語指導①（幼児期）	



### (3) 海外研修

人工内耳装用者支援の先進国であるオーストラリア・アメリカなどの人工内耳専門の療育機関を訪問し、人工内耳機器、(リ)ハビリテーションに関する研修を行います。

### (4) 学会・研究会等への参加および発表

学会やセミナーは、人工内耳全般の基礎を学ぶと共に、さまざまな領域の現状を知る機会となり、多くの関係者との意見交換・情報交換の場となることから、多くの学会・研究会等の参加を勧めています。またこれらの学会等で発表することは、他者からの意見や助言により、さらに理解を深めることができるため積極的に奨励しています。

聴覚医学会、耳鼻咽喉科学会、耳科学会・・・

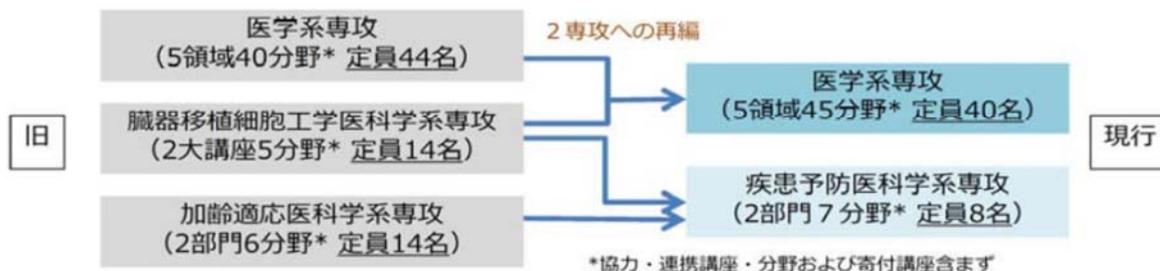
（出典：医学部作成）

② 医学系専攻、疾患予防医科学系専攻（博士課程）

平成24年度より、近未来のニーズに適合する医学教育・研究体制への転換を図るため、3専攻（医学系専攻、臓器移植細胞工学医科学系専攻、加齢適応医科学系専攻）から2専攻（医学系専攻、疾患予防医科学系専攻）に改組した（資料医院22）。

資料医院22 博士課程の改組

大学院（医学系および独立専攻）の再編（H24）



（出典：医学部作成）

修士課程：医科学専攻と保健学専攻（博士前期課程）の年度別の入学数は、資料医院23に示した。保健学専攻（博士前期課程）は、平成24年度を除いて定数を満たす院生が入学している。

博士課程：医学系専攻、疾患予防医科学系専攻を合わせた年度別入学者は平均24年度から上昇に転じ、充足率も高い状態で推移している。保健学専攻（博士後期課程）も定数を満たす院生が入学している（資料医院23）。

○各専攻の定員、入学者数の推移（資料医院23）

資料医院23 医学系研究科の入学者数

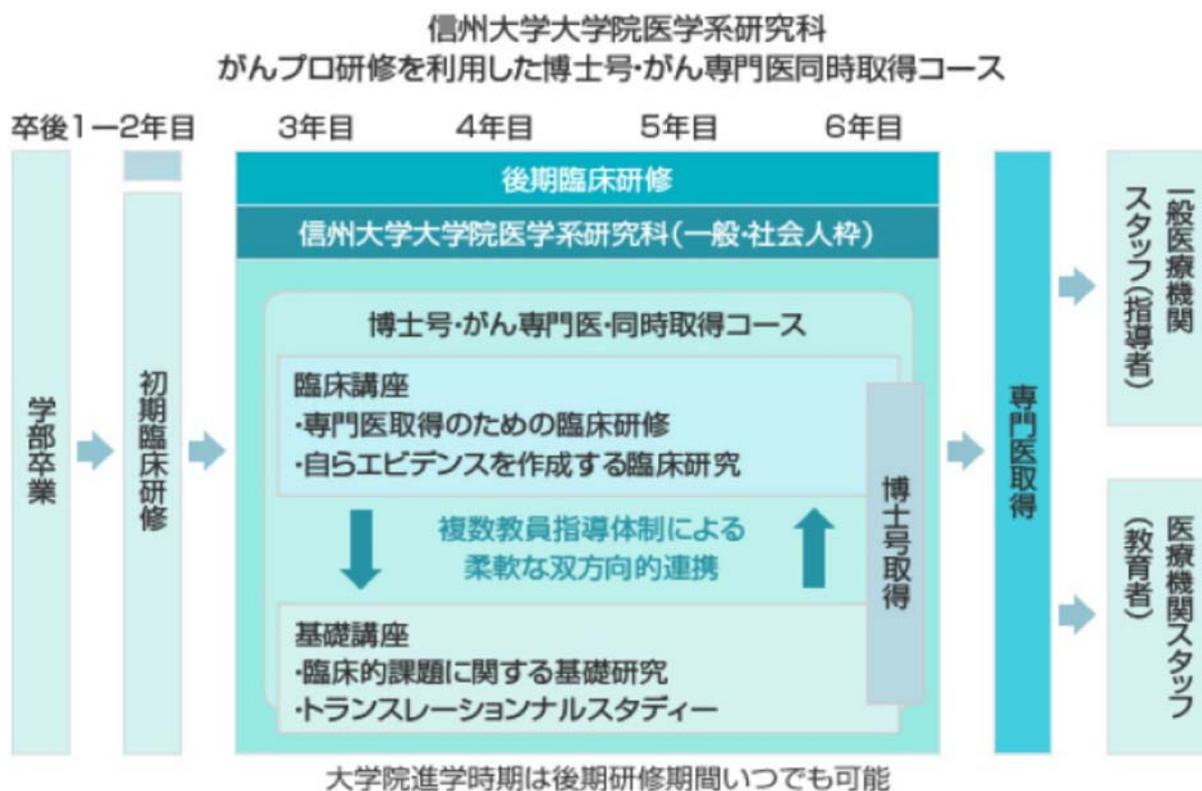
医学系研究科の入学者数等状況

年度		平成21年度			平成22年度			平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度			平成27年度		
		定員	入学者数	定員充足率																		
修士課程	医科学専攻	20	15	75.0	20	15	75.0	20	18	90.0	12	14	116.7	12	8	66.7	12	9	75.0	12	16	133.3
博士前期課程	保健学専攻	14	19	135.7	14	14	100.0	14	16	114.3	14	9	64.3	14	15	107.1	14	15	107.1	14	15	107.1
博士課程	医学系専攻	44	31	70.5	44	40	90.9	44	35	79.5	40	44	110.0	40	51	127.5	40	46	115.0	40	44	110.0
	臓器移植細胞工学 医科学系専攻	14	7	50.0	14	6	42.9	14	6	42.9												
	加齢適応医科学系専攻	14	5	35.7	14	6	42.9	14	5	35.7												
	疾患予防医科学系専攻										8	9	112.5	8	13	162.5	8	8	100.0	8	5	62.5
博士後期課程	保健学専攻	4	9	225.0	4	5	125.0	4	7	175.0	4	5	125.0	4	8	200.0	4	7	175.0	4	5	125.0

（出典：医学部作成）

平成24年度からは博士課程に進む院生が同時にがんに関する専門医の資格も取れる「がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン（以下「がんプロ」）」を設置した（資料医院24）。

資料医院24 がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン



がんプロ養成基盤推進プランにおける大学生の教育プラン  
(信州大学医学部医学研究科)

**基礎系コース**

基礎研究	包括的がん治療学講座(臨床研修)	自由選択
------	------------------	------

**臨床系コース**

臨床研修	包括的がん治療学講座(臨床研修)	自由選択
------	------------------	------

大学1院年目      2年目      3年目      4年目

本来所属する講座および研究テーマは直接的指導者との相談。  
3～4年目の臨床研修期間はおよび自由選択の時期について他の選択肢として  
本来所属する臨床系診療科での多がん種の臨床、放射線治療、緩和医療などを研修する

(出典：医学部作成)

③ e-MEDシステムによる大学院教育・研究への早期履修制度の導入

e-MEDは平成26年度より開始された大学院授業早期履修制度で、すでに7人（平成26年度5人、平成27年度2人）が履修を開始しており、リサーチマインドを持った医師をより多く養成することを目指している（資料医院25）。

資料医院25 e-MEDシステムによる大学院教育・研究への早期履修システム

**学部卒業後、臨床研修と博士課程を並行して履修**  
**(初期研修医の大学院入学制度 平成26年度より開始)**



**早期参加複数コース制プログラム:eMED**  
**(学部時代に大学院教育を開始 平成26年度より学部生履修開始)**

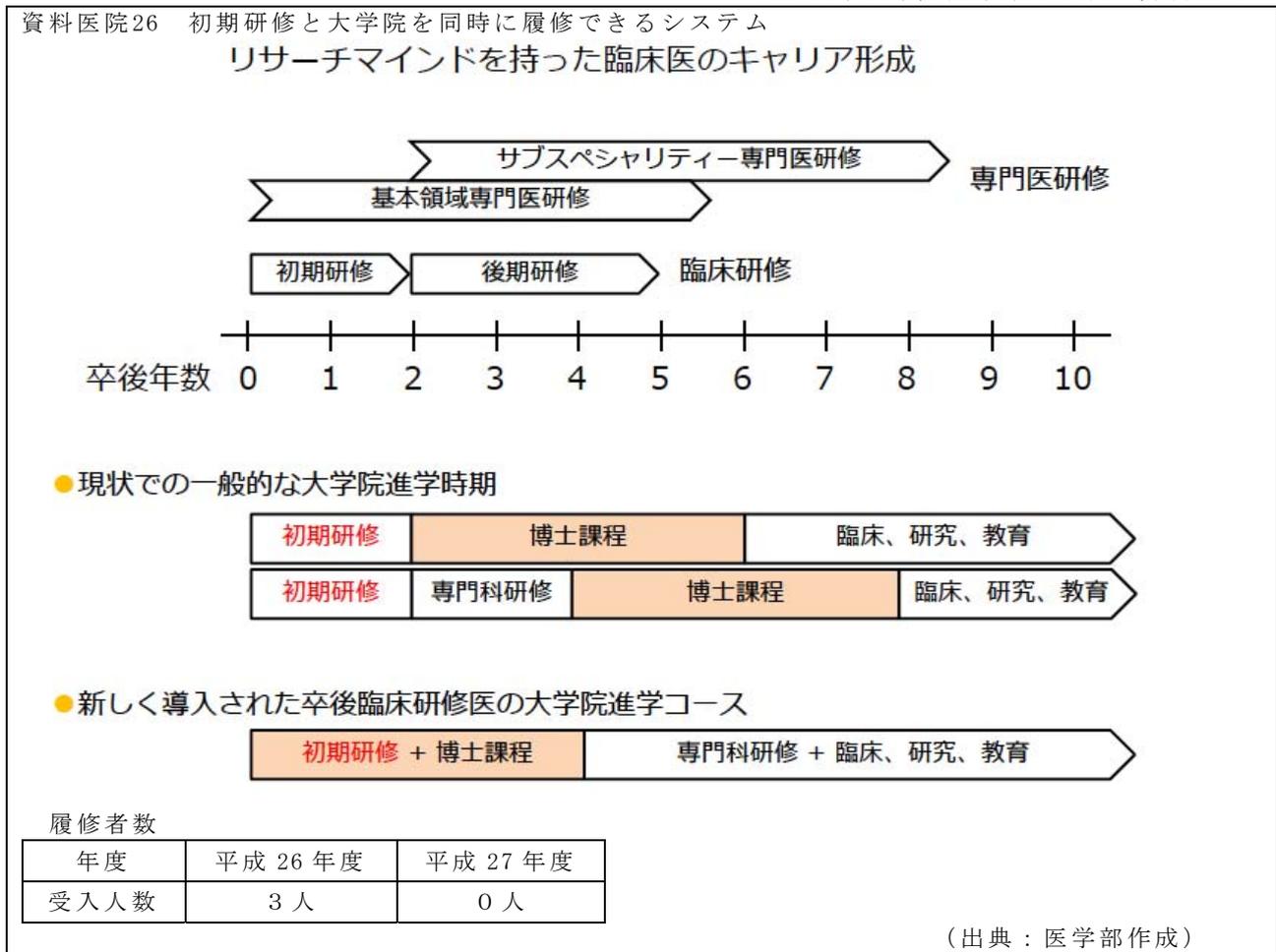


年度	平成 26 年度	平成 27 年度
e-MED 履修学生	5 人	2 人

(出典：医学部作成)

④ 初期臨床研修と大学院を同時に履修できる制度の導入

博士課程では、平成26年度から初期臨床研修と大学院を同時に履修できる制度を開始して院生の選択肢の増加を図っている。平成26年度には3人が入学した(資料医院26)。



⑤ 先鋭領域融合研究群バイオメディカル研究所設置に伴う教員の配置

平成 26 年 3 月より新たな融合研究領域を創造する「先鋭領域融合研究群」の 1 研究所として、「バイオメディカル研究所」が設置され、大学院教育は医学系研究科で行っている。

5 教育サポート体制

① 全学的な教育サポート体制

学務課、学生支援課、国際交流課を設置し、全学的な教育課程、課外活動、就職、留学に関する業務を行っている（資料医院 27、28）。この他に、全学的な教育活動を展開するために附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センター、e-Learning センターに専門的知識技能を有する職員を配置している（資料医院 29）。

② 医学系研究科のサポート体制

医学系研究科では新入生ガイダンスにて履修案の他にハラスメントの問題について啓発すると共に、職員 25 名を学生向け相談窓口配置した。また、医学部にイスラム圏からの留学生のための礼拝室を設置し、時間的、精神的なサポートを行った（資料医院 30）。

資料医院 27 国立大学法人信州大学業務執行組織規程

第 25 条 学務課においては、全学教育機構、高等教育研究センター、e-Learning センター、教員免許更新支援センター（教育学部の所掌に属するものを除く。以下この条において同じ。）及び学務部に関する次の業務をつかさどる。

- (1) 学務部内の事務に関し、連絡し、及び総合調整を行うこと。
- (2) 庶務及び会計に関すること。
- (3) 入学式その他学生の諸行事に関すること。

- (4) 学生関係職員の SD (スタッフ・デベロップメント) に係る企画・立案及びその実施に関すること。
  - (5) 全学 (本法人が設置する信州大学大学院 (以下「大学院」という。) を除く。) の教務に関すること。
  - (6) 学生の学籍その他の記録に関すること。
  - (7) 学位の授与に関すること。
  - (8) 教育課程 (大学院を除く。) に係る目標及び計画の連絡調整に関すること。
  - (9) 他の大学等との単位の互換 (大学院を除く。) に関すること。
  - (10) 全学の学務情報システムに関すること。
  - (11) 出前講座に関すること。
  - (12) 諸会議 (国立大学法人信州大学戦略企画会議規程 (平成 24 年国立大学法人信州大学規程第 108 号) 第 6 条に定める大学院戦略会議 (以下「大学院戦略会議」という。) 及び信州大学大学院教務委員会を除く。) の連絡調整に関すること。
  - (13) 教育・学生支援連携会議の運営に関すること。
  - (14) その他全学教育機構、高等教育研究センター、e-Learning センター及び教員免許更新支援センターの業務執行及び運営に関すること。
  - (15) 前各号に掲げるもののほか、学務部の他の所掌に属しない事務を処理すること。
- 2 学務課の共通教育支援室においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 共通教育の授業支援に関すること。
  - (2) 共通教育の教務に関すること。
  - (3) 学生の学習相談及び修学指導に関すること。
  - (4) 共通教育に係る点検・評価に関すること。
  - (5) 全学教育連携会議等の諸会議の連絡調整に関すること。
  - (6) 環境マインド教育支援に関すること。
- 3 省略
- 4 学生支援課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 学生総合支援センターの業務執行及び運営に関すること。
  - (2) キャリアサポートセンターの業務執行及び運営に関すること。
  - (3) 学生相談センターの業務執行及び運営に関すること。
- 5 入試課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 入学者の選抜に関し連絡し、及び総合調整を行うこと。
  - (2) 入学者選抜方法の改善に関し企画立案を行うこと。
  - (3) 学生募集に関すること。
  - (4) アドミッションセンターの業務執行及び運営に関すること。
  - (5) 前各号に掲げるもののほか、入学者の選抜に関する事務を処理すること。
- 6 国際交流課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 国際交流センターの業務執行及び運営に関すること。(研究支援課の国際学術交流室が所掌する業務を除く。)
  - (2) 松本国際交流会館の業務執行及び運営に関すること。
  - (3) 前各号に掲げるもののほか、教育活動に係る国際交流に関する事務を処理すること。
- (出典：信州大学業務執行組織規程)

資料医院 28 学務課、学生支援課、国際交流課の職員数

学務課		学生支援課		国際交流課
うち大学院室		うちキャリアサポートセンター		
37	5	20	6	10

注：左記職員数には、非常勤職員が含まれています。なお、学務課所属の e-Learning センター担当職員は含まれていません。

(出典：経営企画課作成資料)

医学部国際交流室の教職員数

専任教員	事務職員	国際交流委員
1	4	13

(出典：医学部作成)

資料医院 29 附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センター、e-Learningセンター職員数

区分	附属図書館 <sup>注3</sup>	総合健康安全センター	総合情報センター	e-Learningセンター
松本キャンパス	36 (22)	8 (4)	5 (4) <sup>注4</sup>	3 (1)

注1：( )内の数字は、専門的知識技能等を有する職員数を表す。

注2：上記職員数には、非常勤職員が含まれています。

注3：なお、附属図書館時間外開館で雇用する職員は含まれていません。

注4：医学部附属病院担当者4名は含まれていません。 (出典：経営企画課作成資料)

資料医院30 礼拝室

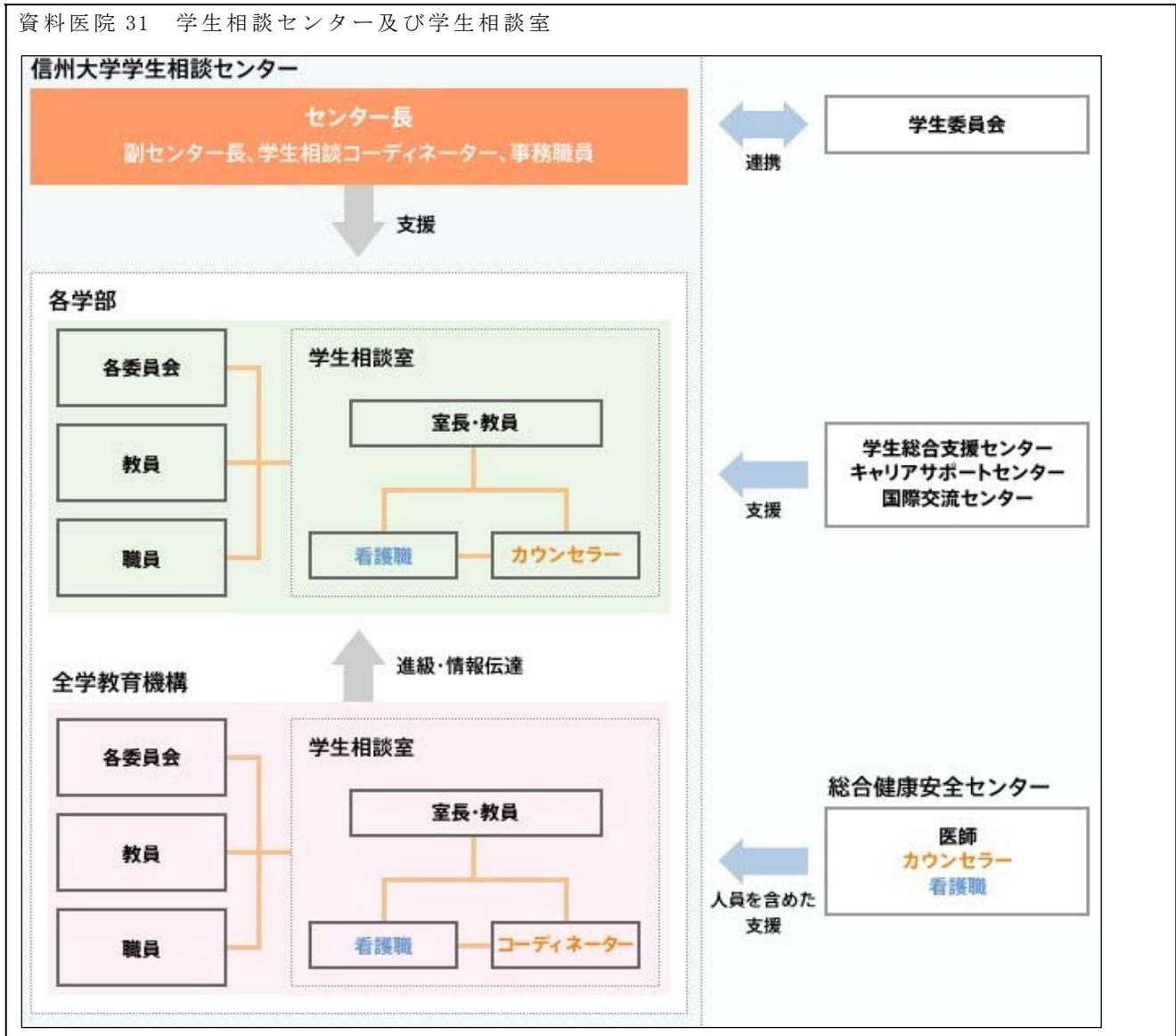


(出典：医学部作成)

② 学生相談体制の整備

平成 24 年度に全学組織となる学生相談センターと、各学部の学生相談室を設置した。また、院生のメンタル面に対するサポートを円滑に展開するための FD を継続的に実施した（資料医院 31～33）。

資料医院 31 学生相談センター及び学生相談室



## 専門窓口と連携し対応します。

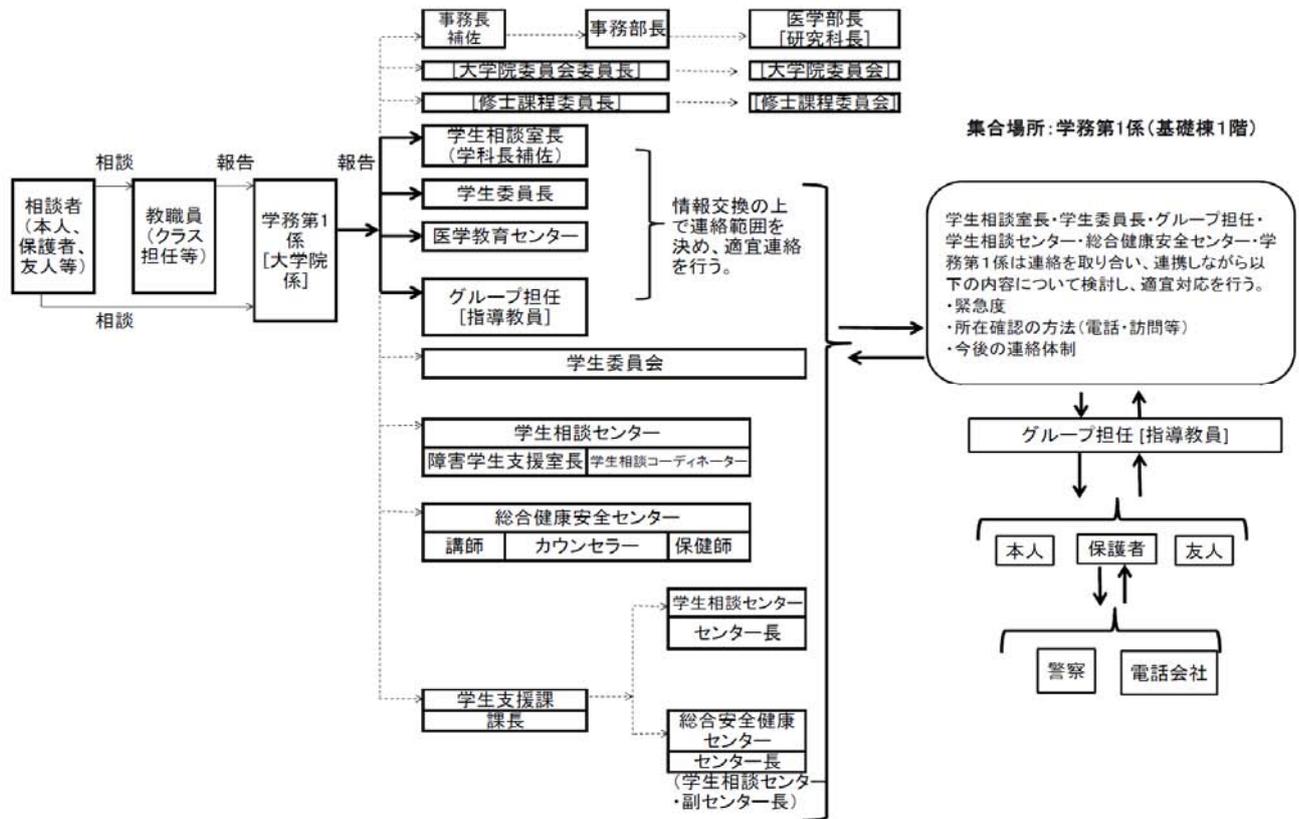
相談内容に応じて、学内外の専門機関(窓口)と連携を取ります。



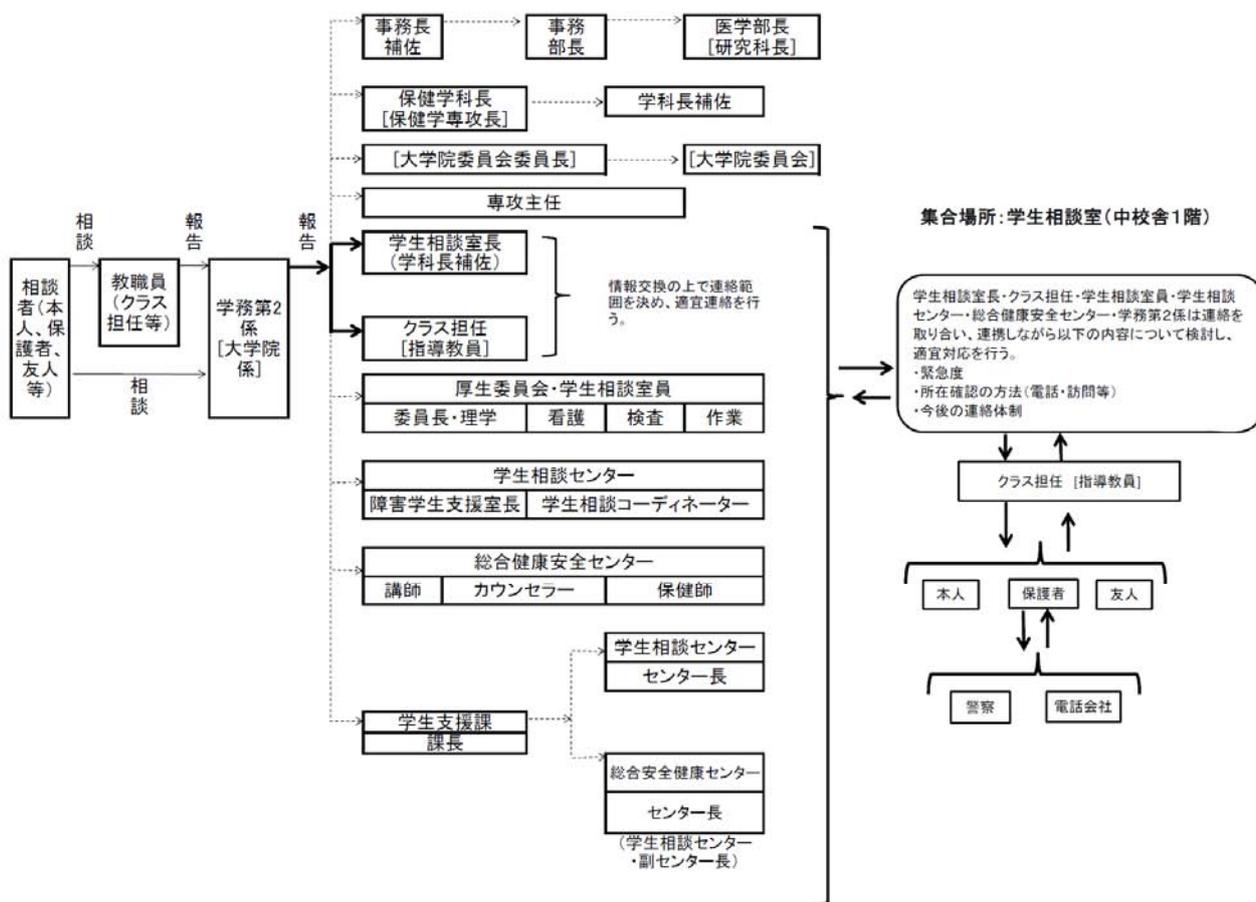
(出典：信州大学学生相談センターホームページ)

資料医院 32 学生相談の状況

### 医学(学部・大学院)「学生相談室」としての緊急連絡体制



### 保健学(学部・大学院)「学生相談室」としての緊急連絡体制



(出典：医学部作成)

#### 資料医院33 学生支援に関するFD研修会

##### 平成25年度FD研修会

日時：平成25年9月4日(水) 16時～17時30分

場所：医学部講義棟1階 第1講義室

演題：「学生相談の進め方」

講師：東京大学学生相談ネットワーク本部

精神保健支援室室長、コミュニケーション・サポートルーム室長  
准教授 渡邊 慶一郎 先生

##### 平成26年度FD研修会

日時：平成26年12月17日(水) 16時～17時30分

場所：地域保健推進センター3階 多目的講義室

演題：「学生への支援－教員としての葛藤－」

講師：信州大学教育学部教育カウンセリング課程

教授 上村 恵津子 先生

保健学専攻の全教員に対して大学院教育に関するFDを開催、平成24年度にはカーティン大学より教員を招きFD研修会を実施し、平成25、26年度には上記のFD研修会を実施した。

(出典：第2回学生相談委員会資料No. 3-1、医学部作成)

③ 副指導教授体制

博士課程（医学系専攻）では、平成24年度より基礎医学、臨床医学担当の教員、それぞれ1人に指導を受ける副指導教授体制（資料医院34）を導入した。これによって、基礎医学、臨床医学両面からの視点を持ち合わせる医学研究者、医療技術者の養成を図っている。

保健学専攻でも、博士前期・後期課程ともに、指導教員以外の教員を交えた3人の審査委員による学位論文審査委員会での審査を通して、研究内容に対する客観的な視点からの指導を実施している。

資料医院34 副指導教授について

○医学系専攻履修要件

授業科目		単位数
研究科共通科目 I		6単位以上
研究科共通科目 II		6単位
専攻開設科目	分野別開設科目	10単位以上
	研究特論	8単位
合計		30単位以上

※分野別開設科目は、主及び副指導教授(注)の指導の下、主指導教授の分野が担当する個別科目の外に、副指導教授の分野が担当する科目を含めて合計10単位以上を履修しなければならない。

(注)副指導教授について

主指導教授との相談により、以下を参考に主指導教授とは異なるクランから1名の副指導教授を選ぶ。例えば、主指導教授が臨床系クランに属しているならば、副指導教授は基礎系クランから選ぶ。同じクランから2人の指導教授を指名することはできない。(ただし両クランに同一分野がある場合、異なる教授を選ぶこと。)

4月中に副指導教授を決定し、指導教授届及び履修届を大学院係まで提出すること。

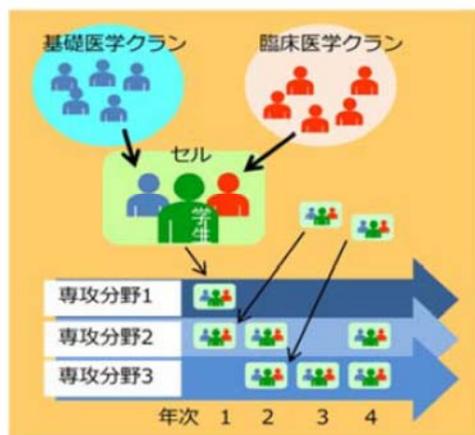
【基礎系クラン】

分野名	分野名
組織発生学	遺伝医学・予防医学
人体構造学	衛生学公衆衛生学
病理組織学	医学教育学(医療情報)
感染防御学	法医学
器官制御生理学	神経難病学(寄附講座)
分子細胞生理学	内科学(5)
分子薬理学(薬理)	外科学(2)
免疫・微生物学	麻酔蘇生学
免疫制御学	包括的がん治療学
分子細胞生化学	

【臨床系クラン】

分野名	分野名
分子薬理学(薬剤)	運動機能学
内科学(1)	形成再建外科学
内科学(2)	歯科口腔外科学
内科学(3)	麻酔蘇生学
内科学(4)	精神医学
内科学(5)	脳神経外科学
小児医学	眼科学
皮膚科学	耳鼻咽喉科学
画像医学	病態解析診断学
外科学(1)	救急集中治療医学
外科学(2)	包括的がん治療学
産科婦人科学	神経難病学(寄附講座)
泌尿器科学	

## 臨床的視点と基礎研究的視点をとともに兼ね備えている研究者・医師の養成システムへの再編



大学院教育体制の効率化・集約化と、学生定員の絞り込み（72→48名）による複数指導教官制の実質化

↓  
医学研究後継者の育成・最先端医学リテラシーを持つ医療人の輩出

- ・教員を大きく2つのグループに大別、各大学院生は、各クランから1名ずつ指導教員を選び、学生と教員2名からなる大学院教育における基本単位である「セル」を構成する
- ・各教員は複数の「セル」に関与、「セル」教員の組み合わせは各「セル」によって異なる。
- ・本システムは従来のような「研究室」中心ではなく、「大学院生」を中心に、その周囲に教員間ネットワークを配置されている。

（出典：医学系研究科博士課程シラバス）

## ④ 長期にわたる教育課程の履修、教育方法の特例、早期修了

職業を有している学生には、標準修業年限を超えて計画的に履修できるようにするとともに、土日及び夕方に開講するなどの措置を講じている。平成24年度からは交換留学する学生に計画的な履修を認めることとした。早期修了制度を実施し、院生の学習・研究意欲の向上を図っている（資料医院 35～37）。

資料医院 35 信州大学大学院学則、信州大学大学院医学系研究科規程

（長期にわたる教育課程の履修）

第38条 本大学院は、各研究科の定めるところにより、学生が、職業を有している等の事情により、第15条に定める標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

2 前項による計画的な教育課程の修業年限は、第16条に定める在学期間を超えることはできない。（教育課程の計画的な履修の特例）

第38条の2 各研究科（修士課程又は博士前期課程を置く研究科に限る。）は、本大学院と外国の大学院等との間において締結した交流協定（研究科間交流協定及びこれに準ずるものを含む。以下「交流協定」という。）に基づく留学により、第15条に定める標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することを修士課程又は博士前期課程の学生（標準修業年限の最終年次の学生及び前条による長期にわたる教育課程の履修を認められている学生を除く。）が希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

2 前項による計画的な教育課程の修業年限は、3年を超えることはできない。（教育方法の特例）

第39条 教育上特別の必要があると認められる場合には、当該研究科において定めるところにより、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

（修士課程又は博士前期課程の修了要件）

第40条 修士課程又は博士前期課程の修了の要件は、当該課程に2年以上（第15条第2項にあっては1年以上）在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該修士課程又は博士前期課程の目的に応じ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、当該研究科が優れた業績を上げたと認める者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

（博士課程（博士前期課程を除く。）の修了要件）

第41条 医学系研究科博士課程の修了の要件は、当該課程に4年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、当該研究科が優れた研究業績を上げたと認める者については、当該課程に3年以上在学すれば足りるものとする。

第42条 博士後期課程の修了の要件は、当該課程に3年以上在学し、14単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、当該研究科が優れた研究業績を上げたと認める者については、当該課程に1年以上在学す

れば足りるものとする。

(出典：信州大学大学院学則)

(長期にわたる教育課程の履修)

第 12 条 大学院学則第 38 条に規定する学生が職業を有している等の事情による長期にわたる教育課程の履修については、研究科委員会において定める。

(教育方法の特例)

第 18 条 研究科において必要と認めるときは、授業及び研究指導を夜間その他特定の時間又は時期に行うことができる。

2 前項に規定する授業及び研究指導は、博士課程において行うことができる。

3 前 2 項に規定するもののほか、教育方法の特例に関する事項は、別に定める。

(出典：医学系研究科規程)

資料医院 36 長期にわたる教育課程の履修者数

事項	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
長期にわたる教育課程の履修	29	33	30	28	32	35

(出典：医学部作成)

資料医院 37 教育方法の特例による授業開講状況

【修士課程（医科学専攻）選択必修科目の開講状況】

○選択必修科目(医科学研究方法論演習 I～VI) 日程表

	1	2	3	4	5	6	7
医科学研究 方法論演習 I	5月 8日(木) 6・7時限	5月15日(木) 6・7時限	5月19日(月) 6・7時限	5月22日(木) 6・7時限	5月26日(月) 6・7時限	—	—
医科学研究 方法論演習 II	5月 7日(水) 6・7時限	5月 9日(金) 6・7時限	5月12日(月) 6・7時限	5月13日(火) 6・7時限	5月14日(水) 6・7時限	5月20日(火) 6・7時限	5月27日(火) 6・7時限
医科学研究 方法論演習 III	5月21日(水) 6・7時限	5月23日(金) 6・7時限	5月28日(水) 6・7時限	5月29日(木) 6・7時限	6月 2日(月) 6・7時限	6月 5日(木) 6・7時限	—
医科学研究 方法論演習 IV	9月 1日(月) 6・7時限	9月 6日(土) 1～3時限	9月 8日(月) 6・7時限	9月11日(木) 6・7時限	9月13日(土) 1～3時限	9月18日(木) 6・7時限	—
医科学研究 方法論演習 V	6月 9日(月) 6・7時限	6月10日(火) 6・7時限	6月11日(水) 6・7時限	6月13日(金) 6・7時限	6月18日(水) 6・7時限	—	—
医科学研究 方法論演習 VI	5月 2日(金) 6・7時限	5月30日(金) 6・7時限	6月 4日(水) 6・7時限	6月 6日(金) 6・7時限	6月19日(木) 6・7時限	—	—

(6 時限=18:00~19:30、7 時限=19:40~21:10)

・授業の無い時限は原則として各教室に配属となり、指導教授の指示に従う。

・2 年次は、各教室に配属となり医科学研究特論(8 単位)を履修し、修士論文を作成する。

【博士課程（医学系専攻、疾患予防医学系専攻）の研究科共通科目 I・II の開講状況】

○研究科共通科目 I・II 日程表

	1	2	3	4	5	6	7
形態学研究 方法特論	5月 8日(木) 6・7時限	5月15日(木) 6・7時限	5月19日(月) 6・7時限	5月22日(木) 6・7時限	5月26日(月) 6・7時限	—	—
免疫学研究 方法特論	5月 7日(水) 6・7時限	5月 9日(金) 6・7時限	5月12日(月) 6・7時限	5月13日(火) 6・7時限	5月14日(水) 6・7時限	5月20日(火) 6・7時限	5月27日(火) 6・7時限
生化学・分子生物学 研究方法特論	5月21日(水) 6・7時限	5月23日(金) 6・7時限	5月28日(水) 6・7時限	5月29日(木) 6・7時限	6月 2日(月) 6・7時限	6月 5日(木) 6・7時限	—
人類遺伝学 研究方法特論	9月 1日(月) 6・7時限	9月 6日(土) 1～3時限	9月 8日(月) 6・7時限	9月11日(木) 6・7時限	9月13日(土) 1～3時限	9月18日(木) 6・7時限	—
組織・器官機能 研究方法特論	6月 9日(月) 6・7時限	6月10日(火) 6・7時限	6月11日(水) 6・7時限	6月13日(金) 6・7時限	6月18日(水) 6・7時限	—	—
神経科学 研究方法特論	5月 2日(金) 6・7時限	5月30日(金) 6・7時限	6月 4日(水) 6・7時限	6月 6日(金) 6・7時限	6月19日(木) 6・7時限	—	—
腫瘍学 研究方法特論	9月 9日(火) 6・7時限	9月10日(水) 6・7時限	9月12日(金) 6・7時限	9月16日(火) 6・7時限	9月17日(水) 6・7時限	—	—
医科学研究 逆行特論	4月 7日(月) 6・7時限	4月 8日(火) 6・7時限	4月 9日(水) 6・7時限	4月10日(木) 6・7時限	4月11日(金) 6・7時限	—	—
実用医用統計学 特論	7月22日(火) 6・7時限	7月23日(水) 6・7時限	7月24日(木) 6・7時限	7月25日(金) 6・7時限	—	—	—
生命倫理学	6月30日(月) 6・7時限	7月 5日(土) 1～5時限	—	—	—	—	—

## ○授業時間

1時限	9:00~10:30
2時限	10:40~12:10
3時限	13:00~14:30
4時限	14:40~16:10
5時限	16:20~17:50
6時限	18:00~19:30
7時限	19:40~21:10

## ○平成27年度の夜間及び土曜日の授業開講状況

区分	6時限	7時限	6・7時限	土曜日
	18:00~19:30	19:40~21:10	18:00~21:10	
修士課程			6	
博士前期課程	22	11	7	4
博士課程			9	1
博士後期課程				3

(出典：医学系研究科修士課程シラバス、医学系研究科博士課程シラバス)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

## ① 院生・修了者：

修士課程と博士課程に新たな専門コース（人工内耳コースとがんプロ）が設置され、学生の多様な期待に応じる体制が整備された（資料医院21、24）。大学院の再編に伴い、基礎と臨床の複数の指導教授からの直接的な指導が可能となる制度が導入された（資料医院34）。e-MEDの導入や臨床研修1年目からの大学院入学制度によって選択肢の増加と学部在学中からの大学院教育への参加によるリサーチマインドを持つ医師育成が図られた（資料医院25、26）。保健学専攻では、教員が院生におけるメンタル面での問題が懸念された場合のゲートキーパーとしての相談の進め方や関連部局への繋ぎ方について理解を深めるためのFDの継続的实施や、学生相談に対応できる制度の充実が図られた（資料医院32、33）。また、優れた成績をあげた学生には早期修了を可能とし、優秀な人材の育成促進のため制度の充実が行われた（資料医院35）。

## ② 医療機関：

職業を有しながら大学院に進学する学生に対し、夕方以降の授業や長期にわたる履修が可能な体制が確立された（資料医院35～37）。

## ③ 研究機関：

副指導教授体制の実施により、創造的、多角的な研究能力を有する研究者の輩出する体制が整備された（資料医院34）。

## ④ 地域社会、国際社会：

国際交流室を設置し、必要な人員を配置し、国際的視野を持った医療人の育成が行われた（資料医院28）。また、留学生の多様な文化的・宗教的背景に対応するために礼拝室の設置が行われた（資料医院30）。

観点 教育内容・方法

(観点に係る状況)

1 体系的な教育課程の編成

① 学位授与の方針 (DP) に基づく教育課程の編成

本研究科は、DPに基づいた教育課程を展開している。また、DPの各項目と授業との関係をCPマップ及びシラバスにて公開している (資料医院38、39)。

資料医院38 学位授与の方針に基づいたカリキュラムマップ

コード	授業名	医学系諸科学における	自らの得た成果を世界に	医学・保健学および関	高い倫理観と専門的知	保健・医療・福祉の現	国際的な諸問題に積極	地域保健・医療・福祉	コード	授業名	医学系諸科学における	自らの得た成果を世界に	医学・保健学および関	保健学の学問体系の確	保健・医療・福祉の分	保健・医療・福祉の現	保健・医療・福祉の現	保健医療職者に対して
MA724300	成人看護学特別研究	○		○					MA810700	母子保健学特別研究				○				
MA724301	成人看護学特別研究			○	○			○	MA810703	母子保健学特別研究	○		○				○	
MA726301	老年看護学特別研究	○	○	○		○			MA810704	母子保健学特別研究	○			○				
MA730500	リプロダクティブ・ヘルス看護学特別研究					○			MA821103	成人保健学特別研究			○	○	○	○	○	○
MA730501	リプロダクティブ・ヘルス看護学特別研究	○		○		○			MA821104	成人保健学特別研究			○	○	○	○	○	○
MA730502	リプロダクティブ・ヘルス看護学特別研究			○	○				MA821106	成人保健学特別研究				○				
MA732300	子ども・女性・家族支援実習							○	MA830900	老年保健学特別研究						○	○	○
MA732400	子ども・女性・家族支援課題研究							○	MA840903	医療生命科学特別研究				○				
MA740500	地域・国際看護学特別研究			○				○	MA840904	医療生命科学特別研究		○	○	○	○	○		
MA742500	在宅看護学実習							○	MA840905	医療生命科学特別研究	○						○	
MA742600	在宅看護学課題研究					○			MA840906	医療生命科学特別研究				○				
MA751200	病因・病態検査学特別研究(病態)	○		○					MA840909	医療生命科学特別研究							○	
MA751201	病因・病態検査学特別研究(生体)			○			○	○	MA840910	医療生命科学特別研究	○	○	○	○	○			○
MA751203	病因・病態検査学特別研究(組織)	○				○			MA840912	医療生命科学特別研究	○			○				
MA751211	病因・病態検査学特別研究(生体)					○			MA800100	保健・医療・福祉連携論							○	○
MA751212	病因・病態検査学特別研究(感染)						○		MA800200	生涯保健学研究法			○					○
MA751214	病因・病態検査学特別研究(神経呼吸)	○	○	○	○				MA810100	母子保健学特講								○
MA770500	機能障害学特別研究					○			MA820100	成人保健学特講	○							○
MA770502	機能障害学特別研究	○	○	○	○	○	○		MA830100	老年保健学特講						○		○
MA780600	作業療法学特別研究			○	○	○			MA840100	医療生命科学特講				○				
MA780601	作業療法学特別研究					○			MA810300	母子保健学演習A							○	○
MA780602	作業療法学特別研究					○			MA811100	母子保健学演習D	○							
MA700100	医療倫理学					○			MA811300	母子保健学演習E	○							○
MA700200	研究方法論					○			MA820700	成人保健学演習C			○	○	○	○	○	○
MA700300	医療情報処理科					○			MA820900	成人保健学演習D			○	○				○
MA700400	臨床判断解析学Ⅰ(内科系)	○	○	○	○				MA821000	成人保健学演習E								○
MA700500	臨床判断解析学Ⅱ(外科系)					○	○		MA830300	老年保健学演習A							○	○
MA700600	国際保健論		○				○		MA840300	医療生命科学演習A	○	○	○					○
MA700700	保健医療福祉システム論					○		○	MA840500	医療生命科学演習B		○	○			○	○	
MA700800	社会システム論			○					MA840700	医療生命科学演習C	○							○
MA710200	看護研究				○	○												

(出典: 「学位授与の方針」マップ)

資料医院39 シラバス

開講年度	2014年度	登録コード	MA810100
科目名	母子保健学特講	授業科目区分	必修科目
担当教員	坂口 けさみ 他 市川 元基, 寺田 克, 金井 誠, 玉井 真理子		
対象専攻/学年	母子保健学領域/1年次	講義期間	前期 曜日・時限 (月)5月6
単位数	2単位	講義室	保健学科212講義室
授業で得られる「学位授与の方針」要素/◎:全学共通	《保健・医療・福祉の現場において、高い倫理観と高度な専門知識に基づいた実践能力を持ち、指導的・専門的立場から課題を見つけ、自立的な研究を行うことができる。》 専門職としての立場から研究課題を導くことができる。		
授業概要	《保健医療職者に対して、根拠に基づく実践(Evidence-based Practice)の概念に則ったエビデンスを構築するための質の高い臨床研究方法を指導できる。》 研究課題に対して、エビデンスを構築するために必要な研究方法を理解できる。		
一般学習目標 GLO(期待される学習効果)	母子保健学領域における最新の保健・医療・福祉並びに生命倫理的な観点から研究課題を幅広く理解するとともに、研究課題を深めていくための研究方法について学ぶ。		
SBOs(行動目標)	1 母子保健に関する研究課題および倫理的課題について述べる事が出来る。 2 親と子の絆の形成メカニズムを理解すると共に、根拠に基づいた助産ケアについて述べる事が出来る。 3 生活習慣病の発生メカニズムと胎児期・新生児期・乳児期の重要性について述べる事が出来る。 4 産科医不足がもたらす産科医療へ及ぼす影響と地域医療ネットワークの重要性について述べる事が出来る。 5 生体の感染防御システムである免疫系の役割について述べる事が出来る。 6 生体肝移植の意義並びに様々な諸問題について理解する事が出来る。		
授業計画	第1回～第3回(4/7, 14, 21): (坂口けさみ) 周産期における母性行動・父性行動の発現メカニズムや児に対するスキンシップ、カンガルーケアの意義並びに出産後の女性のライフステージにおける臨床的排せ機能に焦点を当て、その概観を理解するとともに、研究方法を学ぶ。 第4回～第6回(4/28, 5/8, 12): 研究課題に対するプレゼンテーション 第7回～第8回(5/19, 26): (市川元基) 小児期における疾患の発症と予防について、成長・発達との関連を免疫学・神経学の観点から理解を深め、新生児期を含めた小児期の健康管理について論議する。 第9回～第10回(6/2, 9): (寺田克) 胆道閉鎖症や肝移植など、小児期に外科手術を受け成人期を迎えた女性における諸問題について、妊娠・出産の観点を中心に教授する。また男子不妊症の原因の一つである停留嚢丸の発症原因と、嚢丸下降のメカニズムについて論議する。 第11回～第12回(6/16, 6/23): (金井誠) 最近の産科医不足がもたらす産科医療の問題と、産科医不足に対する医療連携体制の構築について論議するとともに、早産や妊娠高血圧症候群などハイリスク妊娠に対する疾病管理と重症化予防について学ぶ。 第13回～第15回(6/30, 7/7, 14): (玉井真理子) 歴史的および文化的文脈から性と生殖の健康と権利の概念を多角的に検討しつつ、女性・子ども・家族の生涯にわたる健康問題を概観し、生命倫理的観点から論議する。 第16回 7/28 まとめ		
授業の進め方	講義を中心に進めます。		
テキスト, 教材, 参考書	【テキスト】 特に指定しないが、適宜紹介する。 【参考書・参考資料等】 Klaus & Kennell, Parent-Infant Bonding, Mosby, 1982, 周産期医学:母子相互作用, 13(12), 1983, 玉井真理子, 他; 新生児医療現場の生命倫理, MCメディア出版(2006) など		
成績評価の方法	授業への出席状況並びに課題調査や発表内容, レポート等を総合的に判断して評価する。		

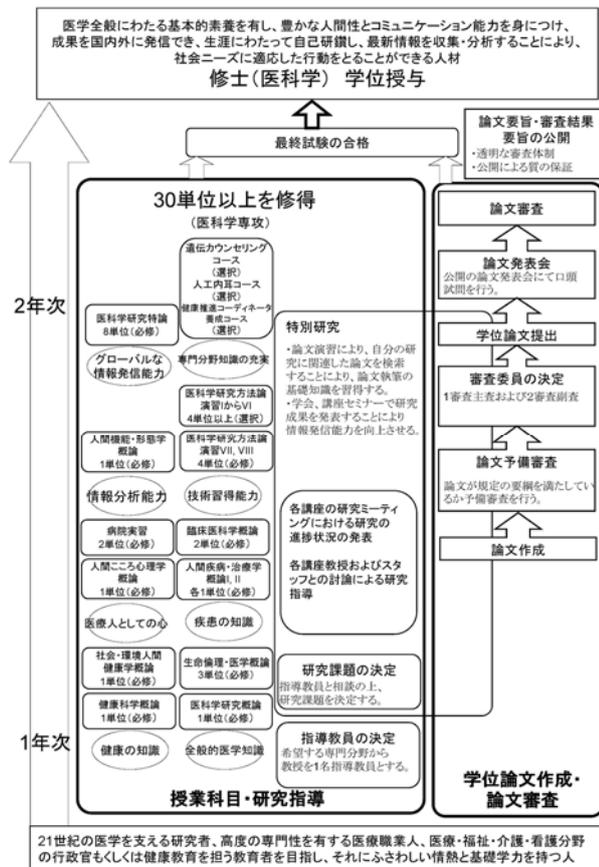
(出典：医学系研究科保健学専攻シラバス)

② カリキュラムの概要

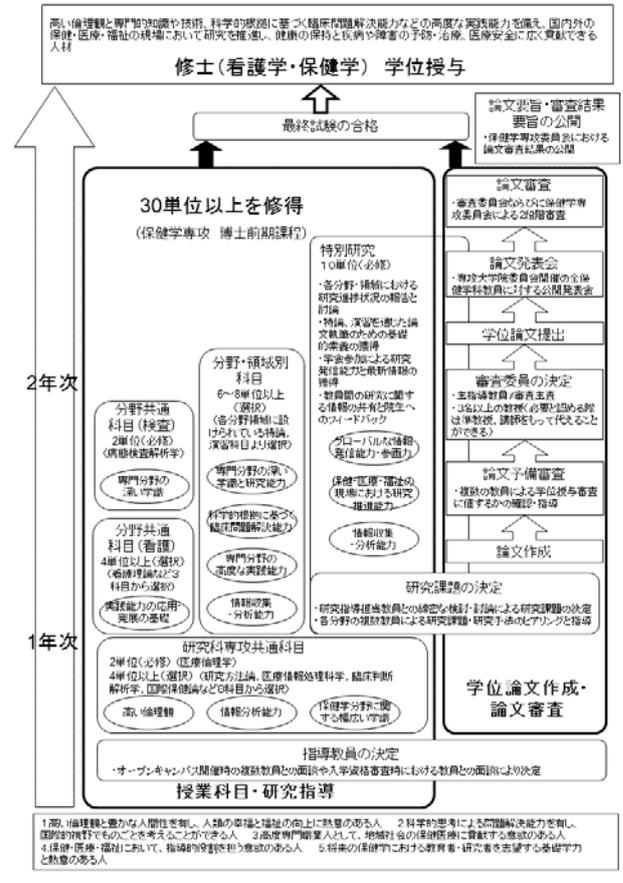
入学時からのコースワーク、研究指導、学位論文作成・審査に至るまで教育体系を履修プロセス概念図により表し、シラバスに掲載し院生に明示している（資料医院40）。

資料 医院40 履修プロセス概念図

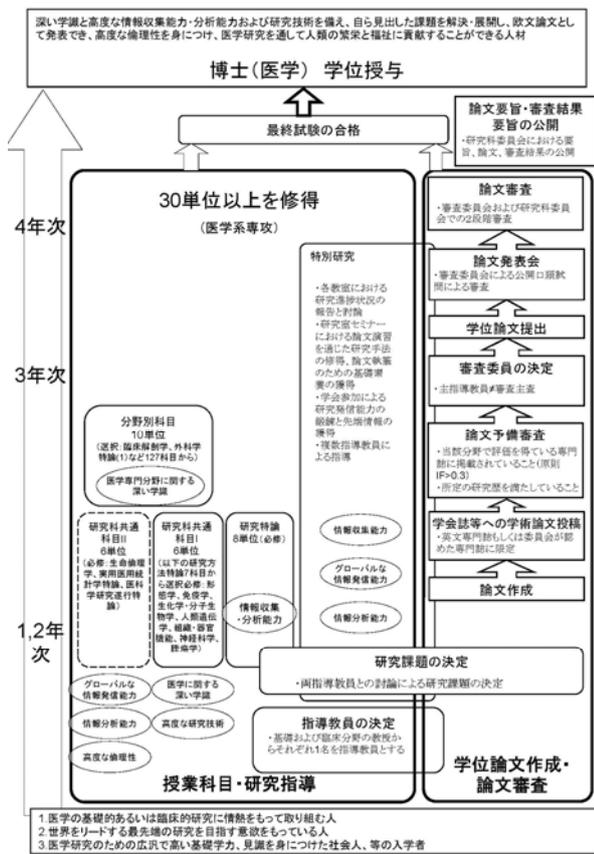
【医科学専攻（修士課程）】



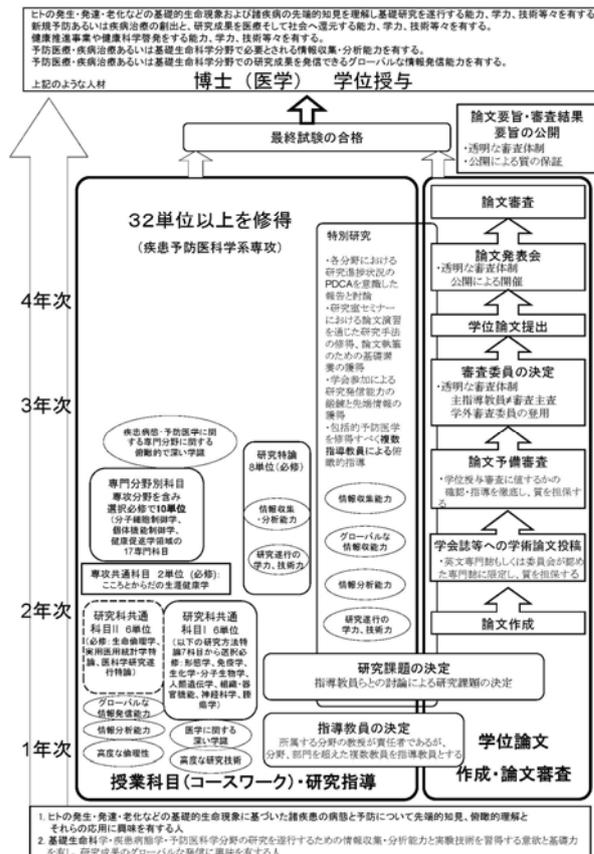
【保健学専攻（博士前期課程）】



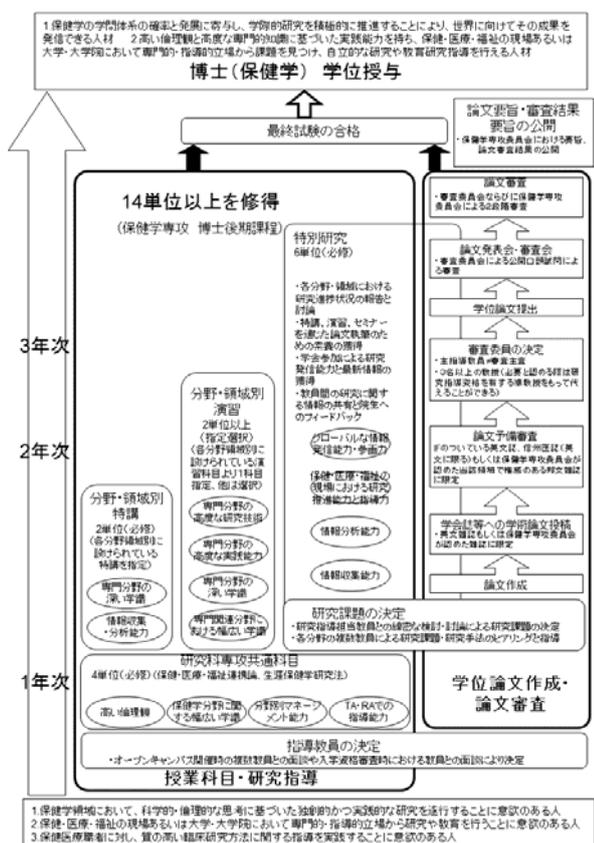
【医学系専攻（博士課程）】



【疾患予防医科学系専攻（博士課程）】



【保健学専攻（博士後期課程）】



(出典：医学系研究科シラバス)

③ 医科学専攻（修士課程）のコース制

医科学専攻では、専門職養成のための3つのコースを特別に設けている（前掲19頁、資料医院41）。

資料医院41 医科学専攻カリキュラム

履修要件	授業科目	単位数
1年次必修	医科学研究概論	1
	生命倫理・医学概論	3
	健康科学概論	1
	人間機能・形態学概論	1
	人間こころ心理学概論	1
	人間疾病・治療学概論Ⅰ	1
	人間疾病・治療学概論Ⅱ	1
	社会・環境人間健康学概論	1
	臨床医科学概論	2
	病院実習	2
4単位以上選択必修	医科学研究方法論演習Ⅰ（形態学研究方法特論）	2
	医科学研究方法論演習Ⅱ（免疫学研究方法特論）	2
	医科学研究方法論演習Ⅲ（生化学・分子生物学研究方法特論）	2
	医科学研究方法論演習Ⅳ（人類遺伝学研究方法特論）	2
	医科学研究方法論演習Ⅴ（組織・器官機能研究方法特論）	2
	医科学研究方法論演習Ⅵ（神経科学研究方法特論）	2
必修	医科学研究方法論演習Ⅶ（全学セミナー）	2
	医科学研究方法論演習Ⅷ（講座セミナー）	2
2年次必修	医科学研究特論	8

上記授業科目を合計30単位以上履修する。

履修要件	授業科目	単位数
選択	ライフサイエンス知的財産概論	2
	Introduction to Medical Science in Shinshu University Graduate School of Medicine	3
遺伝カウンセリングコース	基礎人類遺伝学	4
	遺伝医学	2
	染色体検査実習	1
	遺伝カウンセリングロールプレイ	2
	臨床遺伝学	1
	遺伝医療と生命倫理	1
	遺伝医療と社会	2
	遺伝医学論文実習	1
	遺伝カウンセリング特論	3
	遺伝カウンセリング実習	6
人工内耳コース	人工内耳特論	2
	人工内耳実習	2

健康推進コーディネーターコース	運動構造機能学	2
	運動生理学	4
	トレーニング学	4
	リハビリテーション医学	2
	地域社会福祉学	2
	加齢病態学	2
	加齢遺伝学	2
	医科学研究特論	8
	スポーツ栄養学	4
	こころの医学	2
	スポーツリハビリテーション	2
	健康管理情報学	2
	健康機器開発工学	2
	遺伝疫学	2

(出典：医学系研究科ホームページ「修士課程カリキュラム」)

④ 論文評価基準の明確化

学位論文審査および最終試験の評価基準を明確化した（資料医院42～44）。

資料医院42 信州大学大学院医学系研究科保健学専攻（博士前期課程）学位論文審査及び最終試験の評価基準

【博士前期課程】

学位審査には、学位論文の提出を必要とする。所定の単位を修得し、学位論文を提出した者について、学位論文の審査及び最終試験を行う。

学位論文の評価基準

1. [関連資料・文献] 研究主題の探究に際して利用した関連資料・文献について、精確な読解、的確な把握、また妥当な解釈がなされているか。あるいは客観的に正当な批判や批評が提示されているか。
2. [実験・調査] 研究主題の探究に際して実施した実験・調査は、適切な方法に基づいて行われているか。またその分析は精確で、解釈や結果が妥当であるか。
3. [論証方法・論旨とデータ（資料）の提示方法] 問題提起から結論にいたる論証方法と論旨は、明解かつ妥当であるか。また実験データ・調査資料の提示と展開の方法は適切であるか。
4. [独創性と意義] 論証の方法や結論と成果は、先行研究との関連あるいは研究史に照らして十分な独創性と意義を有するか。
5. [表現の的確性と表現力] 日本語もしくは使用外国語について、語句や文章表現は的確で、かつ表現力に優れているか。
6. [論文の体裁と完成度] 本文、章立て、注記、参考書目あるいは図表等、部分的かつ全体の構成において、論文としての体裁が整っており、その完成度は高いか。
7. [総合的評価] 総合的に評価して修士論文に値するか。

(但し書き)

- 1) 図書・論文・史料・統計資料・辞書・地図・インターネット資料その他、参照する全ての資料・図版等については、「関連資料・文献」と表記した。
- 2) 実験、実地調査、聞き込み調査、情報・資料提供者（インフォーマント）との面談等、実施する全ての研究作業については、「実験・調査」と表記した。
- 3) 前項の「実験・調査」によって収集され、分析の対象となるもの全てについては、「実験データ・調査資料」と表記した。

最終試験の評価基準

最終試験は口頭試問により行い、以下の基準により評価する。

1. 研究の目的・方法・結果・考察・意義について十分に理解し、明確に説明できること。
2. 研究の内容について提起される質問に対して、論理的に応答できること。
3. 関連する研究分野に関する基礎的な知識を有すること。

(出典：医学系研究科保健学専攻シラバス)

資料医院43 信州大学大学院医学系研究科（博士課程）学位論文審査及び最終試験の評価基準

【博士課程】

学位審査には、学位論文の提出を必要とする。所定の単位を修得し、学位論文を提出した者について、審査委員会が学位論文の審査及び最終試験を行い、医学研究科委員会の協議によって最終的な可否を決定する。

学位論文の認定基準

1. 原則として、学位論文申請者の英文原著論文であり、印刷公表されたものであること。
2. 学位論文申請者が、筆頭著者あるいは筆頭著者相当であること。ただし、共著論文の場合は、研究及び論文作成の中心的役割を果たしたことが指導者により証明され、共著者により同意されたものでなければならない。
3. 学位論文を掲載する雑誌としては、以下のものを認める。
  - (1) インパクトファクター0.3以上の国際的雑誌
  - (2) 信州医学雑誌（ただし英語論文に限る。）
  - (3) その他、研究科委員会が認めた雑誌

最終試験の評価基準

最終試験は公開の口頭試問により行い、以下の基準により評価する。

1. 研究の目的・方法・結果・意義について十分に理解し、明確に説明できること。
2. 研究の内容について提起される質問に対して、論理的に応答できること。
3. 研究の将来展望について論述できること。
4. 当該研究分野に関する最先端の知識を有すること。
5. 関連する研究分野に関する基礎的な知識を有すること。

（出典：医学系研究科博士課程シラバス）

資料医院44 信州大学大学院医学系研究科保健学専攻（博士後期課程）学位論文審査及び最終試験の評価基準

【博士後期課程】

学位審査には、学位論文の提出を必要とする。所定の単位を修得し、学位論文を提出した者について、学位論文の審査及び最終試験を行う。

学位論文の認定基準

学位論文は、申請者単独の著作であって、当該研究領域で権威ある邦文又は欧文雑誌に印刷公表又は受理（掲載許可）されたものとする。

ただし、次の要件をすべて満たす場合には共著論文を学位論文とすることができる。

- (1) 当該研究領域で権威ある邦文又は欧文雑誌に印刷公表又は受理（掲載許可）された論文であり、申請者が筆頭著者であること。
- (2) 研究及び論文作成の中心的役割を果たしたことが指導教員により証明され、共著者により同意されたものであること。

なお、「権威ある邦文又は欧文雑誌」とは以下のものとする。

- (1) IF (Impact Factor) がついている英文雑誌
- (2) 信州医学雑誌（ただし英文論文に限る。）
- (3) その他、保健学専攻委員会が認めた雑誌

最終試験の評価基準

最終試験は公開の口頭試問により行い、以下の基準により評価する。

1. 研究の目的・方法・結果・考察・意義について十分に理解し、明確に説明できること。
2. 研究の内容について提起される質問に対して、論理的に応答できること。
3. 研究の将来展望について論述できること。
4. 当該研究分野に関する最先端の知識を有すること。
5. 関連する研究分野に関する基礎的な知識を有すること。

（出典：医学系研究科博士課程シラバス）

## 2 教育方法・学習支援の工夫

### ① 履修方法等

修了要件等は、学則及び研究科規程に定めている。履修にあたっては、指導教授の指導に基づき授業科目を決め受講している（資料医院45～47）。

資料医院 45 信州大学大学院学則、信州大学大学院医学系研究科

（修士課程又は博士前期課程の修了要件）

第40条 修士課程又は博士前期課程の修了の要件は、当該課程に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該修士課程又は博士前期課程の目的に応じ、修士論文又は

特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、当該研究科が優れた業績を上げたと認める者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

(博士課程(博士前期課程を除く。)の修了要件)

第41条 医学系研究科博士課程の修了の要件は、当該課程に4年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、当該研究科が優れた研究業績を上げたと認める者については、当該課程に3年以上在学すれば足りるものとする。

第42条 博士後期課程の修了の要件は、当該課程に3年以上在学し、14単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、当該研究科が優れた研究業績を上げたと認める者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

(出典：信州大学大学院学則)

(履修方法等)

第7条 研究科の教育は、授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導(以下「研究指導」という。)によって行う。

2 研究科長は、各学生ごとに大学院学則第8条第4項に定める研究指導を担当する教授又は准教授(以下「指導教授」という。)を決定するものとする。

3 学生は、修士課程及び博士課程並びに博士前期課程にあつては30単位以上を、博士後期課程にあつては14単位以上を修得するものとし、履修方法については、別に定める。

4 学生は、指導教授の指導により履修しようとする授業科目を決定し、入学後速やかに所定の履修届を提出しなければならない。

5 研究科の授業科目を履修した学生に対しては考査を行い、合格者には単位を与える。

6 考査は、試験又は研究報告により行う。

7 病気その他の理由により試験を受けることができなかつた者については、願い出により追試験を行うことができる。

(出典：医学系研究科規程)

資料医院46 博士前期課程保健学専攻看護分野履修単位一覧

科目	修士論文 コース	専門看護師(CNS) コース
専攻共通科目	6単位以上	6単位以上
分野共通科目	4単位以上	4単位以上
領域専門科目	8単位以上	8単位以上
特別研究	10単位	
実習		6単位
特定の課題研究		4単位

専門看護師(CNS)コース

看護学分野には母子看護学領域にリプロダクティブヘルス看護学、地域・国際・精神看護学領域に在宅看護学の専門看護師(CNS)コースがあり、資格取得まで指導を行う。

(出典：医学系研究科ホームページ「博士前期課程カリキュラム」)

資料医院47 履修届

(履修方法等)

第7条 研究科の教育は、授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導(以下「研究指導」という。)によって行う。

2 研究科長は、各学生ごとに大学院学則第8条第4項に定める研究指導を担当する教授又は准教授(以下「指導教授」という。)を決定するものとする。

3 学生は、修士課程及び博士課程並びに博士前期課程にあつては30単位以上を、博士後期課程にあつては14単位以上を修得するものとし、履修方法については、別に定める。

4 学生は、指導教授の指導により履修しようとする授業科目を決定し、入学後速やかに所定の履修届を提出しなければならない。

(出典：医学系研究科規程抜粋)

平成27年度 医学系専攻 履修届

平成 年 月 日

信州大学大学院医学系研究科長 殿

学籍番号 \_\_\_\_\_

教室名 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

指導教授 \_\_\_\_\_ 印

履修科目 選択欄	授業科目名	単位数
共通科目 I (3科目以上 選択必修)	形態学研究方法特論	2
	免疫学研究方法特論	2
	生化学・分子生物学研究方法特論	2
	人類遺伝学研究方法特論	2
	組織・器官機能研究方法特論	2
	神経科学研究方法特論	2
	腫瘍学研究方法特論	2
共通科目 II (3科目必修)	<input type="radio"/> 医科学研究遂行特論	2
	<input type="radio"/> 実用医用統計学特論	2
	<input type="radio"/> 生命倫理学	2
専攻開設科目 (10単位以上)		
研究特論 <small>申請成績評価は2年次</small>	<input type="radio"/> 研究特論	8

(注) 履修する科目の選択欄に○を付けて下さい。専攻開設科目については、選択した科目の名称等も記入して下さい。提出先：大学院係 提出期限：4月30日(木)

平成27年度 博士後期課程 保健学専攻 履修届

平成 年 月 日

信州大学大学院医学系研究科長 殿

学籍番号 \_\_\_\_\_

領域 \_\_\_\_\_

氏名 \_\_\_\_\_

指導教員 \_\_\_\_\_ 印

履修科目 選択欄	授業科目名	単位数	備考	
共通科目	<input type="radio"/> 保健・医療・福祉連携論	2	専攻必修科目	
	<input type="radio"/> 生涯保健学研究法	2	専攻必修科目	
生涯保健学分野	母子保健学領域	母子保健学特講	2	母子保健学必修
		母子保健学演習A	2	
		母子保健学演習B	2	
		母子保健学演習C	2	
		母子保健学演習D	2	
		母子保健学特別研究	6	母子保健学必修
	成人保健学領域	成人保健学特講	2	成人保健学必修
		成人保健学演習A	2	
		成人保健学演習B	2	
成人保健学演習C		2		
成人保健学演習D		2		
成人保健学特別研究	6	成人保健学必修		
老年保健学領域	老年保健学特講	2	老年保健学必修	
	老年保健学演習A	2		
	老年保健学演習B	2		
	老年保健学演習C	2		
	老年保健学特別研究	6	老年保健学必修	
医療生命科学分野	医療生命科学領域	医療生命科学特講	2	医療生命科学必修
		医療生命科学演習A	2	
		医療生命科学演習B	2	
		医療生命科学演習C	2	
	医療生命科学特別研究	6	医療生命科学必修	

(注) 履修する科目の選択欄に○を付けてください。提出期限：4月10日(金) 提出先：大学院係

(出典：医学部作成)

② Web会議システム

保健学専攻（博士前期・後期課程）では、平成26年度からWeb会議システムを活用し、県外の遠隔地にいる院生との個別ゼミ、前期・後期課程全体の合同ゼミなどを実施している（資料医院48）。

資料医院48 会議システムの活用状況						
平成26年度 Web会議システム利用実績(大学院)						
利用代表者	利用者内訳	人数	利用目的/利用日	月	利用回数	利用時間
木村 貞治	みまき温泉診療所2名、身体教育医学研究所1名	3	1)東御市を中心とした地域保健・地域リハビリテーションに関する情報交換 2)大学院生の研究協力依頼6/2	6月	13回	42.75時間
百瀬 公人	博士後期課程4名、博士前期課程1名	5	ゼミ6/2			
木村 貞治	博士後期課程1名	1	大学院の個別ゼミ6/6			
百瀬 公人	博士後期課程4名、博士前期課程1名	5	遠隔地の学生を含めての大学院の授業を開催するため。6/6			
上村 智子	博士後期課程2名、博士前期課程1名	3	大学院ゼミ(学会の予演会)6/7			
百瀬 公人	博士後期課程4名、博士前期課程1名	20	遠隔地の学生を含めてのゼミナールを開催するため。6/9.16.23.30			
横川 吉晴	博士後期課程18名、博士前期課程10名	84	大学院生の授業6/13.20.27	7月	8回	29時間
木村 貞治	博士後期課程1名、公益財団法人身体教育医学研究所1名、みまき温泉診療所1名	3	1)東御市を中心とした地域保健・地域リハビリテーションに関する情報交換 2)大学院生の研究協力依頼6/18			
横川 吉晴	博士後期課程18名、博士前期課程10名	84	大学院生の授業7/4.11.18.	8月	9回	29.5時間
百瀬 公人	博士後期課程4名、博士前期課程1名	25	遠隔地の学生を含めてのゼミナールを開催するため。7/7.14.23.24.28			
百瀬 公人	博士後期課程4名、博士前期課程1名	35	遠隔地の学生を含めてのゼミナールを開催するため。8/4.7.11.18.19.25.28			
上村 智子	博士後期課程3名、博士前期課程1名	4	大学院ゼミ8/9	9月	15回	47時間
木村 貞治	博士後期課程1名	1	大学院ゼミ8/20			
百瀬 公人	博士後期課程4名、博士前期課程1名	50	遠隔地の学生を含めてのゼミナールを開催するため。 9/1.4.8.11.16.17.22.25.29.30	10月	14回	39.75時間
木村 貞治	博士後期課程1名	2	大学院ゼミのため9/4.17			
上村 智子	博士後期課程1名	3	博士論文の指導9/5.12.16	11月	10回	36時間
横川 吉晴	博士後期課程18名、博士前期課程10名	140	大学院生の授業10/3.10.17.24.31			
百瀬 公人	博士後期課程4名、博士前期課程1名	30	遠隔地の学生を含めてのゼミナールを開催するため。10/6.14.20.27.28.31			
木村 貞治	博士後期課程1名	2	大学院ゼミのため10/15.16.	12月	11回	39時間
上村 智子	博士後期課程1名	1	博士論文の指導10/30			
百瀬 公人	博士後期課程4名、博士前期課程1名	30	遠隔地の学生を含めてのゼミナールを開催するため。11/5.10.12.17.19.26.	1月	7回	28時間
横川 吉晴	博士後期課程18名、博士前期課程10名	112	大学院生の授業11/7.14.21.28			
百瀬 公人	博士後期課程4名、博士前期課程1名	35	遠隔地の学生を含めてのゼミナールを開催するため。12/1.4.8.12.15.22.25	2月	8回	32時間
横川 吉晴	博士後期課程18名、博士前期課程10名	84	大学院生の授業12/5.19.26			
木村 貞治	博士後期課程1名	1	大学院ゼミのため12/18	3月	9回	36時間
百瀬 公人	博士後期課程4名、博士前期課程1名	35	遠隔地の学生を含めてのゼミナールを開催するため。1/5.9.14.16.19.26.30			
百瀬 公人	博士後期課程4名、博士前期課程1名	40	遠隔地の学生を含めてのゼミナールを開催するため。2/2.5.9.12.16.19.23.26	合計	104回	359時間
百瀬 公人	博士後期課程4名、博士前期課程1名	45	遠隔地の学生を含めてのゼミナールを開催するため。 3/2.5.9.12.16.19.23.26.30			
		883				

(出典：医学部作成)

③ e-Learning教材を用いた研究倫理教育 (CITIプログラム)

修士課程では「生命倫理・医学概論」、博士課程では「生命倫理」、博士前期課程では「医療倫理学」、博士後期課程では「生涯保健学研究法」の授業において、研究倫理教材であるCITIプログラム (以下「CITI」) (資料医院49) の履修を平成25年度から義務づけている。これらの授業では、e-Learning教材による学習やスモールグループディスカッションを通じて、医学研究倫理の重要性が理解されるように工夫している。

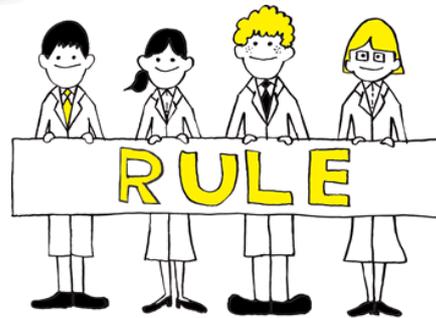
資料医院49 CITIプログラムの概要

信州大学が中心となって平成24年9月にスタートした『文部科学省・大学間連携共同教育推進事業・「研究者育成の為に行動規範教育の標準化と教育システムの全国展開」(略称;CITI Japan プロジェクト)』では、国際標準を満たした研究倫理e-learning教材を研究者コミュニティのガバナンスを確保した上で作成し、広く利用を呼びかけている。平成26年7月1日現在、68大学等の20,438人の教職員・学生が利用している。

PROPOSAL 01 研究者のミスコンダクトを行動規範教育で解消



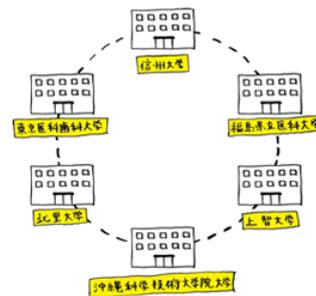
PROPOSAL 02 グローバルな研究成果は、国際基準を満たすルール(倫理基準)から



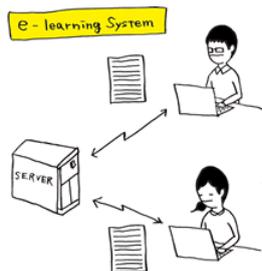
PROPOSAL 03 米国 CITI Programとの共同開発



PROPOSAL 04 6大学、専門機関の連携による客観性と最新知識の確保



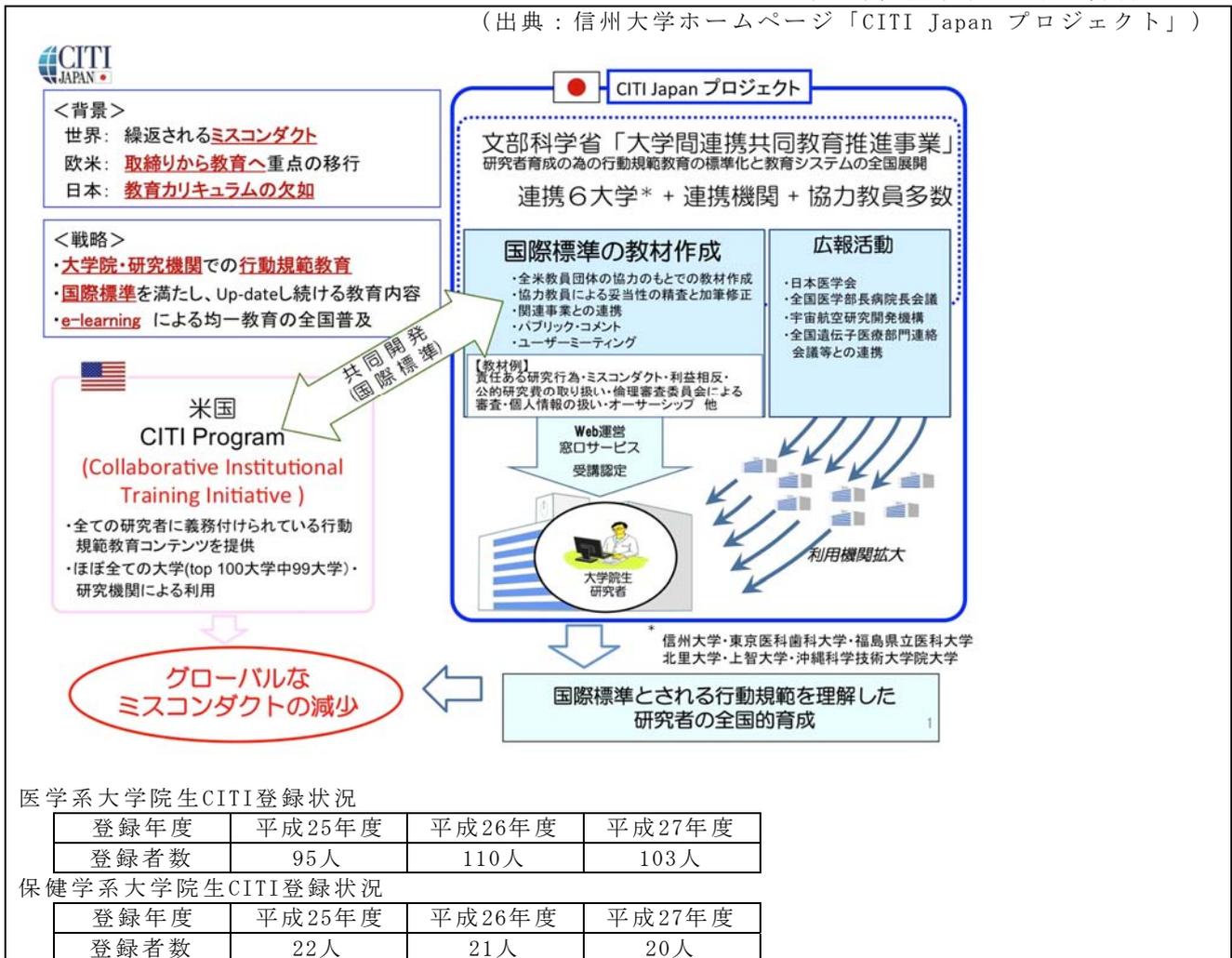
PROPOSAL 05 「e-learning」ならではの時と場所を選ばない学習スタイルの提案



PROPOSAL 06 JAXAや沖縄科学技術大学院大学が必須教材として採用



(出典：信州大学ホームページ「CITI Japan プロジェクト」)



医学系大学院生CITI登録状況

登録年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
登録者数	95人	110人	103人

保健学系大学院生CITI登録状況

登録年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
登録者数	22人	21人	20人

平成27年度医学系研究者標準コース対象科目

領域	単元 単元) (*:英語版提供)	
責任ある研究行為 (生命医科学)	責任ある研究行為について*	必須
	研究における不正行為*	必須
	データの扱い*	必須
	共同研究のルール*	必須
	利益相反	必須
	オーサーシップ*	必須
	盗用*	必須
	社会への情報発信	オプション
	ピア・レビュー	必須
人を対象とした研究 :基盤編	メンタリング	必須
	公的研究資金の取り扱い*	必須
	生命倫理学の歴史と原則、そしてルール作りへ	必須
	研究倫理審査委員会による審査	必須
	研究における個人に関わる情報の取り扱い	必須
	人を対象としたゲノム・遺伝子解析研究	オプション
	研究で生じる集団の被害	オプション
	研究におけるインフォームド・コンセント	必須
	特別な配慮を要する研究対象者	必須
	カルテ等の診療記録を用いた研究	オプション
	生命医科学研究者のための 社会科学・行動科学	オプション
	国際研究	オプション
研究の安全性	多能性幹細胞研究の倫理 I・II	オプション
	研究倫理審査委員会の委員に就任する際に 知っておくべきこと	オプション
	実験安全の基本(2015)	オプション
	化学物質を使った実験(2015)	オプション
	放射性物質の取り扱い(2015)	オプション
	遺伝子組換え(Recombinant DNA)(2015)	オプション
	バイオセーフティ コース概略(2015)	オプション
実験動物の取り扱い (ACU)	OSHA血液由来病原体への対策	オプション
	研究室関連感染とバイオハザードのリスク評価(2015)	オプション
米国臨床試験実施基 準(GCP)に関する教材	リスク管理一緊急時および飛散時の対応	オプション
	バイオサンプルの発送と受取	オプション
	単元1:動物実験の基礎知識	オプション
	単元2:動物実験の実施にあたり配慮すべきこと	オプション
	臨床試験の実施に関する基準(GCP)についての CITI学習コース	オプション
	新薬開発の概要	オプション
	日米EU医薬品規制調和国際会議(ICH):GCPの要件	オプション
	米国食品医薬品局(FDA)による研究の規制管理	オプション
	日米EU医薬品規制調和国際会議(ICH)、治験責任医師のためのICH	オプション
	研究者主導型治験を米国食品医薬品局(FDA)規制とGCPに則って実 施するために	オプション
	FDA規制下での治験における治験責任医師の責務	オプション
	GCP下における治験薬の管理	オプション
	医療機器治験の実施	オプション
	インフォームド・コンセント	オプション
	有害事象の察知と評価	オプション
重篤有害事象の報告	オプション	
臨床試験の監査と査察	オプション	
治験依頼者(企業)による臨床試験のモニタリング	オプション	
CITI GCPコースを終えるに当たって	オプション	
米国被験者保護局 (OHRP)教材	被験者保護局	オプション
	インフォームド・コンセントのチェック・リスト	オプション
	機密性証明書に関するガイダンス	オプション
	英語を話さない被験者のインフォームド・コンセント の取得と記録	オプション
	継続審査に関するガイダンス	オプション
国内IRBの米国OHRP への登録手続き案内	OPRR報告	オプション
	OPRR報告	オプション
	日本からの米国保健福祉省(HHS)被験者保護局(OHRP)への施設内 倫理審査委員会(IRB)登録の手順	オプション

(出典:医学部作成)

④ 合同ゼミナール

保健学専攻（博士前期・後期課程）では、理学療法関係の院生を対象として、定期的に院生全員による合同ゼミナールを実施し、院生同士の活発な質疑応答を通して主体的な学習を促進するように努めている（資料医院50）。

資料医院 50 合同ゼミナール開催状況



繊維学部トッドパタキ先生をお招きして、保健学専攻博士前期課程および博士後期課程の大学院生による合同ゼミナールを開催した。

（出典：医学部作成）

⑤ 次世代の医学研究者養成のための工夫

修士課程において、博士課程との授業の共通化による単位相互認定、博士課程へ進学した際の優遇策を実施して博士課程への進学を奨励している。

博士課程では院生をリサーチアシスタントとして採用し、研究への積極的な参画を促進している（資料医院51）。

資料医院51 次世代の医学研究者養成のための工夫

- ・ 修士課程（博士前期課程）から引き続き、博士課程または博士後期課程に進学する場合は入学検定料と入学料が不要。
- ・ 修士課程の学生は選択必修として、博士課程の共通科目を履修する。博士課程に進学した場合は10単位まで既修得単位として申請できる。
- ・ リサーチアシスタントの採用  
若手研究者の養成・確保を促進するため、医学部が行う研究プロジェクト等に優れた博士課程在学者を研究補助者として採用する。

3 国際通用性のある教育課程の編成・実施上の工夫

① 英語による授業の実施

留学生及びグローバル化に対応するため、英語の授業を実施している。英語授業は平成22年度以前に設定されたが、修士課程は平成24年度、博士前期課程は平成25年度に初めて開講された（資料医院52）。

修士課程の英語授業は修業期間内に必ず受講できるようにカリキュラムを整備している。また、日本語で授業を行う場合でも使用するスライドは、平成25年度から全ての授業で英語での記述が義務化されている。

資料医院52 英語による授業

【修士課程医科学専攻】

Subject	Introduction to Medical Science in Shinshu University Graduate School of Medicine	Credit	3
The person in charge	Keiichi Higuchi (Organizer) Department of Aging Biology (Ext. #: 5365, E-mail keiichih@shinshu-u.ac.jp)		
Room	Master Course Lecture Room, 9th floor, Asahi Life Science Research Building		
Date	Lesson 1-15, in the second semester 2014 (Dates will be announced later.)		
Aim	To introduce scientific advances in basic and clinical medicine of Shinshu University School of Medicine		
Outline	Refer to subjects of lecturers		
Textbook			
Lesson Style	Lecture, Discussion and Report		
Certifying credit	Reports		

【保健学専攻】

登録コード: MA700600	授業科目区分	選択科目
科目名	国際保健論 International Health	
担当教員	奥野 ひろみ 他 ゴウ アーチェン	
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	保健学専攻共通/1年次	前期 水曜、5時限
単位数、講義室	2単位	保健学科212講義室
授業で得られる「学位授与の方針」要素/◎:全学共通	◎の項の授業要素に当てはまる「グローバルな専門知識の習得」要素として、国際的な保健問題の理解に努められることとする。	
授業概要	国際的な保健問題に積極的に取り組み、共同研究や活動に参加できる能力を養う。 This course will examine global health issues and international collaboration of health professionals. Following introductory lectures, students will choose themes of their own interests. They search for information through the Web and published literature, find differences and commonalities in health problems, health delivery systems or health professional roles among countries, and discuss further improvements for each of these issues. This course also explores examples of international collaboration and career development in the international society. Students can also get this course credit by attending the exchange program with Curtin University (Postgraduate course).	
一般学習目標G10 (期待される学習効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>- To understand concurrent global health issues.</li> <li>- To realize diversity and universality of health problems, health systems and health professional roles in the world.</li> <li>- To identify themes of international collaboration in medical and health fields</li> </ul>	
SDGs (行動目標)	<ul style="list-style-type: none"> <li>- To identify needs of international collaboration in students' own specialties.</li> <li>- To analyze health situations and related factors in selected health problems.</li> <li>- To identify obstacles and discuss possible solutions.</li> <li>- To explore examples of international collaborations and discuss applications in students' own fields.</li> <li>- To identify merits of international collaborations and discuss how each student will develop their careers in the international society.</li> </ul>	
授業計画	<Course work> 1 (4/9) Orientation, Introduction to international health 2 (4/16) International collaboration in developing countries (problem-based) 3 (4/23) International collaboration among health professional (profession-based) 4-7(4/30 5/14, 21, 28) Group tutorials 8 (6/4) Plenary session; group presentations 9-12(6/11, 18, 25, 7/2) Group tutorials 13(7/9) Plenary session; group presentations 14 (7/16) Career development in international society 15(7/23) Course summary <Exchange program> Curtin University exchange program (August-September, three weeks) Week 1: Orientation and English language studies Week 2: Professional studies Week 3: Visits to hospitals, nursing homes and clinical institutions.	
授業の進め方	Group discussions Presentations Reports	
テキスト、教材、参考書	Will be introduced during the course.	
成績評価の方法	Lectures Group tutorials Presentations	
学生へのメッセージ並びに質問、相談への対応	Students are encouraged to turn their eyes from their own place and settings to international and cross-cultural settings, examining familiar health issues from global points of views. We also encourage students to develop visions of their own career development in the international society related to their own professions.	

(出典:医学系研究科保健学専攻シラバス)

② 留学生の状況

国際交流室の専任教員の配置に加えて国際交流委員会を組織して、留学生の生活及び研究、勉学のサポートを行うチューターの増員及びResearch Assistantへの留学生の優先採用を行った。取組みの結果、留学生が平成22年度26人から27年度には30人へと増加した(資料医院53、54)。

資料医院53 留学生チューター

	平成 21年度		平成 22年度		平成 23年度		平成 24年度		平成 25年度		平成 26年度		平成 27年度	
	前期	後期												
日本人 チューター	2	3	0	2	2	3	2	2	2	4	3	5	3	2
留学生 チューター	1	0	0	3	6	5	7	8	5	5	2	3	4	5

(出典：医学部作成)

資料医院54 留学生在籍状況の年度別推移

年度	H22		H23		H24		H25		H26		H27	
研究生	5		3		4		3		4		4	
学部生	0		0		0		1		1		1	
修士	0		2		3		2		0		0	
博士	21		23		22		25		23		25	
合計	26		28		29		31		28		30	
内訳	中国	21	中国	23	中国	24	中国	25	中国	23	中国	23
	イラク	1	イラク	1	イラク	1	韓国	1	韓国	1	韓国	1
	インドネシア	1	インドネシア	1	ネパール	2	タンザニア	1	インドネシア	1	インドネシア	1
	ネパール	1	ネパール	1	バングラデシュ	1	ネパール	2	タンザニア	1	エジプト	2
	バングラデシュ	2	バングラデシュ	1	ベトナム	1	バングラデシュ	1	ネパール	1	タンザニア	1
			ベトナム	1			ベトナム	1	ベトナム	1	ベトナム	1
											ミャンマー	1

(出典：5.1現在留学生調査より)

4 学生の主体的な学習を促すための取組

① 修士課程及び博士前期・後期課程公開論文発表会

修士課程及び博士前期・後期課程では、論文発表会を公開して実施している。また、修士課程の発表会の運営は、在学生が主体となって行っている（資料医院55）。

資料医院55 論文発表会の開催状況



平成 26 年度 修士論文発表会プログラム

2月5日(木) 9:00~

発表順	発表時間 (発表7分, 質疑3分)	発表者	論文題目	要旨頁
1	9:00~9:10	13MS006C 高津 香奈絵	精神科的薬物治療中の急死とLQT 遺伝子の関連性	1
2	9:10~9:20	13MS001B 奥島 菜々子	遺伝性疾患が疑われる小児患者における遺伝学的検査実施状況	2
3	9:20~9:30	13MS004G 近藤 由佳	18トリソミーをもつ子どもの親の思いに関する研究 —長野県立こども病院において新生児医療を受けた子どもの親へのアンケートから—	3
4	9:30~9:40	13MS005E 櫻井 和徳	2型糖尿病患者における血糖自己測定に基づいた夜間最低血糖値の予測	4
休憩(9:40~9:50)				
5	9:50~10:00	13MS007A 仲江 真理	還元型コエンザイム Q10(CoQ10)摂取による高齢者の運動トレーニング実施率改善効果	5
6	10:00~10:10	13MS002A 加藤 理子	人工内耳装用児の聴性行動および認知・発達に関する研究	6
7	10:10~10:20	13MS008K 永田 富士子	iPS 細胞を用いた心筋再生に分化時期が及ぼす影響の調査	7
8	10:20~10:30	13MS003J 小島 恵美	神経障害性疼痛における過分極誘発性環状ヌクレオチド活性化(HCN)チャネルの役割の検討	8

平成26年度  
医科学専攻  
修士論文発表会  
論文内容の要旨集



平成27年 2月5日(木) 9:00~

旭総合研究棟 9階 講義室 A・B

信州大学大学院医学系研究科

平成 26 年度 学位論文発表会プログラム

(発表順 1~13 : 修士論文, 14 : 博士論文)

2月3日(火) 9:30~

平成 26 年度  
 博士・修士  
**学位論文発表会**  
 論文内容の要旨集



平成 27 年 2 月 3 日(火) 9:30~  
 地域保健推進センター3階 多目的講義室

信州大学大学院医学系研究科  
 保健学専攻

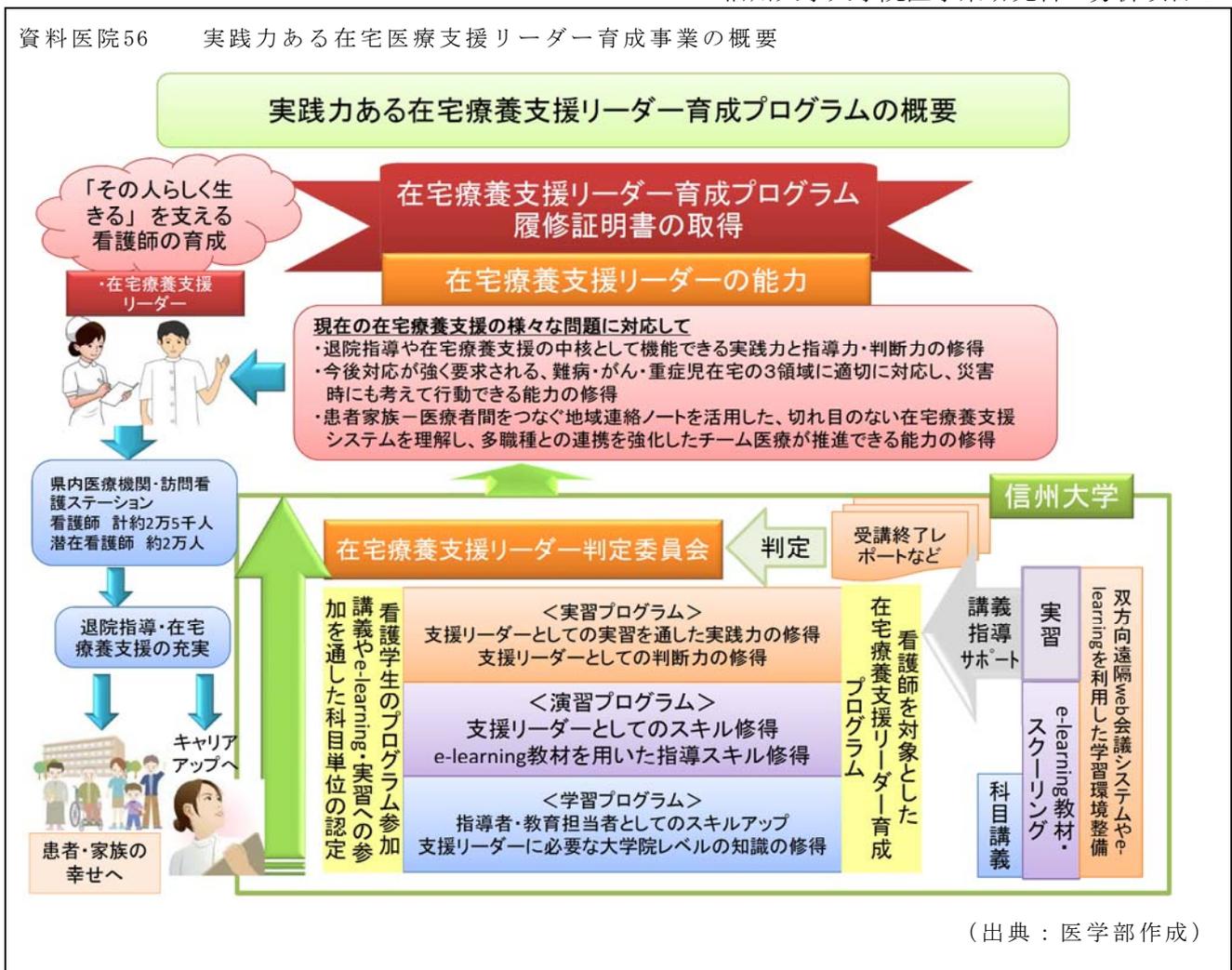
発表順	発表時間 (発表 10 分, 質疑 5 分)	発表者	論文題目	要旨頁
1	9:30~ 9:45	12MZ009K 山鹿 隆義	聴覚刺激によるブレイン-コンピュータ-インタフェース (Brain-Computer Interface) 開発に向けた刺激条件の検討	1
2	9:45~10:00	13MZ004B 池田 み奈美	リコンビナントフィブリノゲン $\gamma$ Thr305Ala, $\gamma$ Asn308Lys, $\gamma$ Phe322Ser におけるフィブリン重合能異常の比較検討	2
3	10:00~10:15	13MZ006J 岩下 千奈美	低酸素環境下での IL-1 $\beta$ による肺の線維化誘導	3
4	10:15~10:30	13MZ007G 太田 悠介	臨床検体より分離された Bacterial Small-Colony Variants を対象とした表現型解析とその発生機構の解明	4
5	10:30~10:45	13MZ008E 木戸口 周平	MALDI-TOF MS を用いた気管支肺胞洗浄液中リン脂質の分析	5
休 憩 (10:45~11:00)				
6	11:00~11:15	13MZ013A 黒部 恭史	立ち上りの動作速度が筋のサポートモーメントの角力積に及ぼす影響	6
7	11:15~11:30	13MZ014K 桑原 麻里	変形性膝関節症患者を対象とした杖の使用状況の違いにおける主観的・客観的な歩行状態の比較	7
お昼休憩 (11:30~13:00)				
8	13:00~13:15	13MZ005A 伊藤 彰洋	Basic and hydrophobic residues in the N-terminal of phactr3 are responsible for its localization to the plasma membrane and nucleus : The molecular basis for understanding the involvement of phactr family in human diseases. (Phactr3 の N 末の塩基性および疎水性アミノ酸残基は細胞膜および核分布に関与する phactr ファミリーの病因病態解析のための分子基盤)	8
9	13:15~13:30	13MZ011E 山口 大	細胞増殖マーカーを用いた免疫二重染色法による子宮内膜の細胞増殖動態の解析	9
10	13:30~13:45	11MZ001A 清沢 京子	認知症グループホームに勤務する看護師がやりがいを見出しているプロセスの研究	10
11	13:45~14:00	12MZ001D 林本 久美子	老々介護家族のレジリエンスと特性的自己効力感およびソーシャルサポート感の関連性の検討-通所系サービスを利用する老々介護家族に着目して-	11
12	14:00~14:15	13MZ010G 西島 史恵	新生児・乳幼児における質量分析法による血清中脂肪酸の分析	12
休 憩 (14:15~14:30)				
13	14:30~14:45	13MZ009C 小林 邦俊	Ameliorating Effects of Dimethyl Fumarate on Theiler's Murine Encephalomyelitis Virus (TMEV)-Induced Demyelinating Disease. (フマル酸ジメチルはタイラーウイルス誘導による免疫性脱髄疾患を抑制する)	13
14	14:45~15:00	12MZ005B 滝沢 章	Role of the Programmed Death-1 (PD-1) pathway in regulation of Theiler's murine encephalomyelitis virus-induced demyelinating disease (タイラーマウス脳脊髓炎ウイルス誘導による免疫性脱髄疾患における PD-1 pathway を介した炎症制御機構)	14

(出典 : 医学部作成)

② 地域保健推進センター

平成26年度に、保健分野に関する地域保健活動の強化・改革を目的として「地域保健推進センター」を設置した。同センターが中核となって平成26年度に採択された『文部科学省・課題解決型高度医療人材養成プログラム採択事業・「実践力ある在宅医療支援リーダー育成事業 (H26~30)」』を推進している(資料医院56)。保健学専攻博士前期課程看護学分野では、この事業にカリキュラムの一部を連動させ、在宅医療の質的向上を目的とした教育・研究を展開している。

資料医院56 実践力ある在宅医療支援リーダー育成事業の概要



③ 公開健康講座

地域保健推進センターが、長寿県長野の地域住民の健康寿命延伸を目的として開講している「公開健康講座」や、東御市との地域保健に関する合同ミーティングなどに、院生を参加させることにより、院生自身が地域に存在する健康問題を把握し、それらを題材とした研究活動を展開できるよう配慮している（資料医院57）。

信州大学医学部 地域保健推進センター **AED**  
 健康講座シリーズ 第2弾  
**「災害と健康」**

平成26年は豪雨による土砂災害、噴火、地震など様々な自然災害が長野県を襲いました。日ごろから、健康の側面からも災害に対して準備しておくことが望まれます。災害が発生したときにあわてず対応できるように、この講座を企画しました。皆さんの参加をお待ちしています。

場所 : 信州大学医学部保健学科  
 地域保健推進センター3階 多目的講義室  
 日時 : 5月9日~7月11日 10:00 - 11:30  
 参加者 : どなたでも、事前申し込み無し、参加費無料  
 (第1回と第3回は体を動かすプログラムが含まれる場合がありますので、動きやすい服装でお出かけください。)

※車でお越しの方は、正門から入構してください。無料駐車券をお渡しします。  
 ※地域保健推進センターの場所は、医学部保健学科のホームページからも確認できます。  
<http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/medicine/health/cchp/access/>

**プログラム**

- 第1回【命を救う】** 5月9日(土) 10:00-11:30  
 1.心臓が止まったら(AEDを使ってみよう)  
 2.外傷の応急手当てを覚えよう  
 深澤佳代子(保健学科看護学)
- 第2回【緊急災害援助隊(DMAT)の活動】** 5月30日(土) 10:00-11:30  
 秋田真代(高度救命救急センター医師)  
 松澤剛毅(高度救命救急センター 看護師)
- 第3回【災害後の体を守る(避難生活で起こること)】** 6月20日(土) 10:00-11:30  
 1.集団生活で発生しやすい感染症から体を守る  
 2.エコノミー症候群を予防しよう  
 奥野ひろみ(保健学科看護学)  
 大平雅美(保健学科理学療法学)
- 第4回【災害後の心を守る】** 7月11日(土) 10:00-11:30  
 1.PTSDや心の変化を知ろう  
 2.こどもの心に寄り添う  
 下里誠二(保健学科看護学)  
 平林優子(保健学科看護学)



お問い合わせ: 保健学科学務第2係  
 TEL: 0263-37-2356 E-mail: [cchphoken@shinshu-u.ac.jp](mailto:cchphoken@shinshu-u.ac.jp)

Photo: [http://www.jrc.or.jp/vcms\\_1f/care2.pdf](http://www.jrc.or.jp/vcms_1f/care2.pdf), <http://www.hp.md.shinshu-u.ac.jp/information/2011/03/post-71.php>

(出典: 医学部作成)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

① 院生・修了者：

AP、DP、学位論文の評価基準が明文化されたために、学位取得までの道筋の理解が得やすくなった。特に、CITIの履修の義務化によって、医学研究倫理の重要性の理解が徹底された（資料医院40～44、49）。

修士課程と保健学専攻博士前期・後期課程では学位論文の公開発表会が実施され、院生の主体的な学習の促進が図られた（資料医院55）。英語での授業やスライドの英語化、チューターの増員により院生のグローバル化が図られている。保健学専攻ではWeb会議システムを活用し、遠隔地にいる院生の利便性増加が図られた（資料医院48）。

② 医療機関：

CITIの義務化により、高い倫理観を持った医療人の育成への期待に対応している。医療機関で働きながら大学院での教育を受ける院生のために授業時間の工夫や、遠隔授業が実施され、リサーチマインドを持った医療人育成の要請への対応が図られている（資料医院37、48～49）。

③ 研究機関：

CITIの義務化により、高い倫理観を持つ、将来指導的立場になる研究者の養成が図られている（資料医院49）。

④ 地域社会、国際社会：

地域保健推進センターの設置により、地域社会が求める人材の養成への対応がなされた（資料医院57）。留学生の数を増やし、院生の国際交流の機会の増加が図られた（資料医院53、54）。英語のみで行う授業を実施し、授業のスライドの英語での記述を義務化した（資料医院52）。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

(1) 観点ごとの分析

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

1 修了、退学、休学の状況

本研究科の修了、退学、休学の状況は、次のとおりである(資料医院58、59)。

資料医院58 標準修業年限内修了率及び「標準修了年限内×1.5」年内修了率

【修士課程(医科学専攻)】

	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度
標準修業年限内	48%	100%	87%	78%	93%	100%	100%
標準修業年限内×1.5	48%	100%	87%	78%	93%	100%	100%

【博士前期課程(保健学専攻)】

	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度
標準修業年限内	87%	53%	64%	63%	67%	67%	73%
標準修業年限内×1.5	96%	53%	79%	76%	83%	75%	80%

【博士課程(医学系専攻、臓器移植細胞工学医科学系専攻、加齢適応医科学系専攻)】

	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度
標準修業年限内	49%	81%	68%	26%	77%	74%	34%
標準修業年限内×1.5	55%	91%	74%	28%	81%	77%	34%

【博士後期課程(保健学専攻)】

	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度
標準修業年限内			33%	33%	29%	20%	25%
標準修業年限内×1.5			33%	40%	33%	20%	25%

(出典：医学部作成)

資料医院59 退学、休学率

【修士課程(医科学専攻)】

	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度
退学率	0%	3%	0%	9%	4%	5%	0%
休学率	0%	3%	3%	9%	8%	11%	0%

【博士前期課程(保健学専攻)】

	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度
退学率	3%	0%	3%	3%	0%	0%	0%
休学率	3%	3%	3%	9%	7%	6%	6%

【博士課程(医学系専攻、臓器移植細胞工学医科学系専攻、加齢適応医科学系専攻)】

	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度
退学率	6%	5%	5%	4%	6%	8%	12%
休学率	7%	8%	10%	10%	12%	11%	9%

【博士後期課程(保健学専攻)】

	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度	平成 27年度
退学率	0%	0%	0%	0%	0%	0%	3%
休学率	0%	0%	0%	4%	4%	25%	20%

※退学率は、該当年度の在籍者で除した割合。  
 ※休学率は、該当年度5月1日現在の数を該当年度の在籍者数で除した割合。

(出典：医学部作成)

2 学位取得状況

学位取得状況は以下のとおりである（資料医院60）。

資料医院60 学位取得状況

**修士**

授与年度	学位授与数						
	修士(医科学)			修士(看護学・保健学)			
	医科学	うち 社会人学生	うち 留学生	看護学	保健学	うち 社会人学生	うち 留学生
平成22年度	16	9		4	8	6	
平成23年度	13	6		2	13	10	
平成24年度	14	5	1	2	15	13	
平成25年度	13	3	2	1	10	10	
平成26年度	8	4		2	11	6	
平成27年度	10	8		1	13	6	
		35	3			51	

**博士**

授与年度	学位授与数					
	博士(医学)			博士(保健学)		
		うち 社会人学生	うち 留学生		うち 社会人学生	うち 留学生
平成22年度	32	26	2	—	—	—
平成23年度	52	43	7	3	3	
平成24年度	26	17	5	3	3	
平成25年度	42	36	4	3	3	
平成26年度	34	26	5	1	1	
平成27年度	32	29	3	4	4	
		177	26		14	

(出典：医学部作成)

3 博士課程における論文の評価

① 学位取得論文掲載雑誌のIF

博士課程では、学位取得論文におけるIF 3.0以上の雑誌への掲載比率が増加してきている（資料医院61）。

資料医院61 学位取得論文における優秀論文（掲載する雑誌のIF 3.0以上）の比率

	平成 22 年度			平成 23 年度			平成 24 年度			平成 25 年度			平成 26 年度			平成 27 年度		
	医科学	疾患 予防	合計															
IF>3.0	4	0	4	12	1	13	8	5	13	10	6	16	6	5	11	12	1	13
Total	23	9	32	34	18	52	16	10	26	30	12	42	20	14	34	27	5	32
%	17%	0%	13%	35%	6%	25%	50%	50%	50%	33%	50%	38%	30%	36%	32%	44%	20%	40%

(出典：医学部作成)

② 院生が在学中に行った研究を発表した論文

掲載雑誌のIF 3.0以上が36本、5.0以上が20本、10.0以上が8本である（医学研究では長期的な研究期間が必要なことから、院生が在学中に実施した研究で修了後すぐに筆頭著者として発表した論文も含まれている）。

学会での受賞件数が41件である（資料医院62、63）。

資料医院62 学会等における受賞状況

年度	受賞学会
平成22年度	日本基礎老化学会 第33回大会若手奨励賞受賞
	第109回日本皮膚科学会総会ポスター賞受賞
	第17回肝血流動態イメージ研究会 板井悠二賞 受賞
	日本心血管内分泌代謝学会 Poster Award 受賞
	日本心血管内分泌代謝学会 YIA 受賞
	日本基礎老化学会第33回大会若手奨励賞受賞 受賞
	The 8th Korea-Japan Joint Symposium on Vascular Biology Nature Medicine Vascular Award 受賞
	The 8th Korea-Japan Joint Symposium on Vascular Biology 優秀演題賞
	日本心脈管作動物質学会 YIA 受賞
平成23年度	Society for Glycobiology Travel Award 受賞
	日本排尿機能学会河邊賞 受賞
	日本内分泌学会 YIA 受賞
	内分泌代謝学サマーセミナー 演題優秀賞受賞
	日本心血管内分泌代謝学会 YIA 受賞
	第49回癌治療学会優秀ポスター賞 受賞
平成24年度	第48回日本医学放射線学会秋季臨床大会 教育展示優秀賞 受賞
	Society for Glycobiology Travel Award 受賞
	日本動脈硬化学会 優秀ポスター賞 受賞
	日本高血圧学会 YIA 受賞
	日本心脈管作動物質学会 YIA 受賞
平成25年度	AHA Funded Resercher 受賞
	ESGAR 2013 Certificate of Merit 受賞
	第10回日本病理学会カンファレンス最優秀ポスター賞 受賞
	平成25年度日本関節病学会優秀論文賞 受賞
	2013年度アメリカ骨代謝学会President's Poster Competition Awards 受賞
	平成25年度信州大学医学部医学科顕彰学術奨励賞 受賞
	International Symposium of Aldosterone and Related Substances inHypertension 2013 YIA 受賞
	臨床ストレス応答学会 YIA 受賞
日本心血管内分泌代謝学会 Y I A 受賞	
平成26年度	日本病理学会100周年記念病理学研究新人賞 受賞
	日本内分泌学会 YIA 受賞
	日本リンパ学会 学会奨励賞(西賞) 受賞
	日本炎症・再生医学会 優秀演題賞 受賞

年度	受賞学会
平成26年度	日本臨床微生物学会総会・学術集会 日本臨床微生物学会日本ペクトン・ディッキンソン賞 受賞
	パゾプレシン研究会 研究奨励賞 受賞
	日本脈管学会総会 JCAA基礎部門最優秀賞 受賞
	日本動脈硬化化学会 若手研究者奨励賞最優秀賞 受賞
	日本区域麻酔学会 第1回学術集会 優秀演題賞 受賞
平成27年度	日本心血管内分泌代謝学会学術総会 若手研究奨励賞(YIA)最優秀賞 受賞
	国際コエンザイムQ10協会カンファレンス Young Participant Award 受賞
	DIALYSIS ACCESS SYMPOSIUM 2015 best abstract award 受賞
	日本神経麻酔集中治療学会 学術賞(臨床部門) 受賞

(出典：医学部作成)

資料医院63 Journal (IF=10以上) に掲載された論文

年度	著者	論文タイトル	雑誌名	IF	巻	ページ	発行年
平成22年度	Joshita S, Umemura T, Yoshizawa K, Katsuyama Y, Tanaka E, Nakamura M, Ishibashi H, Ota M; Shinshu PBC Study Group.	Association analysis of cytotoxic T-lymphocyte antigen 4 gene polymorphisms with primary biliary cirrhosis in Japanese	J Hepatol	10.4	53	537-541	2010
	Nagaya T, Tanaka N, Suzuki T, Sano K, Horiuchi A, Komatsu M, Nakajima T, Nishizawa T, Joshita S, Umemura T, Ichijo T, Matsumoto A, Yoshizawa K, Nakayama J, Tanaka E, Aoyama T.	Down-regulation of SREBP-1c is associated with the development of burned-out NASH	J Hepatol	10.4	53	724-731	2010
平成23年度	Hara K, Aoki K, Usui Y, Shimizu M, Narita N, Ogihara N, Nakamura K, Ishigaki N, Sano K, Haniu H, Kato H, Nishimura N, Kim Y A, Taruta S, Naoto Saito N.	Evaluation of CNT toxicity by comparison to tattoo ink	Mater Today	10.9	14	434-440	2011
	Kawaguchi M, Takahashi M, Hata T, Kashima Y, Usui F, Morimoto H, Izawa A, Takahashi Y, Masumoto J, Koyama J, Hongo M, Noda T, Nakayama J, Sagara J, Taniguchi S, Ikeda U.	Inflammasome activation of cardiac fibroblasts is essential for myocardial ischemia/reperfusion injury.	Circulation	15.0	123	594-604	2011
平成24年度	Shimizu M, Kobayashi Y, Mizoguchi T, Nakamura H, Kawahara I, Narita N, Usui Y, Aoki K, Hara K, Haniu H, Ogihara N, Ishigaki N, Nakamura K, Kato H, Kawakubo M, Dohi Y, Taruta S, Kim YA, Endo M, Ozawa H, Udagawa N, Takahashi N, Saito N.	Carbon nanotubes induce bone calcification by bidirectional interaction with osteoblasts.	Adv Mater.	15.4	24	2176-2185	2012
	Karasawa F, Shiota A, Goso Y, Kobayashi M, Sato Y, Masumoto J, Fujiwara M, Yokosawa S, Muraki T, Miyagawa S, Ueda M, Fukuda MN, Fukuda M, Ishihara K, Nakayama J.	Essential role of gastric gland mucin in preventing gastric cancer in mice.	J Clin Invest	13.8	122	923-934	2012
平成25年度	Koyama T, Ochoa-Callejero L, Sakurai T, Kamiyoshi A, Ichikawa-Shindo Y, Iinuma N, Arai T, Yoshizawa T, Iesato Y, Lei Y, Uetake R, Okimura A, Yamauchi A, Tanaka M, Igarashi K, Toriyama Y, Kawate H, Adams RH, Kawakami H, Mochizuki N, Martínez A, Shindo T.	Vascular endothelial adrenomedullin-RAMP2 system is essential for vascular integrity and organ homeostasis	Circulation	15.3	127	842-53	2013

平成26年度	-	-	-	-	-	-	-
平成27年度	Shinsuke Kobayashi, Shuji Tsuruoka, Yuki Usui, Hisao Haniu, Kaoru Aoki, Seiji Takanashi, Masanori Okamoto, Hiroki Nomura, Manabu Tanaka, Shigetoshi Aiso, Misae Saito, Hiroyuki Kato and Naoto Saito	An advanced in situ imaging method using heavy metal-doped hollow tubes to evaluate the biokinetics of carbon nanotubes in vivo	NPG Asia Materials	10.1	7	e203	2015

(出典：医学部作成)

③ 早期修了の状況

優れた研究業績を上げたと認められ早期修了した者は、次のとおりである(資料医院64)。

資料医院64 早期修了者の状況

平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2	0	1	3	0	1

(出典：医学部作成)

④ 満足度調査結果

修了生及び在学生への満足度調査によると、満足度の平均値は年々増加している。満足度の上昇した項目では「社会人院生への配慮」や「医学系研究科の目的の適合性」、「実施した研究の意義や内容研究」の項目が顕著であった(資料医院65)。

資料医院65 博士課程及び博士後期課程修了生の満足度調査の年次推移  
(医学系)

大学院医学系研究科 博士課程修了者 満足度調査

設問	そう思う、どちらかというと思うの割合						
	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	
博士課程の教育・研究組織は、あなたの学習・研究にとって十分なものでしたか	64%	72%	64%	85%	86%	91%	77%
博士課程の教員配置は、あなたの学習・研究にとって十分なものでしたか	61%	68%	52%	73%	83%	80%	70%
博士課程での勉強や研究の指導は十分でしたか	64%	63%	58%	85%	83%	86%	73%
指導教員は、あなたの研究学習上の相談に真摯に対応してくれましたか	91%	81%	76%	95%	96%	94%	89%
博士課程の複数教員指導体制は、機能していると思いますか	51%	57%	29%	61%	83%	58%	57%
所属以外の研究者との交流はありましたか	52%	72%	70%	63%	53%	72%	64%
外国の研究者との交流はありましたか	23%	31%	41%	39%	30%	48%	35%
博士課程の設備は、あなたの学習・研究にとって十分なものでしたか	76%	68%	70%	78%	80%	78%	75%
課程の講義カリキュラムは、医学研究者または高度医療職業人の養成に十分なものであったと思いますか	61%	40%	52%	58%	80%	69%	60%
博士課程のシラバスは、よく整備されていましたか	50%	45%	47%	51%	70%	69%	55%
博士課程では、e-learningシステムなど自学自習を促す取組が十分でしたか	14%	13%	35%	31%	50%	52%	33%
社会人大学院生の方に伺います。博士課程は、社会人大学院生の利便を考慮したものだったと思いますか	58%	46%	90%	81%	83%	84%	74%
博士課程の飛び級制度は、あなたの勉強や研究の意欲を高めましたか	35%	19%	37%	30%	27%	44%	32%
博士課程で、TAやRAの制度は有益であったと思いますか	40%	33%	47%	31%	24%	40%	36%
博士課程で、学位授与の基準が明確であったと思いますか	66%	66%	81%	73%	78%	75%	73%
博士課程で、学位論文審査会が公開されていることに意義を感じますか	64%	47%	70%	75%	82%	80%	70%
博士課程では、あなたの望む勉強や研究ができましたか	67%	71%	82%	82%	86%	86%	79%
博士課程での勉強や研究は、あなたの知識や教養を高めましたか	91%	85%	88%	95%	89%	94%	90%
博士課程での勉強や研究は、あなたの論理的思考能力を高めましたか	85%	71%	82%	90%	93%	88%	85%
博士課程での勉強や研究は、あなたの語学力を高めましたか	64%	47%	58%	73%	69%	72%	64%
博士課程での勉強や研究は、あなたの職業人としての能力を高めましたか	64%	66%	82%	85%	79%	88%	77%
博士課程で勉強・研究した内容は、あなたの今後にとって有益なものになると思われませんか	82%	77%	94%	95%	86%	97%	89%
あなたの博士課程での研究は、医学・医療の発展に寄与すると思いますか	64%	63%	64%	90%	80%	80%	74%
博士課程での勉強や研究を、今後も何らかの形で発展させていきたいと考えていますか	82%	68%	76%	87%	86%	94%	82%
後輩に、信州大学医学系研究科への入学を勧めますか	52%	50%	52%	59%	83%	72%	61%
	60.8%	56.8%	63.9%	70.6%	73.6%	75.6%	

(保健学)

大学院医学系研究科 博士後期課程修了生 満足度調査

設問	そう思う、どちらかというと思うの割合				
	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
教育課程は専攻の目的に適したものである	100%	100%	100%	100%	67%
教育・研究組織は、あなたの学習・研究にとって十分なものでしたか？	100%	67%	100%	100%	100%
研究の指導は十分でしたか？	67%	100%	100%	100%	100%
指導教員は、あなたの研究学習上の相談に真摯に対応してくれましたか？	67%	100%	100%	100%	100%
所属以外の研究者との交流はありましたか？	100%	67%	33%	100%	100%
外国の研究者との交流はありましたか？	0%	0%	33%	0%	33%
本学の設備は、あなたの学習・研究にとって十分なものでしたか？	67%	33%	100%	100%	67%
講義カリキュラムは、教育・研究者や高度専門保健医療職者の養成に十分なものであったと思いますか？	100%	67%	100%	0%	67%
シラバスは、よく整備されていましたか？	67%	67%	100%	100%	67%
社会人大学院生の利便を考慮したものだったと思いますか？	100%	100%	67%	100%	67%
学位授与の基準が明確であったと思いますか？	100%	100%	67%	100%	33%
学位論文審査会が公開されていることに意義を感じますか？	67%	33%	100%	0%	67%
あなたの望む学習や研究ができましたか？	67%	100%	100%	0%	67%
この課程での学習や研究は、あなたの知識を増やしましたか？	100%	100%	100%	100%	100%
この課程での学習や研究は、あなたの論理的思考能力を高めましたか？	100%	100%	100%	100%	67%
この課程での学習や研究で、あなたの語学力が高まりましたか？	67%	33%	100%	100%	67%
この課程での学習や研究は、あなたの保健医療職者としての能力を高めましたか？	100%	67%	100%	0%	67%
この課程で学習・研究した内容は、あなたの今後にとって有益なものになると思われますか？	100%	100%	100%	100%	100%
この課程でのあなたの研究は、保健・医療・福祉の発展に寄与すると思いますか？	100%	100%	100%	0%	67%
この課程での学習や研究を、今後も何らかの形で発展させていきたいと考えていますか？	100%	100%	100%	100%	67%
後輩に、信州大学大学院医学系研究科保健学専攻への入学を勧めますか？	67%	100%	100%	100%	67%

(出典：医学部作成)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

① 院生・修了者:

どの専攻においても、退学者および休学者は平均10%以下である。修士課程と博士前期課程は、標準修業年限内×1.5年内の学位取得率が53%から100%である(資料医院58、59)。IF 3.0以上の学位取得論文の比率の増大や、IF 10以上の質の高い論文、多数の学会賞受賞者などの成果を上げることができている(資料医院61~63)。院生や修了者への満足度調査の結果、高い満足度が得られている。保健学専攻博士前期・後期課程でも、研究指導を含めた教育課程全体に対する高い満足度が得られている(資料医院65)。

② 医療機関:

職業を持ちながら大学院へ通う社会人院生への配慮に対し、高い満足度が寄せられている(資料医院65)。

③ 研究機関:

IF 3.0以上の雑誌に掲載された学位論文や多数の学会賞受賞者から、高い研究能力を有する研究者を育成できたことが認められる(資料医院61~63)。

④ 地域社会、国際社会:

多くの人材(社会人院生277人、留学生29人)を育成し、長野県周辺地域や国際社会へと送り出したことで、期待に応じたと認められる(資料医60)。

観点 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

1 修了後の進路の状況

過去7年間の進路状況は、資料医院66～68のとおりである。修士課程、博士課程、保健学専攻博士前期・後期課程共に国立大学平均と同等か、より高い就職率を維持している。

資料医院66 医科学専攻（修士課程）及び保健学専攻（博士前期課程）の進路状況

研究科	修了年度	区分	修了者	進学者		就職者		の専修学校等 入学者 外国	一時的な仕事に 就いた者	左記以外の者		不詳・死亡 の者	
			A	人(B)	率(B/A)	人(C)	率(C/A-B)			人(D)	率(D/A)		
医学系研究科 (修士課程・博士前期課程)	H21	全体	6,047	919	15.20%	4,612	89.94%	17	45	370	6.12%	84	
		国立	2,883	661	22.93%	1,985	89.33%	8	17	184	6.38%	28	
		本学	計	31	13	41.94%	17	94.44%	0	0	1	3.23%	0
			男	14	9	64.29%	5	100.00%	0	0	0	0.00%	0
			女	17	4	23.53%	12	92.31%	0	0	1	5.88%	0
	H22	全体	6,197	856	13.81%	4,868	91.14%	16	24	334	5.39%	99	
		国立	2,821	593	21.02%	2,018	90.57%	7	6	159	5.64%	38	
		本学	計	28	8	28.57%	18	90.00%	0	0	2	7.14%	0
			男	13	6	46.15%	6	85.71%	0	0	1	7.69%	0
			女	15	2	13.33%	12	92.31%	0	0	1	6.67%	0
	H23	全体	4,687	819	17.47%	3,377	87.31%	21	46	374	7.98%	50	
		国立	2,423	588	24.27%	1,607	87.57%	12	14	174	7.18%	28	
		本学	計	28	5	17.86%	21	91.30%	0	0	0	0.00%	0
			男	13	3	23.08%	10	100.00%	0	0	0	0.00%	0
			女	15	2	13.33%	11	84.62%	0	0	2	13.33%	0
	H24	全体	4,746	790	16.65%	3,436	86.86%	24	52	396	8.34%	48	
		国立	2,404	568	23.63%	1,601	87.20%	8	17	189	7.86%	21	
		本学	計	31	11	35.48%	19	95.00%	0	0	1	3.23%	0
			男	14	5	35.71%	9	100.00%	0	0	1	7.14%	0
			女	17	6	35.29%	10	90.91%	0	0	—	0.00%	0
	H25	全体	4,625	777	16.80%	3,385	87.97%	27	42	355	7.68%	39	
		国立	2,469	576	23.33%	1,657	87.53%	14	14	185	7.49%	23	
		本学	計	24	5	20.83%	16	84.21%	0	0	3	12.50%	0
			男	15	4	26.67%	10	90.91%	0	0	1	6.67%	0
			女	9	1	11.11%	6	75.00%	0	0	2	22.22%	0
	H26	全体	4,738	732	15.45%	3,587	89.54%	16	58	314	6.63%	31	
		国立	2,489	544	21.86%	1,736	89.25%	13	21	152	6.11%	23	
本学		計	21	2	9.52%	16	84.21%	1	0	2	9.52%	0	
		男	8	2	25.00%	5	83.33%	1	0	0	0.00%	0	
		女	13	0	0.00%	11	84.62%	0	0	2	15.38%	0	
H27	全体												
	国立												
	本学計	24	1	4.17%	21	91.30%	0	0	2	8.33%	0		

	男	13	1	7.69%	12	100.00%	0	0	0	0.00%	0
	女	11	0	0.00%	9	81.82%	0	0	2	18.18%	0

平成27年度「全体」「国立」については、平成28年6月末現在未公開

(出典：学校基本調査データをもとに経営企画課作成)

資料医院67 医学系専攻・疾患予防医科学系（博士課程）の進路状況

研究科	修了年度	区分	修了者			進学者		就職者		の専修学校等入学者	一時的な仕事に就いた者	左記以外の者		不詳・死亡の者
			A	人(B)	率(B/A)	人(C)	率(C/A-B)	人(D)	率(D/A)					
医学系研究科（博士課程）	H21	全体	3,377	40	1.18%	2,675	80.16%	39	68	404	11.96%	150		
		国立	2,286	12	0.52%	1,731	76.12%	26	62	338	14.79%	116		
		本学	計	40	0	0.00%	36	90.00%	1	0	3	7.50%	0	
			男	27	0	0.00%	25	92.59%	1	0	1	3.70%	0	
			女	13	0	0.00%	11	84.62%	0	0	2	15.38%	0	
	H22	全体	3,354	11	0.33%	2,837	84.86%	48	93	292	8.71%	73		
		国立	2,273	10	0.44%	1,893	83.65%	37	78	222	9.77%	33		
		本学	計	65	0	0.00%	62	95.38%	0	0	3	4.62%	0	
			男	43	0	0.00%	41	95.35%	0	0	2	4.65%	0	
			女	22	0	0.00%	21	95.45%	0	0	1	4.55%	0	
	H23	全体	3,480	16	0.46%	2,950	85.16%	52	86	276	7.93%	98		
		国立	2,327	11	0.47%	1,937	83.64%	48	78	216	9.28%	37		
		本学	計	41	0	0.00%	37	90.24%	1	2	1	2.44%	0	
			男	33	0	0.00%	33	100.00%	0	0	0	0.00%	0	
			女	8	0	0.00%	4	50.00%	1	2	1	12.50%	0	
	H24	全体	3,452	44	1.27%	2,864	84.04%	28	88	318	9.21%	109		
		国立	2,252	37	1.64%	1,821	82.21%	19	68	256	11.37%	50		
		本学	計	40	0	0.00%	36	90.00%	0	0	0	0.00%	0	
			男	30	0	0.00%	29	96.67%	0	0	0	0.00%	0	
			女	10	0	0.00%	7	70.00%	0	0	0	0.00%	0	
	H25	全体	3,535	60	1.70%	2,915	83.88%	28	128	278	7.86%	125		
		国立	2,360	56	2.37%	1,886	81.86%	17	109	211	8.94%	80		
		本学	計	52	0	0.00%	45	86.54%	0	0	7	13.46%	0	
			男	40	0	0.00%	37	92.50%	0	0	3	7.50%	0	
			女	12	0	0.00%	8	66.67%	0	0	4	33.33%	0	
	H26	全体	3,454	32	0.93%	2,902	84.80%	28	123	266	7.70%	103		
		国立	2,252	31	1.38%	1,835	82.62%	21	101	208	9.24%	56		
本学		計	41	0	0.00%	38	92.68%	0	0	3	7.32%	0		
		男	29	0	0.00%	26	89.66%	0	0	3	10.34%	0		
		女	12	0	0.00%	12	100.00%	0	0	0	0.00%	0		
H27	全体													
	国立													
	本学	計	50	0	0.00%	42	84.00%	0	0	8	16.00%	0		
		男	32	0	0.00%	29	90.63%	0	0	3	9.38%	0		
	女	18	0	0.00%	13	72.22%	0	0	5	27.78%	0			

平成27年度「全体」「国立」については、平成28年6月末現在未公開  
 (出典:学校基本調査データをもとに経営企画課作成)

資料医院68 保健学専攻(博士後期課程)の進路状況

研究科	修了年度	区分	修了者	進学者		就職者		専修学校・外国 の学校等入学者	一時的な仕事に 就いた者	左記以外の者		不詳・死亡 の者	
			A	人(B)	率(B/A)	人(C)	率(C/A-B)			人(D)	率(D/A)		
医学系研究科 (博士後期課程)	H23	全体	703	1	0.14%	569	81.05%	6	34	76	10.81%	17	
		国立	501	1	0.20%	391	78.20%	6	30	58	11.58%	15	
		本学	計	3	0	0.00%	3	100.00%	0	0	0	0.00%	0
			男	1	0	0.00%	1	100.00%	0	0	0	0.00%	0
			女	2	0	0.00%	2	100.00%	0	0	0	0.00%	0
	H24	全体	745	6	0.81%	613	82.95%	5	19	83	11.14%	19	
		国立	535	3	0.56%	428	80.45%	5	16	69	12.90%	14	
		本学	計	3	0	0.00%	3	100.00%	0	0	0	0.00%	0
			男	3	0	0.00%	3	100.00%	0	0	0	0.00%	0
			女	0	0	0.00%	0	0.00%	0	0	0	0.00%	0
	H25	全体	788	3	0.38%	654	83.31%	4	29	70	8.88%	28	
		国立	573	—	0.00%	468	81.68%	3	25	54	9.42%	23	
		本学	計	3	0	0.00%	3	100.00%	0	0	0	0.00%	0
			男	1	0	0.00%	1	100.00%	0	0	0	0.00%	0
			女	2	0	0.00%	2	100.00%	0	0	0	0.00%	0
	H26	全体	763	8	1.05%	592	78.41%	9	28	98	12.84%	28	
		国立	542	4	0.74%	406	75.46%	9	26	79	14.58%	18	
		本学	計	2	0	0.00%	2	100.00%	0	0	0	0.00%	0
			男	2	0	0.00%	2	100.00%	0	0	0	0.00%	0
			女	0	0	0.00%	0	0.00%	0	0	0	0.00%	0
H27	全体	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/		
	国立	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/		
	本学	計	4	0	0.00%	4	100.00%	0	0	0	0.00%	0	
		男	1	0	0.00%	1	100.00%	0	0	0	0.00%	0	
		女	3	0	0.00%	3	100.00%	0	0	0	0.00%	0	

平成27年度「全体」「国立」については、平成28年6月末現在未公開  
 (出典:学校基本調査データをもとに経営企画課作成)

2 就職状況の詳細

修士課程では、医療・福祉施設職員、企業の研究室などの会社員、法人・団体職員と大学院進学が主な就職先である（資料医院69）。

資料医院69 修士課程医科学系専攻の修了後の状況

年度		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
修了者数		18	14	14	13	8	10	
大学院等進学者数		6 ※1	2	5 ※2	2		1	
修士課程	就職者数	建設業			1			
		製造業	3	1	4	2	1	
		卸売業、小売業						1
		学術研究、専門・技術サービス業		2				
		宿泊業、飲食サービス業	1					
		生活関連サービス業、娯楽業						
		教育、学習支援業			2	2	1	1
		医療、福祉	11	7	4	4	2	4
		公務					1	
その他			1	1	2	2	2	

※1 大学院等進学者4名は、就職者数にも含まれる。

※2 大学院等進学者2名は、就職者数にも含まれる。

（出典：信州大学概要）

博士課程では、80%程度が医療・福祉施設の職に就くが、教員や研究者に就く人材も存在する（資料医院70）。全体として37人が研究者、教員としての職を得た。

資料医院70 博士課程修了者の修了後の状況

年度		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
修了者数		65	41	40	52	41	50	
大学院等進学者数								
博士課程	就職者数	建設業						
		製造業	2	2	1		1	
		学術研究、専門・技術サービス業	2	1			1	
		宿泊業、飲食サービス業						
		生活関連サービス業、娯楽業						
		教育、学習支援業	5	3	6	4		2
		医療、福祉	53	31	32	39	36	39
		公務			1	2		
		その他			3		7	3

（出典：信州大学概要）

保健学専攻博士前期課程では、地域（長野県）で職業を持つ院生が多く、ほとんどが医療・福祉分野や教育・人材育成分野へ就職（元の職場への復帰を含む）するか、博士後期課程へ進学している（資料医院71）。

保健学専攻博士後期課程では、平成23年度から15人の修了者を輩出しており、13人が医療・福祉職（臨床検査技師、理学療法士、作業療法士）に就き、2人が大学の教員に採用されている（資料医院72）。

資料医院71 博士前期課程（保健学専攻）修了者の修了後の状況

年度		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
修了者数		10	14	17	11	13	14	
大学院等進学者数		2 ※1	3 ※2	6 ※3	3 ※4	3 ※5	3 ※6	
博士前期課程	就職者数	建設業						
		製造業			2	1	1	
		学術研究、専門・技術サービス業		2				
		宿泊業、飲食サービス業						
		生活関連サービス業、娯楽業				1		
		教育、学習支援業	2	4	2		1	1
		医療、福祉	7	8	12	8	10	11
		公務						1
		その他				1		

※1 大学院等進学者2名は、就職者数にも含まれる。  
 ※2 大学院等進学者3名は、就職者数にも含まれる。  
 ※3 大学院等進学者5名は、就職者数にも含まれる。  
 ※4 大学院等進学者3名は、就職者数にも含まれる。  
 ※5 大学院等進学者2名は、就職者数にも含まれる。  
 ※6 大学院等進学者3名は、就職者数にも含まれる。

(出典：信州大学概要)

資料医院72 博士後期課程（保健学専攻）修了者の修了後の状況

年度		平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
修了者数			3	3	3	2	4	
大学院等進学者数								
博士後期課程	就職者数	建設業						
		製造業						
		学術研究、専門・技術サービス業					1	
		宿泊業、飲食サービス業						
		生活関連サービス業、娯楽業						
		教育、学習支援業			1			1
		医療、福祉		3	2	3	1	3
		公務						
		その他						

(出典：信州大学概要)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

① 院生・修了者：

修士課程及び博士前期課程では全国平均に匹敵する高い就職率が維持されている（資料医院66）。博士課程修了者の約8割は病院等医療関連の職に就いている。

② 医療機関：

保健学専攻博士前期・後期課程では、すでに長野県内の医療機関において保健医療専門職者として勤務している院生が多く、大学院で修得した「根拠に基づいた実践（Evidence-based Practice、EBP）」の能力を活かして、各医療機関における質の向上の期待に対応していると判断される（前掲資料医院3、資料医院71、72）。

③ 地域社会、国際社会：

地域社会に多くの修了者を輩出することができたこと、また、多くの留学生が課程を修了することができたことから地域社会、国際社会への貢献が認められる（前掲資料医院60）。

## Ⅲ 「質の向上度」の分析

## (1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

- ① 医学系研究科では平成24年度に組織改革・再編が行われ、修士課程と博士課程では充足率が平成21年度75%、70.5%から平成26・27年度平均104%、112.5%へと上昇した（資料医院22、23）。
- ② 修士課程と博士課程での大学院定員の適正化を伴う再編成（平成24年度）や副指導教授体制の義務化（平成24年度）を行った（資料医院22、23、34）。
- ③ 全国に先駆けて本学を中心に編成されたCITIを平成25年度から必修化した（資料医院49）。
- ④ 修士課程、博士課程に新たな専門コースを平成24年度に設置し、院生の多様な期待に対応した（資料医院24）。
- ⑤ リサーチマインドを持った医師を養成するためのe-MED（平成26年度から7人受講）と、初期臨床研修と博士課程を同時に履修する制度（平成26年度から3人入学）が整備された（資料医院25、26）。
- ⑥ 学生相談室の設置（平成24年度）や緊急連絡体制の整備（平成27年度）、継続的なFDの実施によって、院生のメンタル面に対するサポートの円滑な展開が認められた（資料医院31～33）。
- ⑦ AP、DP、学位取得までの道筋、学位論文の評価基準を平成23年度に定めて、学位論文審査の公開や発表会を実施したことは評価できる（資料医院40、42～44、55）。
- ⑧ 保健学専攻では平成26年度からWeb会議システムを導入・活用し、遠隔地にいる院生の利便性が図られた（資料医院48）。
- ⑨ 英語での授業や講義スライドの英語化（平成25年度）はグローバル化への対応と評価できる（資料医院52）。
- ⑩ 地域保健推進センターが平成26年度に開設され、院生自身が長寿県長野の地域に存在する健康問題を把握し、それらを題材とした教育、研究活動を展開できる体制の充実が認められた（資料医院57）。

## (2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

- ① 保健学専攻博士後期課程を修了した院生を平成23年度に初めて送り出すことができた（資料医院60）。
- ② 第1期から継続する低い休学、退学率と、全国平均に匹敵する高い就職率を維持することができた（資料医院66～68）。

## 10. 工学部

- I 工学部の教育目的と特徴・・・・・・・・・・10-2
- II 「教育の水準」の分析・判定・・・・・・・・10-13
  - 分析項目 I 教育活動の状況・・・・・・・・10-13
  - 分析項目 II 教育成果の状況・・・・・・・・10-60
- III 「質の向上度」の分析・・・・・・・・・・10-80

## I 工学部の教育目的と特徴

### 1 教育目的

#### ① 理念と目標

本学部の理念・目標（資料工1、2）

##### 資料工1：工学部の理念

本学部は、恵まれた自然環境の中で個性を生かし、基礎的学力の素養のもとに工学の幅広い専門的知識を有する創造性豊かな人材を養成します。

また、工学技術と環境保全との調和に深く関心を持って人類社会に貢献し、高度情報化社会における学際的技術の研究開発や国際化に対応できる人材を育成します。

（出典：信州大学工学部ホームページ「理念・目標」）

##### 資料工2：工学部の目標

本学部は、基礎学力の向上を重視しつつ専門知識並びに学際分野の修得を基盤にし、創造力の育成と課題探求能力を開発する教育を行うとともに、情報技術に関する基礎知識とその応用能力を育成します。また、地球環境保全などに対する技術者倫理をそなえ国際的視野に立ってさまざまな分野で貢献できるための行動力や自立心を有する人材を育成します。

（出典：信州大学工学部ホームページ「理念・目標」）

#### ② 3つの方針（DP、CP、AP）

大学と学部で、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー、以下「DP」）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー「CP」）、入学者受入の方針（アドミッション・ポリシー「AP」）を定めている。（資料工3～8）

#### ②-1 DP

##### 資料工3：信州大学学位授与の方針（DP）

信州大学は、豊かな自然環境と、伝統ある歴史と文化に恵まれた信州に立地する大学です。本学では、かけがえのない自然や文化を愛する気持ちをもって、人類文化・思想の多様性を受け入れ、豊かなコミュニケーション能力を持つ教養人であるとともに、高度な専門知識と能力を備えて自ら課題を発見し、その解決にむけて挑戦する心をもった個性的な人材を育てることを理念・目標に掲げています。本学は、この理念・目標を踏まえて、以下に示す資質、知識や能力を、共通教育（教養教育、基礎教育）、専門教育及び課外活動を含む大学内外での幅広い教育活動を通じて培うこととし、ここに本学の学士課程に共通する学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定めます。

##### 豊かな人間性

- ・みずからを他者や社会との関わりのなかで捉え、自己啓発に努めることができる【自己認識・自己啓発マインド】
- ・理想や倫理観をもって社会の平和的・持続的発展のために行動できる【社会的行動マインド】

##### 人類知の継承

- ・人類の知を継承し、それらの成果の上に立って未来について創造的に考えられる【人類知の継承と未来創造マインド】
- ・世界の多様な文化、思想、歴史、芸術に関する幅広い素養がある【多様な文化受容マインド】
- ・科学諸分野の歴史やその成果に関して幅広く理解できる【科学リテラシー】

##### 社会人としての基礎力

- ・日本語および外国語を用い、的確に読み、書き、聞き、他者に伝えることができる【言語能力】
  - ・対話を通じて他者と協力し、目標実現のために方向性を示すことができる【コミュニケーション能力、チームワーク力、リーダーシップ】
- ・多様な情報を適切に取捨選択し、分析・活用できる【情報活用力】
- ・みずから問題を見出し、すじみちを立てて解決できる【問題発見・解決能力】

##### 科学的・学問的思考

- ・自然や社会の現象を普遍的な尺度や数量的指標を用いて理解できる【普遍的・数量的理解力】
- ・専門学問分野における知識・技能を備え、それらを応用できる【専門知識と応用力】
- ・専門以外の他分野に関する体系的な知識や素養がある【専門外の知識】

##### 環境マインド

- ・信州の自然・文化的環境への興味と関心のみずから深めることができる【地域環境に関する理解】

- ・自然および人類社会が直面している環境問題を理解することができる【環境基礎力】
  - ・地球環境と人類文化との調和・共生のため、積極的に行動することができる【環境実践力】
- (出典：信州大学ホームページ「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」)

資料工 4 信州大学工学部の DP

工学部の理念と目標及び各学科の目的に則り、以下及び各学科のディプロマポリシーに掲げる知識と能力を十分に培った学生に「学士（工学）」の学位を授与する。

- 幅広い見識と健全な倫理観を持ち、工学的な立場から社会の発展のために貢献する精神と行動力を有する 【工学的人間力】【技術者行動マインド】
- 科学に関する基礎および専門的な基礎知識をもち、これらの基礎概念と一般的法則を本質的に理解するとともに、基礎科学および専門基礎に関する問題を解答する能力がある 【科学的基礎学力】【専門基礎知識】
- 基礎学力および専門基礎知識に基づいて自主的に学習できる能力および応用能力がある 【自主学習能力】【応用能力】
- 基礎理論に基づいて工学的な観点から問題点や課題を発見することができ、筋道を立てて解決できる 【工学的課題発見能力】【工学的問題解決能力】
- 技術者として自らの思考・判断を説明するためのプレゼンテーション能力を有し、専門基礎知識に基づいた発展的な議論を展開できる 【技術者プレゼンテーション能力】【技術者コミュニケーション能力】
- 自然環境に配慮した環境マインドを習得し、環境調和社会を目指した工学的な取り組みを継続的に行うことができる 【工学的環境マインド】【工学的環境実践力】
- ゼミナールや総合演習および卒業研究を通して信頼される技術者としての精神と倫理感を身につけている 【技術者マインド】【倫理マインド】

(出典：信州大学ホームページ「工学部 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」)

②-2 CP

資料工 5 信州大学教育課程編成・実施の方針（CP）

・学士課程における教育課程編成の方針

1. 信州大学は、学部及び学科又は課程の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、体系的に教育課程を編成します。
2. 信州大学は、教育課程の編成に当たっては、学部の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮します。

・学士課程における教育課程実施の方針

1. 信州大学「学位授与の方針」に定めた、卒業時までには修得すべき知識・能力等が、カリキュラム体系のなかでどのように養成されるのかを示すため、シラバスで「学位授与の方針」で定められた知識・能力等との対応と、それら諸能力等を修得する方法が理解しやすいように配慮します。
2. 信州大学は、学生個人々の主体的で活発な勉学意欲を促進する立場から、予習・復習等、授業時間外のさまざまな機会を通じ、諸課題に積極的に挑戦させます。
3. 信州大学は、成績評価の公正さと透明性を確保するため、成績の評定は、各科目に掲げられた授業の狙い・目標に向けた到達度をめやすとして採点し、評価の客観性を担保するため、複次的・複層的な積み上げによる成績評価を行います。

(出典：信州大学ホームページ「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」)

資料工 6 信州大学工学部の CP

カリキュラムは、共通教育と専門教育に分類でき、教養教育は教養科目、基礎科目から構成されます。専門教育は、学部共通科目、専門科目により構成されています。それぞれについては以下の通りです。

1. 共通教育では、教養科目と基礎科目を通して幅広い人文・社会科学の教養ならびに国

際的なコミュニケーション能力と数学や物理などどの学科でも必要な理系基礎力を身につけ、大学生として最低限必要とする基礎教育を行ないます。

2. 専門科目は、学部共通科目と学科専門科目からなります。学部共通科目では、数学等の工学基礎科目の他に、環境マインドや生産工学など全学科に共通して必要となる教育を行ないます。専門教育では、それぞれの専門分野に特化した教育を行い、自信を持って仕事の出来る能力を養います。

3. 最終年次は、それぞれの分野の専門知識をさらに深め、先端的な研究ならびに境界領域の研究に触れつつ、研究の方法を学ぶとともに、自由な発想と柔軟な創造力を養う教育を行ないます。また、自分の研究を他者に対して筋道を付けて分かり易く説明するプレゼンテーション能力を養います。

(出典：信州大学ホームページ「教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)」)

## ②-3 AP

### 資料工7 信州大学 AP

#### (1) 求める学生像

信州の悠久の歴史と文化、豊かな自然環境のもと、地域に根ざし世界に開かれた信州大学は、真理への探究心とチャレンジ精神を培い、高度な専門知識と深い思索力を基にして、課題を探究し解決する能力を備えた人材を育成します。

また、豊かな人間性と広い視野をもち、身につけた知識や技術を人類文化と社会の持続的発展に役立て、世界の平和と自然環境の保全のために活かすことのできる、意欲あふれる若者を育てます。

信州大学は、このような教育の理念・目標を実現するために、以下のような資質を備えた人たちを積極的に受け入れます。

- 人間と自然を愛し、人との出会いを通じて学び合おうとする人
- 知的好奇心が旺盛で、課題に向かって主体的に行動できる人
- 多様性を理解し受け入れ、独自性を大切にできる人
- 社会・環境・国際問題に関心をもち、世界に貢献したいと考える人

#### (2) 入学者選抜の基本方針

信州大学の教育の理念・目標に則り、各学部の特性に応じた適切な方法で多様な入試を実施し、大学教育を受けるにふさわしい能力・適性等を多面的・総合的かつ公正に評価し、選抜します。

(出典：信州大学ホームページ「アドミッション・ポリシー」)

### 資料工8 工学部の AP

#### ○求める学生像

向上心があり、自ら考え行動することができる人

数学、物理学、化学、語学などの基礎を身につけている人

科学や技術に関わるさまざまな現象に興味があり、それらの原理や応用について関心を持っている人

高度な科学や技術の発展に興味をもち、それを学びたいと考えている人

実験や実習、講義、さらには研究に積極的に参加して行動できる人

将来、工学に関わる技術者、研究者として社会をリードするとともに、その技術と知識をもって社会に貢献する意欲を持つ人

科学技術・工学の発展が社会にもたらす影響について十分に考え、社会および自然環境に配慮した「人にやさしいものづくり」を目指す人

#### 大学入学までに履修すべき教科・科目

各高等学校が定める教育課程表に従い、すべての教科・科目について、大学入学後の勉学に支障をき

たさない程度に履修していることが望まれます。特に、工学部での授業内容を理解するために不可欠な教科である数学、理科、英語に関しては、下記の科目の内容を理解していることが望まれます。

数学：数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲ、数学A、数学B

理科：物理基礎、物理、化学基礎、化学

英語：英語Ⅰ、英語Ⅱ、オーラルコミュニケーション、リーディング、ライティング

※上記科目を履修していない場合には、入学時までに科目の内容を理解していることが望まれます

(出典：信州大学ホームページ「工学部アドミッション・ポリシー」)

## 学科ごとの DP、CP (資料工 9)

### 資料工 9 科別の DP と CP

例：電気電子工学科の DP

- ・数学・物理学の基礎知識に加え、電気電子工学に関する一般的な基礎知識を修得・活用することができる 【電気電子工学基礎学力】
- ・エネルギー分野に関する専門基礎知識を修得し、多面的な視点から知識を活用することができる 【エネルギー分野基礎学力】
- ・エレクトロニクス分野に関する専門基礎知識を修得し、多面的な視点から知識を活用することができる 【エレクトロニクス分野基礎学力】
- ・情報通信分野に関する専門基礎知識を修得し、多面的な視点から知識を活用することができる 【情報通信分野基礎学力】
- ・電気電子工学に関する実験・演習を遂行し、様々な物理現象を解析できる 【電気電子実験・解析基礎力】
- ・専門基礎知識を活用し、電気電子工学に関する研究を遂行できる 【研究開発基礎力】

例：電気電子工学科の CP

電気電子工学科では、学部の理念・目標のもと、エネルギー関連の学問を中心的に扱う電気工学から、電子工学を支える材料やデバイス、そして、情報通信まで幅広い分野で活躍できる研究者・技術者としての基礎力を養成するため、電気電子工学の基礎から応用まで系統的に修得できる教育課程を編成します。

(出典：信州大学ホームページ「工学部 学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)」)

## 2 組織の特徴や特色

### (1) 全学教育機構と学部

松本キャンパスの全学教育機構(以下「機構」)で共通教育科目を実施している。(資料工10)

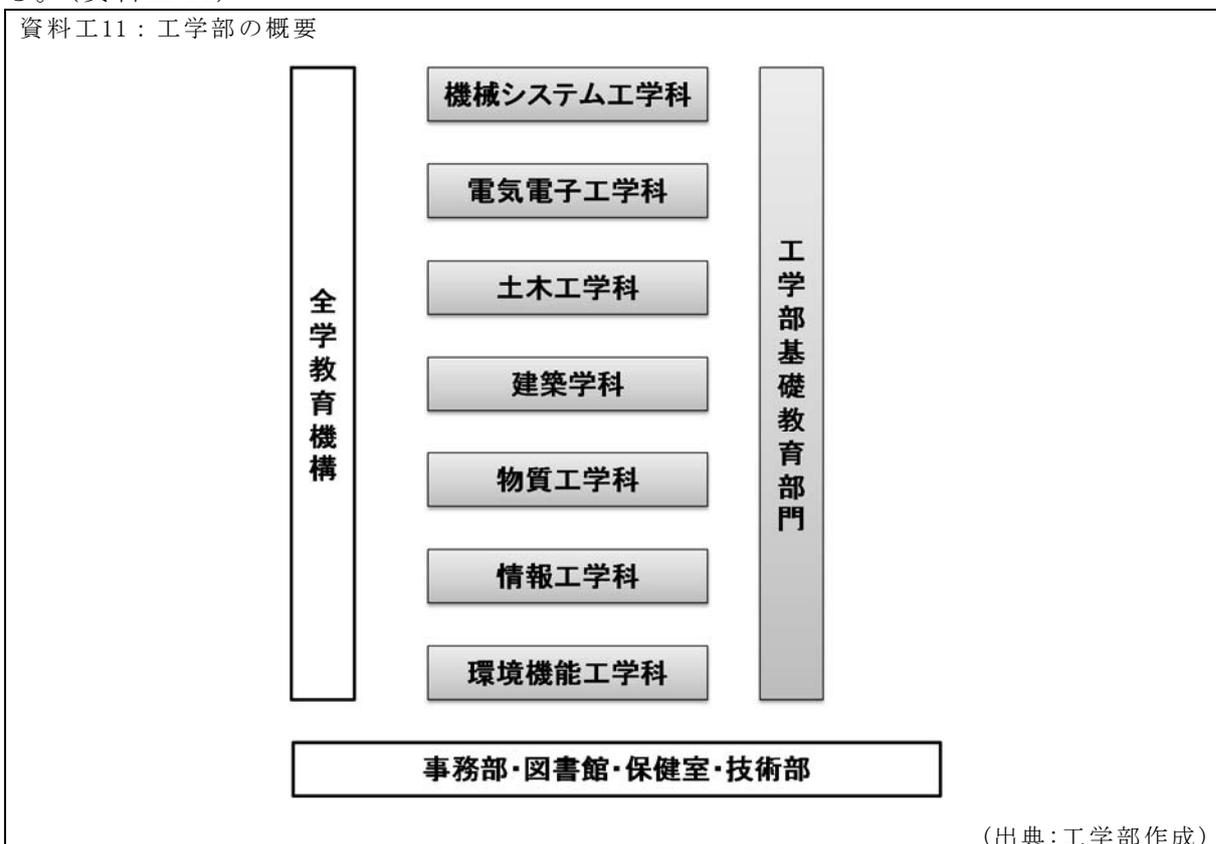
資料工10 キャンパス配置図



(2) 学部の特徴

昭和 24 年に長野工業専門学校を前身として発足し、現在は工学分野を網羅する学部である。(資料工 11)

資料工11：工学部の概要



## (3) カリキュラムの特色

共通教育科目と専門科目で教育課程を編成している。(資料工12)

**資料工12：信州大学学則**

(教育課程の編成方針)

第42条 各学部は、本学、当該学部及び学科又は課程等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、体系的に教育課程を編成するものとする。

2 教育課程の編成に当たっては、学部等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮するものとする。

(授業科目の区分)

第43条 本学で開設する授業科目は、その内容により共通教育科目及び専門科目に分ける。

(出典:信州大学規程集)

共通教育科目を担う組織として機構が存在する。(資料工13、14)

**資料工13：全学教育機構の概要****全学教育機構とは**

全学教育機構は、信州大学が定める教育上の基本方針に基づき、本学の共通教育（各学部が編成する教育課程のうち、本学学生に対する教養教育、基礎教育及び日本語・日本事情に係る教育について、全学協力体制のもとに、全学共通に行う教育）及び教職関係5学部（人文学部、理学部、工学部、農学部及び繊維学部）の教職教育（教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための教育）の実施機関として、各学部と緊密に連携し、全学的な見地から共通教育に係る教育課程の企画及び円滑な実施を図るとともに、本学が掲げる高度専門職業人養成の教育目標を達成するため、学部一貫教育を前提に本学の教育に関する研究開発、企画及び支援を総合的に行うことを目的としています。

**1年次生は、全学部生が全学教育機構で学びます。**

信州大学は長野県内の5つのキャンパスに8学部が散在していますが、全学部の1年次（医学部医学科は2年次まで）は、松本キャンパスの全学教育機構に集い、共通教育科目を受講します。

**全学の教育力を結集した共通教育を実施します。幅広い教養と基礎的能力を獲得できます。**

信州大学の共通教育は、全学教育機構の教員とともに、全学部の教員が当然の責務として行うという全学協力体制に立脚しています。これにより、学生は、全学教員の専門知識を生かした、いわば大学の総力を結集した科目を学ぶことが可能になります。信州大学は、幅広い教養と基礎的能力に基づく課題探求能力、豊かな人間性や国際性をもった人材育成を目指しております。

(出典:信州大学全学教育機構ホームページ「全学教育機構とは」)

**資料工14：信州大学全学教育機構規程**

(目的)

第2条 機構は、信州大学（以下「本学」という。）が定める教育上の基本方針に基づき、本学の共通教育（各学部が編成する教育課程のうち、本学学生に対する教養教育、基礎教育及び日本語・日本事情に係る教育について、全学協力体制のもとに、全学共通に行う教育をいう。以下同じ。）及び教職関係5学部（人文学部、理学部、工学部、農学部及び繊維学部をいう。以下同じ。）の教職教育（教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための教育をいう。以下同じ。）の実施機関として、各学部と緊密に連携し、全学的な見地から共通教育に係る教育課程の企画及び円滑な実施を図るとともに、本学が掲げる高度専門職業人養成の教育目標を達成するため、学部一貫教育を前提に本学の教育に関する研究開発、企画及び支援を総合的に行うことを目的とする。

(全学協力体制等)

第3条 共通教育及びこれを履修する学生（以下単に「学生」という。）の修学指導は、全学協力体制により実施するものとし、各学部は、その実施体制の管理及び運営に責任を負うとともに、本学のすべての教員は、その構成員として共通教育の実施及び学生の修学指導を担当することを任務とする。

2 機構は、前条の目的を達成し、次条に定める業務を遂行するため、附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センターその他の関係部局（以下「関係部局」という。）と有機的に連携するとともに、関係委員会等と緊密に連携協力する。

(出典：信州大学規程集)

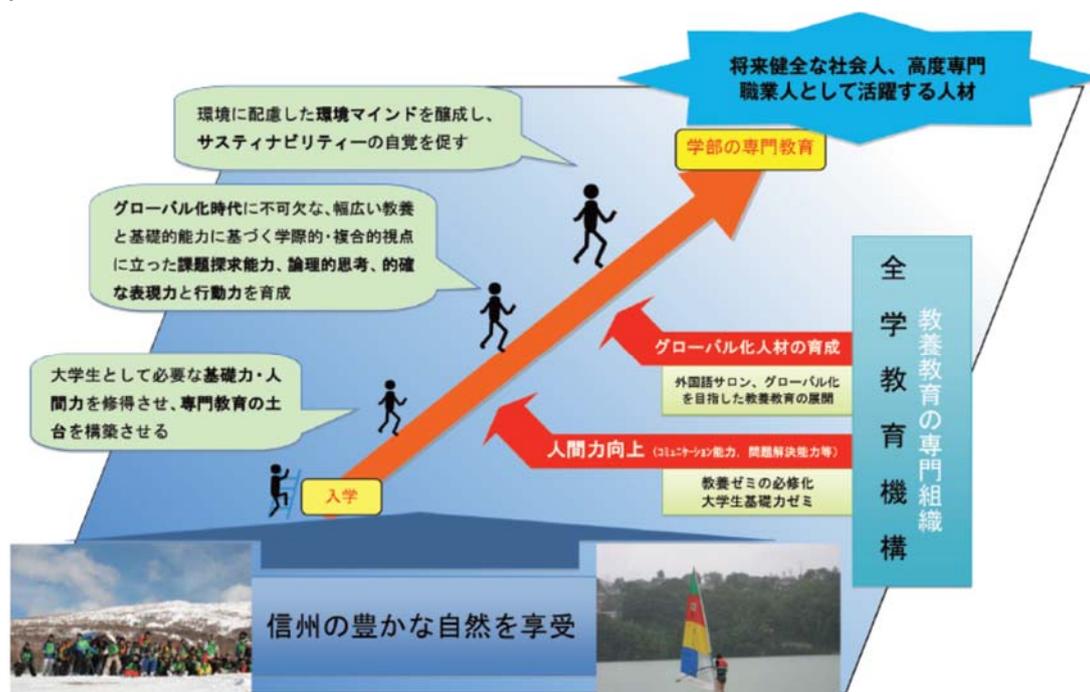
## ① 共通教育

共通教育科目は、健全な社会人、高度専門職業人としての基礎を築くために、様々な学問領域に関する授業が開講されている。(資料工15、16)

**資料工15 共通教育の概要**

学部の専門教育に進み、将来健全な社会人、高度専門職業人として活躍する人材を育成するため、幅

広い教養と基礎的能力に基づく課題探求能力、豊かな人間性や国際性の修得及び人間力向上を目指す。特に、環境に配慮した意識と生活者としての環境マインドを醸成し、サステナビリティの自覚を促す。さらに、グローバル化時代を生きる新しい世代に不可欠な、学際的・複合的視点に立って自ら課題を探求し、論理的に物事をとらえ、自らの主張を的確に表現しつつ行動していくことができる能力を育成する。



(出典：冊子「ミッションの再定義に基づく教育研究の高度化・機能強化」)

資料工16：共通教育科目区分一覧

教養科目：学部・学科(課程)を越えた全学生の素養として必要な科目	
教養講義	信州大学の理念・目的に沿って、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するための教養科目
教養ゼミナール	
基礎科目：大学教育(学部一貫教育)の基礎となる科目	
外国語科目	全学生に共通に必要な科目
健康科学科目	
新入生ゼミナール科目	
基礎科学科目	複数の学部で基盤となる科学について共通教育で開講する科目
日本語・日本事情	
日本語・日本事情科目	外国人留学生のために開講する科目
専門入門科目	
専門入門科目	学部の専門科目として開講され、他学部生は教養科目として履修できる科目

(出典：経営企画課作成)

② 専門教育

専門教育は1年次から始まり、年を追って専門性が強まる。また実験、実習を重視した構成になっており、4年次には卒業研究を行う。(資料工17)

資料工17 機械システム工学科の学修心得

1 目 的  
 機械システム工学科は、時代に応じた機械系分野の専門基礎能力、科学的思考力を身につけた創造性と発展性及び環境マインドと環境調和型の機械デザインの修得を目指すとともに、これらに必要な基礎的学力はもとより、広い見識と健全な倫理観を涵養

し、工学及び科学技携わるための確かな力量、総合的に豊かな人間性を備えた機械系技術者・研究者を養成することを目的とする。

## 2 履修上の指導事項

### ①進級及び卒業の要件

3年次から4年次に進級する際に学修の進度がチェックされる。修得単位が定められた単位数に達していない場合は進級できない。進級・卒業要件及び各年次で修得しなければならない科目及び単位数は、「履修要件表」、「専門科目一覧表」で確認すること。

### ②学修上の注意

#### ■自己学習の責任

単位の修得には授業に出席するだけでは不十分で、授業時間の倍は自己学習が必要である。例えば、90分授業の科目の場合、毎週180分自己学習しなければならない。宿題や試験問題もこの前提に立って出題される。

#### ■留年について

先に述べたように4年次に進級するためには一定の単位を修得していなければならない。1単位でも不足すると自動的に留年になる。留年は就職の際極めて不利になる。予定通り4年次に進級できなくなる最大の理由は、1年次に修得すべき単位を取り残して2年次に進級することである。1年次に修得を必要とする単位数については、必ず1年次に修得するよう努力すること。

#### ■成績の評価と通知

成績は、小テスト・期末テスト・レポート等の結果により秀・優・良・可・不可で評価される。成績表は次学期の約1ヶ月前頃に発表されるので、Web等で各自確認すること。なお、各学期ごとに父母または保証人へも送付される。

また、試験中の不正行為については学則に基づいて重い処分が行われる。無期停学処分等になるだけでなく、当該科目以外の全試験科目の成績も認定されないため、卒業は短くても半年、通常は1年遅れることになる。

## 3 取得可能な資格・取得を目指せる資格

### ■教員免許の取得について

本学科の卒業に必要な履修単位に加え、別に定める所定の単位を修得することにより、高等学校教諭一種免許状（工業）を取得する資格が得られる。教員免許状を取得するためには、各時期に開かれる「教職ガイダンス」に出席し、4年次に教職免許状の交付を申請する必要がある。

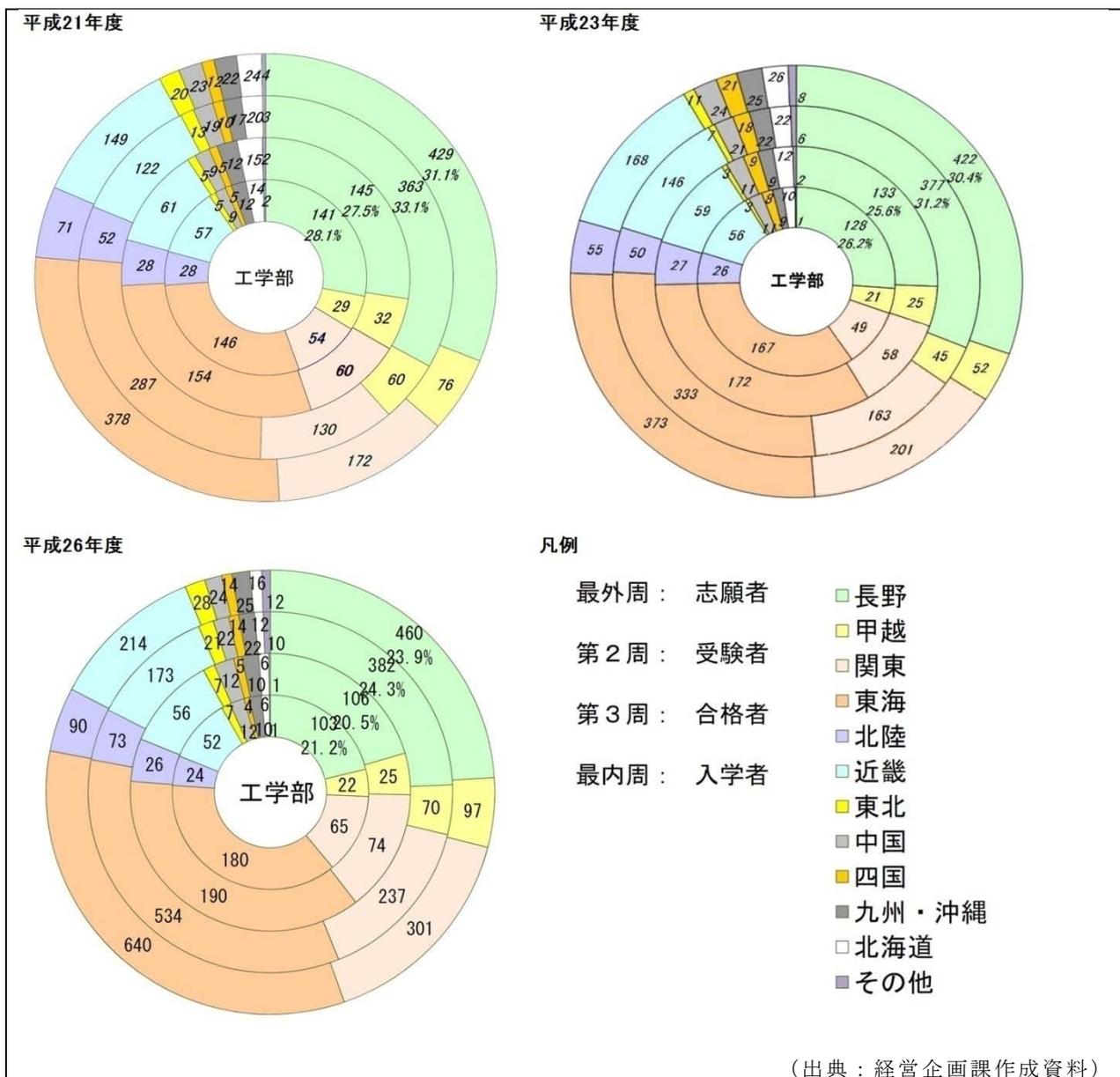
詳細は、「教職課程履修の手引き」を参照すること。

（出典：工学部「学生便覧」より抜粋）

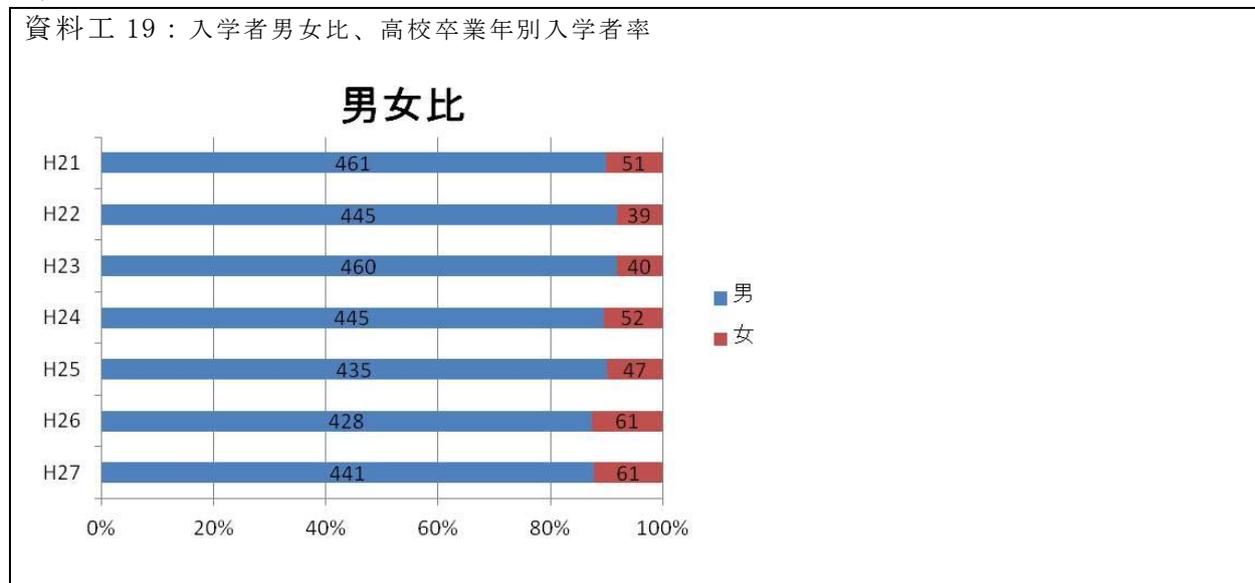
## 3 入学者の状況

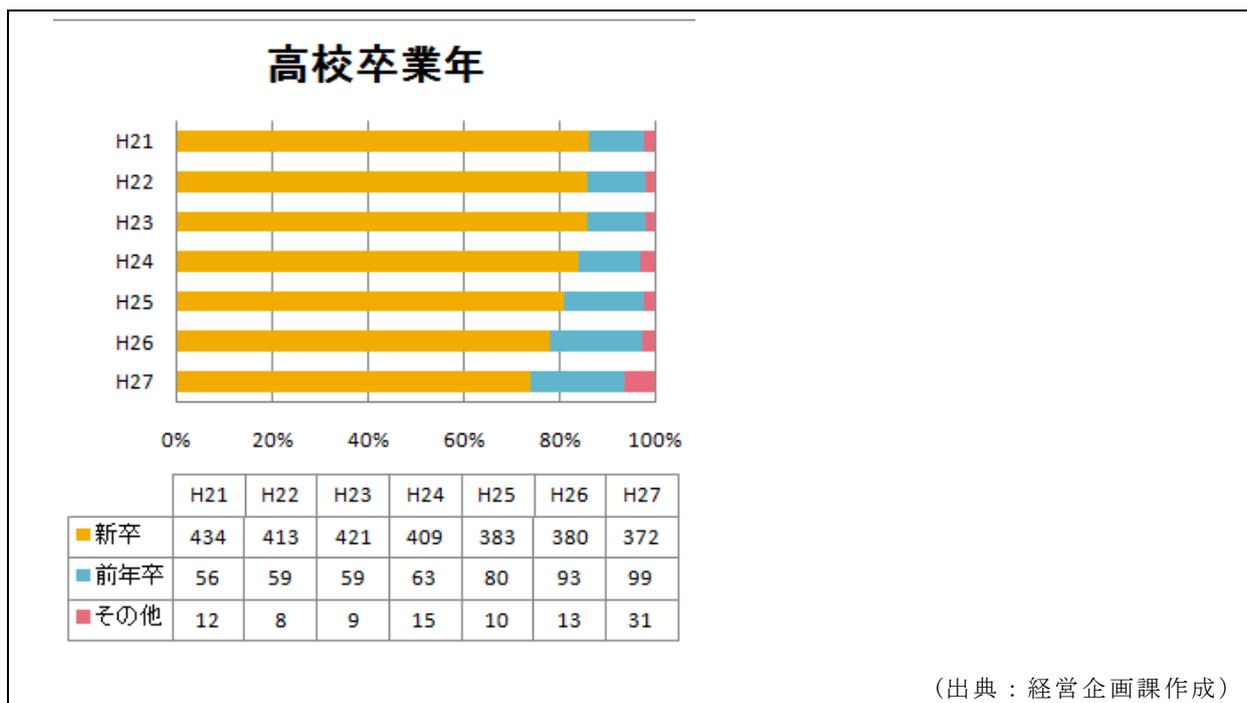
志願者は長野県が約25%で最も多く、大都市圏を始め全国各地から来る。東海地区は約35%と多く、平成25年度から名古屋試験会場（前期日程）を新設し体制を整えた。（資料工18）

資料工18：平成21, 23, 26年度出身別入試状況



入学者の男女比、高校卒業年別入学者率は、大幅な変動がなく推移している。(資料工19)





○入試の状況

一般選抜（前期、後期）、特別選抜（推薦Ⅰ・推薦Ⅱ・留学生・社会人・帰国子女・中国引揚者等子女）、高等専門学校等からの3年生への編入学を行っている。（資料工20）

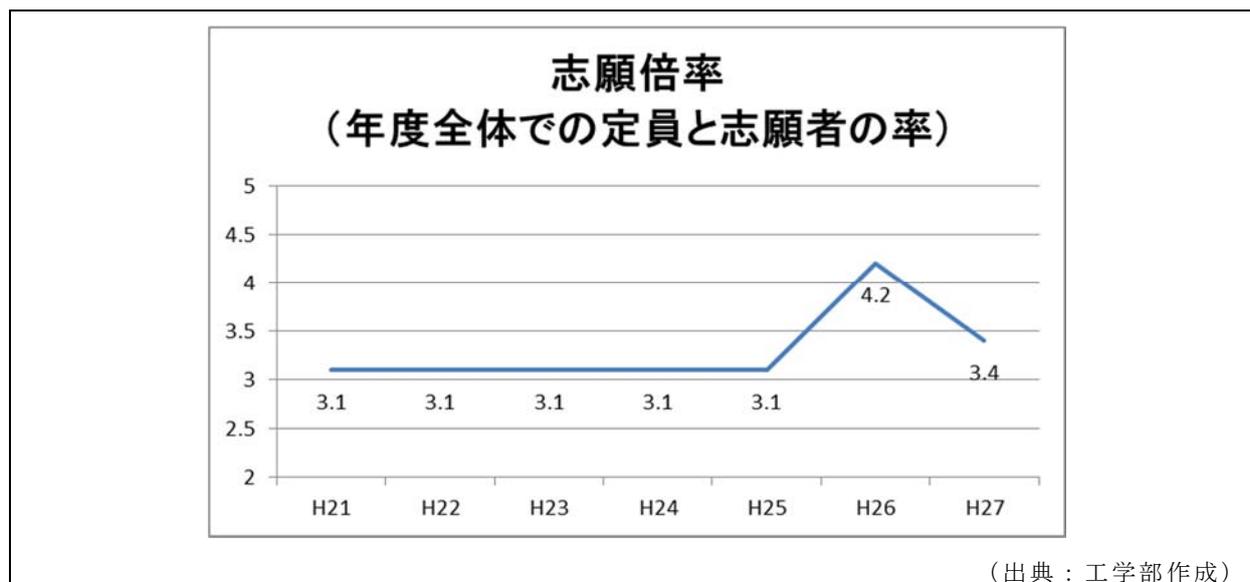
資料工20 平成27年度入試の入学定員及び募集人員

課程等	入学定員	募集人員							
		一般選抜		推薦入試		社会人	帰国子女	引揚者等子女	私費外国人留学生
		前期日程	後期日程	Ⅰ (センター一課さず)	Ⅱ (センター一課す)				
機械システム工学科	80	55	0	15	10	-	-	-	-
電気電子工学科	95	65	0	15	15	-	-	-	-
土木工学科	45	32	0	5	8	-	-	-	-
建築学科	50	38	11	0	1	-	-	-	-
物質工学科	60	38	0	10	12	-	-	-	-
情報工学科	90	30	20	10	30	-	-	-	-
環境機能工学科	50	30	10	9	1	-	-	-	-
計	470	288	41	64	77	-	-	-	-

(出典：信州大学平成27年度入学者選抜要項)

志願倍率は安定して3倍をキープし、平成26年度入試は、過去5年間で最高（4.2倍）となった。（資料工21）

資料工21：志願倍率の推移



「想定する関係者とその期待」

- 学生・保護者：創造的な仕事をするために必要な幅広い見識と高度な専門知識、技能を養成し、卒業時に就職先情報提供を受けること。
- 就職先企業：専門基礎知識を備え、発想が豊かでコミュニケーション能力を備えた人材の輩出を受けること。
- 地域社会：地元に着した人材養成。
- 国際社会：留学生を受け入れ、技術者として国際社会に寄与できる人材を育成すること。
- 受験生：多様な入試機会、教育や進路の情報提供を受けること。

## II 「教育の水準」の分析・判定

### 分析項目 I 教育活動の状況

#### 観点 教育実施体制

##### (観点に係る状況)

##### (1) 基本的組織の編成

##### ① 学術研究院と学部

流動性を確保し、全学的な教育、研究マネジメントを可能とするため、教員組織として学術研究院を平成 26 年度より設置した。(資料工 22)

資料工 22：学術研究院と学部との関係



学術研究院は、3の学域・10の学系により構成する。すべての教員は、いずれかの学系に所属し、職務として次のいずれかに携わる。(複数の兼務もあり)

- 1) 学部・大学院、全学教育機構において、教育・研究に携わる。
- 2) 医学部附属病院において、診療・教育・研究に携わる。
- 3) 先鋭領域融合研究群において、研究に携わる。
- 4) 大型研究センター(拠点形成型の外部資金プロジェクト)において、研究に携わる。
- 5) 各教育研究(支援)センター等において、担当業務に携わる。

これにより、先鋭領域融合研究群の研究者への研究重点環境の提供や学部横断型の教育を実現し、研究の高度化や時代の要請に柔軟かつスピーディーに対応した教育を推進する。

(出典:「大学概要 2015」をもとに経営企画課作成)

##### ② 学生、教員配置、及び教育支援の体制

##### ②-1 専門教育

工学部の学生定員、専任教員の配置(資料工 23)

資料工23 学科構成と学生定員・現員、専任教員数(平成27年11月現在)

学科名	入学定員	現員	設置基準による必要教員数	専任教員数
機械システム工学科	80	359	9	17
電気電子工学科	95	432	9	22
土木工学科	45	212	8	12
建築学科	50	256	8	12
物質工学科	60	276	8	14
情報工学科	90	393	9	21
環境機能工学科	50	232	8	13
工学基礎教育部門	—	—	—	7

(出典：工学部作成)

各学科現員数 (資料工 24)

資料工 24 平成27年5月時点での学生の定員及び現員

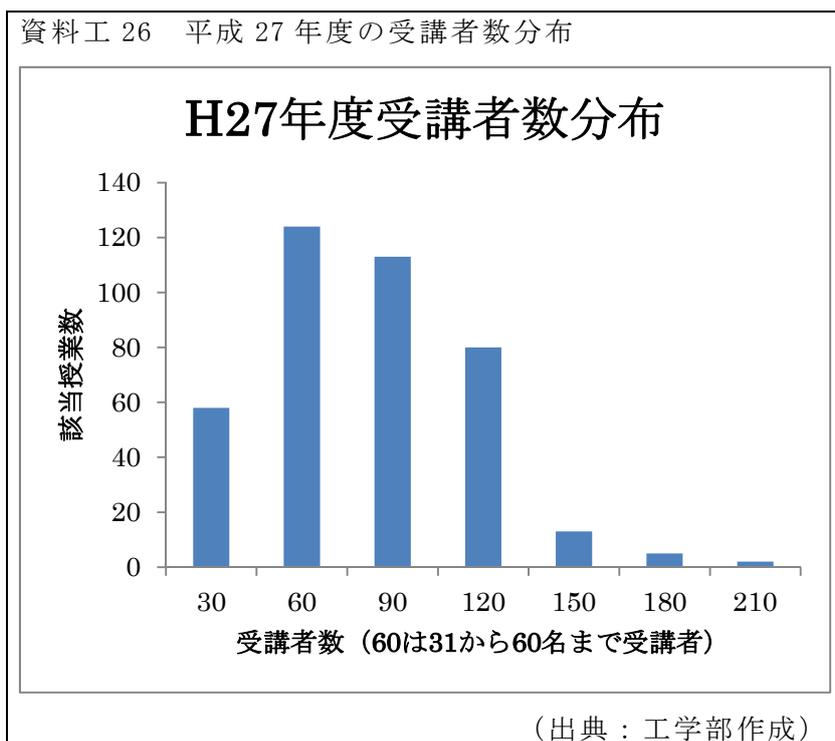
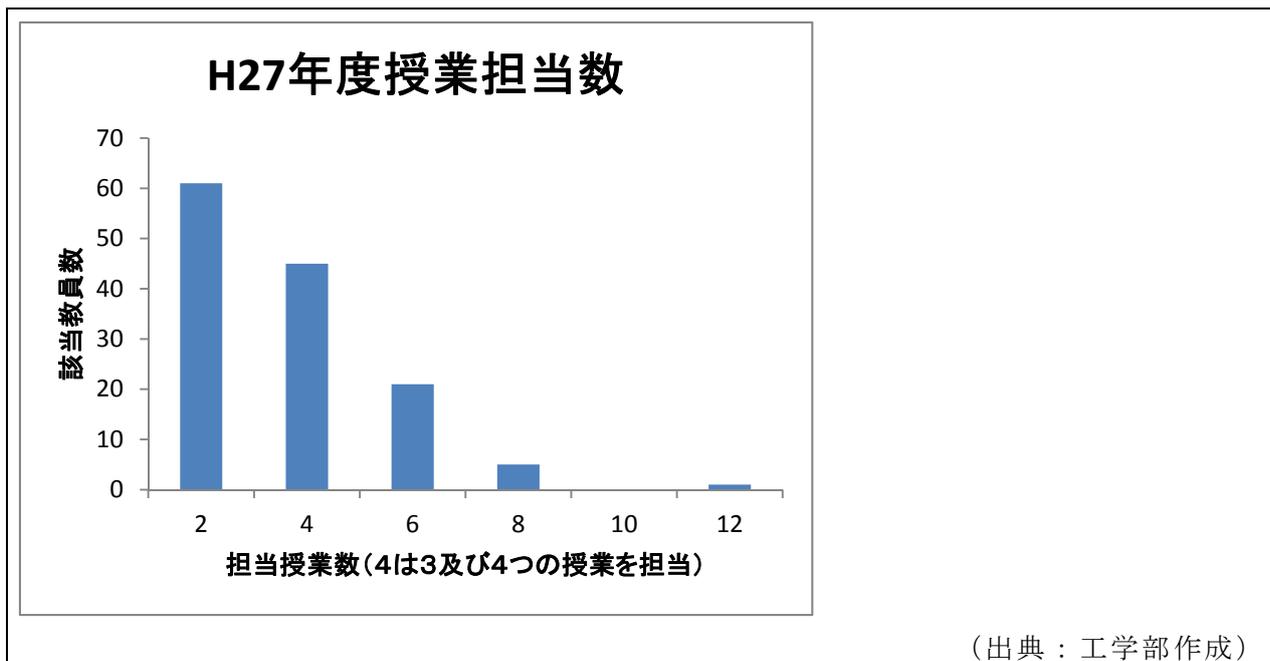
		(平成27年 5月 1日現在)											
学部	学科	入学定員	3年次編入学定員	収容定員	現 員								計
					1年次		2年次		3年次		4年次		
工 学 部	社会開発工学科(改組前)											1	1
	機械システム工学科	80	3	326	87	(2)	83	(1)	96	(3)	105	(4)	371 (10)
	電気電子工学科	95	3	386	100	(3)	102		135	(5)	97	(1)	434 (9)
	土木工学科	45	2	184	47	(1)	46	(1)	68	(3)	60	(1)	221 (6)
	建築学科	50	2	204	52	(1)	54	(1)	65	(1)	57	(4)	228 (7)
	物質工学科	60	3	246	63	(1)	60		88	(2)	72	(2)	283 (5)
	情報工学科	90	5	370	98	(1)	96	(1)	108		95	(1)	397 (3)
	環境機能工学科	50	2	204	55	(1)	52		59	(3)	68	(2)	234 (6)
	計	470	20	1,920	502	(10)	493	(4)	619	(17)	555	(15)	2169 (46)

( )内数字は外国人留学生で内数

(出典：工学部作成)

平成27年度の専門科目数は395で、教員は週当たり2回～6回の授業を行っており、受講者数の分布は以下のとおりである(資料工25、26)。

資料工 25 平成27年度の授業の担当数



②－ 2 共通教育

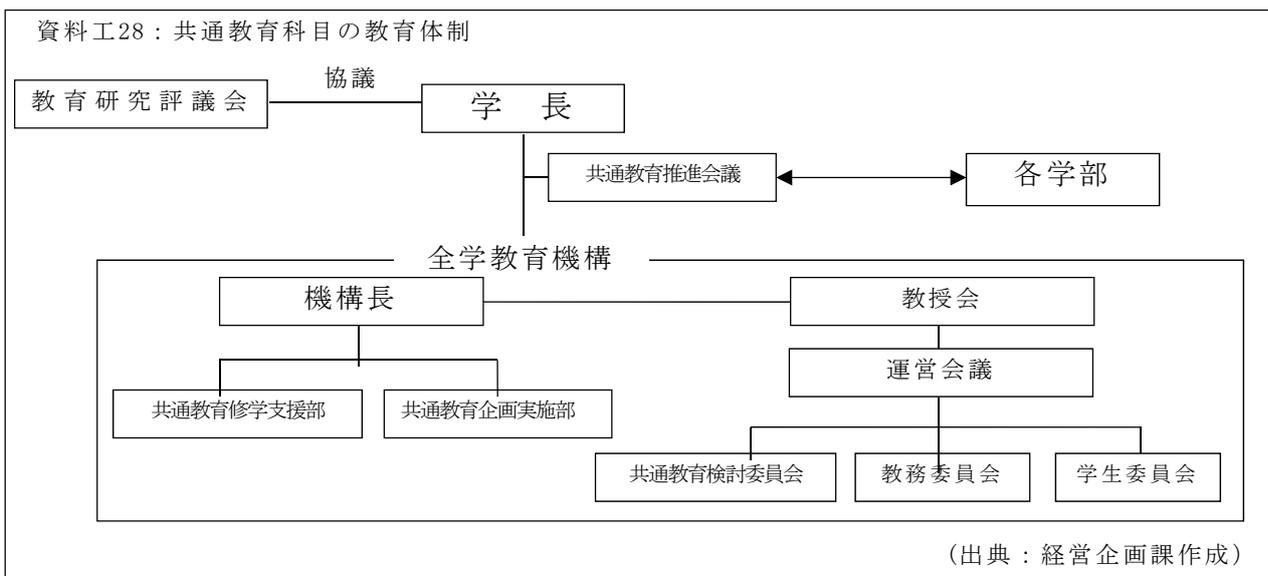
共通教育は、機構を中心に実施している。（資料工27、28）

資料工27：信州大学全学教育機構規程の一部

（目的）

第 2 条 機構は、信州大学（以下「本学」という。）が定める教育上の基本方針に基づき、本学の共通教育（各学部が編成する教育課程のうち、本学学生に対する教養教育、基礎教育及び日本語・日本事情に係る教育について、全学協力体制のもとに、全学共通に行う教育をいう。以下同じ。）及び教職関係 5 学部（人文学部、理学部、工学部、農学部及び繊維学部をいう。以下同じ。）の教職教育（教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための教育をいう。以下同じ。）の実施機関として、各学部と緊密に連携し、全学的な見地から共通教育に係る教育課程の企画及び円滑な実施を図るとともに、本学が掲げる高度専門職業人養成の教育目標を達成するため、学部一貫教育を前提に本学の教育に関する研究開発、企画及び支援を総合的に行うことを目的とする。

(全学協力体制等)  
 第3条 共通教育及びこれを履修する学生(以下単に「学生」という。)の修学指導は、全学協力体制により実施するものとし、各学部は、その実施体制の管理及び運営に責任を負うとともに、本学のすべての教員は、その構成員として共通教育の実施及び学生の修学指導を担当することを任務とする。  
 2 機構は、前条の目的を達成し、次条に定める業務を遂行するため、附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センターその他の関係部局(以下「関係部局」という。)と有機的に連携するとともに、関係委員会等と緊密に連携協力する。  
 (共通教育企画実施部)  
 (出典：信州大学規程集)



②-3 教育支援の体制 (全学)

全学の教育支援体制のもと、工学部の体制を作っている。(資料工 29～32)

資料 29 国立大学法人信州大学業務執行組織規程  
 (学務部の業務分掌)  
 第25条 学務部の学務課においては、次の業務をつかさどる。  
 (1) 学務部内の事務に関し、連絡し、及び総合調整を行うこと。  
 (2) 庶務及び会計に関すること。  
 (3) 入学式その他学生の諸行事に関すること。  
 (4) 学生関係職員のSD(スタッフ・デベロップメント)に係る企画・立案及びその実施に関すること。  
 (5) 全学(本法人が設置する信州大学大学院(以下「大学院」という。)を除く。)の教務に関すること。  
 (6) 学生の学籍その他の記録に関すること。  
 (7) 学位の授与に関すること。  
 (8) 教育課程(大学院を除く。)に係る目標及び計画の連絡調整に関すること。  
 (9) 他の大学等との単位の互換(大学院を除く。)に関すること。  
 (10) 全学の学務情報システムに関すること。  
 (11) 出前講座に関すること。  
 (12) 諸会議(大学院委員会を除く。)の連絡調整に関すること。  
 (13) 信州大学学術研究院(以下「学術研究院」という。)の総合人間科学系に係る事務に関すること。  
 (14) 全学教育機構、教育・学生支援機構、高等教育研究センター、e-Learningセンター、環境マインド推進センター(環境施設部の所掌に属するものを除く。)及び教員免許更新支援センター(教育学部の所掌に属するものを除く。)の業務執行及び運営に関すること。  
 (15) 前各号に掲げるもののほか、学務部の他の所掌に属しない事務を処理すること。  
 2 学務課の共通教育支援室においては、次の業務をつかさどる。  
 (1) 共通教育の授業支援に関すること。  
 (2) 共通教育の教務に関すること。  
 (3) 学生の学習相談及び修学指導に関すること。  
 (4) 共通教育に係る点検・評価に関すること。  
 (5) 共通教育推進会議等の諸会議の連絡調整に関すること。  
 (6) 環境マインド教育支援に関すること。

3 (省略)

4 学務部の学生支援課においては、次の業務をつかさどる。

- (1) 学生総合支援センターの業務執行及び運営に関すること。
- (2) 学生相談センターの業務執行及び運営に関すること。
- (3) キャリアサポートセンターの業務執行及び運営に関すること。

5 学務部の入試課においては、次の業務をつかさどる。

- (1) 入学者の選抜に関し連絡し、及び総合調整を行うこと。
- (2) 入学者選抜方法の改善に関し企画立案を行うこと。
- (3) 学生募集に関すること。
- (4) アドミッションセンターの業務執行及び運営に関すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、入学者の選抜に関する事務を処理すること。

6 学務部の国際交流課においては、次の業務をつかさどる。

- (1) グローバル教育推進センターの業務執行及び運営に関すること。(研究支援課の国際学術交流室が所掌する業務を除く。)
- (2) 松本国際交流会館の業務執行及び運営に関すること。
- (3) 前各号に掲げるもののほか、教育活動に係る国際交流に関する事務を処理すること。

(出典：信州大学規程集)

資料工 30 学務課、学生支援課、国際交流課の職員数

	学務課	学生支援課		国際交流課
		うち キャリアサポートセンター		
事務職員	20	11	3	6
事務補佐員	12	4	2	5
臨時用務員	1			
専門職員	1			
技術補佐員	5			
技能補佐員		1		
シニア雇用職員	4	1		
コーディネータ		1		6
合計	43	18	5	17

平成 28 年 1 月 18 日現在

(出典：経営企画課作成資料)

資料工 31 長野キャンパスにおける附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センター、e-Learning センター職員数

区分	附属図書館	総合健康安全センター	総合情報センター	e-Learning センター
長野キャンパス(工学)	7	1	3	-

平成 28 年 2 月 1 日現在

(出典：経営企画課作成資料)

資料工 32 長野キャンパスにおける学部・研究科の学務担当の職員数

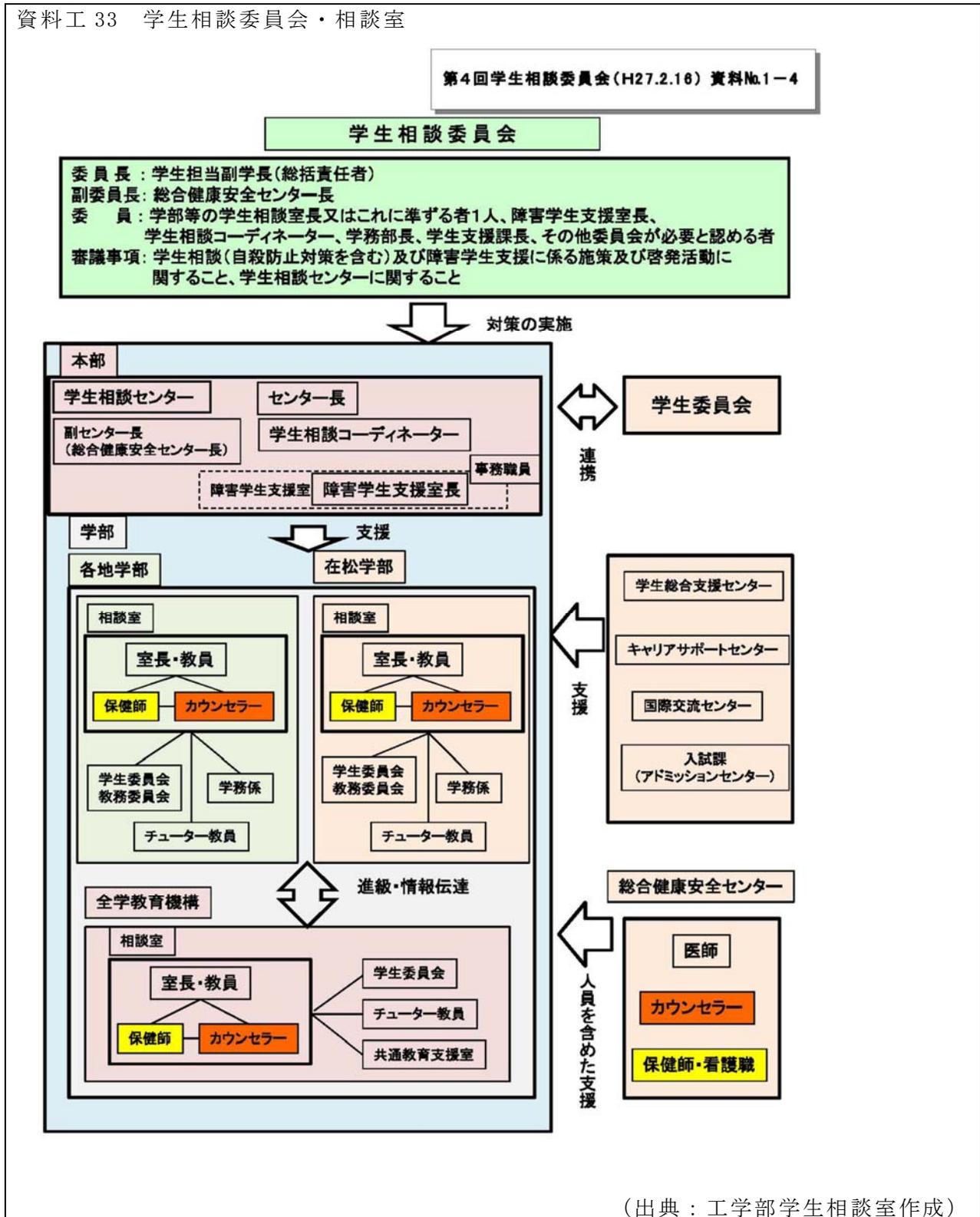
	工学部 理工学系研究科(長野キャンパス)
事務職員	8
事務補佐員	1
臨時用務員	
専門職員	
技能補佐員	
シニア雇用職員	1
コーディネータ	3
合計	13

(出典：工学部作成資料)

②-4 教育支援の体制（工学部）

学生相談委員会との連携のもと、学生相談室を設置し、学生指導体制を充実させている。  
（資料工 33）

資料工 33 学生相談委員会・相談室



長期欠席者・同予備群のための学生指導マニュアル(資料工 34)を作成し、定期的な対応を行っている。クラス担任は学年単位で1、2名を配置し、4年次生は卒業研究の指導教員が学生数名ごとに配置されている。

資料工 34 物質工学科の学生指導マニュアル

<学生指導手順>

- 1) クラス担任や指導教員は、授業や研究室への出席状況が悪い学生に対して、適宜、面談を行う。学生の呼出しは、本人への電話、掲示板への掲示、友人への託け等で行うが、それでも連絡が取れない場合は、保護者へ連絡する。
- 2) 学生との面談は、可能な限り、複数教員で行う。
- 3) カウンセリングが必要と判断した場合は、工学部保健室（学生相談室）に連絡する。

（出典：工学部学務委員会）

より細かな対応を行うために学生数名に1名のチューター教員を割り当て、半年に一度の面談を行っている。（資料工 35）

資料工 35 情報工学科のチューター及び学生指導マニュアル

1～3年次の各学年において、教員一人あたり学生約4名のチューター割当を行い、各学期最低1回ずつの面談を実施する。面談は、原則として直接対面して行い、修学状況や学生生活上の悩み等がないか尋ねる。在松本の1年生については、学科の新入生ゼミナールの一環で1年生が長野（工学）キャンパスを訪れる際に面談を実施する。

チューターによる面談とは別に各学年正副担任による面談も継続的に行う。

（出典：工学部学務委員会）

以下の体制で1年次の修学指導を行っている。（資料工 36）

資料工 36 平成 27 年度 1 年次生クラス担任の配置状況

クラス担任（正：各学科等教員、副：全学教育機構教員）

学部・学科等		クラス担任数	
		正	副
工	機械システム工学科	1	2
	電気電子工学科	2	2
	土木工学科	1	1
	建築学科	2	1
	物質工学科	2	1
	情報工学科	2	2
	環境機能工学科	2	1

（出典：2015 年共通教育履修案内をもとに経営企画課作成）

平成 21 年度からメンタルヘルスカウンセラーを専任で雇用し対応にあたっている。相談件数、相談者数は以下であり件数は増加している。（資料工 37）

平成 22 年度より相談申し込み WEB ページを立ち上げ（資料工 38）、相談しやすい環境づくりに努めている。

資料工 37 工学部カウンセリング相談者数

年度	総件数	相談者実数
H21	399	61
H22	299	46
H23	314	66
H24	539	94
H25	539	79

H26	531	101
H27	654	88

Web ベースでの申込者数

年度	総件数
H22	3
H23	11
H24	14
H25	18
H26	36
H27	30

11/20 予約開始

(出典：工学部作成)

資料工 38 カウンセリング申し込み WEB フォームでの記載  
相談申し込みフォーム

この相談申し込みフォームでは信州大学工学部メンタルヘルスケアセンターでのカウンセリングの申し込みができます。申し込み可能な対象者は信州大学工学部の学部生・大学院生・教職員とその関係者（保護者・友人など）に限ります。

カウンセリングについて詳しく知りたい方はこちらをご覧ください。

この相談申し込みフォームにご登録いただく個人情報は、予約受付とカウンセリング・学生相談に必要な範囲でのみ使用し、それ以外の目的で使用することは一切ありません。

本学の個人情報の取扱い全般についてはこちらをご確認ください。

注意事項：

この相談申し込みフォームは相談申込専用となっております。メールでのカウンセリング、特定の個人への誹謗中傷、匿名によるお問い合わせ等には、回答いたしかねますので、あらかじめご了承ください。

回答までに1週間程度お時間を頂くことがあります。お急ぎの方は、次の連絡先まで直接お問い合わせください。

**【工学部保健室：026-269-5077】**

予約申し込み可能日時：月～金曜日（祝日・年末年始、入構制限期間を除く）。午前9～12時・午後1時～5時。

予約日時が確定しましたら、メンタルヘルスケアセンターから折り返しご連絡を差し上げますので、しばらくお待ちください。

上記に同意いただいた場合は、「同意する」をクリックし、登録画面へお進みください。

(出典：工学部作成)

## 技術部の教育支援（資料工 39）

学科名	科目名	学生数	担当者数
機械システム工学科	機械システム工学加工実習	734	9
機械システム工学科	機械システム工学実験	360	4
機械システム工学科	機械システム工学設計製図	83	1
機械システム工学科	機械設計製図Ⅱ	180	2
機械システム工学科	機械設計製図Ⅲ	180	2
機械システム工学科	専門職大学院等教育推進プログラム	1	1
電気電子工学科	電気電子実験Ⅰ	600	6
電気電子工学科	電気電子実験Ⅱ	600	6
電気電子工学科	電気電子実験Ⅲ	600	6
物質工学科	物理化学実験(必修・後期)	120	2
土木工学科	空間情報実習	92	2
土木工学科	コンクリート構造実験	70	2
土木工学科	土質・水環境実験	70	2
建築学科	建築構造材料実験	75	2
環境機能工学科	環境機能工学実験Ⅰ	400	8
環境機能工学科	環境機能工学実験Ⅱ	55	1
環境機能工学科	環境機能工学実験Ⅲ	108	2
共通科目	物理学実験(A)(B)	680	5
共通科目	物理学実験(C)(D)	200	11

（出典：工学部作成）

平成 21 年度および 27 年度の TA、非常勤講師等の人数は（資料工 40）のとおりである。

H27 年度 非常勤等の人数				
	男	女	合計	うち外国人
ティーチング・アシスタント	126	9	135	2
リサーチ・アシスタント	8	6	14	5
特任教授	35	0	35	1
特任准教授	1	0	1	0
非常勤講師	38	1	39	1

H21 年度 非常勤等の人数				
	男	女	合計	うち外国人
ティーチング・アシスタント	204	18	222	15
リサーチ・アシスタント	2	1	3	1
特任教授	20	0	20	0

非常勤講師	56	4	60	2
-------	----	---	----	---

(出典：工学部作成)

TA は資料工 41, 42 の実施要項に従い業務を行っている。

<p>資料工 41 信州大学ティーチング・アシスタント実施要項 (抜粋)</p> <p>(目的)</p> <p>第 2 TA は、本学大学院の優秀な学生に対し、教育的配慮の下に教育補助業務を行わせ、これに対する手当支給により、当該学生の処遇の改善に資するとともに、大学教育の充実及び指導者としてのトレーニングの機会提供を図ることを目的とする。</p> <p>(身分)</p> <p>第 3 TA は、非常勤職員とする。</p> <p>(職務内容)</p> <p>第 4 TA は、学部学生、修士課程の学生及び博士前期課程の学生に対する実験、実習及び演習等の教育補助業務に従事する。</p> <p style="text-align: right;">(出典：信州大学ティーチング・アシスタント実施要項)</p>
---

資料工 42 各学部等における TA の業務内容														
部局名	授業時間内の業務内容								授業時間外の業務内容					その他の業務内容
	A	B	C	D	E	F	G	H	a	b	c	d	e	
工学部	○	○	○		○	○	○		○		○		○	図書館における学習方法指導 (ラーニング・アドバイザー)
<p>授業時間内の業務内容</p> <p>A. 資料の配付、B. 機器の操作、C. 出欠の管理、D. 試験監督補助、E. 討論への参加、F. 学生の質問への対応、G. 実験・実習などの実演、H. 発声・会話の指導</p> <p>授業時間外の業務内容</p> <p>a. 資料のコピー、保存、b. 教室のメンテナンス(空調、照明、施錠等)、c. レポート課題の作成・採点補助、d. 教材の作成補助、e. 実験・実習の準備</p> <p style="text-align: right;">(出典：各学部等のデータを基もとに経営企画課にて作成)</p>														

③多様な教員の確保の状況とその効果

資料工 43 に示すように多様な教員の採用に努めている。

資料工 43 継承教員内での外国籍、女性、企業経験者の人数													
	教授				准教授・講師				助教・助手				
	数	外国籍	女性	企業経験者	数	外国籍	女性	企業経験者	数	外国籍	女性	企業経験者	
H21	54		1	11	58	6	4	10	24	1	1	4	
H27	52	2	2	14	65	3	4	9	28	2	3	4	

(出典：工学部作成)

男女共同参画宣言 (資料工 44) に基づいた、公募を行っている。(資料工 45)

<p>資料工 44 信州大学男女共同参画宣言</p> <p>平成 23 年 12 月 21 日</p> <p>国立大学法人信州大学</p> <p>学長 山沢 清人</p>
---

国立大学法人信州大学は、男女共同参画社会の実現に努め、これを自らの社会的責務とすることを宣言します。

国際人権規約 A 規約（経済的、社会的及び文化的権利に関する国際規約）第 3 条は、「この規約の締約国は、この規約に定めるすべての経済的、社会的及び文化的権利の享有について男女に同等の権利を確保することを約束する」と定めています。また、日本国憲法第 14 条（法の下での平等）を実現するために、男女共同参画社会基本法前文は、「少子高齢化の進展、国内経済活動の成熟化等我が国の社会経済情勢の急速な変化に対応していく上で、男女が、互いにその人権を尊重しつつ責任を分かち合い、性別にかかわらず、その個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会の実現」が「二十一世紀のわが国社会を決定する最重要課題と位置付け」、諸施策を講ずることを義務づけています。他方、わが国では現在も、男性優位社会の弊は依然として強く存在し、いたる所で散見されます。「知の森」づくりをめざす学問の府であり自由平等な研究活動を目指す信州大学においても、この弊の存在は、ひとり例外ではありません。女性教職員は、職業生活においても、家庭生活（育児・介護生活を含む）においても、大きな負担を背負っています。そして、学生たちは、このような社会状況のなかで教育を受けています。

信州大学は、不合理な性差別の是正と男女共同参画の推進を社会的要請と受け止め、総合大学としての特性を生かし、積極的に取り組んでいきます。信州大学が男女共同参画を推進することが、男女ともに幸福をもたらすと同時に、多様性を尊重した持続可能な社会の創成に寄与すると確信するからです。教育の場では、性差別を克服する教育を充実させ、男女共同参画の精神の涵養を含む人間力を備えた優れた人材を育成し社会に送り出します。研究の場では、女性研究者が男性研究者とともに優れた研究環境を享受し卓抜した成果を挙げ、人類社会に貢献していきます。医療の場では、女性医師や女性コメディカルが男性と対等に医療活動を担い、生命と健康を尊重していきます。働く職場では、男女教職員が、仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）を等しく享受できる環境づくりを行うとともに、女性教職員の大学運営への参画を促進していきます。国際交流や地域社会等との連携の場では、多様な文化と価値観の存在を尊重し、男女平等の社会づくりに叡智を尽くし貢献していきます。

（出典：信州大学男女共同参画室ホームページ「宣言・行動計画」）

#### 資料工 45 工学部公募要項における女性優先の記載例

信州大学は男女共同参画を推進しており、業績等（研究業績、教育業績、社会的貢献ほか）及び人物の評価において同等と認められた場合には女性を採用します。ただし、これは性別のみで優先的に採用することを認めるものではありません。

（出典：工学部物質工学科公募要項より抜粋）

留学生担当教員は女性限定で公募を行い採用した。（資料工 46）

#### 資料工 46 公募要項の抜粋

##### 工学部講師（女性）の公募

（採用予定日：平成 26 年 1 月 1 日 応募締切日：平成 25 年 10 月 31 日）

- 1 募集人員：講師（女性） 1 名
- 2 所 属：信州大学工学部
- 3 専門分野：分野は問わない。
- 4 業務内容：本学部の留学生に関する業務等
- 5 担当科目：専門分野に関連する科目（共通教育科目または工学部専門科目）  
途中略

14 信州大学は、男女共同参画事業を推進しています。

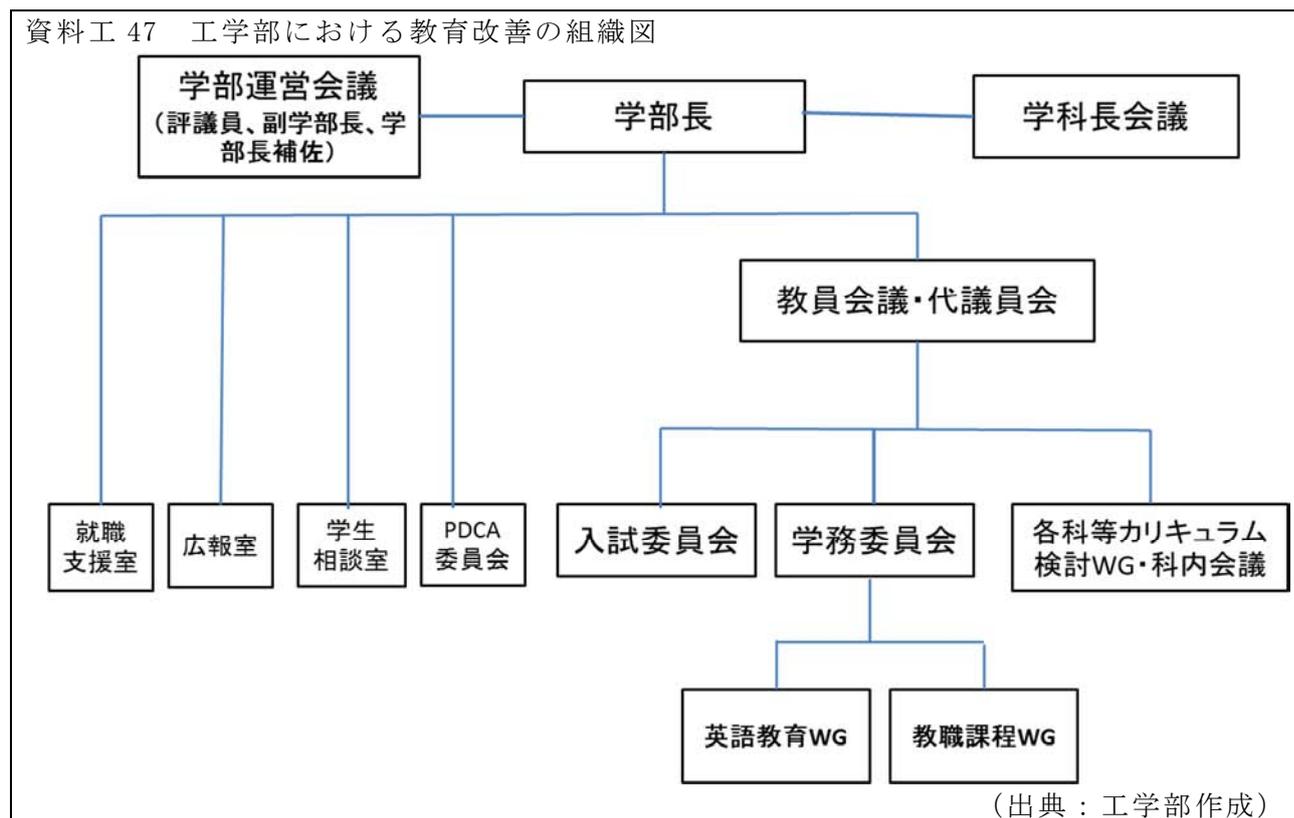
(出典：工学部教員公募より抜粋)

(2) 教育内容・方法の改善の体制

①改善組織の構成

教育内容・方法の改善に取り組む体制を構築している(資料工47)。カリキュラムは各科、学務委員会で検討し、教員会議で決定している。また各種アンケートを行い、PDCA委員会等のもとで見直しを継続的に行っている。

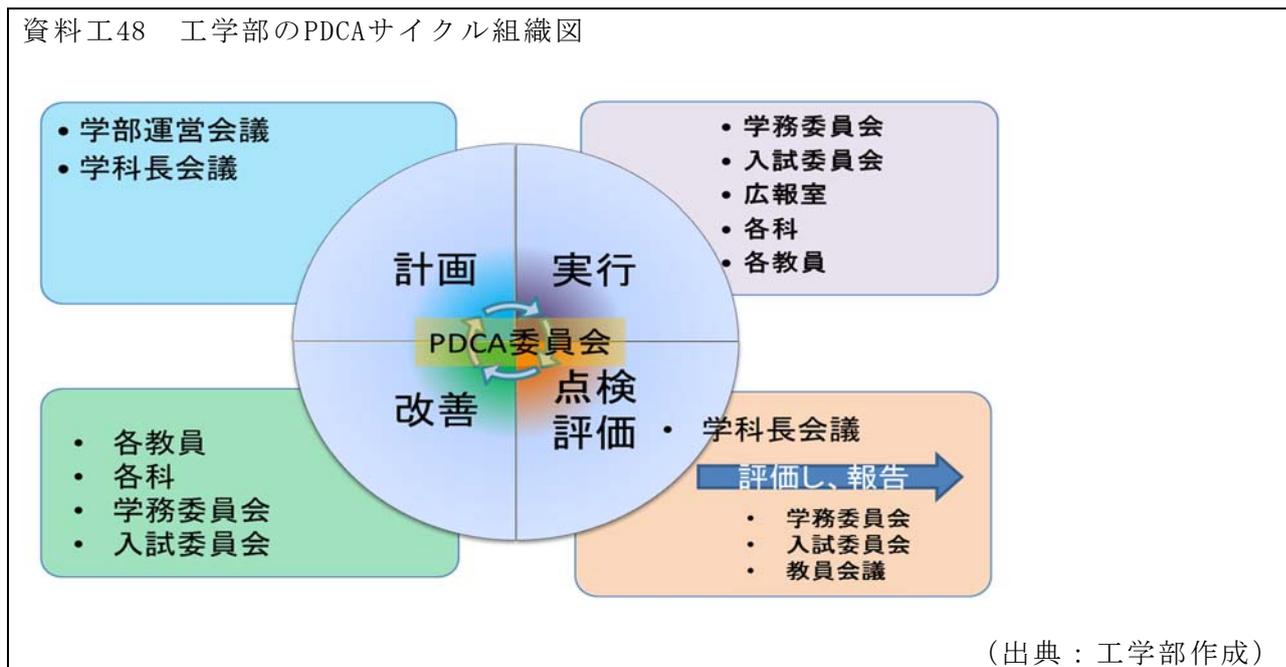
資料工 47 工学部における教育改善の組織図



②教育課程の編成プロセス

教育のPDCAサイクルを実践している。(資料工48)

資料工48 工学部のPDCAサイクル組織図



③教育活動に係る改善の仕組・取組

(資料工 49) に示すような各種アンケートを実施し、その結果に基づき評価、改善を行っている。

資料工 49 工学部で行っているアンケートの一覧

アンケート等の整理					
名称	対象	時期	担当	内容・項目	過去の実施年
授業改善アンケート	在校生	半期に一度	学務係	個別の授業単位の評価	
ベストティーチャ投票	2, 3年生	半期に一度	学務係	各授業のお教員単位の評価	
卒業生アンケート	卒業、修了生	毎年 3月	学務係	DPや施設、環境	H24から
既卒生アンケート	卒業、修了してから数年後の学生	数年毎	学務係	DPや施設、環境	H18,24年度
卒業生懇談会	卒業生 数名	毎年 2月	学務係	教育全般	H24年度から実施
企業アンケート	就職企業	数年毎	就職支援室	学生がDPを満たしていると感じるか	H24
後援会アンケート	後援会総会出席者	毎年 8月	学務係	8月の後援会開催時	H26から
保護者アンケート	保護者	毎年 4月	学務係	ガイダンスの内容等	H27/4から
新入生アンケート	新入生	毎年 4月	学務係	ガイダンスの内容等	H27/4から
オープンキャンパスアンケート	OC参加者	毎年 6,10月	学務係	OCの内容	H22から

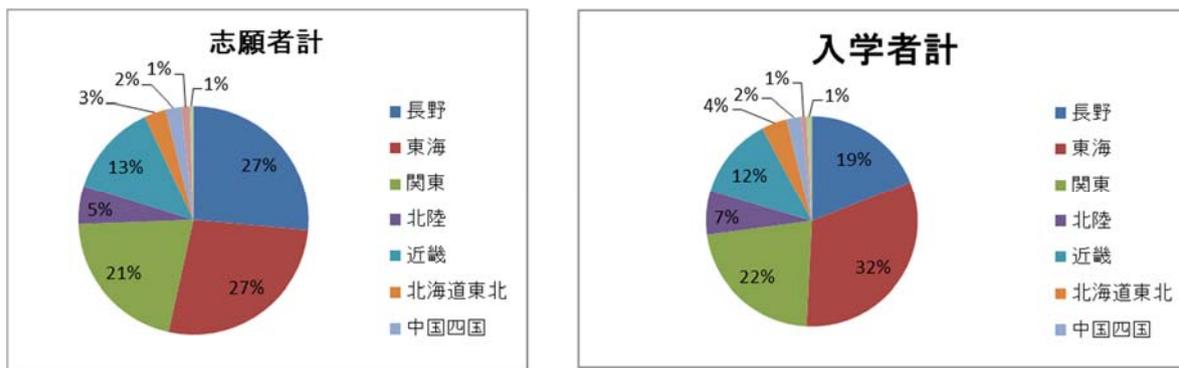
(出典：工学部作成)

(3) 入学者選抜方法の工夫とその効果

①名古屋入試

本学部では愛知、東海3県からの受験者が多い。(資料工 50) そこで平成25年度から学部前期試験を名古屋会場でも実施している。

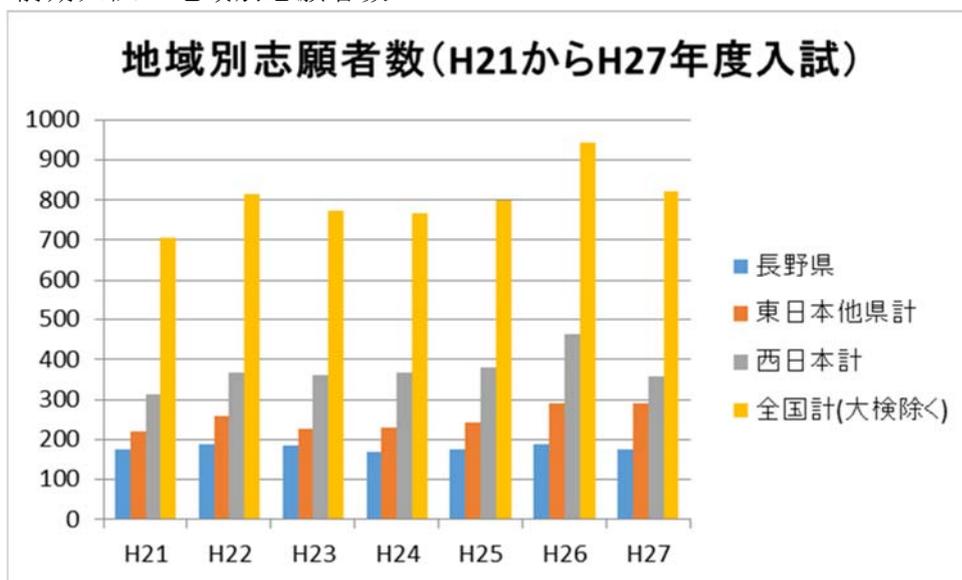
資料工 50 H27 年度 本学部の志願者及び入学者の地域分布



(出典：工学部作成)

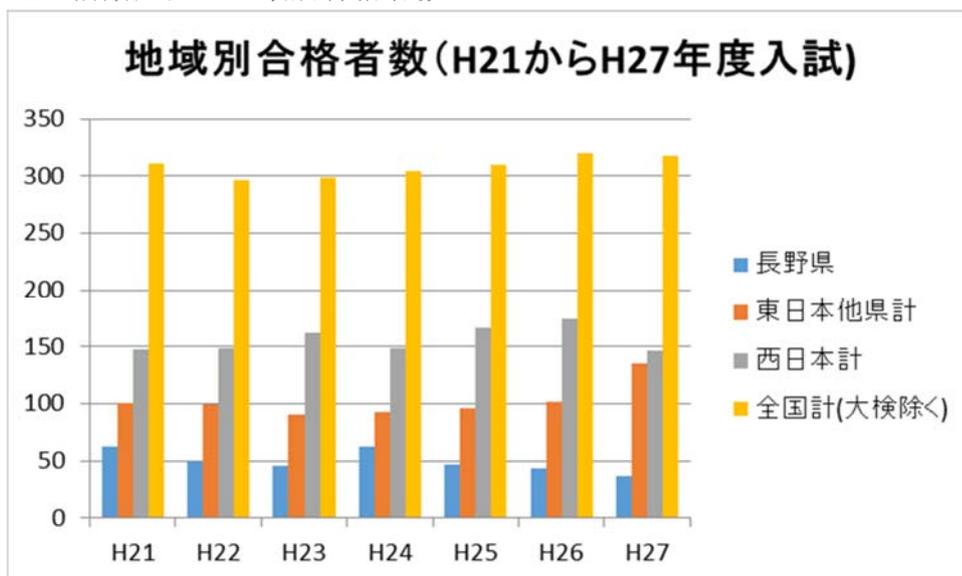
西日本からの志願者は概ね増加し、全体の志願者増に寄与している。(資料工 51) 合格者数に関しては東、西が同程度である。(資料工 52)

資料工 51 前期入試の地域別志願者数



(出典：工学部作成)

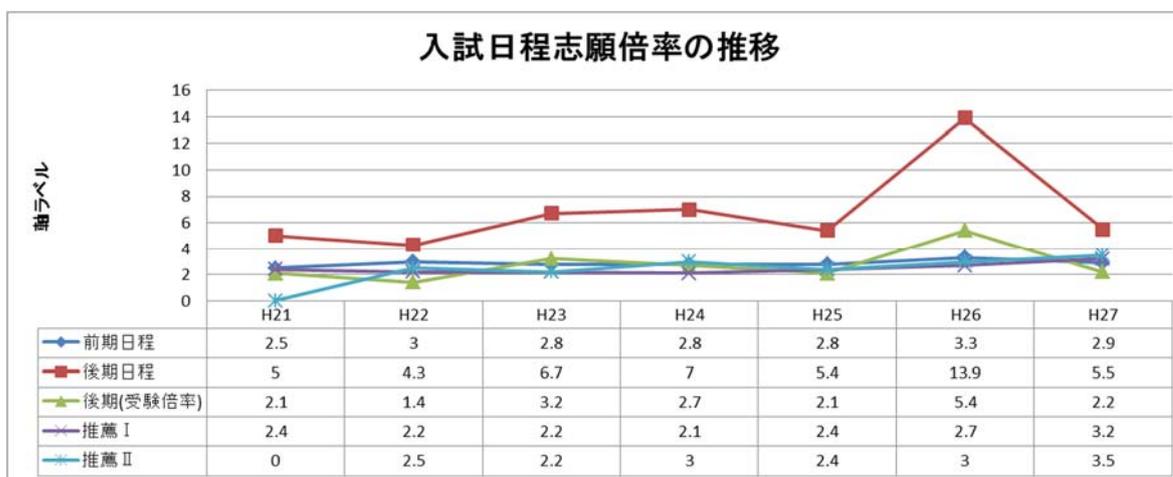
資料工 52 前期入試の地域別合格者数



(出典：工学部作成)

資料工 53 入試日程別志願倍率の推移

後期は前期との併願で欠席率が高いので受験倍率を示している



(出典：工学部作成)

## ②広報活動

平成 25 年度から工学部広報室を設置し広報活動を実施している。(資料工 54～57)

## 資料工 54 工学部広報室メンバーリスト

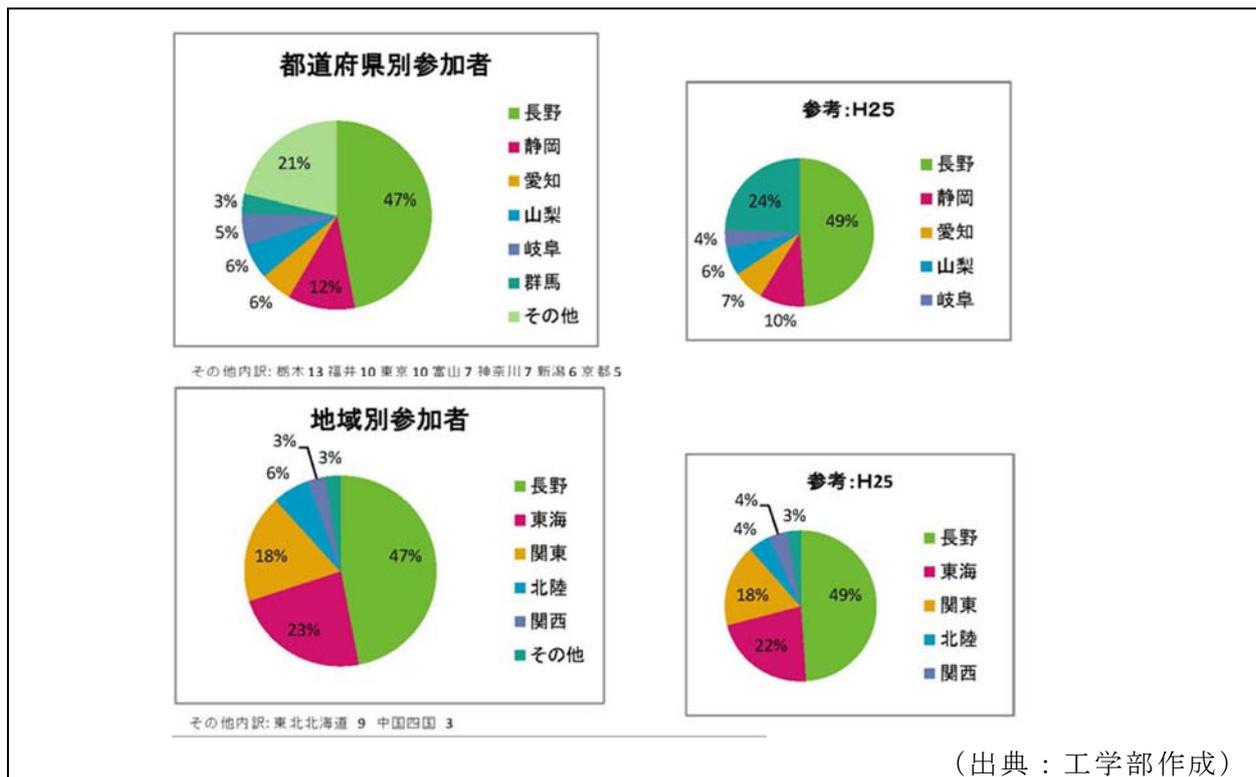
室長 学部長補佐  
 副室長 3名  
 副入試委員長 (広報担当)  
 各科 1名  
 留学生担当教員  
 産学連携・広報担当教員  
 技術部 2名  
 事務部  
 計 21名

(出典:工学部作成)

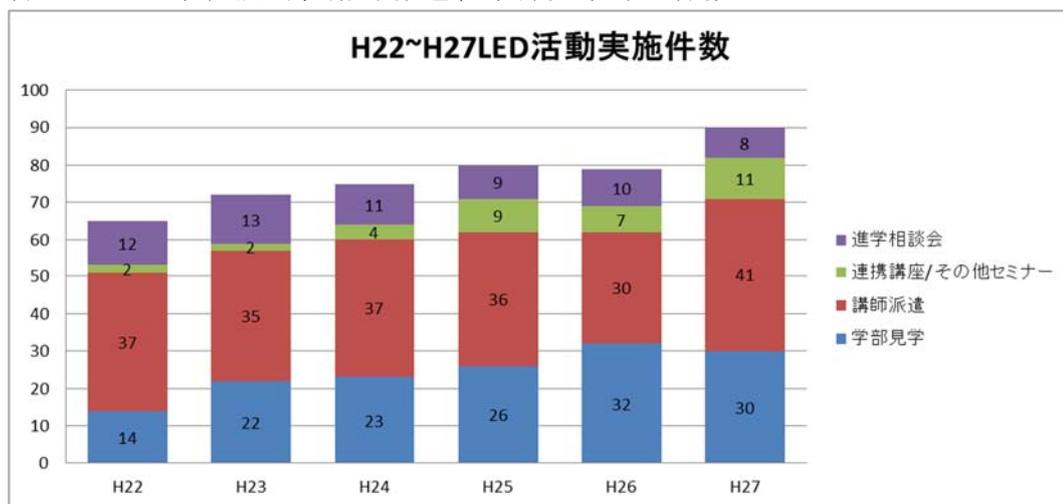
## 資料工 55 オープンキャンパス出席者数(父兄等も含む)

## オープンキャンパス参加者

	アンケート回収数	参加者数
平成 22 年度	641	924
平成 23 年度	584	903
平成 24 年度	704	1,213
平成 25 年度第一回	359	1,300
平成 25 年度第二回	87	270
平成 26 年度第一回	642	1,337
平成 26 年度第二回	84	367
平成 27 年度第一回	819	1,600
平成 27 年度第二回	132	457



資料工 56 進学相談会、講師派遣、学部見学等の件数



LEDは、Learn Engineer's Dreams：技術者の夢を学ぼう！の略であり、工学部の高校への広報活動として行っているプロジェクトであり、内容は、高大連携事業、進路説明会、学部見学会、模擬講義等である。

平成 27 年度から県外高校への広報活動は拡大した。(資料工 57)

資料工 57 県外の高校への広報活動の件数

	H24	H25	H26	H27
愛知	19	20	13	18
岐阜	5	5	6	5
三重	6	6	4	5

静岡	10	4	13	10
群馬	0	5	0	4
千葉	0	0	6	0
埼玉	0	0	0	3
山梨	0	0	0	4
新潟	0	0	0	8
石川	0	0	0	4
富山	0	0	0	8
福井	0	0	0	3
徳島	0	0	0	1
高知	0	0	0	1
計	40	40	42	74

(出典：工学部作成)

これらの成果が志願者増につながっていると考える。

### ③女子学生への広報

平成 25 年度より広報委員会の中に女子学生への広報活動を行うワーキング・グループを設置し、活動を行っている。(資料工 58、59)

#### 資料工 58 女子学生への広報活動を行う WG

メンバーは以下のような女性からなる

工学部学部長補佐 (教授)

准教授

学部、専攻の女子学生 10 名程度

(出典：工学部作成)

#### 資料工 59 H25 年度 OC における女子のための集いの案内

##### 本日の日程

**Nazano Girls Seminar**  
2013.10.26 14:00-15:00  
◎信州大学工学部講義棟 203 教室

14:00 司会 カワモト ボーリン・ナオミよりご挨拶

14:05 事例紹介  
1.「リカジョ」の生活 井出恵実  
2.「現役OLの生活」 武田佳代

14:30 座談会  
在学生と気軽に話しましょう！

15:00 終了



**井出恵実**  
工学部建築学科修士1期生1年  
現在はヒートアイランド現象の要因の一つである「土地緑地の改変」と気候変化について、リモートセンシング技術を用いた研究を行っている。



**武田佳代**  
工学部図書館スタッフ  
二児の母。図書館では親切な対応と優しい笑顔で工学部生を支える。

司会 カワモト ボーリン・ナオミ  
情報工学科情報メディア学 准教授



Our dreams will certainly come true.

##### 学生生活をもっと知る

信州大学工学部  
<http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/engineering>

Facebook 信州大学工学部Official  
<https://www.facebook.com/shinshueng>

工学部広報室  
〒380-8553 長野市若里4-17-1  
TEL 026-269-5539

## Campus Life Guide

工学キャンパスをのぞいてみよう！

- ・ 本日の日程
- ・ 学生へのインタ



(出典：工学部オープンキャンパスパンフレットより抜粋)

活動の結果、女子の志願者が概ね増えてきている。(資料工 60)

資料工 60 H22 から H28 までの志願者及び入学者中の女子率

志願者及び入学者中の女子の割合							
	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28
入学者中の女子率	8.6%	8.7%	11.7%	10.8%	14.3%	13.8%	12.6%
志願者中の女子率	9.9%	10.8%	11.8%	13.1%	11.6%	11.1%	14.4%
H22はH22/4/1入学の学生に関する値							

(出典：工学部作成)

資料工 61 平成 27 年 4 月現在の男女別在籍者数

	男性	女性	計	女性比率
1 年生	449	63	512	12.3%
2 年生	433	61	494	12.3%
3 年生	548	54	602	9.0%
4 年生	499	64	563	11.4%

在籍者数には留年生を含むために資料工 60 とは値が異なる。

(出典：工学部作成)

(4) 教員の教育力向上や職員の専門性向上のための体制の整備とその効果

平成 13 年度よりベストティーチャー(BT)賞を設け(資料工 62)、表彰すると共に、BT による公開授業、FD セミナーを実施している。(資料工 63)

資料工 62 ベストティーチャー賞実施細目(抜粋)

信州大学工学部 ベストティーチャー賞実施細目

#### 1 アンケート実施時期

アンケート実施時期は 4 月上旬(当該年度の翌年度)に学生が多く集まる場(例えば就職説明会や卒業研究配属説明会等)において学科単位で行う。

なお、特に事情がある学科は、当該年度後期に実施することが出来る。(実施日時は各学科に一任)

#### 2 アンケート対象学生

学部 3 年次在籍の学生(アンケートを実施する 4 月上旬時点では 4 年生になっている点に注意。

又、過年度生の取り扱いは各学科に一任する。)

#### 3 受賞の対象教員

受賞の対象となる資格者は、本学部専任の教授、准教授、講師、助教(以下「教員」という。)とし、過去の受賞者も含める。

#### 4 投票方法・投票の管理

(1) 無記名投票とする。(無記名投票なので投票に用いるアンケートシートの管理には注意すること)

(2) 投票終了後その場で開票・集計を行い、次に定める投票率・得票率の基準を満たす場合には、各学科選出の BT 賞候補者の氏名をその場で公表する。(学部共通科目担当教員候補者名は、この場では決定・公表できないことに注意)

##### 1) 投票率の基準

##### ①【各学科教員の選出】

投票数が各学科 3 年次在籍者数の 50%を超えない場合は投票を無効とし、当該学科の当該年度の受賞候補者選出は見送る。

##### ②【学部共通科目担当教員の選出】

各学科投票数の総計が工学部3年次在籍者数の50%に満たない場合は投票を無効とし、当該年度の受賞候補者選出は見送る。

2) 得票率の基準

①【各学科教員の選出】

各学科3年次在籍者数の20%以上の得票率（以下「学科選出基準」という）を満たした教員の中で最高得票者を受賞候補者とする。受賞候補者が複数の場合は、その全員を受賞候補者とする。1回目の選出で最高得票者の得票率が学科選出基準を満たさない場合は、得票数が1位と2位（同順位の者が複数いる場合はそのすべてを含める）の者に「該当者なし」を加えて決選投票を行い、学科選出基準を満たした教員の中で最高得票者を受賞候補者とする。受賞候補者が複数の場合は、その全員を受賞候補者とする。決選投票の結果、学科選出基準を満たした教員がない場合は、当該学科の当該年度の受賞候補者の選出は見送る。

②【学部共通科目担当教員の選出】

当該教員ごとの担当科目受講者数（過年度生を除くアンケート対象学生とし、重複受講者は1名と数える。又、この算出作業は学務係で処理し、学部共通科目担当教員が確認する。）が、工学部3年次在籍者数の10%以上（以下「共通選出基準」という）を満たした教員の中で最高得票率の者を受賞候補者とする。ここでいう得票率とは、当該教員の得票数を、当該教員の担当科目受講者数で割ったものとする。受賞候補者が複数の場合は、その全員を受賞候補者とする。共通選出基準を満たした教員がない場合は、当該年度の受賞候補者の選出は見送る。

（以下省略）

（出典：工学部作成）

資料工 63 ベストティーチャー賞投票用紙

**平成26年度ベスト・ティーチャー  
アンケート用紙**

※あなたが在籍している学科の教員（A群）・工学部共通科目を担当している教員（B群）について、ベスト・ティーチャー賞制度の趣旨・目的に最もふさわしいと思う教員をそれぞれ1名選んで下記に記入してください。また、その理由を自由に書いてください。  
なお、教員名・該当者なし欄ともに未記入の場合は、該当者なしとみなします。

	A 群	B 群
	所属学科の専門科目担当教員	工学部の共通科目担当教員
<b>教員名</b> （本制度の趣旨・目的に最もふさわしい教員名を記入してください。）		
<b>理由</b> （選んだ理由について自由に記入してください。）	..... ..... ..... .....	..... ..... ..... .....
<b>該当者なし</b> （該当教員がない場合は、右欄に「該当者なし」と明記してください。）		

（出典：工学部作成）

資料工 64 ベストティーチャーによる FD セミナー、公開授業の開催概要等資料

【FDセミナー】

- 日 時……授業期間の教員会議終了後（前後期どちらかで1回）
- 場 所……総合研究棟 1 F 大会議室
- 進 行……学務委員長
- 講 師……ベストティーチャー賞受賞教員
- 内 容……講師による発表 10 分 + 質問 5 分  
（パワポ等資料を用い、授業の進め方や工夫している点など概要説明する）
- 参加者……教職員

【授業公開】

- 日時等……原則、上記 FD セミナー実施学期の授業任意の 5 回分を授業公開とする。  
セミナー実施日の学期に授業がない場合は、この限りではない。  
公開授業科目と公開期日については、学務係から当該教員に照会のうえ決定する。
- 参加者……教員のみ

（出典：工学部作成）

平成 23 年度以降は FD セミナーを教員会議の前後に行い高い出席率を確保している。また、工学部及び高等教育センター教員によるセミナーも毎年実施している。（資料工 65）

資料工 65 工学部及び高等教育センター教員によるセミナー

H27年度工学部FD実施状況一覧

実施日	テーマ	講師名	対象範囲	備考
2015/4/2	新任教員FD研修	高等教育研究センター	教職員	SUNS受信
2015/4/27	大学生調査JCSS2012報告FD	高等教育研究センター	教職員	SUNS受信
2015/6/16	eALPS研修 映像活用e-learningコンテンツ	高等教育研究センター 等	教職員	SUNS受信
2015/6/22	ベストティーチャーによるFDセミナー及び授業公開（セミナー前後5回）	豊田政史、大野博道、高木直樹	教職員	
2015/7/25	ベストティーチャーによる授業公開（セミナー前後5回）	中山昇	教職員	セミナーの代わりにオープンキャンパスミニ授業（模擬講義）実施
2015/8/27～28	FDカンファレンス	高等教育研究センター	教職員	冠着荘
2015/9/4	科学研究費に関するFD 「科研費採択のための講習会及び研究倫理に関する説明会」	研究支援課長	教職員	
2015/10/19	ベストティーチャーによるFDセミナー及び授業公開（セミナー前後5回）	水野聡、小林一樹、内田博久、飯尾昭一郎	教職員	
2015/11/10	反転授業FD	向後千春（早稲田大学）、高等教育研究センター	教職員	SUNS受信
2016/2/15	高大接続の実現に向けた入試改革FD	雨森聡（アドミッションセンター）	教職員	
2016/2/29	eALPS研修 小テストの作成	矢部正之（高等教育研究センター）	教職員	SUNS受信

平成 22 年度～27 年度の F D 等開催実績

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27
開催数	3	5	11	11	13	11

（出典：工学部作成）

工学部技術部は活動内容を成果発表会で発表し、研鑽に努めている。(資料工 66)

資料工 66 平成 27 年 3 月の成果発表会の内容			
系	氏名 及び 発表 順	時 間	発 表 題 目
計測調査 系	A 氏	10:10~	3 年生実験講義用治具の作成
	B 氏	10:20~	植物片混入土の密度試験を経験して
	C 氏	10:30~	コンクリートの破壊模様確認実験
	D 氏	10:40~	作業環境測定士登録講習に参加して
	E 氏	10:50~	野辺山高原とハウレンソウ収穫機
休 憩		11:00~	
設計製作 系	F 氏	11:10~	個人目標 2014
	G 氏	11:20~	親子体験教室での光学プリズム製作体験について
	H 氏	11:30~	個人目標の達成状況
	I 氏	11:40~	Excel の VBA を利用して作業の効率化を図る
	J 氏	11:50~	切削油剤の使用と保守管理
昼 食		12:00~	
情報処理 系	K 氏	13:30~	情報処理技術者試験について
	L 氏	13:40~	若里キャンパス IP アドレス調査
	M 氏	13:50~	LAN ケーブルの交換
	N 氏	14:00~	信州大学工学部 ISO14001 内部向けホームページの見直し
休 憩		14:10~	
機器分析 系	O 氏	14:20~	10 分でわかる単結晶 X 線構造解析 (SC-XRD)
	P 氏	14:30~	環境報告書 2014 作成 WG の取り組み
	Q 氏	14:40~	工学部における結晶方位解析の分析実績と測定事例の紹介
	R 氏	14:50~	走査透過電子顕微鏡 (STEM) における技術資料作成の試み
	S 氏	15:00~	集束イオンビーム加工観察装置による TEM 観察のための薄膜試料の作成

(出典：工学部作成)

### (水準)

期待される水準を上回る。

### (判断理由)

教育課程を遂行するための十分な教員数が確保 (前掲資料工 23、p 14) されており、各教員は概ね週当たり 2~6 つの授業を担当しており、科目数も 395 と充足した数を提供 (前掲資料工 26、p 15) している。

学生指導マニュアル (前掲資料工 34、p 19)、チューター面談 (前掲資料工 35、p 19) の実施、メンタルヘルスの専用相談室 (前掲資料工 37、p 19) を設けるなどの対応がなされている。

外国籍や企業経験者など多様な教員の採用に努めて (前掲資料工 43、p 22)、男女共同参画の宣言により女性教員採用に関して数値目標を設定 (前掲資料工 44、p 22) している。

名古屋入試の導入、オープンキャンパスや高校への出前授業、進学相談会、講師派遣、学部見学の受け入れなどの幅広い広報活動 (前掲資料工 55~57、p 28~29) の結果、平成 26 年志願者は増加している。

ベストティーチャーによる授業公開や FD セミナーの継続的な実施 (前掲資料工 64~65、

p 33) など、教員の教育力向上や職員の専門性の向上に積極的である。  
教育の PDCA サイクルを実施する体制（前掲資料工 48、p 25）整備を行った。  
以上より、学生・保護者・受験生から期待される水準を上回る、と判断する。

観点 教育内容・方法

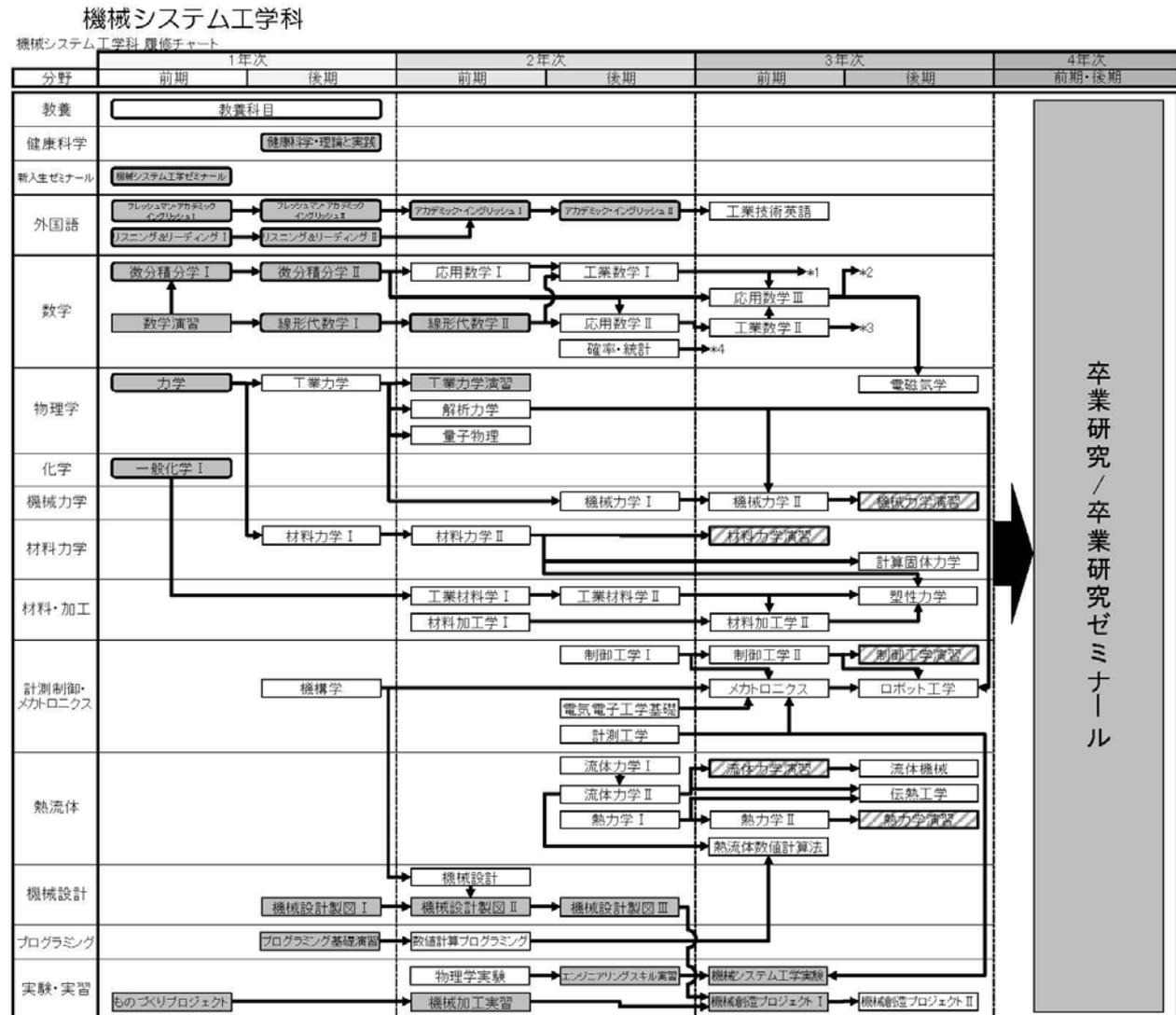
(観点に係る状況)

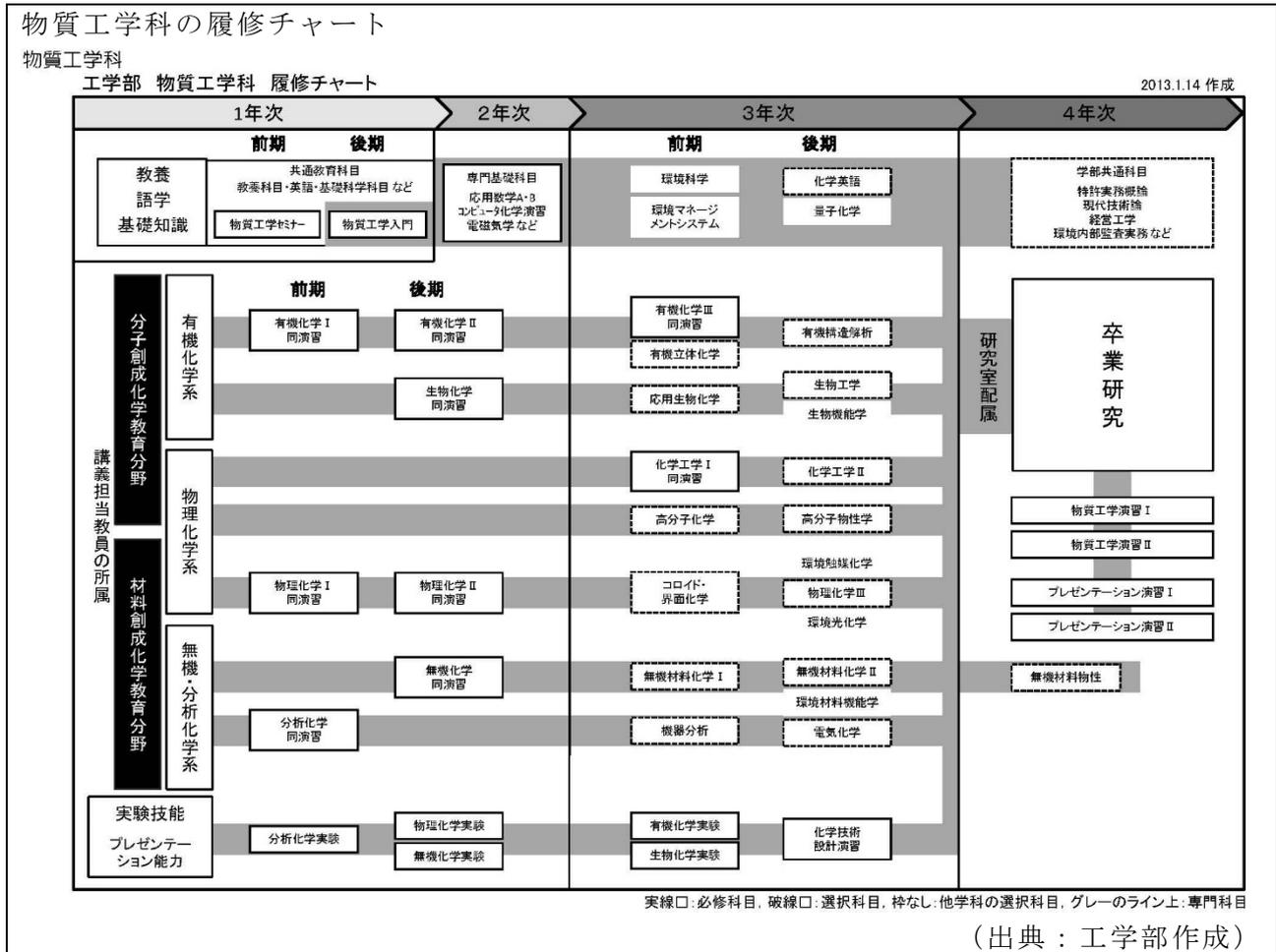
(1) 体系的な教育課程の編成状況

① AP、CP、DP の明文化、公表

AP、CP、DP は明文化され、公表されている。(前掲資料工 3～9、p 2～5) 平成 26 年度より履修チャート(資料工 67)に基づいてカリキュラム設計を行ってきた。

資料工 67 各学科の履修チャート

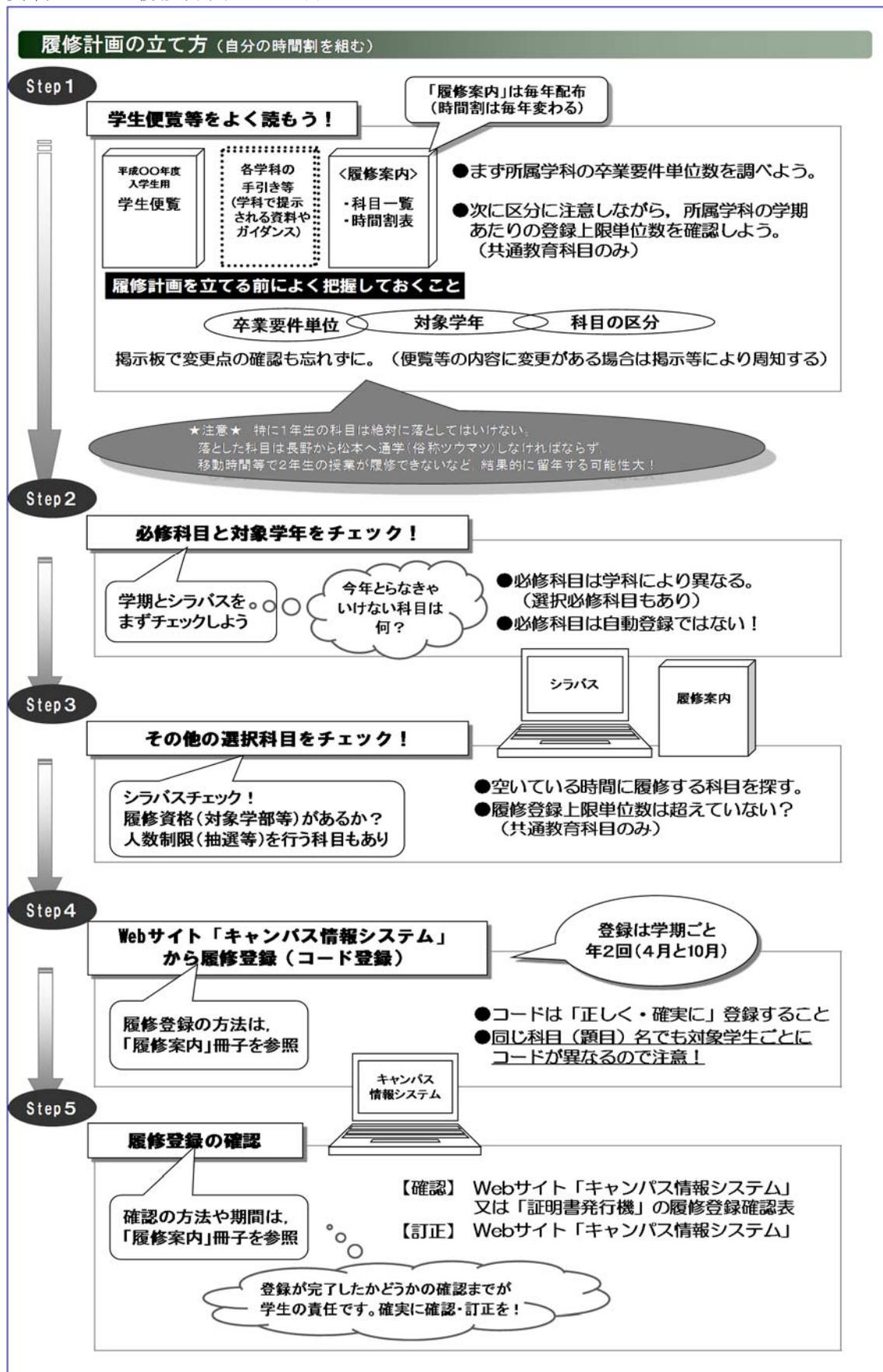




②学生便覧・シラバスの工夫

各学科のポリシー（前掲資料工9、p5）に基づいた履修に関しては学生便覧に「学修心得」や「履修計画の立て方」（資料工68）を掲載し、各学年の初めにガイダンスを行っている。

資料工 68 履修計画の立て方



(出典：工学部学生便覧より抜粋)

シラバス作成のガイドラインを作成し、シラバス記載の標準化を行い、教育力の向上に努めている（資料工 69）。

#### 資料工 69 シラバス作成ガイドライン(抜粋)

##### (1) 授業のねらい

授業で得られる「学位授与の方針」要素／◎：全学共通

- ・ 科学に関する基礎および専門的な基礎知識をもち、これらの基礎概念と一般的法則を本質的に理解するとともに、基礎科学および専門基礎に関する問題を解答する能力がある
- ・ 基礎理論に基づいて工学的な観点から問題点や課題を発見することができ、筋道を立てて解決できる
- ・ ◎科学諸分野の歴史やその成果に関して幅広く理解できる【科学リテラシー】

##### 【授業の達成目標】

- ・ 微分方程式およびラプラス変換を理解し、それらを用いて問題を解く能力を身につける。
- ・ 微分方程式の解法や、ラプラス変換の応用を理解することを通して、論理的に問題を解決する能力を身につける。
- ・ 微分方程式や、ラプラス変換が研究されてきた理由や背景について正しく理解する。

##### 【授業のねらい】

この科目では、主として微分方程式について学ぶ。微分方程式は、物理や化学などの現象や法則を数学的に表すものとして多く使われるため、これを学ぶことは必要不可欠である。本講義では、基本的な微分方程式を解くための方法を学び、また演習問題を解くことにより計算技術を身につける。

##### (2) 授業の概要

この授業の前半では、求積法を用いた微分方程式の解法と、2階線形微分方程式の解法を学んでいく。授業の後半ではラプラス変換を学び、ラプラス変換を用いた微分方程式の解法を学ぶ。また演習の時間では直前の授業で学んだ解法に関する問題を解くことにより、計算能力を身に付けていく。

##### (3) 授業計画

- 第1回 (4/10) 微分方程式の基礎
- 第2回 (4/17) 求積法を用いた微分方程式の解法その1. 変数分離形.
- 第3回 (4/24) 求積法を用いた微分方程式の解法その2. 同次形.
- 第4回 (5/1) 求積法を用いた微分方程式の解法その3. 1階線形微分方程式. <注意: 5月8日は月曜日の時間割>
- 第5回 (5/15) 求積法を用いた微分方程式の解法その4. 全微分方程式.
- 第6回 (5/22) 2階同次線形微分方程式とその解.
- 第7回 (5/29) 定数係数2階同次線形微分方程式の解法.
- 第8回 (6/5) 定数係数2階非同次線形微分方程式の解法.
- 第9回 (6/12) ラプラス変換の基礎.
- 第10回 (6/19) ラプラス変換の基本法則その1. 線形法則、相似法則、移動法則.
- 第11回 (6/26) ラプラス変換の基本法則その2. 微分法則、積分法則、合成法則.
- 第12回 (7/3) ラプラス逆変換.

第 13 回 (7/10) ラプラス変換を用いた微分方程式の解法その 1. 初期値問題、境界値問題

第 14 回 (7/17) ラプラス変換を用いた微分方程式の解法その 2. 2 階線形微分方程式、連立微分方程式

第 15 回 (7/24) ラプラス変換を用いた偏微分方程式の解法.

第 16 回 期末試験

(4)成績評価の方法

出席要件(講義の 2/3 以上)を満たしたものに対し期末試験を行い、科目の基本的内容を理解したと認められる者(試験において 60 点以上の成績)について単位を認定する。ただし、欠席回数が 2 回以下のものには講義・演習それぞれ 5 点加点する。

(出典:工学部シラバス web 版)

## ②シラバスにおける DP の明確化

各授業と DP の関係を平成 26 年度から明示している。(資料工 70、71)

資料工 70 シラバスにおける DP の明確化

(1) 授業のねらい

【授業で得られる『学位授与の方針』の項目】(学部のみ)

大学の『学位授与の方針』または学部・学科等の『学位授与の方針』から少なくとも一つを選択してください。

大学・学部・学科の DP がシステム上表示されますので、添付のカリキュラムマップの各科目の○を付している項目のうち、重要度の高い項目を選択してください。

【授業の達成目標】(学部のみ)

上記の学位授与方針に対応した内容をお書きください。

【授業のねらい】

受講生に何を獲得させることを目標にしているのか、授業の到達目標をお書きください。

- ・ 授業の大きな目標と、学生が何を身に付けるのか、を書き分けてください。
- ・ 「教員が何を教えるのか」ではなく、「学生が何を学ばなければならないのか」の観点でお書きください。

(出典:学務係作成シラバス作成マニュアルより抜粋)

資料工 71 DP を明記したシラバスの例

登録コード	T2318						
授業科目	自動制御 II			担当教員	田代 晋久		
英文授業名	Automatic Control 2			副担当			
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	月曜・4時限	対象学生	電気電子工学科3年生
講義室	工学部102基教室	授業形態	講義	備考			
<p>(1)授業のねらい</p> <p>授業で得られる「学位授与の方針」要素/◎：全学共通</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・科学に関する基礎および専門的な基礎知識をもち、これらの基礎概念と一般的法則を本質的に理解するとともに、基礎科学および専門基礎に関する問題を解答する能力がある</li> <li>・エネルギー分野に関する専門基礎知識を修得し、多面的な視点から知識を活用することができる</li> <li>・◎科学論分野の歴史やその成果に関して幅広く理解できる【科学リテラシー】</li> <li>・◎多様な情報を適切に取捨選択し、分析・活用できる【情報活用力】</li> <li>・◎自然や社会の現象を普遍的な尺度や数量的指標を用いて理解できる【普遍的・数量的理解力】</li> </ul> <p>【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習問題による予習を通じ現代制御理論に関する基礎知識を習得し、問題解答能力を養える習慣を身につける。</li> <li>・現代制御理論の習得を通じ、エネルギー分野に関する専門分野への応用が行えることを目標とする。</li> <li>・古典制御理論との対比により、現代制御理論の歴史やその応用について幅広く理解する。</li> <li>・予習・講義を通じ古典制御理論における重要なポイントを押さえ、小テスト・試験を通じそれを分析・活用できることを目標とする。</li> <li>・現代制御理論を通じ、定量的考察の重要性を身につける。</li> </ul> <p>【授業のねらい】</p> <p>本講義では、状態方程式表現に基づく現代制御理論の基本的な考え方と手法を理解する。これにより、現代制御理論は古典制御では扱えないようなシステムに対する制御系の解析と設計の方法を修得することを目的とする。</p> <p>(2)授業の概要</p> <p>現代制御では行列計算を多用するため、難しいと感じるかもしれない。定理の証明よりも、演習問題を通じて定理をどのように活用するかを理解することに重点をおいた講義を行う。</p> <p>(3)授業計画</p> <p>第1回 現代制御の概要          第2回 システムの状態方程式          第3回 システムの応答と安定性          第4回 座標変換          第5回 可制御性          第6回 可観測性          第7回 中間まとめ          第8回 可制御標準系          第9回 極配置法          第10回 最適レギュレータ          第11回 折り返し法          第12回 最適制御系の安定性          第13回 サーボ系          第14回 状態観測器          第15回 フォローアップ          第16回 期末試験</p> <p>(4)成績評価の方法</p> <p>毎回行う小テストの提出をもって出席とする。予習・授業態度 (10%)、小テスト (80%)、期末試験 (30%) により評価する。</p> <p>(5)履修上の注意</p> <p>予習を必ず行うこと。</p> <p>(6)質問、相談への対応</p> <p>電気電子工学科西棟 3F305 教員室を訪ねること。</p> <p>(7)その他</p> <p>講義に参加するだけなら、何を勉強すれば良いかが分かる程度である。予習復習により、積極的に問題を解くことで自らの理解を深めること。</p>							
<p>【教科書】</p> <p>演習で学ぶ現代制御理論、森 泰親、森北出版、2500円</p> <p>【参考書】</p> <p>自動制御、松村文夫、朝倉書店、3605円          はじめての現代制御理論、佐藤和也ほか、講談社、2600円          その他 現代制御に関する書籍</p>							

(出典：工学部シラバス)

学科毎に「学修心得」「履修要件」を明示すると共に、履修科目の履修順序を示す「履修チャート」（前掲資料工 67、p 36）を示す事で、的確な履修の周知を図っている。

### ③ 共通教育の実施

#### ③-1 新入生ゼミナール等

大学での学びを理解するため、学科で1クラス20人程度により必修2単位として開講している。（資料工72）

##### 資料工72 新入生ゼミナールの概要及び新入生ハンドブック

共通教育の目標の「⑥ 大学教育における基礎的な能力の育成」の内の「大学教育を受けるための基礎能力の育成」を目的とします。

受験勉強中心の高等学校までの勉学から、自ら学ぶ態度を培い、学問の面白さ、自身の専門への動機付けにより、大学での学びへと橋渡しをするためのゼミナールを前期、又は前期及び後期（学部・学科（課程・系）によって指定）に開講します。

基礎的な情報通信技術、情報の集め方の確認や、授業の受け方、大学の諸施設の使い方などの基本から始まり、口頭・文書によるコミュニケーションの基礎を含む大学での学びへの導入教育など、大学における学習の一般的スタイルの獲得を目指します。また、共通教育を中心に自らの学習の目標とそのため計画の立案を行います（ポートフォリオ作成）。

教員と学生の人格的な交流を活かしつつ、基本的には、大学に入ったばかりのみなさんが、大学生として主体的に勉学に取り組む姿勢をつくる場として開設されます。

レポート作成、発表を通じて日本語の作文力や話し方について訓練し、専門教育の内容や施設に直接触れることを通じて、大学生としてのみなさんの意識形成を図ります。

このゼミナールは学部・学科（課程・系）の方針に従い、学部・学科（課程・系）の教員によって実施されます。

なお、参考資料として、入学時に配付する「新入生ハンドブック」があります。

（出典：「2015共通教育履修案内」をもとに経営企画課作成）



信州大学

新入生ハンドブック 2015



信州大学 全学教育機構

<p>ii</p> <p>新生ハンドブック-目次</p> <p>前書き . . . . . i</p> <p>序章 信州大学学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） . . . 1</p> <p>第1章 何のために学ぶのか - 10年後の世界を想像しよう- 7</p> <p>1.1. 卒業後の世界を知ろう . . . . . 7</p> <p>1.2. 情報伝達技術の革新とその影響 . . . . . 14</p> <p>1.2.1. コミュニケーション（情報伝達）技術の進化 14</p> <p>1.2.2. 技術革新の光と影 . . . . . 17</p> <p>1.3. 急速に変化する社会で活躍するために：          知の訓練場「大学」 . . . . . 22</p> <p>1.3.1. 自分で問題を発見する . . . . . 22</p> <p>1.3.2. 森の中に木を見る . . . . . 23</p> <p>1.3.3. 真の知識を身につける . . . . . 24</p> <p>1.3.4. 目標がすべて . . . . . 26</p> <p>第2章 大学での学習スキル . . . . . 31</p> <p>2.1. 大学の授業とは . . . . . 31</p> <p>2.2. 学ぶ意義は自分で考えなければならない . . . . . 33</p> <p>2.3. 授業は学びの一部でしかない：自主学習が大事 . . . 34</p> <p>2.4. 自主学習の例 . . . . . 35</p> <p>2.4.1. 内容を理解するために、話してみよう 36</p> <p>2.4.2. 専門のある何でも屋に . . . . . 37</p> <p>2.5. 学習観を再考しましょう . . . . . 39</p> <p>2.6. 能動的な学びを . . . . . 41</p> <p>第3章 探す・集める・探す . . . . . 47</p> <p>3.1. 調べるとは . . . . . 48</p> <p>3.2. 資料を探す . . . . . 51</p> <p>3.2.1. 辞典を使う . . . . . 51</p> <p>3.2.2. 検索術語 . . . . . 53</p> <p>3.2.3. 図書館で探す . . . . . 56</p> <p>3.2.4. インターネット検索を使う . . . . . 61</p>	<p>iii</p> <p>3.3. 問いを作り上げる . . . . . 64</p> <p>第4章 レポートの書き方 . . . . . 69</p> <p>4.1. レポートとは？ . . . . . 69</p> <p>4.2. レポートの構想とメモ . . . . . 70</p> <p>4.3. 問題の見つけ方 . . . . . 72</p> <p>4.3.1. 文献はうたがってかかる . . . . . 72</p> <p>4.3.2. 常識はうたがってかかる . . . . . 73</p> <p>4.3.3. 自分でデータを集めてみる . . . . . 73</p> <p>4.4. レポートの構成と文章 . . . . . 74</p> <p>4.4.1. ねらいを短い文章に . . . . . 74</p> <p>4.4.2. ミニ目次のすすめ . . . . . 74</p> <p>4.4.3. 分かりやすい構成を . . . . . 77</p> <p>4.4.4. 文体はどうするか . . . . . 77</p> <p>4.4.5. 受け身の表現は避ける . . . . . 77</p> <p>4.5. レポートの落とし穴 . . . . . 78</p> <p>4.5.1. 一次資料って何だろう . . . . . 78</p> <p>4.5.2. 意見の流用 . . . . . 79</p> <p>4.5.3. 専門用語の罠 . . . . . 79</p> <p>4.6. 形をととのえる . . . . . 80</p> <p>4.6.1. まずは表紙から . . . . . 80</p> <p>4.6.2. 一般的なかたち . . . . . 81</p> <p>4.6.3. 見やすい体裁に . . . . . 81</p> <p>4.6.4. 引用と脚注 . . . . . 82</p> <p>4.6.5. 推敲はかならず . . . . . 83</p> <p>4.7. レポートから論文へ . . . . . 83</p> <p>4.8. 口頭発表にむけて . . . . . 84</p> <p>4.8.1. 発表原稿の棒読みはなぜわかりにくいのか . 84</p> <p>4.8.2. 口頭発表のメリットを最大限生かすには . 85</p> <p>4.8.3. 質疑への対応 . . . . . 86</p> <p>第5章 学生生活を設計しよう 勉強も遊びも . . . . . 93</p>
---	---

5.1. 信州大学学生相談センターおよび  
全学教育機構相談室について . . . . . 93

5.2. 学習の科学 . . . . . 94

5.2.1. 時間の前借りはしない . . . . . 95

5.2.2. とにかく始めたほうがよい . . . . . 95

5.2.3. 休まないと能率が落ちる . . . . . 96

5.2.4. すぐ復習しないと忘れる . . . . . 96

5.2.5. 暗記物は就寝前が良い? . . . . . 96

5.2.6. 五感を使う . . . . . 98

5.3. タスクを管理する . . . . . 98

5.3.1. 忘れ防止対策 . . . . . 99

5.3.2. 未完了の対策を大別する . . . . . 99

5.3.3. 自分の処理時間を把握する . . . . . 100

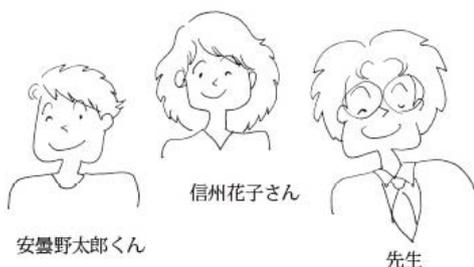
5.3.4. 学生の自由時間はたっぷりある? . . . . 101

5.3.5. 課題の作業時間を見積もる . . . . . 102

5.3.6. 手帳かスマートフォンか . . . . . 103



登場人物



iv

(出典：「信州大学新入生ハンドブック2015」)

③ー 2 教養ゼミ・大学生基礎力ゼミ

学部混合で行われる1クラス20名程度のゼミナールが開講されている。(資料工73)

資料工73 教養ゼミナール及び大学生基礎力ゼミ

【教養ゼミナール】

本学は種々の専門性を持つ8学部からなる総合大学であり、1年次に全学部生が松本キャンパスで学びます。ゼミナールは学部混合で行われますので、多様な物の見方を知る機会を得ることができます。また、個々の教員の専門が活かされています。また原則として25名を超えた場合の受講制限は、数の多い学部生から行うなど同一学部生に偏らないような処置をしています。教養ゼミナールでは、多くの事例的な研究を行い、学生が自分の知識や人生を社会との関係の中で位置付ける機会を提供します。討論やプレゼンテーション等も積極的に取り入れながら、物事の多面的な理解と深い洞察力を養います。

【大学生基礎力ゼミ】

**「大学生基礎力ゼミ」について**

信州大学で、一人前の大学生として有意義な学生生活を送りたい方のために、「大学生基礎力ゼミ」(社会科学群)を7コマ開講します。興味のある方は是非受講してください(詳しくはシラバスで確認してください)。

一人前の大学生のあるべき考え方を教えてもらった。

レポートの書き方の基本が分かった!

この授業のおかげで、グループの話し合いなどで意見が出せるようになり、楽しかったです。

ふりかえりレポートを毎週書くことで、自分についてよく知ることができ、本当に良い生活が送れた。

大学に入学して、今までとの違いや、これからどのように勉強していったらよいか分からない状態だったが、毎週の授業の中で少しずつ形作ることができた。

昨年受講した学生の声

**平成27年度開講数**

	前期	後期
教養ゼミナール	53	36
大学生基礎力ゼミ	11	0

(出典：「2015共通教育履修案内」)

### ③-3 教育方法・学習支援

上記のほか、履修登録上限単位、習熟度別クラス編成、リメディアル教育、各種英語資格試験による単位認定、放送大学との単位互換、県内他大学との単位互換を行っている。(資料工74)

#### 資料工74 共通教育科目における教育方法や学習支援

##### 【履修登録上限単位】

共通教育科目では、1学期に履修登録できる単位の上限が学部ごとに定められています。

※ 履修登録単位数の上限には教職に関する科目は含みません。

※ その他、学部・学科(系)によって、上限に含まない科目もありますので、詳細は各学部学生便覧で確認してください。

大学での勉学は授業での学習に加えて、出席する授業の予習、復習を含む十分な自主的学習時間の確保が前提となっています。こうした趣旨から、履修登録単位数の上限制度が設けられています。なお履修登録単位数の上限を超えて履修することはできません。

また、前期の成績が優秀な学生で学部長の許可がある場合には、後期に個々の学生ごとに履修登録単位数の上限を設定することが認められます。

##### 【習熟度別クラス】

**英語** 英語のクラスは、すべて学部別であり、また習熟度別クラス編成になっています。(上級)(中級)(初級)の3レベルです。習熟度別クラスが編成され、授業がはじまる前までに掲示されます。指定されたクラス以外のクラスを履修することは原則としてできません。

**微分積分学 I、力学、生物科学 I** 基礎科学科目の履修方法は学部・学科(課程・系)により異なりますので、各学部・学科(課程・系)の履修指導に従ってください。学部・学科(課程・系)でクラスが指定されますので、指定のクラスで受講してください。

なお、力学及び生物学 A については、高校における履修状況等を考慮し、一部の学生についてクラスの指定があります。対象学生となる学生が学部・学科(系)から掲示等で指定されます。

##### 【リメディアル教育】

大学での学習にスムーズに取り組んで行けるように、基礎を学ぶための授業です。積極的に活用しましょう。

各科目のリメディアル教育授業については、以下の通り実施します。掲示により受講を指定された学生は、以下を確認の上、授業に臨んでください。対象学生は、授業開始日までに、全学教育機構公用掲示板にて周知します。なお、指定を受けない場合でも、受講人数に余裕がある場合は、授業担当教員に申し出て、受講することができます。

「基礎化学」

担当教員：勝木 明夫 全学教育機構

授業内容：高校の化学 I を中心に化学 II まで

実施期間：前期 水曜日の 5 時限 平成 27 年 4 月 15 日～7 月 1 日（ただし、4 月 29 日、5 月 6 日を除く）

講義室：共 28 番教室

その他：学部からの指定事項等の詳細は、4 月に公用掲示板で確認してください。

【各種英語資格試験による単位認定について】

TOEIC、TOEFL 等で一定の点数を得た者及び実用英語技能検定（英検）等の特定の級に合格した者にだけ適用されます。

【放送大学との単位互換】

本学に在籍する学生が放送大学との単位互換（本学の授業の代わりに放送大学の授業を受講して単位を修得すれば、本学で修得すべき単位とみなす制度）を希望する場合は、「特別聴講学生」として受講することができます。ただし、受講の対象は教育学部、医学部、工学部、農学部及び繊維学部の学生に限ります。

【県内他大学との単位互換】

信州大学は、長野県内の他大学（長野県看護大学、佐久大学、清泉女学院大学、諏訪東京理科大学、長野大学、松本歯科大学、松本大学）と単位互換協定を結んでいます。

信州大学の学生は、この協定により長野県内他大学が開講する授業を受講することができ、その受講により取得した単位は、信州大学の単位として認定されます。単位互換の授業は、みなさんが他大学に通学して授業を受けるタイプと、遠隔講義システム（SUNS）を利用して信州大学の教室で他大学の授業を受けるタイプの 2 種類があります。

長野県内他大学の単位互換の対象授業は、学期の始めに各大学が募集します。

また、長野県内の高等教育機関で組織する「高等教育コンソーシアム信州」のホームページでも、単位互換に関することが掲載されています。

なお、全学教育機構では、平成 27 年度開設する教養科目、外国語科目及び基礎科学科目の授業のうち、授業担当教員が開放することを認めた「授業科目」について、県内の他大学の学生の受け入れを実施します。

【遠隔講義システム（SUNS）による受講】平成 22 年度からは、長野県内他大学の授業を遠隔講義システム（SUNS）を通じて信州大学で受講することができるようになりました。（他大学の特別聴講学生として受け入れられます。）この遠隔講義システムを利用した授業を受講すれば、他大学に通学しなくても信州大学の教室で、他大学の授業を受講できます。遠隔講義システム（SUNS）を利用した他大学の開講科目は、共通教育科目のうち「教養科目」として認定され、卒業に必要な単位に算入されます。

（出典：「2015 共通教育履修案内」をもとに経営企画課にて作成）

(2) ニーズに対応した教育課程の編成・実施上の工夫

① 卒業生アンケート、既卒生アンケート

教育課程等について卒業生（卒業が決定している 4 年次生）及び既卒生（卒業後数年した者）にアンケート調査（資料工 75）を行っている。

## 資料工 75 卒業生アンケート、既卒生アンケート

○卒業生アンケート対象：4年次生（卒業が決定している者）

○既卒生アンケート対象：卒業後数年経過した者

○評価方法：「そう思う」、「どちらかというと思う」、「どちらともいえない」、「どちらかというと思わない」、「そう思わない」の5段階評価

## ○アンケート項目

## ① 共通教育の教育課程についてのアンケート項目

1. 共通教育を受けたことによって、自分の世界が広がった
2. 基礎科学科目（数学、物理、化学、生物、地学）で得た知識は、専門課程の学習を始めるにあたって十分なものだった
3. 共通教育で学んだことによって、学部を越えた友人ができた
4. 高年次で受講できる教養科目があったらよいと思う
5. 高年次で受講できる語学科目があったらよいと思う

## ② 専門教育の教育課程に関するアンケート項目

1. ◎基礎学力の向上を重視した教育が行われていた
2. ◎専門知識並びに学際分野についての教育が行われていた
3. ○創造力の育成と課題探求能力を開発する教育が行われていた
4. 情報技術に関する基礎知識とその応用能力が育成される教育が行われていた
5. 自らの思考、判断を説明するとともに発展的議論を展開できるプレゼンテーション能力を育成する教育が行われていた
6. ◎地球環境保全などに対する技術者倫理をそなえ国際的視野にたった様々な分野で貢献出来る行動力や自立心を育成する教育が行われていた
7. ◎学部の課程は総合的にみて満足のいくものであった
8. ◎新しい分野の勉強ができる授業が多い
9. ○資格取得に役立つ授業が多い
10. ○選択できる授業が豊富に用意されていた
11. ○社会に出て役立つ授業が多い
12. ○視野を広げるのに役立つ授業科目が多い
13. ○各授業の人数は授業内容に対して適切であった
14. 成績評価の方法はおおむね適切であった
15. 必修・選択の区分は適切であった
16. 専門科目の履修順序（学年）は適切であった
17. ◎講義科目は充実していた
18. ○演習科目は充実していた
19. ○実験・実習・製図科目は充実していた

## ③ 専門教育の教員・授業についてのアンケート項目

1. ○学生の参加を積極的に促がす授業が多かった
2. △授業以外でもコミュニケーションのとれる教員がいる
3. △わかりやすい授業が多かった
4. 理解度など、学生の反応をみながら進められる授業が多かった
5. ○学習意欲や興味が増すように工夫されていた授業が多かった
6. ◎授業内容の必要性や位置づけをはっきりと示してくれる授業が多かった
7. ◎重要なポイントをはっきりと示してくれる授業が多かった
8. ○学問分野の専門家として優れた先生がいる
9. 卒業研究指導は充実していた

## ④ 専門教育に対する教育・学習環境についてのアンケート項目

1. ◎教員は授業外での学習を十分に促していた
2. ◎学習に関する相談に、教員は十分に対応していた
3. ○学生が主体的に学べる授業が十分に用意されていた

4. 双方向性のある授業が十分に用意されていた
5. ◎履修ガイダンスでは十分な情報が提供されていた
6. ○学生による授業評価は授業の改善に十分結びついていた
7. ○図書館では十分なサービスを提供していた
8. ◎シラバスには、選択科目の選択及び自主学習の計画作りに必要な情報が十分に記載されていた
9. ○ボランティア活動などに関する十分な情報提供があった
10. ○学務係など、事務の窓口対応は十分であった
11. ○オフィスアワーにおいて教員は十分対応していた
12. ◎精神面におけるケア（メンタルヘルス等）は充実していた
13. ○各種ハラスメントへの対応は十分であった
14. 講義室、実験室等の施設・設備は充実していた
15. 自主学習を行うための十分な施設があった
16. ○図書館の蔵書は充実していた
17. ○利用可能な情報ネットワークが整備されていた

注意) ◎は平成 25 年度の方が大きく改善されている項目、○は少し改善されている項目、△は少し評価が落ちている項目、他はほぼ同じ評価の項目である

#### 【アンケート結果】

学部の課程は総合的にみて満足のいくものであった

平成 19 年度：そう思う 8%、どちらかというと思う 36% 計 44%

平成 25 年度：同上 17%、同上 45% 計 62%

講義科目は充実していた

平成 19 年度：同上 6%、同上 41% 計 47%

平成 25 年度：同上 15%、同上 44% 計 59%

この結果より総合的にみて教育を肯定的に評価する割合が向上している。

また、肯定的評価の割合は不変でも、より強い肯定を表す「そう思う」の割合は大幅に向上している項目には以下がある。

基礎学力の向上を重視した教育が行われていた：(既卒生回答)

平成 19 年度：そう思う 15%、どちらかというと思う 54% 計 69%

平成 25 年度：同上 28%、同上 39% 計 67%

専門知識並びに学際分野についての教育が行われていた：(卒業生回答)

平成 19 年度：同上 17%、同上 57% 計 74%

平成 25 年度：同上 29%、同上 43% 計 72%

演習科目は充実していた：

平成 19 年度：同上 9%、同上 34% 計 43%

平成 25 年度：同上 16%、同上 36% 計 52%

(出典：工学部作成)

(3) 国際通用性のある教育課程の編成・実施上の工夫

① 1 年生全員への TOEIC-IP 試験受験の推奨

平成 25 年度からは 1 年生全員に TOEIC-IP 試験を年 2 回受験するように指導しており、ほぼ 100%受験している。

## ②高年次生への TOEIC 試験受験の推奨

高年次は TOEIC-IP 試験以外に TOEIC 公開試験の受験を推奨している。(資料工 76) 工学部英語教育 WG (資料工 77) を平成 25 年度から設置している。

資料工 76 工学部生協で受け付けた TOEIC 公開試験の受験者数及び大学院入試で TOEIC を課す通知

TOEIC 公開試験の受験者数

受験月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H22		60	10	2		14	3	25		17		中止	131
H23		35	4	3		29	3	13		19		21	127
H24		29	3	9		29	1	20	4	78		62	235
H25	0	23	6	6		49	1	34	2	114		85	320
H26	7	29	11	7		69	1	25	5	52		100	306
H27	5	73	22	10		29	4	29	7	52		127	358

TOEIC 公開試験は生協以外でも申し込めるが、本データは生協で受け付けたもののみである。

H27 年度理工学系研究科募集要項抜粋

電気電子工学専攻，物質工学専攻，環境機能工学専攻の志願者は，次の(ア)，(イ)いずれかの原本を提出してください。

原本は本学で写しをとった後，受験票送付用封筒に同封して返却します。

原本の写しや Web サイトをプリントアウトしたもの等の提出は，一切認めません。

提出しなかった場合は出願を認めません。

(ア) TOEIC 公開テストの Official Score Certificate (公式認定証)

(イ) TOEFL-iBT の Examinee Score Report (受験者用控えスコア票)

※スコアシートは平成 24 年 8 月 1 日以降の試験を受験したものに限りです。

※TOEIC-IP，TOEFL-ITP 等の団体特別受験制度によるスコアは認めません。

(出典：工学部作成)

資料工 77 工学部英語教育 WG

英語教育 WG のメンバーは以下の通りである

座長 工学部学部長補佐

メンバー 専任英語担当教員、学務委員長、国際交流委員会工学部委員

(出典：工学部作成)

## ③留学生担当教員の配置

平成 18 年度から留学生担当教員を配置し、20 年度から留学やインターンシップをサポートする職員を配置し、留学生を受け入れ、海外留学やインターンシップ派遣を積極的に勧めている。その結果留学生が徐々に増えてきている。(資料工 78) 平成 27 年度は 55 名の留学生を受け入れ、19 カ国で 27 大学と交流協定 (資料工 79) を結んで、国際交流を広く行っている。

また、英語に親しみ、諸外国への留学意欲を高める取り組みとして English Café を平成 25 年度より開催し、平成 27 年度は 49 回、561 人の参加者 (資料工 80) がある。これらにより、学生の派遣実績は増加している。(資料工 81)

資料工 78 留学生受け入れ実績

年度別留学生受け入れ実績					
H22	H23	H24	H25	H26	H27
44	46	50	46	54	55

(出典：工学部作成)

資料工 79 工学部の学部間及び大学間交流協定

国際交流（海外留学・外国人留学生）



国際交流センター専属のスタッフが常駐し、留学に関する相談を受付、長期・短期留学の紹介を行っています。また、毎週金曜日には学生が中心となって運営している ENGLISH CAFE を図書館で開催、英語オンリーのトークやプレゼンテーションを行い、語学力の向上と外国人留学生との異文化交流を行っています。



■ 外国人留学生数

中華人民共和国	25人
ベトナム社会主義共和国	15人
大韓民国	9人
マレーシア	7人
モンゴル国	5人
タイ王国	2人
バンラデシュ人民共和国	2人
その他	8人
計	73人

※2015年4月現在

海外の大学と提携

海外の大学多数と交流協定を締結し、留学を実現します。世界と直接ふれあい、視野を広げる貴重な体験ができます。優秀な留学生も多数入学し、国内においても異文化交流を実現します。

■ 海外の交流協定校（一例）

<b>アメリカ</b>	<b>ロシア</b>
ユタ大学	極東連邦大学 など
オクラホマ州立大学	<b>モンゴル</b>
南テキソン大学	モンゴル科学技術大学
<b>カナダ</b>	<b>中国</b>
バンクーバーアイランド大学 など	蘭州大学
<b>オーストラリア</b>	北京化工大学
カーティン大学	山東大学 など
<b>フランス</b>	<b>韓国</b>
ラ・ロッシエル大学	建國大学校
フランス国立機械工業工業高等学院	漢陽大学校 など
<b>ドイツ</b>	<b>タイ</b>
ライプツィヒ大学	チェンマイ大学 など
マンハイム大学	<b>インド</b>
<b>ベルギー</b>	インド工科大学マドラス校
カトリック大学ルーヴェン	<b>インドネシア</b>
<b>イタリア</b>	アリタハラバン大学 など
ヴェネツィア カッポスカリ大学	<b>台湾</b>
<b>ポーランド</b>	輔仁大学
ピャリストク工科大学	<b>ベトナム</b>
ワルシャワ大学 など	ハノイ工科大学 など
<b>オランダ</b>	マレーシア
ゾイト大学	マレーシアアトラ大学 など

※2015年現在

(出典：工学部ガイドブック 2016 より)

資料工 80 English Café の案内

<https://www.facebook.com/pages/English-Cafe/256177621204537>

英語で話そう

毎週金曜 国内留学?

気軽に英会話

異文化交流 英語でプレゼン

**ENGLISH CAFE**  
毎週金曜日12:00-14:00 @工学部図書館 1Fリフレッシュコーナー

飲食持込可  
**Friday 12:00-14:00 @Library**

5月-6月のプレゼン予定

5/9 「英語学習に使える電子ブック・電子ジャーナルについて」  
図書館 萩原 泰子さん

5/16 「海外における危機管理について」  
長野県警察本部教養課次長 降旗大造さん

5/23 世界を知ろう「ミャンマー」 メイスーシンさん

6/6 世界を知ろう「モンゴル」 シャンハンメイラムバックさん

6/20 世界を知ろう「マレーシア」  
イリヤスピニスマイルさん  
ロジャー・コオニェファンさん

入退室自由

English Cafeでは?  
通常、いくつかのグループに分かれて英語での会話を楽しめます。週によっては、英語プレゼンテーションが行われることもあります。グループの中でプレゼンの話題をディスカッションすることも。

【問い合わせ】学務係グローバルデスク 担当：松澤 026-269-5586 matsuzawa\_keiko@gm.shinshu-u.ac.jp

English Cafe 開催実績

	H25(12月から)	H26	H27
件数	12	49	49
参加者数	216	1,253	1308
工学部参加者	未集計	721	561

(出典：工学部作成)

資料工 81 留学派遣の実績

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
人数	0	4	4	11	30	36	33

数週間の短期留学も含む

(出典：工学部作成)

(4) 学生の主体的な学習を促すための取組

①授業等における取組み

主体的な学習を促すための種々の取組を行っている。(資料工 82)

資料工 82 各学科の特色ある試み

○電気電子工学科

【学生実験】

レポートの個別指導：実験の最終日に、全ての実験に関して、担当の教員よりそれぞれの

実験の詳細やレポートのまとめ方などについて説明するフォローアップの回を設けている（実験 I から III 全て）。（実験 I についてはその後、不可のレポートは再提出させる）

【自動制御 I、II】

近年の学習姿勢レベル改善のため、解答付きの練習問題 10 問程度を予習課題としてノートに写経させる。小テストの際、学生同士で確認をさせ、工夫している点をコメントさせることで、宿題の徹底化と、相互の学習意欲向上を促している。

【その他】

・プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力の向上のために、大学祭で開催する電気電子工学科フォーラムで、4 年、大学院生に研究紹介をさせている。また 3 年生にはどのような研究室があり、どのような研究が行われているのかを知る良い機会として、フォーラムへ参加させている（専門セミナー講義 1 回分）。

・3 年生の講義で、少なくとも 1 回は会社や他大学といった外部の方の講演を入れ、基礎学問がどのように実際に応用されているのかや社会人として必要なスキルや求められることを学ぶ機会を設けている。

○情報工学科

【授業科目：デザインプロジェクト】

学生がグループ毎に主体的に課題設定を行う授業。いわゆるアクティブラーニングとして 10 年以上前から開講している。主な内容については、以下のとおりである。

●授業の概要

本授業では、情報工学分野における高度な製作実験・プログラム設計などを行う。実験課題はハードウェア分野、ソフトウェア分野、もしくはその両方にまたがる分野から設定もしくは選択することができる。単位を取得するためには、当初の計画立案とその遂行、中間および最終のレポートまたは発表などを通じた審査に合格する必要がある。

●授業計画

概ね以下の計画に沿って行う。

1. テーマの設定を行い、その作業日程・費用・成果などの見積もりを含む実験計画を立案する。
2. ミーティング計画の妥当性をレビューなどを通して行い、計画の承認を得る。
3. 実際の製作・プログラミングなど承認された計画を遂行する。遂行途中での計画変更などがあれば、再度、レビューなどを行い、変更の妥当性を検討する。審査のためのレポートおよび発表準備も同時に行う。
4. 成果の審査面接・発表会成果の審査を面接もしくは発表会を通して行い、プレゼンテーションおよび成果に対す議論を行う。
5. 最終レポート提出面接・発表会等での指摘を反映した最終的なレポートを作成する。

第 1 回 ガイダンス

第 2 回 プロジェクト課題の説明

第 3 回 グループ作業（作業計画立案など）

第 4 回 グループ作業（作業計画のレビュー等）

第 5 回 グループ作業

第 6 回 グループ作業

第 7 回 グループ作業

第 8 回 中間発表会または中間報告書提出

第 9 回 グループ作業

第 10 回 グループ作業

第 11 回 グループ作業

第 12 回 グループ作業

第 13 回 グループ作業

第 14 回 成果報告会

第 15 回 最終報告書提出

○環境機能工学科

【1 年生の研究室見学】

10 人ほどのグループごとに全研究室を約 10 分ずつ見学する。4 年生・院生が中心になって説明・質疑応答を行う。研究以外にも、授業や生活についてのアドバイスなども行っていた。その後、全体で教員が質疑応答を行う。

(効果)

(共通教育時にも専門教育に触れるため) 特定の研究に興味をもつ学生が増えた。進級後に入りたい研究室があるということをよく耳にする。先輩から情報が得られることも重要。

【3 年生後期からの研究室仮配属】

4 年生への進級条件をほぼ満たしている学生に対して、成績順に希望の研究室に配属させる。4 年生で研究室が変わることもできる。

(効果)

(研究だけでなく、その他の指導も行き届くため) 教員や先輩との交流機会が増え、個人指導により専門教育が充実するようになった。授業の少ない 3 年生後期の時間を有効に使えるようになった。就職活動にも有利である

(出典：工学部作成)

②学習環境としての図書館の整備

平成 22 年度の耐震補強改修を機に、学習環境としての整備、運営を図っている。改修前 (H21) と比較して入館者数 (特別利用含む) は倍増している。(資料工 83) 特別利用は夜間無人開館制度 (資料工 84) である。

資料工 83 図書館入館者数

入館者数							(名)
年度	平日	土曜	休日	特別利用	合計(特別利用除く)	合計(特別利用含む)	
H21	73,711	3,235	1,512	-	88,458	-	
H22	47,151	2,232	1,257	-	50,640	-	耐震改修工事実施
H23	132,871	5,317	2,112	24,401	140,300	164,701	特別利用制度開始(5/9~)
H24	137,555	5,564	1,660	31,202	144,779	175,981	
H25	144,764	6,348	2,067	35,468	153,112	188,580	
H26	126,892	6,121	2,343	35,244	135,356	170,600	
H27	117,216	5,002	1,910	34,547	124,128	158,675	
開館日数							(日)
年度	平日	土曜	休日	特別利用	合計(特別利用除く)		
H21	233	34	6	-	273		
H22	211	34	7	-	252		耐震改修工事実施
H23	237	35	6	308	278		特別利用制度開始(5/9~)
H24	237	35	3	338	275		
H25	236	33	5	336	274		
H26	236	35	6	325	277		
H27	234	36	6	348	276		

(出典：工学部作成)

資料工 84 図書館の夜間無人開放

## 夜間開館 (特別利用) の 利用申請方法

「工学部図書館特別利用申請書」を  
提出し、講習会に参加してください

**講習会受講後**→  
特別利用が可能になります



### ★工学部図書館特別利用:

閉館後や休館のときでも、学習のために24時間  
図書館を利用できます。(本の利用はできません)  
講習会は定員20名で、1日2回/1カ月に4回の頻度で開催しています。  
都合のいい日時を選んで受講してください。

**進学等で学籍番号が変わった方は  
再度申請書の提出が必要です!!**

(出典：工学部作成)

自習室の利用状況 (資料工 85)

資料工 85 図書館自習室の利用状況

### 2階グループ学習室 (平成23年度 (耐震改修工事後) から設置)

- ・面積約50㎡。間を可動式パーテーションで区切り、2室として利用することが可能。
- ・ホワイトボード2台、プロジェクタ設備1基。
- ・利用は予約制(ただし、予約が入っていない時間帯は、自由に利用可)。

年度	第1		第2		第1+第2		合計		
	回数	人数	回数	人数	回数	人数	回数	人数	
H21	-	-	-	-	-	-	-	-	
H22	-	-	-	-	-	-	-	-	耐震改修工事実施 グループ学習室設置
H23	103	1,236	34	408	240	5,760	377	7,404	
H24	132	1,584	39	468	326	7,824	497	9,876	
H25	208	2,496	98	1,176	158	3,792	464	7,464	
H26	91	1,092	35	420	300	7,200	426	8,712	
H27	38	456	23	276	249	5,976	310	6,708	

(出典：工学部作成)

### ③ラーニングアドバイザー (以下 LA) 等による学習相談

平成 24 年度より大学院生による学習支援 (資料工 86) を実施している。ほぼ毎日 2 時間、相談を受け付けている。受け付けた相談内容及び回答は「LA 質問記録」に記録して、傾向把握に努めている。

毎月の時間割 (資料工 87) を掲示し、相談したい分野・内容の LA を選べるようになっている。学習支援にとどまらず、生活や就職活動・進路に関する悩み等も受け付け、必要に応じて図書館職員を通じて担当部署を紹介している。

資料工 86 工学部図書館 LA の活動実績

年度	相談者数	相談件数	実施期間
H24	24	21	6/5-1/27
H25	89	89	4/10-1/28
H26	92	92	4/9-1/27
H27	93	93	4/8-1/26

(出典：工学部作成)

資料工 87 LA の時間割 (例)

7 月						
日	月	火	水	木	金	土
		1 4～6 時 A 君	2 休講日	3 3～5 時 B 君	4 3～5 時 C 君	5
6	7 4～6 時 F 君	8 3～5 時 C 君	9 3～5 時 B 君	10 4～6 時 A 君	11 3～5 時 D 君	12
13	14 (数学) 3～5 時 数学教員	15 4～6 時 A 君	16 F 君	17 3～5 時 E 君	18 3～5 時 D 君	19
20	21 海の日	22 3～5 時 C 君	23 3～5 時 B 君	24 3～5 時 E 君	25 3～5 時 D 君	26 ※ 1～3 時 C 君
27	28 4～6 時 F 君	29 3～5 時 C 君	30 3～5 時 B 君	31 期末試験 開始		

(出典：工学部作成)

(5) 教育の質を保証するための工夫

①入学前教育 (資料工 88) を行っている。

資料工 88 入学前スクーリング

対象は職業高校からの推薦での合格者で入学手続きをしたもの

入学前スクーリング・スケジュール (H27.3)

日程 (3月)			講義室	講師	9:00-9:30	9:30-12:00	昼休	12:45-14:45	休憩	15:00-16:00	休憩	16:10-17:00	17:00-17:30
					30分	第1時限 150分 (小休10分)		45分		第2時限 120分 (小休10分)		15分	第3時限 60分
1日目	9日	月	講義棟 102番教室	松田	ガイダンス	数学1		数学1		数学1		数学テスト1	自習時間
2日目	10日	火	講義棟 102番教室	橋詰	自習時間/ 9:20-講師紹介	物理1		物理1		物理1		物理テスト1	自習時間
3日目	11日	水	学部共通棟 第1講義室	松田	自習時間	数学2		数学2		数学2		数学テスト2	自習時間
休み	12日	木											
4日目	13日	金	講義棟 102番教室	橋詰	自習時間	物理2		物理2		物理2		物理テスト2	自習時間
5日目	14日	土	講義棟 102番教室	松田	自習時間	数学3		数学3		数学3		数学テスト3	自習時間
休み	15日	日											
6日目	16日	月	講義棟 102番教室	橋詰	自習時間	物理3		物理3		物理3		物理テスト3	自習時間
7日目	17日	火	講義棟 102番教室	松田	自習時間	数学4		数学4		数学4		数学テスト4	自習時間
8日目	18日	水	講義棟 102番教室	橋詰	自習時間	物理4		物理4		物理4		物理テスト4	自習時間
9日目	19日	木	講義棟 102番教室	松田	自習時間	数学5		数学5		数学5		数学テスト5	自習時間
10日目	20日	金	講義棟 102番教室	橋詰	自習時間	物理5		物理5		物理5		物理テスト5	自習時間

(出典：工学部作成)

②工学基礎教育の充実を図るための工学基礎教育部門

数学系では、学生が専門科目を学ぶ際に必要な応用解析の基礎と問題解法の技法についての教科書「応用解析の基礎」(培風館)を共同執筆し(資料工 89)、平成 25 年発行した。

物理系では、学生が実験の結果とその原理を理解できるように独自テキストを作成し、グループ単位に質問しながら実験ノートをチェックすることで学生の理解度を把握し、補足説明を加えている。

資料工 89 応用解析の基礎の目次

- 1 微分方程式(微分方程式と解微分方程式の求積解法 ほか)
- 2 ラプラス変換(ラプラス変換の定義、ラプラス変換の基本法則 ほか)
- 3 フーリエ解析(フーリエ級数、フーリエ余弦級数とフーリエ正弦級数 ほか)
- 4 ベクトル解析(ベクトルとベクトル関数、曲線と曲面 ほか)
- 5 複素関数(複素数と複素平面、複素関数 ほか)

(出典：工学部作成)

③保護者ガイダンス

平成 24 年から入学式後に保護者ガイダンスを行っている。(資料工 90) 授業内容、学生指導の体制、各科の授業の特徴、学習、生活指導の状況などを説明している。アンケート結果(資料工 91)でもガイダンスや成績通知に関して高い評価を得ている。

資料工 90 平成 26 年度保護者ガイダンス資料の一部

### 卒業までの教育プログラム

入学 → 1年生 → 2年生 → 3年生 → 4年生 → 卒業

1年生: 共通教育科目 (教養、外国語、健康科学、新入生ゼミ、基礎科学)

2年生: 専門科目 (専門基礎、専門(講義+演習+実験))

3年生: 専門科目 (専門基礎、専門(講義+演習+実験))

4年生: 研究室配属、卒業研究

就職活動: 3年生から4年生にかけて

卒業後の進路: 大学院進学、博士課程進学、就職

教職課程 (中学理科、高校理科・数学・情報・工業)

### 基礎から応用まで学べる幅広いカリキュラム

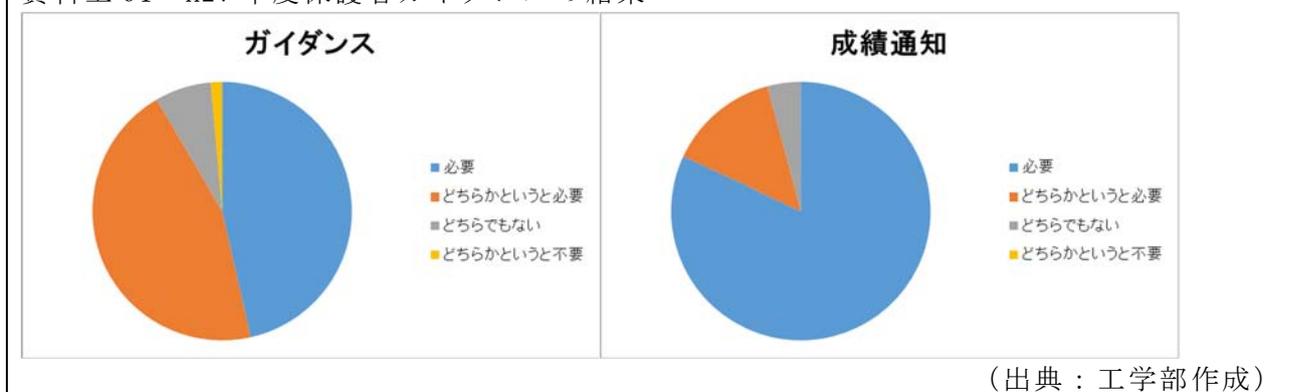
【例】環境機能工学科の場合

1年次(主な科目)	2年次(主な科目)	3年次(主な科目)	4年次(主な科目)
●環境機能工学 ●環境工学入門 ●環境化学 ●環境工学概論 ●環境工学実習 ●環境工学実習Ⅱ	●環境化学 ●環境工学概論 ●環境工学実習 ●環境工学実習Ⅱ ●環境工学実習Ⅲ	●環境工学実習Ⅲ ●環境工学実習Ⅳ ●環境工学実習Ⅴ ●環境工学実習Ⅵ ●環境工学実習Ⅶ	●卒業研究 ●卒業研究Ⅱ ●卒業研究Ⅲ ●卒業研究Ⅳ ●卒業研究Ⅴ

1年次から3年次までに、環境科学系、機械工学系、応用化学系の基礎を習得し、4年次でエコテクノロジーの卒業研究を行います。  
4年次で研究室に配属されると少人数教育により、コミュニケーション能力など、さらに**人間力が磨かれます。**

(出典：工学部作成)

資料工 91 H27 年度保護者ガイダンスの結果



④保証人への成績通知

平成 23 年度から保証人への成績通知を行っている。(資料工 92) 単位取得状況、卒業や 4 年生進級条件などを示し、学生の勉学状況の概要を把握してもらうことを目的としている。

資料工 92 保証人への成績通知

信州大学工学部 保証人への成績通知書の送付に関する実施要項

[2010.11 学務委員会]

【目的】

学部生のスポンサーでもある保証人（主に父母）へ、学生の成績を通知することにより、就学状況や進級・卒業見込みについて、大学・学生・保証人が相互に情報を共有し就学指導等に役立つとともに、保証人へ大学からの情報を発信することも目的とする。

【送付時期】 毎年度学期末成績確定後（翌学期の 4 月と 10 月）

【対象学生】 学部 1～3 年生（4 月時は学年更新後の新学年で表記）…1、500 名前後  
留学生は相談員が毎学期成績チェックを行い個別指導しているため対象外とする。

【送付物】 長 3 封筒 80 円分で郵送（原則 A 4 判 3 枚まで）

- 学部通知文……学務係で作成・印刷
- 学科通知文……学科で原稿作成・学務係で印刷
- 成績通知書……学務係で出力

【個人情報提供の不同意者の取り扱い】

入学時等に提出する『学生に関するプライバシーポリシーに関する申出書』のうち、「父母又は保証人へ個人情報を提供しない」を申し出た学生の保証人へは送付しない。  
 ※ただし、上記学生については、入学時の手続き書類の一部ということもあり、内容等を熟知できないまま申し出たことも考えられ、学科として不都合があれば、学生本人や保証人へご助言いただき、「保証人への成績等情報を提供することに同意する」手続きを学務窓口においてするよう指導する。（窓口で原本を修正してもらう。1年生の場合は応相談）  
 また、学務係で行う今後の入学手続き者への通知において、「当該申し出をすることによって、保証人への成績通知がされなくなる」という注意文を付け加えることとする。  
 （出典：工学部作成）

#### ⑤後援会

毎年夏休み前に、後援会（保護者会）の総会を行っている。（資料工 93）

平成 26 年度のアンケートでは、入学時の保護者ガイダンスや学期末の成績通知に関して高い評価を得た。（資料工 94）

#### 資料工 93 工学部後援会規約

##### 第一章 総 則

第一条 本会は、信州大学工学部後援会と称し、事務所を信州大学工学部に置く。

第二条 本会は、信州大学工学部の学生生活の向上に関して後援することを目的とする。

##### 第二章 事 業

第三条 本会は、第二条の目的を遂行するために、左の事業を行う。

- 一 卒業生の就職斡旋の援助
- 二 学生の保健、体育、厚生施設の援助
- 三 学生の課外活動の助成
- 四 講演会、講習会等の開催
- 五 その他必要ある事項

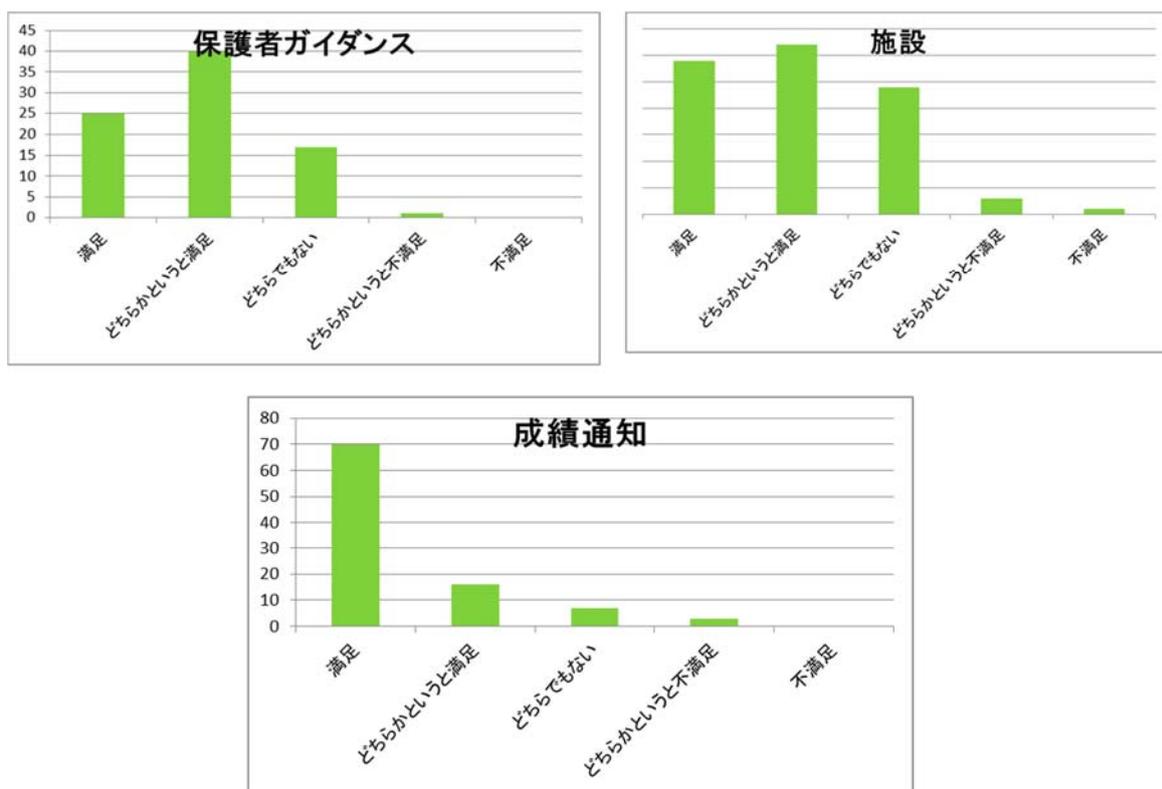
##### 第三章 会 員

第四条 本会は、次の会員をもって組織する。

- 一 正会員 信州大学工学部在学生の保護者
- 二 賛助会員 本会の趣旨に賛同し、一時金五、〇〇〇円以上を寄附した者並びに  
 理事会で推薦した者
- 三 特別会員 本会に功績があり、理事会で推薦した者

（出典：工学部後援会規約抜粋）

資料工 94 平成 26 年度後援会アンケート



(出典：工学部作成)

**(水準)**

期待される水準を上回る。

**(判断理由)**

学生の体系的な履修を促すために履修チャート（前掲資料工 67、p 36）を学生便覧等に記載している。授業科目と DP の関係をシラバス中に明記（前掲資料工 71、p 41）して公開している。

各学科独自の教育的試みを実施し、学生の自発的学習を促す仕組みを構築している。（前掲資料工 82、p 51）

卒業生アンケートを平成 24 年度から実施し（前掲資料工 75、p 47）、結果を教員会議で公開して、さらなる授業改善を図っている。

国際通用性のある教育については、語学力向上のために、平成 25 年度から 1 年生全員を対象とした TOEIC-IP 試験を実施し、高年次生には TOEIC 試験の受験を推奨している。（前掲資料工 76、p 49）また、English Cafe を実施（前掲資料工 80、p 51）するなど、英語に親しむ機会を増やし、留学生の受入及び派遣実績が向上している。（前掲資料工 78、81、p 50～51）

図書館の自習室の整備（前掲資料工 85、p 54）、夜間開放（前掲資料工 84、p 54）、LA の設置（前掲資料工 86～87、p 55）などを行った。平成 21 年度と 25 年度を比較すると、入館者はほぼ倍増（前掲資料工 83、p 53）しており、学生の学習環境として定着している。夜間開放利用者（前掲資料工 83、p 53）、LA の相談件数（前掲資料工 87、p 55）も大幅に増加している。

後援会総会（資料工 93）、入学時の保護者ガイダンス（資料工 90）、学期末の成績通知（資料工 92）等、教育改善に向けて活発な活動を行っている。後援会アンケート（資料工 94）によれば、保護者ガイダンス、成績通知についての満足度は極めて高い。

以上より、学生・保護者及び国際社会から期待される水準を上回る、と判断する。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

1 履修・修了状況から判断される学習成果の状況

① 履修状況

平成 21 年度から 27 年度までの本学部専門科目における単位修得状況は (資料工 95) の通りである。受講者数平均は約 70 名で、授業での合格率 (単位修得率) は平均約 80% である。

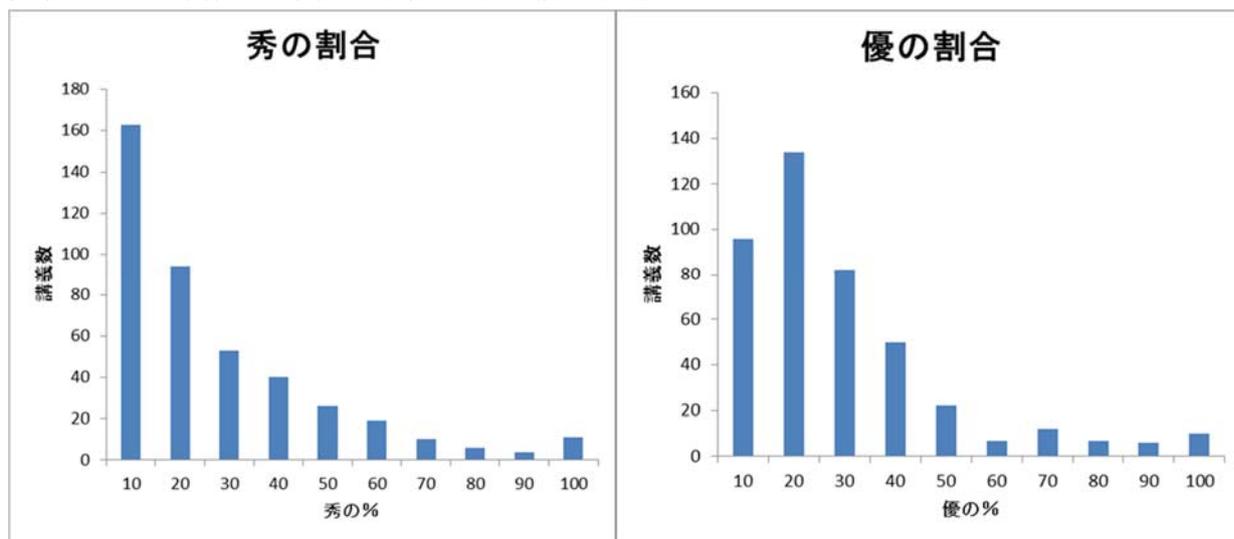
資料工 95 H21 から H27 までの単位取得状況

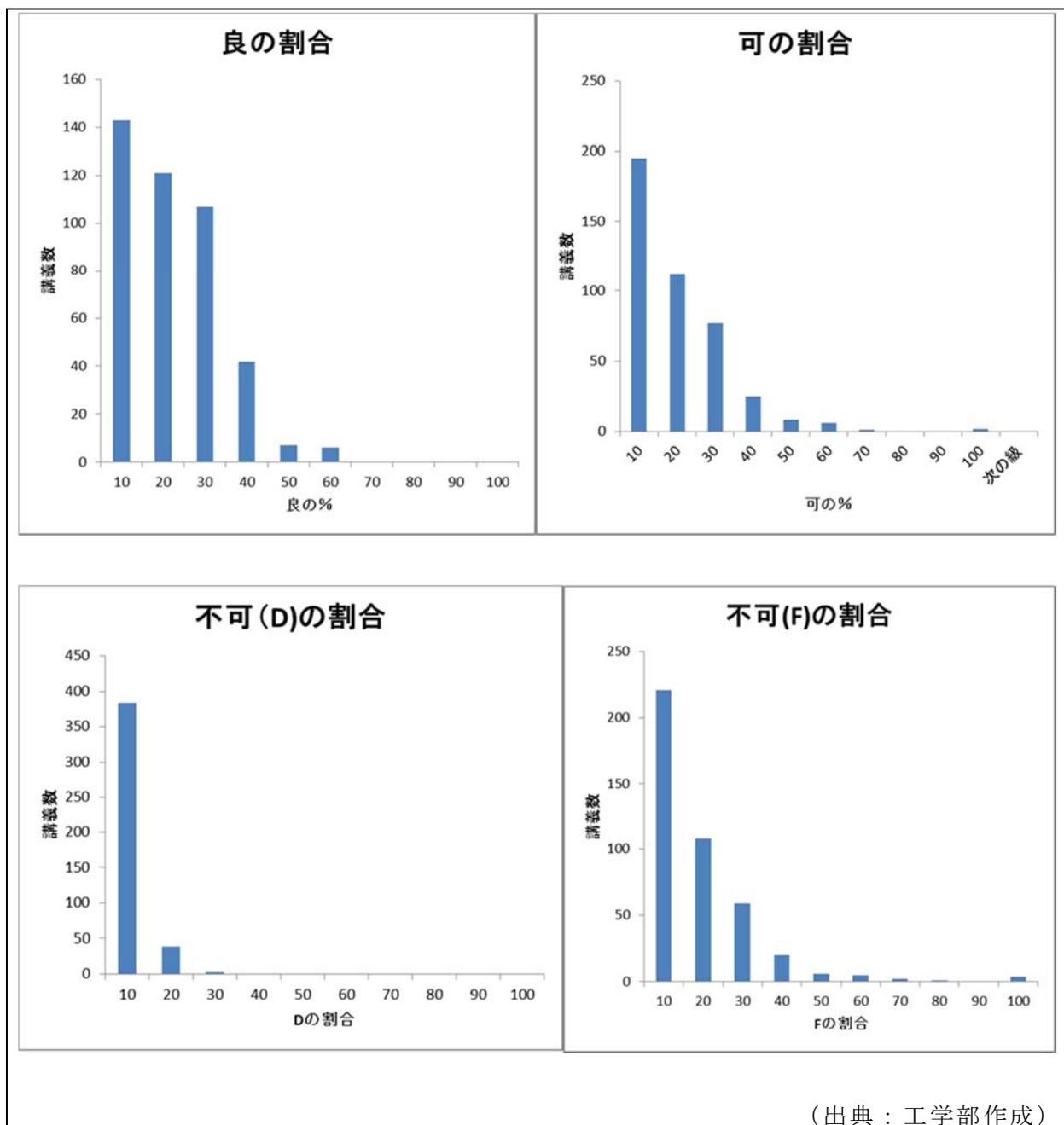
年度別単位取得状況							
合格率は受講者のうち以上の成績を認定された学生の割合							
	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
授業数	456	426	410	413	415	410	426
受講者数平均	63	68	69	68	67	74	64
合格者数平均	50	53	55	54	53	53	52
合格率平均(%)	80.5	74.5	79.8	79.4	79.5	76.1	82.1

(出典：工学部作成)

平成 27 年度授業の成績評価の割合を示す。(資料工 96)

資料工 96 平成 27 年度の授業の各評価の割合

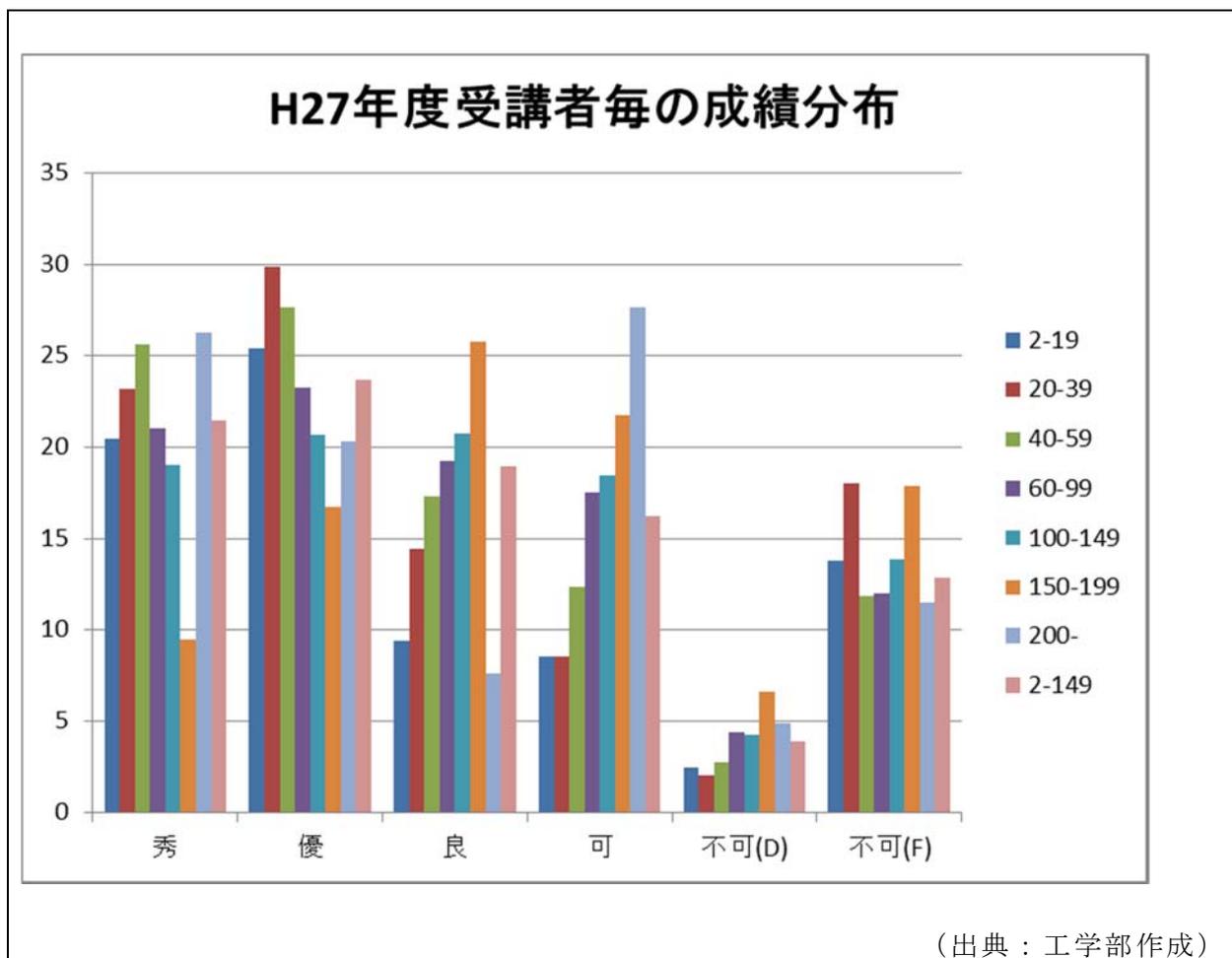




平成 27 年の受講者人数ごとの成績の分布を示す。(資料工 97) 極端な偏りはなく、妥当な評価が行われていると判断できる。

資料工 97 平成 27 年度前期・後期・通年の授業の成績分布単位：%

受講者数	授業数	秀	優	良	可	不可(D)	不可(F)
2-19	51	20.44	25.41	9.39	8.56	2.49	13.81
20-39	42	23.16	29.89	14.48	8.53	2.03	18.08
40-59	99	25.62	27.65	17.36	12.41	2.75	11.90
60-99	109	21.05	23.23	19.25	17.55	4.43	12.04
100-149	66	19.07	20.68	20.77	18.47	4.25	13.92
150-199	5	9.45	16.79	25.75	21.77	6.59	17.91
200-	2	26.23	20.34	7.60	27.70	4.90	11.52
2-149	407	21.47	23.71	18.94	16.25	3.90	12.88



② 進級（留年）状況

3年から4年への進級判定（卒業研究を課すかどうか）を行っている。例として電子電気工学科の進級条件を示す。（資料工 98）

資料工 98 電気電子工学科の進級条件

2年次への 進級要件	2年次への進級関門は設けていないが、1年次の修得単位が極端に少ない場合は、松本キャンパスに引き続き在留して1年次の授業科目を履修することを勧告
3年次への 進級要件	3年次への進級関門は設けていない。
4年次への 進級要件	1～3年次に修得を要する全単位のうち、以下の全ての条件を満たしていること。 ①「全必要単位（共通教育科目38単位＋専門科目76単位）－4単位」を修得 ②修得指定科目 「電気電子実験基礎」 「電気電子実験Ⅰ」 「電気電子実験Ⅱ」 「電気電子実験Ⅲ」 以上4科目すべて修得

(出典：工学部作成)

卒業研究を課されない学生(留年生)の割合を示す。（資料工 99）留年生に関しては指導

教員が全員を呼び出し、指導に努めている。

資料工 99 年度別の3年から4年への進級不可率

年度別進級不可率(4月進級者)							
	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
機械システム	23.6	26.4	16.7	21.4	18.2	25.3	10.4
電気電子	21.0	25.4	27.6	29.9	32.8	29.2	28.0
社会開発	23.4	22.5					
土木	33.9	34.2	43.5	43.5	38.1	43.8	29.2
建築	13.6	8.1	19.6	25.8	27.3	23.9	20.0
物質	14.5	21.1	16.3	23.7	23.0	41.0	26.7
情報	19.7	27.4	25.8	16.2	17.2	18.0	13.9
環境機能	26.2	27.5	25.7	17.6	16.9	22.4	9.7
工学部	21.4	25.1	24.9	25.0	24.7	28.5	19.6

※たとえば H27 年度は H27/4 に進級不可が確定した学生の割合 (%) である

すべての単位認定が完了する4月に進級が決定する。10月進級もあるので、それを含めると不可率はこれよりも小さくなる。

H21, H22 年度の土木、建築はコースとしての値である

(出典：工学部作成)

③ 休退学状況 (資料工 100)

資料工 100 平成 21 年度以降の休退学者数

【退学者数】	平成21年度 (2009)	平成22年度 (2010)	平成23年度 (2011)	平成24年度 (2012)	平成25年度 (2013)	平成26年度 (2014)	平成27年度 (2015)	備考 (詳細)	
合計	28	32	48	32	43	22	22	-	
理由 (内訳)	進路変更	16	18	30	20	24	11	16	就職・他大学への入学・専門学校入学等
	一身上の都合	4	3	7	2	5	8	5	家庭の事情・病気(診断書のないもの)等
	経済的理由	3	2	4	1	6	1	0	本人または家庭の経済事情・それによる就職活動
	病気・事故	0	0	2	2	0	1	0	診断書のあるもの
	学業不振	3	8	5	6	8	1	1	単位不足
	在学期間満了	2	1	0	1	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	0	0	

【休学者数】	平成21年度 (2009)	平成22年度 (2010)	平成23年度 (2011)	平成24年度 (2012)	平成25年度 (2013)	平成26年度 (2014)	平成27年度 (2015)	備考 (詳細)	
合計	16	24	38	36	51	43	55	-	
理由 (内訳)	経済的理由のため	7	15	15	25	35	28	33	家庭の経済事情・アルバイトに専念・兄弟姉妹の進学等
	疾病	9	6	20	8	11	13	18	抑うつ状態・適応障害・不安障害・自律神経失調症・統合失調症等
	留学のため	0	1	2	3	5	1	3	
	学部長等が同等以上の事情と特に認めた	0	2	0	0	0	1	1	
	その他	0	0	1	0	0	0	0	

(出典：工学部作成)

④ 卒業状況

平成 21 年度からの卒業率（93%から 97%）及び卒業に要した平均年数（4.2 年）を示す。  
（資料工 101）

資料工 101 年度別卒業率及び卒業に要する年数

年度別卒業率(H22年度はH22/9及びH23/3卒業者)							
	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
機械システム	0.99	0.95	0.89	0.98	0.98	0.96	0.96
電気電子	0.97	0.96	0.95	0.89	0.93	0.98	1.00
社会開発	0.95	0.85					
土木			0.92	0.88	0.82	0.83	0.90
建築			0.94	0.96	0.92	0.97	0.98
物質	1.00	1.00	0.96	0.97	0.95	0.98	1.00
情報	0.97	0.94	0.96	0.94	0.94	1.00	0.97
環境機能	0.90	0.96	0.91	0.89	0.89	0.93	0.94
工学部	0.97	0.93	0.93	0.93	0.93	0.96	0.97

※卒業率は各年度に卒業研究を課された学生の中で、4年の就学年数を経た学生の数に対しての卒業した学生の数の割合。

社会開発工学科は H23 年度からは土木、建築の 2 学科に改組。

卒業に要する平均年数		
	該当期	平均年数
H27年度	H27/9.H28/3	4.19
H26年度	H26/9.H27/3	4.21
H25年度	H25/9.H26/3	4.21
H24年度	H24/9.H25/3	4.14
H23年度	H23/9.H24/3	4.17
H22年度	H22/9.H23/3	4.15
H21年度	H21/9.H22/3	4.13

平均年数の算出方法：各年度の卒業者の、在籍年数（休学期間含む）の和を卒業生数で割ったもの、但し編入生は含まれない

（出典：工学部作成）

⑤ GPA について

平成 26 年度入学生から GPA 制度を導入し（資料工 102）、先述の学生と教員との面談（前掲資料工 35～36、p20）でも、GPA 値の活用を始めている。

資料工 102 学生便覧における GPA 記述

**GPA 制度について**

信州大学では、学生が適切に履修計画をたて、自主的、意欲的に学習することを促すとともに、適切な修学指導に資することを目的として、平成26年度学部入学生から、「GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度」を導入する。

このGPAは、世界の大学で広く用いられている学生の成績評価方法である。会社に就職する、大学院に進学する、海外の大学に留学するような場合に応募先での採否の判断となるものである。

教員は、GPAを活用することにより成績不振学生を早期に見出し、適切な指導に繋げることができる。

■GPAについて

「GPA」とは、秀、優、良、可及び不可の5種の評語をもって表した成績の単位数に、それぞれの科目のGP（Grade Point）を掛けて合計したものを、履修登録を行った単位数の合計で割って計算した、GPの平均値（Average）である。評語と評点とGPの関係を以下に示す。

評語	評点	GP
秀 (S)	90-100	4
優 (A)	80-89	3.33
良 (B)	70-79	2.67
可 (C)	60-69	2
不可 (D)	50-59	1
不可 (F)	0-49	0

※各科目の単位修得には、「可」以上が必要である。

■GPAの計算式について

$$GPA = \frac{[\text{履修登録した科目の単位数} \times \text{当該科目のGP}] \text{の合計}}{\text{履修登録した科目の単位数 (不可 (D・F) を含む, 履修取消した授業は除く) 合計}}$$

【GPAの計算例】

授業の成績	GPの計算
科目A (2単位) でB (良) を取った	2.67×2 = 5.34
科目B (4単位) でA (優) を取った	3.33×4 = 13.32
科目C (2単位) でD (不可) を取った	1.00×2 = 2.00
科目D (4単位) でS (秀) を取った	4.00×4 = 16.00
科目E (2単位) でF (不可) を取った	0 × 2 = 0

$$GPA = \frac{(5.34 + 13.32 + 2.00 + 16.00 + 0) \div (2 + 4 + 2 + 4 + 2)}{36.66 \div 14} = 2.62$$

※小数第3位を四捨五入した数値を小数第2位まで表示し、その値をGPA値とする。

- 履修登録した科目のうち、GPAの計算式に入らない科目がある。
  - 成績を「合格」・「不合格」で評価する科目
  - 他大学等で単位修得し、本学が「認定」とした科目
  - 学部で指定する科目（各学科の専門科目一覧表で確認すること）
 ※履修取消した授業科目は、GPA計算式からは除外される。
- 「不可 (D・F)」の科目を再履修して合格 (単位修得) した場合、再履修前の「不可 (D・F)」の成績はGPAの計算式に入らない。
  - 同じ科目名の授業でなければ「再履修」にはならない。
  - 「不可 (D・F)」と成績評価された科目を、再び履修登録して合格した場合は、「可」以上 (GP=2~4) の成績がGPAの計算式に入り、「不可」 (GP=0, 1) の成績は合格した学期以降のGPA計算式から除外される。なお、再履修して再び「不可 (D・F)」と成績評価された場合も、再履修後のGP値に置き換わる。
  - 授業は来年度も同じものが開講されるとは限らないため、再履修ができない場合もある。  
「履修登録した科目は必ず合格する」という決意をもって履修すること。

■GPAの通知について

- 学期毎に、キャンパス情報システム (Web) から、成績評価と、科目ごとのGP値及び学期毎・在学中の通算のGPA値が確認できる。
- 学期毎及び在学中の通算GPA値を確認することで、学習成果の指標とすること。例えば、1年次前期のGPA値が2.0以下であった場合、1年次後期や2年次以降の学習に支援をきかず可能性が高いため、1年次前期の内容を復習すると同時に後期の勉強の準備をしっかりとすること。
- なお、GPA値は担任との面談でも利用される。

(出典：工学部学生便覧)

2 学生が受けた様々な賞の状況から判断される学習成果の状況  
平成22年から平成27年までの学生の受賞を示す。(資料工103)

資料工 103 学生表彰 (抜粋)

学科名	賞のタイトル	主催者	受賞年月日
情報工学科	ACM-ICPC: ACM International Collegiate Programming Contest Asia Regional Contest 2010 in Tokyo, Honorable mention	ACM-ICPC東京大会実行委員会	2010年6月5日
電気電子工学科	優秀発表賞	電気学会基礎・材料共通部門大会	2010年9月13日
電気電子工学科	研究奨励賞	電気学会マグネティックス技術委員会	2010年9月21日
電気電子工学科	学生奨励賞	電子情報通信学会信越支部	2010年10月2日
サークル	第14回サイバー犯罪に関する白浜シンポジウム 第5回情報危機管理コンテスト優勝, 経済産業大臣賞	サイバー犯罪に関する白浜シンポジウム実行委員会	2010年12月13日
電気電子工学科	優秀論文賞	電子情報通信学会信越支部信州大学学生ブランチ	2010年12月22日
機械システム工学科	日本機械学会若手優秀講演フェロー賞	日本機械学会	2011年3月5日
物質工学科	日本化学会東海支部長賞	日本化学会東海支部	2011年3月22日
電気電子工学科	YPC優秀賞	電気学会産業応用部門大会	2011年9月7日
機械システム工学科	計測自動制御学会中部支部シンポジウム2011「システム」受賞	計測自動制御学会中部支部 信州地区計測制御研究委員会	2011年9月30日
機械システム工学科	日本機械学会北陸信越支部学生賞	日本機械学会北陸信越支部	2012年3月9日
物質工学科	日本化学会東海支部長賞	日本化学会東海支部	2012年3月22日
電気電子工学科	第1回有機・無機エレクトロニクスシンポジウムポスターアワード	応用物理学会 北陸・信越支部	2012年6月29日
物質工学科	超臨界ミニワークショップ学生賞	SCF-TT研究会	2012年9月9日
環境機能工学科	Award for Encouragement of Research in Materials Science Symposium D-10	国際材料研究会連合会	2012年9月28日
物質工学科	第21回ソノケミストリー討論会 奨励賞受賞	日本ソノケミストリー学会	2012年11月9日
電気電子工学科	国際会議CNME2012 Best Poster Award	第10回ナノ分子エレクトロニクスに関する国際会議(CNME2012)総務委員会	2012年12月14日
電気電子工学科	優秀論文賞	電子情報通信学会信越支部 信州大学学生ブランチ	2012年12月19日
電気電子工学科	平成24年度応用物理学学会学術講演会 北陸・信越支部発表奨励賞	応用物理学会 北陸・信越支部	2013年2月2日
機械システム工学科	日本機械学会北陸信越支部賞学生賞	日本機械学会北陸信越支部	2013年3月8日
物質工学科	日本化学会東海支部長賞	日本化学会東海支部	2013年3月22日
情報工学科	電子情報通信学会教育工学研究会研究奨励賞	電子情報通信学会	2013年3月29日
電気電子工学科	ICF 11 New Product & Novel Technology Award	11th International Conference on Ferrites (ICF 11)	2013年4月18日
物質工学科	平成25年度分離技術学会年会学生賞受賞-25.5.30	分離技術会	2013年5月25日
物質工学科	平成25年度分離技術学会年会学生賞受賞	分離技術会	2013年5月25日
電気電子工学科	2013アカデミックプラザ賞	(一社)エレクトロニクス実装学会	2013年6月5日
情報工学科	情報処理学会インターネット通用技術研究会 第18回研究発表会 学生奨励賞	情報処理学会	2013年6月28日
電気電子工学科	優秀論文発表賞	(一社)電気学会	2013年9月12日
電気電子工学科	学生奨励賞	電子情報通信学会信越支部	2013年10月5日
物質工学科	材料技術研究協会討論会「ゴールドポスター」受賞	材料技術研究協会	2013年12月7日
環境機能工学科	International Symposium on EcoToxia Science 2013(ISETS'13) Outstanding Presentation Award受賞	名古屋大学エコトピア科学研究所	2013年12月13日
電気電子工学科	IEICE信州大SB優秀論文賞 DSC 0940 w	電子情報通信学会	2013年12月20日
物質工学科	日本化学会東海支部長賞	日本化学会東海支部	2014年3月21日
電気電子工学科	優秀論文発表賞	電気学会リニアドライブ技術委員会	2014年6月26日
電気電子工学科	2014 IEEE ICMM Student Poster Award	IEEE	2014年7月1日
電気電子工学科	ナノファイバー学会第5回年次大会 最優秀ポスター賞	指定非営利活動法人 ナノファイバー学会	2014年7月8日
電気電子工学科	ポスターアワード	応用物理学会北陸・信越支部	2014年7月12日
電気電子工学科	優秀論文発表賞(基礎・材料・共通部門表彰)	(一社)電気学会	2014年8月21日
物質工学科	ゴールドポスター賞を受賞	2014年材料技術研究協会討論会	2014年12月5日、6日
電気電子工学科	優秀論文発表賞	電気学会マグネティックス技術委員会	2014年8月21日
電気電子工学科	アカデミックプラザ五年連続継続賞	エレクトロニクス実装学会	2015年6月3日
情報工学科	HCGシンポジウム2015学生優秀インタラクティブ発表賞	電子情報通信学会	2015年12月17日
物質工学科	第18回化学工学会学生発表会優秀賞	化学工学会	2016年3月5日

(出典：工学部作成)

3 学業の成果の達成度や満足度に関する学生アンケート等の調査結果とその分析結果

① 在学生に対する授業改善アンケート

アンケートはWEBベースで実施し、各授業での周知、掲示によって回収率の向上に努めている。(資料工 104)

資料工 104 授業改善アンケートの通知用掲示

## 信州大学 工学部専門科目

### 平成27年度前期

# 授業改善アンケート

## Enquete

**入力期間**

7.6

月
~

8.3

月



**入力方法**

ACSUへログインし、「キャンパス情報システム」>>「授業改善アンケート」から回答して下さい。

<https://acsu.shinshu-u.ac.jp/ActiveCampus/index.html>

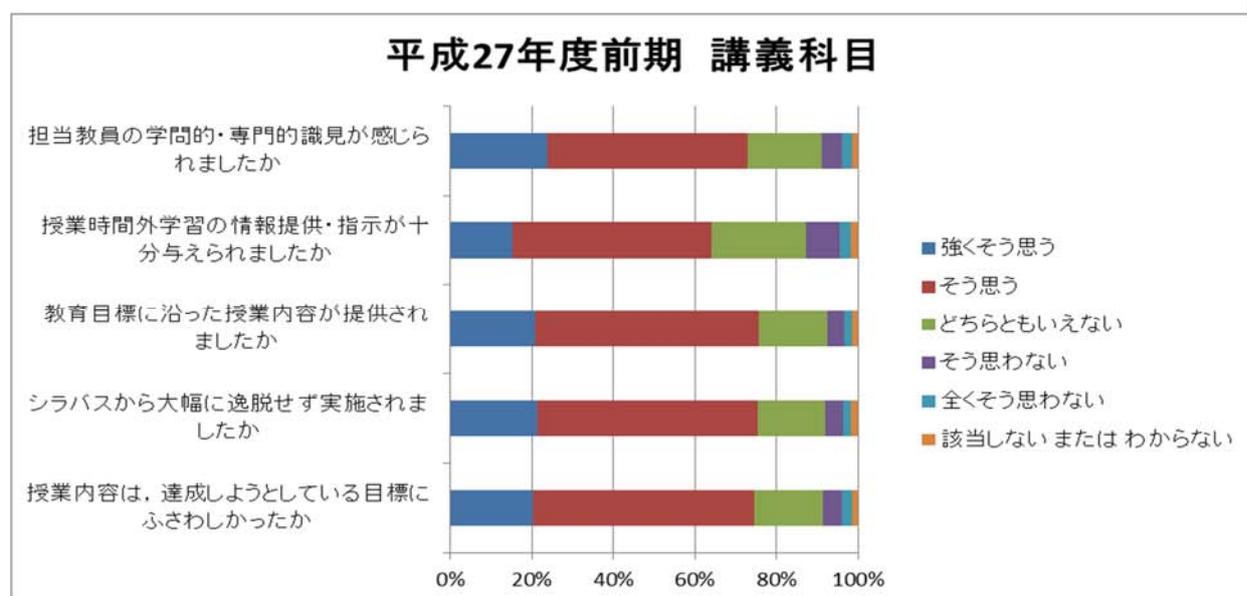
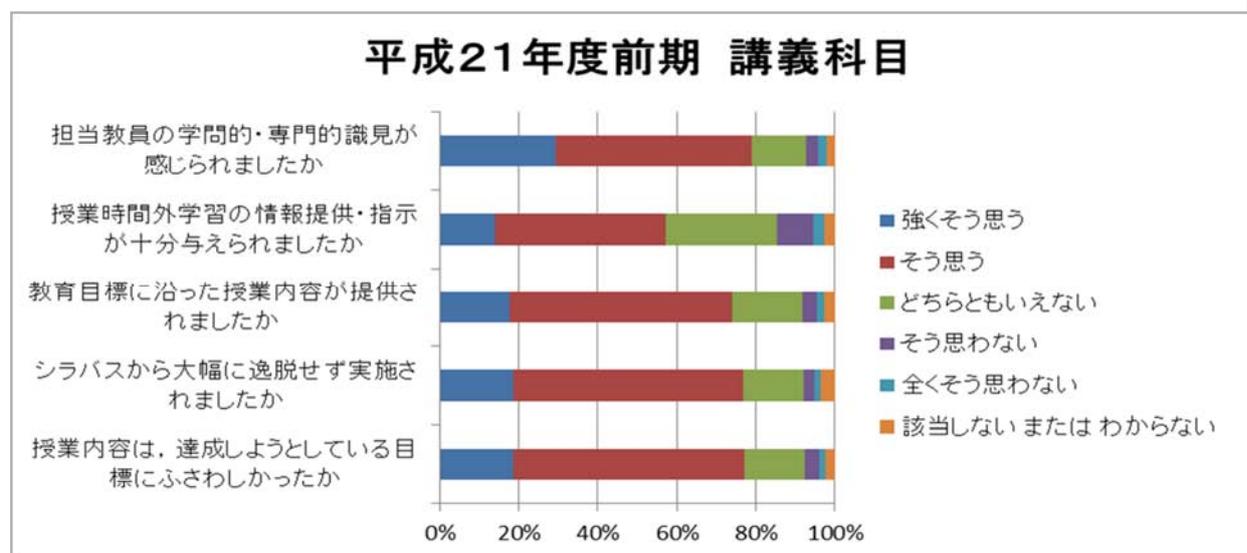



授業改善アンケートとは、授業についてみなさんからご意見をお聞きし、授業・教育改善をしていくためのものです。  
 集計結果は回答した画面から見るができます。  
**このアンケートは匿名です。個人を特定できないよう設定されています。どの学生が回答したのかは、教員からはわかりませんので、安心して回答してください。**

(出典：工学部作成)

平成 21 年度と 27 年度の集計の一部を示す。(資料工 105)

資料工 105 平成 21 年度前期と平成 27 年度前期 授業改善アンケート (講義分)



平成 21 年度は集計人数 402 名、27 年度は 623 名

(出典：工学部作成)

講義科目の評価値の平均値の比較を示す。(資料工 106)

資料工 106 授業評価値の平均点の比較

	H21年度前期	H27年度前期
担当教員の学問的・専門的識見が感じられましたか	2.05	2.18
授業時間外学習の情報提供・指示が十分与えられましたか	2.51	2.40
教育目標に沿った授業内容が提供されましたか	2.24	2.16
シラバスから大幅に逸脱せず実施されましたか	2.21	2.17
授業内容は、達成しようとしている目標にふさわしかったか	2.18	2.19

平均点は「強くそう思う」を 1 点から「該当しないまたはよくわからない」を 6 点としての平均値であるので、値の小さい方が評価が高い。

(出典：工学部作成)

両年度ともに高い評価を得ている。平成 27 年度では 21 年度に比べ評価値の平均点が向上している項目が多い。

② 卒業生アンケートの分析結果

卒業生（卒業が決定している 4 年次生）及び卒業後数年した既卒生に実施したアンケート調査（前掲資料工 75、p47）で平成 19 年度と 25 年度の結果を比較する。既卒、4 年を問わず、設問全てにおいて好意的意見（そう思う）が増加している。特に総合的判断の設問 6 で好意的回答は 46%から 62%に増加している。（資料工 107）

資料工 107 専門教育の教育課程に関するアンケート項目の評価結果の一部

		そう思う	どちらかというと思う	どちらともいえない	どちらかというと思わない	そう思わない	平均
1	H19・既卒	15.0%	54.0%	20.0%	8.0%	3.0%	2.30
	H19・4年	19.0%	48.0%	20.0%	10.0%	3.0%	2.30
	H25・既卒	28.0%	39.0%	19.0%	10.0%	4.0%	2.23
	H25・4年	25.0%	47.0%	17.0%	7.0%	4.0%	2.18
2	H19・既卒	17.0%	57.0%	17.0%	7.0%	2.0%	2.20
	H19・4年	19.0%	50.0%	19.0%	8.0%	4.0%	2.28
	H25・既卒	29.0%	43.0%	22.0%	5.0%	2.0%	2.11
	H25・4年	25.0%	50.0%	18.0%	4.0%	3.0%	2.10
6	H19・既卒	8.0%	36.0%	36.0%	13.0%	7.0%	2.75
	H19・4年	7.0%	39.0%	29.0%	17.0%	8.0%	2.80
	H25・既卒	17.0%	45.0%	25.0%	8.0%	5.0%	2.39
	H25・4年	18.0%	44.0%	24.0%	10.0%	5.0%	2.43
16	H19・既卒	6.0%	41.0%	36.0%	12.0%	5.0%	2.69
	H19・4年	6.0%	39.0%	29.0%	16.0%	10.0%	2.85
	H25・既卒	15.0%	44.0%	25.0%	13.0%	4.0%	2.50
	H25・4年	15.0%	46.0%	27.0%	7.0%	4.0%	2.36
17	H19・既卒	9.0%	34.0%	30.0%	22.0%	5.0%	2.80
	H19・4年	7.0%	35.0%	30.0%	19.0%	9.0%	2.88
	H25・既卒	16.0%	36.0%	28.0%	15.0%	5.0%	2.57
	H25・4年	15.0%	46.0%	24.0%	10.0%	5.0%	2.44

各項目の内容は以下の通り

- 1 基礎学力の向上を重視した教育が行われていた
- 2 専門知識並びに学際分野についての教育が行われていた
- 6 学部の課程は総合的にみて満足のものであった
- 16 講義科目は充実していた
- 17 演習科目は充実していた

平均は「そう思う」を 1 点、「どちらかというと思う」を 2 点等とした際の平均であり、低いほど評価が高い

（出典：工学部作成）

専門教育に関する全 18 アンケート項目の平均値を（資料工 108）に示す。既卒生、卒業生ともに評価値が向上している。

資料工 108 アンケートの平均値

対象	評価値の平均	回答数
H19・既卒	2.78	232

H19・4年	2.85	270
H25・既卒	2.68	263
H25・4年	2.50	200

平均は「そう思う」を1点、「どちらかというと思う」を2点等とした際の平均であり、低いほど評価が高い

(出典：工学部作成)

**(水準)**

期待される水準を上回る。

**(判断理由)**

履修状況（前掲資料工 95、p 60）、成績分布（前掲資料工 97、p 61）、進級不可率（前掲資料工 99、p 63）、卒業までの平均年数（前掲資料工 101、p 64）などの数字はいずれも適切な値であると考え。

学生の受賞は主なもので40件以上（前掲資料工 103、p 66）に及んでおり、社会からの評価は高い。

また在学生に対するアンケート（前掲資料工 105～106、p 68）では平成21年度においても肯定的評価が多かったが、平成27年度は授業計画から逸脱しないでシラバスに沿って授業を行っているのかを評価する項目等において評価が向上した。このことは第2期中期計画を通じて進めてきた授業改革の意識が高まっていることを示していると考え。

また、専門教育教員・授業に関するアンケート（前掲資料工 107、p 69）、専門教育に関する教育・学習環境に関するアンケート（前掲資料工 108、p 69）においても、肯定的評価の向上が見受けられる。特に、専門教育について総合的評価をする項目（設問6）において、好意的評価は大幅な増加をしている。

以上より、学生及び保護者から期待される水準を上回る、と判断する。

観点 進路・就職の状況  
(観点に係る状況)

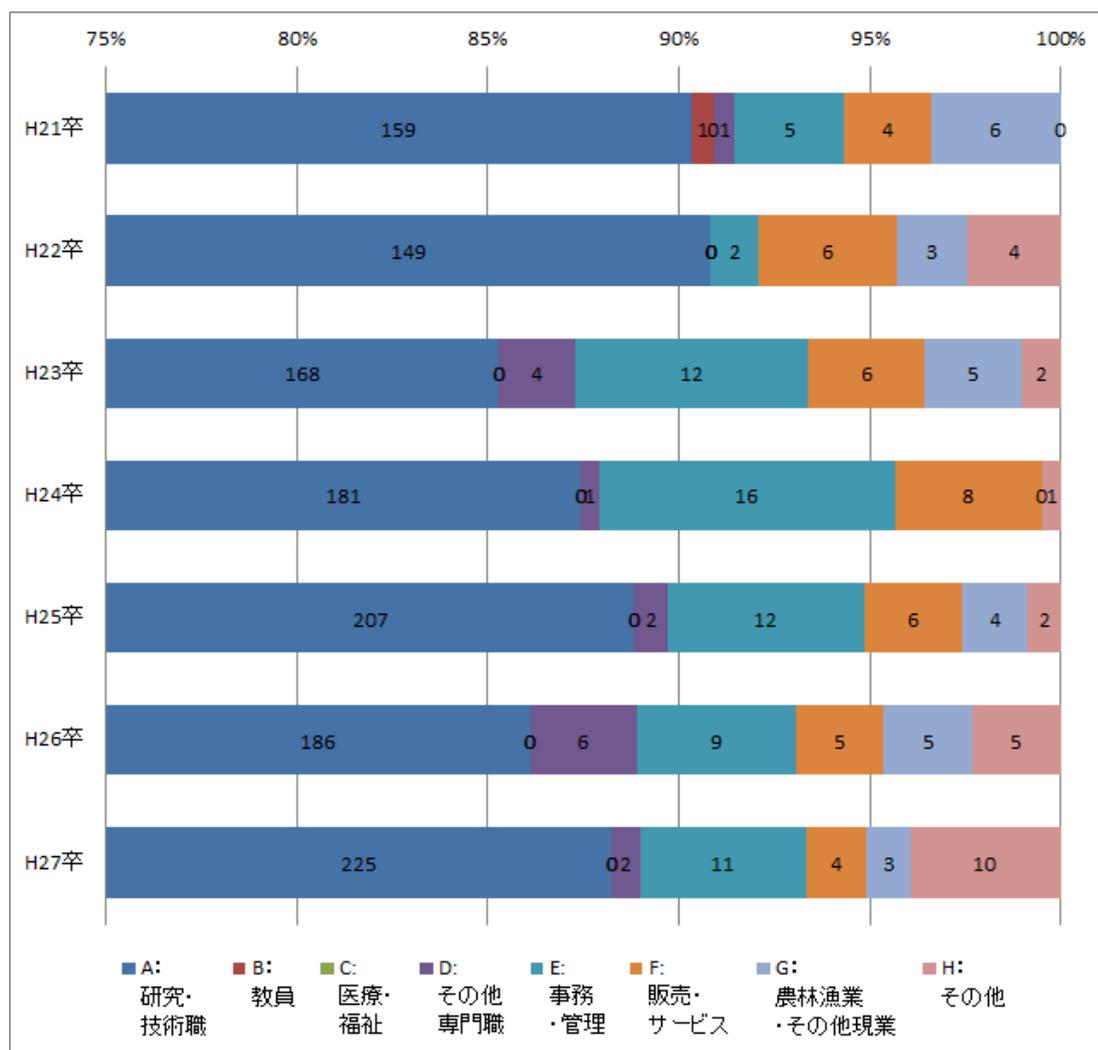
1 卒業後の進路

卒業後の進路状況を示す。①職業別、産業別就職の状況 (資料工 109)

資料工 109 職業別・産業別就業者数

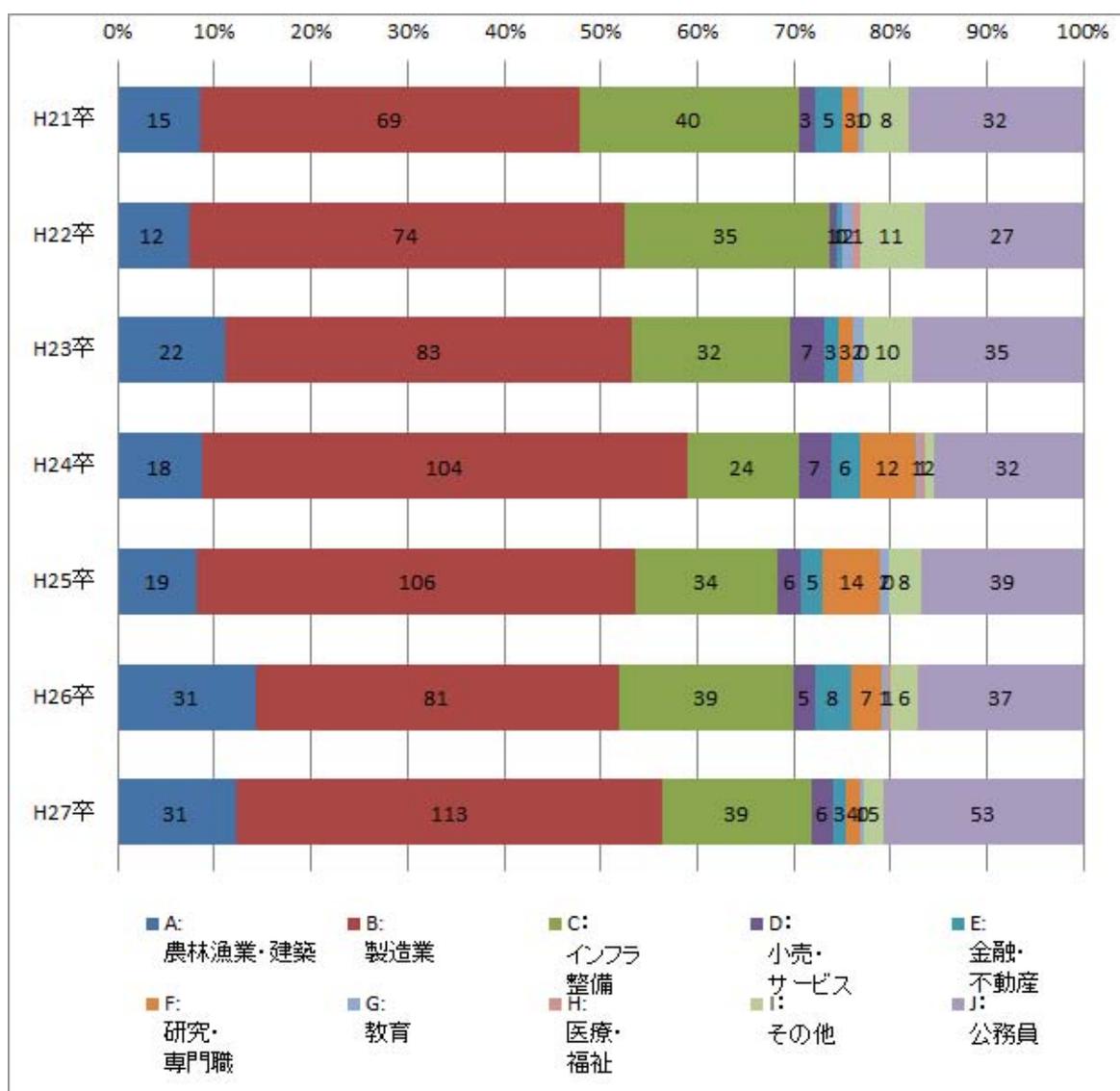
○職業別

	A: 研究・ 技術職	B: 教員	C: 医療・ 福祉	D: その他 専門職	E: 事務 ・管理	F: 販売・ サービス	G: 農林漁 業・その 他現業	H: その他	合計
H21 卒	159	1	0	1	5	4	6	0	176
H22 卒	149	0	0	0	2	6	3	4	164
H23 卒	168	0	0	4	12	6	5	2	197
H24 卒	181	0	0	1	16	8	0	1	207
H25 卒	207	0	0	2	12	6	4	2	233
H26 卒	186	0	0	6	9	5	5	5	216
H27 卒	225	0	0	2	11	4	3	10	255



○産業別

	A: 農林漁業・建築	B: 製造業	C: インフラ整備	D: 小売・サービス	E: 金融・不動産	F: 研究・専門職	G: 教育	H: 医療・福祉	I: その他	J: 公務員	合計
H21卒	15	69	40	3	5	3	1	0	8	32	176
H22卒	12	74	35	1	1	0	2	1	11	27	164
H23卒	22	83	32	7	3	3	2	0	10	35	197
H24卒	18	104	24	7	6	12	1	1	2	32	207
H25卒	19	106	34	6	5	14	2	0	8	39	233
H26卒	31	81	39	5	8	7	1	1	6	37	216
H27卒	31	113	39	6	3	4	1	0	5	53	255



(出典：学校基本調査より経営企画課作成)

2 進路・就職状況、その他の状況

①就職支援

平成18年より就職支援室（資料工110）を設け就職支援を行った結果、求人数・就職率共に増加しており、就職率はほぼ100%になっている。独自の会社合同説明会を開催し、200社以上の会社が参加している（資料工111）。

資料工110 就職支援室内規（抜粋）

（目的）

第1条 信州大学工学部（信州大学大学院総合工学系研究科及び理工学系研究科の長野（工学）キャンパス関係の専攻を含む。以下「本学部」という。）に、本学部の就職支援を戦略的に企画し、学生のための就職支援業務の推進に必要な事項を迅速かつ円滑に処理するため、信州大学工学部就職支援室（以下「就職支援室」という。）を置く。

（業務）

第2条 就職支援室は、就職支援に係る次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 本学部の学生に係る就職指導に関すること。
- 二 求人企業等への対応に関すること。
- 三 本学部主催の合同企業説明会の実施に関すること。
- 四 就職支援に係る中期計画の企画立案及び評価等に関すること。
- 五 その他就職支援に関すること。

（組織）

第3条 就職支援室は、次の各号に掲げる室員をもって組織する。

- 一 評議員、副学部長又は学部長補佐のうちから、学部長が指名する者 1人
- 二 学科長から推薦され就職支援業務を専任で担当する特任教員 当該学科各1人
- 三 前号に規定する特任教員がいない学科の就職支援業務を担当する学科教員 当該学科各1人
- 四 第2号に規定する特任教員がいる学科の連絡調整等の業務を担当する学科教員 当該学科各1人
- 五 就職支援担当事務部職員
- 六 その他次条に規定する室長が必要と認める者
  - 2 前項第1号から第4号までに規定する室員の任期は、1年とし、再任を妨げない。
  - 3 第1項第1号から第4号までに規定する室員に欠員を生じた場合の後任の室員の任期は、前任者の残任期間とする。

（室長及び副室長）

第4条 就職支援室に、室長及び副室長を置く。

- 2 室長は、前条第1項第1号に規定する室員をもって充てる。
- 3 副室長は、前条第1項第2号に規定する室員のうちから、室長が指名する。
- 4 室長は、就職支援室の業務を掌理する。
- 5 副室長は、室長を補佐し、室長に事故があるときは、その職務を代行する。
- 6 室長は、国立大学法人信州大学就職委員会の工学部委員となるものとする。

（工学部作成）

資料工 111 求人数、就職率等

		H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
就職率※		92.5	94.8	94.3	98.1	98.7	99.1	99.6
求人数		2,697	2,407	2,389	2,501	3,167	2,735	2,962
説明会 工学部 主催 会社 合同	開催日	H22/2/9- 12	H23/2/8- 11	H24/2/11- 14	H25/2/9- 11	H26/2/8- 10	H27/3/4- 6	H28/3/8- 10
	参加 企業数	208社	240社	243社	215社	212社	216社	220社
	参加 学生数	1,112名	1,048名	950名	1,092名	708名 (大雪の ため)	1,527名	1,190名

※就職率は、就職者数／就職希望者数で算出(%)。

(出典：工学部作成)

②就職状況

就職先企業所在地を示す(資料工 112)。長野県企業への就職者が多いが、他は東京、東海が多く、近年は東海が増えてきている。

資料工 112 年度別就職先企業の所在地分布

各年度別学部生就職先企業所在地							
	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
長野	63	64	94	82	83	67	84
北海道・東北	4	2	0	1	1	1	0
北関東・山梨	2	7	2	6	4	3	6
東京	40	31	32	30	56	61	55
南関東	5	6	9	11	7	11	9
東海	37	29	41	49	47	45	61
北陸・新潟	7	13	6	10	8	12	11
京阪神	12	8	9	13	20	12	8
その他近畿	0	2	3	4	5	1	2
中国・四国	1	1	3	0	2	1	2
九州・沖縄	3	0	1	0	0	1	0
海外	0	1	0	1	0	0	0
その他	2	0	0	0	0	1	0

(出典：工学部作成)

③進学状況（資料工 113）

資料工 113 平成 21 年度卒業生の動向

学科	総数		進学者 総数		就職者 総数	
			信大	他大学		
機械	80		50	45	5	27
電気電子	95	(8)	53	44	9	35
環境都市	37	(4)	11	8	3	26
建築	55	(16)	37	35	2	16
物質	65	(11)	47	39	8	16
情報	94	(10)	46	45	1	43
環境機能	43	(9)	28	25	3	13
合計	<b>469</b>	<b>(58)</b>	<b>272</b>	<b>241</b>	<b>31</b>	<b>176</b>

※（ ）は女性数（出典：工学部作成）

資料工 114 平成 27 年度卒業生の動向

学科	総数		進学者 総数		就職者 総数	
			信大	他大学		
機械	96	(1)	43	39	4	50
電気電子	94	(3)	50	47	3	44
土木	56	(5)	14	13	1	39
建築	56	(15)	38	35	3	18
物質	71	(16)	45	42	3	23
情報	89	(12)	33	30	3	54
環境機能	64	(8)	38	33	5	26
合計	<b>526</b>	<b>(60)</b>	<b>261</b>	<b>239</b>	<b>22</b>	<b>254</b>

※（ ）は女性数（出典：工学部作成）

3 卒業・修了生及び進路先・就職先等の関係者への意見聴取等の結果とその分析結果

①企業アンケート

会社説明会の参加会社を対象に DP に対するアンケートを行い、すべての項目にわたって、高い評価が得られている。（資料工 115）

資料工 115 平成 24 年度企業アンケート報告書

各社に採用して頂いた本学部卒業生、または採用の検討をして頂いた本学部卒業生は、工学部のディプロマポリシーに掲げる知識・能力を身に付けていると考えられるか、①そう思う ②どちらかというと思う ③どちらともいえない ④どちらかというと思わない ⑤そう思わないの中から当てはまるものを選んで頂いた

(「そう思う」 1点～「そう思わない」 5点のため、数値は小さい方が高評価)

項番	アンケート項目	平均評価
1	幅広い見識と健全な倫理観を持ち、工学的な立場から社会の発展のために貢献する精神と行動力を有する	1.83
2	科学に関する基礎および専門的な基礎知識をもち、これらの基礎概念と一般的法則を本質的に理解するとともに、基礎科学および専門基礎に関する問題を解答する能力がある。	1.77
3	基礎学力および専門基礎知識に基づいて自主的に学習できる能力および応用能力がある。	1.79
4	基礎理論に基づいて工学的な観点から問題点や課題を発見することができ、筋道を立てて解決できる。	1.99
5	技術者として自らの思考・判断を説明するためのプレゼンテーション能力を有し、専門基礎知識に基づいた発展的な議論を展開できる。	2.22
6	自然環境に配慮した環境マインドを習得し、環境調和社会を目指した工学的な取り組みを継続的に行うことができる。	2.34
7	ゼミナールや総合演習および卒業研究を通して信頼される技術者としての精神と倫理感を身につけている	2.09
8	所属する各学科のディプロマポリシー（別表で提示）に掲げた知識・能力を身につけている。	1.98

(出典：工学部作成)

## ②卒業生懇談会

平成24年度から卒業生を招いて懇談会を行っており、高い評価を得ている。(資料工116)

### 資料工 116 卒業生からの評価

「先生や学生同士の交流について」

大学の先生や当時のお友達との交流はありますか？

○大学の先生及び当時の友人らと交流はあります。仕事柄、情報収集にも、どちらにも役立っています。

○研究室が一緒だった同級生とは、現在でも交流が続いています。研究室の先生にも共同研究先の他学部へ訪問した際に、数度寄らせて頂きました。

「本学全般に関して」

本学で学んでよかったと思うことはなんですか？

○不自由を感じることなく学ぶことができる環境が整えられており、学んでよかったと思います。

○松本、長野と2つの都市で、多くの友人と学業、生活を共に過ごせたこと。化学分析機器を多数使用できた点が非常に良かったと思う。

社会人として、信大の良さはどのようなところだと思いますか？

○企業又は県をはじめとした支援機関と連携する組織があり、産業振興に貢献されていると思います。

○信大生は他人の意見を聞き入れ、行動する人材が多いと思います。高学歴の大学出身の方はプライドが高く、他人の意見に耳を貸さない人がいると感じています。

○卒業生が、全国各地に、多種多様の企業にいること。総合大学として、専門分野が異なる色々な学部があること。  
 ○大学名で選ばれるレベルの大学ではないと思います。ただし、旧帝大学生にも負けずに社会で戦っていける潜在能力を持った学生も在籍していると思います。(信大に限られません)

(出典：工学部学務係作成報告書より)

③オープンキャンパス(OC)

平成25年度から年に2回(8月と11月)実施している。受験生に対して、進路・就職の状況について説明してアンケートでも高評価を得ている。(資料工117)

資料工117 オープンキャンパス

○イベント内容

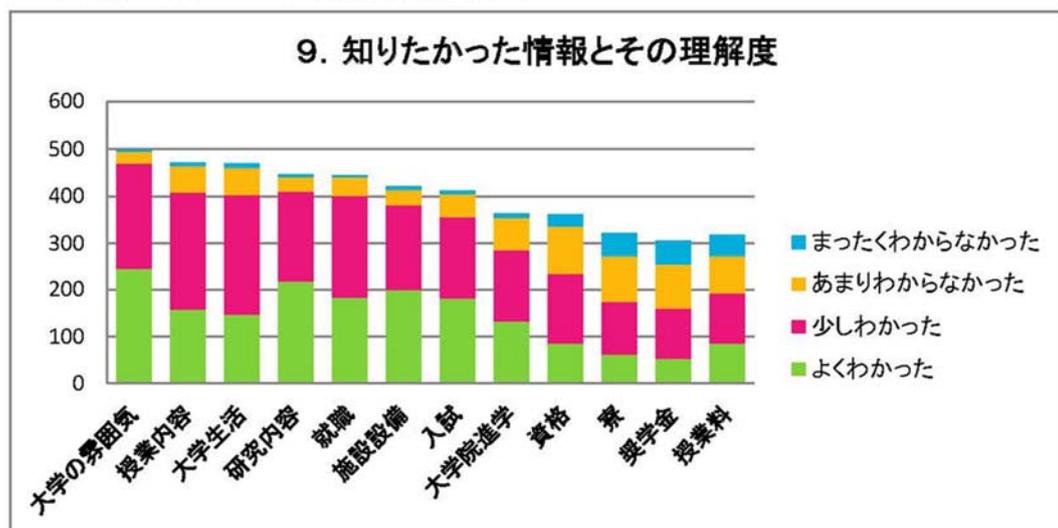
↓ ●内数字は建物番号

※ 各イベントにおいて、収容可能人数を越えた場合は参加できない場合があります。  
 ※ 見学ツアーは、途中参加ができませんので、開始時間に各集合場所へお越しください。

場所	CONTENTS	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00		
管理棟前	総合受付	8:30~16:30									
メイン会場 A 28 国際科学 イノベーション センター 【1~2F】 ★アンケート 回収場所(1F) [3F]⇒	学科紹介(デモ展示)&就職 情報コーナー、資料配付 なんでも相談コーナー ～在学生に聞くキャンパスライフ～ シアター上映	8:30~16:30									
	保護者向けガイダンス (学生生活・就職など)	10:00~16:00									
	アクア・イノベーションセミナー	8:30~10:30			11:00~12:30			14:00~16:30			
	Nagano Girls' Seminar <女子向け>							12:30~13:00			
					①10:30~11:00		②13:30~14:00				
メイン会場 B 25 総合研究棟 【1F】 集合場所 ⇒ 【1F】	学部・入試ガイダンス <b>【改組の説明をします】</b>	11:00~11:30									
	数学セミナー ～大学入学へ向けて～	11:30~12:00									
	技術部による 各回先着20名 実験機器見学 ★集合場所で 整理券配付	①の整理券配付★ 10:00~			②③の整理券配付★ 11:30~			②13:10~14:00			③15:00~15:50
				①10:30~11:20							

○参加者アンケートの結果

9. 来場前に知りたかった情報(複数回答可)



(出典：工学部作成)

④後援会の総会

夏休み前に実施し、就学状況や進路、就職状況等を説明している。(資料工 118)

資料工 118 後援会の活動

後援会会則の一部

第3条 本会は、第2条の目的を遂行するために、次の事業を行う。

- (1) 工学部等学生の就職活動の援助
- (2) 工学部等学生の保健、体育、厚生施設の援助
- (3) 工学部等学生の課外活動の助成
- (4) 工学部等学生の研究活動の助成
- (5) 講演会、講習会等の開催
- (6) その他必要ある事項

後援会総会の式次第

- 1 日程説明 (久保田)
- 2 開会のことば (池田)
- 3 会長あいさつ (田島)
- 4 半田学部長あいさつ
- 5 丸山学務委員長 ~学生の様子
- 6 高木就職支援室長 ~就職の様子
- 7 役員を選出 (田島)
- 8 議事 (田島)

(出典：工学部作成)

**(水準)**

期待される水準を上回る。

**(判断理由)**

就職支援室を設け（前掲資料工 110、p 73）、専任教員による就職支援を行った結果、求人数は増え、就職率は平成 24 年度以降ほぼ 100%になっている。200 社を超える独自の会社合同説明会を開催している（前掲資料工 111、p 74）。

企業アンケートでは、すべての項目にわたってよい評価値を得ている。（前掲資料工 115、p 75）

卒業生を招いての懇談会において、卒業生から高評価が得られている。（前掲資料工 116、p 76）

また県内企業へ就職する人数も多く、地域社会からの期待に応えている。（前掲資料工 112、p 74）

以上より、学生や就職先企業、地域社会から期待される水準を上回る、と判断する。

### Ⅲ 「質の向上度」の分析

#### (1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

##### ①体系的な教育課程の編成

平成 26 年度から授業科目間の相互関係を明記した履修チャート(前掲資料工 67、p 36)を学生便覧に記載し、カリキュラム体系についての学生の理解を促している。

平成 26 年度から各授業科目と DP の関係をシラバスに明記している。(前掲資料工 70～71、p 40～41)

##### ②国際通用性の向上

国際通用性のある技術者養成に重要な語学力向上のために、H25 年度より 1 年生全員に TOEIC-IP 試験を年 2 回実施するとともに、殆どの専攻で大学院の受験条件に TOEIC 等の試験の受験を課している。(前掲資料工 76、p 49) また平成 25 年度から始まった English Cafe は活発に活動をしている。こうした様々な対策の成果で、留学生の派遣実績も第 I 期と比較して向上している。(前掲資料工 80～81、p 51)

##### ③自主的な学習の支援

自主学習を支援するため平成 23 年度から図書館自習室の整備、夜間開放、また平成 24 年度からラーニングアドバイザーの設置を行った(前掲資料工 84、86、87、p 54～55) 結果、入館者は大きく増加(前掲資料工 83、p 53) し、学習環境として定着している。

夜間無人開館制度を平成 23 年度からほぼ毎日行い、延べ 3 万人強の利用者があり、(前掲資料工 85、p 54) ラーニングアドバイザーの相談件数も大幅に増加している。(前掲資料工 86、p 55)

#### (2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

##### ①教育成果に対する既卒生及び卒業生アンケートの評価の向上(前掲資料工 75、p 47)

既卒生アンケートは社会人による評価として、卒業時アンケートは卒業時の評価として重要である。専門教育の教育課程(学部)に関する項目中、肯定的評価(そう思う、及びどちらかというと思う)の割合が平成 19 年より平成 25 年で増加している。(前掲資料工 107～108、p 69～70)

(前掲資料工 75、p 47) のとおり、総合的に学習の成果を肯定的に評価する卒業生及び既卒生が増加しており、教育成果の質が向上している。

##### ②高い就職率

就職支援室(前掲資料工 110、p 73) のサポートにより、工学部主催の会社合同説明会には 200 社を超える企業が参加し(前掲資料工 111、p 74)、就職率は向上し、平成 24 年度以降はほぼ 100% 達成している。

## 11. 農学部

- I 農学部の教育目的と特徴・・・・・・・・・・ 11-2
- II 「教育の水準」の分析・判定・・・・・・・・ 11-18
  - 分析項目 I 教育活動の状況・・・・・・・・ 11-18
  - 分析項目 II 教育成果の状況・・・・・・・・ 11-75
- III 「質の向上度」の分析・・・・・・・・・・ 11-93

## I 農学部の教育目的と特徴

## 1 教育目的

農学部の教育理念・目標は以下のとおりであり、次の3つの方針を掲げている（資料農1～4）。

## 資料農1 農学部の教育理念・目標

## （理念）

自然豊かな環境のもとで、豊かな人間性と幅広い教養を築き、生命・食料・環境に関する広い知識・技術を涵養して、専門的な知識や研究能力を養成します。さらに、地球的な広い視野と現実的な視点に立って問題をとらえ解決する能力を身につけた人材を育成します。

## （目標）

- （1）持続的社会の創造に貢献する人間性豊かな人材の育成
- （2）生命科学分野の基礎能力と農学分野の応用能力を身につけた人材の養成
- （3）社会の一員としての問題意識の醸成と論理性、実践性、倫理性、創造性を備えた人材の育成
- （4）地域（ローカル）および国際（グローバル）社会で活躍できる人材の養成

（出典：信州大学農学部ホームページ「理念・メッセージ」）

## 資料農2 ディプロマ・ポリシー

## （農学部）

信州大学農学部の理念と目標に則り、以下の知識と能力を充分培った学生に「学士（農学）」の学位を授与する。

1. 豊かな人間性と幅広い教養を修得している
2. 農学に関する広い知識・技術を修得している
3. 専門的な知識や研究能力を修得している
4. 地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って問題をとらえ解決する能力を修得している

## （生命機能科学コース）

1. 生命現象の基本的なしくみと多様性について理解している
2. 有機化学、生化学、分子生物学、微生物学などの基礎学力を修得している
3. 生命科学・食品科学分野の基礎知識と、生命現象やバイオテクノロジーに関する専門知識を修得し、それを応用する能力を有している
4. 生命工学・食品科学分野において、グローバルな視点から知的社会の発展に貢献できる能力を修得している

## （動物資源生命科学コース）

1. 動物の生命現象ならびに動物関連産業に関わる基礎学力を有している
2. 動物の生殖制御技術や、動物由来の機能性食品、ならびに関連分野の倫理性に関わる専門的知識を身につけ、それを応用、実践できる行動力を有している
3. 動物の生命現象やその操作、ならびに動物資源や機能性食品の開発、生産についての課題を探求し、国際的視野で動物と人類の健康と福祉に貢献できる能力を身につけている
4. 動物資源生産と生命現象等に関わる課題について、革新的な発想力と幅広い視野に立脚した研究展開力を有している

## （植物資源科学コース）

1. 植物資源およびその生産システムに関する基礎学力を有している
2. バイオテクノロジーなど先端的な生命科学の知識・技術を修得するとともに、その進展に対応できる応用力を身につけている
3. 関連産業や自治体の需要に対応できる知識と実践性および倫理性を身につけている
4. 国際的な場面で活躍できる国際的な感覚と基礎的な語学力を修得している

## （森林・環境共生学コース）

1. 森林の保全・管理・利用、防災工学、農林生産基盤、山岳地域の環境要因と生態系サービス、農村・緑地計画に関する知識を修得している
2. 恵まれた信州の自然環境および地域社会でのフィールドワーク経験を活かし、専門職業人となるための応用力・行動力を身につけている

3. 農林業の持続的発展を実現するため、国際的な視野を持つとともに、直面する問題を的確に把握し、解決する能力を身につけている
4. 自然と共生する美しい循環型社会の創出に対し、科学的・倫理的に貢献できる知識と行動力を有している

(出典：信州大学農学部ホームページ「理念・メッセージ」)

### 資料農3 カリキュラム・ポリシー

#### (農学部)

学部理念・教育研究目標のもと、幅広い基礎知識を学び社会的要請に柔軟に対応でき、幅広い領域で応用力を発揮できるとともに学際的視野を広げられる専門知識を修得させるため、以下の特色ある教育課程を編成します。

#### (生命機能科学コース)

1. (導入段階) 幅広い視野を涵養させるため、生物学、一般化学、外国語科目等の基礎科目に加えて各種教養科目を履修するほか、農学入門や生命機能科学概論を履修し、本学科に必要な基礎学力を養う。
2. (基礎段階) 有機化学、生化学、分子生物学、微生物学などの分野についてバランスよく学ぶと共に、基礎的な実験実習を履修し、化学系と生物系の両方をより深く学ぶための専門的な知識を修得する。
3. (応用段階) 化学系と生物系の専門的な科目を学ぶとともに、専門的な実験・実習を履修し、研究遂行力を修得する。また、学際的視野を広げるため関連する学際融合科目および専門書や学術論文の読解力を涵養するための科学英語についても履修する。
4. (探究段階) 専門研究を必修科目とし、大学院への進学を視野に課題探究能力、研究課題を完結させる実践力を修得する。

#### (動物資源生命科学コース)

1. (導入段階) 幅広い視野を涵養させるため、生物学、一般化学、外国語科目等の基礎科目に加えて各種教養科目を履修するほか、農学入門や動物資源生命科学概論を履修し、本学科に必要な基礎学力を養う。
2. (基礎段階) 遺伝学、免疫科学、動物生理学など、動物の生命現象理解の基礎となる知識や飼料学や動物管理学など、動物資源生産に関する専門的な知識に加え、実験実習を通じて、動物の生命現象解明と生産に必要な技術を修得する。また、関連するコース共通科目を履修し、学際的視野を広げる。
3. (応用段階) 学際的融合科目の履修により幅広く、高度な専門的知識を修得するとともに、アニマルウェルフェア科学の履修によって、動物資源生命科学における倫理性を養う。また、科学英語やプレゼンテーション入門、国内外における動物生産現場での実践的実習を通じて、情報発信力や課題発見能力を養う。
4. (探究段階) 大学院進学の手台となるよう、自らの力で研究課題を探索し、その課題を卒業論文としてまとめることで、課題解決の論理力を修得する。さらに、社会の急激な変化と多様化、複雑化、高度化、グローバル化に対応できる高度専門職業人となるべく、専攻研究を通じて、探究課題の展開力を修得する。また、先鋭領域特別講義等を履修し、研究開発に関する幅広い視野を修養する。

#### (植物資源科学コース)

1. (導入段階) 幅広い視野を涵養させるため、生物学、一般化学、外国語科目等の基礎科目に加えて各種教養科目を履修するほか、農学入門や植物資源科学概論を履修し、本学科に必要な基礎学力を養う。
2. (基礎段階) 遺伝学、植物生理学など、植物資源科学の基礎となる知識や栽培学、土壌学、植物病理学など、植物資源生産に関する専門的な知識に加え、実験実習を通じて、植物の生命現象解明と生産に必要な技術を修得する。また、関連するコース共通科目を履修し、学際的視野を広げる。
3. (応用段階) 園芸学系科目などの具体的な植物資源生産に係る科目の履修によって、実践的な知識を修得するとともに、植物生命科学系科目などの履修により植物科学に関する高度な専門的知識を修得する。また、科学英語やプレゼンテーション入門、国内外における植物資源生産、試験研究の現場での実践的実習を通じて、情報発信力や課題発見能力を養う。
4. (探究段階) 大学院進学を視野に入れて、卒業論文をまとめることで、課題解決の論理力、展開力を修得する。また、先鋭領域特別講義等を履修し、研究開発に関する幅広い視野を修養する。

#### (森林・環境共生学コース)

1. (導入段階) 幅広い視野を涵養させるため、数学系、自然科学系科目、外国語科目等の基礎科

目に加えて各種教養科目を履修するほか、農学入門や森林・環境共生学概論を履修し、本コースに必要な基礎学力を養う。また、フィールドにおける基礎を学ぶための森林・環境共生学基礎演習を履修する。

2. (基礎段階) 測量学、環境統計学、土質および水理学などの基礎科目、森林科学、防災工学および農村・緑地計画等の専門基礎知識を修得するとともに、演習の履修により理論と実践の結合を行う。また、関連するコース共通科目を履修することで、広く農学に関する知識を身につける。
3. (応用段階) 森林科学、防災工学および農村・緑地計画等のより高度な専門科目を履修し、各専門分野における応用力、研究遂行能力を身につける。また、専攻演習、プレゼンテーション演習、科学英語の履修により、専門書や科学英語の読解力を身につける。学際融合科目を履修し、森林科学の知識と結合することにより、多様な一次産業によって成立する地域社会に貢献できる考えを涵養する。
4. (探究段階) 専攻研究への取り組みにより、専門知識の深化、コミュニケーション、プレゼンテーションの能力を大幅に向上する。

(出典：信州大学ホームページ「教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)」)

#### 資料農4 アドミッション・ポリシー

(農学部)

自然と人が共生する持続的社会の創造を目指す人を求めています。生命科学の視座を踏まえて、生物の機能と生命現象の解明、食と健康、持続可能な農林畜産業の発展、森林と田園環境の保全等に関わる課題探究に意欲的に取り組み、社会に貢献する熱意ある人を歓迎します。

※ 入学前に生物、化学及び数学ⅡBを十分に学習しておくことが望まれます。また、入学後の学修・研究の目標設定のため、理科及び地理歴史・公民について総合的に学習しておくことが望まれます。

(出典：信州大学農学部ホームページ「理念・メッセージ」)

## 2 組織の特徴や特色

本学は8学部で構成され、県内5キャンパスに分散している。農学部は伊那キャンパスにあり、初年次は松本キャンパスの全学教育機構(以下「機構」)で共通教育を受け、2年次以降に伊那キャンパスで教育を受ける(資料農5～7)。

農学部は、自然を生かしたフィールド教育が特徴である。

附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター(AFC)を設置し(資料農8)、4つの特色あるステーションに農場と演習林を配置し、実践的な教育・研究に活用している。

資料農5 キャンパス配置図



(出典:信州大学ホームページ「交通・キャンパス案内」)

資料農6 全学教育機構の概要

**全学教育機構とは**

全学教育機構は、信州大学が定める教育上の基本方針に基づき、本学の共通教育（各学部が編成する教育課程のうち、本学学生に対する教養教育、基礎教育及び日本語・日本事情に係る教育について、全学協力体制のもとに、全学共通に行う教育）及び教職関係5学部（人文学部、理学部、工学部、農学部及び繊維学部）の教職教育（教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための教育）の実施機関として、各学部と緊密に連携し、全学的な見地から共通教育に係る教育課程の企画及び円滑な実施を図るとともに、本学が掲げる高度専門職業人養成の教育目標を達成するため、学部一貫教育を前提に本学の教育に関する研究開発、企画及び支援を総合的に行うことを目的としています。

**1年次生は、全学部生が全学教育機構で学びます。**

信州大学は長野県内の5つのキャンパスに8学部が散在していますが、全学部の1年次（医学部医学科は2年次まで）は、松本キャンパスの全学教育機構に集い、共通教育科目を受講します。

**全学の教育力を結集した共通教育を実施します。幅広い教養と基礎的能力を獲得できます。**

信州大学の共通教育は、全学教育機構の教員とともに、全学部の教員が当然の責務として行うという全学協力体制に立脚しています。これにより、学生は、全学教員の専門知識を生かした、いわば大学の総力を結集した科目を学ぶことが可能になります。信州大学は、幅広い教養と基礎的能力に基づく課題探求能力、豊かな人間性や国際性をもった人材育成を目指しております。

(出典:信州大学全学教育機構ホームページ「全学教育機構とは」)

## 資料農7 信州大学全学教育機構規程

(目的)

第2条 機構は、信州大学(以下「本学」という。)が定める教育上の基本方針に基づき、本学の共通教育(各学部が編成する教育課程のうち、本学学生に対する教養教育、基礎教育及び日本語・日本事情に係る教育について、全学協力体制のもとに、全学共通に行う教育をいう。以下同じ。)及び教職関係5学部(人文学部、理学部、工学部、農学部及び繊維学部をいう。以下同じ。)の教職教育(教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための教育をいう。以下同じ。)の実施機関として、各学部と緊密に連携し、全学的な見地から共通教育に係る教育課程の企画及び円滑な実施を図るとともに、本学が掲げる高度専門職業人養成の教育目標を達成するため、学部一貫教育を前提に本学の教育に関する研究開発、企画及び支援を総合的に行うことを目的とする。

(全学協力体制等)

第3条 共通教育及びこれを履修する学生(以下単に「学生」という。)の修学指導は、全学協力体制により実施するものとし、各学部は、その実施体制の管理及び運営に責任を負うとともに、本学のすべての教員は、その構成員として共通教育の実施及び学生の修学指導を担当することを任務とする。

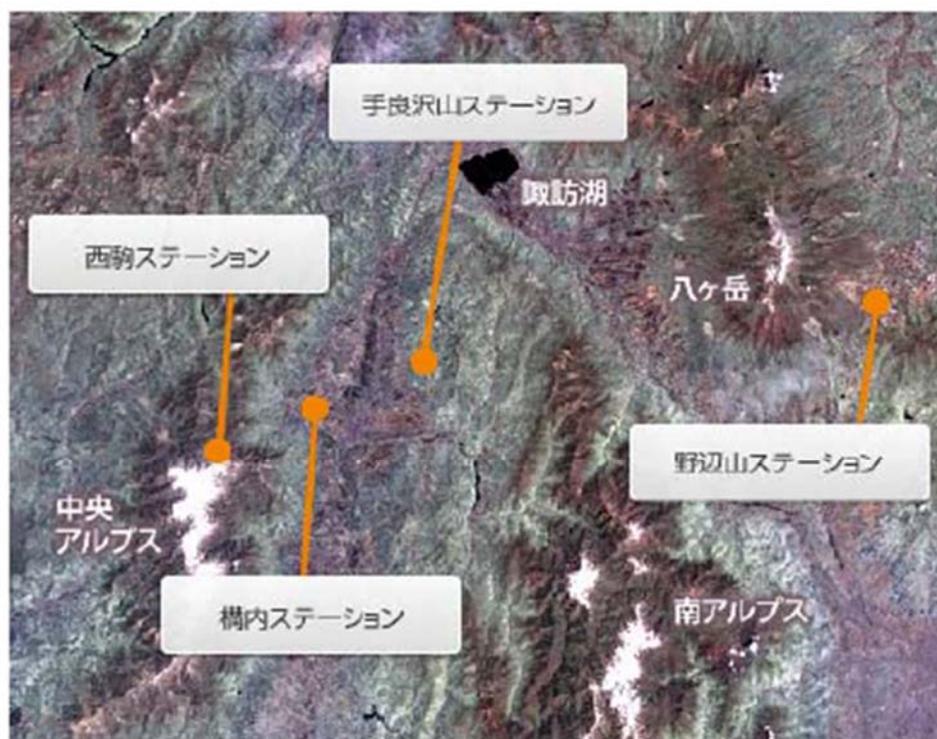
2 機構は、前条の目的を達成し、次条に定める業務を遂行するため、附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センターその他の関係部局(以下「関係部局」という。)と有機的に連携するとともに、関係委員会等と緊密に連携協力する。

(出典:信州大学規程集)

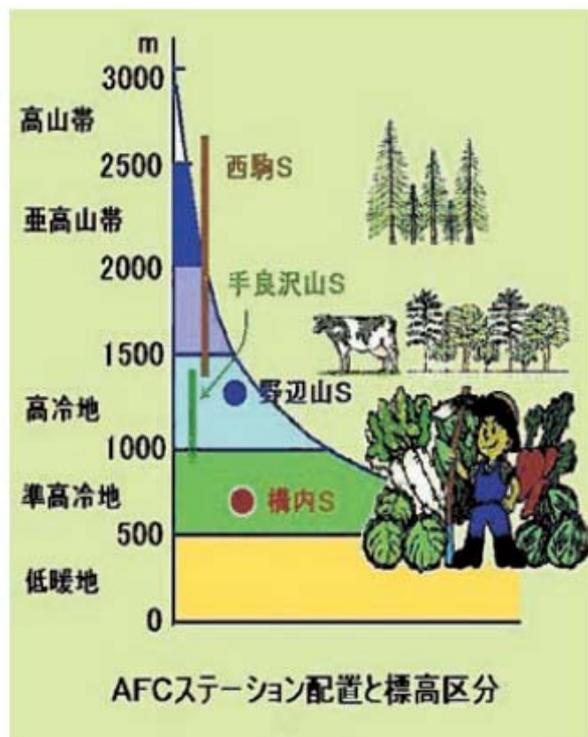
## 資料農8 附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター(AFC)拠点

### ステーションの紹介

AFCのステーションは、里地から山岳地まで多様な自然環境と生産環境の中に位置しており、フィールド科学を総合的に推進するために極めて適した教育研究の場を提供しています。



(出典:信州大学農学部ホームページ「附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター(AFC)」)



**構内ステーション(40ha)**  
 農場(果樹・野菜・花卉・畜産・加工)と  
 演習林(平地林・環境保全林)

**西駒ステーション(252ha)**  
 中央アルプス高山帯を含む演習林  
 (垂直分布、天然林、野生生物)

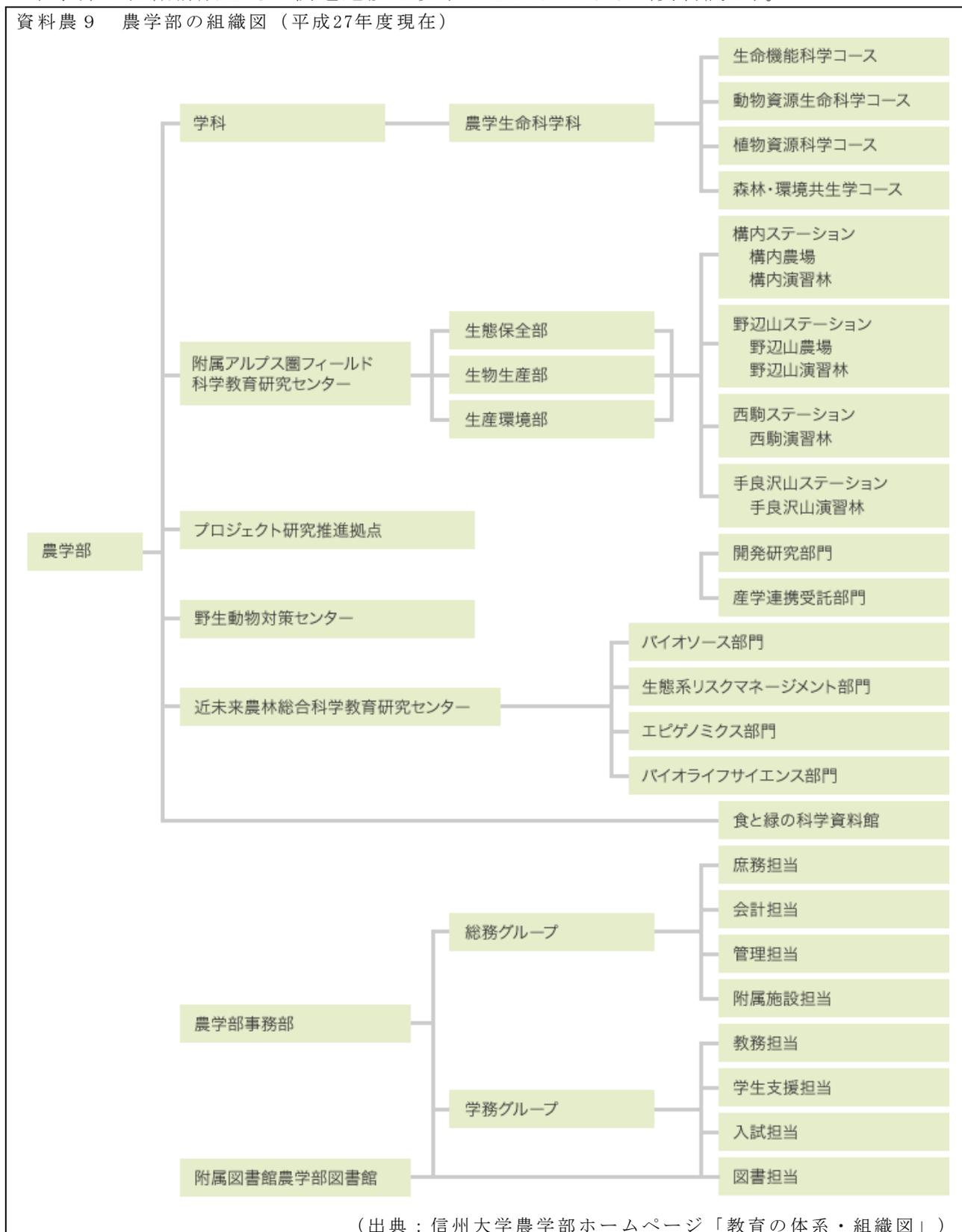
**手良沢山ステーション(229ha)**  
 人工林(スギ・ヒノキ・カラマツ)、  
 森林施業、治山治水

**野辺山ステーション(29ha)**  
 高冷地農業(野菜、畜産・草地)と  
 演習林(カンバ類、カラマツ、原野植生)

(出典：農学部デジタルパンフレット)

本学部の組織構成とその関連施設は以下のとおりである（資料農9）。

資料農9 農学部の組織図（平成27年度現在）



（出典：信州大学農学部ホームページ「教育の体系・組織図」）

3 カリキュラム概要・特色

○学部改組

ポストゲノム（未知の遺伝子の解析や、それらから生成されるタンパク質の研究等の総称）の時代にふさわしい農学系「理工系グローバル人材」を育成するため、平成27年度に3学科制から農学生命科学科の1学科4コース制に改組した（資料農10、11）。

資料農10 農学部の改組



(出典：農学部作成)

資料農11 改組後の各コースの特徴

### 生命機能科学コース

多様な生命活動を基盤とした新たな産業の創出に貢献

**教育の特徴** 生命現象を化学と生物学の視点から科学し、バイオケミストリーとバイオテクノロジーの基盤から応用における教育・研究を行います。

**コースの教育研究** アミノ酸代謝、酵素生体工学、アミノ酸を生産する発酵菌のゲノム情報を読み解き、風期的な生産量を創出する。

▲左：野生のマツタケ  
▲右：実験室的に作出されたマツタケの高純度抽出物と横断面（上）と縦断面（下）

▲実験の様子：植物細胞の一部を切り出している

### 植物資源科学コース

持続可能な食料生産システムの構築に貢献

**教育の特徴** 環境に調和した持続的かつ高度な生産システムの実現に向け、農業生産の基盤となる植物資源を農学的・生命科学的視点で見え、フィールドとラボの両面から教育・研究を行います。

**コースの教育研究** 野菜や果物に蓄められた力を最先端のテクノロジーで解明

▲世界の食糧と生産するDNAマーカー  
本学で開発された赤果内リンゴ品種「ハニーフルーツ」

### 動物資源生命科学コース

人と動物が共生する心豊かな地域社会の構築に貢献

**教育の特徴** 動物の複雑な生命現象・行動システムとして捉え、分子レベルから個体レベルにわたる動物科学・生命科学および資源利用に関する教育・研究を行います。

**コースの教育研究** ▲幹細胞を用いて作出したキヌタ

▲ニワトリ胚島のB細胞（赤色）とT細胞（緑色）を示す蛍光顕微鏡写真

▲ゾンダを用いたマウスへの強制給餌

### 森林・環境共生学コース

持続可能な美しい循環型社会の構築に貢献

**教育の特徴** 山岳・森林域から里山・居住域に至る自然環境と人間との共生関係を科学的に解明し、森林科学、防災工学および農村・緑地計画の基盤から応用における教育・研究を行います。

**コースの教育研究** ▲樹種の違いを考慮して木材の加工をする（木科工学実習）

▲環境と調和した快適な公衆を設計する（造園設計実習）

▲演習林で間伐の実習。倒す方向をよく考えて伐採する（森林生産実践実習）

（出典：信州大学農学部ホームページ「農学部改組のお知らせ（平成27年4月より）」）

○ 共通教育

本学は、共通教育科目と専門科目で教育課程を編成している（資料農12）。

資料農12 信州大学学則

（教育課程の編成方針）

第42条 各学部は、本学、当該学部及び学科又は課程等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、体系的に教育課程を編成するものとする。

2 教育課程の編成に当たっては、学部等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮するものとする。（授業科目の区分）

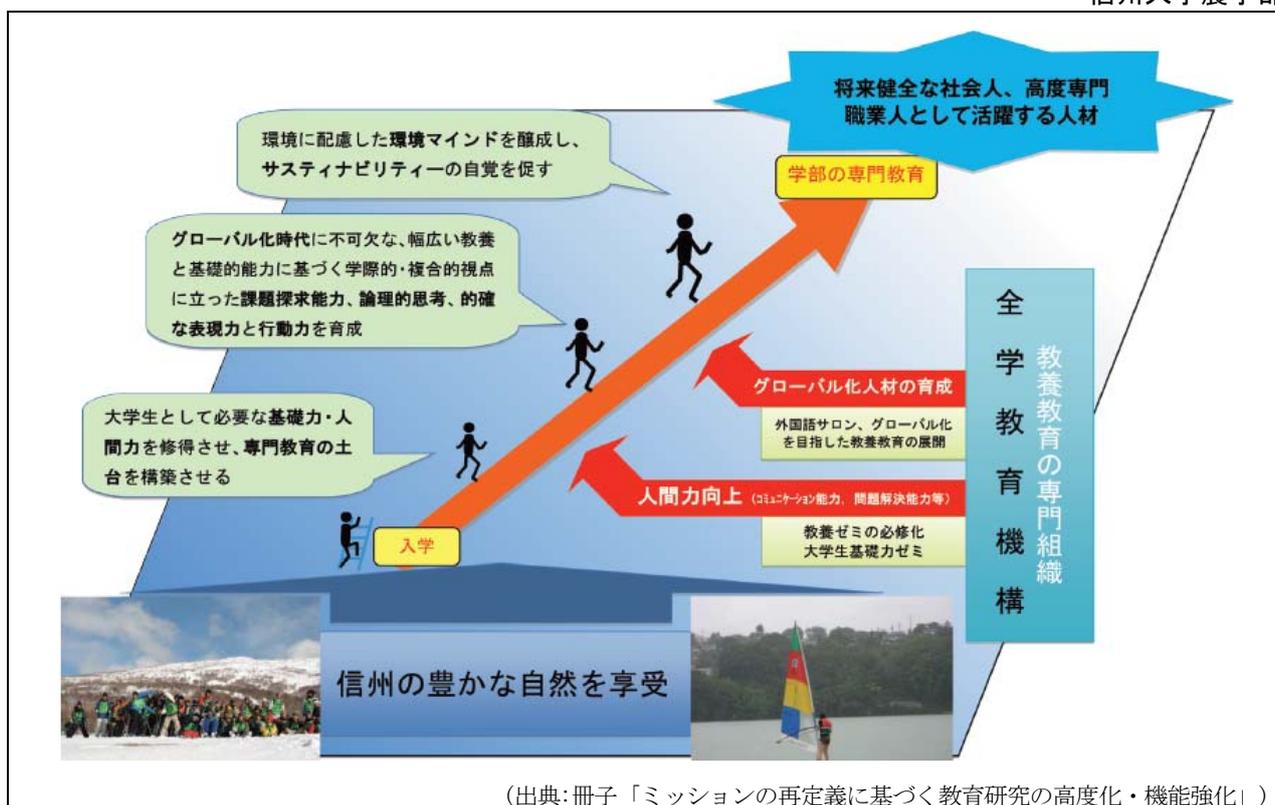
第43条 本学で開設する授業科目は、その内容により共通教育科目及び専門科目に分ける。（出典：信州大学規程集）

主に1年次が受講する共通教育科目は、学部の専門教育に進み、将来健全な社会人、高度専門職業人として活躍する人材を育成するため、多様な学問領域に関する授業が開講されている（資料農13、14）。

資料農13 共通教育の概要

学部の専門教育に進み、将来健全な社会人、高度専門職業人として活躍する人材を育成するため、幅広い教養と基礎的能力に基づく課題探求能力、豊かな人間性や国際性の修得及び人間力向上を目指す。

特に、環境に配慮した意識と生活者としての環境マインドを醸成し、サステナビリティの自覚を促す。さらに、グローバル化時代を生きる新しい世代に不可欠な、学際的・複合的視点に立って自ら課題を探求し、論理的に物事をとらえ、自らの主張を的確に表現しつつ行動していくことができる能力を育成する。



資料農14 共通教育科目区分一覧

教養科目：学部・学科(課程)を越えた全学生の素養として必要な科目	
教養講義	信州大学の理念・目的に沿って、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するための教養科目
教養ゼミナール	
基礎科目：大学教育(学部一貫教育)の基礎となる科目	
外国語科目	全学生に共通に必要な科目
健康科学科目	
新生ゼミナール科目	
基礎科学科目	複数の学部で基盤となる科学について共通教育で開講する科目
日本語・日本事情	
日本語・日本事情科目	外国人留学生のために開講する科目
専門入門科目	
専門入門科目	学部の専門科目として開講され、他学部生は教養科目として履修できる科目

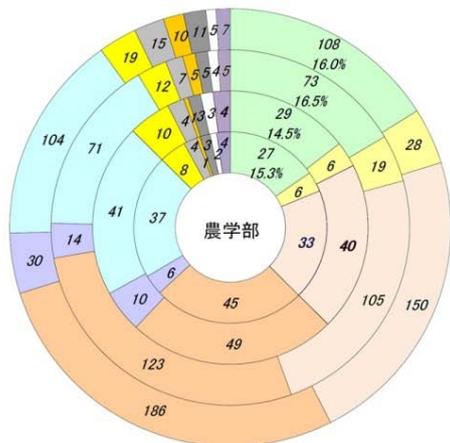
(出典：経営企画課作成)

#### 4 入学者及び入試の状況

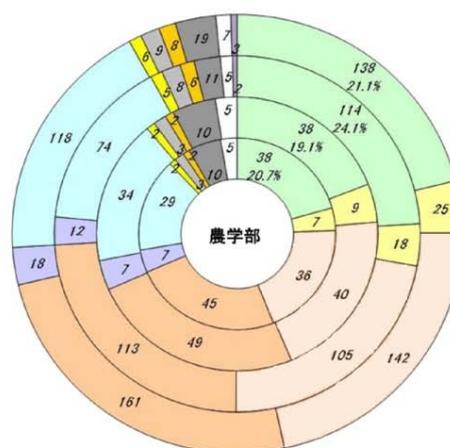
本学部の出身地域別の志願者数、受験者数、合格者数、入学者数は以下のとおりである(資料農15)。

資料農15 農学部の出地域別の志願者数、受験者数、入学者数

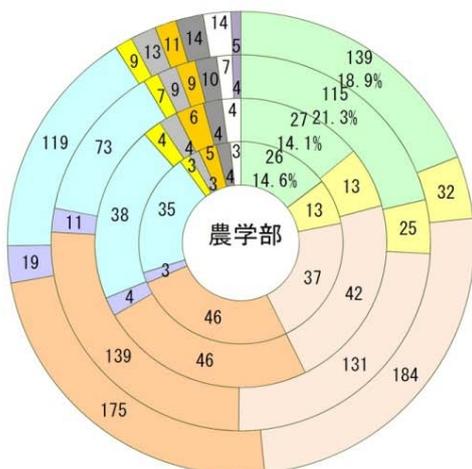
平成21年度



平成23年度



平成26年度



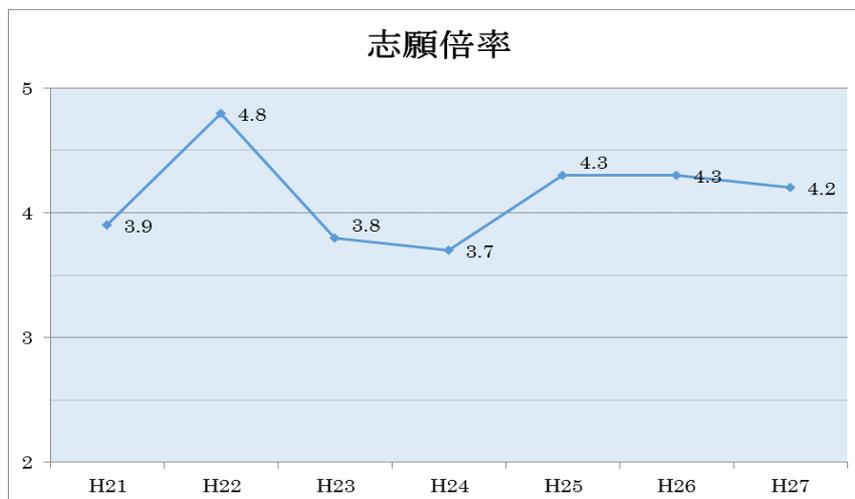
凡例

- 最外周：志願者
  - 第2周：受験者
  - 第3周：合格者
  - 最内周：入学者
- 長野
  - 甲越
  - 関東
  - 東海
  - 北陸
  - 近畿
  - 東北
  - 中国
  - 四国
  - 九州・沖縄
  - 北海道
  - その他

(出典：経営企画課)

本学部の志願倍率、入学者に占める新卒者・既卒者の割合及び男女比の割合は以下のとおりである(資料農16~18)。

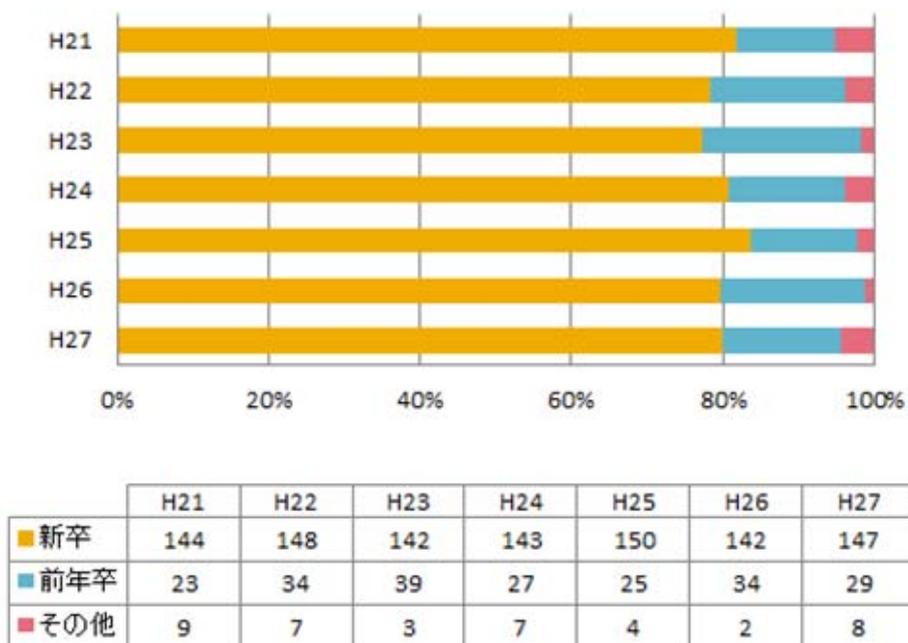
資料農16 志願倍率(一般入試)



(出典：経営企画課)

資料農17 農学部の入学者に占める新卒者・既卒者の割合

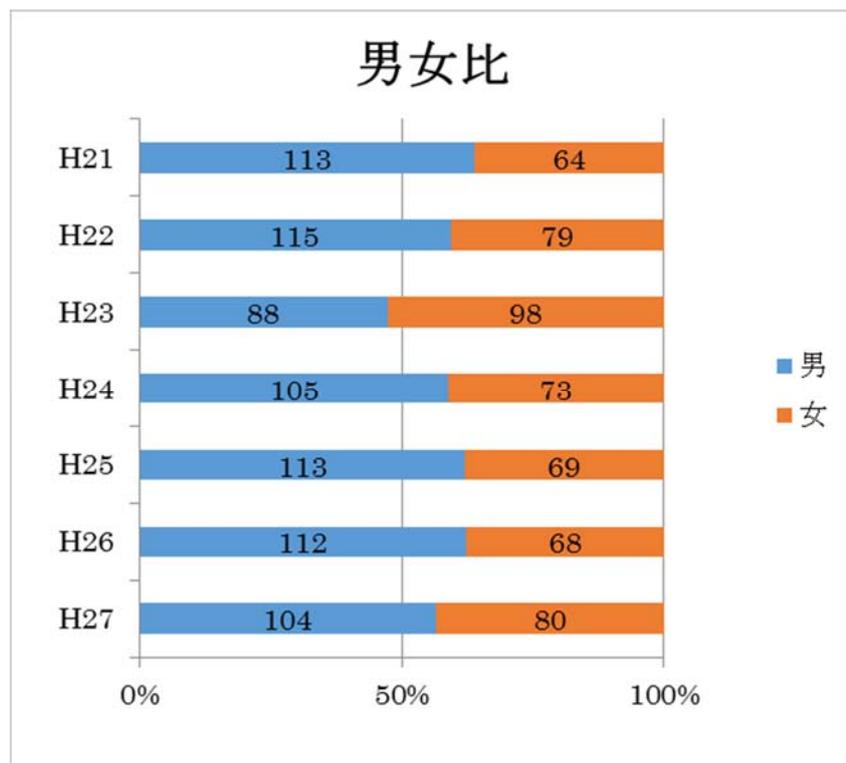
### 高校卒業年



(出典：経営企画課)

資料農18 農学部の入学者に占める男女比の割合

### 男女比



(出典：経営企画課)

本学部への入学状況及び平成27年度の入試科目は以下のとおりである（資料農19、20）。

資料農19 農学部への入学状況

年度	学科	入学定員	入学者数	充足率
平成 22 年度	食料生産科学科	62	68	109.7
	森林科学科	61	67	109.8
	応用生命科学科	52	59	113.5
	計	175	194	110.9
平成 23 年度	食料生産科学科	62	65	104.8
	森林科学科	61	65	106.6
	応用生命科学科	52	56	107.7
	計	175	186	106.3
平成 24 年度	食料生産科学科	62	62	100.0
	森林科学科	61	61	100.0
	応用生命科学科	52	55	105.8
	計	175	178	101.7
平成 25 年度	食料生産科学科	62	66	106.5
	森林科学科	61	63	103.3
	応用生命科学科	52	53	101.9
	計	175	182	104.0
平成 26 年度	食料生産科学科	62	66	106.5
	森林科学科	61	61	100.0
	応用生命科学科	52	53	101.9
	計	175	180	102.9
平成 27 年度	生命機能科学コース	170	51	108.2
	動物資源生命科学コース		44	
	植物資源科学コース		47	
	森林・環境共生学コース		42	
	計		184	

(出典：農学部作成)

資料農20 農学部の入試科目（一般入試）

（前期日程）

2 大学入試センター試験の受験を要する教科・科目等

・生命機能科学コース ・動物資源生命科学コース ・植物資源科学コース

教科	グループ	出題科目	受験を要する科目等
国語		「国語」（近代以降の文章）	左欄の科目
数学	①	「数学Ⅰ・数学A」, 「◎旧数学Ⅰ・旧数学A」	左欄から1科目
	②	「数学Ⅱ・数学B」, 「工業数理基礎」, 「簿記・会計」, 「情報関係基礎」, 「◎旧数学Ⅱ・旧数学B」	左欄から1科目
理科	①	「物理基礎」, 「化学基礎」, 「生物基礎」	左欄から2科目
		「物理」, 「化学」, 「生物」	左欄から1科目
	②	「物理」, 「化学」, 「生物」	左欄から2科目
		「◎物理Ⅰ」, 「◎化学Ⅰ」, 「◎生物Ⅰ」	左欄から2科目
外国語		「英語」	左欄の科目

・森林・環境共生学コース

教科	グループ	出題科目	受験を要する科目等
国語		「国語」（近代以降の文章）	左欄の科目
地理歴史		「世界史B」, 「日本史B」, 「地理B」	左欄から1科目
公民		「現代社会」, 「倫理」, 「政治・経済」, 「倫理, 政治・経済」	（2科目受験した場合は、第1解答科目を利用します。）
数学	①	「数学Ⅰ・数学A」, 「◎旧数学Ⅰ・旧数学A」	左欄から1科目
	②	「数学Ⅱ・数学B」, 「工業数理基礎」, 「簿記・会計」, 「情報関係基礎」, 「◎旧数学Ⅱ・旧数学B」	左欄から1科目
理科	①	「物理基礎」, 「化学基礎」, 「生物基礎」, 「地学基礎」	左欄から2科目
		「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」	左欄から1科目
	②	「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」	左欄から2科目
		「◎理科総合A」, 「◎理科総合B」, 「◎物理Ⅰ」, 「◎化学Ⅰ」, 「◎生物Ⅰ」, 「◎地学Ⅰ」	左欄から2科目
外国語		「英語」, 「ドイツ語」, 「フランス語」, 「中国語」, 「韓国語」	左欄から1科目

3 個別学力検査教科・科目等

コース	受験教科・科目等
生命機能科学コース 動物資源生命科学コース 植物資源科学コース	理科（「化学基礎・化学」, 「生物基礎・生物」から一つ選択）
森林・環境共生学コース	小論文

\*\*\* 旧教育課程履修者に対する経過措置 \*\*\*

注1 化学基礎・化学は全範囲を出題範囲としますが、旧教育課程の科目（化学Ⅰ・化学Ⅱ）の選択分野「生活と物質」及び「生命と物質」に該当する問題を出題する場合は、いずれか一方を選択解答することとします。

注2 生物基礎・生物は全範囲を出題範囲としますが、旧教育課程の科目（生物Ⅰ・生物Ⅱ）の選択分野「生物の分類と進化」及び「生物の集団」に該当する問題を出題する場合は、いずれか一方を選択解答することとします。

(後期日程)

2 大学入試センター試験の受験を要する教科・科目等

・生命機能科学コース

教科	グループ	出題科目	受験を要する科目等		
国語		「国語」(近代以降の文章)	左欄の科目		
数学	①	「数学Ⅰ・数学A」, 「◎旧数学Ⅰ・旧数学A」	左欄から1科目		
	②	「数学Ⅱ・数学B」, 「工業数理基礎」, 「簿記・会計」, 「情報関係基礎」, 「◎旧数学Ⅱ・旧数学B」	左欄から1科目		
理科	①	「物理基礎」, 「化学基礎」, 「生物基礎」	左欄から2科目	(A)	(A)
		「物理」, 「化学」, 「生物」	左欄から1科目	※	又は
	②	「物理」, 「化学」, 「生物」	左欄から2科目	(B)	(B)
		「◎物理Ⅰ」, 「◎化学Ⅰ」, 「◎生物Ⅰ」	左欄から2科目	(C)	又は
外国語		「英語」	左欄の科目		

・動物資源生命科学コース ・植物資源科学コース

教科	グループ	出題科目	受験を要する科目等		
国語		「国語」(近代以降の文章)	左欄の科目		
数学	①	「数学Ⅰ・数学A」, 「◎旧数学Ⅰ・旧数学A」	左欄から1科目		
	②	「数学Ⅱ・数学B」, 「工業数理基礎」, 「簿記・会計」, 「情報関係基礎」, 「◎旧数学Ⅱ・旧数学B」	左欄から1科目		
理科	①	「物理基礎」, 「化学基礎」, 「生物基礎」	左欄から2科目	(A)	(A)
		「物理」, 「化学」, 「生物」	左欄から1科目	※	又は
	②	「物理」, 「化学」, 「生物」	左欄から2科目	(B)	(B)
		「◎物理Ⅰ」, 「◎化学Ⅰ」, 「◎生物Ⅰ」	左欄から2科目	(C)	又は
外国語		「英語」	左欄の科目		

・森林・環境共生学コース

教科	グループ	出題科目	受験を要する科目等		
国語		「国語」(近代以降の文章)	左欄の科目		
地理歴史		「世界史B」, 「日本史B」, 「地理B」	左欄から1科目		
公民		「現代社会」, 「倫理」, 「政治・経済」, 「倫理. 政治・経済」	(2科目受験した場合は、第1解答科目を利用します。)		
数学	①	「数学Ⅰ・数学A」, 「◎旧数学Ⅰ・旧数学A」	左欄から1科目		
	②	「数学Ⅱ・数学B」, 「工業数理基礎」, 「簿記・会計」, 「情報関係基礎」, 「◎旧数学Ⅱ・旧数学B」	左欄から1科目		
理科	①	「物理基礎」, 「化学基礎」, 「生物基礎」, 「地学基礎」	左欄から2科目	(A)	(A)
		「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」	左欄から1科目	※	又は
	②	「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」	左欄から2科目	(B)	(B)
		「◎理科総合A」, 「◎理科総合B」, 「◎物理Ⅰ」, 「◎化学Ⅰ」, 「◎生物Ⅰ」, 「◎地学Ⅰ」	左欄から2科目	(C)	又は
外国語		「英語」, 「ドイツ語」, 「フランス語」, 「中国語」, 「韓国語」	左欄から1科目		

※ 「理科」の(A)パターンにおいては、同一名称を含む科目同士の選択は認めません。

注1 「工業数理基礎」, 「簿記・会計」及び「情報関係基礎」を選択できる方は、職業教育を主とする学科、総合学科をもつ高等学校においてこれらの科目を履修した方(大学入学資格検定でこれらに相当する科目に合格している方を含みます。 )及び専修学校の高等課程の修了(見込み)者に限ります。

注2 ◎印の科目は経過措置の科目で、旧教育課程履修者(9ページ「6 入学者選抜方法(3) 旧教育課程履修者に対する経過措置」を参照)のみ選択解答することができます。

注3 「英語」はリスニングを課します。

3 個別学力検査教科・科目等

コース	受験教科・科目等
生命機能科学コース 動物資源生命科学コース 植物資源科学コース 森林・環境共生学コース	面接

(出典：「平成27年度入学者選抜要項」)

[想定する関係者とその期待]

① 在学生、受験生、保護者

農学、すなわち自然科学と社会科学の基礎から応用までの幅広い分野を含む総合科学を学び、卒業までに社会において活躍できる課題解決能力・実践力を身に付けること

② 製造業（農林業、食品業、製薬業等）、諸団体（国、県等）

農学に関する基礎知識を持ち、応用力・実践力を持つ人材の養成

II 「教育の水準」の分析・判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

1 学術研究院、全学教育機構と学部

教員の流動性を確保し、これまで以上に柔軟な全学的な教育、研究マネジメントを可能とするための教員組織として、学術研究院を平成 26 年度に設置した。また、学士課程の共通教育科目を担当する教育組織として全学教育機構を設置している(資料農 21)。

資料農 21 学術研究院と学部、大学院との関係



学術研究院は、3の学域・10の学系により構成する。すべての教員は、いずれかの学系に所属し、職務として次のいずれかに携わる。(複数の兼務もあり)

- 1) 学部・大学院、全学教育機構において、教育・研究に携わる。
- 2) 医学部附属病院において、診療・教育・研究に携わる。
- 3) 先鋭領域融合研究群において、研究に携わる。
- 4) 大型研究センター(拠点形成型の外部資金プロジェクト)において、研究に携わる。
- 5) 各教育研究(支援)センター等において、担当業務に携わる。

これにより、先鋭領域融合研究群の研究者への研究重点環境の提供や学部横断型の教育を実現し、研究の高度化や時代の要請に柔軟かつスピーディーに対応した教育を推進する。

(出典:「大学概要2015」をもとに経営企画課作成)

## 2 共通教育

共通教育は、機構を中心に全学協力体制のもと実施している（資料農22～24）。

資料農22 信州大学全学教育機構規程（抜粋）

（目的）

第2条 機構は、信州大学（以下「本学」という。）が定める教育上の基本方針に基づき、本学の共通教育（各学部が編成する教育課程のうち、本学学生に対する教養教育、基礎教育及び日本語・日本事情に係る教育について、全学協力体制のもとに、全学共通に行う教育をいう。以下同じ。）及び教職関係5学部（人文学部、理学部、工学部、農学部及び繊維学部をいう。以下同じ。）の教職教育（教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための教育をいう。以下同じ。）の実施機関として、各学部と緊密に連携し、全学的な見地から共通教育に係る教育課程の企画及び円滑な実施を図るとともに、本学が掲げる高度専門職業人養成の教育目標を達成するため、学部一貫教育を前提に本学の教育に関する研究開発、企画及び支援を総合的に行うことを目的とする。

（全学協力体制等）

第3条 共通教育及びこれを履修する学生（以下単に「学生」という。）の修学指導は、全学協力体制により実施するものとし、各学部は、その実施体制の管理及び運営に責任を負うとともに、本学のすべての教員は、その構成員として共通教育の実施及び学生の修学指導を担当することを任務とする。

2 機構は、前条の目的を達成し、次条に定める業務を遂行するため、附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センターその他の関係部局（以下「関係部局」という。）と有機的に連携するとともに、関係委員会等と緊密に連携協力する。

（共通教育企画実施部）

第10条 機構に、共通教育企画実施部を置く。

2 共通教育企画実施部は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 共通教育に係る教育課程の企画及び立案に関すること。
- (2) 共通教育の授業担当者の選任に関すること。
- (3) 共通教育の授業の実施に関すること。
- (4) 専門科目と共通教育との実施上の調整に関すること。
- (5) 高年次共通教育及び日本語・日本事情に係る留学生教育の企画及び調整に関すること。

（共通教育修学支援部）

第11条 機構に、共通教育修学支援部を置き、学生の学習支援その他の修学支援に関する業務を行う。

2 共通教育修学支援部に、修学支援部門を置く。

3 共通教育修学支援部に責任者を置き、副機構長（修学支援担当）をもって充てる。

（クラス副担任）

第16条 修学支援部門に、各学部のクラス担任を補佐するため、クラス副担任を置く。

2 クラス副担任は、機構の専任教員が担当し、当該学部のクラス担任との密接な連携を図るものとする。

（教授会）

第17条 機構に、信州大学学則（平成16年信州大学学則第1号）第25条第2項の定めるところにより、信州大学全学教育機構教授会（以下「教授会」という。）を置く。

2 教授会に関し必要な事項は、別に定める。

（運営会議）

第18条 機構に、機構の運営に関する具体的事項を審議するため、信州大学全学教育機構運営会議（以下「運営会議」という。）を置く。

2 運営会議は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 機構長
- 二 副機構長
- 三 基幹教育センター長及び言語教育センター長
- 四 共通教育企画実施部の各教育部門長及び修学支援部門長並びに教職教育部副責任者
- 五 その他機構長が必要と認める者

3 運営会議に議長を置き、機構長をもって充てる。

4 議長は、運営会議を主宰する。

5 学長は、必要又は機構長の要請に応じて、運営会議に出席し、審議に参加するとともに、共通教育及び機構の組織の運営に関する事項を、運営会議に提示し、審議を求めることができる。

6 運営会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 共通教育の企画及び実施並びに修学支援に関する事項
- 二 機構の運営組織に関する事項

- 三 基幹教育センター及び言語教育センターの人事方針（採用人事方針を含む。）に関する事項  
 四 教職教育部の業務に関する事項  
 7 運営会議は、必要に応じて、その審議結果を教授会に報告するものとする。  
 （学長及び共通教育推進会議）

第19条 共通教育の実施に係る最終責任は、学長が負う。

- 3 国立大学法人信州大学共通教育推進会議（以下「共通教育推進会議」という。）は、必要に応じて、又は教授会の要請に応じて、機構の組織、運営に係る重要事項を審議する。  
 4 学長及び共通教育推進会議は、共通教育に関する基本的事項について、教授会に提案することができる。この場合において、教授会は、これを尊重するものとする。

（出典：信州大学規程集）

資料農23 国立大学法人信州大学共通教育推進会議規程（抜粋）

（趣旨）

第1条 この規程は、国立大学法人信州大学組織に関する規則（平成17年国立大学法人信州大学規則第5号）第16条の2第2項の規定に基づき国立大学法人信州大学（以下「本法人」という。）に設置する国立大学法人信州大学共通教育推進会議（以下「共通教育推進会議」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

（職務）

第2条 共通教育推進会議は、本法人が設置する信州大学（以下「本学」という。）の次の各号に掲げる重要な事項について審議するほか、全学教育機構と各学部との連携協力及び連絡調整を円滑に行うことを職務とする。

- 一 共通教育の企画及び実施並びに修学支援の実施に関する事
- 二 共通教育カリキュラムの策定及び改定に関する事
- 三 共通教育の実施における全学的な支援に関する事
- 四 全学教育機構の運営に関する事
- 五 その他共通教育の実施に関する事

（組織）

第3条 共通教育推進会議は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

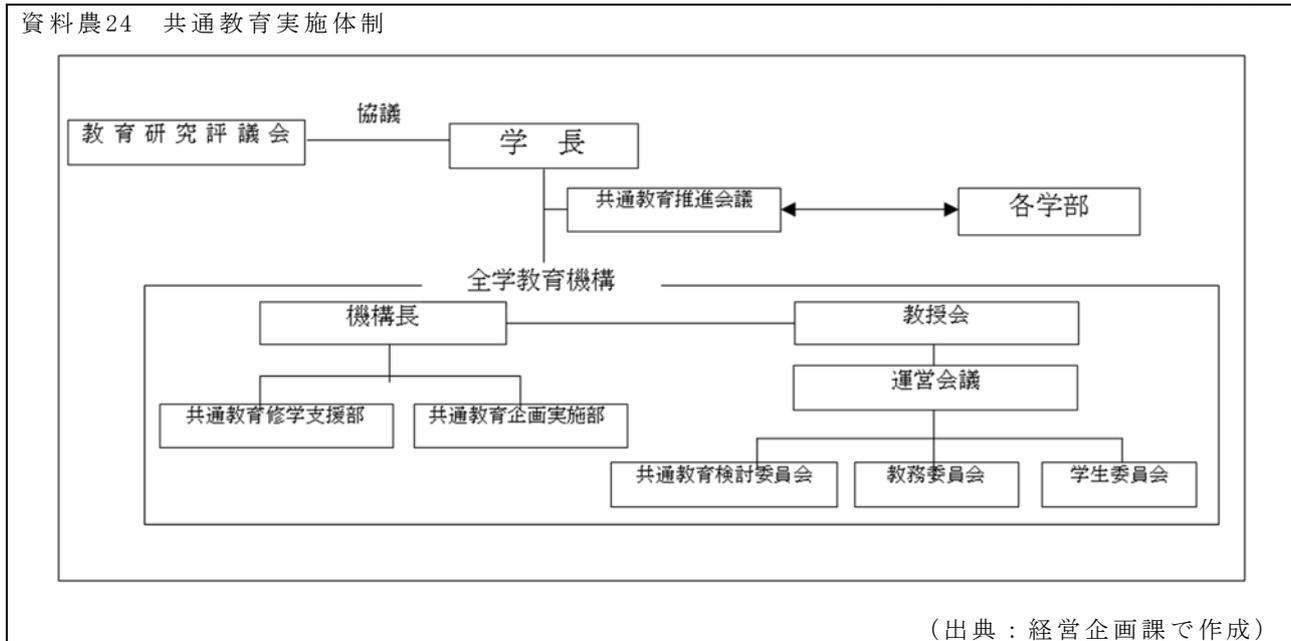
- 一 学長
- 二 教務担当の理事
- 三 全学教育機構長
- 四 高等教育研究センター長
- 五 学部長又は副学部長のうちのいずれか1名
- 六 その他学長が必要と認める者

（議長）

第4条 共通教育推進会議に議長を置き、学長をもって充てる。

- 2 議長は、共通教育推進会議を主宰する。
- 3 議長に事故があるときは、第3条第2号に規定する理事が、その職務を代行する。

（出典：信州大学規程集）



### 3 教育サポート体制の充実

本学部は、コースごとに担任を配置している。さらに、1年次生にはクラス副担任として機構の教員をコースごとに配置し、修学指導を行っている（資料農25）。

資料農25 平成27年度1年次生クラス副担任の配置状況

学部・学科等			クラス担任数	
			担任	副担任（1年次）
農学部	農学生命科学科	生命機能科学コース	コース教員 1	1
		動物資源生命科学コース	コース教員 1	1
		植物資源科学コース	コース教員 1	1
		森林・環境共生学コース	コース教員 1	1

(出典：農学部作成)

全学的な教育サポート体制として、学務課、学生支援課等を設置している。また、全学的な教育活動を展開するため、附属図書館、総合健康安全センター等に専門的知識技能を有する職員を配置している。さらに、本学部・研究科に教育活動を展開するために必要な職員をそれぞれ配置するとともに、大学院生をTAとして雇用し積極的に活用している（資料農26～31）。

## 資料農 26 国立大学法人信州大学業務執行組織規程（抜粋）

第 25 条 学務課においては、全学教育機構、高等教育研究センター、e-Learning センター、教員免許更新支援センター（教育学部の所掌に属するものを除く。以下この条において同じ。）及び学務部に関する次の業務をつかさどる。

- (1) 学務部内の事務に関し、連絡し、及び総合調整を行うこと。
- (2) 庶務及び会計に関すること。
- (3) 入学式その他学生の諸行事に関すること。
- (4) 学生関係職員の SD（スタッフ・デベロップメント）に係る企画・立案及びその実施に関すること。
- (5) 全学（本法人が設置する信州大学大学院（以下「大学院」という。）を除く。）の教務に関すること。
- (6) 学生の学籍その他の記録に関すること。
- (7) 学位の授与に関すること。
- (8) 教育課程（大学院を除く。）に係る目標及び計画の連絡調整に関すること。
- (9) 他の大学等との単位の互換（大学院を除く。）に関すること。
- (10) 全学の学務情報システムに関すること。
- (11) 出前講座に関すること。
- (12) 諸会議（国立大学法人信州大学戦略企画会議規程（平成 24 年国立大学法人信州大学規程第 108 号）第 6 条に定める大学院戦略会議（以下「大学院戦略会議」という。）及び信州大学大学院教務委員会を除く。）の連絡調整に関すること。
- (13) 教育・学生支援連携会議の運営に関すること。
- (14) その他全学教育機構、高等教育研究センター、e-Learning センター及び教員免許更新支援センターの業務執行及び運営に関すること。
- (15) 前各号に掲げるもののほか、学務部の他の所掌に属しない事務を処理すること。

2 学務課の共通教育支援室においては、次の業務をつかさどる。

- (1) 共通教育の授業支援に関すること。
- (2) 共通教育の教務に関すること。
- (3) 学生の学習相談及び修学指導に関すること。
- (4) 共通教育に係る点検・評価に関すること。
- (5) 全学教育連携会議等の諸会議の連絡調整に関すること。
- (6) 環境マインド教育支援に関すること。

3 省略

4 学生支援課においては、次の業務をつかさどる。

- (1) 学生総合支援センターの業務執行及び運営に関すること。
- (2) キャリアサポートセンターの業務執行及び運営に関すること。
- (3) 学生相談センターの業務執行及び運営に関すること。

5 入試課においては、次の業務をつかさどる。

- (1) 入学者の選抜に関し連絡し、及び総合調整を行うこと。
- (2) 入学者選抜方法の改善に関し企画立案を行うこと。
- (3) 学生募集に関すること。
- (4) アドミッションセンターの業務執行及び運営に関すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、入学者の選抜に関する事務を処理すること。

6 国際交流課においては、次の業務をつかさどる。

- (1) 国際交流センターの業務執行及び運営に関すること。（研究支援課の国際学術交流室が所掌する業務を除く。）
- (2) 松本国際交流会館の業務執行及び運営に関すること。
- (3) 前各号に掲げるもののほか、教育活動に係る国際交流に関する事務を処理すること。

（出典：信州大学規程集）

資料農 27 学務課、学生支援課、国際交流課の職員数

平成 28 年 1 月 18 日現在

	学務課	学生支援課		国際交流課
			うち キャリアサポートセンター	
事務職員	20	11	3	6
事務補佐員	12	4	2	5
臨時用務員	1			
専門職員	1			
技術補佐員	5			
技能補佐員		1		
シニア雇用職員	4	1		
コーディネータ		1		6
合計	43	18	5	17

(出典：経営企画課作成)

資料農 28 附属図書館、総合健康安全センター等職員数

平成 28 年 2 月 1 日現在

区分	附属図書館	総合健康安全センター	総合情報センター	e-Learningセンター
伊那キャンパス	5	2	-	-

(出典：経営企画課作成)

資料農 29 学部・研究科の学務担当の職員数

平成 28 年 2 月 1 日現在

区 分	学務担当職員数
農学部 農学研究科	14

(出典：経営企画課作成)

資料農 30 信州大学ティーチング・アシスタント実施要項 (抜粋)

(目的)

第 2 TA は、本学大学院の優秀な学生に対し、教育的配慮の下に教育補助業務を行わせ、これに対する手当支給により、当該学生の処遇の改善に資するとともに、大学教育の充実及び指導者としてのトレーニングの機会提供を図ることを目的とする。

(身分)

第 3 TA は、非常勤職員とする。

(職務内容)

第 4 TA は、学部学生、修士課程の学生及び博士前期課程の学生に対する実験、実習及び演習等の教育補助業務に従事する。

(出典：信州大学規程集)

資料農 31 TA の業務内容

部局名	授業時間内の業務内容								授業時間外の業務内容					その他の業務内容
	A	B	C	D	E	F	G	H	a	b	c	d	e	
農学部		○			○	○	○		○				○	

授業時間内の業務内容

- A. 資料の配付 B. 機器の操作 C. 出欠の管理 D. 試験監督補助 E. 討論への参加
- F. 学生の質問への対応 G. 実験・実習などの実演 H. 発声・会話の指導

授業時間外の業務内容

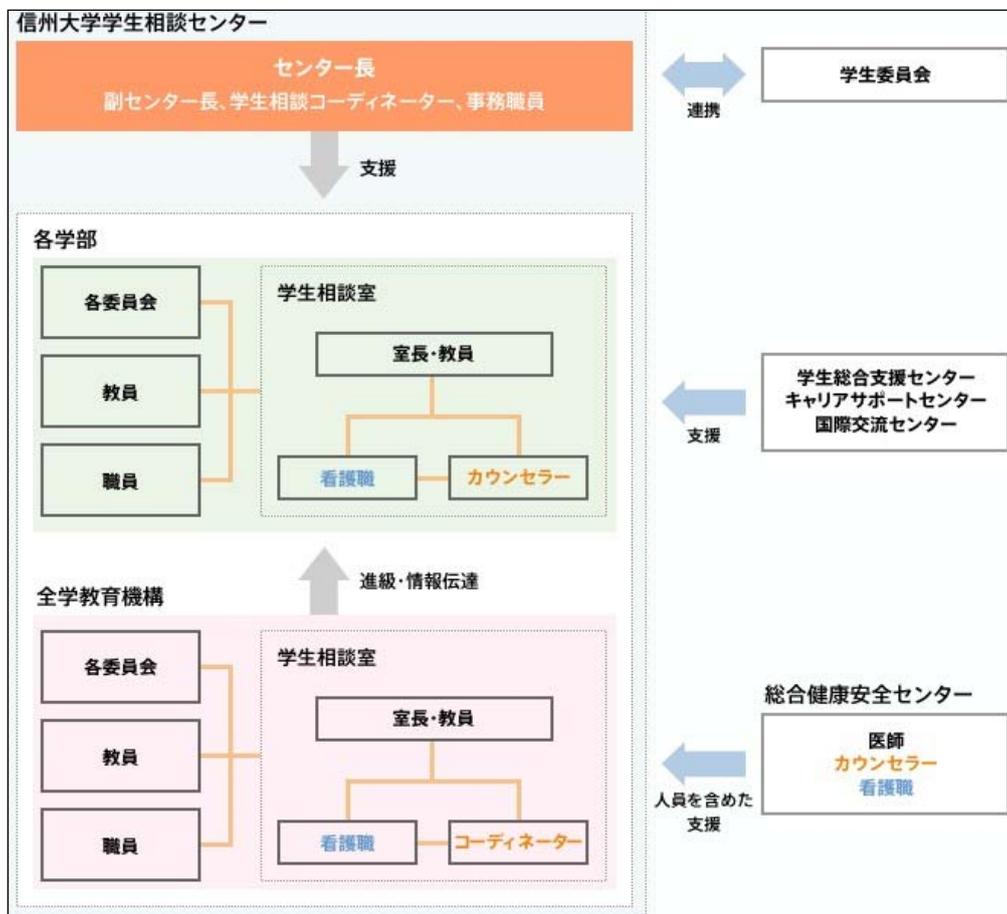
- a. 資料のコピー、保存 b. 教室のメンテナンス(空調、照明、施設等)
- c. レポート課題の作成・採点補助 d. 教材の作成補助 e. 実験・実習の準備

(出典：各学部等のデータを基に経営企画課にて作成)

4 学生相談体制の整備

平成 24 年度に学生相談センターが設置されるとともに、各学部等には学生相談室が置かれ、活用されている(資料農 32)。

資料農 32 学生相談センター及び学生相談室



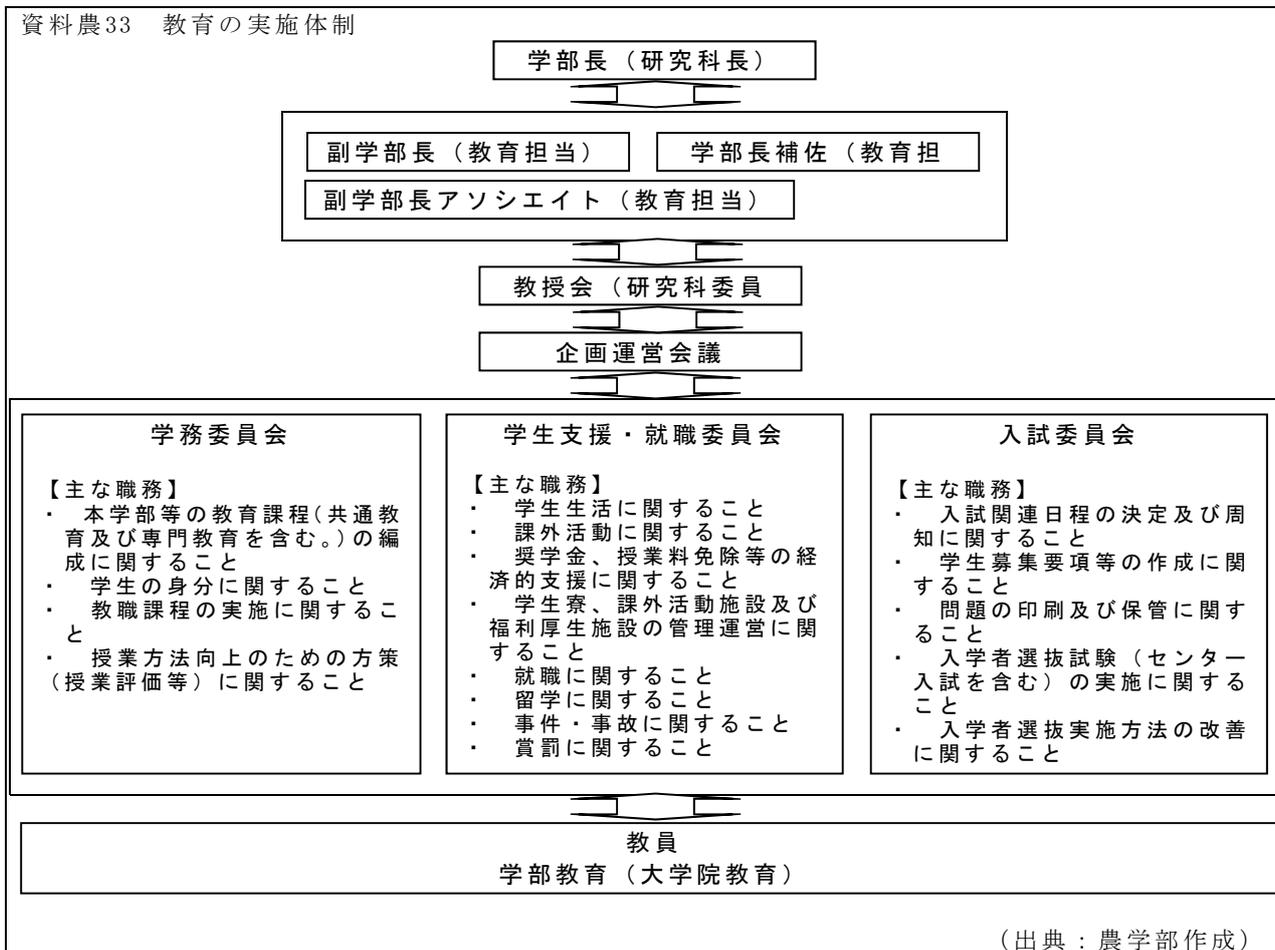


5 教育の実施体制及び教員の教育力向上

① 教育の実施体制

学務委員会等を設置し、教員の教育力向上を図っている（資料農33）。

資料農33 教育の実施体制



② 関係者のニーズの把握

学生、卒業生、雇用主、地域等の社会のニーズを各実施組織がアンケート、意見聴取等を実施し把握している（資料農 34）。

資料農34 関係者のニーズ把握

対象	実施方法	頻度	実施組織	目的・利用方法
新入生	入学時アンケート	1回／1年	アドミッションセンター	本学入試の現状を把握し、今後の入試改革に資する。
学生	Webによるアンケート	2回／1年	学務委員会	授業改善及び授業の工夫に繋げ教育の質の向上を図る。
卒業生	紙媒体によるアンケート	1回／1年	学務委員会	教育課程と教育内容をより良くし、教育の充実を図る。
雇用主・企業等	就職した企業等へのアンケート	1回／3年	学生支援・就職委員会	企業等が必要とする学生のニーズを把握する。
地域	自治体との連携協議会	1回／1年	農学部	地域社会が必要とする本学部のシーズを把握し、貢献に資する。

(出典：農学部作成)

③ 教育力向上のための取組

○FD講演会の開催

教員の教育力向上、メンタル面で不安を抱える学生や障害を持つ学生への適切な接し方、更には大学人としての倫理や研究を推進する上で必要とされる情報、知識など、テーマに幅を持たせ実施している（資料農35）。

資料農35 FD講演会の開催状況（教育関係）

実施年度	実施日	講師	FDテーマ	参加者数
平成22年度	10月14日(木)13:00~16:00	高橋知音(信州大学教育学部教授)	メンタルヘルス(含むハラスメント)について	13名
	6月14日(火)13:30~15:00	萩原素之(信州大学農学部教授)	学生の自主学習を促すためのIT活用	22名
	10月17日(月)13:30~15:00	松岡幸司(全学教育機構准教授)	FDとは? ~必要性と義務の間で考える~	25名
平成23年度	11月14日(月)13:30~15:00	加藤善子(高等教育研究センター准教授)	「教育の質」をどのように測るのかー教員業績評価書 今年度の対策講座ー	38名
	2月13日(月)13:15~14:45	加藤弘三(高等教育研究センター教授) 加藤善子(高等教育研究センター准教授)	本学にとって意義のあるGPA制度をめざしましょう	30名
平成24年度	5月21日(月)13:00~14:30	小田 佳代子(学生相談コーディネーター)	学生とのかかわり~ゲートキーパーとして~	34名
	6月25日(月)13:30~14:30	Kathleen T. Brinko先生(米国ノースカロライナ州アパラチアン州立大学・FDセンター長)	学生との接しかた 学習における情緒と認知の側面から	25名
	6月27日(水)10:40~12:00	萩原素之(農学部情報室長)	学生の自主学習を促すためのIT活用	8名
	10月15日(月)13:00~14:30	加藤善子(高等教育研究センター准教授)	信州大学の学生を知る	37名
	11月26日(月)13:00~15:00	高橋校長(松本予備校) 一之瀬副校長(松本予備校)	現代の学生気質及び外部から見た大学評価及び初年次教育から見た大学の取り組み及び入試状況	37名
	12月3日(月)13:00~14:30	片山綾乃(農学部カウンセラー)	チューター面談の振り返りと課題について	25名
	12月14日(金)13:00~14:30	萩原素之(農学部情報室長)	教育におけるICT活用に関するFD講習会	12名
	12月26日(火)9:00~10:30	萩原素之(農学部情報室長)	学生の自主学習を促すためのIT活用	8名
	1月8日(水)10:30~12:00	萩原素之(農学部情報室長)	学生の自主学習を促すためのIT活用	9名
	4月2日(火)9:00~10:15	片山綾乃(農学部カウンセラー)	メンタルに不安を抱えた学生に対してどう接するのか	18名
平成25年度	5月20日(月)13:00~14:30	庄司和史(全学教育機構准教授)	聴覚障害理解と学生支援	49名
	6月21日(金)10:40~12:00	萩原素之(農学部情報室長)	学生の自主学習を促すためのIT活用	10名
	8月6日(火)13:00~14:30	加藤弘三(高等教育研究センター教授)	GPA制度導入に際してのポイントや課題	16名
	12月10日(火)15:00~16:30	萩原素之(農学部情報室長)	学生の自主学習を促すためのIT活用	8名
	12月14日(水)15:00~16:30	高野嘉寿彦(全学教育機構副機構長) 花崎一夫(全学教育機構教授) 小松孝子(学務部学務課共通教育支援室室長)	共通教育における平成27年度カリキュラムの方向性について	11名
	12月18日(水)16:00~17:30	萩原素之(農学部情報室長)	学生の自主学習を促すためのIT活用	9名
	12月25日(水)13:00~14:30	加藤弘三(高等教育研究センター教授)	大学の生産的な文化の育成について	12名
平成26年度	1月29日(水)16:00~18:00	加藤弘三(高等教育研究センター教授) 加藤善子(高等教育研究センター准教授)	シラバスガイドライン改訂に伴うFD	28名
	4月2日(火)10:40~12:00	庄司和史(全学教育機構准教授)	聴覚への障害学生学習支援及びノートテイクへの説明会について	50名
	6月9日(月)13:00~14:30	下平薫子(農学部カウンセラー)	気になる学生への接し方のPoint	25名
	6月23日(月)15:00~16:00	萩原素之(農学部情報室長)	学生の自主学習を促すためのIT活用	18名
	9月29日(月)13:00~14:40	加藤善子(高等教育研究センター准教授)	大人数講義での効果的な授業の実施方法について	13名
	10月16日(木)13:00~14:30	谷塚 光典(e-Learningセンター) 長谷川 理(e-Learningセンター) 早水 美津子(e-Learningセンター) 内山 直美(e-Learningセンター)	教育におけるICT活用について	5名
平成27年度	1月13日(火)14:30~16:00	加藤弘三(高等教育研究センター教授)	シラバスガイドライン見直しに伴う留意点およびシラバスの書き方	17名
	12月9日(月)10:40~12:00	萩原素之(農学部情報室長)	学生の自主学習を促すためのIT活用	8名
	4月6日(月)14:00~15:30	庄司和史(全学教育機構准教授) 辻 琴音(信州大学農学部森林科学科学生)	聴覚障害学生支援の説明会	32名
	6月8日(月)13:00~14:30	藤田智之(農学部改組VWG座長)	農学部及び農学研究科改組後のカリキュラム及び運営等について	45名
	6月26日(金)13:00~14:30	萩原素之(農学部情報室長)	学生の自主学習を促すためのIT活用	12名
	6月29日(月)13:00~14:30	下平薫子(農学部カウンセラー)	メンタル面に問題のある学生の対応について	27名
	9月28日(月)13:00~14:30	国際交流担当職員(予定)	留学生受け入れの対応について	22名
	10月5日(月)13:00~14:30	加藤善子(高等教育研究センター准教授)	4学期制導入に伴う2コマ連続授業等における効果的な教育方法について	20名
	11月30日(月)13:00~14:30	加藤善子(高等教育研究センター准教授)	シラバスの書き方について	5名
	12月15日(火)13:00~14:30	萩原素之(農学部情報室長)	学生の自主学習を促すためのIT活用	12名
3月18日(金)13:00~14:30	篠田 直子(障害学生支援室長)	信州大学における障害学生への支援体制について	26名	

(出典：農学部作成)

○シラバスの点検

シラバスガイドライン（資料農36）に則り、学務委員会を中心に毎年、全シラバスの点検を実施し、必要に応じて改善を図っている（資料農37）。

平成 26 年 11 月 10 日

## 信州大学シラバスガイドラインの見直しについて

(平成 26 年 11 月 10 日第 17 回教務委員会決定, 平成 26 年 11 月 19 日第 138 回教育研究評議会報告)

このガイドラインは、信州大学で開講されるすべての授業のシラバスが備えるべき必須条件である。ただし、下記に記載する事柄をシラバスにおいて具体的にどのように表記するかについては、各学部学科の専門教育課程及び共通教育課程（以下、各学部）によって異なってくるため、より具体的な「シラバス作成の手引き」のようなものは、必要に応じて各学部において作成するものとする。

大学並びに各学部・学科等の定める『学位授与の方針』は、それぞれの教育課程の卒業生が卒業時に確実に身に付けていることが求められる能力・知識のリストであり、個々の授業は、学生が、大学並びに各学部・学科の『学位授与の方針』の能力・知識を身に付けるために配置されている。したがって、個々の授業が『学位授与の方針』のどの部分をどういう形で担っているのかをシラバスで明らかにするものとする。

『学位授与の方針』で定める能力・知識は、授業等を通して、学生が自分の努力によって手に入れるべきものである。シラバスでは、課題や小試験の内容と回数等、当該授業が担う『学位授与の方針』に至るまでに学生がしなければならないことを、学生が明確に理解できるように記述するものとする。特に、事前・事後学習のしかたについては、「受講生には、1 単位当たり「45 時間から授業時間を引いた時間量（下記の例参照）」の自主学習時間が課せられている」という『単位制度の実質化』の考え方に立ち、授業目標到達に向けて学生が何をしなければならないかを明確にする。その上で、それらが成績評価においてどのように扱われるのか、配点等を明らかにするものとする。

以上の考え方に立ち、以下の 6 項目を信州大学の授業のシラバスの必須記述項目とする。なお、シラバス作成に先立つ授業設計に当たっては、当該授業のカリキュラムの中での位置づけ・他の授業との関連を意識するものとする。

**①授業の基本的な情報**

授業名、担当者氏名、教室、開講日時（何曜日何時限目）、単位数、教科書、参考書。その他、各学部の必要に応じて記載する。

**②授業が担う大学並びに学部・学科等の『学位授与の方針』の項目と、授業の達成目標**

授業の達成目標は、この授業が担う『学位授与の方針』の項目をこの授業の言葉で言い換えたものとし、(知識面、スキル面、態度面の組み合わせで、またはいずれかの面で)「〇〇ができるようになる」という形を標準とする。

**③成績評価の方法**

受講者が②の達成目標に到達するために通っていく過程（課題や小試験等）と、到達したことを示すエビデンス（最終レポートや期末試験等）のそれぞれの内容と配点を記述する。

平成 26 年 11 月 10 日

**④成績評価の基準**

この項では、「何ができていれば、授業の達成目標の水準から見て『卓越している』／『かなり上にある』／『やや上にある』／『その水準にある』』と言えるのかを記述する。

筆記試験の場合の例：

授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」

レポートの場合の例：

(i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。(i) から (v) の 5 項目を満たしていれば「かなり上にある」。4 項目までできていれば「やや上にある」。3 項目までできていれば「水準にある」。

**⑤事前・事後学習に関する情報**

「受講生には、1 単位当たり『45 時間から授業時間を引いた時間量』の自主学習時間が課せられている」という『単位制度の実質化』の考え方に立ち、15 回の授業に対して受講生がしなければならない予習・復習も授業の一部であるものとして、その授業での事前・事後の自主学習に関する計画を記述する。

**⑥授業計画**

15 回の授業のおよその内容と順番、課される課題や小試験等のスケジュールを記述する。課題については、提出締切も示す。評価のための最終試験を行う場合は、15 回の授業とは別に行う。

**⑦履修上の注意**

当該の授業での教科書や参考書の利用方法、注意事項など

**⑧オフィスアワー及び授業担当者の連絡先**

## 農学部シラバス点検チェックリスト

シラバス点検を行った結果、下記のとおり修正がございました。つきましては平成 27 年 3 月 23 日（月）までに Web 上で修正をお願いいたします。

授業科目名： \_\_\_\_\_

【シラバス点検チェックシート】（該当すればチェックし、空欄に具体的内容を適宜記述してください。）

- 項目が記述されていません。  点検の結果、問題はありません。
- 「授業で得られる DP 要素」が 1 つまたは 2 つ選ばれていません。
- 「授業の達成目標」で「授業で得られる DP 要素」が授業内容に即していません。  
（「何を教えるのか」ではなく、「学生が何をできるようになるのか」という観点で書いてください）
- 「授業のねらい」と農学部の目的、科目の目的の対応が明確ではありません。
- 「授業計画・到達基準」で定期試験を含まずに 15 回の授業時間が確保されていません。
- 「授業計画・到達基準」が大雑把すぎ、学生が明確に授業のイメージを持ってません。
- 「成績評価の基準」に評価の手段、基準が記載されていません。  
（具体的な成績評価ポリシーが明確になっていません。）  
 出席(出席点, 出席回数)に関する記載があります。
- 「事前・事後学修の内容」に時間外学修の学修内容に関する記載がありません。
- 「教科書」が記載されていません。授業の性質により教科書を使用しない場合は、その旨記述してください。
- 「参考書」が記載されていません。授業の性質により参考書を使用しない場合は、その旨記述してください。
- 実習等の授業において、実習費等必要な経費がある場合、その経費を記載してください。
- その他

点検部門：学務委員会 点検者： \_\_\_\_\_

（出典：農学部作成）

### ○学生による授業評価

回答内容の質を維持しつつ、学生の負担が過度にならないよう、1 年度当たり約半数の教員を対象に実施し、各教員は 2 ヶ年度に 1 回評価を受ける体制としている。ICT を活用し、本学部において独自に開発したソフト（後掲資料農 72）により行っており、回答率は約 8 割を維持している。評価結果は各教員に通知されるとともに公表される（資料農 38）。

資料農38 学生による授業評価

〔質問項目〕

**授業改善のための学生アンケート質問項目(農学部)**

以下の質問に対し、自由記述を除いて、「強くそう思う」、「そう思う」、「  
いうとそう思う」、「どちらともいえない」、「どちらかというともう思わな  
う思わない」、「全くそう思わない」の7段階で回答

分類	質問項目
あなたの取組姿勢	この授業に対するあなたの取組姿勢を教えてください
	①よく予習した
	②復習をこまめにした
	③授業中、担当教員の話す内容に集中した
	④ほとんど休まず出席した
教員の取組姿勢	この授業に対する担当教員の取組姿勢について教えてください
	⑤教員の情熱や熱意が感じられた
	⑥授業に対する準備が十分になされていた
	⑦授業での話し方は明瞭で聞き取りやすかった
	⑧分かりやすい説明をしていた
	⑨効果的に板書、視聴覚教材、配布資料が使われていた
	⑩受講生の理解度を把握しながら授業が進行されていた
	⑪遅刻や早めに授業を切り上げるような事はなかった(30分以上)
授業内容	この授業の内容について教えてください
	⑫授業内容やシラバスの説明が十分なされた
	⑬予習復習の情報提供・指示が十分与えられた
	⑭探求の仕方・姿勢、知識や技術などの獲得に効果的であった
	⑮担当教員の学問的・専門的識見が感じられた
	⑯総合的に判断して、この授業に満足している
自由記述	この授業について改善すべきと思うことがありましたら書いてください
	この授業について教員が良い工夫をしていると感じられることがありましたら書いてください

〔実施年度毎の回答率〕

実施年度	回答率	
	前期	後期
平成22年度	88.9%	81.1%
平成23年度	79.6%	79.3%
平成24年度	79.7%	81.1%
平成25年度	74.6%	80.2%
平成26年度	74.0%	73.5%
平成27年度	81.3%	77.3%

(出典：農学部作成)

○ベストティーチャー賞とピアレビュー

学生による授業評価結果を集計し、学科ごとに最も得点の高い教員にベストティーチャー賞を毎年度授け、更なる教育の質の向上を喚起している（資料農39）。

加えて、当該教員の通常講義においてピアレビューを実施し、ピアレビューシートによるアンケートを実施するとともに、その結果を当該教員へ還元することで、教員相互の教育力の向上を図っている（資料農40）。

資料農39 ベストティーチャー賞

農学部ベストティーチャー賞選考等に関する申合せ

1. 趣旨

農学部の教育方針に沿って、多くの学生の支持を受けると共に、講義法に優れ、学生の修学指導に情熱をもって当たっている教員を年度末に選び、この教員に「ベストティーチャー賞」を授与し、表彰する。本制度の運用により、教育における質向上へ、一層の貢献を図ることを目的とする。

2. 対象者は次に該当する者とする。ただし、過去3年間に受賞した者を除く。

- ・当該年度に在職している者。
- ・当該年度に講義（実験・実習、ゼミ、専攻研究等は除く）を行っている者（非常勤講師を除く）。
- ・講義を複数で担当した場合は、3分の2以上の回を担当したことがシラバスで確認できる者。（オムニバス形式の授業は授業改善アンケートの対象とはするが、ベストティーチャーの対象とはしない。）

3. 選考基準及び方法は次のとおりとする。

選考基準	選考方法	評価方法
授業改善アンケート結果	集計後、平均値の算出結果による。なお、学生回答数が一定以上 <sup>(注1)</sup> あった授業科目で、5.50以上を対象とする。	0～7点
シラバスがガイドラインに沿って作成されているか	学務委員会によるチェックを行う。	適・不適
毎回の講義における出欠状況の確認	候補教員による自己申告に基づく。 (学科学務委員による確認)	適・不適
欠席の多い学生に対する指導・対応の実態と方法	候補教員による自己申告に基づく。 (学科学務委員による確認)	適・不適

(注1)回収率 50%以上とする。この値はアンケート回答率の実情を見て、見直す。

(選考方法)

- ①上記選考基準により評価し、評価の高い者を各学科から1名程度推薦する。
- ②機能性食料開発学専攻及びアルプス圏フィールド科学教育研究センターの教員は、各々の学部教育担当学科に含め、推薦対象とする。
- ③学科からの推薦を受けた候補者を対象として、学務委員会にて候補者を決定し、企画運営会議へ報告する。
- ④選考基準に満たない等の場合には、候補者ならびに受賞者を選考しないこともある。

4. 表彰等について

ベストティーチャー賞に選ばれた教員に対しては、教授会へ報告しこれを称え、賞状を授与する。また、ベストティーチャーに選ばれた教員が担当する1授業を翌年度に公開し、ピアレビューを行う。

平成26年6月17日  
第2回学務委員会決定

(出典：農学部作成)

資料農40 ピアレビュー

ピアレビューシート

■授業科目：木材理学 月 日（ ） 限

■担当教員：

○印をつけるか、あるいは具体的に記入してください。

1. この講義において、どのような点をよいと思い、自分の講義の参考になると感じましたか

- ・ 講義の組み立て方、講義の工夫
- ・ 教材について
- ・ 教材の使い方
- ・ 学生の理解力、思考力、論理力をやしなわせる方法
- ・ その他

( )

2. この講義において、改善するための提案はありますか？

- ・ 講義の組み立て方、講義の工夫
- ・ 教材について
- ・ 教材の使い方
- ・ 学生の理解力、思考力、論理力をやしなわせる方法
- ・ その他

( )

3. この講義に対する感想・意見等

( )

参加者氏名：

(出典：農学部作成)

○卒業生アンケート

平成24年度から、卒業生を対象とした「共通教育及び農学部の専門教育に関する調査」を実施している。調査結果は教育改善のための基礎的データとして活用している（資料農41）。

資料農41 卒業生アンケート

〔質問項目〕

### 共通教育及び農学部の専門教育に関する調査質問項目

#### 【共通教育について】

質問	回答項目
1. 共通教育を受けることで自分の世界が広がった	① あてはまらない(強くそう思わない) ② どちらかというにあてはまらない(そう思わない) ③ どちらでもない ④ どちらかというにあてはまる(そう思う) ⑤ 非常にあてはまる(強くそう思う)
2. 共通教育を学んだことによって、学部を越えた友人ができた	
3. 基礎科学科目(数学、物理、化学、生物、地学)を履修した	
4. 基礎科学科目(数学、物理、化学、生物、地学)で得た知識は専門課程の学習を始めるにあたって役に立った	
5. 共通教育で教養科目が高年次に開講されたら、受講したかった	
6. 共通教育で語学科目が高年次に開講されたら、受講したかった	

#### 【農学部の専門教育について】

質問	回答項目
7. 学部の過程は総合的に見て満足のいくものであった	① あてはまらない(強くそう思わない) ② どちらかというにあてはまらない(そう思わない) ③ どちらでもない ④ どちらかというにあてはまる(そう思う) ⑤ 非常にあてはまる(強くそう思う)
8. 専門的な知識が身につく授業が多かった	
9. 新しい分野の勉強ができる授業が多かった	
10. 資格取得に役立つ授業が多かった	
11. 選択できる授業が豊富に用意されていた	
12. 社会に出て役立つような授業が多かった	
13. 視野を広げるのに役立つ授業科目が多かった	
14. 各授業の人数は授業内容に対して適切であった	
15. 成績評価の方法はおおむね適切であった	
16. 学生の参加を積極的に促す授業が多かった	
17. わかりやすい授業が多かった	
18. 理解度など、学生の反応をみながら進められる授業が多かった	
19. 学習意欲や興味が増すように工夫されていた授業が多かった	
20. 授業内容の必要性や位置づけをはっきりと示してくれる授業が多かった	
21. 重要なポイントをはっきりと示してくれる授業が多かった	
22. 学問分野の専門家として優れた先生が多かった	

#### 【農学部での教育・学習環境について】

質問	回答項目
23. 職員の窓口対応は十分に親切であった	① あてはまらない(強くそう思わない) ② どちらかというにあてはまらない(そう思わない) ③ どちらでもない ④ どちらかというにあてはまる(そう思う) ⑤ 非常にあてはまる(強くそう思う)
24. 就職・進学支援は十分におこなわれていた	
25. 図書館では十分なサービスを受けることができた	
26. 図書館の蔵書が充実していた	
27. インターンシップ制に積極的に取り組んだ	
28. 施設・設備は充実していた	
29. 情報ネットワークが整備されていた	
30. この学部への進学を後輩・知人に勧めたい	
31. 専攻研究を行って満足感、達成感があった	
32. 教員の卒業研究指導は満足のいくものであった	

質問	回答項目
授業時間以外での学習場所(複数回答可)	1. 自宅や寮の自室 2. 図書館 3. 生協の食堂 4. ラウンジ 5. 研究室 6. 空き教室やコンピューター室 7. キャンパス内のその他の場所 8. キャンパス外の場所(自宅や寮を除く)

質問	回答項目
一週間当たりの授業時間外学習時間	1. 0時間 2. 1時間未満 3. 1～2時間 4. 3～5時間 5. 6～10時間 6. 11～15時間 7. 16～20時間 8. 20時間以上

質問	回答項目
一か月あたりの平均既読冊数(マンガ雑誌を除く)	1. 0冊 2. 1冊 3. 2～4冊 4. 5～7冊 5. 8～10冊 6. 11冊以上

質問	回答項目
今後、専門教育において必要と思われる事項(複数回答可)	1. 専門教育にかかる講義科目の充実 2. 実験・実習の科目の充実 3. ゼミの充実 4. プレゼンテーション能力を身に付けさせる教育の充実 5. インターンシップ(学外実習)の充実 6. 専門資格の取得教育の充実 7. その他

質問	回答項目
教育研究活動以外で農学部に充実して欲しい事項(複数回答可)	1. 入学後におけるガイダンスの充実 2. 1年次の合宿研修等の充実 3. 精神面におけるアフターケア(メンタルヘルスの充実) 4. ハラスメントの防止 5. 課外活動に対する援助 6. オフィスアワーの充実 7. その他

質問	回答項目
農学部在学中に教育・研究活動以外で役立ったと思われる事項(複数回答可)	1. 友人関係 2. サークル活動 3. 地域社会での活動(ボランティア) 4. 外国人留学生との交流 5. その他

質問	回答項目
教育・カリキュラム等全般について	自由記述

[実施年度毎の回答率]

実施年度	回答率
平成24年度	39.4%
平成25年度	59.3%
平成26年度	54.9%
平成27年度	83.5%

(出典：農学部作成)

## ○ 共通教育の取組

機構では、教育の質の改善・向上を図るため、評価分析室機構分室会議を中心に授業改善アンケート等を実施している（資料農42、43）。

## 資料農42 学生による授業改善アンケート

2015年（平成27年）10月8日

## 平成27年度前期全学教育機構「学生による授業改善アンケート」の結果

評価分析室全学教育機構分室

全学教育機構では、平成27年度前期に中間アンケートを行い、学生の要望を確認し、後半の授業が行われた。本結果は、期末に実施されたものによる。

平成27年度前期期末「学生による授業改善アンケート」は、以下の2とおりの方法により実施された。

- a. 総合人間科学系所属の各教員が担当する授業について授業中に用紙に記入する。
- b. 全授業題目を対象としてウェブ上で記入する。

アンケートの質問項目は、用紙・ウェブともに以下のとおりである。

## ＜アンケート質問項目＞

1. この授業を履修するにあたり、自分には基礎的な知識があった(5択)
2. あなたの、この授業への出席率は高かった(5択)
3. あなたは、この授業中、教員の説明を熱心に聞いた(5択)
4. あなたは、この授業時間外に、授業内容を理解するための努力をした(予習・復習等)(6択)  
※4.の選択肢(週4時間以上、週3～4時間、週2～3時間、週1～2時間、週1時間未満、全くしない)
5. 教員は、熱意・意欲をもって授業を行っていた(5択)
6. 教員の話し方は、明瞭で聞き取りやすかった(5択)
7. 教員は、板書・資料・スクリーン等を見やすく示していた(5択)
8. 教員は、シラバスの各項目に沿って授業をした(5択)
9. 教員は、授業時間外の学習について、適切に指導した(シラバスでの参考文献の提示等)(5択)
10. 教員は、学生の理解度(小テスト、リアクションペーパー、口頭など)を確認しながら進めた(5択)
11. この授業では、授業の大切なポイントが示され、授業の目標に到達することができた(5択)
12. この授業に満足している(5択)
13. この授業について、改善すべきと思う事、教員が工夫をしていると思う事、その他、意見、要望等がありましたら、書いてください(自由記述)

アンケートの結果は、部門長および評価分析室機構分室員が内容について検討・解析した。以下に回答について、科目群ごとにその結果を報告する。(用紙を使ったアンケートの結果についても、ウェブに取込して集計されている。)

## 1. 全体に関する結果

紙媒体によるアンケート実施クラス数を増やしたので、今年度(2015年度)前期の機構授業に対する授業改善期末アンケートの回答率は、2014年度前期の数字と対照させる(2014年、2015年の回答率の順序)と、講義全体：50%, 54%, 演習全体：41%, 49%, 外国語全体：46%, 79%, 実験・実習全体：56%, 76%へと、全ての科目群で増加した。期末アンケートの講義科目、演習科目、外国語科目の集計結果は、図1～3の通り。

図1【講義科目】

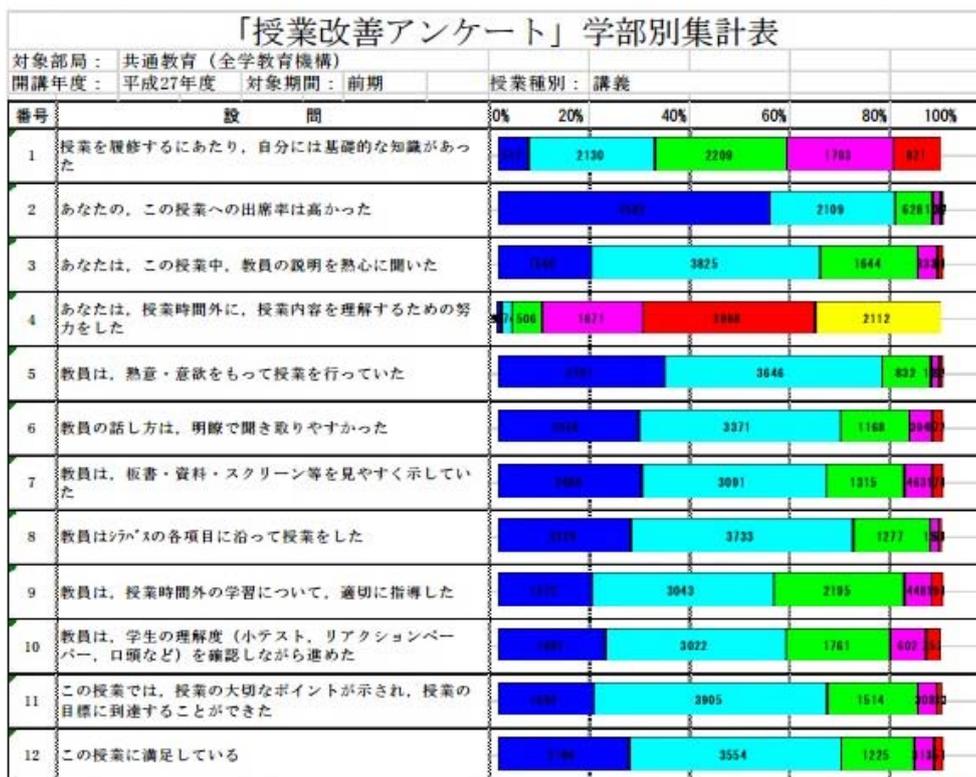
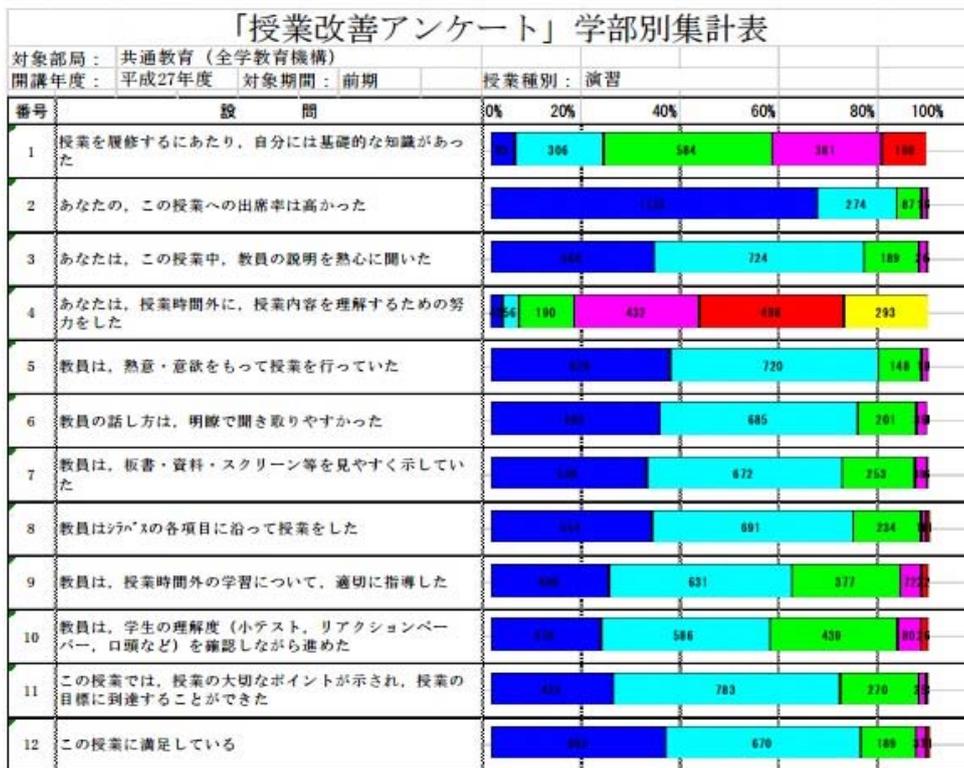


図2【演習科目】



(出典：平成27年度前期 共通教育「学生による授業改善アンケート」の結果)

資料農43 共通教育グッドプラクティス

全学教育機構では、企画実施する信州大学の共通教育の教育改善に資するため、すべての共通教育開講科目の中から、優れた実践を「共通教育グッドプラクティス」として毎年選定することとしています。これは、共通教育科目における、優れた取組を表彰し、内容およびその成果をあらゆる機会を捉えて全学に広め、もって共通教育さらに本学教育全体の改善への一助とするものです。

選定の流れ

1. テーマ決定

「効果ある授業方法」を中心として、当該年度の募集テーマを決定します。

2. 公募

テーマに沿って、共通教育で開講する全科目あるいは科目群（複数科目の連携の場合）を対象に、自薦・他薦を問わず募集します。

3. 応募授業のピアレビュー

応募された取組については、全学教育機構ホームページに掲載し、全学の教員に一定期間ピアレビューを推奨します。

4. 審査

全学教育機構教務委員会において行います。

5. 選定授業担当者による取組発表

取組発表会を実施し、選定授業担当者により、取組の概要と要点を発表していただきます。また、表彰式も行われます。

年度	テーマ
H22	信州大学のDPを実現するための共通教育における授業の実践的取組（1つの学位授与の方針（DP）を取り上げ、その実現に向けた、特に効果的な教育実践）
H23	人間力向上に向けた取組（コミュニケーション力・言語力・論理構成力の向上に向けた取組）
H24	男女共同参画の推進に向けての取組
H25	授業外学修時間を増やす取組
H26	地域課題実践授業の試み
H27	テーマ① 大学における教育内容・方法の改善等について テーマ② アクティブ・ラーニングについて

（出典：全学教育機構提供資料もとに経営企画課作成）

6 入学者選抜の工夫

森林科学科では、これまで書類選考、模擬講義（小テスト）、模擬演習（レポート作成）及び面接によるA0入試を実施してきたが、より柔軟性のある選抜方法への見直しを図り、平成27年度入試から、模擬講義による学力試験及び面接に変更した（資料農44）。

資料農44 A0入試内容の変更

農学部森林科学科において、次表のとおり選抜方法を変更した。

学部・学科等名		平成26年度
農学部	森林科学科	大学入試センター試験を免除します。 選抜は、第一次選抜と第二次選抜に分けて行います。第一次選抜の合格者に対して、面接を含む実地試験による第二次選抜の結果を総合して選考し、合格者を最終的に決定します。 (1) 第一次選抜：自己推薦書・志望理由書により行い、募集人員の3倍を超えない範囲で合格者を決定します。 (2) 第二次選抜：第一次選抜の合格者に対して行います。実地試験（a. 模擬講義を受講しての小テスト、b. 模擬演習・実習とレポート作成、c. 個別の面接）によって選考します。実地試験では、フィールドにおける視察力、講義の理解力、レポートの作成能力等を評価します。



学部・学科等名		平成27年度
農学部	森林科学科	大学入試センター試験を免除します。 選抜は、第一次選抜と第二次選抜に分けて行います。第一次選抜の合格者に対して、第二次選抜を行い、合格者を最終的に決定します。 (1) 第一次選抜： <b>実地試験（模擬講義を受講しての基礎的な学力試験と面接）により、募集人員の2倍程度の合格者を決定します。</b> (2) 第二次選抜：第一次選抜の合格者に対して行います。実地試験（ <b>模擬演習・実習によるレポート作成と面接</b> ）によって選考します。

（出典：「平成27年度入学者選抜要項」記者発表資料）

推薦入試において、募集人員の拡大、高等学校等の1校当たりの推薦枠の撤廃等を段階的に行っている（資料農45）。

資料農45 推薦入試の実施状況及び出願資格

年度	学科等	募集人員	計	備考
平成22年度	食料生産科学科	10	34	
	森林科学科	12		
	応用生命科学科	12		
平成23年度	食料生産科学科	10	34	
	森林科学科	12		
	応用生命科学科	12		
平成24年度	食料生産科学科	12	36	食料生産科学科において1校あたりの推薦枠を撤廃
	森林科学科	12		
	応用生命科学科	12		
平成25年度	食料生産科学科	12	36	
	森林科学科	12		
	応用生命科学科	12		
平成26年度	食料生産科学科	12	36	
	森林科学科	12		
	応用生命科学科	12		
平成27年度	生命機能科学コース	10	36	1校あたりの推薦枠をすべて撤廃
	動物資源生命科学コース	8		
	植物資源科学コース	10		
	森林・環境共生学コース	8		

（出典：「平成24年度、27年度入学者選抜要項」記者発表資料）

## 2. 出願資格及び推薦要件

次の各号に該当するほか、学力、人物が優れ、かつ、志望学科・コースに対して強い関心と学習意欲を持ち、高等学校（中等教育学校及び特別支援学校の高等部を含みます。以下この学生募集要項において単に「高等学校」といいます。）の長（以下「学校長」といいます。）が責任を持って推薦できる方とします。

- (1) 高等学校を平成26年4月1日から平成28年3月31日までに卒業した方又は卒業見込みの方
- (2) 全体の評定平均値が4.0以上の方

(出典:平成28年度信州大学農学部推薦入試学生募集要項)

平成27年度入試から、一般入試後期日程の個別学力検査において試験科目を「面接」に統一した（前掲資料農20、p15、16）。

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

- ・ カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーを明確化するとともに、共通教育科目・専門科目の設置において、入学から卒業に向けて、段階的に幅広い総合科学の知識と農学に関する基礎知識、応用力・実践力を身につける教育体制ができており（資料農3、4、10、11、13、14）、想定するすべての関係者の期待に込めている。
- ・ 学生相談室の充実（カウンセラーの常駐）を進めるとともに、正・副担任等教員による面談を適宜実施するなど、学習・教育環境を支える全学的なサポート体制ができており（資料農25、32、33）、在学生、保護者の期待に込めている。
- ・ 教育の実施にあたり各種アンケートの実施と分析を行い、教員の教育力向上や、教育内容・方法を改善するための体制が構築され、多面的な内容でのFD講演会の開催されており（資料農34、35）、想定するすべての関係者の期待に込めている。
- ・ 学生による授業改善アンケートによると、ICTの活用により高い回答率を維持し、教員へのフィードバック及びベストティーチャー受賞教員によるピアレビューを行うなど、授業内容及び方法における改善を実施する体制ができており（資料農38～40、42）、在学生、保護者の期待に込めている。



資料農47 シラバスの一例

登録コード	A3146	県内大学開放授業			市民開放授業		
授業科目	食品衛生学			担当教員	千 菊夫		
英文授業名	Food Hygiene				田淵 晃・田中 沙智		
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	月曜・1時限	対象学生	2年
		授業形態		講義	備考	授業代表者内線電話:2501	

①授業のねらい  
 授業で得られる1学位授与の方針。要素/◎：全学共通  
 ・生命・食品科学分野において、化学的・生物学的視点から、社会的発展に貢献できる能力を修得している

【授業の達成目標】

- ・食品衛生が社会で果たす役割と食品衛生関連法規について説明できる。
- ・食品の安全性を危うくする要因や食品に潜むリスクについて科学的に説明できる。
- ・食品の安全性を確保し安全安心な食生活を保つための方策を説明できる。

【授業のねらい】

健康な生活を送るための基本となる食品について、その安全性を主に衛生という観点からとらえ、より安全な充実した食生活を送るための基礎的な知識を習得します。

(2)授業の概要

幅広い食品衛生学の中から、特にその考え方、対処法の基礎となる部分を重点的に取り上げ、将来、いろいろな形で直接あるいは間接に食品に関連することを考える立場になったときに、その実践の基礎となる事柄についてできるだけ具体例をもって解説します。

なお、本授業は、3名の教員によるリレー式講義（全15回）と期末試験（第16回）で構成されています。

(3)授業計画

1. 食生活と健康リスク（田中）
2. 食品衛生関連法規と社会変化（丁）
3. 食品と微生物：微生物の概要、分類、原核微生物（田淵）
4. 食品と微生物：真核微生物、ウイルス、朊毒（田淵）
5. 食中毒と感染症：食中毒の概要、分類、食発生状況（田中）
6. 食中毒と感染症：細菌性食中毒（田淵）
7. 食中毒と感染症：ウイルス性食中毒（田淵）
8. 食中毒と感染症：化学物質・自然毒による食中毒、アレルギー様食中毒（田中）
9. 有害物質による食品汚染：化学物質、重金属、カビ毒（田淵）
10. 有害物質による食品汚染：抗生物質と合成抗菌剤、ホルモン剤他（田中）
11. 食品添加物（千）
12. 食品と寄生虫（田中）
13. 食品と異物・害虫（千）
14. 食品衛生対策：食中毒の予防、調理場などの食品取扱い施設での衛生確保（千）
15. 食品衛生対策：食品の変質防止、異物混入対策、HACCPの導入（丁）
16. 期末試験（田中）

（出典：シラバス）

## 2 専門科目と共通教育科目

本学の授業は、学則により共通教育科目と専門科目に区分している（前掲資料農12、p10）。

1年次に共通教育と農学全般の基礎教育（専門教育の一部）を修得し、2年次以降は各コースの専門教育へと段階的に履修する構成になっている。

### ① 専門科目

平成27年4月の改組（前掲資料農10 [p9]、11 [p10]）により、分野横断型の履修指導体制を強化し、ローカル及びグローバルに活躍できる人材養成に対応している。

さらに、これまで上げてきた高度専門技術者の養成実績を損なうことなく、体系的な履修の強化を図るため、4つの専門教育コース（主専攻）を設けた。この改編により、これまで培ってきた本学部における農学教育を更に発展させつつ、一層充実した教育体系を構築することができるようになった（資料農48、49）。

資料農48 各コースの卒業までの履修科目

生命機能科学コース

4年次	先設領域特別講義 専攻研究Ⅱ 専攻研究Ⅲ	Applied Life Science プレゼンテーション演習Ⅱ
	食品化学系実験 微生物学系実験 生体反応化学 天然物ケミカルバイオロジー 機器分析化学 栄養化学 食品衛生学 食品製造学 免疫科学 遺伝子工学	畜産資源科学 応用微生物学
3年次	プレゼンテーション演習Ⅰ 専攻研究Ⅰ 他	科学英語Ⅰ、Ⅱ 海外農学実習
	信州農学概論 遺伝学 生物統計学 分子生物学 生物分析化学 酵素化学 代謝生化学	生物物理化学 有機化学Ⅱ 有機分析化学 食品化学 分子細胞生物学 微生物学 きのこ科学
2年次	生物系基礎実験 統計情報処理演習 生化学・分子生物学系実験 ボランティアⅠ～Ⅳ (2～4年生対象) インターンシップⅠ～Ⅲ (2～4年生対象)	国際農学概論 アカデミック・イングリッシュⅠ、Ⅱ 国際農学実習Ⅰ～Ⅱ (1～4年生対象) 国際農学演習Ⅰ～Ⅱ (1～4年生対象)
	生命科学概論 農学入門 教養科目、健康科学科目、新入生ゼミナール 他	国際農学講義Ⅰ～Ⅴ (1～4年生対象) フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ 等
1年次	生命科学概論 農学入門 教養科目、健康科学科目、新入生ゼミナール 他	国際農学講義Ⅰ～Ⅴ (1～4年生対象) フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ 等

動物資源生命科学コース

4年次	先設領域特別講義 専攻研究Ⅱ 専攻研究Ⅲ	Animal Science プレゼンテーション演習Ⅱ
	家畜品種論 免疫科学 食品製造学	草地生態学 野生動物学 アニマルウェルフェア科学 統計演習
3年次	動物資源生産学実験 専攻演習 プレゼンテーション演習Ⅰ 専攻研究Ⅰ 他	海外農学実習 科学英語Ⅰ、Ⅱ
	信州農学概論 動物解剖生理学 動物遺伝育種学 飼料学 畜産物利用学	生物統計学 生物分析化学 動物生理学 動物栄養学 動物衛生学 動物管理学 畜産微生物学
2年次	動物資源化学実験 動物生産システム実習Ⅰ・Ⅱ ボランティアⅠ～Ⅳ (2～4年生対象) インターンシップⅠ～Ⅲ (2～4年生対象)	アカデミック・イングリッシュⅠ、Ⅱ 国際農学実習Ⅰ～Ⅱ (1～4年生対象) 国際農学演習Ⅰ～Ⅱ (1～4年生対象)
	農学入門 牧場体験ゼミ 生化学	動物資源生命科学概論 動物と私たちの暮らし 生物学、一般科学Ⅰ
1年次	教養科目、健康科学科目、新入生ゼミナール 他	フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ 等

植物資源科学コース

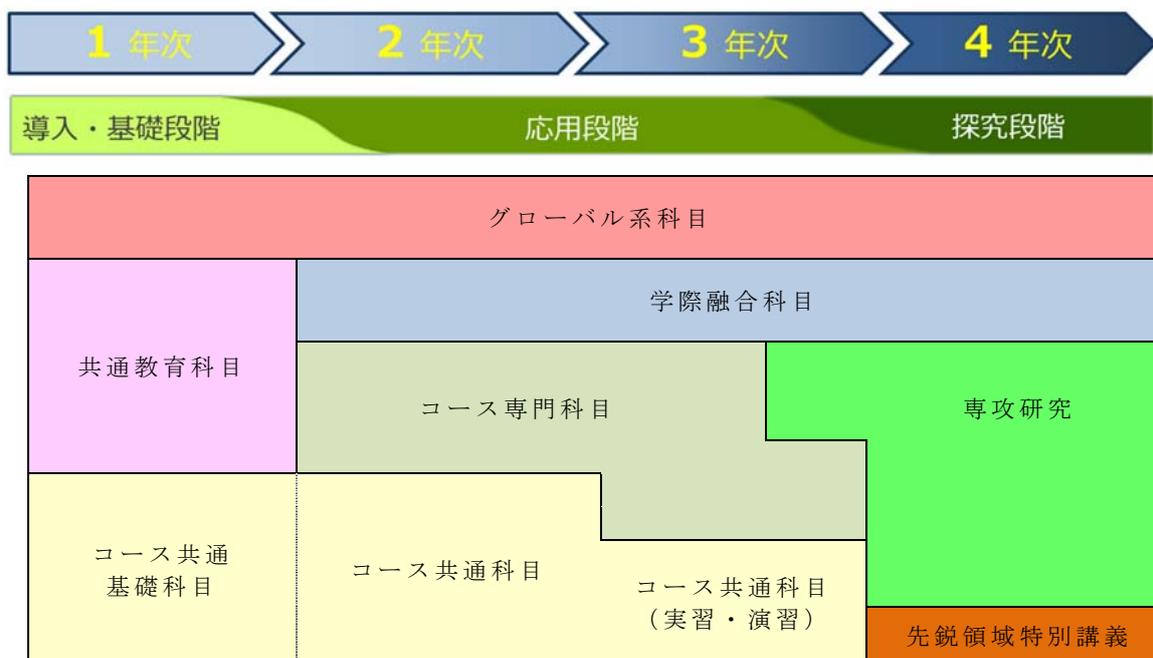
4年次	先設領域特別講義 専攻研究Ⅱ 専攻研究Ⅲ	Plant Science プレゼンテーション演習Ⅱ
	蔬菜園芸学 果樹園芸学 植物病理学 植物バイオテクノロジー 植物園気象学	花卉園芸学 青果品質保全学 農業経済学 植物園気象学
3年次	植物資源科学実験Ⅱ 植物生産一貫実習Ⅲ 統計情報演習 専攻演習 プレゼンテーション演習Ⅰ 専攻研究Ⅰ 他	海外農学実習 科学英語Ⅰ、Ⅱ
	信州農学概論 植物遺伝育種学 高冷地生産管理学 植物資源科学基礎実験 植物生産一貫実習Ⅰ・Ⅱ ボランティアⅠ～Ⅳ (2～4年生対象) インターンシップⅠ～Ⅲ (2～4年生対象) 他	国際農学概論 アカデミック・イングリッシュⅠ、Ⅱ 国際農学実習Ⅰ～Ⅱ (1～4年生対象) 国際農学演習Ⅰ～Ⅱ (1～4年生対象) 国際農学講義Ⅰ～Ⅴ (1～4年生対象)
1年次	農学入門 食と植物の文化論 教養科目、健康科学科目、新入生ゼミナール 他	フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ 等

森林・環境共生学コース

4年次	先設領域特別講義 専攻研究Ⅱ 専攻研究Ⅲ	Forest Science プレゼンテーション演習Ⅱ 科学英語Ⅰ、Ⅱ 海外農学実習
	森林利用学 環境統計学演習 森林計測・GIS演習 遊歩道 森林利用デザイン演習 緑地設計演習	森林育種学 造園学 緑地保全学 森林生態学演習 構造力学演習 土木材料学演習 農村整備演習 杉木統合演習
3年次	専攻演習 プレゼンテーション演習Ⅰ 専攻研究Ⅰ	国際農学概論
	信州農学概論 野生資源植物学 測量学 森林生態学 木材組立学 山村計画学	生物統計学 森林経営・経済学 森林水文学 造園学
2年次	野生植物生態基礎演習 測量学実習 木工工学演習	アカデミック・イングリッシュⅠ、Ⅱ 国際農学実習Ⅰ～Ⅱ (1～4年生対象) 国際農学演習Ⅰ～Ⅱ (1～4年生対象)
	キャリアデザイン ボランティアⅠ～Ⅳ (2～4年生対象) インターンシップⅠ～Ⅲ (2～4年生対象)	国際農学講義Ⅰ～Ⅴ (1～4年生対象)
1年次	農学入門 森林・環境共生学概論 土質および水環境学	フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ 等

(出典：信州大学農学部ホームページ「学科・コース案内」から抜粋)

資料農49 履修モデル



※ 副専攻修了要件

卒業の認定を受け、かつ副専攻プログラムに係る学際融合科目の単位を16単位以上修得しなければならない。

〔説明〕

○コース共通基礎科目、コース共通科目（1～2年次：基礎段階）

1年次は、各専門分野に必要な最低限の知識とスキルを修得するために、コース共通基礎科目として物理学、化学、生物学等の専門科目の基礎を学習する。また、「農学入門」及び各分野の概論科目を受講する。学生は所属コースの概論並びに他コースの概論科目を1科目履修することにより、特定分野を越えた、学際的・総合的マインドを醸成する。

2年次は、生命科学を基盤とした基礎知識や技術を理解するため、コース共通科目として、「遺伝学」、「分子生物学」、「生物分析化学」、「生物統計学」、「野生資源植物学」等を履修し、生命科学分野の基礎を学習する。また、「信州農学概論」では中山間地を含む地域の抱える課題を共有し、課題解決に向けた地域への関心を深める。さらに、フィールドを中心とした実習及び演習により、自然豊かな環境を利用した生物資源生産並びに利活用の体験を行う。

○コース専門科目（2～4年次：応用段階～探究段階）

2年次に進級した学生は、所属するコース（主専攻）の専門科目を履修する。ここでは、専門的な知見と技能を培うための各種講義、演習、実験、実習を受講する。実験、実習、演習科目等においては少人数・双方向性の高い授業展開を実施する。3年次後期より、所属するコースまたは副専攻コースの研究室に所属し、各自に与えられた研究テーマについて、修得した専門知識や方法・技術を用い、主体的に研究を実施して、学修の集大成として卒業論文をまとめる。一連の研究活動を通して、未知の問題を解決するための方法論も修得する。

○学際融合科目（2年次以降：応用段階～探究段階）

学生は、所属するコースの講義科目以外に、コースが指定した学際融合科目を履修し、専門分野以外の知識を修得する。学際融合科目を履修することで、個別の分野に捉われない幅広い履修が可能となり、生命科学を基盤とした学際的な知識や技能を修得し、専攻研究の分属の幅を広げ、大学院（修士課程）進学への意欲向上につながる。

○グローバル系科目

1年次に基礎英語（フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ等）、2年次に「アカデミック・イングリッシュⅠ、Ⅱ」及び「国際農学概論」、3年次に「科学英語Ⅰ、Ⅱ」を受講する。4年次の「専攻研究」においては、ゼミや研究発表会における英語でのプレゼンテーション等を導入している。さらに、国際化・グローバル化に対応するため、3年次以降も継続して専門英語の講読や英語での講義「Applied Life Science」、「Animal Science」、「Plant Science」、「Forest Science」、プ

プレゼンテーション能力の向上を目的とした「プレゼンテーション演習」を設定し、全コースを通じ一定水準以上の外国語運用能力を培う。

○先鋭領域特別講義

4年次に、先鋭領域融合研究群（山岳科学研究所、バイオメディカル研究所）の教員により、農学・生命科学分野の最新の研究についての理解を深め、大学院（修士課程）進学への意欲向上につなげる。

（出典：農学部作成）

② 共通教育科目

学士課程共通の学位授与の方針に基づき開講し、カリキュラム・マップ、シラバスにより授業で得られるこの方針の要素を学生に明示している（資料農50～52）。

資料農50 信州大学学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

信州大学は、豊かな自然環境と、伝統ある歴史と文化に恵まれた信州に立地する大学です。本学では、かけがえのない自然や文化を愛する気持ちをもって、人類文化・思想の多様性を受け入れ、豊かなコミュニケーション能力を持つ教養人であるとともに、高度な専門知識と能力を備えて自ら課題を発見し、その解決にむけて挑戦する心をもった個性的な人材を育てることを理念・目標に掲げています。本学は、この理念・目標を踏まえて、以下に示す資質、知識や能力を、共通教育（教養教育、基礎教育）、専門教育及び課外活動を含む大学内外での幅広い教育活動を通じて培うこととし、ここに本学の学士課程に共通する学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）を定めます。

豊かな人間性

- ・ みずからを他者や社会との関わりの中かで捉え、自己啓発に努めることができる【自己認識・自己啓発マインド】
- ・ 理想や倫理観をもって社会の平和的・持続的発展のために行動できる【社会的行動マインド】

人類知の継承

- ・ 人類の知を継承し、それらの成果の上に立って未来について創造的に考えられる【人類知の継承と未来創造マインド】
- ・ 世界の多様な文化、思想、歴史、芸術に関する幅広い素養がある【多様な文化受容マインド】
- ・ 科学諸分野の歴史やその成果に関して幅広く理解できる【科学リテラシー】

社会人としての基礎力

- ・ 日本語および外国語を用い、的確に読み、書き、聞き、他者に伝えることができる【言語能力】
- ・ 対話を通じて他者と協力し、目標実現のために方向性を示すことができる【コミュニケーション能力、チームワーク力、リーダーシップ】
- ・ 多様な情報を適切に取捨選択し、分析・活用できる【情報活用力】
- ・ みずから問題を見出し、すじみちを立てて解決できる【問題発見・解決能力】

科学的・学問的思考

- ・ 自然や社会の現象を普遍的な尺度や数量的指標を用いて理解できる【普遍的・数量的理解力】
- ・ 専門学問分野における知識・技能を備え、それらを応用できる【専門知識と応用力】
- ・ 専門以外の他分野に関する体系的な知識や素養がある【専門外の知識】

環境マインド

- ・ 信州の自然・文化的環境への興味と関心をみずから深めることができる【地域環境に関する理解】
- ・ 自然および人類社会が直面している環境問題を理解することができる【環境基礎力】
- ・ 地球環境と人類文化との調和・共生のため、積極的に行動することができる【環境実践力】

（出典：信州大学ホームページ「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」）

資料農51 カリキュラム「学位授与の方針」マップ

「学位授与の方針」マップ

検索条件を指定して「検索」をクリックしてください。

開講部局	共通教育(全学教育機構)
開講年度	2014 年度(西暦)
開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年
学位授与の方針の範囲	<input checked="" type="checkbox"/> 全学士課程共通

201~300件 (全1260件中)

コード	授業名	◎自己認識・自己啓発	◎社会的行動マインド	◎人類知の継承と未来	◎多様な文化受容マイ	◎科学リテラシー	◎言語能力	◎コミュニケーション	◎情報活用力	◎問題発見・解決能力	◎普遍的・数量的理解	◎専門知識と応用力	◎専門外の知識	◎地域環境に関する理	◎環境基礎力	◎環境実践力
03000	脳の不思議を探る(認知神経科学入門)					○				○						
03004	臨床心理学	○														
03097	体と心のリハビリテーションを考えるゼミ	○	○													
03099	「考える」ゼミ							○		○						
03100	食と植物の文化論			○	○											
03101	動物と私たちの暮らし					○						○				
03102	応用生物学への招待					○										
03103	応用生物学への招待					○										
03197	土壌学ゼミ					○								○		
03198	自然誌・博物学ゼミ												○		○	
03199	植物生態学ゼミ	○												○		
03200	教養としての物理学					○										
03201	宇宙から原子への旅			○										○		
03203	物理学の世界【SUNS】			○		○										
03205	身近な化学					○								○		
03207	応用化学～千夜一夜～					○				○						
03212	物理への誘い					○				○						
03292	化学ゼミ					○		○								
03293	量子化学入門ゼミ										○	○				
03296	化学計算入門ゼミ										○					
03300	物質工学の世界はゼミ					○								○		

(出典：信州大学シラバス検索システム)

資料農52 共通教育シラバス

時間割コード	01088			担当教員	松岡 幸司	
授業科目	授業題目	グローバルに生きるゼミ		英文授業名	Global Awareness Seminar	
	単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	
	講義室	共通教育211演習室	授業形態	演習	備考	
精神と思想	<p>(1)授業のねらい</p> <p>授業で得られる「学位授与の方針」要素/◎：全学共通・◎みずから他者や社会との関わりの中で捉え、自己啓発に努めることができる【自己認識・自己啓発マインド】</p> <p>【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバルとは何か、そしてグローバルな人材とはどのようなものなのか、という問いに対して、自分の生き方としてとらえ、説明できるようになる。</li> </ul> <p>【授業のねらい】</p> <p>名前のとおり「グローバルに生きる」ということを「自分の問題として考える」ゼミです。</p> <p>社会のグローバル化が当然のこととされ、グローバルな人材として社会で活躍することが求められる時代になっていますが、イメージが先行してあいまいな部分が多いように思えます。そのイメージだけで偶然とした活動をしていても結果として「グローバル化」は成りませんし、「グローバルな人材」にもなりません。例えば、英語ができてグローバルな人材ではありませんし、逆に、英語がそれほどできなくてもグローバルな人材として活躍できます。</p> <p>そこでこのゼミでは：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバルとは何か、そしてグローバルな人材とはどのようなものなのか？</li> <li>・現実的な問題として、自分にとっては具体的にどのようなものなのか？</li> <li>・この二点について、「自分としての答え」を見つけ、自分の生き方を考え、これからの学生生活の目標や目的を明確にすることがこのゼミのねらいです。また、実際に海外に行く（留学、出張）ということはどういうことなのか、ということを実践的に考えることを通して、異文化理解・受容を促進し、社会的な行動規範についても理解を深めます。</li> </ul> <p>最終的には、単なる情報ではなく、自分の生き方としてグローバル化というものをとらえ、説明できるようになってもらいます。</p> <p>(2)授業の概要</p> <p>「授業のねらい」に書いたような性格上、この授業は、「グループワーク」、「ディスカッション」、「プレゼンテーション」が中心になります。「知識を得る」のではなく、情報を得て、それについて考え、自分の問題として発信することを要求します。（その意味では、受け身的な態度では受講することはできません。）</p> <p>毎回の授業の大きな流れは、以下のようになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 資料あるいは短いレクチャーを通して、テーマごとの問題点を明確にする。</li> <li>2. その問題点についてグループワークやディスカッションを通して理解を深めつつ、自分以外の視点についても触れ、自分の問題として考える。</li> <li>3. ディスカッションの結果をグループで（あるいは個人で）まとめて発表する。</li> <li>4. 授業内容のまとめとして、毎回短い文章を提出してもらい、（コメントをつけて返却し、それを次の授業から活かしてもらう。）</li> </ol> <p>(3)授業のキーワード</p>			<p>グローバル、異文化理解、自己認識</p> <p>(4)授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション：「グローバル（に生きる）とは何か？」</li> <li>2-4. グローバルな人材とは？（自分の問題として考える）</li> <li>5-6. 海外へ行く、海外で暮らす/学ぶとは？(1)</li> <li>7-8. 海外へ行く、海外で暮らす/学ぶとは？(2)（担当：Ruzicka）</li> <li>9. グループ発表</li> <li>10-15. 様々なテーマで「グローバル」ということについて、自分の問題として考える。</li> </ol> <p>☆ 個人発表（試験期間終了直後に行います）</p> <p>(5)成績評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業終了後の提出物：30%</li> <li>・グループ発表（相互評価+教員による評価）：30%</li> <li>・個人発表（相互評価+教員による評価）：20%</li> <li>・個人発表の報告書：20%</li> </ul> <p>(6)履修上の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単なる「受講」ではなく「積極的参加」が求められます。最初は難しいとは思いますが、自分で考え、ディスカッションをし、自分で、自分の答えを見つけることが求められます。</li> <li>・グローバルに生きたい、という意識の有無に関係なく、真剣に取り組む意志のある学生の参加は歓迎です。</li> <li>・毎回の授業は密度が高くなりますし、毎回の課題もありますので、「適当に済ます」ということでは参加できません。それでも、困難な点については、教員がサポートしますので、積極的に質問や相談をしてください。</li> </ul> <p>(7)質問、相談への対応</p> <p>オフィスアワーについては、初回の授業で伝えます。</p> <p>研究室は、共通教育南棟3階にありますので、質問や相談は、気軽に訪ねてください。ただし、事前にメール連絡をしておいた方が確実です。</p> <p>松岡：maulwurf@shinshu-u.ac.jp ルジチカ：davidr2@shinshu-u.ac.jp</p> <p>【教科書】 特に指定のものはありません。授業は主にプリントを用いて進めます。</p> <p>【参考書】 授業時にその都度紹介していきます。</p>		

(出典：シラバス)

3 教育課程の編成・実施上の工夫

① インターンシップ関係科目

開講状況は以下のとおりである（資料農53）。

資料農53 インターンシップ関係科目

区分	科目名	単位
専門科目	インターンシップⅠ	1
	インターンシップⅡ	1
	インターンシップⅢ	1
	キャリアデザイン	1

(出典：農学部作成)

② フィールド教育の充実

本学部では、自然豊かなフィールドを活用しての教育科目を設定し、中山間地域から山岳域に亘るフィールド科学者や高度専門技術者を養成するための実地教育を行っている（資料農54）。

## 資料農54 フィールド教育科目（計29科目）

講義名	開講形式
田園環境工学基礎演習	1日
群落解析学演習	集中
樹木医総合演習	集中
野生植物生態基礎演習	半日
森林環境学演習	1日
森林計測・GIS演習	半日
治山・砂防演習	1日
地域調査演習	1日
緑地環境計画学演習	集中
森林生産実践演習	1日
森林科学基礎演習	集中
山岳環境保全学演習	集中
アルプス登山学演習	集中
高冷地植物生産生態学演習	集中
高冷地動物生産生態学演習	集中
高冷地生物生産生態学演習	集中
高冷地応用フィールド演習	集中
森林利用デザイン演習	1日
木材科学演習	半日
農村整備演習	半日
田園環境計測演習	1日
生物生産一貫実習Ⅰ	半日
生物生産一貫実習Ⅱ	半日
生物生産一貫実習Ⅲ	半日
測量学実習	半日
農林フィールド実習	半日
山岳環境保全学実習	集中
持続的生物生産システム実習Ⅰ	半日
持続的生物生産システム実習Ⅱ	半日

(出典：農学部作成)

## ③ 教育関係共同利用拠点認定

AFCの野辺山農場と演習林は、それぞれ平成25年度、平成26年度に文部科学大臣から「教育関係共同利用拠点」として認定された（資料農55、56）。

## 資料農55 AFCの野辺山農場と演習林

## 教育関係共同利用拠点に認定

野辺山農場が平成25年度に「中部高冷地域における農業教育共同利用拠点」に認定されました。野辺山農場は、八ヶ岳山麓の標高1350mに位置し、日本でも有数の高原野菜地帯であり、首都圏から短時間で訪れることができる高冷地農業地帯です。約60名が宿泊可能な宿泊施設を有し、夏季に実施する4つの演習では、高冷地の自然環境と農業生産の現状を知り、「食—農—自然環境」の関係を理解し、農業生産技術を習得します。また、他大学が実施する実習や研究に対する支援、協力として圃場および教育・実験施設を提供します。



キャベツの収穫実習

(出典：農学部デジタルパンフレット)

AFCの教育関係共同利用拠点認定によるフィールド教育の充実

【拠点名称】中部高冷地域における農業教育共同利用拠点—高冷地野菜と畜産を組み合わせたフィールド教育—

野辺山農場は、日本でも有数の高原野菜地帯である八ヶ岳山麓の野辺山高原に位置しており、中部高冷地域農業のフィールド教育の共同利用拠点である。AFCが開講する演習に他大学の学生が参加する「共学」型プログラム、他大学の学生を主対象とする「既設」型プログラム、他大学の教員、学生の注文に応じる「注文」型プログラムの演習及びオープンフィールド演習を提供している。豊かで多様な自然環境・生産環境を利用した実践的な演習は、高い教育効果が期待される。



肉用牛



野辺山農場



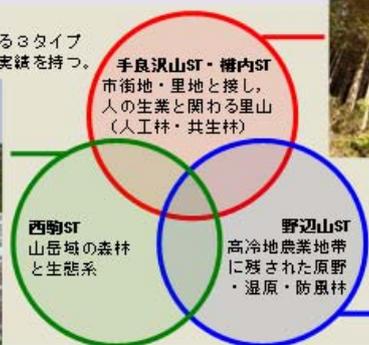
キャベツの収穫実習

【拠点名称】南信州を舞台とした自然の成り立ちから山の生業までを学ぶ教育関係共同利用拠点

西駒、野辺山、手良沢山及び農学部構内の4ステーション（ST）から構成される演習林は、南信州を舞台に、「自然の成り立ち」から「山の生業」までを学ぶ共同利用拠点として、大学教育を通じ、林業の発展と環境保全の調和を目的とした循環型社会の構築を目指す。多様なフィールド科学の習得とともに、自然、山、環境の理解を深め、豊かな人間性を構築する総合的な教育効果が期待される。

特徴ある演習林

AFCは、日本の森林を特徴づける3タイプの演習林を有し、豊富な教育研究実績を持つ。



（出典：農学部作成）

資料農56 教育関係共同利用拠点のプログラムと利用実績

【拠点名称】

中部高冷地域における農業教育共同利用拠点-高冷地野菜と畜産を組み合わせたフィールド教育-

○プログラム及び概要（平成26年度）

プログラム（課題）名		概要
1	高冷地植物生産生態学演習	信州大学農学部が自学部の学生も含め、開講する高冷地野菜、栽培作物の栽培管理、収穫、乳用牛管理、農産物加工（ソバ等）、野生生物調査に関する3泊4日の自炊を伴う合宿演習に他大学、他学部の学生を受け入れる。
2	高冷地動物生産生態学演習	信州大学農学部が自学部の学生も含め、開講する高冷地野菜の収穫、乳用牛、肉用牛管理、農産物加工（ソバ等）、野生生物調査に関する3泊4日の自炊を伴う合宿演習に他大学、他学部の学生を受け入れる。
3	高冷地生物生産生態学演習	信州大学農学部が他大学の学生を中心に（自学部学生も含む）に、開講する高冷地野菜、栽培作物の栽培管理、収穫、乳用牛管理、農産物加工（ソバ等）、野生生物調査に関する3泊4日の自炊を伴う合宿演習に他大学、他学部の学生を受け入れる。
4	高冷地応用フィールド演習	キャベツを教材として、圃場の準備、播種、定植から収穫、出荷までの一連の作業を通じて生産技術の習得を目的に、複数回の宿泊実習形式で行う。また、講義や近隣施設の見学を適時行いながら、連作障害への対応、6次産業化をめざした安定生産技術を習得し、高原野菜の生産や流通システムについて理解を深める。
5	就農基礎研修	東京農業大学が農業就労研修会を同大学の学生を対象に実施する。具体的には高冷地農業、高冷地野菜（キャベツ）栽培に関する座学、野辺山農

		場近隣の農家の圃場見学、キャベツの収穫、出荷体験、野菜集荷場の見学と一貫した課程を体験させる。
6	農業体験研修	東京農業大学が同大学の学生を対象に、キャベツ栽培に関する座学、キャベツの収穫、出荷体験、集荷場見学と一貫した生産、栽培管理に関する研修を実施する。
7	ピアメンターキャンプ	高等教育コンソーシアム信州が加盟大学を対象に3泊4日の合宿演習を開講。高冷地の農業、野菜生産管理、収穫野菜の調理実習を実施することで、看護学、人文学、理工学ほか非農学系20名の学生に信州の高冷地農業を体験、習得させる。
8	野生生物生態調査演習	麻布大学が生物生態学調査演習の一環として、野辺山農場、八ヶ岳山麓の野生生物（小動物）の生態、行動調査を目的に1泊～6泊の合宿演習を複数回実施する。
9	生態調査演習	麻布大学の生態学の調査演習の一環として、野辺山農場、および八ヶ岳山麓の野生生物（小動物）の生態、行動調査を目的に2泊～6泊の複数回の調査演習を実施する。
10	高齢者医療研究会	佐久大学の教員と首都圏の医療系教員、学生が野辺山農場に宿泊しながら、無医村地域における医療の役割、特に高齢者医療に関する調査、研究を進める。
11	農業体験研修	佐久大学看護学部の学生と教員が農業体験としてキャベツの収穫、自分で収穫した野菜の調理を通じ、農業と食料、生産から流通、加工を学習する。
12	高冷地農家実践演習	他大学の学生を対象に、高冷地農業、野辺山の農業、高冷地野菜に関する基礎的知見を習得後、周辺の農家における高冷地野菜等の実践的演習を行い、栽培から収穫、流通まで、実践技術を習得する。
13	地域調査実習	農学部の3年生を対象に地域での地域調査の方法、土地利用のとらえ方等の習得を目的に開講している。その一部を、野辺山農場を利用して高冷地農業における農村地域を対象に土地利用調査を実施し、その分析方法等を習得させる。
14	牧場体験ゼミ	農学部の1年生を対象に高冷地の農業、環境に関する理解を目標に2泊3日で実施する。農作業体験、家畜の飼育管理、生態と行動観察、食品加工などの実習の講演および近隣の農業関連施設の見学を通して「食」に関する理解を深めさせる。
15	卒業研究、修士等研究	農学部、他学部および他大学の学生、大学院生と指導教員が「オープンフィールド」を利用して、1年間を通じて長期間、複数回の調査、演習を進めることで卒業研究、修士論文研究の一部を進める。
16	高冷地農業研修	長野県内の農業者、関係者等が野辺山農場および周辺で展開する高冷地農業、特に高冷地野菜の栽培、管理から流通、販売を視察、見学する研修会により高冷地における6次産業化農業を学習する。

○利用実績

区 分	平成25年度			平成26年度			平成27年度		
	所 属 機関数	利用 人数	延べ 人数	所 属 機関数	利用 人数	延べ 人数	所 属 機関数	利用 人数	延べ 人数
学内（法人内）	8	286	675	9	135	714	6	456	1,140
国立大学	0	0	0	3	26	30	6	30	80
公立大学	1	10	32	1	3	9	1	6	14
私立大学	7	126	317	8	155	398	9	108	232
大学共同利用機関法人	0	0	0	0	0	0	0	0	0
民間・独立行政法人等	4	55	5	2	9	9	4	75	124
外国の研究機関	1	1	19	2	4	8	3	16	90
（うち大学院生）	2	2	20	2	3	9	3	21	72
計	21	478	1,100	25	332	1,168	29	691	1,680

【拠点名称】

南信州を舞台とした自然の成り立ちから山の生業までを学ぶ教育関係共同利用拠点

○プログラム及び概要（平成26年度）

プログラム（課題）名		概要
1	山岳環境保全学演習	信州大学農学部が自学部の学生も含め、開講する西駒演習林内の野生生物（動物、植物）の調査に関する3泊4日の自炊を伴う合宿演習に他大学、他学部の学生を受け入れる。
2	アルプス登山学演習	信州大学農学部が自学部の学生も含め、開講する西駒演習林内での登山技術、山岳気象、温暖化の影響等の調査に関する3泊4日の自炊を伴う合宿演習に他大学、他学部の学生を受け入れる。
3	冬のフィールド管理学演習	信州大学農学部が自学部の学生も含め、開講する演習林内での冬山管理、冬山の生物の生態調査に関する3泊4日の自炊を伴う合宿演習に他大学、他学部の学生を受け入れる。
4	生態学演習	連携協定を締結している慶應義塾大学学生が野辺山、講内、手良沢山演習林において、信州大学農学部の学生と共に、南信州の自然、山の生業に関する講義、間伐施業、森林調査、および木材加工作業を体験する。
5	森林生態学演習	京都大学徳地直子教授が手良沢山演習林において、同大学学生に対して里山人工林の管理に関する実習を行う。
6	植生ゼミ	筑波大学清野准教授が西駒演習林において、同大学学生に対して亜高山帯の自然の成り立ちに関する実習を行う。
7	森林風致計画学	長野県林業大学校の教員3名、学生20名が、講内演習林において森林風致計画学の一部を開講し、風致間伐予定地の調査を実施する。
8	新入生課外実習	信州大学経済学部の1年生を対象に、新入生ゼミナールI課外実習の一環として、講内演習林において二次林の自然観察と森林のバイオマス調査を実施する。経済学部の教員6名、1年生120名を複数班に分かれ、異なる観察、調査を通じて自然の成り立ちと森林における生業を習得する。
9	自然史実習	信州大学理学部が西駒演習林において植物、昆虫等の自然観察に関する実習を行う。
10	コロキウム	信州大学理学部が手良沢山演習林において、化学に関するゼミを行う。
11	松枯防除実践講座	日本緑化センターが林野庁、長野県、南箕輪村等の自治体、全国、長野県の各森林組合等の後援を受け、森林関連団体等に所属する森林（松）管理者を対象に、松枯防除技術の習得を目標に、講義と演習を行う。
12	卒業研究、修士等研究	農学部、他学部および他大学の学生、大学院生と指導教員が4ステーションのフィールドを「オープンフィールド」として利用し、長期間、複数回の調査、演習を進めることで卒業研究、修士論文研究の一部を進める。

○利用実績

区分	平成26年度			平成27年度		
	所属機関数	利用人数	延べ人数	所属機関数	利用人数	延べ人数
学内（法人内）	8	722	3,027	5	518	3,361
国立大学	6	21	79	13	89	239
公立大学	1	23	23	2	32	38
私立大学	2	17	58	3	32	52
大学共同利用機関法人	0	0	0	0	0	0
民間・独立行政法人等	5	289	585	5	123	303
外国の研究機関	0	0	0	0	0	0
（うち大学院生）	8	11	120	5	67	120
計	22	1,072	3,772	28	794	3,993

（出典：農学部作成）

なお、AFC 手良沢山ステーション及び西駒ステーション・桂小場試験地は、平成 28 年 2 月 26 日に（一社）緑の循環認証会議（SGEC）の認証規格による森林認証を取得した（資料農 57）。

資料農 57 森林管理認証の取得



認証番号 JAFTA-054

認証書付属書

認証森林の構成は、次のとおりである。

名称 (所在市町村)	面積 (ha)
手良沢山ステーション演習林	227.90
西駒ステーション演習林・桂小場試験地	251.84
合計	479.74

JAFTA 2016-D201 様式 41 認証書 (2016年1月1日改定)

〔説明〕

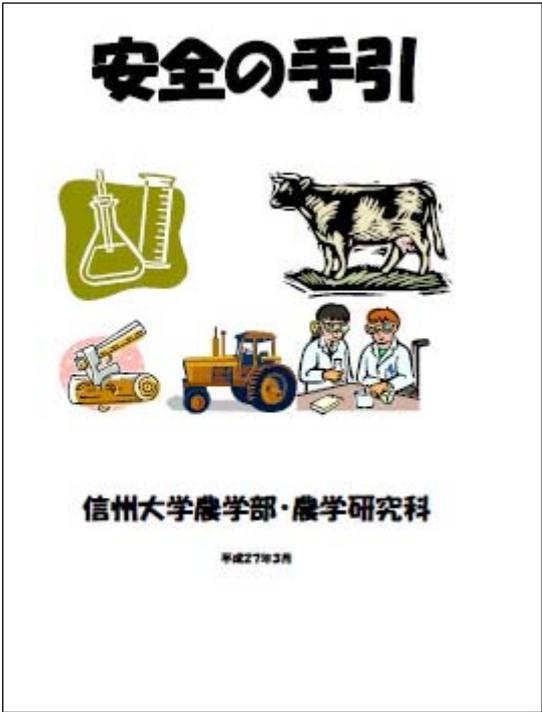
森林認証は、森林が持続可能な方法で適切に管理されていることを第三者機関が評価・認証する制度であり、SGEC認証規格による本学部・研究科の森林認証取得は、宇都宮大学農学部附属演習林に次ぎ国立大学の中では2番目である。

(出典：農学部作成)

④ 安全への配慮

本学部では、実験・実習の安全対策として毎年度4月に、留学生を含む2年次生、編入学生及び大学院の学生を対象とする安全講習会を、独自に作成している「安全の手引き」を用い実施している。これによりラボワーク、更にはフィールドワークにおける安全の確保を図っている（資料農58）。

資料農58 安全の手引き（抜粋）



**安全の手引**

信州大学農学部・農学研究科

平成27年3月

信州大学農学部実験・実習安全の手引き目次

<b>I. 共通事項</b>	
第1節	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
第2節	防犯対策マニュアル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
第3節	学生教育研究災害傷害保険及び学生教育研究災害賠償保険の種類 責任保険への加入・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
第4節	交通事故の防止・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
第5節	国立大学法人信州大学安全衛生基本方針・・・・・・・・・・ 9
<b>II. 化学系実験を行うにあたって</b>	
A. 化学物質	
第1節	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
第2節	危険な物質の取り扱い・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
第3節	事故への対応(応急処置)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
第4節	化学物質の環境への影響・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
第5節	有害物質を含む化学物質の廃棄・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
B. 実験器具・装置	
第1節	高圧ガス・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
第2節	オートクレーブ(滅菌用を主)・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
第3節	ガラス器具・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
第4節	電気器具・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
<b>III. 動物実験を行うにあたって</b>	
A. 動物の取り扱いおよび研究従事者の安全衛生ガイドライン	
第1節	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
第2節	このガイドラインの目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
第3節	研究従事者・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
第4節	運用対象動物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
第5節	製造法概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
第6節	動物を用いた実験、実習への心構え・・・・・・・・・・・・ 40
第7節	動物実験を行う際の準備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
第8節	実験終了後の動物の取り扱い・・・・・・・・・・・・・・・・ 43
B-1. 大、中容量の取り扱いおよび研究従事者の安全衛生ガイドライン	
第1節	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
第2節	実験時の取り扱い・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
第3節	飼育管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
第4節	安全性の確保・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45

第5節	人獣共通感染症・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
第6節	飼育状況の報告義務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
B-2. 実験用鳥類の取り扱いおよび研究従事者の安全衛生ガイドライン	
第1節	一般原則・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
第2節	実験時の取り扱い・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
第3節	飼育管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
第4節	安全性の確保・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
第5節	人獣共通感染症・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
第6節	飼育状況の報告義務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
B-3. 実験動物の取り扱いおよび研究従事者の安全衛生ガイドライン	
第1節	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
第2節	実験時の取り扱い・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
第3節	実験動物の管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
第4節	安全性の確保・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
第5節	人獣共通感染症・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
B-4. 野生動物の取り扱いおよび研究従事者の安全衛生ガイドライン	
第1節	一般原則・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
第2節	野生動物の取り扱い・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
第3節	野生動物の飼育管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
第4節	研究従事者の安全性の確保・・・・・・・・・・・・・・・・ 52
第5節	野生動物の人獣共通感染症・・・・・・・・・・・・・・・・ 52
B-5. 家畜排泄物の取り扱いのガイドライン	
第1節	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53
第2節	「家畜排泄物の管理の適正化および利用の促進に関する法律」とは 53
第3節	家畜排泄物の取り扱い・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53
<b>IV. 微生物実験を行うにあたって</b>	
第1節	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
第2節	一般的な注意・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
第3節	培養する際の注意・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56
第4節	観察する際の注意・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
<b>V. 遺伝子組換え実験を行うにあたって</b>	
第1節	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59
第2節	遺伝子組換え生物および遺伝子組換え実験 59
第3節	遺伝子組換え実験の分類・・・・・・・・・・・・・・・・ 59
第4節	規制防止措置レベル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
第5節	遺伝子組換え実験の実施に必要な手続き・・・・・・・・ 61

<b>第6節 実験従事者の安全確保のための注意事項</b> ・・・・・・・・ 61	
<b>VI. 放射線同位元素 (RI) を用いた実験を行うにあたって</b>	
第1節	放射線の利用とその危険性・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
第2節	放射線の定義・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
第3節	放射線源の取り扱いのための手続き・・・・・・・・・・ 63
<b>VII. フィールドでの実験・実習を行うにあたって</b>	
A. フィールド作業安全に関する共通事項	
第1節	フィールドでの実験・実習の注意・・・・・・・・・・・・ 65
第2節	農作業事故防止のポイント・・・・・・・・・・・・・・・・ 72
B. 農機フィールドにおける作業安全	
第1節	実験・実習を安全に行うために・・・・・・・・・・・・ 73
第2節	対抗機の安全な取扱いについて・・・・・・・・・・・・ 73
第3節	トラクタの安全な運転法について・・・・・・・・・・ 76
第4節	農機転回に伴う危険源の防止について・・・・・・・・ 78
第5節	農作業安全について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 79
C. 森林フィールドにおける作業安全	
第1節	野外での実習・演習・講習における一般的な注意 81
第2節	森林作業における作業安全・・・・・・・・・・・・ 83
第3節	伐木器材作業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 85
第4節	トラクタ農材作業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 89
第5節	農材機作業・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 91
D. 土木材料実験室における作業安全	
第1節	実験室の管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 93
第2節	室内の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 94
第3節	使用できる学生・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 94
E. 木材加工における作業安全	
第1節	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 94
第2節	生じうる危険・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 95
第3節	服装・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 95
第4節	注意事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 95
第5節	木工機械の分類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 95
F. 平島山と西嶺及び野辺山ステーションの安全利用上の注意 97	
G. 野付調査の届け出・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 99	

〔説明〕

学生は、この手引きによる安全講習会を受講し試験に合格することにより発行される修了証を交付されなければ、実験・実習等の授業等を受講することはできない。

（出典：「農学部・農学研究科 安全の手引」）

⑤ ICT活用教育

松本キャンパス以外の高年次学生による共通教育科目の受講を効果的かつ効率的にするため、ICTを活用した授業を実施している（資料農59、60）。

資料農59 平成27年度 信州ユビキタスネットシステム（SUNS）利用授業の開講状況

前 期		後 期	
授 業 名	担当教員	授 業 名	担当教員
ネイチャーライティングのすすめ(環境文学Ⅰ)【SUNS】【EA】	松岡 幸司	環境文学のすすめ(環境文学Ⅱ)【SUNS】【EA】	松岡 幸司
キャリア形成論Ⅰ-本当の自分を理解するステップ-【SUNS】	小池 健一	キャリア形成論Ⅱ-自分の将来像を探るステップ-【SUNS】	小池 健一
物理学の世界【SUNS】	矢部 正之	新聞と私たちの社会【SUNS】(信濃毎日新聞社寄附講義)	分藤 大翼
検索の科学【SUNS】	鈴木 治郎	現代医療における物理学【SUNS】	矢部 正之
現代ドイツの言語と日常ゼミ【SUNS】	松岡 幸司	現代ドイツ事情ゼミ【SUNS】	松岡 幸司
ドイツ語初級(総合)Ⅰ【SUNS】	松岡 幸司	ドイツ語初級(総合)Ⅱ【SUNS】	松岡 幸司
ドイツ語中級(読解)Ⅰ【SUNS】	松岡 幸司	ドイツ語中級(読解)Ⅱ【SUNS】	松岡 幸司
線形代数学Ⅰ【SUNS】	高野 嘉寿彦	一般化学Ⅱ【SUNS】	村上 好成
一般化学Ⅰ【SUNS】	村上 好成		

(出典：「2015共通教育履修案内」をもとに経営企画課にて作成)

資料農60 平成27年度 共通教育『EA』科目(e-Learningのみで行う授業)の開講状況

前 期		後 期	
授 業 名	担当教員	授 業 名	担当教員
ネイチャーライティングのすすめ(環境文学Ⅰ)【SUNS】【EA】	松岡 幸司	環境文学のすすめ(環境文学Ⅱ)【SUNS】【EA】	松岡 幸司
ジェンダー論【EA】	加藤 善子	ジェンダー論【EA】	加藤 善子
日本人のための英作文練習ゼミ【EA】	加藤 敏三	検索の科学【EA】	鈴木 治郎
ドイツ語初級(総合)Ⅰ【EA】	松岡 幸司	ドイツ語初級(総合)Ⅱ【EA】	松岡 幸司
フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅠ【EA】	田口 茂樹	フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅡ【EA】	有路 憲一
リスニング&リーディングⅠ【EA】	近藤 富英	リスニング&リーディングⅡ【EA】	近藤 富英
ドイツ語中級(読解)Ⅰ【EA】	松岡 幸司	ドイツ語中級(読解)Ⅱ【EA】	松岡 幸司
ロシア語中級Ⅰ【EA】	佐々木 寛	ロシア語中級Ⅱ【EA】	佐々木 寛
ハングル中級Ⅰ【EA】	延 鎮淑	ハングル中級Ⅱ【EA】	延 鎮淑
キャンパスライフと健康【EA】	川 茂幸		

(出典：2015共通教育履修案内を基に経営企画課にて作成)

## ⑥ 教育方法・学習支援

履修登録上限単位の設定、習熟度別クラス編成、リメディアル教育等を行っている（資料農61）。

資料農61 共通教育科目における教育方法や学習支援

## 【履修登録上限単位】

共通教育科目では、1学期に履修登録できる単位の上限が学部ごとに定められています。

※履修登録単位数の上限には教職に関する科目は含みません。

※その他、学部・学科（系）によって、上限に含まない科目もありますので、詳細は各学部学生便覧で確認してください。

大学での勉学は授業での学習に加えて、出席する授業の予習、復習を含む十分な自主的学習時間の確保が前提となっています。こうした趣旨から、履修登録単位数の上限制度が設けられています。なお履修登録単位数の上限を超えて履修することはできません。

また、前期の成績が優秀な学生で学部長の許可がある場合には、後期に個々の学生ごとに履修登録単位数の上限を設定することが認められます。

## 【習熟度別クラス】

**英語** 英語のクラスは、すべて学部別であり、また習熟度別クラス編成になっています。（上級）（中級）（初級）の3レベルです。習熟度別クラスが編成され、授業がはじまる前までに掲示されます。指定されたクラス以外のクラスを履修することは原則としてできません。

**微分積分学Ⅰ、力学、生物科学Ⅰ** 基礎科学科目の履修方法は学部・学科（課程・系）により異なりますので、各学部・学科（課程・系）の履修指導に従ってください。学部・学科（課程・系）でクラスが指定されますので、指定のクラスで受講してください。

なお、力学及び生物学Aについては、高校における履修状況等を考慮し、一部の学生についてクラスの指定があります。対象学生となる学生が学部・学科（系）から掲示等で指定されます。

## 【リメディアル教育】

大学での学習にスムーズに取り組んで行けるように、基礎を学ぶための授業です。積極的に活用しましょう。

各科目のリメディアル教育授業については、以下の通り実施します。掲示により受講を指定された学生は、以下を確認の上、授業に臨んでください。対象学生は、授業開始日までに、全学教育機構公用掲示板にて周知します。なお、指定を受けない場合でも、受講人数に余裕がある場合は、授業担当教員に申し出て、受講することができます。

## 「基礎化学」

担当教員：勝木 明夫 全学教育機構

授業内容：高校の化学Ⅰを中心に化学Ⅱまで

実施期間：前期 水曜日の5時限 平成27年4月15日～7月1日（ただし、4月29日、5月6日を除く）

講義室：共28番教室

その他：学部からの指定事項等の詳細は、4月に公用掲示板で確認してください。

## 【各種英語資格試験による単位認定について】

TOEIC、TOEFL等で一定の点数を得た者及び実用英語技能検定（英検）等の特定の級に合格した者にだけ適用されます。

## 【放送大学との単位互換】

本学に在籍する学生が放送大学との単位互換（本学の授業の代わりに放送大学の授業を受講して単位を修得すれば、本学で修得すべき単位とみなす制度）を希望する場合は、「特別聴講学生」として受講することができます。ただし、受講の対象は教育学部、医学部、工学部、農学部及び繊維学部の学生に限ります。

**【県内他大学との単位互換】**

信州大学は、長野県内の他大学（長野県看護大学、佐久大学、清泉女学院大学、諏訪東京理科大学、長野大学、松本歯科大学、松本大学）と単位互換協定を結んでいます。

信州大学の学生は、この協定により長野県内他大学が開講する授業を受講することができ、その受講により取得した単位は、信州大学の単位として認定されます。単位互換の授業は、みなさんが他大学に通学して授業を受けるタイプと、遠隔講義システム（SUNS）\*を利用して信州大学の教室で他大学の授業を受けるタイプの2種類があります。

長野県内他大学の単位互換の対象授業は、学期の始めに各大学が募集します。

また、長野県内の高等教育機関で組織する「高等教育コンソーシアム信州」のホームページ（<http://www.c-snet.jp/>）でも、単位互換に関することが掲載されています。

なお、全学教育機構では、平成27年度開設する教養科目、外国語科目及び基礎科学科目の授業のうち、授業担当教員が開放することを認めた「授業科目」について、県内の他大学の学生の受け入れを実施します。

**【遠隔講義システム（SUNS）\*による受講】**平成22年度からは、長野県内他大学の授業を遠隔講義システム（SUNS）\*を通じて信州大学で受講できるようになりました。（他大学の特別聴講学生として受け入れられます。）この遠隔講義システムを利用した授業を受講すれば、他大学に通学しなくても信州大学の教室で、他大学の授業を受講できます。遠隔講義システム（SUNS）\*を利用した他大学の開講科目は、共通教育科目のうち「教養科目」として認定され、卒業に必要な単位に算入されます。

（出典：「2015共通教育履修案内」をもとに経営企画課にて作成）

#### 4 国際通用性のある教育課程の編成・実施上の工夫

##### ① 国際交流協定の締結

本学における国外の大学との国際交流協定締結状況は以下のとおりである。なお、本学部では、平成22年度にチッタゴン大学（バングラデシュ）、平成26年度にマルファ村（ネパール）との学部間交流協定を締結している（資料農62）。

ポストゲノムの時代にふさわしい農学系「理工系グローバル人材」を育成するため、協定大学等の交流促進を図っており、平成26年度には、メイファーラン大学（タイ）との間で研究者交流を実施し、平成27年度には、これを基盤として学生の交流も実施した（資料農63）。

また、教育・研究の更なる国際化を推進するため、国際農学教育研究センター（資料農64）を平成26年6月に設置し、国際交流センターとの連携を強化した。

資料農 62 国際交流協定一覧（平成 28 年 3 月現在）（主な締結状況）

大学 間 交 流	<b>アメリカ</b>	ユタ大学、オクラホマ州立大学、南オレゴン大学、カリフォルニア州立大学チコ校
	<b>メキシコ</b>	CINVESTAV 大学院大学
	<b>ブラジル</b>	パラナ連邦工科大学
	<b>オーストラリア</b>	カーティン大学、オーストラリア南極研究所
	<b>フィンランド</b>	国立フィンランド測地研究所
	<b>フランス</b>	ラ・ロッシュェル大学、フランス国立繊維工芸工業高等学院、リール第一大学、フランス国立情報学自動制御研究所 (INRIA)
	<b>ドイツ</b>	ライプツィヒ大学、マンハイム大学
	<b>ベルギー</b>	カトリック大学ルーヴァン
	<b>オランダ</b>	ゾイド大学
	<b>イタリア</b>	ヴェネツィア・カ・フォスカリ大学
	<b>スペイン</b>	アルカラ大学カルデナル・シスネロスカレッジ
	<b>ポーランド</b>	ピアリストク大学、ピアリストク工科大学、シレジア工科大学、ワルシャワ大学
	<b>ロシア</b>	ヴィートゥス・ベーリング名称カムチャツカ国立大学、極東連邦大学
	<b>モロッコ</b>	モハメド五世大学アグダル校
	<b>モンゴル</b>	モンゴル科学技術大学
	<b>中国</b>	同済大学、河北農業大学、蘭州大学、河北医科大学、蘇州大学、東華大学、中国地質大学、北京工業大学、太原理工大学、浙江理工大学、北京外国語大学、天津工業大学、北京化工大学、山東大学、西南大学、河南農業大学、重慶師範大学、對外經濟貿易大学
	<b>台湾</b>	輔仁大学
	<b>韓国</b>	江原大学校、尚志大学校、光云大学校、韓国カトリック大学校、崇實大学校、順天大学校、建国大学校、嶺南大学校、檀国大学校、漢陽大学校、忠南大学校、全南国立大学アランマクジアミドエネルギー研究所
	<b>タイ</b>	チェンマイ大学、カセサート大学、チュラロンコン大学、ナレースワン大学、サイアム大学
	<b>インド</b>	インド工科大学マドラス校
<b>ベトナム</b>	ベトナム国家大学ハノイ-工業技術大学、ハノイ工科大学、FPT 大学、ダラット大学	
<b>マレーシア</b>	UPM (マレーシアプトラ大学)、マラヤ大学	
<b>インドネシア</b>	プリタハラパン大学、ウダヤナ大学、アンダラス大学、ボゴール農科大学	
<b>ミャンマー</b>	ヤンゴン工科大学	
学 部 間 交 流 ※ 農 学 部	<b>中国</b>	北京林業大学、中国農業大学、中国浙江省農業科学院
	<b>韓国</b>	ソウル大学校農業生命科学大学、世宗大学校生命科学大学
	<b>モンゴル</b>	モンゴル国立農業大学、モンゴル国立大学工・応用科学部
	<b>タイ</b>	コンケン大学農学部、メイファーラン大学農産学学部、スラナリ工科大学農業技術学部
	<b>バングラデシュ</b>	バングラデシュ農業大学、チッタゴン大学環境科学研究所
	<b>ネパール</b>	ネパール農業研究評議会、ネパール国ムスタン郡マルファ村
	<b>【4 機関協力協定】</b>	①長野県林務部－②オーストリア連邦森林・自然災害・景観研究研修センター－農学部
	<b>【3 機関協力協定】</b>	①中国・大連大学生命科学与技術学院－②中国・大連大学現代農業研究院－農学部

(出典：経営企画課作成)

## 資料農63 学部間交流の状況

機関名称	国名	学生交流実績	研究者交流実績
バングラデシュ農業大学	バングラデシュ	H27：受入4	H27：受入1
モンゴル国立農業大学	モンゴル	H25：受入1	
ネパール農業研究評議会	ネパール	H25：派遣10 H26：派遣10 H27：派遣5	H25：派遣2 H26：派遣2 H27：派遣2
ソウル大学校農業生命科学大学	韓国	H27：派遣1	H26：派遣5 H27：受入5、派遣2
メイファーラン大学農産学部	タイ	H26：派遣3 H27：受入6、派遣8	H26：受入5、派遣4 H27：受入2、派遣3
世宗大学校生命科学大学食品科学工学科	韓国	H27：受入1	H26：派遣5 H27：受入1
スラナリ工科大学農業技術学部	タイ	H27：受入4	H27：受入5
ネパール国ムスタン郡マルファ村	ネパール	H25：派遣10 H26：派遣10 H27：派遣5	H25：派遣2 H26：派遣2 H27：受入1、派遣2
ジャンビ大学畜産学部	インドネシア	H26：受入3 H27：受入4	H26：受入3 H27：受入6
カンボジア王立農業大学	カンボジア	H27：派遣3	H27：派遣4

(出典：農学部作成)

## 資料農64 信州大学農学部国際農学教育研究センターの内規等

〔信州大学農学部国際農学教育研究センター内規（抜粋）〕

(目的)

第1条 信州大学農学部（以下「本学部」という。）に本学部の国際農学教育研究及び国際交流を戦略的に計画し、これらに必要な事項を迅速かつ円滑に処理するため、国際農学教育研究センター（以下「センター」という。）を置く。

(職務)

第2条 センターは、国際農学教育研究及び国際交流の推進に係る次の業務を担当する。

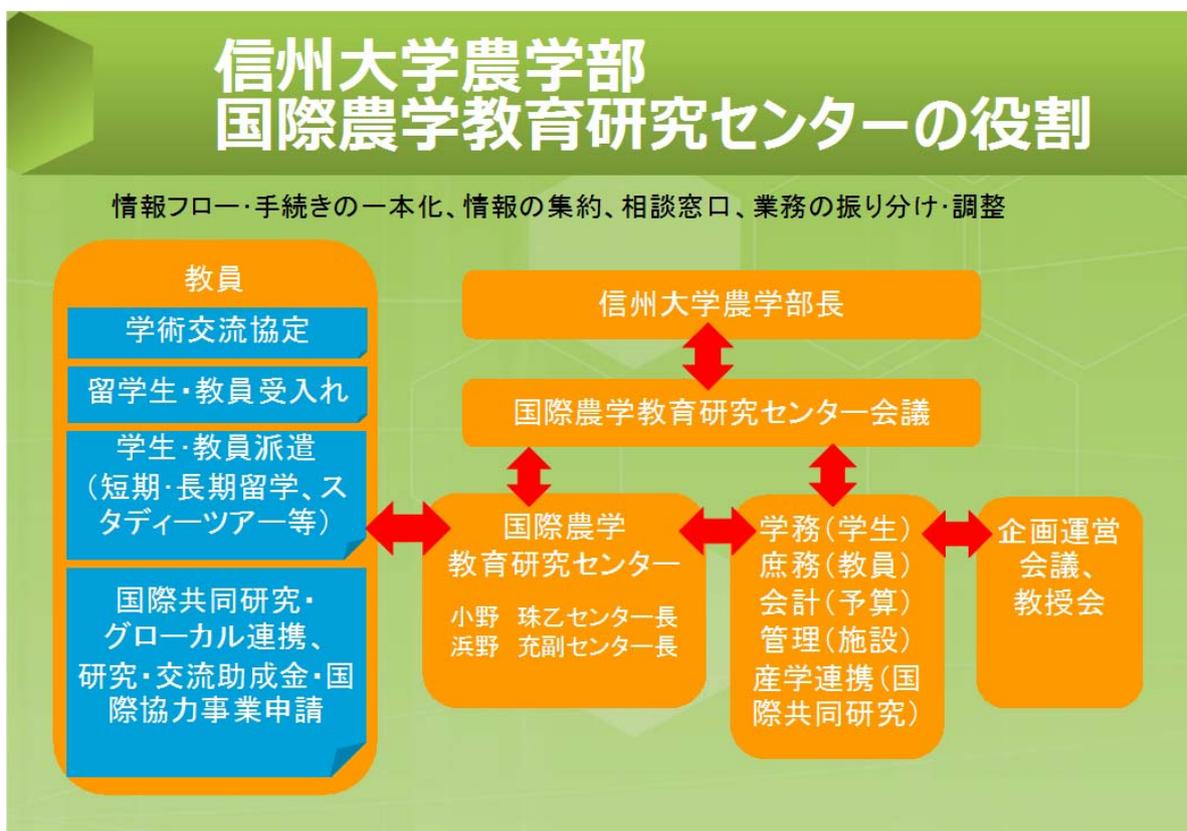
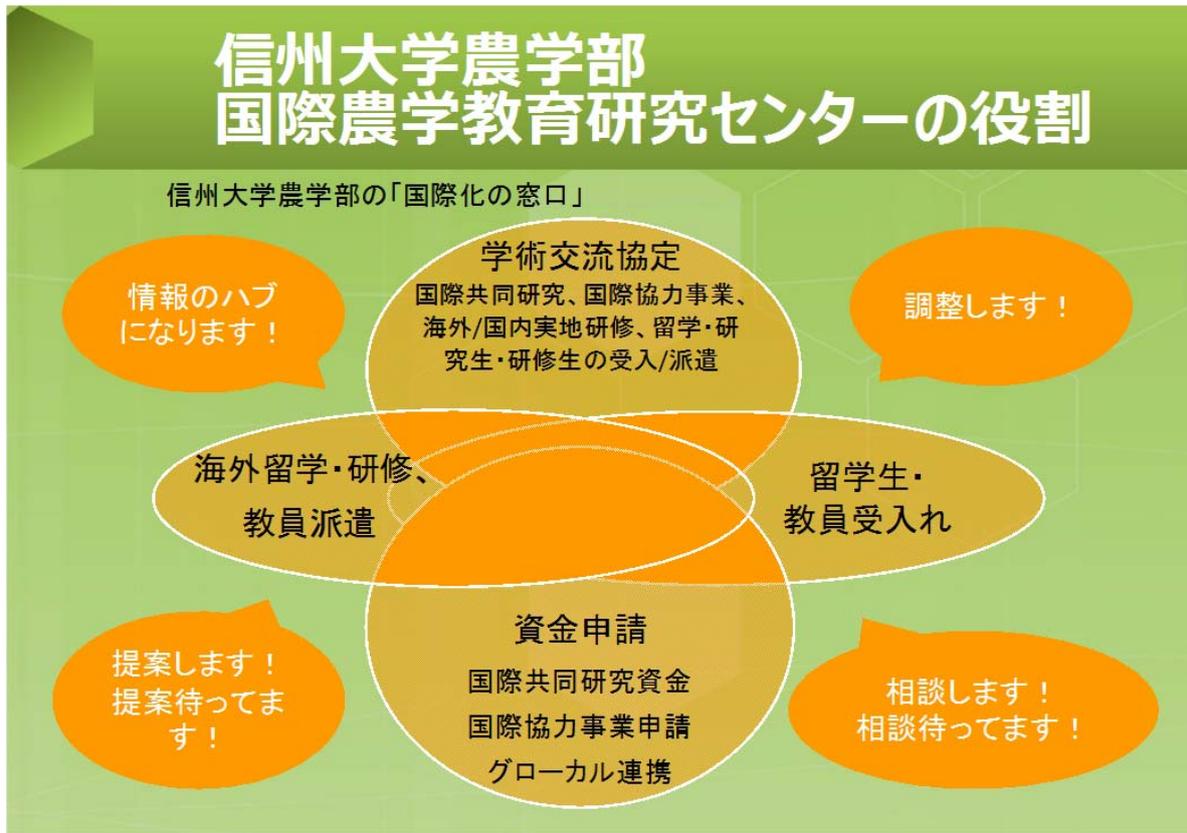
- 一 学術交流協定等の締結に関すること。
- 二 外部資金の獲得に関すること。
- 三 将来計画の策定及び点検に関すること。
- 四 情報の収集及び発信に関すること。
- 五 学生及び教職員に対する国際農学教育研究及び国際交流の啓発に関すること。
- 六 その他国際農学教育研究及び国際交流の推進に関し必要な事項。

(組織)

第3条 センターは、次の各号に掲げるセンター員をもって組織する。

- 一 教育担当の副学部長
- 二 農学部を担当する専任の教員
- 三 学部長が指名した者
- 四 国際交流担当の事務部職員

[概要]



(出典：農学部作成)

② TOEIC-IP受験の義務化

平成26年度から、1年次生に対しTOEIC-IPの受験を義務化し、学生が自ら英語能力を認識し向上を目指すための動機付けを促している（資料農65）。

資料農65 TOEIC-IP受験の義務化（受験案内（抜粋））

農学部 英語能力試験(TOEIC-IPテスト)の  
 実施と受験料振込みのお願い【重要・全員対象】

ご入学おめでとうございます。

国際化が加速する現在、社会では英語力のある技術者のニーズが急速に高まっています。農学部では、新入生全員に1年次の必修科目「新入生ゼミナール」の一部として実用英語の国際的標準テストTOEIC (Test of English for International Communication) を受けてもらうことにより、英語力の把握、英語力の向上を図っています。TOEICは多くの企業で社員の英語力判定に利用され、採用時、配属、海外派遣等の参考資料に使う企業も増えています。TOEICがどのように企業に利用されているかについてやサンプル問題は同封のパンフレット (TOEIC PROGRAM BOOK) をご覧ください。

つぎましては、下記のとおり試験を実施しますので、3月31日(火)までに同封の郵便局払込取扱票にて受験料3,600円の振込をお願いいたします。(右記振込用紙をミシン目で切り離してお使いください。)

試験実施日

平成27年6月20日(土)

受験料

3,600円

お振込期限

平成27年3月31日(火)

※試験の詳細については、入学後に掲示等であらためてお知らせします。  
 ※農学部はTOEIC試験の運営を信州大学生生活協同組合に委託しております。

★TOEIC-IP テストとは

過去に実施されたTOEIC公開テストと同一の問題が出題される、いわゆる「過去問試験」ですので、書店等で販売されている過去問集の利用で試験対策が可能です。TOEIC公開テストと比較して、安価な金額で受験が可能なため、TOEIC公開テストの問題や時間配分等に慣れることができますので、無駄のないように試験対策をしてください。(試験時間は2時間で200問(内訳：リスニング(45分間・100問)とリーディング(75分間・100問))

○受験状況

実施年度	1年生	3年生
平成24年度	73	10
平成25年度	25	26
平成26年度	173	42
平成27年度	183	89

(出典：農学部作成)

③ 海外実習

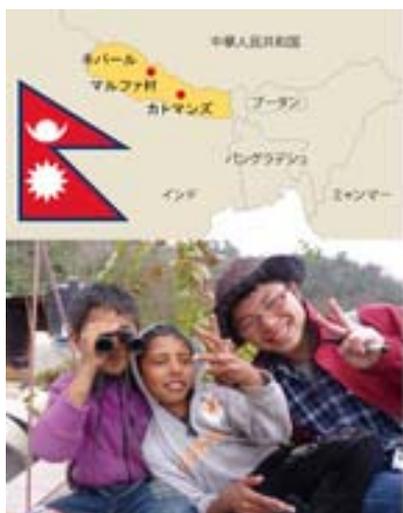
国際感覚及び英語力を重要事項と捉え、JASSOを始めとする海外派遣プログラム、ネパール農業実習等、海外実習への参加を推奨している（資料農66、67）。

資料農66 海外実習への参加実績（海外派遣プログラム、ネパール農業実習等）

年度	プログラム名	人数
平成25年度	ネパール農業実習	10
	タイ・カセサート大学国際牧場実習	5
平成26年度	ネパール農業実習	10
	チュラロンコン大学春季プログラム	6
平成27年度	タイ・メーファーン大学夏季研修プログラム	7
	ドイツ・ロッテンブルク大学研修（海外の森林・林業とフォレスター研修プログラム）	3
	ネパール農業実習	4
	カンボジア農業・農村実習	3

（出典：農学部作成）

資料農67 ネパール農業実習の実施



日程：平成26年2月27日～3月11日

- 2月27日 名古屋→香港経由カトマンズ
- 2月28日 NARC表敬訪問 視察
- 3月1日 カトマンズ市内見学
- 3月2日 バトレケット村視察
- 3月3日 マーケット調査
- 3月4日 市場調査 カトマンズ→ボカラ
- 3月5日 ボカラ→マルファ  
マルファ農業試験場視察
- 3月6日 マルファ村調査
- 3月7日 マルファ村→トゥクチェ経由ボカラ
- 3月8日 ボカラ市内散策 ボカラ→カトマンズ
- 3月9日 大型スーパー市場調査
- 3月10日 カトマンズ→香港
- 3月11日 中部国際空港

（出典：信州大学ホームページ「ネパールの首都と山間地から見る農と食の問題」）

④ 国際的視野を広げるための講義科目

「国際農学講義 I」及び「海外農学実習」をそれぞれ開講し、国際性の向上を図っている（資料農68、69）。

資料農68 「国際農学講義 I」等の開講状況

授業名：国際農学講義 I 単位数：1 単位

開講年度	受講者数
平成25年度	0
平成26年度	20
平成27年度	16

授業名：海外農学実習 単位数：2 単位

開講年度	受講者数
平成26年度	15
平成27年度	14

（出典：農学部作成）

資料農69 シラバス (国際農学講義 I、海外農学実習)

開講年度	2015年度	登録コード	A4013				
授業名	国際農学講義 I						
	International Agricultural Cooperation						
担当教員	根本 和洋	副担当	濱野 充				
講義期間	前期(集中)	曜日・時限	集不定	講義室	農学部B214	単位数	1
対象学生	2年生	授業形態	講義	備考	受講者数40名まで。		

注意)「曜日・時限」「講義室」等は変更される場合がありますので、「キャンパス情報システム」や「掲示」等で確認してください。

(1)授業のねらい	<p>授業で得られる「学位授与の方針」要素/◎：全学共通</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地球的な広い国際的視野と同時に現実的な地域の視点に立って問題をとらえ解決する能力を修得している</li> <li>できる国際的な感覚と基礎的な語学力を修得している。</li> <li>・◎世界の多様な文化、思想、歴史、芸術に関する幅広い素養がある【多様な文化受容マインド】</li> </ul> <p>【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> </ul> <p>【授業のねらい】</p> <p>農学部在学中に身につける専門性を将来国際協力や海外の現場において活かすためには、どのようなキャリアデザインの方法と可能性があるのか。本講義では、JICA（国際協力機構）の行っている事業や海外プロジェクトおよび青年海外協力隊の活動事例等について、実際に経験された方々から直接話しを聞く。また、参加型国際協力ワークショップを通じて途上国でおこっている農業問題の課題を解決するための解決策についてディスカッションすることによって、問題意識を高めるとともに、グローバルな人材となるためのステップとする。</p>
(2)授業の概要	<p>講義は2日間実施します。第1日目は、ガイダンス後、JICA駒ヶ根訓練所の職員による講義を中心におこないます。実際に海外の現場で農業関連の国際協力に携わった方の活動報告も予定しています。第2日目は、JICA駒ヶ根訓練所へ場所を移して行ないます。施設見学後、途上国でおこっている農業問題の課題を解決するテーマで参加型国際協力ワークショップを行ないます。ワークショップはグループに分かれて課題に取り組み、グループごとにプレゼンテーションを行なってもらいます。プレゼンテーションは、JICA駒ヶ根訓練所の職員、教員、受講学生によって審査・評価されます。</p>
(3)授業計画	<p>第1日午前： 講義の目的および概要 日本の国際協力と農業関連の国際協力活動</p> <p>午後： 青年海外協力隊活動と帰国OB/OGの活動報告 技術協力プロジェクト（JICA専門家の活動など）</p> <p>第2日午前： JICA駒ヶ根訓練所訪問 施設見学 参加型国際協力教育ワークショップの課題説明と準備</p> <p>午後： グループに分かれてワークショップ準備 グループごとにプレゼンテーション プレゼンテーションの評価と総合ディスカッション</p> <p>開講時期は8月上旬を予定しています。詳細は追ってアナウンスいたします。 第2日目のJICA駒ヶ根訓練所へは大学のバスで移動予定です。 昼食は訓練所内の食堂にてとります（有料）</p>
(4)自主学習の指針	<p>授業時間以外の自主学習は特に求められません。ただし、世界の農業や食文化、海外技術援助などに関する書籍が多数出版されていますので、それらを読んでおくことと授業の理解度が深まり、ワークショップへの準備になります。また、自身の国際協力への参加のイメージ構築に役立ちます。</p>
(5)成績評価の基準	<p>レポートに関しては、以下の基準を成績評価に用いる。</p> <p>(i)問題の設定が適切であり、(ii)その問題の背景を説明できており、(iii)その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv)それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており、(v)その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。(i)から(v)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項</p>

	目までできていれば「水準にある」。
(6) 事前事後学習の内容	講義終了後に課すレポートの中で、講義内容に関連し事後学習を必要とする課題を入れるので、各自課題に取り組みレポートに反映させること。
(7) テストやレポートの予定	講義終了後にレポートを課します。テストは行いません。
(8) 成績評価の方法	ワークショップにおける取り組みおよびプレゼン内容と、講義後に提出されたレポートの内容によって評価します。 100点満点で100～90点を秀、89～80点を優、79～70点を良、69～60点を可、59点以下を不可とします。
(9) 質問、相談への対応および連絡先	根本和洋 植物遺伝育種学研究室（応生・食料生産棟4F C413） e-mail: knemoto@shinshu-u.ac.jp 電話：0265-77-1619
(10) 履修上の注意	第2日目は、JICA駒ヶ根訓練所で行ないます。適した服装、態度で臨んで下さい。送迎バスに乗り遅れた場合は、必ず公共交通機関を利用すること。遅刻した場合や自家用車やバイクで来た場合は履修を許可しません。
【教科書】	なし。資料を配布する。
【参考書】	随時紹介する。
【添付ファイル】	なし

(出典：シラバス)

⑤ 外国人学生の受講受入れ

短期来校の外国人学生を特別聴講学生として受け入れ、外国人学生と触れ合う機会を提供するとともに、国際的視野を養う機会として活用している（資料農70）。

資料農70 短期来校の外国人学生の授業への参加状況

年度	受講科目	単位	受講者数
22	なし		0
23	なし		0
24	なし		0
25	なし		0
26	高冷地フィールド科学演習Ⅰ	2	1
	専攻演習	2	1
27	専攻演習Ⅱ	5	2
	家畜衛生学	2	1
	畜産製造学	2	1
	食料生産利用学動物実験Ⅱ	2	1
	食品製造学	2	1
	微生物学	2	1
	食品化学	2	1
	高冷地生物生産管理学	2	1
	牧場体験ゼミ	1	12
専攻演習	2	12	

(出典：農学部作成)

⑥ 国際シンポジウムの開催

国際シンポジウムを随時開催し国際性の向上を図っている（資料農71）。

資料農71 国際シンポジウムの実施状況

月日	会議名称等	関連団体名等	主担当学科等	備考 (参加人数等)
----	-------	--------	--------	---------------

(平成23年度)

9月20日	ネパール農業省との学術交流協定締結記念「中山間地域の再生・持続モデル構築のための実証的研究」プロジェクト国際セミナー	ネパール農業省	農学部	約80名参加
-------	--	---------	-----	--------

(平成24年度)

11月20日	信州大学農学部－浙江省農業科学院・国際交流協定締結第2回記念講演会	浙江省農業科学院	農学部	
2月27日	農学部近未来農林総合科学国際シンポジウム		近未来農林総合科学教育研究センター	

(平成26年度)

7月10日	メイファーラン大学農産学部長特別講演会		農学部	
1月22日	信州大学農学部－ソウル大学共同シンポジウム		ソウル大学・農学部	
1月23日	信州大学農学部－世宗大学記念シンポジウム		世宗大学・農学部	
3月11日	信州大学－ダラット大学間協定締結記念講演会		農学部	

(平成27年度)

8月20日	フロンティアバイオテクノロジー国際シンポジウム2015		農学部・バイオメデイカル研究所	約100名参加
10月9日	4カ国コンソーシアム国際シンポジウム	ジャンビ大学・バングラデシュ農業大学・スラナリ工科大学	農学部	

(参考)

平成24年度農学部近未来農林総合科学国際シンポジウム

**2013 International Symposium  
on Frontier Agriscience and Technology**  
- Insights into Biological Mechanisms, Resources and Availability -  
Faculty of Agriculture, Shinshu University

Date: February 27, 2013  
Venue: Faculty of Agriculture, Shinshu University

**Program**

PM1:00 Opening Remarks: Soichiro Nakamura, Professor, The University Vice President & Dean

**Section 1**

PM1:05 Introduction Masashi Saito, Assistant Professor (Ecosystem Risk Management)

PM1:15 "Sustainable management of forest and development of economic plant under forest and protection study"

- Ecological survey and utilization of Vaccinium species  
Hexin Wang, Professor  
Institute of Modern Agricultural Research, Dalian University, China

PM1:50 "National forest planning system and unequal forestry profitability"

Keisuke Toyama, Assistant Professor  
Chiba Forest, The University of Tokyo, Japan

PM2:25 Short Break

**Section 2**

PM2:35 Introduction Yutaka Uyeno, Assistant Professor (Bioresource)

PM2:45 "Total mixed ration containing food by products: Fermentation characteristics in silage and in rumen"

Chao Wang, Assistant Professor  
Graduate School of Bioreources, Mie University, Japan

PM3:20 "Towards an integrated understanding of the microbial ecosystem in anaerobic wastewater treatment processes"

Takashi Nakama, Research Scientist  
Department of Civil and Environmental Engineering, University of Illinois, USA and  
Bioproduction Research Institute, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST), Japan

PM3:55 Short Break

**Section 3**

PM4:05 Introduction Shunmao Suzuki, Assistant Professor (Epigenomics)

PM4:15 "Marsupial as models for biomedical studies"

Marilyn R. Renfree, Professor  
Department of Zoology, The University of Melbourne, Australia

PM4:50 "Roles of LTR retrotransposon-derived genes in mammalian evolution and diversification"

Fumitoshi Ishino, Professor  
Department of Epigenetics, Medical Research Institute, Tokyo Medical and Dental University, Japan

PM5:25-5:30 Closing Remarks Hiroshi Kagami, Professor

PM5:45-7:00 Banquet

Organizer: Hiroshi Kagami, Professor

Hosted by: Frontier Agriscience and Technology Center (FAST), Faculty of Agriculture, Shinshu University

Inquiry: Erika Usuki, General Affairs Section for Tenure Track Program TEL: +81-265-77-1329

●本シンポジウムは、(アニマルヘルソ)事業の支援のもと開催されています。

平成26年度農学部—ソウル大学共同シンポジウム

**Seoul National University  
Shinshu University  
2015 Joint Symposium**



■ Date : 13:30-16:30pm (Thu) Jan. 22, 2015

■ Venue : Bldg 203 / Rm 101, Seoul National University

Time	Speaker	Topic
13:30-13:40	Prof. Tamas Oso (Shinshu University) Prof. Sangyeol Kye (Seoul National University)	
13:40-14:00	Prof. Chul-Hyeon Yoo (Seoul National University)	Advanced respiratory vaccine adjuvants
14:00-14:20	Prof. Shoichi Tanaka (Shinshu University)	Autoregulation at the top for the evolution of mammalian genome imprinting
14:20-14:40	Prof. Tae Suk Park (Seoul National University)	Programmable genome editing and application in Chicken
14:40-15:00		Coffee Break
15:00-15:20	Prof. Shoichi Tanaka (Shinshu University)	Activation of <i>2p<sub>1</sub></i> immunity by the extract of dairy food
15:20-15:40	Prof. Yoshiko Uyeno (Shinshu University)	Microbiome - inherent resources for animal
15:40-16:00	Prof. Jaeng Young Park (Seoul National University)	Protein-Protein interaction that involves coupled unfolding and binding
16:00-16:30		Closing

Department of Agricultural Biotechnology BK21+ / Institute of Animal Science and Technology

平成27年度フロンティアバイオテクノロジー国際シンポジウム

**International Symposium on  
Frontier Biotechnology 2015  
(2nd International Symposium,  
Institute for Biomedical Sciences)**

Shinshu University (Faculty of Agriculture) has concluded Academic Agreements with Seoul National University (College of Agriculture and Life Sciences) and Sejong University (College of Life Sciences). Distinguished scientists from these Universities will talk on how they have advanced biotechnology opening a vista for the near future.  
This International Symposium is organized by International Center for Agricultural Education and Research (ICAER) and Institute for Biomedical Sciences (IBS), Interdisciplinary Cluster for Cutting Edge Research (ICCER).

**August 20th (Thursday), 2015 13:00~17:00**  
**Room 30, Faculty of Agriculture, Shinshu University &  
SUNS-relay to Main Conference Room, Asahi Hall 3F, Matsumoto Campus**

13:00 Opening address: Dr. Naoto Saito (Director, IBS-ICCER)  
13:05 Dr. Hideofumi Makabe (Fac. Agr.)  
Synthesis of proanthocyanidins and their antioxidant activity  
13:30 Dr. Jeong-Yong Suh (Seoul National Univ., IBS-ICCER)  
Structural mechanism of auxin-response transcriptional regulation in plant  
13:55 Dr. Hiroshi Kagami (Fac. Agr., IBS-ICCER)  
Stem cell applications for poultry breeding  
14:20 Dr. Jae Yong Han (Seoul National Univ., IBS-ICCER)  
Avian genome editing and modulation using primordial germ cells  
14:45 Coffee break  
15:10 Dr. Keosaku Ohtsawa (Fac. Textile Sci. & Tech., IPES-ICCER)  
Novel silk proteins from aquatic insects and possible applications  
15:35 Dr. Heeul Kim (Seoul National Univ.)  
Evolutionary analysis for animal genome and development of genomic selection model  
16:00 Dr. Ikao Tomioka (Fac. Agr., IBS-ICCER)  
Production of common marmoset (*Callithrix jacchus*) models for neurodegenerative disease using transgenic technology  
16:25 Dr. Soon-Mi Shim (Sejong Univ.)  
Characterization of transport mechanism of vitamin U (S-methyl-L-methionine) from cruciferous vegetables  
16:50 Closing address: Dr. Soschiro Nakamura (Vice President, Shinshu Univ.)  
17:15 Cultural/Academic exchange (Imonita on-campus Restaurant)

Host: International Center for Agricultural Education and Research (ICAER), Faculty of Agriculture, and Institute for Biomedical Sciences, Interdisciplinary Cluster for Cutting Edge Research (IBS-ICCER), Shinshu University  
More info: Email to <icaer@shinshu-u.ac.jp>  
HP: <http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/agriculture/institutes/icaer.php>



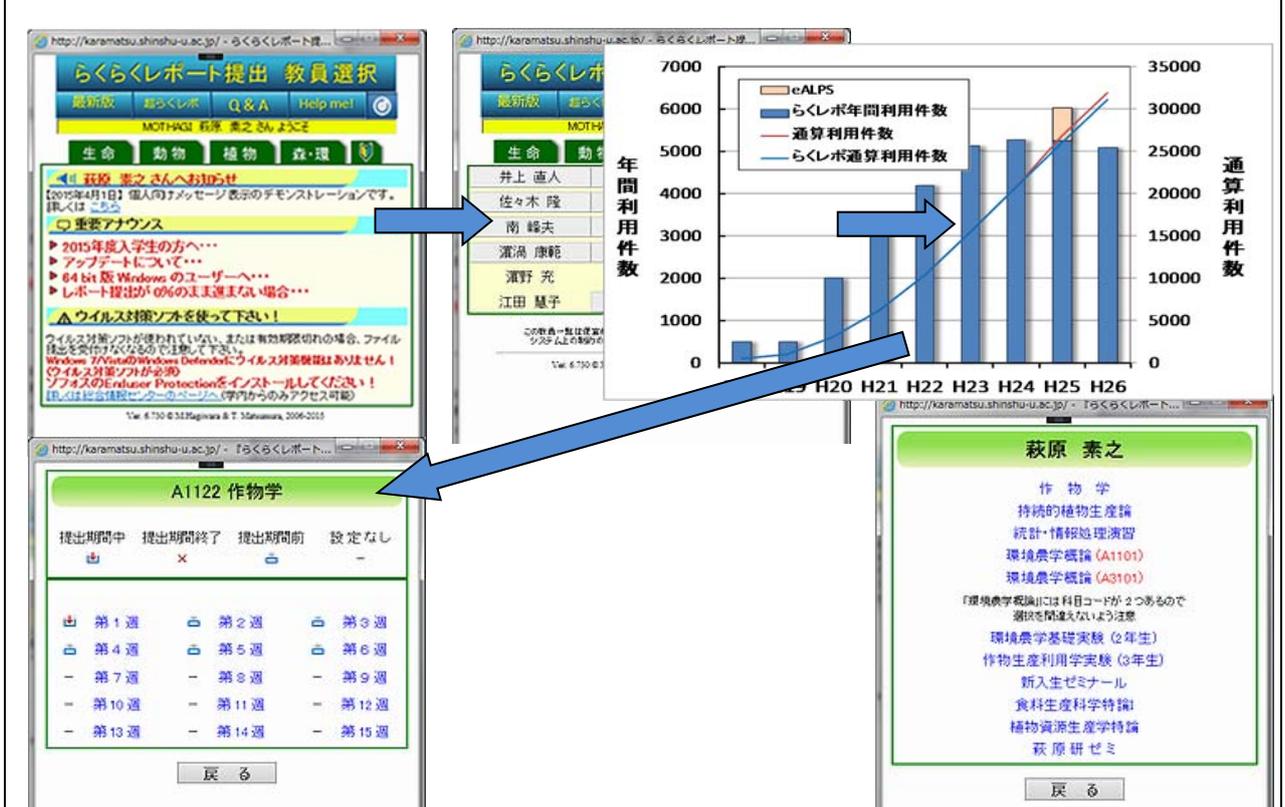
(出典：農学部作成)

5 学生の主体的な学習を促すための取組

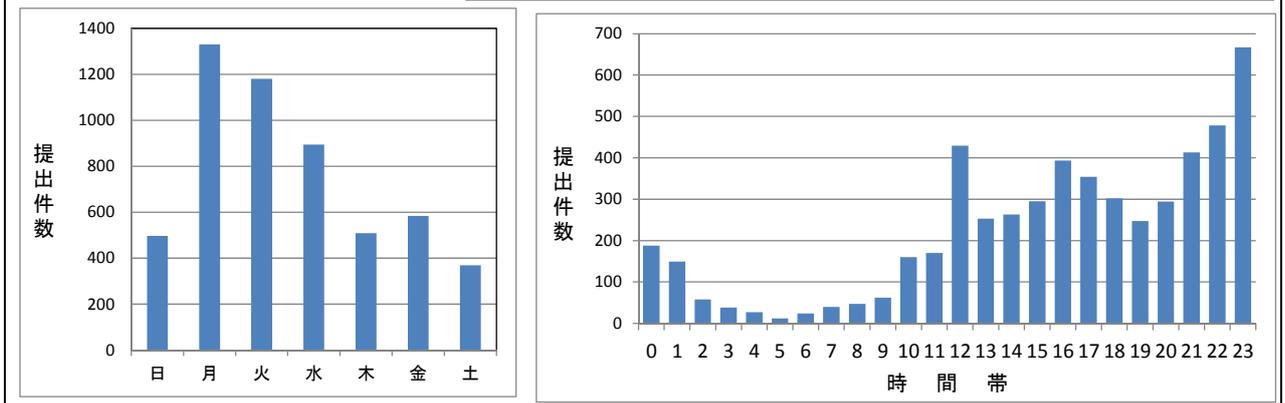
① ICTの活用

自主学習を促すツールとして、e-Learningの他、本学部において独自に開発したソフト「らくらくレポート」を活用し、授業外学習や自宅からのレポート提出を可能としている(資料農72)。

資料農72 ICTの活用 (らくらくレポート提出によるレポート提出)



平成 23 年度以降、年間のレポート提出件数は 5、000 件あまりで推移し、通算利用は平成 26 年度末で 3 万件を超えた。



レポートの提出が最も多いのは月曜日で、これは週末に学生が自宅でレポートを完成させ、週明けに提出するケースが多いためと見られる。また、レポート提出が多い時間帯は午後 10~12 時で、学生が自宅でレポートを完成させ、提出していることが分かる。

(出典：農学部作成)

② 施設・設備の充実

農学部図書館では、毎年シラバス図書(教科書・参考書)の選定・購入を行い、閲覧室の整備を継続的に進めている。さらに、講義棟及び研究棟にラウンジ等を設置し、教員と学生及び学生間のコミュニケーションや学生の主体的な学習を促すための環境を整備して

いる（資料農73）。

資料農73 講義棟のラウンジ等

〔ラウンジ〕



〔コミュニティールーム〕



（出典：農学部作成）

③ 他大学との連携・単位互換

AFCにおいて、他大学との単位互換を旨とする全国公開実習を平成23年度から実施している。これにより、他大学の学生を毎年度10名以上受け入れるとともに、他大学への学生派遣を行っている（資料農74）。

資料農74 公開実習の状況（農学部／平成23年度以降）

単位互換先	年度		H23		H24		H25		H26		H27	
	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣	受入	派遣
琉球大学	5	6	3	1	1	2			2		1	1
京都大学	3		2		2	1		1				
山形大学	1				2						1	1
島根大学			1									
鹿児島大学		7		3		1			7		2	8
高知大学		1	1		1						2	1
静岡大学			1					3			4	
筑波大学	1		1	2	2	1			4			6
新潟大学				2	5							
宮崎大学								1			1	
三重大学									3			
北海道大学									2		1	
佐久大学	2				2						1	
長野県看護大学	1		3		1							
清泉女学院大学	1		1					5				
長野大学	1										1	
計	15	14	13	8	16	5	10	18	14	17		

（出典：農学部作成）

④ ボランティア活動・地域活動の実施

学生の社会貢献意識を高めるためのキャリアデザイン教育の一環として、人的、物的サポートを行い、様々な地域活動の展開を図っている（資料農75）。

資料農75 地域活動の状況

○長野県知事とのタウンミーティング



(出典：信州大学ホームページ「農学部の学生地域活動グループが長野県知事とタウンミーティング」)

○震災復興支援と「福幸そば」の販売

「大学の地域貢献度」2年連続全国総合1位  
 栄村震災復興支援隊  
 「農援隊」も一役

日本経済新聞社「大学の地域貢献度」に関する全国調査2013)で、信州大学は昨年に続き、総合1位の高い評価を頂きました。農学部でも積極的に地域貢献に取り組んでいます。学生・教職員で組織した震災復興ボランティア「農援隊」は、2011年3月の東日本大震災・長野県北部地震で被害を受けた長野県栄村を支援してきました。農援隊が種播作業をお手伝いしたソバが、乾麺「福幸そば」やカップ麺として発売されています。このカップ麺が栄村から東日本大震災の被災地福島県へ贈られました。



(出典：農学部デジタルパンフレット)

○「農援隊」の学長賞受賞

震災復興支援ボランティア「農援隊」が学長賞を受賞

2012年04月13日

信州大学農学部栄村震災復興支援隊(略称:「農援隊」)が学生表彰として信州大学学長賞を受賞しました。授賞式は平成24年4月4日の平成24年度入学式に続いて行われました(写真右)。



授賞式の様子

「農援隊」は、平成23年3月12日に発生した長野県北部地震で被災した長野県栄村の復興支援のために、同年4月に農学部の有志の学生・教職員により立ち上げられたボランティア組織です。

農援隊はその後、約9ヶ月間にわたり、栄村の村内16地区に通算約30日間、学生だけでも、のべ153人が地元のボランティア組織と連携し、施設の清掃、田作り、苗箱の運搬、農業用水路の補修・清掃、キノコ栽培施設の片付け、復興イベントの運営などの支援活動を行いました。また、イネの作付けが不能になった被災水田へのソバの播種・収穫のお手伝いや、収穫したソバで製造したソバ乾麺「福幸ソバ」のパッケージデザインなど、栄村の復旧・復興支援に多面的に取り組んできました。

活動の一部には学外の方もボランティアとして参加いただきました。さらに、農学部後援会、国立大学協議会及び一般の方々のご支援・ご協力も頂いて復旧・復興支援活動を行うことができましたので、関係各位にこの場でお礼申し上げます。

なお、農援隊は、平成24年度も活動を続けることとしております。

(出典：信州大学農学部ホームページ「震災復興支援ボランティア「農援隊」が学長賞を受賞」)

⑤ 環境に関する取組

本学では全学で省エネ・省資源・資源リサイクル等を推進し、環境ISO14001を取得している。本学部では、学生が主体的に参加する組織を置き、学生個々のアイデアを取り入れた様々な環境イベントに取り組んでいる（資料農76）。

資料農76 農学部環境ISO学生委員会

## 自然豊かな信州こそ、環境教育にふさわしい

地球温暖化などの環境問題は、今すぐ行動しなければ取り返しがつかなくなることが確実な状況になってきました。環境問題の解決力が、今後の社会の継続・発展力なのです。信州大学では全学で省エネ・省資源、資源リサイクルなどを推進し、環境ISO14001を全学で認証取得しています。なお、農学部では2006年11月に環境ISO14001を認証取得し、積極的にエコキャンパス活動を進めています。



農学部環境ISO学生委員会は、キャンドルナイトやグリーンカーテン、紅葉ゴミ拾い、とうがらしDEウォームピズ、マイ箸づくりなど、学生のアイデア盛り沢山の魅力的な活動を実施しています。その他、信大 Earth Caféと題した、気軽に参加してもらえる環境イベントの企画運営も手掛けており、魅力ある大学づくりに貢献しています。また、大学だけにとどまらず、地域にも範囲を広げ活発に活動しています。

(出典：農学部デジタルパンフレット)

⑥ 「大学は美味しい!!」フェアでの出展

本学部は平成20年度から開催されている「大学は美味しい!!」フェアに毎回参加し、学生が実習で育てた果実を使ったジャム、山ぶどうワイン等を出展している（資料農77）。

資料農77 「大学は美味しい!!」フェア

## 「大学は美味しい!!」フェアで生産品を自らPR・販売

「大学は美味しい!!」フェアは、全国各地の大学が開発・販売を手がける大学ブランド食品や、地元メーカーと協力して開発された食品を展示・販売するもので、2008年から東京の新宿高島屋で開催されており、毎回、大変な賑わいとなっています。信州大学農学部は初回から毎回参加し、学生が実習で心を込めて育てた果実を使ったジャムや果汁飲料、山ぶどうワインなどを出展・販売して、好評を得ています。



(出典：農学部デジタルパンフレット)

⑦ GPA制度の導入・学生修学相談への活用

平成26年度の入学生からGPA制度を導入し、学生自らが修学における客観的な位置を認識できるようにするとともに、希望学生や累積GPAが2.0以下の学生等を対象に「面談の記録」を利用した修学相談を行い、継続的な修学支援の体制を整備している（資料農78）。

資料農78 GPA制度の導入による学生面談の記録様式

2年次前期のGPAについて	2年次前期GPA：	累積GPA：
	学生の見解：	
アドバイス内容：		

2年次後期のGPAについて	2年次後期のGPA：	累積GPA：
	学生の見解：	
アドバイス内容：		

3年次後期のGPAについて	3年次後期のGPA：	累積GPA：
	学生の見解：	
アドバイス内容：		

4年次前期のGPAについて	4年前期のGPA：	累積GPA：
	学生の見解：	
アドバイス内容：		

3年次前期のGPAについて	3年次前期のGPA：	累積GPA：
	学生の見解：	
アドバイス内容：		

【2】出席状況について

※前の学期の自分の出席状況に関する総合的な見解を記載してください。また、特に自分で問題を感じているものがある場合には、その問題を簡潔にまとめ、書き入れてください。

1 年次前期の 状況	
1 年次後期の 状況	
2 年次前期の 状況	
2 年次後期の 状況	
3 年次前期の 状況	
3 年次後期の 状況	
4 年次前期の 状況	

農学部 面談の記録 (学生用)

※本記録は卒業まで使用しますので、大切に保管してください。

学籍番号 \_\_\_\_\_ 名前 \_\_\_\_\_

1 年次前期 月 日 ( ) 面談者: \_\_\_\_\_ 1 年次後期 月 日 ( ) 面談者: \_\_\_\_\_  
 2 年次前期 月 日 ( ) 面談者: \_\_\_\_\_ 2 年次後期 月 日 ( ) 面談者: \_\_\_\_\_  
 3 年次前期 月 日 ( ) 面談者: \_\_\_\_\_ 3 年次後期 月 日 ( ) 面談者: \_\_\_\_\_  
 4 年次前期 月 日 ( ) 面談者: \_\_\_\_\_ 4 年次後期 月 日 ( ) 面談者: \_\_\_\_\_

『面談の記録』は、学生と担任の教員が学期に一度面談する際に使うファイルです。学生は『学生用マニュアル』に従って面談に必要な準備を整えてください。教員は『教員用マニュアル』で使い方を見てください。  
 ・面談の目的は、学生の修学状況を担任の教員と一緒に見て、考えるところにあります。叱責や懲罰の機会ではありません。

【1】GPA について

※直前の学期までの GPA 値の推移についてあなたがどう思うか、特に①勉強意欲が保たれているか、また②勉強のしかたに不安はないか、等について、面談までに考えをあらかじめ「学生の見解」欄に記入してください。

	1 年次前期の GPA :	累積 GPA :
1 年次 前期の GPA に ついて	学生の見解 :	
	アドバイス内容 :	
	1 年次後期の GPA :	累積 GPA :
1 年次 後期の GPA に ついて	学生の見解 :	
	アドバイス内容 :	

(出典 : 農学部作成)

6 社会や地域への教育提供

本学部では一般者向けの教育プログラムを開設し、地域における生涯教育のレベル向上に寄与している(資料農79)。

資料農79 一般者向け教育プログラムの開設状況

開講年度	開講日	タイトル	担当教員
平成22年度	8月4日(水) ～ 8月5日(木)	第8回 信大夏の林業教室	植木 達人
	8月4日(水)	のぞいてみよう、ミクロの世界！アミノ酸をつくる微生物	池田 正人
平成23年度	8月27日(土)	知って食べればさらにおいしい！果実・野菜の食品化学	藤田 智之
	10月1日(土)	自分の細胞を見る、遺伝子を見る	平松 浩二
平成24年度	8月7日(火)	変貌する里山	中堀 謙二
	10月20日(土)	なぜ直売所が注目されているのかー実践者に学ぶ直売所の運営ー	加藤 光一
平成25年度	8月8日(木)	安全と安心のためのシステムー分析は何ができるか	後藤 哲久
	9月7日(土)	森林を活用した効果的な土砂災害抑制方法を考える	平松 晋也
平成26年度	8月2日(土)	DNAでトリのオスとメスを見比べよう	小野 珠乙
	3月15日(日)	アグリバイオの世界ー遺伝子・バイオリソース・生命機能の高度利用を考えるー	千 菊夫
平成27年度	9月26日(土)	体験しよう！ノーベル化学賞「クロスカップリング反応」の実験	真壁 秀文
	12月12日(土) ～ 12月13日(日)	冬の樹木観察入門	岡野 哲郎

(出典：農学部作成)

また、本学として一般者向けに実施している授業等のうち、本学部では特に市民開放授業に関して次のとおり実施している(資料農80)。

資料農80 市民開放授業の実績

(単位：件、人)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
開放授業数	123	109	112	109	98	94
実施数	10	28	30	9	7	5
受講者数	11	31	33	13	7	4

〔説明〕

市民開放授業とは、正規の学生のために開講されている通常の授業を一般市民に開放するもの。

(出典：農学部作成)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

- 1 学科 4 コース制への学部改組において、学際融合科目等のコース横断的科目、国際的視野での実践力を目指したグローバル系科目、最新の専門知識を提供する先鋭領域特別講義を設置し、さらに副専攻を取得できる制度を整備するなど、入学から卒業に向けて、段階的に幅広い総合科学の知識と農学に関する基礎知識、応用力・実践力を身に付ける教育を提供し（資料農48、49）、想定するすべての関係者の期待に込えている。
- 社会の更なるグローバル化への対応として、国際農学教育研究センターを中心に、国外の大学との交流協定を進め、学生の海外実習への参加等の交流の活発化を推進するとともに、TOEIC-IP受験の義務化、国際通用性のある教育及び高度な授業を提供し（資料農48、49、62～69）、想定するすべての関係者の期待に込えている。
- AFC は、教育関係共同利用拠点に認定され、学内外の教育面における交流の活発化を図るとともに、多様な自然環境条件を活かした多くの演習・実習を実施し、学生の応用力・実践力を向上させる教育を提供し（資料農 54～56）、想定するすべての関係者の期待に込えている。
- AFC 手良沢山ステーション及び西駒ステーション・桂小場試験地は、平成 28 年 2 月 26 日に SGEC の認証規格による森林認証を取得した（資料農 57）。これにより一層環境面に配慮した教育・研究フィールドの管理・運営体制が整い、想定するすべての関係者の期待に込えている。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

1 卒業、休学、留年、退学の状況

本学部の標準修了年限内の卒業率は、平成22年度から27年度の期間において平均88.3%であった(資料農81)。

この値は、全国平均より高い値(別添資料1)である。

資料農81 農学部の卒業、進級、休学、留年、退学状況

	卒業生(4年)	卒業生(過年度生)	休学	退学	修業年限卒業率
平成22年度	164	10	9	6	86.3%
平成23年度	174	13	3	8	90.6%
平成24年度	161	9	5	8	86.6%
平成25年度	187	18	8	8	92.1%
平成26年度	173	13	9	9	88.3%
平成27年度	167	10	7	5	86.1%

(出典：農学部作成)

2 授業評価

① 授業評価アンケート

学生による授業評価(前掲資料農38、p31)の実施結果から、授業の満足度を総合的に問う項目において、85%以上の学生が「強くそう思う」から「どちらかというと思う」に回答している(資料農82)。

資料農82 学生による授業評価

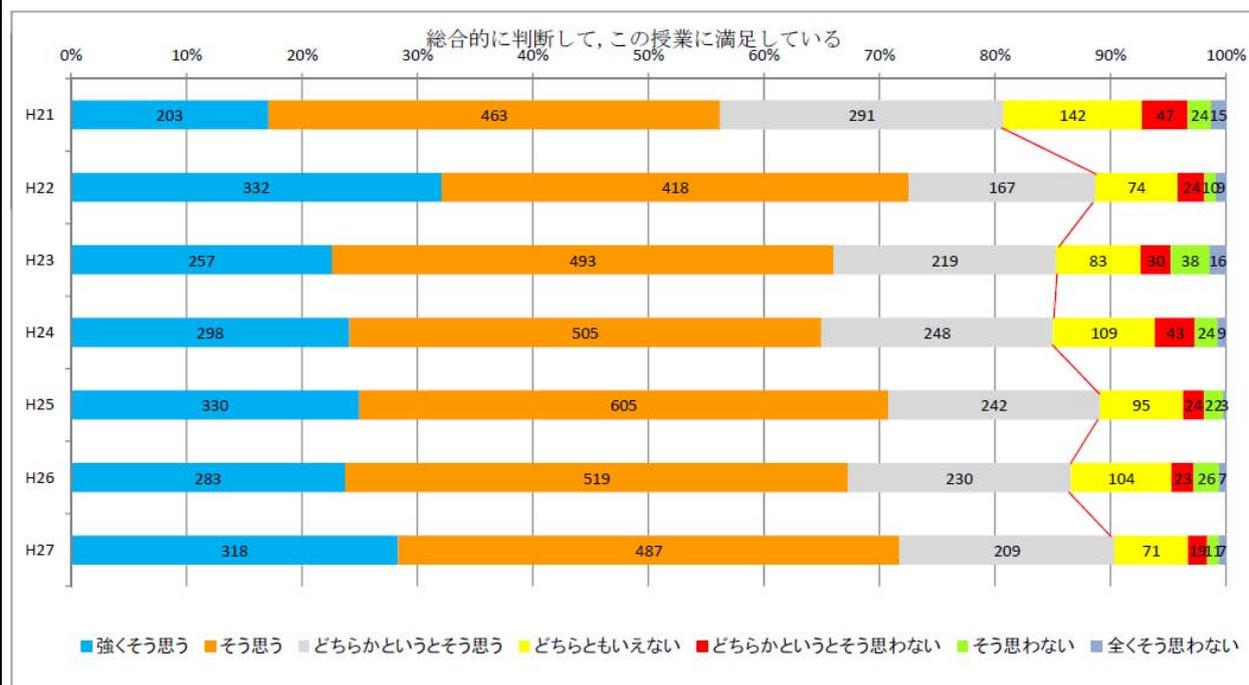
[平成26年度の実施結果 (アンケートの一例)]

平成26年度 授業改善のための学生アンケート(農学部)

分類	質問項目	強くそ う思う	そう思 う	どちら かとい うとそ う思う	どち らとも い えない	どちらか という と そう思 わない	そう思 わない	全くそ う思 わない
あなたの 取組姿勢	この授業に対するあなたの取組姿勢を教えてください							
	①よく予習した	31 2.6%	162 13.6%	191 16.0%	310 26.0%	186 15.6%	203 17.0%	109 9.1%
	②復習をこまめにした	46 3.9%	189 15.9%	268 22.5%	313 26.3%	170 14.3%	149 12.5%	57 4.8%
	③授業中、担当教員の話す内容に集中した	208 17.4%	410 34.4%	370 31.0%	136 11.4%	43 3.6%	18 1.5%	7 0.6%
	④ほとんど休まず出席した	487 40.9%	352 29.5%	177 14.8%	94 7.9%	53 4.4%	25 2.1%	4 0.3%
教員の取 組姿勢	この授業に対する担当教員の取組姿勢について教えてください							
	⑤教員の情熱や熱意が感じられた	297 24.9%	528 44.3%	243 20.4%	83 7.0%	26 2.2%	13 1.1%	2 0.2%
	⑥授業に対する準備が十分になされていた	359 30.1%	532 44.6%	198 16.6%	60 5.0%	28 2.3%	13 1.1%	2 0.2%
	⑦授業での話し方は明瞭で聞き取りやすかった	293 24.6%	413 34.6%	244 20.5%	121 10.2%	68 5.7%	41 3.4%	12 1.0%
	⑧分かりやすい説明をしていた	270 22.7%	449 37.7%	273 22.9%	121 10.2%	40 3.4%	28 2.3%	11 0.9%
	⑨効果的に板書、視聴覚教材、配布資料が使われていた	302 25.3%	457 38.3%	227 19.0%	118 9.9%	57 4.8%	18 1.5%	13 1.1%
	⑩受講生の理解度を把握しながら授業が進行されていた	189 15.9%	353 29.6%	301 25.3%	218 18.3%	74 6.2%	43 3.6%	14 1.2%
⑪遅刻や早めに授業を切り上げるような事はなかった(30分以上)	497 41.7%	487 40.9%	126 10.6%	51 4.3%	12 1.0%	8 0.7%	11 0.9%	
授業内容	この授業の内容について教えてください							
	⑫授業内容やシラバスの説明が十分なされた	217 18.2%	528 44.3%	258 21.6%	151 12.7%	19 1.6%	16 1.3%	3 0.3%
	⑬予習復習の情報提供・指示が十分与えられた	158 13.3%	397 33.3%	287 24.1%	227 19.0%	67 5.6%	49 4.1%	7 0.6%
	⑭探求の仕方・姿勢、知識や技術などの獲得に効果的であった	213 17.9%	461 38.7%	302 25.3%	150 12.6%	38 3.2%	21 1.8%	7 0.6%
	⑮担当教員の学問的・専門的識見が感じられた	420 35.2%	487 40.9%	194 16.3%	65 5.5%	14 1.2%	8 0.7%	4 0.3%
	⑯総合的に判断して、この授業に満足している	283 23.7%	519 43.5%	230 19.3%	104 8.7%	23 1.9%	26 2.2%	7 0.6%
自由記述	この授業について改善すべきと思うことがありましたら書いてください	自由記述						
	この授業について教員が良い工夫をしていると感じられることがありましたら書いてください	自由記述						

〔年度別質問項目比較〕

質問項目「総合的に判断して、この授業に満足している」



(出典：農学部作成)

② 卒業生アンケート

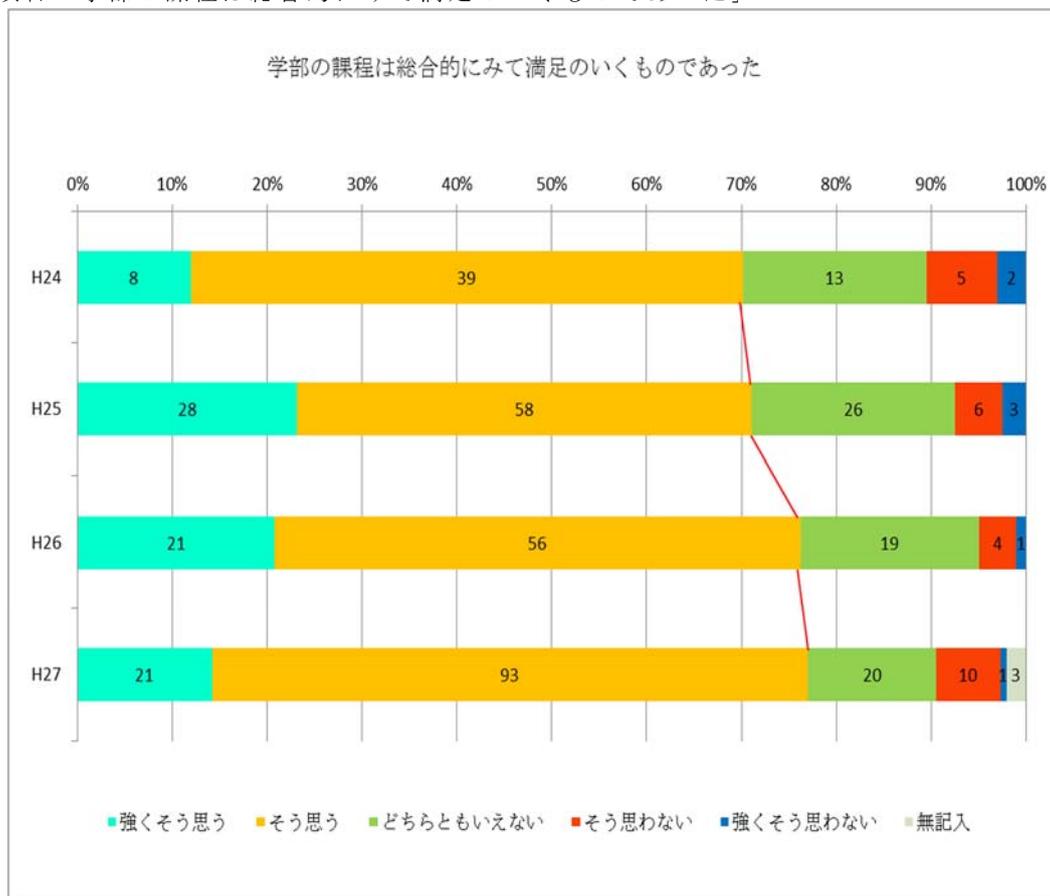
平成24年度から27年度に実施した卒業生アンケート（前掲資料農41、p34、35）の実施結果から、教育課程の総合的な満足度を問う項目において「強く思う」、「そう思う」と回答した学生の割合は、平成24年度の約70%から増加傾向にあり、平成27年度には約77%に達した。

また、専門的な知識が身に付く授業がなされているかを問う項目では高い評価を維持した（資料農83）。

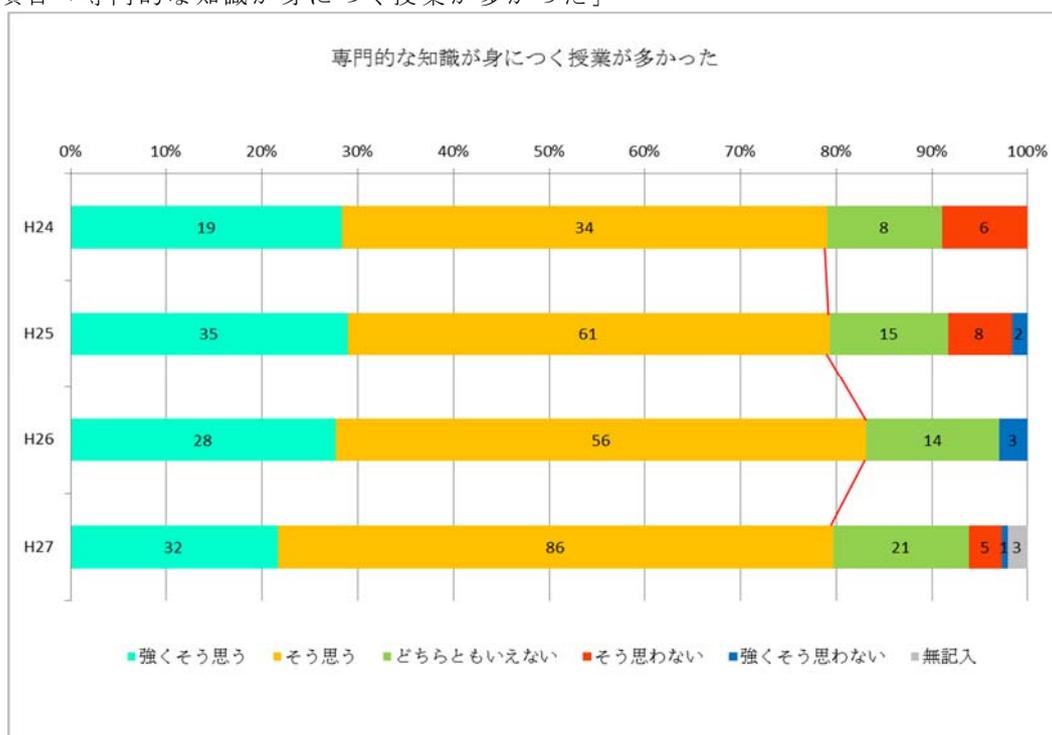
資料農83 卒業生アンケート

〔年度別質問項目比較〕

質問項目「学部の課程は総合的にみて満足のいくものであった」



質問項目「専門的な知識が身につく授業が多かった」



(出典：農学部作成)

3 資格取得状況及び学生の受賞状況

本学部における各種免許等の取得状況及び学生の主な受賞状況は以下のとおりである(資料農84、85)。

資料農84 各種免許・資格取得状況

農 学 部	免許・資格 年度	※教員免許 取得者数	食品衛生管理者 取得者数
	平成 21 年度	30	10
平成 22 年度	19	17	
平成 23 年度	45	14	
平成 24 年度	16	14	
平成 25 年度	10	14	
平成 26 年度	27	10	
平成 27 年度	25	3	

※ 教員免許の内訳は、高校理科、高校農業、中学理科である。

(出典：農学部作成)

資料農 85 学生の受賞状況 (農学部)

年度	賞の名称	受賞等の概要
H22	日本家禽学会 2010 年度秋季大会優秀発表賞	
	農業農村工学会関東支部奨励賞	地域住民による耕作放棄地解消の取組みー岐阜県恵那市中野方町の非農業者組織「援農笠置山」の事例ー
	日本造園学会支部大会優秀学生発表賞	野外キャンプを通じた子どもの自然への態度と生活行動の変化
	森林 GIS 学生フォーラム優秀賞	ラジコンヘリコプターを用いた信州大学農学部構内演習林の林分材積の推定
H24	2012 年日本造園学会中部支部大会優秀学生発表賞 (ポスター部門)	「子ども時代のあそび場と公園利用、及び居心地との関連性に関する研究」
	森林利用学会第 19 回学術研究発表会学生優秀論文発表賞	「作業道作設時における伐根処理時間の分析」
H25	日本動物細胞工学会 2013 年度大会 (JAACT2013) 優秀発表賞	T ホームページ-1 由来樹状細胞のハプテン抗原を標的としたアレルギー性評価法の確立
	日本造園学会中部支部大会優秀学生発表賞 (ポスター部門)	庭園における音楽の効果について
	第 21 回育種学会中部地区談話会	S3212 ( <i>Capsicum frutescens</i> ) と <i>C. annum</i> 品種との種間交雑による雑種作出
	日本家畜管理学会・応用動物行動学会合同春季研究発表会優秀発表賞	ソーシャルネットワーク分析を用いた牛群の親和関係の空間的及び行動的な解析
H26	COC 学術研究会シンポジウム優秀発表賞	Hsp70 発現量を指標としたアシル化フェルラ酸の神経細胞保護効果
	日本造園学会中部支部大会優秀学生発表賞 (ポスター部門)	長野市松代町の水路網における水生植物及び湿生植物群落の特性と立地環境条件との関係
	老化促進モデルマウス (SAM) 研究協議会若手研究奨励賞	老化促進マウス SAMP8 における転写因子 CREB を介した大豆ペプチドの神経栄養因子発現増強効果
H27	第 127 回日本森林学会学生ポスター賞	カラマツ天然更新林分の構造が搬出間伐に及ぼす影響

(出典：農学部作成)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

- 標準修了年限内の卒業率は平均88.3%であり、国公立大学平均の85.0%（理・工・農学系82.6%）以上を維持しており（資料農81、別添資料1）、想定するすべての関係者の期待に込えている。
- 学生による授業評価において良好な結果であるとともに、卒業生アンケートにおける教育課程の総合的な満足度を問う項目においても良好な結果を得ており（資料農82、83）、在学生、受験生、保護者の期待に込えている。
- 基礎から応用・実践への段階的教育に関し、卒業生アンケートにおいて、専門的な知識が身に付く授業がなされているかを問う項目において高い評価を得ており（資料農83）、在学生、受験生、保護者の期待に込えている。
- 研究成果を学会等に発表し、毎年数名が学生発表賞等を受賞しており（資料農85）、想定するすべての関係者の期待に込えている。

観点 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

1 進路・就職状況

過去7年間における、全国の大学の農学部及び本学部の進路状況は以下のとおりである。卒業生全体に占める就職者及び進学者の割合において年変動が認められるものの、ほぼ9割を維持し、全国平均と同等あるいはそれ以上であった(資料農86、87)。

資料農86 進路状況一覧

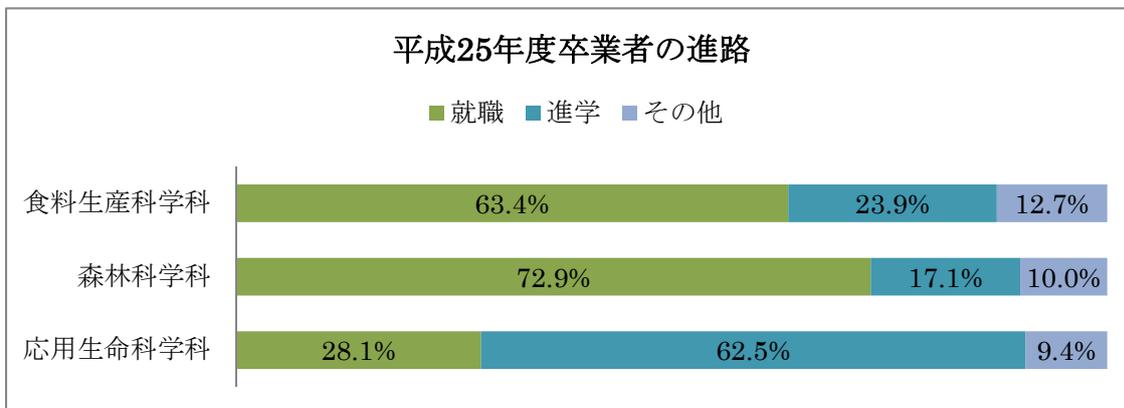
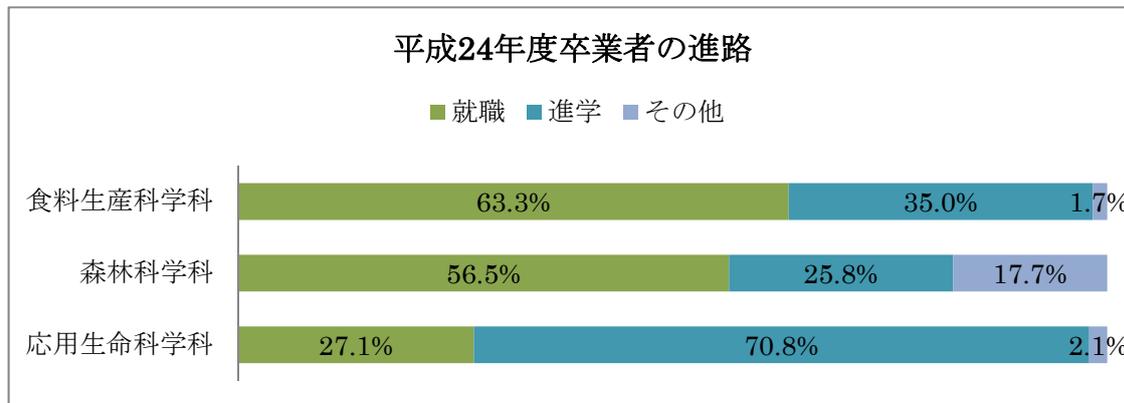
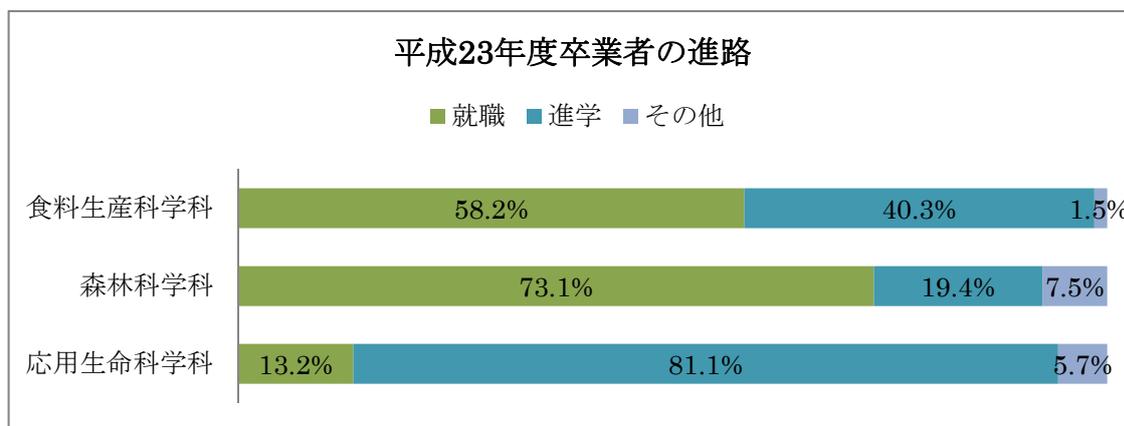
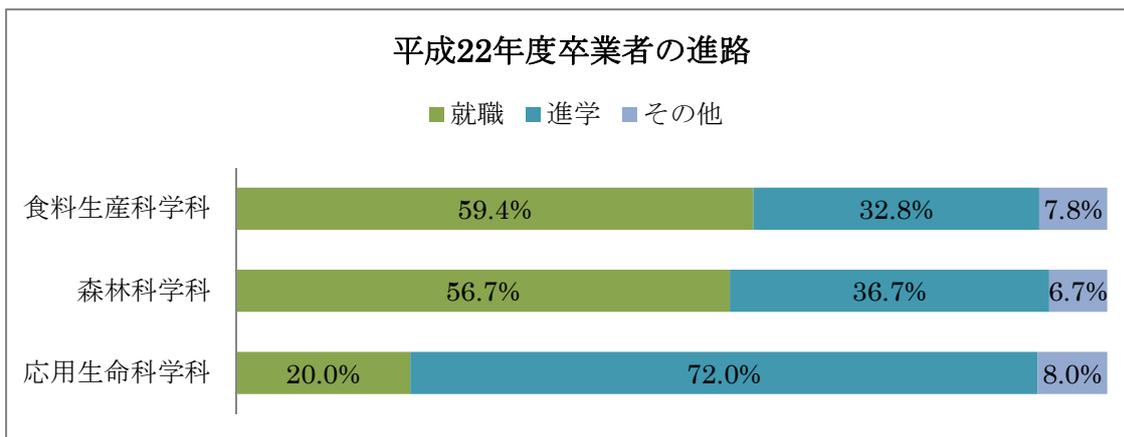
卒業年度	区分	卒業生			進学者		就職者		専修学校・外国の学校・等入学者	者事一時的に就いた	左記以外の者		亡不詳者・死
		A	人(B)	率(B/A)	人(C)	率(C/A-B)	人(D)	率(D/A)					
H21	全体	17,071	4,689	27.47%	9,827	79.37%	310	338	1,738	10.18%	169		
	国立	7,298	3,402	46.62%	3,273	84.01%	49	25	429	5.88%	120		
	大学	計	190	79	41.58%	93	83.78%	1	0	3	1.58%	14	
		男	121	60	49.59%	51	83.61%	1	0	1	0.83%	8	
	女	69	19	27.54%	42	84.00%	0	0	2	2.90%	6		
H22	全体	17,235	4,699	27.26%	9,808	78.24%	320	325	2,001	11.61%	82		
	国立	7,239	3,448	47.63%	3,124	82.41%	69	35	505	6.98%	58		
	本学	計	174	76	43.68%	82	83.67%	3	0	13	7.47%	0	
		男	100	52	52.00%	39	81.25%	2	0	7	7.00%	0	
女		74	24	32.43%	43	86.00%	1	0	6	8.11%	0		
H23	全体	17,388	4,339	24.95%	10,213	78.27%	296	383	2,102	12.09%	55		
	国立	7,355	3,242	44.08%	3,440	83.64%	70	25	560	7.61%	18		
	本学	計	185	81	43.78%	95	91.35%	0	0	9	4.86%	0	
		男	113	48	42.48%	59	90.77%	0	0	6	5.31%	0	
女		72	33	45.83%	36	92.31%	0	0	3	4.17%	0		
H24	全体	17,330	4,201	24.24%	10,523	80.15%	204	363	1,976	11.40%	63		
	国立	7,242	3,200	44.19%	3,356	83.03%	53	23	593	8.19%	17		
	本学	計	170	71	41.76%	86	86.87%	0	0	13	7.65%	0	
		男	102	53	51.96%	44	89.80%	0	0	5	4.90%	0	
女		68	18	26.47%	42	84.00%	0	0	8	11.76%	0		
H25	全体	17,326	4,112	23.73%	11,005	83.28%	232	253	1,672	9.65%	51		
	国立	7,232	3,162	43.72%	3,479	85.48%	49	27	495	6.84%	20		
	本学	計	205	65	31.71%	114	81.43%	4	0	22	10.73%	0	
		男	123	44	35.77%	62	78.48%	0	0	17	13.82%	0	
女		82	21	25.61%	52	85.25%	4	0	5	6.10%	0		
H26	全体	17,609	4,097	23.27%	11,626	86.04%	159	201	1,458	8.28%	68		
	国立	7,226	3,094	42.82%	3,626	87.75%	40	39	402	5.56%	25		
	本学	計	186	52	27.96%	112	83.58%	1	0	21	11.29%	0	
		男	91	32	35.16%	46	77.97%	0	0	13	14.29%	0	
女		95	20	21.05%	66	88.00%	1	0	8	8.42%	0		
H27	全体												
	国立												
	本学	計	177	59	33.33%	103	87.29%	1	0	14	7.91%	0	
		男	102	31	30.39%	57	80.28%	0	0	14	13.73%	0	
女		75	28	37.33%	46	97.87%	1	0	0	0.00%	0		

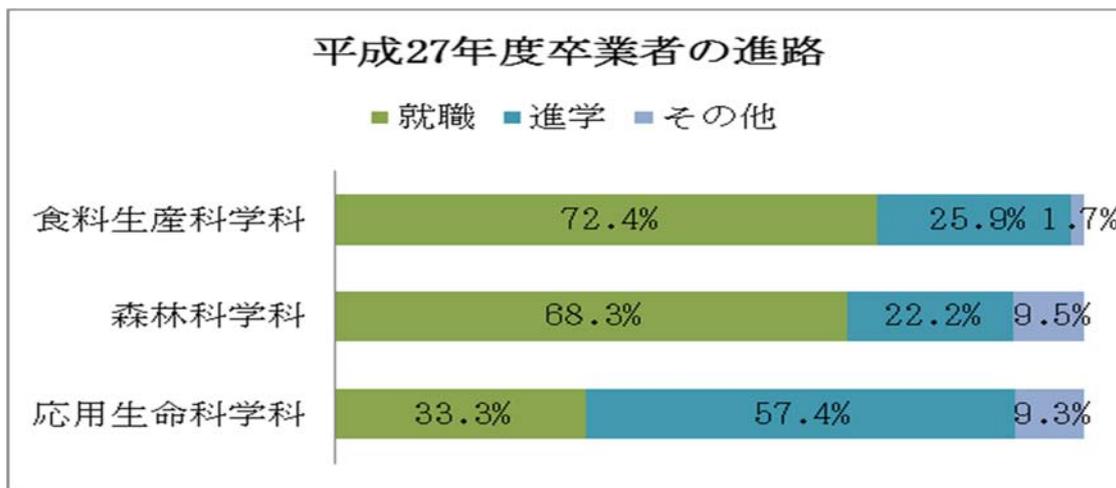
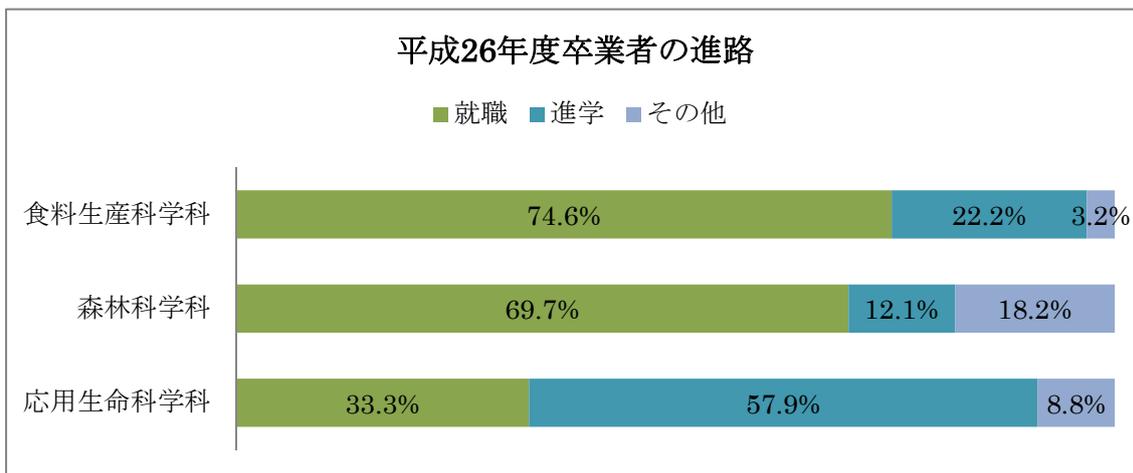
※ 「全体」「国立」は、学校基本調査の全国集計のうち、各年度>高等教育機関《報告書掲載集計》>卒業後の状況調査>大学卒業後状況調査(関係学科別)より、区分「農学」を抜粋  
 なお、平成27年度「全体」、「国立」については、平成28年6月末現在未公開

(出典：経営企画課)

卒業生の学科別の就職・進学・進学の割合は、以下のとおりである（資料農87）。

資料農87 卒業生の進路の状況（平成22年度～平成27年度）



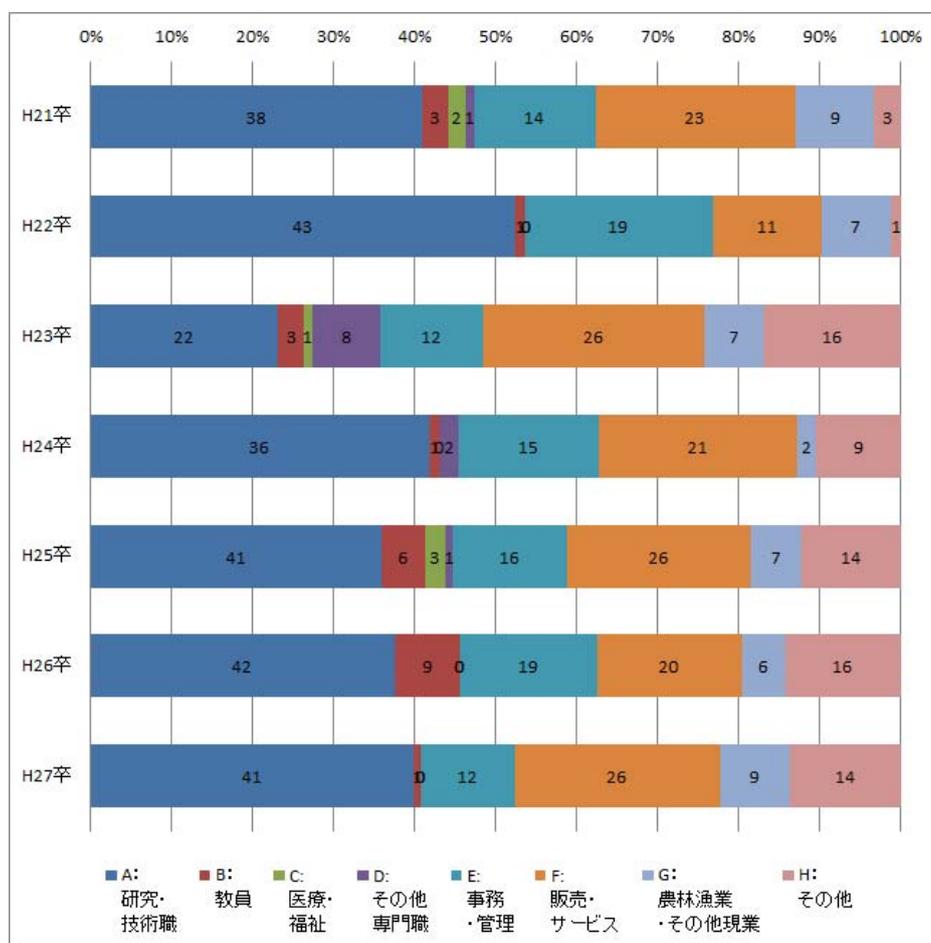


(出典：農学部作成)

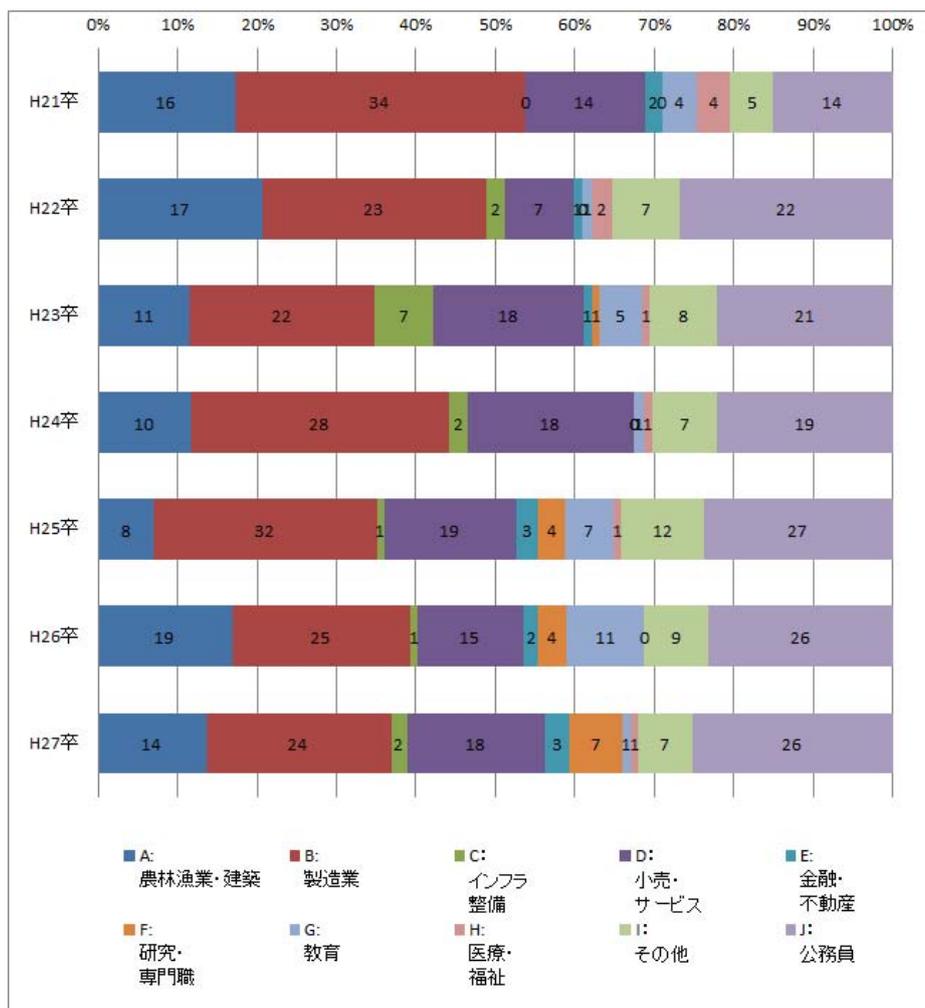
卒業生の職業・産業別就職状況は、次のとおりである（資料農88）。

資料農88 卒業生の産業別就職状況

職業別就職者数									
	A: 研究・ 技術職	B: 教員	C: 医療・ 福祉	D: その他 専門職	E: 事務 ・管理	F: 販売・ サービ ス	G: 農林漁業 ・その他 現業	H: その他	合計
H21卒	38	3	2	1	14	23	9	3	93
H22卒	43	1	0	0	19	11	7	1	82
H23卒	22	3	1	8	12	26	7	16	95
H24卒	36	1	0	2	15	21	2	9	86
H25卒	41	6	3	1	16	26	7	14	114
H26卒	42	9	0	0	19	20	6	16	112
H27卒	41	1	0	0	12	26	9	14	103



産業別就職者数											
	A: 農林漁 業・建築	B: 製造業	C: インフラ 整備	D: 小売・ サービス	E: 金融・ 不動産	F: 研究・ 専門職	G: 教育	H: 医療・ 福祉	I: その他	J: 公務員	合計
H21卒	16	34	0	14	2	0	4	4	5	14	93
H22卒	17	23	2	7	1	0	1	2	7	22	82
H23卒	11	22	7	18	1	1	5	1	8	21	95
H24卒	10	28	2	18	0	0	1	1	7	19	86
H25卒	8	32	1	19	3	4	7	1	12	27	114
H26卒	19	25	1	15	2	4	11	0	9	26	112
H27卒	14	24	2	18	3	7	1	1	7	26	103



(出典：学校基本調査を基に経営企画課で作成)

2 就職支援の充実

インターンシップ関係科目（前掲資料農53、p47）に加え、本学部の学生向けに各種就職支援活動を行っている（資料農89、90）。

資料農89 就職支援活動の状況

**【就職支援】**

全学の就職支援組織であるキャリアサポートセンターや民間の就職支援企業の協力を得て、就職(進学)指導のための就職ガイダンスを実施しています。また、農学部独自の企業(官公庁)説明会や合同企業説明会、就職資料室での情報提供、個別相談(週2回)等で就職活動をサポートしています。このような実践的な指導に加えて、卒業後の職業観などの形成を図る「キャリアデザイン」(主に2年生対象の講義)や企業での就業体験実習を含む「インターンシップⅡ」(主に3年生対象の講義及び実習)などの教育プログラムを通じた多面的な指導で皆さんの自己実現とキャリア形成を支援しています。



キャリア情報の宝庫:就職資料室

**年間スケジュール**

平成27年度卒業・修了予定者(現3年生・大学院(修士)1年生)向けガイダンスの例

☆:農学部主催  
◇:キャリアサポートセンター主催

日 程	内 容
平成26年5月	◇第1回就職ガイダンス 就職活動スタートアップ講座
7月	☆夏休み対策講座
8月	◇ビジネスマナー講座
10月	◇第2回就職ガイダンス 業界・職種研究
11月	◇第3回就職ガイダンス 【就活を成功させるために】エントリーシート対策講座 ☆服装身だしなみ講座 ◇メイク講座
12月	◇ビジネスマナー講座
平成27年2月	☆面接対策講座 ☆合同企業説明会の事前ガイダンス
3月	☆第1回合同企業説明会(3年生・大学院1年生対象)

(出典：大学案内2014-2015から引用)

資料農90 ガイダンス等の実施状況

【平成22年度】 回数 24回

開催日	事 項	参加者数
H22. 4. 15	自衛官募集説明会	7名
H22. 4. 15	長野県警察本部採用説明会	9名
H22. 4. 26	(株)ユニオン会社説明会	4名
H22. 4. 26	第1回農学部就職ガイダンス①	86名
H22. 4. 26	第1回農学部就職ガイダンス②	57名
H22. 5. 17	群馬県(総合土木職)採用説明会	5名
H22. 5. 21	兵庫県職員採用ガイダンス	5名
H22. 5. 3	長野県警察本部採用説明会	2名
H22. 6. 28	第2回農学部就職ガイダンス①	48名
H22. 6. 28	第2回農学部就職ガイダンス②	43名
H22. 7. 12	SEQ(自己診断)解説会	51名
H22. 10. 18	第3回農学部就職ガイダンス	44名
H22. 11. 15	長野県警業務説明会	2名
H22. 11. 15	家畜改良センター就職説明会	5名
H22. 11. 29	第4回農学部就職ガイダンス	42名
H22. 12. 6	第5回農学部就職ガイダンス(服装)	33名
H22. 12. 6	第5回農学部就職ガイダンス(メイクアップ)	22名
H22. 12. 6	長野県就農ガイダンス	3名
H22. 12. 8	山崎製パン企業ガイダンス	30名
H22. 12. 13	農学部合同企業説明会事前ガイダンス	41名
H22. 12. 13	やすま(株)研究開発センター	14名
H23. 1. 8	農学部合同企業説明会	102名
H23. 1. 17	農林水産省動物検疫所	6名
H23. 1. 19	小野薬品工業(株)製薬業界セミナー	10名

## 【平成23年度】 回数 36回

開催日	事項	参加者数
H23. 4. 11	長野県警察本部採用説明会	5名
H23. 4. 11	自衛官募集説明会	7名
H23. 4. 15	山梨県(総合土木職)採用説明会	3名
H23. 4. 15	天龍造園建設(株)企業説明会	4名
H23. 5. 9	第1回就職ガイダンス(キャリア)	99名
H23. 5. 19	静岡県(林業職)説明会	4名
H23. 5. 19	群馬県(総合土木職)説明会	5名
H23. 5. 19	西垣林業(株)企業説明会	5名
H23. 5. 16	㈱ユニオン企業説明会	4名
H23. 5. 25	兵庫県(林業職)説明会	7名
H23. 5. 30	第1回就職ガイダンス(農学部)	101名
H23. 6. 27	第2回就職ガイダンス(キャリア)	63名
H23. 7. 13	ビジネスマナー講座(キャリア)	34名
H23. 8. 4	ライフスクール(マイナビ)	17名
H23. 10. 3	第2回就職ガイダンス(農学部)	75名
H23. 10. 17	第3回就職ガイダンス(キャリア)	87名
H23. 10. 31	第3回就職ガイダンス(農学部)	47名
H23. 11. 7	筆記試験対策講座(キャリア)	57名
H23. 11. 14	第4回就職ガイダンス(農学部)	56名
H23. 11. 14	S E Q(自己診断)解説会	57名
H23. 11. 21	身だしなみ講座	26名
H23. 11. 21	メイク講座	21名
H23. 11. 28	第4回就職ガイダンス(キャリア)	85名
H23. 12. 5	マナー・面接対策講座(キャリア)	71名
H23. 12. 7	山崎製パン(株)企業説明会	28名
H23. 12. 9	山梨県(林業職)説明会	7名
H23. 12. 12	長野県警説明会	1名
H23. 12. 12	防衛省自衛隊説明会	3名
H23. 12. 12	山梨県(農業技術職)説明会	2名
H23. 12. 12	越井木材(株)企業説明会	6名
H23. 12. 12	就活「日経テレコン21」利用説明会	11名
H23. 12. 17	就活「横浜パシフィコ」バスツアー	40名
H23. 12. 19	第5回就職ガイダンス(農学部)	43名
H23. 12. 19	ライフスクール自己分析&面接対策講座(マイナビ)	22名
H24. 1. 7	<農学部主催>合同企業説明会	81名
H24. 1. 27	小野製薬工業(株)製薬業界セミナー	11名

## 【平成24年度】 回数 26回

開催日	事項	参加者数
H24. 4. 11	防衛省自衛隊説明会	6名
H24. 4. 11	長野県警説明会	4名
H24. 4. 23	静岡県(林業職)職員採用説明会	6名
H24. 5. 8	群馬県(土木職)職員採用説明会	1名
H24. 5. 26	第2回農学部合同企業説明会	13名
H24. 6. 4	第1回就職ガイダンス(農学部主催)	136名
H24. 7. 2	第2回就職ガイダンス(農学部主催)	61名
	2013年卒学生内定者報告会	
H24. 8. 6	夏季コミュニケーション集中講座	5名
H24. 10. 1	第3回就職ガイダンス(農学部主催)	116名
	理系学生のための自己分析講座	
H24. 10. 29	S P I筆記試験対策講座	79名
H24. 11. 5	第4回就職ガイダンス(農学部主催)	60名
	農学部出身者によるパネルディスカッション	
H24. 11. 12	外部講師によるS E Q解説会	41名
H24. 11. 21	就農支援ガイダンス	7名
H24. 11. 27	山梨県職員採用説明会(林業職)	18名
H24. 11. 28	服装・身だしなみ講座(生協・洋服の青山)	46名
H24. 12. 10	山梨県職員採用説明会(農業技術)	4名

H24.12.10	山梨県職員採用説明会(土木職)	2名
H24.12.10	自衛隊採用説明会	2名
H24.12.10	長野県警職員採用説明会	2名
H24.12.13	ブルボン個別説明会	28名
H24.12.17	第5回就職ガイダンス(農学部主催) 合同企業説明会事前ガイダンス	66名
H24.12.19	山崎製パン個別説明会	36名
H25.1.9	第6回就職ガイダンス(農学部主催) 合同企業説明会事前ガイダンス(2回目)	18名
H25.1.12	農学部合同企業説明会	134名
H25.1.15	農林水産省業務説明会	7名
H25.1.21	J Aしみず個別説明会	2名

【平成25年度】 回数 24回

開催日	事項	参加者数
H25.5.8	合同企業説明会事前説明会	2名
H25.5.11	第1回農学部主催合同企業説明会(4年・M2向け)	8名
H25.5.14	岐阜県職員(森林科学分野)採用試験説明会	4名
H25.5.27	兵庫県農政環境部就職ガイダンス	4名
H25.6.3	第1回農学部主催就職ガイダンス 「学部就職と大学院進学講座」 「大学院生の就職活動について」	156名
H25.6.10	海外農業研修説明会	1名
H25.7.8	第2回農学部主催就職ガイダンス 「就職内定者による報告会及びパネルディスカッション」	20名
H25.10.7	第3回農学部主催就職ガイダンス 「理系学生の就職環境と今後の就職スケジュールについて」 「理系学生に求められるもの」	108名
H25.10.30	就農ガイダンス・白鳥市長との懇談会	46名
H25.11.1	タキイ種苗株式会社ガイダンス	15名
H25.11.6	第4回農学部主催就職ガイダンス 「農学部出身者によるパネルディスカッション」	30名
H25.11.11	SEQ解説会	15名
H25.11.25	身だしなみ講座	29名
H25.12.2	京都府林業職説明会	3名
H25.12.9	京都府農業土木職説明会	3名
H25.12.18	合同企業説明会事前講習会	11名
H25.12.25	合同企業説明会事前講習会	14名
H25.12.26	就職活動支援バスツアー	13名
H26.1.8	合同企業説明会事前講習会	24名
H26.1.11	合同企業説明会	110名
H26.1.20	長野県警察就職説明会	1名
H26.1.20	山崎製パン(株)会社説明会	6名
H26.2.6	山梨県農業土木職説明会	2名
H26.2.21	Oh!庭 ya! 会社説明会	1名

【平成26年度】 回数 23回

開催日	事項	参加者数
H26.4.14	長野県警就職ガイダンス	2名
H26.4.14	自衛隊ガイダンス	2名
H26.4.30	三重県ガイダンス	2名
H26.5.12	埼玉県職員ガイダンス	2名
H26.5.14	群馬県職員ガイダンス	4名
H26.5.28	海外農業研修説明会	2名
H26.6.18	ユーストリー(株)説明会	7名
H26.7.14	農学部主催第1回就職ガイダンス	24名
H26.10.21	タキイ種苗業界セミナー	31名
H26.11.26	身だしなみ講座	17名
H26.12.3	山梨県林業職ガイダンス	5名
H26.12.10	ネクストエナジーアンドリソース(株) 業界セミナー及び会社説明会	7名

H26. 12. 10	就活ラボ	11名
H26. 12. 15	年末までの進路・就活準備と年始移行の動き方について (マイナビ)	92名
H26. 12. 17	合同企業説明会事前説明会(1回目)	6名
H26. 12. 22	山崎製パン企業ガイダンス	22名
H27. 1. 13	長野県警説明会	1名
H27. 1. 14	合同企業説明会事前説明会(2回目)	35名
H27. 1. 14	就活ラボ	16名
H27. 2. 3	農学部主催第2回就職ガイダンス	59名
H27. 2. 4	SEQ解説会	12名
H27. 3. 17	合同企業説明会事前説明会(3回目)	8名
H27. 3. 20	合同企業説明会	103名

【平成27年度】 回数 32回

開催日	事項	参加者数
H27. 4. 13	長野県警就職ガイダンス	3名
H27. 4. 13	自衛隊ガイダンス	12名
H27. 4. 20	面接対策講座 講師：ライト・ハウス・キーパーズ ：キャリアサポートセンターコーディネータ	40名
H27. 4. 27	静岡県ガイダンス	1名
H27. 5. 13	三重県ガイダンス	4名
H27. 5. 13	協和木材株式会社	4名
H27. 5. 13	群馬県森林組合連合会	4名
H27. 5. 13	群馬県職員ガイダンス	2名
H27. 5. 18	第1回就職ガイダンス 就職活動オリエンテーション 講師：(株)マイナビ	105名
H27. 5. 18	長野県警察科学捜査研究所	5名
H27. 6. 1	インターンシップ準備講座 講師：(株)マイナビ	86名
H27. 6. 22	ビジネスマナー基礎講座 講師：キャリアサポートセンターコーディネータ	32名
H27. 6. 29	進路・就職講座 理系の進路就職と自己分析について 講師：(株)マイナビ	37名
H27. 7. 13	就活講座夏 ver. これからの就活について、採用者の目線から考える 講師：ライト・ハウス・キーパーズ	5名
H27. 10. 5	理系の就活準備講座 講師：(株)リクルートキャリア	62名
H27. 10. 19	第2回就職ガイダンス 自己PRの作り方と業界研究の仕方 講師：(株)ディスコ	62名
H27. 11. 9	就活メイク講座 協力：ロードアンドスカイ(株)	9名
H27. 11. 16	業界・職種研究講座 参加企業 ・伊那食品工業(株) ・(株)フォレストコーポレーション ・ホクト(株) ・(株)マルイチ産商	35名
H27. 12. 7	第3回就職ガイダンス 準備に差がつく！エントリーシート対策講座 講師：(株)リクルートキャリア	65名
H27. 12. 9	山梨県ガイダンス	2名
H27. 12. 14	山崎製パン企業研究セミナー	15名
H27. 12. 16	合同企業説明会事前セミナー 「就活」から「就職活動」へ 講師：(株)カシヨキャリア開発センター	15名

H27. 12. 21	農学部の子生のための就活準備講座 講師：(株) マイナビ	21名
H27. 12. 22	長野県警就職ガイダンス	2名
H28. 1. 6	就活ラボ in 信州大学農学部 (株)カシヨキャリア開発センター 参加企業 ・長野県連合青果(株)、(株)トライネット	14名
H28. 1. 13	合同企業説明会事前セミナー 経済的視点からの就職活動 講師：(株)カシヨキャリア開発センター	12名
H28. 2. 12	就職活動準備直前総まとめ講座 講師：(株) マイナビ	66名
H28. 2. 15	筆記試験対策講座 講師：(株) ディスコ就職アドバイザー	63名
H28. 2. 16	静岡県庁採用試験説明会	5名
H28. 2. 18	採用選考総合対策講座～実践編～ ①履歴書・エントリーシート対策 講師：(株) リクルートキャリア ②面接対策 講師：(株) マイナビ	48名
H28. 3. 16	合同企業説明会事前セミナー 講師：(株) カシヨキャリア開発センター	6名
H28. 3. 24	農学部合同企業説明会	70名

(出典：農学部作成)

3 在学中の学業の成果に関する卒業・修了生及び進路先・就職先等の関係者への意見聴取等の結果とその分析結果

平成23年度に、本学部及び農学研究科出身の学生が就職した企業の中から615社に対しアンケートを実施した(回答152社)。また、平成26年度には555社に対しアンケートを実施した(回答143社)(資料農91)。

資料農91 企業へのアンケート結果（平成23年度、平成26年度実施）

〔平成23年度実施〕

設問	素養・能力	企業としての 重要度 卒業生の 達成度	高ポイント域			普通		低ポイント域			未記入	回答企業 数	平均(企業とし ての重要度) 平均(卒業生 の達成度)
			5ポイント	4ポイント	全体に占 める割合 (%)	3ポイント	全体に占 める割合 (%)	2ポイント	1ポイント	全体に占 める割合 (%)			
常識・教養・知識に 関する質問	A. 幅広い教養	重要度	25	67	66.2	47	33.8	0	0	0.0	10	139	3.84
		達成度	14	46	50.4	57	47.9	2	0	1.7	30	119	3.61
	B. IT・情報 知識	重要度	12	43	39.9	79	57.2	4	0	2.9	11	138	3.46
		達成度	3	37	33.9	75	63.6	3	0	2.5	30	118	3.34
	C. 農学基礎知識	重要度	22	50	52.6	38	27.7	15	12	19.7	13	137	3.40
		達成度	15	55	61.9	41	36.3	1	1	1.8	37	113	3.73
D. 貴社専門知識	重要度	54	51	76.1	28	20.3	4	1	3.6	12	138	4.11	
	達成度	16	47	52.5	51	42.5	5	1	5.0	29	120	3.60	
職務遂行能力に関 する質問	E. 問題発見能力	重要度	64	58	88.4	16	11.6	0	0	0.0	11	138	4.35
		達成度	16	54	58.8	48	40.3	1	0	0.8	30	119	3.71
	F. 責任感・倫理感	重要度	76	49	90.6	13	9.4	0	0	0.0	11	138	4.46
		達成度	33	57	75.6	29	24.4	0	0	0.0	30	119	4.03
	G. 適応力	重要度	56	53	79.6	27	19.7	1	0	0.7	12	137	4.20
		達成度	20	51	59.7	44	37.0	4	0	3.4	30	119	3.73
対人力に関する質 問	H. 人間関係能力	重要度	79	47	91.3	12	8.7	0	0	0.0	11	138	4.49
		達成度	27	57	70.6	33	27.7	2	0	1.7	30	119	3.92
I. コミュニケーション能力	重要度	78	46	89.9	14	10.1	0	0	0.0	11	138	4.46	
	達成度	21	52	61.3	42	35.3	3	1	3.4	30	119	3.75	
国際性に関する質 問	J. 国際感覚	重要度	7	31	27.7	67	48.9	24	8	23.4	12	137	3.04
		達成度	2	18	18.0	76	68.5	14	1	13.5	38	111	3.05
	K. 英語力	重要度	4	20	17.5	67	48.9	28	18	33.6	12	137	2.74
		達成度	1	15	14.3	71	63.4	22	3	22.3	37	112	2.90

〔平成26年度実施〕

設問	素養・能力	企業としての 重要度 卒業生の 達成度	高ポイント域			普通		低ポイント域			未記入	回答 企業数	平均(企業とし ての重要度) 平均(卒業生 の達成度)
			5ポイント	4ポイント	全体に占 める割合 (%)	3ポイント	全体に占 める割合 (%)	2ポイント	1ポイント	全体に占 める割合 (%)			
常識・教養・知識に関 する質問	A. 幅広い教養	重要度	23	60	69.2	36	30.0	1	0	0.8	23	120	3.88
		達成度	11	47	59.8	37	38.1	2	0	2.1	46	97	3.69
	B. 農学基礎知識	重要度	19	29	40.3	35	29.4	18	17	29.4	24	119	3.10
		達成度	13	40	57.0	38	40.9	1	0	1.1	50	93	3.67
	C. 生命科学基礎知識	重要度	8	21	24.4	48	40.3	22	19	34.5	24	119	2.78
		達成度	10	25	39.3	47	52.8	6	0	6.7	54	89	3.40
D. IT・情報 知識やスキル	重要度	10	44	44.6	57	47.1	8	1	7.4	22	121	3.42	
	達成度	5	33	38.4	52	52.5	8	0	8.1	44	99	3.32	
E. 貴社専門知識	重要度	49	39	72.7	27	22.3	5	0	4.1	22	121	4.07	
	達成度	10	31	41.4	49	49.5	8	0	8.1	44	99	3.40	
職務遂行能力に関 する質問	F. 問題発見、課題解決能力	重要度	55	55	90.9	10	8.3	0	0	0.0	22	121	4.34
		達成度	16	44	60.6	35	35.4	3	0	3.0	44	99	3.71
	G. 主体性・実行力・倫理観	重要度	66	45	91.7	9	7.4	0	0	0.0	22	121	4.44
		達成度	13	51	64.6	31	31.3	3	0	3.0	44	99	3.72
	H. 柔軟性・適応力	重要度	54	53	88.4	12	9.9	1	0	0.8	22	121	4.30
		達成度	18	34	52.5	41	41.4	4	1	5.1	44	99	3.62
対人力に関する質 問	I. チームワーク人間関係能力	重要度	70	44	94.2	6	5.0	0	0	0.0	22	121	4.50
		達成度	26	38	65.3	28	28.6	4	1	5.1	45	98	3.83
	J. コミュニケーション能力	重要度	69	42	91.7	9	7.4	0	0	0.0	22	121	4.46
		達成度	23	36	59.6	31	31.3	7	1	8.1	44	99	3.71
国際性に関する質 問	K. 国際感覚	重要度	3	28	25.6	56	46.3	21	12	27.3	22	121	2.88
		達成度	2	9	11.8	66	71.0	11	4	16.1	50	93	2.90
	L. 外国語(英語)語学力	重要度	2	15	14.3	57	47.9	28	16	37.0	24	119	2.63
		達成度	1	10	12.5	54	61.4	18	4	25.0	55	88	2.81

(出典：農学部作成)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

- 卒業生全体に占める就職者及び進学者の割合は、学部全体でほぼ9割を維持し、全国や国立大学平均と同等あるいはそれ以上であり（資料農86、87）、在学生、受験生、保護者の期待に応えている。
- 就職に関するガイダンスやセミナー等を毎年度23回以上開催し、積極的な就職支援活動を行っており（資料農90）、想定するすべての関係者の期待に応えている。
- 企業アンケートにおいて、企業としての重要度が高い項目については、本学部出身者の達成度も高い結果であることから、本学部を卒業した学生が企業のニーズに応え得る能力を修めていると判断され（資料農91）、想定するすべての関係者の期待に応えている。

### Ⅲ 「質の向上度」の分析

#### (1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

##### ○学部改組による教育組織及びカリキュラムの再構築

平成26年度に全学における「学術研究院」への組織改編が実施され、教育、研究マネジメントの柔軟性が強化されることとも呼応し、本学部では平成27年度に3学科制から1学科4コース制への改組を実施した(資料農10、21)。

この改組において、従前の分野の枠に囚われないカリキュラムの根本的な組み直しを実施し、特に①農学の基礎としてのコース横断型科目の充実、②コース専門科目における再構築、③グローバル系科目の充実、④先鋭領域特別講義の設置を行った。さらに、副専攻を可能とする制度も整備した。このカリキュラム改変によって、より広い視野から農学を俯瞰でき、社会のグローバル化への対応が強化された(資料農11、48、49)。

##### ○グローバル化への対応

改組に伴うグローバル化への対応に加え、平成24年度に開始したTOEIC-IP受験に関し、平成26年度から1年次生の受験を義務化した。この影響を受け3年次生の受験者数も増加した(資料農65)。

さらに、教育・研究の更なる国際化の推進を目的とした「国際農学教育研究センター」を平成26年度に設置し、学部間交流協定の推進、海外実習への学生派遣等の教育面における国際化を推進した(資料農62～64、66～69)。

##### ○AFCの「教育関係共同利用拠点」認定

AFCの野辺山農場と演習林は、それぞれ平成25年度、平成26年度に文部科学大臣から「教育関係共同利用拠点」として認可を受け、各拠点にユニークな教育プログラムが設定された。これにより各拠点の利用実績は順調に増加している(資料農55、56)。

#### (2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

##### ○学生による授業評価

学生による授業評価の実施結果から、質問項目「総合的に判断して、この授業に満足している」において高い評価を持続し、平成21年度との比較では、平成22～27年度において「強くそう思う」、「そう思う」の比率が高まった(資料農82)。

## 12. 農学研究科

- I 農学研究科の教育目的と特徴・・・・・・・・12-2
- II 「教育の水準」の分析・判定・・・・・・・・12-10
  - 分析項目 I 教育活動の状況・・・・・・・・12-10
  - 分析項目 II 教育成果の状況・・・・・・・・12-45
- III 「質の向上度」の分析・・・・・・・・12-58

## I 農学研究科の教育目的と特徴

### 1 教育目的

#### ① 理念、目標

農学研究科は、食料生産科学、森林科学、応用生命科学、機能性食料開発学の4つの専攻から構成されている。本研究科及び各専攻の理念は以下のとおりである（資料農院1）。

##### 資料農院1 農学研究科及び各専攻の理念

###### ○農学研究科

農学部理念・目標を礎に、21世紀に求められる、環境と調和した持続生産に基づく、より豊かな人間社会を作ること目的として、環境の保全と修復および生命科学や食料の生産などの分野における幅広い体系的な基礎学力、実践的技術力、そして研究開発能力を備えた高度専門技術者を養成する。

###### ○各専攻

###### （食料生産科学専攻）

環境保全に立脚した持続的食料生産の発展を目指し、バイオサイエンスを農学に取り入れた革新的な食料生産技術体系を確立するための理論の構築と技術の発展に努め、かつこれに寄与する人材を養成する。

###### （森林科学専攻）

森林は、人類にとって母なる存在であり、21世紀に要求される持続生産可能な循環型社会の構築に重要な役割を担っている。広く森林バイオマス資源の生産とその有効利用を追求するとともに、森林ならびに地域の環境保全と修復を図り、より豊かな人間環境を目指して、総合的かつ高度の研究、教育を行う。

###### （応用生命科学専攻）

生命現象を化学的・生物学的視点からより高度な学問水準で研究・教育し、生命科学、環境科学、食品科学等の分野で高度な専門性と技術能力を発揮できる人材の養成を行い、研究・教育を通じて社会の発展に寄与する。

###### （機能性食料開発学専攻）

農学を基盤としつつ、医学、薬学等との広く学際領域を視野に入れた教育と研究を通じ、「食」に関する確かな総合科学的思考力や創造性を身につけた高度専門職業人や技術者、研究者の養成に貢献する。

（出典：信州大学農学部ホームページ「農学研究科（修士課程）」）

上記の理念のもとに次の目標を掲げている（資料農院2）。

##### 資料農院2 農学研究科の目標

1. 自然環境と共生し得る農学の学際的先端領域を開拓する。
2. 実践的技術力および創造性豊かな研究開発能力を備えた人材を養成する。
3. 社会人および外国人留学生を積極的に受け入れ、高度の学術、技術を修得させ、国内外の社会の発展に寄与する。
4. 地域産業へ貢献する。

（出典：信州大学農学部ホームページ「農学研究科（修士課程）」）

#### ② 3つの方針

本研究科及び各専攻のディプロマ・ポリシーは以下のとおりである（資料農院3）。

##### 資料農院3 農学研究科及び各専攻のディプロマ・ポリシー

###### ○農学系研究科

信州大学大学院農学研究科の課程を修了し、次に該当する者に学位を授与する。

1. より豊かな人間社会の構築に貢献できる知識と技術を修得している
2. 環境と調和した国際性と地域性に根差した持続的生産に関わる知識と技術を修得している
3. 環境の保全と修復および生命科学や食料の生産などの分野における幅広い体系的な基礎学力と実践的技術力を修得している
4. 高い研究開発能力を修得している
5. 農学分野で必要とされる情報収集・分析能力を有する

6. 農学分野での研究成果を発信できるグローバルな情報発信能力を有する

○各専攻

(食料生産科学専攻)

信州大学大学院農学研究科食料生産科学専攻の課程を修了し、次に該当する者に修士（農学）の学位を授与する。

1. 食料生産に関する高度な科学性、実践性、独創性及び倫理性を備えた能力を修得している
2. 信州の豊かな自然環境を活かした持続的食料生産に関する幅広い知識を修得している
3. 農学・生命科学の進展や関連産業の需要に対応しうる高度な専門知識の修得とその応用力を修得している
4. 高度専門技術者あるいは研究者として食料生産、生命科学、環境保全分野の需要を多角的に捉え、その問題を解決できる実践力ならびに研究遂行能力を修得している

(森林科学専攻)

信州大学大学院農学研究科森林科学専攻の課程を修了し、次に該当する者に修士（農学）の学位を授与する。

1. 食料生産に関する高度な科学性、実践性、独創性及び倫理性を備えた能力を修得している
2. 信州の豊かな自然環境を活かした持続的食料生産に関する幅広い知識を修得している
3. 農学・生命科学の進展や関連産業の需要に対応しうる高度な専門知識の修得とその応用力を修得している
4. 高度専門技術者あるいは研究者として食料生産、生命科学、環境保全分野の需要を多角的に捉え、その問題を解決できる実践力ならびに研究遂行能力を修得している

(応用生命科学専攻)

信州大学大学院農学研究科応用生命科学専攻の課程を修了し、次に該当する者に修士（農学）の学位を授与する。

1. 自然の摂理と生物資源の多様性について説明できる
2. 生命科学、食品科学、環境科学等の分野に関する高度な専門知識とその応用力を修得している
3. 生命科学・食品科学分野において、化学的・生物学的視点から高度な専門性と独創性を発揮して、社会の知的発展に貢献できる能力を修得している

(機能性食料開発学専攻)

信州大学大学院農学研究科機能性食料開発学専攻の課程を修了し、次に該当する者に修士（農学）の学位を授与する。

1. 「食」に関する的確な総合科学的思考力や創造性を持った能力を修得している
2. 食料とその機能性に関する専門的知識と技術、特に信州の地域特性と産業に関する知識を修得している
3. 機能性食料開発学に関連した学問分野における思考力と解析力を修得している
4. 機能性食料開発学に関連した学問分野における技術と研究遂行能力、特に国際的な学術研究を展開するための基礎的能力を修得している

(出典：信州大学ホームページ「信州大学大学院農学研究科学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」)

本学大学院のカリキュラム・ポリシーは以下のとおりである（資料農院4）。

資料農院4 信州大学大学院教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

○大学院課程における教育課程編成の方針

1. 信州大学大学院は、研究科及び専攻の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設するとともに、研究指導の計画を策定し、体系的に教育課程を編成します。
2. 信州大学大学院は、教育課程の編成に当たっては、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう適切に配慮します。

○大学院課程における教育課程実施の方針

1. 信州大学大学院は、専門性の一層の向上を図り幅広い学識を涵養するため、コースワークを充実させ、コースワークから研究指導へ有機的につながる体系的な教育を行います。また、各研究科の「学位授与の方針」に定めた、修了時までには修得すべき知識・能力等がカリキュラム体系のなかでどのように養成されるのかを示すため、シラバスで「学位授与の方針」で定められた知識・能力等との対応を示し、それら諸能力等を修得するプロセスを履修プロセス概念図で示します。
2. 信州大学大学院は、学生個々人の主体的で活発な勉学意欲を促進する立場から、授業時間外の多様な学修研究機会を通じ、諸課題に積極的に挑戦させます。
3. 信州大学大学院は、成績評価の公正さと透明性を確保するため、成績の評定は、各科目に掲げられた授業の狙い・目標に向けた到達度をめやすとして採点します。
4. 信州大学大学院は、修士課程及び博士課程の学位論文審査体制を充実させ、厳格な審査を行います。

（出典：信州大学ホームページ「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」）

本研究科及び各専攻のアドミッション・ポリシーは以下のとおりである（資料農院5）。

資料農院5 農学研究科及び各専攻のアドミッション・ポリシー

○農学研究科

自然と人が共生する持続的社会の創造に貢献できる高度専門職業人を志す人を求めています。農学分野の幅広い基礎学力を有し、食料生産、持続的農林業、森林と田園環境の保全、生命現象、食と健康に関わる今日的課題の解決のために、食料生産科学、森林科学、応用生命科学および機能性食料開発の各専門分野で研究を発展させる意欲ある人を歓迎します。

○各専攻

（食料生産科学専攻）

食料生産科学専攻では、食料の安全性と品質の向上や持続性の高い食料生産の実現を指向し、動植物資源の開発、生産および利用に関わる分野で専門的職業人として活躍したい人を求めています。そのため、農学分野の基礎学力を有し、食料や環境に関わる課題の解決に取り組む意欲を持つ、知的好奇心と創造力に富む人を歓迎します。

（森林科学専攻）

森林科学専攻では、森林や田園の持続的利用や保全に関する高度専門職業人を志す人を求めています。そのため、森林環境科学や田園環境工学に関する幅広い知識を有し、専門分野における研究を発展させる意欲のある方を歓迎します。

（応用生命科学専攻）

応用生命科学専攻では、生命現象の解明とその応用技術の開発分野および食品科学の分野で幅広い教養と高い研究開発能力を備えた高度専門技術者を志す人を求めています。生命科学あるいは食品科学に関する一般的知識を有し、専門分野における研究を発展させる意欲のある方を歓迎します。

（機能性食料開発学専攻）

1. 「農」という食料生産の現場から「食品」という利用場面に至るまでの一連の流れを見渡す広い視野を持ち、かつ、食料に含まれる機能性成分への探求心が旺盛な人。
2. 地域の特産物の機能性解明に情熱があり、研究を通じて地域貢献したい人。
3. 農産物に含まれる食料成分の機能性解明や有効利用に関する研究を行いたい人。
4. 世界的な視野において機能性食品の開発や創製に関する研究を行い、国際社会へ貢献したい人。

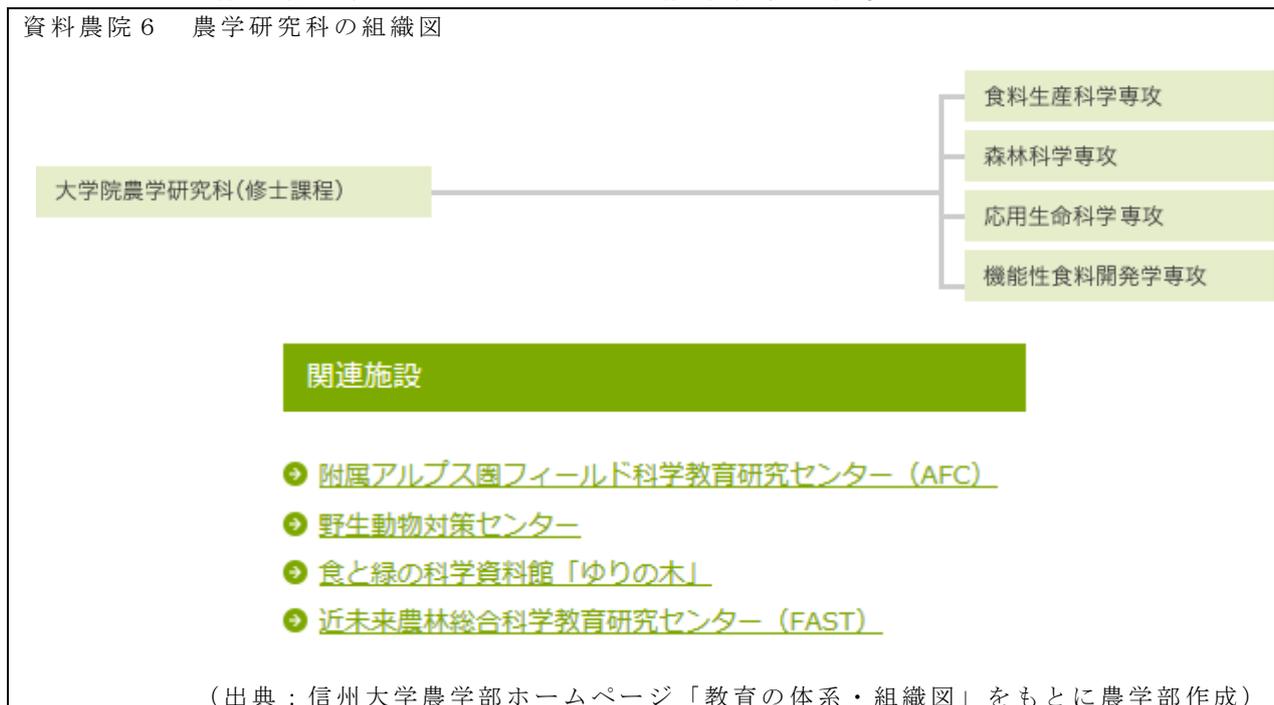
ただし、上記1～4の意向にそった研究を遂行するために必要な基礎的学力および語学力を有する人。

（出典：信州大学農学部ホームページ「農学研究科（修士課程）」）

2 組織の特徴や特色

① 構成組織

本研究科の構成組織は以下のとおりである（資料農院6）。



② 各専攻における教育・研究の特徴

本研究科を構成する専攻では、以下の特徴ある教育・研究を行っている（資料農院7）。

資料農院7 各専攻における教育・研究の特徴

(食料生産科学専攻)  
 環境に調和した持続的な農業と安全な農業生産をめざし、生態機能の解析と利用、農業経営や生産物の流通機構の改善、作物・果樹・蔬菜・花卉等の多様な有用植物を対象とした育種・繁殖、生産・利用・品質向上技術の開発、地域資源の有効活用等に関する課題について、フィールドワークとラボワークの両側面から教育・研究を行っている。

(森林科学専攻)  
 物質資源や生物資源、環境資源としての森林の多様な機能を解明するとともに、山岳、山地・森林地帯、農山村を含む地域の環境や生産基盤の整備・保全、造成・利用や文化形成に至るまで、多元的、総合的な教育・研究を展開している。これらの教育・研究を通して高度専門職業人の育成を目指している。

(応用生命科学専攻)  
 生命現象の分子レベルでの解明、生物機能の探索と利用、生物資源の開発や創製などの広い範囲にわたって、主として有機化学・生化学・分子生物学・育種学・遺伝学関連の手法を用いた研究を展開している。これらの研究を通して、生命科学および食品科学を発展させ、社会に貢献しようとしている。

(機能性食料開発学専攻)  
 特定の疾病の予防や軽減に寄与する食料成分や、疾病の発症に関係する食料成分を解明し、そのような有効成分を多量に含む食品や有害成分を除去した食品を創製することを目的とした教育・研究を、産学連携のもとに、構成する4講座（機能性食料育種学講座、食料機能解析学講座、食料機能開発学講座、機能性食品創製学講座）体制で行っている。

(出典：農学部作成)

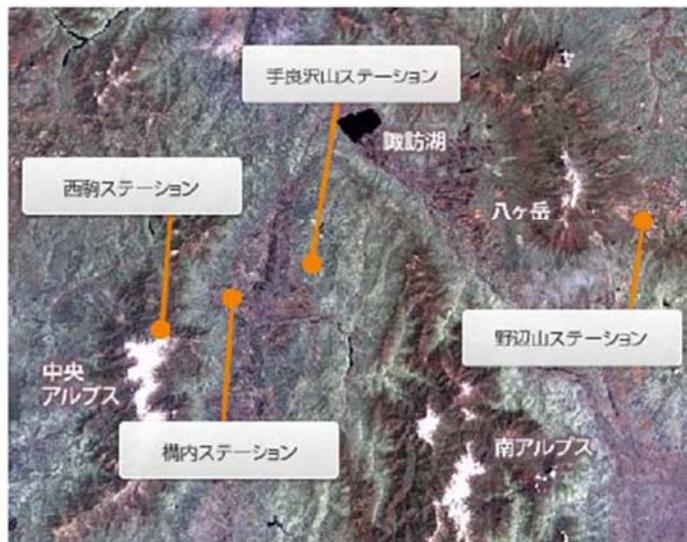
③ 附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター (AFC)

本研究科の特徴の一つである自然を生かしたフィールド教育では、AFCにおいて、4つの特色あるステーションに農場と演習林を配置し、実践的な教育・研究に活用している（資料農院8）。

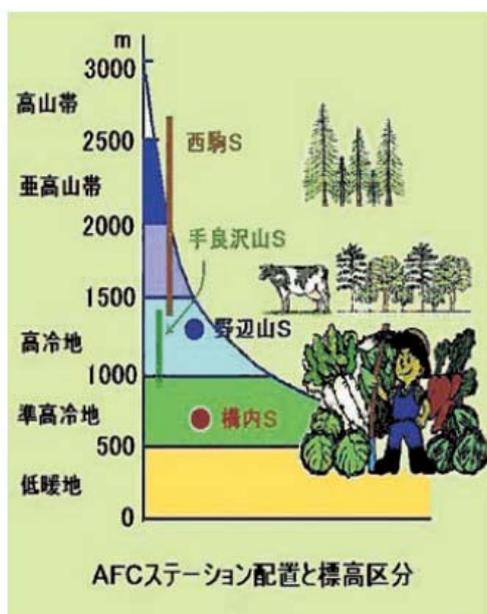
資料農院 8 附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター (AFC)

ステーションの紹介

AFCのステーションは、里地から山岳地まで多様な自然環境と生産環境の中に位置しており、フィールド科学を総合的に推進するために極めて適した教育研究の場を提供しています。



(出典：信州大学農学部ホームページ「附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター(AFC)」)



- 構内ステーション(40ha)**  
農場(果樹・野菜・花卉・畜産・加工)と演習林(平地林・環境保全林)
- 西駒ステーション(252ha)**  
中央アルプス高山帯を含む演習林(垂直分布、天然林、野生生物)
- 手良沢山ステーション(229ha)**  
人工林(スギヒノキ・カラマツ)、森林施業、治山治水
- 野辺山ステーション(29ha)**  
高冷地農業(野菜、畜産・草地)と演習林(カンバ類、カラマツ、原野植生)

(出典：農学部作成デジタルパンフレット)

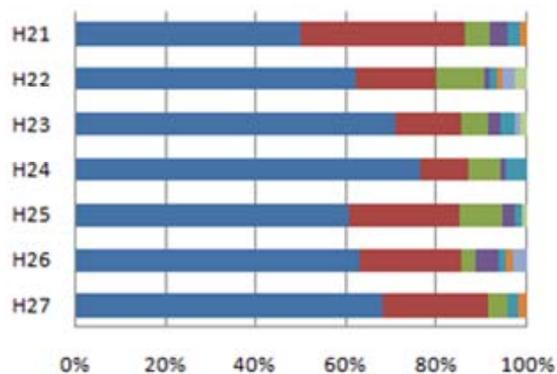
3 入学者の状況及び試験科目

① 入学者の状況

本研究科への入学者の年齢別内訳は以下のとおりである (資料農院 9)。

資料農院 9 農学研究科入学者の年齢別内訳

### 入学者の内訳(年齢別)

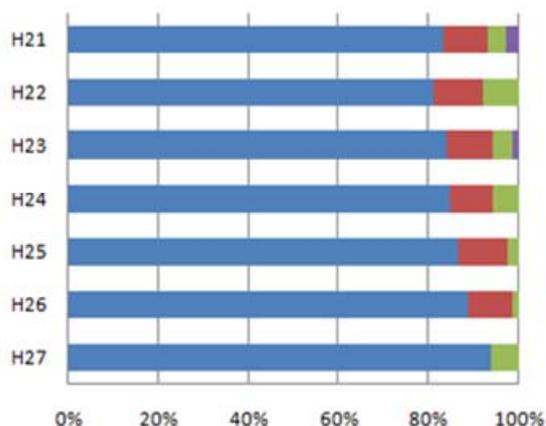


	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
■ 22歳以下	36	46	49	65	45	39	32
■ 23歳	26	13	10	9	18	14	11
■ 24歳	4	8	4	6	7	2	2
■ 25歳	3	1	2	1	2	3	0
■ 26, 27歳	2	1	2	4	1	1	1
■ 28, 29歳	1	1	0	0	0	1	1
■ 30-39歳	0	2	1	0	0	2	0
■ 40-49歳	0	0	0	0	0	0	0
■ 50歳以上	0	2	1	0	1	0	0

(出典：経営企画課作成)

本研究科の入学者の出身学校種別の割合は以下のとおりである（資料農院10）。

資料農院10 本研究科入学者の出身学校別の割合

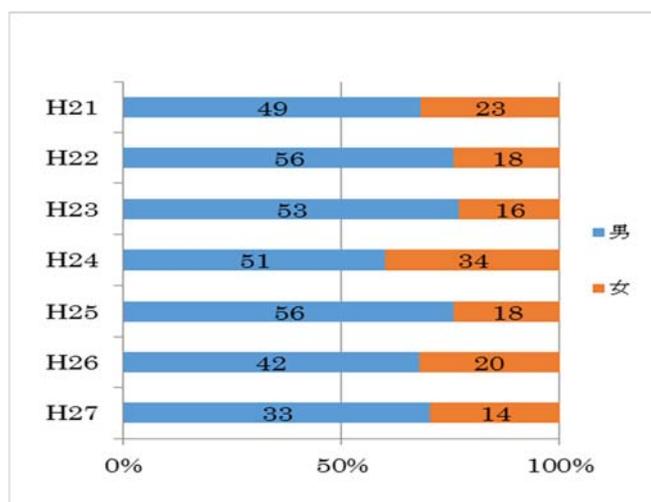


	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
■ 本学	60	60	58	72	64	55	44
■ 他大学	7	8	7	8	8	6	0
■ 外国の学校	3	6	3	5	2	1	3
■ その他	2	0	1	0	0	0	0

(出典：経営企画課作成)

本研究科の入学者の男女比は以下のとおりである（資料農院11）。

資料農院11 農学研究科の入学者の男女比



(出典：経営企画課作成)

本研究科への入学状況は以下のとおりである（資料農院12）。

資料農院12 農学研究科への入学状況（入学定員・入学者数）

専攻	入学定員	入学者数					
		H22	H23	H24	H25	H26	H27
食料生産科学	20	19	18	25	16	16	15
森林科学	17	21	20	12	17	12	4
応用生命科学	16	18	24	31	24	27	14
機能性食料開発学	16	16	8	20	19	7	14
合計	69	74	70	88	76	62	47

（出典：農学部作成）

② 試験科目

本研究科の試験科目は以下のとおりである（資料農院13）。

資料農院13 農学研究科試験科目（一般入試）

**5. 選抜方法**

専門科目、英語及び面接（成績証明書、専攻研究の概要を含みます。）の結果を総合して判定します。  
配点は次のとおりです。

教科等	専門科目	英語	面接
配点	100	100	100

※ 面接では、学習意欲、将来性、独創性などを総合的にみます。

(4) 試験科目

- ① 専門科目（志願票に記載するコードは、「12. 大学院農学研究科（修士課程）専攻別・分野別専門科目の概要・コード表」を参照してください。）

専攻	分野	専門科目	試験科目
食料生産科学	生産環境管理学	農業経営経済学 植物生産管理学	1 科目 (志望する分野の 専門科目)
	植物資源生産学	作物生態生理学 園芸資源学	
	動物資源生産学	家畜解剖生理学 家畜飼養管理学	
	食資源利用学	動物育種繁殖学	
森林科学	山地環境保全学	森林生態・造林学 森林機能・林地保全学※ 森林環境学	1 科目 (志望する分野の 専門科目)
	森林生産利用学	森林経営・計画学 森林政策学※ 木材理学	
	農山村環境学	農業工学 農山村計画学※ 流域保全学	
	緑地環境文化学	造園学 植物生態・地域保全学 保全生物学	
応用生命科学	生物制御化学	食品安全・評価学※ 生理活性化学※ 光制御化学	1 科目 (志望する分野の 専門科目)
	生物機能化学	細胞工学 分子生物学 食品微生物工学	
	生物資源開発学	動物生殖学 応用きのこ学 応用真菌学	
	生物資源化学	食品化学 食品生化学 食品分子工学	
機能性食料開発学	機能性食料育種学	機能性食料育種学	1 科目 (志望する分野の 専門科目)
	食料機能解析学	食料機能解析学	
	食料機能開発学	食料機能開発学	

※今回は募集しません。

- ② 英語 辞書の使用は認めません。  
③ 面接 各専攻別に行います。

(出典：「平成27年度信州大学大学院農学研究科（修士課程）一般入試学生募集要項」)

[想定する関係者とその期待]

- ① 在学生、受験生、保護者、所属機関
- ・ 幅広い体系的な基礎学力、実践的技術力、研究開発能力を備えた高度専門技術者になるための適切な教育環境下における充実した指導
  - ・ 国内外の社会の発展に寄与するため、社会人及び外国人留学生を積極的に受け入れ、国際的視野と技術力を備えた高度専門技術者を養成すること
- ② 関係業界、諸団体（農林水産・食品産業、化学・医薬品産業、建設・情報通信産業等）幅広い体系的な基礎学力、実践的技術力、研究開発能力を備えた高度専門技術者になるための資質を備えた人材を育成し、輩出すること

II 「教育の水準」の分析・判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

1 教員体制と教育体制

① 学術研究院と研究科

教員の流動性を確保し、これまで以上に柔軟な全学的な教育、研究マネジメントを可能とするための教員組織として「学術研究院」を平成 26 年度に設置した(資料農院 14)。

資料農院 14 学術研究院と学部、大学院との関係



学術研究院は、3の学域・10の学系により構成する。すべての教員は、いずれかの学系に所属し、職務として次のいずれかに携わる。(複数の兼務もあり)

- 1) 学部・大学院、全学教育機構において、教育・研究に携わる。
- 2) 医学部附属病院において、診療・教育・研究に携わる。
- 3) 先鋭領域融合研究群において、研究に携わる。
- 4) 大型研究センター(拠点形成型の外部資金プロジェクト)において、研究に携わる。
- 5) 各教育研究(支援)センター等において、担当業務に携わる。

これにより、先鋭領域融合研究群の研究者への研究重点環境の提供や学部横断型の教育を実現し、研究の高度化や時代の要請に柔軟かつスピーディーに対応した教育を推進する。

(出典:「大学概要2015」をもとに経営企画課作成)

② 教員の配置状況

本研究科は、研究指導教員及び研究指導補助教員を次のとおり配置しており、多様な研究分野の教員が揃っている（資料農院15、16）。

資料農院 15 研究指導教員及び研究指導補助教員配置状況

専攻	農学研究科			大学院設置基準				
	研究指導教員	うち教授数	研究指導補助教員	計	研究指導教員基準	うち教授数	研究指導補助教員基準	基準数計
食料生産科学専攻	23	11		23	4	3	2	6
森林科学専攻	21	8		22	4	3	2	6
応用生命科学専攻	17	5		17	4	3	2	6
機能性食料開発学専攻	9	4		9	4	3	2	6

(出典：農学部作成)

資料農院16 専攻別教員研究分野

専攻	氏名	研究分野	研究テーマ
食料生産科学専攻	井上 直人	作物学(草地学、植物生態学、民族植物学、植物栄養学)	ソバ属作物に関する生態生理学的解析
	大井 美知男	蔬菜園芸学	野菜の基礎的遺伝解析と育種
	佐々木 隆	農業経済学	農業経営の形態と経営管理
	萩原 素之	作物学	低投入や不良環境下での作物の生育・収量の向上
	伴野 潔	園芸科学	果樹におけるマーカー選抜育種と栽培技術の確立
	齋藤 勝晴	植物栄養学、土壌学	土壌圏の生物間相互作用の構造とその生態機能
	渡邊 修	作物学(雑草学)、環境農学(含ランドスケープ科学)	雑草の生態解明と管理法の確立
	加藤 新平	植物病理学	植物の病害抵抗性機構の解明と病害抵抗性植物の分子育種
	北村 嘉邦	園芸科学	切り花の花持ちを制御する新規要因の探索
	谷 颯子	農業経済学	食生活からみた消費者行動の経済分析
	小野 珠乙	応用動物科学、基礎獣医学、基礎畜産学、畜産学、草地学	鳥類における実験動物育種および生殖細胞の導入とその発現
	鏡味 裕	動物幹細胞工学	鳥類生殖幹細胞の樹立および遺伝的分化制御
	神 勝紀	応用動物科学	バイオマスを利用した環境低付加畜産システムの開発
	平松 浩二	形態学、構造学(動物組織学、神経科学)	消化管における神経内分泌免疫系のクロストーク
	竹田 謙一	動物生産科学(家畜管理学、応用動物行動学)	アニマルウェルフェアに配慮した家畜・野生動物管理システムの開発
	渡邊 敬文	動物生体機構学	ニワトリにおける各種消化管ホルモンの受容体分布
春日 重光	栽培学、育種学	ソルガム属植物の育種・栽培とその利用に関する研究	
濱野 光市	動物生産科学	家畜の精子と受精に関する研究	
岡部 繭子	高冷地生物生産管理学、作物学、栽培学	高冷地における環境保全型農業に関する研究	
江田 慧子	昆虫生態学、環境評価、保全生態学	里山に生息する絶滅危惧シジミチョウ類の保全・保護に関する生態学的研究	
米倉 真一	動物生理学(神経科学、細胞生理学)	中枢・末梢組織におけるストレス応答機構の分子メカニズム	
上野 豊	動物生産科学、応用微生物学	動物消化管微生物群集の機能解明と動物生産への応用	

森林科学専攻	濱野 充	農村開発学研究	カンボジアの農村における加工産業振興
	植木 達人	森林科学	択伐・漸伐・皆伐各作業の歴史的発展過程の分析とその成立条件に関する研究
	岡野 哲郎	森林科学	落葉広葉樹天然林の長期動態
	武田 孝志	木質科学	実大材強度における寸法効果
	細尾 佳宏	木質科学、森林科学	樹木の成長や木質形成を制御する機構の解明
	小野 裕	治山工学(水土保全、森林水文)	山地森林地帯における水土保全
	城田 徹央	林学	森林管理が人工林の生態系機能に及ぼす影響
	三木 敦朗	森林政策学、森林経済学	林業の構造変化に関わる理論的・実証的研究
	大窪 久美子	環境農学(含ランドスケープ科学)	緑地環境における生物多様性および景観の保全と管理
	佐々木 邦博	環境農学(含ランドスケープ科学)	緑地の歴史性と保全活用計画
	平松 晋也	砂防学	降雨を誘因とした表層崩壊発生予測と土砂災害危険度評価システムの構築
	鈴木 純	灌漑工学、環境修復工学	草高と葉面積指数を指標とした群落熱収支のモデリング
	上原 三知	環境影響評価、環境デザイン、景観計画(近代造園学)、地域計画、エコロジカル・プランニング	都市と農村の環境保全・自然復元による持続的な環境計画
	内川 義行	農業土木学、農村計画学	棚田の整備・保全計画、農山村計画
	福山 泰治郎	自然災害科学、防災学、環境動態解析、水工学、森林科学	流域の土砂流出の現状把握と土砂流亡履歴の長期的評価
	荒瀬 輝夫	作物生産科学、生態・環境、生物多様性・分類	野生資源植物の分類地理・生態・評価
	小林 元	森林科学	森林の二酸化炭素吸収をはじめとする公益的機能評価に関する研究
	加藤 正人	森林科学	リモートセンシングおよびGISを使用した森林資源管理
	泉山 茂之	動物生態学	野生動物の生態と管理に関する研究
安江 恒	森林科学	樹木の肥大成長に影響を及ぼす要因の解明	
上村 佳奈	森林経理学	森林における大規模風害リスク評価および被害発生メカニズムの解明	
斎藤 仁志	森林科学	林内路網配置計画と林業機械・作業システムの効率化	
応用生命科学専攻	小嶋 政信	光生物化学	植物およびキノコの光応答メカニズムの解明と高度利用技術の開発
	中村 浩蔵	食品分子工学、食品機能化学	ソバを原料とした高血圧予防食品の開発と抗高血圧メカニズムの解明
	片山 茂	食品化学	食品由来の機能性成分の更なる高度利用のための分子設計
	一ノ瀬 仁美	応用生物化学、酵素化学、糖質科学	糖質資源を活用するための酵素の開発
	伊原 正喜	蛋白質工学、代謝工学	太陽光エネルギーの有効活用を目指した光合成システムの改変
	池田 正人	応用微生物学、代謝工学	ゲノム科学を応用した発酵生理学と微生物工学
	千 菊夫	応用生物化学、応用分子細胞生物学	担子菌キノコの分子育種、微生物殺虫剤の開発

	福田 正樹	遺伝育種科学	栽培食用きのこ開発のための遺伝・育種学的研究
	高木 優二	動物生殖学、家畜繁殖学	哺乳動物における生殖現象の解明と人為制御
	田淵 晃	植物微生物分子生物学	植物の二次代謝物質の生産制御
	山田 明義	真菌学、菌根学、菌類生態学	真菌類と植物根との共生体である菌根の生理・生態ならびに分類学
	竹野 誠記	応用微生物学、代謝工学	ゲノム科学を応用した発酵生理学と微生物工学
	藤井 博	生化学、分子生物学	生物の環境応答と適応におけるシグナル伝達機構の解析
	保坂 毅	応用微生物学	微生物における潜在能力の開発と有用物質生産への応用
	富岡 郁夫	生殖工学	革新的発生工学技術の開発
	鈴木 俊介	ゲノム生物学、分子生物学	エピゲノム解析による遺伝子発現制御機構の解明と応用
	田中 沙智	免疫学	農産物由来の免疫バランス制御因子の探索とその応用に関する研究
機能性食料開発学専攻	南 峰夫	遺伝育種科学	ソバの機能性成分に関する遺伝育種学的研究
	松島 憲一	育種学、園芸学、遺伝学	香辛料作物および園芸作物の遺伝解析および育種
	根本 和洋	植物遺伝育種学	低・未利用植物資源の遺伝的多様性解析および育種
	藤田 智之	食品化学、天然物有機化学	酵素阻害物質を中心とした機能性食品素材の探索と応用開発
	濱渦 康範	食品科学、園芸科学	果実・野菜の機能性成分の調査と利用性研究
	真壁 秀文	生物有機化学	顕著な生物活性を有する天然有機化合物の合成研究
	中村 宗一郎	食品化学	食品由来の種々の機能性成分の更なる高度利用のための分子設計
	下里 剛士	動物生命科学、分子生命工学	分子生命工学を基盤とする機能性素材のデザインと開発
	河原 岳志	動物生産科学	動物の株化細胞培養系を利用した食品の機能性探索

(出典：農学部作成)

### ③ 教育課程の運営体制

本研究科は、研究科長及び研究科に属する教授で構成する信州大学大学院農学研究科委員会において、教育活動に関する審議を行っている（資料農院17、18）。

資料農院 17 信州大学大学院農学研究科委員会規程（抜粋）

（趣旨）

第1条 この規程は、信州大学大学院研究科委員会通則（平成16年信州大学通則第4号）第10条及び信州大学大学院農学研究科規程（平成16年信州大学規程第81号）第3条第2項の規定に基づき、信州大学大学院農学研究科委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定める。

（組織）

第2条 委員会は、信州大学学術研究院農学系に属する教授で組織する。ただし、必要があるときは、信州大学大学院農学研究科（以下「研究科」という。）において主たる授業又は指導を担当するものとして配置された専任の教授、准教授、講師及び助教を加えることができる。この場合における当該研究科委員会を信州大学大学院農学研究科教員会議という。

（審議事項）

第3条 研究科委員会は、学長が次の各号に掲げる事項について決定を行うに当たり、意見を述べるものとする。

- 一 学生の入学及び課程の修了
- 二 学位の授与

2 研究科委員会は、前項に掲げるもののほか、次の各号に掲げる事項について、学長に意見を述べ

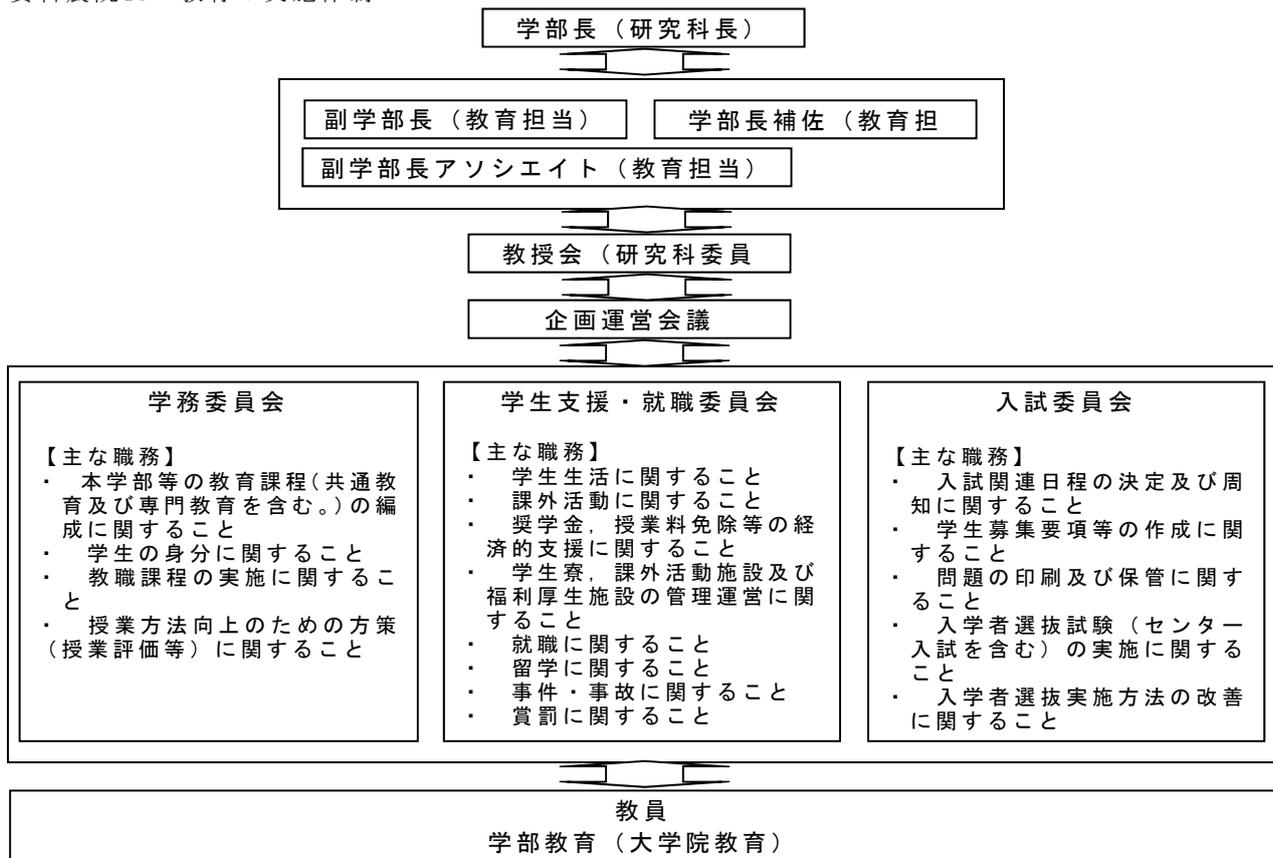
るものとする。

- 一 教育課程の編成に関する事項
- 二 研究科に所属する教員の選考及び業務内容等に関する事項
- 3 研究科委員会は、前2項に規定するもののほか、学長及び研究科長（以下この項において「学長等」という。）が掌る教育研究に関する事項について審議し、学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

第3条の2 前条第2項第2号に規定する事項については、研究科委員会の意見を聴いた後、信州大学学術研究院会議で審議する。

（出典：信州大学規程集）

資料農院18 教育の実施体制



（出典：農学部作成）

## 2 教育サポート体制

### ① 全学的な教育サポート体制

学務課、学生支援課等を設置し、全学的な教育課程、課外活動、就職、留学に関する業務を行っている（資料農院 19、20）。この他に、全学的な教育活動を展開するため、附属図書館、総合健康安全センター等に専門的知識技能を有する職員を配置している（資料農院 21）。さらに、本研究科に教育活動を展開するために必要な職員を配置している（資料農院 22）。

資料農院 19 国立大学法人信州大学業務執行組織規程（抜粋）

- 第 25 条 学務課においては、全学教育機構、高等教育研究センター、e-Learning センター、教員免許更新支援センター（教育学部の所掌に属するものを除く。以下この条において同じ。）及び学務部に関する次の業務をつかさどる。
- (1) 学務部内の事務に関し、連絡し、及び総合調整を行うこと。
  - (2) 庶務及び会計に関すること。
  - (3) 入学式その他学生の諸行事に関すること。
  - (4) 学生関係職員の SD（スタッフ・デベロップメント）に係る企画・立案及びその実施に関すること。
  - (5) 全学（本法人が設置する信州大学大学院（以下「大学院」という。）を除く。）の教務に関すること。
  - (6) 学生の学籍その他の記録に関すること。
  - (7) 学位の授与に関すること。
  - (8) 教育課程（大学院を除く。）に係る目標及び計画の連絡調整に関すること。
  - (9) 他の大学等との単位の互換（大学院を除く。）に関すること。
  - (10) 全学の学務情報システムに関すること。
  - (11) 出前講座に関すること。
  - (12) 諸会議（国立大学法人信州大学戦略企画会議規程（平成 24 年国立大学法人信州大学規程第 108 号）第 6 条に定める大学院戦略会議（以下「大学院戦略会議」という。）及び信州大学大学院教務委員会を除く。）の連絡調整に関すること。
  - (13) 教育・学生支援連携会議の運営に関すること。
  - (14) その他全学教育機構、高等教育研究センター、e-Learning センター及び教員免許更新支援センターの業務執行及び運営に関すること。
  - (15) 前各号に掲げるもののほか、学務部の他の所掌に属しない事務を処理すること。
- 2 学務課の共通教育支援室においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 共通教育の授業支援に関すること。
  - (2) 共通教育の教務に関すること。
  - (3) 学生の学習相談及び修学指導に関すること。
  - (4) 共通教育に係る点検・評価に関すること。
  - (5) 全学教育連携会議等の諸会議の連絡調整に関すること。
  - (6) 環境マインド教育支援に関すること。
- 3 （省略）
- 4 学生支援課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 学生総合支援センターの業務執行及び運営に関すること。
  - (2) キャリアサポートセンターの業務執行及び運営に関すること。
  - (3) 学生相談センターの業務執行及び運営に関すること。
- 5 入試課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 入学者の選抜に関し連絡し、及び総合調整を行うこと。
  - (2) 入学者選抜方法の改善に関し企画立案を行うこと。
  - (3) 学生募集に関すること。
  - (4) アドミッションセンターの業務執行及び運営に関すること。
  - (5) 前各号に掲げるもののほか、入学者の選抜に関する事務を処理すること。
- 6 国際交流課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 国際交流センターの業務執行及び運営に関すること。（研究支援課の国際学術交流室が所掌する業務を除く。）
  - (2) 松本国際交流会館の業務執行及び運営に関すること。
  - (3) 前各号に掲げるもののほか、教育活動に係る国際交流に関する事務を処理すること。

（出典：信州大学規程集）

資料農院 20 学務課、学生支援課、国際交流課の職員数

平成 28 年 1 月 18 日現在

	学務課	学生支援課		国際交流課
		うち キャリアサポートセンター		
事務職員	20	11	3	6
事務補佐員	12	4	2	5

臨時用務員	1			
専門職員	1			
技術補佐員	5			
技能補佐員		1		
シニア雇用職員	4	1		
コーディネータ		1		6
合計	43	18	5	17

(出典：経営企画課作成)

資料農院 21 附属図書館、総合健康安全センター等職員数

平成 28 年 2 月 1 日現在

区分	附属図書館	総合健康安全センター	総合情報センター	e-Learningセンター
伊那キャンパス	5	2	-	-

(出典：経営企画課作成)

資料農院 22 学部・研究科の学務担当の職員数

平成 28 年 2 月 1 日現在

区 分	学務担当窓口職員数
農学部 農学研究科	14

(出典：経営企画課作成)

② 長期にわたる教育課程の履修

就職している等の事情を有する学生に、標準修業年限を超えて計画的に履修できる制度を整えている。平成 24 年度からは交換留学する学生に計画的な履修を認めることとした(資料農院 23)。

資料農院 23 長期にわたる教育課程等の履修に関する規定

○信州大学大学院学則(抜粋)  
(長期にわたる教育課程の履修)

第 38 条 本大学院は、各研究科の定めるところにより、学生が、職業を有している等の事情により、第 15 条に定める標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

2 前項による計画的な教育課程の修業年限は、第 16 条に定める在学期間を超えることはできない。(教育課程の計画的特例履修)

第 38 条の 2 各研究科(修士課程又は博士前期課程を置く研究科に限る。)は、本大学院と外国の大学院等との間において締結した交流協定(研究科間交流協定及びこれに準ずるものを含む。以下「交流協定」という。)に基づく留学により、第 15 条に定める標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することを修士課程又は博士前期課程の学生(標準修業年限の最終年次の学生及び前条による長期にわたる教育課程の履修を認められている学生を除く。)が希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

2 前項による計画的な教育課程の修業年限は、3 年を超えることはできない。

○信州大学大学院農学研究科規程(抜粋)  
(長期にわたる教育課程の履修)

第 12 条 大学院学則第 38 条に規定する学生が職業を有している等の事情による長期にわたる教育課程の履修については、研究科委員会において定める。

(出典：信州大学規程集)

③ 教育方法の特例

本研究科で必要と認めるときは、授業及び研究指導を夜間やその他特定の時間等に実施できるようにしている（資料農院 24）。

資料農院24 教育方法の特例に関する規定

○信州大学大学院学則（抜粋）  
（教育方法の特例）

第 39 条 教育上特別の必要があると認められる場合には、当該研究科において定めるところにより、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

○信州大学大学院農学研究科規程（抜粋）  
（教育方法の特例）

第 17 条の 2 研究科において必要と認めるときは、授業及び研究指導を夜間その他特定の時間又は時期に行うことができる。

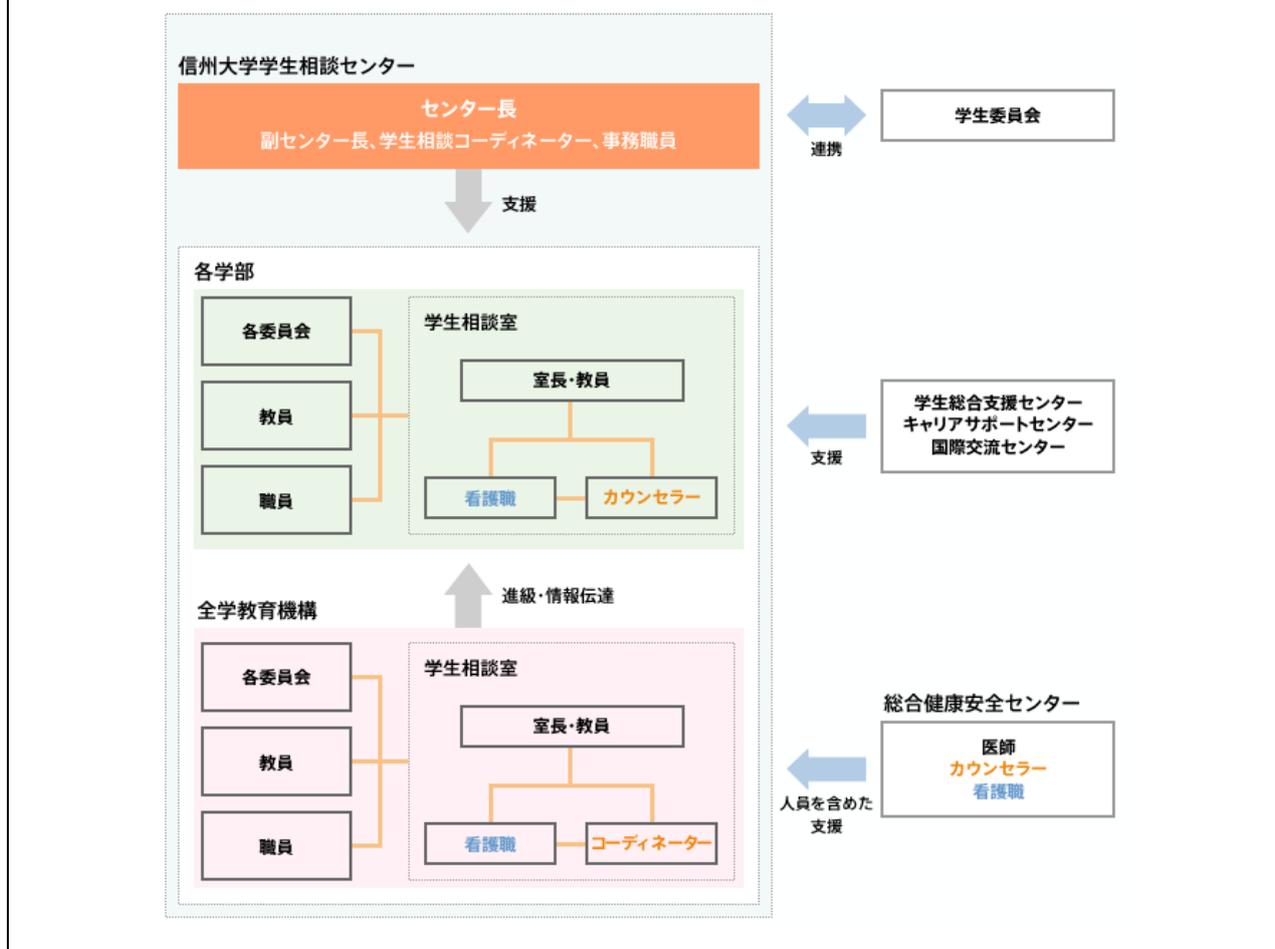
2 前項に規定するもののほか、教育方法の特例に関する事項は、別に定める。

（出典：信州大学規程集）

④ 学生相談体制の整備

平成 24 年度に全学組織となる学生相談センターと、各学部・キャンパスに、あらゆる相談を受け付ける学生相談室が設置され、活用されている（資料農院 25）。

資料農院 25 学生相談センター及び学生相談室



## 専門窓口と連携し対応します。

相談内容に応じて、学内外の専門機関(窓口)と連携を取ります。



(出典：信州大学学生相談センターホームページ「センターについて」)

### 3 教育の実施体制及び教員の教育力向上

#### ① 教育の実施体制

本研究科では、農学部と一体的に副学部長（教育担当）のもと、学務委員会、学生支援・就職委員会を設置し、教員の教育力向上を図っている（前掲資料農院18、p14）。

#### ② 関係者のニーズ把握

本研究科では、学生、修了生、雇用主、地域等の社会のニーズを、基礎学部の各実施組織がアンケート、意見聴取等を実施し把握している（資料農院26）。

資料農院 26 関係者のニーズ把握

対象	実施方法	頻度	実施組織	目的・利用方法
修了生	紙媒体によるアンケート	1回/1年	学務委員会	教育課程と教育内容をより良くし、教育の充実を図る。
雇用主・企業等	就職した企業等へのアンケート	1回/3年	学生支援・就職委員会	企業等が必要とする学生のニーズを把握する。
地域	自治体との連携協議会	1回/1年	農学研究科	地域社会が必要とする本研究科のシーズを把握し、貢献に資する。

(出典：農学部作成)

③ FD講演会の開催

学務委員会を中心に定期的にFD講演会を開催し、教員の教育力向上、メンタル面で不安を抱える学生や障害を持つ学生への適切な接し方、更には大学人としての倫理や研究を推進する上で必要とされる情報、知識など、テーマに幅を持たせ実施している(資料農院27)。

資料農院27 FD講演会の開催状況

実施年度	実施日	講師	FDテーマ	参加者数
平成22年度	10月14日(木)13:00~16:00	高橋知宣(信州大学教育学部教授)	メンタルヘルス(含むハラスメント)について	13名
	6月14日(火)13:30~15:00	萩原素之(信州大学農学部教授)	学生の自主学習を促すためのIT活用	22名
平成23年度	10月17日(月)13:30~15:00	松岡幸司(全学教育機構准教授)	FDとは? ~必要性と義務の間で考える~	25名
	11月14日(月)13:30~15:00	加藤敏三(高等教育研究センター准教授)	「教育の質」をどのように測るのか-教員業績評価書 今年度の対策講座-	38名
	2月13日(月)13:15~14:45	加藤敏三(高等教育研究センター教授)	本学にとって意義のあるGPA制度をめざしましょう	30名
平成24年度	5月21日(月)13:00~14:30	小田 佳代子(学生相談コーディネーター)	学生とのかかわり~ゲートキーパーとして~	34名
	6月25日(月)13:30~14:30	Kathleen T. Brinko先生(米国ノースカロライナ州アパラチアン州立大学・FDセンター長)	学生との接しかた・学習における情緒と認知の側面から	25名
	6月27日(水)10:40~12:00	萩原素之(農学部情報室長)	学生の自主学習を促すためのIT活用	8名
	10月15日(月)13:00~14:30	加藤敏三(高等教育研究センター准教授)	信州大学の学生を知る	37名
	11月26日(月)13:00~15:00	高橋校長(松本予備校) 一之瀬副校長(松本予備校)	現代の学生気質及び外部から見た大学評価及び初年次教育から見た大学の取り組み及び入試状況	37名
平成25年度	12月3日(月)13:00~14:30	片山綾乃(農学部カウンセラー)	チューター面談の振り返りと課題について	25名
	12月14日(金)13:00~14:30	萩原素之(農学部情報室長)	教育におけるICT活用に関するFD講習会	12名
	12月26日(火)9:00~10:30	萩原素之(農学部情報室長)	学生の自主学習を促すためのIT活用	8名
	1月8日(水)10:30~12:00	萩原素之(農学部情報室長)	学生の自主学習を促すためのIT活用	9名
	4月2日(火)9:00~10:15	片山綾乃(農学部カウンセラー)	メンタルに不安を抱えた学生に対してどう接するのか	18名
	5月20日(月)13:00~14:30	庄司和史(全学教育機構准教授)	聴覚障害者と学生支援	49名
	6月21日(金)10:40~12:00	萩原素之(農学部情報室長)	学生の自主学習を促すためのIT活用	10名
	8月6日(火)13:00~14:30	加藤敏三(高等教育研究センター教授)	GPA制度導入に際してのポイントや課題	16名
	12月10日(火)15:00~16:30	加藤敏三(農学部情報室長)	学生の自主学習を促すためのIT活用	8名
	12月14日(水)15:00~16:30	高野嘉寿彦(全学教育機構副機構長) 花崎一夫(全学教育機構教授) 小松孝子(学務部学務課共通教育支援室主管)	共通教育における平成27年度カリキュラムの方向性について	11名
	12月18日(水)16:00~17:30	萩原素之(農学部情報室長)	学生の自主学習を促すためのIT活用	9名
	12月25日(水)13:00~14:30	加藤敏三(高等教育研究センター教授)	大学の生産的な文化の育成について	12名
1月29日(水)16:00~18:00	加藤敏三(高等教育研究センター教授) 加藤善子(高等教育研究センター准教授)	シラバスガイドライン改訂に伴うFD	28名	
平成26年度	4月2日(火)10:40~12:00	庄司和史(全学教育機構准教授)	聴覚への障害学生学習支援及びノートテイクへの説明会について	50名
	6月9日(月)13:00~14:30	下平薫子(農学部カウンセラー)	気になる学生への接し方のPoint	25名
	6月23日(月)15:00~16:00	萩原素之(農学部情報室長)	学生の自主学習を促すためのIT活用	18名
	9月29日(月)13:00~14:40	加藤敏三(高等教育研究センター准教授)	大人教員としての効果的な授業の実施方法について	13名
	10月16日(木)13:00~14:30	谷塚 光典(e-Learningセンター) 長谷川 理(e-Learningセンター) 早水 美津子(e-Learningセンター) 内山 直美(e-Learningセンター)	教育におけるICT活用について	5名
	1月13日(火)14:30~16:00	加藤敏三(高等教育研究センター教授)	シラバスガイドライン見直しに伴う留意点およびシラバスの書き方	17名
平成27年度	12月9日(月)10:40~12:00	萩原素之(農学部情報室長)	学生の自主学習を促すためのIT活用	8名
	4月6日(月)14:00~15:30	庄司和史(全学教育機構准教授)	聴覚障害学生支援の説明会	32名
	6月8日(月)13:00~14:30	辻 琴音(信州大学農学部森林科学科学生)	農学部及び農学研究科改組後のカリキュラム及び運営等について	45名
	6月26日(金)13:00~14:30	萩原素之(農学部情報室長)	学生の自主学習を促すためのIT活用	12名
	6月29日(月)13:00~14:30	下平薫子(農学部カウンセラー)	メンタル面に問題のある学生の対応について	27名
	9月28日(月)13:00~14:30	国際交流担当職員(予定)	留学生受け入れの対応について	22名
	10月5日(月)13:00~14:30	加藤敏三(高等教育研究センター准教授)	4学期制導入に伴う2コマ連続授業等における効果的な教育方法について	20名
	11月30日(月)13:00~14:30	加藤敏三(高等教育研究センター准教授)	シラバスの書き方について	5名
	12月15日(火)13:00~14:30	萩原素之(農学部情報室長)	学生の自主学習を促すためのIT活用	12名
	3月18日(金)13:00~14:30	篠田 直子(障害学生支援室長)	信州大学における障害学生への支援体制について	26名

(出典：農学部作成)

4 入学者選抜方法の工夫

平成23年度入試（平成22年度）において、以下の変更を行った（資料農28）。

資料農28 平成23年度入学者選抜の変更点

- ① 一般入試（第2次募集）において、食料生産科学専攻が専門科目、英語、面接の3科目から面接1科目に変更、機能性食料開発学専攻が専門科目、英語、面接の3科目から専門科目、面接の2科目に変更した。
- ② 外国人留学生入試において、食料生産科学専攻が専門科目、面接の2科目から面接1科目に変更した。
- ③ 全専攻で社会人入試を導入した。

（出典：農学部作成）

（水準）

期待される水準を上回る。

（判断理由）

- ・ 「学術研究院」体制への移行に伴い、本研究科が実施する教育において、幅広い体系的な基礎学力、実践的技術力、研究開発能力を基盤とし、国際的視野を持つ専門技術者を養成する実施体制を整備し、在学生、受験生、保護者、関係業界等の、高度専門技術者になるための適切な教育環境下における充実した指導や、当該資質を備えた人材を育成し、輩出するという期待に応えている（資料農院 14～18）。
- ・ 修学はもとより、就職・留学に関するサポート体制及び学生相談室の機能強化（カウンセラーの常駐）等、学習・教育環境を支えるサポート体制を整備し、在学生、受験生、保護者等の、高度専門技術者になるための適切な教育環境下における充実した指導という期待に応えている（資料農院 19、20、25）。
- ・ 教育の実施に当たりアンケートの実施と分析、多面的な内容でのFD講演会の開催等、教員の教育力向上、教育内容・方法を改善するための体制を構築し、在学生、受験生、保護者、関係業界、諸団体の、高度専門技術者になるための適切な教育環境下における充実した指導や、当該資質を備えた人材を育成し、輩出するという期待に応えている（資料農院 26、27）。
- ・ 「長期にわたる教育課程の履修に関する規定」及び「教育方法の特例に関する規定」による柔軟な履修環境を整備し、在学生、受験生、関係業界、諸団体の、高度専門技術者になるための適切な教育環境下における充実した指導や、当該資質を備えた人材を育成し、輩出するという期待、また社会人を積極的に受け入れ国際的視野と技術力を備えた高度専門技術者を養成するという期待に応えている（資料農院23、24）。

観点 教育内容・方法

(観点に係る状況)

1 体系的な教育課程の編成状況

① ディプロマ・ポリシーに基づく教育課程の編成

本研究科はディプロマ・ポリシーに基づいた教育課程を編成し、カリキュラムマップにより学生に明示し、学生が受講するに当たって、各授業の位置付けや到達点等を容易に理解でき、受講に臨める体制を整備している(資料農院29)。

資料農院29 学位授与の方針に基づいたカリキュラムマップ

農学研究科共通のカリキュラムマップ

科目・題名	科目コード	修得時期	研究科DP																		
			より豊かな人間社会の構築に貢献できる知識と技術を修得している	高い研究開発能力を修得している	農業分野での研究開発成果を発信できる	農業分野での情報収集・分析能力を有する	食料生産科学専攻DP	畜産科学専攻DP	応用生命科学専攻DP	環境生命科学専攻DP											
食と緑の科学特論	A010	前期	○	○	○																
国際農学特論Ⅰ～Ⅴ	*		○																		
国際農学特別演習Ⅰ・Ⅱ	*		○																		
国際農学特別実習Ⅰ・Ⅱ	*		○																		

専攻ごとのカリキュラムマップ

(食料生産科学専攻)

科目・題名	科目コード	修得時期	研究科DP																		
			より豊かな人間社会の構築に貢献できる知識と技術を修得している	高い研究開発能力を修得している	農業分野での研究開発成果を発信できる	農業分野での情報収集・分析能力を有する	食料生産科学専攻DP	畜産科学専攻DP	応用生命科学専攻DP	環境生命科学専攻DP											
食料生産科学専攻																					
生産環境管理学特論	A0115	1年前期	○																		
農生圏系制御学特別演習Ⅰ	A0101	1年通年	○																		
農生圏系制御学特別演習Ⅱ	A0102	2年通年	○																		
生産環境保全学特別演習Ⅰ	A0104	1年通年	○																		
生産環境保全学特別演習Ⅱ	A0105	2年通年	○																		
食料生産経済学特別演習Ⅰ	A0106	1年通年	○																		
食料生産経済学特別演習Ⅱ	A0107	2年通年	○																		
植物資源生産学特論	A0135	1年後期	○																		
作物生態生理学特別演習Ⅰ	A0121	1年通年	○																		
作物生態生理学特別演習Ⅱ	A0122	2年通年	○																		
園芸資源学特別演習Ⅰ	A0123	1年通年	○																		
園芸資源学特別演習Ⅱ	A0124	2年通年	○																		
観賞園芸学特別演習Ⅰ	A0125	1年通年	○																		
観賞園芸学特別演習Ⅱ	A0126	2年通年	○																		
動物資源生産学特論	A0154	1年前期	○																		
家畜飼養・飼科学特別演習Ⅰ	A0142	1年通年	○																		
家畜飼養・飼科学特別演習Ⅱ	A0143	2年通年	○																		
動物形態情報学特別演習Ⅰ	A0145	1年通年	○																		
動物形態情報学特別演習Ⅱ	A0146	2年通年	○																		
動物行動管理学特別演習Ⅰ	A0141	1年通年	○																		
動物行動管理学特別演習Ⅱ	A0155	2年通年	○																		
食資源利用学特論	A0174	1年前期	○																		
動物生理学特別演習Ⅰ	A0163	1年通年	○																		
動物生理学特別演習Ⅱ	A0164	2年通年	○																		
動物資源開発学特別演習Ⅰ	A0165	1年通年	○																		
動物資源開発学特別演習Ⅱ	A0166	2年通年	○																		
食料生産科学特論Ⅰ	A0181	1年前期	○																		
食料生産科学特論Ⅱ	A0182	1年前期	○																		
特別インターンシップ	A0183	2年後期	○																		
植物資源生産学特別実験実習	A0184	1年通年	○																		
動物資源生産学特別実験実習	A0185	1年通年	○																		
食料生産科学特別演習	A9099	2年通年	○																		
特別研究	A91**	2年通年	○																		

(森林科学専攻)

				研究科DP									
				より豊かな人間社会の構築に貢献できる知識と技術を修得している	環境と調和した国際性と地域性に根差した持続的生産に関わる知識と技術を修得している	環境の保全と修復および生命科学や食料の生産などの分野における幅広い体系的な基礎学力と実践的技術力を修得している	高い研究開発能力を修得している	集・分析分野で必要とされる情報収集能力を有する	農業分野での研究開発成果を発信力のあるグローバルな情報発信能力を有する	より豊かな人間環境を創出するために、科学的・倫理的に貢献できる高度な能力を修得している	森林科学専攻DP 多種多様な要因によって形成されている森林や田園の環境に関する高度な知識を修得している	信州の自然環境に恵まれた特色を生かし、高度な専門職人となるための専門的学力とその応用力を修得している	森林と田園の持続的発展を実現するために、直面する問題に的確に向き合い、正しく捉え、これを解決する高度な能力を修得している
科目・題目名	科目コード	修得時期											
森林科学専攻													
山	森林生態学特論	A0201	1年前期			○					○		
地	森林環境学特論	A0202	1年前期		○						○		
環	治山砂防学特論	A0205	1年前期	○			○						○
境	山地環境保全学特別演習Ⅰ	A0203	1年または2年通年		○							○	
保	山地環境保全学特別演習Ⅱ	A0207	1年または2年通年			○							○
全	山地環境保全学特別実験実習Ⅰ	A0218	1年または2年通年	○							○		
学	山地環境保全学特別実験実習Ⅱ	A0216	1年または2年通年				○			○			
森	森林管理政策学特論	A0229	1年前期	○	○		○			○			○
林	森林経営利用学特論	A0231	1年前期	○									○
生	木材理学特論	A0236	1年前期	○								○	
産	森林生産利用学特別演習Ⅰ	A0245	1年または2年通年			○					○		
利	森林生産利用学特別演習Ⅱ	A0241	1年または2年通年		○							○	
用	森林生産利用学特別実験実習Ⅰ	A0244	1年または2年通年	○						○			
学	森林生産利用学特別実験実習Ⅱ	A0246	1年または2年通年				○					○	
農	農村計画学特論	A0252	1年前期			○							○
山	地水環境学特論	A0253	1年前期		○						○		○
村	流域保全学特論	A0257	1年前期	○			○						○
環	農山村環境学特別演習Ⅰ	A0254	1年または2年通年			○							○
境	農山村環境学特別演習Ⅱ	A0256	1年または2年通年				○					○	
学	農山村環境学特別実験実習Ⅰ	A0261	1年または2年通年	○							○		
	農山村環境学特別実験実習Ⅱ	A0264	1年または2年通年			○		○					○
緑	緑地計画学特論	A0272	1年前期	○									○
地	緑地生態学特論	A0275	1年前期			○					○		
環	緑地環境文化学特別演習Ⅰ	A0273	1年または2年通年				○				○		
境	緑地環境文化学特別演習Ⅱ	A0271	1年または2年通年	○						○			
文	緑地環境文化学特別実験実習Ⅰ	A0283	1年または2年通年			○						○	
化	緑地環境文化学特別実験実習Ⅱ	A0281	1年または2年通年		○								○
専攻共通	特別インターンシップ	A0286	1年または2年通年	○						○			
	特別研究	A92**	2年通年					○	○				

(応用生命科学専攻)

				研究科DP									
				より豊かな人間社会の構築に貢献できる知識と技術を修得している	環境と調和した国際性に根差した持続的生産に関わる知識と技術を修得している	環境の保全と修復および生命科学や食料の生産などの分野における幅広い体系的な基礎学力と実践的技術力を修得している	高い研究開発能力を修得している	農業分野で必要とされる情報収集・分析能力を有する	農業分野での研究成果を発信できるグローバルな情報発信能力を有する	農業分野での研究成果を発信できる	応用生命科学専攻DP		
科目・題目名				科目コード	修得時期						自然の摂理と生物資源の多様性について説明できる	生命科学、食品科学、環境科学等の分野に関する高度な専門知識とその応用力を修得している	生命科学・食品科学分野において、化学的・生物学的視点から高度な専門性と独創性を発揮して、社会の知的発展に貢献できる能力を修得している
応用生命科学専攻													
生物制御化学	食品安全・分析化学特論	A0301	1年前期	○		○	○						○
	生物有機化学特論	A0305	1年後期								○		
	生物制御化学特別演習Ⅰ	A0311	1年後期			○	○						○
	生物制御化学特別演習Ⅱ	A0312	2年通年									○	○
	生物制御化学特別実験実習	A0313	2年後期			○	○				○	○	○
生物機能化学	応用微生物学特論	A0324	1年前期								○	○	○
	分子生物・遺伝子工学特論	A0325	1年後期			○					○	○	○
	生物機能化学特別演習Ⅰ	A0331	1年後期								○	○	○
	生物機能化学特別演習Ⅱ	A0332	2年通年								○	○	○
	生物機能化学特別実験実習	A0333	2年後期			○					○	○	○
生物資源開発学	動物資源開発学特論	A0344	1年後期								○	○	○
	菌類資源開発学特論	A0346	1年前期			○					○	○	○
	生物資源開発学特別演習Ⅰ	A0351	1年後期								○	○	○
	生物資源開発学特別演習Ⅱ	A0352	2年通年								○	○	○
	生物資源開発学特別実験実習	A0353	2年後期		○		○				○	○	○
生物資源化学	食品生化学特論	A0361	1年後期			○	○				○	○	○
	食品化学特論	A0362	1年前期			○	○				○	○	○
	生物資源化学特別演習Ⅰ	A0371	1年後期			○	○				○	○	○
	生物資源化学特別演習Ⅱ	A0372	2年通年			○	○				○	○	○
	生物資源化学特別実験実習	A0373	2年後期			○	○				○	○	○
専攻共通	特別インターンシップ	A0391	1年通年			○	○				○	○	○
	応用生命科学特別演習	A0392	2年通年	○		○	○				○	○	○
	特別研究	A93**	2年通年					○	○		○	○	○

(機能性食料開発学専攻)

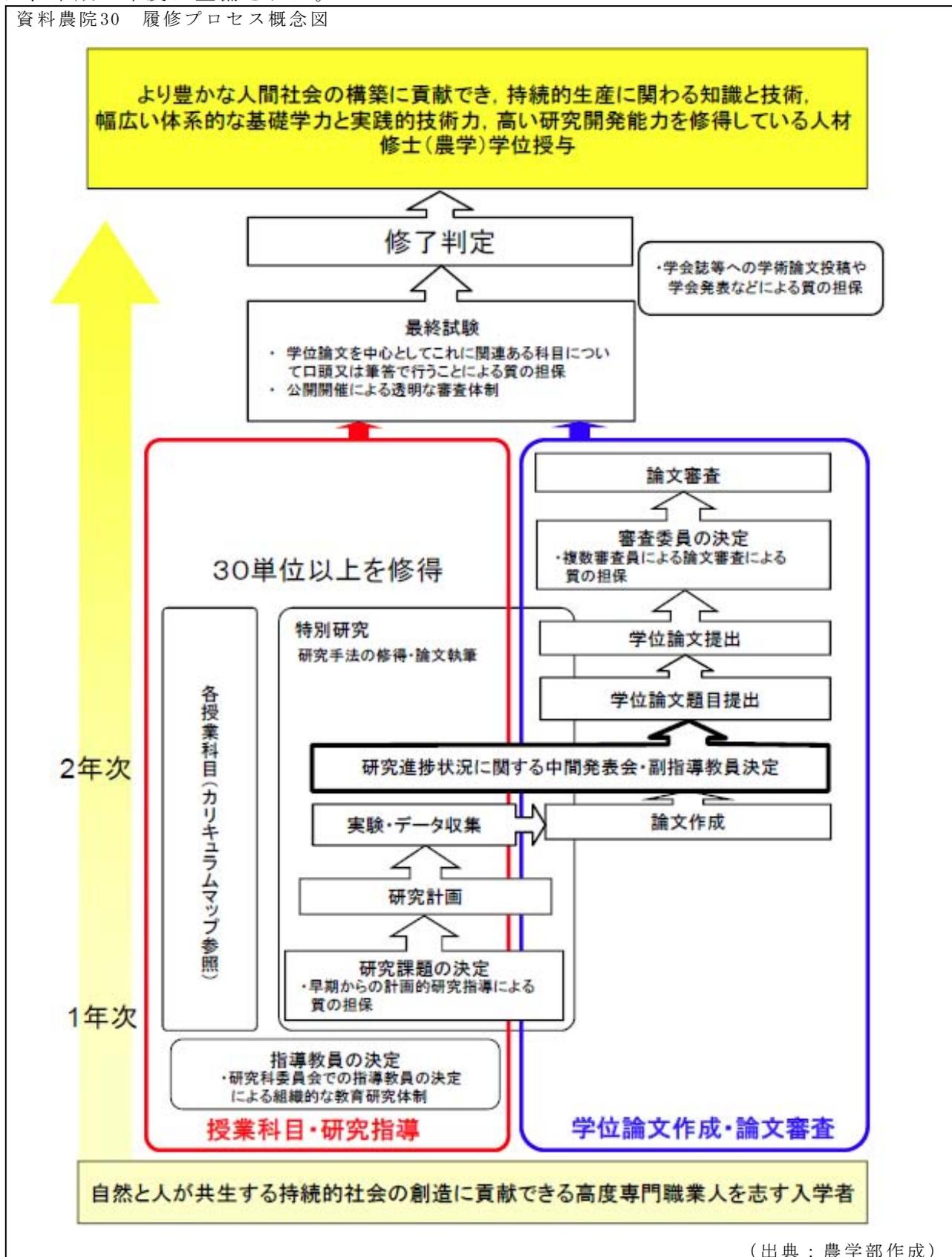
				研究科DP										
				より豊かな人間社会の構築に貢献できる知識と技術を修得している	環境と調和した国際性に根差した持続的生産に関わる知識と技術を修得している	環境の保全と修復および生命科学や食料の生産などの分野における幅広い体系的な基礎学力と実践的技術力を修得している	高い研究開発能力を修得している	農業分野で必要とされる情報収集・分析能力を有する	農業分野での研究成果を発信できる	農業分野での研究成果を発信できる	機能性食料開発学専攻DP			
科目・題目名				科目コード	修得時期						「食」に関する総合科学的思考力や創造性を持った能力を修得している	食料と人の健康に関する専門的知識と技術、特に信州の地域特性と産業に関する知識を修得している	機能性食料開発学に関連した学問分野における専門的知識と技術を修得している	機能性食料開発学に関連した学問分野における技術と研究能力、特に国際的な学術研究のための基礎的能力を修得している
機能性食料開発学専攻														
機能性食料開発学	機能性食料育種学特論	A0401	1年通年		○						○	○	○	○
	機能性食料育種学特別演習Ⅰ	A0402	1年通年			○					○	○	○	○
	機能性食料育種学特別演習Ⅱ	A0404	2年通年									○	○	○
	機能性食料育種学特別実験実習	A0411	1年通年									○	○	○
食料機能学	食料機能解析学特論	A0421	1年前期	○							○	○	○	○
	食料機能解析学特別演習Ⅰ	A0422	1年通年			○					○	○	○	○
	食料機能解析学特別演習Ⅱ	A0423	2年通年								○	○	○	○
	食料機能解析学特別実験実習	A0431	1年通年				○				○	○	○	○
食料機能開発学	食料機能開発学特論	A0442	1年後期	○		○					○	○	○	○
	食料機能開発学特別演習Ⅰ	A0441	1年通年			○					○	○	○	○
	食料機能開発学特別演習Ⅱ	A0444	2年通年			○					○	○	○	○
	食料機能開発学特別実験実習	A0451	1年通年				○				○	○	○	○
機能性食品製法学	機能性食品製法学特論Ⅰ	A0461	1年通年	○		○					○	○	○	○
	機能性食品製法学特論Ⅱ	A0462	1年通年	○		○					○	○	○	○
	機能性食品製法学特論Ⅲ	A0463	1年通年	○		○					○	○	○	○
専攻共通	食料機能学特論	A0481	1年前期	○		○					○	○	○	○
	食料分析化学特論	A0482	2年前期		○						○	○	○	○
	生活習慣病学特論	A0483	1年通年	○		○					○	○	○	○
	特別インターンシップ	A0491	1年後期				○				○	○	○	○
	機能性食料開発学特別演習	A0492	1年通年		○		○				○	○	○	○
特別研究	A94**	2年通年					○	○		○	○	○	○	

(出典：信州大学農学部ホームページ〔各専攻のサイトから抜粋〕)

② 履修プロセス概念図

各専攻の履修プロセスは、以下のとおりである。研究進捗状況に関する中間発表会開催時に副指導教員を決定し、複数教員による進捗状況評価と今後の研究の進め方についての指導を実施している（資料農院30）。なお、本研究科における複数教員による指導体制は、平成27年度に整備された。

資料農院30 履修プロセス概念図



③ 修士論文評価基準

本研究科の修士論文評価基準は、次のとおりである（資料農院31）。  
評価の過程に中間審査を設定していることが特徴として挙げられる。

資料農院31 修士論文評価基準

## 大学院農学研究科修士論文評価基準

(平成 24 年 9 月 10 日 研究科委員会承認)

以下の基準に抛り、論文審査および口頭試問等を経て、論文審査委員会の協議によって最終的な総合評価を決定する。

1.

(a) [関連資料・参考文献] 研究主題の探求に際して利用した関連資料・参考文献について、精確な読解、的確な把握、また妥当な解釈がなされているか。あるいは客観的に正当な批判や批評が提示されているか。

(b) [実験・調査] 研究主題の探求に際して実施した実験・調査は、適切な方法に基づいて行われているか。またその分析は精確で、解釈や結果が妥当であるか。

2. [論証方法・論旨とデータ（資料）の提示方法] 問題提起から結論にいたる論証方法と論旨は、明確かつ妥当であるか。また実験データ・調査資料の提示と展開の方法は適切であるか。

3. [独創性と意義] 論証の方法や結論と成果は、当該分野の専攻研究との関連あるいは研究史に照らして十分な独創性と意義を有するか。

4. [表現的的確性と表現力] 日本語もしくは使用外国語について、語句や文章表現は的確で、かつ表現力に優れているか。

5. [論文の体裁と完成度] 本文、章立て、注記、参考書目あるいは図表等、部分的かつ全体の構成において、論文としての体裁が整っており、その完成度は高いか。

6. [総合的評価] 総合的に評価して修士論文に値するか。

(但し書き)

1) 項目 1 の (a) と (b) の評価基準は、いずれか一方、もしくは両方を採択しうることを示す。

2) 参考図書・論文・史料・統計資料・辞書・地図・インターネット資料その他、参照する全ての資料・図版等については、「関連資料・参考文献」と表記した。

3) 実験、実地調査、聞き込み調査、情報・資料提供者（インフォーマント）との面談等、実施する全ての研究作業については、「実験・調査」と表記した。

4) 前項の「実験・調査」によって収集され、分析の対象となるもの全てについては、「実験データ・調査資料」と表記した。

(出典：農学部作成)

2 養成しようとする人材像に応じた効果的な教育方法の工夫

① 専攻横断型の授業科目

農学に関し広い視野を持つ高度技術者や研究者を養成するため、本研究科では、大学院共通教育科目として、「食と緑の科学特論」を開講し、方法論にとらわれず、また、海外事

情も含めた授業を開講し、グローバル化に対応する教科の一つとして位置付けている（資料農院32）。

資料農院 32 平成 27 年度大学院共通教育科目一覧

開講研究科	科目名	時期	単位	開講キャンパス	備考
農学研究科	食と緑の科学特論	前期	2	伊那キャンパス	

（出典：学務課大学院室作成）

② 教育関係共同利用拠点認定によるフィールド教育の充実

AFCの野辺山農場と演習林は、それぞれ平成25年度、平成26年度に文部科学大臣から「教育関係共同利用拠点」として認定された（資料農院33、34）。

資料農院33 AFCの野辺山農場と演習林

野辺山農場では、「中部高冷地域における農業教育共同利用拠点」として、高冷地野菜と畜産を組み合わせたフィールド教育を進め、基礎力、応用力を養成する共学型、既設型、注文型のプログラムや、オープンフィールド教育を展開しながら複数の演習、実習、体験ゼミ等を実施している。

演習林では、「南信州を舞台とした自然の成り立ちから山の生業までを学ぶ教育関係共同利用拠点」として、西駒、野辺山、手良沢山、構内の4つのステーションにおいて、共学型、注文型の「自然の成り立ち」から「山の生業」までを学ぶ複数のプログラムを体験することで多様なフィールド科学を習得し、自然、山、環境の理解を深め、豊かな人間性を構築する総合的教育を提供している。

## 教育関係共同利用拠点に認定

野辺山農場が平成25年度に「中部高冷地域における農業教育共同利用拠点」に認定されました。野辺山農場は、八ヶ岳山麓の標高1350mに位置し、日本でも有数の高原野菜地帯であり、首都圏から短時間で訪れることができる高冷地農業地帯です。約60名が宿泊可能な宿泊施設を有し、夏季に実施する4つの演習では、高冷地の自然環境と農業生産の現状を知り、「食－農－自然環境」の関係を理解し、農業生産技術を習得します。また、他大学が実施する実習や研究に対する支援、協力として圃場および教育・実験施設を提供します。



（出典：農学部デジタルパンフレット）

AFCの教育関係共同利用拠点認定によるフィールド教育の充実

【拠点名称】中部高冷地域における農業教育共同利用拠点-高冷地野菜と畜産を組み合わせたフィールド教育-

野辺山農場は、日本でも有数の高原野菜地帯である八ヶ岳山麓の野辺山高原に位置しており、中部高冷地域農業のフィールド教育の共同利用拠点である。AFCが開講する演習に他大学の学生が参加する「共学」型プログラム、他大学の学生を主対象とする「既設」型プログラム、他大学の教員、学生の注文に応じる「注文」型プログラムの演習及びオープンフィールド演習を提供している。豊かで多様な自然環境・生産環境を利用した実践的な演習は、高い教育効果が期待される。



肉用牛



野辺山農場



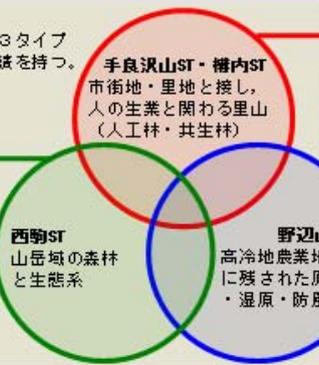
キャベツの収穫実習

【拠点名称】南信州を舞台とした自然の成り立ちから山の生業までを学ぶ教育関係共同利用拠点

西駒、野辺山、手良沢山及び農学部構内の4ステーション（ST）から構成される演習林は、南信州を舞台に、「自然の成り立ち」から「山の生業」までを学ぶ共同利用拠点として、大学教育を通じ、林業の発展と環境保全の調和を目的とした循環型社会の構築を目指す。多様なフィールド科学の習得とともに、自然、山、環境の理解を深め、豊かな人間性を構築する総合的な教育効果が期待される。

特徴ある演習林

AFCは、日本の森林を持数づける3タイプの演習林を有し、豊富な教育研究実践を持つ。



手良沢山ST・権内ST  
市街地・里地と接し、  
人の生業と関わる里山  
(人工林・共生林)

西駒ST  
山岳域の森林  
と生態系

野辺山ST  
高冷地農業地帯  
に残された原野  
・湿原・防風林

(出典：農学部作成)

資料農院34 教育関係共同利用拠点のプログラムと利用実績

【拠点名称】

中部高冷地域における農業教育共同利用拠点-高冷地野菜と畜産を組み合わせたフィールド教育-

○プログラム及び概要 (平成26年度)

プログラム (課題) 名		概要
1	高冷地植物生産生態学演習	信州大学農学部が自学部の学生も含め、開講する高冷地野菜、栽培作物の栽培管理、収穫、乳用牛管理、農産物加工(ソバ等)、野生生物調査に関する3泊4日の自炊を伴う合宿演習に他大学、他学部の学生を受け入れる。
2	高冷地動物生産生態学演習	信州大学農学部が自学部の学生も含め、開講する高冷地野菜の収穫、乳用牛、肉用牛管理、農産物加工(ソバ等)、野生生物調査に関する3泊4日の自炊を伴う合宿演習に他大学、他学部の学生を受け入れる。
3	高冷地生物生産生態学演習	信州大学農学部が他大学の学生を中心に(自学部学生も含む)に、開講する高冷地野菜、栽培作物の栽培管理、収穫、乳用牛管理、農産物加工(ソバ等)、野生生物調査に関する3泊4日の自炊を伴う合宿演習に他大学、他学部の学生を受け入れる。
4	高冷地応用フィールド演習	キャベツを教材として、圃場の準備、播種、定植から収穫、出荷までの一連の作業を通じて生産技術の習得を目的に、複数回の宿泊実習形式で行う。また、講義や近隣施設の見学を適時行いながら、連作障害への対応、6次産業化をめざした安定生産技術を習得し、高原野菜の生産や流通システムについて理解を深める。

信州大学大学院農学研究科 分析項目 I

5	就農基礎研修	東京農業大学が農業就労研修会を同大学の学生を対象に実施する。具体的には高冷地農業、高冷地野菜（キャベツ）栽培に関する座学、野辺山農場近隣の農家の圃場見学、キャベツの収穫、出荷体験、野菜集荷場の見学と一貫した課程を体験させる。
6	農業体験研修	東京農業大学が同大学の学生を対象に、キャベツ栽培に関する座学、キャベツの収穫、出荷体験、集荷場見学と一貫した生産、栽培管理に関する研修を実施する。
7	ピアメンターキャンプ	高等教育コンソーシアム信州が加盟大学を対象に3泊4日の合宿演習を開講。高冷地の農業、野菜生産管理、収穫野菜の調理実習を実施することで、看護学、人文学、理工学ほか非農学系20名の学生に信州の高冷地農業を体験、習得させる。
8	野生生物生態調査演習	麻布大学が生物生態学調査演習の一環として、野辺山農場、八ヶ岳山麓の野生生物（小動物）の生態、行動調査を目的に1泊～6泊の合宿演習を複数回実施する。
9	生態調査演習	麻布大学の生態学の調査演習の一環として、野辺山農場、および八ヶ岳山麓の野生生物（小動物）の生態、行動調査を目的に2泊～6泊の複数回の調査演習を実施する。
10	高齢者医療研究会	佐久大学の教員と首都圏の医療系教員、学生が野辺山農場に宿泊しながら、無医村地域における医療の役割、特に高齢者医療に関する調査、研究を進める。
11	農業体験研修	佐久大学看護学部の学生と教員が農業体験としてキャベツの収穫、自分で収穫した野菜の調理を通じ、農業と食料、生産から流通、加工を学習する。
12	高冷地農家実践演習	他大学の学生を対象に、高冷地農業、野辺山の農業、高冷地野菜に関する基礎的知見を習得後、周辺の農家における高冷地野菜等の実践的演習を行い、栽培から収穫、流通まで、実践技術を習得する。
13	地域調査実習	農学部の3年生を対象に地域での地域調査の方法、土地利用のとりえ方等の習得を目的に開講している。その一部を、野辺山農場を利用して高冷地農業における農村地域を対象に土地利用調査を実施し、その分析方法等を習得させる。
14	牧場体験ゼミ	農学部の1年生を対象に高冷地の農業、環境に関する理解を目標に2泊3日で実施する。農作業体験、家畜の飼育管理、生態と行動観察、食品加工などの実習の講演および近隣の農業関連施設の見学を通して「食」に関する理解を深めさせる。
15	卒業研究、修士等研究	農学部、他学部および他大学の学生、大学院生と指導教員が「オープンフィールド」を利用して、1年間を通じて長期間、複数回の調査、演習を進めることで卒業研究、修士論文研究の一部を進める。
16	高冷地農業研修	長野県内の農業者、関係者等が野辺山農場および周辺で展開する高冷地農業、特に高冷地野菜の栽培、管理から流通、販売を視察、見学する研修会により高冷地における6次産業化農業を学習する。

○利用実績

区分	平成25年度			平成26年度			平成27年度		
	所属機関数	利用人数	延べ人数	所属機関数	利用人数	延べ人数	所属機関数	利用人数	延べ人数
学内（法人内）	8	286	675	9	135	714	6	456	1,140
国立大学	0	0	0	3	26	30	6	30	80
公立大学	1	10	32	1	3	9	1	6	14
私立大学	7	126	317	8	155	398	9	108	232
大学共同利用機関法人	0	0	0	0	0	0	0	0	0
民間・独立行政法人等	4	55	5	2	9	9	4	75	124
外国の研究機関	1	1	19	2	4	8	3	16	90
（うち大学院生）	2	2	20	2	3	9	3	21	72
計	21	478	1,100	25	332	1,168	29	691	1,680

【拠点名称】

南信州を舞台とした自然の成り立ちから山の生業までを学ぶ教育関係共同利用拠点

○プログラム及び概要（平成26年度）

プログラム（課題）名		概要
1	山岳環境保全学演習	信州大学農学部が自学部の学生も含め、開講する西駒演習林内の野生生物（動物、植物）の調査に関する3泊4日の自炊を伴う合宿演習に他大学、他学部の学生を受け入れる。
2	アルプス登山学演習	信州大学農学部が自学部の学生も含め、開講する西駒演習林内での登山技術、山岳気象、温暖化の影響等の調査に関する3泊4日の自炊を伴う合宿演習に他大学、他学部の学生を受け入れる。
3	冬のフィールド管理学演習	信州大学農学部が自学部の学生も含め、開講する演習林内での冬山管理、冬山の生物の生態調査に関する3泊4日の自炊を伴う合宿演習に他大学、他学部の学生を受け入れる。
4	生態学演習	連携協定を締結している慶應義塾大学学生が野辺山、講内、手良沢山演習林において、信州大学農学部の学生と共に、南信州の自然、山の生業に関する講義、間伐施業、森林調査、および木材加工作業を体験する。
5	森林生態学演習	京都大学徳地直子教授が手良沢山演習林において、同大学学生に対して里山人工林の管理に関する実習を行う。
6	植生ゼミ	筑波大学清野准教授が西駒演習林において、同大学学生に対して亜高山帯の自然の成り立ちに関する実習を行う。
7	森林風致計画学	長野県林業大学校の教員3名、学生20名が、講内演習林において森林風致計画学の一部を開講し、風致間伐予定地の調査を実施する。
8	新入生課外実習	信州大学経済学部の1年生を対象に、新入生ゼミナールI課外実習の一環として、講内演習林において二次林の自然観察と森林のバイオマス調査を実施する。経済学部の教員6名、1年生120名を複数班に分かれ、異なる観察、調査を通じて自然の成り立ちと森林における生業を習得する。
9	自然史実習	信州大学理学部が西駒演習林において植物、昆虫等の自然観察に関する実習を行う。
10	コロキウム	信州大学理学部が手良沢山演習林において、化学に関するゼミを行う。
11	松枯防除実践講座	日本緑化センターが林野庁、長野県、南箕輪村等の自治体、全国、長野県の各森林組合等の後援を受け、森林関連団体等に所属する森林（松）管理者を対象に、松枯防除技術の習得を目標に、講義と演習を行う。
12	卒業研究、修士等研究	農学部、他学部および他大学の学生、大学院生と指導教員が4ステーションのフィールドを「オープンフィールド」として利用し、長期間、複数回の調査、演習を進めることで卒業研究、修士論文研究の一部を進める。

○利用実績

区分	平成26年度			平成27年度		
	所属機関数	利用人数	延べ人数	所属機関数	利用人数	延べ人数
学内（法人内）	8	722	3,027	5	518	3,361
国立大学	6	21	79	13	89	239
公立大学	1	23	23	2	32	38
私立大学	2	17	58	3	32	52
大学共同利用機関法人	0	0	0	0	0	0
民間・独立行政法人等	5	289	585	5	123	303
外国の研究機関	0	0	0	0	0	0
（うち大学院生）	8	11	120	5	67	120
計	22	1,072	3,772	28	794	3,993

（出典：農学部作成）

なお、AFC 手良沢山ステーション及び西駒ステーション・桂小場試験地は、平成 28 年 2 月 26 日に（一社）緑の循環認証会議（SGEC）の認証規格による森林認証を取得した（資料農院 35）。

資料農院 35 森林管理認証の取得



認証書付属書

認証森林の構成は、次のとおりである。

名称（所在市町村）	面積（ha）
手良沢山ステーション演習林	227.90
西駒ステーション演習林・桂小場試験地	251.84
合計	479.74

JAFTA 2016-D201 様式 41 認証書（2016 年 1 月 1 日改定）

〔説明〕

森林認証は、森林が持続可能な方法で適切に管理されていることを第三者機関が評価・認証する制度であり、SGEC認証規格による本学部・研究科の森林認証取得は、宇都宮大学農学部附属演習林に次ぎ国立大学の中では 2 番目である。

（出典：農学部作成）

③ 安全への配慮

本研究科では、実験・実習の安全対策として毎年度 4 月に、留学生を含む 2 年次生、編入学生及び大学院の学生を対象とする安全講習会を、独自に作成している「安全の手引き」を用い実施している。これによりラボワーク、更にはフィールドワークにおける安全の確保を図っている（資料農院 36）。

<h1 style="font-size: 2em; margin: 0;">安全の手引</h1>  <p style="font-weight: bold; margin: 10px 0;">信州大学農学部・農学研究科</p> <p style="font-size: 0.8em; margin: 0;">平成27年3月</p>	<p style="text-align: center; font-size: 0.8em;">信州大学農学部実験・実習安全の手引き目次</p> <p><b>I. 共通事項</b></p> <p>第1節 はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1</p> <p>第2節 防災対策マニュアル・・・・・・・・・・ 2</p> <p>第3節 学生教育研究災害損害保険及び学生教育研究災害損害賠償特約補償責任保険への加入・・・・・・・・・・ 6</p> <p>第4節 交通事故の防止・・・・・・・・・・ 8</p> <p>第5節 国立大学法人信州大学安全衛生基本方針・・・・・・・・・・ 9</p> <p><b>II. 化学系実験を行うにあたって</b></p> <p><b>A. 化学物質</b></p> <p>第1節 はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11</p> <p>第2節 危険な物質の取り扱い・・・・・・・・・・ 12</p> <p>第3節 事故への対応(応急処置)・・・・・・・・・・ 17</p> <p>第4節 化学物質の環境への影響・・・・・・・・・・ 19</p> <p>第5節 有害物質を主とする化学物質の廃棄・・・・・・・・・・ 20</p> <p><b>B. 実験器具・装置</b></p> <p>第1節 高圧ガス・・・・・・・・・・ 25</p> <p>第2節 オートクレーブ(滅菌用を主として)・・・・・・・・・・ 28</p> <p>第3節 ガラス器具・・・・・・・・・・ 30</p> <p>第4節 電気器具・・・・・・・・・・ 34</p> <p><b>III. 動物実験を行うにあたって</b></p> <p><b>A. 動物の取り扱いおよび研究従事者の安全衛生ガイドライン</b></p> <p>第1節 はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39</p> <p>第2節 このガイドラインの目的・・・・・・・・・・ 39</p> <p>第3節 研究従事者・・・・・・・・・・ 39</p> <p>第4節 運用対象動物・・・・・・・・・・ 40</p> <p>第5節 飼育設備等・・・・・・・・・・ 40</p> <p>第6節 動物を用いた実験・実習への心構え・・・・・・・・・・ 40</p> <p>第7節 動物実験を行う際の準備・・・・・・・・・・ 42</p> <p>第8節 実験終了後の動物の取り扱い・・・・・・・・・・ 43</p> <p><b>B-1. 大・中容量の取り扱いおよび研究従事者の安全衛生ガイドライン</b></p> <p>第1節 はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44</p> <p>第2節 実験時の取り扱い・・・・・・・・・・ 44</p> <p>第3節 飼育管理・・・・・・・・・・ 44</p> <p>第4節 安全性の確保・・・・・・・・・・ 45</p> <p><b>第6節 実験従事者の安全確保のための注意事項・・・・・・・・・・ 61</b></p> <p><b>VI. 放射性同位元素 (RI) を用いた実験を行うにあたって</b></p> <p>第1節 放射線の利用とその危険性・・・・・・・・・・ 63</p> <p>第2節 放射線の防護・・・・・・・・・・ 63</p> <p>第3節 放射線防護のための手続き・・・・・・・・・・ 63</p> <p><b>VII. フィールドでの実験・実習を行うにあたって</b></p> <p><b>A. フィールド作業安全に関する共通事項</b></p> <p>第1節 フィールドでの実験・実習の注意・・・・・・・・・・ 65</p> <p>第2節 農作業事故防止のポイント・・・・・・・・・・ 72</p> <p><b>B. 農場フィールドにおける作業安全</b></p> <p>第1節 実験・実習を安全に行うために・・・・・・・・・・ 73</p> <p>第2節 刈払機の安全な取扱いについて・・・・・・・・・・ 73</p> <p>第3節 トラクタの安全な運転法について・・・・・・・・・・ 76</p> <p>第4節 農用自動車に伴う危険箇所の防止について・・・・・・・・・・ 78</p> <p>第5節 農作業安全について・・・・・・・・・・ 79</p> <p><b>C. 森林フィールドにおける作業安全</b></p> <p>第1節 野外での実習・実習・調査における一般的な注意・・・・・・・・・・ 81</p> <p>第2節 森林作業における作業安全・・・・・・・・・・ 83</p> <p>第3節 伐木・造材作業・・・・・・・・・・ 85</p> <p>第4節 トラクタ農機作業・・・・・・・・・・ 89</p> <p>第5節 集材機作業・・・・・・・・・・ 91</p> <p><b>D. 土木材料実験室における作業安全</b></p> <p>第1節 実験室の管理・・・・・・・・・・ 93</p> <p>第2節 室内の整備・・・・・・・・・・ 94</p> <p>第3節 使用できる学生・・・・・・・・・・ 94</p> <p><b>E. 木材加工における作業安全</b></p> <p>第1節 はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 94</p> <p>第2節 生じうる危険・・・・・・・・・・ 95</p> <p>第3節 服装・・・・・・・・・・ 95</p> <p>第4節 注意事項・・・・・・・・・・ 95</p> <p>第5節 木工機械の分類・・・・・・・・・・ 95</p> <p><b>F. 平良沢山と西駒及び野辺山ステーションの安全利用上の注意・・・・・・・・・・ 97</b></p> <p><b>G. 野外調査の抜け出・・・・・・・・・・ 99</b></p>
<p>第5節 人獣共通感染症・・・・・・・・・・ 45</p> <p>第6節 飼育状況の報告義務・・・・・・・・・・ 46</p> <p><b>B-2. 実験用鳥類の取り扱いおよび研究従事者の安全衛生ガイドライン</b></p> <p>第1節 一般原則・・・・・・・・・・ 47</p> <p>第2節 実験時の取り扱い・・・・・・・・・・ 47</p> <p>第3節 飼育管理・・・・・・・・・・ 47</p> <p>第4節 安全性の確保・・・・・・・・・・ 48</p> <p>第5節 人獣共通感染症・・・・・・・・・・ 48</p> <p>第6節 飼育状況の報告義務・・・・・・・・・・ 48</p> <p><b>B-3. 実験動物の取り扱いおよび研究従事者の安全衛生ガイドライン</b></p> <p>第1節 はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49</p> <p>第2節 実験時の取り扱い・・・・・・・・・・ 49</p> <p>第3節 実験動物の管理・・・・・・・・・・ 49</p> <p>第4節 安全性の確保・・・・・・・・・・ 50</p> <p>第5節 人獣共通感染症・・・・・・・・・・ 50</p> <p><b>B-4. 野生動物の取り扱いおよび研究従事者の安全衛生ガイドライン</b></p> <p>第1節 一般原則・・・・・・・・・・ 51</p> <p>第2節 野生動物の取り扱い・・・・・・・・・・ 51</p> <p>第3節 野生動物の飼育管理・・・・・・・・・・ 51</p> <p>第4節 研究従事者の安全性の確保・・・・・・・・・・ 52</p> <p>第5節 野生動物の人獣共通感染症・・・・・・・・・・ 52</p> <p><b>B-5. 家畜排泄物取り扱いのガイドライン</b></p> <p>第1節 はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53</p> <p>第2節 「家畜排泄物の管理の適正化および利用の促進に関する法律」とは・・・・・・・・・・ 53</p> <p>第3節 家畜排泄物の取り扱い・・・・・・・・・・ 53</p> <p><b>IV. 微生物実験を行うにあたって</b></p> <p>第1節 はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55</p> <p>第2節 一般的注意・・・・・・・・・・ 55</p> <p>第3節 培養する際の注意・・・・・・・・・・ 56</p> <p>第4節 廃棄する際の注意・・・・・・・・・・ 58</p> <p><b>V. 遺伝子組換え実験を行うにあたって</b></p> <p>第1節 はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59</p> <p>第2節 遺伝子組換え生物および遺伝子組換え実験・・・・・・・・・・ 59</p> <p>第3節 遺伝子組換え実験の分類・・・・・・・・・・ 59</p> <p>第4節 拡散防止措置レベル・・・・・・・・・・ 60</p> <p>第5節 遺伝子組換え実験の実施に必要な手続き・・・・・・・・・・ 61</p>	

〔説明〕

学生は、この手引きによる安全講習会を受講し試験に合格することにより発行される修了証を交付されなければ、実験・実習等の授業を受講することはできない。

(出典：「安全の手引 農学部・農学研究科」)

④ 博士課程学位プログラム

本学では、通常の教育課程に加え、優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、平成 26 年度から本研究科と総合工学系研究科（博士課程）を一貫して教育するプログラムを編成しており、同プログラムを実施するための履修コースを設けている（資料農院 37～39）。

資料農院 37 博士課程学位プログラム関連規定

○信州大学大学院学則（抜粋）  
（博士課程学位プログラム）

第 27 条の 3 本大学院は、優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、修士課程と博士課程を一貫して教育するプログラム（以下「博士課程学位プログラム」という。）として、次の各号に掲げるプログラムを編成する。

- 一 ファイバールネッサンスを先導するグローバルリーダーの養成プログラム
- 二 サステイナブルソサイエティグローバル人材養成プログラム

○信州大学大学院農学研究科規程（抜粋）  
（博士課程学位プログラム）

第 2 条の 2 研究科の全ての専攻に、大学院学則第 27 条の 3 第 1 項第 2 号に定めるサステイナブルソサイエティグローバル人材養成プログラムを実施するために必要な履修コースを置く。

2 前項の履修コースに関し必要な事項は、別に定める。

別表（第 5 条関係）

サステイナブルフードコース		
分野	授業科目名	単位
コース共通	食料機能学総論	2
	食資源利用学総論	2
	フードビジネス総論	2
	食料生命科学総論	2

（出典：信州大学規程集）

資料農院 38 博士課程学位プログラム受講者数

プログラム名	H26 入学生	H27 入学生
サステイナブルソサイエティグローバル人材養成プログラム	2	1
サステイナブルフードコース		

（出典：経営企画課作成）

資料農院 39 博士課程学位プログラムで養成する人材像と習得知識・能力

**養成する人材像**

本学位プログラムでは、地域資源としての「エネルギー・水・食料」の自立（律）循環型コンパクトライフラインの実現を目指して、以下に示す人材を養成します。

新しい社会インフラを想像するという高い理念と信念を持った新規産業創成リーダー

- ・エネルギー、水、食料のコンパクトライフライン要素技術や運用技術によるビジネス創成
- ・要素技術の異分野応用による新規ビジネスへの展開（モバイル分野、メディカル分野など）

コンパクトライフライン社会インフラの構築を担う地域活性化リーダー

- ・コンパクトライフライン社会インフラの社会実装に貢献する地域リーダーや行政マン
- ・エネルギー、水、食料の地産地消ビジネスによる地域活性化

持続可能な社会インフラの構築を担う新興国グローバルリーダー

- ・アジア・アフリカ諸国をはじめとする新興国で新しい社会インフラ構築に貢献
- ・テクノクラートとして新しい社会インフラ政策の立案に貢献

**習得知識・能力**

新しい社会インフラを創造するという高い理念

- ・世界レベルの地球環境問題、エネルギー、水、食料の世界的な課題に対する深い理解
- ・サステイナビリティの概念の理解
- ・持続可能な社会経済活動を支える社会インフラのあるべき姿の深い理解と、新しい社会インフラの建設に貢献するという強い信念

基礎と応用を俯瞰する能力（十分な基礎学力と先端分野の深い専門性、応用展開力）

- ・深い専門性とそれを支える十分な基礎学力
- ・研究の成果を応用につなげることのできる応用展開力
- ・エネルギー・水・食料の地域循環ライフラインをグローバルな視点で見ることのできる能力
- ・コンパクトライフラインにおけるエネルギー、水、食料の相互関係の理解
- ・自立（律）循環型ライフラインを複雑系システムとして捉え、資源の有効活用、省エネ、節水といった観点でシステム全体を俯瞰して見ることのできる能力

新規産業を創生する能力

- ・コンパクトライフラインの要素技術やシステム運用などの高度な研究開発力
- ・新規ビジネスを展開するためのマーケティングを始めとする技術経営（MOT）能力
- ・産学官連携、異業種連携など異分野連携を推進するリーダーシップ能力

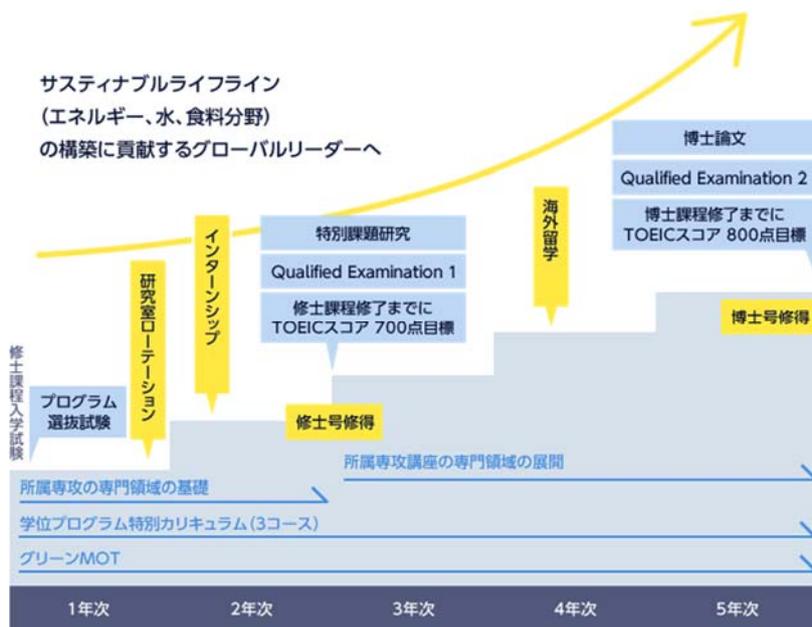
新しい社会インフラを社会実装する能力

- ・コンパクトライフラインを社会実装するための関連政策の理解、また、政策に反映できる能力
- ・コンパクトライフラインを実現することづくりやプロジェクトを推進できる能力
- ・地域に分散する資源（人、物、資金）を結び、地産地消ビジネスに展開できる能力

グローバル・リーダーとしての国際性

- ・その国の社会構造、民族性、文化や社会インフラの課題に対する深い理解
- ・国際ビジネスを展開するためのネットワーク力
- ・国際コミュニケーション力

プログラム概念図



研究室ローテーション (M1)

所属研究室以外に2つの他研究室にそれぞれ2ヶ月間滞在し、それぞれの研究室でゼミナール形式の課題探索、実験計画法、課題解決法を学び、実験・実習を通して幅広い実践的なスキルを身につけます。

インターンシップ (M2)

企業や研究機関でインターンシップ実習を行い、問題設定能力や課題解決能力と共に、広い視野を身につけることを目的としています。単にインターンシップへ参加するだけでなく、インターンシップへ参加する前後に、事前・事後教育を受講します。

海外留学 (D2)

海外の大学へ3ヶ月程度留学し、単なる語学留学ではなく、研究に参加して実証試験の経験等をつみます。また、国際的なコミュニケーション力を身につけます。

MOT 関連科目 (M1~D3)

信州大学経営大学院イノベーションマネジメント専攻が開講するグリーンMOTカリキュラムを5年間で履修し、技術経営に必要な知識を身につけます。

(出典：信州大学ホームページ「サステナブルソサイエティグローバル人材養成プログラム」)

⑤ インターンシップ関係科目

高度技術者や研究者の養成において、社会性の醸成は必要不可欠である。インターンシップ関係科目の開講状況は以下のとおりである（資料農院40）。

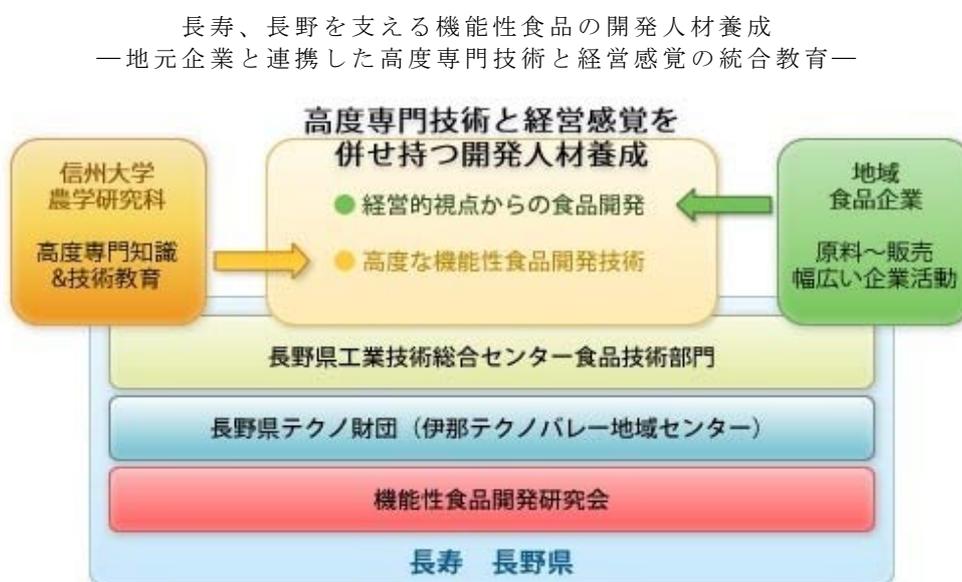
資料農院40 インターンシップ関係科目		
分野	科目名	単位
研究科共通科目	学外特別講義（長期）	2
	学外特別実習（長期）	2
専攻共通科目	特別インターンシップ（短期）	2

（出典：農学部作成）

⑥ 長寿長野を支える機能性食品の開発人材養成プログラム

平成18年度に文部科学省派遣型高度人材育成協同プランに採択された「長寿長野を支える機能性食品の開発人材育成―地元企業と連携した高度専門技術と経営感覚の総合教育―」は、平成22年度までの5年間に亘るプロジェクトとして採択されたものであるが、同期間終了後は、上記⑤のインターンシップ関係科目（資料農院40）として引き続き実施している（資料農院41）。

資料農院41 長寿長野を支える機能性食品の開発人材養成プログラム



（出典：信州大学農学部ホームページ「教育・研究プロジェクト」）

インターンシップ 受入企業・機関名	年度					
	H21	H22	H23	H24	H25	H26
伊那食品工業（株）		1		1		
養命酒製造（株）	1	1				
（株）サラダコスモ	1	1				
（株）井筒ワイン	1					
旭松食品（株）	1					
（社）長野県農村工業研究所	2	1				
（株）八幡屋磯五郎	1	1		1		
内堀醸造（株）	1	1	1			
（株）イナリサーチ	1					
日本原子力研究開発機構				1		
雪印種苗					1	
農林水産省動物検疫所					1	
上越市水族博物館					1	
長野県野菜花き試験場						1
（独）農業・食品産業技術総合研究 機構北海道農業研究センター						1
計	9	7	1	3	3	2

（出典：農学部作成）

⑦ 大学院人材育成センター

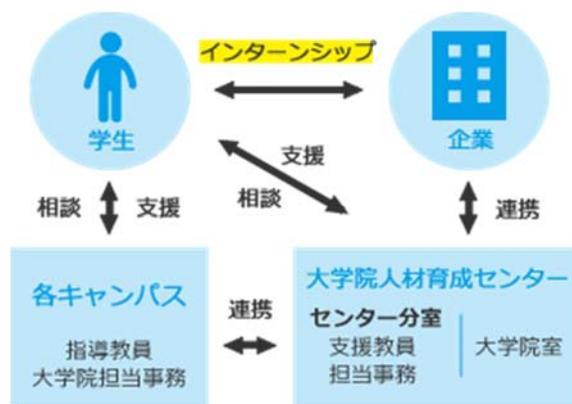
本学は、平成 26 年度から理工学系研究科、農学研究科、総合工学系研究科の学生のインターンシップを支援する大学院人材育成センターを設置し、キャリアパスインターンシッププログラムと高度人材育成インターンシッププログラムにより、学生の目的に応じた支援を行っている（資料農院 42、43）。

資料農院 42 大学院人材育成センターの概要

「大学院人材育成センター」では、大学院で学んだ研究成果を実用化につなげるべく、インターンシップを通じた人材育成をサポートしています。インターンシップを成功させるためには、事前教育や企業との綿密なコミュニケーションが欠かせません。当センターは、協力企業や各キャンパスの指導教員と連携し、学生との間に立って「調整役」をつとめていきます。また、「キャリアパスインターンシッププログラム」「高度人材育成インターンシッププログラム」の 2 通りを用意し、個々の目的に応じた機会創出をめざしています。

大学院人材育成センターのサポート体制

1. 博士課程学生及び修士課程学生のキャリアパス支援  
 対象：博士課程 2 年次生、修士課程 1 年次生  
 事前教育、マッチング会、企業へのインターンシップを通じたキャリアパス支援  
 必要に応じて単位取得可能
2. 修士課程学生の長期インターンシップ支援（単位修得）  
 対象：修士課程 1 年次生、一部修士課程 2 年次生（学位プログラムコース学生）  
 学外特別講義（長期）2 単位（事前教育、事後教育、成果発表会）  
 学外特別実習（長期）2 単位（企業実習 90 時間以上）
3. 学生のインターンシップに係る相談  
 対象：修士課程学生、博士課程学生  
 実習前講義の配信  
 相談・届出窓口  
 保険加入等の学生への指導 他
4. その他  
 インターンシップ先企業の開拓及びアフターケア  
 インターンシップを実施する学生の把握  
 指導教員等の調整  
 単位認定のための資料等提供



（出典：信州大学ホームページ「大学院人材育成センターとは」）

資料農院 43 大学院人材育成センターによるインターンシップ実施状況

研究科名	キャリアパスインターンシップ		高度人材育成インターンシップ	
	H26	H27	H26	H27
農学研究科	5	5	0	2

（出典：農学部作成）

3 国際通用性のある教育課程の編成・実施上の工夫

① 国外の大学との国際交流協定

本学における国外の大学との国際交流協定締結状況は、以下のとおりである。なお、本研究科においても予めから海外の大学等との学部間交流協定を積極的に締結しており、近年では、平成 22 年度にチッタゴン大学（バングラデシュ）、平成 26 年度にマルファ村（ネパール）、平成 27 年度にモンゴル国立大学工・応用科学部（モンゴル）との交流協定を締結している（資料農院 44）。

ポストゲノム（未知の遺伝子の解析や、それらから生成されるタンパク質の研究等の総称）の時代にふさわしい農学系「理工系グローバル人材」を育成するため、協定大学等の交流促進を図っており、平成 26 年度には、メイファーラン大学（タイ）との間で研究者交流を実施し、平成 27 年度には、これを基盤として学生の交流を実施した（資料農院 45）。

信州大学大学院農学研究科 分析項目 I

また、教育・研究の更なる国際化を推進するため、国際農学教育研究センター（資料農院 46）を平成 26 年 6 月に設置し、国際交流センターとの連携を強化した。

これにより、メイファーラン大学（タイ）と本研究科では、学部間交流協定に基づくダブルディグリー協定を平成 28 年 2 月 29 日付けで締結し、同大学との交流をより強固な形にした。

資料農院 44 国際交流協定一覧（平成 28 年 3 月現在）

大 学 間 交 流	アメリカ校	ユタ大学、オクラホマ州立大学、南オレゴン大学、カリフォルニア州立大学チコ
	メキシコ	CINVESTAV 大学院大学
	ブラジル	パラナ連邦工科大学
	オーストラリア	カーティン大学、オーストラリア南極研究所
	フィンランド	国立フィンランド測地研究所
	フランス	ラ・ロッシュェル大学、フランス国立繊維工芸工業高等学院、リール第一大学、フランス国立情報学自動制御研究所 (INRIA)
	ドイツ	ライプツィヒ大学、マンハイム大学
	ベルギー	カトリック大学ルーヴァン
	オランダ	ゾイド大学
	イタリア	ヴェネツィア・カ・フォスカリ大学
	スペイン	アルカラ大学カルデナル・シスネロスカレッジ
	ポーランド	ピアリストク大学、ピアリストク工科大学、シレジア工科大学、ワルシャワ大
	ロシア	ヴィートゥス・バーリング名称カムチャツカ国立大学、極東連邦大学
	モロッコ	モハメド五世大学アグダル校
	モンゴル	モンゴル科学技術大学
	中国	同済大学、河北農業大学、蘭州大学、河北医科大学、蘇州大学、東華大学、中国地質大 学、北京工業大学、太原理工大学、浙江理工大学、北京外国語大学、天津工業大学、北京化 工大学、山東大学、西南大学、河南農業大学、重慶師範大学、對外經濟貿易大学
	台湾	輔仁大学
	韓国	江原大学校、尚志大学校、光云大学校、韓国カトリック大学校、崇實大学校、順天大学 校、建国大学校、嶺南大学校、檀国大学校、漢陽大学校、忠南大学校、全南国立大学アラン マクジアミドエネルギー研究所
	タイ	チェンマイ大学、カセサート大学、チュラロンコン大学、ナレースワン大学、サイア ム大学
	インド	インド工科大学マドラス校
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ-工業技術大学、ハノイ工科大学、FPT 大学、ダラット大 学	
マレーシア	UPM (マレーシアプトラ大学)、マラヤ大学	
インドネシア	プリタハラパン大学、ウダヤナ大学、アンダラス大学、ボゴール農科大学	
ミャンマー	ヤンゴン工科大学	
学 部 間 交 流	中国	北京林業大学、中国農業大学、中国浙江省農業科学院
	韓国	ソウル大学校農業生命科学大学、世宗大学校生命科学大学
	モンゴル	モンゴル国立農業大学、モンゴル国立大学工・応用科学部
	タイ	コンケン大学農学部、メイファーラン大学農産業学部、スラナリ工科大学農業技術学 部
	バングラデシュ	バングラデシュ農業大学、チッタゴン大学環境科学研究所
	ネパール	ネパール農業研究評議会、ネパール国ムスタン郡マルファ村
	【4 機関協力協定】	①長野県林務部-②オーストラリア連邦森林・自然災害・景観研究研修 センター-農学部
※ 農 学 部	【3 機関協力協定】	①中国・大連大学生命科学与技術学院-②中国・大連大学現代農業研 究院-農学部

(出典：経営企画課作成)

## 資料農院45 学部間交流の状況

機関名称	国名	学生交流実績	研究者交流実績
バングラデシュ農業大学	バングラデシュ	H27：受入4	H27：受入1
モンゴル国立農業大学	モンゴル	H25：受入1	
ネパール農業研究評議会	ネパール	H25：派遣10 H26：派遣10 H27：派遣5	H25：派遣2 H26：派遣2 H27：派遣2
ソウル大学校農業生命科学大学	韓国	H27：派遣1	H26：派遣5 H27：受入5、派遣2
メイファーラン大学農産業学部	タイ	H26：派遣3 H27：受入6、派遣8	H26：受入5、派遣4 H27：受入2、派遣3
世宗大学校生命科学大学食品科学工学科	韓国	H27：受入1	H26：派遣5 H27：受入1
スラナリ工科大学農業技術学部	タイ	H27：受入4	H27：受入5
ネパール国ムスタン郡マルファ村	ネパール	H25：派遣10 H26：派遣10 H27：派遣5	H25：派遣2 H26：派遣2 H27：受入1、派遣2
ジャンビ大学畜産学部	インドネシア	H26：受入3 H27：受入4	H26：受入3 H27：受入6
カンボジア王立農業大学	カンボジア	H27：派遣3	H27：派遣4

(出典：農学部作成)

## 資料農院46 信州大学農学部国際農学教育研究センターの内規等

〔信州大学農学部国際農学教育研究センター内規（抜粋）〕

(目的)

第1条 信州大学農学部（以下「本学部」という。）に本学部の国際農学教育研究及び国際交流を戦略的に計画し、これらに必要な事項を迅速かつ円滑に処理するため、国際農学教育研究センター（以下「センター」という。）を置く。

(職務)

第2条 センターは、国際農学教育研究及び国際交流の推進に係る次の業務を担当する。

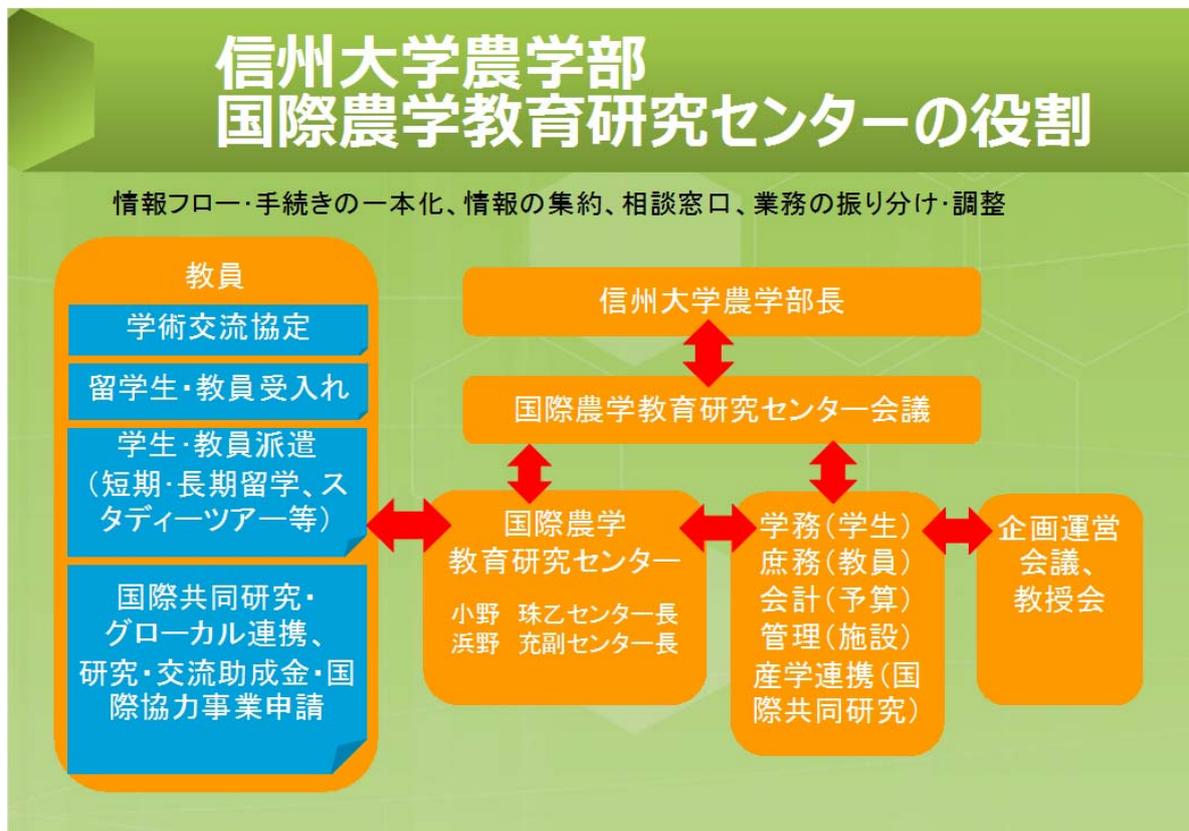
- 一 学術交流協定等の締結に関すること。
- 二 外部資金の獲得に関すること。
- 三 将来計画の策定及び点検に関すること。
- 四 情報の収集及び発信に関すること。
- 五 学生及び教職員に対する国際農学教育研究及び国際交流の啓発に関すること。
- 六 その他国際農学教育研究及び国際交流の推進に関し必要な事項。

(組織)

第3条 センターは、次の各号に掲げるセンター員をもって組織する。

- 一 教育担当の副学部長
- 二 農学部を担当する専任の教員
- 三 学部長が指名した者
- 四 国際交流担当の事務部職員

[概要]



(出典：農学部作成)

② 国際的視野での授業

国際的視野での授業科目として、以下の授業科目を開講している（資料農院47）。

学術交流協定に基づき、留学先で単位を修得した授業科目について、本研究科のいずれかの科目に適用し、10単位を超えない範囲で修了に必要な単位に算入できることとしている（資料農院48）。

資料農院47 国際的視野での開講科目

分野	授業科目名	単位
研究科共通科目	国際農学特論Ⅰ	2
	国際農学特論Ⅱ	2
	国際農学特論Ⅲ	2
	国際農学特論Ⅳ	2
	国際農学特論Ⅴ	2
	国際農学特別演習Ⅰ	2
	国際農学特別演習Ⅱ	2
	国際農学特別実習Ⅰ	2
	国際農学特別実習Ⅱ	2

（出典：農学部作成）

資料農院48 外国の大学院等の授業科目の履修

○信州大学大学院学則（抜粋）

（他の大学院等における授業科目の履修）

第35条 研究科（法曹法務研究科を除く。以下この条において同じ。）において教育上有益と認めるときは、他の大学院との協議に基づき、学生が当該大学院の授業科目を履修することを認めることができる。

2 前項の規定により他の大学院において履修した授業科目について修得した単位は、10単位を超えない範囲で、本大学院における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

3 前項の規定は、研究科において教育上有益と認めるときは、第48条第1項に規定する休学により学生が外国の大学院（これに相当する教育研究機関を含む。以下「外国の大学院等」という。）において履修した授業科目について修得した単位について準用する。

4 第2項の規定は、研究科において教育上有益と認めるときは、学生が外国の大学院等が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合、学生が外国の大学院等の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合及び国際連合大学の教育課程における授業科目を履修する場合の授業科目について修得した単位について準用する。

5 前3項及び第52条第2項の規定により本大学院において修得したものとみなす単位数は、合わせて10単位を超えないものとする。

6 第1項の規定により他の大学院において授業科目を履修した期間は、本大学院の在学期間に算入する。

7 他の大学院及び外国の大学院等における授業科目の履修に関し必要な事項は、各研究科において定める。

○信州大学大学院農学研究科規程（抜粋）

（他の大学院及び外国の大学院等の授業科目の履修）

第9条 学生が大学院学則第35条第1項の規定に基づき、他の大学院の授業科目の履修を希望するときは、指導教員を経て研究科長に願い出て、許可を受けるものとする。

2 前条及び前項の規定により履修した授業科目について修得した単位は、合わせて10単位を超えない範囲で、研究科において修得したものと取り扱う。

3 前項の規定は、学生が大学院学則第35条第3項の規定に基づき、休学により外国の大学院（これに相当する教育研究機関を含む。以下「外国の大学院等」という。）において履修した授業科目について修得した単位について準用する。

（出典：信州大学規程集）

③ 国際シンポジウム

国際シンポジウムを随時開催し、国際性の向上を図っている（資料農院49）。

資料農院49 国際シンポジウムの実施状況

月日	会議名称等	関連団体名等	主担当学科等	備考 (参加人数等)
(平成23年度)				
9月20日	ネパール農業省との学術交流協定締結記念「中山間地域の再生・持続モデル構築のための実証的研究」プロジェクト国際セミナー	ネパール農業省	農学部	約80名参加
(平成24年度)				
11月20日	信州大学農学部－浙江省農業科学院・国際交流協定締結第2回記念講演会	浙江省農業科学院	農学部	
2月27日	農学部近未来農林総合科学国際シンポジウム		近未来農林総合科学教育研究センター	
(平成26年度)				
7月10日	メイファーラン大学農産業学部長特別講演会		農学部	
1月22日	信州大学農学部－ソウル大学共同シンポジウム		ソウル大学・農学部	
1月23日	信州大学農学部－世宗大学記念シンポジウム		世宗大学・農学部	
3月11日	信州大学－ダラット大学間協定締結記念講演会		農学部	
(平成27年度)				
8月20日	フロンティアバイオテクノロジー国際シンポジウム2015		農学部・バイオメディカル研究所	約100名参加
10月9日	4カ国コンソーシアム国際シンポジウム	ジャンビ大学・パングラデシュ農業大学・スラナリ工科大学	農学部	

(参考)

平成24年度農学部近未来農林総合科学国際シンポジウム

**2013 International Symposium  
on Frontier Agriscience and Technology**  
- Insights into Biological Mechanisms, Resources and Availability -  
Faculty of Agriculture, Shinshu University

Date: February 27, 2013  
Venue: Faculty of Agriculture, Shinshu University

**Program**

PM1:00 Opening Remarks    Souchiro Nakamura, Professor, The University Vice President & Dean

**Section 1**

PM1:05 Introduction    Masashi Saito, Assistant Professor (Ecosystem Risk Management)

PM1:15 "Sustainable management of forests and development of economic plant under forest and protection study"  
- Ecological survey and utilization of *Vaccinium* species  
He-an Wang, Professor  
Institute of Modern Agricultural Research, Dalian University, China

PM1:50 "National forest planning system and unequal forestry profitability"  
Keisuke Toyama, Assistant Professor  
Chiba Forest, The University of Tokyo, Japan

PM2:25 Short Break

**Section 2**

PM2:35 Introduction    Yutaka Uyeno, Assistant Professor (Bioresource)

PM2:45 "Total mixed ration containing food by-products: Fermentation characteristics in silage and in rumen"  
Chao Wang, Assistant Professor  
Graduate School of Bioresources, Mie University, Japan

PM3:30 "Towards an integrated understanding of the microbial ecosystem in anaerobic wastewater treatment processes"  
Takashi Narihiro, Research Scientist  
Department of Civil and Environmental Engineering, University of Illinois, USA, and  
Bioproduction Research Institute, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology (AIST), Japan

PM3:55 Short Break

**Section 3**

PM4:05 Introduction    Shunsuke Suzuki, Assistant Professor (Epigenetics)

PM4:15 "Macropal as models for biomedical studies"  
Marilyn R. Ramirez, Professor  
Department of Zoology, The University of Melbourne, Australia

PM4:50 "Roles of LTR retrotransposon-derived genes in mammalian evolution and diversification"  
Fumiochi Ichino, Professor  
Department of Epigenetics, Medical Research Institute, Tokyo Medical and Dental University, Japan

PM5:25-5:30 Closing Remarks    Hiroshi Kagami, Professor

PM5:45-7:00 Banquet

Organizer: Hiroshi Kagami, Professor  
Hosted by: Frontier Agriculture and Technology Center (FATC), Faculty of Agriculture, Shinshu University  
Inquiry: Drika Usahi, General Affairs Section for Tenure Track Program TEL: +81-265-77-1329

●本シンポジウムは、「アミノ酸工学」発展事業の支援のもと開催されています。

平成26年度農学部—ソウル大学共同シンポジウム

**Seoul National University  
Shinshu University  
2015 Joint Symposium**



■ Date : 13:30~16:30pm (Thu) Jan. 22, 2015  
■ Venue : Bldg 203 / Rm 101, Seoul National University

13:30-13:40	Opening remark Prof. Tamaso Ooi (Shinshu University) Prof. Sangryeol Ryu (Seoul National University)
13:40-14:00	Prof. Chol-Heui Yum (Seoul National University) <i>Advanced respiratory vaccine adjuvants</i>
14:00-14:20	Prof. Shunsuke Suzuki (Shinshu University) <i>Retrotransposons: as the key for the evolution of mammalian genomic imprinting</i>
14:20-14:40	Prof. Tae Sub Park (Seoul National University) <i>Programmable genomic editing and application in Chicken</i>
14:40-15:00	Coffee Break
15:00-15:20	Prof. Sachi Tanaka (Shinshu University) <i>Activation of Type-1 immunity by the extract of dietary food.</i>
15:20-15:40	Prof. Yutaka Uyeno (Shinshu University) <i>Microbiome : inherent resources for animals</i>
15:40-16:00	Prof. Jeong Yong Suh (Seoul National University) <i>Protein-Protein interaction that involves coupled unfolding and binding</i>
16:00-16:30	Closing

Department of Agricultural Biotechnology BK21+ / Institute of Animal Science and Technology

平成27年度フロンティアバイオテクノロジー国際シンポジウム

**International Symposium on Frontier Biotechnology 2015 (2nd International Symposium, Institute for Biomedical Sciences)**

Shinshu University (Faculty of Agriculture) has concluded Academic Agreements with Seoul National University (College of Agriculture and Life Sciences) and Sejong University (College of Life Sciences). Distinguished scientists from these Universities will talk on his/her front-line modern biotechnology opening a vista for the near future. This International Symposium is organized by International Center for Agricultural Education and Research (ICAER) and Institute for Biomedical Sciences (IBS), Interdisciplinary Cluster for Cutting Edge Research (ICCEER).

**August 20th (Thursday), 2015 13 : 00~17 : 00**  
**Room 30, Faculty of Agriculture, Shinshu University & SUNS-relay to Main Conference Room, Asahi Hall 3F, Matsumoto Campus**

13 : 00 Opening address: Dr. Naoto Saito (Director, IBS-ICCEER)  
 13 : 05 Dr. Hidefumi Makabe (Fac. Agr.)  
 Synthesis of proanthocyanidins and their antitumor activity  
 13 : 30 Dr. Jeong-Yong Suh (Seoul National Univ., IBS-ICCEER)  
 Structural mechanism of auxin-response transcriptional regulation in plant  
 13 : 55 Dr. Hiroshi Kagami (Fac. Agr., IBS-ICCEER)  
 Stem cell applications for poultry breeding  
 14 : 20 Dr. Jae Yong Han (Seoul National Univ., IBS-ICCEER)  
 Avian genome editing and modulation using primordial germ cells  
 14 : 45 Coffee break  
 15 : 10 Dr. Kousaku Ohkawa (Fac. Textile Sci. & Tech., IFES-ICCEER)  
 Novel silk proteins from aquatic insects and possible applications  
 15 : 35 Dr. Hee-bal Kim (Seoul National Univ.)  
 Evolutionary analysis for animal genome and development of genomic selection model  
 16 : 00 Dr. Ikuo Tomioka (Fac. Agr., IBS-ICCEER)  
 Production of common marmoset (*Callithrix jacchus*) models for neurodegenerative disease using transgenic technology  
 16 : 25 Dr. Soon-Mi Shim (Sejong Univ.)  
 Characterization of transport mechanism of vitamin U (S-methyl-L-methionine) from cruciferous vegetables  
 16 : 50 Closing address: Dr. Soichiro Nakamura (Vice President, Shinshu Univ.)  
 17 : 15 Cultural/Academic exchange (Imonta on-campus Restaurant)

Host: International Center for Agricultural Education and Research (ICAER), Faculty of Agriculture, and Institute for Biomedical Sciences, Interdisciplinary Cluster for Cutting Edge Research (IBS-ICCEER), Shinshu University  
 More info: Email to <icaer@shinshu-u.ac.jp>  
 HP: <http://www.shinshu-u.ac.jp/faculty/agriculture/institutes/icaer.php>

(出典：農学部作成)

4 社会や地域への教育提供

本研究科で実施している一般者向けの教育プログラム（講演会）は以下のとおりである（資料農院50）。

資料農院 50 一般者向け教育プログラム（講演会）の開講状況

開講年度	開講日	タイトル	担当教員
平成23年度	8月27日（土）	知って食べればさらにおいしい！果実・野菜の食品化学	藤田 智之
平成27年度	9月26日（土）	体験しよう！ノーベル化学賞「クロスカップリング反応」の実験	真壁 秀文

(出典：農学部作成)

5 学生の主体的な学習を促すための取組

① 施設・設備の充実

農学部図書館では、毎年シラバス図書（教科書・参考書）の選定・購入を行い、閲覧室の整備を継続的に進めている。さらに、講義棟及び研究棟にラウンジやコミュニティールームを設置し、学生の主体的な学習、教員と学生及び学生間のコミュニケーションを促すための環境整備を行っている（資料農院51）。

資料農院51 講義棟のラウンジ等

〔ラウンジ〕



〔コミュニティールーム〕



(出典：農学部作成)

② 学生への学会参加に伴う支援

学生の研究活動の活発化を図るため、国内外の学会参加に伴う経費を学系長経費の活用により支援している（資料農院 52）。

資料農院 52 学会参加に伴う経費支援状況（延べ人数）（農学研究科）

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
学生の 学会参加人数	53名	29名	36名	55名	58名	52名	54名
支援額（合計）	61万円	106万円	36万円	32万円	69万円	55万円	69万円

(出典：農学部作成)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

- ディプロマ・ポリシーに基づいた教育課程を編成し、カリキュラムマップ、論文評価基準の公表等によって、修学内容と意義、到達点を明示し、在学生、受験生、保護者、関係業界、諸団体の、高度専門技術者になるための適切な教育環境下における充実した指導や、当該資質を備えた人材を育成し、輩出するという期待に応えている（資料農院 29～31）。
- AFC は、教育関係共同利用拠点に認定され、学内外の教育面における交流の活発化を図るとともに、多様な自然環境条件を活かした多くの演習・実習を実施し、院生の応用力・実践力を向上させる教育を提供し、在学生、受験生、保護者、関係業界、諸団体の、高度専門技術者になるための適切な教育環境下における充実した指導や、当該資質を備えた人材を育成し、輩出するという期待に応えている（資料農院 33、34）。
- AFC 手良沢山ステーション及び西駒ステーション・桂小場試験地は、平成 28 年 2 月 26 日に SGEC の認証規格による森林認証を取得した（資料農院 35）。これにより一層環境面に配慮した教育・研究フィールドの管理・運営体制が整い、在学生、受験生、保護者、関係業界、諸団体の、高度専門技術者になるための適切な教育環境下における充実した指導や、当該資質を備えた人材を育成し、輩出するという期待に応えている。
- 通常の教育課程に加え、優秀な学生に対し俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍できるリーダーへ導くための修士課程―博士課程―貫教育のプログラムを平成 26 年度に編成するとともに、実施のための履修コースを新設し、在学生、受験生、保護者、関係業界、諸団体の、高度専門技術者になるための適切な教育環境下における充実した指導や、当該資質を備えた人材を育成し、輩出するという期待に応えている（資料農院 37～39）。
- 国外の大学との国際交流協定締結を積極的に行い、さらには国際的視野での科目開講、国際シンポジウムの開催による社会の更なるグローバル化への対応を進めるとともに、学会出席等における経費支援による学生の国際的なスケールでの研究活動を促し、在学生、受験生、保護者等の、国際的視野と技術力を備えた高度専門技術者の養成という期待に応えている（資料農院 44、45、47～49、52）。
- 平成 26 年 6 月に設置した国際農学教育研究センターを中心に、学生の海外実習等の交流の活性化を推進するとともに、特にメイファーラン大学（タイ）との間において、学部間交流協定に基づくダブルディグリー協定を平成 28 年 2 月 29 日付けで締結し、在学生、受験生、保護者等の国際的視野と技術力を備えた高度専門技術者の養成という期待に応えている（資料農院 44～46）。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

1 履修・修了状況から判断される学習成果の状況

① 修了、休学、退学等

本研究科の標準修了年限内の修了率は、平成21から27年度の期間において81.1～95.2%であり、平均86.3%であった。

修了、休学、退学等の状況は以下のとおりである(資料農院53)。

資料農院53 修了、休学、退学等の状況(農学研究科)

○ 修了状況

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
標準修業年限	89.9%	81.9%	81.1%	87.0%	90.6%	78.4%	95.2%

○ 休学、退学の状況

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
退学・除籍率	3.6%	7.6%	5.7%	3.9%	6.1%	6.6%	1.8%
休学率	1.5%	1.4%	2.2%	3.2%	4.9%	4.4%	2.6%
留年率	2.2%	1.4%	2.2%	2.6%	3.7%	5.2%	5.3%

(出典：農学部作成)

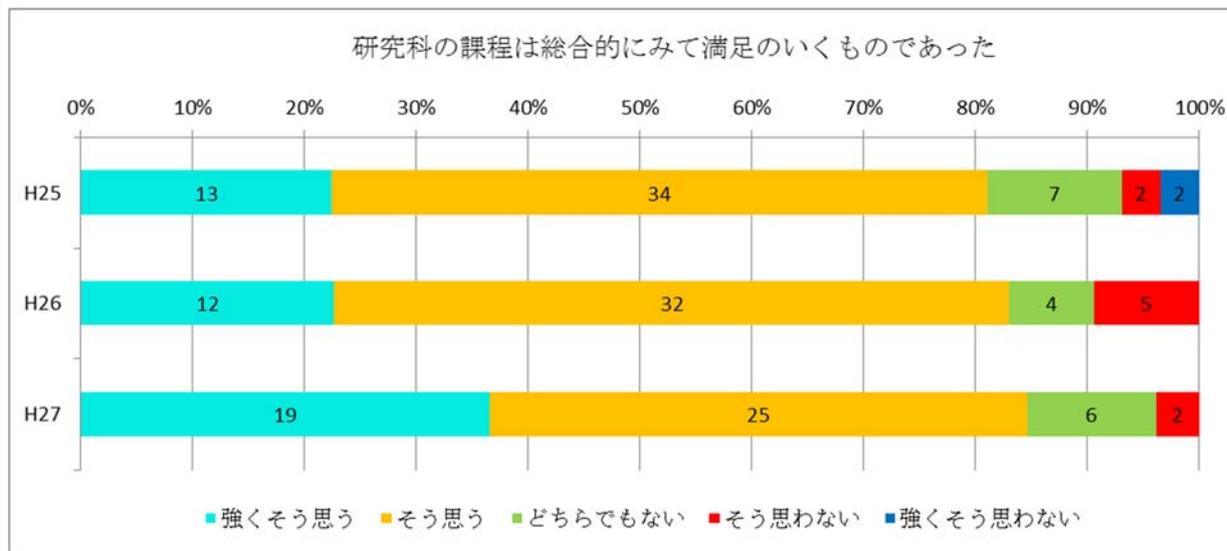
② 修了生アンケート

学務委員会が主体となり、平成25年度から修了生を対象とした「農学研究科の教育に関する調査」を修了時に実施し、授業内容を始め、教育効果や学習環境に至る項目に関する意見等を聴取している。質問項目「研究科の課程は総合的にみて満足 of いくものであった」における「強くそう思う」、「そう思う」の回答割合は、平成25年度の約81%から増加傾向にあり、平成27年度には約84%に達した。また、質問項目「専門的な知識が身につく教育がなされていた」における同様の回答割合は、平成25年度を含む3年度において78%以上を維持した(資料農院54)。

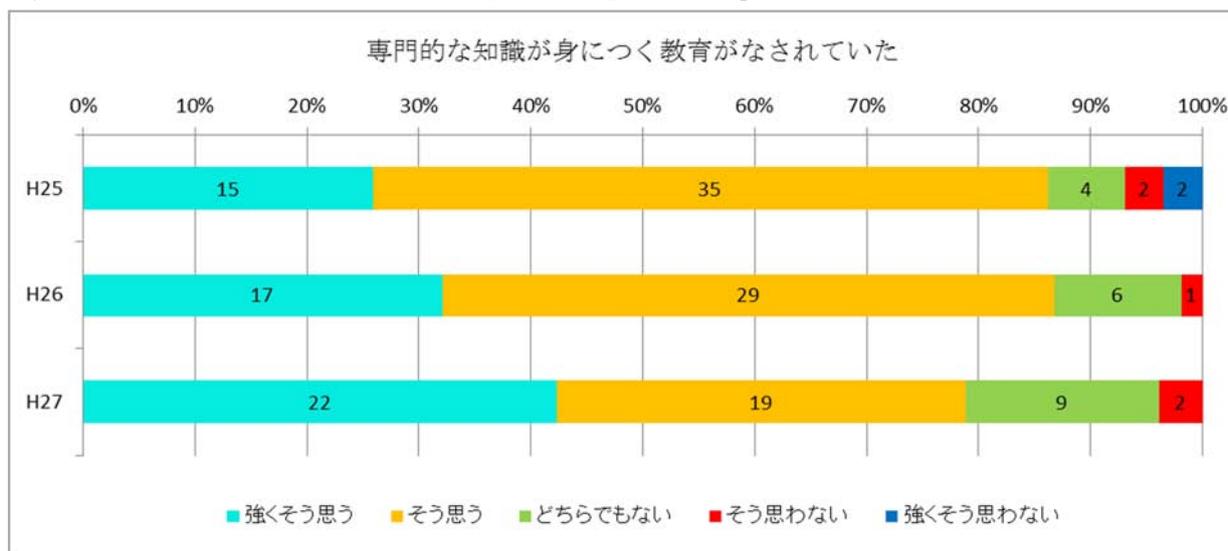
資料農院54 修了生アンケート

〔年度別質問項目比較〕

質問項目「研究科の課程は総合的にみて満足のいくものであった」



質問項目「専門的な知識が身につく教育がなされていた」



(出典：農学部作成)

2 学生の受賞状況等から判断される学習成果の状況

① 各種賞の受賞状況

本研究科の学生の主な受賞状況は以下のとおりである（資料農院55）。

資料農院 55 院生の受賞状況（農学研究科）

年度	賞の名称	受賞者	受賞等の概要
H22	日本農芸化学会中部支部企業奨励賞	1名	アンズ由来カロテノイドに期待されるアルツハイマー型認知症予防効果
	日本造園学会中部支部大会最優秀学生発表賞	1名	小学校における児童の野外活動と校庭デザインの関係性に関する基礎的考察
	第21回ヤンマー学生懸賞論文・作文コンクール大賞	1名	

H23	Protein Island Matsuyama (PIM) International Symposium 2011PIMポスターアワード	1名	Analysis of T cell epitopes of a major buckwheat allergen, Fag e 2, by using cell-free protein synthesis system
	日本造園学会支部大会最優秀学生発表賞	1名	震災時における身近なオープンスペースへの地域住民の要望と小規模公園の整備状況との関係性－新潟県中越大震災被災地、長岡市を事例地として－
	日本造園学会支部大会優秀学生発表賞	2名	長野県上伊那地方の水田地域における水生昆虫群集の構造と基盤整備との関係 長野県上伊那地方における水田雑草の指標性を利用した環境評価に関する研究
H24	日本農芸化学会中部支部企業奨励賞	1名	「Tホームページ-1由来樹状細胞を用いたアレルギー性評価法の開発」
	第24回日本環境動物昆虫学会年次大会優秀講演発表賞(口頭発表部門)	1名	「絶滅危惧種ミヤマシジミの休眠卵・非休眠卵の産み分けに関する研究」
	2012年日本造園学会中部支部大会最優秀学生発表賞	1名	「諏訪市湖畔公園の利用実態と近隣住民の意識・評価の基礎的考察」
	2012年日本造園学会中部支部大会優秀学生発表賞	2名	「長野県上伊那地方の新山川流域におけるトンボ群集構造と立地環境との関係」 「野辺山高原における外来植物とアサマフウロ等の絶滅危惧種群落との競合関係の可能性」
	2012 ISNFF (International Society for Nutraceuticals and Functional Foods) Conference and Exhibition Student Poster Awards	1名	「Upregulation of heat shock protein HSP70 in senescence-accelerated mice SAMP8 by long-term intake of kale」
	第20回育種学会中部地区談話会優秀発表賞	1名	「トウガラシ属近縁種・野生種と栽培種 <i>Capsicum annum</i> の交雑親和性に関する研究」
	第124回日本森林学会大会日本森林学会学生ポスター賞	1名	大型製材工場が地域の林産業にあたる影響
H25	日本森林技術協会第23回学生森林技術研究論文コンテスト日本森林技術協会理事長賞	1名	胸高直径と立木配置データを用いた根系の崩壊防止力二次元分布の作成
	国際応用動物学会第47回国際会議最優秀ポスター賞(コミュニケーション)	1名	Use of automatic and stationary cow brushes by dairy cows (K. Miwa and K. Takeda)
	日本造園学会平成25年度全国大会ベストペーパー賞	1名	水田景観における植物相の種分布パターンからみた景観要素の種多様性保全の検討
	日本造園学会中部支部大会優秀学生発表賞	1名	新興住宅地における景観育成住民協定に関する住民意識や締結地域の実態と継続の課題
	森林利用学会第20回学術研究発表会学生優秀論文発表賞	1名	択伐林経営が可能となる作業条件に関する研究－択伐林経営における最適路網密度の検討－
H26	第29回日本放線菌学会大会優秀ポスター賞	1名	放線菌の潜在的二次代謝能活性化に向けた集団培養法の考案と有効性の検証
	第29回老化促進モデルマウス(SAM)研究協議会研究発表会若手研究奨励賞	1名	老化促進マウス SAMP8 における転写因子 CREB を介した大豆ペプチドの神経栄養因子発現増強効果
	日本農芸化学会中部支部第171回例会中部支部学術奨励賞	1名	自己縮合法を用いた epicatechin 二量体の選択的合成と procyanidin C1 の合成への応用
	日本造園学会中部支部大会最優秀学生発表賞	1名	飯山市小菅集落における景観の特徴に関する研究
	日本造園学会中部支部大会優秀学生発表賞	1名	霧ヶ峰の山稜頂部における群落と風衝条件との関係

H27	COC 学術シンポジウム優秀発表賞	2名	長野県特有の食材による抗アルツハイマー病の効果 Effect of Additional Phosphorylation on Anti-FCV Activity of Milk-Casein Phosphopeptide (CPPⅢ)
	日本山岳アカデミア研究発表会（兼山岳科学共同学位プログラム第1回学術集会）最優秀ポスター賞	1名	高山に生育するスギの年輪構造と気候要素との関係
	第27回日本環境動物昆虫学会年次大会優秀講演発表賞	1名	絶滅危惧種ミヤマシジミのミチゲーション手法の開発
	森林利用学会第22回学術研究発表会学生優秀論文発表賞	1名	車両系作業システムによる漸伐主伐時の労働生産性

（出典：農学部作成）

② 教員免許取得状況

本研究科では、高校理科及び農業、中学理科の教員免許（専修）を修得できる教職課程を設定している。取得状況は以下のとおりである（資料農院56）。

資料農院56 教員免許取得状況

	免許・資格	中学理科 取得者数	高校理科 取得者数	高校農業 取得者数
	年度			
農 学 部	平成22年度	0	0	0
	平成23年度	0	0	0
	平成24年度	2	3	0
	平成25年度	2	2	0
	平成26年度	0	0	0
	平成27年度	0	0	0

（出典：農学部作成）

（水準）

期待される水準を上回る。

（判断理由）

- ・ 修士修了生を対象としたアンケートにおける本研究科の課程に関する総合的な満足度を問う項目において、80%以上が満足している状態を維持するとともに、「強くそう思う」と回答した学生の割合が増加し、在学生、受験生、関係業界、諸団体の、高度専門技術者になるための適切な教育環境下における充実した指導や、当該資質を備えた人材を育成し、輩出するという期待に応えている（資料農院54）。
- ・ 学生による研究成果として、学会発表での各種賞において、国際学会における3件の受賞を始め毎年度受賞者が出ており、在学生、受験生、保護者等の、国際的視野と技術力を備えた高度専門技術者の養成という期待に応えている（資料農院55）。

観点 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

1 進路・就職状況

① 修了生の進路状況

過去7年間における、全国の大学の農学系研究科及び本学の農学系研究科の進路状況は以下のとおりである(資料農院57)。

資料農院57 進路状況一覧

修了年度	区分	修了者	進学者		就職者		専修学校・ 外国人学校 の学校	専事に 時給的 にいた た仕	左記以外の者		死亡詳 の・ 者	
		A	人(B)	率(B/A)	人(C)	率(C/A-B)			人(D)	率(D/A)		
H21	全体	4,078	592	14.52%	3,009	86.32%	26	17	333	8.17%	101	
	国立	3,451	526	15.24%	2,551	87.21%	20	7	254	7.36%	93	
	大学	計	62	9	14.52%	50	94.34%	2	0	1	1.61%	0
		男	48	8	16.67%	38	95.00%	2	0	0	0.00%	0
	女	14	1	7.14%	12	92.31%	0	0	1	7.14%	0	
H22	全体	4,179	566	13.54%	3,116	86.24%	20	29	403	9.64%	45	
	国立	3,446	495	14.36%	2,579	87.39%	10	15	311	9.02%	36	
	本学	計	62	4	6.45%	50	86.21%	0	0	8	12.90%	0
		男	41	2	4.88%	34	87.18%	0	0	5	12.20%	0
	女	21	2	9.52%	16	84.21%	0	0	3	14.29%	0	
H23	全体	4,444	519	11.68%	3,346	85.25%	24	33	500	11.25%	22	
	国立	3,607	448	12.42%	2,722	86.17%	16	13	387	10.73%	21	
	本学	計	62	6	9.68%	46	82.14%	0	0	10	16.13%	0
		男	48	4	8.33%	37	84.09%	0	0	7	14.58%	0
	女	14	2	14.29%	9	75.00%	0	0	3	21.43%	0	
H24	全体	4,200	486	11.57%	3,151	84.84%	15	32	483	11.50%	33	
	国立	3,405	416	12.22%	2,566	85.85%	11	11	374	10.98%	27	
	本学	計	62	3	4.84%	49	83.05%	0	0	10	16.13%	0
		男	49	3	6.12%	39	84.78%	0	0	7	14.29%	0
	女	13	0	0.00%	10	76.92%	0	0	3	23.08%	0	
H25	全体	4,086	470	11.50%	3,131	86.59%	20	22	415	10.16%	28	
	国立	3,388	421	12.43%	2,587	87.19%	13	7	334	9.86%	26	
	本学	計	79	8	10.13%	68	95.77%	0	0	3	3.80%	0
		男	47	5	10.64%	40	95.24%	0	0	2	4.26%	0
	女	32	3	9.38%	28	96.55%	0	0	1	3.13%	0	
H26	全体	3,897	453	11.62%	3,064	88.97%	10	17	300	7.70%	53	
	国立	3,276	404	12.33%	2,562	89.21%	5	11	244	7.45%	50	
	本学	計	61	6	9.84%	47	85.45%	0	0	8	13.11%	0
		男	46	4	8.70%	34	80.95%	0	0	8	17.39%	0
	女	15	2	13.33%	13	100.00%	0	0	0	0.00%	0	
H27	全体											
	国立											
	本学	計	62	6	9.68%	49	87.50%	0	0	7	11.29%	0
		男	42	4	9.52%	32	84.21%	0	0	6	14.29%	0
	女	20	2	10.00%	17	94.44%	0	0	1	5.00%	0	

※ 「全体」「国立」は、学校基本調査の全国集計のうち、各年度>高等教育機関<報告書掲載集計>>卒業後の状況調査>大学院修士課程の状況別 卒業生数より、区分「農学」を抜粋  
 なお、平成27年度「全体」「国立」については、平成28年6月末現在未公開

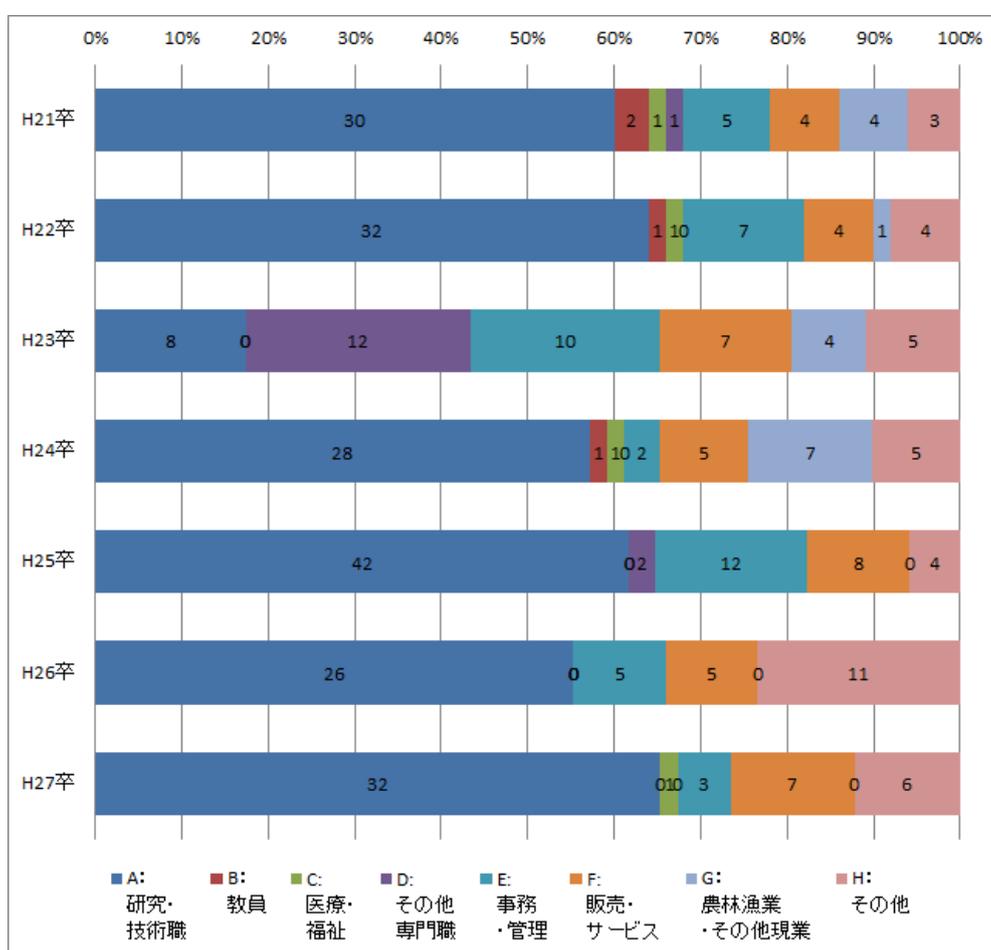
(出典：経営企画課作成)

② 修了生の職業別・産業別就職状況

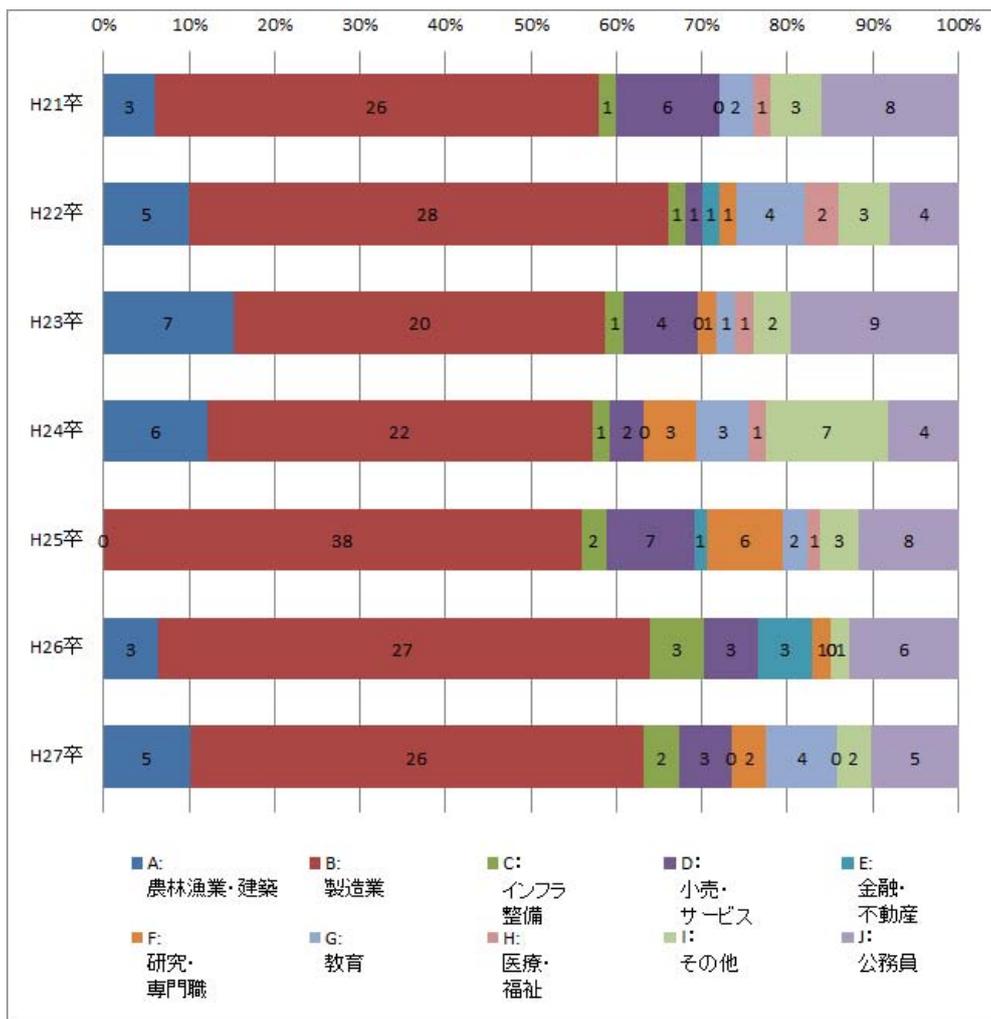
修了生の職業別・産業別就職状況は以下のとおりである（資料農院58）。

資料農院58 修了生の職業別・産業別就職状況

職業別就職者数									
	A: 研究・ 技術職	B: 教員	C: 医療・ 福祉	D: その他 専門職	E: 事務 ・管理	F: 販売・ サービ ス	G: 農林漁業 ・その他 現業	H: その他	合計
H21卒	30	2	1	1	5	4	4	3	50
H22卒	32	1	1	0	7	4	1	4	50
H23卒	8	0	0	12	10	7	4	5	46
H24卒	28	1	1	0	2	5	7	5	49
H25卒	42	0	0	2	12	8	0	4	68
H26卒	26	0	0	0	5	5	0	11	47
H27卒	32	0	1	0	3	7	0	6	49



産業別就職者数											
	A: 農林漁業・建築	B: 製造業	C: インフラ整備	D: 小売・サービス	E: 金融・不動産	F: 研究・専門職	G: 教育	H: 医療・福祉	I: その他	J: 公務員	合計
H21卒	3	26	1	6	0	0	2	1	3	8	50
H22卒	5	28	1	1	1	1	4	2	3	4	50
H23卒	7	20	1	4	0	1	1	1	2	9	46
H24卒	6	22	1	2	0	3	3	1	7	4	49
H25卒	0	38	2	7	1	6	2	1	3	8	68
H26卒	3	27	3	3	3	1	0	0	1	6	47
H27卒	5	26	2	3	0	2	4	0	2	5	49



(出典：学校基本調査をもとに経営企画課作成)

## 2 就職支援の充実

インターンシップ関係科目の導入（前掲資料農院40、p34）に加え、伊那キャンパスに通う学生向けに各種就職支援活動を行っている（資料農院59、60）。

資料農院59 就職支援活動

**【就職支援】**

全学の就職支援組織であるキャリアサポートセンターや民間の就職支援企業の協力を得て、就職(進学)指導のための就職ガイダンスを実施しています。また、農学部独自の企業(宮公庁)説明会や合同企業説明会、就職資料室での情報提供、個別相談(週2回)等で就職活動をサポートしています。このような実践的な指導に加えて、卒業後の職業観などの形成を図る「キャリアデザイン」(主に2年生対象の講義)や企業での就業体験実習を含む「インターンシップⅡ」(主に3年生対象の講義及び実習)などの教育プログラムを通じた多面的な指導で皆さんの自己実現とキャリア形成を支援しています。



キャリア情報の宝庫 就職資料室

**年間スケジュール**

平成27年度卒業・修了予定者(現3年生・大学院(修士)1年生)向けガイダンスの例

☆農学部主催  
◇キャリアサポートセンター主催

日 程	内 容
平成26年5月	◇第1回就職ガイダンス 就職活動スタートアップ講座
7月	☆夏休み対策講座
8月	◇ビジネスマナー講座
10月	◇第2回就職ガイダンス 業界・職種研究
11月	◇第3回就職ガイダンス 【就活を成功させるために】エントリーシート対策講座 ☆服装身だしなみ講座 ◇メイク講座
12月	◇ビジネスマナー講座
平成27年2月	☆面接対策講座 ☆合同企業説明会の事前ガイダンス
3月	☆第1回合同企業説明会(3年生・大学院1年生対象)

(出典：「大学案内2014」)

資料農院60 ガイダンス等の実施状況

【平成22年度】 回数 24回

開催日	事 項	参加者数
H22. 4. 15	自衛官募集説明会	7名
H22. 4. 15	長野県警察本部採用説明会	9名
H22. 4. 26	(株)ユニオン会社説明会	4名
H22. 4. 26	第1回農学部就職ガイダンス①	86名
H22. 4. 26	第1回農学部就職ガイダンス②	57名
H22. 5. 17	群馬県(総合土木職)採用説明会	5名
H22. 5. 21	兵庫県職員採用ガイダンス	5名
H22. 5. 3	長野県警察本部採用説明会	2名
H22. 6. 28	第2回農学部就職ガイダンス①	48名
H22. 6. 28	第2回農学部就職ガイダンス②	43名
H22. 7. 12	SEQ(自己診断)解説会	51名
H22. 10. 18	第3回農学部就職ガイダンス	44名
H22. 11. 15	長野県警業務説明会	2名
H22. 11. 15	家畜改良センター就職説明会	5名
H22. 11. 29	第4回農学部就職ガイダンス	42名
H22. 12. 6	第5回農学部就職ガイダンス(服装)	33名
H22. 12. 6	第5回農学部就職ガイダンス(メイクアップ)	22名
H22. 12. 6	長野県就農ガイダンス	3名
H22. 12. 8	山崎製パン企業ガイダンス	30名
H22. 12. 13	農学部合同企業説明会事前ガイダンス	41名
H22. 12. 13	やすま(株)研究開発センター	14名
H23. 1. 8	農学部合同企業説明会	102名
H23. 1. 17	農林水産省動物検疫所	6名
H23. 1. 19	小野薬品工業(株)製薬業界セミナー	10名

【平成23年度】 回数 36回

開催日	事 項	参加者数
H23. 4. 11	長野県警察本部採用説明会	5名
H23. 4. 11	自衛官募集説明会	7名
H23. 4. 15	山梨県(総合土木職)採用説明会	3名
H23. 4. 15	天龍造園建設(株)企業説明会	4名

H23. 5. 9	第1回就職ガイダンス(キャリア)	99名
H23. 5. 19	静岡県(林業職)説明会	4名
H23. 5. 19	群馬県(総合土木職)説明会	5名
H23. 5. 19	西垣林業(株)企業説明会	5名
H23. 5. 16	株ユニオン企業説明会	4名
H23. 5. 25	兵庫県(林業職)説明会	7名
H23. 5. 30	第1回就職ガイダンス(農学部)	101名
H23. 6. 27	第2回就職ガイダンス(キャリア)	63名
H23. 7. 13	ビジネスマナー講座(キャリア)	34名
H23. 8. 4	ライフスクール(マイナビ)	17名
H23. 10. 3	第2回就職ガイダンス(農学部)	75名
H23. 10. 17	第3回就職ガイダンス(キャリア)	87名
H23. 10. 31	第3回就職ガイダンス(農学部)	47名
H23. 11. 7	筆記試験対策講座(キャリア)	57名
H23. 11. 14	第4回就職ガイダンス(農学部)	56名
H23. 11. 14	S E Q(自己診断)解説会	57名
H23. 11. 21	身だしなみ講座	26名
H23. 11. 21	メイク講座	21名
H23. 11. 28	第4回就職ガイダンス(キャリア)	85名
H23. 12. 5	マナー・面接対策講座(キャリア)	71名
H23. 12. 7	山崎製パン(株)企業説明会	28名
H23. 12. 9	山梨県(林業職)説明会	7名
H23. 12. 12	長野県警説明会	1名
H23. 12. 12	防衛省自衛隊説明会	3名
H23. 12. 12	山梨県(農業技術職)説明会	2名
H23. 12. 12	越井木材(株)企業説明会	6名
H23. 12. 12	就活「日経テレコン21」利用説明会	11名
H23. 12. 17	就活「横浜パシフィコ」バスツアー	40名
H23. 12. 19	第5回就職ガイダンス(農学部)	43名
H23. 12. 19	ライフスクール自己分析&面接対策講座(マイナビ)	22名
H24. 1. 7	<農学部主催>合同企業説明会	81名
H24. 1. 27	小野製薬工業(株)製薬業界セミナー	11名

【平成24年度】回数 26回

開催日	事項	参加者数
H24. 4. 11	防衛省自衛隊説明会	6名
H24. 4. 11	長野県警説明会	4名
H24. 4. 23	静岡県(林業職)職員採用説明会	6名
H24. 5. 8	群馬県(土木職)職員採用説明会	1名
H24. 5. 26	第2回農学部合同企業説明会	13名
H24. 6. 4	第1回就職ガイダンス(農学部主催)	136名
H24. 7. 2	第2回就職ガイダンス(農学部主催)	61名
	2013年卒学生内定者報告会	
H24. 8. 6	夏季コミュニケーション集中講座	5名
H24. 10. 1	第3回就職ガイダンス(農学部主催)	116名
	理系学生のための自己分析講座	
H24. 10. 29	S P I筆記試験対策講座	79名
H24. 11. 5	第4回就職ガイダンス(農学部主催)	60名
	農学部出身者によるパネルディスカッション	
H24. 11. 12	外部講師によるS E Q解説会	41名
H24. 11. 21	就農支援ガイダンス	7名
H24. 11. 27	山梨県職員採用説明会(林業職)	18名
H24. 11. 28	服装・身だしなみ講座(生協・洋服の青山)	46名
H24. 12. 10	山梨県職員採用説明会(農業技術)	4名
H24. 12. 10	山梨県職員採用説明会(土木職)	2名
H24. 12. 10	自衛隊採用説明会	2名
H24. 12. 10	長野県警職員採用説明会	2名
H24. 12. 13	ブルボン個別説明会	28名
H24. 12. 17	第5回就職ガイダンス(農学部主催)	66名
	合同企業説明会事前ガイダンス	

H24.12.19	山崎製パン個別説明会	36名
H25.1.9	第6回就職ガイダンス(農学部主催) 合同企業説明会事前ガイダンス(2回目)	18名
H25.1.12	農学部合同企業説明会	134名
H25.1.15	農林水産省業務説明会	7名
H25.1.21	J Aしみず個別説明会	2名

【平成25年度】 回数 24回

開催日	事項	参加者数
H25.5.8	合同企業説明会事前説明会	2名
H25.5.11	第1回農学部主催合同企業説明会(4年・M2向け)	8名
H25.5.14	岐阜県職員(森林科学分野)採用試験説明会	4名
H25.5.27	兵庫県農政環境部就職ガイダンス	4名
H25.6.3	第1回農学部主催就職ガイダンス 「学部就職と大学院進学講座」 「大学院生の就職活動について」	156名
H25.6.10	海外農業研修説明会	1名
H25.7.8	第2回農学部主催就職ガイダンス 「就職内定者による報告会及びパネルディスカッション」	20名
H25.10.7	第3回農学部主催就職ガイダンス 「理系学生の就職環境と今後の就職スケジュールについて」 「理系学生に求められるもの」	108名
H25.10.30	就農ガイダンス・白鳥市長との懇談会	46名
H25.11.1	タキイ種苗株式会社ガイダンス	15名
H25.11.6	第4回農学部主催就職ガイダンス 「農学部出身者によるパネルディスカッション」	30名
H25.11.11	SEQ解説会	15名
H25.11.25	身だしなみ講座	29名
H25.12.2	京都府林業職説明会	3名
H25.12.9	京都府農業土木職説明会	3名
H25.12.18	合同企業説明会事前講習会	11名
H25.12.25	合同企業説明会事前講習会	14名
H25.12.26	就職活動支援バスツアー	13名
H26.1.8	合同企業説明会事前講習会	24名
H26.1.11	合同企業説明会	110名
H26.1.20	長野県警察就職説明会	1名
H26.1.20	山崎製パン(株)会社説明会	6名
H26.2.6	山梨県農業土木職説明会	2名
H26.2.21	Oh!庭 ya! 会社説明会	1名

【平成26年度】 回数 23回

開催日	事項	参加者数
H26.4.14	長野県警就職ガイダンス	2名
H26.4.14	自衛隊ガイダンス	2名
H26.4.30	三重県ガイダンス	2名
H26.5.12	埼玉県職員ガイダンス	2名
H26.5.14	群馬県職員ガイダンス	4名
H26.5.28	海外農業研修説明会	2名
H26.6.18	ユーストリー(株)説明会	7名
H26.7.14	農学部主催第1回就職ガイダンス	24名
H26.10.21	タキイ種苗業界セミナー	31名
H26.11.26	身だしなみ講座	17名
H26.12.3	山梨県林業職ガイダンス	5名
H26.12.10	ネクストエナジーアンドリソース(株) 業界セミナー及び会社説明会	7名
H26.12.10	就活ラボ	11名
H26.12.15	年末までの進路・就活準備と年始移行動き方について (マイナビ)	92名
H26.12.17	合同企業説明会事前説明会(1回目)	6名
H26.12.22	山崎製パン企業ガイダンス	22名
H27.1.13	長野県警説明会	1名

H27. 1. 14	合同企業説明会事前説明会（2回目）	35名
H27. 1. 14	就活ラボ	16名
H27. 2. 3	農学部主催第2回就職ガイダンス	59名
H27. 2. 4	S E Q 解説会	12名
H27. 3. 17	合同企業説明会事前説明会（3回目）	8名
H27. 3. 20	合同企業説明会	103名
【平成27年度】回数 32回		
開催日	事項	参加者数
H27. 4. 13	長野県警就職ガイダンス	3名
H27. 4. 13	自衛隊ガイダンス	12名
H27. 4. 20	面接対策講座 講師：ライト・ハウス・キーパーズ ：キャリアサポートセンターコーディネータ	40名
H27. 4. 27	静岡県ガイダンス	1名
H27. 5. 13	三重県ガイダンス	4名
H27. 5. 13	協和木材株式会社	4名
H27. 5. 13	群馬県森林組合連合会	4名
H27. 5. 13	群馬県職員ガイダンス	2名
H27. 5. 18	第1回就職ガイダンス 就職活動オリエンテーション 講師：(株) マイナビ	105名
H27. 5. 18	長野県警察科学捜査研究所	5名
H27. 6. 1	インターンシップ準備講座 講師：(株) マイナビ	86名
H27. 6. 22	ビジネスマナー基礎講座 講師：キャリアサポートセンターコーディネータ	32名
H27. 6. 29	進路・就職講座 理系の進路就職と自己分析について 講師：(株) マイナビ	37名
H27. 7. 13	就活講座夏 ver. これからの就活について、採用者の目線から考える 講師：ライト・ハウス・キーパーズ	5名
H27. 10. 5	理系の就活準備講座 講師：(株) リクルートキャリア	62名
H27. 10. 19	第2回就職ガイダンス 自己PRの作り方と業界研究の仕方 講師：(株) ディスコ	62名
H27. 11. 9	就活メイク講座 協力：ロードアンドスカイ（株）	9名
H27. 11. 16	業界・職種研究講座 参加企業 ・伊那食品工業（株） ・（株）フォレストコーポレーション ・ホクト（株） ・（株）マルイチ産商	35名
H27. 12. 7	第3回就職ガイダンス 準備に差がつく！エントリーシート対策講座 講師：(株) リクルートキャリア	65名
H27. 12. 9	山梨県ガイダンス	2名
H27. 12. 14	山崎製パン企業研究セミナー	15名
H27. 12. 16	合同企業説明会事前セミナー 「就活」から「就職活動」へ 講師：(株) カシヨキャリア開発センター	15名
H27. 12. 21	農学部の学生のための就活準備講座 講師：(株) マイナビ	21名
H27. 12. 22	長野県警就職ガイダンス	2名
H28. 1. 6	就活ラボ in 信州大学農学部 (株)カシヨキャリア開発センター 参加企業	14名

H28. 1. 13	・長野県連合青果(株)、(株)トライネット 合同企業説明会事前セミナー 経済的視点からの就職活動 講師：(株)カシヨキャリア開発センター	12名
H28. 2. 12	就職活動準備直前総まとめ講座 講師：(株)マイナビ	66名
H28. 2. 15	筆記試験対策講座 講師：(株)ディスコ就職アドバイザー	63名
H28. 2. 16	静岡県庁採用試験説明会	5名
H28. 2. 18	採用選考総合対策講座～実践編～ ①履歴書・エントリーシート対策 講師：(株)リクルートキャリア	48名
H28. 3. 16	②面接対策 講師：(株)マイナビ 合同企業説明会事前セミナー 講師：(株)カシヨキャリア開発センター	6名
H28. 3. 24	農学部合同企業説明会	70名

(出典：農学部作成)

3 在学中の学業の成果に関する修了生及び進路先・就職先等の関係者への意見聴取等の結果とその分析結果

平成26年度に、農学部及び本研究科出身の学生が就職した企業の中から555社に対しアンケートを実施し、143社からの回答を得た。

本研究科出身の学生が就職した企業へのアンケート結果は、以下のとおりである(資料農院61)。企業としての重要度が高い項目については、本研究科出身者の達成度も高い結果である。

資料農61 企業へのアンケート結果（農学研究科修了生関連）（平成26年度実施）

設問	素養・能力	企業としての重要度 卒業生の達成度	高ポイント域			普通		低ポイント域			未記入	回答企業数	平均(企業としての重要度)
			5ポイント	4ポイント	全体に占める割合(%)	3ポイント	全体に占める割合(%)	2ポイント	1ポイント	全体に占める割合(%)			平均(卒業生の達成度)
常識・教養・知識に関する質問	A. 幅広い教養	重要度	16	49	69.1	29	30.9	1	0	1.1	49	94	3.88
		達成度	8	25	60.0	22	40.0	0	0	0.0	88	55	3.75
	B. 農学基礎知識	重要度	11	30	44.1	32	34.4	13	7	21.5	50	93	3.27
		達成度	9	22	57.4	21	38.9	2	0	3.7	89	54	3.70
	C. 生命科学基礎知識	重要度	5	23	30.1	39	41.9	16	10	28.0	50	93	2.97
		達成度	8	16	44.4	28	51.9	2	0	3.7	89	54	3.56
	D. IT・情報 知識やスキル	重要度	9	32	43.2	47	49.5	7	0	7.4	48	95	3.45
		達成度	4	17	37.5	33	58.9	2	0	3.6	87	56	3.41
D. 貴社専門知識	重要度	36	33	72.6	21	22.1	5	0	5.3	48	95	4.05	
	達成度	9	23	57.1	19	33.9	5	0	8.9	87	56	3.64	
職務遂行能力に関する質問	E. 問題発見、課題解決能力	重要度	47	40	92.6	7	7.4	0	0	0.0	49	94	4.43
		達成度	8	30	69.1	13	23.6	4	0	7.3	88	55	3.76
	F. 発想力	重要度	41	41	87.2	11	11.7	1	0	1.1	49	94	4.30
		達成度	8	23	56.4	20	36.4	4	0	7.3	88	55	3.64
	G. 主体性・実行力・倫理観	重要度	48	38	90.5	9	9.5	0	0	0.0	48	95	4.41
		達成度	8	33	73.2	12	21.4	3	0	5.4	87	56	3.82
	H. 柔軟性・適応力	重要度	46	44	94.7	5	5.3	0	0	0.0	48	95	4.43
		達成度	14	28	75.0	12	21.4	2	0	3.6	87	56	3.96
対人力に関する質問	I. チームワーク人間関係能力	重要度	53	39	96.8	3	3.2	0	0	0.0	48	95	4.53
		達成度	16	29	81.8	9	16.4	1	0	1.8	88	55	4.09
	J. コミュニケーション能力	重要度	56	33	93.7	6	6.3	0	0	0.0	48	95	4.53
		達成度	17	21	67.9	16	28.6	2	0	3.6	87	56	3.95
国際性に関する質問	K. 国際感覚	重要度	5	27	34.4	39	41.9	16	6	23.7	50	93	3.10
		達成度	3	8	20.0	39	70.9	4	1	9.1	88	55	3.15
	L. 外国語(英語)語学力	重要度	4	16	21.7	44	47.8	17	11	30.4	51	92	2.84
		達成度	3	9	22.2	34	63.0	6	2	14.8	89	54	3.09

(出典：農学部作成)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

- 全修了者に占める就職者の割合が8割以上であり、在学生、受験生、保護者、業界関係、諸団体の、高度専門技術者になるための適切な教育環境下における充実した指導や、当該資質を備えた人材を育成し、輩出するという期待に応えている(資料農院 57、58)。
- 就職に関するガイダンスやセミナー等を毎年度23回以上開催し、積極的な就職支援活動を行っており、在学生、受験生、保護者、業界関係、諸団体の、高度専門技術者になるための適切な教育環境下における充実した指導や、当該資質を備えた人材を育成し、輩出するという期待に応えている(資料農院60)。
- 企業アンケートにおいて、企業としての重要度が高い項目については、本研究科出身者の達成度も高い結果であることから、本研究科を修了した学生が企業のニーズに応え得る能力を修めていると判断され、関係業界、諸団体の、高度専門技術者になるための資質を備えた人材を育成し、輩出するという期待に応えている(資料農院61)。

### Ⅲ 「質の向上度」の分析

#### (1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

##### ○指導体制の柔軟化と複数指導教員による指導

教員の流動性を確保し、これまで以上に学部横断的な全学的な教育、研究マネジメントを可能とするための教員組織として、「学術研究院」を平成26年度に設置した（資料農院14）。

このことによって、学生の教育・研究に対する指導体制に柔軟性を生んだ。また、2年次に実施する中間発表会において、複数の副指導教員体制を整備（平成27年度）した（資料農院30）。

##### ○サポート体制の充実

学生相談室を平成24年度に設置し、カウンセラーを常駐するなど学習・教育環境を支えるサポート体制を強化した（資料農院25）。

##### ○AFCの「教育関係共同利用拠点」認定

AFCの野辺山農場と演習林は、それぞれ平成25年度、平成26年度に文部科学大臣から「教育関係共同利用拠点」として認可を受け、各拠点にユニークな教育プログラムが設定された。これにより各拠点の利用実績は順調に増加している（資料農院33、34）。

##### ○グローバル化に対応した教育課程の充実

優秀な学生に対し俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍できるリーダーへ導くための修士課程―博士課程―貫教育のプログラムを平成26年度に編成した（資料農院37～39）。

また、メイファーラン大学（タイ）との間において、学部間交流協定に基づくダブルディグリー協定を平成28年2月29日付けで締結した（資料農院44、45）。

#### (2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

（該当なし）

## 13. 繊維学部

- I 繊維学部の教育目的と特徴・・・・・・・・・・13-2
- II 「教育の水準」の分析・判定・・・・・・・・・・13-18
  - 分析項目 I 教育活動の状況・・・・・・・・・・13-18
  - 分析項目 II 教育成果の状況・・・・・・・・・・13-72
- III 「質の向上度」の分析・・・・・・・・・・13-90

I 繊維学部の教育目的と特徴

1 教育目的

本学部の教育の目的・目標は、以下のとおりである。(資料織1、織2)

資料織1 繊維学部の理念

理念

豊かな自然に抱かれた本学部・大学院は、衣・食・住の要である“繊維”に根ざした伝統的な科学技術を背景として、学際的前端科学技術のさらなる展開を図り、21世紀における文化創造科学技術を開拓します。さらに、優れた人格と国際性を有し、未来を創造しうる、広い視野と高い能力を持つ技術者、高度専門職業人、研究者を養成します。そして、地球環境と共生し、人類社会の発展と平和、福祉の向上に資することを理念とします。

(出典：信州大学繊維学部ホームページ「理念と目標」)

資料織2 繊維学部の教育の目標

優れた人格の形成

- ・豊かな人間性
- ・社会に対する貢献と責任意識
- ・高い倫理観

進展する科学技術と社会の変化に対応しうる能力、未来創造能力

- ・普遍的基礎学力
- ・課題設定・探求能力
- ・学際・業際領域を開く創造的能力
- ・自己啓発能力
- ・チャレンジ精神・起業家精神（ベンチャー精神）

基礎学力に裏付けされた専門性

- ・専門的能力
- ・実践的能力
- ・経営・企画等能力（マネジメント能力）

国際性

- ・自国文化・異文化理解力
- ・外国語能力と個性豊かな表現力

情報処理能力

以上を涵養し、技術者、将来の研究者として十分な基礎的素養を身につけ、総合的視野と高い能力を備えた人材を養成します。

(出典：信州大学繊維学部ホームページ「理念と目標」)

また、本学部は、学位授与の方針（以下「DP」、資料織3）、教育課程編成・実施の方針（以下「CP」、資料織4、織5）、入学者受入の方針（以下「AP」、資料織6、織7）を定めている。

資料織3 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

繊維学部は、衣・食・住の要である「繊維」に根ざした伝統的な科学技術を背景として、学際的前端科学技術のさらなる展開を図り、21世紀における文化創造科学技術を開拓します。また、優れた人格と国際性を有し、未来を創造しうる、広い視野と高い能力を持つ技術者、高度専門職業人、研究者を養成します。この理念に基づいて、全学共通の学士学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）のうち、科学的・学問的思考【専門知識と応用力】に関する学部・課程のディプロマ・ポリシーを以下の通り定めます。

- ・繊維科学に関連する総合的な自然科学分野の普遍的基礎学力が身に付いている【普遍的基礎学力】
- ・繊維科学に関連する学際・業際領域を切り拓く創造的能力が身に付いている【創造的能力】
- ・専門分野において企画・管理等を行えるマネジメント能力が身に付いている【マネジメント能力】

各課程のDP

先進繊維工学課程	モノづくりの基本である「工学的アプローチ」能力	【工学的アプローチ能力】
	斬新な繊維関連製品群を提起できる発想・構想力	【新繊維関連製品群の発想・構想力】
	マーケティング情報の収集能力や情報を分析できる能力	【マーケティング情報収集・分析能力】
	繊維関連製品群の基礎となる新繊維集合体を開発・製造できる能力	【新繊維集合体の開発能力】
	繊維関連製品群を設計し品質管理できる能力	【繊維関連製品の設計・品質管理能力】

	繊維関連製品群の性能を計測し評価できる能力	【計測・評価能力】
	自己学習能力	【自己学習能力】
	専門知識に基づく問題分析、解決能力	【専門知識による問題分析・解決能力】
機能機械学課程	地球的視野から自然と調和する人類の平和と幸福の実現に貢献できる高い倫理観が身についている	【現代社会問題、グローバル化、技術者倫理】
	工学的活動の役割を理解するのに必要な人文・社会・自然科学の基礎が身についている	【技術者教養】
	コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の開発と情報収集・発信能力が身についている	【コミュニケーション能力、情報収集・発信能力】
	①材料、②エネルギー・流体、③メカトロニクス・情報・制御を三つの柱とした機械工学の基礎が身についている	【機械工学全般】
	「限りなく人に近い機能と人を超越する性能をもつ機械の創造」を目指し、機械工学と電子工学・ファイバー工学・生物科学・生体工学との融合など学際分野に対応できる能力が身についている	【課程・学部の特色、学際分野への対応】
	ものづくりを基本とし、課題解決に向けて自主的・継続的に学習し、計画を主導的に実行できる能力と総合的にデザインできる能力が身についている	【ものづくり・デザイン能力・自主的／継続的実行力】
感性工学課程	感性が涵養されていて、感性工学を学習するための基礎学力が身についている	【感性の涵養と理解】
	学際的な感性工学の様々な側面における感性表現の手法と、感性に関わる素材の開発に関する基礎的な事項が身についている	【感性表現の手法と素材開発】
	感性工学の各分野において、発見、発明、飛躍して世の中に無いものを見つけ提案する力が養われており、感性価値を有する製品を創造するための基礎となる技術が身についている	【感性製品創造技術】
応用化学課程	自然、社会、および人間を多面的にとらえ、科学技術との関わりを理解する学力	【科学技術理解力】
	自立した研究者・技術者として行動する能力	【行動力】
	コミュニケーションをはかり協同作業をする能力	【コミュニケーション能力】
	化学・材料に関わる学術分野の基礎知識を理解する能力	【専門基礎学力】
	化学・材料に関わる工学問題を解決する能力	【専門的課題解決力】
	化学及び化学関連分野の専門技術を修得し、関連する諸問題を解決する能力	【専門的創造力】
	現代の社会問題を工学的に解決する能力	【問題解決能力】
材料化学工学課程	自然や社会を多面的に捉え、それに技術が及ぼす影響を理解する能力	【多面的理解と技術者倫理】
	自立した研究者・技術者として行動する能力	【自立した行動力】
	コミュニケーションをはかり協同作業をする能力	【コミュニケーションと協同作業】
	科学・工学の基礎知識を理解する能力	【科学・工学基礎】
	化学・材料に関する工学的問題を解決する能力	【化学・材料】
	工学システムやプロセスを設計する能力	【工学システム・プロセス設計】
	現在の社会問題を工学的に解決する能力	【工学的問題解決】
機能高分子学課程	自然、社会、および人間を多面的にとらえ、科学技術との関わりを理解する学力	【科学技術理解力】
	自立した研究者・技術者として行動する能力	【行動力】
	コミュニケーションをはかり協同作業をする能力	【コミュニケーション能力】
	化学・材料に関わる学術分野の基礎知識を理解する能力	【専門基礎学力】
	化学・材料に関わる工学問題を解決する能力	【専門的課題解決力】
	新時代の高分子化学・高分子工業を拓く創造力	【専門的創造力】
バイオエンジニアリング課程	現代の社会問題を工学的に解決する能力	【問題解決能力】
	バイオエンジニアリングに関する知識を獲得し、客観的かつ論理的に考える思考能力が身に付いている	【バイオエンジニアリングの理解】
	実験や実習を通してバイオエンジニアリング分野の現象を体得し、結果をわかりやすく説明・発信する能力が身に付いている	【実験・実習・発信能力】
	バイオエンジニアリングに関する知識を応用する能力を身に付け、新しいバイオデザインが創出できる	【バイオデザイン能力】
生物機能科学課程	生物の詳細な構造や機能についての知識を理解するとともに、事実に基づいて客観的・論理的に考えることができる	【生物機能科学の理解力】
	バイオテクノロジーに関わる種々の技術を理解するとともにその手法を身につけ、人間の暮らしを豊かにする新たなシステムの創出を行う能力をもっている	【バイオテクノロジー活用能力】
	専門的な事象を他者にわかるように説明・発信できる	【科学分野の情報発信能力】
生物資源・環境科学課	自然科学の基礎知識を修得し活用することができる	【科学的基礎学力】
	生命現象を理解・考察し、正確かつ安全な生物資源・環境科学分野の実験を計画・実施し、解析することができる	【創造的実験・解析能力】

程	生物資源・環境・生命科学の問題をグループ討論、ディベート、発表会などを通じてこれらの分野の研究者または技術者として不可欠な科学的で幅広い物事の見方を養い、総合的な問題解決能力をもつことができる	【総合的問題解決能力】
	生物資源・環境・生命科学の問題をグループ討論、ディベート、発表会などを通じてこれらの分野の研究者または技術者として不可欠な科学的で幅広い物事の見方を養い、国際的な表現力・対話力をもつことができる	【表現力・対話力】
	生物資源学分野の課題を理解し、発展させる能力を持つことができる	【生物資源学応用発展力】
	環境科学分野の課題を理解し、発展させる能力を持つことができる	【環境科学応用発展力】
	フィールドでの研究・教育を通し、地球環境問題を実感し、地球環境との調和・共生のために、積極的に行動することができる	【環境基礎力・実践力】

(出典：信州大学ホームページ「繊維学部 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」)

資料織4 信州大学教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

・学士課程における教育課程編成の方針

1. 信州大学は、学部及び学科又は課程の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、体系的に教育課程を編成します。
2. 信州大学は、教育課程の編成に当たっては、学部の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮します。

・学士課程における教育課程実施の方針

1. 信州大学「学位授与の方針」に定めた、卒業時までには修得すべき知識・能力等が、カリキュラム体系のなかでどのように養成されるのかを示すため、シラバスで「学位授与の方針」で定められた知識・能力等との対応と、それら諸能力等を修得する方法が理解しやすいように配慮します。
2. 信州大学は、学生個人個人の主体的で活発な勉学意欲を促進する立場から、予習・復習等、授業時間外のさまざまな機会を通じ、諸課題に積極的に挑戦させます。
3. 信州大学は、成績評価の公正さと透明性を確保するため、成績の評定は、各科目に掲げられた授業の狙い・目標に向けた到達度をめやすとして採点し、評価の客観性を担保するため、複次的・複層的な積み上げによる成績評価を行います。

(出典：信州大学ホームページ「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」)

資料織5 繊維学部カリキュラムポリシー

1. 共通教育においては、人文・社会科学、自然科学など、幅広い分野の「教養科目」を履修し、豊かな人間性、高い倫理観、社会に対する貢献と責任意識を養う。専門教育の導入科目としての「基礎科目」を履修し、進展する科学技術と社会の変化に対応しうる普遍的基礎学力を養う。また、国際的なコミュニケーション能力（外国語能力と個性豊かな表現力）や、自国文化・異文化理解力を高めるために、外国語科目を履修する。
2. 専門基礎教育では、応用物理、応用化学、応用生物学などの分野についてバランスよく学び、自然科学の幅広い知識を身につけるとともに、課題設定、探求能力などを養うために、基礎的な実験、実習を履修する。
3. 専門教育では、総合科学としての繊維科学をより深く学ぶための感性工学、材料化学、機械ロボット科学、繊維化学、繊維生物学などの専門的な知識を習得する。技術者倫理、ビジネスマネジメント、情報処理演習などの学部共通科目を履修することにより、経営・企画に関わるマネジメント能力、情報解析力、情報処理能力などの実践的能力を養う。また、学際的視野を広げるために、卒業論文作成や卒業研究ゼミナールなどを通して、先端的な繊維研究ならびに境界領域の研究に触れ、研究の方法を学ぶとともに、自由な発想と柔軟な創造的能力を身につける。

(出典：信州大学繊維学部ホームページ「カリキュラムポリシー」)

資料織6 信州大学アドミッション・ポリシー

(1) 求める学生像

信州の悠久の歴史と文化、豊かな自然環境のもと、地域に根ざし世界に開かれた信州大学は、真理への探究心とチャレンジ精神を培い、高度な専門知識と深い思索力を基にして、課題を探求し解決する能力を備えた人材を育成します。

また、豊かな人間性と広い視野をもち、身につけた知識や技術を人類文化と社会の持続的発展に役立て、世界の平和と自然環境の保全のために活かすことのできる、意欲あふれる若者を育てます。

信州大学は、このような教育の理念・目標を実現するために、以下のような資質を備えた人たちを積極的に受け入れます。

- ・人間と自然を愛し、人との出会いを通じて学び合おうとする人

- ・ 知的好奇心が旺盛で、課題に向かって主体的に行動できる人
- ・ 多様性を理解し受け入れ、独自性を大切にすること
- ・ 社会・環境・国際問題に関心をもち、世界に貢献したいと考える人

(2) 入学者選抜の基本方針

信州大学の教育の理念・目標に則り、各学部の特性に応じた適切な方法で多様な入試を実施し、大学教育を受けるにふさわしい能力・適性等を多面的・総合的かつ公正に評価し、選抜します。

(出典：信州大学ホームページ「信州大学アドミッション・ポリシー」)

資料織 7 繊維学部アドミッション・ポリシー

求める学生像

繊維学部では次のような学生を求めます。

- (1) 高い志を持ち、現代の多様な学問分野を融合した学際領域的な科学技術を学ぶことに強い関心を持つ学生
- (2) 明確な目的意識と強い勉学意欲を持ち、進化する科学技術に対応するように、より高い専門的・実践的能力を得ることを目指していく学生
- (3) 地域社会や国際社会に貢献するために必要な、豊かな教養と人間性を高めようとする意欲を持った学生

大学入学までに身につけておくべき教科・科目

各高等学校が定める教育課程表に従い、国語、外国語、数学、理科、地理歴史、公民等、すべての教科・科目について、大学入学後の勉学に支障をきたさない程度に履修していることが望まれます。特に、繊維学部での授業内容を理解するために不可欠な教科である数学及び理科に関しては、下記の科目の内容を理解していることが望まれます。

・ 普通科の場合

数学：数学Ⅰ，数学Ⅱ，数学Ⅲ，数学A，数学B

理科：繊維・感性工学系 … 物理基礎，物理，化学基礎，化学

機械・ロボット学系 … 物理基礎，物理

化学・材料系 … 物理基礎，物理，化学基礎，化学

応用生物科学系 … 生物基礎，生物，化学基礎，化学

・ 普通科以外の場合

各高等学校の教育課程表に従い、履修可能な数学及び理科に関するできるだけ多くの科目

(出典：信州大学ホームページ「繊維学部アドミッション・ポリシー」)

2 組織の特徴や特色

(1) 全学教育機構と学部

本学は8学部で構成され県内5キャンパスに分散している。本学部は上田キャンパスにあり、大学本部、全学の共通教育を行う全学教育機構（以下「機構」）は松本キャンパスにある。(資料織8、織9、織10)

資料織 8 キャンパス配置図



(出典:信州大学ホームページ「交通・キャンパス案内」)

資料織 9 : 全学教育機構の概要

**全学教育機構とは**

全学教育機構は、信州大学が定める教育上の基本方針に基づき、本学の共通教育（各学部が編成する教育課程のうち、本学学生に対する教養教育、基礎教育及び日本語・日本事情に係る教育について、全学協力体制のもとに、全学共通に行う教育）及び教職関係5学部（人文学部、理学部、工学部、農学部及び繊維学部）の教職教育（教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための教育）の実施機関として、各学部と緊密に連携し、全学的な見地から共通教育に係る教育課程の企画及び円滑な実施を図るとともに、本学が掲げる高度専門職業人養成の教育目標を達成するため、学部一貫教育を前提に本学の教育に関する研究開発、企画及び支援を総合的に行うことを目的としています。

**1年次生は、全学部生が全学教育機構で学びます。**

信州大学は長野県内の5つのキャンパスに8学部が散在していますが、全学部の1年次（医学部医学科は2年次まで）は、松本キャンパスの全学教育機構に集い、共通教育科目を受講します。

**全学の教育力を結集した共通教育を実施します。幅広い教養と基礎的能力を獲得できます。**

信州大学の共通教育は、全学教育機構の教員とともに、全学部の教員が当然の責務として行うという全学協力体制に立脚しています。これにより、学生は、全学教員の専門知識を生かした、いわば大学の総力を結集した科目を学ぶことが可能になります。信州大学は、幅広い教養と基礎的能力に基づく課題探求能力、豊かな人間性や国際性をもった人材育成を目指しております。

(出典:信州大学全学教育機構ホームページ「全学教育機構とは」)

資料織10 信州大学全学教育機構規程

(目的)

第2条 機構は、信州大学(以下「本学」という。)が定める教育上の基本方針に基づき、本学の共通教育(各学部が編成する教育課程のうち、本学学生に対する教養教育、基礎教育及び日本語・日本事情に係る教育について、全学協力体制のもとに、全学共通に行う教育をいう。以下同じ。)及び教職関係5学部(人文学部、理学部、工学部、農学部及び繊維学部をいう。以下同じ。)の教職教育(教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための教育をいう。以下同じ。)の実施機関として、各学

部と緊密に連携し、全学的な見地から共通教育に係る教育課程の企画及び円滑な実施を図るとともに、本学が掲げる高度専門職業人養成の教育目標を達成するため、学部一貫教育を前提に本学の教育に関する研究開発、企画及び支援を総合的に行うことを目的とする。

(全学協力体制等)

第3条 共通教育及びこれを履修する学生(以下単に「学生」という。)の修学指導は、全学協力体制により実施するものとし、各学部は、その実施体制の管理及び運営に責任を負うとともに、本学のすべての教員は、その構成員として共通教育の実施及び学生の修学指導を担当することを任務とする。

2 機構は、前条の目的を達成し、次条に定める業務を遂行するため、附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センターその他の関係部局(以下「関係部局」という。)と有機的に連携するとともに、関係委員会等と緊密に連携協力する。

(出典:信州大学規程集)

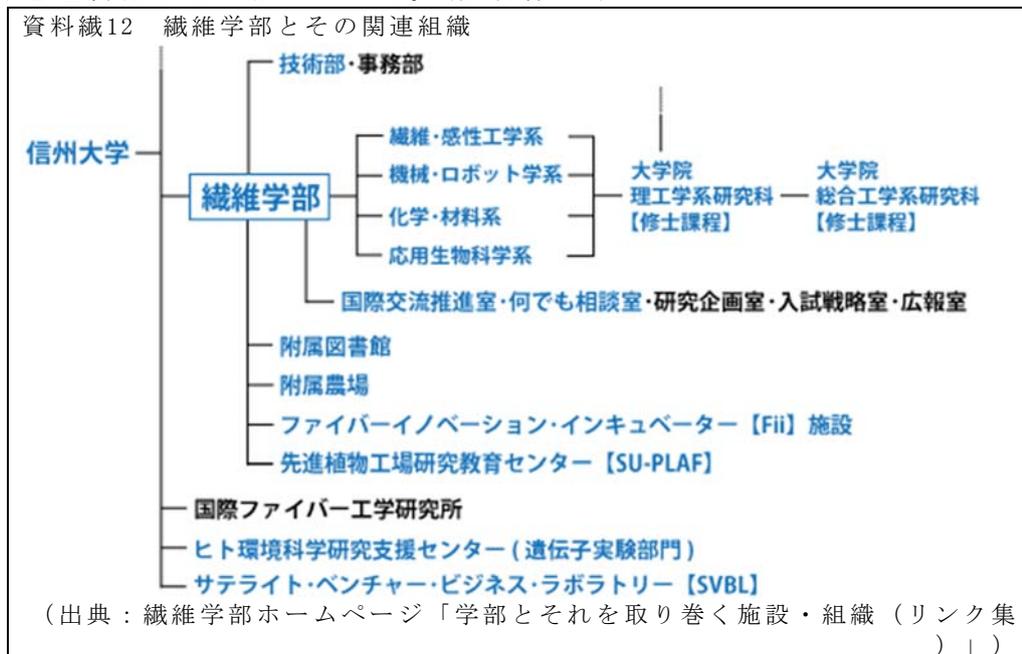
## (2) 学部の特徴

本学部の沿革を以下に示した。(資料織 11) 伝統的な繊維工学に先端技術科学を融合させたファイバー工学分野の高等教育研究機関を構築している。

資料織11 組織の沿革・設置目的等	
【沿革】	【設置目的等】
明治43年 上田蚕糸専門学校設置	明治43年、上田蚕糸専門学校は、高等なる学理の研究と、必要な技術の実習とによって、優秀な蚕糸業者を育成し、蚕糸業の発達発展をはかることを目的に設立され、昭和19年、上田繊維専門学校に改称された。
昭和19年 上田蚕糸専門学校を上田繊維専門学校に改称	
昭和24年 繊維学部を設置	昭和24年、学制改革により、信州大学繊維学部が設置された。
昭和39年 大学院繊維学研究科を設置	
平成3年 大学院繊維学研究科を改組し、大学院工学系研究科を設置	
平成17年 大学院総合工学系研究科を設置	
平成24年 大学院工学系研究科を、大学院理工学系研究科に改称	

(出典：冊子「ミッションの再定義に基づく教育研究の高度化・機能強化」から抜粋)

本学部は附属施設を有し教育に活用している。(資料織 12、織 13) また、国内外の大学等と連携協定を締結している。(資料織 14)



資料織 13 繊維学部の教育に活用する附属施設一覧

施設名称	所在地（市町村） ※すべて長野県
（繊維学部附属施設）	
繊維学部附属大室農場	東御市
ファイバーイノベーション・インキュベーター施設（F i i）	上田キャンパス内
先進植物工場研究教育センター（S U - P L A F）	上田キャンパス内
（大学の附属施設）	
先鋭領域融合研究群 国際ファイバー工学研究所	上田キャンパス内
ヒト環境科学研究支援センター（遺伝子実験部門）	
サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー（S V B L）	
（学外の産学官連携施設）	
浅間リサーチエクステンションセンター（A R E C）	上田キャンパス内

（出典：「大学概要 2015」より抜粋）

資料織 14 繊維学部の教育に関する連携協定一覧

（国内大学との協定）

連携大学	締結主体
福井大学・京都工芸繊維大学	繊維学部

（海外大学との協定）

国	連携大学等	締結主体
中国	香港理工大学繊維被服研究所	繊維学部
中国	浙江大学動物科学学院	繊維学部
中国	武漢紡織大学紡織工学院	繊維学部
インド	インド工科大学デリー校	繊維学部
韓国	全北大学校工科大学	繊維学部
韓国	慶北大学校工科大学・農業生命科学大学	繊維学部
韓国	ソウル大学校農業生命科学大学	農学部・繊維学部
韓国	成均館大学校工科大学	繊維学部
タイ	泰日工業大学	繊維学部
台湾	中国文化大学工学部	繊維学部
バングラデシュ	サウスイースト大学理工学部	繊維学部
パキスタン	メヘラン工科大学繊維学部	繊維学部
アメリカ	ノースカロライナ州立大学繊維学部	繊維学部
アメリカ	フィラデルフィア大学デザインビジネス工科学部	繊維学部
アメリカ	コーネル大学人類生態学部繊維科学・アパレルデザイン学科	繊維学部
オーストリア	ウィーン天然資源大学	繊維学部
チェコ	リベレッツ工科大学繊維学部	繊維学部
フランス	オート・アルザス大学南アルザス国立高等理工学院	繊維学部

フランス	リヨン繊維化学技術院	繊維学部
イギリス	リーズ大学デザイン学科	繊維学部
イギリス	マンチェスター大学素材学部	繊維学部
ドイツ	マンハイム工科大学	繊維学部
ドイツ	ドレスデン工科大学	繊維学部
ドイツ	アーヘン工科大学機械工学部	繊維学部
イタリア	ミラノ工科大学化学工学部	繊維学部
スロベニア	マリボル大学機械工学部	繊維学部
スロベニア	リュブリャナ大学自然科学部	繊維学部
ベルギー	アントワープ大学工学部	繊維学部
スウェーデン	ボロース大学繊維学部	繊維学部
モロッコ	モロッコ繊維衣料工業高等学院	繊維学部
オーストラリア	ディーキン大学テクノロジー研究イノベーション研究所	繊維学部
アメリカ 中国 イギリス	【4機関協力協定】 ノースカロライナ州立大学繊維学部 香港理工大学繊維被服研究所 マンチェスター大学材料科学部	繊維学部
欧州	欧州繊維系大学連合（AUTEX）準加盟	繊維学部

（自治体，研究機関，その他）

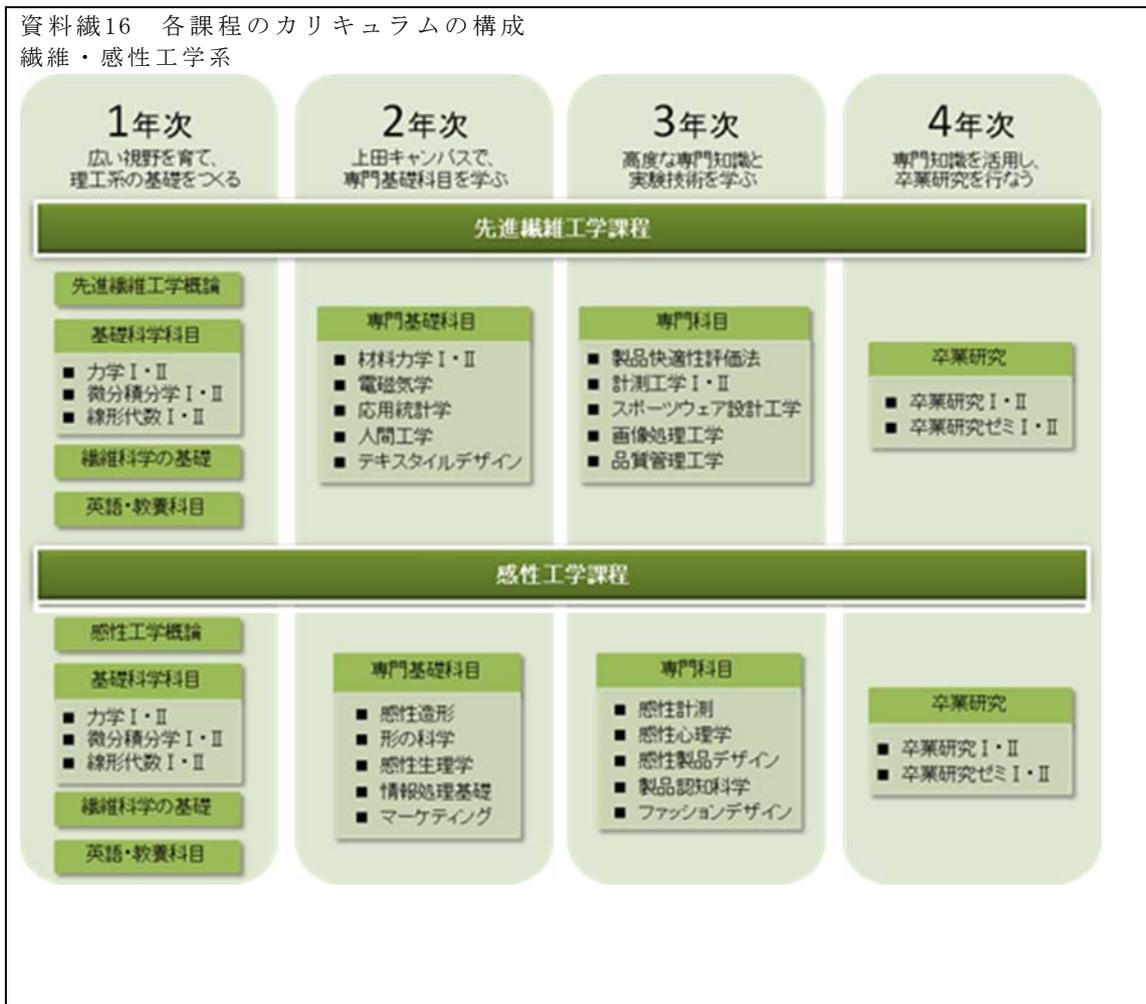
連携機関	締結主体
上田市	大学
坂城町	繊維学部
新潟県上越市	工学部・繊維学部
小諸市	工学部・繊維学部
京都府京丹後市	繊維学部
上越信用金庫	繊維学部
上田信用金庫	繊維学部
特定非営利活動法人「ものづくり支援機構」	繊維学部
韓国繊維開発研究院	繊維学部
韓国染色技術研究所	繊維学部
タイ国農業研究開発庁	繊維学部
台湾紡織産業総合研究所	繊維学部
CTTグループ：繊維技術センター（カナダ）	繊維学部
デンケンドルフ繊維研究所（ドイツ）	繊維学部
【韓国，中国6機関協力協定】 韓国生産技術研究所東華大学現代紡績研 ほか	繊維学部

（出典：「大学概要 2015」より抜粋）

(3) カリキュラムの概要・特色

① 専門教育

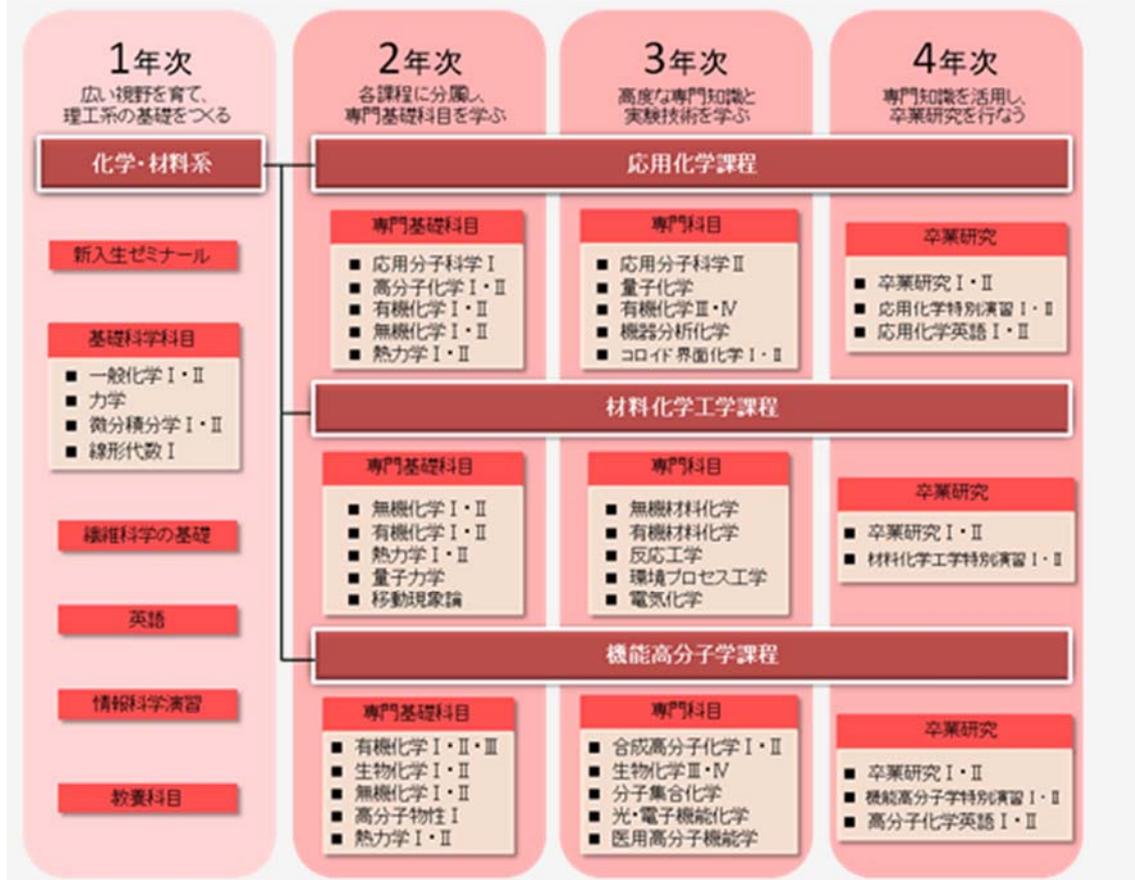
平成 24 年度、3 系 9 課程から 4 系に組換えを行い、入学時から体系的に教育を行っている。(資料織 15、織 16)

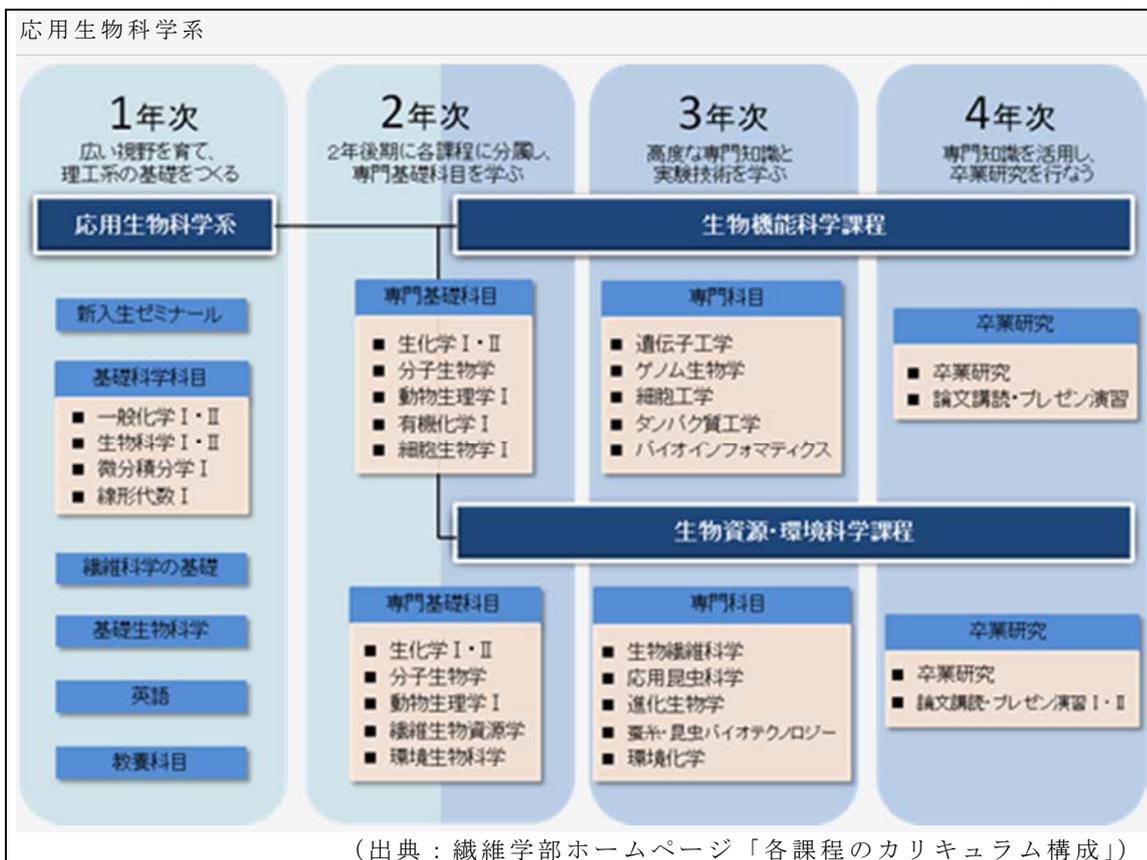


機械・ロボット学系



化学・材料系





② 共通教育

本学は、共通教育科目と専門科目で教育課程を編成している。(資料織 17)

資料織17 信州大学学則  
(教育課程の編成方針)

第42条 各学部は、本学、当該学部及び学科又は課程等の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、体系的に教育課程を編成するものとする。

2 教育課程の編成に当たっては、学部等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮するものとする。  
(授業科目の区分)

第43条 本学で開設する授業科目は、その内容により共通教育科目及び専門科目に分ける。  
(出典：信州大学規程集)

1年次に受講する共通教育科目は、学部の専門教育に進み、将来健全な社会人、高度専門職業人として活躍する人材を育成するため、様々な学問領域に関する授業が開講されている。(資料織 18、織 19)

資料織 18 共通教育の概要

学部の専門教育に進み、将来健全な社会人、高度専門職業人として活躍する人材を育成するため、幅広い教養と基礎的能力に基づく課題探求能力、豊かな人間性や国際性の修得及び人間力向上を目指す。

特に、環境に配慮した意識と生活者としての環境マインドを醸成し、サステナビリティの自覚を促す。さらに、グローバル化時代を生きる新しい世代に不可欠な、学際的・複合的視点に立って自ら課題を探求し、論理的に物事をとらえ、自らの主張を的確に表現しつつ行動していくことができる能力を育成する。



(出典：冊子「ミッションの再定義に基づく教育研究の高度化・機能強化」)

資料織 19 共通教育科目区分一覧

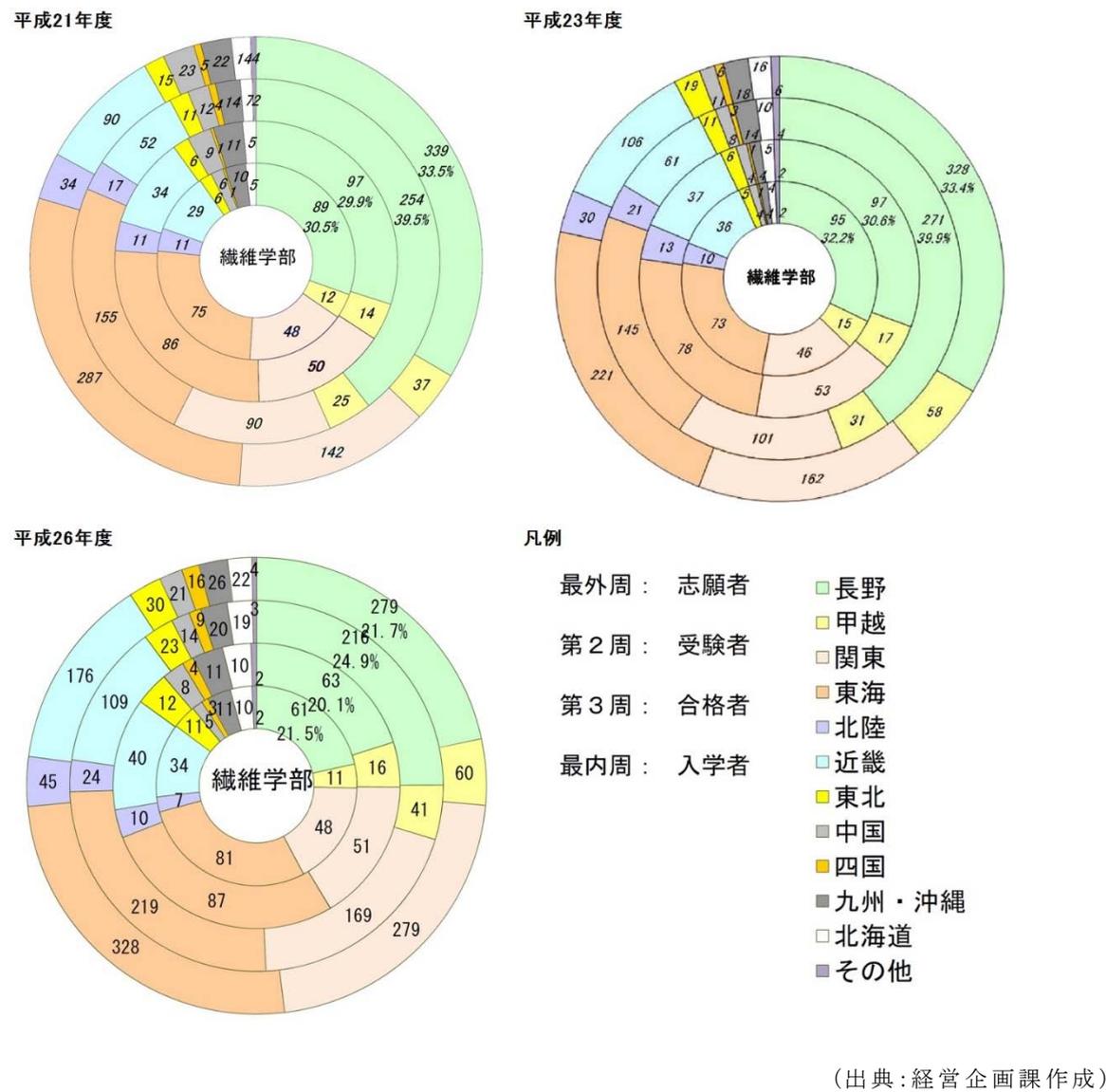
教養科目：学部・学科(課程)を越えた全学生の素養として必要な科目	
教養講義	信州大学の理念・目的に沿って、幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するための教養科目
教養ゼミナール	
基礎科目：大学教育(学部一貫教育)の基礎となる科目	
外国語科目	全学生に共通に必要な科目
健康科学科目	
新入生ゼミナール科目	
基礎科学科目	複数の学部で基盤となる科学について共通教育で開講する科目
日本語・日本事情	
日本語・日本事情科目	外国人留学生のために開講する科目
専門入門科目	
専門入門科目	学部の専門科目として開講され、他学部生は教養科目として履修できる科目

(出典：経営企画課作成)

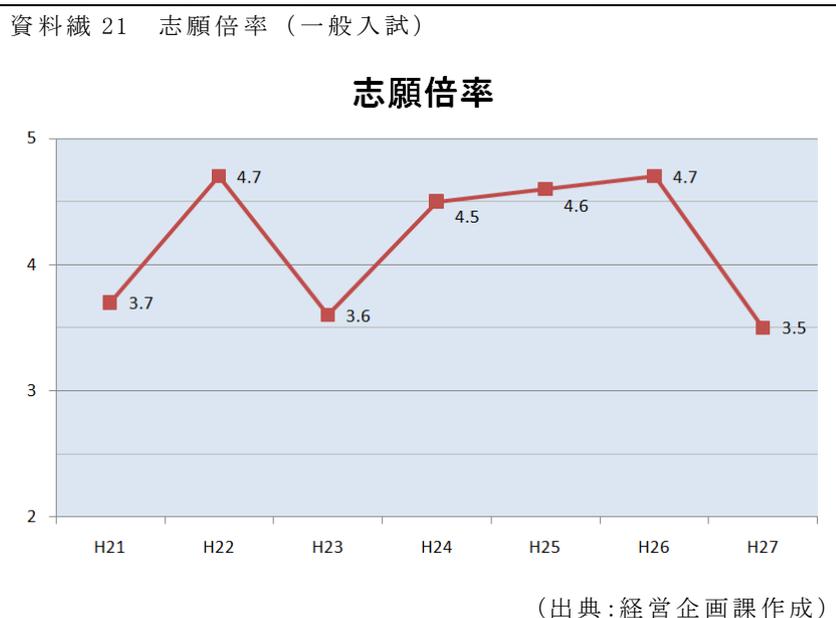
(4) 入学者の状況

本学部の出身地域別の志願者数、受験者数、合格者数、入学者数は以下のとおりである。(資料織 20) 県内からの入学者は現在 20%程度であり、県外からの入学者が多い。

資料織 20 繊維学部出身地域別の志願者数，受験者数，合格者数，入学者数

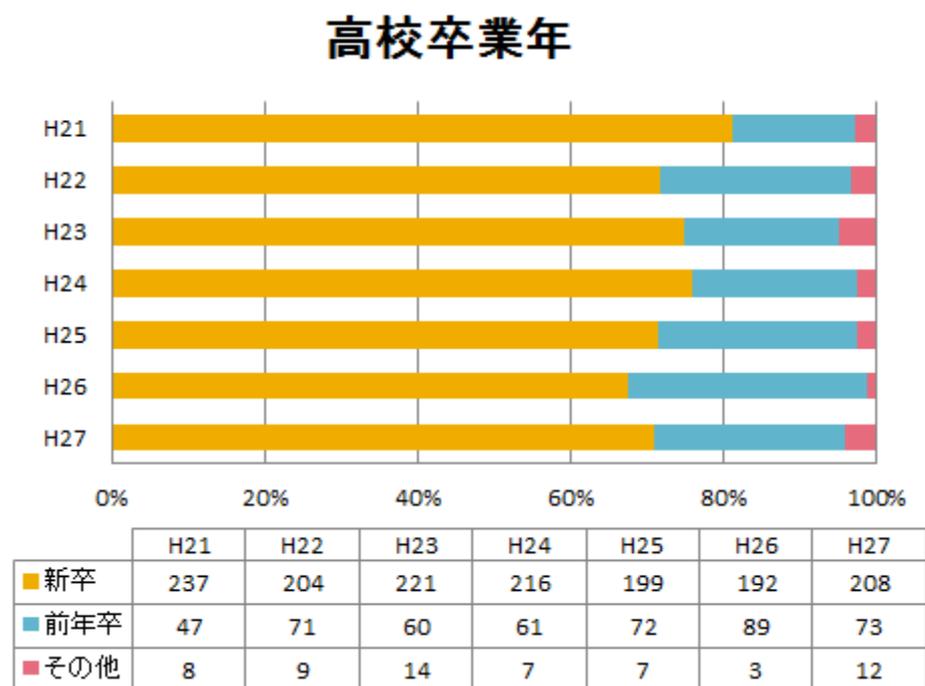


また、本学部の志願倍率（一般入試）は以下のとおりである。（資料織 21）



本学部の入学者に占める新卒者・既卒者の割合は以下の通りである。(資料織 22)

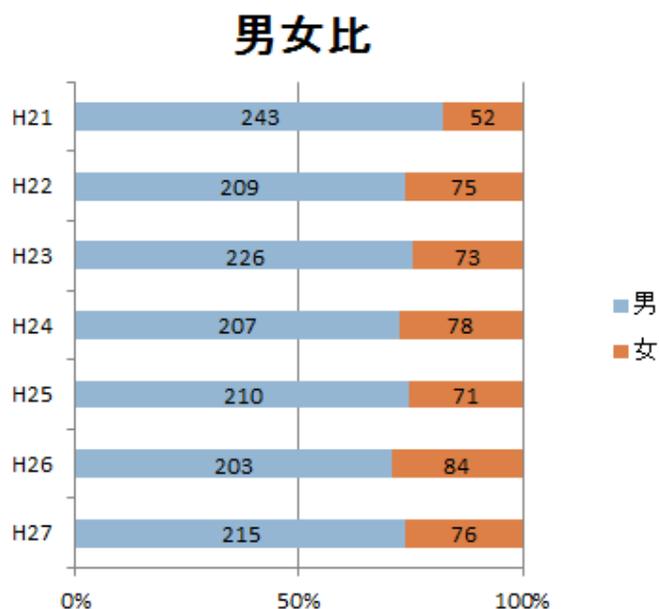
資料織 22 繊維学部の入学者に占める新卒者・既卒者の割合



(出典：経営企画課作成)

本学部の入学者に占める男女比の割合は以下のとおりである。(資料織 23)

資料織 23 入学者に占める男女比の割合



(出典：経営企画課作成)

本学部は、推薦入試、一般入試（前期・後期日程）、留学生特別選抜、3年次編入学試験を行っている。各定員は以下のとおりである。(資料織 24)

資料織 24 募集人員							
系・課程	推薦	一般		私費 外国人	帰国 子女	計	
		前期	後期				
繊維・感性 工学系	先進繊維工学課程	10 ※1	10	10	若干	若干	30
	感性工学課程	10 ※1	10	10	若干	若干	30
機械・ロボット学系		5	27	23	若干	若干	55
化学・材料系		18 ※2	60	32	若干	若干	110
応用生物科学系		10	20	20	若干	若干	50
小計		53	127	95			275

職業高校卒（※1）、工業高校卒（※2）の各1名を含みます。  
（資料 経営企画課作成）

入学者選抜は、アドミッション・ポリシーに基づき、下記の教科を課している。

（資料織 25）

資料織 25 平成 27 年度繊維学部 入試科目一覧 （一般入試）		
系・課程	日程	教科・科目等
繊維・感性 工学系	前期	理科（「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」、「生物基礎・生物」から1科目選択）
		理科（「化学基礎・化学」）
		繊維・感性 工学系
		機械・ロボット学系
		応用生物科学系
繊維・感性 工学系	後期	理科（「物理基礎・物理」、「化学基礎・化学」、「生物基礎・生物」から1科目選択）
		数学（数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学Ⅲ・数学A・数学B）
		繊維・感性 工学系
		機械・ロボット学系
		応用生物科学系
（推薦，その他）		
系・課程	日程	教科・科目等
繊維・感性 工学系	推薦	小論文：科学・技術に関する課題
		面接（大学における勉学に必要な基礎学力（数学・理科（物理又は化学を選択））についての口頭試問を含む。）
		面接の参考にするための基礎学力テスト：化学・物理の基礎的内容
		面接（口頭試問を含む。）
		面接の参考にするための基礎学力テスト：化学・生物・英語の基礎的内容
繊維・感性 工学系	帰国子女	小論文：科学・技術に関する課題
		面接（大学における勉学に必要な基礎学力（数学・理科（物理又は化学を選択））についての口頭試問を含む。）
		面接の参考にするための基礎学力テスト：化学・物理の基礎的内容
		面接（口頭試問を含む。）
		面接の参考にするための基礎学力テスト：化学・生物・英語の基礎的内容
繊維・感性 工学系	帰国子女	小論文：科学・技術に関する課題
		面接（大学における勉学に必要な基礎学力（数学・理科（物理又は化学を選択））についての口頭試問を含む。）
		面接の参考にするための基礎学力テスト：化学・物理の基礎的内容
		面接（口頭試問を含む。）
		面接の参考にするための基礎学力テスト：化学・生物・英語の基礎的内容
繊維・感性 工学系	帰国子女	小論文：科学・技術に関する課題
		面接（大学における勉学に必要な基礎学力（数学・理科（物理又は化学を選択））についての口頭試問を含む。）
		面接の参考にするための基礎学力テスト：化学・物理の基礎的内容
		面接（口頭試問を含む。）
		面接の参考にするための基礎学力テスト：化学・生物・英語の基礎的内容

全系・課程	私費外国人留学生	面接（基礎学力テストを含む。）
全系・課程	3年次編入学試験	面接（口頭試問を含む。）

（出典：経営企画課作成）

[想定する関係者とその期待]

○受験生・在学生

ファイバー工学の知識と技術を身につけたグローバルな技術者として、関連産業分野で能力を発揮することを期待している。

○卒業生の雇用者

繊維産業においては、素材から製品まで一連の過程を知った人材の育成を期待している。また、関連産業分野では、ファイバー工学の知識を有し、新しいものづくりに活かせる人材の育成を期待している。

○国内の繊維産業関連業界・団体

わが国唯一の繊維学部に対して、ファイバー工学分野における教育研究体制を充実させ、関連産業の展開に呼応した技術者の育成を期待している。

II 「教育の水準」の分析・判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

(1) 教員組織および教育体制の刷新とその効果

① 学術研究院、機構と学部との関係

教員の流動性を確保し、全学的な教育、研究マネジメントを可能とするため、教員組織として学術研究院を平成 26 年度より設置した。また、学士課程の共通教育科目を担当する教育組織として機構を設置している。(資料織 26)

資料織 26 学術研究院と学部との関係



学術研究院は、3の学域・10の学系により構成する。すべての教員は、いずれかの学系に所属し、

職務として次のいずれかに携わる。(複数の兼務もあり)

- 1) 学部・大学院、全学教育機構において、教育・研究に携わる。
- 2) 医学部附属病院において、診療・教育・研究に携わる。
- 3) 先鋭領域融合研究群において、研究に携わる。
- 4) 大型研究センター(拠点形成型の外部資金プロジェクト)において、研究に携わる。
- 5) 各教育研究(支援)センター等において、担当業務に携わる。

これにより、先鋭領域融合研究群の研究者への研究重点環境の提供や学部横断型の教育を実現し、研究の高度化や時代の要請に柔軟かつスピーディーに対応した教育を推進する。

(出典:「大学概要 2015」をもとに経営企画課作成)

② 繊維学部の教育組織

平成 23 年度までは 3 系 9 課程で、平成 24 年度からは高校の自然科学基礎科目である物理、化学、生物および繊維学部特有な繊維・感性工学に対応した 4 系に括って入学試験を行っている。繊維・感性工学系を除き、各系で共通の基礎教育を行った後に、高年次に学生の希望と適性を考慮して課程への分属を行う柔軟な教育体制をとっている。

(資料織 27)

資料織27 繊維学部の教育組織  
各課程への分属時期と大学院への接続を示した。

系	課程	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次	大学院 修士課程	大学院 博士課程
繊維・ 感性 工学系	先進繊維工学課程					繊維・ 感性工学 専攻	総合工学系 研究科  生命機能・ ファイバー 工学専攻 他
	感性工学課程						
機械・ ロボット 工学系	機能機械学課程	系と して 教育			機械・ ロボット学 専攻		
	バイオエンジニアリング課程						
化学・ 材料系	応用化学課程	系と して 教育			化学・ 材料 専攻		
	材料化学工学課程						
	機能高分子学課程						
応用生 物科学 系	生物機能科学課程	系と して 教育			応用生物 科学 専攻		
	生物資源・環境科学課程						

(出典：繊維学部作成)

各課程には必要な専任教員数を配置しており、各課程の教員1人あたりの学生数は2.8人となっている。(資料織 28)

資料織28 各課程の専任教員数 (平成27年5月1日現在)

課程 (学生定員)	教授	准教授	講師	助教	計	教員1名当たり の学生数	設置審上の基準数	
							教授数	全教員数
先進繊維工学課程 (30)	5	2	0	1	8	3.8	4	8
感性工学課程 (30)	5	5	1	1	12	2.5	4	8
機能機械学課程 (30)	4	6	0	0	10	3.0	4	8
バイオエンジニアリング課程 (25)	4	3	0	1	8	3.1	4	8
応用化学課程 (37)	4	10	0	0	14	2.6	4	8
材料化学工学課程 (37)	5	4	0	3	12	3.1	4	8
機能高分子学課程 (36)	6	5	0	1	12	3.0	4	8
生物機能科学課程 (25)	5	2	0	2	9	2.8	4	8
生物資源・環境科学課程 (25)	6	5	0	2	13	1.9	6	12
計 (275)	44	42	1	11	98	2.8		

(出典：繊維学部事務部作成)

③ 共通教育

共通教育は、機構を中心に全学協力体制のもと、学長が最終責任を負う体制により実施している。(資料織 29、織 30、織 31)

資料織29 信州大学全学教育機構規程

(目的)

第2条 機構は、信州大学(以下「本学」という。)が定める教育上の基本方針に基づき、本学の共通教育(各学部が編成する教育課程のうち、本学学生に対する教養教育、基礎教育及び日本語・日本事情に係る教育について、全学協力体制のもとに、全学共通に行う教育をいう。以下同じ。)及び教職関係5学部(人文学部、理学部、工学部、農学部及び繊維学部をいう。以下同じ。)の教職教育(教育職員の免許状授与の所要資格を得させるための教育をいう。以下同じ。)の実施機関として、各学部と緊密に連携し、全学的な見地から共通教育に係る教育課程の企画及び円滑な実施を図るとともに、本学が掲げる高度専門職業人養成の教育目標を達成するため、学部一貫教育を前提に本学の教育に関する研究

開発、企画及び支援を総合的に行うことを目的とする。

(全学協力体制等)

第3条 共通教育及びこれを履修する学生(以下単に「学生」という。)の修学指導は、全学協力体制により実施するものとし、各学部は、その実施体制の管理及び運営に責任を負うとともに、本学のすべての教員は、その構成員として共通教育の実施及び学生の修学指導を担当することを任務とする。

2 機構は、前条の目的を達成し、次条に定める業務を遂行するため、附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センターその他の関係部局(以下「関係部局」という。)と有機的に連携するとともに、関係委員会等と緊密に連携協力する。

(共通教育企画実施部)

第10条 機構に、共通教育企画実施部を置く。

2 共通教育企画実施部は、次の各号に掲げる業務を行う。

(1) 共通教育に係る教育課程の企画及び立案に関すること。

(2) 共通教育の授業担当者の選任に関すること。

(3) 共通教育の授業の実施に関すること。

(4) 専門科目と共通教育との実施上の調整に関すること。

(5) 高年次共通教育及び日本語・日本事情に係る留学生教育の企画及び調整に関すること。

(共通教育修学支援部)

第11条 機構に、共通教育修学支援部を置き、学生の学習支援その他の修学支援に関する業務を行う。

2 共通教育修学支援部に、修学支援部門を置く。

3 共通教育修学支援部に責任者を置き、副機構長(修学支援担当)をもって充てる。

(クラス副担任)

第16条 修学支援部門に、各学部のクラス担任を補佐するため、クラス副担任を置く。

2 クラス副担任は、機構の専任教員が担当し、当該学部のクラス担任との密接な連携を図るものとする。

(教授会)

第17条 機構に、信州大学学則(平成16年信州大学学則第1号)第25条第2項の定めるところにより、信州大学全学教育機構教授会(以下「教授会」という。)を置く。

2 教授会に関し必要な事項は、別に定める。

(運営会議)

第18条 機構に、機構の運営に関する具体的事項を審議するため、信州大学全学教育機構運営会議(以下「運営会議」という。)を置く。

2 運営会議は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

一 機構長

二 副機構長

三 基幹教育センター長及び言語教育センター長

四 共通教育企画実施部の各教育部門長及び修学支援部門長並びに教職教育部副責任者

五 その他機構長が必要と認める者

3 運営会議に議長を置き、機構長をもって充てる。

4 議長は、運営会議を主宰する。

5 学長は、必要又は機構長の要請に応じて、運営会議に出席し、審議に参加するとともに、共通教育及び機構の組織の運営に関する事項を、運営会議に提示し、審議を求めることができる。

6 運営会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。

一 共通教育の企画及び実施並びに修学支援に関する事項

二 機構の運営組織に関する事項

三 基幹教育センター及び言語教育センターの人事方針(採用人事方針を含む。)に関する事項

四 教職教育部の業務に関する事項

7 運営会議は、必要に応じて、その審議結果を教授会に報告するものとする。

(学長及び共通教育推進会議)

第19条 共通教育の実施に係る最終責任は、学長が負う。

3 国立大学法人信州大学共通教育推進会議(以下「共通教育推進会議」という。)は、必要に応じて、又は教授会の要請に応じて、機構の組織、運営に係る重要事項を審議する。

4 学長及び共通教育推進会議は、共通教育に関する基本的事項について、教授会に提案することができる。この場合において、教授会は、これを尊重するものとする。

(出典：信州大学規程集)

資料織30 国立大学法人信州大学共通教育推進会議規程  
(趣旨)

第1条 この規程は、国立大学法人信州大学組織に関する規則（平成17年国立大学法人信州大学規則第5号）第16条の2第2項の規定に基づき国立大学法人信州大学（以下「本法人」という。）に設置する国立大学法人信州大学共通教育推進会議（以下「共通教育推進会議」という。）の組織及び運営に関し必要な事項を定める。

(職務)

第2条 共通教育推進会議は、本法人が設置する信州大学（以下「本学」という。）の次の各号に掲げる重要な事項について審議するほか、全学教育機構と各学部との連携協力及び連絡調整を円滑に行うことを職務とする。

- (1) 共通教育の企画及び実施並びに修学支援の実施に関する事
- (2) 共通教育カリキュラムの策定及び改定に関する事
- (3) 共通教育の実施における全学的な支援に関する事
- (4) 全学教育機構の運営に関する事
- (5) その他共通教育の実施に関する事

(組織)

第3条 共通教育推進会議は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- (1) 学長
- (2) 教務担当の理事
- (3) 全学教育機構長
- (4) 高等教育研究センター長
- (5) 学部長又は副学部長のうちのいずれか1名
- (6) その他学長が必要と認める者

(議長)

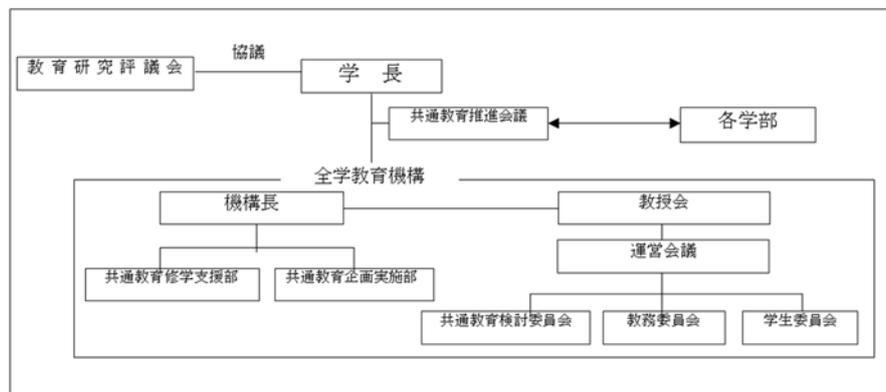
第4条 共通教育推進会議に議長を置き、学長をもって充てる。

2 議長は、共通教育推進会議を主宰する。

3 議長に事故があるときは、第3条第2号に規定する理事が、その職務を代行する。

(出典：信州大学規程集)

資料織31 共通教育科目の教育体制



(出典：経営企画課作成)

(2) 入学者選抜のための方法の工夫とその効果

平成24年度入試より、一般入試（前期日程）において、上田キャンパス試験場に加えて名古屋試験場を設けている。（資料織32、織33）

資料織32 名古屋試験場について

信州大学 繊維学部  
~新しいモノサシは面白い~

先進繊維工学課程 / 機械・ロボット学系 / 化学・材料系 / 応用生物科学系  
感性工学課程

前期日程  
**名古屋で受験!**

平成24年度前期日程入試では、  
上田キャンパス会場に加えて、名古屋会場を新設します。  
《試験場は出願時に選択》

**名古屋の試験会場**  
名古屋国際会議場

名古屋試験場アクセスマップ

名古屋駅より約20分 / 中部国際空港より約40分  
(地下鉄名城線(左回り)西高蔵駅もしくは地下鉄  
名港線日比野駅より徒歩5分)

(出典：繊維学部作成ポスター)

資料織33 名古屋試験場受験者数の推移

前期日程合計	名古屋検査場			上田検査場		
	志願者	受験者	合格者	志願者	受験者	合格者
平成 24 年度	128	128	41	274	266	85
平成 25 年度	138	137	65	255	248	67
平成 26 年度	137	132	61	208	199	72
平成 27 年度	115	112	61	162	159	74

(出典：繊維学部 事務部作成)

学部広報室を設け、受験生用ホームページの充実、入試説明会、オープンキャンパス、県内外の高校訪問を組織的に行っている。(資料織 34)

## 資料織 34 繊維学部広報室

## ■広報室員構成

## \*教員G\*

室員(室長)	上條正義	感性工学課程
室員(副室長)	小山俊樹	機能高分子学課程(入試戦略室長)
室員(副室長)	保地眞一	生物機能科学課程
入試・広報コーディネーター	木村建	
室員	金井博幸	先進繊維工学課程
室員	堀場洋輔	感性工学課程
室員	和田功	感性工学課程(デザイン)
室員	河村隆	機能機械学課程
室員	小関道彦	バイオエンジニアリング課程
室員	鈴木大介	応用化学課程
室員	杉本渉	材料化学工学課程
室員	堀江智明	生物資源・環境科学課程

## \*事務G\*

室員	藤澤みどり	総務
室員	増田成徳	総務
室員	原澤和子	研究支援
室員	矢口諒	会計
室員	武居総子	図書館
室員	中村美保	技術部
室員	麻和浩一	学務
室員	中島歩	学務

信州大学繊維学部広報室内規

(目的)

第1条 信州大学繊維学部(信州大学大学院総合工学系研究科の繊維学部関係専攻教員を含む。以下「本学部」という。)に本学部の広報を戦略的に企画し、広報活動の推進に必要な事項を迅速かつ円滑に処理するため、広報室を置く。

(職務)

第2条 広報室は、広報の実施にかかわる次の業務を担当する。

- 一 本学部の広報に関する中期計画の立案・進捗評価等に関すること。
- 二 教育研究活動の広報に関すること。
- 三 学生募集に係る広報に関すること。
- 四 報道機関に対する広報に関すること。
- 五 広報誌等の発行に関すること。
- 六 ホームページの運営に関すること。
- 七 公開講座等地域貢献に関すること。
- 八 その他広報に関すること。

(組織)

第3条 広報室は、次の各号に掲げる室員をもつて組織する。

- 一 広報担当の学部長室会議メンバー
- 二 学部長が指名した者
- 三 広報担当事務部職員

(任期)

第4条 前条第2号に規定する室員の任期は、学部長の任期内とする。

(室長等)

第5条 広報室に室長及び副室長を置く。

- 2 室長は、第3条第1号に規定する室員をもつて充てる。
- 3 副室長は、第3条第2号に規定する室員のうちから、室長が指名する。
- 4 室長は、広報室会議を招集し、その議長となる。副室長は、室長に事故があるときは、その職務を代行する。

(広報活動協力者)

第6条 広報室運営のため、必要に応じて広報活動協力者を委嘱することができる。

2 広報活動協力者は、室長の推薦に基づき、学部長が委嘱する。  
 (プロジェクトチーム)

第7条 広報室に、必要に応じてプロジェクトチームを置くことができる。

2 プロジェクトチームのメンバーは、室長の推薦に基づき、学部長が委嘱する。  
 (室員以外の者の出席)

第8条 広報室が必要と認めたときは、広報室に室員以外の者の出席を求め、その意見を聴くことができる。  
 (運営会議又は教員会議への報告)

第9条 広報室において審議された重要な事項は、運営会議又は教員会議へ報告するものとする。  
 (雑則)

第10条 この内規に定めるもののほか、広報室の運営に関し必要な事項は、広報室が別に定める。

(出典：繊維学部事務部作成)

学部に入試戦略室を設け、高等学校や進学産業と定期的に意見交換を行い、在学生に対してアンケート調査を行うことにより、戦略的に情報収集と分析を行っている。

(資料織 35)

資料織 35 繊維学部入試戦略室

**■入試戦略室員構成**

室員(室長)	小山 俊樹	機能高分子学課程
室員	上條正義	感性工学課程
室員	小林俊一	バイオエンジニアリング課程
室員	志田敏夫	生物機能科学課程
室員	木村 建	特任教授
室員	麻和浩一	学務係

(活動内容)

- ・入試広報計画の策定
- ・入試結果説明会の実施 (県内4カ所)
- ・入試実施方法案の策定
- ・募集要項案の策定
- ・新入生アンケートの実施と集計
- ・卒業前アンケートの実施と集計
- ・志願者と合格者の分布などに関する調査・分析
- ・入試問題の適正な出題に関する調査 (試験実施後の検討)
- ・入学後の初年度の成績の調査分析 (入試方法との関連)
- ・受験産業との接触 (来訪者への対応と情報収集)
- ・受験産業が主催する大学広報関連のセミナーなどへの出席
- ・全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会への参加

(出典：繊維学部事務部作成)

このような活動を続けてきた結果、過去3年間、一般選抜では、3.5～4.7倍の志願倍率を維持し、大学における学習活動に適応可能な学生を選抜できている。

(前掲資料織 21、14頁)

(3) 学生サポート体制

① 学生相談室の設置

平成23年度に学部内に学生相談室を設置し、学生が抱える問題を把握し、早期に解決する体制を構築した。(資料織 36、織 37、織 38)

## 資料織36 繊維学部学生相談室の活動内容

**“何でも”相談できます**

何でも相談室って…本当に「なんでも」なの？そんな声が聞こえてきそうですが、本当に「なんでも」です！

学生生活のちょっとした悩みでも結構です。お気軽にご相談ください。

**学業や進路の悩み**

「このままでは卒業できない…！」  
「学習意欲が湧かないなあ」といった、学業、進級・卒業、就職に関する悩みも気軽にご相談ください。

**経済面の問題**

授業料の免除、奨学金などの制度関することなど経済面での相談。

**学校生活や人間関係の悩み**

「友人関係が上手くいかない」  
「家庭でトラブルを抱えている」  
「先生からハラスメントを受けている」  
等対人関係に関する相談。

※特にハラスメントに関しては、専門職員を設置し、相談に応じています。いち早くご相談ください。

**その他の精神的な不安**

「自分に自信が持てない」  
「なんだかイライラすることが多い」  
など漠然とした不安でも、気軽にご相談ください。

**“専門職員”への橋渡しをします**

学生何でも相談室では、「カウンセラー」、「ハラスメント相談員」等、専門職員への橋渡しも行っています。以下、専門職員を紹介します。プライバシーは固く守られますので、いち早くご相談ください。

**カウンセラーによるカウンセリング**

心理的な悩みなどに関しては、カウンセラーによるカウンセリングを受けることができます。希望により、橋渡しをさせていただきますので、気軽にご相談ください。

また、カウンセリングについては、保健室、学務係窓口で直接申し込むこともできます。

**ハラスメント相談員への相談**

アカデミックハラスメント（アカハラ）、パワーハラスメント（パワハラ）、セクシャルハラスメント（セクハラ）などハラスメント全般の相談は、専門の研修を受けたハラスメント相談員が担当します。

**内容に応じて、教職員が対応します**

その他、質問の内容に応じて、教員、保健師、学務係職員等が対応いたします。

**チューター面談**

繊維学部では、学生一人一人にチューター教員を設定し、定期的に面談を行うことで、よりきめ細やかな対応ができるようにしています。

毎年2回面談の機会を設けていますので、面談を行っていただき、どんな些細な悩みでも結構ですので、チューター教員にお話し下さい。特に悩みを抱えていない方も、実際にチューター教員と顔を合わせて、元気でやっていると伝えるようにしてください。

(出典：繊維学部事務部作成)

## 資料織37 教員によるチューター面談の実施要領

教員 各位

学部学生相談室長 伊藤 恵啓

H27年度前期チューター面談のお願い

学生相談室の活動、とりわけチューター面談につきましては日頃より御協力、御尽力をいただき心より感謝申し上げます。前期が始まりましたので、チューター面談の実施をお願いしたいと存じます。今年度も昨年度と同様、上田キャンパスに常時在籍している全ての学生

(社会人学生を除く)に対して面談を実施していただくことになっております。学期初めのご多忙中のところ申し訳ありませんが、何卒よろしくお願いいたします。

## 記

対象学生：学部2～4年生、院生(M1～D3)

日程及び実施内容：4月13日(月)～5月1日(金)

学生がチューター教員に連絡して面談する

面談結果(表：後日配付されます)を学生相談委員に提出

5月15日(金)まで

面談未実施の学生にチューター教員が連絡して面談

面談結果(表)を学生相談委員に提出する

面談できない学生については安否確認だけでもお願いします

5月22日(金)まで

学生相談委員は学務Gに結果を報告

5月28日(木)

学生相談委員長が教員会議で集計結果を報告

\*面談結果の記入する表(面談リスト)は後日、各課程の学生相談委員から配付されます。

\*面談の実施及び結果の取りまとめについては、面談を通じて問題を抱えている学生の早期発見と問題の早期解決につなげると共に、学部全体で面談結果を共有することで問題解決を推し進め、上田キャンパスの多くの学生が健全な学生生活を送ることができるようにするためです。

面談内容について：

学生の「ゲートキーパー」として学生が困っていることがあれば話を聞き、状況によって適当な窓口(学生相談室、学務係、各課程の委員等)を紹介したり、窓口につなげて下さい。具体的には、以下に示す項目を参考にして質問して下さい。面談後の所見については、所見欄は、該当する選択肢の番号を記入し、該当する選択肢がない場合は、具体的な内容を記入の上、各課程の学生相談委員に報告下さい。特に、問題のありそうな学生には詳しい記述と共に担当者にご相談下さい。

## 【面談時の主な質問項目(質問の例)】

- ・学業に関すること(授業は理解できますか? 単位は取れていますか? 研究は進んでいますか?)
- ・生活面、経済面に関すること(上田の生活に慣れましたか? 経済的に問題ありませんか。日常で困ったことや気になることはありますか?)
- ・身体的・精神的健康に関すること(体調は良いですか? 食事、睡眠はきちんと取れていますか?)
- ・修学上の対人関係(教員や先輩など)に関すること(授業担当の先生、指導教員、研究室の先輩や後輩、同級生のことで相談したいこと、悩んでいることはありますか?)
- ・進路や将来に関すること(進路は決まっていますか? そのための準備はしていますか?)

以上

(出典：繊維学部事務部作成)

資料織38 チューター教員の担当割り例および面談結果の報告書式

(複数の記載可)

1. 問題なし	2. 学業上の問題あり	3. メンタル上の問題あり
4. 健康上の問題あり	5. 生活上の問題あり	6. 進路上的問題あり
7. 経済上の問題あり	8. ハラスメントに関する問題あり	9. その他の問題あり

特記事項の記入について

面談ができない場合、その理由を記載してください。  
また、所見欄に補足がある場合も記載をお願いします。

学籍番号	氏名	カナ氏名	課程/学科	指導教員	チューター	面談日	所見	特記事項
1			先進繊維工学課程	金 慶孝	石澤 広明			
2			先進繊維工学課程	森川 英明	石澤 広明			
3			先進繊維工学課程	坂口 明男	西松 豊典			
4			先進繊維工学課程	森島 美佳	西松 豊典			
5			先進繊維工学課程	金 慶孝	大越 豊			
6			先進繊維工学課程	坂口 明男	金 慶孝			
7			先進繊維工学課程	金井 博幸	木村 裕和			
8			先進繊維工学課程	森川 英明	石澤 広明			
9			先進繊維工学課程	大越 豊	西松 豊典			
10			先進繊維工学課程	木村 裕和	森川 英明			
11			先進繊維工学課程	木村 裕和	金 慶孝			
12			先進繊維工学課程	西松 豊典	木村 裕和			
13			先進繊維工学課程	森川 英明	坂口 明男			
14			先進繊維工学課程	森島 美佳	大越 豊			
15			先進繊維工学課程	金井 博幸	大越 豊			
16			先進繊維工学課程	大越 豊	石澤 広明			
17			先進繊維工学課程	西松 豊典	石澤 広明			
18			先進繊維工学課程	石澤 広明	森川 英明			
19			先進繊維工学課程	石澤 広明	金 慶孝			
20			先進繊維工学課程	金井 博幸	森島 美佳			
21			先進繊維工学課程	石澤 広明	大越 豊			
22			先進繊維工学課程	森川 英明	金井 博幸			
23			先進繊維工学課程	森川 英明	石澤 広明			
24			先進繊維工学課程	大越 豊	西松 豊典			
25			先進繊維工学課程	木村 裕和	森川 英明			
26			先進繊維工学課程	金 慶孝	大越 豊			
27			先進繊維工学課程	木村 裕和	金井 博幸			
28			先進繊維工学課程	金井 博幸	坂口 明男			
29			先進繊維工学課程	大越 豊	金井 博幸			
30			先進繊維工学課程	石澤 広明	金井 博幸			
31			先進繊維工学課程	木村 裕和	石澤 広明			
32			先進繊維工学課程	木村 裕和	西松 豊典			
33			先進繊維工学課程	森川 英明	金 慶孝			
34			先進繊維工学課程	大越 豊	木村 裕和			
35			先進繊維工学課程	西松 豊典	森島 美佳			
36			先進繊維工学課程	西松 豊典	大越 豊			
37			先進繊維工学課程	石澤 広明	金井 博幸			
38			繊維システム工学科	金 慶孝	大越 豊			
39								
40								

(出典：繊維学部事務部作成)

②全学的な学生サポート体制

学務課、学生支援課、国際交流課を設置し、全学的な教育活動に関する業務を行っている。(資料織 39、織 40) 附属図書館等の全学の教育関係組織に専門職員を配置し(資料織 41)、学部には教育支援に必要な職員を配置している。(資料織 42)

資料織 39 国立大学法人信州大学業務執行組織規程(抜粋)

第 25 条 学務課においては、全学教育機構、高等教育研究センター、e-Learning センター、教員免許更新支援センター(教育学部の所掌に属するものを除く。以下この条において同じ。)及び学務部に関する次の業務をつかさどる。

- (1) 学務部内の事務に関し、連絡し、及び総合調整を行うこと。
- (2) 庶務及び会計に関すること。
- (3) 入学式その他学生の諸行事に関すること。
- (4) 学生関係職員の SD(スタッフ・デベロップメント)に係る企画・立案及びその実施に関すること。
- (5) 全学(本法人が設置する信州大学大学院(以下「大学院」という。)を除く。)の教務に関すること。
- (6) 学生の学籍その他の記録に関すること。
- (7) 学位の授与に関すること。
- (8) 教育課程(大学院を除く。)に係る目標及び計画の連絡調整に関すること。
- (9) 他の大学等との単位の互換(大学院を除く。)に関すること。
- (10) 全学の学務情報システムに関すること。
- (11) 出前講座に関すること。
- (12) 諸会議(国立大学法人信州大学戦略企画会議規程(平成 24 年国立大学法人信州大学規程第 108 号)第 6 条に定める大学院戦略会議(以下「大学院戦略会議」という。)及び信州大学大学院教務委員会を除く。)の連絡調整に関すること。
- (13) 教育・学生支援連携会議の運営に関すること。
- (14) その他全学教育機構、高等教育研究センター、e-Learning センター及び教員免許更新

- 支援センターの業務執行及び運営に関すること。
- (15) 前各号に掲げるもののほか、学務部の他の所掌に属しない事務を処理すること。
- 2 学務課の共通教育支援室においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 共通教育の授業支援に関すること。
  - (2) 共通教育の教務に関すること。
  - (3) 学生の学習相談及び修学指導に関すること。
  - (4) 共通教育に係る点検・評価に関すること。
  - (5) 全学教育連携会議等の諸会議の連絡調整に関すること。
  - (6) 環境マインド教育支援に関すること。
- 3 (省略)
- 4 学生支援課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 学生総合支援センターの業務執行及び運営に関すること。
  - (2) キャリアサポートセンターの業務執行及び運営に関すること。
  - (3) 学生相談センターの業務執行及び運営に関すること。
- 5 入試課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 入学者の選抜に関し連絡し、及び総合調整を行うこと。
  - (2) 入学者選抜方法の改善に関し企画立案を行うこと。
  - (3) 学生募集に関すること。
  - (4) アドミッションセンターの業務執行及び運営に関すること。
  - (5) 前各号に掲げるもののほか、入学者の選抜に関する事務を処理すること。
- 6 国際交流課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 国際交流センターの業務執行及び運営に関すること。(研究支援課の国際学術交流室が所掌する業務を除く。)
  - (2) 松本国際交流会館の業務執行及び運営に関すること。
  - (3) 前各号に掲げるもののほか、教育活動に係る国際交流に関する事務を処理すること。
- (出典：信州大学規程集)

資料織 40 学務課、学生支援課、国際交流課の職員数

	学務課	学生支援課		国際交流課
		うち キャリアサポートセンター		
事務職員	20	11	3	6
事務補佐員	12	4	2	5
臨時用務員	1			
専門職員	1			
技術補佐員	5			
技能補佐員		1		
シニア雇用職員	4	1		
コーディネータ		1		6
合計	43	18	5	17

平成 28 年 1 月 18 日現在  
(出典：経営企画課作成資料)

資料織 41 附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センター、e-Learning センター職員数

区分	附属図書館 <sup>注3</sup>	総合健康安全センター	総合情報センター	e-Learning センター
上田キャンパス	6	2	-	-

平成 28 年 2 月 1 日現在  
(出典：経営企画課作成資料)

資料織 42 学部・研究科の学務担当窓口の職員数

繊維学部
理工学系研究科(上田キャンパス)
15

平成28年 2 月 1 日現在  
(出典：経営企画課作成資料)

また、教育補助者として、大学院生を TA として雇用し、演習・実験・実習科目で積極的に活用している。(資料織 43、織 44)

資料織 43 信州大学ティーチング・アシスタント実施要項（抜粋）

（目的）

第2 TAは、本学大学院の優秀な学生に対し、教育的配慮の下に教育補助業務を行わせ、これに対する手当支給により、当該学生の処遇の改善に資するとともに、大学教育の充実及び指導者としてのトレーニングの機会提供を図ることを目的とする。

（身分）

第3 TAは、非常勤職員とする。

（職務内容）

第4 TAは、学部学生、修士課程の学生及び博士前期課程の学生に対する実験、実習及び演習等の教育補助業務に従事する。

（出典：信州大学ティーチング・アシスタント実施要項）

資料織 44 各学部等における TA の業務内容

部局名	授業時間内の業務内容								授業時間外の業務内容					その他の業務内容
	A	B	C	D	E	F	G	H	a	b	c	d	e	
繊維学部	○	○		○		○	○			○	○		○	

授業時間内の業務内容

- A. 資料の配付 B. 機器の操作 C. 出欠の管理 D. 試験監督補助 E. 討論への参加  
F. 学生の質問への対応 G. 実験・実習などの実演 H. 発声・会話の指導

授業時間外の業務内容

- a. 資料のコピー、保存 b. 教室のメンテナンス(空調,照明,施錠等)  
c. レポート課題の作成・採点補助 d. 教材の作成補助 e. 実験・実習の準備

（出典：各学部等のデータを基に経営企画課にて作成）

機構教員は、学部のクラス副担任として学部のクラス担任とともに1年次の修学指導を行っている。（資料織 45）

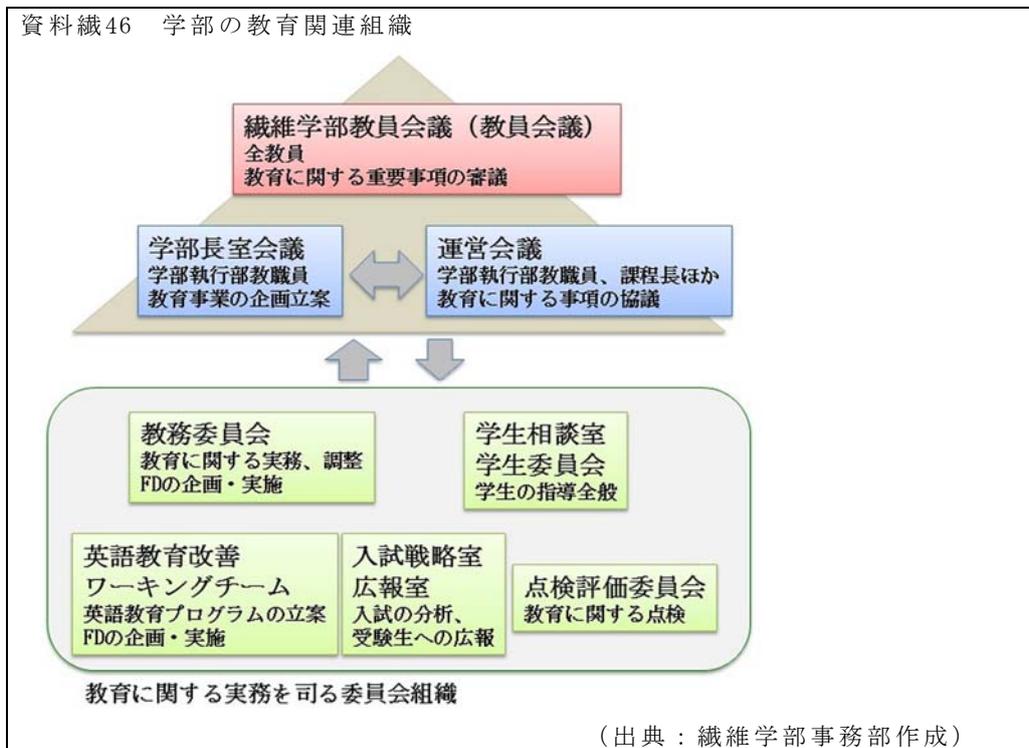
資料織45 平成27年度1年次生クラス副担任の配置状況

	学部・学科等	クラス担任数	
		正	副
繊維学部	繊維・感性工学系	系教員2	1
	機械・ロボット学系	系教員1	1
	化学・材料系	系教員3	2
	応用生物科学系	系教員2	1

（出典：平成27年度クラス(ゼミ)担任・副担任 教員名簿をもとに経営企画課にて作成）

（4）教員の教育力向上のための体制整備

学部教育に関する企画、実施、点検評価を行うため、学部執行部組織、委員会組織、教員会議が設置され、定常的な点検を行いながら改善に努める PDCA サイクルが動いている。（資料織 46）



①FD の実施

学部教授会に合わせて、定期的に FD を実施している。(資料織 47)

資料織47 繊維学部独自企画FD講習会

年度	企画名
平成 22 年度	繊維学部 FD 講習会～英語教育の改善について～
	第 1 回 GPA 勉強会 上田会場
平成 23 年度	繊維学部 FD 講演会「材料化学工学課程における成績評価の公表とその利用について」
平成 24 年度	繊維学部 FD 講演会「悩みを抱える学生への相談対応」
	繊維学部 FD 講演会「GPA 制度導入に際してのポイントや課題について」
	繊維学部 FD 研修会「『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～』(中央教育審議会答申)について」
平成 25 年度	繊維学部 FD 講演会「ゲートキーパーとして学生にかかわる」
	繊維学部教務委員会 FD「信大方式 GPA はどう機能するか」
	専門英語の学習・教育支援サイトの開設について
平成 26 年度	信州大学の学生像：日本と中国の学生像
	繊維学部 FD「カリキュラム改革に際して注意しておきたいこと」
	繊維学部材料化学工学課程 FD「eALPS 研修会」
平成 27 年度	繊維学部 FD「学生のつまずきへの理解と対応」
	広島大学大学院放射線災害復興を推進するフェニックスリーダー育成プログラムにおける Learning e-portfolio の活用
	繊維学部 FD「障害のある学生の理解と対応」
	高大接続システム会議(中間まとめ)に関する FD
	成績評価に学生の努力が反映される授業デザイン

(出典：繊維学部事務部作成)

② 授業改善アンケート、卒業時アンケート結果の活用

毎年度、学生への授業改善アンケートを実施し、教員の授業改善に活用している。平成23年度より卒業時アンケートを実施し、教育体制の点検評価に用いている。(資料織 48、織 49)

資料織48 授業改善アンケート

実施時期 毎年度の前期および後期の授業終了後  
 対象者 学部1-4年生全員  
 実施方法 キャンパス情報システムを利用したWebによる調査  
 質問用紙見本

「授業改善アンケート」設問一覧

対象学部： 繊維学部  
 開講年度： 平26 開講期間： 前期 授業種別： 実験・実習

番号	設 問	回答種別
1	全体的に見て、授業の内容は、授業によって達成しようとしている目標に、ふさわしいものであったと思いますか 授業内容は、達成しようとしている目標にふさわしかったか	評定 (5段階)
2	この授業では、この学部・系・課程のカリキュラム全体の教育目標やシラバスに沿った授業内容が提供されていたと思いますか 教育目標やシラバスに沿った授業内容が提供されましたか	評定 (5段階)
3	参考書の提示など、この授業のための授業時間外学習の情報提供・指示が、シラバスや授業中の説明等で与えられていたと思いますか 授業時間外学習の情報提供・指示が十分与えられましたか	評定 (5段階)
4	この授業の達成目標である、探求の仕方・姿勢、知識や技術などを、あなた自身は獲得できたと思いますか 探求の仕方・姿勢、知識や技術などを、獲得できましたか	評定 (5段階)
5	この授業について、改善すべきと思うことがありましたら書いてください 改善すべきと思うことがありましたら書いてください	自由記述
6	この授業について、教員が良い工夫をしていると感じられるものを書いてください この授業について、教員が良い工夫をしていると感じられるものを書いてください	自由記述
7	板書、プリント、画像等の補助教材は授業の理解に十分役立ちましたか 補助教材は授業の理解に十分役立ちましたか	評定 (5段階)
8	講義科目(受動的学習)との比較で実験・実習科目(体得学習)独特の効果を感じましたか 実験・実習科目(体得学習)独特の効果を感じましたか	評定 (5段階)
9	この実験・実習に対するあなたの取り組みから考えて、あなたはこの実験・実習の方法や内容について評価する資格があると思いますか この実験・実習を評価する資格があると思いますか	評定 (5段階)
10	この授業について、あなたは授業時間外に予習や復習、関連学習などを積極的に行いましたか 授業時間外に予習、復習、関連学習を積極的に行いましたか	評定 (5段階)
11	この授業を受けることで、自分自身の満足度を得ることができましたか この授業で、自分自身の満足度を得ることができましたか	評定 (5段階)

授業改善アンケート回答率 (%)

平成 22 年度		平成 23 年度		平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度	
前期	後期								
61.4%	52.4%	38.3%	34.3%	55.3%	44.2%	59.8%	48.2%	68.1%	54.9%

1年生から4年生までの全専門科目開講授業ののべ受講者人数のうち、回答したのべ人数の割合を示した。

(出典：繊維学部事務局作成)

資料織49 卒業時アンケート調査

各年度の卒業生全員に対して、卒業前の1～2月にeALPSを用いてアンケート調査を行った。

アンケート内容（一部抜粋）

繊維学部を卒業する皆さんへのアンケート調査票(平成23年度卒業生)

このアンケートは繊維学部を卒業しようとしている4年生の皆さんを対象にして実施します。

このアンケートは、皆さんのご意見やご感想を今後の学部運営に前向きに活かすためのものです。

繊維学部の教育や環境などに関して、皆さんが在学中に感じたことを率直にお聞かせ下さい。

調査結果は統計的に処理しますので、皆さんにご迷惑をおかけすることはありません。ご協力をお願いします。

設問	選択肢
3. あなたは何年に信州大学に入学しましたか	1. 2009年 2. 2011年 3. その他
4. あなたはこの春に卒業する予定ですか	1. 卒業する 2. 卒業しない 3. 決めていない
5. あなたはどの入試に合格して入学しましたか	1. 推薦入試 2. 前期日程 3. 後期日程 4. 編入学 5. その他
6. あなたは入学の際に所属を希望する課程を決めていましたか	1. 決めていた 2. 決めていなかった
7. 所属課程の決定は希望通りでしたか	1. 希望通り 2. ほぼ希望通り 3. 希望通りでなかった
8. あなたは所属した課程に満足していますか	1. 満足 2. 少し満足 3. 普通 4. 少し不満 5. 不満 6. その他
9. 繊維学部の系入試(系単位で募集して課程に所属するシステム)についてあなたはどのように考えていますか	1. 特に考えていることはない 2. 現行のままでよい 3. 課程 別に入試を実施した方がよい 4. もう少し多くの課程から選べた方がよい
10. 所属する課程を決定する方法についてあなたは満足していますか	1. 満足 2. 少し満足 3. どちらとも言えない 4. 少し不満 5. 不満
11. 所属する課程を決定する時期についてどう思いますか	1. 早すぎる 2. 少し早すぎる 3. 現状でよい 4. 少し遅すぎる 5. 遅すぎる
12. 課程決定方法についてどのように考えていますか	1. 特に考えていることはない 2. 現行のままでよい 3. 点数以外の基準を加えた方がよい 4. 課程の定員が決っていない方がよい

【教育目標の達成度について】

16. 繊維学部に入學する前にあなたが大学生活に求めていた物は何でしたか。次の中から最も適したものを1つ選んで下さい。	1. 真理を探究する 2. 専門的な知識や技術を習得する 3. 豊かな教養を身につける 4. 資格を取る 5. 学歴を得る 6. 課外活動をする 7. 友人を作る 8. 青春を謳歌する 9. その他
17. 繊維学部に入學して、あなたが大学生活に求めていた物が満たされましたか。最も適していると思われるものを1つ選んで下さい。	1. 満たされた 2. ある程度満たされた 3. どちらとも言えない 4. あまり満たされなかった 5. 満たされなかった

以下、質問設定項目

【講義等について】 【在学中の取り組みについて】 【卒業研究について】 【英語教育について】  
【繊維学部の施設等について】 【在学中の悩みについて】 【卒業後の進路について】 【就職について】 【繊維学部で身につけた能力や財産】 【大学院について】

(出典：繊維学部入試戦略室作成)

## ③ 共通教育の授業改善

機構では教育の質の改善・向上を図るため、授業改善アンケート、共通教育グッドプラクティスに取り組んでいる。(資料織 50、織 51)

資料織50：学生による授業改善アンケート

2015年(平成27年)10月8日

平成27年度前期全学教育機構「学生による授業改善アンケート」の結果

評価分析室全学教育機構分室

全学教育機構では、平成27年度前期に中間アンケートを行い、学生の要望を確認し、後半の授業が行われた。本結果は、期末に実施されたものによる。

平成27年度前期期末「学生による授業改善アンケート」は、以下の2とおりの方法により実施された。

- a. 総合人間科学系所属の各教員が担当する授業について授業中に用紙に記入する。
- b. 全授業題目を対象としてウェブ上で記入する。

アンケートの質問項目は、用紙・ウェブともに以下のとおりである。

<アンケート質問項目>

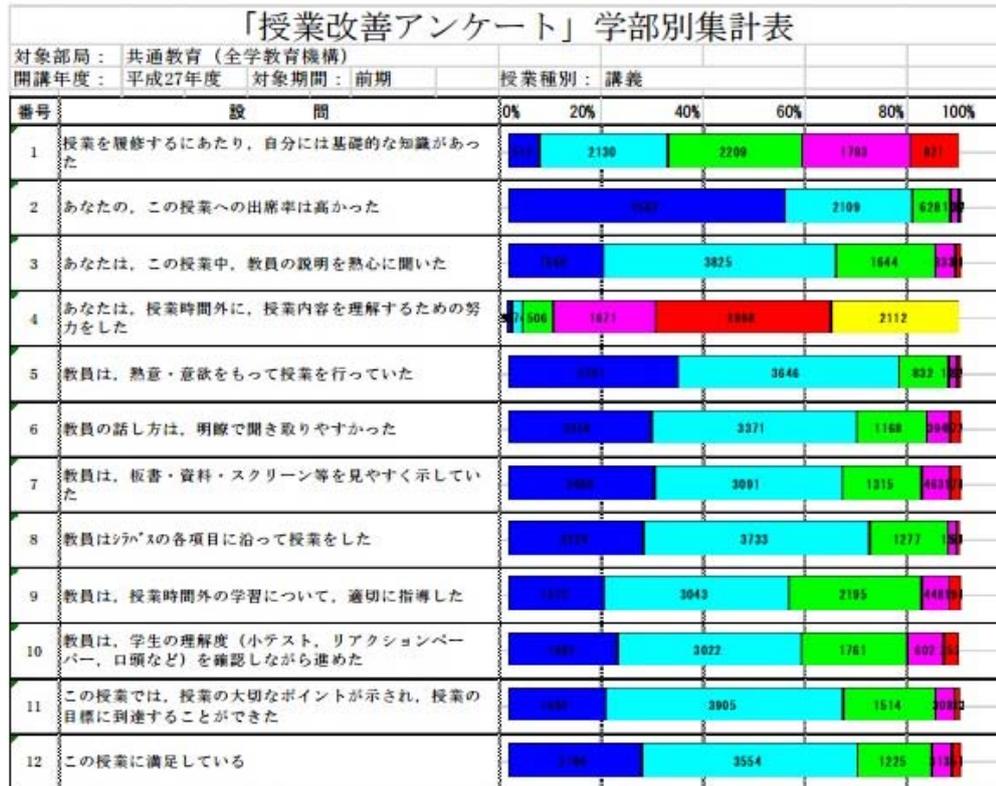
1. この授業を履修するにあたり、自分には基礎的な知識があった(5択)
2. あなたの、この授業への出席率は高かった(5択)
3. あなたは、この授業中、教員の説明を熱心に聞いた(5択)
4. あなたは、この授業時間外に、授業内容を理解するための努力をした(予習・復習等)(6択)  
※4. の選択肢(週4時間以上、週3~4時間、週2~3時間、週1~2時間、週1時間未満、全くしない)
5. 教員は、熱意・意欲をもって授業を行っていた(5択)
6. 教員の話し方は、明瞭で聞き取りやすかった(5択)
7. 教員は、板書・資料・スクリーン等を見やすく示していた(5択)
8. 教員は、シラバスの各項目に沿って授業をした(5択)
9. 教員は、授業時間外の学習について、適切に指導した(シラバスでの参考文献の提示等)(5択)
10. 教員は、学生の理解度(小テスト、リアクションペーパー、口頭など)を確認しながら進めた(5択)
11. この授業では、授業の大切なポイントが示され、授業の目標に到達することができた(5択)
12. この授業に満足している(5択)
13. この授業について、改善すべきと思う事、教員が工夫をしていると思う事、その他、意見、要望等がありましたら、書いてください(自由記述)

アンケートの結果は、部門長および評価分析室機構分室員が内容について検討・解析した。以下に回答について、科目群ごとにその結果を報告する。(用紙を使ったアンケートの結果についても、ウェブに取込して集計されている。)

1. 全体に関する結果

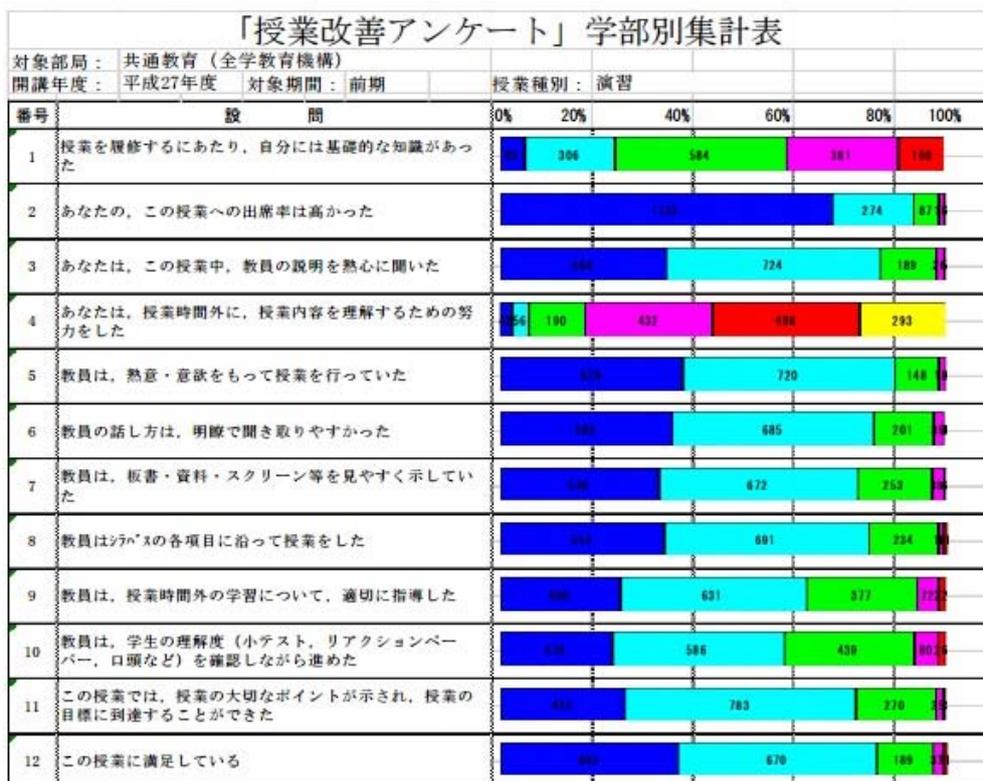
紙媒体によるアンケート実施クラス数を増やしたので、今年度(2015年度)前期の機構授業に対する授業改善期末アンケートの回答率は、2014年度前期の数字と対照させる(2014年、2015年の回答率の順序)と、講義全体：50%, 54%, 演習全体：41%, 49%, 外国語全体：46%, 79%, 実験・実習全体：56%, 76%へと、全ての科目群で増加した。期末アンケートの講義科目、演習科目、外国語科目の集計結果は、図1~3の通り。

図1【講義科目】



青：強くそう思う、水色：そう思う、緑：どちらともいえない、ピンク：そう思わない、赤：全くそう思わない  
 ※4.の選択数のみ 青：週4時間以上、水色：週3～4時間、緑：週2～3時間、ピンク：週1～2時間、赤：週1時間未満、黄色：全くしない

図2【演習科目】



(出典：平成27年度前期 共通教育「学生による授業改善アンケート」の結果)

資料織51 共通教育グッドプラクティス

全学教育機構では、企画実施する信州大学の共通教育の教育改善に資するため、すべての共通教育開講科目の中から、優れた実践を「共通教育グッドプラクティス」として毎年選定することとしています。これは、共通教育科目における、優れた取組を表彰し、内容およびその成果をあらゆる機会を捉えて全学に広め、もって共通教育さらに本学教育全体の改善への一助とするものです。

**選定の流れ**

1. **テーマ決定**  
「効果ある授業方法」を中心として、当該年度の募集テーマを決定します。
2. **公募**  
テーマに沿って、共通教育で開講する全科目あるいは科目群（複数科目の連携の場合）を対象に、自薦・他薦を問わず募集します。
3. **応募授業のピアレビュー**  
応募された取り組みについては、全学教育機構ホームページに掲載し、全学の教員に一定期間ピアレビューを推奨します。
4. **審査**  
全学教育機構教務委員会において行います。
5. **選定授業担当者による取組発表**  
取組発表会を実施し、選定授業担当者により、取組の概要と要点を発表していただきます。また、表彰式も行われます。

年度	テーマ
H22	信州大学の DP を実現するための共通教育における授業の実践的取組（1つの学位授与の方針（DP）を取り上げ、その実現に向けた、特に効果的な教育実践）
H23	人間力向上に向けた取組（コミュニケーション力・言語力・論理構成力の向上に向けた取組）

H24	男女共同参画の推進に向けての取り組み
H25	授業外学修時間を増やす取り組み
H26	地域課題実践授業の試み
H27	テーマ① 大学における教育内容・方法の改善等について テーマ② アクティブ・ラーニングについて

(出典：全学教育機構提供資料もとに経営企画課にて作成)

(5) 関係者からのニーズを把握する仕組み

平成 26 年に全学で卒業生に対するアンケート調査を実施した。(資料織 52)

資料織 52 卒業生アンケート

平成 26 年 12 月に、信州大学全学部において、卒業後 30 年、卒業後 10 年の卒業生を対象にアンケート調査を行った。繊維学部の調査対象者は 219 名で回収率は 21%であった。

(出典：繊維学部事務作成)

本学部では、オープンキャンパス、高校訪問、ホームカミングデーを実施し、アンケート等を通じて関係者からの学部に対する意見要望を把握している。(資料織 53、織 54、織 55)

データを学部広報室で分析し、教育課程の改善につなげている。(前掲資料織 46、30 頁)

資料織 53 高校生・受験生等からの意見の集約  
 オープンキャンパス実施概要(平成 26 年 7 月 27 日開催)

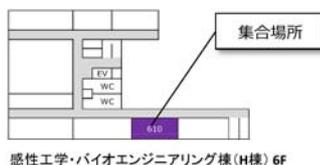
**Time Table**

		9:00 ~9:45	10:00 ~10:45	11:00 ~11:45	12:00 ~12:45	13:00 ~13:45	14:00 ~14:45	15:00 ~15:45	集合場所	
<b>受付</b>		8:20~14:00								講堂
学部共通	受験生対象 ガイダンス								総合研究棟 7F	
	1、2年生対象 ガイダンス								講義棟2F 28講義室	
	保護者対象 ガイダンス								午前：生協1F 午後：11講義室	
	キャンパスツアー								生協2F	
	相談コーナー								講義棟2F	
	展 示	TEXPO								総合研究棟 1F
疾走するファイバー展									総合研究棟 2F	
資料館									資料館	
繊維・感性工学系	ガイダンス								講義棟3F 32講義室	
	研究室公開								D3棟 H棟	
機械・ロボット学系	ガイダンス								講義棟1F 11講義室	
	研究室ツアー								A棟 H棟	
化学・材料系	ガイダンス								講義棟3F 34講義室	
	応用化学課程 材料化学工学課程 研究室公開								F棟	
	機能高分子学課程 研究紹介								講義棟3F 33講義室	
	材料化学工学課程 ポスター展示								講義棟3F 物理学実験室2	
応用生物科学系	ガイダンス								講義棟2F 28講義室	
	研究室ツアー								I棟 P棟	
<b>昼食・休憩</b>		8:00~休憩所として開放 (9:00~9:45除く) 11:00~13:00 ランチ営業 ~16:00まで休憩所として開放								生協1F
<b>体験実習</b>									H棟610	

**体験実習**

事前に体験実習に申し込まれた方は、開始時間までに以下の場所に集合してください。

実習テーマ：「感性計測：座りごちってどう測る？」  
 担当教員：繊維・感性工学系 吉田宏昭 准教授  
 時間：第1回 13:00~14:00 第2回 15:00~16:00  
 集合場所：感性工学・バイオエンジニアリング棟（H棟） 6F 610



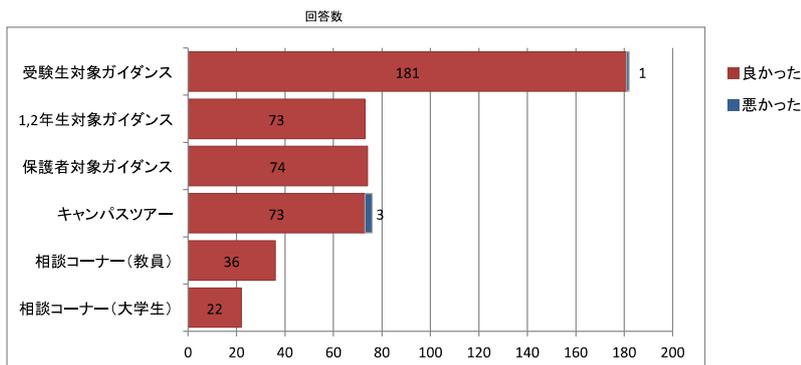
感性工学・バイオエンジニアリング棟(H棟) 6F

各年度オープンキャンパス参加者数の推移

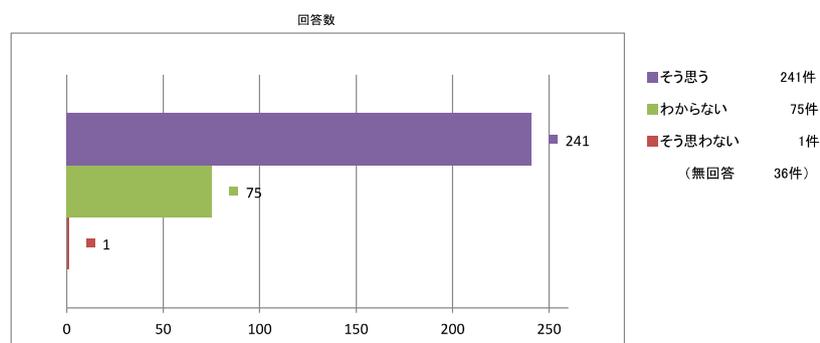
	H22	H23	H24	H25	H26	H27
体験実習	113	147	なし	なし	なし	なし
事前申込者	107	111	491	406	424	490
当日申込者	210	178	40	31	48	63
保護者等	250	244	366	307	383	476
計	680	680	897	744	855	1029

アンケート実施結果(平成 27 年度)

Q9-1 参加したイベントについて、ご回答ください



Q10 オープンキャンパスに参加して、繊維学部を受験しようとする様になりましたか。(回答者が保護者の場合には、「オープンキャンパスに参加してみても子供に受験を勧めたいかどうか」をご回答ください。)



主な感想・意見

- ・ガイダンスが細かく聞くことができ、進学への気持ちが高まった。
- ・繊維・感性工学系の上條研究室で実際に心臓の動きなど計測していただきました。その時は学生の皆様が優しく丁寧に教えてくださり、人間の生理活動+動きの仕組みが良く分かりました。
- ・ガイダンスの発表はどの方も説明がとても上手でわかりやすかったです。面白いところもあり、飽きのこない話でした。
- ・具体的な入試情報や授業内容について詳しい説明が聞けて良かった。
- ・体験実習がとても楽しかったです。学生さんたちの普段の生活や研究室のお話が聞けて良かったです。
- ・相談コーナーがあるのがとてもよかったです。普通ほかの人がいたりして聞きづらいことなく気兼ねなく相談できました。
- ・いたるところで案内をしていただいたり、質問に答えてくださる先生が立っていらしたので、良い印象と、進学しようという意欲を高めることができました。本日はオープンキャンパスをしていただき、ありがとうございました。
- ・信州大学だけにしかない繊維学部ということで、ここでしか学べないようなことをたくさん教えていただきました。今回のオープンキャンパスを通してますます信州大学繊維学部を私の進学先にしたいという思いが湧きました。

(出典:繊維学部広報室作成資料)

資料織 54 長野県外の高校訪問状況

活動実績		
平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
13 県 144 校	111 校訪問 (12 行程 23 名) 愛知 34 校、静岡 20 校、岐阜 12 校、三重 9 校、大阪 6 校、兵庫 6 校、群馬 15 校、新潟 9 校 ※京都 7 校は台風のため訪問中止 ※訪問校は訪問実績、繊維学部在学学生数、過去 5 年間の志願者数、高校偏差値等を参考にして選定。	93 校訪問 (10 行程 20 名) 愛知 30 校、静岡 20 校、岐阜 3 校、三重 9 校、山梨 12 校、群馬 9 校、新潟 9 校、京都 1 校 ※新規で山梨を実施 ※訪問校は訪問実績、繊維学部在学学生数、過去 5 年間の志願者数、高校偏差値等を参考にして選定。

活動実績		
平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度
115 校訪問 (13 行程 12 名) 愛知 30 校、静岡 20 校、岐阜 3 校、三重 10 校、山梨 11 校、群馬 9 校、新潟 10 校、石川 7 校、富山 7 校、福井 5 校、京都 2 校、滋賀 1 校 ※石川、富山、福井を 3 年ぶりに実施。 ※訪問校は訪問実績、繊維学部在学学生数、過去 5 年間の志願者数、高校偏差値等を参考にして選定。	77 校訪問 (8 行程 9 名) 愛知：6 校 (信大特別見学会意見収集)、静岡：21 校、山梨：10 校、群馬：9 校、富山：8 校、石川：8 校、福井：5 校、新潟：10 校 ※愛知 (見学会の意見収集以外で)、岐阜、三重は信州大学特別見学会に招待したため、訪問しなかった。	97 校訪問 (10 行程 6 名) 愛知：21 校、静岡：12、三重：7、岐阜：10、山梨：8、群馬：10、富山：7、石川：8、福井：5、新潟：9 ※愛知、静岡、三重、岐阜は信州大学特別見学会に招待したが来なかった高校かつ、繊維学部が重視する高校を訪問。 ※訪問校は訪問実績、繊維学部在学学生数、過去 5 年間の志願者数、高校偏差値等を参考にして選定。 改組について、H27 年度入試結果、就職状況等の説明を行った。

(出典:繊維学部広報室作成資料)

資料織 55 ホームカミングデー



2014年10月11日(土)開催

# 信州大学繊維学部 第7回ホームカミングデー Homecoming Day 2014

お帰りなさい。そして、ようこそ、信州大学繊維学部へ！  
～ 研究成果講演会 TEXPO 2014 ・ 研究紹介 ・ 卒業生講演会 ～

卒業生と繊維学部、学生の保護者と繊維学部とのつながりを維持・強化していくためのイベントです。  
卒業生や保護者の皆様に学部の現状を知っていただき、繊維学部での教育と研究にご支援をお願いします。

**日時** 2014年10月11日(土) 11:00～17:30 (受付10:00～)  
**会場** 信州大学 繊維学部 **共催** 繊維学部同窓会「千曲会」 **協賛** 信州大学 校友会  
**申込先** E-mail senshomu@shinshu-u.ac.jp TEL 0268-21-5303 FAX 0268-21-5318  
**申込バ切** 2014年9月26日(金)

マルベリーホール / M棟	講堂 / E棟	キャンパス全域
<p>◆ 歓迎挨拶 11:00～11:30</p> <p>・オープニング 「信州真田六文銭太鼓」演奏</p> <p>・学部長挨拶 「繊維学部の現状」</p> <p>・同窓会理事長挨拶 「千曲会の学部支援について」</p>  <p>◆ ウェルカムパーティー 11:30～12:15 参加費 無料</p> <p>「展示コーナー」(10:00～17:30)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学部紹介</li> <li>・同窓会「千曲会」の紹介</li> <li>・「千曲会コレクション」</li> </ul> <p>◆ 懇親会 16:00～17:30 参加費 3,000円</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・受賞者、受章者の紹介</li> <li>・経営薬部OB会「Fibers」の演奏</li> <li>・素歌</li> </ul>	<p>◆ 研究成果講演 13:00～13:30</p> <p>TEXPO 2014 【58th FRP CON-EX2013論文賞】 「炭素繊維複合材料の開発」(仮題)</p> <p>鮑 力氏 教授 繊維学部 機能機械学課程</p> <p>◆ 卒業生講演 13:35～14:10 【富岡製糸場 世界文化遺産登録記念】 「日本の絹文化遺産」(仮題)</p> <p>藤枝 貴和 氏 (学農15卒) 群馬県立日本絹の里 館長 宮内庁紅葉山御養蚕所 主任</p> <p>◆ 学生ミニ講演 14:10～14:30 【学生ベンチャービジネスコンテスト】 【受賞研究紹介】</p>  <p>◆ 課程(学科)別ミーティング 14:35～15:50</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究紹介</li> <li>・研究室見学ツアー</li> <li>・課程説明(修学状況、進路状況など)</li> <li>・研究室OB会 など</li> </ul>	<p>◆ 学部資料展示 10:00～16:30</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Texpo「研究成果展」(N棟1F)</li> <li>・疾走するファイバー展 (N棟2F)</li> <li>・繊維学部 資料館 (旧貯蔵庫)</li> </ul> <p>◆ キャンパスツアー 12:15～13:00 集合場所: マルベリーホール前広場</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・繊維学部資料館</li> <li>・Texpo「研究成果展」</li> <li>・Fii「産学連携研究施設」</li> </ul> <p><b>特別企画</b></p> <p>◆ 「真田の郷」見学ツアー 10月12日(日) 9:00～12:30 (予定)</p> <p>2016年NHK大河ドラマ「真田丸」放送決定を記念して見学ツアーを企画しました。 「真田氏歴史館」、「長谷寺」、「信綱寺」など真田幸村ゆかりの史跡をガイドと一緒に廻ります。</p> <p>募集人数 先着20名 参加費 入館料300円(予定)</p> 

(出典: 第7回ホームカミングデーポスター)

(水準) 期待される水準を上回る  
(判断理由)

繊維・ファイバー工学の学問分野の発展に呼応した学際領域の教育分野を充実させるため、平成24年度に3系9課程からなる教育実施体制を4系に組換えた。(資料織15、織27) 4系という入試の入り口は、高校の自然科学基礎科目である物理、化学、生物、および繊維学部特有な繊維・感性工学に対応しており、受験生にとって自分が志望する系を選択しやすいメリットがあり、受験生の志願倍率は3.5-4.7倍と安定している。(資料織21) 教育の内容と成果を絶えず検証し(資料織48、織49)、改善していく仕組みを学部内に構築しており(資料織46)、学生相談室の体制も整備した。(資料織36)

以上の点より、繊維学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育活動の状況は、繊維学部が想定している関係者が期待する水準を上回ると判断する。

観点 教育内容・方法

(観点に係る状況)

(1) 体系的な教育課程の編成

① 学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) に基づく教育課程の編成

本学部では、学科ごとに DP に基づき、CP に沿った教育課程を編成している。各授業の DP への対応状況を、カリキュラム・マップ、シラバスにより学生に明示している。(資料 繊維 56、繊維 57)

資料 繊維 56 学位授与の方針マップ(カリキュラム・マップ)抜粋

授業名	① 自己啓発能力	② 社会的能力	③ 環境問題への関心	④ 国際的視野	⑤ 創造力	⑥ 情報活用能力	⑦ 問題発見・解決能力	⑧ 専門知識・技能	⑨ 専門的知識	⑩ 専門的知識の応用	⑪ 専門的知識の活用	⑫ 専門的知識の応用	⑬ 専門的知識の活用	⑭ 専門的知識の活用	⑮ 専門的知識の活用	⑯ 専門的知識の活用	⑰ 専門的知識の活用	⑱ 専門的知識の活用	⑲ 専門的知識の活用	⑳ 専門的知識の活用	
理科指導法特論																					
介護等体験の意義と実際																					
インターンシップ(織)																					
インターンシップ(機)																					
インターンシップ(化)																					
インターンシップ(生)																					
環境内部監査実習																					
環境マネジメント																					
ビジネスアドミニストレーション																					
基礎化学(生・織)																					

(出典: 繊維学部教務委員会作成)

資料 繊維 57 シラバス

「(1) 授業のねらい」において、授業で得られる学位授与の方針の要素を明らかにしている。

登録コード	F2030	授業科目	機器分析 (応化)	担当教員	本吉谷 二郎
英文授業名	Instrumental Analysis	副担当	渡邊 真志・西井 良典	対象学生	化学・材料系4年 (応用化学課程)
単位数	2	講義期間	通年	曜日・時限	集中・不定期
講義室		授業形態	講義	備考	
<p>(1) 授業のねらい                  授業で得られる「学位授与の方針」要素/◎: 全学共通・化学及び化学関連分野の専門技術を修得し、関連する諸問題を解決する能力                  【授業の達成目標】                  ・研究を遂行する上で必要な各種測定手法を理解しそれを研究に活かすことが出来る。                  【授業のねらい】                  機器分析の学習を通じ、学習・教育目標E「物質・材料に関する基礎実験技術と結果の取扱い、および実験結果を考察する方法の修得」を目指す。</p>			<p>分光機器についてデータ解析のレポートを課し、適切な解析がどの程度できているかを判断のポイントとして評価する。                  (5) 履修上の注意                  研究遂行上に必要となるデータ解析のノウハウを得るために重要な授業なので、真剣に取り組む事。                  (6) 質問、相談への対応                  その場での質問が最も望ましい。                  (7) 学生へのメッセージ                  機器分析は分光学の原理に基づいているので、3年前期で開講された「分光学」の内容と関係づけられれば、理解は深まる。                  (8) その他</p>		
<p>(2) 授業の概要                  現代化学においては、原子・分子の同定や性質の解明のため、様々な分光学的手法が用いられている。そのような分光学的データを適切に解析するためには、それらの手法がどのような原理に基づいているかを理解することはもちろんであるが、データ解析に必要なノウハウの獲得も重要である。                  そこで、現代化学において用いられている様々な分光機器により得られる実際のデータを題材とし、データ解析の具体的な手法について説明する。</p>			<p>【教科書】                  【参考書】                  P. W. Atkins 著 千原秀昭・中村亘男 訳「アトキンス物理化学(上・下)第8版」(東京化学同人)</p>		
<p>(3) 授業計画                  以下の分光機器についてデータ解析の手法を学ぶ(順不同)。                  ・質量分析(2回)                  ・X線回折(2回)                  ・電子顕微鏡(1回)                  ・赤外線吸収(1回)                  ・ラマン散乱(1回)                  ・可視・紫外吸収(2回)                  ・けい光・りん光(1回)                  ・NMR(4回)                  ・ESR(1回)</p>					
<p>(4) 成績評価の方法</p>					

(出典: 繊維学部シラバス)

専門科目のシラバスは、各教員がシラバスガイドラインに従って作成し、教務委員会で点検している。(資料織 58、織 59)

#### 資料織58 シラバスガイドライン

このガイドラインは、信州大学で開講されるすべての授業のシラバスが備えるべき必須条件である。ただし、下記に記載する事柄をシラバスにおいて具体的にどのように表記するかについては、各学部学科の専門教育課程及び共通教育課程（以下、各学部）によって異なってくるため、より具体的な「シラバス作成の手引き」のようなものは、必要に応じて各学部において作成するものとする。

大学並びに各学部・学科等の定める『学位授与の方針』は、それぞれの教育課程の卒業生が卒業時に確実に身に付けていることが求められる能力・知識のリストであり、個々の授業は、学生が、大学並びに各学部・学科の『学位授与の方針』の能力・知識を身に付けるために配置されている。したがって、個々の授業が『学位授与の方針』のどの部分をどういう形で担っているのかをシラバスで明らかにするものとする。

『学位授与の方針』で定める能力・知識は、授業等を通して、学生が自分の努力によって手に入れるべきものである。シラバスでは、課題や小試験の内容と回数等、当該授業が担う『学位授与の方針』に至るまでに学生がしなければならないことを、学生が明確に理解できるように記述するものとする。特に、事前・事後学習のしかたについては、「受講生には、1単位当たり「45時間から授業時間を引いた時間量（下記の例参照）」の自主学習時間が課せられている」という『単位制度の実質化』の考え方に立ち、授業目標到達に向けて学生が何をしなければならないかを明確にする。その上で、それらが成績評価においてどのように扱われるのか、配点等を明らかにするものとする。

以上の考え方に立ち、以下の6項目を信州大学の授業のシラバスの必須記述項目とする。なお、シラバス作成に先立つ授業設計に当たっては、当該授業のカリキュラムの中での位置づけ・他の授業との関連を意識するものとする。

##### ① 授業の基本的な情報

授業名、担当者氏名、教室、開講日時（何曜日何時限目）、単位数、教科書、参考書。その他、各学部の必要に応じて記載する。

##### ② 授業が担う大学並びに学部・学科等の『学位授与の方針』の項目と、授業の達成目標

授業の達成目標は、この授業が担う『学位授与の方針』の項目をこの授業の言葉で言い換えたものとし、(知識面、スキル面、態度面の組み合わせで、またはいずれかの面で)「○○ができるようになる」という形を標準とする。

##### ③ 成績評価の方法

受講者が②の達成目標に到達するために通っていく過程（課題や小試験等）と、到達したことを示すエビデンス（最終レポートや期末試験等）のそれぞれの内容と配点を記述する。

##### ④ 成績評価の基準

この項では、「何ができていれば、授業の達成目標の水準から見て『卓越している』／『かなり上にある』／『やや上にある』／『その水準にある』』と言えるのかを記述する。

筆記試験の場合の例：

授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」

レポートの場合の例：

(i) 問題の設定が適切であり、(ii) その問題の背景を説明できており、(iii) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(iv) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法が適切に把握できており、(v) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。(i) から (v) の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「水準にある」。

##### ⑤ 事前・事後学習に関する情報

「受講生には、1単位当たり『45時間から授業時間を引いた時間量』の自主学習時間が課せられている」という『単位制度の実質化』の考え方に立ち、15回の授業に対して受講生がしなければならない予習・復習も授業の一部であるものとして、その授業での事前・事後の自主学習に関する計画を記述する。

##### ⑥ 授業計画

15回の授業のおよその内容と順番、課される課題や小試験等のスケジュールを記述する。課題については、提出締切も示す。評価のための最終試験を行う場合は、15回の授業とは別に

行う。

⑦履修上の注意

当該の授業での教科書や参考書の利用方法，注意事項など

⑧オフィスアワー及び授業担当者の連絡先

(出典：信州大学事務部作成)

資料織59 教務委員会によるシラバス点検

平成27年3月27日  
新旧教務委員 各位  
教務委員長  
平林 公男

平成27年度学部専門科目のシラバス点検について(依頼)

平成27年3月13日付で学部係から授業担当教員宛に依頼のありましたシラバス入力について、このほど入力期間が終了しましたので、現時点におけるシラバスデータを送付いたします。については各系・課程別専門科目につきまして、「信州大学シラバスガイドライン」に沿った記述がなされているか点検していただきますようお願いいたします。学部共通科目については当職と副委員長が行います。なお、各授業担当教員へは点検期間として3月31日まで入力可能な状態に設定してありますのでご承知置きくださいますようお願いいたします。

○点検期間：3月27日(金)～3月31日(火)

○シラバスWeb公開：4月1日(水)～

(出典：繊維学部事務部作成)

②専門科目

本学授業は、学則により共通教育科目と専門科目に区分している。(前掲資料織 17、12頁)

共通教育と自然科学基礎科目を1年次に修得し、2年次以降の専門教育へと段階的に履修するように構成されている。(資料織 60)

資料織60 繊維学部規程

(教育課程)

第4条 本学部における教育課程は、共通教育科目及び専門科目をもって編成する。

(教育課程の履修)

第5条 授業科目を、必修科目、選択科目及び自由科目に分ける。

2 共通教育科目を除く授業科目及びその単位数は、別表第1のとおりとする。

[別表第1-省略]

3 卒業に必要な単位数は、別表第2のとおりとする。

[別表第2-省略]

4 履修の方法については、別に定める。

5 第1年次において、前項により定めた所定の単位を修得しない者は、第2年次以降の授業科目を履修させない。ただし、審査の上、第2年次以降の授業科目の履修を認められた者は、この限りではない。

(単位の計算方法)

第6条 授業科目の単位の計算方法は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、その授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準によるものとする。

(1) 講義及び演習については、15時間又は30時間の授業をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30時間又は45時間の授業をもって1単位とする。

2 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち2以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前項各号に規定する基準により算定した時間の授業をもって1単位とする。

3 前2項の規定にかかわらず、卒業研究については、これに必要な学修等の成果を考慮して、単位数を定める。

(履修の手続)

第7条 学生は、学期の始めに履修しようとする授業科目及び単位数を担当教員に届け出なければならない。

(他大学等又は外国の大学等における履修等)

第8条 学則第50条第1項の規定により他の大学若しくは短期大学(以下「他大学等」という。)の授業科目を履修しようとする者又は学則第61条第1項の規定により外国の大学若しくは短期大学(以下

「外国の大学等」という。)に留学しようとする者は、所定の様式により、学部長に願い出なければならない。

[学則第50条第1項-省略] [学則第61条第1項-省略]

2 前項の規定により願い出があったときは、学部長は、当該履修又は留学を教育研究上有益と認め、かつ、当該大学等と事前に協議の上、受入れが許可された場合に限り、教授会の議を経て、学長にその許可を申請するものとする。

(出典：信州大学規程集)

本学部の専門科目は、自然科学の基盤の上に、繊維・ファイバーの知識と技術及びそれらの応用を習得させる内容となっている。各系では、系共通の教育から課程分属後の教育への流れの中で、専門教育課程を構築している。また、全学部生に必要な知識を身につけさせるため、学部共通科目を設けている。(資料織 61)

資料織 61 学部共通科目

科目名	開講年次	ねらい
繊維科学の基礎	1年次	繊維の世界とその広がりを教え、繊維学部生としてのアイデンティティを持つ。
安全教育	2年次	実験・実習における事故・災害を防ぐため、必要な最小限知っておくべき初歩的な知識を学習する。
技術者倫理	3年次	自然や社会を多面的に捉え、それに技術がおよぼす影響を理解する能力を習得する。
技術経営論	3年次	企業の生産活動の概要とものづくり事業の枠組みについて理解する。
ビジネスマネジメント	3年次	企業の生産技術に視点を置いて、会社経営の基本的な問題を理解する。

(出典：繊維学部シラバスより抜粋)

各課程は DP と CP を定め、それに基づいてカリキュラムを編成し、さらに授業科目体系を学生にわかりやすく示すため履修マップを作成している。(資料織 62)

資料織62 履修マップの例  
 ○バイオエンジニアリング課程

# バイオエンジニアリング課程 カリキュラム

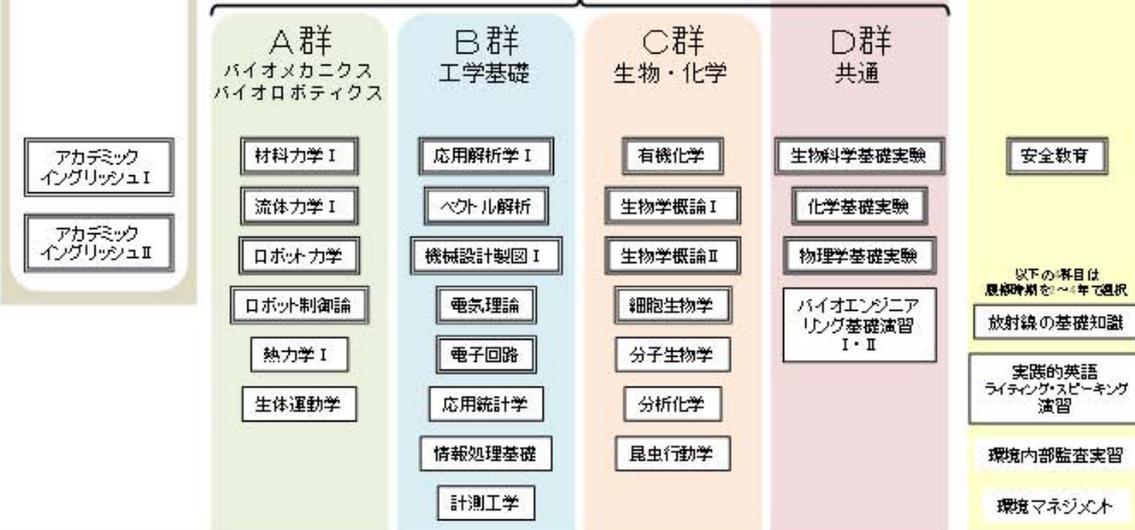
1年次



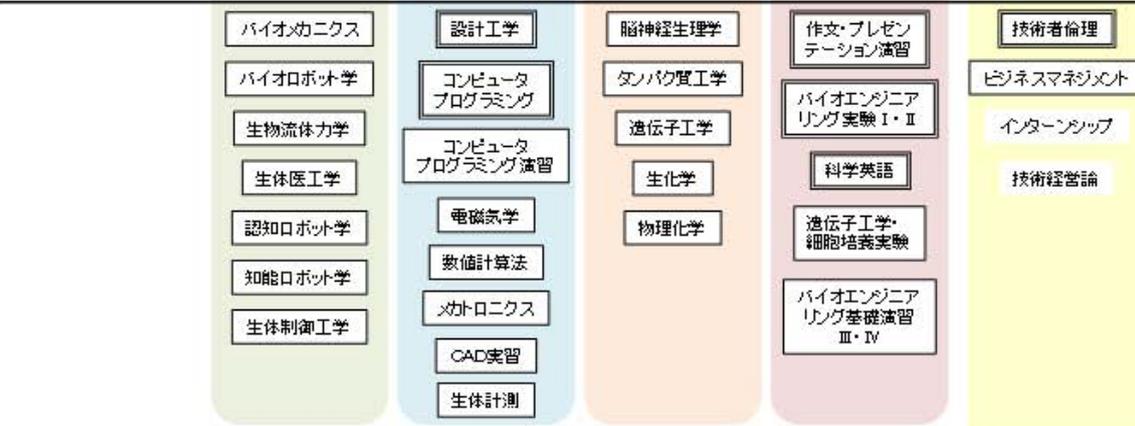
## 課程分属

4つの科目群に分かれた専門科目により  
 バイオエンジニアリングに関わる広範な知識を修得

2年次



3年次



4年次



○機能高分子学課程

機能高分子学課程 教育プログラム (平成26年度入学生)

	1年次	2年次	3年次	4年次
機能高分子学総合	新入生ゼミナール (生活の中の高分子)		インターンシップ 機能高分子学特別講義	卒業研究 I 卒業研究 II
英語	フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ I フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ II リスニング & リーディング I リスニング & リーディング II	アカデミック・イングリッシュ I アカデミック・イングリッシュ II 実践的英語ライティング・スピーキング演習	専門英語 実践的英語ライティング・スピーキング演習	高分子化学英語 実践的英語ライティング・スピーキング演習
一般教育	繊維科学の基礎 (材料の科学と技術 I) (材料の科学と技術 II) (応用化学 千夜一夜) (問題解決入門ゼミナール)			
数学基礎	微分積分学 I 微分積分学 II 線形代数学 I	工学基礎 安全教育 技術者基礎概論 放射線の基礎知識	技術者倫理 ビジネスマネジメント 環境プロセス工学 化学工学 技術経営論 放射線の基礎知識	放射線の基礎知識
物理基礎	力学	電磁気学	物性 電気化学 量子力学 量子化学 反応速度論 群論とスペクトル 高分子機器分析 統計熱力学	
化学基礎	一般化学 I 一般化学 II	無機化学 I 無機化学 II 有機化学 I 有機化学 II 有機化学 III 生物化学 I 生物化学 II 高分子物性 I	高分子材料・分子集合体 合成高分子化学 I 合成高分子化学 II 高分子物性 II 生物化学 III 生物化学 IV 高分子工業化学 分子集合化学 光・電子機能化学 有機化学 IV 医用高分子機能学 ファイバー機能工学 コロイド化学 膜機能化学	
工業数学 情報技術	情報科学演習	物理化学数学	専門基礎 熱力学 I 熱力学 II 分析化学 移動現象論	
		演習 実験 化学演習 I 化学演習 II 基礎化学実験 I 基礎化学実験 II	機能高分子学実験 I 機能高分子学実験 II	機能高分子学特別演習 I 機能高分子学特別演習 II

(出典：繊維学部事務部作成)

## ③ 共通教育科目

共通教育科目は、学士課程共通の学位授与の方針に基づき開講し、カリキュラム・マップ、シラバスにより学生に明示している。(資料織 63、織 64、織 65)

## 資料織 63 信州大学学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)

信州大学は、豊かな自然環境と、伝統ある歴史と文化に恵まれた信州に立地する大学です。本学では、かけがえのない自然や文化を愛する気持ちをもって、人類文化・思想の多様性を受け入れ、豊かなコミュニケーション能力を持つ教養人であるとともに、高度な専門知識と能力を備えて自ら課題を発見し、その解決にむけて挑戦する心をもった個性的な人材を育てることを理念・目標に掲げています。本学は、この理念・目標を踏まえて、以下に示す資質、知識や能力を、共通教育(教養教育、基礎教育)、専門教育及び課外活動を含む大学内外での幅広い教育活動を通じて培うこととし、ここに本学の学士課程に共通する学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)を定めます。

**豊かな人間性**

- ・みずからを他者や社会との関わりの中かで捉え、自己啓発に努めることができる【自己認識・自己啓発マインド】
- ・理想や倫理観をもって社会の平和的・持続的発展のために行動できる【社会的行動マインド】

**人類知の継承**

- ・人類の知を継承し、それらの成果の上に立って未来について創造的に考えられる【人類知の継承と未来創造マインド】
- ・世界の多様な文化、思想、歴史、芸術に関する幅広い素養がある【多様な文化受容マインド】
- ・科学諸分野の歴史やその成果に関して幅広く理解できる【科学リテラシー】

**社会人としての基礎力**

- ・日本語および外国語を用い、的確に読み、書き、聞き、他者に伝えることができる【言語能力】
  - ・対話を通じて他者と協力し、目標実現のために方向性を示すことができる【コミュニケーション能力、チームワーク力、リーダーシップ】
- ・多様な情報を適切に取捨選択し、分析・活用できる【情報活用力】
- ・みずから問題を見出し、すじみちを立てて解決できる【問題発見・解決能力】

**科学的・学問的思考**

- ・自然や社会の現象を普遍的な尺度や数量的指標を用いて理解できる【普遍的・数量的理解力】
- ・専門学問分野における知識・技能を備え、それらを活用できる【専門知識と応用力】
- ・専門以外の他分野に関する体系的な知識や素養がある【専門外の知識】

**環境マインド**

- ・信州の自然・文化的環境への興味と関心をみずから深めることができる【地域環境に関する理解】
- ・自然および人類社会が直面している環境問題を理解することができる【環境基礎力】
  - ・地球環境と人類文化との調和・共生のため、積極的に行動することができる【環境実践力】

(出典：信州大学ホームページ「学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」)

資料織64 学位授与の方針マップ（共通教育）

「学位授与の方針」マップ

検索条件を指定して「検索」をクリックしてください。

開講部局	共通教育(全学教育機構)	
開講年度	2014	年度(西暦)
開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年	
学位授与の方針の範囲	<input checked="" type="checkbox"/> 全学士課程共通	

201～300件 (全1260件中)

コード	授業名	◎自己認識・自己啓発	◎社会的行動マインド	◎人類知の継承と未来	◎多様な文化受容マイ	◎科学リテラシー	◎言語能力	◎コミュニケーション	◎情報活用力	◎問題発見・解決能力	◎普遍的・数量的理解	◎専門知識と応用力	◎専門外の知識	◎地域環境に関する理	◎環境基礎力	◎環境実践力
03000	脳の不思議を探る(認知神経科学入門)					○				○						
03004	臨床心理学	○														
03009	体と心のリハビリテーションを考えるゼミ	○	○													
03099	「考える」ゼミ							○		○						
03100	食と植物の文化論			○	○											
03101	動物と私たちの暮らし					○							○			
03102	応用生物学への招待					○										
03103	応用生物学への招待					○										
03197	土壌学ゼミ					○									○	
03198	自然誌・博物学ゼミ														○	○
03199	植物生態学ゼミ	○													○	
03200	教養としての物理学					○										
03201	宇宙から原子への旅			○											○	
03203	物理学の世界[SUNS]			○		○										
03205	身近な化学														○	
03207	応用化学～千夜一夜～					○				○						
03212	物理への誘い					○				○						
03292	化学ゼミ					○		○								
03293	量子化学入門ゼミ										○	○				
03296	化学計算入門ゼミ										○	○				
03300	「物質と学問の世界」ゼミ					○										

(出典：信州大学シラバス検索システム)

資料織65 共通教育シラバス		時間割コード	01088			
授業科目	授業題目	グローバルに生きるゼミ			担当教員	松岡 幸司
	英文授業名	Global Awareness Seminar				RUZICKA DAVID EDWARD
	単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	木曜・4時限
	対象学生	全				
	講義室	共通教育211演習室		授業形態	演習	備考
精神と思想	<p>(1)授業のねらい</p> <p>授業で得られる「学位授与の方針」要素/◎：全学共通                  ・◎みずから他者や社会との関わりをなかで捉え、自己啓発に努めることができる【自己認識・自己啓発マインド】</p> <p>【授業の達成目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバルとは何か、そしてグローバルな人材とはどのようなものなのか、という問いに対して、自分の生き方としてとらえ、説明できるようになる。</li> </ul> <p>【授業のねらい】</p> <p>名前のとおり「グローバルに生きる」ということを「自分の問題として考える」ゼミです。</p> <p>社会のグローバル化が当然のこととされ、グローバルな人材として社会で活躍することが求められている時代になっていますが、イメージが先行してあいまいな部分が多いように思えます。そのイメージだけで漠然とした活動をしていても結果として「グローバル化」は成りませんし、「グローバルな人材」にもなれません。例えば、英語ができてグローバルな人材ではありませんし、逆に、英語がそれほどできなくてもグローバルな人材として活躍できます。</p> <p>そこでこのゼミでは：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバルとは何か、そしてグローバルな人材とはどのようなものなのか？</li> <li>・現実的な問題として、自分にとっては具体的にどのようなものなのか？</li> </ul> <p>この二点について、「自分としての答え」を見つけ、自分の生き方を考え、これからの学生生活の目標や目的を明確にすることがこのゼミのねらいです。また、実際に海外に行く（留学、出張）ということはどういうことなのか、ということを実践的に考えることを通して、異文化理解・受容を促進し、社会的な行動規範についても理解を深めます。</p> <p>最終的には、単なる情報ではなく、自分の生き方としてグローバル化というものをとらえ、説明できるようになってもらいます。</p>				<p>グローバル、異文化理解、自己認識</p> <p>(4)授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション：「グローバル（に生きる）とは何か？」</li> <li>2-4. グローバルな人材とは？（自分の問題として考える）</li> <li>5-6. 海外へ行く、海外で暮らす/学ぶとは？(1)</li> <li>7-8. 海外へ行く、海外で暮らす/学ぶとは？(2)（担当：Ruzicka）</li> <li>9. グループ発表</li> <li>10-15. 様々なテーマで「グローバル」ということについて、自分の問題として考える。</li> </ol> <p>☆ 個人発表（試験期間終了直後に行います）</p> <p>(5)成績評価の方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業終了後の提出物：30%</li> <li>・グループ発表（相互評価+教員による評価）：30%</li> <li>・個人発表（相互評価+教員による評価）：20%</li> <li>・個人発表の報告書：20%</li> </ul> <p>(6)履修上の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単なる「受講」ではなく「積極的参加」が求められます。最初は難しいとは思いますが、自分で考え、ディスカッションをし、自分で、自分の答えを見つけることが求められます。</li> <li>・グローバルに生きたい、という意識の有無に関係なく、真剣に取り組む意志のある学生の参加は歓迎です。</li> <li>・毎回の授業は密度が高くなりますし、毎回の課題もありますので、「適当に済ます」ということでは参加できません。それでも、困難な点については、教員がサポートしますので、積極的に質問や相談をしてください。</li> </ul> <p>(7)質問、相談への対応</p> <p>オフィスアワーについては、初回の授業で伝えます。</p> <p>研究室は、共通教育南棟3階にありますので、質問や相談は、気軽に訪ねてください。ただ、事前にメール連絡をしておいた方が確実です。</p> <p>松岡：maulwurf@shinshu-u.ac.jp                  ルジチカ：davidr2@shinshu-u.ac.jp</p>	
		<p>(2)授業の概要</p> <p>「授業のねらい」に書いたような性格上、この授業は、「グループワーク」、「ディスカッション」、「プレゼンテーション」が中心になります。「知識を得る」のではなく、情報を得て、それについて考え、自分の問題として発信することを要求します。（その意味では、受け身的な態度では受講することはできません。）</p> <p>毎回の授業の大まかな流れは、以下のようになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 資料あるいは短いレクチャーを通して、テーマごとの問題点を明確にする。</li> <li>2. その問題点についてグループワークやディスカッションを通して理解を深めつつ、自分以外の視点についても触れ、自分の問題として考える。</li> <li>3. ディスカッションの結果をグループで（あるいは個人で）まとめて発表する。</li> <li>4. 授業内容のまとめとして、毎回短い文章を提出してもらい、（コメントをつけて返却し、それを次の授業から活かしてもらう。）</li> </ol> <p>(3)授業のキーワード</p>				<p>【教科書】</p> <p>特に指定のものはありません。授業は主にプリントを用いて進めます。</p> <p>【参考書】</p> <p>授業時にその都度紹介していきます。</p>

(出典：シラバス)

(2) 教育方法・学生支援の工夫

① グローバル化に対応した英語教育

学部内に英語教育改善ワーキングチームを常設し、TOEIC テストを指標に用いた独自の英語教育プログラムを実施している。(資料織 66、織 67)

資料織66 英語教育改善ワーキングチーム

ワーキングチーム員

- 平林公男教授 (評議員)
- 山口昌樹教授
- マイケル・ハニウッド准教授

業務内容

- TOEIC(LR,SW)試験の計画実施
- TOEIC試験スコアの分析および学生/教職員への広報
- 英語教育に関する講演会・FDの企画運営
- 英語教育に関する学生相談
- 情報収集(英語教育に関するセミナー参加など)

(出典：繊維学部事務部作成資料)

資料織67 繊維学部の英語教育プログラム

- ・ 新入生に対してTOEIC-Bridgeテスト(基礎的な英語コミュニケーション能力を評価する簡易テスト)を受検させ、そのスコアに合った英語授業のクラス分けを行い、学力に見合った学習環境を提供している。
- ・ 1, 2年生に対しては、年に2回、TOEIC-IPテストの受験を義務化。
- ・ 課外の自主学習用にe-learning教材を用意(英語学習用は民間企業より導入、科学英語用教材は自主開発)
- ・ 2年生の英語クラスでは、e-learningを利用した課外学習を課し毎回授業の中で小テストを実施。
- ・ 平成23年度より高年次用特別クラスを設置しTOEICスコア500点以上の者に受講資格を付与、平成25年度よりTOEICスコア優秀者に対して学部長表彰の実施、などのインセンティブを用意
- ・ 学生のTOEICスコアを多面的に解析し、個々の学生への指導助言を行うとともに、英語授業担当教員に対して受講者の成績データを提供し、次年度の授業改善に役立てている。この様に英語教育において学部独自のPDCAサイクルを確立している。また、英語教育に関する取組とその成果は、FDの一貫として毎年度繊維学部教授会で報告している。

学部英語カリキュラムの構成

年次	科目	スキル
4年	専門英語Ⅱ Writing	書
3年	専門英語Ⅰ Debate/Negotiation	話
2年	アカデミック英語Ⅱ(中、上)	聴・読
1年	アカデミック英語Ⅰ(初、中、上)	聴・読

授業(1h): 自学(2h)

TOEICで達成度を測る

プログラムの運営・支援体制  
 特任プログラムディレクター  
 アシスタント英語インストラクター  
 e-Learning学習支援システムコーディネータ

1, 2年: 自学(e-learning)を利用した自学の習慣付け

「学生にもとめる英語の能力」  
(目標値)

- ・ 卒業時TOEIC550点以上を求めたい。  
 目標は600点達成(就職の際、大変有利)  
 650点を超えると、海外の大学、大学院への留学の道が開ける。

計画(半年で25点レベルup)

年次	前期	後期
入学時	400点	大学生の全国平均: 理系
1年生	425点	後期450点
2年生	475点	後期500点
3年生	525点	後期550点
卒業時	575~600点	

- ・ 学習支援体制が整備され次第、卒業要件として450点を設定したい。

(出典：平成26年度新入生保護者説明会資料)

上級者用英語演習の年度別受講者数とシラバス

「実践的英語ライティング・スピーキング演習」年度別受講者数

開講年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27*
受講者数(人)	未開講	16	13	19	17	25

\*実践的英語ライティング・スピーキング演習 A (前期開講科目のみ)

登録コード	FZ080		授業科目	実践的英語ライティング・スピーキング演習		担当教員	HONWOOD MICHAEL ANDREW JAMES	
英文授業名	Practical English Writing and Speaking		副担当					
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	木曜・5時限		対象学生	学部3～4年
講義室	繊維25番講義室		授業形態	演習		備考		
<p>(1)授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」要素/◎：全学共通 【授業の達成目標】 【授業のねらい】 The purpose of this class is to familiarize participants with the structure and test of TOEIC SW TEST, and empower them to respond to each problem to the best of their ability in a way that maximizes their score. Participants must have sufficient reading and listening skill at least of TOEIC score 500 level. The level demonstrates a functional level of competence.</p> <p>(2)授業の概要 With business globalization accelerating so fast, in great demand are engineers with practical English communication skill. This course will focus on English production skill, namely, speaking and writing, in business environment. You will learn how to grasp contents of English contents such as e-mails, reports and memoranda fast and accurately and respond verbally and in writing quickly. You will learn how to propose solutions to various problems typically occurring in business situation.</p> <p>(3)授業計画 1. TOEIC SPEAKING TEST: TYPE 1 QUESTION Read a text aloud fluently. TOEIC WRITING TEST: TYPE 1 QUESTION Write a sentence based on a picture. 2. TOEIC SPEAKING TEST: TYPE 2 QUESTION Describe a picture - Giving information about a scene and speculating with details. TOEIC WRITING TEST: TYPE 2 QUESTION Respond to a written request. 3. TOEIC SPEAKING TEST: TYPE 3 QUESTION Respond to questions - Saying as much as you can in the time allowed. TOEIC WRITING TEST: TYPE 3 QUESTION Write an opinion essay A of at least 300 words</p>				<p>4. TOEIC SPEAKING TEST: TYPE 4 QUESTION Respond to questions using information provided TOEIC WRITING TEST: TYPE 3 QUESTION Write an opinion essay B- Planning, writing and revising the essay within the allotted 30 minutes. 5. TOEIC SPEAKING TEST: TYPE 5 QUESTION Propose an appropriate solution in an intelligible and coherent manner. TOEIC SPEAKING TEST: TYPE 6 QUESTION Express an opinion supported by appropriate reasons, arguments and detail.</p> <p>(4)成績評価の方法 TOEIC SW Test or equivalent test will be used to for course evaluation.</p> <p>(5)履修上の注意 ・TOEIC score over 500 is required. ・Notebook PC will be used in class.</p> <p>(6)質問,相談への対応 I will be available to meet with students on Wednesday from 12:15-13:00 on weeks when lectures are held. My office is Room 409 in Building H. I can meet at another time by appointment. Please contact me by e-mail at mike@hishu-u.ac.jp to arrange such an appointment.</p> <p>(7)学生へのメッセージ</p> <p>(8)その他</p> <p>【教科書】 (一覽参照) 【参考書】</p>				

(出典：繊維学部授業シラバス)

TOEIC-SW試験の受験料補助実施要項

## TOEICスピーキング・ライティングテスト

急速にニーズが高まっている**英語の発信スキルを評価する**  
**TOEIC-SWテスト**を次の通り実施します。

**TOEIC-IPテスト500点をクリアしている人は**  
**是非チャレンジして下さい。新しい未来が開きます。**

**受験料の一部を学部が負担します。**

**受験者を対象に「TOEIC-SW受験特訓」を1月に行います。**

- 1. テスト実施日時・会場 1月15日(木) 16:30 総研棟ミーティングルーム1
- 2. **申し込み期間**: 12月8日(月)～12月15日(月)
- 3. 受験申し込み: 学務係カウンター。TOEICスコア票のコピーが必要です。
- 4. **受験料と受験料補助**  
 受験料: 8800円 (12月19日までに生協で支払い)  
**受験料補助 4400円を補助します(実践的英語SW演習科目受講者を優先)。**  
 補助金は受験の確認後、口座に振り込まれます。  
 受験者が20名を超えた場合は、TOEICスコアにより対象者を決めます。  
 過去に、SWの補助を受けたことのある学生は、補助の対象にはなりません。  
 補助の対象にならなかった場合、申し込みをキャンセルできます。

年度ごとTOEIC-SW受検料補助者数

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27
補助対象者数 (人)	11	10	13	18	12	18

(出典：英語教育改善ワーキングチーム作成資料)

② 海外大学との連携強化による学生の海外留学支援

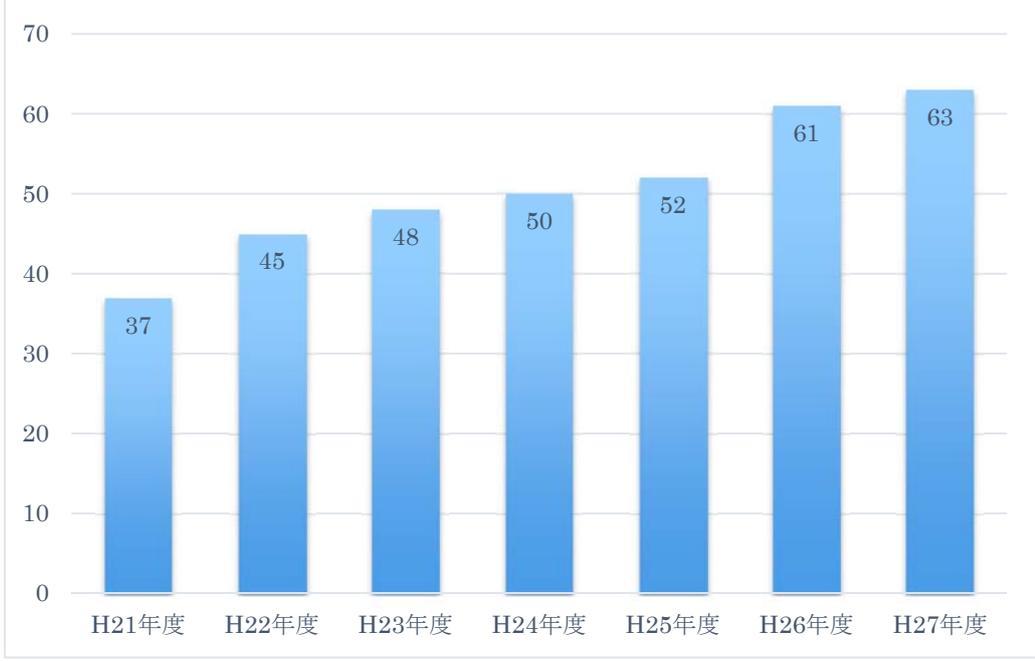
海外のファイバー工学分野の大学と交流協定を結び、学生の留学機会の拡大に努めてきた。協定校数は第1期最終年度の37から63に増加した。(資料織68)

資料織68 繊維学部の学術交流大学(ファイバー工学国際ネットワーク)

信州大学繊維学部 学術交流協定校・機関一覧「ファイバー工学国際ネットワーク」



海外の連携協定校数の推移



(出典: 繊維学部国際交流推進室作成資料)

国際交流推進室では以下のような支援活動を行っている。(資料織 69、織 70)

資料織69 繊維学部国際交流推進室

■国際交流推進室員構成

室員(室長)	下坂 誠	生物機能科学課程
室員(副室長)	平林公男	生物資源・環境科学課程
室員(副室長)	金 翼水	機能機械学課程
室員	鮑 力民	機能機械学課程
室員	ハニウツド マイケル	感性工学課程
室員	平田雄一	応用化学課程
室員	金井博幸	先進繊維工学課程
室員	福長 博	材料化学工学課程
室員	マクナミー キャシー	応用化学課程
室員	トッド パタキ	バイオエンジニアリング課程
室員	北澤 ふくみ	国際交流グローバルデスク
室員	竹鼻 円	学務係

(活動内容)

- ・年2回の留学説明会(留学体験者の報告会を兼ねる)(資料75)
- ・週2回のフランス語講座の開講(フランスへの留学希望者支援)(資料75)
- ・週2回の英会話サロン開催(学生に英語を使う機会を与える)
- ・グローバルデスク(海外連携支援業務者)による留学相談(随時受付)
- ・海外大学、研究機関との交流協定の締結、更新
- ・国際交流活動のデータベース作成
- ・学部案内英語版パンフレット作成
- ・学部ホームページを通じた国際交流活動状況の広報
- ・交換留学生の派遣、受入れの交渉
- ・留学生ガイダンスの実施
- ・留学生研修旅行の企画運営
- ・留学生に対する奨学金の案内、申請支援
- ・国際交流ニュースの発行

(出典：繊維学部国際交流推進室作成資料)

資料織70 海外留学説明会とフランス語講座の案内

平成23年度 第2回  
**海外留学説明会**  
(上田キャンパス)  
10月21日(金) 14:40-17:50  
繊維学部 講義棟  
10番講義室にて  
予約不要  
入退室自由

<前半: 14:40-16:10>  
留学全般についての説明のほか、交換留学、長期派遣留学制度、繊維学部独自の留学制度について重点的に説明します。また、奨学金情報や、就職活動との関連についても資料配布します。質問歓迎。

<後半: 16:20-17:50>  
留学経験者による体験談、アドバイスが聞けます。質問歓迎。留学への理解、関心をさらに深めるチャンスです。  
○交換留学(ENSAIT/フランス、マツダ/工科大/イ、予定)  
○長期派遣(オーストラリア大学/イ、アメリカ)  
※信州大学繊維学部を卒業後、奨学金を得て、修士・博士号を海外で取得した原幸宏さんにお話しいただけます。

【詳細・お問い合わせ】  
信州大学国際交流センター(SUIC)  
Tel: 0263-37-3365 / Email: suic@shinshu-u.ac.jp  
http://www.shinshu-u.ac.jp/ins0tu0on/suic/

フランス語講座 国際交流推進室主催  
~フランスに留学して繊維を学ぼう~  
第1回 2011年9月25日 16:20~17:50  
日時: 毎週 木曜日、金曜日 16:20~17:50  
場所: 講義棟1階国際交流室  
開講回数: 後期 02回(予定)、終了時期(12月)  
対象者: 学部生・大学院生・教職員で9: ンス5 興味6 あ7方

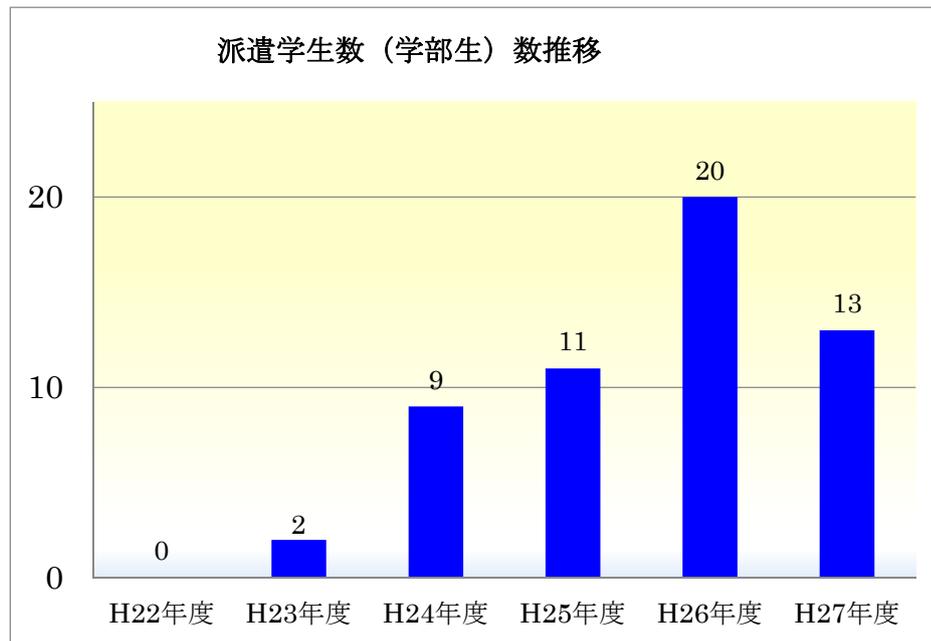
2009年後期に開講したフランス語講座の内容をさらに充実し、坂本聖子講師による[入門・少し進んだコース]週2回のフランス語講座として再開いたします。学務係で受講登録をお願いします。! 講座定員20名(先着順)。

問い合わせ先: 学務G(国際交流担当まで)

(出典：繊維学部国際交流推進室作成資料)

その結果、学部生の海外派遣件数は、第1期中期目標期間には数件程度であったのに比べて、第2期では55件と大幅に増加している。(資料織71)

資料織71 繊維学部生の海外派遣件数



注) 交換留学、語学研修、インターンシップ、ボランティアを含む

(出典：繊維学部国際交流推進室作成)

### ③ 繊維・ファイバー工学教育のための教科書作成

本学部の1年次必修科目「繊維科学の基礎」に用いる教科書「はじめて学ぶ繊維」を出版し教育に用いている。(資料織72)

資料織72 繊維学教育のための教科書出版「はじめて学ぶ繊維」

本学部共通の1年次必修科目「繊維科学の基礎」に用いている



第1章 世界は繊維でできている  
1 長くて細いと何が良い?  
2 繊維と人間

第2章 いろいろな繊維  
1 天然繊維  
2 バイオフィバー  
3 化学繊維  
4 高性能繊維  
5 繊維強化複合材料  
6 光ファイバー

第3章 繊維製品を作る  
1 繊維にする  
2 糸を作る  
3 布にする  
4 糸を染める

第4章 繊維製品を使う  
1 衣服  
2 感覚を測る

(出典:「はじめて学ぶ繊維」信州大学繊維学部編集、工業調査会2011年刊、ISBN 978-4-526-06631-3)

「繊維科学の基礎」のシラバス

登録コード	FZ010			担当教員	大越 豊 他
授業科目	繊維科学の基礎(織)			副担当	
英文授業名	Basics of textile science			対象学生	学部1年(繊維・感性工学系)
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時間	金曜・3時限
講義室	共通教育43講義室	授業形態	講義	備考	
<p>(1)授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」要素◎: 全学共通 ・繊維科学に関連する総合的な自然科学分野の基礎学力が身に付いている 【授業の達成目標】 【授業のねらい】 「繊維」とは何なのか? 「繊維」は現代社会でどのように役に立ち、どのように未来社会とつながっているのか? この授業は、日本全国でただ一つの「繊維学部」に入学してきた学生諸君に、繊維に関する基礎的知識を知ってもらうことをとおして、繊維学部生としての自意識(アイデンティティ)を持ってもらうことを目的としています。</p> <p>(2)授業の概要 「授業のねらい」で示したように、本授業では、「繊維とは何か?」に関して、「繊維」の基礎知識に拘りつつも、未来への発展も織り交ぜた授業を行います。このため、まず最初に身近な繊維と繊維学部の概要を知ることから始め、次にオープンドックスな繊維製品製造プロセスについて説明します。すなわち、現在主に使われている繊維材料(天然繊維、化学繊維)、繊維製品を製造する際の代表的な製造工程(紡績、製布、染色)、および繊維製品製造のための機械と繊維製品の評価法、さらに代表的な繊維製品としての衣服を取り上げます。この基礎を踏まえ、現在急成長しつつある新しい「繊維」として、繊維強化複合材料、光ファイバー、高性能繊維(高強度繊維、極細繊維等)、生物繊維(バイオファイバー、バイオベースファイバー)についても紹介します。</p> <p>(3)授業計画 1. 繊維とは何か? 2. 生活の中の繊維と繊維学部 3. 天然繊維 4. 化学繊維 5. 紡績 — 糸を紡ぐ — 6. 製布 — 糸を布にする — 7. 染色と後加工 — 糸を染める — 8. 衣服を作る 9. 繊維工学の歴史と繊維機械 10. 感覚・感性評価と繊維製品設計 11. 繊維強化複合材料 12. 光ファイバー 13. 高性能繊維 14. 生物と繊維 15. まとめ</p>			<p>(4)成績評価の方法 各回の授業ごとに小テスト、レポート等を行い、その総和によって評価します。すなわち、各回の成績の総和を100満点に換算し、90-100点が「優」、80-89点が「良」、70-79点が「可」、60-69点が「可」、60点未満は「不可」です。 毎回の授業で試験を行う形式のため、期末試験および再試験は行いません。 また、出席が2/3に満たない場合は「不受講」になります。</p> <p>(5)履修上の注意 小テストにはE-Alps2.0システムを利用しますので、利用法に習熟しておいてください。 また、上記の様に、成績は各回ごとの小テストもしくはレポートの総和で決まりますので、特に授業前の予習はしっかりと。毎回必ず予習し、授業内に行われる(ことのある)小テストに備えると共に、授業後に行われる(ことのある)E-Alpsでの小テストに先立ってしっかりと復習してください。</p> <p>(6)質問、相談への対応 できるだけ授業内および授業後に聞いてください。</p> <p>(7)学生へのメッセージ この授業をとおして、身の回りの繊維に興味を持ってください。また、未来の社会と繊維との関わりについての知識を得るのみならず、是非自分の問題として考えてください。これらの経験の中から、繊維学部の学生、および将来の繊維学部卒業生としてのアイデンティティを確立していただきたいと思います。</p> <p>(8)その他</p> <p>【教科書】 「はじめて学ぶ繊維」信州大学繊維学部編、日刊工業新聞社、¥1,900</p> <p>【参考書】</p>		

(出典：繊維学部シラバス)

また、繊維技術全般を学ばせる教科書として「最新テキスタイル工学 I, II」を刊行し、専門教育に用いている。(資料織 73)

資料織 73 繊維技術の教科書「最新テキスタイル工学 I, II」と使用授業科目  
繊維技術全般を学ばせる教科書として、下記の専門科目で用いている。



- 最新テキスタイル工学I  
「ヤーンテクノロジー」先進繊維課程(2年必修)  
「スポーツウェア設計工学」先進繊維課程(3年必修)
- 最新テキスタイル工学II  
「製品快適性評価法」先進繊維課程(2年必修)  
「快適性評価法」感性工学課程(3年必修)  
「インテリア工学」先進繊維課程(3年選択)  
「染色機能加工学」先進繊維課程(3年選択)  
感性工学課程(3年選択)  
「色染化学」応用化学課程(3年選択)

(出典：「最新テキスタイル工学 I, II」西松豊典編、繊維社2014年刊、ISBN 978-4-9902580-7-8)

④ 学生のベンチャーマインド育成

サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー(資料織 74)では、起業家育成セミナーの開催、ベンチャー関連授業の開講を通じて、起業家精神に富む創造的な人材育成に貢献している。(資料織 75、織 76)

資料織74 サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー (SVBL)

○理念

信州大学SVBLは、ベンチャービジネスの萌芽となるべき独創的な技術シーズを開発・研究すると共に、高度な専門職業能力と起業家精神に富む創造的な人材の育成を目的として、目的達成のために、以下のような事業に取り組んでいます。

- 1) 将来の我が国の産業を支える基盤技術についての研究開発プロジェクトの実施。
- 2) 研究開発を推進するための動向調査に関する研究者の海外派遣、および外国人研究者の招聘。
- 3) 大学院生および若手研究者の自由な発想、創造性を育成する教育研究の実施。
- 4) 国内外の先駆的研究者および産業界との情報交換、ならびに交流事業の実施。
- 5) その他本ラボラトリーの目的を達成するために必要な業務。

特に、大学院生を主とする若手研究者に対して、起業家精神の涵養を促す環境を提供することに注力しており、起業家育成セミナー等の講演会およびワークショップを開催しています。

さらに本ラボラトリーは、当地域のベンチャー産業の再活性化を図るための中心機能をも担っています。

○概要

国立大学法人信州大学のサテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー（信州大学SVBL）は、本学の大学院における、ベンチャー・ビジネスの萌芽的研究開発の推進、および高度な専門職業能力を持つ創造的な人材の育成を目的として、平成16年4月に発足しました。本ラボラトリーは、常田キャンパス（上田市）内にラボラトリー棟を置き、株式会社 信州TLOもその一郭にあり、また上田市産学官連携支援施設（浅間リサーチエクステンションセンター:AREC）棟と各階渡り廊下で直結しています。ARECは上田市が信州大学繊維学部構内に設置した産学官の連携を支援する施設で、17室のレンタルラボが用意されており、企業の技術研究者が利用しています。

また、約170社が参加するARECプラザも組織されています。地域企業との連携や研究者間の交流が図れるよう工夫された建物配置になっています。本ラボラトリー棟は、教育研究に必要とされる施設・設備に弾力的に対応するため、流動的な空間・設備環境を整備している。

プロジェクト研究スペースは、タイムリーな共同研究や競争的資金による研究の展開に応じて確保できる体制になっている。ラボラトリー棟4階のリフレッシュコーナーは、必然的に研究者間の交流とモチベーションを促し、また、1階のオープンスペースは、研究成果の展示やラボラトリーの広報の場となります。

○運営委員会

氏名	所属	役職
小西 哉	総合工学系研究科（繊維学部）	教授、SVBL長、運営委員長
中山 淳	医学系研究科（医学部）	教授
三宅 康幸	総合工学系研究科（理学部）	教授
天野 良彦	総合工学系研究科（工学部）	教授
市川 結	総合工学系研究科（繊維学部）	教授
南 峰夫	総合工学系研究科（農学部）	教授
千田 有一	地域共同研究センター（CRC）	工学部教授、CRC長
岡田 基幸	浅間リサーチエクステンションセンター（AREC）	ARECセンター長・専務理事、信州大学特任教授
大澤 住夫	（株）信州 TLO	（株）信州 TLO 代表取締役社長
内川 俊行	繊維学部 事務部	副学部長（事務担当）

○専門部会

森脇 洋	繊維学部 応用生物科学系 生物資源・環境科学課程	教授、SVBL 専門部会長
和田 功	繊維学部 繊維・感性工学系 感性工学課程	教授
平田 雄一	繊維学部 化学・材料系 応用化学課程	准教授
小山 俊樹	繊維学部 化学・材料系 機能高分子学課程	准教授
田口 悟朗	繊維学部 応用生物科学系 生物機能科学課程	准教授
松村 嘉之	繊維学部 繊維・感性工学系 感性工学課程	准教授
金井 博幸	繊維学部 繊維・感性工学系 先進繊維工学課程	准教授
鮑 力民	繊維学部 機械・ロボット学系 機能機械学課程	教授
中西 弘充	SVBL	助教

○ 外観



(出典：SVBLホームページ)

資料織75 学生のベンチャーマインドを育てるSVBLの活動

信州大学 SVBL 10周年記念シンポジウム

このたびは、9月、10月、11月、12月の4回連続で開催して、シンポジウムを開催することになりました。10月、11月、12月、1月、2月の5回連続で開催して、シンポジウムを開催することになりました。10月、11月、12月、1月、2月の5回連続で開催して、シンポジウムを開催することになりました。

**ファンケル**  
「ファンケル創業の原点 “木の届消”」  
池田賢二氏 株式会社ファンケル 代表取締役社長

**AOKI**  
「人間を磨き “格” を高める経営」  
青木康孝氏 株式会社AOKI 代表取締役社長

**ドトール**  
「成功する考え方」  
鼻明博道氏 株式会社ドトール 代表取締役社長

～元気の創業家たちの 想いを聴いてみよう～

**日本を代表する カリスマ経営者3名 上田に集合!!**

2014 **9/20** 土 14:00～  
信州大学繊維学部講義

12:30 開場  
14:00 開演挨拶  
14:30 講演  
15:45 ハリスカスセッション  
17:45 懇親会

お申込みお問い合わせ  
信州大学繊維学部 事務局  
〒400-8385 信州大学繊維学部 事務局  
TEL: 0268-21-5325 FAX: 0268-21-5326

オーディエンス 募集  
サポーター(支援者) 募集

あなたが創る! 信州の未来!  
～信州を元気にするビジネスアイデアやプランが大集合～

2014 **10/4** 日 12:30～17:30(開場12:00)  
信州大学松本キャンパス 経済学部講義棟第2講義室

基調講演  
大平 智之 氏  
株式会社大平 代表取締役社長

審査委員(予定)  
森川 亮 氏  
株式会社森川 代表取締役社長  
羽生 穂子 氏  
株式会社羽生 代表取締役社長  
羽生 田部 大 氏  
株式会社羽生 代表取締役社長  
矢野 光博 氏  
株式会社矢野 代表取締役社長  
内田 雅博 氏  
株式会社内田 代表取締役社長

森川 亮 氏  
株式会社森川 代表取締役社長

■オーディエンス(観覧者) 100名 (参加無料、先着順)  
■サポーター(支援者)

信州ベンチャーコンテスト2014公式ホームページ <http://shizuoka.wpblog.jp/>

(出典：SVBL作成ポスター)

資料織76 「ベンチャービジネス概論」「ひと・ものづくりプロジェクト」のシラバス

時間割コード	13101101	県内大学開放授業	市民開放授業
授業科目	ベンチャービジネス概論	担当教員	中西 弘充 他
英文授業名	Introduction to Venture Business		小西 哉
単位数	2	講義期間	前期 曜日・時限 水曜・5時限
講義室	共通教育56講義室	授業形態	講義
		備考	【地域】
授業のねらい	(1)授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」要素◎：全学共通 ◎対話を通じて他者と協し、目標実現のために方向性を示すことができる【コミュニケーション能力、チームワーク力、リーダーシップ】 ◎みずから問題を見出し、すじみちを立てて解決できる【問題発見・解決能力】 【授業の達成目標】 ・グループの必要事項をつくることで、チームで働く力を身につけることができるようになる。 ・ブレインストーミング、SWOT分析などの手法を活用することで、目的や課題を明らかにすることができるようになる。 【授業のねらい】 現代社会において会社の仕組みを知ることは社会の一端にとって大切な事である。会社を起こす(つくる)という行為は、その仕組みを良く理解することにつながる。会社の基礎となるプロジェクト(事業計画)を実行するためには、企画・立案・運営などの総合的な能力が必要である。また、成功させるためにはプロジェクトをまとめるリーダーシップの育成やチームワークの向上が必要である。長期的に高度な専門知識を学ぶだけでは不十分であり、思考や行動を変え実践的知識が今の社会に必要とされる。本授業では得た知識を実践的に使う能力を、グループワークを取り入れながら学ぶことを目的とする。		
授業の概要	本授業では自ら会社をつくる(ベンチャーを起業する)ことに限定せず、研究室や就職後に企業の組織に入ってから活躍する場面においても必要である。実践的なプロジェクト遂行に関する知識と能力を、グループワークで学ぶ。身近なところにある課題を見つけ、どのようにしたら解決できるかを考え、どのように実行に移せるようになるかを計画する。課題解決学習：HL (Project Based Learning) を実践する。		
授業のキーワード	地域産業活性化、課題解決型授業、アントレプレナーシップ(起業家精神)、事業計画、ビジネスプラン、グループワーク、コミュニケーション		
授業計画	(1) 4/8 オリエンテーション 担当：中西、小西 (2) 4/15 「プロジェクトマネージャー講座(株式会社山田産 大月会長)」 担当：中西、小西 (3) 4/22 「信州大学で活躍している学生団体の紹介・研究事例の紹介」 担当：中西 (4) 5/1 「プロジェクトマネジメントとは、プロジェクトの設定、協力企業の紹介」 担当：中西 (5) 5/13 「大学における知的財産とは、知的創造サイクルを考える(信州UO 榎坂氏)」 担当：中西 (6) 5/20 「社会に必要な能力を知る。【社会人基礎力】とは、外部アイデアコンテストの紹介」 担当：中西 (7) 5/27 「グループでの事業計画を作る：課題の発見【ブレインストーミング】」 他：担当：中西 (8) 6/3 「グループでの事業計画を作る：アイデアの整理【KJ法】」 他：担当：中西 (9) 6/10 「グループでの事業計画を作る：戦略計画【SWOT分析】」 他：担当：中西 (10) 6/17 「グループでの事業計画を作る：管理会計【損益分岐点】」 他：担当：中西 (11) 6/24 「プレゼンテーション演習1【プレゼンの構成】」 担当：中西 (12) 7/1 「プレゼンテーション演習2【情報の可視化】」 担当：中西 (13) 7/8 「プレゼンテーション演習 前半グループ」 担当：中西、小西、梶井、林 (14) 7/15 「プレゼンテーション演習 後半グループ」 担当：中西、小西、梶井、林 (15) 7/22 「授業の総括」 担当：中西 なお、授業の進行状況により内容は変更することがある。		
毎回の授業の冒頭で前回の授業の振り返りを行い、終了前に授業の理解度を確認するための課題を実施する。1回目が6回目の授業まで知識を得ることを中心に実施し、7回目から12回目の授業ではグループワークを中心にプロジェクトの企画・立案・運営を実施する。プロジェクトのテーマは下記の3つから選択する。 1. 文化芸術振興の商店企画(仮称店舗経営) 2. 観光産業の商店企画(仮称地産の活性化) 3. 信頼が増える課題の解決策提案(信州ベンチャーコンテストへの応募) ※1回目と12回目の授業では各グループで企画したプロジェクトについて発表し、プレゼンテーションの評価(図表の使い方の、説明の展開、印象)および、プロジェクトの実現性(具体的内容、市場性、優位性、総合評価)について評価する。	1回目と12回目に自己評価を実施し、授業を通じてどのように成長したのかを確認する。 15回目に提出するレポートには、授業で学んだことで自分がどれだけ成長できたかの自己評価(10段階点)とエピソードを記載する。 (5)成績評価の基準 (1) プロジェクトのテーマの設定が適切である。 (2) テーマの背景を説明できる。 (3) テーマにどのような課題があるかを明確にすることができる。 (4) 課題に対してどのような解決策があるのかを提示することができる。 (5) 授業で学んだ知識を紐づけることができる。 (6) 新しい価値を提案することができる。 (7) 教員を感心させるレベルにある。 上記の全てを満たしていれば「卓越している」、6項目を満たしていれば「かなり上にある」、5項目を満たしていれば「やや上にある」、4項目までできていれば「標準にある」、各項目は毎回の授業の課題、プレゼンテーション、レポートで評価する。 (6)事前事後学習の内容 課題の発見と解決は身近なところからヒントがある。身近な事例を授業の中で紹介するので、普段から本や新聞を読み、様々な情報を収集するとともに、商品の販売戦略などを観察すること。授業で使ったスライドを6Pにアップするので、資料と一緒に復習し使い方を覚えること グループワークでプロジェクトを企画・立案するので、授業外にグループ毎に集まりブラッシュアップを行うこと。 (7)履修上の注意 本授業は対話型の演習を含むため、60名を上限に受講制限をする。初回の授業で人数の多い学部から制限を実施するので、受講を希望する学生は必ず前回の講義に参加すること。 社会人基礎力については下記ホームページを参考にすること。 <a href="http://www.iti.go.jp/pol/cy/ky/soryoku/index.html">http://www.iti.go.jp/pol/cy/ky/soryoku/index.html</a> (8)質問、相談への対応 質問や相談は授業終了後に受け付け、もしくは随時メールで受け付け。アドレスは <a href="mailto:hokanai@shinshu-u.ac.jp">hokanai@shinshu-u.ac.jp</a> 信州ベンチャーコンテスト、キャンパスベンチャーグランプリ、テクノナレッジジャン、テクノ愛などの学生コンテストへの応募希望者は個別に支援する。 【教科書】 指定しない。 【参考書】 大学1、2年生の間にやっておくこと 学習BOOK【改訂第3版】 日経文庫「起業家 編著」 日経R&B 発行 ISBN78-8212-194-2 900円/枚 必要に応じて授業の中で紹介する。		

登録コード	FB637	授業科目	ひと・ものづくりプロジェクト I	担当教員	小西 哉
英文授業名	Objective Project I			副担当	河村 隆
単位数	1	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期
講義室		授業形態	実習	備考	
授業のねらい	(1)授業のねらい 授業で得られる「学位授与の方針」要素◎：全学共通 【授業の達成目標】 【授業のねらい】 学生が主体的に学習課題を発見し、解決策を探る授業科目です。信州大学の中期・中期計画である「教室内外における学生の自主的な学習意欲を促進する多面的な環境の整備」に対応します。教職員が学生に知識や技術を一方的に伝える従来の授業で「教わる」のではなく、学生が自ら「学びとる」学習活動を行います。学生が自ら発見 (Plan)、行動 (Do)、フィードバック (Check and Action) することによって、学習成果を創ります。自ら発見し、自ら探求し、自ら解決策を見出すことで、創造性溢れる個性豊かな自律型人材として成長します。学生同士や教職員との意思疎通を図りながら協働作業をすることにより、計画力/実行力/チャレンジ精神/コミュニケーション能力/リーダーシップなどの、社会が要求する総合能力を実践的に獲得できます。また、コンテストやレースなどに参加して、学習成果を定量的かつ客観的に確認できます。				
授業の概要	教員から複数のプロジェクトが提供されます。また、学生が自分の希望するプロジェクトを提案し、教員の審査を受けた上で実施することも可能です。プロジェクトを提案し、採用されるためには、次のような要件を満たす必要があります。 ①機械工学課程の学習・教育目標に合致する内容であること。 ②10時間以上の学習活動を行うものであること。 ③定期的(1週間1回を原則とする)ミーティングを行うこと。 ④ミーティングの記録を指導教員に毎回提出すること。 ⑤最終報告書を指導教員に提出すること。 ⑥コンテストやレースなど、第三者の立ち会いのもとで客観的な評価を受ける場に参加できることが望ましい。 現在、繊維学部機械工学課程では次のような「ひと・ものづくりプロジェクト」が活動中です(年度によっては、実施されないプロジェクトもあります)。 ①信州大学ソーラーカープロジェクト(新エネルギー自動車) ②からくり工房プロジェクト(ロボットコンテスト) ③学生フォーミュラープロジェクト(ガソリンエンジン自動車) ④信州大学SMLのR-D5活動 ⑤その他(学生提案型) 学生は自ら提案したプロジェクトあるいは既存のプロジェクトに参加し、企画/設計/製作/運営/発表/総括などを経験します。また、問題点や課題を発見し、解決を図る経験をしめます。				
授業計画	(1)年間を通じて、授業時間外に実施されない学習活動を行います。学習計画パターンはプロジェクトによりさまざまあり、場合によっては夜間や休日に学習活動を行うこともあります。 ②プロジェクト実施期間中は定期的(1週間1回を原則とする)ミーティングを行います。 ③ミーティングの記録を指導教員に毎回提出します。 ④最終報告書を指導教員に提出します。				
成績評価の方法	(4)成績評価の方法 ①プロジェクト活動への出席：30点 ②プロジェクト活動への貢献：30点(自己評価15点+他者のスタッフによる相互評価15点) ③コンテスト等への参加と成績：10点 ④レポート：20点(指導教員による評価) ⑤学習目標達成度：10点(自己評価)				
教科書	指定しません。 【参考書】 ●指定しません。				

(出典：信州大学学部授業シラバス)

⑤ 共通教育科目における教育内容・方法の工夫

⑤-1 新入生ゼミナール

高等学校までの勉学から、大学での学びへと橋渡しをするため、各学部・学科等で1クラス 20人程度により必修2単位として開講している。各ゼミでは、入学時に配布の「新入生ハンドブック」を参考資料としている。(資料織 77)

資料織77 新入生ゼミナールの概要及び新入生ハンドブック

共通教育の目標の「⑥ 大学教育における基礎的な能力の育成」の内の「大学教育を受けるための基礎能力の育成」を目的とします。

受験勉強中心の高等学校までの勉学から、自ら学ぶ態度を培い、学問の面白さ、自身の専門への動機付けにより、大学での学びへと橋渡しをするためのゼミナールを前期、又は前期及び後期(学部・学科(課程・系)によって指定)に開講します。

基礎的な情報通信技術、情報の集め方の確認や、授業の受け方、大学の諸施設の使い方などの基本から始まり、口頭・文書によるコミュニケーションの基礎を含む大学での学びへの導入教育など、大学における学習の一般的スタイルの獲得を目指します。また、共通教育を中心に自らの学習の目標とそのための方針の立案を行います(ポートフォリオ作成)。

教員と学生の人格的な交流を活かしつつ、基本的には、大学に入ったばかりのみなさんが、大学生として主体的に勉学に取り組む姿勢をつくる場として開設されます。

レポート作成、発表を通じて日本語の作文力や話し方について訓練し、専門教育の内容や施設に直接触れることを通じて、大学生としてのみなさんの意識形成を図ります。

このゼミナールは学部・学科(課程・系)の方針に従い、学部・学科(課程・系)の教員によって実施されます。

なお、参考資料として、入学時に配付する「新入生ハンドブック」があります。

(出典：2015共通教育履修案内，信州大学新入生ハンドブック2015)



信州大学

新入生ハンドブック 2015



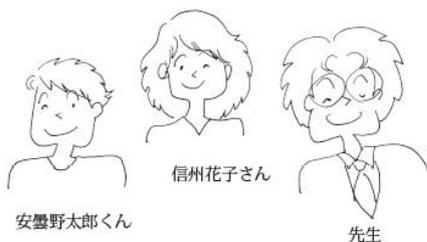
信州大学 全学教育機構

新入生ハンドブック-目次	
前書き	i
序章 信州大学学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)	1
第1章 何のために学ぶのか - 10年後の世界を想像しよう -	7
1.1. 卒業後の世界を知ろう	7
1.2. 情報伝達技術の革新とその影響	14
1.2.1. コミュニケーション(情報伝達)技術の進化	14
1.2.2. 技術革新の光と影	17
1.3. 急速に変化する社会で活躍するために:	
知の訓練場「大学」	22
1.3.1. 自分で問題を発見する	22
1.3.2. 森の中に木を見る	23
1.3.3. 真の知識を身につける	24
1.3.4. 目標がすべて	26
第2章 大学での学習スキル	31
2.1. 大学の授業とは	31
2.2. 学ぶ意義は自分で考えなければならない	33
2.3. 授業は学びの一部でしかない: 自主学習が大事	34
2.4. 自主学習の例	35
2.4.1. 内容を理解するために、話してみよう	36
2.4.2. 専門のある何でも屋に	37
2.5. 学習観を再考しましょう	39
2.6. 能動的な学びを	41
第3章 探す・集める・探す	47
3.1. 調べるとは	48
3.2. 資料を探す	51
3.2.1. 辞典を使う	51
3.2.2. 検索術語	53
3.2.3. 図書館で探す	56
3.2.4. インターネット検索を使う	61
3.3. 問いを作り上げる	64
第4章 レポートの書き方	69
4.1. レポートとは?	69
4.2. レポートの構想とメモ	70
4.3. 問題の見つけ方	72
4.3.1. 文献はうたがってかかる	72
4.3.2. 常識はうたがってかかる	73
4.3.3. 自分でデータを集めてみる	73
4.4. レポートの構成と文章	74
4.4.1. ねらいを短い文章に	74
4.4.2. ミニ目次のすすめ	74
4.4.3. 分かりやすい構成を	77
4.4.4. 文体はどうするか	77
4.4.5. 受け身の表現は避ける	77
4.5. レポートの落とし穴	78
4.5.1. 一次資料って何だろう	78
4.5.2. 意見の流用	79
4.5.3. 専門用語の罠	79
4.6. 形をととのえる	80
4.6.1. まずは表紙から	80
4.6.2. 一般的なかたち	81
4.6.3. 見やすい体裁に	81
4.6.4. 引用と脚注	82
4.6.5. 推敲はかならず	83
4.7. レポートから論文へ	83
4.8. 口頭発表にむけて	84
4.8.1. 発表原稿の棒読みはなぜわかりにくいのか	84
4.8.2. 口頭発表のメリットを最大限生かすには	85
4.8.3. 質疑への対応	86
第5章 学生生活を設計しよう 勉強も遊びも	93

ii

5.1. 信州大学学生相談センターおよび 全学教育機構相談室について	93
5.2. 学習の科学	94
5.2.1. 時間の前借りはしない	95
5.2.2. とにかく始めたほうがよい	95
5.2.3. 休まないで能率が落ちる	96
5.2.4. すぐ復習しないと忘れる	96
5.2.5. 暗記物は就寝前が良い?	96
5.2.6. 五感を使う	98
5.3. タスクを管理する	98
5.3.1. 忘れ防止対策	99
5.3.2. 未完了の対策を大別する	99
5.3.3. 自分の処理時間を把握する	100
5.3.4. 学生の自由時間はたっぷりある?	101
5.3.5. 課題の作業時間を見積もる	102
5.3.6. 手帳かスマートフォンか	103

登場人物



iv

(出典:「信州大学新入生ハンドブック2015」)

⑤-2 教養ゼミ・大学生基礎力ゼミ

上述のほか、学部混合で行われる1クラス20名程度のゼミナールが開講されている。  
(資料織 78)

資料織 78 教養ゼミナール及び大学生基礎力ゼミ

**【教養ゼミナール】**  
 本学は種々の専門性を持つ8学部からなる総合大学であり、1年次に全学部生が松本キャンパスで学びます。ゼミナールは学部混合で行われますので、多様な物の見方を知る機会を得ることができます。また、個々の教員の専門が活かされています。また原則として25名を超えた場合の受講制限は、数の多い学部生から行うなど同一学部生に偏らないような処置をしています。教養ゼミナールでは、多くの事例的な研究を行い、学生が自分の知識や人生を社会との関係の中で位置付ける機会を提供します。討論やプレゼンテーション等も積極的に取り入れながら、物事の多面的な理解と深い洞察力を養います。

**【大学生基礎力ゼミ】**

**「大学生基礎力ゼミ」について**

信州大学で、一人前の大学生として有意義な学生生活を送りたい方のために、「大学生基礎力ゼミ」(社会科学群)を7コマ開講します。興味のある方は是非受講してください(詳しくはシラバスで確認してください)。

一人前の大学生のあるべき考え方を教えてもらった。

この授業のおかげで、グループの話し合いなどで意見が出せるようになり、楽しかったです。

大学に入学して、今までとの違いや、これからどのように勉強していったらよいか分からない状態だったが、毎週の授業の中で少しずつ形作ることができた。

ふりかえりレポートを毎週書くことで、自分についてよく知ることができ、本当に良い生活が送れた。

昨年受講した学生の声

平成 27 年度開講数

	前期	後期
教養ゼミナール	53	36
大学生基礎力ゼミ	11	0

(出典：「2015 共通教育履修案内」)

⑤-3 ICT 活用教育

松本キャンパス以外の高年次学生が共通教育科目を受講するため、ICTを活用した授業を実施している。(資料織 79, 織 80)

資料織 79 平成 27 年度 信州ユビキタスネットシステム (SUNS) 利用授業の開講状況

前 期		後 期	
授 業 名	担 当 教 員	授 業 名	担 当 教 員
ネイチャーライティングのすすめ (環境文学 I) 【SUNS】 【EA】	松岡 幸司	環境文学のすすめ (環境文学 II) 【SUNS】 【EA】	松岡 幸司
キャリア形成論 I -本当の自分を理解するステップ- 【SUNS】	小池 健一	キャリア形成論 II -自分の将来像を探るステップ- 【SUNS】	小池 健一
物理学の世界 【SUNS】	矢部 正之	新聞と私たちの社会 【SUNS】 (信濃毎日新聞社寄附講義)	分藤 大翼
検索の科学 【SUNS】	鈴木 治郎	現代医療における物理学 【SUNS】	矢部 正之
現代ドイツの言語と日常ゼミ 【SUNS】	松岡 幸司	現代ドイツ事情ゼミ 【SUNS】	松岡 幸司
ドイツ語初級 (総合) I 【SUNS】	松岡 幸司	ドイツ語初級 (総合) II 【SUNS】	松岡 幸司
ドイツ語中級 (読解) I 【SUNS】	松岡 幸司	ドイツ語中級 (読解) II 【SUNS】	松岡 幸司
線形代数学 I 【SUNS】	高野嘉寿彦	一般化学 II 【SUNS】	村上 好成

一般化学 I 【SUNS】	村上 好成	
(出典：「2015 共通教育履修案内」をもとに経営企画課にて作成)		

資料織 80 平成 27 年度 共通教育『EA』科目(e-Learning のみで行う授業)の開講状況			
前 期		後 期	
授 業 名	担当教員	授 業 名	担当教員
ネイチャーライティングのすすめ (環境文学 I) 【SUNS】 【EA】	松岡 幸司	環境文学のすすめ (環境文学 II) 【SUNS】 【EA】	松岡 幸司
ジェンダー論 【EA】	加藤 善子	ジェンダー論 【EA】	加藤 善子
日本人のための英作文練習ゼミ 【EA】	加藤 敏三	検索の科学 【EA】	鈴木 治郎
ドイツ語初級 (総合) I 【EA】	松岡 幸司	ドイツ語初級 (総合) II 【EA】	松岡 幸司
フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ I 【EA】	田口 茂樹	フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュ II 【EA】	有路 憲一
リスニング&リーディング I 【EA】	近藤 富英	リスニング&リーディング II 【EA】	近藤 富英
ドイツ語中級 (読解) I 【EA】	松岡 幸司	ドイツ語中級 (読解) II 【EA】	松岡 幸司
ロシア語中級 I 【EA】	佐々木 寛	ロシア語中級 II 【EA】	佐々木 寛
ハングル中級 I 【EA】	延 鎮淑	ハングル中級 II 【EA】	延 鎮淑
キャンパスライフと健康 【EA】	川 茂幸		
(出典：「2015 共通教育履修案内」をもとに経営企画課にて作成)			

⑤-4 教育方法・学習支援

上記のほか、履修登録上限単位、習熟度別クラス編成、リメディアル教育、各種英語資格試験による単位認定、放送大学との単位互換、県内他大学との単位互換を行っている。(資料織 81)

資料織 81 共通教育科目における教育方法や学習支援
<p><b>【履修登録上限単位】</b>                  共通教育科目では、1学期に履修登録できる単位の上限*が学部ごとに定められています。                  ※ 履修登録単位数の上限は共通教育科目のみで、専門科目、教職に関する科目は含みません。                  大学での勉学は授業での学習に加えて、出席する授業の予習、復習を含む十分な自主的学習時間の確保が前提となっています。こうした趣旨から、履修登録単位数の上限制度が設けられています。                  1年次に必修となる単位数より30%程度多くなっていますので、興味を持った授業を十分に履修できると思います。                  なお履修登録単位数の上限を超えて履修することはできません。                  また、前期の成績が優秀な学生で学部長の許可がある場合には、後期に個々の学生ごとに履修登録単位数の上限を設定することが認められます。</p>
<p><b>【習熟度別クラス】</b>  <b>英語</b> トップレベル・イングリッシュを除きすべて学部別であり、また習熟度別クラス編成になっています。(上級) (中級) (初級) の3レベルです。習熟度別クラスが編成され、授業がはじまる前までに掲示されます。指定されたクラス以外のクラスを履修することは原則としてできません。  <b>微分積分学 I, 力学, 生物科学 I</b> 基礎科学科目の履修方法は学部・学科(課程・系)により異なりますので、各学部・学科(課程・系)の履修指導に従ってください。学部・学科(課程・系)でクラスが指定されますので、指定のクラスで受講してください。なお、微分積分学 I, 力学及び生物科学 I については、高校における履修状況等を考慮し、一部の学生についてクラスの指定があります。以下の①～③に示した授業については、対象学生となる学生が学部・学科(系)から掲示等で指定されますので、指示に従って受講してください。</p>
<p><b>【リメディアル教育】</b>                  大学での学習にスムーズに取り組んで行けるように、基礎を学ぶための授業です。積極的に活用しましょう。各科目のリメディアル教育授業については、以下の通り実施します。掲示により受講を指定された学生は、以下を確認の上、授業に臨んでください。                  次の①～④の対象学生は、授業開始日までに、全学教育機構公用掲示板にて周知します。なお、指定を受けない場合でも、受講人数に余裕がある場合は、授業担当教員に申し出て、受講することができます。                  ① 英語基礎</p>

講師：特任教員(火5)，特任教員(木5)

授業内容：基礎的な英文法事項を中心に学習する。

実施期間：平成26年4月22日～平成26年7月8日(ただし、5月2日・5月8日を除く。)

講義室：火5<34番>・木5<34番>

その他：原則として指定された曜日・時限のクラスで受講してください。

英語基礎の対象学生については、FAE I (初級)の初回クラスにおいてテストを行い決定します。対象者は、4月18日(金)までに公用掲示板にて周知します。

#### ② 基礎数学

講師：特任教員(月4・水5(各10回))，特任教員(水4・木4(各10回))

授業内容：高校の数学Ⅰ及びⅡを中心に数学Ⅲまで

実施期間：平成26年4月16日～平成26年6月30日(ただし、5月8日を除く。)

講義室：月4<51番>・水5<64番>・水4<42番>・木4<51番>

その他：学部・学科(課程・系)から指定を受けた対象学生は、原則として指定された曜日・時限のクラスで受講してください。

#### ③ 基礎物理

講師：特任教員(火5・金5)，特任教員(水5・木5)，特任教員(木5)

授業内容：力学の基礎

実施期間：前期 第2,3週 第5,6週 第8,9週 第11,12週 第14,15週

※授業の週(回)は、表紙裏の学年暦を参照してください。

講義室：火5<53番>・水5<53番>・木5<53番>・木5<55番>・金5<53番>

その他：学部・学科(課程・系)から指定を受けた対象学生は、原則として指定されたクラスで受講してください。

#### ④ 基礎化学

講師：特任教員

授業内容：高校の化学Ⅰを中心に化学Ⅱまで

実施期間：前期 火曜日の4時限・5時限

平成26年4月22日～7月8日(ただし、5月2日を除く)

講義室：火4・火5<52番>

その他：学部からの指定事項等の詳細は、4月に公用掲示板で確認してください。

#### 【各種英語資格試験による単位認定について】

TOEIC, TOEFL, IELTS, 実用英語技能検定(英検)等によって英語科目(1年次の4単位分)の単位認定ができます。

#### 【放送大学との単位互換】

本学に在籍する学生が放送大学との単位互換(本学の授業の代わりに放送大学の授業を受講して単位を修得すれば、本学で修得すべき単位とみなす制度)を希望する場合は、「特別聴講学生」として受講することができます。ただし、受講の対象は教育学部、医学部、工学部、農学部及び繊維学部の学生に限ります。

#### 【県内他大学との単位互換】

信州大学の学生は、この協定により長野県内他大学が開講する授業を受講することができ、その受講により取得した単位は、信州大学の単位として認定されます。単位互換の授業は、みなさんが他大学に通学して授業を受けるタイプと、遠隔講義システム(SUNS)\*を利用して信州大学の教室で他大学の授業を受けるタイプの2種類があります。

《遠隔講義システム(SUNS)\*による受講》

平成22年度からは、長野県内他大学の授業を遠隔講義システム(SUNS)\*を通じて信州大学で受講できるようになりました。(他大学の特別聴講学生として受け入れられます。)この遠隔講義システムを利用した授業を受講すれば、他大学に通学しなくても信州大学の教室で、他大学の授業を受講できます。遠隔講義システム(SUNS)\*を利用した他大学の開講題目は、共通教育科目のうち「教養科目」として認定され、卒業に必要な単位に算入されます。

(出典：2015共通教育履修案内を基に経営企画課にて作成)

(3) 社会や地域へ向けた教育提供

社会人や地域住民の方に大学の授業を提供する方途として科目等履修生を募っている。  
 (資料織 82) また、市民開放授業は以下のとおり実施している。(資料織 83) 出前講座にも積極的に取り組んでいる。(資料織 84)

資料織82 科目等履修生の受入実績

(単位：人)

平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
1	3	3	4	2	1

(出典：繊維学部事務部作成)

資料織83 市民開放授業の実績

正規の学生のために開講している通常の授業を、「市民開放授業」として一般市民にも開放している。生涯学習に対する社会的な要請に応え、本学と地域社会の連携をより一層深めることを目的としている。

(単位：件，人)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
開放授業数	79	93	92	78	71	69
実施数	2	3	2	2	5	6
受講者数	2	3	2	2	6	6

(出典：繊維学部事務部作成)

資料織84 出前講座の実績

出前講座は、長野県内の公民館、生涯学習センター、図書館及び博物館等の生涯学習機関、幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の教育機関並びに保育園及び公的な性格を持つ機関及び団体からの申込みを受けて、本学の教員が各地に赴いて講座を行うもの。

(単位：件，人)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
登録講座数	22	23	23	22	19	17
実施数	11	13	6	10	7	4
受講者数	1366	2236	434	559	879	947

(出典：繊維学部事務部作成)

## (4) 国際的に通用する技術者育成の取組

材料化学工学課程では、平成 14 年に化学関連のエンジニアリング分野で日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定を受けて以来、授業や演習の改善に継続的に取り組んできており、国際通用性が確保された教育プログラムを学生に提供している。(資料織 85)

## 資料織85 JABEEプログラム

## 【材料化学工学課程】

## 1 教育方針・目的・目標

## 1) はじめに

材料化学工学課程は、資源・エネルギー・環境問題の解決に役立ち、持続性のある社会を目指した材料およびその製造プロセスや利用システムに関する学問を教育・研究する課程である。繊維学部において充実している材料化学分野に広い工学的視点を養う化学工学を取り入れて特色のある教育を行っている。当課程の教育プログラムは日本技術者教育認定機構(JABEE)から認定を受けており、プログラムを修了した本課程の卒業生は、質の高い研究者・技術者基礎教育を受けたことが客観的に証明されると同時に、国家資格である「技術士」の第1次試験が免除される。卒業生は、化学、繊維、電気機器、機械と幅広い業種へ就職し、材料化学研究者・技術者として活躍している。

材料化学工学課程ホームページ <http://seimitsu.shinshu-u.ac.jp/>

JABEEホームページ <http://www.jabee.org/>

## 2) 教育と研究

教育面では、経済性、安全性、信頼性、社会および環境への影響などを考慮しながら工学的に問題を解決できる能力を身につけるために必要な講義や実験・演習を行っている。研究面においては、(1)先端装置、数理的解析を用いた物性解明、(2)原子・分子レベルの相互作用を考慮したいろいろな機能を持つ微粒子・薄膜・繊維材料などの創出、(3)エネルギー貯蔵材料、燃料電池、太陽電池、半導体・光学材料などの開発、ならびに(4)エネルギーと環境を総合的に考えたプロセス・システム設計、シミュレーション、LCA(ライフサイクルアセスメント)などに注目している。このような教育と研究を通して、総合的な見地から、(a)材料とその製造プロセスの開発、(b)システムの評価と設計、(c)コンピュータを用いた複雑な現象の体系化のできる柔軟でかつ国際的な視野をもった研究者・技術者を養成することを課程の目的としている。

## 3) 学習・教育目標

本課程における学習および教育の目標は、国際的な視野を持った化学、材料系の研究者・技術者として必要な能力と技術を身につけることであり、以下のAからGで示される。

## 目標A 自然や社会を多面的に捉え、それに技術がおよぼす影響を理解する能力

- (1)【教養】種々の歴史、文化、習慣、価値観、風土、経済などに関する知識を通して、幸福・福祉や豊かさなどの概念が多岐にわたることを認識する能力
- (2)【本質把握】多面的に総合的にものごとを捉え本質を把握する能力
- (3)【協調性】自分自身や自国など自分たちの文化や価値観、利益だけでなく、他者・他国の立場から物事を考えることができる能力
- (4)【異文化交流】地域人、企業人、他大学の教員・学生など背景の異なる人と積極的に交流する機会をもつ能力
- (5)【技術者倫理】技術と自然や社会などとの係わり合いと技術者の社会的な責任を理解できる能力

## 目標B 自立した研究者・技術者として行動する能力

- (1)【自己責任】自立した研究者・技術者として適切な判断と責任ある行動をする能力
- (2)【自己把握】自分自身の幸福や人生の目的について考え、自分の特徴を把握する能力
- (3)【環境適応】環境に適応して自らのモチベーションを高める能力
- (4)【変化志向】自ら新しいことに挑戦しチャンスをつかんでいく積極的行動力
- (5)【達成】自立して仕事を計画的に進め、期限内に終わることができる能力

## 目標C コミュニケーションをはかり協同作業をする能力

- (1)【発信】日本語による記述、口頭発表を通して発信する能力
- (2)【意見交換】日本語による討議を通して双方向の意見交換がはかれる能力
- (3)【英語基礎】英語によるコミュニケーション基礎能力
- (4)【英語文献講読】英語で書かれた学術論文、技術文書を読み正確に内容を把握する能力
- (5)【リーダーシップ】自ら積極的に行動することで周囲を牽引する能力
- (6)【チームワーク】チームのメンバーと協力して目的を達成する能力
- (7)【傾聴】教員、先輩、友人に自ら進んで指導や助言を受けられる能力
- (8)【育成】後輩を育成・指導できる能力

## 目標D 科学・工学の基礎知識を理解する能力

- (1)【数学基礎】数学に関する基礎知識、およびそれらを応用できる能力
- (2)【科学基礎】物理、化学、生物に関する基礎知識、およびそれらを応用できる能力
- (3)【情報基礎】情報技術に関する基礎知識、およびそれらを応用できる能力
- (4)【工学基礎】工学に関する基礎知識、およびそれらを応用できる能力

**目標E 化学、材料に関する工学的問題を解決する能力**

- (1) 【専門基礎】化学工学理論、熱力学、移動現象論に関する専門基礎知識、およびそれらを問題解決に利用できる能力
- (2) 【無機有機】無機化学、有機化学に関する専門基礎知識、およびそれらを問題解決に利用できる能力
- (3) 【物性】材料の物性に関する専門基礎知識、およびそれらを問題解決に利用できる能力
- (4) 【材料】材料に関する専門基礎知識、およびそれらを問題解決に利用できる能力
- (5) 【基礎実験】物性や材料に関する基礎実験技術、およびそれらを問題解決に利用できる能力
- (6) 【総合】物性や材料に関する専門知識を経済性・安全性・信頼性・社会および環境への影響を考慮しながら問題解決に利用できる应用能力、デザイン能力、マネージメント能力

**目標F 工学システムやプロセスを設計する能力**

- (1) 【プロセス】反応や分離に関する工学専門基礎知識、およびそれらを問題解決に利用できる能力
- (2) 【システム】プロセス・システム工学に関する専門基礎知識、およびそれらを問題解決に利用できる能力
- (3) 【応用実験】プロセスやシステムを含めた応用実験技術、およびそれらを問題解決に利用できる能力
- (4) 【総合】工学システムやプロセスに関する専門知識を経済性・安全性・信頼性・社会および環境への影響を考慮しながら問題解決に利用できる应用能力、デザイン能力・マネージメント能力

**目標G 現代の社会問題を工学的に解決する能力**

- (1) 【目標・課題設定】社会の要求と自らの強みの両面を考えて目標や課題を設定する能力
- (2) 【問題解決】必ずしも正解のない問題に取り組み、実現可能な解を見つけ出していく能力
- (3) 【情報収集】新たな知識や適切な情報を獲得する能力
- (4) 【実験】本質を明らかにするために実験を計画し迅速に実行して新しい知見を得ることができる能力
- (5) 【分析的思考】先入観にとらわれずに観察し新しい事象を見逃さない能力
- (6) 【イノベーション】独創的な提案ができる創造的思考能力

**4) 材料化学工学課程教育プログラム**

本課程の教育内容は15項目に分類されており、次表は分類と教育目標の主な関係を示したものである。またそれぞれの分類に含まれる講義・演習・実験科目を後ページに示す。

分類	目標A	目標B	目標C	目標D	目標E	目標F	目標G
材料化学工学総合	◎	◎	◎				◎
一般教育	◎	○					
工学基礎				◎			
英語			◎				
数学基礎				◎			
物理基礎				◎			
化学基礎					◎		
専門基礎					◎		
工業数学・情報技術				◎			○
物性					◎		
材料					◎		
プロセス						◎	
システム						◎	
演習					◎	◎	◎
実験					◎	◎	◎

(出典：繊維学部事務部作成)

(5) 専門教育を基にしたキャリア教育

学生の職業意識の涵養を図るため、インターンシップ（1～2単位）を実施しており、例年1名程度の参加者がいる。(資料織86)

資料織86 インターンシップ参加者数

(単位：件)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
参加者数	0	0	1	1	1	5

(主な受け入れ企業)

株式会社地元カンパニー、富山県環境科学センター、広島県庁

(出典：繊維学部事務部作成)

(6) 学生の主体的な学習を促すための取組

① 講義室等の環境整備

以下のとおり基本的な環境を整備している。(資料織 87)

資料織87 学生の主体的な学習を促すための環境の整備状況

**講義棟講義室の学習室としての使用について**

みなさんの自学自習のために、次のとおり講義棟講義室を開放しています。

- 講義室：19 室
- 演習室：3 室
- 実験実習室：4 室
- ・授業使用時間帯を除いて自由に使用できます。
- (時間は、平日の前項建物開館時間中。ただし、長期休業期間中は使用できません。)
- ・学内 LAN への接続もできます。(ACSU にアクセスし、ID とパスワードによりログイン)

《禁止事項》

- ・AV 機器の使用，室内での飲食，周囲の迷惑となるおしゃべり，ゴミの放置

◇学内 LAN 接続によるネットワーク利用ができる場所

PC 持参	講義室全室 (有線・無線 LAN)，生協 2 階ラウンジ，図書館 (無線)
PC 備付	図書館 (PC 数台)

- ・ウイルス対策をしたパソコンを用い，ネットワークの使用に当ってはルールを守って使用の上，セキュリティには十分注意して下さい。
- ・ネットワーク接続等に関する不明な点は，各課程情報システム支援室員へお問い合わせ下さい。

◇講義棟無線 LAN 整備状況

- ・平成 18 年度設置：(10,11,12,13,20,21,22,24,25,26,27,28,30,31,32 番講義室)
- ・平成 22 年度設置：(33,34,共通ゼミ室 1,CAD 実習室)

◇研究室・演習室・実験室・特別教室等の使用について

各課程等の定めるところにより，指導教員等の許可のもと安全に使用して下さい。

(出典：平成 27 年度「上田キャンパス履修案内」p64)

**図書館整備状況**

【平成 22 年度】

- 開館時間を 9 時→8 時 45 分に変更

【平成 23 年度】

- グループ学習室(2 室)・演習室(1 室)設置
- エレベータ・全館空調設置

【平成 24 年度】

- 図書館内全館で無線 LAN 接続可能に

【平成 26 年度】

- グループ学習室 2 室の壁面に、ホワイトボード設置
- 図書館 1 階に総合情報センターの教育用端末 6 台設置

**グループ学習室・演習室の貸出体制**

前日までの予約優先。予約の入っていない時間帯は、空いていれば自由に利用可能。教員が講義で使用したり、データベース等利用オリエンテーションで使用する場合もあり。

平成 27 年度は、英会話サロンを演習室で行なっている。

データベース等利用オリエンテーション開催回数

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
開催回数(回)	16	24	16	19	23	25
参加人数(人)	164	225	159	217	284	243

(出典：繊維学部事務部作成)

② e-Learning (eALPS システム) の活用

学生の学ぶ意欲を維持するため、e-Learning (eALPS システム、資料織 88) により宿題や事前学習を促している。平成 26 年度には、本学部の全授業科目のうち約 42% の科目が eALPS を活用している。1 日のアクセス数は 80 件/日以上であり、学生の学習に活用されている。(資料織 89)

資料織 88 eALPSシステムについて

eALPSでは主に、以下のような9つの機能を提供しています。教材を活用して自習し、学生や教員と意見交換し、課題を提出したりテストに挑戦するといった能動的な学習を支援します。

お知らせの掲載	教員は、コース(授業科目)のトップページに連絡事項などを記載することにより、eALPSを学生への通知の手段として利用することができます。
資料の配布	教員は、eALPS上にPDFなどのファイルを置き、学生は、それをダウンロードして予復習に利用することができます。
課題の提示と提出	eALPS上に課題ファイルを提出させることができます。提出状況を一覧にして表示したり、評点やコメントをつけることも可能です。
掲示板で情報交換	eALPS上に掲示板を作り、教員と学生、または学生同士が意見交換することができます。投稿した意見に評点をつけることも可能です。
アンケート調査	eALPS上でアンケート調査を行い、理解度を測ったり要望をまとめることが可能です。回答内容を分析したり、Excelファイルに保存することも可能です。
オンラインテスト	eALPS上でテストを行うことができます。自動採点して結果をExcelファイルに保存したり、評点ごとの学生数をグラフ表示できます。
成績の管理	eALPS上での活動に評点をつけ、それを集計して成績評価に利用することができます。ペーパーテストの結果と合わせて管理することもできます。
受講生にメール送信	その科目を履修している学生全員または選択的にメールを送ることができます。
受講生のアクセス状況の把握	受講生がいつeALPSのコースにアクセスしたか、eALPS上でどのような活動を行ったかを表示できます。

 3

(出典：e-LearningセンターICT活用支援部門作成eALPS入門)

資料織 89 eALPSシステムの活用実績 (単位：件)

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
利用講義数 /開講科目数		107/380	94/367	134/392	164/395	74/397
1日当たり アクセス数		87	92	80	114	145

(出典：繊維学部事務部作成)

③ 機器エキスパート養成事業 (P-DEX)

SVBLにおいて学部学生が主体となって企画運営する研究機器の技能研究会の活動を行っている。(資料織 90)

資料織 90 機器エキスパート養成事業 (P-DEX) の活動

機器エキスパート (P-DEX) 養成事業

**P-DEXは「学生による機器分析プロ集団養成機関」です。**  
 SVBLは分析機器・加工機のエキスパートを養成する目的で、P-DEX (Project-Device Expert) なる組織を立ち上げ、その支援を行っています。P-DEXは学部学生が主体となり、SVBLに設置されている機器の技能研究会の企画・運営を行っています。  
 1年間かけて学生指導員が実技講習を行います。

最新鋭の分析・加工装置を使いこなす技能（初級、中級、上級）を身につけることができます。

**使用機器**

- 微小部蛍光X線測定装置
- 走査電子顕微鏡
- ワイヤークット放電加工機
- 表面プラズモン共鳴測定装置
- 液体クロマトグラフ質量分析装置

（出典：SVBLホームページ P-DEX事業の紹介）

④ 他学部授業科目の履修、他大学との単位互換

多様な履修形態を保証するしくみとして、他学部の科目履修（資料織 91）、県内大学連携による科目履修（資料織 92）について、取得単位の一定数を卒業に必要な要件として認めている。

資料織91 繊維学部から他学部への授業聴講実績数

（単位：件）

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
人文学部						1
教育学部						
経済学部						
医学部						
工学部						
農学部		7	5	7	2	3
合計		7	5	7	2	4

（出典：繊維学部事務部作成）

資料織92 県内大学連携による科目履修の実績

1. 繊維学部から表中の大学へ授業を受けに行っている件数

（単位：件）

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
長野県看護大学						
佐久大学						
清泉女学院大学			1	5	3	3
諏訪東京理科大学		3				
長野大学	1			1		
松本歯科大学						
松本大学			2			
合計	1	3	3	6	3	3

2. 繊維学部で表中の大学からの学生を受け入れている件数

（単位：件）

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
長野県看護大学						
佐久大学						
清泉女学院大学						
諏訪東京理科大学						
長野大学			1			
松本歯科大学						
松本大学						
合計			1			

（出典：繊維学部事務部作成）

## ⑤ 各種セミナーや講演会、シンポジウムの開催

学生の見聞を広め、自主的な学習を刺激するため、各種セミナー、講演、シンポジウムを設けている。(資料織 93)

資料織93 各種セミナー、講演、シンポジウム等の開催実績

開催年度	講演等名称	講演者等(所属)
平成22年度	環境講演会「21世紀のPCB? PFOS・PFOAを巡る環境化学」	森脇 洋 氏(繊維学部応用生物学系准教授)
平成22年度	環境講演会「中空糸膜コンタクターによるCO2の分離回収」	高橋伸英 氏(繊維学部化学・材料系准教授)
平成22年度	環境講演会「環境に配慮した高分子材料の開発と解析」	田中稔久 氏(繊維学部創造工学系准教授)
平成22年度	招聘事業講演会「Utilization of Cellulose as Renewable Resources」	Thomas Rosenau 氏(ウィーン天然資源大学 教授)
平成22年度	繊維学部 100 周年記念講演会「日焼けは危険～化粧品から地球環境問題まで」	村上 泰 氏(信州大学繊維学部化学・材料系教授)
平成23年度	環境講演会「ライフサイクルアセスメント(LCA)を使ってCO2ダイエット」	田原聖隆 氏(産業技術総合研究所)
平成23年度	ビジネスマナー講演会(初級編)	高沢貴子氏(企業組合C&Cハーモニックス)
平成23年度	ビジネスマナー講演会(応用編)	高沢貴子氏(企業組合C&Cハーモニックス)
平成23年度	招聘事業講演会「地域資源活用セミナー～自然は宝の山～」	熊原勝 氏(日本レクシー株式会社) 竹内嘉江 氏(長野県林業総合センター) 出雲充 氏(株式会社ユーグレナ)
平成24年度	環境講演会「明るい日本の低炭素社会」	山田興一 氏(科学技術振興機構 低炭素社会戦略センター)
平成24年度	招聘事業講演会「アメリカのベンチャー企業で仕事をするとは」	森里 敦 氏(Cameron International Corporation)
平成25年度	SVBL企画力実践講座特別講演会「ディベート日本一の社会起業家が伝授する“伝える力”と“カタチにする力”」	秋元祥治 氏(NPO法人G-net代表理事)
平成25年度	環境講演会「信州大学におけるグリーン・イノベーション研究・長野型バイオリファイナリー技術開発を例として」	天野良彦 氏(信州大学工学部教授)
平成25年度	SVBL チャレンジセミナー特別講演会「ホンダ・イノベーションの神髄 ～独創的な製品はこうつくる～」	小林三郎 氏(元 ホンダ経営企画部長)
平成25年度	招聘事業講演会 「学生のみなさんへ ～「シゴトは学生の 100 倍楽しいヨ！」」	中島 健 氏(株式会社インフォマート)
平成25年度	TOEIC スピーキングテスト/ライティングテスト講演会「使える英語の効果的学習法～TOEICLR テストとSWテストで4技能を身につけよう」	千田潤一 氏 (株式会社アイ・シー・シー代表取締役)
平成25年度	SVBL10 周年記念シンポジウム講演会 「元気な創業者たちの想いを聴いてみよう」	池森賢二氏(株式会社ファンケル) 青木擴憲氏(株式会社 AOKI ホールディングス) 鳥羽博道氏(株式会社ドトールコーヒー)

平成26年度	環境講演会「エコ、健康のため都市交通に自転車を活かせ」	疋田智 氏(NPO 自転車活用推進研究会 理事)
平成26年度	環境講演会「適正な樹木の維持管理について」	椎名 豊勝氏(日本樹木医会会長)
平成26年度	TOEICライティングテスト講演会	千田潤一 氏 (株式会社アイ・シー・シー代表取締役)

(出典：繊維学部事務部作成)

(水準) 期待される水準を上回る

(判断理由)

各系・課程において、繊維・ファイバー工学関連分野の技術者として必要な知識と技術を身につけさせるカリキュラムを作成し、DP および履修マップの形で内容を公開している。(資料織 3、織 62) これにより、学生にとっては自分が身につけるべき能力を、企業の採用担当者にとっては学生が身につけた能力を理解しやすくしている。

理系技術者に求められる実践的な英語教育プログラムを学部独自に設計し、TOEIC テストを用いて客観的に学業成果を評価するしくみを構築した。(資料織 67) 学生は自己の成績を客観的に把握し、以後の学習計画に活かすことができ、成績優秀者は就職活動時にアピールすることができるようになった。英語教育における PDCA サイクルが確立し、学部全体で英語教育に取り組む体制ができたことにより、海外派遣件数も大幅に増加した。

(資料織 71)

繊維学の専門知識を体系的に身につけさせるため、独自に教科書を作成し教育に用いている。(資料織 72、織 73)

以上の点より、繊維学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、教育活動の状況は、繊維学部が想定している関係者が期待する水準を上回ると判断する。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

(1) 学業の成果の点検、把握の体制

授業改善アンケートの結果を各課程で共有し、教員が自分の授業の改善に取り組み、その成果を確認する体制を構築している。(前掲資料織 46、30 頁)

学生相談室では、学生一人一人に対してチューター教員を配置し、年 2 回の定期面談を行った結果を教員会議で報告し、全教員が学生の就学状況を把握する体制を構築している。

(前掲資料織 36、織 37、織 38、25-27 頁)

(2) 進級、卒業、休学、退学、留年の状況

2 年次と 4 年次進級時に、一定数以上の単位修得を必要とする進級関門を設けている。

(資料織 94)

資料織94 進級，卒業要件

**平成27年度入学生(15F)**

★各区分指定科目等詳細については，学修便覧の各系(課程)履修要件・科目一覧を参照

**繊維・感性工学系**

		共通科目					専門科目							合計
		教養科目	基礎科目				必修			選択			自由	
			外国語	健康	新ゼミ	基礎科学	学部共通	系共通	課程別	学部共通	系共通	課程別		
2課程共通	1→2年進級関門	14	4	1	2	12	2	—	2	—	—	—	—	*37
先進繊維工学課程	3→4年進級関門	14	8	1	2	12	4	8	30	25(自由科目:8単位まで)			104	
	卒業所要単位	14	8	1	2	12	4	8	46	29(自由科目:8単位まで)			124	
感性工学課程	3→4年進級関門	14	8	1	2	12	6	8	29	30(自由科目:8単位まで)			110	
	卒業所要単位	14	8	1	2	12	6	8	37	36(自由科目:8単位まで)			124	

\*1年次に修得を要する37単位のうち31単位以上修得で進級を認める。

**機械・ロボット学系**

		共通科目					専門科目							合計
		教養科目	基礎科目				必修			選択			自由	
			外国語	健康	新ゼミ	基礎科学	学部共通	系共通	課程別	学部共通	系共通	課程別		
2課程共通	1→2年進級関門	12	4	1	2	14	2	2	—	—	—	—	—	*37
機能機械学課程	3→4年進級関門	12	8	1	2	14	4	27	21	17(自由科目:8単位まで)			106	
	卒業所要単位	12	8	1	2	14	4	27	29	27(自由科目:8単位まで)			124	
ハイエンジニアリング課程	3→4年進級関門	12	8	1	2	14	4	21	20	24(A・B・C群の選択科目から各群6単位以上自由科目:5単位まで)			106	
	卒業所要単位	12	8	1	2	14	4	21	30	32(A・B・C群の選択科目から各群6単位以上自由科目:8単位まで)			124	

\*1年次に修得を要する37単位のうち31単位以上修得で進級を認める。

**化学・材料系**

		共通科目					専門科目							合計
		教養科目	基礎科目				必修			選択			自由	
			外国語	健康	新ゼミ	基礎科学	学部共通	系共通	課程別	学部共通	系共通	課程別		
3課程共通	1→2年進級関門	14	4	1	2	12	2	2	—	—	—	—	—	*37
応用化学課程	3→4年進級関門	14	8	1	2	12	4	32	16	20			—	**109
	卒業所要単位	14	8	1	2	12	4	32	30	24			—	127
材料化学工学課程	3→4年進級関門	14	8	1	2	12	4	32	36	6			—	***115
	卒業所要単位	14	8	1	2	12	4	32	48	6			—	127
機能高分子学課程	3→4年進級関門	14	8	1	2	12	4	32	20	18			—	****111
	卒業所要単位	14	8	1	2	12	4	32	34	20			—	127

\*1年次に修得を要する37単位のうち29単位以上修得で進級を認める。

\*\*1～3年次に修得を要する必修専門科目のうち実験科目を除く2単位以下の不足は進級を認める。

\*\*\*1～3年次に修得を要する専門科目のうち1年次専門科目及び実験科目を除く4単位以下の不足は進級を認める。

\*\*\*\*1～3年次に修得を要する専門科目のうち実験科目を除く2単位以下の不足は進級を認める。

**応用生物科学系**

		共通科目					専門科目							合計
		教養科目	基礎科目				必修			選択			自由	
			外国語	健康	新ゼミ	基礎科学	学部共通	系共通	課程別	学部共通	系共通	課程別		
2課程共通	1→2年進級関門	16	4	1	2	8	2	2	—	—	—	—	—	*35
生物機能科学課程	3→4年進級関門	16	8	1	2	8	4	31	13	22(自由科目8単位まで) [課程選択10単位含む]			**105	
	卒業所要単位	16	8	1	2	8	4	31	23	32(自由科目8単位まで) [課程選択10単位含む]			125	
生物資源・環境科学課程	3→4年進級関門	16	8	1	2	8	4	33	10	23(自由科目6単位まで) [課程選択12単位含む]			**105	
	卒業所要単位	16	8	1	2	8	4	33	20	33(自由科目6単位まで) [課程選択12単位含む]			125	

\*1年次に修得を要する35単位のうち31単位以上修得で進級を認める。

\*\*専門科目70単位以上修得者で，必修科目の1or2単位のみ不足の場合は進級を認める。

(出典：平成27年度「上田キャンパス履修案内」)

平成 22 年度以降の卒業率は 84～89% である。(資料織 95)

資料織95 進級率, 卒業率																		
年度	1年次から2年次への進級率			3年次から4年次への進級率			卒業率											
22	284	人中	278	人	:	98%	316	人中	282	人	:	89%	298	人中	260	人	:	87%
23	299	人中	290	人	:	97%	295	人中	259	人	:	88%	316	人中	272	人	:	86%
24	285	人中	282	人	:	99%	284	人中	255	人	:	90%	295	人中	249	人	:	84%
25	280	人中	273	人	:	98%	299	人中	265	人	:	89%	284	人中	248	人	:	87%
26	287	人中	278	人	:	97%	285	人中	263	人	:	92%	299	人中	255	人	:	85%
27	291	人中	284	人	:	98%	280	人中	247	人	:	88%	285	人中	255	人	:	89%

(備考)  
 進級率の算出方法：2年次への進級者数／入学者数、および3年次への進級者数／入学者数  
 卒業率の算出方法：規定年数（4年）で卒業した学生数／入学者数  
 (出典：繊維学部事務部作成)

学生相談室による様々な取組（前掲資料織 36、織 37、織 38、25-27 頁）の結果、繊維学部生の年度あたり退学学生数は 19.3 名（第 1 期中期目標期間）から 12.7 名（第 2 期）へと減少した。(資料織 96)

資料織96 休学, 退学者数の状況								
年度	第1期平均	22	23	24	25	26	27	第2期平均
休学者数	データなし	25	14	26	36	21	21	23.8
退学者数	19.3	12	6	19	16	11	12	12.7

(出典：繊維学部事務部作成)

(3) 免許取得の状況

教職免許取得に関する科目を開設している。(資料織 97)

資料織 97 教職に関する科目

**施行規則 66条の6に定められた科目**

**全免許種 共通**

66条の6に定められた科目・単位数		左記に対応する本学部授業科目・単位数・対象学年				
科目	単位数	科目名	単位数	対象学年	備考	
日本国憲法	2	共通(教養) 日本国憲法	2	1年	※①	
体育	2	共通(健康) 健康科学・理論と実践	1	1年	※②	
		共通(教養) バレーボール,テニス,ソフトボール,ゴルフ,コンディショニングバレー,バドミントン,サッカー,弓道,コーディネーションエクササイズ,トレッキング,サバイバル活動,スクーバダイビング,スポーツフィッシング,バスケットボール,スポーツボウリング,氷上スキー(スケート&カーリング),ネイチャースキー,レジャースポーツ,アウトドアの達人,スノー・スポーツ,ニュースポーツ,信大マラソン,マリンスポーツ,アスレティックトレーニング,剣道形の世界,アダプテッドスポーツ	1	1年	体育・スポーツ群から左記科目の単位を修得する	
外国語 コミュニケーション	2	共通(外国語) フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅠ	1	1年	※③	
		フレッシュマン・アカデミック・イングリッシュⅡ	1			
情報機器 の操作 ※④	2	専門科目	電子計算機実習	2	2年	先進繊維工学課程
			計算機実習Ⅰ	2	2年	感性工学課程
			コンピュータプログラミング	2	2年	機能機械学課程
					3年	ハイオエンジニアリング課程
			情報科学演習	2	1年	<化学・材料系> 応用化学課程 材料化学工学課程 機能高分子学課程
情報科学・統計学演習	2	2年	<応用生物科学系> 生物機能科学課程 生物資源・環境科学課程			
最低修得単位数計			8			

※① 日本国憲法2単位を修得するためには、社会科学群の「日本国憲法」2単位を修得する。

※② 「体育」2単位分のうち「健康科学・理論と実践」(1単位)は、教職に拘わらず必修である。

※③ 「英語」(2単位分)は、教職に拘わらず必修である。

※④ 情報機器の操作 に対応する本学部科目は、全課程において教職に拘わらず必修である。

**教科又は教職に関する科目**

**全免許種 共通**

科目名	単位数		対象学年	備考
	必修	選択		
現代社会と子どもの学習		2	1年	
介護等体験の意義と実際		1	2・3年	
ノーマライゼーションとバリアフリー		2	1年	
障害児早期療育論		2	1年	

※ 教科又は教職に関する科目については、「所要資格 (教免法ほか)」の※2を参照

**教職に関する科目**

**全免許種 共通（一部科目除く）**

教民法施行規則で定める科目・単位数				左記に対応する本学部の授業科目・単位数・対象学年等							
区分	科目	単位数	記号	左記科目に含めることが必要な事項	科目名	単位数※①		記号	対象免許種	対象学年	備考
						必修	選択				
第2欄	教職の意義等に関する科目	2	2① 2② 2③	教職の意義及び教員の役割 教職の職務内容 留職停職及び免状取得等を含む 選択選択に関する各種の機会の提供等	教職論	2		2①2③	中高	1年	
第3欄	教育の基礎理論に関する科目	8	3① 3② 3③	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想  幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）  教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	教育学概論	2		3①	中高	1年	※①
					発達と教育	2		3②	中高	1年	
					発達障害の理解と支援	1		3②	中高	1年	
					特別支援教育の理論	1		3②	中高	1年	
					発達心理学概論	1		3②	中高	1年	
					学校教育の歴史と現状	1		3①	中高	1年	
					教育の思想と歴史	2		3①	中高	1年	
					教育社会学概論	2		3③	中高	1年	
					★教育行政学概論	2		3③	中高	1年	
					★教育経営学概論	2		3③	中高	1年	
第4欄	教育課程及び指導法に関する科目	中学13・高校7	41① 41② 41③ 41④ 41⑤	教育課程の意義及び編成の方法 各教科の指導法 道徳の指導法【中学のみ】 特別活動の指導法 教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育方法論	1		41⑤	中高	2~4年	理科のみ※②
					特別活動の理論と実践	1		41④	中高	2~4年	
					道徳教育の理論と実践	2		41③	中	2~4年	
					教育課程の編成法	1		41①	中高	1年	
					メディアリテラシー概論（メディアと教育）	2		41⑤	中高	1年	
					教育方法特論	1		41⑤	中高	2~4年	
					理科指導法基礎Ⅰ	2		41②	中高	2年	
					理科指導法基礎Ⅱ	2		41②	中高	3年	
					理科指導法特論	4		41②	中高	3年	
					工業科指導法Ⅰ	(2)		41②	高	2・3年	
	工業科指導法Ⅱ	(2)		41②	高	2・3年					
	生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目	4	42① 42② 42③	生徒指導の理論及び方法 教育相談(カウンセリング)に関する基礎的な知識を含むの理論及び方法 進路指導の理論及び方法	生徒指導の理論と実践	2		42①③	中高	2~4年	工業のみ※②
					教育相談の理論と実践	2		42②	中高	1年	
					カウンセリング概論	2		42②	中高	1年	
キャリア教育の理論と実践					2		42③	中高	1年		
第5欄	教育実習	中学5・高校3		教育実習事前・事後指導	1			中高	3・4年	※③	
				中等基礎教育実習	4			中高	4年		
				高等学校教育実習	2			高	4年		
第6欄	教職実践演習	2			教職実践演習（中・高）	2			中高	4年	
<b>最低修得単位数計</b>						3 4		中学校理科			
（工業については特例あり [所要資格欄★参照]）						2 6 [0]		高校理科 [高校工業]			

※① ★印の付いた科目を1科目含めて、2単位選択必修。

※② 各教科の指導法は、取得希望教科の指導法について修得すること。他教科の科目は算入されない。  
また、高校（理科）のみ取得希望の場合は、理科指導法3科目のうち、最低4単位分修得すること。

※③ 「中等基礎教育実習」を修得すれば、「高等学校教育実習」を修得しなくても高免の所要資格に算入できる。  
（教民法施行規則第6条表備考8,12項）

（出典：平成27年度「上田キャンパス履修案内」）

中学校一種、高等学校一種の教職免許取得者数及び技術士補の習得に必要な JABEE コース修了者数は、定常的に出ている。(資料織 98)

資料織98 教職免許（中学校一種、高等学校一種）取得者数及びJABEEコース修了者数

年度	中学校一種免許状 (理科)	高等学校一種免許状 (理科)	高等学校一種免許状 (工業)	JABEEコース 修了者
平成22年度	3名	5名	6名	87名
平成23年度	16名	18名	3名	82名
平成24年度	10名	16名	1名	72名
平成25年度	20名	21名	0名	60名
平成26年度	19名	19名	0名	35名
平成27年度	16名	17名	2名	37名

注1 各免許種の専修免許の取得者数は計上していない。

(出典：繊維学部事務部作成資料)

#### (4) 学業の成果に対する学生の評価

##### ① 授業改善アンケート

授業改善アンケート（前掲資料織 48、31 頁）によれば、授業内容に関する 3 項目において 8 割以上の学生が肯定的に回答しており、教員がシラバスを重視しながら授業を実施していることを示している。(資料織 99)

資料織99 授業評価アンケートの結果

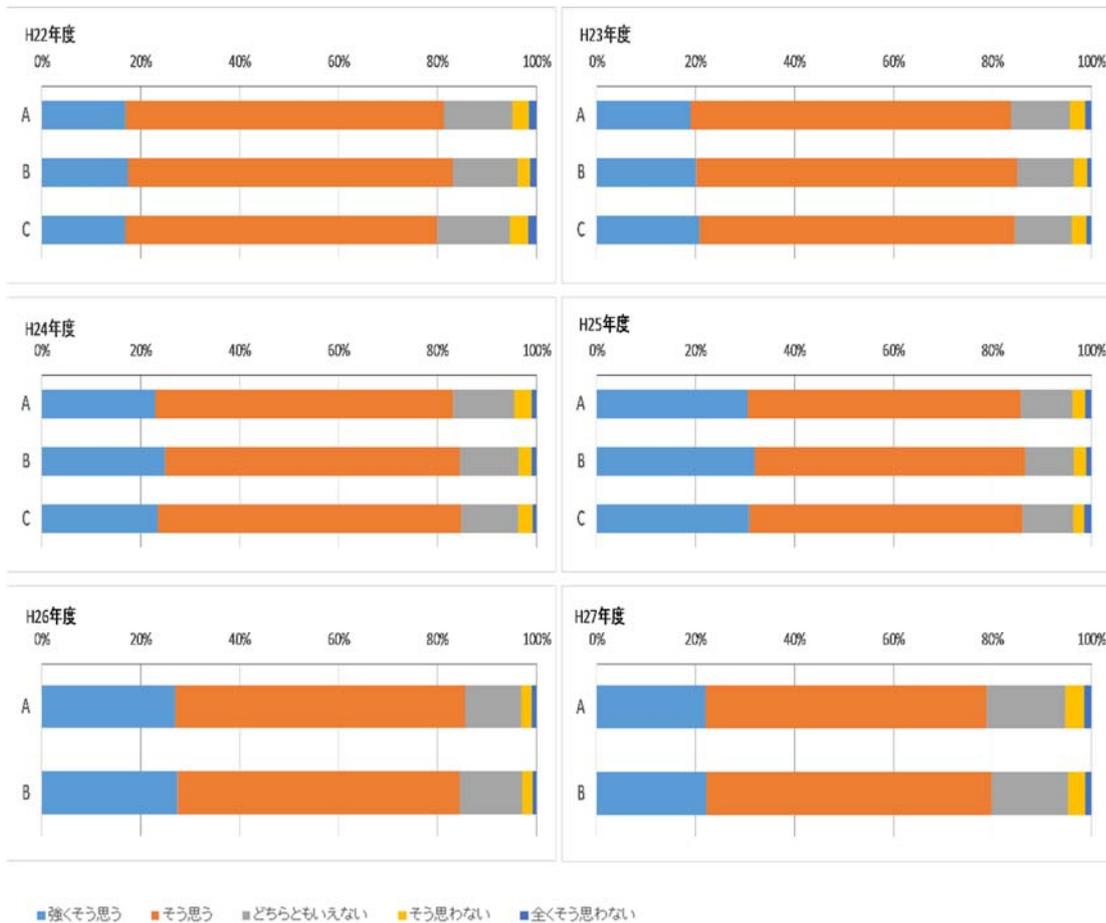
各年度において、学部1年次から4年次まで前後期で開講している全課程の専門講義科目（実験実習と演習科目は除く）を合算して集計した。

質問内容

A：授業内容は、達成しようとしている目標にふさわしかったですか。

B：シラバスから大幅に逸脱せずに実施されましたか。

C：教育内容に沿った授業内容が提供されましたか。

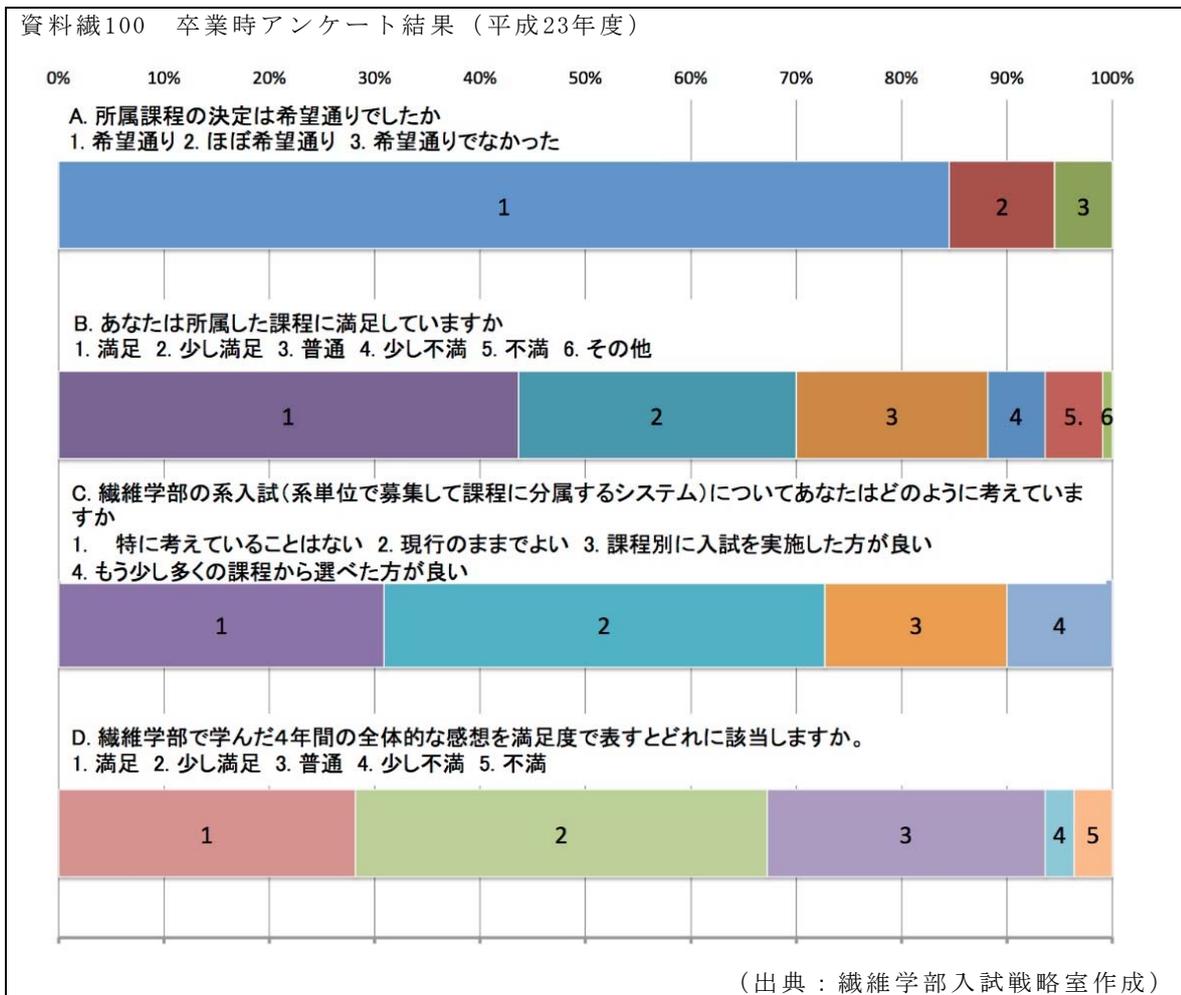


(出典：繊維学部事務局作成)

②教育体制に対する評価と分析

平成23年度より、毎年卒業時にアンケート調査を行い（前掲資料織49、32頁）、学部の教育体制に対する意見を徴収した。系単位の入試と高年次での課程分属に対しては概ね肯定的であり、7割程度の学生は4年間の学習に満足あるいはやや満足の回答を示した。

(資料織100)



(5) 学生の受賞状況

①学会における受賞

学生の受賞実績は以下のとおりである。(資料織 101)

資料織101 学生の受賞状況

年度	課程等	氏名	受賞等の概要
H22	なし		
H23	なし		
H24	先進繊維工学課程	富井省吾	計測自動制御学会中部支部シンポジウム計測賞
H25	先進繊維工学課程	工藤数基	計測自動制御学会中部支部シンポジウム計測賞受賞
	感性工学課程	Hiromi Tokoro	第15回日本感性工学会大会優秀発表賞
	先進繊維工学課程	大島知洋	第33回日本生体医工学会甲信越支部大会優秀賞
H26	先進繊維工学課程	安達亮平	計測自動制御学会中部支部シンポジウム計測賞
	生物機能科学課程	古杉隼人	日本生物高分子学会2014年度大会学会賞

H27	生物機能科学課程	八木瑞貴	第108回 日本繁殖生物学会優秀発表賞
	応用化学課程	佐塚友茄	第27回高分子ゲル研究討論会優秀ポスター賞

(出典：繊維学部事務部作成)

②ベンチャーコンテストの受賞状況

SVBLにおける学生生活動の中から、平成22年度以降9件の受賞実績がある。(資料織102)

資料織102 繊維学部生の学外ベンチャーコンテスト等受賞状況

年度	受賞名	受賞内容	受賞者・受賞団体
平成23年度	テクノネサスジャパン住友化学 優秀賞	「匂いライブラリー～匂いで挑む環境デザイン～」	生物資源・環境科学課程3年生
	OIST英文懸賞論文入賞		材料化学工学課程2年生
平成24年度	テクノ愛奨励賞	「燃料いらすの携帯給湯器～安全・安心・湯をお届け～」	生物機能科学課程3年生
	社会人基礎力育成グランプリ準優秀賞	「桑の有効活用を目指して」	桑まるごと活用塾
平成26年度	信州ベンチャーコンテスト2014大学生部門 準グランプリ	「ヒト毛髪を用いた医用材料の開発と応用」	バイオエンジニアリング課程4年生
	信州ベンチャーコンテスト2014大学生部門 チャレンジ賞	「信州の自然で遊ぼう!! 1クリックアウトドアパッケージ」	繊維学部1年生
	第4回サイエンス・インカレ(文部科学省主催)ポスター発表ファイナリスト	「表面プラズモンを利用したハウスダストの簡易評価方法の開発」	SVBL P-DEX SPR班
平成27年度	信州ベンチャーコンテスト2015アイデア部門 奨励賞	蚕の飼育キット	繊維学部1年生
	社会人基礎力育成グランプリ2016関東地区予選大会奨励賞	くわでくろみました！～ゼロからの社会人基礎力～	繊維学部1年生

(出典：繊維学部事務部作成)

本学部学生の課外活動の中から、「桑まるごと活用塾」による菓子「くわりんとう」の商品化、カラフルな軍手の製造販売を企画した「ハナサカ軍手プロジェクト」がベンチャービジネスの成果として認められ、マスコミに大きく採り上げられた。(資料織103、別添資料1、2)

資料織103 学生のベンチャービジネス活動

○ハナサカ軍手プロジェクトの活動

「冬の街華やかに」…信州大生が児童にプレゼント

軍手のデザインについて話し合う藤井さん(右端)ら(11月上旬、長野県上田市で)明治から大正時代にかけて、全国の蚕糸さんし業を支える蚕都として栄えた長野県上田市。

袖つむぎ工房の一角に、信州大学繊維学部(同市)の学生たちによる活動「ハナサカ軍手プロジェクト」の拠点がある。

赤やピンク、青、黄など色とりどりのチェックや花柄などの軍手が並ぶ。「納品書を作るのをサボらず、しっかり販売店に渡すように」「商品管理を逐一報告して」。11月上旬、夜の会議で、先輩たちの厳しい指示が飛び、後輩たちの表情が引き締まった。

「寒い冬の街を華やかにし、上田市から日本中に明るく元気な笑顔の花を咲かせよう」と、同学部の学生が2009年、軍手に様々なデザインのプリントを施した「軍手ィ」を発案。学生ら26人がデザインや、製造会社への発注などをし、県内の約30店舗などで1組500円で販売し、収益の一部で「ちび軍手ィ」を製作している。当初は市内の小学1年生にプレゼントし、今年から県内の全小1約1万8000人に贈る予定だ。

バンクーバー五輪の「日本公式手袋」

1970年代に始まった石油ショックで繊維産業は傾き、全国の大学は次々と繊維学部の看板を下ろした。しかし、同大は学部名を守り、今では繊維学部を持つ全国唯一の大学だ。

「繊維の素材開発から流通・販売までを幅広く扱う学部。理学、工学、農学、医学などを横断的に融合して学ぶ」と、同学部の上條正義教授(50)。

上條教授の専門は感性工学で、着心地など数値化しづらい感性をいかに測り、価値あるモノを創造し

ていくかを研究している。「相手とコミュニケーションを取りながら、要望に沿った軍手を作り上げていく体験は、感性価値を創造する取り組みそのもの」と、学生たちの活動を評価する。

2010年のバンクーバー・パラリンピックで日本選手団の公式手袋に採用されたり、軍手をPRするポスターに女優の足立梨花さんを起用したりして、県外にも知られるようになった。今年9月には英国ロンドンで開かれた見本市にも出展した。

民間と信州大、上田市でつくる産学官連携支援施設「浅間リサーチエクステンションセンター」の岡田基幸専務理事（43）が活動の顧問を務める。「学生の熱意が周囲の大人を動かす。注文や納品などをめぐるトラブルを自分たちで解決する経験を重ね、たくましく成長している」と見守る。

子どもの「これ、かわいい！」が学生の自信に

会議では、今冬の子どもたちへのプレゼントに向け、試作品をチェック。柄や色の打ち合わせをした。

デザイン担当の同学部3年目黒水海（みなみ）さん（20）は「仲間から何度もダメ出しされるが、子どもらから『これ、かわいい！』と言われると、自信につながる」。プロジェクト代表で同学部4年の藤井知奈美さん（22）は「冬でも外で遊べるよう、多くの子どもに贈りたい」。

活動は今年で6年目。市内の小学生全員に軍手を贈ることになる。子どもたちが華やかな両手を振りながら笑顔で走り回る街にしたい――。学生たちの願いがかなう日は近そうだ。（保井隆之）

（出典：YOMIURI ON LINE H26.11.28より抜粋）

### ③機器エキスパート養成事業（P-DEX）

SVBLにおける学部学生の活動から（前掲資料織90、68頁）、学術論文誌へ論文が掲載される成果が生まれた。（資料織104）

資料織104 機器エキスパート養成事業（P-DEX）成果の論文

英国王立化学会（Royal Society of Chemistry）が刊行する学術論文誌「Analyst, 138巻、2013年」へ掲載された。

**Analyst**

RSC Publishing

PAPER

## Development of a novel evaluation method for air particles using surface plasmon resonance spectroscopy analysis

Cite this: *Analyst*, 2013, **138**, 5437

Ryoya Tanaka,<sup>a</sup> Ryusaku Gomi,<sup>a</sup> Kunihiro Funasaka,<sup>b</sup> Daichi Asakawa,<sup>b</sup> Hiromitsu Nakanishi<sup>c</sup> and Hiroshi Moriwaki<sup>\*a</sup>

The aim of this study was to develop a novel evaluation method for air particles using surface plasmon resonance spectroscopy (SPR) analysis. An L1 sensor chip modified with immobilized liposome was used as a model of the membrane of epithelial cells in organs of respiration. A test suspension of dispersed air particles was flowed onto the sensor chip. The interaction between the surface of the sensor chip and particulates in the sample solution was detected by SPR. It is deduced that the SPR measurement provides information about the adsorption/desorption behavior of the particles on the membrane. Environmentally certified reference materials, diesel particulate matter, vehicle exhaust particulates, urban particulate matter, coal fly ash, and rocks, were used as air particulate samples. Filtrates of suspensions of these samples were analyzed by SPR. Each sample revealed characteristic SPR sensor-gram patterns. For example, diesel particulate matter strongly interacted with the lipid bilayer, and was hardly dissociated. On the other hand, coal fly ash and rock particles interacted poorly with the membrane. The presented method could be used to evaluate or characterize air particles.

Received 9th April 2013  
Accepted 23rd June 2013

DOI: 10.1039/c3an00704a

[www.rsc.org/analyst](http://www.rsc.org/analyst)

（出典：RSC Publishingホームページより引用）

(水準) 期待される水準を上回る

(判断理由)

卒業率は85%程度を維持している。(資料織95) 教職免許等の資格取得者数も毎年定常的に出ている。(資料織98)

平成20年度改組後、初めての卒業生は4年間の学部教育に対して約7割の学生が満足と回答している。(資料織100)

学生のベンチャーマインド育成の取組の中から、コンテスト受賞者が生まれ(資料織102)、2件のベンチャービジネス活動がマスコミで採り上げられた。(資料織103、別添資料1、2)

以上の点より、繊維学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果の状況は、繊維学部が想定している関係者が期待する水準を上回ると判断する。

観点 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

(1)卒業後の進路の状況

本学の卒業生の進路を以下に示した。大学院進学率は70%程度、就職率は80~90%で推移しており、ともに全国平均と比較して高い状態にある。(資料織105)

資料織105 卒業後の進路の状況

卒業年度	区分		卒業生		進学者		就職者		専修学校・外国 の学校等入学者	一時的な仕事に 就いた者	左記以外の者		不詳・死亡 の者
			A	人(B)	率(B/A)	人(C)	率(C/A-B)	人(D)			率(D/A)		
H21	全体		89,623	35,841	39.99%	42,328	78.70%	1,853	930	7,974	8.90%	697	
	国立		31,511	20,955	66.50%	8,778	83.16%	266	31	1,288	4.09%	193	
	本学	計	296	207	69.93%	87	97.75%	0	0	2	0.68%	0	
		男	245	177	72.24%	66	97.06%	0	0	2	0.82%	0	
	女	51	30	58.82%	21	100.00%	0	0	0	0.00%	0		
H22	全体		90,049	34,467	38.28%	43,292	77.89%	1,558	1,230	8,738	9.70%	764	
	国立		31,702	20,642	65.11%	9,212	83.29%	221	49	1,449	4.57%	129	
	本学	計	301	199	66.11%	85	83.33%	0	0	17	5.65%	0	
		男	247	170	68.83%	61	79.22%	0	0	16	6.48%	0	
	女	54	29	53.70%	24	96.00%	0	0	1	1.85%	0		
H23	全体		87,544	31,999	36.55%	43,903	79.04%	1,273	1,217	8,588	9.81%	564	
	国立		31,952	19,987	62.55%	9,817	82.05%	254	57	1,601	5.01%	236	
	本学	計	315	210	66.67%	88	83.81%	2	0	15	4.76%	0	
		男	239	178	74.48%	47	77.05%	2	0	12	5.02%	0	
	女	76	32	42.11%	41	93.18%	0	0	3	3.95%	0		
H24	全体		86,313	31,156	36.10%	45,714	82.88%	991	894	7,100	8.23%	458	
	国立		31,480	19,729	62.67%	9,939	84.58%	204	42	1,421	4.51%	145	
	本学	計	289	199	68.86%	83	92.22%	0	0	7	2.42%	0	
		男	237	176	74.26%	56	91.80%	0	0	5	2.11%	0	
	女	52	23	44.23%	27	93.10%	0	0	2	3.85%	0		
H25	全体		86,684	31,375	36.19%	47,355	85.62%	801	768	6,010	6.93%	375	
	国立		31,056	19,759	63.62%	9,643	85.36%	176	52	1,259	4.05%	167	
	本学	計	279	188	67.38%	83	91.21%	0	0	8	2.87%	0	
		男	204	146	71.57%	52	89.66%	0	0	6	2.94%	0	
	女	75	42	56.00%	31	93.94%	0	0	2	2.67%	0		
H26	全体		85,976	31,177	36.26%	49,001	89.42%	534	513	4,419	5.14%	332	
	国立		31,170	19,757	63.38%	9,968	87.34%	127	47	1,154	3.70%	117	
	本学	計	298	193	64.77%	91	86.67%	1	0	13	4.36%	0	
		男	220	149	67.73%	61	85.92%	0	0	10	4.55%	0	
	女	78	44	56.41%	30	88.24%	1	0	3	3.85%	0		
H27	全体												
	国立												
	本学	計	297	206	69.36%	85	93.41%	0	0	6	2.02%	0	
		男	217	163	75.12%	50	92.59%	0	0	4	1.84%	0	
	女	80	43	53.75%	35	94.59%	0	0	2	2.50%	0		

※「全体」「国立」は、学校基本調査の全国集計のうち、各年度>高等教育機関《報告書掲載集計》>卒業後の状況調査>大学卒業後状況調査(関係学科別)より、区分「工学」を抜粋(「繊維学」は対象が極端に少ないため、「繊維学」を含む「工学」を選択)なお、平成27年度「全体」「国立」については、平成28年6月末現在未公開

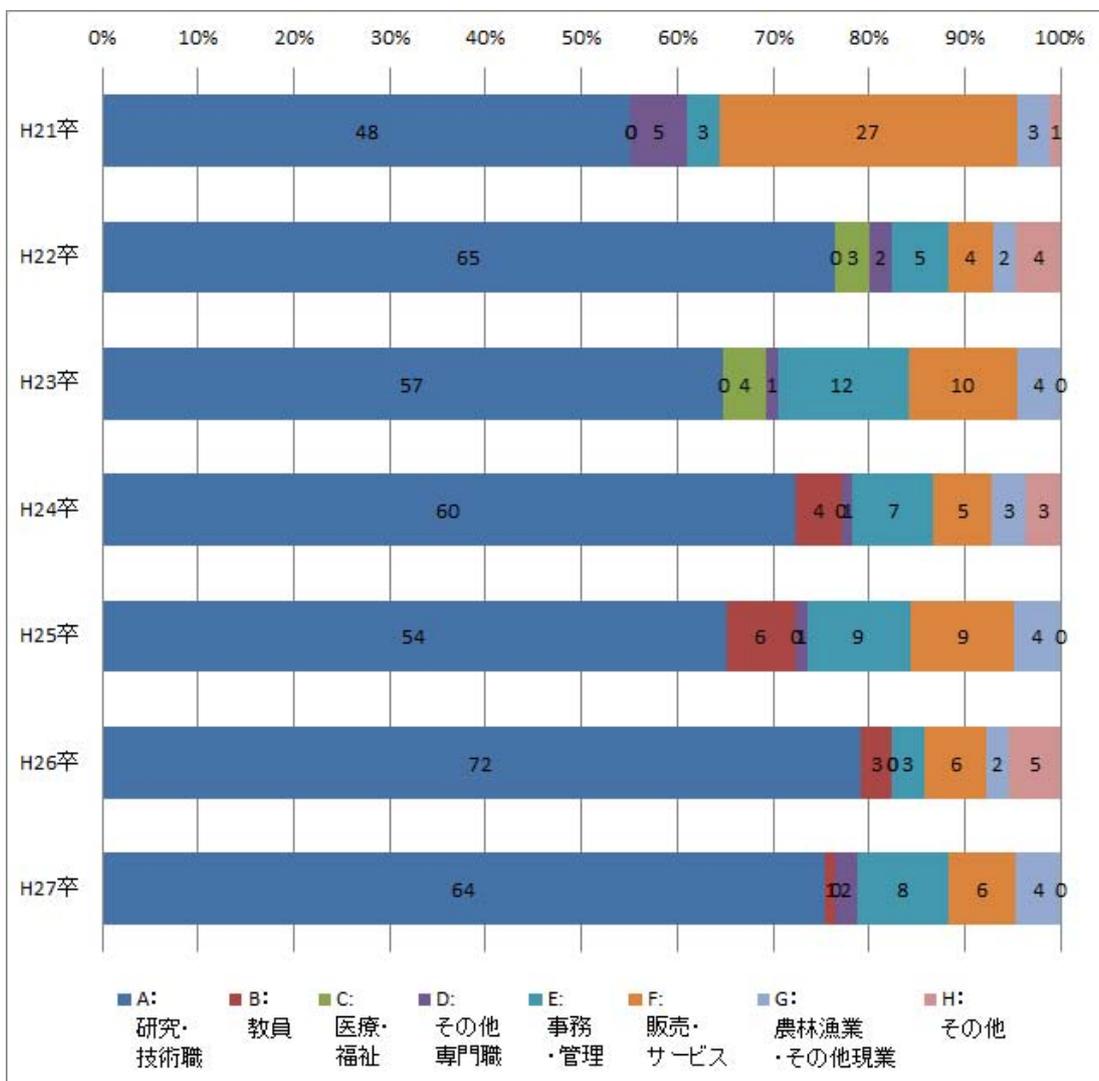
(出典：学校基本調査をもとに経営企画課作成)

卒業生の職業・産業別就職状況は以下のとおりである。(資料織 106)

資料織106 職業・産業別就職の状況

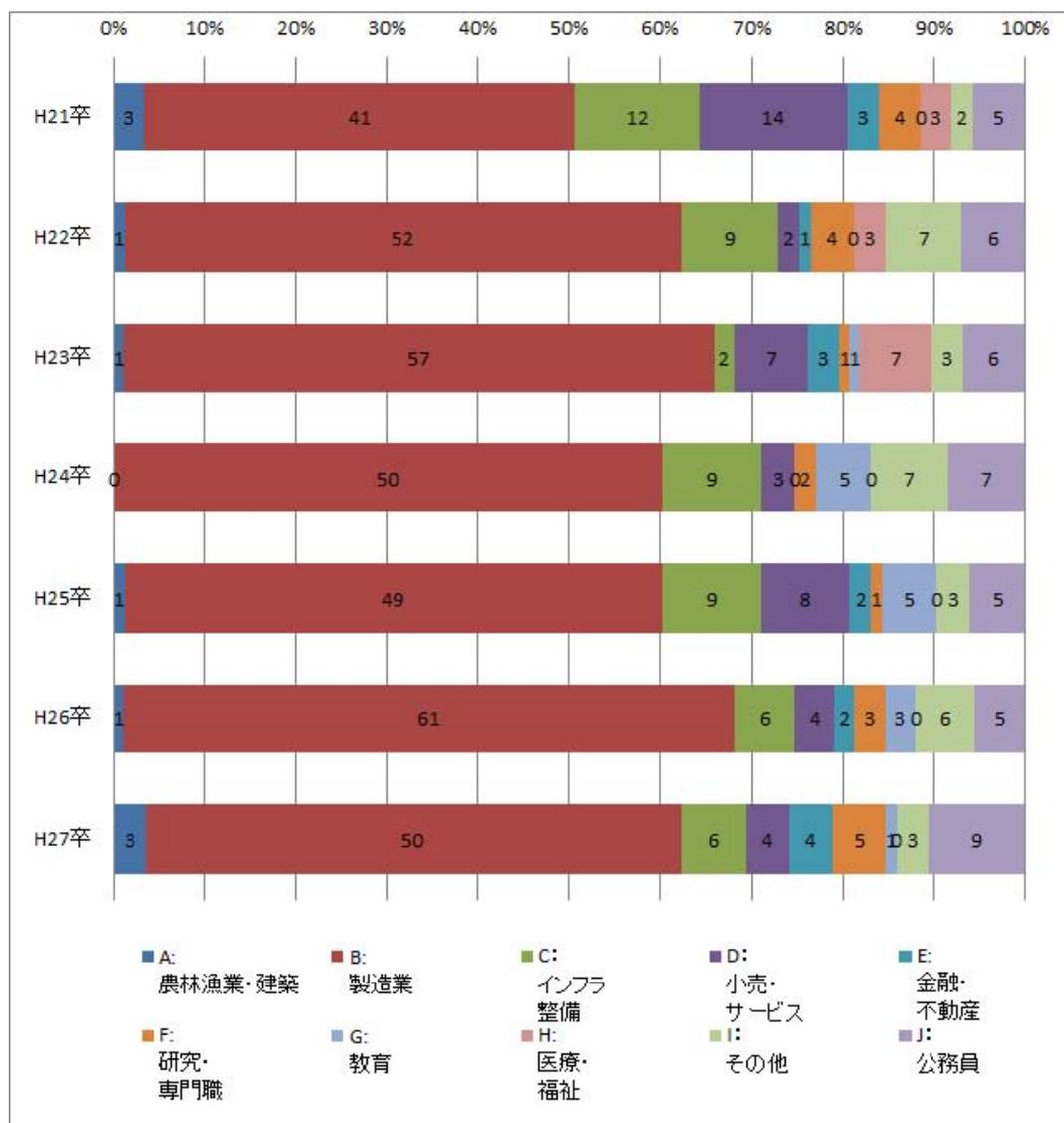
職業別就職者数

	A: 研究・ 技術職	B: 教員	C: 医療・ 福祉	D: その他 専門職	E: 事務 ・管理	F: 販売・ サービ ス	G: 農林漁業 ・その他 現業	H: その他	合計
H21卒	48	0	0	5	3	27	3	1	87
H22卒	65	0	3	2	5	4	2	4	85
H23卒	57	0	4	1	12	10	4	0	88
H24卒	60	4	0	1	7	5	3	3	83
H25卒	54	6	0	1	9	9	4	0	83
H26卒	72	3	0	0	3	6	2	5	91
H27卒	64	1	0	2	8	6	4	0	85



産業別就職者数

	A: 農林漁業・建築	B: 製造業	C: インフラ 整備	D: 小売・ サービス	E: 金融・ 不動産	F: 研究・ 専門職	G: 教育	H: 医療・ 福祉	I: その他	J: 公務員	合計
H21卒	3	41	12	14	3	4	0	3	2	5	87
H22卒	1	52	9	2	1	4	0	3	7	6	85
H23卒	1	57	2	7	3	1	1	7	3	6	88
H24卒	0	50	9	3	0	2	5	0	7	7	83
H25卒	1	49	9	8	2	1	5	0	3	5	83
H26卒	1	61	6	4	2	3	3	0	6	5	91
H27卒	3	50	6	4	4	5	1	0	3	9	85



(出典：学校基本調査をもとに経営企画課で作成)

学部就職委員会（資料織 107）では、就職説明会の開催（資料織 108）などを通じて学生の就職指導を行ってきた結果、平成 22 年度以降、就職希望者のほぼ 100% の就職率を維持している。（資料織 109）

また、本学部卒業生の 6 ～ 7 割は本学大学院理工学系研究科に進学しており（資料織 109）、繊維・ファイバー工学分野の高度な専門技術を身につけるため、学部と修士課程を併せた 6 年間一貫の教育が指向されている。

## 資料織107 繊維学部就職委員会

## ■就職委員会委員構成

委員長	太田和親	機能高分子学課程
委員	西松豊典	先進繊維工学課程
委員	細谷 聡	感性工学課程
委員	倪 慶清	機能機械学課程
委員	山口昌樹	バイオエンジニアリング課程
委員	本吉谷 二郎	応用化学課程
委員	村上 泰	材料化学工学課程
委員	野末雅之	生物機能科学課程
委員	海老沼 宏安	生物資源・環境科学課程

(活動内容)

- ・就職先企業等の情報収集及び開拓に関すること
- ・合同企業説明会及び企業セミナーに関すること
- ・「現代職業概論」のコーディネートに関すること

繊維学部が所在する上田キャンパスの産学官連携組織である「浅間リサーチエクステンションセンター (AREC)」および「ファイバーイノベーション・インキュベーター (Fii) 施設」とも連携して、学生の就職指導を行っている。

(出典：繊維学部事務部作成)

## 資料織108 就職説明会の開催状況

開催日	名称	参加者数
H22.11/13・12/11・H23.1/8	繊維学部合同企業説明会	540名
H23.12/10・H24.1/7・1/21	繊維学部合同企業説明会	549名
H24.12/8・12/22・H25.1/12	繊維学部合同企業説明会	676名
H25.12/7・12/21・H26.1/11	繊維学部合同企業説明会	620名
H27.3/7・3/8・3/14・3/15	繊維学部合同企業説明会	599名
H28.3/5・3/6・3/19・3/20・3/21	繊維学部合同企業説明会	589名

(出典：繊維学部就職委員会作成)

## 資料織109 繊維学部卒業生就職希望者の進路状況

	卒業生数	進学者数	就職希望者数	就職者数	その他	就職率
平成22年度	301	199	87	85	17	97.7%
平成23年度	315	210	88	88	17	100%
平成24年度	289	199	83	83	7	100%
平成25年度	279	188	83	83	8	100%
平成26年度	298	193	91	91	14	100%
平成27年度	297	206	85	85	6	100%

その他は研究生、家事手伝い、就職を希望しない人数を示す

第1期（平成16～21年度）の就職率の平均は96.1%であった。

(出典：繊維学部就職委員会作成)

## (2) 卒業生からの意見聴取

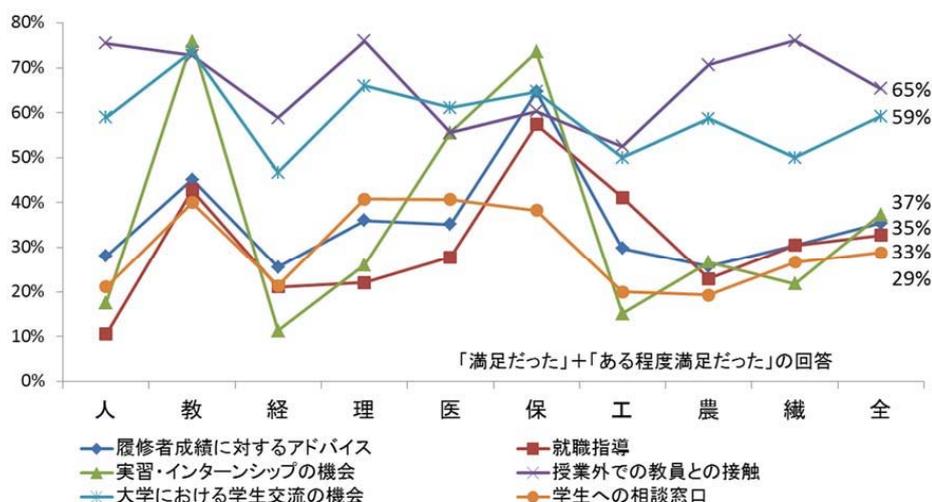
平成26年に全学で卒業生に対するアンケート調査を実施した。(前掲資料織52、36頁、

織 110)

資料織 110 卒業生アンケート

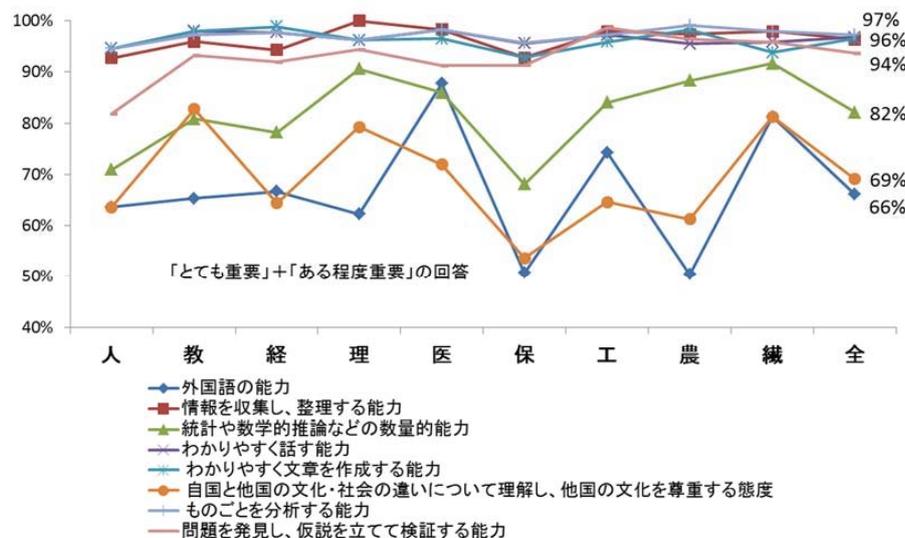
○調査項目「大学生活に対する評価」

「授業外での教員との接触」に満足、ある程度満足と回答した卒業生数の割合が高く 70%を越えた。(大学平均 65%)



○調査項目「専門教育と教養教育を通して培われた能力」

「外国語能力」「情報を収集し、整理する能力」「わかりやすく文章を作成する能力」「問題を発見し、仮説を立てて検証する能力」については 90%以上の卒業生がとても重要、またはある程度重要と回答した。特に、「統計や数学的推論などの数力的能力」を重視する卒業生が 90%ほど存在した。(大学平均 82%)



○「あなたが信州大学で学んでよかったと思うこと」に対して、以下の様な自由記述があった。

- ・研究室において教員、職員、先輩、後輩と家族的な関係が構築され、単に学問を学ぶ場所を越え人生を学ぶ事ができた。また、何か知識を得るために学ぶだけでなく、個性あふれる教授陣に恵まれ、学ぶ事そのものの楽しさを教わる事ができ、その後の職業生活、社会生活に大いに役立っている。
- ・卒論研究時等、教授、准教授との距離が近く、多くを学べた。少人数の講座制だったので、落ち着いた研究ができた。環境が良かった。
- ・近隣の企業と産学官共同研究ができたこと。大学と企業の求める内容の違い、スピード感の違いを学生の間で体験できました。1年生の学生寮で他学部のメンバーとも交流できたこと。専門とは違う交友関係が、たまに役に立っています。都会の喧騒は得意ではないので、自然の多い長野県で学べたこと。繊維学部という日本にほとんどない特殊な学部で勉強できました。

平成25年に学部卒業生との座談会を実施し、本学部の教育が社会に出てどのように活かされているか意見を聴く場を設けた。(資料織111)

#### 資料織111 卒業生との座談会

日時：平成25年6月29日(土)13時30分~15時30分

場所：繊維学部大会議室(上田キャンパス事務棟2階)

出席者(敬称略 専攻順)

山本 幸生 マルコメ株式会社(応用生物学専攻 H13年度修了)  
 梶沢 幸絵 株式会社メディックメディア(応用生物学専攻 H17年度修了)  
 長坂 美才絵 株式会社桜井製作所(応用生物学専攻 H22年度修了)  
 児山 祥平 国立大学法人信州大学(システム開発工学専攻 H24年度修了)  
 朱 豊強 富士電機株式会社(材料工学専攻 H18年度修了)  
 牧内 一浩 山洋電気株式会社(機能機械学専攻 H9年度修了)  
 岡 直人 KOA株式会社(精密素材工学専攻 H13年度修了)  
 金子 洋平 新光電気工業株式会社(精密素材工学専攻 H21年度修了)

司会・進行

平林 公男 副学部長  
 下坂 誠 点検・評価委員長  
 本吉谷 二郎 教務委員長  
 他に在校生が数名参加した。

座談会のテーマと主な意見

#### 1.繊維学部を受験しようと思ったきっかけ

- ・中学・高校時代の理科の教員や授業に影響を受けて
- ・長野県は自然が多くて環境が良さそうなイメージがあった
- ・親戚に繊維学部出身者がいる影響で繊維学部を身近に感じるようになった
- ・繊維学部のパンフレットを見て、夢がありそうな所に魅力を感じた

#### 2.繊維学部の授業について「身に付いたこと」「今の自分に役立っている」と感じる印象に残った授業

- ・工学から生物まで幅広い学問分野を扱う学部にお蔭でいろいろな知識を身に付けることができた
- ・プレゼンテーションの授業。まとめ方から発表の仕方まで周りから指導や助言を受けながらやり抜いたことには自信にもなった
- ・研究室でのゼミや実験。外国語の文献を和訳して発表したこと、今の仕事でも同じようなことをする機会が多く、その時の経験が役に立っている

#### 3.卒論・修論・博士論文作成について、自主的に頑張ったことや研究を通して身に付いたこと

- ・研究分野の最先端を作っているというモチベーションを高く持てる経験ができたこと
- ・実験のマニュアルを作る経験は今の仕事で手順書を作る際に役立っている
- ・データの収集や論文の執筆が、今の仕事で特許を申請するときに重なる部分もあり、役に立っていると感じる
- ・数々の失敗をしたが、その失敗から別の解決法やアプローチを考える機会を多く持てたこと

#### 4.現在の皆さんから見て信大の良さはどのようなところだと思うか

- ・自然が多く落ち着いた雰囲気、学業に専念できる
- ・健康的な遊びが人格形成や、就職で会社を選ぶ際にも良い影響を与えている
- ・全国から集まってくる学生と出会えたこと
- ・地域性の強い教育や研究

#### 5.卒業してからの大学との結びつき(教員、研究室、サークル、友人、先輩、後輩など)

- ・研究室の合宿に招いてもらい、現役の学生や同期と交流を図っている
  - ・会社内外に信大のOB・OGが多い、良きライバルとしてお互い切磋琢磨できる
  - ・人生を豊かにしてくれる付き合いが今でも続いている
  - ・会社が近いため共同で講習会や工場見学会など企画することがある
6. 繊維学部として残してほしいもの、充実させてほしいもの、期待したいこと
- ・英語の学習、TOEICは英語学習のきっかけになるので続けてほしい、メールのやり取りを頻繁に行うので読む力の育成、数か国語を話せる留学生を増やすことで刺激を与えてはどうか
  - ・繊維という学部の名前は残してほしい
  - ・繊維のことが全般的に学べる教養的な授業があれば良い
  - ・英語だけでなく国語力も必要.説明の仕方をきちんと身に付ける力を養う授業
7. 学生時代にやっておけば良かったこと、やっておいて良かったこと
- ・時間のあるうちに海外に行くこと、視野も広がる
  - ・今、課されていることに一生懸命に取り組む習慣をつける
  - ・専門分野以外の知識も広げておくと役に立つ
  - ・本をたくさん読んでほしい、体系立った知識が身に付く
  - ・課外活動で大学以外での交流を持つことも大事、違った視点からアドバイスをもらえたりする

(出典：繊維学部事務部作成)

(水準) 期待される水準を上回る

(判断理由)

学部卒業者の7割近い学生が、さらに高度な専門知識と技術を得るため大学院修士課程に進学し、就職希望者の就職率は100%で安定している。(資料繊維109) 安定した就職率を維持している状態は、受験生、在学生の期待を満たすものである。

以上の点より、繊維学部の目的・特徴を踏まえつつ総合的に勘案した結果、学業の成果の状況は、繊維学部が想定している関係者が期待する水準を上回ると判断する。

## Ⅲ 「質の向上度」の分析

## (1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

## 事例1 繊維・ファイバー工学の教育体制の改革

○平成24年度に3系9課程の教育システムを、4つの系に組換えた。4系という入試の入  
り口は、繊維学部特有な繊維・感性工学に加えて、高校の自然科学基礎科目である物理、  
化学、生物に対応しており、受験生にとって志望系を選択しやすいメリットがある。第2  
期中期目標期間の一般入試志願倍率は3.5-4.7倍と安定している。(資料織21) この教育  
体制に学生は肯定的な見方をしており、卒業時の満足度も高い。(資料織100)

○不断に教育の成果を検証分析し、新たな計画に反映させるしくみが動いている。(資料織  
46) 平成23年度に学生相談室を設置し効果的な学生指導体制を構築した。(資料織36、織  
37、織38) その結果、退学者数(12.7名/年度)は第1期(19.3名/年度)に比べて減少  
した。(資料織96)

以上より、学部の教育活動において質の向上があったと判断する。

## 事例2 グローバル化に向けた英語教育の充実

○理系技術者に必要な実践的英語を身につけさせるため、TOEICスコアを指標とした学部  
独自の英語教育プログラムを構築し、平成23年度より学生の英語力とその向上度を客観的  
に評価し、英語授業の改善に活かすPDCAサイクルを確立した。(資料織67)

○平成23年度よりTOEICスコアの高い学生にインセンティブを与え、さらに能力を高める  
しくみ(特別クラスの設置、学部長表彰)を導入した。(資料織67)

以上より、学生がグローバル社会に適応するため、英語の重要性を認識させ学習に取り  
組ませる教育体制を構築したことから質の向上があったと判断する。

## 事例3 海外交流協定校の開拓と学生の海外派遣支援提携校数

○海外の繊維・ファイバー工学分野の有力大学と交流協定を結び、提携校数は第1期最終  
年度の37から63に増加した。(資料織68)

○留学希望の学生を支援する体制を整備したことにより、海外派遣学生数が第1期期間の  
数名から第2期は55名と大幅に増加した。(資料織71)

以上より、学生の海外派遣機会を拡大し、派遣者数を増加させたことから質の向上があ  
ったと判断する。

## (2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

## 事例1 安定した高い就職率

○就職委員会を中心とした就職支援活動により、就職希望者の就職率は96%(第1期)か  
ら100%(第2期)と増大した。(資料織109)

以上より、在学生の就職に対する期待に応えたことから質の向上があったと判断する。

## 14. 理工学系研究科

- I 理工学系研究科の教育目的と特徴 . . . . . 14-2
- II 「教育の水準」の分析・判定 . . . . . 14-17
  - 分析項目 I 教育活動の状況 . . . . . 14-17
  - 分析項目 II 教育成果の状況 . . . . . 14-57
- III 「質の向上度」の分析 . . . . . 14-67

## I 理工学系研究科の教育目的と特徴

### 1 教育目的

#### (1) 研究科の目的及び養成する人材像

本研究科は、信州大学大学院理工学系研究科規程（以下「研究科規程」）に研究科の目的を定めている。（資料理工1）

資料理工1：信州大学大学院理工学系研究科規程

（目的）

第1条の2 研究科は、質の高い教育研究を展開し、独創的な学術研究を推進するとともに、創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者、高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人及び環境調和社会・知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材を養成し、もって科学技術の進歩と地域社会、国際社会に貢献することを目的とする。

（出典：信州大学規程集）

さらに、本研究科は養成する人材像を資料理工2のとおり明示し、教育研究活動を行っている。

資料理工2：養成する人材像

- ①創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者、高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人及び環境調和社会・知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材を養成する。
- ②人類、社会の平和・持続的発展のために、研究者・技術者として科学・技術を発展させるための幅広い見識と健全な倫理観を兼ね備えた、想像性豊かな研究・開発能力を培う。また、環境調和型を強く意識した、自然科学の基礎的・応用的研究分野における高度な専門的知識に加え、深い知識を活用し、分野を超えた問題にも対処できる解決能力を有し、さらに発展的な応用まで進展させる能力を培う。

#### 【各専攻の養成する人材像や特色】

##### 数理・自然情報科学専攻

自然界、社会における現象や構造について「数学」を用いて解明することを研究目標に掲げ、そのために必要となる論理的思考能力や表現力、応用力を培うことで、様々な問題に対処できる高度専門職業人の養成を行っています。

##### 物質基礎科学専攻

数学、物理学、化学に基づいて自然現象を解明することを研究目標とし、論理的な思考力や表現力、ならびに実践的な応用力を培うことで、自然科学を社会に役立て、様々な問題に対処できる高度専門職業人の養成を行っています。

##### 地球生物圏科学専攻

地圏、水圏、気圏、生物圏の諸現象および各圏の相互作用、さらにそれらを支配する法則と地球システムの解明を研究目標に掲げ、生物学、地学、化学、物理学等の知識や方法論から、複雑な自然の体系を解きほぐす糸口をフィールドや自然現象の中から実践的に見出し、問題を解決できる人材の養成を行っています。

##### 機械システム工学専攻

本専攻の基盤となっているのはモノづくりに必要な全ての技術です。21世紀のモノづくりに必要な高度な知識を駆使し、豊かな創造力と高度な研究開発能力を持つエンジニアを養成します。

##### 電気電子工学専攻

本専攻では、電力工学、情報通信工学、電子工学等の各分野で、海外の研究機関とも積極的に協力、交流を保ちながら最先端技術の開発に努めています。

##### 土木工学専攻

土木工学（社会基盤・環境防災・地域計画）に関する高度な専門的知識と技術を持ち、未来をひらく環境やインフラ整備について幅広い観点から発想できる人材の育成を目指します。

##### 建築学専攻

人間が健全な住生活と産業振興を営むためには、地域・都市の基盤を計画することが必要であるとともに、今後は、より発展した社会の創造と持続可能性を追求することが不可欠です。当専攻では、環境との調和を考慮した安全で快適な社会を創造し、人間を含めた種々の構造物との機能的結合を高めていく総合建設技術の確立を担う人材育成のために、高度な研究と教育を行います。

##### 物質工学専攻

新機能を持つ高付加価値物質及び新素材としての化合物の新規開発の研究教育を通じて、現代の先端物質・材料技術のレベルに対応できる専門知識と共に柔軟な発想と応用力を持つ高度技術者及び研究者の育成を目的としています。

##### 情報工学専攻

広範なシステム要求に対し、高い信頼性と付加価値を目標として発展を続ける情報工学分野の研究教育を通じて、高度な設計・技術開発能力を持つ技術者・研究者等の人材育成を目指します。

##### 環境機能工学専攻

<p>大量生産・大量消費・大量廃棄の社会から、地球環境を保ち改善しながら繁栄する社会へと転換するために必要な「環境調和型科学技術」を、開発・発展させる教育と研究を行います。</p> <p><b>繊維・感性工学専攻</b> 学部教育プログラムとの連続性を保ちつつ、我が国唯一の繊維工学と感性工学を融合した領域の高度な研究者や技術者を養成します。そのため「先進繊維工学コース」、「感性工学コース」を設置します。</p> <p><b>機械・ロボット学専攻</b> ヒトに近い機能とヒトを超える性能をもつ機械の創造、生物に学び、新たな発想によるヒトと環境にやさしいものづくりによって、機械工学とロボット学を横断的に学び、研究します。</p> <p><b>化学・材料専攻</b> 物質の基礎から応用までの化学的探求に主眼を置く「応用化学コース」、材料開発やプロセス・システム開発に主眼を置く「材料化学工学コース」、高分子が関わる機能材料設計に主眼を置く「機能高分子学コース」からなります。</p> <p><b>応用生物科学専攻</b> 生物が持つすばらしい機能を積極的に利用することを目標に、幅広い生物を対象として遺伝子・細胞から生態・環境のレベルまで含めた多様な教育研究に取り組みます。</p> <p style="text-align: right;">(出典：「信州大学大学院理工学系研究科案内」)</p>
---

(2) 三つの方針

本研究科は、資料理工3及び資料理工4のとおり学位授与の方針（以下「DP」）を、資料理工5のとおり教育課程編成・実施の方針（以下「CP」）を、資料理工6のとおり入学受入の方針（以下「AP」）を定めている。

<p><b>資料理工3：信州大学大学院学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）</b> 信州大学大学院では、俯瞰力と独創力を備え、持続可能な価値社会を創造する質の高い高度専門職業人や、先端的研究を推進する人材を養成するために、以下のように各課程の学位授与方針を定める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 修士課程にあつては、広い視野に立って精深な学識を持ち、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を修得している。</li> <li>・ 博士課程にあつては、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するのに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を修得している。</li> <li>・ 専門職学位課程にあつては、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を修得している。</li> </ul> <p style="text-align: right;">(出典：信州大学ホームページ「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」)</p>
--

<p><b>資料理工4：信州大学大学院理工学系研究科学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）</b> 信州大学大学院理工学系研究科の目的に則り、以下の知識と能力等を充分培い、かつ、専攻ごとに定められた学位授与方針に適う知識と能力等を有する学生に「修士」の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人類、社会の平和的・持続的発展のために、研究者・技術者として科学・技術を発展させるための幅広い見識と健全な倫理観。</li> <li>2. 環境調和社会、知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養。</li> <li>3. それぞれの研究分野における高度な専門的知識。</li> <li>4. 創造性豊かな優れた研究・開発能力。</li> <li>5. 専門知識に基づいて自らの思考や妥当性を理論的に説明し、議論する能力。</li> </ol>
---

【松本キャンパス】	
数理・自然情報科学専攻	<p>信州大学大学院理工学系研究科の目的に則り、以下の能力と見識を十分に培った学生に対して、「修士（理学）」の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自然界、社会における様々な現象やその構造に対して、常に変わらぬ知的的好奇心と探求心を抱き、理学を継続的に研究解明してゆこうとする意志力。</li> <li>2. 数学および自然情報学の高度な専門知識を修得し、様々な状況に直面した場合、自らの課題を発見し、身に付けた自身の数学的思考能力・表現力・応用力に基づく総合的な判断・対処が十分にできる、高度専門職業人としての能力と見識。</li> <li>3. 数学の文化的基盤を支え、理学の普及に、また、自然との調和が取れた科学の発展に貢献し得る意志力と見識。</li> </ol>
物質基	<p>信州大学大学院理工学系研究科の目的に則り、以下の能力と見識を十分に培った学生に対して、「修士（理学）」の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自然界、社会における様々な現象やその構造に対して、常に変わらぬ知的的好奇心と探求</li> </ol>

<p>礎科学専攻</p>	<p>心を抱き、理学を継続的に研究解明してゆこうとする意志力。                  2. 数学および自然情報学の高度な専門知識を修得し、様々な状況に直面した場合、自らの課題を発見し、身に付けた自身の数学的思考能力・表現力・応用力に基づく総合的な判断・対処が十分にできる、高度専門職業人としての能力と見識。                  3. 数学の文化的基盤を支え、理学の普及に、また、自然との調和が取れた科学の発展に貢献し得る意志力と見識。</p>
<p>地球生物圏科学専攻</p>	<p>生物学、地質学、地球科学、化学、物理学等の基礎的知識を踏まえて、地球表層部における、地圏、水圏、気圏、および生物圏の諸現象と各圏の相互作用、それらを支配する法則と地球システムの解明を目標として、以下の知識と能力等を有する学生に「修士（理学）」の学位を授与する。                  1. 上述した専攻の目標を達成するために必要な知識や研究方法論の修得。                  2. 自然の現象の調査・観測から問題解決の糸口を見いだす能力。                  3. 自ら研究計画を立て、実践し、その結果を論理的に発表・文章化する能力。</p>
<p>【長野(工学)キャンパス】</p>	
<p>機械システム工学専攻</p>	<p>機械システム工学の基礎を理解した上で、応用発展させることができる                  物理現象を理解・考察し、正確かつ安全な機械工学分野の実験を計画・実施し、解析する能力を有する                  機械工学分野の研究を自らの論理的思考により遂行する能力を有する                  現象と課題を理解し、論理的判断ができ、解決する方法を自ら創造できる能力を有する                  計測制御分野の課題を理解し発展させる能力を有する                  材料・設計分野の課題を理解し発展させる能力を有する                  熱流体分野の課題を理解し発展させる能力を有する</p>
<p>電気電子工学専攻</p>	<p>数学・物理学・エネルギー・エレクトロニクス・情報通信という幅広い分野毎の知識を修得し、多面的な視点から知識を応用させることができる                  エネルギー分野に特化した専門知識を応用・発展させることができる                  エレクトロニクス分野に特化した専門知識を応用・発展させることができる                  情報通信分野に特化した専門知識を応用・発展させることができる                  電気電子工学に関する実験・演習により様々な物理現象を解析し、新技術に応用することができる                  環境負荷軽減を目的とした新エネルギー・デバイス・材料・情報通信技術に関する専門知識を応用することができる                  高度な専門知識を応用・発展させ、電気電子工学に関する創造的な研究を自ら計画・遂行できる</p>
<p>土木工学専攻</p>	<p>■建設行為の主要な担い手となれる（技術者マインド）、共同体において慎み深い一員となれる（社会的行動マインド）、倫理と道徳の責任ある一主体となれる（倫理マインド）                  ■環境を的確に認識できる（環境認識力）、空間を的確に認識できる（空間認識力）、素材を的確に認識できる（素材認識力）                  ■創造的で総合的なデザインのための方向性を定めることができる（スケールや素材に関するリテラシー）、もう一つの技術・代替技術の可能性を幅広く探究することができる（技術や科学に関するリテラシー）、地域適合型技術の幅広い適用に努めることができる（地域特性に関するリテラシー）                  本専攻コースにおける特定重点的なテーマ                  持続可能な自然環境と調和した地域・都市環境デザインができる                  合理的で美しく災害に強い社会基盤デザインができる                  地域特性を活かした快適に暮らせるまちをデザインできる</p>

<p>建築学専攻</p>	<p>■建設行為の主要な担い手となれる（技術者マインド）、共同体において慎み深い一員となれる（社会的行動マインド）、倫理と道徳の責任ある一主体となれる（倫理マインド）</p> <p>■環境を的確に認識できる（環境認識力）、空間を的確に認識できる（空間認識力）、素材を的確に認識できる（素材認識力）</p> <p>■創造的で総合的なデザインのための方向性を定めることができる（スケールや素材に関するリテラシー）、もう一つの技術・代替技術の可能性を幅広く探究することができる（技術や科学に関するリテラシー）、地域適合型技術の幅広い適用に努めることができる（地域特性に関するリテラシー）</p> <p>本専攻コースにおける特定重点的なテーマ</p> <p>快適で美しい環境デザインができる</p> <p>合理的で美しい構造デザインができる</p> <p>地域特性を活かした民家や街区を美しく再生できる</p>	<p>【建築技術者としての自覚】</p> <p>【建設技術の基礎となる認識力】</p> <p>【建築と都市の双方にわたる総合的な思考】</p> <p>【建築環境デザイン力】</p> <p>【建築構造デザイン力】</p> <p>【新旧統合デザイン力】</p>
<p>物質工学専攻</p>	<p>身のまわりの物質や材料、自然現象を専門的知識に基づいて化学的に考察でき、自ら問題点を発見し、解決する能力を有している【専門知識、問題発見・解決能力】</p> <p>高度な専門知識、総合的な判断力をもって研究開発を行うことができる研究者・技術者としての能力を有している</p> <p>専門知識と経験に基づいて、化学実験を計画・実施・解析できる能力と応用する能力をもつ【実験技術・能力、データの解析・応用力】</p> <p>化学者として自らの思考・判断を論理的に説明するためのプレゼンテーション能力をもち、発展的な議論に展開できる能力を持つ</p> <p>化学に対する幅広い専門知識を有し、社会・環境に対する化学の影響を意識したバランスの良い論理的判断を行うことができる</p> <p>専門知識を総合的に活用し、世界的な視野から最先端の化学技術の発展に貢献できる</p> <p>科学技術、職業倫理等についての的確な知識を持ち、自分と自分のものづくりを広い視野の中に位置づける</p> <p>企業経営とマーケティングに関する基本的概念を理解し、競争戦略、マーケティング戦略を展開できる能力を持つ</p>	<p>【複合科学分野の専門知識、材料科学分野の専門知識、問題発見・解決能力】</p> <p>【研究開発能力】</p> <p>【化学実験の技術・能力、実験データの解析・応用力】</p> <p>【プレゼンテーション能力】</p> <p>【化学者としての判断力】</p> <p>【情報活用力】</p> <p>【創業マインド、ものづくりマインド】</p> <p>【経営マネジメント力】</p>
<p>情報工学専攻</p>	<p>自然、社会、歴史、文化に対する幅広い教養を持ち、コンピュータ技術の社会、環境に対する影響について、倫理観を持って判断できる。</p> <p>自らの考えを他者に理解できるように伝達すると共に、相手の考えを十分に把握して論理的に討議できるコミュニケーション能力を有する。</p> <p>コンピュータサイエンス、コンピュータエンジニアリング分野における工学的課題の解決に関する問題分析、計画立案、遂行、論文・報告書作成能力を有する。</p> <p>コンピュータの理論的基盤に関する幅広い専門知識を有し、工学的課題に応用・展開できる能力を有する。</p> <p>コンピュータデバイス及びコンピュータ応用システムに関する幅広い専門知識を有し、工学的課題に応用・展開できる能力を有する。</p> <p>知能情報、メディア理解に関する幅広い専門知識を有し、工学的課題に応用・展開できる能力を有する。</p> <p>情報計測、センシングに関する幅広い専門知識を有し、工学的課題に応用・展開できる能力を有する。</p> <p>ソフトウェア工学に関する幅広い専門知識を有し、工学的課題に応用・展開できる能力を有する。</p> <p>コンピュータネットワーク、セキュリティに関する幅広い専門知識を有し、工学的課題に応用・展開できる能力を有する。</p>	<p>【情報工学技術者マインド】</p> <p>【情報工学技術者コミュニケーション能力、情報工学技術者プレゼンテーション能力】</p> <p>【情報工学技術者研究開発能力】</p> <p>【コンピュータ基盤理論発展能力】</p> <p>【コンピュータデバイス・応用システム技術応用能力】</p> <p>【知能情報・メディア技術応用能力】</p> <p>【情報センシング技術応用能力】</p> <p>【ソフトウェア工学技術応用能力】</p> <p>【セキュリティ技術応用能力】</p>

<p>環境 機械 能工 学専 攻</p>	<p>健康問題や環境などの複雑系現象を統計的に処理し、素子に分解することで科学的に理解・解析できる。                  機械工学の知識に基づき、実際の物理現象を測定し理解する能力や技術を身につけることができる。                  自然科学系科目の基礎知識および機械系専門科目の基礎知識を工学的問題の解決に応用できる。                  環境関連物質の物性・特性やその創製にかかわる知識と技術を環境調和型技術に応用することができる。                  さまざまな化学物質や化学実験設備（分析評価機器）および材料評価試験装置を幅広く応用して取り扱うことができる。                  無機化学、有機化学、物理化学の幅広い基礎知識を実際問題に応用できる。                  生産・使用・回収・リサイクルという製品・サービスのライフサイクル全体に着目した視点から、環境負荷を低減するための技術革新についての知識を習得するとともに、環境適合化の考え方と知識を身につけ、これらを環境問題の解決に応用できる。</p>	<p>【複雑系現象の科学的理解】                  【高度な物理現象の理解】                  【自然科学の応用能力，機械系専門科目の応用能力】                  【環境調和型技術】                  【実験設備の応用能力】                  【化学系専門科目の応用能力】                  【環境負荷低減技術についての高度な知識と応用能力，高度な問題解決能力】</p>
<p>【上田キャンパス】</p>		
<p>繊維・ 感性 工学 専攻</p>	<p>信州大学大学院理工学系研究科繊維・感性工学専攻の課程を修了し、次に該当する者に「修士（工学）」の学位を授与する。                  1. 繊維・感性工学の基盤を理解したうえで、高度に応用発展させることができる能力を有する。                  2. マーケティング情報の収集能力や情報を精緻に分析できる能力を有する。                  3. 高度な専門知識に基づく問題分析、解決能力を有する。                  4. 研究分野での成果を発信できるグローバルな情報発信能力を有する。                  （先進繊維工学コース）                  (1) 斬新な繊維関連製品群を提起できる発想・構想力を有する。                  (2) 繊維関連製品群の基礎となる新繊維集合体を開発・製造できる能力を有する。                  (3) 繊維関連製品群を設計し高度に品質管理できる能力を有する。                  (4) 繊維関連製品群の性能を計測し評価できる能力を有する。                  （感性工学コース）                  (1) 感性工学を応用し新たな製品やサービスを提案できる発想・構想力を有する。                  (2) 感性価値に優れた製品・サービスおよび素材を設計・開発できる能力を有する。                  (3) 製品や素材・サービスの感覚・感性価値を計測し評価できる能力を有する。</p>	
<p>機械・ ロボ ット 学専 攻</p>	<p>信州大学大学院理工学系研究科機械・ロボット学専攻の課程を修了し、次に該当する者に「修士（工学）」の学位を授与する。                  1. ①生体、②材料・エネルギー・流体、③メカトロニクスを柱とする研究分野の高度な専門的知識を有する。                  2. 生物の機能と構造に学んで、限りなく人間に近い感覚と知能を備えた機械、さらに生物を超える性能をもつ機械を創成できる高度専門知識および学際分野に対応できる課題解決力・学際的対応力を有する。                  3. コミュニケーションおよび情報収集・発信能力を有する。                  4. ものづくりを基本とし、課題解決に向けて自主的・継続的に学習・計画・実行できるデザイン力と実行力を有する。</p>	
<p>化学・ 材料 専攻</p>	<p>信州大学大学院理工学系研究科化学・材料専攻の課程を修了し、次に該当する者に「修士（工学）」の学位を授与する。                  1. 化学と材料を中心に据えつつ技術イノベーションを見据えた幅広い視点から研究開発をおこなう能力を有する。4. 研究分野での成果を発信できるグローバルな情報発信能力を有する。                  （応用化学コース）                  (1) 幅広い化学の専門的知識を有し、化学に関する諸問題を解決する能力を有する。                  (2) 有用な化学物質のデザイン、合成、評価等ができる能力を有する。                  （材料化学工学コース）                  (1) 化学工学・材料工学に関する専門知識を有する。                  (2) 資源・エネルギー・環境問題の解決に役立つ材料開発やその製造プロセス・利用システムの開発に対する能力を有する。                  （機能高分子学コース）                  (1) 高分子科学に関する専門知識を有する。                  (2) 高分子が関わる機能材料設計、高分子合成、高分子物性、機能性評価ができる能力を有する。                  2. 研究成果を適切に発表する能力と相互に理解し合うためのコミュニケーション能力を有する。</p>	

応用 生物 科学 専攻	<p>信州大学大学院理工学系研究科応用生物科学専攻の課程を修了し、次に該当する者に「修士（農学）」の学位を授与する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生物科学研究上の客観的事実を論理的に考察し、理解することができる。</li> <li>2. 応用生物科学に関する高度な専門知識と技術とを具備し、生命科学、環境保全、食料生産などの人類が直面する諸課題に対応することができる。</li> <li>3. 応用生物科学に関する幅広い見識を持ち、高い倫理観を持って行動することができる。</li> <li>4. 応用生物科学分野で必要とされる情報収集・分析能力を有する。</li> <li>5. 応用生物科学分野での研究成果を発信するための、グローバルな情報発信能力及びコミュニケーション能力を有する。</li> </ol> <p style="text-align: right;">（出典：信州大学ホームページ「信州大学大学院理工学系研究科学位授与の方針」）</p>
----------------------	--

資料理工5：信州大学大学院教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）	
大学院課程における教育課程編成の方針	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 信州大学大学院は、研究科及び専攻の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設するとともに、研究指導の計画を策定し、体系的に教育課程を編成します。</li> <li>2. 信州大学大学院は、教育課程の編成に当たっては、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう適切に配慮します。</li> </ol>	
大学院課程における教育課程実施の方針	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 信州大学大学院は、専門性の一層の向上を図り幅広い学識を涵養するため、コースワークを充実させ、コースワークから研究指導へ有機的につながる体系的な教育を行います。また、各研究科の「学位授与の方針」に定めた、修了時までには修得すべき知識・能力等がカリキュラム体系のなかでどのように養成されるのかを示すため、シラバスで「学位授与の方針」で定められた知識・能力等との対応を示し、それら諸能力等を修得するプロセスを履修プロセス概念図で示します。</li> <li>2. 信州大学大学院は、学生個人々の主体的で活発な勉学意欲を促進する立場から、授業時間外の多様な学修研究機会を通じ、諸課題に積極的に挑戦させます。</li> <li>3. 信州大学大学院は、成績評価の公正さと透明性を確保するため、成績の評定は、各科目に掲げられた授業の狙い・目標に向けた到達度をめやすとして採点します。</li> <li>4. 信州大学大学院は、修士課程及び博士課程の学位論文審査体制を充実させ、厳格な審査を行います。</li> </ol> <p style="text-align: right;">（出典：信州大学ホームページ「信州大学大学院教育課程編成・実施の方針」）</p>	

資料理工6：信州大学大学院入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）	
求める学生像	
<p>信州の悠久の歴史と文化、豊かな自然環境のもと、地域に根ざし世界に開かれた信州大学大学院は、総合大学の特色を生かし、国の活力を高める次世代を担う卓越した人材や世界的な視点で新たな価値を創造する質の高いグローバルな高度専門職業人の養成を目指しています。そのため、以下のような能力や意欲を備えた人たちを積極的に受け入れます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広い教養と専攻する分野の専門知識を持ち、さらに高度な専門的知識・専門応用能力を修得したい人</li> <li>・知的好奇心が旺盛で、専門的課題や地域社会の抱える課題に主体的に取り組む人</li> <li>・深い知性、論理的な思考力、豊かな人間性を備え、様々な分野でリーダーシップを発揮し、活躍したい人</li> <li>・社会・環境・国際問題に関心をもち、創造力を活かし、グローバルに活躍したい人</li> <li>・職業経験から獲得した知識・技能を高度化、深化させたい人</li> </ul>	
入学者選抜の基本方針	
<p>信州大学の教育の理念・目標に則り、各研究科の特性に応じた公正かつ適切な方法で入試を実施し、大学院教育を受けるにふさわしい能力・適性等を多面的・総合的に評価します。</p> <p style="text-align: right;">（出典：信州大学ホームページ「信州大学大学院入学者受入方針」）</p>	
理工学系研究科アドミッション・ポリシー	
<p>理工学系研究科では、本研究科の目的の下に、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 科学・技術の基礎的あるいは応用的研究に積極的に取り組む人</li> <li>2. 世界をリードする科学・技術を担う研究者あるいは高度専門職業人を目指す人</li> <li>3. 大学等において能動的に学び、一般教養及び専門分野の基礎学力を身に付けている人を求めています。</li> </ol> <p style="text-align: right;">（出典：信州大学ホームページ「理工学系研究科 大学院入試情報」）</p>	

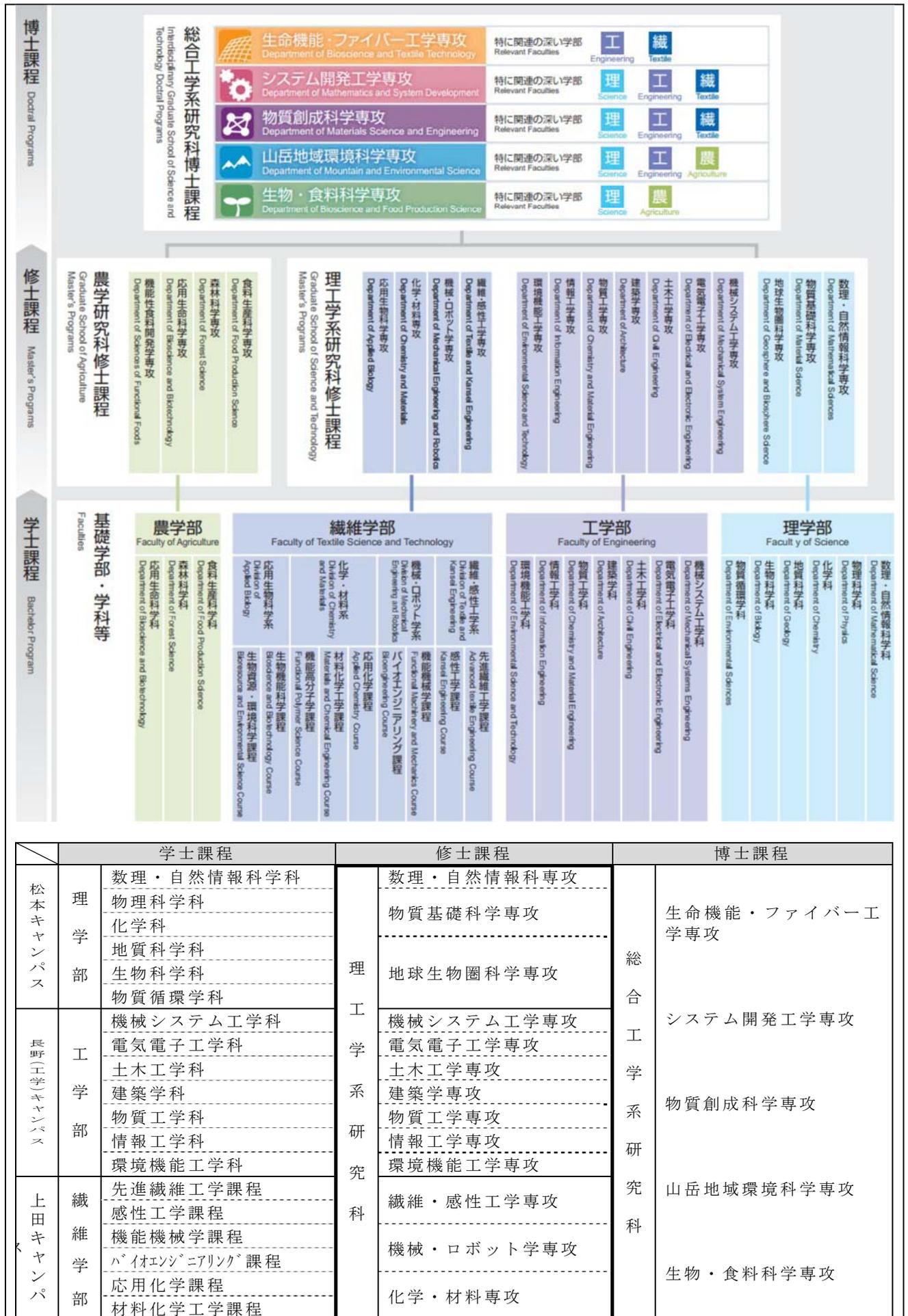
本研究科は、平成3年4月に3研究科（理学研究科、工学研究科、繊維学研究科）を統合設置した工学研究科（博士前期課程）を前身とし、改組再編を重ね、平成24年4月より理学部（松本キャンパス）、工学部（長野（工学）キャンパス）、繊維学部（上田キャンパス）の基礎学部（学科）に対応した14専攻からなる修士課程である。（資料理工7、資料理工8）

資料理工7：キャンパス配置図



(出典：出典:信州大学ホームページ「交通・キャンパス案内」)

資料理工8：理工学系研究科の構成



		学士課程	修士課程	博士課程
松本キャンパス	理学部	数理・自然情報科学科	数理・自然情報科専攻	総合工学系研究科
		物理科学科	物質基礎科学専攻	
		化学科	地球生物圏科学専攻	
		地質科学科	機械システム工学専攻	
		生物科学科	電気電子工学専攻	
		物質循環学科	土木工学専攻	
長野(工学)キャンパス	工学部	機械システム工学科	建築学専攻	
		電気電子工学科	物質工学専攻	
		土木工学科	情報工学専攻	
		建築学科	環境機能工学専攻	
		物質工学科	繊維・感性工学専攻	
上田キャンパス	繊維学部	先進繊維工学課程	機械・ロボット学専攻	
		感性工学課程	化学・材料専攻	
		機能機械学課程		
		バイオエンジニアリング課程		
		応用化学課程		

	機能高分子学課程 生物機能科学課程 生物資源・環境科学課程		----- 応用生物科学専攻	
伊那キャンパス：農学部		農学研究科		

(出典：信州大学大学院理工学系研究科案内をもとに経営企画課作成)

### 3. カリキュラムの概要・特色

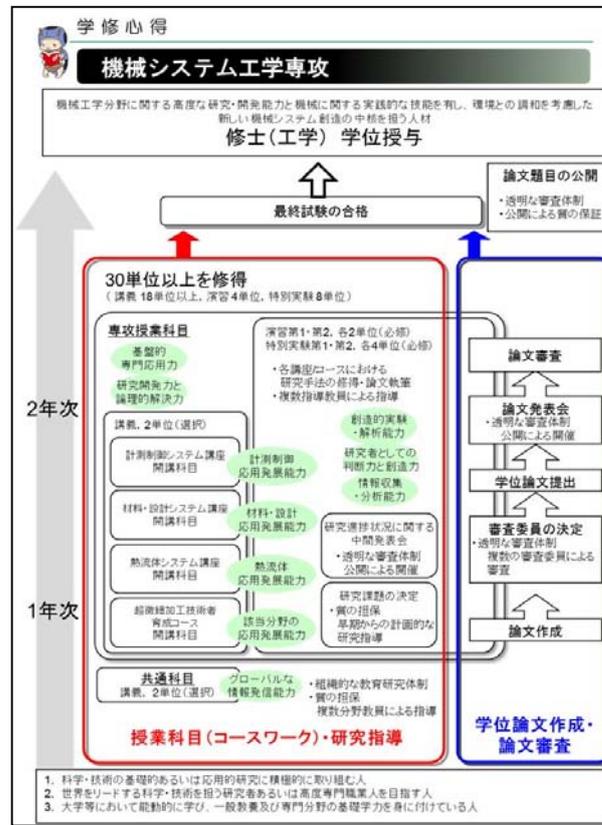
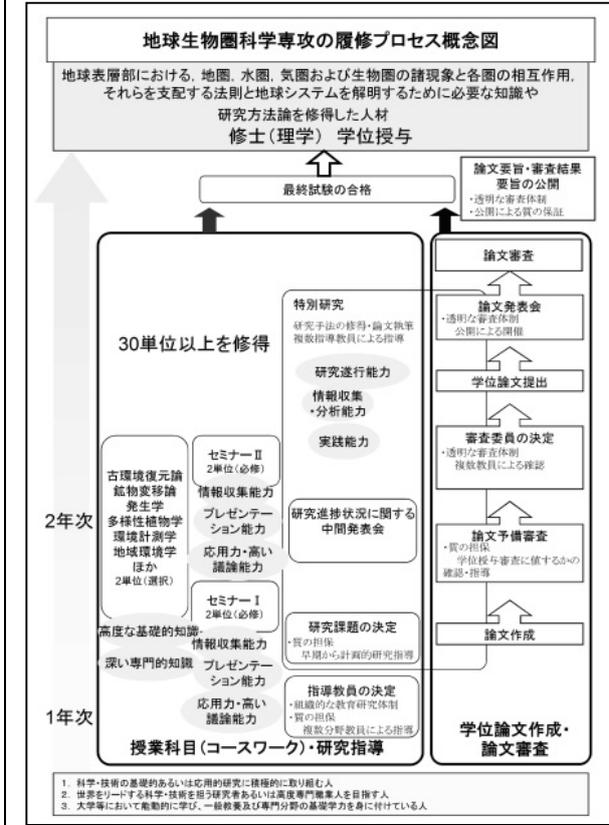
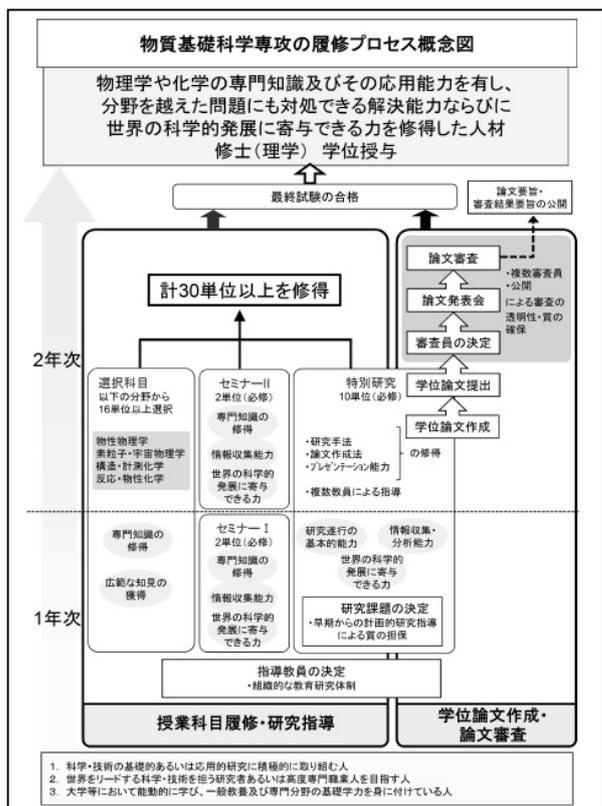
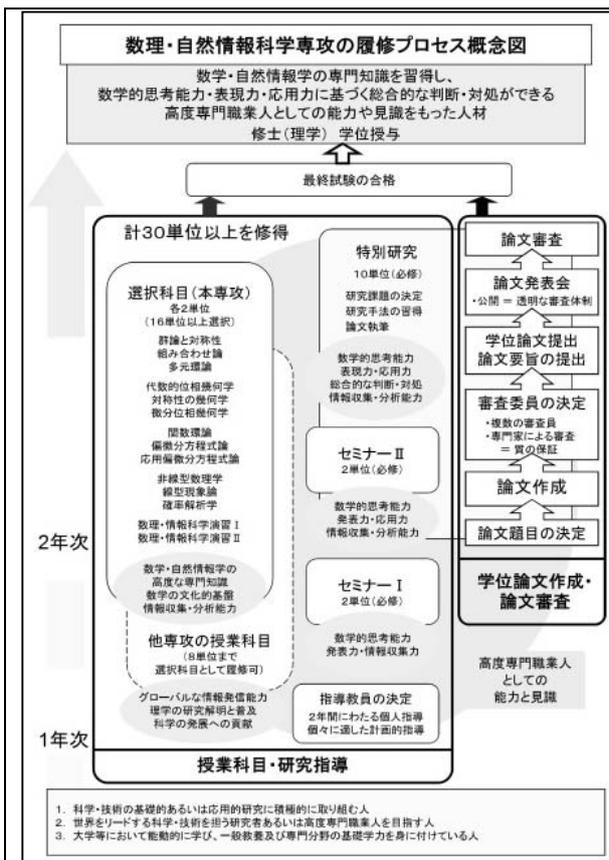
本研究科では、学部で培った知識や技術をベースに高度な学術の理論や応用に関する教育を行っており、研究科で掲げる人材を養成するため、専門分野に加え周辺分野の履修を可能とする編成を資料理工9のとおり行っている。

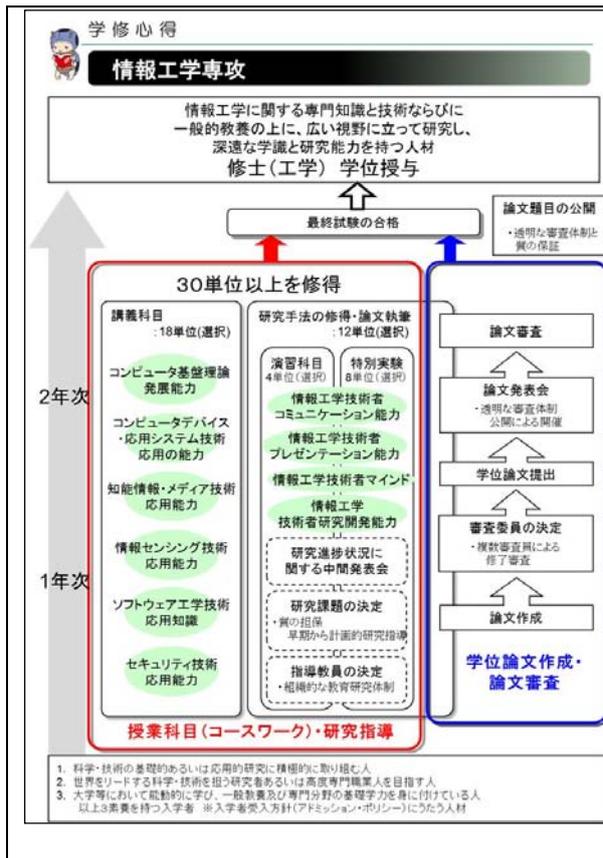
資料理工9：教育研究指導の方針		
広い視野で高度な研究技術，思考力，解析力を身につけ，能動的に研究する能力を高めることを目的とし，専門の周辺分野の授業科目を履修可能とするために，履修科目を以下のように編成する。		
履 修	要 目	備 考
共通科目	研究科共通科目(選択)	社会の多様な場で活躍できる広い視野と総合的判断力，実践的技術力を身につけさせる。さらに，産業界との連携(インターンシップ)も考慮した多様な学習機会を与える。
専門授業科目	所属専攻(選択必修)	高度な専門知識の修得
他専攻授業科目	他専攻(選択)	幅広い知識と柔軟な思考・応用力を高め，独創的な研究能力を開発する。
特別研究(課題研究)・特別実験	正副指導教員による研究指導(必修)	専門分野の深い知識の修得とともに，能動的な研究能力を高めることを基本とする。
セミナー・演習	所属する専攻の教員による演習(必修)	

(出典：信州大学大学院理工学系研究科案内 P35)

各専攻は、入学時からコースワーク、研究指導、学位論文作成・審査に至るまで体系的に教育している。また、平成23年度に各専攻の履修プロセス概念図を作成し、学生に周知している。(資料理工10)

資料理工10：各専攻履修プロセス概念図
---------------------





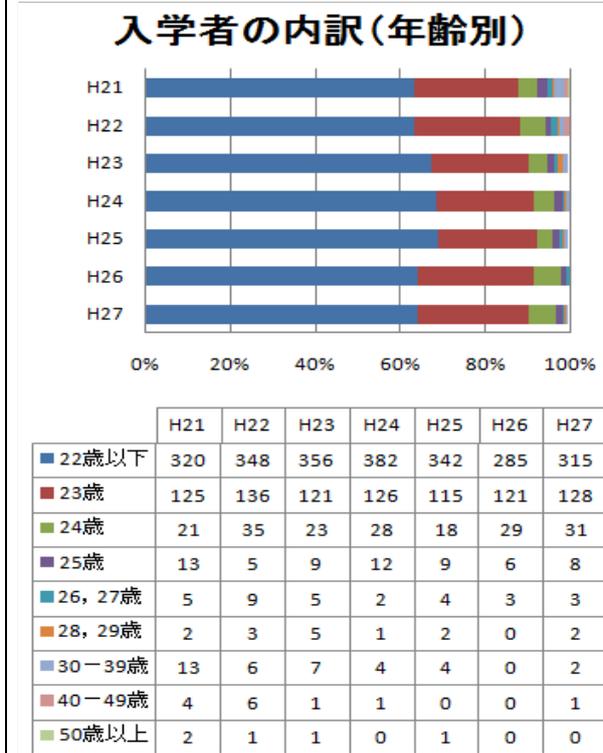
全専攻の履修プロセス概念図を掲載

(出典：「学生便覧」)

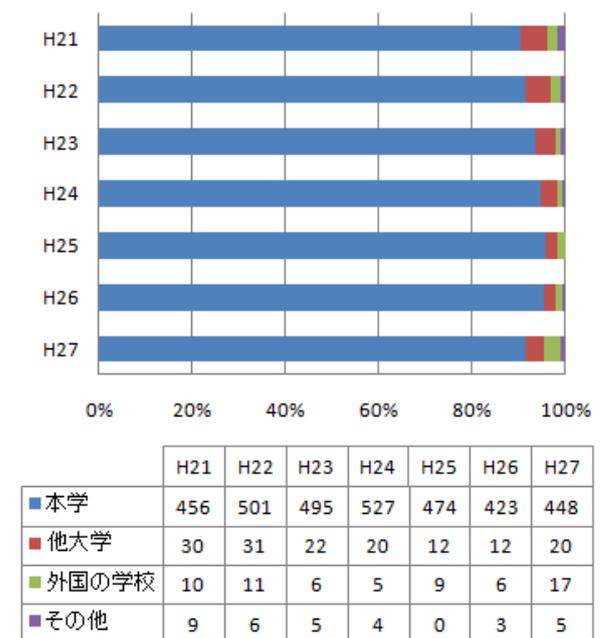
4. 入学者の状況

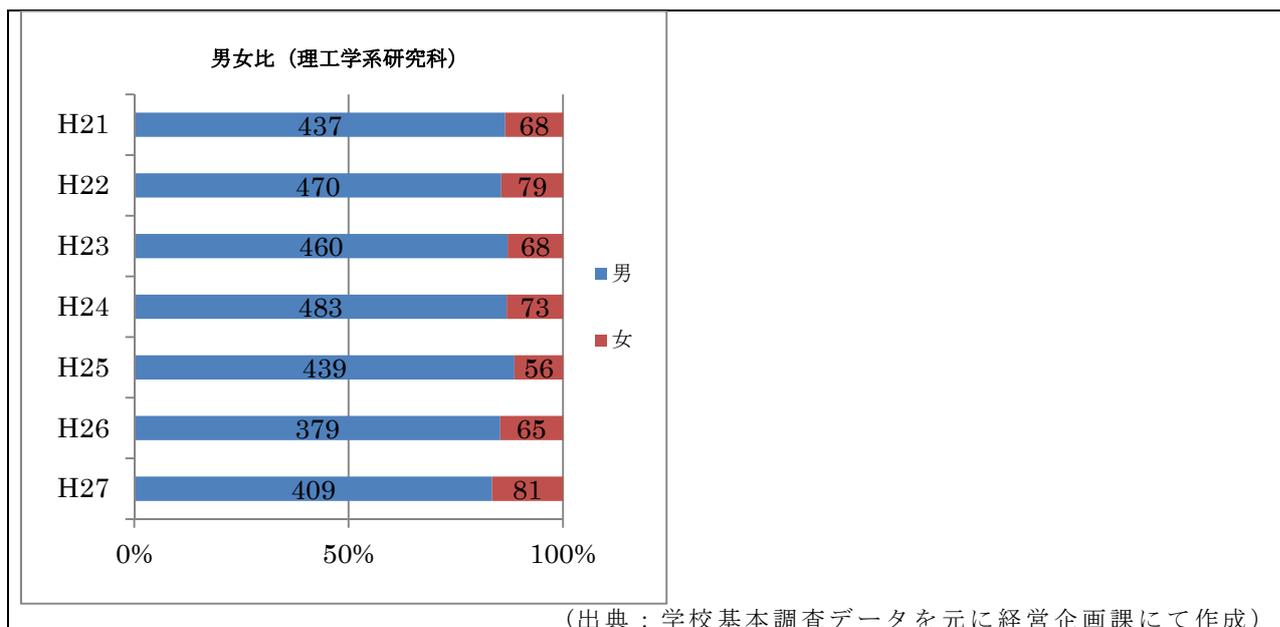
入学者の状況は、以下のとおりである。(資料理工 11)

資料理工 11 入学者の状況 (年齢別、出身学校種別、男女比)



### 入学者の内訳(出身学校種別)





入学者選抜は、一般選抜、推薦入試、社会人特別選抜、外国人留学生特別選抜、学部3年次学生を対象とする特別選抜を実施している。(資料理工12)

資料理工 12 理工学系研究科 入学者選抜

入学時期	試験種別	キャンパス・専攻		選抜方法	
4月	①推薦特別選抜	長野(工学)キャンパス	土木工学専攻 物質工学専攻	<p>①推薦特別選抜 それぞれの分野の専門教育を受け、学業成績が優秀で人物・健康状態ともに良好であり、出身大学等の学長等から推薦され出願し、かつ、合格した場合は必ず入学できる方</p> <p>②一般選抜(1次) 大学(修業年限4年以上)を卒業した方又は平成27年3月までに卒業見込みの方</p> <p>③一般選抜(2次) 大学(修業年限4年以上)を卒業した方又は平成27年3月までに卒業見込みの方(募集人員若干名)</p> <p>④社会人特別選抜 出願時に各種の研究機関、教育機関、企業等に正規職員として勤務している研究者、教員又は技術者で、入学後もその身分を有する方</p> <p>⑤・⑦外国人留学生特別選抜 日本国籍を有しない方で、「出入国管理及び難民認定法」において、大学院入学に支障のない在留資格を有する方又は大学院入学後に当該資格を取得可能な方</p> <p>⑥学部3年次学生対象の特別選抜 平成27年3月末日で大学に3年以上在学し、本研究科において、所定の単位を優れた成績をもって修得したと認められた方(ただし、大学を卒業した方又は平成27年3月までに卒業見込みの方を除く。)</p> <p>※出願資格等、詳細については各募集要項を確認してください。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>松本キャンパス入試事務室 TEL : 0263-37-2458</p> <p>長野(工学)キャンパス入試事務室 TEL : 026-269-5056</p> <p>上田キャンパス入試事務室 TEL : 0268-21-5304</p> </div>	
		上田キャンパス	全専攻		
	②一般選抜(1次)	松本キャンパス	I期		全専攻
			II期		全専攻
		長野(工学)キャンパス	全専攻		
	③一般選抜(2次)	松本キャンパス	該当する専攻のみ		
		長野(工学)キャンパス	該当する専攻のみ		
		上田キャンパス	該当する専攻のみ		
	④社会人特別選抜	松本キャンパス	全専攻		
		長野(工学)キャンパス	全専攻		
		上田キャンパス	全専攻		
	⑤外国人留学生特別選抜	松本キャンパス	数理・自然情報科学専攻 地球生物圏科学専攻		
長野(工学)キャンパス		全専攻			
上田キャンパス		全専攻			
⑥学部3年次学生対象の特別選抜	松本キャンパス	全専攻			
	長野(工学)キャンパス	全専攻			
	上田キャンパス	全専攻			
⑦外国人留学生特別選抜(2次)	上田キャンパス	該当する専攻のみ			
	長野(工学)キャンパス	該当する専攻のみ			
10月	②一般選抜	長野(工学)キャンパス	土木工学専攻 建築学専攻		
		上田キャンパス	全専攻		
	④社会人特別選抜	長野(工学)キャンパス	全専攻		
		上田キャンパス	全専攻		
	⑤外国人留学生特別選抜	長野(工学)キャンパス	該当する専攻のみ		
上田キャンパス		全専攻			

(出典：信州大学大学院理工科学研究科案内 2014)

入学者の選抜方法は、アドミッション・ポリシーに基づき、各専攻の専門性を重視し、行っている。(資料理工 13)

資料理工 13 平成 27 年度理工学系研究科試験科目一覧

専攻	試験科目	備考
数理・自然情報科学専攻	口述試問	出願時に提出したレポートの内容を、10分程度で黒板を用いて発表し、それに関連する質問に回答。
物質基礎科学専攻	英語 専門科目 口述試問	物性物理学講座及び素粒子・宇宙物理学講座の志願者 ①英語と専門科目ともに、物理学系を選択。
		構造・計測化学講座及び反応・物性化学講座の志願者 ①英語と専門科目ともに、化学系を選択。
地球生物圏科学専攻	英語 口述試問	英語及び出願時に提出した研究志望概要についての口述諮問を実施。
機械システム工学専攻	口述試問	機械工学の専門基礎学力について実施。研究計画等に関する質問を含む。
電気電子工学専攻	口述試問	専攻分野に関連した科目についての基礎的学力、外国語能力、研究計画等についてよる試問を含む。
土木工学専攻	口述試問	履修した教育内容、卒業研究、大学院での研究計画等について

			実施。
建築学専攻	口述試問		履修した教育内容、卒業研究、大学院での研究計画等について実施。
物質工学専攻	口述試問		化学についての基礎学力、外国語能力と卒業研究及び研究志望についての口述試問を実施。卒業研究及び研究志望はパワーポイントによる7分間のプレゼンテーション。プレゼンテーション資料を入れたUSBメモリ又はPCを各自用意。合否判定には口述試問の他に学部3年次までの成績も考慮。
情報工学専攻	口述試問		研究分野に関連した科目についての基礎的学力、外国語能力、研究計画等について実施。外国人については、日本語による試問を含む。
環境機能工学専攻	口述試問		卒業研究及び研究志望について一人30分の口述試問を実施。パワーポイントで5ページ、10分間のプレゼンテーション。プレゼンテーション資料を入れたUSBメモリ又はPCを各自用意。また、同内容について英語での口述試問も実施。合否判定には口述試問の他に学部3年次までの成績も考慮。
繊維・感性工学専攻	先進繊維工学コース	外国語科目 口述試問 (専門科目)	英語(一般英語、専門英語〔科学記事等の読解力と和訳、専門基礎に関連する問題]) 卒業研究又は希望研究課題についての発表と試問(7分間程度のプレゼンテーション) 研究分野の基礎学力試問 その他一般的事項の試問
	感性工学コース	外国語科目 口述試問 (専門科目)	英語(一般英語、専門英語〔科学記事等の読解力と和訳、専門基礎に関連する問題]) 卒業研究(創作を含む)又は希望研究課題についての発表と試問(パワーポイント(4~5枚程度)の説明資料を用意し、10分間以内に説明) 研究分野の基礎学力試問 その他一般的事項の試問
機械・ロボット学専攻		外国語科目 口述試験 (専門科目)	英語(科学記事程度の英文の読解力について試験) 研究分野の基礎学力試問(質点・剛体の力学、材料力学、熱力学、流体力学、制御工学、電気回路、細胞生物学から2科目選択) 卒業研究又は希望研究課題についての発表と試問(パワーポイント(4~5枚程度)も用意し、説明してください。) その他の一般的事項の試問
化学・材料専攻	応用化学コース	外国語科目 専門科目 面接試問	英語(科学記事程度の英文の読解力について試験) 基礎化学(有機化学、物理化学、無機化学) 応用化学(有機化学、物理化学、高分子化学)(3科目から2科目選択)
	材料化学工学コース	外国語科目 専門科目 面接試問	専門英語 化学基礎(有機化学、熱力学、無機化学) 材料化学工学基礎(量子力学・量子化学、移動現象論、反応工学、材料化学)(科学基礎から2科目以上を含む4科目以上選択)
	機能高分子学コース	外国語科目 専門科目 面接試問	専門英語 機能高分子学基礎(有機化学、物理化学、生物化学) 高分子科学
応用生物科学専攻		外国語科目 専門科目 面接試問	英語(基礎的な科学英語の読解力について試験) 応用生物科学基礎科目(環境・細胞生物学、生化学・分子生物学、分析・有機化学)(6題中5題選択)

(出典：理工学系研究科平成27年度募集要項等を基に経営企画課にて作成)

本研究科は、秋季入学(10月)の入学選抜を春季入学と同様の試験科目により実施し、学生を受け入れている。(資料理工14)

資料理工14 秋季入学学生受入状況					
平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
10	7	5	4	10	14

(出典：入試課提供資料を基に経営企画課にて作成)

[想定する関係者とその期待]

理工学系研究科が想定する関係者は、(i) 高度専門技術者、研究者及び教員を目指す大学生や社会人、(ii) 学位取得後の雇用先である産業界や研究機関等からなっている。

(i) の関係者は、独創性のある高度な科学・技術の開発・研究を進める中で、豊富な専門知識と技術を身につけ、問題解決能力と創造力を備え、地域社会の発展に寄与できる人材の養成を期待している。

(ii) の関係者は、創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者、高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人及び環境調和社会・知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある人材の輩出を期待している。

II 「教育の水準」の分析・判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

1 教員体制と教育体制

① 学術研究院と研究科

教員の流動性を確保し、全学的な教育、研究マネジメントを可能とするため、教員組織として学術研究院を平成 26 年度より設置した。(資料理工 15)

資料理工 15 教員組織 (学術研究院) と教育研究組織の関係



学術研究院は、3の学域・10の学系により構成する。すべての教員は、いずれかの学系に所属し、職務として次のいずれかに携わる。(複数の兼務もあり)

- 1) 学部・大学院、全学教育機構において、教育・研究に携わる。
- 2) 医学部附属病院において、診療・教育・研究に携わる。
- 3) 先鋭領域融合研究群において、研究に携わる。
- 4) 大型研究センター (拠点形成型の外部資金プロジェクト) において、研究に携わる。
- 5) 各教育研究 (支援) センター等において、担当業務に携わる。

これにより、先鋭領域融合研究群の研究者への研究重点環境の提供や学部横断型の教育を実現し、研究の高度化や時代の要請に柔軟かつスピーディーに対応した教育を推進する。

(出典：大学概要，経営企画課修正)

② 研究科の構成

平成 24 年度に工学系研究科（16 専攻）を理工学系研究科（14 専攻）に以下のとおり改組し、学士課程の学部・学科と対応した構成としている。（前掲資料理工 8 p8、資料理工 16）

	工学系研究科【改組前】		理工学系研究科【改組後】
松本 キャンパス	数理・自然情報科学専攻(16) 物質基礎科学専攻(26) 地球生物圏科学専攻(28)	⇒	数理・自然情報科学専攻(16) 物質基礎科学専攻(26) 地球生物圏科学専攻(26)
長野(工学) キャンパス	機械システム工学専攻(32) 電気電子工学専攻(45) 社会開発工学専攻(40) 物質工学専攻(30) 情報工学専攻(45) 環境機能工学専攻(20)		機械システム工学専攻(32) 電気電子工学専攻(45) 土木工学専攻(12) 建築学専攻(30) 物質工学専攻(30) 情報工学専攻(45) 環境機能工学専攻(20)
上田 キャンパス	応用生物科学専攻(21) 繊維システム工学専攻(21) 素材開発化学専攻(21) 機能機械学専攻(23) 精密素材工学専攻(20) 機能高分子学専攻(23) 感性工学専攻(21)		繊維・感性工学専攻(34) 機械・ロボット学専攻(28) 化学・材料専攻(64) 応用生物科学専攻(24)

③教員の配置状況

本研究科は、研究指導教員及び研究指導補助教員を専攻ごとに次のとおり配置しており、多様な研究分野・テーマの教員となっている。（資料理工 17、資料理工 18）

専攻	理工学系研究科				大学院設置基準			
	研究指導教員	うち教授数	研究指導補助教員	計	研究指導教員基準	うち教授数	研究指導補助教員基準	基準数計
数理・自然情報科学専攻	15	6	0	15	4	3	3	7
物質基礎科学専攻	23	11	1	24	4	3	3	7
地球生物圏科学専攻	25	14	0	25	4	3	3	7
機械システム工学専攻	16	8	2	18	5	4	2	7
電気電子工学専攻	21	9	1	22	7	5	0	7
土木工学専攻	12	4	0	12	4	3	3	7
建築学専攻	9	4	2	11	5	4	2	7
物質工学専攻	13	5	1	14	5	4	2	7
情報工学専攻	21	8	1	22	7	5	0	7
環境機能工学専攻	12	4	1	13	4	3	3	7
繊維・感性工学専攻	21	10	1	22	5	4	2	7
機械・ロボット学専攻	18	8	1	19	4	3	3	7
化学・材料専攻	37	15	0	37	10	7	0	10
応用生物科学専攻	22	11	1	23	4	3	2	6

資料理工 18 専攻別教員研究分野、研究テーマ一覧

【松本キャンパス】

専攻	氏名	研究分野	研究テーマ
数	高木 啓行	関数解析学(関数環論・	関数空間上の作用素（特に合成作用素）やバナッハ環における保

理・自然情報科学専攻		作用素論)	存問題の研究	
	谷内 靖	偏微分方程式	非線形偏微分方程式 (特に Navier-Stokes 方程式) の研究	
	五味 清紀	位相幾何学	コホモロジーやその要素を実現する幾何学的対象の研究	
	佐々木 格	数理物理、関数解析	量子系のスペクトル解析	
	栗林 勝彦	位相幾何学	圏論及び空間の代数的モデルを用いた位相幾何学の研究	
	沼田 泰英	表現論的組合せ論	表現論に現れる組合せ論的对象に関する研究	
	謝 賓	確率解析	確率微分方程式および確率偏微分方程式を中心として研究を行います	
	玉木 大	広い意味のトポロジー	小圏のホモトピー論、配置空間、およびそれらに関連した話題	
	境 圭一	位相幾何学	多様体の埋め込みのモジュライ空間のトポロジー	
	和田 堅太郎	表現論	ヘッケ環、リー環、量子群に関する表現論、および関連する組み合わせ論	
	乙部 厳己	確率解析学・力学系	確率偏微分方程式の基礎理論および応用の研究・無限次元解析学の研究	
	花木 章秀	代数学	アソシエーション・スキームおよび関連する代数の表現	
	中山 一昭	物性基礎論	流体力学に関連する非線形力学系の解析	
	一ノ瀬 弥	偏微分方程式論	Feynman 経路積分の研究	
筒井 容平	実解析学・偏微分方程式論	実解析学と実解析視点からの偏微分方程式の研究		
物質基礎科学専攻 (物理科学)	川村 嘉春	素粒子物理学	素粒子の標準模型を超える未知の物理法則の探求	
	小竹 悟	素粒子論、数理物理	可解模型、無限次元対称性、弦理論。最近では 1 自由度可解量子力学系	
	奥山 和美	素粒子論	超弦理論、M 理論、超対称ゲージ理論	
	竹下 徹	素粒子物理学実験	加速器を用いた素粒子の探索と相互作用の実験研究とそのための装置の開発研究	
	長谷川 庸司	素粒子物理学実験	粒子加速器を用いた素粒子物理学の実験的研究と放射線検出器の開発研究	
	宗像 一起	宇宙線物理学	宇宙線観測による宇宙天気研究、宇宙線強度の異方性の研究	
	加藤 千尋	宇宙線の加速伝播に関する物理学	宇宙線がエネルギーを得るメカニズムとプラズマ諸現象の関係についての研究	
	三澤 透	観測天文学	吸収線を用いた、クェーサー・銀河間物質・星間物質の諸性質の研究	
	樋口 雅彦	物性理論	第一原理的手法を用いた超伝導、磁性、電子相関、光学応答などの理論的研究	
	志水 久	物性理論、計算物理	計算機シミュレーションによる相転移の研究、固体の電子状態計算	
	天児 寧	磁性物理学(実験)	希土類元素を含む金属間化合物、強磁性形状記憶材料など新機能材料の基礎研究	
	中島 美帆	物性物理学(実験)	希土類・アクチノイド化合物における磁性と超伝導	
	安達 弘通	物性物理	磁性体一般、および X 線と磁性体の相互作用に関する研究	
	武田 三男	物性物理学(光物性・強誘電体)	メタマテリアル等人工構造物質と電磁波との相互制御の研究	
	宮丸 文章	光物性物理学	テラヘルツ領域における新奇光機能デバイスの研究・開発	
	中田 陽介	テラヘルツ領域におけるメタマテリアル	テラヘルツメタマテリアルにおける得意な電磁波伝播を研究している	
	物質基礎科学専攻 (化学)	樋上 照男	分析化学	液液界面の光電気化学的方法の研究、フラーレンを用いる光電池の研究
		金 継業	分析化学、超音波化学	超音波と分析化学の融合を図り、新しい分離・検出技術および方法論の創出に関する基礎研究
巽 広輔		電気分析化学、生物電気化学	バイオセンサーおよび液液界面電荷移動ボルタンメトリーの基礎研究	
高橋 史樹		分析化学・環境化学	微量薬物成分分析のための濃縮分離・検出技術の創出に関する基礎研究	
石川 厚		無機化学	同位体分離および同位体比の地球科学への応用	
大木 寛		無機固体化学	無機化合物の固体状態における構造と物性の関連を調べる研究	
竹内 あかり		無機化学	水溶液プロセスによるリン酸カルシウム系セラミックの合成に関する研究	
小田 晃規		有機合成化学	新規な $\pi$ -共役系炭化水素、陽イオン種、複素環化合物の合成と機能性に関する研究	
太田 哲		有機化学・有機機能化学	酸化還元応答性分子および有機 $\pi$ 電子系の合成と物性の研究	
庄子 卓		有機合成化学・構造有機化学	新規な $\pi$ 電子系化合物の合成・反応および物性に関する研究	
尾関 寿美男		コロイドおよび界面化学、磁気科学	超分子、ゲル、錯体、炭素物質、水の構造と性質や界面現象の磁場制御	
飯山 拓		微小空間中の分子挙動解明	分子数個分の微小空間中の分子挙動を、X 線や新規開発の装置で調べている	
浜崎 亜富		物理化学	コロイド・界面化学；炭素材料；光物理化学；磁気科学；強磁場	

			発生
	内田 太郎	表面振動分光・電気化学・表面科学	個液界面、個気界面反応の振動分光解析と反応制御
地球生物圏科学専攻（地質科学）	三宅 康幸	火山地質学と火山防災	長野県の活火山の過去の活動履歴を調べ、今後の活動の種類と時期を予想する
	森清 寿郎	地球化学、岩石学	初期続成作用により生成した炭酸塩・磷酸塩岩の研究
	原山 智	地質学、山岳環境科学	山脈が、何を原因に、どのようにして形成されるかを研究
	牧野 州明	鉱物学、X線・分光分析	角閃石・長石・火山ガラスなどについて、結晶構造や鉱物組織・色彩の原因や成因を研究
	大塚 勉	構造地質学、活断層地質学、付加体地質学	構造地質学に基づく活断層、付加体形成、地域地質形成、地質災害に関する研究
	保柳 康一	堆積地質学、環境変動史	海水準変動と気候変動、津波・洪水堆積物、島弧における堆積システムの研究
	吉田 孝紀	堆積物や堆積岩の形成論	野外での地質調査による堆積岩の形成環境の解析と議論
	山田 桂	古生物学、古環境解析	化石を使って、過去の地球の気候変動や海水準変動などを明らかにする研究
	齋藤 武士	火山学、岩石磁気学	磁気岩石学的手法による磁性鉱物の結晶化と火山噴火プロセスの研究
	常盤 哲也	付加体地質学・構造地質学・応用地質学	地質の変形構造から地質体が形成された過程をひも解く研究
地球生物圏科学専攻（生物科学）	浅見 崇比呂	進化生物学	野生集団の形・色・生態・行動に見つかる遺伝的変異の進化機構に関する研究
	市野 隆雄	生態学、進化生物学	生物間相互作用の生態と進化、特に昆虫と植物の相利共生や寄生関係
	久保 浩義	植物分子生物学	ゼニゴケやシロイヌナズナを対象に、二次代謝や形態形成の調節
	佐藤 利幸	植物進化生態学	シダ植物の分布動態と生活史の進化そして花の起源
	柴田 直樹	生殖生物学	脊椎動物における人為的性転換、二次性徴と婚姻色
	高橋 耕一	植物生態学、森林生態学、生理生態学	植物群集、温暖化の植生への影響、外来植物など植物生態に関する研究
	高田 啓介	生態学、保全生物学	淡水魚類の分子系統地理および近縁種間の相互作用
	東城 幸治	動物の系統分類・系統進化・系統発生学	系統進化の鍵分類群を対象に、比較発生学的研究による系統進化の究明
	伊藤 靖夫	分子遺伝学・染色体工学	真核菌類の遺伝的形質転換時に細胞膜および染色体上で起こる出来事の解明
	今津 道夫	菌学・樹病学	植物寄生菌類、とくにさび病菌類の分類と生態に関する研究
高梨 功次郎	共生分子生物学・植物生化学	植物-微生物共生系の包括的解明、植物二次代謝産物の代謝と輸送	
地球生物圏科学専攻（物質循環学）	公文 富士夫	古気候学、堆積学	堆積物の有機物量や構成物の変動から環境や気候が変化した様子を研究
	鈴木 啓助	雪氷学、水文学、大気環境学	おもに、山岳地域における大気・雪氷・水文に関する研究
	村越 直美	堆積学、地層学	堆積プロセス、堆積構造、堆積環境の研究、津波堆積物や土砂災害にも関連が深い
	戸田 任重	陸水学・環境科学	湖沼・河川を含む集水域における物質（特に窒素）循環に関する研究
	朴 虎東	陸水学、化学生態学、環境毒性学	湖沼におけるアオコ発生機構とその毒素の動態に関する研究
	島野 光司	生態学、植生学、環境保全	植物とその生育環境、植物と動物の関わり、自然保護や環境保全に関する研究
	國頭 恭	土壌学、微生物生態学	土壌中の物質循環における微生物の役割に関する研究
	岩田 拓記	微気象学・生態気象学	大気-地表面間のエネルギーや水・炭素などの物質交換に関する研究

【長野（工学）キャンパス】

専攻	氏名	研究分野	研究テーマ
機械システム工学専攻	杉本 公一	機械材料、機械加工	次世代自動車用超高強度 TRIP 鋼板およびホットスタンプの開発と特性評価
	深田 茂生	精密機械システム、精密機械要素	精密位置決め機構のナノダイナミクスと構成論、精密機械要素のトライボロジー
	千田 有一	制御工学、ロボット工学	制御理論とその応用に関する研究、農業用自動収穫ロボットの開発
	吉野 正人	数値流体力学、移動現象論	熱流体の新しい数値計算手法の開発とそれを用いた複雑流動現象の解析
	榊 和彦	溶射工学、機械加工	溶射法などの成膜技術の研究とその各種皮膜によるアプリケーション開発
	辺見 信彦	精密工学、メカトロニクス	精密機構、振動応用、センサ開発など多種多様なメカトロニクス系の研究を展開

	松原 雅春	流体力学、乱流	乱流、層流乱流遷移の実験および数値計算
	中山 昇	成形加工、塑性加工、材料力学	新しい成形方法および材料の開発、医工連携に関する研究、医療用センサの開発
	亀山 正樹	構造力学、最適化	複合材構造の最適設計、形状・振動制御、ヘルスマonitoringに関する研究
	高山 潤也	計測工学、計測のための信号処理	知的計測システムの構成とそれに係わる新たな計測・信号処理理論の構築
	酒井 悟	ロボット工学、制御工学	ロボットの力学と制御、新しい視覚制御、農業用ロボットの開発
	浅岡 龍徳	熱工学、伝熱工学、冷凍	エネルギーの有効利用を目的とした冷凍機、氷蓄熱、メタンハイドレートの研究
	松中 大介	計算材料科学・固体力学・物性理論	材料のマルチスケールモデリング・第一原理計算に基づくマテリアルデザイン
	西村 正臣	計算固体力学、分子動力学	分子動力学法を用いたアモルファス材料やナノカーボン材料等の数値力学解析
	池田 裕一	制御工学	非線形機械システムの制御理論構築、自動車などの移動体の運動・協調制御
	鈴木 康祐	数値流体力学・航空工学	移動境界流れの数値計算法の開発・改良、昆虫の羽ばたき飛翔の解析
	山崎 公俊	知能ロボティクス、センサ情報処理	知能ロボットの行動制御、センサ情報処理、システムインテグレーションなど
電気電子工学専攻	佐藤 敏郎	磁気技術を利用したグリーンデバイス	超高周波マイクロ磁気デバイスの開発と応用、高周波電力磁気応用
	曾根原 誠	磁気技術を利用したグリーンデバイス	磁性薄膜/微粒子を用いたグリーンデバイス・センサの開発
	林 卓哉	ナノカーボンの生成と応用	新規ナノカーボンの生成とその構造物性解明、グリーンイノベーションの実現
	田代 晋久	磁気応用工学	環境磁界発電、微弱磁界計測技術とその応用
	水野 勉	磁気工学・アクチュエータ工学	電磁アクチュエータと電磁センサ、およびワイヤレス電力伝送の研究開発
	ト 穎剛	磁気工学・アクチュエータ工学	光スキャナ用振動アクチュエータ、小型振動発電装置
	村松 寛之	ナノカーボンエレクトロニクス	エレクトロニクス分野への展開を目指した 高機能ナノカーボンの合成と応用研究
	宮地 幸祐	集積回路設計	フラッシュメモリの信頼性向上・省エネ設計
	橋本 佳男	薄膜太陽電池及び関連材料の探索	化合物系薄膜太陽電池の研究、化合物系半導体の合成
	MYO THAN HTAY	太陽エネルギー応用及び関連材料の探索	新規光電変換デバイスの研究、太陽集光エネルギーを用いた化学反応
	浦上 法之	半導体光電子デバイス	Si 基板上発光素子に向けた新規半導体材料に関する研究
	番場 教子	強誘電体材料の開発	環境に配慮した非鉛系強誘電体材料の開発及び圧電セラミックスの応用
	伊東 栄次	プリンタブルな次世代有機デバイスの研究	有機デバイス要素技術の開発と試作ならびに動作機構の解明や高性能化
	伊藤 秀明	水晶デバイス	腕時計用音叉型水晶振動子の解析や応用、アンテナ構造振動子の量子変位の解明
	半田 志郎	情報通信	移動通信、センサーネットワーク、可視光通信
	笹森 文仁	通信工学（デジタル移動通信）	スペクトル拡散方式および直交周波数分割多重（OFDM）方式に関する研究
	田久 修	デジタル無線通信方式の研究	コグニティブ無線に関する研究
	杉村 立夫	情報理論	有限体構造の解析・表現、系列の表現および誤り訂正符号の復号
	西新 幹彦	情報理論とその応用	情報伝送システムの数理モデルの構築とその性能評価
	田中 清	進化計算、画像処理、スマートグリッド	進化計算による多目的最適化とスマートグリッド、画像・映像処理等の応用
AGUIRRE HERNAN	進化計算、計算知能、多目的最適化	進化計算による多目的最適化と交通網・電力網の知的制御、設計探査への応用	
秋本 洋平	最適化	情報幾何を応用した確率的最適化の理論解析とアルゴリズム設計	
太子 敏則	単結晶成長工学	半導体および機能性酸化物単結晶成長と結晶品質・欠陥評価に関する研究	
土木工学専攻	清水 茂	橋梁工学・橋梁景観	鋼橋の座屈・耐荷力、鋼橋の地震挙動、橋梁の形状と色彩調和
	大上 俊之	構造工学・数値解析	材料物性値同定解析、土砂災害の危険性評価、避難行動シミュレーション
	中屋 眞司	水文学、地下水年代測定	化学トレーサーを利用した地下水流動の可視化と地下水汚染機構の調査・研究
	藤居 良夫	地域計画	地域の環境を分析してまちづくりを考える
	寒川 典昭	降水量の非定常頻度分	治水・利水計画を作成するための確率降水量を非定常頻度分析に

		析	より求める
	松本 明人	水環境工学・衛生工学	廃水・廃棄物の生物処理、汚染地下水の微生物による浄化
	梅崎 健夫	軟弱地盤対策、水質底質浄化	真空技術を応用した圧密・脱水減容化技術、閉鎖性水域における富栄養化対策
	小山 茂	計算工学・材料力学	複合材料の巨視的挙動の解析、建設マネジメント・防災に関するシミュレーション
	高瀬 達夫	交通計画・土木計画・交通工学	交通を基軸としたまちづくりに関する研究、道路利用の安全安心に関する研究
	曹 西	構造力学、構造物劣化診断、熱伝導解析	土木構造物の劣化診断・研究、橋梁の動的解析、構造物の非定常熱伝導解析
	豊田 政史	水工学	湖沼・河川における水流動メカニズムの解明
	河村 隆	不飽和土、ジオシンセティックス	斜面防災技術のための高分子通気防水シートを用いたキャピラリーバリアの構築
建築学専攻	浅野 良晴	建築環境工学、建築設備	木造住宅の寒冷地対策と国産木材の流通に関する調査・研究
	金子 洋文	鉄骨造建物の耐震性能評価に関する研究	鉄骨造建物の構成要素の限界性能についての適切な評価方法、安心・安全の構築
	高木 直樹	建築環境から都市・地球環境	建物内外の環境問題、都市環境問題、地球環境問題の解析と改善策の提案
	土本 俊和	都市形態史、木架構史、建築保存再生	まちなみの形成と木架構の変遷を究明し、建築と都市の保存再生を提案
	田守 伸一郎	建築構造学	地盤・基礎の振動、最適設計
	寺内 美紀子	建築意匠、設計デザイン	建築の設計、デザインと理論、まちづくり
	高村 秀紀	建築環境工学、建築設備	建築物のライフサイクルCO2削減に関する研究、木材流通に関する研究
	早見 洋平	日本建築史	都市の歴史・保全・再生に関して教育・研究を行う
	柳瀬 亮太	環境心理学	人間と環境の諸問題、公共空間の快適性、構築空間における距離認知
	松田 昌洋	木質構造	伝統木造建築の地震防災
梅干野 成央	建築歴史・意匠	日本建築史、歴史的建造物の保存・再生	
岩井 一博	都市気候・クリマアトラス・調湿・室内気候	長野県における都市気候、クリマアトラス、調湿、室内気候に関する研究	
物質工学専攻	三島 彰司	触媒化学、環境化学	固体触媒の開発、プラスチックのリサイクル
	菅 博幸	有機合成化学	薬理活性ヘテロ環化合物の合成を中心とする新規手法・分子触媒の開発
	天野 良彦	生物化学、酵素化学	生物機能を利用したものづくり、特にバイオマスの変換技術開発
	樽田 誠一	無機材料化学、無機化学	マイカセラミックスの新機能の探査、CNTなどとの複合セラミックスの開発
	新井 進	応用電気化学	めっき等の電気化学的手法を用いた機能性材料創製に関する研究
	奥村 幸久	分子集合体化学	分子集合体、特にリポソームを用いた膜構造形成とマイクロ化学システムの構築
	篠原 直行	電気化学	複数の金属を合金としてメッキし、単金属より優れた特性を持たせる
	内田 博久	化学工学、超臨界流体工学、結晶化学	超臨界流体を利用した材料創製・加工、分離精製に関する化学プロセスの開発
	清野 竜太郎	高分子材料、分離工学	高分子膜を通じた物質輸送現象の解析
	野崎 功一	生物化学、遺伝子工学	遺伝子組換え技術を利用したバイオマス分解酵素の生産と改良
	山口 朋浩	無機材料化学、セラミックス	マイカ（雲母）やアルミナを中心とした各種無機材料の合成と応用に関する研究
	酒井 俊郎	コロイド・界面化学	液体中の微小空間や界面を利用したナノ材料の創製
	水野 正浩	蛋白質機能工学	糖質関連酵素を中心とした蛋白質の機能と立体構造との関係を研究
	岡田 友彦	吸着剤・触媒合成化学	反応選択性に優れた吸着剤・触媒の設計を通じた環境浄化材料等の開発
	戸田 泰徳	有機合成化学	触媒を用いる新規反応の開発
情報工学専攻	劉 小晰	情報エレクトロニクス	スピントロニクスに基づく不揮発性メモリと不揮発性論理素子の創成
	橋本 昌巳	生体情報工学、福祉情報工学	生体情報計測に基づく、福祉・医療・コミュニケーション支援
	香山 瑞恵	学習支援工学、生体情報工学	人工知能技術による学習支援と、ヒトが発する多様な行為／信号に対する知的処理
	富田 孝幸	LIDAR・レーザー遠隔検知・超高エネルギー宇宙線実験	身の回りの『光』を利用した情報センシング技術開発とその応用方法の研究

	齊藤 保典	情報センシング、光情報技術	安全・安心をサポートする生活環境情報の光・画像・ITセンシング技術
	小林 一樹	フィールド情報学、HCI	フィールドモニタリングと、人工物のインタラクションデザインに関する研究
	井澤 裕司	画像通信、変復調符号理論	FPGAを用いたリコンフィギュラブルシステムに関する研究
	ASANO DAVID	通信工学・情報システム	通信理論・通信システムに関する研究、情報機器の設計・開発
	上口 光	集積回路設計・計算機アーキテクチャ・半導体メモリ	集積回路技術に基づいた次世代コンピュータアーキテクチャの創造
	新村 正明	情報通信ネットワーク・教育工学	ICT基盤システムの構築・運用技術と教育支援システムへの応用
	國宗 永佳	教育工学・学習環境・システム開発	ICTを活用した教育・学習支援システムに関する研究
	和崎 克己	並列システム、形式検証、モデル検査	高信頼性が要求される情報システムの検査・検証ツールと設計検証環境の開発
	KAWAMOTO PAULINE NAOMI	自動設計・形式設計・教育工学	プロフェッショナル・コミュニケーション学と数理的仕様化・検証・自動生成
	師玉 康成	定理証明支援系、非線形系の解析	形式的数学記述言語と定理証明支援系に関する研究
	山崎 浩	非線形系の解析、形式検証系、暗号理論	画像の数学的理解と画像判定・解析に関する研究
	岡崎 裕之	形式検証系、暗号理論	形式検証ソフトウェアを用いた「暗号システムの安全性検証」に関する研究
	岡野 浩三	ソフトウェア工学・モデル駆動開発・仕様記述検証	ソフトウェア工学、とりわけ、形式手法のソフトウェア設計開発への応用
	小形 真平	モデル駆動工学・要求工学	モデルを活用したソフトウェア開発の効率化に関する研究
	丸山 稔	機械学習・コンピュータビジョン・CG	画像理解・例題からの学習に基づくパターン認識に関する研究
	宮尾 秀俊	HCI・音楽情報処理	ペン入力やタッチ入力の情報を活用した創作活動環境の構築
	藤原 洋志	アルゴリズムの設計・オンライン最適化・関数解析	見えない未来を最適化するアルゴリズムの開発と、情報欠損の本質の解明
	山本 博章	情報検索・アルゴリズム論	より安全で効率的な検索のための基本技術に関する研究
	白井 啓一郎	画像処理・多次元信号処理	劣化画像の復元や画像合成など、画像処理の基幹となる技術の研究
環境機能工学専攻	北澤 君義	環境材料、塑性加工、リサイクル	金属コールドリサイクル、金属インクリメンタルフォーミング、透明性圧縮木材
	中村 正行	設計工学、計算力学、光工学	最適設計と最適化手法に関する研究、光学薄膜の数値解析と多層膜設計
	牛 立 斌	材料環境強度学	構造材料の環境強度と破壊特性および延命化対策に関する研究
	藤井 雅留太	計算電磁気学、設計工学	コンピュータ計算による大規模光散乱解析と最適設計を用いた光デバイスの設計
	田中 伸明	光物理化学	低温マトリックス中の光化学反応、発光性分子の合成、計算化学
	吉田 尚史	数値流体工学	噴流・振動流等の直接数値計算、振動流の制御、数値計算法
	錦織 広昌	環境光化学、光物理化学	触媒・粘土鉱物を用いた有害物質の分解、色素増感太陽電池、光燃料電池
	飯尾 昭一郎	流体工学、流体機械	ナノ水力発電、空気圧・水圧利用機器開発、流体の計測・制御・解析
	手嶋 勝弥	無機化学	結晶・薄膜・表面から臨む次世代無機材料イノベーション
	片岡 正和	先端生命科学	分子微生物学、ゲノム生物学、神経科学、合成生物学
	鈴木 孝臣	表面・界面の物理化学	固体の表面自由エネルギーの実測および結晶成長に関する理論的研究
	我田 元	無機材料化学	低環境負荷の溶液プロセス、ナノ・マイクロ構造制御による機能性材料の創成
	是津 信行	エネルギー変換材料化学	革新的蓄電池材料開発と電気化学、プラズマモニタリングデバイス
	林 文隆	材料化学・コロイド界面化学	無機イオン交換体による有用・有害イオンの選択回収
工学基礎	河邊 淳	実解析学	測度論、ベクトル測度論、非加法的測度論、非線形積分論
	大野 博道	関数解析学	作用素論・作用素環論および量子情報理論
	鈴木 章斗	数理物理	量子力学や場の量子論に現れる作用素のスペクトル解析およびそれに関連する研究

教育部門	岡本 葵	偏微分方程式	実解析的手法を用いた非線形偏微分方程式の研究
	澤田 圭司	プラズマ分光学	核融合プラズマ中の原子・分子過程の分光学的研究
	榮岩 哲二	磁性工学	ナノサイズ磁性材料の開発と応用
	川原 琢也	超高層大気光学遠隔計測技術	レーザー光を用いた大気計測システムの開発と大気観測
【上田キャンパス】			
専攻 繊維・感性工学専攻(先進繊維工学)	氏名	研究分野	研究テーマ
	大越 豊	繊維材料学、高分子成形加工学	繊維製造へのレーザー光照射加熱の応用および繊維構造解析・繊維物性
	木村 裕和	繊維工学、繊維物理学、インテリア工学	インテリア繊維製品の使用快適性や居住環境への影響などに取り組む
	西松 豊典	人間快適工学、繊維製品快適性評価	スポーツウエア、スーツなどの快適性を数値化する研究
	森川 英明	繊維工学、システム工学、蚕糸科学	繊維材料・製品を対象に数理科学、システム工学手法による研究
	石澤 広明	赤外光、テラヘルツ波による非破壊計測	繊維製品、生体の状態を非破壊で計測する手法の研究開発
	金井 博幸	感覚計測工学、生体機能計測工学	人間の感覚・知覚特性や身体特性を計測して、繊維製品設計に活かす研究
	坂口 明男	繊維工学	繊維製品の製造方法および特性分析に関する研究
専攻 繊維・感性工学専攻(感性工学)	金 慶孝	複合紡糸による高性能繊維の製造	複合繊維を製造及び複合繊維の繊維構造 形成過程を究明するための研究
	和田 功	商品計画・プロダクトデザイン	時代の流れを見つめ変らぬコトを見いだし、ヒトの心と身体に添う商品像の開発
	高寺 政行	繊維工学・衣服工学・感性工学	テキスタイルの物性および感性評価、衣服の個人対応設計・高付加価値設計
	上條 正義	感性工学・計測工学	人の快適を計測する技術とそれを人に伝えるための技術の開発
	乾 滋	情報工学・感性工学	ファッション・テキスタイル分野への IT 技術の適用による製品設計・開発支援技術に関する研究
	細谷 聡	感性工学、生体生理計測、スポーツ工学	日常生活製品やスポーツ用品などの製品評価・設計・開発に関する研究
	松村 嘉之	知能情報学・システム機能科学	国際繊維ファッション分野で複雑系に適應する 知能システムを創成する研究
	田中 稔久	繊維材料化学、生分解性高分子物性	自然環境や生体内で分解する高分子などを用いた人間と環境に配慮した材料開発
	高橋 正人	高分子材料学	両親媒性高分子の医療分野への応用、生体・天然高分子やポリマーロイの構造形成
	吉田 宏昭	感性工学・バイオメカニクス	「歩く」「座る」「寝る」といった人間の基本動作に関する感性計測と心地評価
	Michael Honywood	感性教育システムの開発	従来の学習システムを刷新し、英語や感性 を生かした新たな感性教育システムの開発
	佐古井 智紀	環境人間工学	人-服-環境を対象に、暑さ寒さ、空気質などを評価し、製品開発に活かす研究
	堀場 洋輔	数値シミュレーション、感性評価	個人対応設計のために、繊維製品の数値シミュレーションを研究
	金 昷屋	衣服工学・繊維工学・感性工学	衣服設計技術分析、外観・着心地に影響する衣服条件、衣類立体化メカニズムの研究
	専攻 機械・ロボット学専攻(機能機械学)	小西 哉	電子工学
倪 慶清		複合材料工学、ナノ材料、スマート材料等	ナノ材料複合技術、スマート材料・構造の開発と評価、ヘルスマニタリング
姫野 修廣		熱工学	エネルギー技術で重要な熱・流動現象、熱物性測定、環境浄化技術等の研究
鮑 力民		繊維応用力学、複合材料工学、衝撃工学	スーパー繊維を利用した強く、軽く、リサイクルしやすい複合材料を追究
飯塚 浩二郎		宇宙工学、ロボティクス、テラメカニクス	月・惑星探査ローバの走行系(移動機構や車輪開発)を対象とした研究
河村 隆		機械力学、ロボティクス、メカトロニクス	ヒト・生物の持つスキルの理解とロボットへの展開。機械の力学と応用
金 翼水		ナノファイバーの作製及び用途開発	ナノファイバーの装置開発や電機電子分野とメディカル分野への適用を目指す
夏木 俊明		複合材料・物性、計算力学	計算力学によるカーボンナノチューブ力学特性の解析とその応用
鈴木 智		制御工学、ロボティクス	ロボット及び無人ビークルシステムの自律制御に関する研究
若月 薫		熱工学・火災工学・実験力学	火災による熱が材料・人体に及ぼす影響の 解析及び評価試験・新素材設計への応用

機械・ロボット学専攻(バイオエンジニアリング)	小林 俊一	バイオメテイクス、医用生体工学	生物規範型水中推進機構、動脈硬化症のバイオメカニクス、医療機器開発支援
	西川 敦	バイオ・メディカルロボティクス	生体模倣型ロボット、手術支援ロボット、経頭蓋磁気刺激/機能的電気刺激応用
	橋本 稔	バイオリボティクス・メカトロニクス	ロボティックウェア curara の開発、高分子ゲル人工筋肉の研究と応用
	山口 昌樹	生体医工学・ストレス科学	健康を測るバイオセンサおよび濡れ性の制御に関する研究
	秋山 佳丈	バイオ MEMS・組織工学	筋細胞駆動ロボットおよび生体外での 3次元組織構築に関する研究
	小関 道彦	バイオメカニクス、計測工学	医用画像に基づく患者別力学解析および X線 CT 画像の精度向上に関する研究
	Todd Pataky	医用生体工学、応用統計学	n次元連続体解析方法、歩行やスポーツ動作の解析、確率的シミュレーション
	森山 徹	比較認知科学、動物心理学	物質心理学の構築を目指し、ダンゴムシやオオグソクムシの心の探求
化学・材料専攻(応用化学)	石渡 勉	高分子化学、コロイド化学、ナノ化学	有機無機複合系を利用したナノ粒子の形態、サイズ、配列の制御と接合法の研究
	沖野 不二雄	炭素材料を中心とした無機材料化学	炭素材料の構造、物性、応用に関する研究
	濱田 州博	染色化学、高分子化学、染料化学	染料、助剤等の合成及び物性解明と繊維への染色機構や作用機構の解明
	本吉 谷二郎	有機化学、有機光化学	有機化学を基盤とした化学発光および機能を付与した蛍光性化合物の研究
	鈴木 大介	高分子化学、コロイド界面化学	機能性高分子微粒子、特に刺激応答性高分子ゲル微粒子の新規創製技術の開発
	谷上 哲也	コロイド化学、高分子化学	フォトニッククリスタルをめざしたコロイド結晶の構造と物性の研究
	西井 良典	有機合成化学、有機反応化学、天然物有機化学	新規有機反応開発、生物活性物質の合成、魚類フェロモンの単離と合成など
	野村 泰志	量子化学	共役系分子の電子状態の理論的研究
	服部 義之	ナノカーボン	ナノカーボンを用いたエネルギー貯蔵材料・吸着材料・発光材料等の研究開発
	平田 雄一	機能性分離膜、バリア材料	高分子膜を気体や蒸気、溶質などの低分子が移動する現象を研究しています
	藤本 哲也	有機合成化学	新規不斉有機触媒および有機合成反応の開発研究
	McNamee Cathy	コロイド・界面化学を中心に物理化学	液中の表面の物理化学特性の解明、表面間の相互作用力と摩擦力の解明
	渡辺 真志	高分子・表面微細構造	高分子材料等の表面微細構造の作製方法および応用
化学・材料専攻(材料化学工学)	村上 泰	材料化学、触媒化学	人肌の柔らかさのゴム、繊維による水問題解決、赤外線アンテナによる熱発電
	宇佐美 久尚	光化学、光触媒、人工光合成	ナノ積層膜による人工光合成モデルの構築と光化学反応器の開発
	木村 睦	機能材料化学・環境化学・繊維化学	精密合成技術を用いたナノ構造制御による機能性材料創成
	杉本 涉	燃料電池やスーパーキャパシタ	ナノシートをはじめとした新規ナノ材料の合成法の開拓と蓄電や発電技術への応用
	高橋 伸英	化学工学、環境工学	バイオマス生産・エネルギー/マテリアル利用技術開発、多孔質膜分離技術開発
	福長 博	化学工学・電気化学・電極材料	燃料電池用非白金触媒の新規材料開発と電極構造の最適化による高性能化
	森 正悟	有機系太陽電池、界面電子移動	有機/無機界面における電子移動機構の解明、高効率有機系太陽電池の開発
	長田 光正	超臨界流体工学・バイオマス工学	高温高压水を使って地域のバイオマス資源から機能性材料を創っている
	佐藤 高彰	溶液の化学物理・ソフトマター物理	分光法や散乱法を用いた溶液・高分子・ゲル・コロイド・生物の境界領域開拓
	瀧澤 辰洋	無機材料・物性、原子・分子	マイクロ波を用いる反応装置の設計・製作と物質創製、固体の電子状態計算
	嶋田 五百里	反応工学・触媒化学	バイオマス資源の有効利用を目指した触媒による物質変換技術の高効率化
	吉田 裕安材	高分子化学・工学、生体材料学	安全・安心な高分子材料(ゲル・不織布等)の創製と生医学・環境分野への応用
	材料化学専攻	阿部 康次	人工臓器、高分子間錯体、機能性多糖類
市川 結		有機半導体の材料科学と物理化学	有機 EL や有機太陽電池などの主役である有機半導体に関する研究

	伊藤 恵啓	高分子合成化学、有機材料化学	化学分解性有機材料、機能性有機材料の開発
	太田 和親	液晶物理化学、分子集合化学、錯体化学	有機機能材料、特に、有機薄膜太陽電池用有機半導体液晶の合成と機能性の研究
	英 謙二	ゲル化剤の開発と応用	新規低分子ゲル化剤の分子設計と合成、応用
	荒木 潤	高分子化学・多糖類科学・超分子科学	ポリロタキサン誘導体、セルロース・キチンナノウィスカーを用いた材料の創製
	大川 浩作	生物由来の繊維材料科学	タンパク質や多糖を含む生体高分子の基礎・計算科学研究を進めています
	小駒 喜郎	生体物質を用いたバイオセンサの開発	薬物代謝およびステロイドホルモンの生合成を触媒している酵素を用いたバイオセンサによる薬物検出を行っている
	小山 俊樹	高分子電気化学、機能性材料	電子機能材料、機能性ファイバーの開発とソフトエネルギーデバイスへの応用
	後藤 康夫	繊維・高分子物性、溶液紡糸	繊維・高分子の固体物性、溶液紡糸等による機能性繊維の創製
	鈴木 正浩	超分子光化学	L-アミノ酸型ゲル化剤の開発と工業的用途への展開
	寺本 彰	高分子化学	天然高分子を用いた細胞培養用基材の開発
	高坂 泰弘	モノマー設計に立脚した高分子合成	新奇な反応性を示す機能性モノマーを設計し、精密高分子合成へ応用
応用生物学専攻（ライフサイエンス）	海老沼 宏安	植物ゲノム工学とバイオオリファイナリー	ゲノム工学による植物分子育種とバイオ繊維主軸のバイオオリファイナリーを研究
	下坂 誠	応用微生物学	微生物のキチン分解酵素、キノコのバイオテクノロジー、有用微生物の探索
	志田 敏夫	分子生物科学、核酸機能科学	生体高分子の分解に働く酵素の基質認識機構の解明
	野末 雅之	植物生理学、植物細胞生物学	植物オルガネラ機能に関する研究、植物工場における高機能性野菜および省エネルギー栽培システムの開発
	林田 信明	分子生物学、植物生理・分子育種学	葉緑体の形態形成機構の解析、結球野菜の分子育種
	藤井 敏弘	バイオマテリアル、生体材料工学	セルフリサイクル製品（本人由来の生体物質を用いた加工品）の創出と適用を研究
	保地 眞一	生殖生物学、低温生物学、発生工学	哺乳動物資源の保存と有効利用
	田口 悟朗	植物生化学、植物分子生物学	植物の低分子化合物修飾酵素の反応機構の解析と物質生産に向けた基礎・応用研究
	野川 優洋	植物分子育種、応用微生物学	真核生物の形質転換に使用するための <i>Agrobacterium tumefaciens</i> の改良
	松村 英生	植物ゲノム科学	高等植物のゲノム解析技術の開発と性決定機構の解明
	野村 隆臣	分子生物学、機能生物化学	好熱性細菌のリボソーム GTPase センターの機能解析
	新井 亮一	構造生物学、タンパク質工学	タンパク質の立体構造と機能の解明、人工タンパク質の設計開発と応用の研究
	高島 誠司	幹細胞生物学・再生医学・生殖工学	精子幹細胞を用いた再生医学・生殖工学に関する研究
	応用生物学専攻（フィールドサイエンス）	梶浦 善太	昆虫分子遺伝学、遺伝学、バイオリソース
玉田 靖		シルク利用技術開発	シルクの素材化とその利用技術の開発研究
中垣 雅雄		昆虫分子生物、昆虫遺伝学	遺伝子組み換えを利用したスパイダーシルクの開発に関する研究
平林 公男		衛生動物学、陸水生生態学、環境衛生学	河川や湖沼などの淡水域における生物群集と環境との関わり合いについて研究
塩見 邦博		環境分子昆虫学	昆虫が季節によって姿・形を変化させるしくみを明らかにする
白井 孝治		昆虫生理・生化学	昆虫の体色発現機構や昆虫細胞の放射線障害修復機構を解明
堀江 智明		植物分子生物学、植物生理学、植物細胞工学	植物の必須耐塩性機構の解明と耐性植物作出を目指した基礎・応用研究
森脇 洋		環境汚染の浄化法・評価法の開発	新しい環境浄化手法ならびに環境汚染の評価法の開発
山本 博規		資源微生物学、ゲノム微生物学、環境微生物学	グラム陽性細菌の細胞表層成分が担っている機能の解明
	小笠原 寛	分子生物学、ゲノム微生物学	細菌の表層ストレス応答機構の研究、細菌のバイオフィーム形成過程における遺伝子発現制御機構を研究

(出典：「信州大学大学院理工学系研究科案内 2015」)

④教育課程の運営体制

本研究科は、基礎となる学部の長が、研究科長と副研究科長になっており、定期的（月1回）に開催する研究科委員会等において教育活動に関する審議を行っている。（資料理工19、資料理工20、資料理工21）

資料理工19 信州大学大学院理工学系研究科規程（抜粋）

（研究科長及び副研究科長）

第3条 研究科に研究科長を置き、理学部長，工学部長又は繊維学部長をもって充てる。

2 研究科に研究科長を補佐するため副研究科長を置き、理学部長，工学部長及び繊維学部長のうち、研究科長以外の学部長をもって充てる。

（研究科委員会）

第4条 研究科に，大学院学則第11条第1項の定めるところにより，研究科長，副研究科長及び研究科に属する教授で構成する信州大学大学院理工学系研究科委員会（以下「研究科委員会」という。）を置く。

2 研究科委員会に関し必要な事項は，別に定める。

（出典：信州大学規程集）

資料理工20 信州大学大学院理工学系研究科委員会規程（抜粋）

（審議事項）

第3条 研究科委員会は，次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 研究科担当の教員の選考に関する事項
- (2) 専攻等研究科の組織に関する事項
- (3) 研究科の教育課程に関する事項
- (4) 大学院学生の入学，退学，転学，休学，修了その他学生の身分に関する事項
- (5) 研究科の試験に関する事項
- (6) 学位に関する事項
- (7) 研究科の諸規程の制定及び改廃に関する事項
- (8) 研究科の予算概算方針に関する事項
- (9) その他研究科の運営に関する事項

（代議員会）

第7条 研究科委員会は，研究科委員会通則第7条の2第1項の規定に基づく代議員会等として研究科に代議員会を置く。

2 研究科委員会は，研究科委員会通則第7条の2第2項の規定に基づき，次の各号に掲げる事項について，代議員会の議決をもって研究科委員会の議決とすることができる。

- (1) 研究科担当の教員の選考に関する事項
- (2) 専攻等研究科の組織に関する事項
- (3) 研究科の教育課程に関する事項
- (4) 大学院学生の退学，転学，休学その他学生の身分に関する事項
- (5) 研究科の試験に関する事項
- (6) 研究科の諸規程の制定及び改廃に関する事項
- (7) 研究科の予算概算方針に関する事項
- (8) その他研究科委員会が委任した事項

3 代議員会に関し，必要な事項は，別に定める。

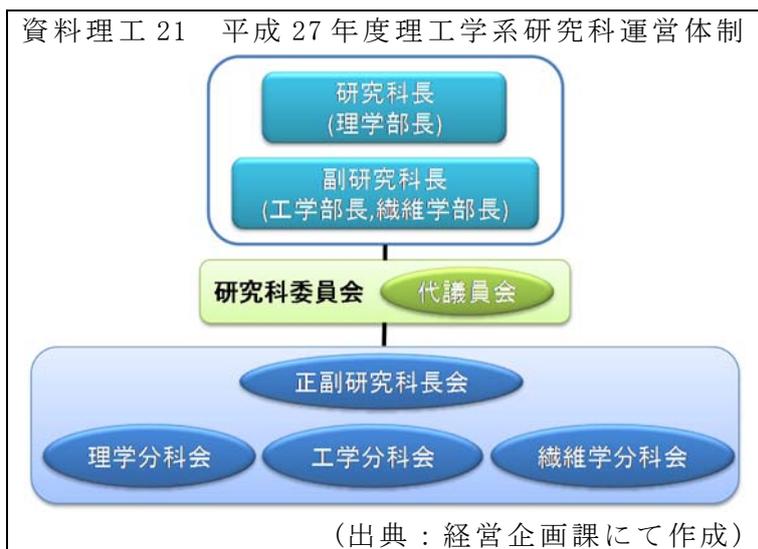
（分科会及び会議）

第8条 研究科委員会は，研究科委員会に研究科の円滑な運営を図るため，次の分科会及び会議（以下「分科会等」という。）を置く。

- (1) 修士課程理学分科会
- (2) 修士課程工学分科会
- (3) 修士課程繊維学分科会
- (4) 修士課程正副研究科長会議

2 分科会等に関し，必要な事項は，別に定める。

（出典：信州大学規程集）



⑤ 修士論文評価基準

平成 24 年度に修士論文評価基準を定め、キャンパス毎に作成する学生便覧に掲載し、学生に周知している。(資料理工 22)

資料理工 22 大学院理工学系研究科修士論文評価基準  
(平成 24 年 12 月 12 日 大学院理工学系研究科代議員会承認)

以下の基準に拠り、論文審査および口頭試問等を経て、審査委員会が最終的な評価を決定する。

1. [独創性・意義]  
研究目的、研究手法あるいは研究成果は、十分な独創性または意義を有するか。
2. [実験・調査]  
研究を遂行するために実施した実験・調査は、適切な方法に基づいて行なわれているか。また、その分析は正確で、結果や解釈が妥当であるか。
3. [関連資料・参考文献]  
研究を遂行するために利用した関連資料・参考文献について、正確な読解、また妥当な解釈がなされているか。あるいは客観的に正当な批判や批評が提示されているか。
4. [論証方法・論旨とデータ(資料)の提示方法]  
問題提起から結論にいたる論証方法と論旨は、明解かつ妥当であるか。また実験データ・調査資料の提示と展開の方法は適切であるか。
5. [表現の的確性]  
日本語もしくは使用外国語について、語句や学術用語の使用は的確で、文章表現は論理的であるか。
6. [論文の体裁]  
本文、章立て、注記、引用文献、図表等は、論文構成において、体裁が整っているか。
7. [総合的評価]  
当該分野の研究において、総合的に評価して修士論文に値するか。  
(但し書き)
  - 1) 項目 2 と 3 の評価基準は、いずれか一方、もしくは両方を採択しうることを示す。
  - 2) 参考図書・論文・史料・統計資料・辞書・地図・インターネット資料その他、参照する全ての資料・図版等については、「関連資料・参考文献」と表記した。
  - 3) 実験、実地調査、聞き込み調査、情報・資料提供者(インフォーマント)との面談等、実施する全ての研究作業については、「実験・調査」と表記した。
  - 4) 前項の「実験・調査」によって収集され、分析の対象となるもの全てについては、「実験データ・調査資料」と表記した。

(出典：「信州大学大学院理工学研究科(修士課程)学生便覧」)

2 教育サポート体制

全学的な教育サポート体制として、学務課、学生支援課、国際交流課を設置し、全学的な教育課程、課外活動、就職、留学に関する業務を行っている(資料理工 23)。学務課には全学の大学院に関する業務を所掌する大学院室を設置している。この他に、全学的な教育活動を展開するために附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センター、e-Learning

センターに専門的知識技能を有する職員を配置している（資料理工 24、資料理工 25）。さらに、本研究科に教育活動を展開するために必要な職員を各キャンパスに配置している（資料理工 26）。

資料理工 23 国立大学法人信州大学業務執行組織規程

第 25 条 学務課においては、全学教育機構、高等教育研究センター、e-Learning センター、教員免許更新支援センター（教育学部の所掌に属するものを除く。以下この条において同じ。）及び学務部に関する次の業務をつかさどる。

- (1) 学務部内の事務に関し、連絡し、及び総合調整を行うこと。
  - (2) 庶務及び会計に関すること。
  - (3) 入学式その他学生の諸行事に関すること。
  - (4) 学生関係職員の SD(スタッフ・デベロップメント)に係る企画・立案及びその実施に関すること。
  - (5) 全学(本法人が設置する信州大学大学院(以下「大学院」という。)を除く。)の教務に関すること。
  - (6) 学生の学籍その他の記録に関すること。
  - (7) 学位の授与に関すること。
  - (8) 教育課程(大学院を除く。)に係る目標及び計画の連絡調整に関すること。
  - (9) 他の大学等との単位の互換(大学院を除く。)に関すること。
  - (10) 全学の学務情報システムに関すること。
  - (11) 出前講座に関すること。
  - (12) 諸会議(国立大学法人信州大学戦略企画会議規程(平成 24 年国立大学法人信州大学規程第 108 号)第 6 条に定める大学院戦略会議(以下「大学院戦略会議」という。)及び信州大学大学院教務委員会を除く。)の連絡調整に関すること。
  - (13) 教育・学生支援連携会議の運営に関すること。
  - (14) その他全学教育機構、高等教育研究センター、e-Learning センター及び教員免許更新支援センターの業務執行及び運営に関すること。
  - (15) 前各号に掲げるもののほか、学務部の他の所掌に属しない事務を処理すること。
- 2 学務課の共通教育支援室においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 共通教育の授業支援に関すること。
  - (2) 共通教育の教務に関すること。
  - (3) 学生の学習相談及び修学指導に関すること。
  - (4) 共通教育に係る点検・評価に関すること。
  - (5) 全学教育連携会議等の諸会議の連絡調整に関すること。
  - (6) 環境マインド教育支援に関すること。
- 3 学務課の大学院室においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 大学院の事務の総括及び全体調整に関すること。
  - (2) 大学院の教務に関すること。
  - (3) 大学院の入学選抜の総括及び広報に関すること。
  - (4) 大学院戦略会議及び信州大学大学院教務委員会に関すること。
  - (5) 大学院の教育課程に係る目標及び計画の連絡調整に関すること。
  - (6) 大学院における他の大学等との単位の互換に関すること。
  - (7) 理工学系研究科長、工学系研究科長及び総合工学系研究科長の事務に関すること。
  - (8) 前各号に掲げるもののほか、大学院に関する事務を処理すること。
- 4 学生支援課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 学生総合支援センターの業務執行及び運
- 事務を処理すること。
- 6 国際交流課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 国際交流センターの業務執行及び運営に関すること。(研究支援課の国際学術交流室が所掌する業務を除く。)
  - (2) 松本国際交流会館の業務執行及び運営に関すること。
  - (3) 前各号に掲げるもののほか、教育活動に係る国際交流に関する事務を処理すること。

(出典：信州大学規程集)

資料理工 24 学務課、学生支援課、国際交流課の職員数

	学務課	学生支援課	国際交流課
	： うち	： うち	

	大学院室	キャリアサポートセンター		
事務職員	20	2	11	3
事務補佐員	12	2	4	2
臨時用務員	1			
専門職員	1			
技術補佐員	5			
技能補佐員			1	
シニア雇用職員	4	1	1	
コーディネータ			1	6
合計	43	5	18	5

平成 28 年 1 月 18 日現在  
(出典：経営企画課作成資料)

資料理工 25 附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センター、e-Learning センター職員数

区分	附属図書館	総合健康安全センター	総合情報センター	e-Learning センター
松本キャンパス	54	13	9	3
長野キャンパス(教育)	9	1	-	2
長野キャンパス(工学)	7	1	3	-
伊那キャンパス	5	2	-	-
上田キャンパス	6	2	-	-

平成 28 年 2 月 1 日現在

(出典：経営企画課作成資料)

資料理工 26 理工学系研究科各キャンパスの学務担当窓口の職員数

松本キャンパス	長野(工学)キャンパス	上田キャンパス
15	13	15

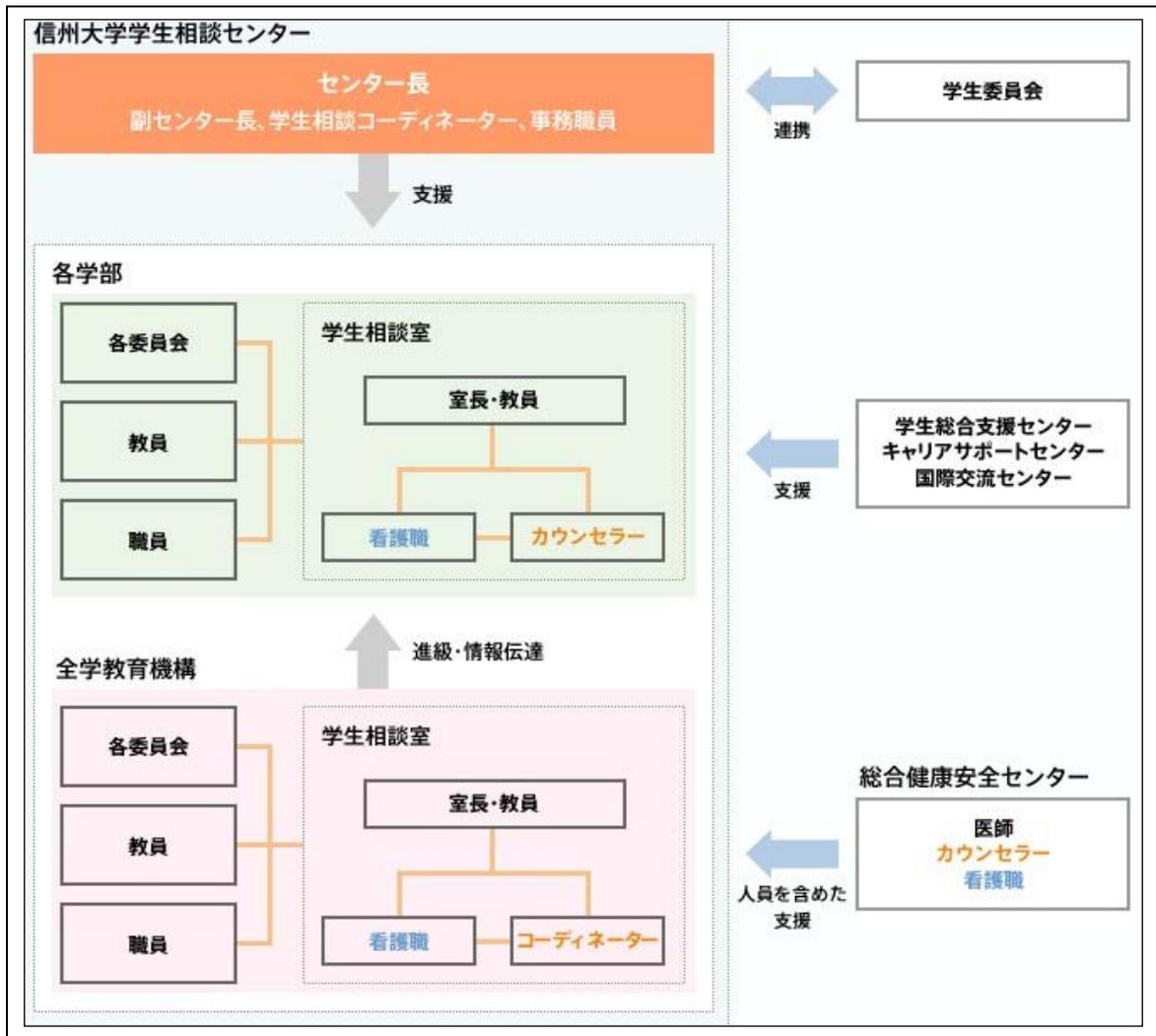
平成 28 年 2 月 1 日現在  
(出典：経営企画課作成)

3 学生支援体制の整備

① 学生相談センター、学生相談室

平成 24 年度に全学組織となる学生相談センターと、各学部・キャンパスに、あらゆる相談を受け付ける学生相談室が設置された。(資料理工 27)

資料理工 27 学生相談センター及び学生相談室





② 長期にわたる教育課程の履修

職業を有している等の事情を有する学生が、標準修業年限を超えて計画的に履修できるようにしている。平成 24 年度からは交換留学する学生に計画的な履修を認めることとした。(資料理工 28、資料理工 29)

資料理工 28 信州大学大学院学則、信州大学大学院理工学系研究科規程

(長期にわたる教育課程の履修)

第 38 条 本大学院は、各研究科の定めるところにより、学生が、職業を有している等の事情により、第 15 条に定める標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

2 前項による計画的な教育課程の修業年限は、第 16 条に定める在学期間を超えることはできない。(教育課程の計画的特例履修)

第 38 条の 2 各研究科(修士課程又は博士前期課程を置く研究科に限る。)は、本大学院と外国の大学院等との間において締結した交流協定(研究科間交流協定及びこれに準ずるものを含む。以下「交流協定」という。)に基づく留学により、第 15 条に定める標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することを修士課程又は博士前期課程の学生(標準修業年限の最終年次の学生及び前条による長期にわたる教育課程の履修を認められている学生を除く。)が希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

2 前項による計画的な教育課程の修業年限は、3 年を超えることはできない。

(出典：信州大学大学院学則)

(長期にわたる教育課程の履修)

第 13 条 大学院学則第 38 条に規定する学生が職業を有している等の事情による長期にわたる教育課程の履修については、研究科委員会において定める。

(出典：信州大学大学院理工学系研究科規程)

資料理工 29 長期にわたる教育課程等の履修者数						
事 項	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
長期にわたる教育課程の履修	0	0	2	3	0	2
教育課程の計画的特例履修			0	0	2	5

(出典：学務課大学院室作成資料)

### ③ 教育方法の特例

本研究科で必要と認めるときは、授業及び研究指導を夜間やその他特定の時間等に出来るようにしている。(資料理工 30)

資料理工 30 信州大学大学院学則、信州大学大学院理工学系研究科規程 (教育方法の特例) 第 39 条 教育上特別の必要があると認められる場合には、当該研究科において定めるところにより、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。  (教育方法の特例) 第 18 条 研究科において必要と認めるときは、授業及び研究指導を夜間その他特定の時間又は時期に行うことができる。 2 前項に規定するもののほか、教育方法の特例に関する事項は、別に定める。  (出典：信州大学規程集)
--

### ④ 大学院授業科目の先取り履修

本研究科の基礎学部である理学部では、大学院授業科目を学部生のうちに先取り履修し、大学院に進学後、当該専攻が定めた上限単位数の範囲内において、大学院の「修了に必要な単位」として認定する制度を、平成 24 年度から設けている。(資料理工 31)

資料理工 31 大学院授業科目先取り履修制度  ① 概容 (「信州大学学部学生の大学院授業科目の受講の取り扱いに関する申合せ」より抜粋) 第 1 履修資格 本研究科の先取り履修科目を履修できる学部学生は、次の各号に掲げる全ての条件を満たしている者とする。 一 履修時に、所属する学部の卒業予定年次に在籍する者 二 本研究科に進学を志望する者又は進学が内定している者 三 各講座が成績優秀と認める者 第 2 対象科目 本研究科における先取り履修の対象とする科目は、毎年度、申請の時期までに先取り履修を希望する学生に提示するものとする。 第 3 履修単位数の上限 学生が先取り履修として履修を申請できる単位数は、10 単位までの範囲内で各専攻において別に定める単位数とする。 第 4 申請時期及び申請手続き 先取り履修を希望する学部学生は、指導教員の承認を受け、要領第 6 に定める大学院授業科目先取り履修申請書及び成績通知書を提出し、先取り履修を希望する学生が所属する学部の長（以下「所属学部の長」という。）が、研究科長に推薦するものとする。 第 5 履修許可 研究科長は、前条の申請に基づき、修士課程理学分科会で審査の上、代議員会の議を経て、研究科長が許可の可否を決定し、所属学部の長を通じ当該学生に通知するものとする。
--

## 第 6 成績の通知

当該学生の先取り履修科目の成績は、所属学部の長へ通知するものとし、当該学部長は遅滞なく本人に通知するものとする。

## 第 7 修得した単位の取扱い

先取り履修制度により修得した単位については、当該学生が卒業後本研究科に入学した場合に限り、本人の申請により研究科規程第 12 条に定める入学前の既修得単位として認定し、10 単位を限度として、修了要件の単位に含めることができるものとする。

## ②履修実績

	H24	H25	H26	H27
履修者数	18	16	16	6

(出典：信州大学理学部ホームページ「在学生の方へ」)

(水準) 期待される水準を上回る。

## (判断理由)

- ・平成 26 年度に学術研究院を設置し、全学的な教育・研究マネジメントの体制を構築した(資料理工 15)。
  - ・平成 24 年度に改組し、基礎学部・学科と対応した構成とした。また、多様な研究分野・テーマの教員が配置されている(資料理工 16、理工 18)。
  - ・平成 24 年度に学生相談センターを設置するとともに、夜間土日開講・長期履修の設定等により、学生支援体制を構築している(資料理工 27～30)。
  - ・大学院授業科目の先取り履修制度を構築している(資料理工 31)。
- これらにより、高度専門技術者、研究者及び教員を目指す大学生や社会人、並びに学位取得後の雇用先である産業界や研究機関等の期待に応えている。

観点 教育内容・方法

(観点に係る状況)

1 学位授与の方針に基づく教育課程の編成

① 学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針

学位授与の方針は大学院全体、研究科、各専攻で、教育課程編成・実施の方針は大学院全体で定め、ホームページにより明確にしている（前掲資料理工3 p3、前掲資料理工4 p3、前掲資料理工5 p7）。各専攻は、教育課程編成・実施の方針に基づき、修了時までには修得すべき知識・能力等を履修プロセス概念図、カリキュラム・マップ、シラバスにおいて明示している（前掲資料理工10 p10、資料理工32、資料理工33）。履修プロセス概念図では、入学時からコースワーク、研究指導、学位論文作成・審査、学位授与に至るまでの教育体系を明示している。

資料理工 32 カリキュラム・マップ

コード	授業名	人類、社会の平和的・	環境調和社会、知識基	それぞれの研究分野に	創造性豊かな優れた研	専門知識に基づいて自	自然界、社会における	数学および自然情報学	数学の文化的基盤を支	物理や化学の専門的な	化学や物理についての	自然との調和を尊重し	上述した専攻の目標を	自然の現象の調査・観	自ら研究計画を立て、
S1619	数理・自然情報科学セミナーⅠ	○	○	○	○	○	○	○	○						
S1623	数理・自然情報科学セミナーⅡ	○	○	○	○	○	○	○	○						
S1632	数理・自然情報科学特別研究	○	○	○	○	○	○	○	○						
S1638	実務体験実習(数理)	○	○	○	○	○	○	○	○						
S1644	数理・情報科学演習Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○	○						
S1645	数理・情報科学演習Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○	○						
S1650	数理・情報科学演習Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○	○						
S2615	物質基礎科学セミナーⅠ(物理)									○					
S2621	物質基礎科学セミナーⅡ(物理)									○					
S2627	物質基礎科学特別研究(物理)									○					
S2633	実務体験実習(物理)	○													
S4601	シーケンス層序学			○									○		
S4603	地殻構造形成論	○											○	○	
S4604	地殻火成活動史			○									○		○
S4605	古環境復元論			○										○	
S4607	鉱物変移論			○		○							○		
S4610	地球生物圏科学特別研究(地質)			○		○							○	○	○
S4622	地球生物圏科学セミナーⅠ(地質)					○								○	○
S4628	地球生物圏科学セミナーⅡ(地質)					○								○	○
S4630	実務体験実習(地質)			○										○	
S4632	岩石磁気学			○									○		
S5615	地球生物圏科学特別研究(生物)	○	○	○	○	○							○	○	○
S5622	地球生物圏科学セミナーⅠ(生物)	○	○	○	○	○							○	○	○
S5624	地球生物圏科学セミナーⅡ(生物)	○	○	○	○	○							○	○	○
S5625	実務体験実習(生物)	○	○	○	○	○							○	○	○
S6609	地球生物圏科学セミナーⅠ(物価)														○
S6610	地球生物圏科学セミナーⅡ(物価)														○
S6614	地球生物圏科学特別研究(物価)														○
S6621	地球生物圏科学セミナーⅠa		○												
S6622	地球生物圏科学セミナーⅠb		○												
S6623	実務体験実習(物価)	○													
S2601	宇宙線物理学			○						○					
S2603	物理と対称性			○						○					
S2605	固体物性物理学									○					
S2606	高エネルギー実験			○						○					
S2609	固体スペクトロスコピーⅠ			○						○	○				
S2611	場の理論Ⅰ					○									
S2613	統計物理学			○						○					
S2614	光エレクトロニクス									○					
S3603	複素環境化学										○				

(出典：シラバス検索システム「学位授与の方針マップ」)

資料理工 33 シラバス

登録コード	S1613			担当教員	一ノ瀬 弥
授業題目	偏微分方程式論			副担当	
英文授業名	Partial Differential Equations				
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	金曜・4時限
				備考	
<p>(1)授業のねらい この授業では、現代的に偏微分方程式を理解するときに必要なフーリエ解析、擬微分作用素理論について主に学ぶ。 この微分方程式は、数学のみならず社会の多くの場所で現われるもので、実際に社会で仕事を行う場合にも将来役に立つものである。又、通信技術に使われるフーリエ解析の内容も、授業で行うので将来役にたつと思われる。</p> <p>(2)授業の概要 先ず、関数空間、線形作用素について学ぶ。続いて、フーリエ解析を学び、その後、擬微分作用素理論について学ぶ。</p> <p>(3)授業のキーワード フーリエ解析、擬微分作用素、偏微分方程式</p> <p>(4)授業計画 第1回：関数空間I 第2回：関数空間II 第3回：関数空間III 第4回：線形作用素、 第5回：線形汎関数 第6回：共役空間 第7回：急減少関数について 第8回：フーリエ変換 第9回：フーリエ変換に対する基本公式I 第10回：フーリエ変換に対する基本公式II 第11回：フーリエ変換に対する基本公式III 第12回：関数空間上のフーリエ変換 第13回：擬微分作用素 第14回：振動積分 第15回：擬微分作用素のAlgebra 第16回：テスト</p>				<p>(5)成績評価の方法 試験により5段階で評価する。 非常に良く出来た者 秀 良く出来た者 優 普通の出来の者 良 最低限の知識はある者 可 最低限の知識がない者 不可 (得点率による評価基準は次のとおり：90%以上 秀, 89-80% 優, 79-70% 良, 69-60% 可, 59%以下 不可)</p> <p>(6)履修上の注意 ルベグ積分の知識が必要である。実解析学I, II及び演習I, IIを理解していないと理解は難しい。</p> <p>(7)質問,相談への対応 研究室で随時対応する。</p>	
				<p>学位授与の方針 ・創造性豊かな優れた研究・開発能力。 ・自然界、社会における様々な現象やその構造に対して、常に変わらぬ知的好奇心と探求心を抱き、理学を継続的に研究解明してゆこうとする意志。 ・数学および自然情報学の高度な専門知識を修得し、様々な状況に直面した場合、自らの課題を発見し、身に付けた自身の数学的思考能力・表現力・応用力に基づく総合的な判断・対処が十分にできる、高度専門職業人としての能力と見識。 授業の達成目標</p>	
				<p>【教科書】 なし 【参考書】 熊ノ郷準「擬微分作用素」(岩波)</p>	

(出典：「シラバス」)

② 博士課程学位プログラム

本学では、通常の教育課程に加え、優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、平成 26 年度より本研究科と総合工学系研究科（博士課程）を一貫して教育するプログラムを編成しており、同プログラムを実施するための履修コースを設けている。（資料理工 34、資料理工 35）

資料理工 34 信州大学大学院学則、信州大学大学院理工学系研究科規程

(博士課程学位プログラム)

第 27 条の 3 本大学院は、優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、修士課程と博士課程を一貫して教育するプログラム（以下「博士課程学位プログラム」という。）として、次の各号に掲げるプログラムを編成する。

- (1) ファイバールネッサンスを先導するグローバルリーダーの養成プログラム
- (2) サステイナブルソサイエティグローバル人材養成プログラム

(出典：信州大学大学院学則)

(博士課程学位プログラム)

第 2 条の 3 研究科の繊維・感性工学専攻、機械・ロボット学専攻、化学・材料専攻及び応用生物科学専攻に、大学院学則第 27 条の 3 第 1 項第 1 号に定めるファイバールネッサンスを先導するグローバルリーダーの養成プログラムを実施するために必要な履修コースを置く。

2 前項の履修コースに関し必要な事項は、別に定める。

第 2 条の 4 研究科の全ての専攻に、大学院学則第 27 条の 3 第 1 項第 2 号に定めるサステイナブルソサイエティグローバル人材養成プログラムを実施するために必要な履修コースを置く。

2 前項の履修コースに関し必要な事項は、別に定める。

(出典：信州大学大学院理工学系研究科規程)

プログラム名		H26 入学生	H27 入学生
ファイバールネッサンスを先導するグローバルリーダーの養成プログラム		8	10
サステイナブルソサイエティグローバル人材養成プログラム	サステイナブルエネルギーコース	1	1
	サステイナブルウォーターコース		
	サステイナブルフードコース	2	1

(出典：経営企画課作成資料)

②-1 ファイバールネッサンスを先導するグローバルリーダーの養成プログラム

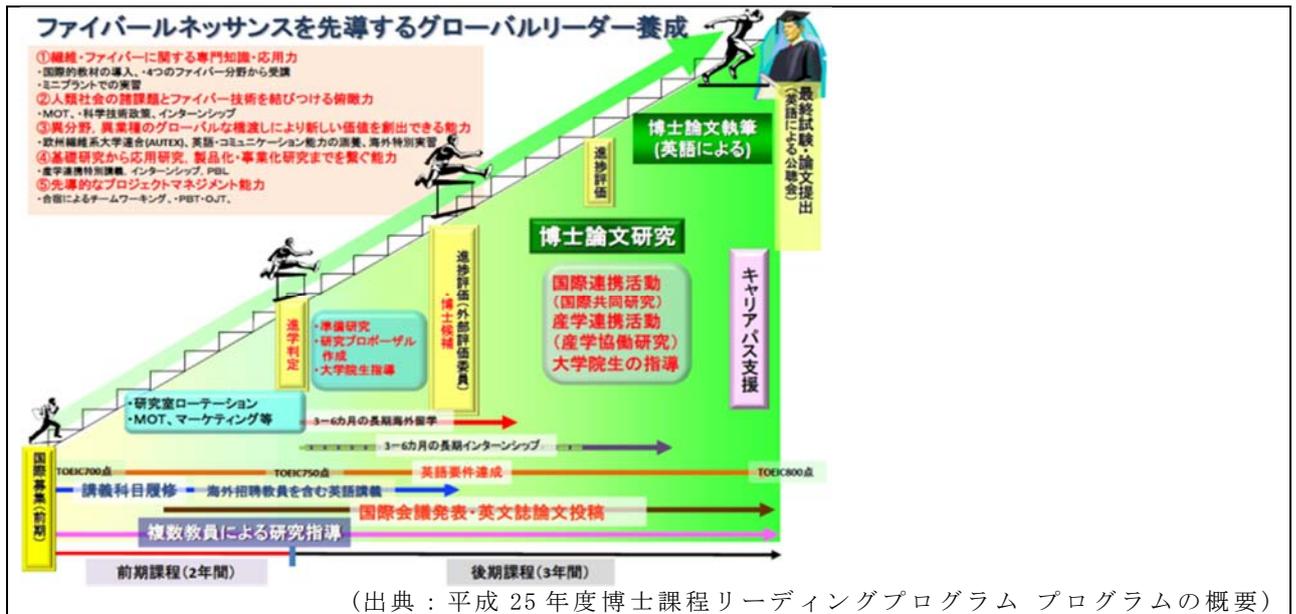
本プログラムは、平成 26 年度より資料理工 36 の養成する人材像を掲げ教育を行っている。このプログラムは、文部科学省の平成 25 年度博士課程教育リーディングプログラム（オンリーワン型）の事業に採択された。

資料理工 36 「ファイバールネッサンスを先導するグローバルリーダーの養成」で養成する人材像  
 ファイバー工学系分野における産業界で活躍できるグローバルリーダー  
 国際的な中核的教育研究拠点として、人材・技術・研究のハブとなる人物

1. 繊維・ファイバーに関する専門知識・応用力
2. 人類社会の諸課題とファイバー技術を結びつける俯瞰力
3. 異分野、異業種のグローバルな橋渡しにより新しい価値を創出できる能力
4. 基礎研究から応用研究、製品化・事業化研究までを繋ぐ能力
5. 先導的なプロジェクトマネジメント能力

(出典：信州大学ファイバールネッサンスを先導するグローバルリーダーの養成ホームページ「私たちが目指す人材のカタチ」)

プログラム概念図



②-2 サステイナブルソサイエティグローバル人材養成プログラム

本プログラムは、平成 26 年度より以下の養成する人材像を掲げ教育を行っている。(資料理工 37)

資料理工 37 養成する人材像と習得知識・能力

養成する人材像

本学位プログラムでは、地域資源としての「エネルギー・水・食料」の自立(律)循環型コンパクトライフラインの実現を目指して、以下に示す人材を養成します。

新しい社会インフラを想像するという高い理念と信念を持った新規産業創成リーダー

- ・エネルギー、水、食料のコンパクトライフライン要素技術や運用技術によるビジネス創成
- ・要素技術の異分野応用による新規ビジネスへの展開(モバイル分野、メディカル分野など)

コンパクトライフライン社会インフラの構築を担う地域活性化リーダー

- ・コンパクトライフライン社会インフラの社会実装に貢献する地域リーダーや行政マン
- ・エネルギー、水、食料の地産地消ビジネスによる地域活性化

持続可能な社会インフラの構築を担う新興国グローバルリーダー

- ・アジア・アフリカ諸国をはじめとする新興国で新しい社会インフラ構築に貢献
- ・テクノクラートとして新しい社会インフラ政策の立案に貢献

習得知識・能力

新しい社会インフラを創造するという高い理念

- ・世界レベルの地球環境問題、エネルギー、水、食料の世界的な課題に対する深い理解
- ・サステイナビリティの概念の理解
- ・持続可能な社会経済活動を支える社会インフラのあるべき姿の深い理解と、新しい社会インフラの建設に貢献するという強い信念

基礎と応用を俯瞰する能力(十分な基礎学力と先端分野の深い専門性、応用展開力)

- ・深い専門性とそれを支える十分な基礎学力
- ・研究の成果を応用につなげることのできる応用展開力
- エネルギー・水・食料の地域循環ライフラインをグローバルな視点で見ることのできる能力
- コンパクトライフラインにおけるエネルギー、水、食料の相互関係の理解
- 自立(律)循環型ライフラインを複雑系システムとして捉え、資源の有効活用、省エネ、節水といった観点でシステム全体を俯瞰して見ることのできる能力

新規産業を創生する能力

- ・コンパクトライフラインの要素技術やシステム運用などの高度な研究開発力
- ・新規ビジネスを展開するためのマーケティングを始めとする技術経営(MOT)能力
- ・産学官連携、異業種連携など異分野連携を推進するリーダーシップ能力

新しい社会インフラを社会実装する能力

- ・コンパクトライフラインを社会実装するための関連政策の理解、また、政策に反映できる能力
- ・コンパクトライフラインを実現することづくりやプロジェクトを推進できる能力
- ・地域に分散する資源(人、物、資金)を結び、地産地消ビジネスに展開できる能力

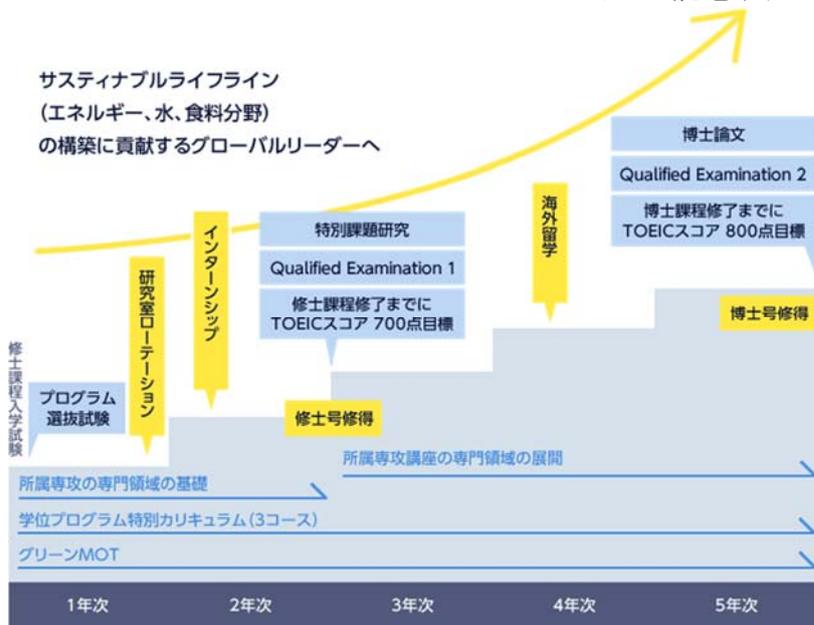
グローバル・リーダーとしての国際性

- ・その国の社会構造、民族性、文化や社会インフラの課題に対する深い理解
- ・国際ビジネスを展開するためのネットワーク力

・国際コミュニケーション力

(出典：信州大学サステナブルソサイエティグローバル人材養成プログラム  
ホームページ「10年後の社会経済活動を牽引するリーダーとは」)

プログラム概念図



研究室ローテーション (M1)

所属研究室以外に2つの他研究室にそれぞれ2ヶ月間滞在し、それぞれの研究室でゼミナール形式の課題探索、実験計画法、課題解決法を学び、実験・実習を通して幅広い実践的なスキルを身につけます。

インターンシップ (M2)

企業や研究機関でインターンシップ実習を行い、問題設定能力や課題解決能力と共に、広い視野を身につけることを目的としています。単にインターンシップへ参加するだけでなく、インターンシップへ参加する前後に、事前・事後教育を受講します。

海外留学 (D2)

海外の大学へ3ヶ月程度留学し、単なる語学留学ではなく、研究に参加して実証試験の経験等をつみます。また、国際的なコミュニケーション力を身につけます。

MOT 関連科目 (M1~D3)

信州大学経営大学院イノベーションマネジメント専攻が開講するグリーンMOTカリキュラムを5年間で履修し、技術経営に必要な知識を身につけます。

(出典：信州大学サステナブルソサイエティグローバル人材養成プログラムホームページ「カリキュラム」)

③大学連携による共同教育プログラム

本研究科では、通常の教育課程に加え、大学院に「繊維・ファイバー工学分野」の専攻を有する福井大学、京都工芸繊維大学と連携し、各大学院の修士課程にグローバルな視野を持ち、課題設定力・課題解決力、リーダーシップを兼ね備えた技術者、研究者を育成することを目的とする「繊維・ファイバー工学コース」を平成25年度より開設した。

このコースでは、外国人研究者による英語での講義・講演の実施、全コース生(3大学)が参加しグループワーク・繊維系企業経験者と交流する「繊維系合同研修」を取り入れている。この取組は、平成24年度文部科学省「大学間連携共同教育推進事業」に採択された。

(資料理工 38、資料理工 39、資料理工 40、資料理工 41)

資料理工 38 大学間連携 繊維・ファイバー工学コースの概要、コースカリキュラム



(出典：文部科学省ホームページ「平成24年度大学間連携共同教育推進事業選定取組」)

<b>基幹科目</b>	繊維系合同研修 海外繊維・ファイバー工学事情 I(欧米)II(アジア)	繊維系資格概論	アカデミックインターンシップ 繊維基礎科学 (英語版 e-Learning 科目)	
	<b>連携科目</b>	繊維技術士特論	繊維科学概論	
		繊維材料に関する知識 繊維材料学特論 複合材料力学特論	材料力性 繊維・高分子材料工学 繊維・高分子材料レオロジー特論	
		繊維加工に関する知識 ヤーンテクノロジー特論 衣服工学特論 機能化学特論 I	繊維・高分子加工工学 分子相互作用特論 界面コロイド化学 カラーレーション工学	テキスタイルサイエンス I テキスタイルエンジニアリング III テキスタイルエンジニアリング IV バイオカラーサイエンス
		設計・評価に関する知識 繊維製品快適性評価特論 感性計測特論 感性繊維化学特論	Kansei-Human 設計 サスティナビリティ設計	
生体材料関係に関する知識 養利用学特論	生命機能工学 生体材料化学	バイオベースポリマー バイオ機能材料 生物資源システム工学		

各大学の強み	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実機を使用した実験実習</li> <li>・欧州繊維系大学連合 (AUTE X) の派遣による大学院生教育</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子線照射技術など繊維機能加工に関する教育</li> <li>・ナノ繊維化技術や繊維の医療等への展開</li> <li>・地元繊維産業と連携教育</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人に優しい工学を活かした繊維教育</li> <li>・バイオベース繊維</li> <li>・複合材料教育</li> </ul>
	信州大学	福井大学	京都工芸繊維大学
	(出典：信州大学繊維・ファイバー工学コースホームページ「履修科目群」)		

資料理工 39 繊維・ファイバー工学コース受講者数

大学名	H25 入学生	H26 入学生	H27 入学生
信州大学	7	6	6
福井大学	4	7	7
京都工芸繊維大学	5	5	6

(出典：繊維学部作成)

資料理工 40 外国人研究者招へい一覧

H25	滞在期間	招聘教員	備考
前期	H25.5.28(火)～6.7(水)	Chwee Teck Lim 教授 (シンガポール国立大学)	II (アジア)
	H25.6.11(火)～6.21(金)	Xiaoming Tao 教授 (香港理工大学)	
後期	H25.10.22(火)～11.8(金)	Martin Shanahan 教授 (仏・ポルドー大学)	I (欧米)
	H25.12.2(月)～12.20(金)	Jon P.Rust 教授 (米・ノースカロライナ州立大学)	
H26	滞在期間	招聘教員	備考
前期	H26.5.7(水)～5.21(水)	Yi Li 教授 (香港理工大学)	II (アジア)
	H26.6.30(月)～7.25(金)	Bojana Voncina 准教授 (スロベニア・マリボル大学)	I (欧米)
後期	H26.10.14(火)～10.31(金)	Chih Pong Chang 教授 (中国文化大学)	II (アジア)
	H26.11.25(火)～12.12(金)	Heinrich M.F. Planck 教授 (独・デンケンドルフ繊維研究所)	I (欧米)
H27	講義期間	招聘教員	備考
前期	H27.5.18(月)～5.22(金)	Xungai Wang 教授 (豪・ディーキン大学)	II (アジア)
	H27.7.6(月)～7.17(金)	Samuel Hudson 教授 (米・ノースカロライナ州立大学)	I (欧米)
後期	H27.10.6(火)～10.22(木)	Vu Thi Hong Khanh 教授 (越・ハノイ理工大学)	II (アジア)
	H27.12.7(月)～12.18(金)	Chris Carr 教授 (英・リーズ大学)	I (欧米)

(出典：繊維学部作成資料)

資料理工 41 繊維系合同研修

平成 26 年 9 月 11 日 (木)～14 日 (日) の日程で「繊維系合同研修」が行われました。今年度の繊維系合同研修のねらいは、最先端の繊維などについて学習し、ものづくりに関する新規提案を検討・発表することで、創造力・課題解決力・コミュニケーション能力などを養成するものです。コース生たちは事前検討として最新の繊維製品技術についてホームページや資料を使って学習し、当日に挑みました。

(中略)

企業訪問や実際に企業で働いている方とのグループワーク等、この研修で行ったプログラムを通して、繊維業界について理解を深めることができたのではないのでしょうか。また、密度の濃い4日間を共に過ごし切磋琢磨したことで、直接顔を合わせるのも初めてだったコース生の間にも絆が生まれ、人間的に成長するきっかけにもなったと思います。今回学んだことを生かし、繊維・ファイバー工学コースの今後の授業や行事にも積極的に取り組んでいきましょう！

(出典：<http://www.shinshu-u.ac.jp/research/project/sfkenkei/news/index.php>)

◆**スラムが一室に集まり、他大学の学生との交流することで刺激を受けた**

- ・ 同世代の同じ繊維に携わる研究者との関わり、交流を持てたことが大変刺激にもなり、免刺にもなりました。そしてこの合宿研修で同じ研究ができたことが、とても有意義でした。
- (皆がどのような考えを持っているか、能力、意見、実験等)
- ・ 他大学の学生と同じ空間で過ごすことで、ライバル意識や仲間意識が芽生えてとても刺激になった。
- ・ 違う分野、違う環境で学んできた学生と一緒に同じテーマに取り組むことが新鮮でとても刺激になりました。
- ・ 化学分野について学ぶことができ、逆に繊維について教えることによって知識が深まる。
- ・ 他大学、社会人の方々といろいろな面で交流することができ、来る前とは考え方が大きく変わった非常に楽しかったです。今回の研修に参加できたことに感謝します。これから、ここでのつながりを大切にしたいと思います。
- ・ 皆ですべて一緒にだったので、つながりができてよかったと思う。
- ・ 他大学の学生の意見が交換できたこと。
- ・ 異なる専門の学生と「テーマ」を設定し、ディスカッション、発表できたことは貴重な経験でした。

◆**企業の方との交流することで普段では得られない経験ができた**

- ・ 企業の視点から、経験からアドバイスを頂けたこと。
- ・ アドバイザーとして様々な考え方、意見を伝えていただいたのが、とても普通の学生では得られるものではなく、これらの体験をこれからの研究、仕事に活かしたいと思います。
- ・ 開発時の考え方。
- ・ 企業の方のお話を聞けたこと。更には、グループワークの中アドバイザーとして入っていただいたことで、実践的な知識を得られたり、本当に企業に入って仕事をしているような体験ができました。



(出典：繊維学部作成資料)

## 2 教育方法・学習支援の工夫

本研究科では、学生、修了生、雇用主、地域等の社会のニーズをキャンパス毎に組織する分科会の元、基礎学部の学務委員会、就職委員会等がアンケート、意見聴取等を実施し把握している。(資料理工 42)

### 資料理工 42 ニーズを把握するための取組例

取組	頻度	対象	キャンパス	内容
修了生アンケート	年1回	修了生	松本 長野(工学)	修了者に対するアンケートを実施している。(資料理工 73 参照)
卒業生懇談会	年1回	修了生	長野(工学)	修了生を招待して、在学生・教職員との懇談を行い、出された意見を教育課程の見直し等に活用する。(資料理工 74 参照)
若里地区連絡会 長野市連携協議会	年2回 年1回	若里5地区 長野市	長野(工学)	地域や自治体との協議会等により、地域のニーズを把握する機会を設けている。

(出典：学務課大学院室)

### ① 履修計画、履修指導

本研究科修了要件等は、学則及び研究科規程により定めている。(資料理工 43)

#### 資料理工 43 信州大学大学院学則、信州大学大学院理工学系研究科

(修士課程又は博士前期課程の修了要件)

第40条 修士課程又は博士前期課程の修了の要件は、当該課程に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、当該修士課程又は博士前期課程の目的に応じ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、当該研究科が優れた業績を上げたと認める者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

(出典：信州大学大学院学則)

(履修方法等)

第 8 条 研究科の教育は、授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導(以下「研究指導」という。)によって行う。

2 学生は、授業科目を履修し、30 単位以上を修得するものとし、履修方法は別に定める。

3 学生は、大学院学則第 8 条第 4 項に定める研究指導を担当する教授、准教授、講師又は助教(以下「指導教員」という。)が特に必要と認めたときは、理学部、工学部又は繊維学部の授業科目を履修することができる。ただし、その単位は、前項に規定する単位に算入しないものとする。

(出典：信州大学規程集)

履修にあたって、各キャンパスで作成する学生便覧等で履修方法等を明示するとともに、入学当初に指導教員の指導に基づき、修了までの履修計画を立て履修している。(資料理工 44、資料理工 45)

資料理工 44 学生便覧等による履修方法等の明示

1 履修指導等  
 学生は、講義、演習及び特別実験の履修等に係る順序、範囲総単位数等について、指導教授、指導准教授、指導講師又は市場助教(以下「指導教員」という。)の指導を受けること。

2 履修計画等  
 (1) 学生は、学年の始めに指導教員の指導に基づき、2 年間の履修計画を立てるとともに履修計画表を大学院係へ提出すること。  
 (2) 1 年次における履修単位数は、15～20 単位が望ましい。  
 (3) 提出後に授業科目を変更する場合は、その都度届け出ること。

3 修了要件及び履修方法 (略)

(出典：信州大学大学院理工学系研究科 学修便覧(上田キャンパス用))

資料理工 45 履修計画表

修士課程履修計画表〔平成27年度入学生用〕

繊維・感性工学専攻  
先進繊維工学コース

※2年間の履修計画を立てること。  
※履修科目については、下記「履修学年・学期・履修単位数」欄の単位数に○印を付けること。  
また、他専攻・他コース科目の授業科目を履修する場合は、下欄に科目番号、授業科目及び単位数を記入すること。  
※リーディング講義科目「繊維製品生産論」は聴講のみ受け付けますので、聴講を希望する方は、他専攻科目欄に記入してください。

科目区分	履修登録コード	授業科目名	単位数	授業形態	開講学年・学期・単位数						担当教員	備考	
					1年〔平成27年度〕			2年〔平成28年度〕					
					前期	後期	通年	前期	後期	通年			
研究科 共通科目	XS001	先端科学特別講義	2	講義		2			2		武田 三男 (理学部教員)他	オムニバス・松本キャンパス開講	
	XT002	情報基礎特論 I	2	講義			2		2		師玉 康成 (工学部教員)	e-learning	
	XI004	計算理論	2	講義	2			2			山本 博章 (工学部教員)	e-learning	
	XT005	Introduction to Modern Astrophysics	2	講義	2			2			藤田あき美 (工学部教員)	英語・長野キャンパス開講	
	XF005	MOT特論	2	講義			2		2		柴田 清弘(学外)		
	XF006	繊維技術士特論	2	講義			2		2		向山 泰司(学外)他		
	XF007	産学連携特別講義	2	講義			2		2		森川 英明 他		
	XF010	国際連携特別講義 I	1	講義			1			1	修士課程小委員長	英語	
	XF011	国際連携特別講義 II	1	講義			1			1	修士課程小委員長	英語	
	XF009	Textile Technology	2	講義			2			2	金井 博幸 他	英語 e-learning 前期に履修登録必要	
	XZ100	科学英語	2	講義		2			2		加藤 勉三 (高等教育センター教員)	松本キャンパス開講 (SUNS)	
	XZ101	大学院と社会	2	講義	2			2			李 敏 (高等教育センター教員)	松本キャンパス開講 (SUNS)	
	XZ102	学外特別講義(長期)	2	講義			2			2	高倉人村育成インターンシップ科目 大学院人材育成センター 各キャンパス分室長	講義/e-learning 集中/長野開講 学外特別講義(長期)とセット 学外へのインターンシップ	
	XZ103	学外特別実習(長期)	2	実習			集中			集中			
	XT011	エネルギー材料科学特論 I	2	講義		2			2		橋本 佳男 (工学部教員)	長野キャンパス開講	
	XT012	エネルギー材料科学特論 II	2	講義	2			2			松原 雅春 (工学部教員)	長野キャンパス開講	
	XT013	エネルギーデバイス総論	2	講義	2					2	手嶋 勝弥 (工学部教員)他	長野キャンパス開講	
	XT014	エネルギーシステム特論 I	2	講義		2			2		佐藤 敏郎 (工学部教員)他	長野キャンパス開講	
	XT015	エネルギーシステム特論 II	2	講義	2			2			田中 清 (工学部教員)	長野キャンパス開講	
	XS002	水環境科学特論	2	講義	集中				集中		戸田 任重 (理学部教員)他	松本キャンパス開講	
XT017	水創成特論	2	講義		2			2		清野 竜太郎 (工学部教員)他	長野キャンパス開講		
XT018	水利用システム特論	2	講義		2			2		松本 明人 (工学部教員)他	長野キャンパス開講		
XT019	食糧生産システム工学特論	2	講義			2			2	千田 有一(工学部教員)他	長野キャンパス開講		
専攻 共通科目	FA001	繊維感性工学特論	2	講義	2						木村 裕和 他	オムニバス	
	FA002	マーケティング特論	2	講義		2			2		森川 英明		
	FA003	English Presentation	2	演習		2			2		HONYWOOD MICHAEL		
	FA004	インターンシップ実習	1	実習			1			1	木村 裕和		
	FA005	インターンシップ実習	2	実習			2			2	木村 裕和		
	先進 繊維 工学 コース	FA101	繊維材料科学特論	2	講義	2			2			大越 豊	
FA102		ヤーンテクノロジー特論	2	講義	2			2			松本 陽一(非)		
FA103		テキスタイルデザイン特論	2	講義		2			2		開講せず(西松豊典)		
FA104		先進繊維システム管理学特論	2	講義	2			2			森川 英明		
FA105		インテリア工学特論	2	講義		2			2		木村 裕和		
FA106		先進繊維計測学特論	2	講義	2			2			石澤 広明		
FA107		繊維信号解析学特論	2	講義	2			2			金井 博幸		
FA108		繊維製品快適性評価特論	2	講義	2			2			西松 豊典		
FA109		繊維文化財学特論	2	講義		2			2		金 慶孝		
FA110		先進繊維工学演習 I	1	演習	1						木村 裕和 他		
FA111		先進繊維工学演習 II	1	演習		1					木村 裕和 他		
FA112		先進繊維工学演習 III	1	演習				1			木村 裕和 他		
FA113		先進繊維工学演習 IV	1	演習					1		木村 裕和 他		
FA114		先進繊維工学特別実験 I	2	実験	2						木村 裕和 他		
FA115		先進繊維工学特別実験 II	2	実験		2					木村 裕和 他		
FA116		先進繊維工学特別実験 III	2	実験				2			木村 裕和 他		
FA117		先進繊維工学特別実験 IV	2	実験					2		木村 裕和 他		
学類別履修単位数小計					単位	単位	単位	単位	単位	単位	履修単位数総計		
年次別履修単位数合計					1年次	単位	2年次	単位	単位				

(出典：信州大学大学院理工学系研究科 学修便覧 (上田キャンパス用))

② 大学院共通教育用科目

本学では、専門によらず大学院生にとって有意な科目を他研究科の学生が受講することで広い視野を身につけてもらうことを目的に、e-Learning 等を活用して大学院共通教育用科目を開講している(資料理工 46)。

資料理工 46 平成 27 年度大学院共通教育用科目一覧

開講研究科	科目名	時期	単位	開講キャンパス	備考
経済・社会政策科学研究科	地域の産業と雇用Ⅱ (地域社会と情報技術)	前期	2	松本キャンパス	
	地方自治と地域社会Ⅳ	後期	2	松本キャンパス	
理工学系研究科	科学英語	後期	2	松本キャンパス	遠隔講義システムによる配信
	大学院生と社会	前期	2	松本キャンパス	遠隔講義システムによる配信
農学研究科	食と緑の科学特論	前期	2	伊那キャンパス	

(出典：学務課大学院室作成)

③ 国際的な e-Learning 教材を用いた教育

授業科目「Textile Fundamentals」は、ノースカロライナ州立大学が開発した e-learning 型英語教材を用いた教育を行っている。(資料理工 47、資料理工 48) 本科目は、ファイバー・ネットを先導するグローバルリーダーの養成プログラム、繊維・ファイバー工学コースの学生には必修となっている。

資料理工 47 「Textile Fundamentals」シラバス

登録コード	FL005			担当教員	金井 博幸
授業題目	Textile Fundamentals			副担当	
英文授業名	Textile Fundamentals			対象学生	リーディング大学院 学生
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	木曜・1時限
講義室		授業形態	演習	備考	
<p>(1)授業のねらい グローバル社会を担う人材育成を目的として、繊維工学に関する基礎的知見およびその技術について英語教材(米国ノースカロライナ州立大学(NCSU)開発教材)を用いて学習する。</p> <p>この講義を通じて、以下の4点の能力向上を目指す</p> <p>(1)繊維工学の基礎知識の習得 (2)基礎知識に対する英語表現の理解 (3)英文速読における読解力の養成 (4)学習計画の作成と実施の訓練(予習、講義履修、復習を習慣とする)</p> <p>(2)授業の概要 本講義を受講する学生は、以下の予習、講義当日の履修、復習を行う必要がある。</p> <p>【予習】 講義履修時までに授業計画に定める範囲について章末問題を和訳し、問題の内容を理解すること(講義開始時に章末問題の理解がなされているか否かを確認する)</p> <p>【講義】</p> <p>(1)出席確認および当日の授業内容の確認(5分) (2)当日の授業計画の範囲に関する章末問題の理解度の確認(10分) (3)テキスト内容の学習と章末問題に関する自己回答の作成(45分) (4)グループディスカッションによる章末問題の統一回答の作成(20分) (5)正当と解説(10分) *時間は目安</p> <p>【復習】 当日の授業計画の範囲に関して実施した自己回答、グループ統一回答について、判断の根拠をまとめた後、正当と比較して解説などのコメントを記録する。 これをレポートとして、翌週の講義開始時までに担当者宛てに提出する。</p> <p>(3)授業計画</p> <p>1. Orientation for Textile Fundamentals 2. Textile Fibers 3. Textile Fibers 4. Spun Yarn Manufacturing 5. Spun Yarn Manufacturing 6. Warp Preparation 7. Warp Preparation 8. Weft Knitting 9. Weft Knitting 10. Warp Knitting</p>				<p>11. Warp Knitting 12. Weaving 13. Weaving 14. Nonwovens 15. Nonwovens</p> <p>(4)成績評価の方法 成績は以下の3項目に対する実施実績に基づき総合的に判断する。なお、最終成績に対する各項目の寄与率の目安をそれぞれ付記する。</p> <p>(1)予習による章末問題の理解度の確認(寄与率の目安:20%) (2)出席状況(寄与率の目安:40%) (3)レポートの作成状況(寄与率の目安:40%)</p> <p>(5)履修上の注意 自己学習形態であるe-learningの趣旨を理解し、能動的かつ計画的に学習できるよう努力する必要がある。 学習効果を高めるため、講義前の予習と講義後の復習における学習の質を高めるよう努力する必要がある。</p> <p>(6)質問、相談への対応 信州大学:kanai@shinshu-u.ac.jp(金井 博幸)</p> <p>(7)学生へのメッセージ 目的に記載した能力の向上を実現するためには「強い意欲」と「継続的な訓練」が必要不可欠です。 一人ひとりが、本講義に臨む前に目的と目標を明確にして受講日を迎えてほしいと思います。</p> <p>(8)その他</p> <p>【教科書】 (1)知っておきたい繊維の知識424</p> <p>【参考書】 (1)繊維便覧、繊維学会編、丸善 (2)JISハンドブック31 繊維、日本規格協会 (3)Textile Terms and Definitions, The Textile Institute (4)The Standard Handbooks of Textile, A. J.Hall, Newnes-Butterworths</p>	

(出典：「シラバス」)

資料理工 48 「Textile Fundamentals」サイト

# COLLEGE OF TEXTILES

---

**TEXTILE EXTENSION FOR ECONOMIC DEVELOPMENT**

- > About TexED
- > FAQ
- > People
- > TexLabs
- > TexED Wire

**PROFESSIONAL EDUCATION PROGRAMS**

- > Overview
- > Course Calendar
- > Course Catalog
- > Customized Training
- > eLearning Opportunities
- > Lean Six Sigma
- > Textile Technology Certificate Program

**COLLEGE OF TEXTILES**

**ACADEMICS**

**ALUMNI**

**RESEARCH**

**INTRANET**

[Home](#) > [TexED](#) > Professional Education Course Detail

## Textile Fundamentals

### Hotel Information

[Area hotels, maps, and directions](#)

### Course Overview

Textile Fundamentals, our most popular course, provides you with a comprehensive, in-depth study of the entire textile process from fiber formation through finishing. Lectures, coupled with visits to our textile manufacturing laboratories, will provide you a true working knowledge of textile processing. Be sure to register early, because this one consistently sells out fast! Space is limited to 40 students.

**Please note: Closed-toed shoes are required while attending this course.**

### What you will learn:

- > Fibers and Fiber Properties
- > Filament and Spun Yarn Formation
- > Fabric Formation Systems
- > Color and Dyeing
- > Chemical and Mechanical Finishing

(出典：ホームページ「Textile Fundamentals」)

また、本学は以下のとおり国際交流協定を締結している(資料理工 49)。

資料理工 49	国際交流協定一覧
大 学 間 交 流	<b>アメリカ</b> ユタ大学, オクラホマ州立大学, 南オレゴン大学, カリフォルニア州立大学チョコ校
	<b>メキシコ</b> CINVESTAV 大学院大学
	<b>ブラジル</b> パラナ連邦工科大学
	<b>オーストラリア</b> カーティン大学, オーストラリア南極研究所
	<b>フィンランド</b> 国立フィンランド測地研究所
	<b>フランス</b> ラ・ロッシュェル大学, フランス国立繊維工芸工業高等学院, リール第一大学, フランス国立情報学自動制御研究所 (INRIA)
	<b>ドイツ</b> ライプツィヒ大学, マンハイム大学
	<b>ベルギー</b> カトリック大学ルーヴァン
	<b>オランダ</b> ズイド大学
	<b>イタリア</b> ヴェネツィア・カ・フォスカリ大学
	<b>スペイン</b> アルカラ大学カルデナル・シスネロスカレッジ
	<b>ポーランド</b> ビアリストク大学, ビアリストク工科大学, シレジア工科大学, ワルシャワ大学
	<b>ロシア</b> ヴィートゥス・ベーリング名称カムチャツカ国立大学, 極東連邦大学
	<b>モロッコ</b> モハメド五世大学アグダル校
	<b>モンゴル</b> モンゴル科学技術大学
	<b>中国</b> 同済大学, 河北農業大学, 蘭州大学, 河北医科大学, 蘇州大学, 東華大学, 中国地質大学, 北京工業大学, 太原理工大学, 浙江理工大学, 北京外国語大学, 天津工業大学, 北京化工大学, 山東大学, 西南大学, 河南農業大学, 重慶師範大学, 對外經濟貿易大学
	<b>台湾</b> 輔仁大学
	<b>韓国</b> 江原大学校, 尚志大学校, 光云大学校, 韓国カトリック大学校, 崇實大学校, 順天大学校, 建国大学校, 嶺南大学校, 檀国大学校, 漢陽大学校, 忠南大学校, 全南国立大学アランマク
	<b>タイ</b> チェンマイ大学, カセサート大学, チュラロンコン大学, ナレースワン大学, サイアム大学
	<b>インド</b> インド工科大学マドラス校
<b>ベトナム</b> ベトナム国家大学ハノイ-工業技術大学, ハノイ工科大学, FPT 大学, ダラット大学	
<b>マレーシア</b> UPM (マレーシアプトラ大学), マラヤ大学	

インドネシア	プリタハラパン大学, ウダヤナ大学, アンダラス大学, ボゴール農科大学
ミャンマー	ヤンゴン工科大学

(出典:「大学概要 2015」をもとに経営企画課作成)

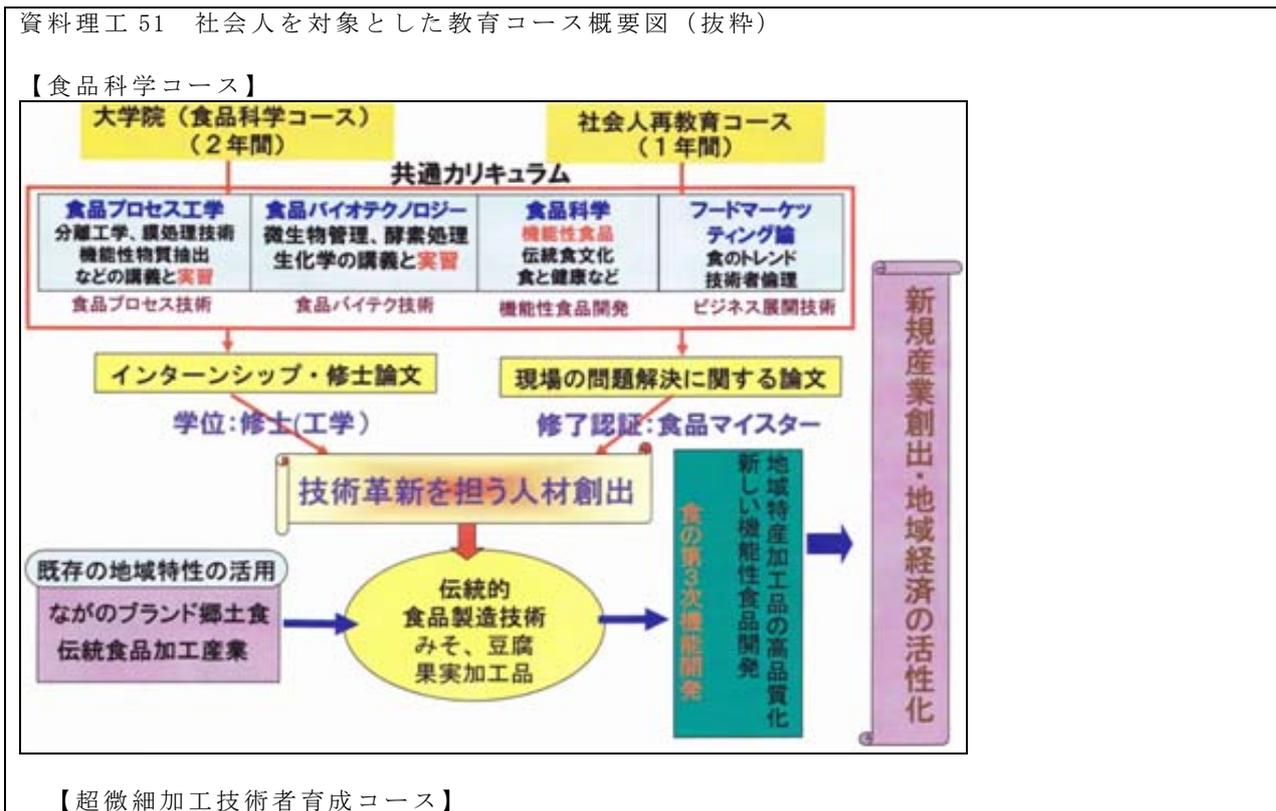
④ 社会人を対象とした教育コース

先述の教育方法の特例により社会人を対象とした教育コースを実施し、人材を養成している。(資料理工 50、資料理工 51)

資料理工 50 社会人を対象とした教育コース

専攻名	教育コース	地域	期間	総入学者数
物質・環境機能工学専攻	食品科学コース	長野	H20～	24
機械システム工学専攻	超微細加工技術者育成コース	諏訪圏	H20～	38
電気電子工学専攻	精密機器制御システム技術者育成コース	飯田	H19～H24	20
	モバイル制御技術者育成コース	飯田	H25～	0
情報工学専攻	組込システム技術者育成コース	塩尻	H19～H21	6

(出典:工学部作成資料)





⑤ 特別の課程

上記の教育コースに加え、社会人を対象とする、部局が開設する講習、授業科目（一部含む）により体系的に編成する課程を平成 24 年度より実施している。（資料理工 52、資料理工 53、資料理工 54）

資料理工 52 信州大学大学院学則、信州大学における特別の課程の編成に関する規程  
 (特別の課程)

第 92 条の 2 本大学院は、本大学院の学生以外の者を対象とした特別の課程(以下「特別の課程」という。)を編成し、これを修了した者に対し、修了の事実を証する証明書を交付することができる。  
 2 特別の課程に関し必要な事項は、別に定める。

(出典：信州大学大学院学則)

(特別の課程の編成)

第 3 条 特別の課程の編成に当たっては、部局が開設する講習若しくは授業科目又はこれらの一部により体系的に編成するものとする。

第 4 条 部局が、特別の課程を編成する場合は、次の各号に掲げる要件を満たさなければならない。

- (1) 特別の課程の名称、目的、総時間数、履修資格、定員、内容、講習又は授業の方法、修了要件その他本学が必要と認める事項を定めていること。
- (2) 特別の課程の総時間数は 120 時間以上であること。
- (3) 特別の課程における講習又は授業の方法は、大学設置基準(昭和 31 年文部省令第 28 号)、大学院設置基準(昭和 49 年文部省令第 28 号)又は専門職大学院設置基準(平成 15 年文部科学省令第 16 号)に定めるところによるものであること。

(出典：信州大学における特別の課程の編成に関する規程)

資料理工 53 理工学研究科が開設する特別の課程の概要

<p><b>課程名</b> 「ながのブランド郷土食」社会人スキルアップコースプログラム</p> <p><b>人材養成目的</b> 新製品開発や技術革新など、地域経済の活性化に寄与するため、地元自治体長野市との連携により、食品製造分野での技術革新を担う人材を創出することを目的とする。</p> <p><b>講習又は授業科目名</b> 必修(30時間)…課題研究 選択(90時間)…食品バイオテクノロジー、食品バイテク実習、応用食品プロセス工学、食品プロセス実習、食品科学、企業経営概論</p>
<p><b>課程名</b> 「超微細加工技術」社会人スキルアップコースプログラム</p> <p><b>人材養成目的</b> 新製品開発や技術革新など、地域経済の活性化に寄与するため、地元自治体(代表：岡谷市)との連携により、精密科目・製造分野での技術革新を担う人材を創出することを目的とする。</p> <p><b>講習又は授業科目名</b> 選択(120時間)…超精密加工実習Ⅰ，超精密加工実習Ⅱ，超精密加工学特論Ⅰ，超精密加工学特論Ⅱ，超精密加工学特論Ⅲ，最適設計特論，発明的問題解決理論，表面処理技術実習Ⅰ，表面処理技術実習Ⅱ，表面処理特論，計測技術講義・実習，評価技術講義・実習，管理技術特論Ⅰ，機械システム演習第1</p>
<p><b>課程名</b> 「電気機器関連制御技術」社会人スキルアップコースプログラム</p> <p><b>人材養成目的</b> 新製品開発や技術革新など、地域経済の活性化に寄与するため、地元自治体(飯田市)および地元企業との連携により、電気機器関連の製造分野での制御技術革新を中心とした次世代の産業分野を担う人材を創出することを目的とする。</p> <p><b>講習又は授業科目名</b> 必修(120時間)…電気電子工学の基礎，プログラミンの基礎，モバイル制御，宇宙環境利用工学</p>

(出典：教育研究評議会資料を元に経営企画課作成)

資料理工 54 特別の課程の受講状況一覧

課程名	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
「ながのブランド郷土食」社会人スキルアップコース	5	5	7	7
「超微細加工技術」社会人スキルアップコース		3	0	0
「電気機器関連制御技術」社会人スキルアップコース		8	5	5

(出典：工学部作成資料)

⑥信州大学自然環境診断マイスター

平成19年度文部科学省「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」で採択された「自然環境診断マイスター養成」プログラムは、平成22年度に要項を整備するとともに、授業「地球生物圏科学セミナーⅠa」を基幹実習とした。(資料理工55、資料理工56、資料理工57)

資料理工 55 信州大学自然環境診断マイスターの資格認定に関する要項  
(趣旨)

- 第1 この要項は、自然環境の診断、生物多様性の把握、自然環境の保全及び防災対策等に係る能力を有し、多様な問題に係る解決策を行政機関等に具体的に提言することができる人材を育成するため、信州大学大学院理工学系研究科(以下「理工学系研究科」という。)が実施する養成プログラム(以下「養成プログラム」という。)を履修し、必要な能力を習得したと認める者に信州大学自然環境診断マイスター(以下「マイスター」という。)の資格を認定することに関し、必要な事項を定める。
- (養成プログラム)
- 第2 養成プログラムに関し必要な事項は、理工学系研究科において別に定める。
- (受講対象者)
- 第3 養成プログラムを受講することができる者は、理工学系研究科に在学する大学院生及び理工学系研究科の大学院生と同等以上の学力があると理工学系研究科が認めた者とする。ただし、信州大学大学院総合工学系研究科に在学する大学院生にあつては、理工学系研究科が認めた場合は、受講を許可することができるものとする。
- (マイスター養成委員会)
- 第4 養成プログラムの企画・実施及びマイスターの資格の認定について審議するため、信州大学自然環境診断マイスター養成委員会(以下「委員会」という。)を置く。
- 2 委員会に関し必要な事項は、別に定める。
- (認定)
- 第5 学長は、委員会がマイスターの資格を認定することが適当であると認めた者に対し、当該資格を認定したことを証する旨の証書を授与する。
- (雑則)
- 第6 この要項に定めるもののほか、マイスターの資格認定に関し必要な事項は、別に定める。

附 則  
この要項は平成 23 年 4 月 1 日から実施する。  
(出典：信州大学規程集)

資料理工 56 「地球生物圏科学セミナー I a」						
授業題目	地球生物圏科学セミナー I a				担当教員	島野 光司 他
英文授業名	Seminar of Earth Science and Biology Ia				副担当	
単位数	2	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	
					備考	この授業は、セミナーIaとともに、自然環境診断マイスター取得のための授業である。
<p>(1)授業のねらい この授業は、自然環境診断マイスター資格の認定のために必要な基幹実習として想定してある。 地形・地質、植物、動物、湖沼、水質・大気の5分野の基幹実習をすべて受講することで、自然環境の階層性、構造、時間的系列、空間的変動を理解できるようになることを目標とする。基幹実習で計測した野外の事象をレポート課題として、時間的スケールで再配置させ、その相互関係と因果関係を考察させる。本授業では、ポートフォリオを導入し、受講生の学習の進捗管理を行わせ、受講生自身の課題を見出させる機会とする。</p> <p>(2)授業の概要 上記5分野の実習をそれぞれ一泊二日(12時間)で行い、計60時間の実習を行う。実習は、通常の授業の妨げにならないように土・日を想定している。</p> <p>(3)授業のキーワード</p> <p>(4)授業計画 1. 地質と地形から見た上高地ならびに北アルプスの成り立ち。 2. 植物の同定、種類組成の把握ならびに自然環境との対応。 3. 水生動物の同定と種類組成の把握。群集構造の解析。 4. 湖沼生態系における生物群集の解析。 5. 河川ごとの水質分析、ならびに異なる山岳、標高での大気分析。</p> <p>(5)成績評価の方法 毎回提出するレポートによる。</p> <p>(6)履修上の注意 実習の行われる日時の確認を怠らないこと。また、野外の実習に際しては教員の指示をよく聞き、行動に細心の注意を払うこと。</p> <p>(7)質問、相談への対応 随時、担当教員ならびに実習担当者が受け付ける。全体の取りまとめ教員</p>					<p>である島野のメールアドレスは <a href="mailto:shimano@shinshu-u.ac.jp">shimano@shinshu-u.ac.jp</a> である。</p> <p>学位授与の方針 ・環境調和社会、知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養、授業の達成目標 ・自分の専門分野に加え、関連他分野の基礎知識を深めることで、自分の専門分野の研究に厚みを持たせることができるようになる。</p> <p>【教科書】 特に指定しない。必要なものは追って指示する。 【参考書】</p>	

(出典：「シラバス」)

資料理工 57 「信州大学自然環境診断マイスター」資格認定状況					
	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
理工学系研究科学生	4	3		4	

(出典：理学部事務部作成)

⑥ 安全への配慮

本研究科では、実験・実習の安全対策としてキャンパスの教育内容に応じた手引き等を作成している。(資料理工 58)

資料理工 58 安全の手引

目 次	
はじめに -----	1
<b>第1部 安全の心得</b>	
1章 実験・実習の安全に関する基本事項	2
2章 電気による事故 -----	3
2.1 電気器具の使用に関する注意事項	
1) 一般的注意	
2) 配線・アースについて	
3) スイッチ（開閉器）の取扱い	
4) 電気による火災やショートおよびスパーク事故について	
5) 異常に気付いた場合の処置	
2.2 感電事故の防止と感電時の応急処置	
1) 感電事故の防止	
2) 感電時の応急処置	
3章 機械類・重量物 -----	5
3.1 工作機械使用時の注意	
3.2 レーザ装置使用時の注意	
3.3 その他の器械・装置使用時の注意	
3.4 重量物の取扱い	
4章 ガラス器具 -----	10
5章 化学実験操作における注意事項 --	11
6章 危険物質と危険の予防 -----	12
1) 危険物質の取扱いに関する一般的注意	
2) 火災、爆発に関する危険物（消防法による危険物）	
3) 人体に有毒・有害な危険物質	
4) 放射性同位元素およびエックス線装置の取扱い	
5) 遺伝子組換え実験について	
7章 実験廃液の処理 -----	18
1) 実験廃液の定義	
2) 実験廃液の排出に関する運用・管理方法	
8章 高圧ガス、低温寒剤(液化ガス) --	22
8.1 高圧ガス	
8.2 低温寒剤(液化ガス)	
9章 フィールドワーク -----	24
9.1 一般的注意	
9.2 自動車の運転	
9.3 野外調査の際の時間管理 －「早立ち」・「早帰り」	
9.4 滑落・転落事故の防止	
9.5 落石・崩落の危険	
9.6 調査中の水に関わる事故	
9.7 危険な動物・昆虫	
9.8 暑さによる疾患	
9.9 落雷	
9.10 雪氷調査での注意	
9.11 湖沼調査での注意	
9.12 外国で野外調査をするときの危険	
9.13 フィールドで行う応急処置	
10章 廃棄物 -----	36
<b>第2部 緊急時の対処と予防</b>	
11章 火災・爆発事故 -----	37
11.1 火災	
1) 火災発生時の処置	
2) 火災の予防	
11.2 爆発事故と対処法	
11.3 都市ガスによる事故の防止	
1) ガス漏れ発生時の処置	
2) ガス漏れ予防	
12章 地震災害 -----	39
1) 地震発生時の処置	
2) 地震災害の予防	
13章 応急処置 -----	40
13.1 共通的処置	
13.2 いろいろな状況での処置	
13.3 薬品中毒の応急処置	
13.4 人工呼吸、心臓マッサージ	
防災対策マニュアル -----	42
理学部避難場所	
事故発生時の処置および連絡	

(出典：安全の手引（松本キャンパス）)

⑦ インターンシップ

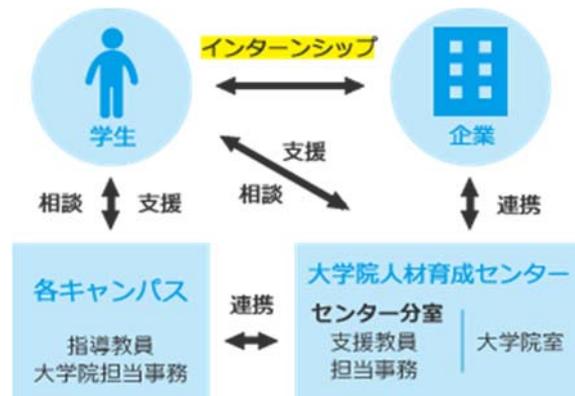
平成 21 年度設置のイノベーション創発人材育成センターを発展させ、平成 26 年度より理工学系研究科、農学研究科、総合工学系研究科の学生のインターンシップを支援する大学院人材育成センターを設置し、キャリアパスインターンシッププログラムと高度人材育成インターンシッププログラムにより、学生の目的に応じた支援を行っている。（資料理工 59、資料理工 60）

資料理工 59 大学院人材育成センターの概要

「大学院人材育成センター」では、大学院で学んだ研究成果を実用化につなげるべく、インターンシップを通じた人材育成をサポートしています。インターンシップを成功させるためには、事前教育や企業との綿密なコミュニケーションが欠かせません。当センターは、協力企業や各キャンパスの指導教員と連携し、学生との間に立って「調整役」をつとめていきます。また、「キャリアパスインターンシッププログラム」「高度人材育成インターンシッププログラム」の2通りを用意し、個々の目的に応じた機会創出をめざしています。

大学院人材育成センターのサポート体制

1. 博士課程学生及び修士課程学生のキャリアパス支援  
 対象：博士課程2年次生、修士課程1年次生  
 事前教育、マッチング会、企業へのインターンシップを通じたキャリアパス支援  
 必要に応じて単位取得可能
2. 修士課程学生の長期インターンシップ支援（単位修得）  
 対象：修士課程1年次生、一部修士課程2年次生（学位プログラムコース学生）  
 学外特別講義（長期）2単位（事前教育、事後教育、成果発表会）  
 学外特別実習（長期）2単位（企業実習90時間以上）
3. 学生のインターンシップに係る相談  
 対象：修士課程学生、博士課程学生  
 実習前講義の配信  
 相談・届出窓口、  
 保険加入等の学生への指導 他
4. その他  
 インターンシップ先企業の開拓及びアフターケア  
 インターンシップを実施する学生の把握  
 指導教員等の調整  
 単位認定のための資料等提供



(出典：信州大学大学院人材育成センターホームページ)

資料理工 60 大学院人材育成センターによるインターンシップ実施状況

研究科名	キャリアパスインターンシップ		高度人材育成インターンシップ	
	H26	H27	H26	H27
理工学系研究科	7	11	5	12

(出典：学務課大学院室作成)

同センターの設置は、文部科学省等の事業に採択され実施した長期インターンシップ等の成果を踏まえ、設置したものである。(資料理工 61)

資料理工 61 文部科学省等のインターンシップ採択プログラム一覧

事業名	プログラム名	対象研究科	期間
文部科学省「産学連携による実践型人材育成事業－長期インターンシップ・プログラムの開発－」	「創業マインド」の継承による高度人材育成	工学系研究科 (現理工学系研究科)	H17～H21
	長寿長野を支える機能性食品の開発人材養成	農学研究科	H18～H22
科学技術振興機構「科学技術イノベーション創出基盤構築事業」	イノベーション創発人材育成システム	総合工学系研究科	H21～H25

(出典：経営企画課作成)

⑧ 海外インターンシップ

平成 22 年度から本学サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー、平成 25 年度から小諸市産学官連携協議会の支援により、学生は海外インターンシップを実施している。(資料理工 62、資料理工 63)

資料理工 62 サテライト・ベンチャー・ビジネス・ラボラトリーの支援による海外インターンシップの状況

	派遣期間	派遣先	氏名、所属	調査研究題目
22年度	2010年8月31日～ 2011年9月1日	ドイツ マンハイム工科大学	中西 忍 工学系研究科 応用生物科学専攻 修士課程2年	多種類のビタミン合成阻害剤を安定的に市場供給するための研究
	2010年8月15日～ 10月13日	イギリス ハル大学	三島 光晴 大学院工学系研究科 応用生物学専攻 修士課程2年	各種産業材料への応用に向けたヒゲナガワトビケラのシルクに関する研究
23年度	2011年10月17日～ 2012年1月14日	アメリカ ワシントン大学	竹本 圭佑 工学系研究科 機能高分子学専攻 修士課程2年	多機能エネルギー変換素子の開発
24年度	2012年10月29日～ 2013年1月25日	イタリア共和国 CIVEN - VenetoNanotech 社	榎 貴啓 工学系研究科 精密素材工学専攻 修士課程2年	親水性・疎水性シリカ材料の実用化を目指した研究開発と国際連携の推進
	2013年1月16日～ 6月28日	イギリス マンチェスター大学	有地 保 理工学系研究科 繊維・感性工学専攻 修士課程1年	糸のポアソン比測定に関する研究
	2013年1月30日～ 4月11日	オーストラリア ウーロンゴン大学	小川 潤一 総合工学系 研究科物質創成科学専攻 博士課程1年	色素増感太陽電池(DSSC)の実用化に向けた材料の研究とデバイスの開発
25年度	2013年9月14日～ 10月31日	ドイツ レーゲンスブルク大学	柳瀬 慶一 理工学系研究科 化学材料専攻 修士1年	蛋白質の動的挙動と相互作用を可視化する超高周波誘電プローブの開発
	2014年2月10日～ 6月30日	中華人民共和国香港特別行政区 香港理工大学	重澤 尚希 理工学系研究科 繊維・感性工学専攻 修士1年	(繊維を用いた霧から水源を確保するシートの開発)
26年度	2014年5月1日～ 2015年2月28日	アメリカ ノースカロライナ州立大学	田島 和弥 理工学系研究科 繊維・感性工学専攻 修士1年	(ジーンズの形状が着心地に及ぼす影響)
	2014年10月9日～ 2014年12月17日	韓国 全北大学校	葛 鑫 理工学系研究科 機械・ロボット学専攻 修士2年	スーパーキャパシタの電極材として利用する人間の毛髪に由来する活性炭/二酸化マンガンナノコンポジットの作製及び性能評価
27年度	2015年11月15日～ 2016年3月15日	イギリス マンチェスター大学	Yan Yougie 修士課程 理工学系研究科 機械・ロボット学専攻1年	Electrostatic spinning preparation of graphene-based high performance electromagnetic shielding composites and their structure analysis

(出典：繊維学部事務部作成)

資料理工 63 小諸市産学官連携協議会の支援による海外インターンシップの状況

目的 海外インターンシップを通じて、諸外国の政治・経済や文化・風土に関心を持ち、その国々や地域の置かれている環境やニーズを理解して、国際協力、学術や文化の交流、産業活動などの様々な活動に活かせる能力を有する技術者の育成を目指す。

実施内容 実習（日系企業ベトナム工場）、ホーチミン市校工科大学訪問・交流

派遣状況…平成 25 年度理工学系研究科 2 名（派遣期間：平成 25 年 9 月 16 日～20 日）  
平成 26 年度理工学系研究科 7 名（派遣期間：平成 26 年 9 月 15 日～19 日）

(出典：大学院室作成)

⑨ 学生への学会参加に伴う支援

学生の研究活動の推進を図るため、国内外の学会参加に伴う交通費を支援している。  
(資料理工 64)

資料理工 64 学会参加に伴う交通費支援状況（延べ人数）

キャンパス	H23	H24	H25	H26	H27
松本キャンパス	77	55	59	60	44
長野(工学)キャンパス	33	34	43	26	35
上田キャンパス	0	8	13	25	73

(出典：理工学系研究科作成)

⑩ ダブルディグリープログラム

本研究科は、フランス国立繊維工芸工業高等学院（以下「ENSAIT」、平成 20 年度～）、アンダラス大学（インドネシア、平成 24 年度～）とダブル・ディグリープログラムを実施している。(資料理工 65、資料理工 66)

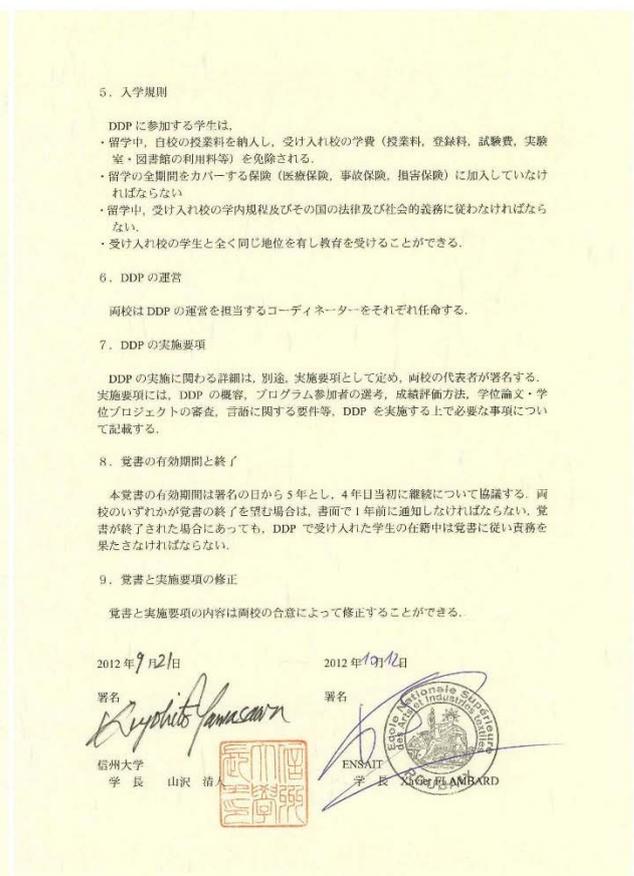
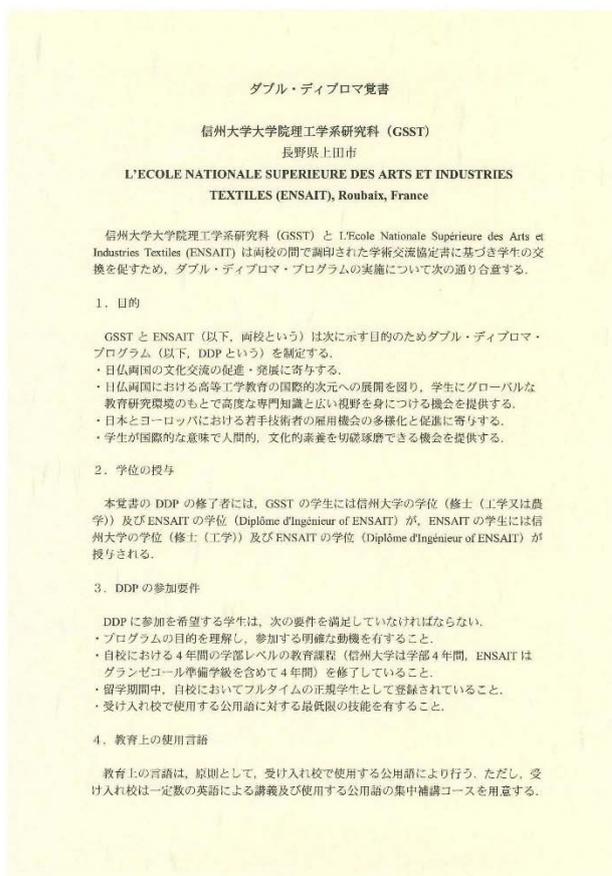
資料理工 65 ダブルディグリープログラム  
【ENSAIT】

	信大	ENASIT
7年次	セメスター14	
6年次		セメスター13
		セメスター12
		セメスター11
5年次		セメスター10
	セメスター9	
4年次	セメスター8	学部 (学士)
	セメスター7	
3年次	セメスター6	
	セメスター5	
2年次	セメスター4	
	セメスター3	
1年次	セメスター2	
	セメスター1	

信州大学学生に対する学修カリキュラム

	ENASIT	信大
6年次		セメスター12
		セメスター11
5年次		セメスター10
		セメスター9
4年次	セメスター8	グランゼコール 準備学級
	セメスター7	
3年次	セメスター6	
	セメスター5	
2年次	セメスター4	
	セメスター3	
1年次	セメスター2	
	セメスター1	

ENSAIT学生に対する学修カリキュラム



(出典：繊維学部事務部作成)

【アンダラス大学】

SYLLABUS of Master Program (Case 1 : Biology)		Second Year at Shinshu University	
First Year at Andalus University		Second Year at Shinshu University	
Structure of program		Structure of program	
Course Title	Credits	Course Title	Credits
Semester I			
Environmental Biology	3		
Biodiversity Conservatic	3		
Electives (2 x 3)	6		
Research Proposal	6		
Semester II			
Ecologica Method	3		
Plotected Area Manager	3		
Electives (2 x 3)	6		
		Semester III	
		Seminar of Earth Science	18
		and Biology I	2
		Electives (8 x 2)	16
		Semester IV	
		Seminar of Earth Science and Biology II	12
			2
Master Thesis		Master Thesis	10
		(Special Research on Earth and Biosphere Sciences)	
Total Credits		Total Credits	
30		30	
Elective:		Elective:	
Conservation Biology		Adaptational Ecology	
Coastl Management		Phyto-diversity	
Restoration Ecology		Comparative Developmental Biology	
Agroecology		Genetic Information	
Forest Ecology and Silviculture		Evolutionary Ecology	
Aquaculture		Developmental Biology	
etc.		Physiological Signaling	
		Plant Evolutionary Biology	
		Evolutionary Ecological Genetics	
		Phylogeny and Comparative Embryology	
		Special Lecture of Advanced Sciences	
		etc.	

氏 名

年 月 日生

本証明書は、上記の者が、日本国における信州大学大学院理工学系研究科及びインドネシア共和国におけるアンダラス大学大学院自然科学研究科の共同により編成された教育課程を修了したもので、信州大学より修士(理学)の学位を、アンダラス大学より、修士(理学)の学位を授与されたことを証明するものである。

なお、信州大学及びアンダラス大学においては、上記の者に対し、別途両大学が所在する国の法令に基づく学位記が発行されている。

平成 年 月 日

信州大学長 印

アンダラス大学長 印

(出典：経営企画課作成)

資料理工 66 ダブルディグリー参加状況 (派遣開始年度)							
プログラム名	H22	H23	H24	H25	H26	H27	
ENSAIT とのプログラム	ENSAIT⇒本学		-----	-----	-----	-----	
	本学⇒ENSAIT		-----	1	-----	1	

(出典：大学院室作成)

① 欧州繊維系大学連合への加盟

平成24年に欧州繊維系大学連合 Association of Universities for Textiles (AUTEX) への準会員としての加盟が認められた (正会員は欧州の国のみ)。加盟大学が共同で設置している修士課程教育コース (E-Team) への学生の短期派遣の途が開けた。(資料理工67)

資料理工 67 Association of Universities for Textiles メンバー一覧
<p><b>Full Members</b></p> <p>Ege University - Faculty of Engineering - Textile Engineering Department</p> <p>ENIM - University of Monastir</p> <p>ENSAIT - Ecole Nationale Superieure des Arts et Industries Textiles</p> <p>ENSISA - Ecole Nationale Superieure des Ingenieurs Sud Alsace</p> <p>ESITH - Ecole Superieure des Industries du Textile et de l'Habillement</p> <p>Heriot Watt University - School of Textiles and Design</p> <p>Istanbul Technical University - School of Textile Technologies and Design</p> <p>Kaunas University of Technology - Fac. of Design and Technologies - Department of Textile Technology</p> <p>Politecnico di Torino - Department of Materials Science and Technical Engineering</p> <p>Polytechnic University of Tirana, Textile and Fashion Department</p> <p>Tampere University of Technology - Fibre Materials Science Institute</p> <p>Technical University of Iasi - Faculty of Textiles and Leather Engineering</p> <p>Technical University of Liberec - Textile Faculty - Department of Textile Materials</p> <p>Technical University of Lodz - Textile Faculty</p> <p>TEI Piraeus - Department of Textile Engineering - Faculty of Technological Applications</p> <p>TU Dresden - Institute of Textile Machinery and High Performance Material Technology</p>

Uludag University - Faculty of Engineering and Architecture - Textile Engineering Department  
 Universiteit Gent, Department of Textiles  
 University of Belgrade - Textile Engineering Department  
 University of Bergamo - Dipartimento di Ingegneria</h3>  
 University of Boras - School of Textiles  
 University of Leeds - School of Design  
 University of Ljubljana - Faculty for Natural Sciences and Engineering - Department of Textiles  
 University of Maribor - Faculty of Mechanical Engineering - Department of Textiles  
 University of Minho - School of Engineering  
 University of Twente - Faculty for Engineering Technology - Engineering of Fibrous Smart Materials  
 University of Zagreb - Faculty of Textile Technology  
 UPC - Department of Textile and Paper Engineering

#### Associate Members

Ivanovo State Polytechnical University  
 National Textile University  
 North Carolina State University - College of Textiles  
 RMIT University - School of Fashion and Textiles  
 Shinshu University - Faculty of Textile Science and Technology  
 Wuhan Textile University

(出典：http://autex.ugent.be/Members.asp をもとに経営企画課作成)

(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由)

- ・博士課程学位プログラムの実施によるグローバルリーダーの養成(資料理工 34)プログラムにより、俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーを育成する為の修士課程・博士課程 5 年一環の学位プログラムを構築し、国内外で活躍したいと考えている高度専門技術者をめざす大学生、並びに学位取得後の雇用先である産業界や研究機関等の期待に応えている。
  - ・大学院共通教育科目の設置による俯瞰的能力等の養成(資料理工 46)を行った。
  - ・大学院人材育成センターの設置によるインターンシップを推進(資料理工 59)し、このことにより研究科で学んだ研究成果を実用化につなげられるとともに、キャリアパス支援を行っている。
  - ・社会人を対象とする特別の課程を平成 24 年度から開設し、社会人のスキルアップに貢献している。(資料理工 52、資料理工 53、資料理工 54)
  - ・フランス国立繊維工芸工業高等学院(ENSAIT)、インドネシア・アンダラス大学とのダブルディグリープログラムの実施によるグローバルな人材の養成(資料理工 65、資料理工 66)を推進している。
  - ・AUTEX への加盟(資料理工 67)により、加盟大学が共同で設置している修士課程教育コースへ、学生を短期派遣のための準備を行った。
  - ・福井大学、京都工芸繊維大学と連携し、各大学院の修士課程にグローバルな視野を持ち、課題設定力・課題解決力、リーダーシップを兼ね備えた技術者、研究者を育成することを目的とする「繊維・ファイバー工学コース」を平成 25 年度より開設した。(資料理工 38～40)
- これらにより、国内に加え海外でも活躍したいと考えている高度専門技術者、研究者及び教員をめざす大学生や社会人、並びに学位取得後の雇用先である産業界や研究機関等の期待に応えている。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

(1) 観点ごとの分析

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

1 修了、退学、休学等の状況

本研究科の修了、退学、休学の状況は、次のとおりである。(資料理工 68、資料理工 69)

資料理工 68 標準修業年限内修了率及び「標準修業年限内×1.5」年内修了率

	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
標準修業年限内	87.4%	84.5%	88.0%	90.5%	91.2%	91.4%	94.8%
標準修業年限内×1.5	90.0%	91.7%	88.5%	90.1%	92.4%	93.8%	94.8%

※網掛け部分は、工学系研究科の実績を示す。

(出典：H25年度受審認証評価のデータを元に経営企画課作成)

資料理工 69 退学、休学率

	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
退学率	5.1%	4.1%	3.3%	3.3%	2.5%	3.0%	3.1%
休学率	3.1%	2.6%	2.2%	3.0%	1.8%	1.3%	1.4%

※退学率は、該当年度の在籍者で除した割合。

※休学率は該当年度5月1日現在の数を該当年度の在籍者数で除した割合。

(出典：H25年度受審認証評価のデータを元に経営企画課作成)

②ダブルディグリープログラムの修了状況

ダブルディグリープログラムの修了状況は次のとおりである。(資料理工 70)

資料理工 70 ダブルディグリープログラムの修了状況

①フランス 国立繊維工芸工業高等学院 (ENSAIT)

	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
修了者数						1	

(出典：大学院室作成)

2 資格取得状況

本研究科では、教員免許(専修)を以下のとおり取得している。(資料理工 71)

資料理工 71 教員免許(専修)取得状況

H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度
34人	62人	27人	26人	21人	26	32

※網掛け部分は、工学系研究科の実績を示す。

(出典：H25年度受審認証評価のデータを元に経営企画課作成)

3 学会等における受賞

学生は、学会等で資料理工 72 のとおり受賞している。

資料理工 72 学会等における受賞状況

平成22年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第63回日本繊維機械学会 学術奨励賞受賞(2件)</li> <li>○ 第5回情報危機管理コンテスト 経済産業大臣賞(優勝)受賞</li> <li>○ 平成22年度化学工学会 学生賞銀賞及び奨励賞受賞</li> <li>○ 化学工学会第42回秋季大会超臨界流体部会主催シンポジウム シンポジウム学生賞受賞</li> <li>○ 平成22年電気学会・基礎・材料共通部門大会 優秀発表賞受賞者</li> <li>○ 第26回個体群生態学会 ポスター講演最優秀賞</li> <li>○ 平成22年度(第43回)照明学会全国大会 優秀ポスター発表者賞受賞</li> <li>○ IUMRS-ICEM 2010(電子材料に関する国際会議) Best Poster Presentation Awardsを受賞</li> <li>○ 第18回衛星設計コンテスト 電子情報通信学会賞受賞</li> </ul>
--------	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第 21 回ヤンマー学生懸賞論文・作文入選発表会 論文の部大賞受賞</li> <li>○ 電気関係学会東海支部連合大会 連合大会奨励賞受賞</li> <li>○ 第 53 回自動制御連合講演会 優秀発表賞受賞</li> <li>○ 計測自動制御学会中部支部シンポジウム 2010 論文賞受賞</li> <li>○ 日本機械学会 北陸信越学生会第 40 回学生員卒業研究発表講演会 北陸信越支部賞学生賞受賞</li> <li>○ Network Skills Competition 2011 Spring 優秀賞受賞</li> </ul>
平成 23 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 情報処理学会インターネット運用技術研究会第 13 回研究発表会 学生奨励賞受賞</li> <li>○ 9th International Symposium on the Characterisation of Porous Solids ポスターアワード受賞</li> <li>○ 平成 23 年度化学工学会札幌大会 学生賞銀賞及び奨励賞 (3 件) 受賞</li> <li>○ 2011 年電気化学秋季大会北陸支部企画若手ポスターセッション 優秀賞受賞</li> <li>○ Network Skills Competition 2011 Summer 優秀賞及び敢闘賞受賞</li> <li>○ 平成 23 年度 U-20 プログラミング・コンテスト(第 32 回) 経済産業大臣賞受賞</li> <li>○ 化学工学会第 43 回秋季大会超臨界流体部会主催シンポジウム 学生賞受賞</li> <li>○ 第 23 回日本環境動物昆虫学会年次大会 奨励賞受賞</li> <li>○ 日本地下水学会 2011 年春季講演会 若手優秀講演賞受賞</li> <li>○ 第 38 回炭素材料学会年会 ポスター賞</li> <li>○ 第 4 回「テクノルネサンスジャパン」 優秀賞受賞</li> <li>○ 電気関係学会東海支部連合大会 奨励賞受賞</li> <li>○ 2011 年度色材研究発表会 優秀ポスター賞受賞</li> <li>○ エネルギー・環境問題新聞スクラップ作品コンクール 奨励賞受賞</li> <li>○ 文部科学省主催サイエンス・インカレ 数物・化学系の卒業研究に関連しない部門(ポスター部門) 奨励賞受賞</li> <li>○ 計測自動制御学会第 28 回センシングフォーラム 学術奨励賞技術奨励賞受賞</li> </ul>
平成 24 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 油空圧機器技術振興財団 論文賞受賞</li> <li>○ E-MRS 2012 Spring Meeting 2nd Poster Award 受賞</li> <li>○ 分離技術会年会 2012 平成 24 年度分離技術会年会学生賞</li> <li>○ 繊維学会年次大会 若手ポスター発表賞受賞</li> <li>○ 日本溶射学会 2012 年春季全国講演大会 2012 年度日本溶射学会奨励賞受賞</li> <li>○ 第 65 回日本繊維機械学会 日本繊維機械学会学術奨励賞受賞 (2 名)</li> <li>○ 化学工学会横浜大会 平成 24 年度化学工学会横浜大会学生賞特別賞受賞 (2 名) 銅賞受賞 (2 名) 金賞受賞</li> <li>○ 化学工学会第 44 回秋季大会 超臨界流体部会主催シンポジウム優秀学生賞 (3 名) 基礎物性部会主催シンポジウム優秀学生賞</li> <li>○ 日本地質学会第 119 年学術大会 優秀ポスター賞受賞 (2 名)</li> <li>○ 第 21 回ソノケミストリー討論会 奨励賞受賞</li> <li>○ 第 17 回高分子ミクロスフェア討論会 学生優秀発表賞受賞</li> <li>○ 日本数学教育学会第 45 回数学教育論文発表会 日本数学教育学会学会賞(大学院研究奨励部門) 受賞</li> <li>○ 表面技術協会第 126 回講演大会 第 1 回学生優秀講演賞受賞</li> <li>○ 日本金属学会北陸信越支部・日本鉄鋼協会北陸信越支部平成 24 年度連合講演会 学生発表の部門優秀学術発表受賞</li> <li>○ 第 39 回炭素材料学会年会 ポスター賞受賞</li> <li>○ 第 7 回日本磁気科学学会年会 研究奨励賞受賞</li> <li>○ キャンパスベンチャーグランプリ東京 優秀賞・りそな銀行特別賞受賞</li> <li>○ 2012 年度精密工学会北陸支部学術講演会 ベストプレゼンテーション賞受賞</li> <li>○ 日本陸水学会甲信越支部大会 口頭発表賞受賞, ポスター賞受賞 (2 名)</li> <li>○ 第 6 回日本電磁波エネルギー応用学会シンポジウム ベストペーパー賞優秀賞受賞</li> <li>○ 日本フルードパワーシステム学会 平成 24 年度学術論文賞受賞</li> <li>○ 第 2 回サイエンス・インカレ Nature 賞受賞</li> <li>○ 電気化学学会第 80 回大会 ポスター賞受賞 (2 名)</li> <li>○ 第 13 回理工系学生科学技術論文コンクール 特別賞受賞</li> </ul>
平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日本化学会東海支部長賞</li> <li>○ 電気学会東海支部若手研究者特別賞</li> <li>○ 電気関係学会東海支部連合大会 連合大会奨励賞</li> <li>○ 電子情報通信学会 信州大学 Student Branch 論文発表会「優秀論文賞」</li> <li>○ 第 56 回自動制御連合講演会優秀発表賞</li> <li>○ 第 48 回地盤工学研究発表会優秀論文発表者賞</li> <li>○ The 8th International Conference on SupercriticalFluids SuperGreen2013 Best PosterAward(Gold Medal)</li> <li>○ The 8th International Conference on SupercriticalFluids SuperGreen2013 Best</li> </ul>

	<p>PosterAward(Silver Medal)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 2013 年度色材研究発表会優秀講演賞</li> <li>○ 電子情報通信学会 信越支部 学生奨励賞</li> <li>○ IEEE GCCE2013 (2nd Global Conference on Consumer Electronics) 1st Prize IEEE GCCE 2013 Student Paper Award</li> <li>○ 計測自動制御学会中部支部シンポジウム 2013 計測・デバイス賞</li> <li>○ 化学工学会第 45 回秋季大会 超臨界流体部会・基礎物性部会共催シンポジウム学生賞</li> <li>○ 第 2 回サマーセミナー 優秀ポスター賞</li> <li>○ 第 12 回情報科学技術フォーラム FIT 奨励賞</li> <li>○ 第 12 回情報科学技術フォーラム FIT 奨励賞</li> <li>○ 日本地下水学会研究奨励賞</li> </ul>
平成 26 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第 62 回生態学会大会最優秀ポスター賞受賞</li> <li>○ 平成 26 年度化学工学会 (新潟大会) ポスター賞受賞</li> <li>○ 日本地質学会第 121 年学術大会 (鹿児島大会) 優秀ポスター賞 (2 名)</li> <li>○ 日本金属学会北陸信越支部・日本鉄鋼協会北陸信越支部</li> <li>○ 平成 26 年度連合講演会優秀学術発表</li> <li>○ 情報処理学会 2014 年度山下記念研究賞</li> <li>○ 2014 IEEE ICMM Student Poster Award</li> <li>○ 日本海水学会第 65 年会ポスター発表優秀学生賞</li> <li>○ 分離技術会年会 2014 分離技術会年会学生賞</li> <li>○ 日本地下水学会若手優秀講演賞</li> <li>○ 日本地下水学会若手優秀講演賞</li> </ul>
平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日本堆積学会 2016 福岡大会最優秀ポスター賞受賞</li> <li>○ 山岳科学共同学位プログラム第 1 回学術集会 (兼 日本山岳アカデミア研究発表会) 最優秀口頭発表賞受賞</li> <li>○ 電気学会優秀論文発表賞</li> <li>○ 日本金属学会北陸信越支部日本鉄鋼協会北陸信越支部平成 27 年度連合講演会 学生発表の部門優秀学術発表</li> <li>○ 日本金属学会北陸信越支部日本鉄鋼協会北陸信越支部平成 27 年度連合講演会 学生発表の部門優秀学術発表</li> <li>○ 信越情報通信懇談会信州未来アプリコンテストゼロ ソフトバンク審査員特別賞</li> <li>○ IEEE Magn. Soc. Shin-etsu Chap. Best Student Presentation Award</li> <li>○ 平成 27 年度塑性加工春季講演会 優秀論文講演奨励賞</li> <li>○ 日本地球惑星科学連合 2015 年大会 学生優秀発表賞</li> <li>○ 第 13 回超臨界流体ミニワークショップ 優秀賞</li> <li>○ Best Graduate Student Poster Award:2015 IEEE International Instrumentation and Measurement Technology Conference 受賞</li> <li>○ Joint EMLG/JMLG Annual Meeting 2015, poster prize 受賞</li> <li>○ The 5th ASEPPPM Student Poster Award 受賞</li> <li>○ The Division of Colloid Surface Chemistry, CSJ ポスター賞受賞</li> <li>○ 繊維学会 論文賞受賞</li> <li>○ 第 64 回高分子討論会 優秀ポスター賞受賞</li> <li>○ 東海高分子研究会学生研究奨励賞受賞受賞</li> <li>○ 日本繊維製品消費科学会 若手優秀発表賞受賞</li> <li>○ 日本繊維製品消費科学会 2015 年度年次大会ポスターベスト発表賞受賞</li> <li>○ 日本繊維製品消費科学会 2015 年年次大会若手優秀発表賞受賞</li> <li>○ 平成 27 年度 繊維学会年次大会 若手優秀発表賞受賞</li> </ul>

(出典：大学院室にて作成)

#### 4 修了生アンケート、卒業生懇談会

##### ① 修了生アンケート

本研究科は、キャンパス単位で修了生アンケートを毎年実施している。(資料理工 73)

資料理工 73 修了生アンケート (松本キャンパス)

教育課程に対する満足度								
<b>1 専門的な知識が身につく授業・セミナーが多い</b>								
① そう思わない ② どちらかというと思わない ③ どちらともいえない ④ そちらかといえばそう思う ⑤ そう思う								
	1	2	3	4	5	平均点数	4+5の割合	
平成22年度	1	5	13	23	11	3.72	64.2%	
平成23年度	6	6	14	23	15	3.55	59.4%	
平成24年度	0	4	12	21	25	4.08	74.2%	
平成25年度	7	1	7	22	21	3.84	74.1%	
							68.0%	
<b>2 各授業・セミナーの人数は内容に対して適切である</b>								
① そう思わない ② どちらかというと思わない ③ どちらともいえない ④ そちらかといえばそう思う ⑤ そう思う								
	1	2	3	4	5	平均点数	4+5の割合	
平成22年度	2	0	12	23	16	3.96	73.6%	
平成23年度	1	2	8	27	26	4.17	82.8%	
平成24年度	0	4	10	29	19	4.02	77.4%	
平成25年度	7	1	6	19	25	3.93	75.9%	
							77.4%	
<b>3 成績評価の方法は適切である</b>								
① そう思わない ② どちらかというと思わない ③ どちらともいえない ④ そちらかといえばそう思う ⑤ そう思う								
	1	2	3	4	5	平均点数	4+5の割合	
平成22年度	1	5	22	20	5	3.43	47.2%	
平成23年度	3	6	13	21	21	3.8	65.6%	
平成24年度	1	5	19	25	12	3.68	59.7%	
平成25年度	7	2	9	16	24	3.83	69.0%	
							60.4%	
<b>教員・授業・研究指導に対する満足度</b>								
<b>1 授業・セミナーは、論理的な考え方を身につけるのに役立っている</b>								
① そう思わない ② どちらかというと思わない ③ どちらともいえない ④ そちらかといえばそう思う ⑤ そう思う								
	1	2	3	4	5	平均点数	4+5の割合	
平成22年度	0	2	7	34	10	3.98	83.0%	
平成23年度	3	5	11	27	18	3.81	70.3%	
平成24年度	0	3	9	26	24	4.15	80.6%	
平成25年度	5	3	6	19	25	3.97	75.9%	
							77.5%	
<b>2 授業・セミナーは、研究内容を適切に伝え、議論できるコミュニケーション能力を身につけるのに役立っている</b>								
① そう思わない ② どちらかというと思わない ③ どちらともいえない ④ そちらかといえばそう思う ⑤ そう思う								
	1	2	3	4	5	平均点数	4+5の割合	
平成22年度	1	2	15	21	13	3.83	65.4%	
平成23年度	3	7	12	26	16	3.7	65.6%	
平成24年度	1	4	18	23	16	3.79	62.9%	
平成25年度	6	4	17	21	10	3.43	53.4%	
							61.8%	
<b>4 授業・研究指導のレベルは適切である</b>								
① そう思わない ② どちらかというと思わない ③ どちらともいえない ④ そちらかといえばそう思う ⑤ そう思う								
	1	2	3	4	5	平均点数	4+5の割合	
平成22年度	0	3	14	23	13	3.87	67.9%	
平成23年度	4	5	6	28	21	3.89	76.6%	
平成24年度	0	2	17	23	20	3.98	69.4%	
							71.3%	
<b>5 理解度など、学生の反応を見ながら研究指導がなされている</b>								
① そう思わない ② どちらかというと思わない ③ どちらともいえない ④ そちらかといえばそう思う ⑤ そう思う								
	1	2	3	4	5	平均点数	4+5の割合	
平成22年度	4	4	14	20	11	3.57	58.5%	
平成23年度	4	8	11	20	21	3.72	64.1%	
平成24年度	1	7	12	23	19	3.84	67.7%	
							63.4%	

6 必要性や位置づけなど、重要なポイントをはっきりと示した研究指導がなされている								
① そう思わない ② どちらかというと思わない ③ どちらともいえない ④ そちらかといえばそう思う ⑤ 4								
	1	2	3	4	5	平均点数	4+5の割合	
平成22年度	1	4	14	18	15	3.81	63.5%	
平成23年度	4	5	12	26	17	3.73	67.2%	
平成24年度	1	6	12	27	16	3.82	69.4%	
							66.7%	
7 学問分野の専門家として優れた教員がいる								
① そう思わない ② どちらかというと思わない ③ どちらともいえない ④ そちらかといえばそう思う ⑤ 4								
	1	2	3	4	5	平均点数	4+5の割合	
平成22年度	0	0	2	16	35	4.62	96.2%	
平成23年度	1	1	6	14	42	4.48	87.5%	
平成24年度	0	1	2	13	46	4.68	95.2%	
							93.0%	
8 研究に関する相談に教員は適切に対応している								
① そう思わない ② どちらかというと思わない ③ どちらともいえない ④ そちらかといえばそう思う ⑤ 4								
	1	2	3	4	5	平均点数	4+5の割合	
平成22年度	0	1	7	18	27	4.34	84.9%	
平成23年度	4	5	3	12	40	4.23	81.3%	
平成24年度	0	2	6	22	32	4.35	87.1%	
平成25年度	7	4	6	8	33	3.97	70.7%	
							81.0%	

(出典：理学部事務部作成)

② 卒業生懇談会

平成 24 年度よりキャンパスごとの基礎学部を基本単位として、大学院修了者もあわせて卒業懇談会を開催し、教育課程の見直し・充実につなげる取組みの一環として行っている。(資料理工 74)

資料理工 74 卒業生懇談会

2月8日(土)「工学部 卒業生懇談会」を開催いたしました

工学部では2月8日(土)、「工学部 卒業生懇談会」を開催いたしました。

この懇談会は、学内外からのご意見を踏まえ、工学部の教育課程の見直し等、さらに充実したものにしていけるための取組みの一環として開催されました。また、実際に本学で学び、すでに社会の一线で活躍されている先輩の姿を見ることが、後輩学生にとって勉学や今後の進路決定に際して大きな手がかりとなるであろうという考えのもと、今年度からは在学生に対しても広くお知らせし、参加を募りました。

当日は、さまざまな分野・職場で活躍されている、30代を中心とした5名の卒業(修了)生に出席いただき、卒業後に感じた「本学で学んでよかったこと」や「現在も活かされていること」、今でも懐かしと思う授業・学生生活について、また、今後このような授業・教育があれば工学部がもっとよくなるのではないかと、というようなことについて語っていただきました。

この日は、近年稀に見るあいにくの空模様であり、さらには全国的に積雪による交通機関の混乱が相次ぎ、残念ながら急遽欠席となってしまった卒業生の方もいらっしゃいました。しかしながら、予定よりも多くの教職員・在学生の参加があり、懇談会後の懇親会も大いに盛り上がり会話が弾んでいた様子でした。

卒業生は久しぶりに指導教員の先生方と語り合い、先生方は頼もしく成長した教え子と肩を並べ、そして在学生たちは身近に感じる先輩方の姿に、未来の自分の姿を想像することができたのではないかと期待しています。在学生を交えての懇談会は初めての企画で不慣れな点も多くあったと反省しきりですが、卒業生の方をはじめ、参加者の皆さまから忌憚のないご意見、未来へ向けたご提案、お褒めのお言葉など様々ないただくことができました。

今後はさらに多くの方に参加していただけるよう、また、反省点を改善し、楽しむだけでなく参加者の糧となるような運営を心がけてまいります。

《教育内容に関して》

「あの授業はよかった」「今の自分に役立っている」という授業や学習体験はありますか？

○院生時に使用した分析機器(SEM、XRD、EPMA、他)は、現在の業務でもこれら分析機器による結果を検討する機会が多いため、原理を含んで学んだ知見と併せて非常に役に立っています。

○UMLやオブジェクト指向設計などの現在業務で活用している手法や知識。

○研究室での研究姿勢が一番役に立っているかと思えます。

ご自身にとって、今も役立っている学習体験があればお教えてください。

- プレゼン体験、学会出席、ポスター発表、チームのコミュニケーション力、リーダーシップなど。
- 研究室に入ってからの輪講は、調査の仕方、論文の読み方、結果報告といった点で、現在の仕事にも通じることを学習出来ました。
- 研究室での実験、報告。特に考察。研究するためのお金をいかに（会社から）引き出すか、という時に考察も必要となります。

《大学生活に関して》

学生時代をふりかえって、クラブ活動やその他の活動、日々の生活など、あの時にやっておいてよかったと思うことはありますか？

- 一人暮らし。初めて自立して生活する中で、料理や掃除等を通じ、親のありがたみを感じました。共働きの現在も（家事分担できるため）嫁に怒られません！
- 大学内のサークルでは身内のみなので責任感などは養いにくかったです。社会に出てから外との交流や責任感が養えることも必要と感じました。一回り以上年上のOBとのやり取りなどで、電話対応については鍛えられました。
- 接客のバイトは経験しておいてよかったと思います。チームで仕事をする上でのコミュニケーションに生きています。会社では1人という訳にはいかないため、人との接点を持つておくことも大事です。

《先生や学生同士の交流について》

大学の先生や当時のお友達との交流はありますか？

- 大学の先生及び当時の友人らと交流はあります。仕事柄、情報収集にも、どちらにも役立っています。
- 研究室が一緒だった同級生とは、現在でも交流が続いています。研究室の先生にも共同研究先他学部へ訪問した際に、教度寄らせて頂きました。

どのようなことで交流が続いているのですか？

- 年に1度のOB会（飲み会）の他、友人たちとはスノーボードや飲み会などで交流しています。
- ソーシャルネットワークで互いの近況を連絡しています。結婚等のイベントがあれば、参列、もしくは電話で祝福の言葉を贈っています。
- 年に数回会って仕事・技術についての情報交換を行っています。

《本学全般に関して》

本学で学んでよかったと思うことはなんですか？

- 不自由を感じることなく学ぶことができる環境が整えられており、学んでよかったと思います。
  - 松本、長野と2つの都市で、多くの友人と学業、生活を共に過ごせたこと。化学分析機器を多数使用できた点が非常に良かったと思う。
  - 他の大学生はもっと努力しているということ。世界での研究と自分の立ち位置のギャップ。
- 社会人として、信大の良さはどのようなところだと思いますか？
- 企業又は県をはじめとした支援機関と連携する組織があり、産業振興に貢献されていると思います。
  - 信大生は他人の意見を聞き入れ、行動する人材が多いと思います。高学歴の大学出身の方はプライドが高く、他人の意見に耳を貸さない人がいると感じています。
  - 卒業生が、全国各地に、多種多様な企業にいます。総合大学として、専門分野が異なる様々な学部があること。
  - 大学名で選ばれるレベルの大学ではないと思います。ただし、旧帝大学生にも負けずに社会で戦っている潜在能力を持った学生も在籍していると思います。（信大に限りませんが）

《今後の大学改善の参考に…》

学生時代にもっとやっておけばよかったと思うことがありますか？

- 英語と、外国人とのコミュニケーション。海外へ短期留学しておけば、もっと視野が広がったと思うことが多々あります。大学として短期留学、交換留学の制度が充実してればと思います。
- インターンシップを活用して、実際に現場の雰囲気を知ることができれば良かったと感じます。アルバイト等も利用し自分から現場に行った経験のある人は「できる」人が多いと感じます。

このような授業がもっとあったらよかったと思うものはありますか？

- 他学科あるいは他学部の学生とグループを組むような、総合的な学習（某製品の開発から販売までを企画し、企業等の有識者に評価してもらうなど）があっても面白いかもしれません。
- もっと体験型の講義が多い方が良いと思っています。理論も大事なのですが、物事を覚えるには継続的に手を動かすことが必要だと感じているためです。
- 技術職の観点ですが、人前でプレゼンテーションする機会が多数あります。慣れが一番大きいと思いますが、他人に説明するには基本的なスキル（アピール方法等）の知識が必要かなと思うので、プレゼン能力が向上する授業があってもと思います。
- 「学生は、理論は分かっているが実際に何かを作ることができない」とよく言われています。授業内で実際の経験をさせてもよいのでは…？
- 実践で用いることが出来る英語。学生時代は先生に言われてもやりませんでした。入社2年目1人で海外に行かされました。英語ができない＝仕事ができないと判断される部分もあります。

（出典：信州大学工学部ホームページ「ニュース工学部卒業生懇談会」）

上記のほか、キャンパスごと基礎学部の組織（就職委員会等）を中心とした体制において、修了生の進路状況、資格取得状況、インターンシップ受入先・就職説明会参加企業・就職斡旋業者の担当者等との打合せ等により把握した内容を踏まえ学業の成果について総合的に分析し教育の改善・充実につなげている。

（水準）期待される水準を上回る。

（判断理由）

- ・標準修業年限内修了者は年々増加し（資料理工 68）、平成 27 年度の休学率は平成 21 年度の半分以下と、減少傾向にある。（資料理工 69）
  - ・学会等での受賞は、平均 17.3 件/年の実績がある。（資料理工 72）
  - ・キャンパス単位での修了生アンケートの実施（資料理工 73）、並びにキャンパスごとに大学院修了者もあわせた卒業懇談会の開催により、教育課程の見直し・充実につなげる取り組みを行っている。（資料理工 74）
- これらにより、高度専門技術者、研究者及び教員を目指す大学生や社会人、並びに学位取得後の雇用先である産業界や研究機関等の期待に応えている。

観点 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

1 就職の状況

第2期を通じて、90～98%程度の就職率であり、期間の後半では大学全体・国立大学全体の平均値を上回るようになってきた。さらに、各年度の就職者のうち90%程度が、研究・技術職に就いている。本研究科の教育目標である高度な研究者・技術者・教育者の養成に合致した進路となっている(資料理工75、資料理工76)

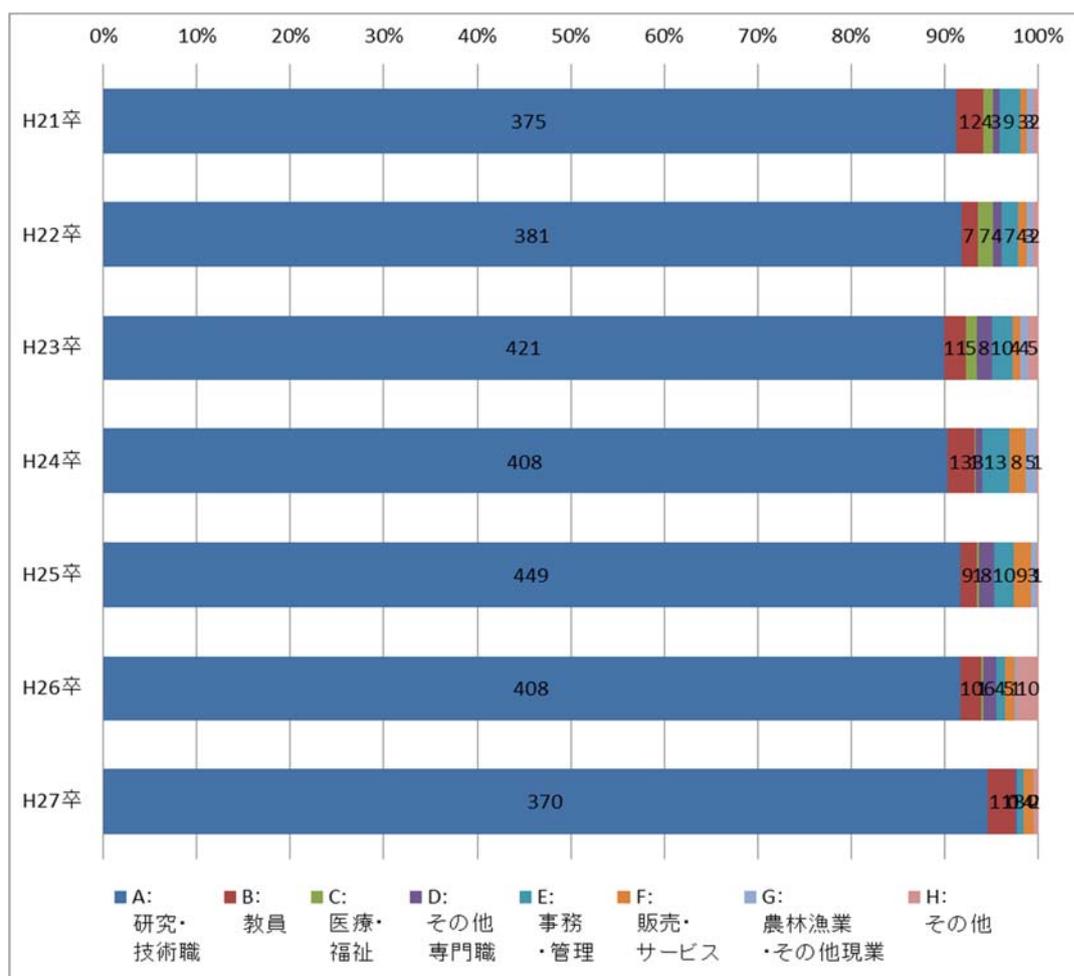
修了年度	区分	修了者		進学者		就職者		の学校等入学者	専修学校・外国	一時的な仕事に就いた者	左記以外の者		不詳・死亡の者
		A	人(B)	率(B/A)	人(C)	率(C/A-B)	人(D)				率(D/A)		
H21	全体	36,409	3,365	9.24%	30,319	91.75%	153	110	2,067	5.68%	395		
	国立	23,702	2,733	11.53%	19,624	93.59%	51	34	1,000	4.22%	260		
	本学	計	532	28	5.26%	432	85.71%	0	2	70	13.16%	0	
		男	469	22	4.69%	387	86.58%	0	2	58	12.37%	0	
		女	63	6	9.52%	45	78.95%	0	0	12	19.05%	0	
H22	全体	37,571	3,205	8.53%	31,471	91.58%	129	133	2,196	5.84%	437		
	国立	24,641	2,612	10.60%	20,612	93.57%	44	42	1,066	4.33%	265		
	本学	計	488	25	5.12%	415	89.63%	0	0	48	9.84%	0	
		男	428	21	4.91%	366	89.93%	0	0	41	9.58%	0	
		女	60	4	6.67%	49	87.50%	0	0	7	11.67%	0	
H23	全体	41,835	3,108	7.43%	35,249	91.02%	162	152	2,811	6.72%	353		
	国立	26,245	2,509	9.56%	21,937	92.42%	48	57	1,480	5.64%	214		
	本学	計	534	26	4.87%	465	91.54%	1	1	41	7.68%	0	
		男	458	21	4.59%	403	92.22%	0	1	33	7.21%	0	
		女	76	5	6.58%	62	87.32%	1	0	8	10.53%	0	
H24	全体	40,177	3,081	7.67%	34,134	92.02%	129	141	2,348	5.84%	344		
	国立	25,325	2,481	9.80%	21,240	92.98%	55	45	1,323	5.22%	181		
	本学	計	510	23	4.51%	452	92.81%	0	0	35	6.86%	0	
		男	445	19	4.27%	396	92.96%	0	0	30	6.74%	0	
		女	65	4	6.15%	56	91.80%	0	0	5	7.69%	0	
H25	全体	38,037	3,031	7.97%	32,522	92.90%	88	139	2,067	5.43%	190		
	国立	25,754	2,490	9.67%	20,846	89.61%	43	50	1,219	4.73%	106		
	本学	計	532	17	3.20%	490	95.15%	0	0	25	4.70%	0	
		男	458	14	3.06%	422	95.05%	0	0	22	4.80%	0	
		女	74	3	4.05%	68	95.77%	0	0	3	4.05%	0	
H26	全体	37,220	2,890	7.76%	32,359	94.26%	52	109	1,598	4.29%	212		
	国立	24,490	2,341	9.56%	21,008	94.85%	31	54	954	3.90%	102		
	本学	計	479	19	3.97%	445	96.74%	0	0	15	3.13%	0	
		男	423	15	3.55%	393	96.32%	0	0	15	3.55%	0	
		女	56	4	7.14%	52	100.0%	0	0	0	0.00%	0	
H27	全体												
	国立												
	本学	計	421	21	4.99%	391	97.75%	0	0	9	2.14%	0	
		男	365	17	4.66%	341	97.99%	0	0	7	1.92%	0	
		女	56	4	7.14%	50	96.15%	0	0	2	3.57%	0	

※「全体」「国立」は、学校基本調査の全国集計のうち、  
 各年度>高等教育機関《報告書掲載集計》>卒業後の状況調査>大学院  
 修士課程の状況別 卒業生数より、区分「理学」「工学」を合計して抜粋  
 なお、平成27年度については、平成28年6月末現在未公開  
 (出典：学校基本調査のデータを元に経営企画課作成)

資料理工76 就職(産業別)状況の推移

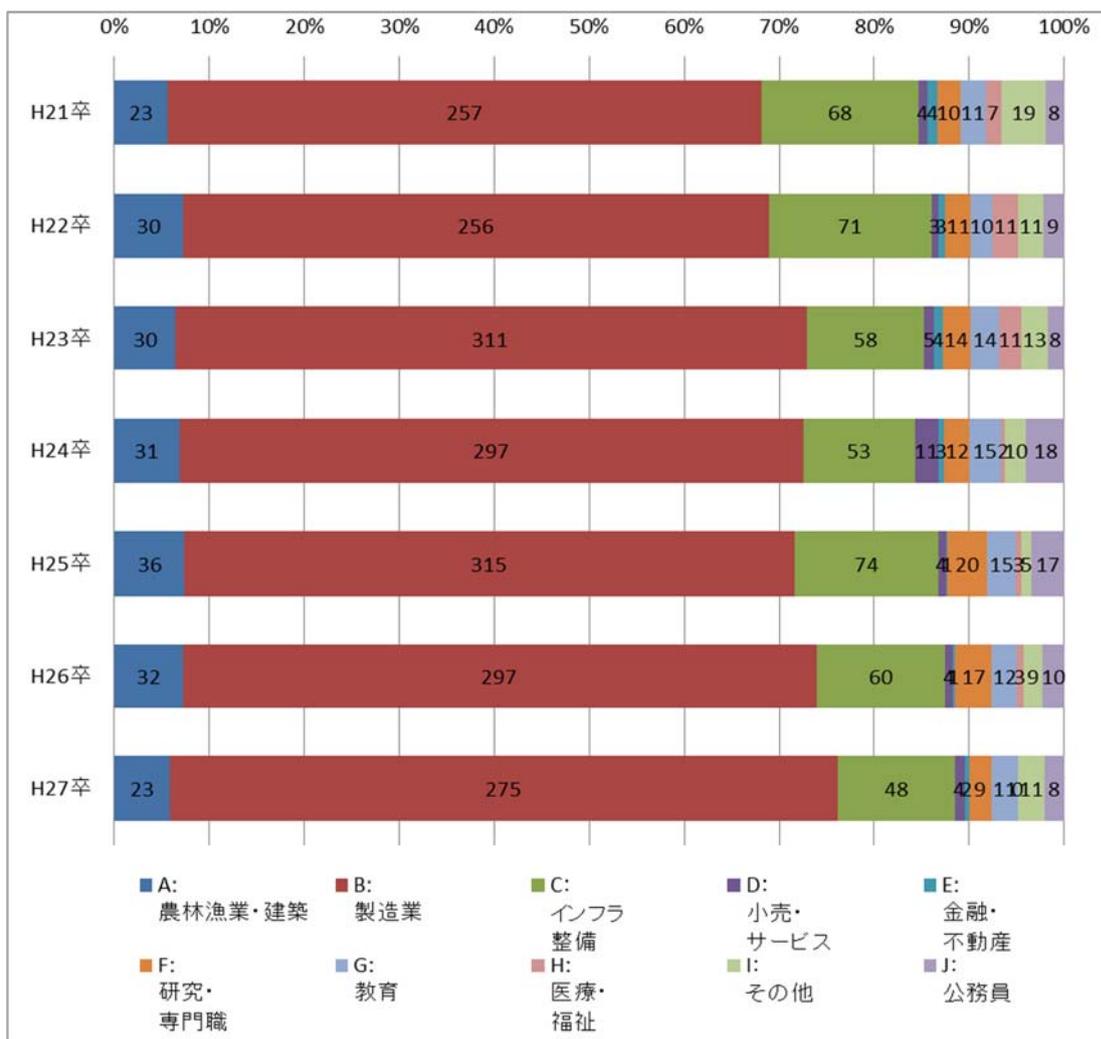
① 職業別

	A: 研究・ 技術職	B: 教員	C: 医療・ 福祉	D: その他 専門職	E: 事務 ・管理	F: 販売・ サービス	G: 農林漁業・ その他現業	H: その他	合計
H21卒	375	12	4	3	9	3	3	2	411
H22卒	381	7	7	4	7	4	3	2	415
H23卒	421	11	5	8	10	4	4	5	468
H24卒	408	13	1	3	13	8	5	1	452
H25卒	449	9	1	8	10	9	3	1	490
H26卒	408	10	1	6	4	5	1	10	445
H27卒	370	11	0	1	3	4	0	2	391



② 産業別

	A: 農林漁業・建築	B: 製造業	C: インフラ整備	D: 小売・サービス	E: 金融・不動産	F: 研究・専門職	G: 教育	H: 医療・福祉	I: その他	J: 公務員	合計
H21 卒	23	257	68	4	4	10	11	7	19	8	411
H22 卒	30	256	71	3	3	11	10	11	11	9	415
H23 卒	30	311	58	5	4	14	14	11	13	8	468
H24 卒	31	297	53	11	3	12	15	2	10	18	452
H25 卒	36	315	74	4	1	20	15	3	5	17	490
H26 卒	32	297	60	4	1	17	12	3	9	10	445
H27 卒	23	275	48	4	2	9	11	0	11	8	391



(出典：学校基本調査を元に経営企画課にて作成)

(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由)

- ・第2期を通じて、90～98% 程度の就職率である。(資料理工 75)
- ・修了者の就職者の90%程度が、研究・技術職に就いており、養成する人材像に合致した人材を輩出している (資料理工 76)。

これらにより、高度専門技術者、研究者及び教員を目指す大学生や社会人、並びに学位取得後の雇用先である産業界や研究機関等の期待に応えている。

## Ⅲ 「質の向上度」の判断

## (1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

- ・履修プロセス概念図を平成 23 年度に作成、また修士論文評価基準を平成 24 年度に制定し、学生に周知した。(資料理工 10、資料理工 22)
- ・平成 26 年度に学術研究院を設置した。(資料理工 15)
- ・修士・博士(5年)一貫教育の学位プログラムとして国際的な場でリーダーとして活躍する人材を育てるため、平成 25 年度より実施中の学内版を拡大して展開している「サステイナブルソサエティグローバル人材養成プログラム」(資料理工 37) および文部科学省事業に採択された「ファイバールネッサンスを先導するグローバル養成プログラム」(資料理工 36) の2つのリーディング大学院プログラムを構築している。
- ・福井大学、京都工芸繊維大学と連携し、各大学院の修士課程にグローバルな視野を持ち、課題設定力・課題解決力、リーダーシップを兼ね備えた技術者、研究者を育成することを目的とする「繊維・ファイバー工学コース」を平成 25 年度より開設した。(資料理工 38、資料理工 39、資料理工 40)
- ・平成 24 年度に学生相談センター、学生相談室の設置により、学生支援体制を充実させた。(資料理工 27)
- ・平成 24 年度に大学院科目先取り履修制度を設けることにより、優秀な学生が進学できる体制を整えた。(資料理工 31)。
- ・社会人を対象とする特別の課程を平成 24 年度から開設し、社会人のスキルアップに貢献している。(資料理工 52、資料理工 53、資料理工 54)
- ・大学院人材育成センターの設置(平成 26 年度)によるインターンシップを推進(資料理工 59) し、このことにより研究科で学んだ研究成果を実用化につなげられるとともに、キャリアパス支援を行っている。

## (2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

- ・第2期を通じて、90~98%程度の就職率であり、平成 21 年度の 85.7%から向上している。(資料理工 75)
- ・修了者の就職者の 90%程度が、研究・技術職に就いている。平成 21 年度以降高い水準を保持している。(資料理工 76)

## 15. 総合工学系研究科

- I 総合工学系研究科の教育目的と特徴・・・・・・・・15-2
- II 「教育の水準」の分析・判定・・・・・・・・15-13
  - 分析項目 I 教育活動の状況・・・・・・・・15-13
  - 分析項目 II 教育成果の状況・・・・・・・・15-39
- III 「質の向上度」の分析・・・・・・・・15-48

## I 総合工学系研究科の教育目的と特徴

## 1 教育目的

## (1) 研究科の目的及び養成する人材像

本研究科は、次の理念を掲げるとともに、信州大学大学院総合工学系研究科規程（以下「研究科規程」）に目的及び人材養成目的を定め活動を行っている。（資料総1、総2）

## 資料総1：理念

本研究科は、豊かな信州の自然環境の中で、人間と自然との融合・調和をはかる環境システムの構築、高度なものづくり技術の創製とその基礎科学の探究を基本理念としている。

そのため、次の5専攻を置き、それぞれの密接な連携により、環境システムならびに調和のとれたハイテクノロジーの教育・研究を進める。

1. どのようなものをつくれれば、人間や自然にとって最適か、その目標を生物機能とファイバーに定め、技術と生体の境界に形成されるべき、高次元機能を考究する。【生命機能・ファイバー工学専攻】
2. 人間、社会、及び自然と調和したシステムとデバイスの開発を目標とし、機械システム、電気電子システム、高機能精密デバイス、及び数理情報科学について教育・研究を行う。【システム開発工学専攻】
3. 自然現象を物質科学的立場から捉え、その基本原理を解き明かすとともに、新しい機能を持つ物質、素材・素子の研究開発を行う。【物質創成科学専攻】
4. 山岳地域の環境変動に関わる基礎的課題から環境保全、防災などの応用的課題まで総合的に教育研究する。【山岳地域環境科学専攻】
5. 環境保全に立脚した持続性食料生産の発展を目指し、バイオサイエンスを基盤とした革新的な食料生産技術体系の確立を考究する。【生物・食料科学専攻】

（出典：信州大学総合工学系研究科ホームページ「理念・沿革」）

## 資料総2：信州大学大学院総合工学系研究科規程

## (目的)

第1条の2 研究科は、創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者・技術者を養成し、教育研究を通じて学術社会の高度化に寄与し、地域社会及び国際社会に貢献することを目的とする。

2 生命機能・ファイバー工学専攻における目的は、次の各号に掲げるとおりとする。

## (1) 人材育成に関する目的

イ 伝統的な繊維工学の基本知識の上にバイオテクノロジー、メカトロニクス、エレクトロニクス、IT及びナノテクノロジーと融合した統合的な先進的ファイバー工学の知識を有する人材を養成する。

ロ 繊維関連分野において、国際競争の中で知的財産を確立でき、個性的でバランスのとれた人材を育成する。

ハ 国際的視野を持って自律的に行動し、基礎的な科学技術探究心はもとより、われわれの生活に有用なものの創成に対する追求心を強く有し、基礎技術開発から産業界の動向に至るまでの総合的な知識と対応能力を備えた先進ファイバー工学研究者を養成する。

## (2) 教育研究に関する目的

イ 先端分野と人間の社会及び自然との融合・調和ができる高次元機能を個体、組織、細胞及び分子レベルから究明するための教育研究を行う。

ロ 人間の生活や行動との調和を考究する「着る」科学技術における理想的繊維機能を追求する教育研究を行う。

ハ 人間や自然にとって最適なものづくりの目標を生物機能とファイバーに定め、技術と生態の境界に形成されるべき課題について教育研究を行う。

3 システム開発工学専攻における目的は、次の各号に掲げるとおりとする。

## (1) 人材育成に関する目的

イ 人間、社会及び自然と調和したシステムとデバイスの開発を自立的に遂行できる人材を養成する。

ロ 各種システムやデバイスに関する高度な基礎力と深い専門性を擁し、これらを実際の応用に展開できる人材を育成する。

ハ 協調性と競争性の均衡のとれたプロジェクトリーダーとしての資質を有する人材を育成する。

## (2) 教育研究に関する目的

イ 高機能な機械システムの開発、エネルギーからコンピュータまでの広い分野の基盤となる電気電子システムの開発、ナノ材料を応用した高機能精密デバイスの創成及びこれらシステムとデバイスを開発する際の基礎となる数理情報科学の高度な基礎力と深い専門性を涵養する。

ロ システム開発工学の人類社会への貢献を図るために、地球環境保全に関する深い理解と高度な

技術者倫理を身につけさせる。

- ハ 産学連携による教育研究の積極的な推進によって、高度専門職業人として幅広い資質を修得させる。
- 4 物質創成科学専攻における目的は、次の各号に掲げるとおりとする。
- (1) 人材育成に関する目的
- イ 基本原理を深く理解し、これらの基本原理に基づき自律的に多様な応用研究を展開できる人材を育成する。
- ロ 社会及び自然環境と科学技術との調和に対する深い理解力を備えた人材を育成する。
- ハ 他者の考えを理解した上で自らの考えを主張できる協調性と競争性の均衡のとれた人材を育成する。
- (2) 教育研究に関する目的
- イ 自然現象を物質科学的立場から捉え、自然界を構成する素粒子、原子、分子、高分子、分子組織体、凝縮系、複雑系及び宇宙に至るまでの各階層における物質の構造、諸現象及び諸機能を従来の学問領域の枠を超えた総合的見地と、従来の分野をより先鋭化させた学問的見地に立って解明できる能力を涵養する。
- ロ 解明された基本原理を基に、新しい機能を持つ物質、素材及び素子を開発し、あるいは各階層における諸現象を統一的に理解するための新しい抽象概念を構築する道筋を修得させる。
- 5 山岳地域環境科学専攻における目的は、次の各号に掲げるとおりとする。
- (1) 人材育成に関する目的
- イ 山岳地域における自然と人間との共生について、自立的に研究する人材を養成する。
- ロ 山岳環境科学に関する高度な基礎力と深い専門性を有し、実際の問題について応用することのできる人材を養成する。
- ハ 協調性と競争性の均衡のとれたプロジェクトリーダーとしての資質を有する人材を養成する。
- (2) 教育研究に関する目的
- イ 山岳地域の形成及び環境変動に関わる基礎研究から環境保全や防災などの応用研究までを総合的に修得させる。
- ロ 山岳地域における自然と人間との共生を実現するために、山岳地域における環境保全に関する深い理解と高度な技術者倫理を修得させる。
- 6 生物・食料科学専攻における目的は、次の各号に掲げるとおりとする。
- (1) 人材育成に関する目的
- イ 自然界の生物にみる多様な構造と機能に、未知あるいは未解決の問題を発掘できる人材を育成する。
- ロ 食料生産及び食に関する的確な総合科学的思考や創造性を身につけた高度専門職業人や技術者・研究者を育成する。
- ハ 環境保全に立脚した持続的食料生産の発展を目指し、その開発能力を備えた人材を養成する。
- (2) 教育研究に関する目的
- イ 生物多様性及び環境保全の教育研究並びに最先端のバイオテクノロジーを応用して、安全で機能的な食資源の育種に関する教育研究を行う。
- ロ バイオサイエンスを基盤とした革新的な食料生産技術体系を確立するための理論の構築と技術の発展を目的とし、教育研究を行う。
- ハ 健康と食品の関わり、食品素材の評価、生体調節成分の探索・機構解明及び食品の安全性に関する教育研究を行う。

(出典：国立大学法人信州大学規程集)

## (2) 三つの方針

本研究科は、資料総3及び資料総4のとおり学位授与の方針（以下「DP」）を、資料総5のとおり教育課程編成・実施の方針（以下「CP」）を、資料総6のとおり入学者受入の方針（以下「AP」）を定めている。

### 資料総3：信州大学大学院学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

信州大学大学院では、俯瞰力と独創力を備え、持続可能な価値社会を創造する質の高い高度専門職業人や、先端的研究を推進する人材を養成するために、以下のように各課程の学位授与方針を定める。

- ・修士課程にあつては、広い視野に立って精深な学識を持ち、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を修得している。
- ・博士課程にあつては、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するのに必要な高度の研究能力及びその基礎となる豊かな学識を修得している。
- ・専門職学位課程にあつては、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を修得している。

(出典：信州大学ホームページ「学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」)

## 資料総 4：信州大学大学院総合工学系研究科学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

信州大学大学院総合工学系研究科の目的に則り、「創造性豊かな優れた研究・開発」に不可欠な知識と能力を充分培い、かつ、専攻ごとの学位授与方針に定められた知識と能力等を有する学生に「博士」の学位を授与する。

## 【生命機能・ファイバー工学専攻】

生命機能・ファイバー工学専攻の目的に則り、以下のいずれかの知識と能力を十分に培った上で、更に自立的に研究を推進する能力と研究成果を適切に発信する能力を身につけたと認められる学生に対して、「博士」の学位を授与する。

1. 生物機能科学に関連した知識を修得しそれを研究に活かす能力。
2. ファイバー機能工学に関連した知識を修得しそれを研究に活かす能力。
3. スマート材料工学に関連した知識を修得しそれを研究に活かす能力。
4. 感性生産システム工学に関連した知識を修得しそれを研究に活かす能力。
5. その他の総合的な知識を修得しそれを研究に活かす能力。

## 【システム開発工学専攻】

システム開発工学専攻の目的に則り、以下のいずれかの知識と能力を十分に培った学生に対して「博士」の学位を授与する。

1. 人間、社会及び自然と調和したシステムあるいはデバイスの研究・開発を自立的に遂行できる知識と能力。
2. 基本原理を深く理解し、これらの基本原理に基づき自立的に多様な応用研究を展開できる知識と能力。
3. 他者の考えを理解した上で自らの考えを主張できる協調性と競争性の均衡のとれた素養と能力。

## 【物質創成科学専攻】

物質創成科学専攻の目的に則り、以下の知識と能力等を十分に培った学生に対して、「博士」の学位を授与する。

1. 基本原理を深く理解し、これらの基本原理に基づき自立的に多様な応用研究を展開できる知識と能力。
2. 社会及び自然環境と科学・技術との調和に対する深い理解力。
3. 他者の考えを理解した上で自らの考えを主張できる協調性と競争性の均衡のとれた素養と能力。

## 【山岳地域環境科学専攻】

山岳地域環境科学専攻の目的に則り、以下の知識と能力を十分に培った学生に対して、「博士」の学位を授与する。

1. 自然と人間の共生に関して、研究することのできる知識と能力。
2. 山岳環境科学に関する高度な基礎力と深い専門性を有し、実際の問題について応用することのできる能力。
3. 協調性と競争性の均衡のとれたプロジェクトリーダーとしての知識と能力。

## 【生物・食料科学専攻】

生物・食料科学専攻の目的に則り、以下の知識と能力を十分に培った学生に対して、「博士」の学位を授与する。

1. 自然界の生物にみられる多様な構造と機能に、未知あるいは未解決の問題を発掘できる知識と能力。
2. 生命科学及び食料科学に関する的確な総合科学的思考力と創造力。
3. 環境保全に立脚した生物・食料科学の発展に寄与する知識と能力。

（出典：信州大学ホームページ「大学院総合工学系研究科学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）」 1)

## 資料総 5：信州大学大学院教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

## 大学院課程における教育課程編成の方針

1. 信州大学大学院は、研究科及び専攻の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設するとともに、研究指導の計画を策定し、体系的に教育課程を編成します。
2. 信州大学大学院は、教育課程の編成に当たっては、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう適切に配慮します。

## 大学院課程における教育課程実施の方針

1. 信州大学大学院は、専門性の一層の向上を図り幅広い学識を涵養するため、コースワークを充実させ、コースワークから研究指導へ有機的につながる体系的な教育を行います。また、各研究科の「学位授与の方針」に定めた、修了時までには修得すべき知識・能力等がカリキュラム体系のなかでどのように養成されるのかを示すため、シラバスで「学位授与の方針」で定められた知識・

- 能力等との対応を示し、それら諸能力等を修得するプロセスを履修プロセス概念図で示します。
2. 信州大学大学院は、学生個々人の主体的で活発な勉学意欲を促進する立場から、授業時間外の多様な学修研究機会を通じ、諸課題に積極的に挑戦させます。
  3. 信州大学大学院は、成績評価の公正さと透明性を確保するため、成績の評定は、各科目に掲げられた授業の狙い・目標に向けた到達度をめやすとして採点します。
  4. 信州大学大学院は、修士課程及び博士課程の学位論文審査体制を充実させ、厳格な審査を行います。

(出典：信州大学ホームページ「教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）」)

資料総 6：信州大学大学院入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

求める学生像

信州の悠久の歴史と文化、豊かな自然環境のもと、地域に根ざし世界に開かれた信州大学大学院は、総合大学の特色を生かし、国の活力を高める次世代を担う卓越した人材や世界的な視点で新たな価値を創造する質の高いグローバルな高度専門職業人の養成を目指しています。そのため、以下のような能力や意欲を備えた人々を積極的に受け入れます。

- ・幅広い教養と専攻する分野の専門知識を持ち、さらに高度な専門的知識・専門応用能力を修得したい人
- ・知的好奇心が旺盛で、専門的課題や地域社会の抱える課題に主体的に取り組む人
- ・深い知性、論理的な思考力、豊かな人間性を備え、様々な分野でリーダーシップを発揮し、活躍したい人
- ・社会・環境・国際問題に関心をもち、創造力を活かし、グローバルに活躍したい人
- ・職業経験から獲得した知識・技能を高度化、深化させたい人

入学者選抜の基本方針

信州大学の教育の理念・目標に則り、各研究科の特性に応じた公正かつ適切な方法で入試を実施し、大学院教育を受けるにふさわしい能力・適性等を多面的・総合的に評価します。

(出典：信州大学ホームページ「信州大学大学院入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）」)

総合工学系研究科アドミッション・ポリシー

総合工学系研究科では、本研究科の目的の下に、

1. 最先端の科学・技術の研究に積極的に取り組む人
2. 世界をリードする科学・技術を担う研究者あるいは高度専門職業人を目指す人
3. 大学院修士課程や企業等において能動的に学び、深い専門知識と研究推進能力を身に付けている人

を求めています。

(出典：信州大学大学院総合工学系研究科ホームページ「入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）」)

2 組織の特徴や特色

本研究科は、平成 3 年に設置した工学系研究科（博士後期課程）を前身とし、平成 17 年 4 月より長野（工学）、上田、松本、伊那の 4 キャンパスにまたがる 5 専攻 22 講座からなる博士課程である。(資料総 7、総 8)

資料総 7：キャンパス配置図

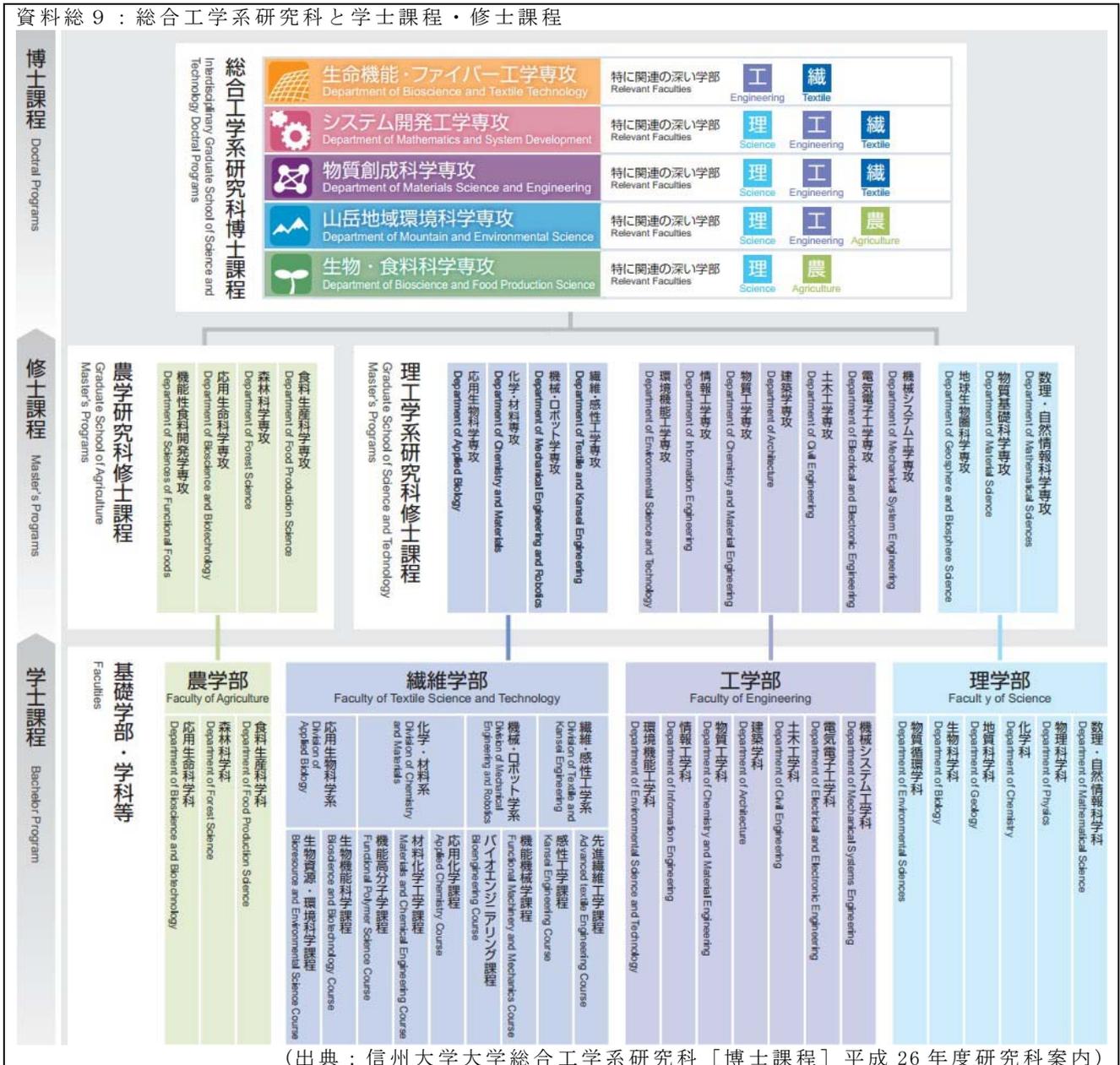


資料総 8 : 専攻・講座一覧

専攻	講座
生命機能・ファイバー工学専攻	生物機能科学 ファイバー機能工学 スマート材料工学 感性生産システム工学 先端素材工学(連携講座) スマートデバイス産業技術総合研究所連携講座(連携講座)
システム開発工学専攻	機械システム工学 電気電子システム工学 ナノカーボン先端材料工学 数理情報システム学
物質創成科学専攻	物質解析科学 分子基盤科学 分子機能材料工学 極限材料工学
山岳地域環境科学専攻	大気・水・生物環境科学 地殻環境科学 地域環境共生学 環境創生構築学
生物・食料科学専攻	生物・生命科学 食資源生産学 食品科学 食品創製学(連携講座)

本研究科では、長野（工学）キャンパスにおける高度な工学の教育・研究、上田キャンパスにおける人間の感覚や感性、生命機能、自然との融合・調和を志向した繊維科学を中心とした教育・研究、伊那キャンパスにおける食と緑に関する教育・研究、さらに松本キャンパスにおける基礎科学の教育・研究を融合し、高度なハードテクノロジーに特色あるソフトテクノロジーを包摂した総合工学系の基礎から最先端までを一貫した組織である。(資料総9)

資料総9：総合工学系研究科と学士課程・修士課程



(出典：信州大学大学院総合工学系研究科 [博士課程] 平成26年度研究科案内)

### 3 カリキュラムの概要・特色

本研究科では、基礎科学と応用科学との整合性を持たせた専攻・講座を編成することにより、高度でかつ独創的な研究を行い、その研究を通して創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者・技術者を養成するため、資料総10のとおり教育研究指導を行っている。

資料総10：教育研究指導及び修了要件  
【教育研究指導】

**基本方針**

- (1) 広範な応用能力を発揮できる高度な基礎力と深い専門知識を修得させ、創造的研究の目標設定能力と目標達成能力を養います。
- (2) 理学部、工学部、農学部及び繊維学部の縦断的学問領域を横断抱合した総合的な理工学的技法を修得させるなど、多角的学際領域を含めた教育研究を行います。
- (3) 国際的に活躍しうる広い視野を養います。
- (4) 大学と産業界との両面教育を行います。
- (5) 恵まれた自然環境を生かし、人間、社会及び自然との調和関係について深い洞察力を養います。

(出典：信州大学大学院総合工学系研究科 [博士課程] 平成26年度研究科案内)

**指導体制**

- (1) 研究指導は、主となる指導教員1名と副となる指導教員2名以上からなる指導体制の下で行います。
- (2) 研究課題により、柔軟に、講座、専攻間にまたがった複数指導教員による指導を行います。
- (3) 研究課題は、主指導教員、副指導教員及び学生で構成する「テーマ研究会」において設定します。

**【修了要件】**

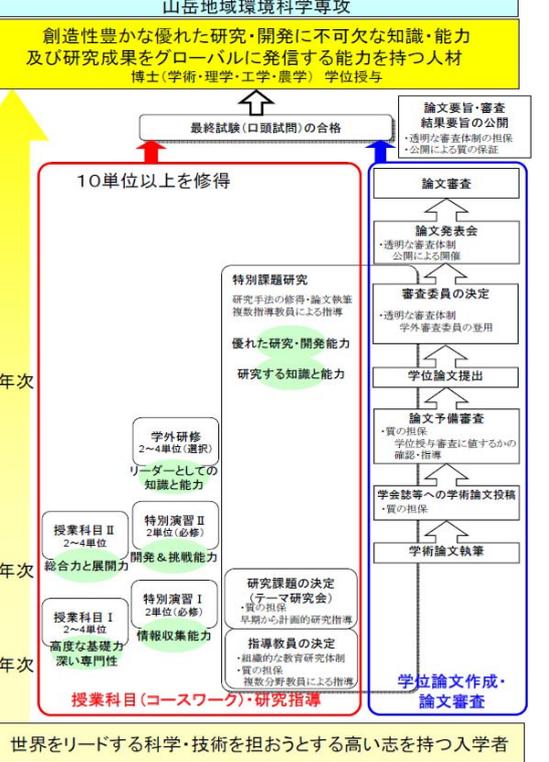
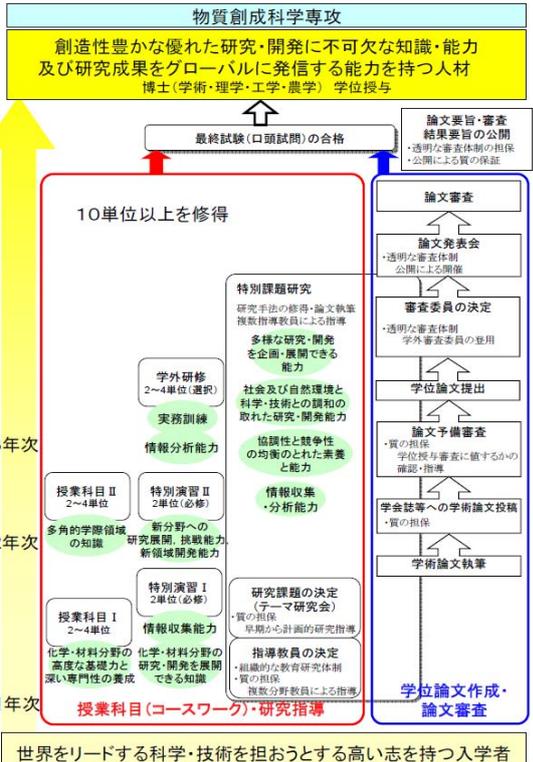
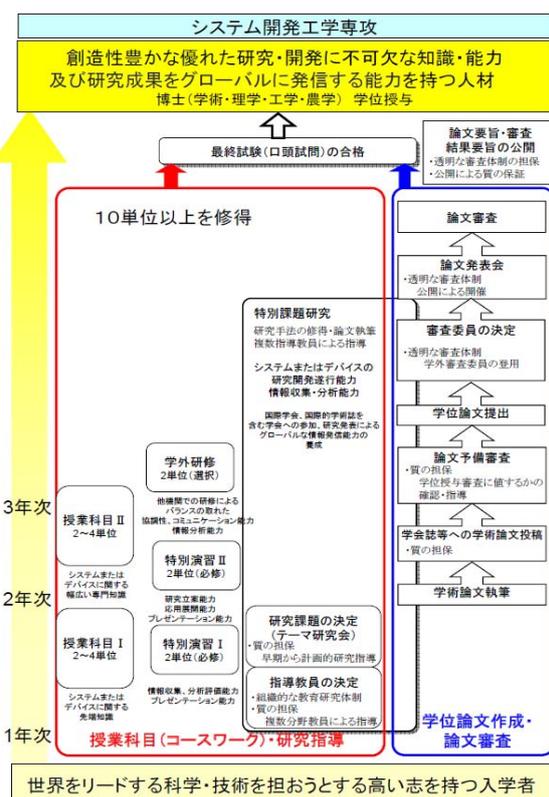
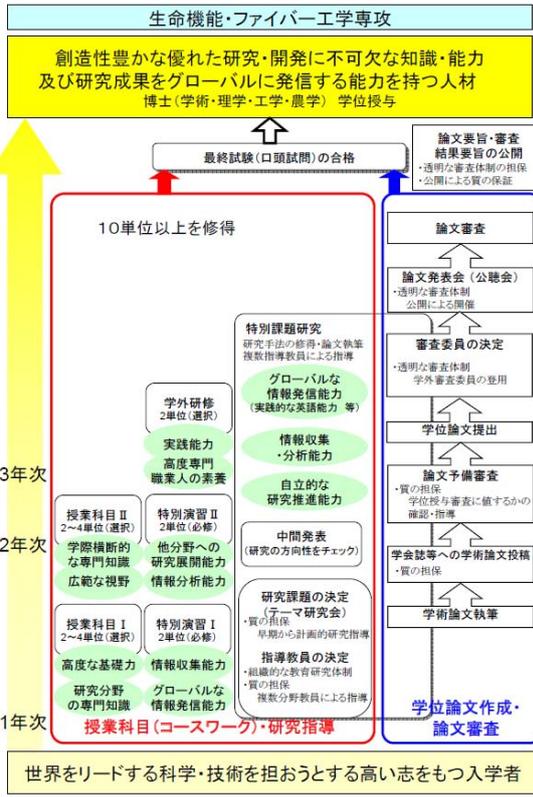
履修	単位数	要 目	備 考
授業科目Ⅰ	2～4(選択)	当該専攻の講座の授業科目	高度な基礎力と深い専門性の養成
授業科目Ⅱ	2～4(選択)	他専攻、他講座の授業科目	多角的学際間を含めた総合力と実践のプロセス展開力の養成
特別演習Ⅰ	2(必修)	研究課題に直接関係する分野のセミナー形式の演習	主となる指導教員が主催するセミナーにおいて、学生に自分のテーマに関係ある国際的最先端の論文等の内容を紹介させ、討議し高度な深い専門的基礎力と方法論を涵養する。
特別演習Ⅱ	2(必修)	テーマに関連する他専攻、他講座の教員、学生及び企業の研究者を加えた研究会に参加	自己の専門分野以外の領域分野への研究の展開が図れるよう研究会で研究発表やリサーチプロポーザルを行い研究企画、報告書を提出させ他の新しい分野への研究展開、開発能力、挑戦能力を身につけさせる。
特別課題研究		複数教員による研究指導	学位論文についての研究指導
学外研修	2～4(選択)	官公庁、企業等の研究機関における実務訓練	指導教員が認めた場合、研究課題に関する実験指導、計画、設計等の実務訓練を受ける。

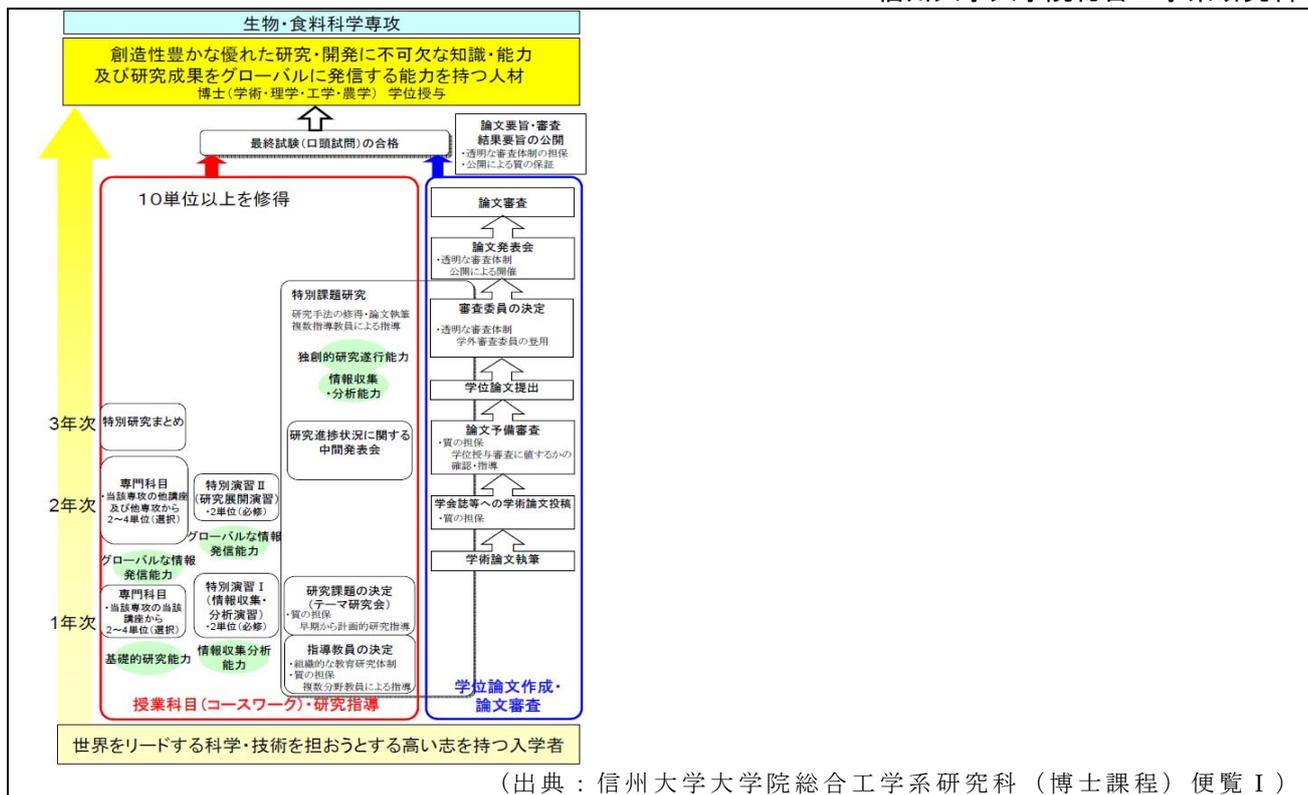
必修科目及び選択科目を合わせて10単位以上を修得し、かつ、研究指導を受ける必要があります。

(出典：信州大学大学院総合工学系研究科 [博士課程] 平成26年度研究科案内)

各専攻は、入学時からコースワーク、研究指導、学位論文作成・審査に至るまで体系的に教育している。また、平成23年度に各専攻の履修プロセス概念図を作成し、学生に周知している。(資料総11)

資料総11：各専攻履修プロセス概念図





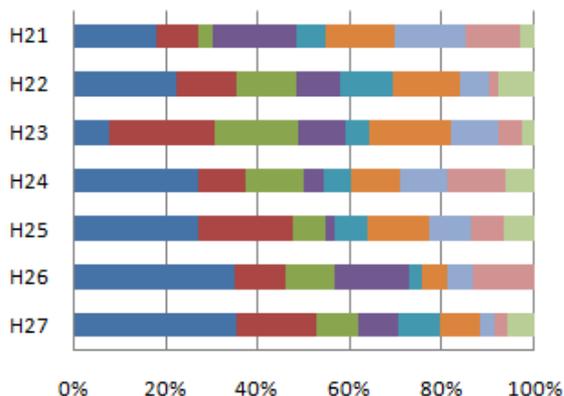
#### 4 入学者の状況

入学者の状況は、以下のとおりである。(資料総 12)

資料総 12：入学者の状況(年齢別, 出身学校種別, 男女比)

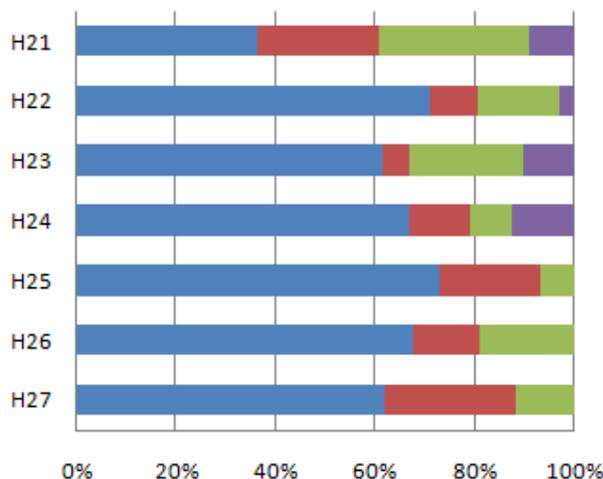
※10月入学者を含まず。

### 入学者の内訳(年齢別)



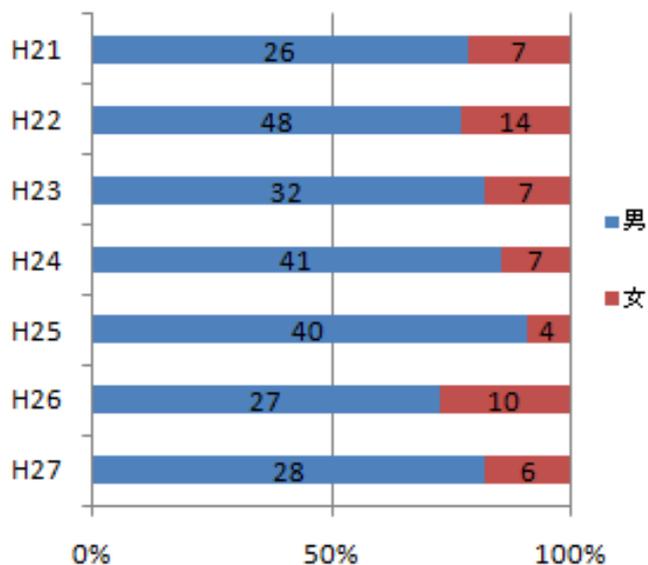
	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
■ 24歳以下	6	14	3	13	12	13	12
■ 25歳	3	8	9	5	9	4	6
■ 26歳	1	8	7	6	3	4	3
■ 27歳	6	6	4	2	1	6	3
■ 28, 29歳	2	7	2	3	3	1	3
■ 30-34歳	5	9	7	5	6	2	3
■ 35-39歳	5	4	4	5	4	2	1
■ 40-49歳	4	1	2	6	3	5	1
■ 50歳以上	1	5	1	3	3	0	2

### 入学者の内訳(出身学校種別)



	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
■ 本学	12	44	24	32	32	25	21
■ 他大学	8	6	2	6	9	5	9
■ 外国の学校	10	10	9	4	3	7	4
■ その他	3	2	4	6	0	0	0

### 男女比(総合工学系研究科)



(出典：学校基本調査をもとに経営企画課にて作成)

本研究科は、APに基づき一般選抜及び社会人特別選抜を実施し、学力検査(口述試験)の結果と成績証明書等を総合して判断のうえ合格者を決定している。一般選抜は、4月入学者と10月(秋季)入学者向けにそれぞれ年2回実施することにより、海外からの留学生在が志願しやすいように工夫している。また、インターネットを介した学力検査(口述試験)を採り入れ海外在住の受験者の便宜を図っている。(資料総13、総14)

資料総13：入学選抜試験〔4月入学及び10月入学〕

学生募集の年間計画（概要）

入学時期		H27年4月入学	H27年4月入学(第2次)	H27年10月入学
日 程	募集要項公表	平成26年6月中旬	平成26年10月中旬	平成26年10月中旬
	願書受付	平成26年7月下旬	平成26年12月上旬	
	入学試験	平成26年8月中旬	平成27年1月下旬	
	入学手続	平成27年3月上旬	平成27年9月上旬	

選抜方法

入学者の選抜は、学力検査（口述試験）の結果及び成績証明書を総合して行います。また、年2回の出願期間（4月入学・10月入学）があります。

試験科目	試験内容等
口述試験	志望する専攻の研究分野に関する科目 研究分野に関連した科目についての専門的学力、外国語能力、修士論文、研究計画等について実施します。外国人については、日本語による試問（国際ファイバー工学コースを除く）を含みます。（海外在住の外国人出願者は映像を伴ったインターネット回線による口述試験を受験することができます。）

（出典：信州大学総合工学系研究科ホームページ「一般選抜」）

資料総14：10月（秋季）入学学生受入状況

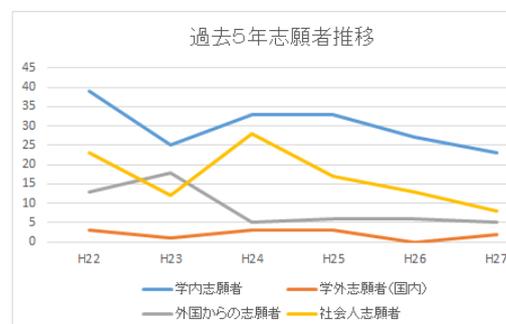
平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
13	13	14	13	6	11

（出典：入試課提供資料をもとに経営企画課にて作成）

志願状況は資料総15のとおりである。

資料総15：志願状況

	学内志願者	学外志願者(国内)	外国からの志願者	社会人志願者	合計	入学者数
H22	39	3	13	23	78	75
H23	25	1	18	12	56	52
H24	33	3	5	28	69	62
H25	33	3	6	17	59	57
H26	27	0	6	13	46	43
H27	23	2	5	8	38	45



（出典：研究科提供資料をもとに学務課にて作成）

[想定する関係者とその期待]

総合工学系研究科が想定する関係者は、（i）高度専門技術者や研究者を目指す大学院生や社会人、（ii）学位取得後の雇用先である産業界や大学研究機関等からなっている。

（i）の関係者は、最先端の科学・技術の研究を進める中で、豊富な専門知識と技術を身につけ、問題解決能力と創造力を備え、国際的に活躍できる人材の養成を期待している。

（ii）の関係者は、創造性豊かな優れた研究開発能力を持つ研究者・技術者として、教育研究を通じて学術社会の高度化に寄与し、地域社会及び国際社会に貢献できる人材の輩出を期待している。

II 「教育の水準」の分析・判定

分析項目 I 教育活動の状況

観点 教育実施体制

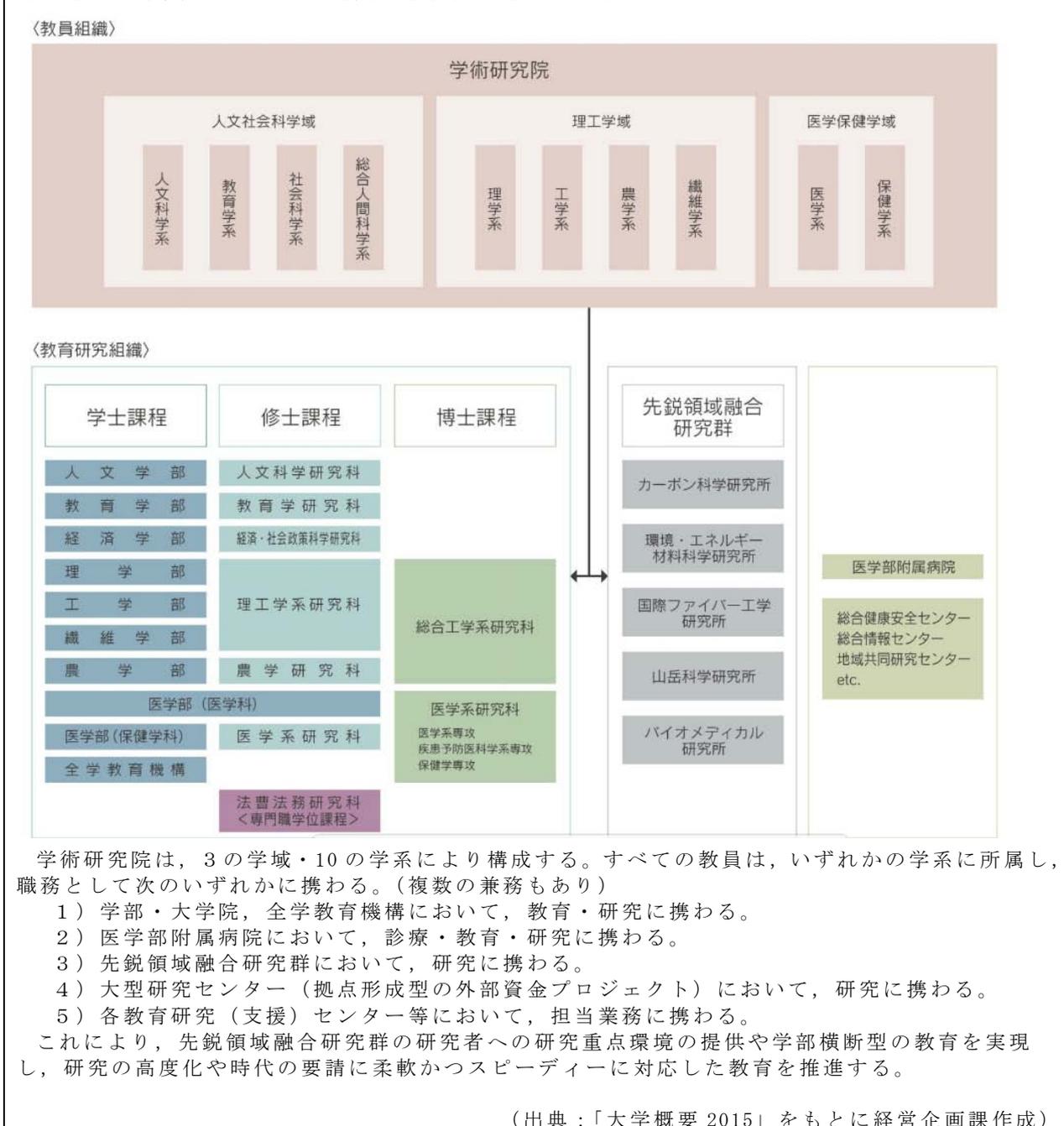
(観点に係る状況)

1 教員体制と教育体制

① 学術研究院と研究科

教員の流動性を確保し、全学的な教育、研究マネジメントを可能とするため、教員組織として学術研究院を平成 26 年度より設置した。(資料総 16)

資料総 16 教員組織 (学術研究院) と教育研究組織の関係



② 研究科の構成

本研究科は、生命機能・ファイバー工学、システム開発工学、物質創成科学、山岳地域環境科学、生物・食料科学の5専攻において、理念、目的、DP、CPに基づき人材養成を行っている。(前掲資料総 1～5、p 1～5、前掲資料総 8、p 6)

③教員の配置状況

本研究科は、研究指導教員及び研究指導補助教員を専攻ごとに次のとおり配置しており、22 講座単位で多様な教育研究の活動を行っている。(資料総 17、総 18)

資料総 17 研究指導教員及び研究指導補助教員配置状況

専攻	総合工学系研究科				大学院設置基準			
	研究指導教員	うち 教授数	研究指導 補助 教員	計	研究指導教員 基準	うち 教授数	研究指導 補助教員 基準	基準 数計
生命機能・ファイバー工学専攻	72	39	11	83	5	4	2	7
システム開発工学専攻	99	47	3	102	4	3	3	7
物質創成科学専攻	58	26	6	64	4	3	3	7
山岳地域環境科学専攻	54	29	10	64	4	3	3	7
生物・食料科学専攻	35	21	14	49	4	3	4	8

(出典：経営企画課にて作成)

資料総 18 講座別教育研究内容一覧

専攻名	講座名	教育研究内容
生命機能・ファイバー工学専攻	生物機能科学	生物の多様で高次な機能組織、細胞及び分子レベルから解明すると共に、生物工学的応用
	ファイバー機能工学	ファイバーの新素材開発、機能化、その繊維化を科学的、物理的に研究するとともに、開発したファイバーの工学的応用
	スマート材料工学	生体、有機・高分子、無機スマート材料の高機能化とデバイス化を指向した基礎教育と応用研究
	感性生産システム工学	個人の感性に適合した製品の設計と生産システム
	先端素材工学(連携講座)	先端技術を使った先端ファイバーの製造法とその物性
	スマートデバイス産業技術総合研究所連携講座(連携講座)	ユビキタス社会実現のために必要となる機能性ナノ素材から機能性デバイス、ITシステムまでの一連のスマートデバイス工学
システム開発工学専攻	機械システム工学	電子情報通信システムを導入した機械システムの開発と最適設計
	電気電子システム工学	電気工学及び電子工学に関するシステムの開発とその応用
	ナノカーボン先端材料工学	ナノ材料の創成と材料物質の探査及び高機能デバイスの開発
	数理情報システム学	情報科学及び数理科学の基礎理論とその諸分野への応用
物質創成科学専攻	物質解析科学	自然法則の理論的・実験的研究によって物質の性質やその機能を決定する原理を解明するとともに、その結果を新物質の開発に適用
	分子基盤科学	分子及びその集合系の構造、性質、機能と刺激に対する応答性、反応性を基礎的に研究
	分子機能材料工学	高機能性材料の設計と合成、及びそれら材料の機能解析と機能発現機構解明
	極限材料工学	繊維・層状物質、薄膜などの極限環境における構造と物性、極限物性発現のための構造形成
山岳地域環境科学専攻	大気・水・生物環境科学	山岳地域における大気環境、水圏環境及び生物圏環境
	地殻環境科学	山体を構成する物質の解明、山岳の形成と侵食、それに伴う災害と防災、および山岳地域における過去の気候・環境変動
	地域環境共生学	山岳域から中山間地域にいたる領域での自然環境と農林業生産及び生活環境の共生システムの創造
	環境創生構築学	自然と人間の融合・調査を考慮した社会環境創生・構築へ向けての科学的な手法
生物・食料科学専攻	生物・生命科学	自然界の生物にみる多様な構造と機能に未知あるいは未解決の問題を発掘できる人材の育成を目標として、例外なく進化の歴史にたつ生命現象の実態と因果関係を研究し、普遍的な学際基盤である進化生物学の諸領域における方法論を教育します。並行して、生物多様性及び環境保全の教育・研究並びに最先端のバイオテクノロジーを応用して安全で機能的な食用資源の育種

信州大学大学院総合工学系研究科 分析項目 I

食資源生産学	安全で機能的な食料を安定的に供給するための基盤事項、効率的生産技術の確立、それらの生産システムやマーケティングのIT化やマネージメントの改善
食品科学	健康と食品の関わり、食品素材の評価、生体調節成分の探索や機構解明、食品の安全性
食品創製学(連携講座)	企業における機能性食品の開発の実状や製造に際しての問題点を明らかにし、その問題点の解決方法や特許等の法的問題を解決する

(出典：信州大学大学院総合工学系研究科 [博士課程] 平成26年度研究科案内7p～31p)

④教育課程の運営体制

本研究科は、基礎となる4学部（理学部、工学部、農学部及び繊維学部）の長が、研究科長と副研究科長を兼ねており、定期的（月1回）に開催する研究科委員会等において教育課程の実施に関する諸問題について審議を行っている。（資料総19、総20、総21）

資料総19 信州大学大学院総合工学系研究科規程（抜粋）  
（研究科長及び副研究科長）

第3条 研究科に、研究科長を置き、理学部長、工学部長、農学部長又は繊維学部長をもって充てる。  
2 研究科に、研究科長を補佐するため副研究科長を置き、理学部長、工学部長、農学部長及び繊維学部長のうち、研究科長以外の学部長をもって充てる。  
（研究科委員会）

第4条 研究科に、大学院学則第11条第1項の定めるところにより、研究科長、副研究科長及び研究科に属する教授で構成する信州大学大学院総合工学系研究科委員会（以下「研究科委員会」という。）を置く。  
2 研究科委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(出典：信州大学大学院総合工学系研究科規程)

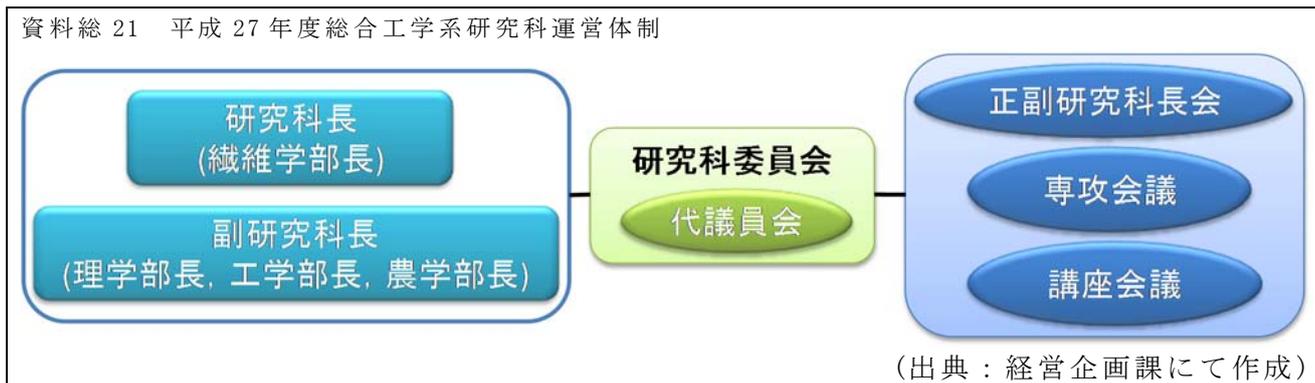
資料総20 信州大学大学院総合工学系研究科委員会規程（抜粋）  
（審議事項）

第3条 研究科委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。  
(1) 研究科担当の教員の選考に関する事項  
(2) 専攻等研究科の組織に関する事項  
(3) 研究科の教育課程に関する事項  
(4) 大学院学生の入学、退学、転学、休学、修了その他学生の身分に関する事項  
(5) 研究科の試験に関する事項  
(6) 学位に関する事項  
(7) 研究科の諸規程の制定及び改廃に関する事項  
(8) 研究科の予算概算方針に関する事項  
(9) その他研究科の運営に関する事項  
（代議員会）

第7条 研究科委員会は、研究科委員会通則第7条の2第1項の規定に基づく代議員会等として研究科に博士課程代議員会（以下「代議員会」という。）を置く。  
2 研究科委員会は、研究科委員会通則第7条の2第2項の規定に基づき、次の各号に掲げる事項について、代議員会の議決をもって研究科委員会の議決とすることができる。  
(1) 研究科担当の教員の選考に関する事項  
(2) 専攻等研究科の組織に関する事項  
(3) 研究科の教育課程に関する事項  
(4) 大学院学生の退学、転学、休学その他学生の身分に関する事項  
(5) 研究科の試験に関する事項  
(6) 研究科の諸規程の制定及び改廃に関する事項  
(7) 研究科の予算概算方針に関する事項  
(8) その他研究科委員会が委任した事項  
3 代議員会に関し、必要な事項は、別に定める。  
（会議）

第8条 研究科委員会は、研究科委員会に研究科の円滑な運営を図るため、次の会議を置く。  
(1) 博士課程専攻会議  
(2) 博士課程講座会議  
(3) 博士課程正副研究科長会議  
2 会議に関し、必要な事項は、別に定める。

(出典：信州大学大学院総合工学系研究科委員会規程)



### ⑤ 研究指導体制

本研究科での研究指導は、2 名以上の複数指導体制の下で行われ、学生の研究課題は「テーマ研究会」で設定されている。(資料総 22)

資料総 22 研究指導体制

2 研究指導，修了要件及び履修方法

(1) 指導体制

研究指導は、主たる指導教授又は准教授（主指導教員）1 名と副となる指導教授又は准教授（副指導教員）2 名以上からなる指導体制のもとで行われる。研究課題は、主指導教員、副指導教員及び学生で構成される「テーマ研究会」において設定され、学生は、それに基づいて研究指導を受ける。

なお、学生の研究指導を受ける場所は、主指導教員の所属するキャンパスとする。主指導教員は、学生の所属する専攻・講座の教員に限られるが、副指導教員については、学生の所属する講座や専攻にかかわらず、他の講座や他の専攻の教員が担当することもある。

(出典：信州大学大学院総合工学系研究科（博士課程）便覧 I)

### ⑤－1 学位論文審査及び最終試験の評価基準

本研究科では、資料総 23 のとおり学位論文審査及び最終試験の評価基準を平成 25 年 2 月に定め、便覧に掲載し、学生に周知している。

資料総 23 信州大学大学院総合工学系研究科学位論文審査及び最終試験の評価基準

学位論文審査には、学位論文の提出を必要とする。所定の単位を修得し、学位論文を提出した者に対して、学位論文の審査と最終試験を行う。

学位論文の認定基準

1. 基礎となる原著論文が筆頭著者として所定の編数以上掲載または掲載予定（印刷中あるいは掲載許可済み）であること
2. 基礎となる原著論文は、査読制度が確立されている学術雑誌に掲載されたものであること
3. 認定基準の詳細については、各講座の取り決めに拠るものとする

最終試験の評価基準

最終試験は、学外審査委員を含む学位審査委員会のもとで公開の口頭試問により行い、次の基準により評価する。

1. 研究の目的・方法・結果及び考察について十分に理解し、明確に説明できること
2. 研究の内容について提起される質問について、理論的に説明できること
3. 創造性豊かな優れた研究・開発に不可欠な知識と能力を有していること
4. 研究成果の意義を十分に理解し、グローバルに発信する能力を有していること

(出典：信州大学大学院総合工学系研究科（博士課程）便覧 I)

### ⑥ 学生等のニーズを把握する方法

本研究科では、学生、修了生、雇用主、地域等の社会のニーズを大学院委員会等がアンケート、意見聴取等を実施し把握している。平成 26 年 2 月に実施した「大学院の学術融合分野に対するニーズに関する調査」では、本学大学院修了者の就職先事業所等 1,195 社（有

## 信州大学大学院総合工学系研究科 分析項目 I

効回答票数：264社、有効回答率：22.1%)を対象に、大学院修了者に要求される知識と能力についてアンケートを実施し、労働市場におけるニーズとして、専門知識のほか、対人関係能力、幅広い知識と教養、学際的な知識と方法の修得が期待されていることを把握した。(資料総24)

資料総24 学生、修了生、雇用主、地域等の社会のニーズ把握			
対象	名称	頻度	実施組織
学生	博士課程専門職コース修了生、在学生アンケート	1回	大学院総合工学系研究科システム開発工学専攻
地域企業	地域企業アンケート	1回	大学院総合工学系研究科システム開発工学専攻
繊維・ファイバー工学に関わる企業149社	大学院修了者に求める資質・能力に関する企業アンケート	1回	大学院総合工学系研究科生命機能・ファイバー工学専攻
大学院修了者就職先事業所・行政機関等	大学院の学術融合分野に対するニーズ調査	1回	大学院高度化 WT

(出典：学務課大学院室)

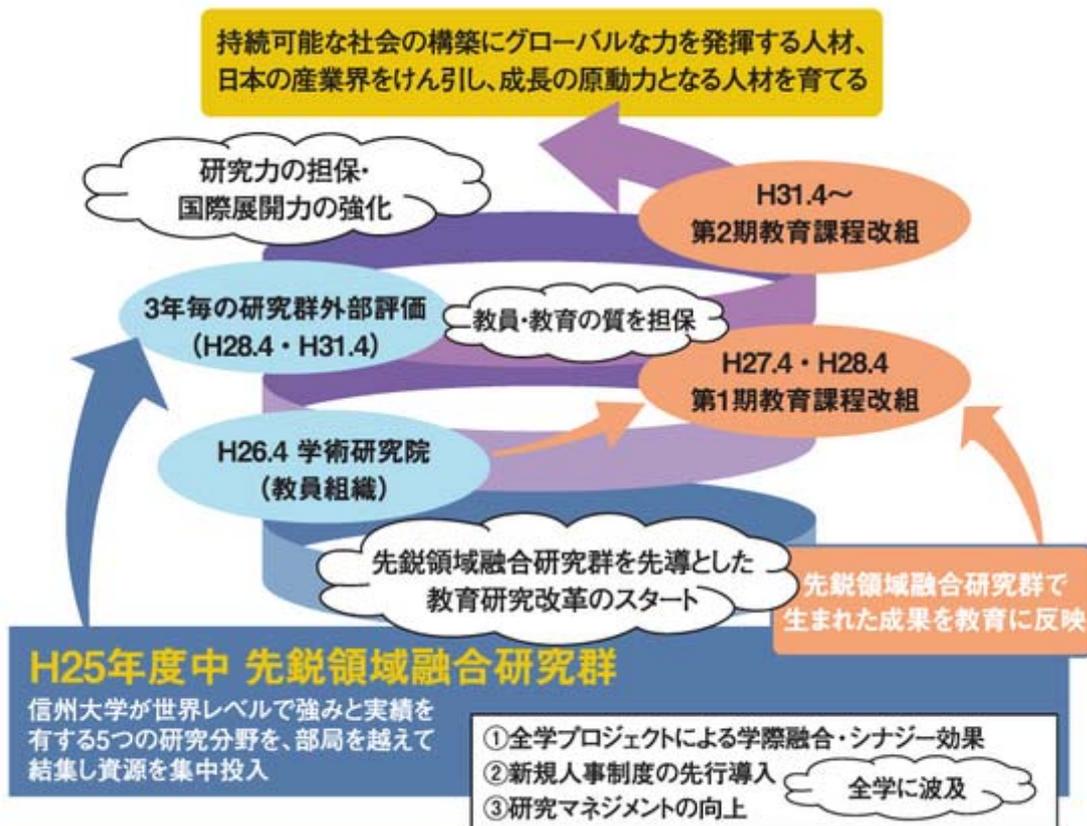
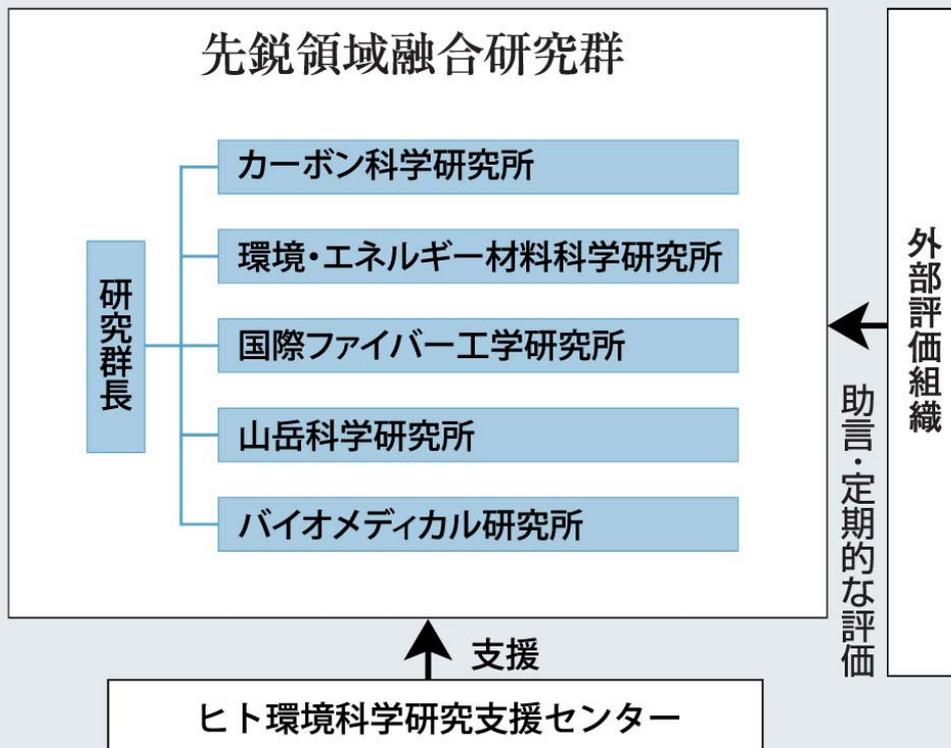
### ⑦先鋭領域融合研究群の設置

信州大学の特色ある研究領域（カーボン、環境・エネルギー、ファイバー工学、山岳科学、バイオ・医療など）に資源を集中し、各領域を融合させて新たな研究領域の創出を目指すために平成26年3月に設置した先鋭領域融合研究群では、国内外から優秀な教育・研究者を配置し、高度な教育研究を展開し、研究の高度化を図るとともに、様々な研究者・技術者との交流を通じて学生のグローバル化を推進している。

(資料総25：先鋭領域融合研究群)

資料総25 先鋭領域融合研究群
<p>信州大学の特色ある研究領域（カーボン、環境・エネルギー材料、ファイバー工学、山岳科学、バイオメディカル）に資源を集中配分して「先鋭領域融合研究群」を設置しました。</p> <p>学内の若手研究者育成および外部の卓越研究者の招聘（しょうへい）により、大学総体の研究力アップを図ります。</p> <p>研究群を教育改革、組織改革、研究力強化につなげ、持続可能な社会の構築にグローバルな力を発揮する人材、日本の産業界をけん引し成長の原動力となる人材を育成します。</p>

## 先鋭領域融合研究群の構成



(出典：信州大学ホームページ「信州大学の大学改革」)

## 2 教育サポート体制

全学的な教育サポート体制として、学務課、学生支援課、国際交流課を設置し、全学的な教育課程、課外活動、就職、留学に関する業務を行っている。学務課には全学の大学院に関する業務を所掌する大学院室を設置している。この他に、全学的な教育活動を展開するために附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センター、e-Learningセンターに専門的知識技能を有する職員を配置している。さらに、本研究科に教育活動を展開するために必要な職員を各キャンパスに配置している（資料総 26、総 27、総 28、総 29）。

## 資料総 26 国立大学法人信州大学業務執行組織規程

第 25 条 学務課においては、全学教育機構、高等教育研究センター、e-Learning センター、教員免許更新支援センター（教育学部の所掌に属するものを除く。以下この条において同じ。）及び学務部に関する次の業務をつかさどる。

- (1) 学務部内の事務に関し、連絡し、及び総合調整を行うこと。
- (2) 庶務及び会計に関すること。
- (3) 入学式その他学生の諸行事に関すること。
- (4) 学生関係職員の SD(スタッフ・デベロップメント)に係る企画・立案及びその実施に関すること。
- (5) 全学(本法人が設置する信州大学大学院(以下「大学院」という。))を除く。)の教務に関すること。
- (6) 学生の学籍その他の記録に関すること。
- (7) 学位の授与に関すること。
- (8) 教育課程(大学院を除く。)に係る目標及び計画の連絡調整に関すること。
- (9) 他の大学等との単位の互換(大学院を除く。)に関すること。
- (10) 全学の学務情報システムに関すること。
- (11) 出前講座に関すること。
- (12) 諸会議(国立大学法人信州大学戦略企画会議規程(平成 24 年国立大学法人信州大学規程第 108 号)第 6 条に定める大学院戦略会議(以下「大学院戦略会議」という。))及び信州大学大学院教務委員会を除く。)の連絡調整に関すること。
- (13) 教育・学生支援連携会議の運営に関すること。
- (14) その他全学教育機構、高等教育研究センター、e-Learning センター及び教員免許更新支援センターの業務執行及び運営に関すること。
- (15) 前各号に掲げるもののほか、学務部の他の所掌に属しない事務を処理すること。

2 学務課の共通教育支援室においては、次の業務をつかさどる。

- (1) 共通教育の授業支援に関すること。
- (2) 共通教育の教務に関すること。
- (3) 学生の学習相談及び修学指導に関すること。
- (4) 共通教育に係る点検・評価に関すること。
- (5) 全学教育連携会議等の諸会議の連絡調整に関すること。
- (6) 環境マインド教育支援に関すること。

3 学務課の大学院室においては、次の業務をつかさどる。

- (1) 大学院の事務の総括及び全体調整に関すること。
- (2) 大学院の教務に関すること。
- (3) 大学院の入学選抜の総括及び広報に関すること。
- (4) 大学院戦略会議及び信州大学大学院教務委員会に関すること。
- (5) 大学院の教育課程に係る目標及び計画の連絡調整に関すること。
- (6) 大学院における他の大学等との単位の互換に関すること。
- (7) 理工学系研究科長、工学系研究科長及び総合工学系研究科長の事務に関すること。
- (8) 前各号に掲げるもののほか、大学院に関する事務を処理すること。

4 学生支援課においては、次の業務をつかさどる。

- (1) 学生総合支援センターの業務執行及び運営に関すること。
- (2) キャリアサポートセンターの業務執行及び運営に関すること。
- (3) 学生相談センターの業務執行及び運営に関すること。

5 入試課においては、次の業務をつかさどる。

- (1) 入学者の選抜に関し連絡し、及び総合調整を行うこと。
- (2) 入学選抜方法の改善に関し企画立案を行うこと。
- (3) 学生募集に関すること。
- (4) アドミッションセンターの業務執行及び運営に関すること。

- (5) 前各号に掲げるもののほか、入学者の選抜に関する事務を処理すること。
- 6 国際交流課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 国際交流センターの業務執行及び運営に関すること。(研究支援課の国際学术交流室が所掌する業務を除く。)
- (2) 松本国際交流会館の業務執行及び運営に関すること。
- (3) 前各号に掲げるもののほか、教育活動に係る国際交流に関する事務を処理すること。
- (出典：信州大学規程集)

資料総 27 学務課、学生支援課、国際交流課の職員数

	学務課	学生支援課		国際交流課
			うち キャリアサポートセンター	
事務職員	20	11	3	6
事務補佐員	12	4	2	5
臨時用務員	1			
専門職員	1			
技術補佐員	5			
技能補佐員		1		
シニア雇用職員	4	1		
コーディネータ		1		6
合計	43	18	5	17

平成 28 年 1 月 18 日現在

(出典：経営企画課作成資料)

資料総 28 附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センター、e-Learningセンター職員数

区分	附属図書館	総合健康安全 センター	総合情報 センター	e-Learning センター
松本キャンパス	54	13	9	3
長野キャンパス(教育)	9	1	-	2
長野キャンパス(工学)	7	1	3	-
伊那キャンパス	5	2	-	-
上田キャンパス	6	2	-	-

平成 28 年 2 月 1 日現在

(出典：経営企画課作成資料)

資料総 29 学務担当の職員数

松本キャンパス	長野キャンパス	伊那キャンパス	上田キャンパス
15	13	14	15

平成28年 2 月 1 日現在

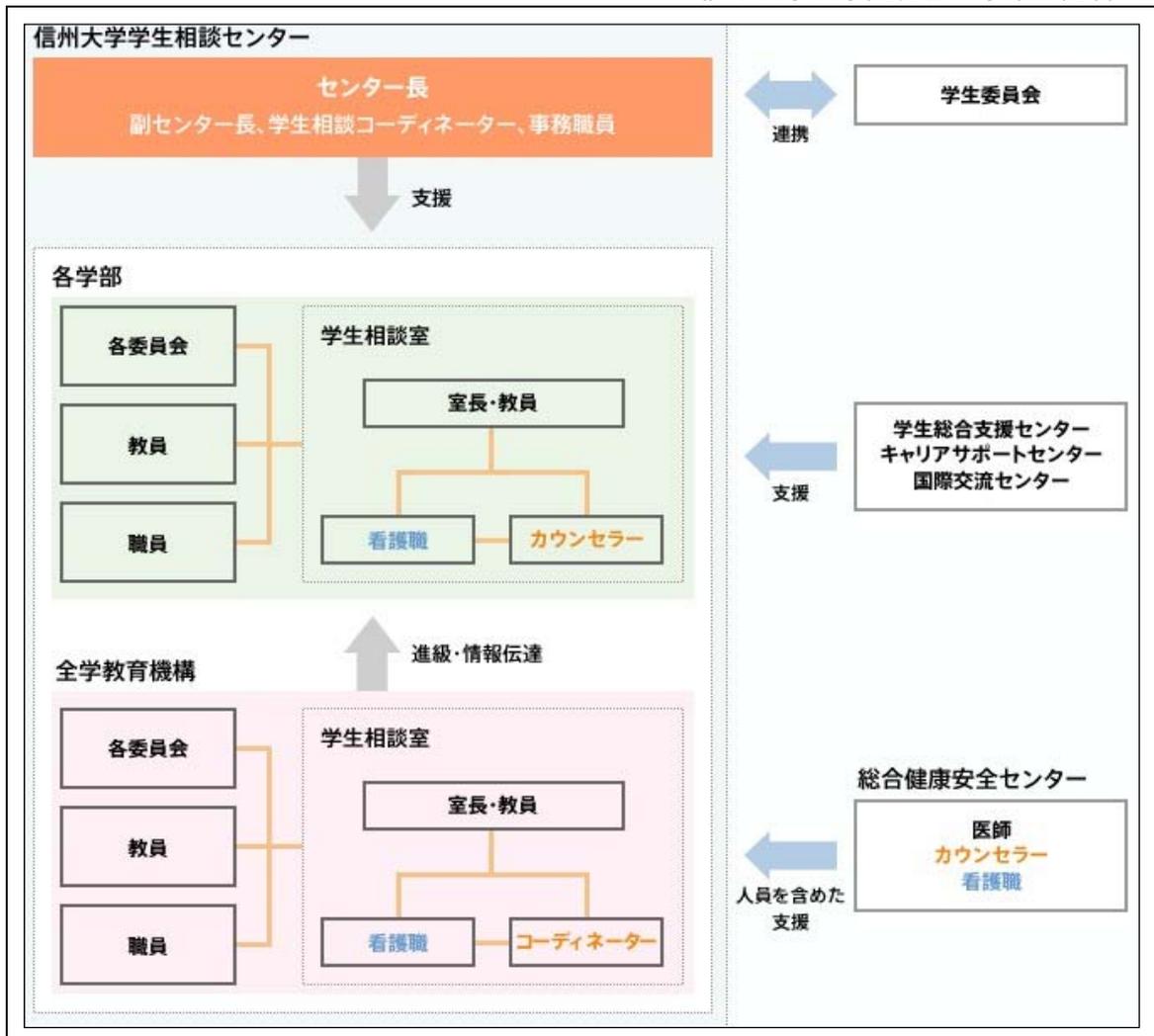
(出典：経営企画課作成)

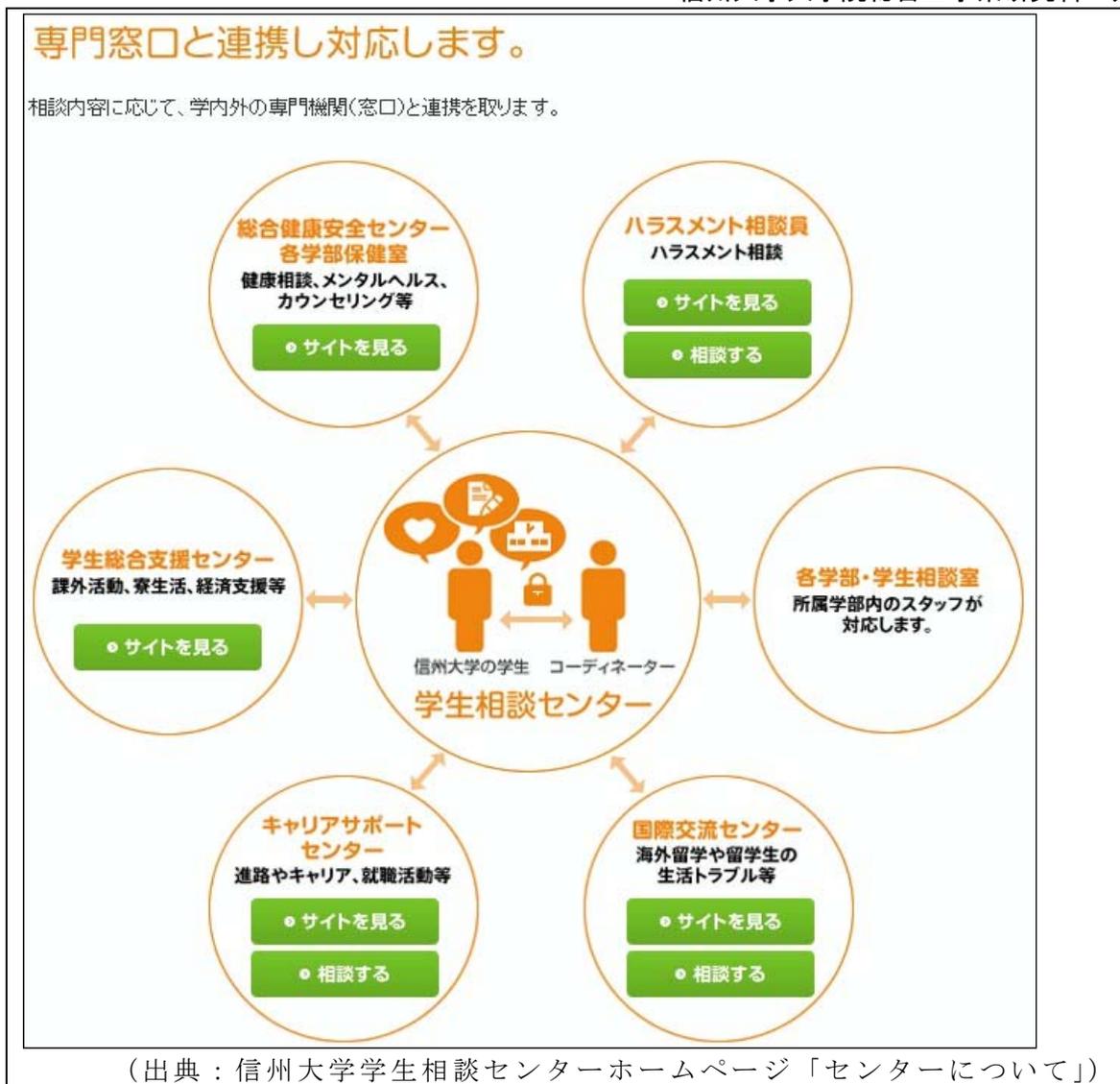
### 3 学生支援

#### ① 学生相談体制の整備

平成 24 年度に全学組織となる学生相談センターと、各学部・キャンパスに、あらゆる相談を受け付ける学生相談室が設置された。(資料総 30)

資料総 30 学生相談センター及び学生相談室





② 社会人学生への支援

研究機関、教育機関、企業等で研究開発などに活躍中の社会人を受け入れ、サテライトキャンパスの設置、夜間・土日の授業開講や長期にわたる教育課程の履修により学修への便宜を図り、社会人の高度専門性に対する再教育の期待に応えている（資料総 31）。

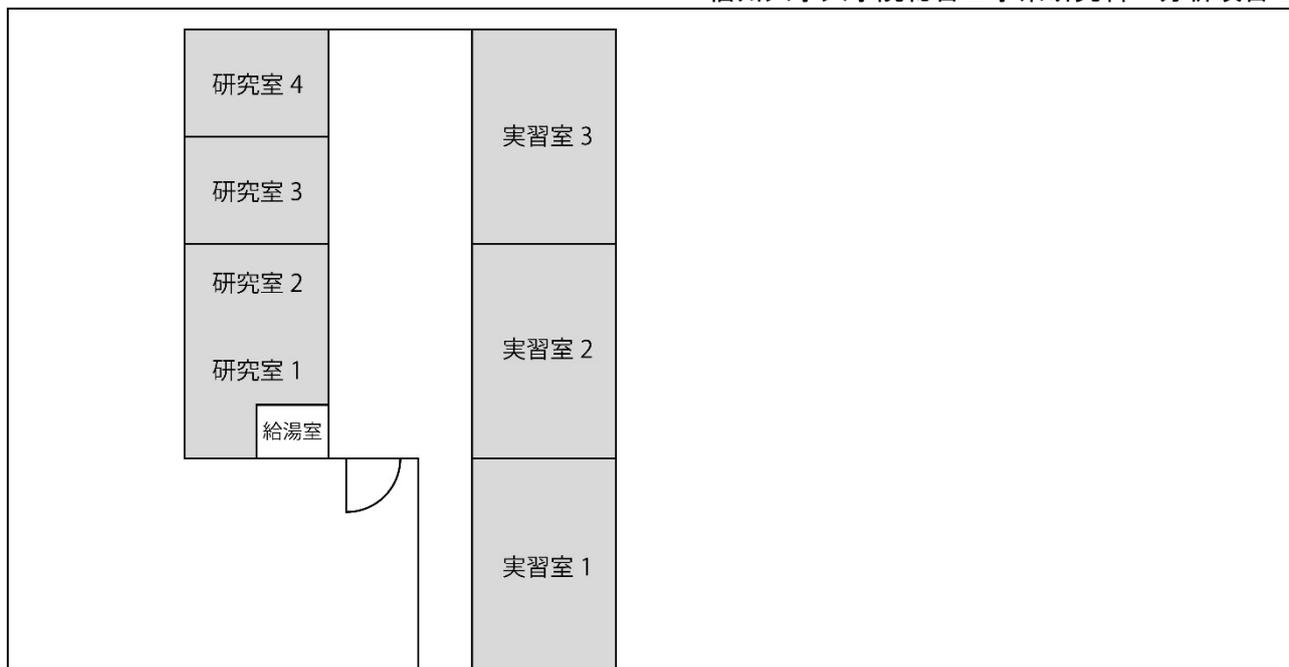
資料総 31 諏訪サテライトキャンパス

① 概要

信州大学と諏訪圏市町村および産業技術総合研究所とが連携して、微細加工、ナノテクノロジー分野の経営能力を身につけた高度ものづくり開発技術者（戦略的開発技術者）を養成するため、大学院総合工学系研究科博士課程専門職コースを開講している。

平成 22 年 4 月から諏訪圏サテライトキャンパス（ララオカヤ 3 階）を開設し、実習・演習で使用する設備備品を整備し、実習・演習環境を充実させた。

② フロアマップ



③ 保有設備

計測観察設備名	製造メーカー	型式・仕様等	実習室
電子顕微鏡 (SEM+EDX)	日立ハイテクノロジーズ	TM-1000. 形状観察・元素分析	2
試料用スパッタ装置	サンヨー電子	SC-701. SEM 試料作製用	2
精密万能試験機	島津製作所	AG-50KNXD. 引張り試験など	3
デジタルマイクロスコープ	キーエンス	VHX-1000. ~1000 3D 画像	2
軟 X 線検査装置	ソフテックス	EMT-F 金属内部ホト観	2
摩耗摩擦試験機	新東科学	トライボキア HEIDON Type 20 特	1
マイクロビッカース硬度試験機	マツザワ	AMT-X7FS Bタイプ.	2
3Dプロッター	ローランドディー ジー	MDX-40A セット. モックアップ 作成	3
抵抗率計ハイレスタ	三菱化学アナリテ ック	MCP-HT450. 10 <sup>4</sup> ~10 <sup>13</sup> Ω	2
抵抗率計ロレスタ	三菱化学アナリテ ック	MCP-T610. 10 <sup>-3</sup> ~10 <sup>7</sup> Ω	2
超音波微細接合機	シンアペックス	SWB-150 50W.	1
LCR ハイテスタ	日置電機	3535	2

(出典：信州大学総合工学系研究科博士課程精密工学社会人ホームページ)

③ 長期にわたる教育課程の履修

職業を有している等の事情を有する学生に、標準修業年限を超えて計画的に履修できるようにしている。平成 24 年度からは海外の交流協定校に交換留学する学生に対して計画的特例履修制度を設置し、留学に伴う授業料の追加負担を軽減する支援策を実施した。(資料総 32、総 33)

資料総 32 信州大学大学院学則，信州大学大学院総合工学系研究科規程 (長期にわたる教育課程の履修) 第 38 条 本大学院は、各研究科の定めるところにより、学生が、職業を有している等の事情により、第 15 条に定める標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。 2 前項による計画的な教育課程の修業年限は、第 16 条に定める在学期間を超えることはで
--

きない。

(教育課程の計画的特例履修)

第 38 条の 2 各研究科(修士課程又は博士前期課程を置く研究科に限る。)は、本大学院と外国の大学院等との間において締結した交流協定(研究科間交流協定及びこれに準ずるものを含む。以下「交流協定」という。)に基づく留学により、第 15 条に定める標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することを修士課程又は博士前期課程の学生(標準修業年限の最終年次の学生及び前条による長期にわたる教育課程の履修を認められている学生を除く。)が希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

2 前項による計画的な教育課程の修業年限は、3 年を超えることはできない。

(出典：信州大学大学院学則)

(長期にわたる教育課程の履修)

第 13 条 大学院学則第 38 条に規定する学生が職業を有している等の事情による長期にわたる教育課程の履修については、研究科委員会において定める。

(出典：信州大学大学院総合工学系研究科規程)

資料総 33 長期にわたる教育課程等の履修者数

事 項	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
長期にわたる教育課程の履修	9	11	16	22	27	34

(出典：学務課大学院室作成資料)

#### ④教育方法の特例

本研究科で必要と認めるときは、授業及び研究指導を夜間やその他特定の時間等にできるようにしている。(資料総 34)

資料総 34 信州大学大学院学則、信州大学大学院総合工学系研究科規程

(教育方法の特例)

第 39 条 教育上特別の必要があると認められる場合には、当該研究科において定めるところにより、夜間その他特定の時間又は時期において授業又は研究指導を行う等の適当な方法により教育を行うことができる。

(出典：信州大学大学院学則)

(教育方法の特例)

第 18 条 研究科において必要と認めるときは、授業及び研究指導を夜間その他特定の時間又は時期に行うことができる。

2 前項に規定するもののほか、教育方法の特例に関する事項は、別に定める。

(出典：信州大学大学院総合工学系研究科規程)

本研究科においては、約半数を社会人学生が占める。(資料総 35)

資料総 35 社会人学生数

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27
社会人学生数(人)	102	97	99	108	112	95
全学生数(人)	227	215	223	215	213	189
社会人学生の割合(%)	44.9	45.1	44.4	50.2	52.6	50.3

(出典：学校基本調査をもとに経営企画課作成)

(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由)

- 平成26年度に学術研究院を設置し、全学的な教育・研究マネジメントの体制を構築した(資料総16)。
- それぞれの専門性を活かした授業科目が体系的に配置されており、それに対応する教員数が十分に確保されている(資料総17、総18)。
- 博士論文の審査は、1名以上の外部審査員を加えた審査委員会によって厳正に行われており、論文審査基準を定め学生に周知している(資料総22、総23)。
- 信州大学の特色ある研究領域(カーボン、環境・エネルギー、ファイバー工学、山岳科学、バイオ・医療など)に資源を集中し、各領域を融合させて新たな研究領域の創出を目指すために新たに設置された「先鋭領域融合研究群」との連携を図り、最先端の高度な研究に基づく学生の指導を行うとともに、海外から招へいした研究者との交流を通じて学生のグローバル化を推進している(資料総25)。
- 平成24年度に学生相談センターを設置し学生支援体制を構築するとともに、サテライトオフィスの設置、夜間土日開講・長期履修の設定等により、社会人学生の履修に対する便宜を図っている(資料総30、総31、総32、総33)。

これらにより、高度専門技術者や研究者を目指す大学院生や社会人の期待に応えている。

観点 教育内容・方法

1 学位授与の方針に基づく教育課程の編成

①学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針

学位授与の方針は大学院全体、研究科、各専攻で、教育課程編成・実施の方針は大学院全体で定め、ホームページにより明確にしている（前掲資料総 3 p 3、前掲資料総 4 p 4、前掲資料総 5 p 4）。各専攻は、教育課程編成・実施の方針に基づき、修了時までには修得すべき知識・能力等を履修プロセス概念図において明示している（前掲資料総 11 p 8）。履修プロセス概念図では、入学時からコースワーク、研究指導、学位論文作成・審査、学位授与に至るまでの教育体系を明示している。

②博士課程学位プログラム

本学では、平成 26 年度より、通常の教育課程に加え、優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、理工学系研究科（修士課程）と総合工学系研究科（博士課程）を一貫して教育するプログラムを編成しており、同プログラムを実施するための履修コースを設けている。（資料総 36、総 37）

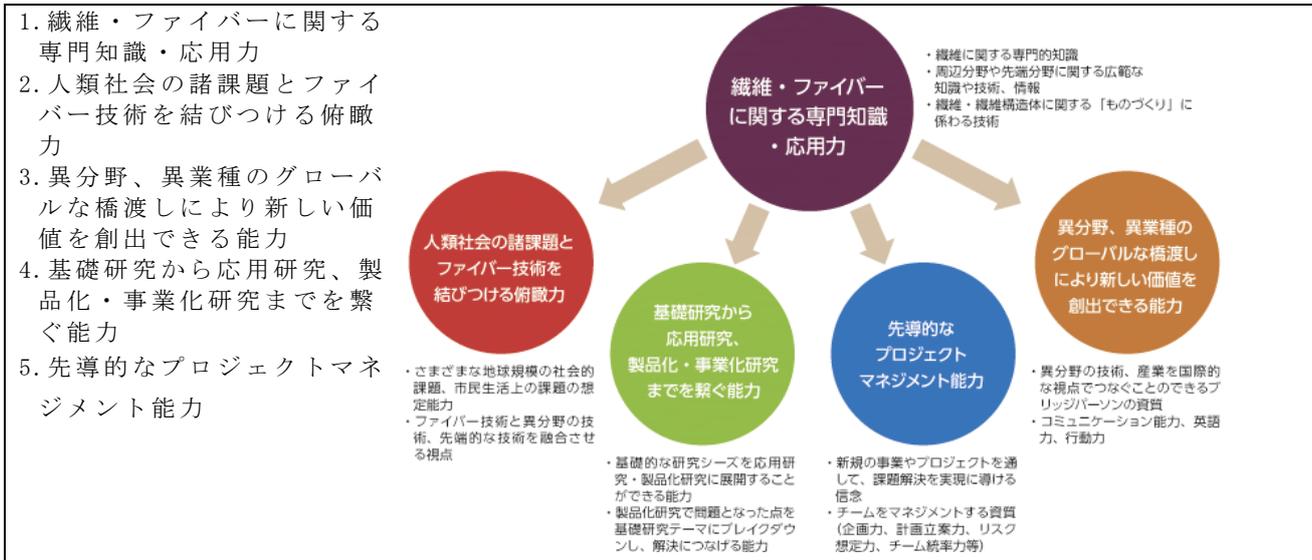
資料総 36 信州大学大学院学則、信州大学大学院総合工学系研究科規程 (博士課程学位プログラム)	
第 27 条の 3 本大学院は、優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、修士課程と博士課程を一貫して教育するプログラム（以下「博士課程学位プログラム」という。）として、次の各号に掲げるプログラムを編成する。	
(1) ファイバールネッサンスを先導するグローバルリーダーの養成プログラム	
(2) サステイナブルソサイエティグローバル人材養成プログラム	
(出典：信州大学大学院学則)	
(博士課程学位プログラム)	
第 2 条の 2 研究科の生命機能・ファイバー工学専攻に、大学院学則第 27 条の 3 第 1 項第 1 号に定めるファイバールネッサンスを先導するグローバルリーダーの養成プログラムを実施するために必要な履修コースを置く。	
2 前項の履修コースに関し必要な事項は、別に定める。	
第 2 条の 3 研究科の全ての専攻に、大学院学則第 27 条の 3 第 1 項第 2 号に定めるサステイナブルソサイエティグローバル人材養成プログラムを実施するために必要な履修コースを置く。	
2 前項の履修コースに関し必要な事項は、別に定める。	
(出典：信州大学大学院総合工学系研究科規程)	

資料総 37 博士課程学位プログラム受講者数			
プログラム名		H26 入学生	H27 入学生
ファイバールネッサンスを先導するグローバルリーダーの養成プログラム		8	10
サステイナブルソサイエティグローバル人材養成プログラム	サステイナブルエネルギーコース	1	1
	サステイナブルウォーターコース	0	0
	サステイナブルフードコース	2	0
(出典：経営企画課作成資料)			

②-1 ファイバールネッサンスを先導するグローバルリーダーの養成プログラム

本プログラムは、文部科学省の平成 25 年度博士課程教育リーディングプログラム（オンリーワン型）の事業に採択された。ファイバー工学分野において産業界で活躍できるグローバルリーダーを養成する教育を行っている。（資料総 38）

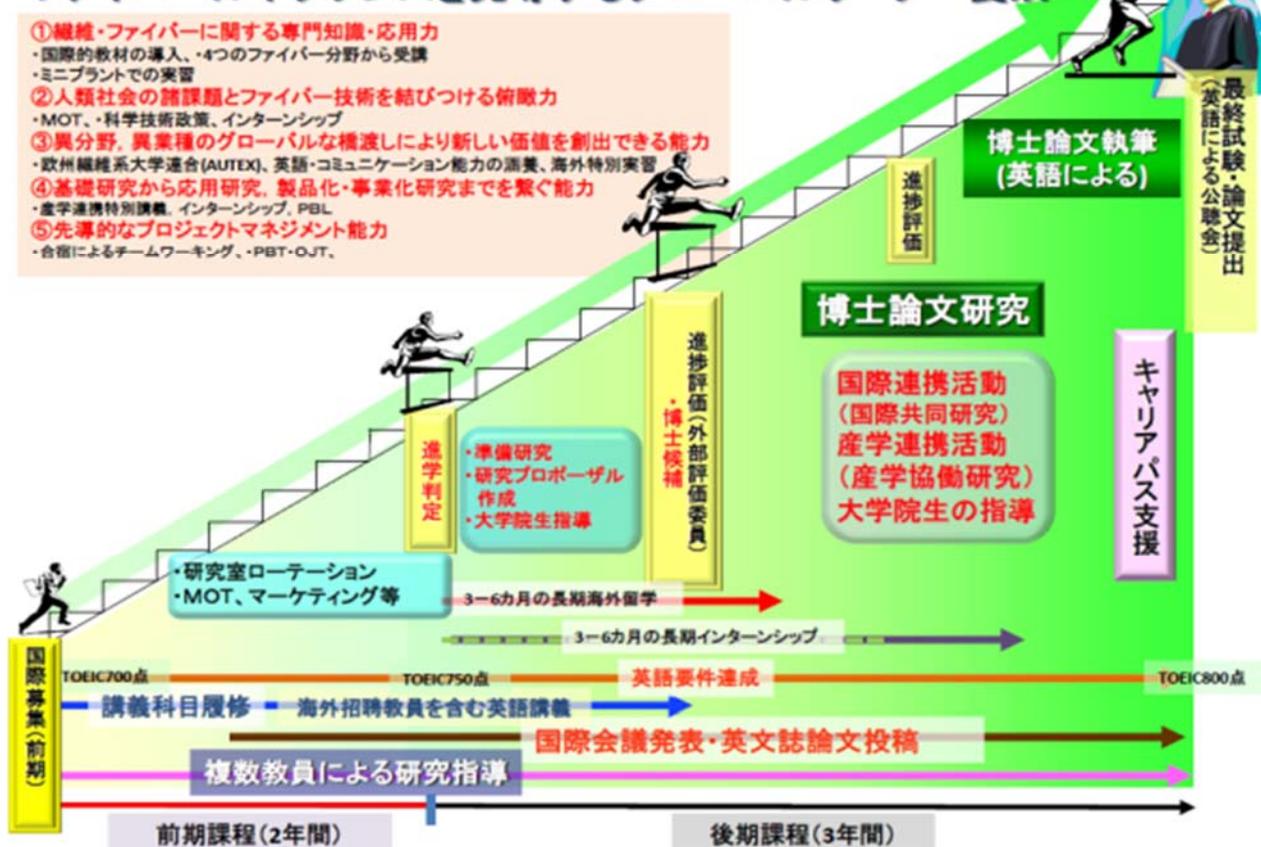
資料総 38 「ファイバールネッサンスを先導するグローバルリーダーの養成」で養成する人材像 ファイバー工学系分野における産業界で活躍できるグローバルリーダー 国際的な中核的教育研究拠点として、人材・技術・研究のハブとなる人物
--



(出典：信州大学ファイバールネッサンスを先導するグローバルリーダーの養成ホームページ「私たちが目指す人材のカタチ」)

プログラム概念図

ファイバールネッサンスを先導するグローバルリーダー養成



(出典：平成 25 年度博士課程リーディングプログラム プログラムの概要)

②-2 サステイナブルソサイエティグローバル人材養成プログラム

本プログラムは、平成 26 年度より以下の養成する人材像を掲げ教育を行っている。(資料総 39)

資料総 39 養成する人材像と習得知識・能力

**養成する人材像**

本学位プログラムでは、地域資源としての「エネルギー・水・食料」の自立(律)循環型コンパクトライフラインの実現を目指して、以下に示す人材を養成します。

- 新しい社会インフラを想像するという高い理念と信念を持った新規産業創成リーダー
- ・ エネルギー、水、食料のコンパクトライフライン要素技術や運用技術によるビジネス創成
  - ・ 要素技術の異分野応用による新規ビジネスへの展開（モバイル分野、メディカル分野など）

コンパクトライフライン社会インフラの構築を担う地域活性化リーダー

- ・ コンパクトライフライン社会インフラの社会実装に貢献する地域リーダーや行政マン
- ・ エネルギー、水、食料の地産地消ビジネスによる地域活性化

持続可能な社会インフラの構築を担う新興国グローバルリーダー

- ・ アジア・アフリカ諸国をはじめとする新興国で新しい社会インフラ構築に貢献
- ・ テクノクラートとして新しい社会インフラ政策の立案に貢献

習得知識・能力

新しい社会インフラを創造するという高い理念

- ・ 世界レベルの地球環境問題、エネルギー、水、食料の世界的な課題に対する深い理解
- ・ サステナビリティの概念の理解
- ・ 持続可能な社会経済活動を支える社会インフラのあるべき姿の深い理解と、新しい社会インフラの建設に貢献するという強い信念

基礎と応用を俯瞰する能力（十分な基礎学力と先端分野の深い専門性、応用展開力）

- ・ 深い専門性とそれを支える十分な基礎学力
  - ・ 研究の成果を応用につなげることのできる応用展開力
- エネルギー・水・食料の地域循環ライフラインをグローバルな視点で見ることのできる能力
- ・ コンパクトライフラインにおけるエネルギー、水、食料の相互関係の理解
  - ・ 自立（律）循環型ライフラインを複雑系システムとして捉え、資源の有効活用、省エネ、節水といった観点でシステム全体を俯瞰して見ることのできる能力

新規産業を創生する能力

- ・ コンパクトライフラインの要素技術やシステム運用などの高度な研究開発力
- ・ 新規ビジネスを展開するためのマーケティングを始めとする技術経営（MOT）能力
- ・ 産学官連携、異業種連携など異分野連携を推進するリーダーシップ能力

新しい社会インフラを社会実装する能力

- ・ コンパクトライフラインを社会実装するための関連政策の理解、また、政策に反映できる能力
- ・ コンパクトライフラインを実現することづくりやプロジェクトを推進できる能力
- ・ 地域に分散する資源（人、物、資金）を結び、地産地消ビジネスに展開できる能力

グローバル・リーダーとしての国際性

- ・ その国の社会構造、民族性、文化や社会インフラの課題に対する深い理解
- ・ 国際ビジネスを展開するためのネットワーク力
- ・ 国際コミュニケーション力

（出典：信州大学サステナブルサイエティグローバル人材養成プログラムホームページ「10年後の社会経済活動を牽引するリーダーとは」）

プログラム概念図



研究室ローテーション (M1)

所属研究室以外に2つの他研究室にそれぞれ2ヶ月間滞在し、それぞれの研究室でゼミナール形式の課題探索、実験計画法、課題解決法を学び、実験・実習を通して幅広い実践的なスキルを身につけます。

インターンシップ (M2)

企業や研究機関でインターンシップ実習を行い、問題設定能力や課題解決能力と共に、広い視野を身につけることを目的としています。単にインターンシップへ参加するだけでなく、インターンシップへ参加する前後に、事前・事後教育を受講します。

海外留学 (D2)

海外の大学へ3ヶ月程度留学し、単なる語学留学ではなく、研究に参加して実証試験の経験等をつみます。また、国際的なコミュニケーション力を身につけます。

MOT 関連科目 (M1~D3)

信州大学経営大学院イノベーションマネジメント専攻が開講するグリーンMOTカリキュラムを5年間の中で履修し、技術経営に必要な知識を身につけ

(出典：信州大学サステイナブルソサイエティグローバル人材養成プログラムホームページ「カリキュラム」)

## 2 教育方法・学習支援の工夫

### ①履修計画、履修指導

本研究科修了要件等は、学則及び研究科規程により定めている。(資料総 40)

資料総 40 信州大学大学院学則、信州大学大学院総合工学系研究科

第 42 条 (略)

2 総合工学系研究科博士課程の修了の要件は、当該課程に 3 年以上在学し、10 単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、当該研究科が優れた研究業績を上げたと認める者については、当該課程に 1 年以上在学すれば足りるものとする。

(出典：信州大学大学院学則)

(履修方法等)

第 8 条 研究科の教育は、授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導(以下「研究指導」という。)によって行う。

2 学生は、授業科目を履修し、10 単位以上を修得するものとし、その履修方法は、別に定める。

3 学生は、大学院学則第 8 条第 4 項に定める研究指導を担当する教授、准教授、講師又は助教(以下「指導教員」という。)が特に必要と認めるときは、理学部、工学部、農学部又は繊維学部の授業科目を履修することができる。ただし、その単位は、前項に規定する単位に算入しないものとする。

(出典：信州大学大学院総合工学系研究科規程)

### ②大学院共通教育科目

本学では、専門によらず大学院生にとって有意な科目を他研究科の学生が受講することで広い視野を身につけてもらうことを目的に、遠隔講義システム等を活用して大学院共通教育科目を開講している。(資料総 41)

資料総 41 平成 27 年度大学院共通教育科目一覧

開講研究科	科目名	時期	単位	開講キャンパス	備考
経済・社会政策科学研究所	地域の産業と雇用Ⅱ(地域社会と情報技術)	前期	2	松本キャンパス	
理工学系研究科	科学英語	後期	2	松本キャンパス	遠隔講義システムによる配信
	大学院生と社会	前期	2	松本キャンパス	遠隔講義システムによる配信
農学研究科	食と緑の科学特論	前期	2	伊那キャンパス	

(出典：学務課大学院室作成)

## 3 社会のニーズに対応した教育の工夫

### ①インターンシップ

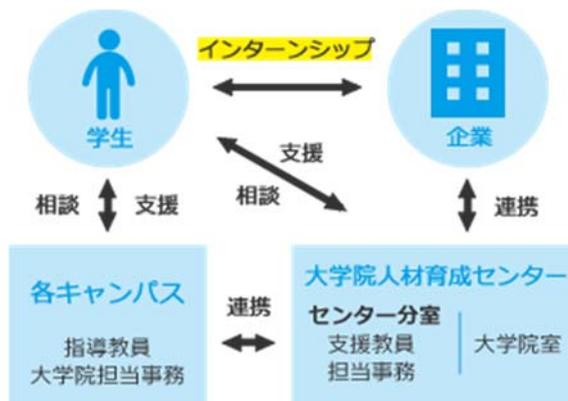
平成 21 年度設置のイノベーション創発人材育成センターを発展させ、平成 26 年度より理工学系研究科、農学研究科、総合工学系研究科の学生のインターンシップを支援する大学院人材育成センターを設置し、キャリアパスインターンシッププログラムと高度人材育成インターンシッププログラムにより、学生の目的に応じた支援を行っている。(資料総 42、総 43、総 44)

資料総 42 大学院人材育成センターの概要

「大学院人材育成センター」では、大学院で学んだ研究成果を実用化につなげるべく、インターンシップを通じた人材育成をサポートしています。インターンシップを成功させるためには、事前教育や企業との綿密なコミュニケーションが欠かせません。当センターは、協力企業や各キャンパスの指導教員と連携し、学生との間に立つ「調整役」をつとめていきます。また、「キャリアパスインターンシッププログラム」「高度人材育成インターンシッププログラム」の 2 通りを用意し、個々の目的に応じた機会創出をめざしています。

大学院人材育成センターのサポート体制

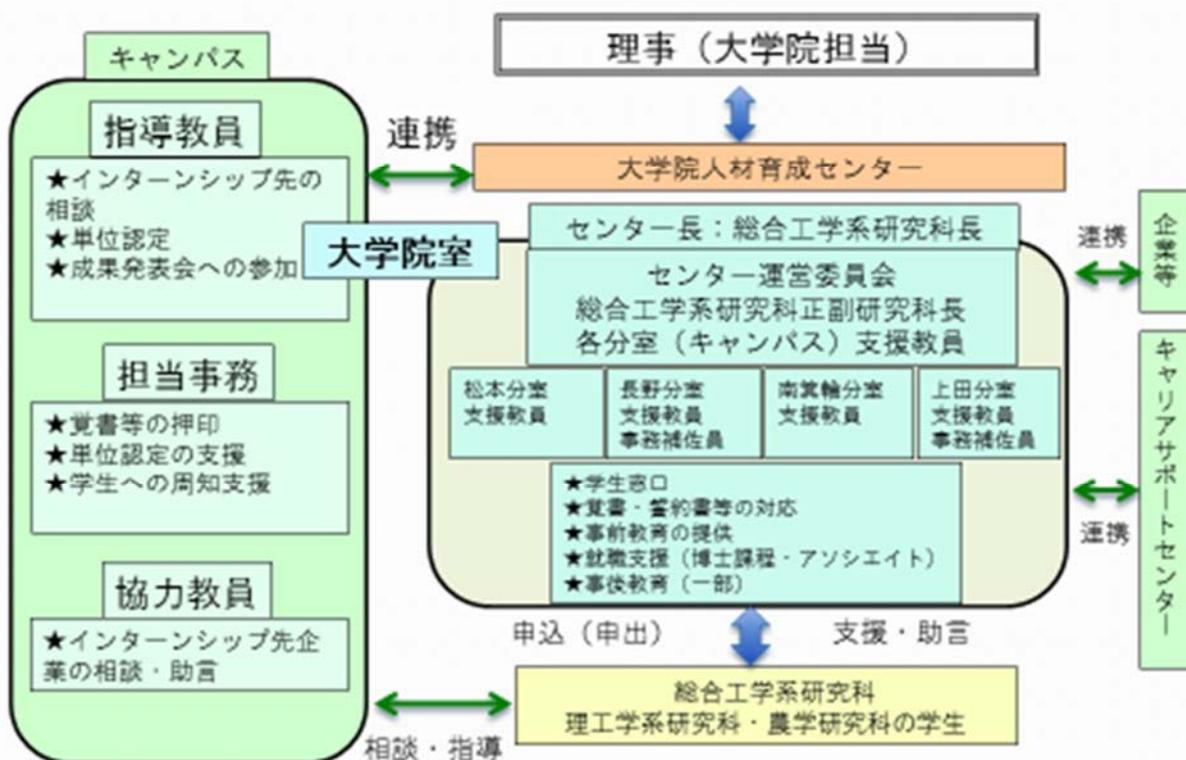
1. 博士課程学生及び修士課程学生のキャリアパス支援  
 対象：博士課程2年次生、修士課程1年次生  
 事前教育、マッチング会、企業へのインターンシップを通じたキャリアパス支援  
 必要に応じて単位取得可能
2. 修士課程学生の長期インターンシップ支援（単位修得）  
 対象：修士課程1年次生、一部修士課程2年次生（学位プログラムコース学生）  
 学外特別講義（長期）2単位（事前教育、事後教育、成果発表会）  
 学外特別実習（長期）2単位（企業実習90時間以上）
3. 学生のインターンシップに係る相談  
 対象：修士課程学生、博士課程学生  
 実習前講義の配信  
 相談・届出窓口、  
 保険加入等の学生への指導 他
4. その他  
 インターンシップ先企業の開拓及びアフターケア  
 インターンシップを実施する学生の把握  
 指導教員等の調整  
 単位認定のための資料等提供



(出典：信州大学大学院人材育成センターホームページ)

資料総 43 大学院人材育成システムの取組体制

大学院人材育成システムの取組体制



(出典：学務課大学院室作成)

資料総 44 大学院人材育成センターによるインターンシップ実施状況

信州大学大学院総合工学系研究科 分析項目 I

研究科名	キャリアパスインターンシップ		高度人材育成インターンシップ	
	H26	H27	H26	H27
総合工学系研究科	5	8	0	2

(出典：学務課大学院室作成)

同センターの設置は、文部科学省等の事業に採択され実施した長期インターンシップ等の成果を踏まえ、設置したものである。(資料総 45)

資料総 45 文部科学省等のインターンシップ採択プログラム一覧

事業名	プログラム名	対象研究科	期間
文部科学省「産学連携による実践型人材育成事業－長期インターンシップ・プログラムの開発－」	「創業マインド」の継承による高度人材育成	工学系研究科 (現理工学系研究科)	H17～H21
	長寿長野を支える機能性食品の開発人材養成	農学研究科	H18～H22
科学技術振興機構「科学技術イノベーション創出基盤構築事業」	イノベーション創発人材育成システム	総合工学系研究科	H21～H25

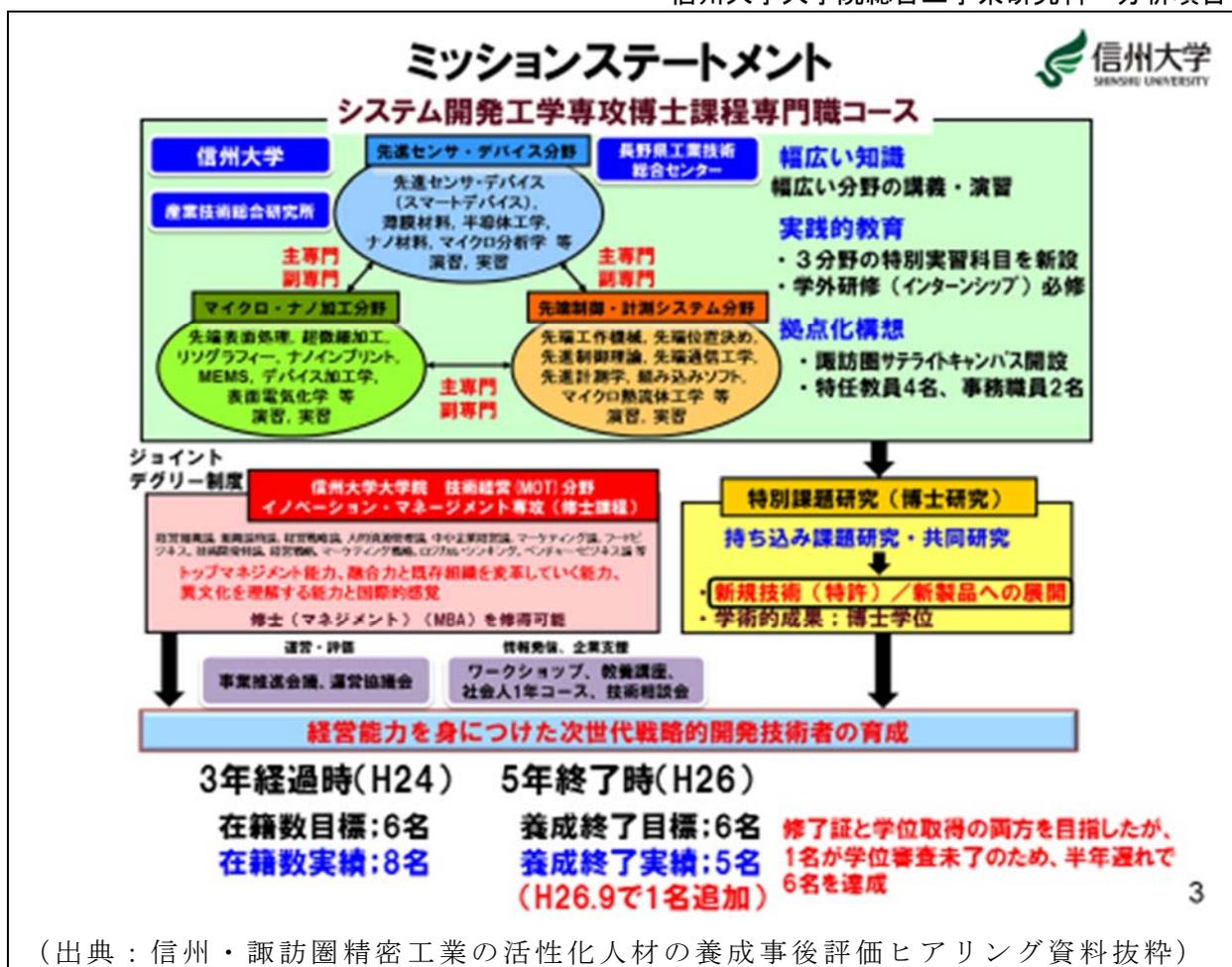
(出典：経営企画課作成)

②博士課程専門職コース

システム開発工学専攻では、文部科学省科学技術総合推進費－地域再生人材創出拠点の形成「信州・諏訪圏精密工業の活性化人材の養成」（平成21年度～25年度）の採択を受け、地域企業、長野県工業技術総合センター、(独)産業技術総合研究所、関係自治体（岡谷市）と連携して、システム開発工学専攻に博士課程専門職コースを設置した。

信州・諏訪圏産業と関わりの深い先進センサ・デバイス、マイクロ・ナノ加工、先端制御・計測システムの3分野を開設し、授業科目の追加、3分野の特別実習科目の新設や学外研修（インターンシップ）を必修にするなどして、一般コースの10単位から20単位に増やして修了要件を設定している。平成26年9月までに6名の修了生を輩出、平成27年度は3名が在籍している（資料総46）。

資料総46 博士課程専門職コース
------------------



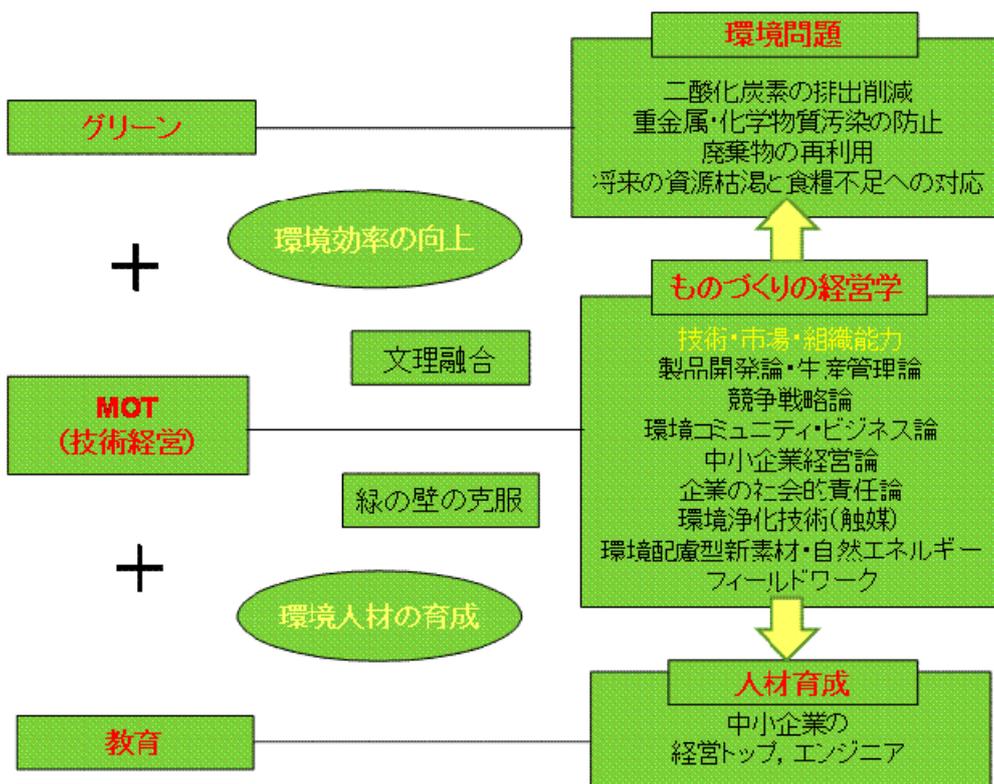
③ グリーンMOT ジョイント・ディグリープログラム

環境マインドに基づき広い視野に立って精深な学識を授け、専攻分野における研究能力に加えて高度な専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を修得させ、さらに、環境マインドに基づく技術経営能力及び創造性豊かな優れた研究・開発能力を併せ持つ人材となるための教育プログラムとして、本学の経済・社会政策科学研究科と連携し、ダブルディグリー制度「グリーンMOT ジョイント・ディグリープログラム」を実施している。(資料総47)

資料総47 グリーンMOT ジョイント・ディグリープログラム

① グリーンMOT教育プログラムの概要

本プログラムは「グリーン」+「MOT」+「教育」の3つの要素を基本コンセプトとしています。「MOT」(Management of Technology)とは「技術経営」を意味しますが、私たちは広い意味での「ものづくりの経営学」として捉えています。



② 関連科目

- サステナビリティ学**
- サステナビリティ概論: SUSTAINABILITY-ORIGINS, PRINCIPLES AND IMPLICATIONS
  - サステナビリティ各論: ENVIRONMENTAL SUSTAINABILITY AND BUSINESS OPPORTUNITIES
  - 環境調査: フィールドワーク
- 環境経営系科目**
- 環境経営論Ⅰ: 環境経営学
  - 環境経営論Ⅱ: 環境コミュニティ・ビジネス論
  - 環境経営論Ⅲ: 中小企業の環境経営
  - 環境経営論Ⅳ: 企業の社会的責任
- 環境技術系科目**
- 環境技術Ⅰ: 環境技術への化学的アプローチ
  - 環境技術Ⅱ: 環境にやさしい材料と自然エネルギー

(出典: 信州大学経済・社会政策科学研究科ホームページ「信州大学グリーンMOT(技術経営)教育プログラム」)

③ 対象 (ジョイント・ディグリー選抜)

出願資格

次の(1), (2)のいずれかに該当する方とします。

(1) 平成28年3月に信州大学大学院工学系研究科を修了見込みの方で、引き続き信州大学大学院総合工学系研究科へ進学見込みの方

(2) 信州大学大学院総合工学系研究科の1年次に在学する方

選抜方法

入学者の選抜は、書類審査及び面接試験の結果を総合して行います。

試験内容等 面接試験(履修能力の判定を行います。問題意識, 適性, 職務及び社会活動歴等も重視します。)

(出典:「経済・社会政策科学研究科イノベーション・マネジメント専攻(独立専攻)学生募集要項(4月入学)ジョイント・ディグリー学生選抜」)

④履修者数

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27
履修者数	2	1	1		1	

(出典:学務課大学院室作成)

4 国際通用性のある教育の工夫

①国際交流協定

本学は資料総48のとおり国際交流協定を締結している。

資料総48 国際交流協定一覧

大学間交流	アメリカ	ユタ大学、オクラホマ州立大学、南オレゴン大学、カリフォルニア州立大学チョコ校
	メキシコ	CINVESTAV 大学院大学
	ブラジル	パラナ連邦工科大学
	オーストラリア	カーティン大学、オーストラリア南極研究所
	フィンランド	国立フィンランド測地研究所
	フランス	ラ・ロッシュェル大学、フランス国立繊維工芸工業高等学院、リール第一大学、フランス国立情報学自動制御研究所(INRIA)
	ドイツ	ライプツィヒ大学、マンハイム大学
	ベルギー	カトリック大学ルーヴァン
	オランダ	ゾイド大学
	イタリア	ヴェネツィア・カ・フォスカリ大学
	スペイン	アルカラ大学カルデナル・シスネロスカレッジ
	ポーランド	ピアリストク大学、ピアリストク工科大学、シレジア工科大学、ワルシャワ大学
	ロシア	ヴィートゥス・ベーリング名称カムチャツカ国立大学、極東連邦大学
	モロッコ	モハメド五世大学アグダル校
	モンゴル	モンゴル科学技術大学
	中国	同濟大学、河北農業大学、蘭州大学、河北医科大学、蘇州大学、東華大学、中国地質大学、北京工業大学、太原理工大学、浙江理工大学、北京外国語大学、天津工業大学、北京化工大学、山東大学、西南大学、河南農業大学、重慶師範大学、對外經濟貿易大学
	台湾	輔仁大学
	韓国	江原大学校、尚志大学校、光云大学校、韓国カトリック大学校、崇實大学校、順天大学校、建国大学校、嶺南大学校、檀国大学校、漢陽大学校、忠南大学校、全南国立大学アランマクジアミドエネルギー研究所
	タイ	チェンマイ大学、カセサート大学、チュラロンコン大学、ナレースワン大学、サイアム大学
	インド	インド工科大学マドラス校
ベトナム	ベトナム国家大学ハノイ-工業技術大学、ハノイ工科大学、FPT 大学、ダラット大学	
マレーシア	UPM (マレーシアプトラ大学)、マラヤ大学	
インドネシア	プリタハラパン大学、ウダヤナ大学、アンダラス大学、ボゴール農科大学	
ミャンマー	ヤンゴン工科大学	

(出典:「大学概要 2015」をもとに経営企画課作成)

② 学生への学会参加に伴う支援

学生の研究活動の推進を図るため、国内外の学会参加に伴う交通費を支援している。  
(資料総 49)

資料総 49 学会参加に伴う交通費支援状況 (延べ人数)

キャンパス	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
松本キャンパス	15	16	29	39	37	39	17
長野(工学)キャンパス	17	29	8	11	12	15	12
伊那キャンパス	12	23	14	24	16	27	11
上田キャンパス	136	54	16	20	12	9	8

(出典：総合工学系研究科作成)

③ ダブルディグリープログラム

本研究科は、アンダラス大学 (インドネシア、平成 24 年度～) とダブル・ディグリープログラムを実施している。(資料総 50、総 51)

資料総 50 ダブルディグリープログラム  
【アンダラス大学】

SYLLABUS of Master Program (Case 1 : Biology)

First Year at Andalas University		Second Year at Shinshu University	
Course Title	Credits	Course Title	Credits
<b>Semester I</b> 18			
Environmental Biology	3		
Biodiversity Conservatic	3		
Electives (2 x 3)	6		
Research Proposal	6		
<b>Semester II</b> 12			
Ecologica Method	3		
Plotected Area Manager	3		
Electives (2 x 3)	6		
		<b>Semester III</b> 18	
		Seminar of Earth Science and Biology I	2
		Electives (8 x 2)	16
		<b>Semester IV</b> 12	
		Seminar of Earth Science and Biology II	2
<b>Master Thesis</b>		<b>Master Thesis</b>	10
		(Special Research on Earth and Biosphere Sciences)	
<b>Total Credits</b>	<b>30</b>	<b>Total Credits</b>	<b>30</b>

Elective:	Elective:
Conservation Biology	Adaptational Ecology
Coastl Management	Phyto-diversity
Restoration Ecology	Comparative Developmental Biology
Agroecology	Genetic Information
Forest Ecology and Silviculture	Evolutionary Ecology
Aquaculture	Developmental Biology
etc.	Physiological Signaling
	Plant Evolutionary Biology
	Evolutionary Ecological Genetics
	Phylogeny and Comparative Embryology
	Special Lecture of Advanced Sciences etc.

証明書

氏 名  
年 月 日

本証明書は、上記の者が、日本国における信州大学大学院理工学系研究科及びインドネシア共和国におけるアンダラス大学大学院自然科学研究科の共同により編成された教育課程を修了したもので、信州大学より修士(理学)の学位を、アンダラス大学より、修士(理学)の学位を授与されたことを証明するものである。

なお、信州大学及びアンダラス大学においては、上記の者に対し、別途両大学が所在する国の法令に基づく学位記が発行されている。

平成 年 月 日

信州大学長 印

アンダラス大学長 印

(出典：教育研究評議会資料を元に経営企画課作成)

資料総 51 ダブルディグリー参加状況 (派遣開始年度)

プログラム名		H22	H23	H24	H25	H26	H27
アンダラス大学とのプログラム	アンダラス⇒本学	/	/	0	1	0	0
	本学⇒アンダラス	/	/	0	0	0	0

(出典：学務課大学院室作成)

④ 国際ファイバー工学コース

生命機能・ファイバー工学専攻では、3期(1期：平成10～14年度、2期：平成14～18年度、3期：平成19～23年度)にわたるCOEプログラムを通じてわが国における繊維科学の教育研究拠点を形成するとともに、グローバルCOEプログラム「国際ファイバー工

学教育研究拠点」(第3期)では大学院のグローバル化に取り組んできた。

本専攻をベースに設置した「国際ファイバー工学コース」では、すべての科目を英語で実施することを原則とし、国際的に通用するファイバー工学分野の体系的な教育カリキュラムを実践している。

第2期中期目標・中期計画期間中においては、56名のコース修了生があり、6年間のコース履修者の投稿論文数は292件、国際会議の発表件数は409件と、高い水準を示している(資料総52)。プログラムが終了した平成24年度以降も自主事業として「国際ファイバー工学コース」を継続して教育研究を推進している。

また、学位取得のためには、国際学会における英語による研究発表を奨励し、かつ、各講座において定められた数以上の査読付きジャーナルに英語論文を公表すること、学位論文を英語で作成し、公聴会において英語による発表を義務づけている。

資料総52 国際ファイバー工学コース履修者のパフォーマンスの状況  
(第2期中期目標・中期計画期間)

事項	件数
コース修了生の数	56
投稿論文の件数	292
投稿論文の件数(学生一人当たり)	1.13
国際会議の発表件数	409
国際会議の発表件数(学生一人当たり)	1.45
受賞者の数	35

(出典：繊維学部)

#### ⑤ 特別演習・学外研修

高度な基礎力と深い専門性の養成を目的として、研究課題に直接関係する領域についてゼミナール方式の演習を行う「特別演習Ⅰ」、専門分野以外の領域への研究の展開が図れるよう関連する他専攻、他大講座の教員、学生等を加えた研究会に参加させ、新しい分野への研究展開、新領域開発能力、新分野への挑戦能力を身につけさせることを目的とした「特別演習Ⅱ」、官公庁や企業等の研究機関における実務訓練を受ける「学外研修」、「知財管理」、「科学技術政策特論」を設けている。(資料総53、総54、総55)

#### 資料総53 特別演習の特徴

##### 【生命機能・ファイバー工学専攻】

指導教員が主催するセミナーはもとより、国内外での研究発表を奨励し、英語を含めたプレゼンテーション力を身につけさせている。

##### 【システム開発工学専攻】

学会の研究会やシンポジウムを始め、学内外での研究発表やプレゼンテーションを行って、新しい分野への研究展開、新領域開発能力、新分野への挑戦能力を身につけさせている。

##### 【物質創成科学専攻】

「特別演習Ⅰ」(必修)で国際的に最先端の論文内容を理解させ、高度な深い専門的基礎力を涵養するよう取り組んでいる。

##### 【山岳地域環境科学専攻】

「特別演習」ならびに「特別課題研究」においては、フィールドを対象とするものが多く

、現場に根ざした実践型の教育・研究が行われており、教員の多くは山岳総合研究所（平成26年度から山岳科学研究所）との関わりを持っており、研究所との連携の中で、学生のフィールドワーク及びラボワークに関して充実した指導体制を構築している。

【生物・食料科学専攻】

学外において開催される学会，研究会に出席し研究発表を通じて，プレゼンテーション能力の育成，新たな研究展開を行う能力などの育成も行えるようにしている。

（出典：学務課大学院室作成）

資料総54 学外研修の特徴

【生命機能・ファイバー工学専攻】

海外の大学・研究機関へのインターンシップ参加を奨励し，経済支援を実施している。また，e-Learningを用いた英語学習システムを充実させ自己学習を奨励するとともにTOEICスコアを用いて学習成果を評価している。

【物質創成科学専攻】

グローバル化に迎合する情報収集能力や専門分野の研究開発を展開できる応用力も涵養することを目指している。より実践的なグローバル社会に対応するために，国内外での「学外研修」（選択）が可能となっている。

（出典：学務課大学院室作成）

資料総55 「知財管理」、「科学技術政策特論」の特徴

【知財管理】

基礎内容を時事的・具体的事例と共に学ぶことで，社会における重要性を十分に理解することを目標とする。知的財産の定義とその重要性，位置づけを学んで理解し，現在の研究および将来の業務に活用できるようにする。また，知的財産制度を理解することで，成果の創出や保護を的確に行えるよう講義する。

【科学技術政策特論】

隔年開講。研究開発に取り組むうえで承知しておくべき科学技術政策上のトピック（例：政策，科学技術史，産学官連携，地域活性化）に関して，必要に応じて外部有識者による講義も交えて紹介することにより，大学や社会で行われる研究開発と社会・経済との関連についての理解を深める。

（出典：信州大学大学院総合工学系研究科（博士課程）便覧 I）

（水準）期待される水準を上回る。

（判断理由）

- ・優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、修士課程と博士課程を一貫して教育する「博士課程学位プログラム」を実施している。（資料総36、総37、総38、総39）
- ・大学院共通科目（資料総41）、特別演習（資料総53）、学外研修（資料総54）、知財管理、科学技術政策論（資料総55）を開講し、学生に対して幅広い学修の機会を与えている。
- ・大学院人材育成センターを設置し、学生のキャリアパス支援を実施している。（資料総42、総43）
- ・博士課程専門職コースを設置し、社会人や地域企業のニーズに対応している。（資料総46）
- ・グリーンMOTジョイント・ディグリープログラムを実施し、環境マインドに基づく技術経

営能力及び創造性豊かな優れた研究・開発能力を併せ持つ人材を育成している。（資料総47）

- ・インドネシア・アンダラス大学とのダブルディグリープログラムの実施（資料総50、総51）、国際ファイバー工学コースの設置により、大学院教育のグローバル化を実践している。（資料総52）

以上の観点により、本研究科が目指す、創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者・技術者、並びにグローバル人材を養成するための教育を実践しており、高度専門職業人や研究者を目指す大学院生や社会人の期待に対して、その水準を上回っていると判断する。

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

1 修了、退学、休学の状況

① 修了・退学・休学

本研究科の修了、退学、休学の状況は、次のとおりである。(資料総 56、総 57)

資料総 56 標準修業年限内修了率及び「標準修業年限内×1.5」年内修了率

	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
標準修業年限内	24.2%	42.9%	26.3%	38.7%	48.1%	39.7%	32.8%
標準修業年限内×1.5	61.8%	61.2%	47.1%	56.7%	59.6%	49.2%	32.8%

(出典：H25 年度受審認証評価のデータをもとに大学院室作成)

資料総 57 退学、休学率

	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
退学率	6.6%	5.8%	8.4%	9.3%	7.9%	6.4%	8.0%
休学率	8.1%	5.8%	5.6%	9.0%	8.3%	7.8%	9.0%

※退学率は、該当年度の在籍者で除した割合。  
 ※休学率は該当年度 5 月 1 日現在の数を該当年度の在籍者数で除した割合。  
 (出典：H25 年度受審認証評価のデータをもとに大学院室作成)

② 博士課程専門職コースの修了状況

博士課程専門職コースの修了状況は次のとおりである。(資料総 58)

資料総 58 博士課程専門職コースの修了状況

	H21 年度	H22 年度	H23 年度	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度
修了者数				2	3	2	1

(出典：工学部より)

2 学会等における受賞

学生は、学会等で資料総 59 のとおり受賞している。

資料総 59 学会等における受賞状況

平成 22 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第 63 回日本繊維機械学会 学術奨励賞受賞 (2 件)</li> <li>○ 第 5 回情報危機管理コンテスト 経済産業大臣賞 (優勝) 受賞</li> <li>○ 平成 22 年度化学工学会 学生賞銀賞及び奨励賞受賞</li> <li>○ 化学工学会第 42 回秋季大会超臨界流体部会主催シンポジウム シンポジウム学生賞受賞</li> <li>○ 平成 22 年電気学会・基礎・材料共通部門大会 優秀発表賞受賞者</li> <li>○ 第 26 回個体群生態学会 ポスター講演最優秀賞</li> <li>○ 平成 22 年度 (第 43 回) 照明学会全国大会 優秀ポスター発表者賞受賞</li> <li>○ IUMRS-ICEM 2010 (電子材料に関する国際会議) Best Poster Presentation Awards を受賞</li> <li>○ 第 18 回衛星設計コンテスト 電子情報通信学会賞受賞</li> <li>○ 第 21 回ヤンマー学生懸賞論文・作文入選発表会 論文の部大賞受賞</li> <li>○ 電気関係学会東海支部連合大会 連合大会奨励賞受賞</li> <li>○ 第 53 回自動制御連合講演会 優秀発表賞受賞</li> <li>○ 計測自動制御学会中部支部シンポジウム 2010 論文賞受賞</li> <li>○ 日本機械学会 北陸信越学生会第 40 回学生員卒業研究発表講演会 北陸信越支部賞学生賞受賞</li> <li>○ Network Skills Competition 2011 Spring 優秀賞受賞</li> </ul>
平成 23 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 情報処理学会インターネット運用技術研究会第 13 回研究発表会 学生奨励賞受賞</li> <li>○ 9th International Symposium on the Characterisation of Porous Solids ポスターアワード受賞</li> <li>○ 平成 23 年度化学工学会札幌大会 学生賞銀賞及び奨励賞 (3 件) 受賞</li> <li>○ 2011 年電気化学秋季大会北陸支部企画若手ポスターセッション 優秀賞受賞</li> <li>○ Network Skills Competition 2011 Summer 優秀賞及び敢闘賞受賞</li> <li>○ 平成 23 年度 U-20 プログラミング・コンテスト (第 32 回) 経済産業大臣賞受賞</li> <li>○ 化学工学会第 43 回秋季大会超臨界流体部会主催シンポジウム 学生賞受賞</li> <li>○ 第 23 回日本環境動物昆虫学会年次大会 奨励賞受賞</li> <li>○ 日本地下水学会 2011 年春季講演会 若手優秀講演賞受賞</li> <li>○ 第 38 回炭素材料学会年会 ポスター賞</li> <li>○ 第 4 回「テクノルネサンスジャパン」 優秀賞受賞</li> <li>○ 電気関係学会東海支部連合大会 奨励賞受賞</li> <li>○ 2011 年度色材研究発表会 優秀ポスター賞受賞</li> <li>○ エネルギー・環境問題新聞スクラップ作品コンクール 奨励賞受賞</li> <li>○ 文部科学省主催サイエンス・インカレ 数物・化学系の卒業研究に関連しない部門 (ポスター部門) 奨励賞受賞</li> <li>○ 計測自動制御学会第 28 回センシングフォーラム 学術奨励賞技術奨励賞受賞</li> </ul>

平成 24 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 油空圧機器技術振興財団 論文賞受賞</li> <li>○ E-MRS 2012 Spring Meeting 2nd Poster Award 受賞</li> <li>○ 分離技術会年会 2012 平成 24 年度分離技術会年会学生賞</li> <li>○ 繊維学会年次大会 若手ポスター発表賞受賞</li> <li>○ 日本溶射学会 2012 年春季全国講演大会 2012 年度日本溶射学会奨励賞受賞</li> <li>○ 第 65 回日本繊維機械学会 日本繊維機械学会学術奨励賞受賞 (2 名)</li> <li>○ 化学工学会横浜大会 平成 24 年度化学工学会横浜大会学生賞特別賞受賞 (2 名) 銅賞受賞 (2 名) 金賞受賞</li> <li>○ 化学工学会第 44 回秋季大会 超臨界流体部会主催シンポジウム優秀学生賞 (3 名) 基礎物性部会主催シンポジウム優秀学生賞</li> <li>○ 日本地質学会第 119 年学術大会 優秀ポスター賞受賞 (2 名)</li> <li>○ 第 21 回ソノケミストリー討論会 奨励賞受賞</li> <li>○ 第 17 回高分子ミクロスフェア討論会 学生優秀発表賞受賞</li> <li>○ 日本数学教育学会第 45 回数学教育論文発表会 日本数学教育学会学会賞 (大学院研究奨励部門) 受賞</li> <li>○ 表面技術協会第 126 回講演大会 第 1 回学生優秀講演賞受賞</li> <li>○ 日本金属学会北陸信越支部・日本鉄鋼協会北陸信越支部平成 24 年度連合講演会 学生発表の部門優秀学術発表受賞</li> <li>○ 第 39 回炭素材料学会年会 ポスター賞受賞</li> <li>○ 第 7 回日本磁気科学学会年会 研究奨励賞受賞</li> <li>○ キャンパスベンチャーグランプリ東京 優秀賞・りそな銀行特別賞受賞</li> <li>○ 2012 年度精密工学会北陸支部学術講演会 ベストプレゼンテーション賞受賞</li> <li>○ 日本陸水学会甲信越支部大会 口頭発表賞受賞, ポスター賞受賞 (2 名)</li> <li>○ 第 6 回日本電磁波エネルギー応用学会シンポジウム ベストペーパー賞優秀賞受賞</li> <li>○ 日本フルードパワーシステム学会 平成 24 年度学術論文賞受賞</li> <li>○ 第 2 回サイエンス・インカレ Nature 賞受賞</li> <li>○ 電気化学会第 80 回大会 ポスター賞受賞 (2 名)</li> <li>○ 第 13 回理工系学生科学技術論文コンクール 特別賞受賞</li> </ul>
平成 25 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第 33 回日本生体医工学会甲信越支部大会優秀賞</li> <li>○ The 9th Asia Pacific Conference on Sustainable Energy and Environmental Technologies (APCEET 2013)</li> <li>○ 計測自動制御学会中部支部シンポジウム生体計測賞受賞</li> <li>○ TBIS2013 Best Poster Award 受賞</li> <li>○ 第 23 回インテリジェント・システム・シンポジウム・プレゼンテーション賞</li> <li>○ 第 15 回感性工学会大会・優秀発表賞</li> <li>○ 第 15 回日本感性工学会大会優秀発表賞</li> <li>○ 第 61 回レオロジー討論会 ポスター賞</li> <li>○ 15th IUBMB -24th FAOBMB-TSBMB Conference</li> <li>○ The Second Asian Conference on Information Systems Special Session Award</li> <li>○ 第 44 回 中部化学関係学協会支部連合秋季大会 東海高分子優秀学生発表賞</li> <li>○ 日本機械学会 三浦賞</li> <li>○ China-Japan-Korea International Symposium on Advanced Functional Symposium on Advanced Functional Fibers for Young Researchers</li> <li>○ 日本陸水学会甲信越支部大会(清里)</li> <li>○ 電気学会/電子・情報・システム部門平成 25 年度技術委員会奨励賞</li> <li>○ 平成 25 年度空気調和・衛生工学会大会 優秀講演奨励賞</li> <li>○ 第 86 回日本生化学会大会鈴木紘一メモリアル賞</li> <li>○ 日本造園学会中部支部大会最優秀学生発表賞</li> </ul>

平成 26 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日本繊維機械学会賞「ベストポスター発表賞」日本繊維機械学会第67回年次大会</li> <li>○ 平成26年度繊維学会年次大会「若手優秀発表賞」</li> <li>○ Outstanding Student Papers Competition in Textile Bioengineering and Informatics Symposium2014</li> <li>○ 精密工学会2014年度北海道支部学術講演会優秀プレゼンテーション賞</li> <li>○ 計測自動制御学会中部支部シンポジウム計測賞</li> <li>○ 計測自動制御学会中部支部シンポジウム生体計測賞</li> <li>○ 第30回センシングフォーラム計測部門研究・技術奨励賞</li> <li>○ 日本感性工学会第15回大会「優秀発表賞」</li> <li>○ 日本感性工学会第16回年次大会 日本感性工学会「優秀発表賞」</li> <li>○ 日本生物高分子学会2014年度大会</li> <li>○ 日本生物高分子学会2014年度大会</li> <li>○ 日本菌学会第58回大会学生発表優秀賞</li> <li>○ 酪農科学シンポジウム若手優秀ポスター賞</li> <li>○ アジアベントス学会ポスター賞</li> <li>○ 日本陸水学会第79回大会（つくば大会）優秀ポスター賞受賞（2名）</li> </ul>
平成 27 年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 第24回ソノケミストリー討論会奨励賞受賞</li> <li>○ 日本陸水学会第80回函館大会優秀口頭発表賞受賞</li> <li>○ 日本地球惑星科学連合2015年大会学生優秀発表賞受賞（2名）</li> <li>○ 第29回 エレクトロニクス実装学会春季講演大会 講演大会優秀賞</li> <li>○ 酪農科学シンポジウム若手優秀ポスター賞</li> <li>○ 日本畜産学会第120回大会優秀発表賞</li> <li>○ IEEE Robotics and Automation Society Japan Chapter Young Award (2015)受賞</li> <li>○ 公益社団法人高分子学会 優秀ポスター賞受賞</li> <li>○ 繊維機械学会賞 学術奨励賞受賞</li> <li>○ 東海高分子研究会学生研究奨励賞受賞受賞</li> </ul>

（出典：各学部事務部提供資料をもとに大学院室にて作成）

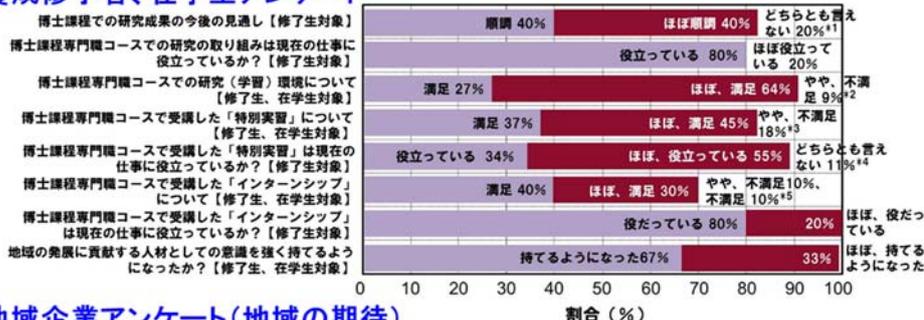
### 3 各種アンケート等の調査結果

平成25年度に、システム開発工学専攻専門職コースを修了した5名および在学生1名に対して「博士課程専門職コース修了生、在学生アンケート」・「特別実習科目に対するアンケート」を実施した。アンケート項目について、ほとんどの学生が「満足」「理解した」等といった回答から、概ね教育・研究指導には満足しているという結果が得られている。

また、本コースについて地域企業に実施したアンケート回答からも、「評価できる」等の結果が得られている。（資料総60）

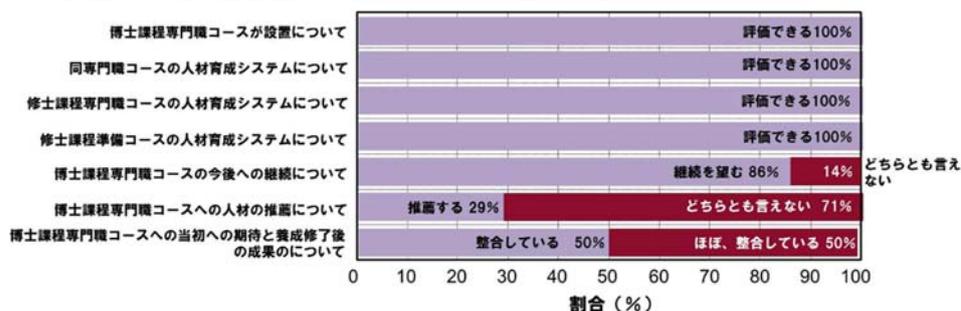
資料総60 「博士課程専門職コース修了生、在学生アンケート」

養成修了者、在学生アンケート



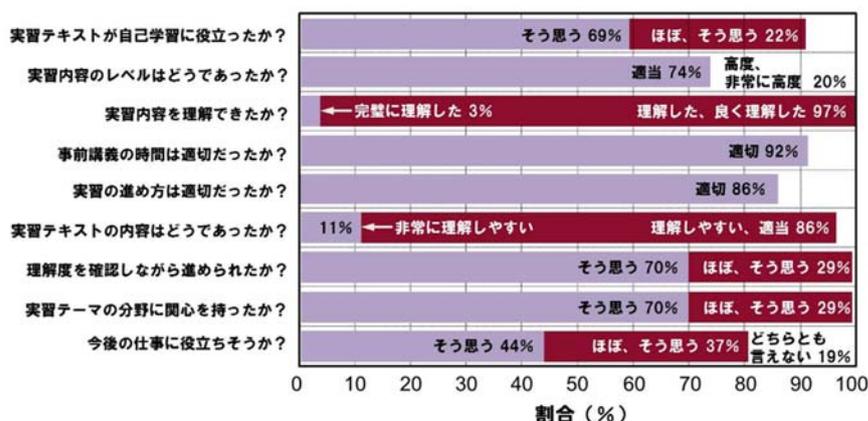
地域企業アンケート(地域の期待)

(照会企業16社、回答企業7社(学生の所属企業を含む)、自治体)



資料総62 「特別実習科目に対するアンケート」

特別実習アンケート



(出典：信州・諏訪圏精密工業の活性化人材の養成事後評価ヒアリング資料抜粋)

(水準) 期待される水準にある。

(判断理由)

次に掲げる理由から、教育の成果・効果は十分に表れており、高度専門職業人や研究者を目指す大学院生や社会人の期待に対して、期待される水準にあると判断できる。

- ・博士課程専門職コースにおいて毎年修了生を出しており、社会人の高度専門教育に対するニーズを満たしている(資料総58)。

- ・学生の学会賞等の受賞は毎年度10-20件とコンスタントに出ており、研究指導の成果が上がっていることを示している(資料総59)。

- ・システム開発工学専攻専門職コース修了生及び地域企業に実施したアンケート結果から、コースの教育内容に対して学生は概ね肯定的な見方をしている(資料総60)。

観点 進路・就職の状況

(観点に係る状況)

1 就職の状況

第2期を通じて、75～80%程度の就職率であり、大学全体・国立大学全体の平均値を上回っている。さらに、各年度の就職者のうち60～80%程度が、研究・技術職に就いている。教員を含めると90%を超えており、本研究科の教育目標である高度な研究者・技術者・教育者の養成に合致した進路となっている(資料総61、総62)。

資料総61 修了後の進路の状況

修了年度	区分	進学者			就職者		国 専 の 学 校 等 入 学 者	一 時 的 な 仕 事 に 就 いた 者	左記以外の者		不 詳 ・ 死 亡 の 者	
		修了者 A	人(B)	率(B/A)	人(C)	率(C/A-B)			人(D)	率(D/A)		
H21	全体	5,992	55	0.92%	3,799	63.99%	51	420	1,197	19.98%	991	
	国立	5,059	46	0.91%	3,207	63.97%	38	401	1,011	19.98%	356	
	大学	計	36	—	0.00%	21	58.33%	1	1	13	36.11%	—
		男	31	—	0.00%	17	54.84%	—	1	13	41.94%	—
	女	5	—	0.00%	4	80.00%	1	—	—	0.00%	—	
H22	全体	5,626	33	0.59%	3,646	65.19%	88	428	1,033	18.36%	397	
	国立	4,757	31	0.65%	3,095	65.49%	65	415	849	17.85%	302	
	本 学	計	59	0	0.00%	45	76.27%	0	0	11	18.64%	3
		男	47	0	0.00%	40	85.11%	0	0	5	10.64%	2
女		12	0	0.00%	5	41.67%	0	0	6	50.00%	1	
H23	全体	5,923	55	0.93%	4,216	71.85%	44	229	1,117	18.86%	262	
	国立	5,044	47	0.93%	3,614	72.32%	30	213	924	18.32%	216	
	本 学	計	49	0	0.00%	40	81.63%	0	0	6	12.24%	0
		男	35	0	0.00%	30	85.71%	0	0	2	5.71%	0
女		14	0	0.00%	10	71.43%	0	0	4	28.57%	0	
H24	全体	5,997	24	0.40%	4,082	68.34%	40	365	1,138	18.98%	348	
	国立	5,099	19	0.37%	3,483	68.56%	34	344	937	18.38%	282	
	本 学	計	48	0	0.00%	39	81.25%	0	1	8	16.67%	0
		男	39	0	0.00%	31	79.49%	0	0	8	20.51%	0
女		9	0	0.00%	8	88.89%	0	1	—	0.00%	0	
H25	全体	5,805	38	0.65%	3,899	67.61%	35	356	1,277	22.00%	200	
	国立	4,936	35	0.71%	3,345	68.25%	27	322	1,074	21.76%	133	
	本 学	計	38	0	0.00%	29	76.32%	0	0	9	23.68%	0
		男	33	0	0.00%	25	75.76%	0	0	8	24.24%	0
女		5	0	0.00%	4	80.00%	0	0	1	20.00%	0	
H26	全体	5,711	41	0.72%	3,934	69.38%	17	301	1,184	0	2,347	
	国立	4,802	37	0.77%	3,315	69.57%	12	276	1,007	20.97%	155	
	本 学	計	48	0	0.00%	34	70.83%	0	0	14	29.17%	0
		男	42	0	0.00%	33	78.57%	0	0	9	21.43%	0
女		6	0	0.00%	1	16.67%	0	0	5	83.33%	0	
H27	全体											
	国立											
	本 学	計	41	0	0.00%	32	78.05%	0	2	7	17.07%	0
		男	38	0	0.00%	29	76.32%	0	2	7	18.42%	0
女		3	0	0.00%	3	100.00%	0	0	0	0.00%	0	

※「全体」「国立」は、学校基本調査の全国集計のうち、各年度>高等教育機関《報告書掲載集計》>卒業後の状況調査>大学院

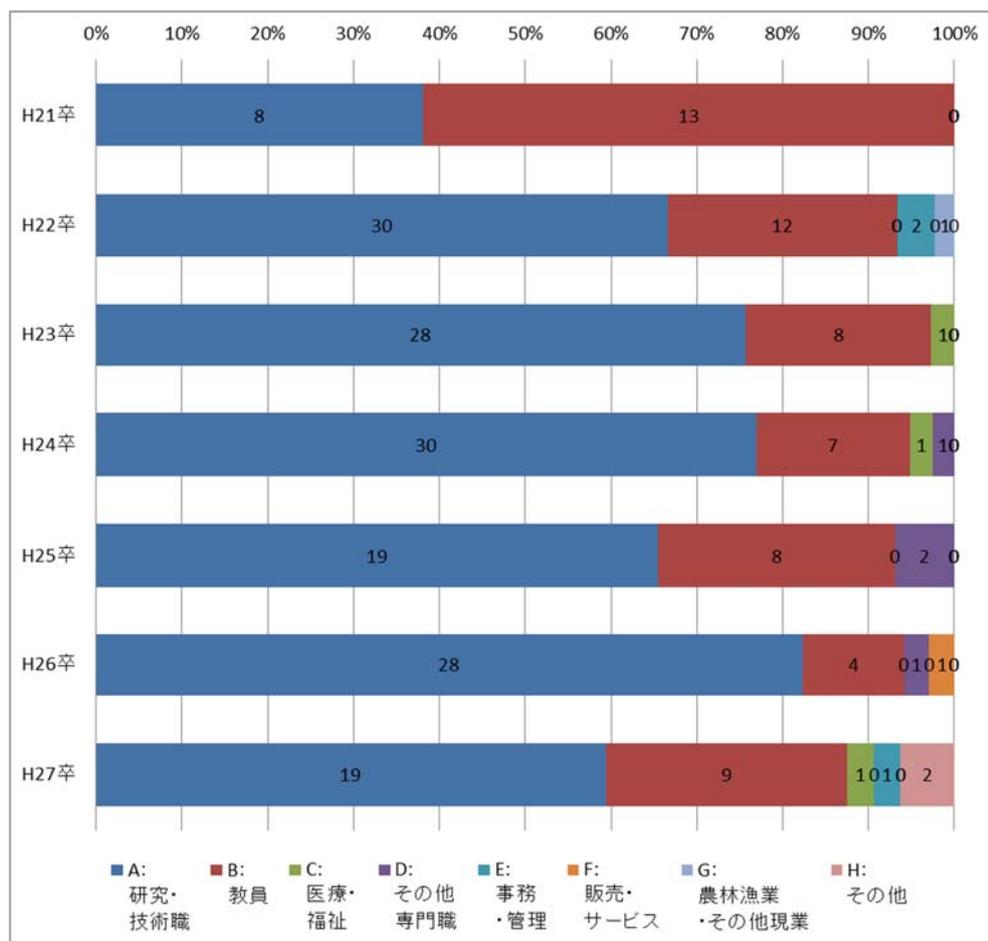
博士課程の状況別 卒業者数より，区分「理学」「工学」「農学」を合計して抜粋  
 なお，平成27年度については，平成28年6月末現在未公開

(出典：学校基本調査を元に経営企画課作成)

資料62 就職の状況（職業別・産業別）

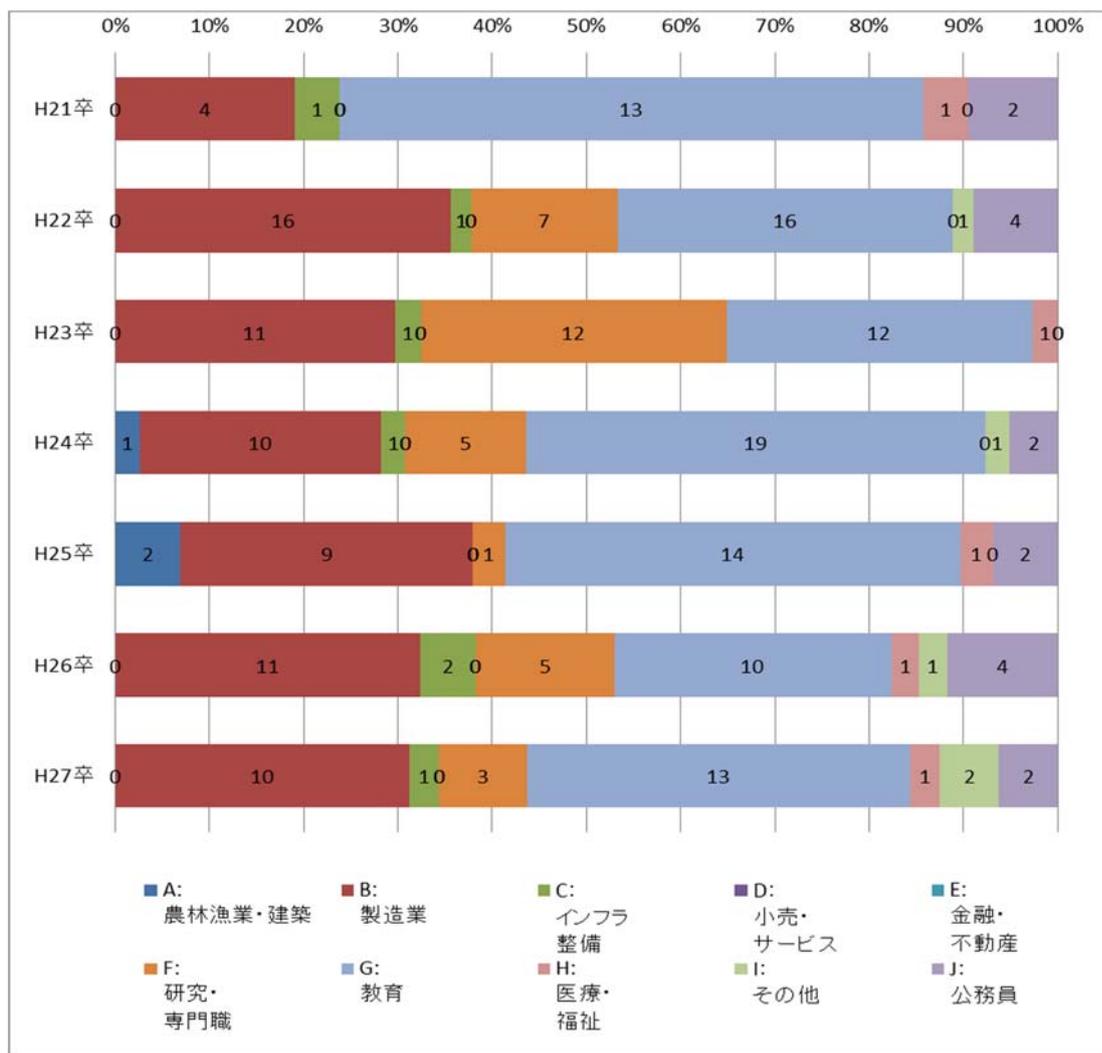
○職業別

	A： 研究・ 技術職	B： 教員	C： 医療・ 福祉	D： その他 専門職	E： 事務 ・管理	F： 販売・ サービス	G： 農林漁業 ・その他現業	H： その他	合計
H21 卒	8	13	0	0	0	0	0	0	21
H22 卒	30	12	0	0	2	0	1	0	45
H23 卒	28	8	1	0	0	0	0	0	37
H24 卒	30	7	1	1	0	0	0	0	39
H25 卒	19	8	0	2	0	0	0	0	29
H26 卒	28	4	0	1	0	1	0	0	34
H27 卒	19	9	1	0	1	0	0	2	32



○産業別

	A: 農林漁業・建築	B: 製造業	C: インフラ整備	D: 小売・サービス	E: 金融・不動産	F: 研究・専門職	G: 教育	H: 医療・福祉	I: その他	J: 公務員	合計
H21卒	0	4	1	0	0	0	13	1	0	2	21
H22卒	0	16	1	0	0	7	16	0	1	4	45
H23卒	0	11	1	0	0	12	12	1	0	0	37
H24卒	1	10	1	0	0	5	19	0	1	2	39
H25卒	2	9	0	0	0	1	14	1	0	2	29
H26卒	0	11	2	0	0	5	10	1	1	4	34
H27卒	0	10	1	0	0	3	13	1	2	2	32



(出典：学校基本調査をもとに経営企画課作成)

(水準) 期待される水準を上回る。

(判断理由)

次に掲げる理由により、修了後の進路の状況は以下のとおりであり、高度専門職業人や研究者を目指す大学院生や社会人の期待に対して、期待される水準を上回ると判断できる。

- ・ 第2期を通じて、70～80%程度の就職率であり、大学全体・国立大学全体の平均値を上回っている(資料総61)。
- ・ 修了者の就職者の60～80%程度が、研究・技術職に就いている。教員を含めると90%を超えており、養成する人材像に合致した人材を輩出している(資料総62)。

### Ⅲ 「質の向上度」の分析

#### (1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

- ・学位審査までに至る履修プロセス概念図（資料総11）を平成23年度に作成し、学生に明示している。また、学位審査を含めた教育課程を不断に検証し、必要に応じて改善策を検討する体制を構築している。（資料総20、総21）
- ・信州大学の特色ある研究領域（カーボン、環境・エネルギー、ファイバー工学、山岳科学、バイオ・医療など）に資源を集中し、各領域を融合させて新たな研究領域の創出を目指すために平成25年度に新たに設置された「先鋭領域融合研究群」との連携を図り、様々な研究者・技術者との交流を通じて学生のグローバル化を推進している。（資料総25）
- ・大学院教育の質保証の一環として、修士・博士（5年）一貫教育の特別コースとして国際的な場でリーダーとして活躍する人材を育てるため、平成25年度より実施中の学内版を拡大して展開している「サステイナブルソサエティグローバル人材養成プログラム」（資料総39）および文部科学省事業に採択された「ファイバールネッサンスを先導するグローバル養成プログラム」（資料総38）の2つのリーディング大学院プログラムを構築している。

#### (2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

- ・第2期を通じて、70～80％程度の就職率であり、平成21年度の58.3％から向上している。また、平成21年度は大学全体・国立大学全体の平均値を下回っていたが、第2期は上回っている。（資料総61）
- ・修了者の就職者の60～80％程度が、研究・技術職に就いている。平成21年度は38％程度であり向上している。（資料総62）

## 16. 法曹法務研究科

I	法曹法務研究科の教育目的と特徴	16-2
II	「教育の水準」の分析・判定	16-6
	分析項目 I 教育活動の状況	16-6
	分析項目 II 教育成果の状況	16-36
III	「質の向上度」の分析	16-43

## I 法曹法務研究科の教育目的と特徴

### 1 教育目的

本研究科の教育目的は資料法1、2のとおりである。

#### 資料法1 信州大学大学院法曹法務研究科規程

(目的)

第1条の2 研究科は、次の各号に掲げる法曹養成に努めるとともに、そのための教育課程の不断の検証並びに教育研究の更なる向上及び教育環境の快適な実現を図ることを目的とする。

- (1) 法の支配に奉仕する豊かな人間性と高い倫理性を備えた法曹の養成
- (2) 高度な専門的能力を持ち地域の経済・社会・行政に貢献できる法曹の養成
- (3) 経済・経営に強い法曹の養成
- (4) 科学技術の動向に対する知見を持った法曹の養成

(出典：「信州大学大学院法曹法務研究科規程」)

#### 資料法2 教育の理念と目的

##### ■教育の理念

『法の支配に奉仕せよ』、『知的に究理せよ』、  
そして『つねに良き隣人たれ』を教育理念としています。

##### ■教育の目的

- ①法の支配に奉仕する豊かな人間性と高い倫理性を備えた法曹の養成
- ②高度の専門能力を持ち地域の経済・社会・行政に貢献できる法曹の養成
- ③経済・経営に強い法曹の養成
- ④科学技術の動向に対する知見を持った法曹の養成

##### ■これらを実現するために、「法曹自らの手による自らの後継者養成」を目指す

長野県弁護士会との密接な連携と共同による実践的な法曹教育を行います。

(出典：信州大学大学院法曹法務研究科ホームページ「教育の理念と目的」)

### 3つの方針

本研究科は、学位授与の方針（以下「DP」、資料法3）、教育課程編成・実施の方針（以下「CP」、資料法4）、入学者受入の方針（以下「AP」、資料法5）を定めている。

#### 資料法3 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本法科大学院における教育理念の実現、教育目的の達成を図るために、養成する具体的な法曹像として以下の3類型を想定するとともに、それぞれに適した履修プログラムを設定し、教育を行います。

1. 良き市民として地域社会とともにあり、市民生活の法的助言者たる法曹
2. 経済活動を理解し、企業における技術革新・開発・産業化および企業経営の健全化に対応できる法曹
3. 地域固有の問題について、正確な分析能力、適切な法的処理能力、事前予防のための政策立案能力を備えた法曹

本法科大学院所定の修業年限在学し、上記の3類型に基づいて設定した所定のカリキュラムに沿った教育を受け、修了に必要な要件を満たした者に法務博士（専門職）の学位を授与します。

(出典：信州大学ホームページ「信州大学大学院法曹法務研究科（法科大学院）学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」)

#### 資料法4 信州大学大学院教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

##### 大学院課程における教育課程編成の方針

1. 信州大学大学院は、研究科及び専攻の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設するとともに、研究指導の計画を策定し、体系的に教育課程を編成します。
2. 信州大学大学院は、教育課程の編成に当たっては、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう適切に配慮します。

##### 大学院課程における教育課程実施の方針

1. 信州大学大学院は、専門性の一層の向上を図り幅広い学識を涵養するため、コースワークを充実させ、コースワークから研究指導へ有機的につながる体系的な教育を行います。また、各研究科の「学位授与の方針」に定めた、修了時までには修得すべき知識・能力等がカリキュラム体系のなかでどのように養成されるのかを示すため、シラバスで「学位授与の方針」で定められた知識・能力等との対応を示し、それら諸能力等を修得するプロセスを履修プロセス概念図で示します。
2. 信州大学大学院は、学生個々人の主体的で活発な勉学意欲を促進する立場から、授業時間外の多様な学修研究機会を通じ、諸課題に積極的に挑戦させます。
3. 信州大学大学院は、成績評価の公正さと透明性を確保するため、成績の評定は、各科目に掲げられた授業の狙い・目標に向けた到達度をめやすとして採点します。

4. 信州大学大学院は、修士課程及び博士課程の学位論文審査体制を充実させ、厳格な審査を行います。  
 (出典：信州大学ホームページ「教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)」)

資料法5 アドミッション・ポリシー

1. つねに“よき隣人たる法曹”になるために、当事者やその家族の“心”や“心の傷み”を理解することができる人格を備えた方を受け入れます。
2. 今後の法曹には、国内外の経済・社会の動向、科学技術の発展、形態・価値が変動する人間・家族関係に対する透徹した洞察力、そして社会常識に適った分析力・判断力が求められます。そこで、幅広い教養、深い社会的知性、論理的な理性、豊かな人間性を備えた人材を積極的に受け入れます。
3. 3年コースは、多様なバックグラウンドをもった人材に法曹への門戸を開放するという法科大学院制度の趣旨を遵守し、法律学の既修未修を区別することなく、学部履修課程で多様な専門的領域における知識・学芸を修得し高い教養を保有している方を積極的に受け入れます。
4. 2年コースは、法律基本科目に対する基礎的な専門知識を有する方を受け入れます。
5. 社会的活動・関心や職業的体験などを通して法曹の職につくことを希望する方を積極的に受け入れます。そのため、法曹への意欲のみならず、これまで従事してきた社会貢献活動や職業的経験・経歴など、社会経験や社会・職業上の実績を積極的に評価します。
6. 科学技術の発展・普及に応じた法曹を養成していくために、“サイエンティフィック・マインド”を保有している方を積極的に受け入れます。
7. 今後の少子高齢化社会、経済的基盤の弱い地域に応じた法曹を養成していくために、“地域法曹となる意欲・使命感をもつ方”を積極的に受け入れます。

(出典：信州大学大学院法曹法務研究科ホームページ「アドミッション・ポリシー」)

2 組織の特徴や特色

本研究科の特徴は、充実した設備、徹底した少人数教育、熱意ある教授陣、学びのコミュニティの実現、長野県弁護士会の全面的なバックアップである。(資料法6)

資料法6 法曹法務研究科の特徴

信大ロースクールの特徴

- ① 充実した設備…24時間使える自習室は、修了してからも「法務学修生」として使用することができます。
- ② 徹底した少人数教育…定員18人に対し18人の専任教員が、文字どおり1対1の教育指導をおこないます。
- ③ 熱意のある教授陣…専任教員は、講義以外にも自主勉強会にボランティアで参加するなど、院生の努力を熱心に応援するスタッフが揃っています。
- ④ 学びのコミュニティの実現…信大ロースクールでは、院生同士お互いに協力し、競争しながら勉強をしています。また、上級生や修了生が下級生に勉強の仕方などのアドバイスをしたり、一緒にゼミを組むなどして、下級生の勉強を支援するような伝統が形成されています。
- ⑤ 長野県弁護士会の全面的なバックアップ…信大ロースクール生は、長野県弁護士会所属の弁護士の先生方に、さまざまな面で支援を受けています。

(注) 平成27年4月1日現在の専任教員数は19人

(出典：信州大学法科大学院案内「Shinshu University School of Law 2014」)

本研究科は、次の7つのカリキュラムの特色となっている。(資料法7)

- ① 段階的な学修プロセスを実現
- ② 1年時に基礎教育を徹底
- ③ 演習科目の充実
- ④ クラス担任に拠るきめ細やかな指導
- ⑤ 学生自主勉強会等を通じた学習支援の実施
- ⑥ 法律実務基礎科目の充実
- ⑦ 総合大学の利点を最大限活かした科目展開

資料法7 カリキュラムの特色

(1) 段階的な学習プロセスを実現

基礎的レベルから応用レベルまで段階的に学習が可能となるように、カリキュラムを展開します。また、その過程で基本事項を反復的に学習するとともに、科目縦割りの意識を撤廃し、科目横断的な知識の習得や思考能力の養成を目指します。

(2) 1年次に基礎教育を徹底

1年次に、憲法・民法・刑法の基礎教育を徹底して行います。とりわけ民法は商法、行政法をはじめ、基礎法学・隣接科目や展開・先端科目の基本をなす概念や考え方を数多く含んでおり、民法を早期にマスターすることが法学全体を理解する上で必要不可欠であるため、その全科目を1年次に履修します。1年次に得た基本的知識を活かして、高年次では各総合演習科目においてディスカッション、文章作成といった実践的能力を段階的に身につけていくことになります。

**(3) 演習科目の充実**

主に2年次以降、公法8単位、民事法12単位、刑事法8単位が演習科目に振り分けられています。演習では、事例問題について全員がレポートを提出し、教員が添削します。演習科目を通じて、具体的な法的紛争の処理の仕方を学び、法曹にとって必要な「書く力」を身につけることができるよう配慮されています。

**(4) クラス担任によるきめ細やかな指導**

1学年に2名(研究者教員・実務家教員各1名)のクラス担任を置きます。3年間の持ち上がり制として、入学から修了までの間、履修相談、学習相談等の修学上の相談はもとより、生活上の相談にも対応し、個々の学生の実情に応じたきめ細やかな指導を行います。

**(5) 学生自主勉強会等を通じた学習支援の実施**

法科大学院の学生は、講義内容の理解とさらなる発展を試みるために、自主的な勉強会を積極的に企画しています。そこで、学生からの要望に応じて、教員もこれに参加し適宜の学習支援を行うことにより、学生の学習意欲を一層高めるとともに、効果的な学習がなされるよう対応しています。

**(6) 法律実務基礎科目の充実**

法律実務基礎科目は、法律基本科目の履修を終了した2年次以降に開講します。とりわけ裁判実務関連科目では、原則として2クラス制を敷き、添削指導を含め少人数教育を実施します。

**(7) 総合大学の利点を最大限活かした科目展開**

総合大学としての利点を活かし、他の研究分野における最先端の知識や成果を講義に活用します。例えば、建築関係法では、建築士資格を有する元工学部教員が都市計画法・建築基準法等に関する最先端の講義を行うほか、医事法関係では、医療紛争法や医学部教員等による法医学を開講します。

(出典：信州大学大学院法曹法務研究科ホームページ「カリキュラムの特色」)

**3 入学者の状況**

入学者数は、平成22年度～平成24年度では定員とほぼ同程度であったが、平成25年度及び平成26年度は全国的な法科大学院への志願者の減少もあり、充足率が50%台となった。なお、平成27年度については、学生募集を行っていない。(資料法8)

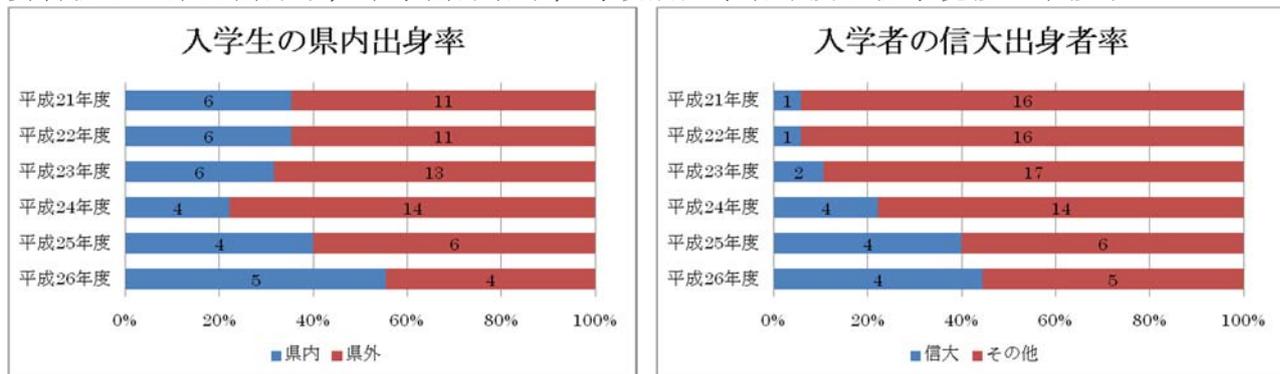
資料法8 入学状況

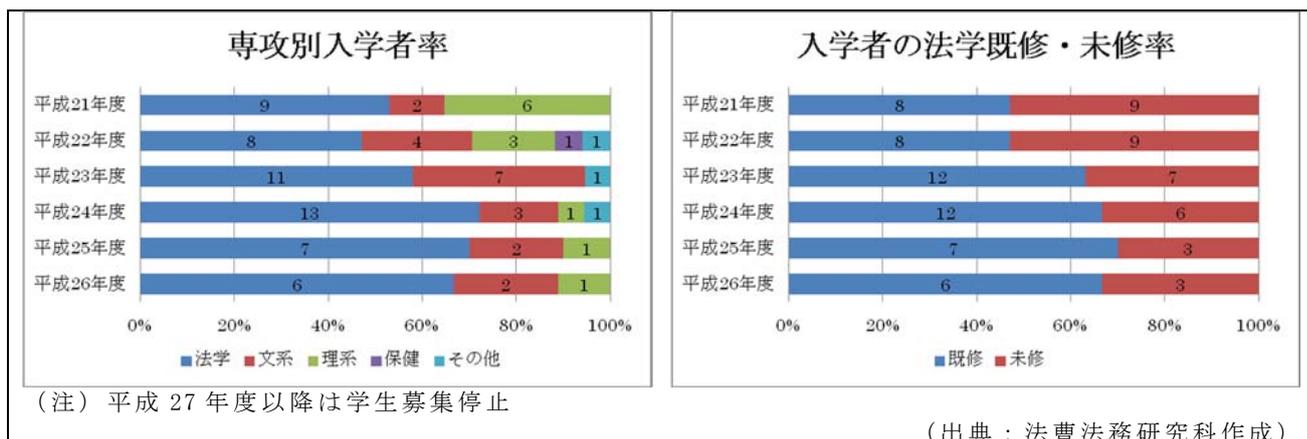
	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
入学定員	18	18	18	18	18	学生募集停止
入学者数	17	19	18	10	9	
充足率	94.4%	105.6%	100.0%	55.6%	50.0%	
定員充足率 50%未満の法科大学院数(率)				40/69校 (58.0%)	44/67校 (65.7%)	
全国	志願者数	24,014	22,927	18,446	13,924	11,450
	充足率	84.0%	79.2%	70.2%	63.3%	59.6%

(出典：法曹法務研究科作成)

入学者の県内出身率、本学出身者率、専攻別入学者率及び法学既修・未修率は、次のとおりである。(資料法9)

資料法9 県内出身率、本学出身者率、専攻別入学者率及び法学既修・未修率





[想定する関係者とその期待]

- ・ 在学生及び修了生
 

法曹をはじめとする法律の専門職として将来活躍するために、身につけるべき法律理論及び法律実務の基礎的素養を習得すること。
- ・ 長野県弁護士会を中心とする法曹実務家（法曹三者）
 

法曹が自らの手で地域法曹を養成し、ともに地域における法的課題の解決に取り組んで行ける若年層の法曹を地域に定着させること。
- ・ 長野県を中心とする地域住民等（市民、地方自治体、経済界等）
 

法律理論及び法律実務の基礎的素養を身につけ、地域法曹、地方公務員、企業の職員等として、地域において活躍できる人材が供給されること。

## II 「教育の水準」の分析・判定

### 分析項目 I 教育活動の状況

#### 観点 教育実施体制

(観点に係る状況)

(1) 教員組織および教育体制

#### ① 学術研究院、研究科の関係

教員の流動性を確保し、全学的な教育、研究マネジメントを可能とするため、教員組織として学術研究院を平成26年度より設置した。(資料法10)

資料法 10 学術研究院と教育研究組織との関係



学術研究院は、3の学域・10の学系により構成する。すべての教員は、いずれかの学系に所属し、職務として次のいずれかに携わる。(複数の兼務もあり)

- 1) 学部・大学院、全学教育機構において、教育・研究に携わる。
- 2) 医学部附属病院において、診療・教育・研究に携わる。
- 3) 先鋭領域融合研究群において、研究に携わる。
- 4) 大型研究センター(拠点形成型の外部資金プロジェクト)において、研究に携わる。
- 5) 各教育研究(支援)センター等において、担当業務に携わる。

これにより、先鋭領域融合研究群の研究者への研究重点環境の提供や学部横断型の教育を実現し、研究の高度化や時代の要請に柔軟かつスピーディーに対応した教育を推進する。

(出典:「大学概要 2015」をもとに経営企画課修正)

#### ② 法曹法務研究科の教育体制

本研究科は、専任教員 19 名(研究者教員 13 名、実務家教員 6 名)、非常勤教員 21 名(兼任教員 4 名を含む)を配置している。(資料法 11、12)

資料法 11 専任教員一覧 (平成 27 年 4 月 1 日現在)

(1) 公法関係		
成澤 孝人	教授	憲法 1(統治の基本構造)、憲法 2(基本的人権の基礎)、憲法基礎演習、公法総合演習 1、公法総合演習 2、法律学展開演習(比較憲法論)
又坂 常人	教授	行政法 1(行政法の基礎理論)、行政法 2(行政救済法)、行政法演習、公法総合演習 1、公法総合演習 2
(2) 刑事法関係		
三枝 有	教授	刑法 1、2、3(刑法総論・各論 1、2、3)、刑法演習、刑事法総合演習 1、2
田口 守一	教授	刑事訴訟法 1、2、刑事訴訟法演習、刑事法総合演習 2
河嶋 恒平	教授 (弁護士)	法曹倫理、刑事裁判実務の基礎、刑事政策、民事法総合演習
大井 基弘	准教授 (弁護士)	刑事法総合演習 1、現代法特別講義(刑事司法の現代的課題)、民事執行・保全の実務、民事法総合演習
武井 美央	准教授 (弁護士)	刑事裁判実務の基礎、刑事裁判実務、消費者法、民事法総合演習
(3) 民事法関係		
池田 秀敏	教授	民法入門演習 1、2、民法 5(事務管理・不当利得・不法行為)、民商法総合演習 2、民事法総合演習
後藤 泰一	教授	民法 1、2(総則・物権 1、2)、民法 6(担保物権・人的担保)、民法入門演習 1、民商法総合演習 1、法の創造と時代思潮
宗村 和広	教授	民法 7(親族・相続)、民法入門演習 1、2、民商法総合演習 1、民事法総合演習、英米法、法律学展開演習(財産・家族特殊研究)、外国法演習
遠藤 功	教授	民事訴訟法 1、2、民事訴訟法演習、民事法総合演習、民事執行法・民事保全法
河崎 祐子	教授	倒産処理法 1(破産・民事再生・会社更生)、倒産処理法 2(破産・民事再生・会社更生(展開))
栗田 晶	准教授	民法 3(債権総論・契約 1)、民法 4(債権総論、契約 2)
安藤 絵美子	准教授 (弁護士)	民事訴訟法演習、ロークリニック、家事事件の実務、環境と法、民事法総合演習
倉崎 哲矢	准教授 (弁護士)	民事法総合演習、民事裁判実務の基礎、民事裁判実務、知的財産法 2
宮田 旭	准教授 (弁護士)	民商法総合演習 2、民事法総合演習、ロークリニック、契約の実務、倒産処理の実務
米田 保晴	教授	商法 1(会社法 1・設立・株式等)、商法 2(会社法 2・機関・合併等)、商法 3(総則・商行為・手形)、企業法の実務、法律学展開演習(ビジネスプランニング)、英米法、民事法総合演習
中嶋 士元也	教授	労働法 1、2、社会保障法
(4) その他		
中根 倫拓	助教	学習支援担当

(出典：法曹法務研究科作成)

資料法 12 設置審上の必要専任教員数との比較 (平成 27 年 4 月 1 日現在)					
研究科	教授	准教授	講師	助教	合計
法曹法務研究科(人)	12	6	0	1	19
(設置審上の必要数)(人)	(6)				(12)

(出典：法曹法務研究科作成)

③教育課程の運営体制

本研究科は、本研究科の教授を研究科長とし、定期的（月 1 回）に開催する教授会において教育活動に関する審議を行うとともに、学生委員会をはじめとする各委員会を組織し、教育課程の運営を行っている。（資料法 13～15）

資料法 13 信州大学大学院学則

（研究科長）

第 9 条（略）

2 法曹法務研究科に研究科長を置き、当該研究科の教授をもって充てる。

3（略）

4（略）

（出典：「信州大学大学院学則」）

資料法 14 信州大学大学院法曹法務研究科教授会規程

（組織）

第 2 条 研究科教授会は、研究科長並びに研究科に在職する教授及び特任教授（専門職大学院）の職にある者で組織する。ただし、必要があるときは、研究科に在職する准教授、特任准教授（専門職大学院）、講師、特任講師（専門職大学院）、助教又は特任助教（専門職大学院）の職にある者を加えることができる。

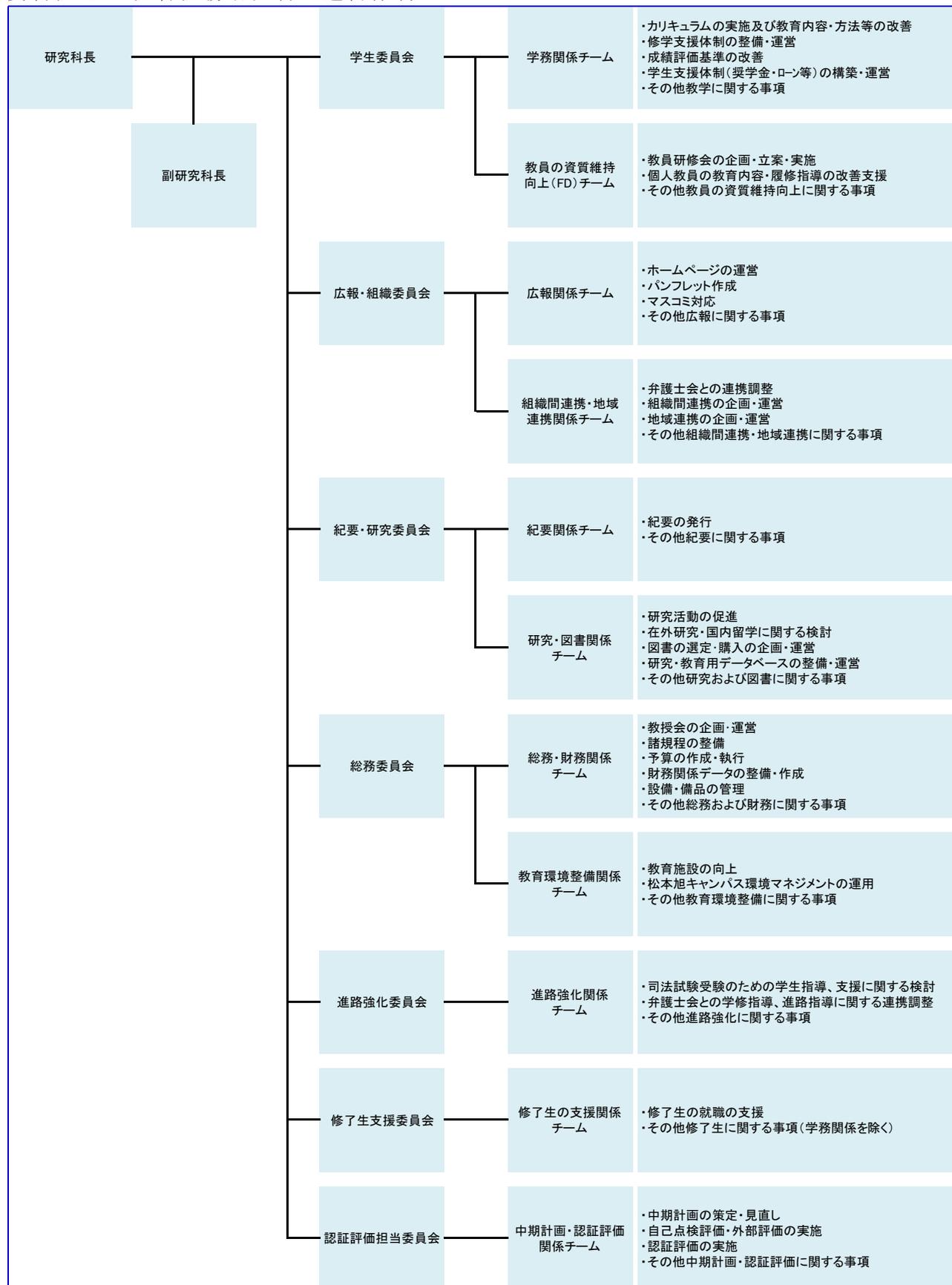
（審議事項）

第 3 条 研究科教授会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 教育課程の編成に関する事項
- (2) 学生の入学、修了その他その在籍に関する事項及び学位に関する事項
- (3) 研究科長及び研究科の教員の選考に関すること。
- (4) その他研究科の教育又は研究に関する重要事項

（出典：「信州大学大学院法曹法務研究科教授会規程」）

資料法 15 法曹法務研究科の運営体制



(出典：法曹法務研究科作成)

## ④長野県弁護士会との連携

本研究科は、教育・研究の充実と学生の資質の向上を図るなどの目的として、長野県弁護士会と連携協定を締結し、6名の弁護士が実務家教員として所属している。(資料法 16、前掲資料法 11 (6-7頁))

なお、長野県弁護士会と本学との間では、本研究科廃止後も連携を継続するため、平成 27 年度において、あらためて包括協定が締結された。(資料法 17)

また、模擬裁判のチューターやロークリニックでの実務指導等、若手弁護士等による学生支援を実施している。(資料法 18)

## 資料法 16 信州大学大学院法曹法務研究科に関する協定書

国立大学法人信州大学(以下「甲」という。)と長野県弁護士会(以下「乙」という。)は、連携・協力して、甲が設立予定の大学院法曹法務研究科(以下「研究科」という。)について、次のとおり協定を締結する。

- 1 甲と乙は、研究科における教育・研究の充実と研究科の学生(以下「学生」という。)の資質の向上を図り、相互の交流を促進し、もって学術及び法律実務の進展並びに基本的人権を尊重した公正で自由な社会の構築に寄与するため、研究科のカリキュラムの編成実施、教員の派遣、運営及び調査研究等、並びに、関連機関との協議調整等について、誠実に連携・協力する。
- 2 甲は、乙と協議のうえ、甲の職員任免規程に則して、乙の会員を研究科の専任教員、みなし専任教員及び非常勤講師(以下「実務家教員」という。)として任用する。
- 3 甲は、職員任免規程に基づき、専任教員、みなし専任教員については研究科教授又は研究科助教授の名称を、非常勤講師については研究科客員教授又は研究科客員助教授の名称を付与する。
- 4 専任教員及びみなし専任教員の任期は原則3年とし、非常勤講師の任期は1年とする。任期は更新することができる。なお、乙は、甲における教育及び研究指導の継続性に配慮するものとする。
- 5 実務家教員は、甲において学生の教育及び研究指導を行うものとする。この際、実務家教員と研究科の教員は、相互に緊密に連携し、教育・研究に当たるものとする。
- 6 甲は、実務家教員に対し、職員給与規程に基づき、給与・手当等を支給する。
- 7 甲は、実務家教員に研究指導等に要する研究費・旅費等を配分するとともに、教育・研究に必要な研究室等施設設備を提供する。
- 8 専任教員及びみなし専任教員は、研究科委員会の構成員とする。非常勤講師は、研究科長が必要と認めるときは、研究科委員会に参加することができる。
- 9 この協定書に定める事項に疑義が生じた場合又は改訂必要がある場合若しくはこの協定書に定めるもののほか必要な事項を定める場合は、甲と乙が誠実に協議して処理するものとする。
- 10 この協定の実施に関し必要な事項は、甲と乙が協議して別に定めることができるものとする。
- 11 この協定は、平成16年7月1日から実施する。

この協定書は、2通作成し、甲と乙が各1通を所持する。

平成 16 年 6 月 30 日

(出典：「信州大学大学院法曹法務研究科に関する協定書」)

資料法 17 信州大学と長野県弁護士会との包括連携に関する協定書

国立大学法人信州大学（以下「甲」という）と長野県弁護士会（以下「乙」という）は、甲乙間の包括的な連携に関し、以下のとおり協定する。

（目的）

第1条 本協定は、甲及び乙が、地域における法律系人材の育成、法的サービスの提供、法学研究等の分野等において連携し、もって法律学に関する学術及び法律実務の進展並びに基本的人権を尊重した公正で自由な地域社会の実現と地域の司法水準の向上に寄与することを目的とする。

（連携の内容）

第2条 甲及び乙は、以下に掲げる事項について連携し、協力するものとする。

- 一 甲における法学教育及び地域における法律系人材の育成
- 二 公共機関等への法的助言をはじめとする地域における法的サービスの提供
- 三 法律学に関する学術研究及び法律実務に関する研究
- 四 甲及び乙相互の研修等における講師派遣
- 五 その他、甲及び乙が必要と認める事項

（個別的協定または契約）

第3条 本協定に関し、個別具体的な事業または事務に関し、必要があるときは、甲と乙との間の個別的協定または甲と乙の会員弁護士との間の契約を別途締結するものとする。

（協定の有効期間）

第4条 本協定の期間は、本協定締結の日から、甲または乙から書面による協定解消の申出がなされた日までとする。

（従前の協定の終了）

第5条 以下に掲げる協定書に基づく甲と乙との間の協定は、信州大学大学院法曹法務研究科の廃止日をもって終了するものとする。

- 一 平成16年6月30日付信州大学大学院法曹法務研究科に関する協定書
- 二 平成19年3月7日付ロークリニックに関する協定書

（その他）

第6条 本協定に定め疑義が生じたとき又は本協定に定めのないことにつき必要が生じたときは、甲及び乙が協議するものとする。

平成28年2月24日

（出典：「信州大学と長野県弁護士会との包括連携に関する協定書」）

資料法 18 若手弁護士等による支援状況

民事・刑事の模擬裁判で若手弁護士等がチューターとなるとともに、ロークリニックでは県内の法律事務所において学生の実務指導を実施している。その他、個別指導や実践ゼミにおける指導も実施している。

個別・実践・模擬裁判(指導弁護士延べ人数)

実施内容	H22	H23	H24	H25	H26	H27	計
個別指導(6月～3月)	42	41	41	41	41	41	247
実践ゼミ(10月～3月)	28	30	30	31	31	26	176
模擬裁判(6月 民事裁判実務/1月 刑事裁判実務の基礎)	6	5	6	8	8	7	40

ロークリニック(受入法律事務所数)

実施内容	H22	H23	H24	H25	H26	H27	計
ロークリニック(5月～7月)	10	4	7	2	2	3	28

（出典：法曹法務研究科作成）

(2) 教育サポート体制

① クラス担任制

1 学年に研究者教員と実務家（弁護士）教員各 1 人の合計 2 人のクラス担任をおくことにより、随時学生の質問などに対応する体制をとっている（平成 24 年度までは、1 学年を 2 クラスに分けていたが、平成 25 年度以降 1 学年 1 クラスとした）。

年次進級時には、履修相談を実施して、学生各人が念頭に置いている法曹像に即した勉強ができる科目を紹介している。（資料法 19）

資料法 19 クラス担任によるきめ細やかな指導

1 学年に 2 名（研究者教員・実務家教員各 1 名）のクラス担任を置きます。3 年間の持ち上がり制として、入学から修了までの間、履修相談、学習相談等の修学上の相談はもとより、生活上の相談にも対応し、個々の学生の実情に応じたきめ細やかな指導を行います。

（出典：信州大学大学院法曹法務研究科ホームページ「カリキュラムの特色」）

Q: クラス担任制はどのような機能を果たしていますか？

A: 信州大学法科大学院のクラス担任制の特徴は、① 1 学年に研究者教員と実務家教員の 2 名の担任を配置していること、② 3 年間一貫した持ち上がり方式を採用していること、③ 学習面、進路面の指導から生活面のアドバイスまで幅広い分野で学生をサポートする体制を採っていること、の 3 点にあります。クラス担任制を敷くことで、学生一人ひとりと向き合うきめ細かい指導・相談体制を備えています。

（出典：信州大学大学院法曹法務研究科ホームページ「教育・カリキュラムに関する Q & A」）

② 全学的な教育サポート体制

全学的な教育サポート体制として、学務課、学生支援課、国際交流課を設置し、全学的な教育課程、課外活動、就職、留学に関する業務を行っている。この他に、全学的な教育活動を展開するために附属図書館、総合健康安全センター、総合情報センター、e-Learning センターに専門的知識技能を有する職員を配置している。さらに、本研究科に教育活動を展開するために必要な担当職員を 4 名配置している（非常勤職員を含む）。（資料法 20～22）

資料法 20 国立大学法人信州大学業務執行組織規程

第 25 条 学務課においては、全学教育機構、高等教育研究センター、e-Learning センター、教員免許更新支援センター（教育学部の所掌に属するものを除く。以下この条において同じ。）及び学務部に関する次の業務をつかさどる。

- (1) 学務部内の事務に関し、連絡し、及び総合調整を行うこと。
- (2) 庶務及び会計に関すること。
- (3) 入学式その他学生の諸行事に関すること。
- (4) 学生関係職員の SD(スタッフ・デベロップメント)に係る企画・立案及びその実施に関すること。
- (5) 全学(本法人が設置する信州大学大学院(以下「大学院」という。)を除く。)の教務に関すること。
- (6) 学生の学籍その他の記録に関すること。
- (7) 学位の授与に関すること。
- (8) 教育課程(大学院を除く。)に係る目標及び計画の連絡調整に関すること。
- (9) 他の大学等との単位の互換(大学院を除く。)に関すること。
- (10) 全学の学務情報システムに関すること。
- (11) 出前講座に関すること。
- (12) 諸会議(国立大学法人信州大学戦略企画会議規程(平成 24 年国立大学法人信州大学規程第 108 号)第 6 条に定める大学院戦略会議(以下「大学院戦略会議」という。)及び信州大学大学院教務委員会を除く。)の連絡調整に関すること。
- (13) 教育・学生支援連携会議の運営に関すること。
- (14) その他全学教育機構、高等教育研究センター、e-Learning センター及び教員免許更新支援センターの業務執行及び運営に関すること。
- (15) 前各号に掲げるもののほか、学務部の他の所掌に属しない事務を処理すること。

2 学務課の共通教育支援室においては、次の業務をつかさどる。

- (1) 共通教育の授業支援に関すること。
- (2) 共通教育の教務に関すること。
- (3) 学生の学習相談及び修学指導に関すること。
- (4) 共通教育に係る点検・評価に関すること。
- (5) 全学教育連携会議等の諸会議の連絡調整に関すること。

- (6) 環境マインド教育支援に関すること。
- 3 (省略)
- 4 学生支援課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 学生総合支援センターの業務執行及び運営に関すること。
- (2) キャリアサポートセンターの業務執行及び運営に関すること。
- (3) 学生相談センターの業務執行及び運営に関すること。
- 5 入試課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 入学者の選抜に関し連絡し、及び総合調整を行うこと。
- (2) 入学者選抜方法の改善に関し企画立案を行うこと。
- (3) 学生募集に関すること。
- (4) アドミッションセンターの業務執行及び運営に関すること。
- (5) 前各号に掲げるもののほか、入学者の選抜に関する事務を処理すること。
- 6 国際交流課においては、次の業務をつかさどる。
- (1) 国際交流センターの業務執行及び運営に関すること。(研究支援課の国際学術交流室が所掌する業務を除く。)
- (2) 松本国際交流会館の業務執行及び運営に関すること。
- (3) 前各号に掲げるもののほか、教育活動に係る国際交流に関する事務を処理すること。
- (出典：「国立大学法人信州大学業務執行組織規程」)

資料法 21 学務課，学生支援課，国際交流課の職員数

	学務課	学生支援課		国際交流課
		うち キャリアサポートセンター		
事務職員	20	11	3	6
事務補佐員	12	4	2	5
臨時用務員	1			
専門職員	1			
技術補佐員	5			
技能補佐員		1		
シニア雇用職員	4	1		
コーディネータ		1		6
合計	43	18	5	17

平成 28 年 1 月 18 日現在

(出典：経営企画課作成資料)

資料法 22 附属図書館，総合健康安全センター，総合情報センター，e-Learningセンター職員数

区分	附属図書館 <sup>注 3</sup>	総合健康安全 センター	総合情報 センター	e-Learning センター
松本キャンパス	54	13	9 <sup>注 1</sup>	3

平成 28 年 2 月 1 日現在

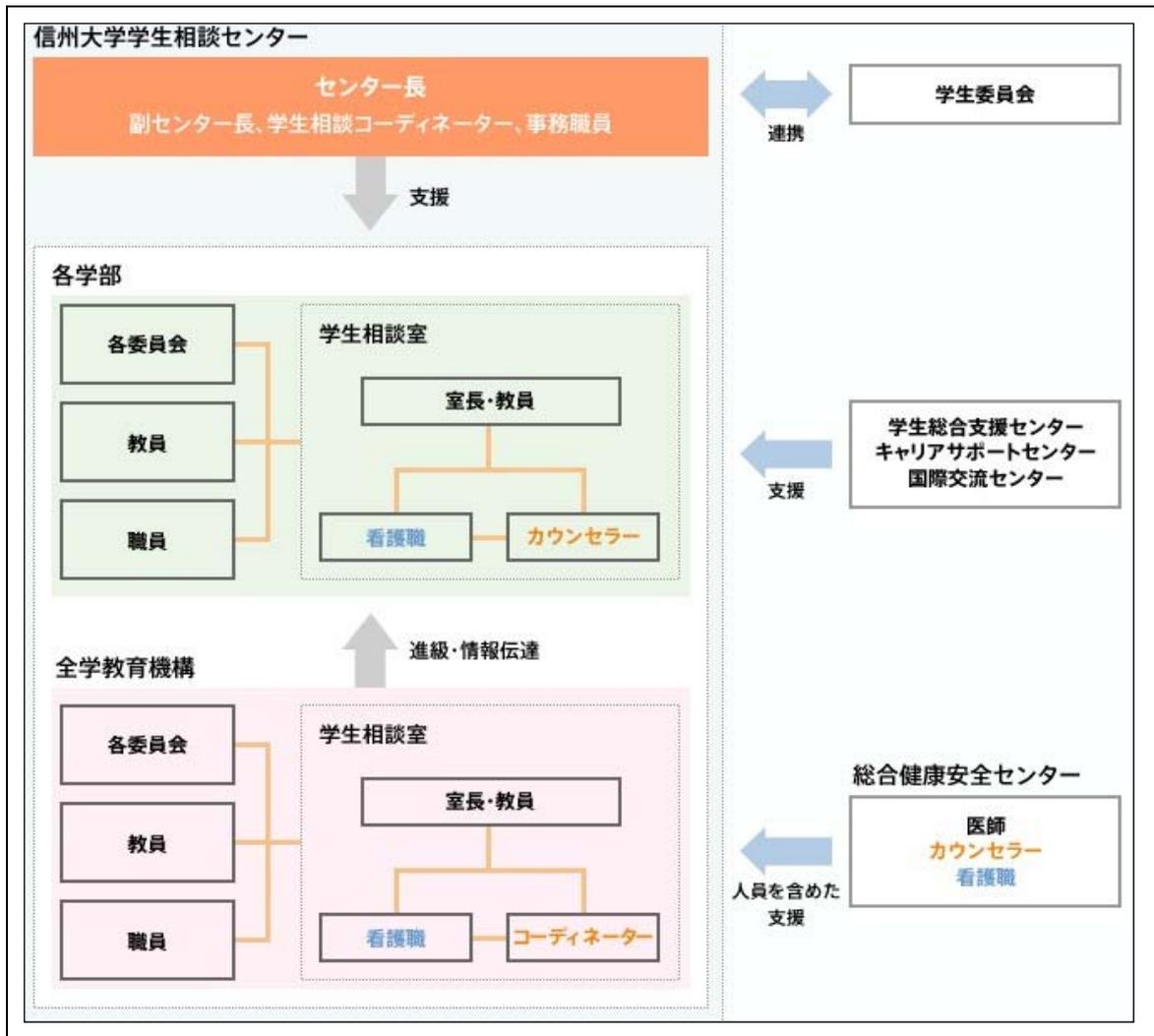
注 1：医学部附属病院担当者を含まず。

(出典：経営企画課作成資料)

### ③学生相談体制の整備

平成 24 年度に全学組織となる学生相談センターと、各学部・キャンパスに、あらゆる相談を受け付ける学生相談室が設置された。(資料法 23)

資料法 23 学生相談センター及び学生相談室





(3) 教育力向上の取り組み

①関係者のニーズ把握

本研究科では、学生のニーズを学生委員会がアンケート、意見聴取等を実施し把握している。(資料法 24)

資料法 24 関係者のニーズ把握

対象	実施方法	頻度	実施組織	目的・利用方法
学生	講義評価アンケート 各講義・演習科目の5回終了後、および科目修了試験時または演習最終日	年2回	学生委員会	授業の充実・改善
学生	満足度調査アンケート	年1回	学生委員会	教育の充実

(出典：法曹法務研究科作成)

②組織的なFD活動

本研究科は、ファカルティ・ディベロップメント(以下「FD」)の企画、立案、実施を担当する学生委員会FDチーム(以下「FDチーム」)を組織している。FDチームは、授業アンケートのほか教員研修会等の活動を行っている。(資料法 25)

資料法 25 FD 実施状況

① 教員研修会

授業参観を行い、授業参観後に授業の担当教員と授業参観教員との間で授業内容および教育方法の検討を行っている。

② 講義・演習担当者研修会（各学期開催）

各担当者から講義・演習担当者研修会報告書（授業アンケートの結果、授業参観および教員研修会、実務研修会および理論研修会等の内容を参考に作成）をもとに教育内容および教育方法に関する報告をしてもらい、参加教員間での質疑応答を行い、教育内容および教育方法のあり方を検討している。

③ 研修会等

本研究科では、個別テーマに限定した研修会の開催や、本研究科以外の研修会へも参加している。

FD 実施状況一覧（平成 22 年度～平成 27 年度）

年度	実施日	テーマ/内容
平成 22 年度	平成 22 年 6 月 9 日	実務科目の授業参観形式による実務研修
	平成 22 年 7 月 23 日	成績評価についての検討
	平成 22 年 9 月 24 日	授業科目の教育内容及び教育方法の報告、授業アンケート及び授業参観による授業の改善等の検討
	平成 22 年 9 月 27 日-28 日	信州大学 FD 合宿研修への参加
	平成 22 年 12 月 17 日	実務家教員の実務報告に基づく実務研修会
	平成 22 年 12 月 20 日	授業参観及び授業参観後に授業内容等の検討
	平成 23 年 1 月 28 日	研究者教員の研究報告に基づく理論研修会
	平成 23 年 3 月 4 日	満足度調査の検討
平成 23 年度	平成 23 年 4 月 22 日	授業科目の教育内容及び教育方法の報告、授業アンケート及び授業参観による授業の改善等の検討
	平成 23 年 6 月 28 日	実務科目の授業参観形式による実務研修
	平成 23 年 7 月 22 日	成績評価についての検討
	平成 23 年 9 月 16 日	授業科目の教育内容及び教育方法の報告、授業アンケート及び授業参観による授業の改善等の検討
	平成 23 年 9 月 26 日-27 日	信州大学 FD カンファレンスへの参加
	平成 23 年 11 月 18 日	授業参観及び授業参観後に授業内容等の検討
	平成 23 年 12 月 22 日	実務家教員の実務報告に基づく実務研修会
	平成 24 年 1 月 27 日	研究者教員の研究報告に基づく理論研修会
平成 24 年度	平成 24 年 3 月 2 日	満足度調査の検討
	平成 24 年 4 月 27 日	授業科目の教育内容及び教育方法の報告、授業アンケート及び授業参観による授業の改善等の検討
	平成 24 年 7 月 18 日	授業参観及び授業参観後に授業内容等の検討
	平成 24 年 7 月 23 日	成績評価についての検討
	平成 24 年 9 月 21 日	授業科目の教育内容及び教育方法の報告、授業アンケート及び授業参観による授業の改善等の検討
	平成 24 年 9 月 24 日-25 日	信州大学 FD カンファレンスへの参加
	平成 24 年 10 月 12 日	カリキュラム改訂に関する検討
	平成 24 年 10 月 22 日	研究者教員の研究報告に基づく理論研修会
平成 25 年度	平成 24 年 11 月 22 日	教員アンケートに基づく授業方法、就学支援策に関する検討(1)
	平成 25 年 1 月 11 日	教員アンケートに基づく授業方法、就学支援策に関する検討(2)
	平成 25 年 4 月 12 日	授業科目の教育内容及び教育方法の報告、授業アンケート及び授業参観による授業の改善等の検討
	平成 25 年 6 月 29 日-30 日	法実務技能教育研究開発(PSIM)コンソーシアムによる講演会・セミナーへの参加
平成 25 年度	平成 25 年 7 月 26 日	研究者教員の研究報告に基づく理論研修会(民事法研究会と共催)
	平成 25 年 9 月 10 日	信州大学FDセミナーへの参加
	平成 25 年 9 月 13 日	成績評価についての検討
	平成 25 年 9 月 13 日	授業科目の教育内容及び教育方法の報告、授業アンケート及び授業参観による授業の改善等の検討

	平成 25 年 10 月 10 日	カリキュラム改訂に関する検討
	平成 26 年 1 月 28 日	研究者教員の研究報告に基づく実務研修会(松本実務研究会と共催)
	平成 26 年 2 月 28 日	研究者教員の研究報告に基づく理論研修会(民事法研究会と共催)
	平成 26 年 3 月 5 日	外部研究者教員の研究報告に基づく理論研修会(経済学部スタッフセミナーと共催)
	平成 26 年 4 月 11 日	授業科目の教育内容及び教育方法の報告、授業アンケート及び授業参観による授業の改善等の検討
平成 26 年度	平成 26 年 4 月 30 日	研究者教員の研究報告に基づく実務研修会(松本実務研究会(民事実務)と共催)
	平成 26 年 6 月 13 日	中教審「法科大学院における司法試験に関連する指導方法の具体的な取り扱いについて」についての検討
	平成 26 年 10 月 29 日	研究者教員の研究報告に基づく実務研修会(松本実務研究会(民事実務)と共催)
	平成 26 年 11 月 14 日	授業科目の教育内容及び教育方法の報告、授業アンケート及び授業参観による授業の改善等の検討
	平成 27 年 1 月 9 日	研究者教員の研究報告に基づく理論研修会(民事法研究会と共催)
	平成 27 年 3 月 6 日	研究者教員の研究報告に基づく理論研修会(民事法研究会と共催)
平成 27 年度	平成 27 年 5 月 13 日	昨年度後期試験報告会、授業科目の教育内容及び教育方法の報告
	平成 27 年 6 月 18 日	実務家の研究報告に基づく実務研修会(松本実務研究会と共催)
	平成 27 年 7 月 8 日	前期試験前認証評価再確認ならびに意見交換
	平成 27 年 9 月 9 日	科研費、公的研究費獲得のための研究の在り方についての検討会
	平成 27 年 11 月 10 日	研究者教員の研究報告に基づく理論研修会(民事法研究会と共催)
	平成 27 年 11 月 11 日	前期試験報告会、授業科目の教育内容及び教育方法の報告
	平成 27 年 11 月 13 日	実務家の研究報告に基づく実務研修会(信州法務研究会と共催)
	平成 28 年 3 月 9 日	研究者教員の研究報告に基づく理論研修会(民事法研究会と共催)

(出典：法曹法務研究科作成)

#### (4) 教育施設

本研究科は、講義室 2 室と演習室 2 室があり、スクリーンとプロジェクター等を設置している。自習室棟内のセミナールームも授業での利用を可能としている。

模擬法廷は、本学松本キャンパスに隣接する「長野県衛生部松本旭町庁舎(県と賃貸借契約)」を活用し、当該授業を行っている。(資料法 26)

##### 資料法 26 模擬法廷の設置

模擬法廷は、理論と実務の融合を唱える法科大学院にとって重要な施設のひとつと位置付けることができます。ここでは、裁判官・検察官席等のレイアウトを実際の法廷に近い形で再現し、学生の皆さんが臨場感ある模擬裁判を展開します。将来法曹として活躍するためには、法廷等の場におけるプレゼンテーション能力や相手の主張に対応し得る即応能力を培うことが必要です。学生の皆さんには、教科書等で学んだことを踏まえつつ、この模擬法廷を舞台として、そうした実践能力を十分に養ってほしいと考えております。



(出典：信州大学大学院法曹法務研究科ホームページ「施設・学業支援制度」)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

収容定員54名(平成27年度は36名)に対し高度の教育研究能力を有する専任教員19名(学生3名に対し1名)及び非常勤教員21名(兼任教員4名を含む)を配置し、さらに長野県弁護士会の協力も得て、またクラス担任制や学生相談センター等サポート体制の充実により、きめの細かい、専門職大学院にふさわしい教員体制が整っている。(資料法11、16～19、23)

また、アンケートも活用した不断のFD活動により、経常的に教員の教育能力の向上を図っている。(資料法24、25) 充実した教育を提供するための設備も十分整っている。(資料法26)

以上のことから、在学生、修了生の期待に応える教育実施体制となっているといえる。

**観点 教育内容・方法**

(観点に係る状況)

(1) 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に基づく教育課程の編成

本研究科はDPで定めた3類型に基づいた履修プログラムを設定している。(資料法27) 履修プログラムは、ホームページにおいて履修モデルとして公開している。さらに、公法科目、刑事法科目、民事法科目、企業法務法曹の養成の学習フローチャートをホームページで明示している。(資料法28、29)

**資料法27 DPの3類型と履修プログラム**

DPの類型	履修モデルのタイプ
1. 良き市民として地域社会とともにあり、市民生活の法的助言者たる法曹	市民法曹タイプ
2. 経済活動を理解し、企業における技術革新・開発・産業化および企業経営の健全化に対応できる法曹	企業ビジネス法曹タイプ
3. 地域固有の問題について、正確な分析能力、適切な法的処理能力、事前予防のための政策立案能力を備えた法曹	地域密着・政策志向法曹タイプ

(出典：法曹法務研究科作成)

**資料法28 履修モデル**

本法科大学院では、卒業に必要な単位数を96単位とし、そのうち68単位を必修科目としています。これらは主として司法試験合格に必要な科目であると考えていただいて結構です。しかしながら、法科大学院制度はそもそも司法試験合格のみを目標に掲げているわけではありません。その制度の本質は、法の基本原理や理論を理解する一方、それを実務に最大限活かすことのできる実践的な法曹実務家を養成することに他なりません。本法科大学院においても、こうした観点をカリキュラム構成に反映させる努力を行っています。例えば、先ほどの卒業に必要な単位の残り28単位は、選択必修科目や自由選択科目として、学生が自分の知的興味や、将来の法曹活動としてどのような専門領域を確立させたいかという希望に基づき、科目を選択することが可能です。こうした科目選択を通じて、学生一人一人が自分の目標や興味に応じた独自の履修モデルを作り上げていくこと、そしてそこでの学習を通じて法曹実務家としての実践性や専門性を養っていくことを期待しています。もちろん、皆さんの目標や知的興味は異なるため、履修科目もそれぞれ異なると思いますが、ここで参考までに、いくつかの履修モデルを提示してみたいと思います。

**市民法曹タイプ** 市民生活における法律の助言者として活躍する標準的な法曹を目指した履修モデルです。市民生活において頻繁に生じる法律問題に対処できる能力の修得を目指します。

学年	学期	法律基本	法律実務基礎	基礎法学・隣接	展開・先端	単位数
1	前	民法入門演習1		企業会計		22
		憲法1・2				
		民法1・2・3・5・7				
		刑法1・2				
			20	0	2	
	後	憲法基礎演習		法の創造と時代思		42
		行政法1				
		民法4・6				
		民法入門演習2				
		商法3				
2	民事訴訟法1				20	
	刑法3					
	刑事訴訟法1					
		18	0	2		0
	行政法2	法曹倫理		労働法1		
前	商法1・2		社会保障法		20	
	民事訴訟法2					
	民商法総合演習					
	刑法演習					
	刑事訴訟法2					
後		14	2	0	4	36
	公法総合演習1	民事裁判実務の基		倒産処理法1		
	民商法総合演習	家事事件の実務				
	民事訴訟法演習	刑事裁判実務の基				
	刑事訴訟法演習					
3	行政法演習	民事裁判実務		労働法2		18
	民事法総合演習			民事執行法・民事保全		
				消費者法		
		4	2	0	8	
		0	2	0	2	
後				金融商品取引法		
		0	2	0	4	22
修了要件	64	12	4	16	96	

《3年コース》

**企業ビジネス法曹タイプ** 企業経営者のアドバイザーとして、経済活動を理解し、企業の技術革新・経営の健全化に対応できる法曹を目指した履修モデルです。会計理論を理解し、知的財産の管理、資金調達、企業再生、紛争予防に役立つ能力の修得を目指します。

学年	学期	法律基本	法律実務基礎	基礎法学・隣接	展開・先端	単位数	
1	前	行政法2	法曹倫理		労働法1・2	22	
		商法1・2			消費者法		
		民事訴訟法2					
		民商法総合演習1					
		刑法演習					
	後	刑事訴訟法2				42	
			14	2	0		6
		憲法基礎演習	民事裁判実務の基	法の創造と時代思			
		公法総合演習1	刑事裁判実務の基				
		商法3					
2	民商法総合演習1	家事事件の実務			20		
	民事訴訟法演習	刑事裁判実務の基					
	刑事訴訟法演習						
		14	4	2		0	
	行政法演習	民事裁判実務	企業会計	社会保障法			
前	民事法総合演習	家事事件の実務		民事執行法・民事保全	18		
				倒産処理の実務			
				医療紛争法			
		4	4	2		8	
		0	2	0		2	
後				倒産処理法1			
		0	2	0	4	22	
修了要件	32	12	4	16	64		

《2年コース》

学年	学期	法律基本	法律実務基礎	基礎法学・隣接	展開・先端	単位数	
1	前	民法入門演習1		企業会計		22	
		憲法1・2					
		民法1・2・3・5・7					
		刑法1・2					
			20	0	2	0	
	後	憲法基礎演習		法の創造と時代思		42	
		行政法1					
		民法4・6					
		民法入門演習2					
		商法3					
		民法訴訟法1					
			18	0	2	0	
2	前	行政法2	法曹倫理		国際私法1	20	
		商法1・2			民事執行法・民事保全		
		民法訴訟法2					
		民商法総合演習					
			14	2	2	4	
	後	公法総合演習1	民事裁判実務の基		倒産処理法1	36	
		民法訴訟法演習	家事事件の実務				
		民法訴訟法演習	民事裁判実務の基				
		刑事訴訟法演習					
			8	6	0	2	
	3	前	行政法演習	民事裁判実務		国際私法2	12
			民法訴訟法演習			知的財産法1	
			4	2	0	6	
後		企業法の実務			知的財産法2	18	
					金融商品取引法		
		0	2	0	4		
修了要件		64	12	4	16	96	

《3年コース》

学年	学期	法律基本	法律実務基礎	基礎法学・隣接	展開・先端	単位数	
1	前	行政法2	法曹倫理	企業会計	国際私法2	22	
		民法7			民事執行法・民事保全		
		商法1・2					
		民法訴訟法2					
			14	2	2	4	
	後	憲法基礎演習	民事裁判実務の基		倒産処理法1	42	
		公法総合演習1	刑事裁判実務の基				
		商法3					
		民法訴訟法演習					
			14	4	0	2	
	2	前	行政法演習	民事裁判実務		国際私法1	14
			民法訴訟法演習	契約の実務		知的財産法1	
			4	4	0	6	
後		企業法の実務			金融商品取引法	22	
					知的財産法2		
		0	2	2	4		
修了要件		32	12	4	16	64	

《2年コース》

地域密着・政策志向法曹タイプ 地域固有の問題を分析し適切な法的処理を行うとともに、事前予防に向けた政策立案能力を備えた法曹を目指した履修モデルです。地方自治体や地域の中小企業が抱える法律問題に迅速に対応できる能力の修得を目指します。

学年	学期	法律基本	法律実務基礎	基礎法学・隣接	展開・先端	単位数	
1	前	民法入門演習1		企業会計		22	
		憲法1・2					
		民法1・2・3・5・7					
		刑法1・2					
			20	0	2	0	
	後	憲法基礎演習		法の創造と時代思		42	
		行政法1					
		民法4・6					
		民法入門演習2					
		商法3					
		民法訴訟法1					
			18	0	2	0	
2	前	行政法2	法曹倫理		労働法1	20	
		商法1・2			地方自治法		
		民法訴訟法2					
		民商法総合演習					
			14	2	0	4	
	後	公法総合演習1	民事裁判実務の基		倒産処理法1	36	
		民法訴訟法演習	家事事件の実務				
		民法訴訟法演習	民事裁判実務の基				
		刑事訴訟法演習					
			8	6	0	2	
	3	前	行政法演習	民事裁判実務		労働法2	12
			民法訴訟法演習			民事執行法・民事保全	
			2	2	0	8	
後		公法総合演習2	刑事裁判実務		被害者と法	18	
					租税法		
					消費者法		
		2	2	0	2		
修了要件		64	12	4	16	96	

《3年コース》

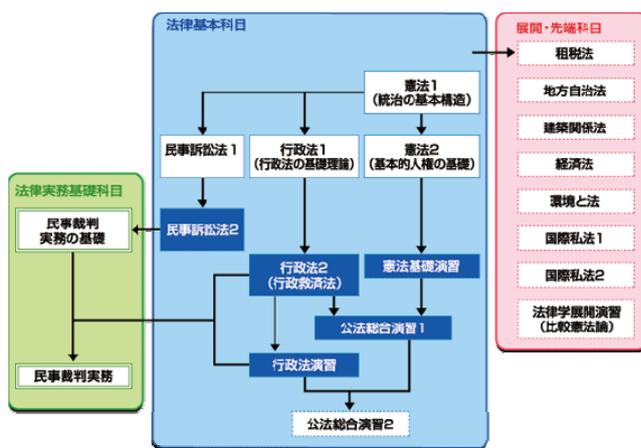
学年	学期	法律基本	法律実務基礎	基礎法学・隣接	展開・先端	単位数	
1	前	行政法2	法曹倫理	企業会計	租税法	22	
		民法7			地方自治法		
		商法1・2					
		民法訴訟法2					
			14	2	2	4	
	後	憲法基礎演習	民事裁判実務の基	法の創造と時代思		42	
		公法総合演習1	刑事裁判実務の基				
		商法3					
		民法訴訟法演習					
			14	4	2	0	
	2	前	行政法演習	民事裁判実務		労働法1・2	14
			民法訴訟法演習	家事事件の実務		倒産処理法1	
			2	4	0	8	
後		公法総合演習2	刑事裁判実務		民事執行法・民事保全	22	
					被害者と法		
		2	2	0	4		
修了要件		32	12	4	16	64	

《2年コース》

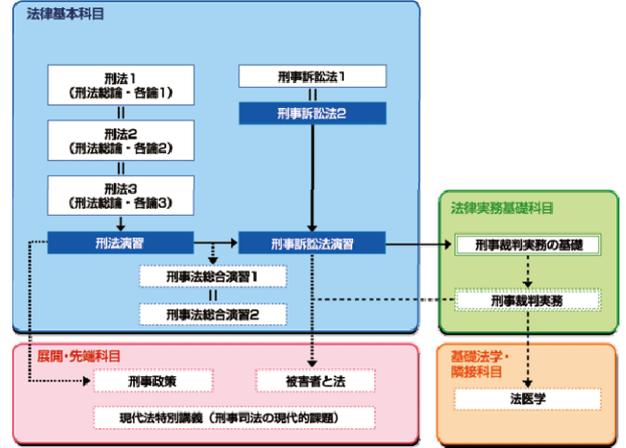
(出典：信州大学大学院法曹法務研究科ホームページ「履修モデル」)

資料法29 学習フローチャート

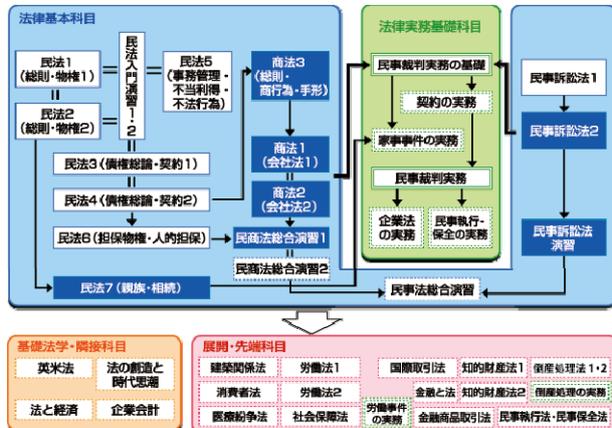
【公法科目フローチャート】



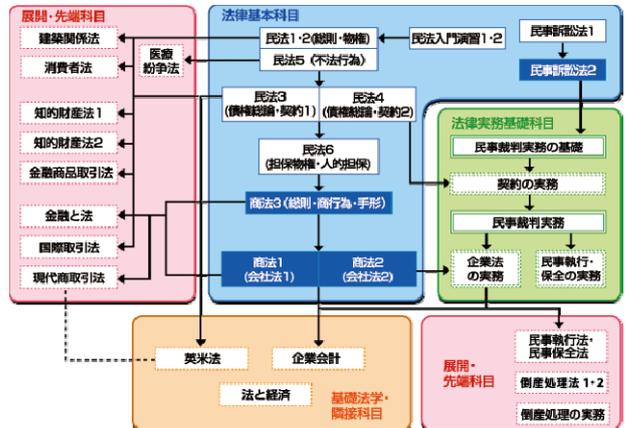
【刑事法科目フローチャート】



【民事法科目フローチャート】



【企業法務法曹の養成】



(出典：信州大学大学院法曹法務研究科ホームページ「学習フローチャート」)

(2) 授業の特徴

本研究科は、法曹養成の専門職大学院として、法律の専門職が身につけるべき法律理論及び法律実務の両面にわたる基礎的素養が修得できるよう、以下のような教育を実践している。(資料法 30)

①理論科目と実務科目の比重の調整

カリキュラム構成の全体を通して、理論と実務の比重を考慮し、法律基本科目の理論教育の後に法律実務基礎科目の教育を行い、さらに法律実務基礎科目を踏まえて理論的發展が可能となるように各授業科目の学年配当を行っている。

1年次は、法律基本科目について理論的な教育を行う。とくに民法の基礎教育を徹底している。法律実務基礎科目は、2年次以降に開講されており、民法などの法律基本科目を学習した上で履修できるようにしている。(前掲資料法7(3-4頁)、28(19-20頁)、資料法31)

資料法 30 開講科目一覧

法律基本科目	公法系	憲法1(統治の基本構造)	基礎法学・隣接科目	英米法	
		憲法2(基本的人権の基礎)		法と経済	
		憲法基礎演習		企業会計	
		行政法1(行政法の基礎理論)		法医学	
		行政法2(行政救済法)		法の創造と時代思潮	
		行政法演習		現代法特別講義(生命と法)	
	民事	民法1(総則・物権1)		展開・先端科目	法律学展開演習(子どもと法)
		民法2(総則・物権2)			租税法
					地方自治法
					環境と法

系	民法3(債権総論・契約1)	建築関係法	
	民法4(債権総論・契約2)	法律学展開演習(比較憲法論)	
	民法5(事務管理・不当利得・不法行為)	国際私法1	
	民法6(担保物権・人的担保)	国際私法2	
	民法7(親族・相続)	労働法1	
	民法入門演習1	労働法2	
	民法入門演習2	社会保障法	
	商法1(会社法1・設立株式等)	消費者法	
	商法2(会社法2・機関合併等)	医療紛争法	
	商法3(総則・商行為・手形)	法律学展開演習(財産・家族特殊研究)	
	民商法総合演習1	労働事件の実務	
	民商法総合演習2	経済法	
	民事訴訟法1	知的財産法1	
	民事訴訟法2	知的財産法2	
	民事訴訟法演習	国際取引法	
	民事法総合演習	金融と法	
	刑事系	刑法1(刑法総論・各論1)	金融商品取引法
		刑法2(刑法総論・各論2)	法律学展開演習(ビジネスプランニング)
		刑法3(刑法総論・各論3)	現代商取引法
		刑事訴訟法1	民事執行法・民事保全法
		刑事訴訟法2	倒産処理法1
		刑法演習	倒産処理法2
		刑事訴訟法演習	倒産処理の実務
		刑事法総合演習1	刑事政策
		刑事法総合演習2	現代法特別講義(刑事司法の現代的課題)
		法律実務基礎科目	一般 法曹倫理
ロークリニック	外国法演習		
民裁系	契約の実務		
	家事事件の実務		
	企業法の実務		
	民事裁判実務の基礎		
	民事裁判実務		
民事執行・保全の実務			
刑裁系	刑事裁判実務の基礎		
刑事裁判実務			

(注) 太字は必修科目

(出典：信州大学大学院法曹法務研究科ホームページ「開講科目・シラバス」)

資料法 31 カリキュラムの構成

カリキュラム構成の全体を通して、理論と実務の比重を考慮し、法律基本科目の理論教育の後に法律実務基礎科目の教育を行い、さらに法律実務基礎科目を踏まえて理論的発展が可能となるように各授業科目の学年配当を行っている。

1年次は、法律基本科目について理論的な教育を行う。とくに民法の基礎教育を徹底している。民法の基礎知識を確実に修得させ、法律実務基礎科目における要件事実教育を円滑に行うために、民法科目は民法1から民法7に細分化した上で、民法1から民法7のすべて(14単位)を1年次に配当し、民法総則から家族法までの民法全体についての基本的知識を修得できるように配慮している。

法律実務基礎科目は、2年次以降に、民法・刑法・商法・民事訴訟法・刑事訴訟法を学習した上で履修できるように配慮して開講している(たとえば、「民事裁判実務の基礎」は、「民事訴訟法1」、「民事訴訟法2」を受講した後に履修することとし、「刑事裁判実務の基礎」は、「刑事訴訟法1」、「刑事訴訟法2」を受講した後に履修することとしている)。法律実務基礎科目を20単位開講し、12単位の修得を修了要件としている。法律実務基礎科目においては、現代社会における法律家の使命と責任を自覚させる法曹倫理教育によって、法曹としての責任感および倫理観の涵養に努めるとともに、契約締結交渉・契約締結・契約の履行の各段階で発生しうる紛争や成年後見・離婚・相続・親子関係などの家事事件

紛争における事案の分析力、さらには民事・会社関係・刑事事件等の法律文書作成能力の養成に努めている。

(出典：「法科大学院認証評価自己評価書（平成 26 年 6 月）第 2 章」)

② 研究者教員と実務家教員の役割分担と連携

理論と実務を架橋する観点から、研究者教員と実務家教員の役割分担を整理し、a. 研究者教員が法理論を中心に行う授業、b. 実務家教員が実務を中心に行う授業、c. 研究者教員と実務家教員が合同して行う授業の類型を設けている。

法律基本科目は主として研究者教員が、法律実務基礎科目は実務家教員が担当するが、法律基本科目のうち、「民商法総合演習 1、2」の 2 科目は研究者教員と実務家教員が合同で担当し、理論と実務を架橋する教育を実践している。さらに、展開・先端科目では、実務経験を有する教員が実務の経験を踏まえた理論教育を行っている。(資料法 32)

資料法 32 「民商法総合演習 2」シラバス

授 業 科 目	B 3 6 民商法総合演習 2 2 単位	担 当 教 員	宮田 旭(15/15)・池田 秀敏(10/15)・長瀬 一治(5/15)
科 目 分 類	法律基本科目 選択必修科目	対 象 学 年	2 年次
講 義 の 目 的 ( 到 達 目 標 )	これまでに履修した民事系基礎科目で得た基本的な知識と技術を応用し、より高度な事案処理能力を習得するため、具体的な相談事例や訴訟事案などで示された事実関係を分析し、的確に法律を適用して法的解決を導く訓練を行う。 研究者教員と実務経験豊富な弁護士が共同担当し、受講者全員が検討に参加しながら、一つの事案に対する柔軟かつ多角的な検討を行う。 この講義により、共通の到達目標モデル（第 2 次案：民法・商法）における基本的な知見に基づき、民事事件における実践的な事案処理を行うための基礎的な能力が習得できる。		

(出典：信州大学大学院法曹法務研究科ホームページ「開講科目・シラバス」)

③ 平成 23 年度からの 2 年コースの創設

開校年度（平成 17 年度）から平成 22 年度までは、未習者コース（3 年コース）のみを設けていたが、平成 23 年度から既修者コース（2 年コース）を新設した。

2 学年・3 学年において、未修者コースに入学して 1 年間学習した学生と既に法律を学習した上で入学した学生が、協力しあい、また、切磋琢磨しあう体制を作ることにより、学習効果をさらに上げることが可能となった。

④ 平成 22 年度および 23 年度のカリキュラム改訂および修了生支援の強化

平成 23 年度から既修者コース（2 年コース）の新設に伴い、平成 22 年度と 23 年度に、以下のとおりカリキュラムの改訂を行って初年次教育の更なる充実を図るとともに、修了生への支援の強化を図った。(資料法 33、34)

資料法 33 平成 22 年度と 23 年度のカリキュラム改訂

○平成 22 年度入学者カリキュラムの見直し

- (ア) 2 年次配当であった「行政法概説」を「行政法 1（行政法概説）」に科目名を変更の上、1 年次に配当した。
- (イ) 1 年次配当の「民法入門演習」（2 単位）を「民法入門演習 1」及び「民法入門演習 2」の 2 科目（4 単位）展開とした。
- (ウ) 1 年次配当の「刑法 1」「刑法 2」の 2 科目（4 単位）を「刑法 1」「刑法 2」「刑法 3」の 3 科目（6 単位）展開とした。
- (エ) 2 年次配当であった「刑事訴訟法 1」を 1 年次に配当し、これに代わり 1 年次配当であった「刑法演習」を 2 年次に配当した。

○平成 23 年度のカリキュラムの見直し

2 年次 3 年次配当科目において、「公法総合演習」, 「民事法総合演習」などの法的知識を具体的な紛争解決に結びつける総合的な法的思考能力の修得に重点を置く科目の教育内容をより充実させた。

(出典：法曹法務研究科作成)

資料法 34 修了生支援の見直し

- 平成 22 年度  
修了後も本法科大学院の施設を利用できる期間を従来の 2 年から 5 年に延長
- 平成 23 年度  
修了生が利用できる情報端末を拡大

(出典：法曹法務研究科作成)

(3) 修了要件及び成績評価

①修了要件

本研究科の修了要件は、次のとおり 2 年コース、3 年コースでそれぞれ定められている。

(資料法 35)

資料法 35 修了要件

【3年コース】

(1) 必修科目・選択必修科目・自由選択科目の別

①必修科目

必修科目の必要単位数は 68 単位です。これを、法律基本科目から 60 単位、法律実務基礎科目から 8 単位取得する必要があります。

②選択必修科目

選択必修科目の必要単位数は 24 単位です。これを、法律基本科目から 4 単位、法律実務基礎科目から 4 単位、基礎法学・隣接科目から 4 単位、展開・先端科目から 12 単位取得する必要があります。

③自由選択科目

上記以外の修了に必要な単位(4 単位)は、自由選択科目として取得してください。この自由選択科目には 2 種類あります。[A]本来の自由選択科目、[B]展開・先端科目における選択必修科目であって、上記②の修了要件を超過して取得したものです。

(2) 各科目群の別

法律基本科目を 64 単位、法律実務基礎科目を 12 単位、基礎法学・隣接科目を 4 単位、展開・先端科目を 16 単位、それぞれ取得する必要があります。

修了に必要な単位 96 単位					
		必修	選択必修	自由選択	計
		68	24	4	96
法律基本科目	公法系	14	60	4	64
	民事系	32			
	刑事系	14			
法律実務基礎科目	一般	2	8	4	12
	民裁系	4			
	刑裁系	2			
基礎法学・隣接科目		-		4	4
展開・先端科目		-		12	16

(注1) 展開・先端科目の自由選択科目(4 単位)の履修は、展開・先端科目の自由選択科目又は展開・先端科目の選択必修科目のうち、所定の修了要件(12 単位)を超えて履修した科目から取得する必要があります。

(注2) 基礎法学・隣接科目の選択必修科目のうち、所定の修了要件(4 単位)を超えて履修した科目は、展開・先端科目の自由選択科目(4 単位)に算入することはできません。これは「余剰単位」となります。

【2年コース】

(1) 必修科目・選択必修科目・自由選択科目の別

①必修科目

必修科目の必要単位数は 36 単位です。これを、法律基本科目から 28 単位、法律実務基礎科目から 8 単位取得する必要があります。

②選択必修科目

選択必修科目の必要単位数は 24 単位です。これを、法律基本科目から 4 単位、法律実務基礎科目から 4 単位、基礎法学・隣接科目から 4 単位、展開・先端科目から 12 単位取得する必要があります。

③自由選択科目

上記以外の修了に必要な単位(4 単位)は、自由選択科目として取得してください。この自由選択科目には 2 種類あります。[A]本来の自由選択科目、[B]展開・先端科目における選択必修科目であるが、所定の修了要件(12 単位)を超過して取得したものです。

(2) 各科目群の別

法律基本科目を 32 単位、法律実務基礎科目を 12 単位、基礎法学・隣接科目を 4 単位、展開・先端科目を 16 単位、それぞれ取得する必要があります。

修了に必要な単位 64 単位					
		必修	選択必修	自由選択	計
		36	24	4	64
法律基本科目	公法系	8	28	4	32
	民事系	14			
	刑事系	6			
法律実務基礎科目	一般	2	8	4	12
	民裁系	4			
	刑裁系	2			
基礎法学・隣接科目		-		4	4
展開・先端科目		-		12	16

(注1) 展開・先端科目の自由選択科目(4 単位)の履修は、展開・先端科目の自由選択科目又は展開・先端科目の選択必修科目のうち、所定の修了要件(12 単位)を超えて履修した科目から取得する必要があります。

(注2) 基礎法学・隣接科目の選択必修科目のうち、所定の修了要件(4 単位)を超えて履修した科目は、展開・先端科目の自由選択科目(4 単位)に算入することはできません。これは「余剰単位」となります。

(出典：信州大学大学院法曹法務研究科ホームページ「修了・進級・成績評価」)

成績評価においては、評価基準の事前開示を徹底し、適正かつ厳格な成績評価を行い、併せて GPA に準じた方式の採用により厳格な修了認定を行っている。

② 成績評価の基準

各科目の成績評価は、次のような基準を設け行っている。(資料法 36)

資料法 36 成績評価の基準

1. 成績評価の方法

全ての授業科目について科目修了試験を行います。さらに原則として、4 回以上の小テストを行うほか、レポート作成など 4 回以上の課題提出を義務付けます。

2. 成績評価の準則

(1) 成績は、授業中の質疑応答の内容、課題・小テストの成績を 50%、科目修了試験の得点を 50%とし、その総合点を 100 点満点で換算し評価します。ただし、法律基本科目については、授業中の質疑応答の内容、課題、小テストの成績を 40%以下、科目修了試験の得点(中間試験を課す科目はその得点も含む)を 60%以上とします。

(2) 60 点以上 70 点未満を「可」とし、70 点以上 80 点未満を「良」、80 点以上 90 点未満を「優」、90 点以上を「秀」とします。

(3) 各成績評価の割合について、以下のガイドラインを設けます。

①「秀」は、成績上位概ね 10%までとします。

②「秀」と「優」は、あわせて成績上位概ね 35%までとします。

③少なくとも成績下位の概ね 10%の者に対しては「可」を与えるものとします。

(4) 成績評価の割合に関するガイドラインは、法律基本科目および法律実務基礎科目の必修科目についてはこれを遵守し、これ以外の科目については、その趣旨を尊重して成績評価を行うこととします。

3. 単位認定の方法

4 分の 3 以上(通常は 12 回)の出席を単位取得の必須要件とし、成績が「可」以上の者に対して単位を認定します。

4. 成績通知書及び成績分布図の開示

成績通知書は、各学期の科目修了試験終了から約 2 週間経過した後(後期については、進級・修了判定教授会後)、適宜のタイミングで、各学生に個別に配付します。

また、成績分布図については、受講生 5 名以上の授業科目を対象として、次学期に1週間程度の期間を設け、その間、学生がオンラインシステムを通じて閲覧できるようにします。

5. 追試験

病気、怪我、交通機関の事故、忌引き等やむを得ない事情で科目修了試験を受験できなかった学生は、所定の審査手続を経たうえで、追試験を受けることができます。

(出典：信州大学大学院法曹法務研究科ホームページ「修了・進級・成績評価」)

③ GPA(Grade Point Average)に準じたポイント制 (以下「GPA」)

本研究科は、修了要件に加え、次のとおり GPA に基づき、入学時からの履修単位について、「秀」の成績評価を4点、「優」の成績評価を3点、「良」の成績評価を2点、「可」の成績評価を1点、「不可」の成績評価を0点として計算した結果、1単位当たりの平均成績値が1.50以上になることを修了の要件としている。(資料法 37、38)

**資料法 37 修了に必要な要件**  
 法科大学院の課程を修了するためには、以下の2つの要件を満たす必要があります。  
 ①3年コースにおいては96単位、2年コースにおいては64単位を取得すること。  
 ②GPA(Grade Point Average)に準じたポイント制に基づき、入学時からの履修単位について、「秀」の成績評価を4点、「優」の成績評価を3点、「良」の成績評価を2点、「可」の成績評価を1点、「不可」の成績評価を0点として計算した結果、1単位当たりの平均成績値が1.50以上になること。  
 (出典：信州大学大学院法曹法務研究科ホームページ「修了・進級・成績評価」)

**資料法 38 GPA(Grade Point Average)に準じたポイント制**  
 入学時からの履修単位について、「秀」の成績評価を4点、「優」の成績評価を3点、「良」の成績評価を2点、「可」の成績評価につき1点、「不可」の成績評価につき0点として計算した結果、1単位当たりの平均成績値が1.50以上であることが必要です。  
 GPA(Grade Point Average)に準じたポイント制とは、以下のような制度です。  
 ①各授業科目の成績評価をそれぞれの加重点(Grade Point)に置き換え、加重点を各授業科目の単位数に掛けた合計を、履修総単位数の合計で割ることによって算出した平均値が平均成績値となります。  

$$\text{平均成績値} = ((\text{単位} \times \text{加重点}) \text{の和}) / (\text{履修単位数} \times \text{の和})$$
 \*「履修単位数」には、「不可」の成績評価を受けた科目の単位数も含まれますが、「不受講」科目の単位数は含めません。  
 ②各成績評価の加重点は、「秀」:4 「優」:3 「良」:2 「可」:1 「不可」:0 とします。  
 ③「不受講」科目はGPAに準じたポイント制の対象外とします。  
 ④「可」の成績評価を受けた科目については再履修を認めず。  
 ⑤授業科目を再履修した場合、累積の平均成績値の算出の際には、最後の履修による成績評価及び単位数のみを算入するものとし、それ以前の成績及び単位数は算入しません。  
 (出典：信州大学大学院法曹法務研究科ホームページ「修了・進級・成績評価」)

(4) 学生の主体的学習を促す取組

①学生自習室

本研究科は、「法曹法務研究科自習室棟(2階、延床500㎡、以下「自習室棟」)」に学生自習室2室を設け、120席分の自習機を設置し、24時間利用できるようにしている。(資料法 39)

**資料法 39 学生自習室、ローライブラリー、学生ラウンジ**  
 学生自習室には、資料収集と学習の便宜を図るため、法律関連図書・雑誌を配架している。  
 自習室棟には、学生が談話・討論できる場として、ラウンジ・リフレッシュスペース、自主ゼミ等の勉強会に利用できるセミナールームを設置している。自習室棟の講義室と演習室は、授業で使わない時間帯には学生による自主学習のために利用できるよう、24時間開放している。

**法科大学院生専用の学生自習室・学生討論室の開設**  
 法科大学院の講義は、密度も高くまた内容的にも高度なものが展開されます。従いまして、講義を理解する力を高めるためにも、学生一人一人が事前に十分な予習を行い、理解できない点や難解な点を把握した上で講義に臨むとともに、事後的に復習を行い講義で学んだ事項をしっかりと自分の知識として習得するというプロセスが必要になってきます。そこで、こうした学生の自習を最大限サポートするために、総数120席にのぼる法科大学院生専用の自習室や、学生同士で自由に議論や勉強会の開催ができる討論室を設けています。



ローライブラリーの設置

法科大学院の学生が予復習等を行うために必要な基本書、参考書、判例集、コンメンタール等を幅広く取り揃え、学生自習室に備え付けています。これがローライブラリーと言われるもので、学生は学生自習室の中で、自由にこれらの書籍を閲覧することができます。



#### 学生ラウンジの提供

自習室や講義室の近くに、法科大学院学生専用のラウンジを設けています。講義や自習の合間にリフレッシュを図ることはもちろん、学生同士での自主的な勉強会や教員との自然発生的な議論の場として使用することもできるなど、多目的な用途に使用することができます。



(出典：信州大学大学院法曹法務研究科ホームページ「施設・学業支援制度」)

## ②オンライン教材

自習室棟の自習室およびラウンジ（1・2階）には、無線 LAN、共用 PC 端末および共用プリンタを備えており、本研究科で導入している「TKC 社 LEX/DB 国内法律文献データベース」、「判例秘書アカデミック版 LLI 統合型法律情報システム」により、学習に必要な文献の検索および閲覧が可能である。学生は、持参のパソコンを使用し、無線 LAN 経由でこれらのデータベースや共用プリンタを利用することも可能である。(資料法 40)

### 資料法 40 オンライン教材，法令・判例・文献検索システム

#### 【オンラインでの教材の提供や質疑応答を通じた効率性向上】

いわゆる「e-Learning」と言われるもので、教官から学生への教材・レジュメの提示・配布や、学生と教官との質疑応答を、オンライン・システムを通じて行うことができます。もちろん、教官の指定したオフィス・アワーや講義の後に、口頭で直接質疑応答を行うこともできますが、あわせて、民間業者が提供するシステムを利用することで、より双方向性の高い教育を実現することが可能になると思います。また、レジュメや資料の授受をオンラインにより行うことで、こうした授受に伴う手間を減らし、効率化を図ることで、より講義の中身そのものに集中できるような体制を整えています。

#### 【法令・判例・文献検索システムの充実】

法令や判例が多数存在する中から特定のものを迅速に抽出するためには、法令・判例検索システムを活用することが必須となっています。また、特定のテーマに関する文献を抽出するためにも、同様に検索システムに頼るところが大きくなってきています。こうした検索は本来、自身の手によって地道に行うものだという考えもありますが、他方で、法科大学院の学生からすれば、限られた時間の中で最大限の情報を収集しこれを整理して理解する必要に迫られており、検索システムを活用することも止むを得ないという側面があると思います。信州大学法科大学院では、こうした検索システムを導入することにより、法律の習得支援のために効果的な学習ツールを提供しています。

(出典：信州大学大学院法曹法務研究科ホームページ「施設・学業支援制度」)

## ③図書施設

学生は、経済学部資料室、附属図書館中央図書館を利用できる。経済学部資料室は自習室棟に隣接しており、同学部の学生と同条件で利用できる。同資料室は、図書・資料の管理・維持に関する能力を備えた職員が2名常駐している。中央図書館は、近くに位置しているためアクセスが容易であるのと同時に、自習室棟のパソコンから図書を検索できることに加え、学内の図書関係の Web サービスも自習室棟で利用することができる。

両施設には、法律学分野に関して主な国内図書・国内誌が網羅されており、教員による教育・研究および学生の学習に必要な図書・資料が備えられている。

## ④教員研究室

教員研究室については、専任教員 19 名中、14 名分（実務家教員 1 名を含む）の個人研究室と実務家教員 5 名用の共同研究室 1 室を有している。また、非常勤講師には、経済学部との共用で非常勤講師室 2 室を使用している。教員研究室および自習室棟のセミナールームは、教員と学生の面談の場として利用できるものとしている。

## ⑤入学時ガイダンスによる学習指導

本研究科入学者に対しては、法学学習の未経験者に対する導入ガイダンスを行っている。まず入学前に「入学へ向けてのご案内」と称する資料を配布し、入学前の自習のための手引きを示している（資料法 41）。

また、新入生ガイダンスと同日に 2 年次以上の学生に対しても履修ガイダンスを行っている他、全学生を対象に履修登録前に個別履修相談を実施している。（資料法 42）

## 資料法 41 入学へ向けてのご案内（平成 26 年度 3 年コース入学向け）

## 1 はじめに

（略）

## 2 配布物のご案内（3 年コース用）

- ① 「法学入門」 … 法学全般を概観するものとしてご活用下さい。
- ② 「憲法を学ぼう」 … 憲法の入門ものとして気軽にお読みください。
- ③ 「憲法の構造」 … 上記「憲法を学ぼう」の復習的なレジュメです。
- ④ 「民法を学ぼう」 … 民法全般を大雑把に把握するものとしてご活用下さい。
- ⑤ 「刑法を学ぼう」 … 刑法を概観するものとしてご活用下さい。
- ⑥ 「刑法ノート」 … 講義で使用するテキストです。講義開始までに必ずお読みください。
- ⑦ 「判例の読み方」 … 判例（裁判例）を読みこなす前提としてお読みください。
- ⑧ 「合格体験記」 … 合格に必要な勉強方法を把握するためにお読みください。
- ⑨ 「コア・カリキュラム（第二次案）」 … 「法科大学院コア・カリキュラムの調査研究」  
<http://www.congre.co.jp/core-curriculum/>から取得…教育における共通到達目標です。各科目の勉学の項目確認としてご活用下さい。特に重要な項目は、コメントの多いものです。

\* 以上の①～⑧の配布物が同封されております。ご確認ください。不足分はお知らせください。追ってご送付申し上げます。

## 3 今後の行事のご案内（予定）

（略）

## 4 各科目担当者からの学習アドバイス…憲法、民法、刑法について

（略）

（出典：法曹法務研究科作成）

## 資料法 42 ガイダンス実施状況

入学後、前期が始まる前に「法律学入門講座」を開講し、できるだけ受講するよう促すことにしている。さらに、「法情報調査」を開講し、「法令、判例および学説等の検索ならびに判例の意義および読み方の学習等、法令を学ぶ上で必要な情報の調査・分析に関する技法を修得すること」を目的とし、これを全員に義務付けている。また平成 23 年度より 2 年コースを開設し法学既修者を受け入れることとな

ったことに伴い、2年コース1年次ならびに3年コース2年次の希望者を対象として、3年コース2年次配当の法律基本科目の基本的知識を修得することを目的とする「導入講座」を上記「法律学入門講座」と同様の日程で実施している。

また、1年次に配当される法律基本科目の学修が適切に行われるように、入学後のガイダンスにおいて法律基本科目の概要について説明を行っているほか、履修登録前に個別履修相談を実施している（平成25年度・平成26年度においては各3回実施）。2年次以上の学生に対しても、入学後のガイダンスと同日に履修ガイダンスを行っているほか、履修登録前に個別履修相談を実施している。なお、各年のガイダンスにおいて入学者に対して実務家教員が地域に根差して活動する法曹実務の仕事の内容について実際の経験を踏まえて説明する機会を設けている。

平成26年度ガイダンスの実施状況一覧

日付	実施内容	対象者
平成26年3月28日及び 3月31日-4月2日	法律学入門講座	3年コース新入生
平成26年3月28日及び 3月31日-4月2日	導入講座	2年コース新入生及び 3年コース2年次生希望者
平成26年4月2日	先輩院生による導入ガイダンス	全新入生
平成26年4月3日	新入生ガイダンス	全新入生
平成26年4月3日	在學生ガイダンス	3年コース2年次生以上及び 2年コース2年次生
平成26年4月4日	法情報調査	全新入生
平成26年4月7日～9日	個別履修相談	全学生

（注）平成27年度は学生募集停止のため、在學生ガイダンス及び個別履修相談のみ実施

（出典：法曹法務研究科作成）

#### ⑥ オフィスアワーによる学習指導

専任教員全員がオフィスアワーを設定し、各科目の個別の質問事項に応答することはもとより、科目全体の学習計画等の相談に応じることにより、教育効果の向上を図っている。

（資料法43）

資料法 43 オフィスアワー一覧

平成27年4月現在

氏名	オフィス・アワー			
	前期		後期	
	前半	後半	前半	後半
安藤 絵美子	○	○	○	○
池田 秀敏	○	○	○	○
遠藤 功	※火5	※火5	※火5	※火5
大井 基弘	○	○	○	○
河崎 祐子	○	○	○	○
河嶋 恒平	○	○	○	○
倉崎 哲矢	※月5	※月5	※金5	※金5
栗田 晶	※火3	※火3	※火3	※火3
後藤 泰一	※木4	※木4	※月4	※月4
三枝 有	※木 … 時間は事前に要予約			
田口 守一	※木5	※木5	※火4	※火4
武井 美央	○水5	○水5	○火5	○火5
中嶋 士元也	木 … 16:00~17:00		木 … 13:30~14:00	
中根 倫拓	事前連絡不要 … 在室時はいつでもOK			
成澤 孝人	○	○	○	○
又坂 常人	○	○	○	○
宮田 旭	○	○	○	○
宗村 和広	○	○	○	○
米田 保晴	○	○	○	○

○=日時を含めて、事前に予約してください。

※=事前に予約してください。

(出典：法曹法務研究科作成)

⑦司法試験短答試験合格者によるチューター制度

教員の教育指導をより定着化させるため、修了者の中からその年の司法試験短答試験の合格者を合格発表直後にチューターとして選抜し、現役学生の指導にあたってもらうチューター制度を平成 21 年度から導入し、その後毎年度実施している。(資料法 44)

資料法 44 司法試験短答試験合格者によるチューター制度

教員による指導を確実に理解させ、知識の充実ならびに理論的な理解を深化させるために、教員以上に近似した目線での指導が可能と考え、教員の教育指導を補充する役割を担っている。短答式試験合格者の希望に応じ、学生委員会がその実力を確認した上で指導補助者としており、1ヶ月ごとの実施報告を法科大学院グループに行っている。

チューター制度実績 (H22～H27 年度)

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	計
チューター指導者数(人)	7	13	9	11	10	7	57
延べ時間数(時間)	1043	1101.5	672.5	909	840	486	5052

(出典：法曹法務研究科作成)

⑧長野県弁護士会法科大学院バックアップ委員会による学生支援

長野県弁護士会は、法科大学院バックアップ委員会を設置して、中堅弁護士やロースクール出身の若手弁護士を中心に、ボランティアで積極的なバックアップにあたっている。その内容を具体的に挙げれば、学生に対しては、自主ゼミや答案添削指導などのほか、質問・相談を受け付ける専用メールアドレスを設け、メーリングリストで委員に転送し、委員が学生への回答をするといった支援がある。

教員との関係では、同会委員長と進路強化委員会の教員との間で、学生指導に関する協議の場を設けている。(資料法 45、46)

資料法 45 長野県弁護士会法科大学院バックアップ委員会との意見交換会

意見交換会 (第 3 回法科大学院バックアップ委員会)・議事次第

(平成 27 年 5 月 26 日 (火) 午後 5 時 30 分～・経済学部会議室新棟 6 階)

1. 双方自己紹介 (簡単に)
2. 本年度活動計画についての報告 (バックアップ委員会 李)
  - (1) 個別指導ゼミについて
    - ※ 5 月 21 日解説実施分についての報告
  - (2) 実践ゼミについて
    - 直近の合格者による解説の実施等
  - (3) 新試の出題趣旨等を把握するための企画ゼミについて
3. 信州大学法科大学院からの報告 (池田研究科長)
  - (1) 認証評価の結果と今後の対応について
  - (2) 長野県弁護士会と信州大学との間の協定について
  - (3) 松本実務研究会 (民事実務第 3 回) の開催について
4. 意見交換
  - 本年度のゼミ (主に実践ゼミ) の実施体制について
  - ※ 択一試験の扱い等
5. その他報告
  - ・修習生による講演会について
  - ・合格祝賀会の日程：平成 27 年 9 月 25 日 (金) 予定

(出典：法曹法務研究科作成)

資料法46 長野県弁護士会法科大学院バックアップ委員会との意見交換会開催実績

年度	開催日	主な内容
H22	10月1日	活動計画についての報告, 信大から報告, 意見交換
	12月2日	活動計画についての報告, 信大から報告, 意見交換
	3月24日	活動計画についての報告, 信大から報告, 意見交換
H23	10月7日	活動計画についての報告, 信大から報告, 意見交換
	12月17日	活動計画についての報告, 信大から報告, 意見交換
	3月9日	活動計画についての報告, 信大から報告, 意見交換
H24	5月25日	活動計画についての報告, 信大から報告, 意見交換
	10月12日	活動計画についての報告, 信大から報告, 意見交換
H25	5月24日	活動計画についての報告, 信大から報告, 意見交換
	10月11日	活動計画についての報告, 信大から報告, 意見交換
H26	5月26日	活動計画についての報告, 信大から報告, 意見交換, その他報告
	10月10日	活動計画についての報告, 信大から報告, 意見交換
H27	5月26日	活動計画についての報告, 信大から報告, 意見交換, その他報告
	9月25日	活動計画についての報告, 信大から報告, 意見交換

(出典：法曹法務研究科作成)

⑨学習支援担当者の配置

本研究科は、平成26年度に学生の自主的な学習支援(司法試験の受験に当たってのアドバイス含む)のため、助教1名(新司法試験合格者)を採用した。当該助教の研究室は、自習室棟内に設け、学生が相談しやすい体制としている。(資料法47)

資料法47 学修支援担当助教の活動状況(平成26年度採用)

主な支援は①助教による企画ゼミ②学生自主ゼミへのオブザーバー参加③質問対応④答案添削の4点である。

活動別参加学生延べ人数(平成26～27年度)

年度	企画ゼミ (人)	学生自主ゼミ (人)	質問対応	答案添削
H26	11	10	常時受付	常時受付
H27	11	1	常時受付	常時受付

(出典：法曹法務研究科作成)

⑩講義評価アンケートの実施

学生による講義評価アンケートを毎年2回実施している。講義評価アンケートの回答対象者に対する回答率は毎年90%を越えている。評価結果は各担当教員に通知されるとともに、学生に公表される。この評価結果はFD研修会等において、教育内容および教育方法のあり方を検討するために役立てている。(資料法48、49)

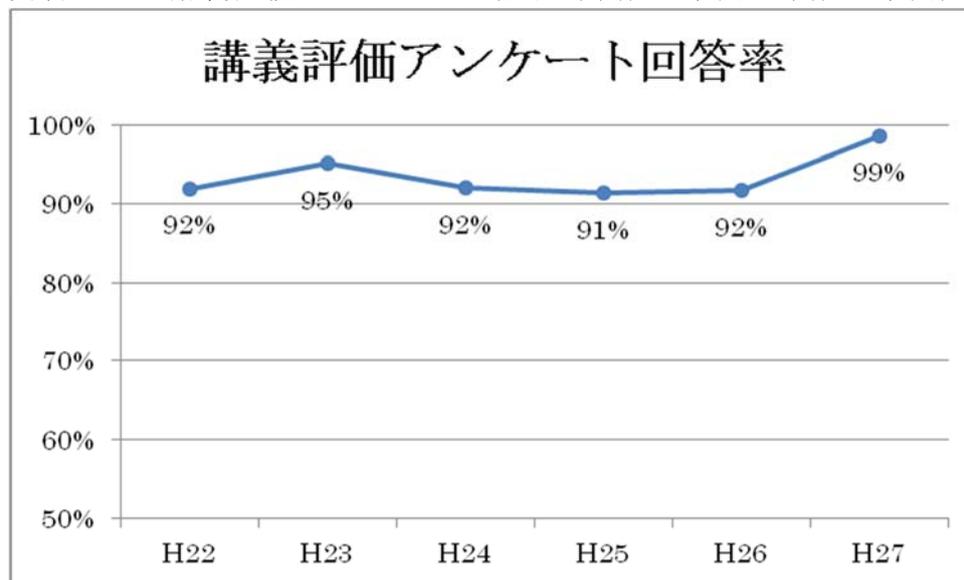
資料法 48 講義評価アンケート様式

(1) 各回の授業の目的が明確になっていますか	1 そう思う 2 ややそう思う 3 どちらでもない 4 やや思わない 5 そう思わない
(2) 学生の参加を促す形態で授業が行われていますか	1 そう思う 2 ややそう思う 3 どちらでもない 4 やや思わない 5 そう思わない
(3) 講義内容を理解させるための教員の工夫は感じられますか	1 そう思う 2 ややそう思う 3 どちらでもない 4 やや思わない 5 そう思わない
(4) プロブレム・メソッド、具体的な事例・判例等に配慮した講義になっていますか	1 そう思う 2 ややそう思う 3 どちらでもない 4 やや思わない 5 そう思わない
(5) 講義の進度はあなたにとって適切ですか	1 速い 2 やや速い 3 ちょうどよい 4 やや遅い 5 遅い
(6) 講義の内容の難易度はあなたにとってどうですか	1 難しい 2 やや難しい 3 普通 4 やや易しい 5 易しい
(7) 小テストの難易度はどうでしたか	1 難しい 2 やや難しい 3 普通 4 やや易しい 5 易しい 6 該当なし
(8) 課題の難易度はどうでしたか	1 難しい 2 やや難しい 3 普通 4 やや易しい 5 易しい 6 該当なし
(9) 課題の分量はどうですか	1 多い 2 やや多い 3 普通 4 やや少ない 5 少ない

	6 該当なし
(10) あなた自身は、(講義期間中、講義時間後を含めて)質問するなど、この講義に積極的に取り組んでいますか	1 そう思う 2 ややそう思う 3 どちらでもない 4 やや思わない 5 そう思わない
(11) あなた自身は、この講義のためにどれくらい予・復習をしていますか(講義1回あたり)	1 3時間以上 2 2～3時間 3 1～2時間 4 30分～1時間 5 30分未満
(12) あなた自身は、この講義に満足できていますか	1 そう思う 2 ややそう思う 3 どちらでもない 4 やや思わない 5 そう思わない
(13) その他、この講義についての評価点、改善点等、意見があれば、以下に記入して下さい。	

(出典：法曹法務研究科作成)

資料法49 講義評価アンケート回答率(平成22年度～平成27年度)



(出典：法曹法務研究科作成)

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

授業については、教育目的にかなったカリキュラムが組まれ、高度な能力を有する研究者教員及び実務家教員により、理論科目と実務科目の比重の調整や研究者教員と実務家教

員の役割分担と連携といったきめの細かい教育がなされている。(資料法 7、28、31、32)  
また、学生が自主的に学習する体制については、自習室棟をはじめとする充実した学習環境の下で、オフィスアワー等での専任教員のみならず、長野県弁護士会法科大学院バックアップ委員会の弁護士、学習支援を専門とする助教から十分な指導を受けることができる体制が整っていることから、在学生及び修了生の期待に応える教育内容となっている。(資料法 39、40、43、45～47)

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

観点 学業の成果

(観点に係る状況)

(1) 修了、退学、休学の状況

本研究科の修了、退学、休学の状況は、次のとおりである。(資料法50、51)

資料法50 入学年度別修了状況一覧

	コース	入学年度										計	
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度		
修了年度	平成22年度	2年											
		3年	1	1	35								37
		小計	1	1	35								37
	平成23年度	2年											
		3年			2	16							18
		小計			2	16							18
	平成24年度	2年							3				3
		3年				1	11						12
		小計				1	11		3				15
	平成25年度	2年								2			2
		3年					1	9					10
		小計					1	9		2			12
	平成26年度	2年											
		3年					1		11				12
		小計					1		11				12
	平成27年度	2年									1	3	4
		3年					1		4	5			10
		小計					1		4	6	3		14
	計	2年							3	2	1	3	9
		3年	1	1	37	17	14	9	15	5			99
		小計	1	1	37	17	14	12	17	6	3		108

(出典：法曹法務研究科作成)

資料法51 退学、休学率

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
退学率	2.8%	3.8%	5.9%	9.3%	11.1%	5.0%
休学率	1.4%	5.7%	7.9%	14.0%	13.9%	10.0%

※退学率は、該当年度の在籍者で除した割合。

※休学率は該当年度5月1日現在の数を該当年度の在籍者数で除した割合。

(出典：法曹法務研究科作成)

(2) 司法試験の状況

本研究科修士の司法試験の状況は、次のとおり（資料法52）であり、全法科大学院74校中の合格率順位は、平成21年度は44位であったが、平成27年度は27位であった。

		司法試験実施年							
		H20年	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年
本学	受験者数	19	26	41	52	54	50	43	45
	直近修了者	19	16	15	23	14	13	10	9
	短答式合格者数	9	13	16	28	32	35	26	25
	合格率	43.37%	50.00%	39.02%	53.85%	59.26%	70.00%	60.47%	55.56%
	合格率順位(74校中)	66位	56位	70位	47位	32位	20位	27位	51位
	最終合格者数	0	4	5	4	4	5	5	7
	合格率	0.00%	15.38%	12.20%	7.69%	7.41%	10.00%	11.63%	15.56%
	合格率順位(74校中)	74位	44位	46位	52位	61位	48位	34位	27位
直近修了者	0	3	3	2	0	1	0	1	
全国平均	短答式合格率	74.33%	68.38%	70.72%	64.51%	63.66%	68.72%	63.38%	66.22%
	最終合格率	32.98%	27.64%	25.41%	23.54%	25.06%	26.77%	22.58%	23.08%
	直近修了者	36.86%	35.04%	33.04%	32.50%	32.90%	38.55%	33.04%	32.47%

(注1) 「直近修了者」は司法試験実施年の前年度修了者を指している。  
 (注2) 各中期目標期間の司法試験合格者数平均…第1期：2.0名/年 第2期：5.0名/年  
 (出典：法曹法務研究科作成)

本研究科修士の司法試験合格者30名（平成22から27年司法試験までの合計）のうち司法修習を終えた者は23名おり、そのうちの15名が長野県弁護士会に登録している。

(3) 学業の成果に関する学生の評価

満足度調査の結果から学業の成果に関する学生の評価を判断できる。平成28年3月に実施した満足度調査の回答対象者に対する回答率は100%であった。満足度調査の結果を例示すると以下の通りである。（資料法53、54）

		そう 思わない	どちら かとい うとそ う思わ ない	ど ちら とも いえ ない	ど ちら かとい うとそ う思 う	そ う思 う
1	あなたが信州大学で受けた法科大学院の教育について、以下の意見や感想について、あなたはどのように思いますか。あてはまる数字に○を付けて下さい。					
1	大学院の教育課程は総合的にみて満足のいくものである。	1	2	3	4	5
2	自分の希望する将来の活動にとって役立つ授業が用意されている。	1	2	3	4	5
3	学生による授業評価が授業の改善に結び付いている。	1	2	3	4	5
4	各授業の人数は授業内容に対して適切である。	1	2	3	4	5
5	成績評価の方法はおおむね適切である。	1	2	3	4	5
6	学生の参加を積極的に促す授業が多い。	1	2	3	4	5
7	授業以外でも学習等でコミュニケーションを取れる教員が多い。	1	2	3	4	5
8	わかりやすい授業が多い。	1	2	3	4	5
9	理解度など、学生の反応をみながら進められる授業が多い。	1	2	3	4	5

10	学習意欲や興味が増すように工夫されている授業が多い。	1	2	3	4	5
11	授業内容の必要性や位置づけをはっきりと示してくれる授業が多い。	1	2	3	4	5
12	重要なポイントをはっきりと示してくれる授業が多い。	1	2	3	4	5
13	具体的な事例・判例等を取り入れた実務に配慮した授業になっている。	1	2	3	4	5
14	試験やレポートは適切なものである。	1	2	3	4	5
15	教員は、授業以外での学習を十分に促した。	1	2	3	4	5
16	履修ガイダンスでは十分に情報を提供してくれた。	1	2	3	4	5
17	シラバスには、授業の内容および自主学習の計画作りに必要な情報が十分に記載されている。	1	2	3	4	5
2. 信州大学の教育課程のうち,法科大学院の教育・学習環境に関する以下の意見や感想について,あなたはどのように思いますか。あてはまる数字に○をつけてください。		そう 思わ ない	ど ち ら か と い う と そ う 思 わ な い	ど ち ら と も い え な い	ど ち ら か と い う と そ う 思 う	そ う 思 う
1	職員の窓口対応は十分に親切である。	1	2	3	4	5
2	経済的支援、生活支援、勉学支援等の学生支援は十分に行われている。	1	2	3	4	5
3	図書館（資料室）では十分なサービスを受けることができる。	1	2	3	4	5
4	図書館（資料室等）の蔵書が充実している。	1	2	3	4	5
5	施設・設備は充実している。	1	2	3	4	5
6	自主的な学習のための環境が整備されている。	1	2	3	4	5
7	利用可能な情報ネットワークが整備されている。	1	2	3	4	5

(出典：法曹法務研究科作成)

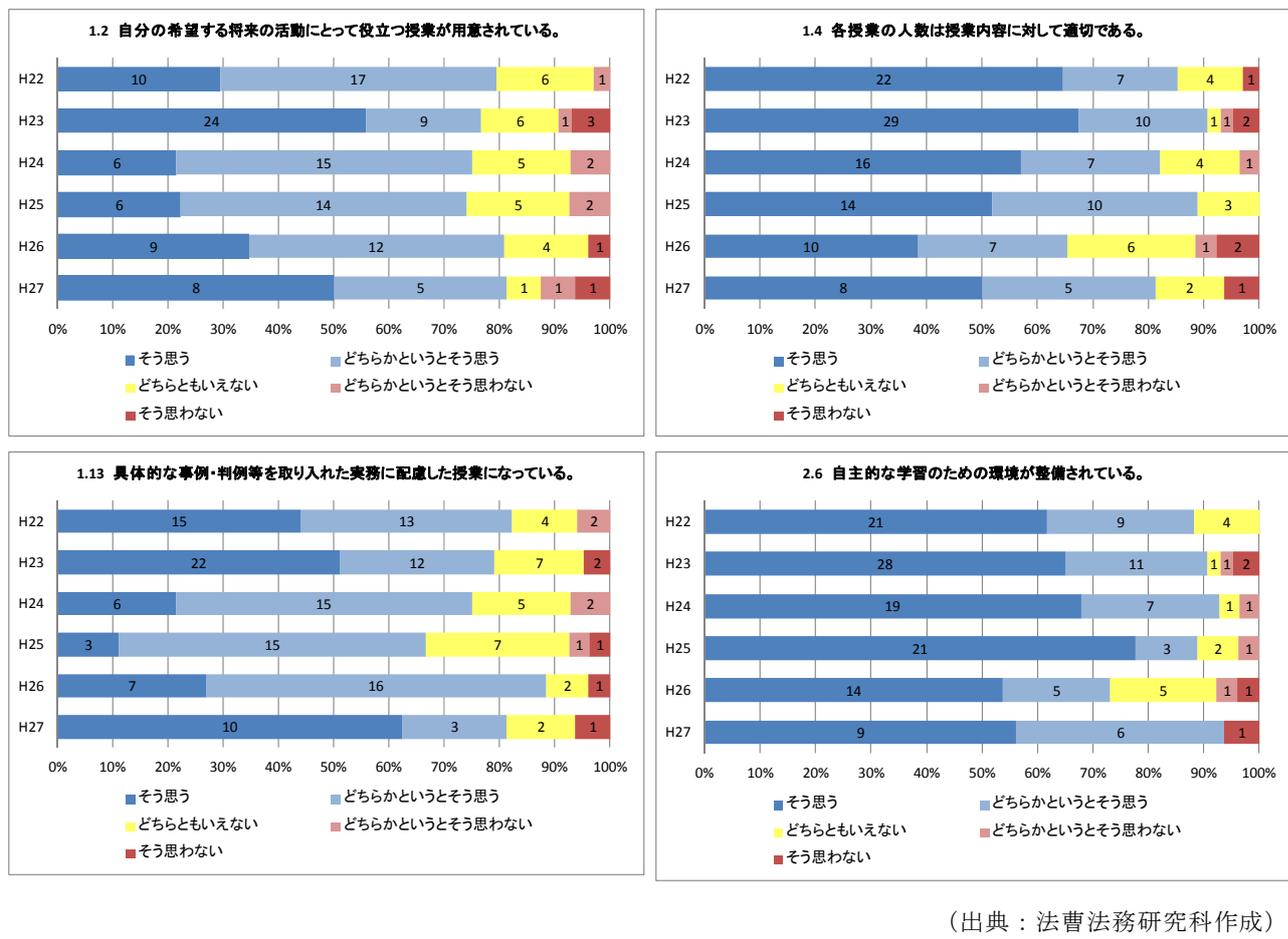
資料法54 満足度調査集計結果（平成22～27年度）

本研究科の教育の目的を達成するためには、まず、カリキュラム構成が適切であることが必須である。この点に関する満足度調査の項目は、「自分の希望する将来の活動にとって役立つ授業が用意されている」という質問である。この質問に対して、平成27年度調査における肯定的な回答は81%であった。これに対して、否定的な回答は13%であった。

本研究科の教育の目的を達成するために、少人数教育が適している。この点に関する満足度調査の項目は、「各授業人数は授業内容に対して適切である」という質問である。この質問に対して、平成27年度調査における肯定的な回答は81%であった。これに対して、否定的な回答は6%であった。

本研究科の教育の目的を達成するために、実務に必要な学識及びその応用能力並びに法律実務の基礎的素養を涵養する必要がある。そのためには、具体的な事例・判例等を取り入れた教育が不可欠である。この点に関する満足度調査の項目は、「具体的な事例・判例等を取り入れた実務に配慮した授業になっている」という質問である。この質問に対して、平成27年度調査における肯定的な回答は81%であった。これに対して、否定的な回答は6%であった。

本研究科の教育の目的を達成するために、学習環境が整備されていることが必要である。この点に関する満足度調査の項目は、「自主的な学習のための環境が整備されている」という質問である。この質問に対して、平成27年度調査における肯定的な回答は94%であった。これに対して、否定的な回答は6%であった。



(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

在学生及び修了生の期待に対し、満足度調査の結果（資料法54）からも分かるとおり、

本研究科の修了生は、カリキュラムの内容について「自分の希望する将来の活動にとって役立つ授業が用意されている」と評価している。また、司法試験合格率（資料法52）を見ても、平成21年度末までの平均は2.0名/年であったが、平成22年度から平成27年度までの合格者数は、平均5.0名で、かつ、毎年4名以上に安定している。特に、平成27年度合格者数は、7名と過去最高を記録した。また、合格率においても、全法曹法務研究科74校中、平成21年度は44位であったが、平成27年度は27位と、大幅に上昇している。

**観点 進路・就職の状況**

(観点に係る状況)

(1) 修了者の進路

本研究科修了者の進路等の主な状況は、以下の通りである。(資料法 55) 現在、平成 22 から 27 年度の修了生のうち、20 名が司法試験に合格し、その中で 11 名が弁護士として長野県内の法律事務所に身を置いて活躍している。

その他、14 名が国、都道府県、市町村、大学職員として働いており、法的知識を生かして業務にあたっている。

資料法55 進路・就職の状況						
修了年度	司法試験合格	合格者の進路内訳	公務員	民間企業	その他(就職)	法務学修生
平成 22 年度	6 名	長野県弁護士会 5 名 司法修習 1 名	4 名(0 名)	5 名	大学職員 2 名(1 名)	-
平成 23 年度	4 名	長野県弁護士会 2 名 他県弁護士会 1 名 司法修習 1 名	6 名(2 名)	2 名	行政書士 1 名(0 名)	2 名
平成 24 年度	6 名	長野県弁護士会 4 名 他県弁護士会 1 名 司法修習 1 名	1 名(1 名)	-	-	4 名
平成 25 年度	3 名	司法修習 3 名	-	-	大学職員 1 名(1 名)	6 名
平成 26 年度	1 名	司法修習 1 名	-	1 名	-	8 名
平成 27 年度	-	-	-	-	-	2 名

(注 1) 本研究科で把握しているもののみ記載(平成 28 年 3 月 31 日現在)

(注 2) 修了後複数年経過後の進路も含む。

(注 3) 公務員、その他(就職)の( )内は長野県内就職者の内数

(出典：法曹法務研究科作成)

(2) 長野県弁護士会による就職の支援

本研究科を修了し、司法試験に合格して弁護士となった者の多くが長野県内において地域法曹として活動しているのは、先述(資料法 18)のチューターやロークリニックといった長野県弁護士会による支援の成果である。多数の弁護士と学生とが頻りに顔を合わせられる環境にあり、学生においては、地域法曹の仕事ぶりを実際に知ることができ、地域法曹への途を選ぶ動機付けとなっていると考えられる。

また、受け入れる側の弁護士においても、その学生がどんな人物か、どんな適性をもっているかを容易に知り得るため、学生に対して就職に関する適切なアドバイスのみならず、勤務弁護士を募集している法律事務所への紹介がなされている。

また、本研究科の教員として関わった弁護士が直接雇用するケースもある。司法修習を修了後、長野県内で就職を希望した者全員が長野県内の法律事務所に就職できているのは、学生と弁護士との距離が近い本研究科の特徴によるものと考えられる。

(水準)

期待される水準を上回る。

(判断理由)

長野県弁護士会を中心とする法曹実務家からの期待に対し、同会による教員派遣や司法試験受験支援の成果として 20 名の修了生が司法試験に合格するに至り、そのうち 11 名が同

会に弁護士登録し、地域法曹として活躍している。

また、長野県を中心とする地域住民等の期待に対し、本研究科修了生のうち上記地域法曹が地域で活躍するに至ったほか、5名が、法律理論及び法律実務の基礎的素養が要求される長野県内の県庁、市町村、大学等の公務員・職員として就職した。(資料法55)

したがって、想定する関係者の期待に対し、本研究科の教育を通じて、その水準を上回って達成されているといえる。

### Ⅲ 「質の向上度」の分析

#### (1) 分析項目Ⅰ 教育活動の状況

教育活動の状況については、以下の理由により、平成21年度末と比べ、大きく改善向上していると判断できる。それを示す事例として、例えば、次の事項を挙げることができる。

##### ①平成23年度からの2年コースの創設

開校年度（平成17年度）から平成22年度までは、未習者コース（3年コース）のみを設けていたが、平成23年度から既修者コース（2年コース）を新設した。（23頁）

##### ②平成22年度および23年度の大規模なカリキュラム改訂および修了生支援の強化

23頁で述べたとおり、平成22年度と23年度に、大規模なカリキュラムの改訂（資料法33）を行って初年次教育の更なる充実を図るとともに、修了生への支援の強化（資料法34）を図った。

##### ③入学時ガイダンスの充実

資料法42のとおり、また平成23年度より2年コースを開設し法学既修者を受け入れることとなったことに伴い、2年コース1年次ならびに3年コース2年次の希望者を対象として、3年コース2年次配当の法律基本科目の基本的知識を修得することを目的とする講座を実施し、その後も改善を続けている。

##### ④チューター制度の充実

資料法44で述べたチューター制度は、新司法試験受験初年度（平成20年度）より試行的に行っていたが、平成22年以降の短答試験合格者数の増大（平成20年9名、21年13名、22年16名、23年28名、24年32名、25年35名、26年26名、27年25名）を背景に、制度として確立したものとなっている。

##### ⑤長野県弁護士会の支援の充実

資料法18で述べた長野県弁護士会による学生支援制度は、新司法試験受験初年度（平成20年度）より開始され毎年改善を重ねてきたものであり、本研究科の修了生が長野県弁護士会に加わった平成22年度以降、平成26年まで毎年4～5名の司法試験合格者を安定的に輩出し、平成27年には合格者が7名となって全国の法科大学院中27位まで合格率が上昇した。

##### ⑥学生支援専担の助教の採用

資料法47で述べたとおり、助教を平成26年度に採用した。平成21年度末には、このような学生支援を専門とする助教は採用されていなかった。

#### (2) 分析項目Ⅱ 教育成果の状況

司法試験の合格者数は、平成21年度末までの平均は2.0名/年（平成20年度ゼロ、21年度4名）であったが、平成22年度から平成27年度までの合格者数は、平均5.0名で、かつ、毎年4名以上に安定している（平成22年度5名、23年度4名、24年度4名、25年度5名、26年度5名、27年度7名）。特に、平成27年度合格者数は、7名と過去最高を記録した。また、合格率においても、全法曹法務研究科74校中、平成21年度は44位であったが、平成27年度は27位と、大幅に上昇している。（資料法52）

これらの実績は、平成21年度と比較して、教育成果が向上していることの表れであると評価できる。